机上配布資料2

令和2年5月13日提出の資料と同じ

敦賀発電所2号炉
調査会社から当社に提出された柱状図資料

令和2年6月4日

日本原子力発電株式会社

余白

目　次

No.	資料名	頁
1	委託報告書（平成19年） ボーリング柱状図	5
2	委託報告書（平成20年） ボーリング柱状図	105
3	委託報告書（平成25年） ボーリング柱状図	157
4	委託報告書（平成27年） ボーリング柱状図	173
5	委託報告書（平成30年） ボーリング柱状図	207
6	設置許可申請書案　ボーリング柱状図	313
7	審査資料案（第536回審査会合（平成29年12月22日）） ボーリング柱状図	405
8	審査資料案（第657回審査会合（平成30年11月30日）） ボーリング柱状図	525
9	審査資料案（第833回審査会合（令和2年2月7日）） ボーリング柱状図	787

余白

1. 委託報告書（平成19年） ボーリング柱状図

余白

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.2	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 127.40 m	角度	180° 上 90° 下 0° 48°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西 59.75°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	220.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				花崗斑岩	灰黄	Eg	VIg	dg	ε		深度0.00～10.20m：花崗斑岩。径3～10mm程度の石英，長石，黒雲母斑晶を10～30%程度含み，石基は径0.5mm程度である。深度0.12～4.70m：マサ状強風化岩，原岩組織不明。										228	140／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルビット	20.0				
	124.26	4.70			にぶい黄															12／14 5.70							
				アプライト							アプライト，上位との境界不明瞭。深度4.70～8.00m：強風化アプライト。節理に沿って植物根を挟む。			D'	[D]													
	122.05	8.00				Dg	IIIg	cg	δ	2																	
				花崗斑岩		Eg	VIg	dg	ε		花崗斑岩，上位との境界不明瞭。深度8.00～10.20m：強風化花崗斑岩。節理に沿って酸化マンガンを挟む。																	
10	120.57	10.20			灰白	Dg																					
				アプライト		Eg	VIg	dg	ε		アプライト，上位との境界不明瞭。深度10.20～90.62m：アプライト。アプライト主体で，所々に花崗斑岩とペグマタイトを挟む。アプライトの石基は径0.1mm以下であり，径5mm程度の石英，長石及び黒雲母の斑晶が点在する(0.5%以下)。傾斜25～50度の不明瞭な流理が認められる。										215							
					にぶい黄橙															12／15 9.70							
	118.70	13.00			灰白		IIg																				
	118.40	13.45			ペグマタイト 明褐灰	Dg	IVg Vg	cg	δ		ペグマタイトは深度13.00～13.45m，15.21～15.35m及び87.68～87.90m間に分布する。径20～50mmの石英，カリ長石の巨晶からなり，アプライトとの境界は傾斜10～45度である。			CL'							12／16 14.00							
				アプライト	灰白	Dg	IIIg	cg	δ																		
	117.22	15.21					IVg																				
	117.11	15.38			ペグマタイト																						
					にぶい黄	Cg	IIIg	bg	β	1											125		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100	0.0	泥水5	5
					灰白															12／18 16.50							
					明褐灰	Dg	IVg IIIg	cg	γ		アプライトは少量の石英の斑晶を含む。節理に沿って酸化マンガンを挟む。			CL'						12／19 17.40	90						
						Eg	VIg	dg	δ					D'	[CL]						76	ダブルコアチューブ／メタルビット	10.0	80	0.0	泥水10	10
						Dg	IVg	cg	γ					CL'						12／20 19.70							
20					にぶい橙	Eg	VIg	dg	δ	3	アプライトの傾斜は40～50度程度。									12／21 21.10	84	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100	0.0	泥水5	5
							IVg IIIg IVg																				
										4	深度22.58～24.38m：変質帯。上盤6度，下盤55度。網目状，全体に粘土化する。			D'							114						
										3	深度23.47～23.49m：幅10～18mm，明褐色シルト及び礫状を呈する。																
					橙	Dg	IIIg	cg	γ	2	深度24.38～24.46m：破砕帯(Hc)。上盤55度，下盤43度。幅65mm，砂質シルト状。			CL'						12／23 25.10	53						
					明褐灰																						
					明黄褐																						
					明褐灰																						
					灰黄褐	Cg	IIg	bg	β	1	深度26.14～29.62m：節理少なく，柱状硬質のコア。節理に沿って褐色化が見られる。			CM'	[CM]												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30	108.23	28.65		アプライト	灰黄褐	Cg	IIg	bg	β	1	花崗斑岩，上位との境界漸移的。 深度28.65～30.30m：花崗斑岩。 径3～5mm程度の長石，石英及び黒雲母の斑晶を3～5%程度含み，石基は径0.1mm以下である。
					灰黄	Bg	IIIg				
					灰黄褐	Cg	I g				
						Bg	IIIg				
						Cg	IIg				
						Bg	IIIg	cg			
	107.13	30.30		花崗斑岩		Cg	IIIg				深度29.89～30.00m：ドレライト。 花崗斑岩とアプライトの境界，漸移的。
						Dg	IVg	bg		2	
						Cg					
						Dg		cg		3	深度31.10～31.44m：変質帯。上盤3度，下盤2度。灰白色粘土を網目状に挟む。
						Eg	VIg				
					にぶい黄橙		IIIg	bg			深度31.44～36.21m：全体に風化するが褐色化弱く，割れ目に沿ってのみ黒褐色化する。
						Cg	IIg				
					灰黄褐		IIIg	cg		2	
							IIg				
							IIIg				
					にぶい黄橙		IIg	bg			
							IIIg				
							IVg				
							IIIg			3	深度36.21～36.48m：変質帯。上盤22度，下盤77度。粘土化。
					明黄褐	Cg	IIg	cg			深度36.48～41.20m：全体に風化し，褐色化している。
					にぶい黄橙		IIIg	bg			
							IIg				
40					明黄褐		I g				
					明赤灰		IIIg			2	
							I g				
							IIIg	cg	γ		深度41.20～42.90m：灰白色を呈し，弱く変質を受けている。節理に沿って褐色化している。
					灰白	Dg	IVg				
						Cg	IIg				
					明赤灰		IIIg				
							IIg				
							IVg				
							IIIg				
							IIg				
					淡黄	Eg	VIg	dg		3	深度44.90～44.95m：破砕帯(Hc)。上盤32度，下盤40度。幅20～60mm，礫混じりシルト質砂状とシルト状の混在。
					灰白		IIIg	bg		2	深度44.95～45.34m：破砕帯(Hb)。上盤40度。角礫状，暗褐色砂状を挟む。 深度45.34～45.75m：破砕帯(Hj)。下盤50度。節理密集部。 深度45.75～49.77m：風化を受け部分的に褐色化している。
					明赤灰		IIg				
					にぶい黄橙	Cg	IIIg	cg			
						Dg	IIg				
							IIIg				
					明赤灰	Eg	VIg	dg		3	深度49.77～50.42m：変質帯。上盤46度，下盤33度。砂状，網目状にシルトを挟む。
50						Eg	VIg	cg			深度49.81m：シーム。傾斜53度。幅1～5mm，暗褐色粘土状。 深度50.42～54.44m：風化を受け部分的に褐色化している。
							IIIg				
							IVg				
						Cg	IIg	bg		2	
							IIIg				
							IIg				
							IIIg	cg			
					にぶい黄橙	Eg	VIg	dg	δ		深度54.44～55.56m：風化帯。上盤67度，下盤6度。砂状化している。
					明赤灰	Dg	IVg	cg	γ		
							IIg				
						Eg	IVg	dg	δ		深度56.49～56.78m：風化を受けている。
						Cg	I g	bg	β	1	深度56.78～60.49m：弱風化し，部分的に褐色帯びる。
							IIg				
							IIIg				
							I g				
60					灰白		IVg	cg	γ	2	深度60.49～65.15m：やや変質をうけ，白色を帯び，軟質化している。
					明赤灰	Dg	IIIg				
					灰白		IIg				
					明赤灰	Eg	IVg			3	深度62.46～63.04m：変質帯。下盤30度。黄灰色砂状化。
					灰白						

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM'							12/24 27.20	53							
CH'															
CM'															
CL'								71	115 ケーシング				0.0	泥水 5	5
							12/26 32.90								
								72							
							12/27 35.80								
								70							
CM'							1/10 38.60								
								109							
	[CM]	1/27 45.70								ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100			
D'							1/11 46.20		76				0.0	泥水 5	0
CM'								135							
CL'															
D'															
CM'		1/30 15 54.80 56.20													
D'							1/12 55.40								
CL'								60							
CM'							1/13 59.10								
CL'	[CL]							50							
							1/15 61.60								
D'								92							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				アプライト	灰白	Dg	Ⅳg	cg	γ	2	深度64.65～65.15m：黒褐色顕著。 深度65.00～66.87m：風化を受け全体に褐色化している。
					明赤灰	Cg	Ⅲg	bg			
					灰白	Dg	Ⅳg	cg			
							Ⅱg				
							Ⅰg				
					明褐灰	Cg	Ⅱg	bg	β	1	深度67.60～68.08m：径0.3cm程度の斑晶を3～5%程度含む。
							Ⅰg				
							Ⅱg				深度68.75～69.20m：斑晶が散在する。
							Ⅲg				
					灰白	Dg	Ⅳg	cg		2	深度71.14～78.32m：やや変質うけ，軟質化している。
						Cg	Ⅲg				
						Eg	Ⅳg				
					にぶい橙	Cg	Ⅲg				
						Eg					
						Dg	Ⅳg				
						Eg					
					灰白	Dg	Ⅳg		γ	3	深度73.17～73.67m：変質帯。上盤86度，下盤54度。土砂状。 深度73.67m：シーム。傾斜54度。幅2～4mm，灰白・暗褐色粘土状。
					明褐灰		Ⅲg				
					にぶい橙	Dg	Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅳg	cg			深度76.00～78.32m：割れ目多い。開口した割れ目にベントナイトが流入している。割れ目は黒褐色顕著。
						Eg	Ⅵg				
					にぶい橙	Dg	Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				深度78.22～82.82m：わずかに褐色化した新鮮岩。節理に沿って黒褐色帯びる。
80							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅰg				
						Cg	Ⅱg				
							Ⅲg		β		深度82.28～82.78m：変質受け溶脱する。 深度83.00～87.68m：全体に褐色化顕著，黒褐色の部分も見られる。
					灰黄褐		Ⅱg			2	
					灰白	Bg	Ⅰg	bg			
					にぶい黄橙		Ⅱg				
							Ⅰg				
					灰白		Ⅲg				
					灰黄褐	Cg	Ⅰg				
	68.73	87.68		ペグマタイト	灰白	Dg	Ⅳg	cg	γ		深度87.68～87.90m：ペグマタイト。径10mm程度の石英の巨晶が見られる。
	68.58	87.90					Ⅰg	bg			
				アプライト	にぶい黄橙		Ⅲg				
					黄褐		Ⅱg				
							Ⅲg	cg			
						Cg	Ⅱg				
90					にぶい黄橙		Ⅰg				花崗斑岩，上位との境界は傾斜74度，部分的に同方向の節理に沿って変質受ける。 深度90.62～114.85m：花崗斑岩。 斑晶がやや細粒な花崗斑岩である。 径3～10mm程度の石英，長石及び黒雲母の斑晶を10～40%程度含み，石基は0.1～0.5mm程度である。石基の組織は均質である。 深度90.62～93.70mおよび深度98.00～100.70m間は斑晶が多い。 深度93.00～95.20m：やや変質が見られ，脱色している。
							Ⅲg	bg	β		
	66.76	90.62		花崗斑岩	黄褐		Ⅱg				
						Dg	Ⅳg		γ		
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Dg	Ⅳg				
							Ⅲg				
					浅黄橙	Eg	Ⅵg			3	深度95.20～95.70m：変質帯。上盤28度，下盤30度。土砂状。 深度95.54m：シーム。傾斜39度。幅5mm，明褐色粘土状。
							Ⅳg	cg			
					黄褐		Ⅱg				
						Cg	Ⅲg		β	2	
							Ⅱg				
					青灰		Ⅰg				
					黄褐		Ⅱg				

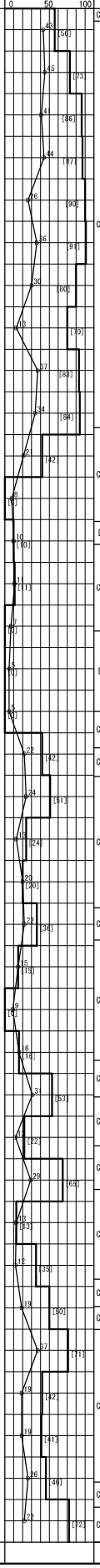
岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CL'	[CL]	1/29 67.40				1/16 68.50	92	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100	0.0	泥水 5	0
CM'	[CM]	68.50												
		2/23 70.80					104							
		79.60				1/17 75.80								
CL'	[CL]	2/26 83.20				1/18 83.20	112							
CM'							75							
B'						1/19 86.20								
[CM]							104							
CM'						1/20 91.60								
CL'							98							
D'						1/22 96.00								
CM'							58							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				花崗斑岩	浅黄橙 黄褐 灰白	Cg Dg Cg Dg	Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅰg Ⅲg Ⅰg Ⅳg Ⅱg	cg bg cg	β	2	深度99.70～101.00m：全体に褐色化顕著。 深度101.82m：幅1～2mm，黄褐色固結シルト状。 深度102.00～112.00m：全体にわずかに褐色化している。高角度な節理が多く， 節理に沿って黒褐色化している。開口割れ目あり。 深度107.00～107.40m：やや斑晶が少ない。
110					明褐灰 にぶい黄橙 灰白 にぶい黄橙 明褐灰	Cg	Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅰg Ⅱg Ⅲg	bg	β		深度110.09～111.95m：全体に褐色化した柱状コア。節理に沿って砂～シルトを挟む。 深度113.00～114.48m：褐色化弱くなる。
	50.55	114.85			にぶい褐	Dg	Ⅳg Ⅲg	cg		1	アプライト，上位との境界漸移的。 深度114.85～136.85m:アプライト。 アプライト主体で，花崗斑岩を挟む。 アプライトの石基は径0.1mm以下であるが，一部径0.2mm程度で，組織は全体に不均質である。
				アプライト	にぶい黄橙 灰白	Cg Dg	Ⅰg Ⅱg Ⅳg	bg cg	γ	2	深度118.78～120.00m：全体に変質うけ，岩質が脆くなる。
120					にぶい黄橙	Cg Bg	Ⅱg Ⅰg Ⅱg	bg cg	β		深度120.00～122.00m：全体に褐色化し，縞状をなす。
	45.57	122.30		花崗斑岩	灰白	Bg	Ⅰg	bg	α	1	花崗斑岩，上位との境界漸移的。 深度122.30～123.70m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石及び径0.5～2mmの黒雲母の斑晶を10～40%程度含み，石基は径0.1～0.2mm程度。 深度118.20m付近には，幅4cm傾斜約40度の緻密なアプライト脈を挟む。
	44.63	123.70		アプライト	にぶい黄橙 明黄褐 灰白 にぶい黄橙 灰白	Cg	Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅱg	cg bg	β	1	アプライト，上位との境界漸移的。 深度125.00～125.47m：全体に変質をうけ，岩質が脆くなる。 深度125.47～128.29m：わずかに褐色化した柱状コア。
130					明黄褐 にぶい黄橙 灰白 褐灰	Bg Cg	Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅱg Ⅰg Ⅳg	cg bg cg		2	深度128.29～129.35m：全体に褐色化している。節理に沿って黒褐色を呈し，褐色シルトを挟む。 深度131.45～131.90m：斑晶散在。 深度134.30～134.50m：斑晶散在。 深度134.77～135.30m：節理多く，角礫状。節理に沿って砂～シルトを挟む。

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM' CL' CM' CL' CM' B' CH' CM' CL	[CM]						1/23 99.80 1/24 105.60 1/25 113.70 1/26 121.30 1/27 125.20 1/29 131.20	58 83 135 109 69 100 90	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100	0.0	泥水 5	0

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	36.03	136.55	アプライト	灰黄褐	Cg	Ⅳg	cg	β	2	花崗斑岩，上位との境界傾斜20度。 深度136.55～141.70m：花崗斑岩。 径3～15mmの石英，長石の斑晶を主体に少量の黒雲母を含む。斑晶の混入量は20～40%程度，石基は径0.2～0.5mm程度である。
140	32.58	141.70	花崗斑岩	灰白		Ⅱg	bg			
	31.73	142.97	アプライト	にぶい黄橙		Ⅲg				アプライト，上位との境界漸移的。 深度141.70～169.30m:アプライト。 アプライト主体で，所々に厚さ0.6～1.3m程度の花崗斑岩を挟む。 アプライトの石基は径0.1～0.5mmであり，組織は全体に不均質である。斑晶は少ない。下位との境界付近は黒雲母が多い。 深度141.88～144.00m：高角度な節理が多くなる。
	31.07	143.97	花崗斑岩			Ⅱg				
	30.66	144.57	アプライト			Ⅲg				
	29.82	145.83	花崗斑岩	灰白		Ⅳg	cg			
	28.82	147.32	アプライト	にぶい黄橙		Ⅳg	cg	γ	3	深度146.29～146.32m：破砕帯(Hc)。 上盤31度，下盤62度。幅20～30mm，橙色シルト混じり粗粒砂状。 深度146.32～146.45m：変質帯。上盤62度，下盤45度。砂状～礫状。 深度146.45m：シーム。傾斜45度。幅2mm，褐色シルト状。 深度147.04～147.06m：破砕帯(Hc)。 上盤23度，下盤34度。幅23mm，明灰色シルト質砂状。 深度147.06～147.20m：変質帯。上盤34度。砂状～砂質シルト状。 深度147.25m：シーム。傾斜25度，幅2～4mm，灰白色礫混じりシルト状。 深度147.25～147.58m：変質帯。上盤25度，下盤38度。灰白色網目状。 深度149.71～149.84m：破砕帯(Hc)。 上盤45度，下盤54度。幅80mm，灰白色・褐色粘土状。正断層的構造有り。条線方向70度右。 深度149.84～150.34m：変質帯。上盤54度，下盤41度。節理密集部，砂状化。 深度150.59～150.80m：変質帯。上盤69度，下盤43度。礫混じり砂質シルト状。 深度151.03m傾斜18度。幅0.02cm，暗褐色砂質シルト状。軟質。正断層的センスのずれあり。 深度151.31～151.50m：変質帯。明褐～明黄灰色シルト状。
	28.44	147.90	花崗斑岩			Eg				
150	25.48	152.32	アプライト	明褐灰		Dg	cg			
	25.02	153.00	花崗斑岩			Cg	bg			
	24.52	153.75	アプライト			Dg				
	23.82	154.80	花崗斑岩			Cg				
160	16.57	165.63	アプライト	にぶい黄橙		Dg	cg	β	2	深度161.22～161.45m：ペグマタイトを挟む。カリ長石主体。 深度161.70～161.80m：ペグマタイトを挟む。カリ長石主体。 深度163.72～163.91m：1cm程度の間隔で節理が発達。 深度165.00～167.10m，168.35～168.65m:黒雲母を多く含む。 花崗斑岩，上位との境界漸移的。 アプライト，上位との境界傾斜15度。 深度167.30～168.60，168.50～169.53m間珪化変質。 花崗斑岩，上位との境界傾斜5～50度。 深度169.30～202.87m：花崗斑岩。 径5～10mm程度の石英，長石及び黒雲母の斑晶を3～25%程度含み，石基は径0.1～0.5mm程度で，部分的に黒雲母を多く含む。斑晶の多い部分と少ない部分とが1～2m程度の互層をなす。
	15.86	166.70	花崗斑岩	褐灰		Cg		α	1	
	14.12	169.30	アプライト	灰褐		Cg		β	2	
170			花崗斑岩	灰白		Dg				
				褐灰		Cg	bg	α		

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]



岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
CL'					1/30 137.20	90							
CM'	[CM]					114							
					1/31 143.30						0.0	泥水5	0
CL'						99							
D'					2/1 148.90								
CL'					2/2 150.10	90							
D'						73		ダブルコアチューブ／ダイヤビット					
CL'	[CL]				2/5 153.40		76		20.0	100			
CM'						104							
CL'					2/6 157.20								
CM'						86							
CL'					2/7 162.80						0.0	泥水10	0
CM'						85							
CL'	[CM]				2/8 168.60								
CM'						87							

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
				花崗斑岩	褐灰	Cg	Ⅰg	bg	α		深度169.59～170.18m：節理多く、岩片～短柱状コア主体。変質により溶脱。	CM'						87							
					にぶい黄橙		Ⅱg		β		深度170.18～174.47m：全体に変質を受けているが、節理少なく柱状～長柱状コア主体。						2/9 172.80								
					褐灰		Ⅲg		α																
							Ⅱg																		
							Ⅲg																		
					にぶい橙	Dg Cg	Ⅳg	cg			深度174.74m：シーム。傾斜35度。幅5mm，礫～シルト状。	CL'						95							
							Ⅱg																		
							Ⅳg				深度175.96m：シーム。傾斜15度。幅3～5mm，明褐灰色砂質シルト状。														
							Ⅲg	bg				CM'					2/10 176.90								
							Ⅳg	bg																	
							Ⅱg				深度177.49～178.40m：節理多く、短柱状コア主体。	CL'						78							
							Ⅳg	cg																	
							Ⅱg	bg																	
							Ⅳg	cg																	
							Ⅱg	bg				CM'													
180							Ⅲg				深度180.38～181.80m：全体に変質を受け、溶脱している。						2/12 180.40								
					橙	Dg	Ⅰg		β																
							Ⅲg				深度181.21～181.25m：幅2～7mm，明緑色シルト状。	CL'						99							
							Ⅱg																		
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg																	
							Ⅱg																		
							Ⅲg				深度183.61m：シーム。傾斜42度。幅2～4mm，砂混じり黒褐色シルト状。白色筋状の構造有り。正断層的センス。	CM'					2/13 183.20								
							Ⅳg																		
							Ⅲg	bg																	
					灰白	Dg Cg Cg Cg Dg	Ⅳg				深度185.61～185.64m：幅12～24mm，砂・礫状部。	CL'						103							
							Ⅰg		α		深度186.53～186.54m：破砕帯(Hc)。上盤46度，下盤48度。幅7～13mm，明褐灰色礫混じりシルト状。正断層的センス。軟質。	CH'	[CM]												
							Ⅲg				深度186.54～186.58m：破砕帯(Hb)。上盤48度，下盤47度。幅26～40mm，明橙色シルト混じり砂・礫状。														
							Ⅰg																		
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg	cg		2	深度189.00～191.10m：高角度な節理が連続する。	CM'					2/14 189.40		76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100	0.0	泥水10	0
							Ⅳg																		
190							Ⅲg																		
					明褐灰	Dg Cg Cg	Ⅳg		β		深度191.10～191.14m：破砕帯(Hb)。上盤46度，下盤54度。幅25～30mm，にぶい橙色シルト混じり礫状。	CL'						89							
							Ⅲg	bg			深度190.93～191.80m，192.93～193.40m，193.80～194.22m：溶脱し岩片は粗しょう。														
							Ⅱg																		
							Ⅲg																		
							Ⅳg	cg																	
							Ⅲg																		
							Ⅱg				深度194.61～198.41m：柱～長柱状コア主体。														
					褐灰		Ⅰg		α									83							
					にぶい黄橙	Bg	Ⅲg	bg				CM'													
							Ⅲg																		
							Ⅰg																		
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg	β		深度198.50～199.70m：高角度な節理発達する。														
							Ⅲg																		
							Ⅳg																		
							Ⅲg	bg																	
200							Ⅰg					CL'													
							Ⅲg					CM'													
	-8.35	202.87			明黄褐	Dg	Ⅳg	cg	γ		深度202.81～202.85m：破砕帯(Hc)。上盤63度，下盤64度。幅18～25mm，浅黄色シルト混じり礫～礫混じりシルト状。	CL'	[CL]												
				アプライト	にぶい黄橙	Cg	Ⅳg				深度202.87～207.57m：アプライト上位の花崗斑岩との境界は傾斜63～64度の破砕帯。石基は径0.1mm以下である。														
							Ⅳg				深度204.22m：シーム。傾斜16度、幅0.1mm暗灰色砂状。傾斜20度の節理が見かけ0.2cm逆断層的にずれる。														
					明褐灰	Cg	Ⅳg																		
						Dg Cg Cg																			

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	-11.49	207.57		アプライト	明褐灰	Dg	Ⅳg	cg	γ	2	花崗斑岩，上位との境界は傾斜52～62度の破砕帯 深度207.57～216.70m：花崗斑岩。 径5～10mmの石英，長石，一部径2～3mmの黒雲母の斑晶を3～25%程度含み，石基は径0.1～0.2mm程度で組織は不均質である。斑晶の多い部分と少ない部分とが20～30cm程度の互層をなす。 深度207.94～208.06m：破砕帯(Hc)。 上盤52度，下盤62度。幅70mm，灰白色礫混じりシルト状。 深度208.06～208.66m：破砕帯(Hj)。 上盤62度，下盤52度。砂状～シルト質砂状。 深度208.33m：傾斜72～82度。幅1.5mm，褐色シルト状。 深度208.66～208.69m：破砕帯(Hc)。 上盤52度，下盤59度。幅20mm，灰白色砂質シルト状。 深度212.00～212.07m：破砕帯(Hc)。 上盤55度，下盤41度。幅35～40mm，礫混じり黒色シルト質砂状。 深度215.42～215.46m：破砕帯(Hc)。 下盤55度。幅35mm，灰白色礫混じりシルト状。逆断層的構造有り。条線方向30度右。 深度215.98m：シーム。傾斜37度，幅5～7mm，灰白色砂質シルト状。 深度216.15～216.24m：破砕帯(Hb)。 上盤53度，下盤63度。幅35～60mm，褐色シルト混じり砂・礫状。下盤条線方向50度右。 深度216.70～220.00m：アプライト。 上位の花崗斑岩との境界は不明瞭。 石基は径0.1～0.2mm程度で，径5～10mm程度の石英主体の斑晶が点在する（0.5%以下）。	CL'	[CL]												
						Cg	Ⅲg																			
					にぶい橙	Eg	Ⅳg	dg		3		D'														
-210				花崗斑岩	にぶい褐	Cg	Ⅲg	cg	β	2		CM'	[CM]						126	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100	0.0	泥水10	0
								bg																		
						Dg	Ⅳg	cg				CL'						2／21 212.40								
						Cg																				
						Cg	Ⅱg	bg				CM'														
						Cg	Ⅲg																			
							Ⅳg																			
						Dg	Ⅴg	cg				CL'							131							
						Cg	Ⅳg																			
					明褐灰	Dg																				
						Dg	Ⅲg																			
	-17.60	216.70			にぶい黄橙	Cg	Ⅲg						[CL]					2／22 217.40								
						Cg	Ⅳg	bg				CM'														
							Ⅱg												87							
						Cg	Ⅳg	cg				CL'														
						Cg	Ⅲg																			
	-19.81	220.00			明褐灰	Cg	Ⅳg											2／23 220.00								

ボーリング柱状図

調　査　名

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	No.3	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 37.31 m	角度	180° 上 90° 下0° 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	200.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	37.19	0.12	表土		にぶい黄褐						径10～30mmの亜角～亜円の花崗岩礫混入。基質はシルト質細～中砂。																
	36.11	1.20	礫混りシルト質砂																								
	35.83	1.48	礫		明褐																						
	35.49	1.82	礫混りシルト質砂		にぶい黄褐																						
					黄褐	Dg	Ⅳg																				
					褐灰	Cg	Ⅱg				深度1.82～5.90m：アプライト。 石基は径0.1mm以下であり，部分的に黒雲母が多い。流理は不明瞭である。																
					明黄褐	Dg	Ⅲg																				
					黄褐	Cg	Ⅱg				深度2.78～2.79m：灰白～黄褐色流入粘土～砂。																
						Dg	Ⅳg			γ	深度3.08～4.26m：風化強く，節理多い。節理に沿って褐～灰白色流入粘土を挟む。																
					明黄褐	Cg	Ⅲg	cg			深度4.74～4.76m：幅15～17mmの流入粘土，砂を挟む。		CL'														
					褐灰		Ⅱg																				
	31.41	5.90			黄褐		Ⅳg				花崗斑岩，上位との境界傾斜20～40度。 深度5.90～22.70m：花崗斑岩，一部アプライト。 花崗斑岩主体で，厚さ1.0～2.3m程度のアプライトを挟む。																
					灰黄褐	Dg	Ⅱg																				
					明黄褐		Ⅲg				花崗斑岩は径3mm程度の石英，長石，一部黒雲母の斑晶を3～30%程度含み，石基は径0.2～0.5mm程度である。 花崗斑岩に挟在するアプライトの境界は漸移的～不明瞭，流理は不明瞭。		CM'														
					灰黄	Cg	Ⅲg																				
					明黄褐	Dg	Ⅱg				深度6.20～6.40m：幅8～12mmの白色～褐色粘土を挟む。																
					灰黄	Cg	Ⅱg																				
					明黄褐	Dg	Ⅲg	bg			深度7.50～10.0m：節理に酸化マンガンを挟む。		CL'														
					橙		Ⅳg																				
10						Dg	Ⅴg				深度9.60～10.97m：節理多く，節理に沿って変質顕著。																
					黄褐	Dg	Ⅵg				深度10.00m：シーム。傾斜75度，幅0.5mm，粘土状。																
							Ⅳg				深度10.00～10.08m：幅30mmの黄・黒色粘土～砂状を呈し，軟質。																
						Dg	Ⅲg	cg			深度10.08m：シーム。傾斜75度，幅0.5mm，暗褐色粘土状。																
						Cg	Ⅳg				節理多く，節理に沿って黒褐色シルト～砂を挟む。																
					黄灰	Bg	Ⅱg	bg																			
	24.51	12.80																									
					黄褐	Cg	Ⅳg																				
						Dg	Ⅱg	cg		γ																	
					灰白	Bg	Ⅱg			β																	
					褐灰		Ⅲg																				
	22.21	15.10					Ⅱg																				
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg			深度15.54～15.85m：角礫～土砂状，石英の巨晶が多い。																
						Eg	Ⅲg	dg																			
						Cg	Ⅳg	cg		δ																	
	20.74	16.57					Ⅱg																				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg																				
	19.77	17.54				Bg	Ⅱg	bg		γ																	
							Ⅳg																				
						Cg	Ⅱg																				
					にぶい黄	Eg	Ⅵg	dg			深度18.33～20.20m：変質帯。上盤4度，下盤48度。黄灰色土砂状。																
					明黄褐	Eg	Ⅳg	cg																			
					灰黄	Eg	Ⅵg	dg		δ																	
					にぶい橙	Bg	Ⅴg	cg																			
20					にぶい黄	Cg	Ⅲg																				
					灰白					γ																	
					灰黄褐		Ⅱg																				
					褐灰																						
	14.61	22.70			灰黄褐	Cg		bg		β																	
					明黄褐	Dg					アプライト，上位との境界傾斜50～60度。 深度22.70～31.40m：アプライト。 石基は径0.1mm以下であり，部分的に黒雲母が多い。流理は不明瞭である。																
					にぶい橙		Ⅳg																				
						Cg					深度23.00～24.19m：やや節理多く，節理に細粒物質を挟む。 節理は高角度（60～80度）と低角度（30～50度）が卓越する。																
					明褐灰		Ⅱg																				
							Ⅲg																				
							Ⅱg																				
					明黄褐	Cg	Ⅳg	cg			深度24.19～25.00m：節理少なく柱状コア。節理に沿って赤褐色化が見られる。																
					明褐灰		Ⅱg																				
						Dg	Ⅲg				深度25.32～27.24m：節理に沿って褐色化顕著。節理不規則。																
					灰白	Cg	Ⅳg	bg																			
						Bg	Ⅱg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				アプライト	灰	Bg	Ⅲg Ⅱg	bg	α	2 1	深度27.24～28.06m：新鮮なアプライト。
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg				深度28.06～28.82m：全体に褐色化顕著。
					黄褐	Dg	Ⅳg Ⅴg		γ	2	
					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg			3	深度29.35～30.38m：変質帯。灰白色帯び原岩組織不明。網目状に白色シルトを挟む。
						Dg	Ⅳg	cg		4 3	深度30.38～30.48m：破砕帯（Hc）。上盤50度，下盤63度，幅40～50mm。桃色粘土状。
	5.91	31.40			灰褐		Ⅳg				深度30.48～31.25m：変質帯。上盤63度，下盤26度。全体に灰白色帯びる。網目状に灰白色シルトを挟む。
					明褐灰		Ⅴg Ⅴg	bg	δ	2	花崗斑岩，上位の境界は変質帯で不明瞭。
					灰黄	Eg	Ⅵg	cg		3	深度31.40～54.60m：花崗斑岩，一部アプライト。
					にぶい橙	Dg Eg Dg	Ⅳg Ⅵg Ⅴg	dg			花崗斑岩主体で，厚さ1.3m程度のアプライトを挟む。
					明黄褐		Ⅳg				花崗斑岩は，径5mm程度の石英，長石の斑晶を主体とし，少量の黒雲母の斑晶を含む。斑晶の割合は3～5%程度である。石基は径0.1～0.5mmで組織は全体に不均質である。斑晶の混入は少ないが，部分的に多くなる。
					にぶい橙		Ⅱg				深度32.00～33.00m：変質帯。砂～細礫状，一部砂混じりシルトを挟む。
					にぶい黄橙		Ⅰg				32.14m，32.30m，幅10～20mm灰白色シルト状。
					灰黄褐	Cg		bg	γ		深度33.60～34.23m：砂～角礫状を呈する。岩片は硬い。
					明黄褐		Ⅱg				深度34.23～38.47m：節理少ない柱状コア。硬さは中硬質で，コア表面はややざらつく。
					灰黄	Dg Eg	Ⅳg Ⅴg				岩芯まで風化し，節理に沿って褐色化顕著。やや高角度な節理が多い。
					明黄褐	Cg	Ⅳg				深度38.47～39.00m：角礫状を呈し，全体に脆い。
					灰黄	Eg Dg	Ⅴg	cg	δ		深度39.40～40.63m：全体に強風化岩で，岩質脆い。高角度の密着した節理多い。
					明黄褐	Cg	Ⅳg				深度40.63～42.75m：角礫～土砂状を呈する。
					黄褐	Eg Fg Cg	Ⅵg Ⅴg Ⅳg Ⅴg	bg			深度42.81m：シーム。傾斜20度，幅7mm，黒褐，褐灰色主体，一部黄灰色粘土状。傾斜52度の変質部と交差する。
					浅黄	Dg Eg	Ⅲg Ⅵg				
					にぶい橙	Cg	Ⅲg Ⅳg	cg		2	
	-8.24	45.55		アプライト	明褐灰	Dg	Ⅲg Ⅳg				アプライト，上位との境界傾斜20～30度。
					にぶい黄橙		Ⅱg	bg			深度45.90～48.78m：比較的新鮮，節理からの風化が進行し，節理面は黒褐色化している。
	-9.59	46.90			にぶい褐	Cg	Ⅳg	cg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
								bg			深度46.90～54.60m：花崗斑岩。径5～10mmの石英，長石の斑晶を主体とし，一部黒雲母の斑晶を多く含む。石基は径0.1～0.2mmで黒雲母を散在する。
50				花崗斑岩	にぶい橙		Ⅳg	cg	γ		深度48.92～50.48m：やや風化著しく，角礫～細礫状をなす。
					浅黄	Dg	Ⅴg				
					明黄褐		Ⅱg	bg			深度50.48～52.00m：節理の少ない柱状コア。節理に沿って褐色を帯びる。
					褐灰	Cg					
					にぶい黄褐						
					褐灰	Dg	Ⅳg	cg			深度52.00～54.20m：全体的に風化を受けているが，岩片は硬い。高角度な節理発達。
					にぶい黄褐	Cg	Ⅲg Ⅱg Ⅳg	bg			
	-17.29	54.60				Dg	Ⅵg	cg			アプライト，上位との境界不明瞭。
				アプライト	灰黄褐	Bg	Ⅱg	bg			深度54.60～57.80m：アプライト。石基は径0.1mm以下である。
							Ⅳg				深度54.60m：シーム。傾斜70度，幅5mm，暗褐色粘土状。上盤に幅0.7cmの灰白色砂状変質部を伴う。
						Dg Cg	Ⅳg Ⅴg	cg			深度55.95～56.60m：砂～角礫状をなす。高角度な節理に沿って砂を挟む。
					褐灰	Dg	Ⅳg Ⅴg	bg	δ		
	-20.49	57.80				Cg	Ⅳg	cg			深度57.10～57.60m：高角度な節理に沿って，砂～シルトを挟む。
						Dg	Ⅴg				深度57.60～60.00m：新鮮岩。やや節理が多く，一部角礫状。節理に沿って表面のみ弱く酸化する。
						Cg	Ⅳg				花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
							Ⅱg				深度57.80～65.95m：花崗斑岩。
							Ⅳg				斑晶がやや粗粒な花崗斑岩である。
							Ⅱg				径3～10mmの石英，長石の斑晶を主体とし，一部に黒雲母の斑晶を1～40%程度含み，石基は径0.1mmで一部径0.5mm程度をなす。斑晶の多い部分と少ない部分が50～100cmの互層を呈する。
60				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅳg	bg	β	1	深度60.00～63.50m：節理少なく柱状コアをなす。
					褐灰		Ⅱg				
					黄褐		Ⅰg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
		10/10 28.10					9/25 29.00	64					0.0	泥水 5	5
								63					0.0	泥水 5	3
							9/26 33.00						0.0	泥水 5	4
													0.0	泥水 5	3
								64							
							9/27 36.50								
								57							
							9/28 40.60								
								68					0.0	泥水 5	5
							9/29 45.00		76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	100			
								78							
							9/30 49.40								
								85							
							10/2 53.80						0.0	泥水 7	7
													0.0	泥水 10	10
								85					0.0	泥水 5	5
							10/3 58.50								
								83					0.0	泥水 10	10

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
70	-28.64	65.95		花崗斑岩	黄褐	Bg	Ⅰg				深度63.50～63.60m：節理に沿って細礫状。幅7mmの灰黄～灰赤色シルトを挟む。	B'	CM'												泥水10	10
					明黄褐	Cg	Ⅱg				深度64.15～65.18m：柱状コアをなすが，節理に沿って褐色化している。	CH'												0.0	泥水10	0
					にぶい橙	Bg														83							
					明褐	Cg	Ⅲg												10／4								
					にぶい黄橙	Bg	Ⅱg												65.60								
					黄褐	Cg	Ⅳg				アプライト，上位との境界不明瞭。 深度65.95～70.17m：アプライト。 石基は径0.1mm程度であり，径3mm程度の石英，長石の斑晶及び径1mm程度の黒雲母の斑晶が点在する（0.5%以下）。	CM'												0.0	泥水10	5
					にぶい橙	Bg	Ⅱg					CH'															
					にぶい橙	Cg	Ⅳg				深度66.00～69.04m：やや節理多く，節理に沿って褐色化する。 深度68.10m：幅5～10mmの灰白色シルトを挟む。	CM'												0.0	泥水10	0
	-32.86	70.17			明褐		Ⅲg													60							
					にぶい橙		Ⅳg				深度69.04～69.49m：やや節理多く，短柱状コアをなす。	CH'							10／5								
					橙		Ⅱg												69.50								
					明褐		Ⅲg																				
					にぶい橙	Bg	Ⅰg			1	花崗斑岩，上位との境界傾斜15～20度。 深度70.17～81.50m：花崗斑岩。 径3～15mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を50%程度含み，石基は上部が径0.1mm程度，下部が径0.5mm程度である。	B'	[CH]											0.0	泥水10	5
					橙		Ⅱg				深度72.40～73.30m：節理に沿って褐色化が見られる。	CH'															
					明褐灰	Cg	Ⅲg		bg		深度73.30～75.00m：やや節理多くなり，節理に沿って褐色化している。	CM'															
					にぶい橙	Bg	Ⅱg				深度75.00～82.00m：節理少なく柱状コアをなす。	CH'															
					橙		Ⅰg																				
					にぶい橙		Ⅱg													101							
					褐灰		Ⅰg			α		B'							10／7								
					にぶい橙		Ⅱg				深度78.40m：幅10～20mmの砂を挟む。	CH'							79.20								
80																											
					褐灰	Cg	Ⅳg				深度81.50～94.40m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石，黒雲母斑晶を1～5%程度含み，石基は径0.1～0.2mm程度である。斑晶の多い部分と少ない部分が50～130cm程度で互層を呈する。 深度81.80～81.90m：固結し密着した節理が多く，柱状コアをなす。 深度82.00～83.71m：節理多く，短柱状コアをなす。深度82.80m以深，節理に沿って褐色化著しい。 深度84.45～86.50m：節理多く，褐色化著しい。	CM'															
					橙	Bg	Ⅱg					CH'															
					にぶい橙		Ⅳg	Ⅴg	cg																		
						Cg	Ⅳg		bg			CL'															
							Ⅱg																				
							Ⅳg		cg			CM'															
						Bg	Ⅱg		bg	β	2	CH'	[CM]														
					橙	Cg	Ⅳg		cg		深度87.75～88.14m：節理多く，一部角礫状，節理に沿って褐色化著しい。																
						Bg																					
					にぶい橙		Ⅱg																				
							Ⅳg				深度89.00～90.00m：節理多く，高角度な節理あり。節理に沿って砂，シルトを挟む。	CM'															
90						Cg	Ⅲg		bg		深度90.00～92.25m：やや節理多く，節理に沿って褐色化。砂～シルトを挟む。																
							Ⅳg																				
							Ⅲg																				
							Ⅳg																				
					にぶい黄橙	Dg	Vg		cg		深度92.25～93.18m：高角度な砂～細礫状破砕部あり。	CL'															
						Dg																					
					にぶい橙	Cg	Ⅳg				深度93.18～94.12m：やや節理多く，高角度な節理あり。	CM'															
							Ⅱg																				
							Ⅰg				深度94.12～96.70m：新鮮柱状コア，黒雲母を多く含む花崗斑岩。 深度94.40～113.00m：花崗斑岩。 径3mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶を3～15%程度含み，石基は径0.1～0.5mm程度。黒雲母を含み全体に組織は均質である。																
					灰		Ⅱg			1										87							
						Bg	Ⅲg		bg	α		CH'	[CH]														
							Ⅱg				深度96.70～98.85m：全体に褐色化著しい。硬質で節理少ない柱状コア。																
					にぶい黄橙					β	2									101							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				花崗斑岩	灰褐	Cg	Ⅳg	cg		2	深度98.85～99.60m：高角度な節理発達。節理に沿って砂を挟む。
					にぶい黄橙	Bg	Ⅰg	bg	β	1	深度100.00～102.70m：硬質，柱状コアであるが，全体に褐色化している。
					にぶい橙	Cg	Ⅱg			2	深度102.70～105.00m：高角度な節理あり，やや節理多くなる。上位に比べやや変質・風化進む。
						Bg	Ⅲg				深度105.00～105.40m：高角度な節理発達，節理に沿って細礫を挟む。 深度105.40～106.66m：節理に沿って褐色化，低角度な節理が多くなり，節理は密着し，柱状コアをなす。
						Cg	Ⅱg				
						Bg	Ⅳg				
						Cg	Ⅱg				
							Ⅲg				
110					灰	Bg	Ⅱg		α	1	深度106.66～112.00m：灰色花崗斑岩。褐色化弱く比較的新鮮。低角度の節理多く発達。 深度109.30～110.00m：高角度な節理あり。 深度110.60m以深，節理に沿う褐色化顕著。
							Ⅰg				
					明褐	Cg	Ⅳg	cg	β		深度112.00～113.00m：全体に褐色化顕著。高角度な節理多く，一部角礫状をなす。
							Ⅲg				
					灰	Bg	Ⅳg		α		深度113.00～162.89m:花崗斑岩。 斑晶は粗粒，上位の細粒な花崗斑岩との境界は明瞭であり傾斜は10～20度である。 径5～20mmの石英，長石，黒雲母を10～50%程度含み，石基は0.1～0.5mm程度である。一般に斑晶は多いが，厚さ1～2m程度の斑晶の少ない部分を挟む。一般に流理は傾斜20度程度を示す。組織は均質であるが，漸移的に変化する。157.00m以深カリ長石を多く含む。
						Cg	Ⅲg				
					にぶい黄橙	Bg	Ⅱg	bg	β	2	深度114.80～117.50m：全体的に褐色化している。硬質柱状コアで，高角度な節理あり。
							Ⅰg				
					灰		Ⅱg				深度117.97～119.15m：高角度な節理に沿って，赤褐色・黒褐色の固結シルトを挟む。
					にぶい黄橙		Ⅳg	cg			
120					灰		Ⅱg	bg	α	1	深度119.15～121.07m：変質を受けていない新鮮花崗斑岩。節理に沿ってわずかに褐色化する。
							Ⅰg				
							Ⅱg				
							Ⅲg	cg			深度121.07～122.54m：高角度な節理が発達し，全体に褐色を帯びる。節理に沿って砂を挟む。
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg				
							Ⅲg	bg	γ		深度122.54～125.25m：全体に褐色化し，やや節理多い。
							Ⅳg				
						Bg	Ⅱg				
							Ⅲg	cg			深度125.25～126.67m：全体に褐色化し，岩質やや脆い。幅10～20mmの砂～シルトを挟む。高角度な節理が卓越。
							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg	bg			深度126.67～129.17m：全体に褐色化する。高角度な節理あり。所々節理が密集する。
							Ⅱg			2	
					明褐		Ⅳg				深度129.17～130.60m：わずかに褐色を帯びた新鮮岩。
						Bg	Ⅲg	bg	β		
130						Cg	Ⅳg				
							Ⅱg				深度130.60～132.74m：新鮮な柱状コア。節理少ない。 深度131.74m以深は，全体にわずかに褐色を帯びる。
					にぶい褐	Bg	Ⅰg				
						Cg	Ⅱg				
						Bg					
							Ⅲg				
							Ⅱg	cg			
						Cg	Ⅳg		γ		深度132.74～136.63m：高角度な節理発達し，節理に沿って細礫状をなす。全体に褐色化顕著。
					にぶい橙						

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度 0 10 20 30 40 50）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100																
16 (16)	CL'															
55 [98]	B'															
27 [74]	CH'	[CH]														
35 [73]																
52 [72]																
30 [53]	CM'	[CM]														
44 [58]																
33 [89]																
24 [72]																
35 [82]	CH'															
46 [79]																
40 [88]																
50 [88]																
36 [67]																
25 [42]	CM'	[CH]														
25 [63]																
3 [1]	CH'															
37 [73]																
58 [98]	B'															
28 [62]	CH'															
48 [98]																
54 [94]	B'															
9 [42]	CH'															
20 [33]	CM'															
26 [46]	CL'															
35 [80]	CM'															
23 [32]	CH'															
15 [25]																
18 [30]																
30 [58]	CM'	[CM]														
15 [29]																
25 [72]	CH'															
54 [84]	B'															
30 [64]	CM'															
44 [69]																
12 [72]	CL'															

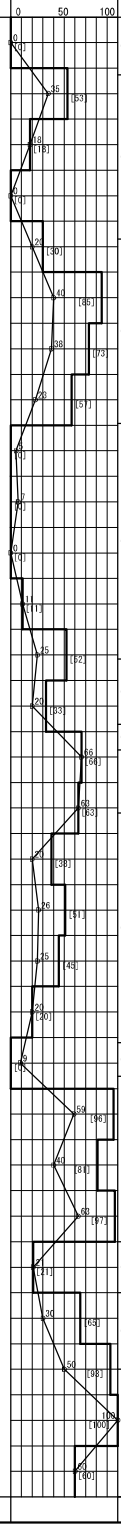
掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
10／13 104.70	101	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	100	0.0	泥水 10	3
10／14 110.80	100							
10／16 116.80	144					0.0	泥水 10	5
10／17 123.60	146							
10／18 128.40	107							
10／20 130.60	69							
10／21 133.50	83							
	103							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
140				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	深度135.15～136.07m：節理多く，角礫状をなす。
					にぶい褐		Ⅲg	bg			深度136.63～139.47m：高角度な節理発達，全体に角礫～細礫を呈する。節理に沿って褐色化顕著，砂を挟む。
							Ⅳg				
							Ⅲg	cg			深度138.45～138.80m：節理密着し，柱状コアをなす。
					にぶい橙		Ⅳg				深度139.47～141.31m：全体に褐色を帯びる。節理はやや少ない。
							Ⅱg				
					橙		Ⅲg				
						Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅳg				深度141.31～143.17m：柱状コアをなす新鮮花崗斑岩。節理に沿って弱く褐色を帯びる。
					褐灰		Ⅱg	bg	α	1	
						Bg	Ⅰg				
					にぶい黄橙		Ⅱg	cg	β	2	深度143.17～145.14m：全体に褐色化した花崗斑岩。柱状コアをなし節理少ない。節理に沿って黒褐色砂を挟む。
						Cg					
					褐灰	Bg	Ⅰg	bg	α	1	深度145.14～146.91m：新鮮な柱状コア，節理少ない。節理に沿って一部褐色化。
					にぶい黄橙		Ⅳg				深度146.91～148.31m：全体に褐色化著しく，節理多い。高角度な節理を主として，一部に角礫状部を挟む。
						Cg	Ⅲg				
					褐灰		Ⅰg				深度148.31～149.00m：節理に沿って褐色化著しい。
					にぶい黄橙		Ⅲg	cg			深度149.00～149.66m：全体に褐色化著しい。節理に沿って砂～シルトを挟む。
					褐灰		Ⅳg				
150					灰白	Bg	Ⅱg	bg			深度150.00～151.62m：柱状コアを呈する。節理に沿って褐色を帯びるが，一部に新鮮岩を残す。
						Cg	Ⅲg				深度151.62～152.10m：細礫～角礫状を呈する節理密集部。
							Ⅳg				深度152.10～153.00m：節理に沿って褐色化著しい。
							Ⅲg				
							Ⅳg				深度153.00～153.70m：不規則に節が理発達し，角礫状コアをなす。
					明褐灰		Ⅱg				深度153.70～154.90m：全体に褐色化著しい。
						Cg	Ⅲg				深度154.90～155.45m：新鮮岩を残すが，節理に沿って褐色化している。
					赤灰		Ⅱg				深度155.45～157.13m：全体に褐色化著しく，高角度な節理多い。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅳg				
					灰赤	Eg	Ⅳg				深度157.13～157.54m：砂～細礫状をなす。一部粘土を挟む。
						Cg	Ⅱg				深度157.54～161.17m：比較的節理の少ない柱状コア。節理に沿って褐色を帯びる。
						Bg	Ⅲg	bg	β	2	
160							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
					灰白	Bg	Ⅱg				高角度な節理が発達した花崗斑岩。全体に褐色を帯びる。
						Cg	Ⅱg				
							Ⅳg				
					灰赤	Dg	Ⅲg				深度162.89～200.00m：花崗斑岩。径5～15mmのカリ長石，石英の斑晶及び径2mm程度の黒雲母の斑晶を30～80%程度含み，石基は径0.5mm程度。
						Cg					
						Bg	Ⅱg				
					にぶい赤橙		Ⅲg				深度165.00m以深，高角度な節理が多くなり，節理に沿って砂～細礫を挟む。
							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
						Bg	Ⅲg				
					明赤灰	Dg	Ⅳg				高角度な節理を中心に，網目状に節理が発達し，節理に沿って褐色化する。
						Cg					
						Bg	Ⅲg				
170					にぶい赤橙	Cg	Ⅳg				深度169.50～175.00m：全体に高角度な節理発達。
						Dg					

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100					0 10 20 30 40 50											
15 [19]	CL'							10/23	103							
26 [48]	CM'							37.10								
18 [18]	CL'															
20 [32]	[CM]															
28 [28]	CM'								97							
32 [55]								10/24								
30 [69]								141.30								
15 [90]	CH'															
44 [91]									74							
34 [66]	CM'	[CH]						10/25								
50 [84]	B'							145.60								
69 [89]																
45 [88]									78							
58 [74]	CM'															
25 [40]								10/26								
29 [87]	CH'							150.10								
15 [15]																
22 [61]	CM'	[CM]							80							
27 [27]								10/27								
20 [42]	CM'							154.10								
37 [52]									105							
18 [33]	CM'															
10 [30]								10/28		76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	100	0.0	泥水 10	5
40 [80]	CH'	[CH]						158.30	78							
29 [67]																
26 [51]	CM'															
24 [64]								10/30								
25 [63]	CM'							161.40								
30 [74]									100							
50 [95]	CH'															
20 [46]		[CM]														
17 [48]	CM'															
28 [28]								10/31								
30 [40]	CH'							167.40								
22 [35]	CM'								118							
20 [20]	CL'															

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
				花崗斑岩	にぶい赤橙	Dg, Dg, Cg, Dg, Bg, Cg, Bg, Dg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅴg	bg, cg, bg, ag	β		深度170.82～172.13m：網目状に節理が発達し，やや軟質である。 深度171.50～172.70m：節理に沿って褐色化する。 深度172.73～173.35m：高角度な節理に沿って細礫を挟む。 深度175.00～175.55m：高角度な節理発達。 深度175.55～179.00m：節理の少ない柱状コア。深度177.65m以深，節理に沿って白色粘土を挟む。 深度179.00～180.00m：高角度な節理が発達し，一部角礫～細礫状をなす。 深度180.16～180.24m：180.76～180.89m：角礫～細礫状をなす。 深度181.00～181.40m：高角度な節理発達し，角礫～細礫状をなす。 深度182.61～182.87m：節理密集，角礫～細礫状をなす。	CL′, CM′, CH′, CM′, CH′, CM′, B′	[CM], [CH], [CM], [CH], [CM]				11/1 173.30, 11/2 178.40, 11/3 181.60, 11/6 185.30	118, 102, 96, 106		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	100	0.0	泥水10	5
180					明赤灰	Cg, Dg, Cg, Bg, Cg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅲg, Ⅳg	bg																		
					灰赤	Cg	Ⅳg			2																
					にぶい赤橙	Bg	Ⅰg	ag	α		深度186.60～188.00m：高角度な節理が発達。 深度187.30m，188.20m：節理に沿って黄鉄鉱を挟む。 深度188.70～190.00m：高角度な節理が発達。	CM′	[CM]						11/7 189.90	92							
190					明赤灰	Cg, Dg, Cg, Cg, Bg, Cg, Dg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg	bg	β																	
					にぶい赤橙	Bg	Ⅰg, Ⅱg, Ⅰg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg	cg, ag, ag			深度191.05～191.75m：節理に沿って黒褐色・赤褐色化する。高角度な節理が発達。 深度192.65m，193.23m，194.04m，194.16m：密着した節理に黄鉄鉱を挟む。 深度195.20～196.00m：長石の灰白色粘土化が認められる。 深度195.73m：密着した節理に黄鉄鉱を挟む。	CL′, B′, CM′, CH′	[B]						11/8 194.10	84							
					灰赤	Cg	Ⅲg	cg	β																	
					にぶい黄橙	Bg	Ⅱg	bg																		
					明赤灰																					
					明青灰																					
					明赤灰		Ⅰg	ag	α		深度197.70m，197.73m，199.93m：密着した節理に黄鉄鉱を挟む。								11/9 198.20	72							
					明青灰		Ⅳg																			
					緑灰		Ⅰg												11/10 200.00	98							
	-162.69	200.00																								

コア採取率 ―△―（%）
最大コア長 ―○― cm
R Q D ┐ [%]



（標準貫入試験）試験
（N値～深度）
0 10 20 30 40 50

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.4	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 36.89 m	角度	180° 上 90° 下0° 45°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 59.75° 270° 西	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	250.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				表土	褐																						
	36.25	0.90			にぶい褐						深度0.90～1.49m：礫径は1～3cm。																
	35.84	1.49	礫混り砂質シルト		黄橙																						
					浅黄橙						深度1.49～53.35m：アプライト。花崗斑岩及びアプライトの互層。アプライトは，石基の径が0.1mm以下で，一部に径0.2mm程度。斑晶は径3mm程度で石英，長石を主体にわずかに黒雲母を含む。全体に点在する程度である（0.5%以下）。深度1.49～23.83m間はアプライトであるが，斑晶を比較的多く含み（0.5～1%程度），やや花崗斑岩に近い。深度2.86～3.40m：高角度の粘土を挟む節理あり。深度4.90～4.92m：幅15mm，明褐色砂質シルト(流入粘土)を挟む。															
					灰白																						
					黄橙																						
					明褐																						
					にぶい橙																						
					明黄褐																						
					橙																						
					淡黄																						
					灰白																						
					橙																						
					浅黄橙																						
					灰白																						
					にぶい黄橙																						
					にぶい橙																						
					淡橙																						
					淡黄																						
					灰白																						
					淡黄																						
10				アプライト	淡橙						深度10.48～10.58m：破砕帯(Hc)。上盤40度，下盤44度。幅65mm，上盤から幅4mm黄灰色シルト状，幅20mm暗褐灰色砂質シルト状，幅25mm暗橙灰色礫シルト混じり砂状，幅15mm暗褐灰色シルト状。深度10.58～11.21m：破砕帯(Hj)。上盤44度，下盤49度。軟質化，節理密集部。深度11.21～11.52m：破砕帯(Hj)。上盤49度，下盤35度。砂状～シルト状。深度11.21m：傾斜49度。幅0.5～3mm，暗褐色シルト状。深度11.25m：傾斜6度。幅0～2mm，灰白色シルト状。深度11.52～11.53m：破砕帯(Hc)。上盤35度，下盤不明。幅12mm，暗褐灰色シルト状。															
					灰白																						
					浅黄						深度16.11～16.32m：破砕帯(Hb)。上盤30度，下盤57度。径5～10mm程度の石英を含むシルト混じり礫状，全体に固結。下盤に幅4～6mmの暗褐色シルト状部分を挟む。深度16.32～22.08m：節理に沿って褐色化する。															
					にぶい橙																						
20					淡橙						深度20.00～20.20m：ペグマタイトを挟む。																
	20.04	23.83		花崗斑岩	淡黄						深度22.08～22.26m：変質帯。上盤18度，下盤40度。軟質化。深度22.59m：シーム。傾斜55度。幅2mm，淡黄灰色粘土状。花崗斑岩，上位との境界不明瞭。深度23.83～30.00m：花崗斑岩。径5mm程度の石英，長石主体の斑晶を1～5%程度含む。深度25.00～26.42m：密着した節理が発達し，全体に軟質化する。															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30	15.68	30.00		花崗斑岩	淡黄	Dg	Ⅳg	bg	γ	2	深度28.25～28.80m：岩片～細礫状をなし，軟質化している。
					灰白	Cg	Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅴg	cg			
						Dg	Ⅲg	bg			深度28.80～34.24m：節理に沿って褐色化し，一部砂を挟む。
						Cg					
						Dg	Ⅳg				アプライト，上位との境界不明瞭。
						Cg	Ⅱg				深度30.00～53.35m：アプライト主体で，厚さ0.8～4.2m程度の花崗斑岩を挟む。花崗斑岩は，径3mm程度の石英，長石主体の斑晶を1～3%程度含み，斑晶が少なくアプライトに近い岩相である。
				アプライト	淡黄	Dg		cg			
						Cg					
							Ⅳg	bg			
	12.67	34.25			灰白	Cg		cg			花崗斑岩，上位との境界は変質帯，傾斜68度。
							Ⅲg	bg			深度34.24～34.38m：変質帯。上盤68度，下盤56度。砂状化し，脆くなる。
						Dg	Ⅳg	cg			深度34.38m：シーム。傾斜56度。幅3mm，灰褐色と灰白色シルトの互層状。
											深度34.38～36.38m：やや節理多く，角礫状コアをなす。
							Ⅰg				
					赤灰		Ⅳg				
					橙		Ⅱg				
					浅黄橙		Ⅲg				
					淡橙		Ⅳg	bg			アプライト，上位との境界不明瞭。
					淡赤橙		Ⅲg				深度38.86m：幅20～25mmの石英脈を挟む。
							Ⅱg				
					淡黄	Cg	Ⅳg	cg			
					浅黄橙		Ⅲg	bg			深度41.19～41.70m：傾斜50～60度の節理多く，全体に褐色化する。
							Ⅱg				
					明赤灰		Ⅰg				
	6.06	43.60					Ⅲg				
	5.48	44.42		花崗斑岩	淡黄		Ⅱg				
					灰白		Ⅳg	cg			
							Ⅱg				
							Ⅲg	bg			
						Dg	Ⅳg	cg		2	深度46.13～46.38m：破砕帯(Hb)。上盤55度，下盤54度。径3～15mmの礫を主とするシルト混じり礫状。下盤幅10mmの褐色粘土を挟む。
						Cg	Ⅲg				
						Dg					深度48.00～49.92m：高角度な節理が発達する。
						Cg	Ⅴg				
							Ⅲg				深度49.00～59.22m：全体に褐色化し，節理に沿って黒褐色化している。
						Dg	Ⅴg				
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
						Cg					深度51.38m:シーム。傾斜16度。幅1mm，明褐色シルト状。
						Dg	Ⅴg				
							Ⅳg	bg	γ		深度52.24m：シーム。傾斜48度。幅3mm，褐色シルト状。
	-0.83	53.35									
							Ⅲg				花崗斑岩，上位との境界傾斜60度。
							Ⅳg				深度53.35～65.10m：花崗斑岩
							Ⅲg				径5mm程度の石英，長石の斑晶を1～5%程度含む。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				深度57.10～58.10m：やや斑晶が少なく，アプライト様。
							Ⅳg				
					淡黄	Dg	Wz		δ	3	深度59.22～59.59m：破砕帯(Hj)。上盤30度，下盤70度。全体に脆く軟質，一部シルト質礫状。
						Cg	Ⅳg	cg		2	深度59.22m:傾斜30度。幅5mm，褐灰・黄灰色シルト状。
						Eg	Ⅴg			3	深度59.59m:傾斜70度。幅2mm，黄灰色シルト状。
					浅黄橙	Cg	Ⅲg		γ		深度60.32～60.36m：破砕帯(Hb)。上盤71度，下盤71度。幅10～20mm，黒色砂礫状。礫径5～15mm。
						Dg	Ⅳg			2	深度60.36～60.57m：変質帯。上盤71度，下盤61度。幅120mm，礫状～葉片状，全体に脆い。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	bg			
							Ⅳg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM'		1/8 28.30	3 [31]									
CL'			13 [28]									
CM'		1/27 30.10	18 [54]									
CL'			30 [57]		95							
		3/15 32.20	14 [37]									
CM'			15 [41]	12/7 32.70								
CL'		1/31 34.20	8 [31]									
CM'		2/7 36.30	16 [46]		94				0.0	泥水5	5	
CL'			15 [45]									
CM'			3 [79]									
			22 [52]									
CM'			20 [74]	12/8 39.30					110			
			22 [64]									
CL'		2/13 42.10	2 [34]									
			27 [67]									
[CM]			38 [76]									
CM'		1/18 45.20	22 [44]									
			2 [77]									
CL'		1/22 47.80	2 [34]									
			18 [24]									
			0 [0]									
			13 [33]									
			19 [31]	12/9 44.70	90	90／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0				
			11 [22]									
			8 [16]									
CM'			26 [61]									
			15 [30]									
			12 [72]	12/11 50.90	103				135			
			12 [72]									
			14 [14]									
			8 [8]									
			16 [16]									
CL'	[CL]		9 [27]		101				0.0	泥水5	0	
			18 [34]									
CM'	[CM]		18 [18]	12/12 58.00								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	橙	Cg	Ⅰg				
					浅黄橙		Ⅳg	bg	γ	2	アプライト，上位との境界不明瞭。 深度65.10～70.70m：アプライト。 石基は径0.1mm以下であり，径3mmの石英，長石の斑晶が点在する（0.5%以下）。
	-9.14	65.10				Cg					
					灰白			cg	δ	3	
						Dg	Ⅴg				深度65.58～66.85m：変質帯，上盤42度，軟質化。深度66.80～66.85mに暗褐色粘土を挟む。
					明褐灰						深度67.00～70.70m：節理に沿って褐色化著しく，やや割れ目多い。
					灰白		Ⅳg				
70							Ⅲg				
							Ⅳg				
	-13.10	70.70			明褐		Ⅱg				花崗斑岩，上位との境界傾斜40～50度。
				花崗斑岩			Ⅲg				深度70.70～84.18m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石，径1～2mmの黒雲母の斑晶を3～40%程度含み，石基は径0.1～0.2mm程度で組織は比較的均質である。斑晶は下方に向かって多くなる。
						Cg	Ⅳg	bg			深度70.70～78.80m：節理に沿って褐色化し，斑点状の褐色化も見られる。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				深度74.80付近～81.00m付近まで，節理に沿って黄鉄鉱を挟む。
							Ⅳg			2	
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
80					灰白		Ⅱg				
							Ⅲg	cg			深度80.25～84.25m：やや風化し，全体に褐色化している。
							Ⅳg				
							Ⅲg	bg			
						Cg	Ⅳg				
							Ⅴg	cg			
										3	
						Dg	Ⅳg				アプライト，上位との境界不明瞭。 深度84.18～122.70m：アプライト。 深度84.18～96.80mの間は，アプライトを主体とし，厚さ0.4～1.4mの花崗斑岩を挟む。
							Ⅲg				アプライトは石基の径が0.1mm以下であり，径3mm石英，長石の斑晶を主体として，径1mm程度の黒雲母の斑晶が点在する（0.5%以下）。
	-22.63	84.18		アプライト			Ⅳg				深度84.25～84.33m：破砕帯(Hc)。上盤55度，下盤63度。幅20～30mm，暗褐色シルト状，灰白色砂質シルト状。
							Ⅲg				深度84.33～84.49m：変質帯。上盤63度，下盤29度。橙褐色を帯び軟質化し脆い。
							Ⅳg				
	-25.12	87.70					Ⅱg				花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
				花崗斑岩			Ⅳg				
	-26.15	89.15					Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
90					淡赤橙		Ⅲg				アプライト，上位との境界漸移的。 深度89.50付近～94.10m付近，節理に沿って黄鉄鉱を挟む。
							Ⅳg			2	
						Cg	Ⅱg	bg	β		
							Ⅴg				
							Ⅲg				
					明赤灰		Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
	-30.06	94.68			にぶい橙		Ⅲg				
	-30.50	95.30		花崗斑岩			Ⅳg	cg		3	花崗斑岩の上位，下位との境界漸移的。 深度95.12～96.78m：変質帯。全体に淡緑灰～暗緑灰色を呈する。
					淡緑灰						
				アプライト			Ⅲg				花崗斑岩，上位との境界不明瞭。 深度96.80～100.80m：花崗斑岩。 径3～5mmのカリ長石，石英，一部黒雲母の斑晶を15%程度含み，石基は径0.1mm程度である。
	-31.56	96.80					Ⅰg				
				花崗斑岩	にぶい赤橙	Bg	Ⅱg	bg	γ	2	深度96.80～99.60m間はカリ長石の斑晶が多い。
						Cg	Ⅳg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM'								101				135	0.0	泥水5	0
CL'							12／13 66.10								
								98				125			
CM'							12／14 72.90								
								80							
[CM]							12／15 78.90		90／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0		0.0	泥水5	5
CL'								102				135			
CM'							12／18 85.00								
								100							
CL'							12／19 92.50								
CM'								100							
B'															
CH'															
CM'															

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				花崗斑岩	にぶい赤橙						
	-34.39	100.80			淡黄				γ	2	
										3	深度100.21m：シーム。傾斜37度。幅7～10mm，黒褐・明褐色シルト状。 深度100.21～100.43m：変質帯。上盤37度，下盤不明。全体に軟質化し脆い。 深度100.43～100.67m：変質帯。上盤不明，下盤48度。シルト混じり礫状～礫混じりシルト状。 深度100.67m：シーム。傾斜48度。幅6mm，灰色シルト状。 深度100.67～100.75m：変質帯。上盤48度，下盤56度。軟質化する。 アプライト，上位との境界不明瞭。 深度100.80～122.70m:アプライト。 石基は0.1～0.2mm程度であり，径3mmの石英の斑晶が点在する（0.5%以下）。
					淡橙				δ		
									γ	2	
									δ		
									γ		
					灰白				δ	3	深度107.54～107.62m：破砕帯(Hc)。上盤58度，下盤53度。幅20～30mm，明桃色砂質シルト状。やや硬い。 深度107.62～108.23m：破砕帯(Hb)。上盤53度，下盤38度。礫状破砕部，径0.5～1.5cmの角～亜角礫状。 深度108.23～108.35m：破砕帯(Hb)。上盤38度，下盤不明。明桃色礫混じり砂質シルト状。 深度108.35～108.63m：破砕帯(Hj)。上盤不明，下盤47度。原岩組織を残す。 高角度な割れ目(82度)に沿って幅0.5～5mmの灰白色粘土を挟む。 深度108.63～108.69m：破砕帯(Hb)。上盤47度，下盤33度。礫状化している。 深度108.69～108.73m：破砕帯(Hb)。上盤33度，下盤不明。幅0～55mm，礫混じりシルト状。 深度108.73～108.87m：破砕帯(Hb)。上盤不明，下盤63度。礫状化している。 深度108.87～109.48m：破砕帯(Hj)。上盤63度，下盤28度。原岩組織を残す。 深度109.48～109.94m：破砕帯(Hc)。上盤28度，下盤20度。径1～2cmの亜角礫を含む砂質シルト状。 深度114.85～122.70m：やや変質を受け，全体に褐色化している。節理多く角礫状をなす。
110				アプライト	浅黄橙						
									γ	2	
					灰白						
					明褐灰						
					黄褐						
	-49.87	122.70									花崗斑岩，上位との境界傾斜50～60度。 深度122.70～131.25m:花崗斑岩。 径5～15mm程度の石英，長石の斑晶及び径1～3mmの黒雲母の斑晶を50～70%程度含み，石基は径0.1～0.2mm程度である。斑晶の密集部と散在部とが1～3m間隔で繰り返す。 上部に黒雲母の斑晶を多く含む。 深度125.39～130.42m：全体に変質著しく，軟質化し，節理に沿ってシルト～粘土を挟む。
120					明黄褐						
					黄橙						
					浅黄						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)/測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
140	-62.42	140.45		花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	Ⅲg	bg			深度134.60～140.25m：花崗斑岩。径5mm程度の石英，長石の斑晶を1～2%程度含み，石基は径0.2mm程度である。斑晶が少なく，アプライトに近い花崗斑岩である。	CM'					100							
							Ⅱg				深度135.86～136.59m：節理多く，岩片～短柱状コア。	CL'												
							Ⅳg	cg			深度136.59～141.80m：節理に沿って褐色化しているが，岩芯部分は新鮮部を残す。													
					明褐灰		Ⅱg	bg				CM'				1/13 138.20								
							Ⅲg																	
							Ⅱg																	
							Ⅲg																	
							Ⅳg																	
							Ⅲg																	
							Ⅱg				深度140.14～140.51m：灰白色を帯びる。アプライト，上位との境界不明瞭。													
							Ⅳg	cg																
						Bg	Ⅰg	bg				CH'					102					0.0	泥水5	5
						Cg	Ⅲg	cg																
						Dg	Ⅳg																	
					灰褐	Cg	Ⅰg	bg			深度142.45～146.00m：全体に褐色を帯び，節理に沿って黒褐色化している。													
							Ⅱg																	
							Ⅳg																	
							Ⅱg																	
							Ⅳg				深度144.00～144.75m：やや節理が多くなる。					1/15 144.30								
							Ⅱg																	
							Ⅲg																	
							Ⅱg	cg																
						Bg	Ⅳg																	
					明褐灰	Cg	Ⅲg	bg			深度146.87～148.59m：節理に沿って黄鉄鉱を挟む。		[CM]											
							Ⅱg																	
							Ⅲg																	
					灰白	Bg	Ⅰg			2		B'					103							
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg																	
							Ⅲg																	
							Ⅳg																	
					灰白	Bg	Ⅱg					CM'												
150					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg	cg	β							1/16 150.50								
							Ⅱg																	
					灰白	Bg	Ⅰg	bg				B'												
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg					CM'												
							Ⅱg				花崗斑岩，上位との境界傾斜25～30度。													
	-70.82	152.32				Dg	Ⅳg	cg			深度152.32～171.65m:花崗斑岩。径3～20mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を50%程度含み，石基は径0.5mm程度である。一般に黒雲母の斑晶が多く，下部ほどカリ長石の斑晶が多くなる。	CL'							76/泥水						
						Bg	Ⅰg	bg				B'					102							
						Cg	Ⅱg																	
						Dg	Ⅳg	cg																
					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg	bg			深度153.12m：シーム。傾斜30度，幅1mm，黄灰色シルト状。	CM'												
							Ⅲg				深度154.08～154.22m：節理密集部。													
						Bg	Ⅱg				深度154.00～157.00m：全体に弱く褐色化している。	CH'												
							Ⅳg	cg								1/17 156.60								
						Cg	Ⅱg	bg				CM'												
							Ⅲg	cg																
					明褐灰	Bg	Ⅰg	bg				B'					95					0.0	泥水5	0
						Cg	Ⅲg																	
160						Cg	Ⅳg	cg		3	深度159.77～159.88m：変質帯。上盤63度，下盤67度。灰白色粘土が網目状に入る。	CM'												
						Cg	Ⅲg																	
					にぶい黄橙	Bg	Ⅰg				深度160.10～162.88m：節理周辺の幅5～15mmが珪化している。	B'	[B]											
						Cg	Ⅲg	bg				CM'												
					明褐灰	Bg	Ⅰg					CH'				1/18 162.30								
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg					B'												
						Bg	Ⅱg					CH'												
					明褐灰																			
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	cg			深度164.08～164.74m：やや節理が多くなる。													
							Ⅱg																	
							Ⅲg	bg		2	深度165.43～169.61m：新鮮岩。						98							
					明褐灰	Cg	Ⅱg																	
							Ⅳg	cg																
							Ⅱg																	
							Ⅳg																	
							Ⅱg		α			CM'	[CM]			1/19 168.20								
							Ⅲg																	
					にぶい黄橙		Ⅳg	cg			深度169.61～171.69m：節理多く，全体に褐色化している。						95							
170					灰褐		Ⅱg	bg	β							1/20 170.10								
																	93							

コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]

（標準貫入試験）試験 （N値～深度）

原位置試験（孔内水平載荷）

No.4(5/8)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
180	-91.45	181.50		花崗斑岩	灰褐	Cg	IIg IIIg	bg	β	2	深度171.69～171.83m：破砕帯(Hc)。上盤57度，下盤42度。幅140mm，灰白色シルト，黄灰～褐色砂質シルト，黄灰色礫混じりシルト状。
					褐灰					1	
					明黄褐						
					橙	Eg	VIg	dg	δ	3	深度171.83～174.28m：破砕帯(Hj)。上盤42度，下盤60度。全体に礫混じりシルト質砂～砂質シルト状，一部土砂状。
					灰黄						深度174.28～174.33m：破砕帯(Hc)。上盤60度，下盤54度。幅18～20mm，灰黄色シルトと褐色シルトの互層状。
					黄橙	Cg					深度174.33～174.85m：破砕帯(Hj)。上盤54度，下盤62度。礫混じりシルト質砂状。
					橙	Dg	IVg	cg			深度174.85～174.88m：破砕帯(Hc)。上盤62度，下盤66度。幅12～15mm，黄灰色シルト状。
					淡赤橙		Vg IVg IIIg IIg	bg			深度171.65～187.92m：花崗斑岩。径2～5mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を10～20%程度含み，石基は上部が径0.1mm以下，下部が径0.1～0.2mmである。部分的に径2～4mmの石英，長石の斑晶が密集し，黒雲母が散在する。
					灰白	Cg	IVg IIg IVg IIg				深度175.27～175.28m：破砕帯(Hc)。上盤33度。幅8～13mm，黄褐色シルト状。
					橙	Dg Cg	IVg IIIg	cg			深度175.64～175.65m：破砕帯(Hc)。上盤49度。幅10mm，礫混じり砂質シルト状。
					灰白	Dg	IVg Vg IVg IIIg				深度180.51～182.22m：やや変質し，軟質化している。全体に黒褐色化する。
	-92.07	182.38		アプライト							アプライトの上位，下位の境界不明瞭。
				花崗斑岩	橙		IIg IVg IIg IVg IIIg	bg	γ	2	
					にぶい黄橙						深度184.80～186.00m：節理に沿って黒褐色化している
	-94.60	185.96		アプライト							アプライトの上位，下位の境界不明瞭
							IVg IIIg IIg IIIg IIg IVg IIIg IVg Ig Ig IIg IVg IIIg IIg IVg				深度186.63～188.09m：節理多く，角礫状をなす。
	-95.99	187.92		花崗斑岩	淡赤橙	Cg					花崗斑岩，上位との境界漸移的。深度187.92～210.00m:花崗斑岩。径3～20mmのカリ長石，石英，斜長石，黒雲母の斑晶を10～50%含み，石基は径0.1～0.5mmである。斑晶の多い部分と少ない部分とが互層を呈する。深度188.90～199.72m：全体に褐色化し，風化を受けている。
190											深度192.75～199.72m：やや節理多く，部分的に角礫状をなす。
					にぶい橙		IIg IVg IIIg IIg IVg IIIg IVg IIg IVg IIg IIIg IVg IIg IIIg IIg IVg IIg IIIg IVg IIIg IVg	cg			深度195.63～195.68m：変質帯。上盤36度，下盤46度。淡褐白色を帯び軟質化。上下盤に粘土を挟む。
					灰赤						
					にぶい橙						深度199.40～199.51m：淡緑灰色を呈し，節理に沿って，雲母粘土鉱物を挟む。深度199.72～207.69m：新鮮岩。節理に沿ってのみ黒褐色を帯びる。
200					灰赤		IVg IIIg IVg Ig	bg	β	2	
					にぶい橙						
					灰赤		IVg IIg IIIg IIg IVg IIIg IIg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM'	[CM]							93							
D'	[D]						2/13 173.80						0.0	泥水 5	0
CL'	[CL]						2/14 177.80	67							
CM'							2/26 179.80	100							
CL'															
CM'							2/27 185.50	95							
CL'															
CM'							2/28 191.40	98	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0	110	0.0	泥水 10	10
CL'	[CM]						3/3 193.40	100							
CM'															
CL'							3/5 197.40	100							
CM'															
CL'								100							
CM'							3/6 203.40								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
210				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg	β		深度207.69～207.72m：破砕帯(Hb)。上盤39度，下盤61度。幅10mm，礫混じりシルト状。礫は径0.5～1.0cmの亜円礫。
						Dg	Ⅴg	cg	γ		深度207.72～209.00m：砂礫状をなす。
					灰赤	Cg	Ⅳg	bg			深度210.00～250.00m：花崗斑岩。径3～10mmのカリ長石，石英，斜長石，黒雲母の斑晶を60～70%含み，石基は径0.2～0.5mmである。径10mm程度のカリ長石の斑晶を散在し，黒雲母の斑晶が多く，組織は全体に塊状均質で，斑晶の割合が高い。深度210.00m以深，節理に沿ってのみ褐色化する。
						Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅴg	cg			深度215.47～215.74m：節理に沿って変質を受けている。
						Bg	Ⅰg	bg			
						Cg	Ⅱg				
							Ⅳg				
						Bg	Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				深度218.73～218.74m：破砕帯(Hc)。上盤62度，下盤不明。幅15mm，暗灰色礫混じりシルト状。
220							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				深度221.28～224.46m：長柱状の硬質コア。
						Bg	Ⅰg				
					明赤灰		Ⅳg				
						Cg	Ⅱg				
							Ⅳg				
					灰赤		Ⅰg				深度223.00m，223.47m付近，節理に沿って淡緑灰色に変質する。
							Ⅳg				
						Bg	Ⅰg				
					明赤灰		Ⅱg				
							Ⅳg			2	
					淡赤橙		Ⅱg		β		
							Ⅳg				
					明赤灰		Ⅱg				
							Ⅳg				
					淡赤橙		Ⅴg	cg			深度228.30m：シーム。傾斜69度，幅5～7mm，礫状。深度228.30m以深，褐色化顕著。
							Ⅳg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅱg				
230							Ⅴg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
					明赤灰		Ⅳg	bg			
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅰg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Dg	Ⅴg				深度234.32～236.15m：全体に変質をうけ，軟質化している。一部砂状をなす。
						Cg	Ⅱg	cg			
							Ⅳg				
						Dg	Ⅴg				
					淡赤橙		Ⅳg				深度236.15m以深，全体に柱状コアをなす。節理に沿って褐色を帯び，全体に弱く変質している。
							Ⅲg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
240						Cg	Ⅱg	bg			深度239.72m：幅4mmの石英脈を挟む。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
					明赤灰		Ⅱg				
							Ⅱg				
							Ⅰg				
							Ⅲg				深度242.73m：幅2～5mm，傾斜30度の石英脈を挟む。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N値)	標準貫入試験 (N値～深度)	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100				0 10 20 30 40 50												
0 [0]	CM'															
0 [0]	CL'															
30 [40]	CM'															
15 [29]																
10 [23]																
27 [27]																
10 [30]																
10 [10]																
9 [0]	B'							3/7 208.90	100							
8 [28]																
25 [47]																
10 [43]	CM'															
4 [0]																
26 [45]																
40 [60]	B'															
4 [41]	CM'															
65 [53]																
39 [74]	CH'	[CM]														
21 [37]																
28 [40]																
22 [41]																
10 [10]																
25 [23]	CM'															
14 [28]																
10 [30]																
48 [43]																
31 [43]																
9 [0]	CL'															
9 [19]																
17 [41]																
15 [31]																
25 [42]																
33 [58]	CM'							3/8 213.20	86							
29 [41]																
24 [32]																
29 [34]																
								3/9 219.10	107							
								3/10 223.30	105							
								3/12 227.40	103	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0	110	0.0	泥水 10	0
								3/13 233.60	103							
								3/14 238.60	100							
									102							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				花崗斑岩	明赤灰	Cg	IVg	bg	β	2	深度243.29～243.72m：全体に褐色化する。 深度243.67mに幅1cmの石英脈を挟む。 深度245.31m，246.08mに幅2～3cm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。黄鉄鉱を伴う。	0 50 100 [21] [31] [49] [29] [26] [76] [44]	CM	[CM]			0 10 20 30 40 50			3／15 244.70	102	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0	110	0.0	泥水 10	0
					淡橙		IIg																				
					明赤灰		IIg															76						
					淡赤橙		IVg																					
					明赤灰		IIIg																					
							IIg																				
							IVg																				
							IIIg																				
							IVg																				
							Ig																				
							IIIg																				
							IIg																				
	-139.89	250.00					IVg	bg													3／16 250.00						

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.5	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	+ 3.30 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°
総掘削長	150.00 m	使用機種	試錐機			ハンマー落下用具	
			エンジン			ポンプ	

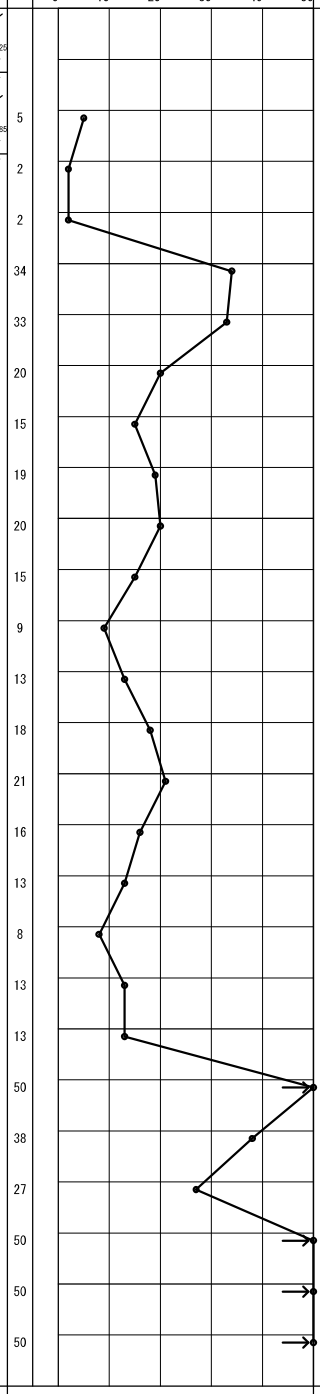
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				埋土							砕石、コンクリート片、玉石など。下部シルト質砂。
	0.15	3.15									
	-0.22	3.52		有機質シルト	オリーブ黒						植物片や木片を含むシルト層。
	-0.55	3.85		有機質砂	灰色						中～細粒砂主体で所々に腐植物混入。
	-1.15	4.45		腐植土	黒色						砂，シルトの混入少ない腐植土層。
	-1.29	4.59		粘土混り砂	黒褐						腐植質な細～中粒砂。
				砂	暗灰黄						粗粒砂～中粒砂。 粒子は円磨されておらず角張っている。 やや褐色を帯びた中粒砂。 粗粒砂，細粒分少なく，軟質。 酸化の進んだ中～粗粒砂。
					黄灰						
					灰黄						
					暗灰黄						
10					黄褐						
	-8.48	11.78		腐植混り砂	灰色						粗粒砂を主体として，所々に炭片を含む。 炭質物は炭片～木片まで，炭化が進んでいないものも見られる。
	-10.05	13.35		砂	黄褐						中～粗粒砂で上位より粗粒砂の割合が低い。
	-12.70	16.00		シルト混り砂	灰色						シルト分を含む砂層。砂は粗粒砂を不規則に混入する中～細粒砂。 貝殻片が全体的に混入する。
	-15.45	18.75		砂	灰オリーブ						細粒分少ない粗粒砂主体。所々に中粒砂を挟む。
20	-17.20	20.50		礫混り砂	黄灰						砂は細～中粒砂，所々に細礫を含む。 礫は径1～3cmの花崗岩の亜角礫。クサリ礫を含む。
	-18.15	21.45		礫	灰黄褐						花崗岩の玉石，やや風化進む。
	-18.55	21.85		礫混り砂	灰褐						上位との境界部は礫の混入多い。 下位ほど礫の混入少ない。
	-19.20	22.50		砂	黒褐						細～中粒砂の互層。全体に炭片を含む。上方細粒化する。
	-19.95	23.25		砂礫	灰褐						径1～4cmの花崗岩角礫を含む砂礫層。 基質は花崗岩質の細礫～砂。不規則に礫を含む。
	-21.13	24.43		玉石混り砂礫	灰褐						礫は径3～6cm，最大径10cmの花崗岩礫を含む砂礫層。 礫は亜角～亜円礫，一部にクサリ礫を含む。 所々に砂層を挟む（深度24.43～24.51m，24.72～24.92m）。 深度27.38m以深，礫の混入少なくなる。
					黄褐						
					灰褐						
					褐灰						

コア採取率（%）　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

岩級区分　岩盤分類

孔内水位(m)／測定月日：9/12 1.25　9/14 2.85

（標準貫入試験）試験　（N値～深度）



原位置試験（孔内水平載荷）　室内試験

掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l／分)	排水量 (l／分)
	86	140／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルビット	50.0	90	0.0	泥水0	0
						0.0	泥水0	10
9/6 3.50				30.0		0.0	泥水0	0
				20.0				
9/7 5.00	600			15.0		0.0	泥水24	23
	514							
9/8 11.00					120			
	600	116／ケーシング		20.0		0.0	泥水12	12
9/9 17.00								
	480							
9/11 21.00				25.0		0.0	泥水4	4
	240		ダブルコアチューブ／メタルビット	10.0	90	0.0	泥水8	8
				50.0				
9/12 25.00			ダブルコアチューブ／ダイヤビット	10.0				
	212	97／ケーシング		30.0	120	0.0	泥水3	3

No.5(1/5)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				玉石混り砂礫	黄褐						
	-25.20	28.50		礫混り砂	明赤灰						礫混じり中～粗粒砂。 礫は径1～3cm，花崗斑岩，アプライトの角～亜角礫を含む。 砂の粒子は石英主体，角礫主体でやや淘汰されている。 深度31.80～31.92m：砂層を挟む。
30					灰褐						
	-29.14	32.44		礫混り砂	黄灰						深度32.44～32.76m：砂とシルトが均質に混じる。
	-30.13	33.43		礫混りシルト質砂	明黄褐						径3～5cm，最大径10cmの礫を含む砂礫層。 基質はシルト質砂～中粒砂，淘汰悪い。
	-30.95	34.25		シルト混り砂礫							
	-31.45	34.75		礫混り砂質シルト	オリーブ黄						シルトと細粒砂が均質に混じる。 全体に還元色でアプライトのクサリ礫や硬質礫を含む。
				シルト混り砂礫	にぶい黄橙						径3～5cm，最大径25cmの礫を含む砂礫層。 礫はアプライト，花崗斑岩の亜角礫を主体とする。 礫は全体に風化し，10cm以下の礫はほとんど半クサリ状態。 礫の表面は褐～黄褐を帯びるが，径10cm以上の礫は硬質主体。 礫率は20～40%。基質はシルト混じり細粒砂で，淘汰悪い。
40											
	-38.05	41.35									深度39.91m以深，基質に径0.1～0.4cmの石英粒子多く含む。 礫径は10～20cm，最大径30cm，礫率は60%。
				花崗斑岩	黄褐		Ⅳg	cg	δ	2	全体に著しく風化を受け褐色化し非常に脆い。 深度41.35～54.30m：花崗斑岩。 径5～10mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶を10～50%程度含み，石基は径0.5mm程度である。斑晶は部分的に密集する。
					にぶい橙		Ⅱg				
					明褐		Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg	bg			全体に風化を受け，褐色を帯び，岩質は脆い。 全体に10～20cm間隔で傾斜30～40度の節理が発達し，一部に明褐色粘土を挟む。
							Ⅲg	cg			
							Ⅱg	bg			
						Sg	Ⅲg	cg			
						Eg	Ⅱg				
						Dg	Ⅳg				深度49.29m：傾斜82度の節理，幅0.5～1.5mmの灰白色粘土を挟む。 節理の周辺幅5～20mmが変質により緑灰～灰白色を帯び軟質化する。 深度50.0～52.0m：節理面が全体に褐～暗褐色を帯びる。
							Ⅱg				
						Eg	Ⅳg				
							Ⅰg	bg			
						Dg	Ⅲg				
						Eg					
						Dg					
						Eg					
						Cg		cg			深度52.24～54.16m：節理は厚さ1mm以下の橙白色粘土を挟む。
						Dg					
						Eg					
						Dg					
							Ⅳg				
						Eg	Ⅲg	bg			深度54.30～76.20m：花崗斑岩。 径5～10mm程度の石英主体の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm程度である。
						Dg					
						Cg	Ⅳg	cg			深度56.21～57.67m：傾斜30～40度の節理が5～15cm間隔で発達。
						Eg	Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				
						Dg	Ⅲg				深度57.11～57.15m：傾斜75度及び30～90度の節理に沿って，厚さ2～3mmの暗褐色を帯びた礫混じり固結シルトを挟む。
						Cg					
						Dg					
						Eg					
						Cg	Ⅱg		γ		
60							Ⅲg	bg			
						Eg	Ⅵg				深度60.61～61.05m：土砂状～角礫状。
						Dg	Ⅴg				深度61.40～61.45m：砂混じり細片状。
							Ⅳg				
							Ⅱg				
						Cg	Ⅳg				
							Ⅰg				

標尺 (m)	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 N値（N）値	標準貫入試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				50	0 10 20 30 40 50				212			33.0	135	0.0	泥水 3	3
				50								35.0				
				50								30.0				
30				40				9／13 30.00				20.0	150	0.0	泥水 5	5
				50								25.0				
				50								38.0				
				50					167				90			
				50								10.0				
				50				9／14 34.00								
				25								20.0	120			
				50					206							
								9／15 37.00								
								9／23 38.80						0.0	泥水 8	8
40												30.0				
													360			
									267							
												25.0				
		D'														
													136			
		[D]										10.0				
								9／25 46.60						0.0	泥水 13	13
		CL'										25.0	130			
		D'							355							
												15.0				
											ダブルコアチューブ／メタルビット					
		CL'											245	0.0	泥水 7	7
50								9／26 53.10				30.0				
		D'									ダブルコアチューブ／ダイヤビット					
		[CL]										20.0	132	0.0	泥水 13	13
									219							
		CL'										30.0		0.0	泥水 7	7
											ダブルコアチューブ／ダイヤビット					
		CM'										35.0				
												40.0	360	0.0	泥水 10	10
60		[CM]						9／27 60.05				50.0				
		CL'							167							
								9／28 62.00								
		CM'							199	97／ケーシング		30.0	130	0.0	泥水 7	7

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				花崗斑岩	灰褐	Cg	Ⅳg	bg		2	深度63.06～63.27m：傾斜70～80度の節理に沿って，幅1.5～2.0cmが角礫状を呈する。
					にぶい褐		Ⅰg				
					灰褐		Ⅲg				
					橙	Dg	Ⅱg				深度65.0～67.2m：柱状コア主体，傾斜25～30度の節理が5～15cm間隔で発達。 深度67.21m以深，密着した節理が多く，岩質やや脆い。
					にぶい橙	Cg	Ⅲg				
					にぶい褐	Dg	Ⅳg	cg		3	深度67.52m：シーム。傾斜80度，幅4～8mm。黄灰色礫混じりシルト混じり砂状。下盤側部分的に幅2mmの石英脈を挟む。
						Cg	Ⅰg	bg			深度67.52～68.32m：変質帯。岩質脆い。
						Dg	Ⅲg				深度67.90m：傾斜76度の節理に沿って，幅0.8mmの灰白色粘土を挟む。
						Cg	Ⅱg				
					にぶい黄褐		Ⅲg				
					明黄褐	Dg	Ⅴg	cg			深度71.13～71.63m：傾斜80～85度の節理発達。上盤側は，幅5mmの石英脈を挟む。 深度71.66m：シーム。傾斜50度，幅1～3mm暗褐色粘土状。逆断層センスの構造有り。
					にぶい黄褐		Ⅳg				下盤側深度72.98mまで，傾斜65～85度の節理発達，黄白色粘土を挟む。
					にぶい褐	Cg	Ⅲg	bg			
	-72.90	76.20				Dg	Ⅳg	cg			黒雲母花崗岩，上位との境界不明瞭。 深度76.20～90.05m：黒雲母花崗岩。 径3～10mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶からなり，径0.2～0.5mm程度の石基を含み，花崗斑岩に近い岩相である。
				黒雲母花崗岩	明褐灰		Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				深度76.30～80.00m：斜長石は完全に粘土化，軟質。
					褐灰	Dg	Ⅳg				深度76.43～78.44m：傾斜30～45度の節理が7～25cm間隔で発達。節理及び節理周辺は，黒色を帯びる。
					明褐灰		Ⅱg				深度78.44～80.00m：傾斜30度，70度前後の節理，密着節理が3～5cm間隔で発達。節理面は全体に褐色化する。
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg	bg	γ		深度80.00～80.49m：傾斜10～25度の密着した節理が1～2cm間隔で発達，指圧で開口しやすい。 深度80.50～85.00m：傾斜30度程度の節理が7～30cm間隔で発達。 節理面は酸化鉄汁着し，一部は暗緑色のシルト質砂～砂質シルトが付着する。
					褐灰		Ⅳg				
					にぶい黄橙		Ⅱg			2	
					明褐灰		Ⅲg				
						Bg	Ⅱg				深度85.94～86.39m：傾斜20～35度の節理及び密着した節理が発達。 深度86.85～87.08m，87.38～88.35m，88.81～89.00m：傾斜20～35度の節理及び密着した節理が発達。 深度86.14～86.31m：傾斜80～85度の密着した節理が正断層的に数mmずれる。
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				
						Bg	Ⅳg				
							Ⅱg				
						Cg	Ⅳg				
						Bg	Ⅲg	cg			
						Cg	Ⅳg	bg			
						Bg	Ⅰg				
						Cg	Ⅲg				
90	-86.75	90.05			にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	cg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭。 深度90.05～99.50m：花崗斑岩。 厚さ1.4mのアプライトを挟む。 花崗斑岩は，径3～5mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，基質は径0.1mm程度である。
				花崗斑岩			Ⅱg				
							Ⅲg	bg			深度90.20～91.09m：傾斜15～30度の平行した節理及び密着した節理が発達。
						Cg	Ⅱg	cg			
							Ⅳg	bg			深度91.54m：傾斜35度の節理，厚さ6～10mmの礫混じり砂を挟む。 深度91.93m：傾斜13度の節理，厚さ4mmの砂を挟む。
							Ⅲg				深度92.32m：傾斜30度の節理，厚さ1mmの礫を挟む。
	-91.75	95.05				Dg	Ⅳg	∞			深度92.63～92.65m：破砕帯(Hb)。傾斜12度，幅15mm，暗灰色砂質シルト状，一部砂状。軟質。正断層的構造有り。
				アプライト			Ⅲg				
						Cg	Ⅰg	bg			深度93.09～95.00m：傾斜15～35度の平行した節理が3～15cm間隔で発達。 アプライトの上位，下位境界不明瞭。
	-93.11	96.41					Ⅲg				深度95.15～95.25m：ペグマタイト。 深度96.46～96.49m：破砕帯(Hb)。上盤16度，下盤52度。 幅35mmで暗灰色シルト混じり礫状～砂質シルト状，軟質。
				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				深度98.02～99.08m：傾斜20～50度の平行した節理及び密着した節理が1～10数cm間隔で発達。
							Ⅳg				

標尺 (m)	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
70	CM'							9／29 67.64	199		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	130	0.0	泥水7	7
												35.0	245			
	CL'												360			
	CM'								200					0.0	泥水7	6
	CL'							9／30 73.65				40.0	130			
	CM'								163							
	CL'							10／2 79.65		76／泥水			245			
	[CM]															
	CM'								142			45.0	360	0.0	泥水6	6
	CH'							10／3 88.55								
	CL'												245			
	CM'								186			40.0	130			
	CH'							10／4 96.90					360			
	CM'								166			35.0	245	0.0	泥水7	7

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100	-96.20	99.50		花崗斑岩							黒雲母花崗岩，上位との境界不明瞭。 深度99.50～110.75m：黒雲母花崗岩。径5～10mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶からなり，径0.1～0.5mm程度の石基を含み，花崗斑岩に近い岩相である。 深度100.00～103.92m：全体に節理少なく，傾斜20～45度程度の平行した節理が10～20cm間隔で発達。 深度101.90～102.94m区間は節理に，厚さ1mm以下の砂～シルト状物質を挟む。
				黒雲母花崗岩	灰褐	Bg Cg Dg Cg Bg Bg Cg Bg Cg Dg Dg Cg	Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅲg Ⅳg Ⅲg	bg cg bg Ⅲg bg cg cg bg cg			深度103.92～105.00m：傾斜80～85度の節理が連続し，傾斜5～30度の低角節理も5～15cm間隔で発達。 前者は後者を切り，正断層的に見かけ3cm程度ずらしている。岩片～短柱状コアが主体。 深度105.00～106.34m：節理少なく柱～長柱状コア主体。 深度106.34～108.06m：傾斜25～40度の同方向節理が4～10cm間隔で発達。面には厚さ1mm以下の暗褐色砂質シルトを挟む。 深度108.51～109.00m付近にも傾斜10～40度の節理が発達し，面には厚さ1mm以下の砂状物質を挟む。
110	-107.45	110.75			明灰褐 灰白	Cg Bg Cg Dg Cg Dg	Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅱg	bg cg bg cg bg cg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭。 深度110.75～150.00m：花崗斑岩。径5～15mm程度の石英，長石及び黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm程度である。 深度110.93～110.95m：破砕帯(Hj)。傾斜35度，厚さ10～20mm，暗灰色礫混じり砂～砂礫状。 下盤付近には厚さ1～2mmの暗褐色シルトを挟む。正断層的構造。
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg Dg Cg Dg Cg Bg Cg Bg Cg B

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
140	-146.70	150.00		花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg, Bg, Cg, Bg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg	IVg, IIIg, IVg, IIg, IIIg, IIg, IIIg, Ig, IIg, IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIg	bg, cg, bg, cg, bg	γ	2	深度135.00～135.55m：傾斜40～85度の節理発達。 深度136.03～137.14m：傾斜12～45度の節理が10cm程度の間隔で発達。 深度137.57～139.36m：節理及び密着した節理が発達するものの，比較的連続性に乏しい。 深度139.85m：傾斜85度の節理。幅5～15mmの暗褐色シルト混じり砂礫を挟む。 深度141.71～142.94m：節理面に厚さ0.5mm以下の砂～シルトを挟む。 深度141.71～143.20m：傾斜15～30度，60～70度の節理が多く，短柱状をなす。 深度143.34～143.77m：節理面にわずかな砂～シルトを挟む。 深度143.45m：傾斜40度の節理。厚さ0.5～1.0cmの節理密集部を伴う。 深度145.00～145.62m：傾斜0～10度及び高角度の節理により短柱状コアをなす。 深度145.74～145.49m：節理密集部，節理は1～3cm間隔で発達。 深度146.48～148.89m：傾斜13～35度の平行した節理が6～20cmの間隔で発達。 深度148.89m以深は，柱状コア。1～3cm間隔の密着した節理が発達する。	CM′, CL′, CM′, CL′, CM′, CL′	[CM]			10/12 136.10, 10/13 144.00, 10/14 150.00	167, 126, 116	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	65.0, 75.0, 60.0, 55.0, 164.0	360	0.0	泥水6	2

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

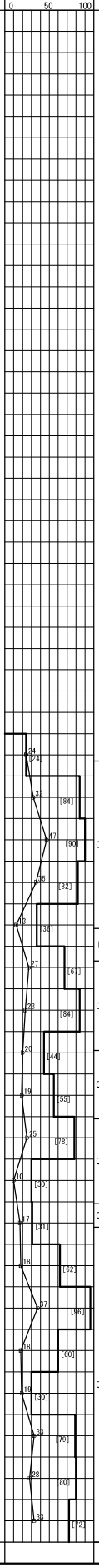
ボーリングNo.

ボーリング名	No.6	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋3.31 m	角度	180° 上 90° 下0° 40°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 240°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	175.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%） 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				盛土	灰黄褐 にぶい黄橙 にぶい黄褐 明黄褐						盛土 シルト混じり砂礫及び礫混じりシルト質砂。				1/15 1.75 2/27 3.00 2/28 4.00					1/13 2.00	400	140／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルビット	20.0 50.0 20.0 10.0 20.0	30	0.0	無水 0	0
	0.46	3.72		有機質シルト																							
	0.12	4.16		黒褐							腐植質シルト。																
	-0.01	4.33		砂混じり高有機質土	黒						繊維質，少量の砂が混入。																
	-0.61	5.12		礫混じり高有機質土							全体に繊維質で水分多い。下部ほど礫の含有多い。																
	-0.90	5.49		有機質土混り砂	黄灰						木片，腐植物を不規則に挟む。										352						
	-1.59	6.40		砂礫	灰白						礫は径0.2～0.7cmの石英粒子。基質は粗粒砂。																
10				礫混り砂							細粒砂を主体とし中～粗粒砂を含み淘汰悪い。																
											深度8.31m以深，径0.3～0.7cmの細礫・粗粒砂からなり，淘汰良好。																
	-5.34	11.29			にぶい黄橙																						
	-5.49	11.49		砂							淘汰された砂。										316						
	-5.65	11.70		礫混り砂	浅黄						礫は径0.3～0.5cm，最大径1.5cmの亜角礫。砂は淘汰された中粒砂。																
	-7.72	14.40		礫混り砂							淘汰された粗粒砂。																
	-8.03	14.80		礫混り砂							淘汰された砂・礫。礫は径0.7cm以下の石英・長石粒主体。全体に均質。										169						
	-8.07	14.85		礫混り砂	にぶい黄橙																						
	-10.84	18.47		礫混り砂	オリーブ黒						礫は径0.3～0.7cm，最大径5cmの亜角礫。基質はシルトを含む細粒砂。木片，炭片を含む。																
20	-11.41	19.22		礫混り砂	灰						礫は径0.2～1.0cmの亜角礫～角礫。砂は細～中粒砂。炭質物をわずかに含む。																
	-12.79	21.02		礫混り砂	灰黄						礫は径0.3～0.5cm，最大径1.0cm。石英・長石粒を主体。砂は風化したカリ長石・長石・石英粒。																
	-13.71	22.22		礫混り砂質シルト	灰						礫は径0.3～0.5cmの石英粒。基質は細粒砂質シルト。径0.5cm以下の貝化石を含み，炭化した木片も含む。										227				22.5	70	0.0	泥水 16	16
	-14.68	23.48		砂混じりシルト							礫は径0.3～0.7cmの石英粒，全体に貝化石を多く含む。木片点在。下位ほど礫の混入多くなる。																
	-16.09	25.33		シルト混り砂礫							礫は径0.3～0.7cmの石英粒。全体に貝化石，木片を含む。下位ほど腐植物混入多くなる。																
	-16.92	26.41		有機質土混り砂	灰白						腐植物及び中粒砂を薄層に挟む。腐植土は厚さ2～6cm程度。全体に傾斜30度の葉理発達。																

No.6(1/6)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				有機質土混り砂	灰白						
	-18.48	28.45									
				砂礫	褐灰						深度28.45～28.80m：細礫主体。 深度28.80m以深：礫は径3～4cm，最大径8cm，アプライト主体，一部花崗斑岩含む。全体に新鮮硬質であるが，一部にアプライトのくさり礫を含む。基質は中～粗粒砂。
30	-20.15	30.63									
	-20.68	31.32		礫混り砂	灰						礫は径0.3～0.5cm，最大径3cmのアプライト亜角礫。基質はシルト混じり砂。
	-20.99	31.72		砂礫							
	-21.23	32.03		シルト質礫	灰黄褐						
	-21.43	32.29		礫混りシルト質砂	黄灰						
	-21.76	32.73		礫混り砂	黄灰						
				礫混り砂質シルト	灰黄褐						礫は径3～5cm，最大径15cmのアプライト，花崗斑岩。一部にくさり礫を含む。基質は砂混じりシルト。
	-22.64	33.88			にぶい黄						
				シルト混り砂	オリーブ黒						細～粗粒砂を含み，全体に淘汰不良。細粒砂質シルトを薄層状に挟む。砂はやや淘汰された細～中粒砂。
	-23.14	34.53									
	-23.52	35.03		礫混り砂質シルト	暗オリーブ灰						
				礫混り砂	灰白						径20～35cmの巨礫を含む。礫はアプライト，花崗斑岩。基質はシルト混じり砂。
	-25.11	37.10			灰黄						
					明黄褐						
				砂礫	にぶい黄橙						礫は径1～3cm，最大径20cmのアプライト，花崗斑岩。一部にくさり礫を含む。基質は砂。
					にぶい橙						
	-26.94	39.49			浅黄						
40				シルト混り砂礫	にぶい橙						礫は径8～10cm，最大径16cmの亜角礫。くさりアプライト礫主体。くさり礫が多くなる。
	-27.65	40.41		礫混り砂質シルト	明黄褐						礫は径0.5cm以下の半くさり礫主体。
	-27.96	40.82									
				シルト混り砂礫	にぶい褐						礫は径3～7cm，最大径37cm。アプライト，花崗斑岩の亜角～角くさり礫主体。基質はシルト質砂。
					明黄褐						
	-29.80	43.22		砂礫	褐						礫は径3～5cm，最大径55cm。アプライトのくさり礫主体。一部に花崗斑岩の風化礫を含む。亜角礫主体。
	-30.89	44.65									
					にぶい黄橙						深度44.65～96.00m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石，一部黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm程度である。 深度69.60～76.25m間は径5～15mm程度の石英斑晶を40%程度含む。 深度44.65～49.35m：変質により岩質脆くなる。 深度46.49mまで節理に沿って流入粘土が認められる。
					灰黄褐	Dg	Ⅲg		cg	δ	
						Cg					
						Dg	Ⅰg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Eg	Ⅲg				
						Dg	Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				
						Dg					深度50.82～51.08m，51.84～53.05m：変質により溶脱。コア粗しょう。
						Cg	Ⅳg				深度51.53～53.05m：節理に沿って白色粘土を挟む。
						Dg					
						Nc	Ⅲg				
						Dg					
						Cg	Ⅱg	bg			
							Ⅳg	cg			
								bg			
						Dg		cg		3	深度55.10～55.60m：変質帯。上盤80度，下盤58度。岩質脆く灰白色粘土を挟む。 深度55.27m，傾斜70度，幅3～5mmの灰白色粘土を挟む。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅱg	bg		γ	
								cg			
							Ⅲg	bg			
							Ⅳg	cg			
						Nc	Ⅲg	bg		2	深度59.06～59.20m：節理多く，一部砂～礫状をなす。
						Cg	Ⅳg	cg			
						Dg	Ⅲg				
						Cg	Ⅱg	bg			
						Nc	Ⅳg	cg			
60						Cg	Ⅲg	bg			深度60.80～60.83m：傾斜57～60度の節理の空隙を非晶質の石英が充填。石英は厚さ0.3～2.0cmで累帯(級化)を生じる。
							Ⅱg				



岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
70	-52.02	72.23		花崗斑岩	明褐灰	Cg	Ⅲg	bg		γ	深度63.00～63.22m：傾斜75度程度の節理に沿って変質著しい。	CM'						1/30 63.83	177			45.0	0.0	泥水10	5
							Ⅳg	cg																	
							Ⅲg	bg																	
							Ⅳg	cg																	
							Ⅱg	bg																	
							Ⅳg	cg			深度64.80～66.10m：やや斑晶少なくなる。 深度64.92～66.36m：傾斜50～60度の平行した密着及び開口した節理が1～数cm間隔で発達。	CL'										42.5	0.0	泥水10	0
							Ⅲg												105				360		
							Ⅳg																		
							Ⅲg	bg																	
							Ⅳg															50.0	0.0	泥水5	0
							Ⅲg				深度69.57～69.78m：傾斜60～75度の節理に沿って変質を受ける。 深度69.60～76.25m：径0.5～1.5cmの石英の斑晶を多く含む。	CM'										37.5			
						Dg	Ⅳg	cg										1/31 70.63				32.5			
						Cg	Ⅲg	bg														25.0	150		
							Ⅳg																		
							Ⅲg																		
							Ⅱg																		
	-52.02	72.23		アプライト	にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	cg			深度71.62m：シーム。傾斜72度。幅5～10mm，明灰色シルト中に厚さ1mm以下の暗褐色シルトが挟在。 アプライト，上位との境界傾斜80度。	CL'										35.0			
						Cg																			
						Dg																	130		
	-52.96	73.45				Cg													111						
						Dg					花崗斑岩，上位との境界破砕帯，傾斜63度。 深度73.43～73.45m：破砕帯(Hc)。上盤63度，下盤63度。幅12mm，浅黄・黄褐色シルト状。														
				花崗斑岩	明褐灰	Cg	Ⅲg	bg																	
							Ⅱg															32.5	0.0	泥水3	0
							Ⅳg	cg										2/1 76.11							
							Ⅱg	bg																	
								cg			深度76.65～76.75m，79.26～79.37m：部分的に斑晶多い。												245		
							Ⅲg				深度77.58～79.73m：傾斜70～90度の高角度な密着した節理が連続する。								80			50.0			
							Ⅱg																		
							Ⅲg																	0.0	泥水5	0
							Ⅱg	bg										2/2 79.03							
80										2	深度80.00～82.10m：変質受け珪化している。	CM'	[CM]						70	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	45.0	360	0.0	泥水7	0
					橙	Bg	Ⅳg															55.0			
							Ⅱg											2/5 81.55				40.0			
							Ⅳg																		
					明褐灰		Ⅲg				深度82.10～83.10m：変質により岩質やや粗しょう。											42.5			
						Cg	Ⅱg	cg			深度83.63～90.00m：珪化変質受け，岩片硬質。 アプライト，上位との境界不明瞭。								70				150	0.0	泥水5	0
	-61.04	84.00		アプライト	にぶい黄橙		Ⅲg															45.0			
							Ⅱg											2/6 85.65							
							Ⅳg																		
					褐灰		Ⅲg															67.5	245		
							Ⅱg			β															
						Bg	Ⅳg				深度86.78～88.94m：珪化変質受け、硬質。	B'													
	-64.23	88.17		花崗斑岩	明褐灰		Ⅰg				花崗斑岩，上位との境界漸移的。														
							Ⅳg	bg		γ	深度88.94m：シーム。傾斜51度。幅3～10mm，礫混じり黒褐色シルト状。 深度88.94～94.80m：高角度な節理が多く，節理に沿って褐色化している。								105			55.0			
90							Ⅲg																		
							Ⅱg															45.0			
							Ⅳg											2/7 91.82							
							Ⅲg																	0.0	泥水7	0
							Ⅱg												82			57.5	360		
						Cg																			
							Ⅱg																		
							Ⅲg				深度95.00～98.12m：節理少なく，柱状コア。														
							Ⅱg				深度96.00～101.65m：花崗斑岩。 径3～15mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を50～60%程度含み，石基は径0.1～0.5mm程度で，下部に黒雲母を多く混入する。								63			50.0			
							Ⅲg															60.0			
							Ⅳg				深度98.12～98.65m：数cm間隔で節理発達。							2/9 98.78	136			45.0		0.0	0
							Ⅲg																		

No.6(3/6)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				花崗斑岩	明褐灰	Cg	Ⅱg	bg		2	
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Dg	Ⅳg	cg		3	深度101.12～101.53m：変質帯。上盤62度，下盤8度。幅1～2cm以下の節理密集。
						Eg	Ⅵg	dg		4	
					灰オリーブ	Cg	Ⅳg	cg		3	深度101.53～101.70m：変質帯。上盤8度，下盤67度。砂・礫状。
						Eg	Ⅵg	dg		4	深度101.70～101.72m：シーム，傾斜67度。幅3～10mm，明黄褐色礫混じりシルト状。
						Cg	Ⅲg	cg	γ		深度101.72～102.30m：変質帯。上盤67度，下盤8度。暗黄灰色を呈し，軟質化。
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg				深度102.30～102.86m：変質帯。上盤8度，下盤64度。礫混じり砂質シルト状。
						Cg	Ⅲg				深度102.86m：シーム。傾斜64度。幅1～2mm，明黄色シルト状。
						Dg	Ⅳg				深度103.25m：シーム。傾斜85度。幅3～9mm，黒褐色砂質シルト～シルト混じり砂状。
						Cg	Ⅲg	cg			深度105.37m：シーム。傾斜63度。幅0.3mm，黒色シルト状。
						Dg	Ⅳg				深度105.95～107.70m：花崗斑岩。径3～15mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を50～60%程度含み，石基は径0.1～0.5mm程度で，下部に黒雲母を多く混入する。
						Cg	Ⅲg				深度107.70～160.30m：花崗斑岩。径5～15mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を1～10%程度含み，部分的に斑晶の多い箇所がある。石基は径0.1mm，一部径0.2～0.5mm程度で，組織は全体に不均質である。
						Dg	Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				
						Dg	Ⅳg				
							Ⅱg				
					にぶい橙		Ⅲg	bg			
							Ⅱg	cg			
					明褐灰		Ⅲg		α		
							Ⅱg		β		
							Ⅲg		α		
							Ⅱg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅱg	bg			
					にぶい橙		Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg		β		深度112.50～113.54m：節理多く，短柱～柱状コアをなす。
							Ⅱg				
							Ⅲg	cg			深度113.54m以深，節理少なく，柱状～長柱状コア主体。
							Ⅱg	bg			
					明褐灰		Ⅲg	cg	α		深度115.87～117.81m：比較的新鮮で，暗桃色を帯びる。
							Ⅱg				
							Ⅳg				
						Bg	Ⅱg			2	
							Ⅰg				
					にぶい橙		Ⅱg				深度120.00～123.22m：柱～長柱状コア主体。
							Ⅰg				
							Ⅱg				
120							Ⅳg				
							Ⅱg	bg			
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				深度123.94m：シーム。傾斜72度。幅0～4mm，明褐色砂・礫混じりシルト状。条線水平。幅1.0cmの非晶質石英，セリサイト付着。
					にぶい黄橙		Ⅳg				
					灰白		Ⅱg				
					にぶい橙		Ⅲg		β		
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg	cg			深度127.70～133.55m：弱く変質を受け，一部脱色軟質化する。節理に沿って褐色化する。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
130							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg	bg			
							Ⅳg				
							Ⅱg				深度134.60～136.80m：節理多く発達し，全体に褐色化著しい。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100				0 10 20 30 40 50												
30 [78]	CM'										ダブルコアチューブ／ダイヤビット	45.0	360			
29 [29]																
11 [11]	CL'											30.0		0.0	泥水 5	0
15 [15]	D'															
23 [47]									136			35.0				
17 [38]	CL'															
22 [35]												40.0	150	0.0	泥水 3	0
24 [36]												55.0		0.0	泥水 5	0
27 [69]									120							
41 [95]												90.0		0.0	泥水 7	2
20 [71]																
45 [91]																
49 [91]	CM'															
35 [60]																
12 [52]									136			85.0				
2 [77]																
25 [90]																
26 [72]		[CM]														
37 [99]																
49 [92]	CH'															
49 [91]																
55 [80]									83			80.0	360	0.0	泥水 5	0
33 [76]																
26 [64]																
39 [89]																
33 [63]									114			57.5				
45 [89]																
15 [57]																
3 [44]	CM'											65.0				
13 [28]									107							
14 [27]												70.0	160			
12 [24]																
9 [9]									64			97.5				
13 [13]																
10 [13]																
24 [24]																

2/10 104.55
2/12 110.03
2/13 117.36
2/14 122.82
2/15 128.92
2/16 133.00

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
140				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg	β	2	深度136.80～144.00m：全体に節理多く，短柱状コアをなす。節理に沿って褐色化し，一部黒褐色を呈する。
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg	cg			
								bg			
								cg			
							Ⅲg	bg			
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				深度144.00～146.33m：全体に褐色化している。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅴg	bg			深度146.33m以深，褐色化著しい強風化岩。
							Ⅳg				
						Dg	Ⅴg				深度148.94m：シーム。傾斜63度。幅3～5mm，明黄色粗砂混じりシルト状。
						Cg					
						Dg	Ⅳg				深度150.00～151.1m，152.20～155.00m：径0.5～1.5cmの石英，長石，黒雲母の斑晶を70%以上含む。
					淡黄			cg		3	深度151.39m：シーム。傾斜75度。幅2～5mm，暗褐色シルト状。 深度151.39～151.84m：変質帯。やや粘土化している。 深度151.84m：シーム。傾斜75度。幅1～3mm，褐～明黄色シルト状。 深度151.39～157.45m：全体に変質を受け脱色している。節理に沿って粘土を挟む。
						Cg	Ⅴg				
						Dg	Ⅳg	bg			
						Cg					
						Dg		cg			
					灰白	Cg	Ⅱg		γ		
							Ⅳg	bg			深度157.09m：シーム。傾斜55度。幅2～3mm，灰白色粘土状。
							Ⅳg	cg		2	
							Ⅲg	bg			
						Dg	Ⅳg	cg			
						Cg	Ⅱg				
160						Hc	Ⅳg				深度160.30～175.00m：花崗斑岩。径3～10mmの石英，カリ長石，黒雲母の斑晶を10～50%程度含み，石基は径0.1mm程度で，組織は比較的均質である。 深度160.25～164.40m：節理に沿って褐色化強い。
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg	bg			
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				深度164.40～167.53m：全体に褐色化し，節理にって黒褐色化する。
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					明褐灰		Ⅳg	cg			
					灰白	Eg				4	深度167.53～168.54m：破砕帯(Hc)。上盤51度，下盤52度。 上盤側幅50mm+，粘土状，石英混じりシルト状。 下盤側幅30mm+，石英岩片混じり灰白色シルト状。
170					灰赤	Cg	Ⅵg	bg		2	
							Ⅳg				
							Ⅴg				
							Ⅲg				
							Ⅴg	cg			深度170.00～170.58m：細礫～角礫状をなす。
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
							2／19 136.39	64		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	97.5				
											62.5				
								96			87.5				
CM'													0.0	泥水 5	0
							2／20 142.45				80.0				
											85.0				
CL'								128			55.0				
											57.5				
CM'							2／21 148.55								
											45.0				
CL'	[CM]											160			
								152	76／泥水		40.0		0.0	泥水 7	0
CM'															
CL'											55.0				
CM'							2／22 156.65								
CL'											50.0				
								135							
CM'													0.0	泥水 6	0
							2／23 162.63				55.0				
								134			65.0				
CM'															
D'											52.5	145	0.0	泥水 4	0
CL'	[CL]						2／24 170.20								
								113			47.5	150	0.0	泥水 3	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	-130.75	175.00		花崗斑岩	にぶい橙 明赤灰	Dg Cg	IVg	cg bg	γ	3 2	深度171.08～171.74m：変質帯。上盤37度，下盤39度。綢目状にシルトを挟む。 深度173.10～175.00m：全体に弱く変質を受けている。	0 50 100	CL' [CL] CM' [CM]			0 10 20 30 40 50				2／26 75.60	113	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	42.5 65.0	130 150	0.0	泥水3	0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.7	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋3.29 m	角度	180° 上 90° 25° 下0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 59.8°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘削長	165.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
					にぶい黄褐						花崗岩片，まさ等。				12/22												
				埋土	明黄褐										11 1.75												
					にぶい黄褐																						
	0.81	2.74			明黄褐																						
	0.07	3.55		有機質土混リシルト	黒褐						植物片や木片を含む。																
	-0.08	3.72		有機質土	褐灰						腐植土，砂を含む。																
	-0.43	4.10		砂質シルト							泥炭状の腐植土。																
	-0.62	4.31		有機質土	黒褐																						
	-0.81	4.52		砂混じり有機質土	灰黄褐																						
	-1.36	5.13		有機質土混り細砂	褐灰						粗粒砂に腐植物片を含む。									10/31	4.50						
											粗粒砂～細礫。																
10				砂	にぶい黄橙																	367						
											深度9.36m以深，褐色化強くなる。所々に径1～1.5cm程度の花崗斑岩礫を含む。								11/1	10.10						
					橙																						
	-8.37	12.86			にぶい黄橙																						
	-9.26	13.85		有機質土混り砂	灰色					2	炭化物を含む粗粒砂。											458						
											粗粒砂。所々に炭化物を挟む。																
				砂	にぶい黄橙						深度16.16m以深，シルト分を含む。																
	-12.04	16.92																		11/2	16.60						
											貝殻片や木片を含む。																
											深度18.20m，厚さ0.1～0.5cmの炭化物層を挟む（傾斜30度）。											516						
20				シルト質砂	暗緑灰																						
											深度20.13m以深，貝殻片を含まない。																
					浅黄															11/3	21.50						
	-16.17	21.47																		11/6	210						
	-16.60	21.95		砂	灰色						礫を所々に含む。										22.20						
				砂礫							礫は径5cm程度，基質はシルト質砂。																
	-17.47	22.91			灰黄																						
	-17.75	23.22		砂質礫																		215						
				砂							砂は細粒砂。																
	-18.40	23.93																									
	-18.69	24.25		砂質シルト																							
	-18.91	24.50		砂礫	にぶい黄橙																						
	-19.01	24.60		砂質シルト							炭化物を含む。																
	-19.28	24.90		砂	灰白															11/7	25.60						
											径3～5cm，最大径15cmの礫を含む砂礫。基質は粗粒砂，一部に風化礫を含む。											155						
				砂礫	灰黄																						
	-20.98	26.78		礫混り砂																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				礫混り砂	灰黄						径3cm程度の礫を含む砂層。砂は粗粒砂。 深度27.65～27.88m：炭化物を含む砂質シルトを挟む。																0.0	泥水13	13
	-23.39	29.44		砂							炭化物を含む粗粒砂。														0.0	泥水2	2
30	-23.94	30.05		玉石混り砂礫	にぶい黄橙						径3～10cm，最大径30cmの礫を含む砂礫。基質は中～粗粒砂。礫の混入率は60%。														0.0	泥水13	13
	-26.13	32.46		砂	明緑灰						中粒砂でシルトを挟む。														0.0	泥水2	2
	-26.72	33.11		砂礫							径1～5cmの礫を含む砂礫。														0.0	泥水2	2
	-27.19	33.63		礫混り砂	灰白						径2～5cm程度の礫を含む砂層。風化礫を多く含む。基質は粗粒砂。														0.0	泥水13	13
					明緑灰																						
	-29.86	36.58			灰赤																						
				砂	灰オリーブ						細～粗粒砂とシルトの互層。細粒砂及びシルトに炭化物を含む。														0.0	泥水2	2
	-30.95	37.78			灰黄褐																						
40				玉石混り砂礫	明褐灰						径3～5cm，最大径8cmの礫を含む砂礫。基質は粗粒砂。														0.0	泥水13	13
	-33.87	41.00		砂	明緑灰						細粒砂，粗粒砂，砂礫の互層。														0.0	泥水2	2
	-34.45	41.64		玉石混り砂礫	黄褐						径3～5cm，最大径10cmの礫を含む砂礫。礫の風化は弱い。														0.0	泥水4	4
					灰白						深度43.84～43.12m：シルト～細粒砂を挟む。																
					黄橙																						
					橙					2	深度45.09～45.15m：シルトを挟む。 深度45.25～45.37m：細粒砂を挟む。																
					黄褐																						
	-39.00	46.66		有機質土混り砂							炭化物を含む中～粗粒砂。																
	-39.72	47.46			灰白																						
				玉石混り砂礫	明黄褐						径3～5cm，最大径19cmの礫を含む砂礫。基質は粗粒砂。くさり礫の割合が多い。																
50	-41.88	49.84		砂	橙						中～粗粒砂。傾斜14～37度の構造あり。																
	-43.22	51.32		砂礫	浅黄橙						最大径40cmの巨礫を含む砂礫。基質は砂。固結度は高い。																
	-45.19	53.49		花崗斑岩	にぶい褐	Cg	IVg	cg	δ		深度53.49～66.10m：アプライト。石基は径0.2～0.5mm程度で，径3～7mm程度の石英，長石及び径0.5～1mmの黒雲母の斑晶が点在する（0.5%以下）。																
					灰白	Dg	IIIg																				
					明黄褐		Ig	bg																			
							IIg				深度55.10～56.10m：全体に風化し，軟質で黄褐色を呈する。																
	-47.01	55.50		アプライト			VIg																				
						Eg	IIIg	cg	γ		深度56.31～61.50m：全体に風化し，軟質化している。節理に沿って黒褐色を帯びる。																
							Ig																				
60					浅黄橙		IIIg																				
						Dg	IIg	bg																			
							IVg																				
							IIg																				
						Eg	VIg				深度61.50～62.70m：コア流出。																
					にぶい黄橙	Cg	IVg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)/測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
	-56.62	66.10		アプライト	にぶい黄橙	Dg	Ⅲg	bg			深度63.70～65.40m：節理に沿って黒褐色化顕著。	CL'				11/21 63.90	129		ダブルコアチューブ/ダイヤビット	35.0	130	0.0	泥水2	2
					にぶい黄褐	Cg	Ⅳg																	
					にぶい黄橙		Ⅲg																	
					浅黄橙	Dg	Ⅰg	cg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭。 深度66.10～69.80m:花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を40～50%程度含み，石基は径0.5mm程度である。 深度66.72m以深，風化弱く，褐色を帯びるが，全体に柱状で硬質コアをなす。											0.0	泥水3	3
							Ⅳg																	
							Ⅱg																	
				花崗斑岩	にぶい黄橙																			
					褐灰	Cg	Ⅲg						[CL]				144			20.0	250	0.0	泥水3	1
							Ⅳg					CM'												
					明黄褐																			
	-59.97	69.80						bg																
70				アプライト	浅黄橙	Dg				2	アプライト，上位との境界不明瞭。 深度69.80～165.00m:花崗斑岩主体で，一部にアプライトを挟む。 花崗斑岩は，径3～5mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶を1～5%程度含み，石基は径0.1mm程度で一部径0.2～0.5mm程度を示す。全体に流理は不明瞭である。 深度71.15～71.40m：傾斜50度程度の節理発達。 花崗斑岩，上位との境界不明瞭。	CL'												
	-61.51	71.50						cg																
						Cg	Ⅲg									11/22 72.20								
						Dg						CM'												
						Cg																		
						Dg						CL'	[CM]									0.0	泥水5	4
					にぶい黄橙			bg																
					淡橙																			
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg				深度75.00～78.22m：全体に褐色化顕著。傾斜60～70度の節理発達。	CM'					198				360			
							Ⅱg																	
							Ⅳg																	
						Dg	Ⅱg					CL'								30.0		0.0	泥水4	3
					灰白	Eg				3	深度78.22～78.24m：破砕帯(Hc)。上盤62度，下盤60度。幅15mm，暗褐色シルト～黄褐色砂質シルト状。 深度78.24～79.48m:破砕帯(Hj)。上盤60度。下盤68度。節理密集部，礫状。 深度79.48～79.56m：破砕帯(Hb)。上盤68度，下盤66度。幅53mm，褐灰色シルト質礫及び暗褐色シルト状。	D'												
					淡橙																			
80					灰白	Dg	Ⅰg									11/23 79.30		76/泥水						
					にぶい黄橙	Eg		cg	γ		深度81.00～82.60m：やや軟質化し，節理に沿って黒褐色を帯びる。		[CL]							25.0	130	0.0	泥水2	0
						Dg																		
					灰白	Cg	Ⅳg										148							
							Ⅱg				深度83.15～84.60m：全体に風化し，軟質化している。	CL'												
					にぶい黄橙	Dg	Ⅰg																	
					灰白	Cg	Ⅲg																	
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	bg			深度85.30～87.42m：節理多く角礫～短柱状コアをなす。					11/24 85.35								
						Cg	Ⅱg																	
							Ⅳg	cg			深度85.00～100.00mまで斑晶少ない。													
							Ⅲg																	
							Ⅳg				深度88.00以深，密着した節理が多い。													
					灰白	Cg	Ⅲg	bg		2		CM'					208			30.0				
							Ⅳg																	
							Ⅱg																	
90								cg				CL'									360	0.0	泥水3	1
							Ⅳg	bg			深度91.47m：幅4mmの石英脈あり。	CM'												
								cg																
						Dg					深度92.85～92.95m：幅1～7mmの石英脈あり。 深度93.00～100.00m：幅数mm程度の石英脈を所々に挟む。	CL'	[CM]			11/25 93.65								
					にぶい橙	Cg																		
					灰白	Dg	Ⅲg				深度95.00～97.50m：傾斜30～60°程度の密着した節理が多い。	CM'												
						Cg																		
						Dg																		
						Cg											149			35.0				
						Dg	Ⅳg	bg				CL'												
					にぶい橙	Cg	Ⅲg				深度98.50～98.83m付近に高角度な幅2.5～5cmの石英脈あり。	CM'												
					浅黄橙		Ⅳg																	

コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]

0 50 100

0 10 20 30 40 50

No.7(3/5)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				花崗斑岩	浅黄橙	Cg	Ⅳg	bg	γ		深度99.00～103.00m：全体に褐色化し，傾斜30～50度の節理が多い。
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				深度103.00～105.00m：傾斜60～70度の高角度な節理が多い。
							Ⅱg				
					明赤灰	Cg	Ⅰg	bg			深度105.00～112.00m：密着した節理は少ない。節理に沿って黒褐色，黄褐色を帯びる。
					にぶい橙		Ⅱg				
					にぶい黄橙		Ⅲg				
					明赤灰		Ⅱg			2	
					にぶい橙	Bg	Ⅰg		β		
							Ⅱg				
					浅黄橙		Ⅳg	bg			深度109.50～115.00m：高角度な節理が多い。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				深度110.40～111.35m：斑晶少ない。
								bg			深度112.00～115.20m：全体に橙色を帯びる。
								cg			
							Ⅳg				
						Cg		bg	γ		
										3	深度115.80～117.00m：変質帯。上盤77度。全体に軟質。節理に沿って淡緑色粘土を挟む。
					にぶい橙	Dg	Ⅴg	cg			
						Cg	Ⅱg			2	
					にぶい黄橙	Dg		bg			深度118.30m：シーム。傾斜50度。幅1～10mm，灰白色粘土状。
						Cg	Ⅲg				
						Dg					
					淡緑褐	Eg		cg	δ	4	深度119.74m：シーム。傾斜52度。幅1～3mm，灰白色粘土状。
						Dg	Ⅰg				深度119.74～120.58m：変質帯。黄褐色粘土状。石英粒子残る。
					にぶい橙		Ⅱg				深度120.58m：シーム。傾斜65度。幅1～10mm，灰白色粘土状。
											深度120.58m以深，傾斜20～50度程度の低角度な節理が多くなる。全体に浅黄橙色を呈する。
							Ⅳg	bg			
											深度122.50～124.80m：やや褐色を帯びる。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg	bg			
						Cg	Ⅴg		γ	2	
					浅黄橙		Ⅲg	cg			深度127.00～129.40m：全体に傾斜30～50度の密着した節理が多い。
							Ⅴg	bg			
							Ⅲg				
							Ⅳg				深度129.40m：節理に沿って幅2mmの褐色，灰白色粘土を挟む。
							Ⅲg	bg			
							Ⅴg				
							Ⅲg				深度132.00～133.00m：傾斜70～90度の高角度節理あり。
							Ⅳg				
							Ⅴg	bg			
							Ⅲg				
							Ⅳg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
											35.0				
								149			50.0				
							11／27 02.71								
CM'											55.0		0.0	泥水3	1
								115				360			
CH'											67.5				
B'															
CH'							11／28 08.85								
								80			70.0		0.0	泥水4	0
CM'															
							11／30 13.00						0.0	泥水4	2
CL'								84			50.0	160	0.0	泥水3	3
CM'															
CL'							12／1 16.96		76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0				
[CM]															
CM'								103			35.0		0.0	泥水2	0
D'							12／4 20.04								
								103			30.0	140	0.0	泥水3	0
CM'											40.0				
							12／5 26.07								
								160			50.0				
CL'							12／6 28.87					160			
								124			45.0		0.0	泥水3	2
CM'							12／7 31.57				70.0				
								65			90.0	165			
											35.0				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
						Cg	Ⅱg	cg			深度135.23～135.62m：角礫～細礫状をなす。		CM'							12/8 135.25	65		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	165	0.0	‡	2
						Dg	Ⅵg																	40.0	60			
							Ⅳg	bg			深度135.62～137.65m：傾斜60～80度の高角度な節理と直行する低角度な節理が発達。																
						Cg		cg																45.0		0.0	泥水3	1
					浅黄橙		Ⅲg																					
						Dg		bg			深度138.05～138.35m：節理が密集し，軟質化する。									12/12 138.35	88							
						Cg		cg																22.5	130			
						Dg					深度139.00～143.00m：傾斜10～40度程度の低角度の節理が発達。																
—140						Cg	Ⅳg	bg																		0.0	泥水2	1
						Dg																		40.0				
						Cg																						
							Ⅲg																					
							Ⅳg																					
							Ⅱg																					
						Dg		cg																				
							Ⅳg	bg			深度143.00～144.00m：傾斜70～90度の高角度の節理あり。節理に沿って褐色粘土を挟む。									12/13 143.60	98							
						Cg		cg																				
								bg																				
							Ⅲg				深度144.75～148.00m：傾斜10～20度と60～70度の交差する節理が多い。																
							Ⅳg																					
							Ⅲg	cg																				
							Ⅳg																					
							Ⅲg	bg												12/18 146.00	65							
						Cg	Ⅱg																					
						Dg		cg			深度148.07～148.35m：黒褐色の酸化マンガン汚染あり。																	
							Ⅳg																					
						Cg																						
—150							Ⅲg	bg	γ	2																		
						Cg																		30.0		0.0	泥水3	2
							Ⅳg	cg																				
						Dg		bg			深度151.35m：シーム。傾斜72度，幅1mm，褐色粘土状及び砂状。 深度151.38m：シーム。傾斜74度，幅2mm，黒褐色粘土状及び砂状。																
							Ⅴg	cg																				
							Ⅲg																					
						Cg	Ⅳg	bg			深度154.45～155.60m：節理多く，角礫状をなす。										101							
						Dg																						
						Cg	Ⅴg	cg			深度155.60～160.00m：全体に密着した節理が多く，一部角礫状をなす。																
						Dg																						
							Ⅳg																					
							Ⅴg																					
							Ⅳg	bg												12/20 157.08								
						Cg	Ⅲg																					
							Ⅱg																					
							Ⅲg																					
							Ⅱg																					
—160																												
						Dg		cg			深度160.00～165.00m：高角度な節理が多い。 深度160.30～161.00m：節理多く，角礫～細礫状コア，節理に沿って粘土を挟む。										96				40.0	145	0.0	泥水5	1
						Cg	Ⅴg																					
						Dg																						
						Cg																						
						Dg																						
							Ⅳg																					
						Cg	Ⅲg	bg																		0.0	泥水7	4
						Dg																						
						Cg	Ⅳg																					
							Ⅲg													12/21 163.16								
						Dg																						
						Cg	Ⅳg																					
						Dg																						
						Cg	Ⅴg	cg			深度163.82m：シーム。傾斜74度。幅2mm，黒褐色粘土状及び砂状。																	
							Ⅱg	bg																				
						Cg	Ⅳg																					
	146.25	165.00					Ⅲg													12/22 165.00								

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										

ボーリング名	No.8	調査位置						北緯	
発注機関				調査期間				東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+ 19.14 m	角度	180° 上 90° 下 0° 30°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 59.8°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘削長	200.00 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	19.07	0.08		表土	黄褐																			
	18.94	0.23		有機質土混り中砂	褐																			
	18.78	0.42		砂質シルト	黄褐						細～中粒砂と腐植混じり砂質シルトの互層。木炭が点在する。													
	18.62	0.60		中砂	褐灰～灰白												195							
	17.98	1.34		細砂有機質土混り砂質シルト互層	褐灰						中～粗粒砂。木炭を1%程度含む。													
	17.33	2.09		中砂	明黄褐						木炭が点在する。					9/16 2.60		140／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルビット					
	16.67	2.85		砂質シルト	にぶい黄橙・腐状に砂																			
	15.68	4.00		粗砂	砂						塊状。													
	14.91	4.89		細砂	明黄褐												131							
	14.46	5.40		砂礫	灰白						粗粒砂が混じる。					9/19 5.00								
	13.08	7.00		礫混り・砂利混り中砂	にぶい黄橙						径0.2～6cmの亜角礫を含む。										60			
											粗粒砂が混じる。													
10				砂礫							礫は径0.2～26cm，亜角～角礫，礫種は花崗斑岩，アプライト。基質はシルト混じり細～中粒砂。						88							
					橙						深度8.56～8.60m：土壌を挟む。													
																9/20 11.00		115／ケーシング						
	8.81	11.93		花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	bg	δ		深度11.93～61.10m:花崗斑岩。厚さ0.4～2.0mの黒雲母花崗岩を挟む。花崗斑岩は，径5～10mm程度の石英，カリ長石，一部斜長石，径1～2mmの黒雲母の斑晶を10～30%程度含み，石基は径0.1mm程度である。深度13.02～13.16m：長石の粘土化著しい。深度13.10～13.16m：幅6cm，軟質化。深度13.34～13.61m：長石の粘土化著しい。深度15.26m：傾斜32～16度，幅30mm砂礫状。深度15.41m：傾斜32～38度，幅30mm砂礫状。深度15.81m：石英脈，傾斜69度，幅5～10mm。深度16.43～17.80m：長石が変質。黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜64度。深度18.30～20.00m：長石が変質。															
					にぶい黄橙	Dg	Ⅲg																	
					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg	cg																
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg									102			30.0		0.0	泥水5	5
							Ⅱg																	
						Dg	Ⅳg																	
						Dg	Ⅱg																	
						Cg	Ⅳg																	
					浅黄橙	Dg	Ⅱg	cg																
	4.07	17.40		黒雲母花崗岩	橙	Cg	Ⅳg	bg																
					淡橙		Ⅲg									9/21 18.50								
							Ⅳg	cg																
	2.08	19.70			浅黄橙	Dg	Ⅱg		γ	2	花崗斑岩，上位との境界傾斜57度。										100			
20				花崗斑岩	黄橙	Dg	Ⅲg	bg			深度20.10～20.16m：幅40mm，シルト混じり砂礫状，幅10mmの礫混じり褐色粘土を挟む。													
							Ⅱg																	
					にぶい黄橙		Ⅳg	cg									128	76						
					にぶい橙		Ⅱg				深度23.40～23.55m：酸化マンガンが細脈網目状に入る。深度23.82～23.90m：節理に酸化マンガンを挟む。													
							Ⅳg	bg																
							Ⅲg																	
					にぶい黄橙		Ⅱg	cg			深度25.40～25.90m：変質を受け，節理に沿って灰白色粘土を挟む。													
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg																
					明黄褐		Ⅲg									9/22 26.80	103							
					にぶい橙		Ⅳg																	
							Ⅲg																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	-4.78	27.62		花崗斑岩		Cg	Ⅲg				
	-4.85	27.70		ペグマタイト		Bg	Ⅳg				深度27.62～27.70m：ペグマタイト，上位との境界傾斜20度。
	-5.20	28.11		アプライト			Ⅲg				深度27.92m：ペグマタイト脈，傾斜20度，幅2cm。
				花崗斑岩	にぶい橙	Cg		bg			
	-6.25	29.32		黒雲母花崗岩		Dg	Ⅳg				黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜40度。
30							Wz				
	-7.19	30.40		花崗斑岩				cg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
					にぶい褐		Ⅳg				深度30.70～31.45m：変質を受け，節理に沿って灰白色粘土を挟む。
											深度31.46～33.91m：斜長石が緑灰色に変質している。
	-9.83	33.45		黒雲母花崗岩		Cg					黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜37度。
	-10.79	34.56		花崗斑岩			Ⅲg	bg		2	花崗斑岩，上位との境界傾斜16度。
					にぶい橙		Ⅳg				
							Ⅲg				深度36.45～37.54m：節理に沿って酸化マンガン付着。
	-13.40	37.57		黒雲母花崗岩	橙	Bg	Ⅳg				黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜45度。
						Cg	Vg	cg			深度38.28m：傾斜62度の節理に沿って上盤側が幅10mm軟質劣化。
						Cg	Ⅳg				深度38.28～38.54m：斜長石が緑灰色に変質している。
	-15.15	39.60				Bg	Ⅱg				
					明黄褐			bg			花崗斑岩，上位との境界傾斜ほぼ水平。
40				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg				
											深度41.87～42.65m：節理が多く，角礫～細礫状。
								cg			深度43.07～43.40m：節理が多く，角礫～細礫状。
					浅黄		Ⅵg			3	
	-18.88	43.90		黒雲母花崗岩							深度43.44～43.65m：破砕帯(Hb)。上盤54度，下盤63度。全体幅100mm。シルト混じり砂礫状。礫径は7mm以下。下盤側幅20mm礫質灰白色粘土状。
	-19.63	44.77			にぶい橙			bg	γ		黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜70度，下位との境界傾斜37度。
					黄砂						
						Dg	Ⅳg	cg			
								bg			
										2	深度48.62～48.79m：節理が多い。
						Cg					
							Ⅲg				
					にぶい黄橙		Ⅲg				
								cg			深度51.04～51.06m：傾斜11～33度，砂状を呈する。
							Ⅳg	bg			深度51.19～51.23m：傾斜44～71度，砂礫状を呈する。
								cg			深度52.24～54.40m：変質を受け，節理に灰白色粘土を挟む。
						Cg					
					浅黄橙		Vg			3	深度53.09～53.29m：破砕帯(Hj)。上盤52度，下盤62度，全体幅200mm。傾斜約60度の面構造発達。
						Dg	Ⅳg				深度53.29m：傾斜62度，幅2～3mm，褐色粘土状，直線的でシャープな面。
											深度53.29～53.41m：破砕帯(Hj)，傾斜約60度の面構造発達，正断層の変位センスあり。
							Ⅱg				深度55.00～59.20m：弱風化している。
						Cg					深度56.15～56.18m：節理が多い。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Dg	Ⅱg				深度57.05～57.21m：変質のためやや軟質。
							Ⅳg				
							Vg				
						Cg	Ⅳg	bg		2	深度58.00m：酸化マンガン脈，傾斜62度，幅0.1～0.2mm。
											深度58.95～59.36m：節理が多い。
60							Vg				
						Bg	Ⅳg				
					にぶい赤褐		Vg				
						Cg	Ⅲg				黒雲母花崗岩，上位との境界不明瞭。
							Ⅳg				深度61.10～131.65m：黒雲母花崗岩。厚さ1.0～7.3m程度の花崗斑岩やアプライトを挟む。
	-33.77	61.10		黒雲母花崗岩	灰黄褐	Dg	Vg				黒雲母花崗岩は，径5～10mm程度の石英，カリ長石ー部斜長石の斑晶と径2～3mm程度の黒雲母の斑晶からなる。
											深度61.19～61.57m：節理に酸化マンガン多い。

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 N値	標準貫入試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	27.00														
								103			30.0	100			5
CM'													0.0	泥水5	
	30.88										40.0				
CL'							9／25					130			
	31.46						33.50				30.0				
[CM]															
CM'								82			50.0	150	0.0	泥水5	3
	41.15	41.15					9／26								
							40.50								
CL'	[CL]														
	46.92	46.92						107	76						
CM'							9／27								
							49.40								
	52.24														
CL'															
	54.44							110							
[CM]															
CM'							9／29								
							58.60								
	61.41	61.41						104							
CL'	[CL]														
	63.00	63.00										100			

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
			黒雲母花崗岩	灰黄褐	Cg, Dg, Cg, Dg	Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg	bg			深度62.35m，62.39m：シーム。幅0.1～1mmの灰白色粘土状。逆断層のセンスあり。	CL'	63.00				104				100			
				褐	Eg, Cg, Eg, Dg	Ⅵg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅰg	cg		2	深度64.95～64.99m：変質帯。上盤55度，下盤62度，全体幅20～30mm。灰白色粘土状。 深度66.00～66.30m：節理密集部で砂礫状をなす，一部粘土を挟む。 深度66.44～66.57m：砂礫状部。	D'	66.00				9/30 65.00							
70				にぶい褐	Cg, Dg, Cg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅲg, Ⅳg	bg				CL'	66.57				86				130			
				にぶい黄褐	Dg	Ⅴg	cg		3	深度71.90～72.19m：変質帯。上盤14度，下盤30度。原岩組織は不明瞭，一部砂状。						10/2 70.60							
				灰褐		Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg	bg		2	深度74.70m：方解石脈，傾斜55度，幅5～10mm。													
				にぶい黄橙	Eg	Ⅵg	cg		3	深度75.34～77.75m：破砕帯(Hb)。上盤48度，下盤89度。一部に灰白色粘土幅1～10mm，褐色粘土幅0.1～1mmを挟む。非対称変形構造からみかけ正断層の変位センスあり。	D'	75.34											
	-48.46	78.06	花崗斑岩	にぶい橙	Dg, Cg, Dg	Ⅲg, Ⅰg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg	bg		2	花崗斑岩，上位との境界波打つ。	CL'	77.75				10/3 77.60							
80	-49.88	79.70	黒雲母花崗岩	にぶい黄橙	Cg, Dg	Ⅲg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg	cg, bg, cg, bg, cg	γ	3	黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜54度。 深度80.45～81.46m：変質帯。上盤72度，下盤42度。節理に灰白色粘土を挟む。	CM'	78.90				81							
	-52.74	83.00	花崗斑岩						2	花崗斑岩，上位との境界傾斜20度。		80.27				10/4 83.00							
				浅黄	Eg, Dg	Ⅰg	cg		3	深度83.94～85.71m：変質帯。上盤18度，礫状，節理に沿って灰白色粘土を挟む。石英脈あり。 深度84.76m：石英脈，傾斜64度，幅40～50mm。 深度85.27m：石英脈，傾斜80度，幅1～10mm。 深度85.71～90.00m：全体に節理多く，節理に沿って粘土を挟む。	CL'												
				明黄褐	Dg																		
				浅黄	Cg, Dg	Ⅳg, Ⅱg	bg									89				100			
				浅黄橙	Cg, Dg, Eg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅴg					CM'	88.19											
90	-59.11	90.35	黒雲母花崗岩	明黄褐	Dg	Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg	cg		2	深度90.00～91.08m：節理に粘土を挟み軟質。 黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜75度。 深度92.02～92.89m：節理に酸化マンガン多い。	CL'	88.91				10/5 90.10							
	-61.53	93.15	花崗斑岩		Cg	Ⅳg				花崗斑岩，上位との境界傾斜20度。		93.39				10/6 93.10							
	-62.33	94.07	黒雲母花崗岩	にぶい黄褐	Dg, Cg, Eg	Ⅲg, Ⅴg, Ⅵg	bg			黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜40度。	CM'	95.44											
				浅黄橙	Cg	Ⅲg																	
				黄褐	Dg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅴg, Ⅲg, Ⅳg				深度95.55～95.61m：砂礫状。	CL'	97.56				10/7 96.90							
				明黄褐	Cg, Dg, Cg	Ⅰg, Ⅱg, Ⅳg					CM'	99.00											

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
100	-67.59	100.15	黒雲母花崗岩	明黄褐	Dg	Ⅳg	bg		2	深度99.80～100.13m：破砕帯(Hj)。上盤68度，下盤60度。幅10mm，粘土細脈網目状。	CL'													
				淡黄		Ⅵg			3	花崗斑岩，上位との境界は破砕帯，傾斜60度。														
			花崗斑岩	明黄褐		Ⅰg	cg																	
				灰黄褐		Ⅳg	bg																	
				橙	Cg	Ⅲg																		
				にぶい黄橙	Dg	Ⅰg	cg			深度101.59m：シーム。56度，幅2～5mm褐色粘土状。							93							
				橙	Cg	Ⅱg																		
						Ⅳg																		
	-70.45	103.45				Ⅲg	bg			黒雲母花崗岩，上位との境界漸移的。	CM'													
			黒雲母花崗岩	にぶい黄橙	Dg	Ⅳg																		
				橙	Dg	Ⅲg				深度104.72m：酸化マンガン・石英脈，傾斜58度，幅1～10mm。	CL'					10/10 105.00		76						
						Ⅱg	cg			深度105.27m：酸化マンガン脈，傾斜12度，幅1～10mm。														
						Ⅳg																		
					Cg	Ⅲg	bg		2	深度107.55m：酸化マンガン脈，傾斜25度，幅1～10mm。	CM'													
				黄	Dg	Ⅳg				深度107.99m：酸化マンガン脈，傾斜28度，幅2～5mm，2条あり。							88							
				所黄褐	Eg	Ⅵg	cg			深度108.22m：石英脈，上盤57度，下盤36度，幅0～80mm，閉じる。		[CL]												
				にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	bg			深度108.46m：シーム。傾斜63度，幅0.1～2mmの灰白色粘土状。	D'													
110				明黄褐	Eg	Ⅵg	dg			深度108.85m：シーム。傾斜34度，幅2～5mmの褐色粘土状。														
				橙	Dg	Ⅱg	cg																	
					Cg	Ⅳg										10/11 111.60								
						Ⅲg																		
					Dg					深度112.30～112.61m，112.95～113.24m：砂礫状コア。							67							
					Eg	Ⅵg	bg																	
					Dg	Ⅳg																		
					Eg	Ⅵg																		
	-79.19	113.54	アプライト	明黄褐	Dg	Ⅳg				アプライト，上位との境界傾斜67度。	CL'					10/13 114.40								
						Ⅲg																		
	-79.99	114.47		淡黄橙	Eg	Ⅵg	dg			黒雲母花崗岩，上位との境界は破砕帯，傾斜48度。														
			黒雲母花崗岩	明黄褐	Cg	Ⅳg		γ	2	深度114.47～114.67m：破砕帯(Hj)。上盤48度，下盤18度。傾斜67度，幅2～10mmの褐色粘土状。	CM'													
				橙	Dg	Ⅳg				深度120.37～120.43m：破砕帯(Hc)。上盤56度，下盤20度。幅30mm灰白色粘土状。	CL'						70		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	100	0.0	泥水5	0
					Cg	Ⅲg	bg			深度120.43～121.21m：破砕帯(Hb)。上・下盤20度。砂礫状。														
					Dg																			
				明黄褐	Eg	Ⅰg				深度124.30～124.31m：破砕帯(Hc)。上盤18度，下盤23度。幅10～15mm褐色粘土状。														
						Ⅱg				深度124.35～124.37m：破砕帯(Hc)。上盤46度，下盤56度。幅10～15mm褐色粘土状。						10/14 119.55								
120				橙	Dg	Ⅴg				深度124.37～124.61m：破砕帯(Hj)。上盤56度，下盤55度。礫状。	D'													
				にぶい黄褐	Eg	Ⅵg	dg		3	深度124.61～124.62m：破砕帯(Hc)。上盤55度，下盤57度。幅5～10mmの褐色粘土状。							76	76／セメンティング						
					Eg	Ⅵg	dg			深度124.62～125.00m：破砕帯(Hj)。上盤57度，下盤不明。礫状。	CL'													
				橙	Dg	Ⅱg	bg		2	深度125.00～125.11：破砕帯(Hc)。上盤不明。下盤19度。礫混じり固結シルト状。														
					Eg	Ⅵg	dg			深度125.11～125.12m：破砕帯(Hc)。上盤19度，下盤21度。幅5～15mm褐色粘土状。	D'					10/16 123.50								
					Cg	Ⅳg	bg				CL'													
					Eg	Ⅵg	dg			深度125.12～125.19m：破砕帯(Hc)。上盤21度，下盤10度。浅黄橙色固結シルト状。														
				橙	Dg	Ⅳg	bg			深度125.19～125.20m：破砕帯(Hc)。上盤10度，下盤12度。幅5～15mm褐色粘土状。	D'													
				黒褐～にぶい黄橙	Eg	Ⅵg	dg		3	深度125.20～125.43m：破砕帯(Hb)。上盤12度，下盤32度。シルト質礫状。							77							
				明黄褐		Ⅳg	bg			深度125.43～125.52m：破砕帯(Hc)。上盤32度，下盤27度。幅90mmの褐色粘土状。														
				淡黄	Eg	Ⅰg	cg			深度125.52～127.45m：破砕帯(Hj)。上盤27度，下盤58度。礫状，部分的に原岩残す。	CL'	[D]												
				浅黄	Dg	Ⅳg			2	深度128.46～131.65m：破砕帯(Hb)。上盤16度，下盤48度。幅0.1～20mm。原岩組織不明。						10/17 129.00								
				にぶい黄橙		Ⅱg				深度131.65～131.68m：破砕帯(Hc)。上盤48度，下盤56度。全幅15～20mm。上盤から幅0.1～10mmの褐色粘土状，幅0～3mmの灰白色粘土状，幅10～15mmの灰白色粘土状，幅1～12mmの褐色粘土状，直線的でシャープである。							65							
130				浅黄	Eg	Ⅰg	dg		4	深度131.68～132.09m：破砕帯(Hb)。上盤56度，下盤6度。	D'													
				浅黄橙		Ⅵg				深度131.68～131.90m：固結灰白色粘土状。						10/18 131.80								
	-94.87	131.65		灰白～紅紫		Ⅳg				深度131.90～132.09m：固結砂礫状。														
			アプライト	灰白	Dg	Ⅳg	cg		3	深度131.65～136.53m：アプライト 全体に変質受けて暗オリーブ灰～灰オリーブ色帯びる。細粒緻密で斑晶は認められない。全体に破砕状で，頻繁に方解石脈を挟む。	CL'	[CL]													
				灰黄		Ⅴg	bg			深度133.89～133.92m：変質帯。上盤19度，下盤30度。幅40mm，緑灰色シルト質細礫状。方解石脈に平行。														
				灰オリーブ		Ⅳg	cg																	
				オリーブ黒			bg																	
				オリーブ灰			cg																	
				暗オリーブ灰			bg		2															
				暗オリーブ灰	Cg											10/19 135.00								
				黄褐																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
140				アプライト	暗灰黄	Dg	IVg	cg		2	深度134.09～134.11m：変質帯。上盤25度，下盤16度。幅10～30mm，緑灰色シルト混じり細礫状。方解石脈に平行。境界凹凸あり。
					暗灰黄	Eg	IIg			3	深度134.25～134.28m：変質帯。傾斜17度，幅30mm，緑灰色礫混じりシルト質砂状。軟質，境界不明瞭。
					暗灰黄	Dg	Ig				深度135.19m：シーム。傾斜20度，幅2～5mmの緑灰色粘土状。
					暗灰黄	Cg					深度135.96m：シーム。傾斜17度，幅3～4mmの緑灰色粘土状。
					暗灰黄	Dg	IIg				深度136.08～136.53m：変質帯。上盤10度，下盤28度。
					暗灰黄	Cg	IIIg			2	シルト質角礫～シルト質砂状。軟質。厚さ1～4cmの方解石脈を挟む。
					暗灰黄	Cg	IVg				深度136.53～200.00m：花崗斑岩。上部に厚さ6.7mのアプライトを挟む。花崗斑岩は，径3～15mmの石英，カリ長石，斜長石，黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm程度である。斜長石の斑晶は径3mm程度であり，部分的に黒雲母の斑晶が多くなる。
					暗灰黄	Cg	IIIg				
					暗灰黄	Dg	IVg				
					暗灰黄	Cg					
					灰黄褐	Dg	Vg				深度137.95～137.98m：破砕帯(Hb)。上盤28度，下盤12度。幅25mmの黄灰色礫混じりシルト質砂状。下盤に幅4～8mmの灰白色シルトを挟む。
					灰黄褐		IIIg				
	104.87	143.20			灰黄褐	Eg	VIg			3	深度139.55m：シーム。傾斜62度，幅0.2mmの砂質シルト状。
					にぶい黄橙	Dg	Ig				深度139.73m：シーム。傾斜15度，幅4～10mmの黄灰色砂質シルト状。
					にぶい黄橙		IIg				深度139.92m：シーム。傾斜50度。幅3～4mmの黄灰色シルト状。
					にぶい黄橙	Eg	VIg				深度139.92～139.96m：傾斜50度。幅20mmの黄灰色礫混じりシルト状。
					にぶい黄橙	Dg	IIg				深度139.96m：シーム。傾斜50度。幅1～2mmの黄灰・褐色シルト状。
					にぶい黄橙	Cg	IVg				深度141.15～141.20m：破砕帯(Hb)。上盤44度，下盤30度。幅35～45mm，礫混じり砂状。上盤に幅2～5mmの黄灰色シルトを挟む。
					灰黄褐	Dg	IIIg	bg			深度141.51m：シーム。傾斜75度。幅2～3mmの黄灰色シルト状。
					灰黄褐	Cg	IVg				深度143.12～143.24m：破砕帯(Hb)。上盤20度，下盤15度。礫混じり砂状。
					灰黄褐	Dg	IIIg				深度142.19～142.20m：破砕帯(Hc)。下盤13度，幅13～16mmの砂質シルト状。
					にぶい黄橙	Dg	IVg	cg			深度143.24～144.16m：破砕帯(Hb)。上盤15度，下盤33度。径1～3cmの固結した礫状。網目状にシルトを挟む。
					にぶい黄橙	Cg	IIIg				深度144.16～144.21m：破砕帯(Hb)。上盤33度，下盤65度。幅10～50mm，黄灰色礫混じりシルト質砂状。上下盤で走向に相違あり。
					灰黄褐	Dg	IVg	bg			深度144.69～144.93m：変質帯。上盤18度。径1～3cm程度の礫状。網目状にシルトを挟む。
					灰黄褐	Cg	IIIg	cg			深度146.49m。シーム。傾斜60度，幅4～10mmの黄灰色シルト混じり砂状。
					灰黄褐	Dg		bg			深度149.78m：シーム。傾斜60度，幅3～5mmの暗褐～明黄色粘土状。
					灰黄褐	Cg	IVg	cg	γ		深度150.00～151.97m：高角度の密着した節理が1～3cm間隔で発達。部分的に開口し角礫状となる。
					にぶい黄橙	Dg		bg			深度151.97～153.13m：傾斜20～40度の節理が数～10数cm間隔で発達。
					にぶい黄橙	Cg		cg			深度153.20m：シーム。傾斜64度，幅2～4mmの暗褐色粘土状。
					暗灰黄	Dg	IIg				深度153.65～154.48m：節理に沿って幅1～3cm程度変質強く，全体に明黄色を帯びる。
					灰黄褐	Cg	IIIg	bg			
					灰黄褐		IVg				深度155.50～155.55m：破砕帯(Hb)。上盤45度，下盤62度。幅40～50mmの黄灰色シルト混じり砂礫状。下面に幅3～7mmの暗褐色砂質シルトを挟む。
					灰黄褐		Vg				
					灰黄褐	Cg		cg			
					灰黄褐	Dg		bg			
					灰黄褐	Cg	IVg	cg		2	
					灰黄褐	Dg		bg			
					灰黄褐	Cg		cg			深度158.89m：シーム。傾斜56度，幅8～10mm，明黄色礫混じりシルト質砂状。
160					灰黄褐	Dg					
					灰黄褐		IIg				深度159.89～159.90m：シーム。上盤55度，下盤50度。幅5～10mmの橙褐色砂質シルト状。
					灰黄褐	Cg	IIIg	bg			深度160.00～164.40m：密着した節理が網目状に発達。節理に沿って黒褐を帯びる。
					灰黄褐		IVg				
					灰黄褐		IIIg				
					灰黄褐		IVg				
					灰黄褐	Dg		cg			
					灰黄褐		IIg				
					灰黄褐		IIg				
					灰黄褐		IVg				
					灰黄褐		IIIg	bg			深度165.00～166.00m：網目状に節理発達し，節理に沿って褐色を帯びる。
					灰黄褐		IVg				
					灰黄褐	Cg	IIg				深度166.10～166.65m：斜長石が淡黄色を帯び，粘土化している。
					灰黄褐						深度166.60m以深，網目状に節理発達。
					灰黄褐		IVg				
					灰黄褐	Cg		cg			深度167.91m：シーム。傾斜40度。幅2mmの黒褐色シルト状。
					浅黄橙	Dg	IIIg				深度169.20～169.45m，169.62～169.85m：網目状に低角度の節理が発達。
170					浅黄橙	Cg					
					灰白	Dg		bg			
					灰白	Cg					

コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100	135.00				0 10 20 30 40 50											
[36] 25	CL'								92					0.0	泥水5	0
[89] 89								10／20								
[85] 96	138.90							157.00								
[40] 28	CM'								90							
[39] 24	139.38							10／30								
[6] 5		[GL]						140.00								
[27] 10									57							
[48] 18	CL'							10／31								
[76] 76								142.20								
[77] 28									75							
[30] 15																
[60] 15	146.37	146.37														
[40] 10	CM'							11／1								
[28] 18	148.51							147.30								
[74] 18	CL'	[CM]							91							
[23] 15	150.10															
[32] 18	CM'							11／2								
[6] 9								152.00								
[40] 10	153.13	153.13							116	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	100	0.0	泥水5	5
[51] 38	CL'															
[54] 17								11／3								
[40] 10	157.28							158.00								
[1] 1	CM'															
[6] 9	157.97															
[72] 12	CL'	[GL]														
[80] 45	159.90								100							
[37] 20	CM'							11／4								
[21] 2	161.42							163.00								
[42] 27	CL'															
[67] 25	165.90	165.00							88							
[24] 14	CM'							11／6								
[58] 28								166.80								
[24] 14	167.40															
[59] 26	CL'	[CM]														
[30] 26	168.16								91				130			
[40] 22	CM'															
	171.00	171.00														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
180				花崗斑岩	灰白	軟 Dg Cg Dg Cg Dg Bg Dg Cg Dg Cg Dg C

ボーリング柱状図

調　査　名

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	No.10	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋24.20 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	120.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	22.77	1.43		盛土	灰褐						礫は径1～3cm。																
	22.53	1.67	シルト混り砂		浅黄						旧盛土。 礫，腐植質シルト混じり砂。 深度2.00～2.94m：礫率70%，アプライトの巨礫主体。 深度2.94～3.82m：礫率5～10%，径3cm程度の風化亜角礫を含む。															
	22.20	2.00	シルト混り砂礫	旧盛土	黒褐																						
	20.38	3.82			明褐						礫は径1～5cm程度の亜角礫，礫種は花崗斑岩，アプライト主体。 所々に，アプライトのくさり礫を含む。基質はシルト質細～中粒砂。															
	18.58	5.62		花崗斑岩	明褐灰 明黄橙				δ		深度5.62～11.00m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を5～20%程度含み，石基は径0.5mm程度である。 コアは岩芯まで風化を受け脆くなっている。主な節理は傾斜50～60度程度で，10～30cm間隔で発達。 面には厚さ1mm以下の明褐色粘土を付着する。柱～長柱状コアを呈するが，密着した不明瞭な節理も多い。		D'	[D]													
10													CL'														
					明黄橙								CM'														
					明褐灰						深度11.00～54.50m：花崗斑岩。 径3～10mmの石英及び径1～3mmの長石，黒雲母の斑晶を1～25%程度含み，石基は径0.1mm程度である。 深度11.50m：シーム。傾斜50度。幅6～10mm，明褐色粘土状。 深度12.08m：シーム。傾斜60度。幅4mm，明褐色粘土状。鏡肌有り，条線方向は50度左。 深度13.01m：シーム。傾斜50度。幅5～7mm，明褐色粘土状。 深度14.47m：シーム。傾斜52度。幅5mm，やや固結した明褐色粘土状。		CL'														
													CM'														
													CH'	[CM]													
20											深度19.00m：傾斜65度の節理に沿って，幅4～7mmの砂混じり橙褐色粘土（流入粘土）を挟む。 深度21.55m：石英脈幅2～3mm，傾斜65度。 深度25.59m（傾斜80度），深度25.92m（傾斜70度）：節理に沿って幅1.0～1.5mmの灰白色軟質粘土を挟む。																		
									γ	2																	

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
30				花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	Ⅲg	bg	γ	2	深度27.20～27.40m，27.30～28.82m：風化を受けて斜長石が粘土化している。 深度27.56～27.60m：白雲母濃集。 深度28.46～28.53m：破砕帯(Hc)。上盤68度，下盤63度，幅20mm，暗褐色礫混じりシルト質砂状。 深度30.42～30.53m：幅40mm暗灰色礫混じり砂質シルト状。 深度30.91～31.04m：傾斜58度及び傾斜78度の亀裂に沿って変質し，礫混じり砂状を呈する。 深度33.36～33.47m：幅60mmの黄褐色シルト混じり砂礫状。 深度35.24～36.61m：傾斜70～85度及び傾斜60度の節理発達。径3～5cmの岩片状コア及び節理間隔1～3cmのコアをなす。 深度36.61～36.76m：変質帯。明橙色シルト質砂状。上盤60度，幅1～2mmの灰白色粘土。下盤74度，幅2～3mmの黄褐色粘土。中間部幅8～10cm明橙色シルト質砂状。 深度36.92～37.30m：変質により礫～礫混じり砂状を呈する。 深度37.84～38.35m：節理密集部，変質を受け軟質化する。 深度39.09～39.14m：破砕帯(Hc)。上盤73度，下盤60度。幅40mmの黄白色粘土状。 深度40.19～41.57m：傾斜80度の密着した節理が2～10cm間隔で発達する。 深度43.19～43.74m：変質帯。上盤22度，下盤43度。シルト質砂状～径1cm以下の細礫状。 深度43.19m：傾斜22度，幅2～5mmの灰白色粘土を挟む。 深度43.65m：傾斜55度，緑灰色を帯びた石英脈，幅1mmの灰白色粘土を挟む。 深度45.00～46.75m：傾斜70～75度及び30～40度の節理発達。短柱～岩片状コア，風化をうけコアの表面粗い。 深度48.90～49.14m：傾斜70～85度の節理に沿って，酸化マンガン濃集。 深度51.42～52.00m：傾斜60度～80度の節理が交差する。全体に酸化マンガンに汚染される。薄い砂状～砂質シルト状物を伴う。 深度54.50～64.00m：花崗斑岩。径3～7mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を40～50%程度含み，石基は径0.5mm以上で組織はほぼ均質である。 深度54.57m：傾斜70度の節理に沿って黄鉄鉱濃集。 深度55.00～55.75m：傾斜75～80度の密着した節理に沿って黄鉄鉱付着。 深度56.02～56.08m：葉片状，節理間隔0.5～1.5cm。 深度56.56～56.62m：葉片状，節理間隔0.3～1.5cm，岩質脆い。 深度58.46m：傾斜80度の密着した節理に沿って黄鉄鉱付着。 深度58.93～59.35m：節理に沿って酸化マンガン濃集。 深度62.46～62.56m：傾斜30～37度，節理間隔0.5～1.5cm，変質により岩質脆い。	CM′	[CM]			9/19 30.50	103	95／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	90	0.0	泥水5	0
												B′												
												CM′												
												CL′												
												CM′					106							
												CL′				9/20 35.80								
												D′	[D]			9/21 38.00	55							
																9/28 39.20	60							
40					浅黄橙	Cg	Ⅲg	bg	γ	2		CM′					83					0.0	泥水5	5
												CL′	[CM]											
					浅黄	Eg	Ⅴg	cg	δ	3		D′												
												CL′												
												CM′				9/29 45.00								
												CH′					130							
												B′												
												CH′												
												CM′												
												CM′	[CH]											
												CL′												
												CH′				9/30 52.80		76						
50												CM′									100	0.0	泥水5	3
												CH′												
												CM′					112							
												CL′												
												CH′												
												CM′	[CM]			10/2 59.50								
60																	110							

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

（標準貫入試験）試験　（N値～深度　0 10 20 30 40 50）

原位置試験（孔内水平載荷）

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
70				花崗斑岩	明褐灰	Bg	Ⅰg	bg	β		深度63.96～65.00m：傾斜75～80度の密着～開口した節理が3～4cm間隔で，さらに傾斜15～60度の節理が3～15cm間隔で発達し，全体に短柱状コアをなす。 深度64.00～71.00m：花崗斑岩。 径4mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm程度である。 深度65.77～69.05m：傾斜30～50度と傾斜70～80度の節理発達。密着した節理に沿って褐色化する。 低角度と高角度の節理が交差し，部分的に角礫状をなす。																	0.0	泥水5	3
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg									110							
						Dg		cg								10/3 67.20								
						Cg	Ⅲg	bg																
							Ⅳg																	
							Ⅲg	cg																
						Dg	Ⅳg	bg																
						Cg	Ⅲg																	
						Dg	Ⅳg													30.0				
						Cg																		
						Dg	Ⅳg																	
						Cg	Ⅲg	cg	γ															
							Ⅳg																	
						Bg	Ⅲg																	
						Cg	Ⅳg																	
						Bg	Ⅱg	bg			深度70.71～70.92m：傾斜54～76度の節理が1～5cm間隔で鋭角に交わり，岩片状をなす。 深度71.00～76.00m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を30%程度含み，石基は径0.5mm程度である。								107					0.0	泥水5	0
						Cg	Ⅲg																	
							Ⅳg																	
							Ⅲg																	
						Bg		cg			深度73.62～73.63m：破砕帯(Hc)。傾斜68度。幅10～15mm，明黄～褐色の砂・細礫混じりシルト状。 礫は径0.2～0.4cm，石英の亜角礫からなる。													
						Cg	Ⅳg									10/4 74.70								
					褐灰	Bg	Ⅰg	bg														0.0	泥水5	0
						Cg	Ⅱg				深度76.00～81.30m：花崗斑岩。 径3mm程度の石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.5mm程度で全体に均質である。													
							Ⅲg																	
						Bg	Ⅱg										95							
							Ⅲg																	
							Ⅱg															0.0	0	0
						Cg	Ⅳg	cg	β		深度78.67～79.32m：短柱状コア。傾斜70～80度の節理と傾斜2～25度の節理が発達。													
80						Bg	Ⅲg																	
						Cg	Ⅳg																	
						Bg					深度80.05～80.79m：節理に沿って，厚さ1mm以下の軟質灰白色粘土を挟む。													
						Cg	Ⅲg			2														
						Bg	Ⅱg	bg			深度81.30～88.30m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石及び径1～3mmの黒雲母の斑晶を3～30%程度含み，石基は径0.1～0.5mm。下部に黒雲母を多く含む。													
							Ⅲg	cg			深度83.32～84.56m：傾斜40～55度の節理に厚さ1mm以下の固結した黄緑～褐色シルトを挟む。													
							Ⅱg										91							
						Cg	Ⅳg																	
							Ⅱg	bg																
						Bg																		
					にぶい橙	Cg	Ⅲg				深度87.47～87.64m：0.3～0.5cm間隔で平行した節理が発達し，径0.3～1.0cmの岩片状コアを呈する。岩片の表面には鏡肌がある。													
							Ⅱg																	
						Dg	Ⅳg	cg																
							Ⅱg	cg																
						Cg	Ⅳg									10/6 86.80				50.0				
						Dg																		
						Cg	Ⅲg																	
						Dg	Ⅳg				深度88.30～103.00m：花崗斑岩。 径5～10mmの石英，長石及び径1～3mmの黒雲母の斑晶を5～20%程度含み，石基は径0.1～0.2mm程度である。 深度96.20～99.90m間は斑晶含有多い。													
90					にぶい褐	Cg	Ⅳg				深度89.49～89.59m：節理密集部，傾斜50～60度，径0.3～1.0cmの細片状コアをなす。 深度90.81～91.23m：傾斜55～75度の平行した節理発達。下盤側には，厚さ0.3～1.0cmの礫状部を伴う。 深度91.51～91.53m：傾斜28～31度，幅20mm，径10～20mmの礫状。 深度91.88～92.60m：傾斜80～90度の節理発達。																
							Ⅱg																	
						Dg	Ⅳg																	
						Cg	Ⅲg																	
							Ⅳg									10/7 92.30								
						Bg																		
					褐灰		Ⅲg	bg	γ															
					にぶい褐	Cg	Ⅳg				深度93.90～94.70m：傾斜80～90度の節理発達。													
					にぶい橙	Bg	Ⅱg				深度95.00～99.40m：主として傾斜20度以下の節理が10～50cm間隔で発達。柱～長柱状コア。													
						Cg	Ⅰg																	
							Ⅲg									10/10 98.10								
							Ⅱg										103							

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

（標準貫入試験）試験　（N値～深度　0 10 20 30 40 50　（N）値

原位置試験（孔内水平載荷）

No.10(3/4)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度 0 10 20 30 40 50）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
100				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅲg Ⅳg Ⅱg	bg	γ		深度101.08～102.57m：高角度な節理発達。節理に褐色粘土を挟むことが多い。	CM'							103							
						Dg	Ⅳg	cg bg																			
					明褐灰	Cg	Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅳg	cg											10/11 02.20							
					にぶい黄橙		Ⅳg Ⅱg Ⅴg					CL'														
					明褐灰 にぶい黄橙 灰白 にぶい黄橙	Bg	Ⅰg	bg	β		深度103.00～115.15m：花崗斑岩。径5～10mmの石英，長石及び径1～3mmの黒雲母の斑晶を30%程度含み，石基は径0.1mm程度で，組織は全体に均質である。	B'											100			
					明赤灰	Bg	Ⅱg Ⅰg					CH'														
					にぶい黄橙		Ⅱg					B'								108							
					灰白	Cg	Ⅳg Ⅱg Ⅳg	cg bg cg				CM'														
					にぶい黄橙	Bg Cg	Ⅱg Ⅳg				深度106.54～106.60m：0.5～1.0cm間隔で板状に節理発達。	CL'							10/14 07.60							
						Cg Bg Cg	Ⅱg Ⅲg	bg cg				CM'														
					にぶい黄褐 明褐灰 にぶい橙	Bg Cg Bg	Ⅱg Ⅲg Ⅰg	bg cg bg		2		CH'	[CM]								76		50.0		0.0	泥水5	0
110												B'								87							
					灰白	Cg Dg Cg	Ⅳg Ⅴg Ⅱg Ⅳg Ⅵg Ⅲg	cg bg cg	γ		深度111.18～114.93m：高角度な節理（密着も含め）発達。 深度111.97m：シーム。傾斜64度。幅8～10mm，粘土状、角礫状。	CL'														
					褐灰 明褐灰 にぶい橙	Bg Cg Bg	Ⅱg Ⅲg Ⅳg	bg cg				CH'							10/16 113.70					120			
	-90.95	115.15		黒雲母花崗岩	明褐灰 にぶい橙	Cg Bg Cg Bg	Ⅲg Ⅱg Ⅰg Ⅲg	bg cg bg			黒雲母花崗岩，上位との境界傾斜69度。 深度115.15～120.00m：黒雲母花崗岩。 径10mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶からなる。 深度116.03～116.35m：節理に沿って酸化マンガン，酸化鉄汚染を受けている。	CM'								105							
					にぶい黄橙	Cg Bg Cg Bg	Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅱg	bg			深度118.84～119.27m：節理に沿って酸化マンガン，酸化鉄汚染を受けている。	CH'														
	-95.80	120.00										B'							10/17 120.00							

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.11	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	+ 32.11 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°
総掘削長	120.00 m	使用機種	試錐機			ハンマー落下用具	
			エンジン			ポンプ	

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
				盛土	黄褐						礫,砂,シルトからなる。									10.0	100	0.0	0	0
	26.03	6.08		アプライト	明黄褐	Eg	VIg	dg	ε		深度6.08～41.35m:アプライト。厚さ1.2～1.7m程度の花崗斑岩を挟む。アプライトは，石基が径0.1mm以下で，一部径0.1～0.2mm程度である。径5～10mmの石英，長石の斑晶が僅かに点在する（0.5%以下）。一部石基中に黒雲母を多く含む。流理は20～30度程度である。	D'					133			20.0				
					灰白	Dg										1/29 4.55		114／ケーシング			165	0.0	泥水1	0
					明黄褐	Eg																		
					灰白		IVg										203							
10						Dg	IIg	cg			深度10.00～18.00m：節理は発達するが，酸化マンガンを挟み密着している。													
							IVg																	
							IIg																	
						Ic	IIIg				深度11.35m：シーム。傾斜65度。幅1～8mm，黒褐色，一部灰白色シルト状。													
					にぶい黄橙		Ig																	
							IIg									1/30 12.85								
							IVg		δ															
						Dg	Ig				深度14.40～14.43m：ペグマタイト。													
							IIIg	bg																
							Ig																	
						Cg				2								99／ケーシング		25.0				
	14.66	17.45		花崗斑岩	明褐灰		IIIg				全体に風化強く，長石は白色化している。花崗斑岩，上位との境界漸移的，下位との境界漸移的。	CL'	[CL]												
	13.01	19.10		アプライト							深度19.10～25.00m：節理に沿って褐色化しているが，岩芯は新鮮な部分が多い。						192				170	0.0	泥水13	10
20							IVg	cg																
							IIIg																	
							IIg																	
							IVg																	
					灰白	Dg	IIIg	bg			深度22.45～22.48m，22.55～22.62m：斑晶の多い部分を挟む。													
							IVg																	
							Vg	cg	γ							1/31 24.20								
							IVg																	
							IIIg																	
							IVg																	
							IIIg	bg			深度25.00～26.40m：全体に褐色化著しい。						163	76		17.0	250	0.0	泥水7	7
					黄橙		IIIg									2/1 26.10								
								cg									153			35.0	170	0.0	泥水12	12
	5.17	26.94		花崗斑岩	淡黄		IVg				深度26.40～26.65m：斑晶多い。													

コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]

（標準貫入試験）試験 （N値～深度 0 10 20 30 40 50）

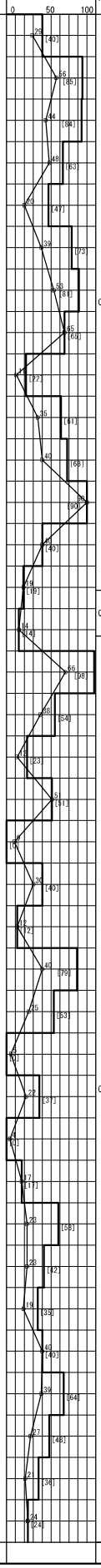
原位置試験（孔内水平載荷）

No.11(1/4)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30	3.91	28.20		花崗斑岩	淡黄	Dg	Ⅳg	cg	γ	2	長石は白色化し，やや軟質。 花崗斑岩，上位との境界漸移的，下位との境界漸移的。
					淡赤橙		Ⅱg				
					淡黄		Ⅳg				
					灰白		Ⅱg				深度28.80～40.00m：全体に新鮮岩主体。節理少なく，節理に沿って褐色化する。
					にぶい橙		Ⅰg				
							Ⅱg				
							Ⅰg				
							Ⅱg				
							Ⅰg	bg			
					灰白		Ⅱg			1	
					明褐		Ⅱg				
					灰白		Ⅱg		α		
					橙	Cg	Ⅰg				
					にぶい黄橙		Ⅱg	cg	β		深度37.70～37.86m：節理密集部。部分的に礫状化する。
40								bg	α		深度40.00～42.00m：全体に褐色化する。
	-9.24	41.35									花崗斑岩，上位との境界不明瞭。 深度41.35～46.90m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石斑晶を1～5%程度含み，径1～2mmの黒雲母の斑晶が点在する。石基は径0.5mm程度である。
				花崗斑岩	灰白		Ⅳg				
							Ⅱg				
					淡黄		Ⅳg				
							Ⅲg				
					灰白	Dg	Ⅳg	cg			深度43.95～45.84m：変質により軟質化している。高角度な節理に幅2mm程度の粘土を挟む。
						Cg					
						Dg	Ⅴg				
							Ⅳg				
							Ⅲg	bg			
						Cg	Ⅱg				
					浅黄		Ⅳg	cg			
							Ⅰg				
							Ⅲg				
					にぶい黄橙		Ⅱg	bg			
						Bg					
					浅黄	Cg	Ⅱg	cg			
							Ⅳg				
					明褐灰	Bg	Ⅱg				
						Cg					
					にぶい黄橙		Ⅰg	bg			
						Bg	Ⅱg				
							Ⅰg				
					明褐灰		Ⅱg				
					浅黄		Ⅲg	cg			
							Ⅴg				
					明赤灰		Ⅱg				
							Ⅰg				
							Ⅱg				
					浅黄	Cg	Ⅳg	bg			
							Ⅱg				
					明赤灰		Ⅱg				
60					淡黄		Ⅲg	cg			
					明赤灰		Ⅱg	bg			
							Ⅲg				

標尺 (m)	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
30	CL'	[CL]							153					0.0	泥水 12	12
								2／6 37.10								
	CM'											35.0				
40		[CM]														
	CL'								142	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット		170	0.0	泥水 12	10
	CM'							2／7 50.60								
	CH'								159			40.0		0.0	泥水 12	11
	B'	[B]														
	CM'	[CM]						2／8 62.30	160			45.0				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
70				アプライト	明赤灰	Cg	Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅲg	bg	γ	2	深度64.60～75.30m：新鮮岩主体であるが，高角度な節理に沿って褐色，一部黒褐色を帯びる。	CM′					160							
					橙																			
					灰白		Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg																	
					にぶい橙		Ⅰg		β															
					灰白		Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅰg, Ⅱg																	
					明赤灰		Ⅰg				深度74.10～74.35m：斑晶を多く含む。					2/9 74.20						0.0	泥水12	11
					淡黄		Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg																	
					黄	Dg	Ⅴg, Ⅳg	cg	γ	3	深度76.60～77.00m：破砕帯(Hb)。上盤74度，下盤89度。幅5～25mm，黄灰～暗黄灰色シルト・礫混じり砂状。	CL′												
80					明緑灰		Ⅰg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅰg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg	bg	β		深度77.90～84.00m：明緑灰色アプライト。 深度81.10～81.27m，82.65～83.00m：斑晶を多く含む。 深度82.00～83.00m：黄鉄鉱の微晶あり。 深度82.96m:黄鉄鉱微晶有り。	[CM]					183	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	45.0	170			
					淡黄		Ⅳg, Ⅲg																	
					灰白	Cg	Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg			2	深度85.10～85.50m：斑晶を多く含む。					2/10 86.55								
					浅黄		Ⅳg	cg			深度88.60～90.00m：節理多く，角礫状をなす。	CM′												
90					明緑灰		Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg		γ		深度90.00～95.00m付近：節理面に黄鉄鉱の微晶あり。全体に高角度な節理発達。													
					淡黄		Ⅱg																	
					明緑灰		Ⅳg	bg			深度92.28～92.60m，93.38～93.70m，94.30～94.60m：斑晶を多く含む。						166					0.0	泥水12	10
					灰白		Ⅰg																	
					淡黄		Ⅳg, Ⅱg				深度94.65～99.80m：節理に沿って褐色化顕著。一部砂～細礫を挟む。													
					浅黄橙		Ⅰg, Ⅳg	cg			深度95.98m，96.00m，節理に幅5～10mmの黒色粘土を挟む。					2/12 97.75								
							Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅲg	bg, cg									146			50.0				



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				アプライト	浅黄橙	Cg	Ⅰg	cg			
						Dg	Ⅳg				深度99.49～99.52m：変質を受け淡白色シルトを挟む。
					灰白		Ⅱg	bg			
						Cg	Ⅳg				
							Ⅰg				深度101.90～102.53m：珪化変質を受ける。
	-70.59	102.70					Ⅱg				花崗斑岩，上位との境界傾斜ほぼ水平～10度。
					浅黄			cg		2	深度102.70～114.10m：花崗斑岩。径20mmのカリ長石の斑晶と径5～10mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を70%程度含み，石基は径0.5mm以上である。黒雲母花崗岩に近い岩相である。
						Dg	Ⅳg	bg			
						Cg	Ⅱg				
						Bg					
						Cg	Ⅳg	cg			
					にぶい黄		Ⅱg				深度107.0～110.65m：変質を受け長石の多くが白色化する。
						Dg				3	深度107.60m：シーム。傾斜84度。幅3～5mm，灰白・暗灰色シルト状。
						Eg					
						Cg	Ⅳg				深度107.60～108.14m：変質帯。上盤84度，下盤76度。灰白色礫混じり砂質シルト状。
110						Dg			γ		
						Cg					
						Cg					
							Ⅴg				深度110.65m以深，長石の白色化認められない。高角度な節理多く，全体に褐色化している。
						Dg	Ⅳg	bg			
					にぶい橙		Ⅲg				
							Ⅱg	cg		2	深度114.10～120.00m：花崗斑岩。径10mm程度の石英，カリ長石及び斜長石，一部黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm程度である。
						Cg	Ⅳg	bg			
							Ⅰg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Dg					
						Cg					
						Dg	Ⅳg				
	-87.89	120.00				Cg	Ⅲg				

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100					0 10 20 30 40 50											
44 [44]																
25 [25]																
45 [45]																
39 [52]	CM'	[CM]														
35 [65]																
40 [40]																
28 [28]	CL'															
10 [20]	CM'															
10 [13]																
0 [0]		[CL]														
12 [12]	CL'															
0 [0]																
0 [0]																
0 [0]																
0 [0]																
34 [34]																
0 [0]																
43 [43]	CM'	[CM]														
10 [10]																
12 [12]																
13 [13]																
0 [0]																

掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
2／13 107.85	146	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	50.0	170	0.0	泥水12	10
	144			30.0		0.0	泥水15	13
2／14 116.35	209			35.0		0.0	泥水12	10
2／15 120.00								

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.12	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	＋32.05 m	角度	180° 上 90° 下0° 45°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	250.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				盛土	灰褐 黄褐						礫混じりシルト質砂からなる。										212	165／ケーシング	シングルコアチューブ／メタルビット	10.0	50	0.0	0	0
	29.80	3.18																		9／12								
	29.36	3.80		表土	褐灰						礫混じり有機質砂質シルト(旧表土)。																	
					黄褐						径5～20mmの亜円礫，一部くさり礫を含む。																	
	28.48	5.05																		3.00							
				アプライト	明褐	Eg	VIg	dg		δ	深度5.05～77.40m:アプライト。 厚さ1.8m程度の花崗斑岩と厚さ数cm程度のペグマタイトを挟む。 アプライトは，石基が径0.1mm以下であり，全体に斑晶は非常に少ない。		D'								96	140／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルビット	15.0	75	0.0	泥水 15	15
					にぶい黄橙	Dg	IIIg IVg	cg					CL'							9／13								
	27.36	6.63		花崗斑岩		Eg	VIg	dg			岩組織を不明瞭に残すマサ化した強風化岩。 傾斜30～50度程度の節理跡が多い。		D'	[D]						6.93							
	26.09	8.43					Vg	cg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭，下位との境界不明瞭。 深度8.43～8.76m：弱風化岩，節理は酸化鉄により密着する。																	
					橙	Cg	IIg	bg			深度9.59～9.95m：節理多く，角礫状をなす。		CM'								111							
					黄褐	Dg	IVg	cg			全体に風化著しく軟質。																	
10					明褐灰	Dg	IVg IIIg	cg			風化著しく赤褐～黒褐色を帯びる。		CL'															
					明褐		IVg IIIg				風化著しく，節理に沿って土砂状をなす。																	
	23.70	11.81			にぶい黄橙		Vg				深度11.81～11.93m：ペグマタイト。																	
	23.61	11.93			ペグマタイト															9／14	112						
					黄褐		IVg IIIg				深度12.73～13.57m：風化の程度が弱く，柱状コアとなる。									12.40							
					にぶい黄橙	Cg	IVg IIIg				深度13.57～13.65m：ペグマタイト。																	
	22.45	13.57																		9／15	115						
	22.40	13.65			ペグマタイト	Eg	VIg	dg			深度13.65～13.87m：変質著しく，砂状を呈する。 全体に変質を受け脆い。									14.45							
					にぶい橙	Dg																						
					明褐灰	Cg	IVg	cg			深度15.00～17.27m：強風化岩で岩質脆い。節理に沿って褐色化。		CL'								115							
					黄褐																							
					にぶい黄橙	Dg	IIg IIIg IVg	cg		2	深度16.43～16.50m，17.10～17.27m，ペグマタイトを挟む。																	
											深度17.27～19.40m：風化弱く柱状コアをなす。節理に沿って褐色化している。		CM'	[CL]						16.55	94						
					明褐灰	Cg	IIg IVg	bg		γ										9／18							
						Bg	IIIg													V20	43						
						Cg	IVg IIIg													15.70							
20					灰褐		IVg																					
					明褐灰		IIIg	bg			深度20.70～21.00m：風化著しく，黄褐色を帯びる。 深度21.00～23.93m：柱状～短柱状コアであるが，風化によりやや軟質。節理に沿って褐色酸化する。										95							
					明黄褐		IVg	cg												9／21							
							IIIg IVg													21.60							
					にぶい黄橙	Dg	IIIg IIg	bg					CL'															
							IIIg IIg IIIg IIg																					
					明黄褐		IVg IIg	cg			深度23.93～24.73m：強風化し，軟質。										100							
					にぶい橙	Cg		bg					CM'															
					にぶい黄	Dg	IVg	cg			深度25.30～26.30m：全体に褐色を帯び，岩質脆い。 深度26.30m付近：節理に沿って灰白色粘土を挟む。																	
					にぶい橙	Cg					深度26.77～27.60m：節理密着し，柱状をなす。		CL'																	
					にぶい黄	Dg	IIg																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				アプライト	にぶい黄	Dg	IIg IIIg	cg			深度28.03m以深，風化の程度が弱くなる。
					灰白		IVg IIIg				
					暗褐灰	Cg	IVg IIIg IIg IVg IIIg	bg	2		
	9.95	31.26					IVg IIIg				ペグマタイトを挟む。節理多い。
	9.78	31.50		ペグマタイト							
				アプライト	にぶい黄橙		IVg IIIg IVg IIIg	cg			斑状に岩芯まで褐色化する。
					赤褐		IIg IVg	bg	γ		
					にぶい橙	Dg	IIIg IVg	cg			
					灰白		IIg IVg		2		深度34.53～34.62m：変質帯。上盤40度，下盤31度。変質により原岩組織不明瞭。幅7mmの固結粘土を挟む。
						Eg Cg	VIg IVg	dg cg	3		深度36.35～36.58m：破砕帯(Hb)。上盤14度，下盤32度。細礫～砂状。
	5.79	37.14			にぶい橙	Cg	IIg IVg	bg			深度36.52～36.53m：傾斜37度。幅10mmの褐色・灰白色粘土を挟む。
	5.66	37.32		ペグマタイト							深度36.58m以深：節理に沿って黄褐色化進む。
				アプライト	にぶい黄橙						深度37.14～37.32，37.67～37.70m：ペグマタイトを挟む。
					明褐灰	Dg	IIg IVg	cg			
						Cg	IIg				
40					黄褐	Dg	IVg				深度39.43m：シーム。傾斜41度。幅5mm，褐色粘土状。
					明褐灰	Cg	IIg	bg			
					にぶい橙						深度40.28～41.00m：節理少なく柱状硬質コア。
					灰黄褐						
					明黄褐	Bg			2	β	深度41.00～45.20m：節理に沿って褐色化進み，一部岩芯まで斑状に風化する。
					明褐		IVg IIIg IIIg IIg				
					褐灰	Cg	IIIg IIg				
					灰褐		IIIg IIg IVg				深度43.60～44.20m：やや石英の斑晶が多い。
					にぶい橙						
					明褐灰	Eg Cg	VIg IIg	dg bg	3		深度45.20～45.50m：変質帯。上盤30度，軟質化する。
					にぶい黄橙	Dg	IVg IIIg	cg	γ		深度46.00～47.33m：全体に変質強く，脆い。
					灰褐	Cg	IVg				
					にぶい橙	Bg	IIg	bg			深度48.00～49.70m：節理少ない新鮮岩。斑状に褐色化する。
					明褐	Cg	IVg				深度49.15～49.60m：節理多いが，密着している。
50					にぶい橙						
					明褐灰	Bg	IIg IIIg				深度50.00～53.70m：柱状コア，比較的新鮮で節理に沿って褐色を帯びる。
					明赤褐	Cg Bg	IVg IIg	cg	β		
					灰褐	Cg	IIIg IVg	bg	2		
					明赤褐						
					灰褐	Bg Cg	IIIg				深度53.76～55.08m：やや変質進み，節理多く，一部細礫状をなす。
					にぶい黄橙	Dg	IVg	cg	γ		
					にぶい橙	Cg		bg	β		深度55.71～55.91m：角礫状をなし，幅2cm程度の砂を挟む。
						Dg Cg	Vg IIIg	cg bg			
						Dg Cg	Vg IIIg	cg	γ		
60					灰白	Eg	VIg	dg	4		深度57.88～58.41m：変質帯。上盤40度，下盤35度。原岩組織不明瞭。固結砂状。上盤幅5mmの灰白色粘土を挟む。
					にぶい黄橙	Dg Eg Dg Cg Dg	Vg VIg Vg IVg Vg	cg dg cg	δ		深度58.41～58.43m：破砕帯(Hc)。上盤35度，下盤52度。幅15～20mm，褐色・灰白色粘土状。
						Dg Cg	Vg IVg	cg	2		深度58.43～59.50m：角礫～細礫状をなし一部砂状を挟む。
											深度60.00～61.35m：角礫～短柱状コア，節理多く，全体に脆い。
					にぶい橙	Cg	IIg IVg IIIg Vg	bg	γ		深度61.35～62.20m：やや節理多いが柱状コアをなす。
											深度62.20～63.88m：柱状コア，硬質であるが，やや節理多く，節理に沿って褐色を帯びる。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）値	（N値～深度 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100					0 10 20 30 40 50											
28 [42]	CL	[CL]						9/22 27.75	100	114／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	10.0	125	0.0	泥水 15	15
18 [30]																
24 [46]									104							
23 [41]	CM	[CM]														
12 [12]								9/23 32.10								
17 [34]																
25 [60]																
18 [27]	CL	[CL]							103							
34 [52]																
14 [14]																
37 [70]	CM															
23 [45]	CL							9/25 38.55								
30 [68]	CM															
37 [89]	CH															
20 [48]	CM	[CM]							92							
18 [46]																
28 [53]	CM											35.0				
25 [45]								9/26 44.35								
20 [20]										90／ケーシング						
18 [48]	CL	[CL]							75							
12 [28]																
33 [61]	CH							9/27 48.70								
25 [55]	CM	[CH]														
26 [50]	CH												200			
32 [89]									101			45.0				
40 [56]	CM															
23 [84]	CH															
15 [30]	CL	[CM]						9/28 55.15								
12 [12]	CM															
18 [31]																
14 [27]	CL															
10 [53]	D															
10 [10]	CL	[CL]							119			30.0				
10 [10]																
29 [33]	CM	[CM]														
18 [52]																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				アプライト	にぶい橙	Cg	Ⅲg	bg			深度63.88～65.18m：節理に沿って緑灰色シルトを挟む。
							Ⅳg		γ		
								cg			深度65.18～66.13m：節理に沿って褐色化し，角礫～砂状をなす。
					灰褐	Bg	Ⅲg	bg			
						Cg					深度67.07～67.60m：節理に沿って砂～シルトをはさみ，やや脆くなる。
							Ⅱg			2	
					にぶい橙	Bg	Ⅲg				
							Ⅳg				
					橙	Cg					深度68.88～69.37m：節理に沿って変質部を挟む。変質部は固結砂状，境界部に褐色シルトを挟む。
						Bg	Ⅲg		β		
					灰褐		Ⅱg				深度70.00～72.40m：柱状コア，節理に沿って褐色化。
						Cg	Ⅳg	cg			深度70.60m以深，アプライトの石基が径0.2～0.5mm程度と大きくなり，散在程度に斑晶も含む(1%以下)。
					にぶい褐	Bg	Ⅲg				
					明黄褐	Cg	Ⅳg		γ		深度72.40～73.30m：全体に褐色化し節理多い。
							Ⅱg				
					褐灰		Ⅰg				
	-22.68	77.40				Bg	Ⅱg	bg	β	1	深度75.83～80.60m：新鮮な柱状コア。節理少ないが，節理に沿って酸化し，所々に砂～シルトを挟む。
80				花崗斑岩	灰褐		Ⅲg				花崗斑岩，上位との境界漸移的。 深度77.40～84.80m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を10～40%含み，石基は径0.2～0.5mm程度である。組織は全体に不均質で，流理は傾斜約30度程度である。
							Ⅱg				
					明褐		Ⅲg				深度80.56～84.44m：全体に酸化の進んだ柱状～短柱状コア。節理に沿って砂～灰白色固結シルト，粘土を挟む。
							Ⅴg		γ	2	
						Cg	Ⅲg	cg			
							Ⅳg				深度82.48～82.50m：破砕帯(Hj)。傾斜26度。幅15～20mmの暗褐色礫混じり砂質シルト状。
							Ⅲg				
	-27.91	84.80			灰褐	Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅲg			1	深度84.00～84.44m：節理に沿って淡緑色変質鉱物を挟む。黄鉄鉱あり。
						Bg	Ⅰg	bg			アプライト，上位との境界漸移的。 深度84.80～99.60m：アプライト。 石基は径0.1mm程度であり，斑晶は点在程度である（0.5%以下）。
				アプライト			Ⅱg				
					にぶい橙	Cg	Ⅴg	cg			深度86.50～87.40m：変質を受け，やや脆い。節理に沿って砂～シルトを挟む。
					灰褐	Bg	Ⅲg	bg		2	
90					にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg	β		深度90.45～90.66m：破砕帯(Hj)。上盤40度，下盤66度。節理密集し，節理に沿って砂～シルトを挟む。
					灰白	Bg	Ⅱg	bg		1	深度91.66～94.58m：節理少なく新鮮な柱状コア。節理に沿って濃緑色シルト～砂を挟む。
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg			深度94.58～96.25m：やや節理多くなり，褐色化顕著。
						Bg	Ⅱg			2	
						Cg					
					褐灰	Bg	Ⅲg	bg			深度96.15m:96.10～96.18mに続く傾斜68～80度の節理が見かけ2cm逆断層的にずれる。
					にぶい橙	Cg	Ⅳg		γ		深度97.93～102.10m：全体に褐色化進み，節理多い。
							Ⅴg				
							Ⅳg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
							9/29 64.05	119		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	200			
CM'								176			15.0				
CL'							9/30 66.25								
	[CM]							93			30.0				
CM'							10/4 70.45								
B'								88							
	[CH]						10/5 76.70								
CH'								84	73／ケーシング			150	0.0	泥水 15	15
CM'	[CM]						10/6 83.10								
B'								74			40.0				
CH'							10/7 85.80								
CL'								98							
CM'															
CH'							10/11 92.10								
CL'	[CH]							92							
CH'															
CM'															
CH'							10/12 96.40								
CM'	[CM]							74			55.0				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(N値～深度)	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	-38.38	99.60		アプライト	にぶい橙		IVg	bg												10/13 99.60	74			55.0			
					明褐灰	Cg					花崗斑岩，上位との境界不明瞭。深度99.60～137.50m：花崗斑岩。径5～10mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を1～30%含み，石基は径0.1mm程度である。深度100～110m付近は5～30%程度の斑晶を含む。																
100					にぶい橙		IIIg																				
						Cg	IIIg																				
					にぶい黄橙	Dg	IIg				深度102.10～103.05m：全体に黄褐色変質が進み，軟質化している。																
							IVg																				
					明褐灰	Cg	IIg																				
							IVg																				
						Dg	IIIg																				
							VIg			γ	深度104.12～104.22m：破砕帯(Hb)。下盤55度。砂～シルト状。深度104.12mは幅2～10mm黒褐色シルト状。深度104.22mは幅5mm灰白色粘土状。深度104.40～110.77m：節理に沿って褐色を帯びる。一部節理に沿って砂～シルトを挟み，一部幅数cm程度軟質化する。															
					にぶい橙	Cg	IVg		cg																		
							IIIg																				
							IVg																				
110							IIg			2																	
							IVg																				
							IIIg				深度110.77～114.00m：柱状コアであるが，節理に沿って一部褐色化する。																
					灰赤	Bg	IIg	bg																			
							IIIg																				
							IVg		cg	β																	
					灰褐	Cg	Vg				深度114.00～114.90m：節理多く，角礫状を呈する。																	
							IVg	bg																			
							IIIg				深度115.61～116.00m：節理多く，変質し脆い。																
							IVg		cg																		
							IIIg				深度116.78～119.36m：角礫～短柱状をなし，所々に幅10～70mmの固結した細礫状部分を挟む。																
					にぶい橙	Dg	Vg																				
						Cg	IVg																				
						Dg	Vg		dg																		
					にぶい黄橙	Cg	IIg																				
							Vg																				
120					明黄褐	Dg	IIIg		cg		深度119.64～119.72m：破砕帯(Hj)。上盤27度，下盤31度。砂～土砂状。下盤に幅10mmの暗褐色粘土を挟む。深度120.10～121.65m：変質帯。上盤55度，下盤40度。全体に黄褐色を呈し脆い。															
							Ig			3																	
							IIIg																				
					にぶい褐	Cg	IIg				深度122.20～125.26m：節理に沿って褐色化し，黒褐色を帯びる。																
							IVg	bg		γ																	
							IIg																				
							IVg																				
						Bg	IIg			2																	
							IVg		cg		深度125.26～126.36m：高角度な節理多く，節理に沿って褐色，黒褐色を帯びる。																
						Cg	IIg	bg																			
							IIIg																				
						Dg	IVg			3	深度127.44～127.68m：変質帯。上盤35度，下盤42度。全体に脆く軟質。深度127.51m：傾斜19度の幅5～10mmの灰白～黄灰色シルトを挟む。深度127.68～130.13m：高角度な節理多く，節理に沿って砂～シルトを挟む。															
						Cg	IIIg	cg																			
							IVg																				
130					にぶい黄橙	Bg	Ig																				
					にぶい橙		IIg	bg																			
					褐灰	Cg	IIIg		cg	2	深度131.70～133.80m：全体に硬質な柱状コアであるが，高角度な節理多く，一部節理に沿って砂～細礫状をなす。																
					にぶい橙		Vg																				
							IIIg																				
					灰褐	Bg	IIg	bg																			

花崗斑岩

ダブルコアチューブ／ダイヤビット

73／ケーシング

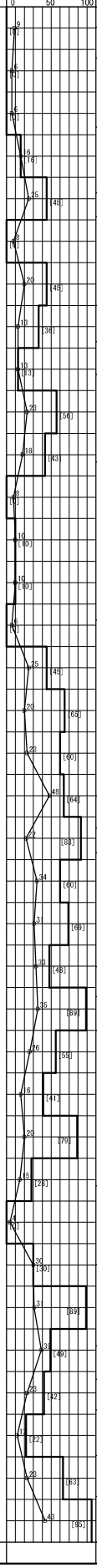
泥水 15

泥水 6

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					灰褐						
				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅲg	bg	β		深度135.66～136.25m：節理多く，節理に沿って砂～シルトを挟む。
							Ⅳg	cg			
	-65.18	137.50					Ⅱg	bg			
					にぶい黄橙		Ⅳg				アプライト，上位との境界漸移的。
							Ⅴg				深度137.50～142.00m：アプライト。石基は径0.1mm程度であり，斑晶は石英，長石主体で点在程度である（0.5%以下）。
						Bg	Ⅵg				
							Ⅴg				深度137.06～139.27m：節理多く，角礫～短柱状。
							Ⅳg				
							Ⅲg				深度138.34～138.80m：高角度な節理に沿ってシルト混じり砂～細礫を挟む。
140					にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg	γ		
											深度140.85～140.86m：シーム。傾斜54度。幅5～10mmの褐色粘土状。
	-68.36	142.00								2	
						Bg	Ⅲg				花崗斑岩，上位との境界傾斜40度。
					橙						深度142.00～156.70m：花崗斑岩。径3～5mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶を1～40%含み，石基は径0.1～0.5mm程度である。
						Cg	Ⅱg				
							Ⅳg				
						Bg	Ⅱg	bg			深度145.08～150.28m：節理に沿って黄鉄鉱を挟む。
							Ⅳg	cg			
					褐灰	Cg	Ⅲg	bg	β		
					にぶい黄褐						
						Bg	Ⅱg				
					褐灰		Ⅲg			1	
							Ⅳg	cg			
150					にぶい橙		Ⅲg	bg			深度150.28～152.82m：節理多く，所々に節理密集部を挟む。全体に褐色化している。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					にぶい黄橙						
							Ⅴg	cg			
					にぶい橙		Ⅲg	bg			深度152.06～152.09m：破砕帯(Hc)。上盤15度，下盤30度。幅30mm砂～シルト状及び黒色粘土状。
							Ⅴg	cg			
					にぶい褐		Ⅲg				深度152.82～157.09m：節理及び斑状に褐色化する。やや節理多く，一部角礫状をなす。
							Ⅳg	bg			
							Ⅲg				
							Ⅳg				
				花崗斑岩		Cg	Ⅱg				
					灰褐		Ⅳg	cg		2	
							Ⅲg	bg			深度156.70～184.00m：花崗斑岩。斑晶が1～3%程度となり，石基も径0.1mm以下となる。
					にぶい橙		Ⅳg	cg			深度157.09～159.56m：全体に褐色化する。節理に沿って所々にシルト～砂を挟む。
							Ⅲg	bg			
160									γ		
					にぶい黄橙		Ⅳg	cg			深度159.56～161.80m：斑状に褐色化する。
								bg			
							Ⅱg				
						Eg	Ⅳg				深度161.80～162.04m：変質帯。上盤25度，下盤30度。縞状。灰白色砂混じりシルトが縞間を埋める。
						Cg	Ⅴg	cg		3	
					浅黄	Eg					深度162.42～163.08m：変質帯。上盤23度，下盤47度。浅黄色固結砂状。
					にぶい黄橙		Ⅳg	bg			
								cg			深度165.05～169.74m：やや節理多く，節理に沿って褐色化する。一部節理に沿って砂，細礫～シルトを挟む。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg			2	
					にぶい橙		Ⅲg	bg			
							Ⅳg	cg			
							Ⅲg	bg			
							Ⅴg	cg		2	深度169.38～169.46m：破砕帯(Hc)。上盤45度，下盤50度。灰白色砂質シルト状。
170					にぶい黄橙	Dg	Ⅵg	dg		3	深度169.74～170.80m：変質帯。上盤22度，細礫～砂状。網目状に褐色シルトを挟む。
						Dg	Ⅱg	cg			
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg		2	深度169.84～169.90m：灰白色砂質シルト状を呈する。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100					0 10 20 30 40 50				120							
								10／21 136.65								
									106							
								10／23 143.28								
									133							
								10／24 151.35								
									130	73／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	175	0.0	泥水 6	6
								10／25 157.40								
									120							
								11／9 161.60								
									131							
								11／10 169.90	75							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg		2	
					浅黄橙	Eg	Ⅵg	cg		4	深度172.20～172.45m：破砕帯(Hb)。上盤62度，下盤63度。灰白色線混じり粘土状。上盤に幅3mmの褐色粘土挟む。
	-90.19	172.87		アプライト		Dg	Ⅳg	dg	γ	3	
					橙	Eg	Ⅴg				深度172.45～172.88m：変質帯。節理に沿って灰白色シルトを挟み，全体に軟質化。
	-90.95	173.95		花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg			深度172.88～173.82m：変質帯。橙色帯びる。深度173.33mに幅2mmの褐色・灰白色シルト，深度173.64mに幅2mmの灰白色シルトを挟む。
						Dg					
					オリーブ灰	Cg	Ⅱg	bg			深度175.92～178.00m：石英の斑晶大きく，やや変質を受けている。
					にぶい橙			cg			
					オリーブ灰		Ⅳg	bg		2	
	-94.70	179.25		アプライト				cg	β		アプライト，上位との境界不明瞭，下位との境界不明瞭。
180						Cg		bg			
					にぶい橙		Ⅲg	cg			深度180.88～183.00m：節理に沿って濃緑色シルトや黄鉄鉱を挟む。斑晶の一部緑色粘土化する。
	-96.01	181.10					Ⅳg	bg			
								cg			
					にぶい黄橙	Eg	Ⅵg	dg		3	深度183.00～183.43m：変質帯。上盤35度，下盤62度。固結砂状。
						Dg					深度183.43m：シーム。傾斜62度，下盤に幅3～5mmの暗褐色粘土付着。
					にぶい橙		Ⅳg	cg			深度184.00～210.50m：花崗斑岩。径5～15mmの石英，長石及び径1～3mmの黒雲母の斑晶を50～90%程度含むが，下部ほど径は小さくなり，割合も低くなる。石基は径0.1mm以下。全体に微細な黒雲母を多く含み，組織はほぼ均質である。黒雲母花崗岩に近い岩相である。
								bg			
						Cg	Ⅱg	cg	γ	2	
					にぶい黄橙		Ⅲg				
					にぶい橙		Ⅳg	bg			
							Ⅲg	cg			
							Ⅳg			1	
190					褐灰	Bg	Ⅱg	bg			深度189.39～189.50m：変質帯。上盤40度，下盤35度。灰白色シルトを網目状の挟む。
							Ⅲg				深度189.50～195.37m：節理に沿って褐色化する。
						Cg	Ⅱg				
					にぶい黄橙						
					褐灰	Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅳg				
						Bg	Ⅱg		β		
						Cg	Ⅲg				
						Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅲg	cg			
						Bg	Ⅱg				
					灰褐		Ⅲg	bg			深度195.37～198.65m：カリ長石の斑晶主体。やや節理多く，一部節理に沿って土砂状をなす。
						Cg	Ⅳg	cg			
							Ⅲg	bg			
						Dg	Ⅴg	cg		2	深度198.65～199.46m：高角度な節理に沿って変質粘土化し，長石は白色粘土化する。
						Cg	Ⅳg				深度199.46～200.49m：やや変質し，節理に沿って白色粘土を挟む。
200						Bg	Ⅱg	bg	γ		
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	cg			深度202.49～203.18m：高角度な節理に沿ってシルト～粘土を挟む。
						Bg	Ⅱg	bg			深度203.90～204.68m：変質を受け節理に沿ってシルト～砂状を呈する。
						Cg	Ⅳg	cg			
					明褐灰	Dg				3	深度204.68～204.88m：変質帯。上盤48度，下盤88度。明褐灰色砂状，軟質。深度204.88m:幅2mmの褐色粘土挟む。
						Bg	Ⅱg				
					にぶい黄褐	Cg	Ⅳg	bg		2	
						Bg	Ⅱg				



岩級区分	岩盤分類
CM'	
CL'	
D'	
CL'	[CL]
CM'	
CL'	
CM'	
CL'	
CM'	
CL'	[CM]
CM'	
CH'	
CM'	
CH'	
CM'	
CH'	[CH]
CL'	
CH'	
CL'	
CH'	
CM'	
CH'	

孔内水位(m)／測定月日

（標準貫入試験）試験

（N）値	（N値～深度 0 10 20 30 40 50）

原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
			75					0.0	泥水 6	6
		11/11 173.45								
			77					0.0	泥水 10	6
		11/12 175.95		73／ケーシング						
			109							
		11/13 182.15								
			107		ダブルコアチューブ／ダイヤビット					
		11/14 189.30				20.0	175	0.0	泥水 10	9
			97							
		11/15 195.50		76						
			105							
		11/16 201.73								
			102					0.0	泥水 10	10

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)/測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
210				花崗斑岩	にぶい黄褐	Bg	Ⅲg	bg	γ		深度207.32～208.33m：高角度な節理多く，節理に沿って細礫～砂状をなす。	CH'				11/17 207.85	102			20.0				
						Cg	Ⅳg					CL'												
						Bg	Ⅲg					CH'												
							Ⅱg																	
							Ⅳg																	
					青灰	Cg	Ⅲg	bg	β		深度210.50～240.50m：花崗斑岩 径5～10mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を1～5%程度含み，石基は径0.1mm程度である。局部的に斑晶を70%程度含む区間がある。	CM'	[CH]				79							
					明黄褐											11/20 212.50								
					にぶい黄橙	Bg	Ⅱg					CH'												
							Ⅲg																	
							Ⅱg																	
					灰褐	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	深度214.19～214.20m：幅10mmの灰白色砂混じりシルトを挟む。	CL'												
					にぶい褐		Ⅲg				深度215.41～218.70m：節理に沿って褐色化し，一部褐色・灰白色シルトを挟む。	CM'	[CM]				114			35.0				
					にぶい橙		Ⅱg	bg	β		深度218.78～218.80m：シーム。上盤57度，下盤61度。幅8～10mmの褐色礫混じりシルト状。 深度218.70～222.85m：一部長石が白色化する。					11/21 218.70								
220					灰赤		Ⅲg	cg																
					灰褐		Ⅳg																	
							Ⅲg	bg																
							Ⅳg	cg																
							Ⅲg	bg									116							
					にぶい黄橙	Dg	Ⅴg	cg	δ	3	深度222.85～222.88m：破砕帯(Hb)。傾斜55度。幅23mm，褐色粘土～黄褐色砂質シルト状。 深度222.88～223.68m:細礫～砂状を呈する節理密集部。節理面にシルト～粘土を挟む。	CL'	[CL]											
						Cg																		
					灰白	Eg	Ⅵg	dg		4	深度223.68～224.67m:角礫～細礫状。節理面にシルト挟在。							76			175	0.0	泥水10	10
					にぶい橙	Cg	Ⅴg	cg	γ	2	深度224.67～224.68m：破砕帯(Hc)。上盤38度，下盤37度。幅10mm，半固結緑灰色粘土状。 深度224.68～225.08m：破砕帯(Hb)。上盤37度，下盤36度。灰白色礫混じりシルト質砂状。 深度225.08～228.53m：やや節理多く，角礫～短柱状をなす。節理に砂～シルトを挟む。					11/22 226.55								
							Ⅳg																	
					灰白	Eg	Ⅵg	dg		4	深度228.53～228.79m：破砕帯(Hb)。上盤38度，下盤50度。 上盤から石英粒子混じり灰白～灰褐色砂質シルト状(幅8cm)，岩片を残す網目状破砕部(幅15cm)。 深度228.78～228.79m：破砕帯(Hc)。下盤35度，灰白色砂質シルト状(幅1.5cm)。 深度230.00～230.07m：幅30mm，淡緑灰色砂質シルト状 。						87							
230					橙	Cg	Ⅲg	cg																
					にぶい黄橙		Ⅲg	cg								11/23 231.10								
					にぶい橙		Ⅳg	bg			深度232.20～233.00m：高角度な節理に沿って砂～シルトを挟む。	CM'					88							
							Ⅲg	cg	β											10.0				
								bg		2			[CM]			11/24 235.65								
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	cg			深度236.16～237.32m：黄褐色で弱い変質を受け，節理多く脆い。													
						Cg					深度237.26～237.32m：幅15mm，礫混じりシルト質砂状。	CL'					101							
						Dg	Ⅴg																	
					褐灰	Cg	Ⅲg	bg	γ		深度238.31～238.50m：節理密集部。変質を受け，下面に幅1mmの褐色粘土を挟む。					11/25 239.60								
240					灰褐		Ⅳg				深度240.50～250.00m：花崗斑岩。径10～15mmの石英，長石及び径2～3mmの黒雲母の斑晶を60%程度含み，石基は径0.1mm程度で，下部に黒雲母を含む。斑晶の割合は上部で高く，下部でやや低くなる。 深度241.00～241.10m：節理密集部。細礫～角礫状。	CM'					95							
							Ⅲg	cg																
								bg																

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]

(標準貫入試験) 試験 (N値～深度)

原位置試験(孔内水平載荷)

No.12(7/8)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
						Cg	Ⅲg	bg		2	深度243.62～243.63m：シーム。上盤63度，下盤60度。幅5～10mm緑混じりシルト質砂状。
						Dg	Vg			3	深度244.94～245.09m：変質帯。上盤55度，下盤51度。灰白と黒褐粘土を挟む砂質シルト状。岩片や石英粒子を残す。
						Cg	Ⅲg	cg	γ		深度245.45～247.42m：やや変質を受け，長石が白色化する。
							Ⅳg				
							Vg			2	深度247.57～247.64m：破砕帯(Hj)。上盤41度，下盤47度。幅1～5mmの灰白色砂質シルトを網目状に挟む。
							Ⅳg				
	-144.73	250.00		花崗斑岩	灰褐		Ⅲg	bg			深度249.00～250.00m：節理少なく，変質弱い。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 (N)値	(N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100				0 10 20 30 40 50												
22 [64]	CM'	[CM]						11/27 244.10	95	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	10.0	175	0.0	泥水10	10
28 [54]																
24 [45]																
15 [68]									105							
13 [35]	CL'															
17 [82]																
30 [77]	CM'							11/28 250.25 11/29 250.00	54							

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.13	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+38.88 m	角度	上 180° 90° 下 0° 25°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 89°	地盤勾配	鉛直 水平 90° 0° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	100.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	37.61	1.40	盛土	にぶい褐						盛土。						133	165／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルビット	20.0	100	0.0	泥水 0	0
	35.25	4.00	花崗斑岩	浅黄	Eg Dg Cg	Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅵg	bg cg	γ		深度1.40～9.60m：花崗斑岩主体でアプライトを挟む。花崗斑岩は径3mm以下の長石，石英及び径1mmの黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.5mm程度である。アプライトは，石基が径0.1mm以下である。全体に褐色化し，節理に沿って酸化マンガンを挟む。粘土を挟む高角度な節理あり。	D' CL' CM'	[CL]			9／21 2.00	80	140／ケーシング		25.0			
	32.08	7.50	アプライト	明褐灰 浅黄	Bg Cg	Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅰg	bg			全体に褐色化し，節理に沿って酸化マンガンを挟む。					9／22 4.00	60							
	30.18	9.60	花崗斑岩	明褐灰 浅黄	Bg Cg	Ⅱg Ⅲg Ⅰg	bg			全体に緻密で石基はアプライトと同じであるが，斑晶を多く含む。 全体に褐色化し，節理に沿って酸化マンガンを挟む。 アプライト，上位との境界不明瞭。深度9.60～73.10m：アプライト。石基は径0.1mm以下であり，斑晶をほとんど含まない。	CH'				9／23 7.40	74		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	10.0				
10			アプライト	灰白 にぶい黄橙 灰白	Cg Bg	Ⅰg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅵg	bg	β	2	深度11.01～11.05m：花崗斑岩をレンズ状に挟む。	CM' B' CH' B'				9／25 10.00	92	83／ケーシング			150			
				にぶい黄褐 灰白	Cg Eg	Ⅱg Ⅳg Ⅵg	cg bg	γ		全体に褐色化し，節理に沿って酸化マンガンを挟む。 深度16.51～19.85m：変質により脆弱化，節理に沿って酸化マンガンと灰白色粘土を挟む。 深度17.81m：シーム。傾斜51度。幅4mm，褐色，灰白色粘土状。	CM' CM' D' CM'	[CM]			9／26 15.50	69			25.0		0.0	泥水 15	15
20				灰黄褐 灰白 にぶい黄褐 灰白	Eg Cg	Ⅱg Ⅲg Ⅳg	bg cg			深度20.10～20.42m：ペグマタイト。径5～50mmの長石，石英の巨晶を主体とし，径1～9mmの黒雲母を伴う。深度20.55～20.95m，21.62～21.72m：酸化マンガン濃集。 深度22.76～23.02m：高角度な節理あり。深度23.13m以深，傾斜50～60度の節理発達。深度23.24～23.34m：酸化マンガン濃集。	CL' CM'				9／27 20.70	113		76					
	16.78	24.39		浅黄 浅黄橙	Cg Dg	Ⅳg Ⅲg Ⅱg	cg bg			節理が発達し，酸化マンガン濃集。	CL'												
	15.97	25.28	花崗斑岩	灰白	Dg Cg	Ⅳg Ⅲg	bg			ペグマタイト：径3～32mmの石英，径3～20mmの長石及び径1～4mmの変質した黒雲母を伴う。													
	15.86	25.40	ペグマタイト アプライト		Cg	Ⅳg Ⅲg	bg			深度26.88～27.00m：破砕帯（Hj）。幅16～18mm。角礫状。上盤は堅岩、下盤は角礫～岩片状。逆断層的センス。	CM' CL'												

コア採取率（%）　最大コア長 cm　RQD [%]

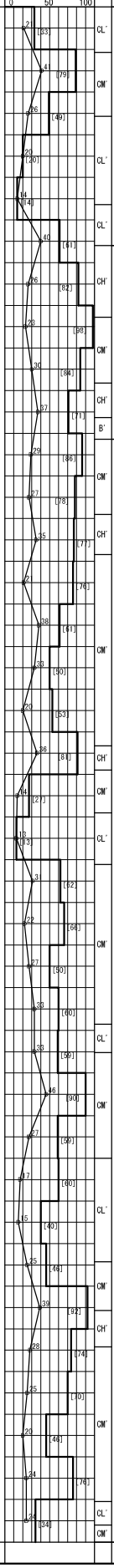
（標準貫入試験）試験　（N値～深度

No.13(1/4)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				アプライト	浅黄橙	Dg	Ⅳg	cg	γ	2	
					灰白	Cg	Ⅱg			3	深度28.50～31.30m：変質帯。上盤55度，下盤41度。粒状化する。 深度28.98m：シーム。傾斜43度。幅2～3mm，黒褐色シルト状。上盤は堅岩。節理に沿って樹枝状に酸化マンガン汚染。
					灰白					2	
					暗褐	Dg	Ⅱg			3	
					浅黄橙	Cg	Ⅳg				
					灰白		Ⅱg				
					灰白	Cg	Ⅲg	bg			
							Ⅱg				
					灰白	Cg	Ⅰg				径1～8mmの変質を受けた長石斑晶を伴う。黒雲母は分解して酸化鉄斑を形成する。
							Ⅱg				
						Bg	Ⅰg				
							Ⅱg				
					淡赤橙	Cg	Ⅳg	cg			
					褐灰		Ⅱg	bg			
						Cg	Ⅲg				
					にぶい橙	Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅱg				深度36.11～36.17m：晶洞を伴うペグマタイト。 深度36.53～36.54m：シーム。傾斜55～58度，幅3～5mm。粘土状・粘土混じり砂礫状。
							Ⅳg				
							Ⅱg				
						Dg	Ⅳg	cg			
						Cg	Ⅲg				深度37.84m：シーム。傾斜53度。幅3～5mm，砂・細片状。上下盤に幅0.1～0.2mmの褐色粘土を挟む。
						Bg	Ⅰg	bg			
					明褐灰		Ⅱg				
					灰赤	Cg					深度38.38～38.60m：節理及びその周辺に黄鉄鉱が点在する。 深度39.24m：節理に黄鉄鉱を挟む。
							Ⅱg				
								cg			
					にぶい橙	Bg	Ⅰg	bg			
						Cg	Ⅱg				深度41.32～41.45m：ペグマタイト。径2～40mmの石英，径2～18mmのカリ長石からなる。 深度42.17～42.30m：石英脈発達。 深度42.29～42.30m：晶洞を伴う石英脈あり。
					にぶい赤橙	Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Bg	Ⅲg				深度43.30～43.40m：ペグマタイト。径2～14mmの石英，カリ長石からなる。密着節理が密集している。
					にぶい橙	Cg	Ⅱg				
						Bg	Ⅲg				
						Cg	Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	bg			
					明赤灰	Bg	Ⅱg	cg			
						Cg	Ⅲg	bg			
						Dg	Ⅳg				
					灰白	Eg	Ⅴg	bg		2	深度46.54～46.60m：変質帯。上盤48度。細角礫状。幅0.5mmの褐色粘土を挟む。 深度47.03m：シーム。傾斜60度。幅1mmの褐色粘土を挟む。
					明褐灰						
					明赤灰		Ⅱg				
					にぶい橙	Cg	Ⅲg				
							Ⅱg				
						Bg	Ⅲg				
							Ⅳg	bg			
							Ⅲg				
50						Cg	Ⅴg		β		深度50.32～50.38m：幅34mm，土砂状。
							Ⅲg				
					淡赤橙		Ⅱg				深度51.38m：節理に沿って黄鉄鉱付着。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅱg				
						Bg	Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	bg			深度53.05～53.24m：岩片状をなす。
						Bg	Ⅲg				
							Ⅲg				
					明赤灰	Cg	Ⅳg				深度53.80～58.20m：黒雲母を多く含む。 深度53.85m以浅は，酸化マンガン汚染を受けているが，以深では緑色変質の影響が強く，黒雲母の緑泥石化，節理に沿っての黄鉄鉱晶出が認められる。
					褐灰	Bg	Ⅲg	cg			
						Cg	Ⅱg	bg			
						Bg					
						Cg					
						Bg					
					赤灰						
						Cg	Ⅳg	cg			
						Bg	Ⅲg	bg			
						Bg	Ⅲg				
						Cg	Ⅱg				
						Cg	Ⅳg	cg			
					明赤灰	Dg					
						Cg	Ⅱg	bg			
					にぶい橙	Dg	Ⅳg				深度58.44～58.87m：節理に沿って樹枝状～縞状に酸化マンガン付着。 深度58.66～58.67m：約1mm間隔で節理が密集する。
							Ⅳg				
							Ⅱg				
					淡赤橙		Ⅳg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅱg	bg			
60							Ⅳg				深度60.45～61.80m：黒雲母を多く含む。
					赤灰		Ⅲg				
							Ⅱg				深度61.84～62.10m：変質帯。上盤42度。灰白色に脱色し粘土化。角礫状，岩片状で，間を灰白色粘土が充填する。
					明赤灰		Ⅳg				
					にぶい褐						
					灰白	Eg	Ⅵg	cg	γ	3	深度62.10～62.33m：破砕帯(Hj)。網目状に粘土を挟む。
					明褐灰			bg		2	深度62.33～62.37m：破砕帯(Hc)。下盤57度。粘土状。
					灰白	Dg	Ⅴg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CL'							9／28 27.30	113							
	[CM]														
CM'															
B'															
CH'															
CM'															
CH'								113							
	[CH]														
CM'															
CH'															
CM'							9／29 36.00	79							
CH'															
CM'															
CH'															
CM'															
CM'							9／30 40.50	65							
D'															
CM'															
	[CM]														
CM'															
CH'							10／2 45.50	95	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0	150	0.0	泥水 15	15
CM'															
	[CM]														
CM'							10／3 50.70	79							
CH'															
CM'							10／4 54.50	110							
CH'															
CM'															
	[CL]						10／5 62.35	94							
CL'															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				アプライト	灰白	Dg	Ⅱg Ⅴg Ⅳg	bg	γ	2	深度65.32～68.58m：節理に褐色，灰白色粘土を挟む。
					明赤灰	Cg	Ⅲg Ⅱg				
					灰白	Dg	Ⅳg Ⅴg	cg			深度66.65～67.40m：節理に沿って樹枝状に酸化マンガン縞が付着する。変質により灰白色に脱色し，軟質。
					明赤灰	Cg	Ⅳg Ⅱg				
					明赤灰	Bg	Ⅱg	bg		1	
					にぶい橙	Cg		ag			
					灰白	Bg	Ⅱg	bg cg			
					明赤灰	Cg					
	-27.37	73.10			橙	Bg	Ⅱg Ⅰg	bg			深度71.65～71.68m，72.06～72.22m：節理に沿って樹枝状～縞状の酸化マンガン付着。
				花崗斑岩	灰白	Cg	Ⅱg Ⅲg	cg			
					明赤灰	Bg	Ⅱg	bg			花崗斑岩，上位との境界漸移的。深度73.10～84.20m：黒雲母花崗岩。径3～7mmの石英，長石，黒雲母の斑晶からなる。
	-28.46	74.30			にぶい黄橙	Cg	Ⅲg Ⅱg	cg			
					明赤灰	Bg	Ⅱg	bg			深度74.52～74.59m：破砕帯(Hb)。上盤42度，下盤52度，幅約30mm。粘土混じり砂状。上下盤に灰白色粘土を伴う。
					灰白						深度75.44～76.95m：節理及び周囲の基質も酸化マンガン汚染を受けている。
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg Ⅱg	cg			深度75.84m以深，節理に灰白色粘土を伴うことが多い。
					灰白	Bg	Ⅱg	bg			
					赤灰	Cg	Ⅲg Ⅱg	cg bg			
				黒雲母花崗岩	灰白	Cg	Ⅲg	cg bg	β		
					赤灰	Bg	Ⅱg Ⅲg	bg			深度81.35～81.41m：幅20mm，土砂状を呈し，幅0.1mmの灰白色粘土を伴う。深度81.16～83.63m：節理に灰白色粘土を伴うことが多い。深度81.46～83.11m：節理及びその周辺に黄鉄鉱の微晶を伴う。
					赤灰	Cg	Ⅳg Ⅲg	cg			
						Dg	Ⅴg				
						Cg	Ⅳg				
						Bg	Ⅱg				
	-37.43	84.20			にぶい黄橙	Cg	Ⅱg Ⅳg Ⅲg	bg			アプライト，上位との境界漸移的。深度84.20～99.75m：アプライト。石基は径0.1mm以下であり，斑晶は非常に少ない。
				アプライト	明赤灰	Cg	Ⅳg Ⅱg				
					明褐灰	Dg	Ⅳg Ⅲg	cg		2	深度86.54～86.59m：節理に黄緑色粘土を挟む。
					灰白	Dg	Ⅳg				
					明褐灰	Cg	Ⅱg	bg			
					明褐灰	Bg					
					灰白	Cg	Ⅳg Ⅱg	cg			深度89.54～93.35m：節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。
90					淡黄	Dg	Ⅳg Ⅲg	bg	γ		
					灰白	Cg	Ⅲg Ⅱg	cg			
					明紫灰	Bg	Ⅰg		β		深度93.29～93.35m，94.09～94.25m：節理及びその周囲に黄鉄鉱の微晶を伴う。
					明赤灰	Bg	Ⅳg Ⅱg	bg			
					灰白	Cg	Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅱg Ⅲg	cg bg	γ		深度95.22m：節理に沿って黄鉄鉱が晶出。
						Cg	Ⅳg Ⅲg Ⅱg				
						Dg	Ⅳg	cg bg			深度99.75～100.00m：花崗斑岩。径5～10mmの石英，長石及び径1mmの黒雲母の斑晶を10%程度含み，石基は径0.2mm程度である。
						Dg	Ⅳg	cg			
						Cg	Ⅱg Ⅳg	bg			



岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日
CL~		
CM~		
CL~	[CL]	
CL~		
CH~		
CM~	[CH]	
CH~		
B~		
CM~		
CH~		
CM~		
CH~		
CM~		
CH~		
CM~		
CL~		
CM~	[CM]	
CL~		
CM~		
CL~		
CM~		
CH~		
CM~		
CL~		
CM~		

標準貫入試験 N値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験

掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
10/6 67.70	94					0.0	泥水 15	15
10/11 72.00	83							
10/12 78.00	90		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0	150			
10/13 84.45	108	76				0.0	泥水 10	10
10/14 91.15	103							
10/16 98.10	116							
	95							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 (N)値	（N値～深度 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	-51.52 -51.75	99.75 100.00		アプライト 花崗斑岩	灰白	Cg	Ⅳg Ⅱg Ⅳg	bg cg bg	γ	2		22 [42]	CM'	[CM]						10/17 100.00	95	76		25.0	150	0.0	泥水 10	10

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										

ボーリング名	No.14	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+ 91.43 m	角度	180° 上 90° 下 0° 25°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 89.06°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘削長	150.00 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	91.32	0.12		高有機質土							深度0.12～22.15m:アプライト。石基は径0.1mm以下であり，石英，長石の斑晶は点在程度である(0.5%以下)。
				アプライト	灰白	Eg	VIg				
						Bg					
					にぶい黄橙	Cg					
					灰黄褐		IIg				深度1.05～1.12m：流入土砂。
					にぶい黄橙	Bg					
						Cg					
						Eg	VIg	cg			深度2.65～3.00m：流入土砂。
						Cg	IIg				
	88.01	3.77				Dg	VIg				
				花崗斑岩	灰白	Cg	IIIg			2	花崗斑岩，上位との境界傾斜35度，下位との境界傾斜18度。
	87.06	4.82				Dg	VIg				深度4.74～4.82m：灰緑色シルト混じり砂礫を挟む。
				アプライト	にぶい黄橙	Cg	IIIg				
						Bg	IIg	bg			
					褐灰						
					にぶい黄橙		IIIg				
							IIg	cg			
						Cg	IIIg				深度8.00～8.08m:明褐色流入粘土有り。
						Eg	VIg	dg		4	深度8.44～8.62m：変質帯。上盤55度，下盤43度。シルト状，一部葉片状。上下に幅0.3～0.5cmの明褐色シルト(流入粘土)及びシルト質砂を挟む。
					褐灰	Cg	IIIg				
							IIg				
10					にぶい黄橙		IVg	cg	γ		
							IIIg				
					灰白	Bg	Ig				
					灰黄褐	Cg	IIIg	bg			
							IVg				
						Dg					深度11.95～12.88m：やや変質強く，軟質化。
						Cg	IIIg			2	
						Dg	IVg				
					オリーブ黄	Cg					
						Bg	IIg				
						Cg	IIIg	cg			深度14.35m以深，高角度な節理多く，流入粘土を挟む。
							IVg				
							IIg				
							IVg				
					灰白	Dg	Vg	dg		4	深度16.61m：シーム。傾斜42度。幅1～3mm，固結灰白色粘土状。
						Cg	IIg				深度16.61～16.77m：上盤42度，下盤50度。幅1cm程度の礫混じり砂状。
							IVg	cg			深度17.87～17.96m：明褐色礫混じり砂質シルト状。
						Bg	IIg				深度18.42～18.55m:幅2～5mmの明褐色流入粘土を挟む。
						Cg	IIIg				深度19.23～19.37m：変質帯。上盤46度，下盤45度。シルト混じり礫状。
							IVg	dg			
20						Bg	IIg				
						Cg					
							IIIg				花崗斑岩，上位との境界漸移的。
						Bg				2	深度22.15～25.16m：花崗斑岩。径2～3mmの石英，長石及び径1～2mmの黒雲母の斑晶を15～20%程度含み，石基は径0.1mm程度である。
	71.36	22.15		花崗斑岩	褐灰	Cg	IIg	cg	β		深度22.25m，22.85m：幅5mmの明褐色流入粘土。
					灰白		IVg				深度23.14～23.20m：礫混じり流入粘土，礫は径10～20mm。
							IIg				深度23.83m：幅10mmの礫混じり明褐色流入粘土。
					にぶい黄橙	Dg	IVg				深度23.90m：幅25mmの礫混じり明褐色流入粘土。
						Bg	IIg				
	68.63	25.16		アプライト		Cg	IVg				深度25.06～25.10m：礫混じり砂質シルト(流入粘土)，下盤40度，条線有り。アプライト，上位との境界漸移的。深度25.16～55.75m：アプライト。石基は径0.1mm以下であり，径2～5mm程度の石英，長石を主とする斑晶が点在する(0.5%以下)。
							IIg	bg			

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
D'						100	140／ケーシング						
					1/6 1.50								
CM'													
						81	114／ケーシング		5.0	125	0.0	泥水3	3
CL'													
CM'													
					1/8 6.10								
CH'						94							
CM'					1/11 8.05								
CL'													
CH'													
CM'						99		ダブルコアチューブ／ダイヤビット					
CL'													
	[CM]												
CM'													
					1/12 15.95		90／ケーシング						
CL'									10.0	150			
CM'											0.0	泥水3	0
CL'													
						97							
CM'													
					1/13 23.60								
						77							
					1/16 25.65								
						83	76		30.0	200			

No.14(1/5)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				アプライト							
	64.74	29.45		花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	Ⅲg	bg	β		花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
							Ⅰg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Bg	Ⅰg				
							Ⅱg	cg			
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				深度30.80m：幅5mmの礫混じりシルト（流入粘土）。
						Bg	Ⅱg				深度31.00～33.65m：長石の白色化が認められる。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅰg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Bg	Ⅰg	bg			深度33.65～35.15m：節理少ない新鮮岩。
	60.16	34.50		アプライト							アプライト，上位との境界不明瞭。
					青灰		Ⅲg				
							Ⅳg				
					にぶい黄橙		Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				深度36.60～40.57m：変質により一部軟質化。溶脱し節理に沿って粘土を挟む。
							Ⅲg				
							Ⅱg	cg	γ		
						Dg	Ⅳg				
					灰黄褐	Cg	Ⅱg				
						Dg	Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				深度40.56～40.57m：破砕帯(Hb)。下盤20度，幅12mm，黒褐色シルト混じり砂礫状。
						Bg	Ⅰg				深度40.57～45.58m：全体に褐色化している。
							Ⅱg				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg	bg	β		
						Bg	Ⅱg				花崗斑岩，上位との境界漸移的。
						Cg	Ⅲg				
						Bg	Ⅱg				
	51.78	43.75		花崗斑岩							
	50.10	45.60		アプライト	黄橙	Eg	Ⅵg	dg		2	深度45.58～47.80m：強溶脱帯。アプライト，上位との境界は破砕帯傾斜30度。
					淡赤橙	Dg	Ⅴg				
							Ⅳg				深度45.63～45.70m：破砕帯(Hc)。上盤30度，下盤58度。幅60～90mm，明黄色礫混じりシルト状及び明褐色シルト混じり砂礫状。
											深度45.71～56.00m：溶脱帯。
					灰白		Ⅲg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg	cg			深度48.50～50.50m：高角度な節理発達。
						Dg					
					明褐灰	Cg	Ⅳg				
						Dg	Ⅲg				深度51.26～51.30m：変質帯。下盤45度。幅50mm，暗褐灰色礫混じり砂質シルト状。
						Eg	Ⅵg	dg			深度52.75～52.78m：変質帯。上盤17度。幅50mm，暗灰色シルト混じり礫状。
						Dg	Ⅱg	cg			
						Eg	Ⅵg	dg	γ		
						Dg	Ⅱg				深度54.55m以深，全体に薄く褐色を帯びる。
							Ⅲg	cg			
	40.90	55.75		花崗斑岩							花崗斑岩，上位との境界不明瞭。深度55.75～59.80m：花崗斑岩。径5～10mmの長石，石英，黒雲母の斑晶を20～30%程度含み，石基は径0.1mm以下である。
	40.18	56.55		アプライト		Cg	Ⅳg				
								bg			
	38.50	58.40		花崗斑岩		Dg					深度58.11～58.48m：変質帯。上盤42度，下盤50度。網目状にシルトを挟む。
					にぶい黄橙		Ⅲg	cg			
	37.23	59.80		アプライト							アプライト，上位との境界不明瞭。深度59.80～106.58m：アプライト。石基は径0.1mm以下であり，径3～10mm程度の石英斑晶が点在する(0.5%以下)。
	36.60	60.50		花崗斑岩		Cg		bg			
	36.37	60.75		アプライト							
	35.78	61.40		花崗斑岩							
	35.65	61.55		アプライト							深度61.55～65.00m：斑晶がやや多くなる。
						Dg		cg			

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM'	[CM]							83							
CH'							1／17 31.55								
CM'															
B'															
CM'															
CH'	[CH]														
CM'															
B'								78	76						
CM'							1／18 36.90								
CL'	[CL]														
CM'	[CM]							114							
B'									76／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	200	0.0	泥水3	0
CH'															
CM'															
CH'							1／19 47.60								
CL'	[CL]							83	76						
CM'	[CM]						1／20 51.25								
CL'	[CL]							101	76／セメンティング						
CM'	[CM]						1／22 57.33								
CL'	[CL]							86	76						
							1／23 60.70	95							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					にぶい黄橙	Dg Cg		cg			深度62.92～62.97m：変質帯。上盤37度、下盤36度。網目状にシルトを挟む。
					明褐灰	Dg	Ⅲg	bg		2	
					にぶい黄橙	Cg		cg			深度65.00～80.00m：溶脱帯。
						Dg		bg			
						Eg Dg	Ⅱg	cg		3	深度66.18～67.20m：変質帯。上盤28度、下盤30度。砂礫状。 深度67.72～67.78m：変質強く軟質化。 深度67.78～68.11m。破砕帯(Hc)。上盤40度、下盤32度。礫状～砂質シルト状。下盤側に幅25mm粘土状。
						Eg	Ⅵg	dg			
	29.62	68.20		アプライト	明褐灰	Dg	Ⅳg Ⅱg	bg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
70				花崗斑岩	浅黄橙	Cg	Ⅳg	cg bg			深度70.00～74.25m：傾斜40～50度の平行する節理が5～15cm間隔で発達。 深度70.60～70.70m：ペグマタイトを挟む。 アプライト，上位との境界傾斜40～50度。
						Dg		cg bg			深度72.00～74.63m：全体に変質し，溶脱進みやや軟質化する。節理に沿って弱く褐色化する。
	27.22	70.85						cg	γ		
					明褐灰	Cg	Ⅱg Ⅲg	bg			深度74.63～77.20m：やや褐色化弱くなる。
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg			2	深度77.20～78.40m：節理に沿って黒褐色を帯びる。
					明褐灰	Cg	Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅱg	cg			深度81.20～85.10m：密着した節理が多く，弱く褐色を帯びる。
						Dg Cg Dg	Ⅳg	bg cg			深度83.05～83.40m：やや斑晶が多くなる。 深度84.96m：シーム。傾斜52度。幅4～7mm，明褐～褐色礫混じりシルト状。
80					淡黄 明褐灰 黄橙	Eg	Ⅵg	dg	δ	4	深度86.12～86.60m：破砕帯(Hc)。上盤47度。シルト～礫混じりシルト状。 深度86.60～86.95m：破砕帯(Hb)。傾斜不明。シルト混じり礫状。 深度86.95～87.03m：破砕帯(Hc)。下盤60度。砂質シルト状～褐色粘土状。 深度87.03～88.36m：変質帯。上盤60度、下盤54度。砂礫状。
					明褐灰	Cg	Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅲg	bg			深度88.36m：シーム。傾斜54度。 深度89.57～90.13m：ペグマタイト。石英、長石の巨晶を含む。 深度90.13～98.52m：全体に褐色化するが，変質は弱い。
					灰白		Ⅳg	cg			
					にぶい黄橙	Dg Cg	Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg	bg	γ	2	深度93.05～93.55m：高角度な節理密集部。 深度93.55～98.52m：節理に沿って褐色化著しい。
90					灰白	Dg	Ⅳg	cg		4	深度98.52～98.60m：変質帯。上盤46度、下盤50度。網目状にシルトを挟む。

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				0 10 20 30 40 50					76						
								95	76／セメンティング						
							1／25 69.00			ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	200	0.0	泥水3	0
								95							
							1／26 73.10								
								90							
							1／27 80.55								
								97	76						
							1／29 87.90								
								101							
							1／30 95.75								
								74							
							2／1 97.60								
								97							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				アプライト	灰白	Dg	IVg	cg		4	深度99.62m：シーム。傾斜53度。幅1～3mm，明褐灰色シルト状。 深度99.62～99.81m：変質帯。上盤53度，下盤53度。網目状にシルトを挟む。
						Eg	Vg	dg			
						Cg	IVg	cg	γ		
							IIIg				
							IIg	bg			深度102.0m以深，黒雲母を多く含み，組織は全体に均質である。
							Ig				
							IIIg	cg			
							IVg				
							IIIg				
							IIg				
							IVg				
					にぶい黄褐		IIg				深度104.95～107.60m：全体に褐色化顕著。
					褐灰						
	-5.16	106.58			にぶい黄褐	Bg	Ig		β		花崗斑岩，上位との境界傾斜60度。 深度106.58～116.40m：花崗斑岩。 径3～10mm程度の石英，長石ー部黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1～0.2mm程度で，全体に黒雲母を多く含み，組織は均質である。
					褐灰						
					にぶい黄褐						
110					褐灰						
					にぶい黄褐		IIIg				
					灰黄褐	Cg	IIg	bg			
					灰白	Bg					
					灰黄褐	Cg	IVg	cg			深度111.25～112.45m：斑晶少ない。
						Cg	IIg				
						Bg					
					灰白	Cg	IVg				
						Bg	IIg				
						Cg	IIIg				深度113.60～116.10m：わずかに褐色を帯びる新鮮岩。
						Dg	IVg		α		深度114.58～115.00m：高角度な節理(傾斜70～80度)が1～3cm間隔で発達。節理面に薄く粘土を挟む。
					褐灰	Cg	IIIg				
						Bg	IIg				
	-14.06	116.40			明黄褐					2	アプライト，上位との境界傾斜50度。 深度116.40～140.40m：アプライト。 石基は径0.1mm程度であり，斑晶は非常に少ない。 深度116.70～117.00，118.00～118.15m：黒雲母の斑晶が傾斜40度の流理に沿って見られる。 深度117.15～121.25m：節理面に沿って褐色を帯びる。
					褐灰	Cg	IIIg				
						Bg					
120						Cg	IVg				
							IIIg				
							IIg				
					灰黄褐		IVg				
					褐灰	Bg	Ig				深度121.60～122.10，122.60～123.10，123.60～123.80m：斑晶多くなる。
					明黄褐		IIg	bg			
						Cg	IIIg				深度123.32～123.34m：破砕帯(Hc)。上盤50度，下盤55度。幅15mm，灰～黄灰色シルト質砂状。
							Ig				
							IVg				
					にぶい黄橙	Bg	IIg				
							IIIg				
							IVg				
							IIg				
							IIIg				
							IVg				深度128.30～128.55m：斑晶が多い。
						Cg	IIIg				
							IVg	cg			
130							Ig				
							IIg	bg			
							IVg				深度132.46～133.78m：全体に変質を受け，やや軟質化。節理多く，節理に沿って褐色・灰白色シルトを挟む。
					にぶい黄橙	Eg	Vg	cg		3	深度133.36m：シーム。傾斜32度。幅1mm，褐色シルト状。
						Dg	IVg			2	深度133.36～133.41m：変質帯。上盤32度，下盤39度。黄灰色砂質シルト状。
						Cg	IIg				
							IVg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CL'															
CM'															
CH'															
CM'															
CH'															
CM'															
CL'															

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
140	-35.82	140.40		アプライト	にぶい黄橙 灰褐	Cg	Ⅳg	cg	β	2	深度135.32～135.51m：変質帯。上盤45度，下盤47度。軟質化している。 深度135.51m：シーム。傾斜47度，幅1mm，褐色シルト状。 深度137.35～140.40m：節理に沿って褐色化顕著，岩芯は新鮮。	CL′				92	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	200	0.0	泥水3	0
					褐灰		Ⅱg			3													
							Ⅰg	bg															
							Ⅳg																
							Ⅱg																
					にぶい橙		Ⅲg								2/10 137.35								
							Ⅱg																
							Ⅳg					CM′											
							Ⅱg																
							Ⅱg																
				花崗斑岩	橙		Ⅳg	cg			花崗斑岩，上位との境界傾斜30～35度。 深度140.40～150.00m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を60%程度含み，石基は径0.1～0.5mm程度であり，下部には黒雲母を多く含む。	CL′				110							
							Ⅲg																
							Ⅳg					CM′	[CM]										
					にぶい黄橙		Ⅲg																
							Ⅱg					CL′											
							Ⅳg																
							Ⅲg																
					にぶい橙	Bg	Ⅱg	bg				CH′											
						Cg	Ⅳg	cg							2/12 145.60								
							Ⅲg																
							Ⅳg	bg				CM′											
							Ⅲg																
							Ⅱg																
							Ⅲg																
							Ⅳg	cg				CL′				85							
						Eg	Ⅴg																
						Cg	Ⅰg	bg				CM′											
							Ⅱg								2/13 150.00								
	-44.52	150.00																					

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										

ボーリング名	No.15	調査位置						北緯	
発注機関				調査期間				東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+ 92.98 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 269.06°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘削長	150.00 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	92.91	0.10		高有機質土							シルト質砂。													
	92.79	0.27		有機質土	灰白	Eg	VIg	dg	ε	3	深度0.27～8.53m：花崗斑岩。径3～5mmの石英，長石及び黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.5mm程度である。	D'	[D]											
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	IVg	cg	δ	2		CL'					100	140／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルビット	10.0		0.0	泥水2	0
						Eg	VIg	dg	ε	3	深度3.40～7.13m：再掘削。	D'				1/22 3.00	100							
						Dg	Vg	cg								1/23 4.00	133	114／ケーシング		0.0				
					灰黄	Eg	VIg	dg								1/24 6.00								
					にぶい黄橙	Dg	IVg	cg	γ	2		CL'												
					灰黄褐	Cg	IIIg	bg	β	1		CM'									90			
	86.95	8.53		アプライト	褐灰	Dg	IVg	cg	γ	2	アプライト，上位との境界不明瞭。	CL'												
						Cg	IIIg IVg IIg			1	深度8.53～66.55m：アプライト。厚さ2m程度の花崗斑岩を挟む。アプライトの石基は径0.1mm以下であり，下部に黒雲母を多く含み，全体に均質である。斑晶は非常に少なく，厚さ50cm以下で斑晶を有する部分を僅かに挟む。	CM'												
10						Dg	IVg					CL'					89			10.0				
					にぶい黄橙	Cg	IIIg				深度9.57～9.69m間は風化し褐色を帯びたドレライトの貫入岩である。	CM'												
						Dg																		
						Cg																		
						Dg	IVg				深度12.62～13.20m間は厚さ15～20cmのドレライトの貫入岩。ドレライトの上位との境界32度，下位との境界不明瞭。	CL'												
	84.06	12.62		ドレライト	オリーブ黒	Cg Dg					深度12.04m：シーム。傾斜78度。幅0.3mm，灰白色粘土状。幅1～2mmの石英脈を数cm程度正断層的にずらす。													
	83.65	13.20		アプライト	灰オリーブ	Cg	IIIg	bg	β		深度12.31m：シーム。傾斜6度。幅4mm，砂・礫状。幅1mmの石英脈を見かけ1.3cmずらす。	CM'	[CM]			1/25 14.00			ダブルコアチューブ／ダイヤビット					
						Bg	IIg					CH'												
						Cg	IVg IIIg	bg			深度14.79m：シーム。傾斜10度。幅0.7mm，灰白色シルト状。傾斜65度，幅0.3mmの石英脈を見かけ0.5cm正断層的にずらす。	CM'					100			20.0		0.0	泥水1	0
					にぶい黄	Cg	IIg					CL'				1/26 16.00								
						Dg	IVg	cg	γ		深度15.00～19.08m：高角度及び低角度の節理に沿って流入粘土を含む角礫状部が認められる。	CM'						76						
						Cg	IIIg	bg																
							IVg	cg																
							IIIg	bg		2	深度17.97m，19.08m：交差した節理部分に幅3～5mmの開口したずれが認められる。	CL'												
						Dg	Vg IVg	cg																
20						Cg	IIg	bg	β		深度20.18～20.57m：斑晶多くなる。	CM'					82			25.0				
							IIIg IIg	cg																
						Bg	Ig				深度21.91m：シーム。傾斜75度，幅1mm，明褐色砂状。幅1mm，傾斜30～50度の石英脈が正断層的に見かけ6.2cmずれる。	CH'									150			
						Cg	IIg					CM'												
					黄灰	Bg	Ig	bg			深度24.58～24.60m：破砕帯(Hb)。下盤20度。幅20mm，明褐色礫混じり砂質シルト状(流入粘土)。礫は径0.5～2.5cmの亜角、表面にせん断面有り。シルト中に白色固結シルト片含む。	B'	[B]												
						Cg	IVg																	
						Bg	Ig																	
						Cg	IIg				深度24.66～24.67m：破砕帯(Hc)。上盤39度。幅12mm，灰白色砂状。白色固結シルト片含む。	CM'					83			10.0				
						Bg	Ig				深度25.83～25.93m：破砕帯(Hc)。上盤30度，下盤45度。幅50mm，礫状主体。	B'													
											深度25.89～25.91m間に傾斜30度で流入粘土を挟む。													

コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]

（標準貫入試験）試験 （N値～深度 0 10 20 30 40 50）

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30	73.39	27.70		アプライト							
				花崗斑岩							花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
	72.01	29.65		アプライト							
											アプライト，上位との境界漸移的，下位との境界不明瞭。
	71.02	31.05		花崗斑岩							
											深度31.03～31.05m，31.60～31.62m：傾斜50～60度。幅0.5～1.0cm，砂状～砂質シルト状。褐灰～明褐色の流入粘土を挟む。
	69.46	33.26		アプライト	黄灰	Bg	Ⅰg	bg	β	2	
						Cg	Ⅰg				アプライト，上位との境界漸移的。
							Ⅱg	bg			
						Bg	Ⅰg				深度37.96m：傾斜10度の節理周辺，幅10～15cm，弱い変質を受ける。流入粘土を薄く挟む。
40											
						Cg	Ⅲg	cg			
							Ⅱg				
					褐灰	Bg	Ⅰg	bg			深度45.13～49.13m：所々に傾斜20～45度のうねった明瞭な流理構造が認められる。
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
					灰黄褐	Cg	Ⅰg				
							Ⅲg				深度47.80～47.93m，49.45～49.70m：節理に沿って酸化マンガンが沈着し黒色を帯びる。
							Ⅱg				
							Ⅲg				
						Bg	Ⅰg				
							Ⅳg				
50						Cg	Ⅲg	cg			
											深度50.60～51.03，52.16～53.40m：変質により弱く溶脱する。
					褐灰	Bg	Ⅰg	bg			
					明褐灰		Ⅳg	cg			深度51.60～52.00m：酸化マンガンが眼球状に濃集し，それを取り巻いて褐鉄鉱が帯状に分布する。 深度52.16～53.40m：変質により弱く溶脱する。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				
					褐灰		Ⅱg	bg			深度54.04m：シーム。傾斜75度。幅4mm，黄褐色礫混じりシルト状。
						Bg	Ⅰg				
					明褐灰		Ⅲg				比較的長石を多く含む。
						Cg	Ⅱg				
							Ⅲg	cg			
							Ⅱg				
					褐灰	Bg	Ⅰg	bg	α		深度57.60～58.70m：部分的に傾斜15～30度の流理が認められる。
60						Cg	Ⅲg				
						Bg	Ⅰg				
					灰ポリーブ		Ⅲg				
					にぶい黄橙		Ⅱg		β		
						Cg	Ⅳg				
							Ⅱg				
						Bg	Ⅰg				

コア採取率 (%)	最大コア長 cm	RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）値	（N値～深度 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100							0 10 20 30 40 50											
			B'								83			10.0				
			CM'							1／29 28.80								
			CH'															
			B'								63							
			CM'							1／30 34.80								
			B'	[B]														
			CH'								58			25.0				
			B'							1／31 40.00								
			CM'								68							
			B'							2／1 44.40								
			CM'							2／2 45.20	40	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット		150	0.0	泥水1	0
			B'								45							
			CM'							2／5 47.70								
			B'	[CM]							86							
			CM'															
			B'											40.0				
			CM'							2／6 53.70	54							
			B'															
			CM'															
			B'	[B]						2／7 59.60								
			CH'								56							
			CM'															
			B'															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70	45.92	66.55		アプライト	灰黄褐	Bg	Ⅰg				
					にぶい黄橙		Ⅱg				
					明黄褐	Cg	Ⅳg				
					褐灰		Ⅲg				
					にぶい黄橙	Bg	Ⅰg		β		
					灰白		Ⅲg				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅰg				
					暗灰黄		Ⅲg				
					灰黄褐	Bg	Ⅱg		α		
					にぶい黄橙		Ⅰg				
					灰		Ⅱg				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg				
					灰		Ⅲg				
					にぶい黄橙	Bg	Ⅱg				
					灰		Ⅰg				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg				
					灰		Ⅲg				
					にぶい黄橙	Bg	Ⅰg				
					灰		Ⅱg				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg				
					灰		Ⅰg				
	35.14	81.80		アプライト	灰オリーブ	Bg	Ⅱg	bg	α		
					灰		Ⅲg				
	33.56	84.03			にぶい黄橙		Ⅰg		β		
					灰		Ⅱg		α		
					にぶい黄橙		Ⅲg				
					灰		Ⅰg		β		
					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg				
					灰		Ⅲg				
					にぶい黄橙	Eg	Ⅵg		δ	3	
					灰白	Dg	Ⅳg	cg	γ		
					暗オリーブ灰		Ⅲg				
					灰	Cg	Ⅳg				
					明褐	Bg	Ⅱg	bg	β		
					にぶい黄橙		Ⅰg		α		
					にぶい黄褐	Cg	Ⅳg	cg	γ		
					灰黄褐		Ⅲg				
						Bg	Ⅰg		β		
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
						Cg	Ⅳg	cg	γ		
							Ⅲg				

花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
深度66.55～120.50m：花崗斑岩。
径2～5mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶を1～40%程度含み，石基は径0.1～0.5mm程度である。

深度77.30～77.36m：傾斜62～67度の節理に沿ってシルト～砂を挟む。

アプライト，上位との境界傾斜25～30度。
深度81.80～83.21m：黒雲母を多く含む粗粒なアプライト。

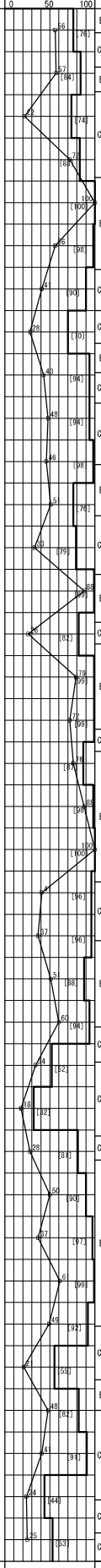
花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
深度84.03～85.00m：やや斑晶が少ない。
深度84.75～84.78m：捕獲岩有り。

深度87.70m：シーム。傾斜12度。幅1～2mm，粘土状。
深度87.74～88.00m：変質帯。上盤27度。黄褐色シルト質砂状。

深度91.15～92.05m：斑晶やや細粒。径2～3mm程度の石英斑晶を含む。

深度94.18～94.79m：傾斜70～75度の節理に沿って砂～シルトを挟む。

深度97.82～97.85m：破砕帯(Hc)。上盤72度，下盤67度。幅12mm，褐色・灰白色シルトの互層状。



岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日
B'		
CH'		
B'		
CM'	[B]	
B'		
CH'		
CM'		
B'		
CM'	[CH]	
CH'		
B'		
CH'		
B'		
CM'		
B'		
CH'		
B'		
CH'		
CH'	[B]	
CL'		
CM'		
B'		
CM'		
CH'		
CL'	[CM]	
CM'		

標準貫入試験 N値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験

掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	56					0.0	泥水1	0
2/8 65.60								
	71							
2/9 70.30								
	44							
2/10 73.80								
	79							
2/12 80.90		76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	40.0	150	0.0	泥水1	1
	52							
2/13 84.80								
	84							
2/14 92.05								
	83							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)/測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
100				花崗斑岩	灰黄褐	Cg, Dg	Ⅲg, Ⅳg	cg	γ		深度99.00～99.85m：斑晶少ない。 深度99.40～100.35m：傾斜56～71度の節理発達し，褐色・灰白色シルトを挟む。	CM′, CL′	[CM]			2/15 99.40	83	ダブルコアチューブ/ダイヤビット					
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅲg, Ⅳg				深度101.55～102.60m：斑晶少ない。	CM′				2/16 101.00	31						
					灰黄褐	Bg, Cg, Bg, Cg, Bg	Ⅰg, Ⅲg, Ⅰg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅲg, Ⅱg			2	深度106～120m：傾斜70度程度の密着した節理に微小な黄鉄鉱付着。	B′	[B]			2/19 105.15	101						
110					明褐	Cg	Ⅳg					CM′	[CM]				82						
	11.38	115.40			青灰	Bg, Cg, Bg, Cg	Ⅰg, Ⅱg, Ⅰg, Ⅱg, Ⅰg, Ⅱg	bg	β	1	深度111.70～120.50m：斑晶が少なくなり（1～3%程度），石基は径0.2～0.5mm程度で黒雲母を多く含む。	B′, CM′				2/20 113.20				40.0			
	11.03	115.90		ペグマタイト							深度115.40～115.90m：ペグマタイト。径1～3cmの長石主体。												
	10.81	116.20		花崗斑岩																			
	9.82	117.60		アプライト							アプライト，上位，下位との境界傾斜20～30度。						81	76			150	0.0	泥水1	1
120	7.77	120.50		花崗斑岩		Cg	Ⅱg					CH′, CM′	[B]			2/21 119.30								
				アプライト	にぶい橙	Bg, Cg, Bg, Cg, Bg, Cg, Bg	Ⅰg, Ⅳg, Ⅰg, Ⅱg, Ⅲg, Ⅰg, Ⅱg				アプライト，上位との境界漸移的。 深度120.50～150.00m：アプライト。石基は径0.1～0.2mm程度で，黒雲母多く，流理が認められる。厚さ20～35cmのペグマタイトを挟む。 深度121.10～121.55m：斑晶多い。	B′, CM′, B′, CM′, B′, CH′					97						
											深度124.50～124.60m：斑晶多い。 深度125.60～126.10m：斑晶多い。					2/22 125.30							
					明赤灰	Cg, Dg, Cg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg	cg	γ	2	深度126.00～127.00m：傾斜70度の一部の節理に幅1mmの石英脈を伴う。 深度127.59～127.85m：変質強く軟質化。 深度128.30～129.00m：斑晶多い。	CM′	[CM]				116						
130					にぶい黄橙	Bg, Cg	Ⅱg, Ⅲg, Ⅰg	bg			深度130.15m：幅2～3mmの石英脈あり。					2/23 131.30				25.0			
	-1.79	134.02		花崗斑岩	灰	Bg	Ⅰg, Ⅲg		α		花崗斑岩，上位との境界傾斜40度。 花崗斑岩はカリ長石の割合多い。節理に黄鉄鉱を挟む。	CH′, B′, CH′	[CH]				97						

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

（標準貫入試験）試験　（N値～深度　0 10 20 30 40 50

原位置試験（孔内水平載荷）

No.15(4/5)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	-3.58	136.56		花崗斑岩	灰	Bg	IIg	bg	α		アプライト，上位との境界漸移的。
						Cg	IVg				
						Bg	IIg				
							IIIg				
						Cg	IIg				
							IIIg				
						Bg	IIg				
							IVg				
−140					明褐			cg	β		深度139.03～139.42m：弱く変質し，褐色を帯びる。節理に沿って褐色シルトを挟む。
					灰		IIIg	bg	α		
							Ig				
							IIg				
					明褐		IIIg	cg		2	
					褐灰		IVg	bg	γ		
							IIIg				
	-8.31	143.25				Cg	IVg				深度143.25～143.45m：カリ長石の巨晶を主とするペグマタイトを挟む。
	-8.45	143.45		ペグマタイト	にぶい橙						
				アプライト	褐灰		IIIg				
							IVg				
							IIg				
							IVg				
							IIg	bg			
							Ig				
	-10.45	146.27					IIIg		β		
	-10.69	146.61		花崗斑岩	灰褐		IVg				
				アプライト			IIg				深度146.66～148.20m：珪化変質し，灰色石英化している。
					灰		IIIg				
	-11.39	147.60					IVg				
	-11.64	147.95		ペグマタイト			IIIg				深度148.10～148.20m：黄鉄鉱濃集。
							IVg				
							IIg				
							IVg				
				アプライト	褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3	深度148.70～149.22m：変質帯。網目状に変質。褐・灰白色シルトを挟み，全体に軟質。
					帯	Eg	VIg	dg			
					明褐灰	Cg	IVg	cg		2	深度149.22～149.23m：シーム。上盤53度，下盤57度。幅8mm，灰白色シルト状。
	-13.09	150.00			灰白						
					褐						

標尺 (m)	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入試験) 試験 (N値)	(標準貫入試験) 試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l／分)	排水量 (l／分)
	0 50 100					0 10 20 30 40 50											
	45 [64]	CH'	[CH]							97							
	40 [89]																
	28 [77]	CM'							2/24 37.30								
	32 [52]	CH'															
	27 [63]																
	26 [94]									103							
	20 [53]																
	26 [64]																
	16 [30]	CM'	[CM]						2/26 143.30		76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0	150	0.0	泥水1	1
	30 [56]																
	56 [82]																
	28 [91]									116							
	8 [27]																
	30 [30]																
	0 [0]	CL'							2/27								
									2/28 150.00	50							

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.16	調査位置				北　緯	
発注機関			調査期間			東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋74.48 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	220.00 m								エンジン	ポンプ	

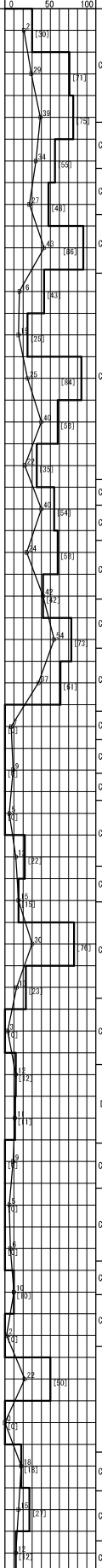
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%） 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				盛土	浅黄						深度0.40～2.00m：盛土，径0.5～3.0cmの砕石，砂。											140／ケーシング						
					にぶい黄褐						深度2.00～9.63m：盛土，シルト混じり砂礫。 深度9.63～9.81m：コンクリート片。																
	64.67	9.81																			207	114／ケーシング	シングルコアチューブ／メタルビット	15.0	110	0.0	その他（不明含む）0	0
10				花崗斑岩	明赤灰	Eg	Ⅱg	bg	δ		深度9.81～12.73m：花崗斑岩。 径5～15mmの長石，黒雲母の斑晶，径3mmの石英の斑晶を30～40%程度含み，石基は径0.5～1mm程度である。 全体に風化著しく，岩芯まで褐色を帯び脆い。 傾斜40～70度の節理が発達するが不明瞭。酸化鉄が付着し密着する。		D'	[D]													
	61.75	12.73				Dg Cg	Ⅳg	cg		2	アプライト，上位との境界傾斜7度。 深度12.73～72.17m：アプライト。 石基は径0.1mm以下であり，斑晶は径3～5mmの石英，長石の斑晶が点在する。下部では黒雲母が多くなる。		CL'	[CL]												
	60.37	14.11		アプライト	ペグマタイト						ペグマタイト傾斜25度。																
	60.15	14.33				Cg	Ⅳg Ⅲg	bg					CM'								250			60.0	190	0.0	泥水5	0
					にぶい黄橙	Eg	Ⅴg Ⅵg	cg dg		3	深度16.01～16.12m：破砕帯(Hj)。上盤50度，下盤75度。節理密集部。岩質脆い。 深度16.12～16.30m：破砕帯(Hj)。上盤75度，下盤60度。灰白色礫混じり砂状。深度16.29m，厚さ1～4mm程度の桃白色粘土を挟む。下盤側65度のシームを上盤側60度のシームが切る。逆断層的センス。																
					明赤灰	Dg Cg	Ⅳg Ⅲg	bg	γ		深度16.30～17.42m：破砕帯(Hj)。上盤60度，下盤70度。灰白色節理密集部。16.85mシーム。傾斜70度の節理を傾斜80～90度のシームが数mmずらしている。 深度17.70～17.82m：破砕帯(Hj)。上盤35度，下盤50度。幅30mm，礫混じりシルト質砂状。 深度17.82～20.00m：岩質は比較的硬いが，密着した節理が数cm間隔で発達。		CL'	[CM]												
20						Dg Cg	Ⅱg Ⅳg																				
					にぶい黄橙	Eg Dg Cg	Ⅴg Ⅲg	cg		2	深度21.28～24.43m：10～20cm間隔で傾斜55～70度の節理が発達する。面は褐色を帯びる。		CM'													
						Cg	Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg	bg																			
						Bg	Ⅰg																				
					灰白	Cg	Ⅲg Ⅱg														183			35.0	190	0.0	泥水7	3
					明褐灰																						

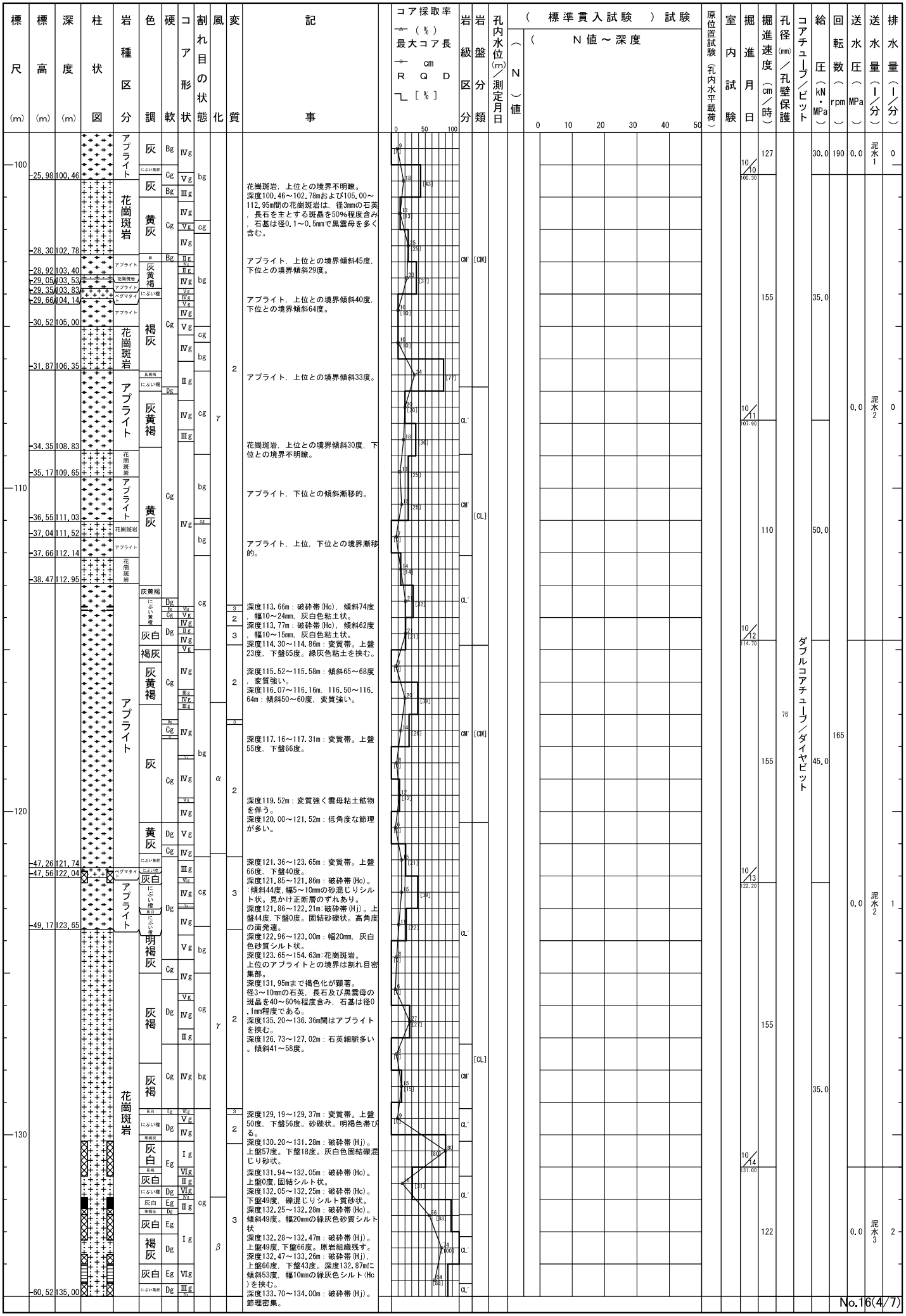
No.16(1/7)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				アプライト	明褐灰	Cg	IVg	bg			深度27.00～27.09m：節理密集部，高角度の節理多い。
							IIIg				
							IVg				
						Bg	IVg				深度28.82～29.04m：節理密集部。節理面は黒褐色を帯びる。
							IIg	cg			
							IIIg				
							IVg				
						Cg	IIIg				深度31.00m：幅10mmシルト混じり礫状。上盤に幅1mmの黄灰～暗褐色シルトを挟む。鏡肌あり。
							IVg				
	41.04	33.44									
	40.46	34.02		花崗斑岩	灰褐		IIg				花崗斑岩，上位との境界傾斜60度。径0.5～2.0cmの捕獲岩が点在する。下位との境界傾斜40度。
							IIIg				
					明褐灰	Dg					
				アプライト			IVg				深度35.35m：シーム。傾斜60度。幅7～10mmの暗褐色粘土状。 深度35.62～35.77m，36.21～36.34m：径0.3～1.0cmの暗緑色を帯びた捕獲岩を多く含む。
							IIIg				
							IIg				
						Cg	IIIg				
							IVg				深度39.16m：傾斜50度，幅6～10mmの礫・シルト混じり砂を挟む。
40							IIIg				
	33.27	41.21		花崗斑岩			IVg				花崗斑岩，上位との境界不明瞭。 深度41.21～50.70m：花崗斑岩。 径3mm程度の石英，長石の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm以下である。 深度41.39～43.76m：傾斜45～50度の節理が10cm以下の間隔で発達。節理面は褐色を帯びる。 アプライト，上位との境界凹凸あり，傾斜65度。
	31.01	43.47							γ		
	30.68	43.80		アプライト							全体に短柱～柱状コア主体。
							IIIg			2	
							IVg				
							IVg				深度46.36～46.43m：節理密集部。 深度46.36m，傾斜80度，下盤側節理0.3～1.0cm間隔。 深度46.43m，傾斜40度，上盤側砂状2mm，細礫状1cm。 深度47.70～47.89m：主として傾斜50～65度の密着した節理が，1～2cm間隔で発達。
							IIIg	bg			
							IIg				
							IVg				
						Cg	IIg				
							IVg				
							IIg				
							IIIg				
50					灰褐						
	23.78	50.70			灰黄褐	Bg	IIg				アプライト，上位との境界傾斜60度。
						Cg	IIIg				深度52.53～52.90m：節理が密集する。 深度52.68m，傾斜55度の節理の上・下盤に傾斜70度以上の高角度な節理が0.5～2.0cm間隔で発達。 全体に0.5～1.0cm間隔で密着した節理が発達。
					にぶい黄	Dg	Vg				
					にぶい黄橙	Cg	IVg				
						Dg	Vg				深度54.48～54.89m：節理密集部，一部角礫状。 深度54.68m：シーム。傾斜50度。幅3～10mm，礫混じり暗褐色粘土状。
					明褐灰		IVg				
							IIIg				
	17.31	57.17				Cg	IVg				深度56.75～56.85m：ペグマタイトを挟む。 花崗斑岩，上位との境界傾斜30度。 深度57.17～63.47m：花崗斑岩。 径3～5mmの石英，長石及び黒雲母の斑晶を3～10%程度含み，石基は径0.1mm以下である。石基は流理が認められる。
60							IIIg				
					灰褐		IVg				
						Bg	IIg		β		
							IVg				深度61.08～63.03m：密着及び開口した節理が1～3cm間隔で発達。
					にぶい褐	Cg	IVg		γ		
							IIIg				

岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM'														
CL'														
							183	99／ケーシング		35.0		0.0	泥水7	3

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	11.01	63.47	花崗斑岩	にぶい褐		Ⅲg		γ		アプライト，上位との境界傾斜13度。全体に細粒，わずかに径1～4mmの石英斑晶を含む。					9/22 63.70	144					0.0	泥水11	0
			アプライト	灰褐	Cg	Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅳg				深度64.60m：傾斜70度の節理の周辺に幅6cm間酸化マンガン濃集。	CM'	[CM]				150				170	0.0	泥水10	0
					Bg	Ⅱg				深度66.42～66.57m，66.73～66.90m：ペグマタイトを挟む。	CH'				9/23 65.70								
					Cg	Ⅲg Ⅳg				深度67.00～68.42m：わずかにカリ長石，斜長石の斑晶が点在する。	CM'	[CH]											
					Bg	Ⅱg					CH'					114					0.0	泥水13	6
					Cg	Ⅳg																	
					Bg	Ⅰg																	
				にぶい黄橙	Cg	Ⅲg Ⅳg Ⅲg				深度69.50～69.88m：節理密集部，0.5～1.0cm間隔。													
70				灰褐		Ⅳg Ⅲg				深度69.77～69.88m：傾斜50度，70度の節理に挟まれた部分に0.3～0.7cm間隔で傾斜40度程度の節理が密集する。					9/26 70.65								
				にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg	β		深度70.00～70.18m，70.55～71.00m，72.13～72.36m：傾斜35～60度の節理発達。岩片～短柱状コア。	CM'												
				褐灰	Bg	Ⅱg																	
					Cg	Ⅳg																	
	2.31	72.17	花崗斑岩		Bg	Ⅱg				花崗斑岩，上位との境界凹凸有り，傾斜10～30度。													
				灰オリーブ	Cg	Ⅳg				深度72.17～86.04m：花崗斑岩。厚さ0.2～0.5m程度のアプライトを挟む。													
	0.40	74.08			Eg	Ⅵg				深度72.17～75.72m間の花崗斑岩は，径10～20mm程度の石英，長石及び黒雲母の斑晶を15%程度含み，石基は黒雲母が多く暗灰色帯び，径0.1mm以下である。	CL'												
	0.16	74.32	アプライト	灰黄褐	Dg	Ⅴg Ⅲg			2														
			花崗斑岩	灰	Cg	Ⅱg Ⅲg				深度75.72m以深，斑晶は1～5%程度となる。	CM'					130	76／セメンティング		45.0		0.0	泥水10	0
	-1.24	75.72								深度72.83～74.08m，74.32～75.72m間，黒雲母が多く暗灰色帯びる。	CM'												
	-1.74	76.22	アプライト	にぶい黄橙		Ⅳg				深度73.91～73.93m：破砕帯(Hc)。傾斜41度。幅10～20mm，灰白色シルト混じり砂～シルト状。一部暗褐色粘土状。逆断層的センス。													
			花崗斑岩	灰	Bg	Ⅱg				アプライト，上位との境界傾斜75度，下位との境界傾斜52度。	CH'	[CM]								150			
				にぶい黄橙	Cg	Ⅲg Ⅳg				深度76.22～78.06m：暗灰色を帯び，ひん岩に近い岩相を示す。	CM'				9/27 78.75								
				淡黄	Dg	Ⅳg	cg			深度76.50～76.79m：斑晶少なくアプライト質。													
80				にぶい黄橙	Cg	Ⅴg				深度79.22～79.25m：破砕帯(Hc)。傾斜55度。幅18～25mm，明黄色礫混じり砂質シルト状及び砂礫状。正断層的センス。	CL'												
				灰黄褐	Dg					深度79.35～79.42m：傾斜50度の節理が0.5～2cm間隔で発達。	CM'												
	-7.17	81.65			Cg	Ⅳg				深度80.23～83.34m：全体に節理多く，短柱～岩片状コアをなす。	CL'										0.0	泥水8	0
	-7.62	82.10	アプライト	にぶい黄褐						深度81.30～81.90m：傾斜75～90度の高角度な節理発達。	CM'												
			花崗斑岩		Dg	Ⅴg	bg			アプライト，上位との境界漸移的。	CL'												
					Cg	Ⅳg Ⅲg				深度83.12～83.16m：幅30mmの褐灰色礫混じり砂状。	CM'				9/28 83.70								
				灰黄	Dg Cg Dg	Ⅳg										145			35.0		0.0	泥水6	0
	-11.56	86.04	アプライト	にぶい黄橙	Dg	Ⅴg			3	深度86.04～123.65m：アプライト。上位の花崗斑岩との境界は破砕帯である。	CL'												
					Eg					厚さ0.1～2.3m程度の花崗斑岩と厚さ0.3m以下のペグマタイトを挟在する。					9/29 87.45								
				灰褐	Dg Eg	Ⅴg	cg			アプライトの石基は径0.2～0.5mm程度で，組織は全体に均質である。斑晶は非常に少ない。	D'					81			45.0				
				にぶい黄橙				γ		深度86.04～86.12m：破砕帯(Hb)。傾斜30度。幅70mm。					9/30 88.80								
				灰白	Cg Dg Cg	Ⅳg	bg			上盤より礫混じり砂～シルト状幅15mm，角礫状幅15～30mm，礫混じり砂質シルト状幅25mm。正断層的破砕構造有り。	CM'												
90				にぶい橙	Cg	Ⅴg	bg		2	深度86.12～87.27m：破砕帯(Hj)。径2～3cmの角礫主体の礫状。	CL'					124			40.0	165	0.0	泥水7	0
				淡黄	Eg		cg			深度87.27～87.31m：破砕帯(Hj)。傾斜44度。上盤より20～25mm明黄色シルト状，10～15mm黄色シルト混じり砂状。													
				にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg			深度87.31～87.32m：破砕帯(Hc)。傾斜44度。花7～20mmの暗褐一部明黄色粘土状。破砕構造有り。	CM'	[CL]											
				褐灰	Dg Eg	Ⅴg Ⅵg	cg			深度87.32～87.53m：変質帯。傾斜57度。固結砂状。	CL'				10/2 93.35		76						
				橙	Cg	Ⅴg	bg			深度90.11～90.20m：幅50mmシルト質砂状。						66			15.0	135	0.0	泥水6	0
				明オリーブ灰	Eg	Ⅵg	cg		4	深度91.50～91.79m：破砕帯(Hj)。傾斜60度。幅100mm，砂礫状。					10/3 95.00								
				にぶい黄橙			dg			深度92.56～92.68m：節理密集部。砂礫状。													
				灰黄褐						深度93.75～96.18m：破砕帯(Hj)。傾斜3度。細礫混じり土砂状。													
				明オリーブ灰	Cg Dg	Ⅳg	cg				CM'					127			30.0	190	0.0	泥水1	0
					Dg Cg	Ⅴg Ⅳg	bg		2	深度97.72～97.74m：幅20～30mm，礫シルト混じり砂状。	CL'												
					Cg	Ⅳg	bg			深度98.45～98.49m：節理密集部。幅20mm，原岩組織明瞭。	CM'	[CM]											




標尺 (m)
標高 (m)
深度 (m)
柱状図
岩種区分
色調
硬軟
コア形状
割れ目の状態
風化
変質
記事
コア採取率 (%)
最大コア長 cm
R Q D [%]
岩級区分
岩盤分類
孔内水位(m)／測定月日
（N）値
（N値～深度）
原位置試験（孔内水平載荷）
室内試験
掘進月日
掘進速度（cm／時）
孔径(mm)／孔壁保護
コアチューブ／ビット
給圧（kN・MPa）
回転数（rpm）
送水圧（MPa）
送水量（l／分）
排水量（l／分）
花崗斑岩
アプライト
ペグマタイト
ダブルコアチューブ／ダイヤビット
No.16(4/7)

83

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				アプライト	にぶい黄橙						
					灰白						
					にぶい黄橙						
	-61.88	136.36			灰	Dg	Ⅲg	cg		3	深度134.00～134.58m：破砕帯(Hb)。傾斜58度。礫状。
							Ⅴg				深度134.58～134.60m：破砕帯(Hc)。傾斜60度。幅10～20mmの緑灰色砂質シルト状。
						Cg	Ⅳg	bg			深度134.60～135.00m：破砕帯(Hj)。傾斜60度。節理密集部。高角度。
						Dg	Ⅴg				深度135.00～136.00m：破砕帯(Hb)。砂礫状。
					にぶい黄橙		Ⅲg～Ⅴg	cg			花崗斑岩，上位との境界傾斜20度。
					灰	Cg	Ⅳg	bg			
						Dg	Ⅴg		β		
-140					褐灰	Eg	Ⅵg	ag			深度140.70～142.23m：傾斜70～85度の湾曲した節理と傾斜14～23度の節理が発達。
						Dg	Ⅴg				
						Dg	Ⅵg	cg			深度142.23m：シーム。傾斜52度。幅1～10mmの褐灰～灰白色砂質シルト状。
						Eg					深度142.71m：シーム。傾斜47度。幅7～10mm，緑灰色砂質シルト状。正断層的構造有り。
						Dg	Ⅴg	ag			深度143.07～143.12m：幅45mm，細礫～砂状。
						Cg	Ⅵg	cg			深度143.88m：シーム。傾斜49度。幅0～7mm，緑灰色砂混じりシルト状。
						Dg	Ⅴg	bg	γ		
					灰褐	Cg	Ⅳg	cg			
					褐灰	Dg	Ⅴg		α		深度145.25～145.35m：破砕帯(Hj)。上盤81度，下盤85度。幅30mm，細片状。暗緑灰色シルトを挟む。
					灰	Cg		cg			
						Dg	Ⅳg	bg		2	
					にぶい褐	Dg	Ⅴg	cg	γ		深度147.34m：傾斜58度，厚さ1mm以下の緑灰色シルト及び厚さ5～8mmの砂を挟む。
						Cg	Ⅳg				
						Dg	Ⅴg	cg			
					灰褐	Cg	Ⅳg	bg			深度148.91m：シーム。傾斜68度。幅0～3mmの緑灰色シルト状。
							Ⅲg				
							Ⅳg				深度150.07～150.73m：主として傾斜50～70度の節理発達。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	cg			深度151.73～151.77m：厚さ1cm以下の礫状部を伴う。
					褐灰			ag			
					灰褐			bg			
							Ⅲg	ag			深度153.18～153.73m：傾斜65～75度の平行した節理が発達。
							Ⅳg				
							Ⅱg	bg			
-160	-80.15	154.63				Bg		ag	β		深度154.63～160.57m:アプライト。上位の花崗斑岩との境界は明瞭，傾斜40度程度。
							Ⅳg	cg			深度158.00mまで褐色化が見られ，それ以深は褐色化していない。
						Cg	Ⅲg	ag			アプライトの石基は径0.1mm程度であり，全体に黒雲母を含む。
							Ⅳg				深度154.74～154.81m：破砕帯(Hb)。上盤60度，下盤62度。上盤より幅50～60mmの固結した砂礫状，幅1～3mmの褐灰色シルト状。下盤条線方向70右。
						Bg	Ⅴg	cg			深度157.47～157.80m：傾斜85～87度の連続した節理が3cm程度の間隔で発達。
						Dg	Ⅳg	cg			深度158.45～158.51m：破砕帯(Hj)。上盤68度，下盤60度。幅25mm，細片状。暗緑灰色シルトを挟む。
						Cg	Ⅴg				
						Dg	Ⅵg	dg		3	深度159.23～159.62m：破砕帯(Hb)。傾斜55度。シルト混じり礫・砂状。
						Cg	Ⅴg	ag			
						Bg		cg			
						Cg	Ⅳg	bg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
	-86.09	160.57				Dg	Ⅴg				深度160.57～220.00m:花崗斑岩。径3～15mmの石英，カリ長石，黒雲母の斑晶を15～60%程度含む。石基は径0.5～1.0mm程度である。
						Cg		cg			
						Dg	Ⅳg				深度160.72～161.09m：砂～礫状部を伴う傾斜50～60度の節理が2～5cm間隔で発達。
						Bg					
							Ⅲg	ag			深度161.09～162.50m：傾斜70～90度の湾曲した高角度節理が連続する。
						Cg					
							Ⅳg				深度163.64～164.30m：傾斜50～65度の節理が10～15cm間隔で発達。
						Dg		cg			深度164.30～164.88m：傾斜70～85度の節理及び密着した節理が0.5～1.0cm間隔で発達する。
						Cg		bg			
						Dg	Ⅴg		α	2	深度165.30～165.42m：径0.3～3.0cmの礫状コア，礫の表面には水平方向の不明瞭な条線あり。
							Ⅳg				
							Ⅲg	ag			
							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				
							Ⅱg	ag			
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Dg	Ⅳg	cg			深度169.60m：シーム。傾斜61度，幅3～7mm，緑灰色シルト状及び砂状。正断層的構造有り。
-170						Cg	Ⅳg	bg			深度170.95～172.78m：傾斜11～30度程度の平行した節理が2～数cm間隔で発達。一部に80度以上で黄鉄鉱を挟む節理が発達する。
					灰	Bg					
						Cg					

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100					0 10 20 30 40 50											
[21]	CL'															
[0]	CM'															
[30]	CL'															
[0]	CM'															
[0]	CL'															
[0]	D'															
[0]	CL'															
[0]	D'	[CL]														
[0]																
[11]	CL'															
[0]																
[0]																
[40]	CM'															
[17]																
[12]	CL'															
[12]																
[40]		[CL]														
[84]	CM'															
[80]																
[41]																
[0]																
[0]	CL'															
[0]																
[0]		[CL]														
[0]	CM'															
[19]	CL'															
[24]																
[23]	CM'															
[53]	CL'															
[0]	CM'															
[36]	CL'	[CM]														
[20]																
[78]	CM'															
[15]																
[0]																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
180				花崗斑岩	灰	Cg	Ⅳg	bg		2	深度172.78～173.26m：比較的節理が少ない。
						Dg					
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
						Dg	Ⅲg	cg			深度173.92～175.58m：傾斜45度及び82度の平行した節理が10～20cm間隔で発達。 深度174.33m以深，密着した節理が多くなる。 深度175.00～176.69m：傾斜50～60度の平行した節理が5～15cm間隔で発達。
					黄灰			bg			
							Ⅳg	cg			
					褐灰	Cg	Ⅱg				比較的節理少ない。高角度の不明瞭な密着した節理あり。
					にぶい褐						
					褐灰		Ⅰg				深度178.55m：幅5～8mm，傾斜75度の石英脈あり。 深度179.02m：幅10mmの石英脈あり。 深度179.13m：幅5～15mm，傾斜78度の石英脈あり。
							Ⅲg				
							Ⅳg	bg			
							Ⅰg				
					灰	Cg	Ⅳg				深度181.57m：シーム。傾斜37度，幅8～10mmの礫状。正断層的構造有り。条線の方向90度。 深度181.67～185.00m：傾斜20～35度と傾斜70～80度の節理が発達。節理は数～20cm間隔で発達し，部分的に密集する。 高角度な節理には黄鉄鉱や厚さ1mm以下の砂～緑灰色シルトを挟む。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
					褐灰	Cg	Ⅳg	bg			深度185.00～187.48m：密着した節理が発達。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
					灰白	Dg	Ⅰg	cg	α	3	深度187.48～220.00m：花崗斑岩。径3～5mmの石英，カリ長石，黒雲母の斑晶を70%程度含む。石基は径0.5～1.0mm程度である。 深度187.48～190.65m：変質帯。上盤35度，岩質脆い。
						Cg	Ⅱg				
						Dg	Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				
						Dg	Ⅲg				
							Ⅱg				
190					黄灰	Cg	Ⅲg	bg		2	深度190.37～193.00m：1～5cm間隔で密着した節理が発達する。
						Dg	Ⅳg	cg			
						Cg	Ⅱg	bg			
							Ⅴg				
					灰白	Dg	Ⅳg			3	深度193.00～195.55m：変質帯。下盤53度。変質を受け，黄鉄鉱点在。傾斜60～70度及び傾斜85～90度の連続した節理が発達。
							Ⅲg	cg			
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					褐灰	Cg	Ⅳg				
						Dg	Ⅱg	bg			
						Cg	Ⅳg				
						Dg	Ⅲg	cg		2	深度197.32m：シーム。傾斜85～90度，幅0.5mmの暗緑色シルト質砂状。傾斜50～60度の節理が1～2cmずれる。条線の方向ほぼ水平。
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg	bg			
							Ⅳg				
					灰白	Dg	Ⅵg	cg		3	深度199.22～200.00m：破砕帯(Hb)。傾斜75～80度。砂礫状。高角度の節理あり。 深度200.04m：シーム。傾斜58度，幅1～4mmの緑灰色固結シルト質砂状。
200								dg			
					青灰	Cg	Ⅳg	cg			
								bg			
					灰		Ⅴg			2	深度202.96～204.00m：節理に沿って砂～細礫状，一部土砂状。低角度な節理卓越。 深度203.78m：シーム。傾斜69度。幅1～4mm，緑灰色砂質シルト状。
							Ⅳg	cg			深度205.00～206.08m：高角度な節理卓越し，一部細礫状をなす。
							Ⅲg				深度206.08～206.44m：密着した節理卓越。
					青灰		Ⅳg				深度206.44～207.66m：節理多く，角礫状。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100					0 10 20 30 40 50											
[0]								10／23 71.45	142		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	45.0	170	0.0	逆水3	1
12 [0]																
15 [24]	CM'															
20 [54]																
17 [11]									140			40.0		0.0	泥水2	0
3 [49]	CL'															
32 [74]																
45 [82]																
84 [96]								10／24 179.50								
7 [90]																
56 [79]																
19 [28]	CM'	[CM]							144							
15 [41]																
24 [49]																
28 [54]								10／25 185.50								
54 [54]												45.0				
46 [92]																
35 [98]	CL'															
25 [35]									152	76			165			
39 [90]																
25 [33]	CM'															
40 [21]																
19 [19]								10／26 193.60						0.0	泥水3	0
16 [19]	CL'															
25 [53]																
46 [61]																
1 [28]	CM'								144			40.0				
18 [49]																
49 [73]																
0 [0]	D'	[CL]						10／27 200.80								
0 [0]																
11 [11]																
0 [0]	CL'								144			45.0				
6 [0]																
10 [60]																
15 [30]								10／28 206.80	140			35.0		0.0	逆水3	1

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
210	-145.52	220.00		花崗斑岩	明褐灰 褐灰 明褐灰 青灰 灰白 青灰 褐灰 青灰 褐灰	Cg Dg Cg Bg Cg Dg Cg Dg	Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg	cg bg cg	α	2 3 2	深度207.66～210.50m：柱状コア。密着した節理多く，節理に沿って砂～細礫を挟む。 深度210.53m：シーム。傾斜84度，幅5～10mmの黒色シルト状。 深度210.50～212.52m：変質帯。上盤67度，下盤50度。全体に軟質化。含礫固結砂質シルト状で，網目状に細粒分を含む。指圧で変形。 深度212.52～215.45m：密着した節理多く，全体に変質を受け，礫状化する。 深度219.17～220.00m：斑晶は粗粒。変質により軟質化。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100	CL CM CL CM CL CM CL	[CL] [CM]		0 10 20 30 40 50				10/30 214.75 10/31 220.00	140 137	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0 40.0	165	0.0	泥水 3	1

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

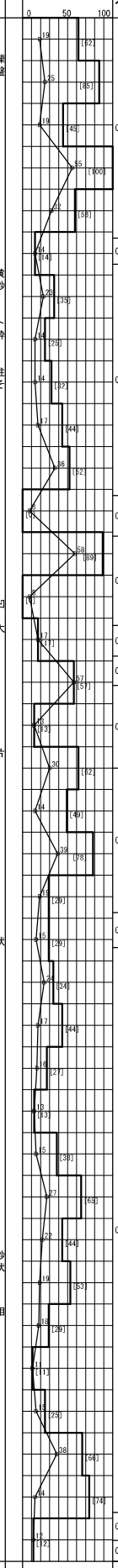
ボーリングNo.

ボーリング名	No.17	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+ 74.46 m	角度	180° 上 90° 下 0° 25°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 59.8°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	200.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	73.91	0.61		盛土	黒褐						新期盛土。													
				盛土	にぶい黄						礫・シルト混じり細～中粒砂。 礫混じり砂質シルト。 礫・シルト混じり中～粗粒砂。 シルト混じり砂礫。					11／13 7.00	135	114／ケーシング	シングルコアチューブ／メタルビット	15.0	55	0.0	その他（不明含む）0	0
	66.30	9.00																						
10				花崗斑岩		Eg Dg Eg	Ⅲg Ⅳg Ⅱg	bg	δ		深度9.00～11.03m：花崗斑岩。 径5～10mmの長石，石英の斑晶，径3mmの黒雲母の斑晶を20%程度含み，石基は径0.5mm程度である。	D′ CL′ D′	[D]				136				190	0.0	泥水5	4
	64.46	11.03		アプライト	明褐灰	Dg Eg Dg Eg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg	Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅰg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅰg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅰg	cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg	γ	2	アプライト，上位との境界傾斜30度。 11.03～139.84m：アプライト。 厚さ1.0～5.0m程度の花崗斑岩を挟む。 アプライトの石基は径0.1mm以下であり，流理が認められる。部分的に径3mm程度の斑晶が散在する（1%以下）。 深度12.85m，12.87m：節理に幅0.5～1.5mmの流入粘土を挟む。 深度13.19～14.01m：傾斜25～55度の節理が数cm間隔で発達。節理の周辺は変質により桃色を帯びる。 深度17.05m：シーム。傾斜51度，幅1～3mm，明褐色軟質粘土状。 深度17.05～17.46m：傾斜44～51度の節理が密集する。 深度20.59～21.63m：傾斜40～80度の節理が数cm間隔で発達，やや軟質。 花崗斑岩，上位との境界傾斜60度，下位との境界凹凸有り。 ペグマタイトは，幅3cmの石英と周辺にカリ長石の結晶あり。 深度23.87～23.88m：シーム。上盤20度，下盤30度。幅4～9mm，暗灰～暗褐灰色礫混じりシルト質砂状。正断層的センス。条線方向高角度。 深度25～45m：節理の一部に流入粘土有り。	CL′ CL′ D′ CL′ CM′ CL′ CM′ CL′ CM′	[CL] [CM]				11／14 13.70	146	83／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0	165	0.0	泥水8	4
20	55.47	20.95		花崗斑岩		Dg	Ⅳg																	
	54.63	21.88		ペグマタイト																				
	54.50	22.02		アプライト												11／15 23.65	126			30.0	190	0.0	泥水8	0
																11／16 27.00								

No.17(1/6)

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
30				アプライト	明褐灰	Cg	Ig	cg		2	深度27.65～27.73m：破砕帯(Hb)。上盤53度，下盤43度。幅35～65mm，砂礫状及び礫混じりシルト質砂状。上下盤で走向が異なる。	CM'							151		25.0	190	0.0	泥水8	5
							Eg											11/17 29.90								
							IIIg				深度29.00～30.00m：開口した節理に流入粘土が認められる。															
							IIIg																			
						Cg	IIg																			
							IIIg																			
							Ig																			
							IIIg																			
							IVg																			
						Dg																				
							IIIg	bg			深度31.30～31.33m：変質により砂～礫状。															
						Cg																				
							IVg	cg				CL'														
						Dg																				
						Eg	Vg			4	深度32.54～32.65m：破砕帯(Hb)。上盤45度，下盤42～63度。幅50mm，明黄色礫混じりシルト質砂状～礫混じり砂質シルト状。															
						Cg	IVg	bg			深度32.65～32.75m：破砕帯(Hb)。下盤45度。幅50mm，赤褐灰色礫・シルト混じり砂状。この破砕帯は上位の破砕帯に切られる。															
						Dg		cg																		
							IIIg	bg																		
							IVg	cg			深度32.75～37.00m：傾斜25～45度の節理が数cm程度の間隔で発達し，短柱～岩片状コアをなす。節理面およびその周辺は褐色を帯びる。	CM'														
							IIIg																			
							IVg																			
							IIIg																			
							IVg																			
							IIg												227							
							IVg	bg	γ			CL'														
							IIg																			
					褐灰	Bg																				
							IVg			2	花崗斑岩，上位との境界傾斜65度，凹凸あり。	CM'														
	37.35	40.95		花崗斑岩		Cg					深度40.95～46.07m:暗灰色帯び，最大径5cm一般径1～2cmの亜円～亜角の捕獲岩を含む。													0.0	泥水7	0
							Ig				深度41.22～41.25m：幅18～20mm，褐灰色礫混じりシルト質砂状。	CL'														
												CM'														
					黄褐		IVg	cg										11/20 43.35								
						Dg	Vg				深度43.40～43.51m：節理密集する。	CL'														
							IVg				深度43.51～43.54m：幅25mm，暗灰色シルト・礫混じり砂状。部分的に葉片状。															
							IIIg						[CM]							83／ケーシング						
											安山岩に近い岩相と花崗斑岩の境界，約40度。															
						Cg						CM'										35.0	165			
							IIg																			
							IIIg																			
	31.05	47.90					IVg				アプライト，上位との境界不明瞭。															
				アプライト	にぶい橙	Cg				3	深度48.31～48.45m：変質帯。上盤45度，下盤35度。明褐灰～灰色の細片状。	CL'							145							
						Dg	Vg	bg																		
							IIIg																			
							IVg				深度49.34～50.25m：黒褐色を帯びる高角度な節理発達。															
						Cg	IIIg																			
							IVg																			
							IIIg																			
								cg			深度51.83～51.86m：幅20mm，暗褐灰色砂礫状。															
					灰褐	Dg	IVg	bg																		
								cg			深度53.42～53.49m：幅25～30mm，節理密集する。							11/21 53.35								
						Cg	IIIg	bg	β																	
							IIg																			
						Dg	IVg	cg		2	深度55.45～55.46m：破砕帯(Hb)。上盤45度，下盤46度。幅20mm，黄褐色砂混じりシルト状及びシルト混じり礫状。	CM'														
							IIIg																			
							IVg				花崗斑岩，上位との境界不明瞭。やや暗緑色を帯び，ひん岩に近い岩相。															
							IIIg																			
							IVg																			
							IIIg																			
							IVg												142					0.0	泥水6	0
						Cg	IIIg																			
							IVg																			
	23.05	56.72					IIIg	bg			アプライト，上位との境界不明瞭。															
				花崗斑岩	暗灰黄		IVg																			
60							IIIg				深度59.96～63.00m：全体に褐色化顕著。															
							IIg																			
							IVg																			
							IIIg																			
							IVg		γ																	
				アプライト	灰褐	Dg	Vg				深度61.89～62.22m：破砕帯(Hj)。傾斜36度。径3～10mmの角礫状。上面に幅1～4mmの黄褐色シルトを挟む。	CL'														
						Cg	IVg					CM'														



No.17(2/6)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	15.72	64.81		アプライト	灰褐	Cg	Ⅱg				
	15.55	65.00		黒雲母花崗岩		Bg	Ⅲg				
				アプライト		Cg	Ⅲg	bg		2	深度65.00～68.84m：比較的高角度な節理多く，岩片～柱状コア主体。
							Ⅳg				
	14.08	66.62		花崗斑岩		Dg	Ⅲg				
	13.70	67.04			黄灰		Ⅳg				
					灰褐	Cg	Ⅱg				花崗斑岩，上位，下位との境界傾斜65度。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅲg				
						Eg	Ⅳg	cg	γ	4	深度68.84～68.91m：破砕帯(Hb)。上盤48度，下盤3度。幅25～90mm，明黄色シルト混じり砂礫状。
						Dg	Ⅴg				深度68.91～69.11m：破砕帯(Hc)。上盤3度，下盤63度。幅3～20mm，明褐色礫混じりシルト状。
						Cg	Ⅳg				深度69.11～69.15m：破砕帯(Hc)。上盤63度，下盤不明。幅10mm，暗褐・灰白色縞状礫混じり砂質シルト状。
						Dg	Ⅴg				深度69.15～69.25m：破砕帯(Hj)。上盤63度，径10mm以下の角礫状。
						Cg	Ⅳg				深度70.92～70.94m：破砕帯(Hc)。上盤41度，下盤50度。幅5～17mm，黄褐色礫混じり砂質シルト状。
					灰褐		Ⅳg	bg		2	深度71.98～72.10m：幅110mm，黄褐色シルト・砂混じり礫状。
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
						Cg					
						Eg	Ⅵg				深度75.60～75.72m：破砕帯(Hj)。上盤46度，下盤47度。幅90mm，節理密集部。
					灰白	Eg	Ⅴg	cg			
					明褐灰	Dg	Ⅳg			3	深度75.72～75.90m：破砕帯(Hc)。上盤47度，下盤28度。幅110mmの明黄色シルト状。75.78m，幅18mmの暗褐色粘土(傾斜20度)を挟む。
						Eg	Ⅵg				深度75.90～77.48m：変質帯。
					灰褐	Cg	Ⅳg				深度77.35m：シーム。傾斜45度。幅1～2mmの桃色粘土状。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				
					灰色		Ⅲg	cg		2	深度80.00～82.23m：節理多く，一部角礫状。密着した節理も多い。
					灰褐		Ⅳg				
					褐灰		Ⅱg				
					にぶい橙		Ⅳg			3	深度82.83～85.61m：破砕帯(Hj)。上盤67度，下盤10度。角礫～細礫状，所々に砂・シルトを挟む。古い破砕帯。
					にぶい黄橙	Dg	Ⅱg				
					灰褐		Ⅲg				
					にぶい黄橙					4	
						Cg	Ⅳg			2	
							Ⅲg			4	深度85.96～86.86m：変質帯。下盤37度，固結しており砂岩様を示す。，原岩構造なし。
							Ⅰg				
							Ⅳg			3	深度86.86～87.56m：変質帯。上盤37度，下盤9度。角礫状，網目状に固結シルト～砂を挟む。
					オリーブ黒					4	下面に幅20mmの暗褐色礫混じりシルトを挟む。
					にぶい黄橙		Ⅱg			3	
					にぶい橙	Dg				2	深度87.56～87.83m：変質帯。上盤9度，下盤45度。固結しており砂岩様，原岩構造なし。
					灰黄褐		Ⅳg	cg	β	3	深度87.83～88.14m：変質帯。上盤45度，下盤40度。角礫状，網目状に固結シルト～砂を挟む。
							Ⅱg				深度88.67～90.84m：変質帯。上盤32度，下盤72度，角礫～細礫状。90.43mに幅1～2mmの褐色固結粘土を挟む。
						Cg	Ⅳg			2	
					灰褐		Ⅲg				深度91.52～95.80m：変質帯。上盤66度，下盤40度。高角度な節理により網目状をなす。節理密集する。
						Dg	Ⅳg			3	
					灰黄褐		Ⅲg				
					褐灰	Cg	Ⅳg			2	深度96.00～96.28m：節理密集する。
	-14.83	98.52		アプライト			Ⅲg	bg			アプライト，上位との境界傾斜60度。深度98.52～102.50m：節理やや少なくなり，節理に沿って褐色化。

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
							11／23	142	83／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0		0.0	泥水	0
							63.30								
CM'	[CM]							141					0.0	泥水8	0
CL'							11／24		76／セメンティング		30.0	165			
CM'							72.10	132					0.0	泥水7	0
CL'							11／25								
CM'							74.30	142					0.0	泥水9	0
D'															
CL'							11／27								
CM'							81.80／28	68					0.0	泥水8	0
							81.95								
	[CL]							178	83／ケーシング		35.0	175			
CL'							11／29						0.0	泥水12	0
							89.95								
								172			30.0	165			
CM'	[CM]														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100					褐灰	Cg	Ⅳg	bg	β	2	
					灰褐		Ⅲg				
					褐灰		Ⅳg				深度102.50～103.42m：やや変質強く，一部角礫～細礫状。
						Eg		cg		4	深度103.46～104.00m：変質帯。上盤45度。砂質シルト～礫状。
					灰オリーブ	Dg				3	
					褐灰			bg		2	
					灰色	Cg	Ⅲg				
							Ⅳg	bg			
					褐灰	Dg	Ⅲg				深度105.77～105.98m：ペグマタイト。
						Cg	Ⅳg	cg			深度105.10～109.65m：全体に開口および密着した節理が多い。弱い変質を受け，黄鉄鉱，セリサイトを挟む。
						Cg	Ⅲg	ag			
						Dg	Ⅳg	cg		3	
						Cg	Ⅲg				
						Dg	Ⅳg	ag			
					灰色	Cg	Ⅳg	bg	α		
110											
					黄灰	Cg	Ⅳg			2	
						Dg	Vg	cg		3	深度113.38～113.56m：変質帯。上盤56度，下盤72度。岩質脆い。
							Ⅳg			2	
							Vg			4	
					灰白	Eg	Ⅵg			3	深度114.31～114.32m：破砕帯(Hc)。上盤45度，下盤40度，幅1～10mm，褐灰色砂質シルト状。 深度144.32～114.77m：破砕帯(Hj)。傾斜20～55度，礫混じりシルト質砂状～シルト混じり砂礫状，114.55m:幅5～15mm程度の灰白色シルトを挟む。
						Dg		ag			
						Eg		cg			
					褐灰	Dg	Ⅳg	ag		2	深度114.77～115.24m：破砕帯(Hj)。上盤55度，下盤12度。原岩組織が残るシルト混じり砂礫状，緑灰色シルトが網目状に入る。
						Cg					
						Dg	Vg				深度115.24～115.47m：破砕帯(Hb)。上盤12度，下盤4度。灰白色シルト混じり砂礫状。
							Ⅵg	cg			深度115.47～115.51m：破砕帯(Hc)。傾斜3度，幅5～12mmの灰白～褐灰色砂混じり粘土状。
						Eg	Ⅳg				深度115.62～115.64m：破砕帯(Hc)。上盤70度，下盤不明，幅15～30mm，灰白色砂質シルト状。
						Dg	Ⅱg	bg			深度115.98～116.18m：破砕帯(Hc)。上盤30度，下盤不明，灰白色礫混じり砂質シルト状。
						Eg		cg			深度117.55～117.56m：シーム。上盤38度，下盤27度，幅5～9mm，灰白色礫混じり砂質シルト状。
					にぶい黄橙		Ⅰg				深度117.77～117.79m：破砕帯(Hc)。上盤36度，下盤38度。幅15～18mm，灰白色礫混じりシルト質砂状。
						Dg		bg			
						Eg		cg			深度118.22～118.25m：破砕帯(Hc)。上盤36度，下盤35度。幅22mm，灰黄褐色礫混じりシルト質砂状。
						Dg		bg			
						Eg		cg			深度118.66～119.26m：破砕帯(Hj)。上盤16度，下盤33度。幅10.5cm，明褐灰色礫混じり砂質シルト状。
						Dg	Vg	bg			深度119.18～119.21m：幅15～20mm，明褐灰色礫混じり砂質シルト状。
							Ⅳg				深度119.26～119.29m：破砕帯(Hc)。上盤33度，下盤48度。幅22～30mm，明褐灰色礫混じり砂質シルト状。
						Dg	Vg				深度119.29～139.84m区間は褐色化顕著。
					にぶい褐	Cg	Ⅳg				深度119.47～119.57m：幅90mm，黄橙色シルト混じり砂礫状。
						Dg	Vg				深度120.31m：シーム。傾斜85～90度。幅1mmの灰白色粘土状。傾斜27～28度の密着した節理を見かけ1.0～1.5cm逆断層的にずらす。
					灰黄	Eg	Ⅵg				深度120.65m：シーム。傾斜74度。幅1mmの灰白色粘土状。
						Cg	Ⅳg				深度120.80m：シーム。傾斜75度。両者とも傾斜35度の密着した節理を見かけ1cm程度逆断層的にずらす。
						Dg	Vg				深度121.18～121.32m：変質帯。上盤21度，下盤75～90度。灰白色礫混じり固結粘土状。
					にぶい橙						深度121.45m：シーム。傾斜85度。幅3～5mmの明桃色粘土状。
					にぶい黄橙	Dg					深度121.85m：シーム。傾斜73度。幅1～3mmの灰白色固結粘土状。傾斜45度の密着した節理を見かけ0.5～1.0cm逆断層的にずらす。
						Cg	Ⅳg	cg			深度122.75～122.92m：変質帯。上盤48度，下盤67度。幅9～16cm，明灰色シルト混じり砂礫状。
						Dg					花崗斑岩，上位との境界傾斜67度。
						Dg	Vg				深度126.04～126.27m：変質帯。上盤30度，下盤65度。径1cm以下の細片状，網目状に粘土細脈。
						Eg	Ⅳg				アプライト，上盤傾斜33度。
						Dg					深度127.21～127.48m：幅約15cm，灰黄色シルト混じり固結砂・礫状。

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM'							11／30 02.25	172		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0		0.0	泥水12	0
CL'															
CM'								138			35.0				
CL'		[CM]													
CM'							12／1 09.05								
CL'								125			30.0				
CM'															
CL'							12／2 14.05								
D'															
CL'															
D'															
CL'							12／4 21.35	151	83／ケーシング		25.0	165	0.0	泥水13	0
CL'															
CL'		[CL]					12／5 23.65	197			15.0		0.0	泥水10	0
CL'															
CL'							12／6 29.85	139			20.0		0.0	泥水12	0
CL'															
CL'								155			40.0		0.0	泥水10	3
CL'							12／22 31.80								
CL'								161			35.0		0.0	泥水6	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
140	-52.28	139.84		アプライト	にぶい黄橙	Dg	IVg	cg		3	深度128.56～128.58m：変質帯。上盤42度，下盤30度。固結砂状。 深度129.25～129.30m：変質帯。上盤38度，下盤32度。固結砂状。 深度129.76～129.79m：変質帯。下盤29度，固結砂状。 花崗斑岩，上位との境界漸移的。 深度132.07～132.18m：変質帯。上盤42度，下盤35度。暗黄灰色砂礫状。 深度132.25m：シーム。傾斜31度。幅1～3mmの灰オリーブ色固結シルト状。 深度132.52～132.62m：変質帯。上盤52度，下盤25度。砂礫状。 アプライト，上位との境界漸移的。 深度133.31～133.33m：幅約16mm，灰白色シルト混じり固結砂礫状。 深度133.43m：シーム。傾斜40度。幅0～3mm，灰白色シルト質砂状。 深度133.59～133.76m：変質帯。下盤85度，固結砂礫状。 深度135.00～138.45m：亀裂多く，コアは岩片～短柱状をなす。 深度138.03～138.45m：変質帯。上盤6度，下盤50度。砂・礫状。 深度138.22～139.60m：比較的節理少なく，柱状コア主体。 深度139.60～140.46m：変質帯。上盤52度，下盤68度。節理発達し，砂状化。 花崗斑岩，上位との境界不明瞭。 深度139.84～154.83m：花崗斑岩。 花崗斑岩は褐色化，変質が強い。 径3～5mmの石英，長石及び黒雲母の斑晶を5～30%程度含み，石基は径0.1～0.2mm程度で黒雲母を含む。 深度143.11～143.28m：変質帯。上盤56度，下盤36度。固結砂礫状。 深度144.35～144.37m：破砕帯(Hc)。上盤47度，下盤59度，幅20mm，固結黄褐色砂混じりシルト状。古い破砕帯。 深度144.35～155.33m：変質帯。上盤破砕帯，下盤39度。岩片状。 深度146.04～146.96m：全体に傾斜40～60度の節理が1～3cm間隔で発達し，コアは岩片状を主体とする。 アプライト，上位，下位との境界漸移的。
	-58.97	147.22			明褐灰	Cg			γ	2	
	-59.79	148.13		アプライト							
150				花崗斑岩	灰褐	Dg	IVg			3	深度150.00～151.51m：傾斜40～65度の節理が5～6cm以下の間隔で密集し，岩片～細片状を呈する。
					明褐灰	Cg				2	
						Dg				3	
						Cg				2	
						Dg	IVg	cg		3	
						Cg	IIIg				
						Dg	IVg				
						Cg				2	
						Dg					
						Cg	IIIg				
						Dg	IVg			3	
					浅黄	Cg	IIIg				深度152.95～153.86m：部分的に変質により砂・礫状を呈するが，一般に節理が少なく，短柱～柱状をなす。
	-65.86	154.83			明褐灰	Dg	IVg				
				アプライト	にぶい褐					2	アプライトの傾斜10～20度。 深度154.83～187.52m：アプライト。 アプライトは深度159.15mまで褐色化するが，これ以深，褐色化していない。 アプライトの石基は径0.2mm程度で組織はほぼ均質である。斑晶の量は非常に少ない。
					明褐灰	Cg	IVg	bg			
							IIIg	cg			
					にぶい橙		IVg	bg			
						Cg	IVg				
						Dg	IIIg				
	-70.41	159.85				Cg				3	深度155.33～156.95m：比較的節理少なく，短柱～柱状をなす。 深度156.97～162.43m：変質帯。上盤87度，下盤65度。 傾斜30～50度および85度程度の節理が発達し，砂質シルト状～岩片状を呈する。 深度159.31～159.39m：変質帯。幅32mm，黄灰色砂質シルト状。 深度159.39m：シーム。傾斜39度。幅5～8mmの黒灰色シルト状。 花崗斑岩，上位，下位との境界不明瞭。
160				花崗斑岩		Dg	IVg				
	-71.89	161.48				Cg					
						Dg					
						Cg	IIIg			2	深度162.57m：シーム。傾斜63度。幅2～3mm，暗灰色礫混じり砂状。
					明褐灰	Cg	IIIg	cg			
						Dg	IVg			3	深度164.52～165.06m：変質帯。上盤52度，下盤55度。砂礫状。
						Cg			α	2	深度165.60～165.61m：シーム。上盤59度，下盤56度。幅5～8mmの暗灰色礫混じりシルト状。
						Dg	IVg			3	
						Dg	IIg			4	深度165.61～170.14m：変質帯。上盤56度，下盤50度。全体に固結砂状を呈する。酸化し明黄褐色を帯びる。
						Dg	IIIg				
					明黄褐		Ig				
						Eg	IIIg				
							IIg				
170						Dg				3	深度169.72m：シーム。傾斜55度。幅1～3mm，灰色シルト状。
					灰黄	Dg	IVg			2	深度169.74m：シーム。傾斜56度。幅2mm，灰色シルト状。
					灰黄褐	Cg		sg			

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CL'								161					0.0	泥水 6	0
CM'							12／23 140.50								
CL'															
CM'								183					0.0	泥水 7	0
CL'							12／25 150.70				35.0	165			
CM'	[CL]							179	83／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	25.0		0.0	泥水 8	0
CL'							12／26 160.10								
CM'								191					0.0	泥水 7	0
CL'							1／8 166.30				35.0	175			
D'								175					0.0	泥水 10	0
CL'															
CM'															

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
				アプライト	灰黄褐	Cg	Ⅳg	ag		2	深度171.35～172.20m：変質帯。上盤66度，下盤47度。傾斜60度，90度および20度程度の節理が密集し，径1～3cm程度の岩片状コアをなす。	CM′	[CL]				83／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット					
					灰オリーブ	Dg	Ⅴg	cg		3		CL′				175			35.0		0.0	泥水10	0
					灰黄褐	Cg	Ⅳg	ag		2	深度173.18～175.00m：節理少なく岩片も比較的新鮮。	CM′			1/9 173.60								
						Cg	Ⅱg													175			
							Ⅲg																
							Ⅱg																
							Ⅲg																
							Ⅳg	cg				CL′											
							Ⅱg	ag															
						Cg	Ⅳg	cg		3	深度176.66～176.80m：変質帯。上盤76度，下盤80度。岩質脆い。 深度176.74m：シーム。傾斜55～75度。幅0.2mmの緑灰色シルト状。傾斜38度の節理が見かけ0.7cm正断層的にずれる。												
							Ⅲg	ag								140			40.0		0.0	泥水6	0
							Ⅱg																
							Ⅲg																
							Ⅱg																
							Ⅲg																
							Ⅱg																
							Ⅳg																
							Ⅲg																
							Ⅳg								1/12 179.80								
180							Ⅱg	bg		2	深度180.42～181.92m：節理多く，短柱状コア主体。												
							Ⅳg																
							Ⅱg																
							Ⅳg																
							Ⅱg				深度181.92～185.02m：比較的節理少なく，柱状～長柱状コアを主体とする。					133			45.0		0.0	泥水8	0
							Ⅲg																
						Cg	Ⅳg	cg	α		深度185.02～185.62m：傾斜20～50度および80度の節理が多く発達する。	CM′											
							Ⅲg	bg															
							Ⅳg																
							Ⅲg																
							Ⅳg								1/15 186.25		76						
							Ⅲg																
	-95.49	187.52					Ⅰg				花崗斑岩，上位との境界傾斜50度。 深度187.52～200.00m:花崗斑岩。 径3～5mmの石英斑晶と径10mm程度のカリ長石及び径2～3mmの黒雲母の斑晶を60%程度含み，石基は径0.5mm程度で，組織は全体に均質である。 深度188.38～188.55m：変質帯。傾斜79度の節理に沿って変質。岩片脆い。													
							Ⅳg	cg		3													
							Ⅱg																
							Ⅰg																
							Ⅲg	bg			深度190.25～191.50m：高角度な節理発達。												
190							Ⅳg																
							Ⅲg																
							Ⅱg																
							Ⅳg			2													
							Ⅰg																
						Dg	Ⅳg																
						Cg	Ⅱg																
						Dg	Ⅲg																
						Cg	Ⅳg								1/16 194.40								
						Dg	Ⅲg					CL′											
						Cg	Ⅳg	cg			深度195.85～200.00m：変質帯。上盤76度。灰白色粘土細脈が網目状に入る。												
						Dg	Ⅱg																
							Ⅲg																
						Cg	Ⅱg					CM′	[CL]										
						Dg	Ⅳg			3													
						Cg	Ⅰg					CL′											
	-106.80	200.00										CM′			1/17 200.00				40.0	170	0.0	泥水8	0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.18	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋7.03 m	角度	180° 上 90° 下0° 30°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 59.8°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	175.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%） 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				盛土	黄褐						盛土。礫混じり砂。										600	165／ケーシング	ダブルコアチューブ／ビット	35.0				
					褐						盛土。砂混じり礫，径20～30mmの礫主体。									2／2 2.00					0.0	0	0
					にぶい黄						盛土。礫混じりシルト質砂。														60			
											盛土。シルト質砂。										207			40.0				
											盛土。礫混じりシルト質砂。少量の砂岩礫あり。															0.0	泥水10	0
-0.16	8.30			玉石混り砂礫	灰黄褐						径1～6cm，最大径9cmの花崗斑岩，アプライトを含む。基質は粗粒砂～細礫。																	
-1.41	9.75			砂							粗粒砂，上方細粒化。									2／3 9.60		140／ケーシング		30.0				
-1.85	10.25			砂礫	にぶい黄						径1～3cm，最大径8cmの花崗斑岩，アプライト角礫を含む。基質はシルト混じり粗粒砂。																	
-3.04	11.63			シルト混り砂	灰黄褐						径1cm以下の細礫を含む。										97							
-3.32	11.95			礫混りシルト質砂							径0.5～2cm，最大径30cmのアプライト，花崗斑岩角礫を含む。礫は新鮮岩主体，一部風化。									2／5 13.00					0.0	泥水5	5
-3.50	12.16			砂							径1cm以下の礫を含む。																	
-4.52	13.34			シルト混り砂							径1～3cmの花崗斑岩，アプライト角礫主体，基質は粗粒砂。										73							
-5.08	13.98			礫混り砂							腐植土，繊維質。									2／6 14.70								
-5.24	14.17			腐植質土	褐灰						幅2～3cm程度の腐植土を挟む。木片，炭質物を多く含む。																	
-5.35	14.30			有機質砂	黒褐						中～粗粒砂，一部細礫を含む。炭質物を含み，一部木片あり。										87				100			
-6.43	15.54			砂	褐灰						腐植土，細粒砂，中～粗粒砂の互層状。																	
-7.12	16.34			有機質砂							径1cm以下，最大径4cmの亜角礫を含む中粒砂。																	
-7.73	17.04			礫混り砂	灰白						径0.5cm程度の石英粒を含む。																	
-8.39	17.81			砂							径2～5cm，最大径14cmの亜角礫を含む。基質は粗粒砂。																	
-8.77	18.25			砂礫	明褐																							
-9.73	19.35			花崗斑岩	明褐灰	Eg	VIg	dg	ε		深度19.35～65.70m：花崗斑岩。径3～5mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm以下である。深度20.00～21.29m：強風化岩。原岩構造不明瞭。アプライト，上位との境界傾斜57度。		D'	[D]														
					にぶい黄橙	Dg	IIIg IVg	cg	δ				CL'																
						Eg	VIg	dg	ε				D'																
					にぶい黄	Dg	IIIg IIg IIIg IVg	cg	δ	2	深度23.02～24.68m：全体に強風化を受け黄褐色を帯びる。節理に沿ってシルトを挟む。		CL'	[CL]							114							
					にぶい橙	Cg	IIg IIIg IIg	cg	γ				CM'																
						Dg	IVg	cg	δ				CL'																
						Eg	VIg	cg	ε		深度26.53～28.18m：強く風化し軟質。一部土砂状。		D'	[D]														
																					105							

No.18(1/6)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30	-16.40	27.05		花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	VIg	cg	ε		深度28.18～29.61m：風化しているが，柱状コアをなす。節理に沿って黒褐色酸化マンガンを挟む。
								dg			
						Dg	IVg	cg	δ		
	-19.30	30.40				Eg	VIg	dg	ε		アプライト，上位との境界不明瞭。
				アプライト		Dg		cg	δ		深度30.34～33.00m：強風化し軟質。節理の多くは密着し，やや不明瞭。
						Eg					
						Dg	IVg		γ		
						Eg	VIg		δ		
						Dg	IVg				深度33.00m以深，強い風化を受けているが，弱風化のところもあり。
					にぶい橙	Eg	VIg			2	
						Dg	IIIg				
						Eg	VIg				
					にぶい黄橙	Dg	IVg				深度35.14～35.16m：傾斜58～61度。幅5～8mm。黒褐色固結状シルトを挟む。
							IIIg	cg			
					明褐灰	Eg	IVg				
						Cg	IIIg		γ		
						Dg	IVg				深度37.73m以深，柱状コアをなすが，強風化し，やや軟質。節理に沿って褐色を帯びる。
							IIIg				
							IVg				深度38.50～38.65m：石英の斑晶多い。
							IIIg				
						Dg	IVg				
					にぶい橙						
	-29.69	42.40			明褐灰	Eg	VIg	dg	ε	3	深度41.90～42.41m：変質帯。上盤66度，下盤48度。砂状化。
						Dg	IVg		δ		深度41.97～42.00m：流入粘土を挟む。上盤61度，下盤62度。幅15～18mm，黄褐色砂混じりシルト状。
						Eg					花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
								cg			
	-32.39	45.52			灰白	Dg	IIIg		γ		アプライト，下位との境界傾斜33度。
							IVg				深度45.52～53.30m：アプライト。石基は径0.1mm以下である。
							IIIg				深度45.50m：風化軟質化の下限。
							IVg				深度45.90～46.75m：幅5cm程度のペグマタイト脈を挟む。
						Cg	IIIg	bg	γ		
						Dg	IVg	cg	γ	2	
						Cg	IIIg				
							IVg				
						Cg	IVg				深度50.09m：シーム。傾斜55度。幅2～3mm，黒褐色シルト状。
						Dg					深度50.19m：シーム。傾斜43度。幅1～5mm，黒褐色シルト状。
						Cg	IIIg	cg			
	-39.13	53.30			にぶい黄橙	Cg	IVg				花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
						Dg					深度53.30～65.70m：花崗斑岩。斑晶は径0.3～0.5cmの石英主体で散在程度。石基は径0.1～0.5mm。
							IIIg				深度54.69～58.10m：変質帯。上盤40度，下盤47度。珪化変質し，硬質。一部脱色し灰白色を帯びる。
						Cg	IVg				
					褐灰		IIg	bg	γ	3	
						Dg	IIIg				
							IIg				
							IVg				
					にぶい橙	Cg	IIIg				
							IVg	cg			
					灰白	Dg	IIIg				深度59.40～60.14m：変質をうけ，脱色している。
60						Cg					
					にぶい黄橙	Dg	IVg			2	
						Cg					
						Cg	IIIg				
					灰黄		IVg				
						Cg	IIg	bg			深度62.44～63.36m：珪化変質帯。岩片は硬質。
					褐灰	Bg					

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度 0 10 20 30 40 50）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
D'							2/13 29.50	105	115／ケーシング						
CL'	[D]														
D'															
CL'								130					0.0	泥水5	5
D'															
CL'							2/14 36.00								
CM'															
CL'								89	95／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	100			
D'							2/15 42.50						0.0	泥水5	0
CL'	[CL]							98							
CL'							2/16 48.20								
							2/19 49.40	80							
CL'								85							
CM'							2/20 55.20		76				0.0	泥水5	5
CL'								108							
CM'	[CM]														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70	-49.87	65.70		花崗斑岩	明褐灰	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	
							Ⅲg	cg			
							Ⅳg	bg			
					にぶい黄橙		Ⅲg				
					オリーブ褐	Eg	Ⅵg	cg		3	深度64.98m：シーム。傾斜68度，幅1mm，黒褐色粘土状。
						Dg	Ⅳg				深度64.98～65.55m：変質帯。上盤68度，下盤62度。節理密集部，一部礫状。
					灰白	Cg	Ⅲg				深度65.04m：シーム。傾斜67度。幅1～1.5mm，暗褐～黄褐色シルト状。
							Ⅰg				深度65.27m：シーム。傾斜64度。幅1mm，暗褐色シルト状。
							Ⅱg				アプライト，上位との境界不明瞭。
							Ⅲg				深度65.70～104.70m：アプライト。厚さ2.0～3.5m程度の花崗斑岩を挟む。
						Bg	Ⅱg	bg			アプライトの石基は0.1mm以下であり，斑晶が非常に少ない。
						Cg	Ⅲg				
					褐灰		Ⅱg				深度70.00～75.00m：変質による溶脱部と珪化部とが0.5～1.0m単位で出現。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					灰黄褐	Dg		cg			
					灰白	Cg	Ⅳg	bg			
							Ⅲg				
							Ⅳg	cg			
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅰg	bg			
					にぶい褐		Ⅳg	cg			
							Ⅱg				
							Ⅳg			2	
					灰黄褐		Ⅰg				深度76.30～78.45m：全体に酸化マンガンで汚染され，黒色斑状を呈する。
							Ⅲg				
					にぶい褐	Cg	Ⅳg				
							Ⅰg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
80	-62.25	80.00		花崗斑岩	にぶい黄橙		Ⅱg				深度80.00～82.73m：珪化変質をうけ硬質。
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				花崗斑岩，上位下位との境界不明瞭。
							Ⅰg				
							Ⅲg				
							Ⅰg				深度82.73～87.00m：全体に酸化マンガンで汚染され。黒褐色を帯びる。
						Dg	Ⅲg				
					にぶい黄褐	Cg	Ⅰg	bg			
							Ⅳg			3	深度87.00～90.18m：変質帯。下盤46度，酸化マンガン濃集部と白色変質部が斑状模様を示す。
							Ⅰg				
					暗褐	Dg	Ⅲg				
					灰白・黒	Cg	Ⅰg				深度89.04～89.21m：変質帯。上盤60度，下盤66度。0.3～1.5cm間隔で節理密集。
						Dg	Ⅴg				
						Cg	Ⅱg	cg			深度90.18～91.65m：溶脱し岩質脆い。
90							Ⅰg				
						Dg	Ⅲg			2	
					灰黄褐	Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				
	-73.21	92.65				Eg	Ⅴg			3	深度92.14～92.18m：破砕帯(Hc)。上盤53度，下盤56度。幅2～15mm，灰白色砂質シルト状。
							Ⅰg				深度92.18～92.60m：変質帯。上盤56度，下盤80度。節理密集部，粘土を挟む。
					黒		Ⅲg				花崗斑岩，上位との境界漸移的。
					明褐灰		Ⅰg				深度93.17～93.24m：幅3～15mm，暗褐灰色シルト混じり砂・礫状。
							Ⅱg	bg			
						Cg	Ⅳg				
							Ⅱg				
	-76.19	96.10			灰褐		Ⅳg			2	アプライト，上位下位との境界不明瞭。
				アプライト							深度96.55～98.07m：珪化変質帯。
	-77.19	97.25		花崗斑岩	にぶい黄褐		Ⅰg	cg			
						Dg	Ⅳg				深度98.07～99.45m：比較的節理多く，柱状，一部岩片状コア。
						Cg	Ⅱg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
							2／21 64.00	108					0.0	泥水5	5
CM'															
CL'															
CM'								104							
CL'															
CM'															
CL'															
CM'							2／22 72.00								
CL'															
CM'															
CL'								111					0.0	泥水5	0
CM'															
CL'							2／23 79.40								
CM'								95							
CL'							2／24 81.30		76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	100			
	[CM]														
								98							
CM'															
CM'							2／26 89.00								
CL'															
								64					0.0	泥水5	3
CL'															
CM'													0.0	泥水5	2
CL'							2／27 94.00								
CM'								91					0.0	泥水5	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)/測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
100	-79.57	100.00	花崗斑岩	にぶい黄褐		Ⅱg	cg								2/28 100.40	91							
				にぶい橙																			
			アプライト	にぶい黄橙		Ⅲg	bg			深度100.35～103.05m：珪化変質帯。アプライト，上位との境界漸移的，下位との境界傾斜28度。	CM'												
				灰褐	Cg	Ⅰg																	
	-80.87	101.50				Ⅱg				深度101.50～104.60m：全体に褐色を帯び，節理に沿って黒褐色を帯びる。													
			花崗斑岩	にぶい黄橙		Ⅳg																	
						Ⅱg																	
						Ⅳg				深度103.10～103.50m：弱い溶脱部。低角度の節理密集し，岩片状。													
	-82.65	103.55			Dg		cg	γ													0.0	泥水5	0
			アプライト			Ⅱg				アプライト，上位との境界漸移的，下位との境界傾斜20～30度。	CL'					89							
	-83.64	104.70		にぶい橙		Ⅳg				深度104.70～136.20m：花崗斑岩。径2～5mm程度の石英，長石及び黒雲母の斑晶を5～20%程度含み，石基は径0.1mm以下である。													
				灰褐						深度105.45～110.60m：弱い珪化変質を受け，岩片は硬質。													
				灰白	Cg	Ⅲg																	
						Ⅳg																	
						Ⅲg																	
				灰褐		Ⅱg				深度107.50～110.60m：新鮮岩。節理少なく柱～長柱状コア。					3/1 108.00								
						Ⅲg																	
						Ⅱg																	
						Ⅳg																	
110						Ⅱg	bg		2			[CM]											
				灰黄褐	Dg	Ⅱg				深度110.68m：シーム。傾斜64度。幅3～5mm，暗褐灰色シルト状。	CM'												
						Ⅲg																	
						Ⅱg																	
				にぶい褐		Ⅲg										109					0.0	泥水5	3
						Ⅱg																	
				灰黄褐		Ⅲg				深度113.72m以深，節理多く短柱～岩片状コア。節理に沿って黒褐色を帯びる。													
						Ⅱg																	
						Ⅳg																	
				灰褐		Ⅱg	bg			深度115.00～117.55m：珪化変質を受け硬質。													
						Ⅳg																	
						Ⅲg																	
						Ⅱg									3/2 117.10		76	ダブルコアチューブ/ダイヤビット	35.0	100			
				灰黄褐	Dg	Ⅳg	cg				CL'												
						Ⅲg				深度118.88m：シーム。傾斜73度。幅2～4mm，浅黄色砂混じりシルト状。													
						Ⅳg																	
120					Cg	Ⅲg	bg			深度119.90～136.20m:花崗斑岩。斑晶は径3～5mm程度。散在程度で，部分的に密集。基質は径0.1mm以下で流理有り。	CM'					101							
						Ⅳg																	
						Ⅳg																	
						Ⅲg																	
						Ⅳg																	
						Ⅳg																	
						Ⅳg																	
				にぶい黄褐	Eg	Ⅵg	cg dg		3	深度122.16～122.18m：破砕帯(Hj)。上盤32度，下盤66度。幅25mm以上，暗灰色砂・礫状。													
					Dg																		
				にぶい黄橙		Ⅳg	cg			深度122.18～122.35m：破砕帯(Hj)。上盤66度，下盤41度。礫・砂混じりシルト，シルト混じり礫状。	CL'												
										深度122.35～122.60m：変質帯。上盤41度，下盤68度。幅25mm，砂状部を伴う。					3/3 124.20							
					Cg	Ⅱg	bg				CM'												
						Ⅳg																	
						Ⅱg																	
	-102.31	126.25			Dg	Ⅳg		γ		深度125.92～129.53m：傾斜30～50度の節理が多く発達。短柱～岩片状コア主体。		[CL]									0.0	泥水5	0
			アプライト	灰黄褐		Ⅲg																	
	-103.26	127.35				Ⅳg	cg			アプライト，上位下位との境界不明瞭。	CL'					102							
						Ⅳg																	
						Ⅳg			2														
						Ⅲg				深度129.53～131.46m：節理少なく，柱～短柱状コア主体。													
130			花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg				CM'				3/5 130.50								
						Ⅱg																	
				明褐灰		Ⅳg	cg			深度131.46～133.34m：非常に節理が多く，岩片状コア主体。	CL'	[CM]											
					Dg											123							
				にぶい黄褐		Ⅳg																	
						Ⅲg	bg				CM'												
						Ⅳg				深度134.47m：傾斜73度の節理面に幅10mm程度の石英脈を挟む。													
						Ⅳg																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	にぶい黄褐						
	110.92	136.20		アプライト	にぶい褐	Cg	Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Cg, Ⅰg	bg, cg, bg, cg	γ	2	深度135.62m：シーム。傾斜52度，幅0.1mm。傾斜63度の節理を見かけ0.2～0.3cm正断層的にずらす。 アプライト，上位との境界傾斜10～20度。 深度136.20～150.50m:アプライト。石基は径0.1mm以下である。
140						Dg	Ⅵg	cg		3	深度137.81m：シーム。傾斜67度。幅0.2～5mm，明灰色シルト状。 深度137.81～138.13m：変質帯，上盤67度，下盤75度。節理密集部，一部砂状。 深度138.13m：シーム。傾斜75度。幅1mm，灰白～褐色シルト状。 深度139.63m：シーム。傾斜74度，幅0.2mmの暗灰色シルト状。傾斜50度の節理を見かけ0.5cm正断層的にずらす。
					明赤灰	Cg	Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅳg	bg, cg, bg, cg		2	深度141.55～142.29m：節理多く，節理に沿って砂～細礫状をなす。
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg, Ⅲg	cg			深度144.91m：シーム。傾斜77度。幅5～9mm，暗褐色礫混じり砂状。
					にぶい黄	Dg	Ⅳg, Ⅴg	dg		3	深度147.07～150.50m：変質帯，上盤38度，下盤62度，砂，砂礫状。 深度147.43m：シーム。傾斜77度。幅1～3mm，明桃色シルト状。 深度148.30～148.68m：破砕帯(Hj)。上盤80度，下盤45度。シルト混じり礫状。 深度148.73～148.76m：破砕帯(Hc)。上盤65度，下盤90度。桃白色礫混じりシルト状，暗褐色シルト状。
150	123.31	150.50			にぶい黄橙	Eg	Ⅵg	dg			
						Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg,

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入試験) 試験 (N)値	(N値～深度) 0 10 20 30 40 50	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l／分)	排水量 (l／分)
	-144.52	175.00		花崗斑岩	灰白	Cg	IVg / IIg / IIIg / IVg / IIIg / IVg / IIIg / IVg	bg / cg / bg	β	2		0 50 100	CM	[CM]						3/14 173.80	102 / 120	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	100	0.0	泥水 5	0
																				3/15 175.60								

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No.19	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋14.21 m	角度	180° 上 90° 下0° 20°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 240° 270° 西	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	170.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
					灰色 黄褐						深度0.30～3.59m：盛土。礫混じりシルト質砂で植物片を含む。																
	10.84	3.59		花崗斑岩	橙	Dg	Ⅲg	cg	γ	2	深度3.59～68.15m:花崗斑岩。 径10mm程度の石英，長石及び黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm程度である。 深度3.59～6.00m：柱状・短柱状部分と節理密集部の繰り返し。		CL'													
					にぶい褐	Cg	Ⅳg																				
					明黄褐	Dg	Ⅵg			3	深度6.00～6.44m：変質帯。下盤65度，半固結砂～細礫状。																
					にぶい橙	Cg	Ⅳg				深度6.62～6.90m：変質帯。上盤50度，下盤15度。やや軟質。 深度6.90～9.46m：柱状コアをなすが，変質をうけ，酸化マンガンを斑状に含む。やや軟質で密着性節理多い。		CM'													
					明黄褐	Cg	Ⅲg			2																	
					にぶい黄褐	Dg	Ⅳg																				
					明黄褐	Dg	Ⅵg		δ	3	深度9.46～10.12m：変質帯。下盤25度，半固結砂～細礫状。原岩組織不明瞭。下盤付近に幅15mmの褐色粘土挟む。															
					にぶい黄褐		Ⅲg		γ	2																	
					明黄褐	Cg	Ⅳg						CL'														
						Eg	Ⅵg		δ	3	深度11.52～11.96m：変質帯。上盤50度，下盤57度。全体に黄褐色を呈し，礫混じり固結シルト質砂状。節理に灰白色シルトを挟む。原岩組織不明瞭。 上盤付近に幅5～10mmの灰白色粘土、深度11.68mに幅20mmの灰白色粘土挟む。															
					にぶい黄褐	Dg	Ⅲg																				
					灰褐	Cg	Ⅳg		γ	2			[CL]														
					灰黄	Eg	Ⅴg			3	深度14.23～17.49m：変質帯。網目状を呈し，細礫～角礫状。																
							Ⅵg			4	深度14.73～14.86m：破砕帯(Hc)。上盤28度，下盤27度。幅130mm，褐色粘土と灰白色粘土の互層状。		D'													
					にぶい黄橙	Dg	Ⅴg		δ	3			CL'														
					灰白						深度17.49～17.94m：破砕帯(Hb)。上盤35度。砂質シルト状，褐色粘土を礫状に挟む。															
					にぶい黄橙	Eg	Ⅵg	dg		4	深度17.94～18.17m：破砕帯(Hc)。下盤39度。灰白色粘土状。 深度18.17～18.20m：破砕帯(Hc)。上盤39度，下盤36度。幅23mmの褐色粘土。		D'													
					にぶい褐	Dg	Ⅳg	cg	γ	2	深度18.20～18.35m：破砕帯(Hc)。上盤36度，下盤58度。黄灰と褐色粘土の互層状。下盤に幅2mmの褐色粘土を挟む。 深度18.35～19.70m：破砕帯(Hb)。傾斜は26～75度，30～50度程度が主体。全体に黄橙色細礫混じり砂質シルト状。褐色粘土を縞状に挟む。		CL'													
						Cg																					
					にぶい褐	Dg	Ⅴg			3	深度19.25m:幅2mmの暗灰色粘土，深度19.31m:幅3mmの褐色粘土を挟む。																
						Eg	Ⅵg			4	深度19.70～21.46m：変質・破砕弱くなり，原岩明瞭。																
					にぶい黄橙	Dg	Ⅴg		δ	3	深度21.46～23.70m：変質帯。上盤35度，下盤58度。礫混じりシルト質砂状をなす。礫径3～5cm程度の原岩が残る網目状構造をなす。															
						Eg	Ⅵg	dg		4	深度22.44～22.46m：破砕帯(Hc)。上盤46度，下盤49度。幅20mmの黄灰・褐色粘土互層状。 深度23.70～24.03m：破砕帯(Hb)。上盤58度，下盤32度。やや締まったシルト質砂状。 深度24.03～24.67m：変質帯。やや締まったシルト質砂状。 深度24.67～25.50m：破砕帯(Hb)。上盤19度，下盤38度。やや締まった黄橙色シルト質砂状。原岩不明瞭。		D'	[D]													
					にぶい褐																						

掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
			ダブルコアチューブ／メタルビット	30.0		0.0	泥水5	0
	116	140／ケーシング			50			
12／4 5.20						0.0	泥水5	5
		115／ケーシング						
	105					0.0	泥水5	0
12／5 12.00			ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0				
	90				100			
12／6 16.20		95／ケーシング				0.0	泥水5	5
	118							
12／7 26.40	126							

No.19(1/5)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					にぶい褐	Eg	VIg	dg	δ	4	深度25.50～29.26m：破砕帯(Hj)。上盤38度，下盤34度。礫混じりシルト質砂状。網目状に褐色シルトを挟む。
						Dg	Vg	cg	γ	3	
30											深度29.26～29.50m：破砕帯(Hb)。上盤34度，下盤55度。褐色粘土を挟む灰白色砂質シルト状。 深度29.50～31.30m：破砕帯(Hj)。上盤55度，下盤18度。礫混じりシルト質砂状。深度30.53m，幅5mm褐色粘土状。
					にぶい黄橙	Eg	VIg	dg	δ	4	深度31.30～31.71m：破砕帯(Hb)。上盤18度，下盤25度。黄橙色砂質シルト状～シルト質砂状。 深度31.71～31.75m：破砕帯(Hc)。上盤25度，下盤20度。幅45mmの灰色と褐色のシルトの互層状。
					にぶい黄						深度31.75～32.04m：破砕帯(Hb)。上盤20度，下盤16度。砂質シルト状～シルト質砂状。 深度32.32～35.11m：破砕帯(Hb)。上盤29度，下盤59度。にぶい黄色を呈する砂質シルト状。石英粒子が多く残る。
				花崗斑岩	浅黄						深度32.49m，幅15mmの褐色シルト，深度34.13m幅3～5mmの灰白色シルトを挟む。
					にぶい黄					3	深度35.11～35.14m：破砕帯(Hc)。上盤59度，下盤66度。幅15～18mmの褐色粘土状。 深度35.14～35.33m：変質帯。傾斜50～66度。浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。 深度35.33～36.25m：変質帯。上盤50度，下盤40度。原岩を礫状に残し，網目状に褐色・灰白色シルト～粘土を挟む。
					黄褐	Dg	Vg				深度36.25～38.85m：変質帯。上盤40度，下盤53度。角礫～細礫状，シームを挟む。 深度37.72m：シーム。傾斜50度，幅1mmの褐色粘土状。 深度38.06m：シーム。傾斜55度。幅2mmの褐色粘土状。 深度38.85m：シーム，傾斜53度。幅0.5mmの灰白色粘土状。
					灰黄褐	Cg	IVg				深度38.85～40.62m：黄褐色を呈する変質の弱い花崗斑岩。含礫固結砂状を呈する。
						Dg	Vg				深度41.53～43.49m：細礫～角礫状コア。一部変質を受け砂状をなし，節理に沿って黒褐色化が進む。
						Cg					
						Dg					
	-26.66	43.49				Cg	IVg				アプライト，上位との境界不明瞭。節理の発達したアプライト。角礫～細礫状。全体に褐色化し，一部黄橙色を呈する。 深度43.60～43.75m：ペグマタイトを挟む。
				アプライト	にぶい黄橙	Dg	Vg				深度45.00～45.55m：高角度な節理あり，白色鉱物を挟む。 深度45.55～47.31m：全体に弱く変質をうけ，やや軟質化。 深度46.50～47.00m：高角度な節理あり。節理に沿って幅10～15mm変質する。
						Cg	IVg	cg	γ	2	深度47.31～48.53m：短柱～角礫状を呈し，節理に沿って褐色化著しく，一部砂～細礫状をなす。
	-31.39	48.53			花崗斑岩						花崗斑岩，上位との境界不明瞭，下位との境界傾斜77度。
	-32.46	49.67									深度49.67～53.70m：角礫状をなし，節理に沿って白色鉱物を挟む。
50							Vg				
					にぶい橙		IVg				
							Vg				
							IVg				
					にぶい黄橙		Vg				深度53.70～55.77m：黒褐色化し，やや変質を受けている。 深度54.52～55.77m：高角度な節理多く，一部細礫状をなす。
					にぶい褐		IVg				深度55.49～55.56m：破砕帯(Hc)。上盤75度，下盤79度。幅15mmの緑灰～灰白色シルト状。 深度55.77～56.56m：短柱状コアをなす。
						Dg					深度56.56～61.65m：細礫～角礫状コア。節理に沿って砂～土砂状部を挟む。
					にぶい黄橙		Vg				
60						Cg					深度59.25～59.50m：土砂状コア，基質に細砂～シルトを挟む。
							IVg				
	-43.50	61.41			灰黄褐						花崗斑岩，上位との境界傾斜30度。 深度61.41～68.15m：花崗斑岩。 径2～10mmの石英及び径1～3mmの長石，黒雲母の斑晶を1～3%程度含み，石基は径0.1mm程度。
					明褐						
				花崗斑岩	褐灰			bg			深度61.65～63.50m：短柱状。節理に沿って褐色，黒褐色化進む。

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
D'	[D]						12/8 35.40	126	95／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	100	0.0	泥水5	5
											30.0				
								117			40.0				
							12/11 42.80		76						
								90							
CL'	[CL]						12/13 50.15		76／セメンティング		35.0				
								103					0.0	泥水5	0
							12/14 57.20	107	76						
							12/15 58.80	110					0.0	泥水5	5
							12/16 61.00	104							
CM'															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70	−49.83	68.15		花崗斑岩	褐灰	Cg	Ⅳg	bg			深度63.50～63.97m：土砂状コア。
						Dg	Vg	cg			
					灰黄		Ⅳg				深度64.60～65.00m：高角度な節理発達。角礫～細礫状コアを呈する。
						Cg					深度65.00～68.21m：短柱～角礫状コア。
					灰黄褐	Dg	Vg				
						Cg	Ⅳg	bg			
						Dg	Vg	cg			深度67.11～67.64m：変質受け，高角度な節理発達し，一部土砂状を呈する。
						Cg	Ⅳg				
					にぶい黄橙	Dg	Vg				アプライト，上位との境界不明瞭。
							Ⅳg				深度68.15～154.80m：アプライト。厚さ1.1～6.7mの花崗斑岩を挟む。アプライトの石基は径0.1～0.2mmであり，斑晶は不明瞭である。
							Ⅲg				深度68.21～68.68m：石英脈発達，黒褐色酸化マンガン汚染顕著。
					灰黄褐	Cg					深度68.68～69.75m：節理に沿って褐色シルトを挟む。
							Ⅳg	bg			深度69.75～72.00m：節理少なく，柱状～短柱状コアをなす。一部変質部を挟む。
							Vg	cg			深度71.31～71.34m：シーム。上盤69度，下盤67度。幅8mmの礫混じりシルト状。
							Ⅳg	bg			深度72.00～74.03m：節理が多い，一部変質を受ける。
					にぶい黄橙						深度74.03m以深，斑状に褐色～黒褐色を帯びるが，岩芯は新鮮岩。
					褐灰						
					にぶい黄	Dg	Vg	cg			深度76.16～77.11m：高角度な節理があり，細片状コアをなす。
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	深度77.11～81.41m：全体に褐色化し，節理に沿って褐色化強く，一部黒褐色を帯びる。
							Ⅲg				
						Bg					
							Ⅳg				
					にぶい褐		Ⅲg				深度81.41～83.34m：節理間隔が広く，柱状コアをなす。岩芯まで斑状に褐色を帯びる。
							Ⅳg				
						Cg	Vg	cg			深度83.34～84.38m：節理密集し角礫～細礫状，一部土砂状をなす。
							Ⅲg				深度84.38～85.18m：硬質柱状コア。
					灰褐		Ⅳg	bg			深度85.18～86.63m：傾斜30～60度の密着した節理発達。径3～5cm程度の礫状を呈する。
							Vg	cg			深度86.63～87.81m：節理密集し角礫～細礫，一部土砂状をなす。
								bg			深度87.81～88.68m：密着した節理が発達。
					灰黄褐	Dg	Ⅳg	cg			深度88.68～91.79m：やや変質をうけ，岩質脆い。密着した節理が発達し，一部細礫状をなす。節理に沿って褐色・灰白色シルト～砂を挟む。
90						Eg	Ⅵg	dg		3	深度91.79～92.50m：変質帯。上盤50度，下盤84度。網目状にシルト質砂状を呈する。
					灰褐	Cg	Ⅳg	cg		2	深度92.25m：シーム。幅2～3mmの褐色粘土を挟む。
											深度92.50m：シーム。幅1mmの褐色粘土を挟む。
											深度92.50～95.04m：角礫～短柱状コア。節理に沿って砂や褐色シルトを挟む。
											深度93.70m以深，節理に沿って褐色化顕著。
											深度95.04～95.47m：節理多く，一部土砂状。
								bg			深度96.58～97.09m：節理多く一部角礫状。節理に沿ってわずかに砂を挟む。
											深度98.79～99.73m：変質帯。上盤60度，下盤57度。黄褐色を呈し，やや軟質。
											深度99.73m：シーム。傾斜57度。幅2mmの褐色粘土状。
					にぶい黄橙	Dg		cg		3	

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM															
CL													0.0	泥水5	5
CM															
CL															
CM	[CL]														
CL													0.0	泥水5	0
CM															
CL															
CM															
CH															
CM															
CL	[CM]														
CM															
CL															
CM															
CL															
D															
CL	[CL]														
CL															
CM															
CL															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				アプライト	にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	cg	γ	3	深度99.73～100.76m：節理多く，一部変質により軟質化する。
					黄褐		Ⅲg				
					灰褐	Cg					深度100.76～102.15m：変質をうけ，全体に脆い。高角度な節理発達し，節理に沿って褐色・灰白色シルトを挟む。
					にぶい黄橙	Dg					
					にぶい橙						
	-82.30	102.70			褐灰	Cg	Ⅳg	cg		2	花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
				花崗斑岩							深度102.70～108.00m：花崗斑岩。径2～10mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を1～10%程度含み，石基は径0.1mm以下である。
	-83.24	103.70		アプライト				bg			深度103.94～104.03m：変質をうけ軟質化し，細礫状をなす。
							Ⅲg				花崗斑岩，上位との境界傾斜41度。
	-84.32	104.85		花崗斑岩	灰黄	Eg	Ⅵg	dg	δ	3	深度106.16m：シーム。傾斜28度。幅1～2mmの褐色粘土状。
110					黄灰	bg		cg			深度106.16～106.84m：変質帯。上盤28度，下盤45度。灰黄色を呈しやや軟質。
					褐灰	Cg	Ⅳg	bg		2	深度106.16～106.27m：礫混じり砂質シルト状。
							Ⅲg				アプライト，上位との境界傾斜45度。
	-87.28	108.00									深度108.00～137.60m：アプライト。石基は径0.1～0.2mm程度。
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	cg		3	深度108.91～：弱く変質をうけ節理に沿って灰白色シルトを挟む。
											深度109.52～109.72m：変質帯。上盤76度，下盤73度。軟質化，深度109.60mに幅2mmの灰白色シルトを挟む。
					褐灰		Ⅲg	bg	γ		深度110.39～114.34m：節理の多い，短柱～角礫状コア。
							Ⅳg				
					灰黄褐	Cg	Ⅲg			2	深度112.70～113.48m：やや変質を受けている。深度113.06mに幅10mmの灰白色シルトを挟む。
							Ⅳg				
								cg			深度114.34～115.00m：変質を受け節理に灰白色シルトを挟む。
					褐灰		Ⅲg	bg			深度115.00～116.85m：やや節理の少ない柱状～短柱状コア。傾斜20～40度の節理主体。
							Ⅳg				
					にぶい黄橙	Dg	Ⅴg	cg		3	深度116.85～118.56m：変質帯。上盤79度，下盤76度。節理に沿って高角度に灰白色固結シルト～砂を挟む。細かな密着した節理が多い。
						Eg	Ⅵg	dg	δ		深度118.14～118.37m：変質帯。上盤38度，下盤45度。固結シルト質砂状。原岩組織を残さない。
120					黄灰	Dg	Ⅴg	cg			深度118.37m：シーム。傾斜45度。幅1mmの褐色粘土状。
								bg			
								cg			
					にぶい褐灰		Ⅳg				深度120.65～122.00m：柱状～短柱状，一部角礫状コア。
					にぶい黄橙						深度122.00～124.00m：節理に沿って黄褐色化，高角度な密着した節理あり。
							Ⅲg	bg			
					褐灰	Cg				2	深度124.00～126.68m：柱状～短柱状コア。所々節理に沿って砂～細礫状部分を挟む。
					灰黄			cg	γ		深度127.30～127.37m：幅25mm，黄灰色砂状。
							Ⅳg				
130					褐灰			bg			
					灰黄	Dg	Ⅴg	cg		3	深度131.74～132.16m：変質帯。上盤61度，下盤54度。シルト質砂が網目状を呈する。
						Cg	Ⅳg				深度132.52～136.26m：全体に弱く変質を受けたアプライト。節理多く，一部細礫～角礫状コア。
					灰黄褐	Dg	Ⅴg			2	
						Cg					
						Dg					
						Cg	Ⅳg				

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100					0 10 20 30 40 50											
[36]	CL'	[CL]							82							
[20]	CM'							12／27 02.70	113							
[60]								1／6 04.40						0.0	泥水5	0
[38]	CM'								84							
[43]	CL'							1／8 09.00								
[33]	CM'								94							
[53]		[CM]						1／9 16.70		76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	100	0.0	泥水5	3
[41]	CL'															
[18]	CM'								96							
[24]								1／10 124.90								
[28]									105					0.0	泥水5	2
[33]	CL'															
[10]	CM'															
[12]	CL'	[CL]						1／11 132.80	104					0.0	泥水5	5

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					灰黄褐	Dg					
						Cg		cg			深度136.26～136.34m：砂質シルト状，褐色粘土を挟む。
						Dg					
							Ⅳg				
	115.09	137.60		アプライト	褐灰			bg			花崗斑岩，上位との境界傾斜28度。
						Cg	Ⅲg				深度137.60～149.85m：花崗斑岩。
							Ⅳg				径2～10mmの石英及び径1～2mmの長石，黒雲母の斑晶を1～10%程度含み，石基は径0.1mm以下である。
140							Ⅲg				深度138.23～138.46m：傾斜60～70度の節理多く，変質により珪化し，節理に灰白色粘土挟む。
								cg			深度140.26～140.80m：やや変質を受け節理多く軟質。深度140.26mに幅3～10mmの灰白色シルトを挟む。
								bg		2	
						Dg	Ⅳg	cg			深度141.95～142.34m：やや変質を受け節理多く軟質，深度142.34mに桃白色シルトを挟む。
					灰褐	Cg		bg			深度142.34～144.38m：傾斜0～30度の低角度な節理が多い。
							Ⅴg				深度144.38～146.35m：全体に節理多く，角礫～細礫状をなす。
							Ⅳg				
						Eg	Ⅴg	cg			
					灰黄褐	Cg	Ⅳg	bg			深度146.35～147.40m：節理の多い硬質な花崗斑岩。傾斜60度程度の節理主体。
						Dg	Ⅴg				
						Eg	Ⅵg			4	深度147.93～148.05m：破砕帯(Hb)。傾斜37度。幅120mm，灰褐色礫混じりシルト質砂状。
						Cg	Ⅳg	cg		2	深度148.05～148.12m：破砕帯(Hc)。傾斜37度。幅70mm，灰色粘土と黄灰色粘土の互層状。
	126.60	149.85					Ⅲg				アプライト，上位との境界傾斜48度。
					褐灰		Ⅳg				深度150.52～151.52m：変質帯。上盤15度，下盤29度。網目状に灰白色シルトを挟む。
150					明褐灰	Dg	Ⅴg			3	深度150.58m：シーム。傾斜51度。幅3～7mmの褐色粘土を挟む。
						Cg					深度151.39m：シーム。傾斜53度。幅3mmの褐色粘土を挟む。
						Dg					
				アプライト	褐灰				γ		
						Cg	Ⅳg	bg			
					灰褐						
	131.25	154.80				Dg	Ⅴg	cg			花崗斑岩，上位との境界不明瞭。
							Ⅳg				深度154.80～170.00m：花崗斑岩。厚さ2.3m程度のアプライトを挟む。
					褐灰						花崗斑岩は，径2～3mmの石英，長石，黒雲母の斑晶を10%程度含み，石基は径0.1mm以下で，組織は全体に不均質である。
				花崗斑岩		Cg	Ⅲg	bg		2	深度154.95～155.26m：節理密集し，細礫～角礫状をなす。節理に灰白色シルトを挟む。
	133.93	157.65			灰褐		Ⅳg				アプライト，上位との境界傾斜44度，下位との境界不明瞭。
				アプライト							
							Ⅴg				深度159.13m：シーム。傾斜60度，幅1～2mmの褐色粘土状。
160	136.14	160.00			明褐灰						
						Dg	Ⅳg	cg			
					灰黄褐		Ⅴg				
							Ⅳg				深度161.49～161.55m：幅50～90mmの灰黄色シルト混じり砂・礫状。破砕帯の会合部の可能性あり。
							Ⅴg			3	深度162.43m：シーム。傾斜20度，幅1mmの褐色粘土を挟む。
					灰黄	Eg	Ⅵg	dg		4	深度162.43～163.15m：変質帯。灰白色砂状。
						Cg	Ⅳg				深度162.52m：傾斜10度のマンガン脈が正断層的に0.5cmずれる。条線方向は10度左。
						Dg	Ⅲg				深度163.15m：シーム。傾斜57度。幅2～3mm，白色粘土状。
						Cg	Ⅰg				深度163.92～168.02m：高角度な密着した節理主体，開口した節理少ない。
						Bg					
						Cg	Ⅲg	bg			
					灰黄褐		Ⅱg			2	
						Cg					
							Ⅲg				
						Dg	Ⅳg	cg			深度168.28～168.32m：破砕帯(Hc)。上盤63度，下盤45度。幅20～30mm，礫混じりシルト状～砂質シルト状。
							Ⅱg	ag			
							Ⅳg	cg			深度168.84～168.88m：幅23～40mm，桃色シルト混じり砂状。
	145.54	170.00				Cg	Ⅱg	ag			

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 N値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CL'	[CL]							76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	35.0	100	0.0	泥水5	5
CM'							104				150			
CL'						1/12 40.60								
CM'							111							
CL'														
CM'														
CL'						1/13 48.00		76／セメンティング				0.0	泥水5	0
CM'	[CM]													
CL'														
CM'														
CL'														
CM'							111							
CL'														
CM'														
CL'											100			
CM'						1/15 155.80						0.0	泥水5	5
						1/16 157.00	80							
CM'														
CL'							98					0.0	泥水5	3
	[CL]													
D'								76						
CL'						1/17 163.50								
CM'														
CM'	[CM]						98					0.0	泥水5	0
CL'						1/18 170.00								
CM'														

余白

2. 委託報告書（平成20年） ボーリング柱状図

余白

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	①-1	調査位置						北緯	
発注機関				調査期間				東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+66.64 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 20°	使用機種	
総掘削長	90.00 m							試錐機	ハンマー落下用具
								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入試験) N値～深度	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	66.60	0.04	盛土 シルト混じり砂		にぶい黄橙						0.00～0.04m:表土。黒褐色を呈する腐植土からなる。 0.04～1.31m:マサ土。にぶい黄橙色を呈するシルト混じり砂からなる。																	
	65.33	1.31			橙					3	1.31～10.93m:アプライト。 径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を5%程度含む。全体に風化が著しく，軟質である。また，8m付近まで赤色化している。																
					灰白					4	2.66～2.95m:破砕帯(Hc)。上盤不明。下盤70°。幅10cm程度。灰白色粘土からなる。D級岩盤中で面は不明瞭である。																
					橙						3.60～7.92m:マンガンが網目状に分布している。																
					灰白				ε	3																	
					明黄褐																						
					橙																						
					明黄褐																						
					浅黄橙																						
					灰白					3	8.64～10.63m:破砕帯(Hc)。上盤27°下盤54°。全体幅117cm程度。灰白色～灰黄色粘土からなる。間には非破砕部を含む。 深度10.24mに傾斜74°の明瞭な面構造がみられる。																
					黄灰				δ	4																	
10					灰白				γ																		
	55.71	10.93			明褐灰						10.93～55.15m:花崗斑岩。 径2～10mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～25%程度含む。上位のアプライトとの境界は漸移的である。																
					にぶい黄橙																						
						Dg	Ⅲg	cg	γ																		
						Eg	Ⅵg	dg																			
						Eg	Ⅵg	dg																			
						Dg	Ⅱg				13.72～13.80m:変質帯。上盤68°，下盤54°。幅3cm程度。褐灰色粘土からなる。																
						Eg	Ⅴg			3	13.90～14.17m:変質帯。上盤49°，下盤71°。幅12cm程度。軟質化している。灰褐色を呈する。																
						Cg	Ⅱg				14.17～25.24m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。																
							Ⅳg				14.17～18.78m:傾斜25°及び60°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴う。																
						Dg	Ⅲg																				
						Cg	Ⅳg																				
							Ⅲg																				
							Ⅳg																				
							Ⅱg				17.45～17.51m:変質帯。上盤67°，下盤80°。幅1cm程度。節理に沿って不規則に軟質化している。																
						Dg	Ⅳg																				
							Ⅲg																				
							Ⅱg				18.78～21.51m:傾斜20°及び80°程度の節理がみられる。節理には灰白色粘土を伴う。																
							Ⅲg																				
20							Ⅱg																				
							Ⅲg																				
						Eg	Ⅳg																				
							Ⅲg																				
						Dg	Ⅳg				21.51～21.73m:変質帯。上盤81°，下盤25°。幅3cm程度。軟質化している。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。 21.51～46.69m:傾斜30°，50°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。																
							Ⅲg																				
						Eg																					
						Dg	Ⅳg				23.62～23.80m:変質帯。上盤83°，下盤85°。幅2cm程度。軟質化している。灰黄色を呈する。																
						Cg	Ⅲg				25.24～31.70m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				花崗斑岩	明赤灰	Cg	Ⅳg	cg			27.24m:シーム。傾斜54°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。
						Dg	Ⅳg				
						Cg	Ⅱg	bg	γ		
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Dg	Ⅲg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				
						Bg					
							Ⅳg		δ		
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				31.70～36.80m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。
						Bg		cg			
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				
						Dg	Ⅳg		γ		36.80～37.44m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。
						Cg					37.44～42.01m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					淡赤橙		Ⅳg				
						Bg	Ⅲg				
							Ⅳg				
40					明赤灰		Ⅲg	bg			
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
						Cg	Ⅳg	cg			42.01～44.70m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
							Ⅲg				
						Dg	Ⅳg		δ		
											43.55m:シーム。傾斜70°。幅0.4cm程度の黒色粘土からなる。これより上盤側はコアが軟質となっている。
						Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				
					灰白	Dg	Ⅳg			3	
											44.70～54.06m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
						Bg	Ⅱg	bg			44.80～46.54m:有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。
						Cg	Ⅲg	cg			
						Bg	Ⅱg	bg			
											46.69～54.06m:傾斜20°程度の節理が目立ち，節理に沿って褐色化している。
					褐灰		Wg				
						Cg	Ⅲg	cg			
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Bg		bg			50.22～53.92m間は斑晶がやや少なくアプライト様を呈する。
							Wg				
							Ⅱg				
							Wg				
							Ⅲg				
							Wg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Wg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Wg				
						Cg	Ⅳg	cg			54.06m:シーム。傾斜82°。幅0.8cm程度の褐色粘土からなる。これより下盤側はコアが軟質となっている。
											54.06～57.15m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。傾斜20°及び75°程度の節理が発達している。
	11.49	55.15				Bg		bg			55.15～55.48m:アプライト。径1～8mm程度の石英，長石の斑晶を2～3%程度含む。上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。
	11.16	55.48		アプライト		Cg					
						Dg	Ⅴg	cg			55.48～90.00m:花崗斑岩。径2～15mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～30%程度含む。上位のアプライトとの境界は比較的明瞭で傾斜35°程度である。
						Cg	Ⅱg				
							Ⅳg	bg			56.40～56.48m:変質帯。上盤26°，下盤41°。幅6cm程度。角礫状を呈する。上盤，下盤の境界は不明瞭である。
							Wg	cg			
						Bg	Ⅳg				57～64m付近は径20mm程度の大きな石英の斑晶が目立つ。
							Ⅲg				57.00～59.11m:傾斜30°程度の節理がみられる。
							Ⅳg				57.15～60.79m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。
							Wg				59.11～72.15m:傾斜25°及び70°程度の節理がみられる。
						Cg	Ⅳg	bg			60.79～63.79m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
60					明赤灰	Bg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				
						Dg	Ⅳg	cg			
						Cg	Wg	bg			

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
									95／ケーシング						
								101							
							3／21 32.50								
								113							
							3／24 34.20								
								85					0.1	泥水2	1
							3／25 35.90								
								105					0.1	泥水2	2
							3／26 43.25								
								88					0.1	泥水3	3
							3／27 49.40								
								70					0.1	泥水3	2
							3／28 55.00								
								87							
							3／29 58.90								
								83							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
				花崗斑岩	明赤灰	Cg	IVg	bg	γ	3	62.98～63.00m:変質帯。上盤70°，下盤70°。幅1cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 63.79～68.12m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 64.15～65.17m:コアの表面が褐色化している。	CM' 62.50			3/31 62.20	83	76	ダブルコアチューブ/ダイヤビット	10.0		0.1	↑	2
						Dg		cg				CL' 63.42											
						Cg	IIg	bg															
					橙	Bg	IIIg					CM'				87					0.1	泥水4	2
							IVg																
							IIIg																
							IVg																
							IIIg																
							IVg																
							IIIg																
					明赤灰	Cg	IVg																
							IIIg																
						Bg	IVg																
							IIIg																
					灰白		IVg	cg	β			CH' 67.19											
							IIIg					CM'								200			
					明褐灰	Cg	IVg	bg			68.12～79.87m:コアの硬軟を細かく繰り返す。				4/1 68.30								
						Dg	Vg																
						Eg	VIg	dg		4	68.72～69.02m:破砕帯(Hc)。上盤68°下盤81°。幅5cm程度。淡赤橙色粘土からなり，マンガンによる縞状構造がみられる。												
						Dg		cg															
70						Cg	IVg																
								bg			70.85～70.88m:シーム。傾斜80°。幅0.5cm程度の黒色粘土からなる。	CM'	[CM]			92							
							IVg			3													
						Bg	IIg																
							IVg																
						Dg		cg			72.15～73.06m:傾斜70°程度の節理が目立つ。	CL' 72.80											
						Cg	Vg																
					褐灰	Bg	IVg	bg	γ		73.06～74.30m:傾斜20°及び60°程度の節理がみられる。	CM'			4/2 74.30								
					明褐灰	Eg	VIg	dg		4	74.35～74.78m:変質帯。上盤26°，下盤42°。幅22cm程度。上部は礫混じり灰黄色シルト状，下部は原組織が認められ，灰白色粘土が網目状に分布する。 75.10～75.68m:傾斜70°程度の2系統の節理が発達し，格子状を呈する。 75.68～77.70m:傾斜75°程度の節理が目立つ。	D' 74.78											
						Cg	IVg	cg				CL' 75.75				73				100	0.1	泥水4	3
						Dg																	
						Bg	IIIg	bg				CM' 76.27			4/3 76.50								
							IVg					CH' 76.80											
							IIg																
					にぶい橙	Cg	IVg					CM' 77.60											
						Dg	Vg	cg			77.60～78.00m:変質帯。上盤58°，下盤83°。幅5cm程度。マンガンにより黒色を呈する節理密集部からなる。これより下盤側は節理沿いにマンガンを伴うことが多い。 78.00～90.00m:傾斜30°及び75°程度の節理がみられる。	CL' 78.00											
						Cg	IVg	bg															
							IIIg					CM'											
					淡黄橙	Dg	IVg	cg	δ			CL' 79.21											
80					灰赤	Bg	IIIg	bg	γ	3	79.79m:シーム。傾斜74°。幅0.2cm程度の黒色粘土からなる。これより上盤側は同系統の節理が発達している。 79.87～90.00m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。	CH' 79.87	79.87										
							IIg																
							IIg																
					明褐		IIIg																
							IIg																
							IIIg																
							IVg																
							IIIg																
					にぶい橙	Bg	IIg														0.1	泥水5	0
							IIIg																
							IVg																
							IIIg																
							IIg																
							IIIg																
						Cg	IVg	cg															
							IIg																
					褐灰	Bg	IIIg	bg			86.09～86.12m:幅2～5mm程度の石英脈が3条程度並走する。傾斜は70°程度でマンガンを伴う。 86.38～86.48m:幅1mm程度の不明瞭な石英脈が密集する。傾斜は45°程度 87.72～89.12m:マンガンが斑点状に分布する。 87.83m:幅3mm程度のマンガン脈が分布する。傾斜は71°。 88.45m:幅1～3mm程度のマンガン脈が分布する。傾斜は80°。	CH'											
							IIg																
							IIIg																
							IIg																
							IIIg																
					明褐灰		IIIg																
	-23.36	90.00										90.00	90.00		4/7 90.00	80				150	0.1	泥水5	0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	①-2	調査位置				北緯	
発注機関			調査期間			東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 66.14 m	角度	180° 上 90° 下0° 36°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 8°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 20°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	115.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	66.08	0.08		盛土							0.00～0.08m:植物根混じり腐植土。																
	65.85	0.36		腐植混じり砂							0.08～0.36m:腐植混じり砂。全体に植物根を含む。																
	62.96	3.93		シルト混じり砂	にぶい橙 にぶい黄橙						0.36～3.93m:マサ土。にぶい橙～黄橙色を呈するシルト混じり砂からなる。所々，花崗斑岩やアプライトの岩片を含む。																	
	62.56	4.42		花崗斑岩	橙	Eg	VIg	dg	ε	3	3.93～4.42m:花崗斑岩。	0 [0]	D'														
	62.13	4.96		アプライト	淡橙						4.42～4.96m:アプライト。ブロック化した岩盤と推定される。	0 [0]															
	61.62	5.59		シルト質砂	橙						4.96～5.59m:橙色を呈するシルト質砂からなる。	0 [0]															
	59.87	7.75		アプライト	浅黄橙					3	5.59～7.75m:アプライト。径1～5mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を3%程度含む。全体に風化，変質し原岩組織が不明瞭である。	0 [0]																
	59.51	8.20		花崗斑岩							5.59～34.91m:コアは風化，変質により軟質で，ハンマーで著しい濁音を発する。	0 [0]																
	59.09	8.72		アプライト							7.75～10.70m:アプライトと花崗斑岩が互層状に分布する。アプライトは径1～2mm程度の石英，長石，径1mm以下の黒雲母の斑晶を3%程度含む。花崗斑岩は径1～7mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5～7%程度含む。両者の境界は漸移的である。	0 [0]																
	58.56	9.37		花崗斑岩	橙						9.37～9.58m:マンガンが濃集し，暗灰色を呈する。	0 [0]			5/8 9.66												
	58.23	9.78		アプライト							10.70～32.11m:花崗斑岩。径3～12mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～15%程度含む。全体に風化，変質し原岩組織が不明瞭である。	0 [0]																
	57.89	10.20		花崗斑岩					ε		11.73～11.91m:破砕帯(Hc)。上盤67°，下盤25°。幅7cm程度。灰白色粘土からなる。縞状構造がみられる。	0 [0]																
	57.48	10.70		アプライト	黄橙					4	13.27～13.61m間は斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。	0 [0]																
	55.40	13.27		花崗斑岩	橙						13.52～14.81m間は赤橙色を呈する。	0 [0]																
	55.13	13.61		アプライト	浅黄橙							0 [0]																
	51.46	18.15		花崗斑岩	赤橙 淡黄 浅黄橙 黄橙	Eg	VIg	dg	δ	3		0 [0]	D'	[D]														
	51.14	18.54		アプライト	浅黄橙						18.15～18.54m間は斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。	0 [0]			5/9 19.40 19.68												
	47.81	22.66		花崗斑岩	黄橙 浅黄橙					4		0 [0]																
	47.67	22.83		アプライト							22.63～22.66m:破砕帯(Hc)。上盤60°下盤56°。幅2cm程度。灰白色粘土からなり，下盤に暗褐色粘土を伴う。	0 [0]																
	47.29	23.30		花崗斑岩	にぶい橙					3	22.66～22.83m，23.30～23.89m間は斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。	0 [0]																
	46.81	23.89		アプライト							22.91～23.08m:変質帯。上盤77°，下盤62°。幅8cm程度。灰白色粘土からなる。膨縮著しく，不規則な形状を呈する。	0 [0]																
				花崗斑岩	灰白						24.74～24.80m:変質帯。上盤50°，下盤31°。幅4cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。	0 [0]																
												0 [0]	26.00	26.00														

掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
4/30 9.50	557	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルクラウン	20.0	60	0.0	泥水 10	10
5/1 9.10	312			30.0				
5/7 11.20	630							
5/8 23.30	454	95／ケーシング		40.0		0.1	泥水 10	10
	470					0.1	泥水 10	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	灰白					3	25.64～25.73m:変質帯。上盤57°，下盤46°。幅5cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
	44.04	27.32									26.80～26.90m:節理に沿ってマンガンが網目状に分布する。
	43.79	27.62		アプライト							27.31～27.39m:変質帯。上盤69°，下盤55°。幅3cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
				花崗斑岩	淡橙	Eg	ⅥIg	dg	δ	4	27.32～27.62m間は斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。
30											27.97～28.21m:変質帯。上盤不明，下盤48°。幅16cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
	41.70	30.21									
	41.34	30.66		アプライト						3	30.21～30.66m間は斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。
				花崗斑岩	浅黄橙	Dg	ⅣIg	cg			
	40.16	32.11									32.11～34.91m間は斑晶の含有量が5%程度のアプライトからなる。
				アプライト		Eg	ⅥIg	dg		4	32.90～34.91m:破砕帯(Hc,Hb,Hj)。上盤66°，下盤63°。幅91cm程度。主に灰白色粘土からなり，一部に原岩組織が残る。
					灰白						
	37.90	34.91									
					浅黄橙		Ⅴg				34.91～58.50m:花崗斑岩。径1～10mm程度の石英，長石，径6mm以下の黒雲母の斑晶を10～20%程度含む。全体に斑晶が小さい。
						Dg	ⅣIg	cg		3	34.91～45.65m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。
							Ⅴg				35.00～35.20m:節理に沿ってマンガンが網目状に分布する。
					淡橙	Cg		bg	γ		35.64m以深は節理に沿って褐色化を呈することが多い。
						Dg	ⅣIg				
						Cg					
						Dg	Ⅴg				
40							Ⅳg				
						Cg	ⅣIg			3	40.00～40.50m:コアの表面が褐色化している。
					橙	Dg	Ⅴg	cg			
							Ⅴg				
					淡橙	Dg					41.08m:シーム。傾斜84°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。周辺は節理が発達している。
							ⅣIg				
						Cg					
					黄橙	Dg	ⅣIg				
						Eg	ⅥIg	dg	γ		
				花崗斑岩	淡橙	Dg	ⅣIg	cg			44.95m:シーム。傾斜53°。幅0.6cm程度の黒色粘土からなる。周辺は節理が発達している。
							Ⅱg				45.61～45.65m:変質帯。上盤60°，下盤45°。幅2cm程度。黄褐色砂状を呈する。上盤と下盤の傾斜方向が異なる。
						Bg	ⅣIg	bg			
							ⅣIg	cg			45.65～50.36m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
						Cg	Ⅴg				
							ⅣIg	bg		2	
						Bg	ⅣIg				
							Ⅴg				
50						Bg	ⅣIg				
						Cg	Ⅴg				50.36～52.74m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
							Ⅲg				
						Dg	Ⅴg	cg		3	51.83m:シーム。傾斜40°。幅0.7cm程度の礫混じり黒色粘土からなる。変形構造が認められる。
						Cg	ⅣIg				
						Dg	Ⅴg				
						Cg	ⅣIg			2	52.74～58.36m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
							Ⅴg				
						Bg	ⅣIg		γ		
							Ⅴg			3	
						Bg	ⅣIg				54.63～54.66m:変質帯。上盤40°，下盤50°。幅2cm程度。軟質化している。下盤に幅0.2cm程度の灰白色粘土を伴う。
						Cg	ⅣIg	bx			
						Cg		cg			55.51～58.00m:節理に沿って淡緑灰色を呈する粘土を伴うことが多い。
							ⅣIg				
							Ⅲg			2	
						Bg	ⅣIg				
							Ⅴg	bg			
							Ⅲg				
					にぶい橙	Cg	ⅣIg				58.36～70.46m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
						Cg		cg		3	58.50～60.10m:花崗斑岩。上位に比べて斑晶が大きく，含有量も20～25%程度と多くなる。境界は漸移的である。
						Eg	ⅥIg	dg			
							Ⅴg				
						Dg	ⅣIg				
60							Ⅴg				
						Cg				2	58.68～59.39m:変質帯。上盤80°，下盤86°。掘削方向とほぼ平行に分布するため幅は不明。軟質化している。
						Dg					
					浅黄橙		ⅣIg	cg			60.10～66.10m:花崗斑岩。上位に比べて斑晶が小さく，含有量も10～15%程度と少なくなる。境界は漸移的である。
						Cg					
							ⅣIg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	26.00													
D'						5／9 28.00	470		ダブルコアチューブ／メタルクラウン			0.1	泥水10	0
	[D]									40.0	60			
	31.00											0.1	泥水10	10
CL'	31.65													
D'						5／10 35.00	162	95／ケーシング				0.1	泥水5	0
	34.91	34.91												
		5／23 35.40												
		5／28 39.70				5／12 37.10	105			50.0				
		46.50												
CL'	[CL]											0.1	泥水5	5
						5／14 43.10	124							
	45.65	45.65												
CH'														
	46.47													
CM'														
	49.00													
CL'	49.43													
CM'							113	76			100			
	50.36													
CL'														
	[CM]													
	52.74					5／15 52.85				40.0		0.1	泥水5	0
CM'														
CH'	57.98						101							
	57.94													
CM'	58.06	58.36												
CL'	[CL]													
	61.81					5／16 60.75	95							
	62.00													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				花崗斑岩	浅黄橙	Bg	Ⅳg	cg	γ	2	
						Dg	Ⅴg				
					淡橙	Cg	Ⅳg				
						Bg	Ⅳg				
						Cg	Ⅴg				
						Dg	Ⅳg				
					浅黄橙	Eg	Ⅵg	dg		4	
										3	66.08～67.28m:破砕帯(Hc,Hj)。上盤80°，下盤60°。幅21cm程度。原岩組織が認められ，灰白色粘土が網目状に分布する。上盤，下盤には灰白色粘土を伴う。上盤，下盤境界は明瞭である。
										4	
						Dg	Ⅳg	cg		3	66,10～68.65m:花崗斑岩。 上位に比べて斑晶が大きく，含有量も20%程度と多くなる。境界は漸移的である。
							Ⅴg				
					淡橙	Cg					67.58～67.65m:変質帯。上盤60°，下盤60°。幅3.5cm程度。軟質化している。褐色化を呈する。
							Ⅳg				68.65～70.73m:花崗斑岩。 上位に比べて斑晶が小さく，含有量も10～15%程度と少なくなる。境界は漸移的である。
						Bg	Ⅳg				70.35～70.37m:変質帯。上盤44°，下盤50°。幅1.3cm程度。軟質化している。黄褐色を呈する。
						Cg	Ⅱg				70.46～81.15m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
						Bg	Ⅳg				70.73～74.50m:花崗斑岩。 上位に比べて斑晶が大きく，含有量も20%程度と多くなる。境界は漸移的である。
							Ⅳg	cg			
							Ⅱg	bg			
					淡橙	Cg	Ⅴg	cg			74.50～86.24m:花崗斑岩。 上位に比べて斑晶が小さく，含有量も10～15%程度と少なくなる。境界は漸移的である。
						Bg	Ⅳg	bg			
						Cg	Ⅴg	cg		3	76.82～76.86m:変質帯。上盤50°，下盤30°。幅2.5cm程度。灰褐色砂状を呈する。
					明褐灰	Bg	Ⅲg	bg	β	2	76.99～77.02m:変質帯。上盤不明。下盤53°。幅1.8cm程度。灰黄色砂状を呈する。
							Ⅱg				77.39m:シーム。傾斜40°。幅0.6cm程度。黄褐色礫混じり粘土からなる上盤側は同系統の節理が発達する。
							Ⅲg				
					淡橙	Dg	Ⅴg	cg	γ	3	81.15～89.31m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
						Cg	Ⅵg				
						Dg	Ⅴg				81.15m:シーム。傾斜70°。幅0.3cm程度の灰白色，褐色粘土からなる。下盤側は節理が発達している。
						Cg				2	81.80m:シーム。傾斜49°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。
					浅黄橙	Bg	Ⅳg	cg			82.09m:シーム。傾斜70°。幅1cm程度。黄白色粘土混じり砂からなる。周辺の節理を切っている。
						Cg				3	
						Dg	Ⅲg			2	
						Bg	Ⅳg				
					淡橙	Dg				3	85.26m:シーム。傾斜70°。幅0.2cm程度。灰白色粘土からなる。石英脈を伴う。
							Ⅳg				
						Cg	Ⅴg			2	85.89～85.93m:変質帯。上盤20°，下盤56°。幅4cm程度。軟質化している。黄褐色を呈する。
							Ⅳg	bg			86.16～86.24m:変質帯。上盤70°，下盤50°。幅5cm程度。淡黄色砂状を呈する。
					浅黄橙	Dg	Ⅵg	cg		3	
						Cg	Ⅳg				86.24～100.27m:花崗斑岩。 上位に比べて斑晶が大きく，含有量も15～20%程度と多くなる。境界は漸移的である。
						Dg					
						Cg	Ⅲg				
					にぶい橙	Bg	Ⅳg				87.31～87.60m:変質帯。上盤80°，下盤81°。幅5cm程度。同系統の節理が発達している。
						Cg					89.31～98.60m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					明褐灰		Ⅱg				
						Bg	Ⅴg				
							Ⅳg				
					にぶい橙		Ⅱg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	cg		2	92.69m:シーム。傾斜45°。幅0.2cm程度の灰黒色粘土からなる。せん断性節理がみられる。
							Ⅱg	bg			
					浅黄橙	Bg	Ⅳg				
						Cg		cg			
						Dg	Ⅲg				
							Ⅱg				
					明褐灰		Ⅲg	bg			
						Bg	Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100		62.00			0 10 20 30 40 50											
[10]	CM'	62.65														
5 [0]	CL'	64.53														
7 [0]	CM'	65.09														
8 [0]	CL'	66.08														
6 [0]	D'	67.28	[CL]													
1 [1]	CL'															
1 [1]																
17 [39]	CM'	70.48	70.46													
34 [60]	CH'	71.45														
29 [41]	CM'	72.28														
18 [31]			[CM]													
15 [36]	CL'	74.51														
5 [0]	CM'	75.14														
16 [26]	CL'	76.82														
4 [24]		77.40	77.42													
16 [73]	CH'		[CH]													
38 [80]																
23 [83]		81.15	81.19													
7 [0]	CL'															
6 [0]		82.85														
1 [92]	CM'	83.80														
15 [15]			[CL]													
7 [0]	CL'	86.24														
14 [74]	CM'	87.17														
18 [13]	CL'	88.29	88.29													
15 [49]	CM'	89.53														
14 [36]																
36 [82]	CH'	90.90														
22 [38]	CM'	91.72														
16 [54]	CH'	92.42														
	CM'	92.89														
3 [71]	CH'	93.51	[CH]													
12 [72]	CM'	94.76														
	CL'	95.35														
20 [55]																
2 [79]	CH'															
28 [68]		98.90	98.00													

掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	95				100			
5/17 67.40								
	104							
5/20 74.30								
	111		ダブルコアチューブ／ダイヤビット					
5/21 80.40		76		40.0		0.1	泥水 5	0
	124				150			
5/22 90.50								
	121							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
100				花崗斑岩	明褐灰	Bg	Ⅳg	cg		2	98.60～104.10m:コアは硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。		CM'							5／23 98.55	121						
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	cg			100.27～107.28m:花崗斑岩。上位に比べて斑晶が小さく，含有量も10～15%程度と少なくなる。境界は漸移的である。		CL'														
					明褐灰	Bg	Ⅲg	bg					CM'														
						Dg	Ⅳg	cg					CL'														
						Cg	Ⅳg	cg					CM'														
						B

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	①-3	調査位置						北緯	
発注機関				調査期間				東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 75.32 m	角度	180° 上 90° 下0° 0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 40°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘削長	80.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	73.27	2.05		砂混じりシルト	黄褐						0.00～0.05m:植物根が混じる腐植土 0.05～2.05m:マサ土。黄褐色を呈する砂混じりシルトからなる。			2.05														
	72.44	2.88		アプライト 花崗斑岩	浅黄橙						2.05～6.05m:花崗斑岩とアプライトが互層状に分布する。いずれも風化，変質し原岩組織が不明瞭である。 2.05～6.58m:傾斜30°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。	0 [0]														
	71.57	3.75		アプライト								0 [0]															
	70.90	4.42										0 [0]															
	70.70	4.62		花崗斑岩 アプライト	赤橙							0 [0]															
	69.94	5.38									4.96～5.00m:破砕帯(Hc)。上盤50°下盤不明。幅2.5cm程度。灰白色粘土からなる。 5.53～5.81m:破砕帯(Hb)。上盤49°下盤25°。幅18cm程度。礫混じり灰白色粘土からなる。 6.05～80.00m:花崗斑岩主体。 径1～15mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～20%程度含む。6.05～10.68mは風化，変質により原岩組織が不明瞭である。 6.42～8.73m:破砕帯(Hb,Hc)。上盤39°，下盤75°。幅60cm程度。主に礫混じり灰白色粘土からなる。間に非破砕部を含む。 9.10～10.10m:傾斜80°程度の節理が2系統みられる。	0 [0]														
	69.47	5.85		花崗斑岩								0 [0]															
	69.27	6.05		アプライト								0 [0]															
	67.51	7.81		花崗斑岩	灰白	Eg	VIg	dg	δ	4		0 [0]	D'	[D]	4/15 6.50					4/12 9.50	144	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルクラウン	5.0	80	0.1	泥水 10	10
	67.19	8.13		アプライト								0 [0]															
	63.86	11.46		花崗斑岩	浅黄橙	Dg Dg	IVg IVg	cg cg		3 3	10.25～10.68m:変質帯。上盤74°，下盤59°。幅22cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 11.06～11.17m:破砕帯(Hc)。上盤不明，下盤70°。幅4cm程度。灰白色粘土からなる。 11.46～11.95m:斑晶の含有量が3%程度のアプライトを挟む。 11.65～11.99m:変質帯。上盤80°，下盤83°。幅4cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 12.22～38.81m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。 13.18～13.22m:変質帯。上盤63°，下盤22°。幅1.5cm程度。軟質化している。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。 13.88～13.95m:変質帯。上盤51°，下盤45°。幅4cm程度。灰白色粘土化している。 14.37～14.41m:変質帯。上盤44°，下盤39°。幅3cm程度。軟質化している。黄褐色を呈する。 16.58m:シーム。傾斜87°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。	0 [0]														
	63.37	11.95		アプライト								0 [0]															
				花崗斑岩	灰白	Eg Dg Eg Dg Eg Dg Eg Dg	VIg IIIg IVg Vg IVg IIIg IVg Vg IVg VIg Vg VIg Vg	dg cg dg cg	γ δ γ δ	4 3 4 3	20.02～29.80m:傾斜45°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 20.49m:シーム。傾斜70°。幅0.8cm程度の灰白色粘土からなる。 22.08～22.25m:変質帯。上盤70°，下盤60°。幅5.8cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 23.28～23.62m:破砕帯(Hb,Hc,Hj)。上盤42°，下盤60°。幅17cm程度。主に礫混じり黄褐色粘土からなる。間に非破砕部を含む。下部は原岩組織が認められる。 24.43～25.00m:破砕帯(Hj,Hc)。上盤50°，下盤不明。幅37cm程度。上部は原岩組織が認められる。下部は黄褐色，暗灰色粘土からなる。	0 [0]	CL'	[CL]	5/1 19.60 5/9 23.10 5/7 25.90		4/15 18.70 4/18 21.60 4/21 24.90	98 112 97 93	95／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	10.0	100	0.1	泥水 3 泥水 4 泥水 3 泥水 2	3 3 2 1
				淡黄 浅黄		Dg	Vg	bg	γ	3		0 [0]															

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
30				花崗斑岩	浅黄	Dg	Ⅳg	bg	γ	3							93					0.1	泥水2	1
							Ⅴg																	
						Eg			δ	4	27.83～28.09m:変質帯。上盤55°，下盤59°。幅13cm程度。軟質化している。													
					灰白	Dg	Ⅳg	cg	γ		29.80～51.00m:傾斜25°，45°，及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。 30.00～33.50m:有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。										100			
							Ⅳg				31.77～31.87m:変質帯。上盤56°，下盤67°。幅4cm程度。軟質化している。					4/22 32.30								
						Dg	Ⅳg	cg		3		CL'	[CL]							10.0				
							Ⅲg																	
							Ⅳg															0.1	泥水3	2
							Ⅲg																	
							Ⅴg																	
							Ⅳg																	
							Ⅴg																	
					にぶい橙																			
					明褐灰		Ⅳg	bg								4/23 36.30								
						Cg																		
					にぶい橙	Dg											82							
							Ⅲg																	
					明褐灰	Cg	Ⅱg				38.81～44.98m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。													
40						Dg	Ⅳg		γ															
						Cg						40.09	40.09											
							Ⅲg									4/24 40.80								
							Ⅳg					CM'												
						Bg	Ⅲg			2														
												41.84												
					浅黄橙	Cg	Ⅳg						[CM]											
						Dg	Ⅴg					CL'												
						Cg	Ⅳg																	
							Ⅲg	cg				44.42												
												CM' 44.92	44.92											
							Ⅳg				44.98～50.75m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。風化がやや進んでいる。						106							
					明褐灰		Ⅴg																	
							Ⅳg															0.1	泥水2	1
							Ⅴg														120			
							Ⅳg																	
					にぶい黄橙	Dg	Ⅴg		δ	3	48.20～48.24m:破砕帯(Hc)。上盤73°下盤73°。幅1cm程度。礫混じり緑灰色粘土からなる。周辺は節理が発達している。	CL'								15.0				
50																4/25 49.80								
					明褐	Cg					50.06～50.15m:破砕帯(Hj)。上盤40°下盤46°。幅7cm程度。原岩組織が認められる。同系統の節理が発達している。 50.75～59.47m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 51.00～65.00m:傾斜20°程度の節理が目立つ。		[CL]											
						Dg	Ⅳg																	
					明褐灰	Cg		bg				52.63												
												CM' 53.20												
						Dg											120							
						Cg			γ															
						Dg		cg				CL'												
						Cg	Ⅴg																	
						Dg	Ⅳg																	
						Cg	Ⅴg																	
						Dg	Ⅴg					56.09	56.09											
						Cg	Ⅳg	bg				CM'												
												57.07												
						Dg	Ⅴg	cg								4/26 57.00								
						Eg	Ⅵg	dg	δ	4	57.31～57.58m:変質帯。上盤41°，下盤77°。幅6cm程度。角礫状を呈するが，原岩組織は認められる。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。	CL'												
						Dg	Ⅳg																	
							Ⅲg					CM' 58.43												
						Cg	Ⅳg										98					0.1	泥水3	1
							Ⅴg					CL'	[CM]											
							Ⅳg									5/1 59.45		76		10.0	150			
60					灰白	Bg	Ⅳg	cg	γ	3	59.47～69.85m:コアは硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発することが多い。													
							Ⅲg					CM'												
												61.04					92					0.2	泥水3	0
						Cg	Ⅳg																	
						Dg	Ⅴg					CL'												
						Cg	Ⅳg				61.60m:シーム。傾斜83°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。	62.00	62.00											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					灰白	Cg	Ⅳg	cg		3	
					明褐灰	Bg	Ⅲg	bg		2	
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅵg	cg			
					浅黄	Eg	Ⅵg	dg		3	
						Dg		cg			
	8.88	66.44			にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg			
	8.73	66.59		アプライト			Ⅲg			2	
					浅黄橙	Bg	Ⅳg	cg			
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg				65.00～80.00m：傾斜25°，50°，及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って一部褐色化し，マンガンを伴うことが多い。
						Cg	Ⅳg	bg			65.14～65.52m：変質帯。上盤20°，下盤45°。幅27cm程度。土砂状を呈するが，原岩組織は認められる。
					浅黄橙	Bg	Ⅲg				66.44～66.59m：アプライト。径1～8mm程度の石英，長石，径2mm以下の黒雲母の斑晶を3～5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg				
						Cg	Ⅳg	bg			
					浅黄橙	Bg	Ⅲg			3	
					にぶい黄橙	Cg					
70						Dg	Ⅱg	cg	γ		69.85～73.30m：コアは軟質～やや軟質で，ハンマーで著しい濁音～濁音を発する。強く変質している。
					灰白	Eg	Ⅳg			4	70.08～73.30m：変質帯。上盤73°，下盤69°。幅115cm程度。白濁化が著しいが，原岩組織は認められる。全体にマンガン濃集帯を伴う。
							Ⅴg				
							Ⅳg				
							Ⅴg				
						Cg	Ⅳg	bg			
						Dg	Ⅳg	cg			
							Ⅵg				
					暗褐	Dg	Ⅳg	cg			
							Ⅴg				
					明褐灰	Bg	Ⅳg	bg		3	73.30～80.00m：コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。
							Ⅱg				
							Ⅳg	cg			
											74.72m：幅2～5mm程度の石英脈を挟む傾斜81°程度。
							Ⅲg	bg			
							Ⅱg				
								cg			
					にぶい黄橙	Bg	Ⅳg			2	
							Ⅱg				
							Ⅳg	bg			
							Ⅱg				
							Ⅳg				79.44m：幅2mm程度の石英脈を挟む。傾斜70°程度。
	-4.68	80.00									

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CL' 62.48	62.00			0 10 20 30 40 50				92			10.0				
CM' 64.04							5／7 63.60								
CH' 64.62															
CM' 65.14															
D' 65.89	[CM]											150			
CM'								91							
	69.85	69.85													
D' 71.57	[CL]						5／8 69.60				15.0		0.2	泥水3	0
CL' 73.30		73.30						99	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット		120			
CM' 75.04															
CH' 76.34	[CM]						5／9 76.40								
CM' 78.47								90			30.0		0.2	泥水3	1
CH' 79.51															
CM' 80.00	80.00						5／10 80.00								

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

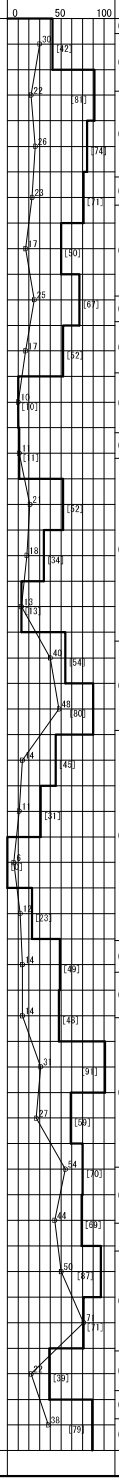
ボーリング名	①-4	調査位置				北緯	
発注機関			調査期間			東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 86.02 m	角度	上 180° 90° 0° 下	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 10°	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具	
総掘削長	90.00 m								エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	85.02	1.00		シルト質砂	明黄褐						0.00～0.04m:黒色を呈する腐植土。 0.04～1.00m:マサ土。明黄褐色を呈するシルト質中粒砂からなる。		1.00	1.00														
				アプライト	灰白 浅黄橙 にぶい橙 浅黄橙 橙	Eg	VIg	dg	δ	4	1.00～7.70m:アプライト。 全体に風化，変質し，原岩組織は不明瞭である。所々，マンガンが濃集する。 1.00～14.65m:傾斜30°及び60°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 1.00～15.25m:コアは風化，変質し，軟質で，ハンマーで著しい濁音を発する。 3.73～3.90m:赤色化著しい。 3.93～3.94m:変質帯。上盤85°，下盤85°。幅0.5cm程度。灰白色粘土からなる。樹枝状に分岐している。 4.69～4.73m:変質帯。上盤7°，下盤26°。幅3.6cm程度。灰白色粘土からなる。樹枝状に分岐している。 4.73～4.96m:赤色化著しい。				3/29 2.70												
	78.32	7.70		花崗斑岩							6.82m:シーム。傾斜60°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。 7.15～7.70m:破砕帯(Hc)。上盤63°，下盤68°。幅21cm程度。灰白色，一部赤褐色粘土からなる。															
	77.60	8.42		アプライト							7.55～8.42m:赤色～褐色化が著しい。 7.70～9.83m:花崗斑岩とアプライトが互層状に分布する。全体に風化，変質し，原岩組織は不明瞭である。両者の境界は漸移的である。			D'	[D]											
	77.05	8.97		アプライト																							
	76.52	9.50		花崗斑岩																							
	76.19	9.83		アプライト																							
10				花崗斑岩	淡橙 明赤褐				ε		9.83～90.00m:花崗斑岩主体。 径1～15mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～30%程度含む。下部ほど石英，長石の斑晶が大きい傾向が認められる。 10.73～13.00m:赤色化著しい。 10.73～14.66m:節理に沿ってマンガンが分布する。 10.91m:シーム。傾斜66°。幅0.3cm程度の褐色，灰白色粘土からなる。他の節理を切っている。 11.28m:シーム。傾斜64°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 12.70～13.60m:斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。															
	73.32	12.70		アプライト																							
	72.42	13.60			浅黄橙				δ		12.70～15.25m:破砕帯(Hc,Hj)。上盤72°，下盤70°。幅87cm程度。上部は原岩組織が認められる部分が多いが，下部は灰白色粘土からなる。変形構造が顕著にみられる。 14.65～25.88m:傾斜20°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。 15.25～25.15m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。		15.25	15.25	4/1 15.80											
						Dg	IVg	cg							4/2 18.40												
20							IVg																				
							IIg																				
							IVg																				
					明褐灰		Vg	bg	γ	3	20.40m:シーム。傾斜75°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。 21.10～21.15m:破砕帯(Hj,Hc)。上盤60°，下盤72°。幅1.5cm程度。原岩組織が認められるが，下盤に暗褐色粘土を伴う。			CL'	[CL]											
						Dg	IVg	cg			22.63～22.90m:斑晶がやや少なく，アプライト様を呈する。 23.19m:シーム。傾斜68°。幅0.5cm程度の縁混じり褐色粘土からなる。														
					明褐 灰白	Cg	IIg				25.15～29.72m:コアはやや硬質～硬質で，ハンマーでにぶい金属音～金属音を発する。		25.55 26.00	25.55 26.00	CM'	[CM]										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				花崗斑岩	橙	Cg	Ⅲg	cg	γ	3	25.88～26.86m:傾斜20°程度の節理が目立つ。
					にぶい橙	Bg	Ⅱg				26.86～41.22m:傾斜20°，50°，及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。
							Ⅳg	bg			
							Ⅲg				
							Ⅳg				
					淡橙	Cg	Ⅴg				29.08m:シーム。傾斜80°。幅0.2cm程度の黒褐色粘土からなる。他の節理を切っている。
						Dg	Ⅳg				29.72～31.87m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。
						Bg	Ⅲg				
						Cg					
						Dg	Ⅳg				
							Ⅲg				31.87～35.41m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					明褐灰	Cg	Ⅳg		γ		
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Dg	Ⅲg				
							Ⅳg				35.41～41.33m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。
					灰白		Ⅲg				
							Ⅳg				
					明褐灰	Bg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				39.17m:傾斜70°の節理に沿って，淡緑灰色粘土が分布する。幅0.5mm程度
							Ⅲg				
40							Ⅳg				
					明黄褐	Dg	Ⅴg	cg	δ		41.22～60.00m:傾斜75°程度の節理が発達する。節理に沿って褐色化しマンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
							Ⅳg				41.32～43.34m:節理に沿ってマンガンを伴う。
						Eg	Ⅴg				41.41～43.24m:破砕帯(Hc,Hj)。上盤72°，下盤68°。幅57cm程度。主に節理密集部からなるが，上盤，下盤に暗褐色粘土を伴い，正断層的センスが認められる。
					明褐灰		Ⅲg				
					オリーブ灰	Cg	Ⅳg				43.24～61.05m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
							Ⅲg				
					明赤灰	Dg	Ⅳg				
						Cg					46.85～46.93m:変質帯。上盤70°，下盤62°。幅3cm程度。白濁化が著しいが，原岩組織は認められる。他の節理で切られる。
						Dg	Ⅲg				48.16～48.45m:傾斜15°程度の流理がみられる。
					にぶい橙		Ⅳg				
50						Cg	Ⅲg		γ		
						Dg	Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				
					灰赤		Ⅱg				
							Ⅲg				
						Dg	Ⅳg				
					にぶい橙						
					灰白		Ⅰg				54.13～55.35m:有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅱg	bg			
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Dg			δ		
						Eg	Ⅵg	cg	γ		57.74～58.09m:変質帯。上盤87°，下盤70°。幅2cm程度。不規則な分布形状で軟質化している。灰黄褐色を呈する。
						Dg	Ⅳg				58.44～58.60m:変質帯。上盤64°，下盤84°。幅2cm程度。軟質化している。灰黄褐色を呈する。
							Ⅲg				
60					にぶい黄橙	Eg	Ⅳg				60.03～61.05m:変質帯。上盤53°，下盤67°。幅40cm程度。軟質化している。
							Ⅵg	cg	δ		
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
					明褐灰	Cg	Ⅲg	cg	γ		61.05～66.08m:傾斜25°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
							Ⅱg				
						Bg	Ⅳg				61.05～75.92m:コアはやや硬質～硬質で，ハンマーでにぶい金属音～金属音を発する。

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
CM'	[CM]	4/1		4/1	134	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	100	0.0	泥水5	5
CH'		4/12										
CM'		4/13			113							
CL'	[CL]	4/14		4/2								
CM'												
CL'					138					0.2	泥水3	3
	[CM]			4/3								
CM'												
					125							
CL'				4/7								
CM'												
CL'					133				90	0.2	泥水4	4
	[CL]			4/8								
CM'												
CL'					140					0.2	泥水3	3
CM'				4/9								
CL'					116							
D'												
CL'	[CM]											
CM'												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)/測定月日	(標準貫入試験)試験 (N)値	(N値～深度)	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
70				花崗斑岩	明褐灰	Bg	IVg, IIIg, IIg, IVg, IIg, IIg, IIIg, IIg, IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIg, IVg, IIg, IIg, IVg, IIIg, IVg, IIg	bg	γ		62.45～63.08m:節理に沿って，マンガンを不規則な形状で伴う。	CM'	CM	62.00					4/10 64.30	116	76	ダブルコアチューブ/ダイヤビット	30.0	90	0.2	泥水3	3
											66.08～68.76m:傾斜20°程度の節理が目立つ。	CH'		63.42												
												CM'															
												CL'		65.10													
												CM'		65.65													
												CL'		67.43													
												CM'		67.93													
					にぶい橙	Bg	IVg				68.76～79.25m:傾斜40°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。	CL'		68.93					4/11 72.40	135			30.0	90			
					明褐灰	Cg	IIg, IVg, IIIg		γ			CM'		70.10													
						Dg						CL'		70.60													
						Cg	IVg																				
						Dg																					
					灰褐	Bg	IIg	cg				CM'	[CL]	74.17													
						Cg	IVg																				
						Bg	IIg																				
						Cg	IVg																				
						Cg	IIg																				
						Cg	IIIg																				
					にぶい黄橙	Dg	IVg		δ	3	75.92～79.52m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。 76.10～76.19m:変質帯。上盤80°，下盤72°。幅2cm程度。不規則な分布形状で軟質化している。灰黄褐色を呈する。			75.92													
						Cg	IVg		γ			CL'							4/12 78.50	136							
						Dg			δ																		
						Cg			γ																		
						Dg	IVg		δ		77.92～78.10m:変質帯。上盤45°，下盤60°。幅13cm程度。不規則な分布形状で軟質化している。灰黄褐色を呈する。 78.41～78.53m:変質帯。上盤83°，下盤83°。幅1.5cm程度。軟質化している。灰黄褐色を呈する。																
80						Cg	IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIIg, IVg, IIg, IIg, IIg, IVg, IIg, IVg, IIIg, IVg, Ig, IIIg		γ		79.25～90.00m:傾斜20°及び80°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 79.52～81.54m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。 81.54～90.00m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。	CM'		80.03													
												CL'		80.65													
												CM'	[CM]	81.54						143							
												CH'		84.46					4/14 84.20				40.0	120			
					明褐灰	Bg	IIg, Ig	bg	β			CH'		85.56													
												B'		86.10													
					淡橙		IIg, IIIg					CH'	[CH]							97			30.0	90			
	-2.03	88.05					Ig		γ					88.05													
	-2.26	88.28	アプライト	花崗斑岩	にぶい橙		IIg, IVg, Ig, IVg	cg			88.05～88.28m:斑晶がほとんど認められないアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。斑点状にマンガンが濃集する。 88.35～88.71m:節理に沿ってマンガンが濃集する。	CM'		88.83													
												CH'		89.38													
	-3.98	90.00										CM'		90.00					4/15 90.00								



ボーリング柱状図

調　査　名

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	①-5	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+41.44 m	角度	180° 上 90° 下0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	40.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入試験) N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				埋土	灰褐						0.00～1.15m:埋土。灰褐色を呈する礫混じり砂からなる。																	
	40.29	1.15		花崗斑岩	淡橙	Cg Dg Cg Dg Eg	IIIg IVg VIg IVg VIg	cg	γ δ	2 3	1.15～3.98m:花崗斑岩。径1～12mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を10～30%程度含む。 1.15～4.81m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 1.25～16.88m:傾斜40°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 2.50～3.97m:幅0.3～2mm程度の石英脈が発達する。傾斜は50～60°程度。 3.98～4.81m:アプライト。径1～5mm程度の石英，長石，径2mm以下の黒雲母の斑晶を3%程度含む。上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。 4.00～4.70m:節理に沿ってマンガンが濃集している。 4.81～5.70m:変質帯。上盤58°，下盤52°。幅47cm程度。軟質化している 4.81～21.10m:花崗斑岩。径1～20mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を10～25%程度含む。上位のアプライトとの境界は漸移的である。 5.70～7.02m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。 7.02～10.79m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。															
	37.46	3.98		アプライト																							
	36.63	4.81		花崗斑岩	橙	Bg	IIg IVg	bg																			
10					明褐灰	Cg Dg Cg Bg	IVg IIIg IIg IVg	cg		2	10.79～14.36m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。																
					にぶい橙 褐灰	Bg	Ig IIIg IVg IIg	bg																			
					明褐灰	Dg Cg Dg Bg	IVg IIg IVg IIg	cg	γ	3 2 3	14.36～14.41m:変質帯。上盤53°，下盤56°。幅3cm。軟質化している。上盤に灰白色粘土を伴う。 14.36～16.71m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 14.51～14.63m:変質帯。上盤76°，下盤79°。幅3cm程度。軟質化している。 15.59～15.74m:変質帯。上盤76°，下盤53°。幅4cm程度。軟質化している。 16.71～34.12m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 16.88～17.93m:傾斜20°程度の節理が発達している。 17.93～23.13m:傾斜70°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化している。															
20	20.34	21.10		アプライト	にぶい橙																						
	18.79	22.65		花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIg IVg IIg IVg IIg IVg IIIg	bg cg bg cg bg cg		2	21.10～22.65m:アプライト。径1～5mm程度の石英，長石，径2mm以下の黒雲母の斑晶を3%程度含む。上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。22.53～22.59mにはペグマタイト脈を挟む。径10～20mm程度の石英，長石の斑晶からなり，傾斜は20°程度である。 22.65～40.00m:花崗斑岩。径1～20mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を5～30%程度含む。上位のアプライトとの境界は漸移的である。 23.13～26.58m:傾斜25°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。															
						Cg	IVg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30	1.44	40.00		花崗斑岩	明褐灰 浅黄橙 明褐灰 にぶい黄橙 褐灰	Bg Cg Dg Eg	IVg IIIg IIg Vg VIg	bg cg dg	γ	2 3 4 3 2 4 3 2 3 2	25.64m:シーム。傾斜78°。幅0.4cm程度の暗褐色粘土からなる。 26.58～29.15m:傾斜70°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化している。 28.91～29.20m:斑晶の径が5mm程度と小さくなり，流理がみられる。傾斜32°程度。 29.15～40.00m:傾斜25°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 29.97m:シーム。傾斜73°。幅0.2cm程度の褐色，灰白色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 30.51～30.73m:斑晶の径が4mm程度と小さくなる。30.70mに幅1cm程度で鉱物の配列がみられる。傾斜は14°程度である。 30.85m:シーム。傾斜74°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。これより下盤側は節理が発達している。 31.28～31.44m:破砕帯(Hb)。上盤72°下盤74°。幅5cm程度。礫混じり灰黄色粘土からなる。 31.78m:シーム。傾斜72°。幅0.3cm程度の褐色粘土からなる。周辺は節理が発達している。 34.12～36.03m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 34.37～34.70m:破砕帯(Hb)。上盤64°下盤不明。幅15cm程度。礫混じり灰黄色粘土からなる。 35.18～35.42m:マンガンを伴う傾斜75°程度の節理が発達している。 36.03～40.00m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 38.93～40.00m:斑晶の径が10mm以下と上位に比べて小さくなる。上位との境界は傾斜70°程度。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100	CM' 29.55 CL' 30.94 CH' 30.83 CL' 31.87 CM' 34.12 CL' 36.03 CM' 37.64 CH' 38.57 CM' 40.00	26.00 [CM] 40.00		0 10 20 30 40 50				6/11 31.85 6/12 37.65 6/13 40.00	83 76 78	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100	0.0 0.0 0.0	泥水3 泥水2 泥水3	3 2 3

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	①-6	調査位置				北緯	
発注機関			調査期間			東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋41.44 m	角度	180° 上 90° 下0° 40°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 5°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	85.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入試験) N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	40.93	0.67		埋土							0.00～0.11m:腐植土。 0.11～0.67m:埋土。礫混じり細粒砂からなる。																	
10				花崗斑岩	明褐灰	Eg Dg Eg Dg Eg Dg

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
30				花崗斑岩	明褐灰	Bg	Ⅱg		γ	2	25.80～27.38m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。	25 [80]	CM'	[CM]			0 10 20 30 40 50										
						Cg	Ⅲg					17 [37]															
							Ⅳg				27.38～32.49m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。	16 [23]			27.73													
					淡赤橙	Dg	Ⅲg				28.43～28.75m:節理に沿ってマンガンが濃集する。	16 [28]															
						Cg	Ⅳg				29.92～30.00m:幅1～3cm程度のペグマタイト脈を挟む。径10～20mm程度の石英が目立つ。	19 [34]	CL'	[CL]													
							Ⅴg				30.09m:節理に沿って幅3mm程度の石英脈を伴う。	14 [38]															
					明褐灰	Dg	Ⅳg				30.69～44.64m:花崗斑岩。	10 [0]			32.49												
						Cg	Ⅲg				径3～10mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を20～25%程度含む。周辺に比べて斑晶の粒径が大きく，含有量も多い。全体に節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。	16 [54]	CM'													
							Ⅳg				32.49～36.40m:コアはやや硬質～硬質で，ハンマーでにぶい金属音～金属音を発する。	15 [75]			34.08												
					灰赤	Bg	Ⅱg				32.49～33.48m:所々，節理に沿ってマンガンが濃集する。	36 [79]	CL'	[CM]	34.76												
					明褐灰	Cg	Ⅳg					23 [92]	CH'														
							Ⅴg					19 [36]			36.40												
					明赤灰		Ⅳg					0 [0]															
					褐灰	Bg	Ⅱg			2	36.10m:節理に沿って幅10mm程度でマンガンが濃集する。	9 [0]															
						Cg	Ⅲg				36.40～44.44m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。	9 [0]															
						Dg	Ⅳg					19 [38]															
						Cg	Ⅴg					0 [0]															
						Eg	Ⅵg	dg			38.81～39.00m:節理に沿ってマンガンを伴う。	9 [0]															
					淡赤橙	Dg	Ⅳg			3	38.87～39.11m:変質帯。上盤52°，下盤54°。幅14cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。周辺は節理が発達している。	13 [3]	CL'	[CL]													
						Cg	Ⅴg				41.00～41.38m:コアの側面に幅3～8mm程度の石英脈を挟む。	0 [0]															
						Dg	Ⅴg	cg			41.78～44.35m:節理に沿ってマンガンが濃集する。	9 [0]															
						Cg	Ⅳg					19 [23]															
					明赤灰	Dg	Ⅴg					10 [28]			44.44												
					灰赤	Cg	Ⅲg				44.44～85.00m:コアはやや硬質～硬質で，ハンマーでにぶい金属音～金属音を発する。	30 [45]			44.44												
					明赤褐	Bg	Ⅱg				44.64～85.00m:花崗斑岩。	20 [36]	CM'														
						Cg	Ⅴg	bg			径3～10mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を15～20%程度含む。全体に節理に沿って褐色化しマンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。	0 [0]															
						Bg	Ⅱg		γ			12 [24]			47.48												
							Ⅳg					19 [38]	CL'														
						Cg		cg			48.34～48.38m:変質帯。上盤36°，下盤60°。幅3cm程度。軟質化している。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。	17 [52]			49.18												
						Bg	Ⅲg					17 [52]		[CM]													
						Cg	Ⅳg					20 [38]															
						Bg	Ⅱg					15 [30]	CM'														
							Ⅳg					17 [29]															
							Ⅱg					26 [37]															
							Ⅳg					0 [0]			55.10												
							Ⅳg					20 [64]	CL'														
						Cg	Ⅳg	cg				17 [68]			56.16												
							Ⅱg					31 [68]															
						Bg	Ⅲg					26 [60]	CH'	[CH]													
							Ⅳg					1 [21]			59.36												
							Ⅲg				57.24m:幅10mm程度の石英脈を挟む。	38 [78]															
					にぶい橙	Cg	Ⅳg						CM'	[CM]	61.02												
					灰赤		Ⅱg																				
						Bg	Ⅲg	bg					CH'		61.82												
							Ⅱg								62.00												
					明褐灰	Cg	Ⅳg				60.25m:シーム。傾斜55°。幅0.3cm程度の黒色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。																
						Bg	Ⅲg																				
					枠	Cg	Ⅳg																				

掘進月日	掘進速度（cm／時）
6／6 30.60	126
6／7 38.50	113
6／10 46.00	113
6／11 56.30	124
	107

孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	40.0	100	0.0	泥水 5	5
			150			
		50.0				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				花崗斑岩	橙	Cg	Ⅳg	bg		2	64.50m:シーム。傾斜69°。幅0.5cm程度の細片化した岩片を伴う灰褐色粘土からなる。周辺の節理を切っている。
					明褐灰		Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅴg				
							Ⅳg				
						Bg	Ⅳg	cg			
							Ⅱg				
					淡赤橙	Bg	Ⅱg				
						Cg	Ⅲg				
						Bg	Ⅲg				
					橙	Cg	Ⅴg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					褐灰	Bg	Ⅱg	bg			
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅳg	cg			71.59～71.63m:変質帯。上盤58°，下盤56°。幅2cm程度。礫混じり灰褐色粘土からなる。
							Ⅱg				71.66～73.31m:節理に沿ってマンガンが濃集することが多い。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Bg	Ⅲg	bg	γ		
							Ⅴg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg		3	76.42～76.48m:変質帯。上盤69°，下盤79°。幅2cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
							Ⅴg				
						Cg					77.93～78.76m:節理に沿ってマンガンが濃集することが多い。
						Bg					
							Ⅳg	bg		2	79.00～80.80m:掘削方向と平行に最大幅40mm程度の石英脈を挟む。
80					浅黄橙	Cg					80.07～82.05m:節理に沿ってマンガンが濃集することが多い。
											80.75～81.30m:掘削方向と平行に最大幅10mm程度の石英脈を挟む。
					にぶい橙		Ⅴg				
							Ⅳg				
					明褐灰	Bg	Ⅲg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅴg	cg			
						Bg	Ⅲg	bg			
					にぶい橙						
						Cg	Ⅳg	bg			83.83m:幅3mm程度の石英脈を挟む。
								bg			
	-23.67	85.00									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 (N)値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
70			0 50 100	CM'	62.00			0 10 20 30 40 50			6/12 64.35	107			50.0				
				64.95															
				CL'															
				65.45															
				CM'															
				68.54	[CM]							109							
				CH'															
				69.98							6/13 71.95								
				CM'															
				74.63	74.63								76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	40.0	150	0.0	泥水5	5
				CL'	[CL]							112							
				77.93	77.93														
				CM'	[CM]						6/16 79.60	130							
											6/17 85.00								
				85.00	85.00														

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	①-8	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+ 29.37 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 25°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	35.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	29.21	0.16		腐植土	黄褐						0.00～0.16m:腐植土。 0.16～1.86m:褐色を呈する礫混じり砂からなる。1.00～1.70mには硬質の花崗斑岩の転石を含む。
	28.37	1.00		礫混じり砂	褐						
	27.51	1.86		玉石	にぶい橙						
				花崗斑岩	黄橙	Eg	VIg	dg	δ	3	1.86～16.04m:花崗斑岩。 径1～8mm程度の石英，長石，径2mm以下の黒雲母の斑晶を10～15%程度含む。 1.86～8.71m:コアは風化，変質し，軟質で，ハンマーで著しい濁音～濁音を発する。 1.86～7.79m:傾斜20°及び80°程度の節理がみられる。節理には灰白色粘土を伴う。 2.65m:幅1.5mm程度の石英脈を挟む。傾斜75°程度。 3.60～4.00m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 4.06～4.44m:変質帯。上盤74°，下盤84°。幅4cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 5.92m:シーム。傾斜83°。幅0.2cm程度の暗灰色，灰白色粘土からなる。 7.79～11.96m:傾斜45°及び65°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。 8.71～16.06m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 10.00～10.46m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 11.93m:シーム。傾斜73°。幅0.2cm程度の暗灰色，灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 11.96～15.58m:傾斜20°，50°，及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 13.66～13.68m:変質帯。上盤45°，下盤55°。幅1cm程度。緑灰色粘土からなる。これより下盤側はコアが褐色化している。 13.66～14.92m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 14.53～14.69m:変質帯。上盤73°，下盤75°。幅4cm程度。軟質化している。明黄褐色を呈する。 15.58～35.00m:傾斜30°，50°，及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，一部灰白色粘土を伴う。 16.04～26.15m:アプライト主体。 径1～3mm程度の石英，長石の斑晶を5%程度含む。上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。 16.06～22.77m:コアはやや硬質～硬質で，ハンマーでにぶい金属音～金属音を発する。 16.64m:幅2～5mm程度の石英脈を挟む傾斜60°程度。 20.83m:シーム。傾斜60°。幅0.2cm程度の暗灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 22.30～24.00m:周辺に比べて，斑晶の粒径がやや大きく，斑晶の含有量もやや多くなる。 22.77～26.15m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。 23.78～25.52m:全体にマンガンが沈着する。 24.96～25.54m:破砕帯(Hj,Hc)。上盤80°，下盤30°。幅10cm程度。上部は暗褐色，淡黄色粘土からなる。下部は原岩組織が認められる部分を残している。 25.79～26.15m:破砕帯(Hc)。上盤70°下盤76°。幅9cm程度。黄白色粘土からなる。
10					浅黄橙	Eg	VIg	dg	δ	4	
					にぶい黄橙	Eg	VIg	dg	ε	3	
					浅黄橙	Eg	VIg	dg	δ		
						Dg	Vg	cg	γ	2	
						Cg	IIg				
						Dg	Vg				
						Dg	IVg				
						Cg	IVg				
						Dg	IIg				
						Bg	IVg				
						Cg	IVg				
						Dg	IVg				
					明黄褐	Dg	IVg		δ	3	
						Eg	VIg	dg			
						Dg	Vg				
					浅黄橙	Dg	IVg				
	13.33	16.04		アプライト	淡橙	Cg	IIg	cg	γ	2	
						Bg	IVg				
						Cg	Vg				
					浅黄橙	Bg	IVg	bg			
							Vg	cg			
							IIIg	bg			
							IVg	cg			
							IIIg	bg			
20					淡橙	Cg	IVg				
						Bg	Vg	cg			
	7.07	22.30		花崗斑岩		Dg	Vg			3	
						Cg	IVg			2	
	5.37	24.00		アプライト	浅黄	Dg	Vg			3	
						Cg	IVg	bg			
						Dg					
						Eg	VIg	dg	δ	4	
						Dg	Vg	cg		3	
						Eg	VIg	dg	γ	4	

コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日
		5/30
		5/29
		5/28
		6/2
		3.75
D'	[D]	
CL'		
CM'	[CL]	
CL'		
CM'	[CM]	
CL'		
CM'		
CL'	[CL]	
D'		

（標準貫入試験）試験 （N値～深度 0 10 20 30 40 50）

原位置試験（孔内水平載荷）

室内試験

掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
			試掘	0.0	0	0.0	無水0	0
	80	114／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	2.0	100	0.0	泥水4	0
5/28 4.00					60			
	110				100			
					200			
5/29 10.60				10.0	300	0.0	泥水4	4
	132	76		30.0	400			
5/30 20.60				20.0	300	0.0	泥水6	6
	134			10.0	200			
				30.0	400			

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%） 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	3.22	26.15		アプライト	淡黄	Eg	Ⅵg	Gg		4			26.15	26.15														
30				花崗斑岩	淡橙	Bg	Ⅱg	cg	γ	2	26.15～35.00m:花崗斑岩。 径1～12mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～20%程度含む。上位のアプライトとの境界には傾斜76°程度の破砕帯が分布する。 26.15～35.00m:コアはやや硬質～硬質で，ハンマーでにぶい金属音～金属音を発する。 28.25m:シーム。傾斜76°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	26 [60] 10 [10] 13 [35] 10 [10] 16 [37] 12 [32] 16 [39] 13 [13] 14 [34]	CM' 28.47 CL' 29.52 CM' 33.33 CL' 33.83 CM' 35.00	[CM] 35.00					5/31 29.90	134	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0 40.0	400	0.0	泥水6	6
	-5.63	35.00			淡赤橙	Cg	Ⅱg	bg																				
					淡橙	Bg	Ⅳg																					
						Cg	Ⅴg	cg																				
						Bg	Ⅳg																					
						Cg	Ⅲg																					
						Bg	Ⅳg																					
					明黄褐	Cg	Ⅲg	bg		3																		
							Ⅳg																					
					淡橙	Bg				2																		
						Cg	Ⅴg	cg																				
						Bg	Ⅳg	bg			34.38～34.52m:節理に沿ってマンガンが濃集する。																	
						Cg																						
						Bg																						

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	①-9	調査位置		北緯	
発注機関		調査期間		東経	
調査業者名		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	+ 29.37 m	角度	180° 上 90° 下 0° 44°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 27°
総掘削長	75.00 m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 25°	使用機種	試錐機 / エンジン / ハンマー落下用具 / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	29.12	0.35		腐植土	黒褐						0.00～0.35m:腐植土。植物根を含む。
	28.65	1.00		腐植質砂	灰黄褐						0.35～1.00m:灰黄褐色を呈する腐植質中粒砂からなる。径0.5cm程度の礫を少量含む。
				礫混じりシルト質砂	明黄褐						1.00～5.74m:礫混じりシルト質細粒～粗粒砂。径1～7cm程度の風化した花崗斑岩の亜角礫を5～10%程度含む。 3.69～4.28m間はシルト分多い。
					浅黄						
					にぶい黄橙						
	25.24	5.74		礫混じり砂	橙						5.74～6.40m:橙色を呈する礫混じり中粒砂からなる。径1～8cm程度の風化した花崗斑岩の亜角礫を10%程度含む
	24.77	6.40		花崗斑岩	明黄褐	Eg	VIg	dg	ε	3	6.40～13.75m:花崗斑岩。径1～12mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～15%程度含む。8.75mまでは黄褐色化が顕著。 6.40～8.75m:コアは風化し，軟質で，ハンマーで著しい濁音を発する。
					にぶい黄橙	Cg	IIIg		γ		8.75～13.70m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。
10						Dg	IVg	bg	δ		
							IIIg				
							IVg				
					橙	Eg	VIg	dg	ε	4	10.80～12.35m:コアの表面が褐色化している。 11.19～11.39m:変質帯。上盤63°，下盤68°。幅9cm程度。軟質化している。
					にぶい黄橙	Dg	Vg		δ	3	12.35～73.35m:節理に沿って褐色化を呈することが多い。
							IVg				13.00～13.30m:局所的にマンガンが濃集する。
							Vg	bg			
	19.48	13.75		アプライト	浅黄橙	Bg				2	13.70～16.49m:コアは硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。
	19.03	14.37		花崗斑岩							13.75～17.73m:アプライト。径2～3mm程度の石英，長石の斑晶を3～5%程度含む。上位の花崗斑岩とは幅10～15mm程度の石英脈で境される
	18.90	14.55		アプライト		Cg	IVg	cg		3	14.37～14.55m:周辺に比べて斑晶の粒径が大きく，含有量も多い花崗斑岩を挟む。上位のアプライトとは幅5～8mm程度の石英脈で境される。
						Bg		bg	γ	2	16.49～20.90m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
						Cg					17.19m:シーム。傾斜70°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。
						Dg	Vg				17.73～20.44m:花崗斑岩。径1～8mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～20%程度含む。上位のアプライトとの境界は漸移的である。
						Cg	IVg				
							Vg				
						Bg					
	16.62	17.73		花崗斑岩	にぶい橙	Cg	IVg	cg	δ		18.71～18.77m:変質帯。上盤60°，下盤54°。幅3.5cm程度。灰黄色粘土が網目状に分布する。
						Dg	Vg		γ		20.44～20.71m:変質帯。上盤29°，下盤64°。幅12cm程度。軟質化している。灰黄色を呈する。
20					にぶい黄橙	Eg	VIg		δ	3	20.44～34.60m:花崗斑岩。上位に比べて斑晶の含有量が少なく5～10%程度である。上位との境界は漸移的である。
					浅黄橙	Dg	IVg	bg	γ		20.90～24.65m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
						Bg	IVg				24.65～26.69m:コアはやや軟質～軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。
						Cg	Vg				25.39～25.60m:変質帯。上盤20°，下盤70°。幅7cm程度。軟質化している。灰黄色を呈する。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。
					にぶい黄橙	Dg	Vg	cg			
						Eg	VIg		δ		
						Dg	IVg		γ		

コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日
6.40	6.40	
D'	[D]	
8.75	8.75	
CL'	[CL]	
11.19		5/12
D'		12.70
11.99		
CL'		
13.70	13.70	
CM'	[CM]	
16.39	16.39	
CL'	[CL]	5/14 5/20.40 20.75
20.90	20.90	
CM'	[CM]	5/16 22.55 5/19 5/23.55 24.65
23.50		
CL'		5/20
24.07		
CM'		
24.65		25.10
CL'		
26.00	26.00	

（標準貫入試験）試験 （N値～深度 0 10 20 30 40 50）

原位置試験（孔内水平載荷）

室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
				試掘	0.0	0	0.0	無水0	0
	5/8 3.70	185	114／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルクラウン	3.0		0.0	泥水8	0
		133			10.0	50	0.0	泥水4	0
	5/9 9.00			ダブルコアチューブ／ダイヤビット	2.0	100			
		164				200	0.0	泥水6	0
	5/10 15.70								
		144	76		5.0	300	0.0	泥水8	0
	5/12 22.28								
		105					0.0	泥水9	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30	4.48	34.60		花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	cg		3	26.69～38.12m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
	4.32	34.83	アプライト		浅黄橙	Cg	Ⅳg				
							Ⅴg				
							Ⅲg	bg			
					にぶい黄橙		Ⅳg				
							Ⅴg				
							Ⅳg	cg			
					明褐灰	Bg	Ⅱg		γ		
							Ⅳg				
					淡赤橙		Ⅴg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
					にぶい橙		Ⅳg			2	
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg	bg			34.60～34.83m:斑晶の含有量が2～3%程度のアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
	4.48	34.60									
	4.32	34.83	アプライト	花崗斑岩							34.83～38.82m:花崗斑岩。径1～10mm程度の石英，長石の斑晶を10～15%程度含む。アプライトとの境界は漸移的である。
	2.65	37.15			橙	Cg	Ⅳg				
	2.47	37.40	アプライト			Bg					37.15～37.40m:斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。
						Cg					
	1.45	38.82		花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Ⅲg		δ	3	38.12～38.79m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。全体に風化し，黄褐色化している。
				アプライト			Ⅱg				
						Cg					
					橙	Bg	Ⅳg				38.79～42.68m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
						Cg					38.82～43.17m:アプライト主体。径1～10mm程度の石英，長石の斑晶を3～5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
40	-0.02	40.86					Ⅴg		γ		39.28m:幅5mm程度の石英脈を挟む。マンガンを伴う。
						Bg	Ⅳg				40.86～41.56m:斑晶の含有量が5～7%程度の花崗斑岩を挟む。
	-0.53	41.56	花崗斑岩	アプライト			Ⅴg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅴg				
	-1.68	43.17			にぶい橙	Dg	Ⅳg	cg	δ		42.68～46.35m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。
							Ⅴg			2	43.17～58.93m:花崗斑岩。径1～15mm程度の石英，長石の斑晶を10～20%程度含む。アプライトとの境界は漸移的である。
						Cg	Ⅴg	bg			43.17～43.24m:破砕帯(Hb,Hc)。上盤68°，下盤67°。幅3cm程度。礫混じり灰黄色粘土，暗褐色粘土からなる。
							Ⅳg				
						Dg		cg			
						Cg	Ⅴg				45.52～45.54m:破砕帯(Hj)。上盤18°下盤10°。幅2cm程度。原岩組織が認められるが，灰白色粘土を伴う。周辺の節理を切っている。
							Ⅳg				
						Bg	Ⅱg	bg			46.35～50.49m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
							Ⅳg				
							Ⅴg				
						Cg	Ⅳg	cg			
					明褐灰	Dg	Ⅴg				48.65m:シーム。傾斜74°。幅0.6cm程度の礫混じり灰褐色粘土からなる
							Ⅲg				
							Ⅱg				
						Bg	Ⅳg	bg			
							Ⅲg				
50							Ⅴg	cg			50.49～75.00m:コアの硬軟を細かく繰り返す。
						Cg	Ⅳg	bg			
							Ⅴg				
							Ⅳg	cg		3	51.50～51.53m:破砕帯(Hc)。上盤20°下盤20°。幅2.8cm程度。灰白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。
						Dg	Ⅲg	bg		2	
							Ⅳg			3	
						Cg	Ⅳg		γ		
							Ⅲg				
						Bg	Ⅳg	bg		2	
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				
							Ⅵg	cg		3	54.20～54.75m:変質帯。上盤64°，下盤不明瞭。幅24cm程度。節理密集部からなる。
						Dg	Ⅳg				
							Ⅴg				
						Cg	Ⅳg	bg		2	
							Ⅴg				
							Ⅳg	cg			
						Eg	Ⅵg	dg		3	56.43～56.68m:変質帯。上盤20°，下盤24°。幅23cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
						Cg	Ⅳg	cg			
	-13.02	58.93			灰白	Dg	Ⅴg				58.93～59.25m:ペグマタイト脈を挟む。径10～30mm程度の石英，長石からなる。
	-13.25	59.25	ペグマタイト				Ⅵg			2	59.25～60.20m:アプライト。径3mm程度の石英，長石の斑晶を3%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
60	-13.93	60.20	アプライト			Cg	Ⅳg				
							Ⅲg			2	60.14～60.15m:変質帯。上盤20°，下盤20°。幅0.9cm程度。灰白色シルトからなる。
						Bg	Ⅱg	bg			60.20～75.00m:花崗斑岩。径1～12mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～20%程度含む。アプライトとの境界は漸移的である。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	cg			

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CL'	26.69							5.0	300			
					105							
CM'				5／13				20.0				
				29.30								
										0.0	泥水9	0
					69							
CH'	33.02			5／14								
	34.36			33.60					400			
[CM]					98							
CM'								30.0				
	38.12											
CL'	38.79			5／15								
				40.22								
CM'												
	42.68	42.68										
CL'												
	44.48	[CL]										
CM'	45.36											
CL'	46.16	46.16										
					140				300			
CM'												
	48.79											
CH'												
[CM]	50.48			5／16								
				50.40								
								60.0				
CL'	52.68								400			
										0.0	泥水8	0
CH'								30.0				
	54.20	54.20										
D'	54.75				143							
									300			
CL'				5／17								
				57.90				10.0				
[CL]												
					140				400			
CH'	60.18											
	61.61											
CL'	62.00	62.00										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
70	-24.58	75.00		花崗斑岩	淡橙 / 明褐灰 / 明黄褐 / 黒褐 / 明褐灰 / 灰白 / 明褐灰	Dg Cg Dg Cg Dg Cg Eg Cg Dg Cg Dg Cg Eg Cg Dg Cg Eg Cg Dg Cg E

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	①-10	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+ 57.68 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 30°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	60.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	54.62	3.06		礫混じり砂	黄褐						0.00～3.06m:埋土。黄褐色を呈する礫混じり細粒～粗粒砂からなる。礫は硬質なアプライトなどからなる。					50	115／ケーシング	試掘	0.0	0	0.0	無水0	0
	53.39	4.29		礫混じりシルト質砂	明黄褐						3.06～4.29m:埋土。礫混じりシルト質砂からなる。径2～5cm程度の花崗斑岩の硬質礫を10%程度含む。				4/23 3.00				20.0	60			
					浅黄											57			30.0		0.0	泥水1	1
				花崗斑岩	明赤灰	Cg	Ⅱg	bg	γ	3	4.29～24.58m:花崗斑岩。径1～10mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～15%程度含む。	CL'	[CL]										
						Dg	Ⅳg																
						Cg	Ⅲg	cg															
						Dg	Ⅳg																
						Eg	Ⅵg	dg		4	4.29～5.66m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。				4/24 6.40								
					淡赤橙	Dg	Ⅳg				4.29～7.42m:傾斜20°及び65°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴う。												
							Ⅲg																
					橙	Eg	Ⅳg	cg	δ	3	5.66～10.80m:コアは軟質～やや軟質で，ハンマーで著しい濁音を発することが多い。												
						Dg	Ⅴg																
						Eg	Ⅳg																
						Dg																	
						Eg																	
						Dg																	
					淡橙	Eg	Ⅵg	dg	γ	4	5.66～5.99m:変質帯。上盤68°，下盤71°。幅11cm程度。風化により全体が粘土化しているが，原岩組織は認められる。	D'	[D]										
								cg															
								dg															
							Ⅳg	cg	δ	3	6.58～7.13m:変質帯。上盤63°，下盤60°。幅25cm程度。一部に灰白色粘土が網目状に認められる。					95			20.0				
											7.42～10.83m:傾斜55°及び80°程度の節理がみられる。節理には灰白色粘土を伴う。												
					黄橙		Ⅲg				8.40～11.96m:節理に沿ってマンガンが濃集することが多い。												
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg	bg			8.51～9.01m:変質帯。上盤72°，下盤45°。幅15cm程度。節理に沿って灰白色粘土が分布する。				4/25 12.10			ダブルコアチューブ／ダイヤビット			0.0	泥水3	3
							Ⅲg				9.01～10.28m:破砕帯(Hc,Hb,Hj)。上盤45°，下盤82°。幅18cm程度。主に礫混じり淡黄色粘土からなる。高角度と中角度の面が認められる。												
					明赤灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	3	10.28～10.80m:変質帯。上盤82°，下盤83°。幅6cm程度。軟質化している。												
					明褐灰						10.80～21.87m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。	CL'									90			
					浅黄橙		Ⅴg				10.83～14.54m:傾斜20°及び70°程度の節理がみられる。												
					明褐灰	Dg	Ⅳg				14.54～16.42m:傾斜60°程度の節理が発達している。一部灰白色粘土を伴う。		[CL]										
							Ⅴg																
					浅黄橙		Ⅳg	bg			15.11～15.81m:変質帯。上盤55°，下盤62°。幅40cm程度。同系統の節理が発達している。												
						Cg					16.42～27.91m:傾斜20°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。												
						Dg	Ⅴg																
						Eg	Ⅵg	cg	δ	4	18.16～18.84m:破砕帯(Hj,Hc)。上盤70°，下盤不明。幅13cm程度。原岩組織が不明瞭ながら認められる。中間に灰白色粘土を挟む。	D'			4/26 18.30								
						Dg	Ⅲg																
							Ⅳg																
							Ⅴg																
					明褐灰	Cg	Ⅳg	bg				CL'											
							Ⅲg																
					浅黄	Dg	Ⅳg																
					明褐灰	Cg	Ⅲg	cg	γ	3	21.68m:シーム。傾斜75°。幅0.1cm程度の黄白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。												
							Ⅳg				21.87～32.51m:コアは硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。	CM'											
						Bg	Ⅲg																
					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg																
							Ⅳg																
	33.10	24.58		ペグマタイト			Ⅲg				24.58～24.79m:ペグマタイト。径5～10mm程度の石英，径10～30mm程度の長石からなる。	CL'	[CM]										
	32.89	24.79		花崗斑岩	浅黄	Bg	Ⅳg	bg			24.79～26.34m:花崗斑岩。上位の花崗斑岩に比べて斑晶の含有量が少ない。	CM'				93							
					明褐灰	Cg																	
					にぶい黄橙		Ⅴg																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	31.34	26.34		花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	Vg	cg	γ	3	26.34～26.51m:斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。		CL'															
	31.17	26.51		アプライト							26.51～60.00m:花崗斑岩。径1～12mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～20%程度含む。		26.70														
					明褐灰	Bg	IVg			2	26.70m:シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黄灰色粘土からなる。上盤側にマンガンが濃集している。		CM'														
							IIIg				27.91～35.12m:傾斜50°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化している。		27.91														
							IVg						CH'															
							IIIg						28.42															
						Cg	IVg						CM'	[CM]														
					にぶい黄橙		IIg			3																		
					灰白		IVg																					
							Vg																					
							IVg																					
							IIIg																					
							IVg																					
							IIg																					
							Vg																					
					浅黄	Dg	IVg	cg			32.51～42.09m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。		32.31														
					浅黄橙		Vg				32.56m:シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の黄灰色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。		CL'														
					明褐灰	Cg	IVg	bg		2			33.50															
											35.12～39.50m:傾斜20°及び70°程度の節理がみられる。節理に灰白色粘土を伴うことが多い。		CM'														
							Vg						35.52	35.52														
					淡橙	Dg		cg		3	37.61m:シーム。傾斜74°。幅0.6cm程度の黄灰色シルトからなる。		CL'	[CL]														
						Cg	IVg																					
					にぶい橙		Vg	cg			39.17～39.29m:変質帯。上盤41°，下盤12°。幅12cm程度。一部に灰白色粘土が網目状に分布する。																
					淡橙	Dg	Vg	bg			39.50～44.00m:傾斜55°及び80°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，一部灰白色粘土を伴う。																
					にぶい橙	Eg		cg			39.82～39.88m:変質帯。上盤73°，下盤64°。幅2.6cm程度。黄灰色粘土が網目状に分布する。																
					灰白	Cg	IVg				40.19～40.65m:節理に沿ってマンガンを伴うことが多い。																
							Ⅲg				40.65～41.00m:変質帯。上盤65°，下盤不明。幅5cm程度。黄灰色粘土が網目状に分布する。節理に沿って不規則な分布を示す。		41.40														
							IVg				42.09～46.20m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。		CM'														
						Bg	Ⅱg			2	44.00～49.55m:傾斜30°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。		42.09	42.09														
							Ⅲg																					
							Ⅱg						CH'	[CH]														
							IVg																					
							Ⅲg																					
							IVg																					
						Cg	Vg				46.20～60.00m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。		46.20	46.20														
						Dg							CM'															
						Cg	IVg			3			46.72															
						Dg	Vg	cg																				
						Eg	VIg	dg		4	48.10～48.26m:破砕帯(Hb)。上盤70°下盤70°。幅5.5cm程度。礫混じり暗灰色シルトからなる。マンガンが濃集している。																
						Dg		cg			49.55m:シーム。傾斜60°。幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。		CL'	[CL]														
						Cg	IVg			3	49.55～54.20m:傾斜50°程度の節理が発達している。節理に灰白色粘土を伴う。																
							Vg																					
							IVg																					
						Eg	VIg	dg		4	50.90～52.95m:破砕帯(Hc,Hj,Hb)。上盤68°，下盤70°。幅77cm程度。礫混じり黄灰色粘土，灰白色粘土からなる。間には原岩組織を残す部分が認められる。全体に細目状粘土を伴う。		50.90	50.90														
						Dg		cg			53.48～53.55m:変質帯。上盤36°，下盤56°。幅6cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。		D'	[D]														
						Eg		dg			53.95～54.20m:変質帯。上盤58°，下盤70°。幅7cm程度。節理密集部からなる。節理に沿って灰白色粘土が分布する。		52.95	52.95														
							Vg				54.20～60.00m:傾斜20°，50°，及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴う。		CL'														
						Dg	VIg				55.48～55.55m:変質帯。上盤64°，下盤45°。幅3cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。		53.95														
							Vg				55.99～56.05m:破砕帯(Hc)。上盤77°下盤77°。幅1.3cm程度。黄白色粘土からなる。		D'														
						Cg	IVg				56.05～56.77m:変質帯。上盤77°，下盤53°。幅43cm程度。節理に沿って灰白色粘土が分布する。		54.48														
					浅黄橙	Dg	IVg	cg		3	57.95～58.85m:変質帯。上盤58°，下盤76°。幅22cm程度。節理密集部からなる。節理に沿って灰白色粘土が分布する。		CL'	[CL]														
					にぶい黄橙		Vg				59.35～59.56m:変質帯。上盤85°，下盤不明。幅2cm程度。一部に灰白色粘土を伴う。																
					明褐灰	Cg	IVg						CL'															
					明黄褐	Dg	Vg																					
	-2.32	60.00				Cg	IIg																					
							Vg																					

掘進月日: 4/29 30.90 / 4/30 34.80 / 5/1 37.80 / 5/7 42.90 / 5/8 50.70 / 5/9 57.70 / 5/10 59.40 / 5/15 60.00

孔壁保護: 76

コアチューブ／ビット: ダブルコアチューブ／ダイヤビット

給圧: 30.0

回転数: 90

送水圧: 0.0 / 0.1 / 0.0 / 0.0

送水量: 泥水3

排水量: 0 / 3 / 0 / 3

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	②-1	調査位置					北緯		
発注機関				調査期間			東経		
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 69.01 m	角度	180° 上 90° 下0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 25°	使用機種	試錐機 / エンジン	ハンマー落下用具 / ポンプ	
総掘削長	65.00 m										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	68.94	0.07		風化土 アプライト	淡橙	Eg	VIg	dg	δ	4	0.00～0.07m:腐植土。																
					浅黄橙	Cg Dg	IVg	bg		3	0.07～8.05m:アプライト主体。径1～8mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を2～3%程度含む。																
	66.71	2.30		花崗斑岩							0.07～2.01m:コアは風化し，軟質で，ハンマーで著しい濁音を発する。																
	66.36	2.65		アプライト							0.07～14.79m:傾斜25°及び60°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。																
	66.11	2.90		花崗斑岩							2.01～10.94m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。																
	65.81	3.20		アプライト	明褐灰	Eg Dg	IVg Vg	cg		4	2.30～2.65m，2.90～3.20m，3.95～4.34m間は斑晶の含有量がやや多い花崗斑岩を挟む。アプライトとの境界は漸移的である。																
	65.06	3.95		花崗斑岩		Cg	IVg IIIg	bg	γ	3																	
	64.67	4.34		アプライト	淡橙	Dg	IVg IIg	cg																			
	61.84	7.17				Eg	VIg	dg		4	7.17～7.65m:変質帯。上盤22°，下盤17°。幅45cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。																
	61.32	7.69		ペグマタイト			Vg	cg			7.17～7.69m:ほとんどカリ長石からなる。																
	60.96	8.05		アプライト	橙		IVg	bg			7.71～8.81m:幅1mm以下の石英脈を多数挟む。傾斜40～75°程度。																
				花崗斑岩			Vg				8.05～10.94m:花崗斑岩。径1～15mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5～30%程度含む。アプライトとの境界は漸移的である。																
	59.34	9.67			浅黄橙	Dg	IVg	cg		3	9.67～10.06m:斑晶の粒径が大きく，斑晶の含有量が50%以上ある黒雲母花崗岩を挟む。																
10	58.95	10.06		黒雲母花崗岩 花崗斑岩			IIIg IVg IIg IIIg																				
	58.07	10.94			灰白橙	Cg	IVg		δ		10.94～11.21m:ペグマタイト。径5～50mm程度の石英，長石からなる。																
	57.80	11.21		ペグマタイト																							
				花崗斑岩	灰白橙	Bg	IIg		γ		10.94～14.79m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。																
					橙	Cg	IIIg IVg	cg			11.21～32.25m:花崗斑岩。径1～10mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5～30%程度含む。斑晶が密集している箇所とそうでない箇所を繰り返す。																
					灰白橙	Dg Bg	IVg IIg		δ																			
					橙	Cg	IVg		γ																			
					明赤褐	Bg Cg	IIg IVg IIIg																					
						Eg	IVg			4	13.36～14.79m:コアの表面が褐色化している。																
					明黄褐		IIg IVg			3	14.79～18.26m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。																
					浅黄橙	Dg	IIIg IVg IIg IVg		δ γ γ δ		14.79～18.69m:傾斜70°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。																
					にぶい黄橙		IIg IVg																					
					明褐	Cg Dg	IIIg IVg				18.26～29.70m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。																
					褐灰		IIg				18.69～29.55m:傾斜20°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，一部灰白色粘土を伴う。																
20					明褐灰	Bg	IIIg IIg	bg	γ	2																	
							IVg																					
					にぶい橙	Cg Bg	IIg IVg	cg			22.55～22.75m:傾斜50°程度の流理がみられる。																
							IIg IIIg																					
						Cg Bg	IIIg IIg				24.61m:幅1～2mm程度の石英脈を挟む傾斜80°程度。																
					橙	Bg	IIIg	bg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					橙	Bg	Ⅱg	bg			26.62m:幅1～2mm程度の石英脈を挟む傾斜76°程度。
							Ⅲg				
							Ⅱg	cg			
							Ⅳg				
					褐灰		Ⅱg	bg			
30											29.55～39.55m:傾斜45°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンを伴うことが多い。
							Ⅳg				29.70～33.90m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。
					にぶい橙	Cg	Ⅲg	cg			
							Ⅳg				
							Ⅲg	bg			
							Ⅳg	cg			
	36.76	32.25		アプライト							32.01m:幅5～10mm程度の石英脈を挟む。マンガンを伴う。傾斜66°程度
					橙		Ⅳg				32.22m:幅10mm程度のマンガン脈を挟む。傾斜67°程度。
							Ⅱg				32.25～33.48m:アプライト。
							Ⅲg				径1～10mm程度の石英，長石，径2mm以下の黒雲母の斑晶を1～3%程度含む。上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。
	35.53	33.48				Bg	Ⅱg			2	33.38m:節理に沿ってマンガンが濃集する。
					にぶい橙	Cg	Ⅲg	bg			33.48～65.00m:花崗斑岩主体。
							Ⅱg				径1～12mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5～30%程度含む。斑晶が密集している箇所とそうでない箇所を繰り返す。上位のアプライトとの境界は明瞭で傾斜78°程度。
					明褐灰		Ⅱg	bg			33.90～44.37m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
						Bg	Ⅳg	cg			34.96～35.08m:節理に沿ってマンガンが濃集する。
							Ⅲg				
							Ⅱg	bg			
							Ⅲg				
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg			
							Ⅱg	bg			
							Ⅳg	cg			39.55～41.72m:傾斜20°及び80°程度の節理がみられる。
40					明褐灰		Ⅲg				
						Bg	Ⅳg				
							Ⅱg	bg		3	41.72～65.00m:傾斜60～70°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。
							Ⅲg				
					にぶい橙		Ⅳg				
	25.76	43.25									
	25.51	43.50		アプライト							43.16m:幅5～8mm程度の石英脈を挟む傾斜45°程度。
				花崗斑岩							43.25～43.50m，44.20～45.56m:斑晶の含有量が5%程度のアプライトを挟む。
	24.81	44.20					Ⅳg		γ	2	
				アプライト		Cg	Vg	cg			44.55～44.80m:変質帯。上盤53°，下盤49°。幅15cm程度。灰白色粘土を挟在する微細な節理が発達する。
						Dg	Ⅳg	bg		4	
					黄橙	Eg	Ⅵg	cg		4	
	23.45	45.56						dg		3	45.13～46.34m:破砕帯(Hb,Hc,Hj)。上盤72°，下盤68°。幅53cm程度。上部は主に礫混じり黄褐色粘土からなり，下部は主に灰白色粘土が網目状に分布する。一部は原岩組織を残す。上盤にはマンガンが濃集する。
					灰白	Eg	Vg	cg		3	
						Cg	Vg			3	
							Ⅵg				
					明褐灰	Cg	Vg	cg		3	46.85～46.97:破砕帯(Hc,Hj)。上盤72°，下盤67°。幅3.7cm程度。原岩組織が認められるが，上盤，下盤に幅0.3cm程度の明瞭な灰白色粘土を伴う。
							Ⅳg				
						Eg	Ⅵg	cg		3	47.13～47.25m:変質帯。上盤66°，下盤30°。幅5cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。上盤と下盤の傾斜方向が異なる。
						Dg	Vg				
					灰白	Eg		dg		4	48.26～48.95m:破砕帯(Hb,Hc,Hj)。上盤69°，下盤45°。幅25cm程度。原岩組織が認められるが，幅0.4～1cm程度の明瞭な灰色～灰白色粘土を伴う。
							Ⅵg				
					にぶい橙	Dg		cg		3	49.21～51.10m:破砕帯(Hb,Hc,Hj)。上盤45°，下盤36°。幅80cm程度。原岩組織が認められ，灰白色粘土が網目状に分布する。間には幅6～10cm程度の明瞭な灰白色粘土を伴う。粘土の傾斜は65°である。
						Eg		dg		4	
						Dg		cg		3	
					明赤灰		Vg				
						Dg	Ⅵg				
						Cg	Vg				51.73～52.12m:変質帯。上盤67°，下盤72°。幅15cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
							Ⅳg				
						Dg	Vg				52.53～52.67m:変質帯。上盤52°，下盤43°。幅8.6cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
						Cg	Ⅳg				
					浅黄	Dg	Vg				53.67～53.72m:変質帯。上盤71°，下盤41°。幅1.6cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なり膨縮する。
							Ⅳg				
						Cg	Vg				54.55～54.64m:変質帯。上盤76°，下盤76°。幅2.2cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
						Dg					
						Cg	Ⅳg				55.85～55.90m:変質帯。上盤31°，下盤31°。幅4.3cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
						Dg	Vg	cg		3	
							Ⅳg				56.57～56.67m:変質帯。上盤74°，下盤77°。幅2.2cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
							Ⅵg				
							Vg				
							Ⅲg				57.42～65.00m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。
							Ⅳg				59.67m:シーム。傾斜75°。幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。他の節理を切っている。
60	9.34	59.67									
				アプライト	明褐灰	Cg	Vg				59.67～61.35m:アプライト。径2mm程度の石英，長石の斑晶を2～5%程度含む。
							Ⅳg				
	7.66	61.35									
	7.27	61.74		花崗斑岩							
	7.11	61.90		アプライト	淡黄						61.74～61.90m:斑晶の含有量が3%程度のアプライトを挟む。
				花崗斑岩							

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CM'	[CH]			4/14 27.00	133	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	50.0	120	0.0	泥水3	0
CH'								80.0				
					91			70.0				
CM'	[CM]			4/15 32.00				30.0				
								40.0				
CH'					81			80.0				
				4/16 37.00								
CM'	[CH]				128			50.0	160			
CH'												
CM'								70.0				
CL'				4/17 44.70								
D'	[CL]				96					0.0	泥水2	0
CL'												
D'	[D]			4/18 50.00				10.0	120			
					120							
CL'	[CL]			4/21 56.00						0.0	泥水3	0
					116			20.0				
				4/22 62.00								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	4.01	65.00		花崗斑岩	浅黄	Dg Cg Bg Cg Dg Eg	Vg IVg IIIg IVg Vg VIg	cg bg cg dg	γ	3 4	64.78～65.00m:変質帯。上盤45°，下盤不明。幅7cm程度以上。微細な節理が発達し，一部に灰白色粘土，マンガンが網目状に分布する。	0 50 100 15 [23] 13 [13] 8 [0]	CL' 62.56 CM' 63.38 CL' 64.51 D' 65.00	[CL]	65.00		0 10 20 30 40 50			4／23 65.00	86	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	120	0.0	泥水3	0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	③-1	調査位置		北緯	
発注機関		調査期間		東経	
調査業者名		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	+ 38.89 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 0°
総掘削長	50.00 m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 35°	使用機種	試錐機 / エンジン / ハンマー落下用具 / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	38.19	0.70		埋土	にぶい黄褐						0.00～0.70m:埋土。シルト混じり細粒～中粒砂からなる。
	37.52	1.37		コンクリート	灰						0.70～1.37m:コンクリート。
				アプライト	にぶい黄橙	Dg	Ⅲg		δ		1.37～50.00m:アプライト主体。径1～10mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5%程度含む。
							Ⅱg				1.37～1.92m:風化し，コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。
							Ⅳg				1.37～8.60m:傾斜20°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い
							Ⅱg				1.92～11.52m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅱg	cg			5.33m:シーム。傾斜79°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。
					明褐灰		Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
					にぶい黄橙		Ⅳg				
							Ⅲg				8.18～8.22m:破砕帯(Hb)。上盤75°，下盤62°。幅1cm程度。礫混じり褐灰色粘土からなる。膨縮している。
					明褐灰	Bg	Ⅳg		γ	2	8.60～11.52m:傾斜75°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。
							Ⅲg				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg				
					明褐灰		Ⅲg	bg			
							Ⅱg				11.52～15.60m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。
					黄褐		Ⅲg	cg			11.52～16.70m:傾斜20°及び70°程度の節理がみられる。
						Bg	Ⅱg				12.10～14.68m:コアの表面が褐色化している。
							Ⅲg				
					にぶい橙		Ⅱg	bg			
	23.06	15.83		ペグマタイト							15.60～23.70m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。
	22.84	16.05		アプライト	浅黄橙		Ⅲg				15.83～16.05m:ペグマタイト。径5～50mm程度の石英，長石からなるアプライトとの境界は30°程度。
						Cg	Ⅳg				16.70～23.30m:傾斜75°程度の節理が発達している。
					明黄褐		Ⅳg		δ	3	17.28～18.90m:全体にマンガンが沈着する。
						Dg	Ⅴg	cg			17.62m:幅1～2mm程度の石英脈を挟む傾斜85°程度。
	20.02	18.87		花崗斑岩			Ⅳg				18.46～18.53m:破砕帯(Hc)。上盤74°下盤75°。幅1.9cm程度。灰黄色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。
	19.54	19.35		アプライト	にぶい橙	Cg	Ⅲg	bg		2	18.87～19.35m:花崗斑岩。径1～10mm程度の石英，長石の斑晶を10%程度含む。
						Bg					
	17.34	21.55			浅黄橙		Ⅳg			3	19.78～19.84m:ペグマタイトを挟む。径20～30mm程度の石英，長石からなる。マンガンが濃集する。
	17.14	21.75		ペグマタイト		Cg		cg		2	20.50m:幅5mm程度の暗灰色を呈する鉱物脈を挟む。傾斜43°程度。
				アプライト			Ⅴg		γ		21.55～23.11m:ペグマタイトを多く挟む。径50mm以下の石英，長石からなる。一部の長石が淡緑灰色に変質している。
	16.38	22.51		ペグマタイト						3	
	16.14	22.75		アプライト		Bg	Ⅲg				23.30～28.56m:傾斜30°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンを伴うことが多い
	15.89	23.00		ペグマタイト		Cg	Ⅳg			2	23.70～43.70m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
	15.78	23.11		アプライト	淡赤橙	Bg	Ⅱg	bg			
							Ⅲg				
						Cg				3	25.09～25.15m:変質帯。上盤72°，下盤70°。幅2cm程度。土砂状を呈するが部分的である。
						Bg	Ⅳg			2	
					にぶい橙						

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日
1.37	1.37	3/14
CL'	[CL]	
1.92	1.92	2.45
CM'		3.20
4.55		
CL'		
5.57		
CM'	[CM]	
7.70		
CL'		
8.60		
CM'		
10.10		
CL'		
10.78		
CM'		
11.52	11.52	
CH'	[CH]	
15.60	15.60	
CM'		
20.83		
CL'		
22.75		
CM'		
23.70	23.70	
CH'		
24.55		
CM'	[CH]	
26.00	26.00	

（標準貫入試験）試験 （N値～深度）

掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
	100	114／ケーシング	試掘	0.0	0	0.0	無水0	0
3/7 2.00				3.0	120	0.0	泥水1	1
	151	76		10.0	200	0.0	泥水5	5
3/8 6.03				60.0	350	0.0	泥水5	4
	92	76		100.0	400	0.0	泥水6	5
3/10 11.72			ダブルコアチューブ／ダイヤビット	60.0		0.0	泥水3	0
	96	76			250			
3/11 18.49				30.0				
	156	76				0.0	泥水4	0
3/12 25.52	135	76		60.0	300	0.0	泥水5	3

原位置試験（孔内水平載荷）　室内試験

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	12.54	26.35		アプライト	にぶい橙	Bg				2																	
	12.04	26.85		花崗斑岩		Cg	Ⅳg			3	26.22～26.35m:幅20mm程度の石英脈を挟む。母岩を礫状に取り込む。傾斜75°程度。															
				アプライト	淡赤橙		Ⅱg				26.35～26.85m:花崗斑岩。径2～10mm程度の石英，長石の斑晶を15%程度含む。アプライトとの境界は漸移的である。															
					明褐灰		Ⅲg																				
	9.89	29.00					Ⅱg																				
	9.24	29.65		ペグマタイト			Ⅳg				28.56～36.22m:傾斜30°及び80°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，一部マンガンや灰白色粘土を伴う。															
				花崗斑岩			Ⅲg				29.00～29.65m:ペグマタイト。径5～30mm程度の石英，長石，黒雲母からなる。															
	8.53	30.36		ペグマタイト			Ⅱg				29.65～30.36m:花崗斑岩。径1～20mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶を20%程度含む。															
	8.23	30.66								2	30.36～30.66m:ペグマタイト。径5～35mm程度の石英，長石，黒雲母からなる。															
				アプライト	淡赤橙		Ⅳg	bg			32.11～32.20m:変質帯。上盤54°，下盤72°。幅2.8cm程度。微細な節理が発達している。															
	6.74	32.15									32.15～32.58m:花崗斑岩。径1～10mm程度の石英，長石の斑晶を15%程度含む。アプライトとの境界は漸移的である。															
	6.31	32.58		花崗斑岩		Vg					33.95～34.50m:破砕帯(Hc,Hj)。上盤81°，下盤80°。幅10cm程度。原岩組織が認められるが，上盤，下盤には明瞭な灰白色粘土を伴う。															
						Dg		cg		4																	
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg																			
							Ⅱg																				
					淡赤橙		Ⅳg				36.22～39.60m:傾斜20°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化している。															
							Ⅲg																				
							Ⅳg																				
							Ⅲg																				
							Ⅱg																				
							Ⅳg		γ																		
					橙	Bg	Ⅲg	bg		2	39.60～50.00m:傾斜20°及び80°程度の節理がみられる。一部節理に沿ってマンガンや灰白色粘土を伴う。															
							Ⅱg				40.35～41.13m:マンガンが斑点状に沈着する。															
					にぶい黄橙		Ⅲg	cg			41.30～42.09m:コアの表面が褐色化している。															
					橙		Ⅱg	bg																			
							Ⅲg				42.32m:傾斜78°の節理に沿って幅1～3cm程度で暗緑色を呈する。															
							Ⅳg																				
	-4.36	43.25									43.25～44.00m:ペグマタイト。径2～40mm程度の石英，長石からなる。															
	-5.11	44.00		ペグマタイト		Cg				3	43.70～48.40m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。															
						Dg	Ⅵg	cg			44.00～44.20m:変質帯。上盤不明，下盤72°。幅6cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。															
							Ⅳg																				
							Ⅱg	bg																			
							Ⅳg																				
						Cg	Ⅲg			2																	
								cg																			
							Ⅳg																				
						Bg	Ⅲg	bg			48.40～50.00m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。															
							Ⅱg																				
	-11.11	50.00					Ⅲg				49.30～49.52m:マンガンが斑点状に沈着する。															

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	④-1	調査位置				北緯	
発注機関			調査期間			東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 53.27 m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 30°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	80.00 m							エンジン	ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	52.97	0.30		盛土	黄褐						0.00～0.30m：腐植質シルト。 0.30～0.74m：砂混じりシルト。 0.74～1.13m：径3～6cm程度の花崗斑岩のクサリ礫を含む砂混じりシルト																
	52.53	0.74		砂混じりシルト																							
	52.14	1.13		砂混じりシルト																							
				アプライト		Cg	Ⅳg	cg	γ	3	1.13～5.60m：アプライト。 径1～10mm程度の石英，長石，径4mm以下の黒雲母の斑晶を3～5%程度含む。 1.13～7.06m：コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。 1.13～1.83m：傾斜20°程度の節理がみられる。 1.83～25.53m：傾斜70°程度の節理が発達している。節理に沿って灰白色粘土を伴う。 3.18m：幅18mm程度の石英脈を挟む。傾斜63°程度。		CL'														
							Ⅲg						CM'														
							Ⅳg						CL'														
						Dg	Ⅲg						CM'														
							Ⅳg						CL'														
	47.67	5.60				Cg	Ⅲg						CM'														
	47.23	6.04		花崗斑岩			Ⅳg				5.60～10.05m：花崗斑岩主体。 径1～10mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を20%程度含むアプライトとの境界は漸移的である 5.63m：シーム。傾斜63°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。石英脈を切っている。 5.66m：幅6mm程度の石英脈を挟む。傾斜60°程度。上記のシームで切られる。 6.04～6.14m，8.42～8.59m：斑晶の含有量が3～5%程度のアプライトを挟む。																
	47.13	6.14		アプライト																							
						Dg	Ⅳg						CL'														
						Cg	Ⅳg																				
						Dg	Ⅳg																				
						Cg	Ⅳg																				
	44.85	8.42					Ⅳg																				
	44.68	8.59		アプライト																							
				花崗斑岩		Dg	Ⅳg																				
10	43.22	10.05			にぶい橙		Ⅴg	cg	δ	4	7.06～7.18m：変質帯。上盤76°，下盤69°。幅2.9cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。同系統の節理が発達している。 7.06～18.03m：コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。 9.33～10.72m：変質帯。上盤70°，下盤73°。幅41cm程度。石英脈が発達し，一部礫状を呈する。 9.63～9.72m：幅5cm程度のアプライト脈を挟む。傾斜74°程度。 10.05～12.58m：アプライト主体。 径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を3～5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。 10.16～10.20m：幅2～4mm程度の石英脈を3条挟む。傾斜8～20°程度。 10.78～11.12m：斑晶の含有量が10%程度の花崗斑岩を挟む。 11.12～11.25m：幅0.2～2mm程度の石英脈を多数挟む。傾斜3～8°程度。 12.58～19.45m：花崗斑岩。 径1～10mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を25%程度含むアプライトとの境界は漸移的である 13.00～13.30m：節理に沿ってマンガンを伴う。 15.99～16.51m：変質帯。上盤46°，下盤60°。幅26cm程度。軟質化している。上盤，下盤境界は不明瞭である。 18.03～21.78m：破砕帯（Hb，Hj，Hc）。ロッド昇降部のため，上盤，下盤とも不明。幅147cm程度。上部は原岩組織が不明瞭な礫混じり明褐灰色粘土，下部は灰白色粘土主体。中間に幅6cm程度の明瞭な灰白色粘土を挟む。粘土の傾斜は67°である。 18.03～24.19m：強く変質し，コアは軟質である。 19.45～41.80m：アプライト主体。 径1～6mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を1～5%程度含む。 21.78～23.27m：変質帯。上盤不明，下盤66°。幅61cm程度。軟質化している。 22.15～22.64m：斑晶の含有量が25%程度の花崗斑岩を挟む。 23.27～23.31m：破砕帯（Hc）。上盤66°下盤66°。幅1.2cm程度。黄白色，褐色粘土からなる。 23.31～23.59m：変質帯。上盤66°，下盤64°。幅12cm程度。微細な節理が発達している。マンガンを伴う。 23.80～24.19m：変質帯。上盤不明，下盤66°。幅16cm程度。灰黄色粘土が網目状に分布する。																
	42.49	10.78			淡黄橙	Cg	Ⅳg	bg		3																	
	42.15	11.12		アプライト			Ⅴg																				
				花崗斑岩			Ⅳg																				
							Ⅴg																				
							Ⅳg																				
							Ⅲg																				
							Ⅳg																				
	40.69	12.58				Dg	Ⅴg	cg	γ																		
							Ⅳg																				
							Ⅴg																				
							Ⅳg																				
							Ⅴg																				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg		3																	
						Dg	Ⅴg																				
						Eg	Ⅲg	cg																			
							Ⅳg																				
						Dg	Ⅴg																				
								dg																			
								cg	γ																		
20	33.82	19.45			灰白	Eg	Ⅵg	dg		4																	
					明褐灰					3																	
										4																	
										3																	
	31.12	22.15		アプライト	淡橙	Dg																					
	30.63	22.64		花崗斑岩		Eg																					
					オリーブ黄	Dg																					
						Eg	Vg	cg		3																	
				アプライト	淡橙	Dg																					
					黄橙	Eg	Ⅵg	dg	δ	4																	
						Dg	Vg	cg		3																	

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				アプライト	黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	24.19～40.76m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。
					灰白	Eg	Vlg	dg		4	25.53～31.31m:傾斜10°及び70°程度節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴う。
						Dg	Vg	cg	γ	3	25.57～25.75m:変質帯。上盤76°，下盤77°。幅4cm程度。軟質化している。
							Ⅳg				26.37～26.51m:変質帯。上盤47°，下盤68°。幅5cm程度。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。
	24.11	29.16					Vg				26.46m:節理の下盤側に幅3cm程度でマンガンが濃集する。
	23.83	29.44		花崗斑岩		Eg	Vlg	dg			29.16～29.44m:花崗斑岩。径2～16mm程度の石英，長石，径7mm以下の黒雲母の斑晶を20～25%程度含む。下部は石英が濃集する。
30					浅黄橙	Dg	Vg	cg	δ	4	30.44～30.89m:変質帯。上盤12°，下盤12°。幅44cm程度。微細な節理が発達している。
						Eg					30.89～31.50m:長石の斑晶が密集している。
						Dg					31.31～34.81m:傾斜45°及び60°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
						Dg	Ⅳg			3	
						Cg	Vg				
						Dg	Ⅳg				34.81～39.78m:傾斜25°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
						Cg	Vg				
						Dg					
						Eg	Vlg	dg		4	36.27～36.63m:変質帯。上盤76°，下盤69°。幅8.7cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
					明褐灰	Dg	Vg	cg		3	
							Ⅳg				
						Cg	Ⅳg				
						Dg	Vg				
						Eg	Vlg	dg		4	39.78～40.76m:傾斜45°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。
						Dg	Vg	cg		3	
						Cg	Ⅳg	bg	γ	2	39.78～39.98m:破砕帯(Hb)。上盤81°下盤82°。幅3.1cm程度。礫混じり灰白色粘土からなる。縞状構造が認められる。
						Cg	Ⅳg				39.98～40.27m:変質帯。上盤82°，下盤71°。幅9.4cm程度。微細な節理が発達している。
	11.47	41.80		花崗斑岩		Cg	Vg				40.76～80.00m:コアは硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。硬軟を細かく繰り返す
					褐灰	Bg	Ⅳg				40.76～44.00m:傾斜20°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンを伴うことが多い。
	8.81	44.46		アプライト			Ⅲg				41.80～44.46m:花崗斑岩。径1～5mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を25%程度含むアプライトとの境界は漸移的である
	7.62	45.65		ペグマタイト	浅黄橙		Ⅱg				44.00～58.27m:傾斜20°程度の節理が発達している。節理に沿ってマンガンを伴うことが多い。
	6.50	46.77		アプライト		Cg	Vg				44.46～54.48m:アプライト主体。径1～4mm程度の石英，長石，黒雲母の斑晶を3～5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
					明褐灰	Dg	Ⅳg				45.65～46.77m:ペグマタイト。径5～60mm程度の石英，長石，径2～5mm程度の黒雲母からなる。アプライトとの境界は20～40°程度。
						Bg	Ⅲg				46.89m:幅10mm程度でマンガンが濃集する。
							Ⅳg				47.40～47.86m:コアの表面が褐色化している。
50	3.18	50.09					Ⅲg				
	2.67	50.60		花崗斑岩		Cg	Ⅳg				50.09～50.60m，51.17～51.76m:斑晶の含有量が7～10%程度の花崗斑岩を挟む。アプライトとの境界は漸移的である。
	2.10	51.17		アプライト			Ⅱg				
	1.51	51.76		花崗斑岩			Vg				
				アプライト	明黄褐	Bg	Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
	-1.21	54.48					Ⅲg				54.48～57.33m:花崗斑岩。径2～12mm程度の石英，長石，径4mm以下の黒雲母の斑晶を10～15%程度含む。
				花崗斑岩	明褐灰		Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				
	-4.06	57.33			淡橙	Cg	Vg				57.33～59.50m:アプライト。径2～8mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を1～5%程度含む。
							Ⅳg				
				アプライト		Cg	Ⅳg	bg		2	58.27～75.65m:傾斜70°程度の節理が発達している。節理に沿って一部褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことがある。
						Dg	Vg	cg		3	
					黒褐	Eg	Vlg	dg		4	58.28～58.87m:変質帯。上盤不明，下盤62°。幅28cm程度。微細な節理が発達している。
	-6.23	59.50		花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	bg		2	58.87～59.39m:破砕帯(Hb,Hc)。上盤62°，下盤68°。幅23cm程度。母岩を礫状に取り込むマンガン濃集帯。中間に明瞭な灰白色，褐色粘土を挟む。粘土の傾斜角は64°である。
60						Bg	Ⅳg				
							Ⅳg				
							Vg				59.50～80.00m:花崗斑岩主体。径1～10mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5～20%程度含む。斑晶が密集する箇所とそうでない箇所を繰り返す。
						Cg					
					橙	Dg		cg		3	61.11～61.22m:流理がみられる。傾斜20°程度。

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日
	26.00	
CL'		
30.44 D' 30.89		4/23 31.40
	[CL]	4/15 34.20
CL'		4/22 36.20
		4/14 38.60 39.40
40.76	40.76	
CM'		
43.87		
CH'		
45.65		
CM'		
48.52		
CH'	[CM]	
50.38		
CM'		
52.06		
CH'		
53.12		
CM'		
53.89		
CH'		
54.84		
CM'		
58.18	58.18	
D'		
59.69		
CM'	[CL]	
60.82		
CL'		
62.00	62.00	

（標準貫入試験）試験　（N値～深度）

掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
4/9 26.30	135							
	125							
4/10 33.80				30.0	100			
	128							
4/11 43.15		95／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	40.0				
	147					0.1	泥水5	5
4/12 47.80				30.0				
	149			40.0	150			
4/14 57.00				30.0				
4/17 58.00	150							
	122			40.0				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	橙	Bg	Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg	bg		2	
					明褐灰	Cg, Bg, Dg, Cg, Bg, Dg	Ⅴg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅴg, Ⅴg	cg, bg, cg, bg		3, 4, 2, 3, 2, 3	63.91～64.00m:変質帯。上盤70°，下盤72°。幅3cm程度。微細な節理が発達し，一部礫状を呈する。 64.29～64.44m:変質帯。上盤70°，下盤50°。幅10cm程度。淡桃色粘土が網目状に分布する。 65.47～65.60m:変質帯。上盤42°，下盤72°。幅4cm程度。淡桃色粘土が網目状に分布する。
	-13.43	66.70			褐灰	Bg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅴg	bg			
	-13.73	67.00		ペグマタイト							66.70～67.00m:ペグマタイト。径6～16mm程度の石英，長石からなる高角度の微細な節理が密集し，節理にはマンガンを伴う。
	-14.61	67.88		アプライト	明褐灰	Cg, Bg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅴg	cg, bg		2	67.00～67.88m:アプライト。斑晶をほとんど含まない。
	-15.09	68.36		ペグマタイト	淡赤橙						67.88～68.36m:ペグマタイト。径5～20mm程度の石英，長石からなる
	-15.46	68.73		アプライト							68.36～68.73m:アプライト。径2mm以下の黒雲母の斑晶をわずかに含む。
70	-17.10	70.37		花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg, Dg, Cg	Ⅴg	cg, bg	γ	3, 2	69.37～69.49m:変質帯。上盤58°，下盤59°。幅6.2cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 70.00～70.37m:高角度の微細な節理が発達している。 70.37～70.60m:アプライト。径2mm以下の黒雲母の斑晶をわずかに含む。
	-17.33	70.60		アプライト							
				花崗斑岩	にぶい橙	Bg, Cg, Dg, Cg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅴg	bg, cg		2, 3	
					にぶい黄橙	Cg, Dg, Cg, Bg, Cg, Dg, Cg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅴg, Ⅴg, Ⅴg, Ⅴg, Ⅴg	bg		2	75.65～80.00m:傾斜25°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンを伴うことが多い。
	-26.73	80.00			にぶい橙	Bg, Cg, Bg, Dg, Cg	Ⅲg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg	bg, cg, bg		2, 3, 2	

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入試験)試験 (N)値	(N値～深度)	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
CM'	[CM]						4/21	122	95／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	40.0	150	0.1	泥水5	5
CL'															
CM'															
CL'															
CM'															
CL'	[CL]							153							
CM'	[CM]								76						
CL'							4/22								
CM'								100					0.0	泥水5	5
							4/29								

ボーリング柱状図

調　査　名

ボーリングNo.

事業・工事名

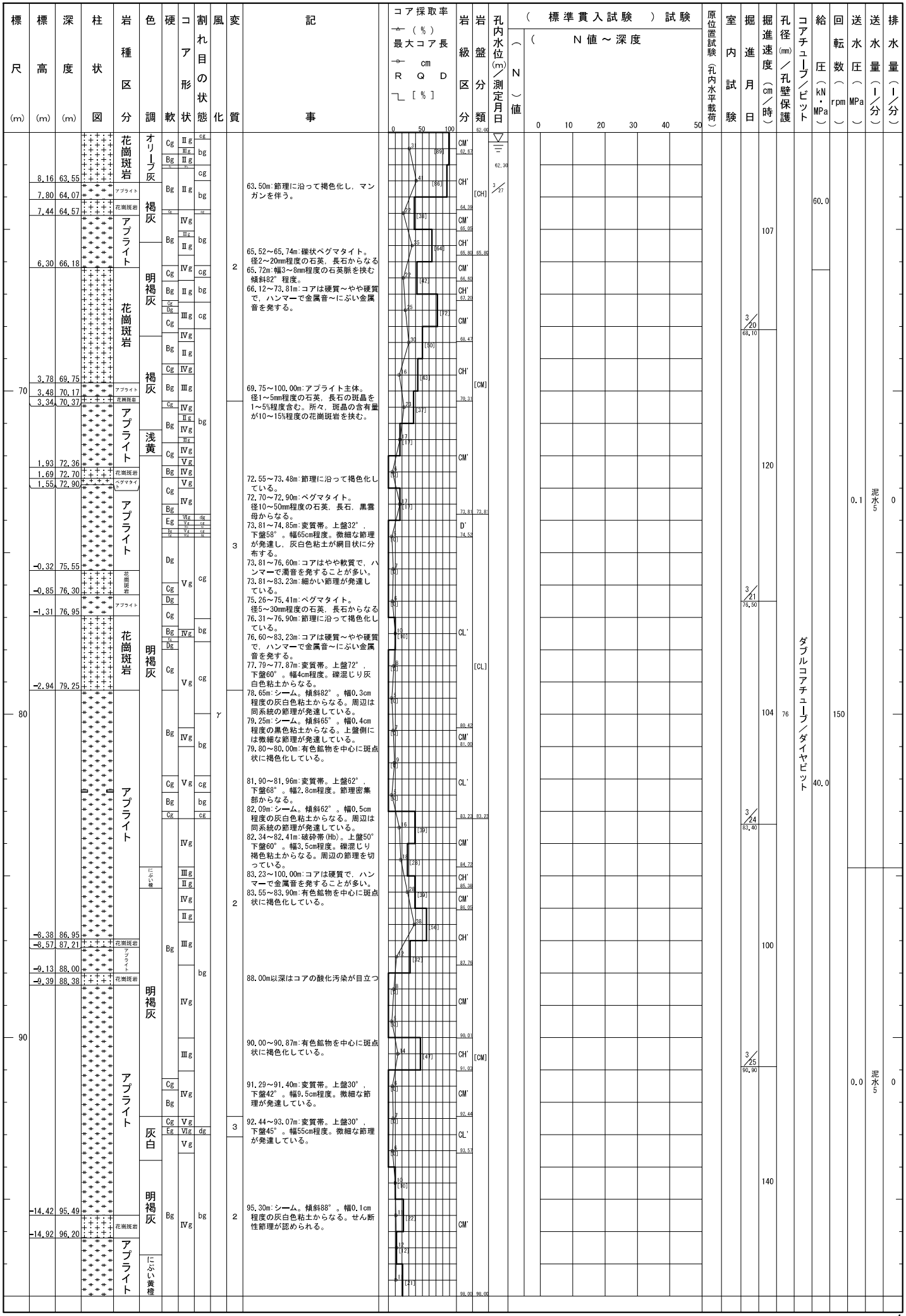
ボーリング名	④-2	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 53.10 m	角度	180° 上 90° 下0° 45°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 8°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 30°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	100.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	52.31	1.12		砂質シルト	灰黄褐 明赤褐						0.00～0.06m:植物根を多く含む腐植土。 0.06～0.80m:灰黄褐色を呈する砂質シルトからなる。 0.80～1.60m:砂質シルト～シルト質細粒砂からなる。径2cm程度の花崗岩類の礫を含む。										108						
	51.97	1.60		シルト質細砂																							
				アプライト	赤褐 橙 にぶい橙	Eg	VIg	dg	ε	4	1.60～3.13m:強く風化し，土壌化している。所々，マンガンが濃集する。 1.60～16.58m:コアは風化，変質し，軟質で，ハンマーで著しい濁音を発する。 3.13～4.42m:径3～11cm程度のアプライトを礫状に残す風化残留土。																
										3											96						
					明褐灰 にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	γ	2	4.42～12.11m:アプライト主体。 径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を3～5%程度含む。全体に風化，変質し，原岩組織が不明瞭である。 5.23～5.30m:変質帯。上盤不明，下盤64°。幅3cm程度。角礫状を呈する。節理に沿って不規則な分布を示す。 6.00～6.12m:破砕帯(Hc)。上盤不明，下盤11°。幅12cm程度。黄褐色，淡赤褐色シルトからなる。 6.90～8.90m:破砕帯(Hc,Hj,Hb)。上盤67°，下盤不明。幅78cm程度。上部は原岩組織が認められ，灰白色粘土が網目状に分布する。下部は礫混じり黄白色粘土～砂からなる。																
						Cg	IVg																				
						Eg	VIg	dg	δ	3																	
						Dg	IVg	cg	γ	3																	
									δ																		
									γ																		
						Eg	VIg	dg	δ	4											108						
	46.65	9.12																									
	46.56	9.25		花崗斑岩		Dg	IVg	cg	γ	2	9.12～9.25m:花崗斑岩。 径2～10mm程度の石英，長石の斑晶を30%程度含む。上位のアプライトとの境界は70°程度である。																
	46.21	9.74		アプライト		Dg	IIIg			3																	
10																											
	45.72	10.43		花崗斑岩					δ	3	9.73～9.84m:変質帯。上盤50°，下盤81°。幅7cm程度。上盤と下盤の傾斜方向が異なる。 9.74～10.43m:花崗斑岩。 径2～10mm程度の石英，長石の斑晶を15%程度含む。アプライトとの境界は漸移的である。																
				アプライト	にぶい黄橙																135						
	44.54	12.11									12.11～16.58m:花崗斑岩。 径2～10mm程度の石英，長石，径2mm以下の黒雲母の斑晶を15%程度含む 12.83～15.28m:変質帯。上盤62°，下盤9°。幅140cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。明瞭な面構造は認められない。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。																
				花崗斑岩	灰白	Eg	VIg	dg		4																	
	41.38	16.58																									
				アプライト	浅黄	Dg	IIIg	bg	γ	3	16.58～19.00m:アプライト。 径2～5mm程度の石英，長石の斑晶を2～5%程度含む。 16.58～31.53m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。																
						Cg	IVg																				
	39.66	19.00		花崗斑岩			IIIg				18.72～18.95m:幅0.5～10mm程度の石英脈を多数挟む。傾斜43～58°程度 19.00～31.12m:花崗斑岩主体。 径2～15mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を15～20%程度含む。所々，斑晶の含有量が5%未満のアプライトを挟む。両者の境界は漸移的である。																
20	38.85	20.15				Bg																					
	38.66	20.42		アプライト	にぶい黄橙	Cg	IVg																				
				花崗斑岩		Dg	Vg	cg		4	19.92～20.00m:幅1～10mm程度の石英脈を多数挟む。傾斜31～66°程度。 20.70m:幅5mm程度の石英脈を挟む。傾斜56°程度。																
	37.61	21.90																									
	37.19	22.50		アプライト							21.05～21.65m:変質帯。上盤14°，下盤31°。幅58cm程度。微細な節理が発達し，灰白色粘土を伴う。 21.88m:幅3mm程度の石英脈を挟む。傾斜62°程度。 23.10m:幅5～10mm程度の石英脈を挟む。傾斜85°程度。下記のシームで切られる。 23.30m:シーム。傾斜68°。幅0.2cm程度の淡褐色粘土からなる。石英脈及び他の節理を切っている。 23.92m:幅5mm程度の石英脈を挟む。傾斜45°程度。																
	36.62	23.30		花崗斑岩																							
	36.24	23.85		アプライト		Cg	IVg	bg		3																	
	35.85	24.39		花崗斑岩																							
	35.32	25.15		アプライト																							
				花崗斑岩		Dg	IIIg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	34.42	26.42		花崗斑岩		Dg	Ⅳg			3	25.51～25.56m:変質帯。上盤30°，下盤40°。幅3.8cm程度。軟質化している。
	34.11	26.85		アプライト							26.00～26.23m:変質帯。上盤不明，下盤40°。幅18cm程度。軟質化している。褐色を呈する。
	33.56	27.63		花崗斑岩		Cg	Ⅲg	bg			
	32.98	28.46		アプライト							
				花崗斑岩				cg			
30	31.82	30.10		アプライト			Ⅳg	bg			29.72～29.81m:変質帯。上盤20°，下盤31°。幅7.7cm程度。土砂状を呈する。
	31.09	31.12			灰黄					3	31.12～43.15m:花崗斑岩。径2～20mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を15～30%程度含む。上位の花崗斑岩に比べて斑晶が目立つ。
						Dg		cg			31.53～35.75m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
						Cg	Ⅲg	bg			33.00～33.13m:変質帯。上盤64°，下盤60°。幅6.5cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
						Dg	Ⅳg	cg			33.40～33.51m:変質帯。上盤69°，下盤11°。幅3.9cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。
						Cg	Ⅲg	bg			
						Dg	Ⅳg	cg			
						Cg	Ⅱg				
					暗オリーブ	Bg	Ⅱg	bg			35.75～66.12m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
						Cg	Ⅳg	cg			35.90m:節理に沿ってマンガンが斑点状に濃集する。
					浅黄	Bg	Ⅱg	bg			
						Cg	Ⅳg	cg			
					橙		Ⅲg				
40						Bg	Ⅱg	bg		2	40.50～44.45m:コアの表面が褐色化している。
					明黄褐	Cg		cg			
	22.59	43.15							γ		43.15～59.25m:アプライト主体。径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を1～5%程度含む。所々，斑晶の含有量が15～20%程度の花崗斑岩を挟む
					にぶい橙						44.14～47.86m:節理が少なく長柱状コアからなる。
					明青灰		Ⅰg				45.80～46.78m:全体にマンガンが沈着する。
					オリーブ灰						46.90～47.91m:所々，長石，黒雲母の巨晶が疎状に濃集する。
					明青灰					3	
	18.91	48.35			橙	Bg	Ⅱg	bg			
	18.54	48.87		花崗斑岩							
				アプライト						2	
50	17.26	50.69									
	17.04	50.99		花崗斑岩				cg			
				アプライト	オリーブ灰		Ⅲg				
	16.04	52.41		ペグマタイト						3	52.41～52.85m:ペグマタイト。径2～30mm程度の石英，長石の斑晶からなる。下盤の傾斜20°程度。
	15.73	52.85		アプライト				bg		2	
	15.47	53.22		ペグマタイト						3	53.22～53.56m:ペグマタイト。径2～30mm程度の石英，長石の斑晶からなる。下盤の傾斜30°程度。
	15.23	53.56		アプライト						2	
						Cg	Ⅱg				
						Bg		cg			
	13.87	55.48				Cg					
					灰白	Bg	Ⅱg			3	55.48～55.90m:ペグマタイト。径2～20mm程度の石英，長石の斑晶からなる。
	13.57	55.90		ペグマタイト		Cg		bg		2	
				花崗斑岩		Dg	Ⅳg	cg		3	55.72～55.82m:幅5cm程度の安山岩脈を挟む。傾斜62°程度。
	13.04	56.66				Cg		bg			56.24～56.33m:幅5cm程度の安山岩脈を挟む。傾斜54°程度。
				アプライト				cg			56.41～56.57m:変質帯。上盤73°，下盤27°。幅4.7cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。上盤と下盤の傾斜方向が異なる。
							Ⅲg				57.22～58.75m:節理に沿って褐色化し，節理に沿ってマンガンを伴う。
							Ⅰg	bg			59.25～69.75m:花崗斑岩主体。径1～8mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5～7%程度含む。所々，斑晶の含有量が5%未満のアプライトを挟む。
					にぶい黄橙		Ⅱg				
	11.20	59.25						cg		2	
					オリーブ灰		Ⅰg				
60	10.62	60.08		花崗斑岩			Ⅳg				
	10.36	60.45		アプライト			Ⅲg				
	10.05	60.88		花崗斑岩			Ⅰg	bg			
	9.92	61.07		アプライト	褐灰						
				花崗斑岩	オリーブ灰	Bg	Ⅱg	cg			

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N値）	（標準貫入試験）試験 （N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
CL' 26.40								106							
							3/13 27.55								
CM'	[CM]							101							
CL' 34.20															
CL' 35.20															
CM' 35.75	35.75						3/14 35.80								
CH'		3/24 38.10													
CM' 37.30															
CH' 37.90															
CM' 38.85		3/25 39.80						96							
CH' 39.82	[CH]														
CM' 42.44							3/17 42.05								
CH' 43.10															
CM' 44.13	44.13														
CH'															
B'	[B]							94							
CH' 47.88	47.88														
CH' 50.62	[CH]						3/18 49.85								
CM' 51.87															
CH' 53.95	53.95														
CM'								121							
CH' 56.10	[CM]														
CL' 56.57															
CM' 57.33	57.33														
CH' 57.88															
B' 58.55															
CM' 59.30															
CH' 60.20	[CH]	3/26 60.40					3/19 60.10								
B' 61.18								107							
CH' 61.85															
62.00	62.00														

										ダブルコアチューブ／ダイヤビット	40.0	120			
									76				0.1	泥水 5	0
											60.0	150			


標尺 (m)
標高 (m)
深度 (m)
柱状図
岩種区分
色調
硬軟
コア形状
割れ目の状態
風化
変質
記事
コア採取率 (%)
最大コア長 cm
RQD [%]
岩級区分
岩盤分類
孔内水位(m)／測定月日
（標準貫入試験）試験
（N）値
（N値～深度）
原位置試験（孔内水平載荷）
室内試験
掘進月日
掘進速度（cm／時）
孔径(mm)／孔壁保護
コアチューブ／ビット
給圧（kN・MPa）
回転数（rpm）
送水圧（MPa）
送水量（l／分）
排水量（l／分）
8.16 63.55
7.80 64.07
7.44 64.57
6.30 66.18
3.78 69.75
3.48 70.17
3.34 70.37
1.93 72.36
1.69 72.70
1.55 72.90
-0.32 75.55
-0.85 76.30
-1.31 76.95
-2.94 79.25
-8.38 86.95
-8.57 87.21
-9.13 88.00
-9.39 88.38
-14.42 95.49
-14.92 96.20
63.50m:節理に沿って褐色化し，マンガンを伴う。
65.52～65.74m:礫状ペグマタイト。径2～20mm程度の石英，長石からなる
65.72m:幅3～8mm程度の石英脈を挟む傾斜82°程度。
66.12～73.81m:コアは硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。
69.75～100.00m:アプライト主体。径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を1～5%程度含む。所々，斑晶の含有量が10～15%程度の花崗斑岩を挟む。
72.55～73.48m:節理に沿って褐色化している。
72.70～72.90m:ペグマタイト。径10～50mm程度の石英，長石，黒雲母からなる。
73.81～74.85m:変質帯。上盤32°，下盤58°。幅65cm程度。微細な節理が発達し，灰白色粘土が網目状に分布する。
73.81～76.60m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。
73.81～83.23m:細かい節理が発達している。
75.26～75.41m:ペグマタイト。径5～30mm程度の石英，長石からなる
76.31～76.90m:節理に沿って褐色化している。
76.60～83.23m:コアは硬質～やや硬質で，ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。
77.79～77.87m:変質帯。上盤72°，下盤60°。幅4cm程度。礫混じり灰白色粘土からなる。
78.65m:シーム。傾斜82°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。
79.25m:シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黒色粘土からなる。上盤側には微細な節理が発達している。
79.80～80.00m:有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。
81.90～81.96m:変質帯。上盤62°，下盤68°。幅2.8cm程度。節理密集部からなる。
82.09m:シーム。傾斜62°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。
82.34～82.41m:破砕帯(Hb)。上盤50°下盤60°。幅3.5cm程度。礫混じり褐色粘土からなる。周辺の節理を切っている。
83.23～100.00m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
83.55～83.90m:有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。
88.00m以深はコアの酸化汚染が目立つ
90.00～90.87m:有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。
91.29～91.40m:変質帯。上盤30°，下盤42°。幅9.5cm程度。微細な節理が発達している。
92.44～93.07m:変質帯。上盤30°，下盤45°。幅55cm程度。微細な節理が発達している。
95.30m:シーム。傾斜88°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。せん断性節理が認められる。
ダブルコアチューブ／ダイヤビット
泥水5
泥水5

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%] 0 50 100	岩級区分	岩盤分類 98.00	孔内水位(m)/測定月日	(標準貫入試験)試験 (N)値	(N値～深度 0 10 20 30 40 50	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
	-16.44 -16.53 -16.66 -16.87 -17.40 -17.61	98.35 98.47 98.65 98.95 99.70 100.00		アプライト ペグマタイト アプライト 花崗斑岩 アプライト 花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	98.35～98.47m:ペグマタイト脈。 径5～15mm程度の石英，長石，黒雲母からなる。傾斜は25～30°程度。	9 [0] 10 [10]	CM' 100.00	[CM] 100.00						3/26 100.00	140	76	ダブルコアチューブ/ダイヤビット	40.0	150	0.0	泥水5	0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	④-3	調査位置				北緯			
発注機関				調査期間		東経			
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 112.50 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 15°	使用機種	試錐機 / エンジン / ハンマー落下用具 / ポンプ
総掘削長	115.00 m								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	110.33	2.17		シルト混じり砂	灰黄褐						0.00～0.05m：植物根を含む腐植土。 0.05～2.17m：シルト混じり細粒～中粒砂。											114／ケーシング	試掘	0.0	0	0.0	無水 0	0
	108.96	3.54		アプライト	明褐灰	Eg	VIg	dg		3	2.17～21.00m：アプライト主体。径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を2～5%程度含む。所々，斑晶の含有量が10～30%程度の花崗斑岩を挟む																
	108.56	3.94		ペグマタイト	黄橙	Cg fg	IIIg VIg	bg fg		2 3	2.17～5.00m：コアは軟質で，ハンマーで著しい濁音を発する。間に硬質部を残す。																
	108.15	4.35		アプライト		Cg	IIIg	bg		2	2.17～5.11m：傾斜20°及び45°程度の節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。																
	107.90	4.60		花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	VIg	dg			3.54～3.94：ペグマタイト。径5～50mm程度の石英，長石からなるアプライトとの境界は25°程度。																
	107.00	5.50		アプライト			IVg				4.05m：節理に沿って幅5～8mm程度でマンガンが濃集する。																
	106.65	5.85		花崗斑岩			IIIg				5.00～19.38m：コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。花崗斑岩分布域では，変質が進み，軟質となっている。																
	104.68	7.82		アプライト	明褐灰	Cg	IVg	cg	γ	3	5.11～11.76m：傾斜40°，60°，及び80°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンや灰白色粘土，流入粘土を伴うことが多い。																
	104.42	8.08		花崗斑岩		Eg	VIg				7.43～7.71m：節理に沿ってマンガンが濃集し，斑点状に沈着する。																
	103.92	8.58		アプライト		Cg	IVg				7.82～8.08m：変質帯。上盤5°，下盤5°。幅26cm程度。軟質化している。花崗斑岩の分布と一致する。																
	103.69	8.81		花崗斑岩		Eg	VIg				8.58～8.81m：変質帯。上盤10°，下盤5°。幅23cm程度。軟質化している。花崗斑岩の分布と一致する。																
	102.90	9.60		アプライト		Cg	IVg IIIg	bg			9.46～9.70m：変質帯。上盤77°，下盤50°。幅5cm程度。軟質化している。上盤と下盤の傾斜方向が異なる																
	102.80	9.70		花崗斑岩		Eg	VIg	dg			9.46～10.00m：節理に沿ってマンガンが濃集する。																
10						Dg fg	IVg VIg	cg	δ		10.00～10.15m：変質帯。上盤不明，下盤70°。幅5cm程度。軟質化している。																
						Dg	IVg	cg			11.76～14.96m：傾斜50°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。																
						Cg	IIIg	bg	γ	3	13.39～13.82m：変質帯。上盤70°，下盤70°。幅15cm程度。軟質化している。上部は褐色化が顕著。																
						Bg	IIIg	bg			14.96～25.81m：傾斜20°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って一部褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。																
						Cg																					
	99.11	13.39							δ																		
	98.68	13.82		花崗斑岩	浅黄橙	Eg	VIg	dg		4																	
				アプライト	明褐灰	Dg	IVg	cg		3																	
					灰白	Cg	IIIg IVg	bg																			
					浅黄	Bg	IIg	cg bg			17.85m：幅1～2cm程度で径1～5mm程度の長石の斑晶が脈状に密集する。傾斜65°程度。																
					明褐灰	Cg	IVg	cg																				
					にぶい橙	Bg	IIIg	bg																				
20					明褐灰	Dg	IVg	cg	γ		19.38～26.00m：コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。コアはオリーブ黄色を呈する。																
	91.50	21.00								2																	
				花崗斑岩	オリーブ黄	Bg	IIIg	bg			21.00～55.18m：花崗斑岩主体。径1～20mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を5～30%程度含む。斑晶が密集する箇所とそうでない箇所を繰り返す。上位のアプライトとの境界は漸移的である。																
								cg																				
						Dg	IVg	bg			22.09m：節理に沿ってマンガンが濃集し，斑点状に沈着する。																
						Cg																						
							IIIg																					
						Dg	IVg	cg																				
								bg																				
							IIIg																					
					にぶい黄橙	Eg fg	IVg	cg			25.81～25.85m：破砕帯(Hc)。上盤58°下盤70°。幅2.1cm程度。淡桃色，灰白色粘土からなる。																

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅳg	bg			25.81～40.11m:傾斜75°程度の節理が発達している。節理に沿ってマンガンや流入粘土を伴うことが多い。 26.00～115.00m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。
					明褐灰		Ⅱg	cg			
					にぶい黄		Ⅳg				
					暗オリーブ		Ⅲg	bg			
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅱg				29.22～29.78m:節理に沿ってマンガンが濃集し，斑点状に沈着する。
30							Ⅰg				
					オリーブ灰		Ⅱg	cg			
								bg			
						Cg		cg			
					明褐灰	Bg	Ⅳg	bg			
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
								cg			
	78.95	33.55									33.55～34.00m:斑晶の含有量が3～5%程度のアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
	78.50	34.00		アプライト							
				花崗斑岩			Ⅲg	bg			
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					オリーブ灰			cg			35.68～35.90m:コアの表面にマンガンが斑点状に沈着する。 36.26～74.97m:節理が少なく，コアは長柱状を呈する。
					にぶい橙		Ⅰg		γ		
					褐灰						38.05m:節理に沿ってマンガンが濃集する。
	73.50	39.00			灰オリーブ						39.00～39.48m:斑晶の含有量が2%程度のアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。 39.10m:節理に沿ってマンガンが濃集し，斑点状に沈着する。
	73.02	39.48		アプライト			Ⅱg				
40				花崗斑岩	褐灰		Ⅳg				40.11～41.76m:傾斜85°程度の節理が発達している。
							Ⅲg				
							Ⅱg				
					にぶい黄橙		Ⅲg				
							Ⅳg				
					褐灰		Ⅱg				41.76～54.22m:傾斜70°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンを伴うことが多い。
					灰オリーブ		Ⅲg				
							Ⅰg			2	
							Ⅲg				
					褐灰	Bg	Ⅱg				
							Ⅰg				
							Ⅱg	bg			47.25m:節理に沿ってマンガンが濃集し，斑点状に沈着する。 47.57～47.59m:幅1～4mm程度で径2mm程度のカリ長石が脈状に2条密集している。傾斜10°程度。
							Ⅲg				
							Ⅰg		β		50.08～50.20m:不明瞭な流理がみられる。傾斜10～20°程度。 50.32～54.20m:斑晶の含有量が35～40%程度で周辺に比べて多い。
50							Ⅱg				
					明黄橙		Ⅰg				52.80～57.12m:コアの表面が褐色化している。
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅲg		γ		54.22～61.00m:傾斜20°及び70°程度節理がみられる。
	57.32	55.18		アプライト							55.18～58.89m:アプライト主体。径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を3～5%程度含む。所々，斑晶の含有量が10～20%程度の花崗斑岩を挟む。
					灰黄褐		Ⅱg				
	55.85	56.65		花崗斑岩			Ⅲg				55.70m:節理に沿ってマンガンが濃集し，斑点状に沈着する。
	55.47	57.03		アプライト			Ⅰg				56.08～58.90m:所々，流理がみられる。傾斜10～20°程度の低角度と傾斜70°程度の高角度とがある。
	54.50	58.00		花崗斑岩	青灰		Ⅱg		β		
	54.30	58.20		アプライト							
	53.61	58.89		花崗斑岩	灰黄褐		Ⅲg		γ		58.89～115.00m:花崗斑岩主体。径1～15mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を5～30%程度含む。斑晶が密集する箇所とそうでない箇所を繰り返す。
60	52.55	59.95		ペグマタイト		Cg	Ⅳg	cg			59.95～60.10m:ペグマタイト。径5～80mm程度の石英，長石からなる
	52.40	60.10		花崗斑岩	青灰	Bg	Ⅰg	bg	β		61.00～74.38m:傾斜15°及び75°程度の節理がみられる。一部節理に沿って褐色化している。 61.06～75.16m:青灰色を呈し，概ね新鮮である。

コア採取率 △（%） 最大コア長 ⊖ cm R Q D ┐[%]

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日
	26.00	
CM'		
	27.88	
CH'		
	29.80	
B'		[CM]
	30.55	
CM'	31.00	
CH'	31.54	
CM'		
	34.73	34.73
CH'		
	36.28	
B'		
	39.10	
CH'		[CH]
	43.25	
B'		
	44.03	
CH'		
	46.34	
B'		
	47.59	
CH'		
	48.75	48.75
B'		[B]
	53.07	53.07
CH'		
	56.78	[CH]
B'		
	57.46	
CH'		
	60.05	
CL'		
	60.61	60.61
B'		[B]
	62.00	62.00

（標準貫入試験）試験 （N値～深度）

掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
		83／ケーシング		10.0	300	0.0	泥水4	0
	103			30.0	400			
				10.0	300			
4／1 31.75				30.0	400			
	116			40.0				
				10.0	300			
4／2 35.82				60.0	400			
	131			50.0	300			
4／3 40.40			ダブルコアチューブ／ダイヤビット	60.0		0.0	泥水6	0
	75	76		80.0				
4／4 45.79				60.0				
	106				400			
4／5 52.70				80.0				
	105					0.0	泥水5	0
4／7 59.82								
	92				450			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70	41.22	71.28		花崗斑岩	青灰	Bg	Ig	bg	β		
	41.10	71.40		アプライト							71.28～71.40m:斑晶の含有量が1～3%程度のアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。 71.28～71.56m:流理がみられる。傾斜40～50°程度。
				花崗斑岩			IIg		γ	2	
	37.85	74.65		アプライト	にぶい橙		IIIg		β		
							IIg				74.38～78.30m:傾斜20°，50°，及び85°程度の節理がみられる。 74.65～75.85m:斑晶の含有量が3～5%程度のアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
	36.65	75.85		花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	IVg	cg	γ		75.16～115.00m:コアの表面が褐色化していることが多い。
	34.99	77.51				Bg	IIIg	bg			
	34.75	77.75		アプライト			IIg		β		77.51～77.75m:斑晶の含有量が3%程度のアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
				花崗斑岩	青灰		IIIg				78.30～85.66m:傾斜15°，50°，及び80°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンを伴うことが多い
80					にぶい黄橙		IVg	cg	γ		
					青灰		IIg				
	30.78	81.72			にぶい黄橙		IVg				
	30.64	81.86		アプライト			IIIg	bg	β		
	30.50	82.00		花崗斑岩			IIg				81.72～81.86m, 82.00～82.35m:斑晶の含有量が3%程度のアプライトを挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
	30.15	82.35		アプライト		Cg	Vg	cg			
				花崗斑岩	にぶい橙	Bg	IIg	bg			
					明褐灰		IIIg				
					にぶい黄橙		IVg	cg			
					褐灰	Eg	VIg			3	85.66～88.75m:傾斜75°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化し，灰白色粘土を伴うことが多い。 85.77～86.00m:変質帯。上盤83°，下盤78°。幅10cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。同系統の節理が発達している。
					にぶい黄橙		Vg				
						Bg	IVg	bg		2	
							IIg				
							IIIg				
						Cg	IVg	cg			
	24.51	87.99					IIIg				
	24.42	88.08		ペグマタイト		Dg	IVg			3	87.99～88.08m:ペグマタイト。径5～25mm程度の石英，長石からなる
90				花崗斑岩	灰黄褐		IIg		γ		88.21～88.70m:変質帯。上盤82°，下盤82°。幅6.8cm程度。灰白色粘土が節理に沿って分布する。
					褐灰	Bg	Ig	bg		2	88.75～92.05m:傾斜60°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴う。 89.59m:節理に沿って幅10mm程度でマンガンが濃集する。
					にぶい黄橙	Cg	IVg	cg			
						Bg		bg			
						Eg	Vg	cg		3	91.31～91.53m:変質帯。上盤65°，下盤55°。幅13cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。上盤には灰白色粘土を伴う。 92.05～101.17m:傾斜20°，50°，及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンを伴うことがある。 92.13～101.17m:節理が少なく，コアは長柱状を呈する。 94.21m:節理に沿ってマンガンが濃集し，斑点状に沈着する。
							IVg				
					褐		IIg	bg		2	
						Bg	IVg				
							IIg				
					黄褐		IIIg	cg			
							IVg				
					灰		Ig	bg	β		
					褐				γ		

孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度） 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
					4/8 65.82	92							
					4/9 71.82	100			99.9	450			
					4/10 75.20	113			80.0		0.0	泥水5	0
					4/15 81.20	116	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	60.0	300			
					4/16 86.40	104			99.9				
					4/17 93.10	101			80.0	400			
						94			60.0				
									30.0	300			
									10.0	60			
									50.0				
									40.0	300			
									30.0				
									80.0		0.0	泥水8	0
									50.0				
									80.0	400			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				花崗斑岩	褐	Bg	Ⅰg	bg	γ	2	101.17～108.50m:傾斜45°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化している。
					灰白		Ⅲg				
					にぶい赤褐		Ⅳg	cg	β		
					明褐灰		Ⅱg				
					にぶい褐		Ⅲg	bg			
							Ⅳg				102.36m:幅5mm程度で長石が脈状に分布する。傾斜58°程度。
							Ⅲg	cg			
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				104.86m:幅3mm程度の石英脈を挟む。傾斜66°程度。
							Ⅲg				
							Ⅱg				106.08m:幅1.5～2mm程度の石英脈を挟む。傾斜60°程度。
							Ⅳg		γ		107.57m:幅1～1.5mm程度の石英脈を挟む。傾斜62°程度。
							Ⅲg	bg			
110					褐灰		Ⅳg				108.50～111.00m:傾斜20°及び60°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化している。
							Ⅲg				
							Ⅳg				109.61m:幅2mm程度の石英脈を挟む。傾斜62°程度。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				111.00～115.00m:傾斜75°程度の節理が発達している。節理に沿って褐色化し，マンガンを伴うことが多い。111.30～111.80m:節理に沿ってマンガンが濃集する。
					にぶい橙	Bg	Ⅱg				112.34m:幅1～1.5mm程度の石英脈を挟む。傾斜74°程度。
							Ⅲg				
	-2.50	115.00				Cg	Ⅳg				
						Bg					

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 (N)値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0 50 100	98.00			0 10 20 30 40 50											泥水8	0
70 [97]	B' 98.73	[CH]						4／18 98.58	94			80.0		0.0		
78	CH' 99.34		99.34													
50 [86]	CM' 99.85	[CM]										40.0				
28	CH' 101.17															
16 [32]	CM' 103.40		103.40						112			60.0				
27 [49]																
17 [39]	CH' 107.14	[CH]						4／21 105.65				80.0	400	泥水9		
19 [68]														0.0		0
28 [68]																
11 [23]	CM' 108.42															
16 [28]									98							
15 [50]	CH' 110.13		110.13													
16 [53]																
15 [26]	CM' 113.00	[CM]						4／22 111.50				80.0				
15 [24]																
50 [58]	CH' 113.88								105							
[11]	CM' 115.00		115.00					4／23 115.00		76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	60.0				

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										

ボーリング名	④-4	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	+ 34.71 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 45°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘削長	35.00 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				シルト質砂	暗褐						0.00～0.05m:コンクリート。 0.05～1.44m:シルト質砂。
	33.27	1.44			明褐						
	32.99	1.72		花崗斑岩	浅黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	1.44～35.00m:花崗斑岩とアプライトが互層状に分布する。両者の境界は漸移的である。 花崗斑岩は，径1～20mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を7～20%程度含む。 アプライトは，径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を3～5%程度含む。 1.44～9.31m:コアは軟質～やや軟質で，ハンマーで著しい濁音～濁音を発する。 1.44～4.62m:傾斜45°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。 1.62～2.00m:節理に沿ってマンガンを伴う。 3.54～3.73m:変質帯。上盤60°，下盤70°。幅6.5cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 4.35～4.53m:変質帯。上盤65°，下盤45°。幅7.6cm程度。軟質化している 4.62～35.00m:傾斜20°及び75°の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 5.72～5.87m:ペグマタイト。径5～20mm程度の石英，黒雲母からなる。 6.21～6.40m:変質帯。上盤58°，下盤60°。幅9.5cm程度。軟質化している 7.47m:シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の褐色，灰白色粘土からなる。 9.31～13.00m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。 9.56～9.62m:径5～10mm程度の石英，長石の斑晶が脈状に分布する。傾斜10°程度。 11.54～11.61m:変質帯。上盤75°，下盤70°。幅2.4cm程度。灰白色粘土が節理に沿って分布する。 11.54～11.93m:傾斜70°程度の2系統の節理が発達し，格子状を呈する。 11.85m:幅3～4mm程度の石英脈を挟む傾斜70°程度。 13.00～21.12m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。 14.24～14.74m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 14.78～15.43m:有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。 19.06～19.64m:変質帯。上盤60°，下盤70°。幅29cm程度。微細な節理が発達している。 19.06～19.93m:傾斜80°程度の節理が発達している。 20.00～20.23m:節理に沿ってマンガンを伴う。 21.12～22.72m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発する。 22.72～28.75m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。 23.24m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 24.56～24.59m:破砕帯(Hc)。上盤66°下盤70°。幅1cm程度。淡桃色，灰白色粘土からなる。 24.78m:シーム。傾斜76°。幅0.2cm程度の黄白色，灰白色粘土からなる
	32.74	1.97		アプライト			Ⅳg				
	31.91	2.80		花崗斑岩		Eg	Vg				
				アプライト			Ⅳg	dg			
	30.59	4.12					Ⅲg				
	30.40	4.31		花崗斑岩			Vg				
				アプライト	灰白	Dg	Ⅳg	cg	γ	2	
							Ⅱg				
	28.99	5.72					Vg				
	28.84	5.87		ペグマタイト							
				花崗斑岩	浅黄橙		Ⅵg	dg			
							Ⅳg				
						Eg	Vg		δ	3	
							Ⅳg				
					灰白		Ⅲg				
	25.66	9.05		アプライト			Ⅳg			2	
					浅黄橙		Ⅲg				
						Dg	Ⅳg			3	
	23.56	11.15		花崗斑岩	淡橙		Vg				
							Ⅳg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
	21.54	13.17			浅黄橙		Ⅲg				
	21.13	13.58		アプライト			Ⅱg				
	20.68	14.03		花崗斑岩			Ⅲg	cg			
				アプライト		Cg	Ⅳg			2	
							Ⅱg				
							Ⅳg				
	18.77	15.94		花崗斑岩	浅黄	Dg	Vg				
							Ⅳg				
							Ⅲg		γ		
					灰白	Cg	Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				
	15.41	19.30		アプライト		Dg	Ⅵg			3	
							Vg				
						Cg	Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				
						Dg	Ⅲg				
					浅黄橙	Cg	Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
						Bg	Ⅲg				
							Ⅱg	bg		2	
							Ⅲg				
	11.41	23.30		花崗斑岩	灰白	Cg	Ⅳg				
					浅黄橙	Dg	Vg	cg			
							Ⅳg		δ	3	
							Vg				

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
1.44	1.44						115／ケーシング	試掘	0.0	0	0.0	無水0	0
CL' 2.00						257	90／ケーシング		15.0	130			
D' 3.73					5／28 3.00								
CL' 6.00	[D]												
D' 9.31	9.31	6／2 10.50				218		ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0		0.0	泥水2	2
CL' 13.14	[CL]	6／3 12.05											
CM' 15.23	[CM]				5／29 15.00		76			200			
CL' 16.71													
CM' 17.70	17.70												
CL' 20.76						146			40.0		0.0	泥水4	4
CM' 21.75	[CL]												
CH' 22.72													
CL' 26.00	26.00				6／2 25.00	125			30.0				

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	8.59	26.12		花崗斑岩	浅黄橙	Eg	Ⅵg		δ	3			26.00													
				アプライト		Dg	Vg				26.44m:シーム。傾斜80°。幅0.2cm程度の明褐色粘土からなる。														
					灰白	Cg	Ⅲg			2																
							Ⅳg																			
	5.06	29.65									28.75～35.00m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。 29.00～35.00m:傾斜75°程度の節理が発達している。														
30	4.30	30.41		花崗斑岩	浅黄橙	Dg	Vg	cg	γ	3	30.41m:径2～5mm程度の長石の斑晶が脈状に分布する。傾斜56°程度。	CL'	[CL]						125	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	30.0	200	0.0	泥水4	4
				アプライト																						
	3.11	31.60					Ⅳg																			
				花崗斑岩			Vg				32.51m:シーム。傾斜83°。幅0.1cm程度の暗灰色，明褐色，白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。														
						Cg	Ⅳg			2																
						Dg				3																
						Cg	Vg			2	33.96～35.00m:節理に沿ってマンガンを伴う。														
						Dg				3	34.13m:シーム。傾斜82°。幅0.1cm程度の褐色，白色粘土からなる。周辺は微細な節理が発達している。														
	-0.29	35.00										35.00	35.00					6／3 35.00								

ボーリング柱状図

調　査　名

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	④-5	調査位置				北緯	
発注機関				調査期間		東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	+63.21 m	角度	180° 上 90° 下0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 35°
総掘削長	65.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
											0.00～1.00m:マサ土。シルト混じり砂からなる。												試掘	0.0	0	0.0	無水 0	0
	62.21	1.00		シルト混じり砂	にぶい黄								1.00	1.00														
				花崗斑岩	灰白						1.00～10.48m:花崗斑岩主体。径1～15mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を7～15%程度含む。全体に風化，変質し，原岩組織が不明瞭である。 1.00～13.00m:コアは軟質で，ハンマーで著しい濁音を発する。 1.00～11.16m:傾斜40°及び60°程度の節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。																	
					浅黄				δ	3																		
					にぶい黄橙																							
					橙	Eg	VIg	dg					D'	[D]														
	54.64	8.57		アプライト 花崗斑岩					ε		6.61～8.56m:赤色化が著しい。 7.27～7.50m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 7.54～7.97m:幅2～5cm程度の石英脈を3条挟む。傾斜52～75°程度。 7.85～9.71m:破砕帯(Hj,Hc)。上盤61°，下盤34°。幅73cm程度。中間に幅8～10cm程度の明瞭な灰白色粘土が分布する。粘土には縞状構造が認められる。傾斜は67°を示す。粘土より上部は原岩組織が不明瞭で褐色～赤褐色を呈する。粘土より下部は原岩組織が認められ，灰白色粘土が網目状に分布する。																
	53.49	9.72								4																	
					灰白					3																		
	52.73	10.48							δ						5/22												
										4					11.20												
					浅黄橙					3																		
	50.82	12.39		花崗斑岩							10.30～10.44m:変質帯。上盤47°，下盤56°。幅7.8cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 10.48～12.39m:アプライト。径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を3～5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。 10.82m:幅5mm程度の石英脈を挟む。傾斜28°程度。																	
					灰黄		IVg	bg																				
							Vg	cg																				
							IVg	bg																				
							Vg																					
					淡橙	Eg	Vg	cg																				
	47.47	15.74					IVg	dg		3																		
	47.19	16.02		アプライト																								
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg																				
						Cg																						
						Dg	IVg	bg	γ	2	11.16～14.31m:傾斜20°及び65°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 11.92～12.31m:変質帯。上盤62°，下盤72°。幅12cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 12.39～28.67m:花崗斑岩。径1～12mm程度の石英，長石，径5mm以下の黒雲母の斑晶を7～20%程度含む。斑晶が密集する箇所とそうでない箇所を繰り返す。 13.00～26.53m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。 14.31～20.89m:傾斜50°及び80°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 15.35～15.52m:変質帯。上盤66°，下盤44°。幅6.9cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。 15.74～15.84m:変質帯。上盤74°，下盤83°，幅1.2cm程度。上盤，下盤には灰白色粘土を伴う。上盤と下盤の傾斜角が異なり膨縮する。 15.74～16.02m:アプライト脈を挟む。傾斜72～74°程度。																
					明赤灰	Eg	VIg	dg		3																		
					浅黄		IVg			2																		
						Dg	Vg	cg																				
							IVg																					
							Vg																					
					灰白		IVg																					
						Eg	VIg	dg	δ	3	17.67～18.00m:変質帯。上盤63°，下盤82°。幅15cm程度。特徴的な濃いピンク色の粘土が網目状に分布する。 20.89～25.97m:傾斜20°，45°，及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。																	
							IVg			2																		
							Vg			3																		
						Dg	IVg	cg	γ																				
							Vg			2																		
							IVg																					
							Vg																					
							IVg																					
					浅黄	Eg	VIg	dg	δ	3	24.96～25.12m:破砕帯(Hb)。上盤71°下盤47°。幅11cm程度。原岩組織は不明瞭で礫状を呈する。下盤に幅0.5cm程度の黄灰色粘土を伴う。																	
					明褐灰		Vg			4																		
					浅黄	Dg	IVg	cg		3			23.98															
														D'														
													25.60	CL'														
													26.00															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
30	34.54	28.67		花崗斑岩	浅黄	Dg Cg Dg Cg Cg Dg Cg Dg Cg Cg Dg Cg Bg Cg Dg Cg Bg Cg Bg Cg Dg Eg Bg Cg	Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	-1.79	65.00		花崗斑岩	灰黄 浅黄	Cg Cg Dg Cg	IVg Vg IVg	cg bg	γ	2 3 2	63.66～63.75m:変質帯。上盤67°，下盤37°。幅7.2cm程度。土砂状を呈する。上盤と下盤の傾斜方向が異なり，不規則な形状を示す。	0 50 100 (12) [72] (11) (10) [60]	CL' 63.98 CM' 65.00	[CL] 65.00			0 10 20 30 40 50			6／2 63.00 6／3 65.00	90 80	76	ダブルコアチューブ／ダイヤビット	15.0	120	0.1	泥水3	1

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	④-6	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	＋ 33.16 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 25°
総掘削長	35.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	32.64	0.52		細砂	褐						0.00～0.52m:植物根を含む細粒砂。
	32.12	1.04		砂混じりシルト	たいい黄橙						0.52～1.04m:砂混じりシルト。
	30.90	2.26		砂礫	浅黄						1.04～2.26m:径2～12cm程度の花崗岩類の礫を多く含む粗粒砂からなる。
	30.46	2.70		シルト混じり砂							2.26～2.70m:シルト混じり砂。
				花崗斑岩	橙	Dg	Vg	bg	δ	3	2.70～5.16m:花崗斑岩。径1～8mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を10～15%程度含む。
					淡赤橙	Dg	Vg	bg	γ	2	2.70～19.20m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発する。
	28.00	5.16			黄橙	Dg	Vg	cg	δ		2.70～6.83m:傾斜15°，45°，及び75°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンを伴うことが多い。
					にぶい橙	Cg	Vg	cg			3.07～3.18m:幅5～30mmの石英脈を3条挟む。傾斜10～42°程度。
					橙	Eg	VIg	dg			3.76～4.09m:破砕帯(Hb,Hj)。上盤76°，下盤72°，幅8cm程度。原岩組織が認められるが，上部には礫混じり灰白色粘土を伴う。幅2cm程度の石英脈を切っている。
					淡橙	Dg	Vg	cg	γ	3	5.09m:幅6mm程度の石英脈を挟む。傾斜25°程度。
							VIg				5.16～35.00m:アプライト主体。径1～5mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を1～5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。
						Dg	Vg	cg			6.83～8.55m:傾斜75°程度の節理が発達している。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。
							VIg				7.17m:節理に沿ってマンガンが濃集する。
						Eg	VIg	dg			7.94～9.00m:破砕帯(Hj,Hb)。上盤75°，下盤75°。幅27cm程度。原岩組織が認められるが，節理に沿って灰白色粘土が不規則な形状で分布する。下盤には礫混じり黄白色粘土を伴う。下盤側には微細な節理が発達している。
						Dg	Vg	cg			8.55～35.00m:傾斜20°，50°，及び75°程度の節理が密集している。節理に沿ってマンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
							VIg				10.65～11.10m:変質帯。上盤65°，下盤72°。幅19cm程度。上部は縞状を呈し，マンガンが濃集する。下部は灰白色粘土が網目状に分布する。
							Vg				13.30m:シーム。傾斜81°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。
						Eg	VIg	dg			14.73～14.94m:変質帯。上盤52°，下盤48°。幅14cm程度。灰白色粘土及びマンガンが網目状に分布する。
					黄橙		IVg				14.94～14.98m:破砕帯(Hc)。上盤48°下盤不明。幅2.7cm程度。礫混じり灰白色粘土からなり，上盤には幅0.3cm程度の淡桃色粘土を伴う。
					橙	Dg	Vg	cg	δ		14.98～15.27m:変質帯。上盤不明，下盤50°。幅19cm程度。灰白色粘土及びマンガンが網目状に分布する。
					淡黄	Eg	VIg	dg		4	16.90～18.00m:変質帯。上盤85°，下盤89°。幅9.6cm程度。黄白色シルト状を呈する。
	15.16	18.00									18.00～18.43m:周辺に比べて斑晶の粒径が大きく，斑晶の含有量が多い。
	14.73	18.43		花崗斑岩							18.51～18.53m:変質帯。上盤57°，下盤57°。幅1.1cm程度。礫混じり灰黄色粘土からなるが，周辺の節理は切っていない。
				アプライト	淡橙	Dg	Vg	cg	γ	3	19.20～22.43m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。
						Cg	IVg			2	22.10～22.13m:変質帯。上盤50°，下盤50°。幅2cm程度。土砂状を呈する。周辺の節理を切っていない。
							Vg				22.43～32.91m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。
					灰白	Dg					23.38～23.59m:変質帯。上盤78°，下盤80°。幅4.4cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
						Eg	VIg	dg		3	24.26～24.40m:変質帯。上盤77°，下盤81°。幅3.1cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。
						Cg	Vg	cg			25.20～25.50m:流理がみられる。傾斜25°程度。
						Dg					
					淡橙	Eg	VIg	dg		4	

岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入試験）試験 N値～深度	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
										試掘	0.0	0	0.0	無水 0	0
		0.90 5/20						140							
							5/13 2.10								
								156					0.0	泥水 1	1
							5/14 9.90		95／ケーシング						
								160							
							5/15 13.90			ダブルコアチューブ／ダイヤビット	20.0	100			
								120					0.0	泥水 2	2
							5/16 20.50		76						
								117					0.0	泥水 5	5
							5/17 24.60								
								125							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
	6.66	26.50		アプライト 花崗斑岩	淡橙	Dg	Vg	bg		3	25.70～25.80m:破砕帯(Hc,Hb)。上盤78°，下盤不明。幅2.1cm程度。上盤に灰白色粘土を伴う。その下位は礫混じりのマンガン濃集部からなる。周辺は微細な節理が発達している。 26.50～27.91m:花崗斑岩。径1～8mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を15～20%程度含む。 27.50～27.91m:変質帯。上盤67°，下盤66°。幅17cm程度。節理密集部からなる。																
						Cg	IVg																				
							Vg	cg																			
						Dg																					
	5.25	27.91				Eg	VIg	dg																			
						Dg	Vg	cg																			
						Cg	IVg	bg																			
30					浅黄			cg														125					
					にぶい黄橙	Dg	Vg																				
							IVg	bg																			
						Dg	Vg																				
						Dg	IVg																				
							Vg																				
						Eg	VIg	dg		3	31.87～32.12m:変質帯。上盤42°，下盤58°。幅13cm程度。節理密集部からなる。灰白色粘土が節理に沿って分布する。 32.91～35.00m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。																
						Cg	IVg																				
						Dg	Vg																				
					淡黄		IVg	bg		2												175					
						Cg	Vg																				
							IVg																				
	-1.84	35.00					IIIg																				

ボーリング柱状図

調　査　名

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	④-7	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	＋43.46 m	角度	180° 上 90° 下0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 35°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	45.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
				シルト質砂	黄褐						0.00～2.00m:黄褐色を呈する礫混じりシルト質砂からなる。											115／ケーシング	試掘	0.0	0	0.0	無水0	0
	41.46	2.00		花崗斑岩	黄橙	Eg	VIg	dg	ε		2.00～3.47m:花崗斑岩。径1～5mm程度の石英，長石の斑晶を5～10%程度含む。2.00～3.05m間は，土壌化著しく，礫状を呈する。		D'	[D]										10.0	80	0.0	泥水10	10
	39.99	3.47		アプライト			Vg				2.40～5.00m:傾斜20°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿ってマンガンや灰白色粘土を伴う。																
											3.05～16.20m:コアはやや軟質で，ハンマーで濁音を発することが多い。																
											3.47～41.19m:アプライト主体。径1～5mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を1～5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。																
											5.00～18.14m:傾斜25°及び75°程度の節理がみられる。一部節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。																
	36.76	6.70		花崗斑岩							6.70～7.47m:花崗斑岩。径1～10mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5～10%程度含む。																
	35.99	7.47		アプライト							6.93m:幅2mm程度の石英脈を挟む。傾斜84°程度。																
	34.43	9.03		花崗斑岩							8.85～8.95m:礫状に花崗斑岩を含む。																
	33.40	10.06		アプライト	淡赤橙	Eg			δ		9.03～10.06m:花崗斑岩。径1～7mm程度の石英，長石，径2mm以下の黒雲母の斑晶を10%程度含む。																
						Cg	Vg	bg			10.84～11.26m:幅1～10mm程度の石英脈を多数挟む。傾斜5～13°程度。		CM'		10.65												
					淡橙	Bg	IVg								11.32												
						Dg				3																	
						Eg	VIg	cg			12.68～13.12m:変質帯。上盤61°，下盤3°。幅21cm程度。軟質化している。上盤と下盤の傾斜角が大きく異なる。		CL'														
							Vg				13.24～14.18m:節理に沿ってマンガンが濃集する。			[CL]														
							IVg								16.20												
							IIIg	bg			16.20～26.78m:コアはやや軟質～やや硬質で，ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。		CM'		16.85												
						Cg	IVg				16.70～18.13m:節理に沿ってマンガンが濃集する。		CL'		18.14												
						Dg	Vg				16.77～16.84m:幅1～6mm程度の石英脈を多数挟む。傾斜10°程度。		D'		18.68												
						Cg	IVg				18.14～18.68m:変質帯。上盤73°，下盤69°。幅16cm程度。灰白色粘土が網目状に分布する。		CL'														
					明褐灰	Eg	VIg	cg			18.14～24.03m:傾斜45°及び70°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。				20.23												
						Dg	IVg						CM'		20.89												
					淡橙		Vg				21.00～21.69m:節理に沿ってマンガンが濃集する。		CL'														
						Cg	IVg	bg			22.75～23.53m:破砕帯(Hj, Hc, Hb)。上盤75°，下盤58°。幅30cm程度。原岩組織が認められるが，間に明瞭な幅2cm程度の灰白色粘土，幅0.5cm程度の暗褐色粘土を挟む。粘土の傾斜角は67°である。				22.75												
							Vg						D'		23.52												
						Dg		cg																			
							IVg						CL'														
					にぶい黄橙	Eg	VIg	dg		4																	
					淡橙	Dg	IVg			3	24.03～35.25m:傾斜20°及び75°程度の節理がみられる。節理に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。																
							Vg																				
					にぶい黄橙	Eg	VIg			4	24.44～24.67m:変質帯。上盤73°，下盤73°。幅6.7cm程度。節理に沿って灰白色粘土が分布する。																
					淡赤橙	Dg	IVg	cg		3	25.00m:シーム。傾斜80°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。																
					にぶい橙										26.00												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	岩盤分類	孔内水位(m)／測定月日	（標準貫入試験）試験 （N）値	（N値～深度）	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
30	9.46	34.00		アプライト	にぶい橙	Cg	IVg	cg	γ	3	25.22～25.27m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 26.00m:シーム。傾斜69°。幅0.4cm程度の灰白色粘土からなる。 26.78～29.15m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 28.61～28.64m:変質帯。上盤83°，下盤81°。幅0.4cm程度。節理密集部からなる。周辺の節理を切っていない。 29.15～37.53m:コアはやや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発することが多い。 32.83～32.93m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 32.93m:シーム。傾斜76°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 34.00～34.63m:ペグマタイト。径5～20mm程度の石英の斑晶が配列する。傾斜60～80°程度。 35.25～39.12m:傾斜40°及び70°程度の節理がみられる。 35.57～35.92m:変質を受け，一部淡青灰色を呈する。 36.07～39.30m:コアの表面が褐色化している。 36.29～36.37m:径2～10mm程度の石英の斑晶が密集する。 37.53～45.00m:コアは硬質で，ハンマーで金属音を発することが多い。 38.13m:流理がみられる。傾斜30°程度。 38.35～38.65m:礫状にペグマタイトが分布する。径5～20mm程度の石英，長石からなる。 39.12～45.00m:傾斜20°及び75°程度の節理がみられる。一部節理に沿って褐色化している。 39.49～39.56m:ペグマタイトの細脈を多数挟む。傾斜20°程度。 39.73～39.95m:ペグマタイト。径10～60mm程度の石英，長石からなる。傾斜20～50°程度。 40.73～40.85m:ペグマタイト。径5～20mm程度の石英，長石からなる。礫状に分布する。 41.19～45.00m:花崗斑岩。径1～7mm程度の石英，長石，径3mm以下の黒雲母の斑晶を5～10%程度含む 42.79～43.30m:節理に沿ってマンガンが濃集する。 44.20～44.74m:節理に沿ってマンガンが濃集し，斑点状に沈着する。	CM'	[CM]	26.78												
	8.83	34.63		ペグマタイト	赤褐	Dg	IVg		δ																		
				アプライト	淡橙	Cg		cg				CH'	[CL]	27.27													
	3.73	39.73			明褐	Bg	IIg		γ																		
40	3.51	39.95		ペグマタイト			IVg																				
	2.73	40.73		アプライト	明褐灰	Bg	IIIg	bg		2		CM'	[CM]	30.65													
	2.61	40.85		ペグマタイト			IVg							36.08													
	2.27	41.19		アプライト	淡橙	Cg	IVg																				
	-1.54	45.00		花崗斑岩	灰黄褐	Bg	IIg							45.00													
					明褐灰		IVg																				

3. 委託報告書（平成25年） ボーリング柱状図

余白

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

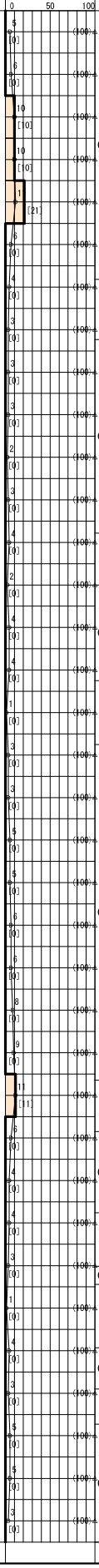
ボーリングNo. 1

ボーリング名	D1-1	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	20.25 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 79.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	100.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) N値～深度 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
				埋土	にぶい黄橙						0.00～4.33m：埋土 0.00～3.00m：中砂 均質な中砂。径2～3mmの石英粒が点在する。 1.70～2.00m：径5～10mm，最大30mmの花崗斑岩岩片を多く含む。 3.00～4.00m：粗砂 径2～5mm，最大10mmの花崗斑岩岩片が混じる。 4.00～4.33m：砂礫 径5～30mmの花崗斑岩の硬質礫を含む。下記の第四系砂礫層との境界は不明瞭。															
	17.19	4.33		砂礫							4.33～12.20m：砂，砂礫主体(③)層 4.33～5.05m：砂礫 礫は径2～80mmの亜円～亜角礫。基質は中～粗砂。礫率30～40%程度。															
	16.68	5.05																									
	16.40	5.45		砂	にぶい黄橙						5.05～5.45m：粗砂 径1～3mmの石英を多く含む。																
				礫	明褐灰						5.45～6.33m：礫 径30～280mmの亜角礫からなる。																
	15.77	6.33									6.33～6.59m：砂礫 礫は径2～80mmの亜円～亜角礫。基質は中～粗砂。礫率30%前後。															
	15.59	6.59		砂礫	にぶい黄橙						6.59～6.72m：シルト混じり細砂 未分解の有機物を含む。																
	15.50	6.72		シルト混り砂	褐灰						6.72～8.84m：中砂 均質。石英や花崗斑岩礫が点在。 上端部に粘土分が多い。																
				砂	にぶい黄橙						8.84～9.48m：粗砂 9.48～10.25m：砂礫 礫は径2～70mmの石英，亜円～亜角礫。基質は中～粗砂。礫率30%前後																
	13.55	9.48									10.25～11.00m：中砂 不均質に粘土分や有機物を含む。 径2～20mmの礫も少量含む。															
10				砂礫	にぶい橙						11.00～12.20m：砂礫 礫は径2～160mmの亜円～亜角礫。基質は中～粗砂。礫率40～50%程度															
	13.00	10.25		砂	にぶい黄橙																						
	12.47	11.00		砂礫	にぶい黄橙																						
	11.62	12.20				Eg	vg	cg			12.20～100.00m：花崗斑岩(Gp) 斑晶は径1～3mmの石英，長石。 12.20～18.10m：割れ目に沿って砂状化やﾏﾝｶﾞﾝ付着が認められる。		D'														
						Dg																					
						Eg																					
						Dg					19.88～20.25m：割れ目は消滅し，径5～10mmの粘土化岩片が主体。 20.09m付近，幅5～20mmで淡緑色化。 20.16～20.19m：粘土化した岩片を多く含む。															
						Eg																					
						Dg																					
							vg	dg			21.04～24.53m：割れ目は傾斜10～35°が主体で，60～80°の割れ目が斜交する。																
						Eg	vg	cg	δ	3	24.53～30.53m：割れ目は傾斜50～60°が主体。一部で10～50°の割れ目に60～70°の割れ目が交差する。		D'														
20							vlg	dg																			
						Dg	vg				25.12m：傾斜40°で褐色粘土挟在。周縁に黄鉄鉱が付着																
						Eg					26.50～27.04m：軟化著しい。一部に粘土脈を伴う。																
							vvg	cg			27.21m：傾斜34°の割れ目に沿って幅1～3mmが砂状化する。																
						Dg					27.81～27.90m：幅0.5～2mmの白色粘土を挟む。		CL'														
							vg				30.53～31.94m：傾斜30～50°の中角度割れ目が主体。																
				花崗斑岩	明褐灰									▽ 29.50													

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg		3	32.24m：傾斜65°，幅8～20mmの開口割れ目。砂と岩細片が充填する。 32.38～34.03m：傾斜10～30°の割れ目が主体。幅30～100mmで砂状～細片化部を互層状に含む。 34.03～34.95m：上下位に比べ硬質で傾斜10～30°の割れ目が主体。 35.96～38.81m：傾斜10～40°と，斜交する50～70°の割れ目が主体。 38.52m：傾斜42°で，幅3～8mmで明褐色粘土を挟む。 39.24～41.18m：傾斜20～40°と，交差する60～80°の割れ目が分布。 41.45～42.23m：傾斜30～40°の割れ目主体で，割れ目沿いに砂状化する。 42.23～42.50m：軟化著しく，白色粘土脈が網状に分布する。 42.27m：傾斜42°で，幅5～8mmの橙色粘土を挟む。 42.50～44.56m：傾斜10～40°の割れ目主体。一部に幅1～2mmの白～橙色粘土を挟む。 ●45.91～48.28m：破砕帯 45.91～45.94m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端52°，下端42°で両端とも直線的。幅30mm。 45.94～48.18m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端34°で直線的。網目状に白色粘土が分布。 46.41～46.45m：砂混り粘土状破砕部(Hc-2)。上端15°で直線的。下端20°で波打つ。幅25～30mm。浅黄橙色 47.64～47.65m：砂混り粘土状破砕部(Hc-2)。上端20°で波打つ。下端10°で直線的。幅10～15mm。明赤灰色 48.18～48.26m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端34°，下端68°で両端とも直線的。幅40～70mm。 48.26～48.28m：砂混り粘土状破砕部(Hc-2)。下端68°で直線的。幅6～8mm。 ●49.20～49.91m：破砕帯 49.20～49.91m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端不明瞭，下端30°で不明瞭。径10～30mmの岩片間に網状に白色粘土が分布。 49.82～49.84m：粘土状破砕部(Hc-1)。上端44°で直線的，下端43°でやや波打つ。幅10mm。明黄褐色。 49.91～50.77m：径5～50mmの軟化した岩片が主体で，岩片間に白色粘土を伴う。 51.69～52.20m：傾斜50～60°と，斜交する30～40°の割れ目主体。 ●53.77～54.54m：破砕帯 53.77～53.80m：粘土状破砕部(Hc-2)。上下端65°で直線的。幅15mm。灰褐色。 53.80～53.90m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端20°で波打つ。 53.90～53.93m：礫混り粘土状破砕部(Hc-2)。下端25°で直線的。幅25～30mm。浅黄橙色。 53.93～54.06m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°で直線的。 54.06～54.07m：粘土状破砕部(Hc-1)。下端64°で大きく波打つ。幅5～15mmと膨縮。浅黄橙色。 54.07～54.45m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端46°で直線的。全体に粘土化が進む。下端に幅1～2mmの白色粘土を伴う。 54.45～54.54m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端55°で直線的。 54.54～57.13m：全体に珪質で，石英斑晶が大きい。一部を除き硬質。 ●58.96～59.30m：破砕帯 (K断層) 58.96～59.05m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端50°で不明瞭，下端45°で直線的。幅63mm。 59.05～59.16m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端40°でやや波打つ。幅80mm 59.16～59.18m：粘土状破砕部(Hc-1)。下端35°で直線的。幅5～14mm。灰赤～灰白色。 59.18～59.30m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端50°でやや波打つ。下端に灰赤色粘土伴う。 59.30～59.98m：傾斜70～80°と，斜交する20～30°の割れ目が分布。 ●60.12～60.15m：破砕帯(D-1，G断層) 礫質粘土状破砕部(Hb)。上端40°で直線的，下端45°でやや波打つ。幅20～30mm。上下端に幅1mmの明赤灰粘土を伴う。 60.15～60.84m：著しく軟化し，岩組織は残留するが，割れ目は消滅。 60.84～65.69m：傾斜40～60°と，斜交する20～60°の割れ目が分布。 65.69～67.43m：硬質となる。 68.32～68.52m：軟化著しく，幅1～3mmの灰白～灰赤粘土が網状に分布	CL'	29.50 4/2 29.55 4/3 29.80 4/4			3/14	110 100	86	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	100	0.0	泥水3	0
30					明褐灰	Dg	Ⅳg									3/15	95 75		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.0	泥水3	0
						Cg	Ⅲg																	
						Dg	Vg									3/16	105 115		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.0	泥水3	0
					にぶい褐	Cg	Ⅳg																	
					灰白	Dg	Vg																	
					明褐灰	Cg																		
					明黄褐	Dg																		
					明褐灰	Eg	Ⅵg	dg								3/18	100 135 140		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	100	0.0	泥水3	0
40						Cg	Vg	cg																
							Ⅳg																	
						Dg	Vg																	
						Eg	Ⅵg	dg																
						Dg	Vg	cg																
						Eg	Ⅵg	dg																
					にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ															
						Eg	Ⅵg	dg																
							Vg	cg																
					明黄褐		Ⅵg	dg																
					明褐灰	Dg	Vg	cg		4														
50						Eg	Ⅵg	dg		3						3/19	105 115 120		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	2.0	100	0.0	泥水3	0
					にぶい橙																			
					灰褐	Dg	Vg	cg																
						Eg	Ⅵg	dg																
					にぶい黄橙					4														
					灰褐	Cg	Vg	cg		3						3/21	80 105		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	100	0.0	泥水4	0
						Dg				2														
						Cg																		
						Dg																		
					明褐灰	Eg	Ⅵg	dg		3														
					橙	Dg	Vg	cg																
60					明褐灰	Eg	Ⅵg	dg								3/22	115		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.0	泥水5	0
						Dg	Vg	cg		2														

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	2	68.52m：傾斜70°で，幅2～5mmの白～明黄褐色粘土挟在。 68.52～68.84m：全体に粘土化進む ●68.84～69.00m：破砕帯 68.84～68.93m：粘土混じり礫状破砕部(Hj)。上端50°で不明瞭，下端55°でやや波打つ。幅32mm。径5～10mmの粘土化した岩片を主体とする。 68.93～68.95m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端50°でやや波打つ。幅20～30mm。径5～18mmの粘土化した岩片を多く含む。 68.95～69.00m：粘土混じり礫状破砕部(Hj)。下端45°でやや波打つ。幅32～35mm。径5～10mmの粘土化した岩片を主体とする。下端に幅2mmの硬質な淡褐色粘土を挟む。 69.06～69.18m：傾斜60～80°，幅2～8mmの灰赤色粘土を挟む。 71.21～71.35m：著しく軟化し，粘土脈が傾斜40～60°で分布 74.28～75.50m：不規則な割れ目に灰白色粘土を網目状に伴う。 75.50～77.75m：傾斜10～30°と，斜交する50～70°の割れ目が分布。 ●78.77～79.19m：破砕帯 粘土質礫状破砕部(Hj)。上端32°で湾曲，下端63°で直線的。岩組織は残留するが全体が軟化する。79.15m以深に傾斜60°，幅1～3mmの灰赤色粘土脈が分布。 79.25～79.85m：傾斜10～30°と60～70°の割れ目が約1cm間隔で分布。下端に傾斜50°，幅2mmの粘土を伴う 79.85～80.08m：著しく軟化する。 80.08～81.00m：互いに交差する傾斜40～60°の割れ目が多く，コアは径5～20mmの岩片状を呈する。 ●81.20～81.42m：破砕帯 81.20～81.30m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端40°で一部湾曲，下端35°で直線的。幅50～60mm。 81.30m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜35°。幅2～4mm。灰赤色。 81.30～81.42m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°でやや湾曲し灰赤色粘土を伴う。 81.42～87.14m：傾斜30～70°と，斜交する30～70°の割れ目が分布。一部で硬くなり短柱状を呈する。 87.14～88.35m：径5～40mmに角礫化し，岩片間に白色粘土脈が分布。 ●89.91～89.95m：破砕帯 礫混り粘土状破砕部(Hc-2)。上端50°，下端45°で両端とも直線的。幅15～20mm。 ●90.26～90.84m：破砕帯 90.26～90.31m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端50°で波打ち，下端70°で直線的。幅15～20mm。幅1～2mmの粘土を伴う。 90.31～90.37m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端70°で直線的。幅20～35mm 90.37～90.66m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端75°で直線的。径30mmまでの岩片間に幅0.5～1mmの白～灰赤色粘土を伴う。 90.66m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜75°で直線的。幅2mm。赤灰色。 90.66～90.72m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°で波打つ。幅6～20mm。 90.72～90.84m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端50°。粘土化した岩片と基質からなる。 ●91.26～91.52m：破砕帯 91.26～91.31m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端60°で直線的，下端63°で湾曲する。幅20～40mm。 91.31～91.33m：礫混り粘土状破砕部(Hc-1)。下端63°。幅8～15mm。赤灰色。 91.33～91.52m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端30°で不明瞭。白～灰赤色粘土を伴う。 ●93.12～93.24m：破砕帯 93.12～93.20m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端65°，下端30°で両端とも直線的。幅50～100mmと膨縮する。 93.20m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜30°で直線的。幅2mm。灰赤色。 93.20～93.24m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端55°で直線的。幅30mm。 93.24～95.23m：著しく変質し，岩片間を灰白色粘土が充填する。 94.76m：55°，95.07m：傾斜65°の割れ目に幅1～2mmの灰白色粘土脈を伴う。 95.23～99.46m：岩片状を呈し，割れ目は傾斜20～50°が主体で，交差する30～50°のものが分布する。 98.37～98.44m：著しく軟化する。下端に幅2～5mmの赤灰色粘土を伴う。 99.46～99.68m：傾斜50～60°の割れ目が平行に分布。割れ目沿いに砂状化し，粘土脈を挟む。																						
70					灰褐	Cg	Vg	cg	γ	2														
					にぶい黄橙	Dg	IVg	cg	δ	2														
					灰褐	Dg	Vg	cg	γ	3														
						Eg	VIg	dg		3														
						Dg	Vg	cg		2														
						Eg	VIg	dg		3														
						Dg	Vg	cg		2														
					にぶい黄橙	Eg	VIg	dg	δ	3														
					灰褐	Dg	Vg	cg																
						Eg	VIg	dg																
						Dg	Vg	cg																
						Eg	VIg	dg																
						Dg	Vg	cg																
80						Eg	VIg	dg																
						Dg	Vg	cg																
					にぶい黄橙	Cg	VIg	dg																
						Dg	Vg	cg																
						Eg	VIg	dg																
					灰褐	Dg	Vg	cg	γ	2														
						Cg	IVg	cg																
							Vg																	
					にぶい黄橙	Eg	VIg	dg																
					灰褐	Cg	Vg	cg	δ	3														
						Dg																		
						Eg	VIg	dg		2														
90						Dg	Vg	cg																
					灰	Eg	VIg	dg																
					灰褐	Cg	Vg	cg		3														
						Eg	VIg	dg																
						Cg	Vg	cg																
					褐灰	Eg	VIg	dg		3														
					灰褐	Cg	Vg	cg		3														
						Eg	VIg	dg		4														
						Cg	Vg	cg																
						Eg	VIg	dg																
						Cg	Vg	cg																
						Eg	VIg	dg																
						Cg	Vg	cg	γ	2														
									δ	3														
										2														
					灰黄褐	Dg																		



コア採取率 (%)
最大コア長 cm
R Q D [%]

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
3/22	115	86	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.0	泥水5	0
	110					0.1	泥水5	0
3/23	75		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.0	泥水5	0
						0.1	泥水5	0
3/29	105		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	1
3/30	85		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	2
	80							
4/1	90		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	1
	100							
4/2	95		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	1
4/3	65		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	1
4/4	90		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	1
	80							
4/5	55		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	2
4/6	75		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	2
4/10	60		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水5	1

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	-50.46	100.00		花崗斑岩	灰黄褐 灰褐	Dg Eg Dg Cg Dg Eg Cg	Vg Vr Wg	cg dr cg	δ γ δ β	2 3 2 3 2	●99.68～99.71m：破砕帯 99.68～99.69m：礫混り粘土状破砕部(Hc~2)。上端65°,下端63°でともに直線的。幅8mm。灰赤色。 99.69～99.71m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端65°で直線的。幅12mm。	0 50 100 4 (100) [0] 6 (100) [0]	CL'			0 10 20 30 40 50			4/10	60	86	ダブルコアチューブダイヤモンドビット	3.0	120	0.1	泥水 5	1

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.	1

ボーリング名	D1-2	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	6.95 m	角度	180° 上 90° 下 0° 30.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 53.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	33.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				盛土	黒						0.00～6.81m：盛土 0.00～0.31m：砕石 岩種は細粒砂岩，泥岩。最大径30mm。 0.31～2.84m：砂礫 礫は径2～10mmの細礫主体で，径60mmまでの角礫を含む。礫種は花崗斑岩，アプライト主体でまれに黒色の頁岩を含む。基質は粗砂主体で不均質。細粒分はごく少量で緩い。 2.84～6.81m：シルト質砂礫 礫は最大160mmまでの花崗斑岩礫主体で，アプライト礫もみられる。シルト分を含み，上位層に比べてやや締まりが良い。 3.30～3.45m：泥岩礫が混じる。 4.35m：木片あり。20×50mm。																					
					黄褐												3/16	85	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	150	0.1	泥水3	3
													▽ 2.57 ＝ 3/19											
					明黄褐													85	115／ケーシング				0.1	泥水3	1
													▽ 4.00 ＝ 3/18						115／ケーシング				0.1	泥水3	2
													▽ 5.40 ＝ 3/20										0.1	泥水3	0
																							0.1	泥水3	2
	1.05	6.81		花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	2	6.81～33.00m：花崗斑岩(Gp) 6.81～10.58m：傾斜40～60°と微細な割れ目主体。斜交する40～60°の割れ目も分布する。割れ目沿いの砂状化や，粘土の挟在がみられる。 8.56m割れ目周縁幅2～3mmが淡緑色化し，微細な雲母が晶出する。 11.53～11.95m：土砂～岩片状。 11.95～12.13m：割れ目沿いに幅1mmの軟弱な灰白色粘土脈が分布。 12.13～12.38m：一部を除き，風化で割れ目は消滅する。																			
10							IVg																		
							Vg																		
						Eg	Vig	dg		3															
						Dg	Vg	cg		2															
							Vig	dg																	
					にぶい褐	Eg	Vg	cg		3	●12.38～12.97m：破砕帯(D-1) 12.38～12.86m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端60°で幅1～3mmの白色粘土を伴い，下端45°で両端とも直線的。岩組織は残存する。岩片間に幅0.5～1mmの粘土を挟む。 12.86～12.87m：粘土状破砕部(Hc-1)。下端45°で直線的。幅5mm。灰黄色。 12.87～12.91m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端45°で不明瞭。幅35mm。 12.91～12.97m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端45°で不明瞭。幅40mm軟化した岩片間に幅0.5～1mmの粘土を伴う。																			
					にぶい橙	Dg	IVg	cg		2															
						Eg				3	12.97～16.24m：上位に比べ割れ目は少なく，岩片～短柱状を呈する。傾斜40～60°の割れ目が主体で，一部で割れ目沿いに砂状化する。 13.73～13.77m：傾斜55～65°の割れ目が2～10mm間隔で数条分布し，全体に軟化する。 16.24～17.66m：著しく軟化するが岩組織と割れ目は残留する。 17.66～19.78m：傾斜30～60°の割れ目を主体とし，岩片～短柱状を呈する。 18.77m：傾斜55°で幅2mmの灰黄色粘土を挟む。																			
							Vig	dg																	
						Dg	IVg	cg		2															
20						Cg	IIIg				●19.78～19.87m：破砕帯 礫質粘土状破砕部(Hb)。上端53°，下端63°で両端とも直線的。幅10～50mmと膨縮する。															
							IVg																		
						Eg	Vig	dg		3	19.87～21.50m：傾斜60°の割れ目が数cm間隔で分布。一部粘土挟在。 21.50～23.18m：割れ目が多くなるが，岩片は硬質。一部粘土化する。 21.50m：傾斜50°の割れ目に幅2～3mmの軟弱粘土を挟む。 23.18～24.04m：硬質で割れ目が少なく，一部に白～灰黄色粘土挟在。 24.04～25.22m：やや軟化する。傾斜20～60°の割れ目主体。 24.80～24.82m：傾斜60°，幅15mmで粘土化する。																			
						Cg	IVg		γ	2															
							IIIg	cg																	
						Dg	IVg																		
										3															
						Cg	IIIg			2															

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

（標準貫入）試験　（N値～深度）図　0 10 20 30 40 50

掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
3/16	85	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	150	0.1	泥水3	3
	85	115／ケーシング				0.1	泥水3	1
		115／ケーシング				0.1	泥水3	2
3/18	75		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	150	0.1	泥水3	0
						0.1	泥水3	2
						0.1	泥水3	3
3/19	75		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	150	0.1	泥水4	4
	75							
3/20	75	86	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	150	0.1	泥水5	5
	75							
3/21	65		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	150	0.1	泥水5	5
	85							
3/22	80		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	150	0.1	泥水6	6
	95							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
30	-21.63	33.00		花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅲg	cg	γ	2	26.67m：傾斜55°の割れ目に幅1mmの白色粘土を挟む。 27.30～27.32m：上下端60°の割れ目に沿って軟質となる。 28.42～28.46m：上端65°，下端55°の割れ目に沿って細片化する。下端部が淡緑化し雲母が晶出。 30.20～31.44m：互いに交差する傾斜30～60°の割れ目が分布し，短柱状コアが主体となる。岩片は硬質。 30.68～30.75m：上下端60°の割れ目間で，割れ目に白色粘土が挟在。 ●31.44～31.46m：破砕帯 粘土状破砕部(Hc-1)。上下端35°で直線的。幅10～12mm。径1～2mmの石英を含む。 31.46～33.00m：傾斜30～60°の割れ目，微細な割れ目が1～3cm間隔で分布し，岩片状を呈する。割れ目の一部には白～赤灰色の粘土を伴う。	13 [25] 8 [0] 15 [15] 24 [40] 18 [32] 16 [16] 8 [0]	CM' CL' CM' CL'						3/22	95	86	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	150	0.1	泥水6	6
							Ⅳg													110		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット					
							Ⅲg												3/23				2.5	150	0.1	泥水5	5
							Ⅳg		δ											145							
						Dg	Vg			3																	

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	D1-3	調査位置				北緯	
発注機関				調査期間		東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	6.90 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180° 53.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°
総掘削長	60.00 m					使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具 / エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
				埋戻し土	黒褐						0.00～3.57m：埋戻し土 0.00～0.18m：礫 径5～20mmの黒色砕石。 0.18～3.57m：礫混り粗砂 緩い粗砂。径10～50mmの花崗斑岩，アプライトの硬質な亜角礫を含む。								5/14	150	146／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.5	120	0.1	泥水2	2
	4.38	3.57			にぶい褐																					
				改良土	灰褐						3.57～9.84m：改良土 3.57～4.00m：中砂 4.00～4.49m：礫・シルト混り中砂 径2～5mmの石英，長石，5～20mmの花崗斑岩，アプライト，砕石片を含む。 4.49～6.00m：礫混り粗砂 緩い粗砂。径2～5mmの石英，長石，5～80mmの花崗斑岩，花崗岩，アプライトの亜角礫を含む。礫は硬質。 6.00～6.39m：中砂 粗砂，径2～3mmの砕石片が混じる。 6.39～7.40m：砂礫 礫は径2～5mmの石英，5～120mmの硬質な花崗斑岩亜角～亜円礫。礫率30～40%程度。基質は締まった粗砂。 7.40～8.38m：中砂 やや緩い。粗砂や硬質礫を含む。 8.38～8.60m：礫 径10～30mmの花崗斑岩亜角礫主体。 8.60～9.66m：中砂 不均質で，少量のシルト，モルタル片，花崗斑岩礫を含む。 9.66～9.84m：モルタル 砂岩状を呈する硬質モルタル。 基盤岩と55°で接する。								5/15	85	130／ケーシング 115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.5	120	0.1	泥水2	2
					にぶい黄褐																					
					にぶい黄褐																					
					にぶい黄褐																					
					灰黄褐																					
	−0.06	9.84			オリーブ灰																					
10				花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg		2	9.84～60.00m：花崗斑岩(Gp) 9.84～10.77m：著しく軟化する。割れ目はほぼ消滅，岩組織は残留。 10.77～13.03m：傾斜30～60°と，斜交する50～70°の割れ目が分布し，割れ目沿いの砂状化やﾏﾝｶﾞﾝ汚染がみられる。一部に粘土脈が分布。 11.90m：傾斜45°の割れ目沿いで断片的に灰褐化する。		D'						5/16	65	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.5	120	0.1	泥水2	0
						Eg	Vg	cg		3																
						Cg	Vg	cg	δ	2	●13.94～14.06m：破砕帯 13.94～13.98m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端60°，下端55°で両端とも直線的。幅20～30mm。径5～10mmの粘土化した岩片主体。 13.98～14.00m：粘土状破砕部(Hc−1)。下端60°で直線的。幅10mm。浅黄色。 14.00～14.06m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°で波打つ。幅20mm。径5mmまでの石英，岩片を含む。		CL'						5/17	95	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット		0.5	120	0.1	泥水2	2
						Eg	Vg	cg		3																
						Dg	Ⅳg	cg		2																
						Eg	Ⅵg	dg		3																
						Dg																				
						Eg																				
					にぶい橙	Dg																				
					灰褐	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	14.41～14.52m：破砕帯 14.41～14.47m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端40°，下端60°で両端とも直線的。幅20～30mm。 14.47～14.48m：礫混り粘土状破砕部(Hc−2)。下端60°で波打つ。幅15～18mm。灰白色。石英粒や扁平礫を含む。 14.48～14.52m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端60°で直線的。幅20mm。傾斜60°の割れ目沿いに幅1～2mmの灰白色粘土脈を伴う。		CL'						5/18	120	86	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.5	160	0.1	泥水3	3
																				115						
20						Dg					14.52～22.47m：比較的割れ目が少なく，コアは岩片～短柱状が主体。割れ目は傾斜10～40°が主体で，これに斜交する高角度割れ目が認められる。																
						Cg			δ		20.77m：粘土脈挟在。傾斜50°。幅1～2mm。明黄褐色。粘土の上下がﾏﾝｶﾞﾝ汚染により黒褐色化する。								5/21	140	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット		0.5	180	0.1	泥水3	0
						Dg							CM'													
						Bg	Ⅲg	bg	γ		22.28m：傾斜55°の割れ目周縁幅1cmが淡緑灰色化する。径1mmの雲母を伴う。															
						Cg					22.47～23.77m：硬質の柱状コア。傾斜50～60°の割れ目が分布する。		CH'													
						Ⅳg					23.77～24.94m：互いに交差する傾斜50°前後の割れ目が主体。一部割れ目沿いに砂状化する。															
						Cg		cg					CL'													
						Vg			δ		25.29～26.97m：傾斜50～70°の割れ目主体で，一部で50～60°のものが斜交する。														
						Ⅳg																				
						Dg																				

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Ⅳg	cg	δ	2	26.97～27.26m：上端45°，下端50°の割れ目間は風化で全体が軟化。 27.26～28.43m：傾斜40～60°の割れ目，微細な割れ目が分布する。 27.70m：傾斜60°の割れ目沿いで，幅5mm程度長石が粘土化する。 28.43～29.95m：傾斜40～60°の割れ目主体。 29.95～32.63m：傾斜20～40°と，斜交する50～70°の割れ目が分布し，割れ目沿いの砂状化がみられる。 32.63～33.30m：著しく軟化し，割れ目は一部を除いて消滅する。割れ目とその周縁で砂状化する。 33.30～34.23m：全体に傾斜40～50°，幅1～8mmで灰白色粘土が挟在する。 ●34.23～34.52m：破砕帯(D-1) 34.23～34.39m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端50°，下端55°で両端とも直線的。径5～10mmの岩片と，網状に分布する粘土からなる 34.30m：傾斜30°。幅1～2mmの灰黄色粘土を挟む。 34.39～34.40m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜55°，幅5～7mm。白～灰黄色。 34.40～34.52m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端55°で直線的。 35.81～36.53m：傾斜40～60°の割れ目主体。全体に岩片は硬い。 36.53～36.82m：傾斜60～70°の割れ目が1～3cm間隔で分布し，コアは岩片状となる。 36.67m：傾斜50°の割れ目の上盤側に幅5～10mmが淡灰緑化し，微細な雲母，金属鉱物が付着する。 36.82～44.01m：傾斜40～60°の割れ目主体で，一部で60～80°のものが斜交する。岩片は概ね硬い。 38.34～38.41m：傾斜45°の割れ目が5～30mm間隔で平行に分布し細片化する。下端部に灰白色粘土を伴い，周縁数mmが淡灰緑化する。 39.80m：灰白色粘土挟在。傾斜45°，幅5mm。周縁幅数mmの褐色化強い。 40.61m：傾斜45°の割れ目沿いが細片化する。下盤側の幅5mmが淡緑灰色化し，幅2mmの石英脈を伴う。 40.87～44.01m：傾斜40～50°の割れ目がほぼ平行に3～10mm間隔で分布する。割れ目は褐色化する。一部に粘土挟在。 44.01～44.29m：上下位に比べ軟化し，一部で割れ目沿いに砂状化する 44.49m，45.32m，46.28m：割れ目周縁が幅5～10mmで淡灰緑化し，微細な雲母を伴う。 46.53～46.60m：変質により礫質粘土状を呈する。 49.93～52.13m：傾斜40～60°の割れ目主体で，一部70～80°のものが交差する。一部に堅硬部を含む。 51.74m：橙色粘土挟在。傾斜40°，幅5mm。下盤幅5～8mmが淡灰緑化する ●52.13～52.28m：破砕帯 52.13m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜50°で直線的，幅4～5mm。にぶい橙色。 52.13～52.16m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端46°で波打つ。幅5～10mm。 52.16～52.28m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端60°で波打つ。白色粘土が網状に分布する。 52.28～54.20m：硬質岩片～角礫状部と著しく軟化する部分が5～20cm間隔で交互に存在する。 54.20～55.18m：岩片は硬質となる 55.18～56.88m：傾斜40～60°主体で40～50°の割れ目が斜交する。一部に幅1～2mmで暗緑色化した粘土が挟在。微細な黄鉄鉱が多く晶出。 ●56.88～57.24m：破砕帯 56.88～57.15m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端40°で直線的，下端58°で波打つ。 57.15～57.20m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°で波打つ。幅20～28mm 57.20m：粘土状破砕部(Hc-1)。下端60°で直線的。幅2～8mm。にぶい黄橙色。 57.20～57.24m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端60°でやや不明瞭，幅25mm。灰白色粘土が網状に分布。 58.29～58.53m：径30mmまでの岩片と砂状の基質からなる角礫状部。																						
																5/21	160		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.5	180	0.1	泥水3	0
																5/22	135		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	180	0.1	泥水3	0
																	140							
																5/23	130		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	180	0.1	泥水3	0
																	135			0.5				
																5/24	115	86	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	180	0.1	泥水3	0
																				2.0				
																	140			1.0				
																5/25	120		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	180	0.1	泥水3	0
																	110							
																5/27	105		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	180	0.1	泥水3	0
																	150							
																5/28	180			1.0	180			
	-35.53	60.00																						

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	D1-4	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	6.95 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南 53.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	70.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					黒褐						0.00～2.94m：埋戻し土 0.00～0.32m：礫 径5～30mmの黒色砕石 0.32～2.94m：礫混り粗砂 緩い粗砂。径3～40mmの花崗斑岩，アプライトの亜角～亜円礫を含む。3～10mmの砕石を多く含む。
				埋戻し土	にぶい褐						
	4.87	2.94									2.94～7.62m：改良土 2.94～5.60m：砂礫 礫は径5～130mmの花崗斑岩，アプライトの亜角～亜円礫で，硬質なものが主体。礫率40～50%程度。一部で半クサリ礫も含む。基質は中～粗砂でやや締まる。 5.15m以深は径10mm前後の礫が主体
				改良土	明黄褐						
					にぶい黄橙						5.60～7.62m：礫混り粗砂 上位に比べて緩くなる。礫は径5～10mmの花崗斑岩半クサリ礫が主体。 6.36～6.42m：明赤灰色粘土含む。
	1.56	7.62									
					にぶい橙	Dg	Ⅳg	cg		2	7.62～17.89m：花崗斑岩(Gp) 7.62～9.26m：傾斜30～60°の割れ目主体で，60～80°のものが交差。
					明黄褐	Eg	Ⅵg	dg		3	
10						Dg	Ⅴg	cg		2	9.38～10.76m：傾斜30～70°の割れ目に，20～40°のものが斜交。
						Eg	Ⅵg	dg		3	10.76～10.88m：粘土混り礫状を呈する。上端35°で直線的，下端30°で波打つ。割れ目に幅0.5～1mmの灰黄色粘土を挟む。 10.88～10.91m：礫質粘土状を呈する。
							Ⅴg				
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Ⅳg	cg	δ		●10.91～10.93m：破砕帯(D-1) 礫混り粘土状破砕部(Hc-2)。上端35°，下端38°で両端とも直線的。幅15～18mm。浅黄橙色。幅1～2mmの灰白粘土を伴う 10.93～11.22m：全体に軟化する。
									γ		11.22～17.89m：コアは岩片～短柱状が主体。
	-5.70	17.89									
	-6.09	18.44		花崗岩		Eg	Ⅵg	dg	δ	2	17.89～18.44m：黒雲母花崗岩(Gr) 径3～5mmの石英，長石，1～3mmの黒雲母の斑晶よりなる。一部長石が径10mm程度に大型化する。上端50°で明瞭，石英脈と淡緑色鉱物を伴う。下端は花崗斑岩に漸移。
20					にぶい橙		Ⅳg		γ		18.44～70.00m：花崗斑岩(Gp) 18.44～21.00m：傾斜30～50°の割れ目主体で，一部で60～70°のものが斜交する。一部に粘土脈を伴う。幅1～5mmの石英脈が複数みられる。
						Cg	Ⅲg	cg			21.00～21.66m：柱状コアを主体とするが，一部微細な割れ目が多く，打撃で分離し易い。
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Ⅳg		δ		23.40～23.77m：傾斜60～70°の微細な割れ目が平行に分布。一部で割れ目沿いに砂状化し，褐色化する 24.59m，25.10m，25.61m： 割れ目沿いに幅10～20mmが淡緑色化し，0.5～1mmの雲母を伴う。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
						5/13	85	101.6／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	90	0.1	泥水1	1
						5/14	80	101.6／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	90	0.1	泥水1	1
						5/15	90	86	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	150	0.1	泥水2	2
						5/17	90		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	150	0.1	泥水2	2
CL'						5/18	110		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	150	0.1	泥水2	2
D'							100							
CL'							105							
							90							
						5/20	95		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	120	0.1	泥水2	2
							80							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Ⅳg	cg	δ	2	26.78～27.75m：微細な割れ目が1～3cm間隔で分布し，ハンマー打撃で細片化する。
						Eg	Vg			4	
							Ⅵg	dg		3	●27.75～28.43m：破砕帯 27.75～27.91m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端20°で不明瞭，下端15°で直線的。径10mmまでの石英粒，粘土化した岩片を多く含む。 27.91～28.33m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端53°で直線的。岩片間に網状に粘土が分布。 28.33m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜53°。幅2～5mm。灰褐色。 28.33～28.43m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°で直線的。幅60mm。
					灰褐	Cg	Ⅳg	cg		4	
						Bg	Vg				
						Cg					
						Dg					
						Cg					
						Bg	Ⅲg	bg			
						Cg	Ⅳg	cg	γ	2	29.73～30.20m：硬質で良好な岩盤となる。
							Vg				
						Bg	Ⅳg	bg			34.00m：白色粘土挟在。傾斜60°で直線的でシャープ。幅1～5mm。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	cg	δ		34.57～34.63m：割れ目が密集する
						Dg					
						Cg					
						Bg	Ⅳg	bg	γ	1	38.95～39.34m：多くの割れ目に，幅1mm前後の粘土脈を伴う。 39.34～39.41m：細片化し，網状に粘土脈が分布。上端25°，下端30°で両端とも直線的に幅2～4mmの灰白～にぶい黄橙色の粘土が分布。
						Cg		cg		3	39.50m：白色鉱物脈。傾斜20°，幅2～4mm。
					にぶい橙	Bg	Vg	bg			39.90～40.68m：傾斜40～50°の割れ目が平行に分布。 40.68～43.34m：傾斜20～50°の割れ目主体で，微細な割れ目も分布。一部高角割れ目が斜交して角礫化，またマンガン汚染を受ける。
						Dg		cg	δ		
						Cg					
40						Bg	Ⅳg	cg	γ	2	42.37～42.61m：割れ目が密集する 47.67～48.84m：傾斜40～50°の割れ目が平行に分布する。一部で砂状化する。
						Cg	Vg				
						Bg	Ⅳg	bg			48.84～49.83m：傾斜40～50°と，微細な割れ目が主体。49.17mまでは割れ目沿いの砂状化が多い。一部で幅0.5mmの白～明黄褐粘土を挟む
						Dg	Vg	cg	δ		
						Bg	Ⅳg	bg	γ		49.83～52.07m：傾斜20～40°の割れ目が分布する。一部緑灰色化する 51.30m，51.33m：傾斜38°，47°の各割れ目に微細な黄鉄鉱が晶出する。
						Cg	Vg	cg			
						Bg	Ⅳg	bg			
						Cg	Vg	cg		2	52.07～52.55m：変質により著しく軟化する。網状に粘土脈が発達する 52.07m，52.52m：方解石脈。各々傾斜45°，幅7～8mm，傾斜25°，幅3～5mm
							Ⅳg				52.55～52.97m：不規則な微細割れ目が多く，岩片化する。一部に方解石脈や緑灰色粘土挟在。
						Bg	Vg				
							Ⅲg	bg			
						Cg	Vg	cg	δ		●52.97～53.46m：破砕帯 52.97～53.10m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端50°，下端不明瞭。幅70～80mm。
						Bg	Ⅲg	bg	γ		53.05m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜45°で直線的。幅3mm。褐灰色。 53.10～53.44m：粘土混り角礫状破砕部(Hj)。下端45°でやや波打つ。径5～20mmの岩片と粘土化した基質からなり，基質中に粘土が10～50°で分布する。 53.44～53.46m：礫混り粘土状破砕部(Hc-2)。下端45°で直線的。幅4～12mm。灰白～緑灰色。
							Ⅳg				
						Cg	Vg	cg	γ		
					灰褐		Ⅳg				
					にぶい橙		Vg		δ	3	
50					灰褐	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	53.46～53.68m：著しく軟化する。一部に緑灰色粘土脈を挟む。 53.68～56.54m：交差する割れ目が細かく分布，コアは細片～岩片状。 54.44m：方解石脈。傾斜70°，幅3～8mm。上盤側は開口，下盤には密着。 56.54～56.57m：礫質粘土状部。 56.57～59.47m：不規則に交差する割れ目が多く，コアは岩片状を主とする。 59.47～60.06m：幅1mmの白色粘土脈を多く挟む。
							Vg			4	
							Ⅳg				
						Eg	Ⅵg	dg	γ	3	
						Dg	Vg	cg		4	
						Eg	Ⅵg	dg		3	
						Cg	Vg	cg	δ		●60.06～60.38m：破砕帯 60.06m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜45°で直線的。幅3mm。暗緑灰色。軟弱～一部半固結状。 60.06～60.16m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端不明瞭。幅30～50mm。 60.16～60.38m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端60°で直線的。岩片間に灰白色粘土が網状に分布。
						Dg			γ	2	
						Cg			δ	3	
						Dg				2	
						Cg				3	
						Bg	Ⅳg	bg	γ		60.38～61.39m：割れ目が多く岩片状で，粘土脈や白色鉱物脈を伴う。 61.39～61.47m：径5～20mmの岩片と粘土化した基質からなる。
						Cg	Vg	cg		4	
						Bg	Ⅳg	bg		2	●61.47～61.52m：破砕帯 61.47～61.52m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端5°，下端45°で両端とも直線的。幅50mm。
							Vg	cg			
						Cg					
						Bg	Ⅳg	bg			61.52m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜45°で直線的。幅1mm。暗緑灰色。
						Eg	Vg	cg	δ		
						Dg	Vg	cg			61.52～62.74m：傾斜10～60°主体で，これらに交差する割れ目が分布する。多くの割れ目に粘土を挟む。 62.42m以深，変質による軟化著しい 62.74～63.29m：多くの岩片間に薄く淡緑灰～白色粘土が付着する。 63.29～63.67m：著しく軟化する。
						Cg	Ⅵg	dg			
						Dg	Vg	cg			
						Eg	Ⅵg	dg	γ	3	
						Cg	Vg	cg			
60						Eg	Ⅵg	dg		4	
						Dg	Vg	cg		3	

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入 N値～深度）試験図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
0 50 100	CL'			0 10 20 30 40 50			5/20	80	86	ダブルチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	120	0.1	泥水2	2
5 [0] (100)										ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット					
3 [0] (100)															
5 [0] (100)															
9 [0] (100)															
12 [32] (100)	CL'						5/21	95			1.0	150	0.1	泥水2	2
7 [0] (100)															
9 [0] (100)															
13 [34] (100)	CM' CH'							90							
9 [0] (100)	CL'						5/22	80			1.0	150	0.1	泥水2	1
9 [0] (100)															
6 [0] (100)											2.0				
6 [0] (100)	CL'							60							
4 [0] (100)	CM'														
7 [0] (100)							5/23	65			2.0	150	0.1	泥水2	1
10 [10] (100)	CL'							50							
7 [0] (100)							5/24	50			2.0	150	0.1	泥水2	1
7 [0] (100)	CM'														
12 [32] (100)															
6 [0] (100)															
5 [0] (100)	CL'														
12 [33] (100)							5/25	40		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	2.0	150	0.1	泥水2	1
18 [34] (100)	CH'														
9 [0] (100)	CL'						5/27	60		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	2.0	150	0.1	泥水2	1
8 [0] (100)															
9 [0] (100)	CM'														
14 [35] (100)															
8 [0] (100)	D'							75							
2 [0] (100)															
4 [0] (100)							5/28			ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	2.0	150	0.1	泥水2	1
4 [0] (100)	CL'							65							
12 [32] (100)															
6 [0] (100)								75							
9 [0] (100)	CM'						5/29			ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	2.0	150	0.1	泥水2	1
7 [0] (100)								70							
4 [0] (100)	CL'														
4 [0] (100)							5/30	80		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	150	0.1	泥水2	1

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
	-42.55	70.00		花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg	γ	3	●63.67～63.90m：破砕帯 63.67～63.83m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端45°,下端60°で両端とも不明瞭。径20mmまでの岩片間に白色粘土脈が網状に分布。 63.72m：灰赤色粘土挟在。傾斜45°で直線的,幅2～3mm。 63.83～63.88m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端70°で直線的。幅20～30mm 63.88～63.90m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜70°で直線的。幅5～10mm。赤灰色。半固結状。 63.90～64.05m：径5～20mmの岩片と,粘土化した基質からなる。 64.05～66.65m：傾斜30～60°と,これらに交差する40～80°の割れ目が分布。 66.65～67.05m：変質で著しく軟化し,角礫状を呈する。 67.05～67.98m：傾斜60～70°の割れ目が認められる。一部に白～暗緑灰色の粘土脈が分布。 67.98～70.00m：割れ目は傾斜50～70°が主体。割れ目沿いの砂状化～細片化や暗緑灰色の粘土脈がみられる。	3 [0] (100)	CL'				5/30	80	86	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	150	0.1	泥水2	1
						Eg																					
						Dg																					
						Eg	VIg	dg				3 [0] (100)	D'							95							
						Cg	Vg	cg				9 [0] (100)															
						Bg	IVg	bg		2		5 [0] (100)															
						Cg	Vg	cg				4 [0] (100)															
						Dg																					
					明褐灰	Eg	VIg	dg		3		2 [0] (100)	CL'						5/31	95		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.0	150	0.1	泥水2	1
						Dg	Vg	cg				3 [0] (100)															
						Eg	VIg	dg																			
						Dg																					
						Cg																					
						Dg	Vg	cg		2		5 [0] (100)								80							
					灰褐	Cg																					
						Dg																					
						Cg																					
					明褐灰	Dg																					

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.	1

ボーリング名	D1-5	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.03 m	角度	180° 上 90° 下 0° 40.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 143.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	54.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	4.73	3.00		埋戻し土	にぶい黄褐						0.00～3.00m：粗砂 試掘の埋戻し土 径10～40mmの花崗斑岩岩片，コンクリート片などを含む。					5/23	55	100／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.5	100	0.1	泥水5	4
	1.35	7.41		改良土	黄褐 灰黄褐 にぶい黄橙 にぶい黄褐 にぶい黄橙 にぶい黄褐						3.00～7.41m：改良土 砂礫からなる。 礫は径2～5mmの石英，長石，5～120mmの花崗斑岩礫主体で，少量の花崗岩，砕石片を含む。 硬質礫主体の亜角～亜円礫で，一部半クサリ礫を含む。 礫率30～40%程度。 基質は粗砂で比較的よく締まる。						100／ケーシング					
10				花崗斑岩	にぶい橙 にぶい黄橙	Eg	Vg VIg	cg dg	δ	3 3	7.41～54.00m：花崗斑岩(Gp) 7.41～8.51m：著しく軟化する。 ●8.51～8.71m：破砕帯 8.51～8.66m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。上端55°で直線的，下端50°で波打つ。網状に粘土分布。 8.66～8.69m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端60°でやや波打つ。幅25～30mm。 8.69～8.70m：粘土状破砕部(Hc-1)下端60°でやや波打つ。幅3～8mm。明赤灰色。 8.70～8.71m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端65°で直線的。幅3～10mm。	D'											
					明褐灰	Dg	Vg			3	8.71～10.19m：著しく軟化する。 ●10.19～10.21m：破砕帯 10.19～10.20m：礫質粘土状破砕部(Hb)。上端27°で直線的，下端36°で波打つ。幅6～10mm。 10.20～10.21m：粘土状破砕部(Hc-1)。下端40°で直線的。幅4～6mm。灰白～にぶい黄色。	CL'	10.80 6/1 10.90 6/5 10.90 5/29										
						Cg	IVg Vg	cg																
					褐灰	Bg	IIIg	bg	γ	2	10.21～10.45m：傾斜60～70°の割れ目が残留し，多くに粘土脈を伴う10.37m以深，岩組織は残留する。	CH'	13.10 5/26											
					明褐灰	Cg	IVg	cg			●10.45～10.50m：破砕帯 10.45m：粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜30°で直線的。幅1mm。白色。軟弱。 10.45～10.50m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端40°で波打つ。幅40～55mm												
						Bg	IIIg	bg																
						Cg	IVg	cg	δ		10.51～14.19m：傾斜40～60°の割れ目が平行に分布し，下部では斜交するものも多い。交差部は砂状化。 14.19～17.14m：割れ目は50°以下主体で褐色化する。	CL'											
						Dg	Vg																	
						Eg	VIg	dg		3														
						Dg	Vg																	
20						Cg	IVg	cg	γ		17.14～18.17m：傾斜30～50°の割れ目主体で，一部で砂状～細片化。 18.17～19.11m：風化で軟化する。傾斜40～60°の割れ目が残留する。 18.72m：灰赤色粘土挟在。傾斜35°で直線的。幅3～4mm。白色粘土伴う。 19.11～20.10m：硬質で割れ目も少ない。下部は堅硬で短柱状を呈する。												
						Bg																		
						Dg	Vg		δ															
						Cg	IVg	bg	γ															
					灰褐	Bg																		
						Dg	Vg	cg	δ															
						Bg	IIIg IVg IIIg	bg	γ	2	19.56～19.67m：ペグマタイト質部。最大径25mmの石英，20mmの長石からなる。傾斜65°，幅約100mmで分布する。 20.10～20.85m：傾斜40～60°の割れ目が分布する。上部は微細な割れ目も多い。下部に粘土挟在多い。 20.85～22.91m：硬質で，コアは短柱～柱状を主とする。 22.91～22.94m：傾斜50～55°の割れ目に囲まれ，砂状～細片化する。 22.94～23.60m：硬質で，コアは短柱～柱状を主とする。 23.60～23.96m：傾斜30～45°と，これに斜交する割れ目が分布。風化で橙色を帯びる。	CM'											
						Eg	VIg	dg																
						Bg	IIIg IVg IIIg IVg IIIg	bg	γ			CH'												
												CM'												
												CH'												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入 N値～深度) 試験図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
											23.96～24.47m：コアは柱状となる。 24.47～25.80m：傾斜30～50°の割れ目が1～6cm間隔で平行に分布する。一部で細片化する。 25.80～27.20m：コアは短柱～柱状を主とする。一部割れ目交差部で細片化がみられる。									5/30	30		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	3.0	200	0.1	泥水10	10
											27.20～28.48m：堅硬でコアは長柱状を呈する。		CH'							5/31	25			4.0	150	0.1	泥水10	5
											28.48～30.77m：傾斜20～50°の割れ目が平行に分布する。割れ目に沿って褐色化する。コアは短柱～柱状を主とする。									6/1	20			4.0	300	0.1	泥水10	0
30																											
											30.77～31.57m：上位に比べやや軟化する。傾斜30～50°の割れ目主体。割れ目沿いの砂状化がみられる。 31.57～32.68m：傾斜30～50°の割れ目を主体とする。		CL'							6/2	25			2.0	200	0.1	泥水10	3
											32.68～32.76m：風化で砂状化する上端に明黄褐粘土を伴う。 32.76～33.96m：傾斜40～70°の割れ目が発達し、一部割れ目沿いに砂状化する。		CM'							6/3	55			1.0	150	0.1	泥水10	1
											33.96～36.70m：風化により、多くの割れ目沿いやコア表面で砂状化が認められる。 36.50～36.70m：多くの割れ目で灰白色粘土を挟む。										110							
											36.70～38.73m：傾斜50～70°と、斜交する20～40°の割れ目が分布。一部で径10～20mmに細片化する。 37.73m：灰白色粘土挟在。傾斜65°、幅1～2mm。周縁5mm前後が淡緑灰色化し、微細な金属鉱物が付着。		CL'							6/4	80		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	1.5	150	0.1	泥水10	7
											38.73～38.82m：砂状化と幅1mm以下の粘土脈を多く伴い劣化する。 38.82～40.73m：傾斜40～70°の割れ目を主体とする。										105	86						
40											40.73～40.85m：上端55°、下端60°の割れ目に囲まれ砂状化する。幅2～3mmの灰白～灰赤色粘土脈を伴う																	
											41.08～41.49m：堅硬でｺｱは短柱状										90						
											42.23～42.74m：傾斜50～60°で幅1mm前後の石英脈が多数分布する。 42.74～43.25m：風化で割れ目は不明瞭となる。									6/5	110			1.0	150	0.1	泥水10	5
											43.25～45.09m：風化・変質により著しく軟化する。幅1～3mmの灰白色粘土を脈状または網状に伴う。 45.09～45.82m：傾斜30～50°の割れ目主体。割れ目沿いに砂状化する		D'															
											45.82～45.89m：粘土混り岩片状を呈する。灰白～灰黄色。																	
											●47.47～47.89m：破砕帯(D-1) 47.47～47.48m：粘土状破砕部(Hc-1)。上下端65°で直線的。幅3～6mm。灰褐色。少量の石英粒含む。 47.48～47.66m：礫質粘土状破砕部(Hb)。下端は漸移的。幅67mm。径10mmまでの石英、粘土化岩片を含む。 47.66～47.86m：粘土混り礫状破砕部(Hj)。下端63°で直線的。径10～40mmに岩片化し、岩片間は灰黄～灰白色に粘土化する。 47.86～47.89m：礫混り粘土状破砕部(Hc-2)。下端60°で直線的。幅15mm。径2～10mmの石英粒を含む。		CL'							6/6	100			2.0	150	0.1	泥水5	3
50											48.30～49.50m：傾斜40～60°の割れ目主体で、一部で20～30°のものが斜交。一部砂状化～細片化する。		CM'							6/7	25			3.0	200	0.1	泥水10	8
																			6/8	25			3.0	200	0.1	泥水10	8
											52.75～54.00m：堅硬でコアは短柱～柱状を主とする。傾斜20～60°の割れ目が分布する。		CH'							6/9	20			3.0	150	0.1	泥水10	7
	-34.34	54.00											CM'														

余白

4. 委託報告書（平成27年） ボーリング柱状図

余白

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

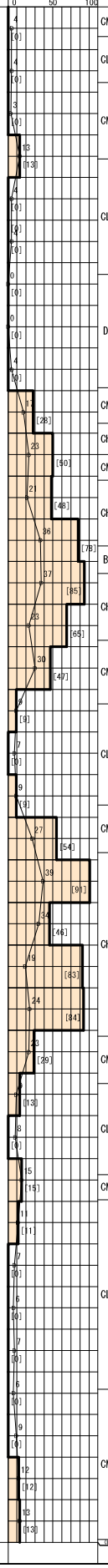
ボーリングNo. 1

ボーリング名	Br-1	調査位置				北緯	
発注機関				調査期間		東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	94.37 m	角度	上 180° 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南 0.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°
総掘削長	130.00 m	使用機種		試錐機		ハンマー落下用具	
				エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	94.21	0.16	礫混じり有機質シルト	礫混じり有機質シルト	黒褐	Eg	Vg	cg	δ	3	0.00～0.16m：礫混じり有機質シルト極めて軟らかい。 0.11～0.16m：最大径2.5mmの亜角～亜円礫を含む。
				アプライト			VIg				0.16～106.11m：アプライト。
					にぶい黄橙		Vg				0.16～2.80m：割れ目に木根が多い。 0.34～0.42m：幅18～22mmの礫混じり砂状シルト状を呈する。 0.90m：幅0.5～2mmの褐色粘土を挟在する。 2.96m，3.36m：幅0～4mmの褐色粘土を挟在する。
						Dg	IVg				
						Eg	VIg				
							Vg			4	3.58～4.81m：変質により石英粒（径2～8mm）を残して粘土化している。割れ目が不明瞭となる。 4.47m：幅3～10mmの灰白色粘土～シルトを挟在する。
					灰白		IVg			3	5.03～5.26m：幅1mmの灰白色粘土及び褐色粘土を挟在する割れ目が発達する。
					浅黄橙		IIIg	bg			
							IVg				6.14～6.83m：幅5mm以下の灰白色粘土及び褐色粘土を挟在する。
					明黄褐		IIIg				
						Dg	IVg	cg	γ		7.23～7.97m：幅3mm以下の褐色粘土，灰白色粘土を多数挟在する。
											8.17～8.75m：幅2mm以下の褐色粘土，灰白色粘土を多数挟在する。
					にぶい黄橙	Cg	Vg		δ		8.86～8.87m：交差する割れ目に沿って幅1～5mmの褐色粘土及び灰白色粘土を挟在する。
							IIg		γ		9.00～9.63m：幅3mm以下の灰白色粘土，褐色粘土を複数挟在する。
						Bg	IIIg				
10							IVg	bg			
					灰白		IIg				11.42～11.58m：砂～岩片状を呈し，一部に幅1～2mmの褐色粘土を挟在する。
						Cg	Vg	cg			
						Bg	IIg	bg			
						Cg	IVg	cg			
						Bg	IIIg	bg			12.44m：幅10mm程度の黄灰色粘土を挟在する。
							IVg	cg			
						Cg	IIg	bg			
					にぶい黄橙		IVg	cg			13.60m，13.96m：幅1～2mmの灰白色粘土を挟在する。
					赤灰	Bg	IIg	bg			
							IVg		β	2	14.84m：幅1～2mmの灰白色粘土を挟在する。 15.05～15.84m：幅2mm以下の灰白色粘土，褐色粘土を複数挟在する。 15.51～15.74m：高角度の割れ目が密に発達する。 15.53～15.69m：砂状～礫状を呈する。
						Cg	Vg				
						Dg	IVg	cg			
						Cg	IIg				
					にぶい黄橙	Bg					
						Cg		bg			
						Bg					17.48～18.22m：幅5mm以下の灰白色粘土，褐色粘土を多数挟在する。
					灰白		IVg	cg			18.29m：幅2～15mmの淡黄褐色粘土を挟在する。 18.34～19.54m：幅2mm以下の灰白色粘土を多数挟在する。
						Bg					
							IIIg				
							IVg				
20						Dg	Vg		δ	3	19.69～20.30m：網目状に割れ目が発達し，礫状を呈する。割れ目に沿って幅1mm程度の褐色粘土を挟在する。 20.44m：幅1mmの灰白色粘土を挟在する。
					にぶい黄橙	Cg	IIIg		γ	2	
						Bg	IVg				
							IIIg				
						Cg	IVg	cg			
					灰白				β	3	21.81m：幅0.5～2mmの灰白色粘土を挟在する。
						Dg	Vg				
					明黄褐		IVg		γ		21.93～22.34m：高・低角度の割れ目が交差し，角礫状を呈する。 22.13～23.10m：幅5mm以下灰白色粘土を多数挟在する。
						Cg	Vg				
					にぶい黄橙		IVg				23.07～24.22m：角礫状を呈し，割れ目に沿ってフィルム状～幅2.5mmの褐色粘土を挟在する。
						Bg			δ		
						Cg					
							IIIg			2	23.28～27.40m：幅0.5～2mmの灰白色粘土を多数挟在する。
							IIg	bg	γ		
					灰黄	Bg	IIIg				
							IVg				
						Cg	IIg	cg			
						Bg	IVg		β		

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
D'						4/21	95	140／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	29.4	100	1.0	清水5	5
CL'						4/22	126	115／ケーシング						
CM'						4/23	110					0.0	清水5	0
CH'												1.0	清水5	5
CL'	▽ 15.30 6/8													
CM'						4/24	121	115／ケーシング			130			
CL'												0.0	清水5	0
CM'														
CL'												1.0	清水5	0
CH'						4/25	119	101／ケーシング						
CM'														

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				アプライト	灰黄	Bg	Ⅳg	cg	β	2	27.56m：幅1mmの褐色粘土を挟在する。 27.72～28.76m：高角度の割れ目が顕著になる。 27.73～28.05m：フィルム状の灰白色粘土を複数挟在する。 28.97～29.74m：不規則な割れ目が発達する。
					明黄褐	Cg	Ⅴg		γ		
					にぶい黄橙	Bg	Ⅳg	bg	γ		
					灰黄褐			cg	β		
						Cg	Ⅴg	bg	γ	3	30.57～31.25m：高角度の割れ目が卓越する。
						Dg	Ⅳg	cg	δ	2	31.36～31.80m：傾斜30～50°の平行な割れ目が発達する。 31.68～31.96m：フィルム状の褐色粘土を複数挟在する。
					にぶい黄橙	Eg	Ⅵg	dg	γ	4	●33.27～35.90m：破砕帯。 33.27～33.62m：細礫混じり粘土状破砕部（Hb）。基質は粘土～砂からなる。上端の傾斜80°。 33.62～34.65m：角礫状破砕部（Hj）。不規則な割れ目に沿ってシルト～砂を挟む。 34.65～34.66m：粘土状破砕部（Hc-1）。幅10～15mmの明黄褐色粘土からなる。 34.66～35.90m：角礫状破砕部（Hj）。角礫状～砂状を呈する。34.80～34.87mには石英粒が密集する。下端に幅2～10mmの緑褐～灰色粘土を挟在し，傾斜は80°。
					浅黄橙	Cg	Ⅳg		β	2	
40					灰白	Bg	Ⅲg	bg	γ	3	
							Ⅱg			2	38.27～38.68m：割れ目が密集し，幅2～5mmで細礫状を呈する。 38.75～40.97m：珪化する。
							Ⅳg			3	
							Ⅰg			2	40.28～40.30m：割れ目に沿って礫状を呈する。
							Ⅱg			3	
							Ⅲg			2	
					明黄橙	Cg	Ⅳg				
						Bg	Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
						Cg	Ⅴg	cg			43.32～43.34m：幅2～3mmの優白色鉱物脈を挟在する。
						Bg					
						Cg					
						Dg	Ⅳg				44.35～46.82m：優白色鉱物脈を挟在する割れ目が発達する。
						Cg					
						Bg					
						Cg					45.54～45.73m：不規則な割れ目が集中する。
						Bg					
						Cg	Ⅱg				
							Ⅳg				46.30～46.44m：割れ目に沿って幅10～30mmで細礫状を呈する。 46.64m，46.82m：幅4mmの白色鉱物脈を挟在する。
							Ⅲg				
					青灰		Ⅱg		β		
							Ⅳg				47.56～47.57m：角礫状を呈する。
							Ⅱg				
						Bg	Ⅲg	bg			48.16～48.22m：岩片状を呈する。 48.73m，48.78m：割れ目に沿って幅4～7mmで砂状～細礫状を呈する。
50					明黄褐		Ⅱg				49.50～49.52m：細礫状～岩片状を呈する。
							Ⅲg				
							Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	cg		3	51.32～51.53m：割れ目が集中し，一部礫状を呈する。
						Bg	Ⅱg	bg			
							Ⅳg				
							Ⅴg		γ		52.33～52.58m：割れ目が集中し，岩片状～礫状を呈する。 52.76～53.90m：高角度の割れ目を主体とし，黒色酸化物の挟在が顕著である。
					灰白	Cg					
						Bg	Ⅳg				
						Cg					
						Bg	Ⅲg				54.12m，54.83m：それぞれ幅2mmの褐色，灰白色の粘土を挟在する。
						Cg	Ⅳg				
						Dg	Ⅴg	cg			55.13m：幅3mmの赤褐色粘土を挟在する。 55.32～55.48m：割れ目が集中し，一部に幅2～4mmの淡緑灰色粘土を挟在する。 55.63～56.36m：幅3～4mmの緑灰色粘土を挟在する割れ目が発達する。 58.53～58.82m：傾斜50°の割れ目が連続し，一部に幅2～6mmの灰白色粘土を挟在する。
						Cg	Ⅲg				
							Ⅳg				
					淡赤橙	Bg					
						Cg					
						Bg					
						Cg					
						Dg	Ⅴg				●59.18～59.27m：破砕帯。 59.18～59.26m：角礫状破砕部（Hj）。上端の傾斜は60°で，幅5mmの細粒砂～シルトを挟む。砂の基質中に径10～20mmの石英が密集する。 59.26～59.27m：粘土状破砕部（Hc-1）。幅4～5mmの明褐灰色粘土，幅5～14mmの淡緑灰色粘土からなる。傾斜は40°。
						Cg	Ⅳg		δ	4	
60					淡黄	Dg	Ⅴg				
						Cg	Ⅳg	bg	γ	3	59.28～59.41m：角礫状を呈し，シルト～粘土にやや富む。
					淡赤橙	Bg					
						Cg	Ⅳg	cg			60.00～61.02m：砂状～礫状を呈し，下端に幅8mmの暗緑褐色粘土を挟在。 62.02～62.387m：傾斜60～70°の平行な割れ目が発達する。



孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
					4/25	119	101／ケーシング				1.0	清水5	0
					4/27	112	100／ガイド管	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	29.4	130	0.0	清水5	0
					4/28	106							
					4/30	124					1.0	清水5	5
					5/1	115			49.0				
					5/7	133			29.4				
					5/8	126							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				アプライト	淡赤橙	Cg	Vg				63.33～63.85m：傾斜約60°の平行な割れ目が発達する。
					灰白	Bg	IVg				
						Cg		cg		3	65.05～65.52m：低角度の割れ目が主体となる。
						Bg	IVg				65.87m：幅4mmの淡褐色のシルト～粘土を挟在する。
						Cg					66.30～66.66m：砂礫状～岩片状を呈する。
					淺黄橙	Bg					
						Dg	VIg	dg		4	●67.63～70.76m：破砕帯。
							Vg	cg			67.63～67.73m：礫質粘土状破砕部（Hb）。緑灰色粘土～シルトの基質中に角礫状の岩片を挟在する。上端の傾斜は75°。
							VIg	dg			67.73～69.27m：角礫状破砕部（Hj）。割れ目に沿って淡緑灰色粘土～シルトを挟在する。
					灰白	Eg					69.27～69.35m：粘土状破砕部（Hc-2）。上端に幅7mmの黄灰色粘土を挟在する。傾斜60°。明緑灰色細礫混じりシルト～粘土からなる。
						Dg	VIg	dg			
						Eg					
						Dg	Vg				69.35～69.71m：角礫状破砕部（Hj）。割れ目に沿って幅2mmの緑灰色粘土を挟在する。
					淺黄橙	Cg	IVg				69.71～69.80m：粘土状破砕部（Hc-2）。締まった淡緑灰色細礫混じり砂～粘土。
						Bg					69.80～70.00m：角礫状破砕部（Hj）。一部に淡緑灰色粘土を挟在する。
						Cg	IVg				70.00～70.76m：礫質粘土状破砕部（Hb）。淡緑灰～緑灰色粘土中に角礫状の岩片を挟在する。下端の傾斜はおよそ80°だが，凹凸や湾曲が認められる。
						Bg					70.55～71.90m：高角度の割れ目が卓越する。幅1～4mm程度の緑灰色粘土～シルトを複数挟在する。
					灰白		IIg		γ		72.33～72.47m：傾斜60～70°の割れ目が集中し，幅1～8mmの淡緑灰色粘土～シルトを挟在する。
							IVg				75.03～76.30m：高角度の割れ目が発達する。
					淺黄橙	Bg	IIIg				76.17m：幅4mmの灰色粘土を挟在する。
					灰白		IVg				76.40～76.70m：岩片状を呈し，崩れる。
					淺黄橙	Cg	Vg				76.84m，76.91m：幅3～4mmの淡緑灰色粘土を挟在する。
						Bg	IVg	cg		3	
					淡黄	Cg	Vg				
						Bg	IVg				
					淡橙						
					淺黄橙	Cg					82.08～82.46m：高～低角度の割れ目が交差し，岩片状を呈する。
							IVg				83.30m：幅2～3mmの黄灰色粘土を挟在する。
							Vg				
							IVg				●85.90～87.85m：破砕帯。
							Vg				85.90～86.20m：礫質砂状破砕部（Hb）。砂を基質として角礫を含み，淡緑灰色粘土を不規則に挟む。上端の傾斜80°。
						Eg	VIg	dg		4	86.20～87.75m：角礫状破砕部（Hj）。割れ目に沿って淡緑灰色粘土を挟在する。上端に最大幅5mmの淡黄灰～灰白色粘土を挟む。
						Dg	Vg	cg		3	87.75～87.85m：粘土状破砕部（Hc-1）。上端側から幅0～10mmの灰白色粘土，幅8mmの灰黄色粘土，幅25mmの灰白色粘土，幅0～6mmの礫混じり灰色粘土からなる。下端の傾斜65°。
							VIg				
						Eg		dg		4	
					淡黄	Dg			δ		87.85～89.44m：傾斜60～70°の平行な割れ目が発達する。
					淺黄橙		Vg	cg			90.57～90.70m：高角度の割れ目が密集する。
						Cg			γ		
							IVg	bg			92.00～92.20m：岩片状に崩れる。
							Vg	cg	α		92.15～93.97m：高角度の割れ目が卓越する。
							IVg	bg			93.12～93.22m：最大幅5mmの淡緑灰色粘土をやや不規則に挟在する。
							Vg		γ		
					淡赤橙	Dg	IVg				●93.36～93.45m：破砕帯。
							Vg		δ		93.36～93.42m：角礫状破砕部（Hj）。割れ目に沿って灰白～淡緑色の粘土～シルトを挟在する。上端の傾斜は60°，下端の傾斜70°。
									γ		
						Cg	IVg				93.42～93.45m：礫混じり粘土状破砕部（Hc-2）。最大幅22mmの青灰～明緑灰色の礫混じり粘土。下端の傾斜70°。
						Bg	IIIg				
						Cg	IVg				93.45～94.09m：高角度の割れ目が卓越する。
						Bg	IIIg	cg		3	
					淺黄橙	Cg	IVg				93.45～93.62m：角礫状～岩片状を呈し，一部崩れる。
							Vg		γ		
						Dg	VIg				96.03m，96.06m：それぞれ幅5mm，3mmの淡緑灰色粘土を挟在する。
							Vg				96.71～97.46m：高～低角度の割れ目が交差し，岩片状を呈する。
						Cg	IVg				
					淡赤橙	Dg					
						Cg	Vg				
						Bg	IVg				
						Cg					

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CL'												1.0	清水5	5
CM'														
CL'														
CM'						5/ 8	126							
D'														
CL'														
CM'						5/ 9	112							
CL'														
CM'														
CL'														
CM'														
CL'						5/11	127		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	26.4	130	1.0	清水5	3
D'														
CL'						5/12	116							
CL'						5/13	111							

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
100				アプライト	淡赤橙	Cg		cg											5/13	111					1.0	清水5	3
						Bg	Ⅳg	bg					CL'													
					黄橙			cg																		
						Cg	Ⅴg				101.11～104.34m：低角度の割れ目が主体となる。															
					淡赤橙		Ⅳg	bg					CM'													
					黄橙	Dg	Ⅴg												5/18	110				1.0	清水5	5
						Bg	Ⅳg	cg			102.53～102.63m：礫状を呈し，一部に幅1mmの灰白色粘土を挟在する。		CL'													
						Cg	Ⅴg				102.80～103.92m：低角度の割れ目が卓越し，一部岩片状を呈す。															
					淡赤橙		Ⅳg	bg					CM'													
						Bg	Ⅲg																			
					黄橙		Ⅳg				104.57m：幅4mmの石英脈を挟む。		CH'													
						Cg	Ⅲg	cg	γ										6/4	101				1.0	清水5	5
							Ⅳg						CL'													
	-11.74	106.11				Bg	Ⅴg	bg			106.11～130.00m：花崗斑岩。															
					にぶい橙		Ⅳg				106.30～107.66m：高角度の割れ目が主体となる。107.17～107.66mは割れ目が密集し，岩片状～礫状に崩れる。															
						Cg		cg			107.66～108.34m：幅4mm程度までの白色粘土を挟在する割れ目が発達する。															
					明橙灰		Ⅴg				108.34～108.80m：高～低角度が交差し，岩片状を呈する。下端には幅2mmの緑灰色粘土を挟在する。															
						Dg					109.02～110.90m：高角度の割れ目が優勢となる。		CL'													
					灰白	Cg																				
							Ⅳg																			
					にぶい橙		Ⅴg																			
						Bg	Ⅳg	bg											6/5	86				1.0	清水5	0
					浅黄橙	Cg	Ⅲg			3			CM'													
						Bg	Ⅳg	cg																		
						Cg																				
					灰白		Ⅱg				111.53～113.18m：珪化し，硬質になる。															
						Bg	Ⅳg	bg	β				CH'													
							Ⅲg																			
							Ⅱg																			
							Ⅳg	cg			113.18～114.80m：高～低角度の割れ目がともに発達する。		CL'													
							Ⅳg																			
						Cg	Ⅴg																			
							Ⅳg																			
						Bg																				
						Cg																				
						Dg					115.48～115.91m：傾斜60～70°の割れ目が平行に発達する。															
							Ⅴg	cg					CL'													
						Cg	Ⅳg				116.36～116.44m：傾斜60～70°の割れ目が密集する。															
							Ⅴg				116.65～117.54m：微細な割れ目が不規則に発達する。															
							Ⅳg																			
						Cg	Ⅴg				117.70～118.00m：傾斜80°程度の割れ目が集中する。															
							Ⅳg				118.00～118.65m：不規則な割れ目が交差し，岩片状を呈する。															
							Ⅴg																			
							Ⅳg				118.98～119.91m：高角度の割れ目が卓越する。		CM'													
						Bg	Ⅲg	bg	γ	2																
							Ⅱg			3			CH'													
							Ⅱg																			
						Cg	Ⅳg	cg			120.86～120.97m：岩片状を呈する。		CL'													
								bg			121.27～121.51m：斑状あるいは脈状の石英を挟在する。															
						Bg				2	121.83～123.98m：低角度の割れ目が顕著になる。		CM'													
						Cg	Ⅴg																			
							Ⅳg						CL'													
						Bg																				
							Ⅲg	cg			123.98～125.32m：高角度の割れ目が優勢となる。		CM'													
							Ⅳg																			
						Cg	Ⅴg				124.80～125.06m：割れ目が集中し，礫状を呈する。		CL'													
					浅黄		Ⅴg			3	125.06～125.50m：岩片状を呈する。															
						Dg	Ⅴg				125.50～125.68m：角礫状を呈する。下端に幅2mmの暗褐色粘土を挟在する。傾斜は74°。															
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg					CM'													
						Bg	Ⅳg			2																
						Cg	Ⅳg																			
						Bg	Ⅳg				125.68～128.08m：高角度の割れ目が卓越する。		CL'													
					明赤灰		Ⅳg	cg	β																	
							Ⅴg						CM'													
							Ⅳg																			
						Cg	Ⅱg		γ	3																
							Ⅳg	bg			129.00～129.60m：高・低角度の割れ目がともに発達する。		CL'													
					浅黄橙		Ⅳg				129.60～130.00m：高角度の割れ目が優勢となる。															
	-35.63	130.00						cg																		

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

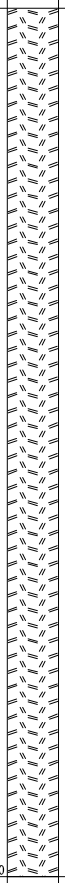
ボーリングNo. 2

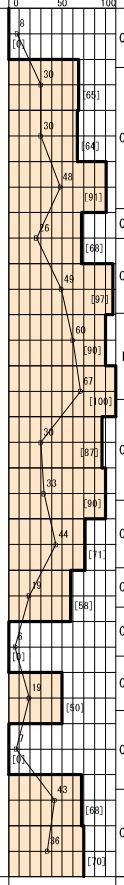
ボーリング名	Br-2	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	58.29 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	80.00 m								エンジン	ポンプ	

標高(m)	深度(m)	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
58.07	0.22	有機質砂シルト混じり砂	明黄褐						0.00～0.22m：有機質砂。黒色の腐植，やや炭化した木片を含む。			4/21	370	100/ケーシング	シングルコアチューブ/ファクトリーメイドダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	29.4	60	0.0	無水 0	0
57.37	0.92	花崗斑岩	明黄褐						0.22～0.92m：シルト混じり砂。 0.72～0.92m：炭化木片を含む。 0.92～80.00m：花崗斑岩。	D'		4/21				19.6	90	0.1	清水 10	10
			黄橙	Dg Eg	Ⅳg Ⅴg Ⅵg	cg	δ ε	2												
			灰白	Dg Cg Dg	Ⅴg Ⅲg Ⅴg	bg cg	δ	3	2.39～2.44m：傾斜55～60°の割れ目が密集し，にぶい橙色粘土を挟在する。	CL'										
			灰白	Cg	Ⅳg	bg cg	γ δ	2 3	2.44～2.58m：幅2～4mmのにぶい橙色粘土を挟在する。 3.32～3.55m：高・低角度の割れ目が交差し，低角度の割れ目に沿ってにぶい橙色粘土を挟在する。							9.8	100	0.1	清水 2	0
			黄橙	Cg	Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg	bg cg	γ		4.85～4.94m：幅3～7mmのにぶい橙色粘土を挟む割れ目が発達する。	CM'										
			にぶい黄橙	Bg Cg Bg	Ⅲg Ⅱg	bg				CH'		4/22	131				120			
			黄橙	Cg Bg	Ⅲg Ⅳg Ⅱg	cg bg				CM'										
			浅黄橙	Dg Cg Dg Cg Dg	Ⅳg	cg	δ γ δ	2	7.71～8.28m：幅1～3mmのにぶい橙色粘土を挟在する。	CL'										
			灰白						8.82m：細礫混じりの褐色粘土を挟在する。幅4～50mm。	CM'										
			明黄橙	Bg	Ⅱg Ⅲg	bg	γ		9.83m：黄褐色の緩いシルト～細礫（幅2～7mm）を挟在する。	CH'							150	0.1	清水 3	10
			灰白		Ⅳg Ⅱg Ⅳg		β			CL'										
			黄橙	Cg	Ⅲg Ⅳg Ⅲg	cg	γ		11.80～11.92m：幅1～2mmの白色粘土を挟在する。 12.35m，12.59m：幅1mm程度のにぶい橙色粘土を挟在する。	CM'										
							δ γ δ			CL'										
							γ			CM'										
			灰白	Cg	Ⅳg	bg			13.77m：幅25～40mmのにぶい橙色粘土を挟在する。											
				Dg	Ⅳg Ⅴg	cg	δ γ	3 2	13.85～14.13m：幅1～9mmのにぶい橙色粘土を挟在する。 14.70～15.00m：高・低角度の割れ目が交差する。幅1～3mmの白～にぶい橙色粘土を挟在する。	CL'	▽ 14.50 5/13									
				Cg	Ⅳg			3												
			黄橙	Dg	Ⅴg		δ		15.48～15.90m：不規則な割れ目が発達する。								120	0.1	清水 2	0
			黄	Eg	Ⅵg	dg	ε	4	●15.94～16.99m：破砕帯。 15.94～16.80m：角礫状破砕部(Hj)。割れ目に沿って黄灰色粘土を挟在する。上端の傾斜60°。16.05mに幅2～8mmの灰白色粘土を挟在する（主剪断面，傾斜62°）。 16.80～16.99m：礫混じり粘土状破砕部(Hb)。明黄褐色粘土を基質とする。下端の傾斜50°。	D'										
				Dg Eg	Ⅴg	cg	δ	3									100	0.1	清水 10	0
			灰白	Dg	Ⅳg Ⅴg															
			灰白		Ⅳg	bg				CL'										
			黄橙			cg	γ		17.89，17.94m：幅2～5mmの灰白色粘土を挟在する。											
			灰白																	
			黄橙																	
			灰白		Ⅴg Ⅲg	bg cg bg			20.71m：幅1～4mmのにぶい橙色粘土を挟在する。	CM'										
			黄橙	Dg	Ⅳg		δ					4/24	143			9.8	120	0.1	清水 2	10
			灰白	Cg	Ⅲg Ⅳg		γ	2												
			黄橙	Dg	Ⅲg Ⅴg Ⅴg Ⅳg	cg	δ ε		25.56m：やや硬い幅1mmのにぶい橙色粘土及び軟質の幅3～8mmの淡褐色粘土を挟在する。 25.71～25.77m：粗粒砂状を呈する。上端に幅10mmの淡褐～にぶい橙色粘土を挟在する。 25.83m：幅5mmの白色粘土を挟在する。	CL'										
				Cg	Ⅲg Ⅳg		δ	3										0.1	清水 3	1
			灰白	Dg Cg Dg Cg	Ⅴg Ⅲg Ⅳg		ε γ δ γ					4/25	122							

コア採取率（%）　最大コア長 cm　RQD [%]

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
30				花崗斑岩	灰白 淡黄 黄橙 灰白 黄橙 灰白 黄橙 灰白 黄橙 明赤灰 黄橙 明赤灰 黄橙 にぶい黄橙 橙 黄橙 明赤灰 明黄褐 黄橙 明赤灰 黄橙 明黄橙 黄橙 灰白 黄橙 灰白	Cg Bg Cg Eg Cg Dg Cg Bg Cg Bg Cg Bg Cg Bg Dg Cg Dg Eg Dg	Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅱg Ⅳg Ⅴg Ⅴg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅴg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅱg Ⅰg Ⅱg Ⅲg Ⅴg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅴg Ⅱg Ⅳg Ⅴg Ⅵg Ⅴg	cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg dg cg	γ δ γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ β γ δ γ	3 2 1 2 1 2 1 3 1 2 1 2 3 2	28.55m：幅2～20mmの淡褐色粘土を挟在する。 28.74m：幅20mmの細礫～砂混じり淡褐色粘土を挟在する。 32.32～32.87m：傾斜40～60°の割れ目が発達する。 33.95～34.05m：網目状の割れ目が発達し，上端に幅15mmの淡褐色粘土，幅1～3mmの白色粘土を挟在する。 34.50～34.65m：幅1～3mmの淡褐色粘土を挟在する。 35.32m：幅10mmでにぶい橙色を呈する細礫混じり粘土を挟在する。 35.42m：幅7mmの灰白色粘土を挟在する。 35.82～35.93m：淡褐～灰白色のシルト～粘土を挟在する。幅2～10mm。 36.35m：幅4mmの淡褐色粘土を挟在する。 40.00～40.20m：高・低角度の割れ目が交差する。高角度の割れ目に沿って淡褐色粘土を挟在する。 42.07～42.21m：傾斜40～50°の割れ目が顕著である。 42.75m：幅1～3mmの淡緑灰色の鉱物脈を挟在する。 44.24m：幅30mmで傾斜76°の割れ目が密集する。 44.58～44.64m：径20～40mmの石英及び長石が密集する。 46.22m：高角度の割れ目に沿って幅30～50mmで砂～礫状を呈する。 48.40m：割れ目に沿って幅40～70mmで粗粒化(最大径8mm)する。 52.41～52.94m：幅1～2mmの黒褐色粘土を挟在する割れ目が発達する。 55.15～55.40m：幅2～10mmの淡褐色及び灰白色粘土を挟在する。 55.80～56.18m：幅1～7mmの淡緑色及び淡褐色粘土を挟在する。 55.95～56.27m：変質が強く，黒褐色を呈する。 57.05～57.24m：幅1～4mmの褐灰色粘土を挟在する。 59.20m：傾斜75°の割れ目に沿って幅2～3mmの石英脈及び幅2mmの白色粘土を挟在する。 60.85～61.10m：軟質で礫混じり砂状を呈する。上端に幅1～3mmのにぶい褐色粘土を挟在する。 61.68～62.40m：網目状に割れ目が発達する。一部に幅0.5～3mmの褐色～灰色粘土を挟在する。 62.40～62.45m：幅5～6mmで淡褐色粘土混じり砂状を呈する。 62.45～62.74m：角礫状～砂状を呈する。	CL' CM' CL' CL' CM' CM' CH' CM' CH' CM' CH' B' CH' CL' CH' CL' B' CM' CH' CL'				4/25 4/27 4/28 4/29 4/30 5/ 1 5/ 7	122 86 91 67 44 126 113		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	9.8 19.6 29.4 9.8 19.6	120 150 180 150 180 150	0.1 0.1	清水3 清水3	1 1

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70	-21.71	80.00		花崗斑岩	灰白 黄橙 灰白 明黄褐 灰白 明黄橙 灰白 明黄橙 灰白 明黄橙	Dg Cg Bg Cg Dg Bg Dg Bg Cg Bg Cg Bg	Ⅵg Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅱg Ⅰg Ⅱg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅲg	cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg cg bg	γ γ β γ	2 3 2 1 1	63.35～63.96m：高角度の割れ目が優勢で，幅0.5～1mmの灰白色粘土を挟在するものが多い。 64.98m：幅1mmの褐色粘土を挟在する。 67.51m：幅4mmで砂，細礫及び褐色粘土を挟在する。 71.45～71.56m：低角度の割れ目が集中する。幅1～5mmのシルト～砂を挟在する。 72.63～72.69m：傾斜80°と低角度の割れ目が交差する。高角度の割れ目に沿って幅0.5～3mmの淡褐色粘土を挟在する。 73.70～73.95m：高・低角度の割れ目が交差する。高角度の割れ目に幅2～3mmの白色粘土を挟在する。 75.15～75.68m：低角度の割れ目が目立ち，幅0.5～2mmの白色粘土，砂，鉱物脈を挟むものが多い。 76.73～77.72m：フィルム状の淡褐色粘土を挟在する高角度の割れ目が多い。

コア採取率（%） 最大コア長 cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	CL' CH' CM' CH' B' CH' CM' CH' CL' CM' CL' CH'						5/8 5/9 5/11	80 67 142		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	19.6 29.4 19.6 29.4 19.6 29.4	150 180 150 180 150	0.1	清水 3	1

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 3

ボーリング名	Br-3	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	44.23 m	角度	上 180° 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 南 180° 0.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°
総掘削長	80.00 m	使用機種		試錐機		ハンマー落下用具	
				エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) N値～深度 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
	44.07	0.16		礫混じり有機質土	黒褐	Dg	Ⅳg		γ		0.00～0.16m：礫混じり有機質砂。砂を主体とし，有機質で草根や茎を挟在する。		D'													
	43.96	0.27		有機質土混じり礫質砂	にぶい黄橙	Eg	Ⅴg	cg	δ		0.16～0.27m：有機質土混じり礫質砂細粒砂を主体とする基質中に風化花崗斑岩の亜角～角礫（最大径7cm）を挟在する。																
							Ⅳg		γ																	
							Ⅴg		δ																	
					灰白	Dg	Ⅲg	bg	γ		0.27～25.95m：花崗斑岩。0.52～1.05m：幅2～5mmの褐色粘土を複数挟在する。2.06m，2.32m：それぞれ幅1～2mmの灰白色，褐色粘土を挟在する。3.25，3.29m：幅2mmの褐色粘土を挟在する。3.90m：幅2mmの灰白色粘土を挟在する。4.50m：幅5～7mmの淡橙色粘土～シルトを挟在する。4.81m：幅3mmの灰白色粘土を挟在する。5.23m：幅10～18mmの礫混じり砂及び褐色粘土を挟在する。5.59～5.66m：灰白色の鉱物脈を複数挟在する。		CL'												
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg																		
					灰白		Ⅲg																			
						Bg	Ⅱg						CM'													
					浅黄橙	Dg	Ⅳg	bg																		
						Cg	Ⅱg						CL'													
					明黄褐	Dg	Ⅲg	cg																		
					にぶい橙	Eg	Ⅵg	dg	δ		7.18m：幅15mmの淡褐色粘土を挟在する。7.62～7.94m：礫混じり砂～粘土を挟在する。礫は径5～30mm程度の角礫。														
						Bg	Ⅱg	bg	γ																	
						Cg	Ⅳg	cg																		
						Dg	Ⅱg	bg																		
						Cg																				
						Bg	Ⅱg	bg																		
							Ⅳg	cg	δ																	
							Ⅲg																			
10					灰白	Cg	Ⅱg	bg																		
							Ⅳg	cg			10.91～10.92m：褐色の礫混じり粘土を挟在する。礫は径2～3mmの亜角～角礫。															
						Bg	Ⅱg	bg	γ																	
							Ⅳg																			
						Cg	Ⅴg			3	12.49～12.50m：幅5mmの褐色の砂混じり粘土を挟在する。12.68m：幅7mmの灰色粘土を挟在する。13.25m：幅7mmの灰白～淡緑色の細礫混じりシルト～粘土を挟在する。															
						Dg	Ⅳg	cg																		
						Bg	Ⅲg	bg																		
						Dg	Ⅴg	cg	δ		14.51～14.80m：シルト混じりの砂礫状を呈する。礫は径1～20mmの亜角礫。15.12m，15.17m：幅2mmの灰白色粘土を挟在する。15.65～16.13m：礫混じりの砂状を呈する。礫径は最大40mm程度。16.22m，16.34m：幅3mmの灰白色粘土を挟在する。16.46m：幅3mmの淡褐色粘土を挟在する。16.66～16.74m：幅1～10mmの灰白色粘土を複数挟在する。17.07～17.19m：礫径2～10mmの礫状を呈する。17.19m：幅2～5mmの褐色粘土を挟在する。17.84～18.08m：岩片状に崩れ，一部に灰白色粘土を挟む。20.12～20.15m：割れ目が集中し，一部礫状を呈する。													
						Bg	Ⅳg	bg	γ																	
							Ⅲg	cg																		
						Dg	Ⅴg	cg	δ																	
						Bg	Ⅳg	cg																		
							Ⅱg	bg																		
						Dg	Ⅳg	cg	γ																	
						Bg	Ⅲg																			
						Dg	Ⅴg	cg	δ																	
						Cg	Ⅳg	bg	γ																	
							Ⅴg	cg	δ																	
						Bg	Ⅱg		γ																	
					灰		Ⅲg	bg																		
					灰白		Ⅱg		α																	
							Ⅲg																			
20							Ⅱg				24.12～24.46m：割れ目に沿って幅1～2mmの褐色粘土を複数挟在する。		CH'													
							Ⅳg																			
					明黄灰		Ⅲg		γ		24.78m：幅3～15mmで砂～細礫状を呈す。															
					明赤灰		Ⅲg		β																	
							Ⅳg	cg	γ																	
	18.28	25.95		アプライト	灰		Ⅱg	bg	β		25.95～26.64m：アプライト。26.11m：幅2～10mmで径2～5mmの礫状を呈する。26.13～26.64m：傾斜40°の割れ目が発達する。															
	17.59	26.64		花崗斑岩	明赤灰		Ⅲg	cg	γ		26.64～80.00m：花崗斑岩。		B													

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
30				花崗斑岩	明赤灰	Bg	Ig	bg	β		26.64～26.66m：幅10～25mmの淡褐色の礫混じり粘土を挟在する。礫は最大径10mm。		B'												0.1	清水3	0
					橙	Cg	IIIg	cg	γ		29.18～29.64m：幅1～2mmで褐色粘土を複数挟在する。		CH'													
					浅黄橙	Bg	Vg				29.90～30.22m：岩片状～礫状に崩れる。		CM'														
					明赤灰	Bg	IIg		β																		
							IIIg		γ	3	31.48～31.54m：傾斜70°の割れ目が発達する。		CH'													
							Ig																			
					橙		IIIg		δ																		
					灰白		IIg	bg	β				B'														
					明赤灰		IIIg		γ																		
					淡黄		IVg		δ				CM'														
					明赤灰		IIg		γ	2																	
					にぶい橙						38.90m：幅5mmの黄褐色粘土を挟在する。		CH'														
					明赤灰																						
					淡黄橙	Cg	IIIg	cg	δ				CM'														
40					灰白	Dg	IVg				40.19～40.53m：径3～5cmの角礫状～岩片状を呈する。																
						Cg	IIIg						CL'														
						Dg	Vg				●40.53～41.10m：破砕帯。																
					暗赤褐	Dg	IVg				40.53～40.75m：角礫状破砕部（Hj）。やや軟らかい角礫状を呈す。上端の傾斜70°。																
						Eg	Vg	da	c																		
					灰白	Cg	IVg	bg	γ	3	40.75～40.96m：礫混じり粘土状破砕部（Hb）。砂～粘土を基質とする。礫径は最大で30mm。		CM'														
						Bg	IIIg																				
					にぶい橙	Cg		cg	δ	2	40.96～41.10m：礫混じり粘土状破砕部（Hc-2）。それぞれ幅が10～15mm，10mm，40～50mmの黄灰色，灰白色，明褐色の礫混じり粘土からなる。主剪断面は40.96mで傾斜60°。下端の傾斜は不明瞭。																
						Bg		bg	γ																		
						Dg	IVg	cg	δ																		
					灰白	Bg	IIg	bg	γ	3	41.10～41.22m：角礫状を呈する。		CH'														
					浅黄橙		IIIg	cg	δ		42.40～42.49m：網目状に割れ目が発達する。																
						Cg	IVg				43.33～43.68m：高角度の割れ目が卓越する。		CM'														
						Bg		bg	γ	2	44.92m：幅2～3mmの砂混じり灰色粘土を挟在する。																
					灰白	Cg	IVg	cg	δ		45.93～46.37m：傾斜30～50°の割れ目が発達する。		CL'														
						Bg		bg	γ		46.54m：傾斜45°の割れ目に沿って幅10mmの細礫混じり砂を挟在する。																
						Cg	Vg																				
						Bg	IVg																				
						Cg	Vg																				
							IVg		δ																		
							IIIg	cg	γ	3			CM'														
					明褐	Bg			δ																		
					橙		IIg	bg	γ	2			CL'														
50									δ																		
					淡黄	Dg	Vg				50.51～50.95m：礫状～岩片状を呈する。																
						Cg	IVg	cg	δ																		
						Dg																					
						Cg	IIg																				
					橙	Bg	IVg	bg	γ				CH'														
						Cg	IIg																				
						Bg																					
						Dg	Vg	cg	δ		52.33～52.69m：傾斜30～40°の割れ目が発達し，角礫状～岩片状を呈する。		CL'														
						Cg																					
					灰白	Bg	IIIg	bg	γ																		
						Cg	IVg	cg	δ	3	53.17～53.54m：傾斜50～70°の割れ目が発達し，岩片状を呈する。															
							IIg		γ																		
					橙				δ																		
							IIIg																				
					灰白		IIg	bg	γ				CH'														
					浅黄橙		IIIg		δ	2	57.07～57.12m：礫状を呈する。																
						Bg																					
					明褐灰		IIg		γ		59.18～60.04m：傾斜30～80°の割れ目が発達する。																
							IIIg				60.04～60.47m：割れ目が集中し，径20～50mmの角礫状を呈する。																
60							Vg		δ																		
							Vg	cg					CL'														
					灰白		IIg			3	61.51～61.55m：割れ目が集中し，礫状を呈する。																
							IIIg	bg	γ				CH'														
							IVg																				
					橙		IIIg	cg	δ		62.81m：幅10mmの淡緑灰色粘土を挟在する。		CM'														
					灰白	Dg	VIg				62.82～62.85m：淡黄灰～淡緑灰色の細礫混じりシルト～粘土を挟在する。		CL'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
70	-35.77	80.00		花崗斑岩	灰白	Dg	Vg	cg	δ	3	62.85～63.05m：最大径50mm程度の角礫状～岩片状を呈する。 63.99～64.09m：傾斜70°，幅30mmで淡緑灰色を呈し，シルト混じりの角礫状となる。礫径は5～10mm。幅1～2mmの灰白色粘土を挟在する。 64.25～65.80m：高・低角度の割れ目が交差し，角礫状～岩片状を呈する。 68.35～68.46m：砂状～角礫状を呈し，上端の割れ目の一部に幅1～4mmの淡緑～淡褐色シルトを挟在する。 68.89～69.77：傾斜50°程度の平行な割れ目が発達する。 69.77～72.28m：高角度の割れ目が卓越し，岩片状を呈する。 71.00～71.05m：砂状～礫状を呈し，下端に幅4mmの黒色酸化物を挟在する。一部に最大幅8mmで淡緑灰色の細礫混じり粘土を挟在する。 71.59～72.28m：ほぼ鉛直の割れ目が卓越する。 71.92～71.95m：砂状を呈する。 72.28～72.56m：網目状に割れ目が発達し，礫状～岩片状を呈する。 72.56～72.74m：主として径2～5mmの角礫及び砂の中に最大径40mmの岩片を含む。 75.42～75.95m：高角度の割れ目が卓越する。 76.11～76.15m：低角度の割れ目が集中する。 ●77.72～77.90m：破砕帯。角礫状破砕部(Hj)。上端に幅1～2mmの淡褐色粘土を挟在する。上端の傾斜70°。黒色酸化物を挟在する。下端の傾斜60°。 78.09～78.36m：低角度の割れ目が卓越する。	CL'			5/8	133		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	49.0	120	0.1	清水5	0
					浅黄橙	Cg	Vg	bg	γ			CM'												
					明褐灰	Bg	Ⅳg		δ															
					にぶい橙	Cg	Ⅲg	cg				CL'												
					灰白	Bg	Ⅳg		γ			CM'												
					明褐灰	Dg						CH'												
						Cg		bg																
					灰白	Bg	Ⅲg					CL'												
						Cg	Vg	cg	δ															
					淡黄	Dg			ε			CM'												
						Eg	Vg		δ															
					淡橙	Bg	Ⅳg	bg	γ			CH'												
							Ⅲg																	
						Cg	Ⅳg	cg				CL'												
						Bg	Ⅲg	bg				CM'												
							Ⅳg																	
					橙	Cg	Ⅳg																	
						Dg	Vg	dg																
					灰白	Cg	Ⅳg	cg																
						Bg	Ⅲg																	
							Ⅳg																	
					橙		Ⅱg																	
							Ⅳg																	

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 4

ボーリング名	Br-4	調査位置				北緯	
発注機関				調査期間		東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	23.31 m	角度	上 180° 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南 0.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°
総掘削長	70.00 m	使用機種		試錐機		ハンマー落下用具	
				エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
	22.94	0.37	有機質砂		黒褐						0.00～0.37m：有機質砂。細～中粒砂を主体とする。								4/16				0.0	0		試掘	
	22.39	0.92	シルト混じり砂礫								0.37～0.92m：シルト混じり砂礫。礫は花崗斑岩の角～亜角礫で，径3～30mm。								4/16	150	115／ケーシング		9.8	100	0.0	清水 0	0
					にぶい黄橙	Dg	IVg	cg	δ	3	0.92～11.30m：花崗斑岩。		CL'													
						Cg	IIg		γ		2.20～2.22m：幅8～12mmの粘土を挟在する。傾斜60°。		CM'						4/17	76						
						Dg	IVg		δ		3.00～3.35m：高角度の割れ目に黒色酸化物を挟在する。															
					黄橙	Cg	IVg	bg	γ	2	3.93～4.05m：傾斜40～50°の割れ目が卓越する。								4/18	81				0.0	清水 1	1
							IVg		δ		4.71～5.63m：割れ目に沿って幅5～60mmで細礫～砂状を呈する。		CL'													
					灰白		IVg	cg	ε	3	5.65～5.86m：高角度の割れ目に沿って黒色酸化物を挟む。															
					にぶい黄橙	Dg	IVg		γ	2																
							Vg			3																
							IIg	bg	γ	2	8.50m：幅5～10mmで砂状～細礫状を呈する。		CM'						4/20	79				0.0	清水 5	5
						Cg	IVg	cg																		
							IIg	bg																		
					淡黄橙	Dg	IVg		δ	2	9.21～11.76m：明瞭な黒色酸化物を挟在する。一部褐色化する。															
10							Vg						CL'													
					橙		IVg			3	11.15～11.27m：傾斜60°程度の割れ目が発達。															
	12.01	11.30				Cg	Vg		γ		11.30～12.75m：アプライト。境界の傾斜は上端70°，下端約10°。															
				アプライト	灰オリーブ	Bg	IIg		β		11.77～12.07m：灰白～青灰色の軟らかい粘土を挟在する。															
						Cg	IVg	cg	γ	2																
						Dg	Vg			3																
	10.56	12.75			にぶい橙	Eg	Vg				12.75～70.00m：花崗斑岩。●12.91～13.24m：破砕帯。12.91～13.08m：角礫状破砕部(Hj)。割れ目に沿って粘土～シルトを挟在する。上端は傾斜10～30°で湾曲する。13.08～13.24m：角礫混じり粘土状破砕部(Hb)。基質は粘土～シルトからなる。下端は傾斜75°で直線的。															
							IIg																			
						Cg	IVg																			
							IIg																			
						Dg	IVg			2																
							Vg			3																
						Cg	IVg				14.17～14.47m：上・下端に白色及び橙褐色の粘土混じり砂を挟在する。幅は上端が5～15mm，下端が15～25mm。15.14m：幅2～3mmの褐色粘土を挟在する。15.27～16.30m：幅0.5～3mmの灰白色粘土を挟在する割れ目が発達する。16.57～16.71m：礫状～岩片状を呈し，崩れる。17.00m：割れ目に沿って幅7mmで砂状を呈する。															
							IIg																			
							IVg																			
							IIg																			
							IIIg																			
							IVg																			
							Vg																			
							IVg																			
						Bg	IIIg			2			CH'													
							IIg																			
						Cg	IVg						CM'													
							IIg																			
						Bg	IIIg						CH'													
							IIg																			
							IVg																			
20							IIg																			
							IIIg																			
							IIg																			
						Cg	IVg																			
							IIg																			
							IIIg																			
							IIg																			
							IIIg																			
					灰オリーブ			cg			26.73m，26.75m：幅1～2mmの軟らかい白色粘土を挟在する。		CM'													

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
30				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	28.39～28.42m：割れ目が密集し，角礫状を呈する。 28.50～28.53m：割れ目が密集し，幅2～10mmで砂状を呈する。	CM'				4/23	81		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット					
					灰オリーブ	Bg	Ⅲg		β			CH'												
					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg		γ		30.51～30.58m：砂～礫状を呈する。	CM'				4/24	100			49.0		0.0	清水7	7
					灰オリーブ	Bg	Ⅲg		β			CH'												
					にぶい黄橙		Ⅱg																	
					灰オリーブ		Ⅱg				34.58～34.63m：幅0～3mmの褐色粘土を挟在する。 35.07～35.74m：割れ目が網目状に発達する。	CM'												
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	cg	γ		36.07～39.30m：低角度の割れ目が主体となる。	B'												
					灰白	Bg	Ⅲg		α			CH'				4/25	91							
					にぶい黄橙		Ⅱg		γ			CM'								39.2		0.0	清水5	5
40					褐灰		Ⅳg		δ		39.47～39.57m：傾斜30～65°の割れ目が密に発達する。													
					灰黄褐		Ⅱg		γ		40.21～40.23m：傾斜45°の割れ目が集中する。													
					オリーブ灰		Ⅲg	bg	β	1														
					明褐灰	Cg	Ⅱg		α															
					灰	Bg	Ⅲg		β		42.87～43.19m：高角度の割れ目が集中する。	CH'				4/27	122			44.1	150	0.0	清水5	3
					灰黄褐		Ⅱg		γ															
					褐灰		Ⅲg		α															
					灰褐	Cg	Ⅳg		γ		46.22m：幅2～10mmで細礫状～砂状を呈する 46.38～46.60m：岩片状を呈する。													
					灰黄	Bg	Ⅲg	cg	δ		49.00～51.00m：鉛直に近い割れ目が続く。一部に幅1～3mmの砂混じり茶褐色粘土を挟在する。	CM'												
50					灰黄褐		Ⅱg		γ		50.95～51.10m：傾斜50°の割れ目が集中し，一部礫状を呈する。	CH'				4/28	143							
					灰		Ⅱg		α	2	52.30m：傾斜60°の割れ目に沿って幅8mmで砂状～細礫状呈する。	B'												
					褐灰		Ⅳg	bg	α		54.74～56.27m：傾斜20°と80°の割れ目が交差する。	CM'								49.0		0.0	清水5	0
					灰		Ⅱg		β		56.30～57.27m：高角度の割れ目が主体となる。	B'												
					灰褐		Ⅳg		α			CH'												
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg		β			CM'				4/29	123							
60					灰	Bg	Ⅱg		γ			CH'												
					にぶい褐		Ⅱg	bg	β		62.00～62.41m：傾斜65°の平行な割れ目が発達する。 62.21m：幅1～2mmの褐色粘土を挟在する。	B'												
					灰	Bg	Ⅲg		δ			CH'				4/30	143							

コア採取率 ―△―（%）
最大コア長 ―○―cm
R Q D ┐└［%］

（標準貫入）試験
（N値～深度）図

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%） 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	-46.69	70.00		花崗斑岩	灰 にぶい黄橙 褐灰 灰黄褐 にぶい黄橙	Bg Dg Bg Cg Bg Cg Bg Cg Bg	Ⅲg Ⅳg Ⅴg Ⅲg Ⅴg Ⅲg Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅳg Ⅰg Ⅳg Ⅱg Ⅲg Ⅳg	bg	γ δ γ γ β γ γ β	2	63.12～64.40m：傾斜60°程度の平行な割れ目が発達する。 66.58～65.88m：傾斜60°の割れ目が発達する。 68.44～68.54m：傾斜60°の割れ目が密に発達し，一部細礫状を呈する。	8 [23] 17 [45] 4 [0] 32 [32] 51 [68] 1 [27] 16 [16]	CH' CM' CH' CM' CH' CM' B' CH'					4/30	143		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	49.0	150	0.0	清水5	0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 5

ボーリング名	Br-5	調査位置						北緯	
発注機関				調査期間				東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.09 m	角度	上 180° 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 0.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘削長	70.00 m							エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) N値～深度 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
	5.99	1.10		埋土	黒褐						0.00～1.10m：埋戻土。 0.00～0.31m：細～中粒砂を主体とする。腐葉土，草根を混入する。 0.31～1.10m：径2～80mmの亜角～亜円礫主体。											試掘／試掘	0.0	0	試掘	
	5.51	1.58		砂質シルト	浅黄橙						1.10～1.58m：砂質シルト。 細粒砂を主体とし，均質。径3mm程度までの石英礫が点在する。											115／ケーシング					
	5.22	1.87		シルト質砂	褐灰						1.58～1.87m：シルト質砂。 1.58～1.65m：径2～5mmの角～亜角礫及び腐植物を混入する。																
	5.05	2.04		礫混じりシルト質砂	にぶい黄橙						1.65～1.87m：中粒砂を主体とする。 1.87～2.04m：礫混じりシルト質砂。 礫径は最大6mm程度。																
					灰黄褐						2.04～55.84m：花崗斑岩。 2.04～2.68m：強風化部。割れ目に沿って黒色酸化物を挟在する。																
					浅黄橙	Dg	Vg	cg	δ		2.68～4.02m：強風化して部分的に砂状を呈する。 4.02～4.62m：割れ目に沿って黒色酸化物が濃集する。長石類は風化して粘土化する。 4.83～5.06m：砂状を呈する。 6.09～6.65m：幅1～2mmの褐色粘土を挟在する。 7.09～7.21m，7.51～7.59m，7.85m，8.60～8.62m：黒色酸化物が濃集する。	4 [0]	CL'													
					橙	Eg	Vg	cg	δ			2 [0]	D'													
					灰白	Dg	Ⅳg	cg	δ			1 [0]	CL'													
						Eg	Ⅵg	dg	γ			6 [0]	D'													
						Dg	Ⅳg	cg	δ			9 [0]	CL'	▽ 5.60 4/23												
						Cg			γ			9 [0]														
					浅黄橙	Eg	Vg	dg	δ			8 [0]														
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	2		7 [0]	CL'													
					浅黄橙	Dg	Vg				9.05～10.17m：傾斜60～80°の開口した割れ目が発達し，割れ目に沿って黒色酸化物が濃集する。 9.54～10.43m：砂状～礫状を呈する。	0 [0]	D'													
					浅黄橙	Eg	Ⅵg	dg	δ			6 [0]	CL'													
						Dg	Ⅳg	cg	γ		10.95～12.05m：割れ目が約10cm間隔で発達し，部分的に礫状を呈する。	8 [0]	CM'													
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	bg	δ			9 [0]	CL'													
						Dg						7 [0]														
						Eg	Ⅵg	cg	ε	3	13.41～13.42m，13.58～13.61m：礫状を呈する。 13.62m：幅2mmの淡黄灰色粘土を挟在する。	19 [39]	CM'													
						Cg	Ⅲg																			
					にぶい橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	13.78～14.04m：砂状～礫状を呈する。 15.47～15.53m：傾斜60°程度の割れ目が密集する。	9 [0]	CL'													
					淡橙				β			8 [0]	CM'													
						Cg	Vg	bg	γ		15.53～15.77m：黒色酸化物を挟在する傾斜80°の割れ目が発達する。 15.77～16.05m：砂状～礫状を呈する。	9 [0]	CL'													
					明黄褐	Eg	Ⅵg	dg	ε			6 [0]														
						Dg	Vg					8 [0]														
					明褐灰	Bg	Ⅳg		β	1		9 [0]	CM'													
					浅黄橙	Dg	Vg		δ		17.23～17.25m：傾斜20°程度の割れ目に沿って褐色及び黒色酸化物を挟在し，一部角礫状となる。 17.25～17.44m：傾斜70°と30°の割れ目が交差して発達し，岩片状を呈する。	6 [0]													
						Cg																				
					にぶい橙	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	17.43～17.51m：細礫状～砂状となる。 18.31～18.32m：粘土～シルトを挟在する。軟質で暗褐色を呈する。幅5～7mm。	3 [42]	CM'													
					にぶい黄橙	Cg						[0]														
						Dg						19 [49]														
						Cg			γ	2																
					にぶい褐	Dg	Vg	cg	δ	3	21.69m，22.14m：幅1～4mmの灰白色粘土を挟在する。	18 [37]	CH'													
						Cg	Ⅳg																			
					にぶい橙		Ⅲg					33 [33]														
							Ⅳg																			
							Ⅲg																			
							Ⅳg					6 [50]	CM'													
					灰褐	Bg	Ⅲg	bg	γ	2	24.49～24.56m，24.70～24.76m：粗粒になり，長石，石英，黒雲母の斑晶が明瞭となる。微細な割れ目に富む。																
							Ⅱg																			
							Ⅳg																			
					浅黄	Cg	Ⅲg					64 [100]	B'													
						Dg	Ⅳg																			
						Cg	Ⅱg					68 [68]	CH'													
					明黄褐				γ	1	26.68～26.90m：微細な割れ目が不規則に分布する。															
					灰白	Bg	Ⅰg		β																	
					淡赤褐		Ⅳg		γ																	

花崗斑岩

掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
4/ 9	63	100／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	9.8	180	0.1	清水10	10
						0.5	清水3	3
4/10	75			4.9		0.3	清水5	5
				9.8				
4/11	73			4.9		0.3	清水3	3
				9.8				
4/13	51					0.3	清水3	0
4/14	78			29.4		0.3	清水2	0

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
30				花崗斑岩	淡赤褐	Bg	IIg	bg	β	1	
							IVg	cg	δ	2	27.27～27.60m：幅10mm程度で砂状～細礫状を呈する。
					明赤灰		IIg		γ		27.43～27.52m：砂状～礫状を呈する。
									β	1	
					淡赤橙	Cg	IVg	bg	γ	2	29.02～29.64m：開口した割れ目が発達し，黒色酸化物を挟在する。一部径0.5～10mmの角礫状を呈す。
						Bg	IIIg				
						Cg	IVg		β	1	30.57～30.67m：割れ目が集中し，一部礫状～岩片状を呈する。
						Bg	Vg	ag	γ	2	
					黄橙	Cg	IVg	bg	γ	1	31.45～31.78m：微細な割れ目が不規則に発達する。 31.78～32.20m：傾斜70～80°の割れ目及び微細な割れ目が発達する。
							IIIg		β		
					淡赤橙	Bg	Vg	bg			32.56～32.84m：傾斜30～70°の割れ目が交差する。上端に幅1mmの淡緑灰色粘土を挟在する。
							IVg				33.25～33.93m：密着した割れ目が発達し，灰白色の鉱物脈を挟む。
							IIIg		β		
						Cg	IVg	cg	γ	2	35.55m：幅1～2mmの褐色粘土を挟在する。傾斜75°程度。
					にぶい橙	Bg	IIIg	bg	δ		
						Cg	IVg	cg	δ		36.79～37.25m：割れ目が良く発達する。
					淡赤橙		IIIg	bg	γ		
							IVg	cg	δ		37.80～38.97m：傾斜50°の平行な割れ目が1～10cm間隔で発達する。
									γ		
					橙		IIIg		δ	1	39.52～39.84m：傾斜60～90°の割れ目が発達する。
							IVg				
							Vg				
							IVg		γ		39.69m：幅8～20mmの石英脈を挟在する。
40					灰白		IIIg		β		
							IIg				
							IVg		δ		41.32～41.44m：不規則な割れ目が発達する。
							IIIg		γ		
					にぶい橙		IVg	ag	δ		42.05～42.40m：高・低角度の割れ目が交差する。 42.48m：幅0～5mmで細礫状を呈す。 42.77～42.82m：岩片状を呈する。
					褐灰						
					にぶい橙		IIIg		β		
							IVg				
							IIg				
					褐灰		Vg		α		44.03～44.18m：傾斜70°の割れ目が集中する。
							IIIg				
							IIg				
					オリーブ灰		IIIg		β	2	45.36m：幅10～15mmで礫状を呈す。
							IVg				
							IIg				
					灰褐		Vg	cg			47.25～48.00m：割れ目に沿ってフィルム状の灰白～淡緑灰色粘土を挟在する。
						Cg		bg			
					にぶい橙			cg			
						Bg	IVg	bg	γ	1	48.00～48.31m：傾斜40～50°の割れ目に沿って幅1～3mmの淡緑灰色粘土を挟在する。
					明赤灰	Cg					
					赤橙		Vg	cg		3	49.32～50.23m：幅1～4mmの淡緑灰色粘土を挟在する。
					明黄褐		IVg				
50							VIg	dg	ε	4	●50.48～51.16m：破砕帯。 50.48～50.50m：礫混じり粘土状破砕部（Hc-2）。上端の傾斜78°。幅5～15mmの礫混じり灰白色粘土。 50.50～51.14m：角礫状破砕部（Hj）。幅1mm以下の黄灰～灰白色粘土を挟在する。 51.14～51.16m：粘土状破砕部（Hc-1）。幅10～20mmの緑灰色粘土。下端の傾斜75°。
							Vg	cg			
							VIg	fg			
						Eg	Dg				
					にぶい橙	Cg	IVg	bg			
								cg			
						Bg				3	
						Cg	Vg	bg			53.76～54.35m：網目状に割れ目が発達し，岩片状を呈す。
							IVg				
						Bg		cg		2	
	-48.75	55.84			黄灰		Vg			3	
	-48.95	56.04		アプライト		Cg	IVg	bg	γ		55.84～56.04m：アプライト。やや変質している。割れ目に沿って1～3cmの角礫状を呈す。
							Vg				56.04～70.00m：花崗斑岩。
				花崗斑岩	にぶい橙		IVg	cg			56.31～58.09m：不規則な割れ目が発達する。
							IIIg	bg			
						Bg	IVg	cg		2	
60							IIg	bg			60.17～61.24m：密着した微細な割れ目が発達する。 60.67～60.70m：傾斜75°の割れ目に沿って一部砂状化する。
							IIIg				
						Cg	IVg	cg	δ		61.26～61.97m：高角度の割れ目が発達する。
						Bg	Ig	bg	γ		

岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CH'					4/14	78		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	29.4	180	0.3	清水 2	0
CM'													
CH'									19.6				
CM'					4/15	75					0.3	清水 1	0
CL'									39.2				
CM'					4/16	101			29.4		0.3	清水 2	0
CH'									19.6				
CM'									29.4				
CH'					4/17	47			49.0				
CM'									78.4				
CL'					4/18	52			19.6				
D'									4.9				
CM'					4/20	37			9.8				
CL'									19.6				
CM'													
CL'					4/21	101			9.8		0.4	清水 2	0
CM'													
CH'											0.3	清水 2	0
CM'													
CH'													
CL'									39.2				
B'					4/22	75							

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
				花崗斑岩	にぶい橙	Bg	Ⅲg	bg	γ	2	66.25～67.40m：傾斜60～80°の割れ目を主体とする。 68.05～69.07m：高角度の割れ目が発達する。	18 [20] 19 [54] 0 [0] 6 [0] 19 [20] 6 [0] 19 [59]	CM'								ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	39.2	180	0.3	清水2	0
							Ⅳg		δ																		
							Ⅲg		γ				CH'														
						Cg	Ⅳg	cg	δ				CM'												0.4	清水2	0
								bg	γ														28.4				
						Dg	Vg	cg	δ				CL'						4/22	75							
						Cg																					
						Dg																					
							Ⅳg		γ																		
							Ⅲg		δ																		
							Vg																				
						Cg	Ⅳg		γ																		
					浅黄橙				δ																		
					灰白	Dg	Vg	bg	γ										4/23	88			9.8		0.3	清水2	0
					浅黄褐	Bg							CH'														
						Cg																					
	-62.91	70.00				Bg	Ⅲg																				

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 6

ボーリング名	Br-6	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	2.61 m	角度	上 180° 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 0.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°
総掘削長	100.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				埋土	オリーブ黒						0.00～4.67m：埋戻土。 0.00～0.39m：砕石。 0.39～4.67m：中～粗粒砂及び細礫を主体とする埋戻土。
					にぶい黄橙						
					灰黄						
					にぶい黄橙						
	-2.06	4.67		シルト混じり砂	暗緑灰						4.67～7.83m：シルト混じり砂。 炭質物，貝殻片が混じる。細粒砂を主体とする。 6.83～7.75m：石英の細礫を多く含む。
	-5.22	7.83		シルト質砂	浅黄						7.83～12.05m：シルト質砂。 緩い砂からなる。シルトを含む細粒～中粒砂を主体とする。一部に細礫を含む。 8.80～9.75m，9.92～10.03m：炭質物を含む。 11.60m：炭質物が密集する。
					明黄褐						
10	-9.44	12.05		玉石混じりシルト質砂	灰						12.05～20.37m：玉石混じりシルト質砂。 花崗斑岩の風化礫や硬質礫を不均質に含む。亜角～亜円礫で，最大径35cm，径2～9cm程度のものが多い。大礫は硬質で，細～中礫は軟質。基質は細～中粒砂を主体とし，良く締まっている。 12.27m：径4cm程度の赤褐色の木片を挟在する。 13.68～13.90m：風化花崗斑岩礫。 15.48～15.58mに細礫が密集する。 15.85～16.00m：硬質な花崗斑岩の玉石。 16.00～16.51m：風化した中礫及び玉石を含む。 17.12～17.52m，18.53～18.87mには玉石を，17.60～17.80m，18.23～18.37mには風化礫を含む。
					明黄褐						
					浅黄						
					淡黄						
					黄橙						
					にぶい黄褐						
					黄						
					黄橙						
					明オリーブ灰						
					浅黄橙						
					にぶい黄橙						
					黄橙						
					淡黄						
					黄橙						
					明黄褐						
					黄褐						
20	-17.76	20.37		花崗斑岩	明黄褐						
					浅黄橙	Eg	Ⅵg	dg	ε	3	20.37～100.00m：花崗斑岩。 20.37～22.34m：砂状を呈し，原岩組織は不明瞭となる。 20.62～20.88m：幅0.5～2mmの褐色の砂を挟在する。
							Ⅳg	cg			
							Ⅵg	dg			
							Ⅴg				
					淡黄	Dg	Ⅳg	cg	δ	2	23.53～24.32m：割れ目が交差して格子状を呈する。 23.67m：幅2mmの緑褐色粘土を挟在する。
							Ⅴg				26.29～27.10m：微細な割れ目が卓越する。
						Cg	Ⅳg	bg			
							Ⅴg				
							Ⅳg				

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	標準貫入試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	▽0.10 6/18					4/11	17	120／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.0	0	0.0	試掘 0	0
						4/13	25			9.8		0.0	清水 1	1
						4/14	115					0.0	清水 5	5
						4/15	220		ダブルコアチューブ／メタルクラウン	19.6	60	0.0	清水 6	6
						4/16	94	105／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	14.7	90	0.0	清水 5	5
						4/17	45				60	0.0	清水 1	1
						4/18	43			19.6	80			
						4/20	39				100	0.0	清水 2	2
						4/21	136		ダブルコアチューブ／メタルクラウン	14.7	90	0.1	清水 5	5
D'											60			
CL'						4/23	135		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット		100	0.0	清水 3	3
												0.1	清水 5	5

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
30				花崗斑岩	淡黄 浅黄橙 淡黄 浅黄橙 淡黄 灰白 淡黄 オリーブ黄 明黄橙	Cg Dg Cg Bg Cg Bg Cg Bg Cg Dg Bg Cg Bg Cg Bg Cg	Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅴg Ⅵg Ⅴg Ⅵg Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅱ

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）／最大コア長 cm／RQD［%］	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
70				花崗斑岩	明黄橙	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	66.07～67.13m：高角度の割れ目が優勢となる。	8 [0] 16 [50] 33 [100] 18 [77] 22 [84] 28 [53] 24 [61] 19 [31] 16 [16] 19 [38] 62 [63] 24 [66] 24 [36] 22 [92] 36 [89] 41 [77] 24 [87] 19 [74] 26 [57] 30 [89] 57 [72] 23 [47] 48 [100] 28 [58] 34 [76] 24 [75] 20 [70] 10 [38] 22 [64] 24 [44] 4 [9] 14 [28] 48 [59] 49 [87] 22 [81] 24 [48]	CM' CH' CM' CH' CL' CM' CH' B' CH' CM' CH' CM' CL' CH' CL' CH' CM' CH' CL'											
						Bg	Ⅲg				66.78m：幅1～6mmの黄褐色のシルト～砂を挟在する。								4/30	114			100	0.1	清水5	5
						Cg																					
						Bg	Ⅳg				67.66m：幅3mmの淡褐色粘土を挟在する。																	
							Ⅱg				67.92～68.41m：高角度の割れ目が卓越する。																	
						Cg	Ⅲg				68.45m：幅3mmの褐色粘土を挟在する。																	
							Ⅳg				69.00～69.04m：軟質となる。																	
						Bg	Ⅱg																					
					明褐灰		Ⅲg																					
						Cg	Ⅳg	cg		3																		
						Bg	Ⅱg																					
						Cg	Ⅲg																					
							Ⅳg																					
						Bg	Ⅲg	bg																				
							Ⅱg																					
					灰白		Ⅳg		β																			
						Cg	Ⅳg																					
						Bg	Ⅲg																					
						Cg	Ⅳg	cg	γ																			
						Bg	Ⅲg																					
					浅黄橙	Cg	Ⅳg	bg			72.00～72.15m：砂状を呈する。								5/ 1	107				0.1	清水4	3
						Dg	Ⅵg	dg																				
							Ⅳg																					
							Ⅲg																					
							Ⅵg																					
					灰白		Ⅳg		β	2																		
							Ⅱg																					
					浅黄橙		Ⅰg																					
							Ⅱg																					
							Ⅳg																					
							Ⅱg																					
					にぶい黄		Ⅲg		γ																			
							Ⅱg																					
							Ⅵg																					
						Bg	Ⅱg				75.34～75.39m：軟質化する。上・下端の割れ目に沿って幅4～5mmの砂を挟在する。																	
							Ⅲg				75.34～76.66m：低角度の割れ目を主体とする。																	
					暗オリーブ					3	76.66～76.86m：高・低角度の割れ目が交差する。																	
					灰白				β		77.09～77.63m：低角度の割れ目が主体となる。																	
					暗オリーブ					1																		
					浅黄橙		Ⅲg			2	80.22～80.30m：傾斜60～80°の割れ目がほぼ平行に発達する。																	
80						Cg	Ⅳg																					
							Ⅲg				81.09～81.30m：低角度の割れ目に沿って幅1～3mmの砂を挟在する。																	
						Bg	Ⅱg				81.48～81.60m：軟質化し，一部細礫状を呈する。																	
							Ⅲg																					
						Cg	Ⅳg			3																		
							Ⅰg																					
							Ⅵg																					
							Ⅲg				83.57m：幅12mmで細礫混じりの褐灰色粘土を挟在する。																	
							Ⅱg																					
						Bg	Ⅳg																					
					暗オリーブ		Ⅱg																					
							Ⅳg																					
							Ⅲg																					
							Ⅱg				86.10～86.42m：高角度の割れ目が平行に発達する。																	
						Cg	Ⅳg			2																		
							Ⅱg																					
							Ⅵg																					
						Bg	Ⅱg																					
							Ⅲg																					
							Ⅱg				88.62m，88.70m：幅2～8mmの砂～細礫を挟在する。																	
							Ⅳg	cg	γ																			
					淡橙	Cg	Ⅲg			1	90.00～90.69m：幅1～2mmの砂を挟む高角度の割れ目が卓越する。																	
90							Ⅳg																					
						Bg	Ⅲg			2	90.69～91.18m：網目状に割れ目が発達する。																	
					明赤灰	Cg	Ⅵg			1																		
							Ⅱg																					
						Bg	Ⅱg	bg																				
							Ⅲg																					
					浅黄橙		Ⅱg			3	92.53～94.20m：ほぼ平行な高角度の割れ目が卓越し，一部に幅2mm程度の砂を挟在する。																	
							Ⅴg																					
					明赤灰		Ⅳg																					
							Ⅴg																					
						Cg	Ⅳg	cg																				
						Bg	Ⅲg																					
						Cg	Ⅳg																					
							Ⅱg																					
							Ⅲg																					
					黄橙	Bg	Ⅱg	bg		2	98.50m：幅5～16mmで角礫状を呈する。								5/13	151				0.1	清水2	1
							Ⅲg																					
							Ⅱg				98.57～98.67m：割れ目に沿って珪化する。																	
							Ⅲg				98.67～98.71m：幅2～7mmの角礫混じり淡緑灰～淡黄灰色粘土を挟在する。礫径は2～5mm。																	
							Ⅳg																					
							Ⅱg																					
						Cg	Ⅳg	cg		4 3	98.78～99.50m：高角度の割れ目が卓越する。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(標準貫入)試験 (N)値	(N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
	-97.39	100.00		花崗斑岩	黄橙	Cg Bg	Ⅳg Ⅴg Ⅲg	cg	γ	3		17 [42]	CL'						5/14	83		ダブルコアチューブ/ヤドモンダイヤビット	68.6	120	0.1 0.2	清水 清水2	1 0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.	8

ボーリング名	Br-8	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	72.34 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	100.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	72.18	0.16		有機質土混じり砂	黒褐						0.00～0.16m：有機質土混じり砂。腐植物を含む中粒～粗粒砂を主体とする表土。
	71.99	0.35		礫混じり砂	にぶい黄褐						0.16～0.35m：礫混じり砂。細礫混じり中粒砂を主体とし，軟質である。径2～10mmの角礫を含む。
	71.34	1.00		砂礫	にぶい黄橙						0.35～1.00m：砂礫。シルト混じり中粒～粗粒砂を主体とする基質中に花崗斑岩の亜角礫（径10～30mm）を含む。一部に腐植物片を挟在する。下端の0.63～1.00mは花崗斑岩の硬質な玉石。
	70.99	1.35		礫混じり粘土	明黄褐	Cg	Vg	cg	δ	2	1.00～1.35m：礫混じり粘土。細礫混じりの軟弱な粘土を主体とする。礫は径2～10mmの亜角礫からなる。
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg	cg		4	1.35～46.90m：花崗斑岩。傾斜45°の境界で第四系と接する。
						Bg	Ⅱg	bg			1.89～1.90m：傾斜45°で幅7～10mmの黄褐色粘土を挟在する。僅かに砂を含む。
					明黄褐	Cg	Ⅱg		γ	2	1.90～1.96m：細礫を含む黄褐色の砂質な粘土状を呈す。
						Eg	Vg	cg			4.43m：傾斜45°の割れ目に沿って幅20mmで軟質化する。下端に幅5mmの細礫混じり粘土を挟在する。
						Bg	Ⅱg	bg			6.65～7.00m：傾斜20～30°の割れ目が主体で，一部に幅1mm程度の粘土を挟在する。
						Cg	Ⅱg				7.06m：幅2～3mmの軟らかい白色粘土を挟在する。
						Bg	Ⅱg				8.20m：幅2～3mmの褐色粘土を挟在する。
					灰	Bg	Ⅱg				
					明黄褐	Dg	Vg		δ		9.90m：幅2mmの褐色粘土を挟在む。
						Cg	Ⅲg		γ		9.93～10.17m：砂状を呈し，上端に幅5mmの灰白色粘土を挟在する。
						Bg	Ⅳg	cg			10.13～10.72m：幅1～2mmの軟らかい灰白色粘土を挟在する。
					灰		Ⅱg				11.27～11.29m：傾斜25°の割れ目が集中する。
					橙		Ⅲg				11.57m：幅1～3mmの軟らかい灰白色粘土を挟在する。
10					浅黄橙	Cg	Ⅲg		δ		13.04m：幅10mmで砂状～細礫状を呈する。
						Eg	Vg				
						Dg	Vg				
						Cg	Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					浅黄褐		Ⅱg	bg	γ	3	
					橙		Ⅲg				
					灰白		Ⅱg				
							Ⅳg				
							Ⅲg	cg			
							Ⅱg				
							Ⅲg				
					にぶい橙		Ⅱg				
							Ⅲg				
					浅黄橙		Ⅱg		δ		
							Ⅲg		γ		
							Ⅳg				
					灰白		Ⅱg	bg	δ	2	17.73～18.31m：高角度の割れ目が発達する。
							Ⅲg				17.89m，17.92m：幅1～2mmの灰白色粘土を挟在する。
							Ⅱg				
							Ⅱg		γ		
20							Ⅲg				
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg			21.24～21.46m：傾斜70°程度の割れ目が交差し，岩片状を呈する。
						Dg	Vg				
						Cg	Ⅳg				
						Bg	Ⅰg	bg			24.54m：幅5～10mmの灰白色粘土を挟在する。
							Ⅲg				24.85m：幅1～3mmの褐色粘土を挟在する。
						Cg	Ⅳg				24.86～25.99m：高角度の割れ目が卓越する。
					浅黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	24.91m：幅10mmの灰白色粘土を挟在する。
						Eg					
						Dg	Ⅳg				
					淡橙	Cg	Ⅱg	bg	γ		26.57m：幅2mmの灰白色粘土を挟在する。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg	cg			
							Ⅲg				

コア採取率（%）　最大コア長 cm　R Q D [%]

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CL'				5/15	106	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	14.7	100	0.0	清水1	1
CH'								24.5				
B'												
CH'												
CM'				5/16	127							
CL'												
CM'												
CH'												
CM'												
CH'								29.4	120	0.0	清水3	0
B'				5/18	142							
CH'												
B'												
CH'												
CL'												
B'												
CL'												
D'				5/19	202							
CM'												

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	淡橙	Cg, Bg, Cg, Bg	Ⅲg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg	cg	γ, δ		27.67～28.24m：傾斜40～60°の開口した割れ目が発達し，一部に砂質シルトを挟在する。 28.38～28.46m：傾斜50°の割れ目が集中し，幅1mm程度の白色シルトを挟在する。	CM', CL', CM', CL', CH', CL', D'				5/19	202	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	29.4	120	0.0	清水3	0
30					灰白	Cg, Bg, Cg, Bg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg	bg	γ	3	30.83～31.75m：高角度の割れ目が卓越し，一部に幅1～2mmの砂を挟在する。													
					にぶい橙	Cg, Dg, Eg, Dg, Eg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅵg	cg, dg	δ		32.08～32.25m：礫混じり粘土状を呈する。橙，黄褐，灰白，にぶい橙色の斑模様を呈する。 32.96m：幅5mmの褐色粘土を挟在する。 ●32.97～34.58m：破砕帯。 角礫状破砕部(Hj)。上端に幅5mmの褐色粘土を挟在する。33.22m及び33.47mに幅5mm，7～20mmの褐色粘土を挟在する。33.81mに幅2～5mmの灰白色粘土を挟む。34.36m及び34.55mに幅3～8mm，5～15mmの褐色粘土を挟在する。上端の傾斜85°，下端の傾斜65°。													
					浅黄橙	Dg, Eg																		
					コア欠																			
					灰白	Eg, Dg, Cg	Ⅵg, Ⅴg, Ⅲg	dg, cg	δ		34.78～36.34m：コア欠。 36.34～36.53m：砂状～角礫状を呈する。	CM', CL', CM'				5/20	150							
					にぶい橙	Bg, Cg, Dg	Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg	bg	γ, δ	3														
					浅黄橙	Bg, Cg, Dg	Ⅱg, Ⅲg, Ⅳg		γ		38.72～38.78m：砂状～礫状を呈する。													
					灰白	Cg, Dg	Ⅲg, Ⅱg, Ⅲg	cg			39.73～39.83m：砂状を呈する。													
40					コア欠						39.83～40.22m，40.57～40.65m：コア再採取区間。													
					淡黄	Dg, Eg, Dg, Bg	Ⅵg, Ⅴg, Ⅵg, Ⅴg	cg	δ		40.22～40.57m，40.65～40.86m：軟岩状で割れ目が不明瞭となる。 41.35～41.51m：同心円状の構造が認められる。 41.63～41.65m：礫状に崩れる。	CL', CM'				5/22	95							
					橙	Cg, Bg, Cg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅱg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅱg, Ⅳg	bg	γ		42.97～43.84m：低角度の割れ目が卓越する。 44.17～44.74m：岩片状を呈する。 44.93～46.90m：低角度の割れ目が卓越する。													
	25.44	46.90		捕獲岩	明黄褐	Dg	Ⅱg, Ⅰg, Ⅴg		δ	3	46.90～48.54m：捕獲岩。 境界は不明瞭。上端の傾斜は約60°。下端は漸移的。原岩は不明。 細粒砂状の基質中に径2～5mmの炭化物及び径0.2～1mmの石英及び長石粒が点在する。軟らかい。 48.00～48.54mには流理構造あるいは堆積構造が認められる。	CM', CL'				5/26	93							
	23.80	48.54		花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg		ε		48.54～55.62m：花崗斑岩。 48.54～48.70m：捕獲岩との交代作用により細粒化し，優黒色鉱物を含む。 48.70～48.82m：礫状を呈する。 49.87～50.39m：低角度の割れ目が発達する。 50.09m：幅2mmの灰白色粘土を挟在する。 51.34～53.69m：高角度の割れ目が卓越する。一部にフィルム状～幅1mmの白色粘土を挟在する。 51.78～51.87m：砂状～礫状を呈する。											0.0	清水2	0
50					浅黄橙	Bg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅲg	cg	δ															
					灰白	Cg, Bg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg	bg	γ															
					にぶい橙	Cg, Dg, Cg, Bg, Cg, Bg	Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg	cg, bg	δ, γ															
						Cg, Bg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅲg	cg	δ															
					淡黄	Cg	Ⅳg	bg			55.53～55.62m：捕獲岩との交代作用が見られる。					5/27	131							
	16.81	55.53		捕獲岩	オリーブ黄	Dg	Ⅱg, Ⅳg	cg	γ	2	55.62～56.51m：捕獲岩。 上端境界は漸移的，下端の境界は明瞭で，傾斜60°。原岩は不明。 56.12m：幅6mmの軟らかい茶褐色粘土を挟在する。 56.25m：幅5mmの黄灰色粘土を挟在する。	CM', CL'												
	15.83	56.51		花崗斑岩	淡黄	Cg	Ⅱg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅴg	bg, cg	δ	3	56.51～69.79m：花崗斑岩。 56.88～58.84m：傾斜60°程度の割れ目が卓越する。 58.06～58.32m：幅3～12mmの淡黄色の礫混じり粘土を挟在する。	CM', CL', CM'												
60					灰白	Bg, Cg, Bg	Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅲg	bg	γ																
					浅黄橙	Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Bg, Cg, Dg	Ⅳg, Ⅴg, Ⅳg, Ⅵg, Ⅴg, Ⅵg, Ⅲg, Ⅳg, Ⅴg	cg	δ, γ, δ		60.42～63.74m：軟質で，割れ目に沿って最大幅2mmの灰白色粘土を多数挟在する。下端に幅3～9mmの褐～暗褐色粘土を挟在する。 61.08m：幅8～15mmのにぶい青灰色粘土を挟在する。 61.26m：幅20mmの暗灰～黒褐色の礫混じり粘土を挟在する。 62.10m：幅3～5mmの灰白色粘土を挟在する。	CL', D', CL'				5/28	131							

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				花崗斑岩	浅黄橙	Dg	Vg, VIg	cg	δ	3		CL'												
					浅黄	Cg	Vg, IVg	bg	γ	2	64.36～84.96m：最大幅2mmの灰白色粘土を複数挟在する。	CM'											
						Bg	IIIg																	
					にぶい橙	Cg	IVg			3		CL'				5/28	131							
						Bg	IIIg																	
						Dg	Vg																	
					浅黄橙	Eg	VIg	cg	δ	4	●65.81～67.33m：破砕帯。角礫状破砕部(Hj)。上部に幅5～10mmの石英脈及び幅5～15mmの赤色粘土を挟在する。傾斜は60°。淡桃～灰白～黄灰色の粘土～シルトの基質中に，最大径50mm程度の岩片を挟む。下端の傾斜は70°。	D'									120			
						Dg																		
					淡黄	Cg	Vg, IVg																	
					灰白	Bg	IIg		γ	3	67.33～67.56m：傾斜70～80°の割れ目が密集する。	CH'											
							Ig																	
					明赤灰		IIg									5/29	80							
70	2.55	69.79		ペグマタイト			Vg				69.79～70.09m：ペグマタイト。	B'												
	2.25	70.09			明褐灰		IVg		δ	2	69.79～69.84mには流理構造が見られる。	CM'												
				花崗斑岩			Ig		γ		70.09～100.00m：花崗斑岩。	B'												
							IIIg		δ		70.09～70.75m：ペグマタイトとの交代作用が見られる。70.64mまでは高角度の開口した割れ目が卓越し，岩片状を呈する。	CH'											
							IIg																	
							Ig		γ		71.35～77.19m：比較的強い酸化を受けているが，コアは柱状を呈す。	B'				6/3	88					0.0	清水2	0
					灰黄	Cg	IIIg		δ			CM'												
						Bg	IVg		γ															
						Cg	IIIg		δ			CH'												
						Bg	Ig		γ	3		B'												
							IIg																	
							IIIg																	
							IIg																	
							IIg																	
							IIg																	
					灰白	Cg	Vg	cg	δ		77.19～78.56m：高角度の割れ目が卓越し，最大幅1mmの灰白色粘土を多数挟在する。	CL'				6/4	123							
							IVg																	
						Bg	IIg		γ		77.65～77.71m：砂状を呈する。													
						Cg	Vg																	
						Bg	IIIg				78.84～79.16m：高角度の割れ目が密集し，一部に幅1mm程度の灰白色粘土を挟在する。													
							IIg																	
80					にぶい黄	Cg	Vg	cg			79.65～80.09m：高角度の割れ目が発達し，79.92mに幅5mmの石英脈を挟在する。	CH'												
							IIIg																	
							IIg		δ		80.65～80.69m：高・低角度の割れ目が交差する。													
						Bg	IVg																	
							IIg																	
						Cg	IIIg																	
									γ															
					明赤灰		Ig		β	2														
					にぶい黄		IIg		γ	3		B'												
					明赤灰		Ig		β	2														
					にぶい黄				γ															
							IIg																	
					灰白	Cg	Vg		δ		86.08～86.97m：高角度の割れ目を主体とし，割れ目が顕著になる。	CL'				6/5	128				150			
						Bg	IIg		γ															
					明褐灰				β			CH'												
									γ															
90					灰褐	Cg	IIIg																	
					暗オリーブ	Bg	IIg																	
						Cg			δ		90.79～90.94m：フィルム状～幅0.5mm程度の灰白色粘土を挟在する高角度の割れ目が発達する。	CM'										0.0	清水3	0
						Bg	IIIg		γ	3		CH'												
					明赤褐	Cg		cg	δ			CM'												
					明赤橙						92.97～95.35m：20～50cm間隔で低角度の割れ目が発達する。													
					淡赤橙	Bg	IIg	bg	γ		94.07～94.25m：割れ目に沿って幅1～2mmの灰白色粘土を挟在する。	CH'				6/6	165							
					灰オリーブ	Cg	IIIg	cg	δ			CM'												
					オリーブ黄	Bg	IIg	bg	γ			CH'												
					にぶい黄橙	Cg	IIIg	cg			98.12～99.30m：鉛直に近い割れ目が発達する。	CM'												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	-27.66	100.00		花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg	Ⅱg	cg	γ	3		43 [77]	CM'				0 10 20 30 40 50			6/6 6/8	165 90		ダブルアクコア／ダイヤモンドビット	2N.4	150	0.0	清水 3	0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 9

ボーリング名	Br-9	調査位置				北緯	
発注機関				調査期間		東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	44.21 m	角度	上 180° 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 南 180° 0.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°
総掘削長	80.00 m	使用機種		試錐機		ハンマー落下用具	
				エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	43.31	0.90		礫混じり砂	にぶい黄褐						0.00～0.90：礫混じり砂。粗粒砂からなる基質に細礫を含む。植物根を含む。緩い。
	42.97	1.24		砂礫							0.90～1.24m：砂礫。最大径70mmの花崗斑岩の亜角～亜円礫の間を中～粗粒砂が埋める。植物片を含む。緩い。
				花崗斑岩	明黄褐	Dg	Ⅳg Ⅴs Ⅳg Ⅴg Ⅴs Ⅴg Ⅳg Ⅴs Ⅳg	cg			1.24～80.00m：花崗斑岩。1.24～2.65m：強い風化を受け，割れ目が良く発達する。1.50～1.87m：幅1～8mmの白色粘土を複数挟在する。2.28m：幅3mmの淡褐色粘土を挟む。2.52～2.77m：幅1～12mmの白色粘土を複数挟在する。2.65～4.41m：高角度の割れ目が主体となる。一部に幅1～3mmの灰白色粘土を複数挟在する。3.48m：幅1～4mmの褐色粘土を挟在する。5.29～5.67m：低角度の割れ目が発達し，一部に幅1mm程度の灰白色粘土を挟在する。6.04～6.63m：砂状を呈し，幅1～6mmの灰白色粘土を多数挟在する。6.63～6.97m：岩片状を呈する。6.95m：最大幅10mmの白色粘土を挟在する。7.18m：幅1～2mmで灰白色粘土を挟在する。7.59m：幅2～4mmの暗灰～褐色粘土を挟在する。7.77～8.04m：割れ目が良く発達し，礫状～岩片状を呈する。8.53m：幅1～3mmの固結した灰白色粘土を挟在する。9.43m：幅1～3mmの固結した茶褐色粘土を挟在する。9.43～9.61m：不規則な割れ目が発達し，岩片状～礫状を呈する。
					浅黄橙		Ⅳg Ⅴg Ⅴs Ⅳg Ⅱg	bg	δ		
					明褐灰		Ⅴg Ⅴs Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg	cg			
							Ⅴg Ⅲg Ⅱg Ⅲg	bg	γ	3	
						Cg	Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅳg Ⅱg	bg	δ		
						Bg	Ⅱg Ⅳg Ⅱg	bg	γ		
10						Dg	Ⅳg Ⅱg Ⅳg	bg	δ		
						Cg	Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅱg	bg	γ		
						Dg	Ⅳg	bg	δ		
						Cg	Ⅱg Ⅱg	bg	γ		
					黄褐	Bg	Ⅲg Ⅱg Ⅱg Ⅱg	bg	γ	2	
								cg	δ	3	12.48～13.11m：高角度の割れ目が主体となる。13.13～13.36m：低角度の割れ目が主体となる。15.86～16.86m：全体に褐色化する。一部の割れ目に幅0.5～6mmの白色粘土を挟在する。
					灰白	Dg	Ⅳg	bg	γ	2	16.86～17.90m：高角度の割れ目が優勢となる。低角度の割れ目に沿って最大幅3mmの白色粘土を挟在する。
						Bg	Ⅲg	bg	γ	2	18.40m：幅10～15mmで細礫状を呈する。
20					にぶい黄橙	Eg Dg Eg Dg	Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg	cg	δ	3	20.10～20.67m：変質が強く，砂状～岩片状を呈する。一部に粘土を挟在する。21.00m：幅2mmの褐色粘土を挟む。●21.26～21.33m：破砕帯。21.26～21.31m：角礫状破砕部(Hj)。上端の傾斜は不明瞭。明褐灰色のシルト中に細礫を挟在する。21.31～21.33m：礫混じり粘土状破砕部(Hc-2)。細礫混じり暗赤色粘土(幅10mm)，細礫混じり灰黄色粘土(幅8mm)からなる。21.33mに暗赤色粘土と黄灰色粘土を挟む。下端の傾斜は60°。
						Bg	Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅱg	bg	γ	2	21.36～21.62m：傾斜50°程度の割れ目が平行して発達し，一部に幅3mm程度の白色粘土を挟在する。上端に幅4mmの石英脈を挟在する。22.14m：幅1～3mmの褐色粘土を挟在する。25.66～26.29m：幅0～1mmの褐色及び灰白色粘土を挟在する割れ目が発達する。26.65～27.10mm：幅1～4mmの灰白色粘土を挟在する割れ目が発達する。

コア採取率 ―△―（%） 最大コア長 ―○― cm RQD ┐[%]

岩級区分：CL' CM' CH' CL' CM' CL' CM' CH' CL' CH' D' CM' CH'

孔内水位(m)／測定月日：▽ 12.30 6.9

（標準貫入）試験 （N値～深度）図

原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
		5/21	165		シングルコアチューブ／アルミクラウン	29.4	60			
						9.8	120			
						19.6	150			
		5/22	122					0.5	清水3	2
					ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット					
		5/23	57			29.4	180			
		5/25	115							
							150			
		5/26	75					0.5	清水3	1

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
30				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅱg	bg	γ	2	28.48m：走向が異なる高角度の割れ目が複数発達し，割れ目に沿ってフィルム状～幅4mmの灰白色粘土を挟む。 28.69～29.45m：高角度の割れ目が卓越する。一部に幅2mm程度までの灰白色粘土を挟在する。		CH'						5/26	75		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット		150			1
											31.37～31.91m：高角度の割れ目が発達する。															
											32.35～33.04m：高角度の割れ目が良く発達する。															
											33.47～33.60m：高角度の割れ目が集中し，幅0.5mm程度の灰白色及び褐色粘土を挟在する。								5/27	84			29.4				
										1	34.56～34.88m：変質により褐色を呈する。 35.30～35.57m：傾斜80°程度の割れ目が集中して発達する。一部にフィルム状の灰白色粘土を挟在する。															
						Cg				2	37.72～40.73m：変質により褐色を呈する。								5/28	55			49.0	180			
40											39.44～39.87m：幅3mm程度の灰白色粘土を挟在する割れ目が発達する。		CM'										29.4	150			
						Bg				1			CH'						5/29	90			49.0	180			
						Cg	Ⅲg	cg			43.12～45.12m：割れ目に沿った変質による褐色化が顕著になり，黒色酸化物を挟在する。一部に幅0.5mm程度の灰白色粘土を挟在する。		CM'										29.4	150			
						Bg	Ⅱg												5/30	60			49.0	180			
								bg			47.41～47.45m：細礫～砂状を呈する。		CH'						6/1	48			29.4	150			
						Cg	Ⅲg				48.18～48.26m：低角度の割れ目が集中し，岩片状を呈する。																
50						Bg	Ⅱg																					
						Cg				2	50.49～54.64m：変質・風化によって褐色化し，やや軟質化する。51.78～53.00mには，ほぼ鉛直な割れ目が発達し，幅1～10mmの石英脈を挟在する。																
						Bg																						
						Cg	Ⅲg	cg		3			CM'										29.4	150			
							Ⅳg												6/2	101							
						Bg				2																		
						Cg																						
										1	55.08～59.05m：傾斜35～45°を主体とする割れ目が10～30cm間隔で発達する。一部に幅0.5～2mmの石英脈を挟在する。		CH'										49.0	180			
						Bg	Ⅱg	bg											6/3	56							
60																			6/4	119			29.4				
						Cg				2	61.50～80.00m：変質によって淡褐色を呈する。		CM'														

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
70	35.79	80.00		花崗斑岩	にぶい黄橙 明赤灰 にぶい黄橙 灰白	Cg Dg Eg Dg Cg Dg Cg Bg	Ⅱg Ⅳg Vg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅱg Ⅲg Ⅰg Ⅱg Ⅲg	bg cg bg	γ δ γ	2 3 4 3 2	65.49～66.50m：高角度の割れ目が卓越する。一部に最大幅2mmの石英脈，灰白色粘土を挟在する。 ●66.50～66.77m：破砕帯。 66.50～66.54m：粘土状破砕部（Hc-1）。傾斜は75～80°。灰黄色粘土からなる。 66.54～66.77m：角礫状破砕部（Hj）。割れ目に沿ってシルトを挟む。下端の傾斜は40～50°。 66.77～69.59m：高・低角度の割れ目が交差して発達し，岩片状を呈する。最大幅2mmの灰白色及び褐色粘土，幅1～3mmの石英脈を挟在する。 70.25～71.90m：高角度の割れ目が卓越する。一部に幅2mmまでの灰白色粘土，幅4mmまでの石英脈を挟在する。 72.45～72.63m：傾斜60°程度の割れ目が集中して発達する。 73.01～73.38m：傾斜55～70°の平行な割れ目が発達する。一部に幅3mm以下の石英脈を挟在する。 73.56m：幅10mmの石英脈を挟む。 73.56～74.61m：高角度及び中角度の割れ目が発達する。一部に幅2mm程度の石英脈，褐色粘土を挟在する。 75.21～76.72m：低角度の割れ目が優勢となる。 76.83～77.51m：高角度の割れ目が優勢となる。	CM' D' CL' CM' CL' CM' CH'					6/4 6/5 6/6	119 107 125		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.4 9.8 19.6 29.4 38.2	180 120 150 180	0.5	清水 3	0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 12

ボーリング名	Br-12	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	2.93 m	角度	上 180° 90° 下 0° 0.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 0.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°
総掘削長	100.00 m	使用機種		試錐機		ハンマー落下用具	
				エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	1.82	1.11		埋土	黒褐 にぶい黄橙						0.00～1.11m：埋戻土。 礫・シルト混じりの粗粒砂を主体とする。径2～10mmで花崗岩質の亜角礫を主体とする。																	
	0.31	2.62		礫混じりシルト質砂	暗灰黄						1.11～2.62m：礫混じりシルト質砂。 礫は径2～80mmの花崗斑岩の亜角礫を主体とする。腐植片が混じる。																	
0.08	2.85			シルト質砂	灰オリーブ						2.62～2.85m：シルト質砂。 中～粗粒砂を主体とする。径2～5mmの亜角礫を僅かに含む。																	
-0.09	3.02			有機質土混じりシルト質砂	オリーブ黒						2.85～3.02m：腐植混じりシルト質砂 中～粗粒砂主体。																	
-0.54	3.47			シルト質砂	オリーブ灰						3.02～3.47m：シルト質砂。 中～粗粒砂からなる。																	
				礫混じりシルト質砂	灰黄						3.47～7.70m：礫・シルト混じり砂。 3.47～4.00m：不均一な砂からなる。径2～20mmの亜角～亜円礫を含む。 4.66m：径20mmの花崗斑岩の風化礫を挟在する。			▽ 2.46 ▼ 0.10					4/25	75	130／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.0	0		試掘	
					浅黄																			9.8	80	0.2	清水1	1
					黄灰													4/27	145								
-4.77	7.70			シルト混じり礫質砂	灰						7.70～10.35m：シルト混じり礫質砂。 7.70～8.70m：粗粒砂を主体とする。径2～7mmの亜角礫を含む。径1～3mmの暗色岩片が点在する。 8.70～9.25m：中粒砂を主体とする。径2～5mmの亜角礫を含む。 9.25～10.35m：粗粒砂を主体とする。径2～10mmの亜角礫を含む。																	
					にぶい黄橙																						
					黄灰																						
-7.42	10.35			礫混じりシルト質砂	灰オリーブ						10.35～13.10m：礫混じりシルト質砂 粗粒砂を主体とする。径2～10mmの亜角～亜円礫を含む。腐植片が点在する。 10.80～12.00m：二枚貝及び巻貝の破片を挟在する。 12.00～13.10m：貝殻片を挟在する。								4/28	273	100／ケーシング		29.4	60	0.1	清水3	3
-10.17	13.10			礫混じり砂	オリーブ黄						13.10～15.22m：礫混じり砂。 粗粒砂を主体とする。径2～7mmの亜角～亜円礫を含む。貝殻片を挟在する。 14.72m：腐植片を挟在する。																	
-12.29	15.22			貝殻混じり砂	灰オリーブ						15.22～17.88m：貝殻混じり砂。 粗粒砂を主体とし，径2～5mmの亜円～亜角礫を含む。二枚貝の破片を挟在し，所々濃集する。 15.20～15.50m，15.90～16.75m，16.95～17.00m，17.60～17.70m：二枚貝の貝殻片が濃集する。 16.23m：暗褐色有機物を挟在する。 17.60～17.70m：腐植片を挟在する。																	
-14.95	17.88			花崗斑岩	浅黄橙	Eg	Ⅳg	δ		2	17.88～100.00m：花崗斑岩。 17.88～20.04m：傾斜60～70°の割れ目が交差する。		D'													
							Ⅴg			3																	
					淡黄	Dg	Ⅳg			2	20.40m，20.72m：それぞれ傾斜80°，55°の割れ目に沿って幅1mmの石英脈を挟在する。		CL'															
					淡黄橙		Ⅲg	bg	γ																		
					淡橙						23.25～24.80m：幅0.5～1mmで灰白色脈を挟在する割れ目が多い。高角度の割れ目に沿って幅2～10mmの黒色酸化物を挟在する。																	
					浅黄		Ⅳg			3																		
					にぶい黄橙	Cg	Ⅲg				24.60～24.80m：密着した割れ目が顕著である。 24.75～25.01m：幅5mmで礫状を呈する。礫径は3～10mm。		CM'															
					浅黄	Dg	Ⅳg				24.80～26.17m：幅0.5～1mmの灰白色脈を挟在する。 25.00～26.00m：傾斜60°の平行な割れ目が発達する。		CL'															
					浅黄橙	Cg	Ⅴg Ⅳg						CM'															

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）／最大コア長 cm／RQD［%］	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	標準貫入試験 （N値）値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
30				花崗斑岩	浅黄橙	Cg	Ⅳg	bg		3	28.20～28.95m：傾斜70°前後の割れ目が密に発達する。 28.70m：傾斜70°の割れ目に幅2～5mmの灰白色粘土を挟在する。		CM'											0.2	清水3	0
					にぶい黄褐	Dg							D'													
						Eg	Ⅴg	cg																		
						Dg							CL'													
					淡橙		Ⅳg				29.46m：傾斜85°の割れ目に幅1mmの褐色粘土を挟在する。 29.50～30.00m：傾斜30°程度の割れ目が主体。 30.00～30.19m：傾斜60°の密着した割れ目が卓越する。 30.19～31.90m：割れ目に沿って灰白色脈を挟在する。									4/30	134					
					灰黄褐	Cg	Ⅱg						CM'													
							Ⅲg																			
							Ⅱg																			
					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg				31.92～32.96m：傾斜70～90°の密着した割れ目が卓越する。上端の幅4mm程度は細礫状を呈す。 32.72m：幅10mmの石英脈を挟む。		CL'							5/ 1	133					
							Ⅱg																			
					明黄褐	Cg	Ⅳg	bg			33.50～34.00m：傾斜70°の割れ目が発達する。 34.00～34.62m：傾斜60～70°の割れ目が卓越し，フィルム状～幅2mmの灰白色脈を挟在するものが多い。 35.00～35.16m：傾斜70°，30～40°の割れ目が交差する。 35.16～35.95m：幅0.5～2mmの灰白色脈を多数挟在する。		CM'							5/ 7	100					
							Ⅱg																			
							Ⅲg																			
						Dg	Ⅳg						CL'													
					にぶい橙						36.30～37.16m：傾斜70～90°の割れ目が連続する。															
					灰黄褐	Cg	Ⅲg	cg			38.14～39.05m：傾斜70～85°の割れ目が連続する。		CM'							5/ 8	87			0.1	清水1	0
						Dg	Ⅳg	bg																		
						Cg	Ⅲg																			
40					にぶい黄橙	Dg	Ⅳg				40.00～40.30m：幅0.5mm程度の方解石脈を挟在する。 40.37～41.20m：傾斜70°程度の開口した割れ目とこれに平行な微細な割れ目が発達する。 41.20～44.20m：傾斜70～85°の密着した割れ目が発達する。		CL'										29.4				
						Cg							CM'													
							Ⅲg				43.20m，43.70m：それぞれ幅10～15mm，2mmの石英脈を挟在する。															
						Dg	Ⅳg	cg			45.00m：幅4mmの灰白色脈を挟在する。 45.47～45.59m：幅5mmで軟質な黒褐色のシルト～粘土及び砂混じりの細礫を挟在する。		CL'														
						Cg	Ⅲg	bg					CM'													
					浅黄橙	Dg	Ⅳg	cg			46.77～47.65m：高角度の割れ目が卓越する。 47.27m：幅3mmの赤褐色のシルト～粘土及び細礫混じり砂を挟在する。 48.00～48.80m：傾斜70°の割れ目が卓越する。		CL'														
						Cg	Ⅱg	bg					CM'													
						Dg	Ⅳg	cg					CL'													
50							Ⅱg																			
						Cg	Ⅳg	bg																		
							Ⅱg						CM'													
								cg																		
					にぶい黄橙		Ⅳg	bg			52.25～52.80m：傾斜65～80°の割れ目が発達する。									5/11	73					
							Ⅲg	cg																		
							Ⅱg	bg																		
						Bg																				
					浅黄橙	Cg	Ⅳg	cg			54.40m：幅5mmで砂状を呈する。															
						Dg																				
					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg	bg			55.20m：幅1mmの茶褐色の砂～粘土を挟在する。		CL'													
						Dg	Ⅳg	cg																		
						Cg	Ⅲg	bg					CM'													
						Dg	Ⅴg	cg					CL'													
60					暗オリーブ灰	Eg	Ⅵg	dg		3	●58.40～59.38m：破砕帯。 58.40～59.10m：粘土混じり角礫状破砕部（Hj）。上端の傾斜は70°。傾斜80～85°の割れ目が多数分布し，割れ目に沿って幅2～3mmの灰白色粘土を挟在する。 59.10～59.38m：粘土状破砕部（Hc-1）。不規則に幅が変化する，幅5～10mmの灰白色粘土及び幅5～20mmの褐色の砂混じり粘土からなる。上端の傾斜は不明。下端の傾斜85°。		D'							5/12	121			39.2				
					浅黄橙	Dg	Ⅳg	cg		2																
							Ⅲg	bg			59.38～59.75m：傾斜70～85°の割れ目が卓越する。		CL'													
							Ⅳg	cg			62.56～63.28m：酸化及び軟化が著しい。															
					明黄褐	Eg	Ⅴg	δ	γ	3	62.64m：幅10mmの軟質な灰色粘土を挟在する。		D'							5/13	120		29.4	0.1	清水2	1

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
70				花崗斑岩	明黄褐	Eg	Vg	cg	δ	3	63.05～63.20m：傾斜70°で幅30mm程度に石英が濃集する。 63.28～65.20m：傾斜70～80°と20～30°の割れ目が交差し，礫状を呈する。 63.50～63.90m：傾斜80°で幅2～5mmに石英が密集する。 64.60～64.93m：幅1～3mm白色粘土を挟在する。	D'												
					浅黄橙	Dg																			
					淡黄						66.12～67.15m：不規則に高・低角度の割れ目が発達し，礫状を呈す。	CL'					5/13	120							
					灰白		Ⅳg				67.15～68.00m：傾斜45～60°の平行な割れ目が発達する。 68.00～70.50m：傾斜70～90°の割れ目が不規則に発達して，礫状を呈する。 69.60m：幅5mmの硬質な白色粘土を挟在する。 70.26～70.66m：幅2～6mmの白色粘土を挟在する。														
					灰黄褐	Eg	Vg				71.55～71.95m：傾斜60～70°の割れ目が密集する。	D'													
					淡黄	Dg Eg	Ⅵg	dg			●71.95～72.72m：破砕帯。 71.95～72.64m：角礫状破砕部(Hj)。上端に幅2～10mmの灰白色粘土を挟在する。傾斜70°。 72.64～72.72m：粘土状破砕部(Hc-1)。幅5～10mmのやや軟質な明黄褐色粘土からなる。傾斜は80°。														
					浅黄橙	Dg	Vg		γ	2	73.30m：幅1mmの黄白色粘土を挟在する。傾斜55°。 74.44～76.78m：傾斜10～30°と60～90°の割れ目が発達し，岩片状を呈する。 75.20～76.90m：径3～10mmの淡緑色の変質した鉱物が点在する。	CL'					5/14	122							
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg			76.78～78.65m：傾斜45～60°程度の割れ目が卓越する。														
80					浅黄	Dg				3	78.65～80.63：径3～10mm程度の淡緑色の変質した鉱物が点在する。 79.12m～79.44m：幅5～10mmの黒色酸化物を挟在する。 80.00m：幅3mmの灰白～黄白色粘土を挟在する。 80.03～80.63m：傾斜55～65°の平行な割れ目が卓越する。 80.10m：幅3mmの灰白～黄白色粘土を挟在する。 81.02～82.36m：傾斜50～70°の平行な割れ目が卓越する。 81.27m：幅4mmの茶褐色粘土を挟在する。 82.50m：傾斜40°，幅1mmの灰白色粘土を挟在する。																
					にぶい橙	Bg						CM'													
					明黄褐	Dg	Vg		δ		83.94～86.80m：割れ目が密に発達し，岩片状を呈する。	CL'					5/15	132							
					浅黄橙		Ⅳg	bg		2	86.42m：幅2mmの灰白色粘土を挟在する。 86.80～89.26m：傾斜20°前後と60～80°の割れ目が交差し，礫状を呈する。															
					明褐灰		Vg	cg	γ	3	88.15m：幅20mmの硬い灰白色粘土を挟在する。														
90					灰褐						●89.68～90.32m：破砕帯。 89.68～90.24m：角礫状破砕部(Hj)。上端の傾斜は50，下端の傾斜は75°。割れ目に沿って網目状に灰白色粘土を挟在する。 90.24～90.32m：礫混じり粘土状破砕部(Hc-2)。幅4mmの細礫混じり褐灰色粘土及び幅10～15mmの明緑灰色粘土を挟在する。下端の傾斜は85°。															
					浅黄橙					2															
					にぶい黄橙				δ	3	90.35～92.20m：割れ目が網目状に発達し，岩片状を呈する。 90.55m：幅5mmの淡緑色の粘土混じり砂を挟在する。 92.20～93.53m：岩片状～礫状を呈する。 94.99～95.71m：網目状の割れ目が灰白色粘土を挟在し，軟質になる。下端に幅5mmの角礫混じり黄色粘土を挟み，傾斜は85°。															
					淡橙					2															
					浅黄	Eg	Ⅵg	dg		3		D'													
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg	γ	2		CL'					5/18	119							
						Dg	Vg			3	97.35～97.57m：幅1mmの灰白色粘土を挟在する割れ目が発達する。 97.70～98.15m：フィルム状～幅2mmの灰白～黄白色粘土を挟在する。															
					灰褐																				
					にぶい橙	Cg	Ⅳg			2															

コア採取率 （%）
最大コア長 cm
R Q D [%]
0 50 100

（標準貫入）試験
（N値～深度）図
0 10 20 30 40 50

掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
5/13	120		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	29.4	100	0.1	清水2	1
5/14	122							
5/15	132							
5/16	119							
5/18	119							

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位（m）／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	−97.07	100.00		花崗斑岩	にぶい橙 明赤灰	Cg Dg	Ⅳg Vg	cg	ｹ	2 3	99.29～100.00mm：傾斜70°程度と30°前後の割れ目が交差し，礫状を呈する。径3～20mmの鉱物からなる完晶質岩となる。	0 50 100	CL'			0 10 20 30 40 50			5/18	119		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	28.4	100	0.1	清水 2	1

余白

5. 委託報告書（平成30年） ボーリング柱状図

余白

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	B8-15	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	6.92 m	角度	上 180° 90° 下 0° 25.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 143.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°
総掘削長	70.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入試験 N値～深度) 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
																					／試掘	試掘／試掘	0.0	0		試掘	
														▽2.50 8/27 ▽2.80 8/28					8/27		140／ケーシング					
10																										
	−4.54	12.64		礫質砂	明オリーブ灰 オリーブ灰 明褐灰 明緑灰 灰白						0.00～12.64m：ノンコア 12.64～31.42m：礫混じり砂質土主体の第四系である。 12.64～15.82m：礫質砂である。 シルトの混じる砂からなる。石英，長石の細礫および最大90mmの花崗斑岩亜円～亜角礫を20～30%含む。 13.17～13.49m：シルト分が多く，礫を多く含む。 14.71～15.00m：礫率は50～60%で，固く締まる。 15.00～15.49m：礫を多く含み，15.52m以浅はシルト分を含む。	(100) (100) (100)																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				礫質砂	灰白						
	-7.42	15.82		礫混じり砂	灰						15.82～16.05m：砂礫である。 細礫が主体となる。上端に幅30mmの粘土混じりシルトを挟在する。 下端に径10～50mmの角礫を含む。
	-7.63	16.05		有機質シルト	明黄褐						
	-7.80	16.24			灰黒						16.05～16.24m：有機質シルトである。 全体に有機物に富む。
				礫質砂	灰						
					明黄褐						16.24～18.18m：礫質砂である。 礫は径2～5mmの石英が主体となる。径50mmまでの花崗斑岩の礫も含む。
					にぶい橙						
					灰白						
	-9.56	18.18			灰						
	-9.84	18.49		礫混じりシルト質砂	黒						18.06～18.15m：有機物片が点在する。
				礫混じり砂	灰						18.18～18.49m：礫混じりシルト質砂である。 中～粗粒砂が主体となる。径2～4mmの細礫を含む。全体に炭化物が散在する。
	-10.56	19.29			灰白						
	-10.77	19.52		礫混じり粘土質シルト	灰						18.49～19.29m：礫混じり砂である。 径30～50mmの礫が混じる。
				砂	灰白						19.29～19.52m：礫混じり粘土質シルトである。 径2～5mmの石英，粗粒砂が混じる。
20											19.52～21.40m：砂である。
	-12.47	21.40									21.40～21.72m：礫混じり砂質シルトである。 2～3mmの細礫が主体となる。下部に径10mm程度の礫が分布する。炭化物片が点在する。
	-12.76	21.72		礫混じり砂質シルト	灰						
					灰オリーブ						21.72～24.26m：礫混じりシルト質砂である。 礫は径2～5mmの細礫が主体となる。
				礫混じりシルト質砂	明褐灰						22.55～23.45m：砂質シルトと礫混じりシルト質砂の互層である。
					黄褐						
	-15.07	24.26			灰白						24.26～25.03m：礫混じりシルト質粘土である。 24.26～24.61m：花崗斑岩の礫が混じる。
				礫混じりシルト質粘土	黄褐						
	-15.76	25.03			明黄褐						25.03～28.93m：砂礫である。 径10～50mm（最大400mm）の花崗斑岩亜円～亜角礫を50～70%含む。大半の礫が半クサリ礫化する。基質はシルトの混じる細～中粒砂が主体である。 全体に酸化汚染を受け，一様に明黄褐色～黄褐色化している。 26.18～26.64m：花崗斑岩礫を含む。黄褐色を帯びる弱風化礫からなる。
				砂礫	黄褐						
					明黄褐						
	-19.30	28.93			にぶい黄褐						28.93～31.42m：玉石混じり砂礫である。 30.08～31.09m：径200～300mmの弱風化した花崗斑岩礫を多く含む。マンガンが濃集する。 31.09～31.42m：径5～25mm程度の花崗斑岩半クサリ礫が主体である。下位ほど礫を多く含み，礫率は20～60%程度である。
30				玉石混じり砂礫	黄褐						
					にぶい黄褐						
	-21.56	31.42			褐						
					明褐灰	Eg	vtg	cg	δ	3	31.42～51.12m：花崗斑岩である。 石英・長石の斑晶が数%程度含まれる。斑晶は径2～6mm（最大10mm）程度である。長石類は白濁し軟質化している。
					灰白			dg	ε	4	32.48～33.40m：風化変質を強く受け，岩組織・割れ目は消滅する。灰白色を呈する。
					浅黄橙					3	33.37m：灰白色の砂混じり粘土状を呈する。傾斜は50°，幅は20mmからなる。非常に軟質である。
								cg		2	●34.65～35.72m：破砕部 破砕幅は79.5cmである。 34.65～35.60m：灰白色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は56°である。 35.60～35.61m：灰白色の固結した粘土状部からなる。上端境界の傾斜は42°，下端境界の傾斜は65°である。 35.61～35.72m：灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は58°である。
										3	
								dg	δ	4	
										3	
										4	
								cg	γ	2	
						Dg		dg	δ		
							IVg	cg	γ		
							Vg				
						Eg	vtg	dg	δ	3	
						Dg				2	
						Eg					35.72～41.52m：全体に風化・変質し，軟化している。長石類は白濁し有色鉱物は褐色化している。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
						8/28	84							
							103		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	13.0	120	0.0	泥水4	4
						8/29	42			10.0	60	0.0	泥水3	3
							51							
							133			12.0	120	0.1	泥水1	1
							50							
							53							
							195							
							280		ダブルコアチューブ／メタルクラウン	10.0	60	0.0	泥水3	3
							290							
							210							
							120	114／ケーシング						
							77							
						8/30	86							
							75							
							73			14.0	120	0.2	泥水3	3
							75							
							75		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット					
							120							
							300			10.0	60	0.0	泥水3	3
							210							
						8/31	60							
							140			12.0	100	0.2	泥水2	2
							100			14.0	120	0.2	泥水3	1
						9/1	120	86／泥水		10.0	80	0.2	泥水5	5
							83							

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	灰白	Eg, Dg, Eg, Dg	VIg	cg, dg	δ		41.52～42.06m：上位に比べ割れ目は明瞭で，やや硬い。						83							
					浅黄橙	Eg, Dg	Vg	cg	γ		42.06～44.77m：全体に風化し軟質化している。長石類は白濁し，有色鉱物は褐色を帯びる。						135			10.0	80	0.2	泥水5	5
					灰白	Eg, Dg, Eg, Dg	VIg	dg			44.77～45.48m：コアは軟質である。割れ目は不規則に分布し，割れ目沿いは褐色化しマンガンが付着している。	D'					140							
						Dg, Eg	Vg, VIg, Vg, Vg	cg, dg	δ		45.48～48.79m：上位に比べて風化の程度が弱い。コアは片状～短柱状が主体で，多くの割れ目沿いに酸化汚染とマンガンが付着している。					9/1	80							
					明褐灰	Dg	IVg, Vg	cg									96			18.0	120	0.2	泥水3	3
					灰白	Cg	IVg			2		CL'					83							
					明褐灰	Dg	Vg				48.79～49.22m：コアは岩片状～砂礫状を呈する。ハンマーで容易に崩壊する。岩片は径5～30mm程度が主体である。下端に幅3mm程度の暗褐色の粘土を伴う。													
					灰白	Eg	VIg	dg			49.22～50.05m：所々に傾斜50°程度の割れ目が発達する柱状コアが主体である。割れ目沿いに酸化し汚染している。	CH'				9/2	94			30.0	150	0.3	泥水10	10
50						Bg	IIIg	bg	β															
						Cg	IVg	cg				CL'												
	-39.41	51.12				Eg	Vg	dg																
				アプライト	浅黄	Dg	IVg, Vg, IVg	cg	γ		51.12～70.00m：アプライトである。細粒で少量の石英，長石の斑晶からなる。						48	86/泥水	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット					
					明褐灰	Bg	IIIg, IVg, IIIg				51.69～53.42m：全体に褐色に酸化し汚染している。柱状コアが主体である。													
						Cg	IVg				53.42～56.06m：傾斜30～70°程度の割れ目が3～5cm間隔で発達する。コアは岩片状～短柱状が主体である。割れ目沿いに褐色に汚染している。所々で淡赤白色のシルトを伴う。	CM'												
					灰白	Bg	IIIg										90			50.0	130	0.2	泥水6	3
						Cg	IVg, Vg, IVg										86							
						Dg	Vg										95					0.3	泥水10	10
						Cg	IVg, Vg					CL'												
						Eg	VIg	dg	δ	3							70							
						Dg, Cg	IVg	cg	γ	2	56.22～57.58m：傾斜30～60°の割れ目が3～5cm間隔で発達する。岩片状コアが主体である。													
					にぶい橙	Eg	VIg	dg	δ	3	57.58～57.78m：一部，角礫混じり土砂状を呈する。					9/3	80			20.0	100	0.3	泥水10	3
						Cg	Vg		γ															
					灰白	Bg	IVg		β		59.14～59.71m：傾斜60～80°を主とする割れ目が網目状に発達する。コアは角礫状～片状化している。	CM'												
					にぶい橙	Eg	Vg					D'												
60					明褐灰	Dg, Cg	IVg	cg	γ	2	60.07～60.77m：割れ目沿いで酸化し汚染を受け褐色黄化している。						130					0.3	泥水10	0
					浅黄	Dg, Cg	Vg, IVg, Vg				61.00～61.95m：酸化汚染が強く，岩芯まで褐色化し，有色鉱物のすべてが赤褐色化している。						60							
						Eg	VIg	dg	δ	4							69							
						Cg	Vg, IVg	cg	γ			CL'								30.0	120	0.2	泥水7	0
					灰黄	Bg	IIg	bg	β	2	63.38～63.86m：傾斜20～40°の割れ目が5cm間隔で発達する。割れ目沿いに劣化し，細片化する。						71							
						Cg	IVg	cg	γ		64.23～64.99m：傾斜40～60°の割れ目が3～5cm間隔で発達する。割れ目沿いに劣化する。						60							
						Bg	IIIg																	
						Cg	IVg, IIIg, Vg				66.22～67.38m：上端傾斜が75°，下端傾斜が65°の割れ目を境界として，径20～80mm程度の角礫状花崗斑岩と隙間を充填する礫混じり砂(流入砂)からなり，全体として砂礫の様相である。					9/4	60			20.0	80	0.2	泥水5	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
					灰黄	Cg		cg	γ												60						
						Dg																					
					明褐灰	Eg	Vg	dg	δ		67.38～68.04m：傾斜10～20°と，傾斜70°の割れ目が5～8cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩片化している。		CL'							90						
					灰褐	Cg	IVg	cg	γ												120	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	80	0.2	泥水5	0
						Eg	Vg	dg	δ		68.04～68.24m：角礫状を呈する。									9/4							
					明褐灰	Cg	IVg	cg	γ				CL'								88						
					灰黄	Bg					69.46～70.00m：微細な割れ目が少ない短柱状のコアが主体である。																
	-56.52	70.00								2											60						

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										1

ボーリング名	B8-21	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.28 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 143.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘削長	240.00 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	孔内水位(m)／測定月日	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				埋土	にぶい黄橙						0.00～3.00m：埋土である。 0.00～0.12m：粗粒砂からなる。植物根が混じる。 0.12～1.42m：礫混じり砂からなる。最大10mmの礫をまれに含む。 1.42～1.93m：有機物混じりシルト質砂からなる。細粒～粗粒砂からなり全体に有機物・シルトが混じる。全体に不均質である。 1.92～2.38m：礫混じり砂からなる。 2.38～3.00m：シルト質砂からなる。					試掘／試掘	0.0	0		試掘	
	5.16	3.00			褐灰								7/5	105	146／ケーシング	ダブルチューブ／ダイヤコアビット		80	0.0	無水0	0
	4.56	3.84		砂礫	黄灰						3.00～37.67m：礫・砂主体の第四系である。 3.00～3.84m：砂礫である。 径5～30cmの硬質な亜角～亜円礫を60～70%含む。基質は細礫の混じる中～粗粒砂からなる。 3.48～5.00m：スライムである。							180	0.2	泥水3	2
	3.74	5.00		スライム	灰白								7/6			グアーメクンシルチフタラウン		80	0.0	無水0	0
	3.53	5.30		砂礫	灰						5.00～5.30m：砂礫である。 シルトを多く含む中粒砂の礫混じりシルト質砂で炭化物が散在する。 5.30～6.92m：礫である。 花崗斑岩の硬質な岩塊からなる。 6.45～6.92m：硬質な花崗斑岩礫と粗粒砂の基質からなる砂礫である。					ダブルコアチューブ／メタルクラウン	2.0	180	0.2	泥水3	3
	2.39	6.92		礫	黄灰								7/18								
					明黄褐																
				礫混じり砂	灰白						6.92～10.30m：礫混じり砂である。 シルトを混入する不均質な砂が主で，径2～4mmの石英細礫を混入する。					シングルコアチューブ／メタルクラウン		80	0.0	無水0	0
					浅黄																
					黄褐																
					浅黄																
					明黄褐																
10	-0.00	10.30			明オリーブ灰								7/20	140							
				礫質砂	灰白						10.30～15.15m：礫質砂である。 砂は細～中粒砂からなり，シルトを混入し不均質である。礫は径2～6mmの石英からなる細礫が主で，径20～40mmの半クサリ礫も分布する。 良く締まる。					ダブルチューブ／ダイヤコアビット		180	0.2	泥水3	3
					明オリーブ灰									240		シングルコアチューブ／メタルクラウン	3.0	80	0.0	無水0	0
					灰白														0.2	泥水3	3
					明黄褐								7/21	105		ダブルコアチューブ／メタルクラウン	2.0	180	0.2	泥水3	2
														115							

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

岩級区分

孔内水位(m)／測定月日：2.80 7/23；3.10 7/21；4.20 7/18；5.60 7/24；7.60 7/25；10.20 7/26；11.75 9/2；11.90 9/3；11.95 8/31；12.05 9/4；12.10 9/1；12.10 9/6；12.80 7/27；14.60 9/8

（標準貫入）試験　（N値～深度）図　0 10 20 30 40 50

原位置試験（孔内水平載荷）　室内試験

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	-3.43	15.15		礫質砂	明黄褐						15.15～17.00m：砂礫である。 径3～5mmの石英細礫が主で，径20～130mmの花崗斑岩半クサリ礫を混入する。礫率は30～50%程度である。砂は細～粗粒砂で不均質である。 16.46～17.00m：礫量が減少しシルトが混じる細～粗粒砂の礫混じり砂を呈する。
				砂礫	灰白						
	-4.74	17.00			灰						
				スライム	灰白						17.00～17.48m：スライムである。
	-5.08	17.48		礫混じり砂質シルト	灰						17.48～17.78m：礫混じり砂質シルトである。 17.60m以浅は有機質分が多いが，17.60m以深では僅かとなる。
	-5.29	17.78			黄褐						
				礫混じりシルト質砂	灰						17.78～19.46m：礫混じりシルト質砂である。 シルトを多く含む不均質な砂で細礫が混じる。全体に腐植物が散在し，17.78～18.60m間では葉理を示す。
	-6.48	19.46									
	-6.67	19.73		有機質砂							19.46～19.73m：有機質砂である。 有機物が混入する不均質な砂からなる。
20				礫質砂	灰オリーブ						19.73～22.00m：礫質砂である。 石英主体の細礫が優勢で中礫も含む。
	-8.28	22.00			明オリーブ灰						
				有機質土混じり礫質砂	灰						22.00～22.63m：有機質土混じり礫質砂である。 不均質な砂が主となる。傾斜45°で有機物の定向配列が認められる。
	-8.72	22.63			淡黄						22.63～23.64m：礫質砂である。 23.14m以深：多量のシルトと処々に炭化物を含む不均質な砂を呈する。
				礫質砂	灰						
	-9.44	23.64			黄褐						23.64～24.43m：砂礫である。 径2～20mmの亜角礫が主となる。上部は砂質である。
				砂礫	淡黄						
	-9.99	24.43		スライム							24.43～25.28m：スライムである。
	-10.60	25.28		礫混じり砂	灰白						25.28～26.51m：礫混じり砂である。 礫の分布は不均質である。25.40m以浅は下部に比べ礫径，礫率とも大きい。
	-11.47	26.51									26.51～37.67m：砂礫である。 26.51～28.03m：径5～50mm(最大径250mm)の亜角～亜円礫を含み，礫率は50～80%である。半クサリ礫が主体で31.80m以浅では硬質礫が残留する。31.80m以深ではほぼすべてが半クサリ礫を呈する。基質はシルトが混じる不均質な砂である。
30				砂礫	にぶい黄						30.90～31.80m：堅硬・緻密な花崗斑岩巨礫からなる。
					灰白						
					にぶい黄橙						34.35m：幅7mmの灰色の粘土を挟在する。 35.40～35.79m：径2～10mmの礫が主体となる。
					明灰褐						37.56～37.67m：基質は粗粒砂～細礫からなる。
	-19.36	37.67		花崗斑岩	浅黄	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	37.67～73.60m：花崗斑岩である。 斑晶が少ない石基主体のアプライト質花崗斑岩からなる。黒雲母の含有率は5%程度である。
						Eg	Ⅵg	dg	δ	3	38.66～38.82m：岩芯まで著しく軟質化する。
						Dg	Ⅴg	cg			38.82～39.42m：傾斜50～60°の割れ目が2～5cm間隔で分布する。
						Cg	Ⅳg	bg			39.42～39.83m：硬質でハンマー打撃で鈍い金属音を発する。
						Bg	Ⅴg			2	39.95～42.20m：割れ目密集部が多く，割れ目に白色～黄白色の軟質物を挟在する。
					灰黄	Cg	Ⅲg	cg	γ		
							Ⅳg				
40						Dg	Ⅴg				
						Cg					

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
	15.30 0.8				7/21	115	105／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルクラウン	2.0	180	0.2	泥水3	2
	15.90 0.20							シングルコアチューブ／メタルクラウン	1.0	80	0.0	無水0	0
	16.05 0.10												
	16.15 0.10												
	16.25 0.10												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
50				花崗斑岩	灰白	Cg	Vg	cg	γ	2	41.79～42.09m：上下位と比べて風化が進行し軟質である。	6 [0] 100							7/26	110	86／泥水	ダブルコアチューブ／メタルクラウン	2.0	180	0.2	泥水8	8
						Eg Dg	Vg	dg	δ	3																
							Vg Ⅳg					4 [0] 100	CL'													
					灰黄	Cg			γ																	
						Dg	Vg	cg	δ			4 [0] 100														
						Cg			γ			3 [0] 100														
						Bg	Ⅳg	bg	β	2		13 [13] 100	CM'													
					灰白	Cg	Vg	cg				7 [0] 100							7/27							
						Bg	Ⅳg	bg			47.70～48.50m：傾斜60～70°の割れ目が10cm間隔で交錯する。	17 [17] 100														
						Cg		cg				7 [0] 100														
						Dg Cg	Vg				49.88m：傾斜50°，幅2～3mmの淡赤白色の砂混じり粘土を挟在する。	11 [20] 100								100							
						Bg	Ⅳg																			
						Cg	Vg				49.88～50.47m：傾斜30～40°の割れ目が1～2cm間隔で分布する。	5 [0] 100														
						Dg Cg	Vg			3																
						Dg Cg	Vg			2	51.86～52.26m：白色に脱色し一部は軟質である。脱色変質部である。下端に褐色酸化部を伴う。傾斜は48°，幅は5～13mmである。	10 [10] 100	CL'													
						Dg Cg	Ⅳg																			
						Dg Cg	Vg	dg		3																
						Bg	Ⅳg	cg		2	53.02～53.14m：脱色変質し岩組織・割れ目は不明瞭，軟質化している。	10 [10] 100								80						
						Cg Dg Cg	Vg	dg		3																
					明褐灰	Bg	Ⅲg Ⅳg	cg	γ	2	53.73～55.14m：傾斜40～60°および75°以上の高角度割れ目が発達する。割れ目面の多くにマンガンが付着する。	9 [0] 100								85						
						Cg	Vg					7 [0] 100														
						Bg	Ⅳg	cg			55.14～56.64m：概ね硬質である。多くの割れ目にマンガンが付着する。	8 [0] 100														
						Cg	Ⅳg																			
						Bg	Ⅲg					19 [37] 100	CM'													
						Cg	Ⅳg			2																
					灰白	Dg	Vg	dg				8 [0] 100														
							Vg					4 [0] 100														
						Cg	Ⅳg	cg			60.68～61.46m：傾斜30°と60°の割れ目が0.5～3cm間隔で分布する。割れ目交錯部分で脆弱化している。	4 [0] 100														
							Vg Ⅳg																			
							Vg					5 [0] 100														
60						Dg	Vg	dg	δ	3		8 [0] 100														
						Cg	Vg Vg	cg	γ	2	61.66～62.06m：傾斜約45°の割れ目が0.5～1cm間隔で発達し，これらに傾斜70°の割れ目が交錯し岩は脆弱化している。	12 [12] 100	CL'						7/29							
						Bg Dg	Ⅲg Vg		δ	3																
						Cg Bg	Vg Ⅲg	bg			62.33～63.77m：傾斜30°と60°割れ目が発達し交差部は砂状～角礫状化している。	8 [0] 100								120						
						Cg	Ⅳg Vg	cg	γ	2		8 [0] 100														
							Ⅳg					11 [11] 100														
						Bg Dg	Ⅲg Vg		δ	3																
						Cg	Ⅳg		γ	2																
						Dg	Vg	dg	δ	3																
						Cg Bg	Ⅳg	cg	γ	2	65.04～65.89m：傾斜10～20°または60～80°の割れ目が集中する部分は角礫状化している。	10 [10] 100						7/30	100						
						Cg	Vg			3																
						Bg	Ⅳg			2																
					灰白	Dg	Vg	dg		4																
						Bg	Ⅳg	cg		2	66.34～67.37m：傾斜10～20°と60°の割れ目が1～10cm間隔で発達する。一部で黄褐白色～褐色のシルトを挟在する。	7 [0] 100	CM'							95						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				花崗斑岩	灰白	Bg	Ⅳg	cg	γ	2	68.03～68.28m：割れ目が0.5～1.5cm間隔で網目状に発達する。
						Cg					
						Bg	Ⅴg				
					明褐灰	Cg					
						Bg					
						Cg	Ⅵg	dg	δ	4	
						Dg					
						Cg	Ⅴg	cg		2	
						Dg				3	
						Cg				2	
					灰白	Dg	Ⅵg	dg	γ	3	70.46～70.53m：上端傾斜が80°，下端傾斜が50°の固結した角礫状を呈する。
						Cg	Ⅴg	cg			71.28～71.75m：硬質である。ハンマー打撃で金属音を発する。
						Bg	Ⅳg			2	
						Cg	Ⅴg				
						Dg	Ⅵg	dg	δ	4	72.43～72.94m：シルト混じり砂礫状を呈する。
						Eg	Ⅴg	cg	γ	2	
						Cg					
						Dg	Ⅴg	cg		3	
	-44.76	73.60				Bg	Ⅳg				73.60～160.40m：アプライトである。上端，下端とも花崗斑岩との境界は漸移的である。
						Dg	Ⅴg				
						Cg	Ⅵg	dg	δ		
						Eg	Ⅴg	cg		4	
					黄褐	Bg	Ⅳg	dg	γ	2	
						Eg	Ⅵg	cg		4	75.56～76.01m：径5～50mmの亜角礫を含む砂礫状コアを呈する。
						Cg	Ⅳg	dg	δ		76.01～77.36m：傾斜50～60°の割れ目が5～10cm間隔で発達する。一部で土砂化～細粒化している。
						Dg					
					灰白	Cg	Ⅴg	cg			
						Bg	Ⅳg		γ		77.36～77.88m：傾斜40°と70°の割れ目が5～10cm間隔で交錯する。コアは岩片状で硬質である。
						Cg					
						Dg	Ⅴg		δ		78.30～78.32m：明黄褐色の砂・礫混じりシルト状を呈する。傾斜60°，幅7～13mmである。
						Cg					
						Dg			γ	2	
80						Eg	Ⅵg	dg			●79.86～80.17m：破砕帯(f-b8-21-1) 破砕幅は18.7cmである。 79.86～79.87m：淡赤白色の砂混じりシルト状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.9cmである。 79.87～80.17m：粘土質砂礫状を呈し，灰黄色の固結した礫状部からなる。
						Dg					
						Cg	Ⅴg	cg	δ		
					灰黄		Ⅳg				
							Ⅴg				
							Ⅳg		γ		
							Ⅴg				
							Ⅵg				
						Dg	Ⅴg		δ	3	80.17～80.50m：微細な割れ目が密集し，コアは主に細片状を呈する。 80.76m：割れ目が多く，傾斜30°，幅8mmのシルト混じり砂礫状を呈する。
						Cg	Ⅳg		γ	2	81.03～82.37m：割れ目間隔が広く，50～100mmの柱状コアが主となる。 82.37～83.90m：傾斜30～50°及び20°以下の割れ目が1～2cm間隔で発達する。コアは岩片状が主となる。
						Bg					
						Cg	Ⅴg		δ		84.92～86.67m：割れ目が多い。傾斜50°前後の割れ目が発達する。一部で割れ目沿いに変質が進み土砂状を呈する。
							Ⅳg				
							Ⅴg				
						Eg	Ⅵg	dg		4	
					灰白	Cg	Ⅳg	cg	δ	2	
							Ⅴg				
							Ⅳg		γ		
						Eg	Ⅵg	dg		4	
						Dg	Ⅴg		δ		●88.67～88.71m：破砕帯(f-b8-21-2) 破砕幅は3.2cmである。 88.67～88.70m：砂混じりシルト状を呈し，黄白色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は38°である。
						Bg	Ⅲg		γ		
						Cg	Ⅳg	cg		2	
						Dg	Ⅴg		δ		
						Eg	Ⅵg	dg		3	
						Bg	Ⅳg	cg		2	88.70～88.71m：褐色の未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。傾斜は38°である。
						Eg	Ⅵg	dg		3	
90						Cg	Ⅴg	cg			88.96～89.34m：シルト混じり砂礫状コアで，上端傾斜が45～50°，下端傾斜が30°の割れ目で境される。
					明褐灰	Dg					
						Cg			γ	2	
						Dg					
						Cg					
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	●92.86～93.53m：破砕帯(D-5) 破砕幅は17.0cmである。 92.86～93.06m：角礫状を呈する，褐灰色の割れ目の密集部からなる。角礫の径は5～30mmからなり，固結している。
					褐灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	93.06～93.50m：粘土混じり角礫状を呈し，褐灰色の固結した礫状部からなる。下部は細粒分に富んでいる。
						Eg	Ⅵg	dg	δ	3	93.50～93.53m：褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.8cmである。傾斜は75°である。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
CM'						95	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	2.0	150	0.2	泥水 8	0
					7/30								
						130				180	0.5	泥水 8	0
CL'													
						95				150	0.2	泥水 9	0
D'					7/31								
CL'													
						105							
D'													
					8/1	100			0.1	120	0.2	泥水 10	0
CL'													
					8/5	115				150	0.3	泥水 10	0
											0.2	泥水 10	0
					8/6	105					0.3	泥水 10	0
						120							
						135							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				アプライト	褐灰	Eg	Ⅵg	dg	δ	3	
						Cg	Ⅴg	cg	γ	2	
					明褐灰	Eg	Ⅵg	dg	δ	4	
						Dg					
						Cg	Ⅴg	cg	γ	2	95.56～95.87m：風化により，粘土質角礫状コアを呈する。
						Dg					
						Eg	Ⅵg		δ	3	
						Cg	Ⅴg	dg	γ	2	95.87～96.60m：岩片は硬質である。
							Ⅳg				
							Ⅴg	cg			
						Eg	Ⅵg	dg	δ	3	97.32～97.44m：シルト質砂礫状部である。礫は角礫で固結している。
						Dg	Ⅴg				
						Cg	Ⅳg	cg			
							Ⅴg				
							Ⅳg				
						Dg	Ⅴg	dg			100.18～100.67m：上下位に比べて優白質となり，割れ目沿いに細片化～細粒化している。
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	cg			
						Dg	Ⅴg				101.81～102.90m：上位に比べて微細な割れ目が発達，割れ目沿いに細片～細粒化している。
						Cg	Ⅳg				
						Dg	Ⅲg			2	104.00～107.68m：岩質はやや硬質化している。
					褐灰	Cg	Ⅳg				
							Ⅴg				
						Bg		cg			
					灰白		Ⅳg		γ		107.68～109.10m：割れ目間隔は1～15cmで，傾斜50°のものが発達し斜交する。
					明褐灰		Ⅴg				
							Ⅳg				109.41～109.96m：割れ目頻度は少なく，割れ目沿いは軽微な細片化している。
						Cg	Ⅴg				
							Ⅳg				110.64～112.09m：割れ目間隔は3～6cm，割れ目沿い及び岩芯が斑状に酸化され褐色化している。
					にぶい橙		Ⅳg				
							Ⅴg				112.09～112.68m：微細な縦方向の割れ目が分布するが，岩片は硬質である。 113.08～113.12m：割れ目沿いに褐色化している。傾斜45°，幅30mmである。
						Dg					113.12～113.43m：微細な割れ目に白色の粘土脈が網状に分布する。 113.53～114.84m：縦方向の微細な割れ目が発達する。下端境界は明瞭で傾斜60°である。
						Eg	Ⅵg	dg		3	
						Dg	Ⅴg	cg			
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg			2	115.85～116.79m：割れ目沿いに褐色化している。上部はマンガンに富む。 116.79～117.27m：微細な割れ目がみられるが岩片自体は硬い。
							Ⅴg				
							Ⅳg				117.27～117.59m：軟質化し微細な割れ目と浅黄色の変質鉱物が分布する。
					明褐灰	Dg	Ⅴg			3	
						Cg	Ⅳg			2	118.11～118.22m：脱色し不規則に灰白色の粘土を伴う。
						Dg	Ⅴg				
					灰白	Cg					

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
D'						8/6	135	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.1	150	0.3	泥水10	0
CL'							115							
D'						8/7	115					0.2	泥水10	0
							125							
						8/8	90							
							95							
CL'						8/12	105					0.3	泥水10	0
						8/15	100					0.4	泥水10	0
							130							
						8/16	100					0.3	泥水10	0

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
120				アプライト	灰白	Cg	Vg, IVg	cg	γ	2	119.05～119.88m：傾斜50～60°の割れ目が卓越し斜交する。すべての割れ目沿いに褐色化し一部で細片化している。 120.38～123.73m：傾斜30～60°とこれに交差する低角度の割れ目が発達し，コアは岩片～角礫状を呈する。 121.60m：傾斜60°，幅10mmの灰白色の粘土が挟在する。 122.70～122.77m：割れ目沿いに幅4～5mmで褐色の粘土が挟在する。その周縁で幅40mm程度が風化で褐色化している。 124.10～124.50m：岩芯には斑状，割れ目沿いは帯状の酸化褐色部が分布する。岩芯の一部に新鮮部が残留している。 125.32～125.43m：傾斜50°の割れ目が密集する。 125.97～126.05m：角礫状を呈する。上下端に，上端傾斜50°，下端傾斜40°の粘土を伴う。 128.26～128.71m：傾斜60°の割れ目と高角度の割れ目が交差し網目状を呈する。わずかに浅黄色の粘土を伴う。 129.03～129.85m：傾斜45～60°の割れ目が主となる。硬質である。 129.85～130.82m：上位に比べて岩盤が劣化し，傾斜45～60°の割れ目に不規則な割れ目が斜交する。 ●131.03～131.14m：破砕部 破砕幅は8.7cmである。 粘土混じり砂礫状を呈する。灰黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は62°，下端境界の傾斜は40°である。 131.28～131.88m：角礫状を呈する。網目状に破砕され固結している。 ●131.88～132.82m：破砕部 破砕幅は52.6cmである。 131.88～132.81m：粘土混じり角礫状を呈する，褐灰色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は60°である。上端で幅5cmにわたりマンガンが濃集し，せん断面には緑灰白色の粘土が分布する。 132.81～132.82m：暗褐色の未固結の粘土状部からなり，幅は0.4cmである。下端境界の傾斜は60°である。 ●135.30～135.52m：破砕部 破砕幅は12.9cmである。 135.30～135.32m：灰褐色の粘土混じり砂状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。 135.32～135.44m：粘土混じり砂状を呈し，浅黄桃色の固結した礫状部からなる。幅10mm程度のマンガンが帯状に分布する。 135.44～135.46m：浅黄桃色の固結した砂状部からなる。上端境界の傾斜は32°，下端境界の傾斜は34°である。 135.46～135.52m：粘土混じり砂状を呈し，浅黄桃色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は60°である。 ●137.72～138.18m：破砕部 破砕幅は41.7cmである。 137.72～137.73m：赤褐色の未固結の粘土状部からなり，幅は0.5cmである。 137.73～137.87m：粘土混じり砂礫状を呈し，浅黄桃色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は55°である。 137.87～138.18m：浅黄桃色の割れ目の密集部からなる。 141.87～146.10m：傾斜45～60°の割れ目が発達する。	CL'		8/16	100, 110, 120	86/泥水	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	0.1	150	0.3	泥水10	0
130					灰黄褐	Dg	Vg			3				8/17	90, 115					0.4	泥水10	0
					にぶい橙	Cg	IVg			2												
					灰黄褐	Dg	Vg			3												
					明赤灰	Eg	Vg	dg		3												
					灰褐	Dg	VIg	cg	δ	4		D'		8/18	115							
					明褐灰	Eg, Cg	Vg	cg	γ	2												
					明赤灰	Dg				3												
					灰赤	Eg	VIg	dg	ε	4				8/19	100, 90					0.4	泥水11	0
					にぶい黄橙	Dg, Cg	Vg, IVg, Vg	cg	γ	2		CL'										
140					褐灰	Dg	IVg			3				8/20	80, 105					0.3	泥水11	0
					にぶい橙	Cg, Dg, Cg, Dg, Cg	Vg, IVg, IIIg, IVg			2												
														8/21	125					0.4	泥水11	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
150				アプライト	にぶい橙	Cg	Ⅳg		γ	2	
					灰黄	Dg	Ⅴg				
						Cg	Ⅳg				
							Ⅴg				
					灰褐		Ⅳg				148.92～149.04m：暗緑色の変質鉱物が分布する。
						Cg					
						Dg	Ⅴg				149.04～149.63m：傾斜60～70°の割れ目が0.5～5cm間隔で発達する。岩片状コアが主で新鮮で硬い。
							Ⅳg				
							Ⅴg				
					明赤灰	Cg	Ⅳg			3	
							Ⅴg			2	151.00～151.45m：一部にマンガン汚染がみられる。
					褐灰		Ⅳg				
						Dg	Ⅴg		δ	3	152.00～153.00m：微細な割れ目が発達する。すべての割れ目がマンガンで汚染されている。
						Cg					
					にぶい橙	Dg				2	153.65m：傾斜70°，幅1～2mmで褐灰色の粘土状を呈する。幅2～3mmの固結したマンガン脈を伴う。
										3	153.65～153.80m：角礫状を呈し，劣化部である。方解石脈を伴う。
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				155.31m：傾斜80°，幅0.5mmの淡灰白の色粘土が挟在する。
							Ⅳg				
					灰褐	Dg	Ⅴg				
							Ⅳg			2	156.00～156.37m：傾斜70°程度の割れ目が発達する。これと斜交する微細な割れ目が分布する。
							Ⅴg				
						Cg	Ⅳg				156.37～158.17m：上位に比べて割れ目頻度は少ない。すべての割れ目にマンガンが付着する。
					灰黄		Ⅴg			3	158.63～159.27m：暗緑色の変質鉱物が分布する。斑晶含有率は1%程度である。
					にぶい橙	Dg	Ⅳg				159.60～160.84m：傾斜40～45°の割れ目が発達し，傾斜70°の割れ目を伴う。割れ目沿いは細粒化している。
							Ⅴg				
						Cg	Ⅳg			2	
							Ⅴg				
160	106.14	160.40									
				花崗斑岩	明褐灰		Ⅳg				160.40～240.00m：花崗斑岩である。アプライトとの境界は漸移的である。
					灰黄	Dg	Ⅴg		γ	3	160.84～161.49m：上下位に比べて岩盤が劣化し，割れ目の頻度が大きい。
					明緑灰		Ⅳg				161.49～162.80m：緑灰色化する。傾斜70°の割れ目が優勢である。割れ目沿いに微細な割れ目を調和的に伴う。
							Ⅲg			2	
						Cg	Ⅳg				
							Ⅴg				163.92～164.25m：淡赤色を帯び，暗緑色の変質鉱物が斑状に分布する。
							Ⅳg			3	
					緑灰		Ⅲg				
							Ⅳg			2	165.14～166.46m：傾斜約60°の割れ目が発達する。微細な割れ目を伴う。
										3	
										2	
										3	
					褐灰		Ⅲg			2	167.22～168.86m：変質作用による岩盤劣化部である。一部で割れ目沿いに細片化し，細粒化が顕著である。
					明赤灰	Dg	Ⅴg			3	
					灰白						168.18～168.86m：脱色し灰白色化している。傾斜60°程度の割れ目が発達する。
						Cg	Ⅳg			2	
						Dg	Ⅴg			3	169.12～169.43m：変質作用を受け緑色を帯びる。岩盤は劣化し軟質である。
					黄灰	Cg	Ⅳg		β	2	
170						Dg	Ⅴg			3	170.51～170.66m：割れ目及びその周辺が暗青灰色に変質している。
					褐灰	Cg				2	

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
							125							
						8/21	90							
							125					0.4	泥水11	0
						8/22	125							
CL'							90	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.1	150			
							110							
						8/23	90							
CM'														
CL'														
CM'														
							100					0.4	泥水12	0
						8/24								
CL'							135							
							120							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
180				花崗斑岩	褐灰	Cg				2	171.63～176.24m：傾斜45～60°の割れ目が発達する。割れ目交差部ではコアは細片化している。岩片は比較的新鮮で硬質である。	4 [0] 5 [0] 5 [0] 4 [0] 5 [0]	CL'						8/24	120	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.1	150	0.4	泥水12	0
						Dg																				
					明褐灰		Vg				174.21m：傾斜50°の割れ目に暗緑灰色を呈する変質鉱物が付着する。下盤側にも斑状で暗緑灰色鉱物が形成されている。															
						Cg		cg			176.24～177.20m：上下位に比べて割れ目は少ない。															
					灰						177.20～177.66m：脱色し割れ目はやや不明瞭である。	8 [0]							8/25	100							
							IVg																			
					緑灰	Dg	Vg			3	178.30m：傾斜80°，幅4mmの灰白色の粘土を挟在する。上端側は変質が強い。	9 [0]								95				0.3	泥水12	0
						Cg				2	178.97～179.05m：変質作用により岩盤が劣化し，下位に比べて軟質である。	4 [0]														
					灰																					
					灰白	Dg				3	179.05～180.55m：微細な割れ目が発達する。	3 [0]								120				0.6	泥水12	0
					灰																					
							Vfg	dg			180.55～180.70m：礫混じり砂状を呈する。割れ目は消滅し岩組織不明瞭である。固結している。															
						Cg	Vfg	cg		2		3 [0]														
						Eg					181.02～181.89m：礫混じり砂状を呈する。硬質岩片を含むが割れ目は消滅する。一部で固結している。														
					緑灰	Dg	Vfg	dg		3		4 [0]	D'													
						Cg	Vg	cg	β	2	183.04～183.56m：割れ目は少なく新鮮で硬質である。	6 [0]														
							IVg																			
						Dg	Vg				183.56m：傾斜45°の割れ目に暗緑色の変質鉱物が付着する。幅10.5mmの方解石脈が伴う。	9 [0]														
					オリーブ灰		IVg																			
					灰白		Vg																			
							IVg				184.46～185.42m：微細な割れ目が発達する。下端の傾斜80°の割れ目に暗緑色変質鉱物が付着する。	12 [12]														
							Vg																			
							IVg					7 [0]														
							Vg					15 [15]														
							IVg																			
							Vg					9 [0]														
						Cg	IVg																			
							IVg				187.78～189.19m：傾斜40～50°の割れ目が発達する。微細な割れ目を伴う。	9 [0]	CL'													
							Vg					4 [0]														
190					褐灰		IVg					8 [0]														
							Vg																			
							IVg				191.31～192.95m：微細な割れ目が不規則に分布する。暗緑色の変質鉱物を伴う。	3 [0]														
						Dg	Vg				192.30～192.46m：粘土混じりシルト状の変質脈が幅4mm，暗緑色で分布する。	4 [0]														
							IVg				192.85～192.88m：割れ目沿いに方解石脈が不規則に分布する。	4 [0]														
						Cg	Vg					7 [0]														
					灰																					
					灰オリーブ	Bg	IVg				195.68m：傾斜45°の割れ目周縁が変質で暗緑色化している。幅20mmの黄鉄鉱を伴う。	14 [14]	CM'						9/1	85				0.6	泥水12	11
					灰黄	Cg	Vg				196.00～197.88m：不規則な方解石脈，暗緑灰色の変質鉱物脈が分布する。	3 [0]	CL'													
						Dg															115						
						Cg																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
					灰黄		Vg				197.88～199.46m：劣化は軽微で，変質鉱物は少ない。一部割れ目密集部が分布する。	3 (0) 9 (0) 10 (10) 12 (12) 7 (0) 5 (0) 3 (0) 5 (0) 7 (0) 8 (0) 11 (11) 10 (10) 13 (13) 8 (0) 11 (11) 8 (9) 10 (10) 13 (13) 4 (0) 6 (0) 3 (0) 6 (9) 15 (15) 9 (0) 4 (0) 8 (0)							9/1	115						
					灰		IVg																			
					オリーブ灰	Cg	Vg																			
200							IVg			2	199.46～199.67m：割れ目が密集すし劣化している。下端に暗緑灰色の変質鉱物が付着する。															
					灰		Vg				199.67～201.03m：劣化は軽微である。傾斜60～70°の割れ目が分布する。								9/2	105						
					緑灰		IVg																			
						Dg	Vg				202.39～205.04m：変質で劣化し脱色・白濁化している。上端に傾斜45°，幅1～6mmで暗緑灰色の粘土脈が分布する。															
						Cg																				
							IVg				203.92～204.36m：変質で緑泥石化している。															
					灰	Dg	Vg			3	204.03m：傾斜45°，幅6～7mmで方解石脈，緑黒色脈が混在する。															
						Cg	IVg			2																
						Dg	Vg			3																
							IVg				205.04～205.40m：劣化は軽微である。微細な割れ目が分布するが，連続性に乏しい。								9/3	115						
							Vg																			
					オリーブ灰		IVg				206.00～206.36m：縦方向の割れ目に方解石脈と暗緑灰色の変質鉱物脈が混在する。										125					
							Vg																			
					緑灰		IVg				207.92～208.42m：割れ目が多く細片化，細粒化している。															
						Cg	Vg			2																
							IVg	cg	β		209.42～210.83m：わずかに脱色している。不規則，不連続の微細な割れ目が分布するが，大きい劣化はない。															
210				花崗斑岩	灰		Vg				210.64～210.65m：上端傾斜57°，下端傾斜52°，幅8～10mmで灰色の砂混じりシルトと石英脈が挟在する。		CL'						9/4	105	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.1	150			
						Dg				3	210.93～211.03m：幅4cm程度で変質を受け，暗緑灰色を呈する。															
					オリーブ灰		IVg				212.14～215.73m：傾斜25～70°の割れ目が発達する。一部で割れ目沿いに細片化している。															
					灰		Vg																			
					オリーブ灰	Cg	IVg			2																
							Vg																			
					緑灰		IVg																			
							Vg																			
						Dg				3																
					灰	Cg	IVg				216.56～217.00m：微細な割れ目が発達する。上下端に幅0.5～4mmで暗緑灰色の変質脈が挟在する。								9/5	100						
						Dg																				
							Vg																			
					灰褐		IVg			2	218.24m：幅1.5mm，傾斜45°の暗緑灰色の変質脈を挟む。															
					オリーブ灰	Cg	Vg																			
							IVg																			
					褐灰		Vg				219.27～219.63m：縦方向の割れ目と低角度の微細な割れ目が斜交する。一部で細片化，細粒化している。										85					
220							IVg																			
					オリーブ灰		Vg																			
					暗緑灰	Eg Dg	Vg	dg	γ	4 3	221.11～221.19m：網目状に砂が分布する。															
					褐灰	Cg	Vg	cg	β	2	221.19～222.71m：上部は傾斜30～45°，下部は傾斜60～75°の割れ目と微細な割れ目が発達する。割れ目沿いに細片～細粒化している。部分的に脱色し軟質である。								9/6	110						
							IVg																			

送水量(L／分)	泥水 12	泥水 12	泥水 13
送水圧(MPa)	0.6	0.6	0.6
排水量(L／分)	11	12	13

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入) 試験 (N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
							Ⅳg				223.40～224.85m：ハンマー打診で金属音を発する。	12 [12]	CL'						9/6	110						13
							Ⅲg					26 [31]	CM'							55						
							Ⅴg					15 [15]	CL'													
						Cg	Ⅲg					9 [0]	CM'						9/7	85				0.6	泥水13	
											228.60～229.05m：傾斜65°の割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。	13 [13]													
							Ⅳg	cg	β	2	228.86m：傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出している。	9 [0]	CL'												
							Ⅴg					9 [0]														
							Ⅳg					9 [0]														
−230							Ⅲg				231.50～231.67m：上端傾斜50°，下端傾斜30°の割れ目に沿って径1～2cmに細片化している。	16 [53]	CM'							75						
						Bg						8 [0]														
					花崗斑岩						232.45m，232.50m，232.70m：傾斜5～10°の低角度割れ目が65°割れ目に切られる。	9 [0]														
						Cg	Ⅳg				233.86～234.23m：微細な割れ目が1～3cm間隔で分布，細片化している。	9 [0]							9/8		86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	0.1	150	0.6	泥水13	10
												10 [10]								100						
					褐灰		Ⅴg				●234.23～234.38m：破砕帯(D-37)破砕幅は3.6cmである。234.23～234.37m：角礫状を呈する，褐灰色の割れ目の密集部からなる。径1cm前後の角礫が主体となる。234.37～234.38m：暗緑色の角礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。傾斜は76°である。軟質粘土に径2～4mmの花崗斑岩細礫や石英粒が混じる。	9 [0]	CL'													
						Dg	Ⅴg	dg	δ	3		9 [0]														
						Cg	Ⅳg					9 [0]														
							Ⅴg					9 [0]														
							Ⅳg					9 [0]														
							Ⅴg					9 [0]							9/9							
							Ⅳg	cg	β	2	236.90～239.00m：傾斜40～85°の割れ目と微細な割れ目が1～3cm間隔で発達する。	7 [0]								90				0.6	泥水13	0
						Dg	Ⅴg				239.00～240.00m：割れ目はやや減少する。傾斜65～70°と5～15°の割れ目及び微細な割れ目が1～3cm間隔で分布する。	9 [0]														
−162.43	240.00					Cg	Ⅳg					7 [0]								85						

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	B8-22	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	3.22 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 323.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°
総掘削長	240.00 m	使用機種		試錐機		ハンマー落下用具	
				エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入 N値～深度) 試験図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
												0 50 100				0 10 20 30 40 50						試掘／試掘	0.0	0		試掘	
					オリーブ黒						0.00～4.97m：埋土である。 0.00～0.40m：砕石からなる。径2～5mm(最大径30mm)で，黒色を呈する。 0.40～0.67m：シルト混じり砂礫からなる。径2～30mmの花崗斑岩礫及び黒色砕石を10～20%程度含む。基質はシルト質砂からなる。 0.67～2.00m：径2mm以下の砕石(中粒砂～細礫)を主とする。 2.00～4.55m：径2～5mm(最大35mm)の砕石が主体となる。わずかに径2～30mmの花崗斑岩亜角礫が混入する。 4.55～4.97m：礫混じり砂からなる。細～粗粒砂を主体とし，径1～60mmの花崗斑岩亜角～亜円礫を含む。全体に植物片を混入する。					7/21	605						
					灰															885			5.0				
	-0.29	4.97			浅黄																					
	-0.43	5.16		シルト質砂	灰																					
					黒褐						4.97～63.86m：砂質土主体で，下部に砂礫を含む第四系である。 4.97～5.16m：シルト質砂である。中粒砂を主とし，シルトを混入する。 4.97～5.04m：木片，有機物に富む。 5.16～7.22m：有機質シルトである。腐植物及び木片を多く含む。 6.50m以深：中粒砂が混じる。						560						
	-1.89	7.22		有機質シルト																						
				礫混じり砂	灰白						7.22～8.27m：礫混じり砂である。中～粗粒砂が主体となる。礫は径5mm以下の石英，長石が主となる。礫やシルト，有機質分の多寡で細かく土相変化する。						730						
	-2.63	8.27									8.27～9.45m：礫質砂である。															
				礫質砂	灰黄						9.36～9.45m：有機質シルトからなる。8.77mの傾斜は約30°，9.28mの傾斜は約40°である。																
	-3.46	9.45									9.45～14.95m：砂である。中～粗粒砂が主体となる。12.88～13.07m：細粒砂が主体となる。腐植物を多く含む。14.59m，14.95m：傾斜45°の明瞭な構造が認められる。						560						
10					明黄褐																					
				砂	にぶい黄橙																					
					灰オリーブ																			3.0			
					にぶい黄橙																					
					灰白															910						
	-7.35	14.95			浅黄						14.95～17.20m：シルト混じり砂である。シルトの混じる中～粗粒砂が主で不均質である。径2～5mmの石英を含む。															
				シルト混じり砂	オリーブ黄																					
	-8.94	17.20			明黄褐						17.20～18.72m：砂である。シルト混じり中～粗粒砂が主で，径2～5mmの石英を含む。									7/23							
				砂	灰オリーブ																850						
	-10.02	18.72			浅黄						18.72～22.45m：礫混じりシルト質砂である。中～粗粒砂が主で不均質である。径2～10mm程度の石英，長石及び花崗斑岩亜角礫を数～10%程度含む。															
				礫混じりシルト質砂	オリーブ灰																						
					暗オリーブ灰																760						

掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット
	／試掘	試掘／試掘
605	165／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルクラウン
885		
560		
730		
560		
910	140／ケーシング	
850		
760		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
											20.20～20.42m：貝殻片が散在する。
	-12.65	22.45		礫混じりシルト質砂	暗オリーブ灰						22.45～24.09m：礫混じり砂質シルトである。 細粒砂が混入するシルトが主で，中粒砂や径2～5mmの石英角礫が全体に混入する。微細な貝殻片が多い。
	-13.81	24.09		礫混じり砂質シルト							24.09～25.51m：礫混じりシルト質砂である。 シルト質細～中粒砂が主で，径2～5mmの石英がわずかに混入する。一部で貝殻片が集中している。 24.09～24.37m：上方で細粒化した細粒砂からなる。
	-14.82	25.51		礫混じりシルト質砂							25.51～27.25m：礫混じり砂質シルトである。 シルトを主とし全体に細～中粒砂，径2～5mmの石英，貝殻片が混入し植物片が散在する。25.81m以浅では砂質シルトを呈する。
	-16.05	27.25		礫混じり砂質シルト	暗緑灰						
	-16.54	27.94		シルト質砂							27.25～27.94m：シルト質砂である。 細粒砂が主で，シルト及び中粒砂が全体に混入する。貝殻を多量に含む。
	-17.49	29.29		礫混じりシルト質砂							27.94～29.29m：礫混じりシルト質砂である。 植物片が点在する。下部は礫・シルト分が少なくなる。 28.42m付近：貝殻片が混入する。
30	-18.17	30.25		礫質砂							29.29～30.25m：礫質砂である。 中～粗粒砂が主で，径2～5mm程度の石英を30%程度含む。
	-18.73	31.04		有機質砂	黒褐灰						30.25～31.04m：有機質砂である。 細粒砂～中粒砂が主で径2～5mmの石英が混入する。下部は径50mmの礫が分布する。 31.08m：有機物が濃集している。
	-19.41	32.00		礫混じり砂	灰白						31.04～32.00m：礫混じり砂である。 細～中粒砂が主で径2～4mmの細礫が混じる。下部は礫質で径50mmの亜円礫を含む。 31.08m付近：有機物が混じる。
	-20.79	33.95		砂							32.00～33.95m：砂である。 細～中粒砂が主で部分的にシルト，粗粒砂が混じる。 32.05～32.27m：有機物が混入する。
	-21.94	35.58		礫質砂	灰						33.95～35.58m：礫質砂である。 細～粗粒砂が主で，径2～10mmの亜角礫を20～30%含む。 33.95～34.16m：礫が多い。 34.16～34.35m：細粒砂が主体となる。
40	-27.06	42.82		砂礫	明褐灰 褐灰 にぶい黄橙 オリーブ 灰オリーブ						35.58～42.82m：砂礫である。 35.58～37.45m：礫は径5～100mm（最大200mm）の亜角礫が主で基質は有機物・シルト混じりの不均質な砂からなる。礫率は50～70%である。 37.45～39.66m：径2～30mm（最大50mm）の亜角～亜円礫が主となる。基質は細～粗粒砂からなり，全体的に酸化汚染を受ける。 39.66～42.82m：径2～30mm（最大180mm）の亜角～亜円礫が主となる。基質は細～粗粒砂からなり不均質である。全体的に酸化鉄汚染を受ける。礫種は花崗斑岩が主となる。径100mmを超える礫は硬質が多い。 40.55～40.70m：粗粒砂～礫混じり粗粒砂である。黒色の炭化物が混入する。 41.42～41.52m：有機物が混入する。
				礫質砂	灰白						42.82～46.84m：礫質砂である。 細～粗粒砂からなる不均質な砂で，径5～40mm（最大150mm）の亜角礫が混じる。礫率は20～30%，最大約5%である。細礫は石英粒子が主体となる。 44.08～45.14m：礫率数%で上下より礫量が減少した中粒砂が主の礫混じり砂を呈する。 46.72～46.84m：均質な細粒砂からなる。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
						7/23	760			3.0		0.1	泥水15	15
							465					0.1	泥水15	5
							485					0.1	泥水15	15
						7/24	540	140／ケーシング	ダブルコアチューブ／メタルクラウン		60			
							515					0.1	泥水15	5
												0.1	泥水15	15
							580			40.0		0.1	泥水15	10
						7/25	130							
							90	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット		100	0.1	泥水5	5
						7/26	95							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				礫質砂	灰白						
	-29.90	46.84			黄灰						
				木片	黒褐						46.84～47.87m：木片である。 部分的にシルト・砂・礫が混じる。
	-30.63	47.87			灰 黒褐						
				礫質砂	灰 灰白						47.87～49.16m：礫質砂である。 細～粗粒砂からなる不均質な砂で，全体に径2～10mmの角～亜角礫が10～20%混じる。径2～5mmの石英が細礫として多く分布する。
	-31.54	49.16									
				砂	灰 暗褐 灰白						49.16～51.21m：砂である。 49.16～49.55m：径2～5mmの石英粒が混じる中～粗粒砂からなる。 49.55～51.21m：細～中粒砂からなり部分的に径2～5mmの細礫が混入する。有機物が点在する。
50	-32.99	51.21			暗灰黄						
				砂礫	黄褐 灰 浅黄						51.21～53.33m：砂礫である。 礫は径2～30mm(最大径60mm)の亜角～亜円礫で，礫種は花崗斑岩の風化礫が主となる。基質は細粒砂～粗粒砂からなる。礫率は60～70%である。
					黄褐						
	-34.49	53.33			灰黄						
				礫混じり砂	明黄褐						53.33～54.57m：礫混じり砂である。 砂は中～粗粒砂が主となる。礫は径5～10mmの亜角礫が主となる。礫種は石英を主としてカリ長石，花崗斑岩が分布する。不均質でやや締りが悪い。
	-35.37	54.57			灰白						54.57～55.22m：シルト混じり砂である。 細～中粒砂が主で不均質にシルトが混じる。傾斜40～45°の葉理が分布する。
	-35.83	55.22		シルト混じり砂							
				砂礫	にぶい黄橙						55.22～59.93m：砂礫である。 55.22～56.22m：径2～8mmの石英と径5～50mm(最大90mm)の亜角～亜円礫を40～50%程度含む。基質はシルト混じり中～粗粒砂からなる。全体に不均質である。 56.22～59.93m：径10～40mm(最大90mm)の花崗斑岩角～亜角礫を30～40%程度含む。礫は風化で褐色～黄褐色を帯びるが硬質礫が主となる。基質は中粒砂が主で細粒砂～細礫を混入し不均質である。
					黄褐						
60	-39.16	59.93									
				礫質砂	灰白						59.93～61.15m：礫質砂である。 砂は粘土混じり中粒砂が主となる。径10～50mm(最大90mm)の半クサリ礫を20～30%含む。
	-40.02	61.15		粘土混じり礫質砂	にぶい黄橙						61.15～62.75m：粘土混じり礫質砂である。 粘土を不均質に混入する中粒砂が主となる。径2～5mmの石英・長石と花崗斑岩類の半クサリ礫を10～20%含む。
	-41.15	62.75									62.75～63.17m：砂礫である。 径10～30mmの花崗斑岩風化礫が主となり，礫率は20～30%である。基質は粘土混じり中粒砂からなる。
	-41.45	63.17		砂礫	明黄褐						63.17～63.86m：シルト混じり砂である。 細～中粒砂が主でシルトが混入する。
	-41.94	63.86		シルト混じり砂							
						Eg	VIg	dg	ε	4	
						Dg	Vg	cg	δ	3	63.86～188.09m：花崗斑岩である。 63.86～63.90m：強風化・変質部である。岩芯まで酸化汚染が進み，土砂状を呈する。 63.90～64.02m：変質が進み，岩芯まで劣化している。
						Eg	VIg	dg	ε	4	
					灰白	Dg	Vg	cg	δ	3	64.02～71.40m：割れ目間隔1～5cm，傾斜70°の高角度平行割れ目と，割れ目間隔1～4cm，傾斜20～30°の低角度平行割れ目が交錯している。概ね前者が卓越する。割れ目に沿って黄褐色の汚染及び斑状汚染が認められる。
				花崗斑岩		Cg	IVg				
						Dg	Vg				
						Cg	IIIg IVg				65.62～65.89m：割れ目に沿って細粒化が進み軟質である。
						Dg	Vg				

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
			7/26	95			40.0	100	0.1	泥水5	5
			7/27	135					0.1	泥水15	15
									0.1	泥水10	10
			7/28	65			30.0	60	0.1	泥水10	0
				95							
			7/29	90	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット					
				85							
			7/30								
			7/31	75			40.0	100	0.1	泥水5	5
			8/1	80							
			8/2	95	86／泥水						
			8/3	85							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
80				花崗斑岩	黄橙	Eg	Ⅵg	dg	ε	3	70.00～70.45m：傾斜45～60°の割れ目に沿って熱水変質が認められる。									85						
						Cg	Ⅳg		δ		70.45～75.38m：割れ目間隔は1～5cmで，微細な割れ目が分布する。															
							Vg																			
						Dg	Ⅳg				74.16m：傾斜65°の割れ目に沿って細粒化している。割れ目は酸化汚染により褐色化している。一部でマンガンが付着する。								8/3							
							Vg				75.38～75.40m：上端傾斜が60°，下端傾斜が75°程度，幅20～25mmの固結した粘土混じり角礫状を呈する。															
					明褐灰	Cg			γ	2										100						
						Dg	Ⅳg				76.87～79.37m：高角度の割れ目が発達する。低角度の割れ目との交差部分で岩片状～角礫状化している。								8/4							
							Vg				79.92～81.66m：上下位に比べて割れ目は少なく岩自体も硬質である。割れ目間隔は0.5～5cmで，岩片状～短柱状コアが主となる。		CL'													
						Cg	Ⅳg				81.37m：傾斜70°の割れ目周辺に幅15mmの淡緑灰色鉱物が晶出している。幅3mm程度の褐色のシルト質粘土を伴う。									90						
						Dg	Vg				82.76～84.04m：傾斜60°程度の割れ目と，これに交錯する微細な割れ目が発達し一部礫状化している。全体に風化・変質も進みコアは軟質である。幅3～9mmの石英脈が傾斜約70°で連続する。								8/5	85	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	40.0			
						Cg	Ⅳg																			
					明黄褐	Dg	Vg	cg	δ	3																	
										2																
										3																
					明赤灰	Cg	Ⅲg		γ	2																
							Ⅳg																			
							Ⅲg																			
							Ⅳg				84.92～86.05m：岩芯は概ね新鮮であるが，割れ目は褐色化している。									80						
						Dg	Vg				86.05～86.22m：上下位に比べて軟化している。															
					明褐灰	Cg	Ⅳg				86.82～89.48m：岩芯は新鮮で硬質である。 87.61m：傾斜70°の割れ目周縁20mmにわたり淡青灰色の鉱物が晶出している。割れ目には褐色の細粒物質が薄く付着する。								8/6					130		
					灰白															60						
90					褐灰	Bg	Ⅲg				89.48～90.30m：岩芯は新鮮である。割れ目は褐色化し黒褐色のマンガンが付着する。		CM'													
					明褐灰	Cg	Ⅳg				91.45～91.62m：変質で暗青灰色化している。 91.55m：幅2～3mmの軟質な褐色の粘土を挟在する。																
					にぶい黄橙	Dg																						
					灰黄	Cg	Ⅳg				93.40～93.90m：傾斜30～60°の割れ目が斜交し，割れ目沿いに細片～細粒化している。		CL'						8/7	75				0.1	泥水5	3
						Dg	Vg																			
						Cg	Ⅳg				94.87m：傾斜70°程度，幅8mmの灰白色で軟質な砂混じり粘土を挟在する。															
						Dg	Vg																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
					灰黄	Dg	Vg		γ		96.20～96.70m：傾斜10°前後の低角度割れ目が1～3cm間隔で分布する。微細な割れ目が多く分布し岩質もやや軟質である。									75						
						Cg	Ⅳg				96.85～100.00m：硬質である。															
100											99.70m：傾斜70°割れ目に交差する割れ目が発達し，コアは岩片状を呈する。								8/7				130		
						Dg			δ		100.00～100.26m：上下位に比べ軟質である。割れ目頻度も多い。															
					灰白																					
					明褐灰		Ⅲg		γ		100.86～101.03m：傾斜70°の割れ目沿いの変質で，幅7cm程度，暗青灰色化している。灰白色の粘土を伴う。									70				150		
											102.79～103.46m：傾斜45°の割れ目沿いの変質で暗青灰色化している。割れ目幅は3～4mmで銀白色の鉱物が晶出している。															
					にぶい黄橙				δ												80						
					灰白	Cg	Ⅳg	cg		2	105.17m：傾斜70°の割れ目に層状にマンガンが幅1cmで分布する。															
					灰黄		Ⅲg		γ		107.00～108.42m：割れ目間隔は1～5cmが主で部分的に密集する。								8/8	75	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット		140	0.1	泥水5	3
							Ⅳg				108.58～110.94m：割れ目に沿って風化が進む。															
							Vg																			
					灰白	Dg	Ⅳg				109.11m：傾斜65°程度，幅5mmの黄白色の砂混じり粘土状を呈する。									65						
110					にぶい黄橙	Cg					109.74～109.82m：傾斜75°の割れ目周縁に，変質で幅4cm程度の暗青灰色鉱物が晶出する。															
						Bg	Ⅲg				110.94～112.70m：硬質である。ハンマーの打撃で金属音を発する。															
					明灰褐						112.70～113.60m：割れ目が多い。割れ目周辺にマンガンが濃集する。									60						
					にぶい黄橙		Ⅳg				113.60～113.80m：割れ目が密集し風化も進む。															
						Cg	Vg				傾斜60°の割れ目に淡黄灰色の粘土が挟在する。															
							Ⅲg																			
							Vg																			
							Ⅳg																			
					明褐灰	Eg	Ⅵg	dg	ε	4	●114.71～115.13m：破砕帯(D-38) 破砕幅は21.0cmである。 粘土混じり砂礫状を呈し，明褐色の固結した礫状部からなる。上端，下端境界の傾斜はともに60°である。								8/9	75						
						Dg	Vg		δ	3																
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	115.13～115.46m：角礫状を呈する。岩組織は残存し下端境界の傾斜は60°でシャープである。 115.61m，115.73m：割れ目沿いに細片化している。傾斜60°，幅2～5mmで連続する。 117.27～117.29m：変質で暗青灰色化している。傾斜は60°程度，幅20mmである。									65				150	0.1	泥水5	0
						Bg		bg			118.41～118.57m：変質で暗青灰色化している。傾斜は60°程度，幅120mmである。中央付近に傾斜60°，幅12mmの灰白色砂混じり粘土を挟在する。															
						Cg																				
						Bg																				
						Cg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg	cg			
					灰黄	Bg	Ⅲg	bg			120.88～122.28m：新鮮・硬質である。
					にぶい黄橙		Ⅳg				122.58～123.19m：割れ目が発達し，割れ目沿いに細片化している。
						Cg	Vg				123.19～124.48m：傾斜60°の割れ目が多い。
					灰黄褐		Ⅳg				124.48～125.13m：一部で角礫状～細粒化している。
							Vg				
							Ⅳg				125.93～125.96m：割れ目沿い幅2cmで細片化～細粒化している。
						Bg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				127.71～129.51m：割れ目間隔は概ね5～10cmと広い。
					灰白	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	129.51～129.90m：割れ目が密集している。傾斜70°の割れ目が主となる。
					にぶい橙		Vg				
130					灰黄褐		Ⅲg				130.50～130.64m：低角度の割れ目が密集し，割れ目沿いに細片化～細粒化している。
							Vg				131.14～132.03m：傾斜70°以上の高角度割れ目と5～10°の低角度割れ目が斜交し，割れ目沿いに細片化している。
							Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				133.12～133.17m：割れ目沿いの岩盤劣化部である。傾斜は70°，幅20mmである。割れ目沿いに細片化し，岩片は割れ目と同方向に配列している。
							Vg				
							Ⅳg				
					にぶい橙		Vg				134.07～134.45m：割れ目が密集し，割れ目沿いに細片化している。
					灰黄褐		Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				136.50～136.68m：割れ目が密集する。
							Vg				
							Ⅳg				
					明褐灰	Bg	Ⅲg		β		137.60～137.73m：割れ目が密集し，幅1mm程度の酸化物が挟在する。
							Ⅳg				
							Vg		γ		
							Ⅲg				139.00～140.97m：割れ目間隔は概ね5～10cm程度と広い。
					灰黄褐		Ⅳg		β		
									γ		
140						Cg					140.00～140.18m：未風化で新鮮である。
							Vg				
					にぶい赤橙		Ⅳg				141.46～143.52m：割れ目が密集し細片～細粒化している。
							Vg		γ		
							Ⅳg				●143.52～143.76m：破砕帯(D-7) 破砕幅は13.8cmである。 褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は60°である。
					褐灰	Eg	Vg	dg	δ	3	
						Cg	Ⅳg	cg	γ	2	
							Vg				143.76～144.32m：割れ目が多く割れ目沿いに細片～細粒化している。岩自体は硬質である。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
CL′						8/9	65							
CH′														
CL′							70							
CM′						8/10								
CL′							60							
CM′														
CL′							65	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	60.0	150	0.1	泥水5	0
CM′														
CL′							70							
CM′						8/11								
CL′							65							
CM′														
CL′						8/12								
						8/13	70							
						8/19	90			20.0	100	0.1	泥水3	3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
150				花崗斑岩	褐灰 明褐灰 灰黄褐 にぶい橙 明褐灰 にぶい橙 灰褐 灰黄褐 灰褐 にぶい橙 浅黄 灰褐 灰黄褐	Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg	Vg IVg Vg IIIg Vg IVg Vg IIIg Vg IVg Vg IVg Vg IVg Vg IVg Vg IVg Vg IVg Vg IVg Vg IVg Vg IVg Vg IVg	cg	γ δ γ δ γ δ	2 3 2 3 2 3 2 3 2 4 3 2	145.20～145.22m：上下端の傾斜が45°，幅5～20mmの粘土混じり砂状を呈する。 147.12～148.39m：新鮮で硬質である。 148.39～148.80m：割れ目は褐色化し，微細な割れ目に灰白色の粘土が挟在する。 149.75～149.79m：上端傾斜が45°，下端傾斜が65°，幅10～30mmの割れ目密集部で角礫状を呈する。 151.13～152.76m：割れ目沿いに変質を受けコアは脆い。一部で細片化している。 152.76～153.13m：微細な割れ目が網目状に発達する。割れ目沿いに変質が進む。 152.95～152.96m：傾斜20°，幅10～15mmの黒褐色のシルト質粘土を挟在する。 154.25～155.49m：硬質で微細な割れ目が少ない。 156.49m：傾斜60°の割れ目に幅2～5mmのマンガンが挟在する。 157.00～158.16m：割れ目が密集し礫状化している。 159.55～160.05m：傾斜45～50°の割れ目が3～5cm間隔で平行に分布する。割れ目沿いに幅1mm以下のマンガンが付着する。 160.05～160.40m：傾斜60°と10～20°の割れ目が密集し細片化している。 161.98～162.25m：傾斜10～30°の割れ目が1～3cm間隔で平行に分布し，岩片状を呈する。 164.44～164.60m：傾斜60°と10～20°の割れ目が斜交し，岩片化している。 166.37～166.46m：粘土混じり角礫状を呈する。上端境界は55°で，岩組織は不明瞭である。 166.46m：傾斜が50°，幅2mmの灰白色の粘土を挟む。 166.46～166.78m：上下端に幅1～2mmのマンガン濃集帯が分布する。微細な割れ目にマンガンが細脈を呈する。 169.09～170.12m：傾斜30～50°の割れ目が0.5～3cm間隔で発達し，一部割れ目沿いに細片化している。		CL' CM' CL'						8/19 8/20 8/21 8/26	90 75 95 175 100 120 75 85 80	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0 30.0 40.0	100 200 150	0.1 0.1 0.1	泥水3 泥水5 泥水5	3 0 5
160																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	灰黄褐	Cg	Vg	cg	γ	2	171.00～171.07m：割れ目密集部である。 171.22～173.00m：傾斜0～60°の割れ目が不規則に分布し，角礫状化している。
							Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				173.37～174.08m：傾斜20°前後の低角度割れ目が主となる。割れ目沿いに細片化しマンガンが付着する。下端付近は変質で暗青灰色化している。
							Vg				
							Ⅳg				174.21～174.25m：微細な割れ目が密集する。
					にぶい橙		Vg				176.01～176.68m：割れ目はやや少ない。
							Ⅳg				●176.68～177.31m：破砕帯(D-6) 破砕幅は10.0cmである。 176.68～176.71m：黒褐色の角礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は2.4cmである。上端境界の傾斜は60°である。 176.71～177.31m：砂混じり礫状を呈し，灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は35°である。
					灰白	Eg	Wg	dg	δ	4	
					にぶい橙		Ⅳg			3	
					赤灰		Ⅱg				
							Ⅳg			2	177.31～177.52m：角礫を呈する。固結した砂礫様である。一部で粘土分に富む。 178.27～179.77m：割れ目間隔は2～8cmで硬質である。
					灰褐		Vg		γ		
180					灰黄褐		Ⅳg	cg		3	180.37～180.64m：変質で長石類が緑色化している。
					にぶい橙						182.64～182.72m：傾斜60°，幅50mmのペグマタイト脈である。
					灰赤	Dg	Vg		δ		182.98～183.86m：傾斜10～20°と50～90°の微細な割れ目が概ね12cm間隔で分布する。
							Ⅳg				
					にぶい橙	Cg	Vg		γ		184.03～184.56m：傾斜40～60°の割れ目が発達する。同傾斜の微細な割れ目が概ね1～3cm間隔で分布する。
							Ⅳg				
					赤灰	Bg	Ⅲg	bg			185.25～186.12m：割れ目は少なく割れ目沿いに弱く風化するが硬質である。
						Cg	Ⅳg				
					にぶい橙	Dg	Vg		δ	2	186.55～186.63m：角礫岩様で軟質である。
							Ⅳg				187.60～188.09m：割れ目が多い。割れ目沿いに細片化している。
							Vg				
	129.78	188.09		ペグマタイト							188.09～188.92m：ペグマタイトである。 斑晶は5～10mmの石英，長石とカリ長石を主とする。
	130.37	188.92									
				花崗斑岩	赤灰	Cg	Ⅳg	cg	γ		188.92～240.00m：花崗斑岩である。境界の傾斜は50°である。割れ目でペグマタイト側は細片化するが，花崗斑岩は硬質で割れ目が少ない。
							Ⅲg				
190					灰褐		Ⅳg				
							Ⅲg				
					灰		Ⅳg				189.52～192.59m：割れ目間隔が概ね10～30cm以上と良好な岩盤も含む。
							Ⅲg				
							Ⅳg				192.87～193.10m：変質で淡黄白色の細粒物質を伴い軟質である。
							Ⅲg				
					にぶい橙		Vg				
					灰	Dg	Ⅳg			3	193.56～194.26m：割れ目間隔は概ね10cm以上で風化・変質は軽微である。
						Cg	Ⅲg			2	
					明灰褐	Dg	Vg			3	194.26m：傾斜55°，幅5mmの軟質な暗緑色の変質粘土脈である。
					灰	Cg				2	

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N値)	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
CL'		10 [10]				8/26	80							
		6 [0]												
		3 [0]												
		5 [0]												
		7 [0]												
		6 [0]												
		4 [0]				8/27	85							
D'		29 [43]												
		23 [34]												
CM'		16 [16]						86／泥水		40.0		0.1	泥水5	5
		15 [15]												
		13 [13]					75		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット		150			
CL'		7 [0]												
		5 [0]				8/28								
		10 [10]					100							
CM'		17 [36]												
CH'		12 [12]					70							
		15 [15]				9/7	80							
CL'		4 [0]												
		27 [27]					85							
CM'		13 [13]												
CL'		30 [30]				9/15		75／泥水		60.0		0.2	泥水5	5
CM'		24 [30]					100							
CL'		19 [19]									160			
CM'		20 [20]				9/16	85							
CL'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
					灰		Vg		γ		195.56～197.16m：コアは新鮮で硬質である。微細な割れ目はほぼ密着している。	12 [92] 100	CL'													
							IVg																			
							IIIg																			
							Vg																			
							IIIg				196.84m：幅20mmの変質粘土脈である。黄鉄鉱を伴う。	24 [55] 100	CM'						9/16	105						
					灰褐	Cg	IVg	cg			197.16～198.54m：全体に赤色を帯びる。	1 [11] 100														
					褐灰						198.67～200.10m：概ね新鮮であるが，割れ目沿いに細片化している。	12 [92] 100	CL'								75／泥水					
							Vg																			
200							IVg				200.51～200.55m：傾斜60°の淡緑色の変質粘土脈である。脱色し軟質である。	10 [10] 100							9/17	65						
					黄灰		IIIg					14 [47] 100														
							Vg																			
					灰	Bg	IIIg				200.10～225.94m：割れ目間隔は10cm以上を多く含み良好な岩盤が広く分布する。	23 [59] 100								80						
						Cg	IVg	bg																		
						Bg	IIIg				202.97m：傾斜55°の割れ目に，幅1mmの暗緑色の砂質シルト状の変質鉱物が挟在し，黄鉄鉱を伴う。	21 [59] 100	CM'						9/18	85						
						Cg	IVg	cg																		
						Bg	IIIg				203.78～204.12m：割れ目が多い。	18 [44] 100														
						Cg	IVg																			
							IIIg					35 [58] 100														
							IVg																			
						Bg	IIIg	bg			205.40～206.33m：割れ目が多く割れ目沿いに細片化，細粒化している。	27 [51] 100														
							IVg	cg																		
							Vg																			
					褐灰		IVg				207.46～208.03m：傾斜50～60°の割れ目がみられ，割れ目沿いに細片化している。	22 [44] 100	CL'						9/19	105						
							IIIg																			
							IVg					21 [36] 100														
							Vg																			
					緑灰		IVg				208.15～208.21m：割れ目が密集し，割れ目沿いに細片化～細粒化している。暗緑色の鉱物脈が不規則に分布し脱色している。軟質である。	10 [10] 100														
					褐灰							22 [32] 100														
210							IIIg				210.07～211.82m：軽微な変質で緑灰色を帯びるが，ほぼ新鮮で硬質である。	25 [55] 100	CM'													
							IVg																			
							IIIg					23 [59] 100														
					オリーブ灰		IVg				211.82～213.19m：傾斜40～50°の割れ目が発達するが硬質である。	8 [0] 100	CL'													
						Cg	IIIg																			
							IVg	cg																		
							Vg																			
					褐灰		IVg				213.41～213.59m：全体に赤紫色を帯びるが，硬質部が主となる。	14 [37] 100	CM'						9/20	85						
							IIIg																			
							IVg					20 [48] 100														
					黄灰						215.65～216.06m：割れ目が多くなり微細な割れ目も分布する。	11 [26] 100								70				0.2	泥水5	2
							Vg																			
							IIIg					14 [40] 100														
							IVg				217.33～217.57m：割れ目が密集する。上端の傾斜50°割れ目には暗緑色の変質鉱物が付着する。	8 [0] 100	CL'						9/21	60						
							Vg																			
							IIIg					12 [29] 100														
							IVg																			
							Vg																			
					褐灰	Dg	IVg				218.44～218.54m：不規則な割れ目が分布する。割れ目間隔は1～2cm程度である。上端に暗緑色の変質脈を伴う。	6 [0] 100														
						Cg	Vg					11 [11] 100							9/22	50						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
					褐灰		Vg	cg					CL'						9/22	50						
							IVg																			
							IIIg	bg																		
					黄灰	Cg	IVg				221.18～221.80m：割れ目間隔は10～20cmと硬質で割れ目が少ない良好岩盤である。		CM'													
							IIIg	cg																		
							IVg				222.42m：傾斜75°，幅1～1.5mmの石英脈である。上下端に方解石を伴う。		CL'												
							Vg																			
							IIg				222.63～224.09m：粘土などの挟在物がない硬質で割れ目が少ない良好岩盤である。		CH'					9/23	70						
						Bg	IIIg	bg																		
							IIg																			
					灰		IVg				224.09～225.58m：高角度割れ目が分布し，割れ目密集部を形成する。															
							IIIg				225.94～228.33m：傾斜30～40°の割れ目が発達する。長石類の一部は変質で緑泥石化するが，岩芯は概ね新鮮である。															
					褐灰																					
					灰		IVg				228.33～228.56m：低角度の割れ目が発達する。微細な割れ目も伴い割れ目沿いに細片化～細粒化している。		CL'						115							
							Vg																			
							IVg																			
							Vg																			
−230				花崗斑岩			IVg		β	2	230.00～238.96m：一部で割れ目間隔10～15cmと割れ目が少ない区間を含む。										100	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	60.0	160	0.2	泥水5	2
							IIIg						CM'													
							IVg																			
							Vg																			
							IVg																			
					灰褐	Cg	Vg	cg			231.32～232.34m：割れ目沿いに細片化している。カリ長石を除く長石類は緑泥石化している。		CL'													
							IIIg														90					
					灰		IVg						CM'													
							IIIg				235.89～236.35m：割れ目間隔は1～2cm以下と割れ目が多く，変質で緑色を帯びるが硬質である。															
					灰褐		IVg																			
							Vg																			
					にぶい赤褐		IVg						CL'													
					にぶい橙		Vg				236.00～236.35m：すべての割れ目に暗緑色を呈する変質鉱物が付着する。							9/25	100						
							IVg																			
							Vg														75					
							IVg				238.16～238.96m：割れ目間隔は10cm程度である。		CM'													
							IIIg																			
					灰		IVg						CL'													
−166.49	−240.00						Vg													9/26	60					
							IVg																			

ボーリング柱状図

調　査　名

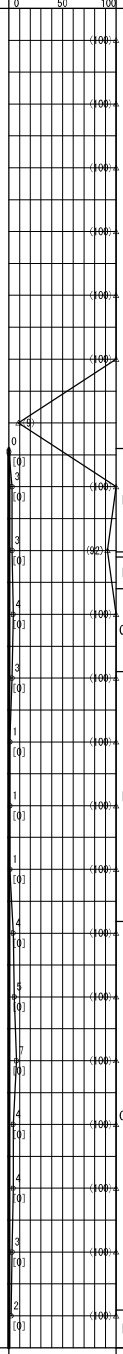
事業・工事名

ボーリングNo.	1

ボーリング名	B8-23	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.29 m	角度	180° 上 90° 下 0° 25.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 85.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	38.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
	5.59	1.88		埋土	黒 にぶい黄褐 明黄褐						0.00～1.88m：埋土である。 0.00～0.40m：砕石からなる。 0.40～1.88m：砂からなる。								9/12		/試掘	試掘/試掘	0.0	0		試掘	
	3.26	4.45		盛土	黄褐 褐灰 明黄褐 にぶい黄橙						1.88～4.45m：盛土である。 1.88～4.23m：礫混じり砂からなる。中粒砂が主で，径2～5mmの石英細礫を十数%程度含む。 3.13～3.50m：ややシルト分に富み，径1～2mmの有機物片を若干含む。 3.27～3.40m：細礫が密集する。 3.88～4.23m：中粒砂からなり，均質である。 4.23～4.45m：砂礫からなる。径5～10mmの花崗斑岩亜円～亜角礫と径2～5mmの細礫が密集する。			▽ 3.90 9/14							75	140/ケーシング		0.0	60			
	1.87	5.98		礫混じり砂	灰 灰白 黒褐						4.45～23.09m：砂礫土主体の第四系である。 4.45～5.98m：礫混じり砂である。中粒砂を主とする。径2～5mmの石英が混じり，礫率は10～20%である。下端側は有機質である。									9/13	100	115/ケーシング			120			
10	-1.87	10.11		砂礫	褐灰 明褐灰 褐灰						5.98～10.11m：砂礫である。 礫は径2～5mmの石英と径10～30mm(最大370mm)の花崗斑岩亜円～亜角礫で礫率は30%程度である。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。 7.93～10.11m：径10～200mmの花崗斑岩亜角礫が主である。ほとんどが軟質である。基質は細～中粒砂からなる。 9.71m：約10mmの有機物片が混入する。			▽ 6.50 9/15							60		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット					
	-2.49	10.79		砂混じり粘土	灰黄褐						10.11～10.79m：砂混じり粘土である。 下位ほど砂分に富む。			▽ 9.70 9/16 ▽ 9.70 9/17 ▽ 9.70 9/18 ▽ 9.70 9/19							120	86/泥水	40.0		2.5	泥水1	1
	-3.41	11.81		砂	にぶい黄橙						10.79～11.81m：砂である。 シルトの混じる中粒砂からなる。 11.48m以浅：上方で細粒化している。 11.48m以深：粘土混じり中粒砂を呈する。									9/14								
	-3.52	11.93		粘土							11.81～11.93m：粘土である。																
	-4.04	12.50		砂							11.93～12.50m：砂である。 上方は粗粒砂，下方は中粒砂からなる。										95			180			
	-6.29	14.98		砂礫	黄褐 にぶい黄橙						12.50～14.98m：砂礫である。 径2～5mmの石英と径10～50mm(最大850mm)の花崗斑岩亜円～亜角礫が主体となる。一部の礫はクサリ～半クサリ礫化する。基質は硬く締まった粗粒砂からなる。																	
	-6.69	15.43		シルト質砂	灰黄						14.98～15.43m：シルト質砂である。 シルトの混じる細～中粒砂が主体となる。										100						
	-7.54	16.36		礫	灰白						15.43～16.36m：礫である。 上部にクサリ礫主体の砂礫層を伴う。									9/15	200			80.0			
				礫混じり砂	浅黄						16.36～17.87m：礫混じり砂である。 シルトの混じる不均質な砂が主で，径2～5mmの石英細礫及びクサリ礫化した花崗斑岩礫を含む。上端付近は中粒砂，17.48m以深は細粒砂で，直上の礫混じり砂と傾斜5°で接する。																	

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
	-8.91	17.87		礫混じり砂	浅黄						17.87～23.09m：砂礫である。 径10～100mmの花崗斑岩亜角礫で，殆どがクサリ礫化する。基質は石英・長石の細礫を含むシルト混じり砂からなる。花崗斑岩礫・基質は同質で，境界が不明瞭な部分がある。 21.78m以深：礫は小型化し，径10～50mmで亜円礫も分布する。 19.20～21.78m：礫混じり粗粒砂からなる。				200						
20				砂礫	灰黄									9/15	85					2.5	泥水1	1
					明褐灰													80.0				
	-13.64	23.09			灰黄						22.22m以深：風化で褐色化が進む。				90							
	-14.37	23.90		スライム							23.09～23.90m：スライムである。			9/16					180			
				花崗斑岩	明黄褐	Eg	VIg	dg	ε	2	23.90～38.00m：花崗斑岩である。 斑晶は径2～6mmの石英，2～10mmの白濁した長石と径1mm以下で点在する黒雲母からなる。 23.90～25.09m：岩組織・割れ目は残留するが軟化が著しい。	D'			55							
	-15.84	25.52			にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ													
	-15.91	25.60		スライム							25.52～25.60m：スライムである。	D'										
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	2	26.10m以深：風化が弱くなる。	CL'			65	86/泥水	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット					
						Eg	VIg	dg	ε													
						Dg	Vg	cg	δ		27.40m：傾斜55～60°，幅4～5mmの石英脈である。											
					にぶい橙	Eg Dg Eg	VIg	dg	ε	3	●29.99～30.16m：破砕帯(D-36) 破砕幅は13.0cmである。 29.99～30.01m：暗灰色の角礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は85°，下端境界の傾斜は35°である。 30.01～30.16m：にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は18°である。灰色～白色の粘土が網状に分布する。	D'										
30						Dg								9/17	80					2.5	泥水1	0
						Eg	IVg		δ	4 3	30.67m：傾斜35°，幅5mmの赤褐色の粘土脈である。											
					にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	γ	2	●30.87～31.32m：破砕部 破砕幅は25.3cmである。 30.87～30.89m：褐灰色の粘土混じり角礫状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は2.5cmである。上端境界の傾斜は31°，下端境界の傾斜は80°である。 30.89～31.04m：角礫質粘土状を呈し，褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は80°である。 31.04～31.32m：褐灰色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。	CL'						40.0				
						Cg									115							
						Dg	VIg	dg	δ	3												
						Cg	Vg	cg	γ	2	32.22m：傾斜60°，幅15mmの石英脈である。幅6～10mmの黄褐色の粘土を伴う。 33.68m以深：一部で風化で褐色化し軟化が進行する。 35.30m：傾斜60°，幅10～15mmの石英脈である。 36.04m：傾斜50°，幅8～10mmの石英脈である。			9/18					120				
					灰褐	Dg			δ						80							
	-27.15	38.00			にぶい橙	Eg						D'										



ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										1

ボーリング名	B8-27	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	5.36 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 143.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 30.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘削長	99.00 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図 0 10 20 30 40 50	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
																					/試掘	試掘/試掘	0.0	0		試掘	
																			9/20	240				80	0.4	泥水30	30
																				170							
10											48.00mまでノンコア									360	114/ケーシング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	10.0	80	0.4	泥水30	30
																			9/21								
20																				125							
																				135			40.0	120	0.1	泥水8	8
																				85							
																			9/22	75			10.0	80	0.2	泥水8	8

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
40	-28.58	48.00		礫	にぶい黄橙						48.00mまでノンコア														
	-29.31	49.03		礫混じり砂	赤灰 明黄褐 にぶい褐						48.00～53.10m：砂礫主体の第四系である。 48.00～49.03m：礫である。 径50～200mmの花崗斑岩亜円礫が主となる。基質は中～粗粒砂からなる。 48.00～48.20m：砂礫からなる。径2～5mmの石英細礫と5～60mmの花崗斑岩の硬質な亜円～亜角礫が主で，基質は粗粒砂からなる。礫率は50%程度である。 49.03～50.66m：礫混じり砂である。砂は中粒砂が主となる。不均質に粗粒砂または粘土を含む。径10～20mm，最大60mmの亜円～亜角礫が混じる。基質は風化で黄褐色化している。											
50	-30.46	50.66		砂礫	にぶい黄橙 にぶい褐						50.66～53.10m：砂礫である。 礫は径10～180mmの硬質な花崗斑岩亜円～亜角礫が主となる。下部に石英の細礫も多く含む。礫率は40%程度である。基質はよく締まる中～粗粒砂からなる。											
	-32.19	53.10		花崗斑岩	にぶい黄橙	Cg Eg Dg Eg Dg Eg Dg Eg Dg Cg Dg Eg Dg Cg Dg Cg Dg	Vg Vg Ⅳg Ⅵg Ⅳg	cg cg cg dg cg	δ γ γ δ γ	2 3 2	53.10～99.00m：花崗斑岩である。 54.11～54.67m：角礫状を呈する。 55.00～55.39m：傾斜60～90°の微細な割れ目が1cm間隔で分布し，一部に幅1mmの軟質な白色の変質粘土を挟む。 56.04～57.80m：割れ目沿いに風化が進み角礫状化している。 57.80～59.73m：傾斜10～30°の割れ目と微細な割れ目が約3cm間隔で分布し，これらに傾斜60～75°の割れ目と微細な割れ目が斜交する。 59.40m：傾斜30°，幅10～15mmの淡褐色の変質粘土脈である。軟質で径1～3mmの石英を多く含む。 59.90～62.67m：傾斜10～40°と，60～80°の割れ目が分布する。固結した角礫状で部分的に幅1～2mmの粘土を挟む。 62.67～63.06m：岩盤が劣化し，径10～70mmに角礫化している。 63.06～65.59m：傾斜10～40°と，60～80°の割れ目が分布する。固結した角礫状コアを呈する。	CL' D' CL' D' CL'				9/22 9/23 9/24 9/25	75 90 105 130 120 170 115 145 95 131	114／ケーシング 114／ケーシング 86	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	10.0 30.0 25.0 10.0 30.0 40.0 10.0 40.0	80 120 0.1 80 0.2 120 0.2 80 0.2 130 0.2	泥水8 泥水8 泥水10 泥水8 泥水10 泥水8	8 8 10 8 10 4

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
70				花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	vg	cg	γ	2	●65.59～65.80m：破砕部 破砕幅は10.5cmである。 65.59～65.61m：極暗赤褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.2cmである。傾斜は60°である。 65.61～65.80m：角礫混じりシルトを呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は70°である。径10mm前後の花崗斑岩クサリ礫と，幅1mmの白色の軟質粘土を伴う。下端に幅1mmの黄灰色の粘土を伴う。 66.85～67.52m：岩組織は残留するが著しく軟化している。 67.52～69.03m：傾斜10～30°，60～85°の割れ目と微細な割れ目が多く分布する。一部で径約5mmに細片化している。 69.62～70.20m：上端傾斜が21°，下端傾斜が32°，径10～20mmに角礫化し基質とともに固結している。 70.20～72.03m：割れ目間隔約3cm前後と割れ目が多い。 73.10～76.21m：傾斜30～50°と55～80°割れ目が交差し，概ね3cm前後の間隔で分布する。 73.86～74.62m：傾斜35°の割れ目に白色～褐色の粘土が挟在する。 75.63m：割れ目に，傾斜50°，幅5～10mmの白色の粘土を挟在する。径2mmの石英を含み，軟質である。 76.21～77.84m：割れ目間隔が3～10cmでやや割れ目は少ないが，割れ目沿いに細片～細粒化している。全体に変質している。 77.84～79.26m：傾斜20～40°と，これに直交または斜交する50～70°の割れ目が1～5cm間隔で発達する。 79.26～80.33m：幅1～8mmの粘土脈が発達する。		CL'						9/25	131				40.0	130	0.2	泥水8	4
						Eg	vlg	dg		4																	
						Dg	vg	cg		2			D'							105							
						Eg																					
						Dg							CL'											25.0	80	0.2	泥水10	10
					灰赤	Cg	lVg																				
							vlg	dg					D'														
					にぶい黄橙	Dg	vg		γ											90							
										3																	
						Cg	lVg																				
					にぶい橙		vg																				
						Dg																					
								cg	δ				CL'														
							lVg																				
					灰赤	Cg			γ	2																	
					明赤灰	Dg				3																	
						Cg				2																	
					淡黄	Eg	vlg	dg		4																	
					にぶい黄橙					3																	
						Dg	vg			2																	
					明褐灰	Eg	vg			3																	
						Dg		cg	γ	2																	
					浅黄	Dg	vg			3																	
					明赤灰	Eg	vg			2																	
					にぶい橙	Dg	lVg			2																	
						Cg	vg	cg	γ																		
						Eg	vlg	dg	δ	3			D'														
90					灰褐	Dg	vg																				
						Cg	lVg																				
						Dg	vg																				
						Cg	lVg	cg	γ	2			CL'														
						Dg	vg																				
					灰白		vlg																				
						Cg	lVg																				
							vg																				
					灰褐		lVg																				
						Dg	vlg	dg					D'														
	-64.64	99.00																									

●81.68～83.66m：破砕部
破砕幅は143.0cmである。
81.68～81.69m：淡緑灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.5cmである。傾斜は40°である。
81.69～81.89m：角礫混じり粘土状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端，下端境界の傾斜はともに40°である。
81.89～81.90m：灰白色の粘土状を呈し，固結した粘土状部からなる。傾斜は40°である。
81.90～83.66m：にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は10°である。
83.66～84.37m：割れ目沿いに細粒化している。
84.37～84.49m：上端傾斜20°，下端不明瞭で角礫混じり砂状を呈する。
84.81m：傾斜50°の割れ目沿いに幅20mmで青灰色化している。周縁は風化している。
86.82～87.20m：変質でやや軟質化している。

●88.55～89.17m：破砕部
破砕幅は21.9cmである。
88.55～88.59m：黒褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は2.4cmである。下端境界の傾斜は45°である。
88.59～89.17m：粘土混じり角礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は50°である。88.79m以深は，網目状の粘土細脈が発達する。
89.17～89.19m：傾斜50°，幅10mmの石英脈である。細粒化している。
90.90～92.83m：割れ目が多く一部で割れ目沿いに細粒化し，粘土を挟む。
92.83～94.47m：傾斜10～30°と，これらに斜交する高角度割れ目が1～5cm間隔で分布する。一部に1～6mmの粘土を挟む。
94.47～96.42m：互いに直交する傾斜50°前後の割れ目と微細な割れ目が1～8cm間隔で分布する。割れ目沿いに細片化している。
96.42～97.96m：割れ目間隔は3～5cmで，やや割れ目は少ないが，一部の割れ目交差部で径1cm前後に細片化している。
97.96～99.00m：径10～70mmの角礫と粗粒砂からなる角礫状部である。

ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										1

ボーリング名	B8-29	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.29 m	角度	180° 上 90° 下 0° 30.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 85.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘削長	30.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図 0 10 20 30 40 50	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
																					/試掘	試掘/試掘	0.0	0		試掘	
											21.00mまでノンコア								11/15								
10																			11/16		101.6/ケーシング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	90		その他(不明含む)	
																			11/17								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / R Q D [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
											21.00mまでノンコア																
	-10.90	21.00		花崗斑岩	浅黄	Dg	Vg	cg	δ	2	21.00～30.00m：花崗斑岩である。 ●21.08～21.27m：破砕帯(D-36) 破砕幅は17.7cmである。 粘土混じり角礫状を呈し，明黄褐色の固結した礫状部からなる。上端，下端境界の傾斜はともに65°である。下端に幅0.5mmの黄褐色の粘土を伴う。 21.27～22.15m：不規則な割れ目が約1cm間隔で分布する。風化で褐色化している。 24.10～24.16m：上端の傾斜が75°，下端の傾斜が60°で幅20～80mmの岩片混じり粘土状を呈する。粘土は灰白色を呈する。岩片は花崗斑岩と石英粒からなる。上端は幅1～3mmの灰白色の粘土からなる。 24.16～24.63m：割れ目間隔1cm程度で網状を呈する。石基は極めて細粒である。 ●25.44～26.11m：破砕部 破砕幅は34.5cmである。 25.44～25.93m：淡橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は55°である。 25.93～25.96m：淡橙色の固結した粘土状部からなる。 25.96～26.11m：淡黄橙色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。 25.47m：石英脈である。傾斜50°，幅20mmの角礫状を呈する。 25.77m：灰白色の粘土状を呈する。最大幅は10mm程度で湾曲している。 25.88m：褐色の粘土からなる。 28.86～29.05m：角礫状を呈する。上端の傾斜は44°，幅1～5mmの黄褐色の粘土を，下端の傾斜は58°，幅1mm程度の灰白色の粘土を伴う。 ●29.51～29.61m：破砕部 破砕幅は2.0cmである。 29.51～29.59m：粘土混じり砂状を呈し，淡黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は75°である。 29.59～29.60m：淡黄橙色の固結した粘土状部からなる。下端境界の傾斜は75°である。	2 [0] (100) 3 [0] (100) 5 [0] (100) 1 [0] (100) 1 [0] (100) 2 [0] (100) 9 [0] (100) 5 [0] (100) 2 [0] (100)	CL'				11/17	200	101.6/ケーシング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	90	0.1	泥水3	3
					にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	γ	2										135	86/泥水						
					にぶい橙														11/19	240				120			
					淡橙	Eg	VIg	dg	δ	3																	
					灰白	Dg	Vg	cg	γ	2																	
					灰黄																						
					灰白	Eg	VIg	dg	δ	3										160							
						Dg	Vg	cg	γ	2									11/20								
	-18.69	30.00			淡黄橙	Eg	VIg	dg	δ	3																	
						Dg	Vg	cg	γ	2																	

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	B8-30	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.39 m	角度	180° 上 90° 下 0° 25.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 265.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	28.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
												0 50 100				0 10 20 30 40 50					／試掘	試掘／試掘	0.0	0		試掘	
																			11/28								
																			11/29								
10																					101.6／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	10.0	90		その他（不明含む）	
																			11/30								
	-6.20	15.00									15.00mまでノンコア																
	-6.48	15.30		礫混じりシルト質砂	褐灰						15.00～18.60m：礫・砂主体の第四系である。 15.00～15.30m：礫混じりシルト質砂である。 基質はシルト～粗粒砂で不均質である。礫は径2～6mmの石英，長石の角～亜角礫からなり，礫率は10%程度である。	(100)							115					0.1	泥水3	3
				巨礫	灰黄						15.30～16.78m：巨礫である。 花崗斑岩の巨礫である。																
	-7.82	16.78		玉石混じり砂礫	にぶい黄橙						16.78～18.60m：玉石混じり砂礫である。 礫は径10～40mmの花崗斑岩岩片，径100～400mmの玉石で石英，長石の細礫も分布する。礫，玉石とも半クサリ礫が主となる。基質は細～粗粒砂で不均質である。全体に酸化汚染を受ける。								120							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図 (N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
	-9.47	18.60		玉石混じり砂礫	にぶい黄橙 黄褐							0 50 100			0 10 20 30 40 50										
20					明黄褐	Dg			γ		18.60～28.00m：花崗斑岩である。斑晶は径1～7mmの石英・長石と径1～3mmの黒雲母，石基は優白質が主となる。 18.60～18.95m：割れ目間隔は1～3cm程度で不規則である。微細な割れ目を伴う。割れ目に褐色の細粒物質が挟在する。 20.03～24.59m：傾斜が15～30°の割れ目は一部で僅かに変位し，0.5～1.0mm程度の白色の粘土脈を挟在する。周辺は砂状化している。 21.10m：傾斜40°，幅5～8mmの淡黄色の角礫質粘土状を呈する。					12/4	120	101.6／ケーシング					
					にぶい黄橙	Cg																			
					黄褐	Dg	Vg	cg	δ	2								12/5	110		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	10.0	90	0.1	泥水3	3
						Cg																			
					にぶい黄橙	Dg			γ		24.59～24.81m：傾斜60°と25°前後の割れ目が細かく交差する。														
				花崗斑岩	にぶい橙																				
					にぶい黄橙	Eg	VIg	dg		3 4	●24.60～25.04m：破砕部 破砕幅は24.9cmである。 粘土混じり角礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は65°，下端境界の傾斜は45°である。径10～20mmの軟化した岩片が主体となる。		CL'													
						Dg	Vg	cg		2								12/6	135						
						Eg	VIg	dg		3 4									195						
					にぶい橙	Dg	Vg	cg		2	●26.70～26.87m：破砕帯(D-36) 破砕幅は10.9cmである。 26.70～26.73m：角礫質粘土状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は50°である。 26.73～26.74m：にぶい橙色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。下端境界の傾斜は50°である。 26.74～26.87m：淡黄色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。		D'													
	-17.99	28.00			にぶい黄橙	Eg Dg	VIg Vg	dg cg		2			CL'					12/7	220						

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	B8-34	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.39 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 53.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	72.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入 N値～深度) 試験図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
10	1.17	8.80		盛土	灰黄褐						0.00～8.80m：盛土である。 0.00～3.83m：礫混じり粗砂からなる。礫は径2～30mmの黒色砕石，1～5mmの石英，2～10mmの花崗斑岩礫である。試掘による埋戻し土である。			▽2.80 3/21 ▽2.80 3/22 ▽2.80 3/23 ▽2.80 3/24					3/20	70	試掘／試掘	試掘／試掘	0.0	0		試掘	
					にぶい黄橙															85							
	0.85	9.25		粘土	にぶい黄褐						8.80～31.51m：上部は有機物混じり砂質土，下部は砂礫主体の第四系である。 8.80～9.25m：粘土である。 傾斜40°のラミナに腐植物を挟む。 9.04m以深：石英などの細礫を含む。								3/21	130	100／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	100	0.1	泥水5	0
					灰黄褐															155							
	0.21	10.16		有機質土混じり砂	褐灰						9.25～10.16m：有機質土混じり砂である。 中粒砂が主となる。								3/22	110							
					灰オリーブ																						
				高有機質土	黒褐						10.16～12.80m：高有機質土である。 径30mmの木幹を含み，締まっている。			▽11.29 3/25 ▽11.29 3/26 ▽11.80 3/28									10.0	30			
	-1.66	12.80			黒褐															175			15.0	100	0.1	泥水5	5
					褐灰																						
					黒褐																						
					褐灰																						
					灰黄褐						12.80～13.96m：有機質土混じり砂である。 中粒砂が主となる。一部に高有機質土を挟み，緩くなっている。																
	-2.48	13.96		有機質土混じり砂	褐灰																						
					灰オリーブ																						
	-3.51	15.41		高有機質土	黒褐						13.96～15.41m：高有機質土である。 一部に未分解の木幹や砂分を含む。																
				互層	褐灰						15.41～19.75m：互層である。 砂と高有機質土の互層からなり，前者は幅10～160mm，後者は幅30～350mmである。 15.41～15.75m：有機質土混じり中粒砂と有機質混じり粘土からなり，後者には植物片を多く含む。 16.87～17.05m：分級のよい細粒砂からなる。 17.90～18.15m：石英粒や有機物片を多く含む中粒砂を挟む。			▽15.70 4/4									10.0	30			
					黄灰															285			30.0	50	0.1	泥水20	20

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
	-6.58	19.75		互層	黄灰 褐灰 灰黄 黒褐 褐灰						19.75～20.26m：有機質土混じり砂礫である。 径1～5mmの石英，長石，5～20mmの花崗斑岩礫を含む。基質は緩い粗粒砂からなり，礫率は40～50%である。有機物片が点在する。					3/23	285			30.0	50 / 30	0.1	泥水20	20
20	-6.94	20.26		有機質土混じり砂礫												3/24	175			5.0	100			
	-7.46	21.00		砂礫	明褐灰 明オリーブ灰 灰黄 明オリーブ灰						20.26～21.00m：砂礫である。 基質は，径1～5mmの石英，長石，5～120mmの花崗斑岩礫と緩い粗粒砂である。礫率は40～50%である。 20.77～21.00m：砂混じりシルトと中粒砂が主となる。													
	-8.07	21.86		スライム	浅黄						21.00～21.86m：スライムである。													
	-8.45	22.40		砂	明オリーブ灰						21.86～22.40m：砂である。											0.1	泥水5	5
	-8.77	22.86		礫混じり砂							22.40～22.86m：礫混じり砂である。 中粒砂が主で，径10～20mmの半クサリ礫を含む。													
	-8.87	23.00		スライム	浅黄						22.86～23.00m：スライムである。													
	-9.09	23.31		礫混じり砂	オリーブ灰						23.00～23.31m：礫混じり砂である。													
	-9.58	24.00		砂礫	褐灰						23.31～24.00m：砂礫である。 礫は径10～80mmの花崗斑岩礫である。 23.86～24.00m：有機質土混じり粘土を呈する。 23.86～24.00m：有機物が混じる。														
	-9.78	24.28		スライム	灰黄						24.00～24.28m：スライムである。													
	-10.65	25.51		砂礫	オリーブ灰						24.28～25.51m：砂礫である。 礫は径2～5mmの石英，長石，5～90mmの花崗斑岩亜角礫である。 25.25～25.51m：中粒砂が主となる。		▽25.14 4.2 ▽25.15 4.5 ▽25.80 4.6 ▽25.90 4.8												
	-11.66	26.94		スライム	灰黄 淡黄						25.51～26.94m：スライムである。													
	-12.85	28.62		礫	にぶい黄橙 にぶい黄褐 明黄褐 にぶい黄橙 明オリーブ灰						26.94～28.62m：礫である。 礫は径5～440mmの花崗斑岩である。30mm以下の礫はクサリ化する。 27.13～27.36m：礫間を充填する粘土で，径5～10mmの礫を含む。		▽28.10 4.9												
30	-14.89	31.51		砂礫	にぶい黄橙 灰白 黄褐 明オリーブ灰 明黄褐						28.62～31.51m：砂礫である。 礫は径2～5mmの石英，長石，5～80mmの花崗斑岩亜円～亜角礫で，半クサリ～クサリ礫主体となり，礫率は20～50%である。基質は締まった中～粗粒砂からなる。														
				花崗斑岩	にぶい橙	Eg	VIg	dg	δ	3	31.51～62.67m：花崗斑岩である。 ●31.76～33.24m：破砕部 破砕幅は62.6cmである。 31.76～32.63m：粘土混じり角礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は80°，下端境界の傾斜は35°である。上端に粘土脈を挟み，傾斜は80～90°で湾曲する。 32.63～32.67m：にぶい橙色の角礫質粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は4.0cmである。下端境界の傾斜は65°である。 32.67～33.24m：にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は33°である。下端側は，石英・岩片を多く含む。																	
					橙					4 3 4														
					褐灰	Dg	Vg	cg																
					にぶい橙	Eg	VIg	dg		3	33.24～35.20m：大半の岩組織と割れ目は消滅する。													
40							Vg	cg			36.91～42.86m：傾斜10～30°と斜交する40～70°の割れ目が分布する。多くは割れ目沿いに薄く砂状化している。 39.15～39.22m：傾斜55°，幅40mmの石英脈である。径10～15mmの角礫状を呈する。														
					浅黄橙																			

コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]

岩級区分	孔内水位(m)/測定月日
D'	
CL'	
D'	

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
3/23	285			30.0	50 / 30	0.1	泥水20	20
3/24	175			5.0	100			
3/25	80 / 120	100/ケーシング		10.0	50	0.1	泥水5	5
3/26	85			5.0		0.1	泥水1	1
3/27	60			2.0	30			
3/28	110 / 125		ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット		150			
3/29	135	86/泥水		10.0	100	0.1	泥水10	10
3/30	155 / 115							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
50				花崗斑岩	浅黄橙	Eg	Vg	cg		3	●42.86～42.97m：破砕帯(f-b8-34-2) 破砕幅は5.2cmである。 粘土混じり角礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は62°，下端境界の傾斜は25°である。岩片間に幅1～2mmの白色の粘土脈が分布する。		D'						3/30	115	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	10.0	100	0.1	泥水10	10
						Dg	Vg	cg		2	42.97～46.32m：傾斜10～40°の割れ目が主となる。一部で割れ目沿いに砂状化している。									125						
					明褐灰	Eg	Vg	cg			46.32～46.37m：上下端の傾斜25°の割れ目間で著しく軟化している。		CL'						4/1				150			
						Dg	Vg	cg		3	●50.24～51.87m：破砕部 破砕幅は149.3cmである。 50.24～50.25m：灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.8cmである。傾斜は70°である。 50.25～50.97m：角礫質粘土状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。径10mmまでの石英・岩片を含む。50.60～51.50mの岩片間には，白色の粘土脈が多数分布する。									90						
					明黄褐	Eg	VIg	dg	δ	3	50.97～51.50m：暗灰白色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。 51.50～51.71m：粘土質角礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。 51.71～51.75m：灰白色の固結した粘土状部からなる。下端境界の傾斜は75°である。下端側に少量の粘土化した岩片を含む。 51.75～51.87m：粘土混じり角礫状を呈する，にぶい黄橙色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は65°である。白色の粘土が網状に分布する。		D'							105						
						Dg	Vg	cg			52.11～53.45m：著しく軟化している。岩組織と割れ目はほぼ消滅する。		CL'						4/2							
						Eg	VIg	dg			54.51～54.82m：角礫化し，土砂状を呈する。マンガン汚染で黒褐色化している。									90						
						Dg	Vg	cg			55.04～56.81m：径5～100mmに角礫化している。基質の一部は粘土化部や白色の粘土脈が分布する。															
					にぶい黄橙	Eg	VIg	dg					D'														
						Dg	Vg	cg		3	56.81～58.31m：傾斜10～40°の割れ目が主となる。一部で70～80°の割れ目が斜交し径5mm前後に角礫化している。		CL'							85						
						Eg	VIg	dg			58.31～59.92m：割れ目沿いに砂状化，幅1～2mmの粘土脈を挟む。		D'						4/3	75			10.0			
60						Dg							CL'								100						
						Vg					62.16～62.67m：粘土脈が網状に分布する。 62.50m：マンガン汚染により黒褐色化した粘土脈が分布する。最大幅は12mmである。															
	-36.92	62.67			にぶい橙	Eg							D'														
				アプライト		Dg		cg	γ	2	62.67～72.00m：アプライトである。 62.67m：傾斜50°のシャープな割れ目を境に岩相が変化している。 62.67～64.51m：傾斜20～30°と，これに交差する直線的な60～70°の割れ目が分布する。								4/5	65			20.0	150			
						Cg							CL'														
					明褐灰	Dg			γ																		
						Eg			δ																		
						Cg	IVg		γ		66.07～66.17m：割れ目交差部で角礫化している。																
						Eg			δ	3																	
						Cg	IVg	cg	γ	2	66.81～66.91m：上端の傾斜40°と下端の傾斜63°の割れ目に囲まれ著しく軟化している。白色の粘土脈を挟む。								4/6	50			30.0	200			
						Eg			γ	3																	
						Cg				2																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
70	-43.52	72.00		アプライト	明褐灰 にぶい橙 灰白 にぶい橙 明褐灰	Cg	Vg Vg IVg Vg IVg Vg IVg Vg	cg	γ δ γ δ γ δ γ	2 3 2 3 2	67.76～69.59m：傾斜10～50°と交差する60～80°の割れ目が分布する。一部割れ目の交差部で角礫化している。 68.62m：傾斜65°，幅1～6mmで灰黄色の粘土を挟む。 70.22m：傾斜65°の割れ目沿いに緑色化している。微細な金属鉱物が晶出している。 70.42～71.21m：傾斜50～70°と，交差する60～80°の割れ目が分布する。割れ目沿いに砂状～細片化している。 71.21～72.00m：傾斜20～50°と交差する60～80°の割れ目が分布する。	0 50 100 6 [0] (100) 9 [0] (100) 17 [17] (100) 10 [10] (100) 8 [0] (100)	CL'			0 10 20 30 40 50		4/6 4/8 4/9	50 45 55	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	30.0 20.0	200 150	0.1 0.1	泥水10 泥水10	5 0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	B8-35	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.15 m	角度	上 180° 90° 下 0° 40.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 53.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	50.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
				埋土	黒褐						0.00～2.05m：埋土である。 粗粒砂からなる。試掘孔の埋戻し土である。											試掘／試掘	0.0	0		試掘	
	5.58	2.05		盛土	にぶい黄褐						2.05～6.65m：盛土である。 2.05～5.67m：砂礫からなる。径5～80mmの硬質花崗斑岩礫を主体とする。基質はやや緩い粗粒砂からなる。黒色の砕石片が点在する。 4.50m以深：礫が密集する。 5.67～6.38m：粗粒砂からなる。やや緩い。								4/3								
	2.06	6.65			にぶい黄橙															120		シングルコアチューブ／ダイヤモンドビット	10.0	60			
	1.86	6.90			灰黄褐														4/4	100			5.0				
	1.63	7.20		粘土混じり砂	褐灰						6.65～30.11m：上部は有機質土混じり砂質土，下部は砂礫主体の第四系である。 6.65～6.90m：粘土混じり砂である。 中粒砂が主体となる。 6.90～7.20m：砂混じり粘土である。 7.20～8.08m：砂である。 粗粒砂が主となる。 8.08～8.69m：高有機質土である。 上部はシルト～細粒砂を多く含む。 8.25～8.44m：中粒砂からなる。 8.69～9.92m：有機質土混じり砂である。 8.92～9.00m：有機質粘土を挟む。 9.48～9.59m：植物片多量に含む。 9.92～10.40m：高有機質土である。 下端は低有機となり粘土分が多い。 10.40～11.78m：砂である。 11.12m以浅は中粒砂が主で径10mm前後の礫が点在する。11.38m以深は粗粒砂が主で幅20～30mmの有機質土を挟む。 11.12～11.38m：有機質粘土を呈する。11.29m以深は高有機質である。 11.78～12.60m：高有機質土である。 12.24～12.29m：砂，粘土を挟む。 12.60～13.13m：砂である。 中粒砂が主となる。 13.13～13.48m：高有機質土である。 13.48～13.58m：スライムである。 13.58～15.35m：砂である。 中粒砂が主となる。14.00m以浅は径40mm以下の花崗斑岩礫を含む礫混じり粗粒砂からなる。 14.00～14.09m：高有機質土からなる。 14.09m以深：中粒砂で一部に有機質分を含み，下端は締まった砂質粘土を呈する。 15.35～17.21m：礫混じり砂である。 径2～5mmの石英細礫を含む。 15.91～16.50m：中粒砂が主となる。 17.21～17.56m：砂である。 中粒砂が主となる。 17.56～17.73m：砂混じりシルトである。 17.73～20.34m：砂である。 中粒砂が主で，一部に幅約20～30cmの砂礫，粘土を挟む。 18.00～18.68m：スライムである。 20.08～20.15m以浅：有機質の粘土分が多い。								4/5	120						
	0.96	8.08		高有機質土	黒褐																					
	0.49	8.69			褐灰																					
				有機質土混じり砂	黒褐																					
	-0.45	9.92			褐灰														4/6	100	127／ケーシング		5.0	180	0.1	泥水2	2
10					黒褐																					
	-0.82	10.40		高有機質土	褐灰																					
	-1.87	11.78		砂																						
	-2.50	12.60		高有機質土	黒褐																					
	-2.91	13.13		砂	灰褐																					
	-3.18	13.48		高有機質土	黒褐																					
	-3.25	13.58		スライム	灰白																					
					灰黄褐																					
	-4.61	15.35		砂	褐灰															105						
				礫混じり砂	オリーブ灰																					
	-6.03	17.21			にぶい黄橙																					
	-6.30	17.56		砂	灰黄褐																					
	-6.43	17.73		砂混じりシルト	オリーブ灰																					
	-6.64	18.00		砂	灰オリーブ																					
	-7.16	18.68		スライム	にぶい黄橙																					
				砂	灰白																					
					にぶい黄橙																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	-8.43	20.34		砂	にぶい黄橙						20.34～20.76m：スライムである。
	-8.75	20.76		スライム	褐灰						20.76～22.00m：砂混じり粘土である。 締まった粘土で細粒～粗粒砂が上方細粒化し，僅かに炭化物片も混入する。 20.76～21.38m：最大径60mmの硬質礫を含む礫混じり砂質粘土，砂礫を呈する。
				砂混じり粘土	にぶい黄橙 褐灰 にぶい黄						
	-9.70	22.00			褐灰						
				礫	灰黄褐 褐灰						22.00～23.38m：礫である。 径40～570mm（コア長）の硬質な花崗斑岩亜角礫が主となる。
	-10.76	23.38		砂礫	にぶい黄褐 黒褐 明黄褐						23.38～24.15m：砂礫である。 礫は径2～5mmの石英，長石，5～200mmの花崗斑岩亜円～亜角礫で半クサリ礫が主となり，礫率は50%程度である。基質は締まった粘土混じり中粒砂からなる。
	-11.35	24.15		礫	にぶい黄橙 にぶい橙						24.15～25.32m：礫である。 径10～610mmの亜円～亜角礫からなる。一部に石英，長石を含む粗粒砂を挟む。
	-12.25	25.32		砂	にぶい黄橙 灰黄						25.32～26.50m：砂である。 径3～5mmの石英を含む粗粒砂が主となる。 26.29～26.50m：硬質なアプライト礫からなる。
	-13.15	26.50									
	-13.51	26.97		スライム	にぶい黄						26.50～26.97m：スライムである。
	-13.92	27.51		礫混じり砂	明黄褐						26.97～27.51m：礫混じり砂である。 粗粒砂が主となる。全体に緩い。 径5mmまでの石英，長石，30mmまでの花崗斑岩，アプライト礫を含む。
	-14.38	28.10		スライム	にぶい黄橙 にぶい赤褐						27.51～28.10m：スライムである。 28.10～30.11m：砂礫である。 礫は石英，長石，花崗斑岩亜円～亜角礫，硬質なアプライト角礫からなる。花崗斑岩は半クサリ礫が主となる。基質はよく締まった中～粗粒砂からなる。
				砂礫	黄褐 褐 黄褐						
30	-15.92	30.11		花崗斑岩	にぶい黄褐	Eg	Vlg	dg	δ γ	2 3 4 3	30.11～50.00m：花崗斑岩である。 30.11～30.51m：著しく軟化する。 ●30.51～31.53m：破砕部 破砕幅は75.3cmである。 30.51～30.75m：浅黄橙色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は25°である。 30.75～31.33m：角礫質粘土状を呈し，浅黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は70°である。 31.33～31.38m：灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.4cmである。下端境界の傾斜は68°である。石英粒を含む。 31.38～31.53m：浅黄橙色の固結した礫状部からなる。径10mmまでの岩片を含む。31.42m以深は大半が径5～30mmの粘土化した岩片で，岩片間には幅1～2mmの粘土脈が分布する。 31.53～31.67m：スライムである。 31.67～32.00m：コア欠 32.00～32.19m：スライムである。 32.19～32.68m：著しく軟化している。 32.55～32.65m：スライムである。 ●32.68～32.71m：破砕部 破砕幅は1.8cmである。 角礫質粘土状を呈し，黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は70°である。径20mmまでの石英，長石，岩片を多く含む。 32.71～33.24m：著しく軟化している。 33.24～33.56m：コア欠 ●33.62～33.98m：破砕部 破砕幅は18.0cmである。 33.62～33.89m：粘土混じり角礫状を呈し，灰白色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は30°，下端境界の傾斜は60°である。 33.89～33.93m：にぶい黄橙色の角礫質粘土状を呈する。未固結の礫状部からなり，幅は4.1cmである。下端境界の傾斜は60°である。上から明赤灰色，橙色，灰白色，にぶい黄橙色の粘土が縞状に分布する。 33.93～33.95m：にぶい黄橙色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は2.0cmである。径5mmまでの石英，岩片を含む。 33.95～33.98m：角礫質粘土状を呈し，灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は55°である。径5mmまでの石英，岩片を含む。 34.54～35.00m：コア欠 37.21～37.22m：幅8mm，明灰オリーブ色の粘土脈を挟在する。傾斜40°で波打つ。 37.90～38.36m：岩片状を呈する。 ●38.36～38.41m：破砕部 破砕幅は4.0cmである。 灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は4.0cmである。径10mmまでの岩片を含む。 40.80m：傾斜50°の割れ目の下盤側が幅2～5mmで緑色化している。微細な不透明鉱物が晶出している。
	-17.11	31.67									
	-17.36	32.00		花崗斑岩	にぶい黄褐	Eg	Vlg	dg	δ	3	
	-18.31	33.24				Eg	Vlg	dg	δ	3	
	-18.56	33.56		花崗斑岩	にぶい黄褐 灰黄褐	Eg	Vlg	dg	δ	4 3	
	-19.31	34.54									
	-19.66	35.00		花崗斑岩	橙	Eg	Vlg	dg	δ	3	
40					にぶい橙	Dg Eg Dg Eg	Vg Vlg cg dg	cg		2 4	
					明褐灰	Dg Eg Dg	Vg IVg Vg	cg	γ δ	3 2 3	
					灰褐 にぶい橙 明褐灰	Eg Dg Eg Dg Eg Dg Dg	Vg IVg Vlg Vg				

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
					4/8	100	115／ケーシング		5.0 15.0 10.0 5.0		0.1	泥水2	2
					4/9	70			10.0		0.2	泥水2	2
						40							
						90							
D'					4/10	100	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	180	0.1	泥水3	3
D'													
D'													
D'													
D'					4/11	150							
CL'					4/24	80				120			
					4/25	95				160			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
					明褐灰	Dg			δ	3	43.36m：傾斜53°，幅4～6mmの石英脈である。 44.67～44.85m：土砂状を呈する。	5 [0] 100					0 10 20 30 40 50			4/25	95							
						Cg			γ	2	45.76m：傾斜68°，幅9mmで灰白色～明赤灰色の粘土を挟在する。周縁は幅4～12mmが緑灰色化し，微細な雲母が晶出している。	5 [0] 100								75			160			
					灰褐							3 [0] 100	CL'														
					にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	3	49.56～49.75m：割れ目が密集し，角礫化している。マンガン汚染で黒褐色化している。	5 [0] 100							4/26	80	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	160	0.1	泥水3	3
					灰オリーブ																						
					にぶい橙																						
	-31.15	50.00																									

ボーリング柱状図

調　査　名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	B8-36	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.13 m	角度	上 180° 90° 下 0° 20.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 233.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	36.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
											0.00～1.65m：埋土である。礫混じり砂からなる。試掘の埋戻し土である。粗粒砂が主となる。径2～8mmの黒色砕石を含む。										試掘／試掘	0.0	0		試掘	
	5.58	1.65		埋土							1.60～8.33m：改良土である。 1.65～5.37m：砂礫からなる。径5～200mmの亜角～亜円礫の花崗斑岩，アプライトが殆ど硬質である。部分的に径2～4mmの黒色砕石が混入する。礫率は40～50%程度である。基質はよく締まる。								4/29	70				0.1	泥水10	10
				改良土	にぶい黄橙						5.37～6.00m：礫混じり砂からなる。粗粒砂が主となる。径5～10mm主体の硬質な亜角～亜円礫を含む。一部で径2～4mmの黒色砕石が混入する。全体によく締まる。														
					明黄褐						6.00～8.33m：礫混じり砂からなる。粗粒砂が主となる。径2～5mmの石英を多く含む。全体に緩い。								4/30	105				0.0	泥水5	5
											7.53～7.55m：幅20mmの軟弱な粘土を挟在する。未分解の植物繊維片を少量含む。														
	-0.70	8.33			褐灰						8.33～22.30m：砂質土及び砂礫主体の第四系である。															
	-0.85	8.49		有機質土混じり砂	灰黄褐						8.33～8.49m：有機質土混じり砂である。微細な炭化物片を含む。異臭がある。														
	-1.84	9.55		礫混じり砂	にぶい黄褐						8.49～9.55m：礫混じり砂である。上下端に硬質な花崗岩亜角礫を含む。														
	-2.17	9.90		粘土	にぶい黄橙						9.55～9.90m：粘土である。少量の砂分を含む。やや締まる。														
10				砂混じりシルト	にぶい黄褐						9.90～11.68m：砂混じりシルトである。全体に粗粒砂が混じる。上端10cmは砂分多い。								5/1	130	100／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	100	0.1	泥水10	10
					灰						11.68～12.08m：スライムである。															
	-3.85	11.68			明黄褐						12.08～12.22m：砂である。ほぼ均質な細粒砂からなる。															
	-4.22	12.08		スライム							12.22～12.80m：粘土である。少量の砂が混じる。よく締まる。															
	-4.35	12.22		砂	にぶい黄褐						12.80～13.49m：砂礫である。礫は径10～280mmの花崗斑岩亜角礫が主で半クサリ礫化している。基質は粘土分が多くよく締まる。														
	-4.90	12.80		粘土	にぶい黄褐						13.49～14.03m：砂である。粗粒砂が主となる。風化で黄色化している。よく締まる。															
	-5.55	13.49		砂礫	明褐						14.03～15.00m：砂礫である。礫は径10～180mmの花崗斑岩亜角～亜円礫である。クサリ礫が主で径180mm前後の礫は硬質で残留し，礫率は30%程度である。基質は粗粒砂でやや緩い。														
	-6.05	14.03		砂	にぶい黄橙						15.00～18.45m：礫混じり砂である。よく締まる粗粒砂からなる。礫は径10～30mmが主で大半がクサリ礫化している。								5/2	125			10.0		0.1	泥水5	5
	-6.97	15.00		砂礫	黄褐						16.09～16.46m：花崗斑岩の硬質な巨礫を含む。															
				礫混じり砂	灰黄															105						
					にぶい黄橙																					
					明褐灰																					
					灰黄																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
20	-10.21	18.45		礫混じり砂	灰黄						18.45～18.86m：シルト混じり砂である。 細粒砂が主となる。よく締まる。 18.86～22.30m：砂礫である。 径5～320mm花崗斑岩，花崗岩と少量のアプライトからなり，亜角～亜円礫で半クサリ～クサリ礫が主となる。礫率は50%程度である。基質は粗粒砂で上端は砂分が優勢である。							5/2	105	100／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	10.0		0.1	泥水5	5
	-10.59	18.86		シルト混じり砂	黄橙													5/3	65			5.0		0.1	泥水10	10
					灰白																					
					褐灰																					
					にぶい黄橙													5/8	75			10.0				
	-13.83	22.30			褐																					
				砂礫	にぶい黄褐				ε	3	22.30～36.00m：花崗斑岩である。 22.30～24.19m：著しく風化し岩組織と割れ目はほぼ消滅する。傾斜70°，幅1～9mmの灰白色～にぶい黄橙色の粘土脈が分布する。 ●24.19～27.68m：破砕部 破砕幅は60.6cmである。 24.19～26.83m：角礫質粘土状を呈し，浅黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°である。24.40m以浅は径5～20mmの岩片が主体となる。 26.83～26.84m：にぶい黄橙色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.5cmである。傾斜は85°である。径1～2mmの石英粒を少量含む。 26.84～27.51m：粘土混じり角礫状を呈し，浅黄橙色の固結した礫状部からなる。 27.51～27.68m：浅黄橙色の割れ目の密集部からなる。							5/9	125						
					にぶい黄橙																					
					黄褐					4																
					浅黄橙	Eg	Vg	dg		3								5/10	90			5.0				
					にぶい黄橙					4																
					にぶい褐		Vg	cg																		
					浅黄橙					3																
30					にぶい黄橙				δ	4								5/11	95	86／泥水		10.0				
				花崗斑岩																						
					明褐灰	Dg	Vlg	dg		3	●30.00～30.36m：破砕部 破砕幅は14.3cmである。 30.00～30.32m：角礫質粘土状を呈し，浅黄橙色の固結した礫状部からなる。 30.32～30.33m：灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.5cmである。傾斜は60°である。 30.33～30.36m：浅黄橙色の固結した礫状部からなる。								150							
					浅黄橙	Eg																				
					にぶい黄橙						35.45m：幅1～2mmの白色の粘土が挟在する。 35.62～36.00m：割れ目沿いに砂状化している。幅1～2mmの粘土脈も分布する。							5/13	110					0.1	泥水10	10
	-26.70	36.00				Dg	Vg	cg		2			CL'													

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										1

ボーリング名	B11-1	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.10 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 143.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具
総掘削長	150.00 m								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				埋土	灰黄褐						0.00～7.95m：埋土である。 0.00～1.50m：細礫を含む不均質な砂からなる。
					灰黄						1.50～3.98m：礫混じりシルト質砂からなる。細～粗粒砂からなる。全体に礫およびシルトが混じる。部分的に礫の混入率が20～30%となる。礫は径5～40mm,最大径110mmの花崗斑岩の角礫を主体とする。 3.98～4.43m：礫密集部である。
					橙						
					にぶい黄						
					灰黄						4.43～5.51m：礫混じり砂からなる。上下位に比べて礫径・礫率ともに小さい。 5.51～7.85m：礫質砂からなる。上位に比べ,礫径,礫率ともに大きくなる。礫は硬質な花崗斑岩である。 7.85～7.95m：礫混じり砂からなる。粗粒砂が主体となる。風化で褐色化する。
					明黄褐						
					灰黄						
					浅黄						
					灰黄						
	1.48	7.95		砂混じり有機質シルト	にぶい黄橙						7.95～38.07m：上部は有機質土,下部は砂礫主体の第四系である。 7.95～8.66m：砂混じり有機質シルトである。 8.03m付近：細粒分に富み全体不均質である。 7.95～8.03m：シルト質細粒砂を呈する。
	0.98	8.66			灰黄褐						
	0.77	8.95		礫混じり砂	褐灰						
	0.28	9.65		スライム	にぶい黄						
10	0.01	10.03		有機質土	暗灰黄						8.66～8.95m：礫混じり砂である。粗粒砂が主となる。有機質分は上位に比べ少ない。 8.95～9.65m：スライムである。 9.65～10.03m：有機質土である。 10.03～11.37m：礫混じり砂である。粗粒砂が主で径2～5mmの石英礫を含む。木片や有機質土を含む。 10.03～10.17m：礫混じり有機質粗粒砂からなる。
	-0.94	11.37		礫混じり砂							
	-1.53	12.20		礫混じり有機質砂	灰						11.37～12.20m：礫混じり有機質砂である。 11.64m以浅は細粒砂で上下端境界は水平,11.64m以深は粗粒砂が主で幅1～4cmの有機物を帯状に含む。 12.20～13.60m：有機質土である。粗粒砂や細礫を含み不均質である。 12.65～12.85m：植物繊維を含む。 13.60～16.53m：有機質土混じり砂である。 砂は細～粗粒砂で不均質である。炭化物や未分解木片などを含む。また,処々に20mm以下の礫を含む。 14.51～15.00m：未分解木片の塊りを含む。 16.48m,16.51m：炭化物が一定方向に配列する。 16.53～17.90m：有機質土である。分解の強弱で縞状模様を呈する。 17.35～17.68m：極細粒砂を挟む。 17.90～18.05m：礫混じりシルト質砂である。 18.05～18.28m：有機質シルトである。
	-2.52	13.60		有機質土	黒褐						
				有機質土混じり砂	褐灰						
					灰						
					灰褐						
					灰						
	-4.59	16.53		有機質土	黒						
					黄褐色						
	-5.56	17.90			黒						
	-5.66	18.05		礫混じりシルト質砂	灰						
	-5.83	18.28		有機質シルト	黒						
				礫混じり砂	灰						18.28～23.15m：礫混じり砂である。細～粗粒砂の不均質な砂で,径2～20mmの細礫が混じる。礫は石英が主,わずかに花崗斑岩の亜角礫も分布する。 18.28～18.67m：礫混じり砂で中粒砂が主となる。
					褐灰						
					灰黄						

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%] 0 50 100

岩級区分

孔内水位(m)／測定月日

(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図 (N) 値 0 10 20 30 40 50

原位置試験(孔内水平載荷)

室内試験

掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
6/20		／試掘	試掘／試掘	0.0	0		試掘	
	227	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット			0.1	泥水0	0
6/21	42			10.0	120			
	49					0.1	泥水0	0
6/22	111				110			
	23							
6/23	42			5.0		0.1	泥水2	2
						0.1	泥水0	0
6/24	32				120			
	27					0.0	泥水0	0
	63							
6/25	38		シングルコアチューブ／メタルクラウン	30.0		0.1	泥水10	0
	96							
	108							
6/26	22			60.0		0.1	泥水10	8
	35					0.1	泥水10	0
6/27	167			30.0		0.1	泥水10	10
	5			50.0	100	0.1	泥水3	3
6/28	11			80.0		0.4	泥水	5
	15			100.0		0.0	無水0	0
6/29	141			50.0		0.1	泥水10	10
	180							
	111							
	55							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分
				礫混じり砂	灰黄						20.60～20.88m：酸化汚染を受け，斑状に褐色化している。	
					にぶい黄橙						22.50～23.15m：軽微だが酸化汚染を受け，コアは淡褐色を帯びる。	
	-9.27	23.15		礫質砂	明褐灰						23.15～25.00m：礫質砂である。径2～5mmの細礫と24.50m付近の径20～50mmの礫を含み，礫率は30%程度である。基質はシルトを含む細～粗粒砂で不均質である。	
					褐灰							
	-10.58	25.00			灰黄褐							
				砂礫	灰黄						25.00～25.78m：砂礫である。径40～100cmのアプライト，花崗斑岩の亜角～亜円礫で，礫率は50～60%である。基質は細～粗粒砂で不均質である。25.45m以深は有機質分を含む。	
	-11.13	25.78			灰							
				玉石混じり砂礫	灰黄						25.78～29.53m：玉石混じり砂礫である。径10～100cm程度のアプライト，花崗斑岩の亜角～亜円礫を5～60%含む。基質は径2～5mmの細礫を含む不均質な砂からなる。26.94～28.00m：上下位に比べて礫率が低く，礫は径10～20mm（最大径40mm）の亜角～亜円礫が主となる。基質は細～粗粒砂からなる。	
	-13.78	29.53									29.53～30.29m：シルト混じり砂である。細～中粒砂が主となる。部分的に径2～5mmの細礫が混じる。	
30	-14.32	30.29		シルト混じり砂	にぶい黄橙							
				玉石混じり砂礫	灰黄						30.29～38.07m：玉石混じり砂礫である。径10～100mm（最大300mm）の亜角～亜円礫が主で，基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。礫率は40～60%程度である。30.90～31.55m：上下位に比べて礫率が少なく，石英の細礫が主となる。	
					明黄褐						32.58～38.07m：基質の締まり良好で，全体に風化で褐色化が強い。	
	-17.49	34.78		スライム							34.78～35.72m：スライムである。	
	-18.16	35.72		玉石混じり砂礫	にぶい黄橙						35.72～36.70m：花崗斑岩礫である。	
					明黄褐							
	-19.82	38.07			褐							
				アプライト	明黄褐	Dg	Ⅲg	cg	γ	2	38.07～55.28m：アプライトである。斑晶はごく少量で微細な石英，長石を含む。38.07～40.45m：風化で褐色化している。特に38.31～38.88mは岩芯まで風化している。38.30m：傾斜15°，幅5mmの石英脈である。38.88～40.45m：1～10cm間隔で割れ目が発達する。割れ目に沿って風化が進む。40.45～47.07m：割れ目間隔1～10cm間隔でやや割れ目が多いが硬質である。41.34～41.38m：径約60mmの晶洞中に石英が晶出する。42.34m：傾斜50°，幅2～6mm，褐色の流入粘土を挟在する。42.64m：傾斜45°，幅3～4mmの流入粘土を挟在する。	CL'
							Ⅳg		δ	3		
							Ⅲg					
							Ⅳg					
40						Cg	Ⅲg					
							Ⅳg					
							Ⅲg					
							Ⅳg					
							Ⅲg					
							Ⅱg					
							Ⅳg		γ	2		CM'
							Ⅲg					

孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
					6/29	55	115／ケーシング	シングルコアチューブ／メタルクラウン	50.0				
						143			60.0	100	0.1	泥水10	10
					6/30	180							
						29			20.0				
						52				110	0.1	泥水1	0
					7/2	70			10.0				
						65							
					7/3	57				100			
						75			20.0		0.1	泥水1	1
					7/4	90				110			
						143		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	15.0	120			
					7/5	50					0.1	泥水1	0
						69			20.0				
					7/6	71							
						60	86／泥水		40.0				
					7/22	35				110			
						89			10.0		0.1	泥水1	1
					7/23								
					7/24	57			20.0		0.1	泥水2	2

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
50				アプライト	明褐灰	Cg	Ⅱg	cg	γ	2	●45.58～45.63m：破砕帯(f-b11-1-1) 破砕幅は2.5cmである。 灰白色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は2.5cmである。傾斜は60°である。
							Vg				46.77～46.89m：割れ目が密集し，割れ目にマンガンおよび白色の鉱物が分布する。
						Eg	Vc	dg	γ	4	47.07～53.13m：割れ目間隔は0～30cmで風化変質の影響が少なく，一部で非常に硬質である。
							Ⅳg				47.89～48.09m：硬質で岩芯は新鮮である。割れ目沿いに風化している。
							Vg				48.58～49.26m：硬質で割れ目と岩芯は風化で淡褐色化している。
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				
					明黄褐	Bg	Ⅱg				
						Cg					
						Bg					
						Cg	Ⅲg				49.79～49.84m：傾斜70°，幅5～20mm，灰白色の粘土を挟在する。軟質で指圧で容易に変形し，マンガンを伴う。
							Ⅱg				50.00～50.57m：硬質である。縦方向の割れ目に灰白色の粘土を挟在する。割れ目沿いに幅1～3cmの風化・マンガン濃集帯が分布する。
						Bg		cg	γ		
						Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				50.90～51.64m：やや軟質である。割れ目周辺に幅10mm程度の風化・褐色部が分布する。
						Bg	Ⅳg				
							Ⅱg			2	52.86m：暗色の包有物である。傾斜30°程度，10×60mmの円盤状である。
						Cg	Ⅳg				
							Ⅱg				54.14～54.20m：上端の傾斜60°程度，下端は凸凹，幅60mm，半固結の粘土混じり角礫状を呈する。
	-31.99	55.28		ペグマタイト				bg	β		55.28～55.82m：ペグマタイトである。 径5～10mmの石英・長石からなる。
	-32.37	55.82		アプライト			Ⅲg	cg			55.82～57.50m：アプライトである。 56.77～57.50m：斑晶の含有率は1～2%である。下位のペグマタイトとの境界は概ね傾斜70°程度である。
					灰赤		Ⅳg				
	-33.56	57.50		ペグマタイト				bg	γ		57.50～58.52m：ペグマタイトである。 径5～10mmの石英・長石からなる。柱状コアを主とし，割れ目が少なく風化変質も軽微で良好なコアを呈する。
	-34.28	58.52		アプライト	淡赤橙	Bg	Ⅲg				58.52～59.43m：アプライトである。斑晶と石基は微晶質である。
	-34.92	59.43		ペグマタイト							59.43～59.76m：ペグマタイトである。 石英・カリ長石の巨晶に富む。
	-35.16	59.76									
60				アプライト		Dg	Vg	cg		3	59.76～125.11m：アプライトである。
					にぶい橙	Eg	Vtg	dg	γ	4	●60.36～60.60m：破砕帯(D-39) 破砕幅は24.0cmである。 60.36～60.54m：シルト混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。 60.54～60.56m：褐色の角礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.9cmである。 60.56～60.60m：粘土混じり角礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端に傾斜45°，幅2～3mmの淡褐色の粘土を伴う。
						Cg	Ⅲg	cg			
							Ⅳg				
					褐灰	Bg	Ⅱg	bg	β		
					にぶい黄橙	Cg	Ⅳg			2	
						Bg	Ⅲg				61.75～61.79m：割れ目が密集し岩片状を呈する。 61.79～62.34m：上下位より堅硬で緻密である。62.09mまでは岩芯は風化している。 62.34～62.66m：割れ目沿いに幅100mm程度が脱色している。 64.83～65.64m：上下に比べて軟質で割れ目も多い。
						Cg					
						Dg	Ⅳg	cg	γ	3	
					明褐灰	Cg	Ⅲg				67.29～67.33m：割れ目密集部で砂状化している。傾斜は25°である。 67.48m：割れ目沿いに細片化している。
							Ⅳg				
						Bg	Ⅲg			2	67.48～69.98m：割れ目少なく硬質である。 68.51m，68.71m：割れ目に沿いに細片化している。 69.22m：割れ目沿いに細片化し，割れ目に幅4～8mmの灰白色の粘土が充填する。
						Cg	Ⅳg				69.98～70.19m：微細な割れ目が分布し，風化で褐色化している。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CM'		24 [38] 100		57							
CL'		18 [18] 100		150							
CM'		27 [73] 100	7/24	83							
CL'		25 [72] 100									
CM'		31 [92] 100		67				110	0.1	泥水2	2
CL'		46 [70] 100									
CM'		26 [57] 100	7/25	58							
CL'		32 [66] 100									
CM'		6 [42] 100		75							
CH'		32 [71] 100	7/26	77				150			
CM'		6 [93] 100									
CH'		23 [50] 100		74	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0		0.1	泥水2	0
CM'		21 [68] 100	7/27								
CH'		25 [83] 100									
		24 [77] 100									
D'		20 [38] 100		102							
CM'		21 [63] 100		38							
CH'		27 [63] 100		48							
CL'		25 [73] 100		78				140			
CM'		6 [16] 100	7/28								
CL'		1 [22] 100									
CM'		25 [52] 100		128							
CL'		36 [59] 100									
CM'		28 [80] 100	7/30	69					0.1	泥水1	0
		22 [74] 100									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
						Cg	Ⅳg				70.19～71.24m：硬質である。割れ目沿いと岩芯は風化で褐色化している。 71.69～72.72m：割れ目沿いの風化で上下位によりも軟質化している。
					明褐灰	Bg	Ⅲg				
						Cg	Ⅳg	cg	γ		72.51～72.57m：上端の傾斜50°，下端の傾斜65°，幅20mmの角礫混じり砂質シルト状を呈する。
					にぶい黄橙						
						Bg	Ⅲg				73.51～74.70m：割れ目が少なく新鮮・硬質である。
					褐灰		Ⅱg	bg	β		74.98m：割れ目沿いに幅20mmにわたり風化・酸化帯が分布する。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				75.43～75.66m：割れ目が多く細片，細粒化している。
					明褐灰		Ⅱg				
						Bg					76.68～77.80m：割れ目が多く，風化も進み一部細片化している。
							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg			2	79.06～79.76m：割れ目が多く，割れ目沿いに細片化とマンガン汚染している。
							Ⅳg				
							Ⅲg				79.76～80.74m：岩芯は概ね新鮮，割れ目沿いは風化で褐色化している。
80					褐灰	Bg	Ⅱg	cg	γ		80.74～83.23m：割れ目間隔は5～40cmと割れ目少なく，非常に硬質である。
											83.32m：割れ目に沿って幅5mmの褐色の軟質物を伴う。
											83.53～83.69m：割れ目沿い細片化している。
					明褐灰		Ⅳg				83.85m：傾斜45°，幅5mmの石英脈である。
						Cg					85.17～85.23m：割れ目沿いに細片～細粒化している。上端側に幅2～3mmの灰白色の粘土を挟在する。
							Vg				
							Ⅳg				
							Vg				85.97～86.21m：一部で割れ目沿いに細片～細粒化している。
							Ⅳg				
							Vg				87.52～88.93m：角礫状を呈する。 88.66m：傾斜60°，幅3mmの灰白色の粘土を挟在する。
							Ⅳg				
					浅黄橙	Dg	Vg			3	
							Vg				●88.93～88.97m：破砕帯(D-5) 破砕幅は3.8cmである。 88.93～88.96m：淡黄色の固結した礫状部からなる。径1～3mmの石英細礫を含む。 88.96～88.97m：淡黄色の未固結の粘土状部からなり，幅は0.3cmである。
							Ⅲg				
90							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				92.49～92.50m：割れ目沿いに，傾斜40°程度，幅10～20mmの固結した細粒分を挟む。
					明褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2	
							Ⅳg				93.64～93.80m：傾斜75°の割れ目沿いに，幅1.5mmの褐色の粘土を挟在する。
							Vg				
							Ⅳg				94.10m，94.34m：割れ目沿いに，幅1mm程度の褐色の粘土を挟在する。 94.97～95.45m：割れ目が密集する。
						Dg	Vg				95.87～96.05m：変質で軟化している。95.92m以深は一部で岩組織が消滅する。 96.80m：傾斜42°，幅1～5mmの灰白色のシルトを挟在する。

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
24 (100) [63]	CM'							69							
21 (100) [54]							7/30	71				140			
28 (100) [58]	CL'														
22 (100) [91]	CM'							30							
31 (100) [89]	CH'							340							
30 (100) [88]	CM'						7/31	55				150			
27 (100) [36]															
14 (100) [54]	CL'							65							
8 (100) [0]								86							
24 (100) [24]							8/1								
19 (100) [92]	CM'							75				140			
27 (100) [80]															
42 (100) [89]								80	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0		0.1	泥水－	0
24 (100) [49]															
7 (100) [0]							8/2	76							
9 (100) [0]															
14 (100) [14]	CL'														
8 (100) [0]								79							
42 (100) [0]							8/3								
26 (100) [31]	CM'														
18 (100) [67]								84				110			
15 (100) [23]															
19 (100) [19]	CL'														
5 (100) [28]							8/4	97							
1 (100) [20]															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	●97.87～99.00m：破砕部 破砕幅は77.1cmである。 97.87～97.88m：黄褐色の未固結の粘土状部からなり，幅は2.5cmである。上端境界の傾斜は48°である。 97.88～99.00m：礫混じりシルト質砂状を呈し，浅黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は60°である。98.31m以深は，径10～50mmの亜角礫と，細粒分を含む細粒砂が主体となる。下端に幅10mm以下の粘土を伴う。		CL'												
						Cg	Ⅳg			3									8/4	88			110	0.1	泥水1	0
						Dg	Vg			2																
						Cg	Ⅳg																			
							Ⅲg																			
							Ⅳg																			
					浅黄橙	Eg	Ⅵg	dg	ε	4																
									δ	3			D'													
					灰白	Dg	Ⅳg		γ		99.53～99.69m：傾斜60～70°の高角度の割れ目沿いに細片～細粒化している。 99.94～100.46m：傾斜45°の割れ目が主となる。割れ目間隔は0.5～5cmで，割れ目沿いに細粒化している。		CL'													
							Vg																			
						Cg	Ⅳg																			
						Dg	Vg																			
						Cg	Ⅳg		β		100.46～101.23m：岩芯は新鮮部が残留する。有色鉱物の周囲は風化で褐色化している。		CM'													
					にぶい黄橙				γ																	
						Dg	Vg						CL'													
						Cg	Ⅳg																			
					明褐灰	Bg	Ⅱg		β																	
						Cg	Ⅳg		γ																	
						Bg	Ⅲg		β		103.32～104.86m：縦方向に連続性の良い割れ目が分布し，これに斜交する割れ目が発達する。		CM'													
							Ⅳg	cg		2	103.99～104.03m：割れ目に，幅30mmのマンガン塊を挟在する。															
						Cg	Ⅳg						CL'													
							Vg				105.79～107.20m：割れ目沿いに風化するが岩芯は概ね新鮮である。															
							Ⅳg																			
									γ																	
					灰	Bg	Ⅲg				108.59～108.70m：上端の傾斜40°で粘土混じり砂礫状を呈する。 108.70～108.76m：粘土混じり砂状を呈する。 108.76～108.91m：粘土混じり角礫状を呈する。 108.91m：傾斜30°，幅1mm程度の砂混じり粘土を挟在する。		CM'													
					灰褐		Ⅳg																			
						Cg	Ⅲg																			
					灰白		Ⅳg																			
						Dg																			
						Eg	Ⅵg	dg	ε	4																
						Cg	Ⅳg	cg	δ	2	109.59～109.66m：角礫状を呈する。															
						Eg	Ⅵg	dg	ε	4																
						Dg	Vg																			
					灰黄褐		Ⅳg				109.66～109.72m：上端の傾斜が60°，下端の傾斜が50°で粘土混じり角礫状を呈する。		CL'													
						Cg	Vg																			
							Ⅳg																			
							Vg																			
							Ⅳg																			
							Vg																			
							Ⅳg	cg			111.12～111.41m：傾斜60～70°の割れ目と低角度の割れ目が斜交し，割れ目沿いが細片化している。															
							Ⅳg																			
											113.03～114.20m：割れ目は少なく硬質である。															
					灰黄	Bg	Ⅲg																			
						Cg																				
						Dg	Vg	dg	γ	2	114.62～114.71m：下端の傾斜40°の砂礫状を呈する。 114.71～114.83m：傾斜70°の割れ目が密集し，割れ目沿いに細片化している。		CM'													
					にぶい黄橙		Ⅲg																			
					灰黄		Ⅳg	cg																		
							Ⅲg																			
						Bg	Ⅱg	bg			116.53～117.61m：割れ目少なく新鮮・硬質である。		CH'													
					灰白		Ⅲg																			
						Cg	Ⅳg	cg			118.47～118.49m：割れ目沿いに細片化している。傾斜30°，幅20mmの粘土混じりシルトを挟在する。		CM'													
					灰褐		Ⅲg																			
						Bg	Ⅳg				119.21～119.53m：傾斜45～60°割れ目が発達するが，やや新鮮で非常に硬質である。															
							Ⅲg																			
							Vg																			

コアチューブ／ビット：ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット
孔径(mm)／孔壁保護：86／泥水

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
						Bg	Ⅳg			2	120.56～120.85m：変質で割れ目沿いが軟化している。
					灰褐	Cg	Ⅴg			3	
						Dg	Ⅲg			2	121.49～121.91m：変質で脱色し黄色を帯びる。
					明灰褐	Dg	Ⅳg			3	
											121.91～123.34m：傾斜45°と70°の割れ目が斜交し密集する。割れ目沿いに細片～細粒化している。
					灰黄褐	Cg	Ⅴg	cg			
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
	-81.37	125.11					Ⅴg				
						Bg	Ⅲg	bg			125.11～150.00m：花崗斑岩である。
					褐灰	Cg	Ⅳg				125.11～125.50m：割れ目，岩芯とも新鮮な硬質な岩盤である。
						Dg	Ⅴg				126.09～126.29m：変質で脱色し，長石類は白濁化している。微細な割れ目が発達し軟質である。
					灰白		Ⅴg				
							Ⅲg				127.22～127.81m：割れ目沿いにわずかに劣化している。岩芯は概ね新鮮である。
					褐灰	Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				
					灰白		Ⅳg				
						Dg	Ⅴg				128.18～128.68m：岩盤が劣化し軟質である。
					褐灰	Cg	Ⅳg				
							Ⅴg				129.26～129.80m：岩盤の劣化は軽微である。変質を受けるが硬質である。
						Bg	Ⅲg				
130					にぶい黄橙		Ⅳg				130.37～130.47m：岩盤が劣化し割れ目が密集する。割れ目沿いに細片化している。
						Cg	Ⅲg				
							Ⅴg				
							Ⅳg				
						Dg	Ⅴg				131.04～131.90m：傾斜40～60°の割れ目が分布する。
					灰褐		Ⅳg				
					にぶい黄橙		Ⅲg				132.64～132.75m：割れ目が密集し割れ目沿いに細片化，細粒化している。
							Ⅳg				
							Ⅴg				
					灰黄		Ⅳg				133.26～133.97m：変質で岩盤劣化し，割れ目が多い。
						Cg					133.83m：傾斜65°，幅2～10mmのマンガンが挟在する。上端に幅1mmの褐色細粒物質脈を伴う。
					灰褐		Ⅲg	cg			134.93～135.46m：割れ目が多く，一部で密集する。割れ目及びその周縁は褐色化している。岩芯は概ね新鮮である。
							Ⅳg				
					褐灰		Ⅴg				135.61～136.00m：傾斜60°程度の割れ目が斜交し，割れ目沿いは細片化している。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					灰黄褐		Ⅳg				
						Bg	Ⅲg				137.68～139.20m：傾斜45～60°の割れ目が間隔1～10cmで，微細な割れ目も同傾斜で分布する。割れ目沿いは細片化している。
					明褐灰	Cg	Ⅳg				
					にぶい黄橙						139.68～139.80m：岩盤が劣化し赤色を帯びる。割れ目沿い細粒化している。
						Bg	Ⅱg				
					にぶい橙		Ⅴg				
140							Ⅲg				140.76～140.96m：傾斜20°と80°の割れ目が斜交し，径10～30mm程度に細片化している。
						Cg					
							Ⅴg				
							Ⅳg				
							Ⅴg				
					褐灰	Bg	Ⅲg				141.35～143.15m：一部で割れ目沿い風化，褐色化するが，割れ目少なく硬質である。
							Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				
							Ⅱg				
						Eg	Ⅳg				●143.67～143.77m：破砕部
						Bg	Ⅲg			2	破砕幅は5.3cmである。
						Dg	Ⅴg	cg	γ	3	角礫状を呈し，褐灰色の固結した礫状部からなる。
					にぶい黄	Cg	Ⅳg			2	144.06～144.45m：変質で劣化している。すべての割れ目に，淡赤白色のシルトが主となる細粒物質が挟在する。
					褐灰						

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CM						8/24	70	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	110	0.1	泥水4	0
CL'							54							
						8/25	61							
CM'														
CL'							62							
CM'						8/27								
CL'							77							
CM'														
CL'							50							
							63							
CM'						8/28								
CL'							49							
CM'							81							
CL'						8/29								
CM'							46							
CL'							28							
CM'						8/30								
CL'							62							
CM'							44							
CL'						8/31								
							65							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
					褐灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	145.35～146.11m：傾斜45°程度の割れ目が主となる。割れ目沿いに褐色の細粒物質が付着，挟在する。	0 50 100	CL'				0 10 20 30 40 50			8/31	65	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	110	0.1	泥水 4	0
					灰褐		Ⅲg					15 [50] 100																
							Ⅳg					18 [64] 100																
						Bg	Ⅲg				147.97～148.40m：傾斜60°割れ目に褐色の細粒物質が挟在する。	26 [57] 100	CM'														
						Cg	Ⅳg					21 [39] 100								9/1	50						
						Bg	Ⅲg				149.38～149.46m：割れ目が多く割れ目沿いに細片化しマンガン汚染を受ける。	38 [63] 100															
						Cg														9/3	35						
						Bg																					
	-98.97	150.00		花崗斑岩	褐灰																						

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										1

ボーリング名	B11-2	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	3.14 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 323.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘削長	150.00 m								エンジン / ポンプ

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率(%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N)値	(標準貫入)試験 (N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				埋土	にぶい黄褐						0.00～5.00m：埋土である。 0.00～3.84m：礫混じりシルト質砂からなる。 0.00～1.50m：亜円～亜角礫からなる。基質は細～粗粒砂からなり不均質である。 1.50～3.84m：細砂～粗砂の不均質な砂からなる。全体にシルトと径2～10mmの亜円～亜角礫の細礫を含む。礫種は花崗斑岩，アプライトを含む。										6/28		／試掘	試掘／試掘	0.0	0		試掘	
					灰黄褐															300		シングルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	30	0.0	無水0	0
					にぶい黄															25			10.0		0.1	泥水3	3
					明黄褐						3.84～4.85m：シルト混じり粗粒砂からなる。粗粒砂を主体とする。 4.85～5.00m：礫混じりシルト質砂からなる。白色の人工物を混入する。									6/29	20			20.0	100	0.0	泥水5	5
					にぶい黄橙															16							
	-0.40	5.00			黄褐														6/30	24			10.0	80			
				礫混じり砂	灰黄						5.00～26.19m：砂質土主体の第四系である。 5.00～7.59m：礫混じり砂である。 5.00～5.95m：細粒～粗粒砂で，全体に径2～5mmの細礫が混じる。 5.30～5.35m：細粒分に富む。 5.95～6.73m：粗粒砂が主で，全体に暗い色調である。僅かに有機物が混じる。 6.73～7.59m：粗粒砂が主体となる。										7/2	80			30.0		0.0	泥水10	10
																				120							
																				90							
					褐灰														7/3	105							
					黄灰															180			40.0		0.0	泥水10	7
	-2.23	7.59									7.59～13.92mm：砂である。 7.59～8.63m：粗粒砂が主体となる。 8.36～9.40m：中粒砂が主体となる。									90							
				砂	灰黄褐															120					0.0	泥水10	10
					灰黄																						
10					黄灰						9.40～10.54m：上位側は細粒砂で，中央～下部側は中～粗粒砂が主となる。全体的には上方細粒化している。									7/4	180			20.0	60	0.0	泥水7	5
																				150							
					灰						11.83～13.92m：粗粒砂が主体である。全体にシルト～細礫の混じる不均質な砂である。有機物が見かけ90°で分布する。									160							
																				240							
					にぶい黄橙															260							
	-6.70	13.92		礫混じり砂	灰						13.92～14.94m：礫混じり砂である。細礫の混じる粗粒砂が主で，シルトをわずかに混入する。また有機物を含む。 14.32～14.40m：径4～5mmの細礫を多く混入する。										210							
	-7.42	14.94		砂	灰黄						14.94～17.04m：砂である。 粗粒砂が主となる。全体に細粒砂と細礫を含む。									7/5	180			30.0		0.1	泥水10	7
					灰															220							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
	-8.91	17.04		砂 礫混じり砂	灰						17.04～18.73m：礫混じり砂である。径2～4mmの石英細礫を含む細～中粒砂からなり，上位と比べて礫率は低く10%程度である。少量の有機物含む。						180							
	-10.10	18.73															340							
	-10.33	19.05		礫質砂							18.73～19.05m：礫質砂である。細～中粒砂が主で，径2～5mmの細礫を10～20%含む。径1～3mmの炭質物を混入する。													
20				有機質土混じり砂	黄灰						19.05～22.69m：有機質土混じり砂である。細～中粒砂が主で，粗粒砂～細礫をわずかに混入する。径2～10mm，最大50mmの炭化物が散在する。					7/5	320		シングルコアチューブ/ダイヤモンドビット	30.0	60	0.1	泥水10	7
											22.20～22.65m：中～細粒砂主体となる。2mm以下の片状もしくは繊維状の有機物が散在する。													
	-12.90	22.69		シルト混じり礫質砂/砂礫互層							22.69～25.13m：シルト混じり礫質砂，砂礫互層である。シルト混じり礫質砂は中粒砂が主で，径10～40mmの亜角～亜円礫を含む。単層幅は20～70cmである。砂礫は径10～50mmの亜角～亜円礫を40～60%含み，基質はシルト混じり中粒砂からなる。単層幅は20～40cmである。地層境界に有機質砂が挟在する。						225					0.1	泥水7	5
					褐灰											7/6	90			10.0	90			
	-14.63	25.13		灰オリーブ							25.13～26.19m：礫混じりシルト質砂である。径2～5mmの石英，及び5～40mmの亜角～亜円礫を数～15%含む。													
				礫混じりシルト質砂	灰黄											7/18	60			30.0				
	-15.38	26.19		アプライト	明褐灰	Eg	Vg	dg	δ	2	26.19～123.51m：アプライトである。微細な石英，長石斑晶を少量含む。	CL'				7/19	39	114/ケーシング			80	0.0	泥水1	1
						Dg	IIg				26.36m：流入土砂である。傾斜25°，幅4mmの淡赤白色の粘土混じり砂からなる。													
							IIIg				26.75m：傾斜80°と50°の割れ目が斜交する。交差部は幅5mmが劣化している。	CM'												
							Vg		γ															
						Cg	IIIg		δ															
									γ															
							Vg		δ		28.17～28.37m：風化で軟化している。													
						Dg	IVg		γ															
							IIIg		δ															
						Cg			γ		29.00～29.03m：開口割れ目にシルト質細砂が流入する。傾斜は45°程度である。													
					淡橙	Dg	IVg		δ		29.55～29.57m：開口割れ目に細砂，および細礫が流入する。	CL'												
30					明褐	Cg			γ		29.85～29.91m：開口割れ目に黒褐色の土砂が流入する。固結している。													
					明褐灰	Dg	Vg		δ		30.54～30.58m：淡褐色の粘土が混入する。周囲はマンガン汚染が広がる。													
							IVg		γ		30.83～30.88m：土砂が流入する。大半はマンガンに置換される。													
						Eg	Vg	dg	δ		31.67～31.69m：割れ目に黒褐色の砂・有機物が流入する。													
						Dg	IIg				31.94～32.04m：橙色の粘土が流入する。軟質で指圧で容易に変形する。	CM'												
						Cg	IVg	cg	γ															
							IIg																	
							IIIg																	
						Eg	VIg	dg	δ	3	32.53m：傾斜45°，幅6～7mmの粗粒砂混じり粘土を挟在する。													
					灰白	Dg	IVg	cg	γ	2	33.31～33.36m，33.50～33.59m：赤褐色～橙色の粘土が流入する。	D'												
						Eg	VIg	dg	δ	3	33.73m：割れ目の傾斜は80°である。下盤側，幅3cmは変質で赤褐色化している。													
					にぶい黄橙	Dg	IVg	cg	γ	2	34.05～34.73m：風化変質で割れ目は消滅する。	CL'												
						Eg	VIg	dg	δ	3	35.64～35.67m：上端の傾斜80°，下端の傾斜は不明瞭，幅20～25mmの粘土混じり砂状を呈する。岩組織は消滅する。	D'												
					にぶい黄褐					4	35.77～37.12m：不規則に灰白色の粘土を伴う。													
					明褐灰	Dg	IVg	cg	γ	2	36.22～37.12m：灰白色，赤白色，緑灰色を呈する粘土を伴い脆弱である。	CM'												
						Cg	IIIg				37.45～39.94m：割れ目は少なく硬質である。傾斜30～40°と70°程度の割れ目が10～20cm間隔で発達する。													
							IVg																	
						Dg	IIIg																	
40						Cg	IVg				39.94～42.09m：割れ目が多く，マンガン汚染・付着も多い。	CL'												
											40.26m：傾斜75°，幅6mmの淡褐色の流入粘土を挟在する。固結している。													
											41.30～41.70m：やや軟質化している。割れ目沿いに細片・細粒化している。													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
50				アプライト	明褐灰	Cg	Ⅲg		γ	2	42.46m：傾斜45°，幅2～5mm，淡黄白色のシルトを挟在する。固結している。
							Ⅳg				43.53～43.63m：岩質劣化し一部は土砂状を呈す。また，全体に白雲母が散在する。 43.63m：傾斜70°，幅0～3mm，褐色の粘土を挟在する。固結している。
							Vg				44.74～47.22m：傾斜20～30°及び70～80°の割れ目が間隔2～8cmで発達し，周縁は酸化汚染が広がる。
							Ⅳg				47.00～47.22m：間隔1～3cmと割れ目が多い。傾斜60～70°の割れ目が主となる。一部で風化し，褐色の粘土を挟在する。
							Vg				47.77～48.55m：割れ目間隔は2～7cmと割れ目が多い。やや軟質で脆く長石の斑晶は粘土化している。
					にぶい橙	Dg	Ⅳg		δ	3	48.50m：傾斜50°，幅5mm，灰白色の粘土脈である。
					明褐灰		Vg				48.55～49.77m：斑晶は5～15mmと大型化している。長石の斑晶はシルト状を呈する。傾斜70°以上の高角割れ目が卓越し，割れ目沿いに岩質が劣化している。
						Cg	Ⅳg	cg			51.46～51.69m：間隔2～4cmで割れ目が多い。傾斜65°と20°の割れ目が交差し片状化している。
											52.70～59.43m：割れ目沿いに酸化する。
											53.78～55.19m：すべての割れ目が酸化汚染で褐色化している。割れ目の周縁も幅5mm程度の酸化帯が広がる。
						Dg			γ		55.73m：傾斜65°程度の湾曲した割れ目沿いに幅2～10mmで細粒化し，褐色の酸化物，黒色のマンガンが幅5～10mmで分布する。
						Cg					
						Bg					58.31～58.68m：傾斜30°以下の低角度割れ目が主となる。58.49m付近で割れ目沿いに細片化，マンガンが濃集する。
							Vg			2	
							Ⅳg				59.43～59.66m：割れ目が密集するが硬質である。
60							Vg				
						Cg	Ⅳg				
					灰白		Ⅲg	bg	β		61.52m：傾斜60°，幅2～3mm，黄褐色の粗粒砂・細礫混じり粘土が挟在する。
											62.00m：傾斜55°の割れ目沿いに，幅15～20mmで酸化している。
							Ⅳg				63.57～63.59m：傾斜60°の割れ目沿いに岩質が劣化し，周囲には幅3～5mmの酸化帯が分布する。
					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ		64.52～65.15m：岩質が軟質化し，割れ目も多い。
						Cg	Ⅳg				64.78m：傾斜25°，幅1～8mm，暗褐色の細礫混じりシルト質砂を挟在する。
						Dg	Vg				65.88～66.05m：傾斜40～60°の割れ目沿いに細片化し，コアは軟質化している。
						Cg	Ⅳg				
							Vg				

コア採取率（%） 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
0 50 100				0 10 20 30 40 50											
12 [24] 100	CM'						7/24	105	73／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	100	0.1	泥水7	5
16 [23] 100								79					0.2	泥水7	5
10 [10] 100							7/25	60							
5 [0] 100															
8 [0] 100															
5 [0] 100								100							
10 [10] 100								75							
8 [0] 100							7/26	55				120	0.2	泥水10	7
11 [22] 100															
5 [0] 100								80							
11 [22] 100	CL'														
5 [0] 100															
8 [0] 100								86							
8 [0] 100															
13 [13] 100							7/27	96					0.3	泥水10	7
9 [0] 100															
13 [13] 100								109							
10 [10] 100															
9 [0] 100												30.0	150		
11 [22] 100	CM'														
24 [34] 100								106							
9 [0] 100															
4 [0] 100	CL'						7/28	75					0.3	泥水10	8
5 [0] 100															
9 [0] 100															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				アプライト	明褐灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	66.05～69.34m：割れ目密集部が見られ，割れ目間隔5～10cmが主体となる。 66.79～67.09m：割れ目密集部である。コアは岩片状を呈する。
					明赤灰	Bg	Ⅲg				69.34～70.05m：上位に比べて硬質である。69.77mまで割れ目沿いの褐色化が目立つ。
					灰黄	Cg					70.94～71.21m：変質劣化し淡黄色化している。岩組織はほぼ残留する。
						Dg	Vg		δ	4	●71.21～71.24m：破砕帯(D-7) 破砕幅は1.0cmである。 淡黄色の礫混じり粘土状を呈し，固結した粘土状部からなる。上端境界の傾斜は65°，下端境界の傾斜は70°である。
					にぶい黄橙				γ		
					明黄褐		Ⅳg				
						Cg	Vg		δ		71.24～72.04m：傾斜20～30°と50～60°の割れ目が交差し劣化している。
							Ⅳg		γ	2	74.80m：傾斜50°，幅1mm，緑灰白色の粘土を呈する。
					灰白						75.60m：傾斜50°，幅8mm，緑灰白色の粘土を呈する。
						Dg	Vg				
						Cg	Ⅳg				●77.48～78.10m：破砕帯(f-b11-2-2) 破砕幅は43.8cmである。 77.48～78.05m：礫混じり砂状を呈し，明赤灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は70°である。 78.05～78.10m：褐色の未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Eg	Ⅵg	dg	δ	4	
					明赤灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	79.46～79.65m：上端の傾斜60°，下端の傾斜65°の粘土混じり砂礫状を呈する。上端に幅10mmの灰白色の粘土混じり砂を伴う。
						Dg	Vg			3	
						Eg	Ⅵg	dg	δ	4	
80						Dg	Vg	cg	γ	3	●80.50～83.93m：破砕帯(D-6) 破砕幅は171.5cmである。 80.50～80.51m：淡黄色の砂混じり粘土状を呈し，固結した粘土状部からなる。傾斜は45°である。 80.51～83.69m：淡黄色～灰白色の割れ目の密集部からなる。 83.69～83.78m：礫混じりシルト質砂状を呈し，淡黄色の固結した礫状部からなる。 83.78～83.80m：灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.7cmである。傾斜は60°である。 83.80～83.81m：礫質粘土状を呈し，浅黄色の固結した礫状部からなる。 83.81～83.93m：角礫状を呈し，浅黄色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。
					淡黄					4	
					灰白	Eg	Ⅵg	dg	δ	3	
						Dg				4	
					にぶい橙		Vg				
						Cg	Ⅳg			2	83.93～84.63m：やや硬いが割れ目は1～4cm間隔で発達し割れ目が多く片状化している。
							Vg				
							Ⅳg				
						Dg	Vg			3	
						Cg	Ⅳg			4	86.64～86.72m：微細な割れ目が密集する。風化が顕著である。
					淡赤橙	Bg		cg	γ		87.59～89.82m：割れ目間隔は10～20cmで割れ目は少なく，硬質～一部で非常に硬質である。風化で褐色化している。
						Cg	Ⅲg			2	89.00～89.04m：傾斜60°，幅25mm，灰色の石英脈である。
90							Ⅳg				90.13～98.16m：非常に硬質である。ハンマー打撃で金属音を発する。 90.13～93.40m：割れ目間隔は10～25cmが主となる。
						Bg	Ⅲg				91.20m：傾斜60°，幅20mm，灰色の石英脈である。周囲の一部は風化し，褐色化している。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
CL'						7/28	75					0.3	泥水10	8
CM'											150			
						7/30	67					0.2	泥水7	5
CL'							107			30.0	180			
						7/31	116							
D'							90							
CL'							120				150			
D'						8/1	78	73／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット			0.2	泥水5	4
							80							
							43			20.0	120			
CL'						8/2	77							
							53							
CM'						8/3	64					0.2	泥水10	9
							100			30.0	140			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					淡赤橙						
					明褐灰	Bg	Ⅲg				
							Ⅳg				93.84～97.91m：割れ目間隔は10～20cmが主で，所々マンガン汚染が広がる。
					淡赤橙		Ⅲg	cg	γ	2	97.91～98.16m：コアは硬質であるが，割れ目沿いにマンガン・酸化汚染が広がる。
					にぶい橙		Ⅳg				98.16～98.50m：間隔3cm未満の網目状に細かく割れ目が発達する。角礫状化する。上端の傾斜は60°程度である。
							Ⅲg				98.50m：傾斜60°，幅2～5mm，軟質な黄褐色の粘土状を呈する。
							Ⅳg				98.50～98.59m：砂礫状を呈する。岩組織は不明瞭で軟質である。下端に傾斜50°で幅2～8mmの暗褐色の酸化帯を伴う。
					橙	Cg	Vg				
						Dg	Vg		δ	3	
					淡赤橙	Cg	Ⅳg		γ		98.70～99.14m：傾斜30°と70°の割れ目が2～5cm間隔で発達する。割れ目はやや多いが硬い。
							Vg		δ		
					淡黄	Dg					
						Cg	Ⅳg				99.14～100.88m：傾斜10～30°の低角割れ目が発達し，多くが脆弱で割れ目沿いに細粒・細片化している。
						Dg	Vg				
100							Ⅳg				
						Cg	Vg				
							Ⅳg				102.07m：傾斜50°の割れ目沿いに暗青灰色の変質鉱物が幅20mmで分布する。白雲母を伴う。
					明褐灰	Bg	Ⅲg	cg			
						Cg	Ⅳg				103.45～104.59m：硬質で，棒状コアを呈する。岩芯に新鮮部が残存するが，斑状の褐色化を伴う。
							Ⅱg				104.59～105.27m：微細な密着割れ目が発達し，上位に比べやや軟質である。
						Bg	Ⅲg	bg			105.27～108.05m：大半の割れ目と割れ目沿いが褐色化している。
					灰白	Cg					107.25m：傾斜60°，幅2mm，灰白色の粘土を挟在する。
						Dg					
						Cg	Ⅳg			2	107.60m：傾斜65°，幅2mm，灰白色の粘土を呈する。下盤側に暗青灰色の変質鉱物帯が幅10mmで分布する。
						Dg					
						Cg					
					明褐灰	Bg			γ		108.05～110.36m：傾斜60°の割れ目が主で風化で褐色化している。
						Cg	Ⅲg				108.76～109.04m：割れ目沿いに淡緑青色の鉱物が分布する。
					褐灰	Bg					
110							Ⅳg				110.64～110.93m：割れ目が多くなり，僅かに細片化部を含むが硬質である。
						Cg	Ⅲg	cg			110.93～111.68m：割れ目が少なく硬質部が主となる。有色鉱物の周囲が風化で斑点状に褐色化している。
							Ⅳg				111.68～112.39m：縦方向の割れ目沿い幅10mm程度が風化・褐色化している。マンガンも伴う。
						Bg	Ⅲg				
					明褐灰	Cg					113.15～113.46m，114.18～115.43m：割れ目が多い。割れ目は風化・褐色化し，岩芯は斑状に褐色化している。
						Bg	Ⅳg				
						Cg					
											115.43～116.16m：上端の傾斜が55°，下端の傾斜が70°の固結した角礫状を呈する。上端に2～3mmの灰白色の粘土を伴う。116.00m以浅はわずかに粘土を伴い，以深は粘土化が進む。
					灰白	Dg	Vg			3	
						Cg				2	117.18～117.89m：割れ目沿いに細粒・細片化している。有色鉱物の周囲はすべて褐色化している。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
						8/3	100				140	0.2	泥水10	9
						8/4	98							
CM'							60				120	0.2	泥水5	4
						8/6	102							
CL'						8/14	65	73／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	30.0	150	0.2	泥水10	10
							103							
CM'						8/15	105				120	0.2	泥水15	14
							111	86／セメンティング						
CL'							138							
CM'						8/16	130				150	0.2	泥水10	9
CL'														
						8/17	120			20.0		0.2	泥水15	14
CL'							93							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				アプライト	灰白	Cg	Vg	cg	γ	2	117.89～118.60m：上端の傾斜が70°，下端の傾斜が80°の角礫混じり砂質粘土状を呈する。淡赤白色の軟質な熱水変質脈で，花崗斑岩の岩片が取り込まれる。	CL'		8/17	93	86/セメンティング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	150	0.2	泥水15	14
					明赤灰	Eg	Ⅵg	dg	δ	4		D'			96							
					灰白	Dg	Vg	cg	γ	3	119.92～120.11m：傾斜60°の割れ目が主で，割れ目沿いに細粒化，風化・褐色化している。	CL'		8/18	120			30.0				
120						Bg	Ⅲg			2	121.53～122.12m：傾斜60～70°の割れ目が発達し，割れ目沿いに細片～細粒化している。 122.12～122.53m：粘土混じり角礫状を呈する。上端に傾斜70°，幅1～4mm，灰白色の砂混じり粘土を伴う。				77							
						Cg	Ⅳg								50							
					明赤灰	Dg									80							
						Cg	Vg				122.52～122.74m：固結砂礫状を呈する。変質し岩組織は概ね消滅する。			8/20	120							
					淡赤橙	Dg									60							
						Eg	Ⅵg	dg	δ	3	122.74m：傾斜70°，幅5mmの褐色～灰白色の粘土を伴う。 122.97～123.70m：傾斜40～60°の割れ目が3～10cm間隔で分布する。											
	-84.19	123.51				Dg	Vg				123.51～150.00m：花崗斑岩である。									0.6	泥水20	20
				花崗斑岩	褐灰	Cg	Ⅲg			2	123.70～125.39m：割れ目間隔10～20cmで割れ目は少なく硬質である。	CM'		11/17	40					0.4	泥水10	10
						Bg																
					灰赤	Cg	Ⅳg															
					灰褐	Dg	Vg				126.59～127.52m：一部を除き割れ目が多く軟質化している。一部で変質により白色の粘土細脈が分布する。				64			20.0				
						Cg	Ⅳg															
						Dg	Vg															
					灰黄	Cg	Ⅳg			3	127.52～128.68m：傾斜30～60°の割れ目が5～10cm間隔で分布する。			11/19								
					にぶい橙		Ⅲg				128.68～129.08m：コアは短柱～柱状を呈し，岩芯は新鮮である。											
130					にぶい赤褐		Ⅳg				130.18～131.32m：一部の密集部を除き，割れ目はやや少ない。マンガン汚染を受ける。	CL'			90							
							Vg															
							Ⅳg				131.32～131.85m：変質による黄褐色鉱物が分布する。											
					褐灰	Dg	Vg				132.11m，132.16m：傾斜40°，幅3mm及び2～8mmの石英脈である。周縁はマンガンが濃集する。											
						Cg	Ⅳg		γ	2	133.92～135.65m：一部を除き割れ目は少ない。傾斜40～60°の割れ目が10～15cm間隔で分布する。				109	86/泥水						
							Ⅲg															
					明黄褐		Ⅳg				134.24～134.29m：上端の傾斜60°，下端の傾斜55°，変質で橙色を帯び細片化している。											
					にぶい褐		Ⅲg				134.51～134.90m：割れ目が多いものが主となる。岩片化している。	CM'		11/20						0.2	泥水15	10
							Ⅳg															
					暗灰黄	Dg	Vg															
						Cg	Ⅲg				136.01～136.19m：上下位に比べ軟質で岩片化している。											
					褐灰	Dg	Ⅳg				136.90～138.45m：割れ目は少なく硬質である。傾斜30～60°の割れ目が主となる。	CL'			100			30.0				
						Cg	Ⅱg															
							Ⅳg															
						Bg	Ⅲg	bg			138.45～139.20m：割れ目はやや多い。傾斜40°程度の割れ目が主でマンガン汚染と褐色の細粒物質を伴う。	CH'										
						Cg	Ⅳg	cg														
						Dg	Vg			3	139.20～139.70m：傾斜45～65°の割れ目に沿って幅20～30cmの灰白色の変質部を伴う。				106					0.4	泥水15	13
140					にぶい黄橙	Cg	Ⅱg			2	140.93～141.40m：割れ目が多い。傾斜40～50°の割れ目が主で細片化～細粒化している。	CL'		11/21								
							Ⅳg															
					灰褐		Ⅲg				141.40～142.18m：割れ目が少なく硬質である。									0.3	泥水15	13
							Ⅳg															
							Vg															
							Ⅲg															
						Bg		bg							100							

コア採取率 (%)
最大コア長 cm
R Q D [%]

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
					灰褐	Bg	Ⅲg	bg																		
						Cg	Ⅳg				143.00～143.10m, 143.88～143.96m：微細な割れ目が集中し, 脱色, 軟化している。		CL'						11/21	100				0.3	泥水15	13
					褐灰	Dg	Vg																			
					灰褐	Cg	Ⅳg	cg																		
					褐灰	Bg	Ⅲg				145.73～145.76m：脱色し細粒化している。上下端の傾斜は55°で風化・酸化汚染している。		CM'							160					
					灰黄褐	Cg	Ⅳg						CL'													
						Dg	Vg				146.10～146.24m：割れ目が集中し細片～細粒化している。脱色し白濁している。															
						Cg	Ⅲg	bg			146.24～147.41m：割れ目は少ない。傾斜10～40°の割れ目が主となる。		CM'													
					褐灰	Bg					147.41～148.85m：割れ目がやや多く, 微細な割れ目も分布し一部で細片化している。								11/22	100				0.4	泥水15	13
							Ⅳg																			
					黄灰	Cg	Ⅲg	cg			148.85～150.00m：割れ目がやや多い。傾斜30～50°の割れ目が主となる。一部で細片化～細粒化している。		CL'													
					褐灰		Ⅳg													69						
	-102.93	150.00									149.02m, 149.15m：脱色し白濁している。															

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	B14-1	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	20.12 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 135.0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	150.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
				埋土	黄褐						0.00～2.48m：埋土である。礫混じり砂からなる。細～中粒砂が主でシルトが混入し不均質である。礫は径2～20mmの花崗斑岩亜角礫が主で他に径20～30mmの砕石が混じる。下部は上位に比べシルト質である。岩盤との境界は傾斜45～50°で凸凹している。												試錐／試掘	0.0	0		試掘	
	18.37	2.48			にぶい黄褐														7/27							
				花崗斑岩	灰白	Eg	Vg	dg	ε	2	2.48m～101.74m：花崗斑岩である。斑晶は径1～10mmの石英，カリ長石が数%と径1～3mmの黒雲母が僅かに点在する。		D'							65							
						Dg			δ		2.48～4.58m：強風化部で針が貫入する。一部は指圧でほぐせるほど軟化している。カリ長石の多くは白濁化している。															
						Eg			ε																	
						Dg	Vg	cg	δ	3	4.68～4.79m：網状に割れ目が発達する。マンガンが付着し黒褐色化している。下端に傾斜0～5°，幅1～7mmで暗褐色のシルトを挟在する。															
						Cg	IVg		γ	2	4.89m：傾斜38°，幅1～6mmで黄灰色のシルトを挟在する。															
							Vg	dg	δ		5.73～5.83m：風化で軟質化している。															
							IVg	cg	γ	2									7/28	90	140／ケーシング					
					黄橙		Vg	dg	δ	3			CL'													
						Dg	IVg	cg	γ	2	6.70～7.31m：割れ目が多く岩片状を呈する。傾斜10～45°の割れ目が主となる。															
							IVg				8.25～8.78m：砂状を呈する。処々やや硬質部が礫状に残留する。															
							Vg	dg	δ	3			D'													
					浅黄橙		Vg	cg	γ	2																
						Cg	IVg				9.64～11.47m：やや割れ目が多い。傾斜30～45°と60°の割れ目が交差する。全体に変質し軟質化している。															
							IIIg																			
10					淡黄		IVg	cg	γ	2			CL'						7/30	95						
							Vg				11.47～13.38m：傾斜45°～60°程度の割れ目や微細な割れ目が発達する。															
					淡橙	Dg		dg	δ	3			D'													
							IVg		γ	2	13.38～14.33m：傾斜約30°と60°の割れ目が交差する。やや硬質でハンマーの打撃で鈍い金属音を発する。															
							Vg		δ	3									7/31							
						Cg	IVg		γ	2	14.33～14.55m：非常に硬質である。															
						Bg	IIIg																			
						Cg	IVg																			
						Dg	Vg		δ	3																
						Cg	IVg	cg	γ	2			CL'													
							Vg				15.23～15.26m：流入砂礫である。															
					浅黄橙		IVg																			
						Dg	Vg		δ	3	15.71～18.50m：全体に変質が進みコアはやや脆弱化している。ハンマーの打撃で鈍い濁音を発する。															
					黄橙		Vg												8/2	90				0.1	泥水	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
20				花崗斑岩	黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	18.50～18.61m：砂状化し，軟質である。
					明褐灰	Eg	Vg	ag	δ		
						Dg	Ⅲg	cg	γ	2	
						Cg		bg			
						Dg	Vg		δ	3	19.00～22.11m：傾斜10～30°の割れ目が0.5～3cm間隔で発達し，コアは角礫状～岩片状化している。
					にぶい橙	Cg	Ⅲg		γ	2	20.36～20.49m：やや硬質で，割れ目は褐色で密着している。
						Dg	Vg		δ	3	21.00～21.16m：やや硬質で，割れ目が発達する。
					明褐灰	Cg	Ⅳg		γ	2	
						Dg	Vg			3	
						Cg	Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					橙	Dg	Vg		δ		●21.63～22.57m：破砕帯(D-15) 破砕幅は87.9cmである。 にぶい橙色の割れ目の密集部からなる。
					明褐灰	Cg	Ⅳg		γ	2	23.35～23.87m：非常に硬質である。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する。
						Bg	Ⅲg				
					にぶい橙	Cg	Vg				24.10～24.70m：網状に割れ目が発達する。所々に褐色の粘土を挟在する。
						Dg	Vg		δ	3	
						Cg	Ⅳg	cg	γ	2	25.32～25.75m：軟質である。割れ目が多く，傾斜70°の割れ目が約1cm間隔で発達する。割れ目面は黒色で，一部砂状化している。
						Dg	Vg		δ	3	
						Cg	Ⅳg				
						Bg	Ⅱg		γ	2	26.00～26.46m：割れ目は少なく，非常に硬質である。
							Ⅳg				
						Cg	Vg				
							Ⅳg				
							Vg				27.47～27.70m：一部，割れ目に沿って軟質化している。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
					浅橙	Dg	Vg		δ	3	28.63～29.22m：割れ目が多く角礫状化している。
					淡赤橙	Cg	Ⅳg		γ	2	29.22～29.80m：割れ目はやや多いが硬質である。
30							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				
					明褐灰	Bg	Ⅱg				
						Cg	Vg				31.57～32.33m：割れ目間隔は1～5cmで，岩片状コアが主となる。ハンマー打診で金属音を発する。
						Dg	Vfg	dg	δ	3	
						Cg	Vg	cg	γ	2	33.41～34.13m：割れ目が多い。角礫～岩片状を呈する。軟質である。
							Vfg				
						Dg	Vfg	dg	δ	3	
						Cg	Vg		γ	2	
					にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	34.82～35.75m：割れ目沿いにマサ化している。
							Vfg	dg			
					明褐灰	Cg	Ⅲg		γ	2	36.14～36.21m：角礫混じり砂状を呈する。下端に薄く褐色の粘土を伴う。
							Ⅳg				
					浅黄橙	Dg	Ⅳg	cg	δ	3	36.21～37.70m：割れ目は傾斜20～30°の低角度が主となる。割れ目沿いは褐色化・細粒化している。
					明褐灰	Cg	Vg		γ	2	
						Dg	Ⅳg				●37.86～37.91m：破砕帯(D-29) 破砕幅は4.0cmである。 37.86～37.87m：灰白色の未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。上端境界の傾斜は30°である。 37.87～37.91m：角礫混じり砂状を呈し，褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は35°である。
							Vfg	dg			
					褐灰	Cg	Ⅲg	cg			
						Bg		bg			
					明赤灰	Cg	Vg	cg		2	37.91～42.62m：部分的に割れ目が多く軟質である。
							Ⅳg				
40						Dg	Vg		δ		●42.62～42.88m：破砕帯(f-b14-1-2) 破砕幅は18.4cmである。 42.62～42.82m：粘土混じり角礫状を呈し，灰白色の固結した礫状部からなる。上端，下端境界の傾斜はともに48°である。岩組織は消滅する。
						Eg	Vfg	dg	γ		
					褐灰	Dg	Vg	cg	δ		
						Cg	Ⅲg	bg	γ		42.82～42.88m：灰白色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は5.5cmである。下端境界の傾斜は45°である。
					灰褐	Dg	Vg				
						Cg	Ⅳg	cg			
						Eg	Vfg	dg	δ	3	
						Dg	Vg	cg	γ	2	

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
							90	115／ケーシング						
CL'														
						8/2	100	115／ケーシング						
CM'														
							95							
CL'														
							115							
						8/3			ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	50.0	100	0.1	泥水	0
							110	86／泥水						
CH'	▽37.00 37.00 37.00

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg	δ	2	●43.19～43.62m：破砕帯(D-30) 破砕幅は31.4cmである。 43.19～43.20m：黒褐色の粘土混じり角礫状を呈し，未固結の粘土状部からなり，幅は0.3cmである。上端境界の傾斜は42°である。 43.20～43.62m：粘土混じり砂状を呈し，褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は30°である。 46.02～46.49m：傾斜40～50°の割れ目が1～2cm間隔で網状に発達する。割れ目沿いに劣化する。 48.36～49.44m：細粒花崗斑岩である。径1mm以下の微晶で構成されている。 48.82～48.85m：幅25～40mm，灰白色の粘土混じり砂礫状に変質している。 50.24～50.60m：白色の粘土が不規則に分布する。 51.30～52.70m：上端の傾斜50°，下端の傾斜65°，割れ目が少なく非常に硬質である。ハンマー打撃で澄んだ金属音を発する。 54.79～56.36m：概ね新鮮で非常に硬質である。 57.65～58.50m：割れ目が多く，角礫状～岩片化している。一部淡黄灰色の粘土を伴う。 58.50～58.91m：割れ目が密集する。赤色を帯びる。 60.90m：傾斜45°，幅15～20mmのマンガン脈である。小岩片を取り込む。 ●61.09～61.22m：破砕帯(M) 破砕幅は8.7cmである。 61.09～61.20m：角礫状を呈し，褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は48°である。 61.20～61.22m：褐灰色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。 63.88～63.97m：変質で割れ目沿いに暗青灰色化している。 63.97～65.87m：傾斜80～90°の高角度割れ目と，傾斜10～30°の低角度割れ目が交差し岩片化している。割れ目が褐色化している。 66.61～67.06m：割れ目は多く細粒化している。傾斜40°前後の割れ目が主となる。																				
50																						
60																						

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

(標準貫入)試験　(N値～深度)図　0 10 20 30 40 50

原位置試験(孔内水平載荷)　室内試験

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
8/5	105	86/泥水	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	50.0	100	0.1	泥水1	0
8/6	100							
8/11	85							
8/13	95							
8/14	95					0.1	泥水2	0
8/15	100							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				花崗斑岩	褐灰	Cg	Ⅳg	cg	γ	2	
							Ⅲg				
							Ⅳg				
					明褐灰	Dg	Vg				
						Eg	Vlg	dg	δ		●70.54～71.41m：破砕部 破砕幅は58.2cmである。 70.54～70.60m：角礫状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は48°である。残組織は残留する。 70.60～70.74m：明褐灰色の割れ目の密集部からなる。 70.74～71.41m：粘土混じり礫状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は57°である。灰白色～淡黄色の粘土が網目状に分布する。
						Dg	Vg	cg	γ	3	
						Eg	Vlg	dg			
						Dg	Vg	cg	δ		
						Eg	Vlg	dg			
					褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	72.78～73.31m：淡赤灰色の粘土が網目状に分布する。 73.60m：傾斜70°，幅2～4mmの淡緑灰色の変質鉱物が分布する。 74.44～74.71m：割れ目が密集する。角礫状～岩片状が主となる。
						Cg	Ⅳg				
						Dg	Vg				
						Cg	Ⅲg	cg	γ	2	
							Ⅳg				
							Vg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				76.67～76.94m：微細な割れ目が発達し軟質である。
						Dg	Vg				
						Eg	Vlg	dg	γ	4	●76.94～77.03m：破砕部 破砕幅は4.5cmである。 粘土混じり砂礫状を呈し，褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は40°である。灰黄色の粘土が砂礫間に挟在する。
						Dg	Vg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg		γ		
							Ⅲg	cg		2	79.50～79.80m：傾斜45～60°の割れ目が卓越している。割れ目沿いに細片化が進む。
					明褐灰	Dg	Vg		δ		
80					褐灰	Cg	Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
					明褐灰	Eg	Vlg	dg		3	81.68m：傾斜70°，幅2mm程度のマンガン脈である。黒褐色を呈し，軟質である。
							Vg				
						Cg	Ⅳg	cg		2	
							Vg				
					灰赤	Dg	Vlg	dg		3	●82.59～83.71m：破砕部 破砕幅は65.8cmである。 82.59～82.63m：灰赤色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は20°である。 82.63～82.70m：粘土混じり岩片状を呈し，灰赤色の固結した礫状部からなる。軟化した岩片と灰白色の粘土からなり，岩組織と割れ目は消滅する。 82.70～83.11m：割れ目の密集部からなる。 83.11～83.71m：灰赤色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は54°である。
						Eg					
					にぶい橙	Cg	Vg	cg		2	
					赤灰		Ⅳg				
					灰褐	Dg	Vg			3	
							Vlg	dg		4	
							Vg	cg		3	83.71～84.60m：高角度と低角度の割れ目が交錯する。
						Eg	Vlg	dg	γ	4	84.94～85.00m：微細割れ目が密集する。
					灰赤	Dg				3	85.30～85.61m：割れ目が密集する。不規則，不連続な灰白色の粘土の細脈が分布する。
					赤灰		Vg				86.33～87.21m：変質で岩組織は不明瞭である。一部に緑黄色の変質鉱物が分布する。
					にぶい橙	Cg					87.21～88.79m：縦方向と傾斜30～45°の割れ目が斜交し割れ目が密集する。角礫状～岩片状を呈する。
90					褐灰		Ⅳg	cg		2	89.03～90.47m：全体に傾斜45～60°の割れ目が発達し，割れ目沿いが細粒～細片化している。
							Vg				
						Dg	Ⅳg				91.59～91.74m：傾斜30～45°の割れ目が密集する。
							Vg				
						Cg	Ⅳg				
							Vg				92.37m：傾斜50°，幅3mmの石英脈である。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CL'							100							
D'														
CL'						8/15	140							
D'														
CL'							120							
CM'														
CL'						8/21	115							
D'														
CL'														
D'							130							
CL'						8/22		86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	50.0	100	0.1	泥水2	0
CL'														
						8/23	125							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
100	-51.82	101.74		花崗斑岩	褐灰 明褐灰 褐灰 明褐灰 にぶい橙 明褐灰	Cg Bg Cg Bg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Dg Cg Bg Cg Bg Cg Bg Cg Dg Cg Dg Cg	Ⅳg Ⅲg Ⅴg Ⅲg Ⅴg Ⅴg Ⅲg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅱg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅵg Ⅳg Ⅲg Ⅴg	cg bg cg bg cg bg	γ δ γ δ γ β γ δ γ β	2 3 2 3 2 3 2	93.10m, 93.22m：割れ目沿いに幅10～15mm, 径5～10mmに細片化している。 95.27～95.56m：割れ目が多い。傾斜25～55°の割れ目が主となる。風化で軟化している。 97.54～97.86m：幅1～2mmの白色のシルト脈が不規則に分布する。 99.80～101.74m：割れ目は多いが，未風化・新鮮で硬質である。 100.10m：傾斜55°，幅3～5mm, 緑灰色のシルトを挟在する。 100.27m：傾斜70°，幅2～8mm, 緑灰色のシルトを挟在する。 100.77～100.81m：上下端の傾斜が40°の割れ目に囲まれて，幅10～40mmの粘土化が進む。 101.17～101.23m：径5～10mmに角礫化している。 101.74～150.00m：アプライトである。 101.74m：割れ目が密集する。傾斜は60°である。 102.54～103.09m：割れ目が密集し脆弱である。傾斜20～40°と70～90°の割れ目が発達する。 104.82～104.88m：幅2～5mmの石英脈である。 106.22～109.06m：硬質で割れ目が少ない。 109.06～109.66m：割れ目はやや多い。傾斜10～20°割れ目が主となる。 109.66～109.90m：傾斜65～70°の微細な割れ目が0.5～1cm間隔と密に分布する。一部でマンガンが付着している。 110.69m：割れ目沿いに黄鉄鉱が晶出している。 111.55～112.50m：割れ目少なく，非常に硬質である。ほぼ未風化している。 113.31～113.69m：角礫～岩片状を呈する。 115.67～115.73m：傾斜45°程度の微細な割れ目が発達し，弱く変質している。細礫状～土砂状を呈する。 117.61～117.87m：割れ目が交差し，岩片状～細礫状を呈する。 118.08～118.14m：割れ目に暗緑色鉱物が付着し，割れ目沿いに変質している。	0 50 100 16 [38] 100 28 [45] 100 21 [56] 100 15 [27] 100 3 [0] 100 4 [0] 100 7 [0] 100 7 [0] 100 9 [0] 100 13 [13] 100 18 [42] 100 14 [44] 100 43 [63] 100 26 [74] 100 26 [68] 100 44 [77] 100 0 100 11 [31] 100 27 [56] 100 27 [56] 100 12 [12] 100 10 [10] 100 7 [0] 100 9 [0] 100 18 [29] 100	CL' CH' CL' CM' CL' CL' CM' CH' CM' CL' CL'		0 10 20 30 40 50			8/23 8/24 8/25 8/27	125 130	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	50.0	100	0.1	泥水2	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
120				アプライト	褐灰	Cg	Ⅳg		γ	2	119.05m：傾斜45°，幅2～3mm，黒色の砂混じり粘土を挟在する。
						Dg	Vg		β	3	119.05～119.35m：弱い変質を受けやや軟化している。
							Ⅳg		γ	2	119.35m：傾斜60°，幅1～2mm，黒色の粘土を挟在する。
						Cg	Vg			2	122.58～124.33m：傾斜約60°の割れ目が発達する。岩片状～細礫状が主となる。
										2	124.33～124.77m：縦方向の割れ目沿いに幅10mm程度で変質している。暗緑色～淡緑色の鉱物や黄鉄鉱が晶出している。
					にぶい橙	Dg	Vlg			3	124.95～125.08m：傾斜65°の割れ目沿いに淡緑色の鉱物が晶出している。
					褐灰	Cg	Vg			2	125.23～128.25m：傾斜10～30°の低角度割れ目と60～75°の高角度割れ目が交差し角礫状化している。
										2	129.50～129.53m：傾斜60°，幅20mmでやや軟化している。径10～20mm角礫や暗緑色の細脈が分布する。下端の傾斜60°の割れ目にマンガンが付着する。
130								cg		2	129.74～131.10m：割れ目の一部に幅1～2mmの暗緑色の変質鉱物を伴う。
										2	131.10～132.03m：割れ目沿いに径1～2mmの暗緑色変質鉱物や径1mm以下の黄鉄鉱が晶出している。
										2	132.03～132.89m：割れ目多くハンマーの軽打で細岩片化している。
										2	●133.38～134.77m：破砕部 破砕幅は40.6cmである。 133.38～133.40m：淡緑灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.2cmである。傾斜は73°である。 133.40～134.77m：粘土混じり角礫状を呈し，淡緑灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は75°である。133.64m以浅は，径10～70mmの硬質な礫を50%以上含む。133.64m以深は，幅1～5mmの軟弱な白色の粘土が網目状に分布する。
					灰赤	Dg	Vlg			3	
					灰褐	Eg				3	134.77～135.24m：変質と破砕劣化部である。不規則で細かいの割れ目が分布ずる。
						Dg				3	135.24m：傾斜40°，幅6～12mm，暗緑色の変質脈である。
					灰赤	Cg	Vg			2	135.24～138.72m：大半が径10～30mmの角礫～岩片状を呈する。
					赤灰	Dg				2	138.72～140.61m：微細な割れ目が1cm前後の間隔で発達し軟質である。
140						Cg				2	141.13～143.34m：割れ目の間隔は1cm未満である。一部で網目状に暗緑灰色の鉱物脈が分布する。
					灰褐	Dg	Vlg	dg	γ	3	141.50～141.70m：暗緑灰色の鉱物が濃集する。岩組織は消滅する。
					灰赤	Cg	Vg	cg	β	2	

コア採取率（%）	最大コア長 cm	RQD [%]	岩級区分
0 50 100			
10 [10]	100		CL'
7 [0]	100		
14 [14]	100		
5 [0]	100		
5 [0]	100		
3 [0]	100		
2 [0]	100		D'
2 [0]	100		
4 [0]	100		
3 [0]	100		
2 [0]	100		CL'
2 [0]	100		
3 [0]	100		
3 [0]	100		
3 [0]	100		
3 [0]	100		D'
3 [0]	100		
2 [0]	100		
3 [0]	100		
4 [0]	100		
2 [0]	100		CL'
2 [0]	100		
3 [0]	100		
2 [0]	100		
3 [0]	100		

孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図 0 10 20 30 40 50	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
					8/27	130	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	50.0	100	0.1	泥水2	0
					8/28	120							
					8/29	105							
						50							
					8/30	60			40.0				
					9/12								
					9/22	90							
					11/15								
					11/17								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
					灰赤	Cg					144.00m：傾斜60°の割れ目に、幅0.5mmの赤紫色の鉱物を挟在する。	0 50 100					0 10 20 30 40 50										
						Dg					144.67～145.17m：割れ目が多い。微細な割れ目が不規則に分布する。変質で赤色を帯び緑灰色の鉱物が晶出している。															
						Cg					145.77～146.62m：変質で暗緑灰色の鉱物脈が分布する。岩自体は硬質である。															
						Dg					146.78～149.10m：不規則な割れ目が多い。割れ目には淡緑灰色の変質鉱物が付着している。															
						Cg																					
						Dg	Vfg	dg	γ	3	149.10～150.00m：微細な割れ目が不規則に分布する。岩自体は硬質である。															
	-85.95	150.00			赤灰	Cg	Vg	cg	β	2																	

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										1

ボーリング名	B14-2	調査位置						北　緯	
発注機関				調査期間				東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.06 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南 315.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘削長	150.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
				埋土	明褐						0.00～6.66m：埋土である。 0.00～3.47m：礫混じりシルト質砂からなる。 細粒～粗粒砂からなる不均質な砂にシルトおよび径5～30mmの角～亜角礫が混入する。礫種は花崗斑岩・石英を主とし，安山岩または玄武岩が混入する。				7/28		／試掘	試掘／試掘	0.0	0		試掘	
																100	140／ケーシング		3.0	60			
					灰						3.47～3.93m：コンクリートからなる。 3.93～4.28m：砕石からなる。径20～40mmの粘板岩角礫からなる。				7/29	60	140／ケーシング						
					明褐						4.28～6.66m：シルト混じり礫質砂からなる。細～粗粒の不均質な砂にシルトが混じる。礫は径2～30mmの石英・花崗斑岩の亜角礫が主となる。礫率は10～20%程度である。 5.13～5.19m：有機物混じり砂を挟む。炭化物片が混入する。						140／ケーシング						
	2.35	6.66		礫質砂	褐灰						6.66～16.24m：砂礫主体の第四系である。 6.66～8.39m：礫質砂である。 細～粗粒砂からなり，全体に径2～5mmの細礫が混入する。 6.66～6.82m：シルト混じり細粒砂からなる。， 8.08～8.39m：細粒～中粒砂からなる。 8.39～8.83m：砂混じり有機質シルトである。 8.39～8.53m：未炭化木片を含む。 8.83～9.54m：有機質土混じり砂である。 9.10～9.26m：シルト分が多い。 9.54～11.12m：砂礫である。 径2～50mmの花崗斑岩亜角～亜円礫と基質は粘土を混入する粗粒砂からなる。 11.12～12.04m：礫混じり砂である。 シルトの混じる不均質な砂を主とし，径2～5mmの細礫が混入する。 11.66～11.79m：スライムである。 12.04～12.69m：有機質土混じり砂である。 細～中粒砂が主となる。有機物の境界の傾斜は20～30°である。 12.69～13.09m：有機質土混じり砂質シルトである。 シルト～中粒砂からなり，全体に有機物が混入する。 13.09～13.86m：シルト混じり砂である。 細粒砂が主となる。 13.86～16.24m：砂礫である。 礫は径2～40mm，最大径330mmの亜角～亜円礫を50～70%含む。基質はシルトの混じる不均質な砂である。				7/30	75	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	4.0	120	0.1	泥水2	2
	1.13	8.39		砂混じり有機質シルト	灰																		
	0.82	8.83		有機質土混じり砂	黒褐																		
	0.31	9.54			褐灰																		
10				砂礫	黄																		
					赤褐																		
	-0.80	11.12			黄																		
	-1.18	11.66		礫混じり砂	灰白										7/31								
	-1.28	11.79		スライム																			
	-1.45	12.04		礫混じり砂	灰																		
	-1.91	12.69		有機質土混じり砂	オリーブ黒																		
	-2.20	13.09		有機質土混じり砂	灰																		
				シルト混じり砂	褐																		
	-2.74	13.86			浅黄																		
				砂礫	暗褐										8/1	80			5.0				
	-4.42	16.24		花崗斑岩	灰白	Eg	VIg	dg	δ	3	16.24～60.65m：花崗斑岩である。 斑晶は径3～8mmの石英・長石が主で，径2～5mmの黒雲母を混入する。石基は優白質である。	D'											
										4	16.24～19.89m：強風化部で，変質している。淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	灰白	Eg			δ		
					明褐灰	Dg			γ		
					灰白	Eg	VIg	dg	δ	4	18.68～19.89m：変質が著しく，割れ目，岩組織はほとんど残留しない。 19.89～20.29m：微細な割れ目が0.2～1cm間隔で網目状に発達する。幅0～1mmの粘土を伴う。硬質である。
20						Dg					
						Eg				3	20.29～20.90m：風化・変質の影響が弱くなる。
					明褐灰	Dg					
						Cg	Vg	cg	γ	2	
							VIg	dg			
						Dg	Vg	cg	δ	3	21.20～22.39m：傾斜60°の割れ目が多く角礫状化している。硬質である。
						Cg			γ	2	
						Dg	VIg	dg	δ	3	22.34～22.50m：傾斜70°，幅8～10mm，黄灰色～黒色の変質粘土脈である。 23.71～23.85m：傾斜約85°の縦方向の割れ目が発達する。
						Cg	Vg	cg	γ	2	24.48～25.88m：径5～30mm礫状～片状化している。
							IVg				
						Dg	Vg	dg			25.88～26.62m：土砂～礫状を呈する。岩片は径5～15mm，最大50mm程度である。岩片間はシルト混じり中粒砂様で，軟質で指圧で変形する。
					褐灰	Eg	VIg			3	26.62～27.62m：割れ目が多い。0.5～1.5cm間隔で網状に発達する。
					にぶい黄橙	Dg	Vg	cg			28.21～28.50m：微細な割れ目が0.2～1cm間隔で発達し，脆弱である。 ●28.50～28.66m：破砕帯(f-b14-2-1) 破砕幅は10.3cmである。 28.50～28.51m：にぶい黄橙色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。上端境界の傾斜は50°である。 28.51～28.66m：粘土混じり角礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。粘土の細脈が分布する。
						Cg				2	
						Dg			δ		
						Cg					
						Dg					
						Eg	VIg	dg		4	
					灰褐	Dg	Vg	cg	γ	2	
						Cg					
					明褐灰	Dg				3	
						Eg	VIg	dg	δ	4	
						Cg	Vg	cg		3	
						Bg	IVg	bg	γ	2	29.91～30.21m：傾斜40～55°の割れ目が0.2～2cm間隔で分布する。一部で割れ目沿いに岩組織が不明瞭である。 30.21～32.40m：割れ目はやや多い。傾斜40～50°割れ目が主となる。 32.40～32.67m：不規則な割れ目が1～3cm間隔で発達，片状を呈する。
							Vg				
						Cg	IVg				
						Bg	IIIg				
							IVg				
						Cg	Vg	cg	δ		
						Bg	IVg		γ		
						Cg	Vg		δ		
						Bg	IVg		γ		
							Vg		δ		
							IIIg	bg	γ		34.77m：傾斜60°，幅5～12mm，黄褐色～灰白色の粘土脈である。
						Cg	Vg		δ		
							IIIg		γ		
					灰白	Dg	Vg		δ	3	35.14～35.74m：風化・変質で割れ目が不規則で網状に発達する。
					明褐灰	Cg	IVg	cg	γ	2	36.43～37.52m：傾斜50°の割れ目と不規則な割れ目が分布する。角礫～片状を呈する。
							Vg				
							IVg				
							Vg				
							IVg				37.52～37.89m：角礫状～岩片状を呈する。
						Dg	Vg		δ	3	
					にぶい黄橙	Cg				2	
						Eg	VIg	dg		4	●38.10～38.27m：破砕帯(f-b14-2-2) 破砕幅は13.0cmである。 角礫混じり砂状を呈し，淡黄白色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°，下端境界の傾斜は50°である。
					浅黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	
						Eg	VIg	dg		4	
					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	38.67～39.21m：割れ目，岩組織が不明瞭である。角礫岩様で白色～淡赤白色の粘土が不規則に分布する。 39.21～41.29m：傾斜30～50°と不規則な割れ目が分布し，薄く白色～黄褐色のシルトを挟む。 40.25～40.31m：上端の傾斜40°，下端の傾斜50°，幅5cm程度，灰白色の粘土混じり砂状を呈する。 41.65～41.74m：割れ目が密集する。 42.13～42.71m：強く風化変質し軟化している。
						Cg	IVg				
						Dg	Vg		δ		
						Cg			γ		
						Dg			δ		
						Bg	IVg		γ		
						Cg					
						Bg					
						Cg	Vg		δ		
						Dg				4	
						Eg	VIg	dg		3	
						Cg	IVg	cg	γ	2	

孔内水位(m)／測定月日	岩級区分	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
	D'	8/1	80	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	120	0.1	泥水2	2
		8/2	60							
	CL'	8/3								
		8/4	50							
	D'	8/6								
	CL'	8/7	70							
	CM'									
		8/8	50	95／ケーシング						
	CL'	8/9								
		8/16	75					0.1	泥水2	0
	D'									
	CL'									
	CM'		90							
	CL'									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
					灰黄褐	Dg	Ⅳg	cg			
						Cg	Ⅲg				
						Eg	Ⅳg	dg			
						Dg	Vg	cg	δ	3	43.51～43.81m：強く風化変質し軟化している。上端の傾斜が50°の割れ目に砂混じりシルトを挟在する。幅8～10mm。
						Cg	Ⅲg				
						Dg	Vg				44.63～45.20m：強く風化変質し角礫状～岩片状を呈する。
						Eg	Ⅵg	dg			
						Bg	Ⅲg	cg	γ	2	
						Cg	Ⅳg				45.90～47.37m：割れ目が多い。間隔1～3cmで網状に割れ目が発達する。
						Dg	Vg		δ	3	
					褐灰	Cg	Ⅳg		γ	2	●47.37～47.40m：破砕部 破砕幅は2.3cmである。 47.37～47.39m：褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°である。 47.39～47.40m：灰白色の未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。
							Vg				
						Dg	Ⅵg	dg			
							Vg	cg	γ	3	
						Eg	Ⅵg	dg			
						Dg					47.40～49.24m：シルト混じり砂礫状を呈する。網目状に粘土～シルトが分布する。
						Eg	Vg	cg		2	
						Dg					
						Eg	Ⅵg	dg	δ	3	●49.24～49.55m：破砕帯(D-44) 破砕幅は25.4cmである。
							Vg				49.24～49.27m：灰色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は2.5cmである。上端境界の傾斜は20°，下端境界の傾斜は35°である。
50						Cg	Ⅳg	cg	γ	2	
							Vg				49.27～49.55m：粘土混じり砂状を呈し，緑灰色の固結した礫状部からなる。上端，下端境界の傾斜はともに35°である。
	-28.65	50.50									50.50～51.43m：コア欠
	-29.31	51.43									
				花崗斑岩	褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3	
						Cg					
						Dg				2	52.92～53.33m：強く風化変質し岩組織は不明瞭である。
						Cg					
					明灰褐	Eg	Ⅵg	dg	δ	3	
						Dg	Vg	cg	γ		53.33～53.35m：土砂状を呈する。灰白色の粘土を伴い軟質である。
					褐灰	Bg	Ⅳg	bg	β	2	
					明赤灰	Cg			γ		
						Dg	Vg	cg	δ	3	55.40～55.84m：割れ目が密集する。全体に赤色を帯びる。
					灰赤	Cg	Ⅳg		γ	2	
					赤灰	Dg	Vg	cg		3	57.42～57.68m：変質作用により岩盤が劣化し軟質である。長石類の大半は緑色鉱物に変質している。
						Cg	Ⅳg		γ	2	
						Dg	Vg			3	
						Cg					
						Dg					59.55～60.85m：割れ目沿いに細片化し，緑色鉱物脈を挟在する。
60						Cg	Ⅳg			2	
							Vg				
	-35.83	60.65									60.65～150.00m：アプライトである。
				アプライト	褐灰	Eg	Ⅵg	dg	δ	4	●60.85～61.12m：破砕帯(D-42) 破砕幅は19.7cmである。
						Cg	Vg	cg	γ	2	60.85～61.11m：褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°である。岩組織は残留する。硬質である。 61.11～61.12m：緑灰色の固結した粘土状部からなる。下端境界の傾斜は50°である。
						Dg			δ		
						Cg			γ		62.97～63.09m：割れ目が密集し脆弱である。下端に傾斜45°，幅1～2mmで緑白色の粘土が挟在する。
						Bg	Ⅳg		β	2	
						Cg	Vg		γ	2	64.82～65.32m：傾斜30～45°および70°程度の割れ目が発達する。片状を呈する。 65.32m：傾斜45°，幅5mm以下，灰白色の砂混じり粘土脈である。
					明褐灰	Dg			δ	3	65.32～65.86m：風化・変質でコアは脆弱化している。
						Cg	Ⅳg				
					褐灰	Bg	Ⅲg	bg	γ	2	67.38～67.51m：上端の傾斜35°，下端の傾斜20°で風化・変質で軟質化し脱色している。
						Cg	Ⅳg	cg			
					黄灰	Dg	Vg	dg		3	
						Cg	Ⅳg	cg	δ	2	68.23～68.63m：風化・変質著しく，岩組織と割れ目が不明瞭である。 68.33mまでは網目状に粘土脈が分布し，以深は土砂状化している。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
			8/16	90	95／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	120	0.1	泥水2	0
CL'											
CM'				95							
CL'			8/17								
				70							
CL'											
CM'			8/18	90							
CL'			8/23	80	76／泥水						
CM'											
CL'				100							
CM'			8/24								
CL'				80							
CM'											
CL'				75							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				アプライト	黄灰	Cg	Ⅳg	cg		2	
						Dg	Ⅵg	dg		3	
						Cg	Ⅳg			2	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3	68.63～70.03m：割れ目の一部に幅0.3～1mmで暗オリーブ灰色の変質粘土を挟在する。
					褐灰		Ⅵg	dg			
						Cg	Ⅴg				70.03～70.33m：割れ目が密集し岩片～細片化している。岩組織は不明瞭である。全体に粘土の細脈が分布する。
							Ⅳg	cg	γ	2	
						Dg	Ⅵg	dg	δ	3	
						Cg	Ⅳg			2	
						Dg	Ⅴg			3	70.88～71.05m：著しく軟化している。
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg			
						Bg	Ⅴg			2	72.14m：砂混じりシルトを挟在する。傾斜40°，幅1～2mm，灰色～緑灰色の白雲母が混入する。
						Cg	Ⅳg			3	
						Bg	Ⅲg	bg		2	
						Cg	Ⅴg		γ	3	
							Ⅳg	cg			73.74～77.91m：割れ目の多寡を繰り返す。非常に硬質で未風化部が主となる。
						Bg	Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅴg				
						Cg	Ⅳg				
							Ⅴg				
							Ⅳg				
							Ⅲg	bg		2	
							Ⅳg		β		
					灰白	Bg	Ⅲg				77.38m：傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出し濃集する。
							Ⅴg	cg	γ		78.25～79.14m：割れ目はやや多いが，非常に硬質なものが主となる。
					明褐灰		Ⅳg				
						Cg	Ⅴg				79.42m：傾斜20°，幅5～10mmの石英脈である。
						Dg				3	79.77～79.79m：傾斜40°の割れ目に幅8～10mm，灰白色～暗褐色のシルト質砂を挟在する。
80								cg	β		
							Ⅳg		γ		
						Bg				2	82.13～83.59m：割れ目面は緑白色～オリーブ灰色である。白雲母や黄鉄鉱が付着している。
							Ⅲg	bg			83.59～83.88m：傾斜30～50°の割れ目が4～10cm間隔で発達し，不規則な高角度割れ目が分布する。
							Ⅳg	cg			
					灰白		Ⅲg	bg	β		
							Ⅴg	cg			83.88～84.54m：割れ目少なく，非常に硬質が主となる。傾斜45°が主となる。
							Ⅲg	bg			
							Ⅳg				
						Cg	Ⅴg	cg	γ	3	84.54～85.14m：割れ目が多く細片～細粒化している。
							Ⅲg	bg			85.06～89.74m：大半は割れ目少なく，非常に硬質である。傾斜30～40°の割れ目が主となる。
							Ⅳg				
							Ⅲg	cg			87.61～88.31m：割れ目沿いに脱色している。割れ目面はオリーブ灰色を帯びる。
						Bg			β		
							Ⅳg				87.73m：傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出している。
							Ⅲg	bg			88.22m：傾斜43°の割れ目は暗オリーブ灰色化し，柱状の石英を晶出している。
							Ⅳg			2	
							Ⅲg	cg			
90							Ⅳg				90.08～90.56m：中角度の割れ目が発達し，岩片～角礫状を呈する。
							Ⅴg				
							Ⅳg				91.08～91.13m：割れ目が密集する。変質，コアは細礫状を呈する。
						Cg	Ⅴg	cg	γ		91.13m：傾斜40°の割れ目沿いに黄鉄鉱が晶出。
							Ⅳg				
							Ⅴg				
							Ⅳg				92.63～93.58m：割れ目間隔が10cm以上で，コアは柱状を呈する。
						Bg	Ⅲg		β		

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CL'					8/24	75	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	120	0.1	泥水2	0
						90							
CM'						105							
CL'						105							
CM'						80							
CH'					8/25								
CL'													
CM'													
CL'													
CM'						50							
CL'													
CH'						100							
CL'													
CH'													
CM'					8/26								
CH'						50							
CM'													
CL'						120							
CM'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				アプライト	褐灰	Bg	Ⅳg	cg	β	2	94.00～94.63m：低～中角度の割れ目が発達する。岩片～角礫状を呈する。
						Cg	Vg				94.24m：割れ目に，傾斜45°，幅1～2mmの灰白色の砂質粘土を挟在する。
							Ⅳg				
							Vg				95.07～96.03m：中角度の割れ目が多く岩片～角礫状を呈する。
							Ⅳg		γ		
					明褐灰	Dg	Vg	dg		3	96.38～96.97m：中角度割れ目や微細な割れ目が発達し，コアは角礫状を呈する。
						Cg	Vg			2	
					褐灰	Dg				3	
						Bg	Ⅲg				
					明褐灰	Cg	Vg				98.28～100.40m：不規則な割れ目が発達する。岩片～角礫状を呈する。
						Bg	Ⅳg	cg		2	
						Cg	Vg				100.40～101.03m：細かい割れ目が発達する。一部は変質も受けやや軟質化している。角礫～土砂状化している。
100						Dg	Vg	dg		1	
						Cg	Ⅳg	cg		2	●101.47～101.52m：破砕帯(f-b14-2-6)
						Dg	Vg	dg		3	破砕幅は4.5cmである。
						Cg	Vg	cg		2	灰白色の固結した礫状部からなる。傾斜は25°である。
						Eg	Vg	dg		4	
						Cg	Vg	cg		2	
					褐灰	Bg	Ⅳg	bg			102.55～102.94m：中角度の割れ目が多く，岩片～角礫状を呈する。
						Cg	Vg	cg			
					明褐灰	Dg	Vg	dg		3	102.94～103.11m：礫～土砂状化している。一部に灰白色の粘土脈が分布する。
						Cg	Vg	cg			
					褐灰	Bg	Ⅳg	bg		2	104.44～105.54m：中角度の割れ目が多く，主に岩片状を呈する。
							Vg	cg			
						Cg					
						Eg	Vg	dg		4	●105.54～105.61m：破砕帯(D-41)
										2	破砕幅は4.9cmである。
						Cg	Vg	cg		3	シルト混じり砂礫状を呈し，緑灰色の固結した礫状部からなる。上端，下端境界の傾斜はともに45°である。灰白色の粘土脈が分布する。
										2	106.48～106.49m：傾斜15°と50°の割れ目に粘土質砂が挟在する。幅3～6mm。暗緑灰色。
					明褐灰	Dg	Vg	dg	β	3	106.78～106.80m：傾斜50°，暗緑灰色の粘土質砂礫状を呈する。
						Cg				2	
						Dg	Vg	cg		3	107.29～107.45m：砂～細礫状を呈する。灰白色の粘土脈が網目状に分布する。
					明緑灰	Cg	Ⅳg			2	107.30m：傾斜55°，幅3～9mm，暗灰色の砂質粘土を挟在する。黄鉄鉱を伴う。
						Eg	Vg	dg		4	
					明褐灰	Dg				3	●109.16～109.46m：破砕帯(D-1)
110						Cg	Vg	cg		2	破砕幅は7.8cmである。
											109.16～109.19m：明緑灰色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は2.2cmである。傾斜は75°である。
						Dg				4	109.19～109.30m：粘土質砂礫状を呈し，明緑灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は75°である。
						Cg				2	109.30～109.32m：明緑灰色の砂質粘土状を呈し，固結した粘土状部からなる。
						Dg				3	109.32～109.46m：角礫状を呈し，明緑灰色の固結した礫状部からなる。傾斜は80°である。下端に幅1mmの白色の粘土を伴う。
						Cg				2	109.46～112.49m：中角度の割れ目が多く，岩片～細礫状を呈する。
						Dg				3	110.95～111.16m：変質が著しく暗緑灰色化している。白色の粘土細脈が網目状に分布する。
						Cg					111.80m：傾斜45°，幅4～6mm，暗灰色の砂混じり粘土を挟在する。
						Bg	Ⅳg	cg		2	114.66～116.33m：割れ目が多く，岩片～角礫状を呈する。
						Cg	Vg				116.04m：傾斜45°の割れ目に幅1～2mmの淡灰色の粘土を挟在する。
										3	
						Bg	Ⅳg	bg		2	116.33～117.37m：割れ目はやや多いが，ほぼ未風化で非常に硬質である。
							Vg	cg			
							Ⅳg				117.58m：傾斜45°の割れ目に幅2～4mmの暗緑灰色の細粒物質を挟在する。黄鉄鉱，緑泥石，石英が晶出している。周縁が幅20mm程度淡緑色化している。
							Vg				

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CM'						8/26	120							
CL'							100							
CM'														
CL'							90							
						8/27								
CM'							100							
CL'								76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	120	0.1	泥水2	0
							115							
CM'														
CL'						8/28	105							
CM'							90							
CL'														
CM'							85							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
120				アプライト	褐灰	Bg			β		
									γ		120.30～122.00m：傾斜10～40°と60～80°の割れ目が交差する。径1～3cmに岩片化している。
						Cg	Vg	cg		2	122.18～122.40m：傾斜55～60°の割れ目沿いに一部軟化している。
									β		123.39m：割れ目が密集する。下端に1mm未満の暗緑色の粘土や鏡肌が分布する。
											124.89～129.41m：脱色・白色化した密着割れ目を含み，分離・細片化している。
											125.65m：傾斜30°の割れ目面周縁幅2～3cmが変質で暗緑色化している。幅0.5mmの暗緑色の粘土を挟在する。
					灰赤						割れ目が多く，岩片状化している。傾斜35°と60～70°の割れ目が主となる。
					灰褐						
					褐灰						129.79～131.00m：傾斜35～45°と10～40°の割れ目が交錯し，径10～30mmの岩片状を呈する。
					灰褐						130.50～130.54m：傾斜45°の割れ目沿いに暗緑色化する。幅1～3mmの石英脈を伴う。
130	-85.57	131.00									
											131.00～132.00m：コア欠
	-86.28	132.00									
				アプライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	132.00～133.00m：割れ目と微細な割れ目が10～30mm間隔で密に分布する。径10～30mmに岩片化している。
											133.57～134.00m：長さ5mm程度で扁平に細礫化している。硬質である。
	-87.69	134.00									
											134.00～135.00m：コア欠
	-88.40	135.00									
	-88.75	135.50		アプライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	135.00～135.50m：割れ目が多い。岩片状を呈し，硬質である。
	-89.11	136.00									135.50～136.00m，136.50～136.75m：コア欠
	-89.46	136.50		アプライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	
	-89.64	136.75				Dg	Vlg	dg		3	
											136.75～137.08m：径10～20mmの岩片状を呈する。
						Cg				2	
						Dg				3	137.67～137.73m：傾斜45～50°の割れ目沿いに径10mm程度に角礫状化している。暗緑色の粘土が挟在する。
					灰褐						138.21～138.42m：暗緑色の鉱物が付着している。
						Cg	Vg				138.42～140.04m：割れ目が多い。硬質である。
140				アプライト				cg	β		
						Dg				2	140.04～140.33m：割れ目が密集し，細片～細粒化している。一部硬質部が残るが上下位に比べ軟質である。
						Cg					
					赤灰	Dg					141.71～142.00m：大半の割れ目沿いで細片～細粒化し軟質である。
						Cg	Vg				142.48～143.53m：割れ目沿いが細片～細粒化している。
							Vg				

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CL'			8/28	85	76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	120	0.1	泥水2	0
				80							
			8/29	35							
				80							
			9/6	85							
			9/10	30			2.0	100			
			9/11	100							
				85							
			9/12	105							
				110							
D'			9/13	130							
CL'			9/14	110							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分		孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
				アプライト	赤灰		Vg				143.53～145.46m：割れ目はやや多いが，ほぼ未風化で新鮮である。	8 [0] 100					0 10 20 30 40 50			9/14	110						
							IVg					11 [11] 100								9/15	85						
							Vg				145.46～150.00m：割れ目が多く，割れ目の沿い一部は細片化している。	10 [10] 100															
						Cg	IVg	cg	β	2	146.90m：割れ目沿いの変質で周縁幅3cmが暗緑色化している。	9 [0] 100	CL'									76／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水2	0
											147.13m：割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い周縁は暗緑色を帯びる。下端側幅6～7cmが脱色している。	3 [0] 100								9/16	90						
							Vg				149.80～149.85m：傾斜40°，幅40mm，暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴う。	3 [0] 100															
						Dg						9 [0] 100															
	-99.01	150.00				Cg																					

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

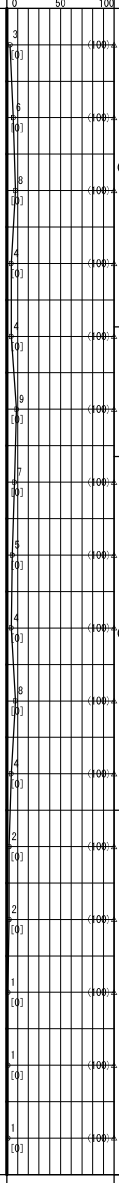
ボーリング名	H27-B-1	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	20.22 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 97.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	140.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	（標準貫入）試験（N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
10	17.32	4.10		盛土	にぶい黄褐						0.00～4.10m：盛土である。 中粒砂，礫混じり砂，砂礫からなる。								5/27	0	0／試錐	試掘／試錐	0.0	0	0.0	試掘 0	0
																				86		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	5.0	350	0.1	泥水 3	1
																							10.0				
	17.18	4.30		砂礫	黄橙						4.10～12.49m：砂礫主体の第四系である。									120			15.0	100	0.1	泥水 3	0
	16.93	4.65		礫混じり砂	にぶい黄橙						4.10～4.30m：砂礫である。 径2～30mmの半クサリ～クサリ化の花崗斑岩の亜角礫が主体となり，礫率は60%である。基質は粗粒砂からなる。									104			10.0				
					灰褐						4.30～4.65m：礫混じり砂である。 径2～30mmの半クサリ化した花崗斑岩の亜角礫が主体となり，礫率は20～30%である。基質は粗粒砂からなる。級化構造がある。								5/28	34			15.0				
																				23							
	15.41	6.80		礫混じり砂	明褐灰						4.65～6.80m：砂礫である。 礫は径2～200mmの半クサリ化した花崗斑岩の亜角～亜円礫からなり，礫率は68～80%である。基質は粗粒～極粗粒砂からなる。									76			20.0	80			
	15.16	7.15		有機質土	黒褐						6.80～7.15m：礫混じり砂である。 礫径2～30mmの半クサリ化した花崗斑岩の亜円礫を20～30%含む極粗粒～粗粒砂からなる。									87			30.0	100	0.1	泥水 3	3
	15.06	7.30		礫混じり砂	にぶい黄橙						7.15～7.30m：有機質土である。 分解途中の有機物を多く含む。								5/29	160	140／ケーシング						
					灰黄褐						7.30～8.60m：礫混じり砂である。 礫径2～30mmの半クサリ化した花崗斑岩の亜角礫を20～30%含む極粗粒～粗粒砂からなる。									20							
	14.14	8.60			明黄褐						8.60～12.10m：砂礫である。 礫は径2～30mmの半クサリ～クサリ化した花崗斑岩の亜角～亜円礫からなり，礫率は30～40%である。基質は粗粒砂からなる。一部有機質土の薄層を挟む。									64							
					褐灰															24			10.0	150	0.1	泥水 2	1
				砂礫	灰黄褐															82							
					黄褐															87			30.0		0.1	泥水 3	3
					灰黄褐															98							
					にぶい褐															86				100			
	11.66	12.10			にぶい黄褐															66			10.0		0.1	泥水 3	2
	11.39	12.49		砂	明褐						12.10～12.49m：砂である。 粗粒砂で少量のクサリ礫を含む。									68							
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg Dg	vg	cg	ε δ	3	12.49～94.07m：花崗斑岩である。 12.49～14.84m：強風化部で土砂状を呈する。灰白色の粘土脈を挟み脆弱である。 14.84～24.44m：傾斜10～30°の割れ目が主体で一部で割れ目沿いに風化で砂状化している。		D' CL															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
20				花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	17.44m：割れ目沿いに幅10～40mmで砂状化している。
							IVg				18.31m：幅10mmで黒褐色のマンガンが脈状に分布する。
											19.60m：割れ目沿いに，幅10mmが砂状化している。
					にぶい橙						21.16～22.01m：割れ目沿いに，一部幅10～30mmで砂状化している。
							Vg				22.01～22.19m：軟質部中に中硬質な岩片が残留する。
											23.05～23.80m：割れ目の交差部で一部細片状を呈する。
						Eg	VIg	dg	ε		24.44～24.71m：土砂状を呈する。岩組織と割れ目がほぼ消滅する。
						Dg	IVg	cg			26.00～26.62m：割れ目沿いでの砂状化が進む。
							Vg				
						Eg	VIg	dg			27.00～27.10m：コア欠 27.10～27.60m：砂礫状を呈する。岩組織と割れ目がほぼ消滅する。
							IVg		δ		
						Dg					28.00～28.19m：コア欠 28.61～28.68m：コア欠 28.84～30.74m：締まった砂礫状を呈する。30.00m以深は岩片量が多くなる。
30					明褐灰	Eg	Vg	cg			29.00～29.09m：コア欠
											30.30～30.53m：石英の晶出が多い。
						Dg					

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 N値～深度図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
						5/30	68			10.0	100	0.1	泥水3	2
						5/31	86							
							72			30.0	150	0.1	泥水3	3
CL'						6/1	62	140／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	15.0	100	0.1	泥水3	2
							64							
						6/2	73			30.0		0.1	泥水3	3
							82							
							65					0.1	清水6	5
D'							48	115／ケーシング		10.0	150			
CL'						6/3	66					0.1	清水7	5
D'							101			30.0		0.1	泥水3	3
CL'						6/6	30					0.2	泥水3	3
							37							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
40				花崗斑岩	明褐灰	Dg					31.05～31.23m：白色の粘土化と珪化変質し，前者で白色の粘土脈が，後者で石英が晶出する。
						Eg					32.70～32.54m：割れ目沿いに幅1～2mmの砂状部を挟む。白濁した長石も多い。
						Dg					●34.54～34.59m：破砕部 破砕幅は5.0cmである。 34.54～34.58m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は10～40°である。 34.58～34.59m：灰黄褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.4cmである。上端，下端境界の傾斜はともに11°である。 35.37～37.15m：著しく軟質化している。
						Eg					
						Dg	vg	cg		3	37.80m：傾斜5°の割れ目沿いに幅10～20mmで砂状化している。微細な黄鉄鉱が晶出する。
											39.90m：傾斜0°で，緑泥石が幅10～20mmで分布する。
											40.32～40.77m：砂礫状を呈する。
					にぶい橙						41.50m：傾斜2°の割れ目沿いに幅30mmで緑泥石化している。微細な黄鉄鉱も晶出する。 ●42.41～42.49m：破砕部 破砕幅は6.8cmである。 42.41～42.43m：にぶい黄褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は63°，下端境界の傾斜は54°である。 42.43～42.49m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は18°である。
					灰褐	Eg	vg	dg		4	●44.24～44.53m：破砕部 破砕幅は20.9cmである。 44.24～44.31m：礫質粘土状を呈し，灰褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は5～13°である。 44.31～44.32m：灰黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。上端，下端境界の傾斜はともに35°である。 44.32～44.53m：粘土混じり礫状を呈し，灰褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は70°である。
					にぶい橙						●44.53～44.83m：破砕部 破砕幅は28.0cmである。 44.53～44.65m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は70°である。 44.65～44.66m：灰黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.5cmである。上端境界の傾斜は65°である。 44.66～44.70m：礫質粘土状を呈し，灰白色の未固結の礫状部からなり，幅は1.2cmである。下端境界の傾斜は50～70°である。 44.70～44.83m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は75～85°である。
					にぶい褐						●45.36～45.39m：破砕部 破砕幅は2.8cmである。 45.36～45.38m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は62°である。 45.38～45.39m：灰褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。上端，下端境界の傾斜はともに65°である。 ●46.12～46.17m：破砕部 破砕幅は4.1cmである。 46.12～46.16m：粘土質礫状を呈し，淡黄色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は31°である。 46.16～46.17m：黒褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。上端，下端境界の傾斜はともに35～70°である。



岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図 0 10 20 30 40 50	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
						6/6	37	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	30.0	150	0.2	泥水3	3
							50							
							78							
CL'						6/7	23			15.0	100	0.1	泥水2	1
							37							
D'						6/8	40			30.0	150	0.1	泥水3	3
							47							
							60							
							44							
							55							
CL'						6/9	35			10.0	100	0.1	泥水2	1
							35							
							56			30.0	150	0.1	泥水6	6
							63							
D'							54			15.0		0.1	泥水2	1
						6/10	61							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
50				花崗斑岩	にぶい褐	Eg	Vlg	dg		4	●47.40～47.51m：破砕部 破砕幅は8.6cmである。 47.40～47.41m：灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。上端，下端境界の傾斜はともに58°である。 47.41～47.51m：礫質粘土状を呈し，黄褐色の固結した砂状部からなる。下端境界の傾斜は55°である。
					にぶい黄橙	Dg			δ	3	
						Eg					
						Dg		cg			
					にぶい橙	Cg					
						Dg					
					灰褐	Cg	Vg				
						Eg					●49.17～49.22m：破砕部 破砕幅は3.0cmである。 49.17～49.18m：礫質粘土状を呈し，明黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は25°である。 49.18～49.20m：明黄褐色の固結した砂状部からなる。 49.20～49.22m：明黄褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は30～36°，下端境界の傾斜は35～60°である。
						Dg		bg	γ	2	
						Eg					●52.72～52.81m：破砕部 破砕幅は7.2cmである。 52.72～52.80m：粘土混じり礫状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は56°である。 52.80～52.81m：灰白色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。傾斜は14°である。
						Dg		cg	δ	3	
						Cg	Ⅳg				●53.17～53.22m：破砕部 破砕幅は4.8cmである。 53.17～53.18m：灰褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。傾斜は29°である。 53.18～53.22m：粘土混じり礫状を呈する，明褐灰色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は27°である。
							Vg				
						Eg	Vlg	dg	ε		56.66～56.84m：締まった砂礫状を呈する。
						Dg					
						Cg	Vg	cg	δ		
						Dg					
					にぶい褐	Eg	Vlg	dg	ε		
60						Dg	Vg	cg	δ		●59.82～59.85m：破砕帯(D-1) 破砕幅は2.5cmである。 59.82～59.84m：粘土混じり礫状を呈する，にぶい褐色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は22°である。 59.84～59.85m：灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.7cmである。傾斜は28°である。
					にぶい橙	Cg					
							Ⅲg				
						Bg	Ⅳg	bg	γ	2	
								cg	δ	3	

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　RQD [%]

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
D'							61			15.0		0.1	泥水 2	1
CL'							67							
D'							60							
CL'							56	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	30.0	150	0.2	泥水 5	5
D'						6/10	42							
CL'							45			25.0		0.1	泥水 2	1
							24							
CL'						6/11	47			30.0		0.2	泥水 4	4
							62							
D'							48	86／泥水		20.0	100	0.2	泥水 2	1
CL'						6/12	37							
CM'							46			30.0	150	0.2	泥水 4	4
							47							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
70				花崗斑岩	にぶい橙	Bg	Ⅳg	cg	δ	3	63.61～64.00m：砂礫状を呈する。傾斜60°，幅1～3mmの石英脈が2条認められる。
						Eg	Ⅵg	dg	ε		
						Cg	Ⅴg	cg	δ	2	64.33～66.07m：硬質であるが割れ目が多い。割れ目沿いに薄く砂状化している。
						Bg	Ⅳg		γ		
						Cg	Ⅴg	cg	δ	3	67.80～67.93m：傾斜50～60°で割れ目沿いの砂状化部と径10mmの岩片で砂礫状を呈する。
						Eg	Ⅵg	dg	ε		
						Dg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Bg	Ⅳg	bg	γ		
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Cg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Bg	Ⅳg	bg	γ		
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	●69.70～69.73m：破砕部 破砕幅は2.4cmである。 69.70～69.71m：にぶい黄橙色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。傾斜は55°である。 69.71～69.73m：粘土混じり礫状を呈し，灰黄色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は57°である。 69.73～74.10m：軟質部と中硬質部が交互に分布する。 71.27～71.60m：傾斜45～60°，幅1mm以下の軟質で灰白色～褐色の粘土脈が分布する。 71.88m：傾斜0～10°，幅1mmの石英脈が密着して分布する。
						Dg	Ⅵg	dg	ε		
						Cg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Bg	Ⅳg	bg	γ		
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Cg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Bg	Ⅳg	bg	γ		
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	2	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	2	
					灰褐	Cg	Ⅳg	cg	δ	3	
					にぶい橙	Dg	Ⅴg	bg	γ		
						Cg	Ⅳg	cg	δ	3	
						Dg	Ⅴg	bg	γ		
						Cg	Ⅳg	cg	δ	3	
						Dg	Ⅴg	bg	γ		
						Cg	Ⅳg	cg	δ	4	●74.36～74.50m：破砕部 破砕幅は10.7cmである。 74.36～74.40m：礫質粘土状を呈し，にぶい黄橙色の固結した砂状部からなる。上端境界の傾斜は27°である。 74.40～74.41m：灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.7cmである。傾斜は30°である。 74.41～74.50m：礫質粘土状を呈し，にぶい黄橙色の固結した砂状部からなる。 ●75.57～76.00m：破砕部 破砕幅は32.1cmである。 75.57～75.71m：粘土混じり礫状を呈し，灰黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は25°である。 75.71～75.73m：灰褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.2cmである。傾斜は68°である。 75.73～76.00m：礫質粘土状を呈し，灰褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は不明瞭である。 ●78.72～78.87m：破砕部 破砕幅は13.1cmである。 78.72～78.73m：にぶい黄橙色の固結した砂状部からなる。上端境界の傾斜は31°である。 78.73～78.86m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。 78.86～78.87m：灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。傾斜は60°である。
					灰褐	Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Cg	Ⅴg	cg	δ	4	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	4	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	4	

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CM'							47			30.0	150	0.2	泥水4	4
D'						6/12	32							
CM'										20.0	100	0.3	泥水2	2
							28							
CL'							95			30.0	150	0.2	泥水4	4
D'						6/13								
CM'							47							
						6/18	39			5.0	100	0.1	泥水2	1
CL'							46	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	40.0	150	0.2	泥水4	4
							27							
						6/22	63							
							57			20.0	100	0.1	泥水3	2
							45							
							40							
D'							46							
						6/23	51			40.0	150	0.1	泥水4	4
							20							
							55							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
80				花崗斑岩	灰褐	Dg			δ		
						Cg	Ⅳg		γ		
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3	
						Cg					
						Eg	Ⅵg	dg	ε		
						Cg	Ⅴg	cg	δ		
						Bg	Ⅳg	bg	γ	2	82.51～82.62m：礫混じり砂状を呈する。 82.62～82.94m：一部の割れ目に幅1～2mmの白色の粘土脈を挟む。 84.09～84.92m：傾斜60～80°のゆ着割れ目が認められる。
							Ⅲg				
						Cg	Ⅳg				
					にぶい黄橙	Dg	Ⅴg	cg	δ	3	●85.38～85.41m：破砕帯(f-b-1-16) 破砕幅は2.3cmである。 85.38～85.40m：粘土・砂混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°である。 85.40～85.41m：粘土状を呈し，灰黄褐色の固結した粘土状部からなる。傾斜は47°である。
						Eg					
					灰褐	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	
						Dg	Ⅴg	cg	δ		
						Eg	Ⅵg	dg	ε		
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3	87.20～87.51m：締まった礫質砂状を呈する。橙色の粘土脈を挟む。 88.51～88.69m：傾斜40～50°の割れ目が10～20mm間隔で平行に分布する。これに傾斜60°で斜交～直交する割れ目や幅1mmの石英脈も分布する。 89.56～89.86m：割れ目沿いに風化し全体が脆い。 91.16～91.25m：低角度と高角度割れ目が交差し径10mm前後の礫状化している。 下端にマンガン汚染を伴う。 92.32m：傾斜53°の割れ目沿いに径0.5mmの絹雲母が晶出する。 93.53～94.00m：アプライトの直上区間で，割れ目沿いに風化・砂状化が拡大し一部で砂礫状を呈する。
						Cg	Ⅳg				
90						Dg	Ⅴg				
						Cg					
					明褐灰	Eg			ε		
	-46.30	94.07		アプライト	暗緑灰	Cg			δ		94.07～94.88m：アプライトである。上端，下端境界の傾斜はともに65°である。一部で60～65°の流理構造を持つ。
	-46.87	94.88		花崗斑岩	明褐灰						

標尺 (m)	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N値)	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
80	0 50 100			(N)値	0 10 20 30 40 50											
	7 [0] 100							6/23	55			40.0	150	0.1	泥水4	4
	6 [0] 100	CL'							32							
	5 [0] 100											20.0	100	0.1	泥水3	2
	6 [0] 100								56							
								6/24	49			40.0	150	0.1	泥水5	5
	1 [20] 100	CM'							32							
	6 [47] 100	CH'							11							
	8 [0] 100	CL'							38			20.0	100	0.1	泥水3	2
	10 [10] 100	D'							26							
	4 [0] 100							6/25	34	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	40.0	150	0.1	泥水6	6
	4 [0] 100								36							
	6 [0] 100								37			20.0	100	0.1	泥水3	2
	7 [0] 100	CL'							33							
	6 [0] 100								30							
								6/26	51			40.0	150	0.1	泥水5	5
	4 [0] 100								20							
									55							
	5 [0] 100								25							
	6 [0] 100							6/27	32			20.0	100	0.1	泥水3	2

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm／時)	孔径 (mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L／分)	排水量 (L／分)
100				花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg		δ	3	94.88～140.00m：花崗斑岩である。		CL′			0 10 20 30 40 50			6/27	32	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	100	0.1	泥水3	2
						Bg	Ⅳg						CM′							42							
					灰褐	Cg	Vg	cg			97.57～97.88m：締まった土砂状を呈する。 97.85m：傾斜40°，幅1～5mmの赤褐色の鉱物脈を挟む。		CL′							43			40.0	150	0.1	泥水5	5
						Eg			ε	4																
						Bg	Ⅳg		γ		97.88～100.51m：岩片状～短柱状コアが主体となる。割れ目沿いは一部砂状化している。									60							
					褐灰															18			20.0	100	0.1	泥水3	2
											100.51～100.72m：風化で割れ目沿いに砂状化している。マンガン汚染も伴う。		CM′							55							
						Cg	Vg		δ																	
					灰褐		Ⅳg				100.72～102.35m：短柱状コアが主体となる。径2～5mmの暗緑灰色鉱物が斑点状に分布する。									67			50.0	150	0.1	泥水5	5
										2	102.35～107.40m：上位よりも割れ目が少ない柱状コアが主体となる。径2～5mm暗緑色鉱物が点在する。								6/28	66							
						Bg	Ⅲg	bg	γ		103.52～103.54m：割れ目沿いに薄く風化し，砂状化している。															
											105.23～105.25m：傾斜65°の割れ目に幅1～3mmの緑色の粘土脈を挟む。		CH′							78							
											106.33m：傾斜60°の割れ目沿いに幅5mmで細片化している。															
											107.52～107.55m：上端の傾斜40°，下端の傾斜53°で細礫～砂状化を呈する。								6/29	60							
							Ⅳg																			
						Cg	Vg	cg	δ	3	107.83～108.24m：割れ目沿いの風化で軟化が進む。									13							
						Bg	Ⅳg	bg	γ	2	108.24～110.43m：岩片～短柱状コアが主体となる。		CM′						6/30	56		20.0	100	0.1	泥水3	2
110					褐灰		Ⅲg				109.00～109.14m，109.41～109.60m：割れ目が密集し径10～30mmの硬質岩片化している。																
						Cg	Vg	cg												40							
					灰褐	Bg	Ⅳg	bg			110.43～110.74m：割れ目沿いに砂状化している。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
120				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅳg	bg	γ	2	110.74～112.83m：傾斜30～60°とこれに直交～斜交する50～70°の割れ目が主体となる。割れ目交差部は岩片化している。
					にぶい橙	Cg					
					灰褐	Dg	Ⅴg	cg	δ	3	●113.51～113.60m：破砕部 破砕幅は8.3cmである。 113.51～113.56m：粘土混じり礫状を呈し，灰褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は55°である。 113.56～113.57m：灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。傾斜は66°である。 113.57～113.58m：粘土混じり礫状を呈し，灰褐色の固結した礫状部からなる。 113.58～113.60m：灰褐色の固結した砂状部からなる。下端境界の傾斜は63°である。
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
					明褐灰	Cg	Ⅴg	cg		2	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
						Cg				2	114.50～114.75m：低角度と高角度割れ目が交差し，概ね径30mm以下に岩片化している。
					にぶい褐	Dg	Ⅴg	cg	δ		114.75～115.52m：風化で大半が砂状化している。115.28m以深は割れ目の一部が残留している。
					にぶい橙	Eg				3	
						Cg					●118.94～119.12m：破砕帯(D-41) 破砕幅は15.1cmである。 118.94～119.10m：砂混じり礫状を呈し，にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は30°である。 119.10～119.12m：浅黄色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。傾斜は60°である。
					灰褐		Ⅳg		γ		
							Ⅲg				119.30～120.78m：全体に割れ目が多く短柱状コアが主体となる。
						Bg	Ⅳg	bg	β	2	123.38m：割れ目が交差し幅2～3mmで細片化している。
											124.54m：傾斜55°の割れ目に幅0.5mmで軟質な灰緑色の粘土がフィルム状に付着する。
					褐灰		Vg				125.06～125.28m：割れ目沿いに岩片状コアが主体となる。
							Ⅳg				

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N値～深度) (N)値	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
0 50 100			0 10 20 30 40 50				40			20.0			逸水	2
1 [20] 7 [0] 4 [0] 5 [0] 3 [0] 5 [0] 3 [0] 2 [0] 4 [0] 12 [25] 24 [34] 6 [0] 8 [0] 6 [0] 8 [0] 10 [10]	CM' CL' D' CL' D' CL' CM' CH' CM'					6/30	68	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	40.0	150	0.1	泥水5	5
							72							
						7/1	39			20.0	100	0.1	泥水3	2
							21							
							15							
							73			40.0	150	0.2	泥水5	5
							65							
						7/2	31			20.0	100	0.1	泥水3	2
							43							
							43			40.0	150	0.1	泥水5	5
							13							
							77							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
130	-78.77	140.00		花崗斑岩	褐灰 にぶい褐 灰黄褐 褐灰	Bg Cg Bg Cg Dg Eg	Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅴg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅴg	bg cg bg cg	β γ δ γ δ γ β γ β γ	2 3 2	127.16～127.25m：径10mm前後の短柱状コアが主体となる。 127.68～128.08m：径5～10mmの岩片状を呈する。 128.64～128.88m：割れ目沿いに風化が進行する。径10mm程度で岩片状を呈する。 129.91～131.93m：割れ目が少なく柱状コアが主体となる。 131.93～138.07m：短柱状コアが主体となる。割れ目の一部は風化の砂状化部を挟む。 132.07～132.24m：珪化している。径10～20mmの岩片状を呈する。微細な黄鉄鉱が晶出する。 137.07～138.07m：ゆ着割れ目が多く認められる。 139.18～139.82m：風化と変質で軟化する。 ●139.82～139.88m：破砕帯(D-42) 破砕幅は4.4cmである。 139.82～139.83m：暗緑灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。上端，下端境界の傾斜はともに52°である。 139.83～139.88m：砂混じり礫状を呈し，暗緑灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は52°である。径3～5mmの岩片を多く含み，傾斜50°程度での配列が認められる。	9 [0] 8 [0] 11 [11] 14 [26] 28 [53] 11 [11] 7 [0] 9 [0] 6 [0] 11 [11] 6 [0] 18 [23] 3 [0]	CM' CH' CM' CL'					7/2 7/3 7/4 7/6	77 30 38 42 10 56 38 61 36 15 17 47 67 47 91 23 71 20 81	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	40.0 10.0 40.0 10.0 40.0	150 100 150 100 150	0.1 0.3 0.1 0.2 0.1 0.1	泥水5 泥水3 泥水4 泥水3 泥水5 泥水4	5 2 0 0 0 0

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo. 2

ボーリング名	H27-B-2	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	20.11 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 115.1°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	160.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
10	19.62	0.70		コンクリート	－						0.00～0.70m：コンクリートである。
				盛土	暗緑灰						0.70～12.33m：盛土である。 最上部300mmは砕石で，それ以外は砂，礫混じり砂，砂礫からなる。
					灰黄褐						
					にぶい黄橙						
					にぶい褐						
					灰褐						
					褐灰						
					明黄褐						
	11.39	12.33			黄褐						
	11.09	12.75		砂礫	褐						12.33～13.53m：礫混じり砂主体の第四系である。 12.33～12.75m：砂礫である。 径2～200mmの硬質～クサリ化した花崗斑岩とアプライトを含む中粒～粗粒砂からなる。
	10.54	13.53		礫混じり砂	褐灰						12.75～13.53m：礫混じり砂である。 径2～10mmの硬質～半クサリ化した花崗斑岩の亜角礫を含む中粒～粗粒砂からなる。
					にぶい褐						
				花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	13.53～133.75m：花崗斑岩である。 全区間のうち，約70～125mlは硬質部が主体であるが，全般に破砕部も含め割れ目が多く軟化する。 13.53～29.88m：風化した軟質部が主体となる。傾斜0～30°の割れ目が多く，割れ目沿いに砂状化が進む。
					明褐灰		Ⅳg				

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
							0	0／試掘	試掘／試掘	0.0	0	0.0	試掘 0	0
						6/1	600							
							480							
						6/2	600						0.0	無水 0
							600							
							360							
							360							
							100						0.2	泥水 5
							120						0.0	無水 0
							240							
							45						0.0	泥水 4
							52							
						6/3	100	150／ケーシング	シングルコアチューブ・ダブルコアチューブ 併用／メタルクラウン・ダイヤモンドビット 併用	30.0	30		0.0	無水 0
							360							
							300							
							300							
							240							
							360							
							80			20.0			0.0	泥水 4
							60						0.0	無水 0
						6/4	60			50.0				
							47						0.1	泥水 2
							360						0.0	無水 0
							300							
							79						0.1	泥水 4
							240						0.0	無水 0
						6/5	68			20.0				
							58						0.1	泥水 2
							39						0.0	泥水 3

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
20				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg		δ	3	19.59～19.80m：10mm程度の間隔で割れ目が分布する。
					にぶい橙						
						Cg	Ng	cg	γ		20.90m：傾斜0°の割れ目に沿って，幅10mm程度で砂状化する。
									δ		21.79～26.82m：割れ目沿いに砂状化している部分が多い。中硬質部と軟質部が交互に出現する。
						Dg	Vg		δ		21.90m：径10mmの石英が傾斜80°の割れ目で切られる。
							Ng				23.52m，23.82m：傾斜20～30°の割れ目に半固結状の灰褐色の粘土を1mm程度挟む。
					明褐灰						25.31m：傾斜20°の割れ目に径0.5～1mmの微細な絹雲母が晶出する。
									γ		25.84m：傾斜74°の割れ目は，交差する5～10°の割れ目を切る。
						Dg	Vg		δ		27.91m：傾斜20°，幅1mmの石英脈が交差する80°の割れ目で切られ1mm程度変位する。
											28.02～29.88m：割れ目が多く，岩片～礫状化している。
											29.88～30.82m：風化が著しく，礫混じり砂状を呈する。軟質岩片が多く残留する。
30					明黄褐	Eg			ε		
					にぶい黄橙	Dg					
						Eg	Vlg	dg		4	●31.15～31.66m：破砕部 破砕幅は43.1cmである。 31.15～31.25m：粘土混じり礫状を呈する，明赤灰色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は20°である。 31.25～31.28m：礫質粘土状を呈し，明赤灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は15～28°である。 31.28～31.29m：灰黄褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。傾斜は28°である。 31.29～31.66m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は43°である・EB
						Dg					
					灰褐		Vg	cg		3	
					明褐灰	Eg			δ		
							Vlg	dg		4	
					にぶい褐	Dg	Vg	cg		3	●34.37～34.48m：破砕部 破砕幅は10.8cmである。 34.37～34.38m：黒褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.6cmである。傾斜は13°である。 34.38～34.48m：礫質粘土状を呈し，明赤灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は20°である。
						Cg					
							Vlg	dg		4	
					明褐灰	Eg	Vg	cg			●35.36～35.46m：破砕部 破砕幅は8.7cmである。 35.36～35.39m：粘土混じり礫状を呈し，灰黄色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は37°である。 35.39～35.40m：灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。傾斜は47°である。 35.40～35.46m：粘土混じり～粘土質礫状を呈し，灰黄色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は20～35°である。
						Dg					
						Bg	Ng	cg	γ	3	
						Cg	Vg		δ		
					にぶい橙	Bg		bg	γ		
					明褐灰	Cg	Ng	cg	δ		
						Eg	Vg				●35.68～35.73m：破砕部 破砕幅は4.1cmである。 35.68～35.72m：粘土質礫状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は27°である。 35.72～35.73m：灰黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。上端，下端境界の傾斜はともに12°である。 ●35.92～35.95m：破砕部 破砕幅は2.3cmである。 35.92～35.93m：粘土状を呈する。灰オリーブ色の固結した粘土状部からなる。傾斜は35°である。幅1～5mmで膨縮する。 35.93～35.94m：灰白色の固結した砂状部からなる。 35.94～35.95m：礫質粘土状を呈し，灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。

コア採取率（%）／最大コア長 cm／RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 （N値）値	標準貫入試験 （N値～深度）図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
0 50 100				0 10 20 30 40 50											
10 [10] 100							6/5	39	150／ケーシング	シングルコアチューブ／ビット	20.0		0.0	泥水3	3
5 [0] 100								37							
12 [12] 100							6/6	34		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット（併用メタルクラウンインサート併用）	30.0				
8 [0] 100								38							
23 [23] 100							6/8	60							
5 [27] 100	CL'							55							
7 [0] 100								77							
11 [11] 100								38							
7 [0] 100							6/9	56							
9 [0] 100								60							
3 [0] 100								113	125／ケーシング		20.0	30	0.1	泥水3	3
4 [0] 100								70							
3 [0] 100	D'						6/10	60							
2 [0] 100								73							
1 [0] 100								60							
2 [0] 100								68							
3 [0] 100	CL'							56							
5 [0] 100	D'							54							
7 [0] 100								67							
10 [10] 100							6/11	59	86／ケーシング			50	0.1	泥水3	0
8 [0] 100	CL'							55							
8 [0] 100								53							

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	41.90～43.94m：砂～砂礫状化している。岩組織や割れ目の一部は残留する。部分的に粘土化している。	CL'		6/11	53	86/ケーシング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	50	0.1	泥水3	0
					にぶい橙	Dg									61							
					にぶい黄橙	Eg						D'			60							
					明褐灰	Dg								6/15					30			
						Cg			γ	2										0.1	泥水2	2
						Dg			δ	3	47.06～47.50m：風化で角礫状を呈する。											
						Eg	Ⅵg	dg	ε													
						Dg	Vg	cg	δ													
						Cg	Ⅳg		γ	2	●48.08～48.12m：破砕部 破砕幅は3.1cmである。 48.08～48.11m：礫質粘土状を呈し，灰黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は53°である。 48.11～48.12m：黒褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.5cmである。傾斜は56°である。径0.5～1mmの石英粒を20%程度含む。 48.12～48.56m：短柱状コアが主体となる。割れ目沿いに風化している。 48.88m：傾斜56°，幅1mmのマンガン汚染で黒褐色化した半固結状粘土を挟む。 直下の48.92mまで粘土化が進む。 51.51～52.42m：割れ目沿いに砂～砂礫状を呈する。 52.42～52.99m：硬質コアを呈する。割れ目は風化で幅2～3mmの砂状化部が多い。54.60m以深はやや粘土化する。	CL'														
50					にぶい橙	Eg	Vg			3												
						Cg	Ⅳg	cg	δ	2				6/16					50			
					にぶい黄橙	Dg	Vg			3										0.0	泥水2	2
						Bg	Ⅳg		γ	2												
						Dg	Vg		δ													
						Eg	Ⅵg	dg	ε											0.0	泥水2	0
					明褐灰	Dg	Ⅳg	cg	δ	3												
					にぶい黄褐	Eg	Ⅵg	dg	ε		●54.72～54.77m：破砕部 破砕幅は4.2cmである。 54.72～54.76m：礫質粘土状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は48°である。 54.76～54.77m：灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.3cmである。傾斜は39°である。	CL'													
					明赤灰					4												
					明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3												
					灰黄褐																	
					にぶい黄橙	Eg					57.99～58.28m：傾斜20～30°の割れ目が10～30mm間隔で分布する。											
					にぶい褐	Cg																
						Bg	Ⅳg	bg														
					灰褐	Dg	Vg	cg														
						Cg	Ⅳg	bg														
						Dg	Vg	cg														
						Eg	Ⅵg	dg	ε													
						Dg	Vg	cg	δ													
60					にぶい橙	Eg	Ⅵg	dg	ε													
									δ													
					明褐灰	Cg	Vg	cg														

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

(標準貫入) 試験　(N値～深度) 図　0 10 20 30 40 50

原位置試験(孔内水平載荷)　室内試験

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
6/11	53	86/ケーシング	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	50	0.1	泥水3	0
	61							
	60							
6/15					30			
6/16	62				50	0.1	泥水2	2
						0.0	泥水2	2
	62					0.0	泥水2	0
6/17	47							
	41				70	0.0	泥水2	2
	48				80	0.0	泥水2	1
	50							
6/18	67							

●48.08～48.12m：破砕部
破砕幅は3.1cmである。
48.08～48.11m：礫質粘土状を呈し，灰黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は53°である。
48.11～48.12m：黒褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.5cmである。傾斜は56°である。径0.5～1mmの石英粒を20%程度含む。
48.12～48.56m：短柱状コアが主体となる。割れ目沿いに風化している。
48.88m：傾斜56°，幅1mmのマンガン汚染で黒褐色化した半固結状粘土を挟む。
直下の48.92mまで粘土化が進む。
51.51～52.42m：割れ目沿いに砂～砂礫状を呈する。
52.42～52.99m：硬質コアを呈する。割れ目は風化で幅2～3mmの砂状化部が多い。54.60m以深はやや粘土化する。

●54.72～54.77m：破砕部
破砕幅は4.2cmである。
54.72～54.76m：礫質粘土状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は48°である。
54.76～54.77m：灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.3cmである。傾斜は39°である。

57.99～58.28m：傾斜20～30°の割れ目が10～30mm間隔で分布する。

59.71～60.00m：砂～砂礫状を呈する。
●60.26～60.69m：破砕部
破砕幅は36.5cmである。
60.26～60.57m：粘土・砂混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は28°である。
60.57～60.58m：にぶい黄橙色の固結した砂状部からなる。
60.58～60.60m：粘土状を呈する。明褐灰色の固結した粘土状部からなる。傾斜は18°である。
60.60～60.69m：粘土・砂混じり礫状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は37°である。
●61.29～61.69m：破砕帯(D-1)
破砕幅は28.8cmである。
61.29～61.41m：粘土混じり礫状を呈する，にぶい橙色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は45°である。
61.41～61.43m：灰黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は50°である。
61.43～61.50m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。
61.50～61.69m：にぶい褐色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は60°である。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
70				花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	cg	δ	3			CL'						6/18	67	86／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	80	0.0	泥水2	1
						Eg	VIg	dg	ε	4	●63.75～63.85m：破砕部 破砕幅は8.0cmである。 粘土・砂混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は3°，下端境界の傾斜は47°である。		D'							64							
						Bg	IIIg	bg	β				CH'							53				50			
					灰褐	Eg	Vg		ε											63							
						Cg	IVg		γ																		
						Dg		cg					CL'							78				80			
					にぶい橙	Cg	Vg		δ	2																	
						Dg																					
						Cg			γ																		
						Bg	IVg	bg	β		●68.02～68.06m：破砕部 破砕幅は3.5cmである。 68.02～68.05m：砂混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°である。 68.05～68.06m：灰黄褐色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.2cmである。下端境界の傾斜は30°である。		CM'							89							
						Cg	Vg	cg	γ	3																	
						Bg	IVg	bg	β	2																	
						Dg	Vg	cg	δ	3	68.39～69.69m：硬質であるが，割れ目が多い。上端部4cmは軟化が著しい。		CL'							88							
						Bg	IVg	bg	β	2	71.06～71.88m：割れ目交差部で一部砂～砂礫状化している。 71.88～76.11m：硬質であるが割れ目沿いに一部砂状化している。																
											72.48～74.57m：割れ目沿いに褐色化が認められる。																
							IVg	bg	β		73.20～75.00m：傾斜20～30°と傾斜60～70°の割れ目が交差し一部で岩片～角礫状を呈する。		CM'							88							
						Bg																					
																				60							
							Vg	cg	γ		76.11～77.02m：割れ目交差部で岩片～角礫状化している。		CL'								86／セメンティング					
							IVg	bg	β		77.02～79.47m：硬質であるが割れ目が多い。78.00m以深では10cm前後のコアが主体となる。		CM'						6/20	76			30.0	100	0.0	泥水3	0
						Cg	Vg	cg	γ	3	79.47～80.19m：傾斜70°の割れ目に幅3mmで褐色～淡黄色の粘土を挟む。		CL'							94							
80							IVg																				
						Bg	IIIg	bg	β	2	80.48～83.12m：柱状を呈する。径2～3mmの暗緑色の緑泥石が斑点状に点在する。		CH'							94							
																				58							
																			6/26				35.0	120	0.0	泥水5	0
																				68							
						Dg	Vg	cg	δ	3	83.12～83.79m：割れ目沿いに砂状化している。		CL'														
						Cg		bg	β	2																	
						Bg	IVg				83.79～84.43m：割れ目が多いが硬質で短柱状コアが主体となる。		CM'														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
90				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅳg	bg	β	2	84.61～85.50m：全体に軟質となる。	12 [12] 2 [0] 4 [0] 1 [22] 10 [10] 1 [0] 2 [0] 3 [0] 5 [0] 9 [0] 10 [10] 25 [37] 15 [27] 7 [0] 9 [0] 11 [11] 4 [0] 5 [0] 4 [0] 5 [0] 14 [24]	CM' CL' D' CL' D' CL' CH' CM' CL' CM' CL' CM'						6/26	68	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	35.0	120	0.0	泥水5	0
						Cg			γ											105						
						Dg	Vg	cg		3																
						Eg																				
						Dc			δ																	
						Eg	Ⅵg	dg		4										94						
					にぶい褐	Dg	Vg	cg		3																
						Cg		bg	γ	2										123			20.0	50		
						Bg	Ⅲg																			
						Cg	Vg	cg	δ																	
						Eg	Ⅵg	dg	ε										6/27	90	86／セメンティング		40.0		0.0	泥水3	0
					灰褐																					
					にぶい褐		Vg		δ	3										86				100			
						Cg	Ⅳg	cg																		
					にぶい橙		Vg		γ											102							
						Bg	Ⅲg	bg	β	2	91.70～91.76m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。 91.76～94.80m：ハンマーの軽打で径10～30mmの岩片状に崩せる。 94.80～97.96m：割れ目が少なく柱状を呈する。										120						
						Ⅳg	Vg	cg	γ	3	98.48～101.31m：割れ目沿いに砂状化，長石は概ね白濁化している。															
100					緑灰	Cg			δ											121	86／泥水						
						Bg			β	2									6/30	132						
						Cg			δ	3																
						Bg	Ⅳg	bg	β	2	101.32～102.05m：未風化な短柱状コアが主体となる。															
						Cg	Vg	cg	γ		102.94～103.17m：割れ目沿いに砂状化している。									129			43.0	120	0.0	泥水4	0
						Bg		bg																		
					灰褐	Dg			δ	3																
					明褐灰	Bg		cg	β	2	103.70～104.65m：風化で軟化する。所々に幅1～3mmの軟質な白色の粘土が脈状に分布する。															
						Dg			γ	3																
					灰褐	Bg	Ⅳg	bg	β	2	104.65～115.99m：硬質であるが割れ目がやや多く短柱状コアが主体となる。密着度が低いや着割れ目を含む。								7/1	132						
																				97						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
110				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅳg	bg	β	2	107.15～107.62m：割れ目沿いに一部細片化するが，ほぼ未風化な硬質岩片である。割れ目の一部はごく薄く緑泥石化している。	17 [17] 100	CM'						7/1	97	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	43.0	120	0.0	泥水 4	0
							Ⅴg					14 [14] 100								94						
											108.57～108.60m：傾斜40°の割れ目沿いに幅1mmで砂状化している。上端面には暗緑色の砂がフィルム状に付着し，微細な黄鉄鉱を伴う。	6 [0] 100														
												5 [0] 100														
											110.40～110.51m：白色を呈するゆ着割れ目沿いに分離し開口する。	9 [0] 100								113						
							Ⅳg					11 [11] 100														
											112.41～112.44m：傾斜5°の割れ目沿いに岩片化するが硬質である。	4 [0] 100								107						
											113.63～113.81m：白色を呈するゆ着割れ目が間隔6～10mmで分布する。一部で密着度が低く細片化している。	9 [0] 100														
					緑灰							9 [0] 100								98						
												8 [0] 100														
						Cg	Vg	cg		3	115.99～116.49m：割れ目が多く岩片状を呈する。割れ目沿い幅1～3mmで砂状化している。	9 [0] 100	CL'													
					灰褐	Bg	Ⅳg	bg		2	116.49～119.47m：割れ目がやや多く短柱状コアが主体となる。一部で割れ目沿いに幅1～2mm砂状化している。	8 [0] 100	CM'							108						
											118.23～118.53m：傾斜20～30°のゆ着割れ目が10～20mm間隔で平行に分布する。一部は開口する。	6 [0] 100														
						Cg	Vg	cg		3		5 [0] 100	CL'													
120						Bg	Ⅳg		γ		●120.63～120.65m：破砕部 破砕幅は1.7cmである。 120.63～120.64m：礫質粘土状を呈し，オリーブ灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は12～32°である。 120.64～120.65m：オリーブ灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.3cmである。傾斜は32°である。	10 [10] 100	CM'							101						
							Ⅲg		β	2		23 79 [79]	CH'													
						Cg			γ	3		10 [10] 100	CL'							154						
							Ⅳg	bg			120.65～122.23m：短柱状～長柱状コアで，121.03m以深ではほぼ未風化，弱変質している。															
							Ⅴg																			
						Bg	Ⅳg		β	2	123.41～125.38m：硬質であるがハンマーの強打で細片化している。	12 [12] 100							7/2	123						
												10 [10] 100	CM'													
						Cg	Vg					15 [30] 100								100						
						Bg	Ⅳg																			
					にぶい橙							7 [0] 100														
					灰褐	Cg	Vg	cg	γ	3	●127.41～127.48m：破砕帯(D-42) 破砕幅は5.6cmである。 粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は50～66°である。	8 [0] 100	CL'							135			55.0			
									β	2																

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	●128.82～128.97m：破砕帯(D-44) 破砕幅は12.1cmである。 128.82～128.87m：砂混じり礫状を呈し,灰赤色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は30°である。 128.87～128.88m：暗緑灰色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり,幅は0.5cmである。傾斜は63°である。 128.88～128.97m：粘土・砂混じり礫状を呈し,灰赤色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は62°である。 130.79～131.95m：割れ目沿いに砂状化している。 131.79m：傾斜5°の割れ目上盤側は幅10～15mmで砂状化している。灰白色の粘土脈を伴う。	CL'									
						Eg	VIg	dg	δ													
					明褐灰	Cg	Vg	cg	γ													
						Dg			δ													
130						Bg	IVg	bg	γ			CM'								0.0	泥水6	0
					にぶい黄橙	Cg	Vg	cg	δ			CL'		7/2	172				120			
									γ													
					明褐灰	Eg			δ	3		D'										
						Cg			γ													
						Eg			δ	2												
						Cg			γ													
	-74.47	133.75				Eg			δ		133.75～134.23m：アプライトである。											
	-74.80	134.23		アプライト		Dg																
				花崗斑岩		Cg	IVg		γ	3	●133.75～133.92m：破砕部 破砕幅は15.4cmである。 133.75～133.76m：明緑灰色の粘土を呈する。未固結の粘土状部からなり,幅は0.1cmである。傾斜は45°である。 133.76～133.92m：礫質粘土状を呈し,オリーブ灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は35°である。 ●134.15～134.23m：破砕帯(f-b-2-20) 破砕幅は7.4cmである。 134.15～134.19m：オリーブ灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり,幅は2.0cmである。傾斜は75°である。 134.19～134.23m：粘土混じり礫状を呈し,オリーブ灰色の固結した礫状部からなる。	CL'									
							Vg															
						Eg	VIg	dg	δ			D'										
						Bg	Vg	cg	γ	2												
						Eg	VIg	dg	δ	3												
						Cg	Vg	cg	γ	2												
						Eg	VIg	dg	δ	3												
					褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2	134.23～160.00m：花崗斑岩である。 135.34～145.65m：割れ目が多く岩片状～一部土砂状を呈する。 136.54～136.56m：暗緑灰色の礫状を呈する。											
140						Eg	VIg	dg	δ	3												
						Cg	Vg	cg	γ	2	141.96～142.23m：割れ目が細かく交差し細片化している。一部で幅1～2mmで砂状化している。 143.57～143.70m：上端の傾斜60°,下端の傾斜70°の割れ目沿いに緑泥石化する。径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と幅5～10mmの石英脈を伴う。	CL'									
							IVg															
					明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	3	145.65～148.26m：風化と変質で軟化が著しい。砂礫～礫質砂状で,一部灰白色～暗緑灰色の粘土脈を挟む。 147.65m：傾斜57°の割れ目に幅1～2mmの砂～シルト状のマンガンを脈状に挟む。 148.26～149.19m：上端の傾斜55°,下端の傾斜50°の割れ目に沿って径30mm以下の岩片状を呈する。 149.19～149.67m：風化で砂～砂礫状を呈する。灰白色の粘土が点在する。下端に幅1mmで暗緑灰色の砂～シルト状の緑泥石脈を挟む。	D'									
						Cg		bg	γ													
						Eg	VIg	dg	δ													
						Cg	Vg	cg	γ	2		CL'										
						Eg			δ													
					褐灰	Cg			γ	3												

コア採取率 (%)
最大コア長 cm
R Q D [%]
0 50 100

(標準貫入) 試験
(N値～深度) 図
0 10 20 30 40 50

原位置試験(孔内水平載荷)

室内試験

掘進月日: 7/2, 7/3, 7/4

掘進速度(cm/時): 135, 154, 172, 176, 94, 120, 99, 98, 108, 123, 163, 139, 150

孔径(mm)/孔壁保護: 86/泥水

コアチューブ/ビット: ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット

給圧(kN・MPa): 55.0, 62.0, 65.0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入) 試験 (N値)	(N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
	-93.03	160.00		花崗斑岩	褐灰 明褐灰 灰褐 緑灰	Cg Dg Cg Eg Cg Dg Cg Dg	Vg Vlg Vg	bg cg dg cg	γ δ γ δ γ	2 3 2 3 4 3	●152.10～152.15m：破砕帯(f-b-2-21) 破砕幅は4.0cmである。 152.10～152.11m：粘土混じり礫状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°である。 152.11～152.12m：暗緑灰色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。傾斜は68°である。 152.12～152.15m：砂混じり礫状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は55°である。 ●154.53～154.71m：破砕帯(f-b-2-22) 破砕幅は15.7cmである。 154.53～154.57m：礫質粘土状を呈し，緑灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は63°である。 154.57～154.58m：灰赤色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.5cmである。傾斜は36°である。 154.58～154.71m：粘土混じり岩片状を呈し，灰褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は65～70°である。 155.00～160.00m：割れ目沿いに暗緑色化する。 159.78m：傾斜70～80°，幅1～10mmの方解石脈が膨縮しながら連続する。	0 50 100 5 (0) (100) 5 (0) (100) 7 (0) (100) 4 (0) (100) 3 (0) (100) 5 (0) (100) 2 (0) (100) 4 (0) (100) 3 (0) (100) 9 (0) (100)	CL' D' CL'			0 10 20 30 40 50		7/4 7/6	150 180 114 129 111 94 74	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	65.0 68.0	120	0.0	泥水4	0

ボーリング柱状図

調　査　名

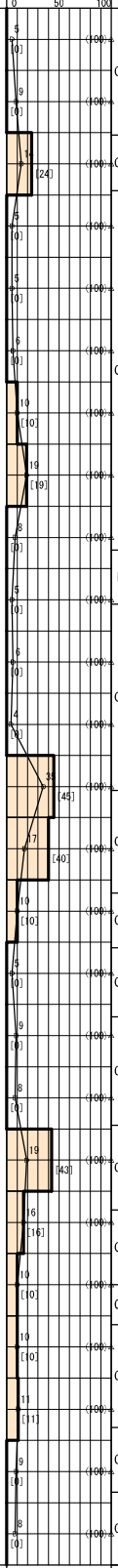
事業・工事名

ボーリングNo. 3

ボーリング名	H27-B-3	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.06 m	角度	180° 上 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270° 53.0°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	180.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
				埋戻土	黒褐						0.00～1.70m：埋戻土である。 試掘の埋戻土である。 砕石と礫混じり砂，礫質砂からなる。									0	0／試掘	試掘／試掘	0.0	0	0.0	その他（不明含む）0	0
	5.86	1.70			にぶい黄褐																					
					灰黄褐																					
				盛土	にぶい黄褐						1.70～10.05m：盛土である。 砂，砂礫，モルタル等からなる。								5/29	72							
																			5/30	330						
																				35	140／ケーシング					
																			6/1	53						
																				37						
																				28						
					オリーブ灰															28						
					灰黄褐															13						
																			6/2	45						
																				54	114／ケーシング					
10	-0.05	10.05																		20						
																				34						
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	cg	δ	2		10.05～119.14m：花崗斑岩である。 概ね101.78m以浅は破砕部や風化，変質で著しく軟化した部分を多く含む軟質岩盤である。101.78m以深は硬質コアが主体を成す良好な岩盤である。	4 [0]	CL'							63						
						Cg	bg	γ				7 [0]														
						Dg		δ	3		10.05～12.96m：軟質部が主体である。割れ目の多くは砂か粘土を挟む。	9 [0]							55						
						Cg	Vg	γ	2																	
						Eg	cg	δ	3		12.96～14.62m：上端側と下端側は風化と変質で著しく軟化している。所々に灰白色の粘土を斑点状～脈状に含む。	3 [0]	D'						35						
						Dg			2											70	86／泥水					
						Eg			3		14.62～20.04m：傾斜20～40°の割れ目が主体で割れ目沿いは風化で砂状化する部分が多い。16.49m以浅は軟質，16.43m以深は中硬質部が主体となる。	6 [0]							83						
						Dg			2										6/3							
						Eg	Vg	δ	3			10 [10]	CL'							87						
						Dg			2		15.33～15.43m：風化と変質で軟化が著しい。	7 [0]													
						Cg	Wg	cg	δ	3	17.13～17.31m：割れ目の一部に幅1～2mmの軟質な灰白色の粘土を挟む。	8 [0]							6/4	90						
					にぶい橙				2											120						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
20				花崗斑岩	にぶい橙		Vg				18.05～18.47m：珪化で石英量多くなり硬質である。
					明褐灰	Cg	Vg	cg	δ	2	19.59m：傾斜40°と80°の割れ目が交差する。傾斜40°の割れ目が80°の割れ目を切っている。
					にぶい橙	Bg	Ⅳg	bg	γ		20.04～20.93m：硬質であるが，密着度の低い割れ目を含む。
					明褐灰	Dg	Vg	cg	δ		20.93～26.70m：軟質部と中硬質部が交互に出現する岩片状～短柱状コアを呈する。割れ目は傾斜45°前後主体で70～90°の割れ目と交差する。割れ目沿いに薄く砂状化～軟質な白色の粘土脈を挟む。
						Cg	Ⅳg	bg	γ		22.50～22.64m：軟質化が著しい。上端に褐色の粘土脈，下端に褐色の砂を伴う。一部に灰白色の粘土を脈状に含む。
						Dg	Vg	cg	δ		24.37m：傾斜45°，幅2mmの石英脈が一部で割れ目化して分布する。
						Cg	Ⅳg		γ		26.22m：傾斜50°の割れ目が交差する高角度割れ目を5mm程度切る。
							Vg				
						Eg	Ⅵg	dg	δ	4	●26.70～26.90m：破砕部 破砕幅は20.0cmである。 26.70～26.71m：淡黄色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。傾斜は43°である。 26.71～26.90m：礫質粘土状を呈し，灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は54°である。
						Cg	Vg	cg	γ	2	●28.12～28.14m：破砕部 破砕幅は2.0cmである。 28.12～28.13m：淡黄色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.3cmである。傾斜は43°である。 28.13～28.14m：粘土混じり～粘土質礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した砂状部からなる。下端境界の傾斜は45～55°である。
						Dg			δ	3	
30						Cg	Ⅳg		γ		
					灰褐	Bg	Ⅲg	bg	β		●29.10～29.12m：破砕部 破砕幅は1.9cmである。 29.10～29.11m：灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。上端境界の傾斜は49°，下端境界の傾斜は50°である。 29.11～29.12m：礫質粘土状を呈し，灰白色の固結した粘土状部からなる。下端境界の傾斜は45～55°である。
						Cg	Ⅳg		γ		
						Dg	Vg	cg	δ	2	30.56～32.21m：硬質で割れ目の少ない柱状コアが主体となる。 34.20～35.94m：硬質であるが，密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。
						Cg	Ⅳg		γ		35.94～37.30m：硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。 36.07～36.32m：割れ目沿いや岩芯の一部でマンガン汚染が認められる。
					にぶい褐	Bg	Ⅲg	bg	β		
					灰褐	Cg	Ⅳg		γ		
						Dg	Vg		δ		
						Eg			ε	ε	
						Cg		cg	γ	2	37.69～37.81m：割れ目沿いに砂状化している。幅1mmの白色の粘土脈を伴う。 38.21～38.50m：傾斜50°前後の割れ目沿いに砂状化が進む。幅1～2mmで軟質な褐色の粘土を少量伴う。
									δ	3	
						Bg	Ⅳg	bg	γ		40.79～41.83m：硬質であるが，割れ目が多い。
40						Cg		cg		2	41.95～42.78m：多くの割れ目に粘土脈や砂を薄く挟む。下端付近では傾斜40～50°の割れ目が多い。
					明褐灰	Dg	Vg		δ		
						Cg	Ⅳg	bg	γ		
						Eg	Ⅵg	dg	ε	ε	
							Ⅳg				
						Cg	Vg	cg	γ	3	●42.85～42.91m：破砕帯(H-2) 破砕幅は5.6cmである。 粘土混じり礫状を呈し，明褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は66°である。
						Eg			δ		



岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(N値～深度)図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
CL'							120							
							98							
CM'							125							
							145							
CL'						6/4	112			10.0	150	0.1	泥水15	15
							120							
D'							69							
							66							
CL'							99							
CH'						6/5	87	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	50.0	100	0.2	泥水20	20
CM'							110							
CL'							80							
							90							
CH'							50			20.0	150	0.1	泥水15	15
CL'						6/6	80							
CM'							90			60.0		0.2	泥水20	20
CL'														
										20.0		0.1	泥水15	15

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	43.17～45.66m：一部でゆ着割れ目が分布する。	CL'										
						Cg	Ⅳg	bg	γ	2	46.14～48.61m：硬質であるが，割れ目が多い。上部は長石の多くが白濁化している。一部で割れ目沿いに砂状～細片化している。				65			20.0		0.1	泥水15	15
						Dg	Vg	cg	δ	3	48.61～56.69m：軟質部と中硬質部が交互に出現する。割れ目には砂や粘土を挟むことが多い。	CM'		6/6	110							
						Bg	Ⅳg	bg	γ	2												
						Cg	Vg	cg	δ													
						Bg	Ⅳg	bg	β						104							
50						Cg	Vg	cg	δ	3	50.00～50.42m：傾斜70°前後の微細な風化割れ目数条が波打って連続する。 51.35～51.65m：割れ目交差部で砂状部が広がる。少量の白色の粘土を伴う。							50.0		0.2	泥水20	20
						Dg								6/7	95							
						Cg																
						Dg					53.10～55.82m：一部割れ目沿いに砂状化し白色の粘土を伴う。											
						Cg	Ⅳg		γ	2		CL'										
						Dg	Vg	bg	δ	3	55.08～55.10m：傾斜25°で幅5～10mmの淡黄色の粘土と幅10mmの砂状部を挟む。				94							
					にぶい橙	Cg		cg			●56.69～56.72m：破砕部 破砕幅は2.8cmである。 56.69～56.71m：砂・粘土混じり礫状を呈し，淡黄色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は30°である。 56.71～56.72m：黄灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。上端，下端境界の傾斜はともに31°である。径1mm以下の石英粒を僅かに含む。 56.72～57.29m：割れ目沿いに砂状化が進む。 ●58.89～58.98m：破砕部 破砕幅は8.9cmである。 58.89～58.96m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は20°，下端境界の傾斜は25°である。 58.96～58.98m：灰白色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。上端，下端境界の傾斜はともに25°である。 ●59.69～59.75m：破砕部 破砕幅は5.3cmである。 59.69～59.70m：黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。上端，下端境界の傾斜はともに52°である。 59.70～59.75m：砂混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は37°である。 60.00～62.23m：硬質であるが，割れ目が多い。一部割れ目沿いに砂状化している。 62.82～62.93m：固結した砂礫状を呈し，白色の粘土脈を伴う。 64.52～66.39m：硬質であるが割れ目が多い。一部割れ目沿いに薄く砂状化している。 66.39～68.06m：割れ目には砂を挟むものが多い。				113	86/泥水	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	20.0	150	0.1	泥水15	15
					灰黄褐	Eg						D'		6/8	114							
					灰褐	Dg		cg	δ													
					橙							CL'			60							
60					灰褐	Cg	Ⅳg	bg	γ	2					97			50.0		0.2	泥水20	20
						Dg	Vg	cg	δ	3		CM'										
						Cg	Ⅳg	bg	γ	2												
						Dg	Vg	cg	δ	3		CL'			86							
						Cg	Ⅳg		γ	2												
						Dg	Vg		δ	3												
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg	γ	2		CM'		6/9	112			20.0		0.1	泥水15	15
					灰褐	Bg																
					にぶい褐	Cg	Vg	cg	δ			CL'			105							
					明褐灰																	

コア採取率 (%)　最大コア長 cm　R Q D [%]　0 50 100

（標準貫入）試験　（N値～深度）図　0 10 20 30 40 50

原位置試験（孔内水平載荷）　室内試験

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
					明褐灰	Cg			ε	2	68.06～68.93m：風化で砂～砂礫状を呈する。									105						
					にぶい橙	Eg							D'														
						Cg			δ	3	68.93～70.10m：岩片状コアが主体となる。一部の割れ目沿いでは幅10mm程度まで砂状化している。									100						
70										2																
						Vg	cg				70.10～71.72m：風化と変質で著しく軟化している。粘土～砂状化が進み白色の粘土脈を伴う。															
					明褐灰	Eg				4			D'							6/9	97						
						Dg				3			CL'														
						Eg	Vg	dg	δ	4	72.65～73.38m：著しく軟質化している。このうち，72.93～73.11mは変質が強く岩組織と割れ目が不明瞭となる。									60						
											73.38～76.23m：岩片状コアが主体となる。密着度が低い割れ目やゆ着割れ目が約10mm間隔で密に分布する。															
					灰褐	Dg	Vg	cg		3			CL'								86						
											75.05～75.56m：一部，幅1～3mmの白色の粘土脈を挟む。															
						Eg	Vg	dg	γ	4	76.23～76.59m：著しく軟化している。		D'							78						
					にぶい橙						●76.59～76.89m：破砕帯(H-3c) 破砕幅は23.6cmである。															
						Dg				3	76.59～76.60m：明黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。上端，下端境界の傾斜はともに47°である。		CL'							120						
											76.60～76.89m：にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は37°である。76.65m以浅に傾斜50°程度の割れ目が4条分布する。								6/10	66						
80					明褐灰	Eg	Vg	cg	δ	4	76.89～79.15m：割れ目沿いに砂～粘土化している。		D'							118						
											79.15～85.03m：粘土化が進み著しく軟質である。岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は傾斜10～30°の低角度割れ目が主体となる。															
											81.70～82.40m：岩片間の基質の一部で風化・褐色化が進む。									94						
					灰褐		Vg	cg			84.54～84.71m：砂状化が進み軟質な粘土も伴う。									234						
																				74						
					にぶい褐	Dg				3	85.03～85.61m：岩片状コアが主体となる。割れ目沿いに砂状化している。		CL'						6/11	24						
					褐灰		Vg	cg		4	85.61～91.35m：風化と変質で砂～粘土化が著しい。									54						
											87.18～91.35m：風化で砂礫状を呈する。									83						
							Vg	dg			90.15～90.55m：締まった砂～砂礫状を呈する。									39						
							Vg	cg												39						
					にぶい黄橙	Eg			ε	3	●91.35～91.54m：破砕帯(H-3e) 破砕幅は16.9cmである。		D'													
											91.35～91.43m：礫質粘土状を呈し，浅黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は36°である。															
90					明褐灰		Vg	dg			91.43～91.44m：灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。傾斜は25°である。									38						
											91.44～91.54m：にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は20°である。91.51m以深は，傾斜20～30°とこれに直交する割れ目が多い。								6/12							
									δ	4																
					にぶい橙				ε	3	93.66～93.86m：粘土～砂状化が著しい。									116						
											93.86～99.50m：割れ目が多く岩片状コアが主体となる。															

花崗斑岩

86／泥水

ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット

86／セメンティング

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				花崗斑岩	にぶい橙	Eg	Ⅵg	dg	ε		
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3	95.96m：傾斜60°の割れ目に幅1mmの軟質な灰白色の粘土脈を挟む。
						Eg	Ⅵg	dg	ε	4	
						Dg			δ		
					灰褐				γ		
					明褐灰	Cg	Ⅳg	cg		3	
					にぶい橙	Dg	Ⅴg		δ		97.07m：傾斜15°，幅2～3mmの石英脈が分布する。 98.02m：傾斜30°，幅2～5mmの石英脈が分布する。
					灰褐	Cg	Ⅳg				97.69～97.78m：固結状の白色の粘土が，幅1～2mmの脈状～径2～3mm斑点状に点在。
						Dg	Ⅴg		γ	2	
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	
					にぶい橙	Dg	Ⅴg	cg			●99.50～99.68m：破砕帯(H-3d) 破砕幅は13.0cmである。 99.50～99.56m：粘土混じり礫状を呈し，明黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は43°である。 99.56～99.57m：礫混じり粘土状を呈し，灰白色の固結した粘土状部からなる。傾斜は38°である。 99.57～99.68m：砂混じり礫状を呈し，褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は37°である。
					灰褐	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	
						Dg	Ⅴg	cg	δ	3	
					褐灰	Cg	Ⅳg		γ		101.78～104.28m：割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。
						Bg	Ⅲg		β		104.28～105.88m：硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。 白色のゆ着割れ目が分布する。
					にぶい橙	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	105.88～108.71m：硬質で割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。風化で褐色化した割れ目が多く，細片化し易い。
					明褐灰						107.30～108.71m：径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。
					褐灰		Ⅲg		β		108.71～112.27m：硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。
						Bg					111.14m：傾斜70°の割れ目に幅1～2mmで緑色の粘土～シルトを挟む。径0.5mm以下の微細な絹雲母が点在する。
							Ⅳg				112.27～113.27m：硬質であるがやや割れ目が多い短柱状コアを呈する。一部割れ目に砂～シルト状緑泥石が見られる。 113.27～114.68m：硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。傾斜70～80°の高角割れ目が主体となる。 114.24m：傾斜80°の伸着割れ目沿いに径2～3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。
							Ⅲg				●115.00～115.12m：破砕帯(H-4') 破砕幅は8.5cmである。 粘土混じり礫状を呈し，浅黄色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は80°である。下端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は80°である。一部で，幅1mm以下のにぶい黄褐色化した軟質な粘土を伴う。
							Ⅳg	cg	γ		117.32～117.39m：割れ目沿い軟化している。
						Eg	Ⅵg	dg	ε	3	117.39～119.00m：短柱～柱状コアを呈する。下部に割れ目が多い。
						Bg	Ⅲg	bg	β	2	●119.11～119.25m：破砕帯(D-1) 破砕幅は12.3cmである。 119.11～119.16m：粘土混じり礫状を呈し，暗緑灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は50°である。 119.16～119.18m：緑灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。傾斜は60°である。 119.18～119.25m：粘土混じり礫状を呈し，暗緑灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は43°である。
							Ⅳg		γ		
					にぶい橙		Ⅲg				

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
D'					6/12	116	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	150	0.1	泥水10	10
						83							
						33							
CL'						69			40.0	100	0.2	泥水15	15
					6/13	77							
						107			50.0				
					6/19	90			20.0		0.1	泥水10	10
CM'						83			50.0		0.2	泥水18	18
CH'						52							
CM'						54							
					6/20	63	86／泥水		20.0	150	0.1	泥水15	15
CM'						73			70.0		0.2	泥水25	25
CH'					6/21	67							
CM'					6/22	81			20.0		0.1	泥水10	10
CH'													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
120	-77.18 -77.30	119.14 119.30		花崗斑岩 アプライト	にぶい橙 褐灰 明褐灰 褐灰 灰褐 明褐灰 灰褐 明褐灰 灰褐	Bg Dg Bg	Ⅲg Ⅳg Vg Vg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Vg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg Ⅲg Ⅳg	bg cg bg cg bg	γ δ β γ β	2 3 2 3 2	119.14～119.30m：アプライトである。 119.30～180.00m：花崗斑岩である。 120.10～125.90m：硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。割れ目面もほぼ新鮮である。 122.61m：傾斜60°の割れ目に幅2mmで褐色の砂を挟む。 125.90～128.05m：硬質だが,ゆ着割れ目が開口するものが多い。 127.15～127.58m：傾斜80～90°のゆ着割れ目数条が約10mm間隔で平行に分布する。 128.05～128.78m：硬質で割れ目が少ない。 128.78m：傾斜33°の割れ目に幅1～4mmで砂や礫を挟む。 ●129.84～129.91m：破砕部 破砕幅は5.9cmである。 129.84～129.85m：礫混じり粘土状を呈する。緑灰色の固結した粘土状部からなる。傾斜は70°である。 129.85～129.91m：粘土混じり礫状を呈し,灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は60～70°である。 131.27～132.41m：硬質で割れ目が少ない長柱状コアを呈する。ゆ着割れ目が多い。 132.41～134.33m：硬質であるが割れ目が多い。 134.33～141.97m：硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。一部割れ目沿いに片状化している。緑泥石脈,石英脈が分布する。 137.52～137.62m：石英と橙色の長石の巨晶が晶出する。 139.37m：傾斜70°,幅2～3mmの緑泥石脈に石英と微細な黄鉄鉱が晶出する。 139.39～139.96m：硬質だが割れ目がやや多い。短柱状コアが主体となる。 139.96～141.97m：硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。 141.97～147.08m：硬質であるが割れ目がやや多く短柱状コアが主体となる。一部割れ目沿いが細片化している。 142.70～142.76m：緑泥石化で淡緑灰色に変化する。
130				花崗岩							
140											

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
CH' CL' CH' CM' CH' CM' CL' CM' CH' CM' CH' CM'						6/22 6/23 6/24 6/25 6/26	103 69 42 14 26 36 60 56 72 50 29 40 51 45 55	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0 50.0 80.0 100.0 80.0 60.0 30.0 80.0 50.0 80.0 50.0	150	0.1 0.2 0.1 0.2 0.1 0.2 0.1 0.2 0.1 0.2	泥水10 泥水20 泥水10 泥水18 泥水10 泥水15 泥水10 泥水15	10 5 10 5 0 5 0 5

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
																				55					0.2	泥水 5
																				34						
					灰褐		Ⅳg				143.48～144.50m：径2～3mmのカリ長石斑晶が上下位よりも多く晶出する。 144.61～144.68m：傾斜40～55°のゆ着割れ目が密集する。多くが開口しやすい。		CM'						6/26	37	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	50.0	150	0.1	泥水 10	0
											145.88m：傾斜70°のゆ着割れ目沿いに幅10mmで緑灰色化している。																
							Ⅲg				147.08～150.59m：硬質で割れ目少なく柱状コアが主体となる。全体にほぼ未風化で新鮮である。		CH'							26			30.0	100	0.1	泥水 7	2
											148.78m：傾斜65°の割れ目に幅1mmの緑泥石が固結フィルム状に付着する。																
150																			6/27	69						
							Ⅳg				150.04～150.59m：傾斜50～80°，幅0.5mm以下の緑泥石脈が多く分布する。		CM'														
							Ⅲg				150.41m：緑泥石脈中に幅10mmの石英をレンズ状に伴う。		CH'										50.0		0.1	泥水 10	0
							Ⅱg				152.23～156.18m：硬質で割れ目が少ない長柱状コアが主体となる。		B'							69							
											154.42～154.60m：緑泥石化が進むが硬質である。																
							Ⅲg				154.60～156.18m：硬質で割れ目が少ない長柱状コアを呈する。 155.25m以深：ゆ着割れ目が多い。		CH'														
					にぶい褐		Ⅱg				155.25～156.18m：傾斜60～70°の白色を呈すゆ着割れ目が多い。		B'										60.0		0.2	泥水 18	10
											156.18～160.40m：硬質で割れ目が少ない柱状～長柱状コアを呈する。ゆ着割れ目の一部は緑泥石化する。								6/28	43							
							Ⅲg						CH'							50							
																				45							
																				43				150			
					暗緑灰						158.54～160.32m：緑泥石化が進み暗緑灰色化する。																
							Ⅱg						B'														
160					にぶい橙						160.40～162.57m：硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。												50.0		0.1	泥水 10	0
							Ⅲg						CH'							71							
					灰褐						161.70～169.00m：割れ目交差部の一部で片状化する。																
																			6/29	96						
											162.57～166.65m：割れ目が少ない長柱状コアを呈する。																
											164.00～164.30m：径10mmと大型のカリ長石と緑泥石が混在する。																
							Ⅱg						B'														
					にぶい橙						164.94m：傾斜75°の密着割れ目の上盤側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。												70.0		0.2	泥水 18	10
					灰褐		Ⅲg													49							
							Ⅳg				166.65～169.66m：硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。全体に緑泥石化が進み径2～3mmの緑泥石が斑点状に晶出する。		CH'						6/30	90			50.0				
							Ⅲg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(標準貫入) 試験 (N値)	(N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
170				花崗斑岩	灰褐	Bg	Ⅲg		β	2	169.66～172.69m：硬質で割れ目が少ない長柱状コアを呈する。一部で緑泥石化が進むが硬質である。	25 (100) [67]	CH'							90					0.2	泥水 18	10
					褐灰		Ⅱg					18 (100) [43]								75							
					灰褐							76 (100) [91]	B'														
					にぶい褐		Ⅲg				172.32～172.53m：径2～3mmの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5～1mmの石英脈とともに分布する。 172.69～176.50m：割れ目が少ない柱状コアが主体となる。174.13～175.55mはさらに割れ目が少ない長柱状コアを呈する。全体に白色を呈するゆ着割れ目を含む。	49 (100) [87]												0.1	泥水 10	0
												37 (100) [62]	CH'													
							Ⅱg	bg				22 (100) [62]							6/30	88	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	50.0	150			
												62 (100) [100]	B'													
							Ⅲg					28 (100) [43]	CH'							97					0.2	泥水 20	10
						Cg	Ⅳg		γ		176.50～176.78m：周囲に比べ軟化する。全体が割れ目交差部で岩片状～短柱状コアを呈する。一部で傾斜30°の割れ目沿いに風化する。	14 (100) [37]														
					褐灰	Bg	Ⅱg		β		176.78～180.00m：割れ目が少ない長柱状コアが主体となる。 177.65m：傾斜35°、幅2～3mmの石英脈が密着して分布する。 178.33～178.40m：径5～10mmで岩片化している。	43 (100) [79]	B'													
												33 (100) [71]														
-120.22	180.00						Ⅲg					5 (100) [43]	CH'						7/1	83					0.2	泥水 20	0

ボーリング柱状図

調　査　名

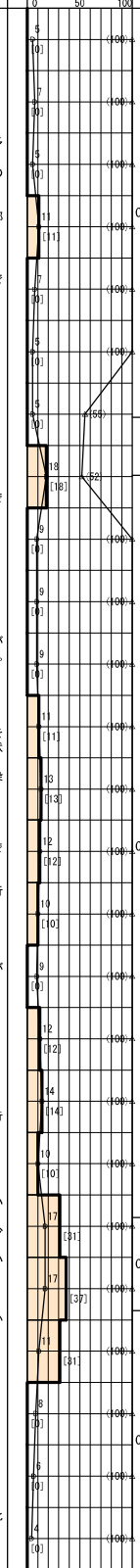
事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	H27-B-4	調査位置				北　緯	
発注機関				調査期間		東　経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	6.95 m	角度	上180°／下0°／90°／45.0°	方向	北0°／東90°／南180°／西270°／143.0°	地盤勾配	鉛直90°／水平0°／0.0°	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘削長	140.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
10	-2.77	13.75		盛土	黒						0.00～13.75m：盛土である。 0.22m以浅は砕石，以深は礫混じり砂～砂礫からなる。								0	0／試掘	試掘／試掘	0.0	0	0.0	試掘 0	0
					明黄褐														5/28	92	140／ケーシング				0.1	泥水 4	4
																			5/29	88						
					明褐灰															40				0.1	泥水 2	0
					明黄褐														5/30	120						
																			5/31	35				0.1	泥水 4	0
																				40	115／ケーシング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	150		
																			6/1	26				0.1	泥水 2	0
																				48						
																				30				0.1	泥水 4	0
																				60						
					にぶい黄橙	Dg														40	86／セメンティング			0.1	泥水 1	0
						Eg	vlg	dg	ε	2	13.75～140.00m：花崗斑岩である。 破砕，風化，変質で114.00m付近まで軟化，114.00m付近以深は硬質な岩盤が主体となる。 13.75～14.67m：強風化部で，割れ目の多くは消滅する。		D'							33						
					にぶい橙	Dg	vg	cg					CL'							60			30.0			
					オリーブ黄	Eg	vlg	dg	δ	3	●15.91～16.36m：破砕帯(D-1) 破砕幅は31.8cmである。 15.91～16.12m：砂混じり礫状を呈する．灰褐色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は72°である。 16.12～16.33m：砂混じり礫状を呈し，灰褐色の固結した礫状部からなる。 16.33～16.36m：淡黄色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は2.5cmである。上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は76°である。径2～3mmの花崗斑岩亜角礫を5～10%含む。 16.35m以深は，石英粒や岩片をわずかに含む。		D'															
					黄橙	Dg	vg	cg					CL'							60			20.0			
					浅黄橙	Cg													6/3	62				0.1	泥水 4	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
20				花崗斑岩	浅黄橙	Cg	Vg	cg	δ	3	
							IVg		γ		
						Dg	Vg				
						Cg	IVg				17.03～17.86m：低角度割れ目が多い。
						Dg	Vg		δ		18.70～20.00m：風化した斜長石の大型斑晶が目立つ。
					淡橙						20.23～20.37m：割れ目沿いの一部で細礫状を呈する。
						Cg	IVg	bg	γ		22.18～27.38m：中硬質部が主体で部分的に軟質となる。割れ目が多い岩片状～短柱状コアを呈する。
							Vg	cg			22.47～22.55m：礫状コアとなる。
						Dg			δ		
	-10.41	24.55									24.55～25.48m：コア欠
	-11.07	25.48		ノンコア							
				花崗斑岩	淡橙	Cg	IVg	cg	δ	3	25.96～26.19m：周囲よりも軟質でコアの表面がザラつく。
						Dg	Vg				
						Cg	IVg				27.38～27.85m：硬質である。
						Dg					27.85～29.65m：中硬質で割れ目が多い岩片状～短柱状コアを呈する。
						Cg	Bg				
							Vg				
						Cg	IVg				
					橙	Dg					●29.74～29.78m：破砕部 破砕幅は3.7cmである。 29.74～29.76m：砂混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は70°である。上端はマンガン汚染を受ける。 29.76～29.78m：粘土状を呈し，黒褐色の固結した粘土状部からなる。傾斜は67°である。
30							Vg				
						Cg	IVg				29.78～37.36m：中硬質部が主体で割れ目が多い岩片状～短柱状コアを呈する。
							Vg				31.77～31.93m：低角度でほぼ並行する微細な割れ目が多い。
							IVg				32.36～32.39m：傾斜20～30°程度の割れ目が平行して集中する。
							Vg				
							IVg				33.00～33.62m：傾斜30～50°の割れ目が多く，割れ目沿いの砂状化が多い。
						Dg	Vg		γ	3	
						Cg	IVg				
							Vg				
						Dg					
						Cg	IVg				35.60～35.78m：低角度でほぼ平行する割れ目が集中し脆弱化している。割れ目沿いに白色鉱物脈を挟むことが多い。
							IIIg	bg			36.98～37.10m：高角度割れ目沿いに幅12mmで砂～細礫状を呈する。
						Bg	IVg	α			37.36～38.85m：硬質で割れ目が少ない柱状コアが主体となる。
							IIIg	bg			37.98～38.27m：やや割れ目が多い短柱状コアを呈する。
						Cg	IVg				38.85～39.84m：中硬質と硬質部から成る。割れ目沿いに砂状化することが多い。
						Bg					39.21m，39.60～39.65m：割れ目沿いに幅10mm以下で砂～細礫状化している。
40					浅黄		Vg				
						Cg	IVg				
							Vg	cg			
						Dg					
						Cg	IVg				
						Dg	Vg				
						Cg					
						Dg					
						Cg					
						Dg					
						Cg					
						Dg					
						Cg	Vg				42.15～42.25m：割れ目沿いに風化し固結砂状化している。



孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(N値～深度) 図 0 10 20 30 40 50	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
						62			20.0		0.1	泥水4	0
						43							
					6/3	49			30.0		0.1	泥水3	0
						39							
						41			20.0		0.1	泥水4	0
					6/4	45							
						27			20.0		0.1	泥水3	0
						28							
					6/6	36	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	30.0	150	0.1	泥水4	0
						58							
						29							
						30							
					6/7	44							
						36			20.0		0.1	泥水5	0
					6/8	46							
						34					0.1	泥水4	0
						12							
						67			15.0		0.1	泥水5	0
					6/9	69							
						60			20.0		0.1	泥水4	0

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
50				花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Vg	cg	γ	3	43.15～46.00m：中硬質部が主体で部分的に軟質となる。割れ目が多い岩片状～短柱状コアを呈する。
						Eg					
						Cg					
						Dg					
						Cg					
						Dg					
						Cg	IVg				
						Dg	Vg				
						Cg	IVg				
						Eg	Vg				
						Cg					46.10～46.35m：傾斜60～70°の割れ目が多い。
						Bg	IVg				
						Cg	Vg				47.11～47.32m：微細な割れ目が網目状に分布し軟化している。
						Cg	IVg				
						Bg					
						Dg	Vg				●48.39～48.43m：破砕部 破砕幅は4.0cmである。 48.39～48.40m：粘土状を呈し，にぶい橙色の固結した粘土状部からなる。上端，下端境界の傾斜はともに52°である。幅5～10mmで膨縮する。 48.40～48.43m：砂混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した砂状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。径5～10mmの岩片と岩片間が風化で砂状化している。
						Cg	IVg				
						Eg	VIg				
						Cg	IVg				48.43～50.39m：岩片状～短柱状コアが主体となる。
							Vg				
							IVg				
						Dg	Vg				49.18m：傾斜63°の割れ目である。上盤側幅20mm細片状に劣化している。 50.43～50.60m：砂状で軟質である。
						Cg					
						Dg					
						Cg					
						Dg					51.20～51.43m，51.66～51.97m，52.38～52.44m：微細な割れ目が多く軟質となる。
					明黄橙		IVg				
						Cg	Vg				54.66～54.73m：傾斜50～60°のほぼ平行な2本の割れ目に囲まれて一部が礫状化している。
							IVg				
							Vg				
							IVg	bg			56.45～56.61m：低角度と高角度の割れ目が交差し亀甲状を呈する。
							Vg	cg			
						Bg	IVg	bg			57.54～57.74m：割れ目沿いに劣化し軟質となる。
						Dg	Vg				
						Cg					58.62～59.62m：硬質部が主体で割れ目が多い短柱状コアを呈する。 59.02～59.34m：長柱状コアを呈する。
						Bg	IVg	cg			
						Cg	Vg				
						Bg	IIg	bg			59.62～63.90m：中硬質部と軟質部が交互に分布する割れ目が多い岩片状コアを呈する。
							IVg				
					にぶい橙	Cg					
						Dg					
						Cg					
						Dg	Vg	cg			61.72～62.36m：不規則で微細な割れ目が卓越する。
						Cg					
						Dg					62.75m：割れ目沿いの幅10mmが緑色を帯びる。
						Cg					63.90～64.30m：変質で軟化が著しい。割れ目はほぼ消滅する。
						Dg	VIg	dg		4	●64.65～64.91m：破砕帯(H-6c) 破砕幅は19.8cmである。 64.65～64.72m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は65°である。主せん断面と同方向の割れ目が多い。 64.72～64.79m：にぶい黄橙色の割れ目の密集部からなる。 64.79～64.91m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は65°である。下端部には鏡肌が見られる。
						Cg	Vg	cg		3	
						Eg	VIg	dg		4	
					褐灰	Dg	Vg	cg		3	
						Eg	VIg	dg		4	
					灰黄褐	Dg	Vg	cg		3	
					灰白	Eg	VIg	dg		4	●65.59～65.72m：破砕部 破砕幅は11.7cmである。 粘土質礫状を呈し，褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は65°，下端境界の傾斜は62°である。
					にぶい橙	Dg	Vg	cg		3	

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
CL'			6/10	32	86／セメンティング	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	150	0.1	泥水4	0
CM'				64			15.0		0.2	泥水5	0
				76							
				60			20.0		0.1	泥水4	0
			6/11	56							
CL'				74							
				105			15.0		0.1	泥水5	0
				73							
CM'			6/12	40			20.0		0.1	泥水4	0
				46							
				60			15.0		0.1	泥水5	4
CL'				40							
				80							0
D'				74			20.0		0.1	泥水4	0
CL'			6/13	45			15.0		0.1	泥水5	0
				65							
			6/17	36	86／泥水		20.0		0.1	泥水4	0
				49							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
70				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	3	67.28～67.75m：変質で軟化が著しい。灰白色を呈し粘土化している。								6/17	48						
						Eg	Wg	dg												48						
						Dg	Vg				67.75～78.71m：70.08m以浅は軟質である。70.08m以深は中硬質部が主体であるが，割れ目が多い岩片状コアが主体となる。									46						
							Wg																			
							Vg																			
						Cg	Wg				68.97～69.08m：砂～細礫状を呈する。									76						
						Dg					70.06m：傾斜60°，幅20～30mmで弱い破砕状を呈し脆弱化している。															
						Cg	Vg				71.22～71.25m：傾斜60°と傾斜54°の割れ目に囲まれて脆弱化している。								6/18	58						
						Dg					73.56m：傾斜65°の割れ目に幅4～10mmで暗褐色のシルト質砂を挟む。		CL'													
						Cg					74.16～74.34m：傾斜30～50°の割れ目が密集し脆弱化している。									66						
											75.05～75.29m：傾斜20～40°でほぼ平行する低角度割れ目が多い。															
						Dg					75.77～76.25m：割れ目沿いに劣化しやや脆弱化している。															
						Cg	Wg																			
							Vg																			
						Dg														19						
						Cg	Wg	cg			77.96～78.08m：割れ目沿いに劣化している。砂状の挟在物が分布する。									71						
							Vg																			
							Vg																			
						Bg	Wg				78.71～79.23m：硬質部が主体で割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。															
						Cg					79.23～80.51m：中硬質部が主体で割れ目が多い岩片状コアが主体となる。									45						
						Bg	Vg																			
						Cg	Wg																			
						Bg																				
						Dg	Vg				80.13～80.29m：傾斜35～55°で同方向の割れ目が多い。															
						Cg																				
						Bg														67						
						Cg					80.51～81.96m：硬質部が主体でやや割れ目が多い短柱状コアを呈する。		CM'													
						Bg	Wg																			
							Vg				81.30～81.96m：微細な高角度のゆ着割れ目が多い。									30						
						Cg					81.96～83.32m：中硬質で割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。		CL'													
							Vg				83.08m以深は割れ目沿いに褐色化している。															
						Bg	Wg													61						
						Dg	Vg				83.32～84.05m：硬質だが割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。		CM'													
						Cg	Wg																			
							Vg				84.05～86.14m：84.77m以浅は軟質，84.77m以深は中硬質である。割れ目が多い短柱状～岩片状コアを呈する。								6/20	77						
						Bg	Wg						CL'													
						Eg	Wg	dg			86.14～88.26m：硬質である。短柱状コアが主体となる。									33						
							Wg	cg			86.73～86.83m：一部で砂～礫状を呈する。															
						Bg	Ⅲg	bg					CM'													
						Cg	Wg				88.26～89.50m：硬質部と中硬質部が交互に分布する。割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。															
						Bg							CL'													
						Cg	Vg				89.27～89.44m：微細なゆ着割れ目が多い。密着度が低く細片化している。									44						
90					浅黄橙	Bg	Wg	cg			89.50～91.75m：硬質で割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。砂を薄く挟むことが多い。		CM'													
											91.75～93.13m：中硬質で割れ目が多い。岩片状コアが主体となる。															
						Cg	Vg				●93.13～93.22m：破砕帯(H-7) 破砕幅は7.9cmである。 93.13～93.14m：淡黄色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.2cmである。上端，下端境界の傾斜はともに30°である。下端部では風化が進む。 93.14～93.22m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は50°である。		CL'														
						Dg																				
						Cg																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
100				花崗斑岩	浅黄橙	Cg	Vg	cg	γ	3	93.22～97.10m：全体で岩片状コアとなる。 96.20～96.32m：傾斜30°の割れ目多く，幅30～40mmで軟化している。
						Dg					
						Eg					97.10～98.03m：割れ目が多く岩片状を呈する。
						Dg					
						Eg					
						Dg					98.03～101.07m：軟質で割れ目が多い岩片状コアが主体となる。割れ目沿いに劣化し，細礫状～砂状を呈することが多い。
						Cg					99.27～99.53m：密着した微細なゆ着割れ目が多い。
						Bg	Ⅳg				100.28～100.30m：傾斜50～55°の割れ目中に幅20～40mmで砂を挟む。下盤側は一部で褐色化している。
						Cg	Vg				
						Bg	Ⅱg	bg			
							Ⅲg				
						Cg	Vg	cg			
						Bg	Ⅳg				103.40～103.55m：高角度主体の微細なゆ着割れ目が多く，全体に軟化している。
						Cg	Vg				
						Bg	Ⅳg				104.03～104.17m：傾斜50～60°の割れ目が多い。
						Cg	Vg				
							Ⅳg				
					にぶい黄橙	Bg	Ⅲg	bg			105.31～108.44m：硬質である。短柱状～柱状コアを呈する。割れ目に沿って薄く砂状化することが多い。
					黄橙		Ⅳg	cg			
					にぶい黄橙		Ⅱg				106.87m：傾斜30°の割れ目に幅3mmの砂，シルトを挟む。
							Ⅳg				
							Ⅲg	bg			107.47～108.34m：硬質な柱状コアが主体となる。
							Vg				●108.44～108.71m：破砕帯(f-b-4-6) 破砕幅は23.6cmである。 粘土・砂混じり礫状を呈し，明黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は52°，下端境界の傾斜は62°である。108.66m以浅は粘土化と砂状化が進む。
						Eg	Ⅵg	dg	δ		
					浅黄橙	Dg	Vg	cg			
						Cg	Ⅳg				108.71～110.78m：岩片状～短柱状コアが主体である。
110							Vg				110.78～115.29m：硬質で割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。
						Bg	Ⅳg	bg			113.41～113.54m：発達する割れ目沿いに劣化し全体が軟化している。
							Vg				
						Cg					
						Bg	Ⅳg				
						Dg	Vg	cg	γ		
					にぶい黄橙	Bg	Ⅳg	bg			114.57～114.76m：傾斜40°の割れ目を主体に割れ目が多い。全体が上下に比べやや軟化している。
						Cg	Vg	cg			
							Ⅳg				115.29～119.65m：硬質で割れ目の少ない柱状～長柱状コアが主体で，一部でやや割れ目が多い短柱状コアを呈する。
						Bg	Ⅲg	bg			
							Ⅳg				116.30m：傾斜57°の割れ目に幅5mmで褐色の砂を挟む。
							Ⅲg				
							Ⅱg	bg			
					浅黄橙		Ⅲg				117.83m：傾斜50°の割れ目沿いに変質で緑泥石が晶出する。緑色を帯びる。

岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
					6/21	99	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	30.0	150	0.1	泥水 4	0
						13							
					6/22	62			15.0				
CL′						120							
						73			30.0				
						10							
					6/23	45			15.0		0.1	泥水 5	0
CM′													
CH′													
CL′						83							
					6/24	64							
CM′						50			20.0	200	0.2	泥水 4	0
					6/25	68							
CL′						41							
						26			15.0	150	0.1	泥水 5	0
CM′					6/26	116							
CH′					6/27	51							
						42							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N)値	標準貫入試験 N値～深度 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
120				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	Ⅲg	bg	γ	3	119.65～120.10m：中硬質で上下に比べやや軟化している。割れ目がやや多い短柱状コアを呈する。割れ目の一部は砂，シルトを挟む。	23 [36] 32 [32]	CH'					6/27	42						
							Ⅱg																			
						Cg	Ⅳg	cg					CM'						6/28	64						
																				60						
						Bg	Ⅲg	bg			120.10～122.54m：硬質で割れ目が少ない長柱状コアが主体となる。上下端部と中央部に割れ目がやや多い部分も含む。	32 [55]						6/29	85						
							Ⅱg																			
							Ⅳg					28 [78]	CH'													
							Ⅱg																			
						Cg	Ⅳg	cg			122.54～123.26m：中硬質部が主体となる。上下に比べやや軟化する。123.00～123.26m：割れ目に幅1～6mmのマンガンを挟み脆弱化している。	36 [36]							82						
						Bg																				
						Cg	Ⅴg					18 [18]	CM'													
							Ⅳg				123.26～127.00m：硬質であるが割れ目がやや多く短柱状が主体となる。一部で柱状～長柱状も含む。															
							Ⅲg					26 [70]								68						
						Bg	Ⅱg	bg					CH'						6/30			15.0	150	0.1	泥水5	0
							Ⅳg																			
							Ⅲg				125.37m：微細なゆ着割れ目が集中する。	18 [45]														
							Ⅳg																			
							Ⅲg					20 [34]	CM'							52						
							Ⅳg																			
						Cg	Ⅴg	cg			127.00～130.42m：中硬質部と硬質部が交互に分布する。割れ目が多い岩片状コアが主体となる。短柱状～柱状～長柱状コアも含む。	12 [12]							100						
						Bg	Ⅳg	bg				13 [13]	CL'													
						Cg	Ⅴg	cg			128.90～129.15m：割れ目沿いに一部礫状化している。															
						Bg	Ⅳg																			
						Cg	Ⅴg					3 [41]								92						
							Ⅳg												7/1							
130						Bg	Ⅱg																			
						Cg	Ⅳg				130.42～136.64m：硬質であるが割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。一部，柱状～長柱状コアも含む。	0 [0]														
							Ⅳg	bg												67						
							Ⅱg					32 [44]														
						Cg	Ⅴg	α												100						
							Ⅳg																			
							Ⅱg	bg				26 [45]														
							Ⅲg																			
							Ⅳg				132.87m：傾斜60°の割れ目に幅3mmのマンガンを挟む。															
							Ⅱg	cg				25 [56]	CM'							49						
						Bg					133.26m：割れ目間が礫状化している。褐色の粘土が付着する。																
							Ⅳg	bg				14 [45]														
							Ⅱg																			
							Ⅳg	cg				22 [38]								87						
								bg																		
						Cg	Ⅴg	cg				9 [0]														
						Bg																				
						Cg	Ⅳg				136.64～139.72m：硬質だが割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。一部で割れ目が少ない柱状～長柱状コアも含む。138.01～138.47m：全体に軟質化した短柱状～岩片状コアを呈する。								7/2							
							Ⅱg	bg				40 [55]	CH'							110						
							Ⅲg																			
							Ⅳg																			
						Cg	Ⅴg	cg				3 [28]	CM'													
							Ⅳg																			
							Ⅲg	bg			139.72～140.00m：中硬質で割れ目が多い岩片状コアを呈する。139.90m：傾斜70°の割れ目に幅10mmで砂とマンガンを挟む。															
							Ⅳg					9 [0]								92						
	-92.04	140.00				Cg	Ⅴg	cg																		

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										1

ボーリング名	D5-1	調査位置						北緯	
発注機関				調査期間				東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	41.23 m	角度	上 180° 90° 下 0° 45.0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.0°	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘削長	46.00 m						100.0°		エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	41.05	0.25		表土	黒褐						0.00～0.25m：表土である。
				礫混じり砂	黄褐						0.25～2.84m：砂質土主体の第四系である。 0.25～1.11m：礫混じり砂である。
	40.45	1.11		シルト混じり砂							
	40.31	1.30		砂質シルト	明黄褐						1.11～1.30m：シルト混じり砂である。 1.30～1.41m：砂質シルトである。
	40.23	1.41		礫混じり砂							1.41～2.40m：礫混じり砂である。 2.40～2.60m：シルト混じり砂である。
	39.53	2.40									
	39.39	2.60		シルト混じり砂							2.60～2.84m：砂礫である。
	39.22	2.84		砂礫	にぶい黄褐						
				花崗斑岩	灰白	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	2.84～46.00m：花崗斑岩である。 径2～5mmの石英、長石斑晶を有する。 2.84～5.50m：中硬質部と軟質部が交互に分布する。割れ目が多い岩片状コア～短柱状コアを呈する。
						Dg					
						Cg					
						Dg	Vg	cg	δ	3	
						Cg	Ⅳg				5.50～20.05m：中硬質で割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。一部軟質な岩片状コアを含む。
						Cg	Ⅲg		γ		7.80～8.32m：斑晶の含有率は約1%程度である。
						Cg	Ⅳg				
						Cg	Ⅲg				9.44m：割れ目に幅6mmの褐色の粘土を挟む。
						Cg	Ⅳg				
						Cg	Ⅱg				
						Dg			δ		10.48～10.59m：割れ目に幅1～2mmのマンガンを挟む。
						Cg	Ⅳg	bg	γ	2	
						Cg	Ⅱg				11.70～11.95m：割れ目とコア表面に白色鉱物が晶出している。
					淡黄	Dg	Ⅳg		δ		12.35～12.70m：コア表面は粗く軟質である。幅6mmの灰色の鉱物脈が分布。
						Cg	Ⅲg		γ		13.00～15.00m：桃色の長石を多く含む。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Dg			δ		14.80～14.95m：傾斜40～50°の割れ目が多い。幅1～2mm石英脈を挟む。
					灰白	Cg			γ		15.27～15.29m：割れ目に幅2mm以下のマンガンを挟む。
						Dg					
						Cg					
						Dg					
						Cg	Ⅳg				
						Dg					
						Cg					16.95m：割れ目に淡黄色のシルトを挟む。

標尺 (m)	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 (N値)	標準貫入試験 (N値～深度) 図	原位置試験（孔内水平載荷）	室内試験	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN・MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（L／分）	排水量（L／分）
	0 50 100				0 10 20 30 40 50				101	140／ケーシング						
								6/11	84							
									90	115／ケーシング						
		CM'							125							
		CL'							85							
								6/12	100		ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	100	0.0	泥水 0	0
									80	86／泥水						
		CM'							100							
								6/13	146			30.0	120	0.1	泥水 ↑	0
									100							
								6/15	80			20.0	100			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
20				花崗斑岩	灰白	Cg	Ⅳg	bg	γ	2	17.47～17.91m：割れ目に幅1～2mm灰白色の粘土を挟む。 17.70～18.00m：コア表面は粗く軟質である。 18.16～18.25m：割れ目に幅1mmの鉱物脈を挟む。
						Dg					
					淡黄	Cg					
									δ	3	
						Bg	Ⅲg	bg			20.05～22.91m：硬質である。割れ目が少ない柱状～短柱状コアを呈する。風化が進む。22.34～22.91mでは割れ目がやや多いが硬質である。
							Ⅳg			2	
							Ⅱg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Eg	Ⅵg	dg		3	●22.91～23.23m：破砕帯(D-4) 破砕幅は28.4cmである。 22.91～22.92m：灰オリーブ色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.3cmである。上端境界の傾斜は28°である。上端側に主せん断面と約20°で斜交する割れ目が分布する。 22.92～22.98m：淡黄色の割れ目の密集部からなる。 22.98～23.07m：粘土混じり礫状を呈し，淡黄色の固結した礫状部からなる。 23.07～23.13m：淡黄色の割れ目の密集部からなる。 23.13～23.23m：粘土混じり礫状を呈し，淡黄色の固結した礫状部からなる。
						Bg	Ⅳg	bg		2	
							Ⅲg				
							Ⅳg				
						Eg	Ⅵg	dg		3	
						Cg	Ⅴg	bg		2	
						Eg	Ⅵg				
						Dg	Ⅳg	dg		3	●B下端境界の傾斜は35°である。
						Cg	Ⅱg	cg			●25.17～25.44m：破砕帯(D-45) 破砕幅は4.2cmである。 25.17～25.19m：淡黄色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は48°，下端境界の傾斜は25～48°である。 25.19～25.44m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は36°である。
							Ⅳg				
							Ⅵg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				●25.65～25.77m：破砕帯(D-5) 破砕幅は8.0cmである。 25.65～25.75m：粘土混じり礫状を呈し，明褐灰色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は30～60°である。 25.75～25.76m：灰黄褐色の礫質粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.1cmである。上端境界の傾斜は28°，下端境界の傾斜は40°である。 25.76～25.77m：灰黄褐色の粘土状を呈し，固結した粘土状部からなる。傾斜は40°である。
							Ⅵg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅵg				
						Bg	Ⅳg	bg	γ	2	25.77～26.12m：粘土化が進み軟質である。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				26.12～26.50m：中硬質で割れ目が少ない長柱状コアを呈する。 26.50～35.41m：硬質である。
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅵg				
							Ⅳg				
							Ⅵg				
							Ⅳg				32.39～32.94m：割れ目に幅1～2mmで石英粒と灰白色のシルトを挟む。
						Cg	Ⅴg	cg		3	●35.41～35.55m：破砕帯(f-d5-1-4) 破砕幅は4.1cmである。 35.41～35.48m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°である。 35.48～35.49m：明褐灰色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は0.3cmである。傾斜は32°である。 35.49～35.55m：粘土混じり礫状を呈し，にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は32°，下端境界の傾斜は47°である。割れ目沿いに灰白色の粘土を不規則に挟む。
						Eg	Ⅵg	dg	δ		
							Ⅴg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
							Ⅳg				
							Ⅲg				
						Bg	Ⅳg	bg	γ	2	35.55～36.05m：風化と変質で軟化が著しい。幅1～5mmの灰白色～黄色の粘土を脈状に挟む。
							Ⅲg				
							Ⅳg				35.70～45.12m：硬質である。 41.45～41.60mでは一部軟質となる。短柱状～柱状コアが主体となる。
							Ⅲg				
							Ⅳg				
40							Ⅲg				
							Ⅵg				
						Eg	Ⅵg	dg	δ	3	41.45～41.60m：風化と変質で淡黄色の砂状を呈する。
						Bg	Ⅲg	bg	γ	2	

コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
0 50 100				0 10 20 30 40 50				80							
9 [0] (100)								134							
14 [14] (100)	CM'														
6 [0] (100)															
34 [70] (100)							6/15	72			20.0	100	0.1	泥水1	0
57 [92] (100)	CH'														
12 [32] (100)								104							
7 [0] (100)	CM'														
16 [43] (100)								59							
6 [0] (100)	D'														
55 [55] (100)							6/16	100			30.0	120	0.1	泥水1	0
27 [27] (100)								60							
43 [56] (100)	CM'							80							
17 [30] (100)								58							
13 [25] (100)							6/18	98	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0	100			
23 [54] (100)	CH'							75							
15 [50] (100)															
23 [54] (100)								113							
11 [11] (100)	CM'														
4 [0] (100)	D'												0.1	泥水2	0
5 [39] (100)								100							
23 [61] (100)	CH'						6/19	60			30.0	120			
26 [51] (100)								91							
18 [53] (100)	CM'														
30 [60] (100)								103			20.0				
27 [53] (100)	CH'						6/20	78							

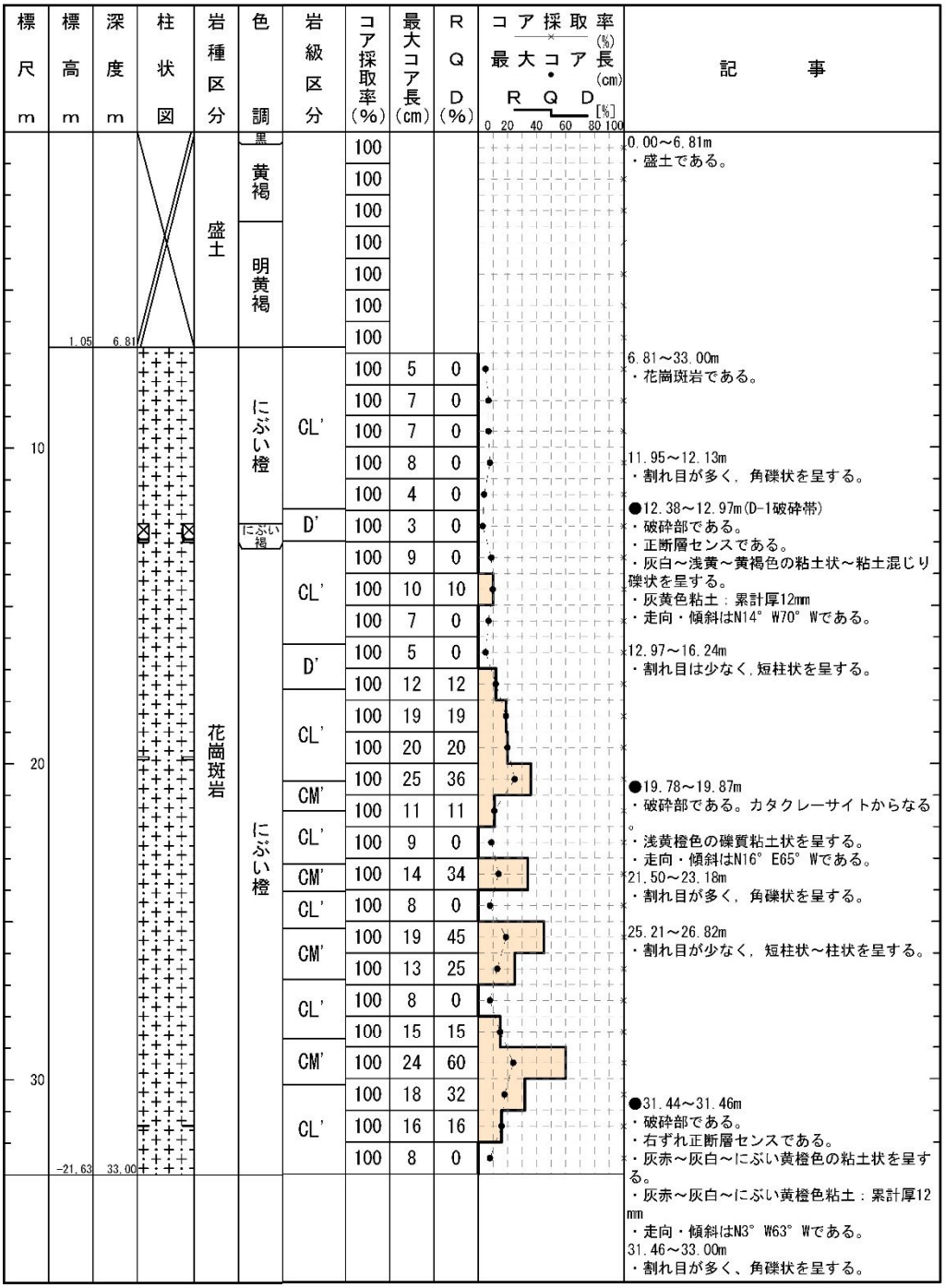
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	(N)値	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図	原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L／分)	排水量(L／分)
	8.70	46.00		花崗斑岩	灰白	Bg Cg	Ⅲg Ⅳg Ⅴg	bg	Y	2 3	●45.12～45.37m：破砕帯(D-46) 破砕幅は7.7cmである。 45.12～45.13m：灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり，幅は1.0cmである。傾斜は35°である。 45.13～45.37m：粘土混じり礫状を呈し，浅黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は40°である。 45.37～46.00m：中硬質であるが，割れ目が多い岩片状コアを呈する。	0 50 100 22 [40] 16 [16] 15 [40] 0 [0]	CH' CM' CL'			0 10 20 30 40 50			6/20 6/22	78 107 85	86／泥水	ダブルコアチューブ／ダイヤモンドビット	20.0 30.0	120	0.1	泥水2	0

6. 設置許可申請書案　ボーリング柱状図

余白

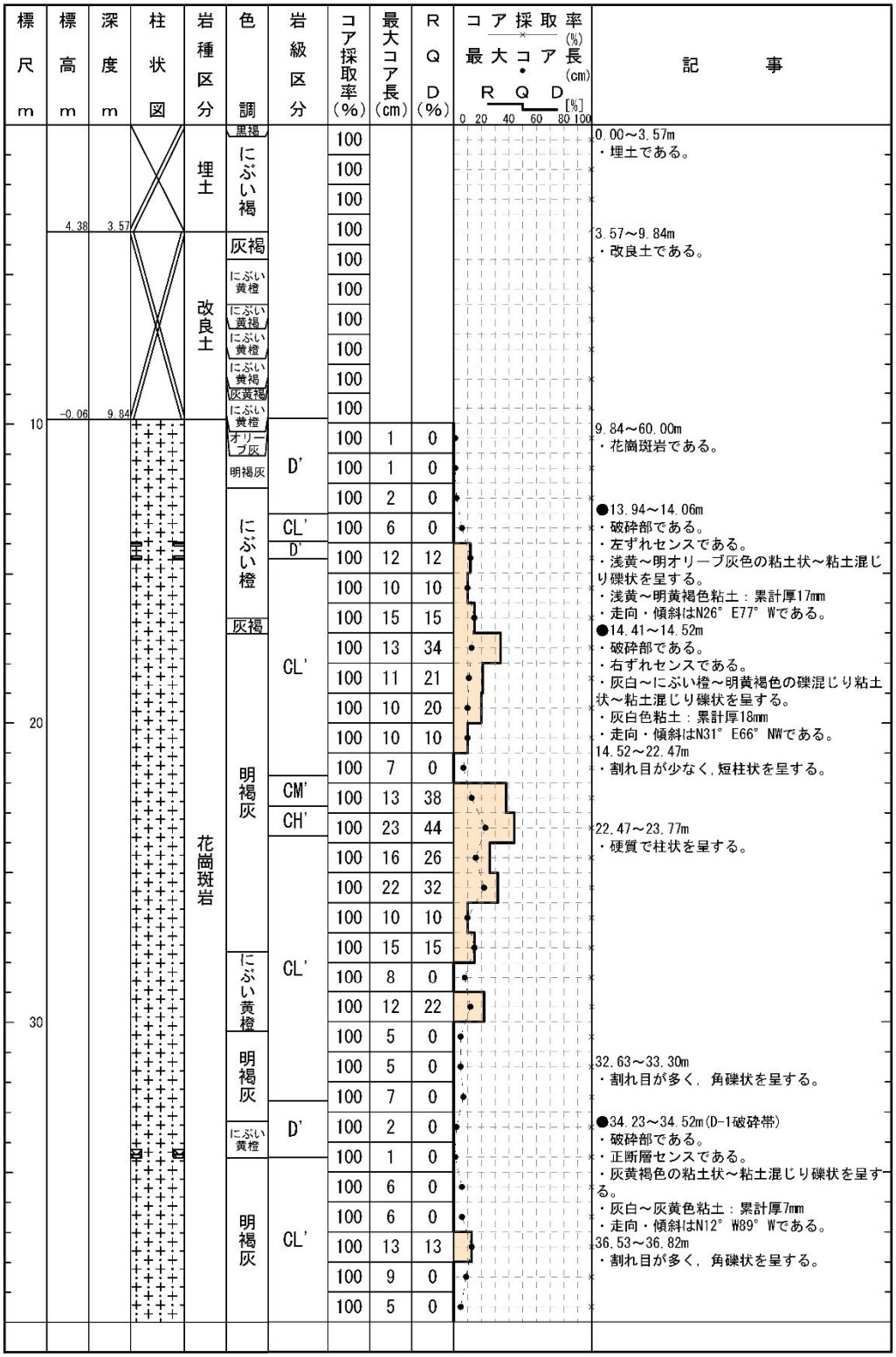
H24-D1-2

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	33.00m

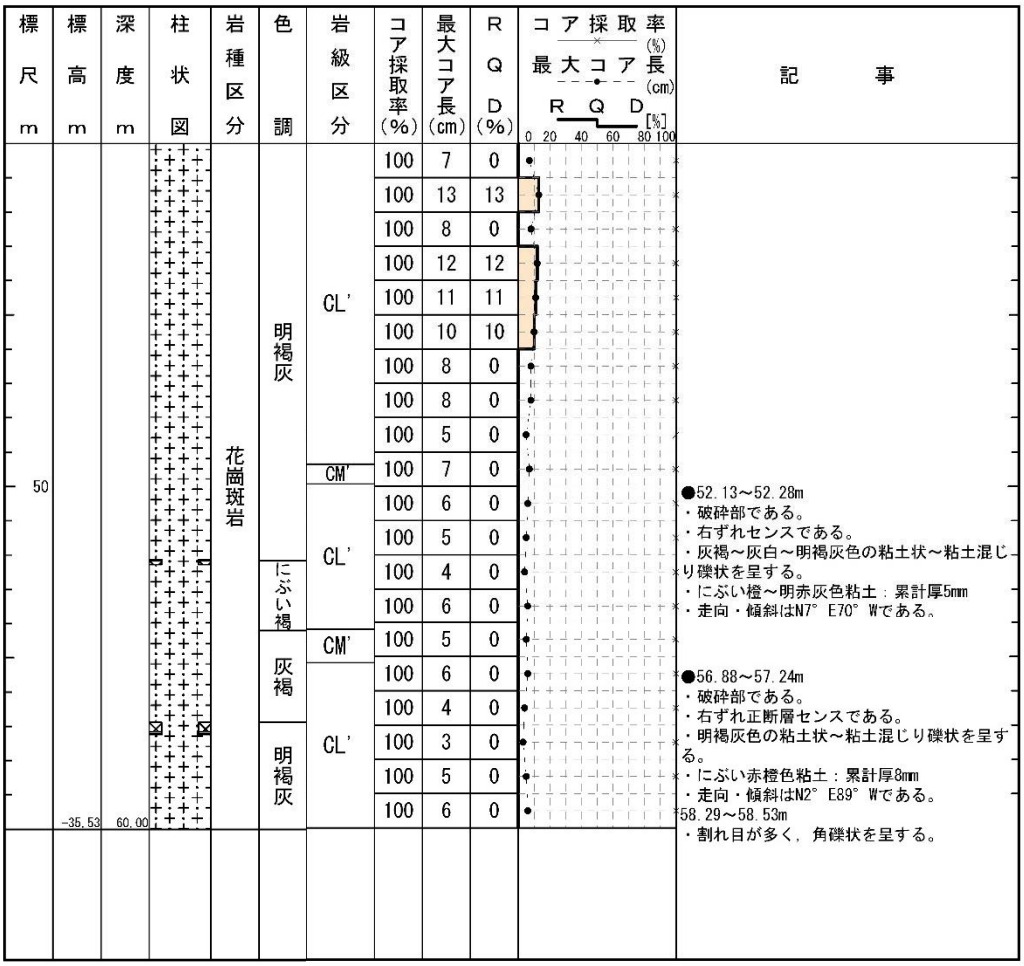


第7.4.4.33図_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H24-D1-2）

H24-D1-3	孔口標高	T.P. 6.90m	掘削長	60.00m



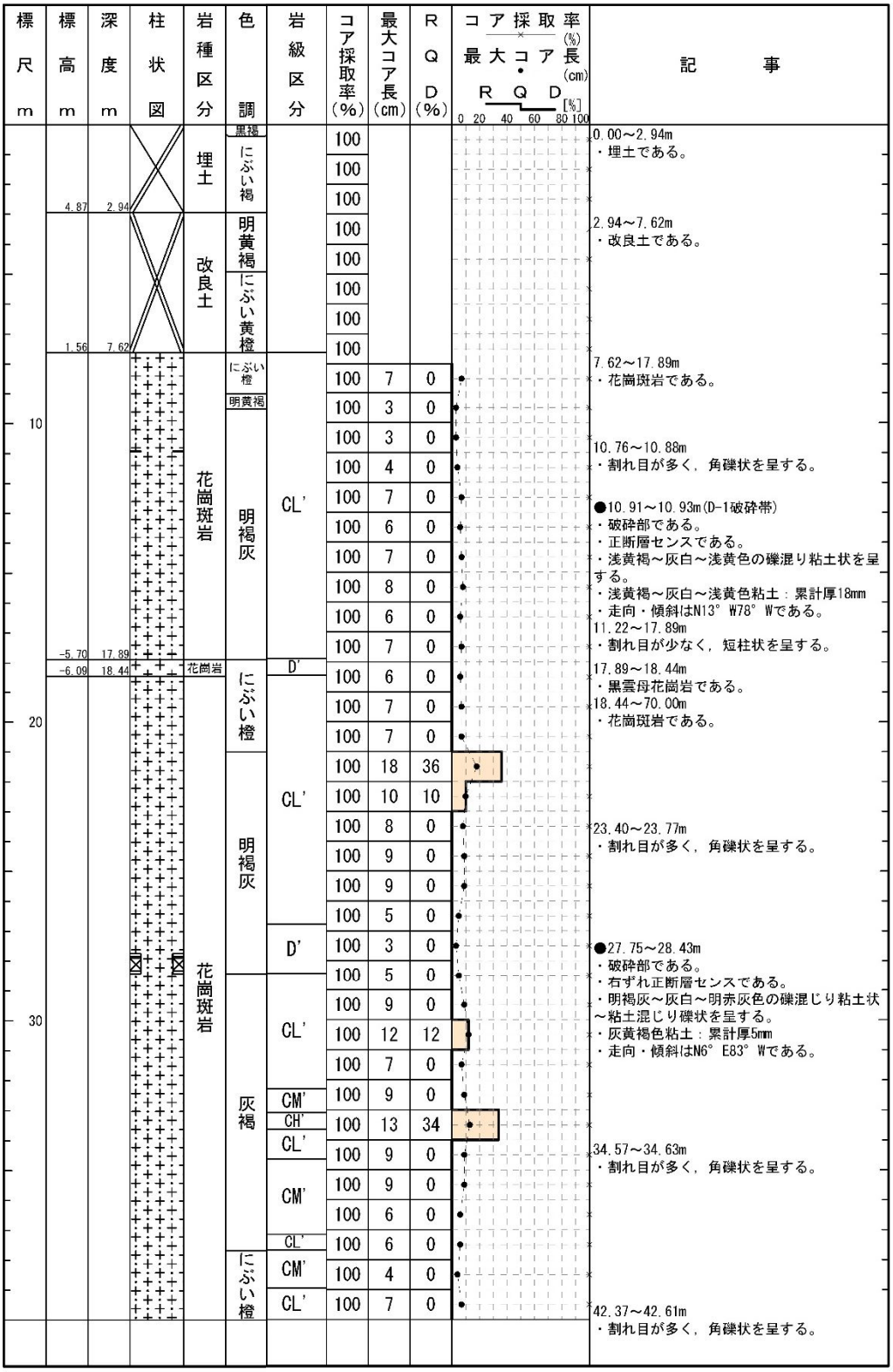
第7.4.4.34図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H24-D1-3)



第7.4.4.34図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H24-D1-3）

H24-D1-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	70.00m



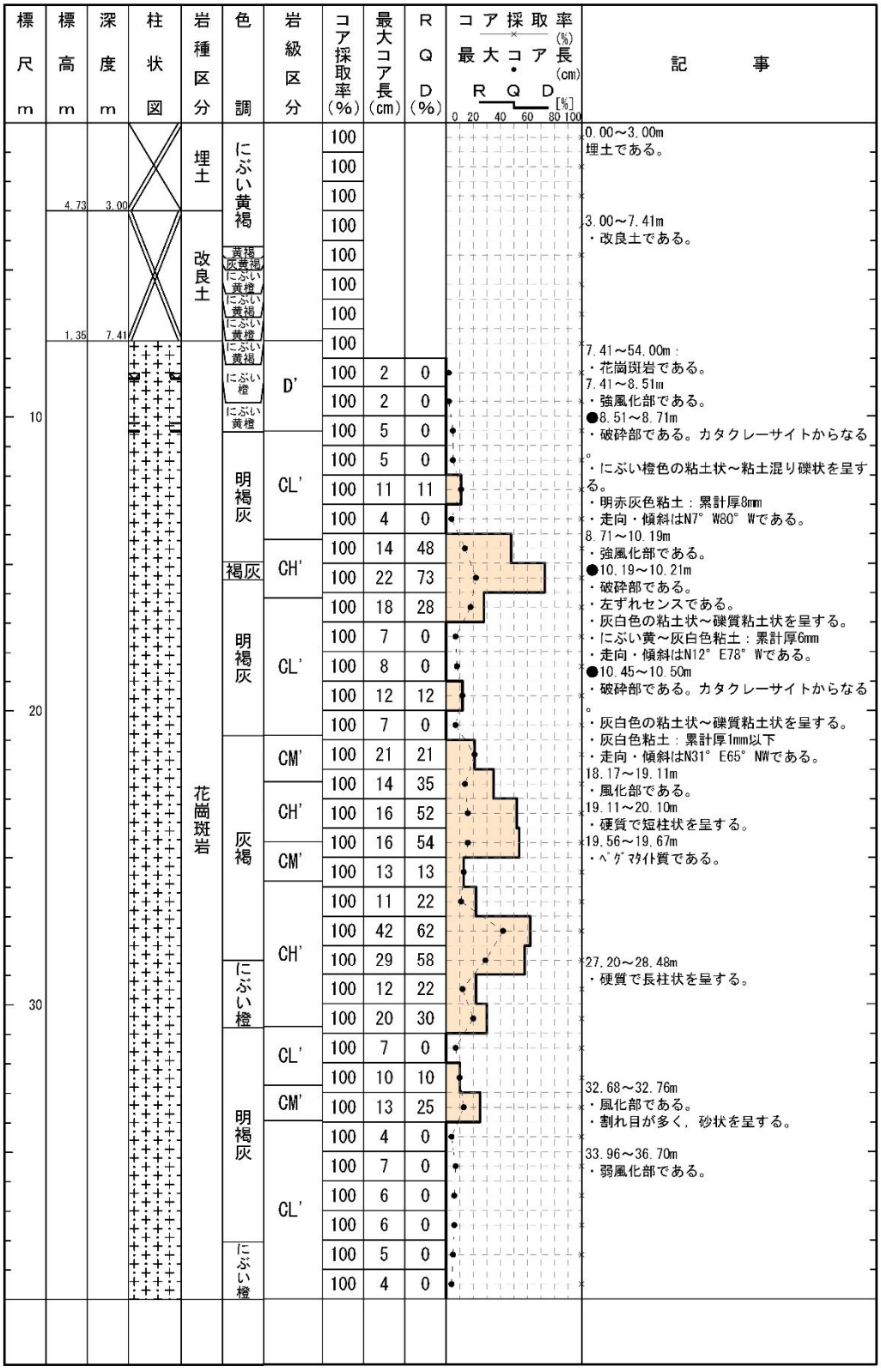
第7.4.4.35図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H24-D1-4)



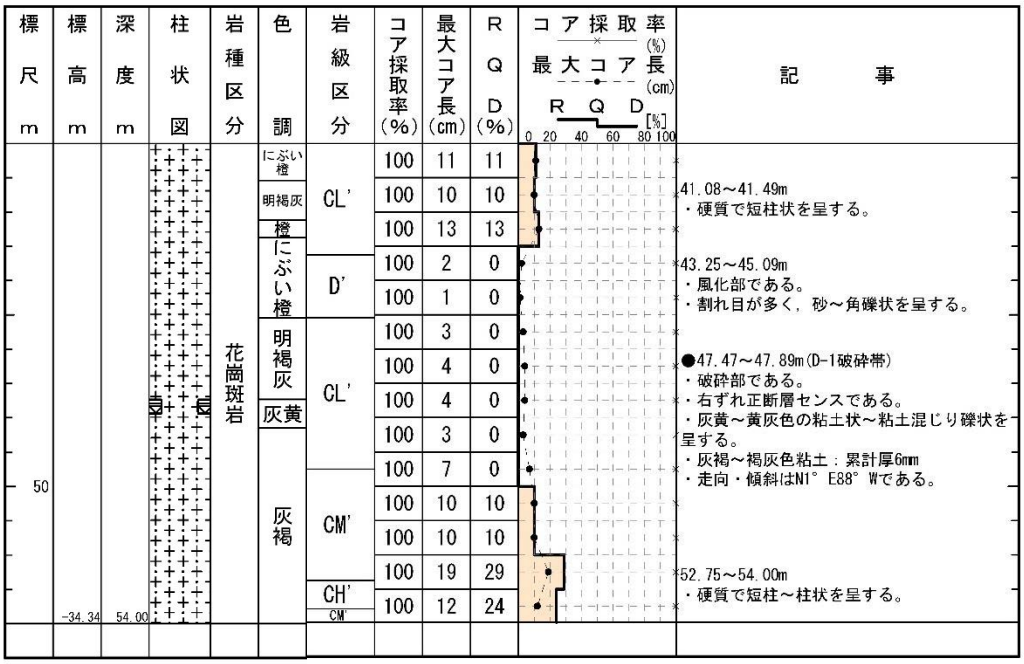
第7.4.4.35図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H24-D1-4）

H24-D1-5

孔口標高	T.P. 7.03m	掘削長	54.00m

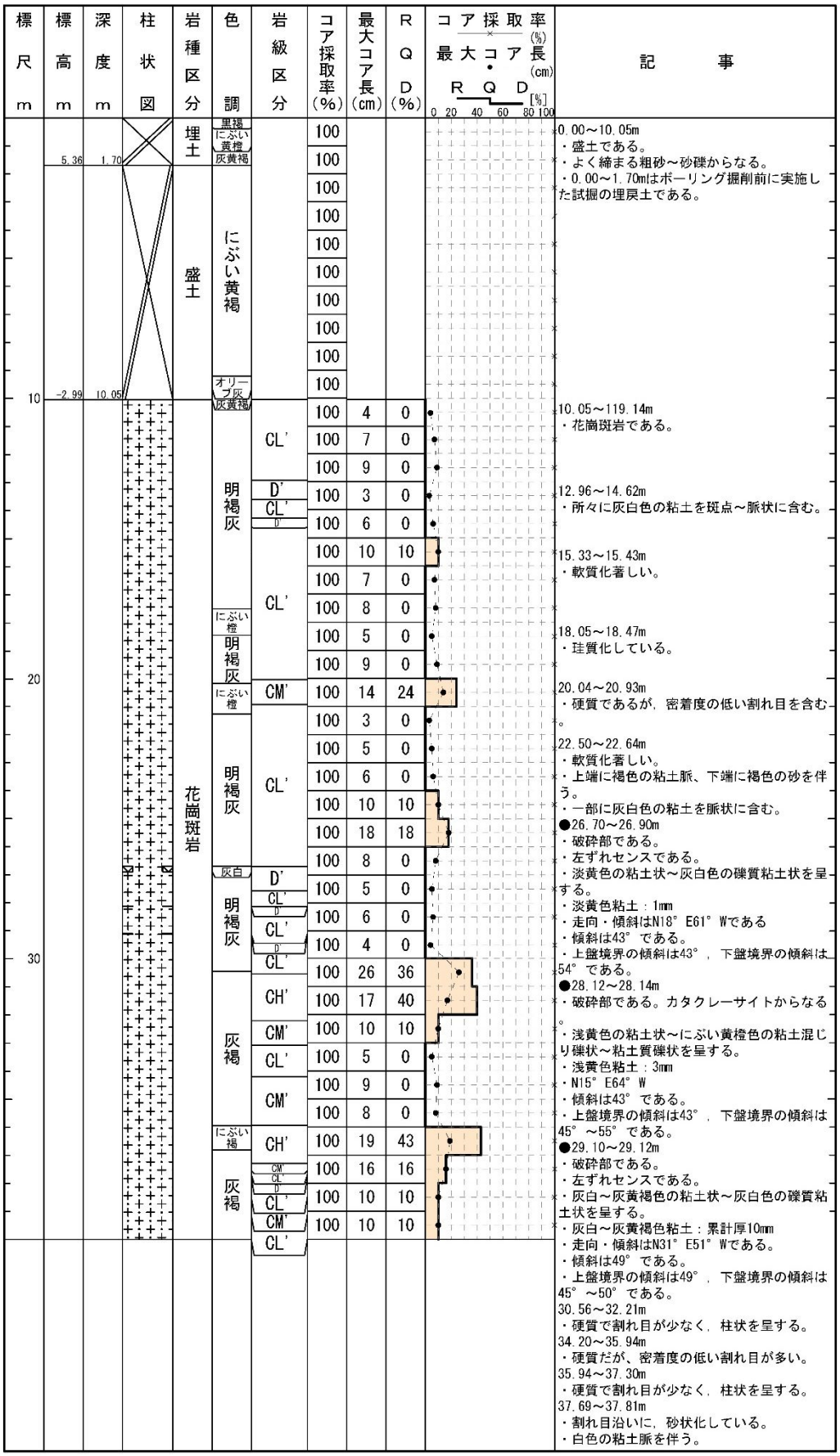


第7.4.4.32図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H24-D1-5）



第7.4.4.32図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H24-D1-5）

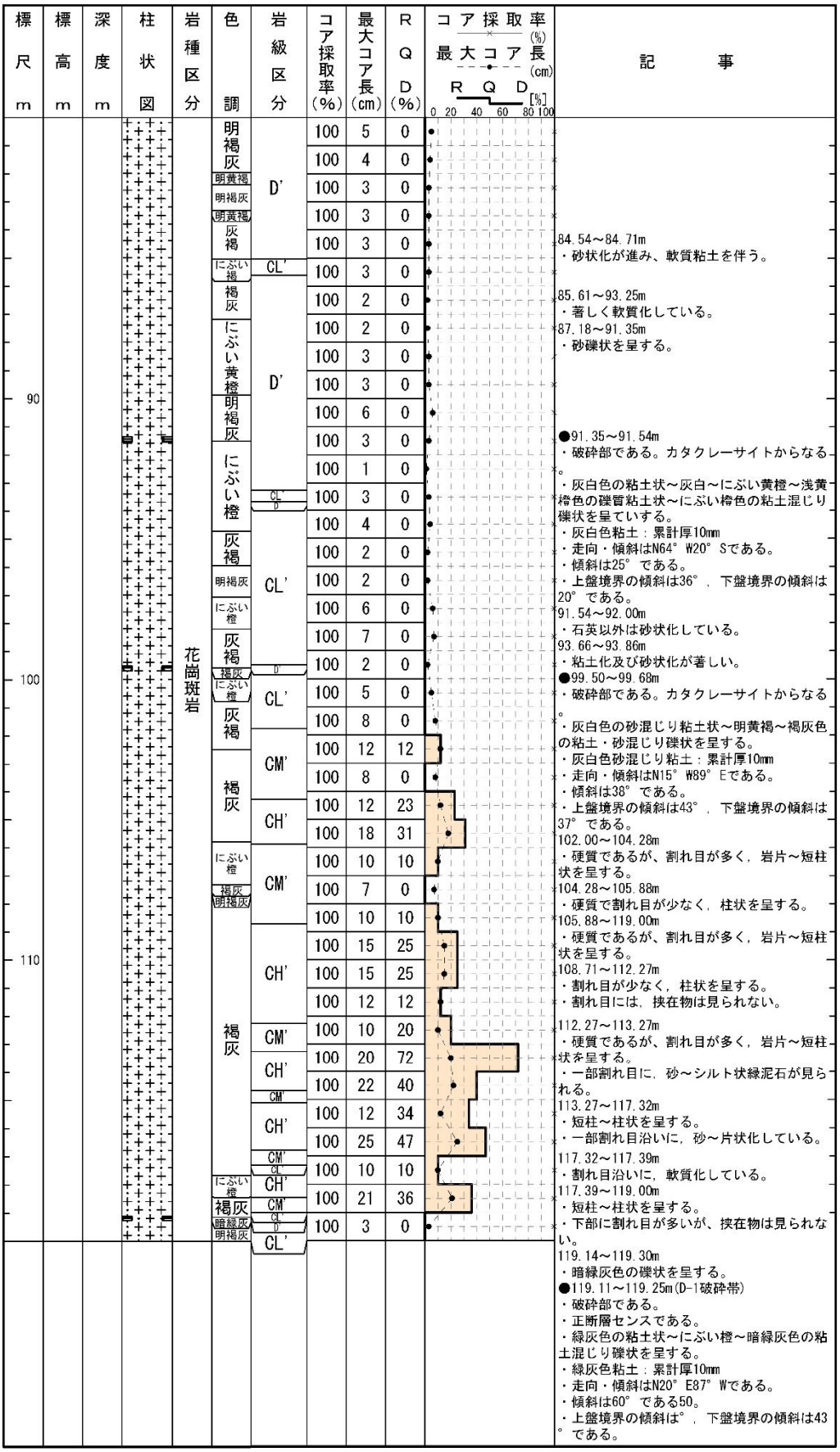
H27-B-3	孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	180.00m



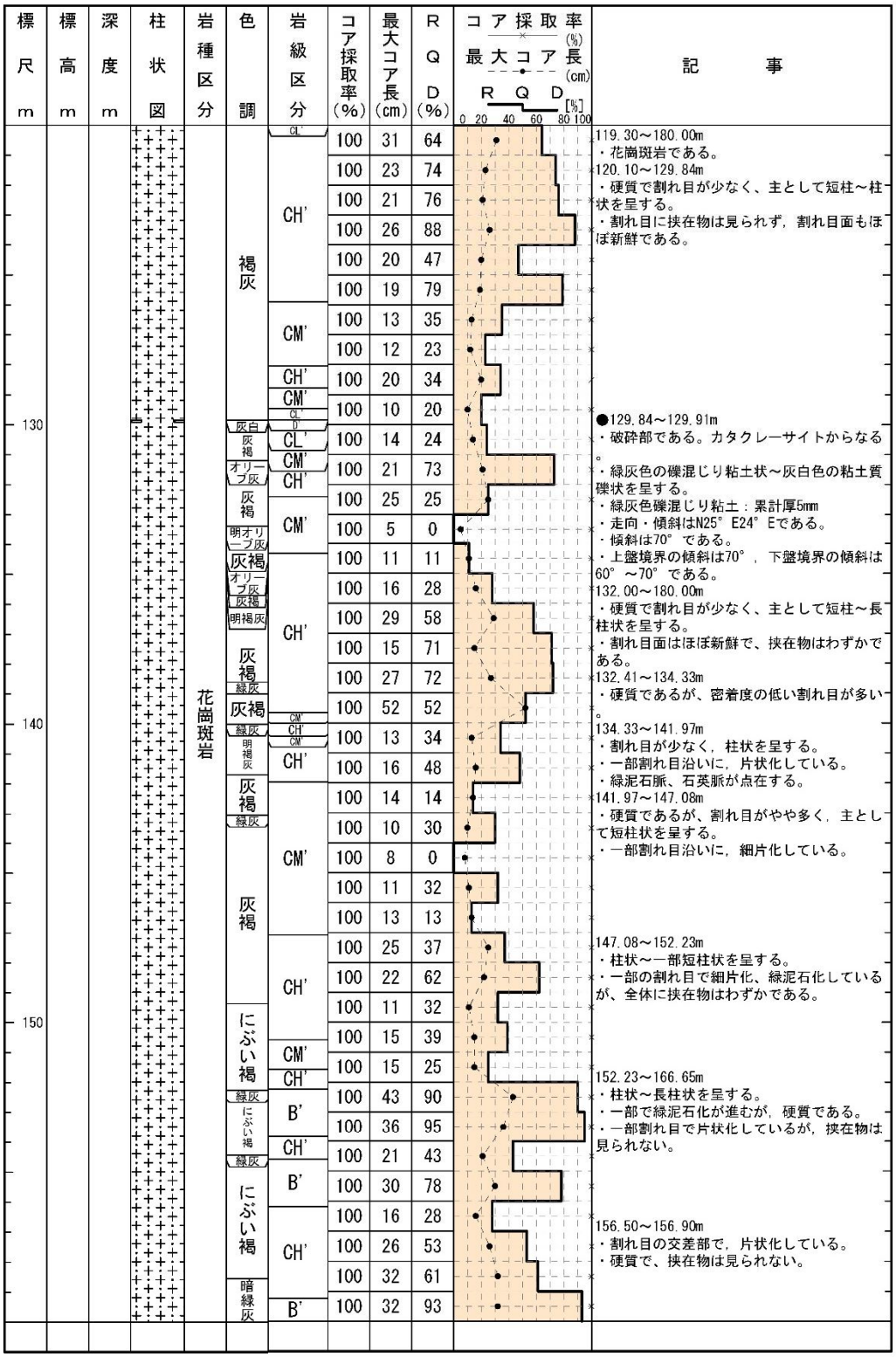
第7.4.4.29図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H27-B-3）



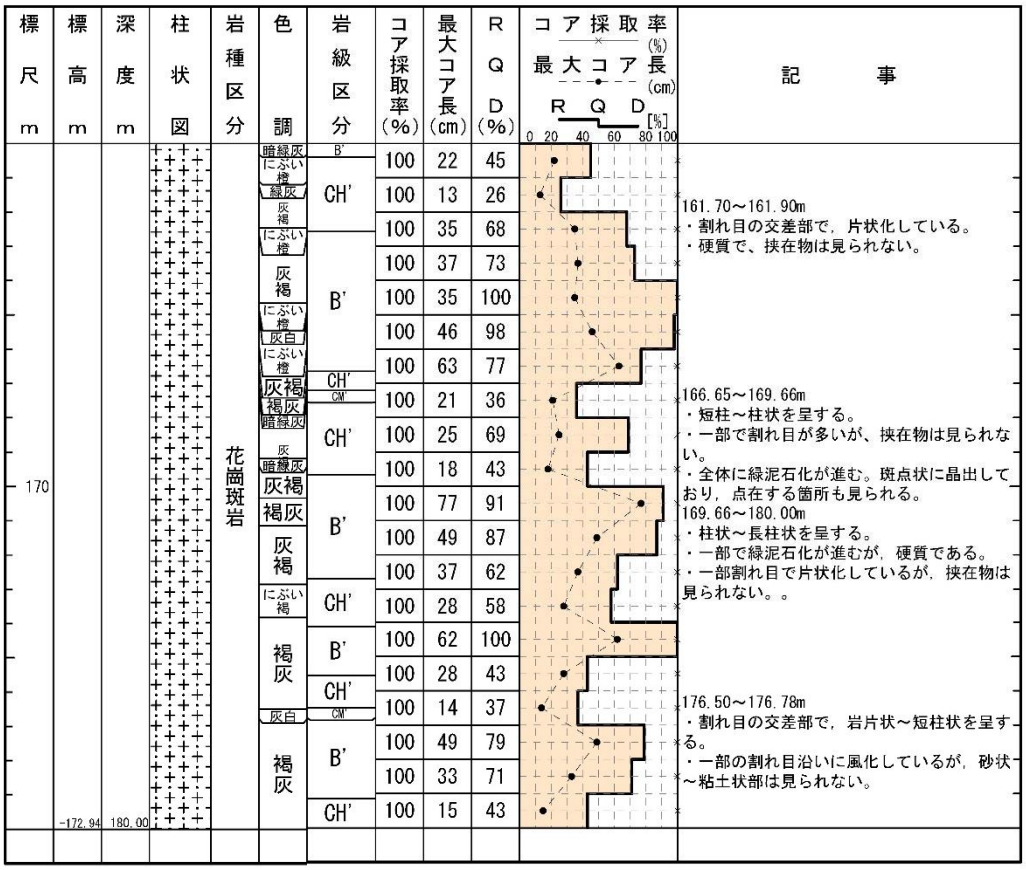
第7.4.4.29図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H27-B-3）



第7.4.4.29図(3)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-3)



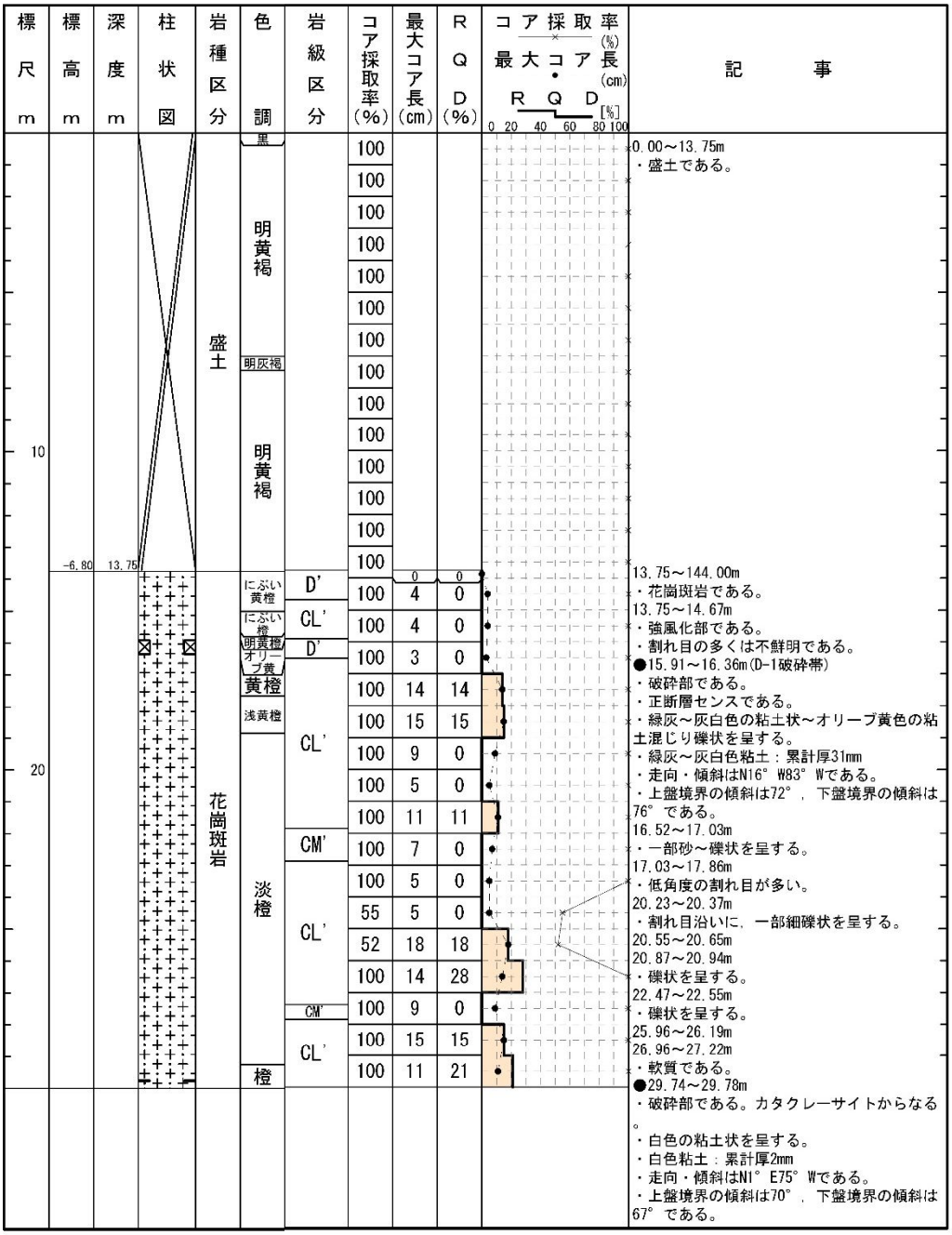
第7.4.4.29図(4)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-3)



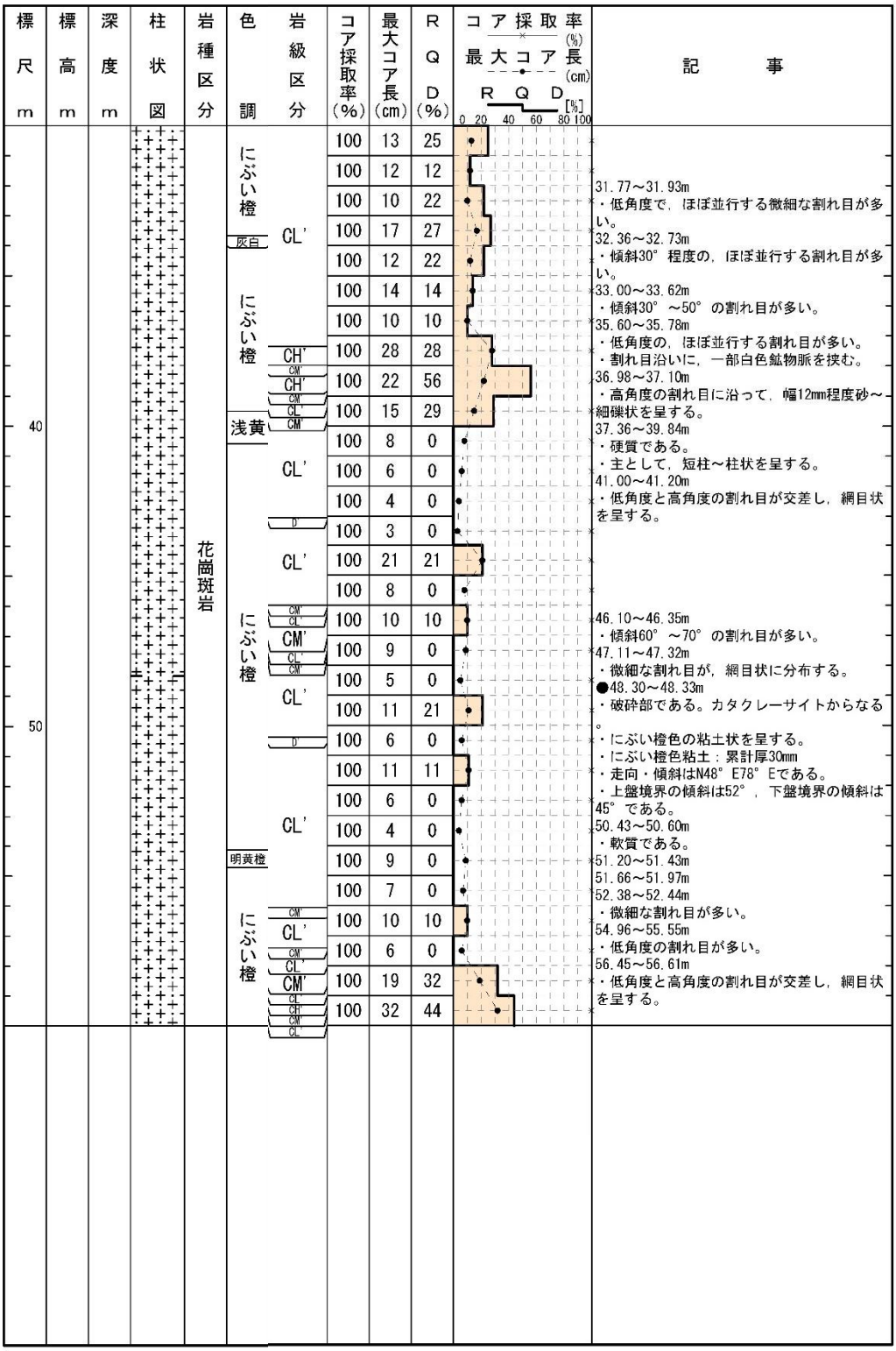
第7.4.4.29図(5)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H27-B-3）

H27-B-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	140.00m



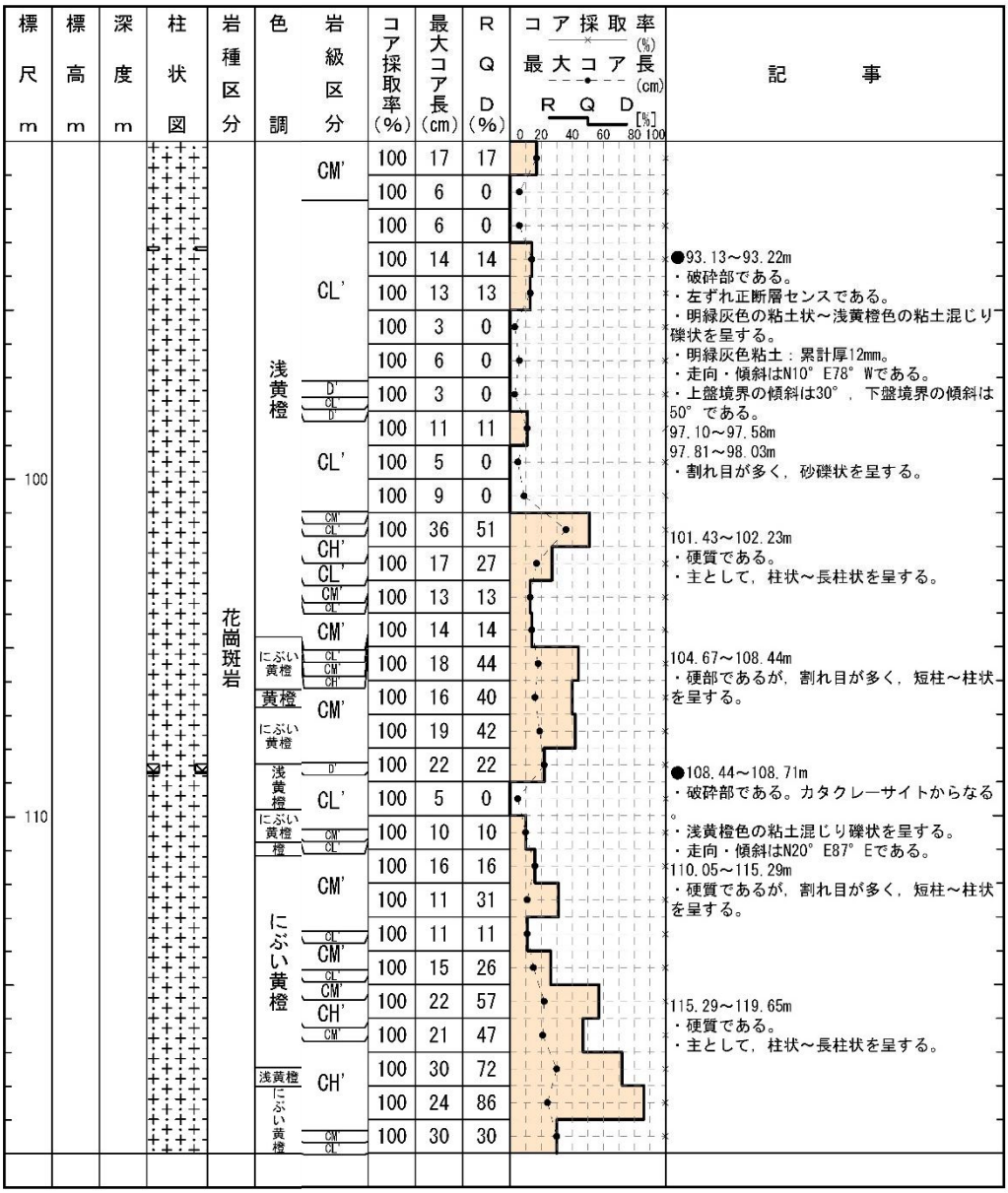
第7.4.4.30図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H27-B-4）



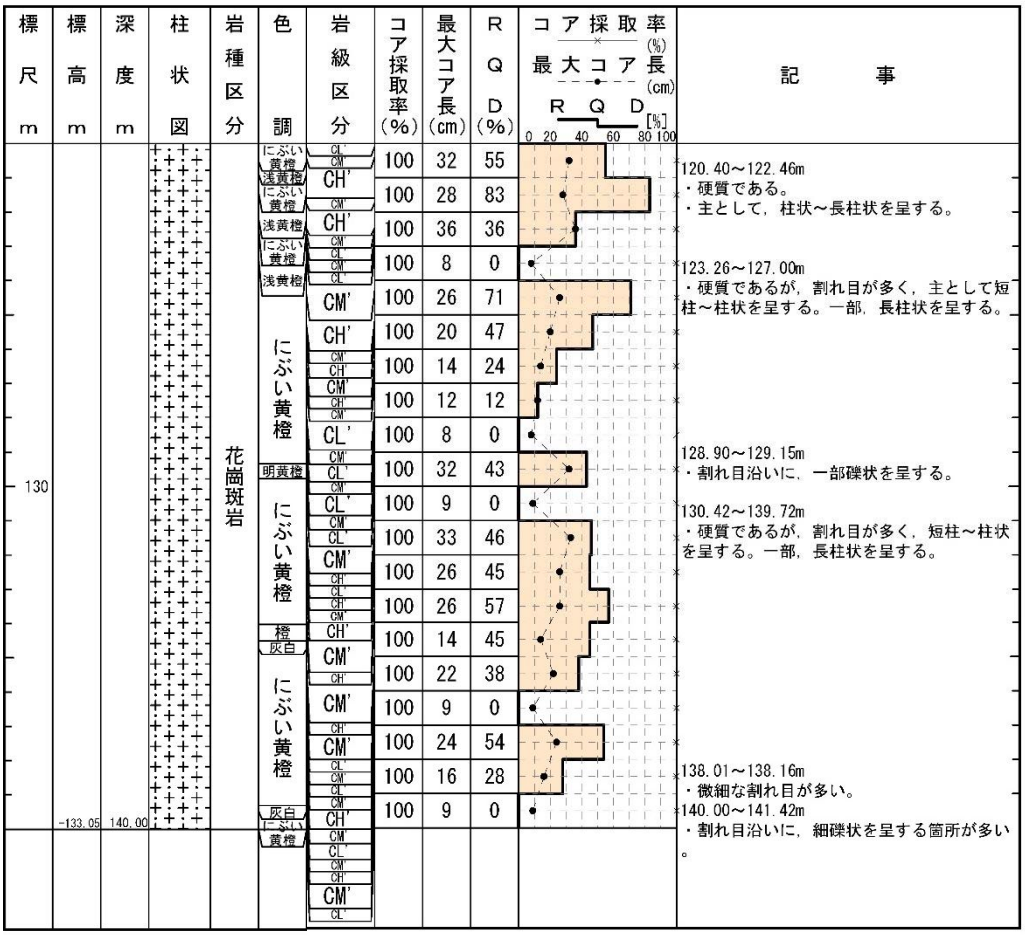
第7.4.4.30図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H27-B-4）



第7.4.4.30図(3)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H27-B-4）



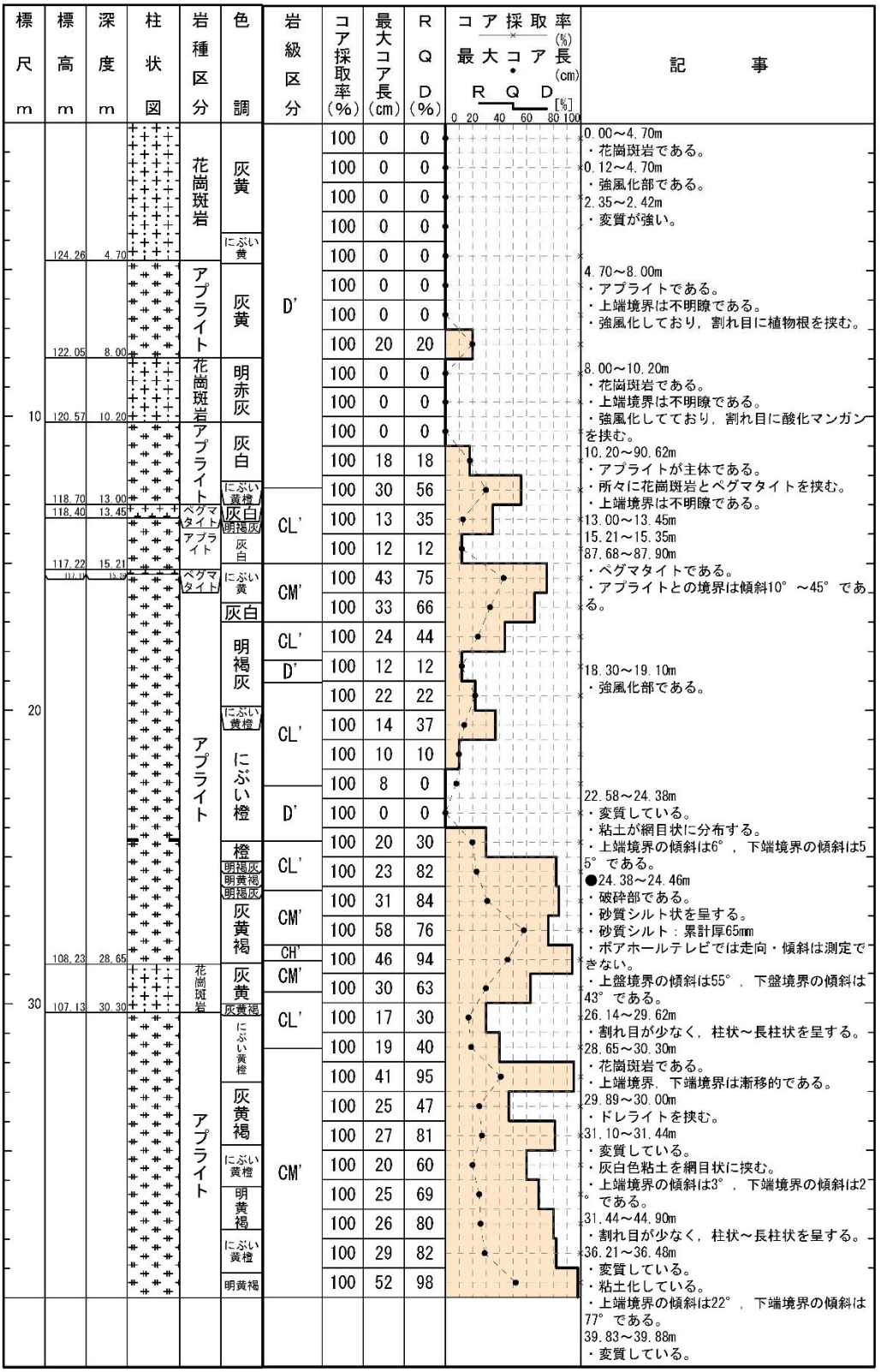
第7.4.4.30図(4)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H27-B-4）



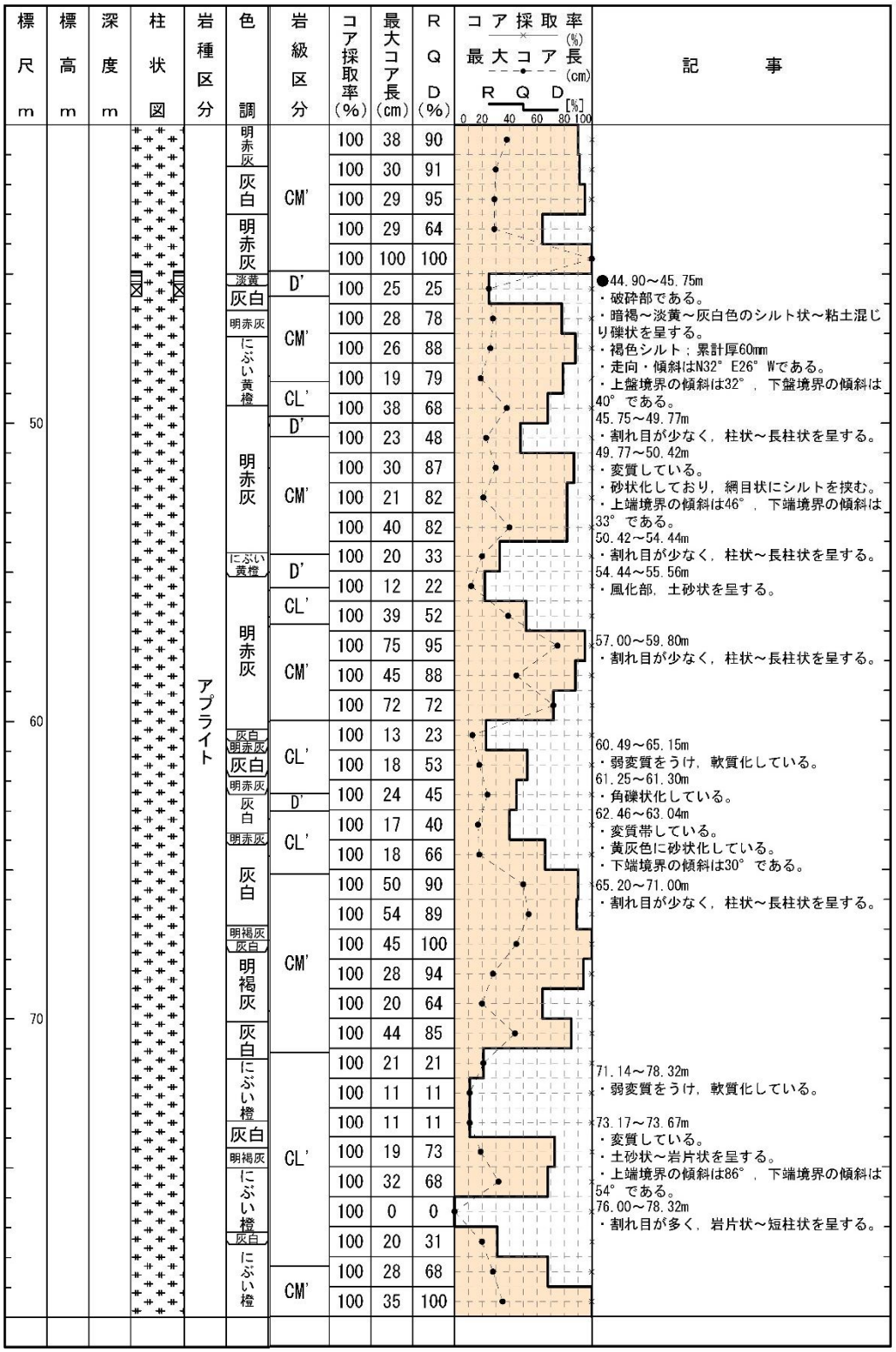
第7.4.4.30図(5)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図 (H27-B-4)

H19-No.2

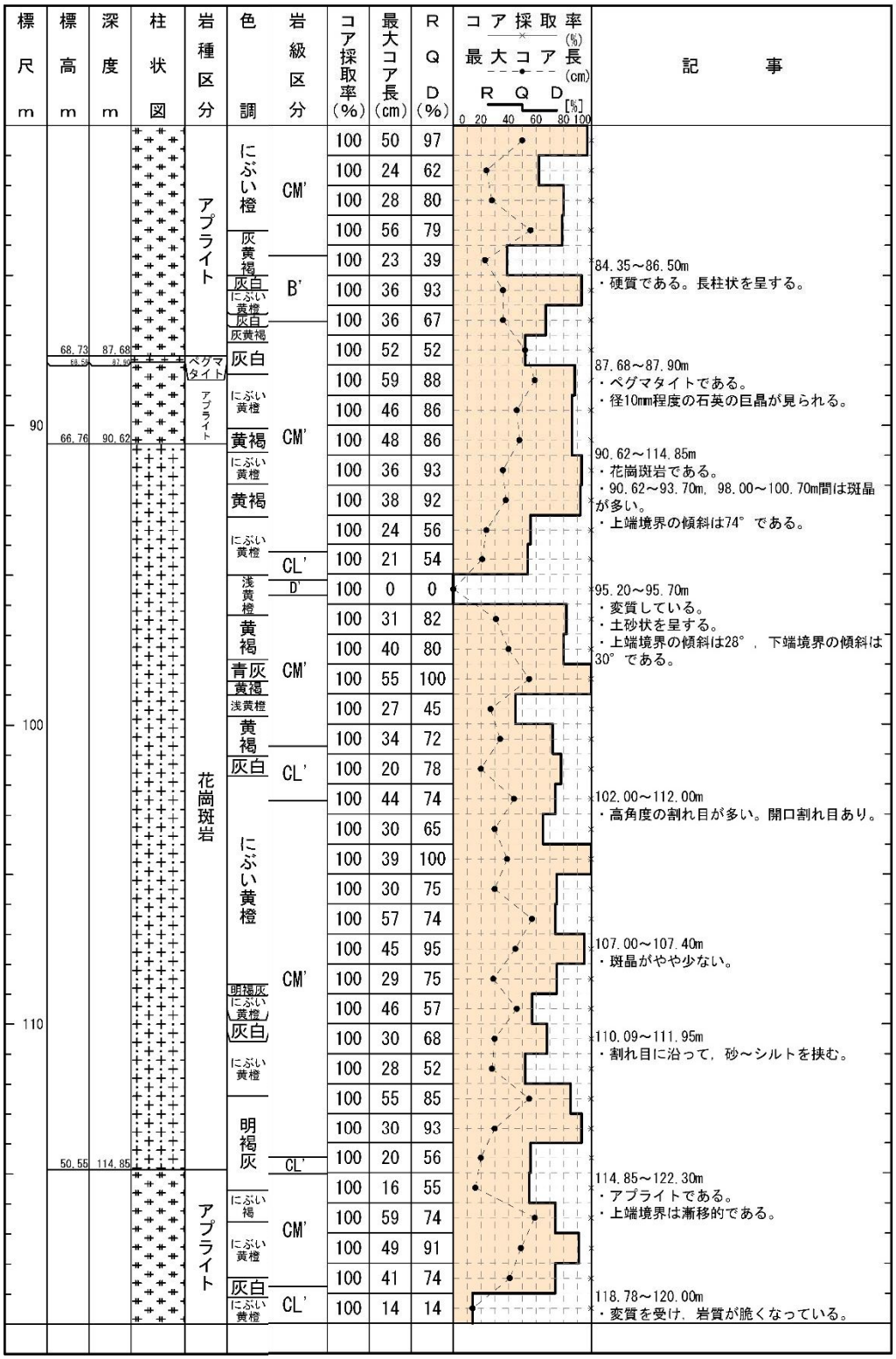
孔口標高	T.P. 127.40m	掘削長	220.00m



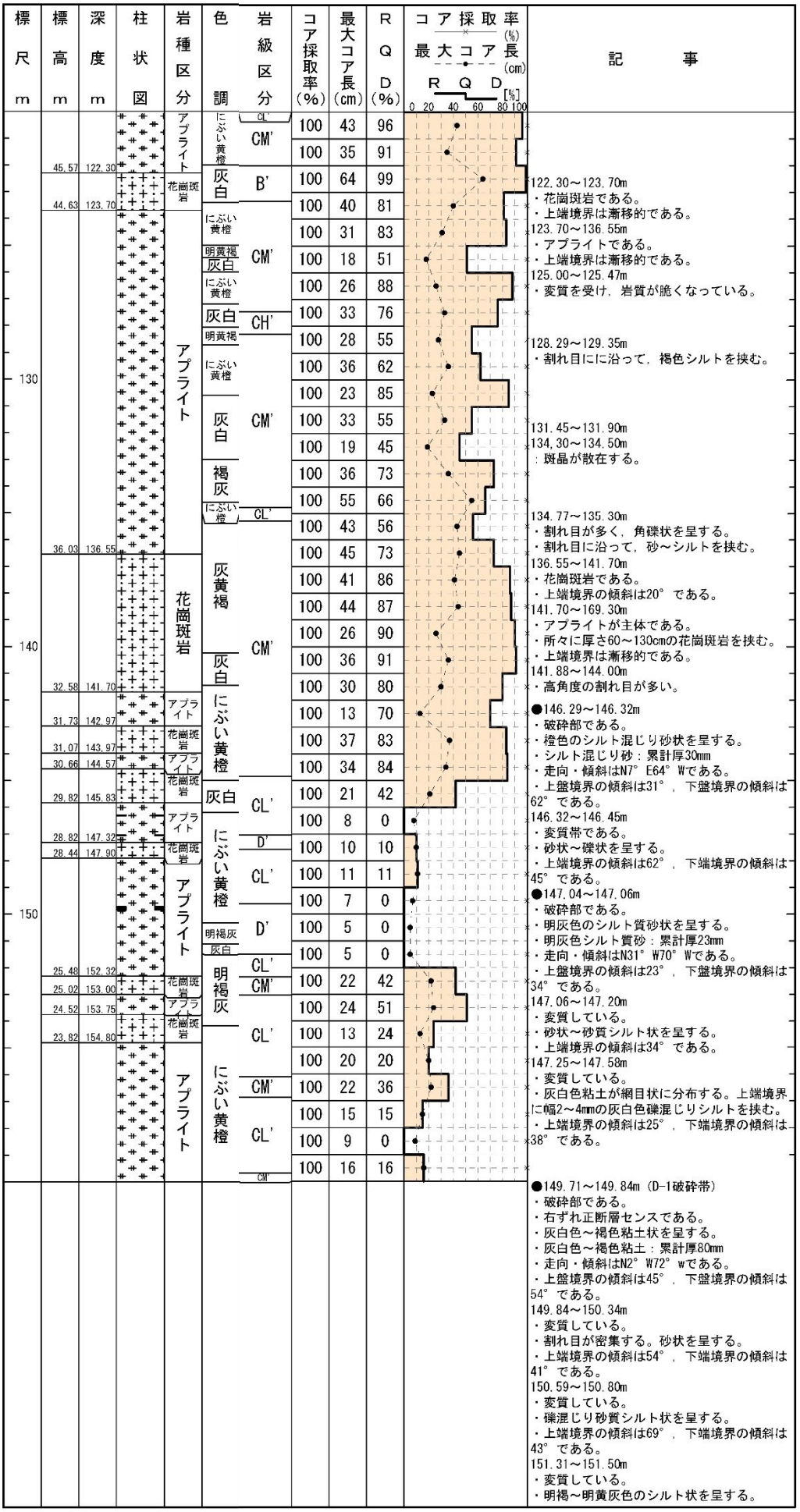
第7.4.4.25図（1）　D-1破砕帯　ボーリング調査結果（2号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H19-No.2）



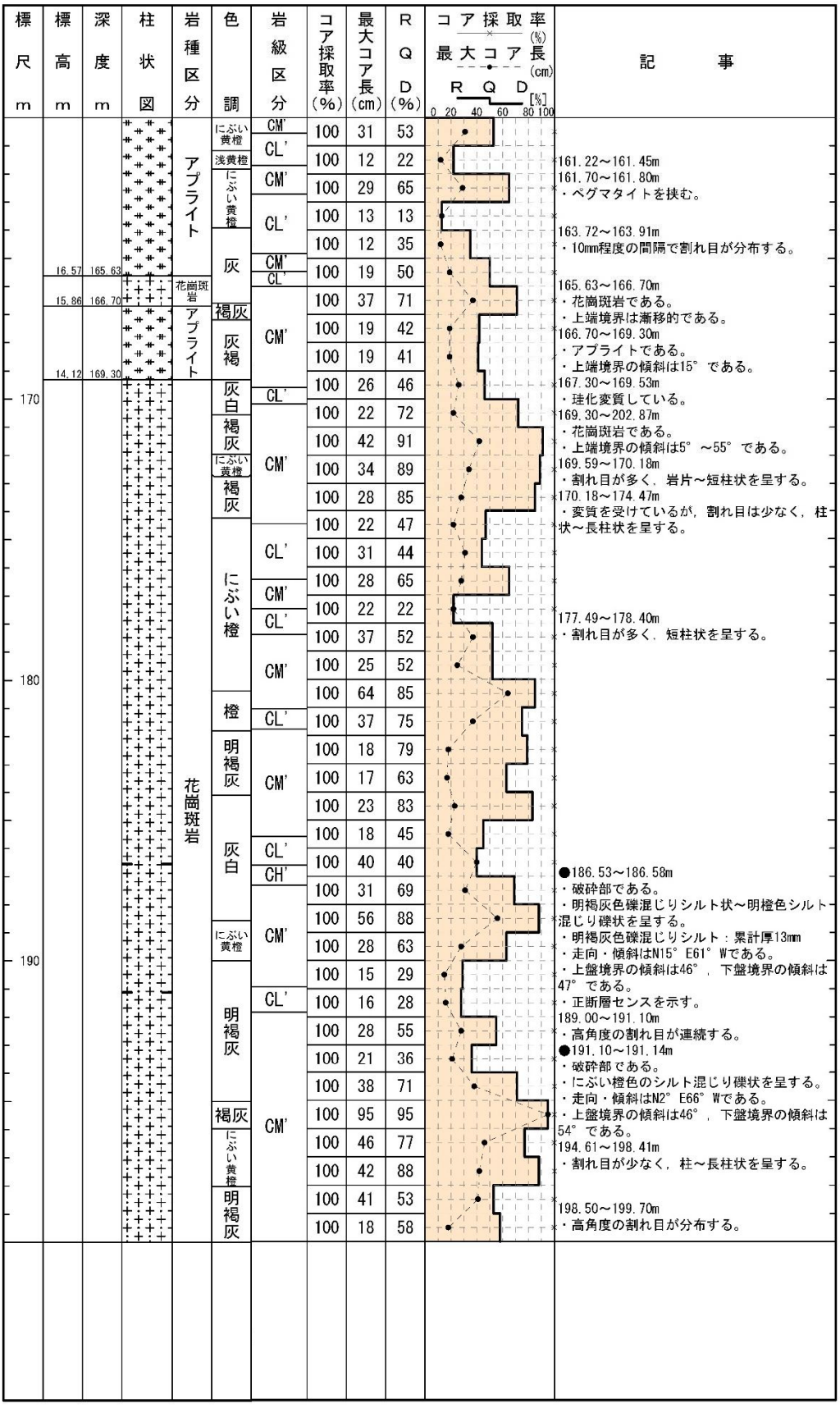
第7.4.4.25図（2）　　D-1破砕帯　ボーリング調査結果（2号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H19-No.2）



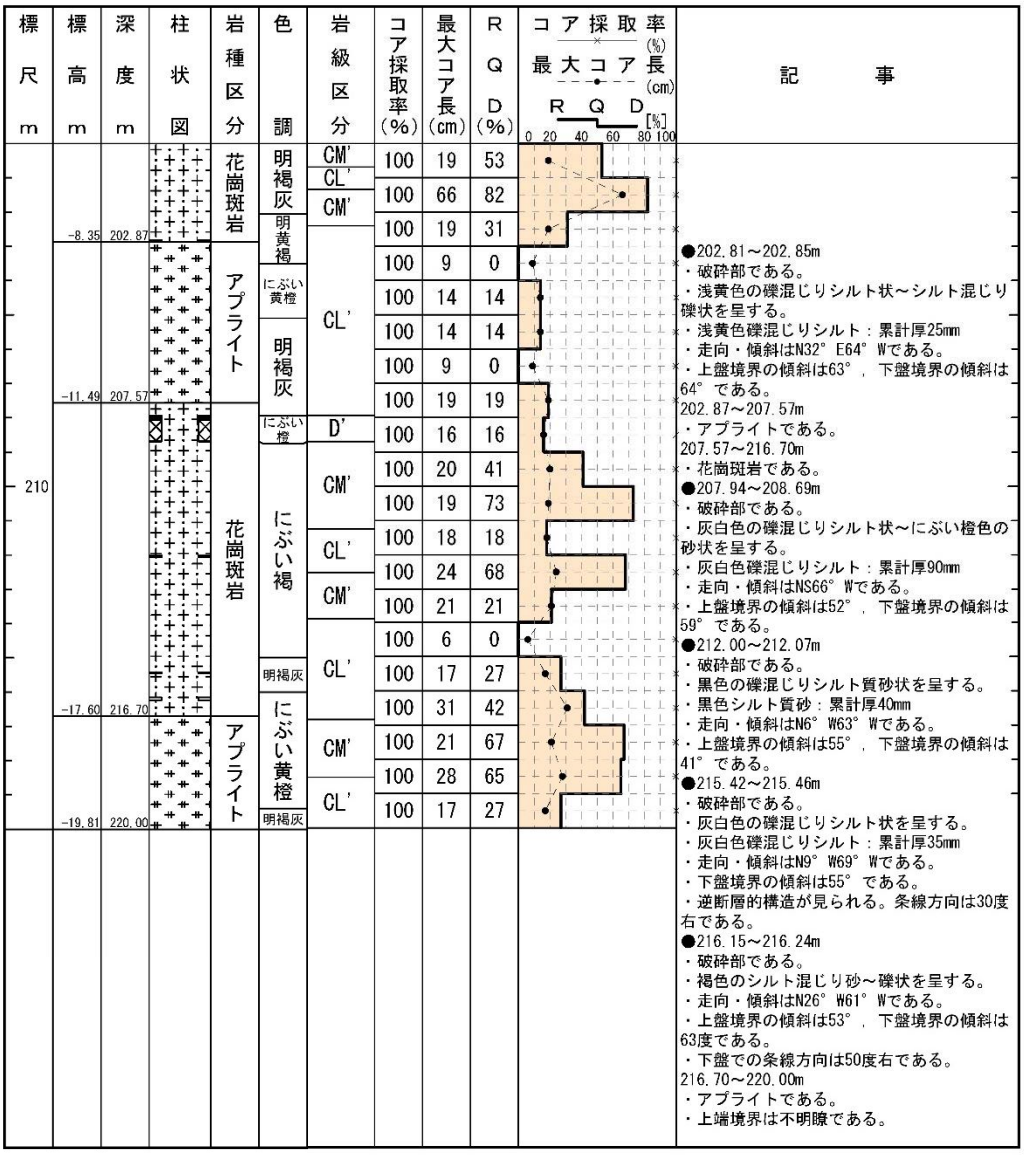
第7.4.4.25図（3）　D-1破砕帯　ボーリング調査結果（2号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H19-No.2）



第7.4.4.25図（4）　D-1破砕帯　ボーリング調査結果（2号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H19-No.2）



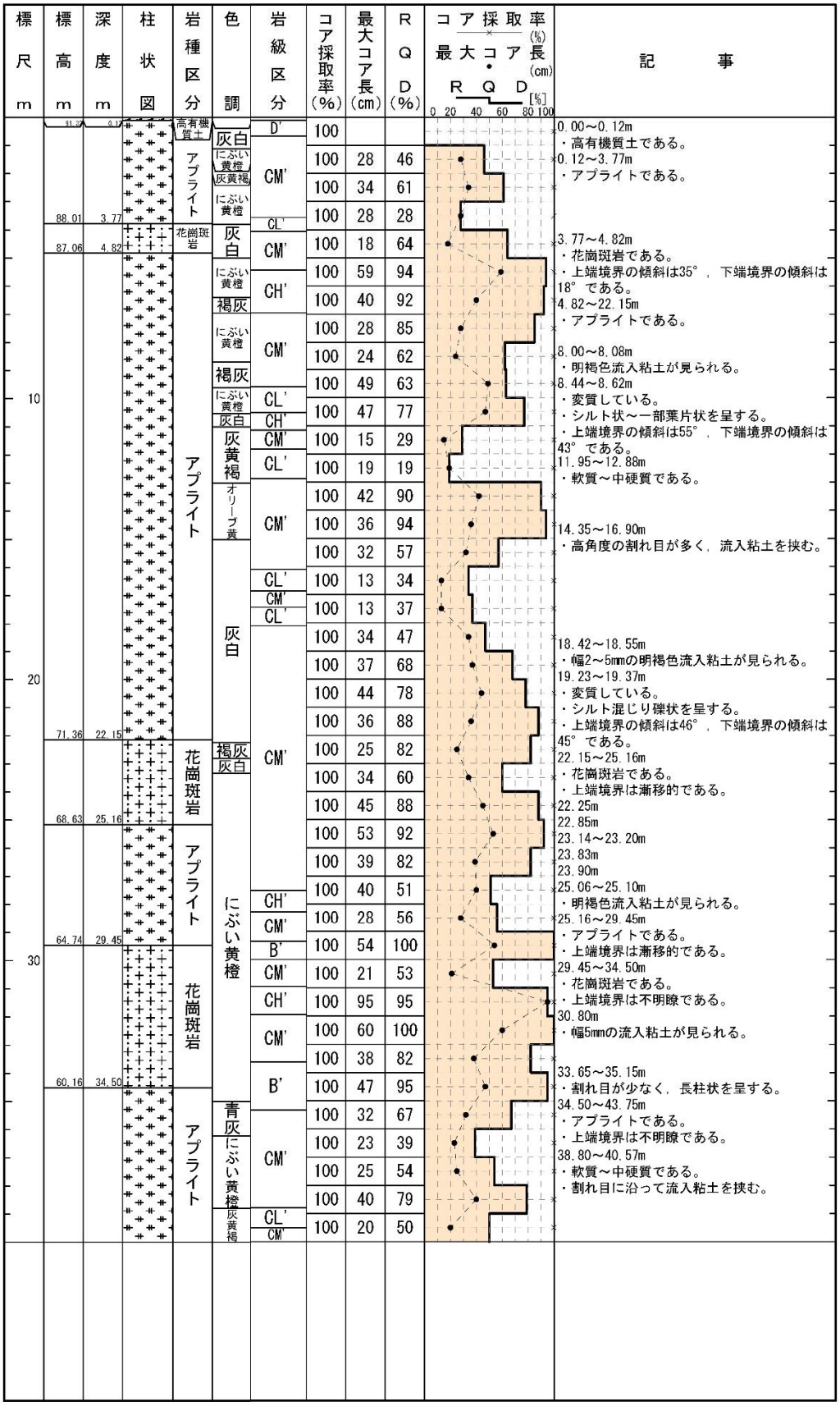
第7.4.4.25図（5）　D-1破砕帯　ボーリング調査結果（2号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H19-No.2）



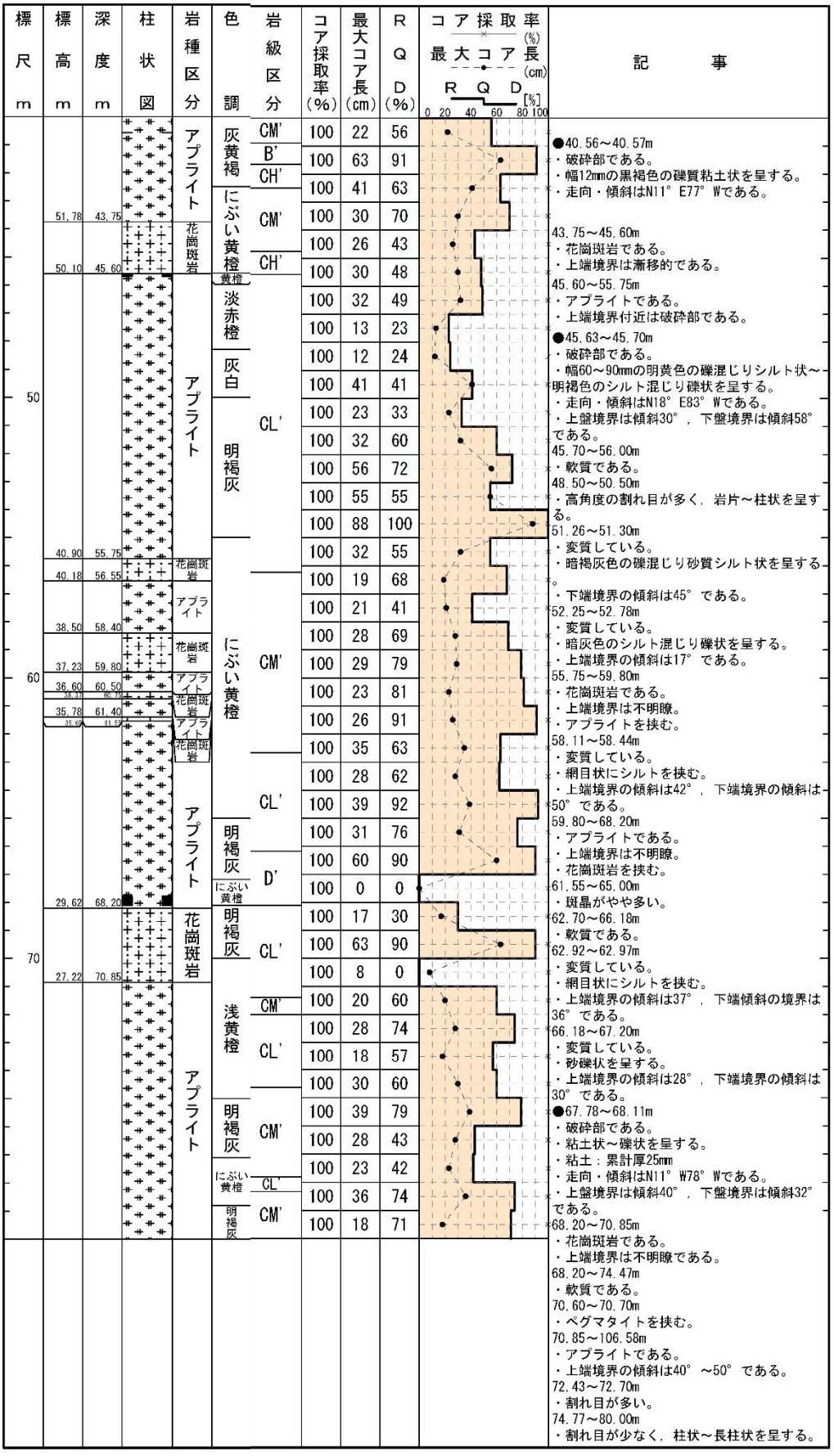
第7.4.4.25図（6）　D-1破砕帯　ボーリング調査結果（2号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H19-No.2）

H19-No.14

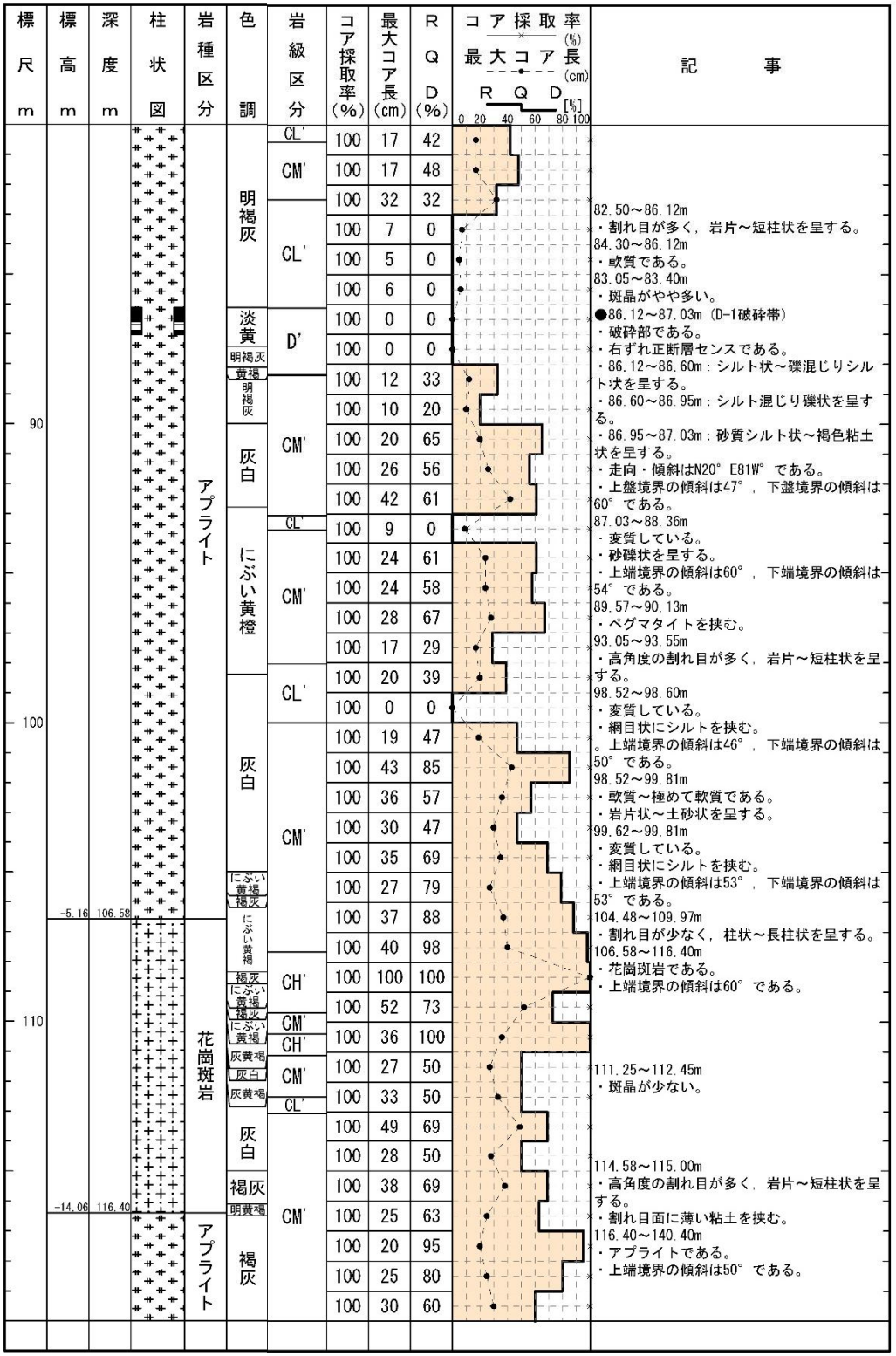
孔口標高	T.P. 91.43m	掘削長	150.00m



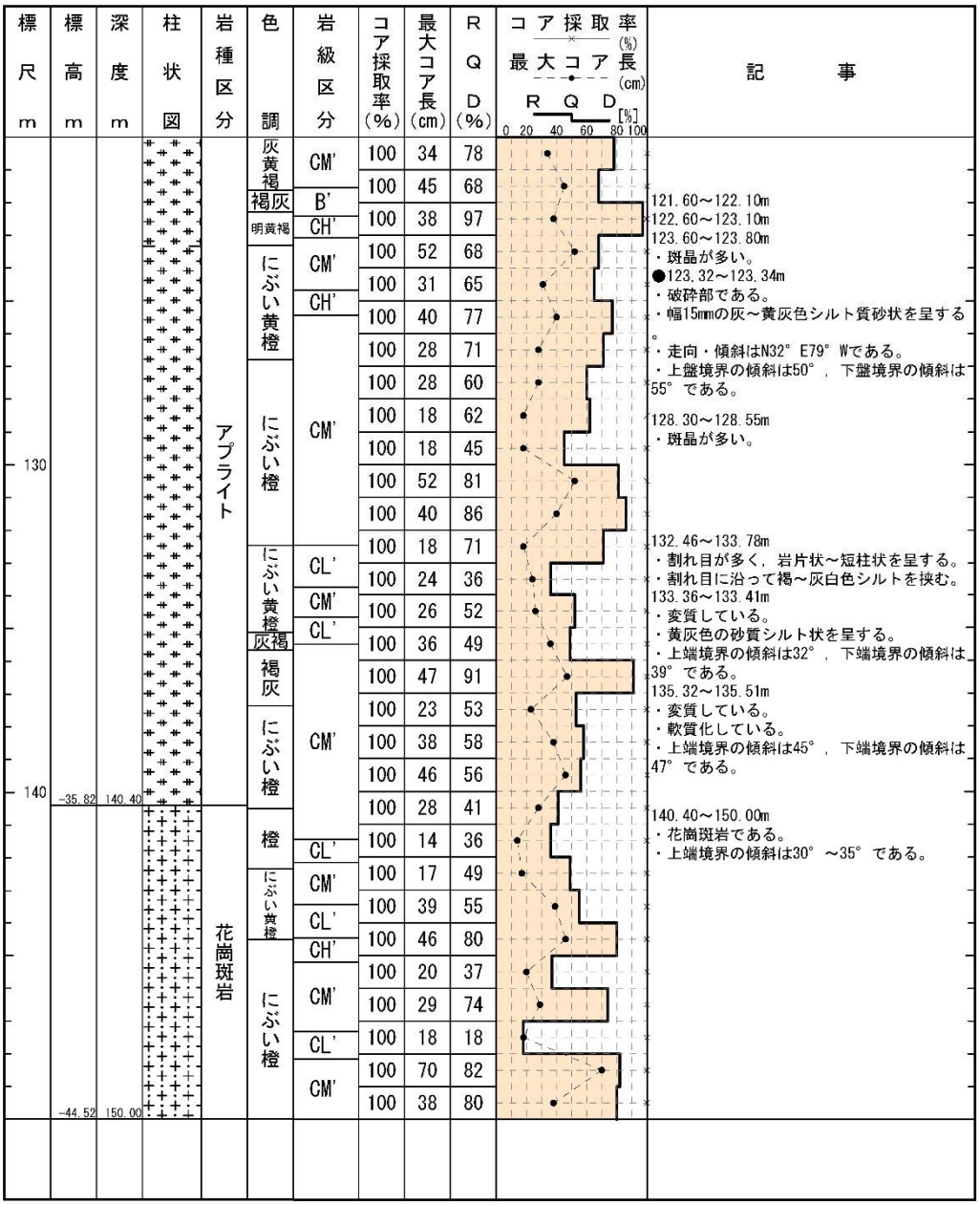
第7.4.4.23図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方)　コア柱状図
(H19-No.14)



第7.4.4.23図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方)　コア柱状図
(H19-No.14)



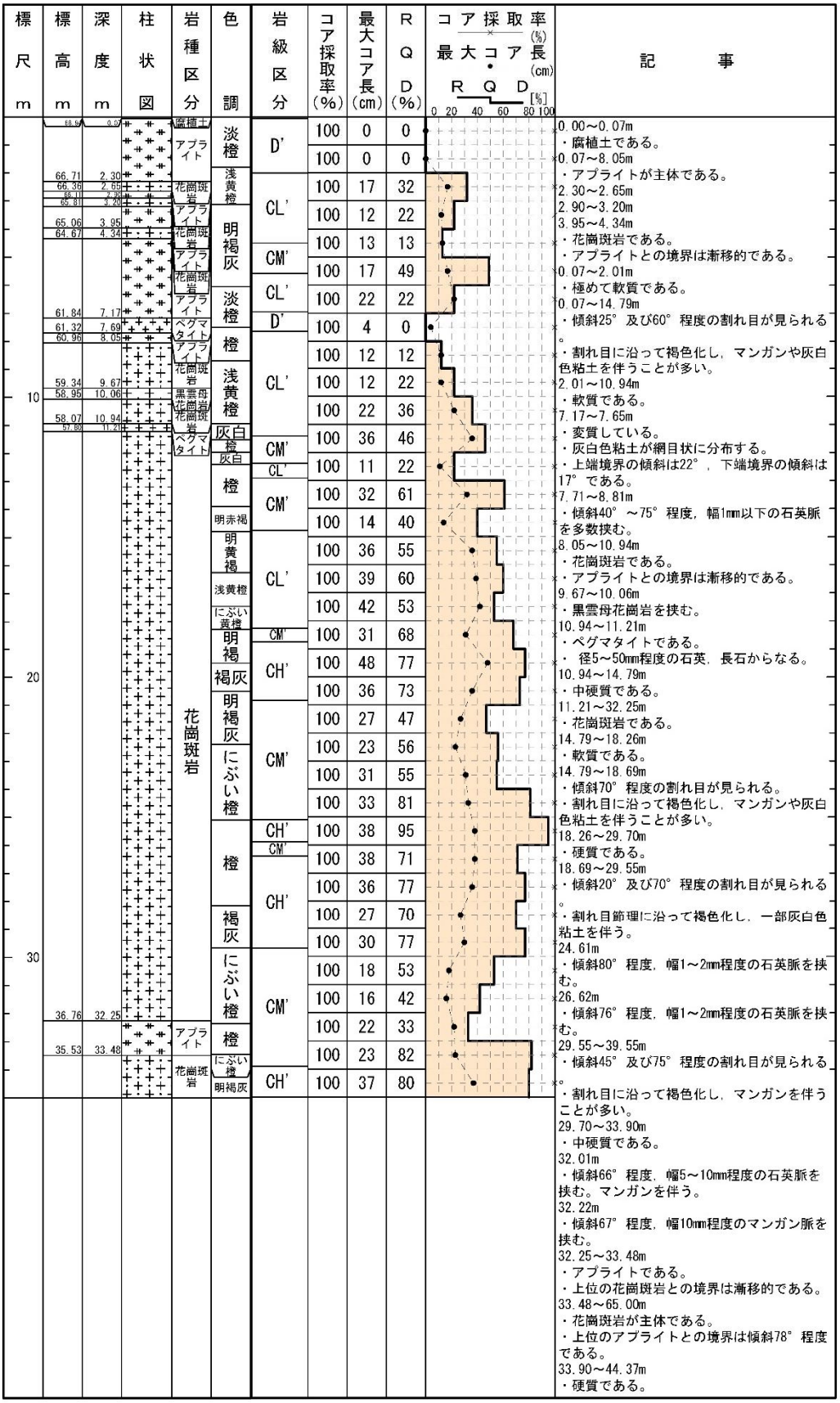
第7.4.4.23図(3)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方)　コア柱状図
(H19-No.14)



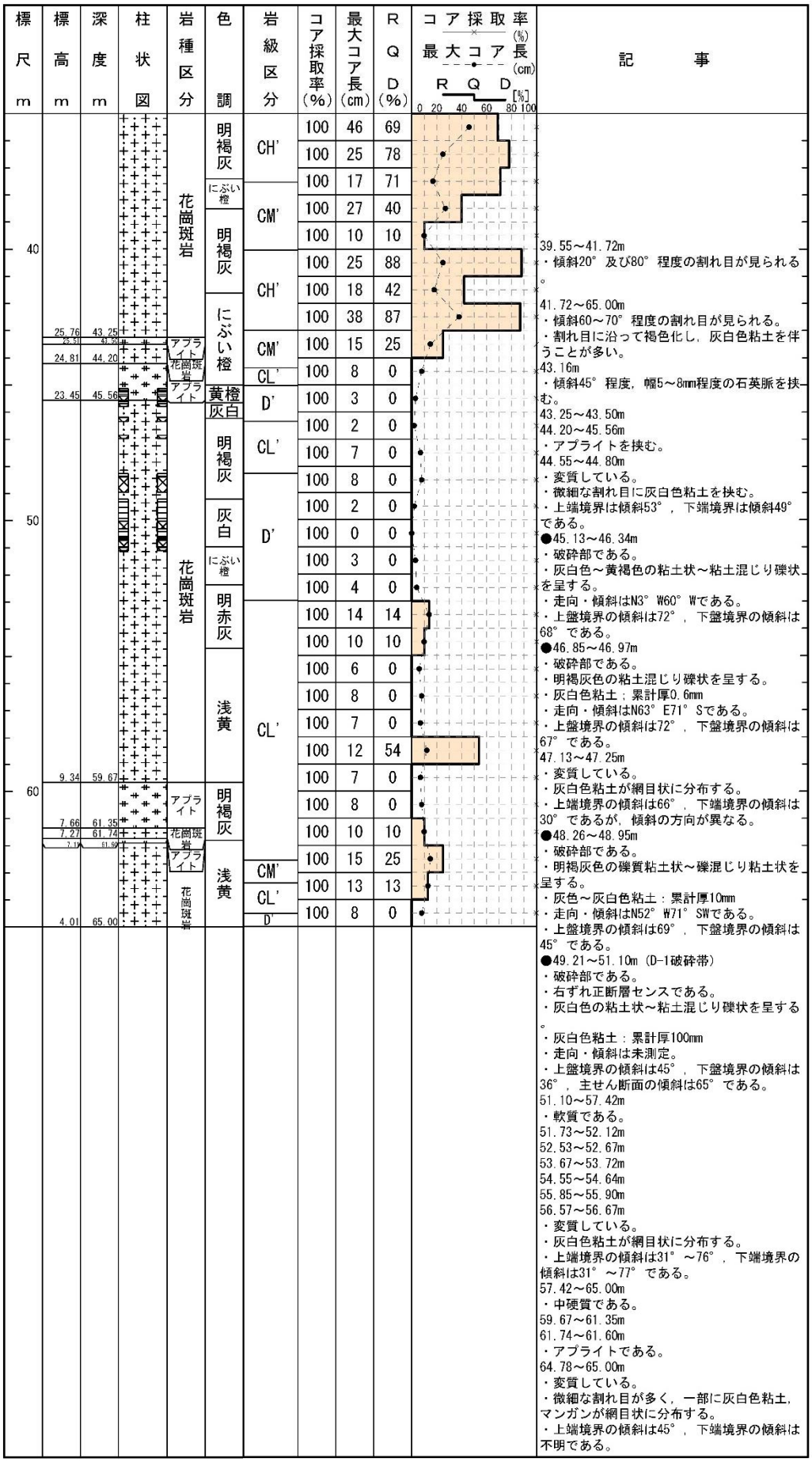
第7.4.4.23図(4)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方)　コア柱状図
(H19-No.14)

H20-②-1

孔口標高	T.P. 69.01m	掘削長	65.00m



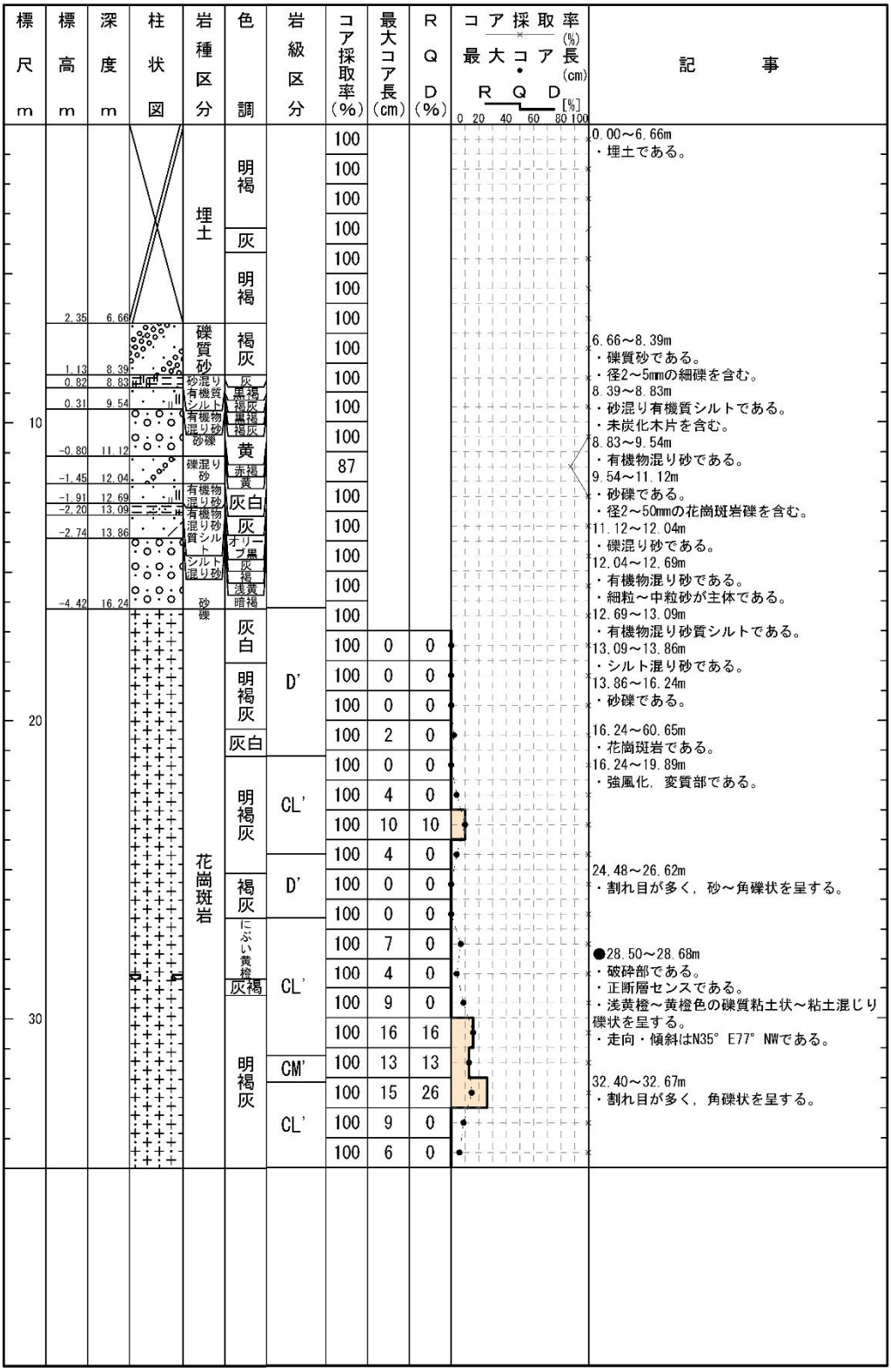
第7.4.4.24図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)　コア柱状図
(H20-No.②-1)



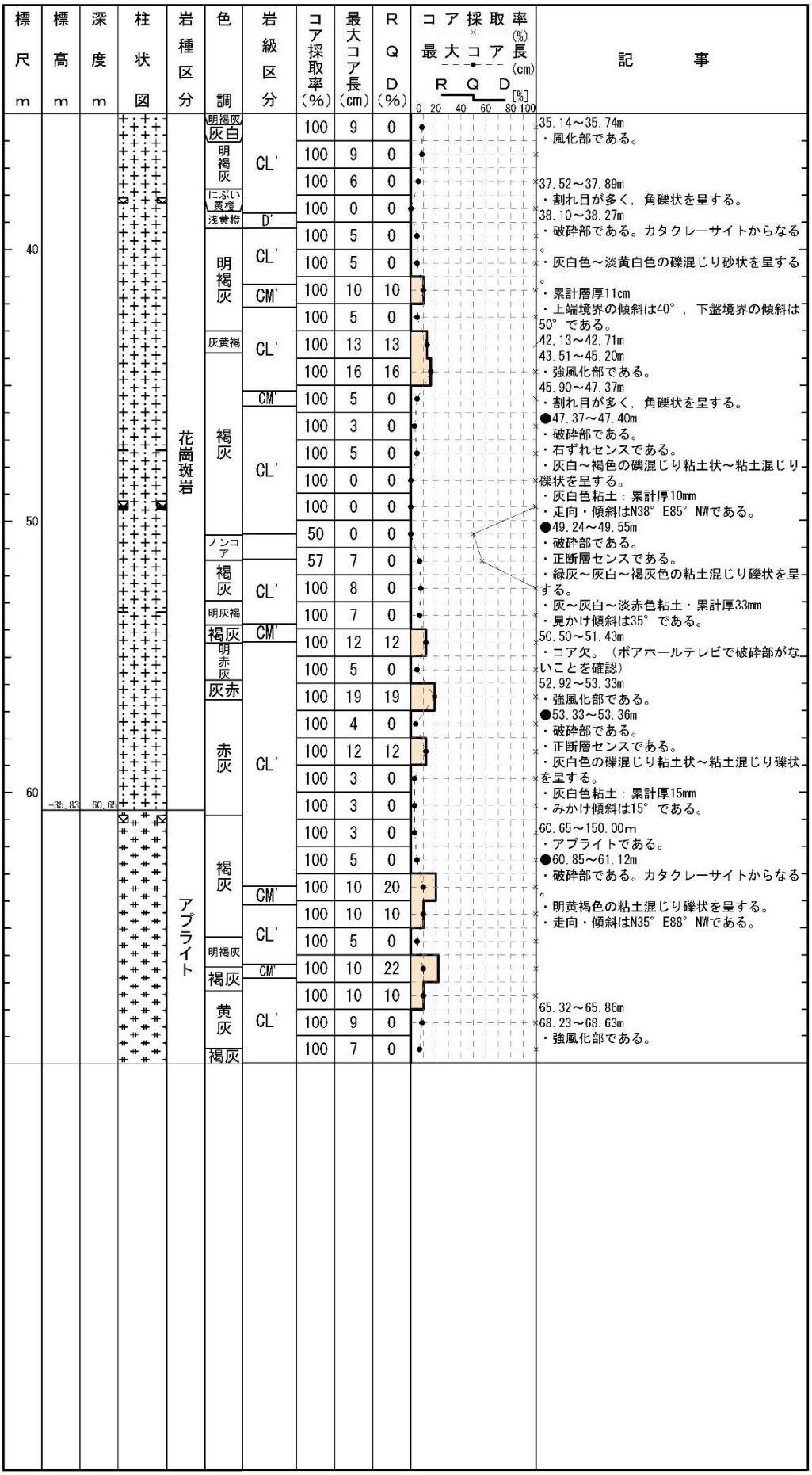
第7.4.4.24図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近)　コア柱状図
(H20-No.②-1)

H24-B14-2

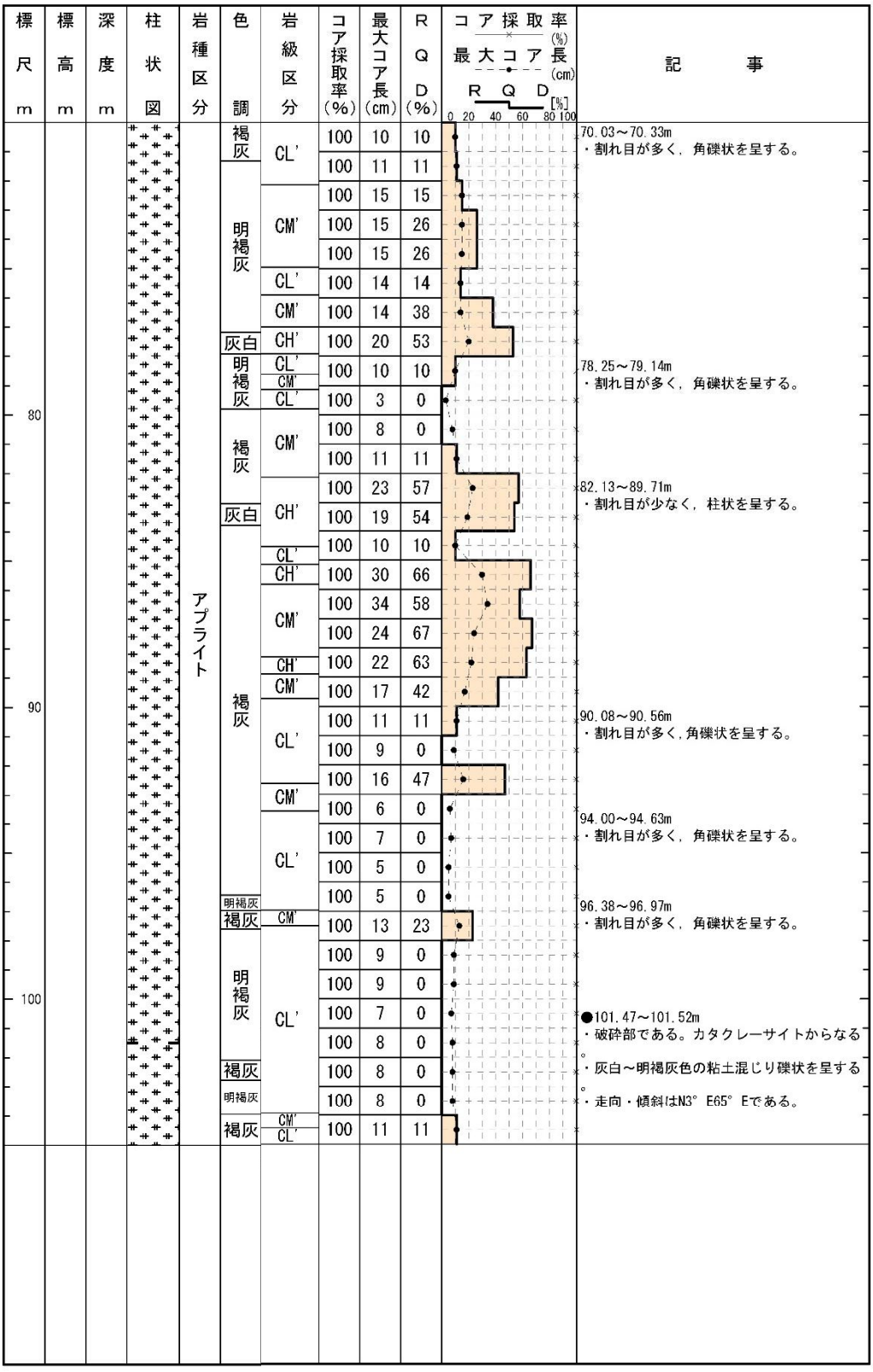
孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	150.00m



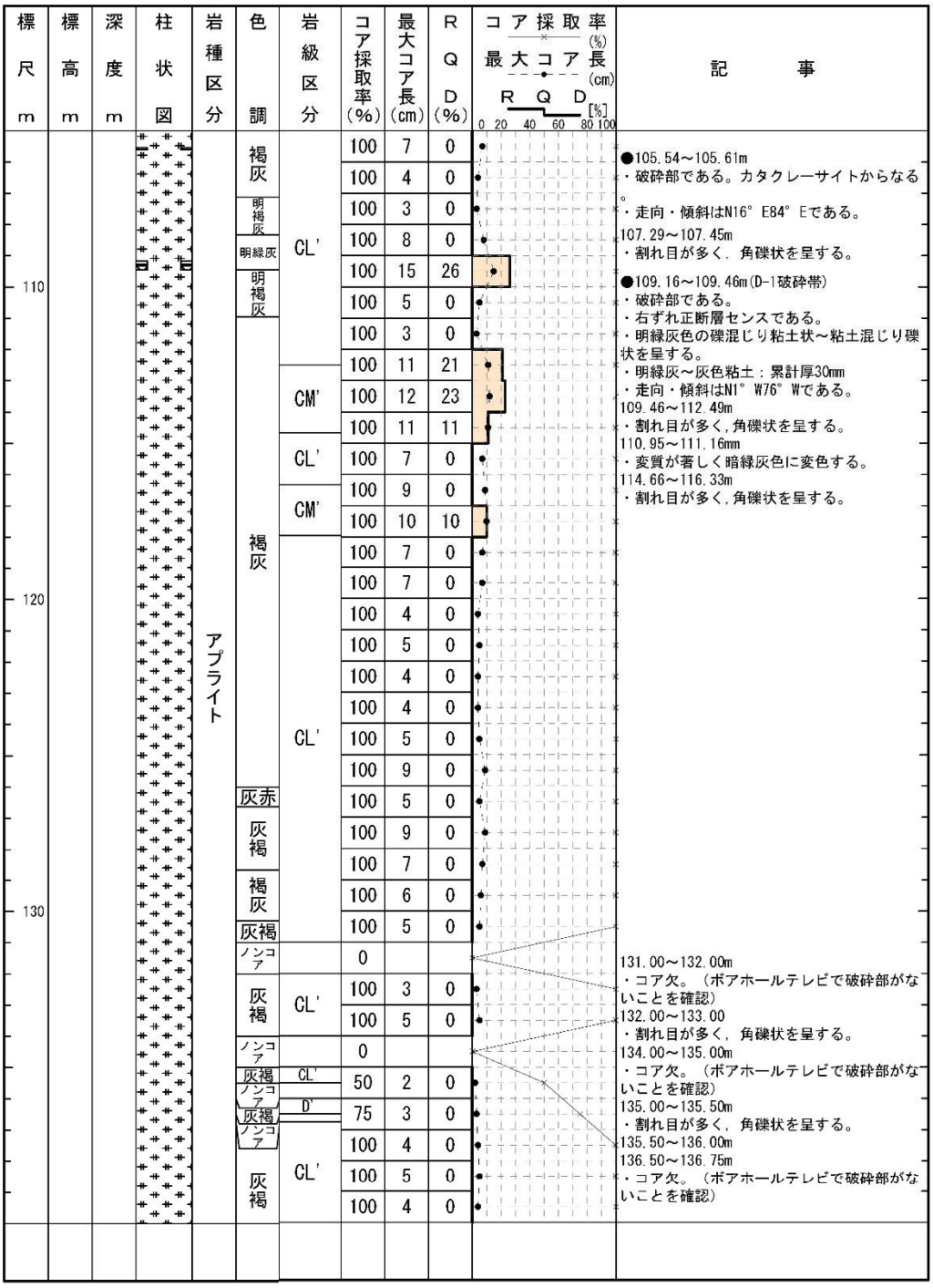
第7.4.4.31図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H24-B14-2）



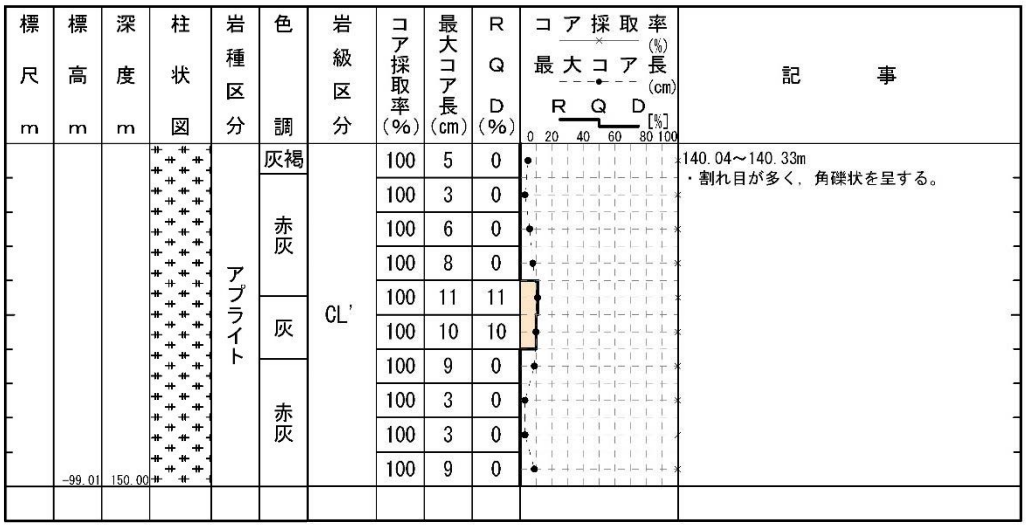
第7.4.4.31図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H24-B14-2）



第7.4.4.31図(3)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H24-B14-2）



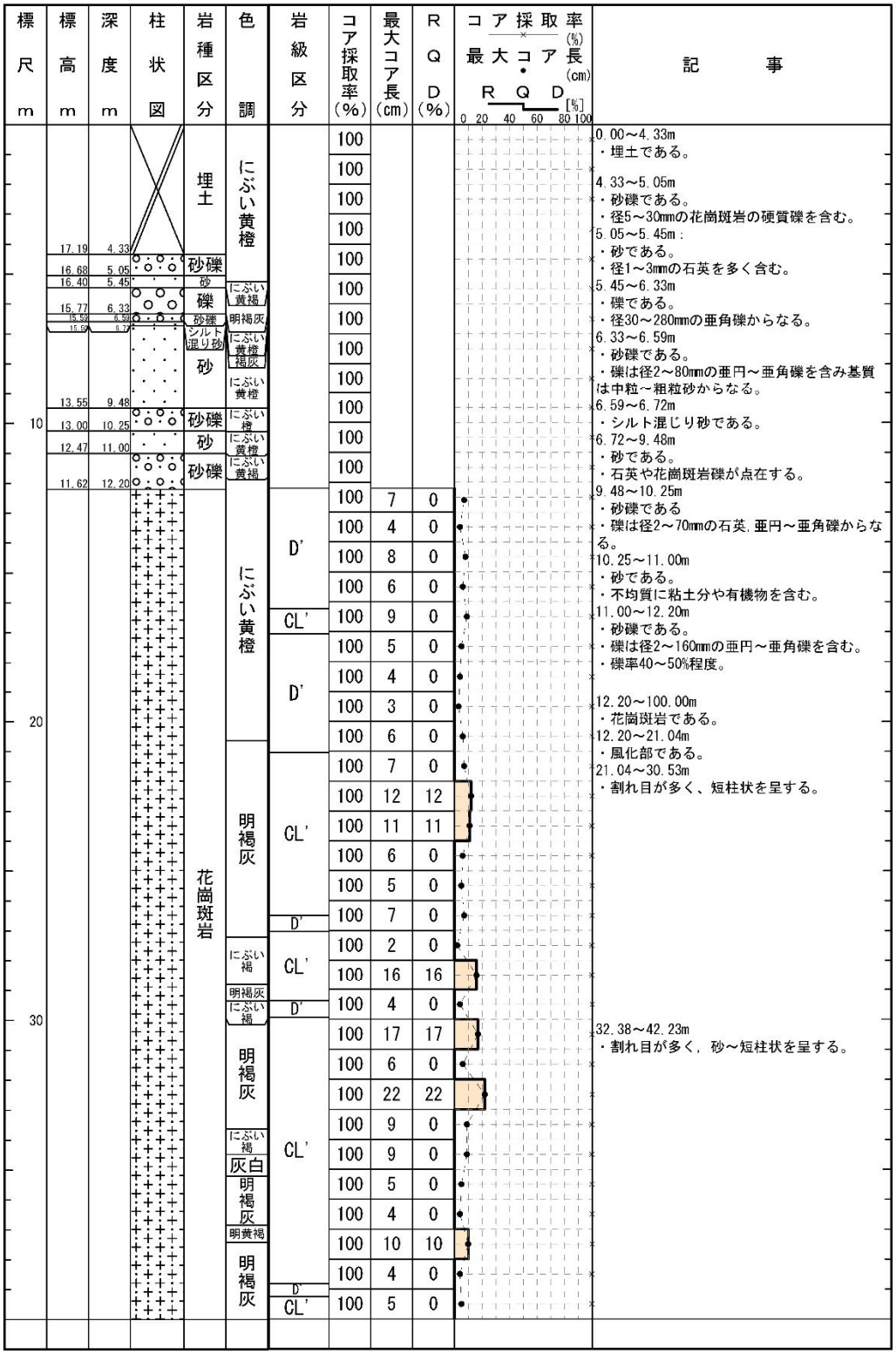
第7.4.4.31図(4)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H24-B14-2）



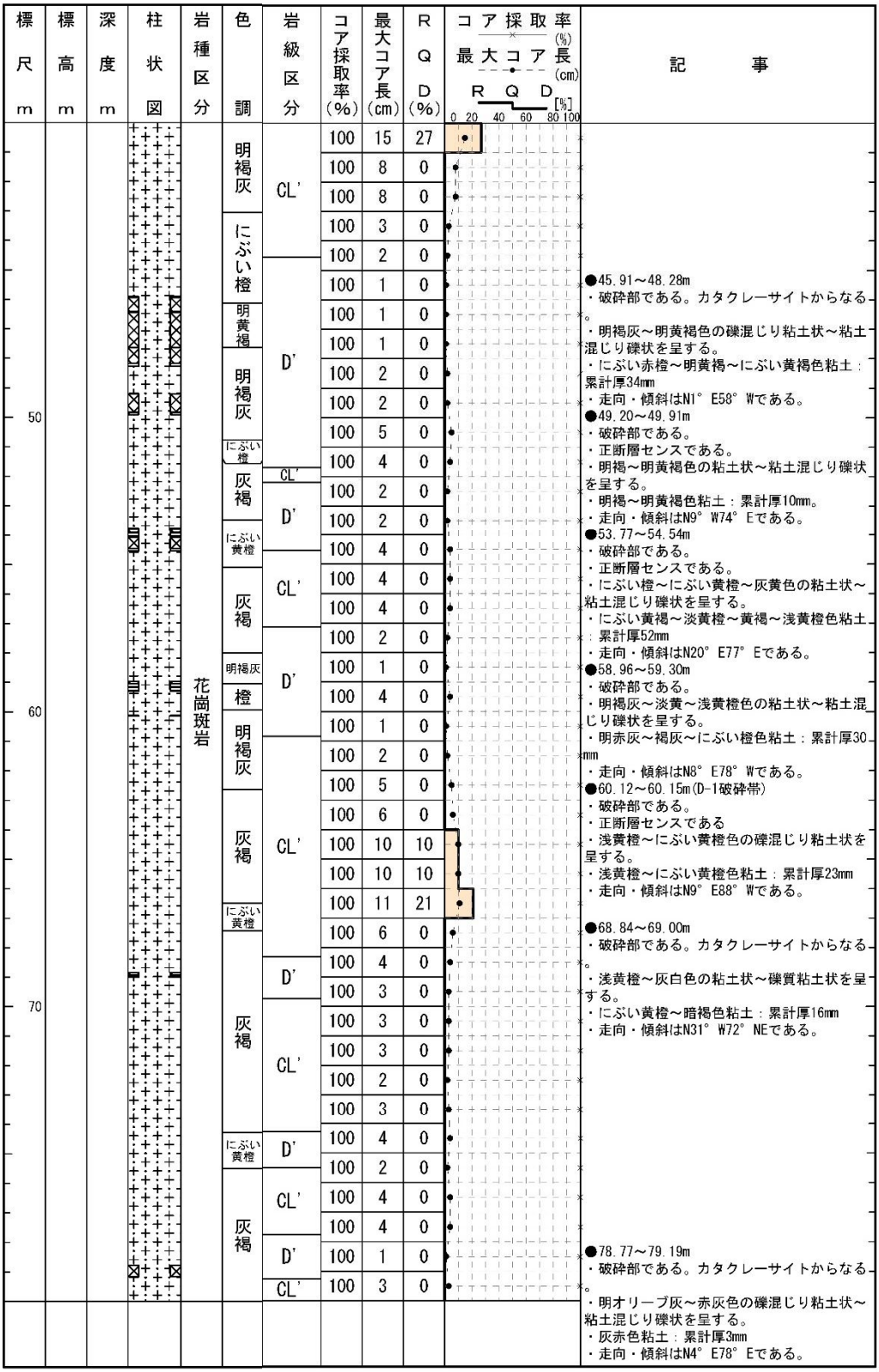
第7.4.4.31図(5)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H24-B14-2）

H24-D1-1

孔口標高	T.P. 20.25m	掘削長	100.00m



第7.4.4.26図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H24-D1-1）



第7.4.4.26図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H24-D1-1）

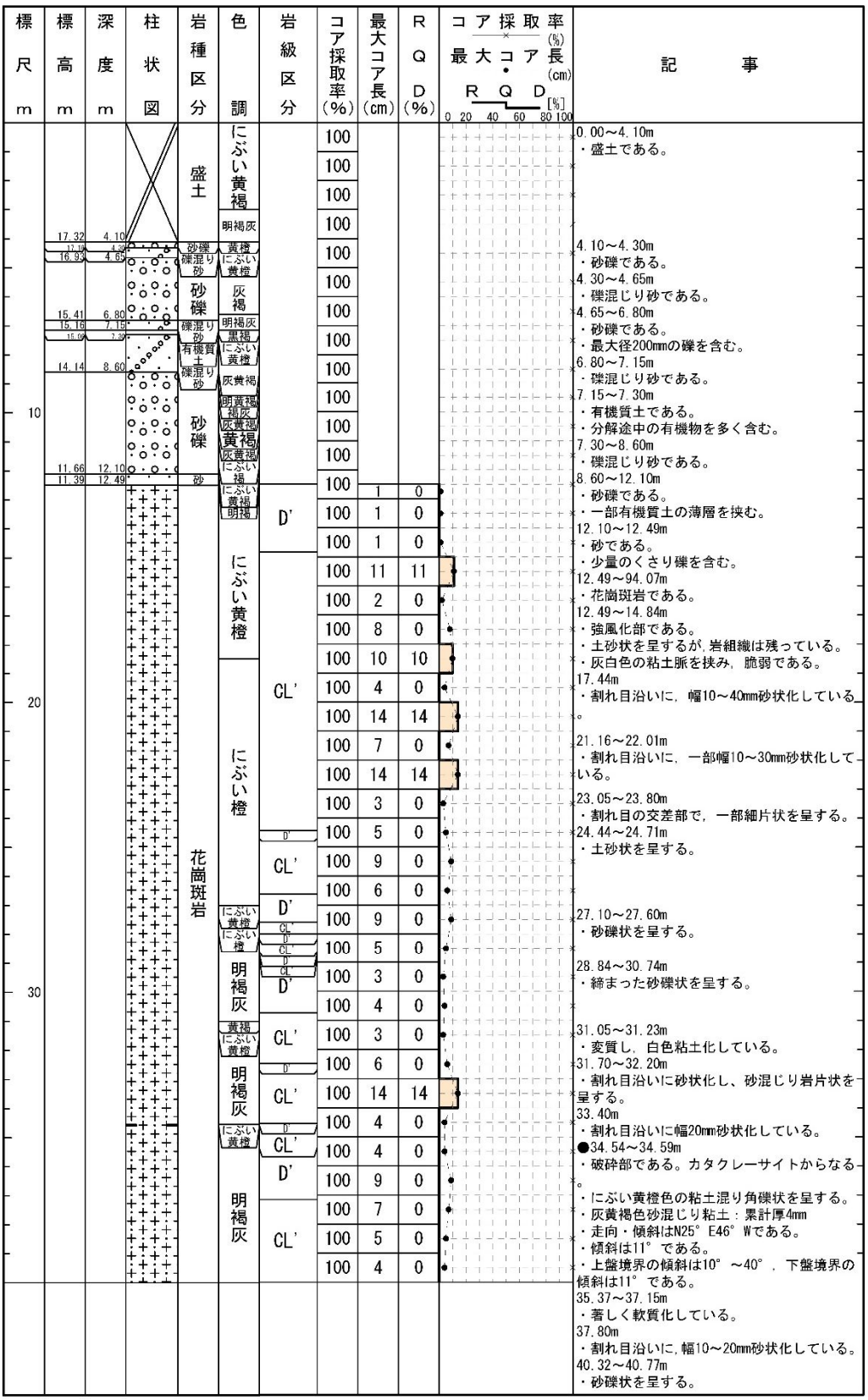


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
90	-50.46	100.00		花崗斑岩	灰褐	CL'	100	3	0		80.08～81.00m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。 ●81.20～81.42m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・にぶい黄橙～浅黄橙色の粘土状～礫質粘土状を呈する。 ・灰赤～淡赤橙色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
					にぶい黄橙		100	5	0		
					灰褐		100	5	0		
							100	6	0		
							100	6	0		
							100	8	0		
							100	9	0		
					にぶい黄橙	D'	100	11	11		87.14～88.35m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					灰褐	CL'	100	6	0		
							100	4	0		●89.91～89.95m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明赤灰色の礫混じり粘土状を呈する。 ・明赤灰色粘土：累計厚35mm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。 ●90.26～90.84m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・にぶい黄橙～灰白色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。 ●91.26～91.52m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・にぶい黄橙～浅黄橙色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。 ●93.12～93.24m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰黄～灰白～にぶい黄橙色の粘土状～礫質粘土状を呈する。 ・灰赤～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。 95.23～99.46m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。 ●99.68～99.71m ・破砕部である。 ・正断層センスが推定される。 ・灰白～にぶい黄橙色の礫混り粘土状～礫質粘土状を呈する。 ・灰赤～にぶい黄橙色粘土：累計厚8mm ・傾斜は65° である。
					灰	D'	100	4	0		
					灰褐	CL'	100	3	0		
					褐灰	D'	100	1	0		
						CL'	100	4	0		
					灰褐	D'	100	3	0		
						CL'	100	5	0		
							100	5	0		
							100	3	0		
					灰黄褐		100	4	0		
					灰褐		100	5	0		

第7.4.4.26図(3)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H24-D1-1）

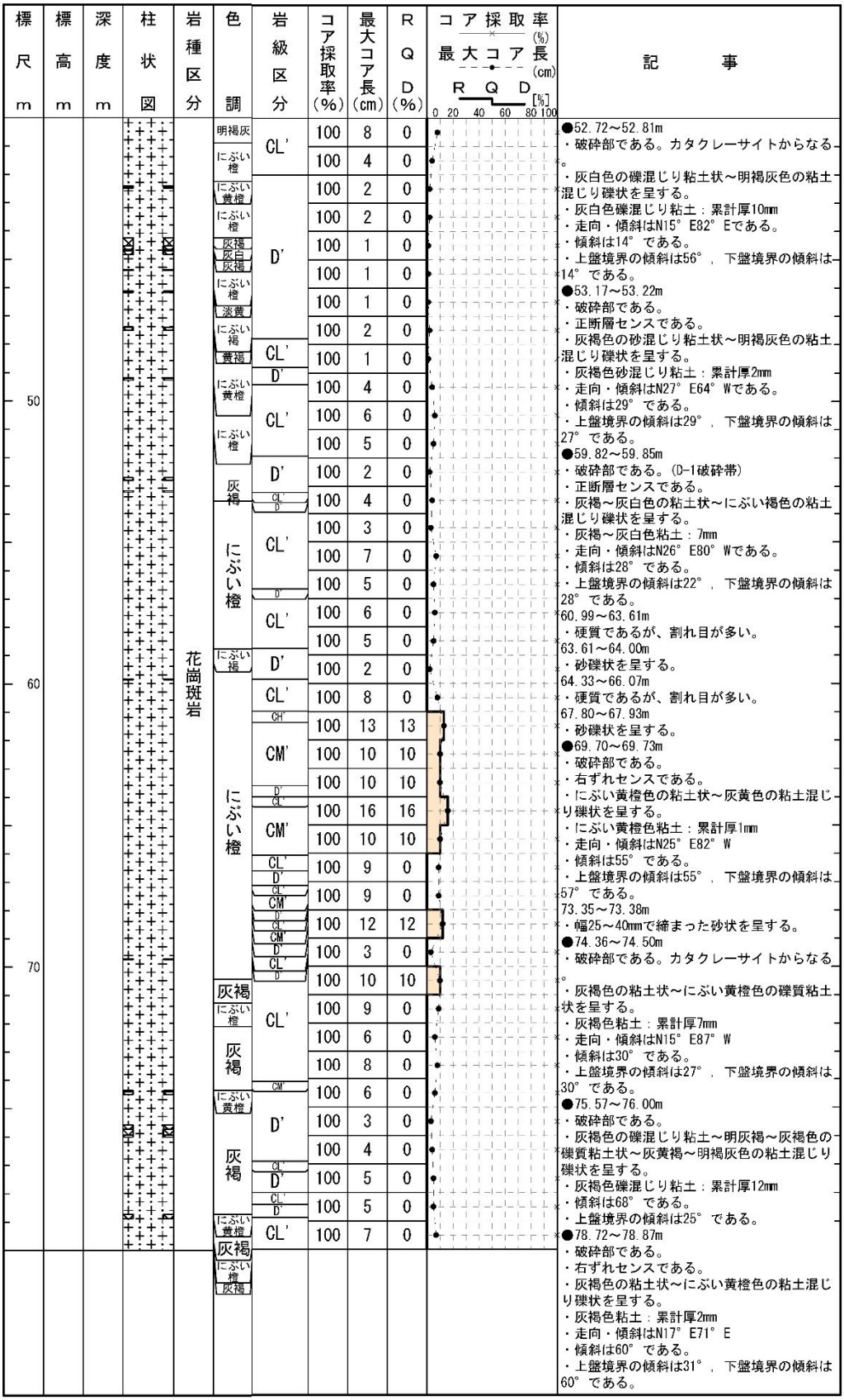
H27-B-1

孔口標高	T.P. 20.22m	掘削長	140.00m

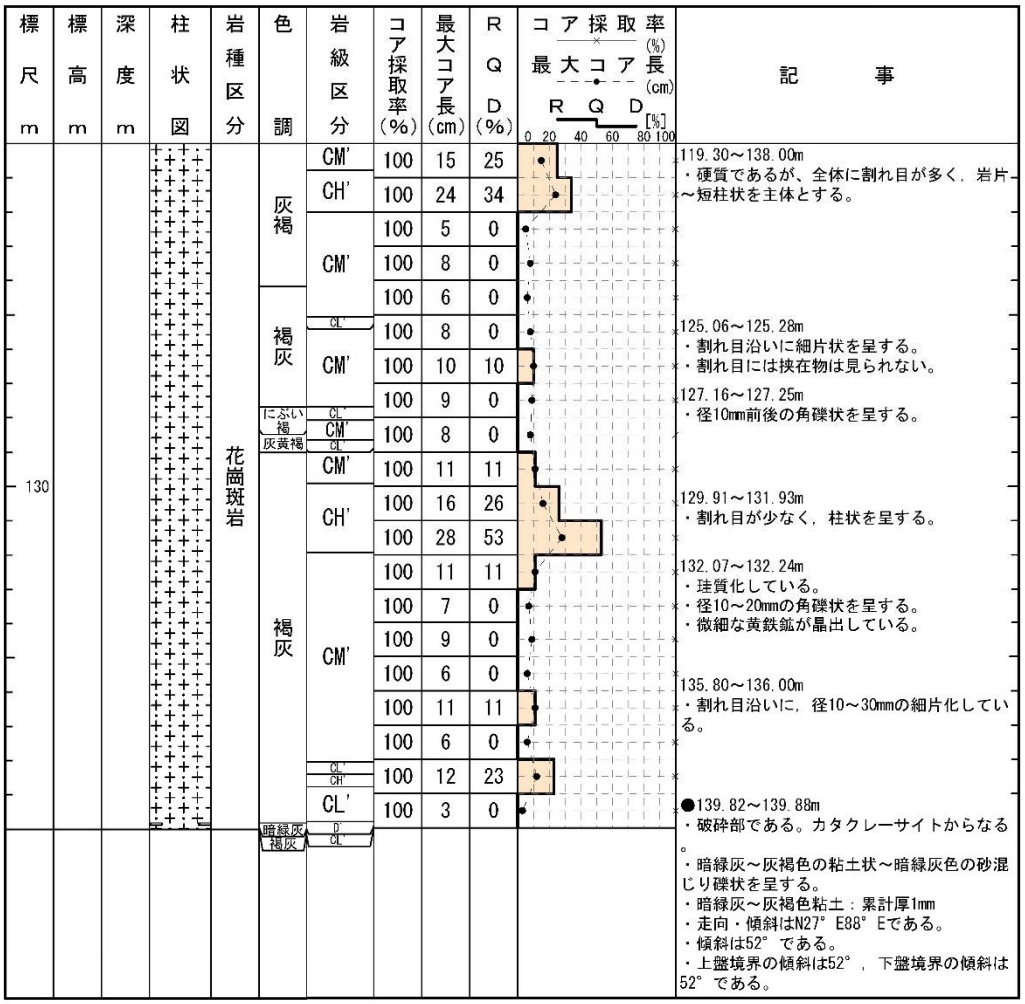

標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率 (%)
最大コア長 (cm)
RQD [%]
0 20 40 60 80 100
記事
盛土
砂礫
礫混り砂
砂礫
礫混り砂
有機質土
礫混り砂
砂礫
砂
花崗斑岩
にぶい黄褐
明褐灰
黄橙
にぶい黄橙
灰褐
明褐灰
黒褐
にぶい黄橙
灰黄褐
明黄褐
褐灰
灰黄褐
黄褐
灰黄褐
にぶい褐
にぶい黄褐
明褐
にぶい黄橙
にぶい橙
明褐灰
黄褐
にぶい黄橙
明褐灰
にぶい黄橙
明褐灰
17.32 4.10
17.18 4.24
16.93 4.65
15.41 6.80
15.16 7.15
15.09 7.22
14.14 8.60
11.66 12.10
11.39 12.49
D'
CL'
D'
CL'
D'
CL'



第7.4.4.27図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-1)



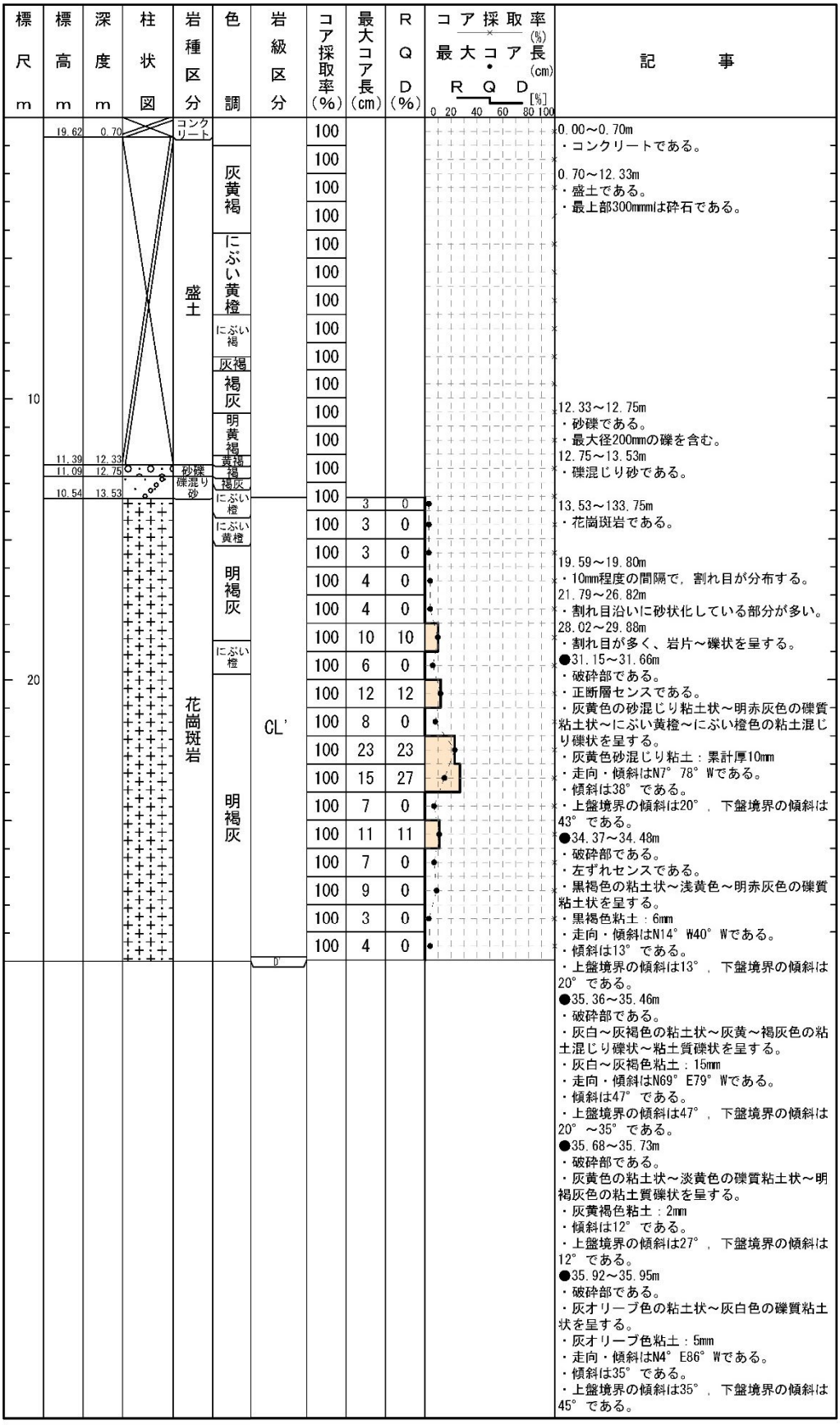
第7.4.4.27図(3)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-1)



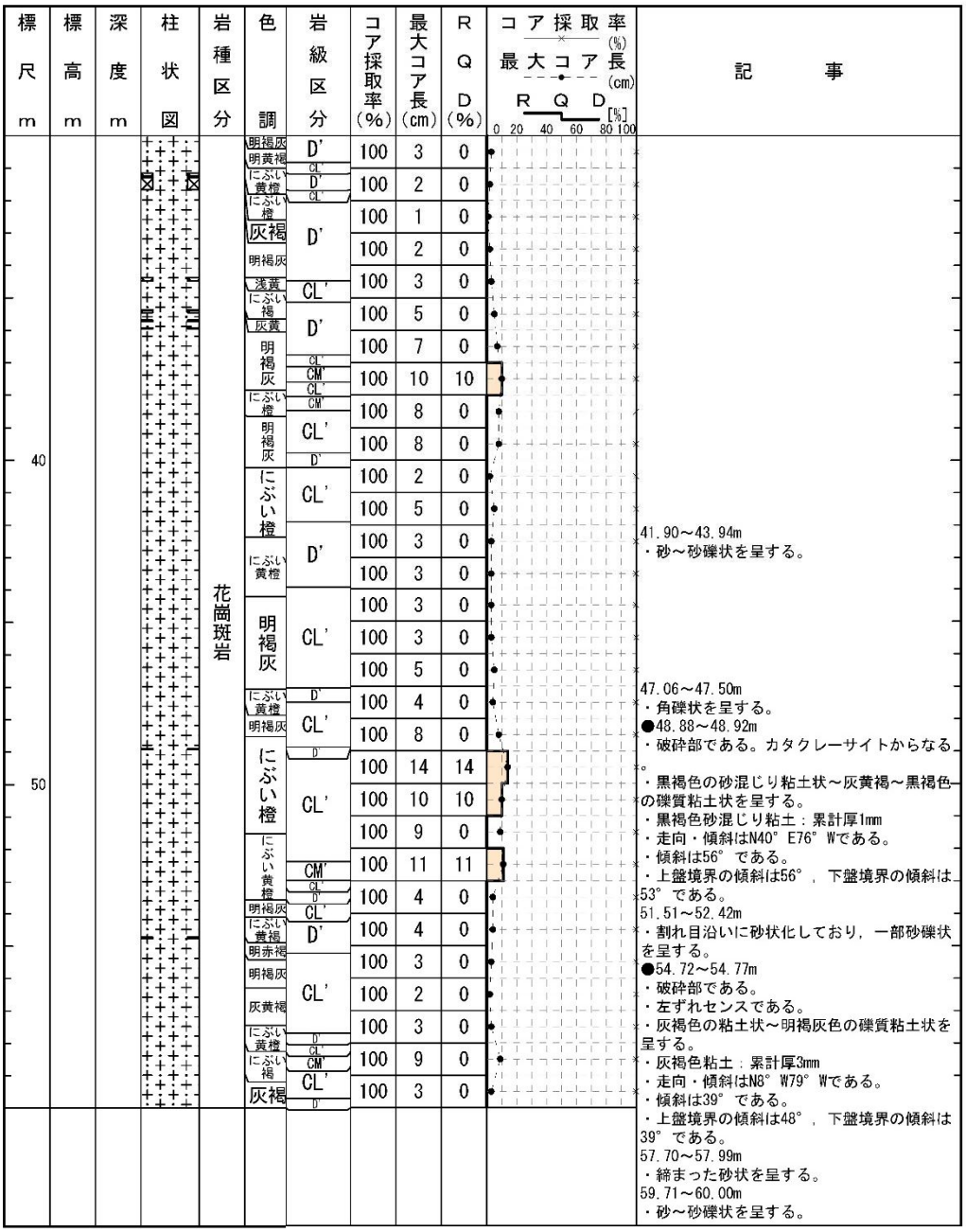
第7.4.4.27図(4)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-1)

H27-B-2

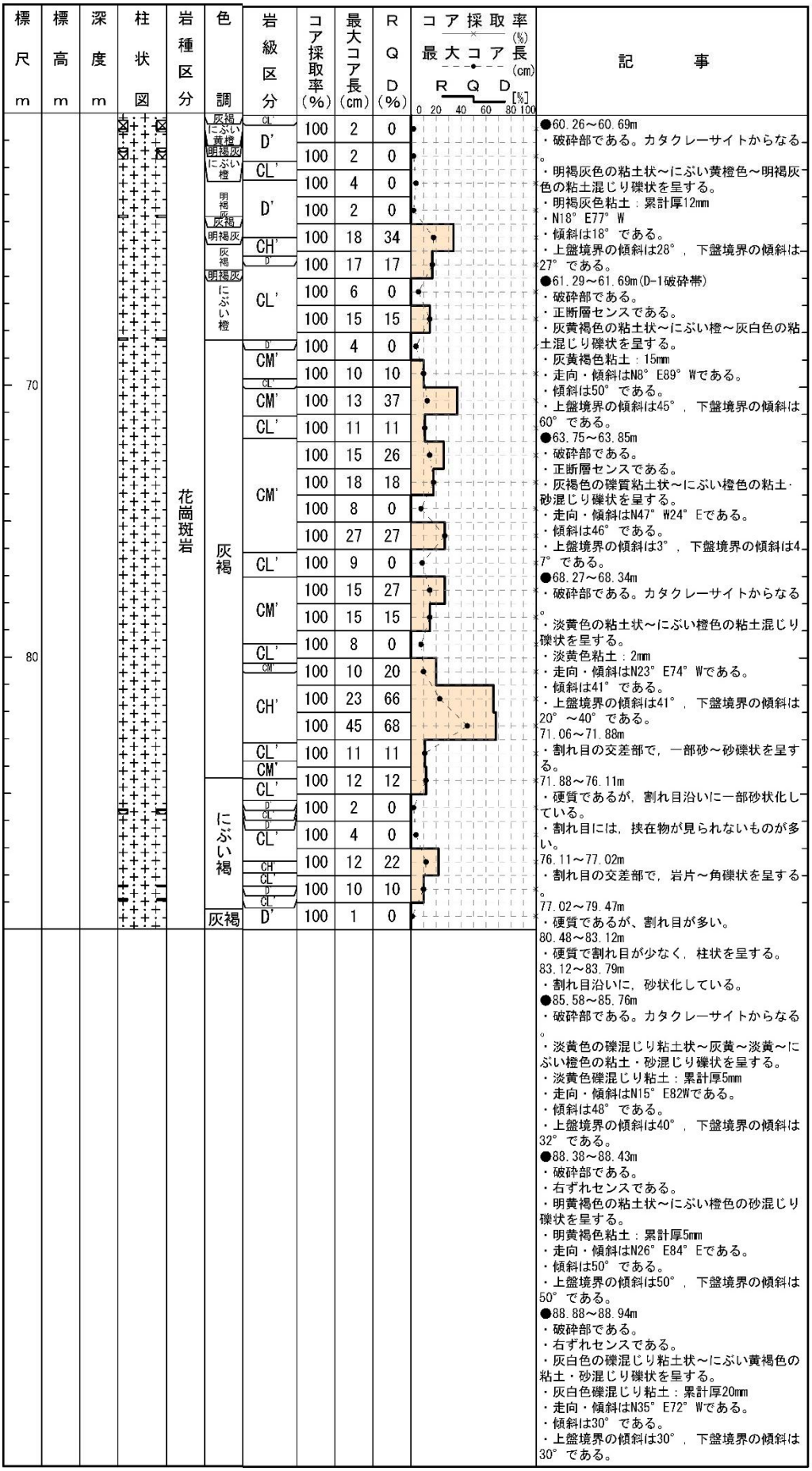
孔口標高	T.P. 20.11m	掘削長	160.00m



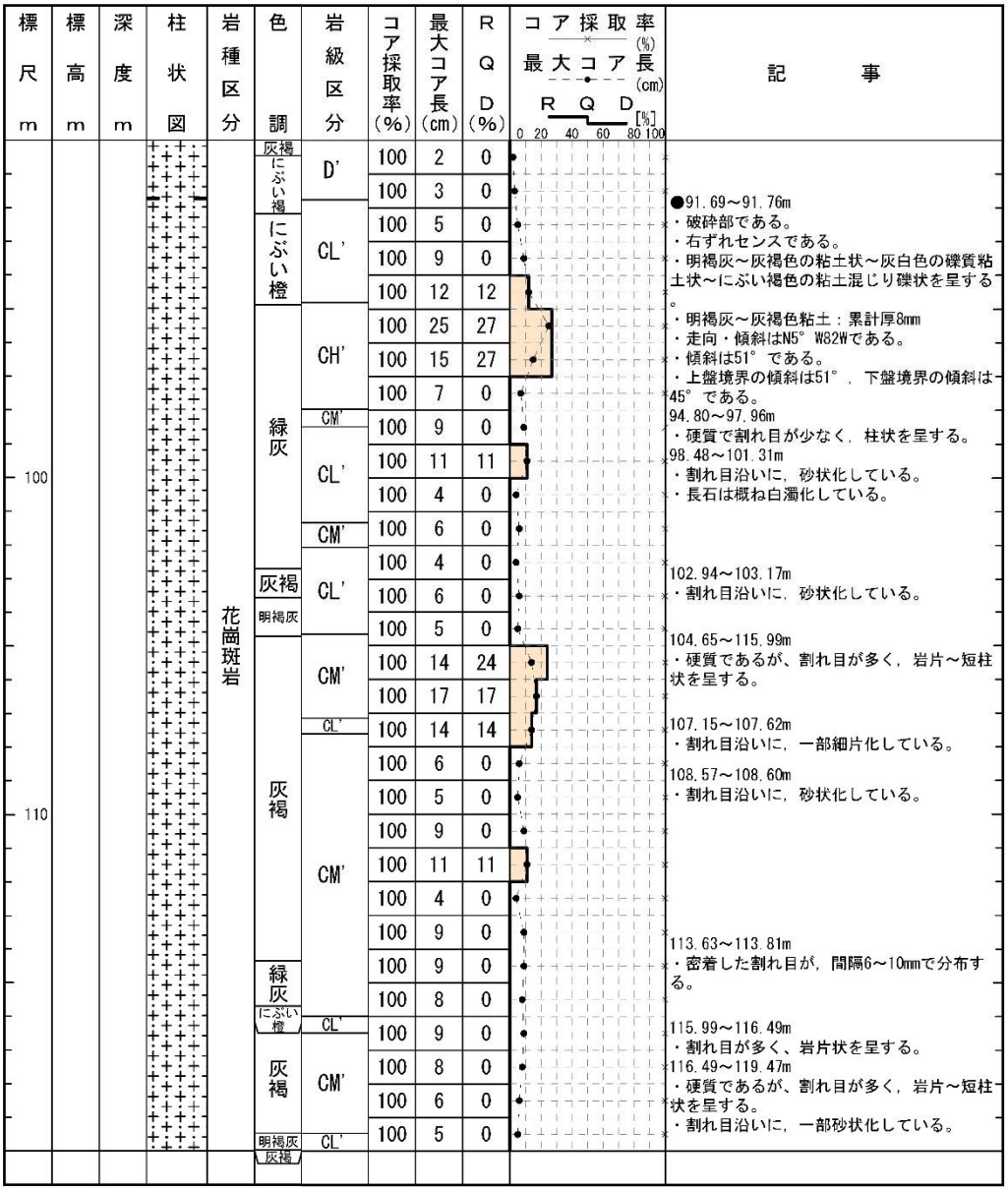
第7.4.4.28図(1)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H27-B-2)



第7.4.4.28図(2)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-2)

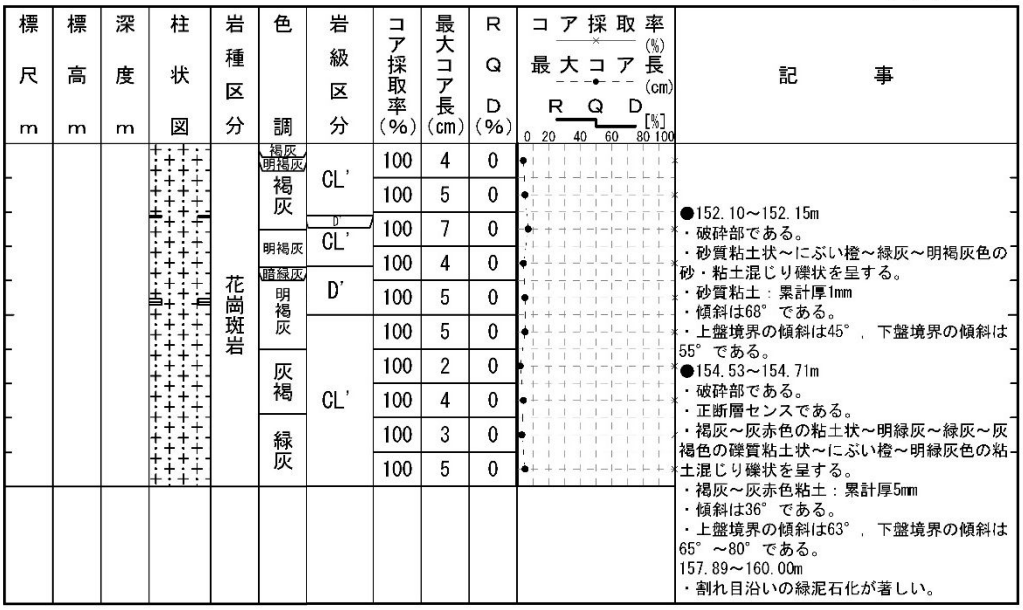


第7.4.4.28図(3)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図 (H27-B-2)



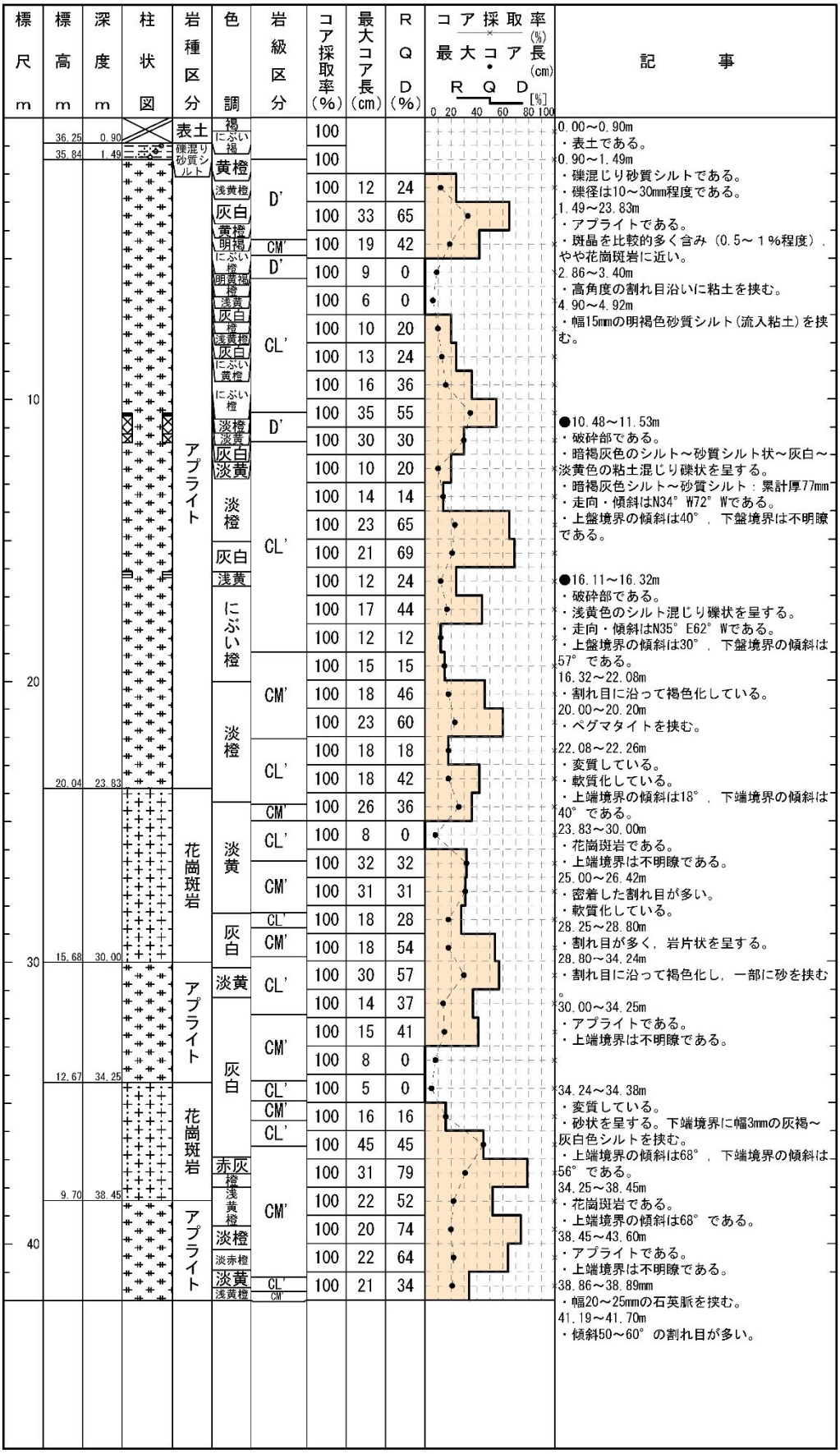
第7.4.4.28図(4)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H27-B-2）


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率 (%)
最大コア長 (cm)
RQD (%)
コア採取率 (%)
最大コア長 (cm)
RQD [%]
0 20 40 60 80 100
記事
130
140
-74.47
-74.80
133.75
134.23
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
灰褐
にぶい橙
灰褐
にぶい黄橙
灰褐
灰赤
明褐灰
にぶい黄橙
明褐灰
緑黒
灰褐
褐灰
明褐灰
褐灰
CM'
D'
CH'
CL'
CM'
CL'
CM'
CL'
CM'
CL'
CL'
D'
CL'
CL'
D'
CL'
D'
CL'
CL'
CL'
CL'
CL'
D'
CL'
D'
CL'
D

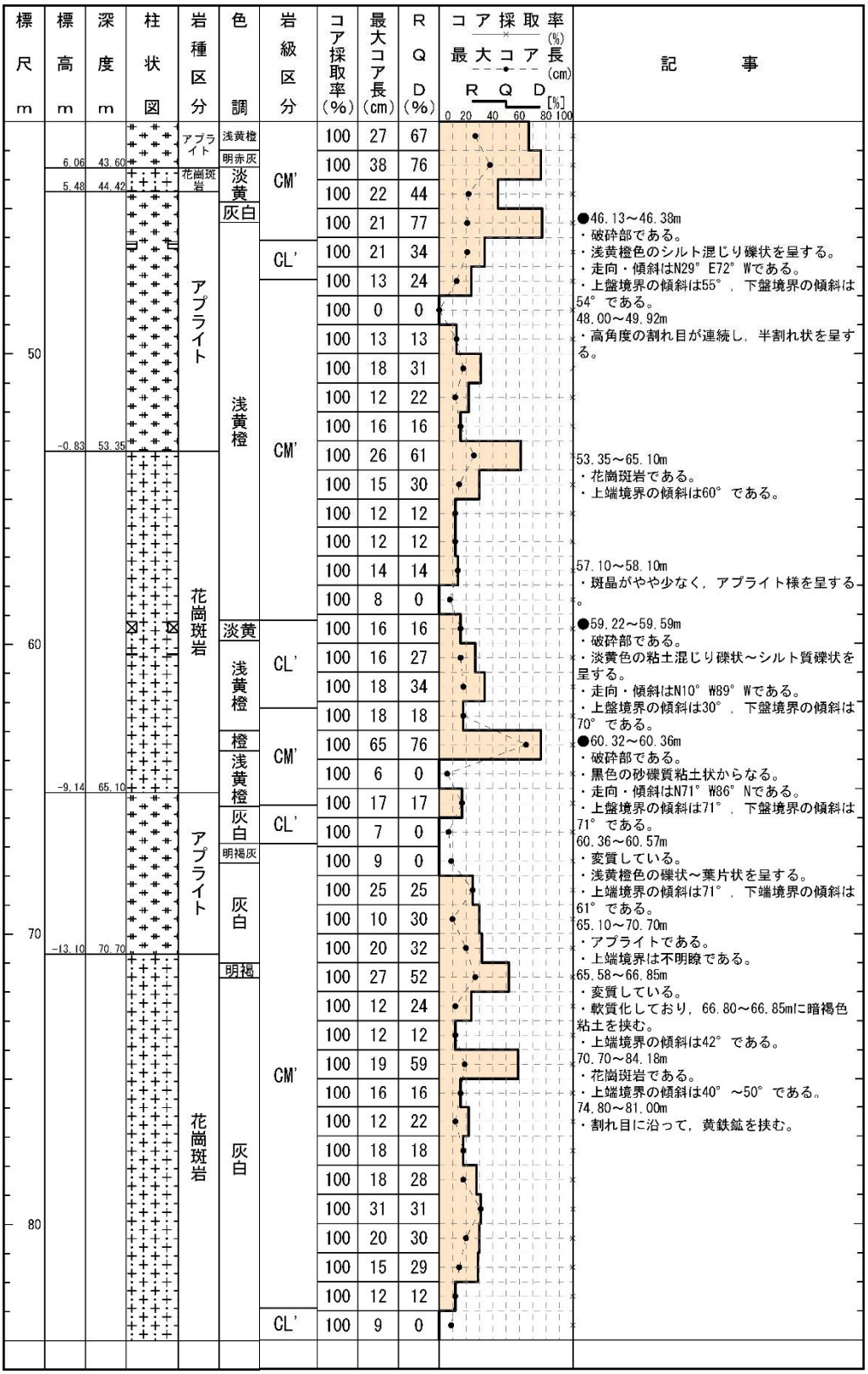


第7.4.4.28図(6)_D－1破砕帯　ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間)
コア柱状図（H27-B-2）

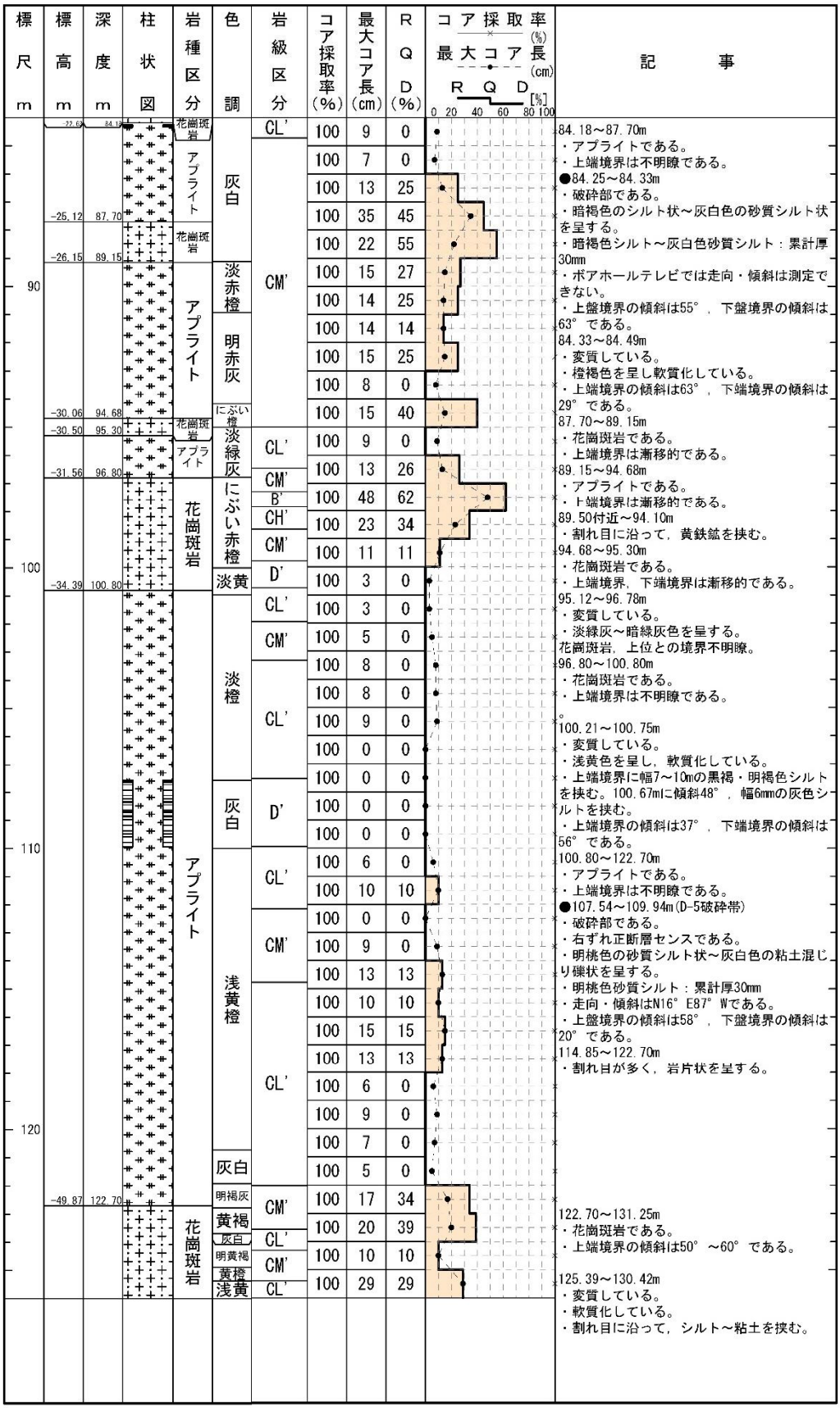
H19-No.4	孔口標高	T.P. 36.89m	掘削長	250.00m



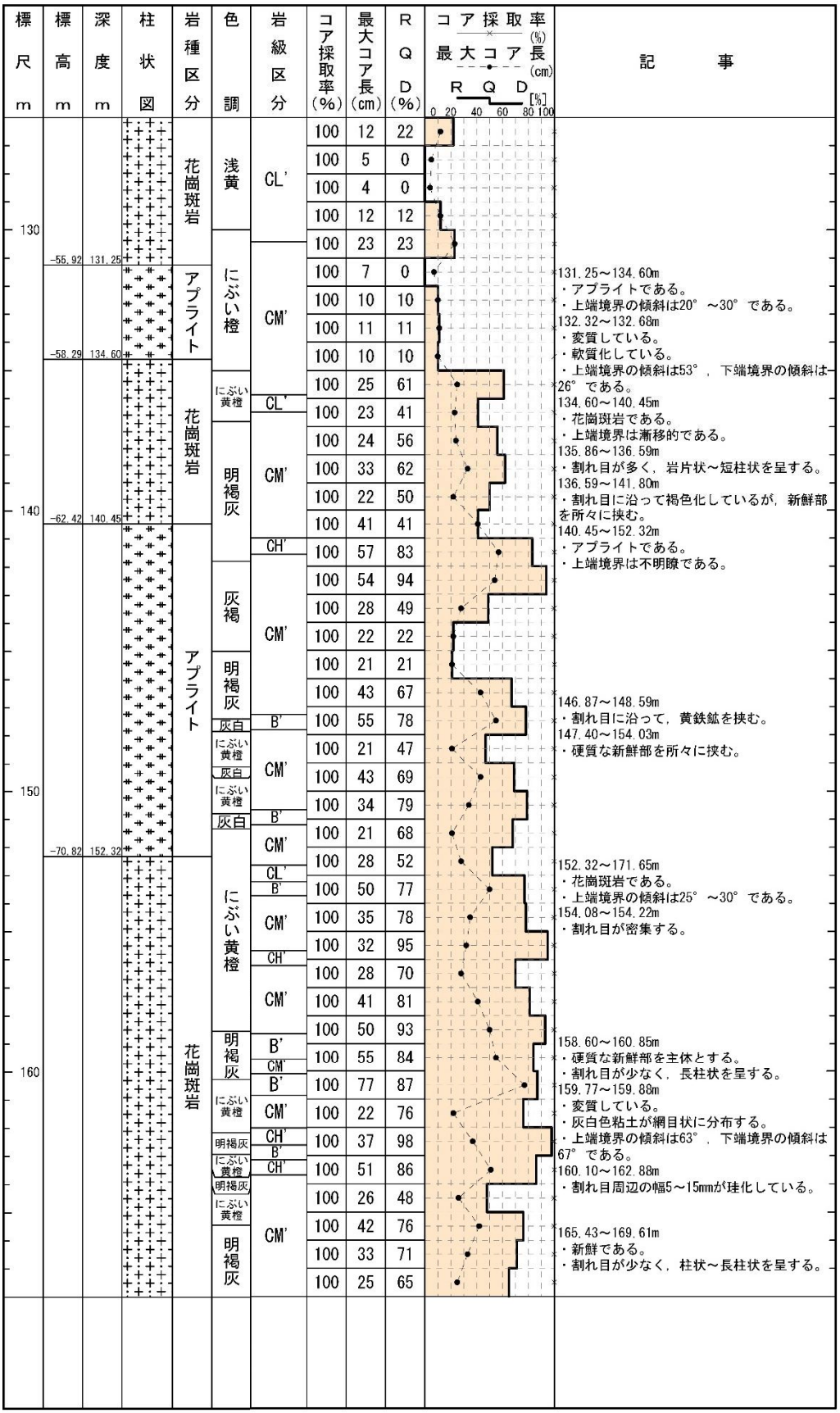
第7.4.4.155図(1)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.4）



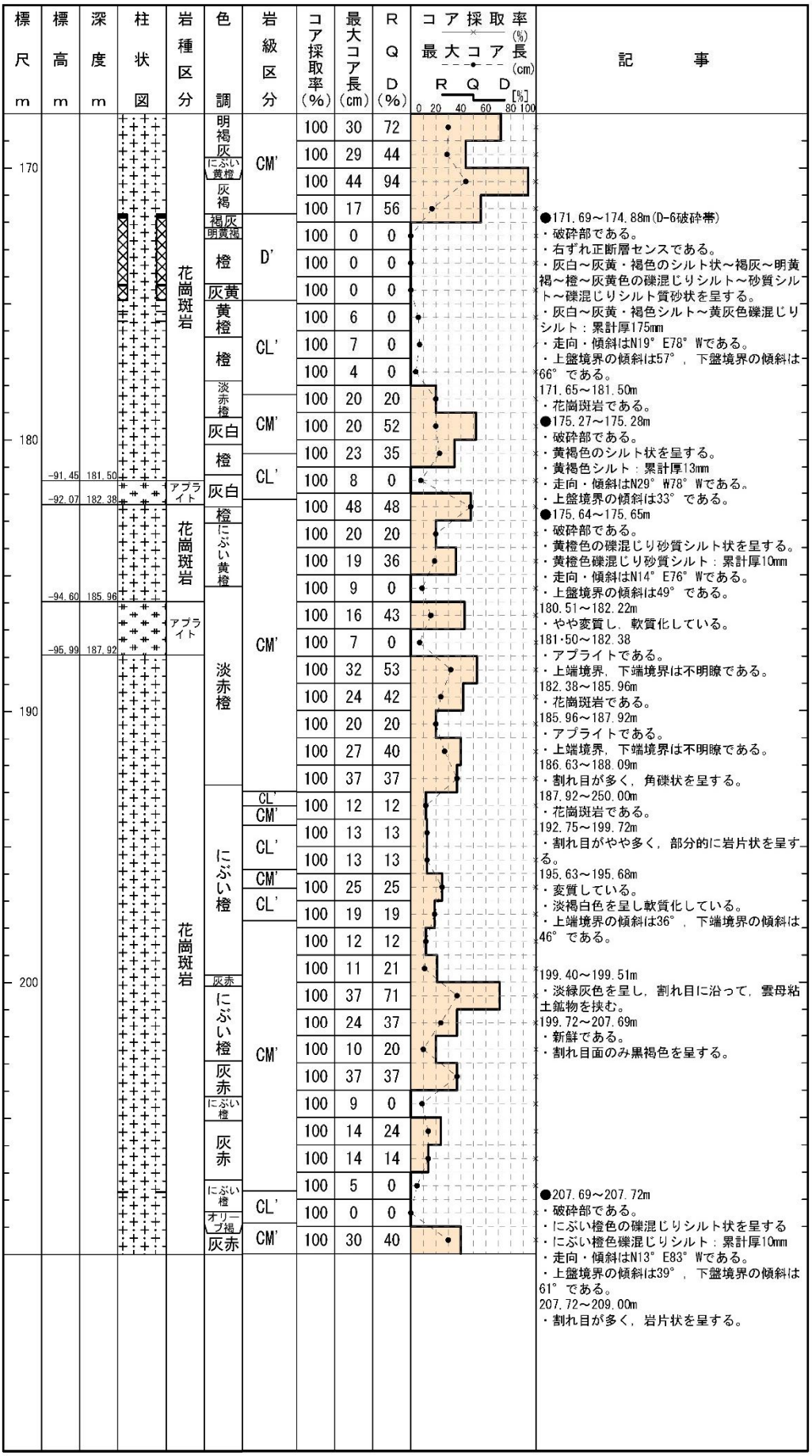
第7.4.4.155図(2)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.4）



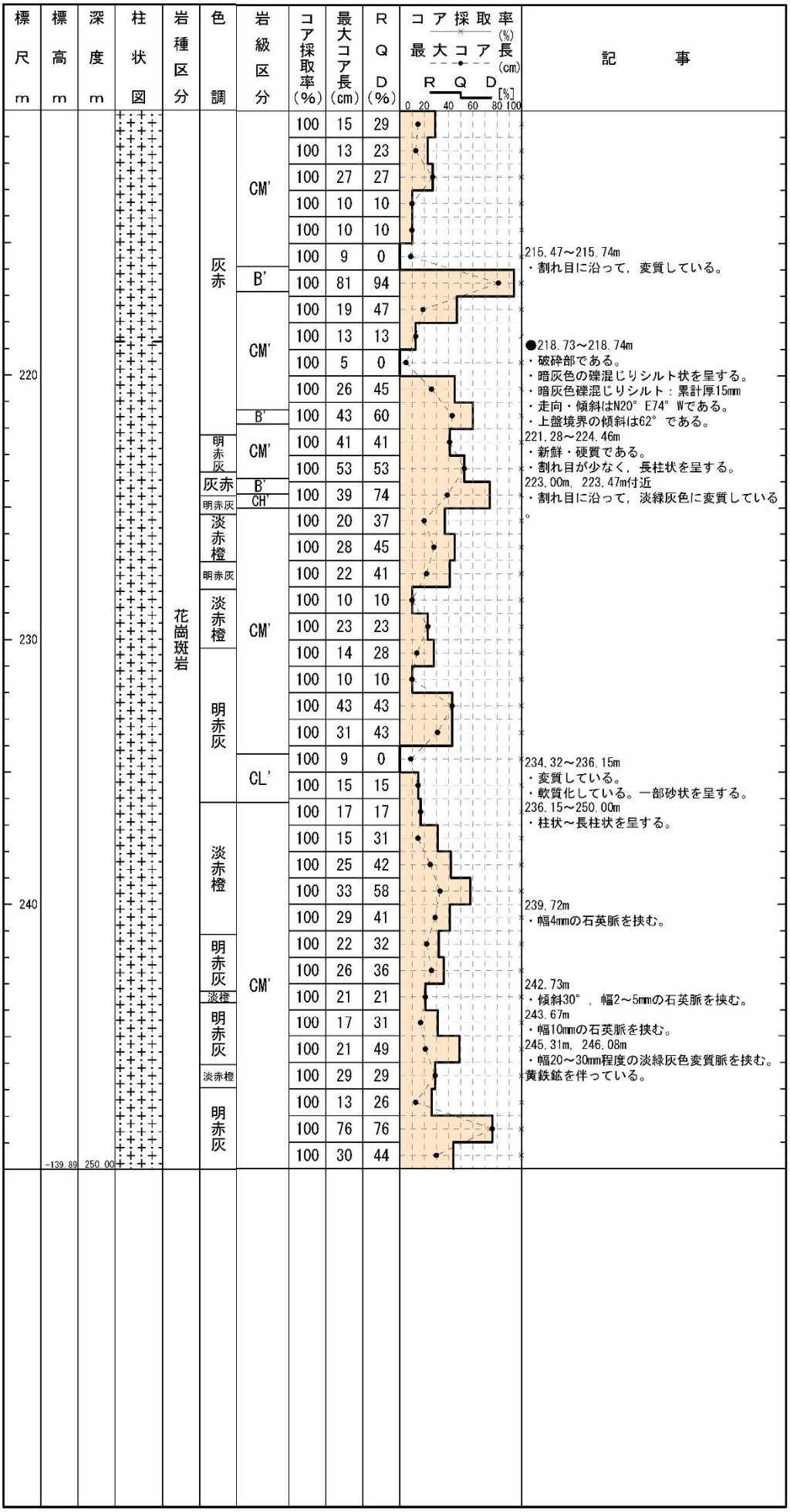
第7.4.4.155図(3)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.4）



第7.4.4.155図(4)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.4）



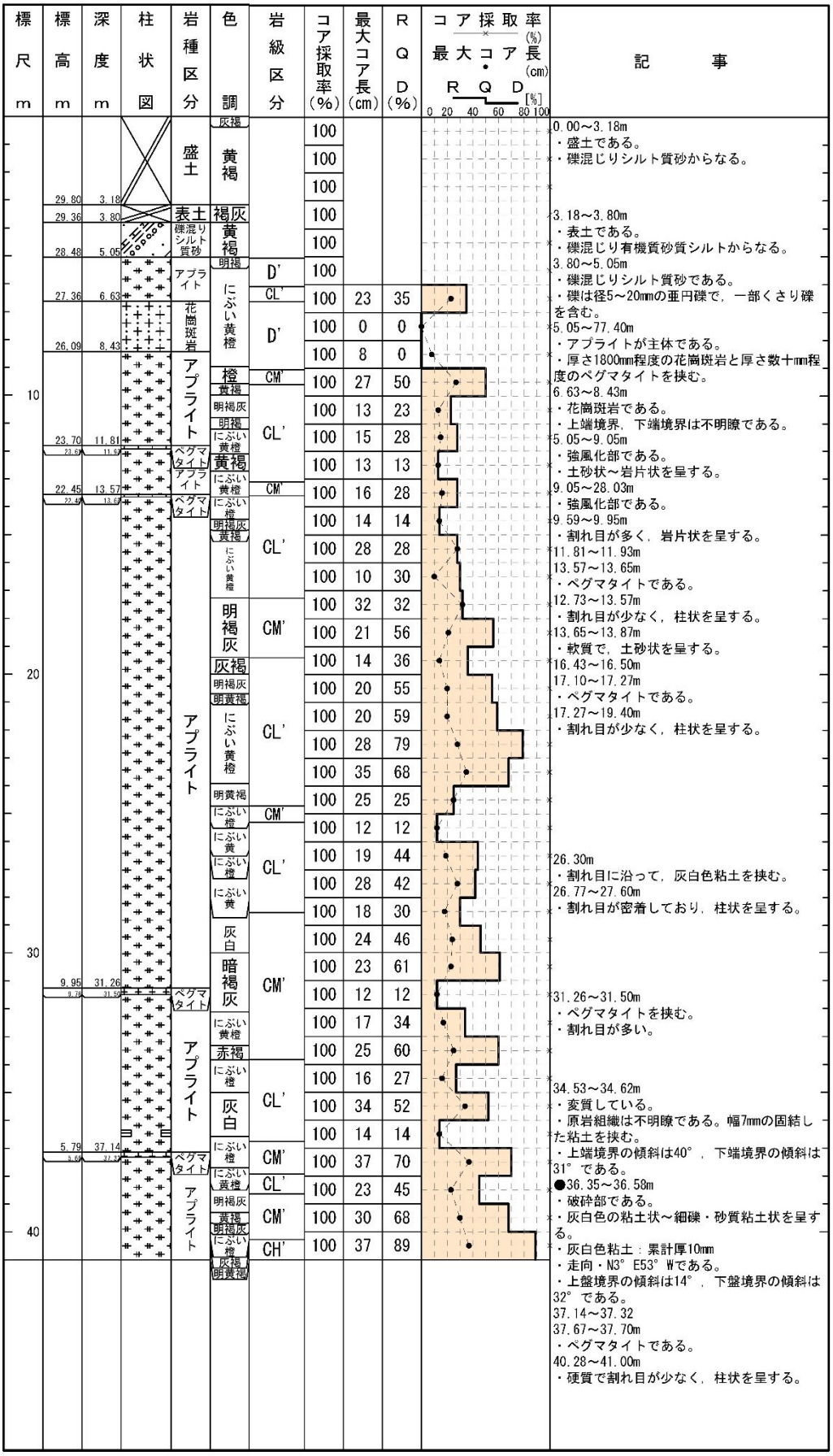
第7.4.4.155図(5)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.4）



第7.4.4.155図(6)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.4）

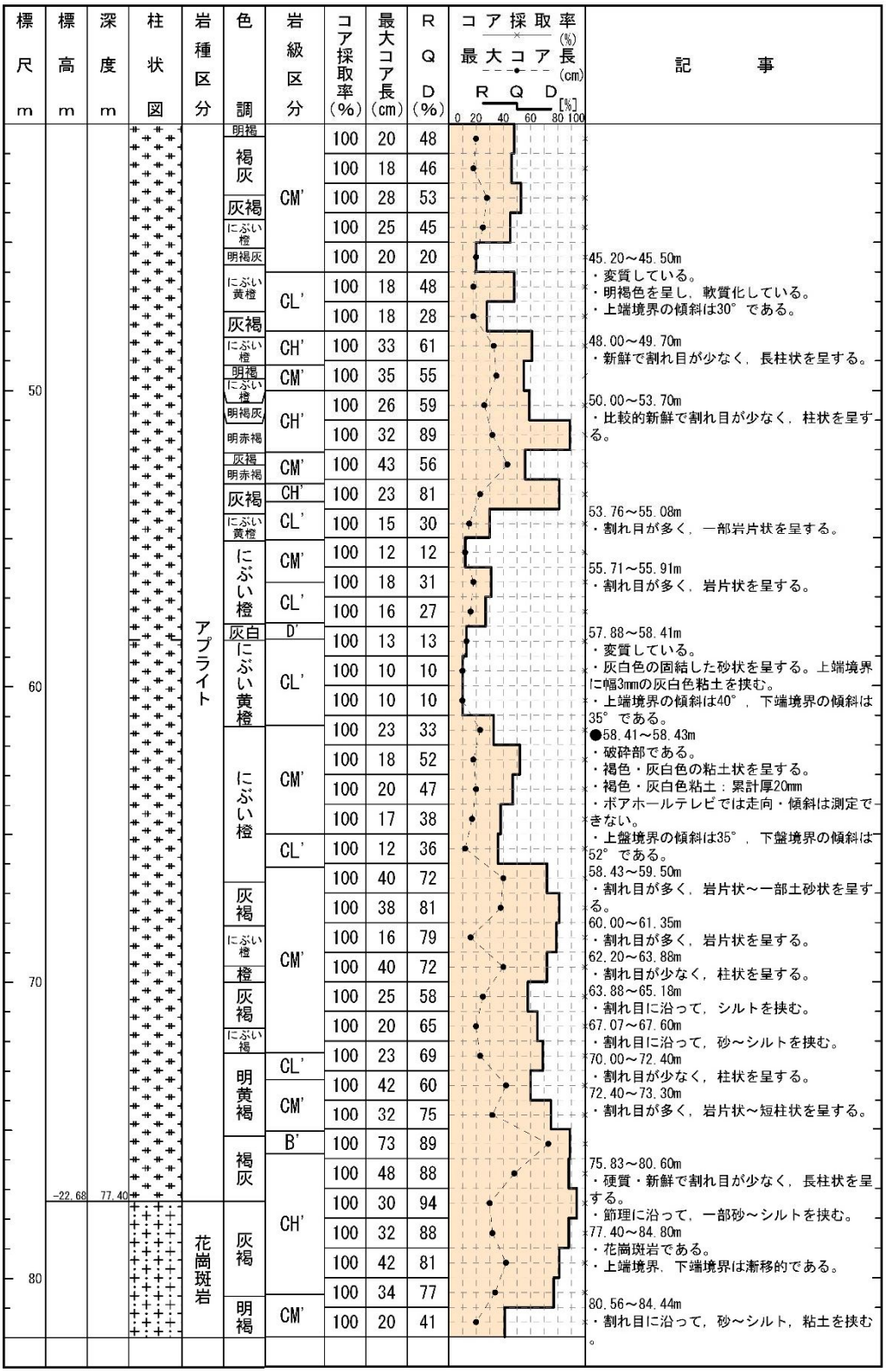
H19-No.12

孔口標高	T.P. 32.05m	掘削長	250.00m

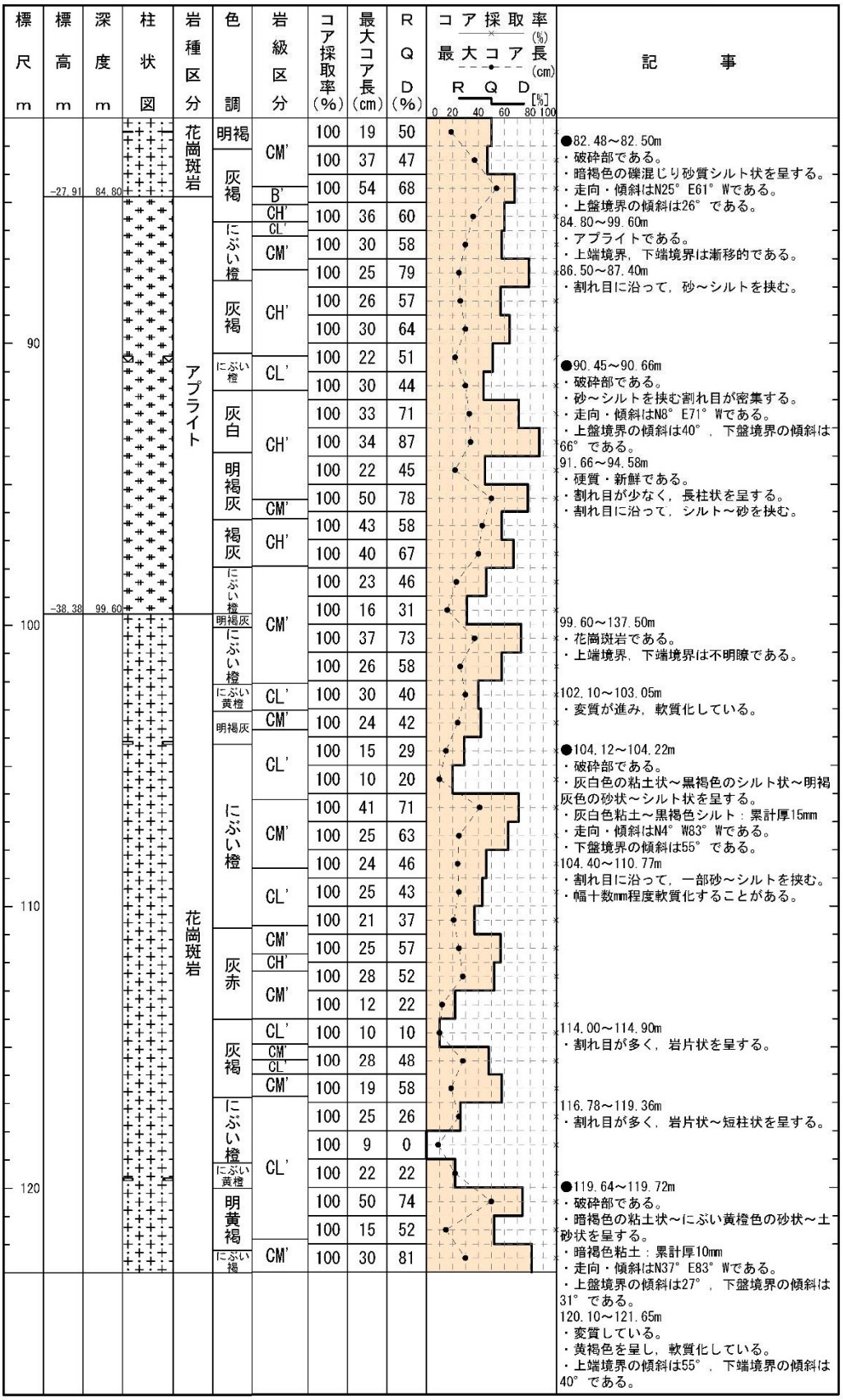


標尺 m	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	岩級区分
0	100			
	100			
	100			
	100			
	100			
	100			D'
	100	23	35	CL'
	100	0	0	D'
	100	8	0	
	100	27	50	CM'
10	100	13	23	
	100	15	28	CL'
	100	13	13	
	100	16	28	CM'
	100	14	14	
	100	28	28	CL'
	100	10	30	
	100	32	32	
	100	21	56	CM'
	100	14	36	
20	100	20	55	
	100	20	59	CL'
	100	28	79	
	100	35	68	
	100	25	25	
	100	12	12	CM'
	100	19	44	
	100	28	42	CL'
	100	18	30	
	100	24	46	
30	100	23	61	
	100	12	12	CM'
	100	17	34	
	100	25	60	
	100	16	27	
	100	34	52	CL'
	100	14	14	
	100	37	70	CM'
	100	23	45	CL'
	100	30	68	CM'
40	100	37	89	CH'

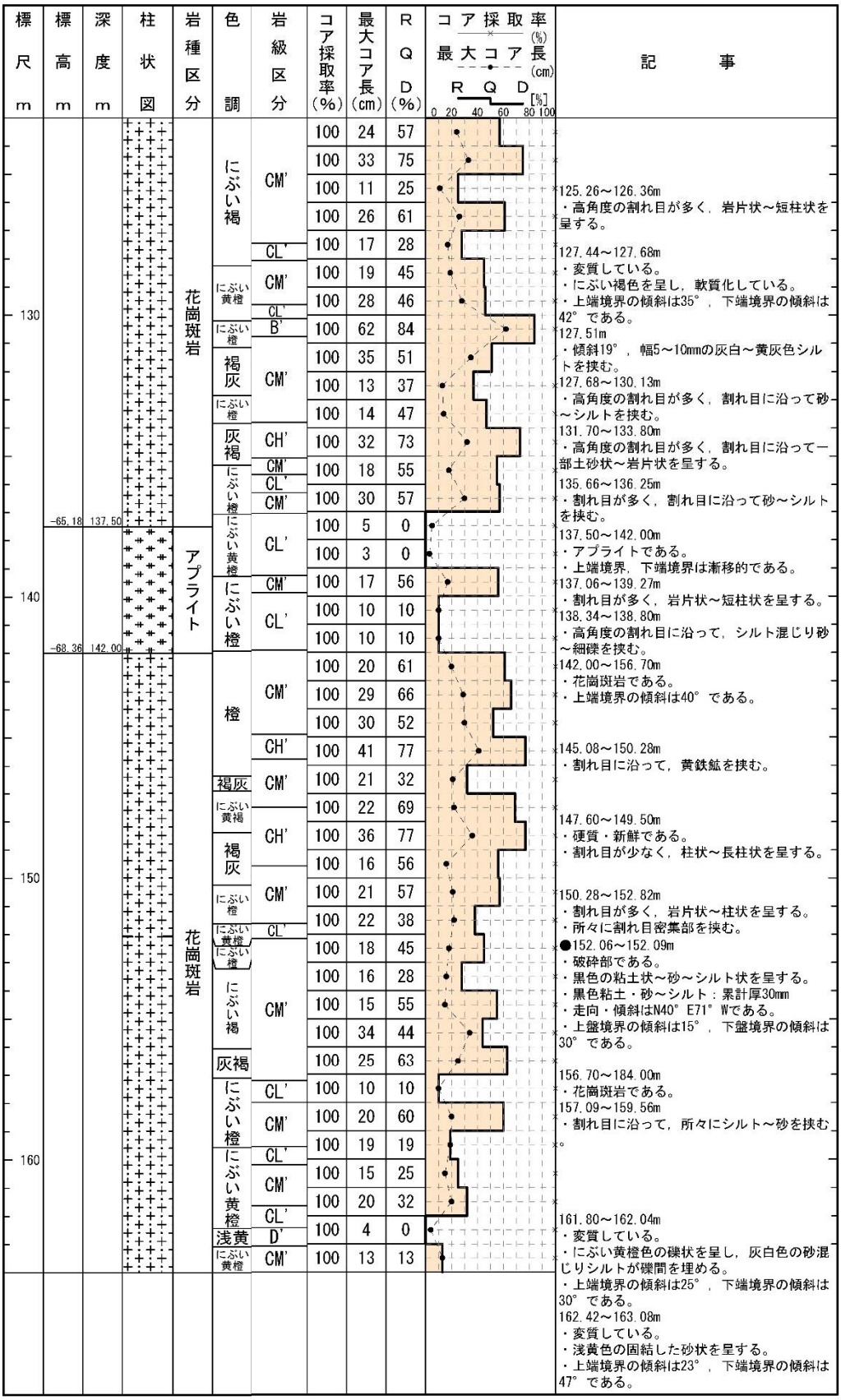
第7.4.4.156図(1)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.12）



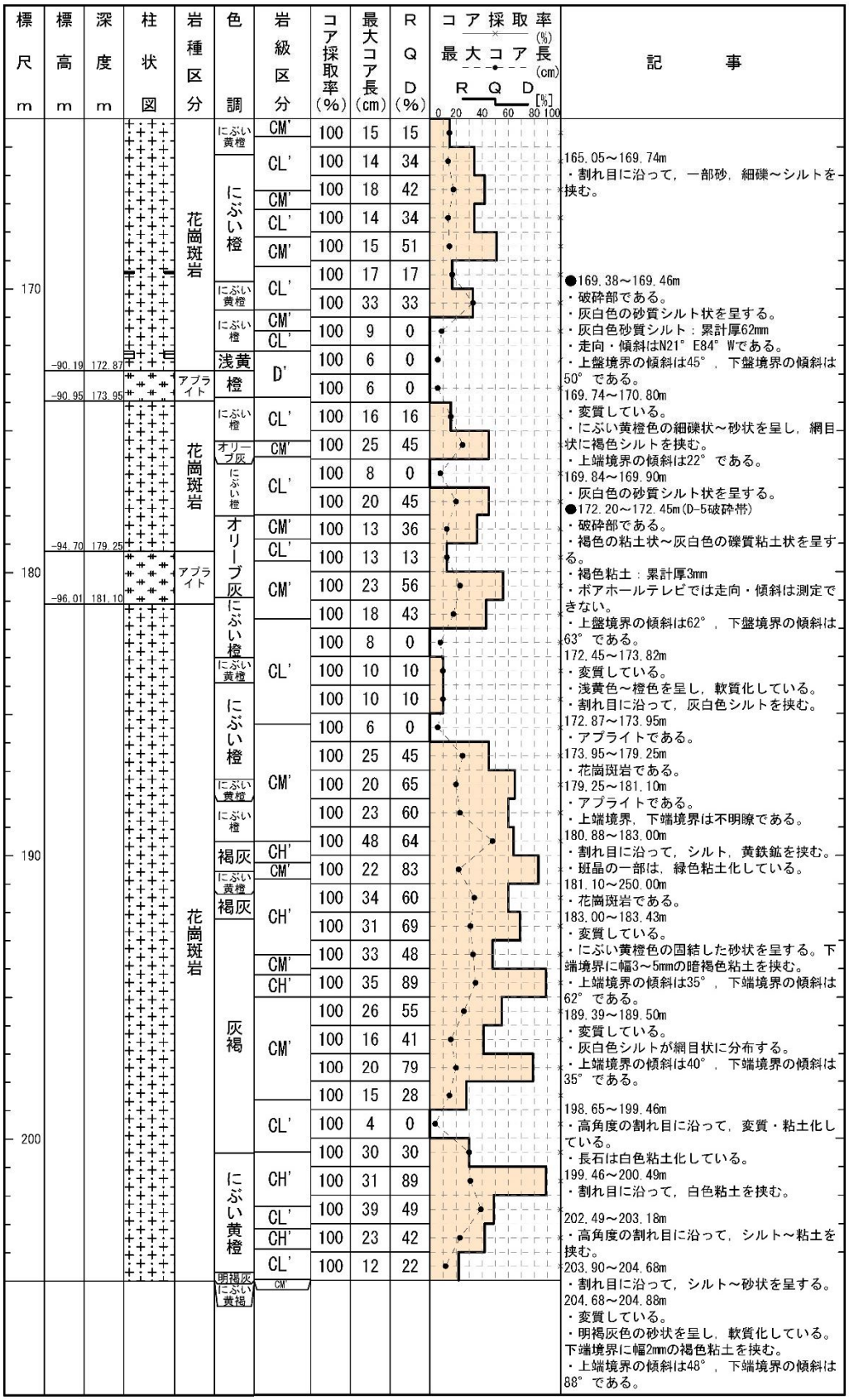
第7.4.4.156図(2)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.12）



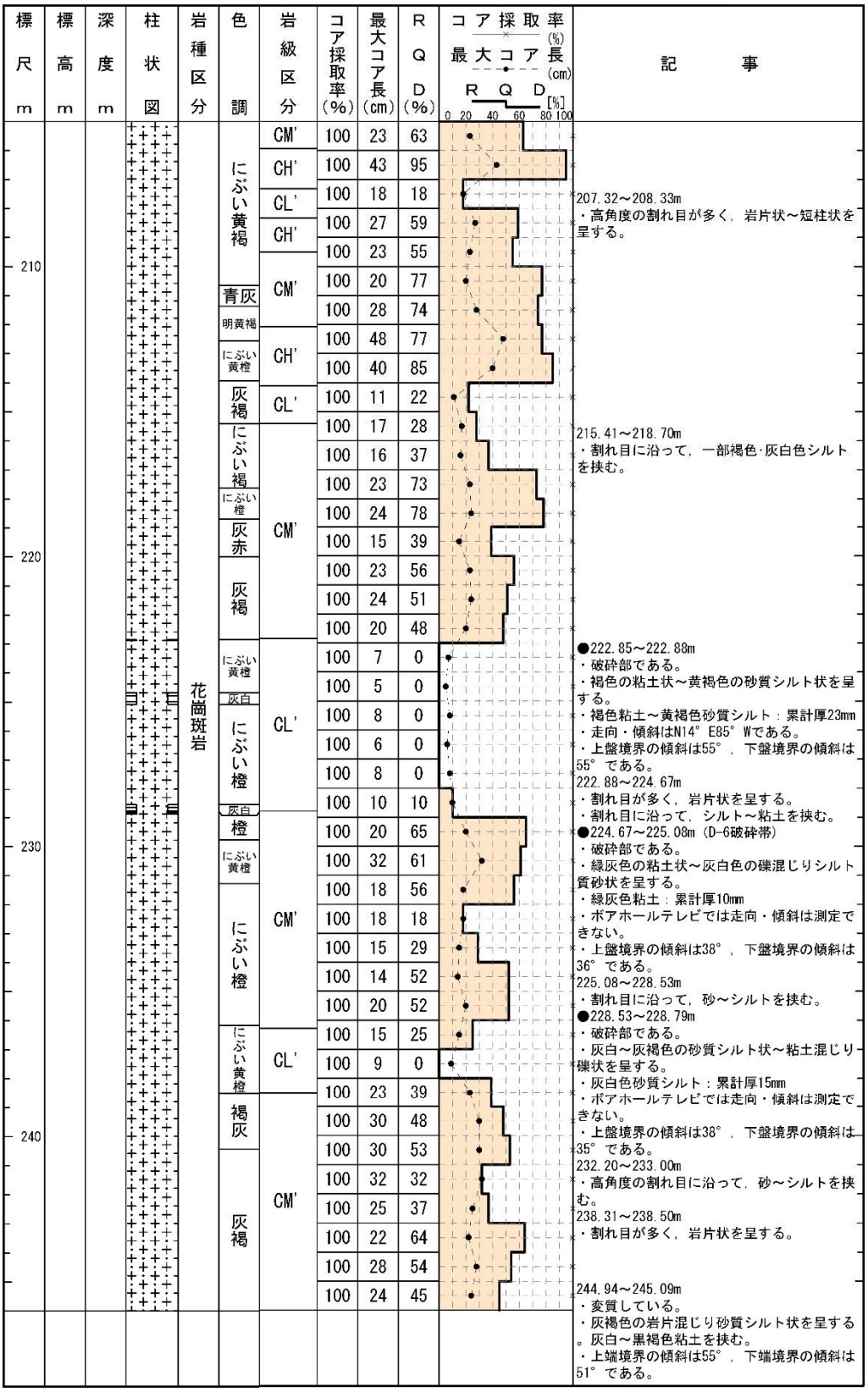
第7.4.4.156図(3)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.12）



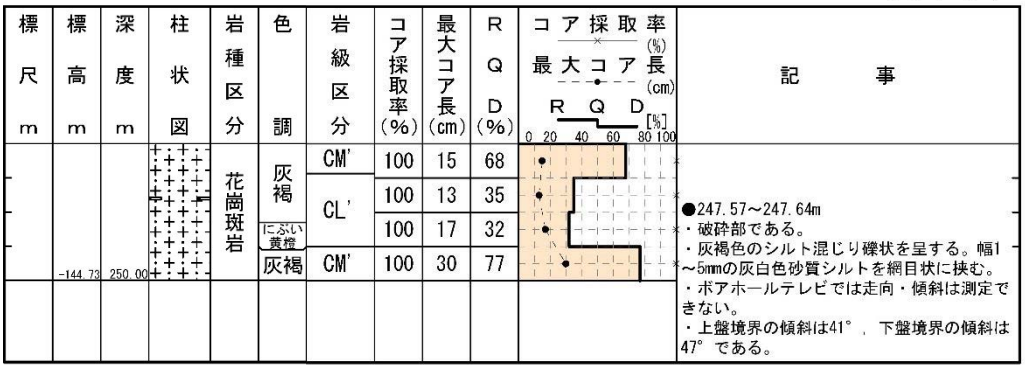
第7.4.4.156図(4)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.12）



第7.4.4.156図(5)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.12）



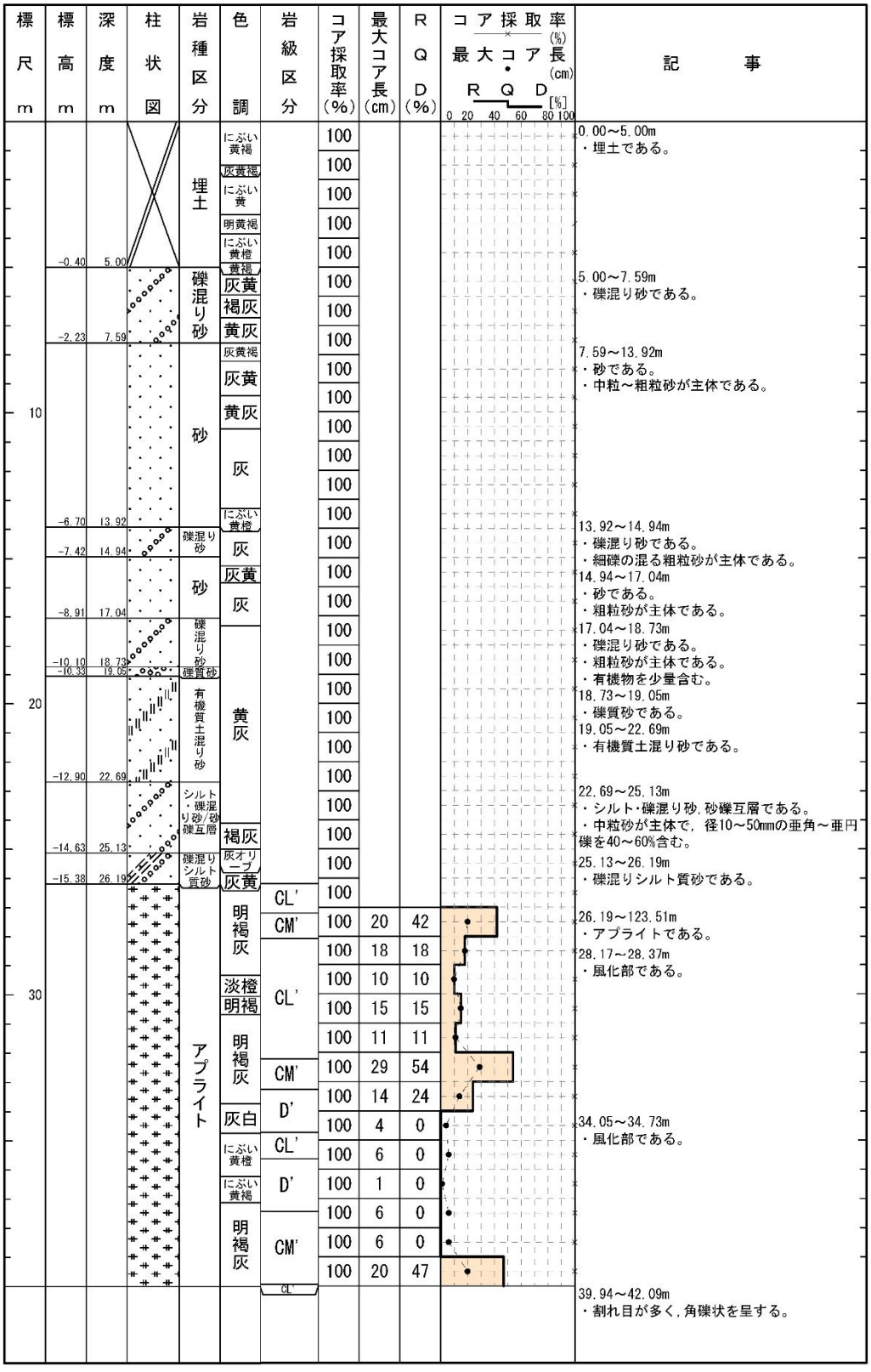
第7.4.4.156図(6)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.12）



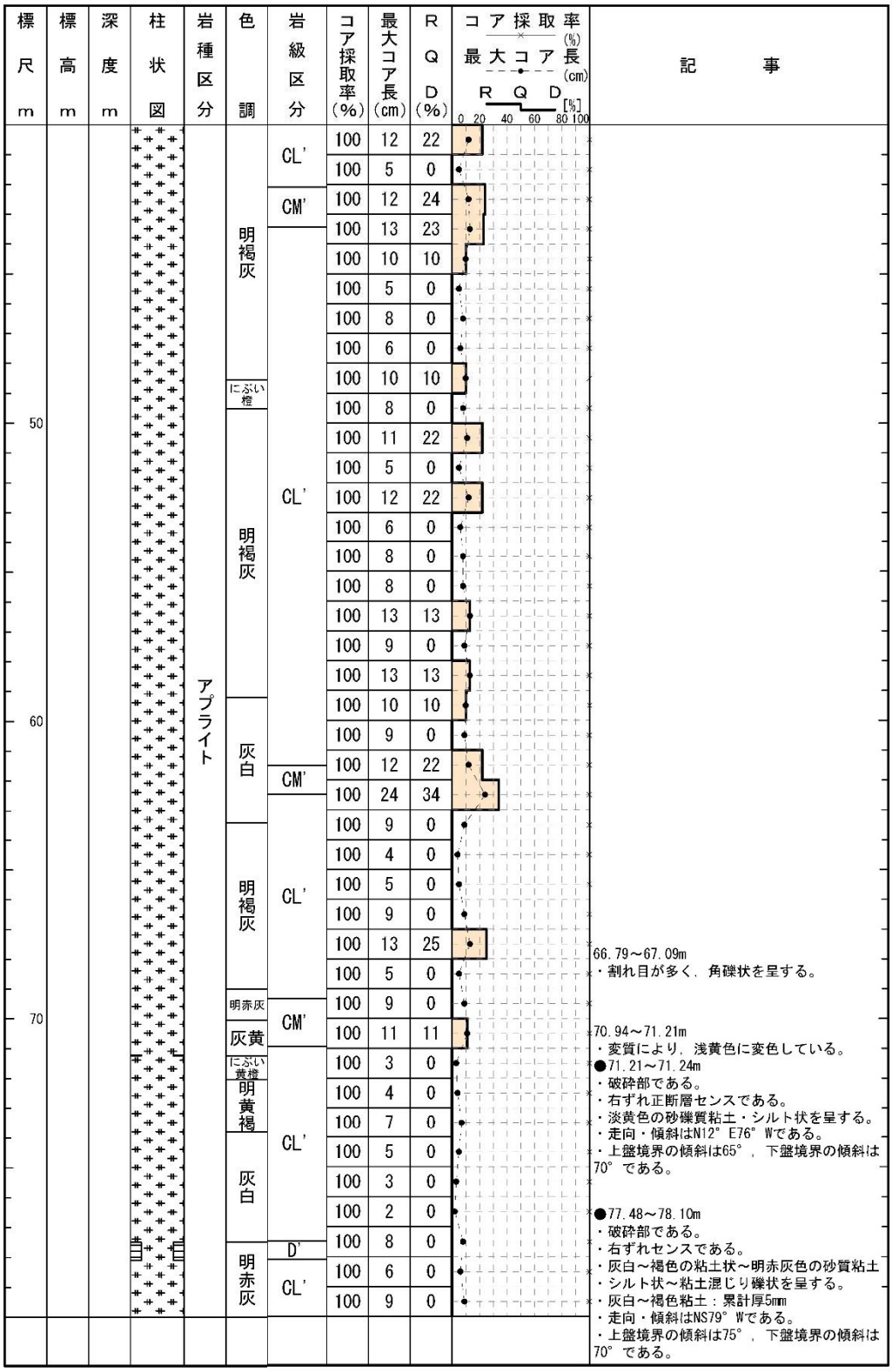
第7.4.4.156図(7)_D－6破砕帯及びD-5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近)
コア柱状図（H19-No.12）

H24-B11-2

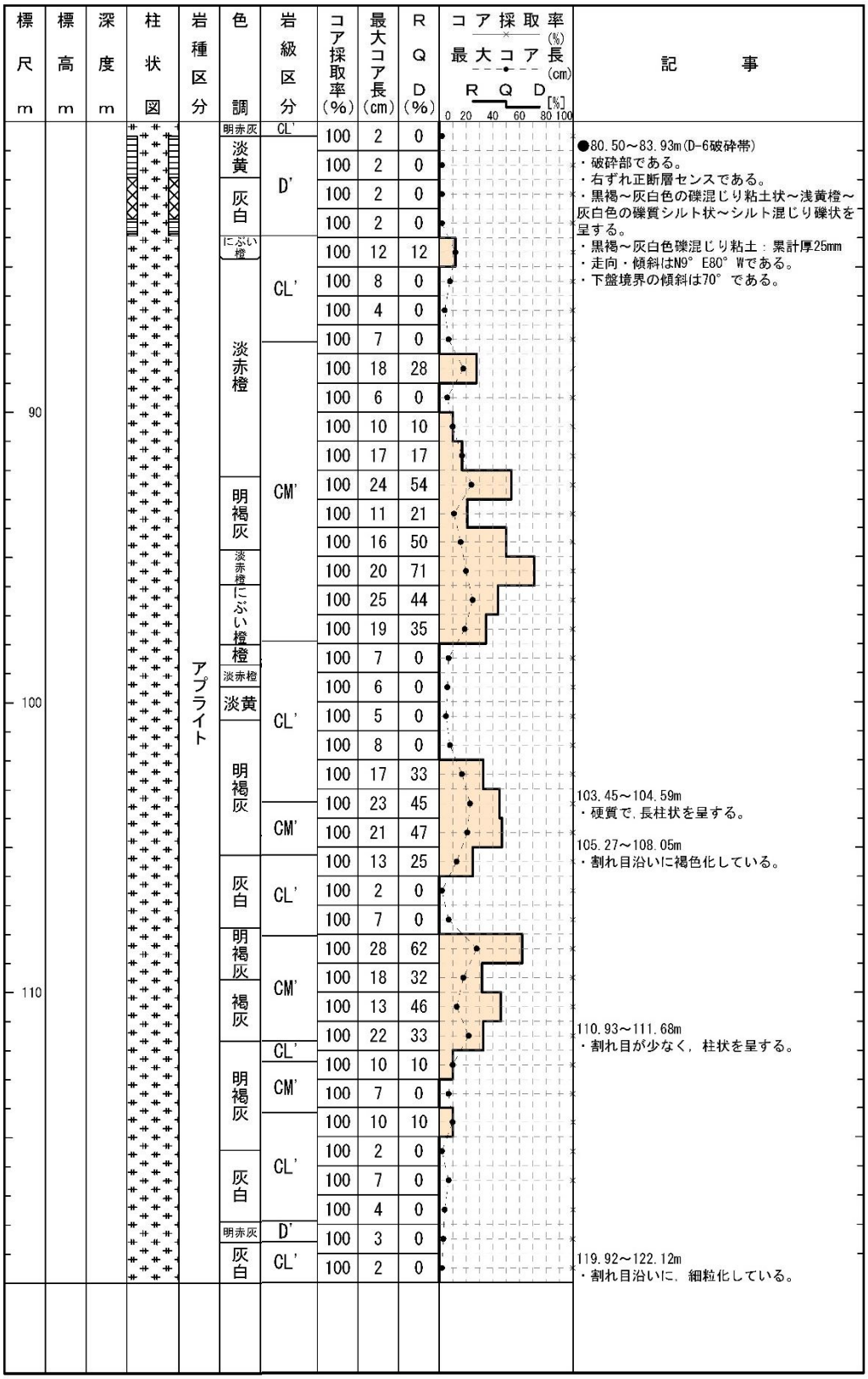
孔口標高	T.P. 3.14m	掘削長	150.00m



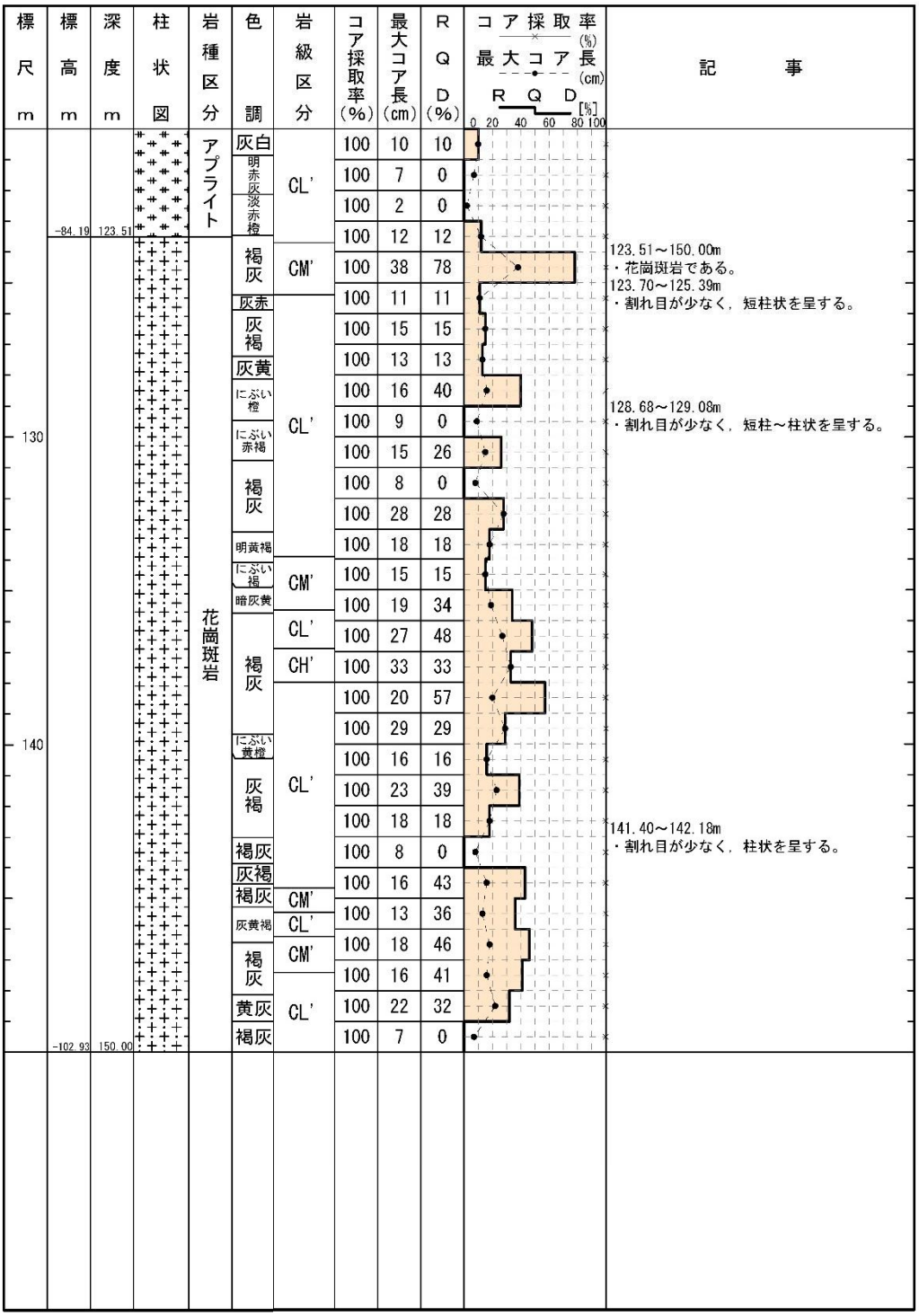
第7.4.4.154図(1)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-2)



第7.4.4.154図(2)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図（H24-B11-2）



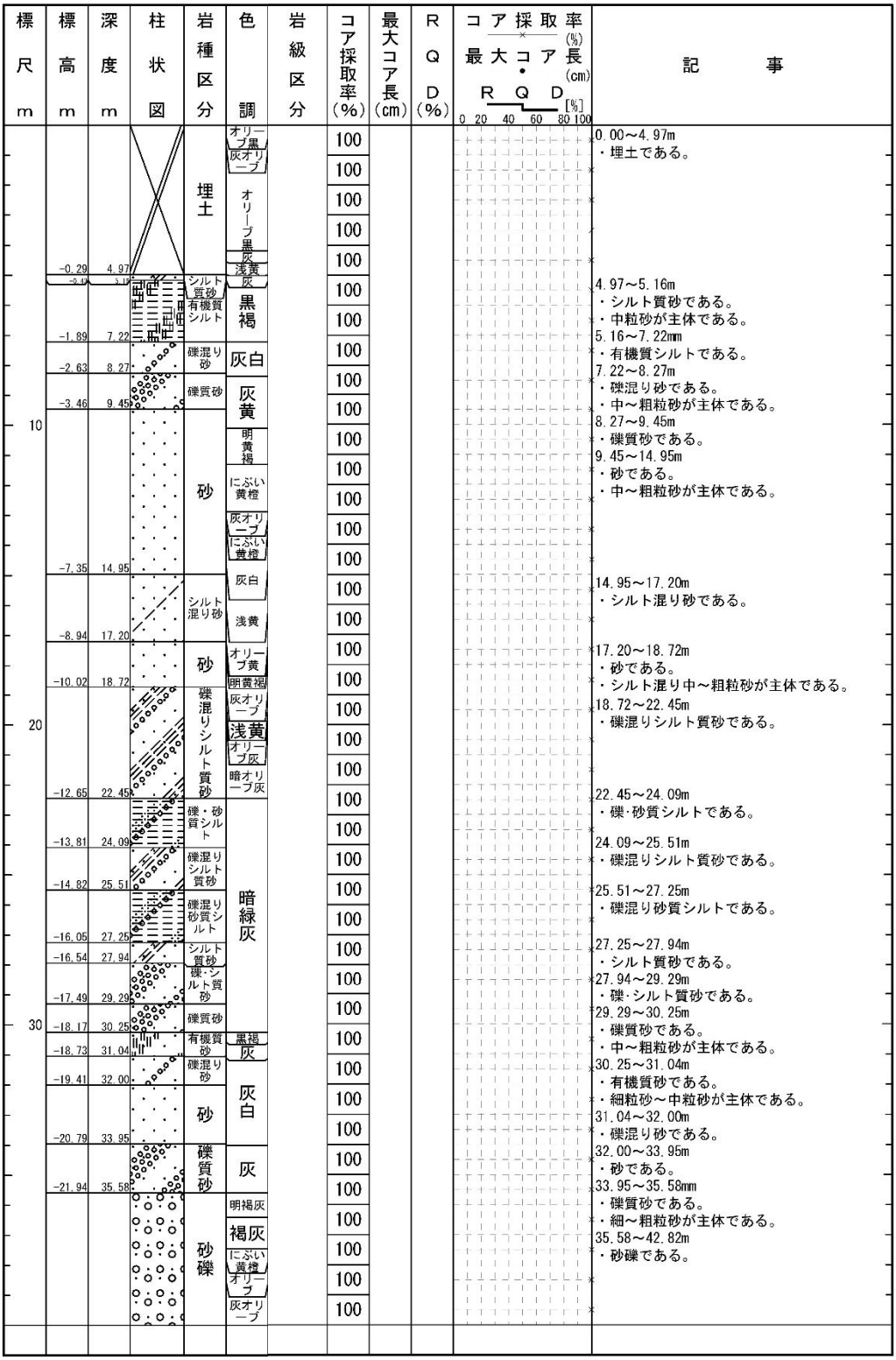
第7.4.4.154図(3)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図（H24-B11-2）



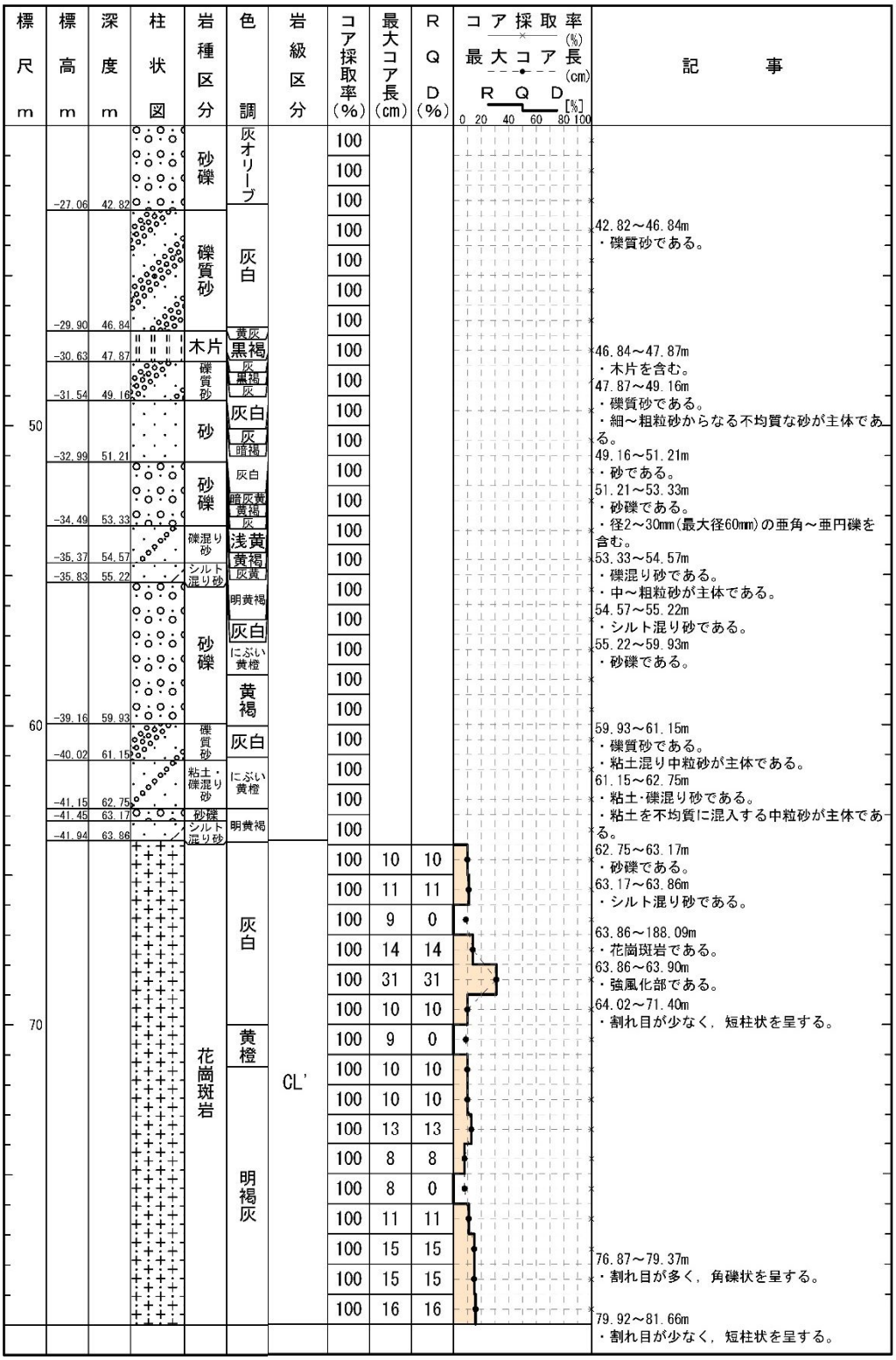
第7.4.4.154図(4)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図（H24-B11-2）

H24-B8-22

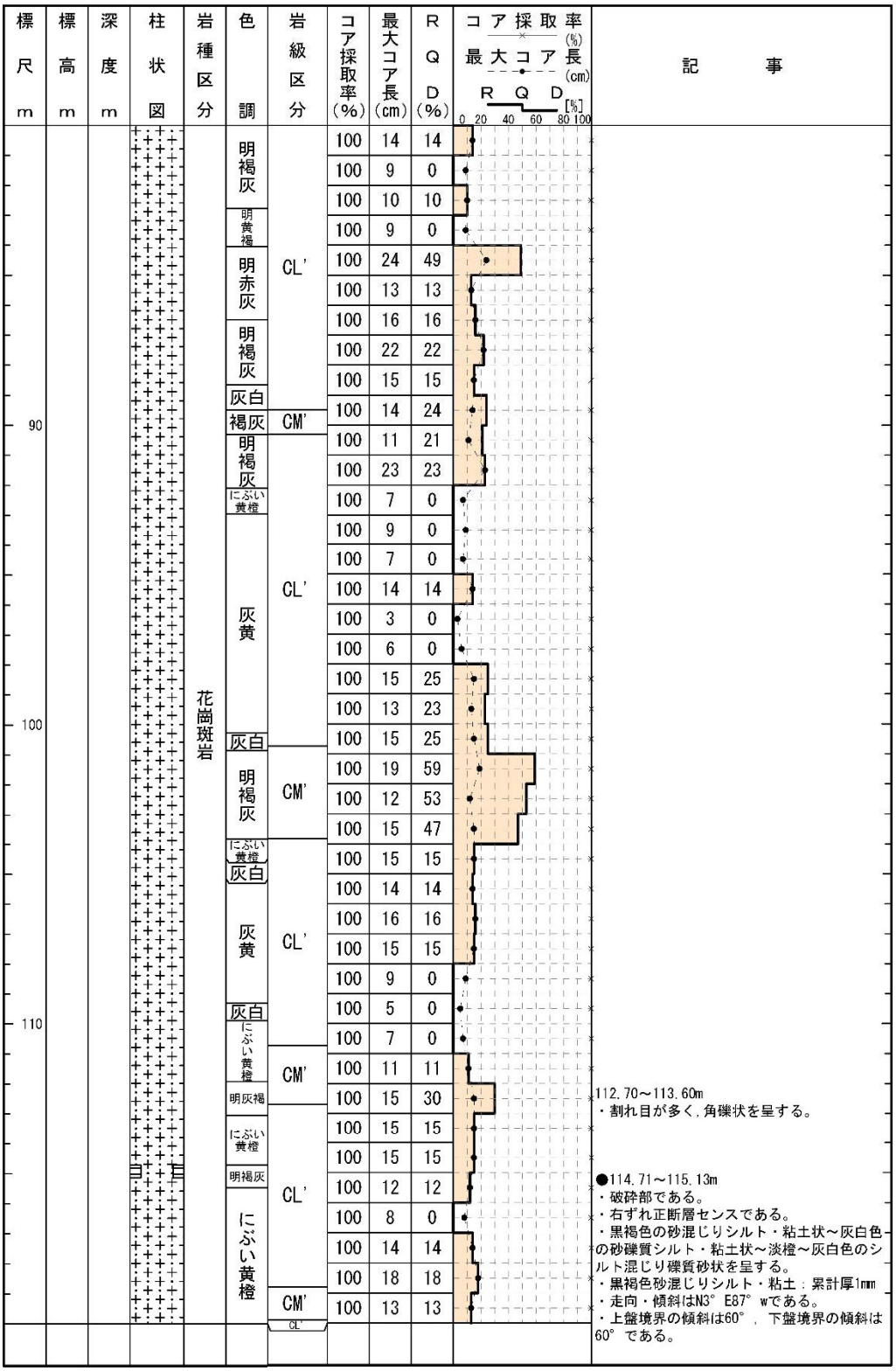
孔口標高	T.P. 3.22m	掘削長	240.00m



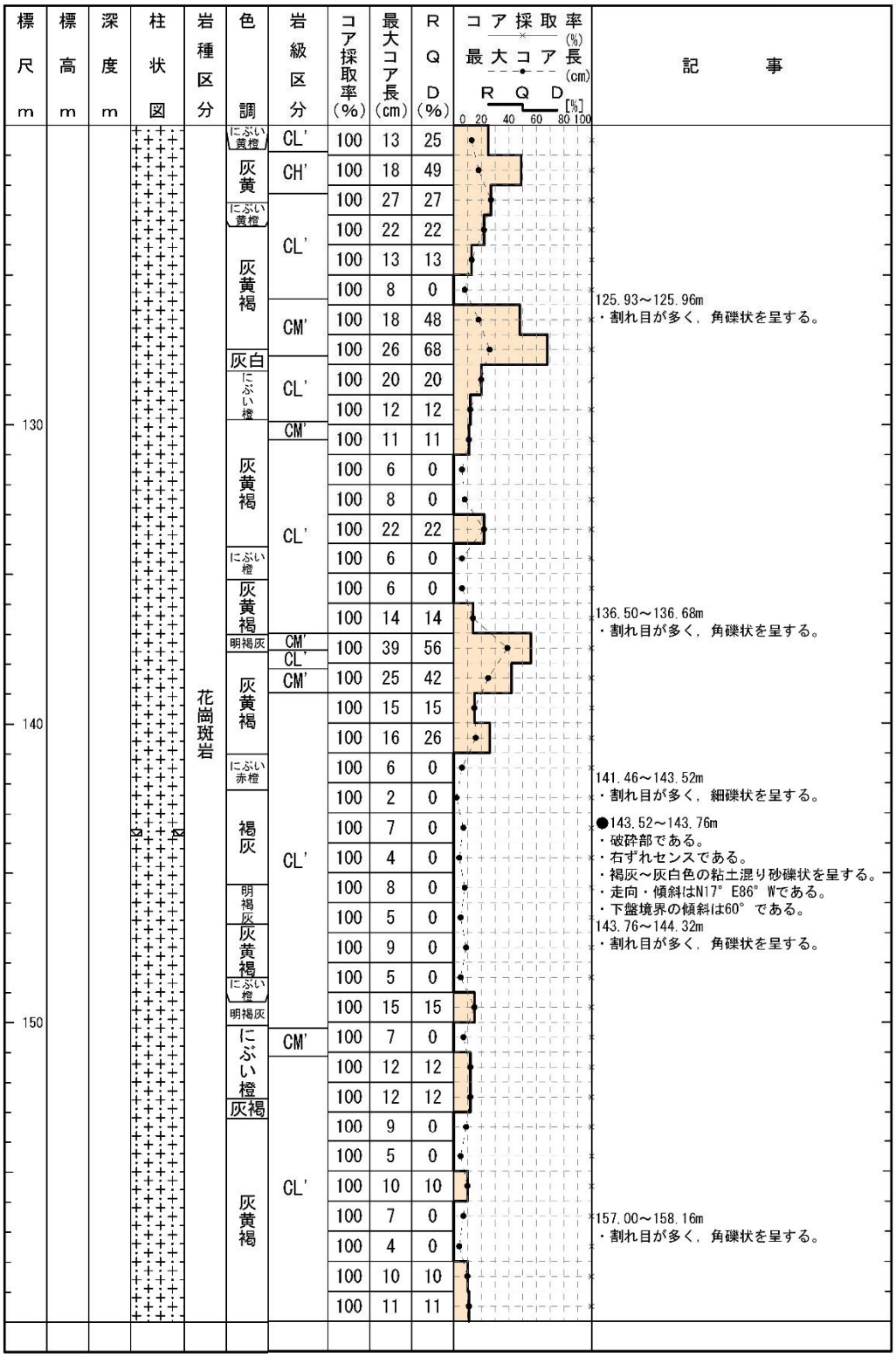
第7.4.4.153図(1)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)　コア柱状図
(H24-B8-22)



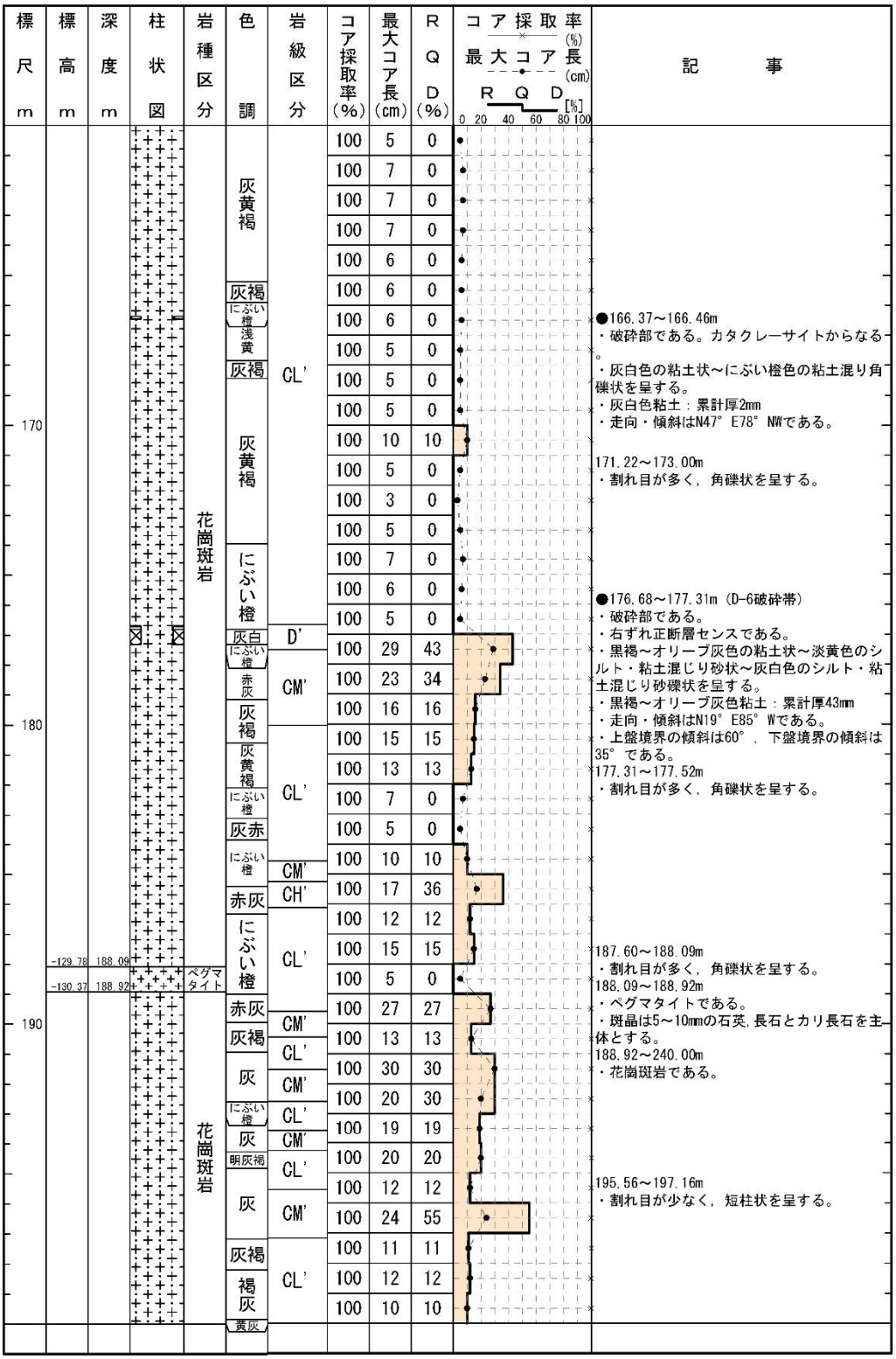
コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)
100		
100		
100		



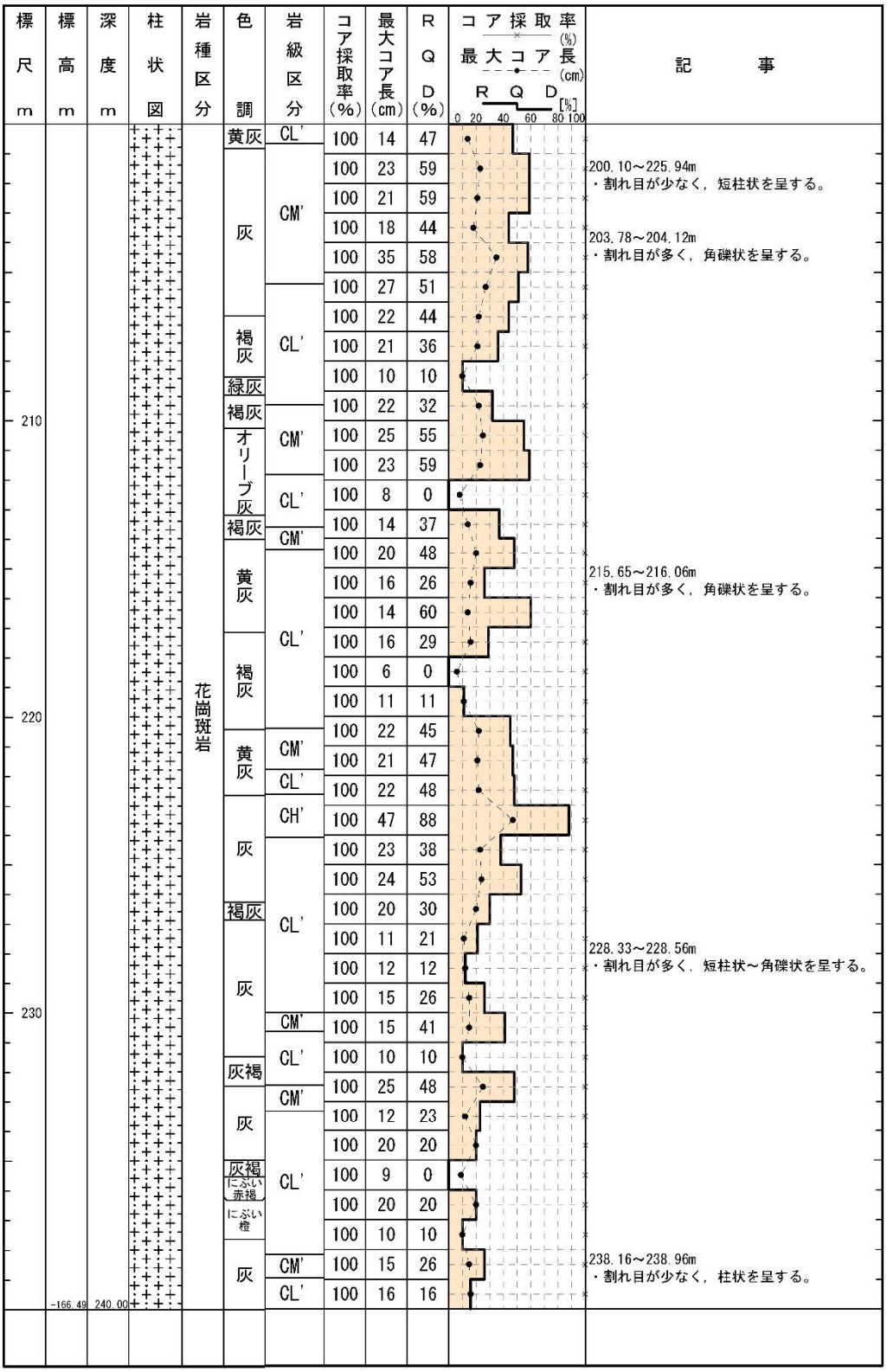
第7.4.4.153図(3)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)　コア柱状図
(H24-B8-22)



第7.4.4.153図(4)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)　コア柱状図
(H24-B8-22)



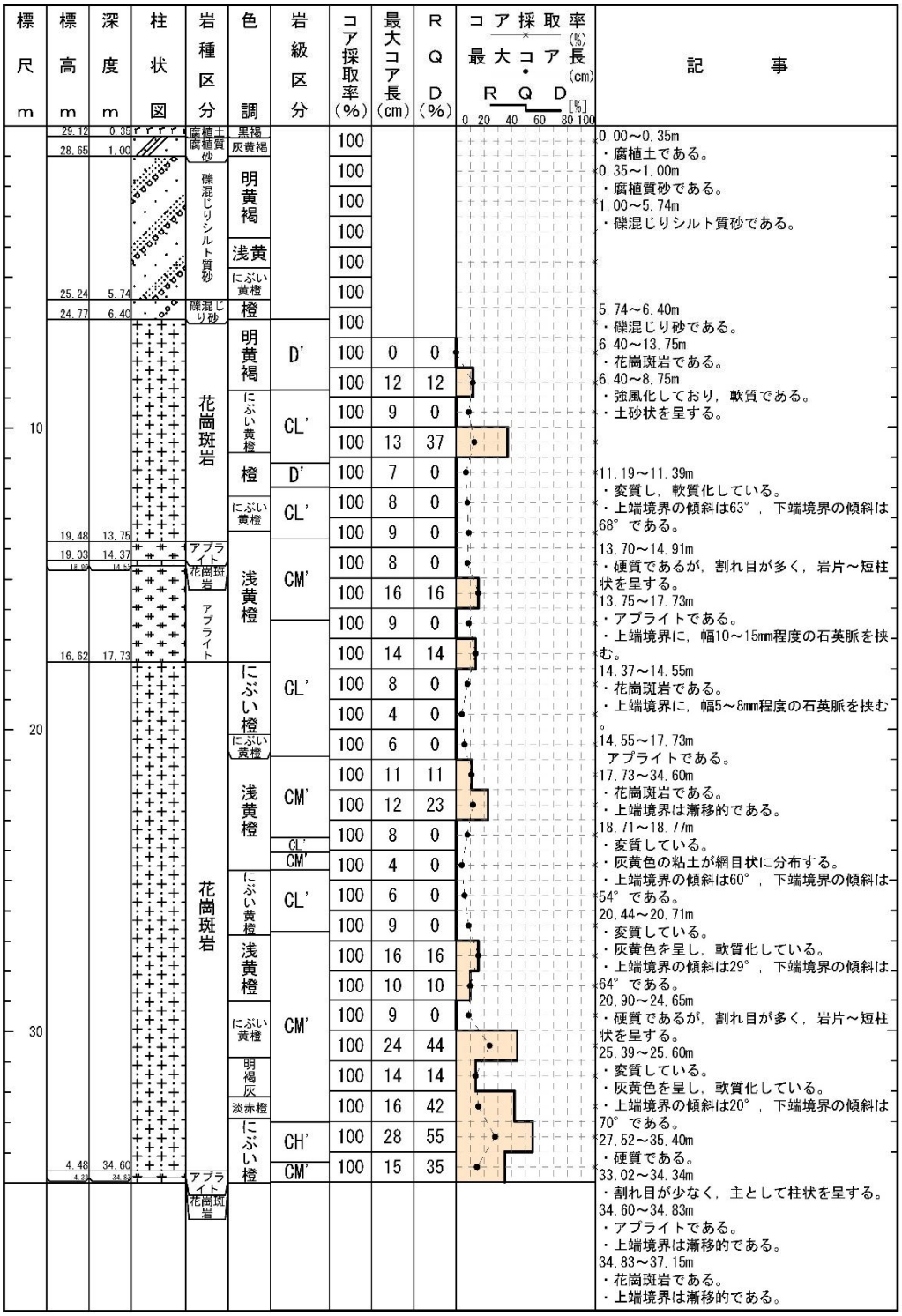
第7.4.4.153図(5)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)　コア柱状図
(H24-B8-22)



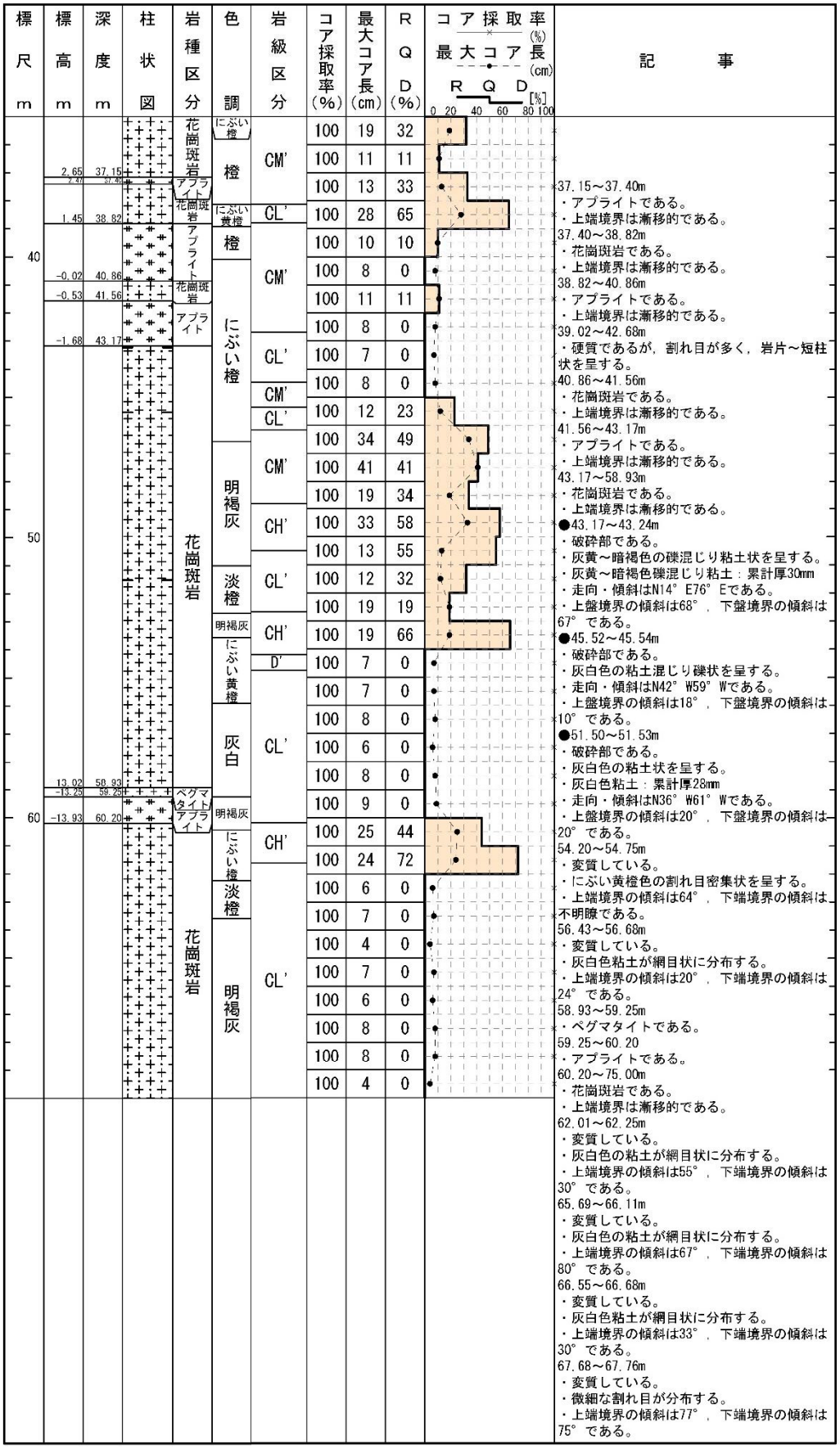
第7.4.4.153図(6)_D－6破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)　コア柱状図
(H24-B8-22)

H20-①-9

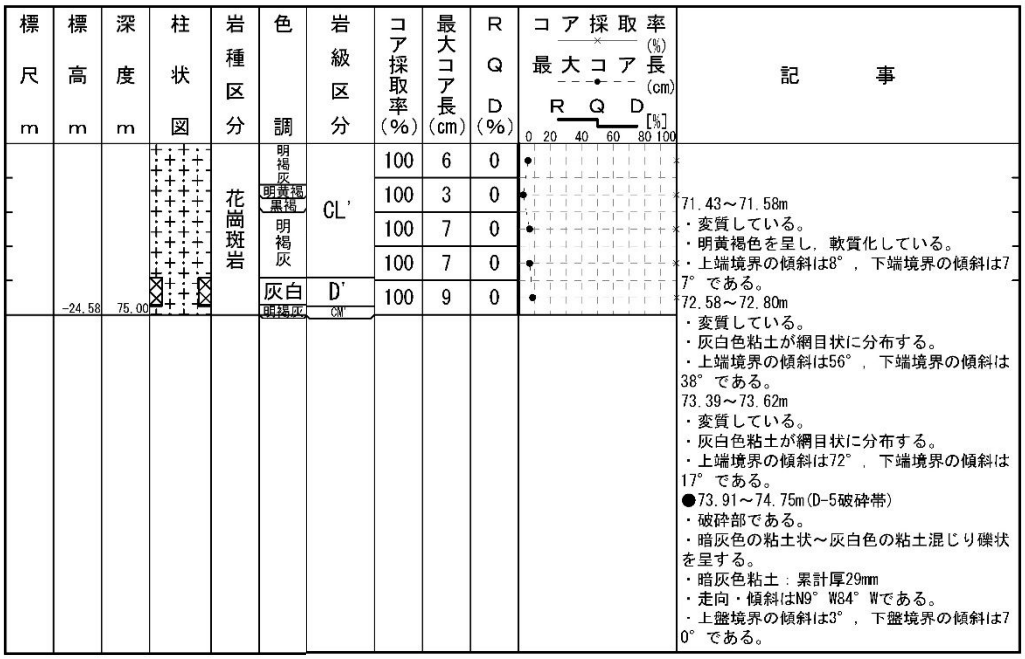
孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	75.00m



第7.4.4.図（1）　D-5破砕帯　ボーリング調査結果（1号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H20-No.①-9）

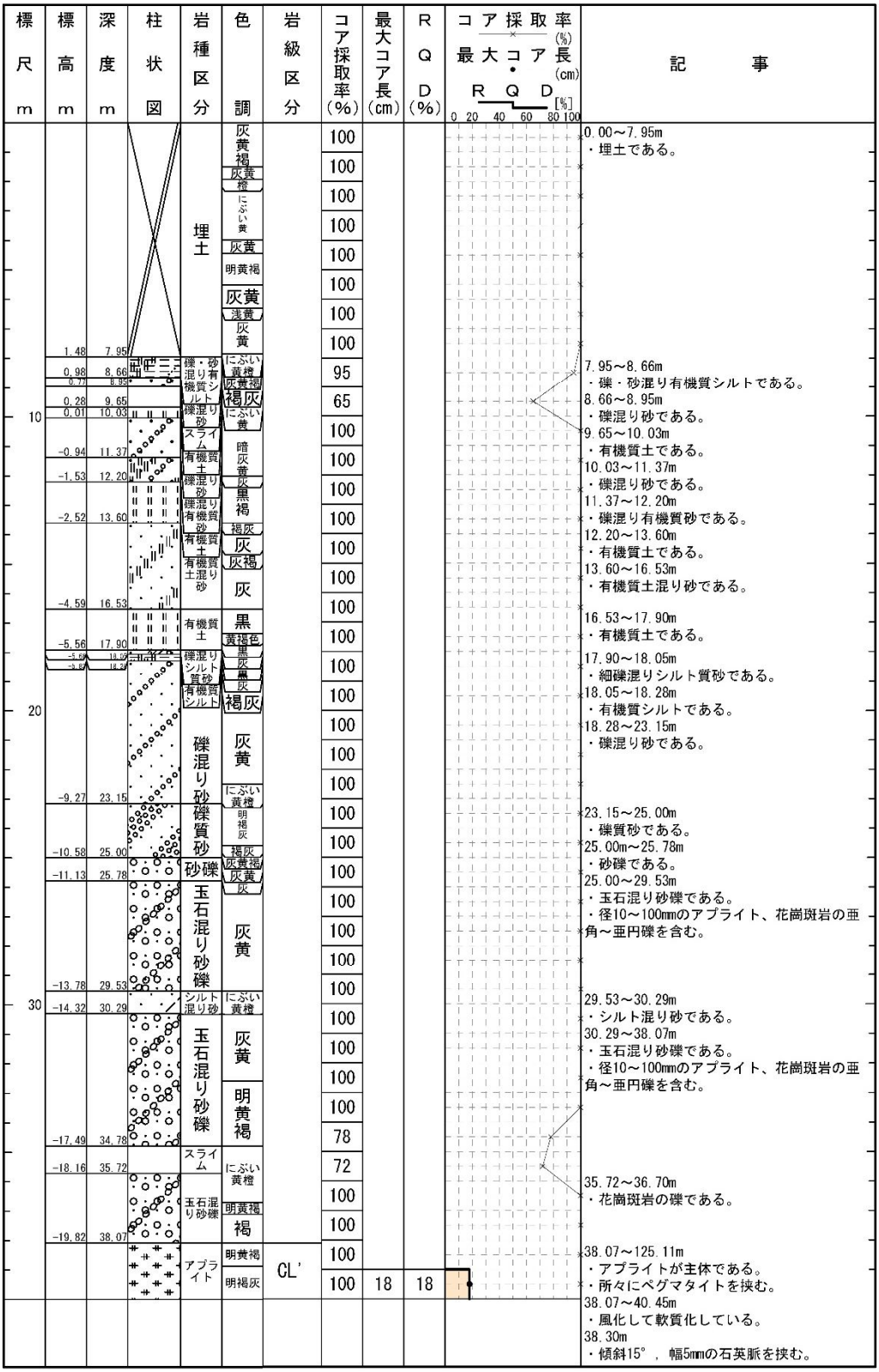


第7.4.4.図（2）　D-5破砕帯　ボーリング調査結果（1号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H20-No.①-9）

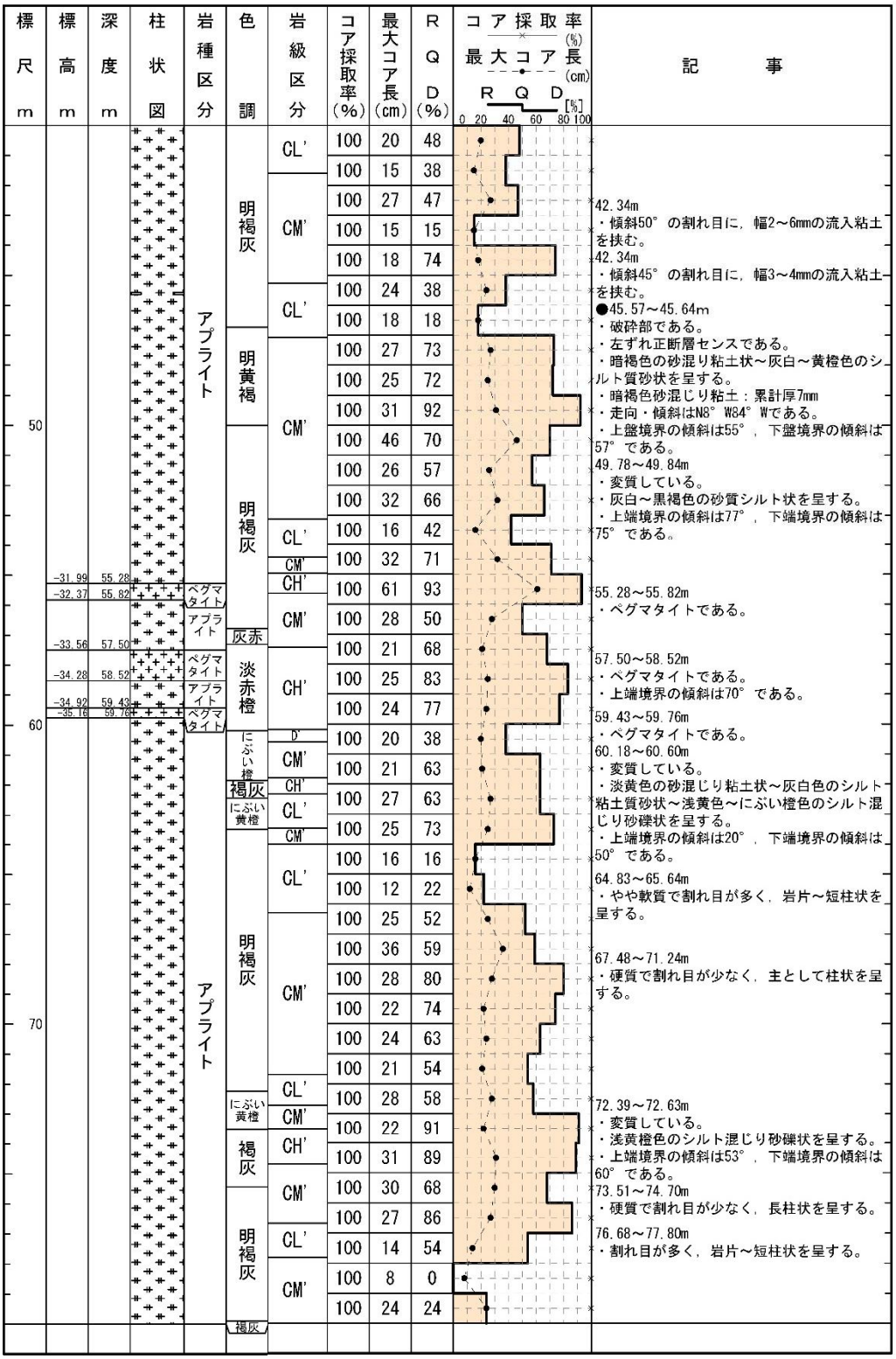


第7.4.4.図（3）　D-5破砕帯　ボーリング調査結果（1号炉原子炉建屋南方）
コア柱状図（H20-No.①-9）

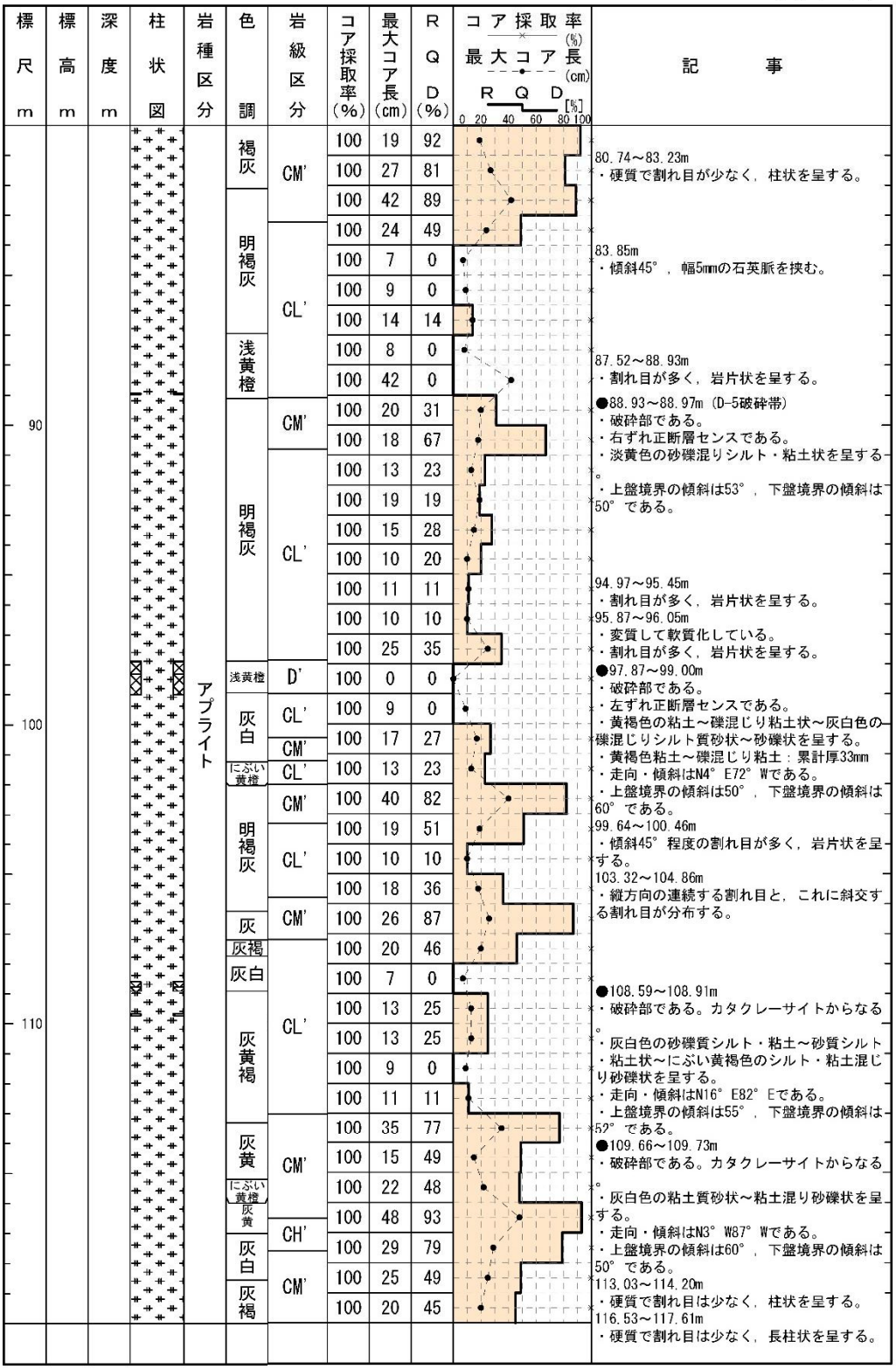
H24-B11-1	孔口標高	T.P. 7.10m	掘削長	150.00m



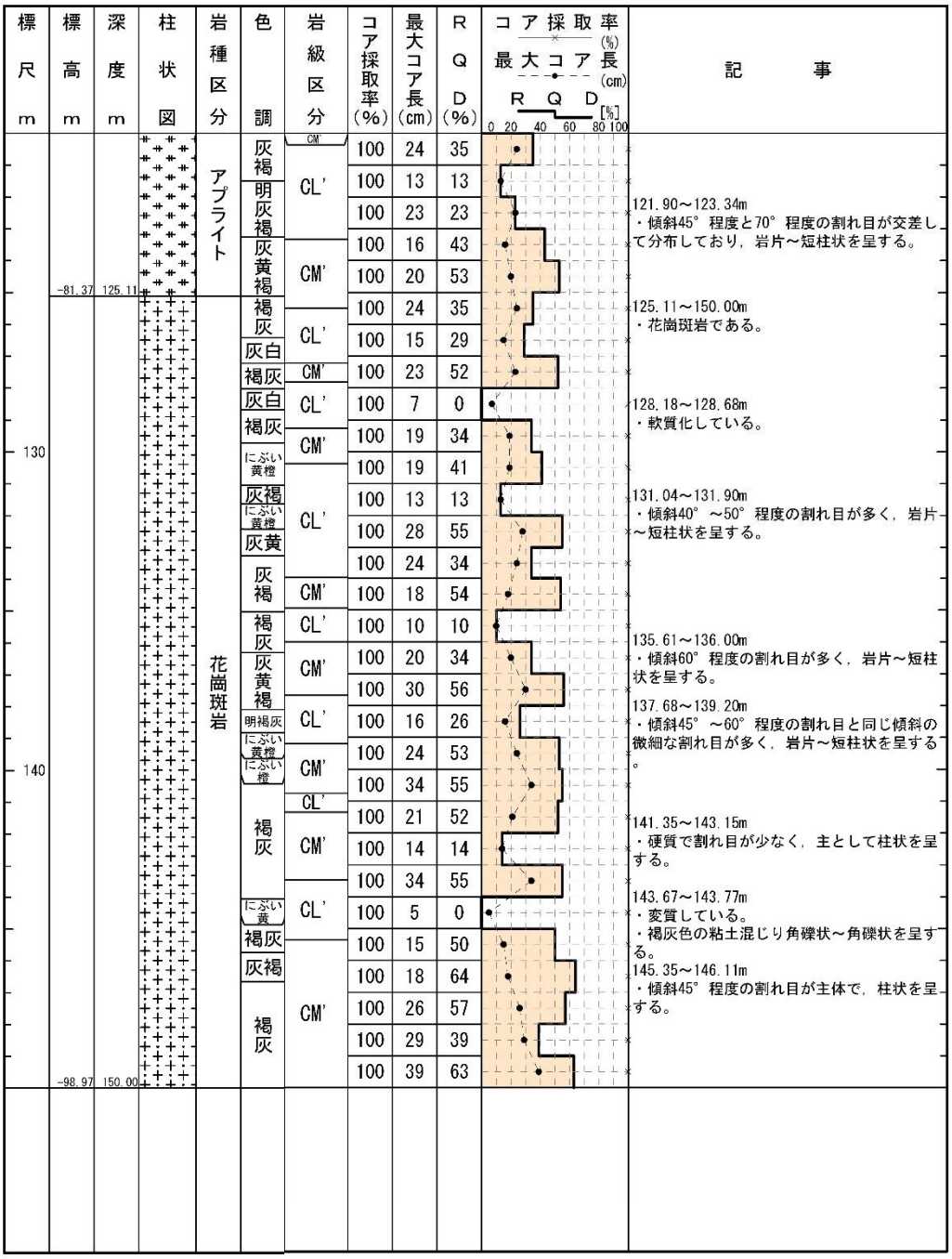
第7.4.4.158図(1)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-1)



第7.4.4.158図(2)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-1)



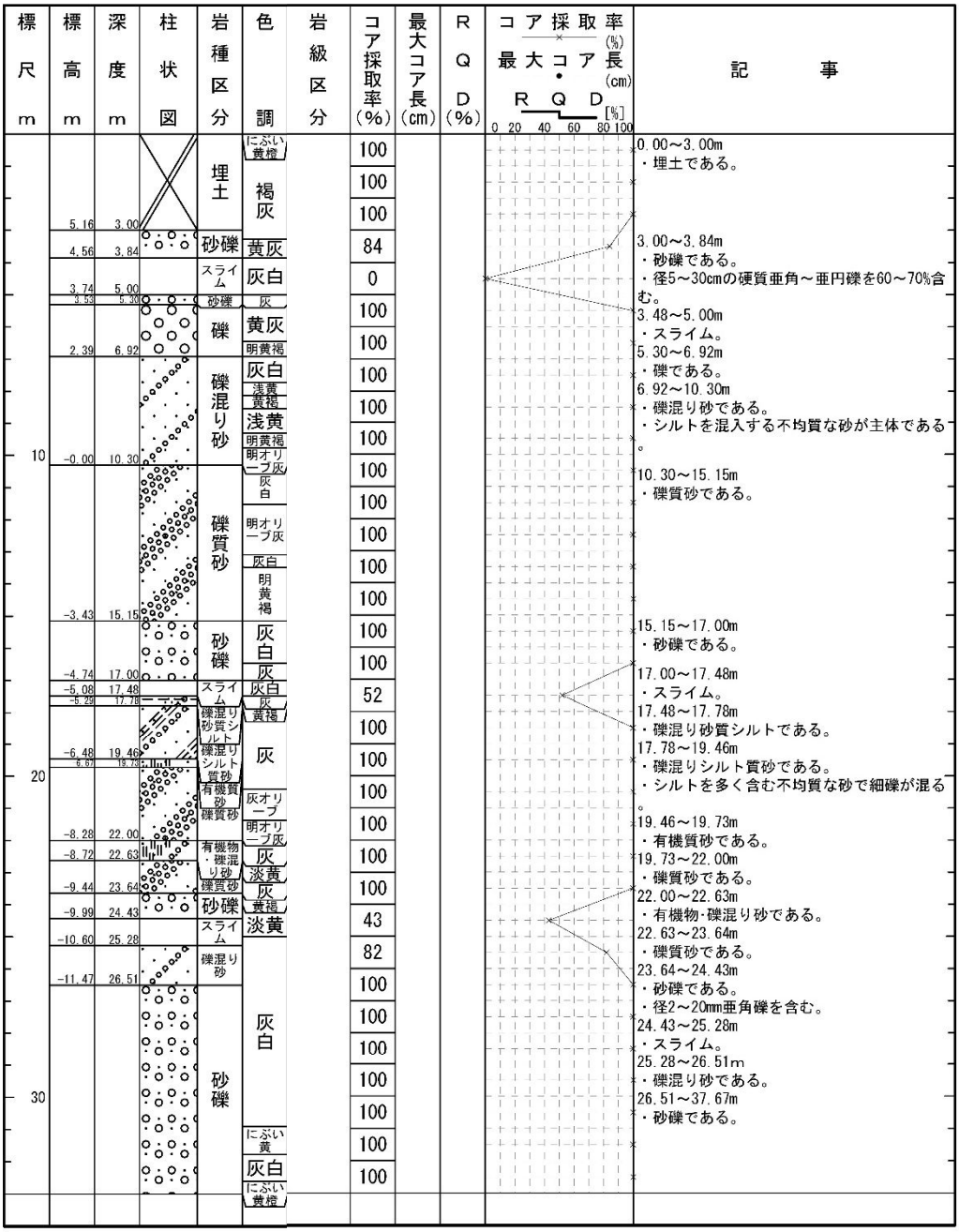
第7.4.4.158図(3)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図（H24-B11-1）



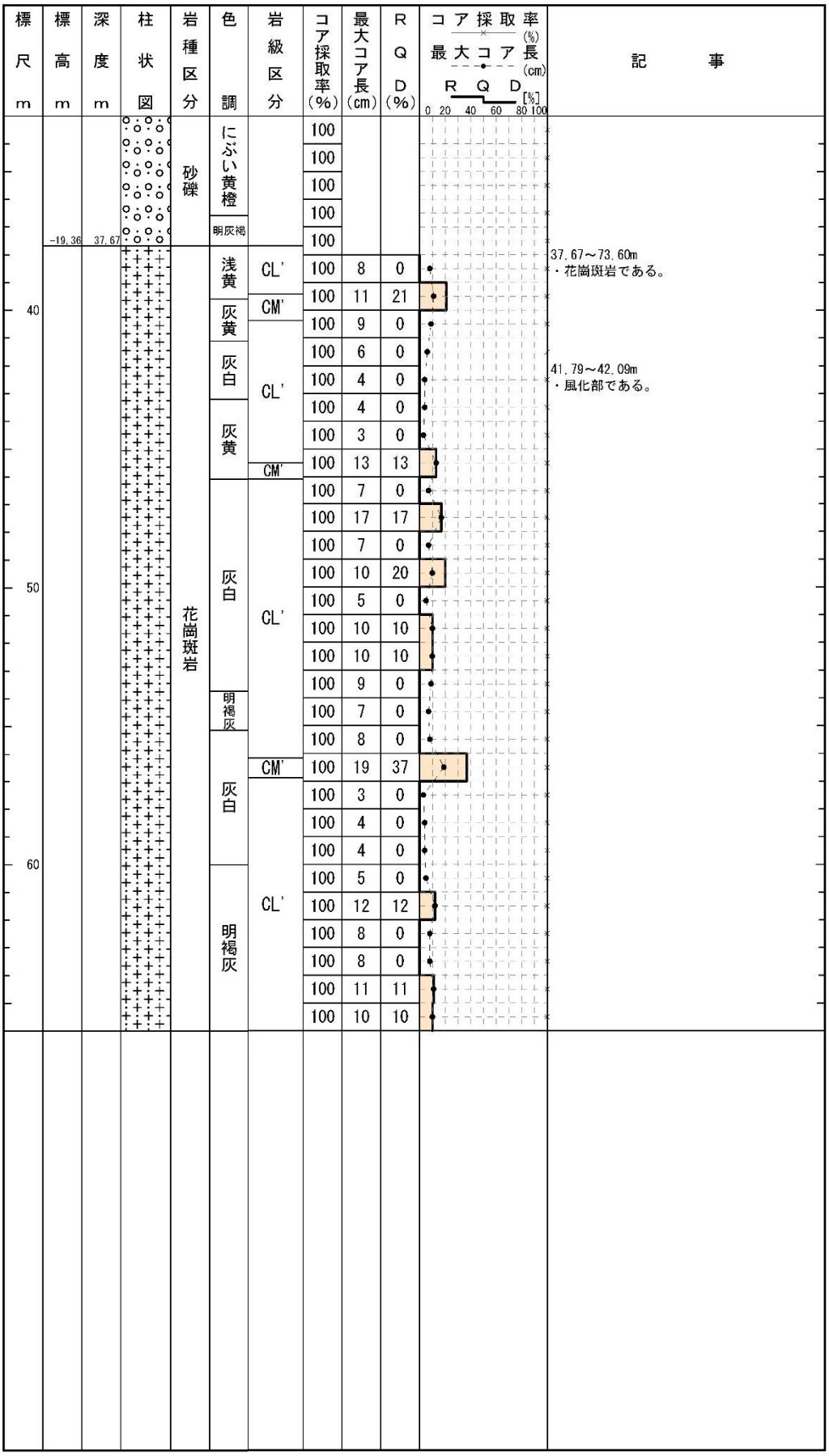
第7.4.4.158図(4)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H24-B11-1)

H24-B8-21

孔口標高	T.P. 7.28m	掘削長	240.00m



第7.4.4.157図(1)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

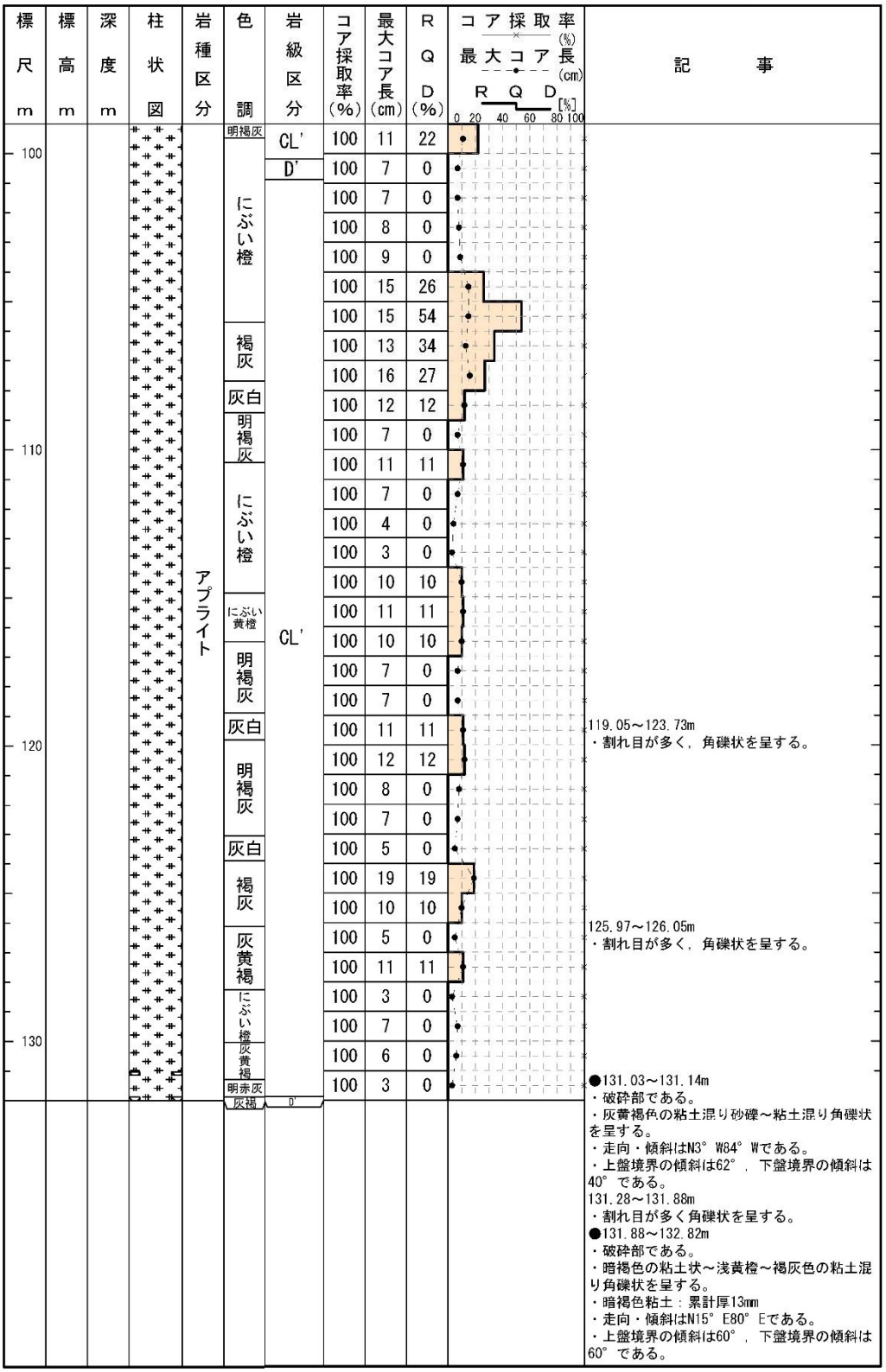


第7.4.4.157図(2)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図 (H24-B8-21)

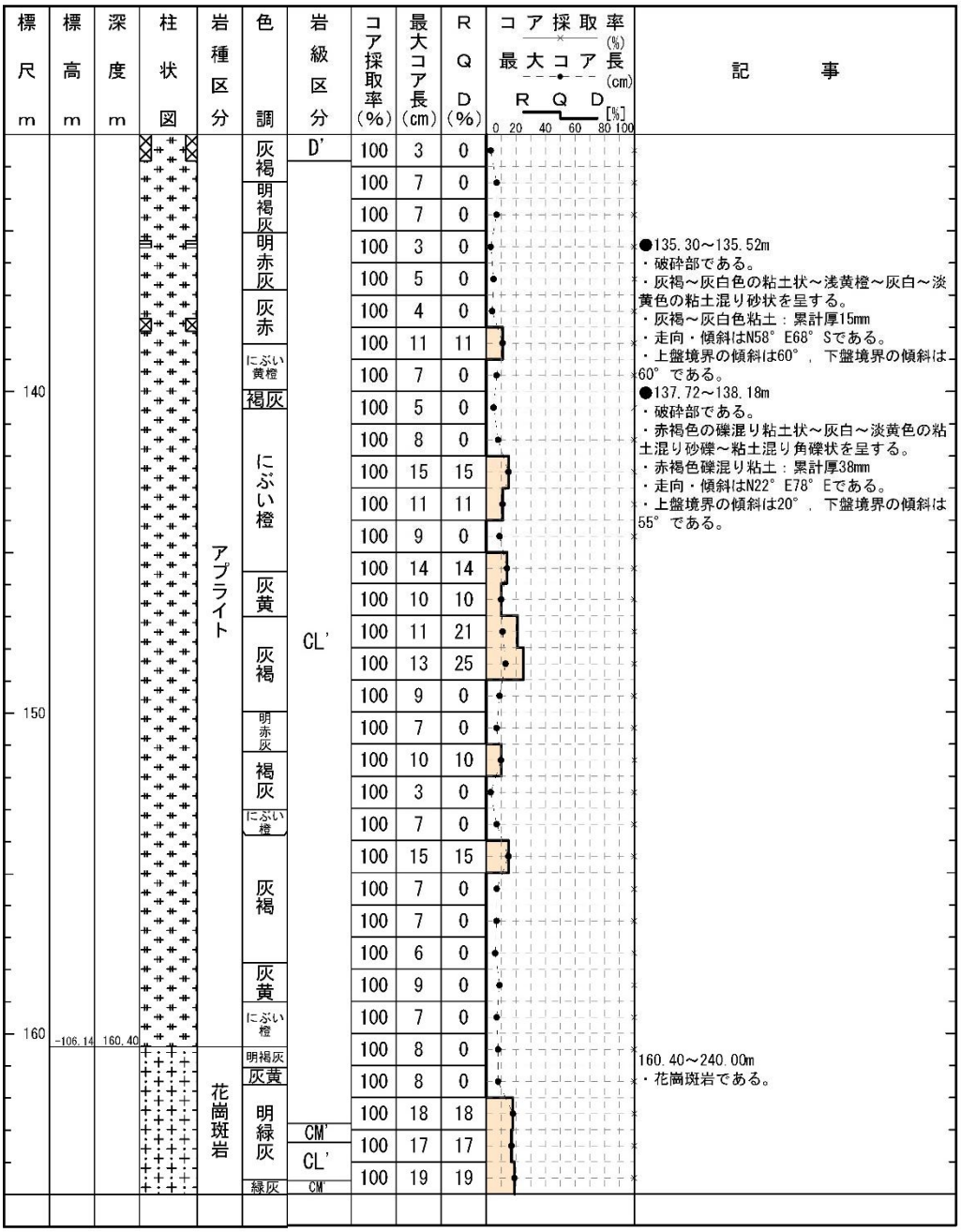


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
					明褐灰	CL'	100	7	0	66.34～67.37m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					灰白	CM'	100	4	0	
					明褐灰	CL'	100	4	0	
							100	8	0	
70							100	6	0	
					灰白		100	7	0	70.46～70.53m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						D'	100	3	0	
	-44.76	73.60				CL'	100	8	0	
							100	5	0	73.60～160.40m ・アプライトである。
					黄褐	D'	100	13	13	75.56～76.01m ・割れ目が多く角礫状を呈する。
					灰白		100	7	0	76.01～77.36m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	9	0	
							100	4	0	
							100	3	0	
80							100	2	0	●79.86～80.17m ・破砕部である。 ・黒褐色の砂混りシルト状～淡橙色の粘土質砂礫状を呈する。 ・黒褐色砂混りシルト：累計厚6mm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°，下盤境界の傾斜は30° である。
					灰黄		100	13	24	
							100	13	24	
							100	5	0	
					灰白	CL'	100	14	14	80.76～81.03m ・割れ目が多く角礫状を呈する。
							100	11	11	
							100	5	0	81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く，柱状を呈する。
							100	11	21	
							100	11	11	●88.67～88.71m ・破砕部である。 ・褐色の粘土状～黄白色の砂混りシルト状を呈する。 ・褐色粘土：累計厚12mm ・走向・傾斜はN34° E89° NWである。 ・上盤境界の傾斜は45°，下盤境界の傾斜は38° である。
					明褐灰		100	5	0	
90							100	4	0	
							100	4	0	
							100	11	11	
					褐灰	D'	100	6	0	●92.86～93.53m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・にぶい黄橙～明褐色の粘土混り角礫状～灰白色の角礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN5° W82° Eである。 ・下盤境界の傾斜は70° である。
							100	5	0	
					明褐灰	CL'	100	3	0	
							100	13	13	95.56～95.87m ・風化部である。 ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	8	0	
							100	13	13	

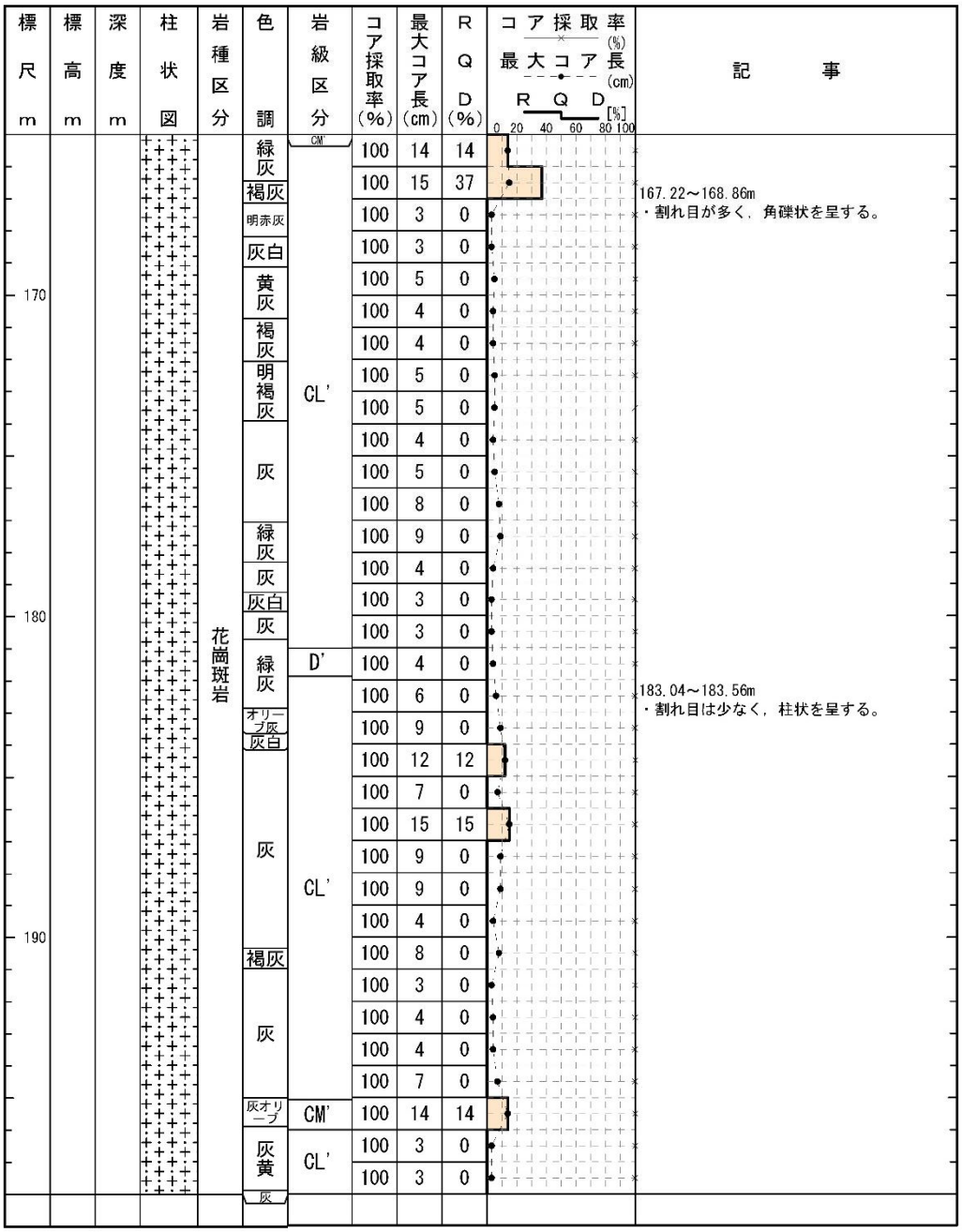
第7.4.4.157図(3)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図（H24-B8-21）



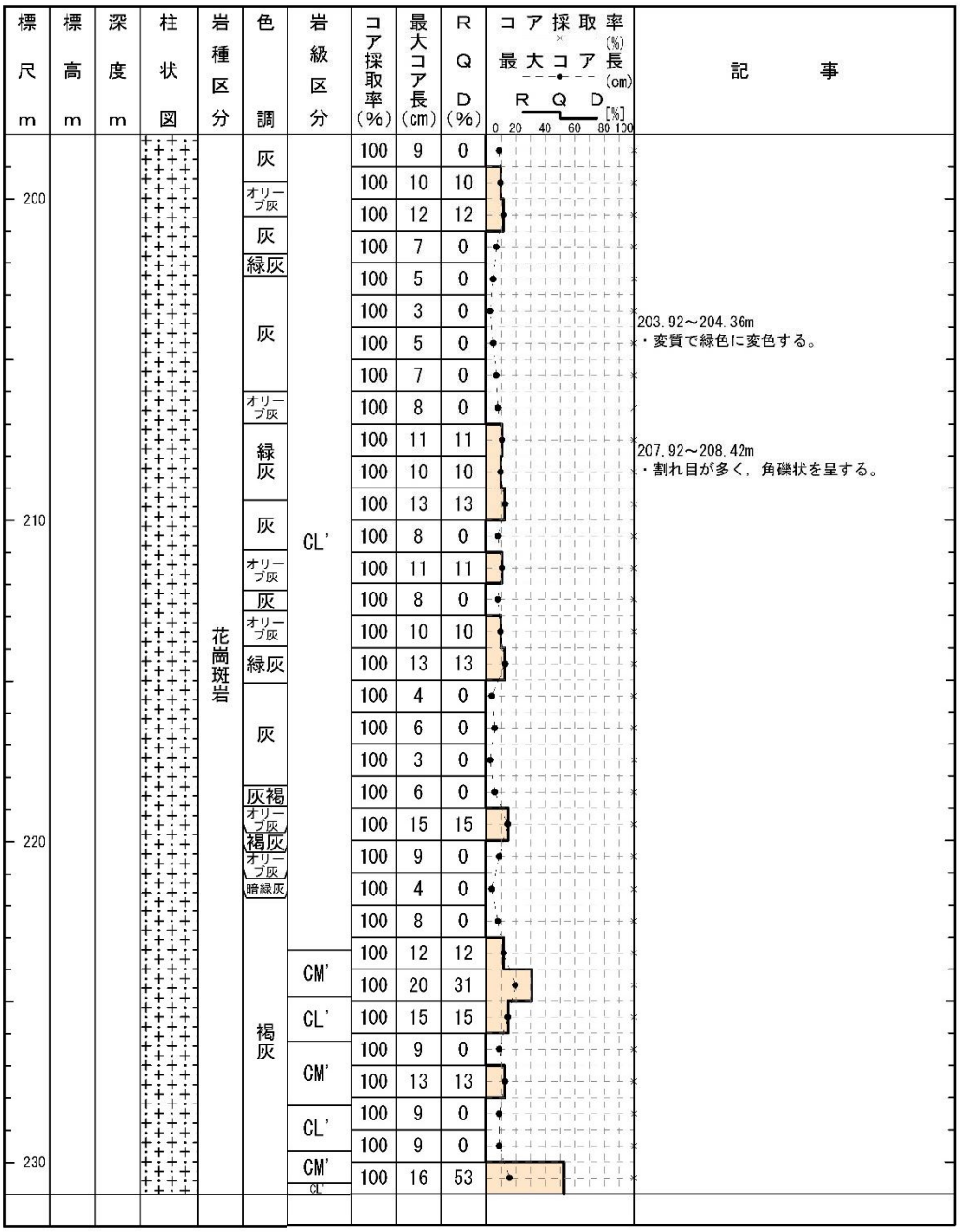
第7.4.4.157図(4)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図（H24-B8-21）



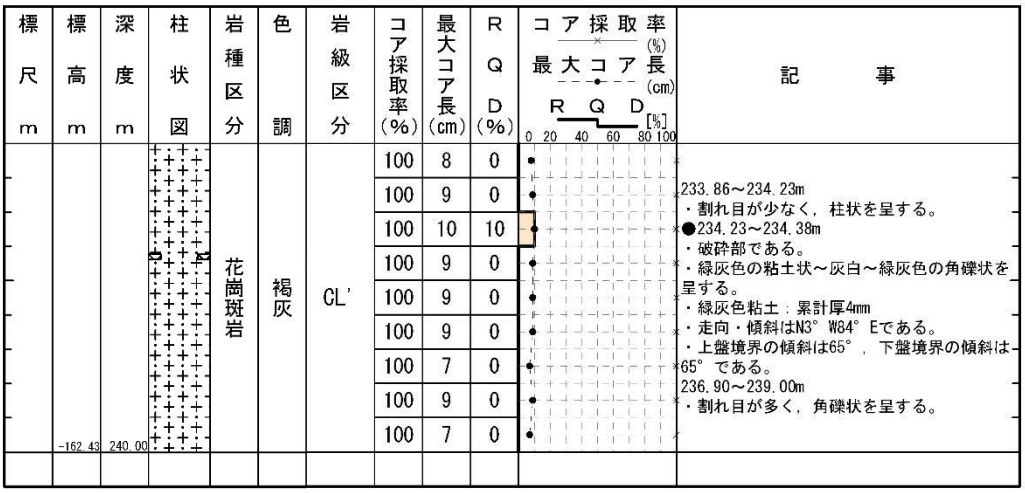
第7.4.4.157図(5)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図（H24-B8-21）



第7.4.4.157図(6)_Ｄ－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図（H24-B8-21）



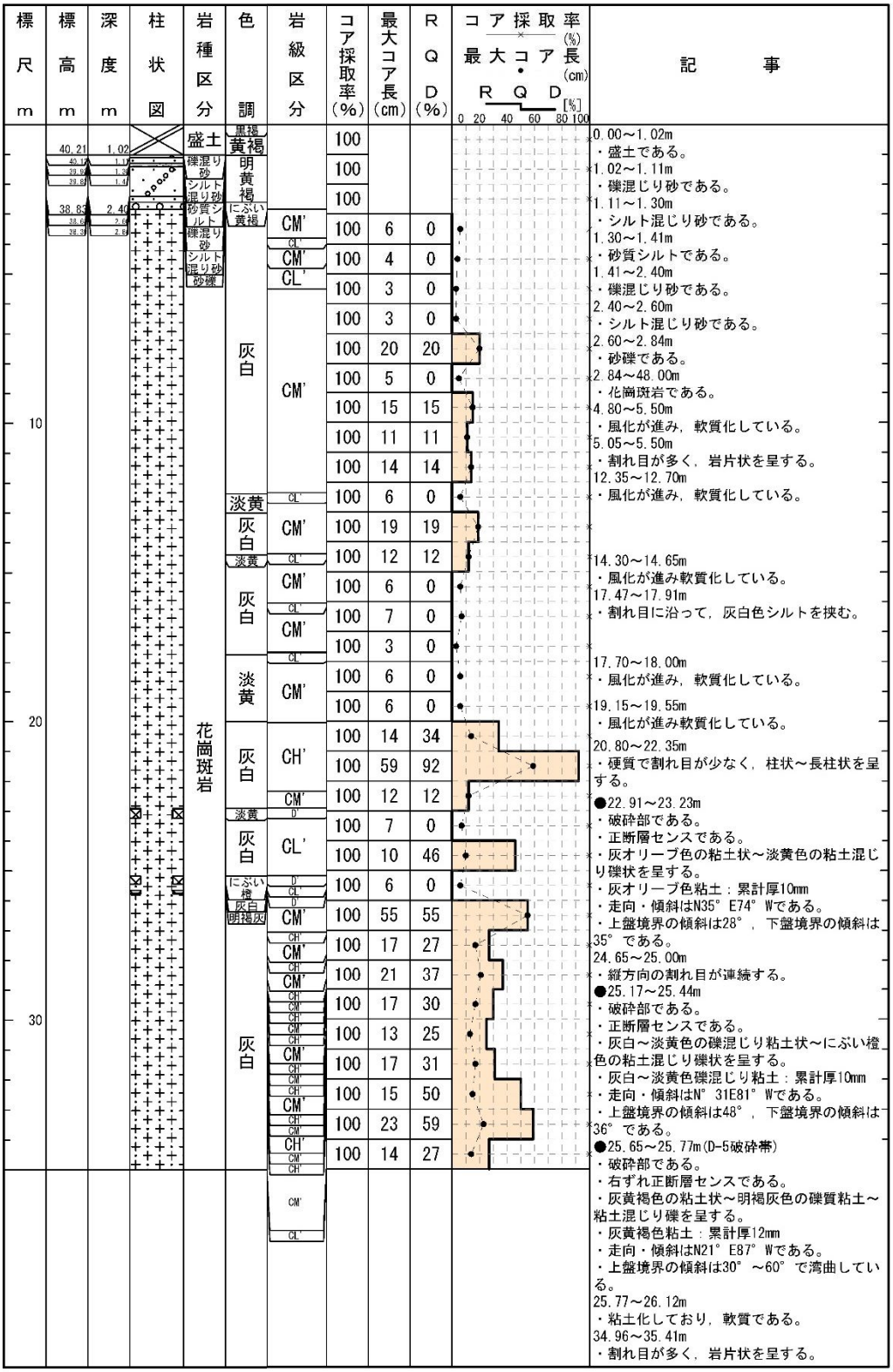
第7.4.4.157図(7)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図（H24-B8-21）



第7.4.4.157図(8)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋)
コア柱状図（H24-B8-21）

H27-D5-1

孔口標高	T.P. 41.23m	掘削長	48.00m



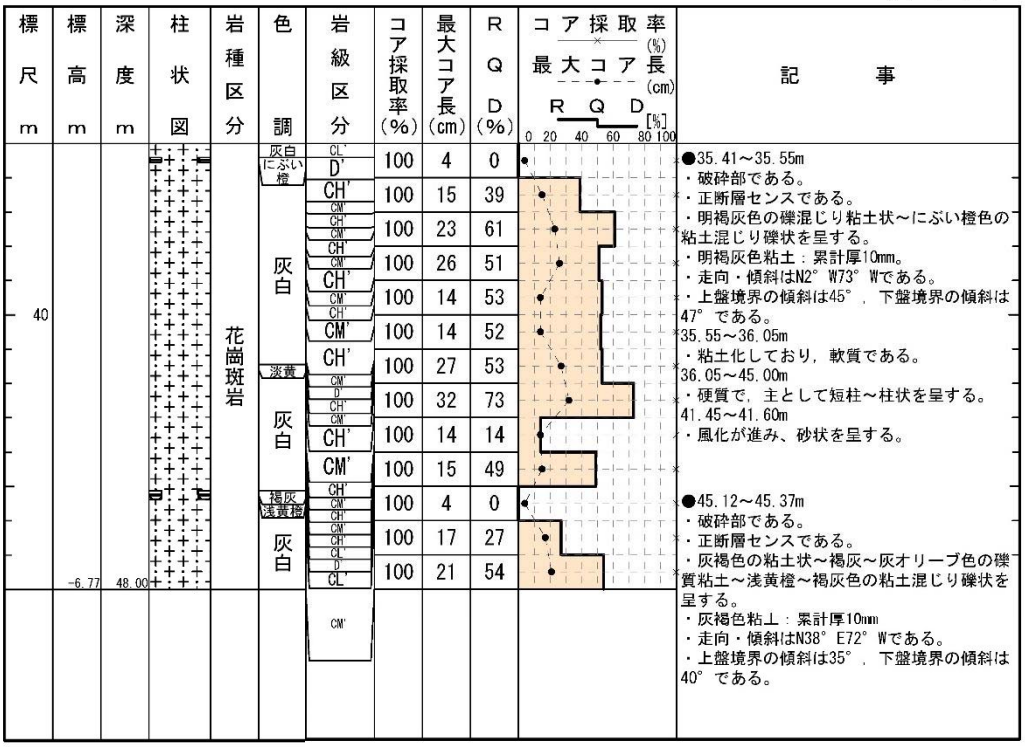
記事

0.00～1.02m
・盛土である。
1.02～1.11m
・礫混じり砂である。
1.11～1.30m
・シルト混じり砂である。
1.30～1.41m
・砂質シルトである。
1.41～2.40m
・礫混じり砂である。
2.40～2.60m
・シルト混じり砂である。
2.60～2.84m
・砂礫である。
2.84～48.00m
・花崗斑岩である。
4.80～5.50m
・風化が進み，軟質化している。
5.05～5.50m
・割れ目が多く，岩片状を呈する。
12.35～12.70m
・風化が進み，軟質化している。

14.30～14.65m
・風化が進み軟質化している。
17.47～17.91m
・割れ目に沿って，灰白色シルトを挟む。

17.70～18.00m
・風化が進み，軟質化している。
19.15～19.55m
・風化が進み軟質化している。
20.80～22.35m
・硬質で割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。
●22.91～23.23m
・破砕部である。
・正断層センスである。
・灰オリーブ色の粘土状～淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。
・灰オリーブ色粘土：累計厚10mm
・走向・傾斜はN35°E74°Wである。
・上盤境界の傾斜は28°，下盤境界の傾斜は35°である。
24.65～25.00m
・縦方向の割れ目が連続する。
●25.17～25.44m
・破砕部である。
・正断層センスである。
・灰白～淡黄色の礫混じり粘土状～にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。
・灰白～淡黄色礫混じり粘土：累計厚10mm
・走向・傾斜はN°31E81°Wである。
・上盤境界の傾斜は48°，下盤境界の傾斜は36°である。
●25.65～25.77m(D-5破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・灰黄褐色の粘土状～明褐灰色の礫質粘土～粘土混じり礫を呈する。
・灰黄褐色粘土：累計厚12mm
・走向・傾斜はN21°E87°Wである。
・上盤境界の傾斜は30°～60°で湾曲している。
25.77～26.12m
・粘土化しており，軟質である。
34.96～35.41m
・割れ目が多く，岩片状を呈する。

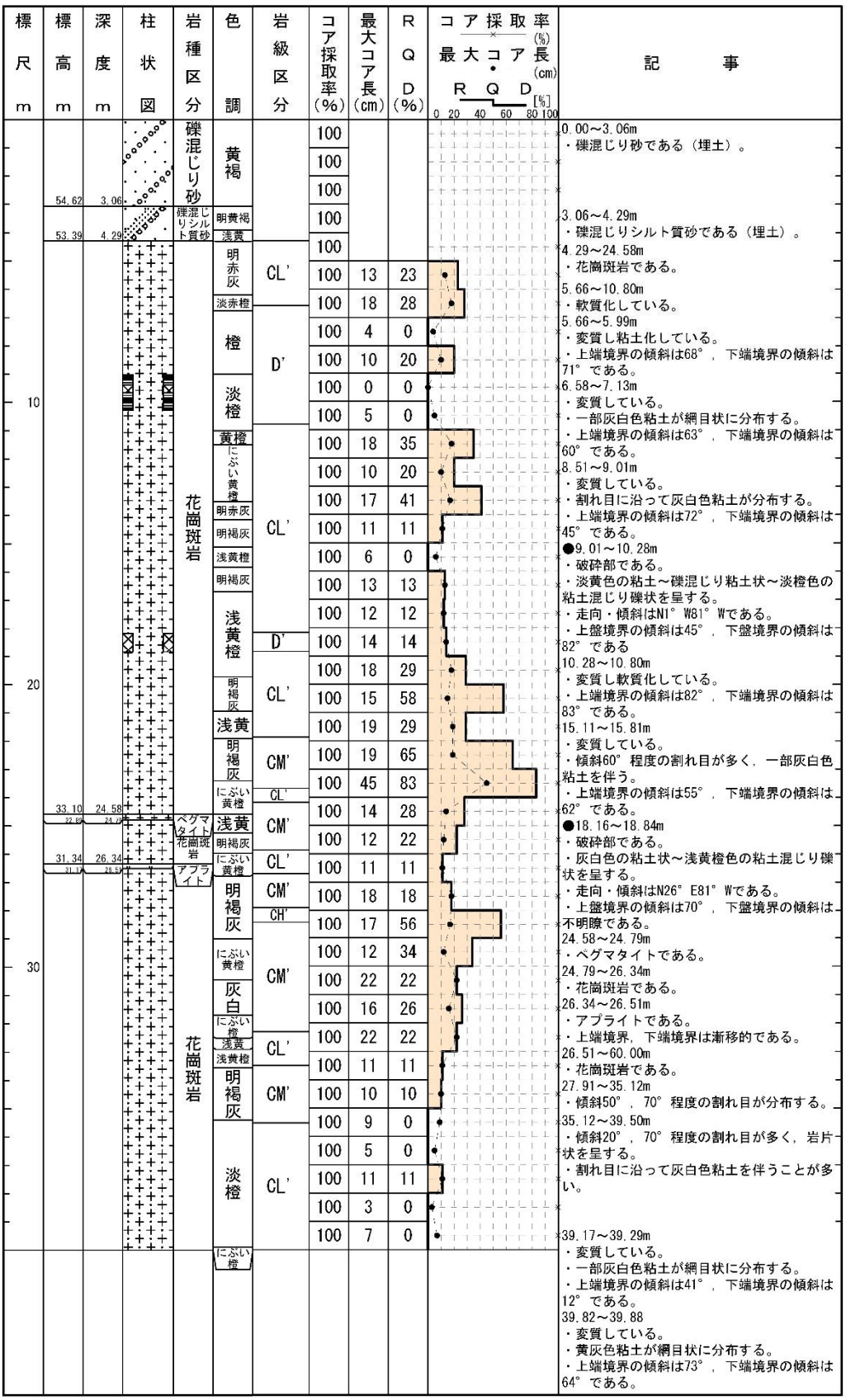
第7.4.4.a65図(1)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋南方)
コア柱状図（H27-D5-1）



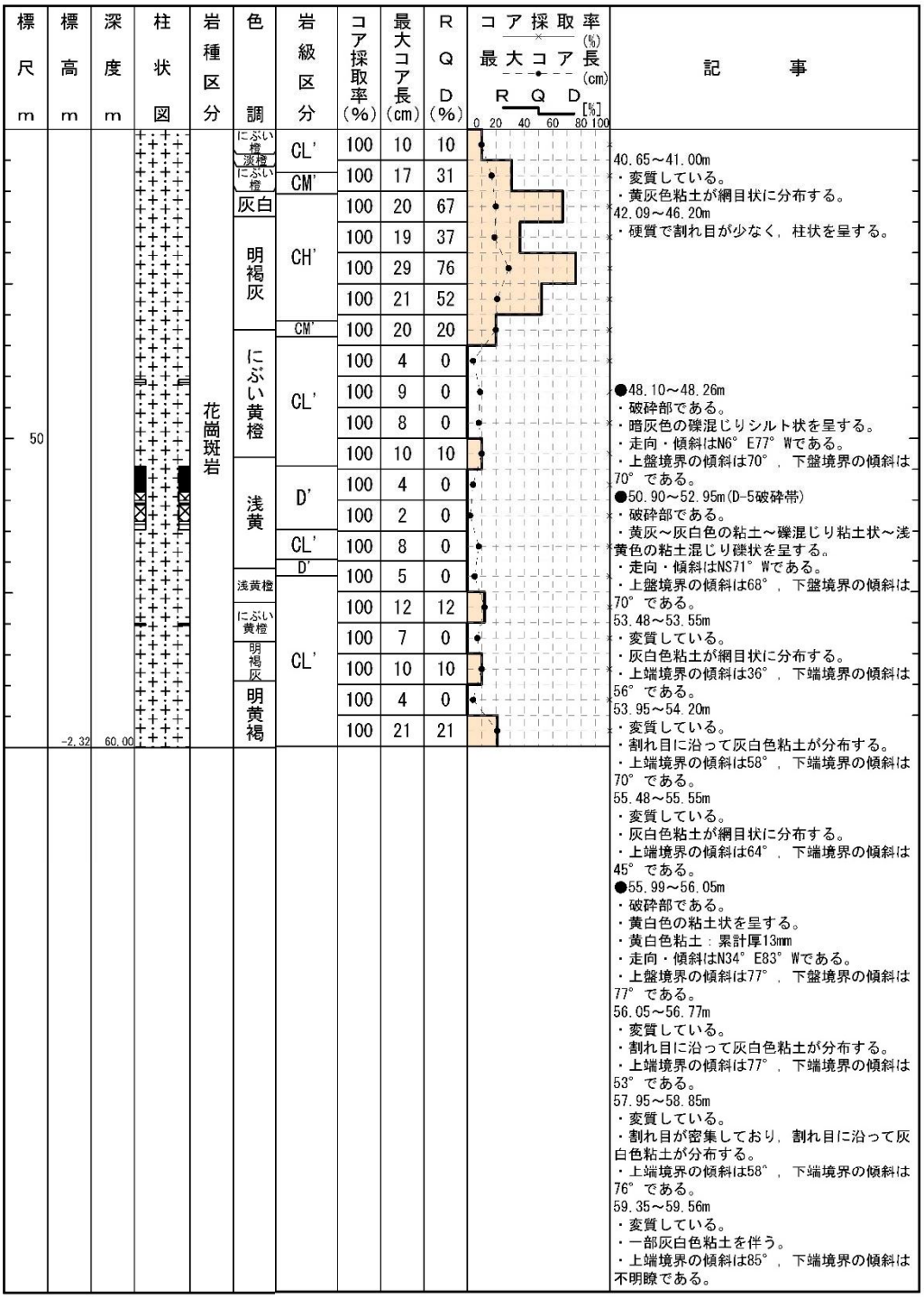
第7.4.4.a65図(2)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋南方)
コア柱状図（H27-D5-1）

H20-①-10

孔口標高	T.P. 57.68m	掘削長	60.00m



第7.4.4.a70図(1)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図（H20-No.①-10）



第7.4.4.a70図(2)_D－5破砕帯　ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋北方)
コア柱状図 (H20-No.①-10)

余白

7. 審査資料案
（第536回審査会合（平成29年12月22日））
ボーリング柱状図

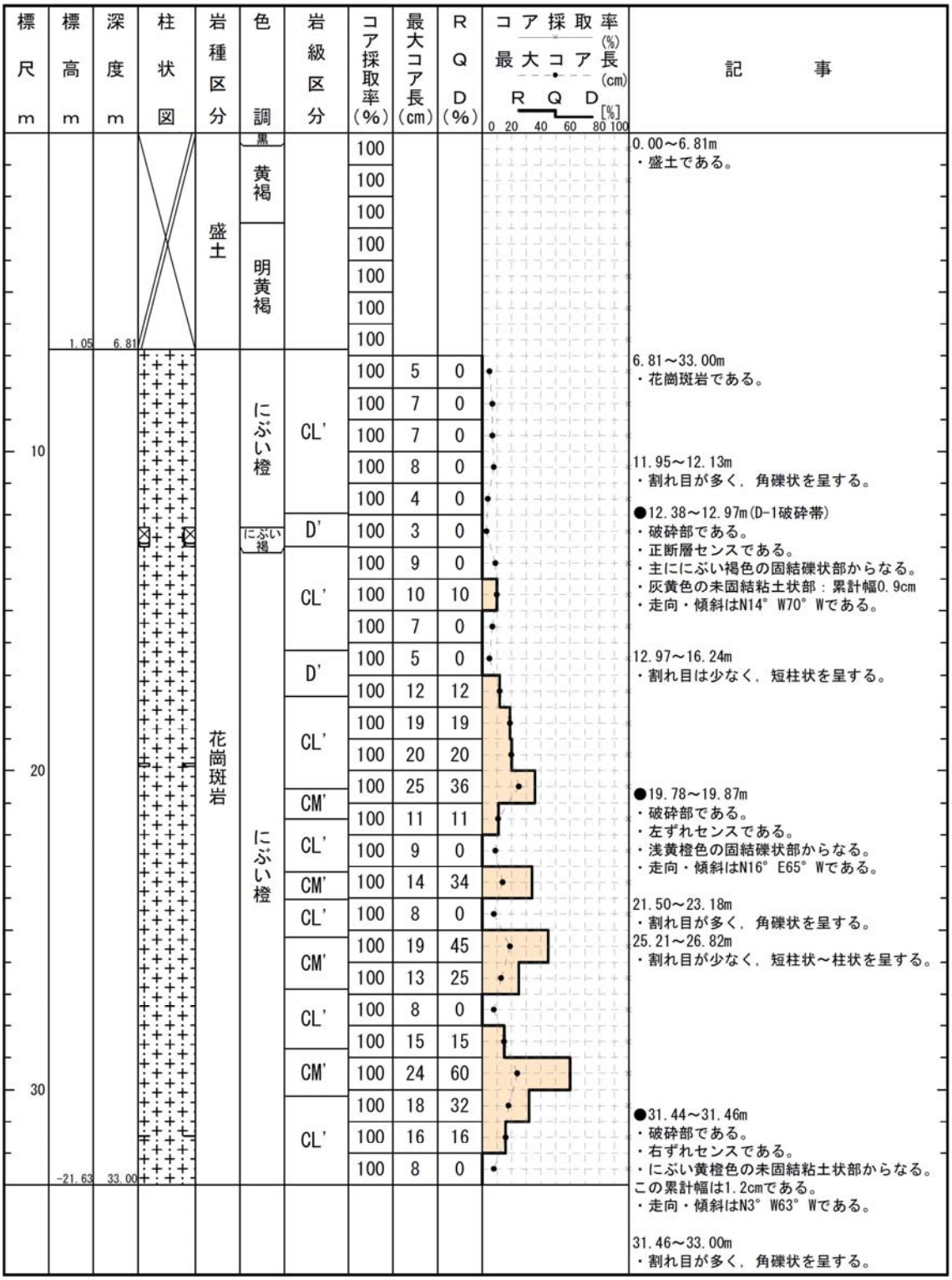
余白

H24-D1-2

柱状図(0.00m～33.00m)

H24-D1-2

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	33.00m

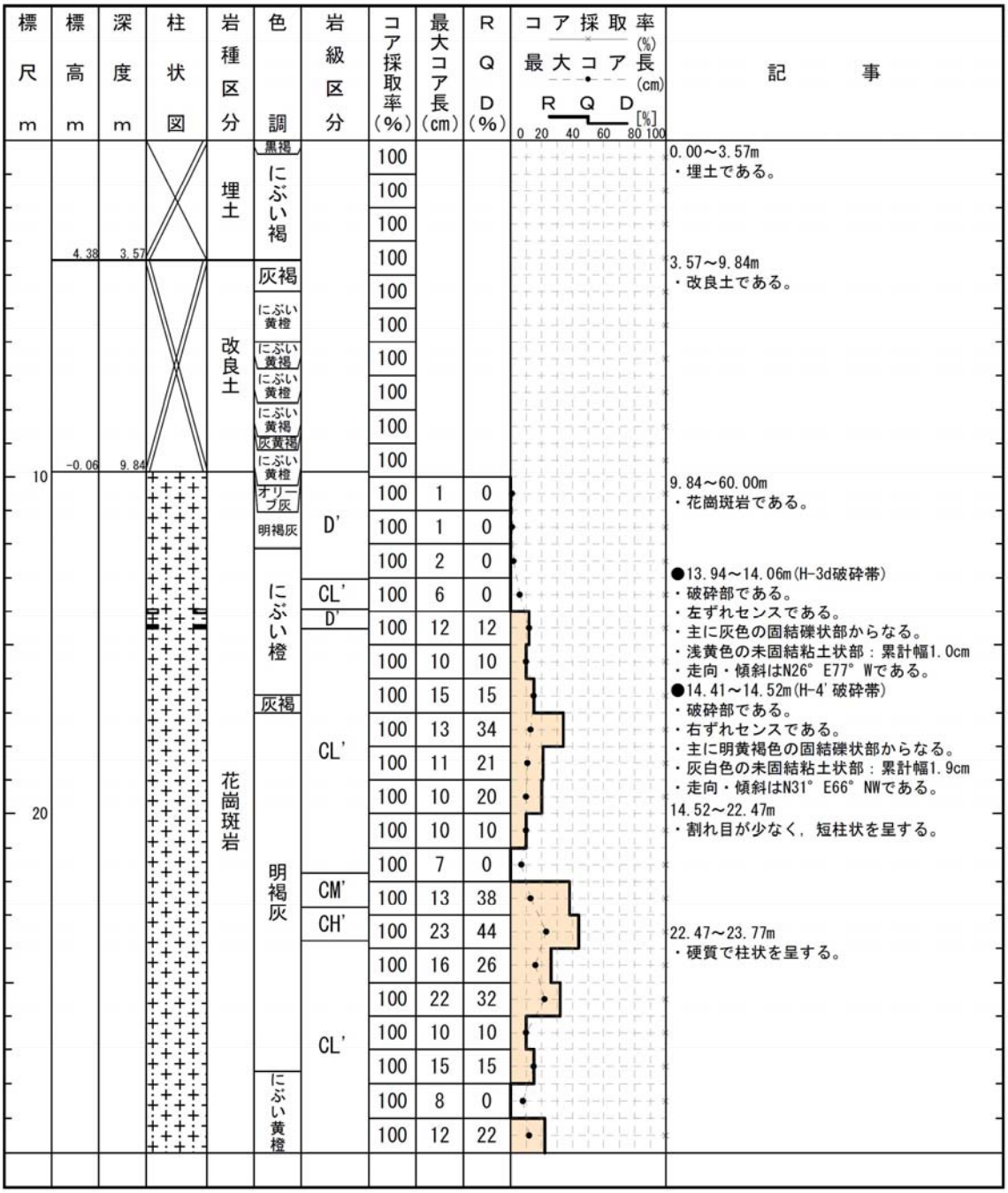


H24-D1-3

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-3

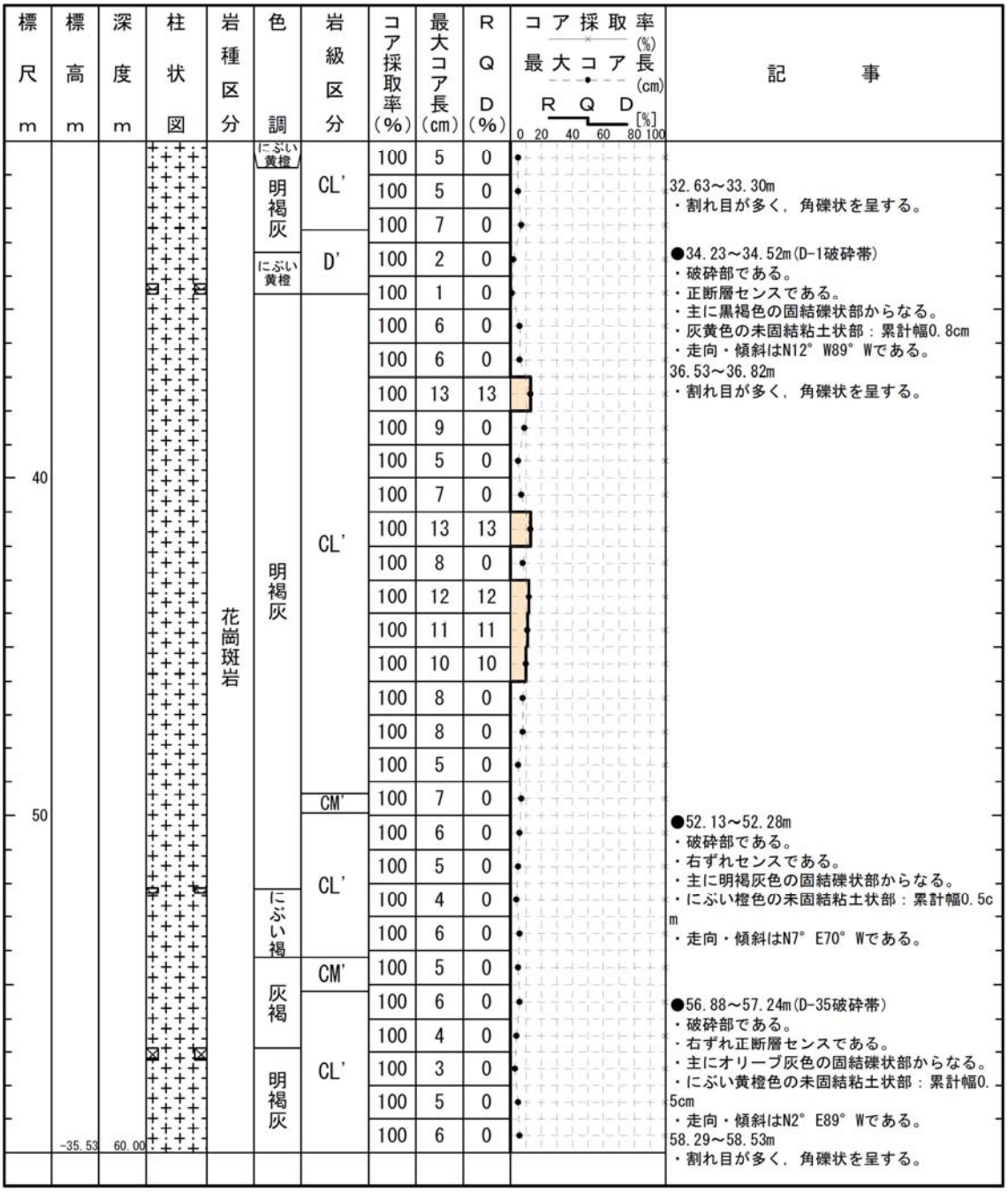
孔口標高	T.P. 6.90m	掘削長	60.00m



コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	1	0
100	1	0
100	2	0
100	6	0
100	12	12
100	10	10
100	15	15
100	13	34
100	11	21
100	10	20
100	10	10
100	7	0
100	13	38
100	23	44
100	16	26
100	22	32
100	10	10
100	15	15
100	8	0
100	12	22

H24-D1-3

柱状図(30.00m～60.00m)

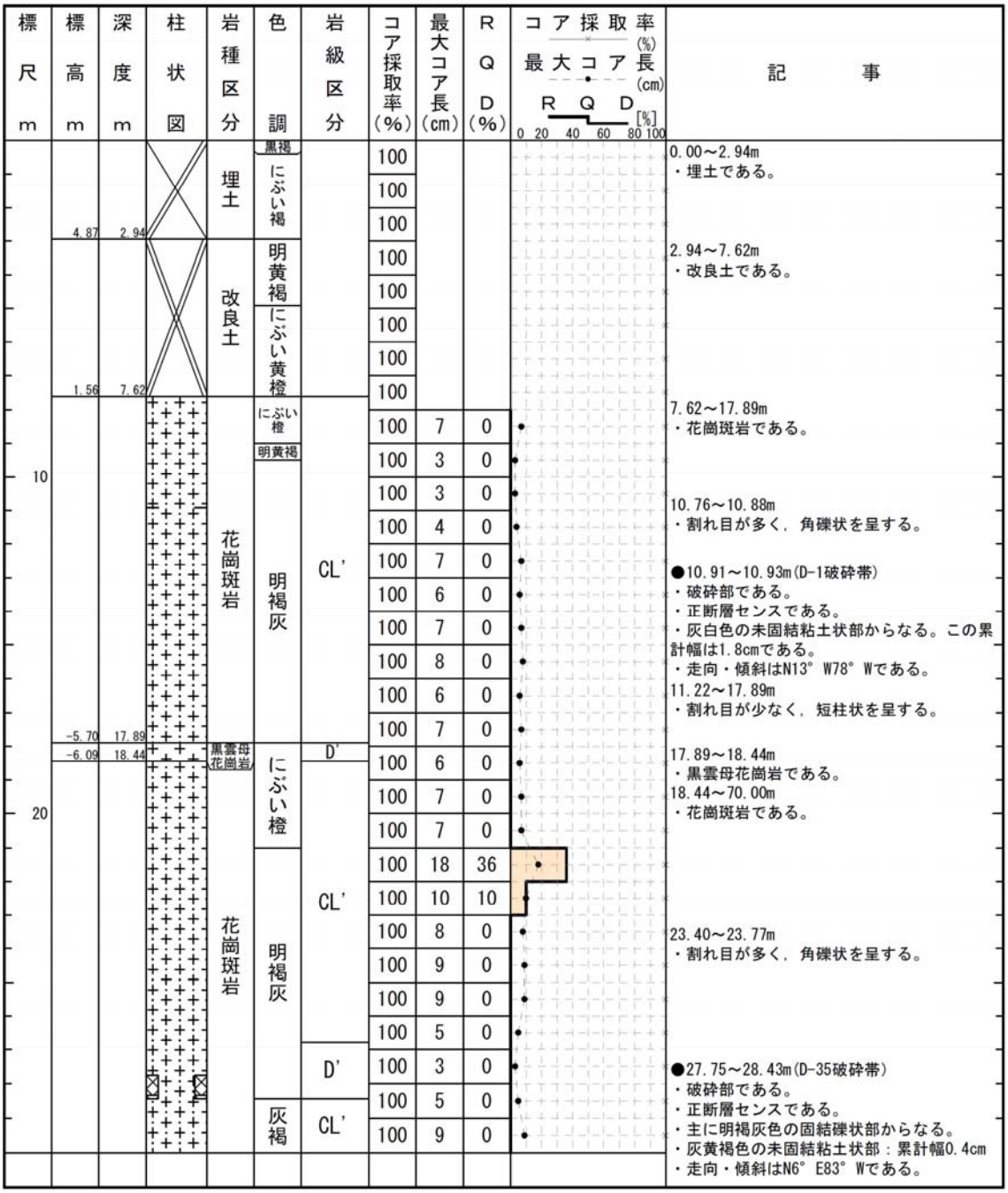


H24-D1-4

柱状図(0.00m～30.00m)

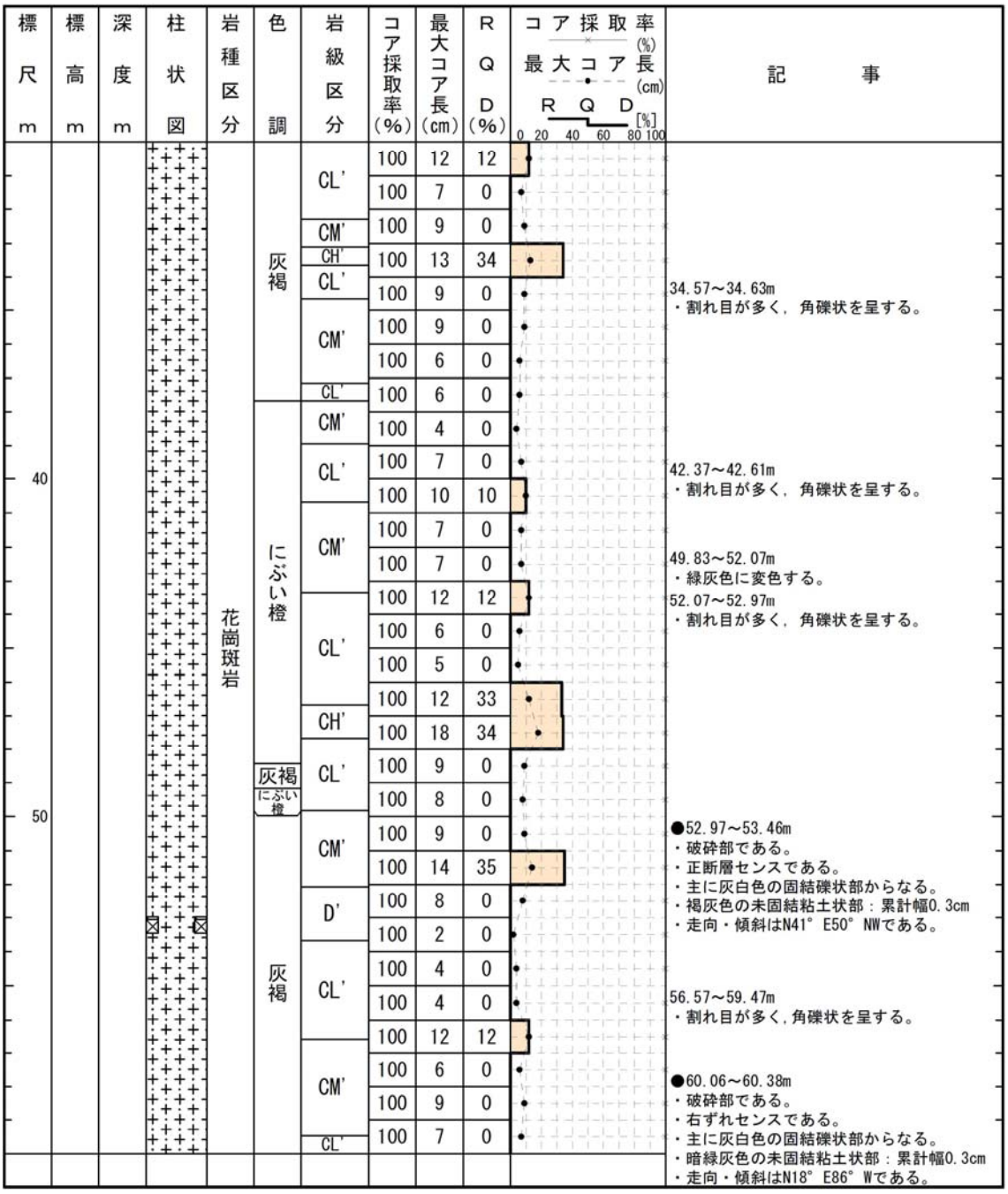
H24-D1-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	70.00m



H24-D1-4

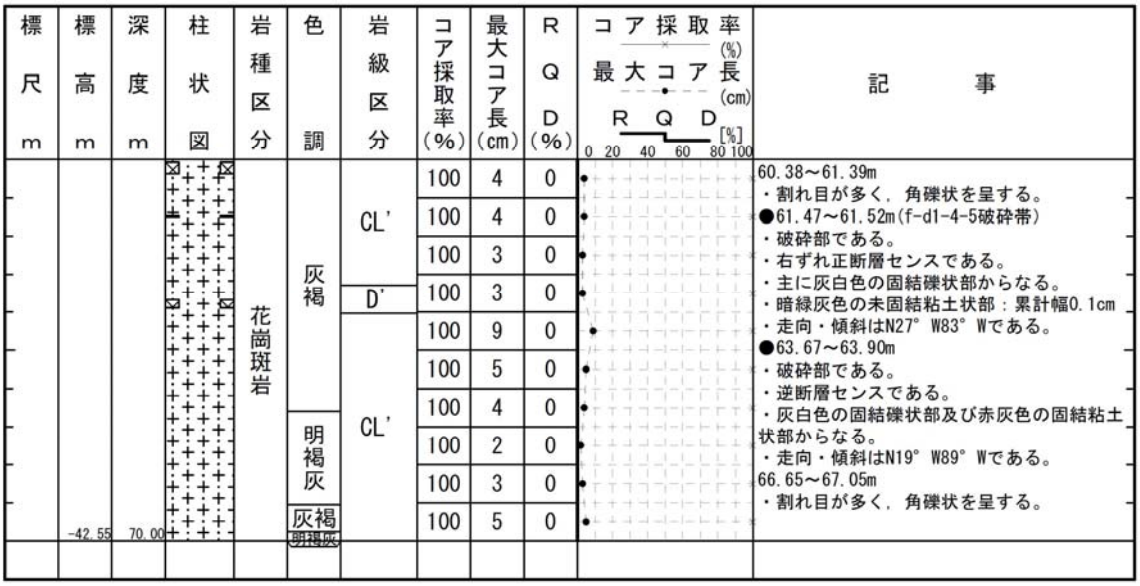
柱状図(30.00m～60.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
				花崗斑岩	灰褐	CL'	100	12	12	
							100	7	0	
						CM'	100	9	0	
						CH'	100	13	34	
						CL'	100	9	0	34.57～34.63m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	9	0	
							100	6	0	
						CL'	100	6	0	
					にぶい橙	CM'	100	4	0	
						CL'	100	7	0	
40							100	10	10	42.37～42.61m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	7	0	
							100	7	0	49.83～52.07m ・緑灰色に変色する。
						CL'	100	12	12	52.07～52.97m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	6	0	
							100	5	0	
						CH'	100	12	33	
							100	18	34	
					灰褐 にぶい橙	CL'	100	9	0	
							100	8	0	
50					灰褐	CM'	100	9	0	●52.97～53.46m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN41° E50° NWである。
							100	14	35	
						D'	100	8	0	
							100	2	0	
						CL'	100	4	0	
							100	4	0	56.57～59.47m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	12	12	
						CM'	100	6	0	
							100	9	0	●60.06～60.38m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗緑灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN18° E86° Wである。
						CL'	100	7	0	

H24-D1-4

柱状図(60.00m～70.00m)

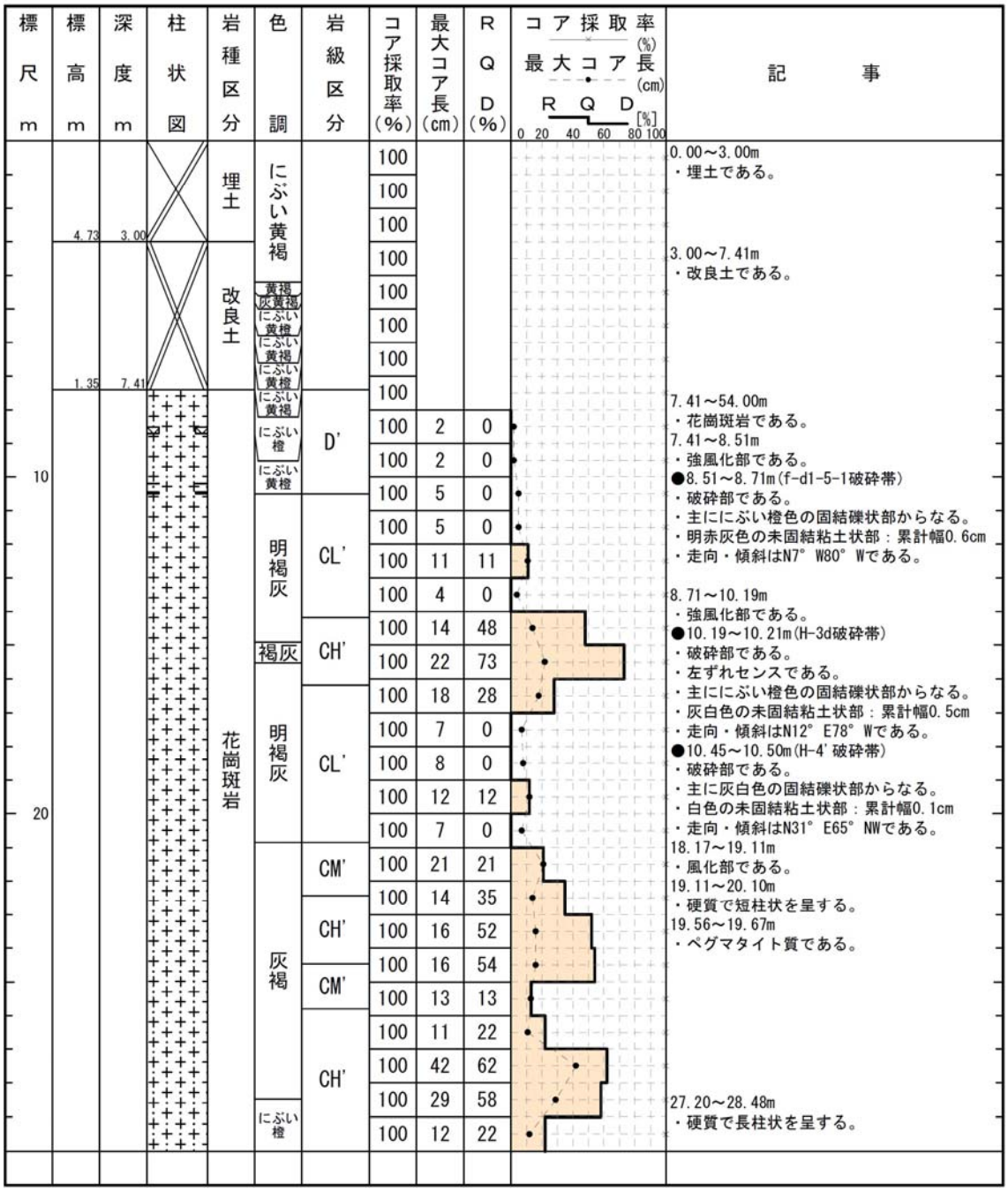


H24-D1-5

柱状図(0.00m～30.00m)

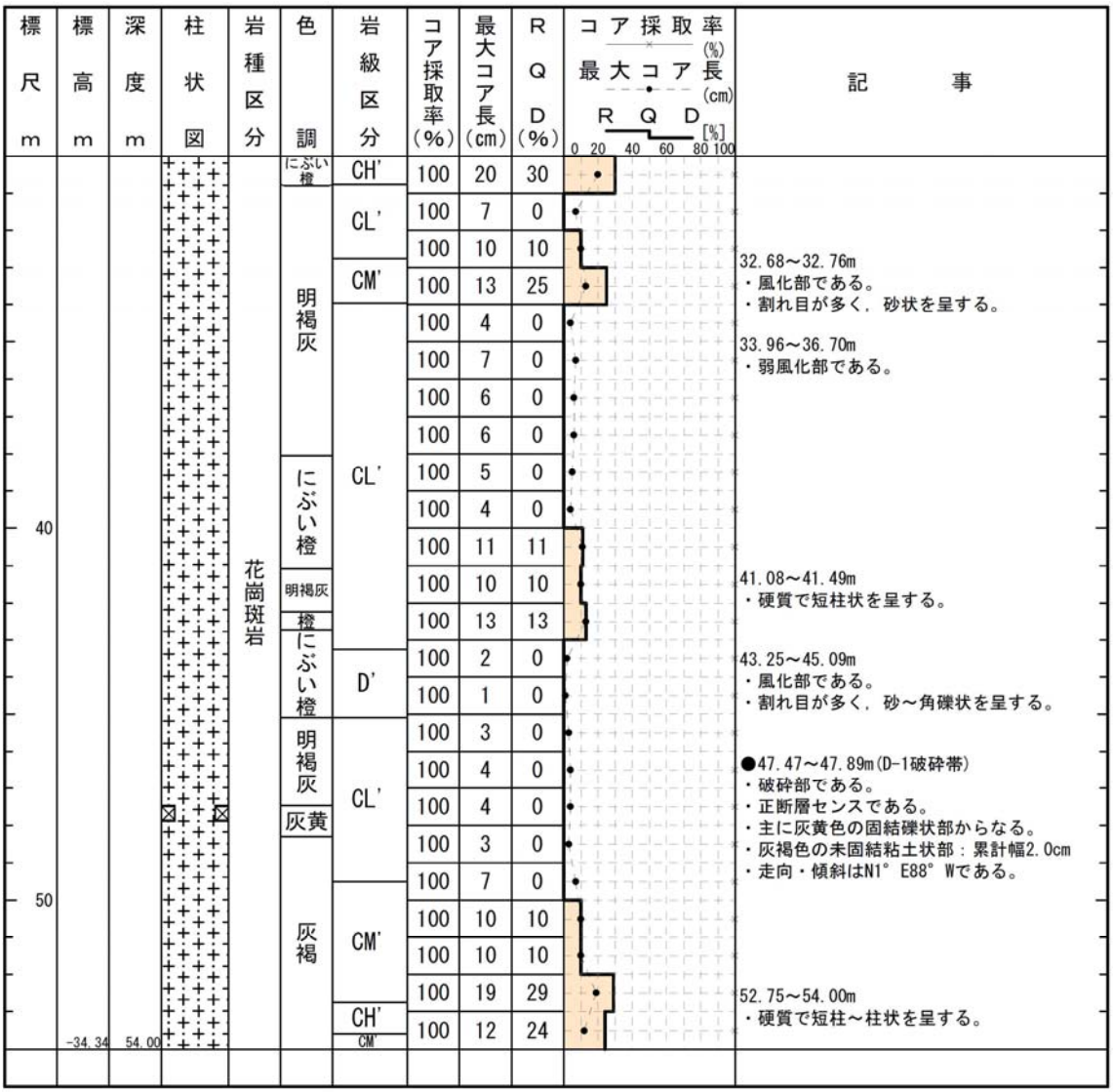
H24-D1-5

孔口標高	T.P. 7.03m	掘削長	54.00m



H24-D1-5

柱状図(30.00m～54.00m)



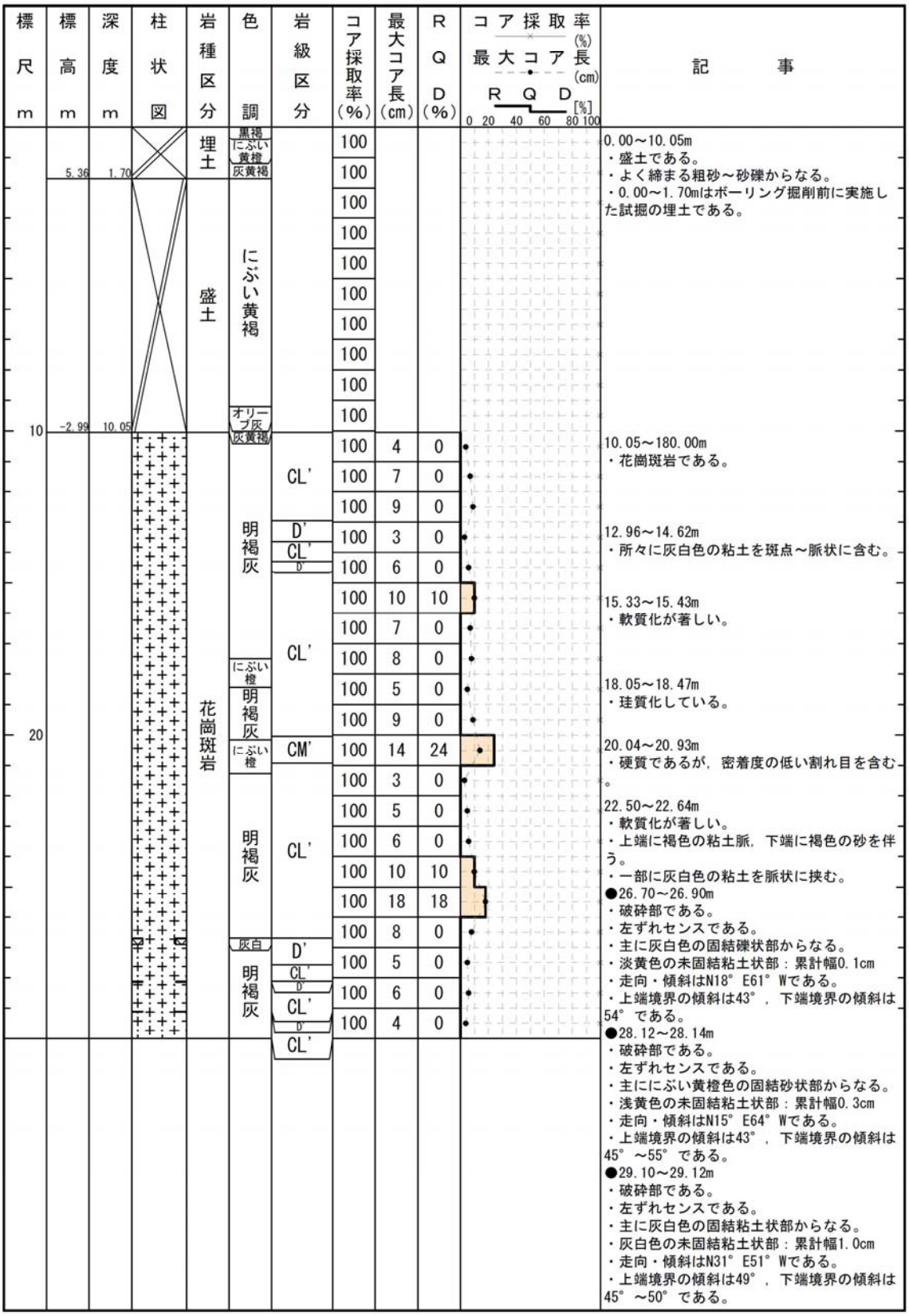
岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
CH'	100	20	30
CL'	100	7	0
	100	10	10
CM'	100	13	25
CL'	100	4	0
	100	7	0
	100	6	0
	100	6	0
	100	5	0
	100	4	0
	100	11	11
	100	10	10
	100	13	13
D'	100	2	0
	100	1	0
CL'	100	3	0
	100	4	0
	100	4	0
	100	3	0
	100	7	0
CM'	100	10	10
	100	10	10
	100	19	29
CH' CM	100	12	24

H27-B-3

柱状図(0.00m～30.00m)

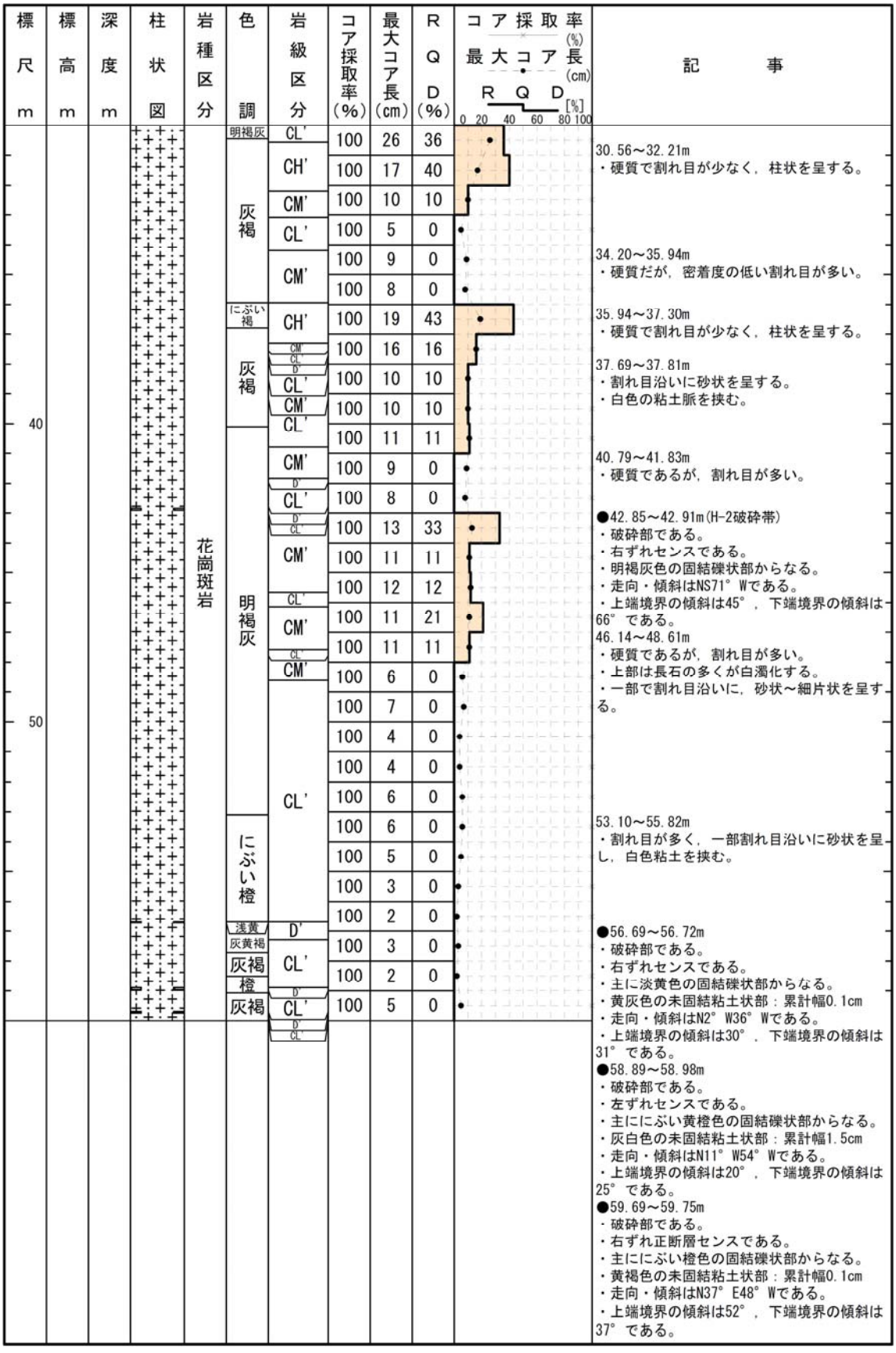
H27-B-3

孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	180.00m



H27-B-3

柱状図(30.00m～60.00m)



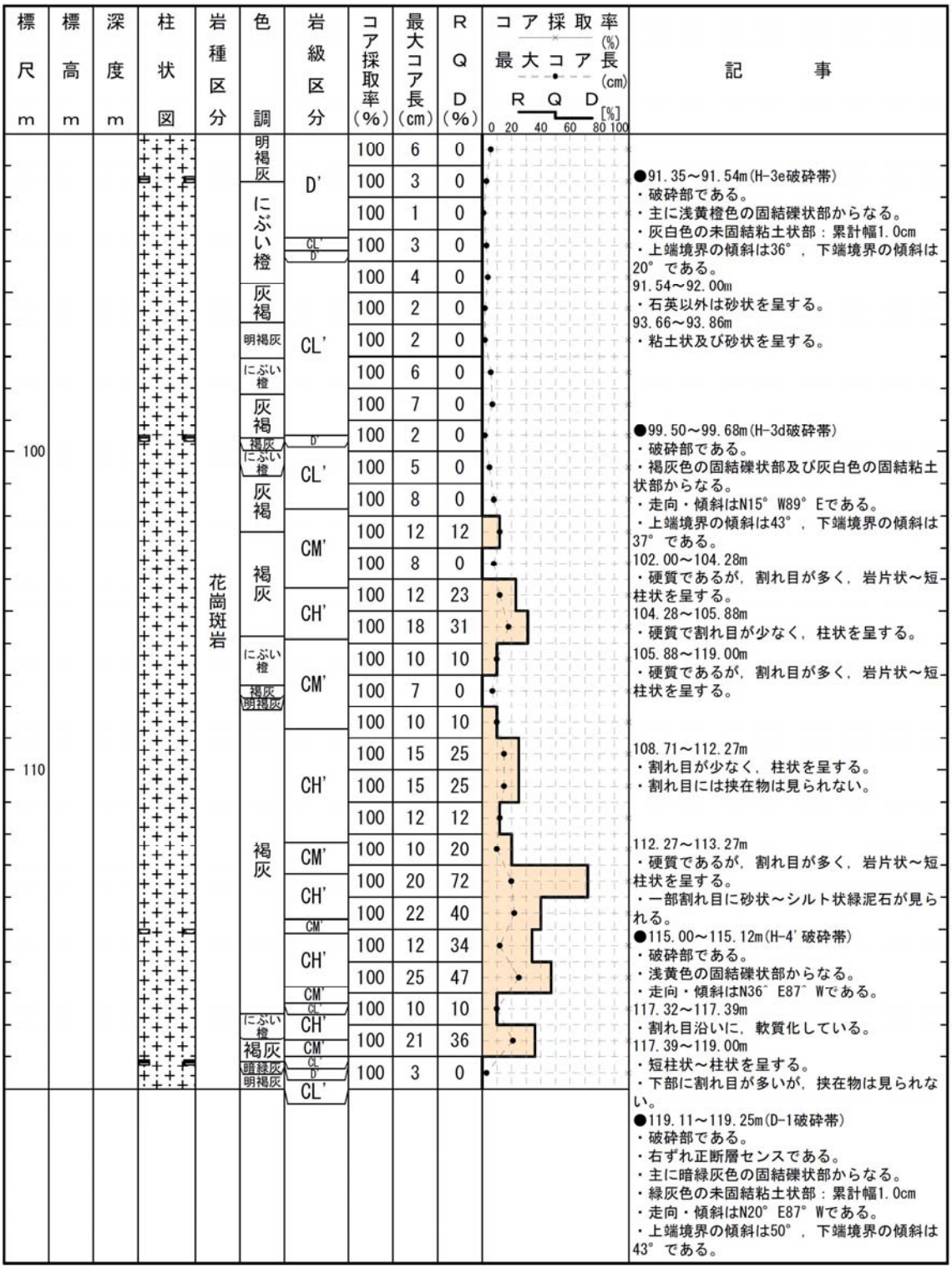
H27-B-3

柱状図(60.00m～90.00m)



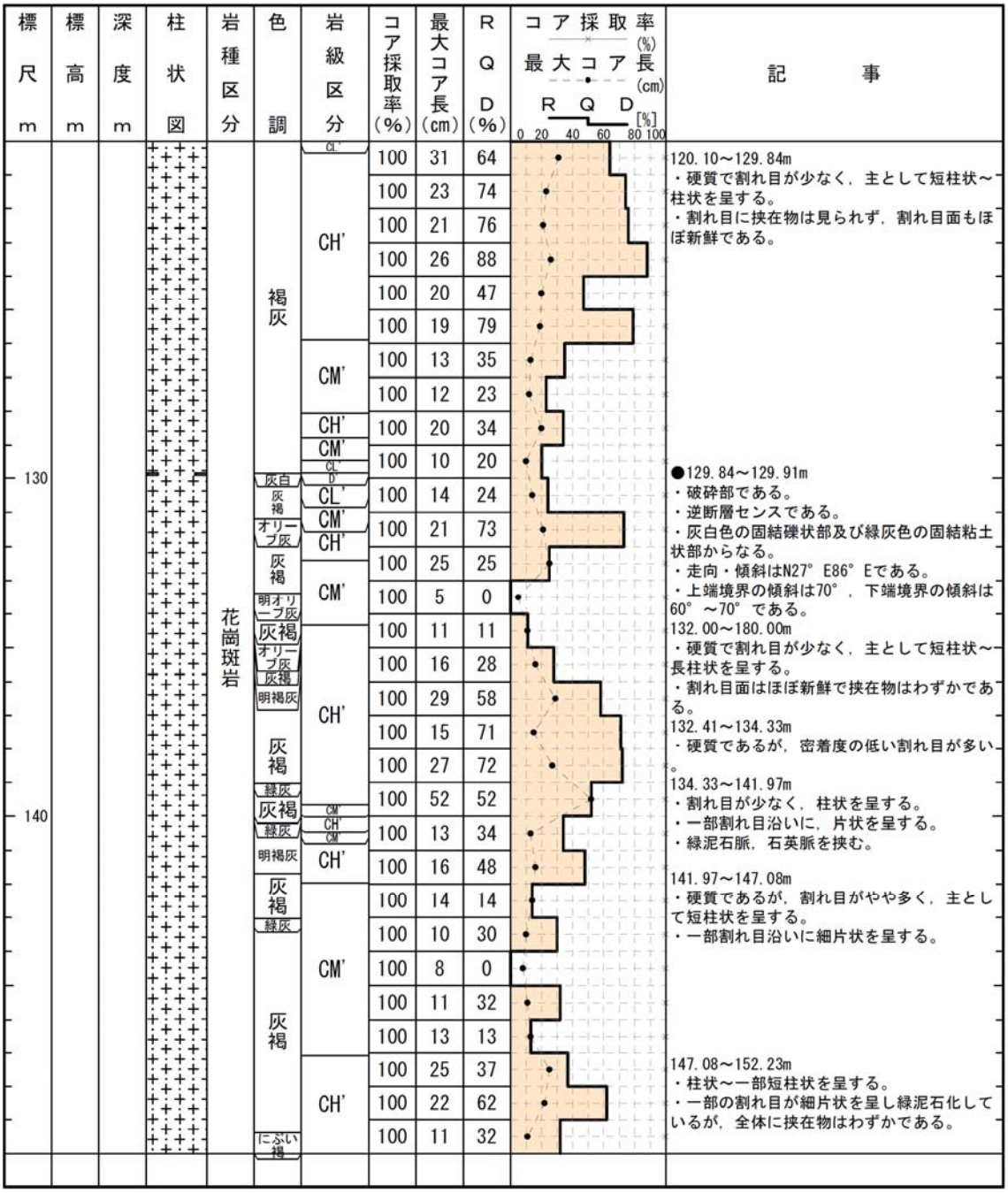
H27-B-3

柱状図(90.00m～120.00m)



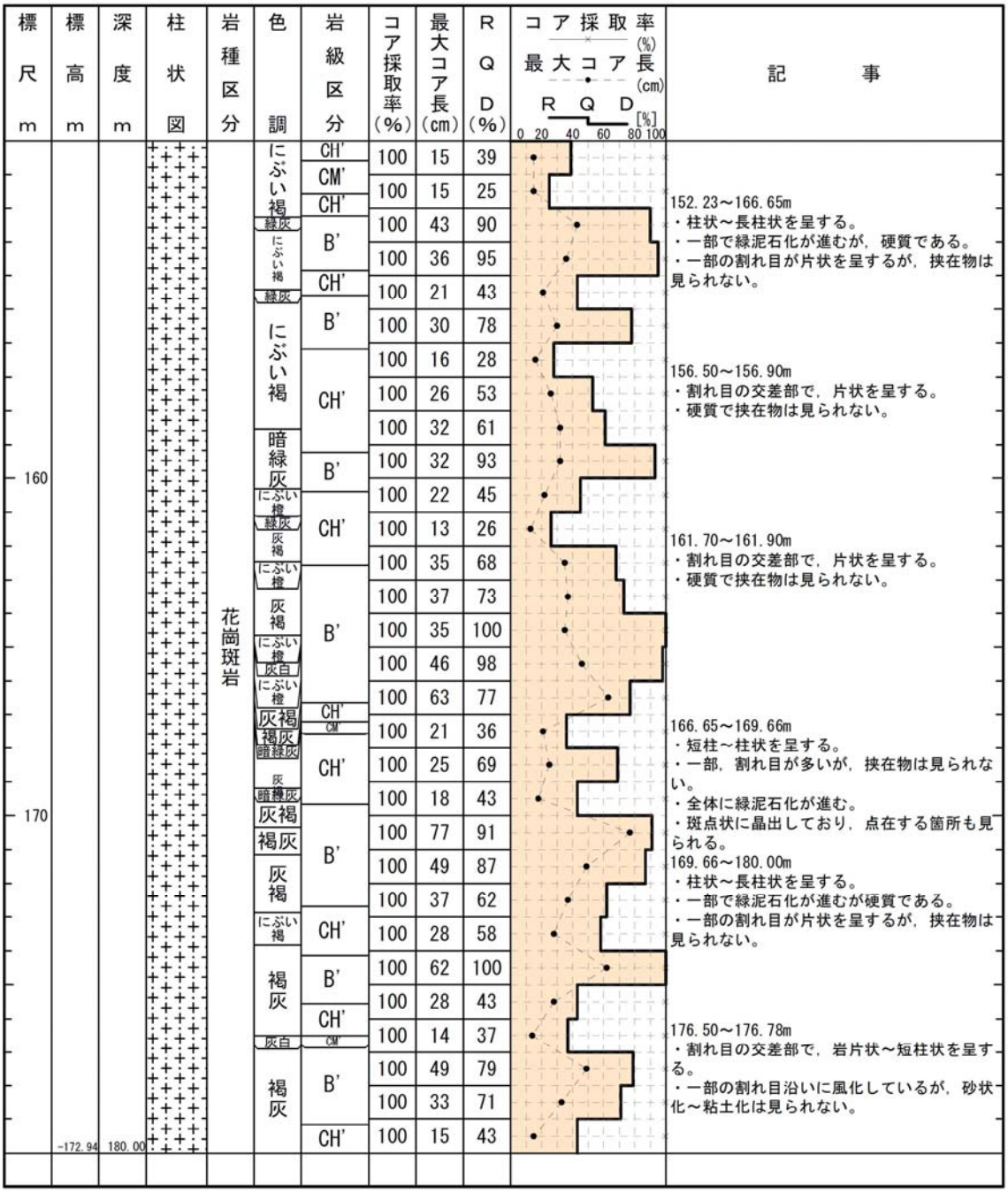
H27-B-3

柱状図(120.00m～150.00m)



H27-B-3

柱状図(150.00m～180.00m)

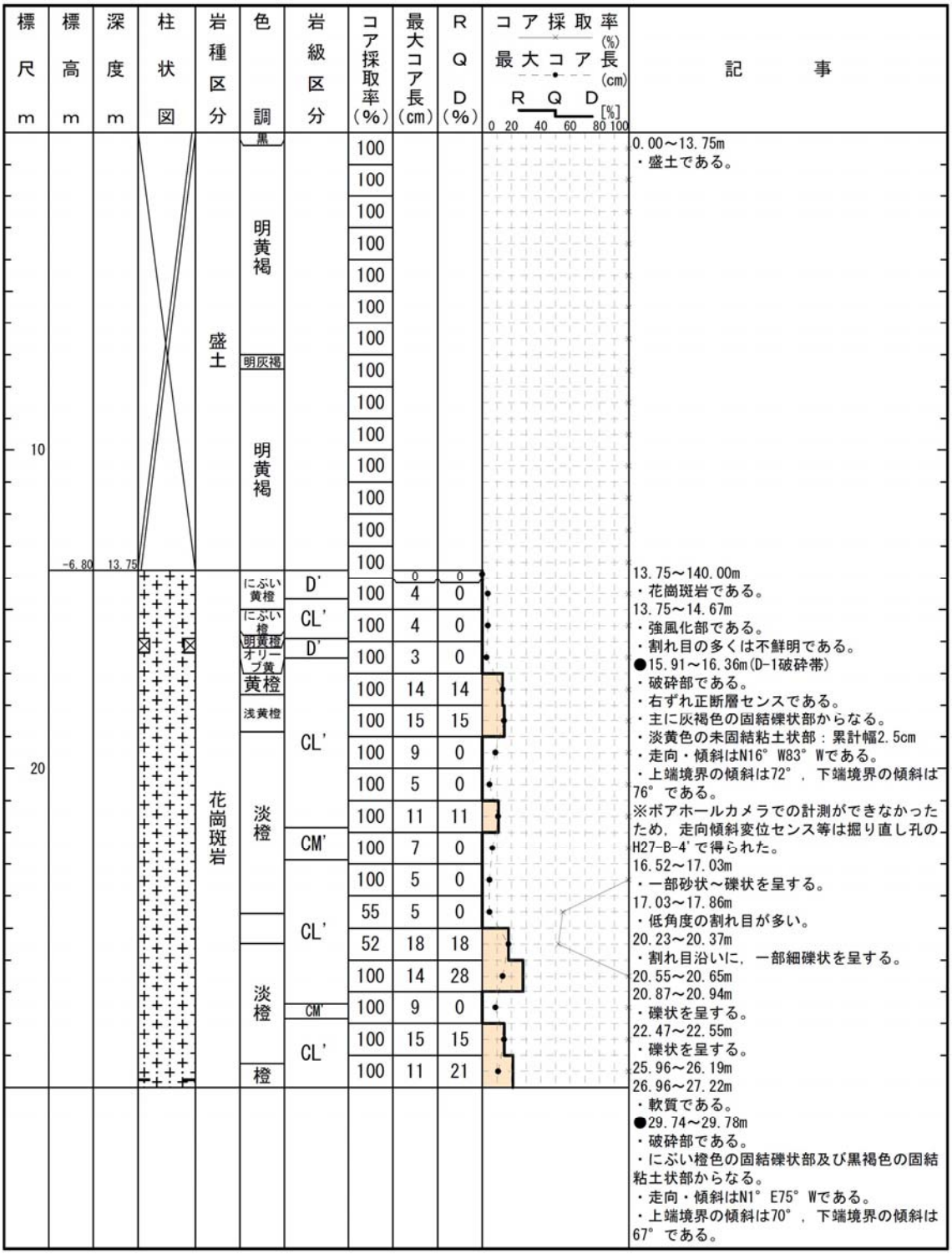


H27-B-4

柱状図(0.00m～30.00m)

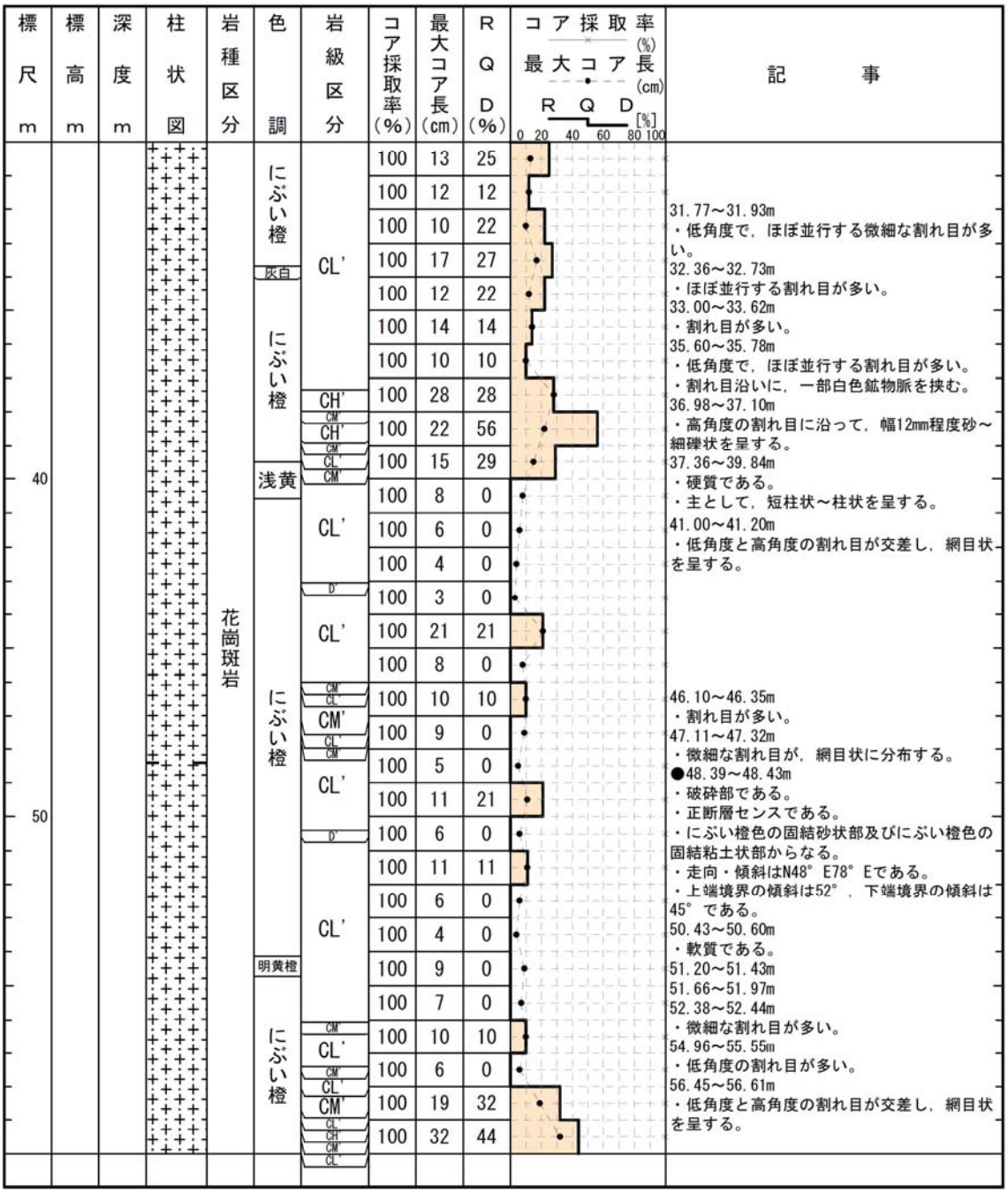
H27-B-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	140.00m



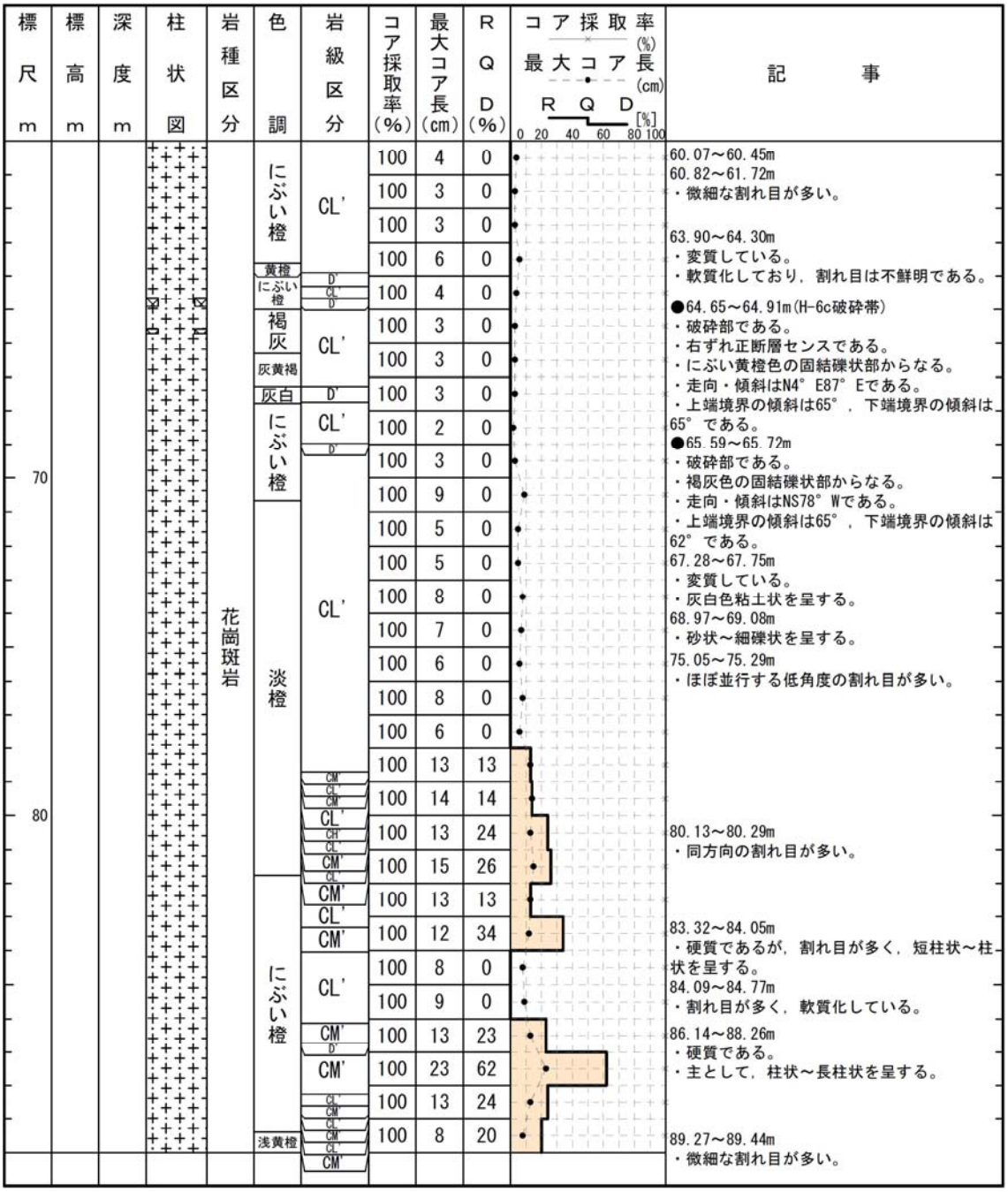
H27-B-4

柱状図(30.00m～60.00m)



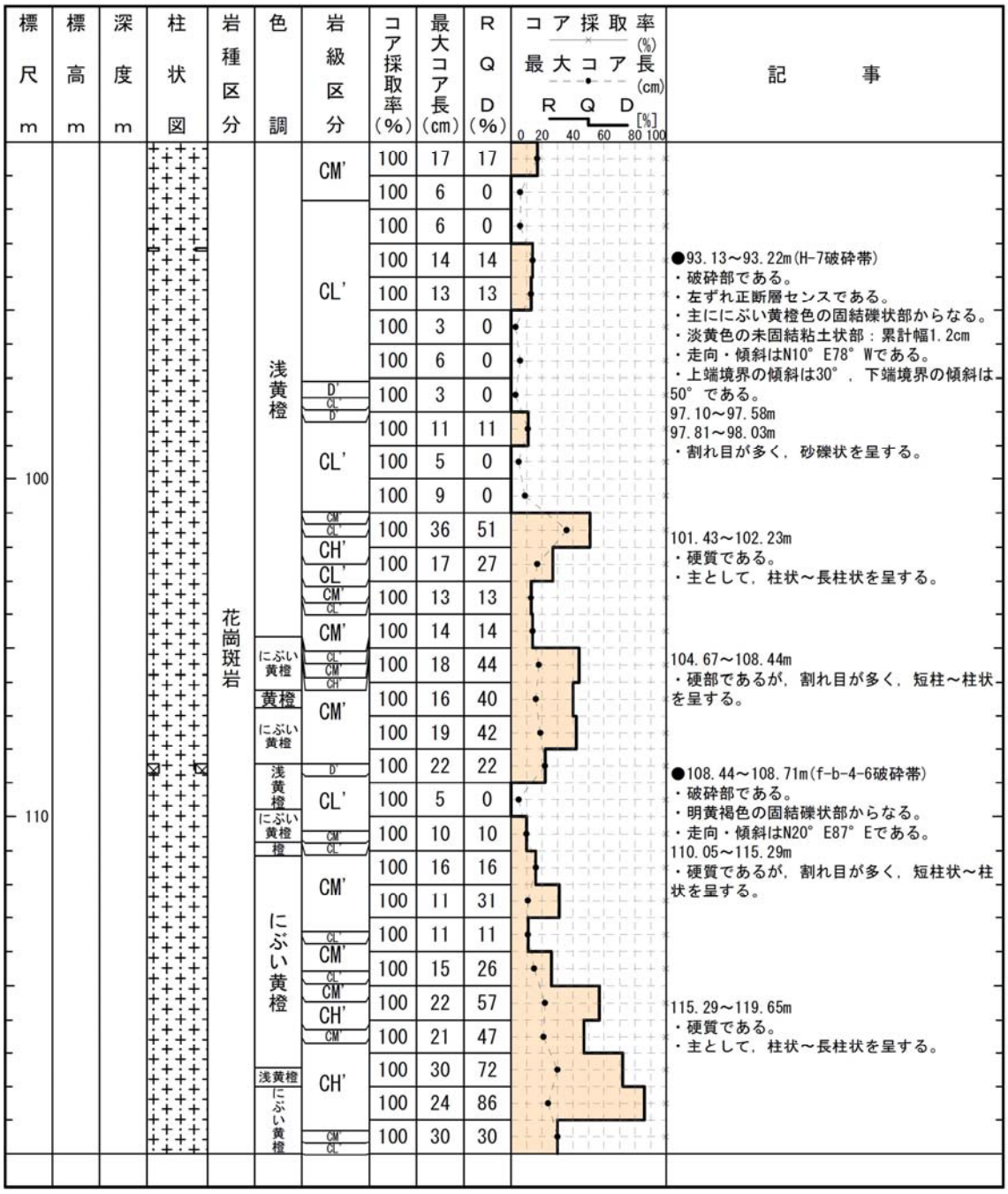
H27-B-4

柱状図(60.00m～90.00m)



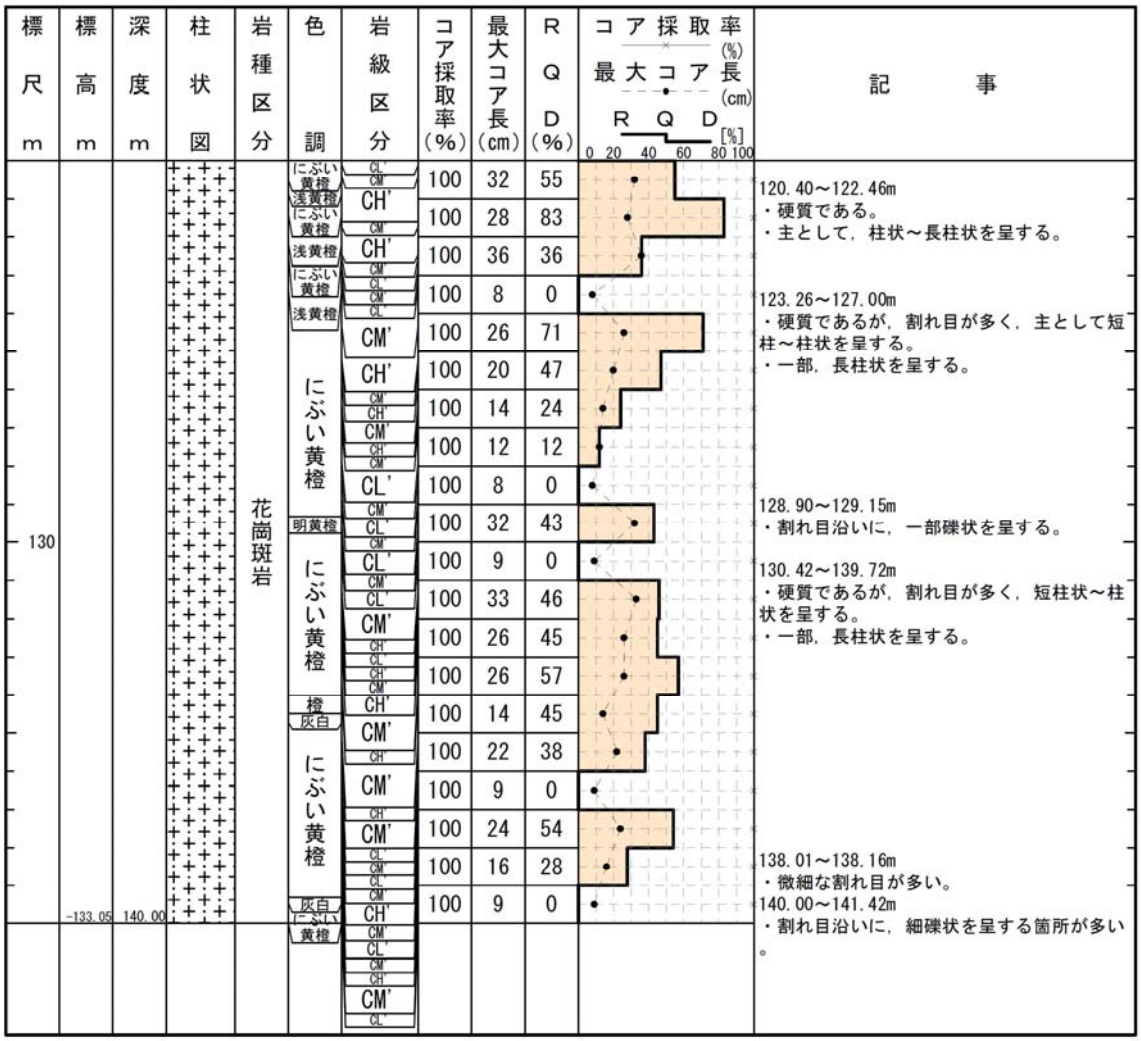
H27-B-4

柱状図(90.00m～120.00m)



H27-B-4

柱状図(120.00m～140.00m)

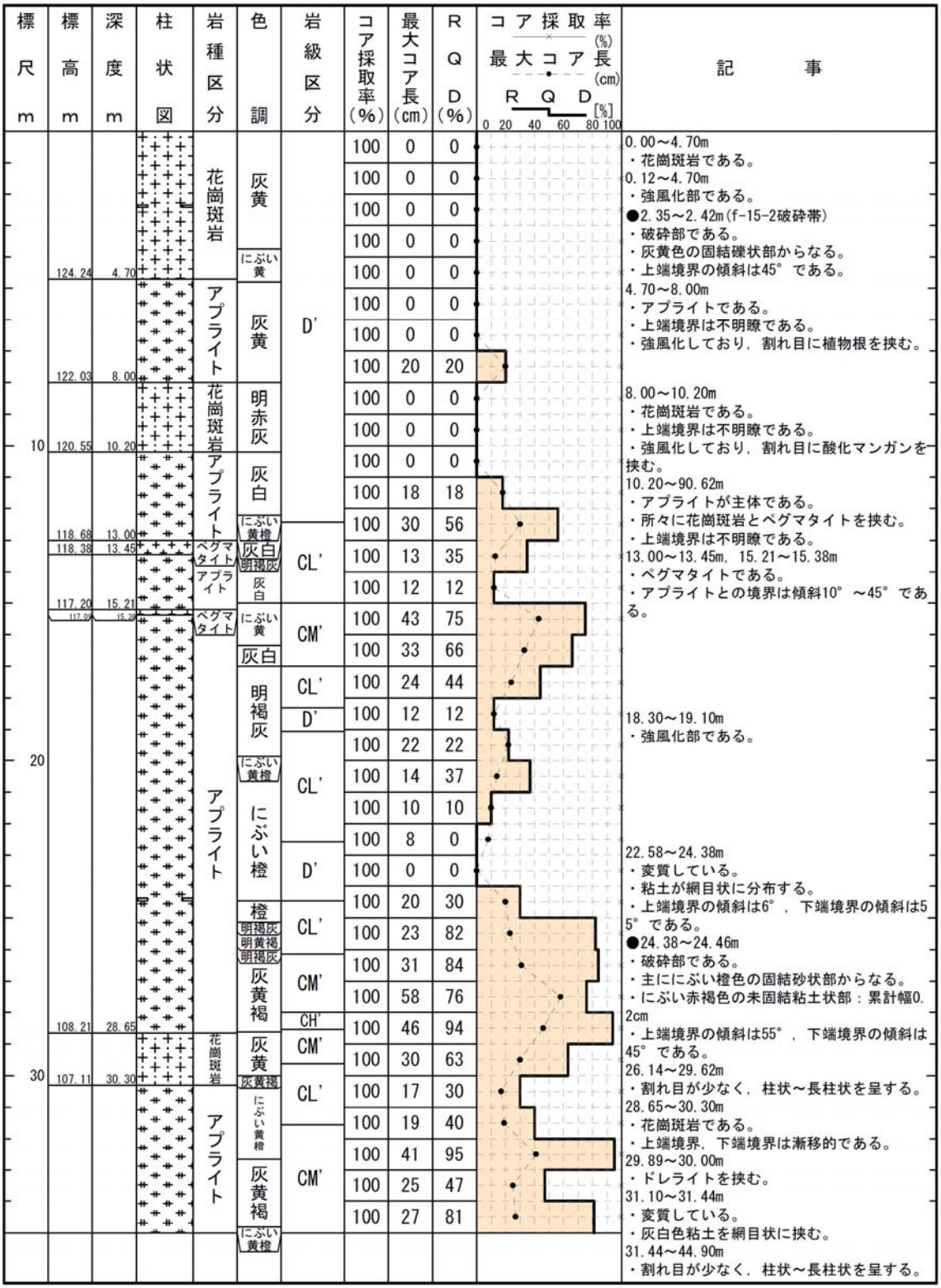


H19-No.2

柱状図(0.00m～35.00m)

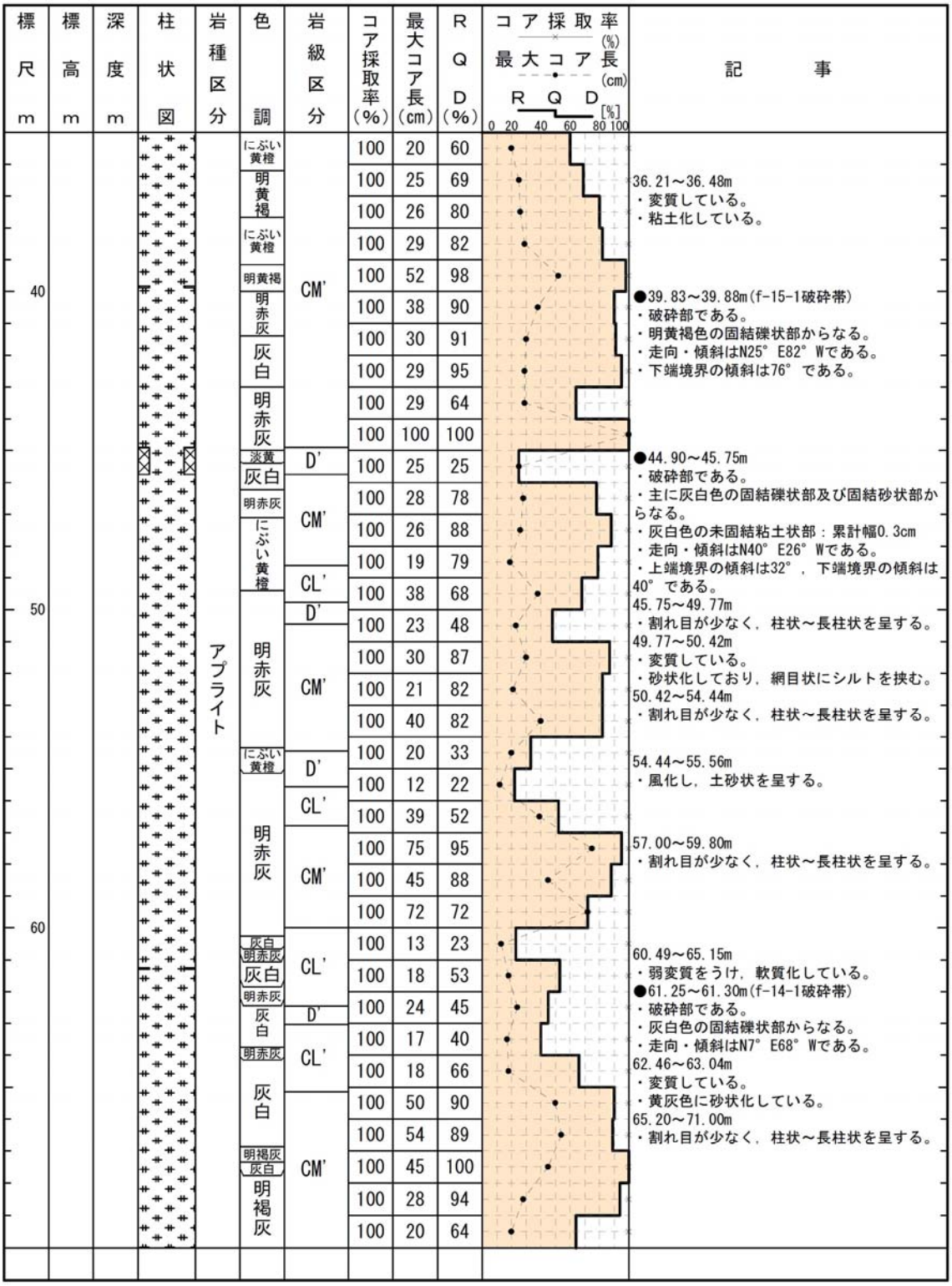
H19-No. 2

孔口標高	T.P. 127.38m	掘削長	220.00m



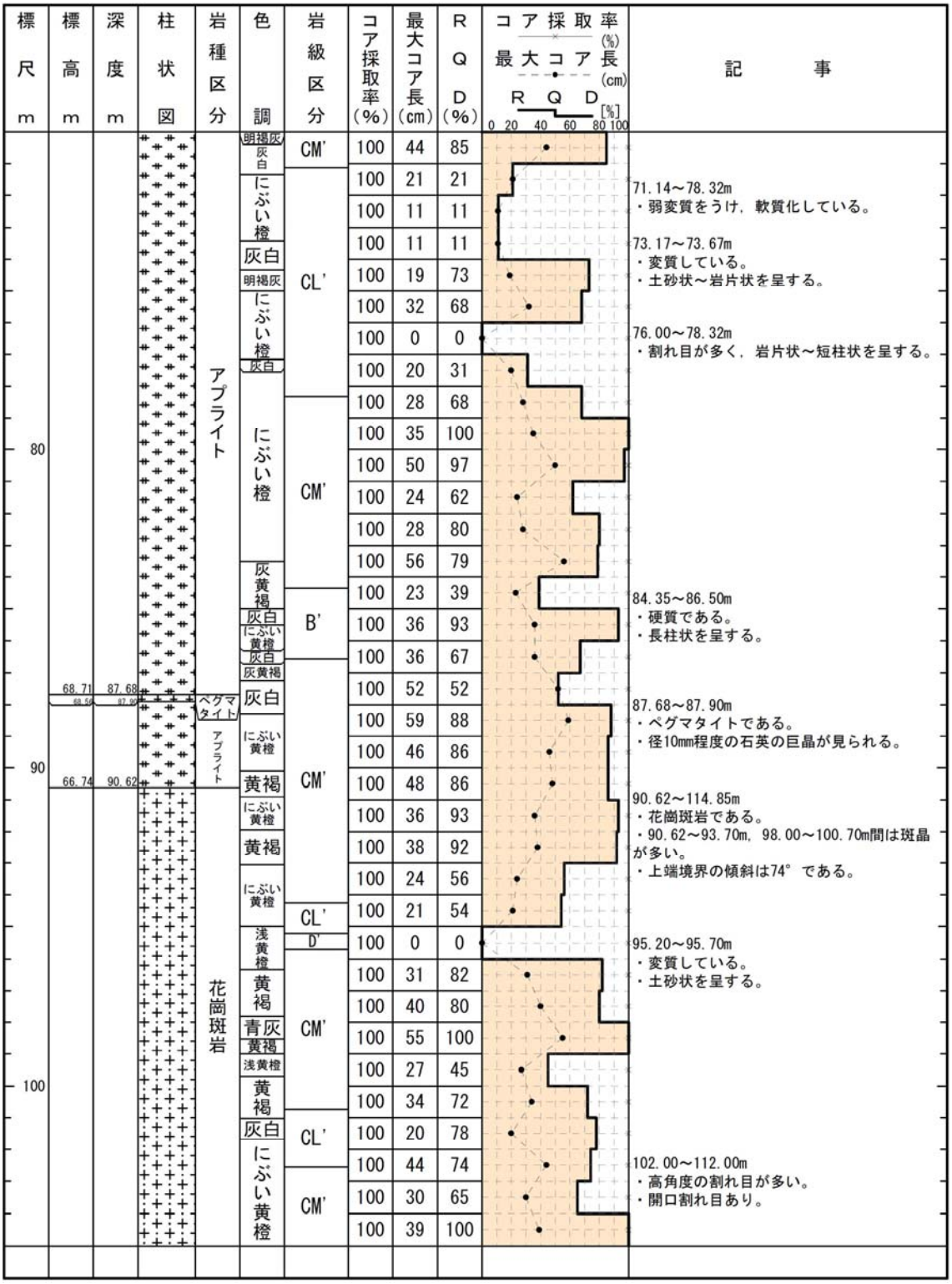
H19-No.2

柱状図(35.00m～70.00m)



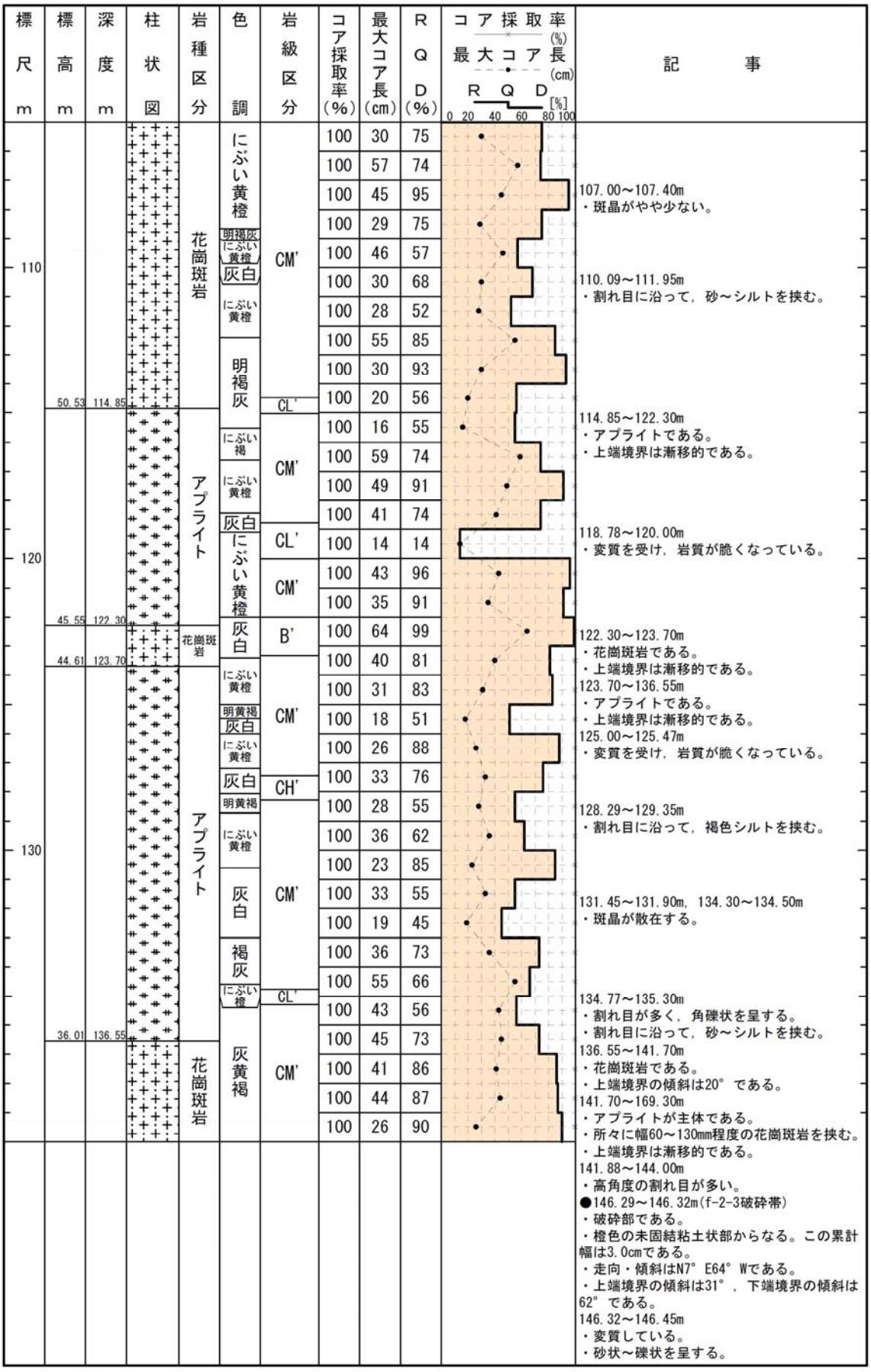
H19-No.2

柱状図(70.00m～105.00m)



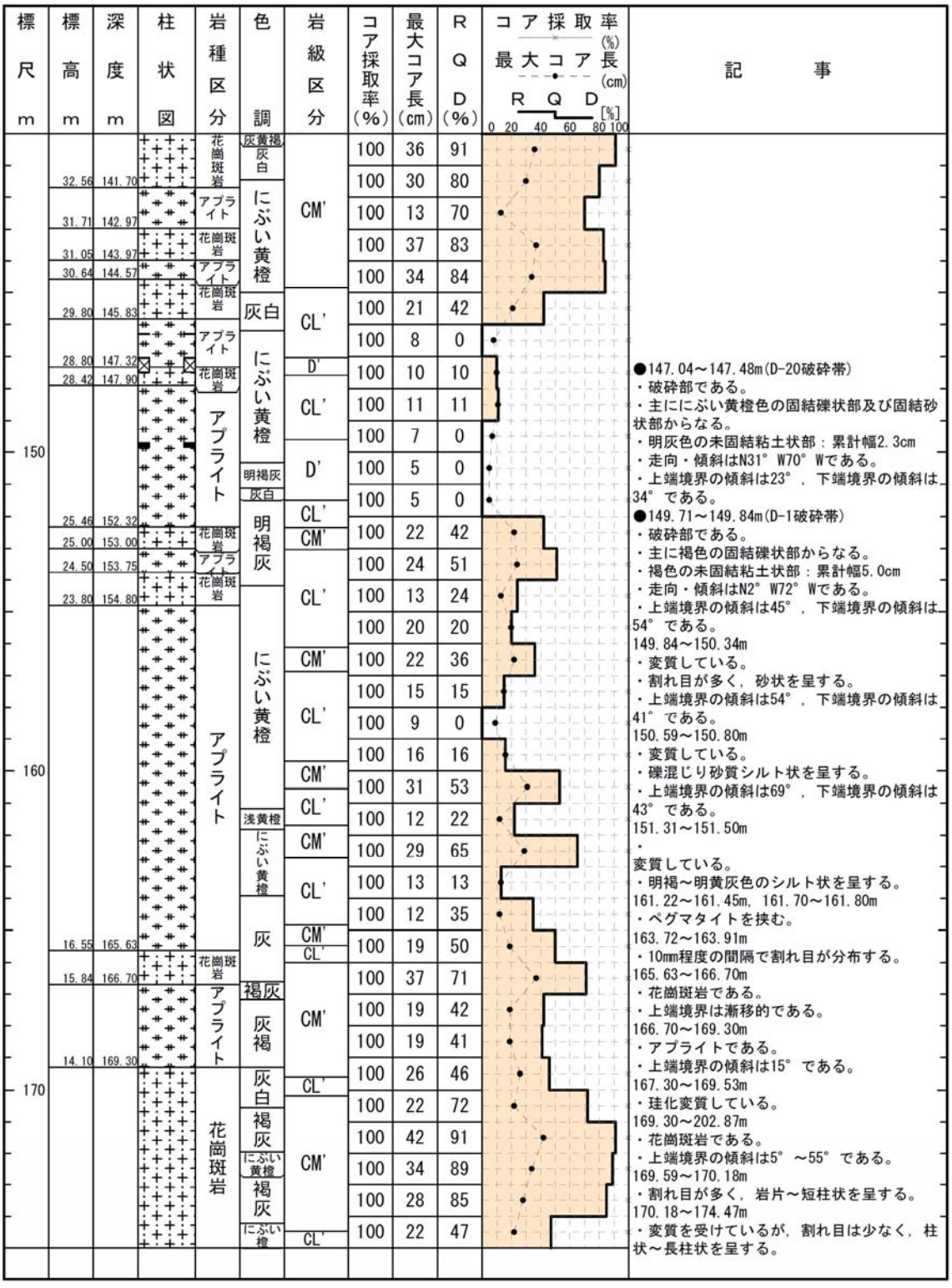
H19-No.2

柱状図(105.00m～140.00m)



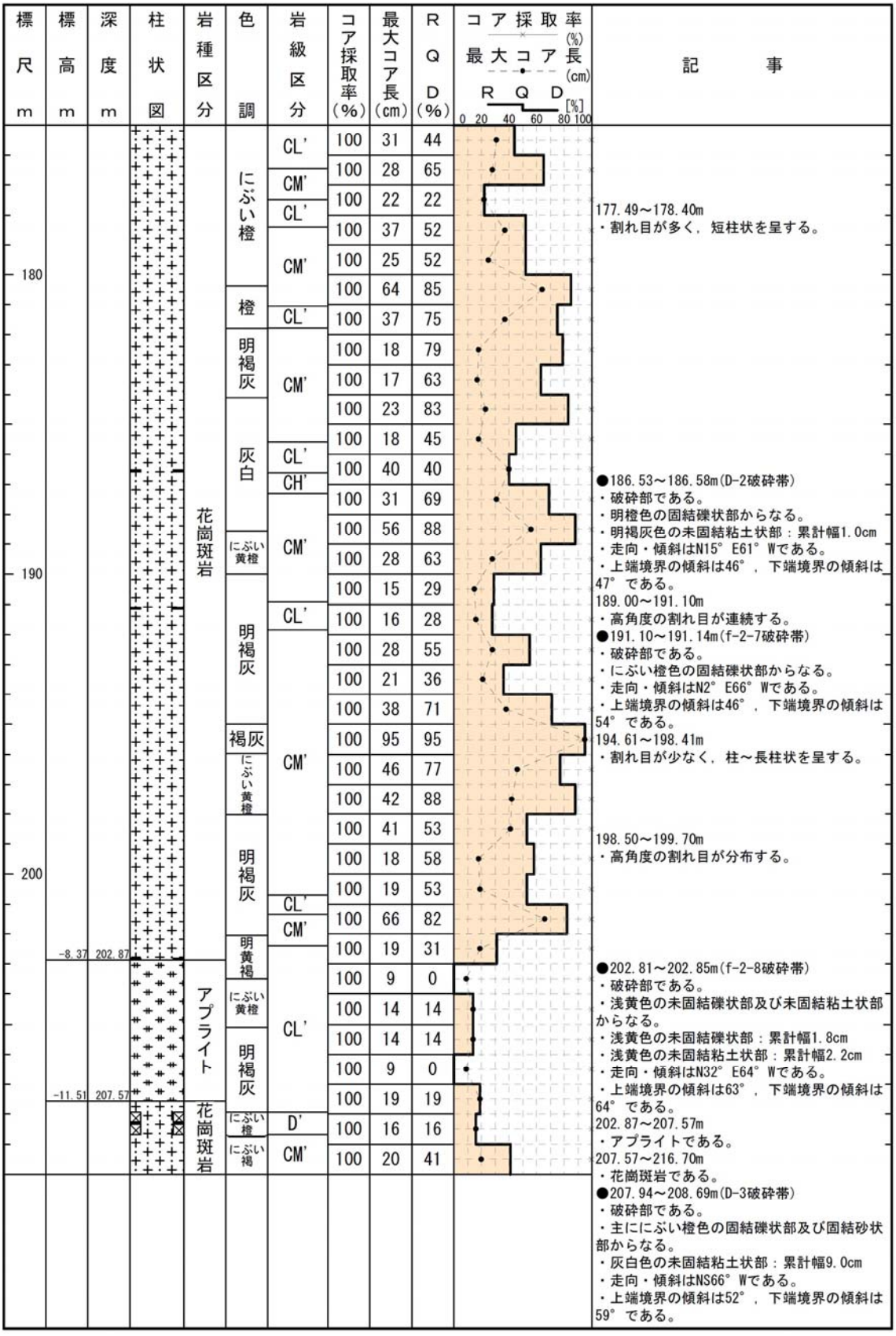
H19-No.2

柱状図(140.00m～175.00m)



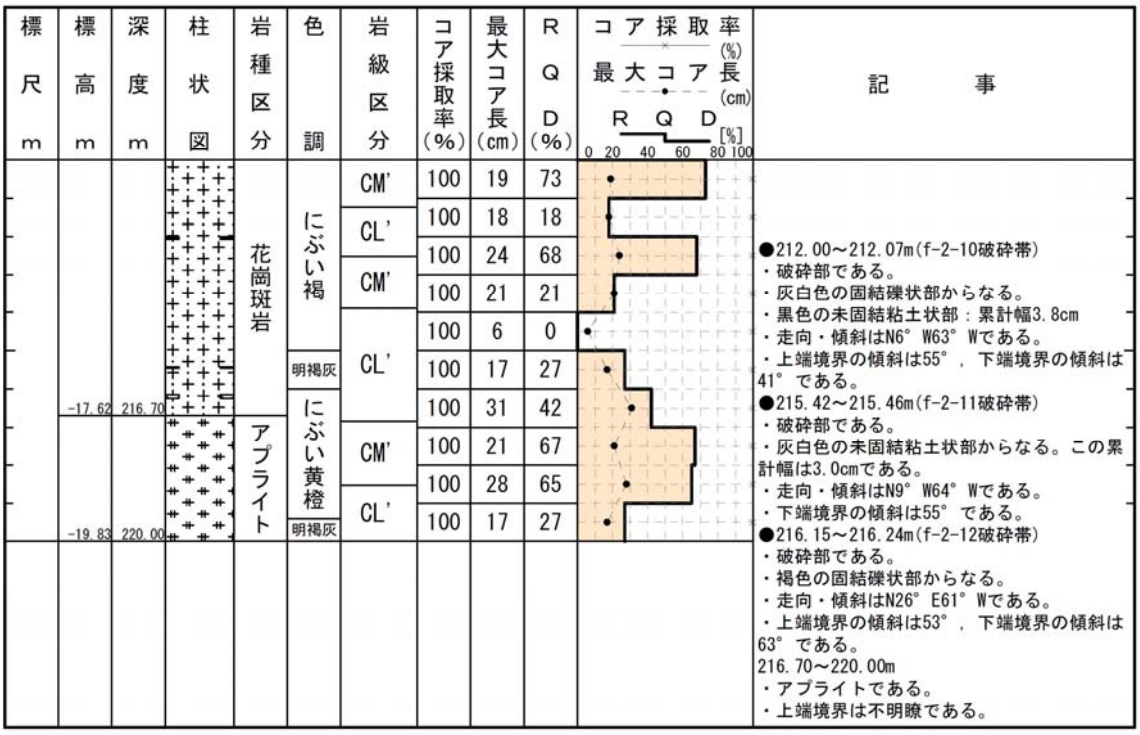
H19-No.2

柱状図(175.00m～210.00m)



H19-No.2

柱状図(210.00m～220.00m)

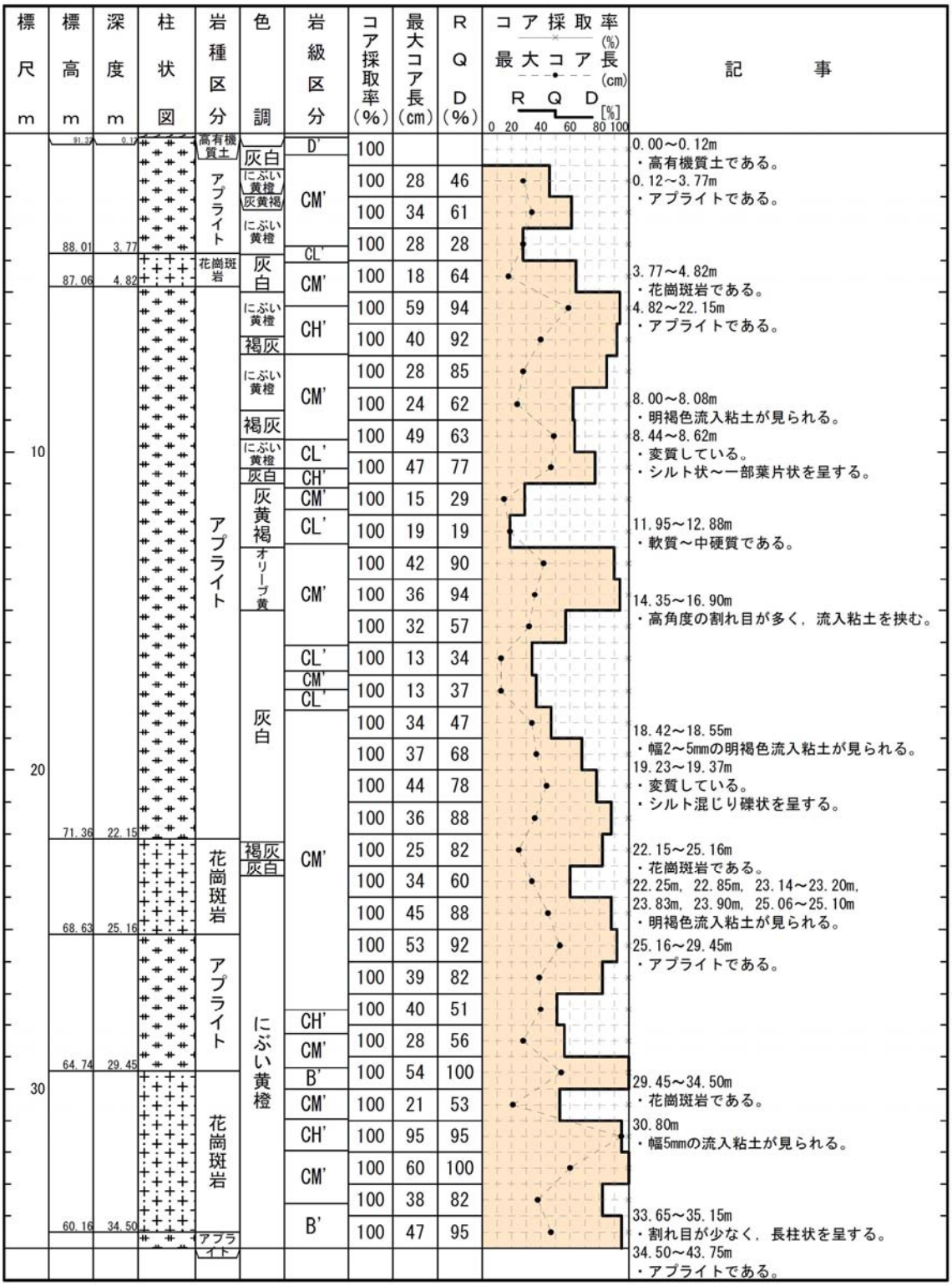


H19-No.14

柱状図(0.00m～35.00m)

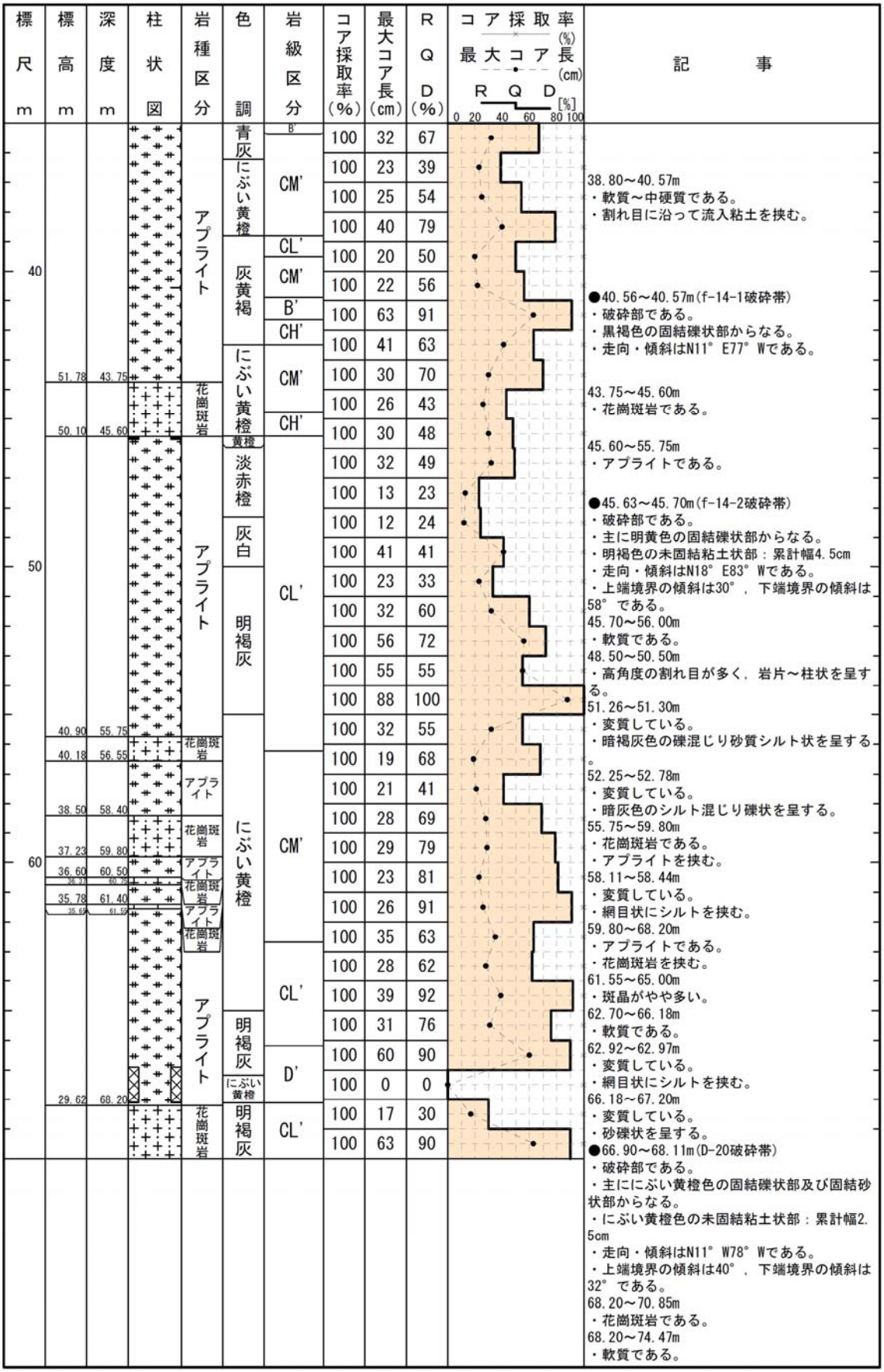
H19-No. 14

孔口標高	T.P. 91.43m	掘削長	150.00m



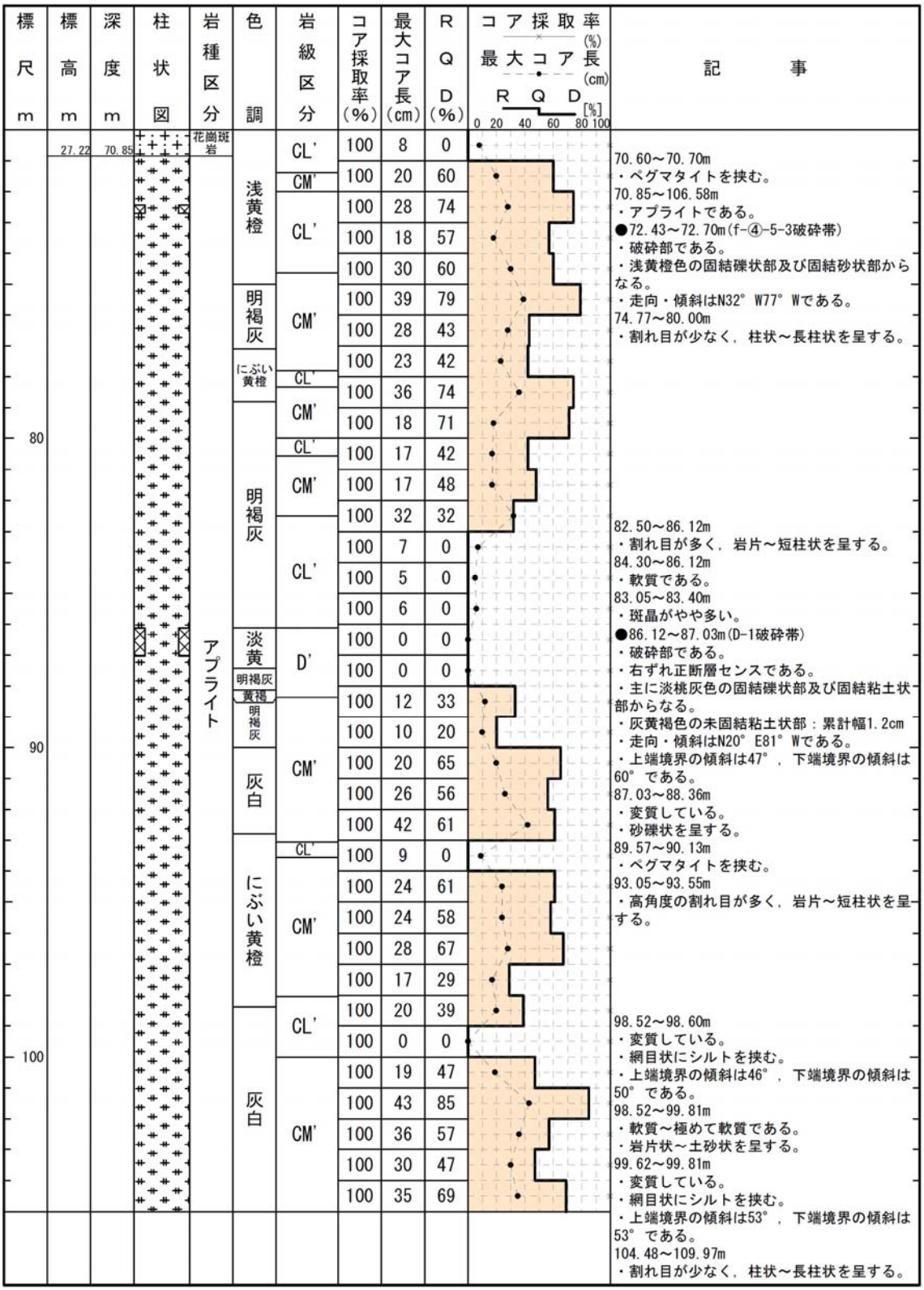
H19-No.14

柱状図(35.00m～70.00m)



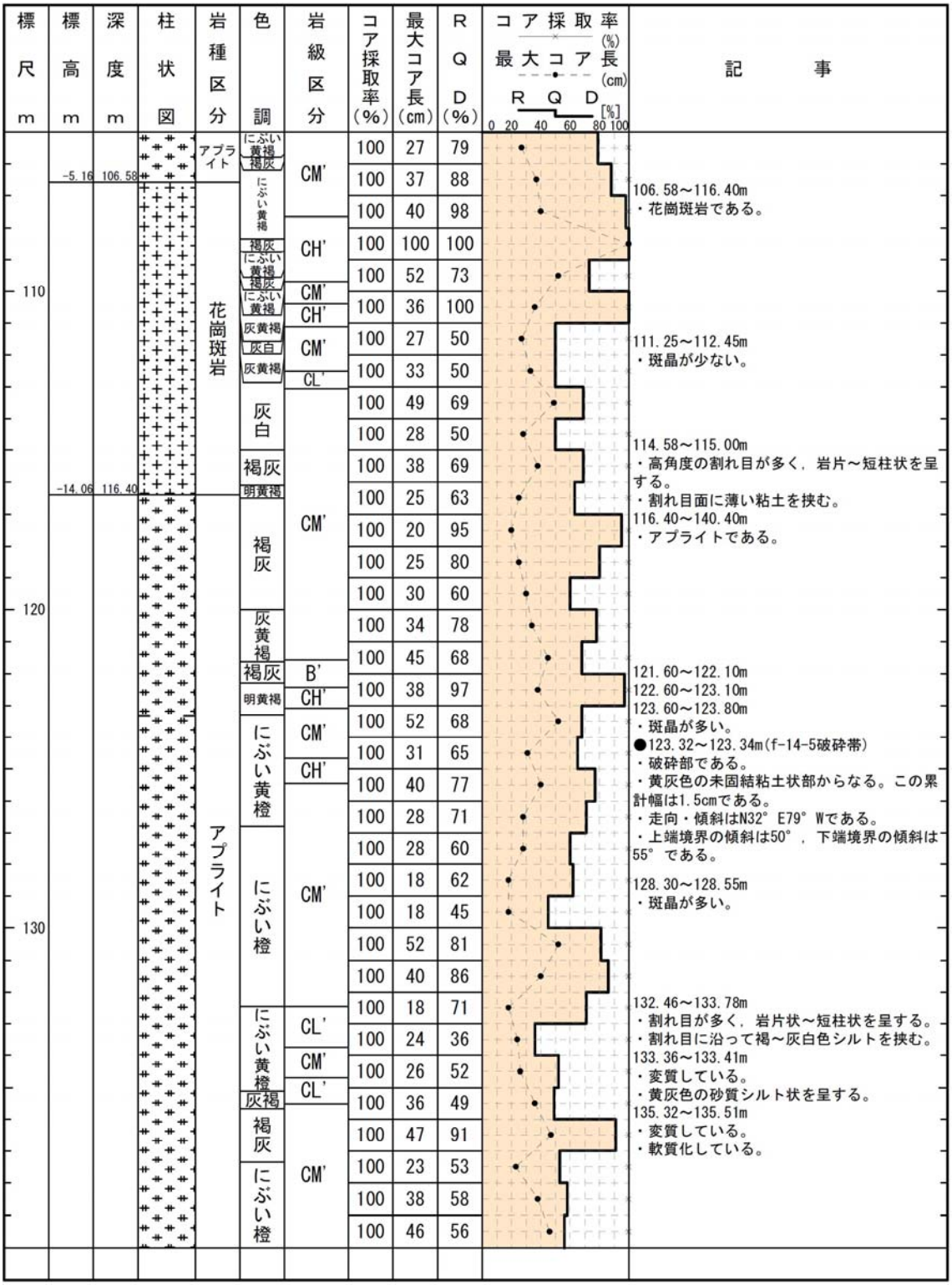
H19-No.14

柱状図(70.00m～105.00m)



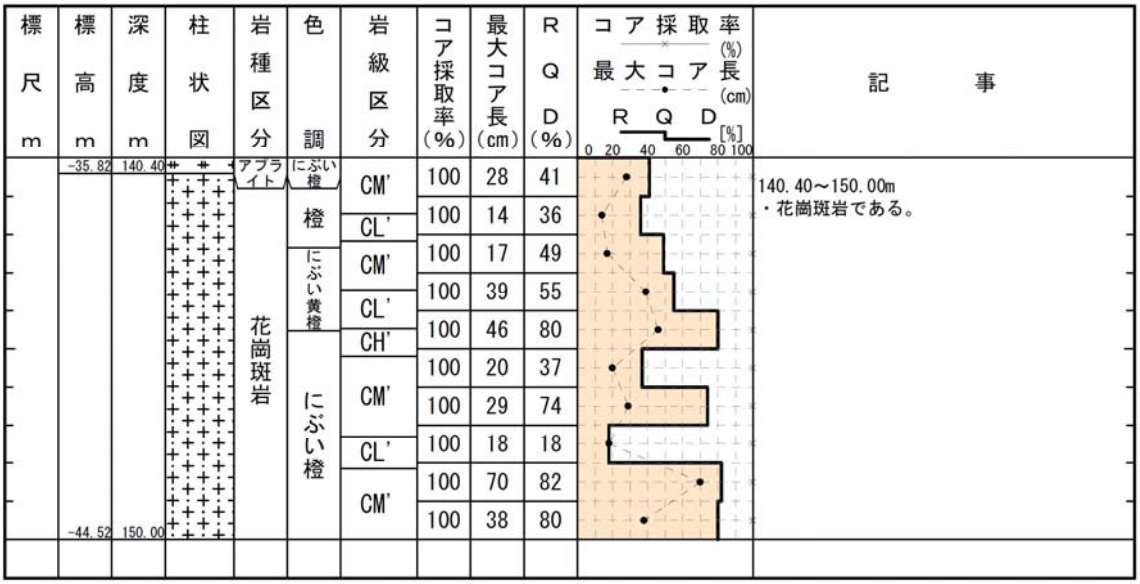
H19-No.14

柱状図(105.00m～140.00m)



H19-No.14

柱状図(140.00m～150.00m)

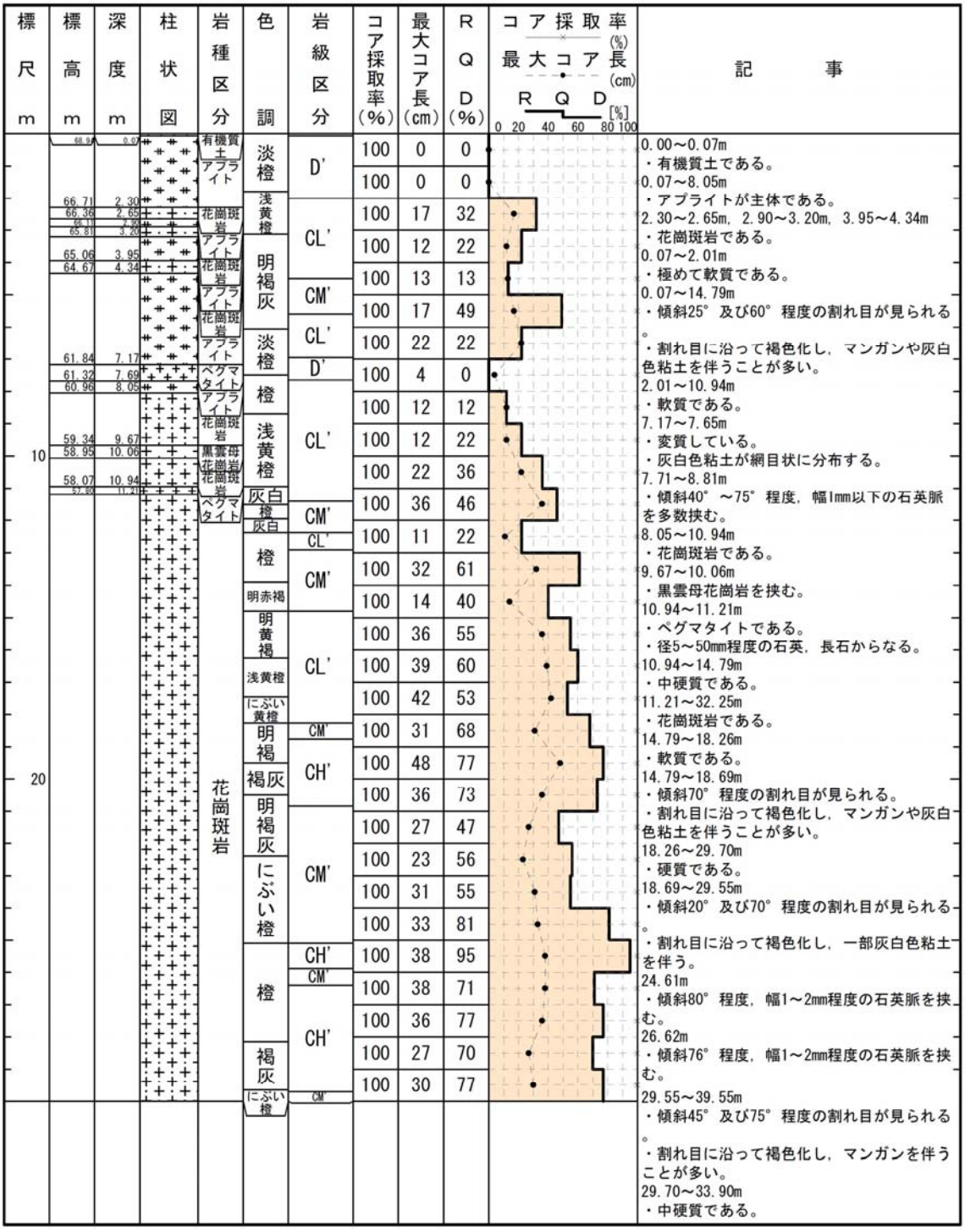


H20-②-1

柱状図(0.00m～30.00m)

H20-②-1

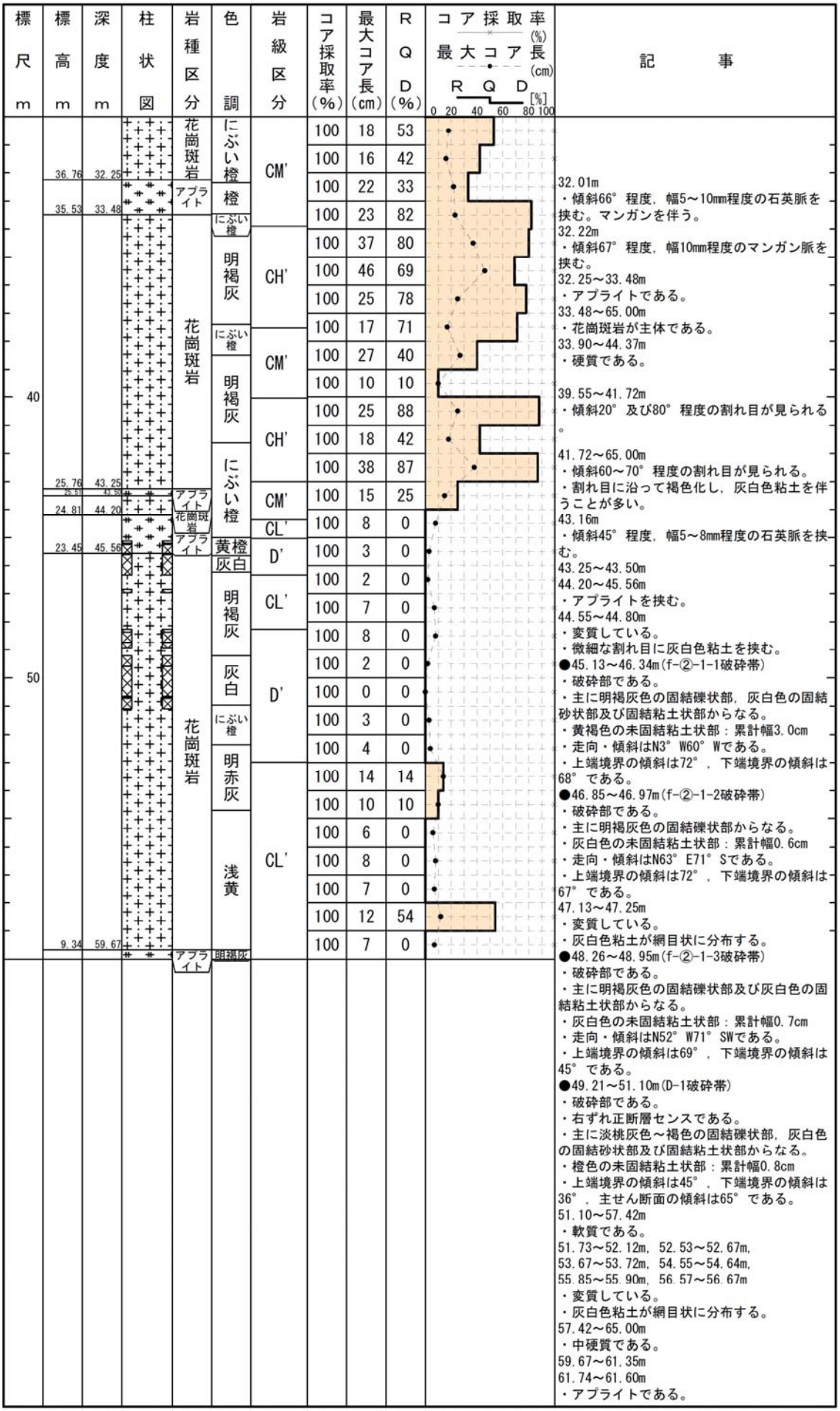
孔口標高	T.P. 69.01m	掘削長	65.00m



0.00～0.07m
・有機質土である。
0.07～8.05m
・アプライトが主体である。
2.30～2.65m，2.90～3.20m，3.95～4.34m
・花崗斑岩である。
0.07～2.01m
・極めて軟質である。
0.07～14.79m
・傾斜25°及び60°程度の割れ目が見られる。
・割れ目に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
2.01～10.94m
・軟質である。
7.17～7.65m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
7.71～8.81m
・傾斜40°～75°程度，幅1mm以下の石英脈を多数挟む。
8.05～10.94m
・花崗斑岩である。
9.67～10.06m
・黒雲母花崗岩を挟む。
10.94～11.21m
・ペグマタイトである。
・径5～50mm程度の石英，長石からなる。
10.94～14.79m
・中硬質である。
11.21～32.25m
・花崗斑岩である。
14.79～18.26m
・軟質である。
14.79～18.69m
・傾斜70°程度の割れ目が見られる。
・割れ目に沿って褐色化し，マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
18.26～29.70m
・硬質である。
18.69～29.55m
・傾斜20°及び70°程度の割れ目が見られる。
・割れ目に沿って褐色化し，一部灰白色粘土を伴う。
24.61m
・傾斜80°程度，幅1～2mm程度の石英脈を挟む。
26.62m
・傾斜76°程度，幅1～2mm程度の石英脈を挟む。
29.55～39.55m
・傾斜45°及び75°程度の割れ目が見られる。
・割れ目に沿って褐色化し，マンガンを伴うことが多い。
29.70～33.90m
・中硬質である。

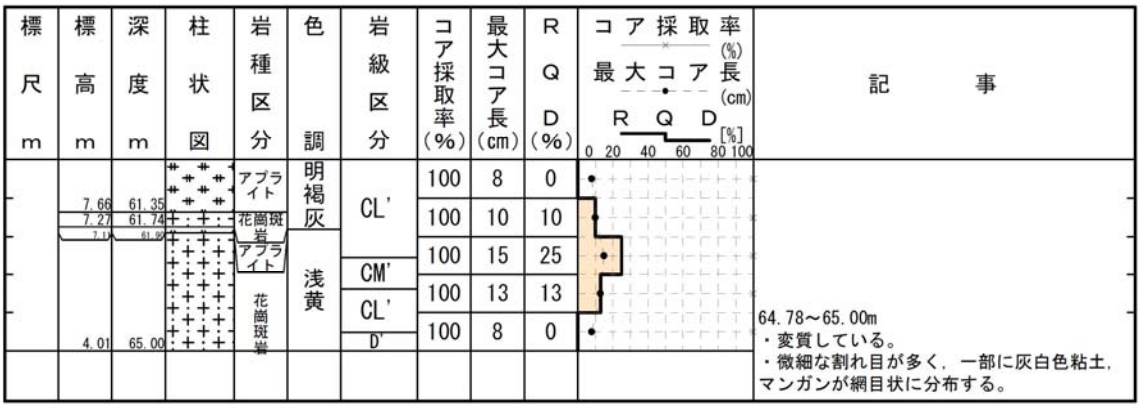
H20-②-1

柱状図(30.00m～60.00m)



H20-②-1

柱状図(60.00m～65.00m)

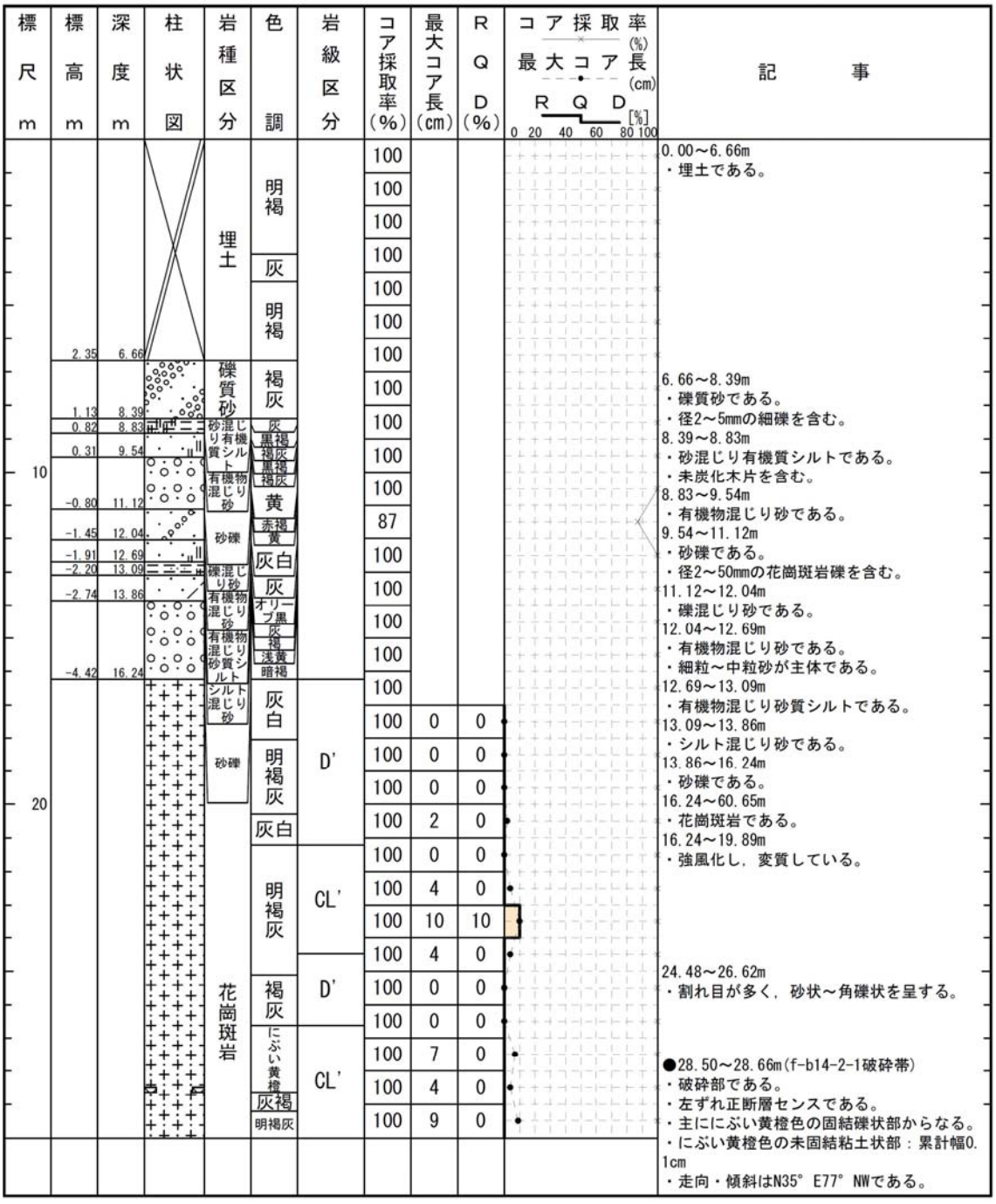


H24-B14-2

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B14-2

孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	150.00m



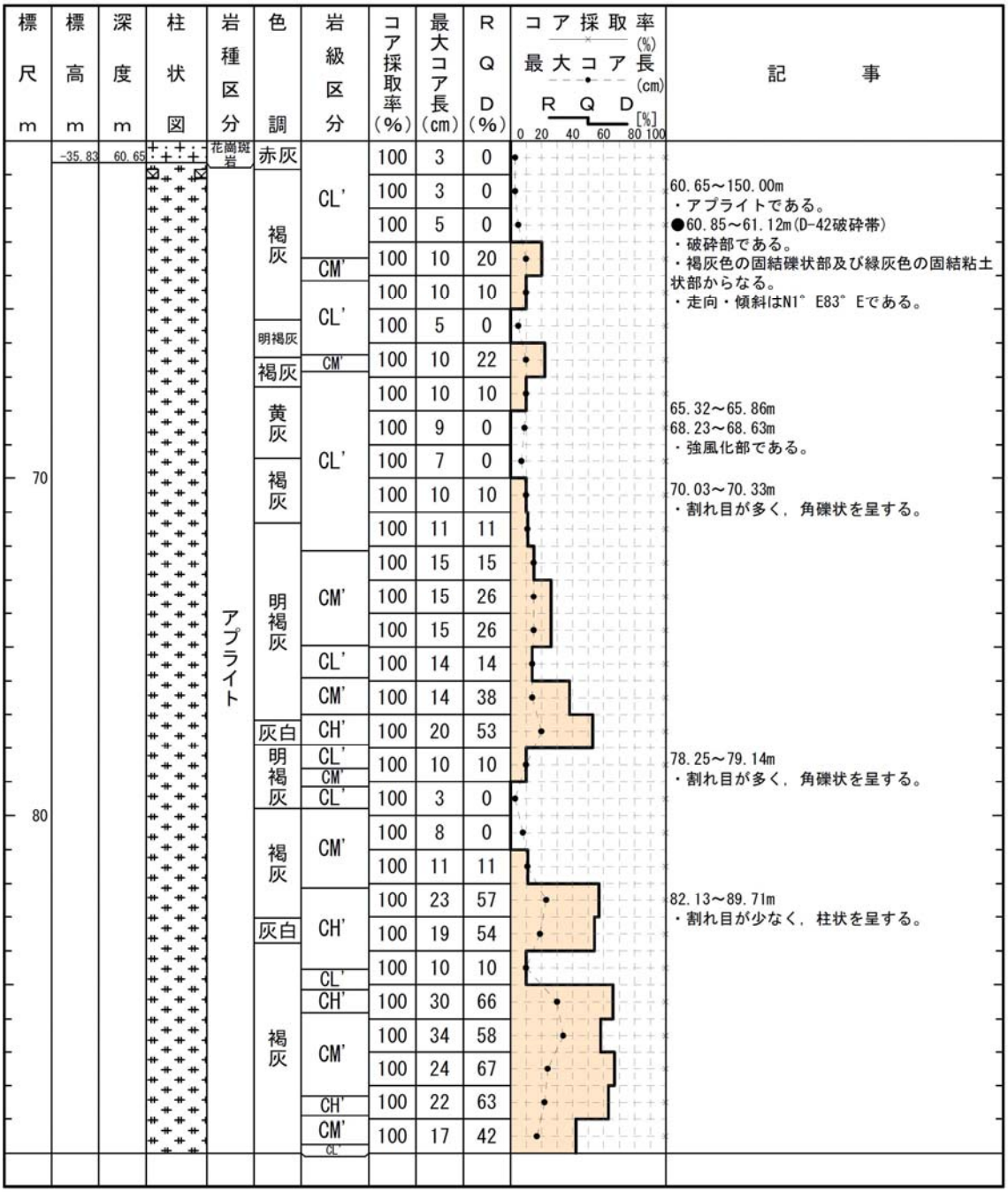
H24-B14-2

柱状図(30.00m～60.00m)



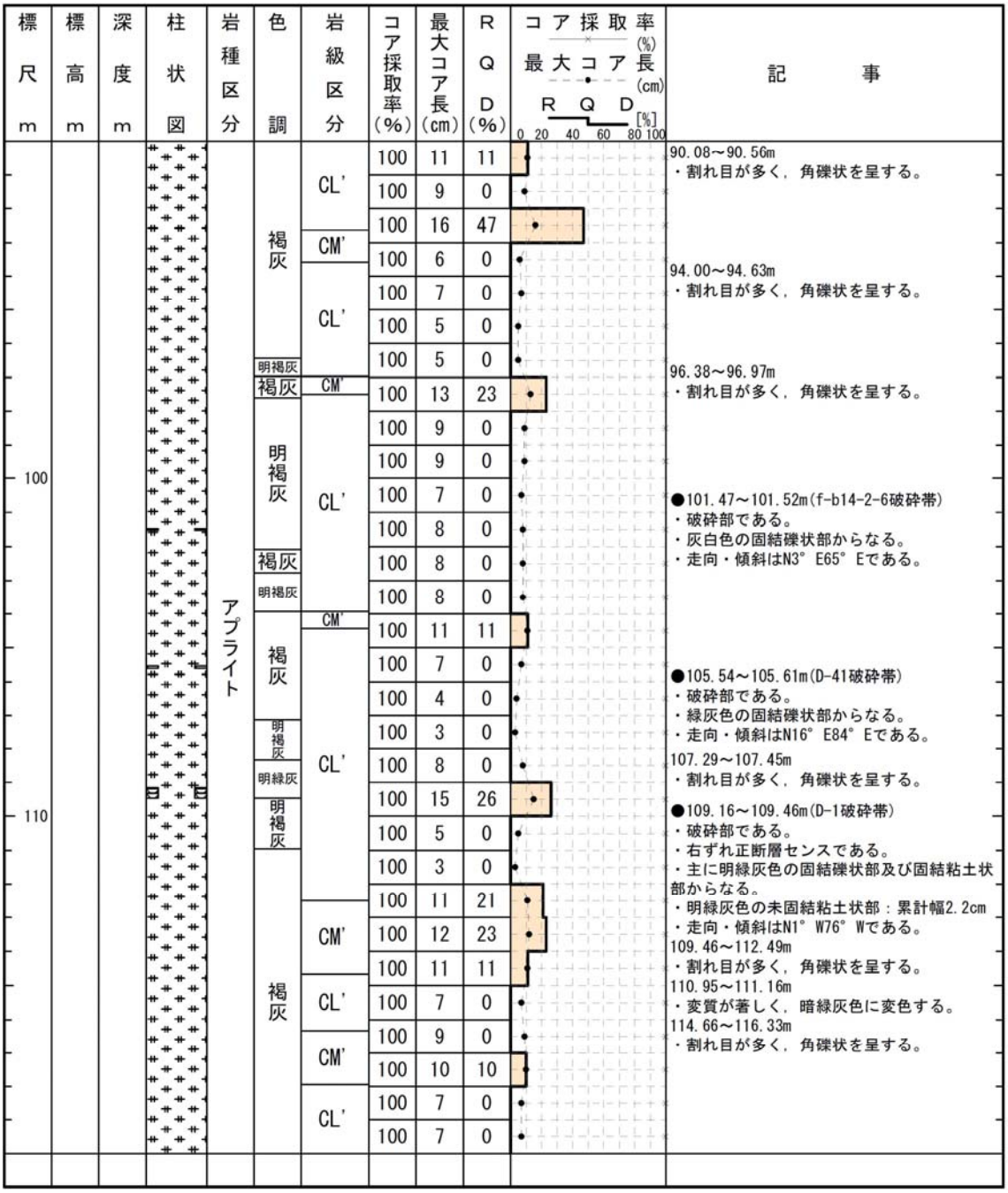
H24-B14-2

柱状図(60.00m～90.00m)



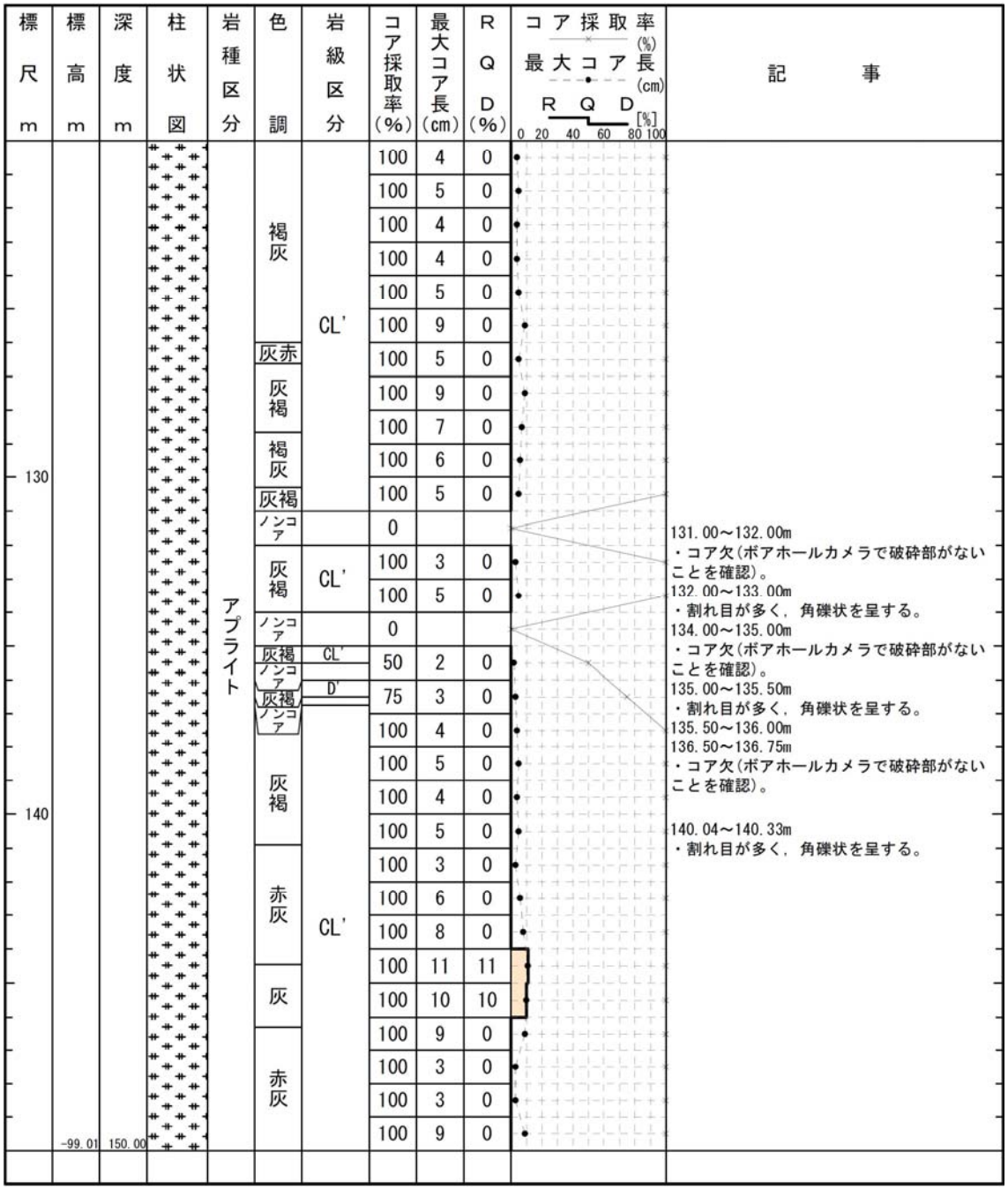
H24-B14-2

柱状図(90.00m～120.00m)



H24-B14-2

柱状図(120.00m～150.00m)

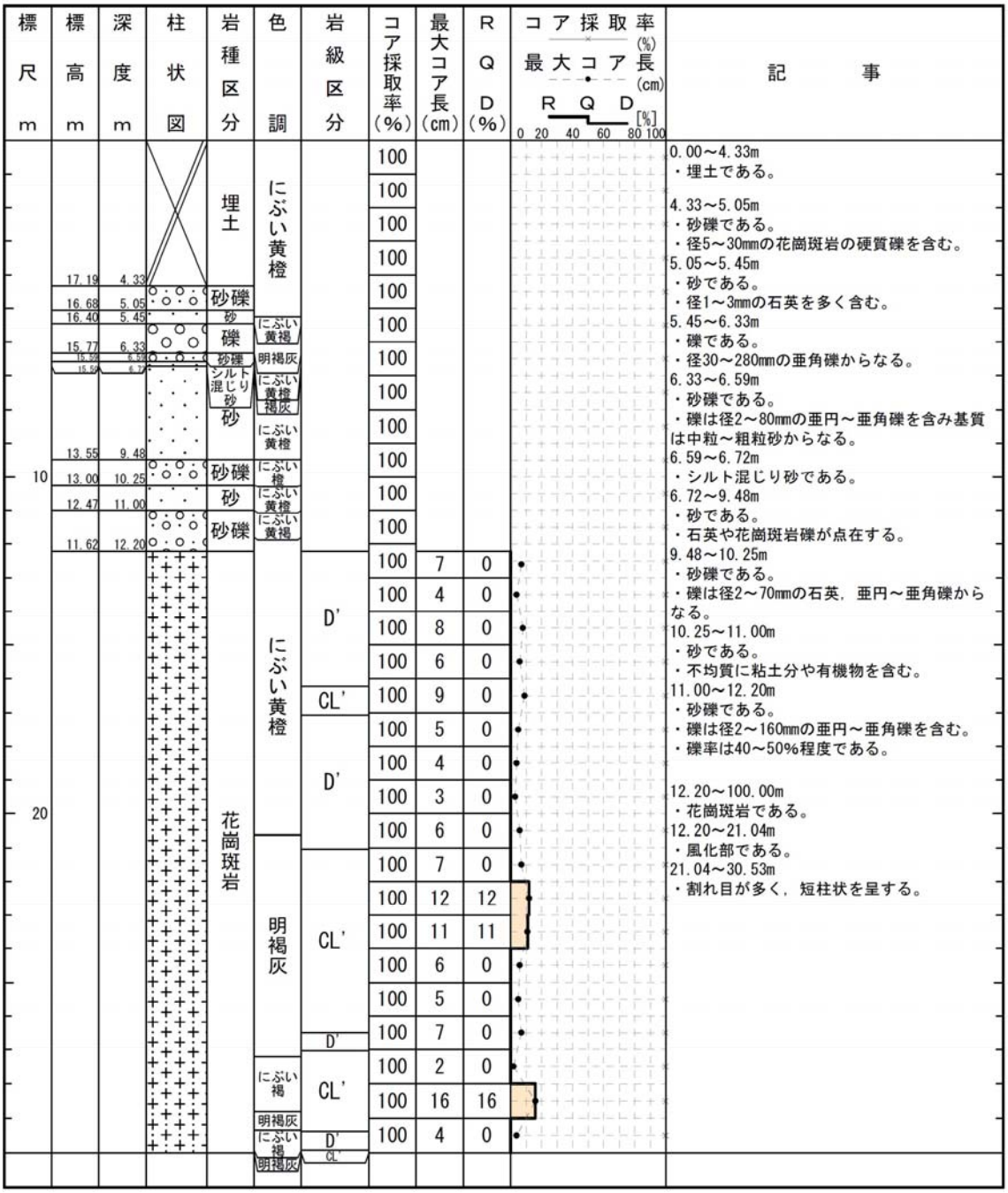


H24-D1-1

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-1

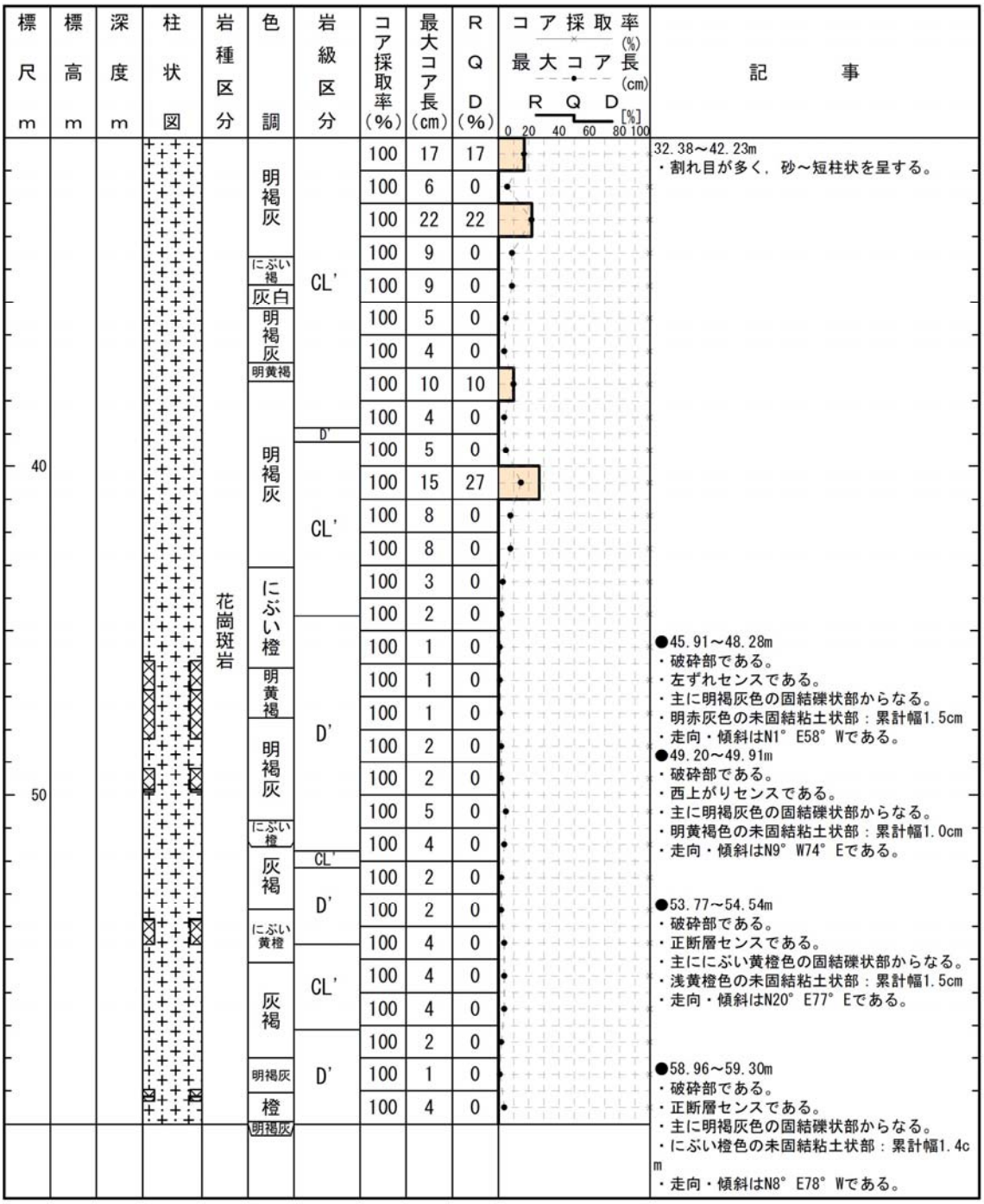
孔口標高	T.P. 20.25m	掘削長	100.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	7	0
100	4	0
100	8	0
100	6	0
100	9	0
100	5	0
100	4	0
100	3	0
100	6	0
100	7	0
100	12	12
100	11	11
100	6	0
100	5	0
100	7	0
100	2	0
100	16	16
100	4	0

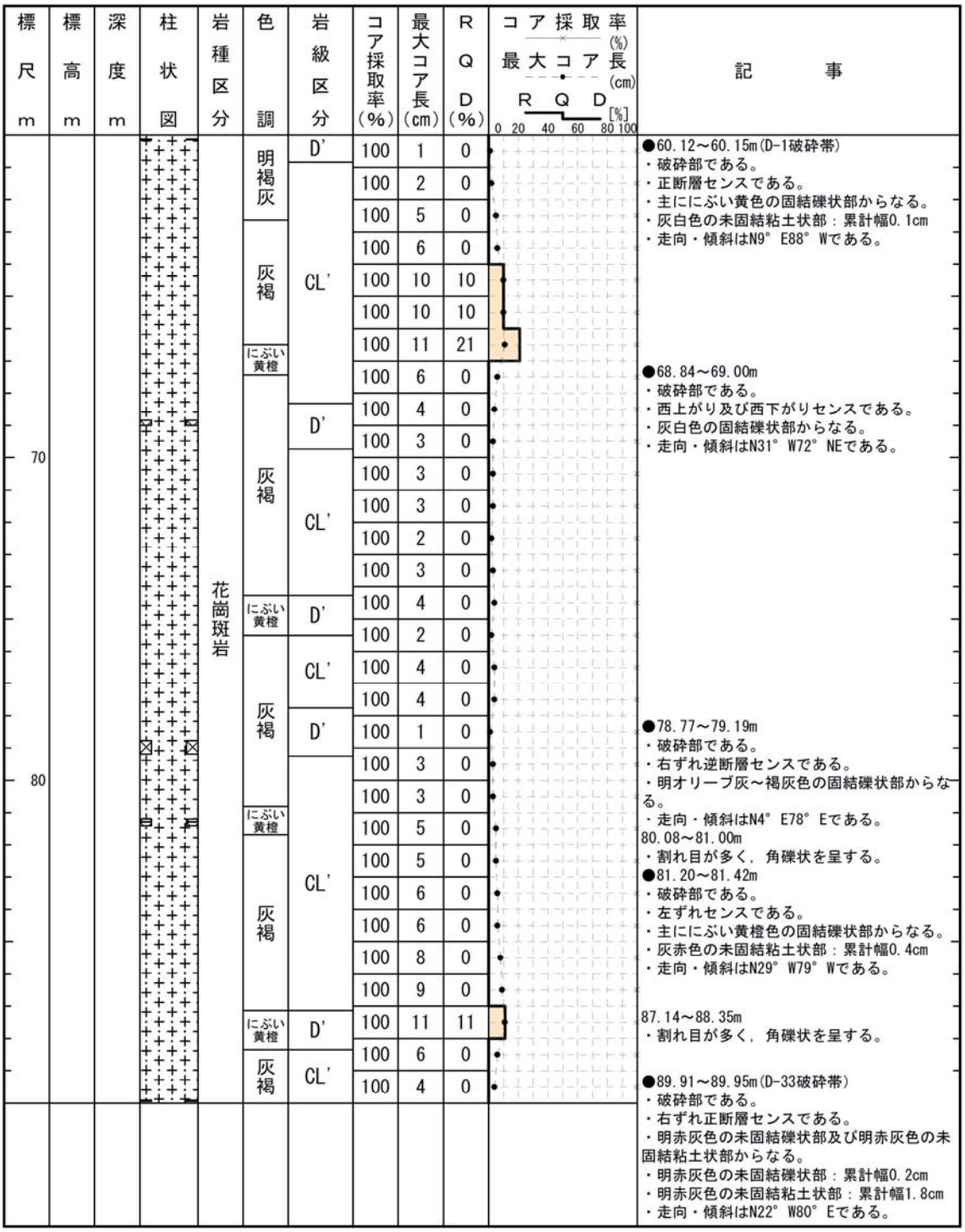
H24-D1-1

柱状図(30.00m～60.00m)



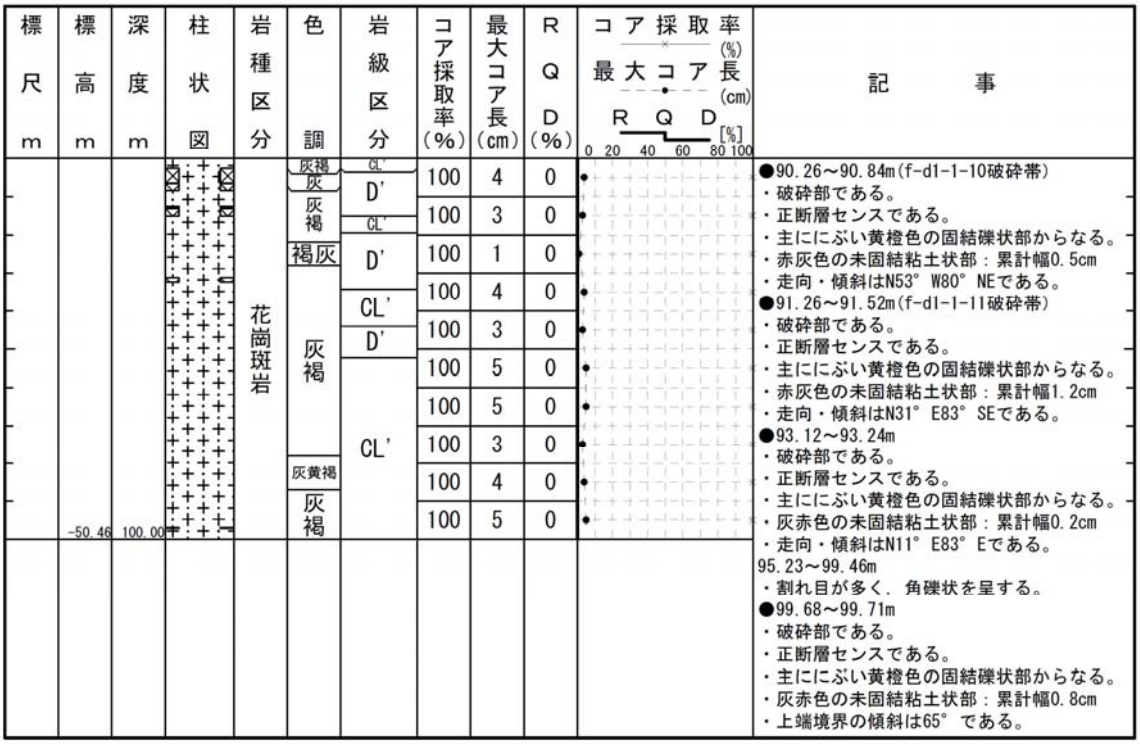
H24-D1-1

柱状図(60.00m～90.00m)



H24-D1-1

柱状図(90.00m～100.00m)



H27-B-1

柱状図(0.00m～30.00m)

H27-B-1

孔口標高	T.P. 20.22m	掘削長	140.00m



H27-B-1

柱状図(30.00m～60.00m)


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD[%]
0 20 40 60 80 100
記事
花崗斑岩
明褐灰
黄褐
にぶい黄橙
明褐灰
にぶい黄橙
明褐灰
にぶい橙
にぶい黄橙
にぶい橙
灰褐
灰白
灰褐
にぶい橙
淡黄
にぶい褐
黄褐
にぶい黄橙
にぶい橙
灰褐
にぶい橙
にぶい褐
にぶい橙
D'
CL'
D'
CL'
D'
CL'

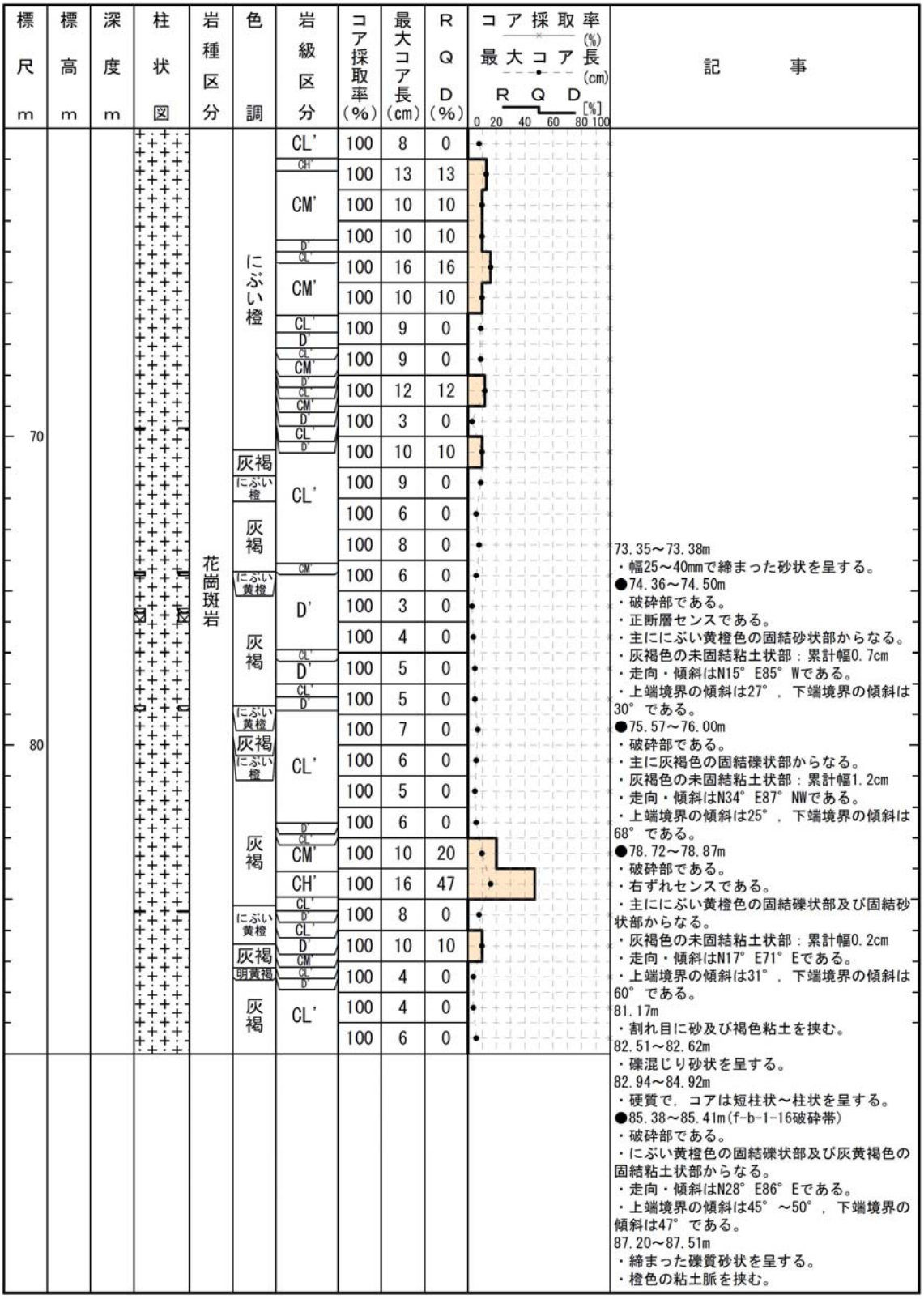
H27-B-1

柱状図(30.00m～60.00m)



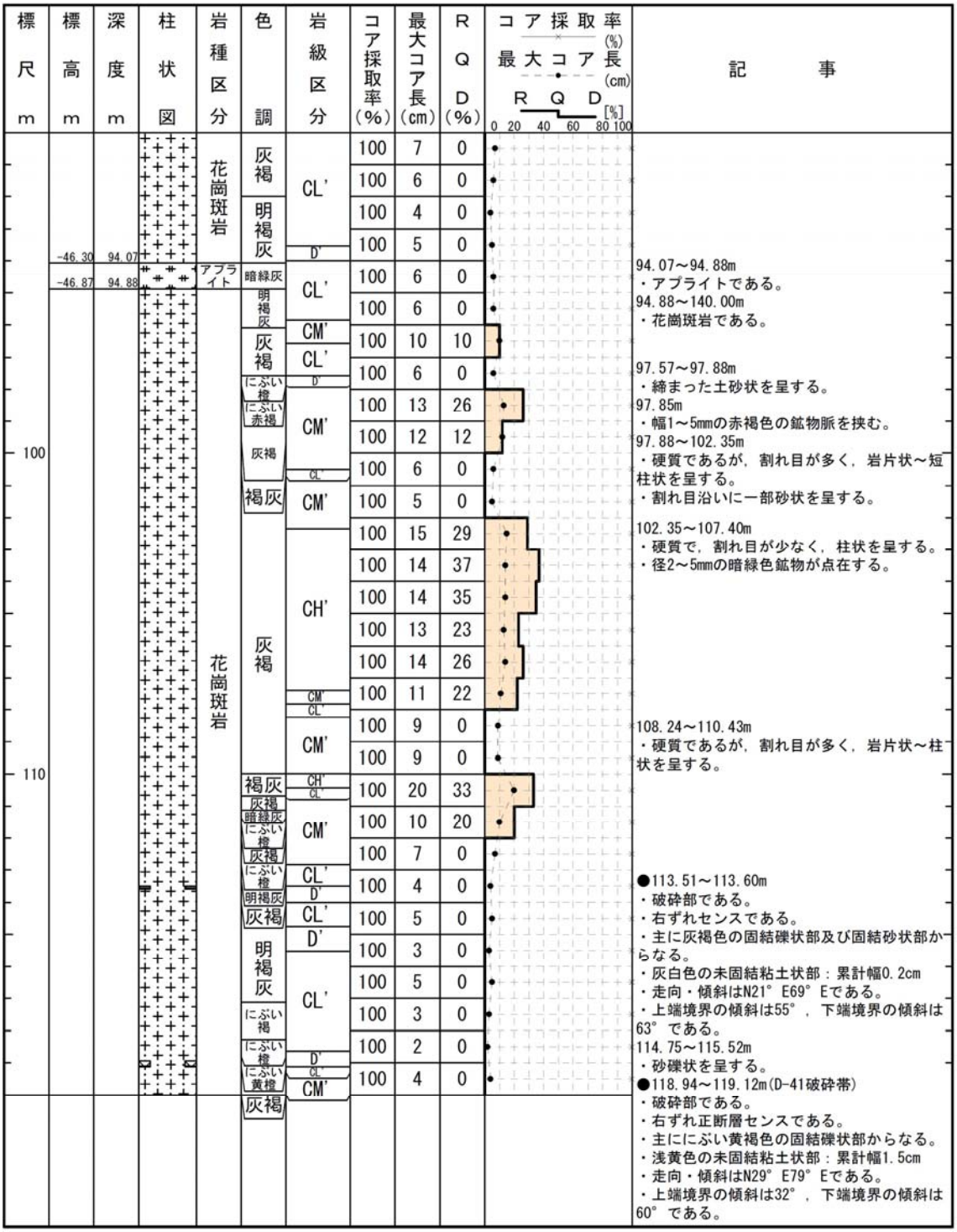
H27-B-1

柱状図(60.00m～90.00m)



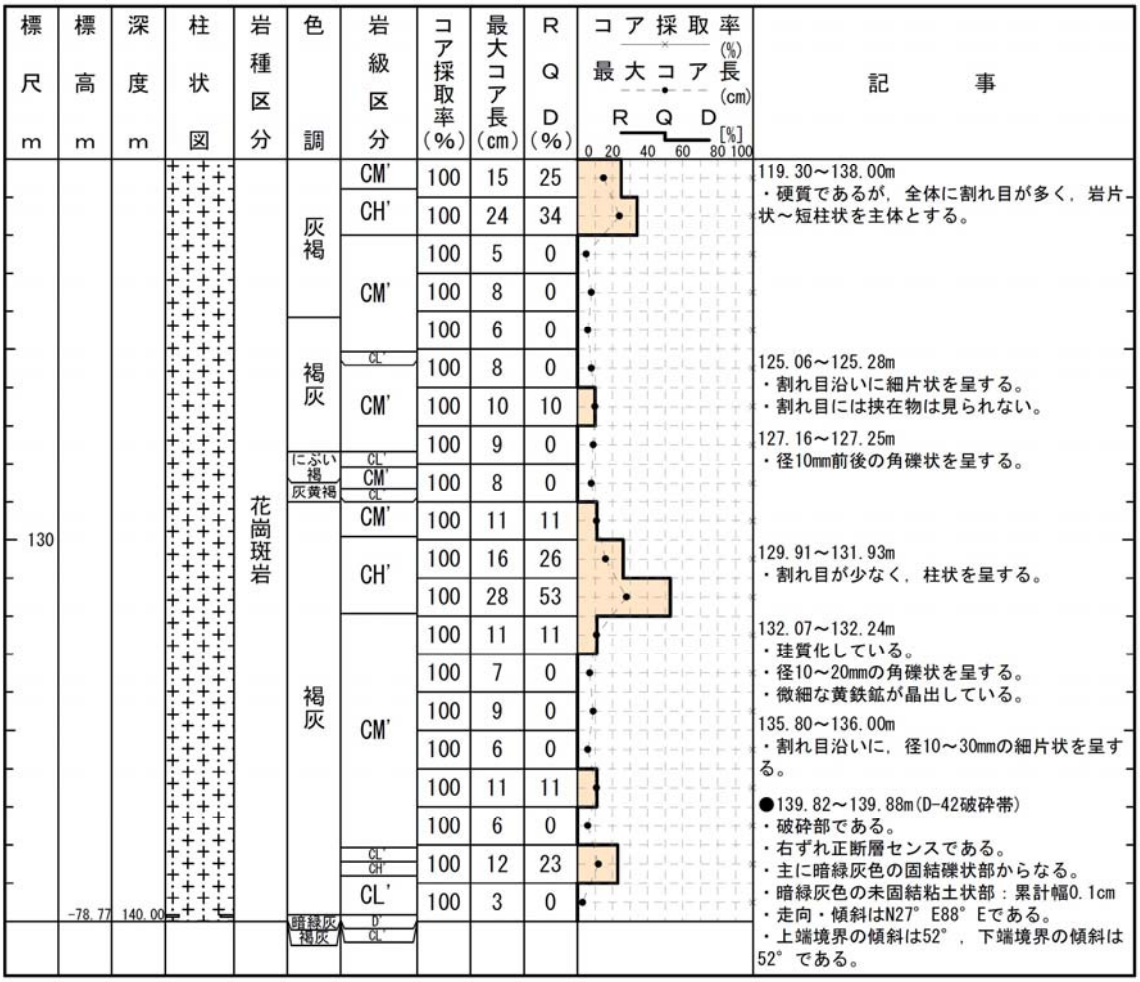
H27-B-1

柱状図(90.00m～120.00m)



H27-B-1

柱状図(120.00m～140.00m)

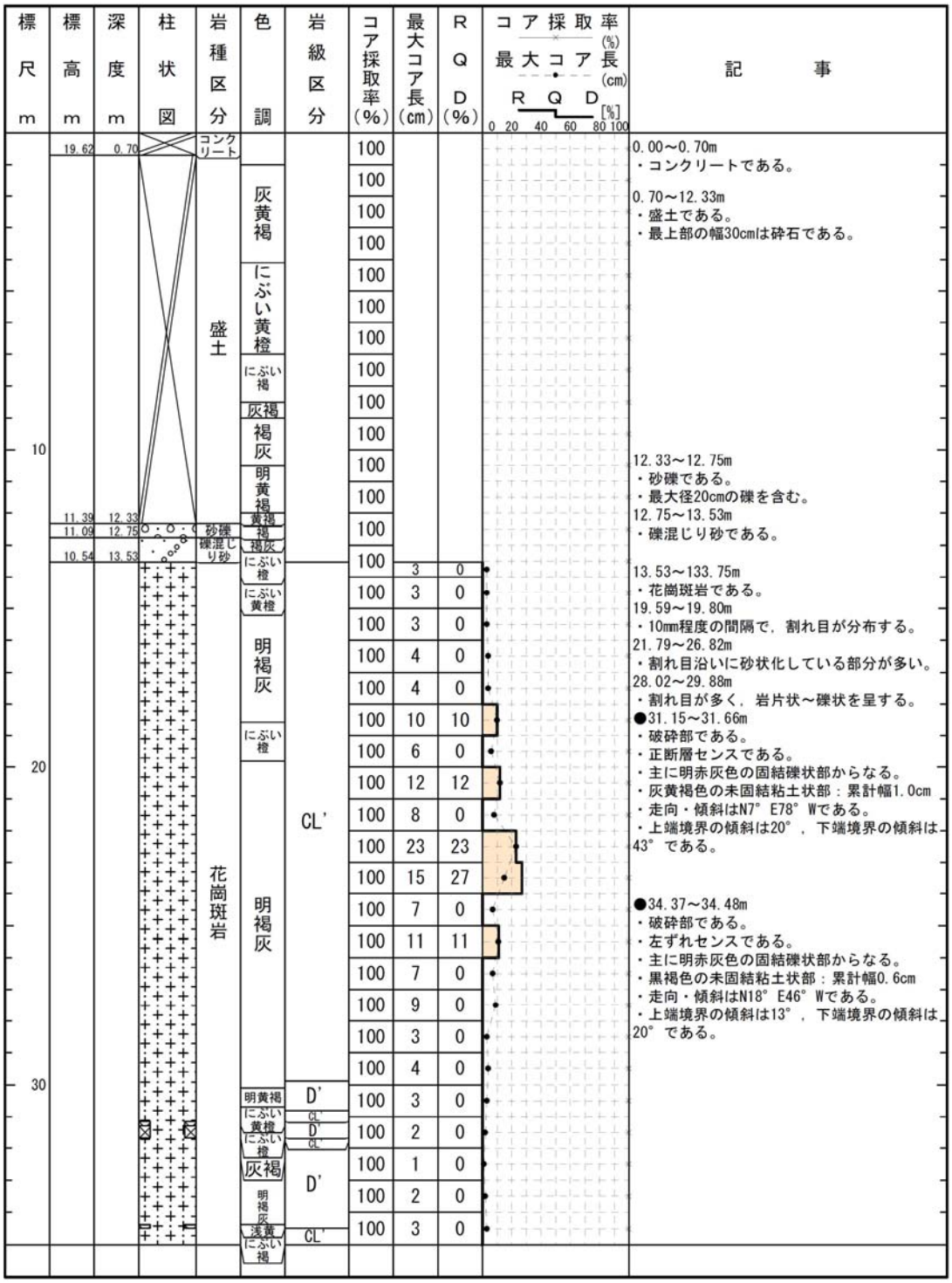


H27-B-2

柱状図(0.00m～35.00m)

H27-B-2

孔口標高	T.P. 20.11m	掘削長	160.00m



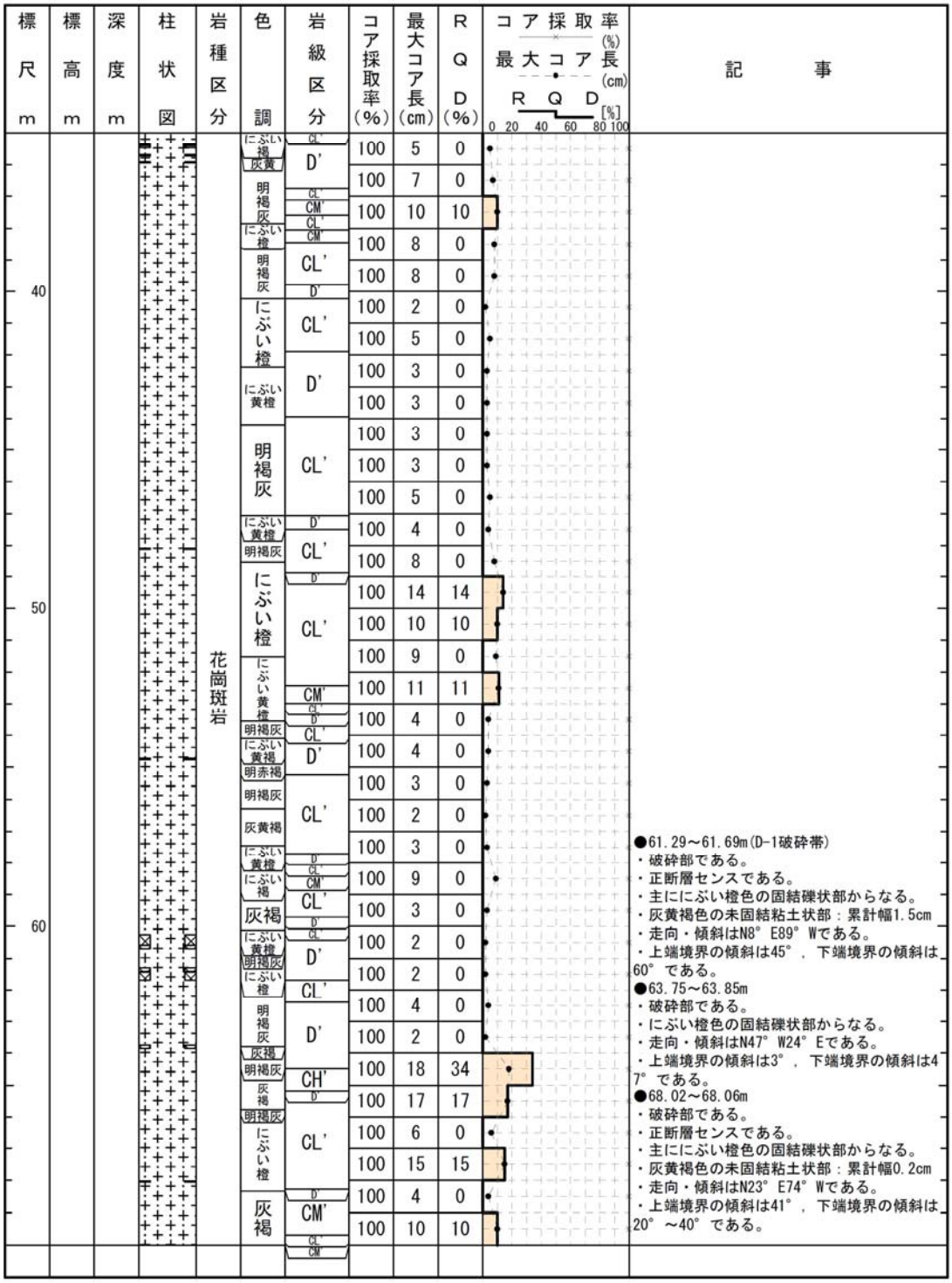
H27-B-2

柱状図(35.00m～70.00m)



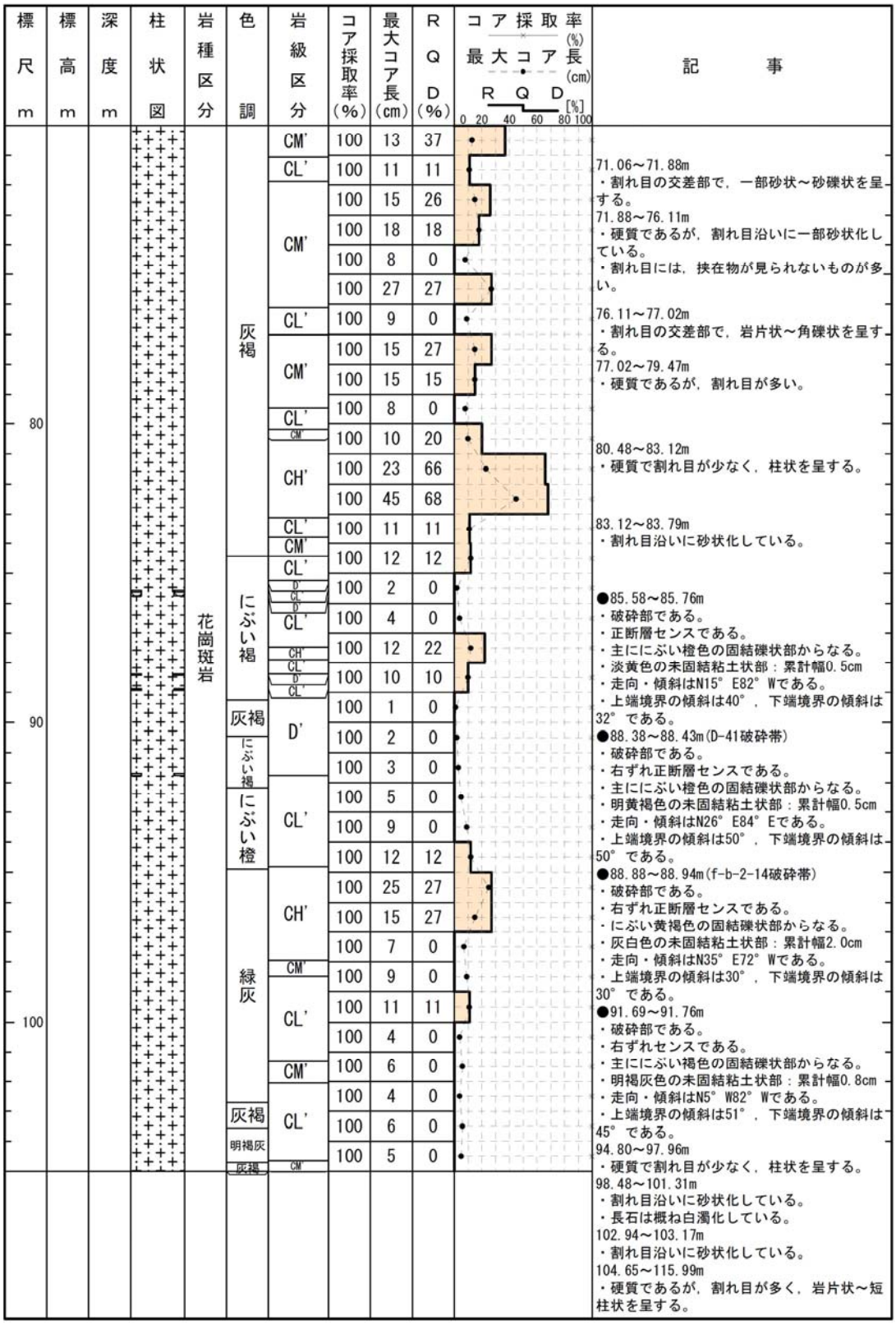
H27-B-2

柱状図(35.00m～70.00m)



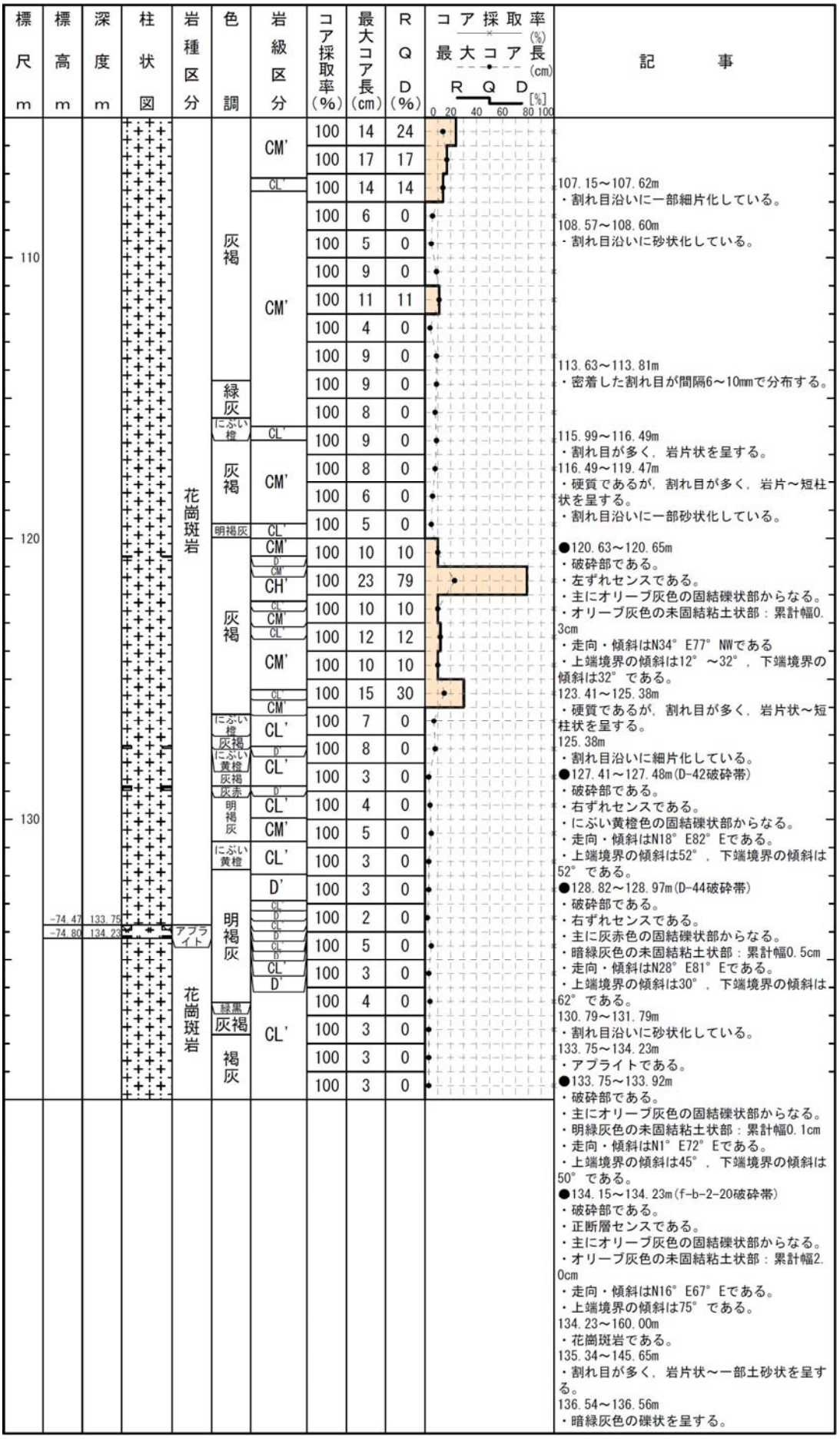
H27-B-2

柱状図(70.00m～105.00m)



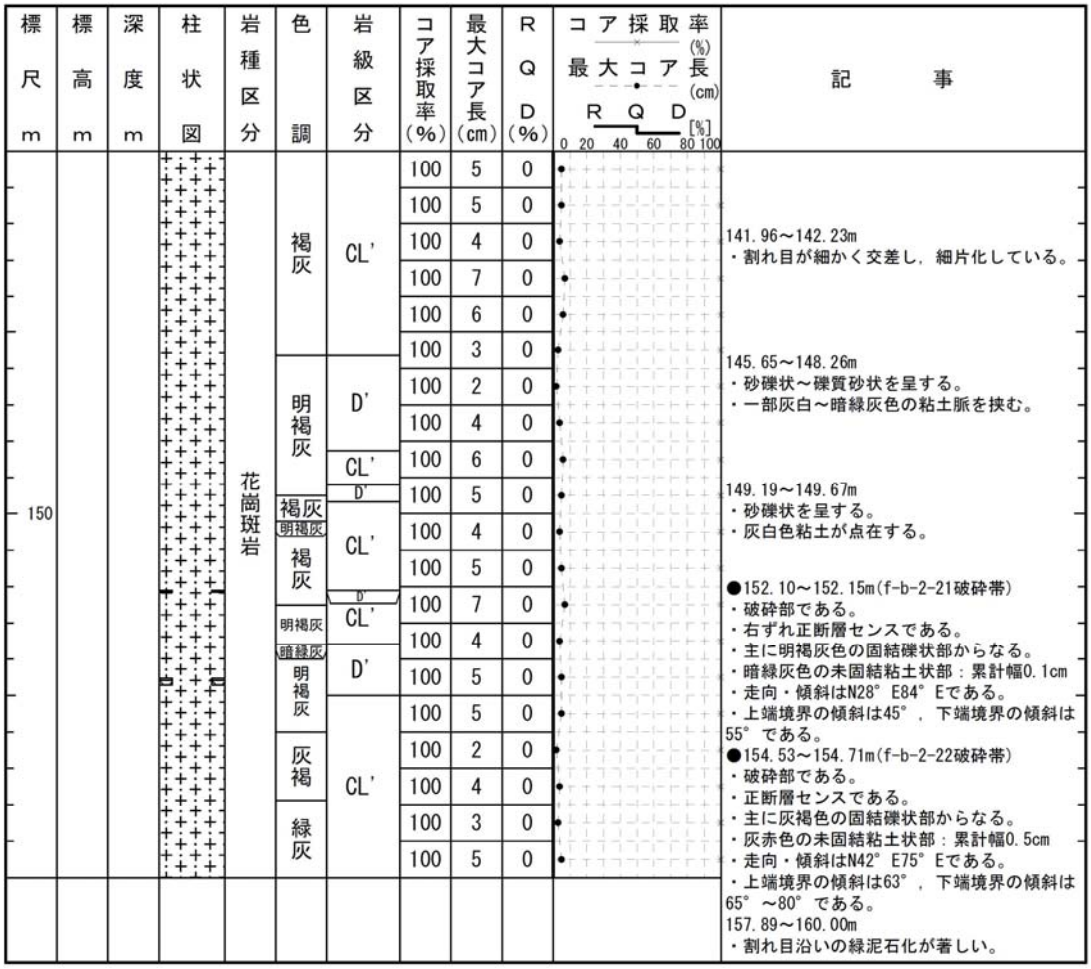
H27-B-2

柱状図(105.00m～140.00m)



H27-B-2

柱状図(140.00m～160.00m)

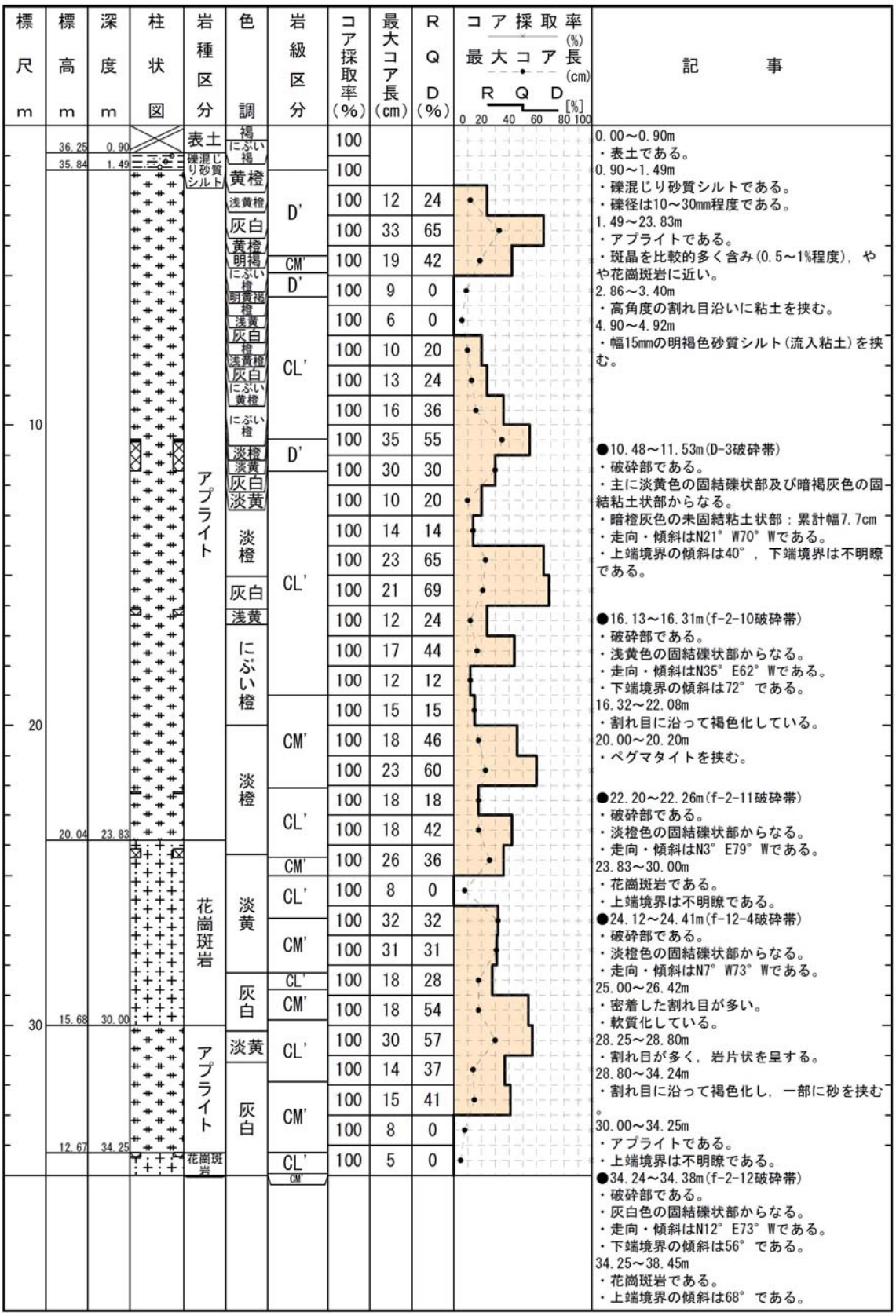


H19-No.4

柱状図(0.00m～35.00m)

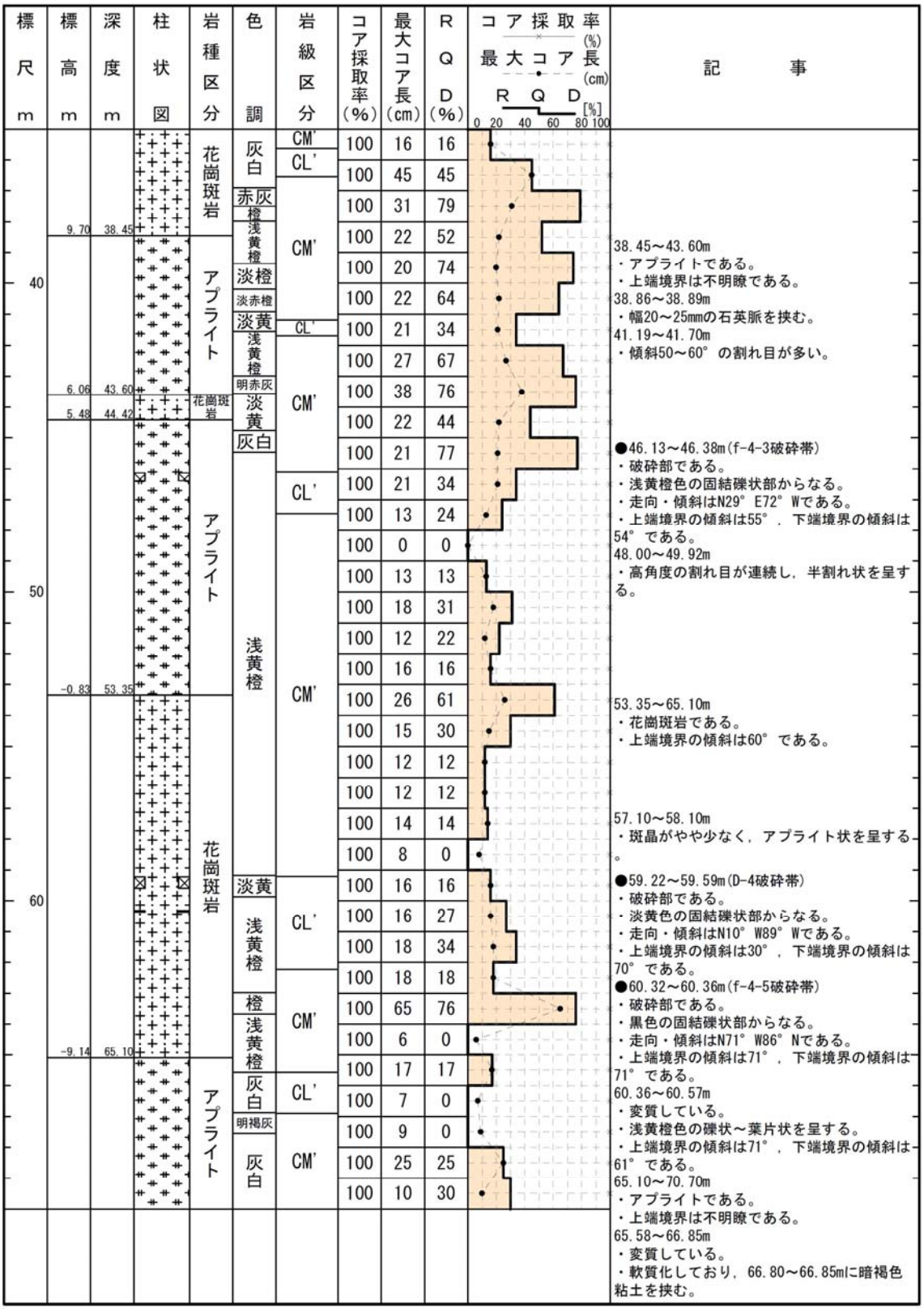
H19-No.4

孔口標高	T.P. 36.89m	掘削長	250.00m


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD [%]
0 20 40 60 80 100
記事
表土
礫混じり砂質シルト
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
褐
にぶい褐
黄橙
浅黄橙
灰白
黄橙
明褐
にぶい橙
明黄褐
橙
浅黄
灰白
橙
浅黄橙
灰白
にぶい黄橙
にぶい橙
淡橙
淡黄
灰白
淡黄
淡橙
灰白
浅黄
にぶい橙
淡橙
淡黄
灰白
淡黄
灰白
D'
CM'
D'
CL'
D'
CL'
CM'
CL'
CM'
CL'
CM'
CL'
CM'
CL'
CM'
CL'
CM
36.25
35.84
20.04
15.68
12.67
0.90
1.49
23.83
30.00
34.25
10
20
30
100 100 100

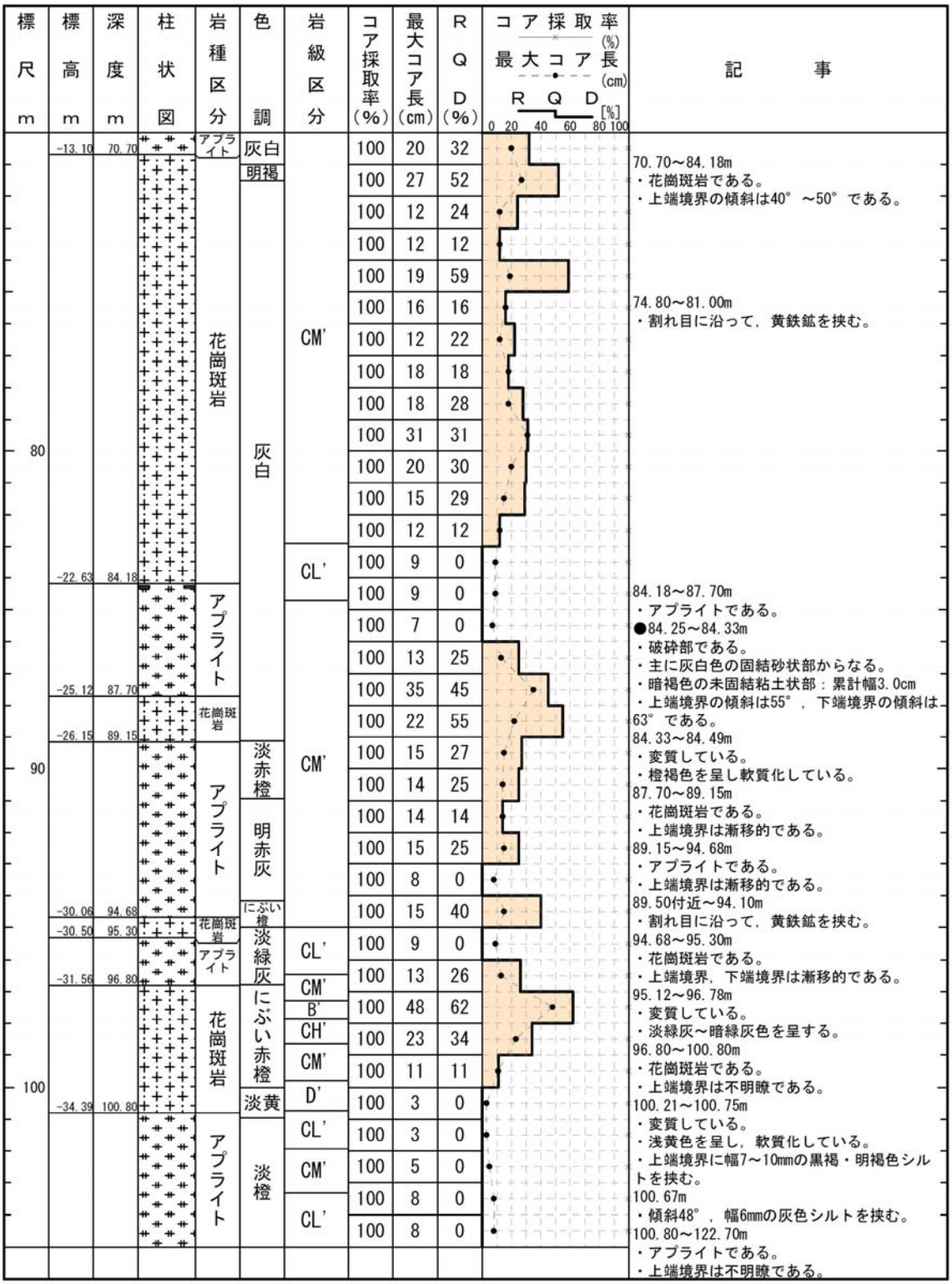
H19-No.4

柱状図(35.00m～70.00m)



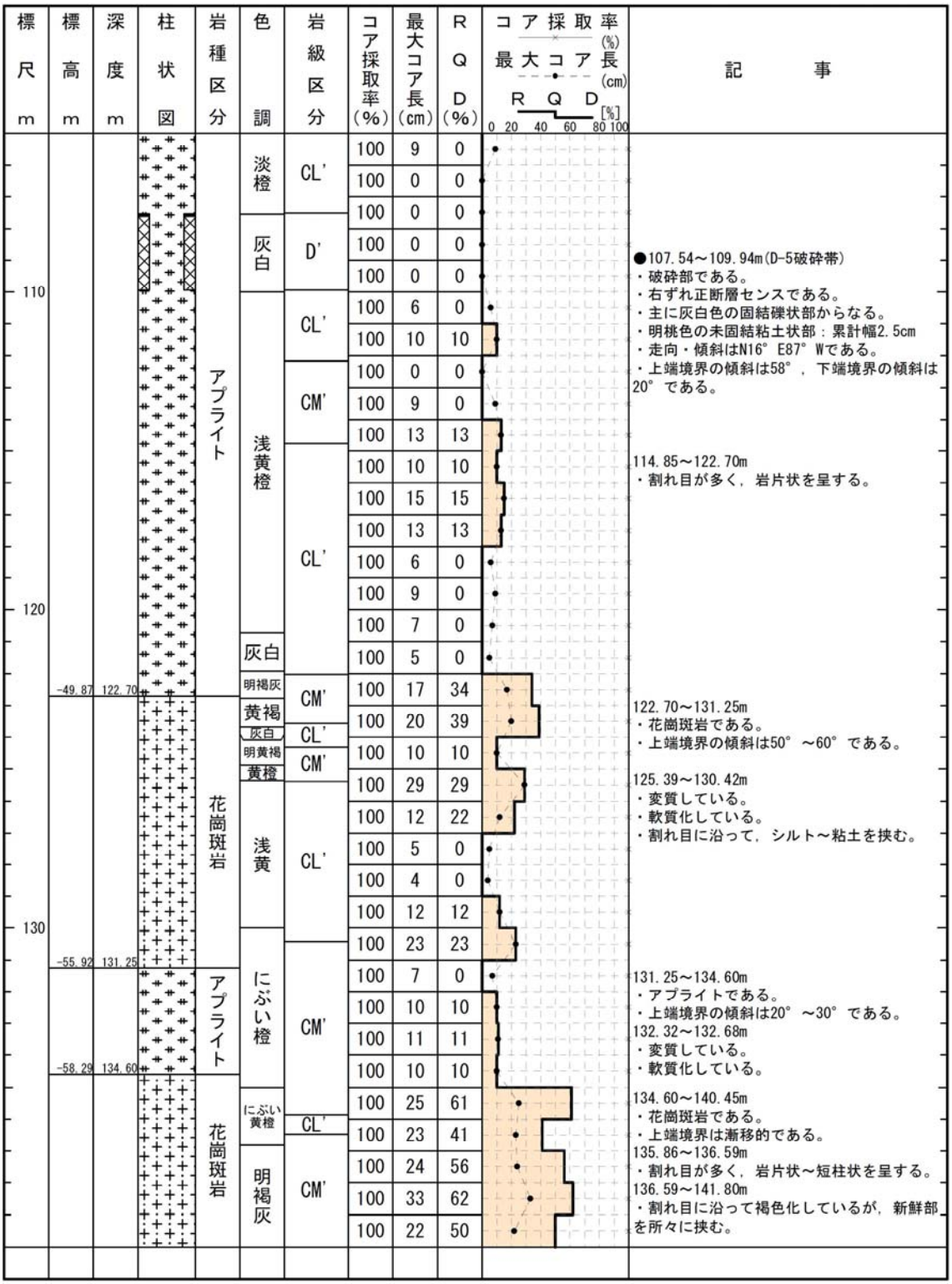
H19-No.4

柱状図(70.00m～105.00m)



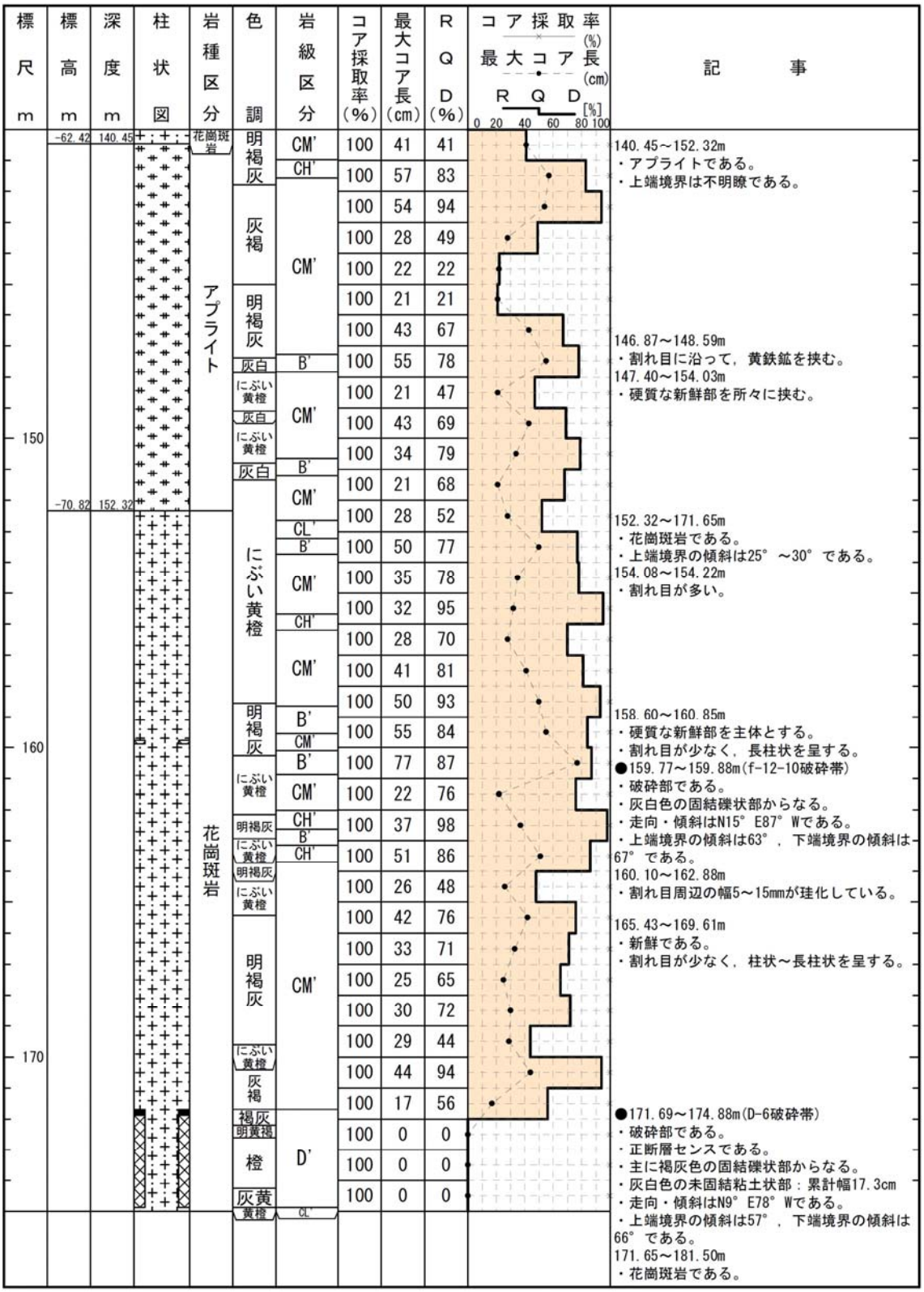
H19-No.4

柱状図(105.00m～140.00m)



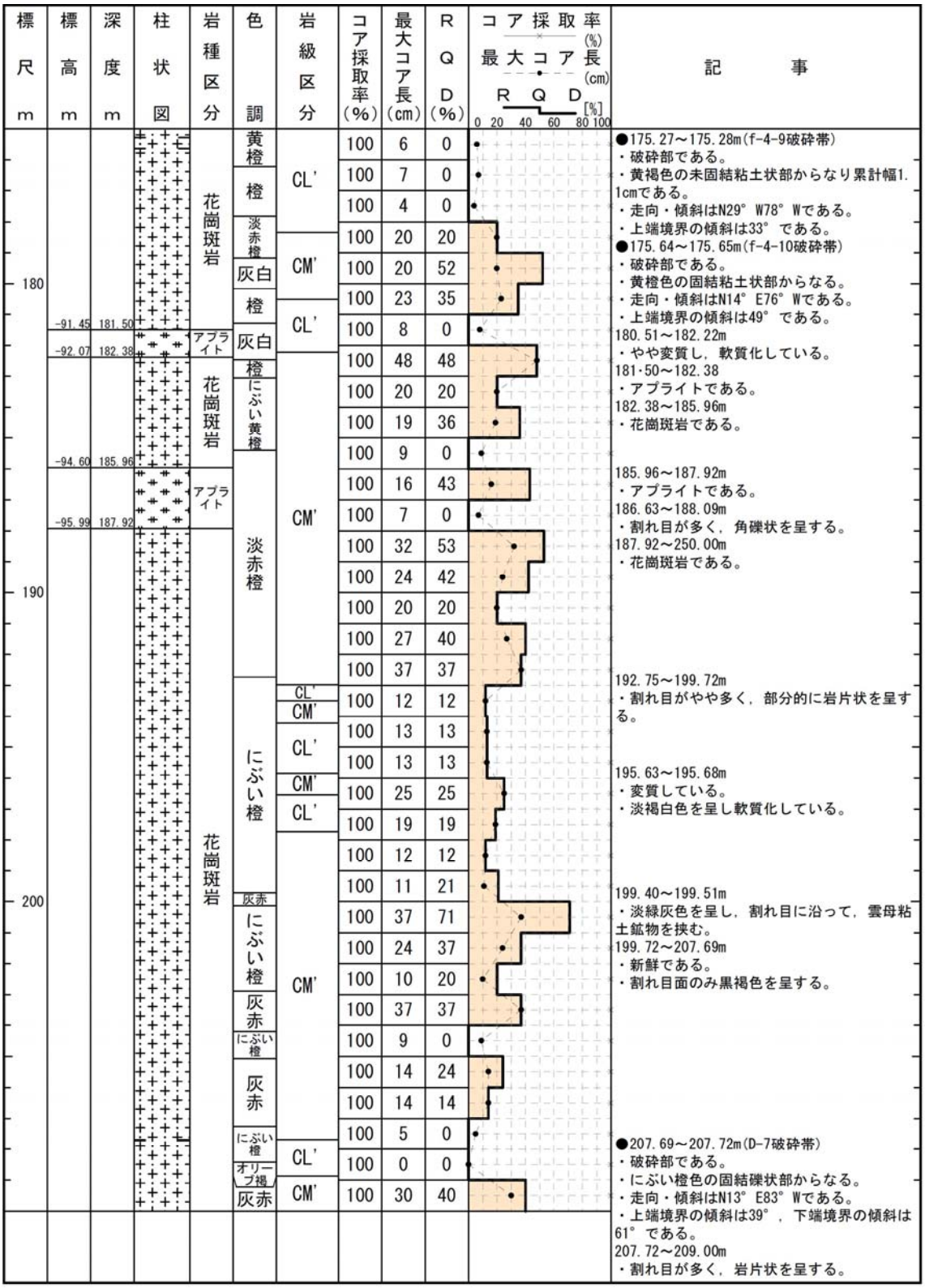
H19-No.4

柱状図(140.00m～175.00m)



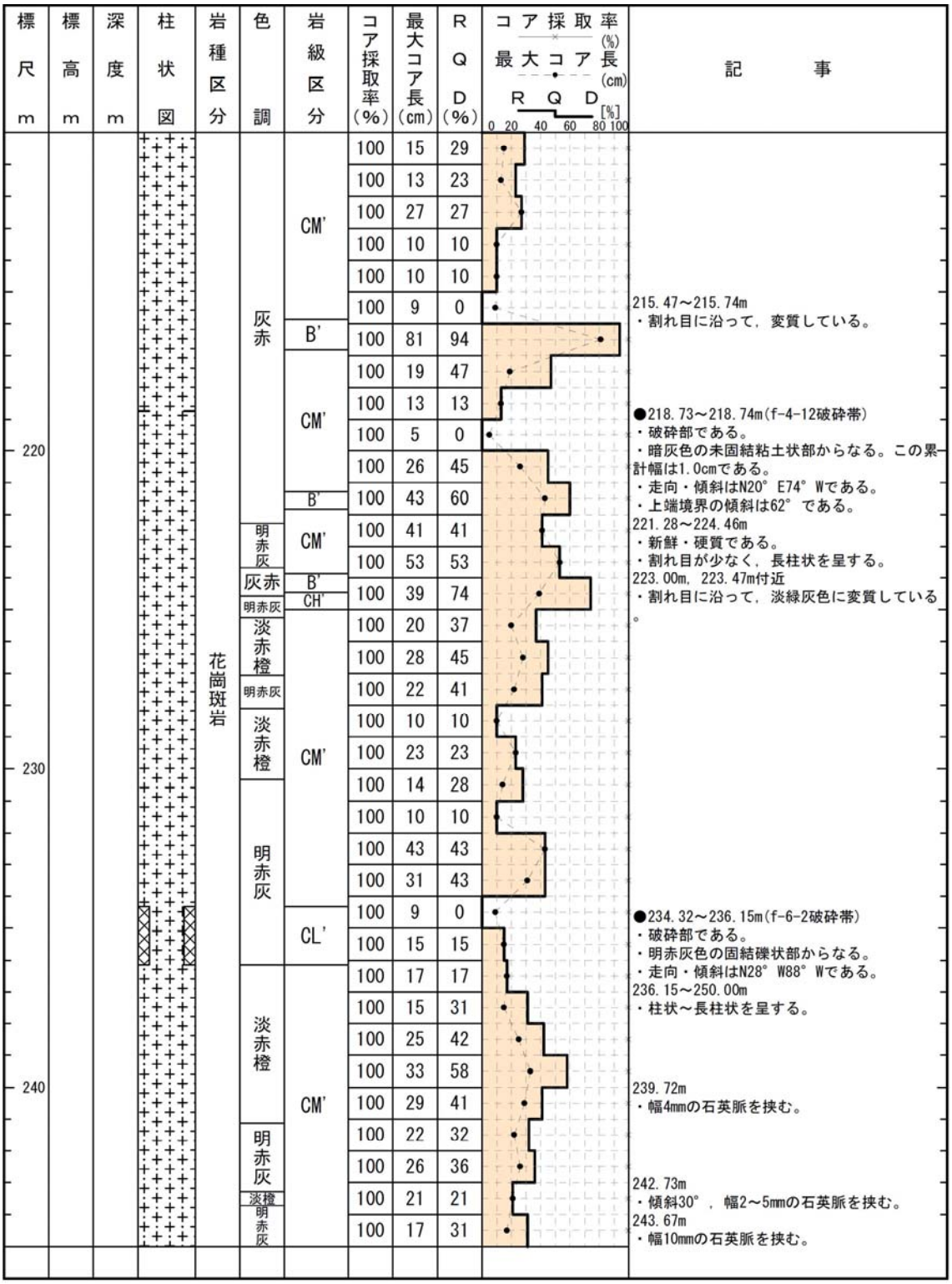
H19-No.4

柱状図(175.00m～210.00m)



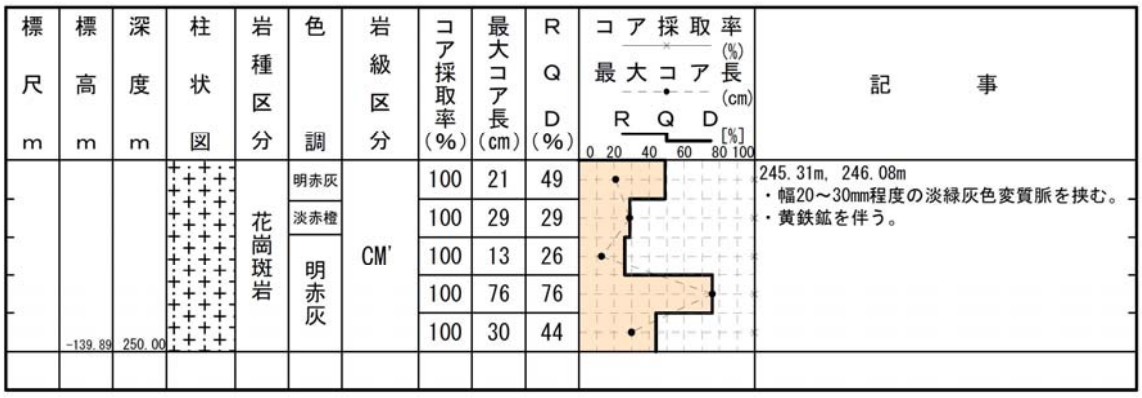
H19-No.4

柱状図(210.00m～245.00m)



H19-No.4

柱状図(245.00m～250.00m)



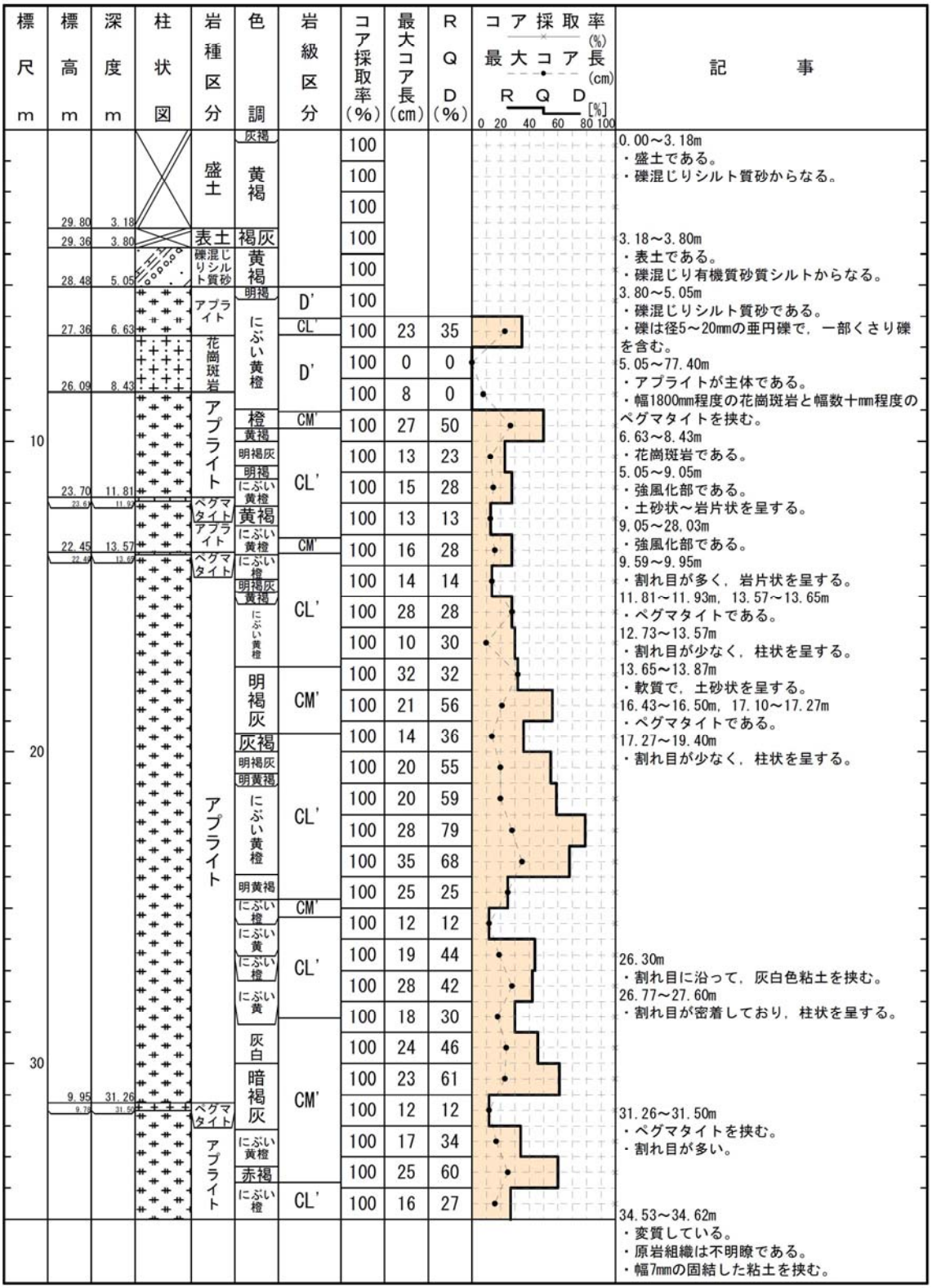
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	明赤灰	CM'	100	21	49		245.31m, 246.08m ・幅20～30mm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。 ・黄鉄鉱を伴う。
					淡赤橙		100	29	29		
					明赤灰		100	13	26		
							100	76	76		
	-139.89	250.00					100	30	44		

H19-No.12

柱状図(00.00m～35.00m)

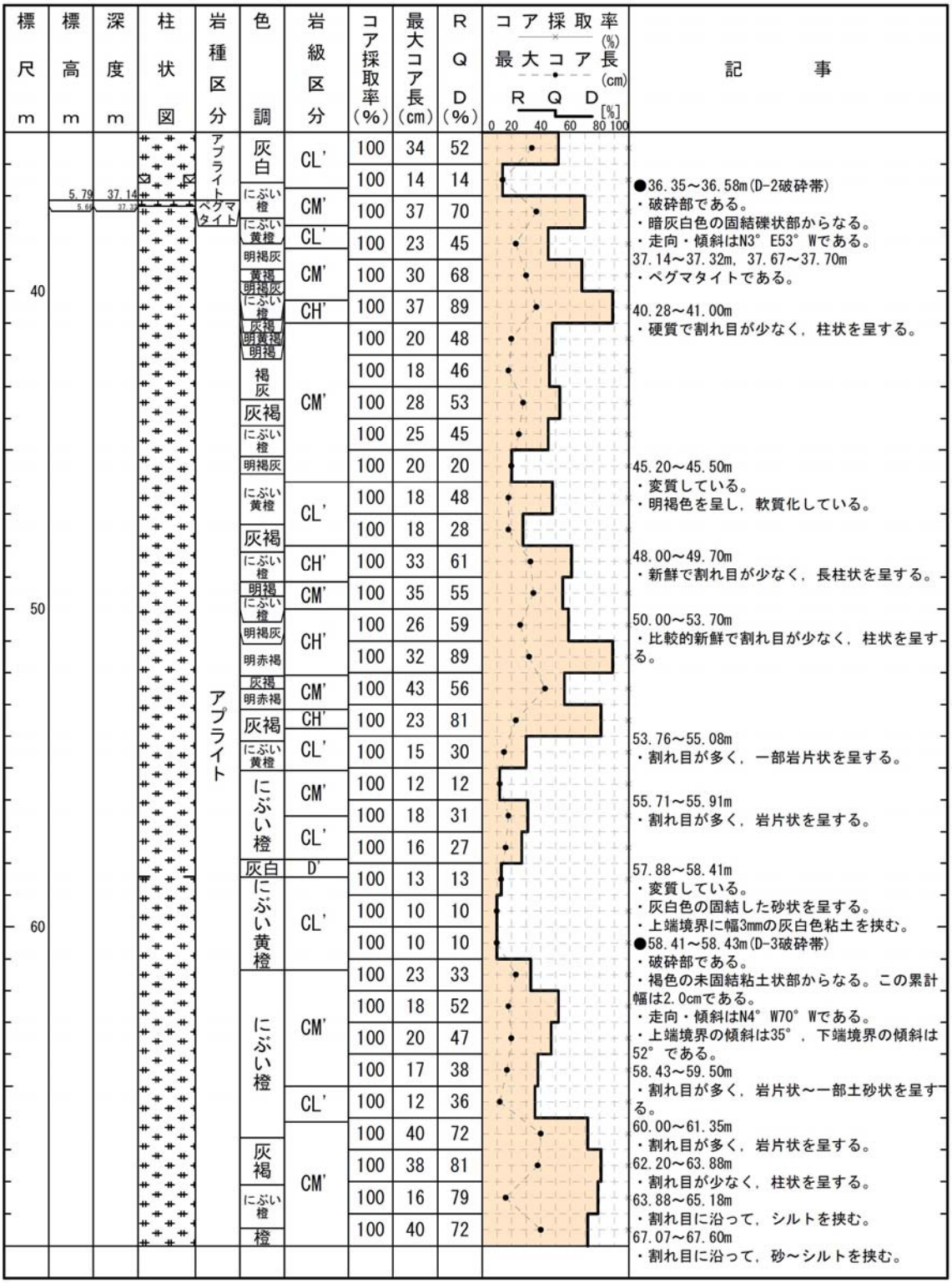
H19-No. 12

孔口標高	T.P. 32.05m	掘削長	250.00m



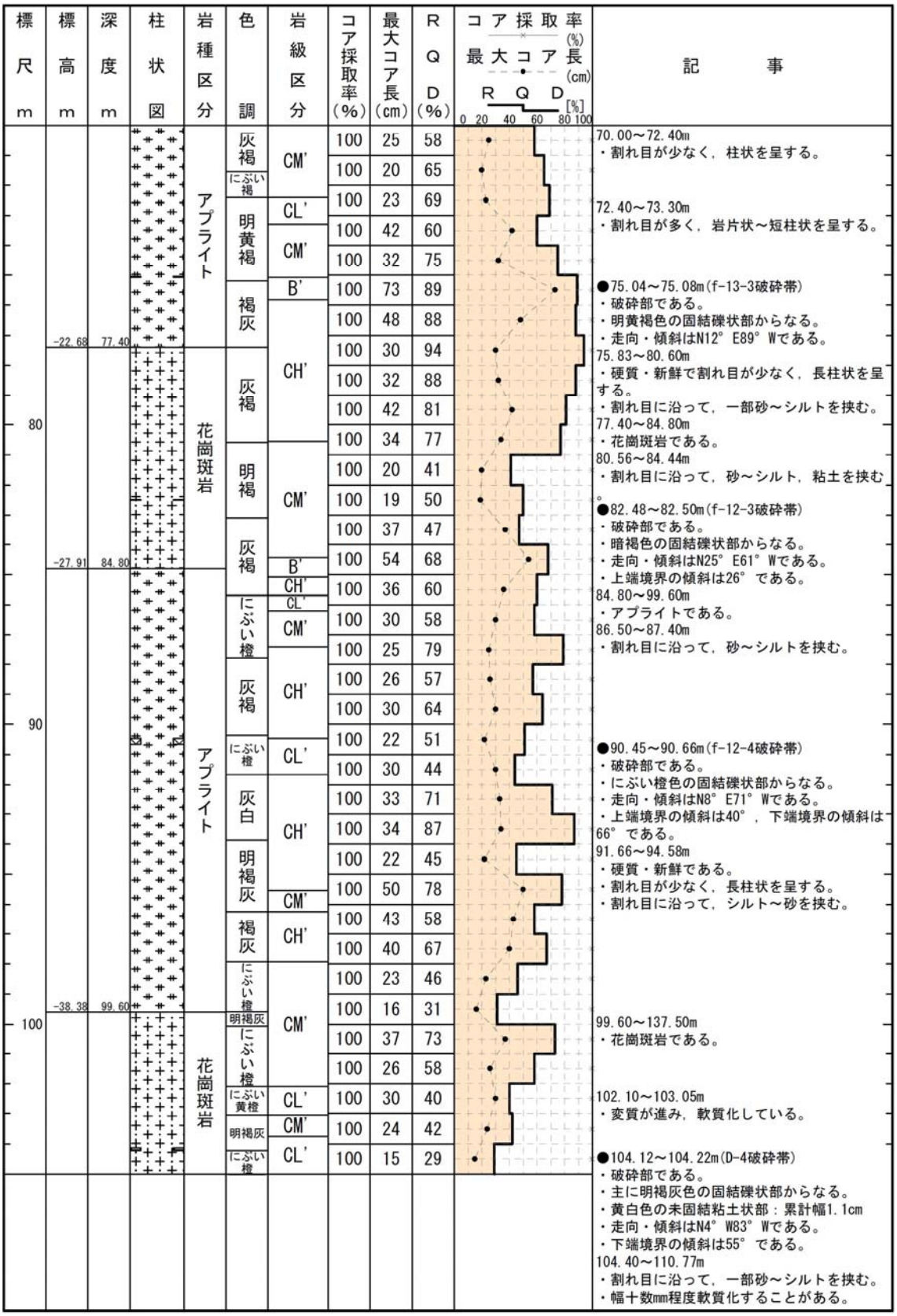
H19-No.12

柱状図(35.00m～70.00m)



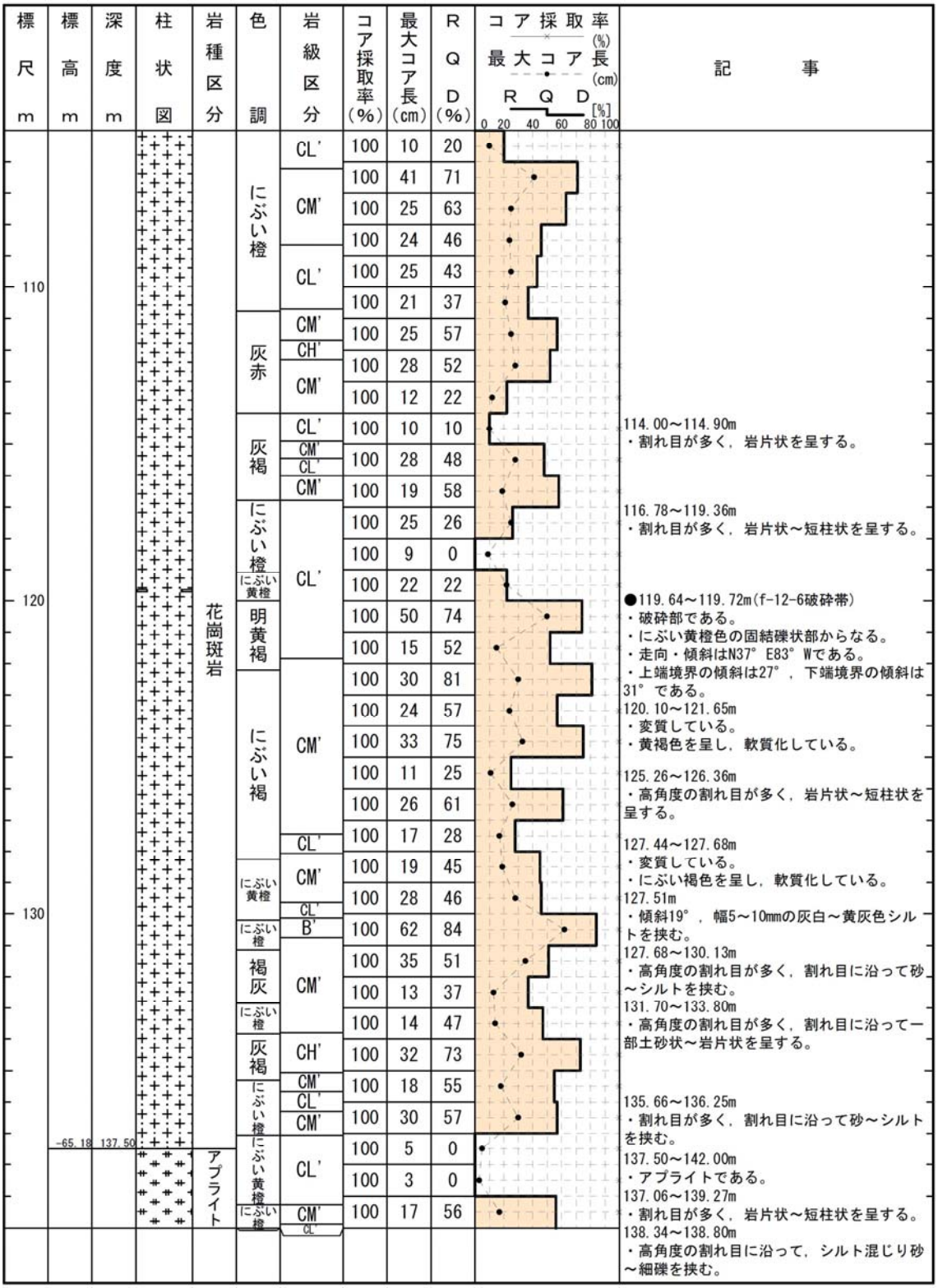
H19-No.12

柱状図(70.00m～105.00m)



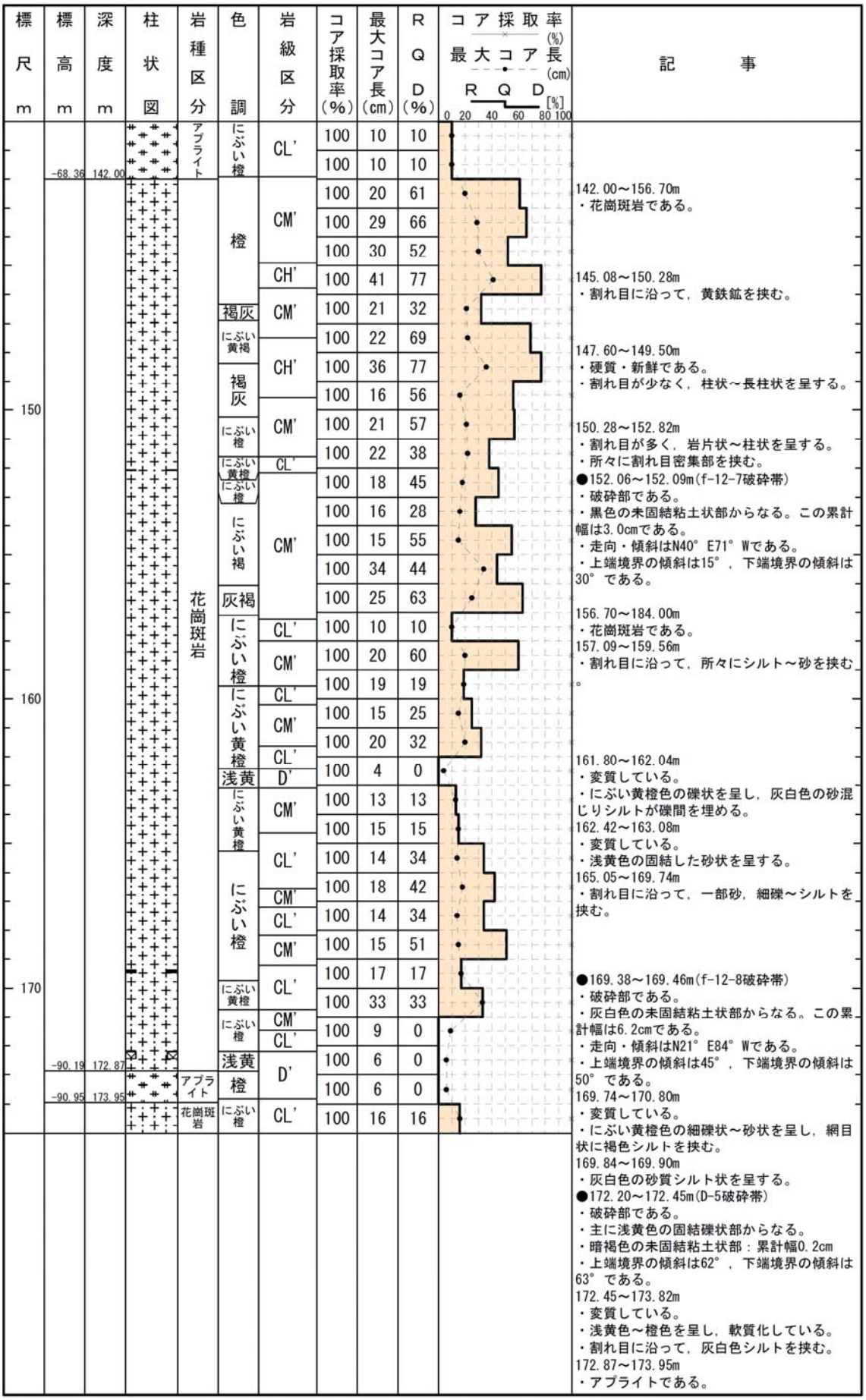
H19-No.12

柱状図(105.00m～140.00m)



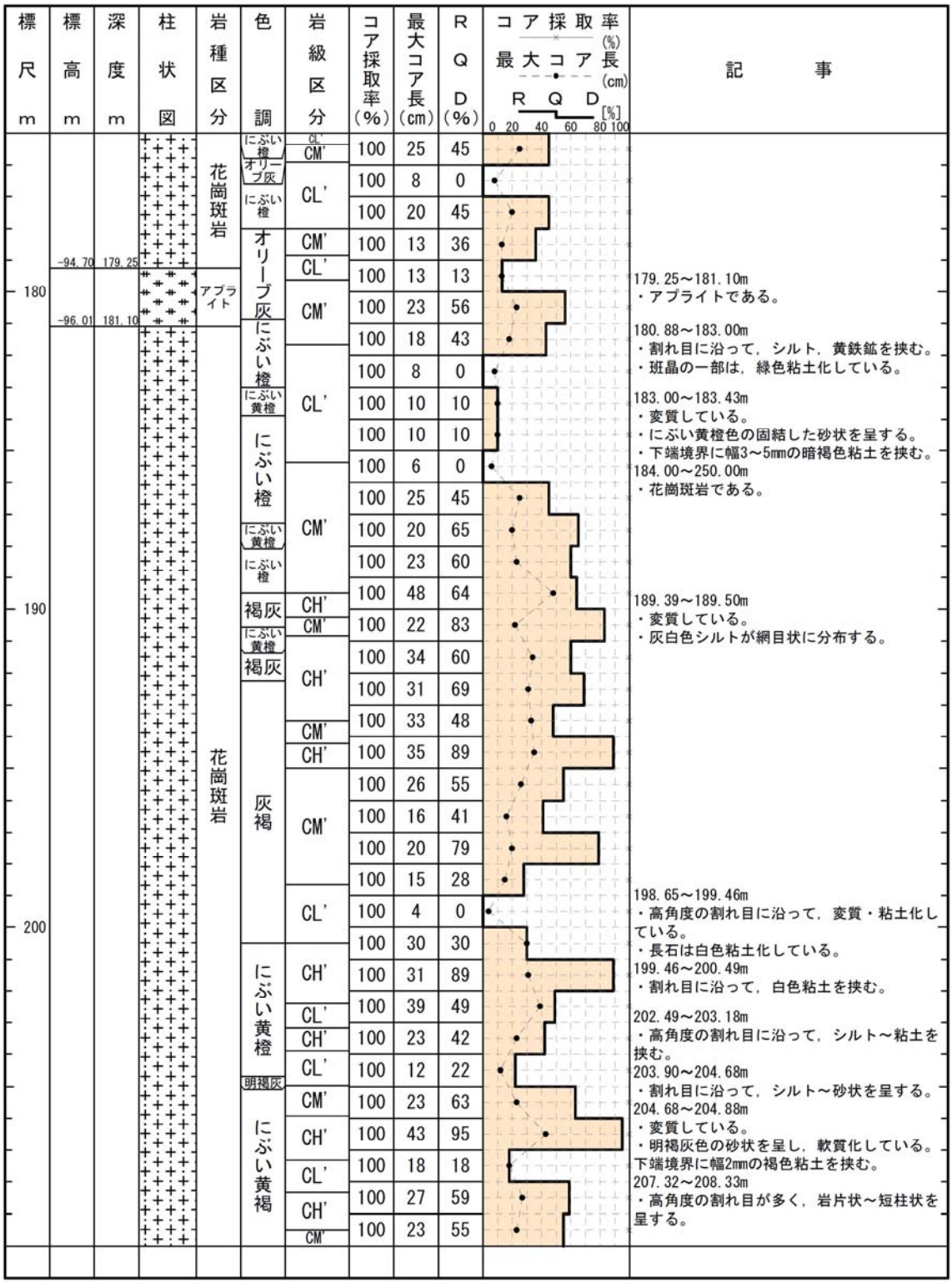
H19-No.12

柱状図(140.00m～175.00m)



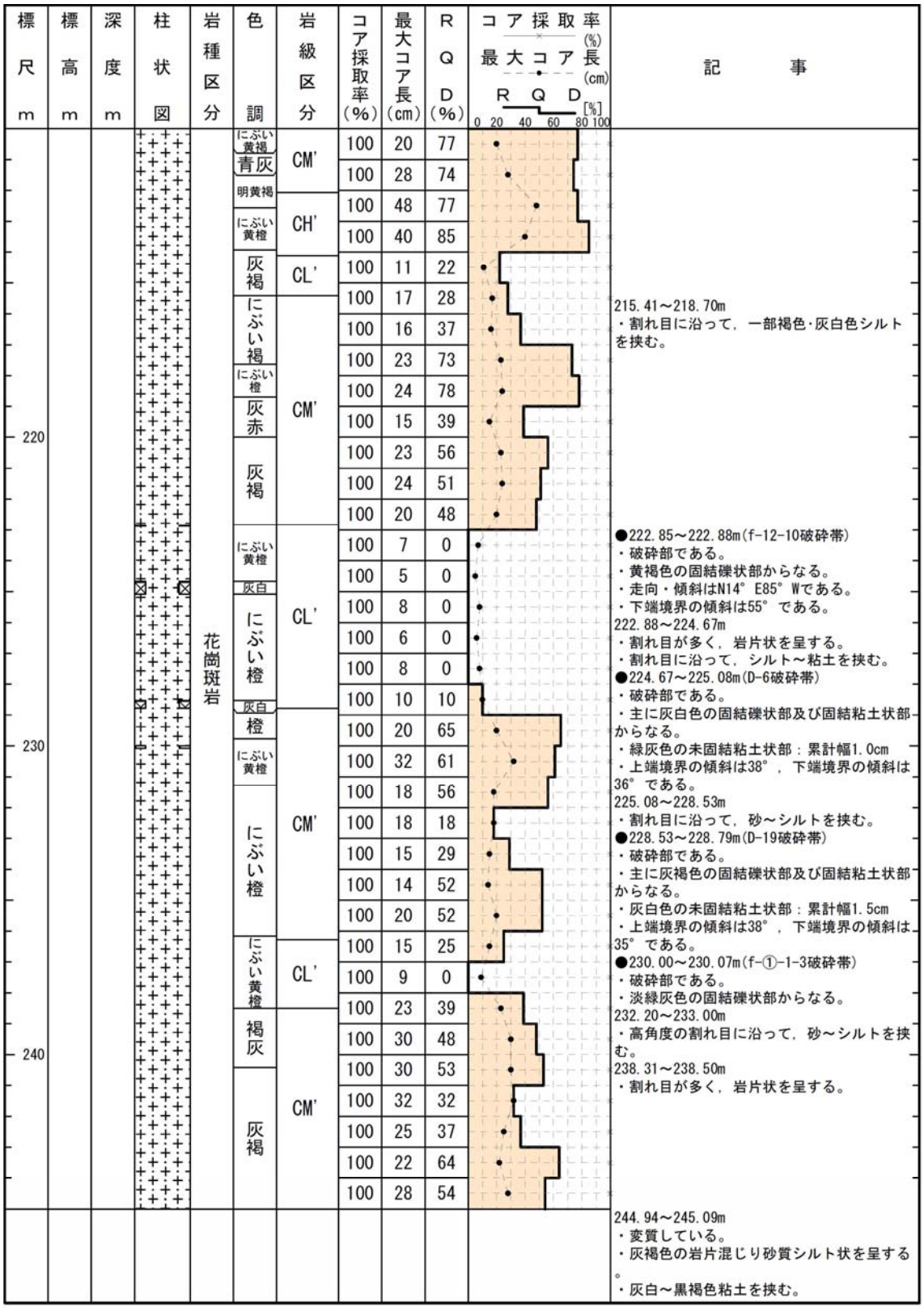
H19-No.12

柱状図(175.00m～210.00m)



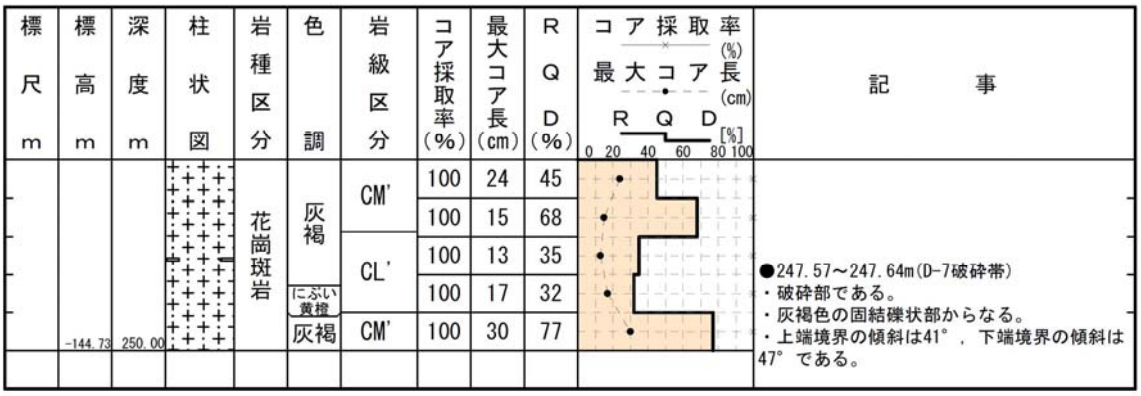
H19-No.12

柱状図(210.00m～245.00m)



H19-No.12

柱状図(245.00m～250.00m)



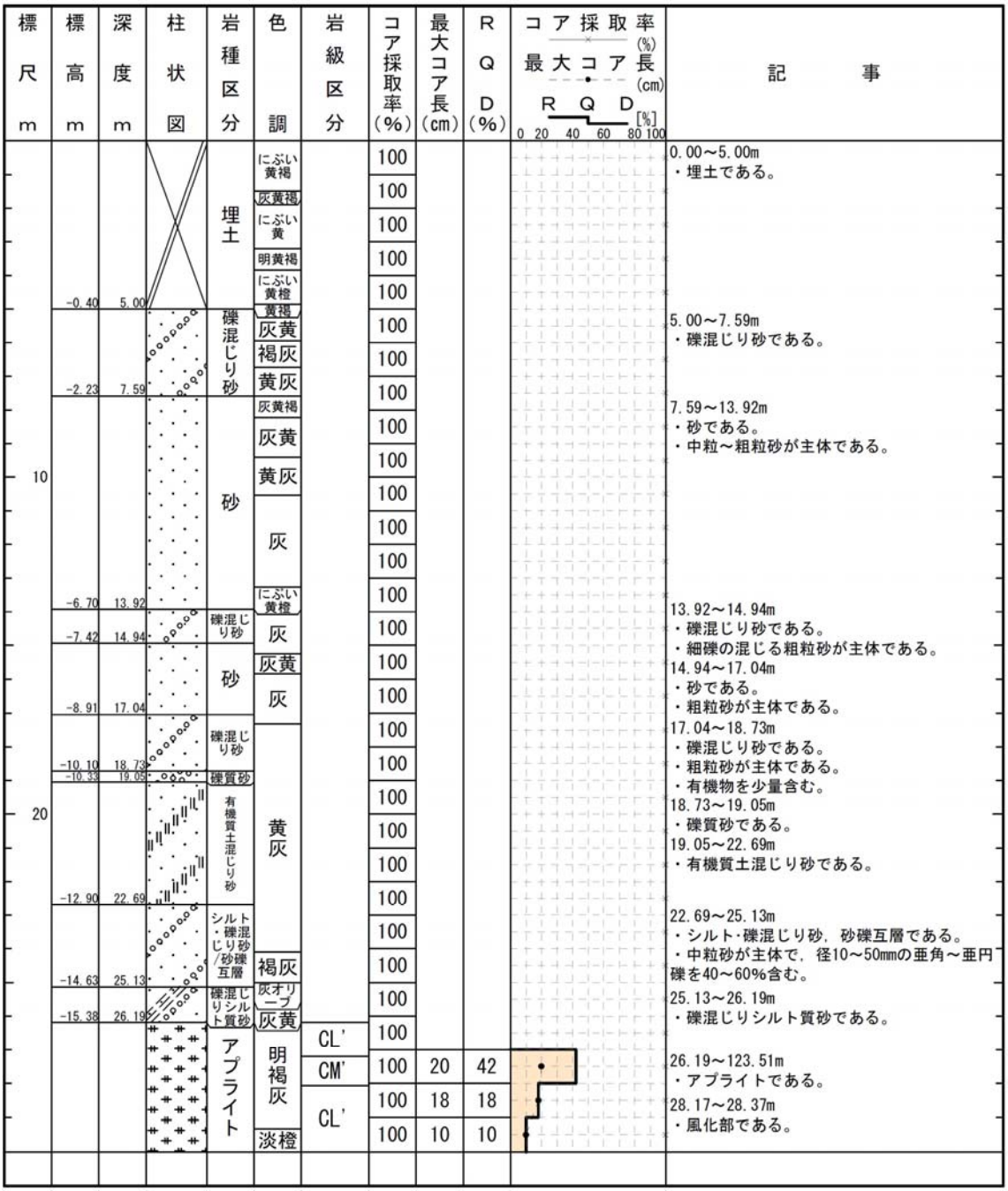
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	灰褐	CM'	100	24	45		
							100	15	68		
						CL'	100	13	35		
					にぶい黄橙		100	17	32		
	-144.73	250.00			灰褐	CM'	100	30	77		●247.57～247.64m(D-7破砕帯) ・破砕部である。 ・灰褐色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は41°，下端境界の傾斜は47°である。

H24-B11-2

柱状図(0.00m～30.00m)

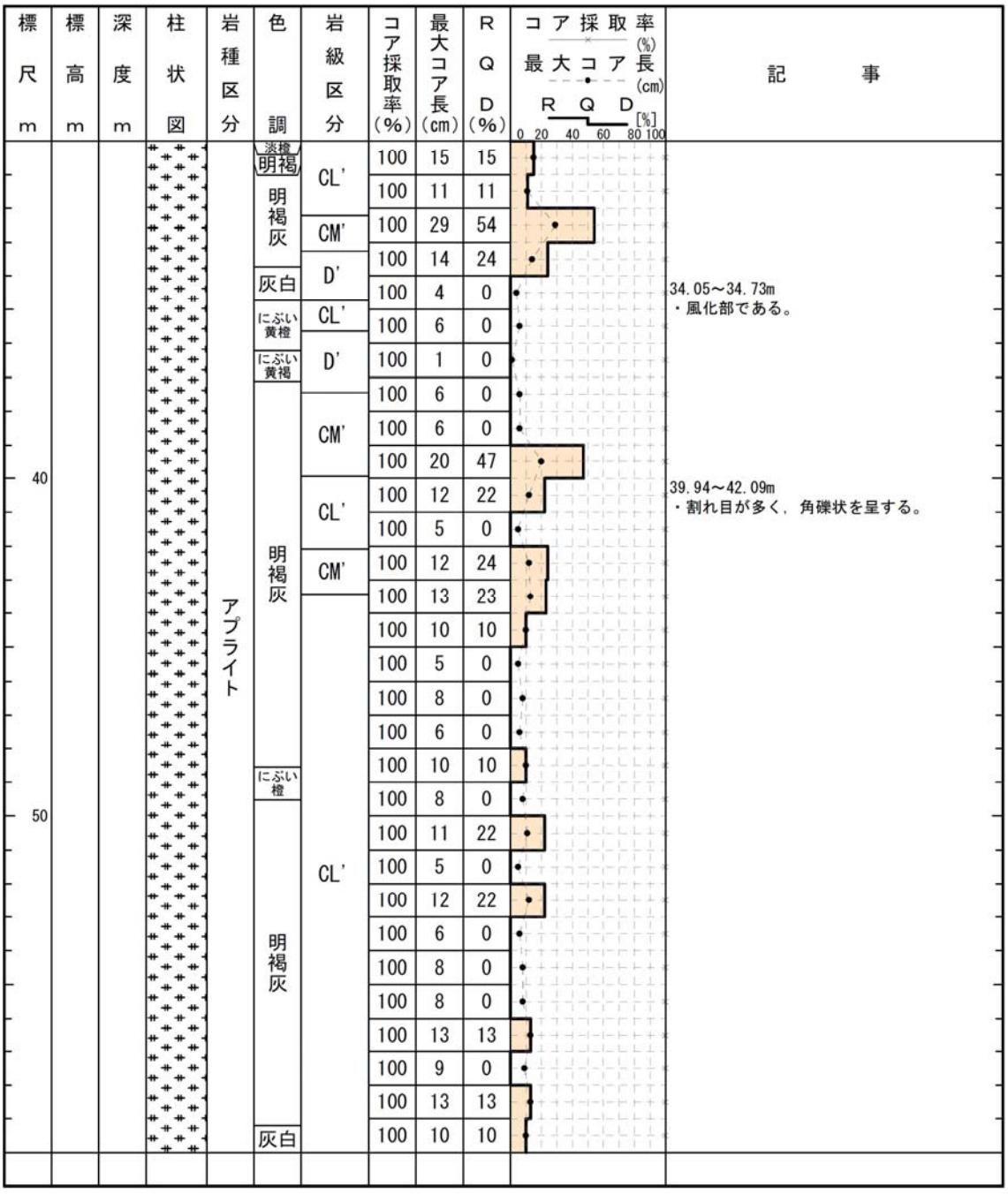
H24-B11-2

孔口標高	T.P. 3.14m	掘削長	150.00m



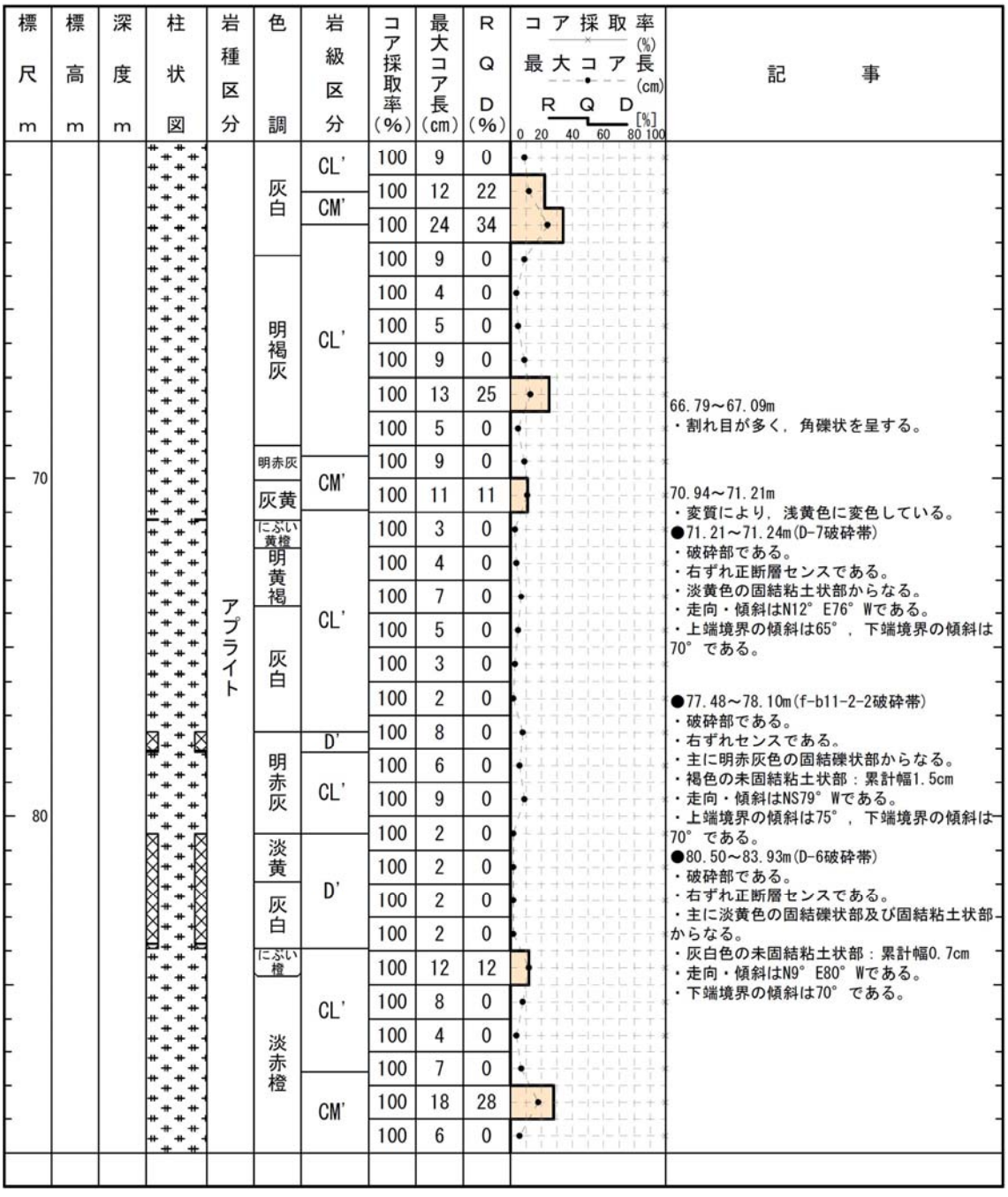
H24-B11-2

柱状図(30.00m～60.00m)



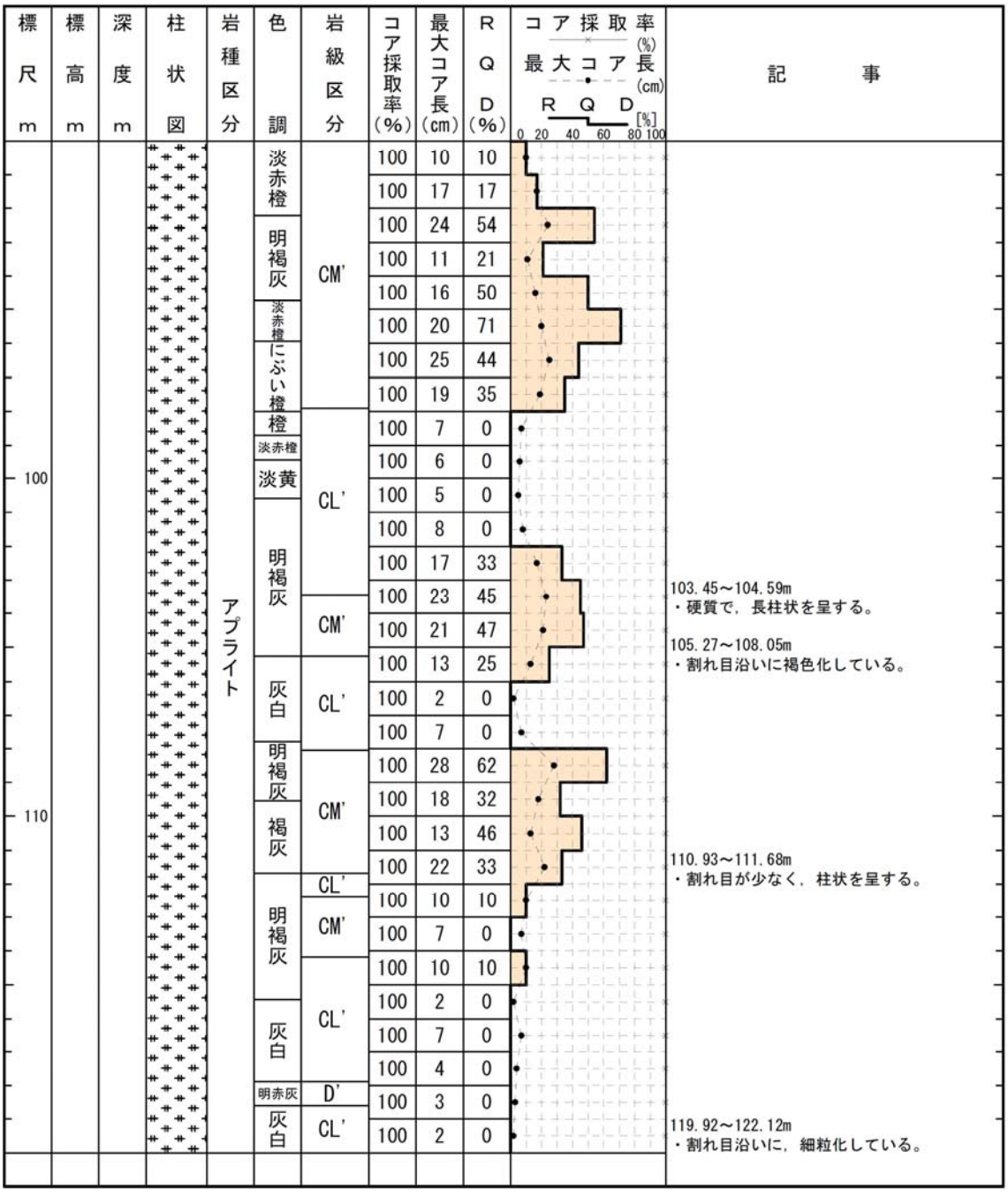
H24-B11-2

柱状図(60.00m～90.00m)



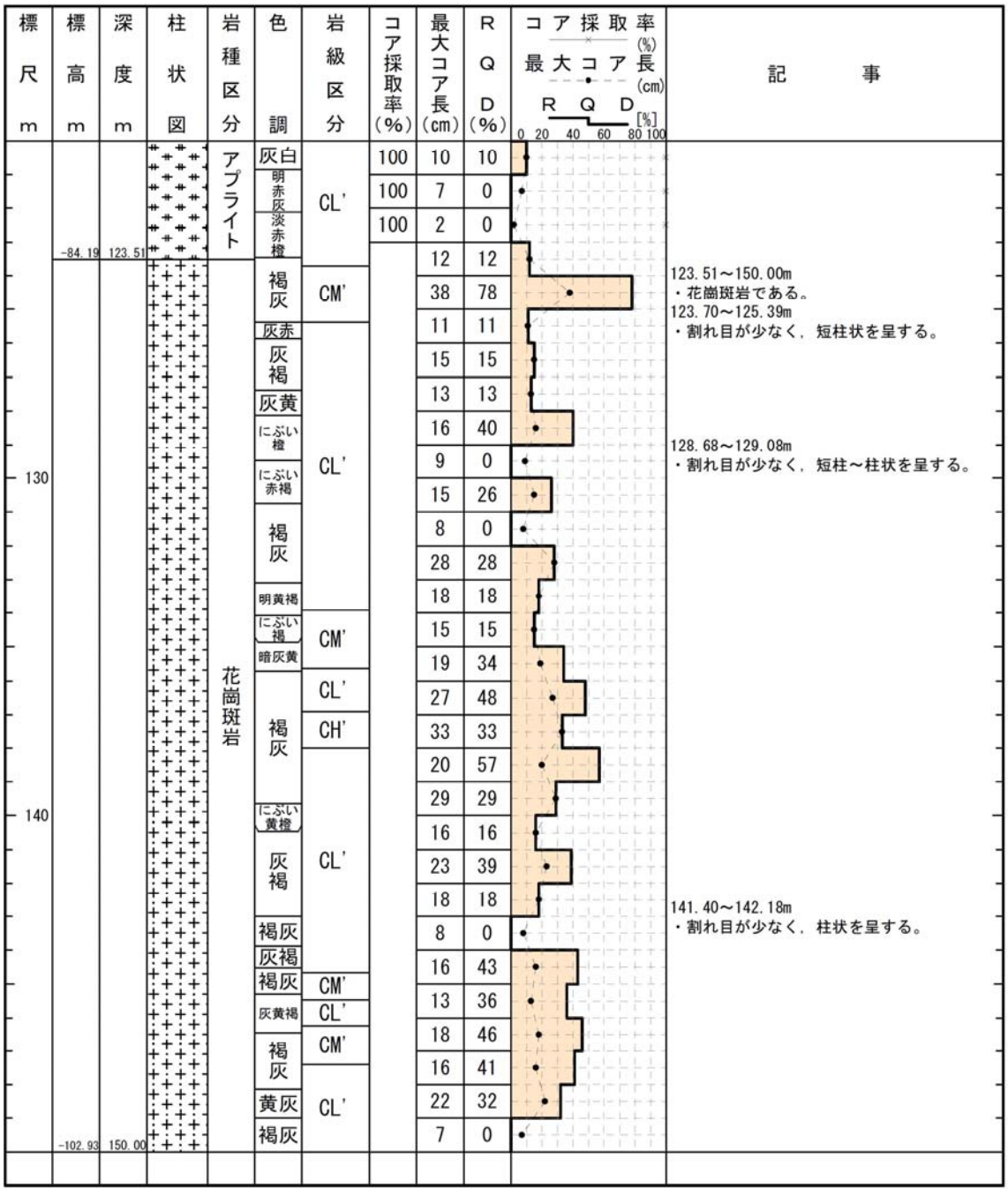
H24-B11-2

柱状図(90.00m～120.00m)



H24-B11-2

柱状図(120.00m～150.00m)



H24-B8-22

柱状図(0.00m～30.00m)

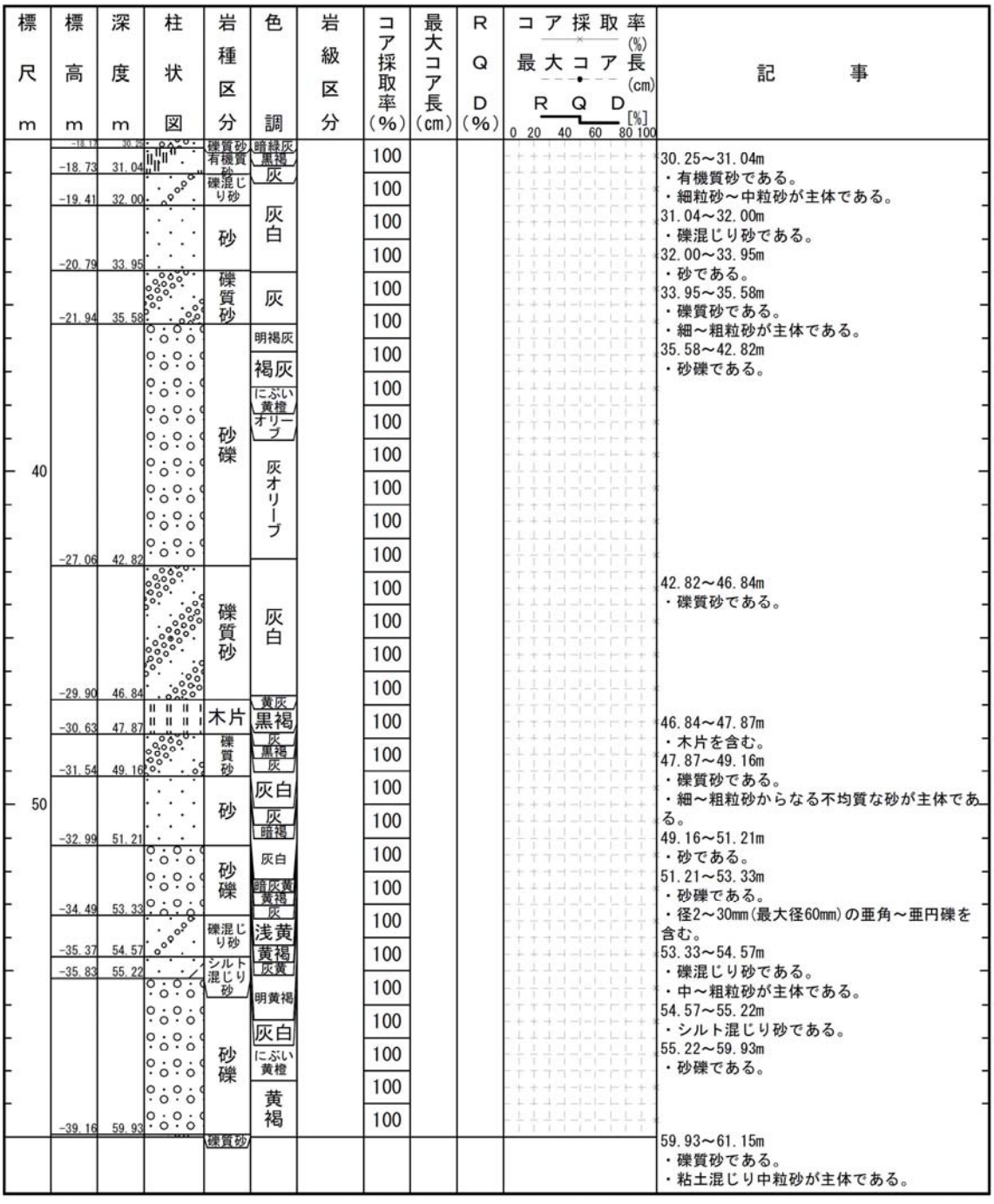
H24-B8-22

孔口標高	T.P. 3.22m	掘削長	240.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	オリーブ黒 灰オリーブ オリーブ黒 灰 浅黄 灰 黒褐		100				0.00～4.97m ・埋土である。
	-0.29	4.97		シルト質砂			100				4.97～5.16m ・シルト質砂である。 ・中粒砂が主体である。
	-1.89	7.22		有機質シルト			100				5.16～7.22m ・有機質シルトである。
	-2.63	8.27		礫混じり砂	灰白		100				7.22～8.27m ・礫混じり砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
	-3.46	9.45		礫質砂	灰黄		100				8.27～9.45m ・礫質砂である。
10				砂	明黄褐 にぶい黄橙 灰オリーブ にぶい黄橙		100				9.45～14.95m ・砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
	-7.35	14.95		シルト混じり砂	灰白 浅黄		100				14.95～17.20m ・シルト混じり砂である。
	-8.94	17.20		砂	オリーブ黄		100				17.20～18.72m ・砂である。 ・シルト混じり中～粗粒砂が主体である。
	-10.02	18.72		礫混じりシルト質砂	明黄褐 灰オリーブ 浅黄 オリーブ灰 暗オリーブ灰		100				18.72～22.45m ・礫混じりシルト質砂である。
20	-12.65	22.45		礫・砂質シルト	暗緑灰		100				22.45～24.09m ・礫・砂質シルトである。
	-13.81	24.09		礫混じりシルト質砂			100				24.09～25.51m ・礫混じりシルト質砂である。
	-14.82	25.51		礫混じり砂質シルト			100				25.51～27.25m ・礫混じり砂質シルトである。
	-16.05	27.25		シルト質砂			100				27.25～27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94		礫・シルト質砂			100				27.94～29.29m ・礫・シルト質砂である。
	-17.49	29.29		礫質砂			100				29.29～30.25m ・礫質砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。

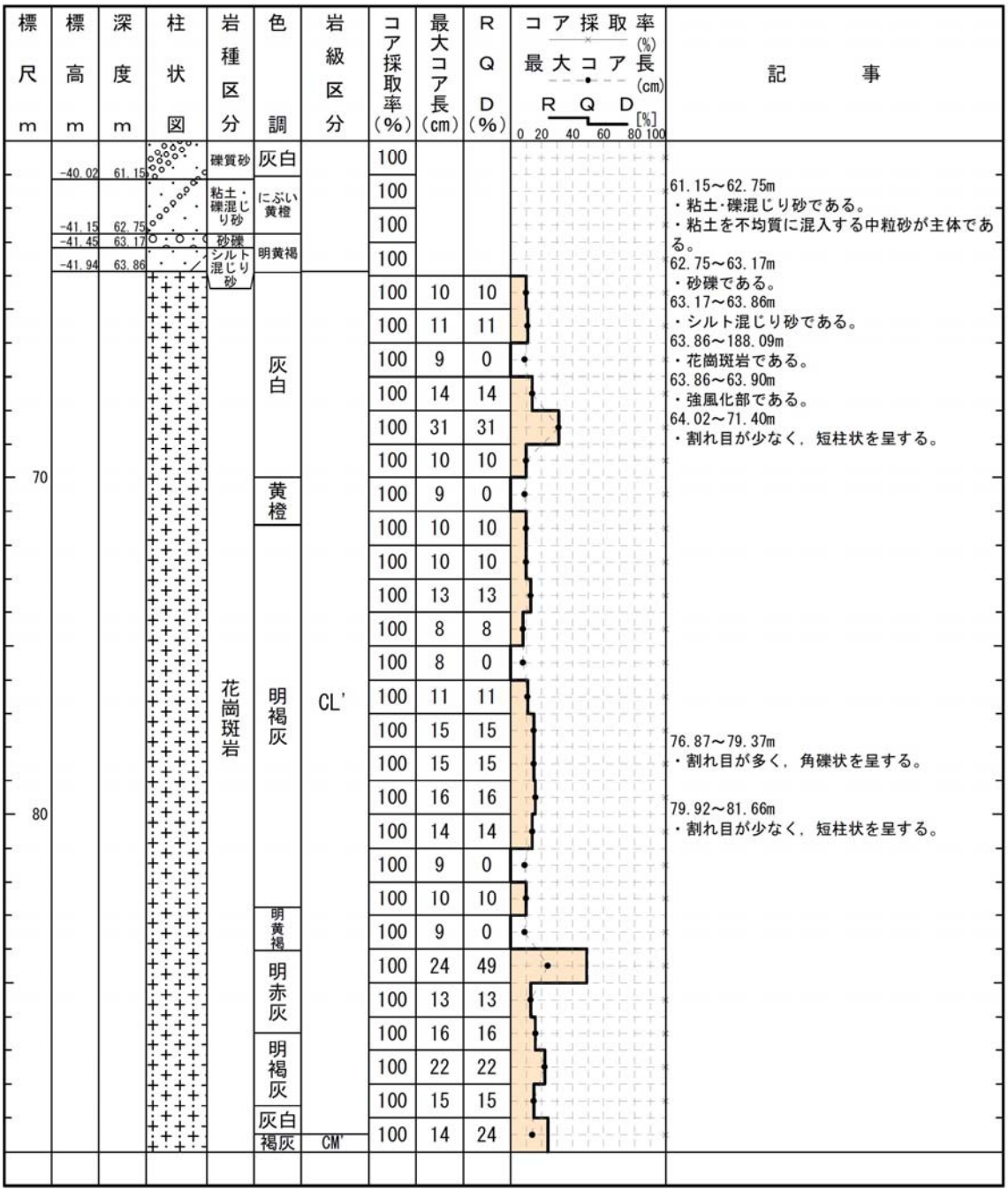
H24-B8-22

柱状図(30.00m～60.00m)



H24-B8-22

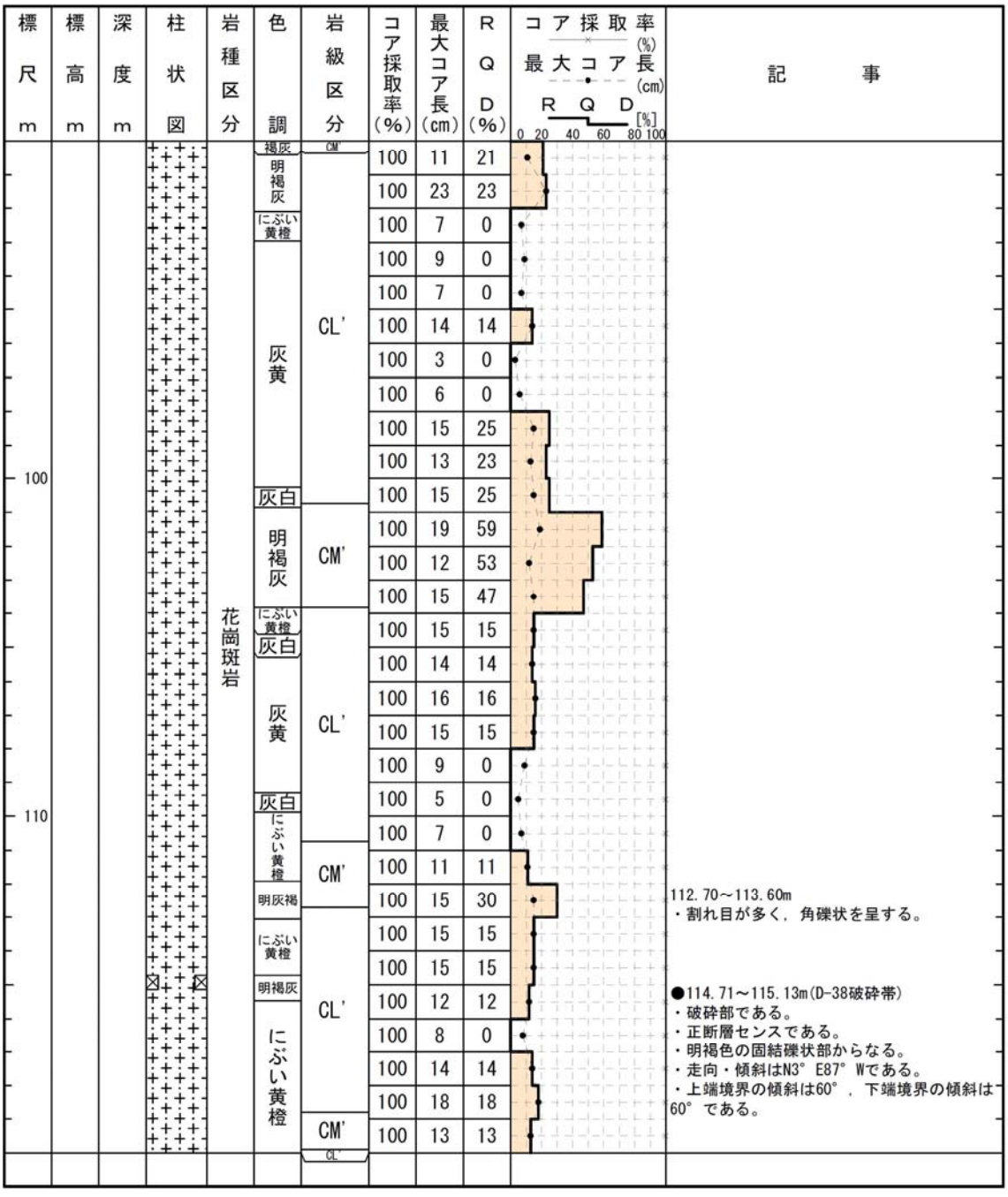
柱状図(60.00m～90.00m)



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100	10	10
100	11	11
100	9	0
100	14	14
100	31	31
100	10	10
100	9	0
100	10	10
100	10	10
100	13	13
100	8	8
100	8	0
100	11	11
100	15	15
100	15	15
100	16	16
100	14	14
100	9	0
100	10	10
100	9	0
100	24	49
100	13	13
100	16	16
100	22	22
100	15	15
100	14	24

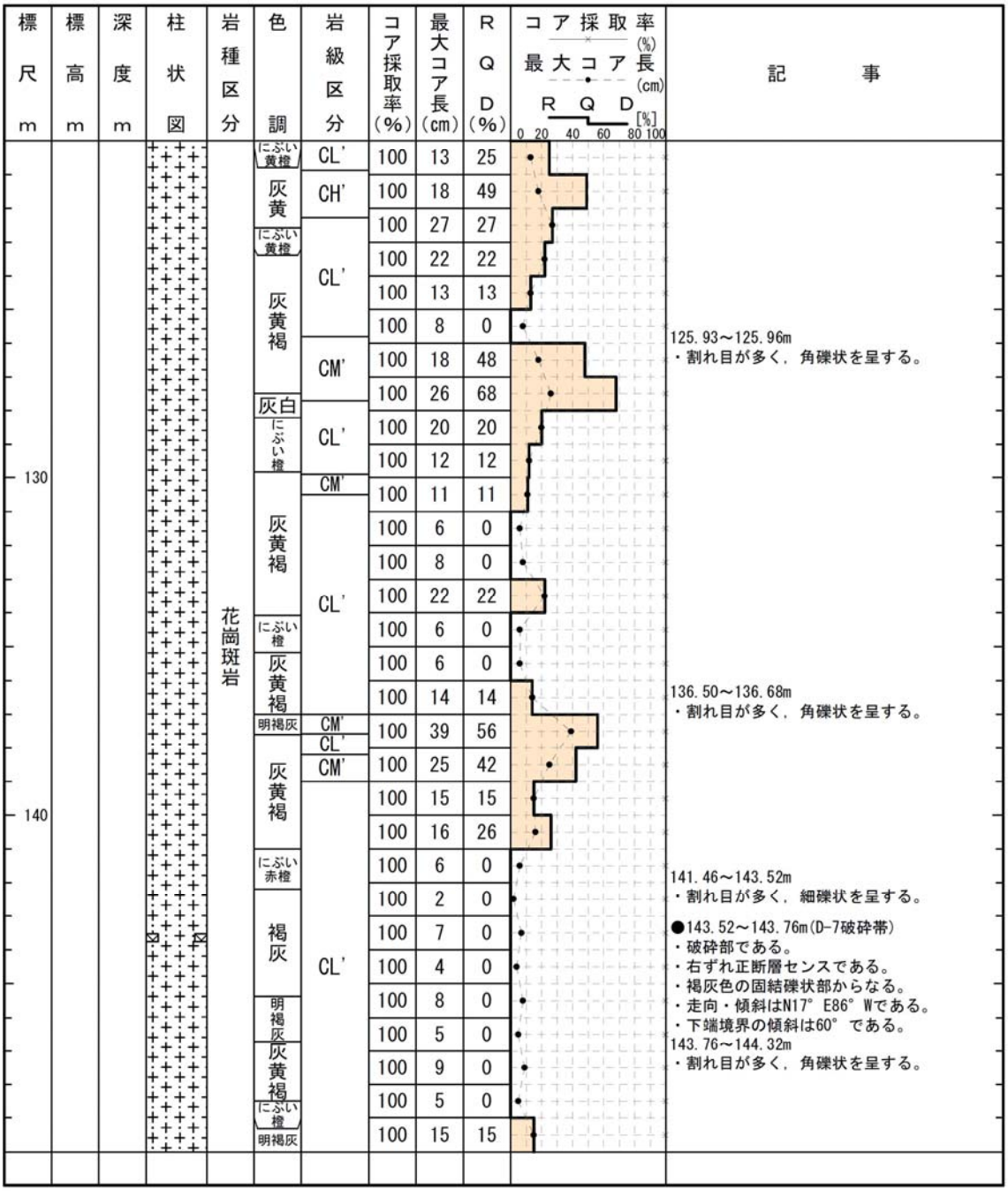
H24-B8-22

柱状図(90.00m～120.00m)



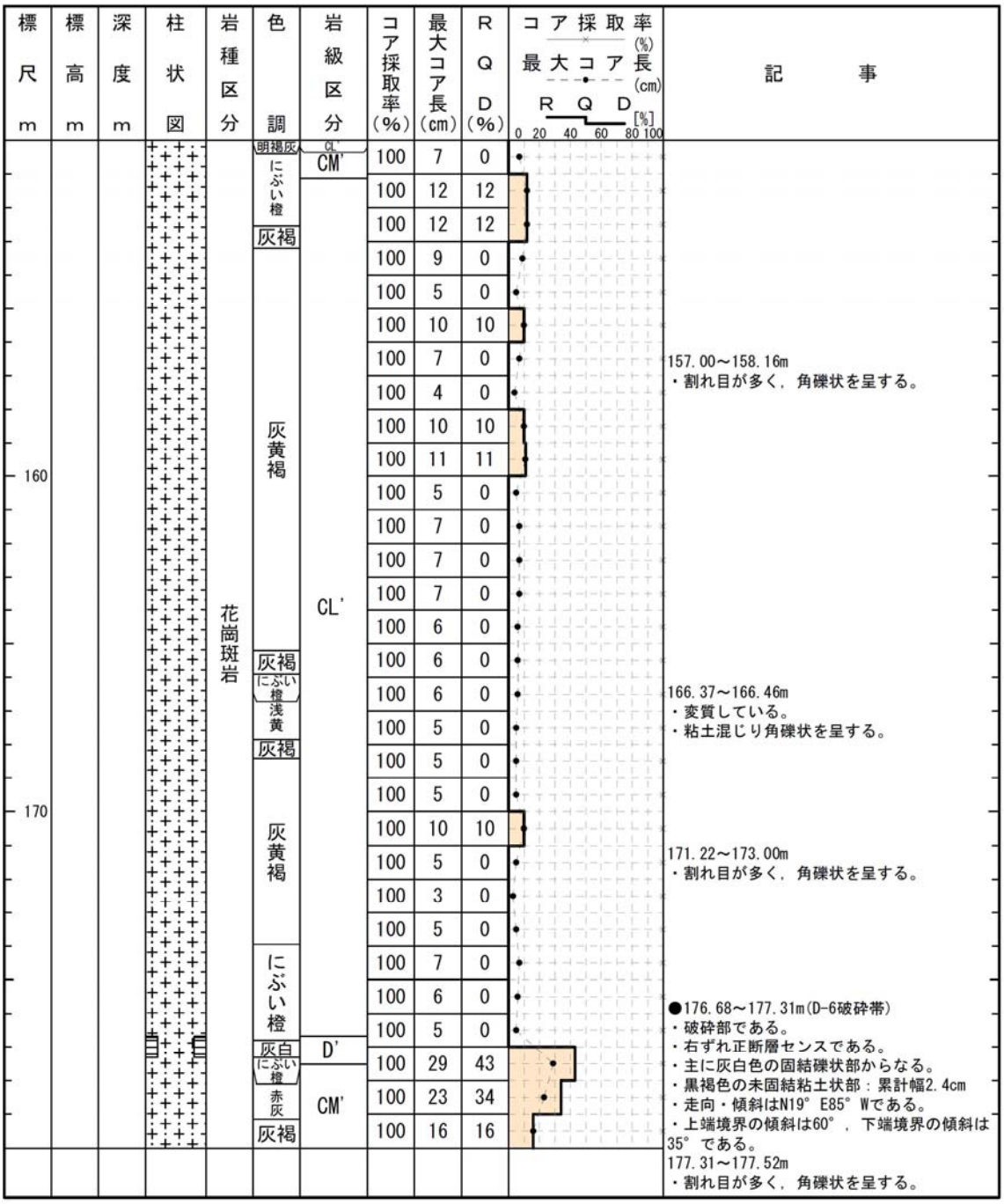
H24-B8-22

柱状図(120.00m～150.00m)



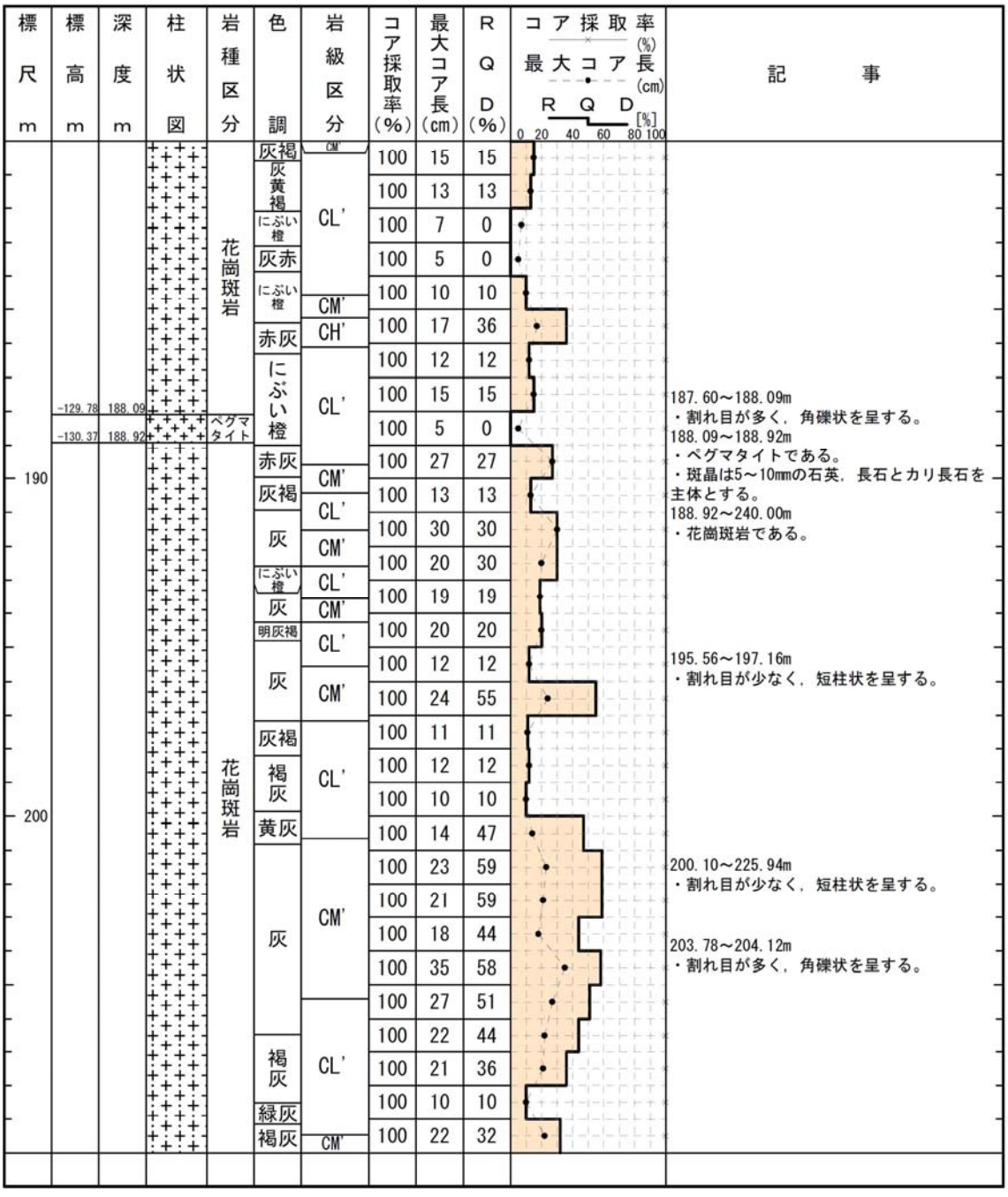
H24-B8-22

柱状図(150.00m～180.00m)



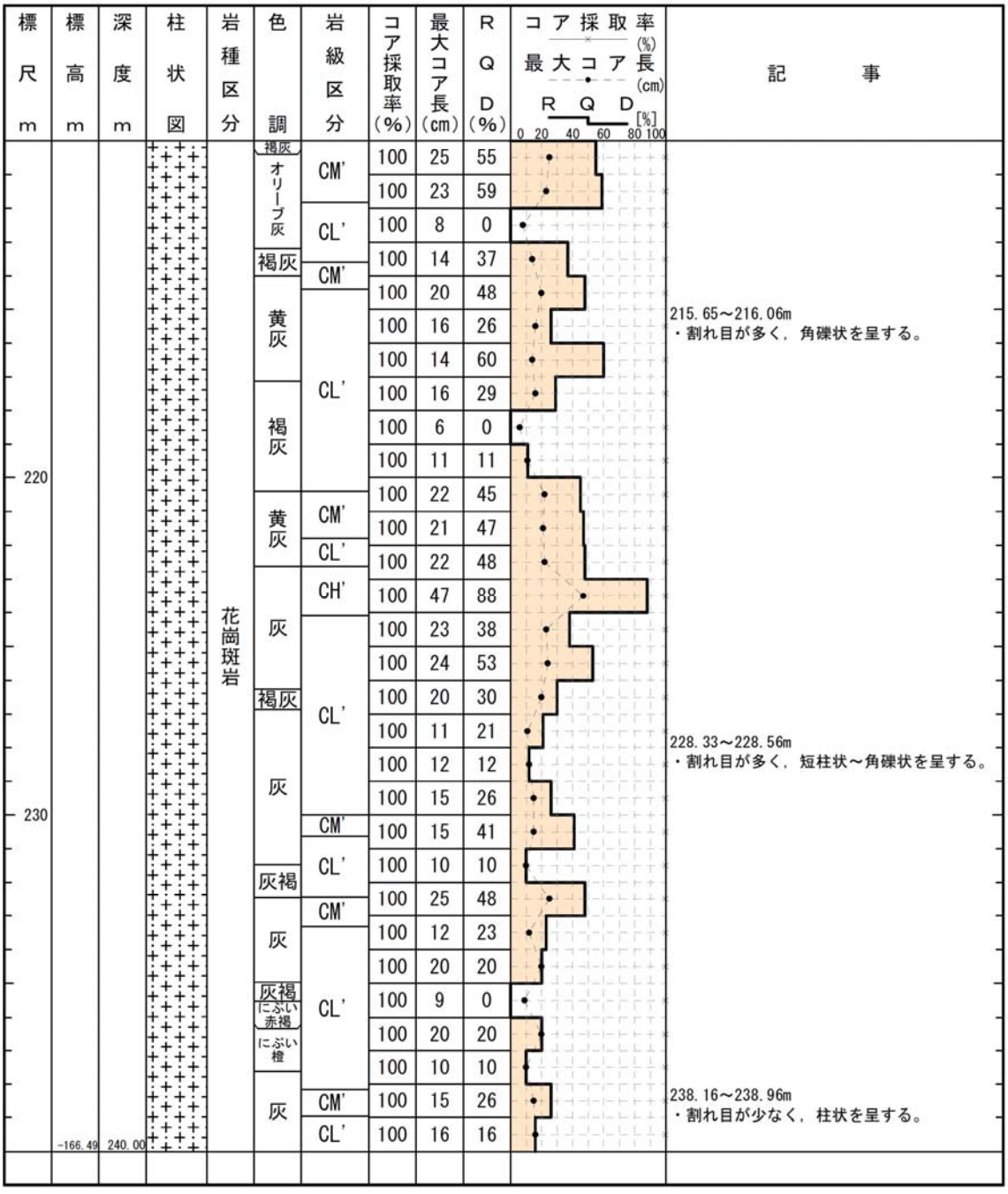
H24-B8-22

柱状図(180.00m～210.00m)



H24-B8-22

柱状図(210.00m～240.00m)

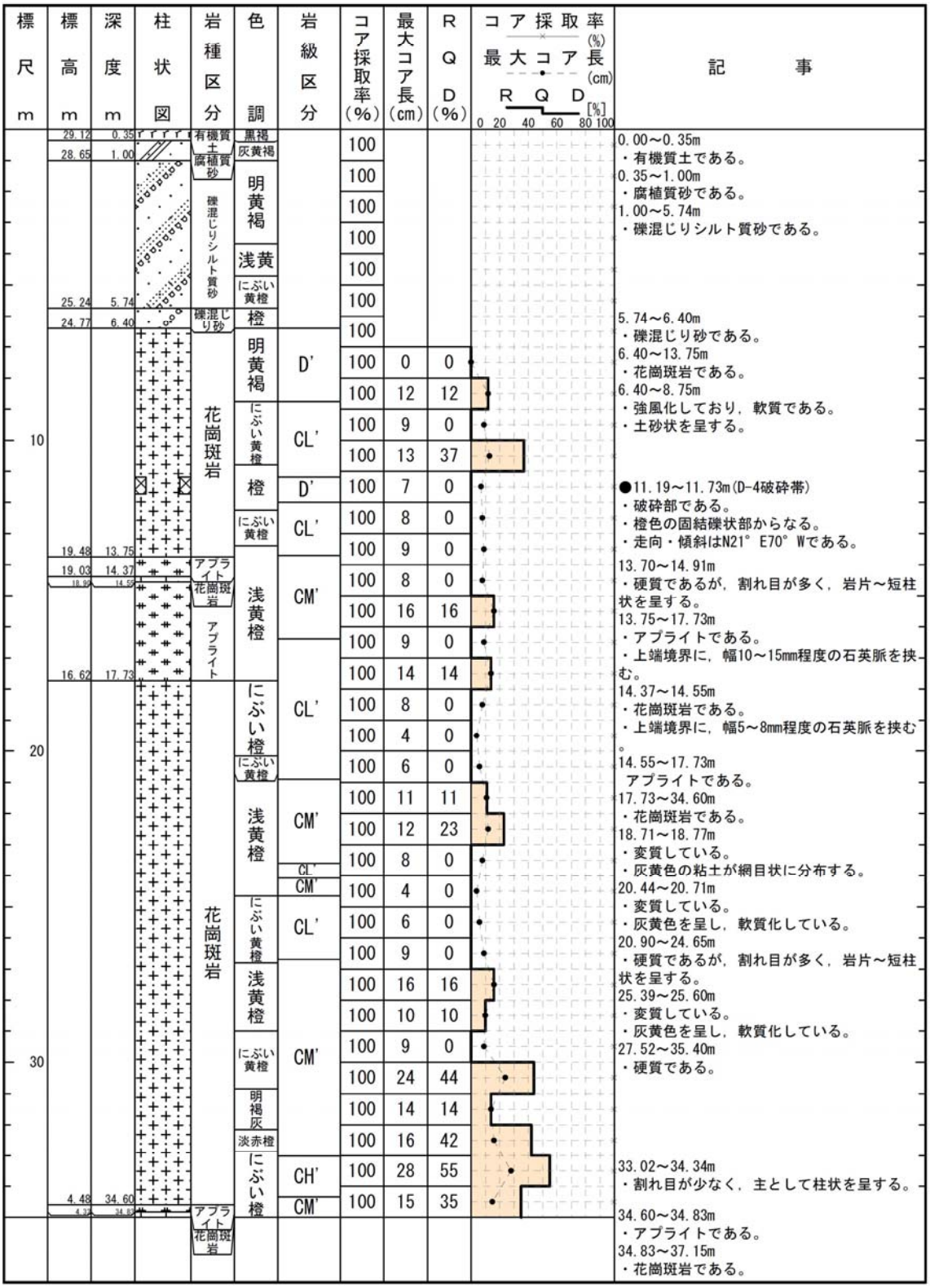


H20-①-9

柱状図(00.00m～35.00m)

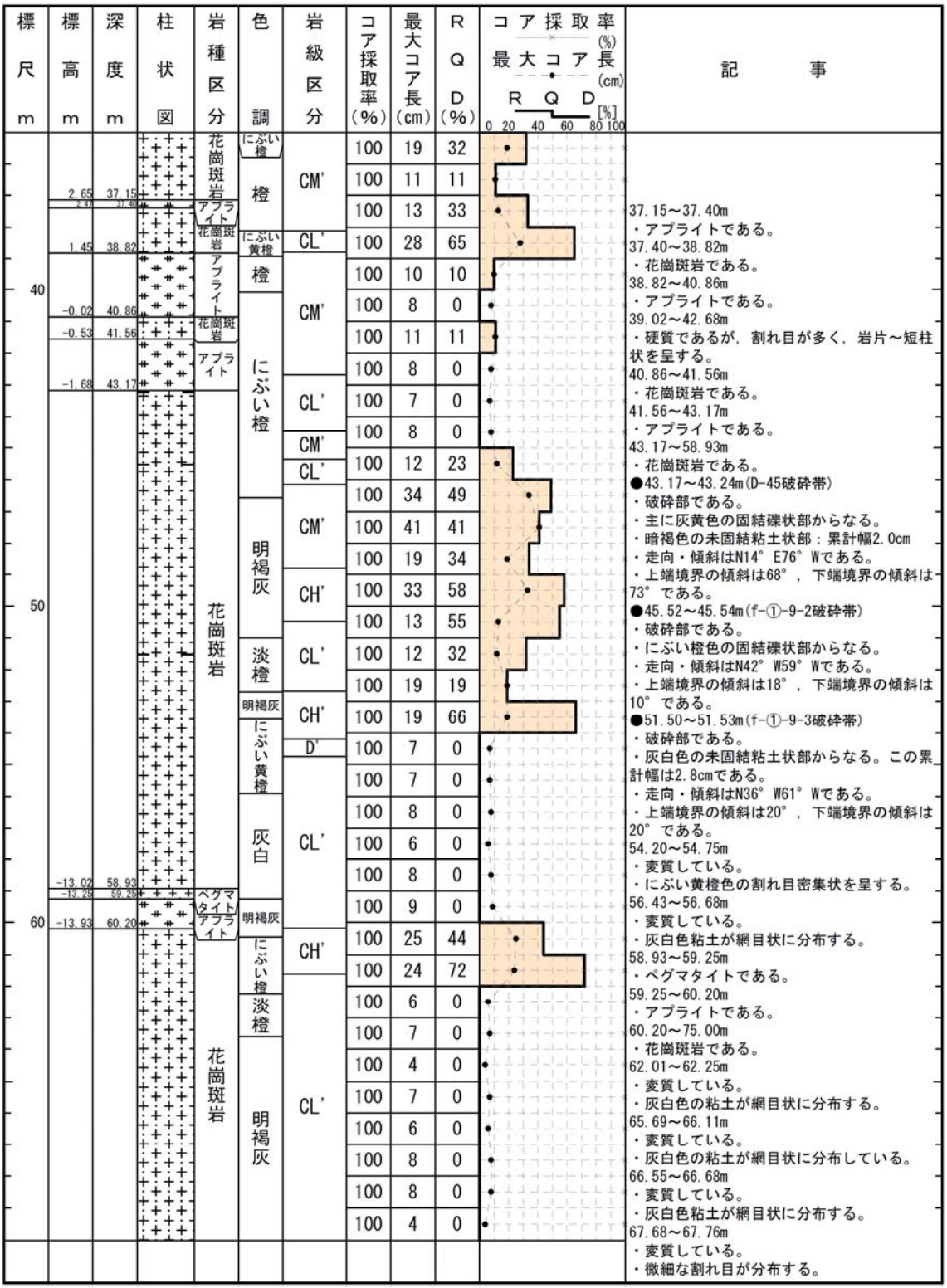
H20-①-9

孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	75.00m



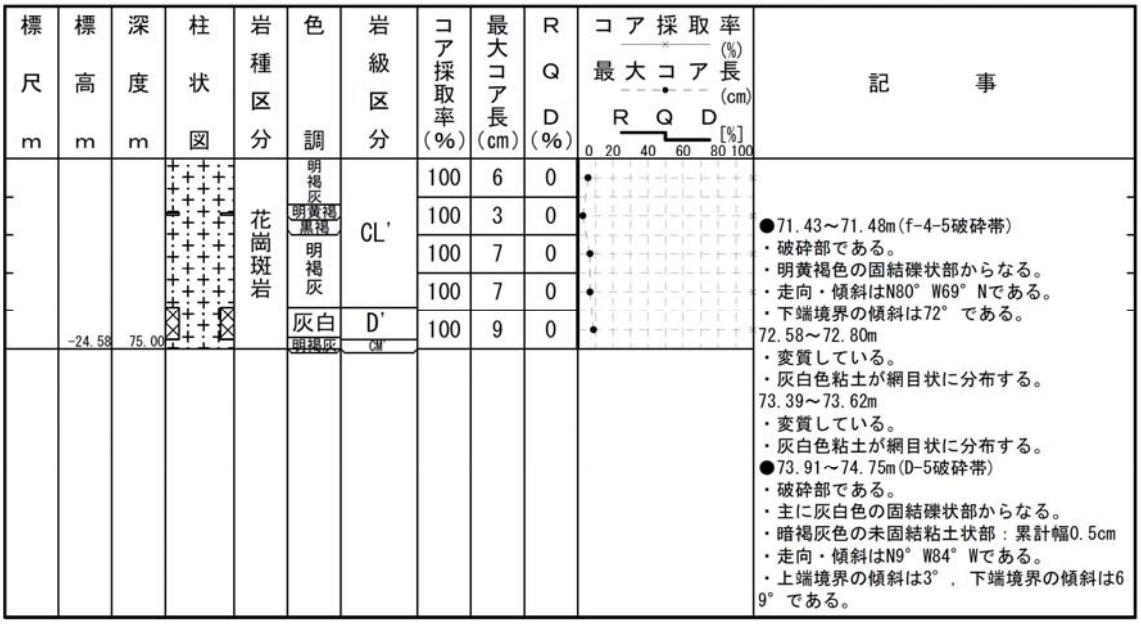
H20-①-9

柱状図(35.00m～70.00m)



H20-①-9

柱状図(70.00m～75.00m)

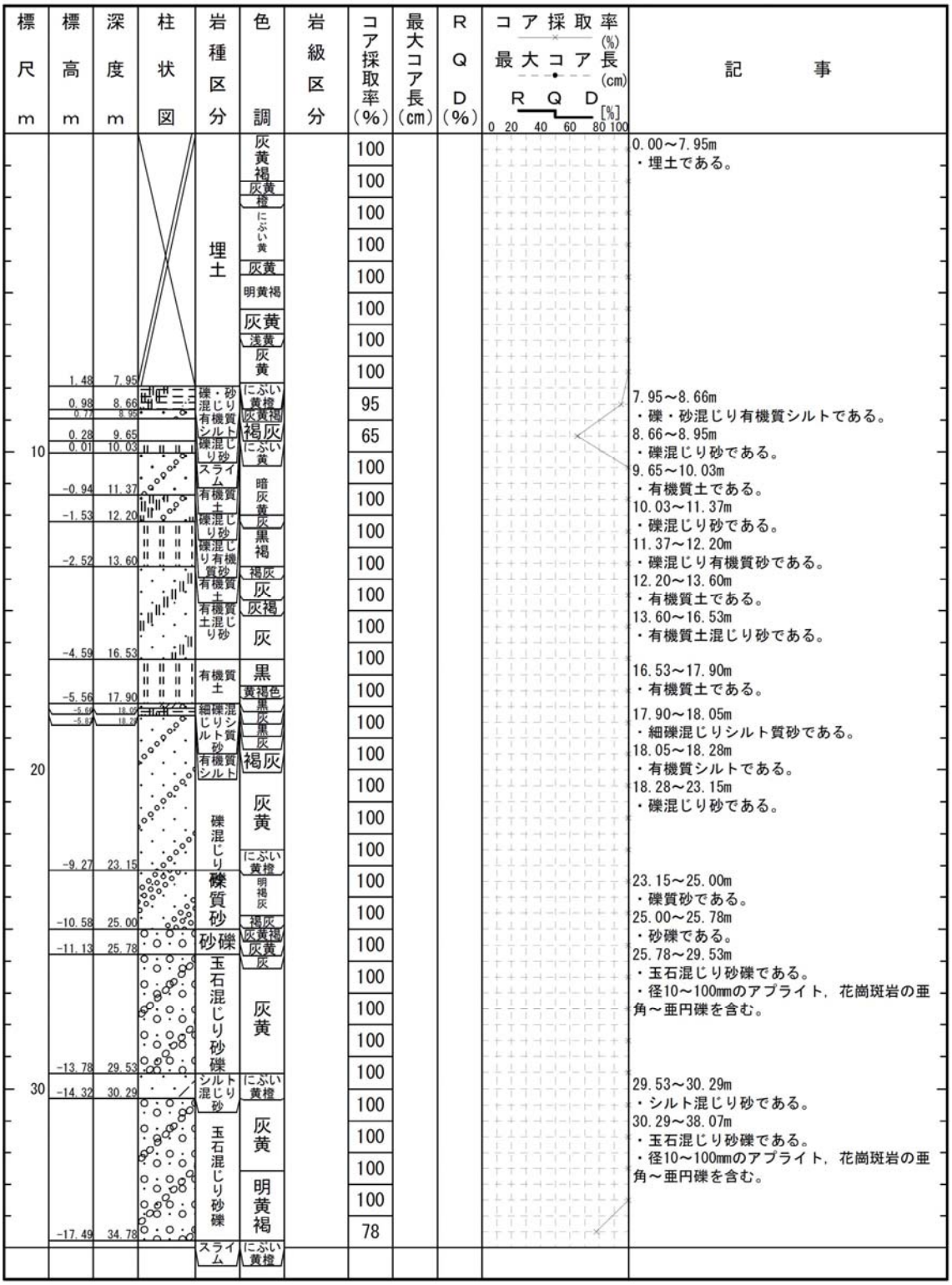


H24-B11-1

柱状図(00.00m～35.00m)

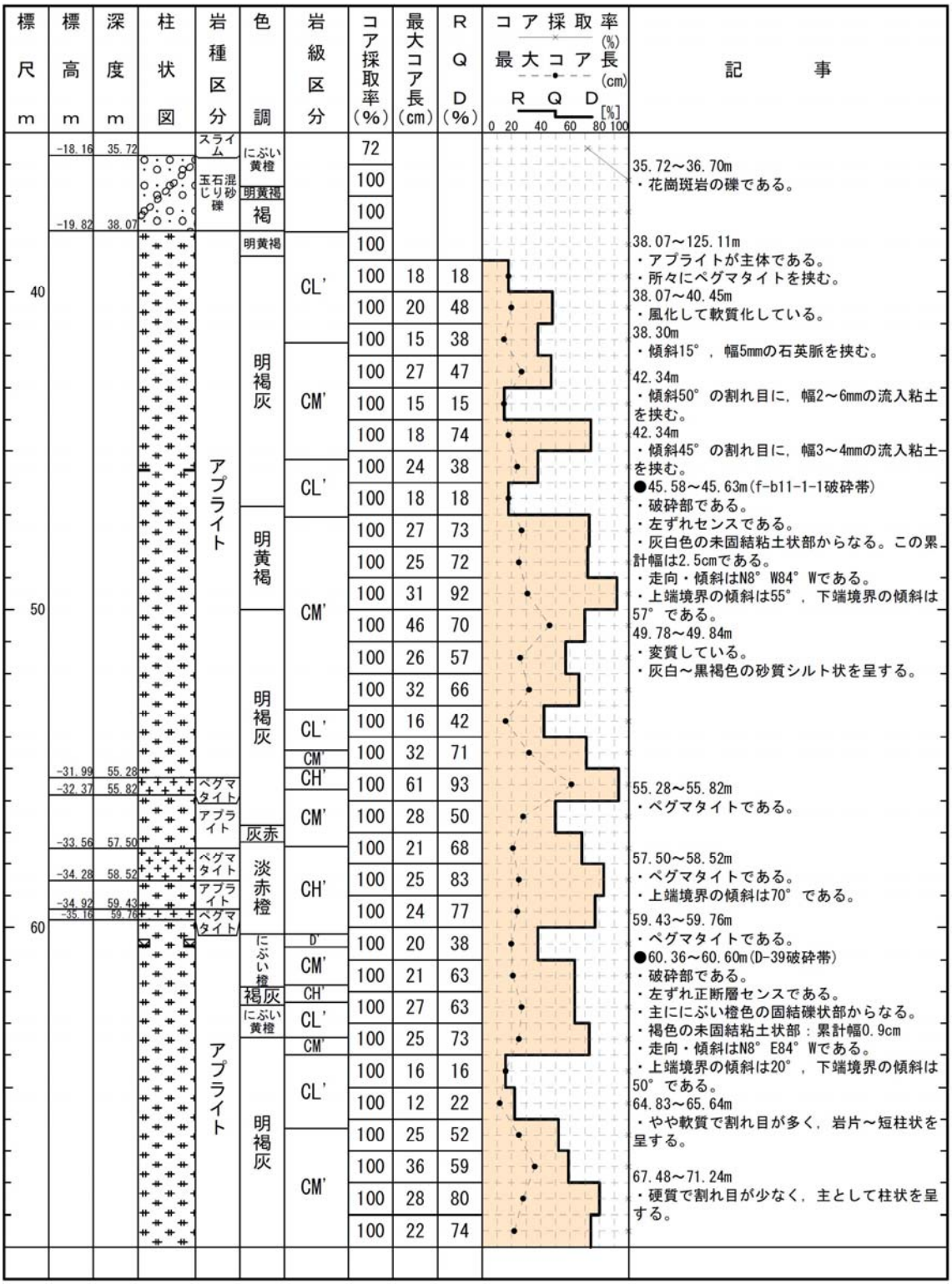
H24-B11-1

孔口標高	T.P. 7.10m	掘削長	150.00m



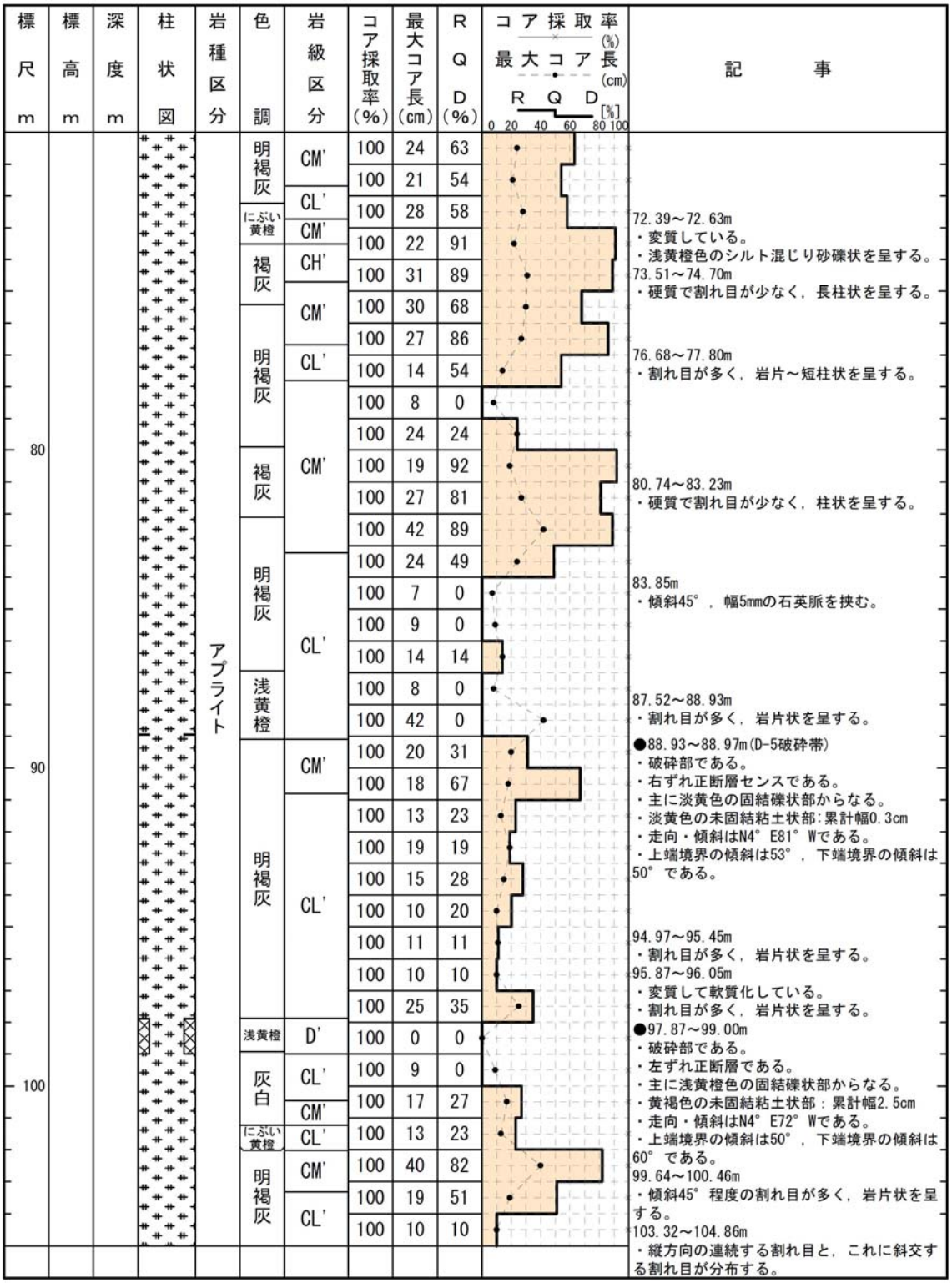
H24-B11-1

柱状図(35.00m～70.00m)



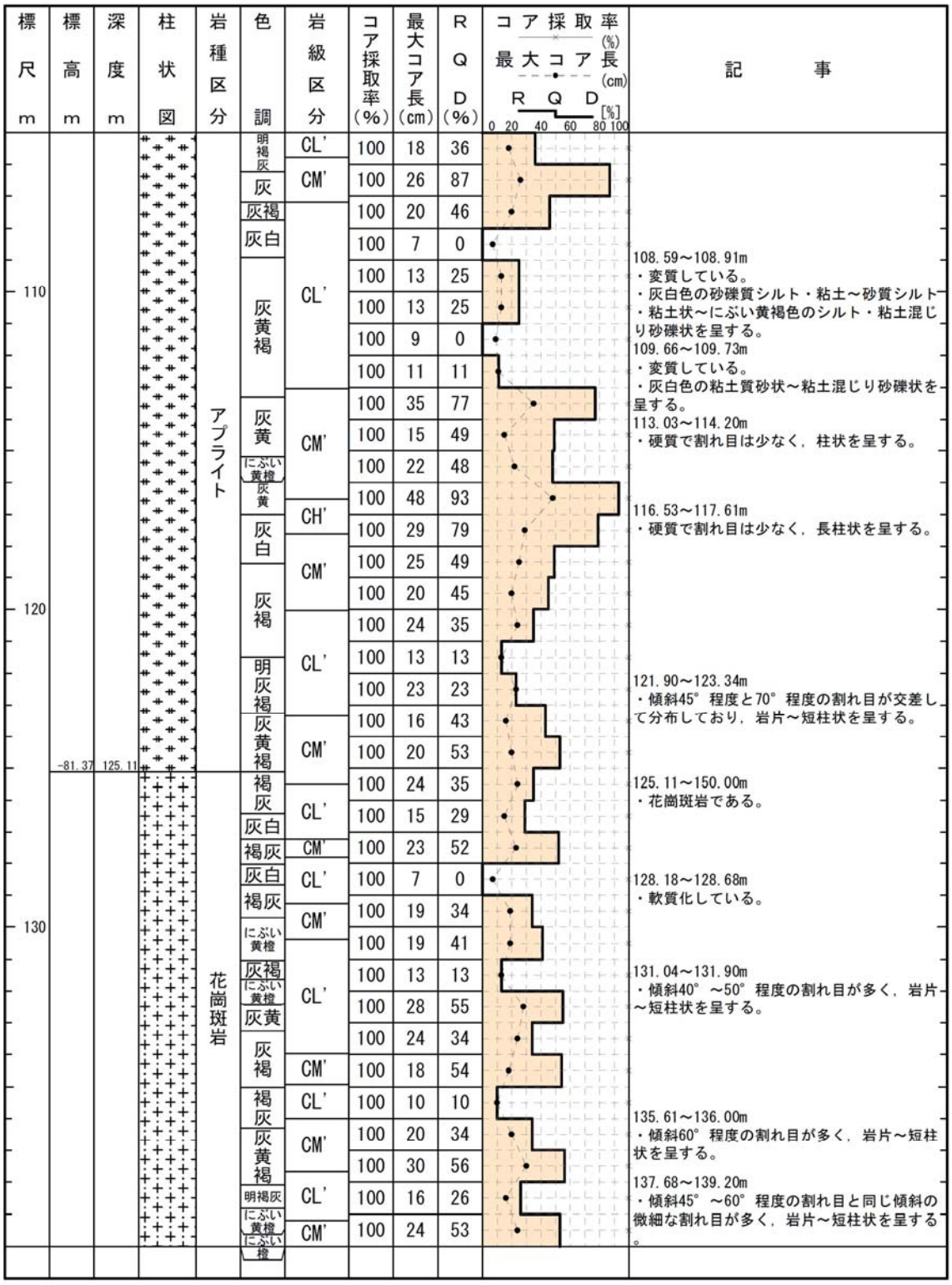
H24-B11-1

柱状図(70.00m～105.00m)



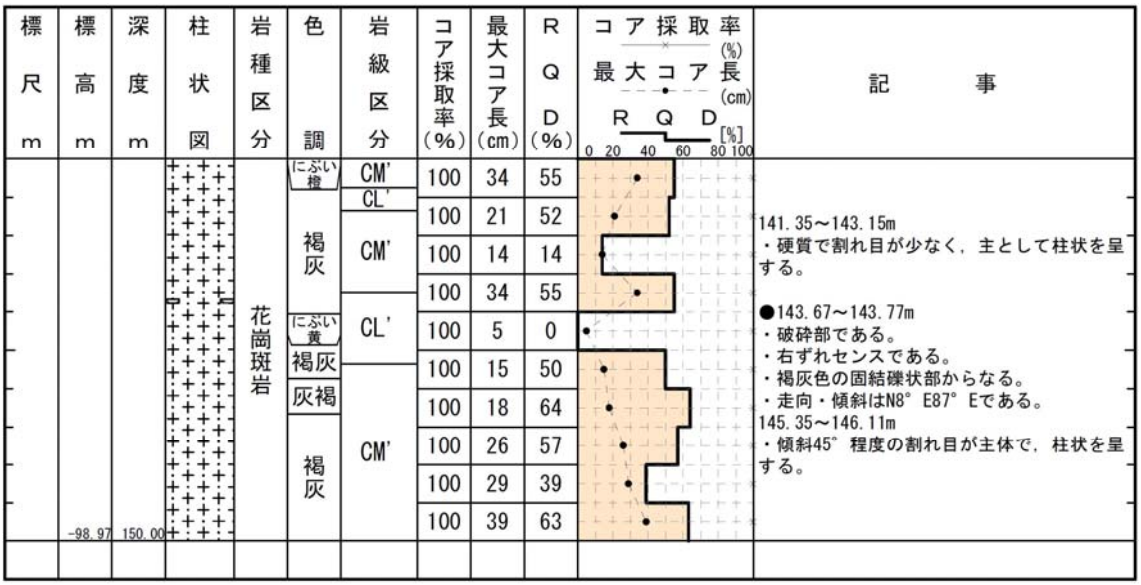
H24-B11-1

柱状図(105.00m～140.00m)



H24-B11-1

柱状図(140.00m～150.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	34	55		
						CL'	100	21	52		141.35～143.15m ・硬質で割れ目が少なく，主として柱状を呈する。
					褐灰	CM'	100	14	14		
							100	34	55		
					にぶい黄	CL'	100	5	0		●143.67～143.77m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN8° E87° Eである。
					褐灰		100	15	50		
					灰褐	CM'	100	18	64		
					褐灰		100	26	57		145.35～146.11m ・傾斜45° 程度の割れ目が主体で，柱状を呈する。
							100	29	39		
	-98.97	150.00					100	39	63		

H24-B8-21

柱状図(0.00m～30.00m)

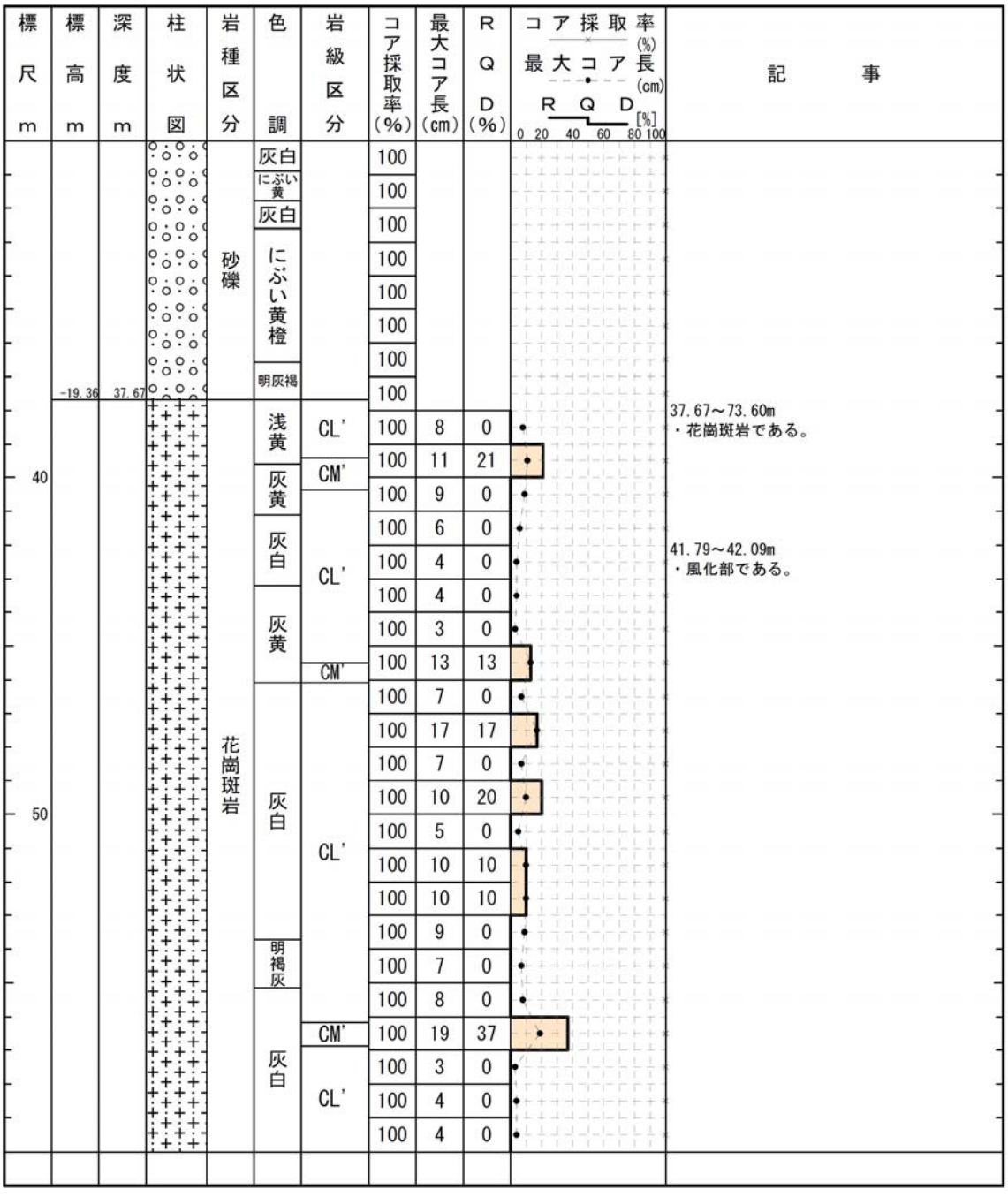
H24-B8-21

孔口標高	T.P. 7.28m	掘削長	240.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	にぶい黄橙 褐灰		100				0.00～3.00m ・埋土である。
	5.16	3.00					100				
							100				
	4.56	3.84		砂礫	黄灰		84				3.00～3.84m ・砂礫である。 ・径5～30cmの硬質亜角～亜円礫を60～70%含む。
				スライム	灰白		0				3.48～5.00m ・スライム。
	3.74	5.00									
	3.53	5.30		砂礫	灰		100				5.00～5.30m ・砂礫である。
				礫	黄灰		100				5.30～6.92m ・礫である。
	2.39	6.92			明黄褐						6.92～10.30m ・礫混じり砂である。 ・シルトを混入する不均質な砂が主体である。
				礫混じり砂	灰白		100				
					浅黄		100				
					黄褐						
					浅黄		100				
					明黄褐		100				
10	-0.00	10.30			明オリーブ灰		100				
				礫質砂	灰白		100				10.30～15.15m ・礫質砂である。
					明オリーブ灰		100				
					灰白		100				
					明黄褐		100				
	-3.43	15.15					100				15.15～17.00m ・砂礫である。
				砂礫	灰白		100				
	-4.74	17.00			灰		100				17.00～17.48m ・スライム。
	-5.08	17.48		スライム	灰白		52				17.48～17.78m ・礫混じり砂質シルトである。
	-5.24	17.78		礫混じり砂質シルト	灰黄褐		100				17.78～19.46m ・礫混じりシルト質砂である。 ・シルトを多く含む不均質な砂で細礫が混じる。
	-6.48	19.46		礫混じりシルト質砂	灰		100				
	-6.61	19.73		有機質砂			100				19.46～19.73m ・有機質砂である。
20				礫質砂	灰オリーブ		100				19.73～22.00m ・礫質砂である。
	-8.28	22.00			明オリーブ灰		100				22.00～22.63m ・有機物・礫混じり砂である。
	-8.72	22.63		有機物・礫混じり砂	灰		100				22.63～23.64m ・礫質砂である。
	-9.44	23.64		礫質砂	淡黄		100				23.64～24.43m ・砂礫である。 ・径2～20mmの亜角礫を含む。
					灰						
	-9.99	24.43		砂礫	黄褐		43				24.43～25.28m ・スライム。
	-10.60	25.28		スライム	淡黄		82				25.28～26.51m ・礫混じり砂である。
	-11.47	26.51		礫混じり砂	灰白		100				26.51～37.67m ・砂礫である。
				砂礫			100				
							100				
							100				

H24-B8-21

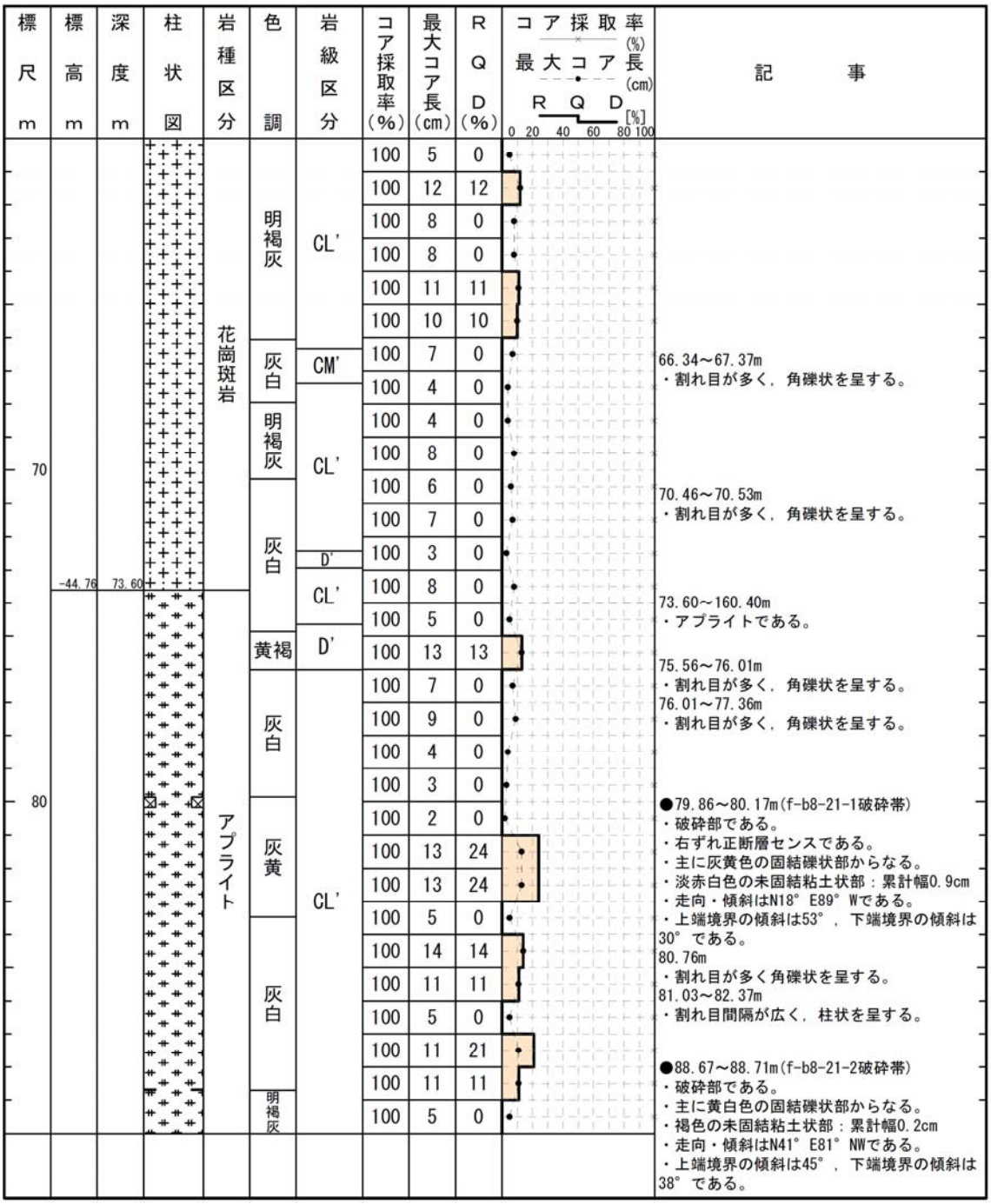
柱状図(30.00m～60.00m)



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	8	0
100	11	21
100	9	0
100	6	0
100	4	0
100	4	0
100	3	0
100	13	13
100	7	0
100	17	17
100	7	0
100	10	20
100	5	0
100	10	10
100	10	10
100	9	0
100	7	0
100	8	0
100	19	37
100	3	0
100	4	0
100	4	0

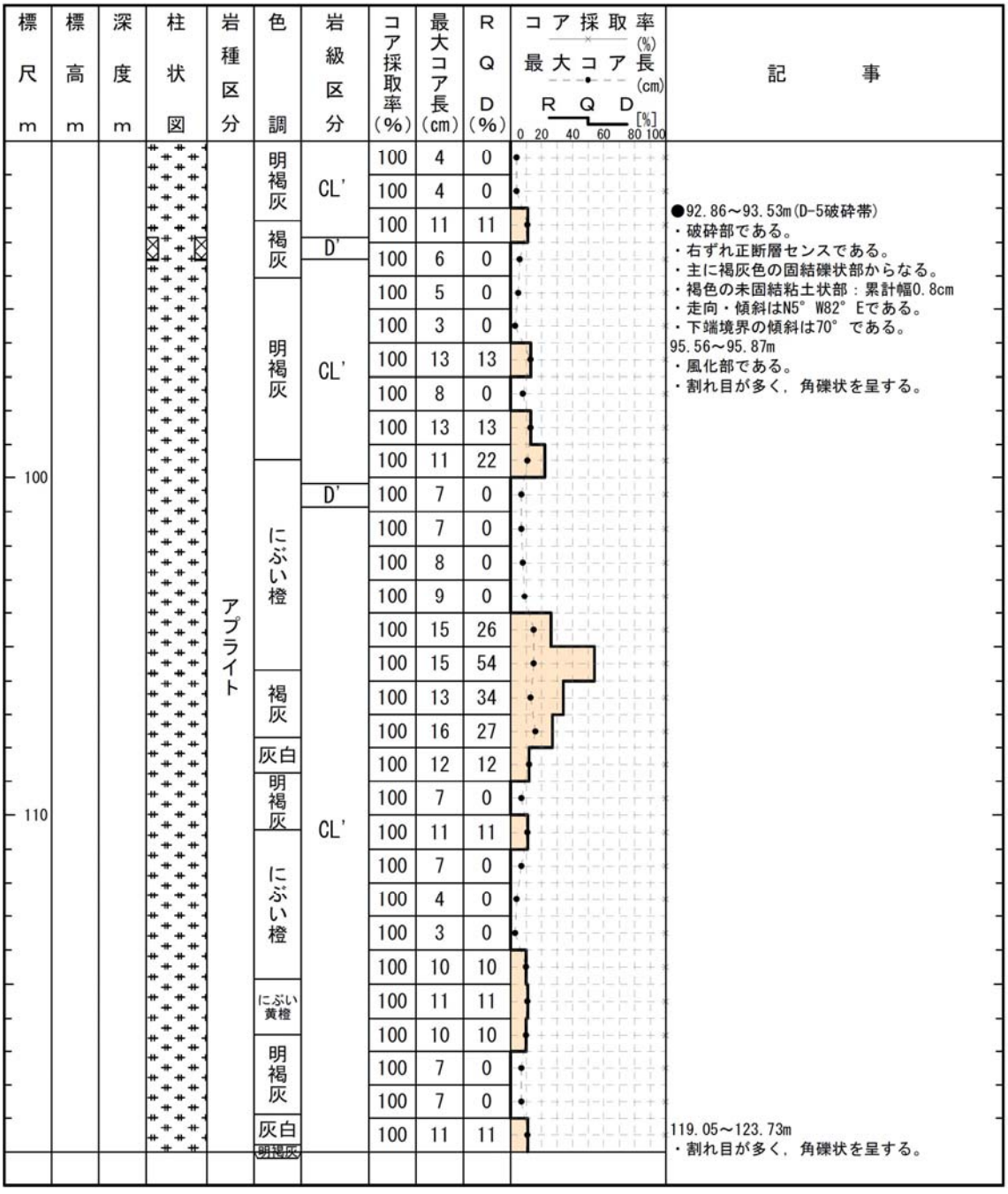
H24-B8-21

柱状図(60.00m～90.00m)



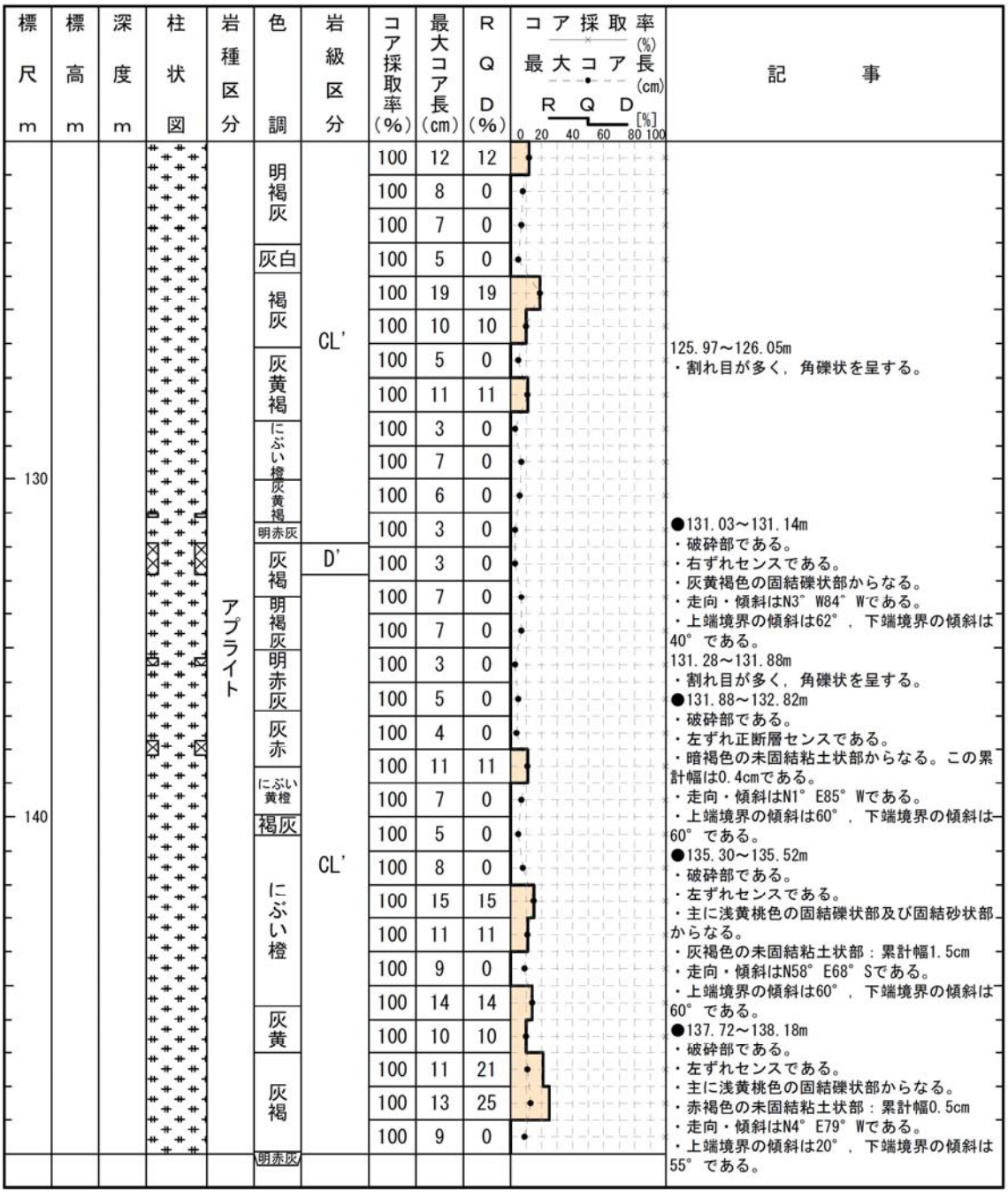
H24-B8-21

柱状図(90.00m～120.00m)



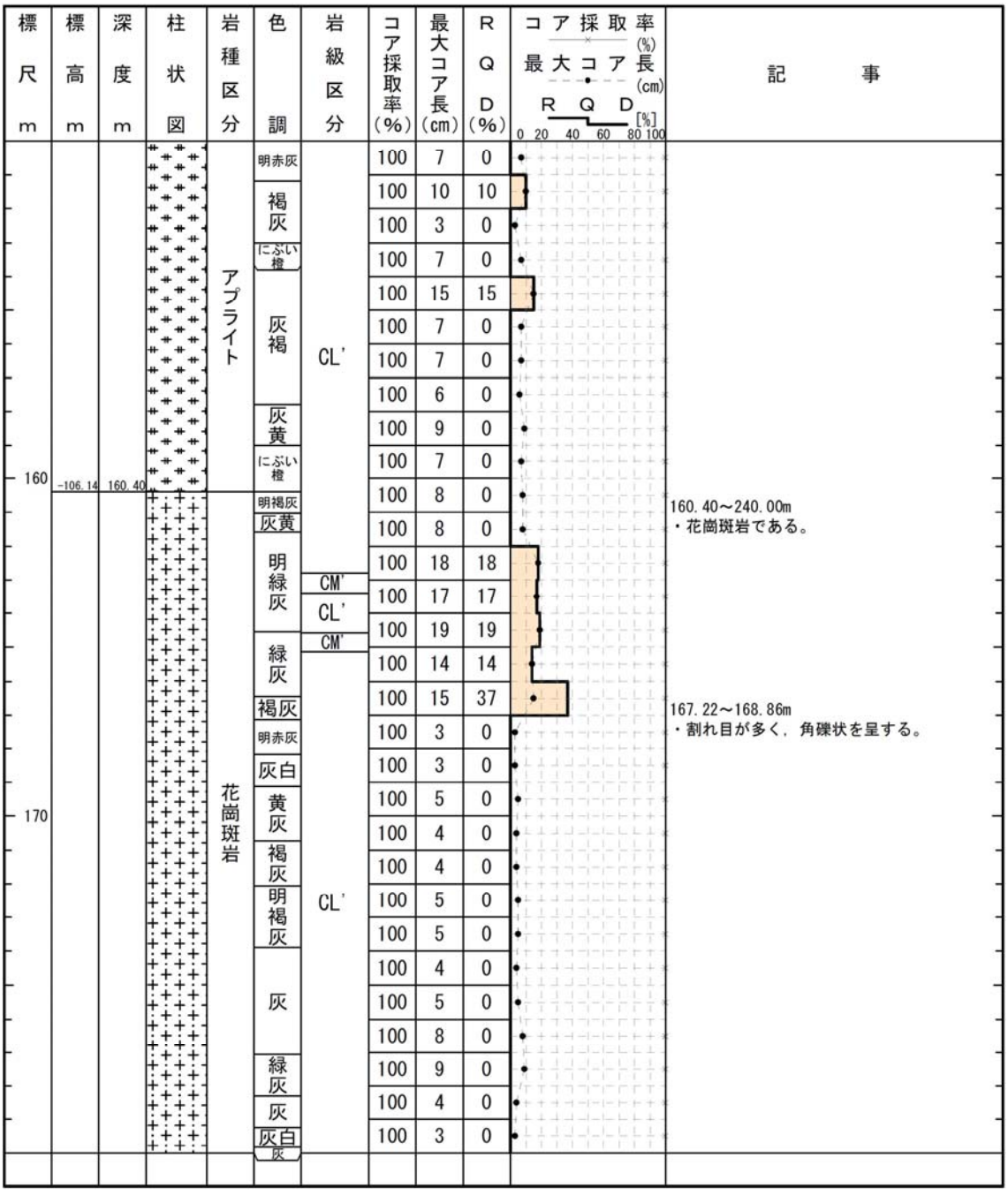
H24-B8-21

柱状図(120.00m～150.00m)



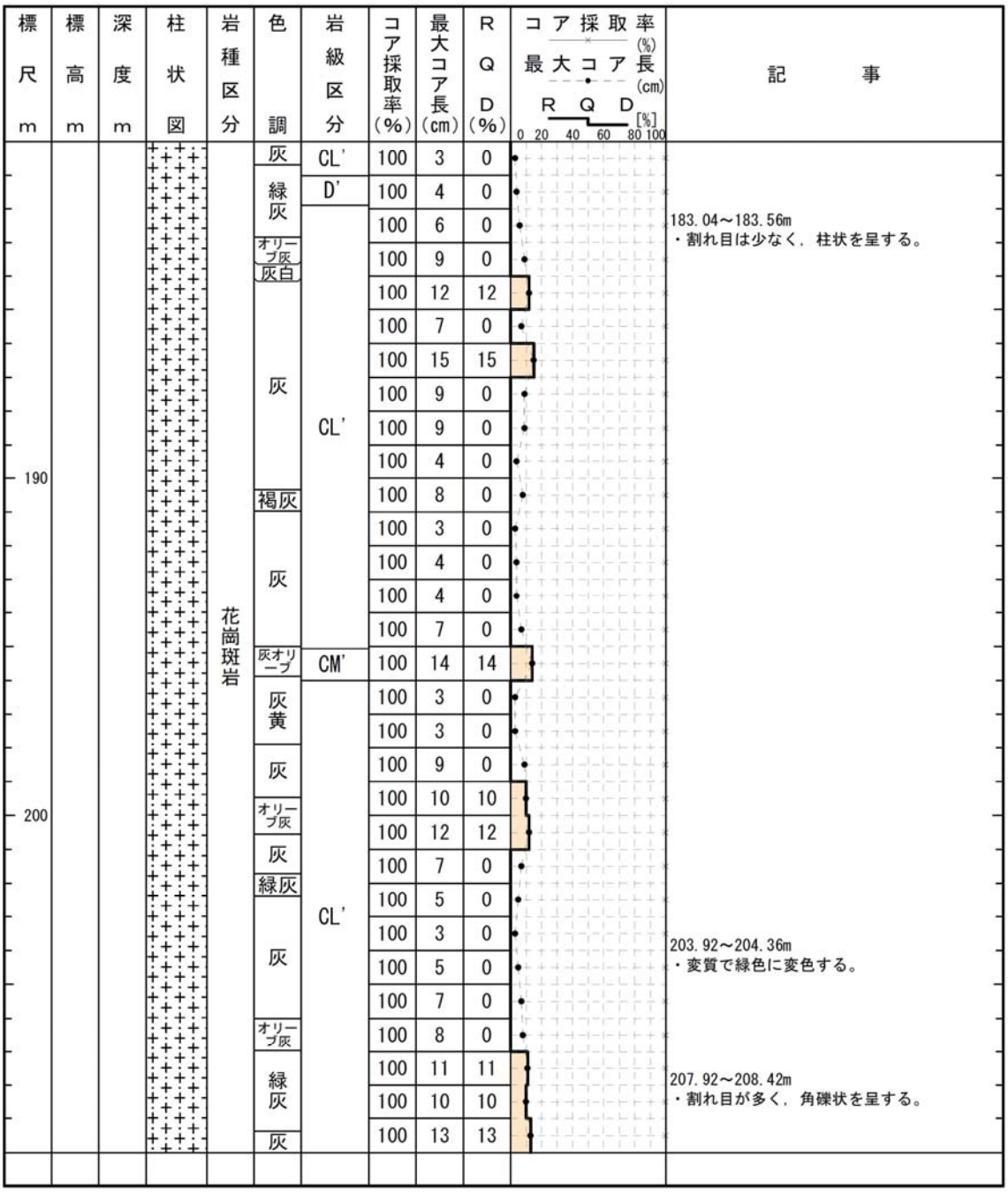
H24-B8-21

柱状図(150.00m～180.00m)



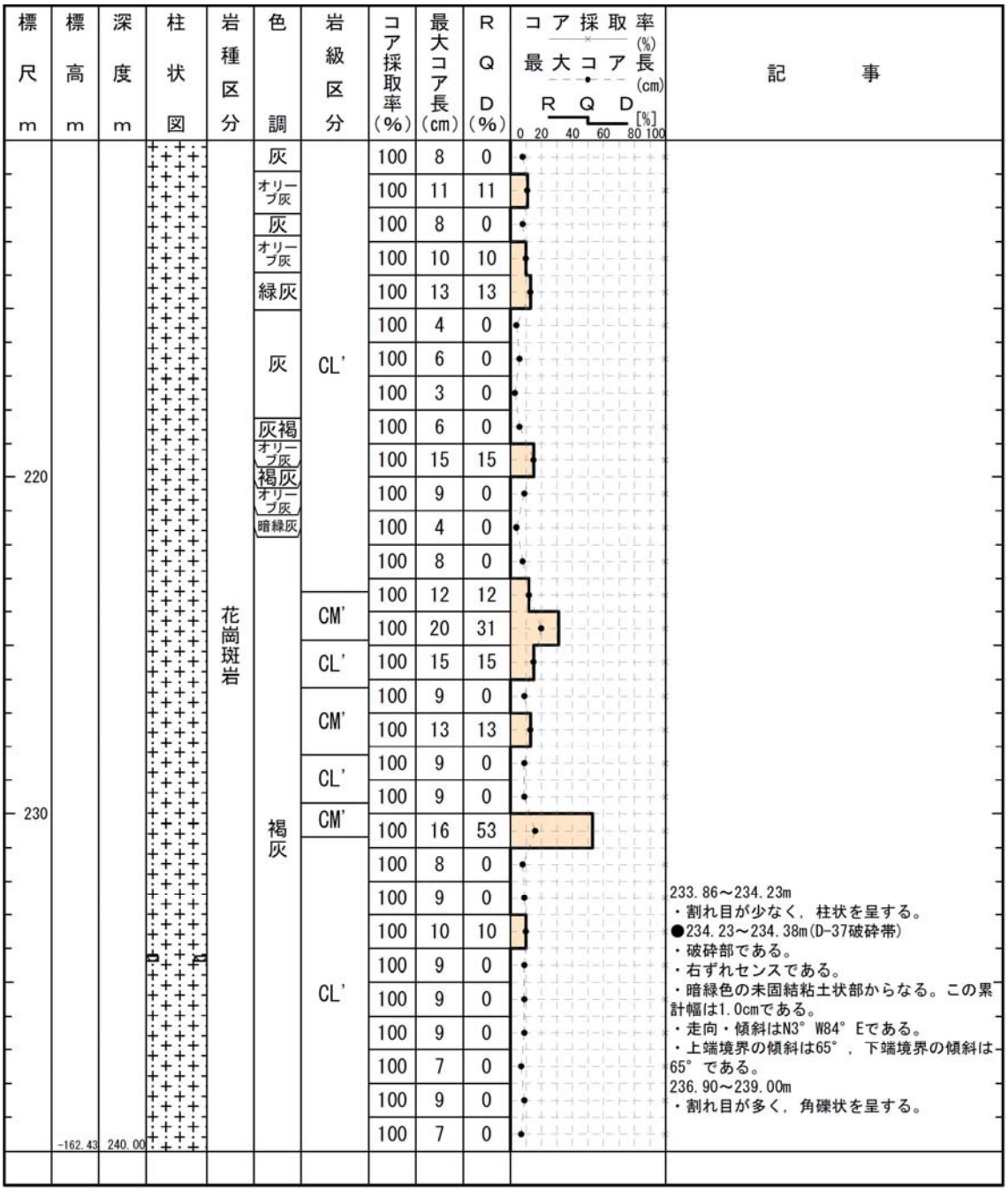
H24-B8-21

柱状図(180.00m～210.00m)



H24-B8-21

柱状図(210.00m～240.00m)

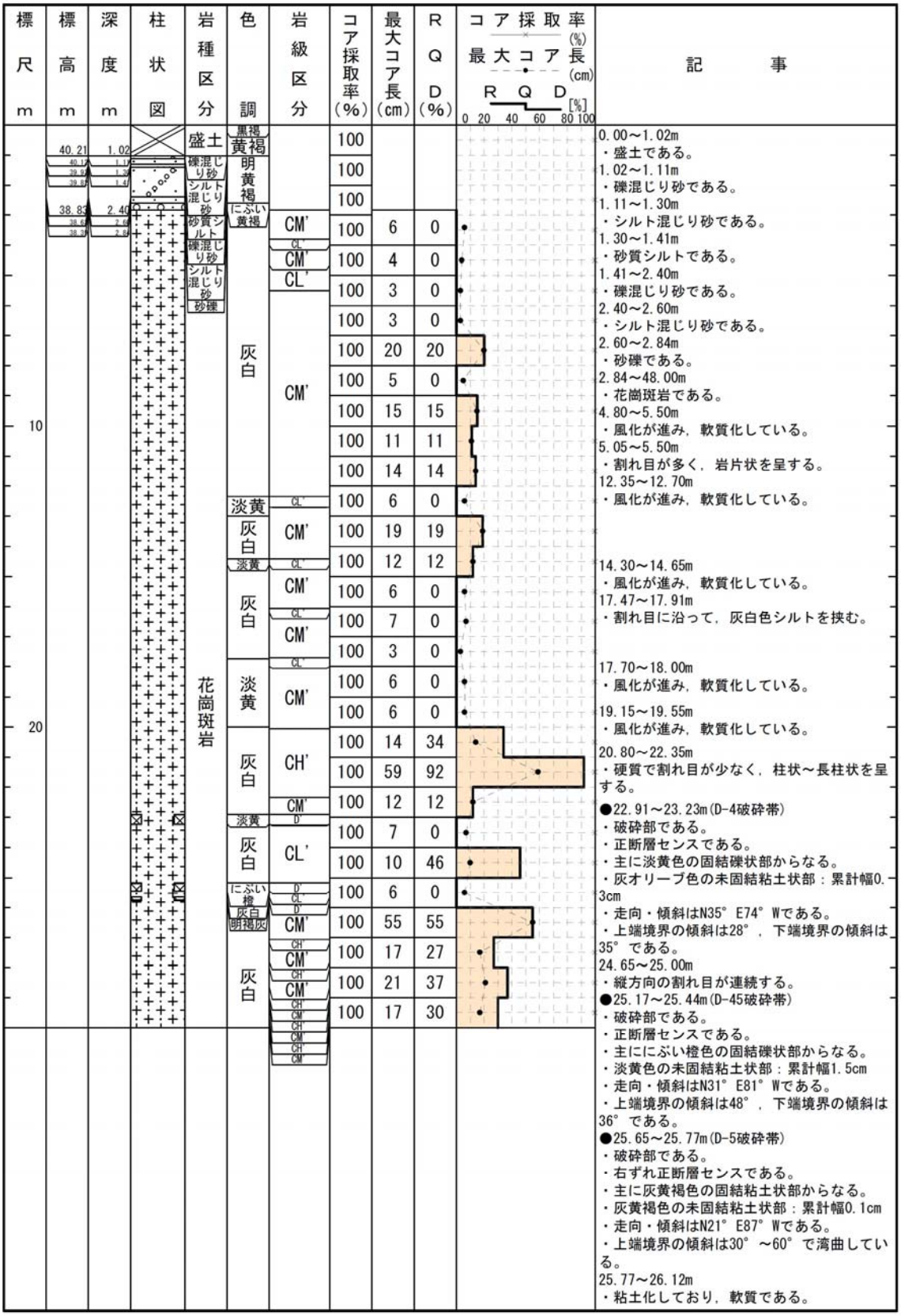


H27-D5-1

柱状図(0.00m～30.00m)

H27-D5-1

孔口標高	T.P. 41.23m	掘削長	48.00m



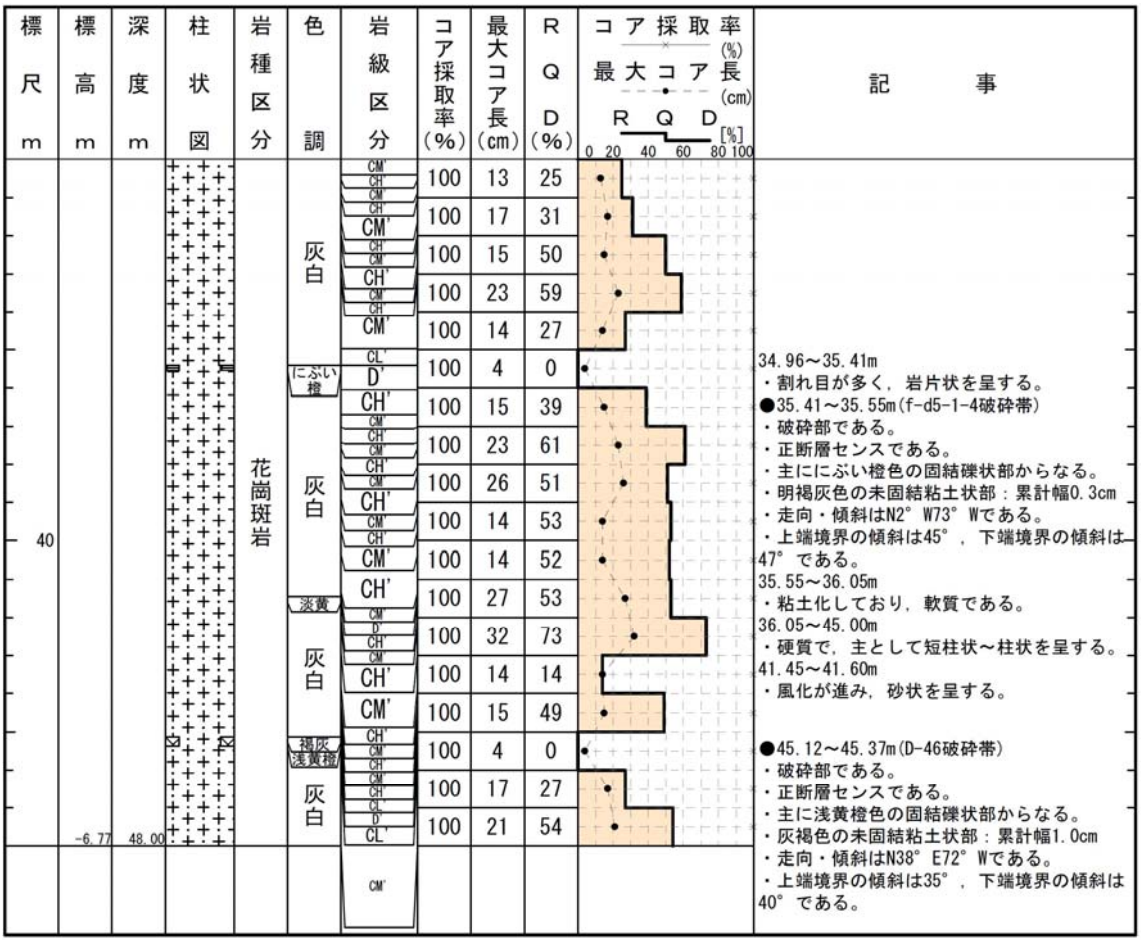
0.00～1.02m
・盛土である。
1.02～1.11m
・礫混じり砂である。
1.11～1.30m
・シルト混じり砂である。
1.30～1.41m
・砂質シルトである。
1.41～2.40m
・礫混じり砂である。
2.40～2.60m
・シルト混じり砂である。
2.60～2.84m
・砂礫である。
2.84～48.00m
・花崗斑岩である。
4.80～5.50m
・風化が進み，軟質化している。
5.05～5.50m
・割れ目が多く，岩片状を呈する。
12.35～12.70m
・風化が進み，軟質化している。

14.30～14.65m
・風化が進み，軟質化している。
17.47～17.91m
・割れ目に沿って，灰白色シルトを挟む。

17.70～18.00m
・風化が進み，軟質化している。
19.15～19.55m
・風化が進み，軟質化している。
20.80～22.35m
・硬質で割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。
●22.91～23.23m(D-4破砕帯)
・破砕部である。
・正断層センスである。
・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
・灰オリーブ色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN35° E74° Wである。
・上端境界の傾斜は28°，下端境界の傾斜は35°である。
24.65～25.00m
・縦方向の割れ目が連続する。
●25.17～25.44m(D-45破砕帯)
・破砕部である。
・正断層センスである。
・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。
・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm
・走向・傾斜はN31° E81° Wである。
・上端境界の傾斜は48°，下端境界の傾斜は36°である。
●25.65～25.77m(D-5破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主に灰黄褐色の固結粘土状部からなる。
・灰黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm
・走向・傾斜はN21° E87° Wである。
・上端境界の傾斜は30°～60°で湾曲している。
25.77～26.12m
・粘土化しており，軟質である。

H27-D5-1

柱状図(25.00m～48.00m)

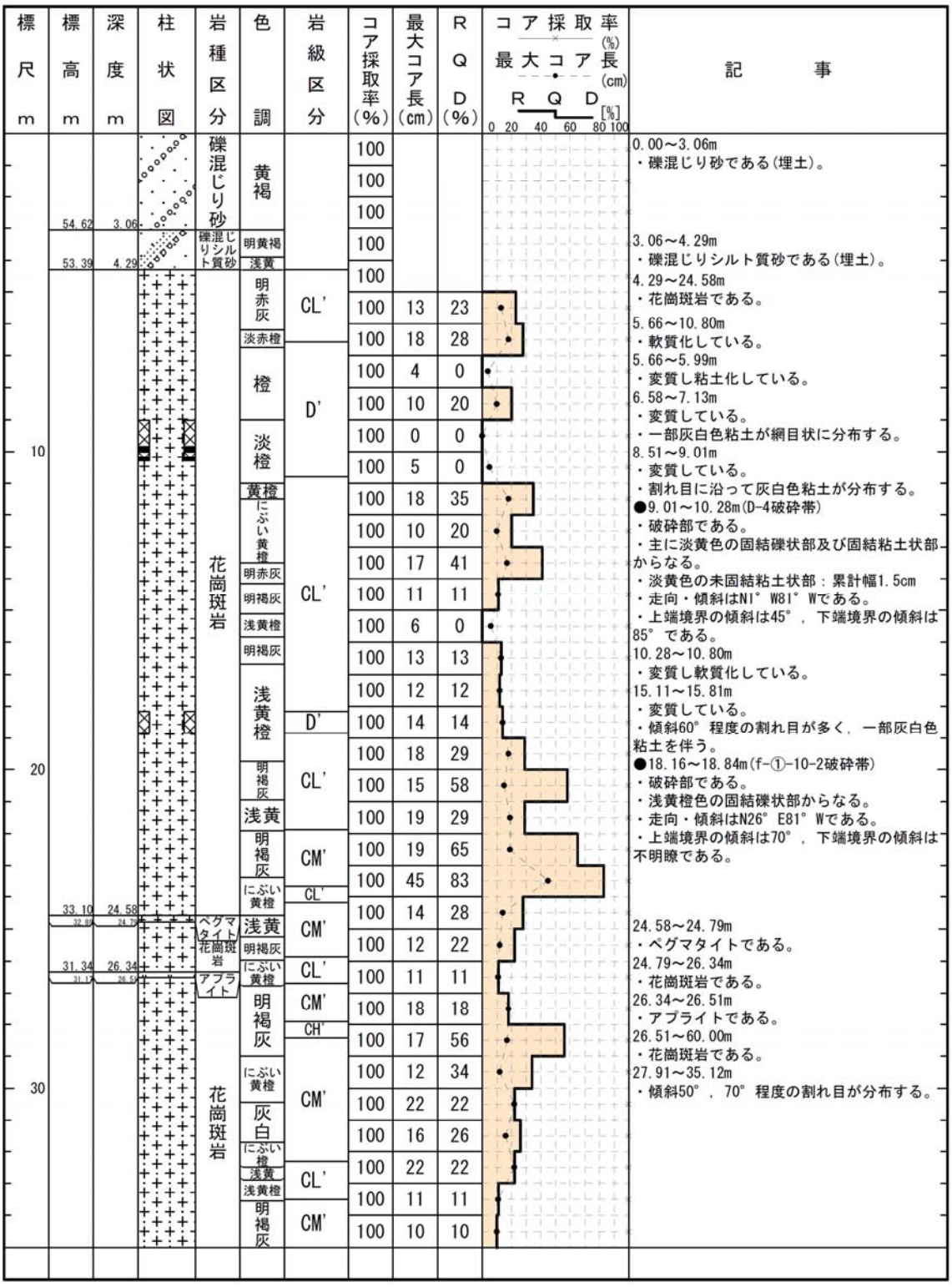


H20-①-10

柱状図(0.00m～35.00m)

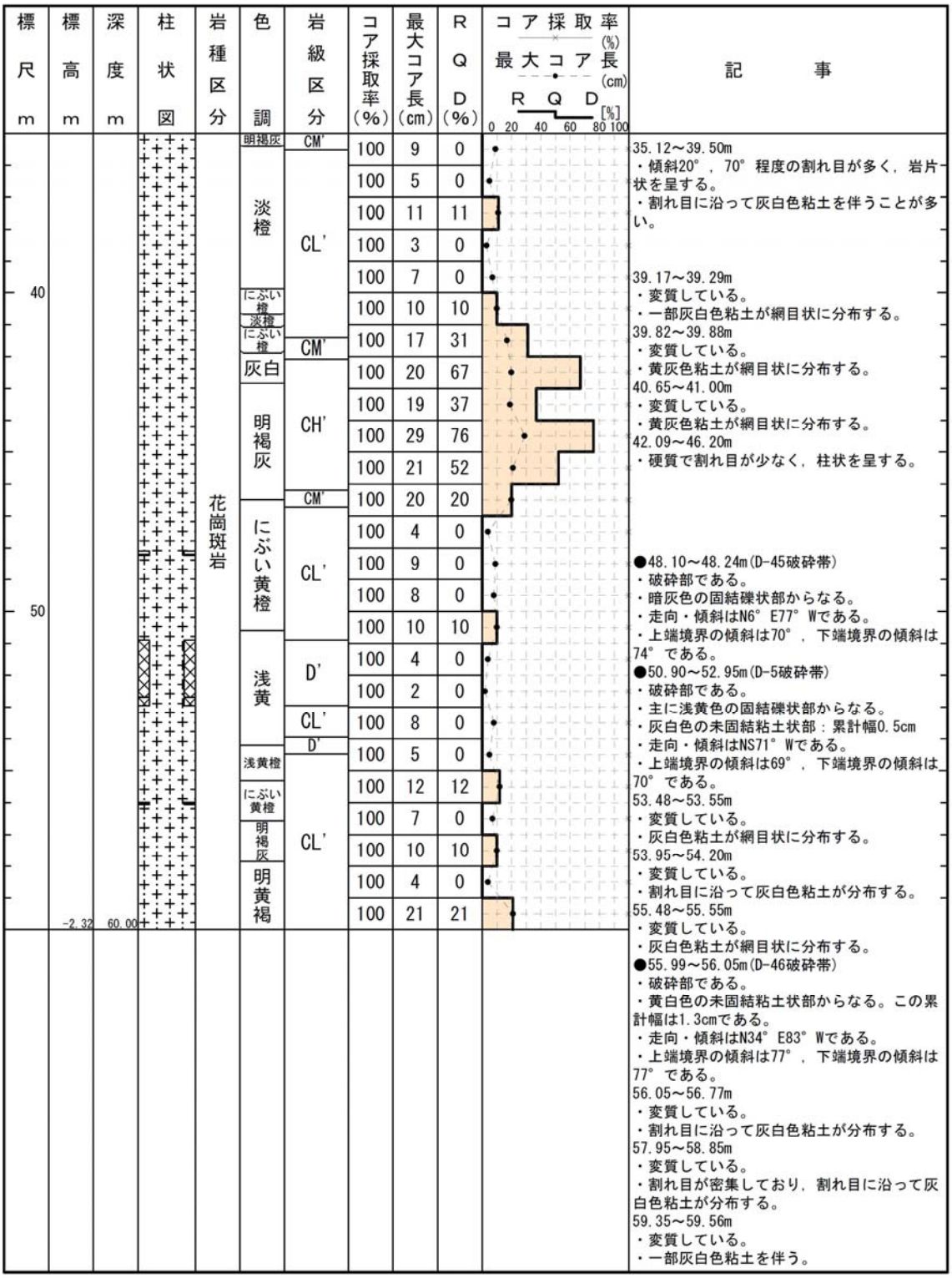
H20-①-10

孔口標高	T.P. 57.68m	掘削長	60.00m



H20-①-10

柱状図(35.00m～60.00m)

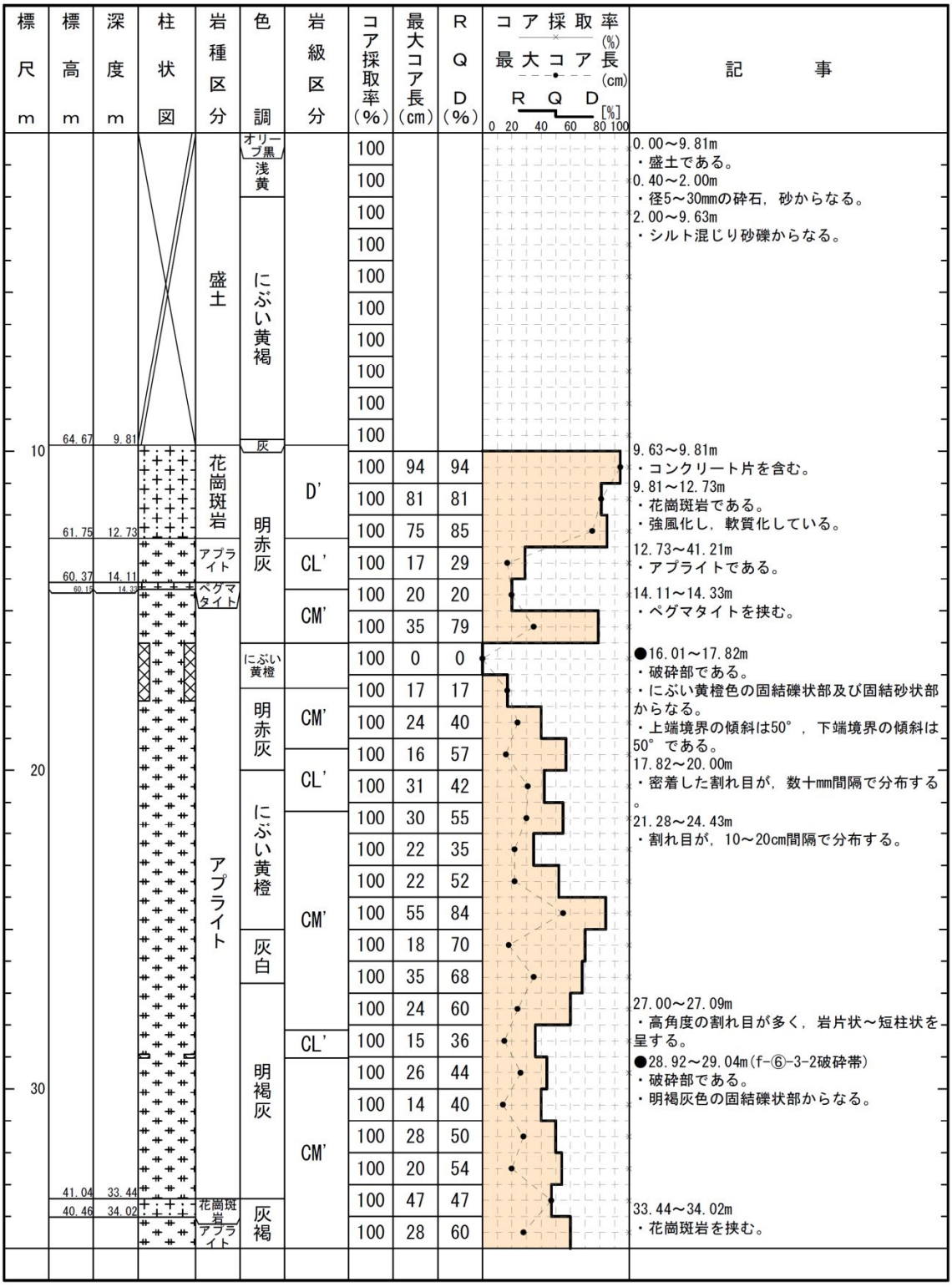


H19-No.16

柱状図(0.00m～35.00m)

H19-No.16

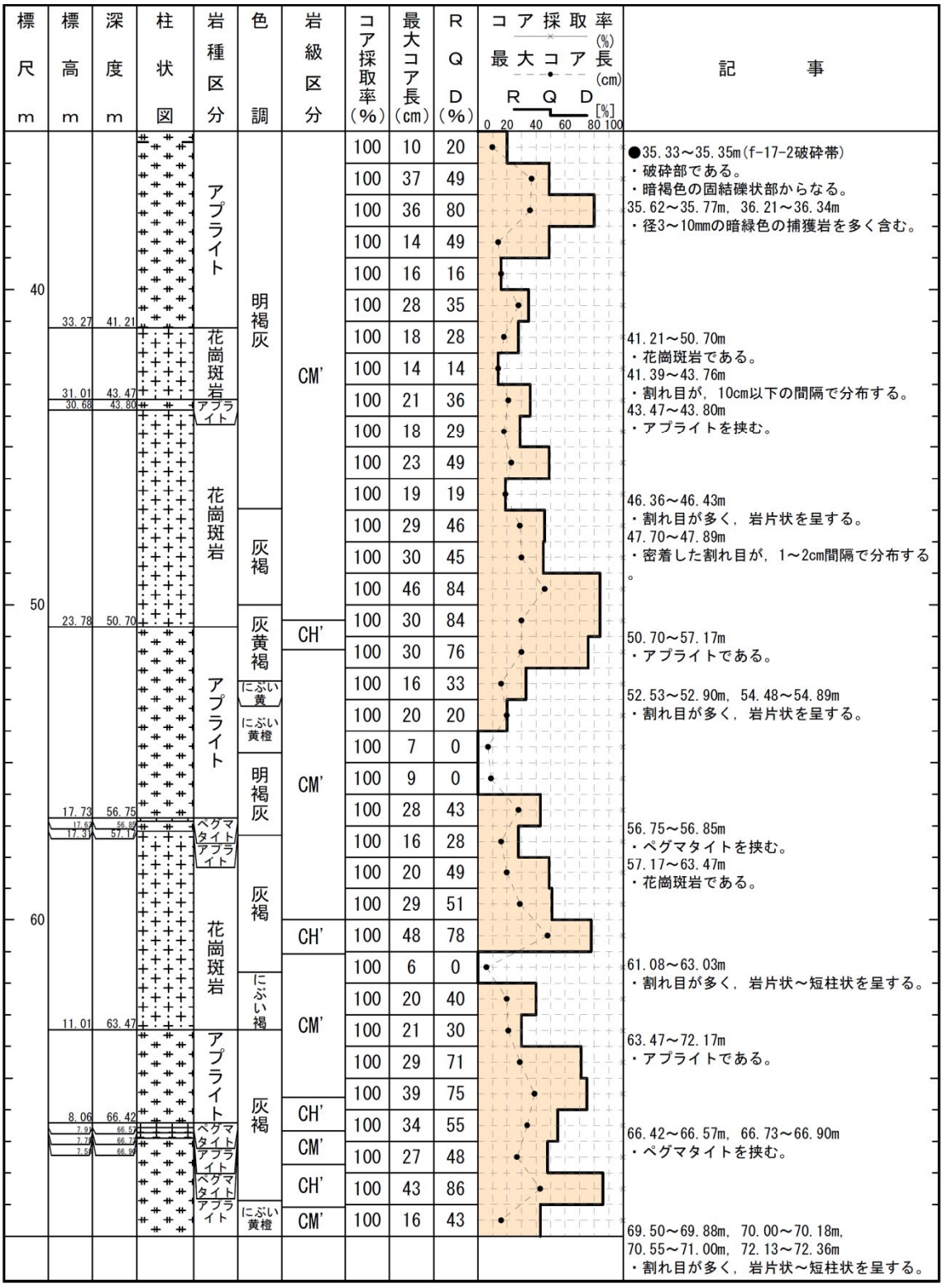
孔口標高	T.P. 74.48m	掘削長	220.00m



標尺 m	標高 m	深度 m	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	岩級区分	色調	岩種区分	記事
			100				オリーブ黒	盛土	0.00～9.81m ・盛土である。 0.40～2.00m ・径5～30mmの砕石，砂からなる。 2.00～9.63m ・シルト混じり砂礫からなる。
			100				浅黄		
			100				にぶい黄褐		
			100						
			100						
			100						
			100						
			100						
			100						
			100						
10	64.67	9.81	100				灰		
			100	94	94	D'		花崗斑岩	9.63～9.81m ・コンクリート片を含む。 9.81～12.73m ・花崗斑岩である。 ・強風化し，軟質化している。
			100	81	81		明赤灰		
	61.75	12.73	100	75	85				
			100	17	29	CL'		アプライト	12.73～41.21m ・アプライトである。
	60.37	14.11	100	20	20	CM'		ペグマタイト	14.11～14.33m ・ペグマタイトを挟む。
	60.15	14.33	100	35	79				
			100	0	0		にぶい黄橙	アプライト	●16.01～17.82m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は50°である。 17.82～20.00m ・密着した割れ目が，数十mm間隔で分布する。 21.28～24.43m ・割れ目が，10～20cm間隔で分布する。
			100	17	17		明赤灰		
			100	24	40	CM'			
			100	16	57				
20			100	31	42	CL'			
			100	30	55		にぶい黄橙		
			100	22	35				
			100	22	52	CM'			
			100	55	84				
			100	18	70		灰白		
			100	35	68				
			100	24	60		明褐灰		27.00～27.09m ・高角度の割れ目が多く，岩片状～短柱状を呈する。 ●28.92～29.04m(f-⑥-3-2破砕帯) ・破砕部である。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。
			100	15	36	CL'			
			100	26	44				
30			100	14	40				
			100	28	50	CM'			
			100	20	54				
	41.04	33.44	100	47	47		灰褐	花崗斑岩	33.44～34.02m ・花崗斑岩を挟む。
	40.46	34.02	100	28	60			アプライト	

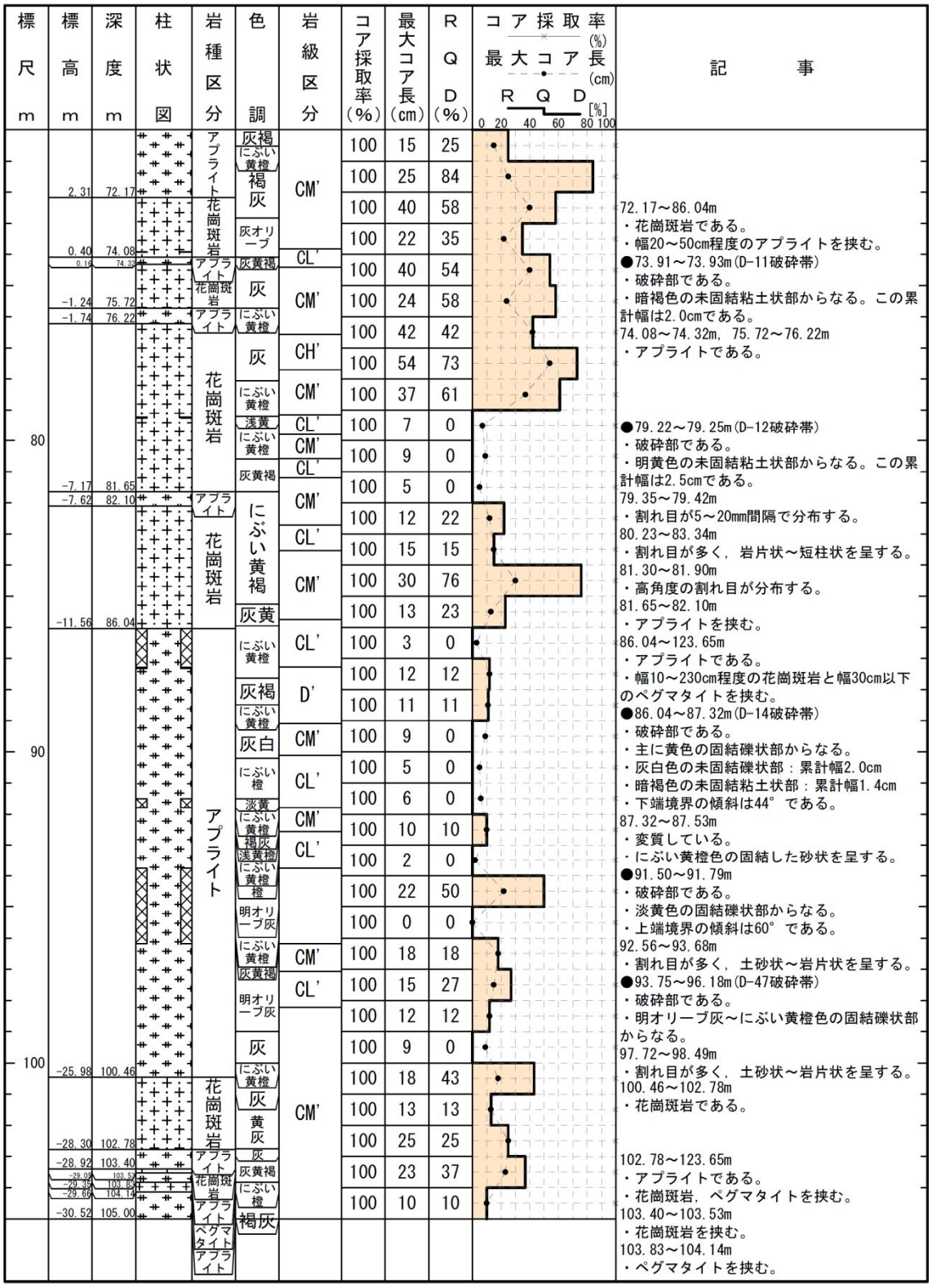
H19-No.16

柱状図(35.00m～70.00m)



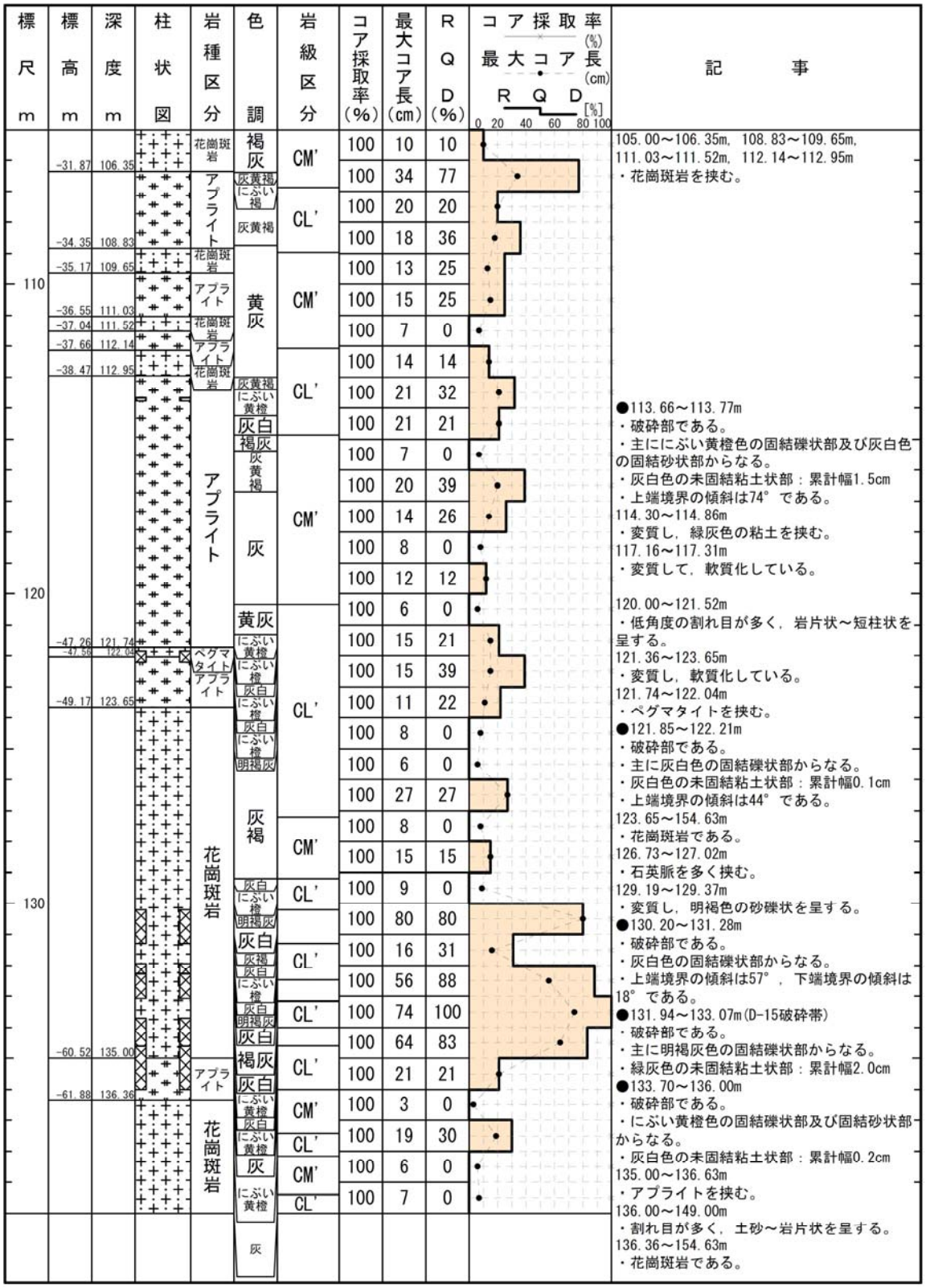
H19-No.16

柱状図(70.00m～105.00m)



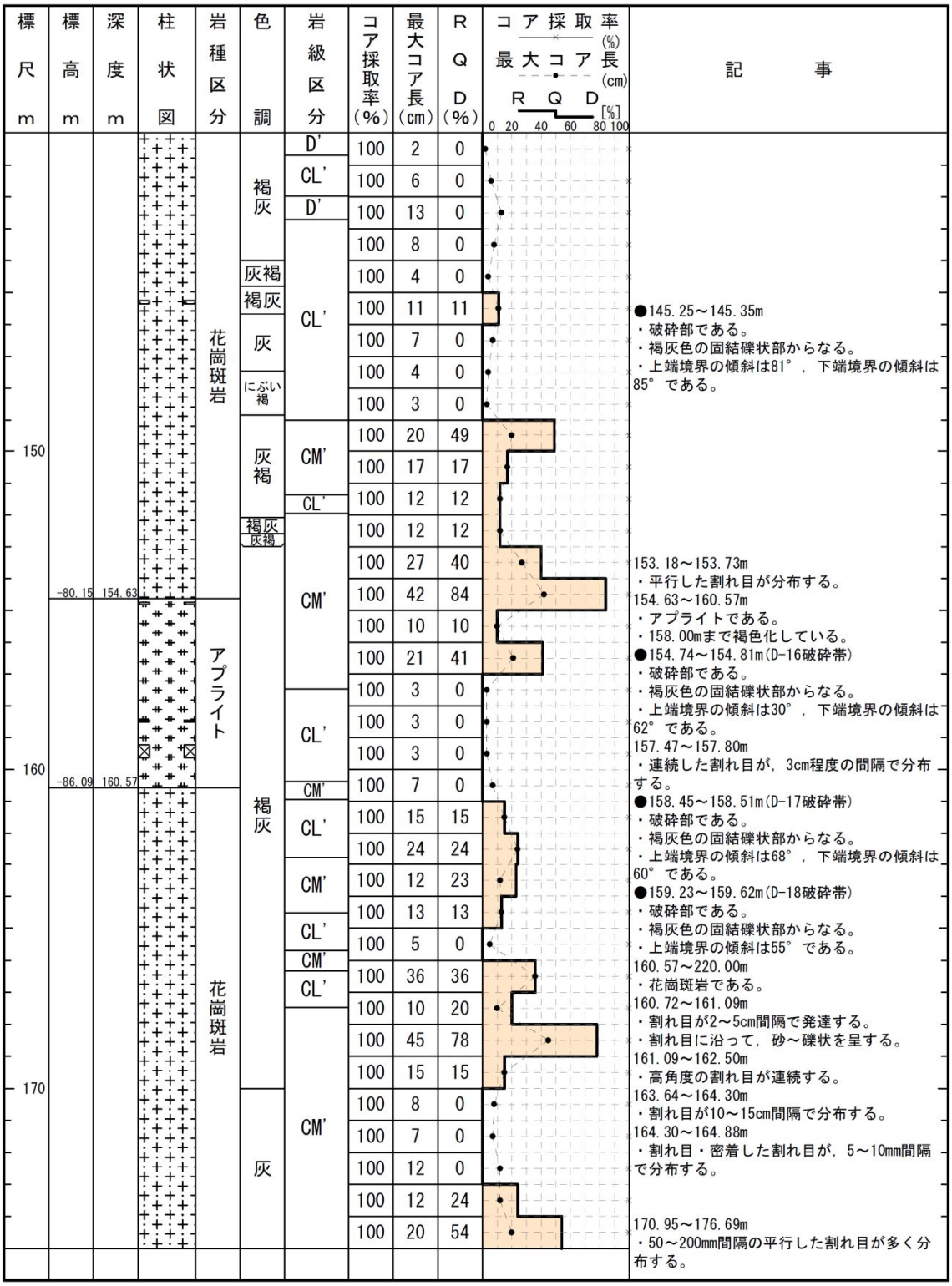
H19-No.16

柱状図(105.00m～140.00m)



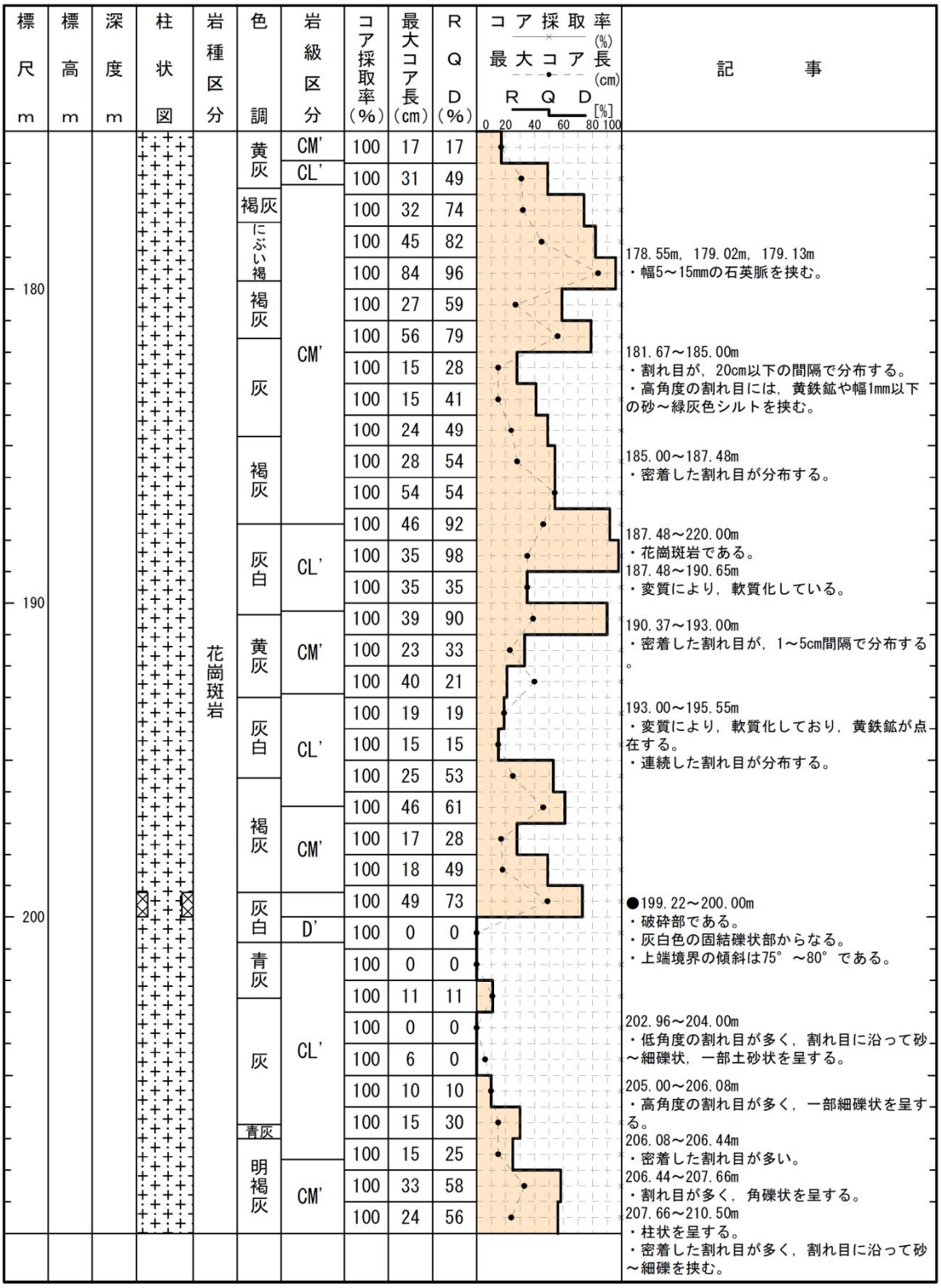
H19-No.16

柱状図(140.00m～175.00m)



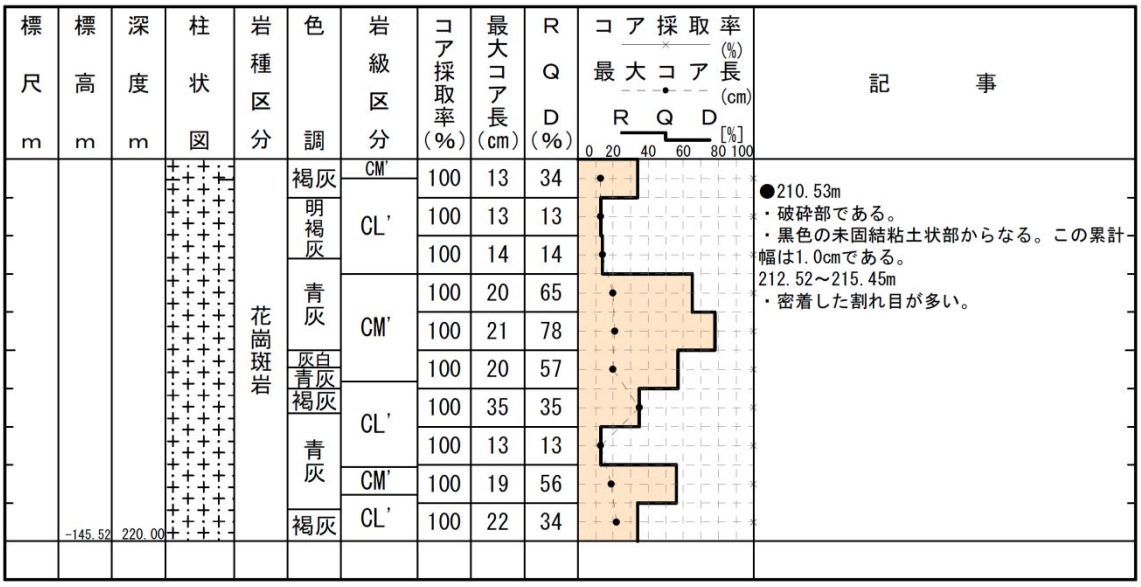
H19-No.16

柱状図(175.00m～210.00m)



H19-No.16

柱状図(210.00m～220.00m)

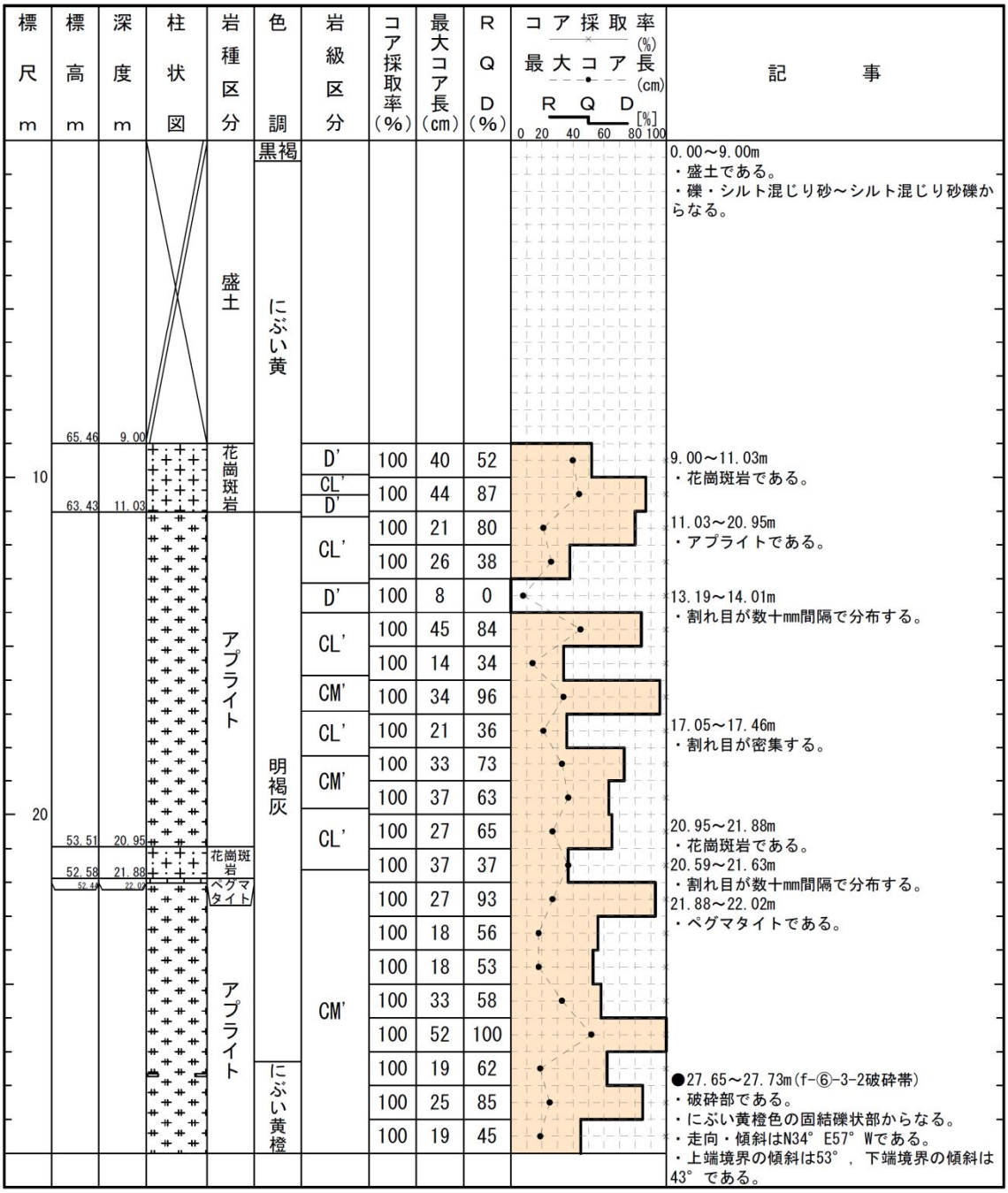


H19-No.17

柱状図(0.00m～30.00m)

H19-No.17

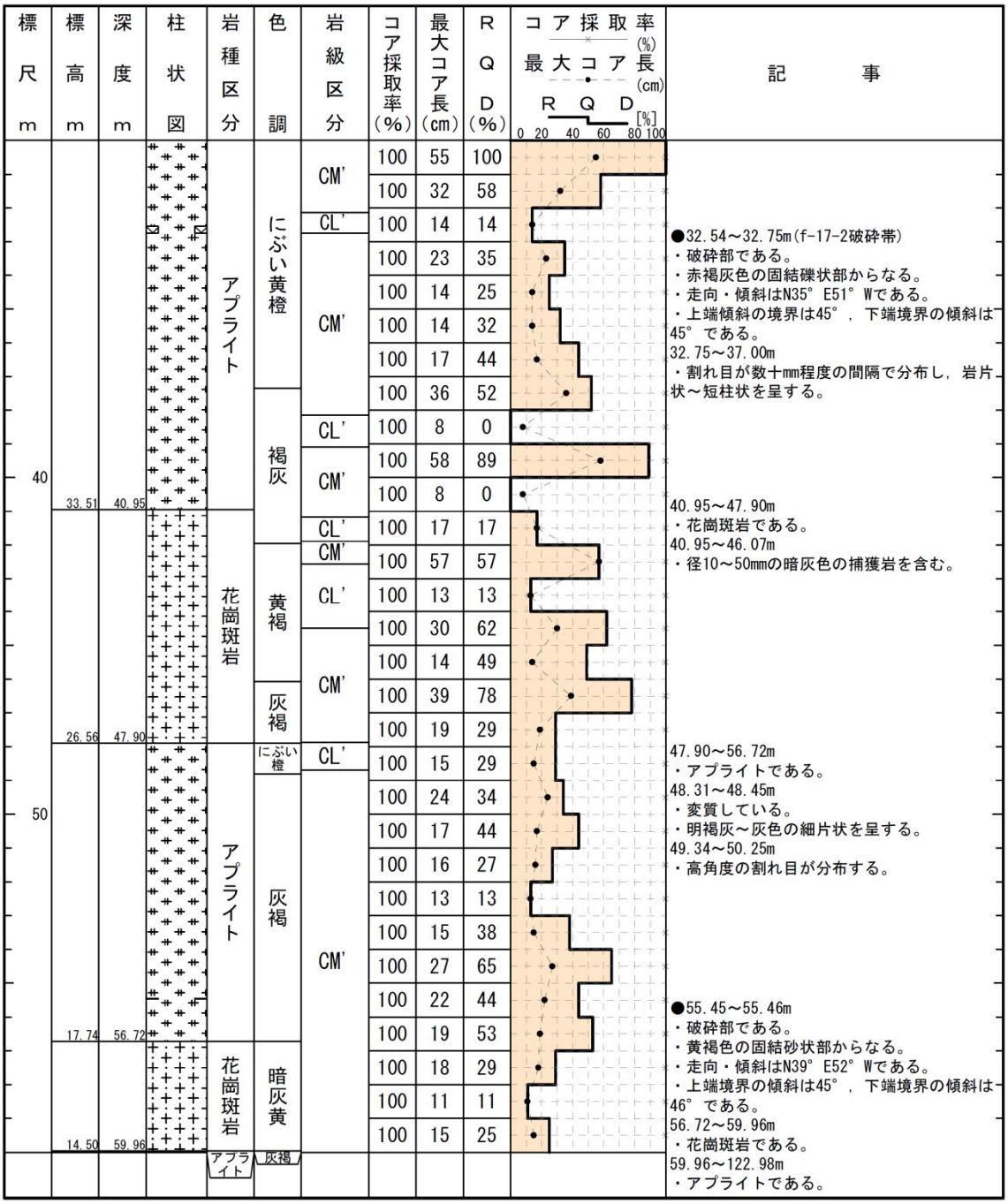
孔口標高	T.P. 74.46m	掘削長	200.00m



岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
D'	100	40	52
CL'	100	44	87
D'	100	21	80
CL'	100	26	38
D'	100	8	0
CL'	100	45	84
CL'	100	14	34
CM'	100	34	96
CL'	100	21	36
CM'	100	33	73
CM'	100	37	63
CL'	100	27	65
CM'	100	37	37
CM'	100	27	93
CM'	100	18	56
CM'	100	18	53
CM'	100	33	58
CM'	100	52	100
CM'	100	19	62
CM'	100	25	85
CM'	100	19	45

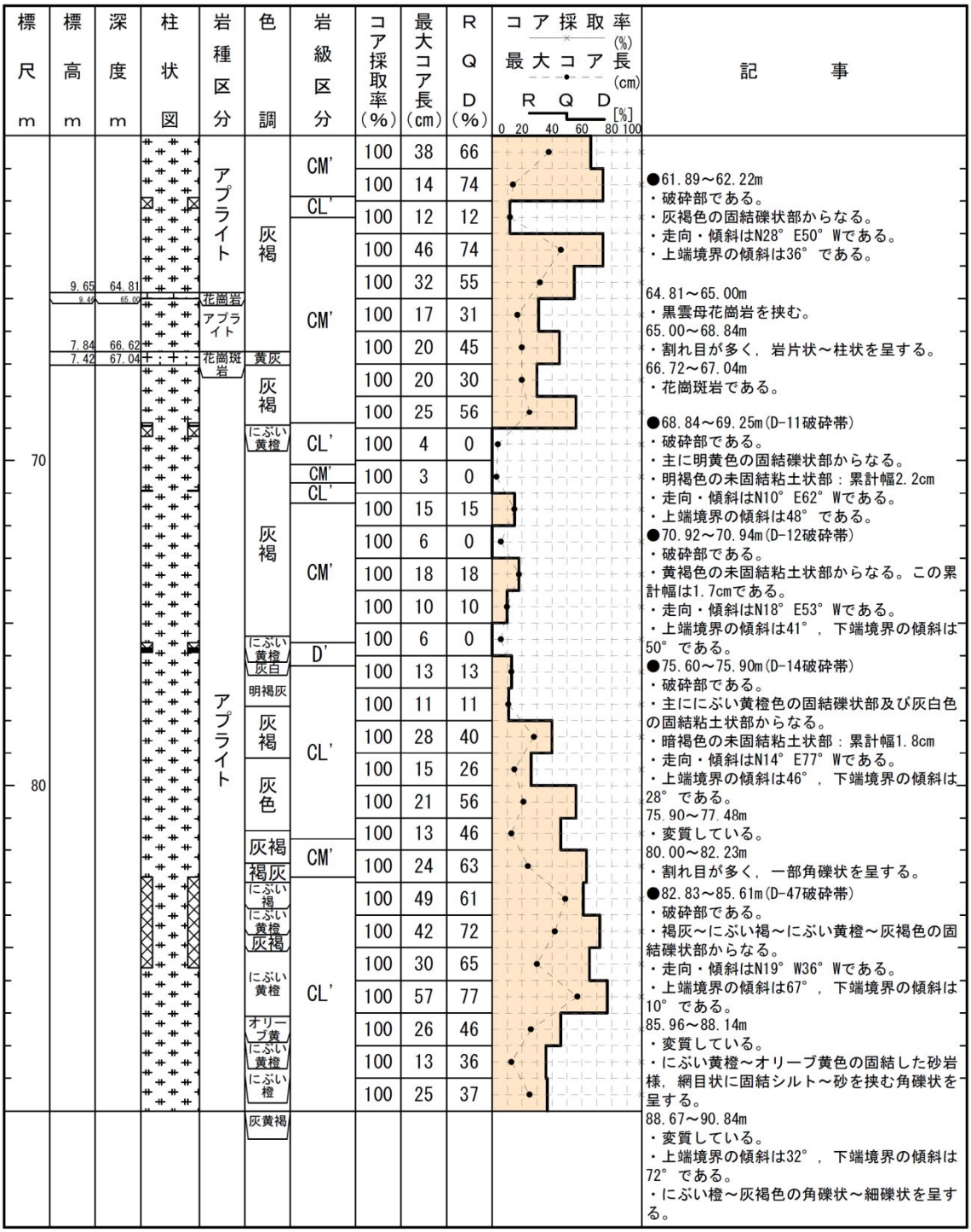
H19-No.17

柱状図(30.00m～60.00m)



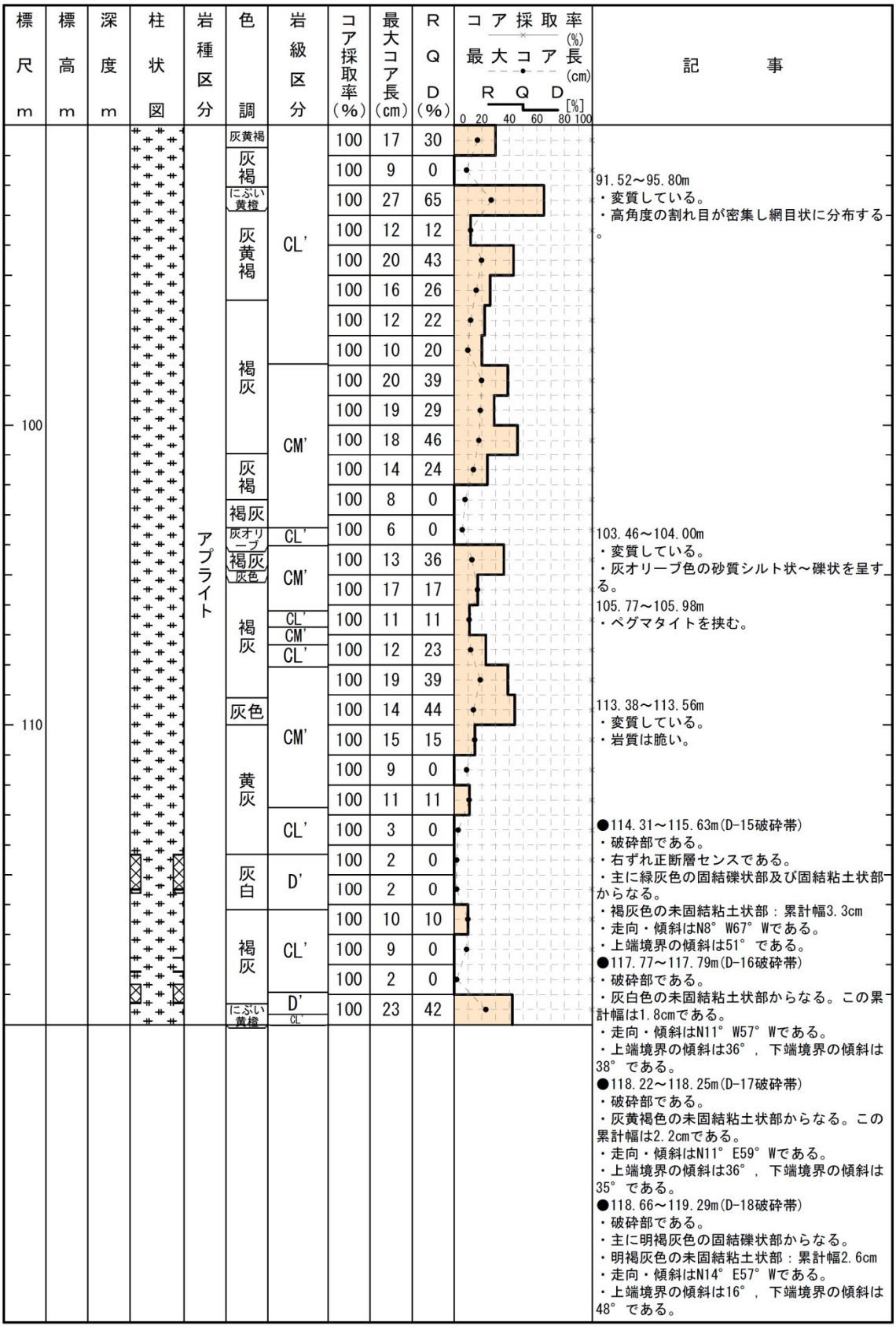
H19-No.17

柱状図(60.00m～90.00m)



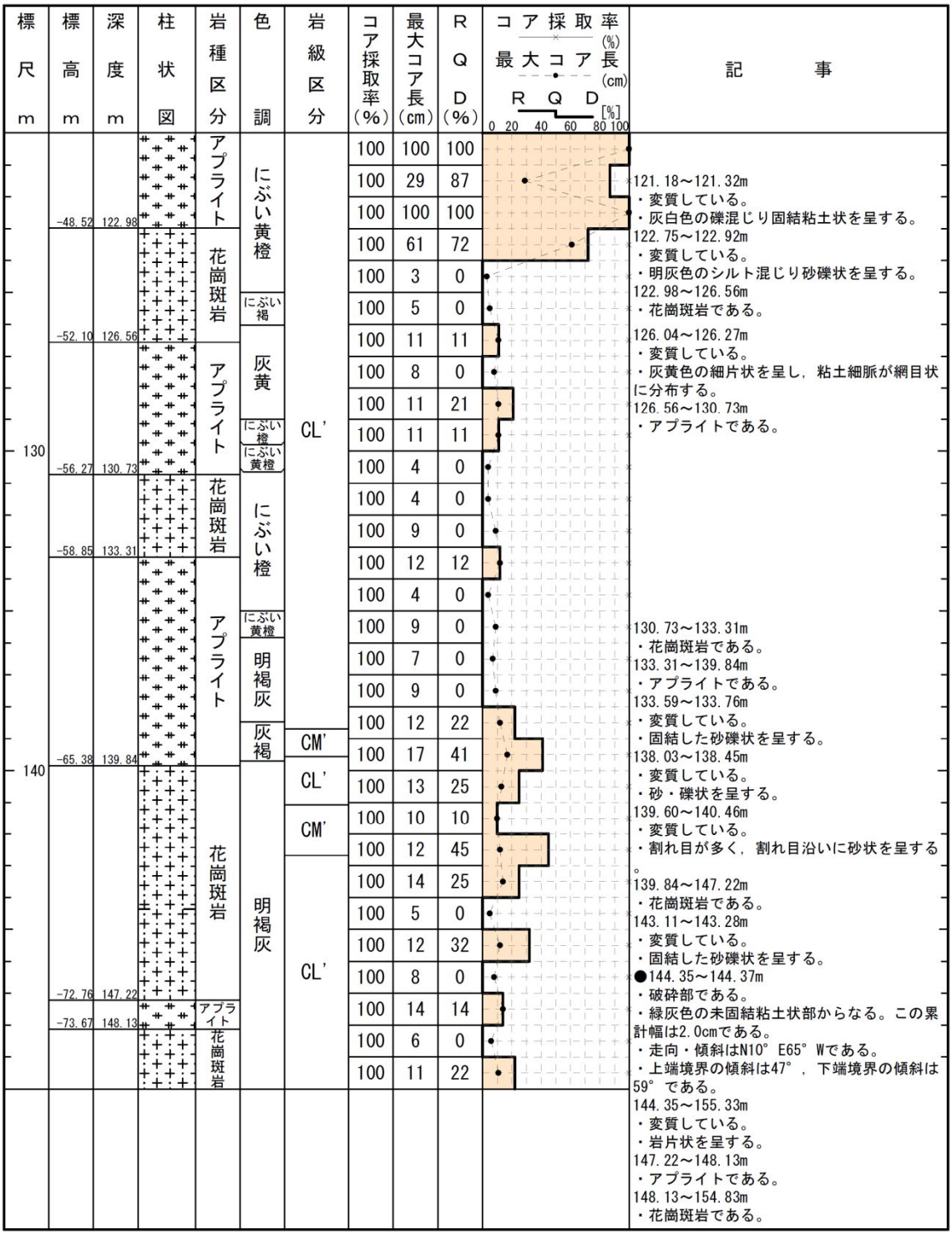
H19-No.17

柱状図(90.00m～120.00m)



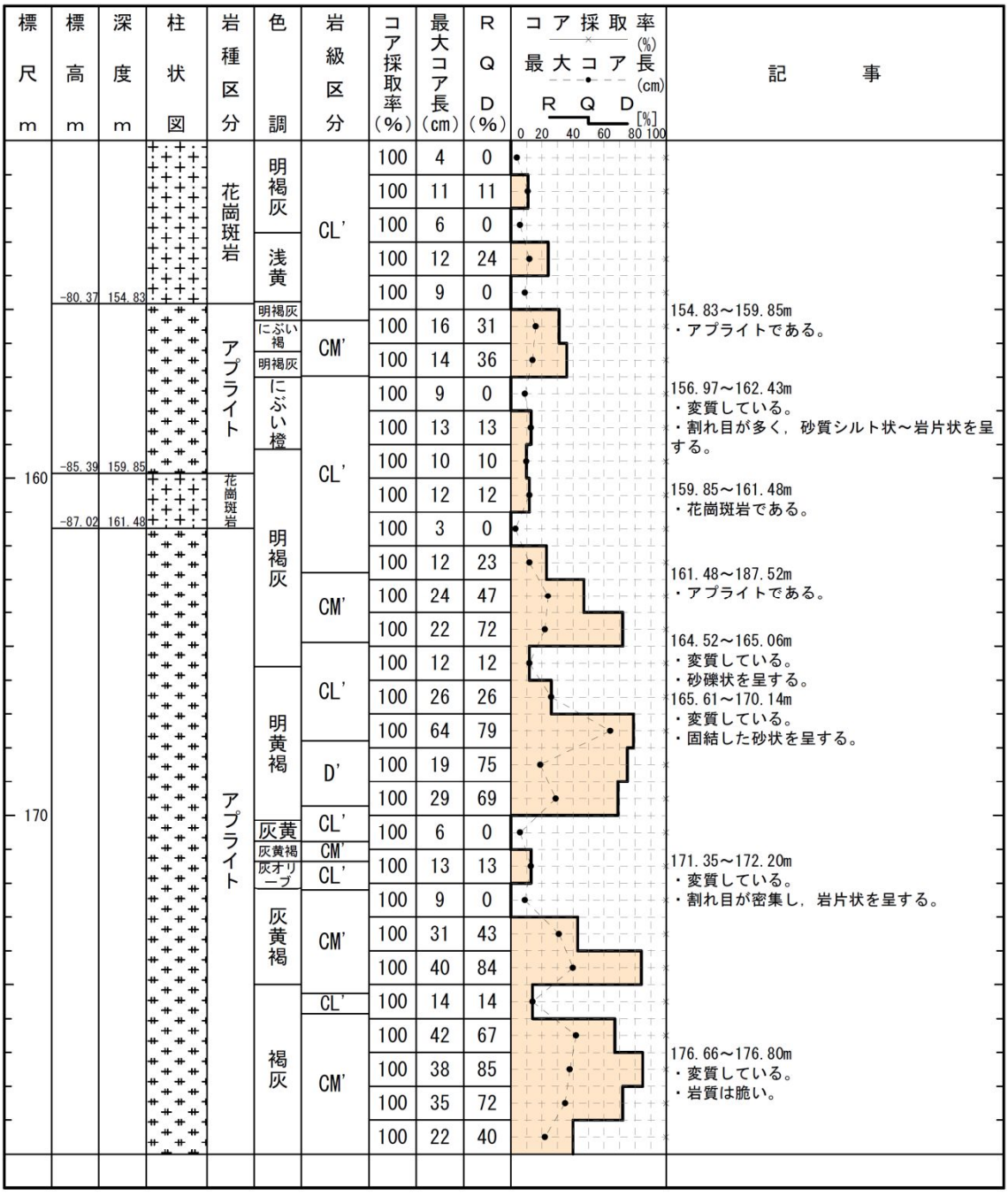
H19-No.17

柱状図(120.00m～150.00m)



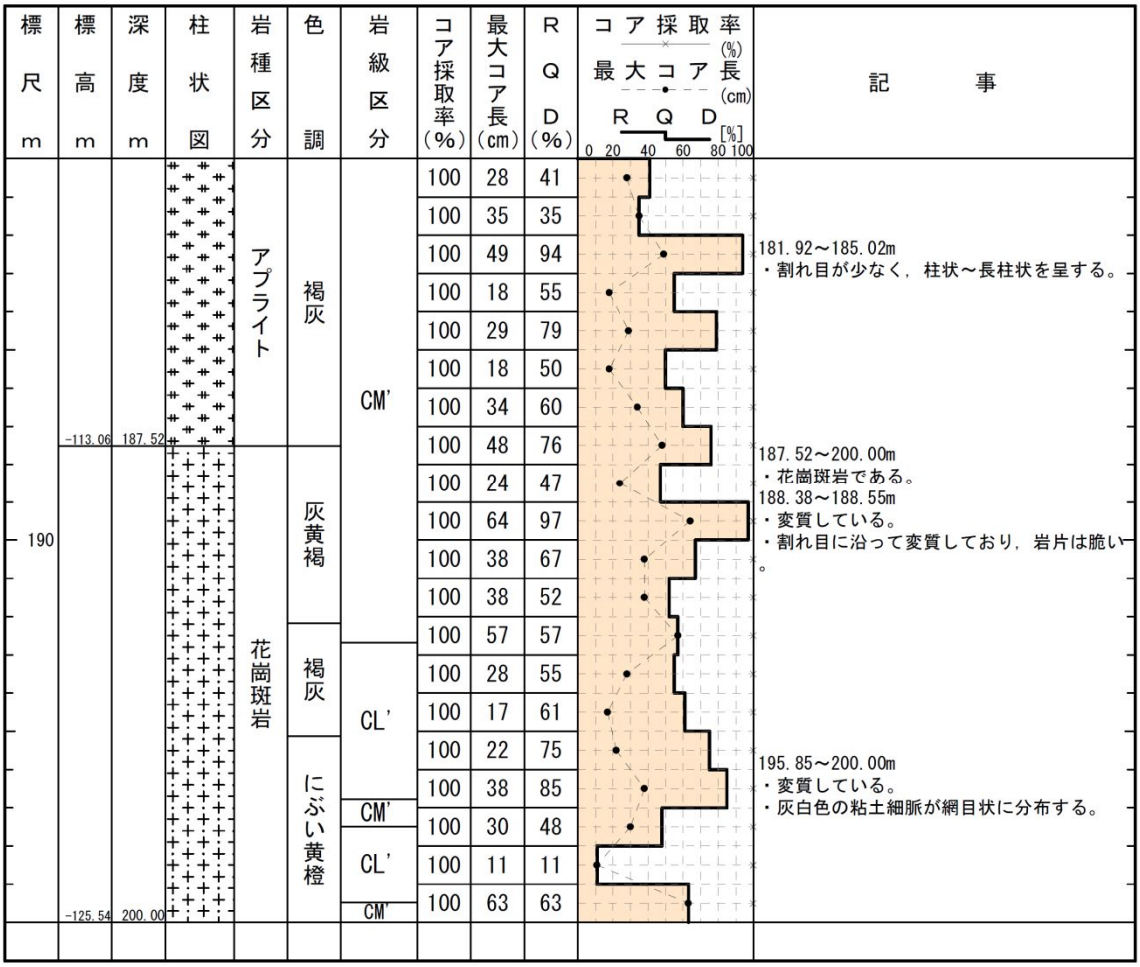
H19-No.17

柱状図(150.00m～180.00m)



H19-No.17

柱状図(180.00m～200.00m)



8. 審査資料案
（第657回審査会合（平成30年11月30日））
ボーリング柱状図

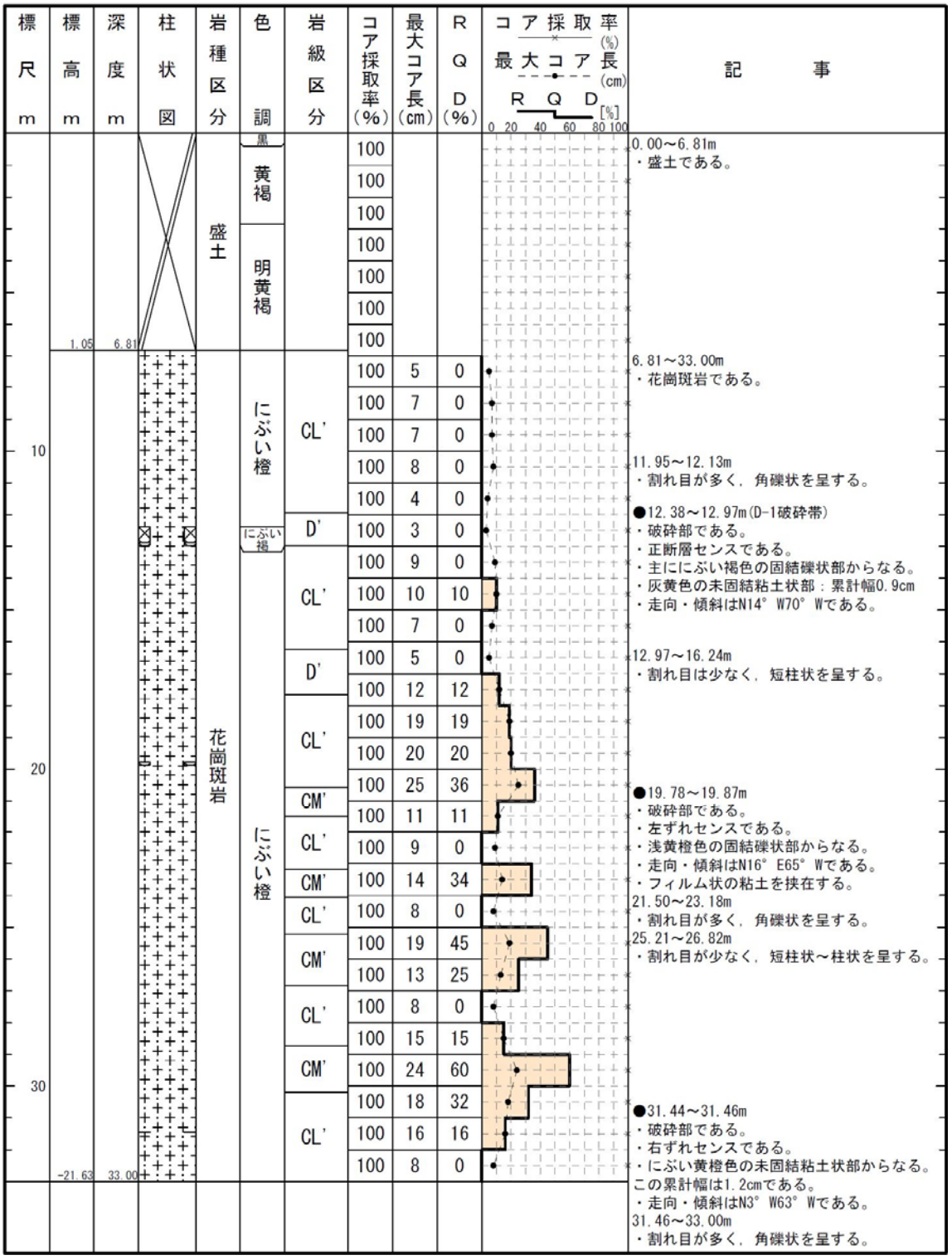
余白

H24-D1-2

柱状図(0.00m～33.00m)

H24-D1-2

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	33.00m

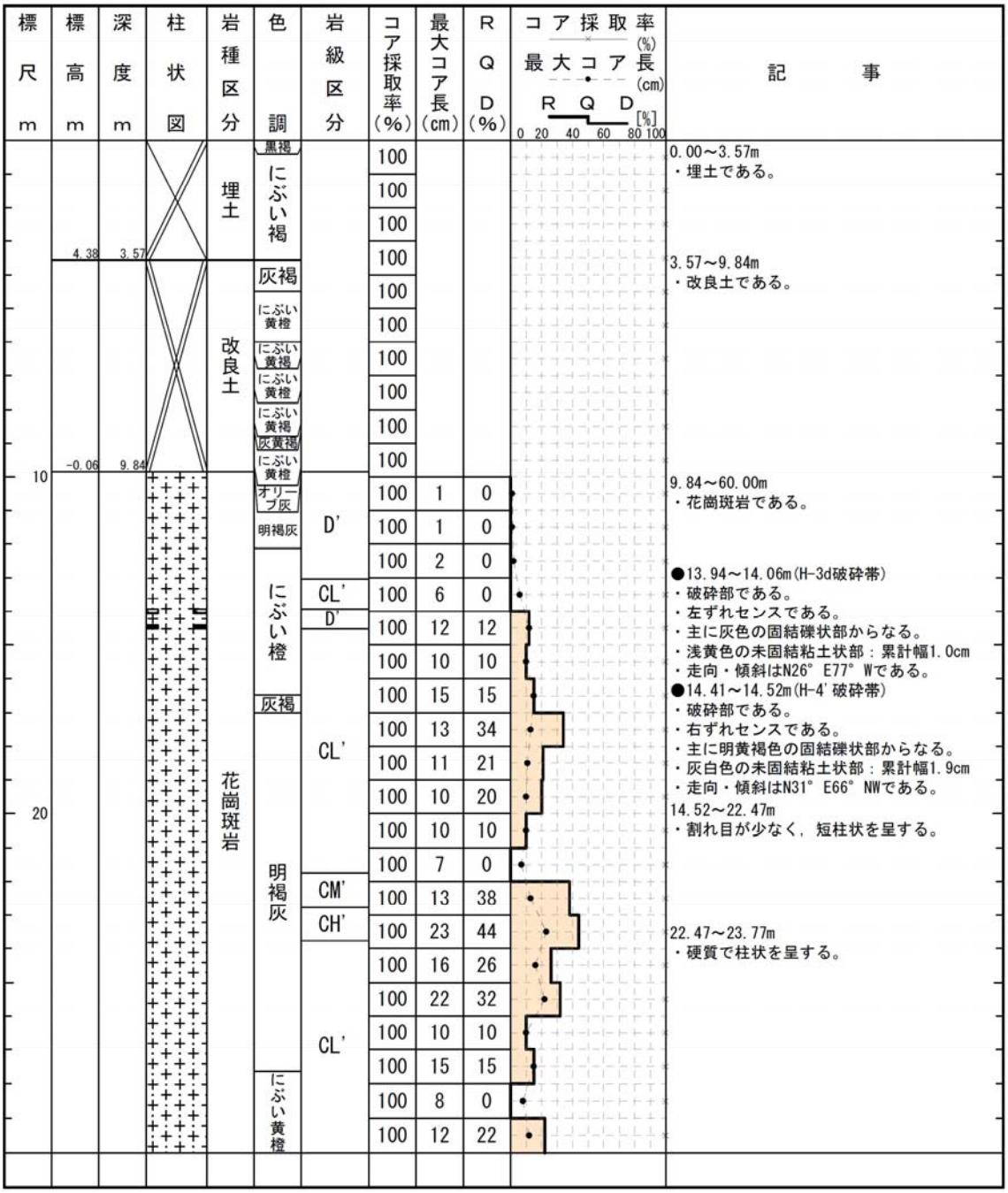


H24-D1-3

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-3

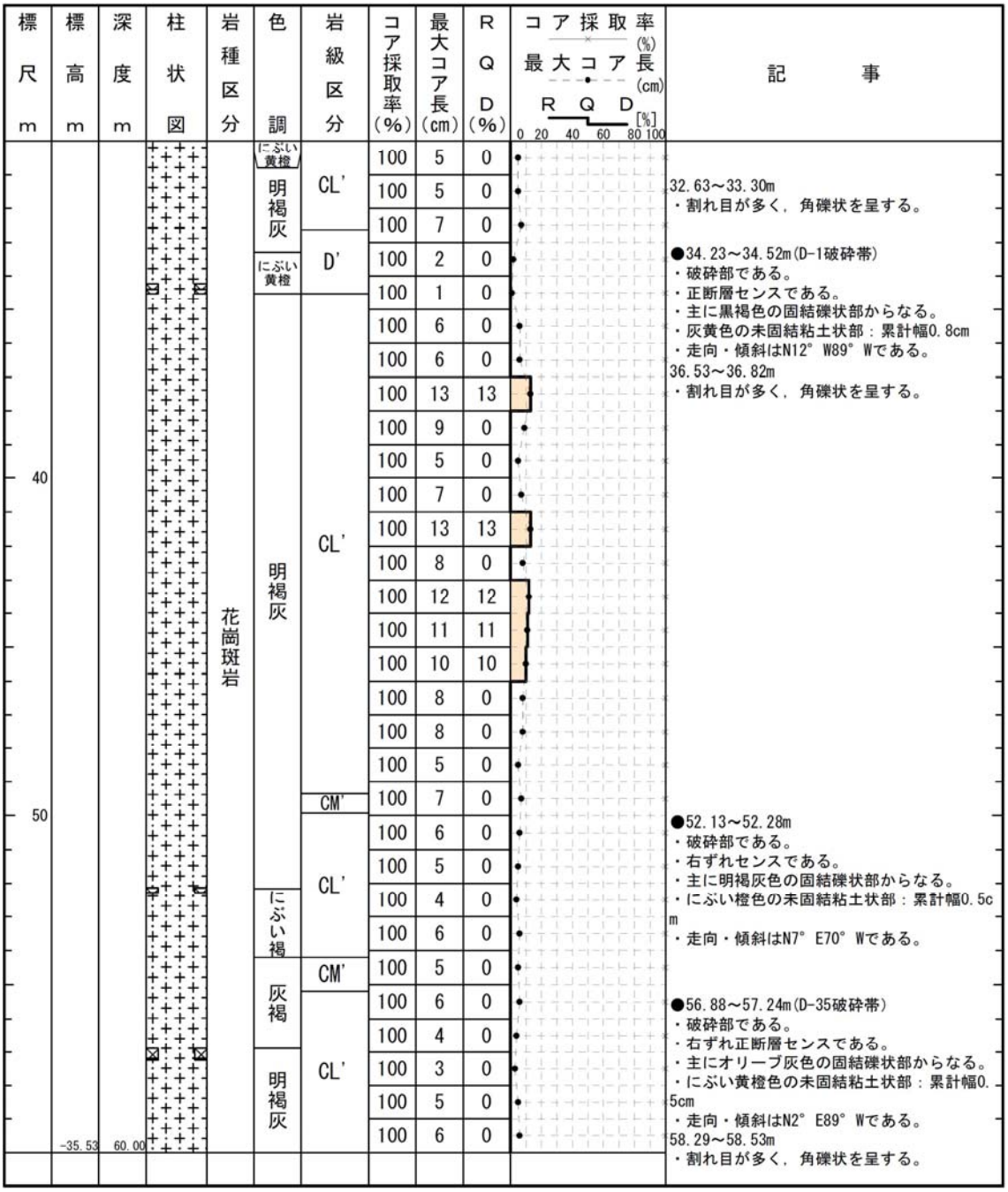
孔口標高	T.P. 6.90m	掘削長	60.00m



コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	1	0
100	1	0
100	2	0
100	6	0
100	12	12
100	10	10
100	15	15
100	13	34
100	11	21
100	10	20
100	10	10
100	7	0
100	13	38
100	23	44
100	16	26
100	22	32
100	10	10
100	15	15
100	8	0
100	12	22

H24-D1-3

柱状図(30.00m～60.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
				にぶい黄橙	CL'	100	5	0
				明褐灰	CL'	100	5	0
					CL'	100	7	0
					D'	100	2	0
				にぶい黄橙	D'	100	1	0
					CL'	100	6	0
					CL'	100	6	0
					CL'	100	13	13
					CL'	100	9	0
					CL'	100	5	0
40					CL'	100	7	0
					CL'	100	13	13
					CL'	100	8	0
					CL'	100	12	12
					CL'	100	11	11
					CL'	100	10	10
					CL'	100	8	0
					CL'	100	8	0
					CL'	100	5	0
					CM'	100	7	0
50					CL'	100	6	0
					CL'	100	5	0
					CL'	100	4	0
				にぶい褐	CL'	100	6	0
					CM'	100	5	0
				灰褐	CL'	100	6	0
					CL'	100	4	0
					CL'	100	3	0
				明褐灰	CL'	100	5	0
					CL'	100	6	0
	-35.53	60.00						

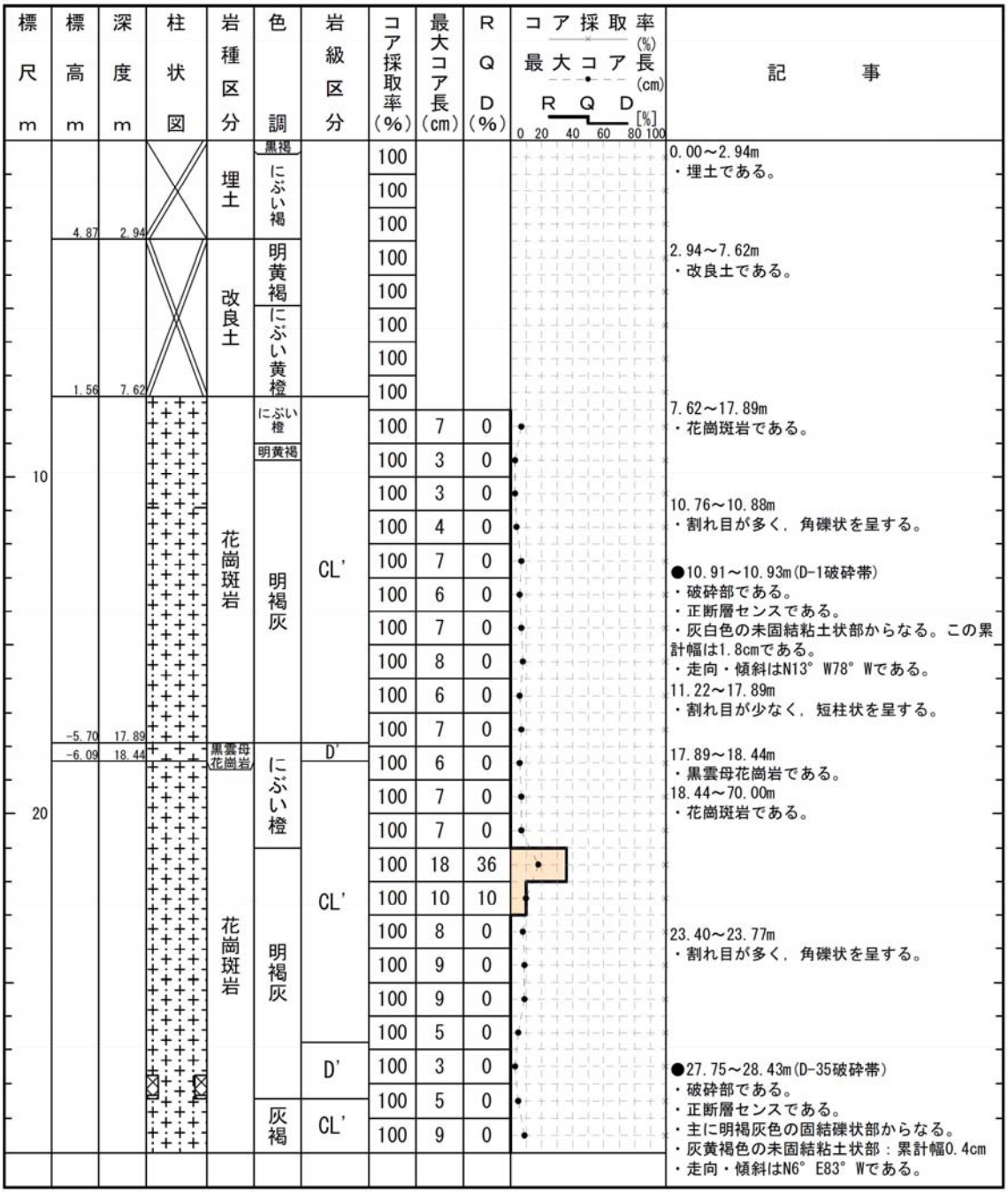
記事
32.63～33.30m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
●34.23～34.52m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に黒褐色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm ・走向・傾斜はN12° W89° Wである。
36.53～36.82m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
●52.13～52.28m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・にぶい橙色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN7° E70° Wである。
●56.88～57.24m(D-35破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主にオリーブ灰色の固結礫状部からなる。 ・にぶい黄橙色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN2° E89° Wである。
58.29～58.53m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。

H24-D1-4

柱状図(0.00m～30.00m)

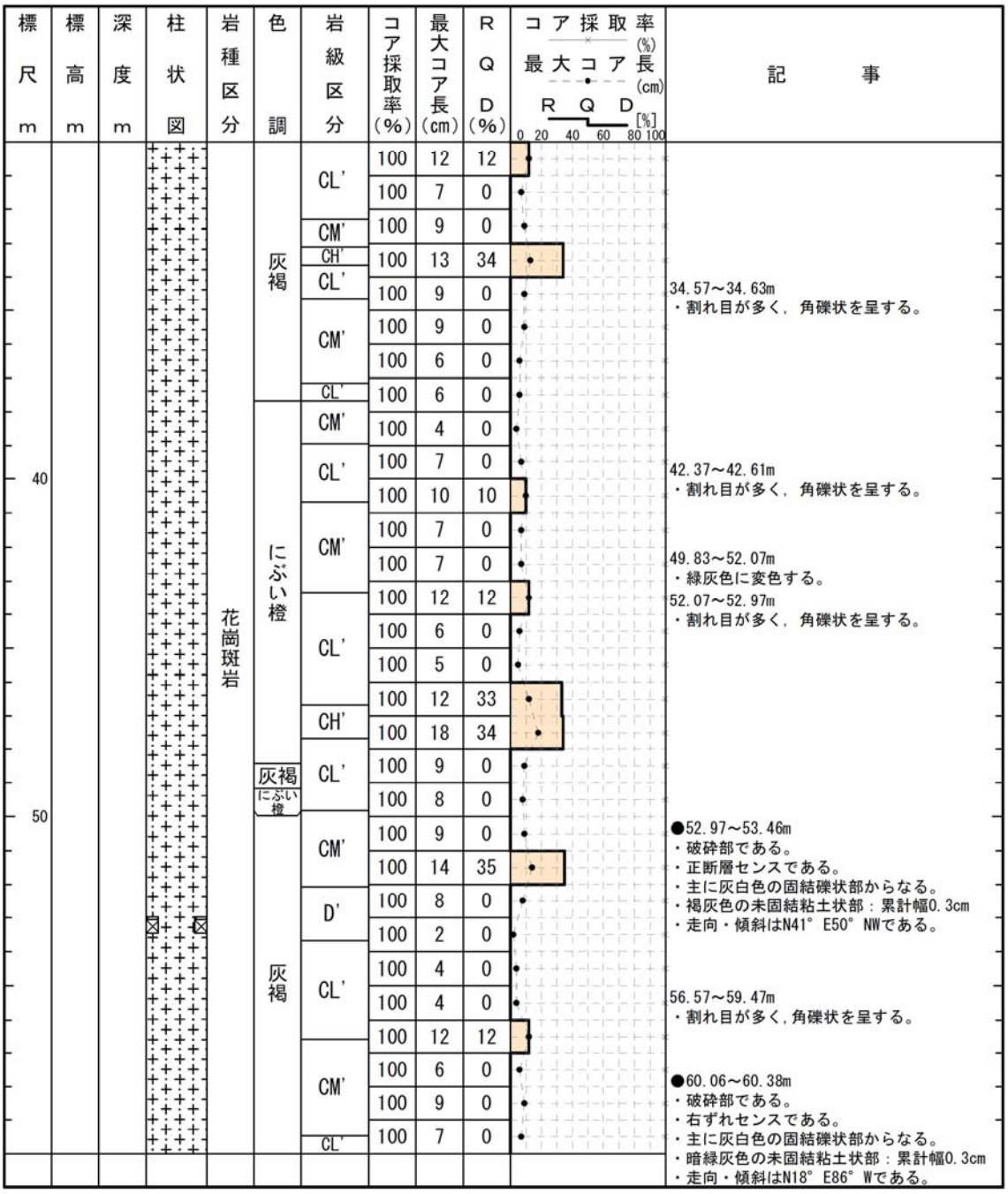
H24-D1-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	70.00m



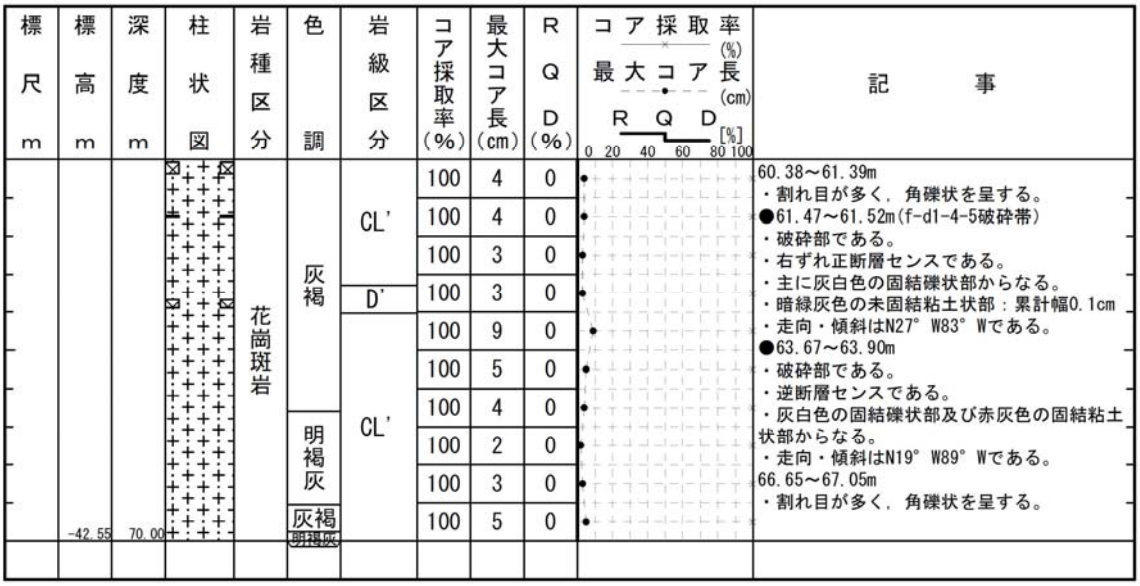
H24-D1-4

柱状図(30.00m～60.00m)



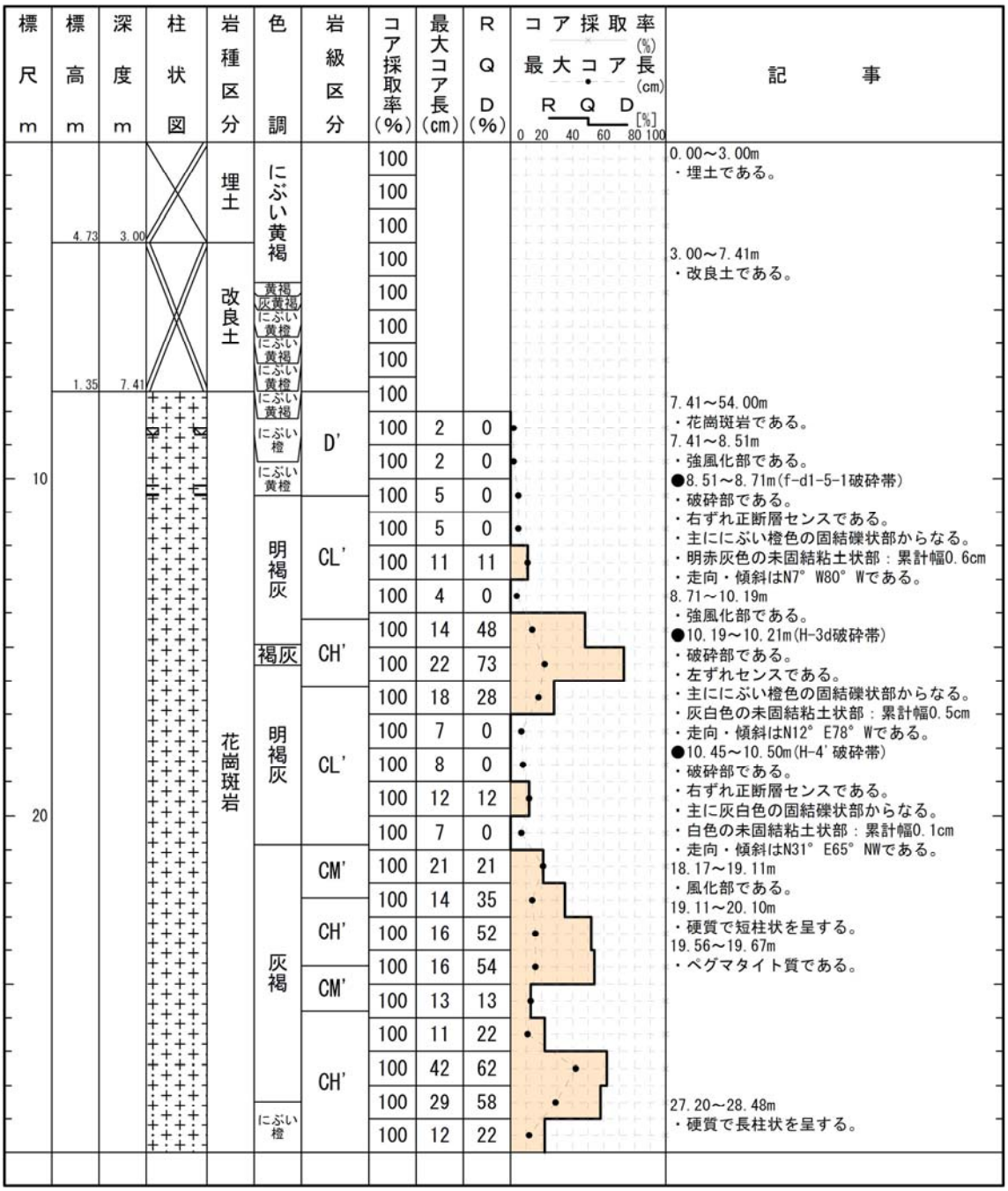
H24-D1-4

柱状図(60.00m～70.00m)



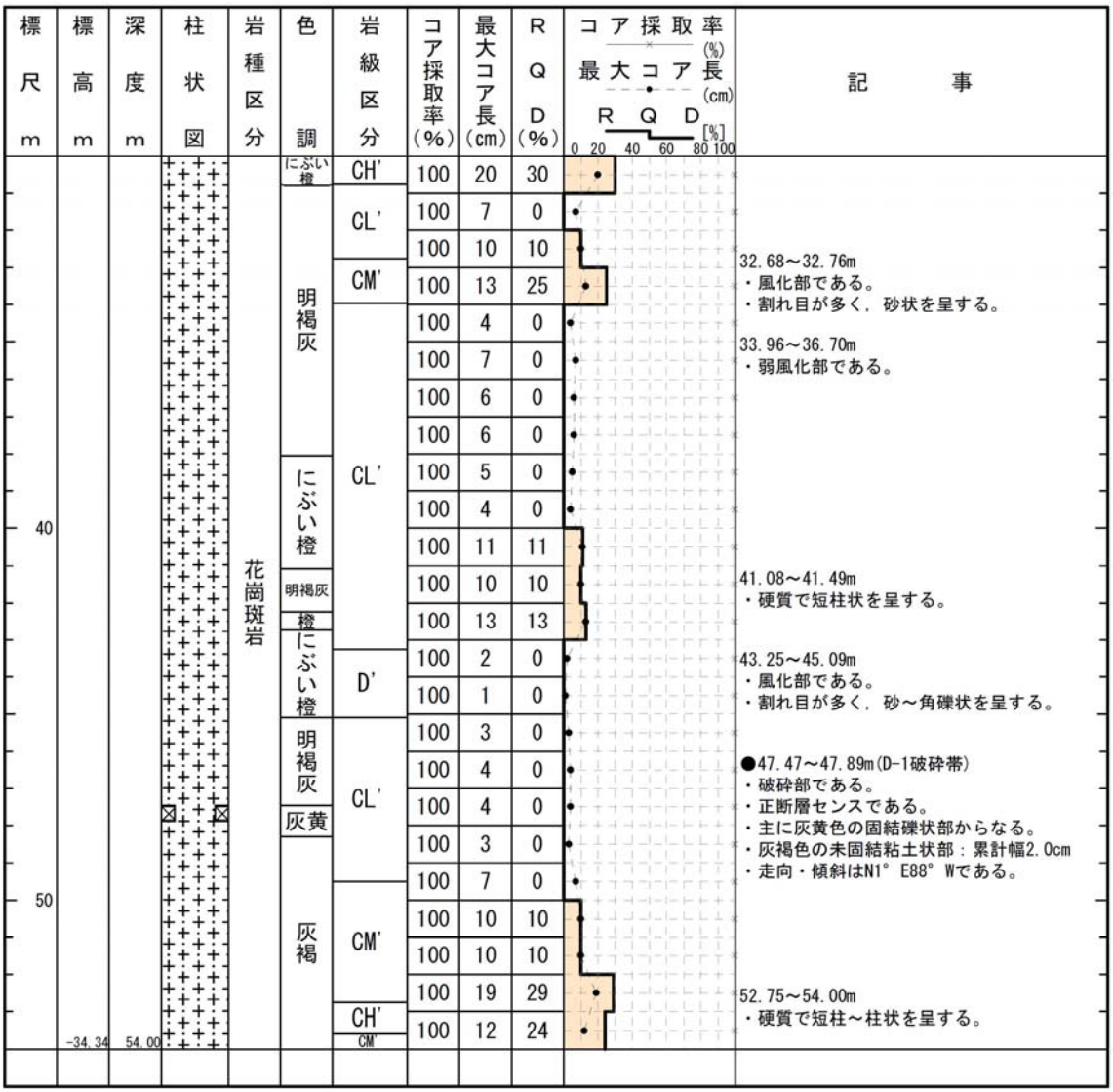
H24-D1-5

柱状図(0.00m～30.00m)



H24-D1-5

柱状図(30.00m～54.00m)



岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
CH'	100	20	30
CL'	100	7	0
	100	10	10
CM'	100	13	25
CL'	100	4	0
	100	7	0
	100	6	0
	100	6	0
	100	5	0
	100	4	0
	100	11	11
	100	10	10
	100	13	13
D'	100	2	0
	100	1	0
CL'	100	3	0
	100	4	0
	100	4	0
	100	3	0
	100	7	0
CM'	100	10	10
	100	10	10
	100	19	29
CH' CM	100	12	24

H27－B－3

柱状図(0.00m～30.00m)

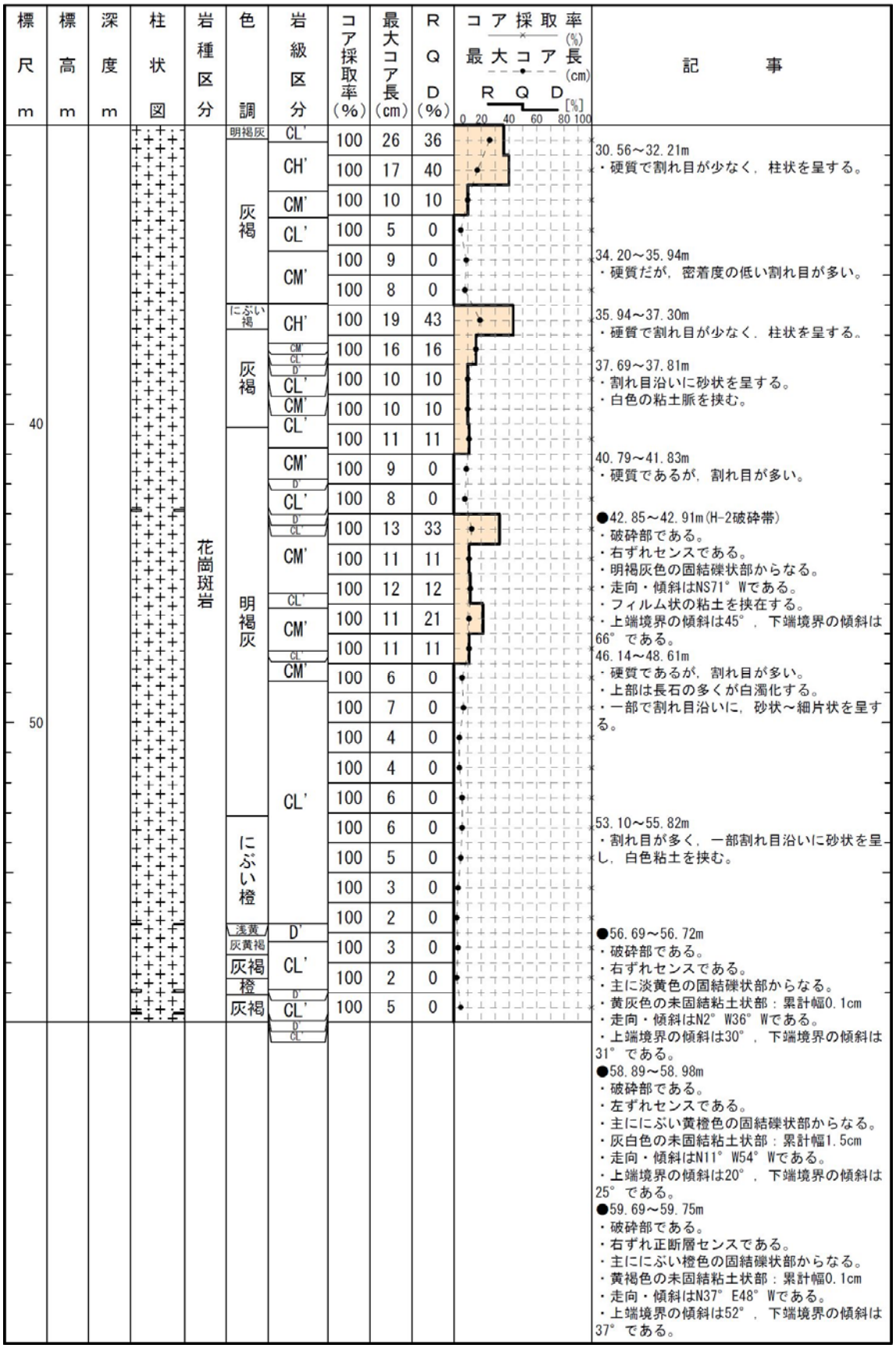
H27-B-3

孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	180.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	黒褐		100				0.00～10.05m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂～砂礫からなる。 ・0.00～1.70mはボーリング掘削前に実施した試掘の埋土である。
					にぶい黄橙		100				
	5.36	1.70			灰黄褐		100				
				盛土	にぶい黄褐		100				
							100				
							100				
							100				
							100				
							100				
							100				
							100				
					オリーブ灰		100				
10	-2.99	10.05			灰黄褐		100	4	0		10.05～180.00m ・花崗斑岩である。
						CL'	100	7	0		
							100	9	0		
						D'	100	3	0		12.96～14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点～脈状に含む。
					明褐灰	CL'	100	6	0		
						D'	100	10	10		15.33～15.43m ・軟質化が著しい。
							100	7	0		
						CL'	100	8	0		
					にぶい橙		100	5	0		18.05～18.47m ・珪質化している。
					明褐灰		100	9	0		
20				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	14	24		20.04～20.93m ・硬質であるが，密着度の低い割れ目を含む。
							100	3	0		22.50～22.64m ・軟質化が著しい。 ・上端に褐色の粘土脈，下端に褐色の砂を伴う。 ・一部に灰白色の粘土を脈状に挟む。
					明褐灰	CL'	100	5	0		
							100	6	0		
							100	10	10		
							100	18	18		●26.70～26.90m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN18° E61° Wである。 ・上端境界の傾斜は43°，下端境界の傾斜は54°である。
							100	8	0		
					灰白	D'	100	5	0		
					明褐灰	CL'	100	6	0		
						D'	100	4	0		
						CL'					●28.12～28.14m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結砂状部からなる。 ・浅黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN15° E64° Wである。 ・上端境界の傾斜は43°，下端境界の傾斜は45°～55°である。
											●29.10～29.12m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN31° E51° Wである。 ・上端境界の傾斜は49°，下端境界の傾斜は45°～50°である。

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－B－3

柱状図(60.00m～90.00m)

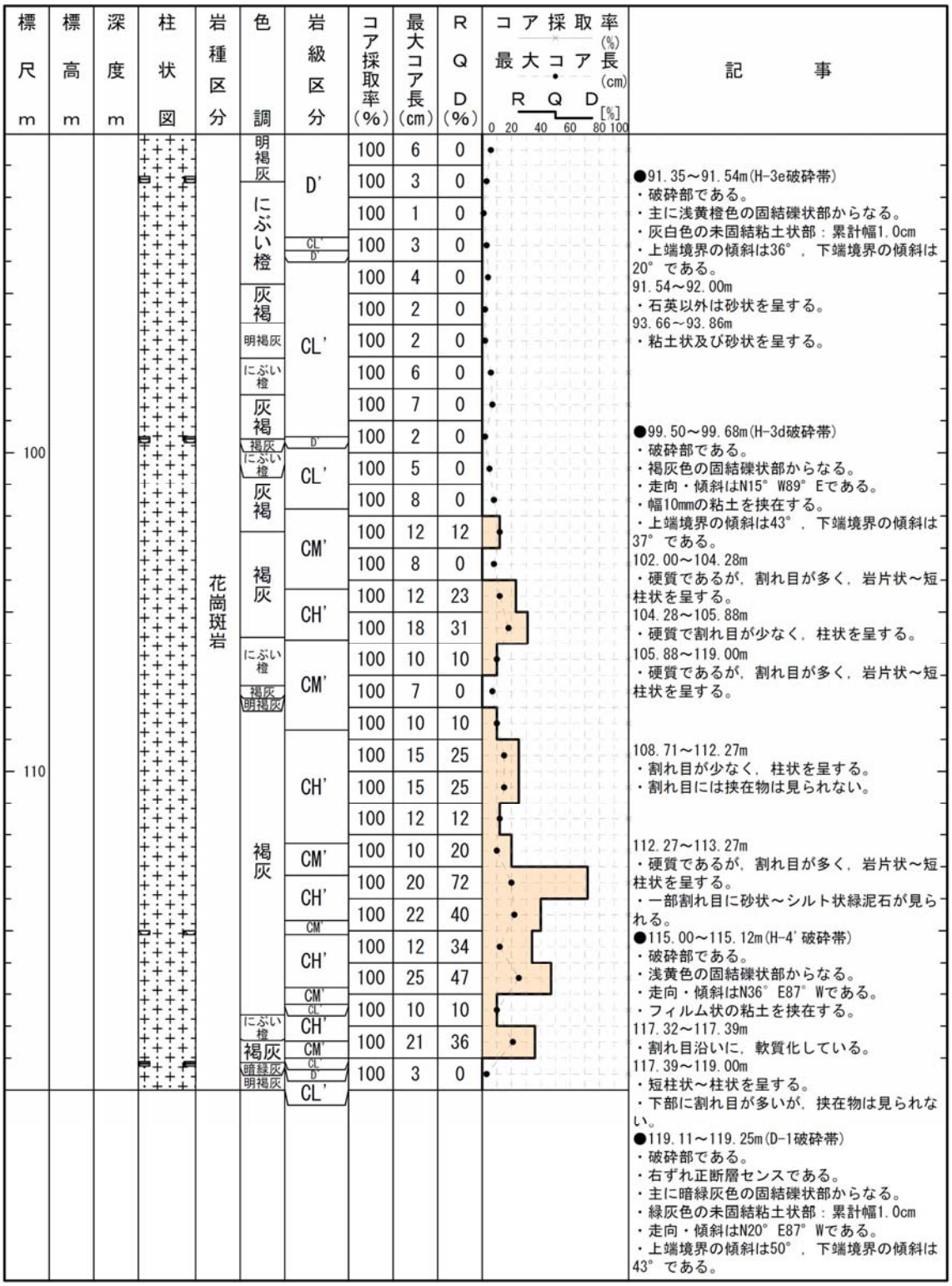


標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
70			花崗斑岩	灰褐	CM'	100	5	0	60.00～62.23m ・硬質であるが，密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに砂状を呈する。
					CL'	100	3	0	
					CM'	100	5	0	
					CL'	100	7	0	62.82～62.93m ・砂礫状を呈し，白色粘土脈を伴う。
						100	4	0	
				にぶい橙	CM'	100	7	0	64.52～66.39m ・硬質であるが，割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに薄く砂状を呈する。
				灰褐		100	9	0	
				にぶい褐	CL'	100	6	0	
				明褐灰					
				褐灰	D'	100	2	0	68.06～68.93m ・砂礫状を呈する。
				にぶい橙	CL'	100	4	0	
				明褐灰	D'	100	2	0	70.10～71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土状～砂状を呈し，白色粘土脈を伴う。
						100	2	0	
					CL'	100	3	0	
					D'				
				灰褐	CL'	100	5	0	72.65～73.38m ・著しく軟質化している。 ・一部，細砂礫状を呈する。
						100	5	0	
						100	7	0	
					D'	100	2	0	
				にぶい橙	CL'	100	8	0	●76.59～76.89m(H-3c破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・上端境界の傾斜は47°，下端境界の傾斜は37°である。
						100	4	0	
				明褐灰		100	4	0	
80						100	5	0	
						100	4	0	79.15～85.03m ・粘土状を呈し，著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。
				明黄褐	D'	100	3	0	
				明褐灰		100	3	0	
				明黄褐		100	3	0	
				灰褐		100	3	0	84.54～84.71m ・砂状を呈し，軟質粘土を伴う。
				にぶい褐	CL'	100	3	0	
				褐灰		100	2	0	85.61～93.25m ・著しく軟質化している。
				にぶい黄橙	D'	100	2	0	87.18～91.35m ・砂礫状を呈する。
						100	3	0	
				明褐灰		100	3	0	

H27－B－3

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

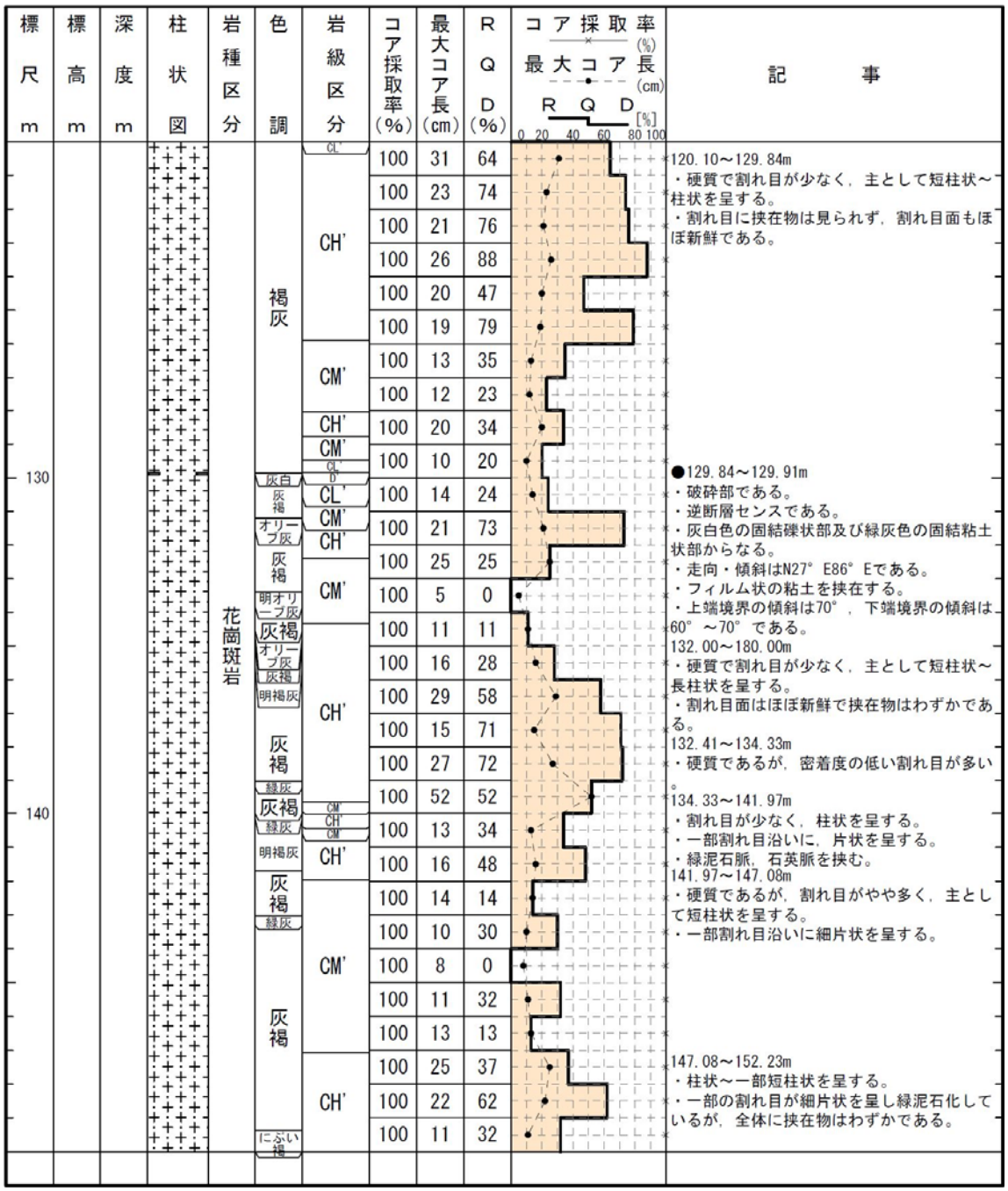
柱状図(90.00m～120.00m)



H27－B－3

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

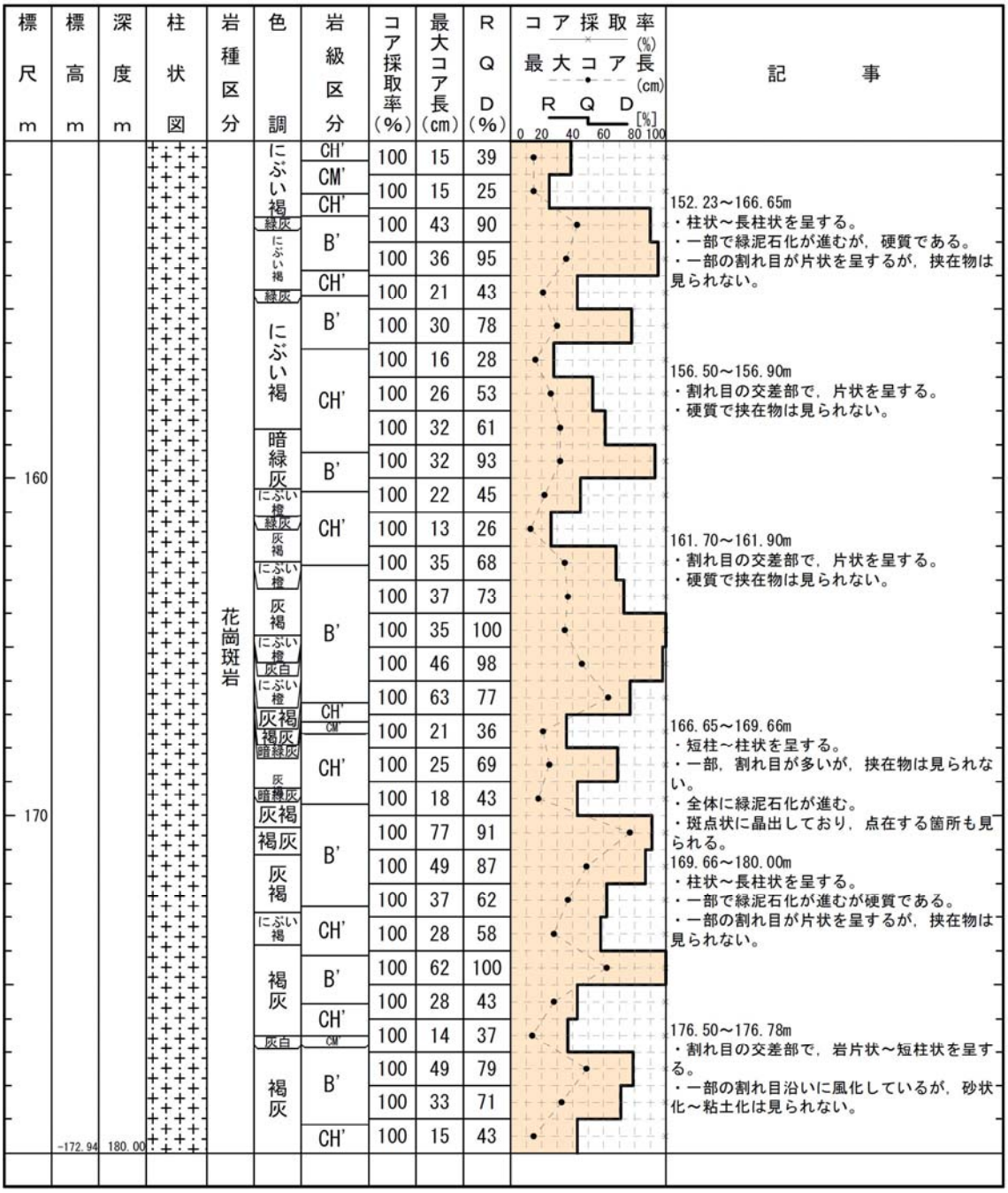
柱状図(120.00m～150.00m)


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率（%）
最大コア長（cm）
RQD（%）
コア採取率（%）
最大コア長（cm）
RQD [%]
0 20 40 60 80 100
記事
130
140
花崗斑岩
褐灰
灰白
灰褐
オリーブ灰
灰褐
明オリーブ灰
灰褐
オリーブ灰
灰褐
明褐灰
灰褐
緑灰
灰褐
緑灰
明褐灰
灰褐
緑灰
灰褐
にぶい褐
CH'
CM'
CL'
D
CH'
CM'
CL'
CM'
CH'
CM'
CH'
CM'
CH

H27－B－3

第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(150.00m～180.00m)

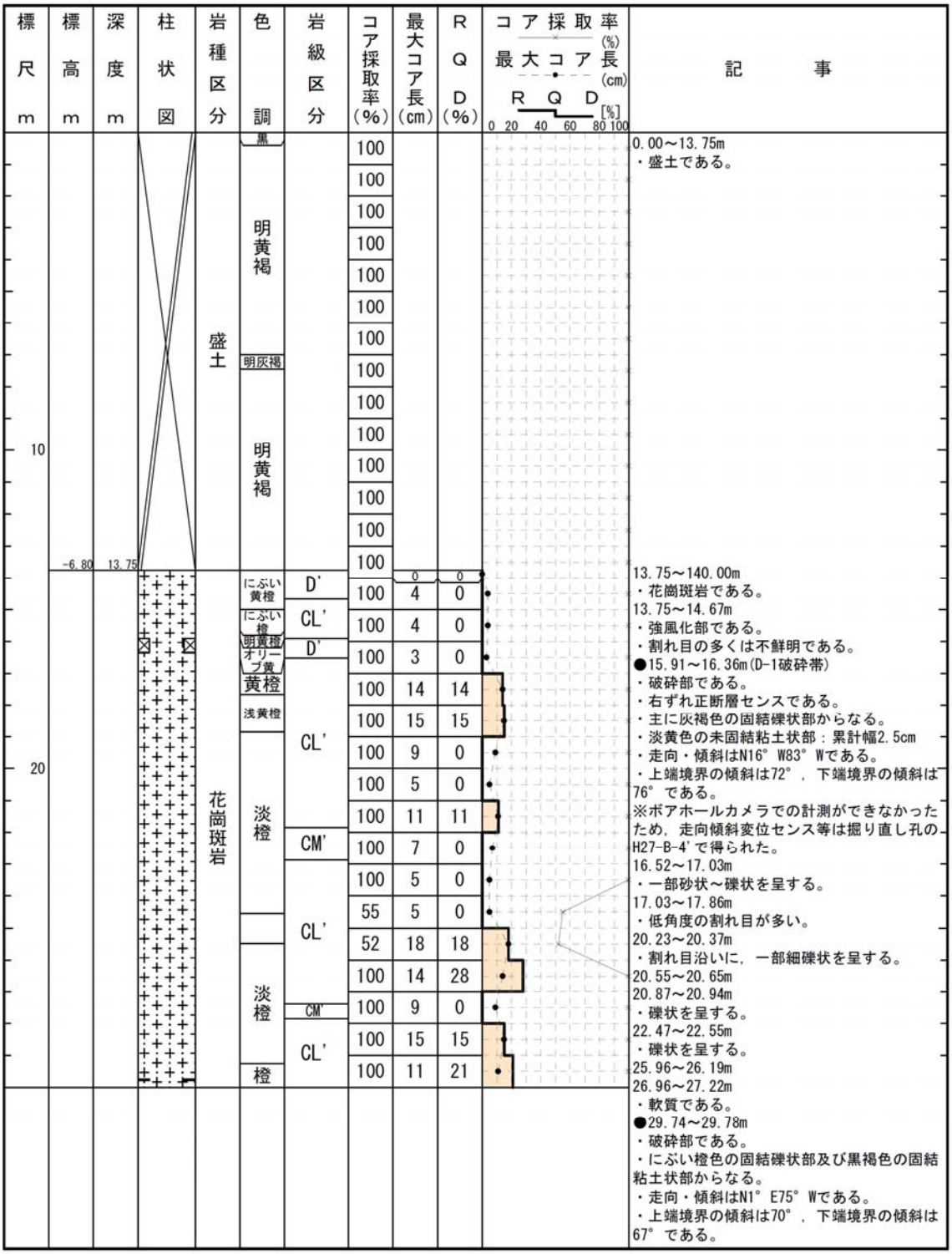


H27-B-4

柱状図(0.00m～30.00m)

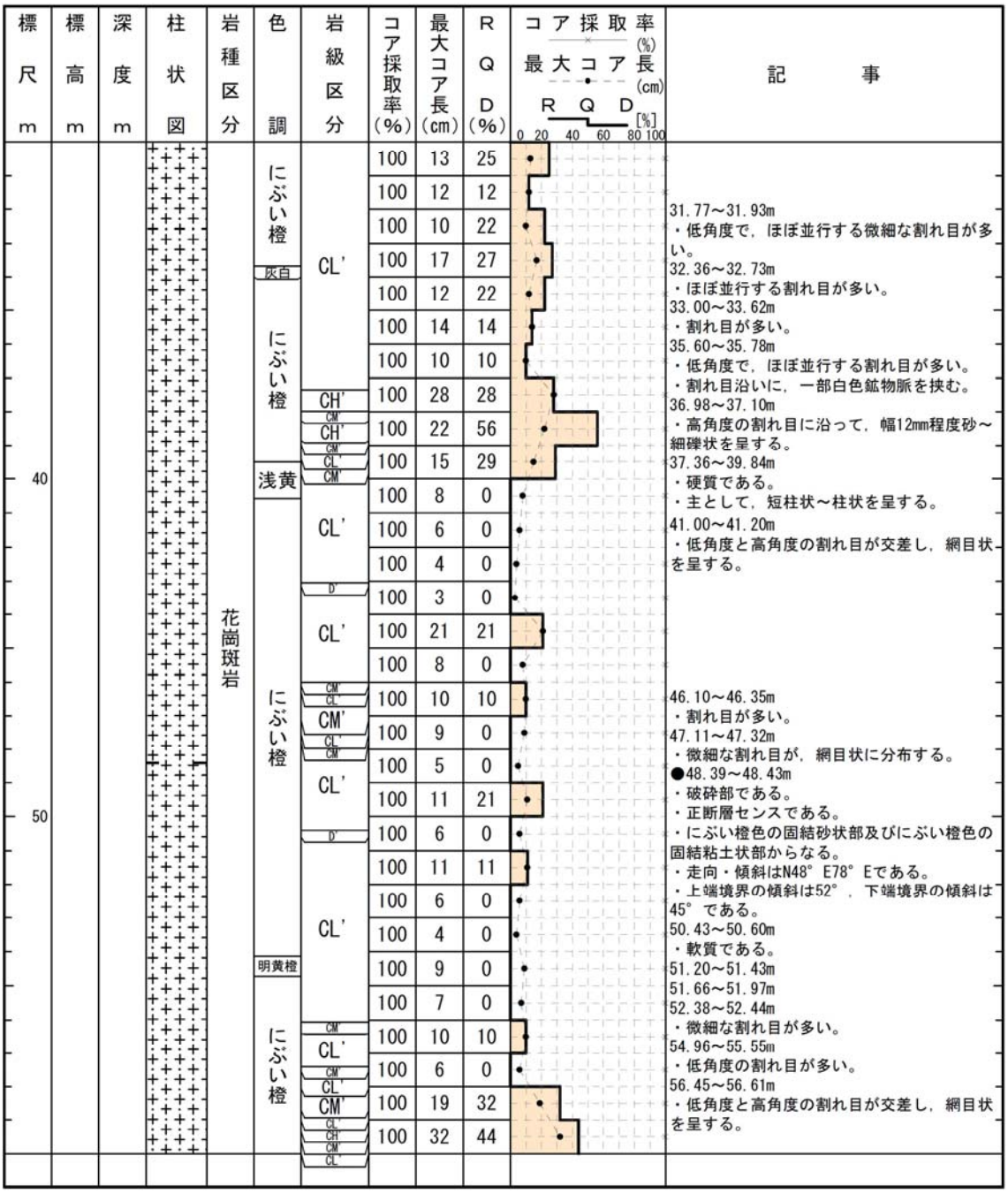
H27-B-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	140.00m



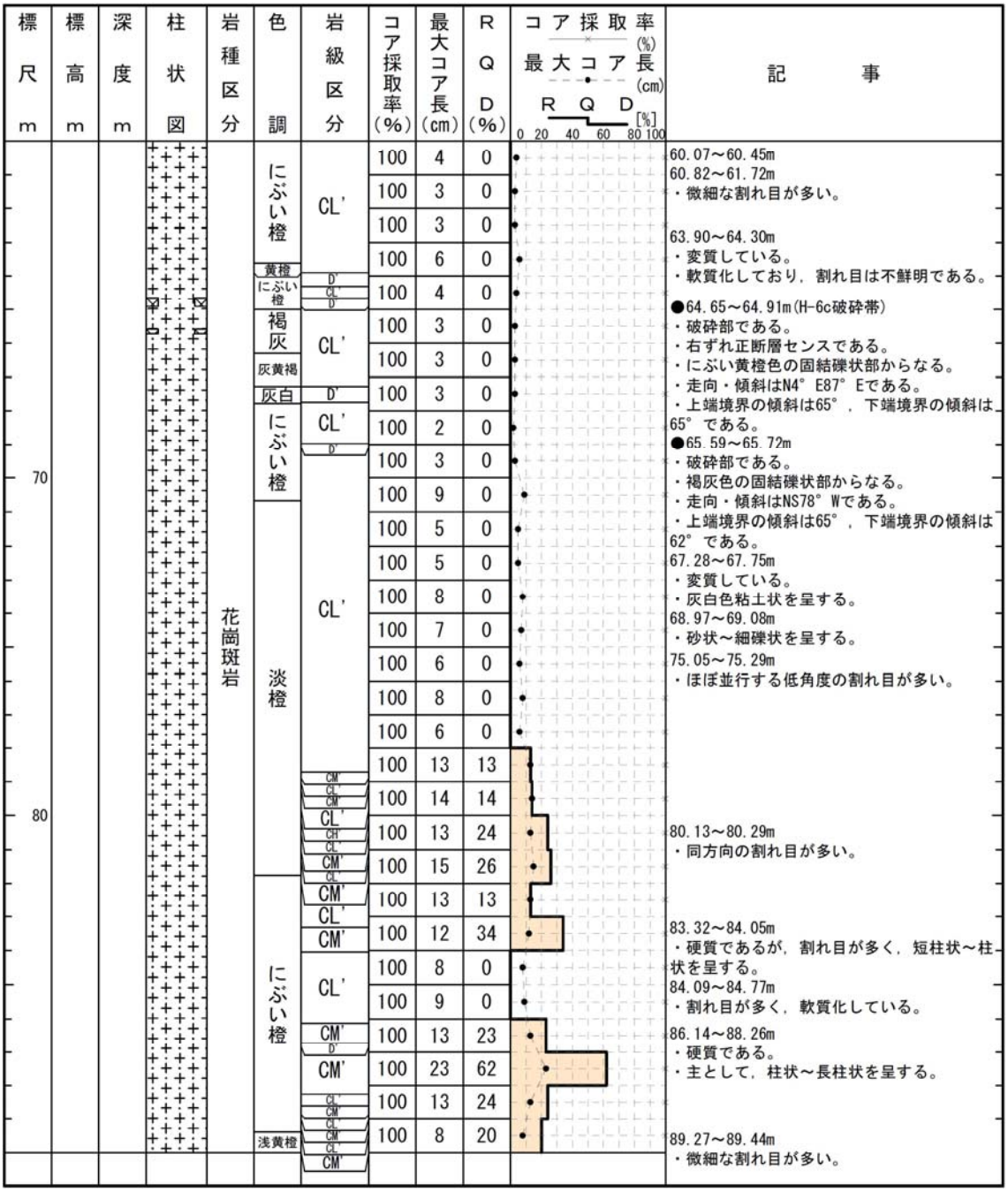
H27-B-4

柱状図(30.00m～60.00m)



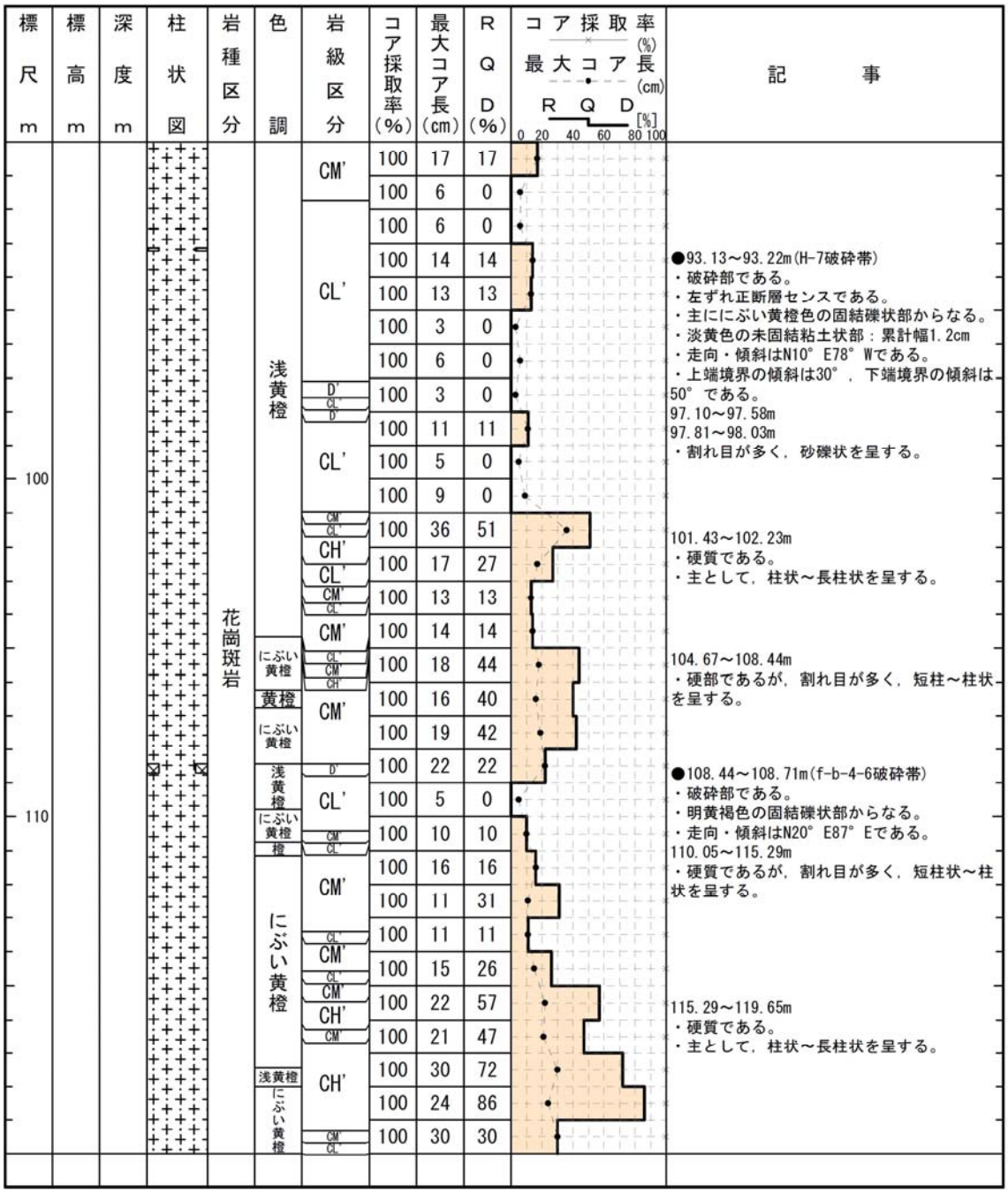
H27-B-4

柱状図(60.00m～90.00m)



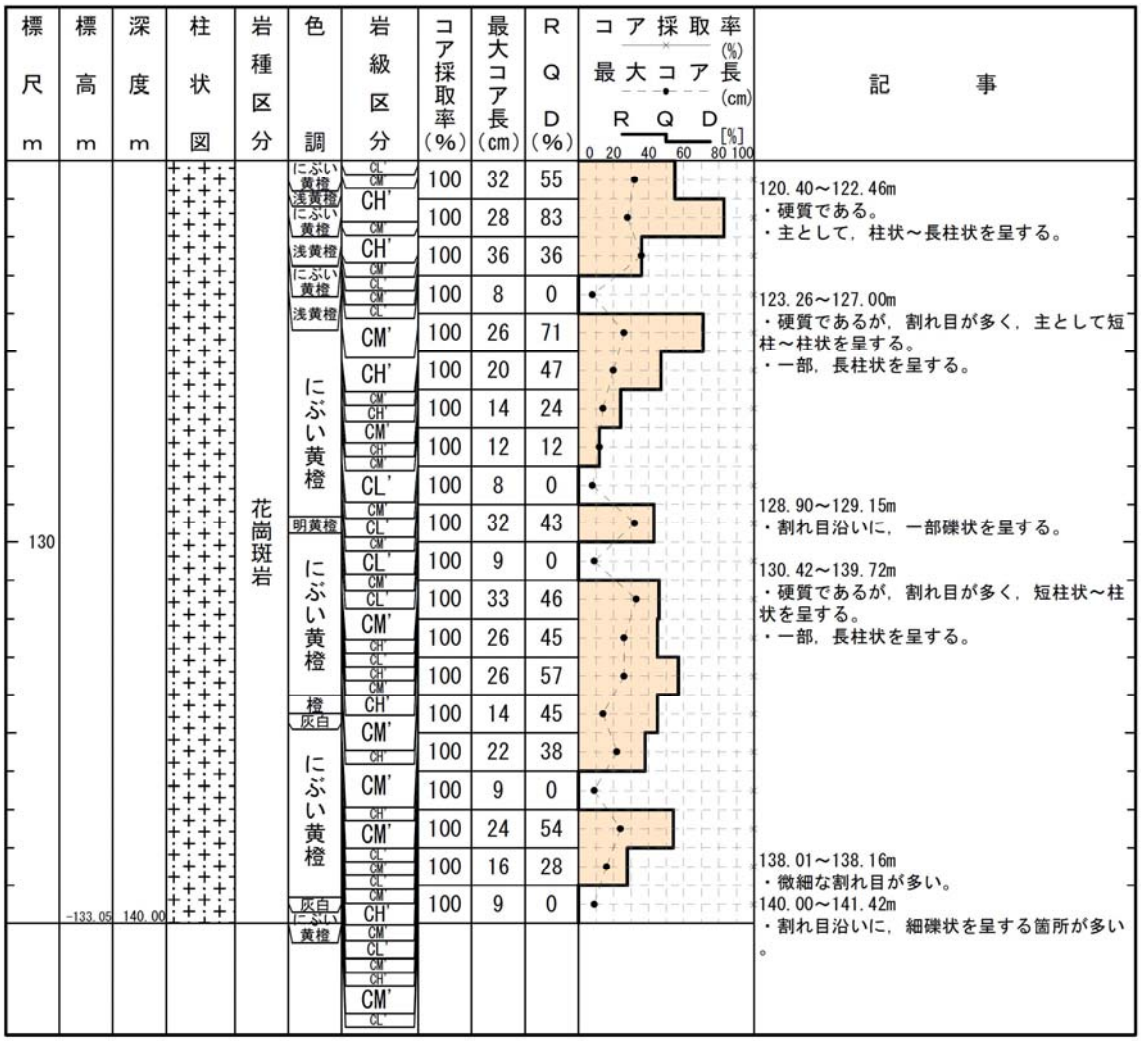
H27-B-4

柱状図(90.00m～120.00m)



H27-B-4

柱状図(120.00m～140.00m)

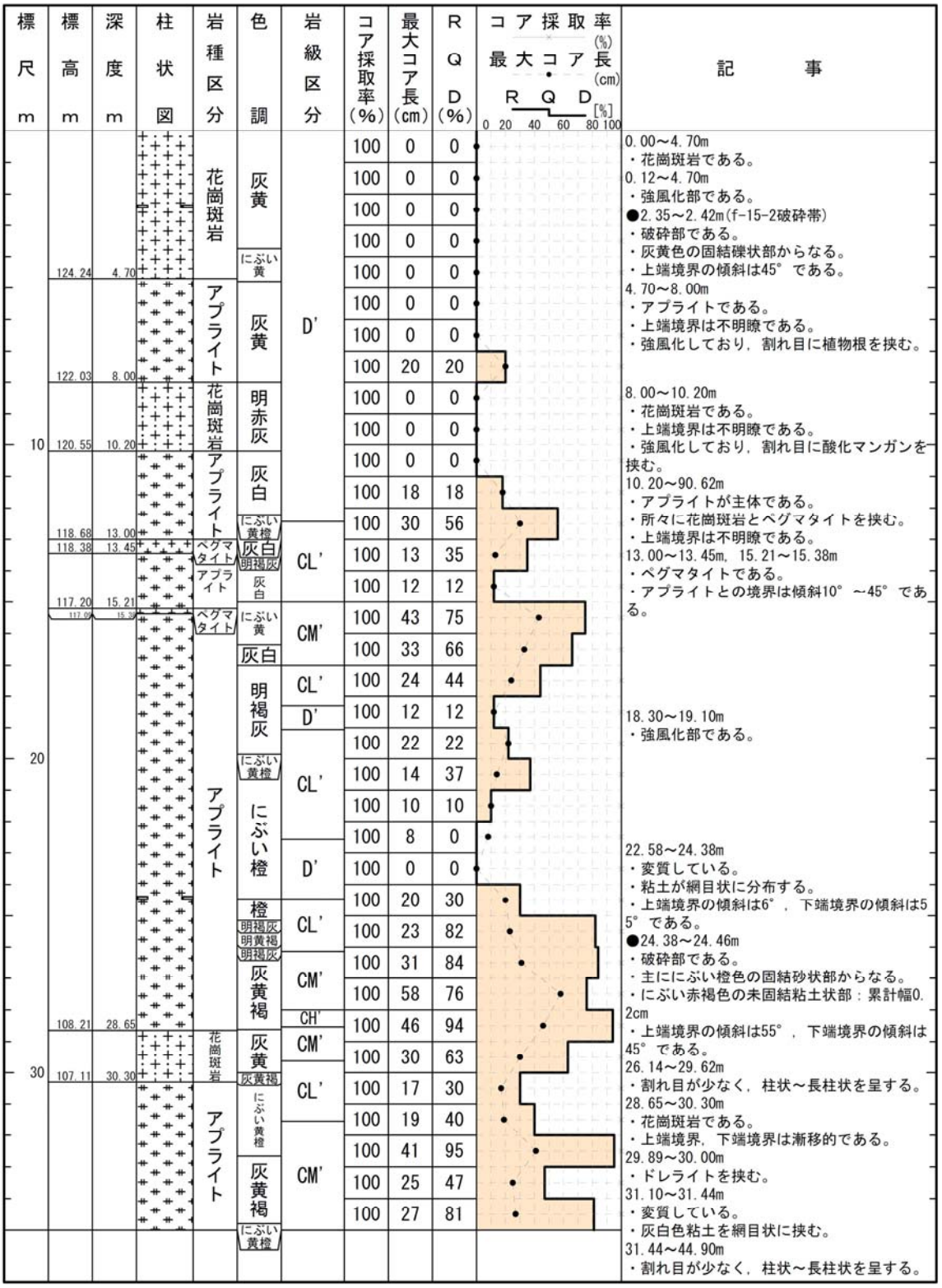


H19－No.2

柱状図(0.00m～35.00m)

H19-No. 2

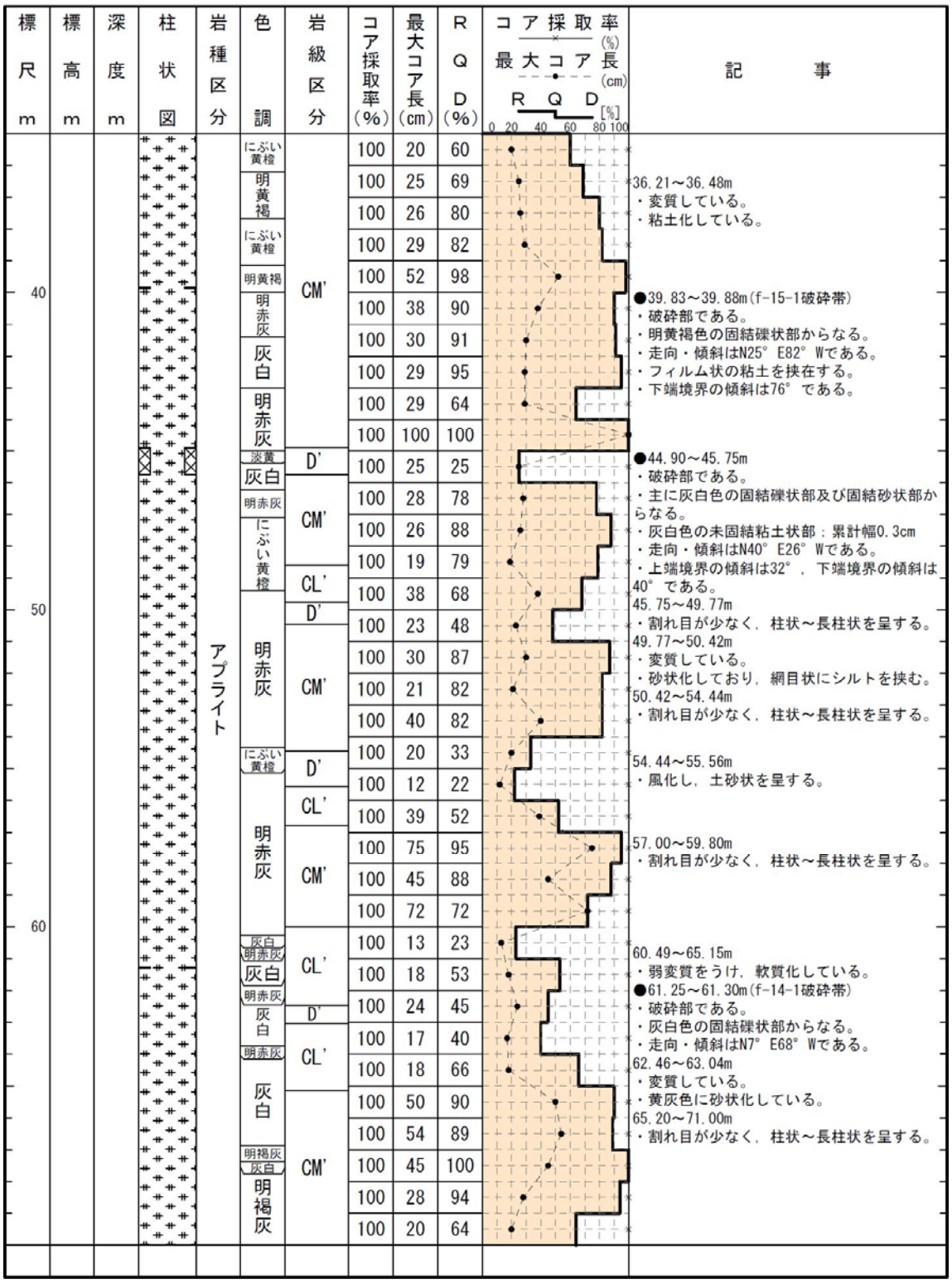
孔口標高	T.P. 127.38m	掘削長	220.00m



H19－No.2

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

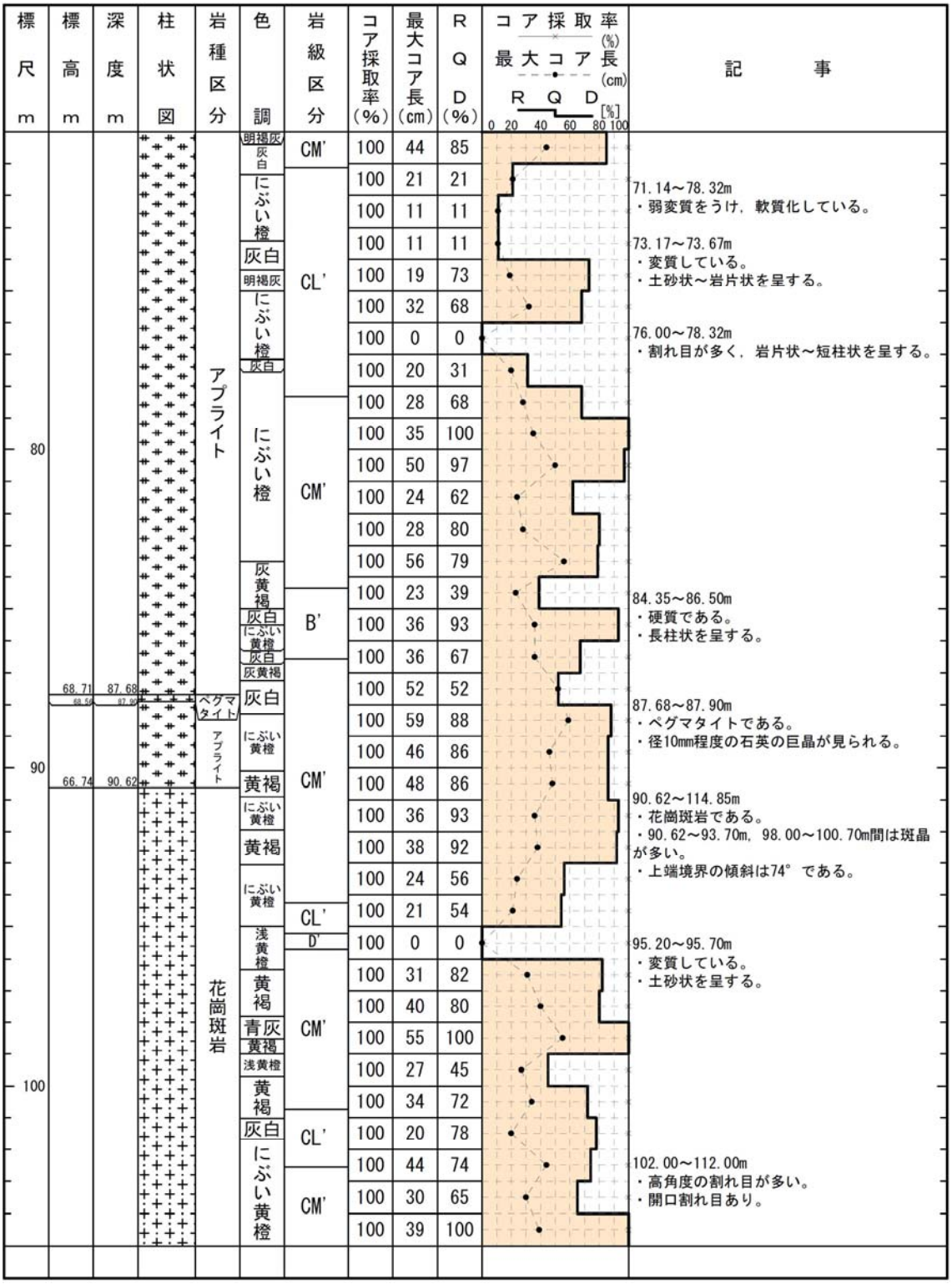
柱状図(35.00m～70.00m)



H19－No.2

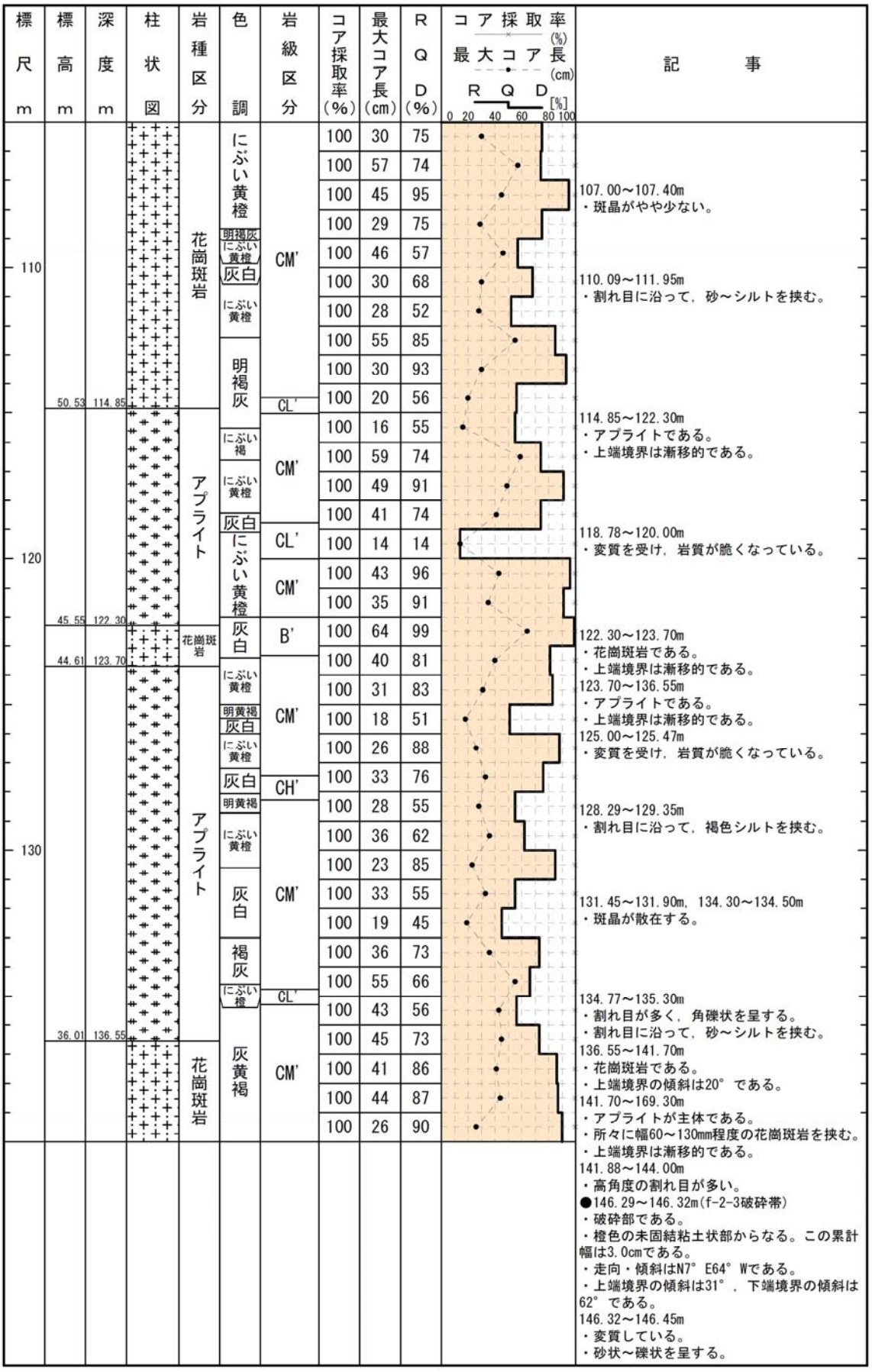
第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(70.00m～105.00m)



H19－No.2

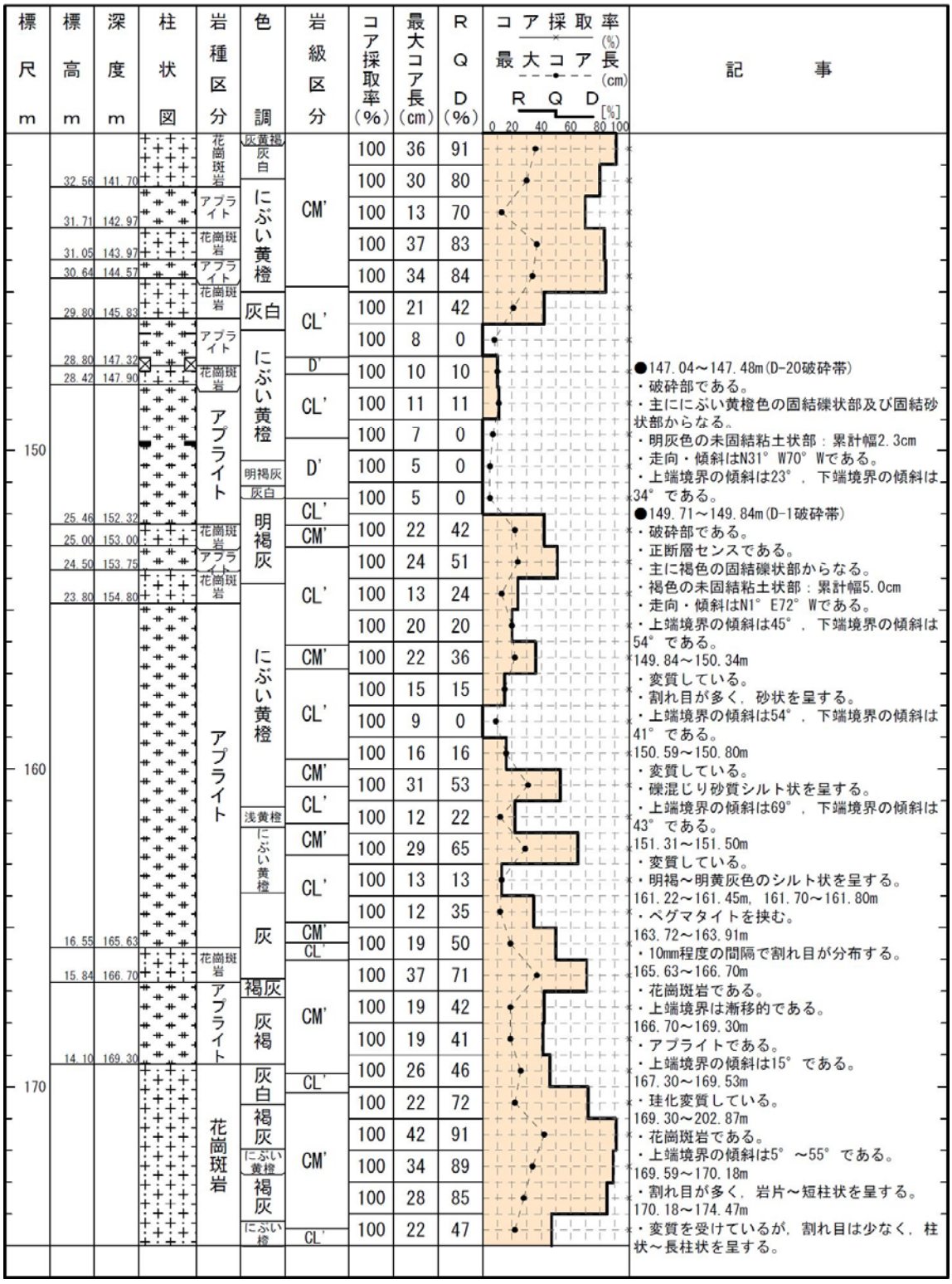
柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No.2

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

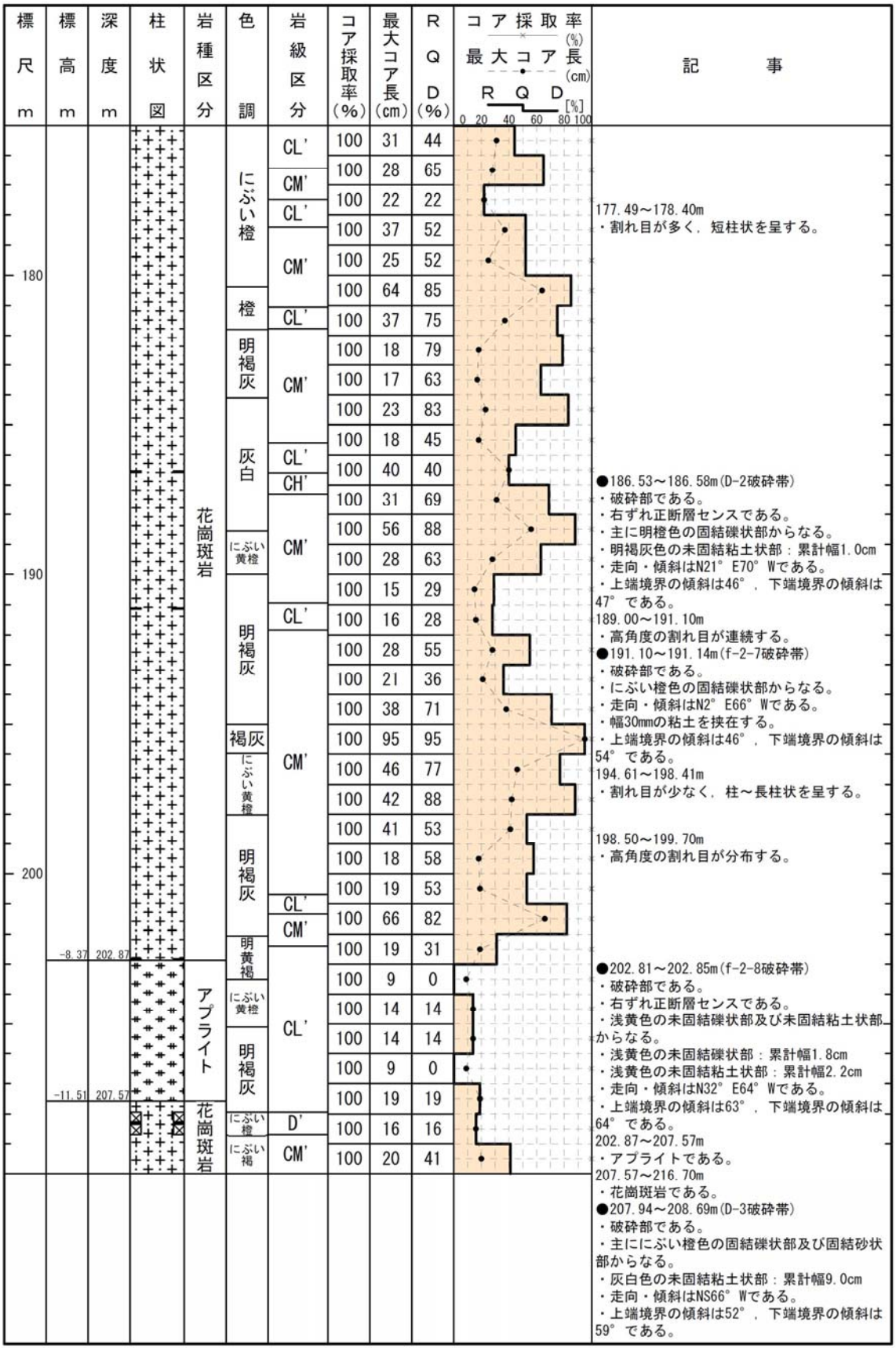
柱状図(140.00m～175.00m)


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD[%]
0 20 40 60 80 100
記事
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
灰黄褐
灰白
にぶい黄橙
灰白
にぶい黄橙
明褐灰
灰白
明褐灰
にぶい黄橙
浅黄橙
にぶい黄橙
灰
褐灰
灰褐
灰白
褐灰
にぶい黄橙
褐灰
にぶい黄橙
CM'
CL'
D'
CL'
D'
CL'
CM'
CL'
CM'
CL'
CM

H19－No.2

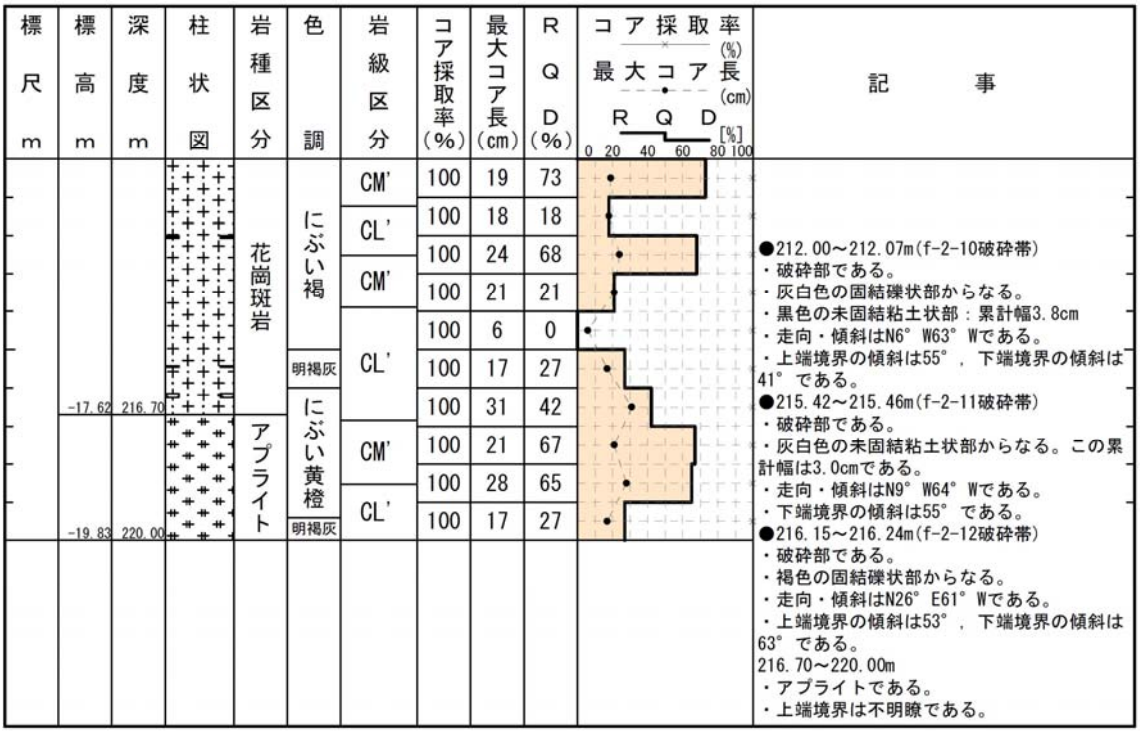
第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(175.00m～210.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(210.00m～220.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
				花崗斑岩	にぶい褐	CM'	100	19	73
						CL'	100	18	18
						CM'	100	24	68
							100	21	21
						CL'	100	6	0
					明褐灰		100	17	27
	-17.62	216.70			にぶい黄橙		100	31	42
				アプライト		CM'	100	21	67
							100	28	65
	-19.83	220.00			明褐灰	CL'	100	17	27

コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD [%]
0 20 40 60 80 100

記事

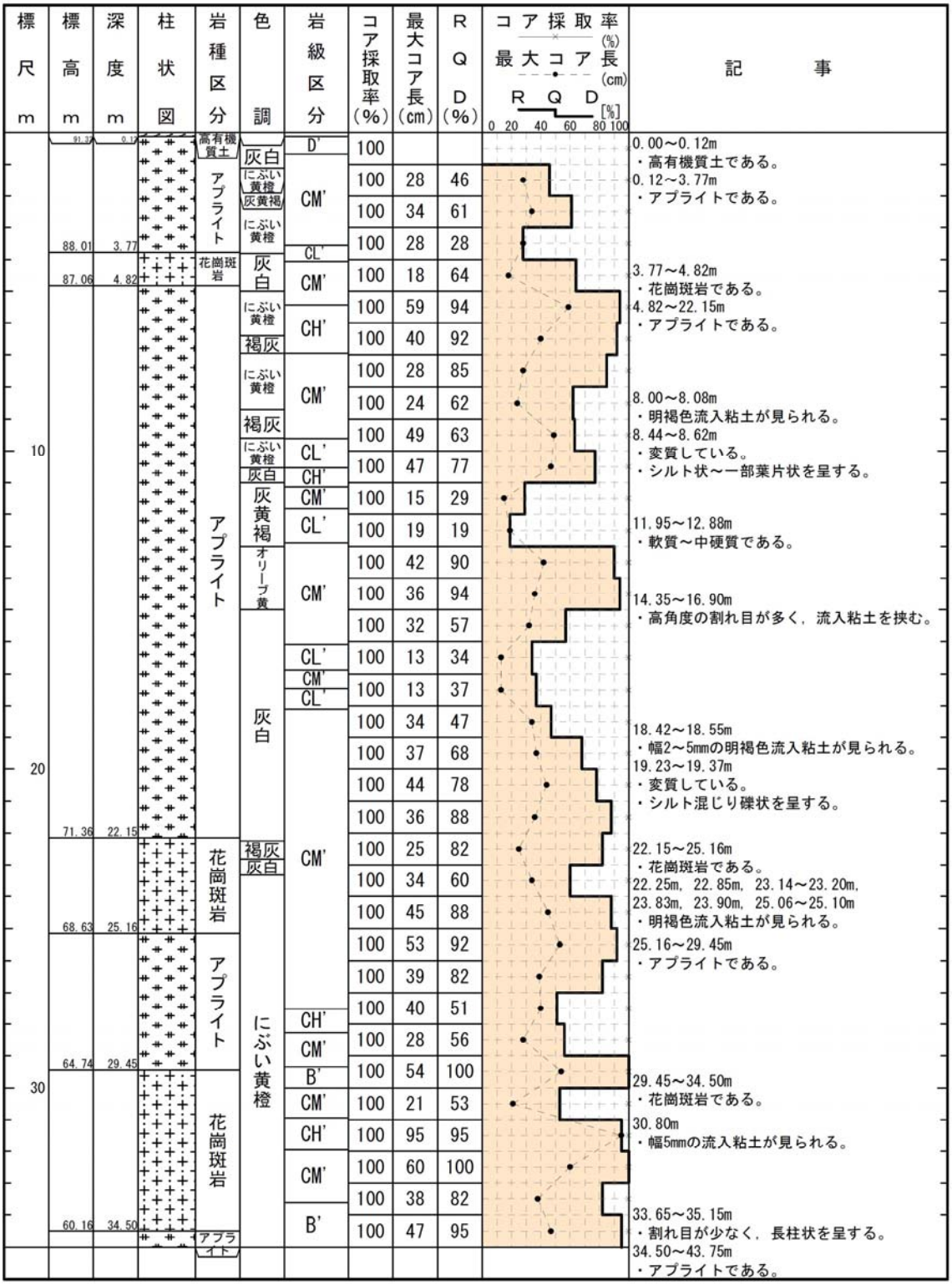
●212.00～212.07m(f-2-10破砕帯)
・破砕部である。
・灰白色の固結礫状部からなる。
・黒色の未固結粘土状部：累計幅3.8cm
・走向・傾斜はN6° W63° Wである。
・上端境界の傾斜は55°，下端境界の傾斜は41°である。
●215.42～215.46m(f-2-11破砕帯)
・破砕部である。
・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は3.0cmである。
・走向・傾斜はN9° W64° Wである。
・下端境界の傾斜は55°である。
●216.15～216.24m(f-2-12破砕帯)
・破砕部である。
・褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN26° E61° Wである。
・上端境界の傾斜は53°，下端境界の傾斜は63°である。
216.70～220.00m
・アプライトである。
・上端境界は不明瞭である。

H19-No.14

柱状図(0.00m～35.00m)

H19-No. 14

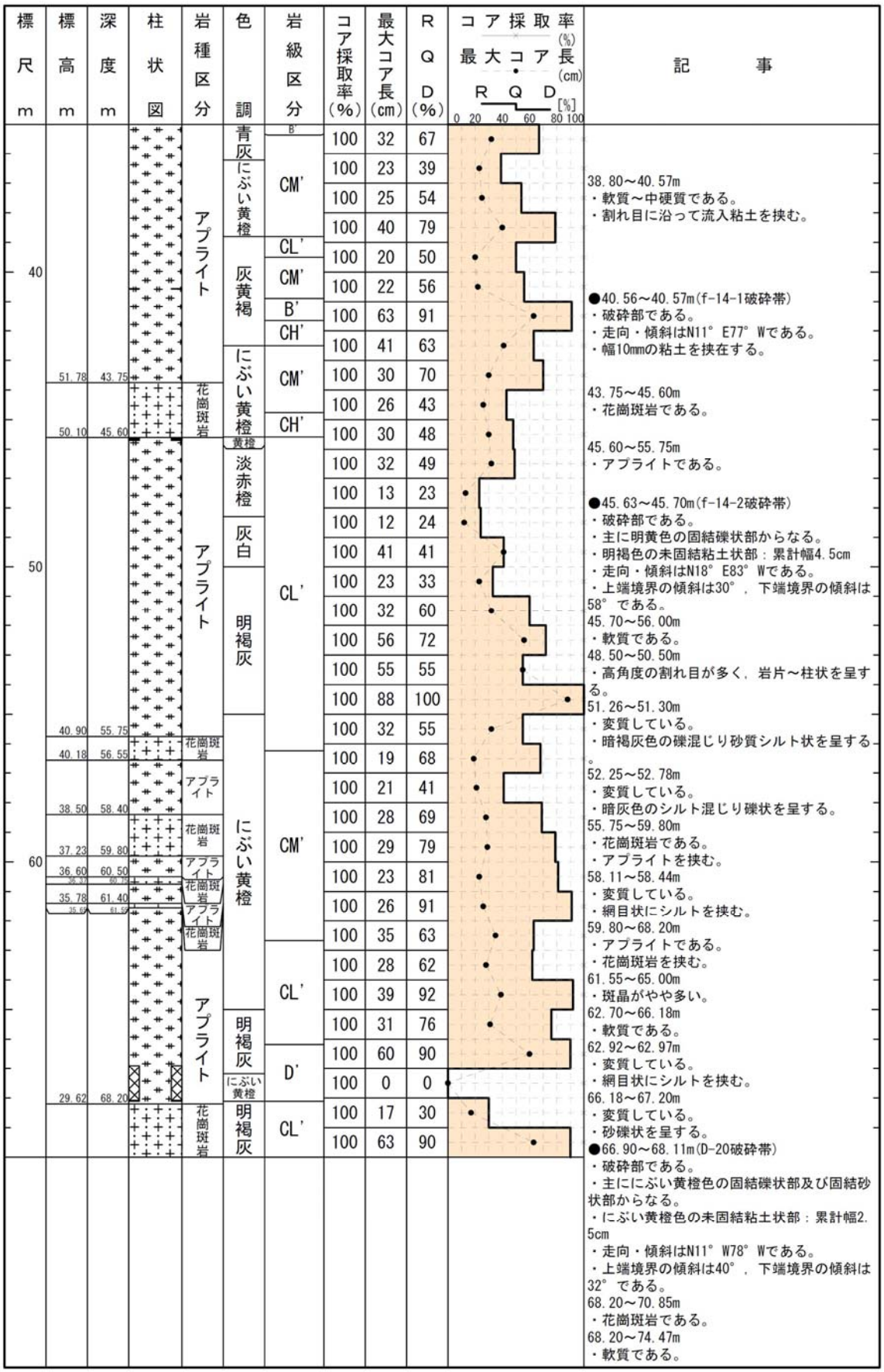
孔口標高	T.P. 91.43m	掘削長	150.00m



標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
	91.37	0.12	高有機質土	灰白	D'	100		
			アプライト	にぶい黄橙	CM'	100	28	46
				灰黄褐		100	34	61
				にぶい黄橙		100	28	28
	88.01	3.77			CL'			
	87.06	4.82	花崗斑岩	灰白	CM'	100	18	64
			アプライト	にぶい黄橙	CH'	100	59	94
						100	40	92
				褐灰				
				にぶい黄橙	CM'	100	28	85
						100	24	62
				褐灰		100	49	63
10				にぶい黄橙	CL'	100	47	77
				灰白	CH'			
				灰黄褐	CM'	100	15	29
					CL'	100	19	19
				オリーブ黄	CM'	100	42	90
						100	36	94
				灰白		100	32	57
					CL'	100	13	34
					CM'	100	13	37
					CL'			
					CM'	100	34	47
						100	37	68
20						100	44	78
						100	36	88
	71.36	22.15		褐灰		100	25	82
			花崗斑岩	灰白		100	34	60
						100	45	88
	68.63	25.16				100	53	92
			アプライト			100	39	82
						100	40	51
					CH'	100	28	56
	64.74	29.45			CM'	100	54	100
30				にぶい黄橙	B'	100	21	53
					CM'	100	95	95
			花崗斑岩		CH'	100	60	100
					CM'	100	38	82
	60.16	34.50			B'	100	47	95
			アプライト					

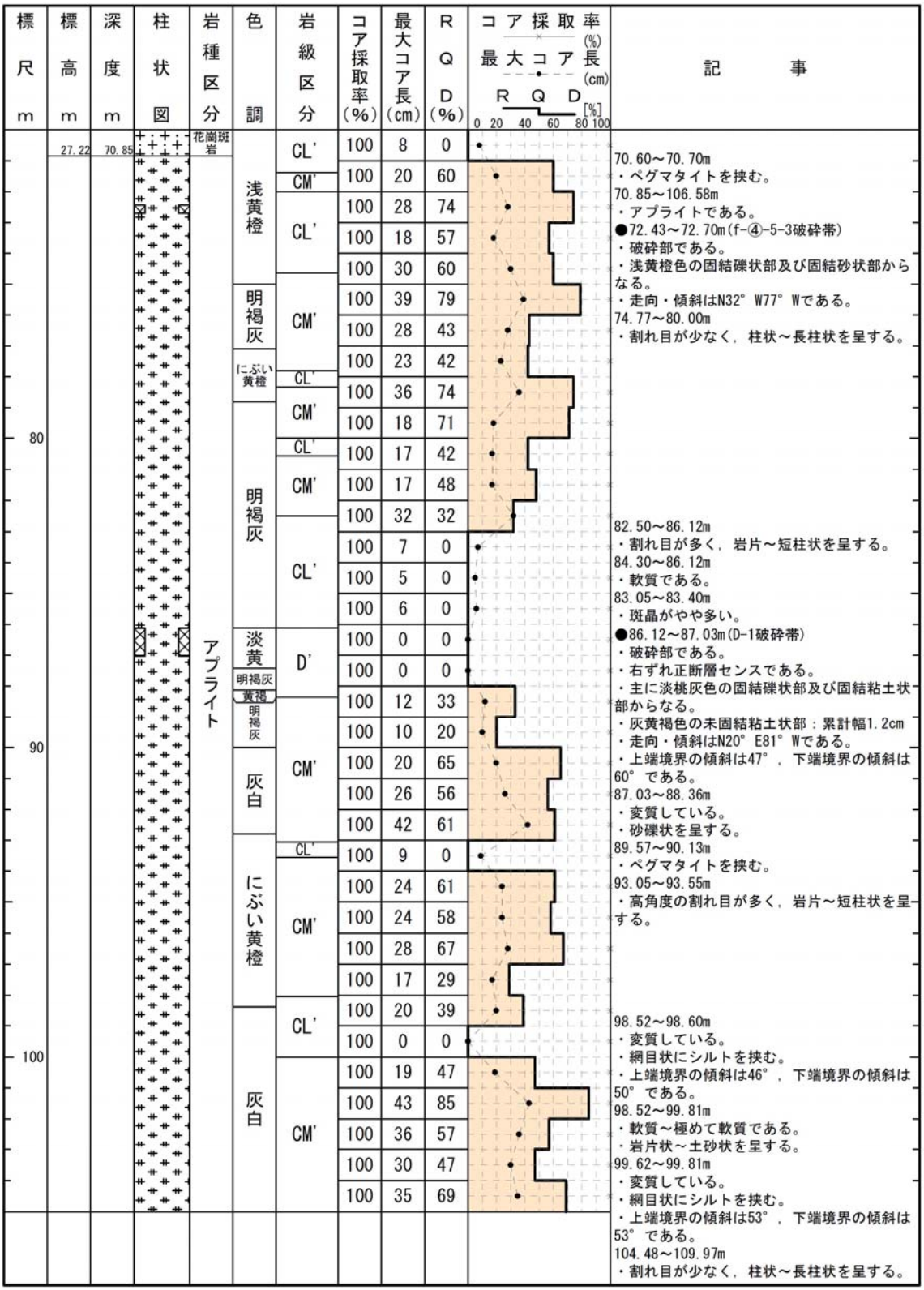
H19-No.14

柱状図(35.00m～70.00m)



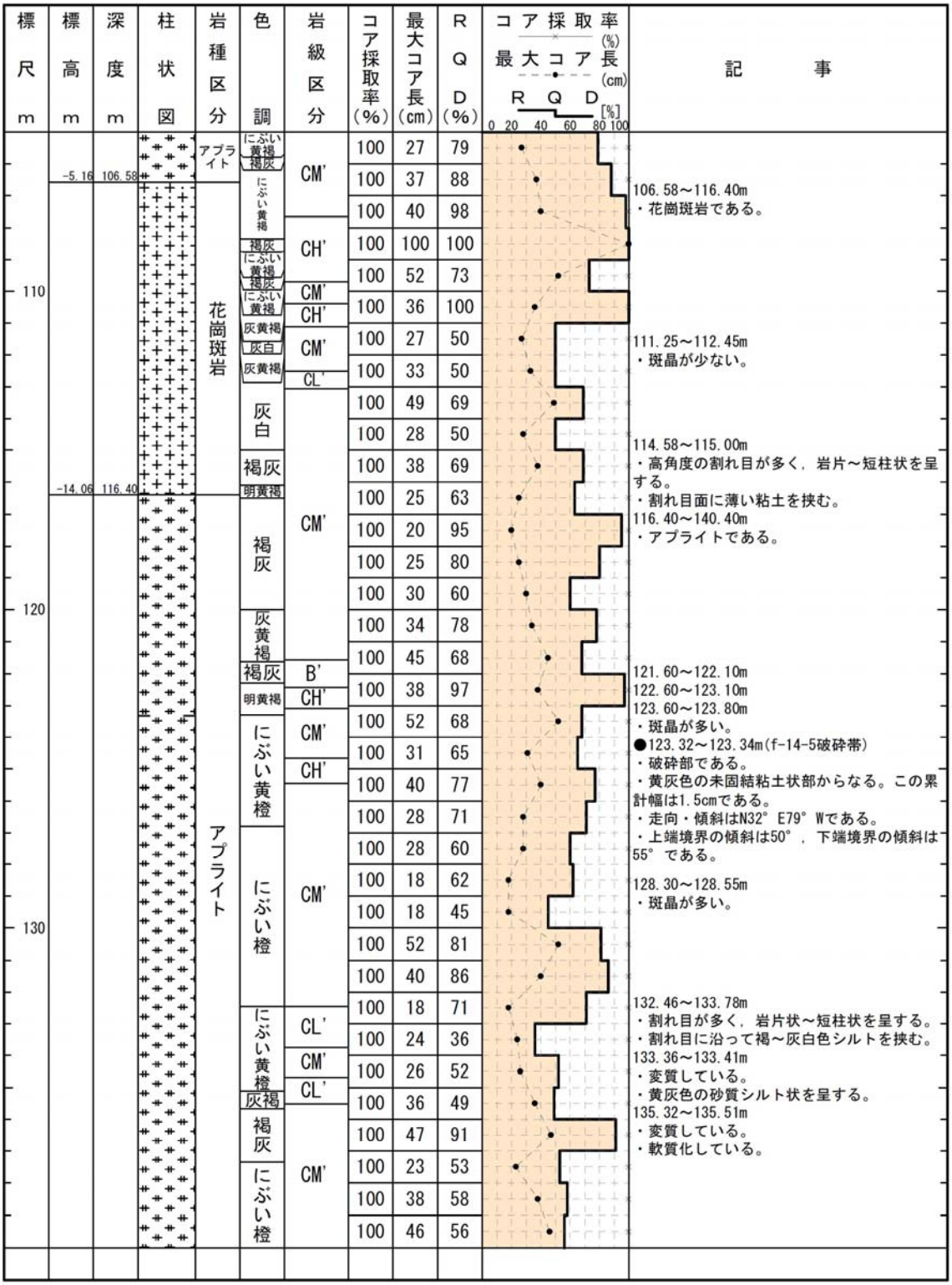
H19-No.14

柱状図(70.00m～105.00m)



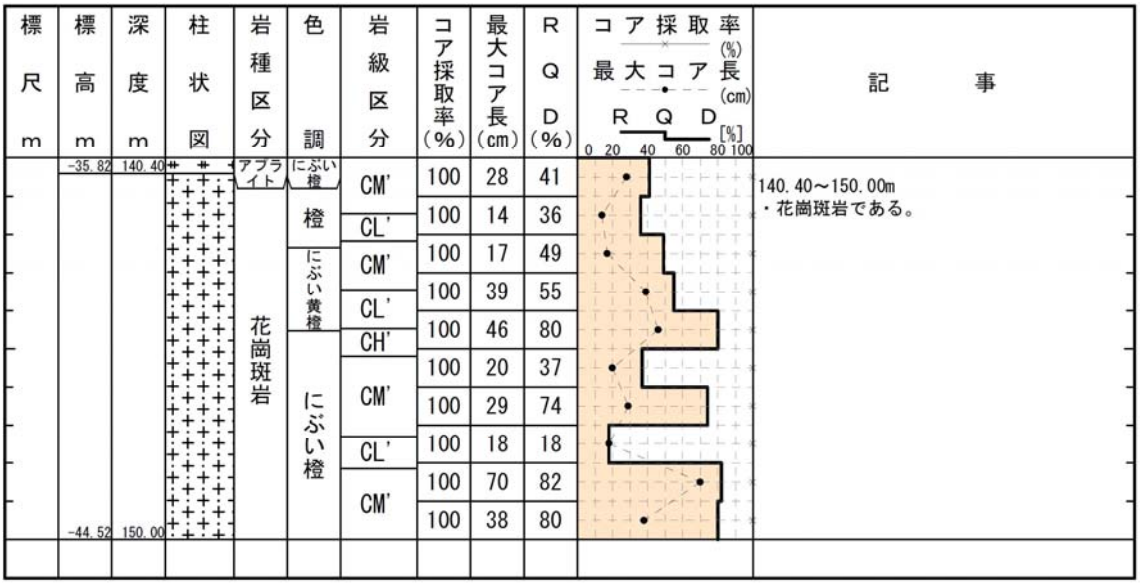
H19-No.14

柱状図(105.00m～140.00m)



H19-No.14

柱状図(140.00m～150.00m)

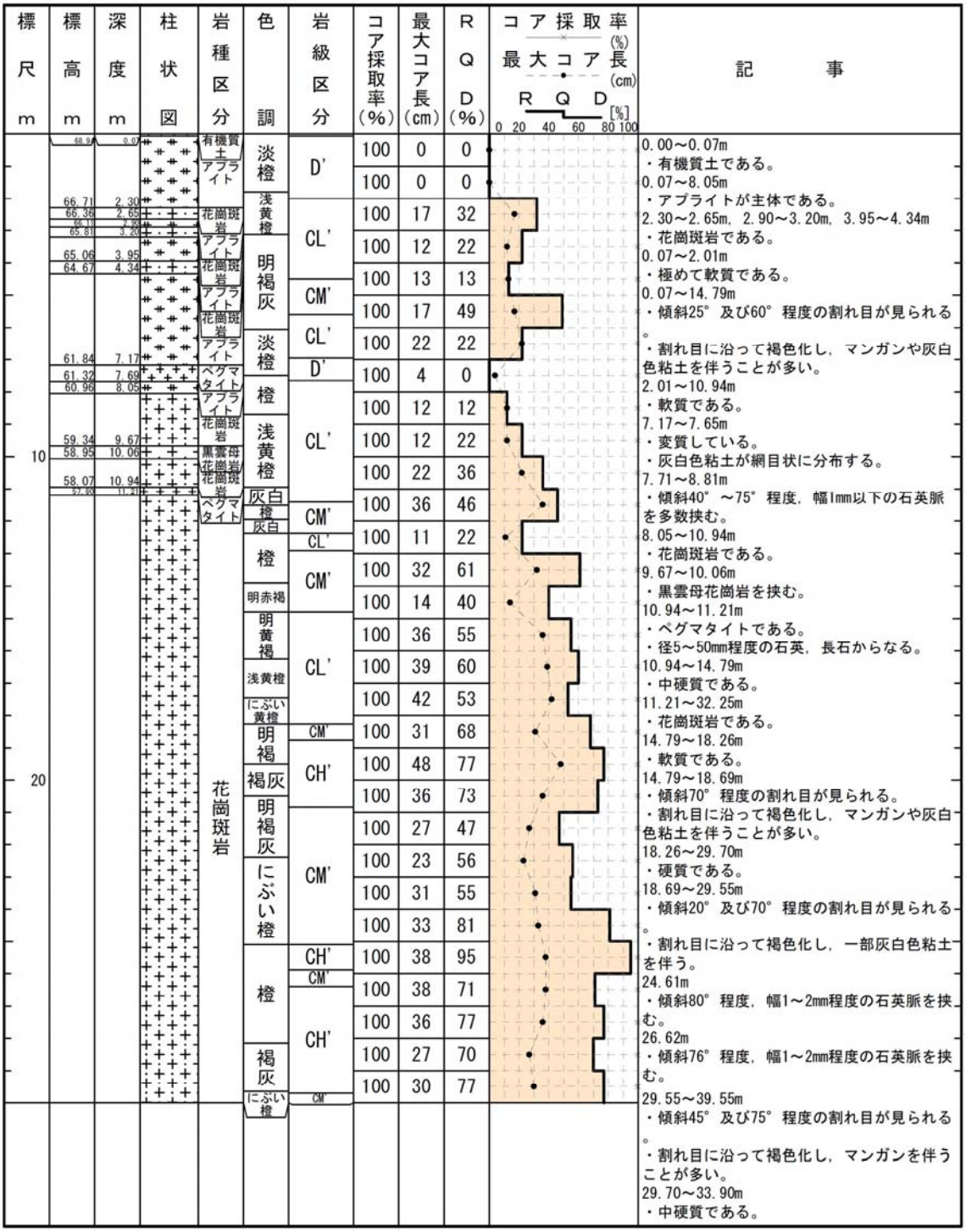


H20-②-1

柱状図(0.00m～30.00m)

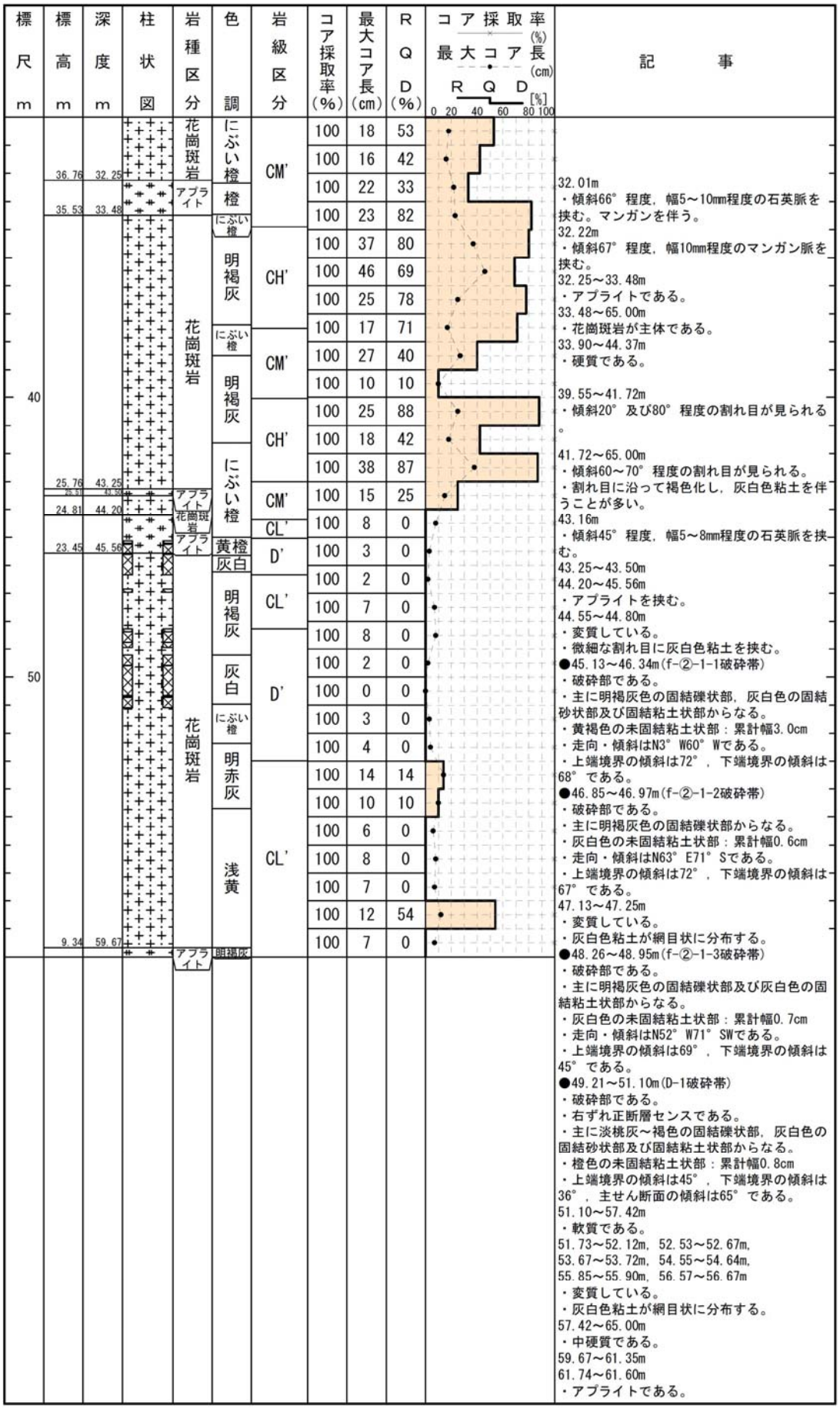
H20-②-1

孔口標高	T.P. 69.01m	掘削長	65.00m



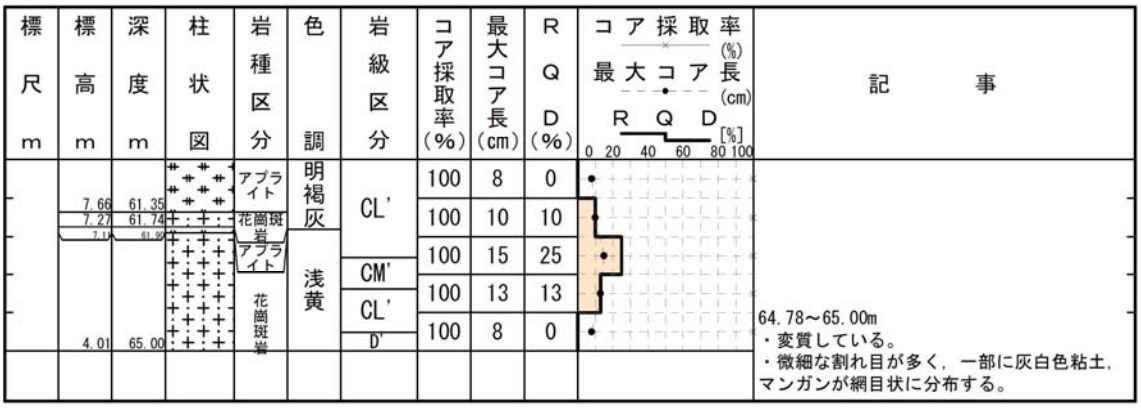
H20-②-1

柱状図(30.00m～60.00m)



H20-②-1

柱状図(60.00m～65.00m)

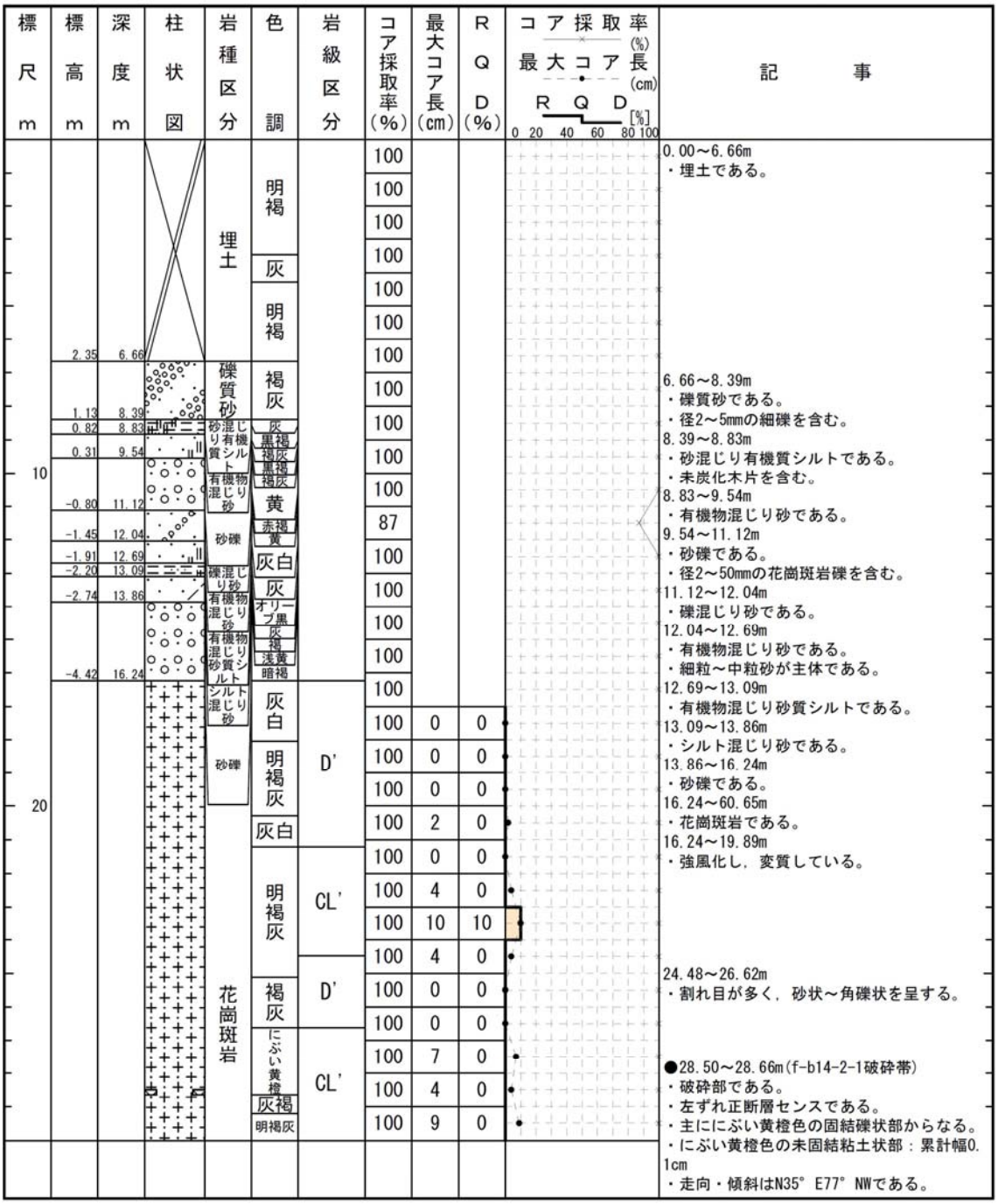


H24-B14-2

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B14-2

孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	150.00m



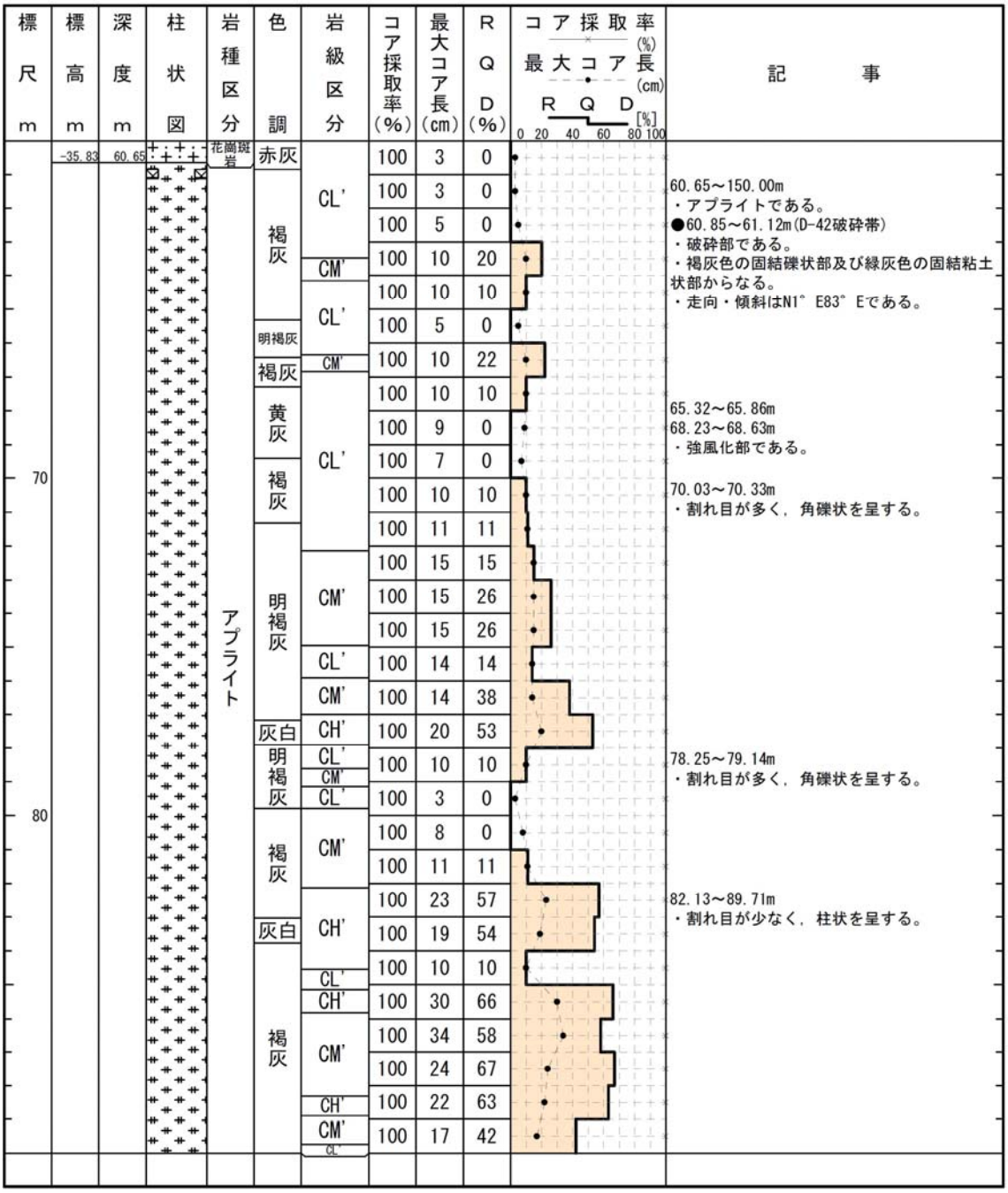
H24-B14-2

柱状図(30.00m～60.00m)



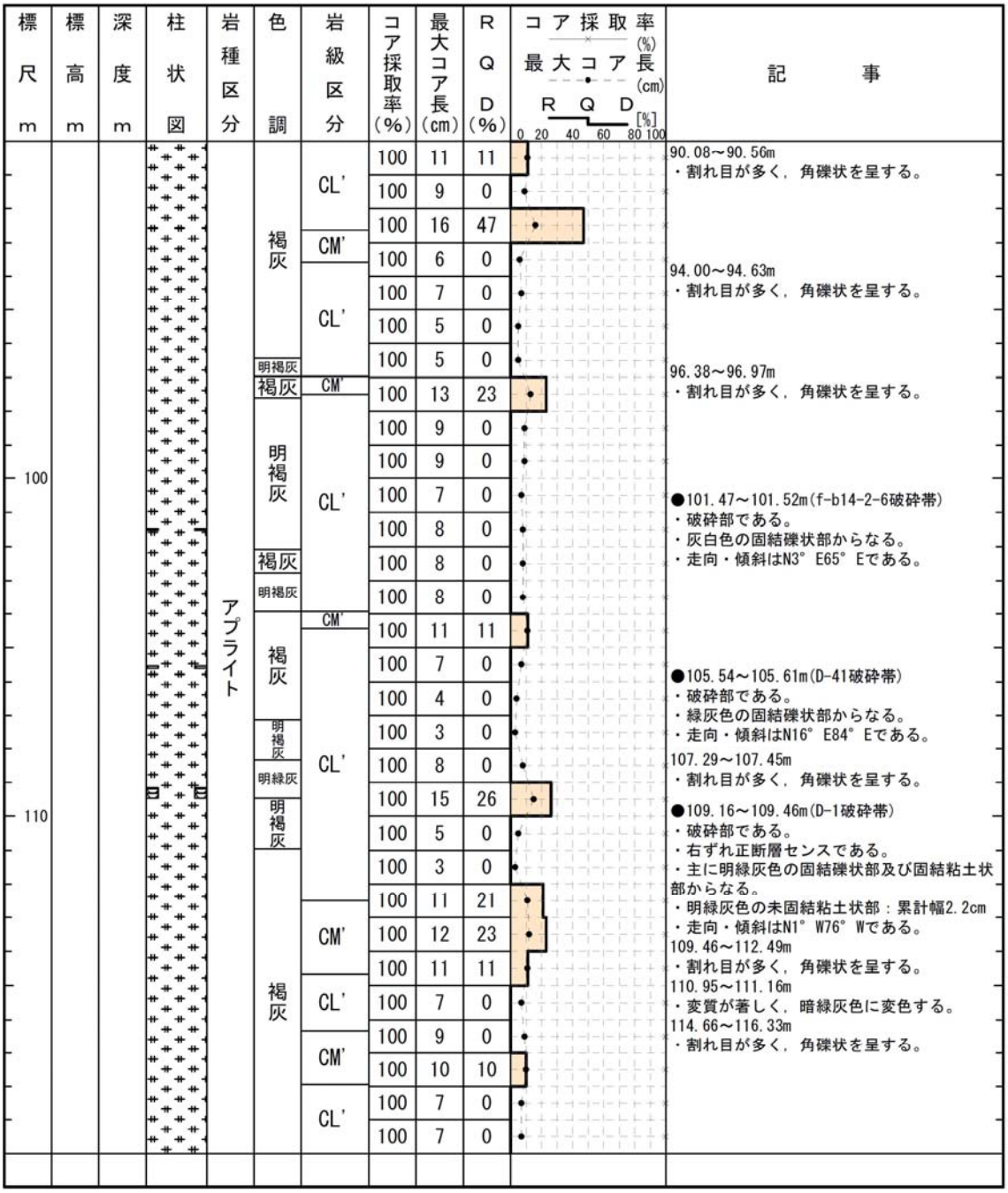
H24-B14-2

柱状図(60.00m～90.00m)



H24-B14-2

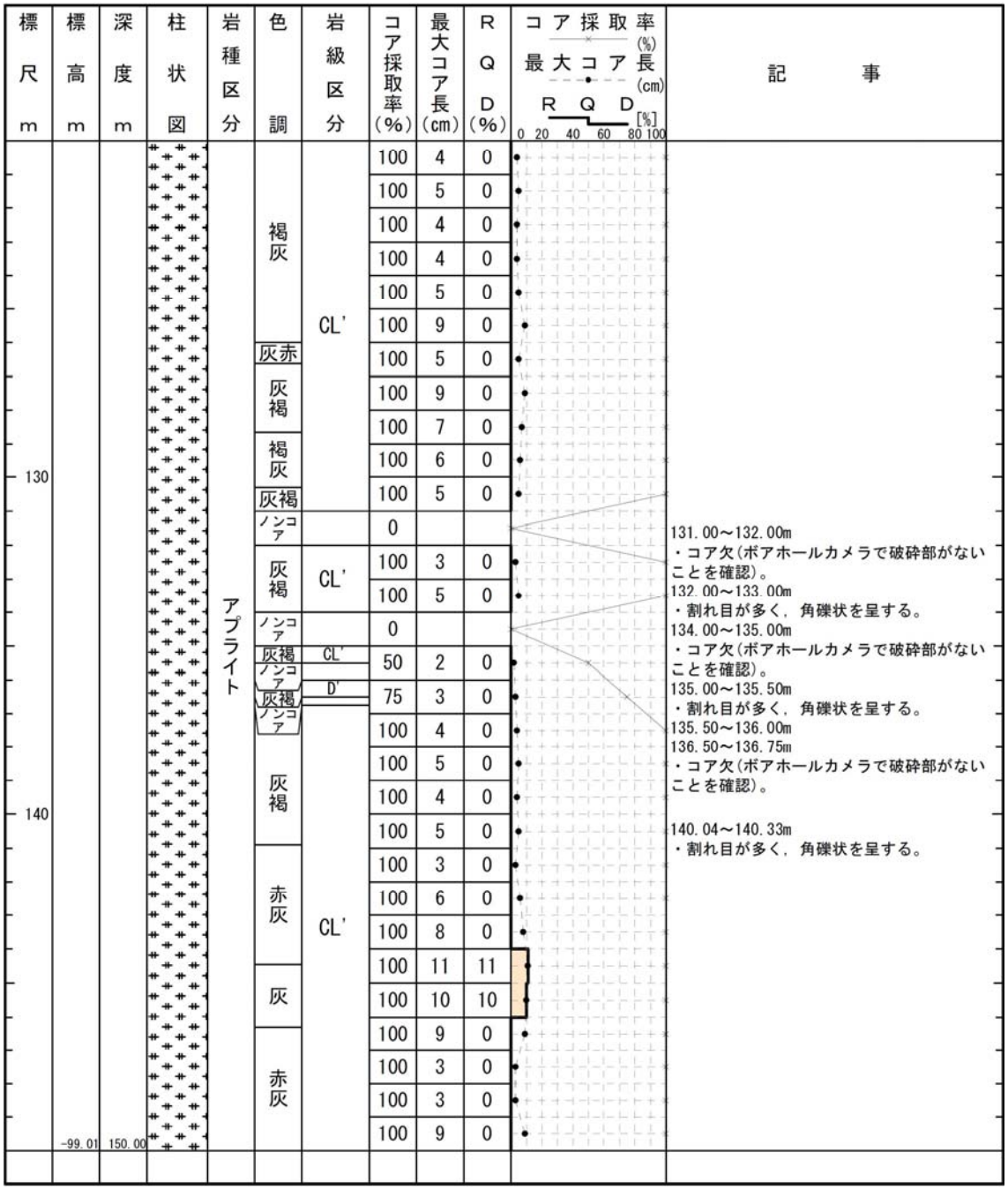
柱状図(90.00m～120.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
				アプライト	褐灰	CL'	100	11	11	90.08～90.56m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	9	0	
						CM'	100	16	47	
							100	6	0	94.00～94.63m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CL'	100	7	0	
							100	5	0	
							100	5	0	
					明褐灰					
					褐灰	CM'	100	13	23	96.38～96.97m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					明褐灰	CL'	100	9	0	
							100	9	0	
100							100	7	0	
							100	8	0	●101.47～101.52m(f-b14-2-6破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN3° E65° Eである。
					褐灰		100	8	0	
					明褐灰		100	8	0	
						CM'	100	11	11	
					褐灰	CL'	100	7	0	
							100	4	0	●105.54～105.61m(D-41破砕帯) ・破砕部である。 ・緑灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN16° E84° Eである。
					明褐灰		100	3	0	
					明緑灰		100	8	0	107.29～107.45m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					明褐灰		100	15	26	●109.16～109.46m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に明緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・明緑灰色の未固結粘土状部：累計幅2.2cm ・走向・傾斜はN1° W76° Wである。
110							100	5	0	
							100	3	0	
					褐灰		100	11	21	109.46～112.49m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	12	23	
							100	11	11	
						CL'	100	7	0	110.95～111.16m ・変質が著しく，暗緑灰色に変色する。
							100	9	0	114.66～116.33m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	10	10	
						CL'	100	7	0	
							100	7	0	

H24-B14-2

柱状図(120.00m～150.00m)

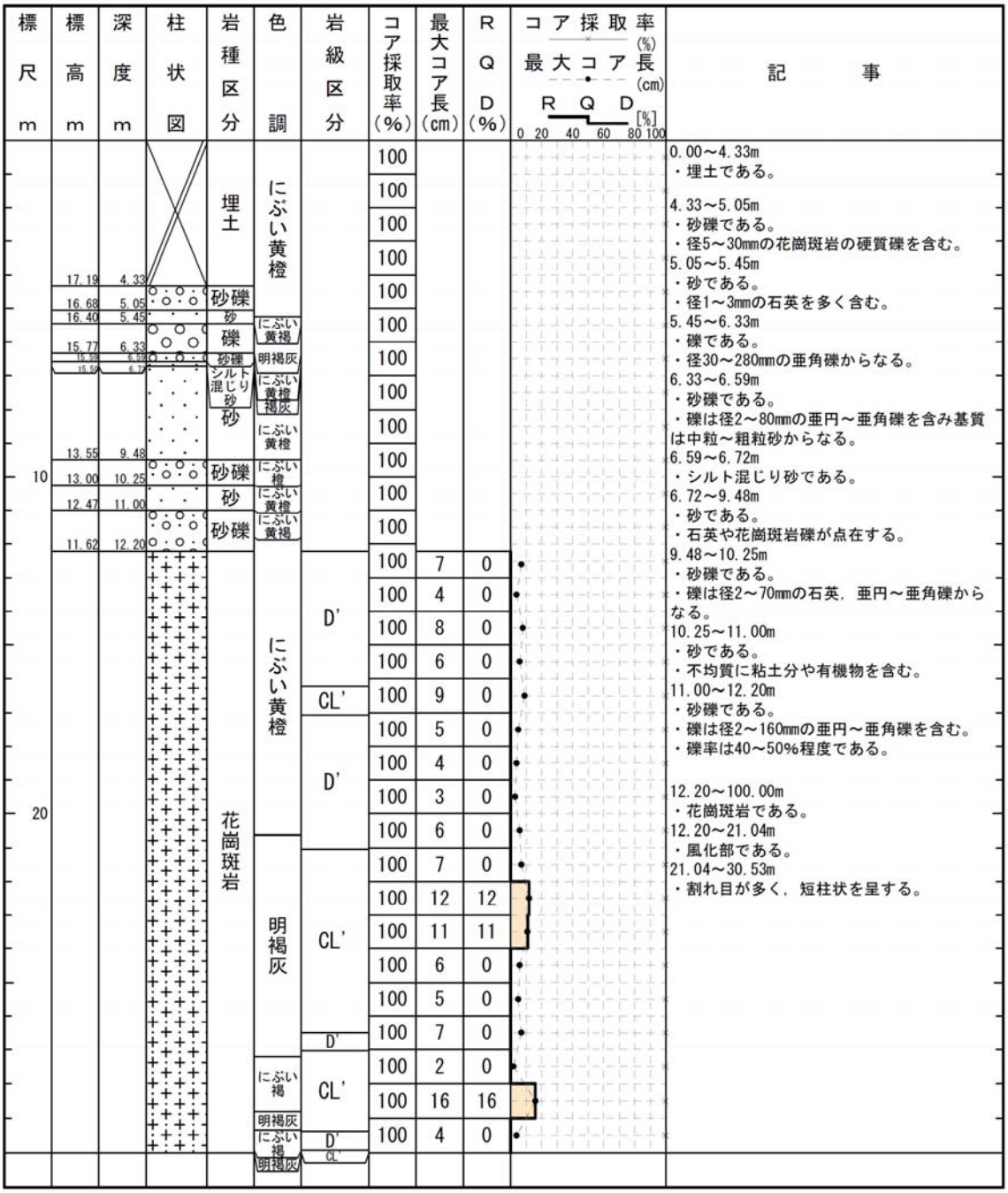


H24-D1-1

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-1

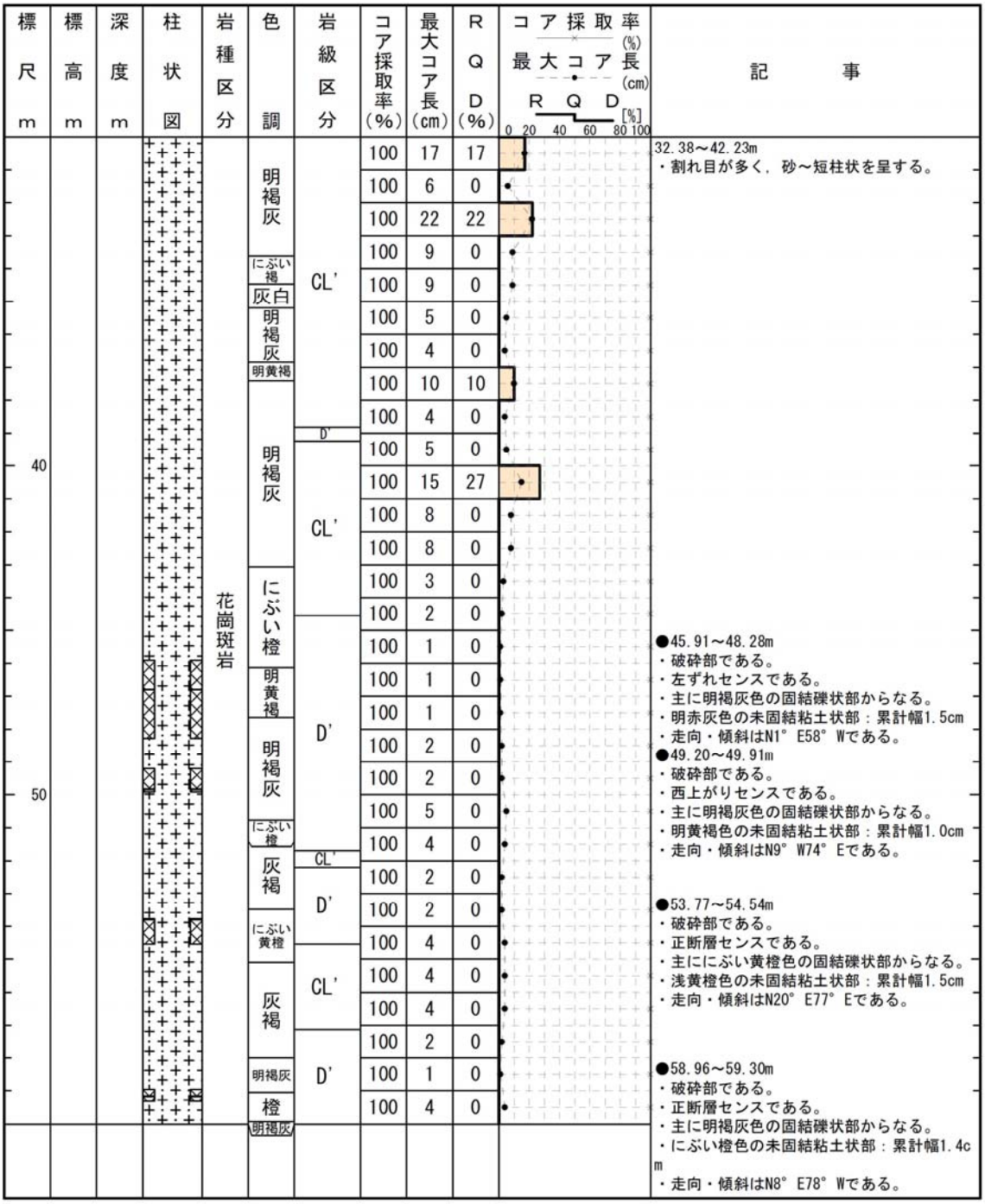
孔口標高	T.P. 20.25m	掘削長	100.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	7	0
100	4	0
100	8	0
100	6	0
100	9	0
100	5	0
100	4	0
100	3	0
100	6	0
100	7	0
100	12	12
100	11	11
100	6	0
100	5	0
100	7	0
100	2	0
100	16	16
100	4	0

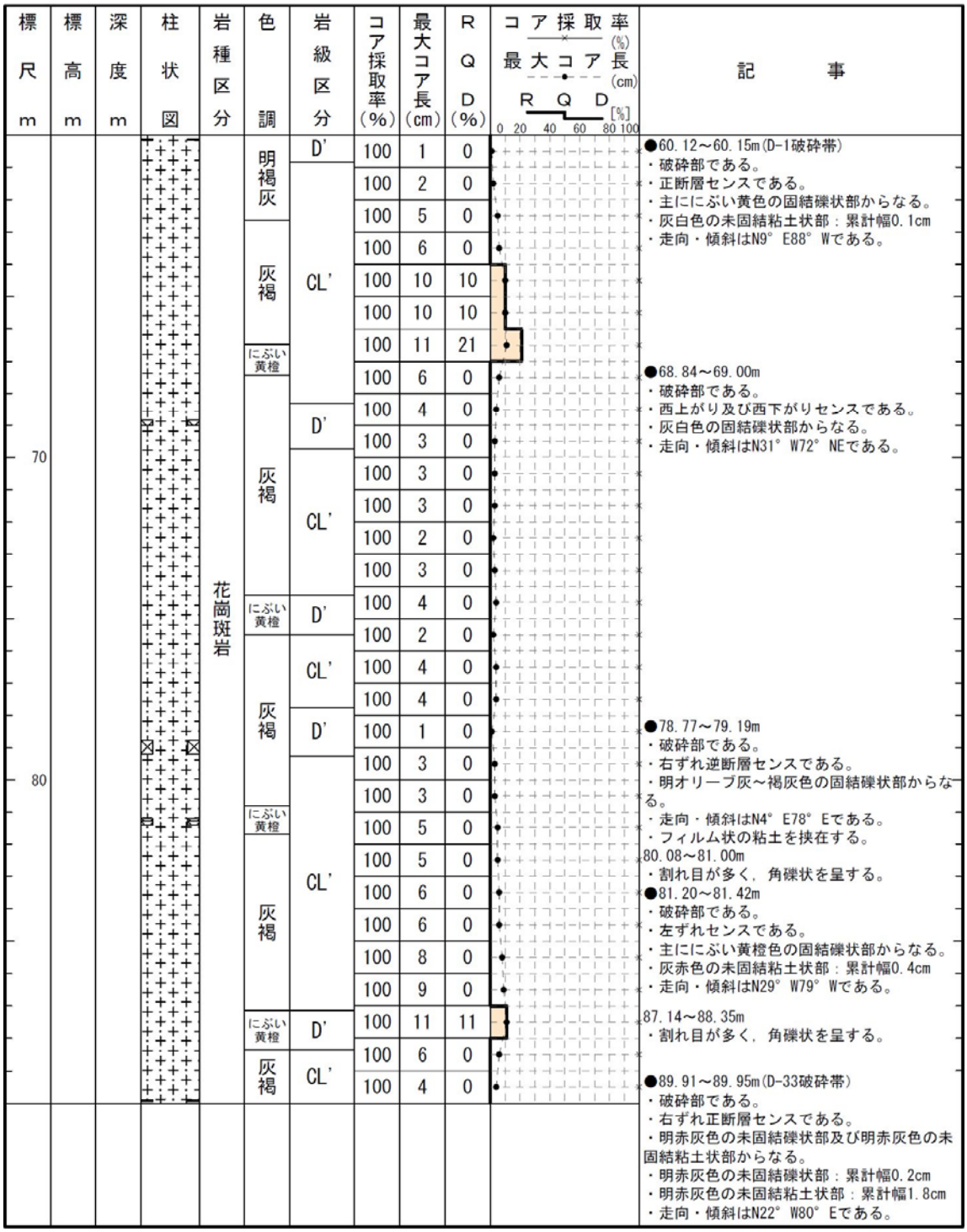
H24-D1-1

柱状図(30.00m～60.00m)



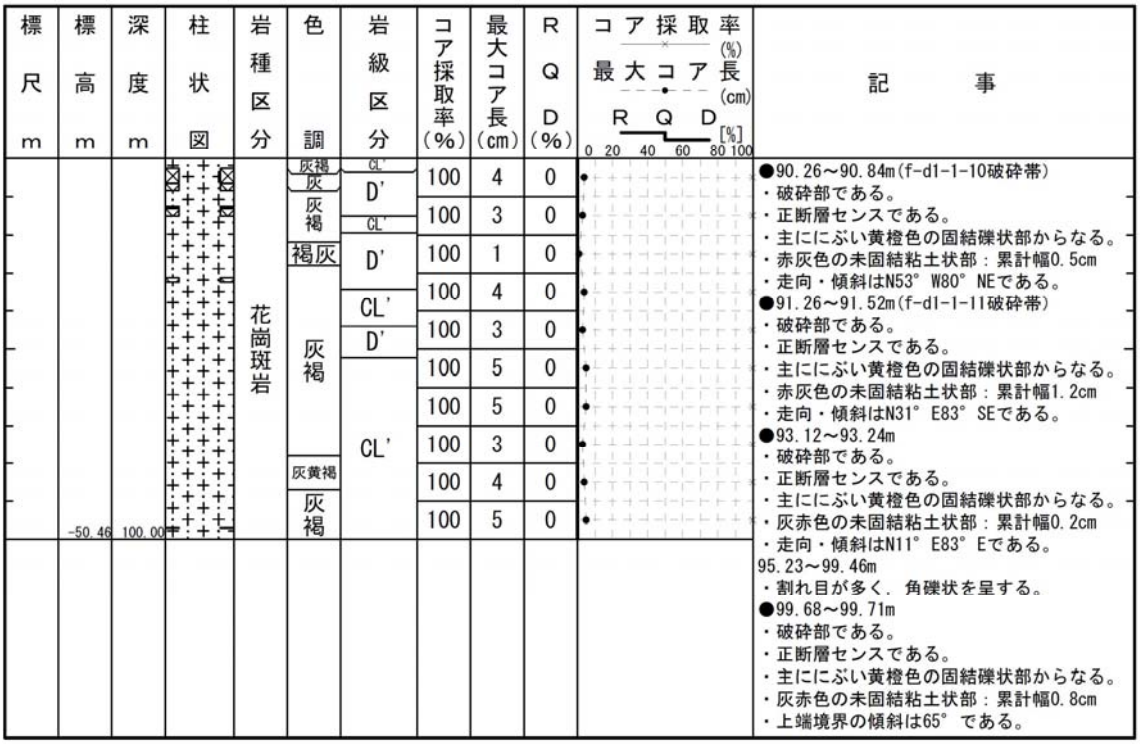
H24-D1-1

柱状図(60.00m～90.00m)



H24-D1-1

柱状図(90.00m～100.00m)



H27-B-1

柱状図(0.00m～30.00m)

H27-B-1

孔口標高	T.P. 20.22m	掘削長	140.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	1	0
100	1	0
100	1	0
100	11	11
100	2	0
100	8	0
100	10	10
100	4	0
100	14	14
100	7	0
100	14	14
100	3	0
100	5	0
100	9	0
100	6	0
100	9	0
100	5	0
100	3	0

H27-B-1

柱状図(30.00m～60.00m)



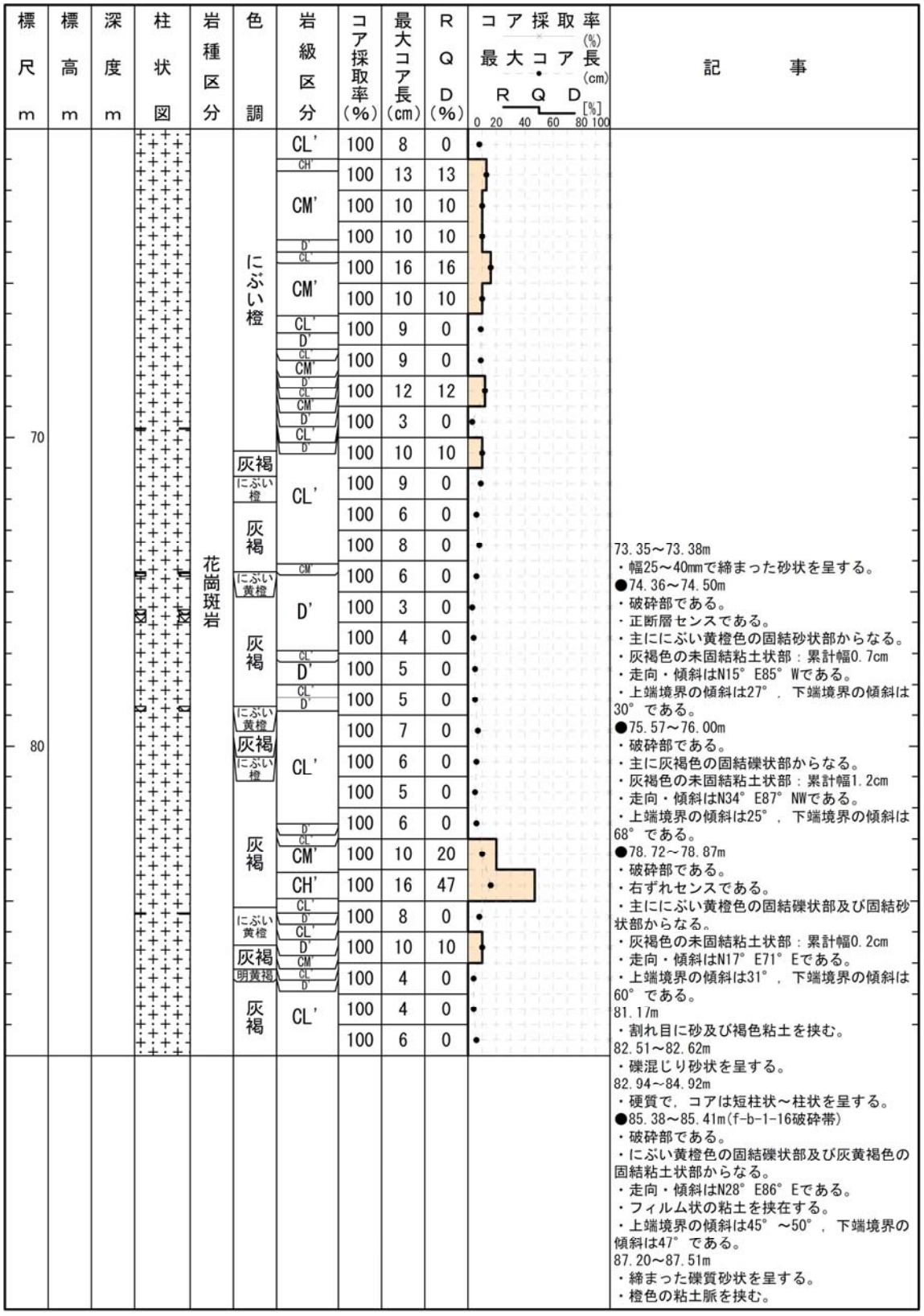
H27-B-1

柱状図(30.00m～60.00m)


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD[%]
0 20 40 60 80 100
記事
花崗斑岩
明褐灰
黄褐
にぶい黄橙
明褐灰
にぶい黄橙
明褐灰
にぶい橙
にぶい黄橙
にぶい橙
灰褐
灰白
灰褐
にぶい橙
淡黄
にぶい褐
黄褐
にぶい黄橙
にぶい橙
灰褐
にぶい褐
にぶい橙
D'
CL'
D'
CL'
D'
CL'

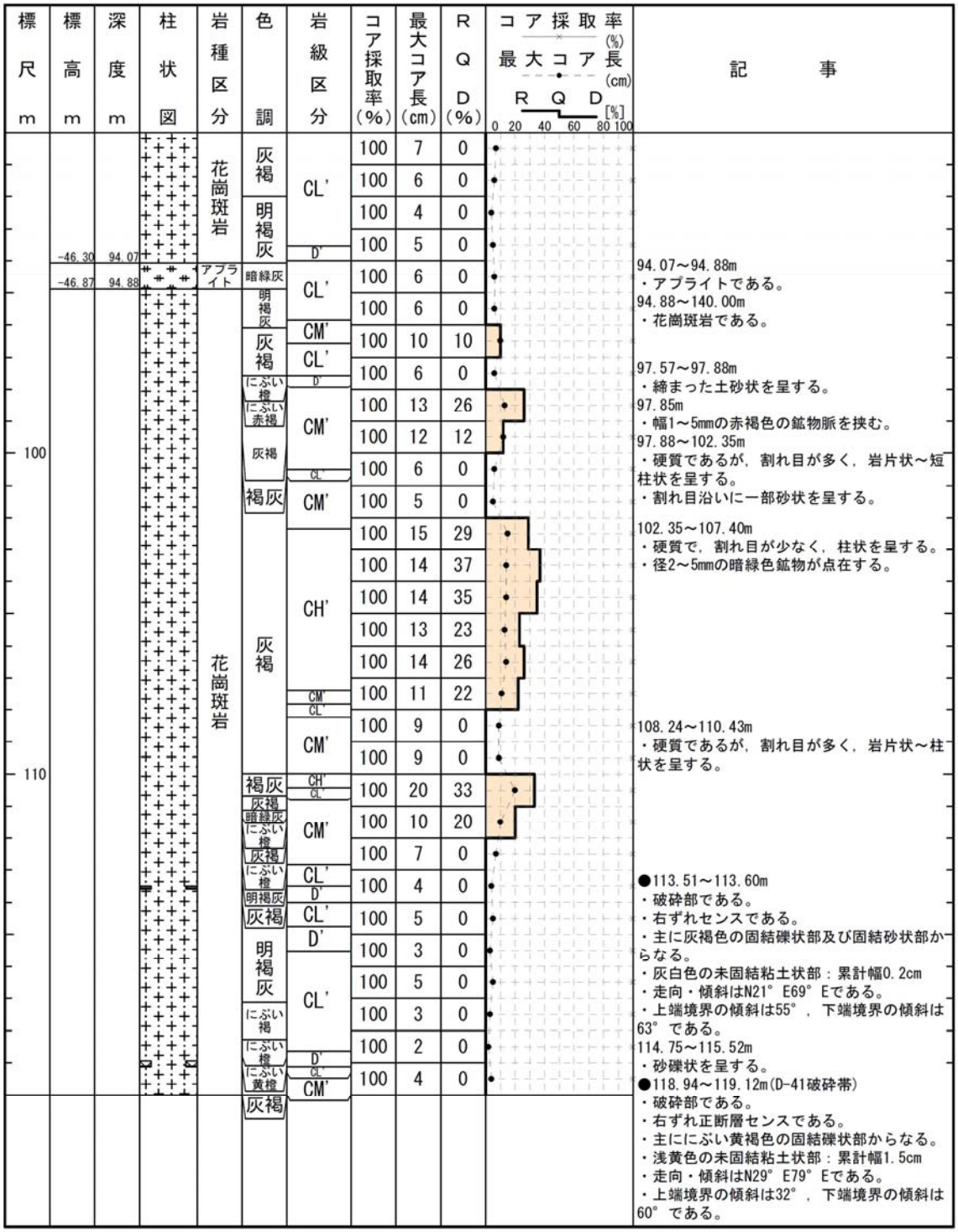
H27-B-1

柱状図(60.00m～90.00m)


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%]
0 20 40 60 80 100
記事
70
80
花崗斑岩
にぶい橙
灰褐
にぶい黄橙
明黄褐
CL' CH' CM' D' CL' CM' D' CL' CM' D' CL' CM' D' CL' D' CL' D' CL

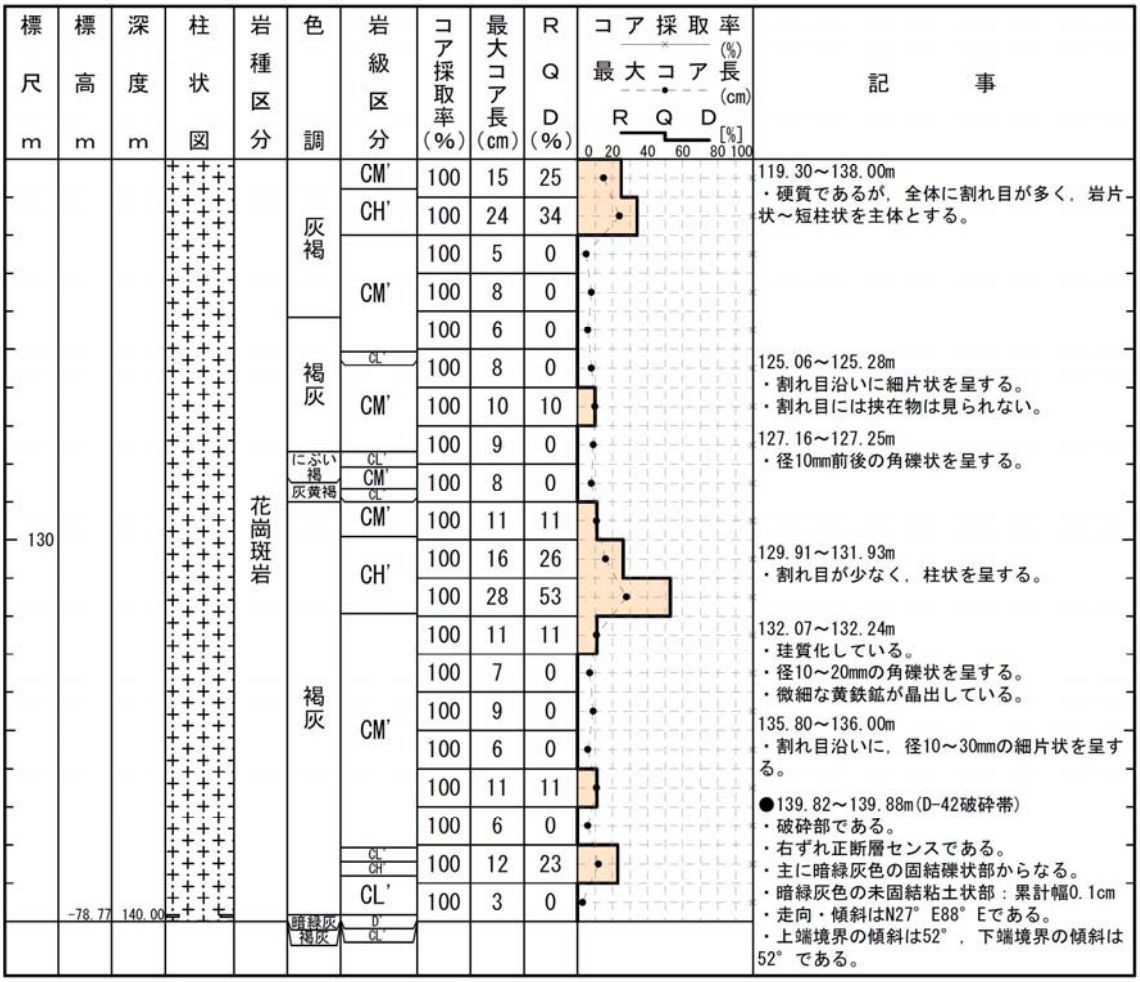
H27-B-1

柱状図(90.00m～120.00m)



H27-B-1

柱状図(120.00m～140.00m)

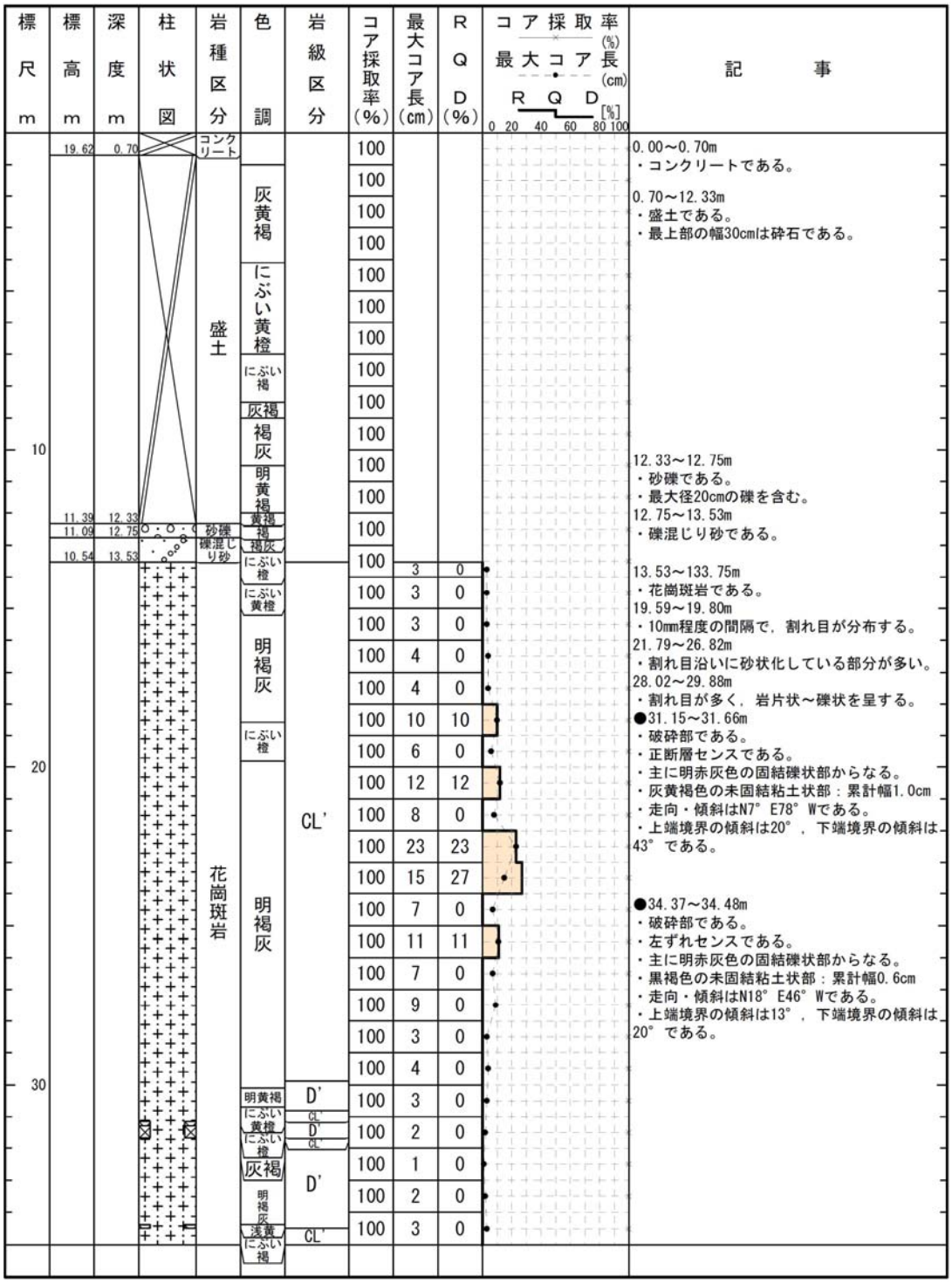


H27-B-2

柱状図(0.00m～35.00m)

H27-B-2

孔口標高	T.P. 20.11m	掘削長	160.00m



H27-B-2

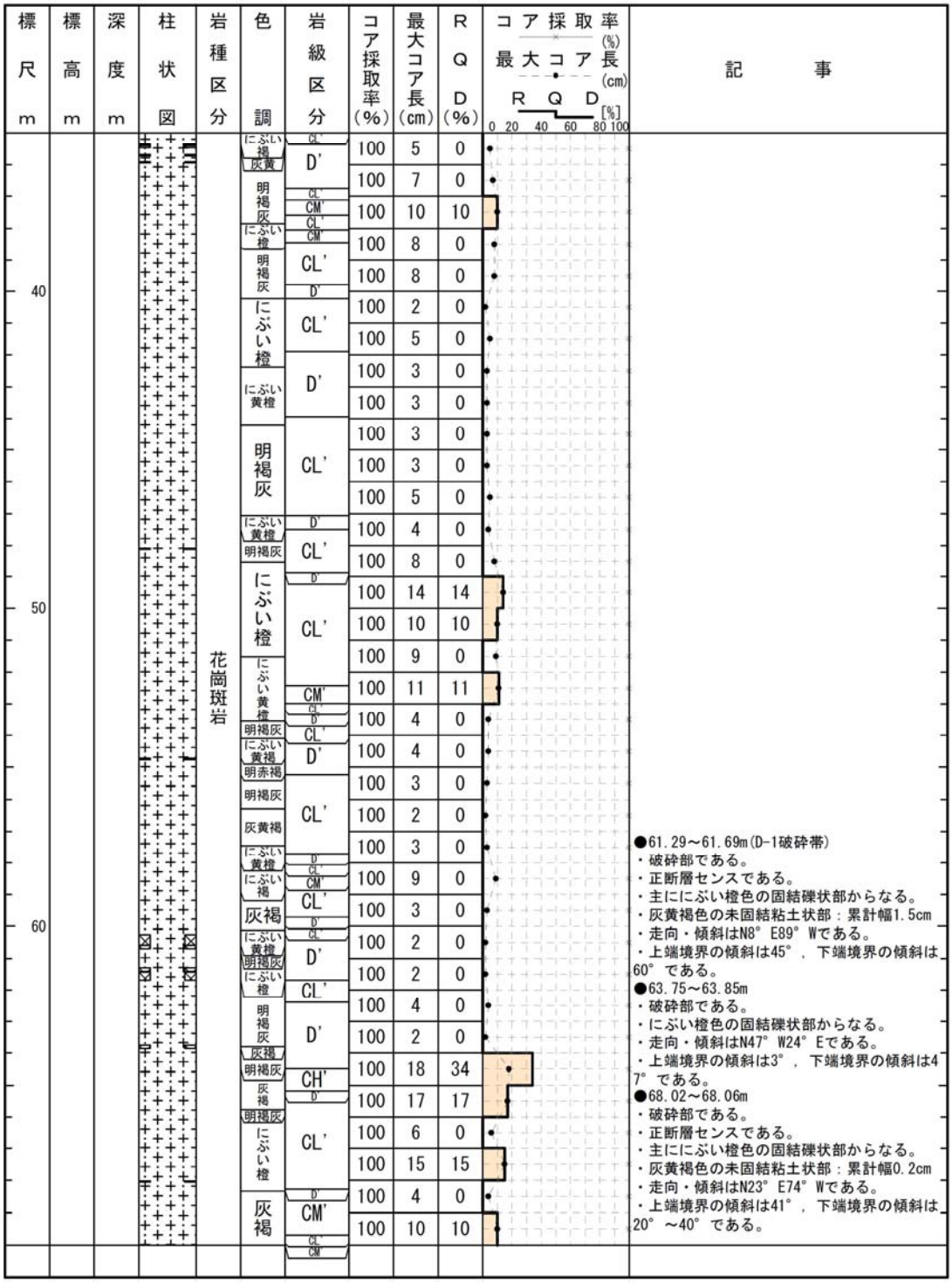
柱状図(35.00m～70.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	にぶい褐 灰黄	CL' D'	100	5	0		●35.36～35.46m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN69° E79° Nである。 ・上端境界の傾斜は47°，下端境界の傾斜は20°～35°である。
							100	7	0		
					明褐灰	CL' CM'	100	10	10		
					にぶい橙	CL' CM'	100	8	0		
					明褐灰	CL' D'	100	8	0		
40					にぶい橙	CL'	100	2	0		●35.68～35.73m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN7° W52° Wである。 ・上端境界の傾斜は27°，下端境界の傾斜は12°である。
							100	5	0		
					にぶい橙 にぶい黄橙	D'	100	3	0		
							100	3	0		
					明褐灰	CL'	100	3	0		●35.92～35.95m ・破砕部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・灰白色の固結礫状部，固結砂状部及び灰オリーブ色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° E86° Eである。 ・上端境界の傾斜は35°，下端境界の傾斜は45°である。
							100	3	0		
							100	5	0		
					にぶい黄橙 明褐灰	D' CL'	100	4	0		
						D'	100	8	0		
50					にぶい橙	CL'	100	14	14		41.90～43.94m ・砂状～砂礫状を呈する。
							100	10	10		47.06～47.50m ・角礫状を呈する。
							100	9	0		●48.08～48.12m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黒褐色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm。 ・走向・傾斜はN38° W15° NEである。 ・上端境界の傾斜は56°，下端境界の傾斜は53°である。
					にぶい黄橙	CM'	100	11	11		
					明褐灰	CL' D' CL'	100	4	0		
					にぶい黄褐	D'	100	4	0		
					明赤褐 明褐灰	CL'	100	3	0		
					灰黄褐		100	2	0		51.51～52.42m ・割れ目沿いに砂状化し，一部砂礫状を呈する。
					にぶい黄橙	D' CL'	100	3	0		
					にぶい褐	CM'	100	9	0		●54.72～54.77m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN8° W79° Wである。 ・上端境界の傾斜は48°，下端境界の傾斜は39°である。
60					灰褐	CL' D'	100	3	0		
					にぶい黄橙	CL'	100	2	0		
					明褐灰 にぶい橙	D' CL'	100	2	0		
					明褐灰	D'	100	4	0		57.70～57.99m ・締まった砂状を呈する。
					灰褐		100	2	0		59.71～60.00m ・砂状～砂礫状を呈する。
					明褐灰	CH'	100	18	34		●60.26～60.69m ・破砕部である。 ・逆断層センスである。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部，固結砂状部及び明褐灰色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN18° E77° Wである。 ・上端境界の傾斜は28°，下端境界の傾斜は27°である。
					灰褐	D'	100	17	17		
					明褐灰 にぶい橙	CL'	100	6	0		
							100	15	15		
						D'	100	4	0		
					灰褐	CM'	100	10	10		
						CL' CM'					

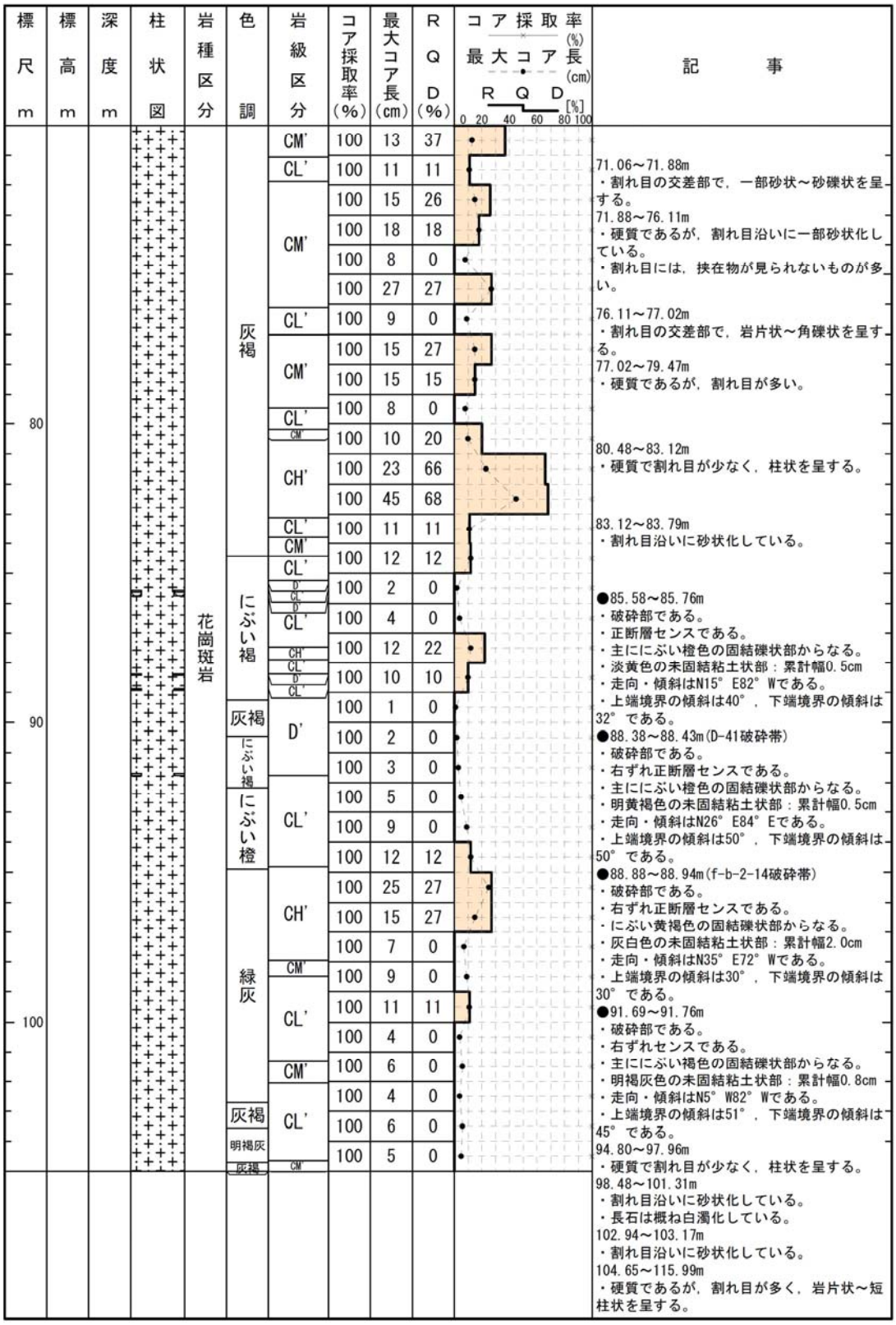
H27-B-2

柱状図(35.00m～70.00m)



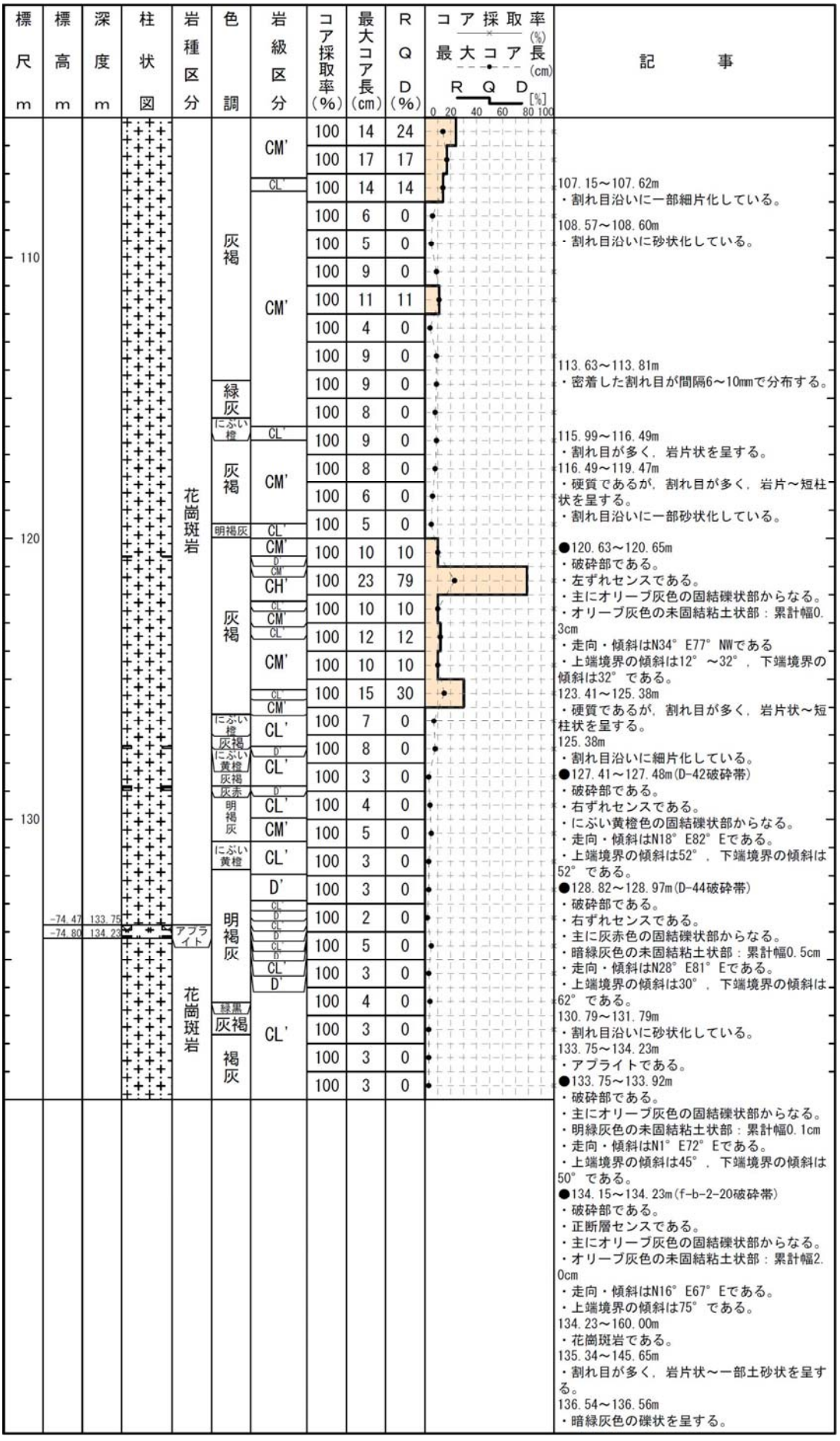
H27-B-2

柱状図(70.00m～105.00m)



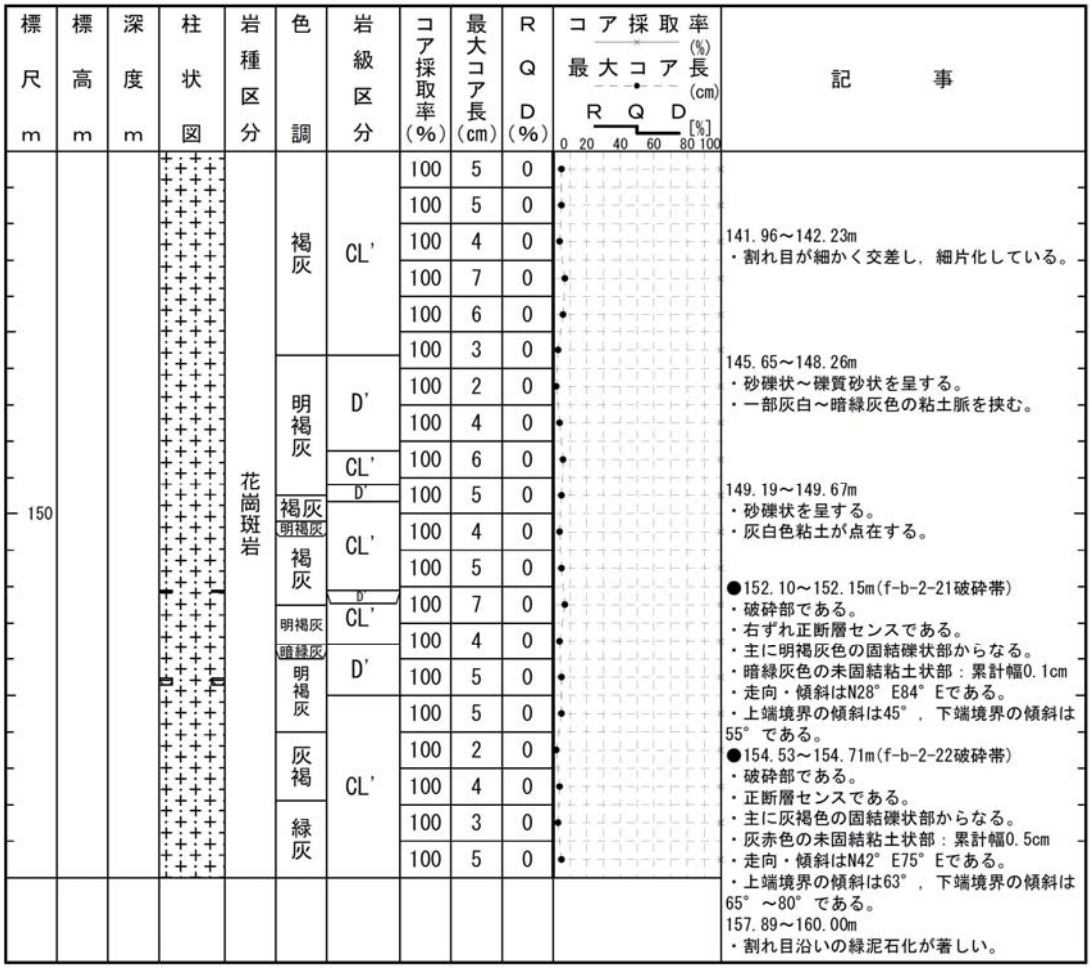
H27-B-2

柱状図(105.00m～140.00m)



H27-B-2

柱状図(140.00m～160.00m)

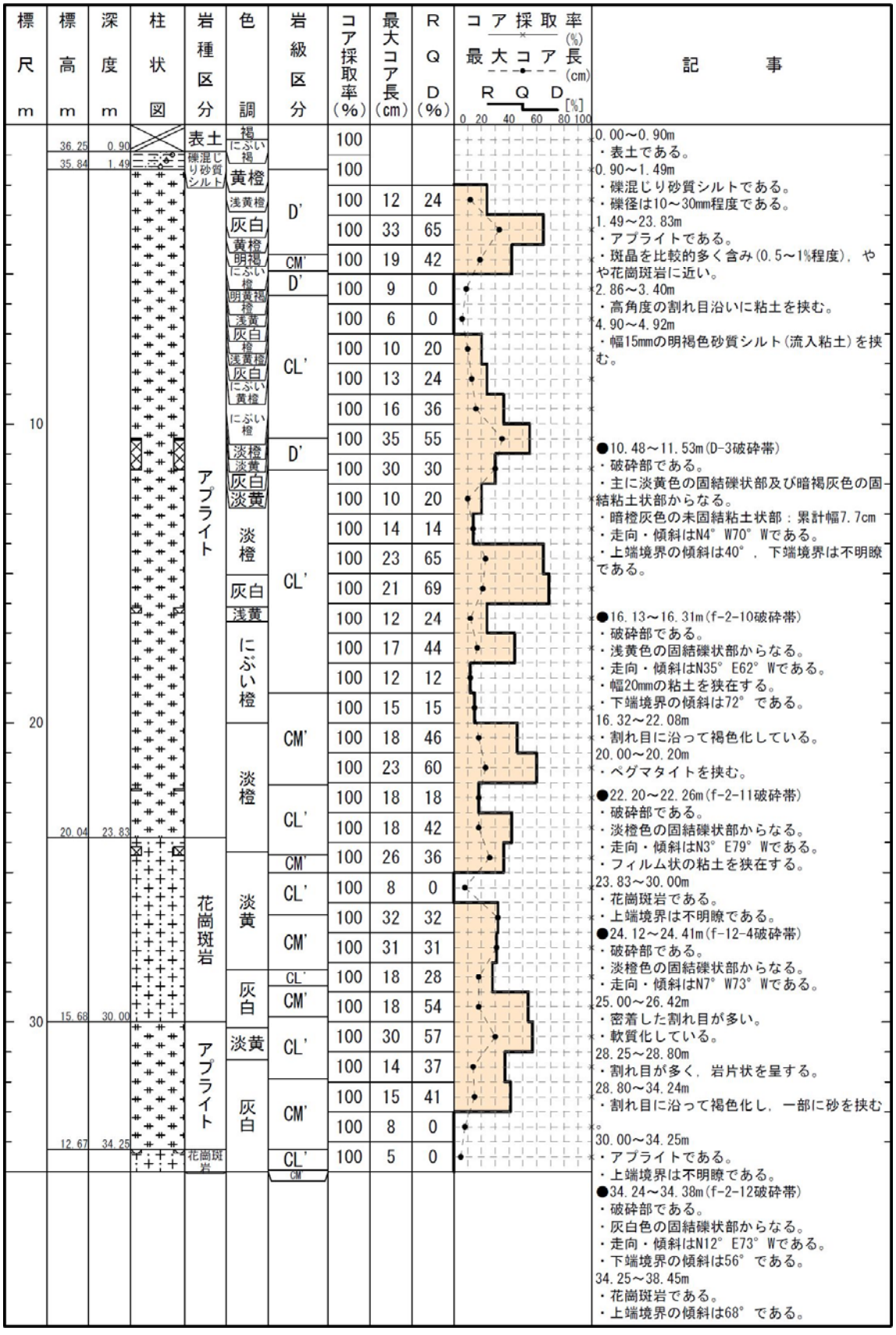


H19-No.4

柱状図(0.00m～35.00m)

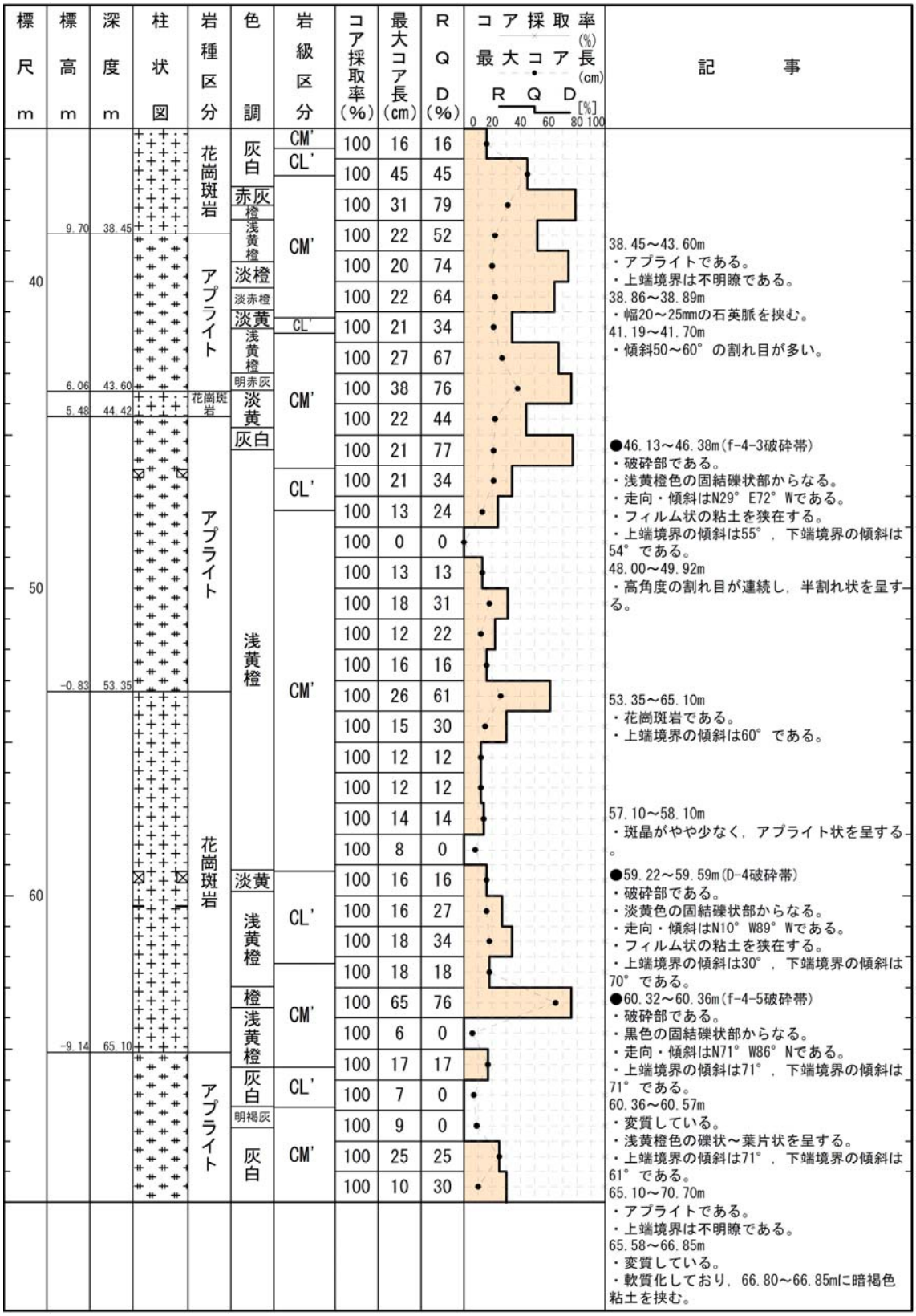
H19-No. 4

孔口標高	T.P. 36.89m	掘削長	250.00m



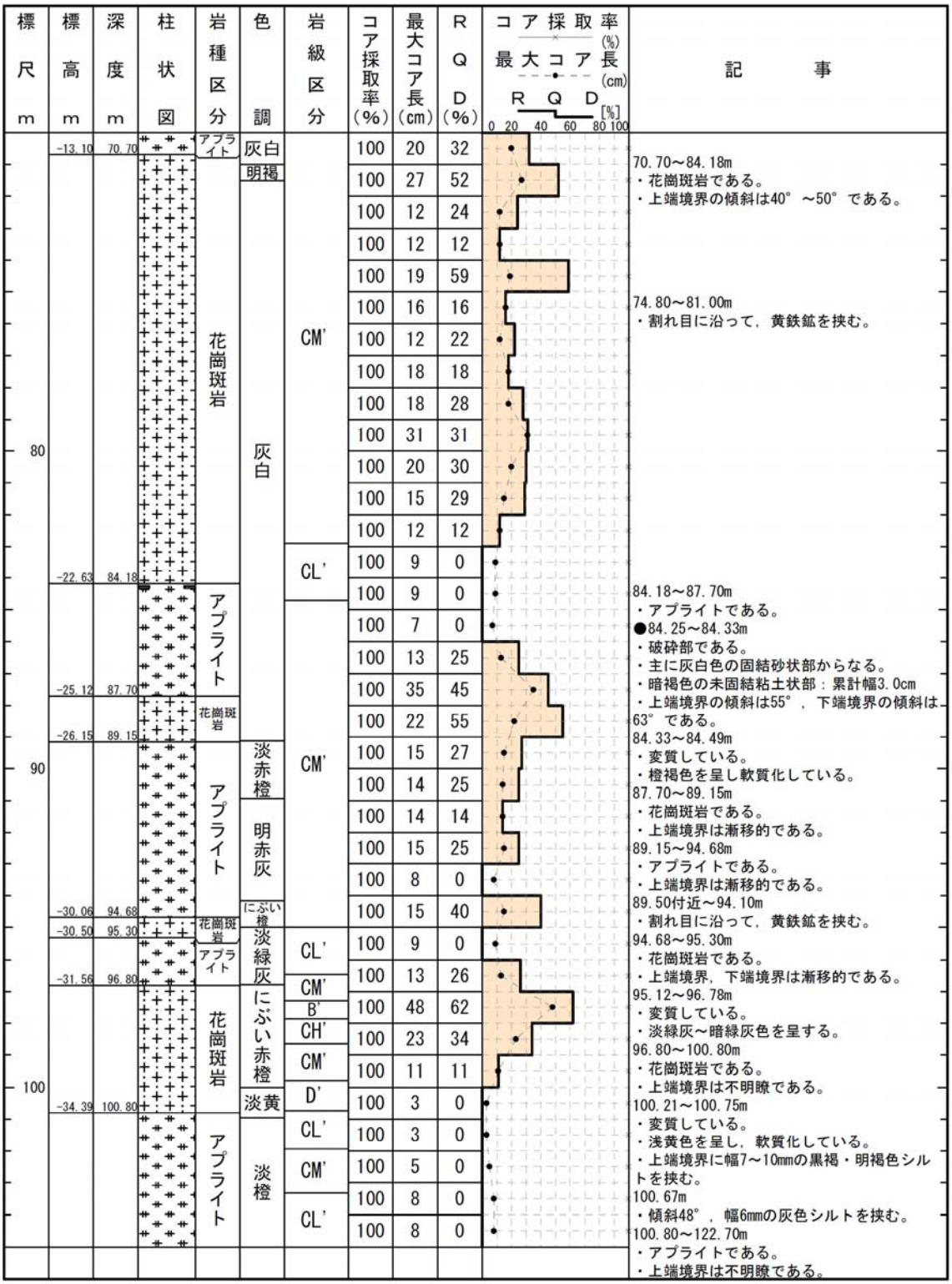
H19-No.4

柱状図(35.00m～70.00m)



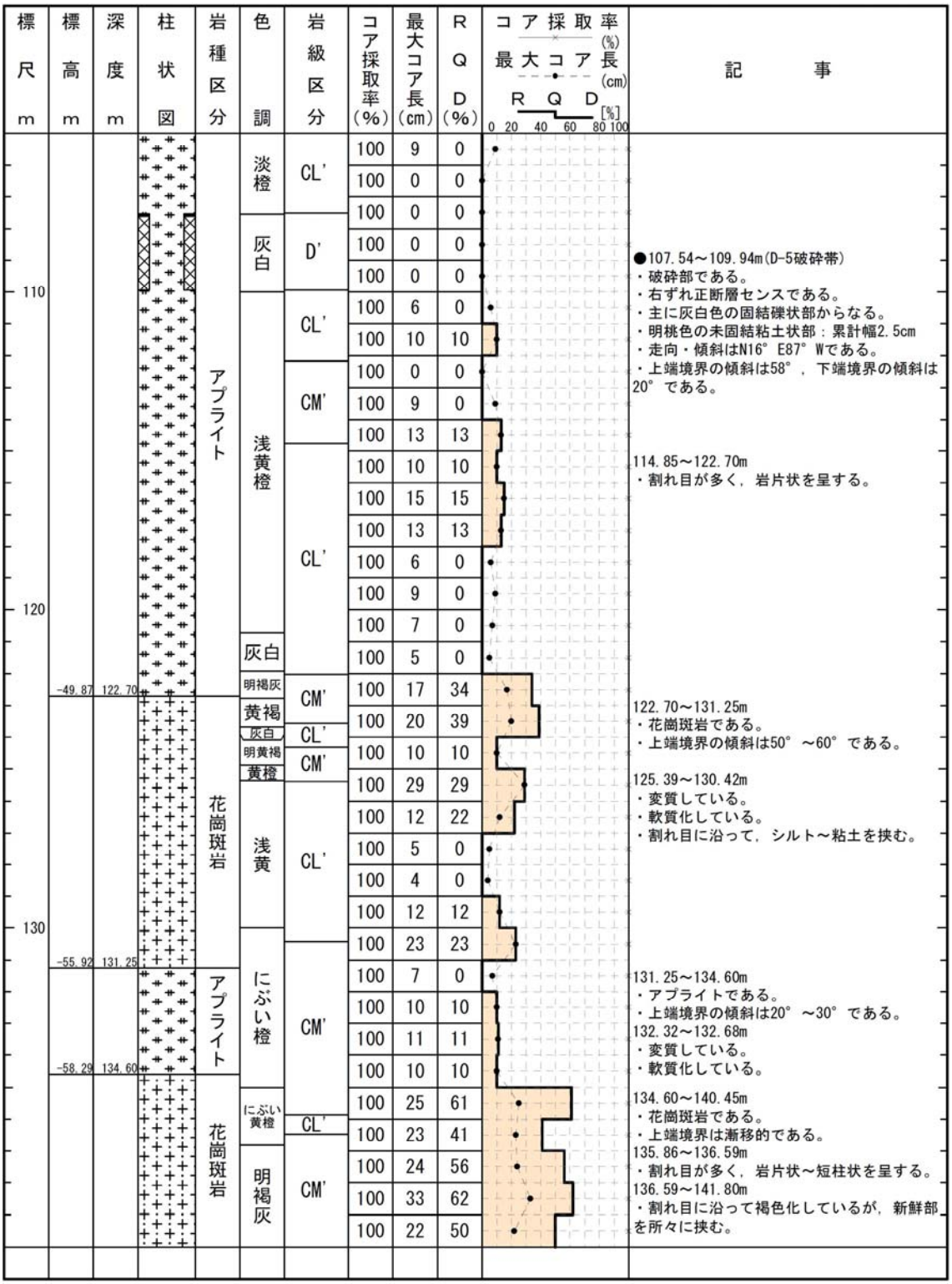
H19-No.4

柱状図(70.00m～105.00m)



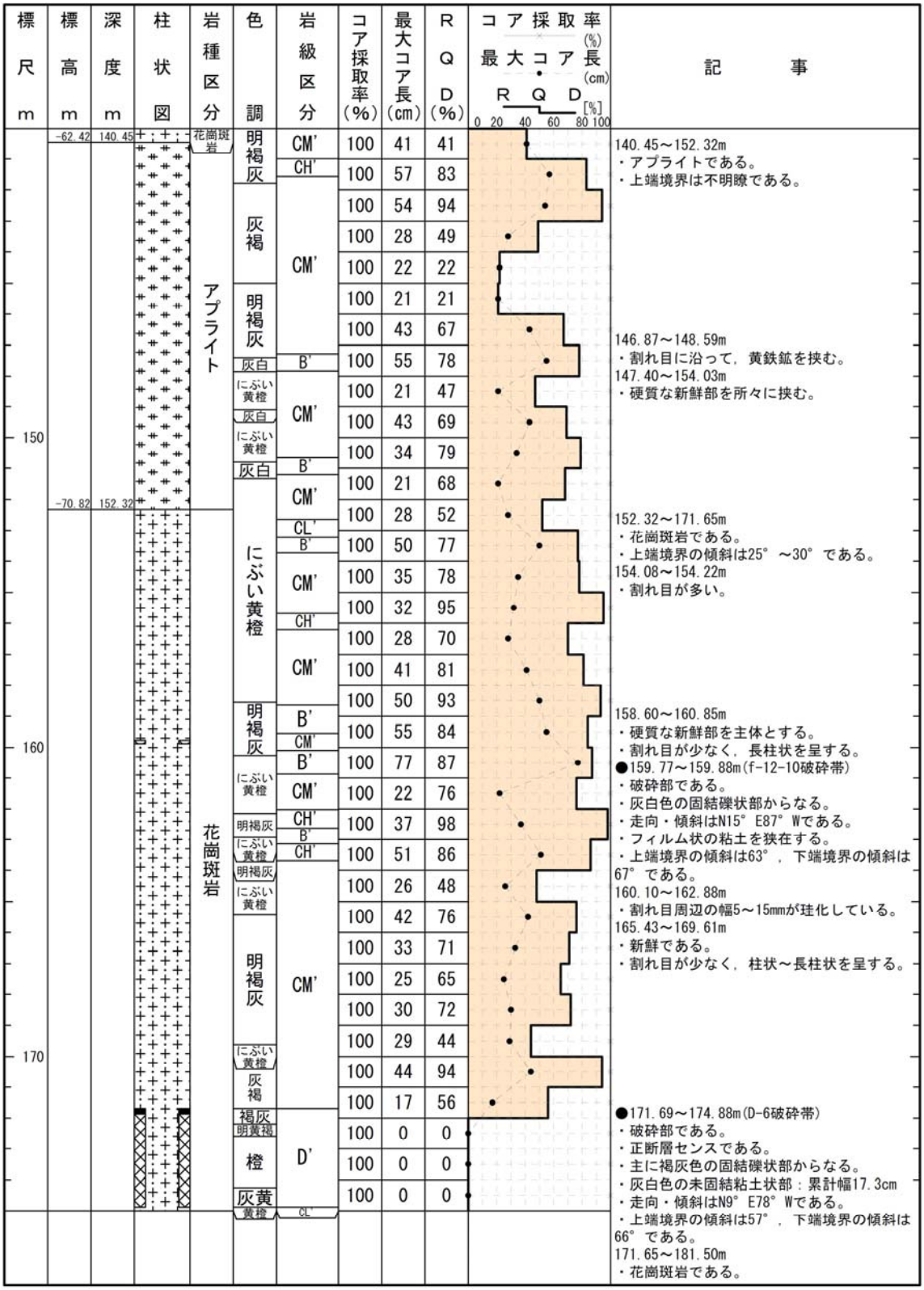
H19-No.4

柱状図(105.00m～140.00m)



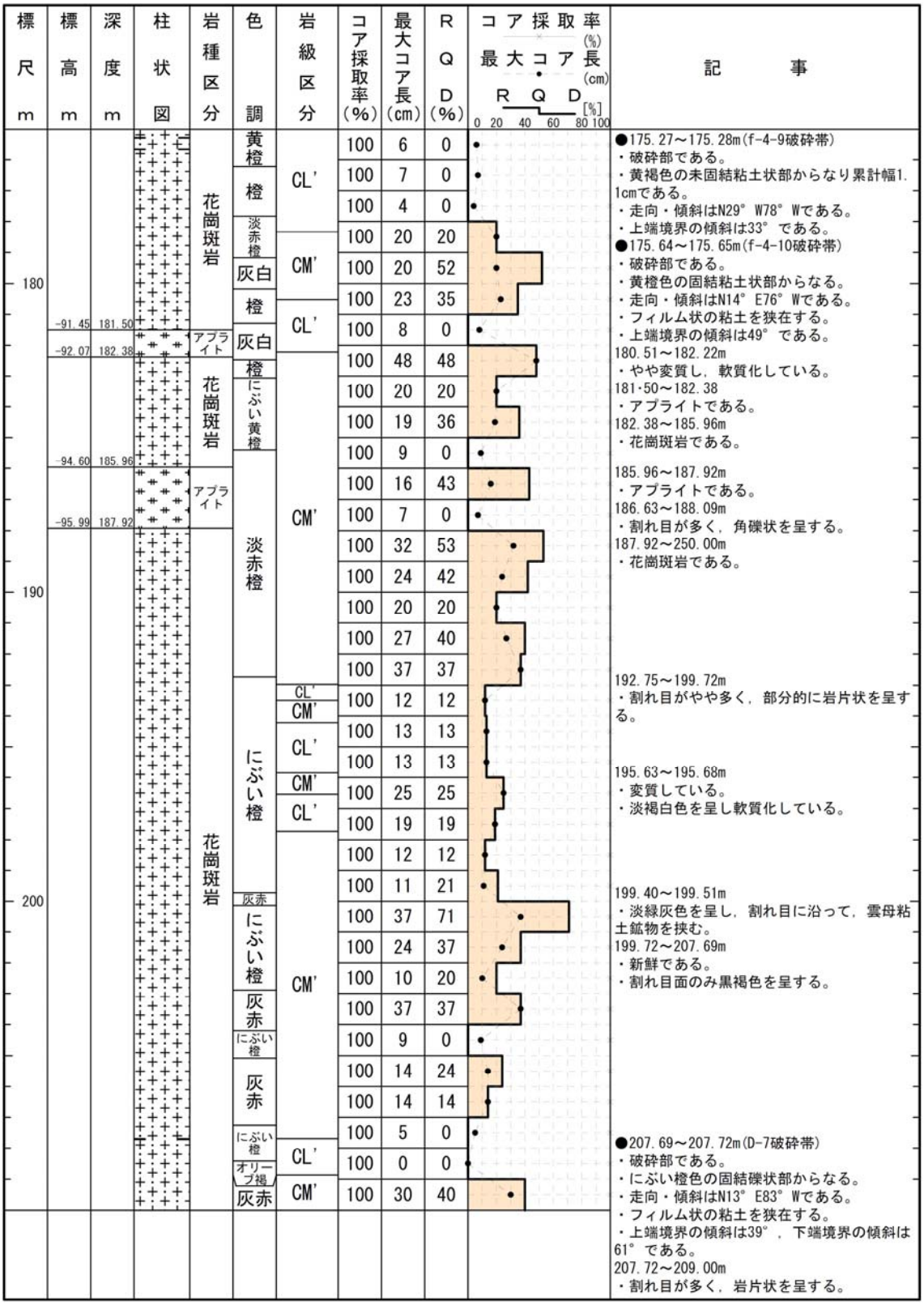
H19-No.4

柱状図(140.00m～175.00m)



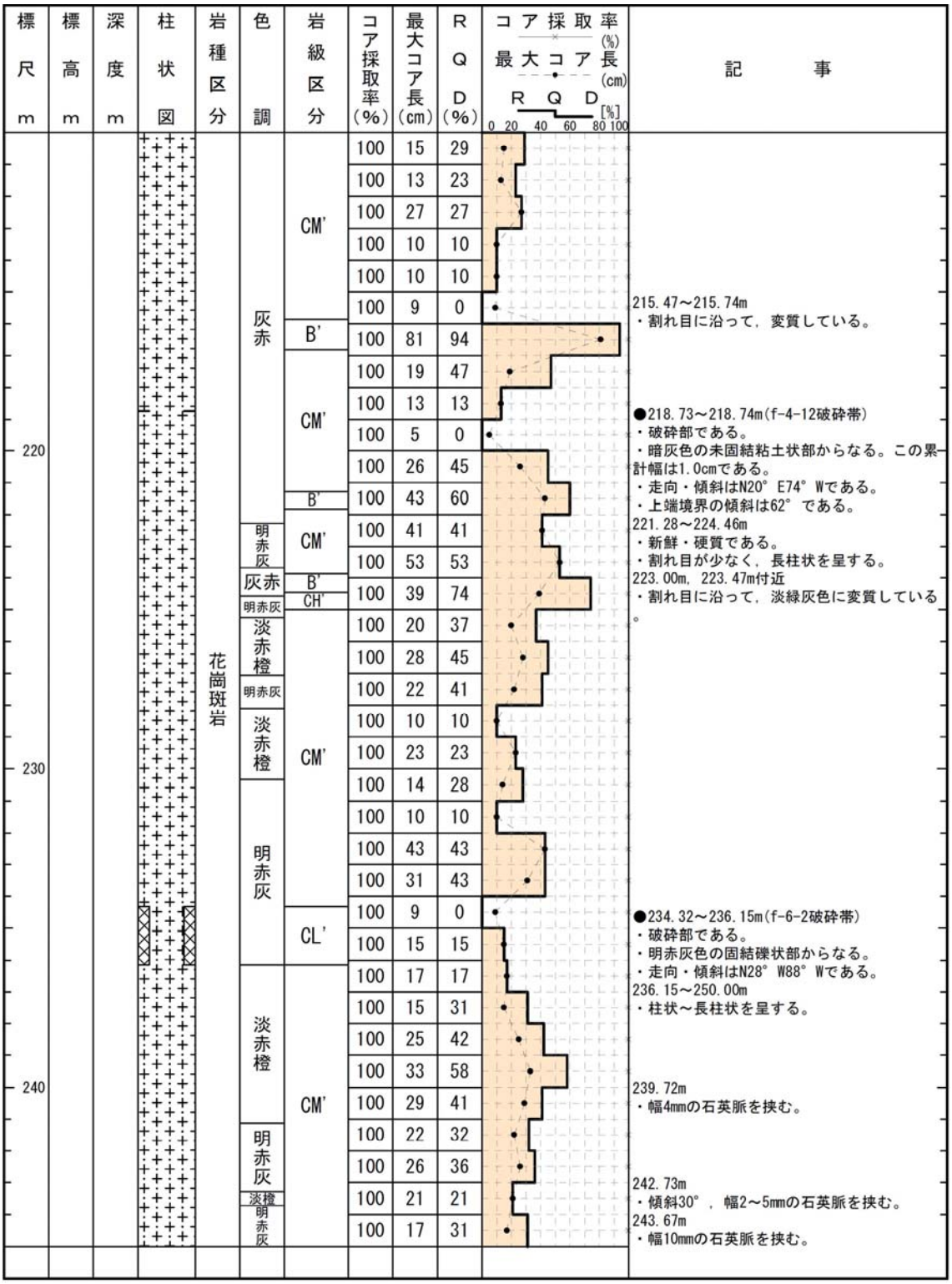
H19-No.4

柱状図(175.00m～210.00m)



H19-No.4

柱状図(210.00m～245.00m)



H19-No.4

柱状図(245.00m～250.00m)

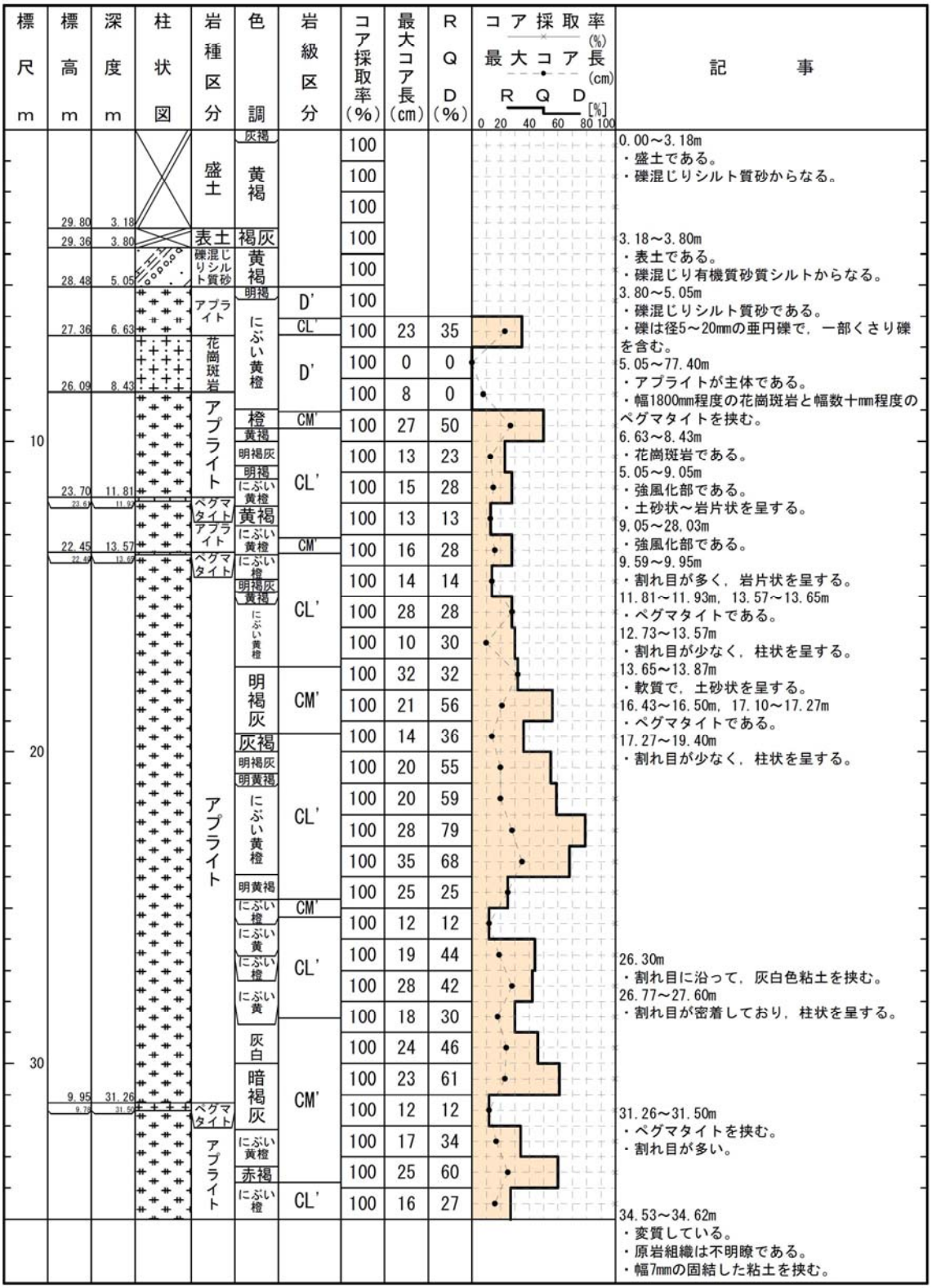
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	明赤灰 淡赤橙 明赤灰	CM'	100	21	49		245.31m, 246.08m ・幅20～30mm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。 ・黄鉄鉱を伴う。
							100	29	29		
							100	13	26		
							100	76	76		
	-139.89	250.00					100	30	44		

H19-No.12

柱状図(00.00m～35.00m)

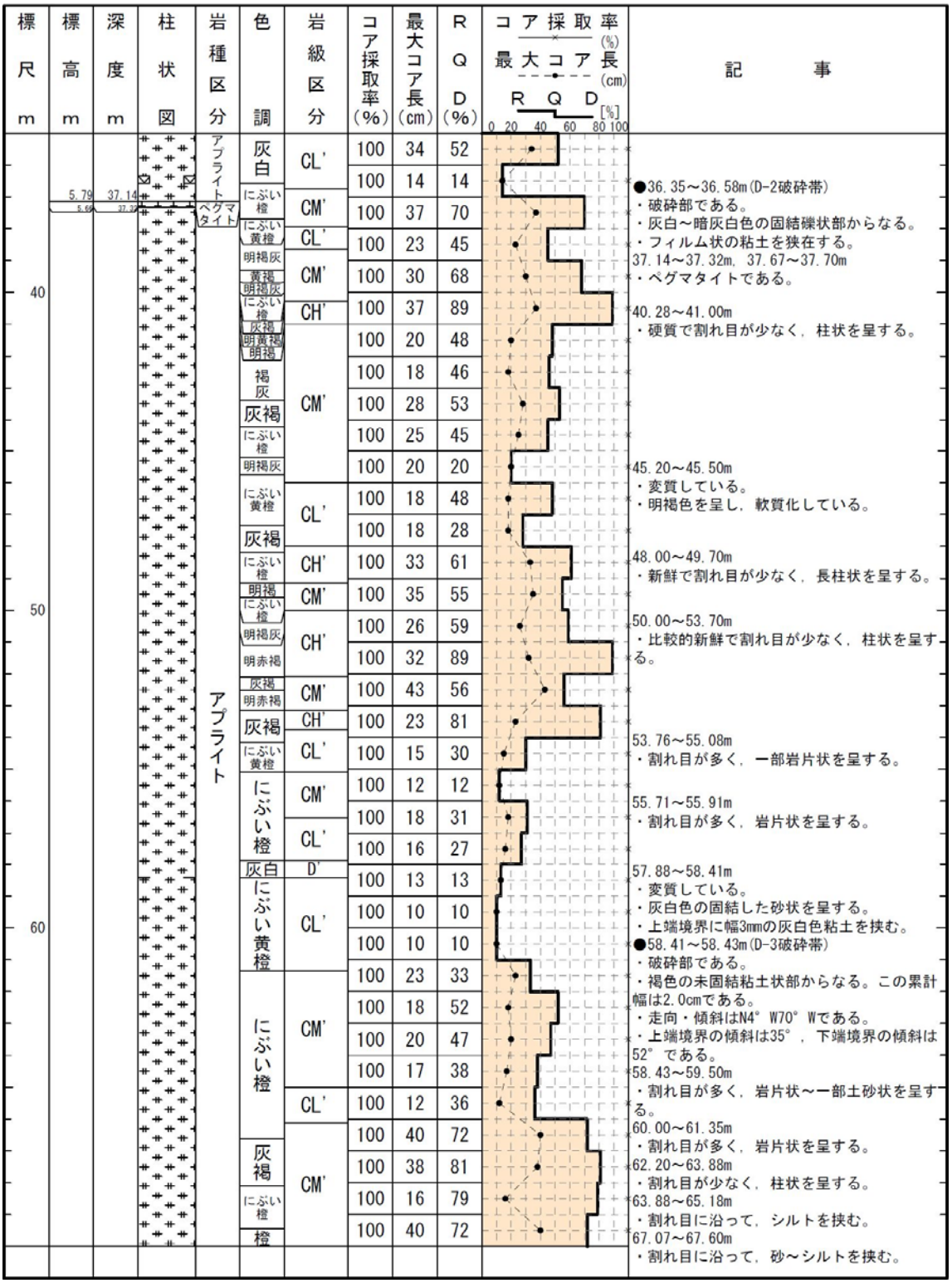
H19-No. 12

孔口標高	T.P. 32.05m	掘削長	250.00m



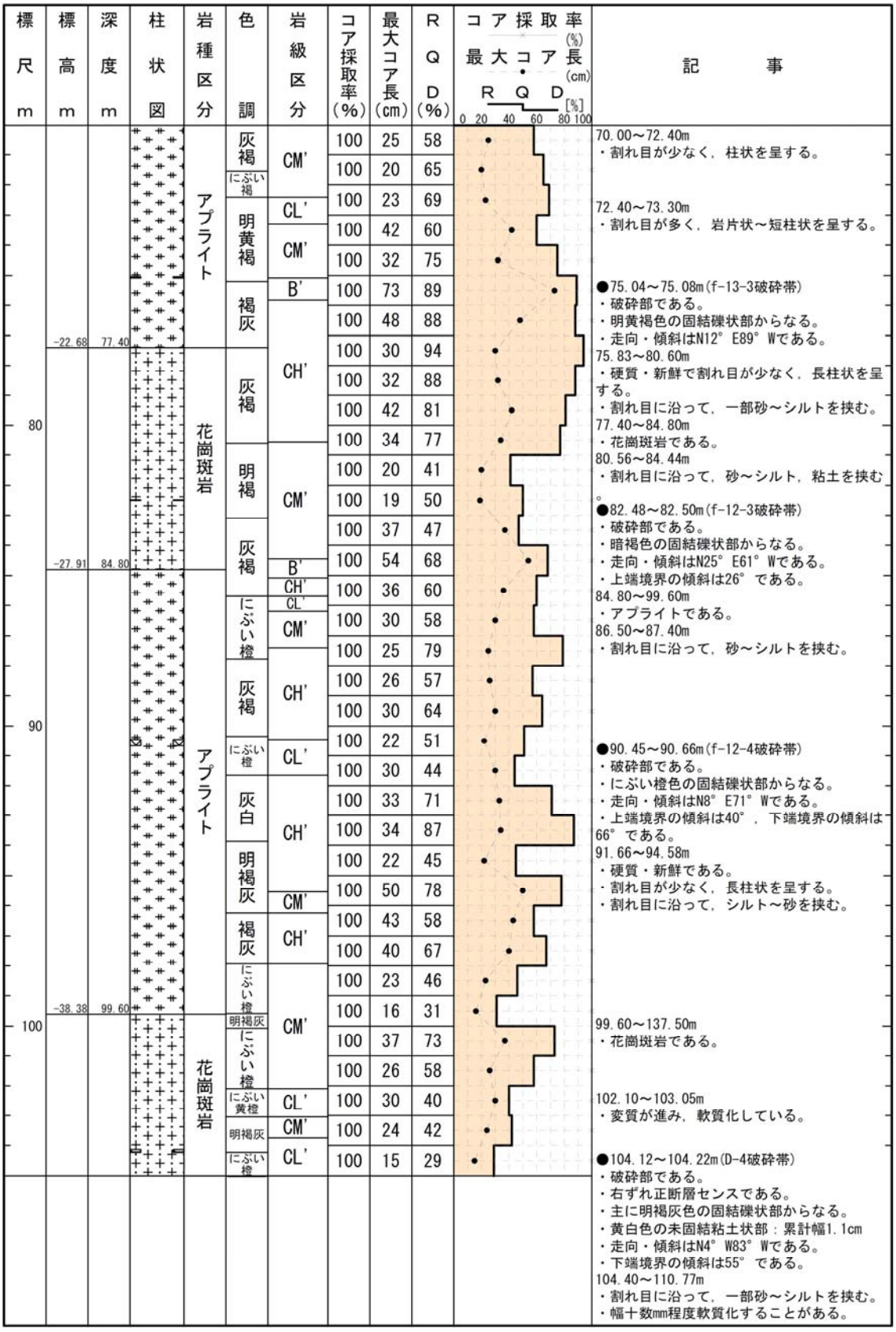
H19-No.12

柱状図(35.00m～70.00m)



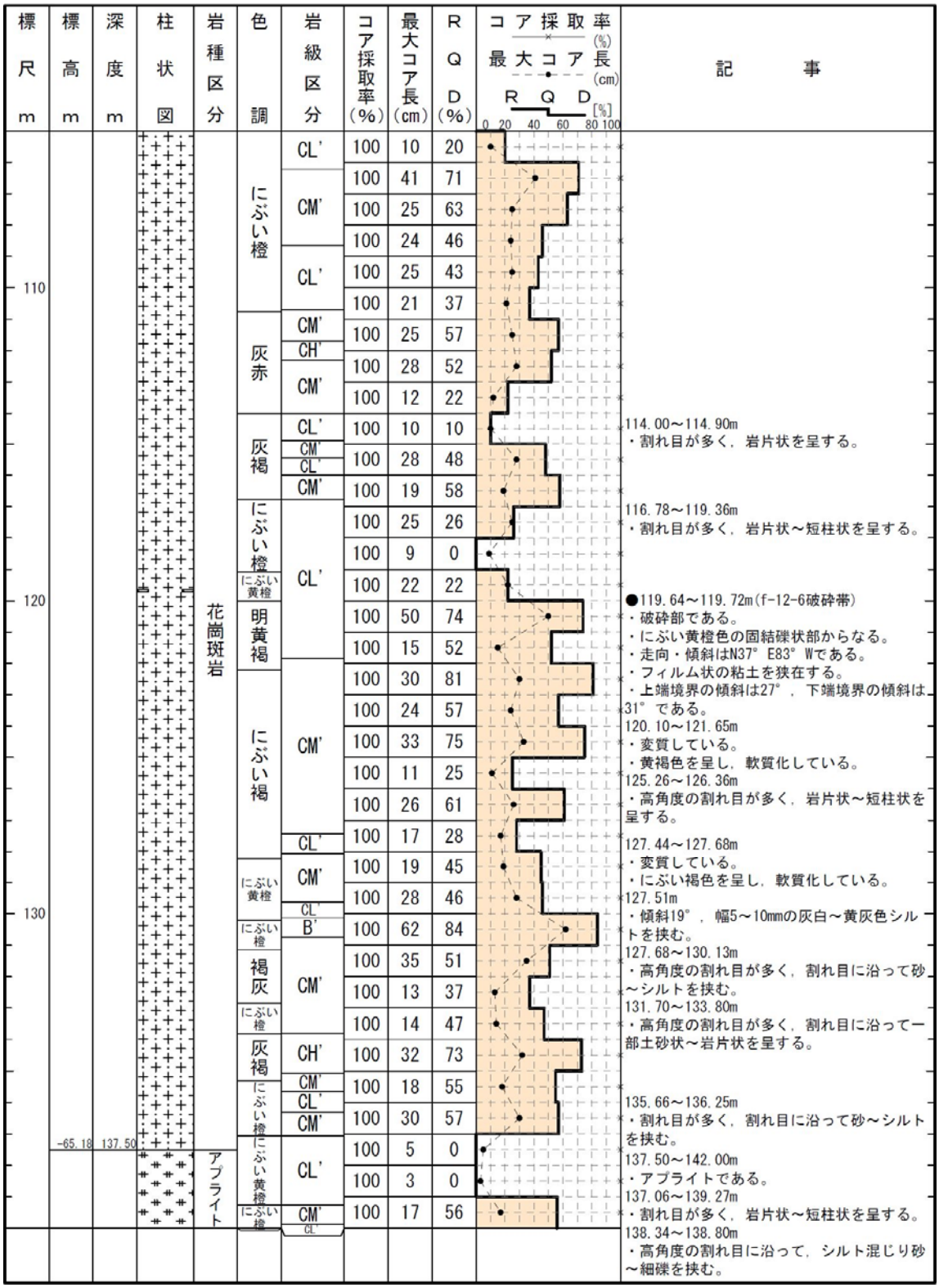
H19-No.12

柱状図(70.00m～105.00m)



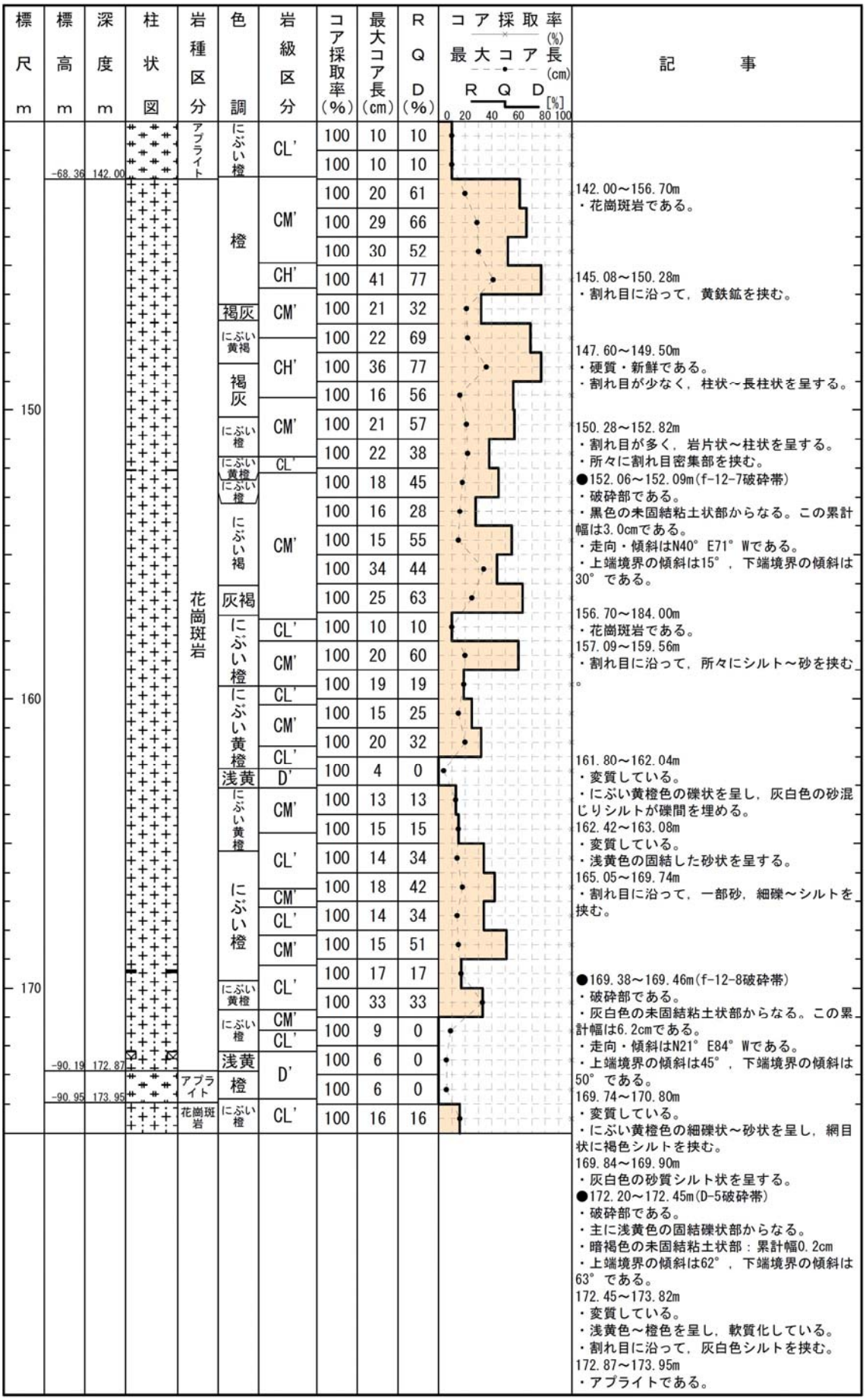
H19-No.12

柱状図(105.00m～140.00m)



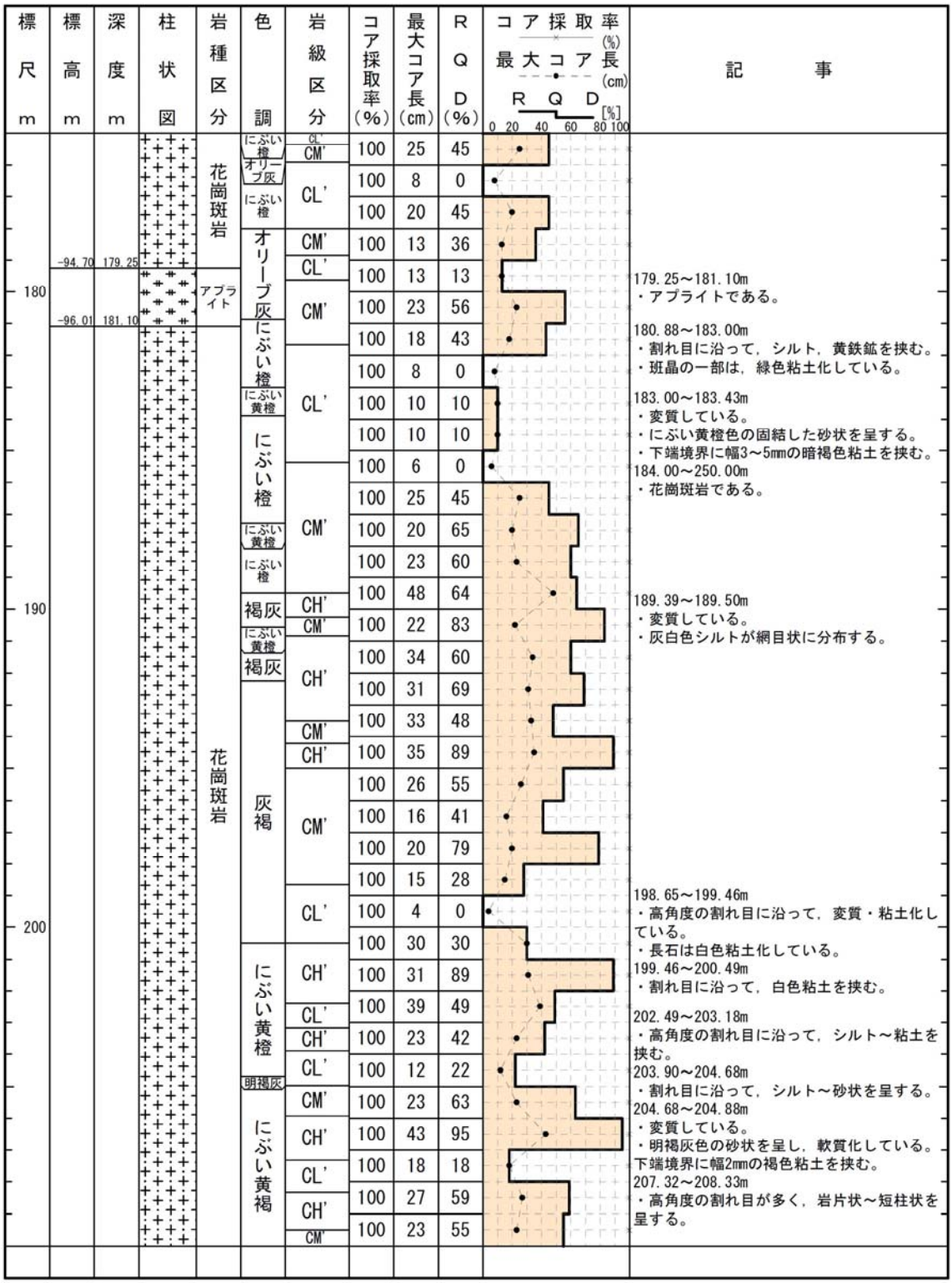
H19-No.12

柱状図(140.00m～175.00m)



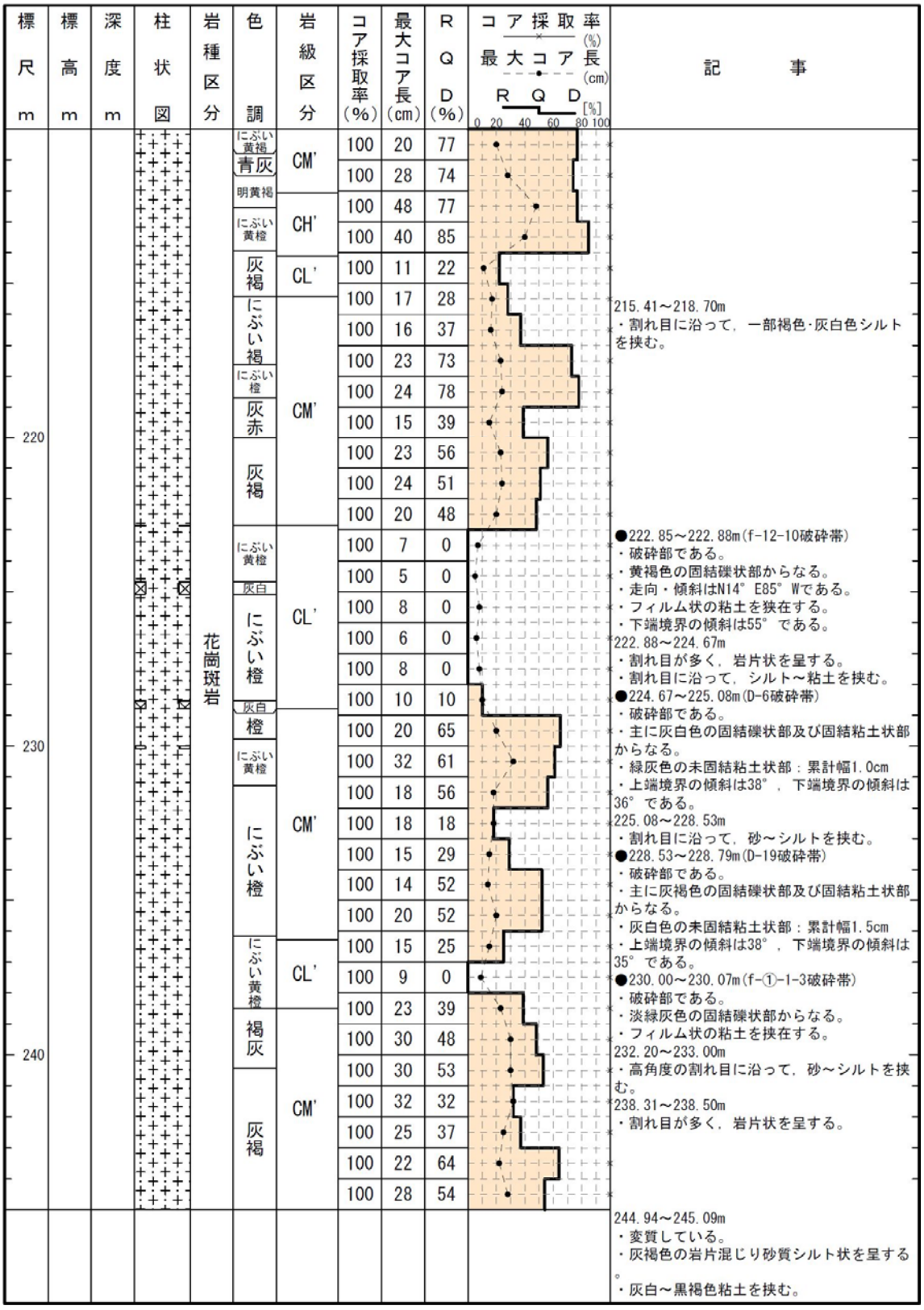
H19-No.12

柱状図(175.00m～210.00m)



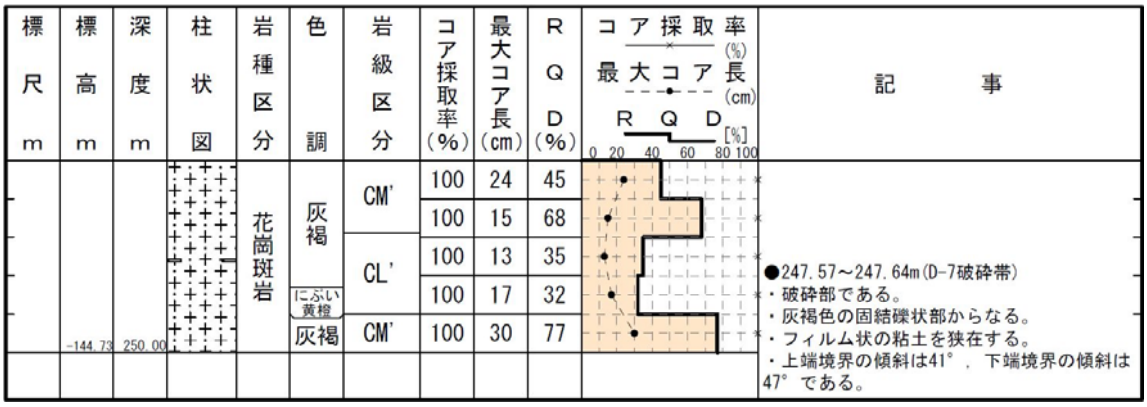
H19-No.12

柱状図(210.00m～245.00m)



H19-No.12

柱状図(245.00m～250.00m)



H24-B11-2

柱状図(0.00m～30.00m)

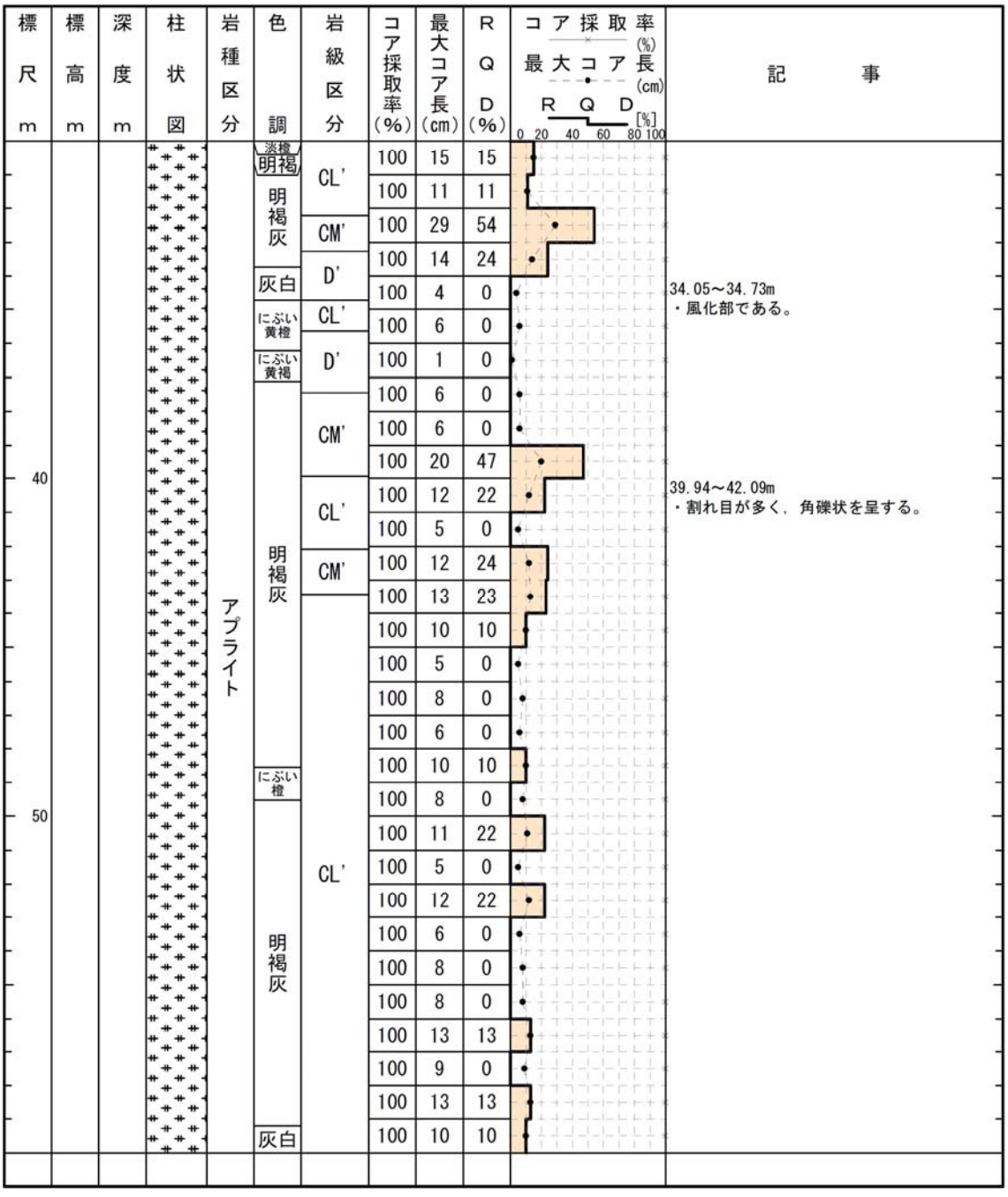
H24-B11-2

孔口標高	T.P. 3.14m	掘削長	150.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	にぶい黄褐		100				0.00～5.00m ・埋土である。
					灰黄褐		100				
					にぶい黄		100				
					明黄褐		100				
					にぶい黄橙		100				
	-0.40	5.00			黄褐		100				
				礫混じり砂	灰黄		100				5.00～7.59m ・礫混じり砂である。
					褐灰		100				
	-2.23	7.59			黄灰		100				
				砂	灰黄褐		100				7.59～13.92m ・砂である。 ・中粒～粗粒砂が主体である。
					灰黄		100				
10					黄灰		100				
					灰		100				
							100				
	-6.70	13.92			にぶい黄橙		100				
	-7.42	14.94		礫混じり砂	灰		100				13.92～14.94m ・礫混じり砂である。 ・細礫の混じる粗粒砂が主体である。
				砂	灰黄		100				14.94～17.04m ・砂である。 ・粗粒砂が主体である。
	-8.91	17.04			灰		100				
	-10.10	18.73		礫混じり砂	黄灰		100				17.04～18.73m ・礫混じり砂である。 ・粗粒砂が主体である。 ・有機物を少量含む。
	-10.33	19.05		礫質砂			100				18.73～19.05m ・礫質砂である。
20				有機質土混じり砂			100				19.05～22.69m ・有機質土混じり砂である。
	-12.90	22.69					100				
				シルト混じり砂・礫混じり砂/砂礫互層			100				22.69～25.13m ・シルト・礫混じり砂，砂礫互層である。 ・中粒砂が主体で，径10～50mmの亜角～亜円礫を40～60%含む。
	-14.63	25.13			褐灰		100				
	-15.38	26.19		礫混じりシルト質砂	灰オリーブ		100				25.13～26.19m ・礫混じりシルト質砂である。
					灰黄		100				
				アプライト	明褐灰	CL'	100	20	42		26.19～123.51m ・アプライトである。
						CM'	100	18	18		28.17～28.37m ・風化部である。
						CL'	100	10	10		
					淡橙						

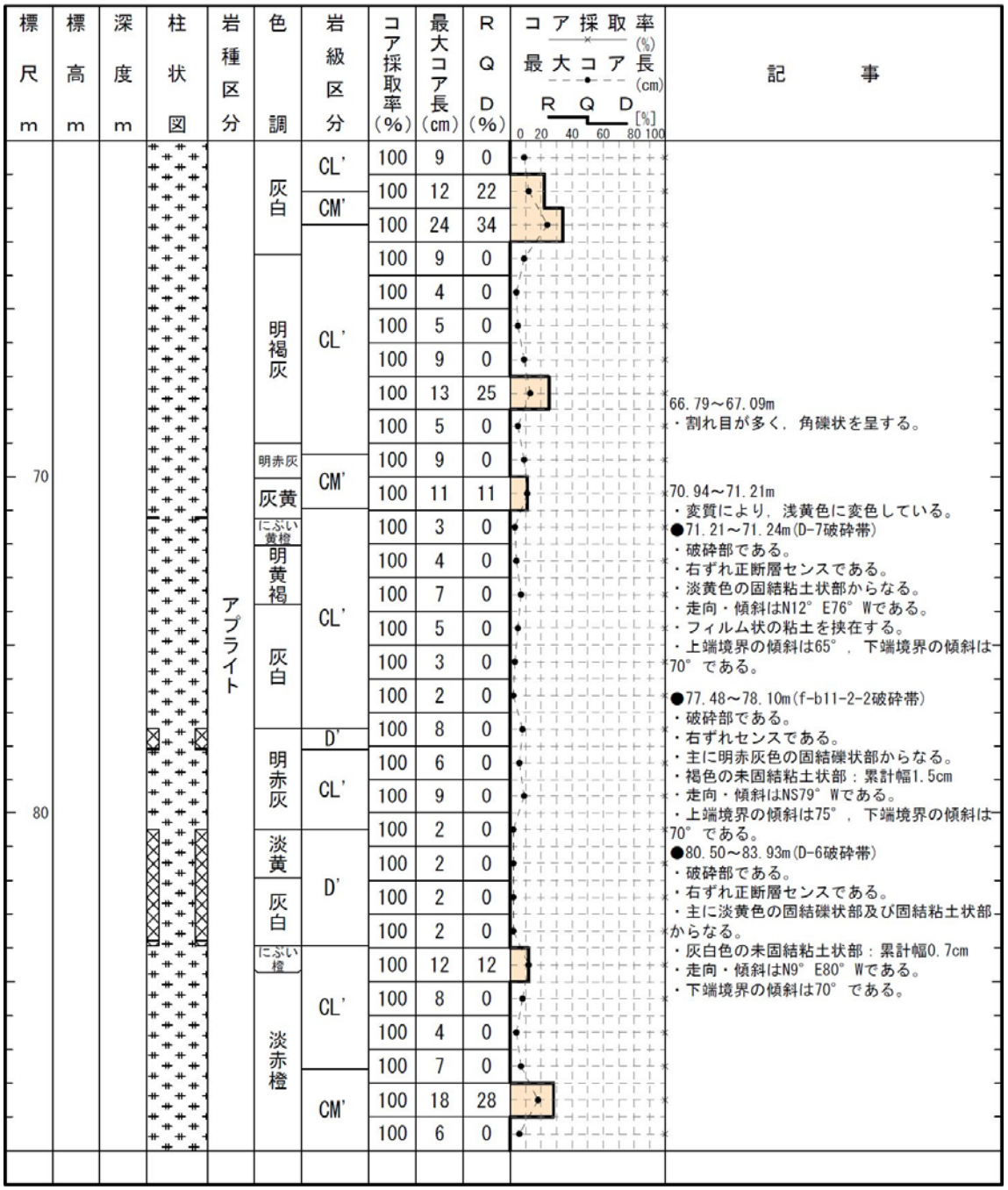
H24-B11-2

柱状図(30.00m～60.00m)



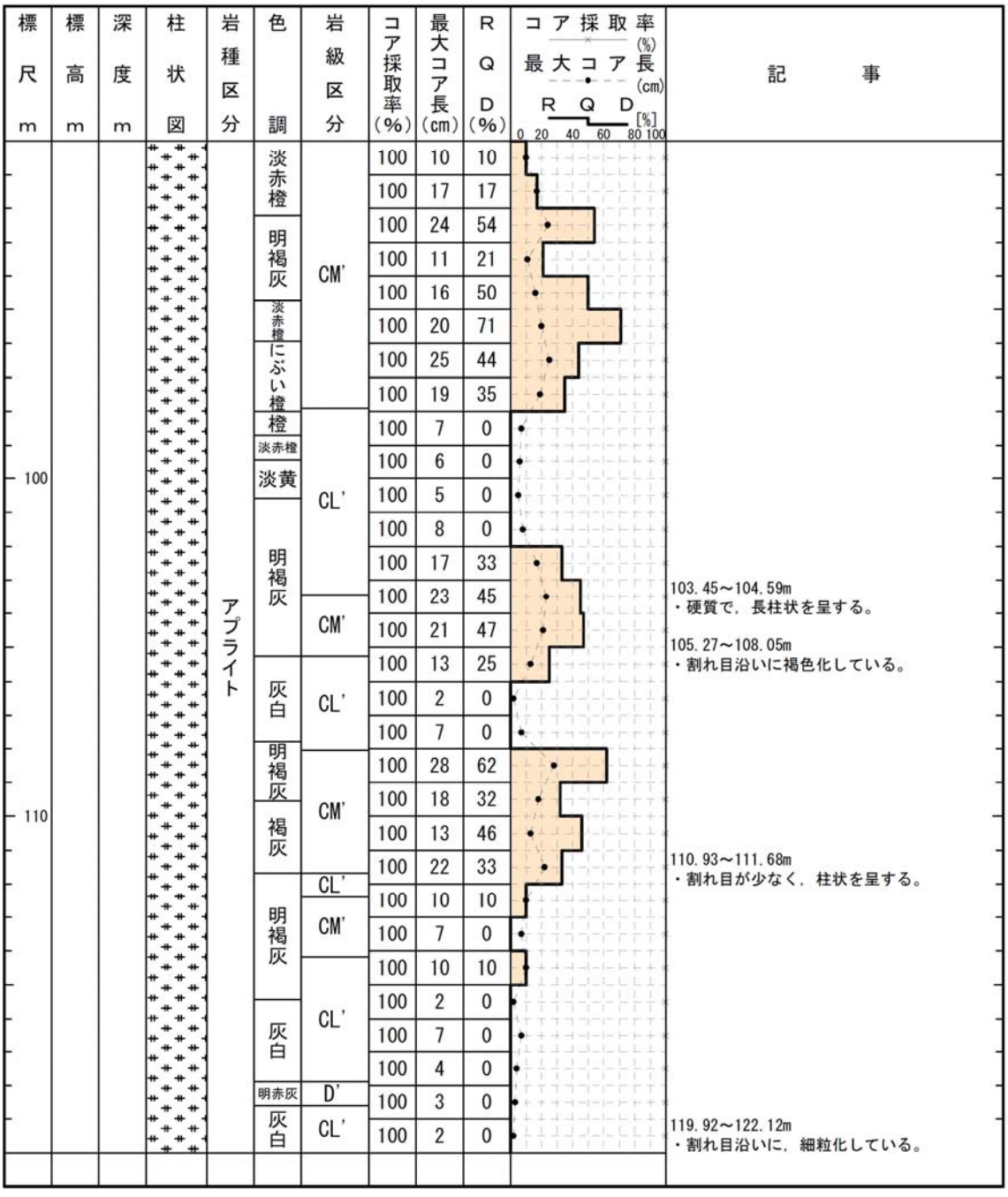
H24-B11-2

柱状図(60.00m～90.00m)



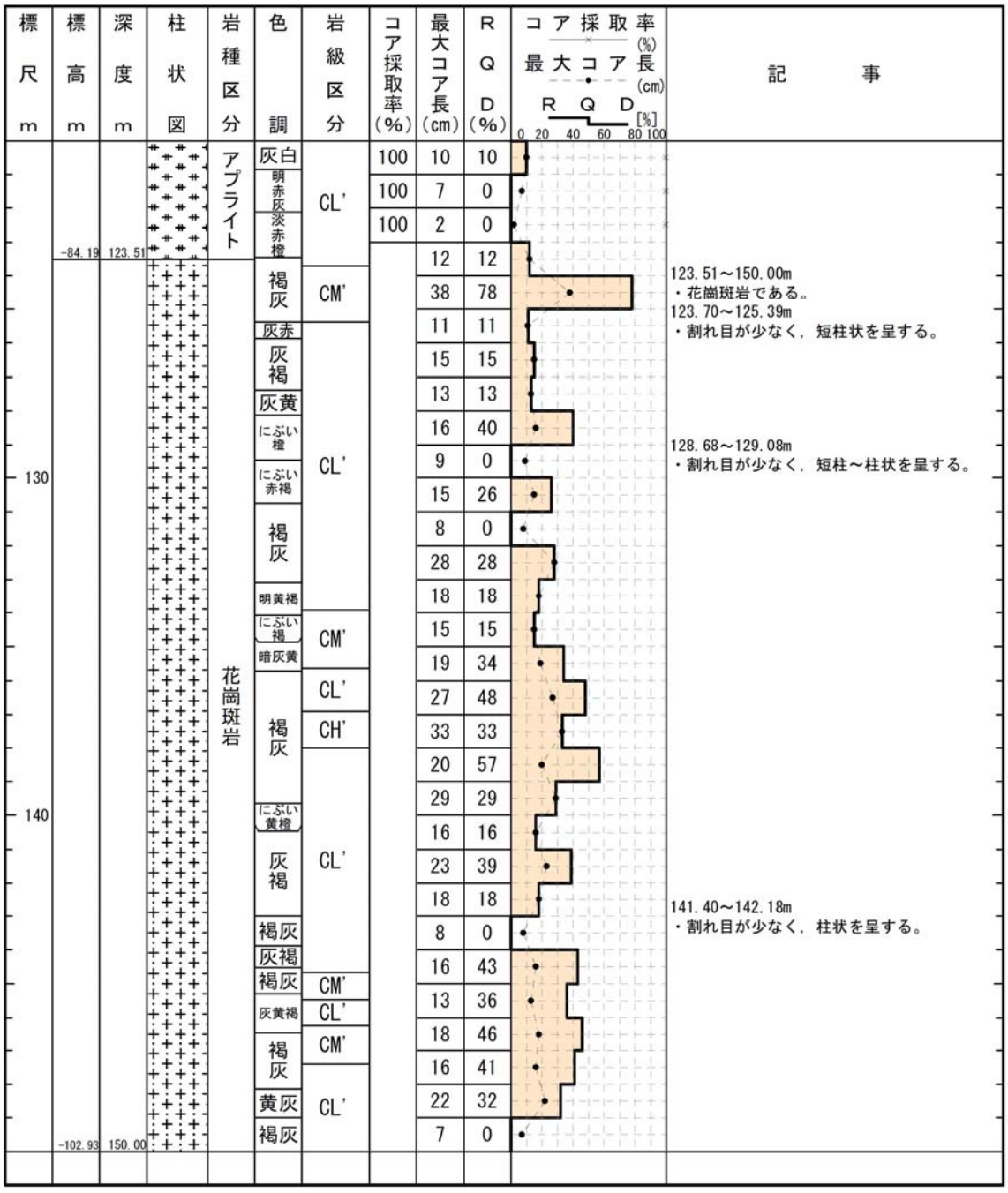
H24-B11-2

柱状図(90.00m～120.00m)



H24-B11-2

柱状図(120.00m～150.00m)



H24-B8-22

柱状図(0.00m～30.00m)

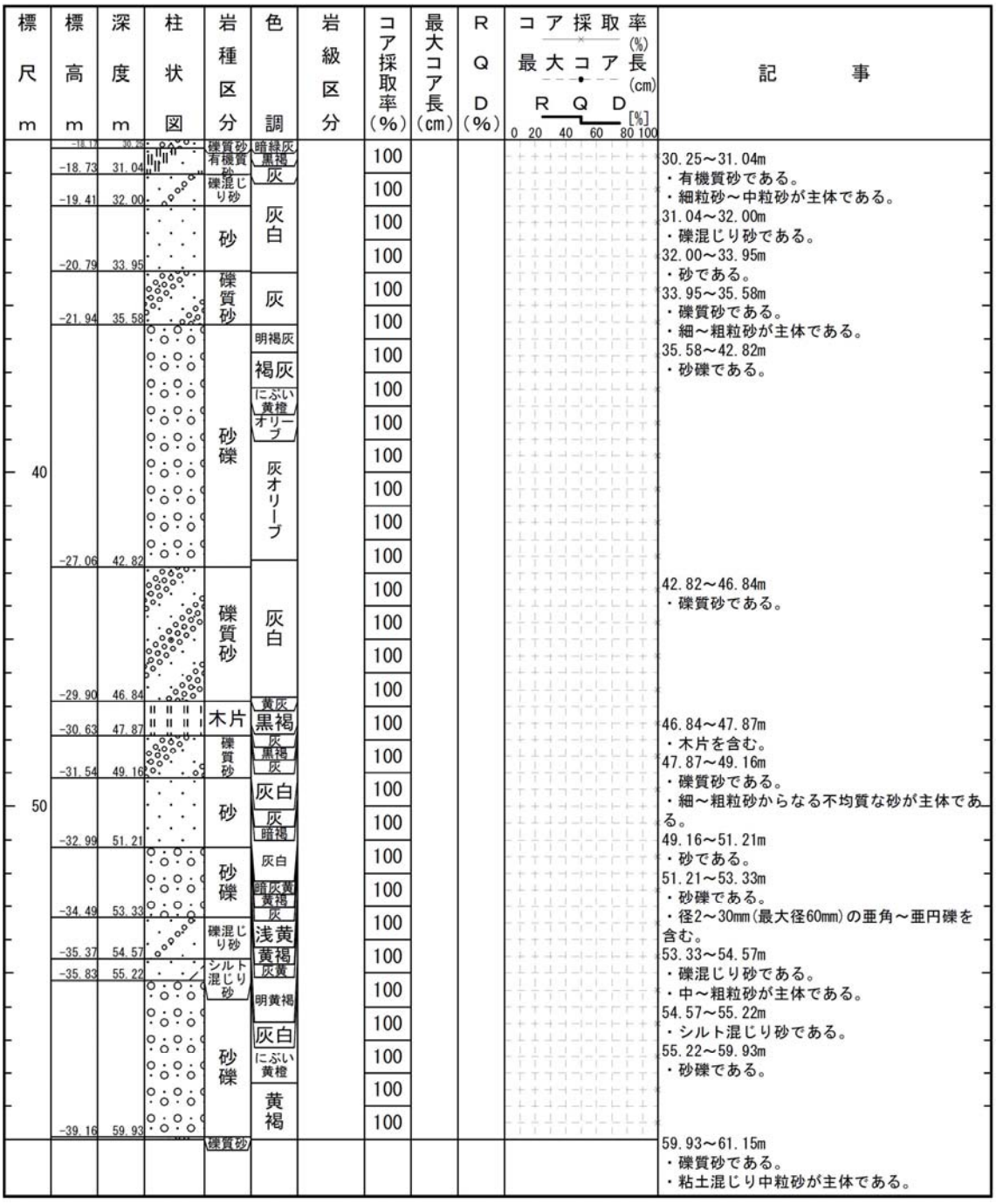
H24-B8-22

孔口標高	T.P. 3.22m	掘削長	240.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	オリーブ黒 灰オリーブ オリーブ黒 灰 浅黄		100				0.00～4.97m ・埋土である。
	-0.29	4.97					100				
	-0.47	5.16		シルト質砂	灰		100				4.97～5.16m ・シルト質砂である。 ・中粒砂が主体である。
	-1.89	7.22		有機質シルト	黒褐		100				5.16～7.22m ・有機質シルトである。
	-2.63	8.27		礫混じり砂	灰白		100				7.22～8.27m ・礫混じり砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
	-3.46	9.45		礫質砂	灰黄		100				8.27～9.45m ・礫質砂である。
10				砂	明黄褐		100				9.45～14.95m ・砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
					にぶい黄橙		100				
					灰オリーブ にぶい黄橙		100				
	-7.35	14.95					100				
				シルト混じり砂	灰白 浅黄		100				14.95～17.20m ・シルト混じり砂である。
	-8.94	17.20					100				
				砂	オリーブ黄		100				17.20～18.72m ・砂である。 ・シルト混じり中～粗粒砂が主体である。
	-10.02	18.72			明黄褐		100				
				礫混じりシルト質砂	灰オリーブ 浅黄 オリーブ灰		100				18.72～22.45m ・礫混じりシルト質砂である。
20							100				
					暗オリーブ灰		100				
	-12.65	22.45					100				22.45～24.09m ・礫・砂質シルトである。
	-13.81	24.09		礫・砂質シルト			100				24.09～25.51m ・礫混じりシルト質砂である。
	-14.82	25.51		礫混じりシルト質砂			100				25.51～27.25m ・礫混じり砂質シルトである。
	-16.05	27.25		礫混じり砂質シルト	暗緑灰		100				27.25～27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94		シルト質砂			100				27.94～29.29m ・礫・シルト質砂である。
	-17.49	29.29		礫・シルト質砂			100				29.29～30.25m ・礫質砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
				礫質砂			100				

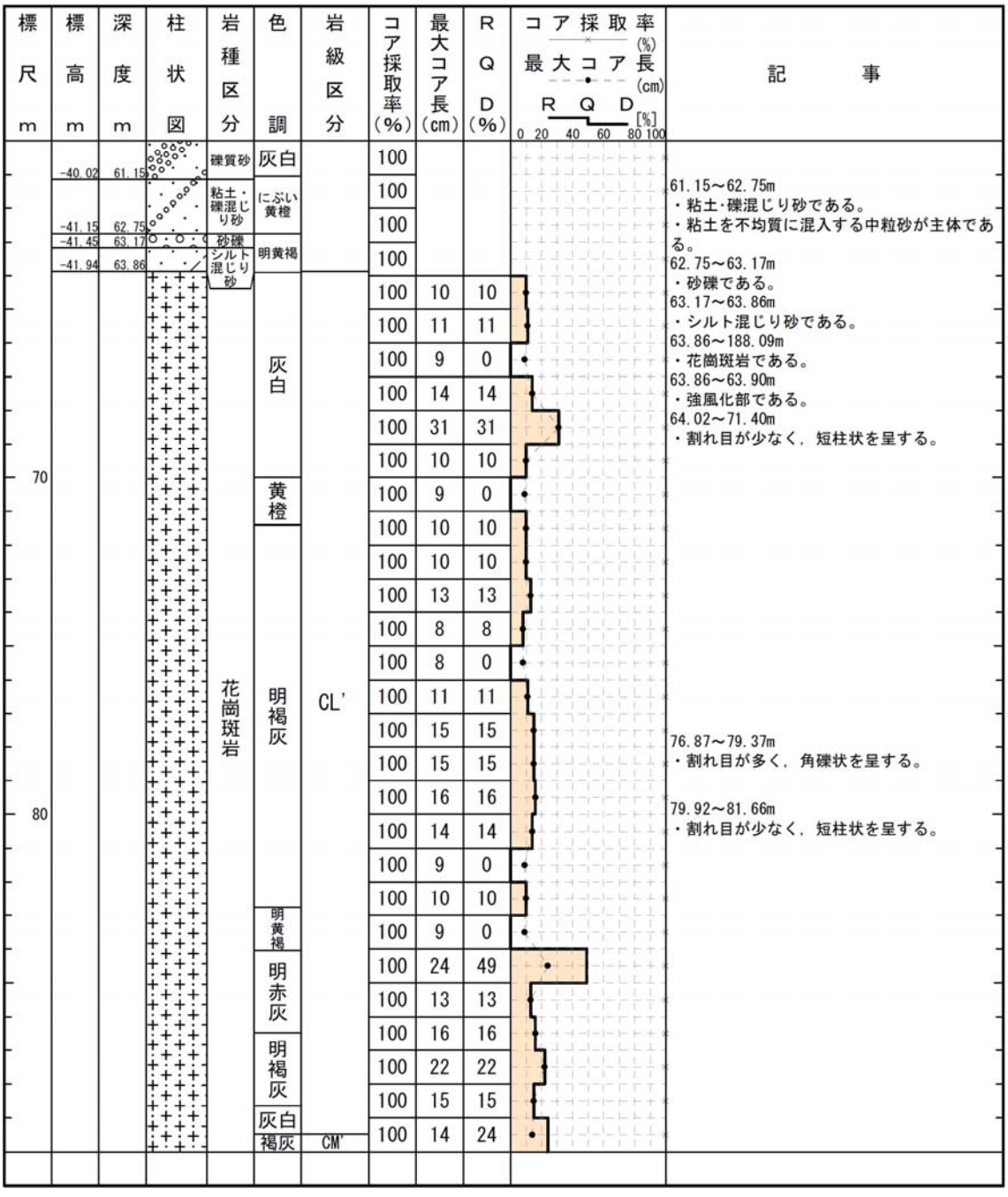
H24-B8-22

柱状図(30.00m～60.00m)



H24-B8-22

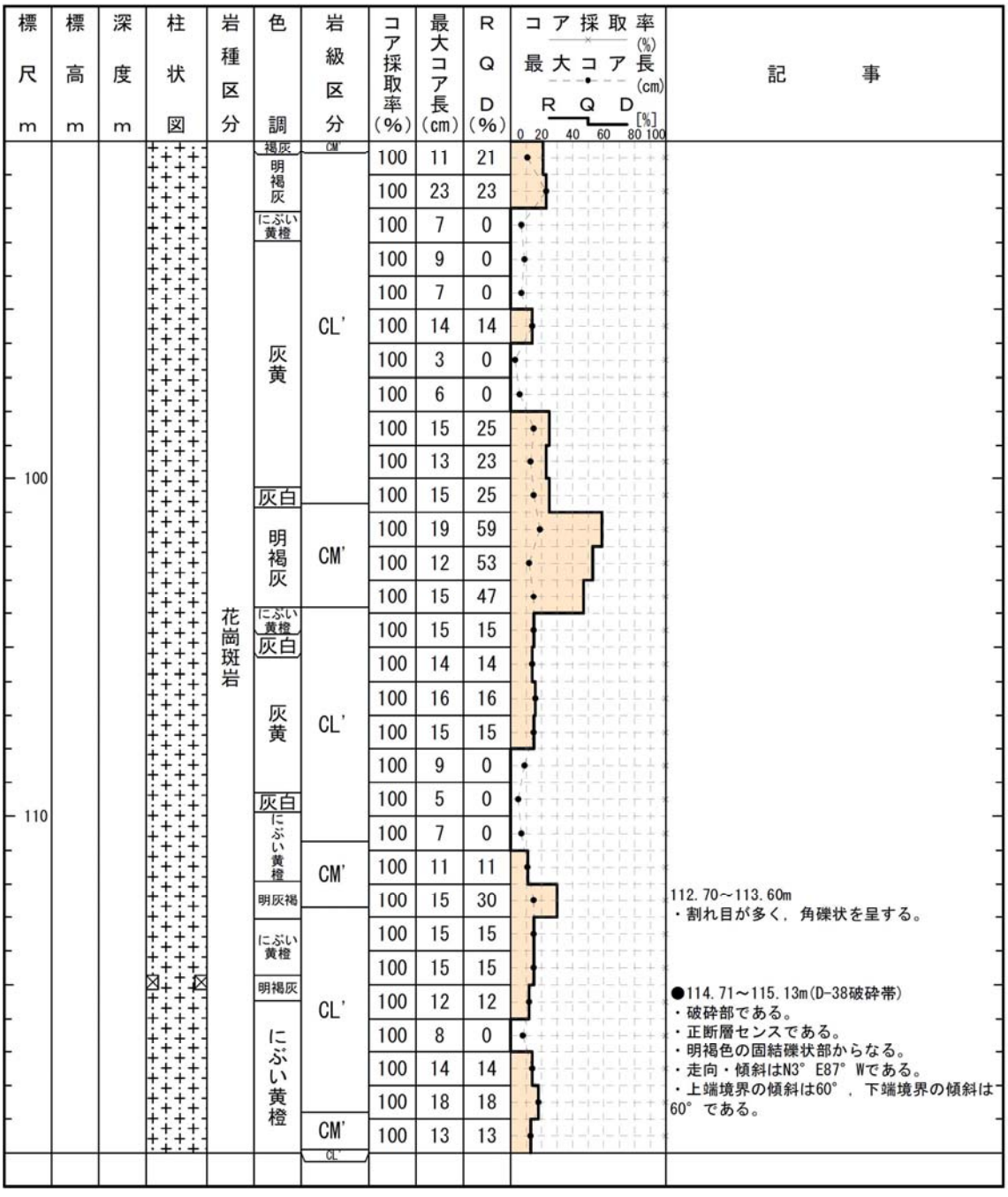
柱状図(60.00m～90.00m)



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100	10	10
100	11	11
100	9	0
100	14	14
100	31	31
100	10	10
100	9	0
100	10	10
100	10	10
100	13	13
100	8	8
100	8	0
100	11	11
100	15	15
100	15	15
100	16	16
100	14	14
100	9	0
100	10	10
100	9	0
100	24	49
100	13	13
100	16	16
100	22	22
100	15	15
100	14	24

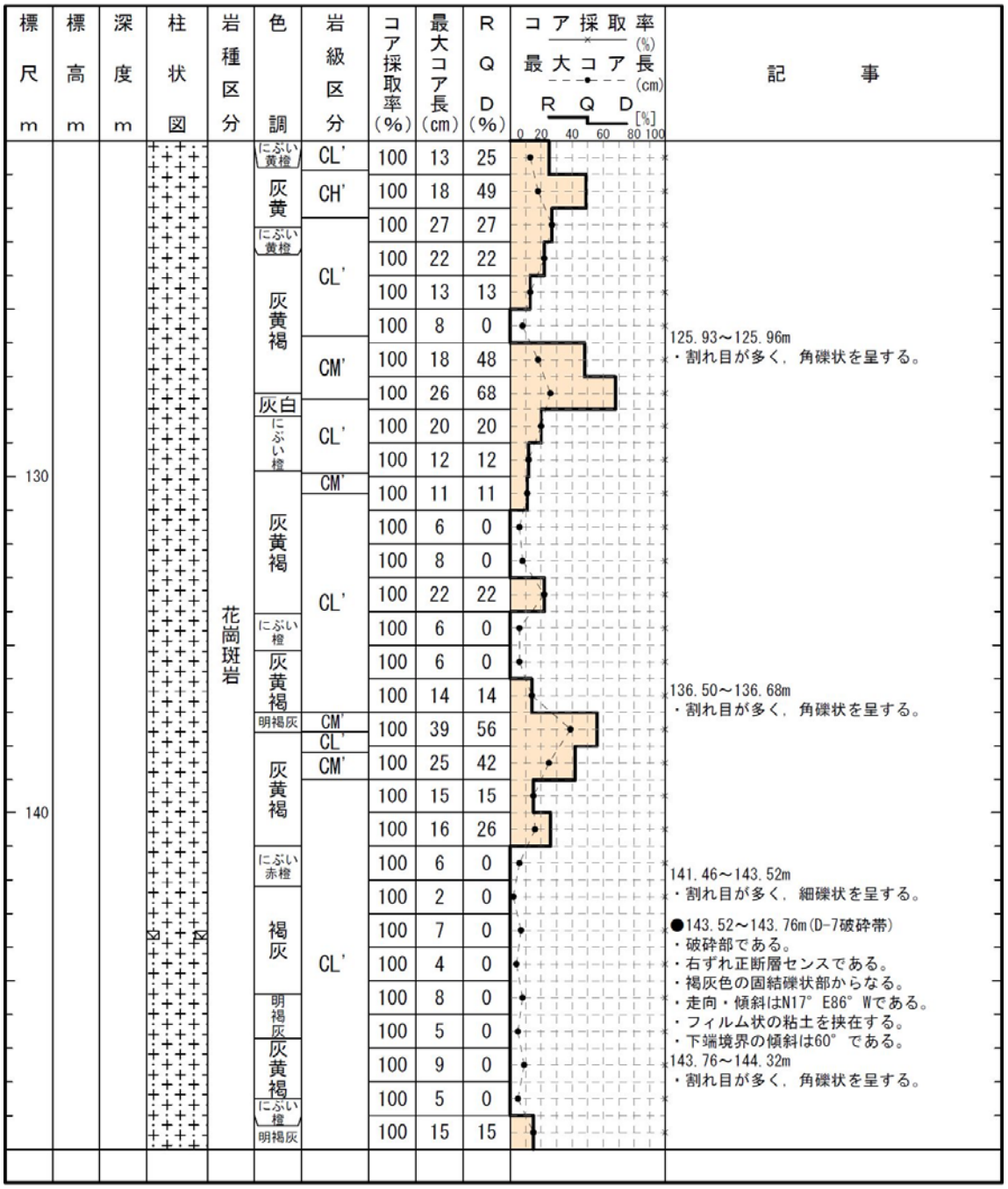
H24-B8-22

柱状図(90.00m～120.00m)



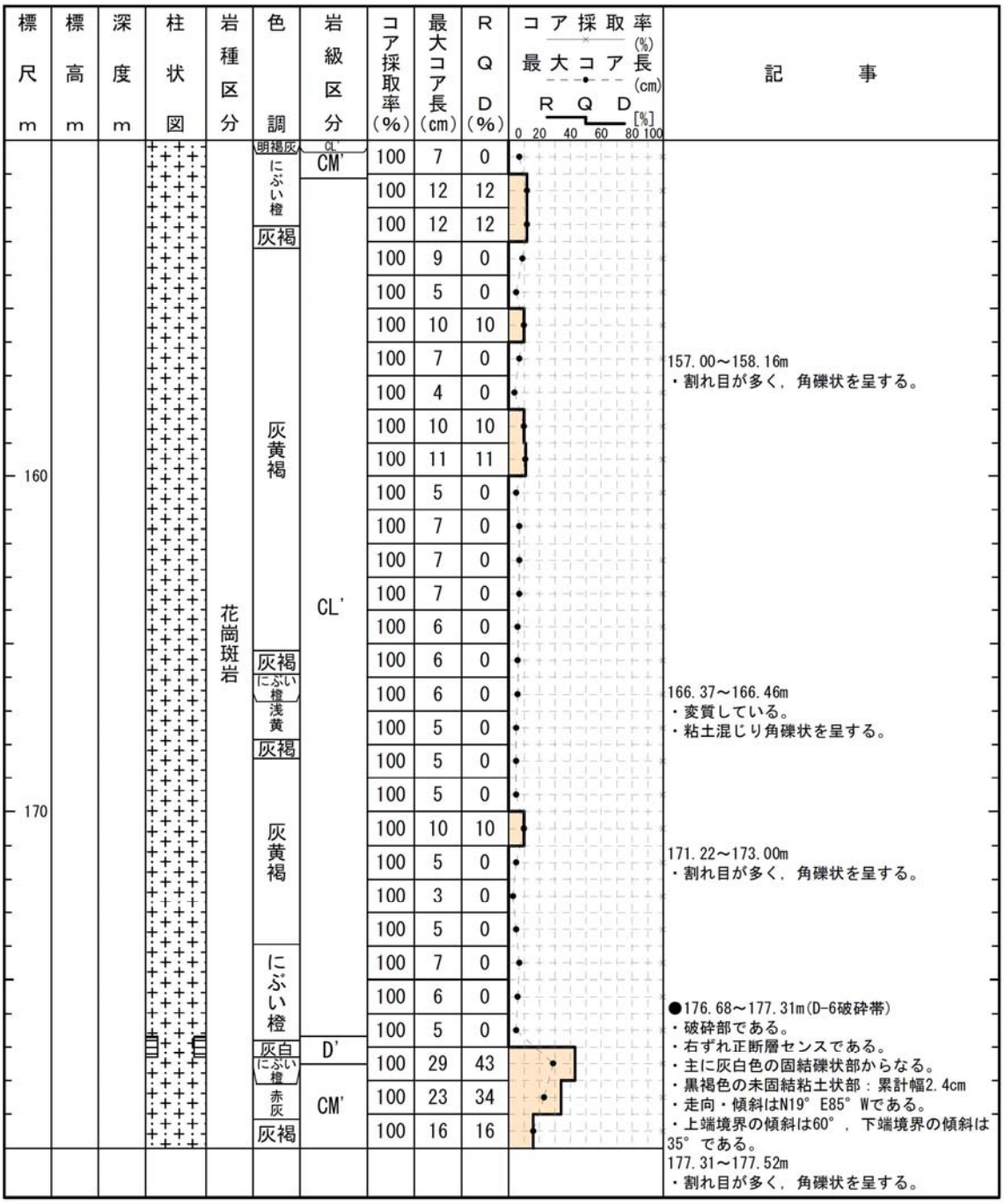
H24-B8-22

柱状図(120.00m～150.00m)



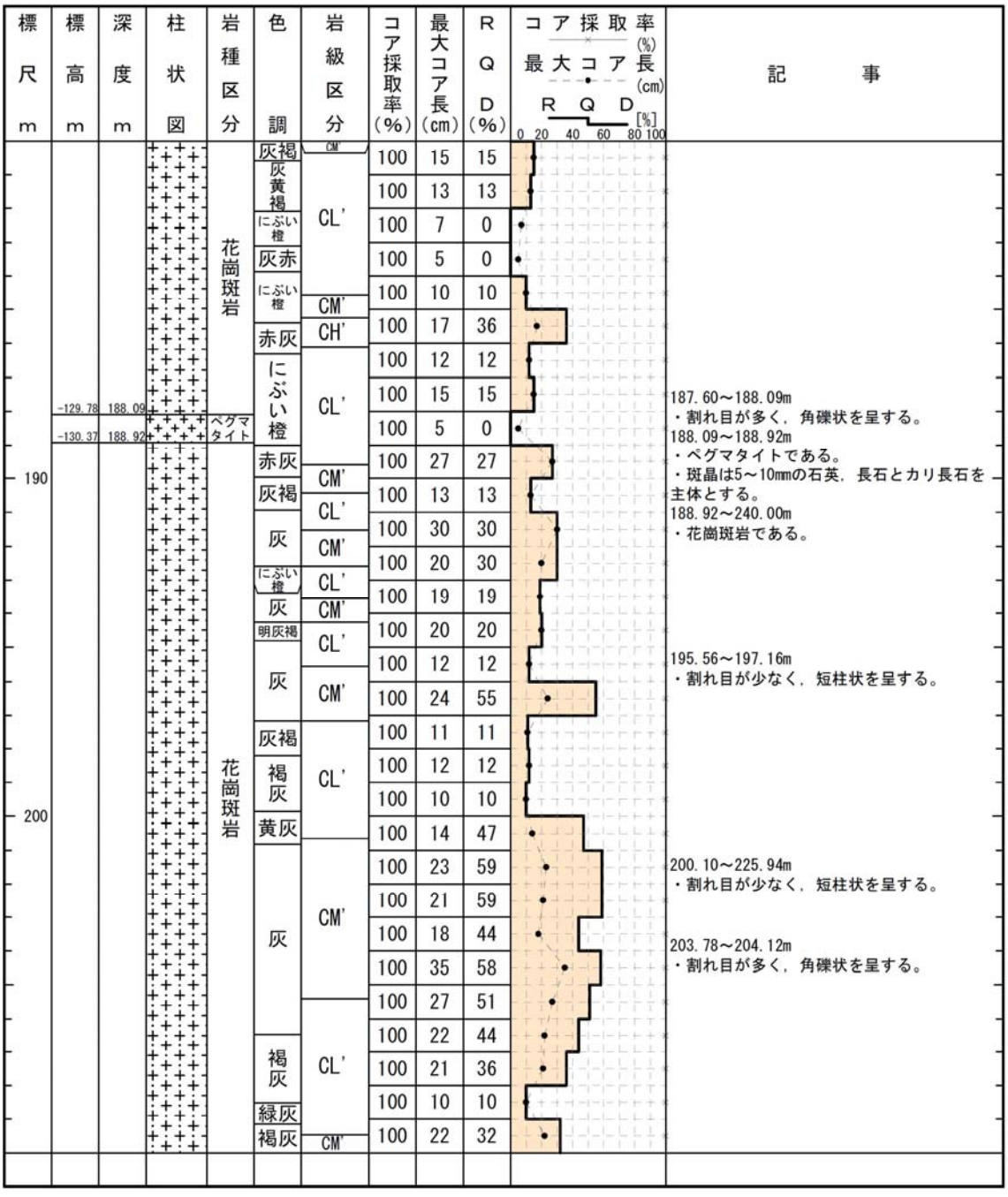
H24-B8-22

柱状図(150.00m～180.00m)



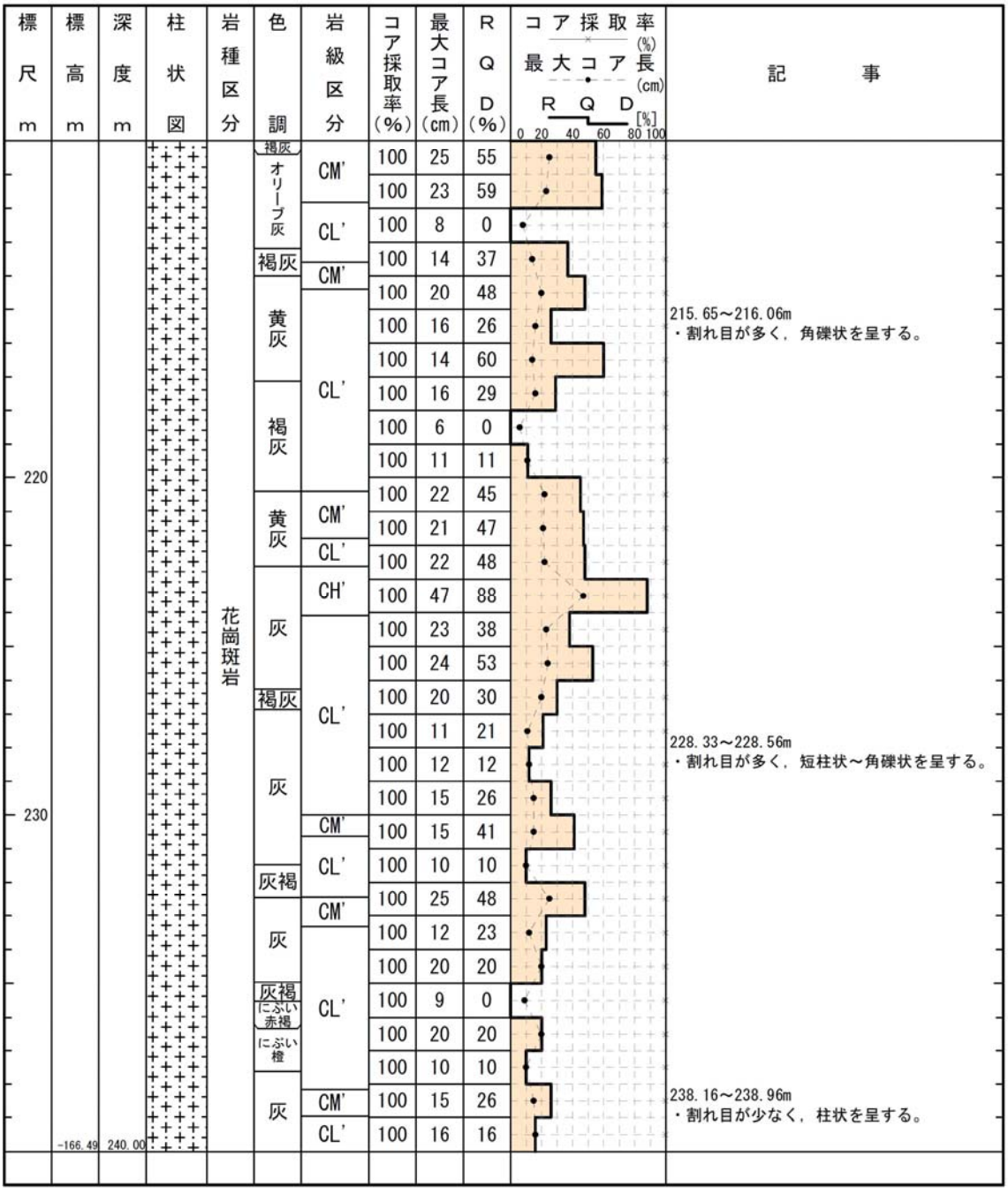
H24-B8-22

柱状図(180.00m～210.00m)



H24-B8-22

柱状図(210.00m～240.00m)

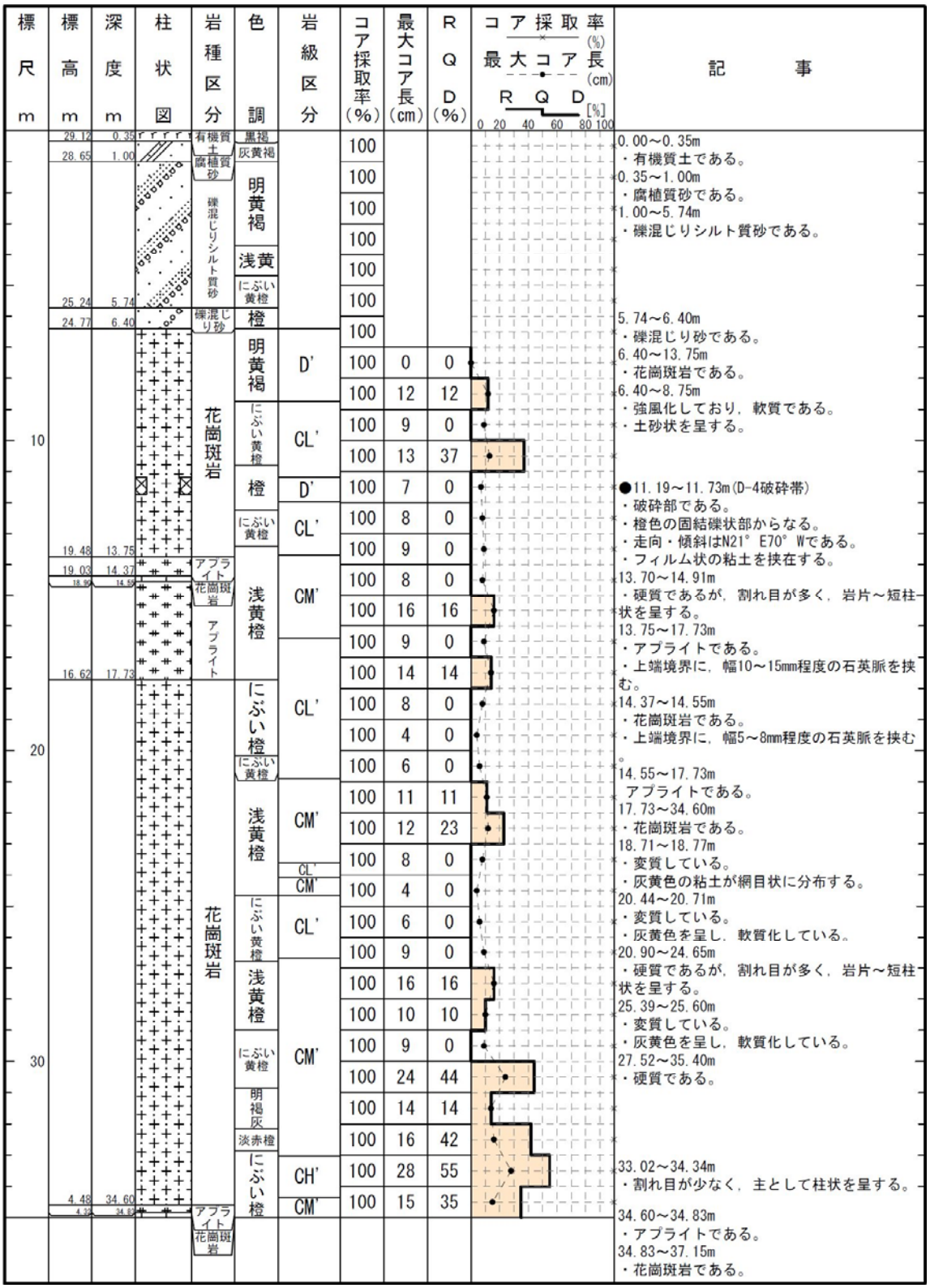


H20-①-9

柱状図(00.00m～35.00m)

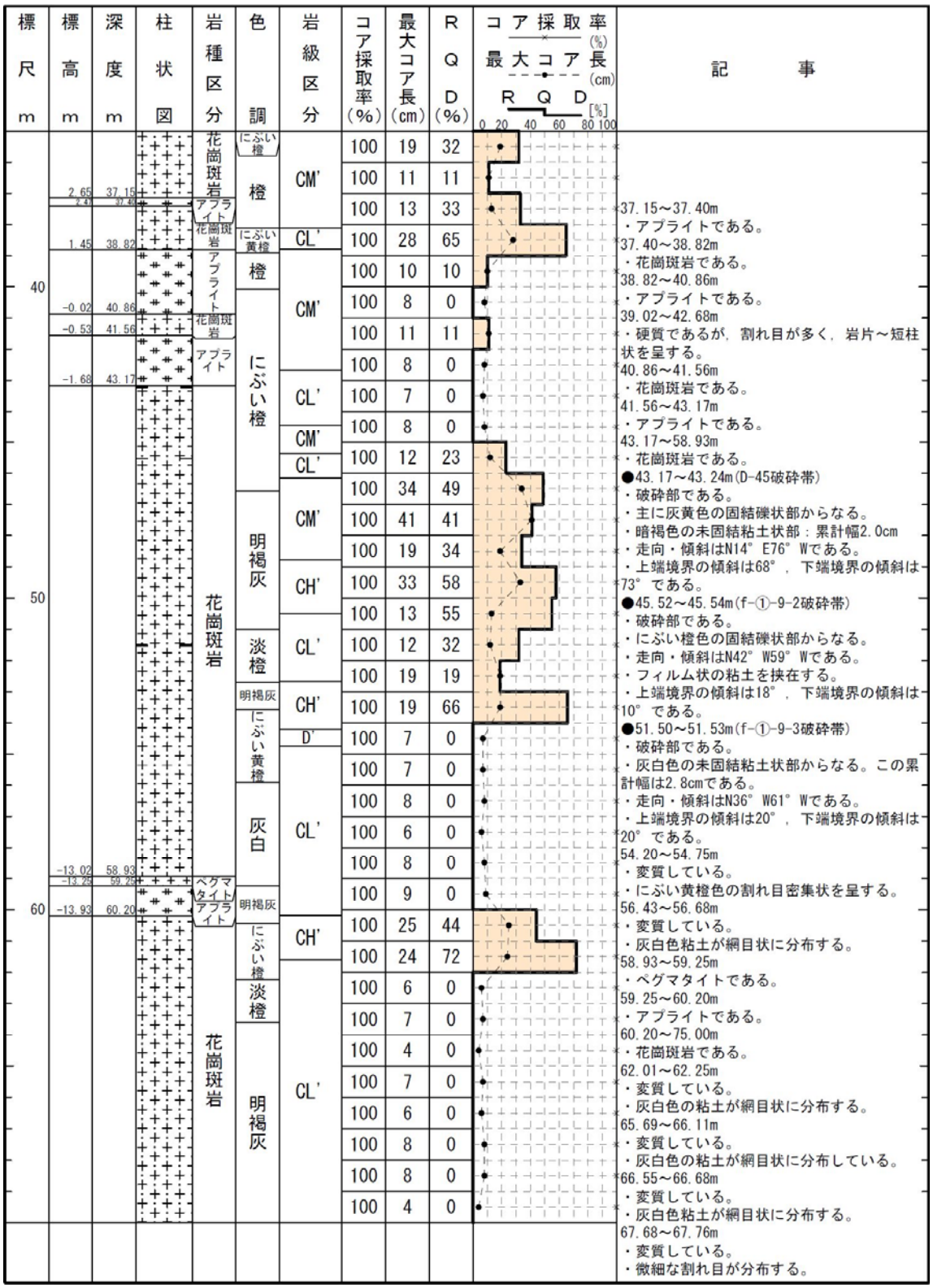
H20-①-9

孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	75.00m



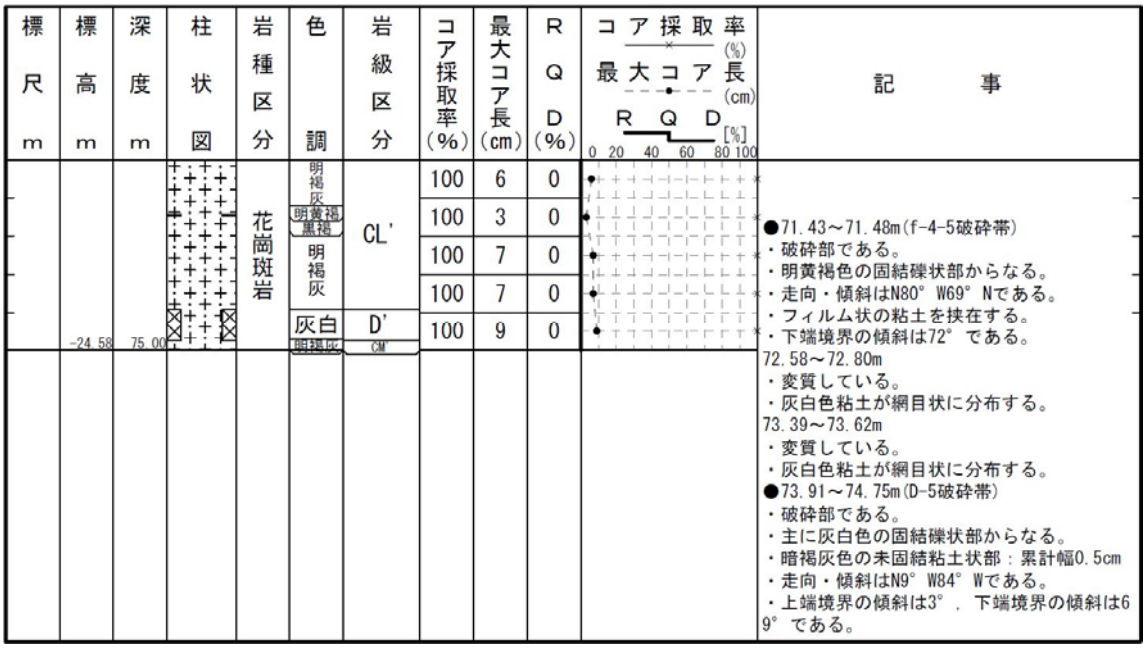
H20-①-9

柱状図(35.00m～70.00m)



H20-①-9

柱状図(70.00m～75.00m)

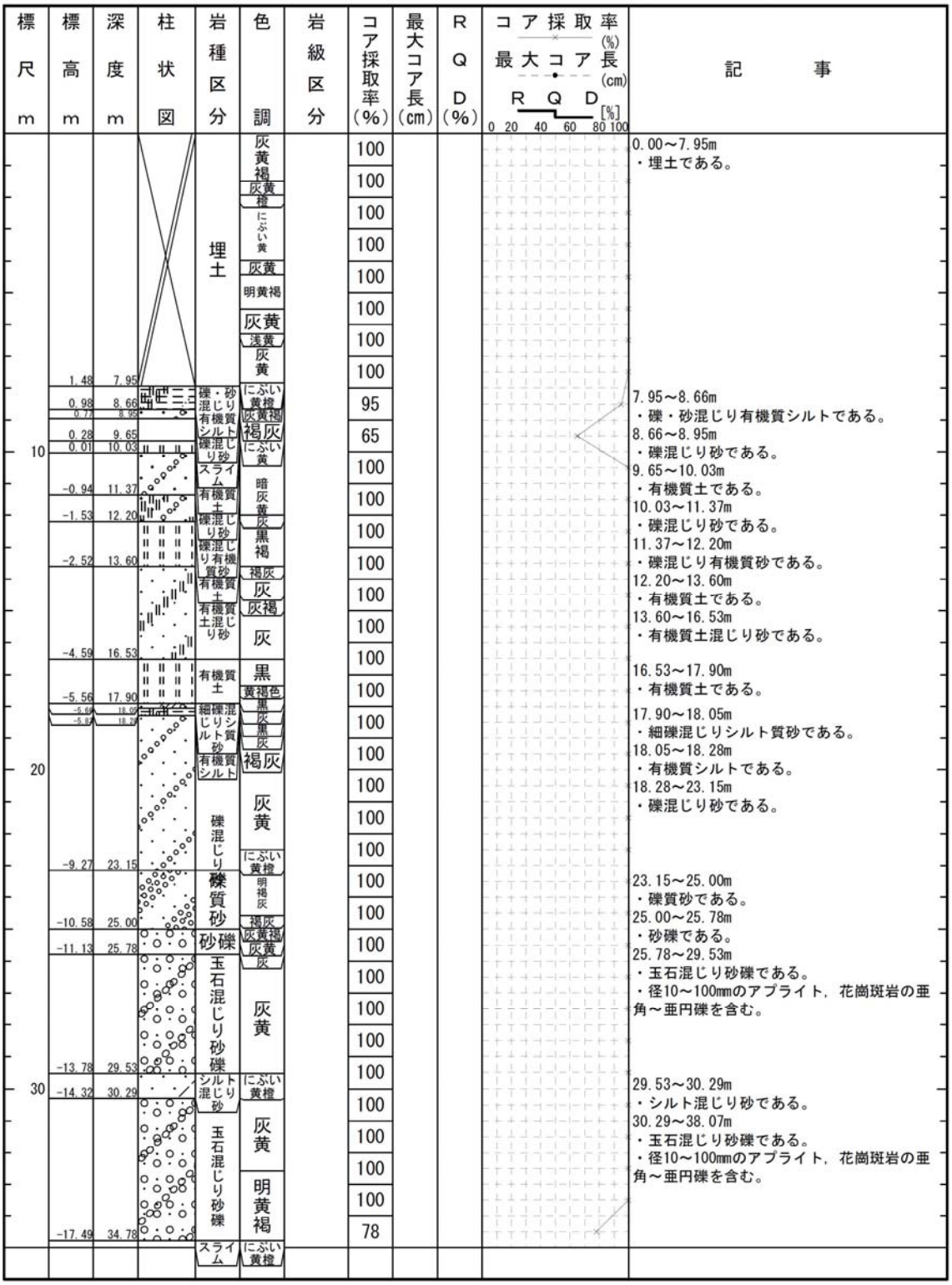


H24-B11-1

柱状図(00.00m～35.00m)

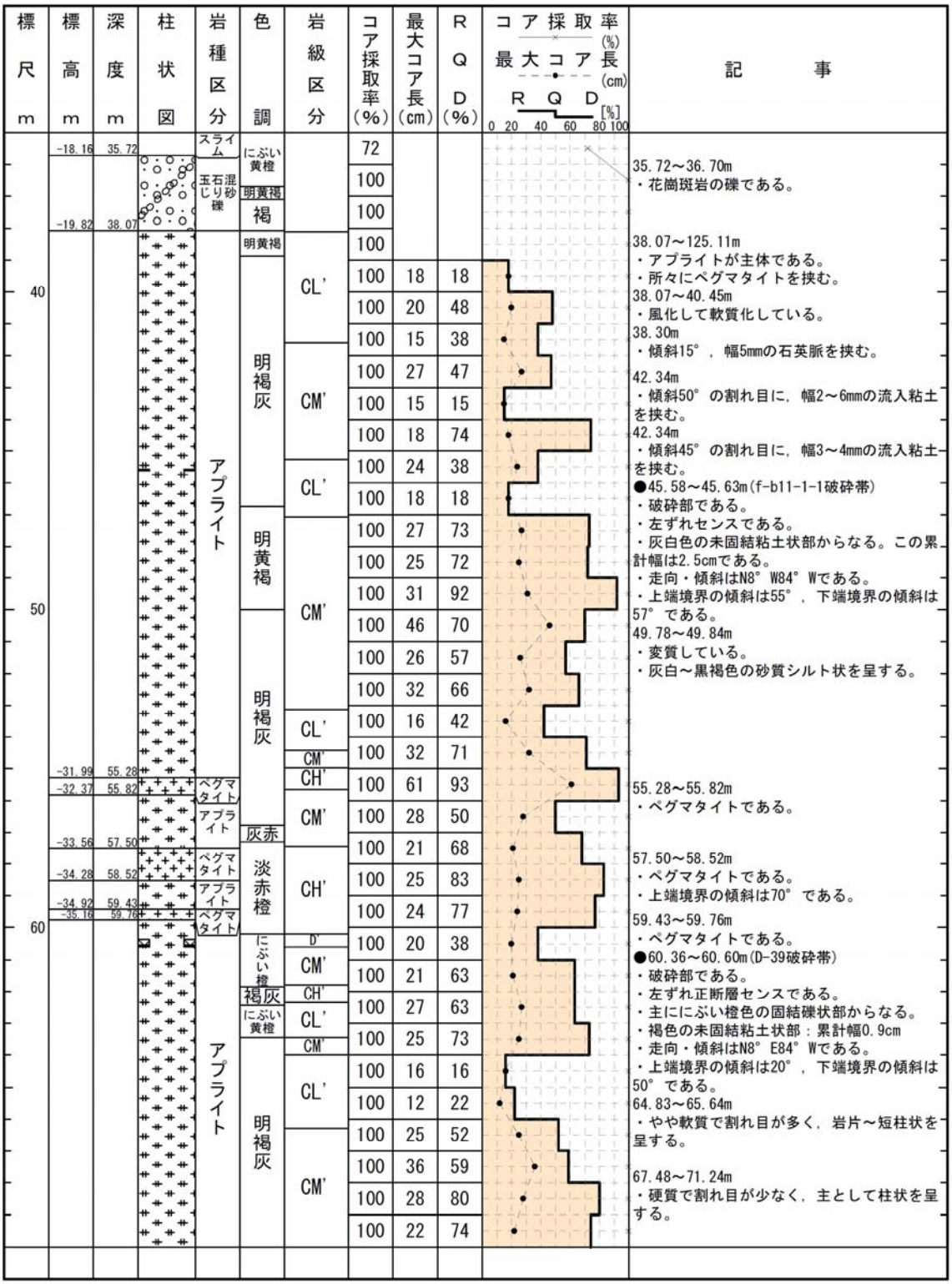
H24-B11-1

孔口標高	T.P. 7.10m	掘削長	150.00m


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%]
0 20 40 60 80 100
記事
埋土
礫・砂混じり有機質シルト
礫混じり砂
スライム
有機質土
礫混じり有機質土
有機質土混じり砂
礫混じり有機質砂
有機質土
細礫混じりシルト質砂
有機質シルト
礫混じり砂礫
礫質砂
砂礫
玉石混じり砂礫
シルト混じり砂
玉石混じり砂礫
スライム
1.48 7.95
0.98 8.66
0.73 8.95
0.28 9.65
0.01 10.03
-0.94 11.37
-1.53 12.20
-2.52 13.60
-4.59 16.53
-5.56 17.90
-5.69 18.05
-5.87 18.28
-9.27 23.15
-10.58 25.00
-11.13 25.78
-13.78 29.53
-14.32 30.29
-17.49 34.78
10
20
30
100
100
100
100
100
100
100
100
95
65
100
100
100
100
100
100
100
100

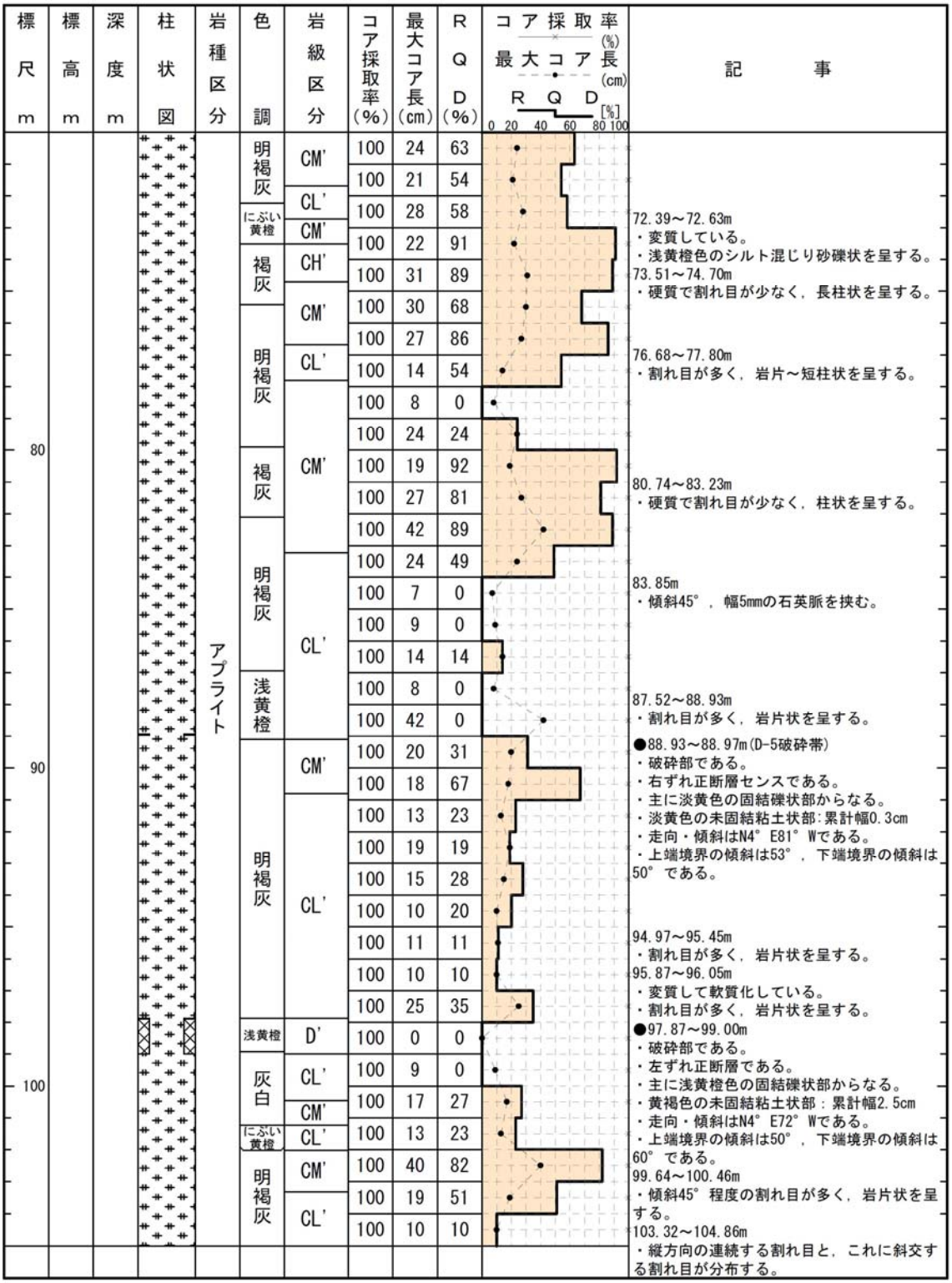
H24-B11-1

柱状図(35.00m～70.00m)



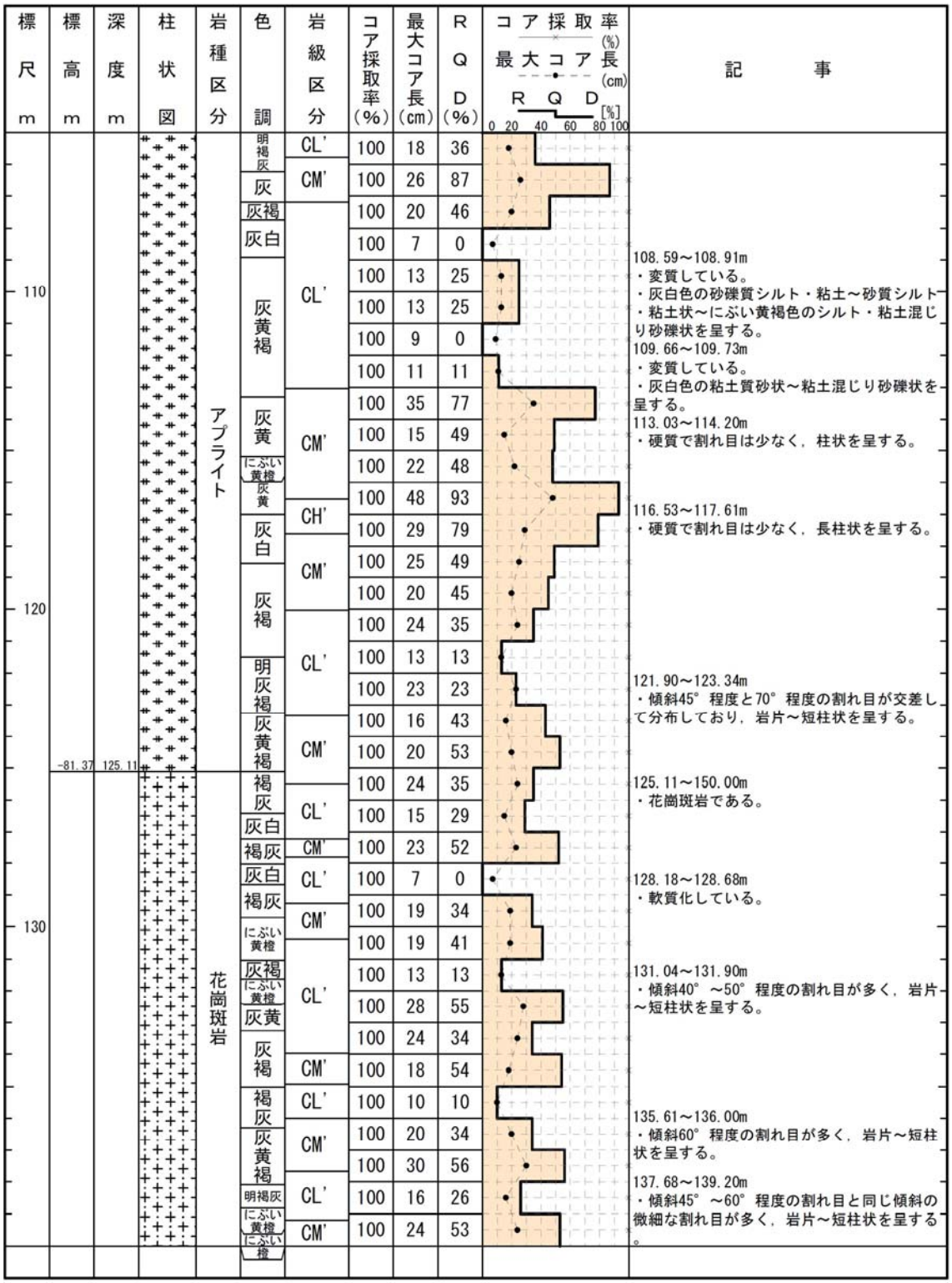
H24-B11-1

柱状図(70.00m～105.00m)



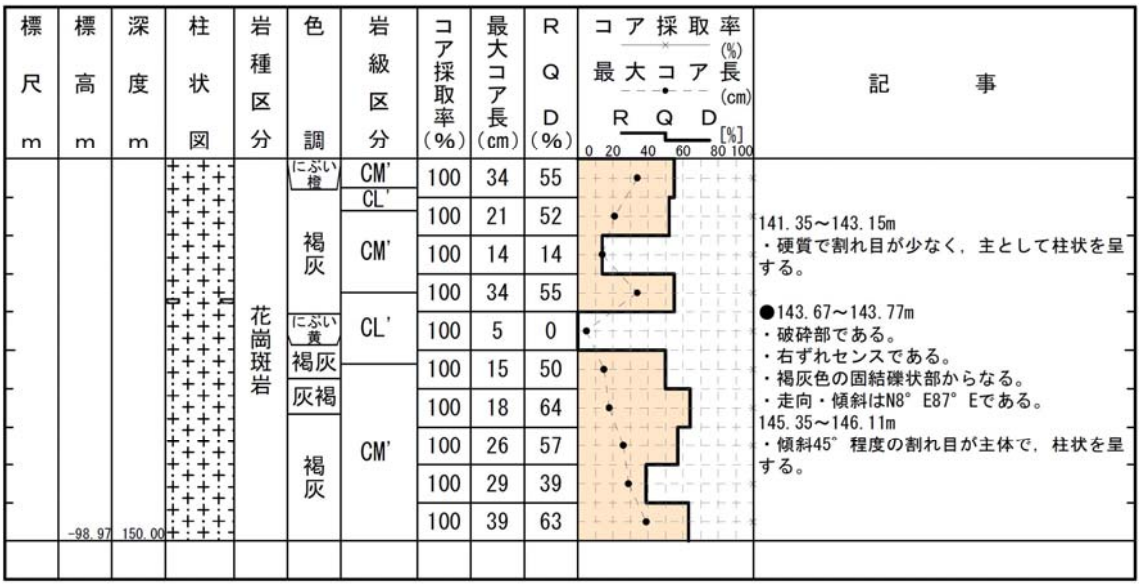
H24-B11-1

柱状図(105.00m～140.00m)



H24-B11-1

柱状図(140.00m～150.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	34	55		
						CL'	100	21	52		141.35～143.15m ・硬質で割れ目が少なく，主として柱状を呈する。
					褐灰	CM'	100	14	14		
							100	34	55		
					にぶい黄	CL'	100	5	0		●143.67～143.77m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN8° E87° Eである。
					褐灰		100	15	50		
					灰褐	CM'	100	18	64		
					褐灰		100	26	57		145.35～146.11m ・傾斜45° 程度の割れ目が主体で，柱状を呈する。
							100	29	39		
	-98.97	150.00					100	39	63		

H24-B8-21

柱状図(0.00m～30.00m)

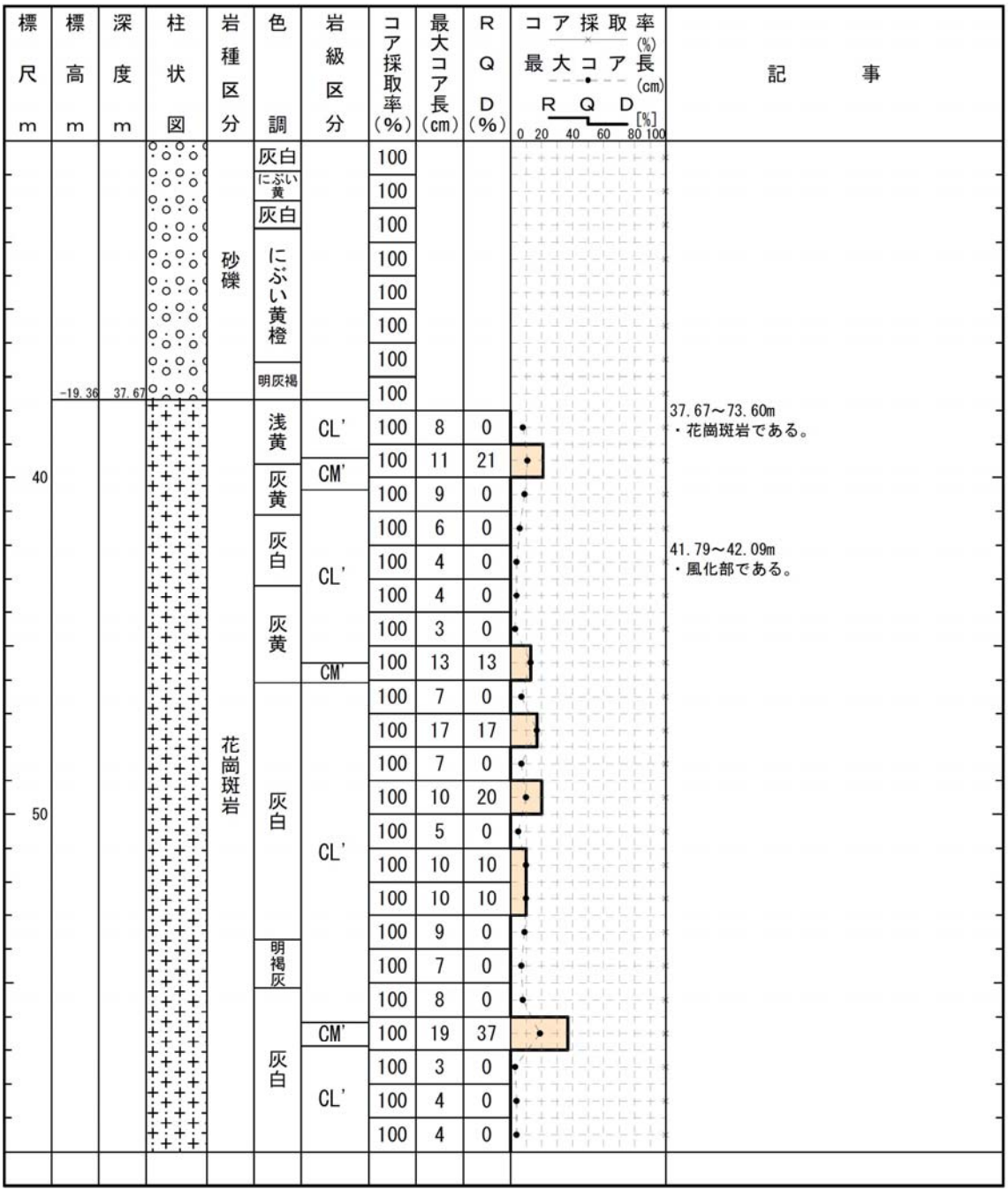
H24-B8-21

孔口標高	T.P. 7.28m	掘削長	240.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	にぶい黄橙 褐灰		100				0.00～3.00m ・埋土である。
	5.16	3.00					100				
							100				
	4.56	3.84		砂礫	黄灰		84				3.00～3.84m ・砂礫である。 ・径5～30cmの硬質亜角～亜円礫を60～70%含む。
				スライム	灰白		0				3.48～5.00m ・スライム。
	3.74	5.00									
	3.53	5.30		砂礫	灰						5.00～5.30m ・砂礫である。
				礫	黄灰		100				5.30～6.92m ・礫である。
	2.39	6.92			明黄褐		100				6.92～10.30m ・礫混じり砂である。 ・シルトを混入する不均質な砂が主体である。
				礫混じり砂	灰白		100				
					浅黄		100				
					黄褐						
					浅黄		100				
					明黄褐		100				
10	-0.00	10.30			明オリーブ灰		100				
				礫質砂	灰白		100				10.30～15.15m ・礫質砂である。
					明オリーブ灰		100				
					灰白		100				
					明黄褐		100				
	-3.43	15.15					100				15.15～17.00m ・砂礫である。
				砂礫	灰白		100				
	-4.74	17.00			灰		100				17.00～17.48m ・スライム。
	-5.08	17.48		スライム	灰白		52				17.48～17.78m ・礫混じり砂質シルトである。
	-5.28	17.78		礫混じり砂質シルト	灰黄褐		100				17.78～19.46m ・礫混じりシルト質砂である。 ・シルトを多く含む不均質な砂で細礫が混じる。
	-6.48	19.46		礫混じりシルト質砂	灰		100				19.46～19.73m ・有機質砂である。
	-6.61	19.73		有機質砂			100				19.73～22.00m ・礫質砂である。
20				礫質砂	灰オリーブ		100				22.00～22.63m ・有機物・礫混じり砂である。
	-8.28	22.00			明オリーブ灰		100				22.63～23.64m ・礫質砂である。
	-8.72	22.63		有機物・礫混じり砂	灰		100				23.64～24.43m ・砂礫である。 ・径2～20mmの亜角礫を含む。
	-9.44	23.64		礫質砂	淡黄		100				24.43～25.28m ・スライム。
					灰						25.28～26.51m ・礫混じり砂である。
	-9.99	24.43		砂礫	黄褐		43				26.51～37.67m ・砂礫である。
				スライム	淡黄		82				
	-10.60	25.28					100				
				礫混じり砂	灰白		100				
	-11.47	26.51					100				
				砂礫			100				

H24-B8-21

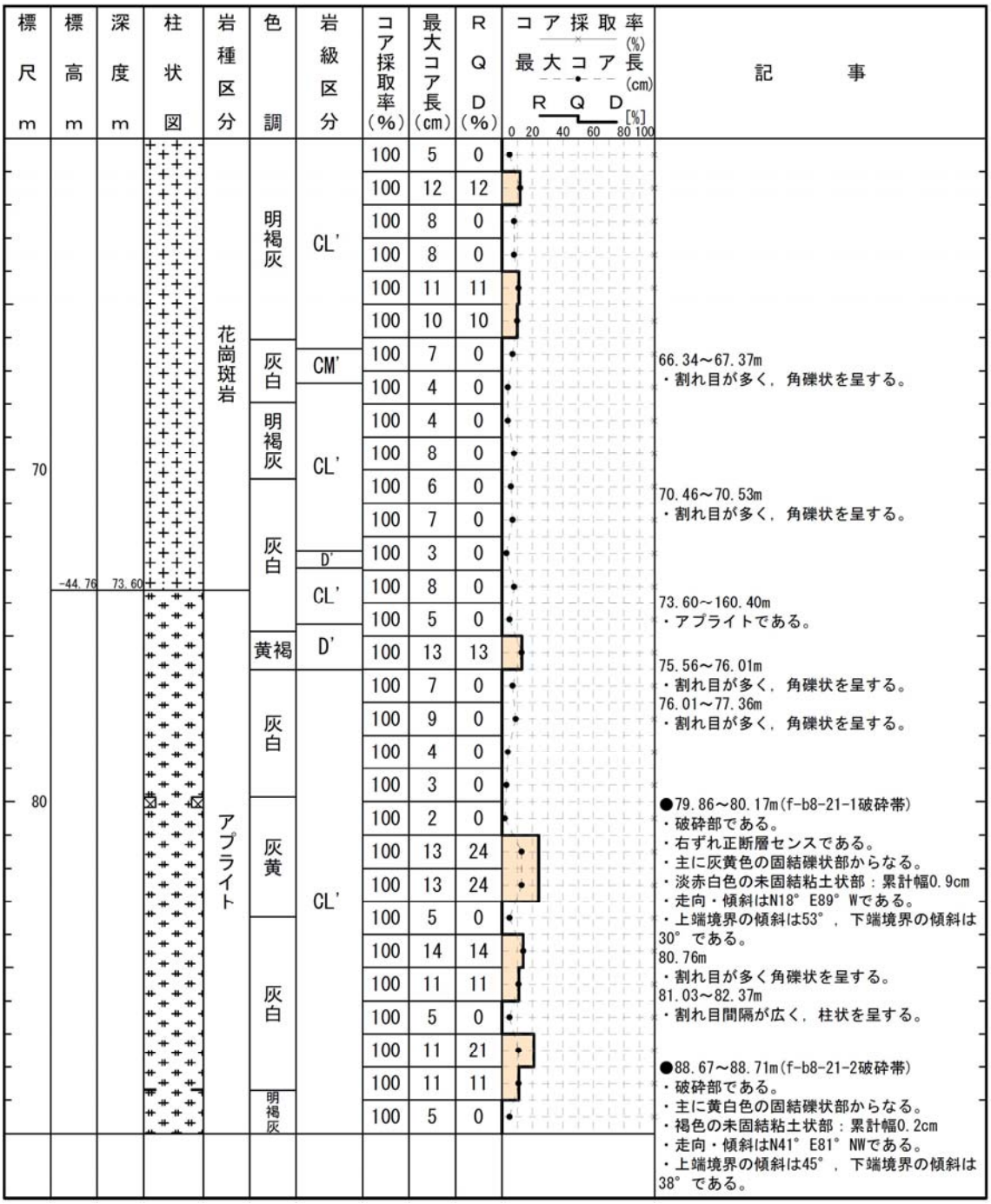
柱状図(30.00m～60.00m)



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	8	0
100	11	21
100	9	0
100	6	0
100	4	0
100	4	0
100	3	0
100	13	13
100	7	0
100	17	17
100	7	0
100	10	20
100	5	0
100	10	10
100	10	10
100	9	0
100	7	0
100	8	0
100	19	37
100	3	0
100	4	0
100	4	0

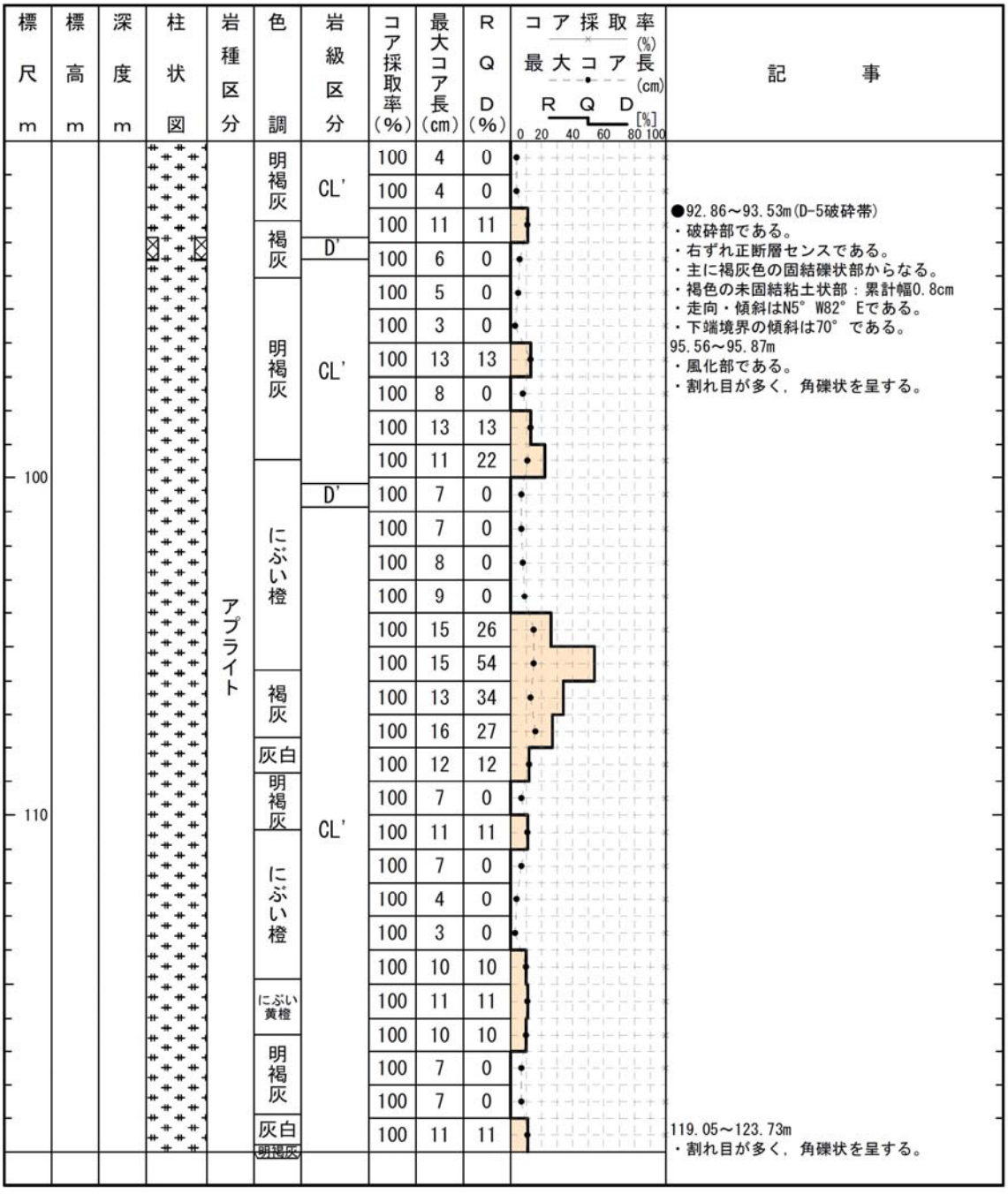
H24-B8-21

柱状図(60.00m～90.00m)



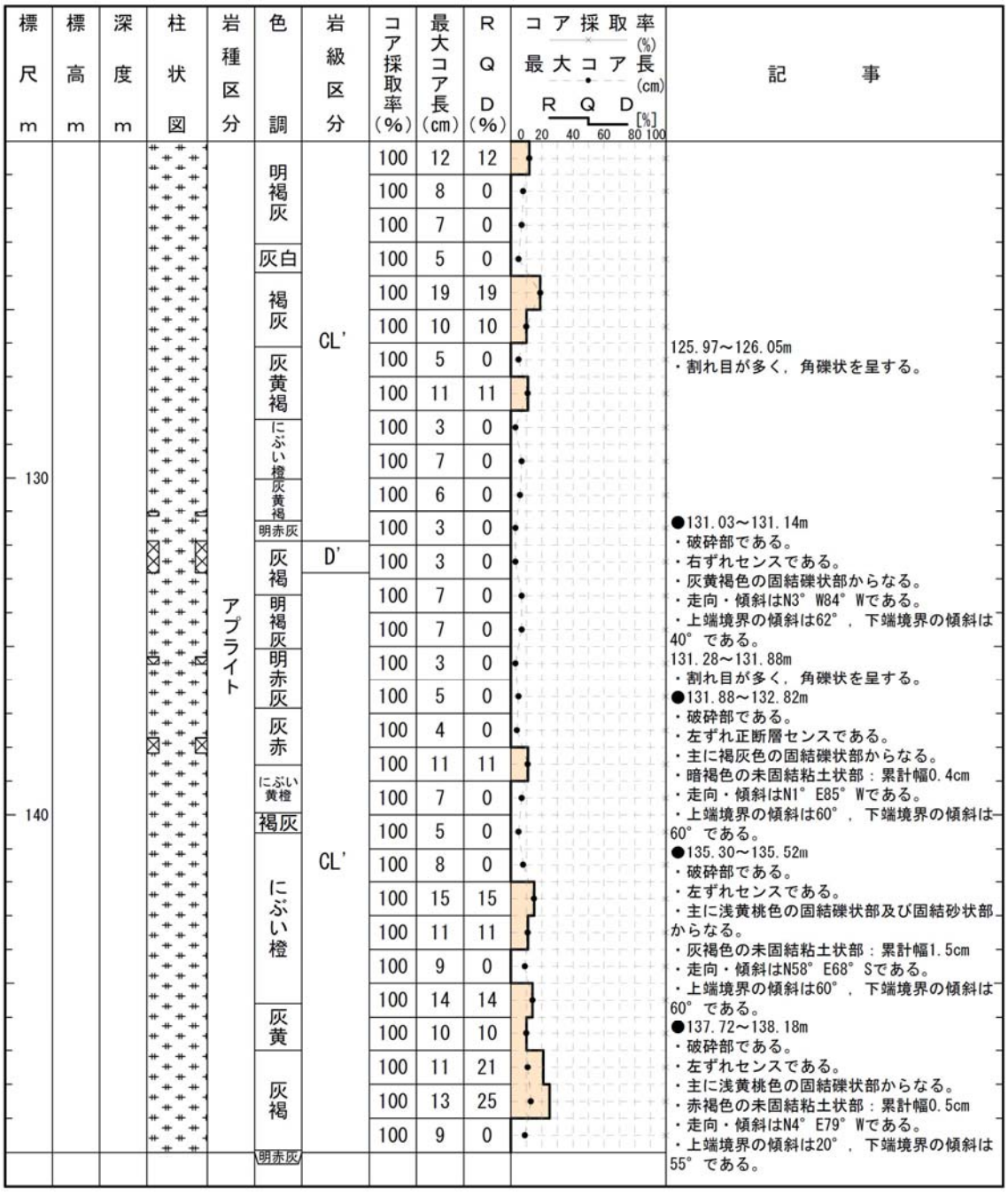
H24-B8-21

柱状図(90.00m～120.00m)



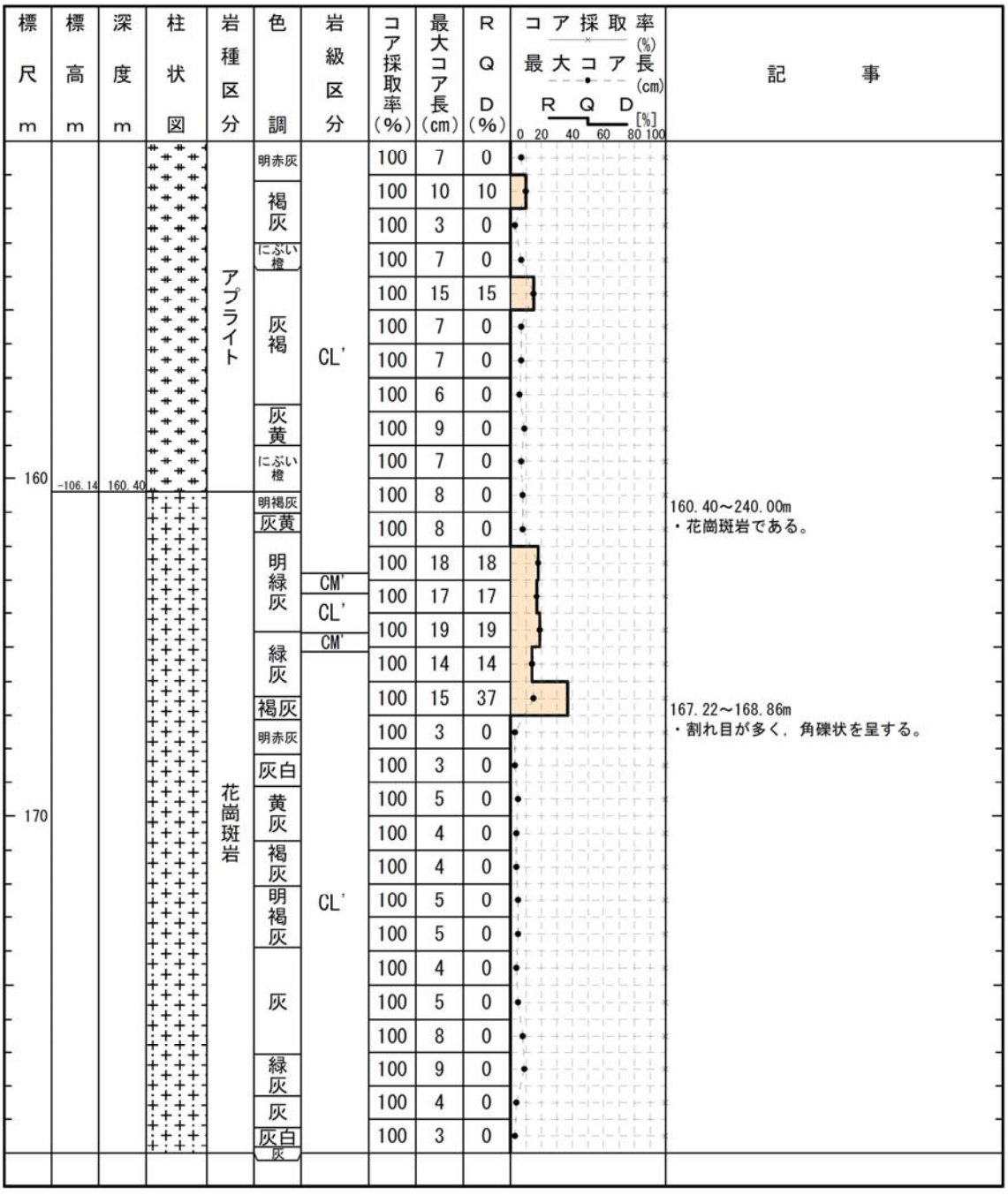
H24-B8-21

柱状図(120.00m～150.00m)



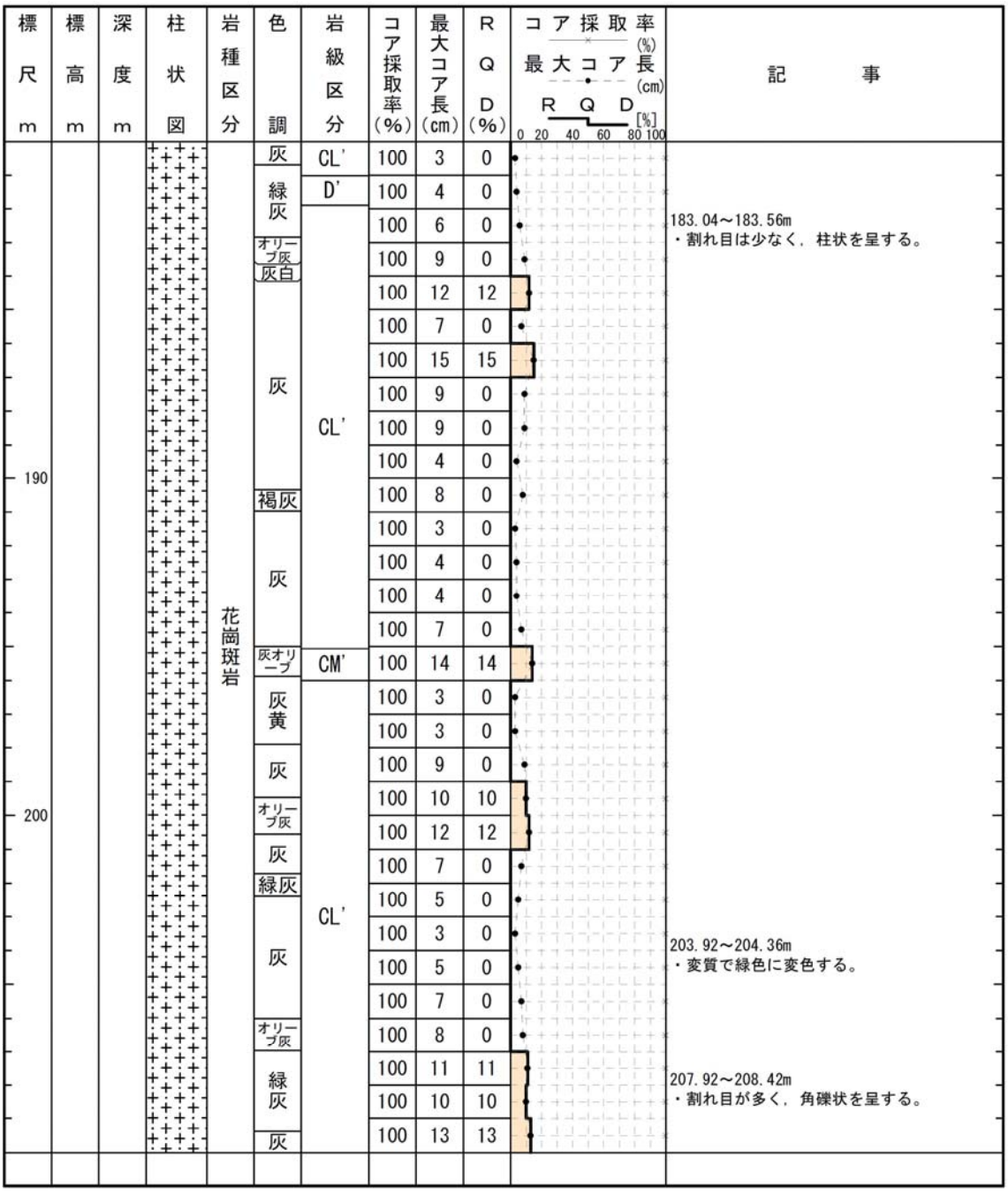
H24-B8-21

柱状図(150.00m～180.00m)



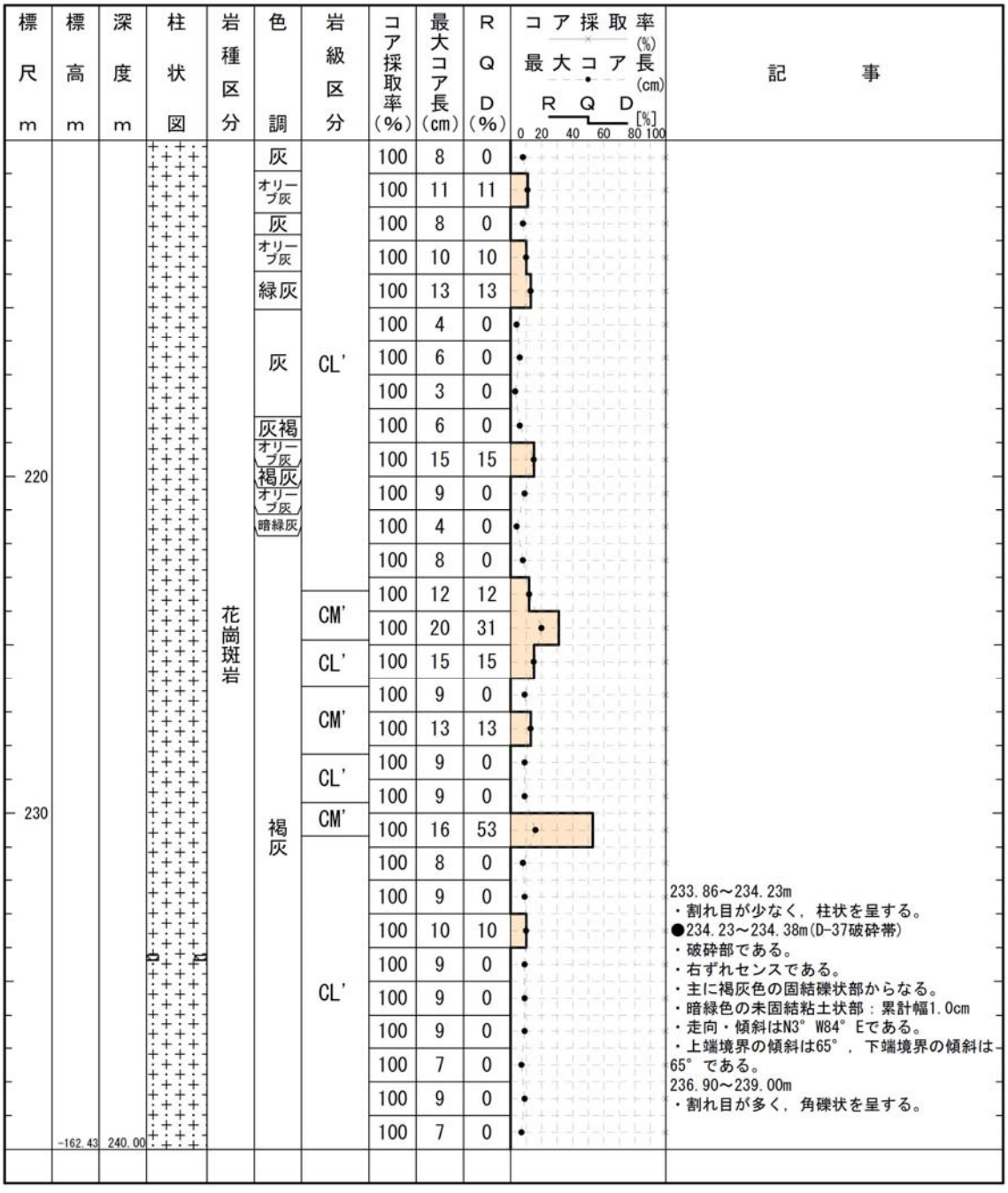
H24-B8-21

柱状図(180.00m～210.00m)



H24-B8-21

柱状図(210.00m～240.00m)

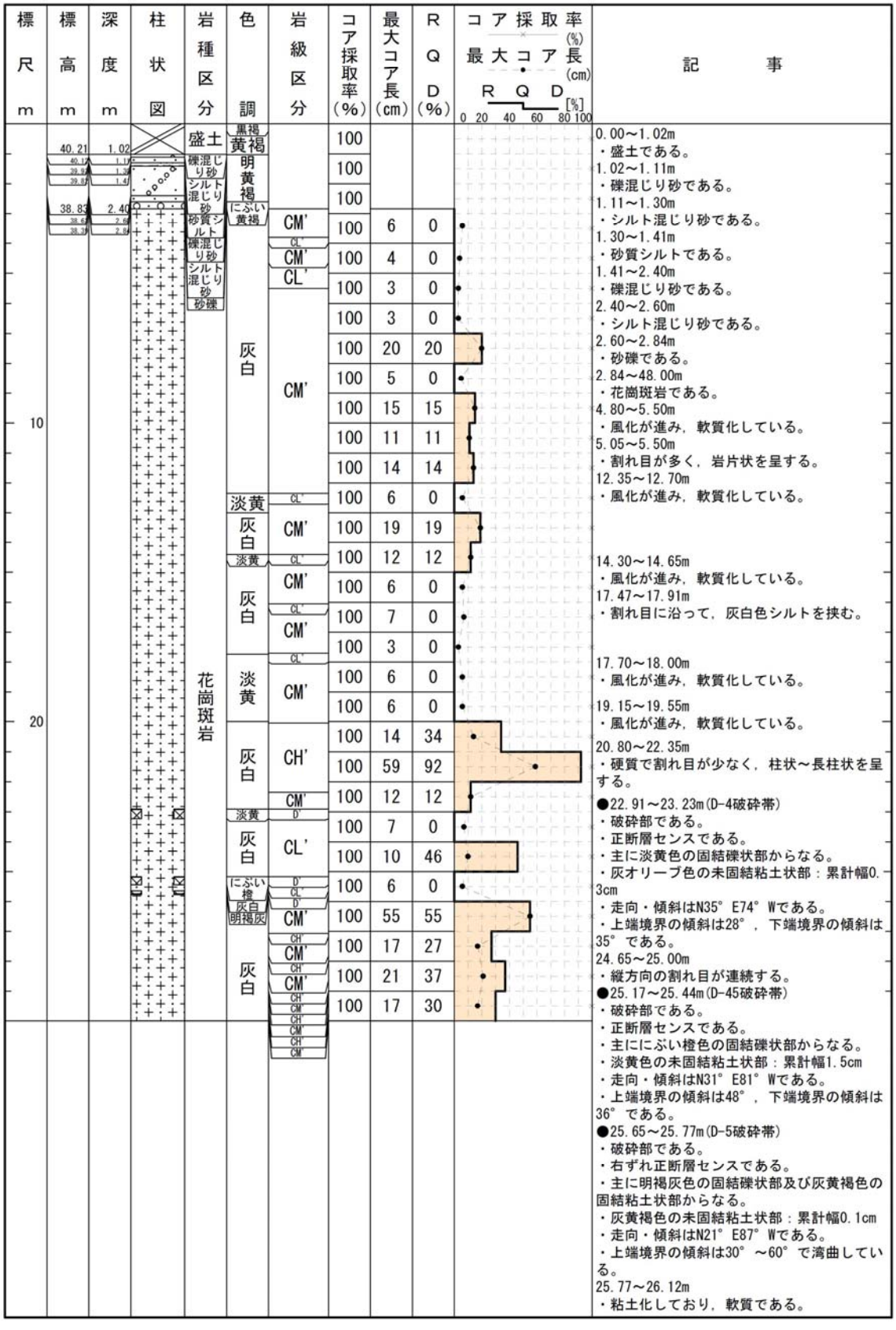


H27-D5-1

柱状図(0.00m～30.00m)

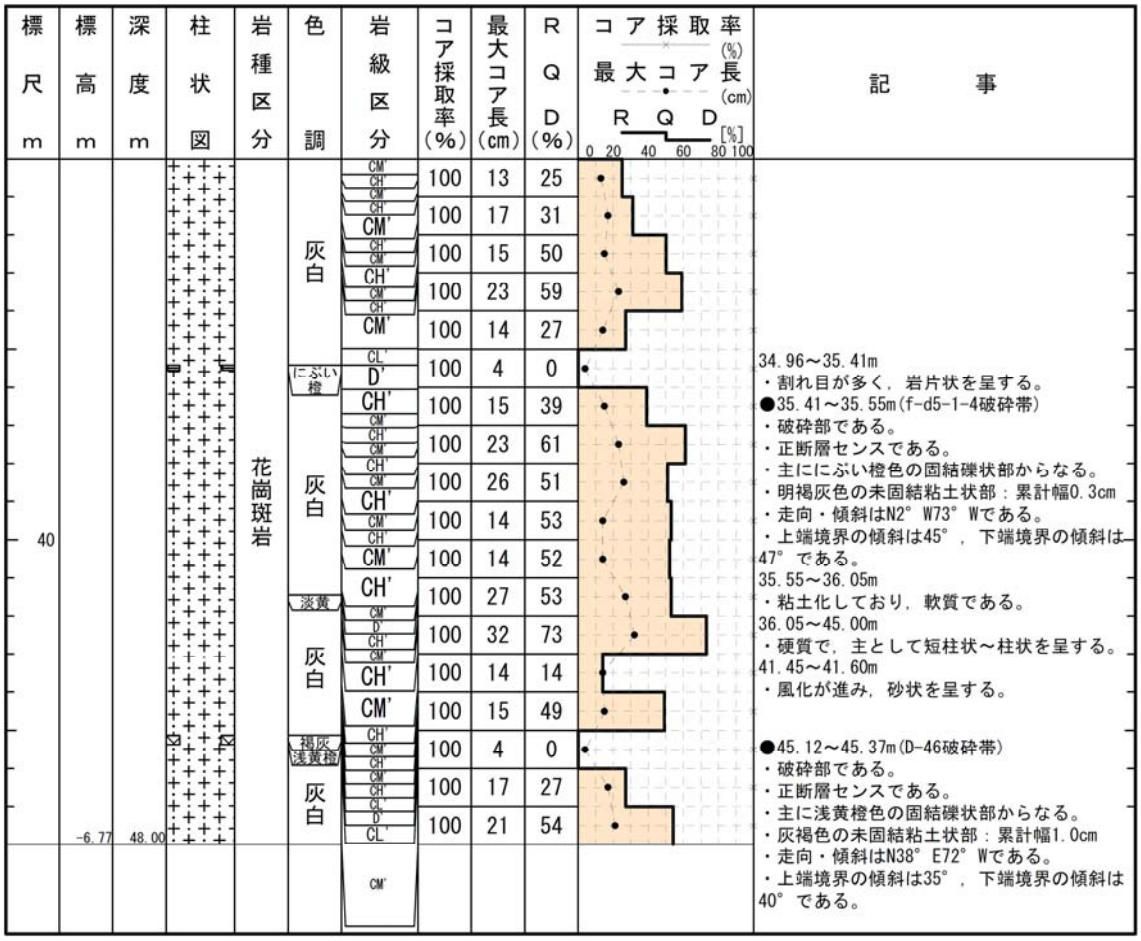
H27-D5-1

孔口標高	T.P. 41.23m	掘削長	46.00m



H27-D5-1

柱状図(30.00m～48.00m)

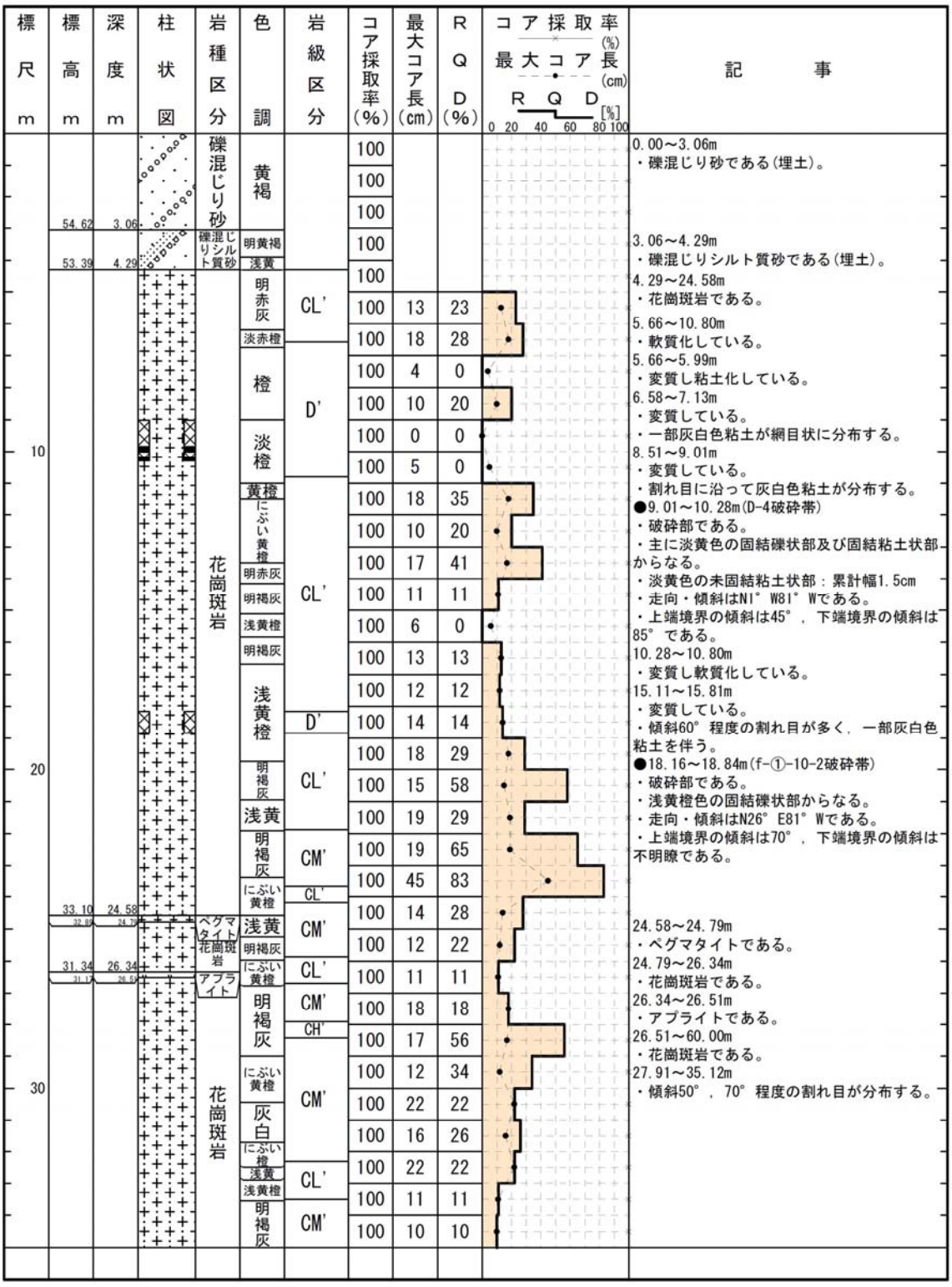


H20-①-10

柱状図(0.00m～35.00m)

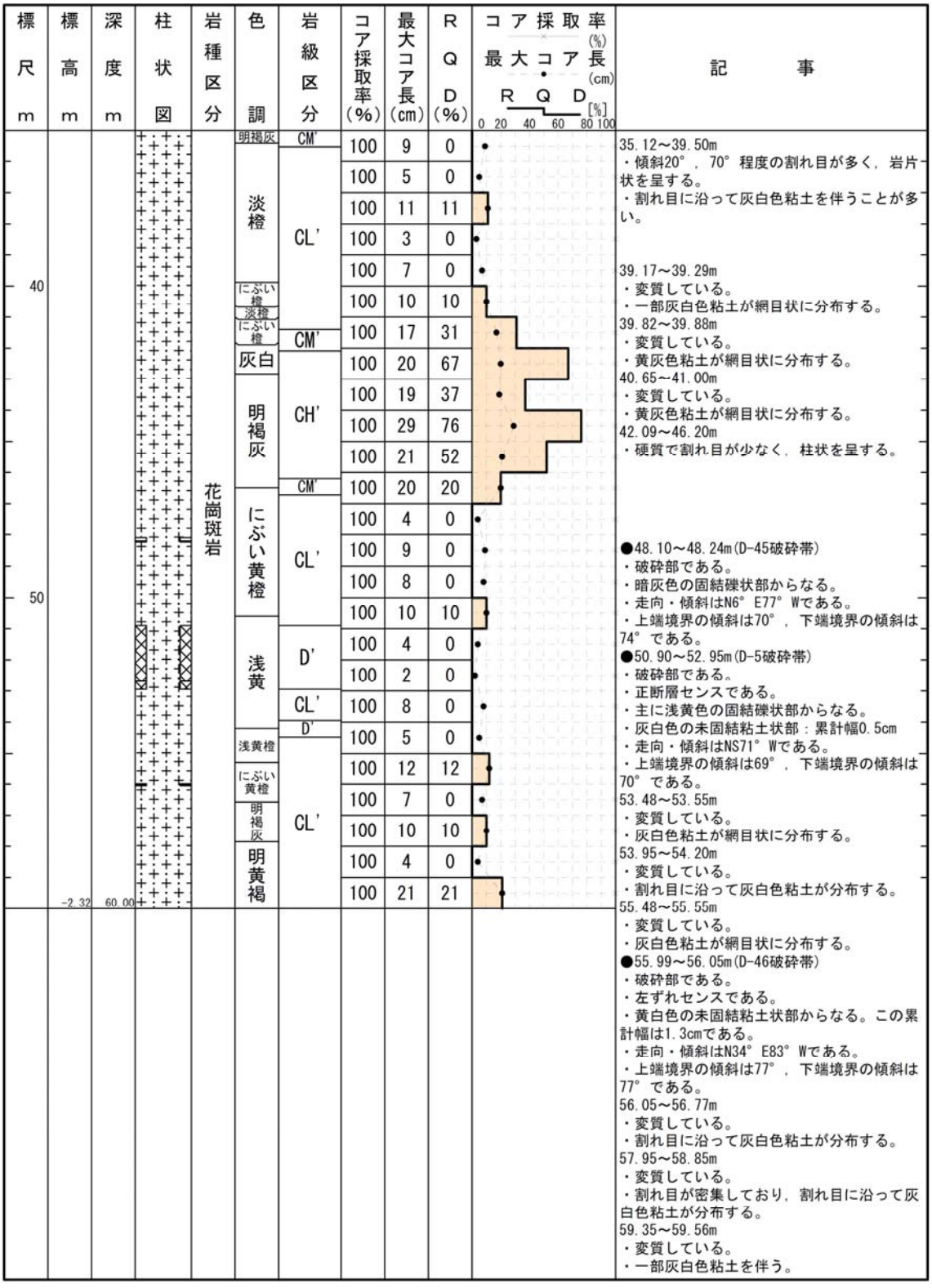
H20-①-10

孔口標高	T.P. 57.68m	掘削長	60.00m



H20-①-10

柱状図(35.00m～60.00m)



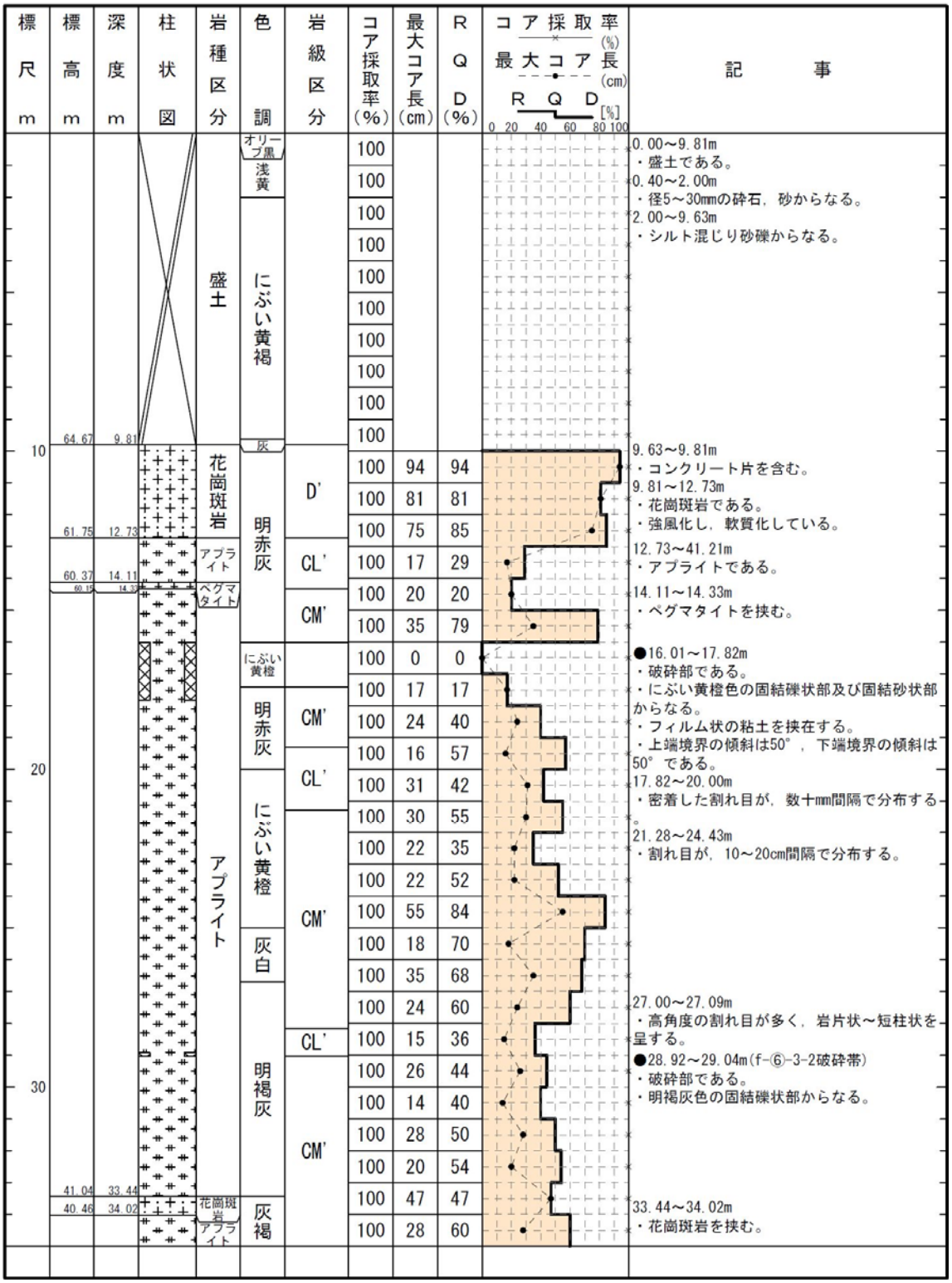
H19－No. 16

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(0.00m～35.00m)

H19-No. 16

孔口標高	T.P. 74.48m	掘削長	220.00m

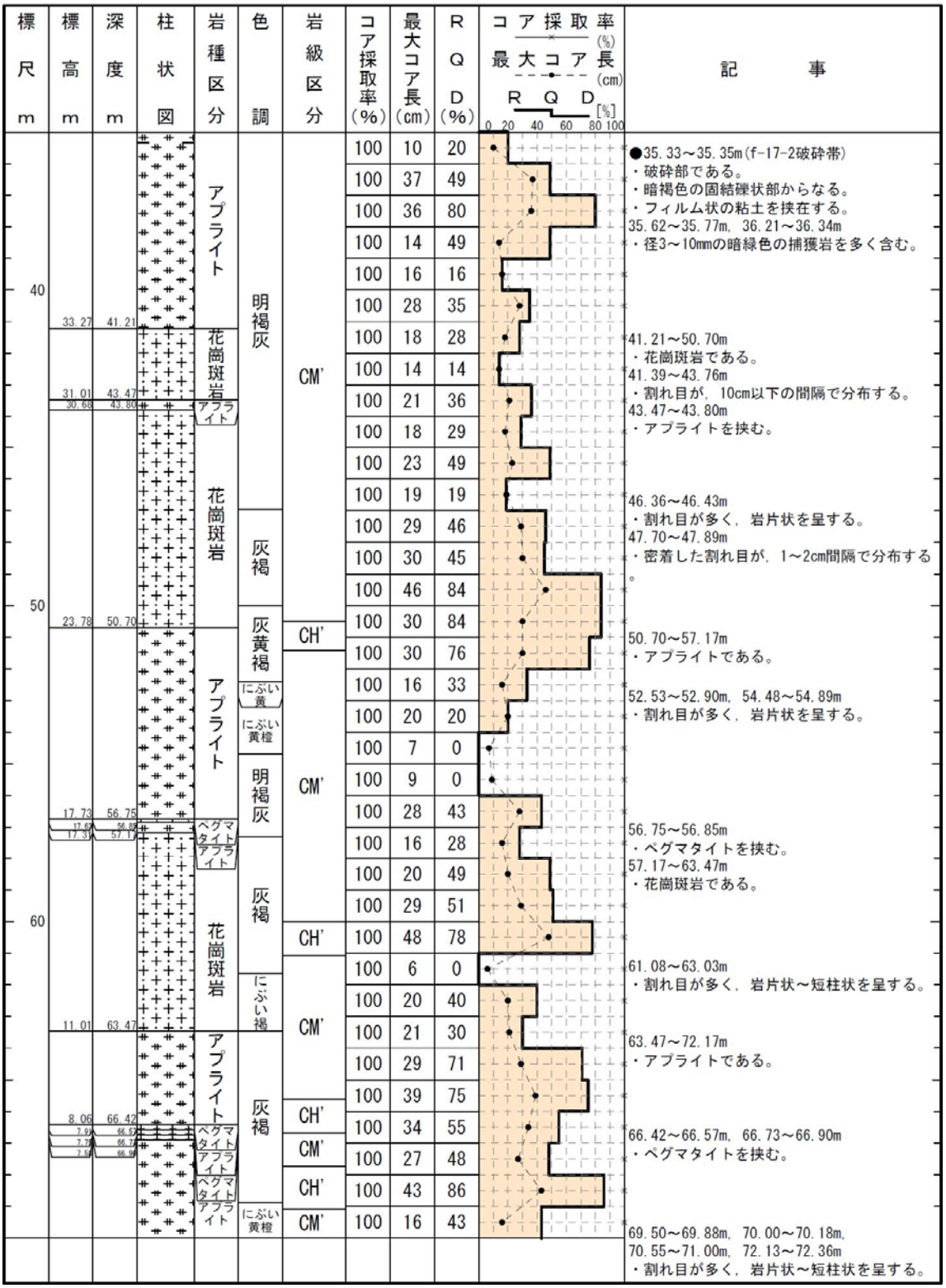


標尺 m	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
10	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100	94	94
	100	81	81
	100	75	85
	100	17	29
	100	20	20
	100	35	79
	100	0	0
	100	17	17
	100	24	40
	100	16	57
20	100	31	42
	100	30	55
	100	22	35
	100	22	52
	100	55	84
	100	18	70
	100	35	68
	100	24	60
	100	15	36
	100	26	44
30	100	14	40
	100	28	50
	100	20	54
	100	47	47
	100	28	60

H19－No. 16

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

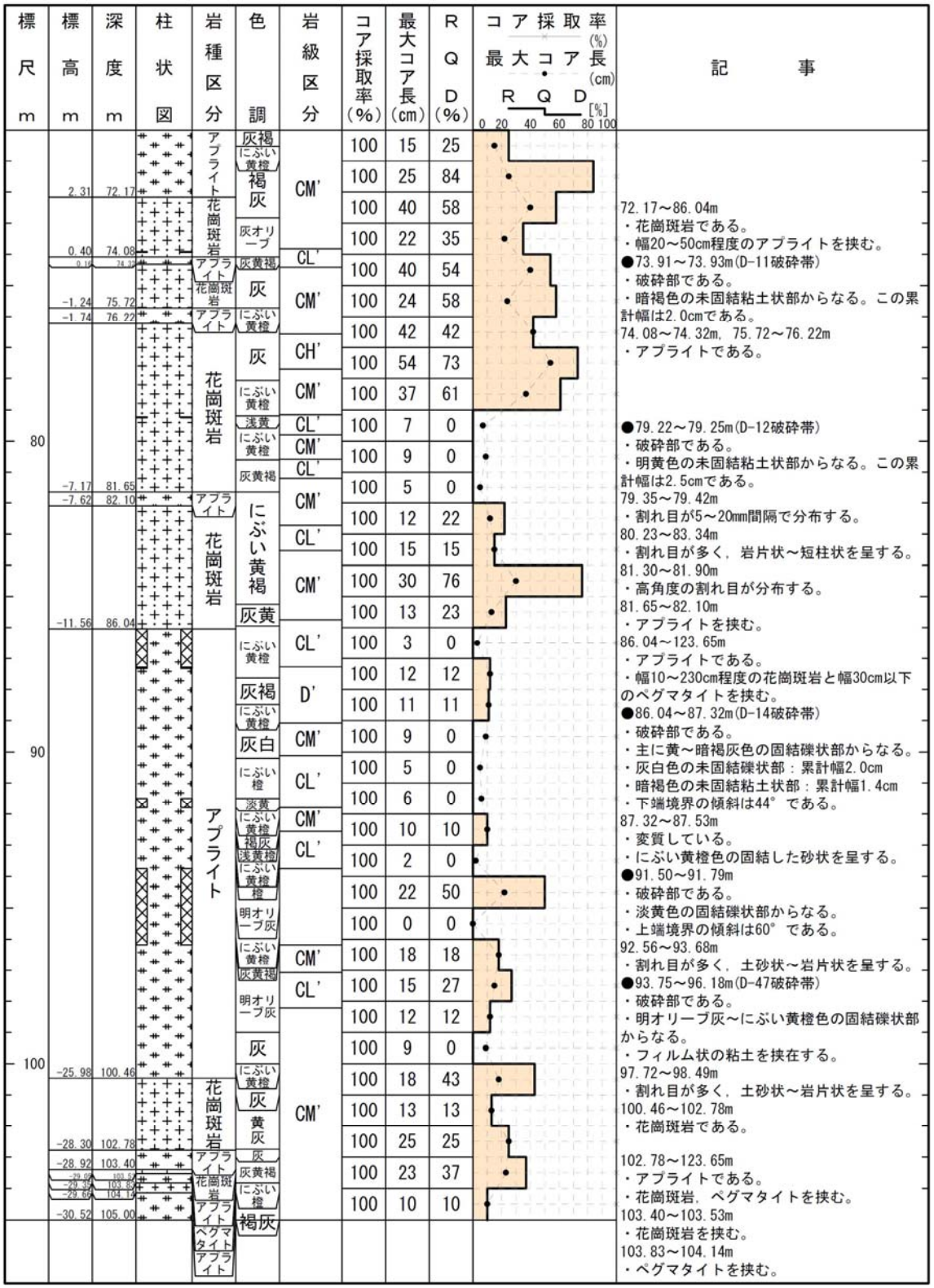
柱状図(35.00m～70.00m)



H19－No. 16

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

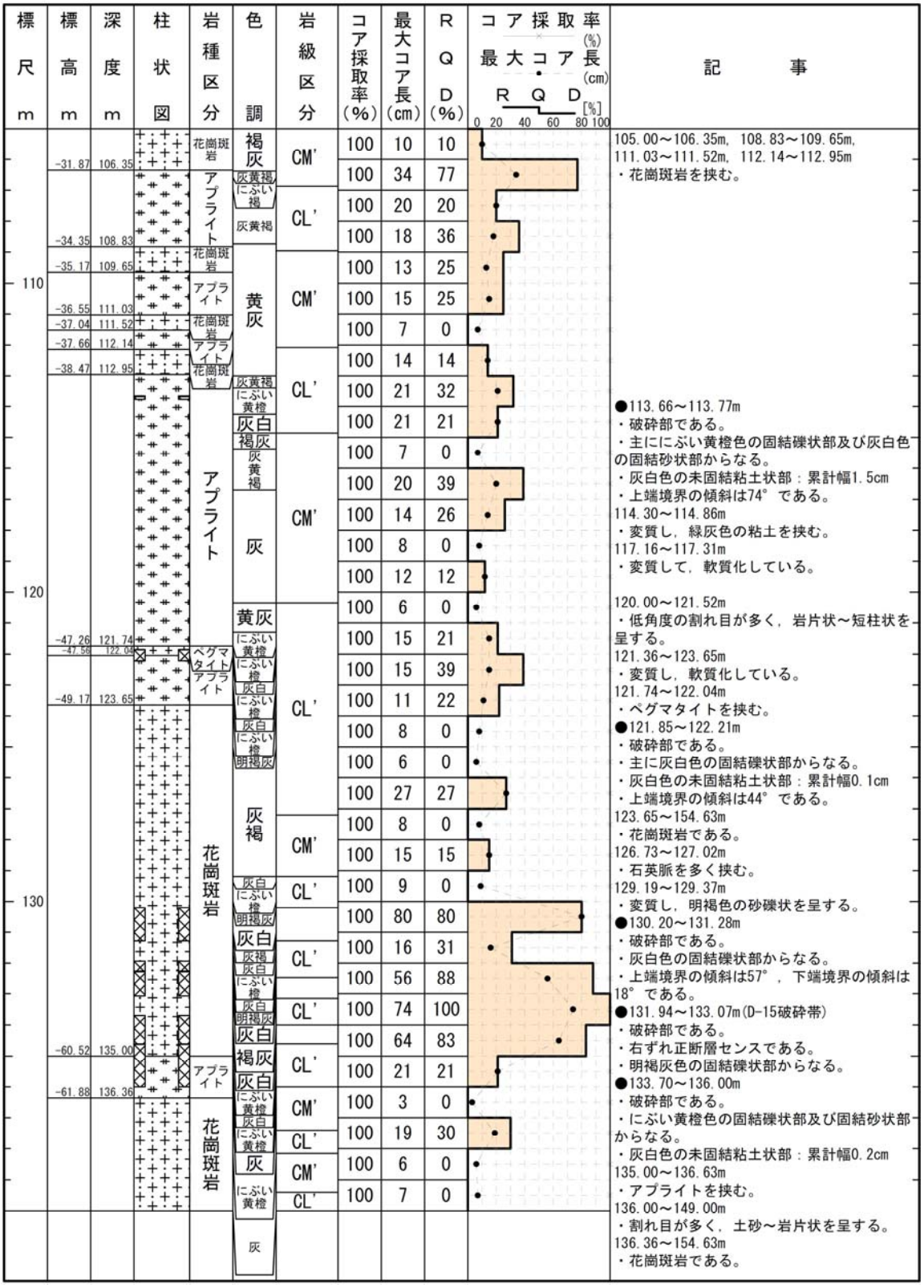
柱状図(70.00m～105.00m)



H19－No. 16

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

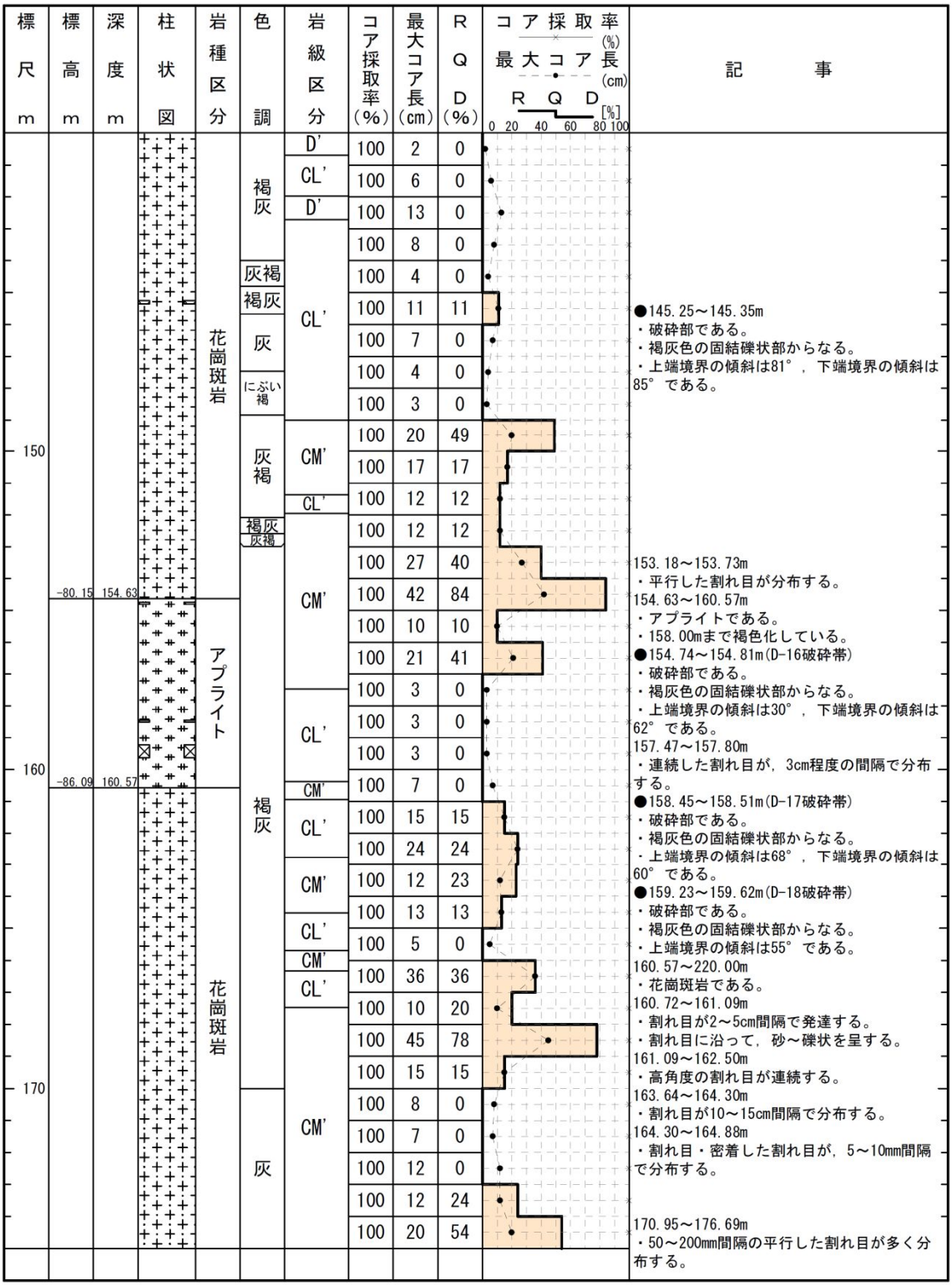
柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No. 16

第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

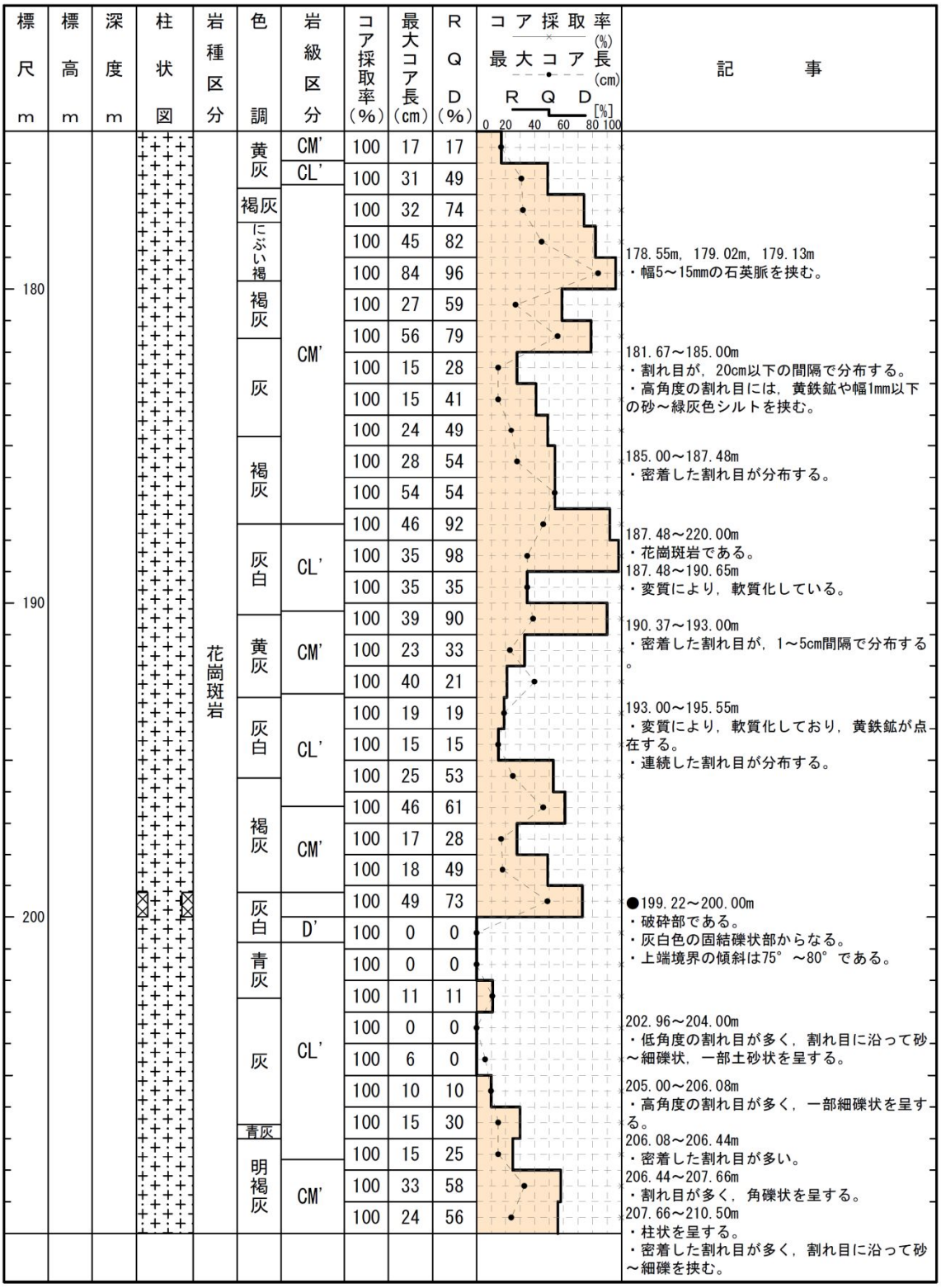
柱状図(140.00m～175.00m)



H19－No. 16

第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(175.00m～210.00m)



H19－No. 16

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(210.00m～220.00m)

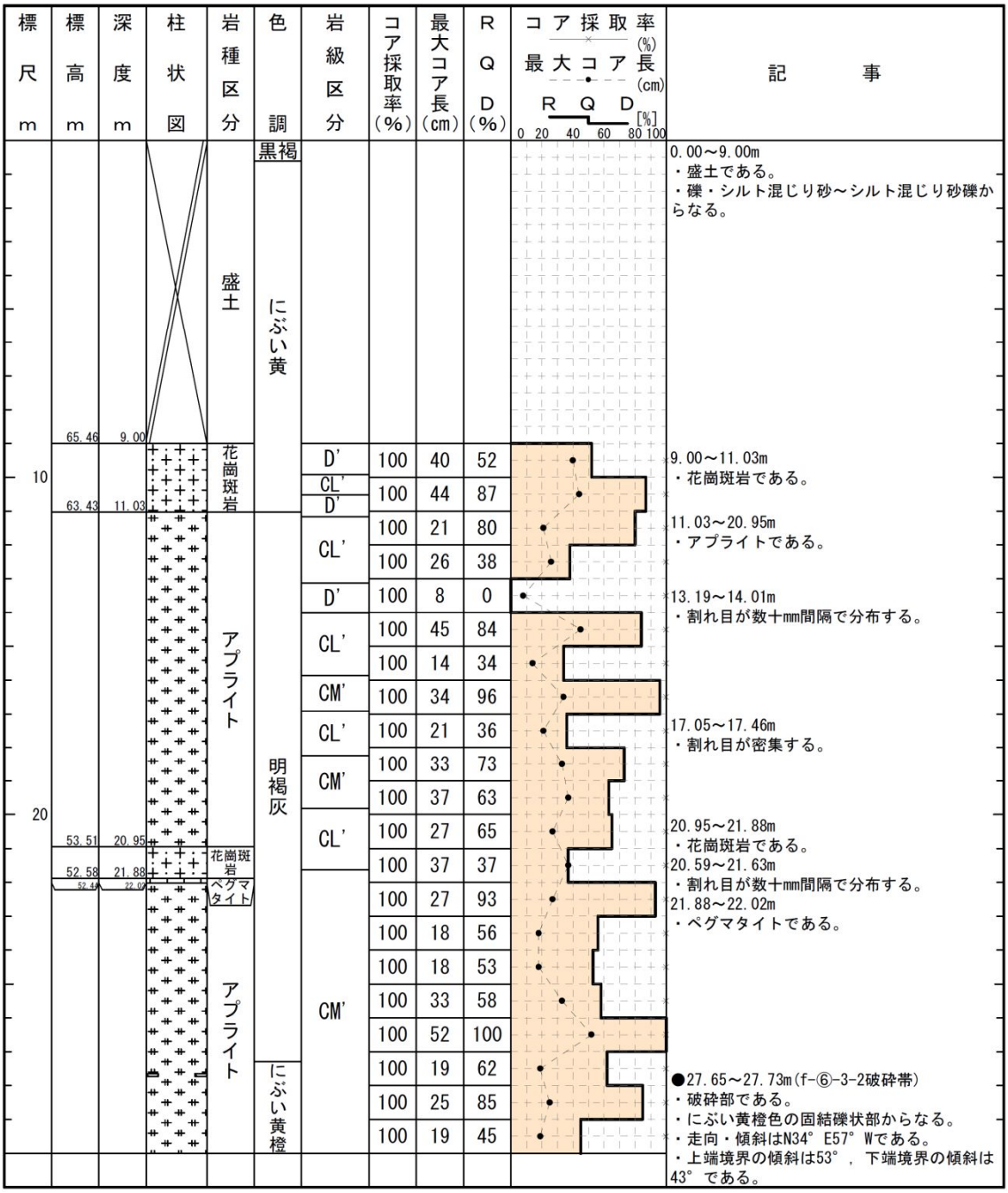
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	褐灰	CM'	100	13	34		●210.70～210.71m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 212.52～215.45m ・密着した割れ目が多い。
					明褐灰	CL'	100	13	13		
							100	14	14		
					青灰	CM'	100	20	65		
							100	21	78		
					灰白		100	20	57		
					青灰						
					褐灰	CL'	100	35	35		
					青灰		100	13	13		
						CM'	100	19	56		
	-145.52	220.00			褐灰	CL'	100	22	34		

H19-No.17

柱状図(0.00m～30.00m)

H19-No.17

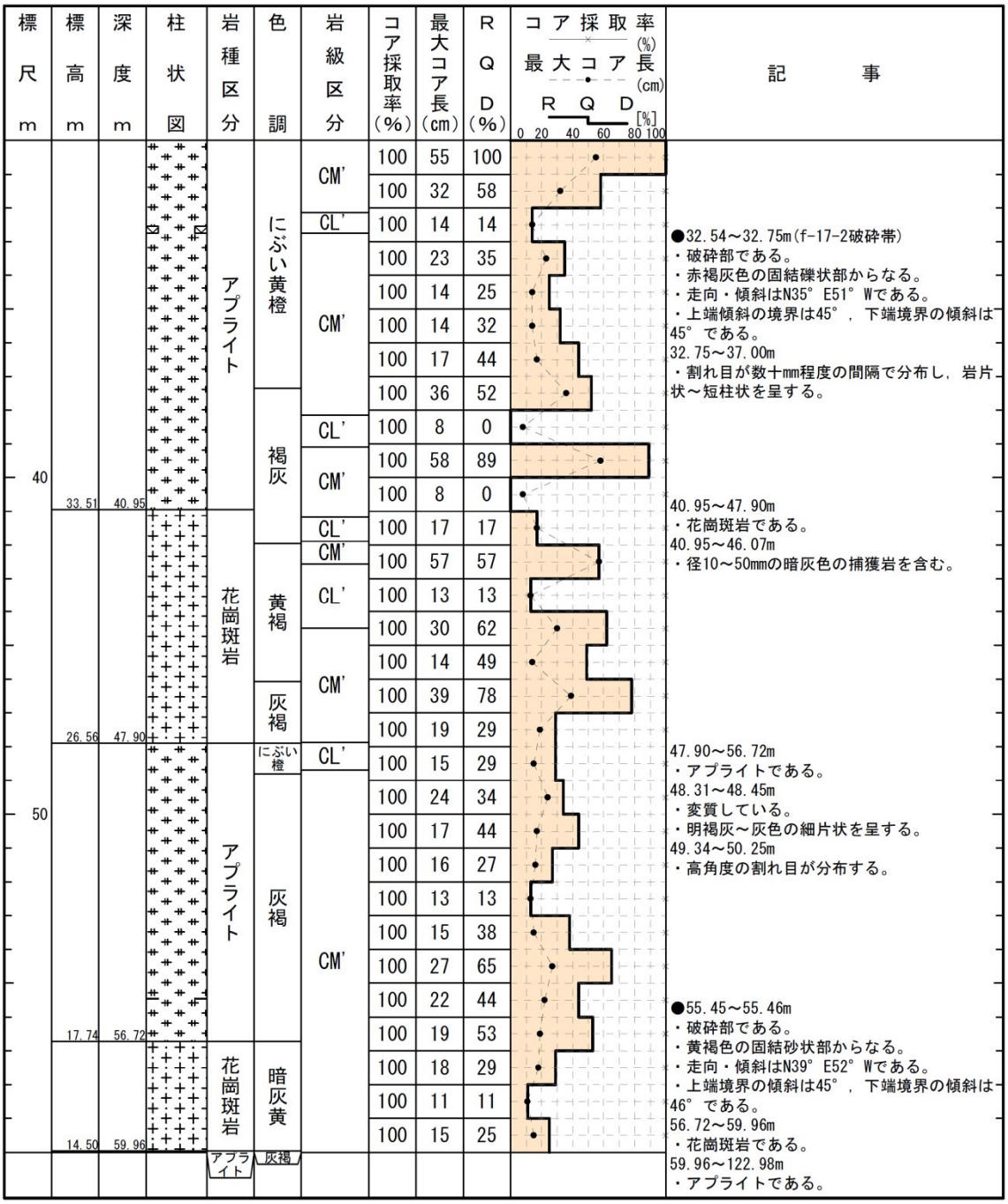
孔口標高	T.P. 74.46m	掘削長	200.00m



岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
D'	100	40	52
CL'	100	44	87
D'	100	21	80
CL'	100	26	38
D'	100	8	0
CL'	100	45	84
CL'	100	14	34
CM'	100	34	96
CL'	100	21	36
CM'	100	33	73
CL'	100	37	63
CM'	100	27	65
CM'	100	37	37
CM'	100	27	93
CM'	100	18	56
CM'	100	18	53
CM'	100	33	58
CM'	100	52	100
CM'	100	19	62
CM'	100	25	85
CM'	100	19	45

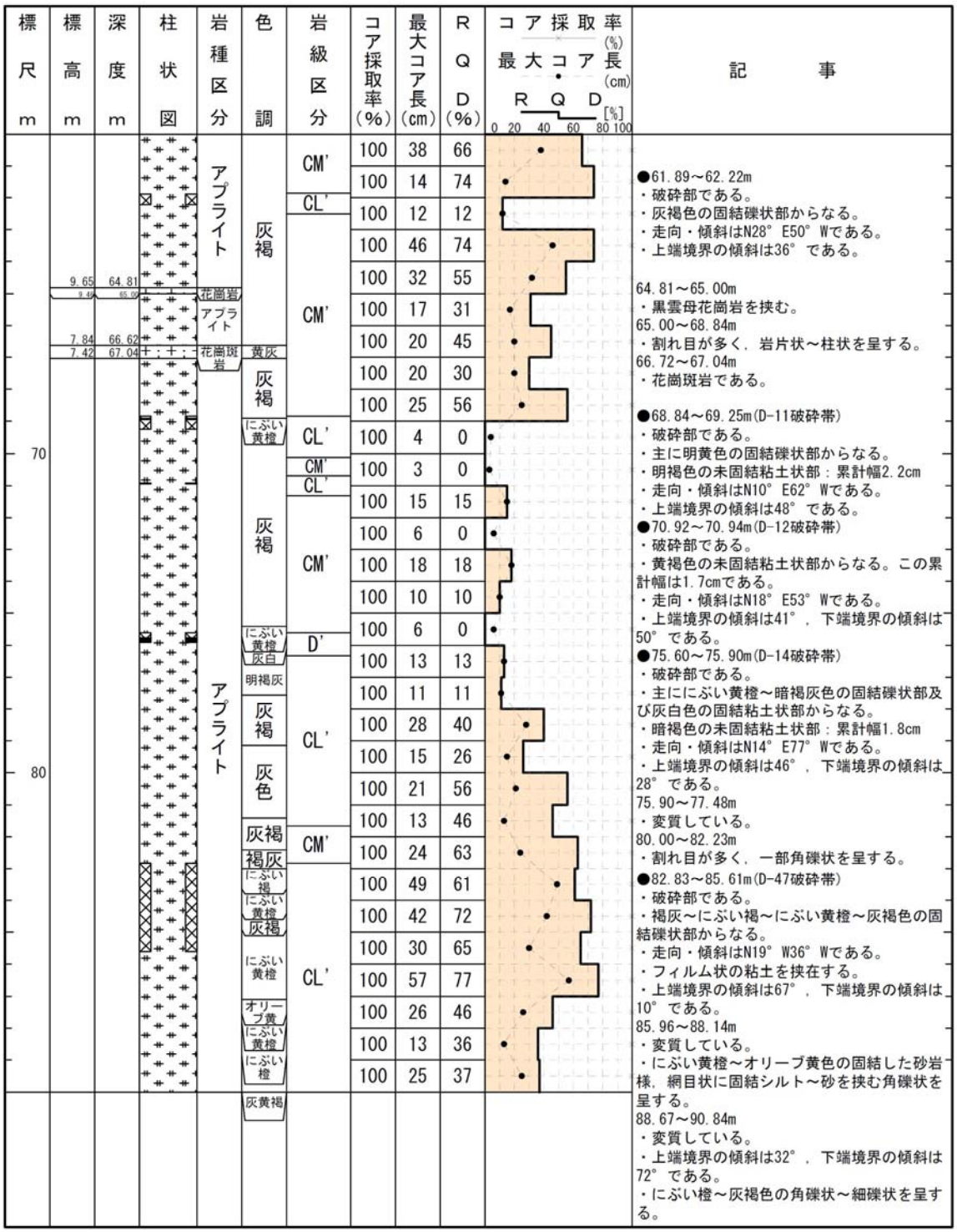
H19-No.17

柱状図(30.00m～60.00m)



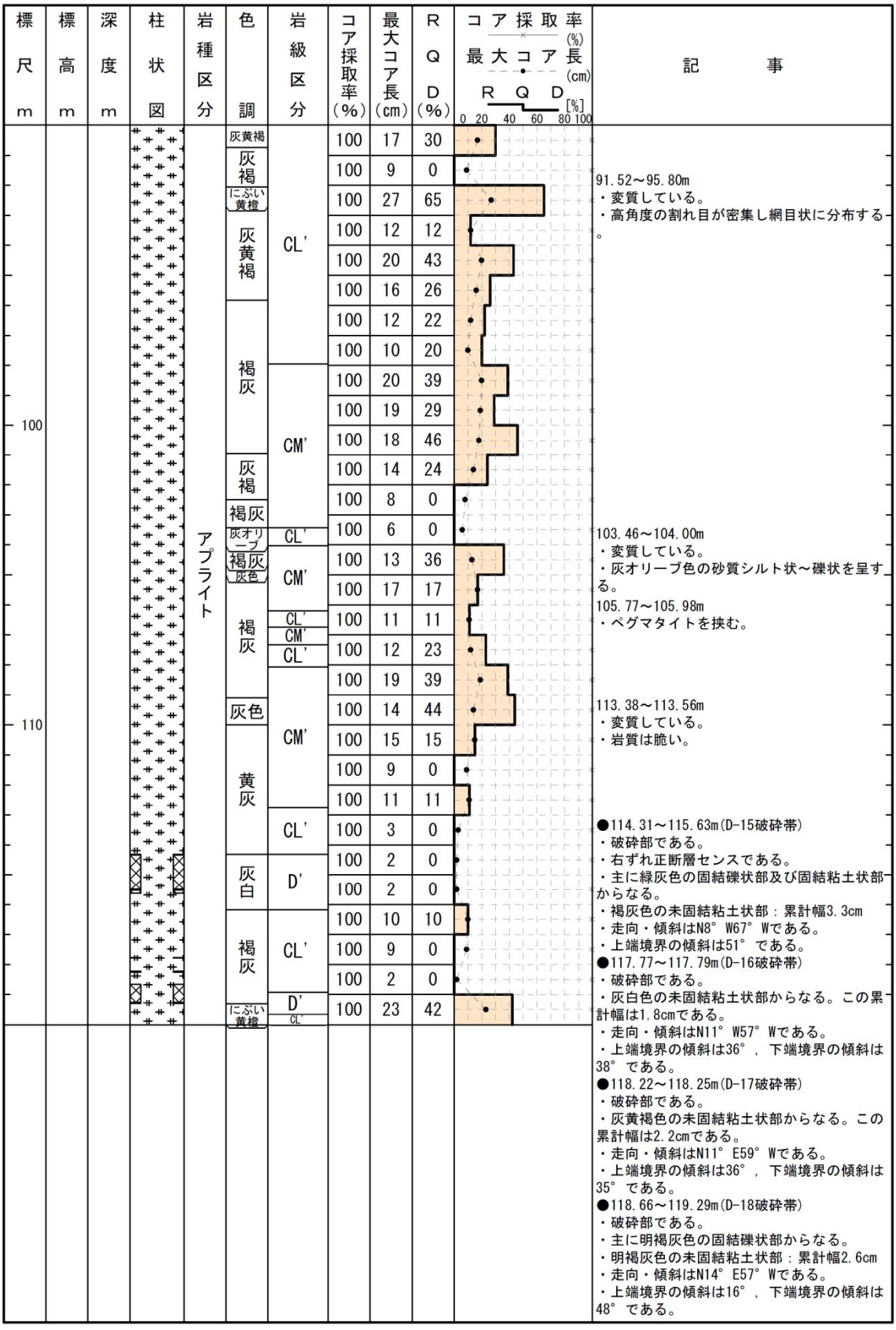
H19-No.17

柱状図(60.00m～90.00m)



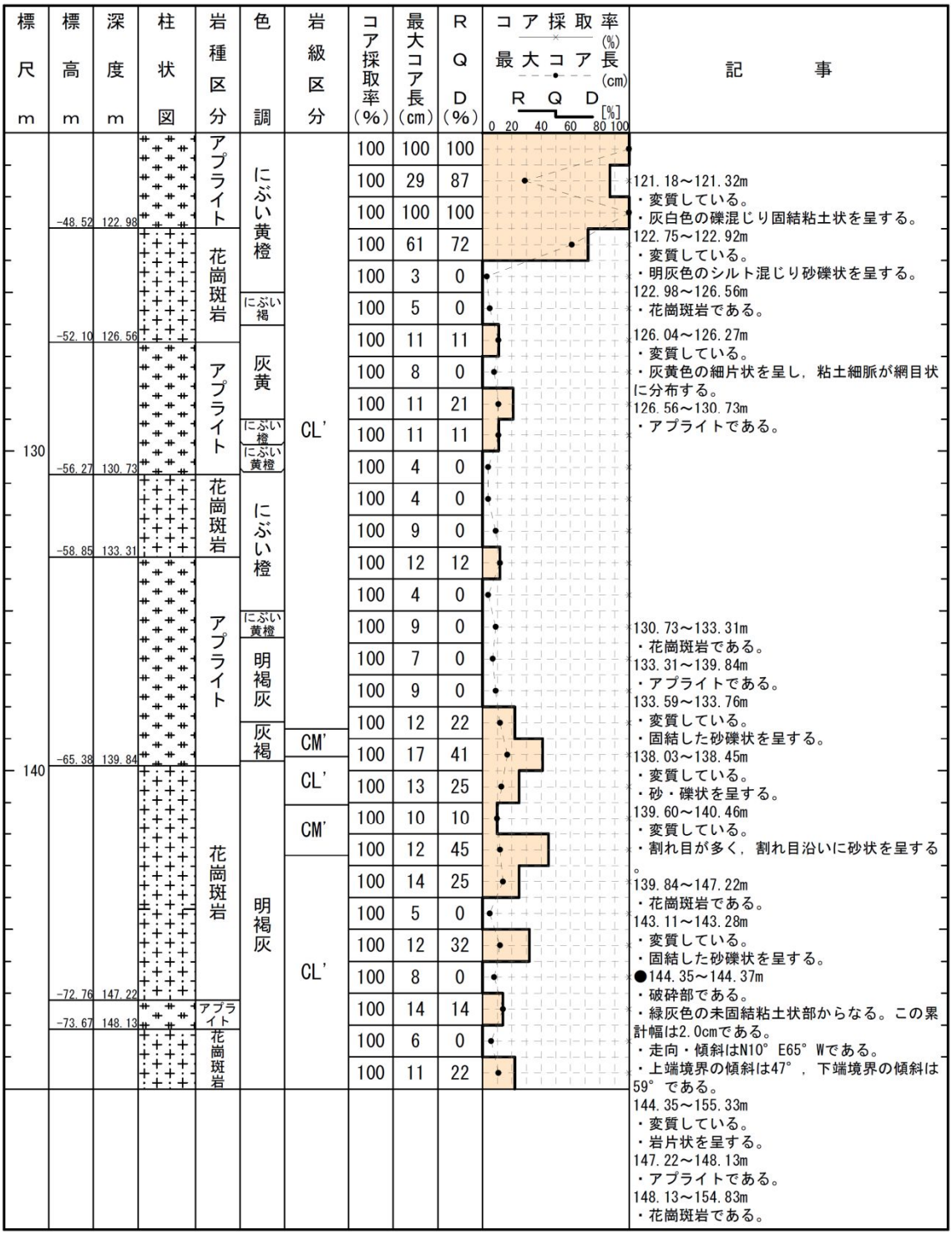
H19-No.17

柱状図(90.00m～120.00m)



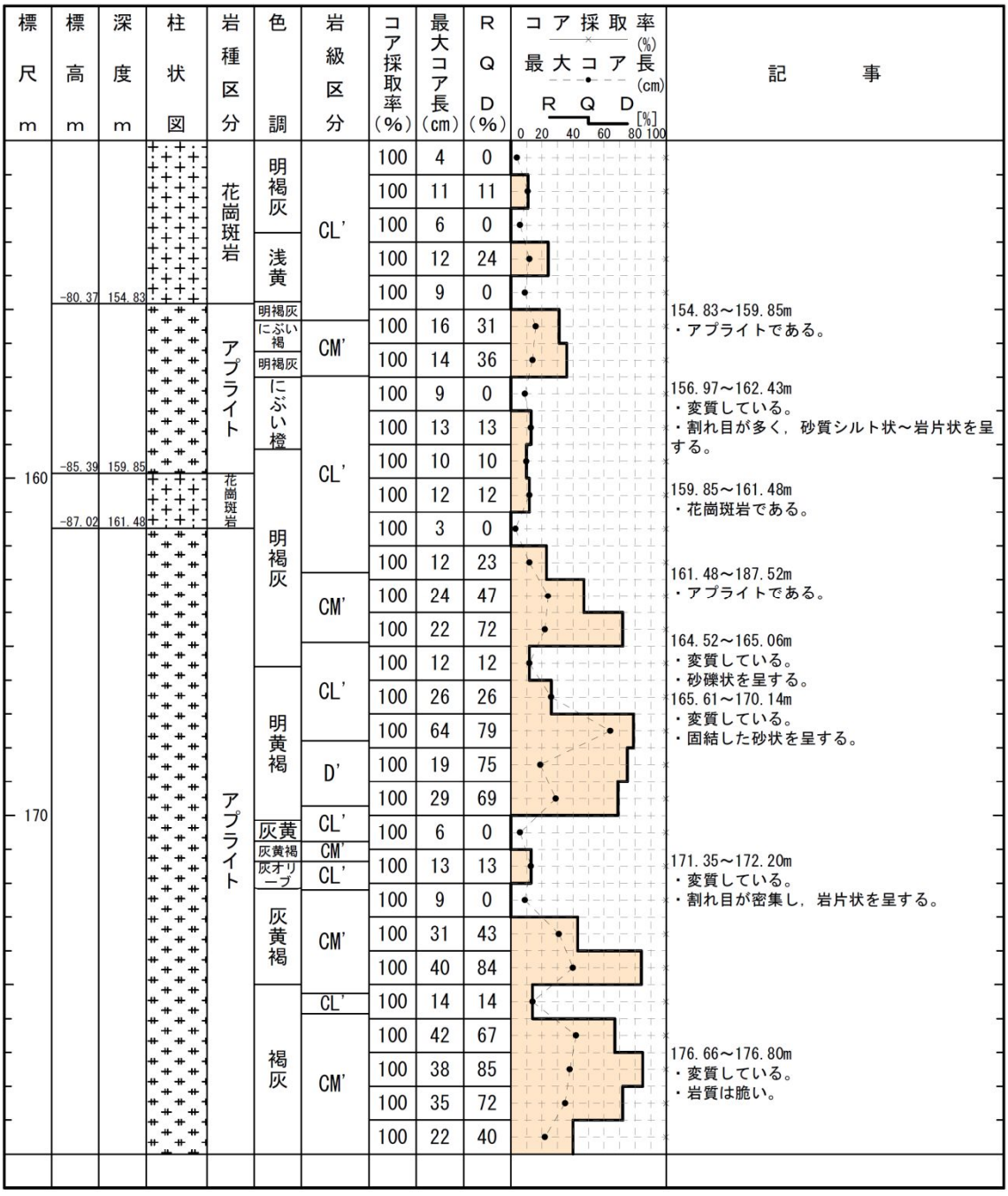
H19-No.17

柱状図(120.00m～150.00m)



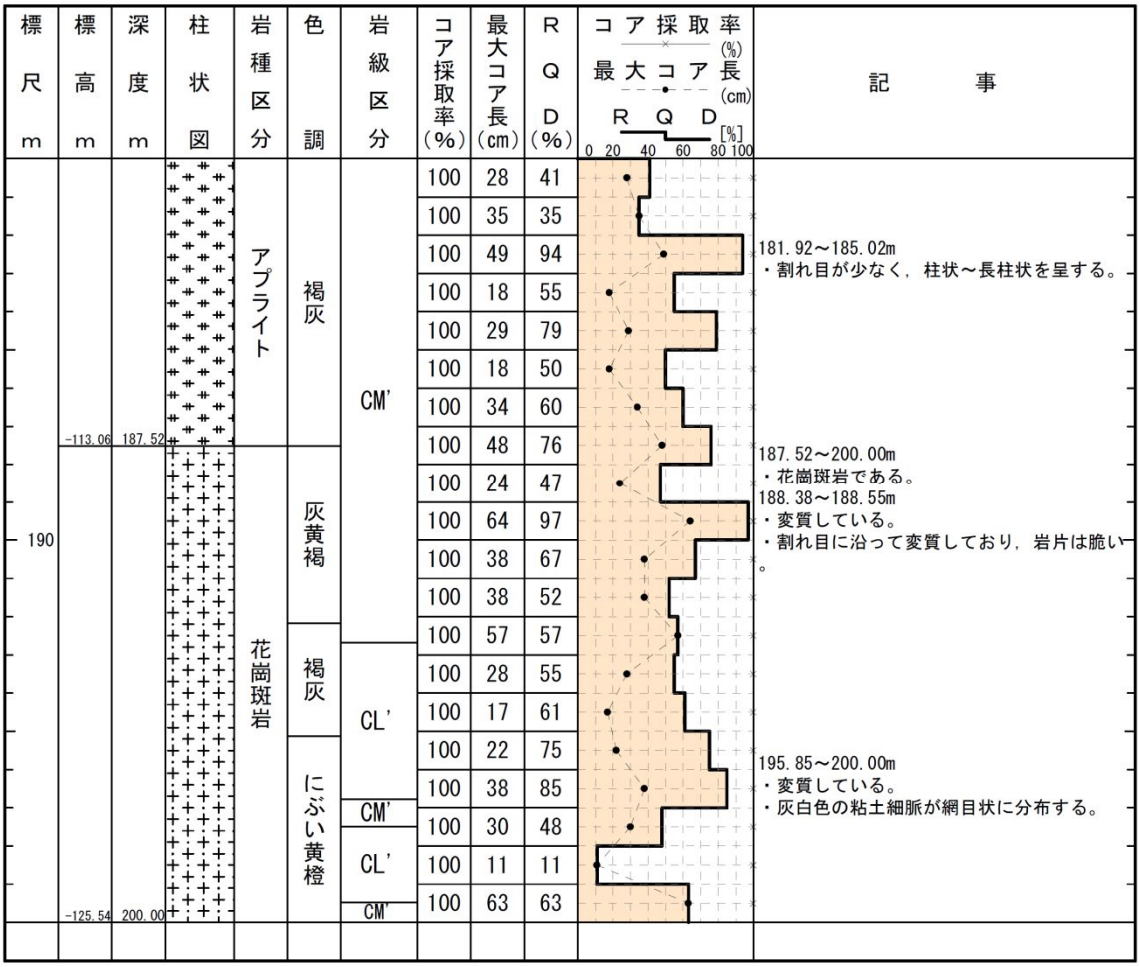
H19-No.17

柱状図(150.00m～180.00m)



H19-No.17

柱状図(180.00m～200.00m)

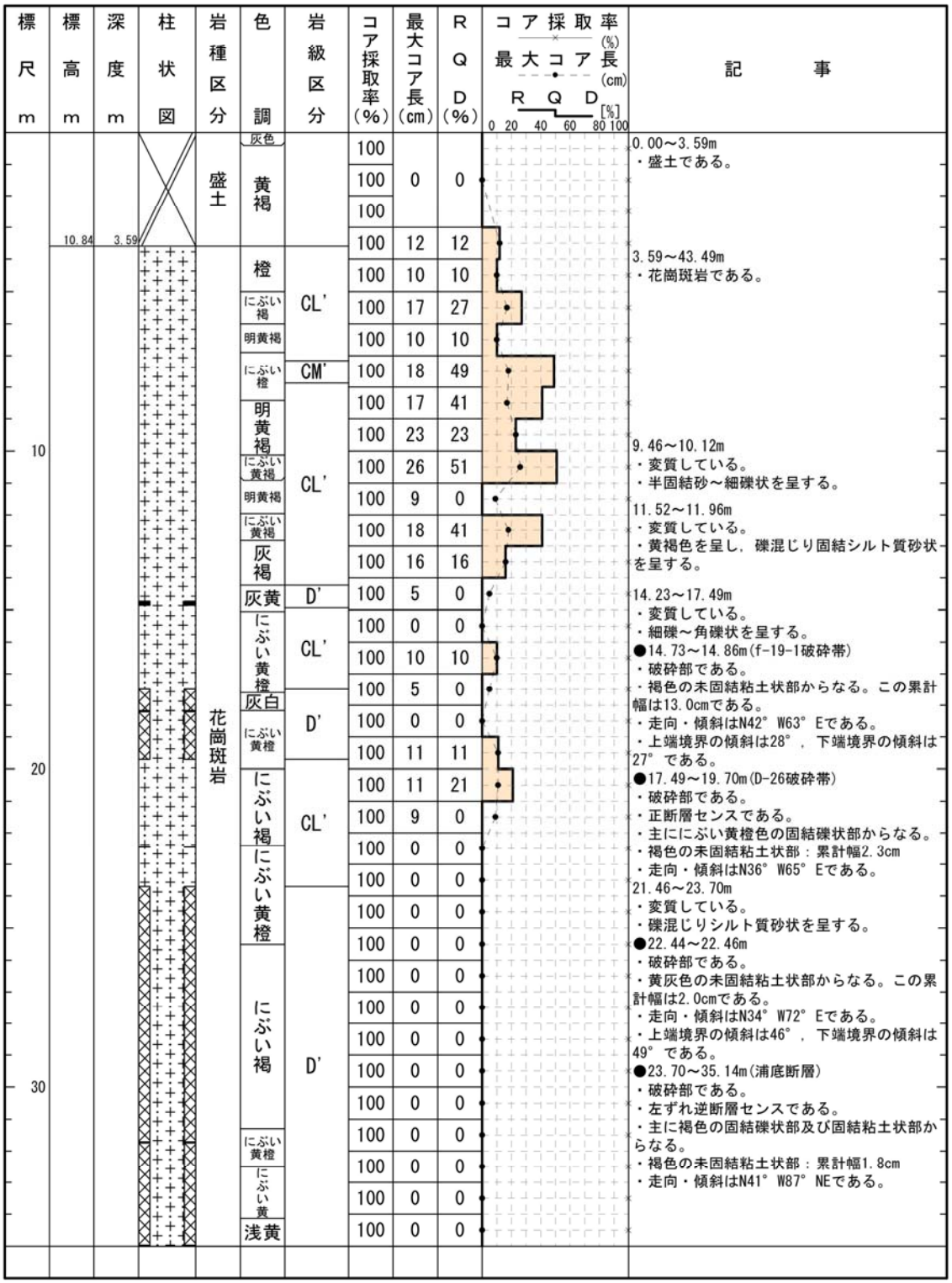


H19－No. 19

柱状図(0.00m～35.00m)

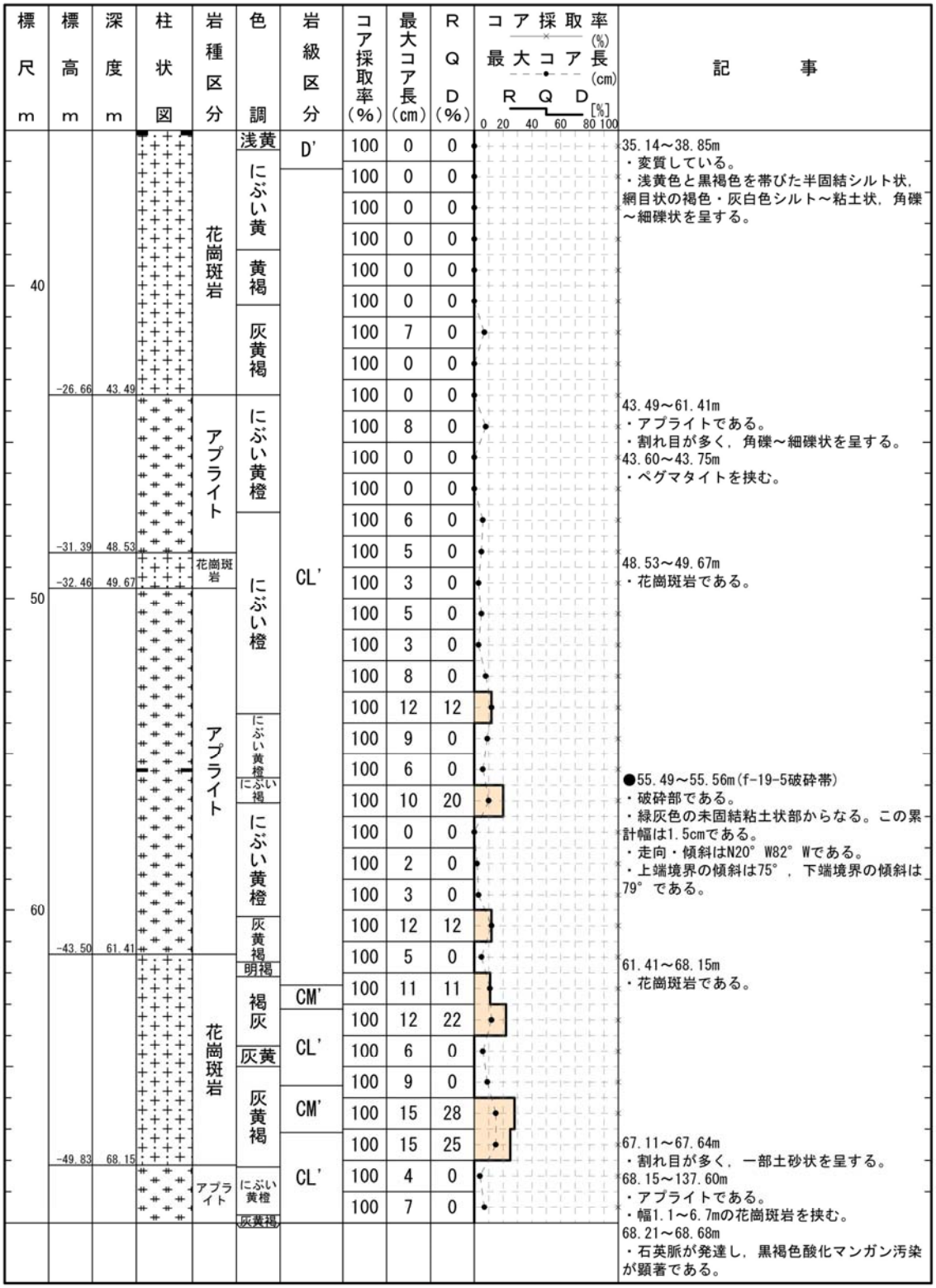
H19-No. 19

孔口標高	T.P. 14.21m	掘削長	170.00m



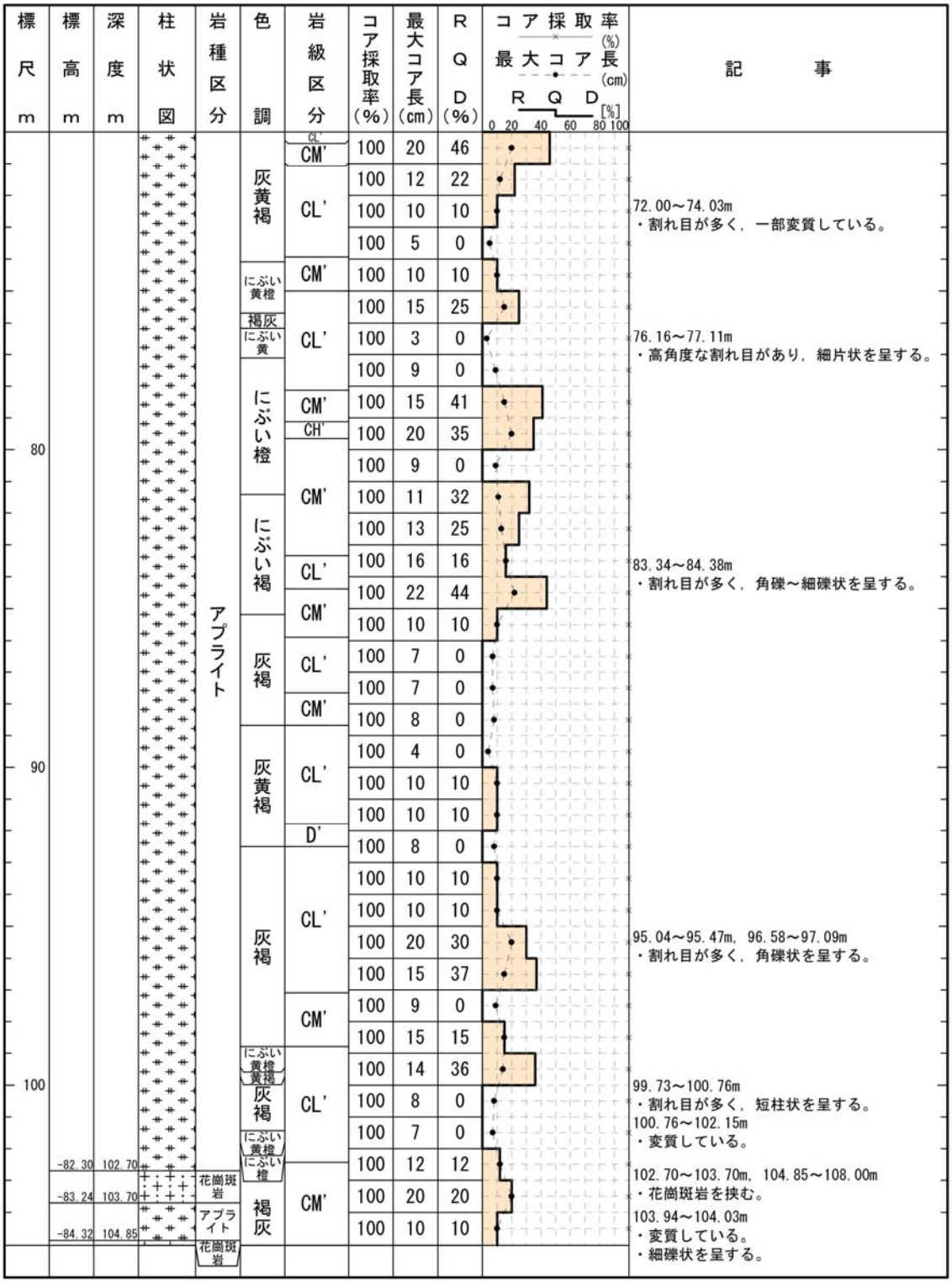
H19－No. 19

柱状図(35.00m～70.00m)



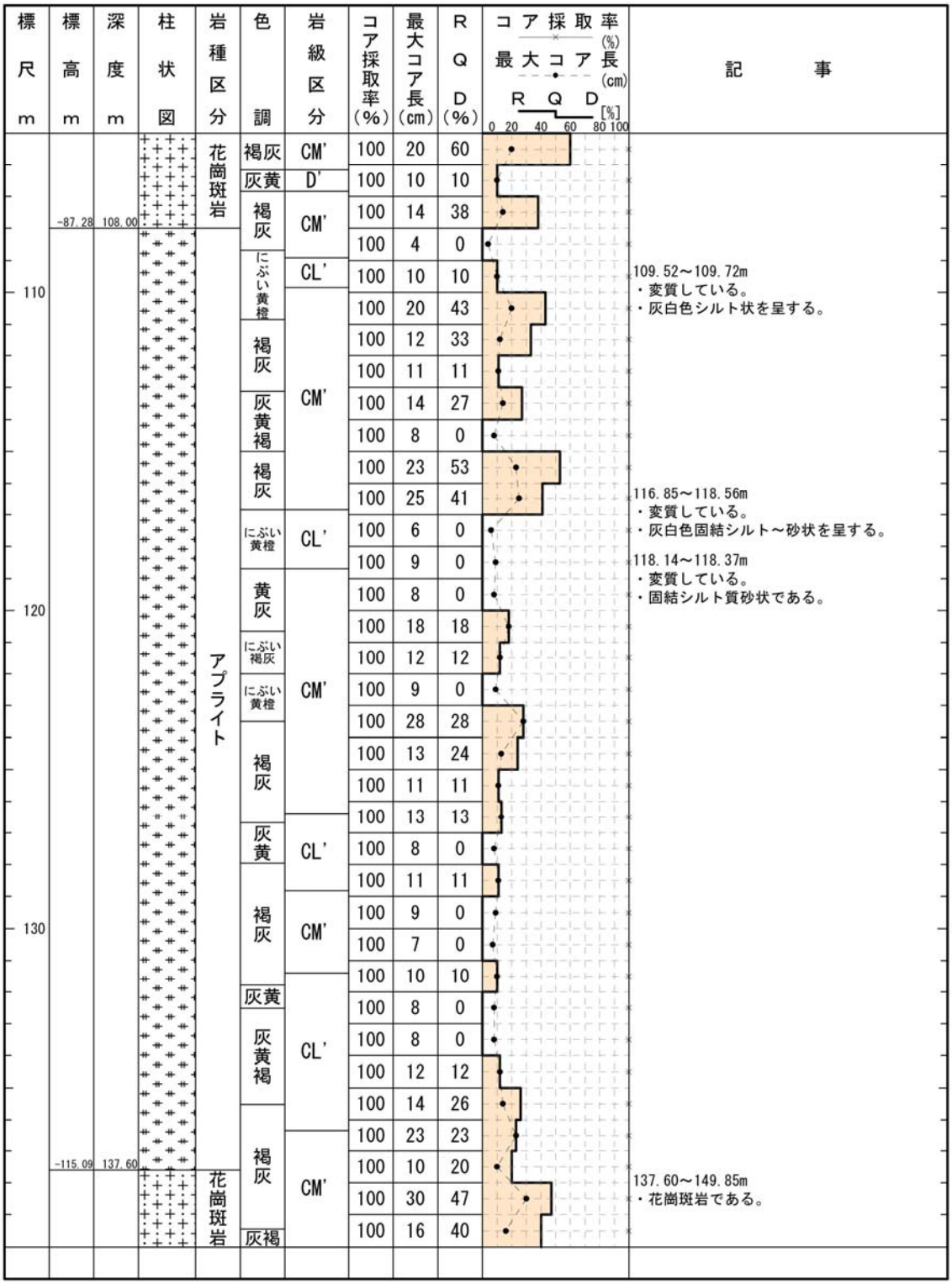
H19－No. 19

柱状図(70.00m～105.00m)



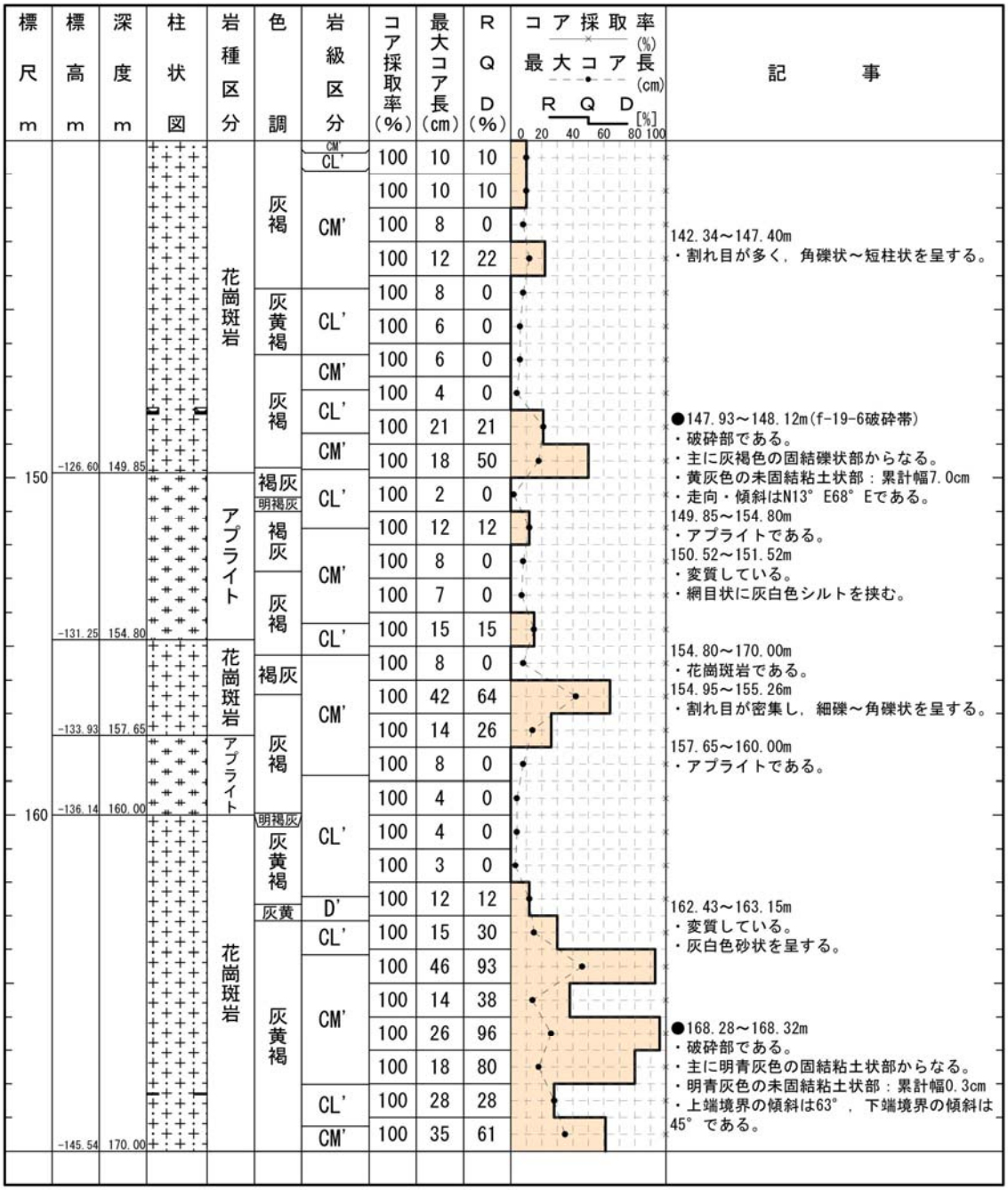
H19－No. 19

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No. 19

柱状図(140.00m～170.00m)

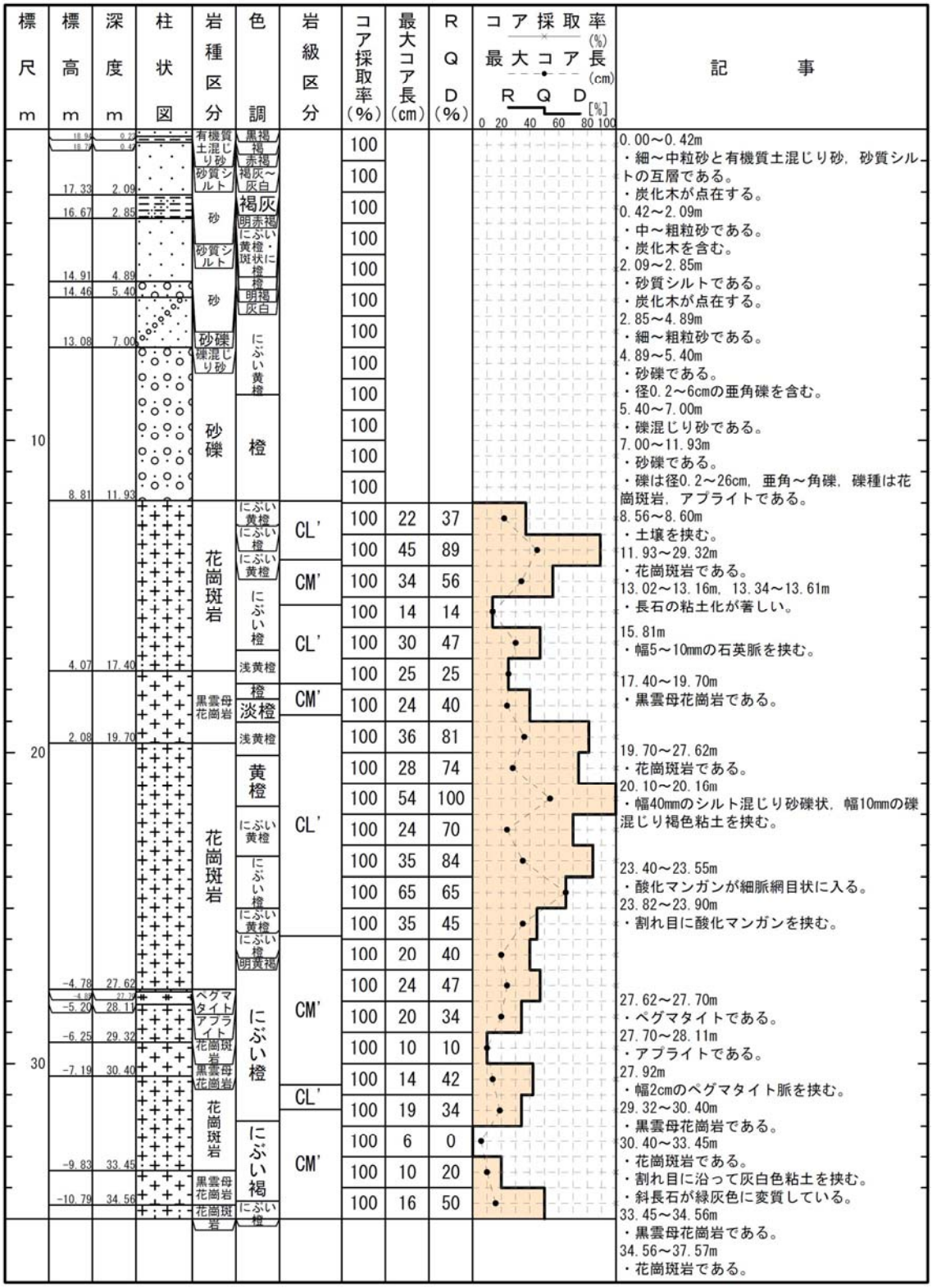


H19－No. 8

柱状図(0.00m～35.00m)

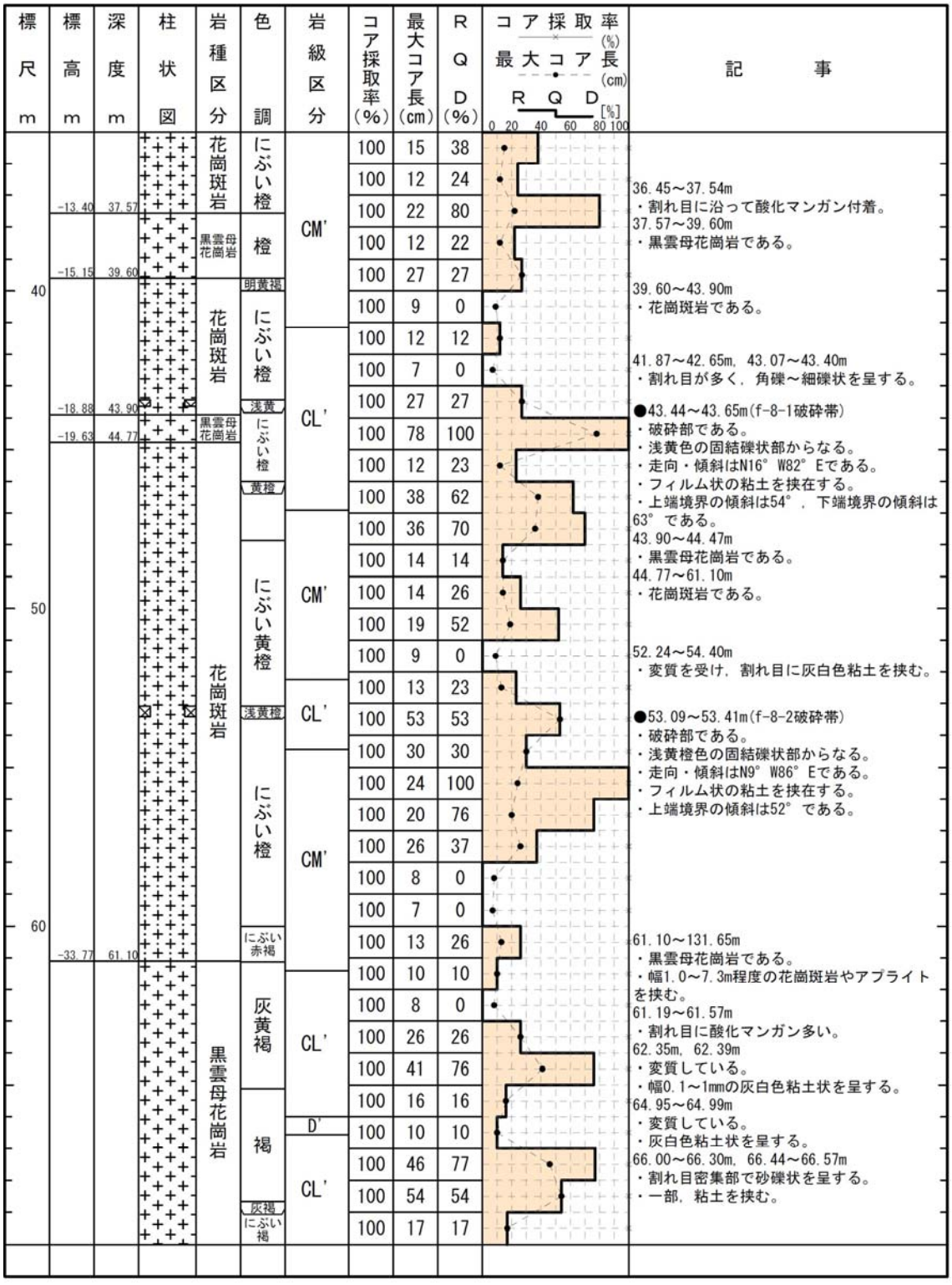
H19-No. 8

孔口標高	T.P. 19.14m	掘削長	200.00m



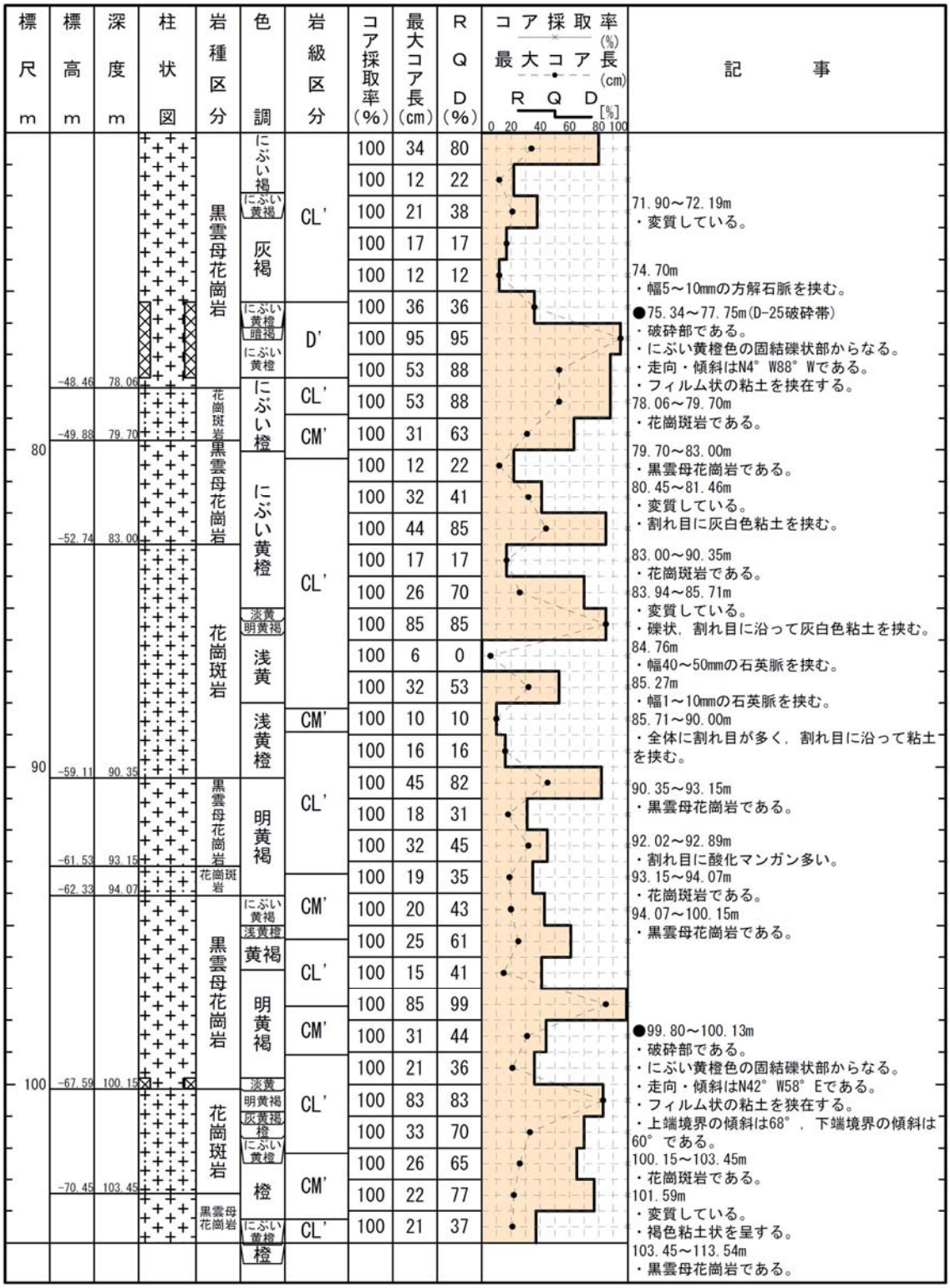
H19－No. 8

柱状図(35.00m～70.00m)



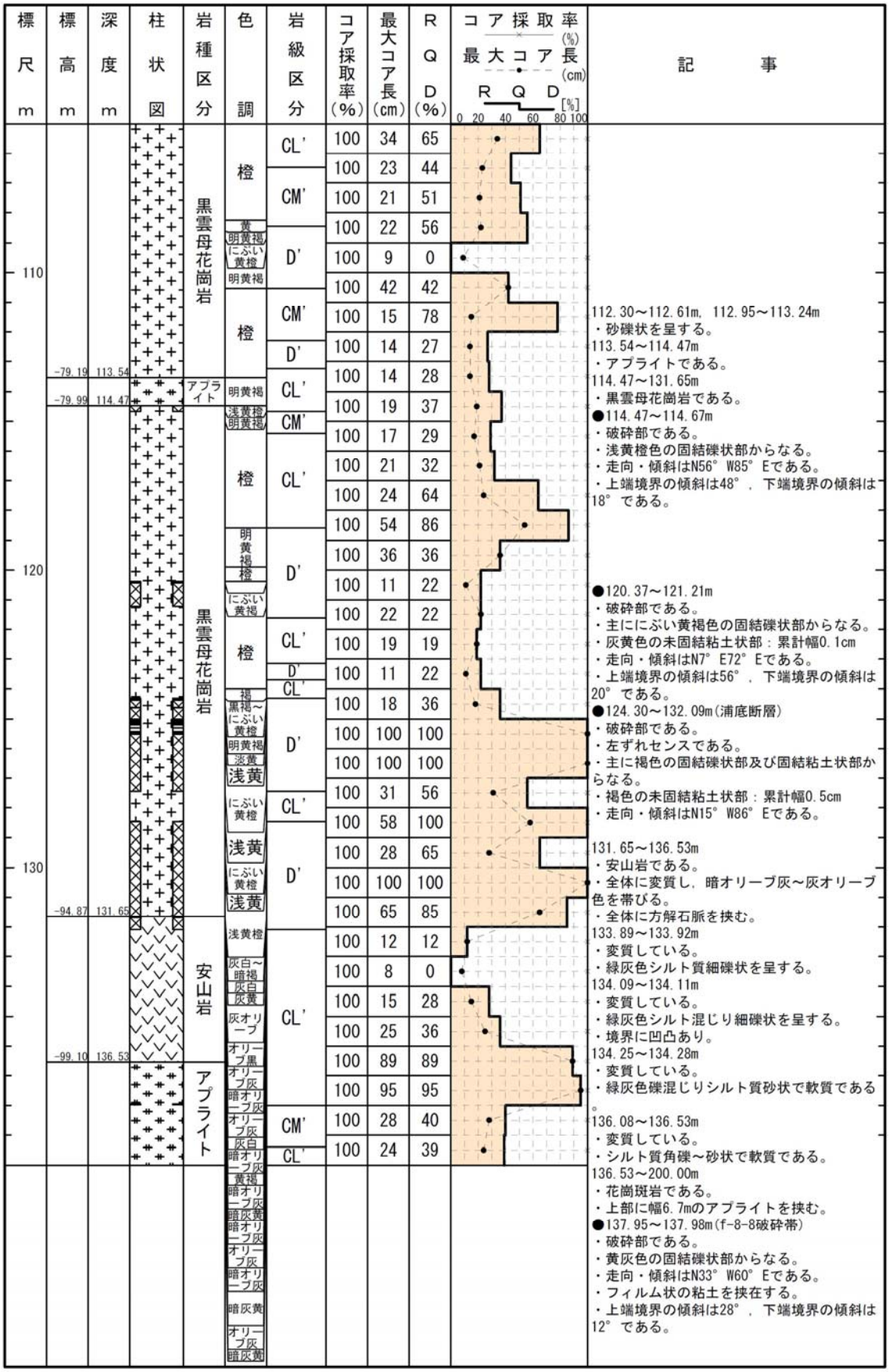
H19－No. 8

柱状図(70.00m～105.00m)



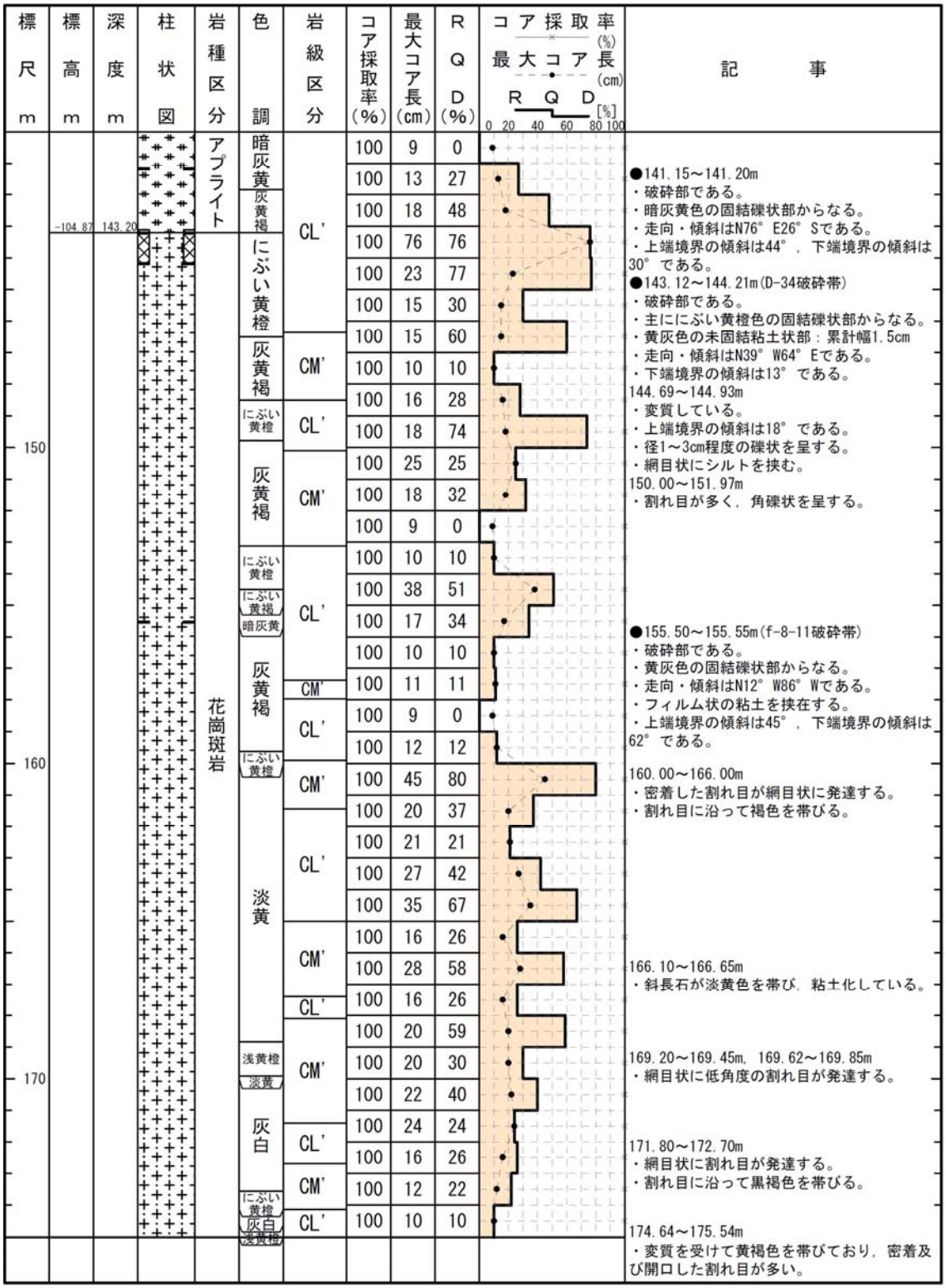
H19－No. 8

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No. 8

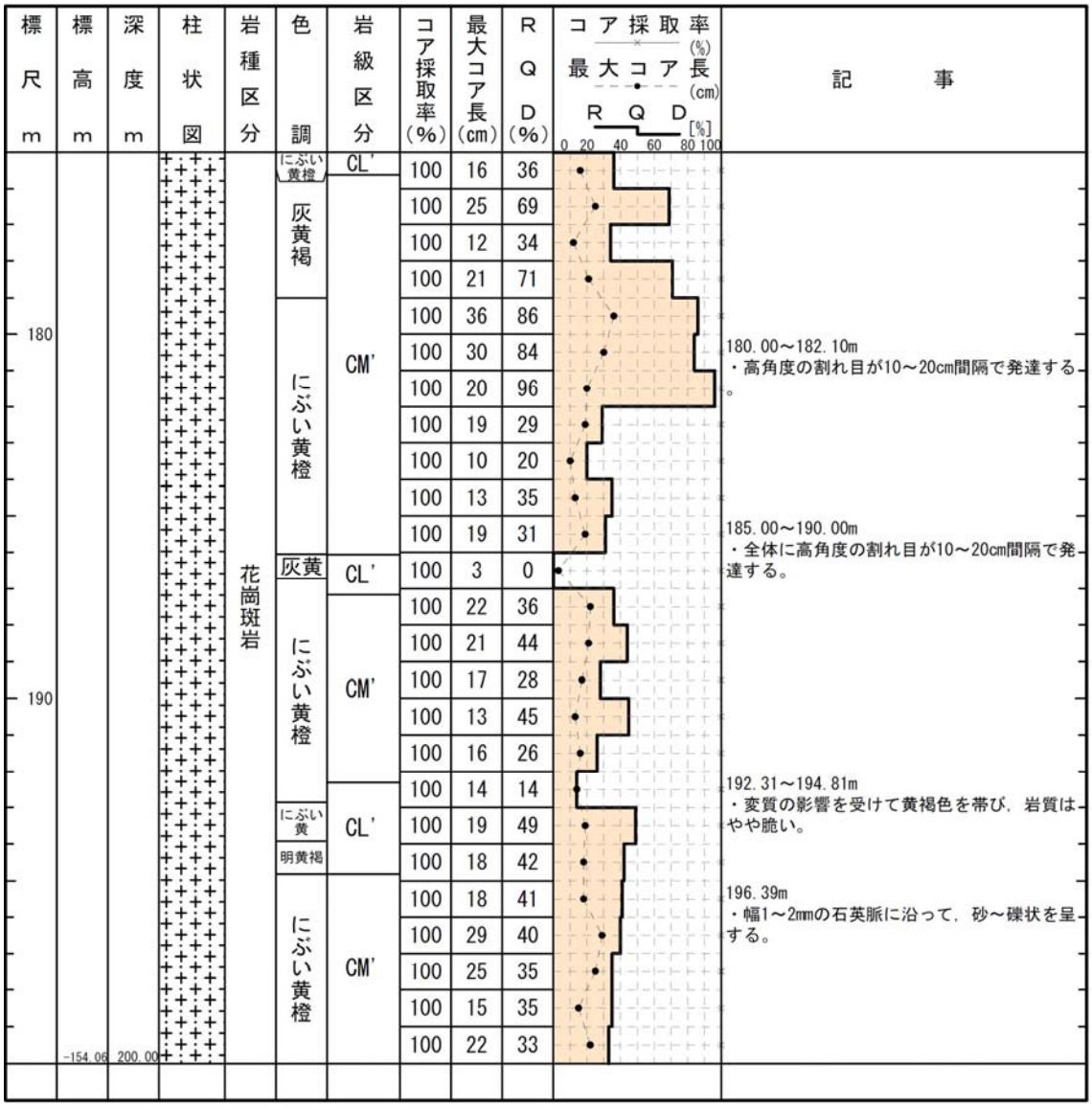
柱状図(140.00m～175.00m)



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100	9	0
100	13	27
100	18	48
100	76	76
100	23	77
100	15	30
100	15	60
100	10	10
100	16	28
100	18	74
100	25	25
100	18	32
100	9	0
100	10	10
100	38	51
100	17	34
100	10	10
100	11	11
100	9	0
100	12	12
100	45	80
100	20	37
100	21	21
100	27	42
100	35	67
100	16	26
100	28	58
100	16	26
100	20	59
100	20	30
100	22	40
100	24	24
100	16	26
100	12	22
100	10	10

H19－No. 8

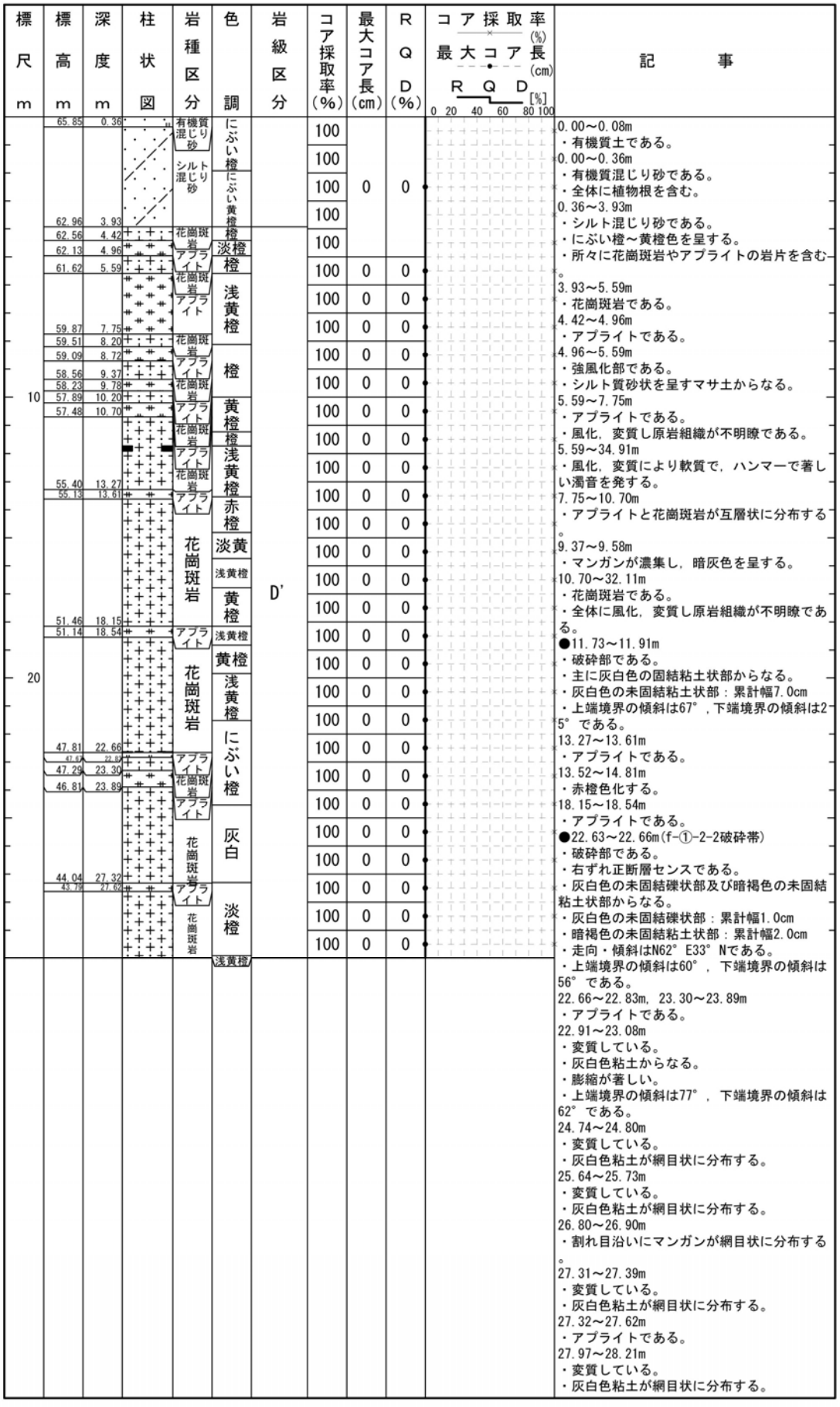
柱状図(175.00m～200.00m)



H20－①－2

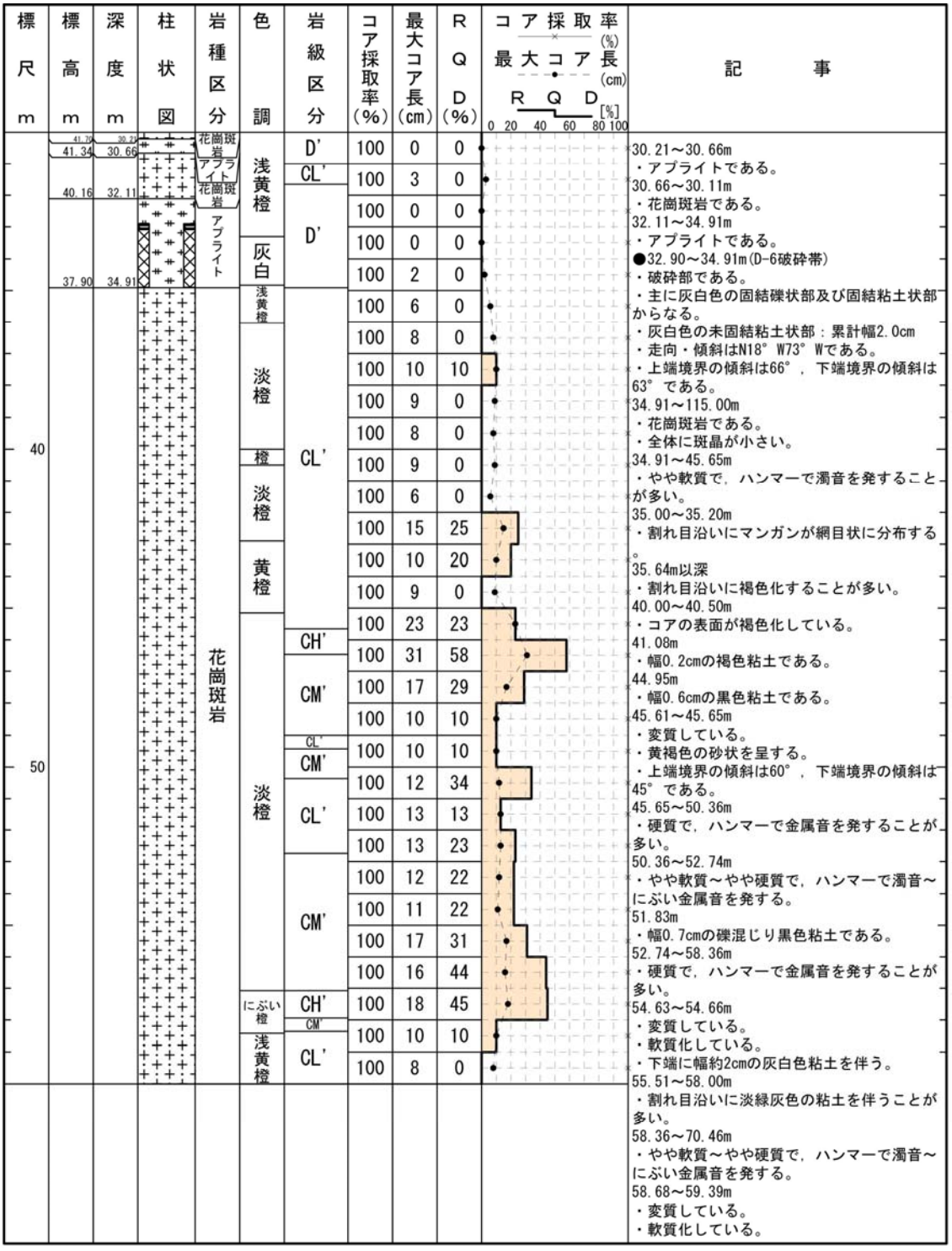
柱状図(0.00m～30.00m)
H20-①-2

孔口標高	T.P. 66.14m	掘削長	115.00m



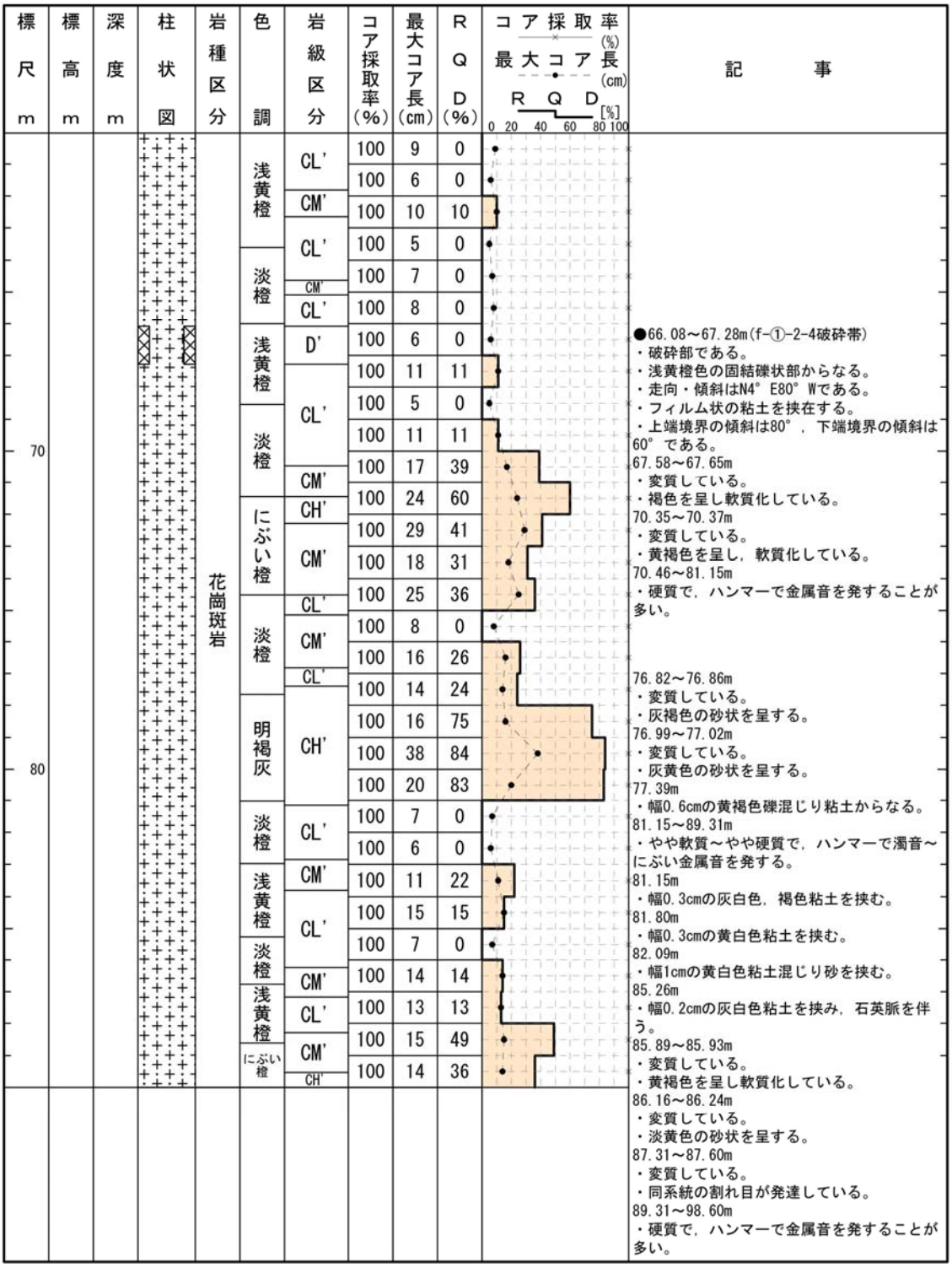
H20－①－2

柱状図(30.00m～60.00m)



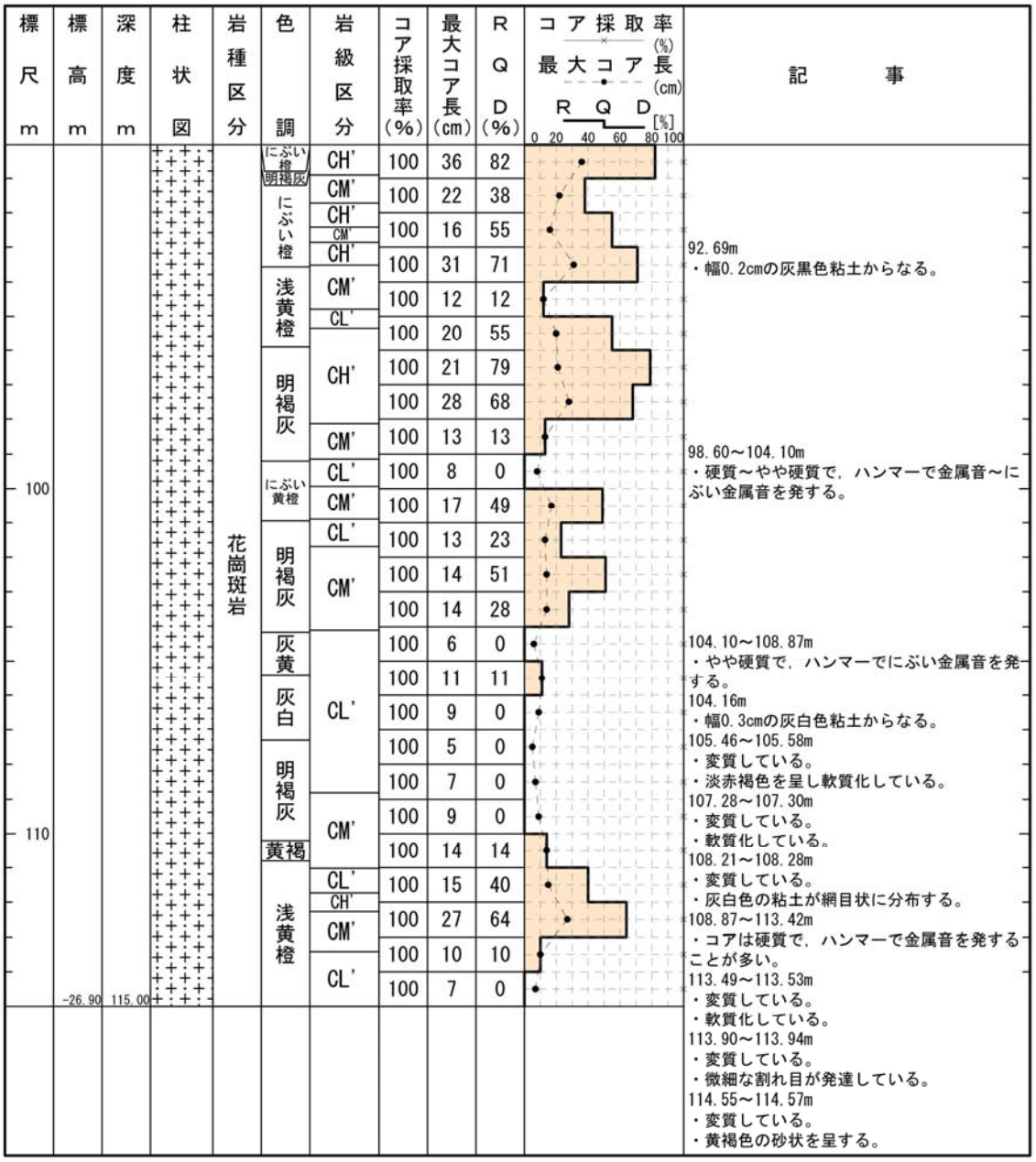
H20－①－2

柱状図(60.00m～90.00m)



H20－①－2

柱状図(90.00m～115.00m)

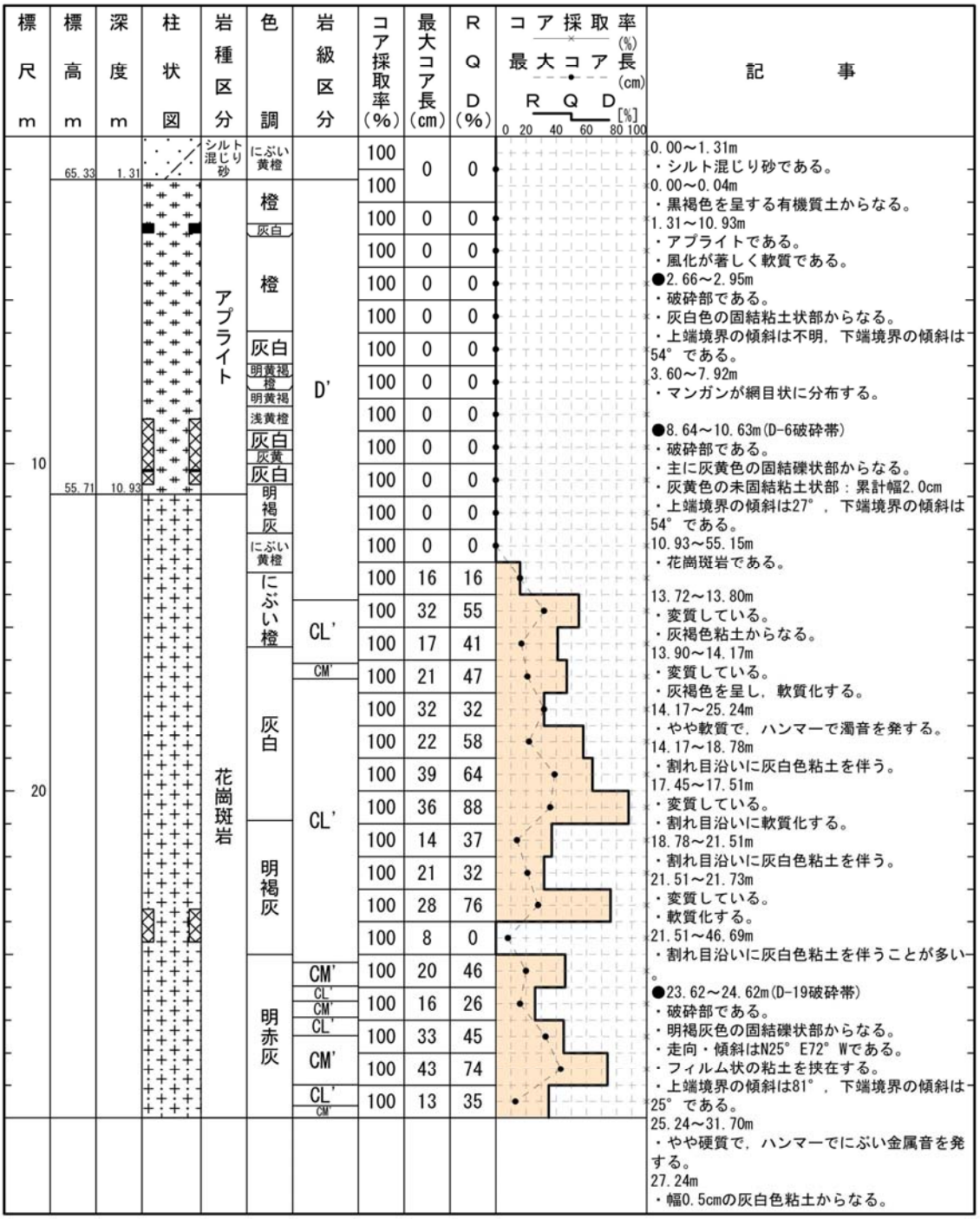


H20－①－1

柱状図(0.00m～30.00m)

H20-①-1

孔口標高	T.P. 66.64m	掘削長	90.00m

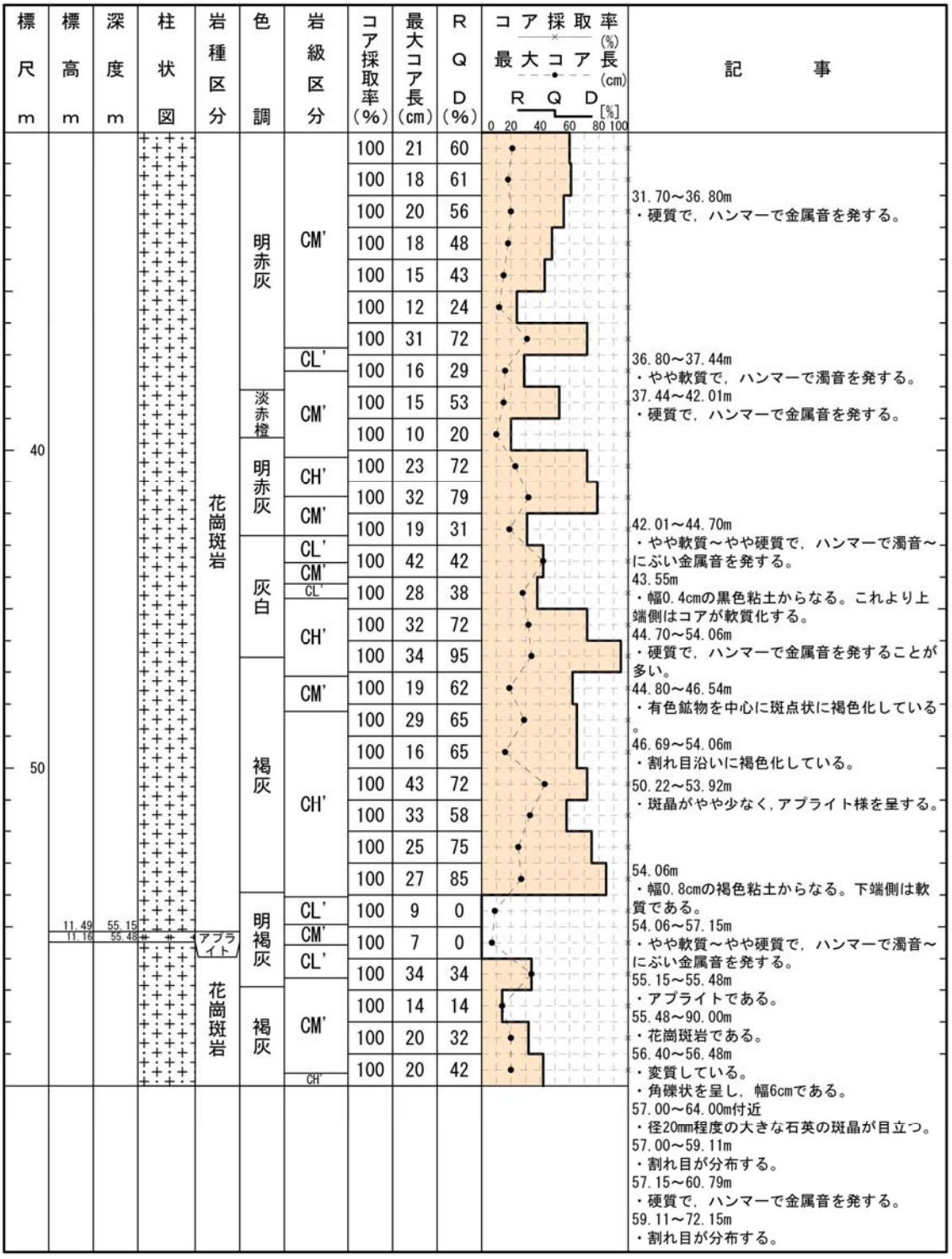


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
	65.33	1.31		シルト混じり砂	にぶい黄橙		100	0	0
							100		
					橙	D'	100	0	0
					灰白		100	0	0
					橙		100	0	0
							100	0	0
					灰白		100	0	0
					明黄褐 橙		100	0	0
					明黄褐		100	0	0
					浅黄橙		100	0	0
					灰白		100	0	0
10					灰黄		100	0	0
					灰白		100	0	0
	55.71	10.93			明褐灰		100	0	0
					にぶい黄橙		100	0	0
					にぶい橙		100	16	16
						CL'	100	32	55
					灰白		100	17	41
						CM'	100	21	47
							100	32	32
							100	22	58
							100	39	64
20				花崗斑岩		CL'	100	36	88
							100	14	37
					明褐灰		100	21	32
							100	28	76
							100	8	0
						CM'	100	20	46
						CL'			
						CM'	100	16	26
						CL'			
					明赤灰		100	33	45
						CM'	100	43	74
						CL'	100	13	35
						CM			

コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
	0.00～1.31m ・シルト混じり砂である。 0.00～0.04m ・黒褐色を呈する有機質土からなる。 1.31～10.93m ・アプライトである。 ・風化が著しく軟質である。 ●2.66～2.95m ・破砕部である。 ・灰白色の固結粘土状部からなる。 ・上端境界の傾斜は不明，下端境界の傾斜は54°である。 3.60～7.92m ・マンガンが網目状に分布する。 ●8.64～10.63m(D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm ・上端境界の傾斜は27°，下端境界の傾斜は54°である。 10.93～55.15m ・花崗斑岩である。 13.72～13.80m ・変質している。 ・灰褐色粘土からなる。 13.90～14.17m ・変質している。 ・灰褐色を呈し，軟質化する。 14.17～25.24m ・やや軟質で，ハンマーで濁音を発する。 14.17～18.78m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 17.45～17.51m ・変質している。 ・割れ目沿いに軟質化する。 18.78～21.51m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。 21.51～21.73m ・変質している。 ・軟質化する。 21.51～46.69m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴うことが多い。 ●23.62～24.62m(D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25°E72°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は81°，下端境界の傾斜は25°である。 25.24～31.70m ・やや硬質で，ハンマーでにぶい金属音を発する。 27.24m ・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。

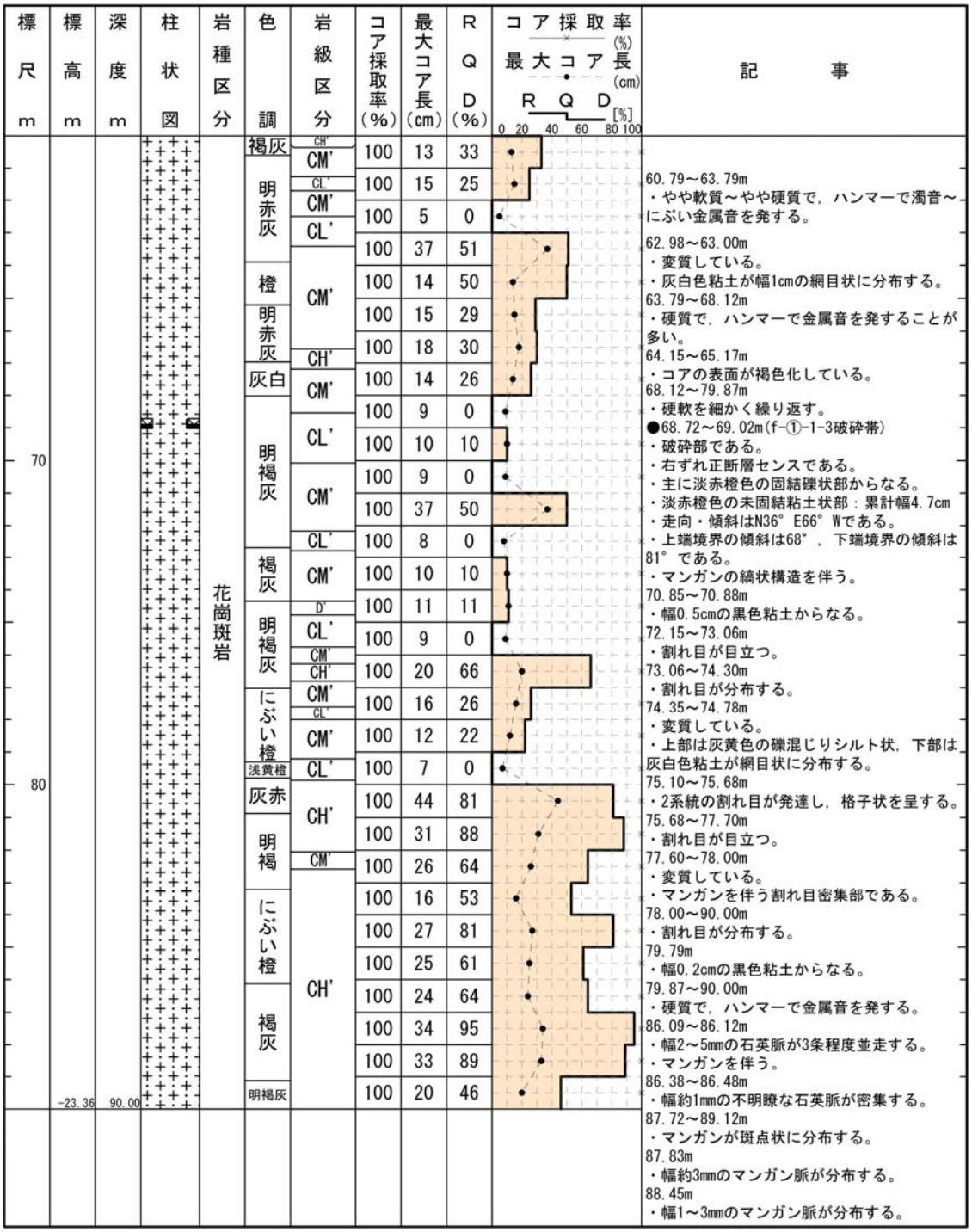
H20－①－1

柱状図(30.00m～60.00m)



H20－①－1

柱状図(60.00m～90.00m)



H20－①－3

柱状図(0.00m～30.00m)

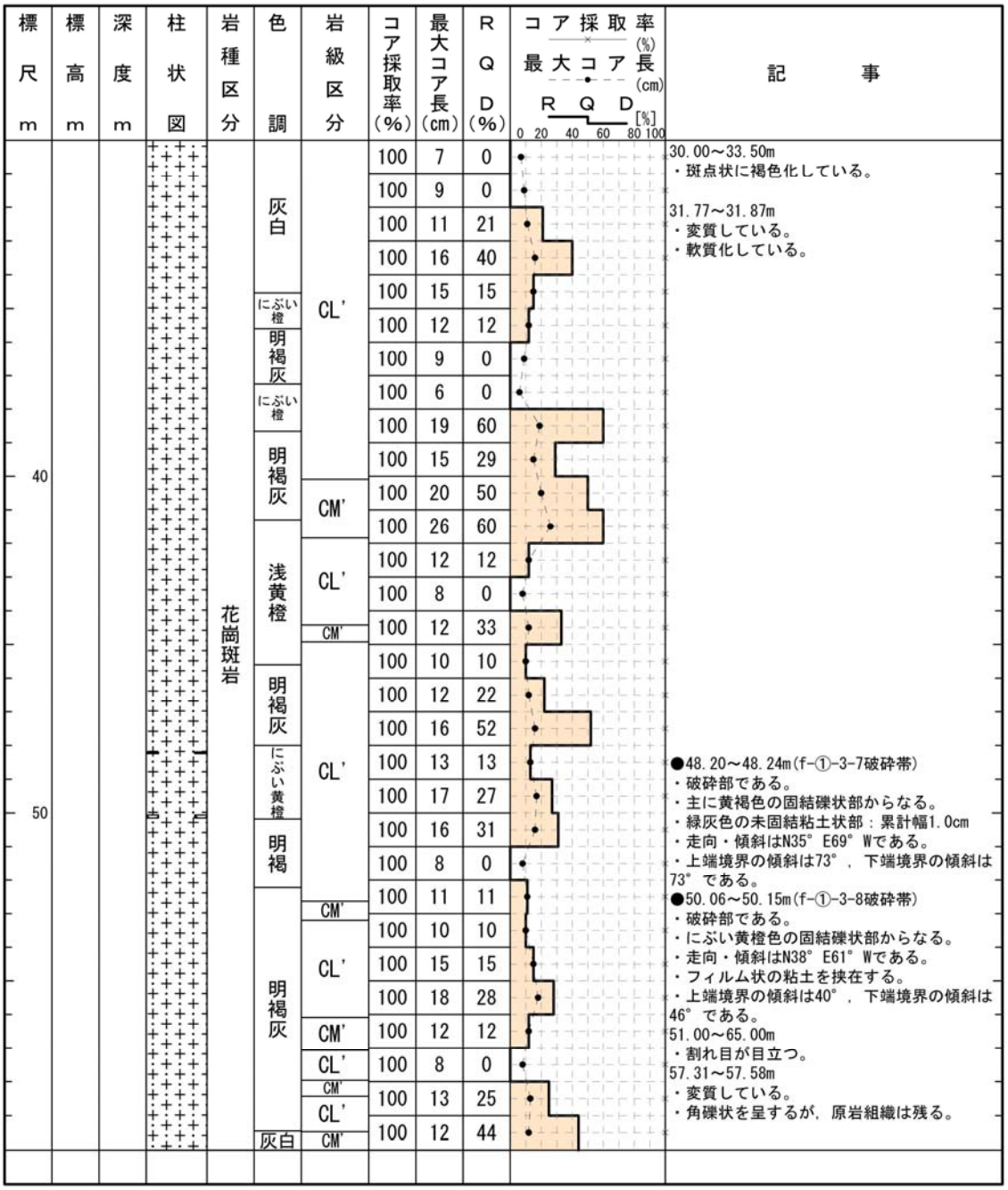
H20-①-3

孔口標高	T.P. 75.32m	掘削長	80.00m



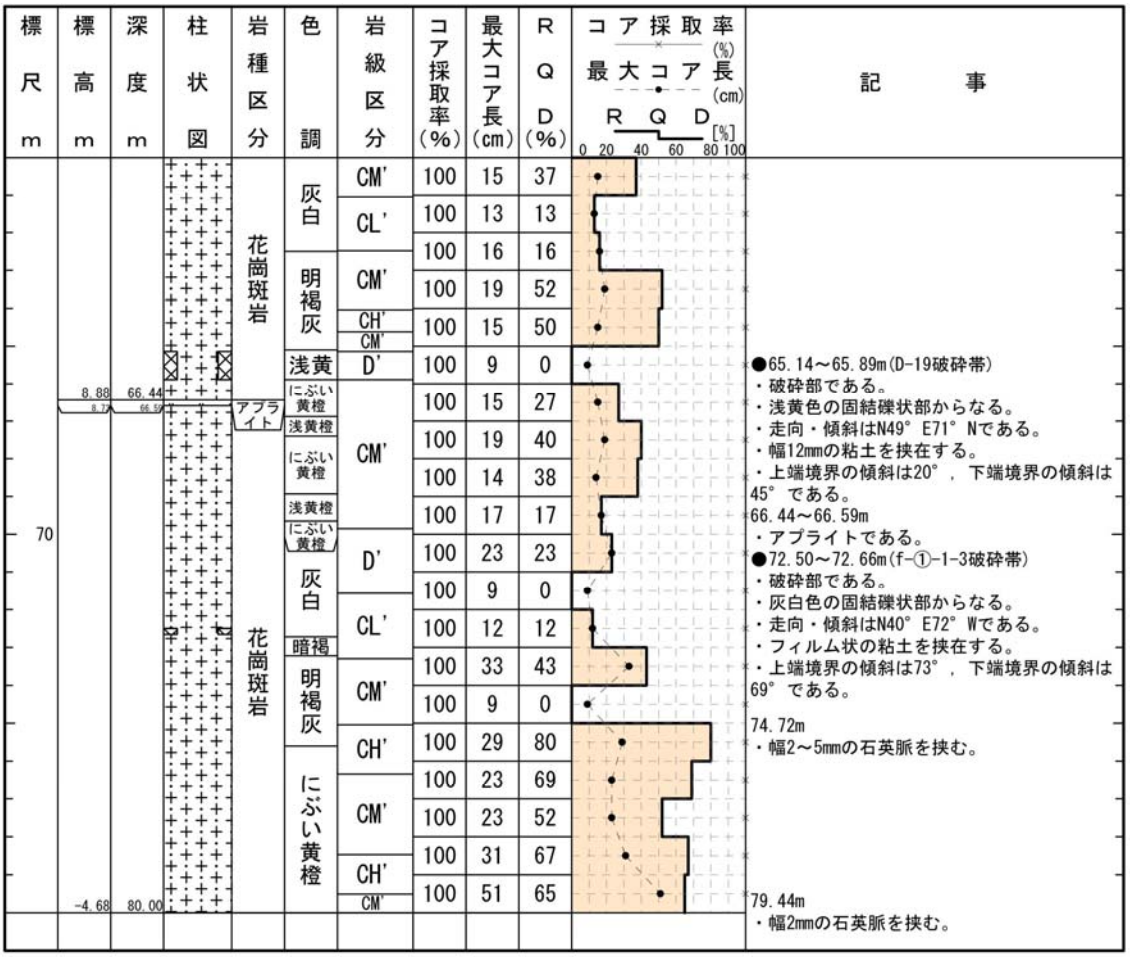
H20－①－3

柱状図(30.00m～60.00m)



H20－①－3

柱状図(60.00m～80.00m)

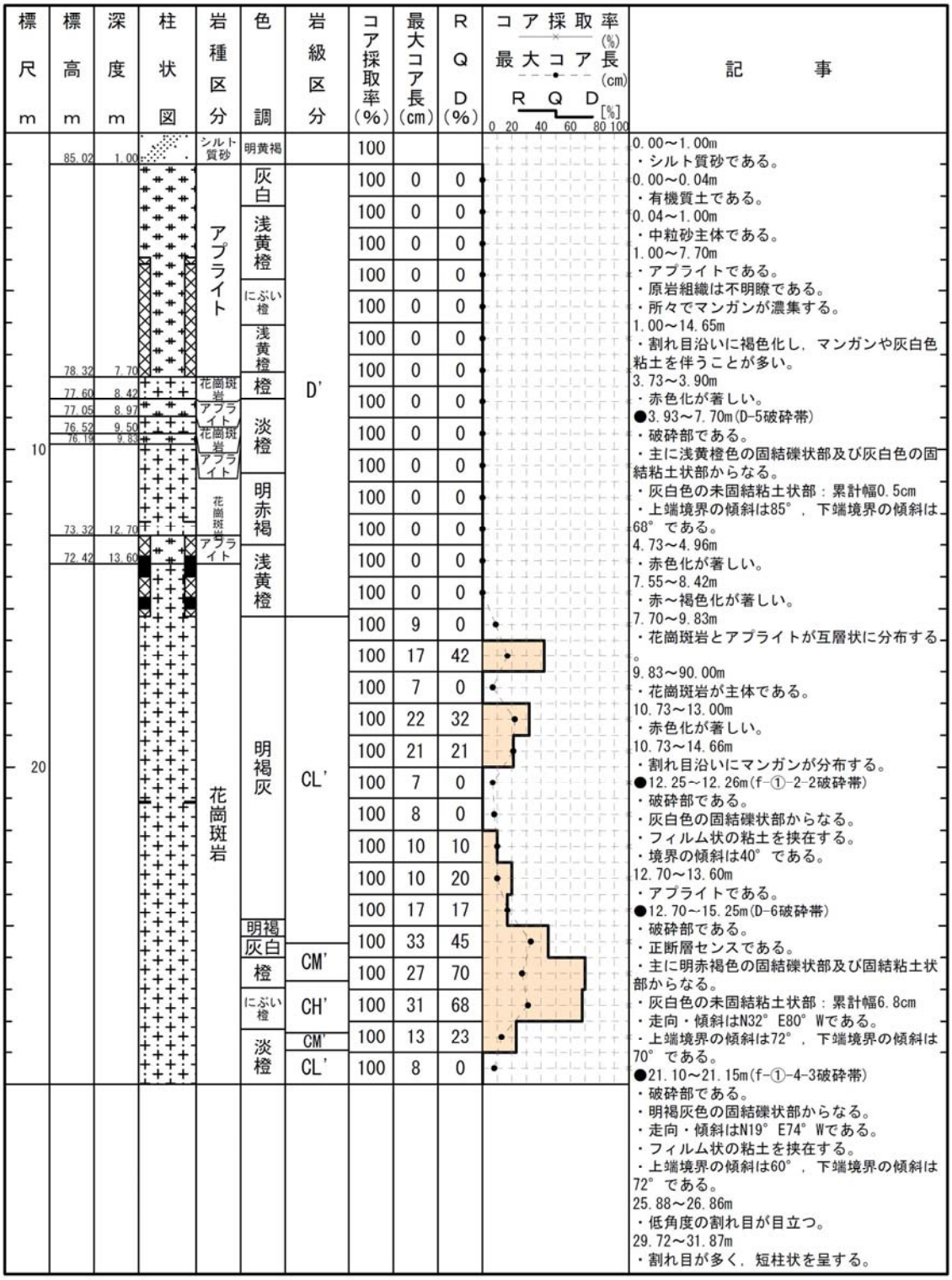


H20－①－4

柱状図(0.00m～30.00m)

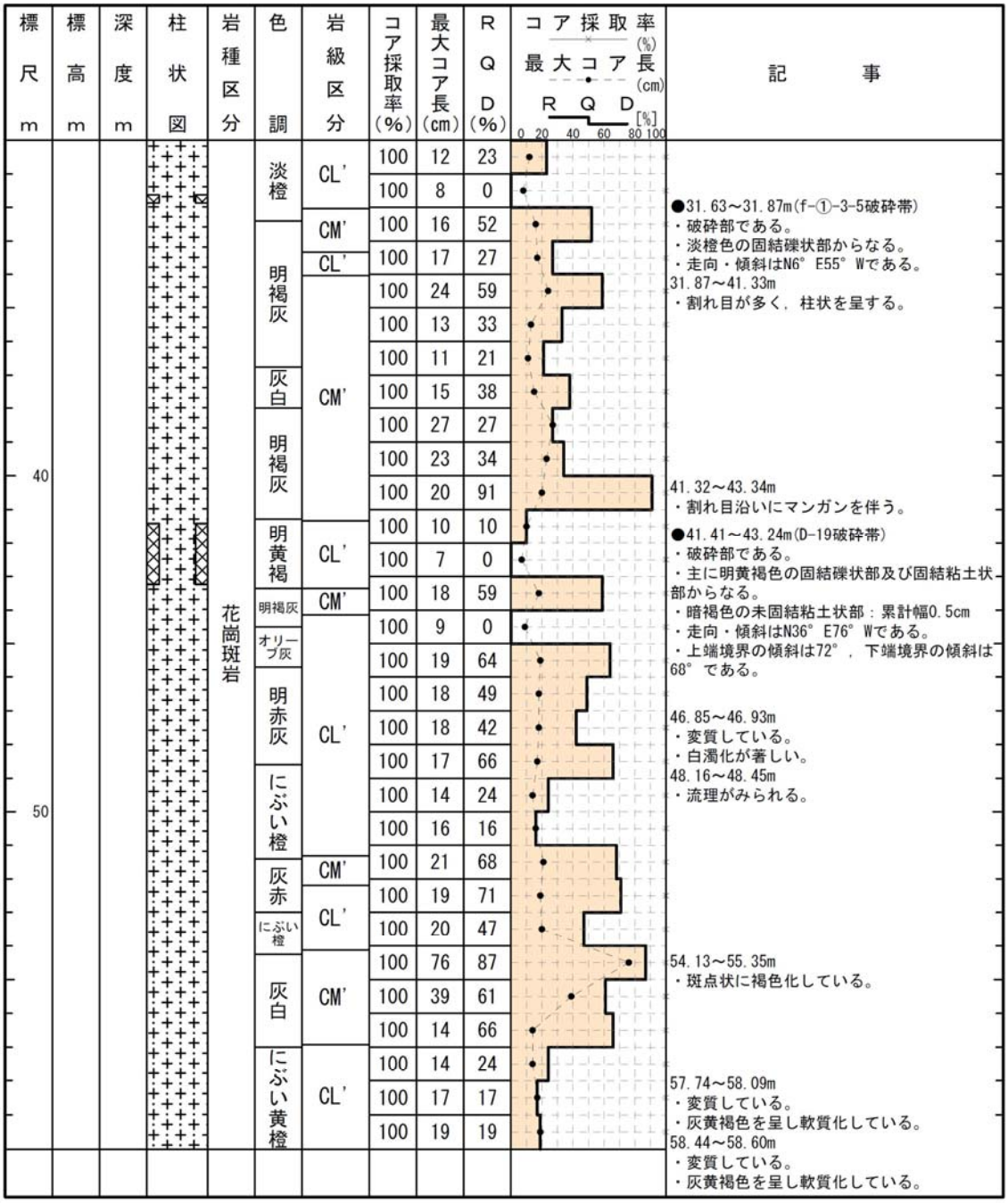
H20-①-4

孔口標高	T.P. 86.02m	掘削長	90.00m



H20－①－4

柱状図(30.00m～60.00m)

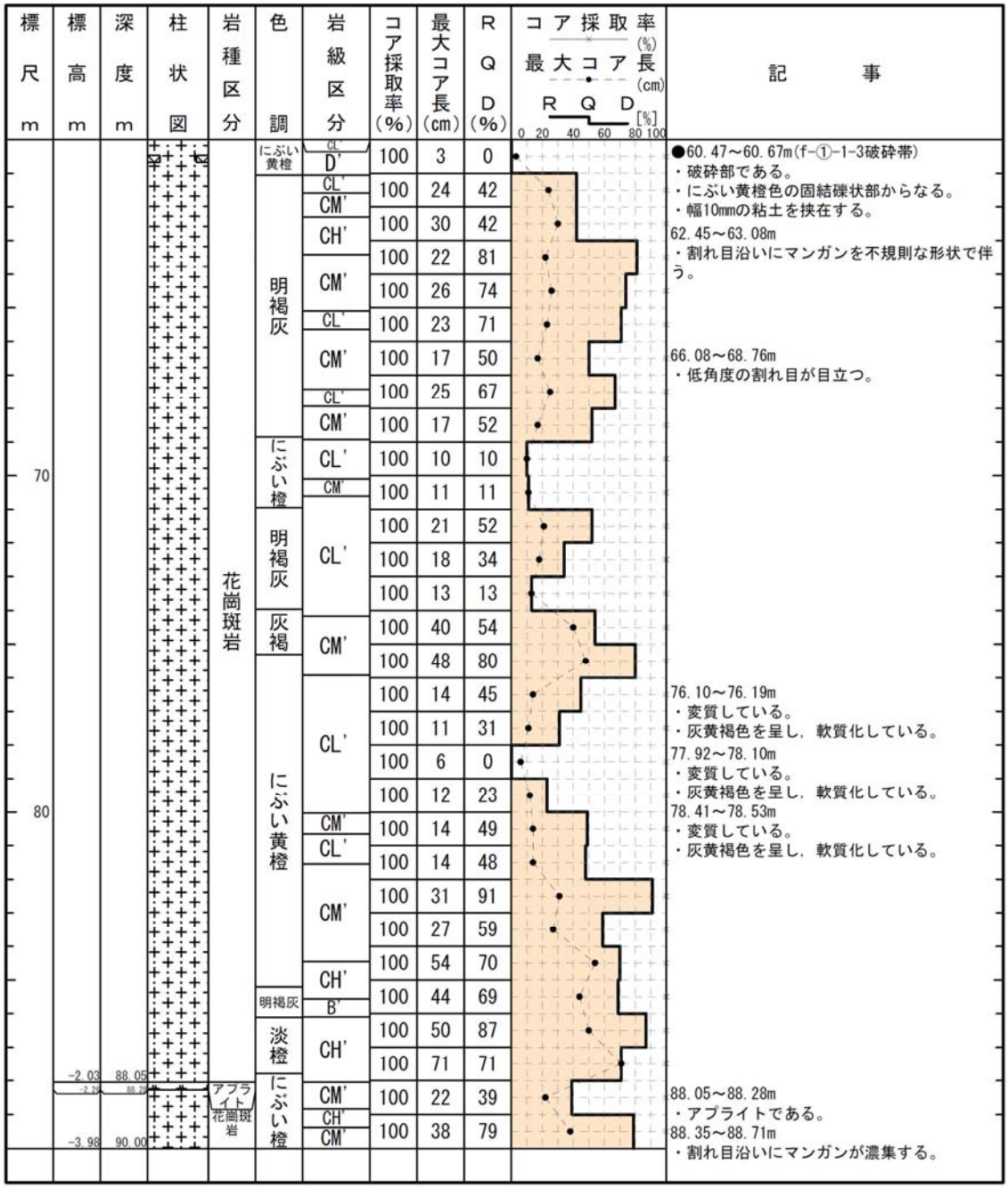


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
					淡橙	CL'	100	12	23	
							100	8	0	●31.63～31.87m(f-①-3-5破砕帯) ・破砕部である。 ・淡橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E55° Wである。
					明褐灰	CM'	100	16	52	31.87～41.33m ・割れ目が多く，柱状を呈する。
						CL'	100	17	27	
						CM'	100	24	59	
							100	13	33	
							100	11	21	
					灰白		100	15	38	
					明褐灰		100	27	27	
							100	23	34	
40							100	20	91	41.32～43.34m ・割れ目沿いにマンガンを伴う。
					明黄褐	CL'	100	10	10	
							100	7	0	●41.41～43.24m(D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°，下端境界の傾斜は68°である。
							100	18	59	
					明褐灰	CM'	100	9	0	
					オリーブ灰		100	19	64	
					明赤灰	CL'	100	18	49	
							100	18	42	46.85～46.93m ・変質している。 ・白濁化が著しい。
							100	17	66	48.16～48.45m ・流理がみられる。
							100	14	24	
50					にぶい橙		100	16	16	
					灰赤	CM'	100	21	68	
						CL'	100	19	71	
					にぶい橙		100	20	47	
					灰白	CM'	100	76	87	54.13～55.35m ・斑点状に褐色化している。
							100	39	61	
							100	14	66	
					にぶい黄橙	CL'	100	14	24	
							100	17	17	57.74～58.09m ・変質している。 ・灰黄褐色を呈し軟質化している。
							100	19	19	58.44～58.60m ・変質している。 ・灰黄褐色を呈し軟質化している。

花崗斑岩

H20－①－4

柱状図(60.00m～90.00m)

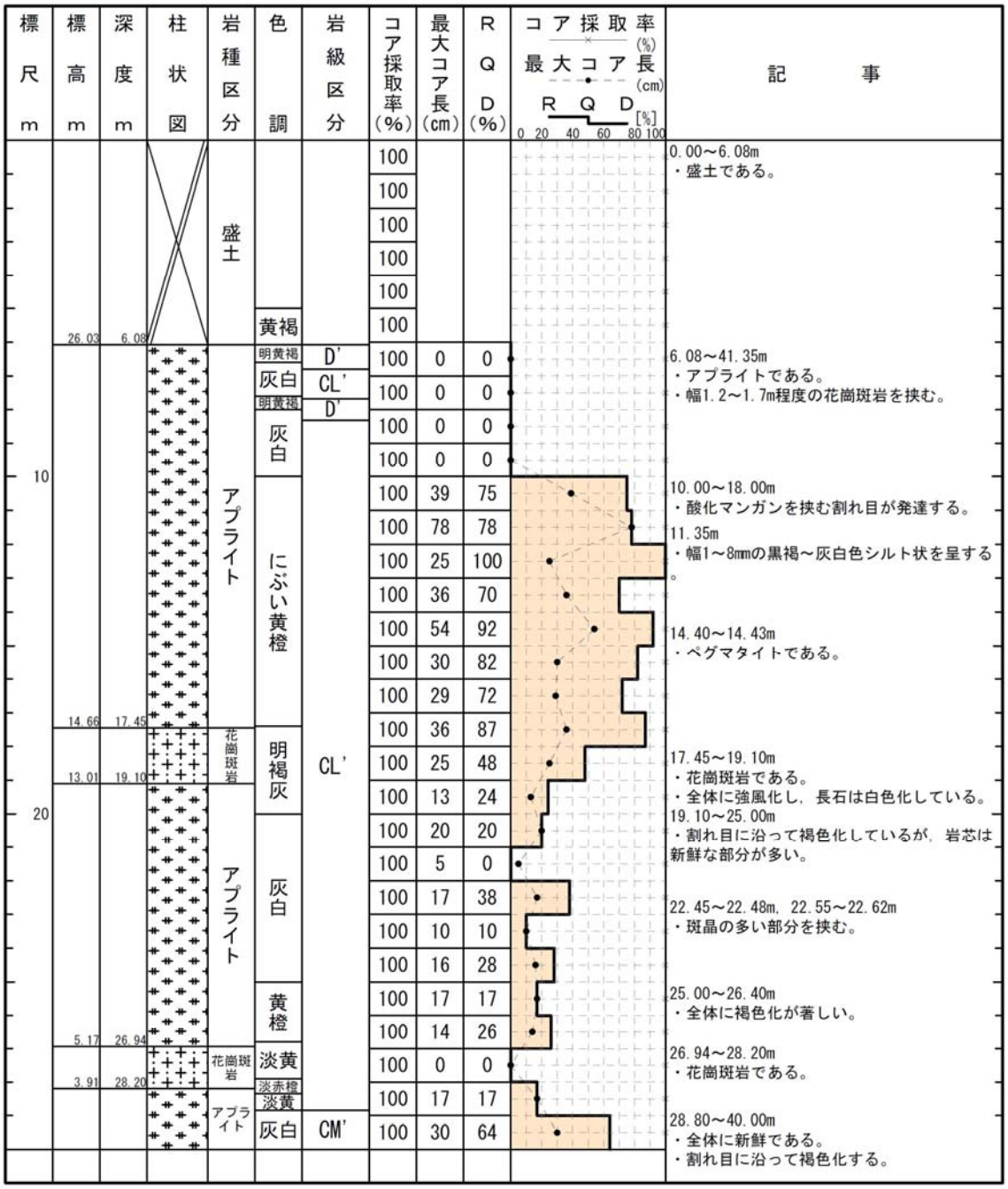


H19－No. 11

柱状図(0.00m～30.00m)

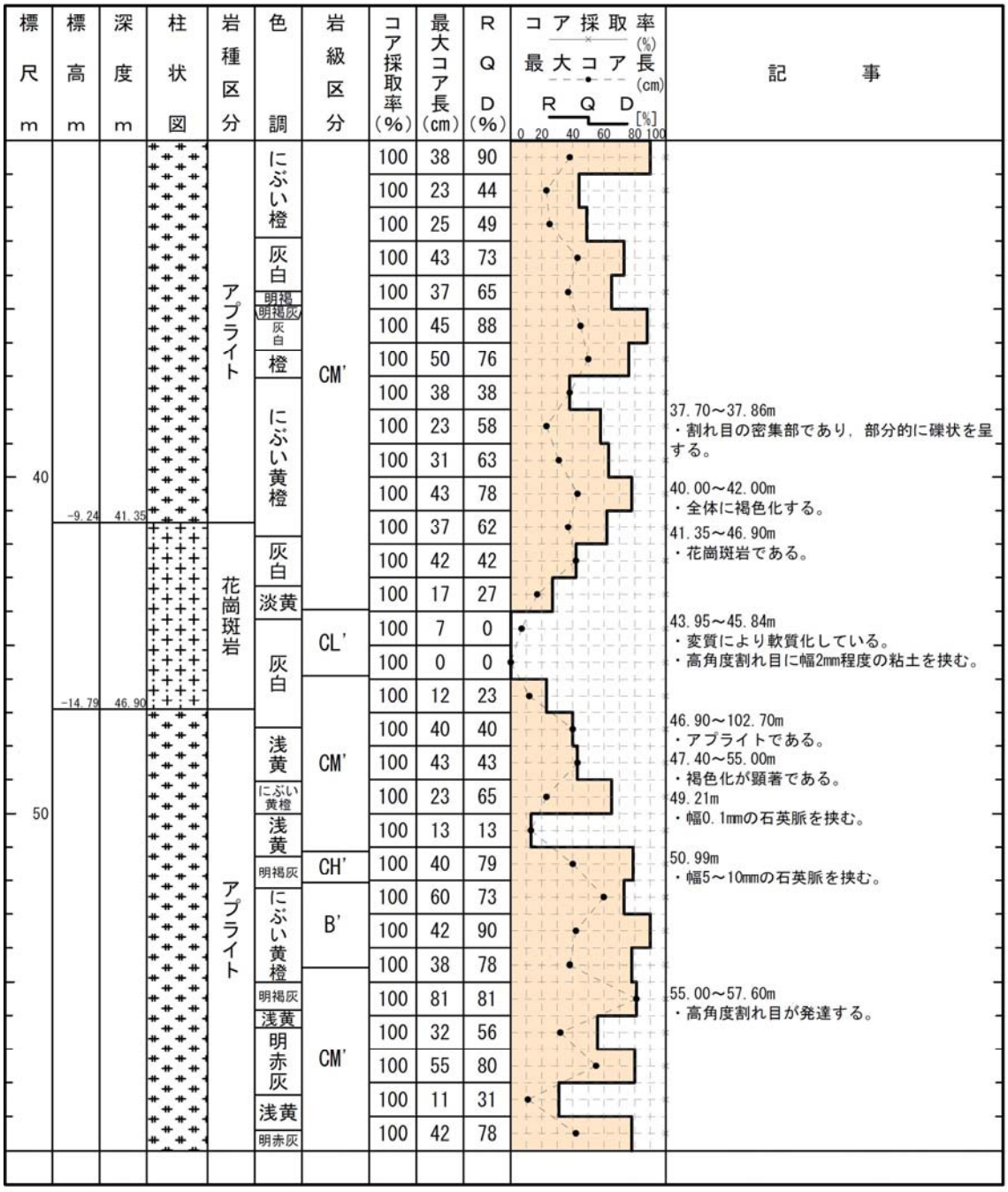
H19-No. 11

孔口標高	T.P. 32.11m	掘削長	120.00m



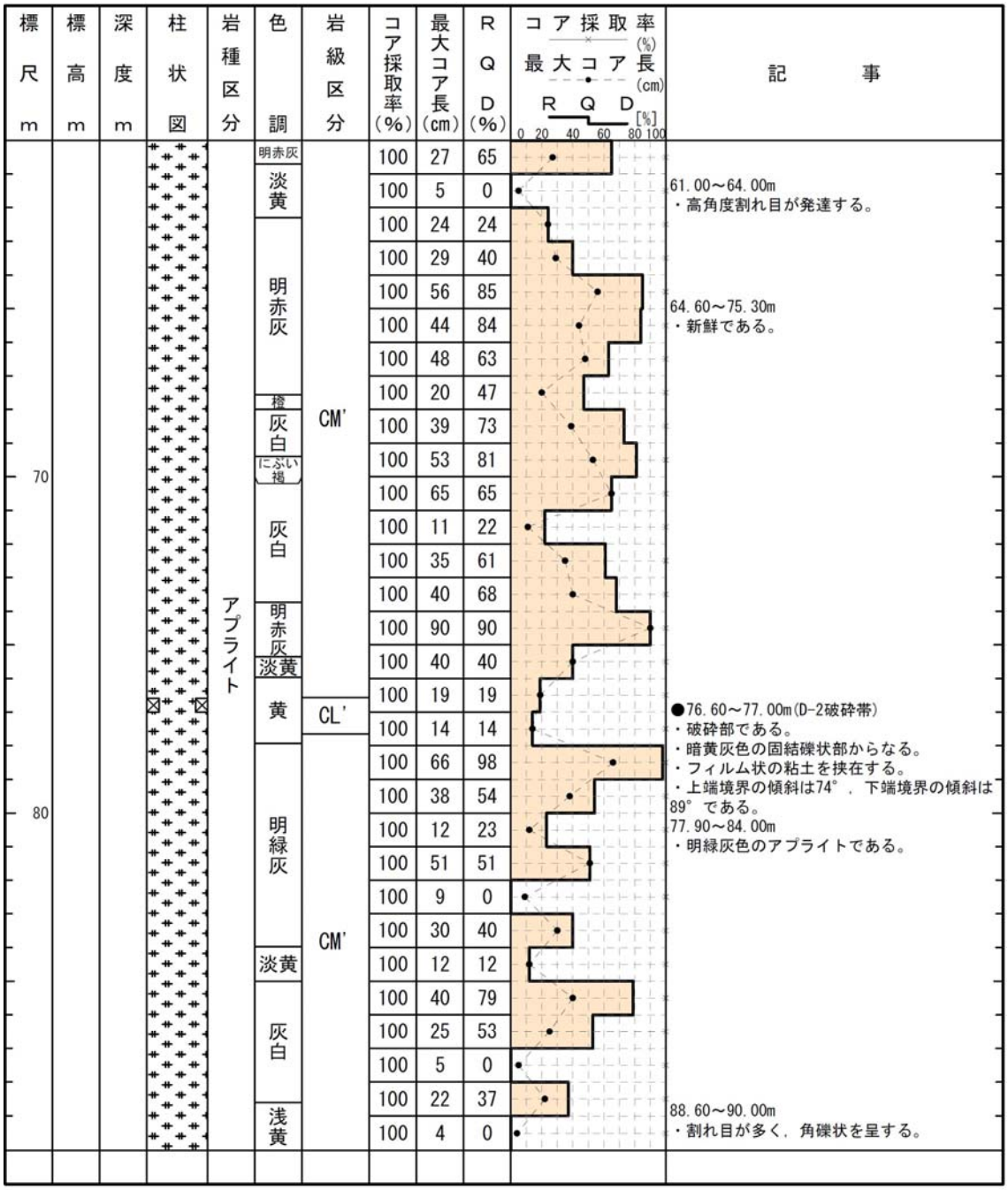
H19－No. 11

柱状図(30.00m～60.00m)



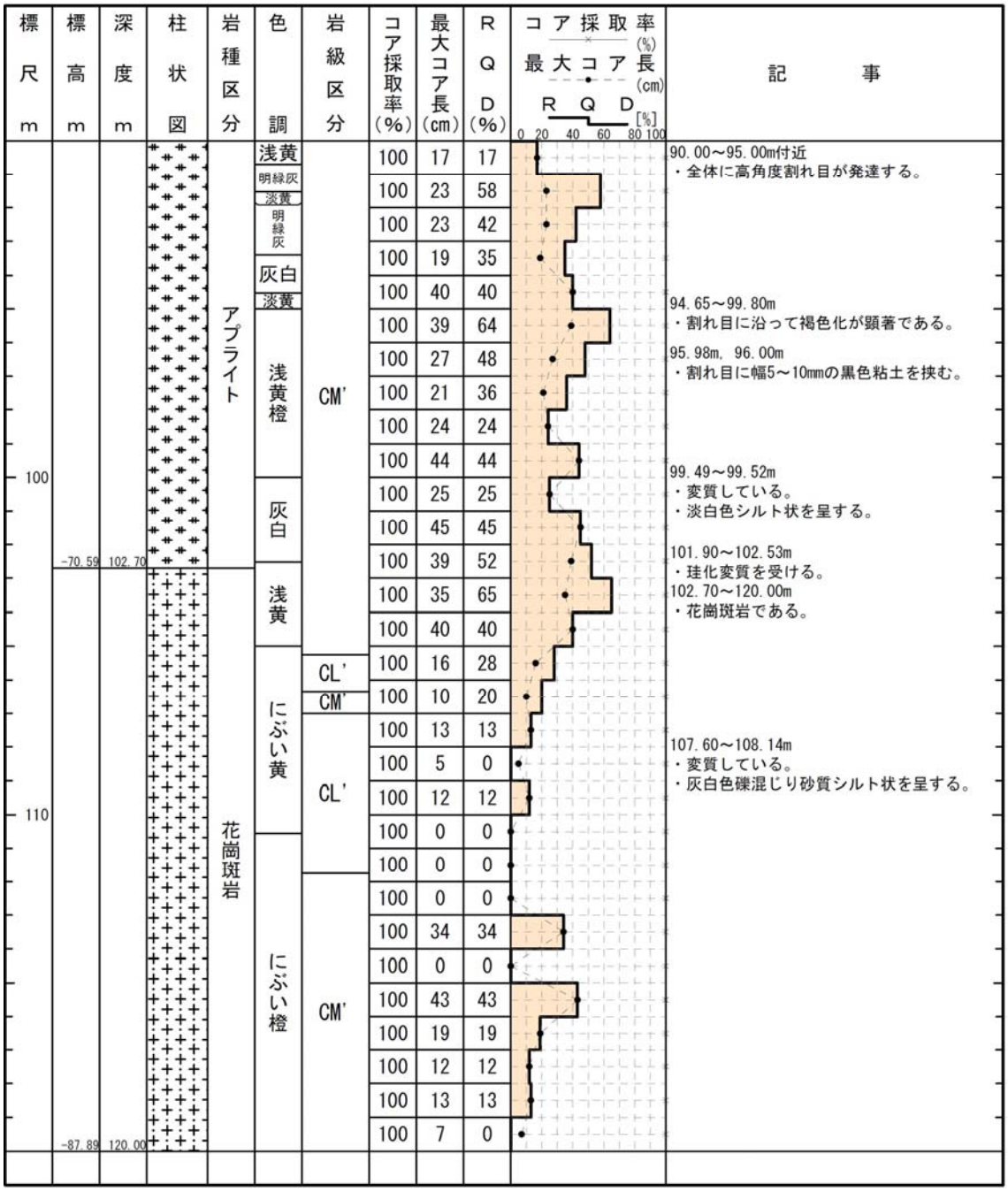
H19－No. 11

柱状図(60.00m～90.00m)



H19－No. 11

柱状図(90.00m～120.00m)

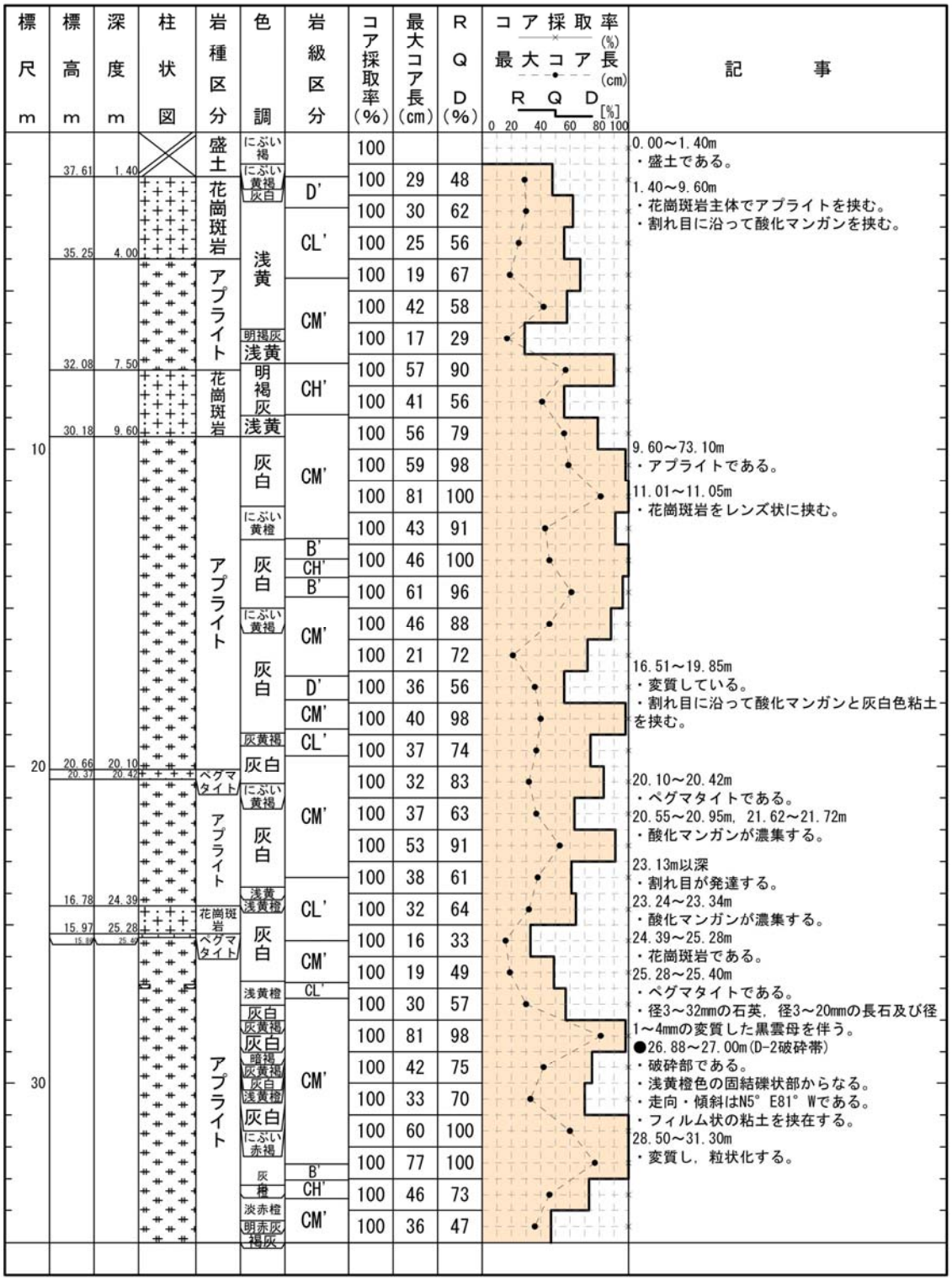


H19－No. 13

柱状図(0.00m～35.00m)

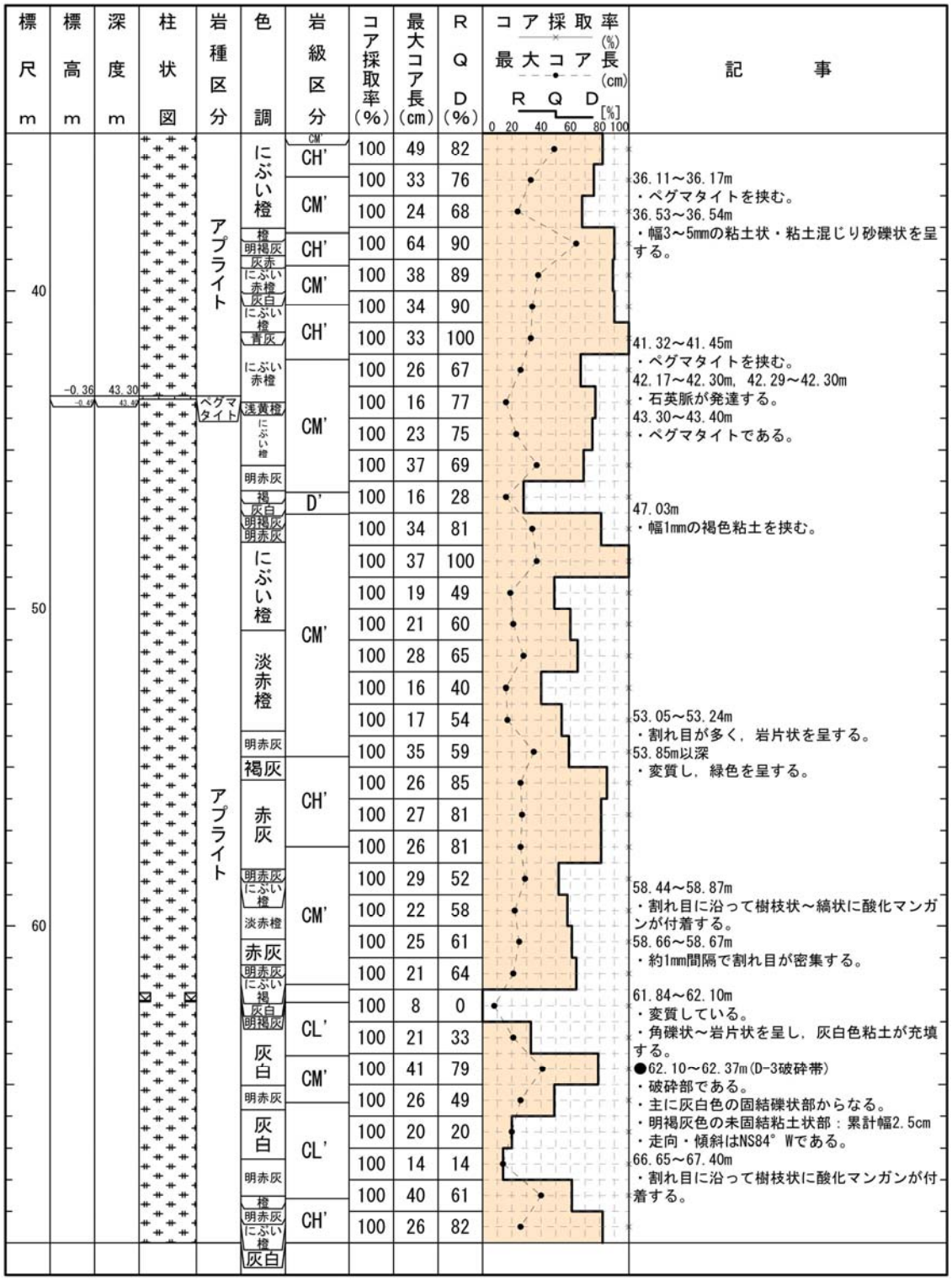
H19-No. 13

孔口標高	T.P. 38.88m	掘削長	100.00m



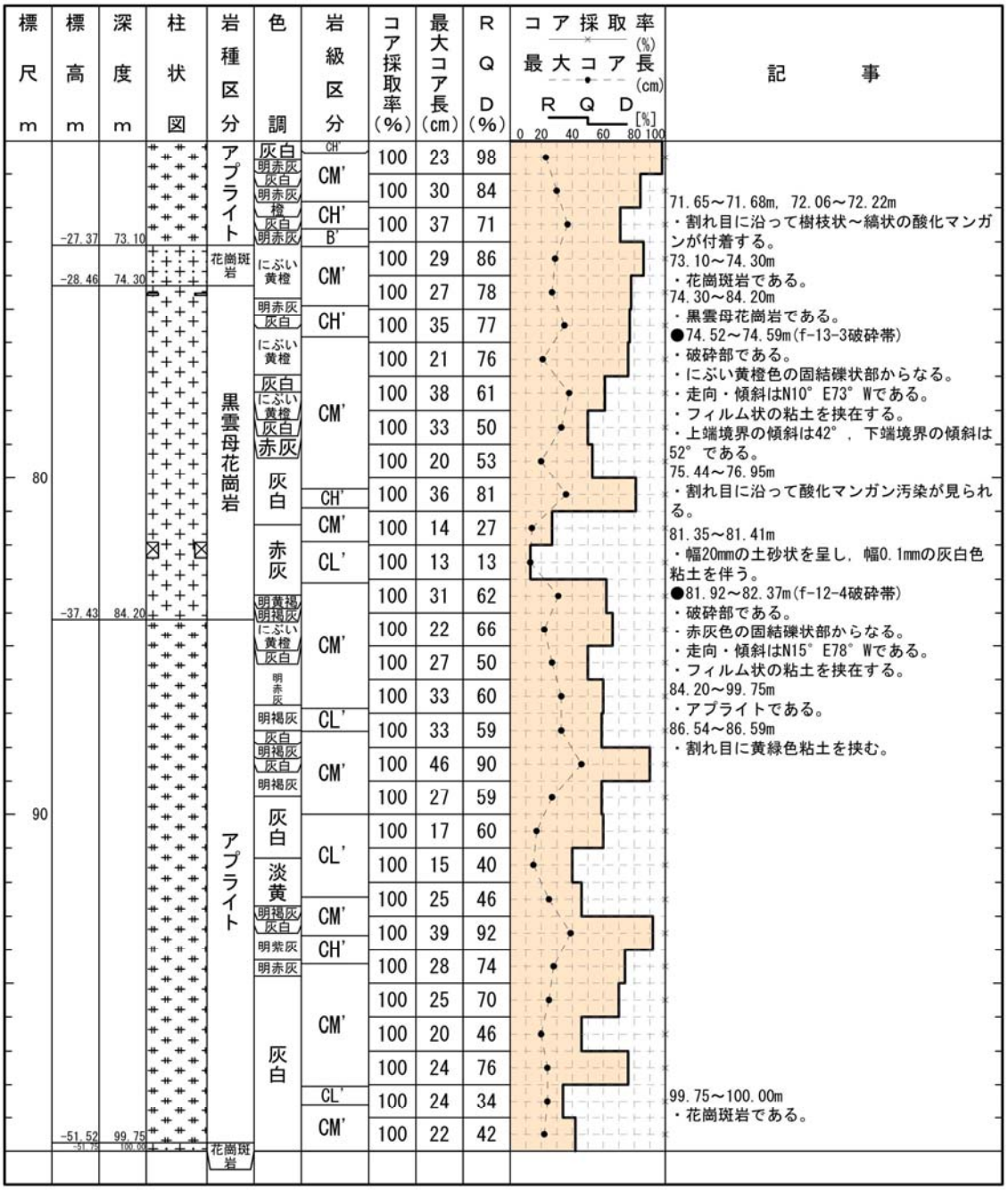
H19－No. 13

柱状図(35.00m～70.00m)



H19－No. 13

柱状図(70.00m～100.00m)

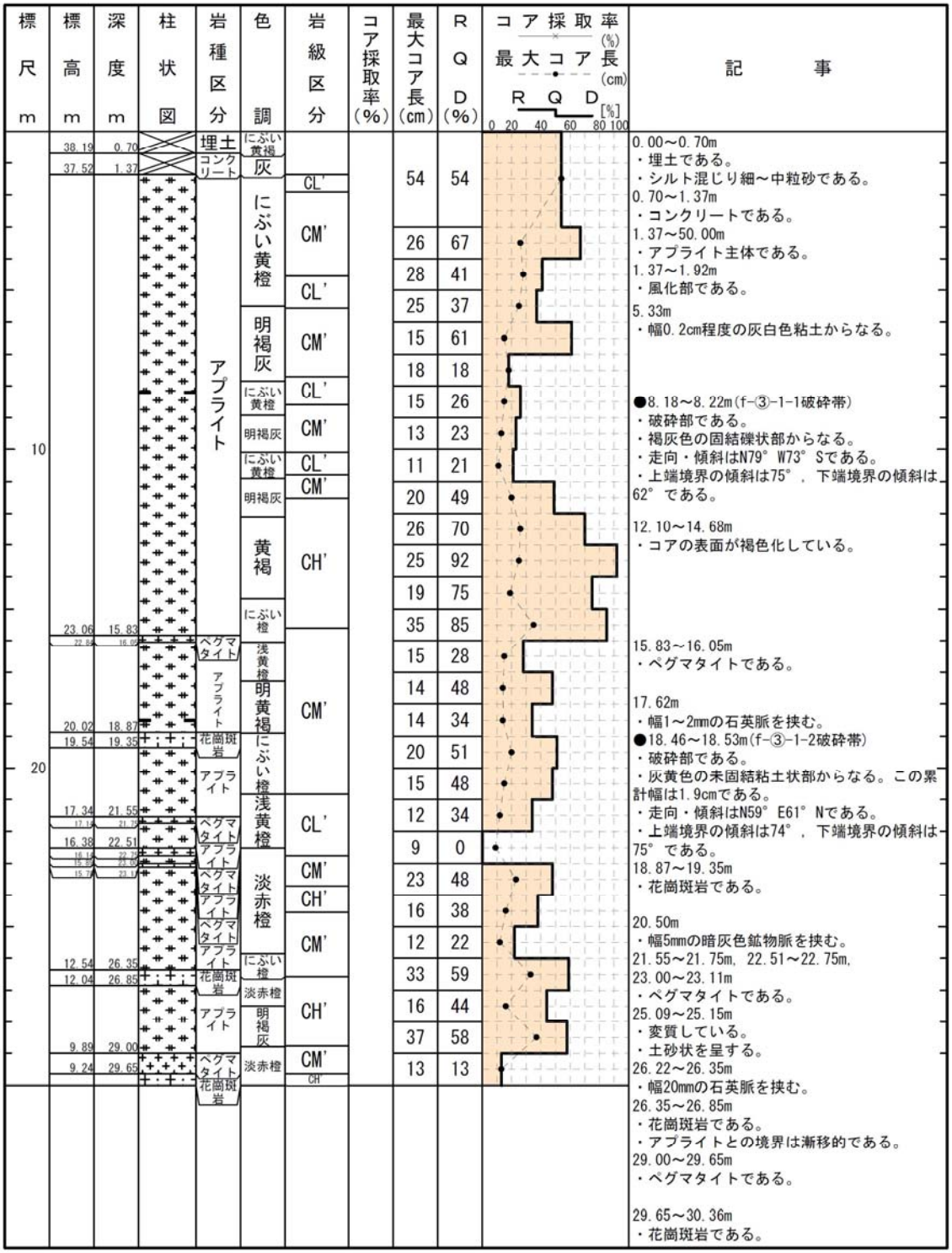


H20－③－1

柱状図(0.00m～30.00m)

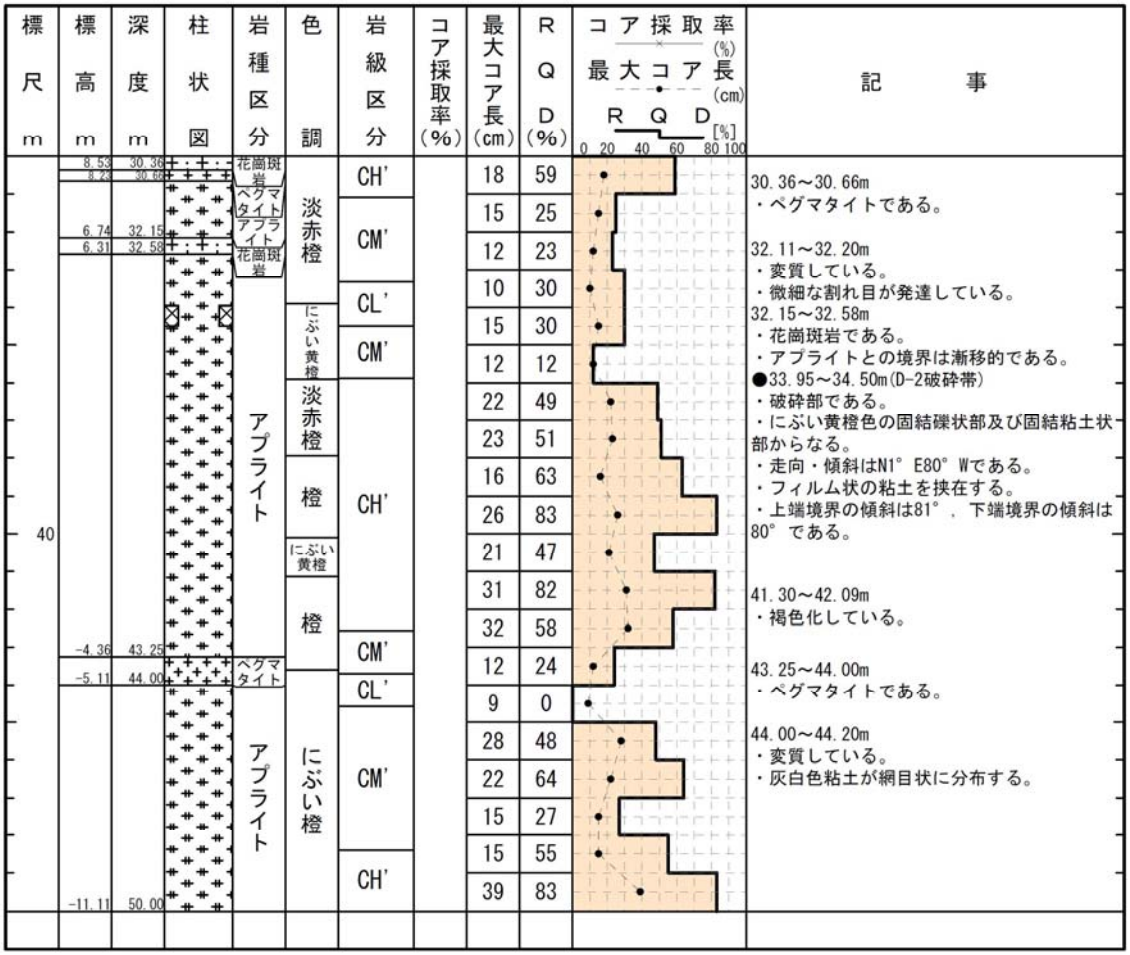
H20-③-1

孔口標高	T.P. 38.89m	掘削長	50.00m



H20－③－1

柱状図(30.00m～50.00m)

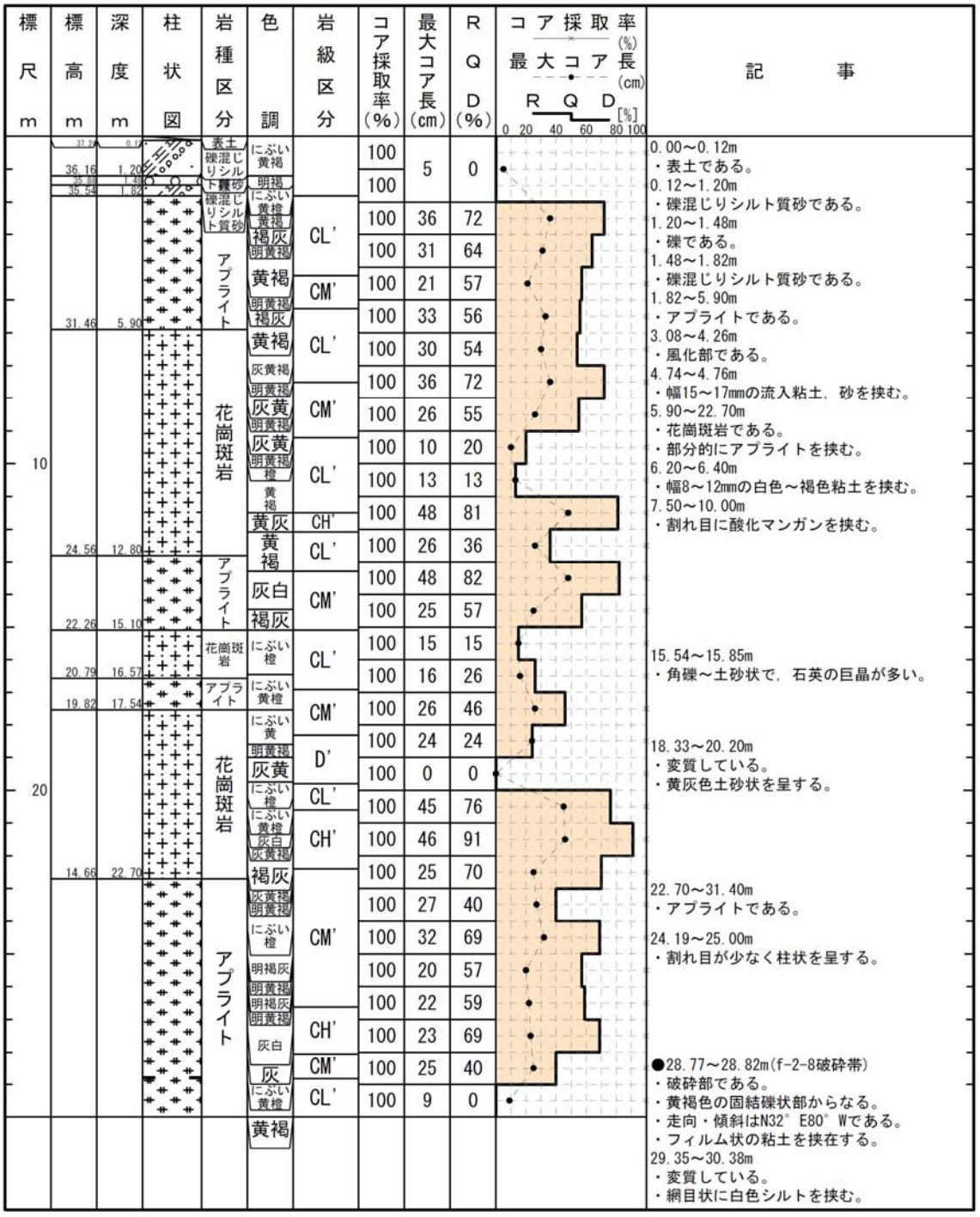


H19－No. 3

柱状図(0.00m～30.00m)

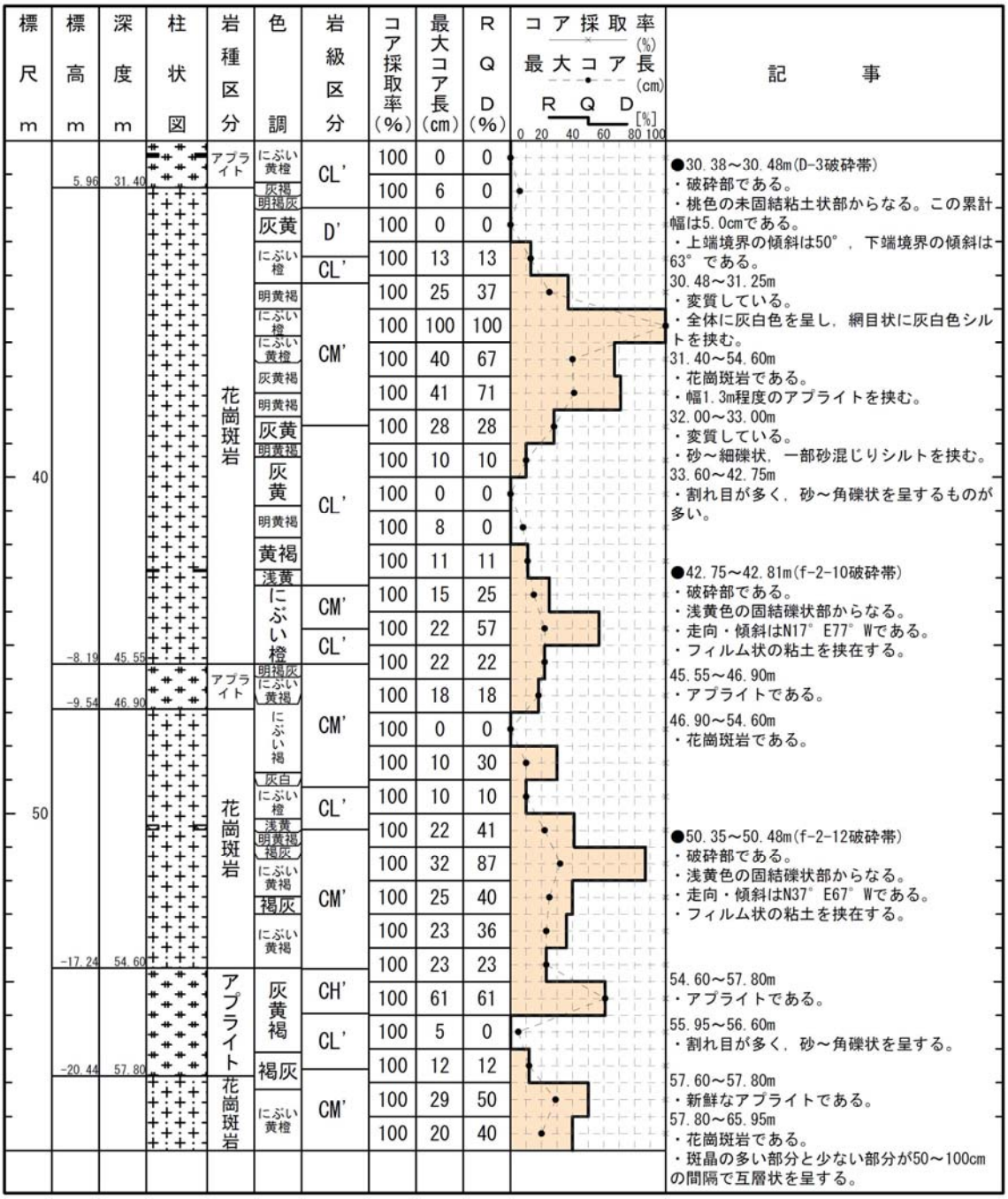
H19-No. 3

孔口標高	T.P. 37.36m	掘削長	200.00m



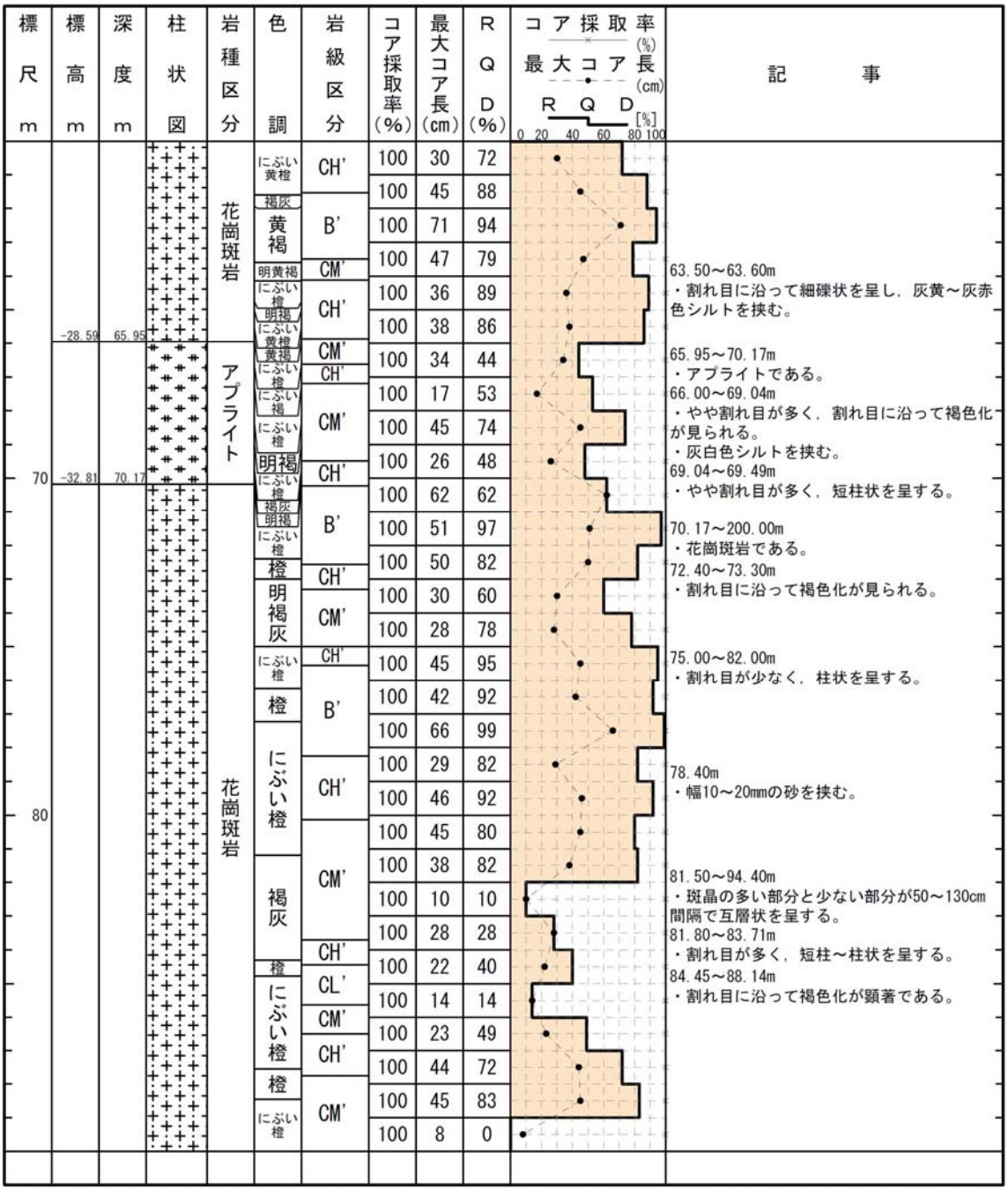
H19－No. 3

柱状図(30.00m～60.00m)



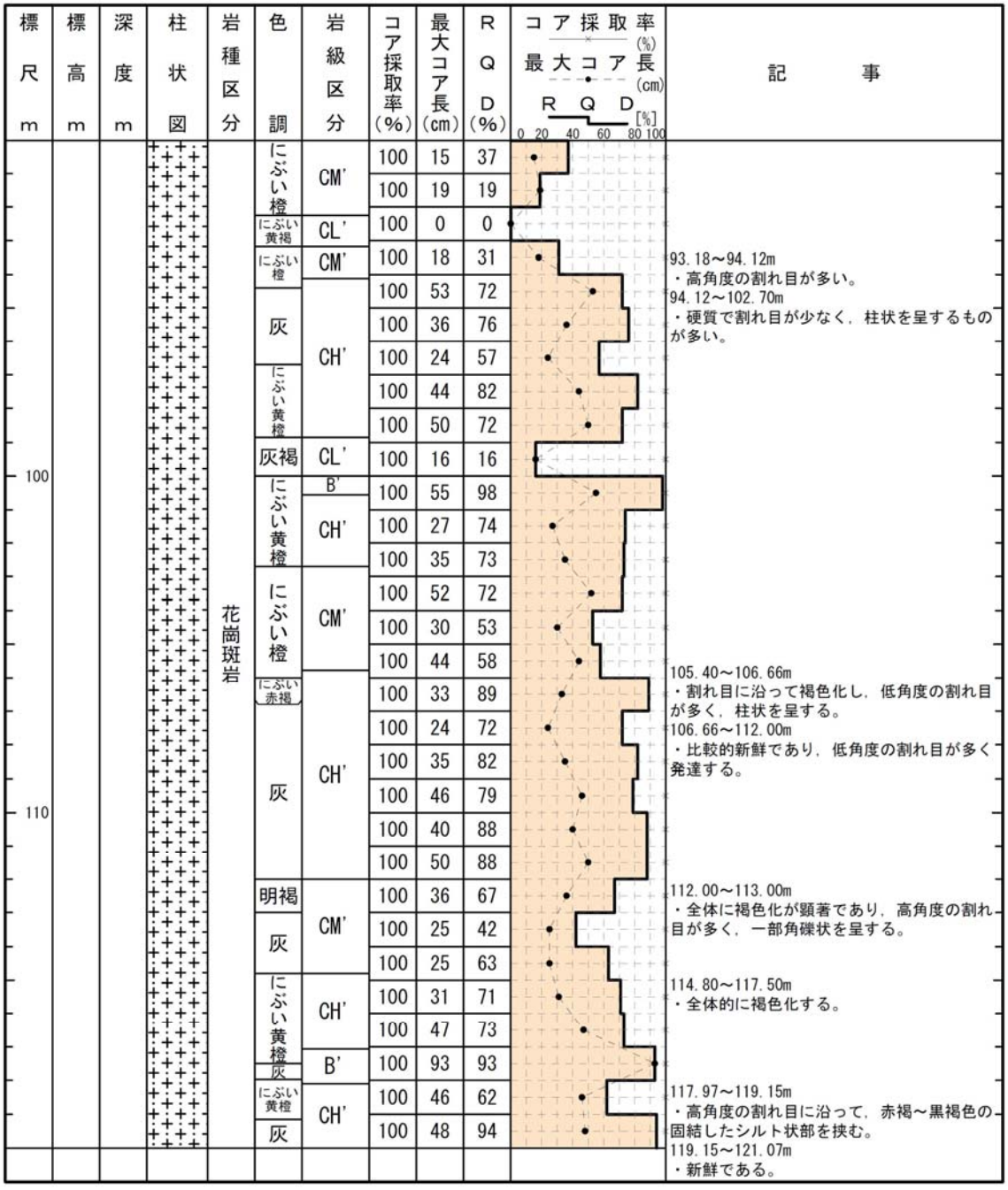
H19－No. 3

柱状図(60.00m～90.00m)



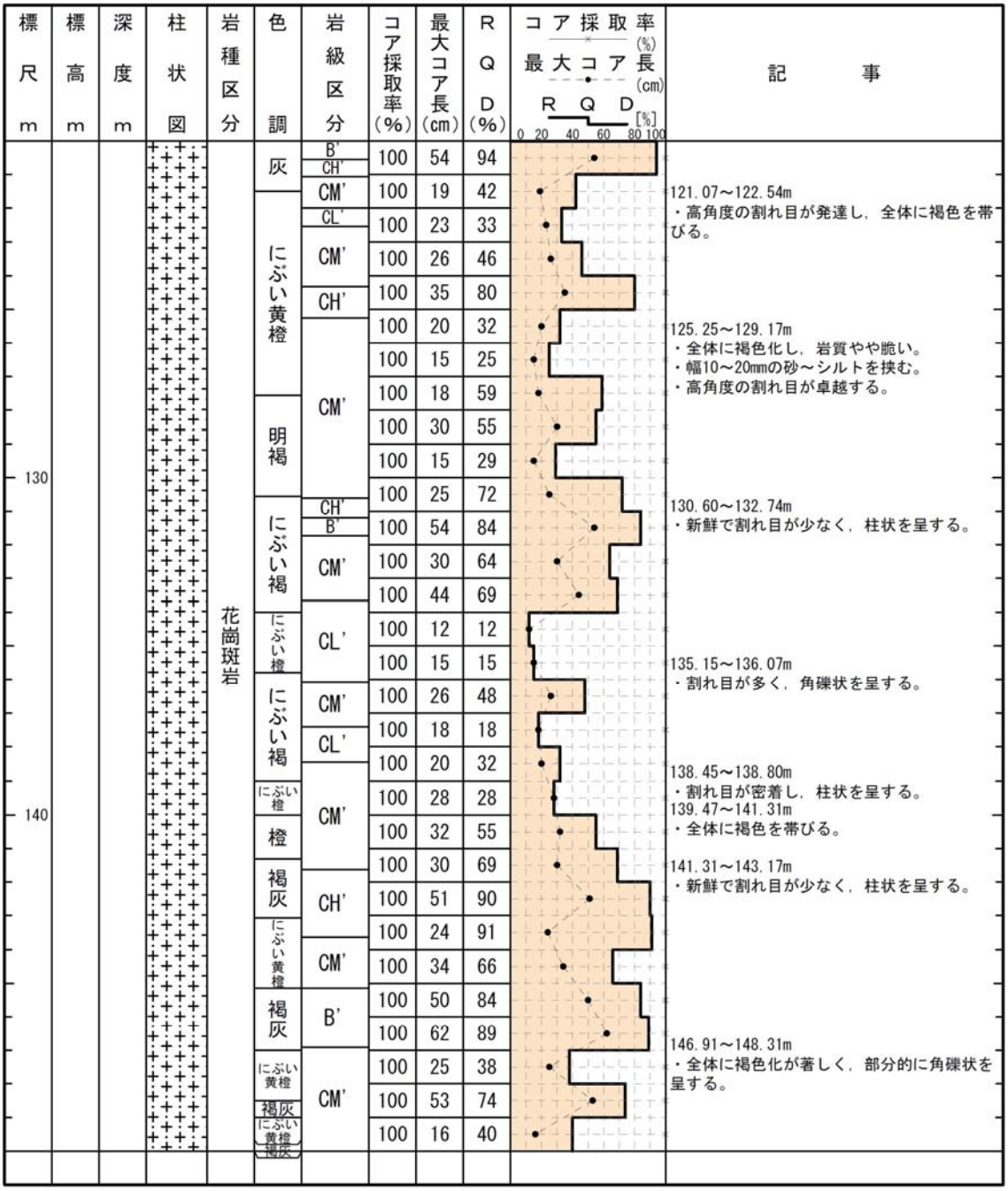
H19－No. 3

柱状図(90.00m～120.00m)



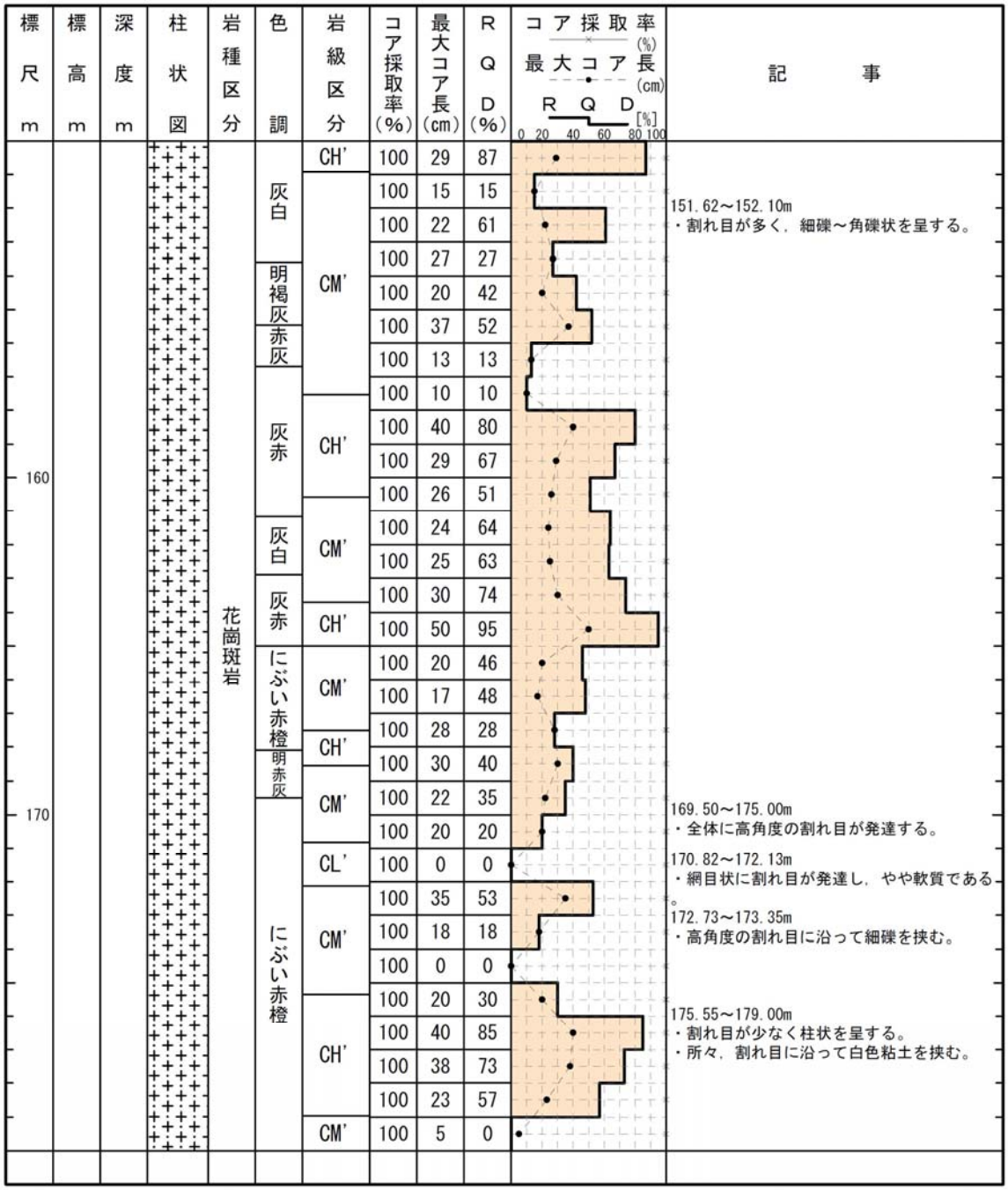
H19－No. 3

柱状図(120.00m～150.00m)



H19－No. 3

柱状図(150.00m～180.00m)



標尺 m	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）
	CH'	100	29	87
	CM'	100	15	15
		100	22	61
		100	27	27
		100	20	42
		100	37	52
		100	13	13
		100	10	10
	CH'	100	40	80
		100	29	67
160		100	26	51
	CM'	100	24	64
		100	25	63
		100	30	74
	CH'	100	50	95
	CM'	100	20	46
		100	17	48
	CH'	100	28	28
		100	30	40
	CM'	100	22	35
		100	20	20
170	CL'	100	0	0
	CM'	100	35	53
		100	18	18
		100	0	0
	CH'	100	20	30
		100	40	85
		100	38	73
		100	23	57
	CM'	100	5	0

151.62～152.10m
・割れ目が多く，細礫～角礫状を呈する。

169.50～175.00m
・全体に高角度の割れ目が発達する。

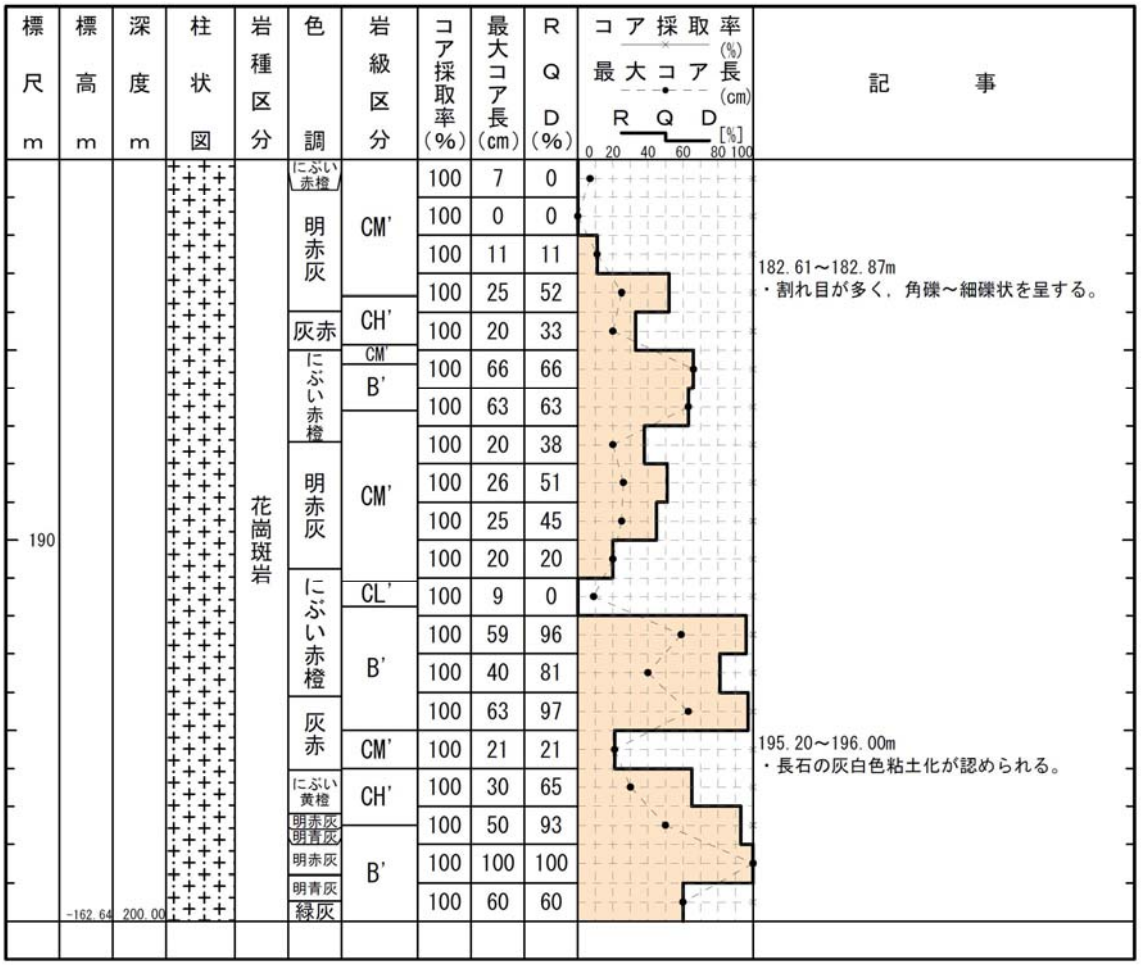
170.82～172.13m
・網目状に割れ目が発達し，やや軟質である。

172.73～173.35m
・高角度の割れ目に沿って細礫を挟む。

175.55～179.00m
・割れ目が少なく柱状を呈する。
・所々，割れ目に沿って白色粘土を挟む。

H19－No. 3

柱状図(180.00m～200.00m)

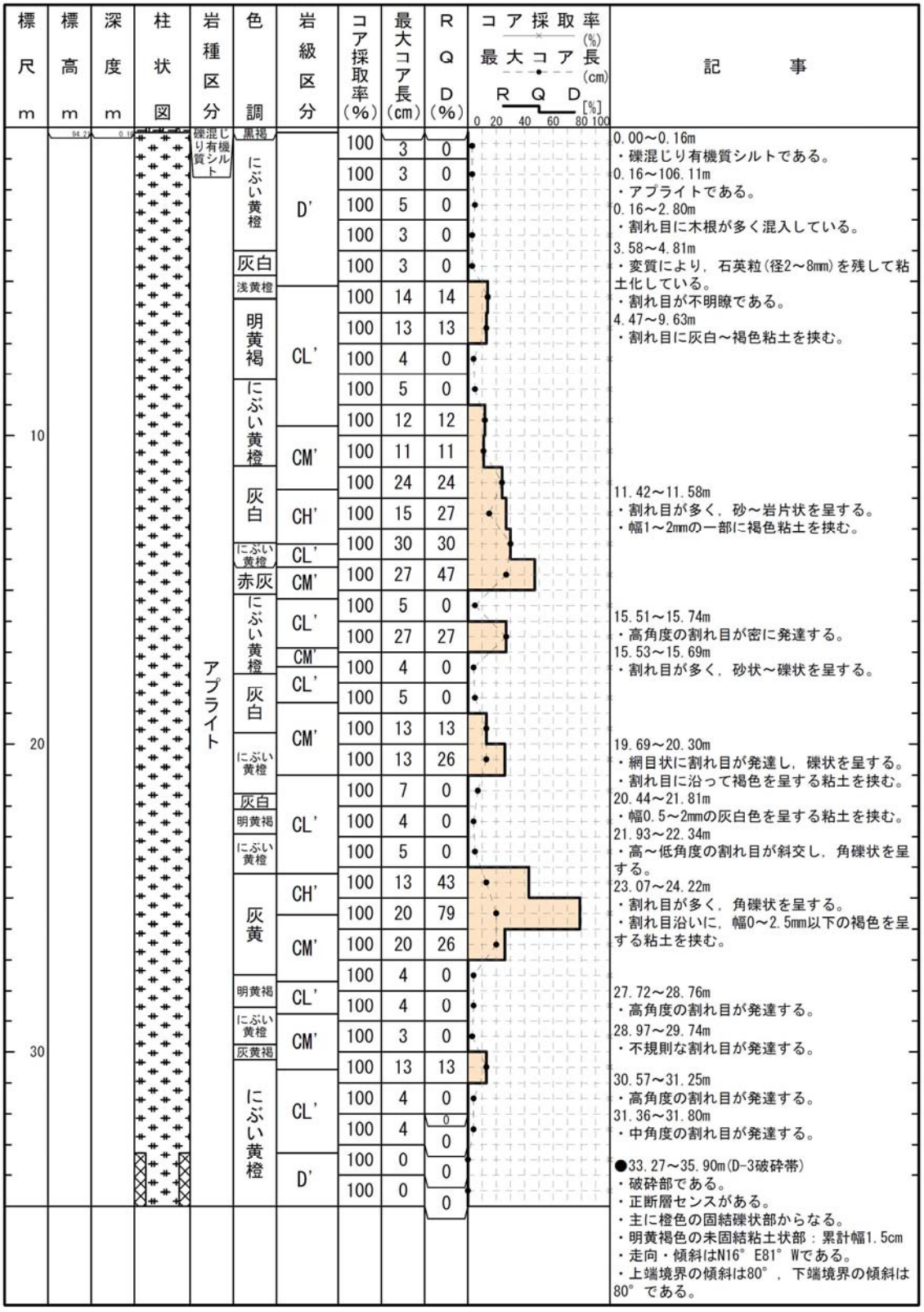


H27－Br－1

柱状図(0.00m～35.00m)

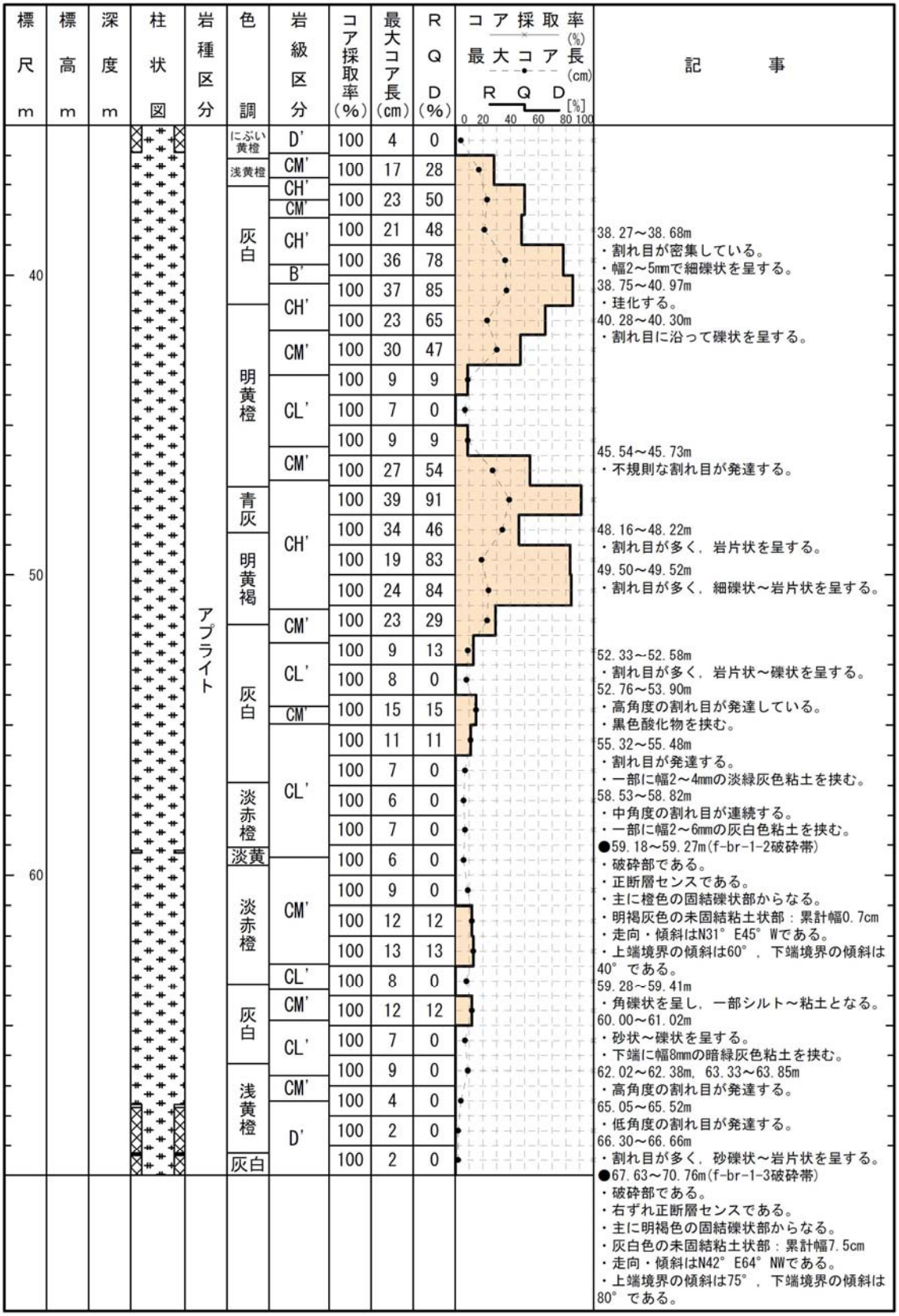
H27-Br-1

孔口標高	T.P. 94.37m	掘削長	130.00m



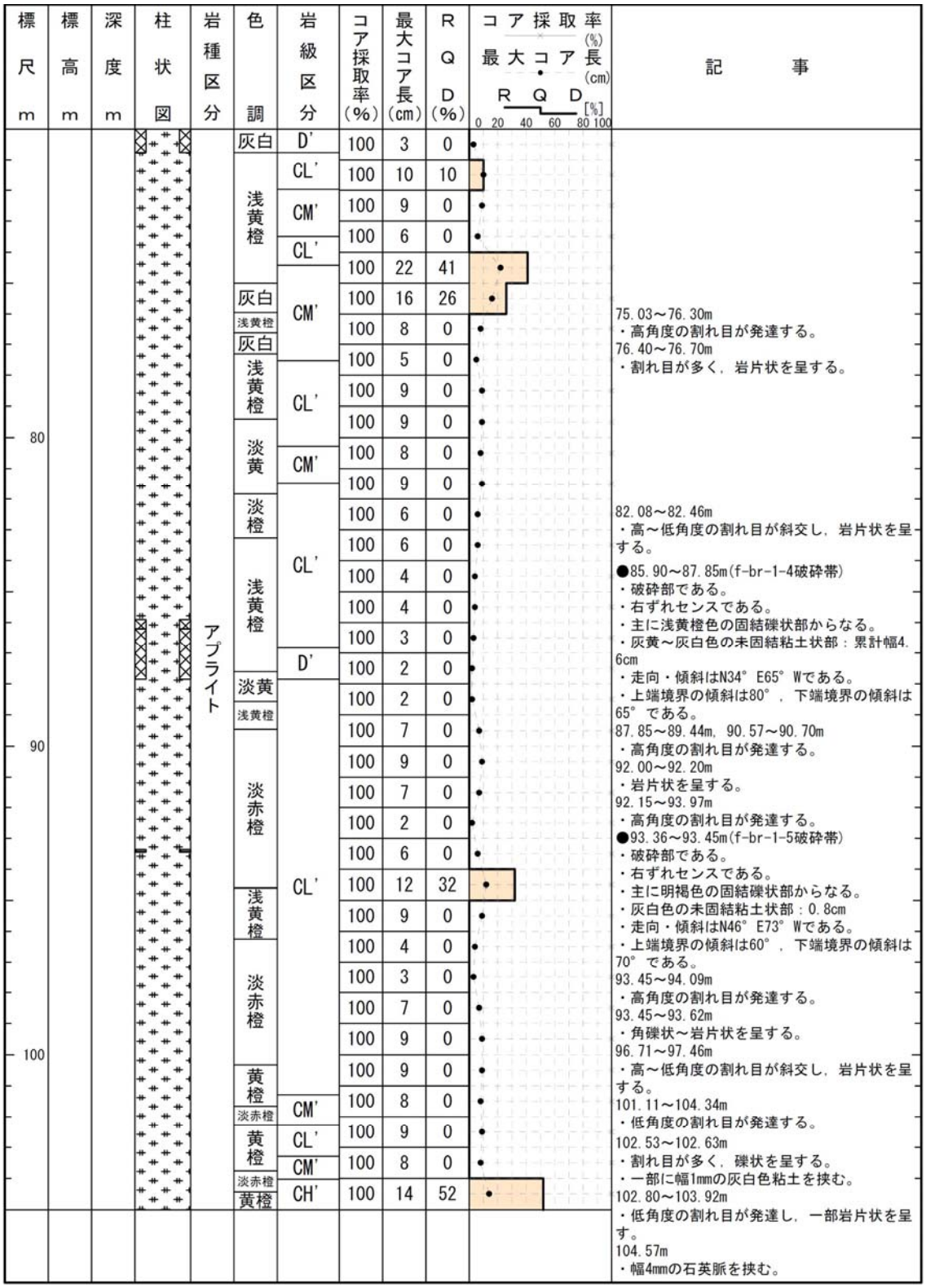
H27－Br－1

柱状図(35.00m～70.00m)



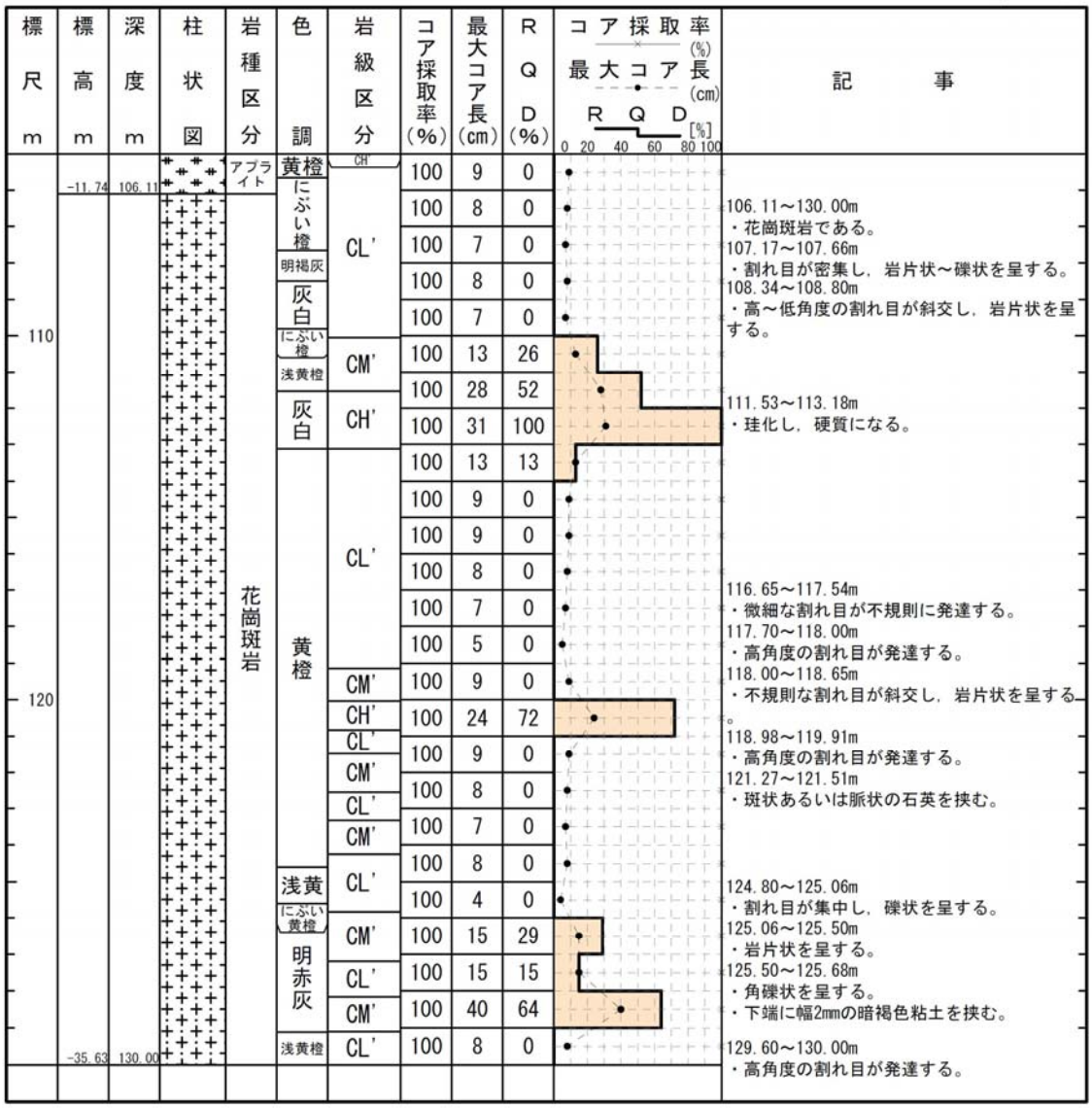
H27－Br－1

柱状図(70.00m～105.00m)



H27－Br－1

柱状図(105.00m～130.00m)

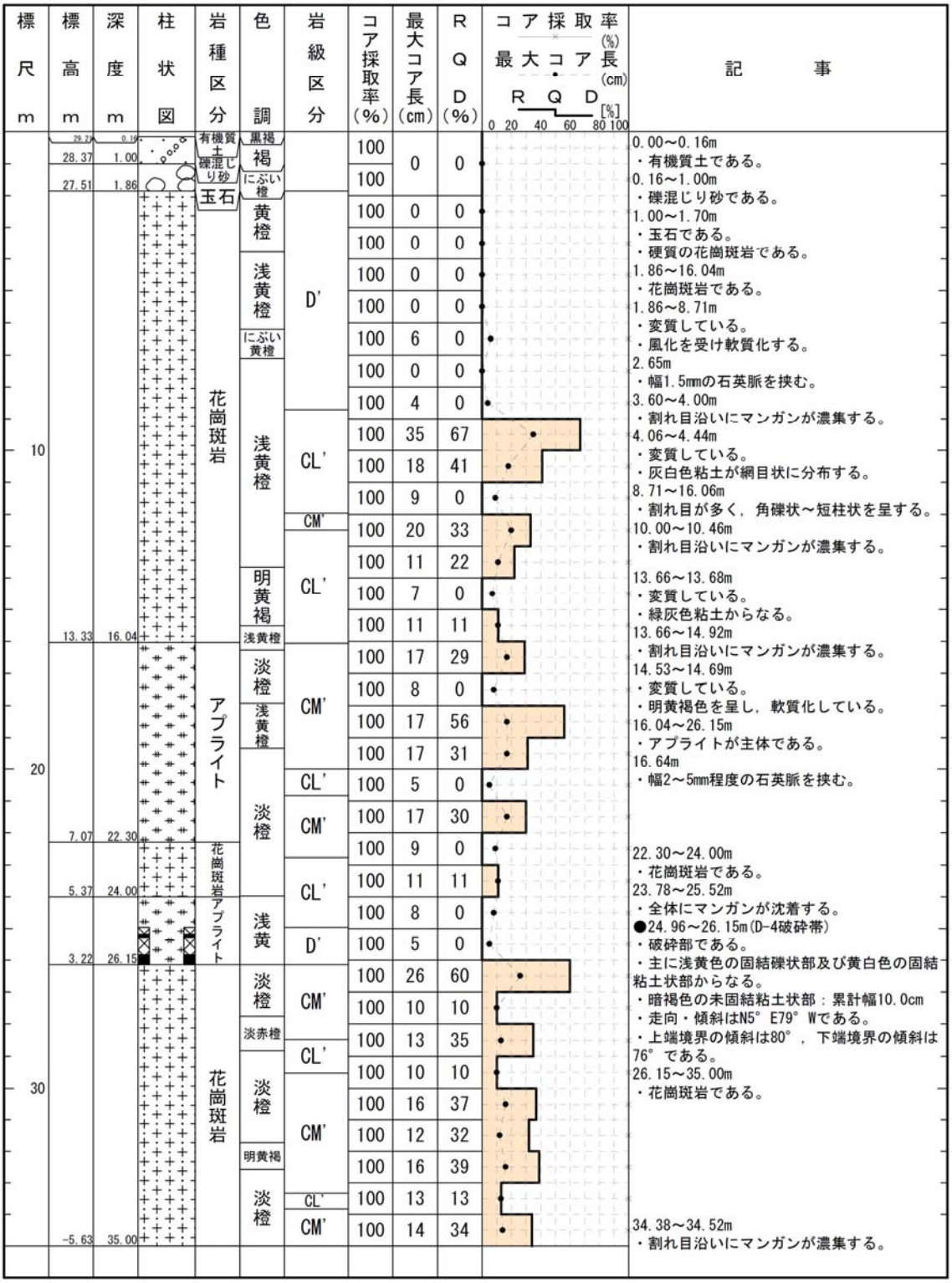


H20－①－8

柱状図(0.00m～35.00m)

H20-①-8

孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	35.00m

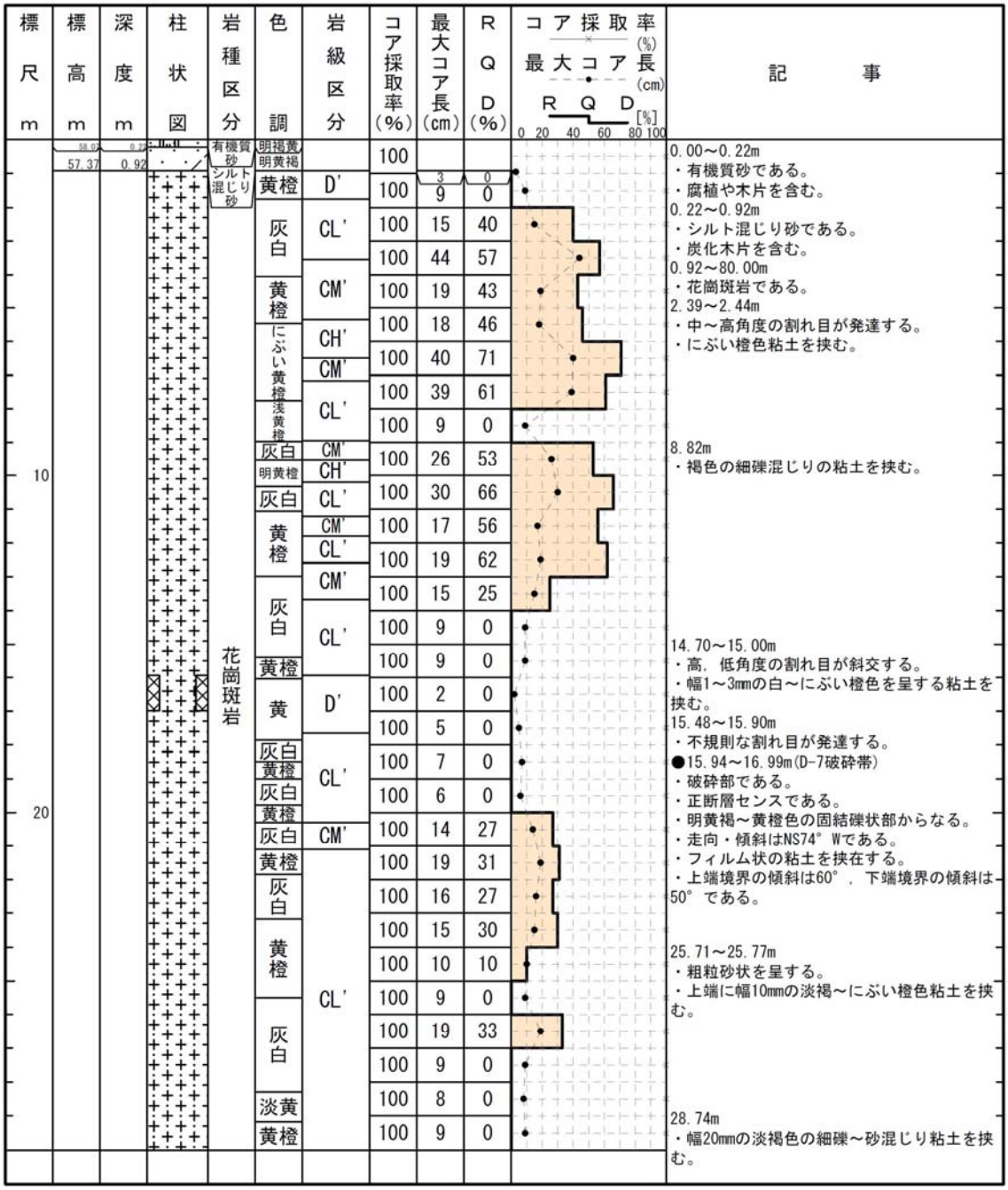


H27－Br－2

柱状図(0.00m～30.00m)

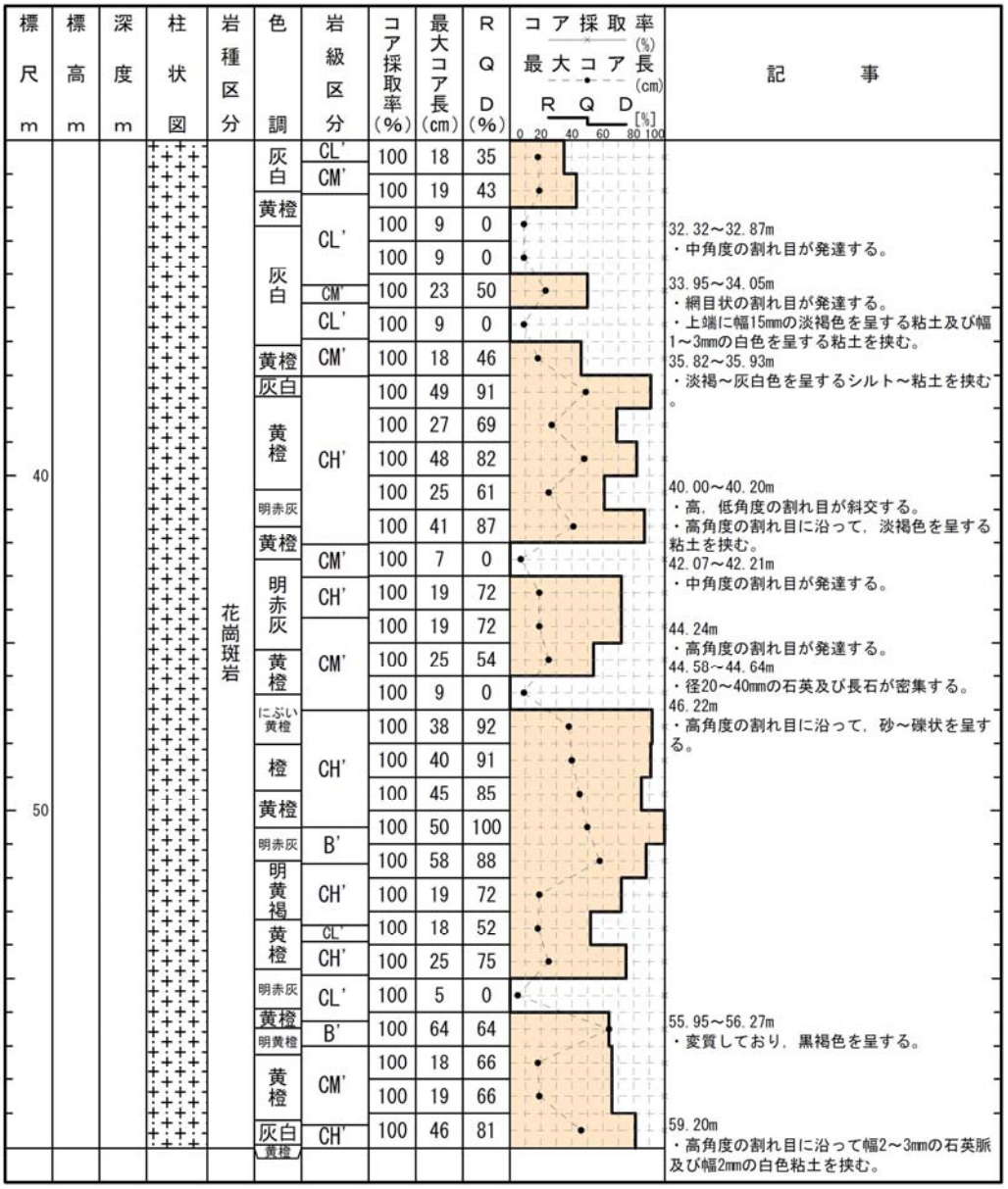
H27-Br-2

孔口標高	T.P. 58.29m	掘削長	80.00m



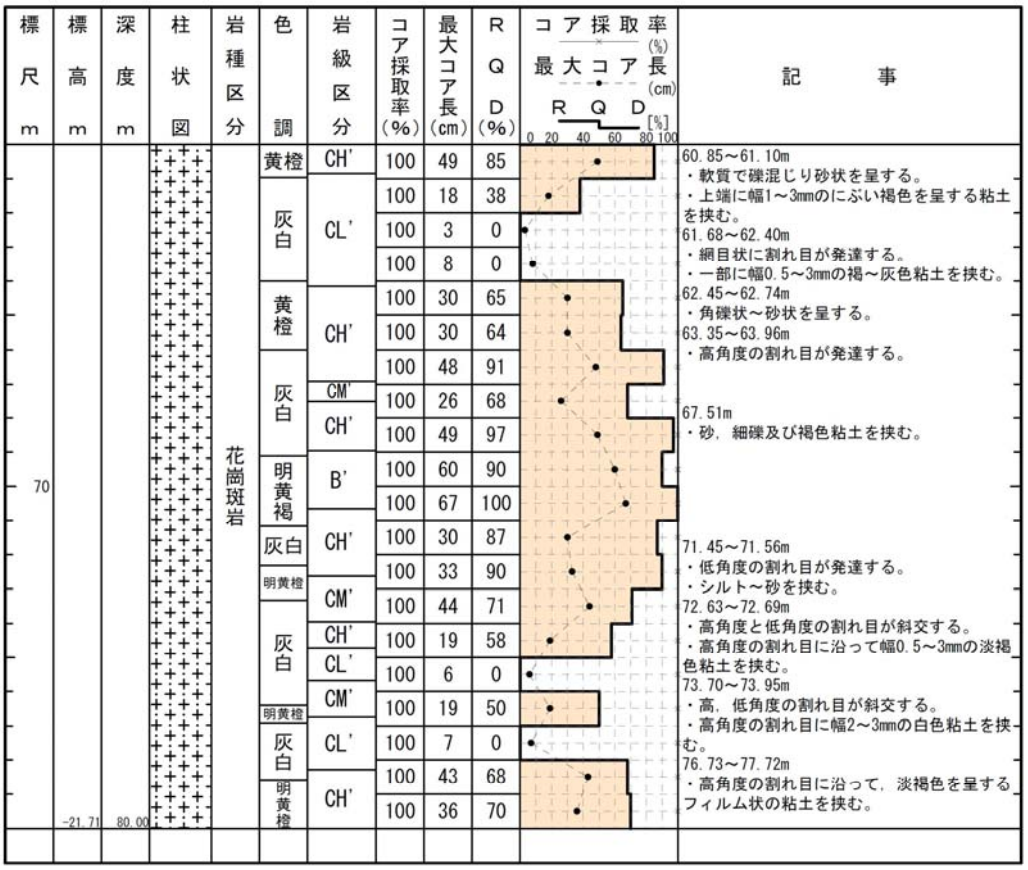
H27－Br－2

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－2

柱状図(60.00m～80.00m)

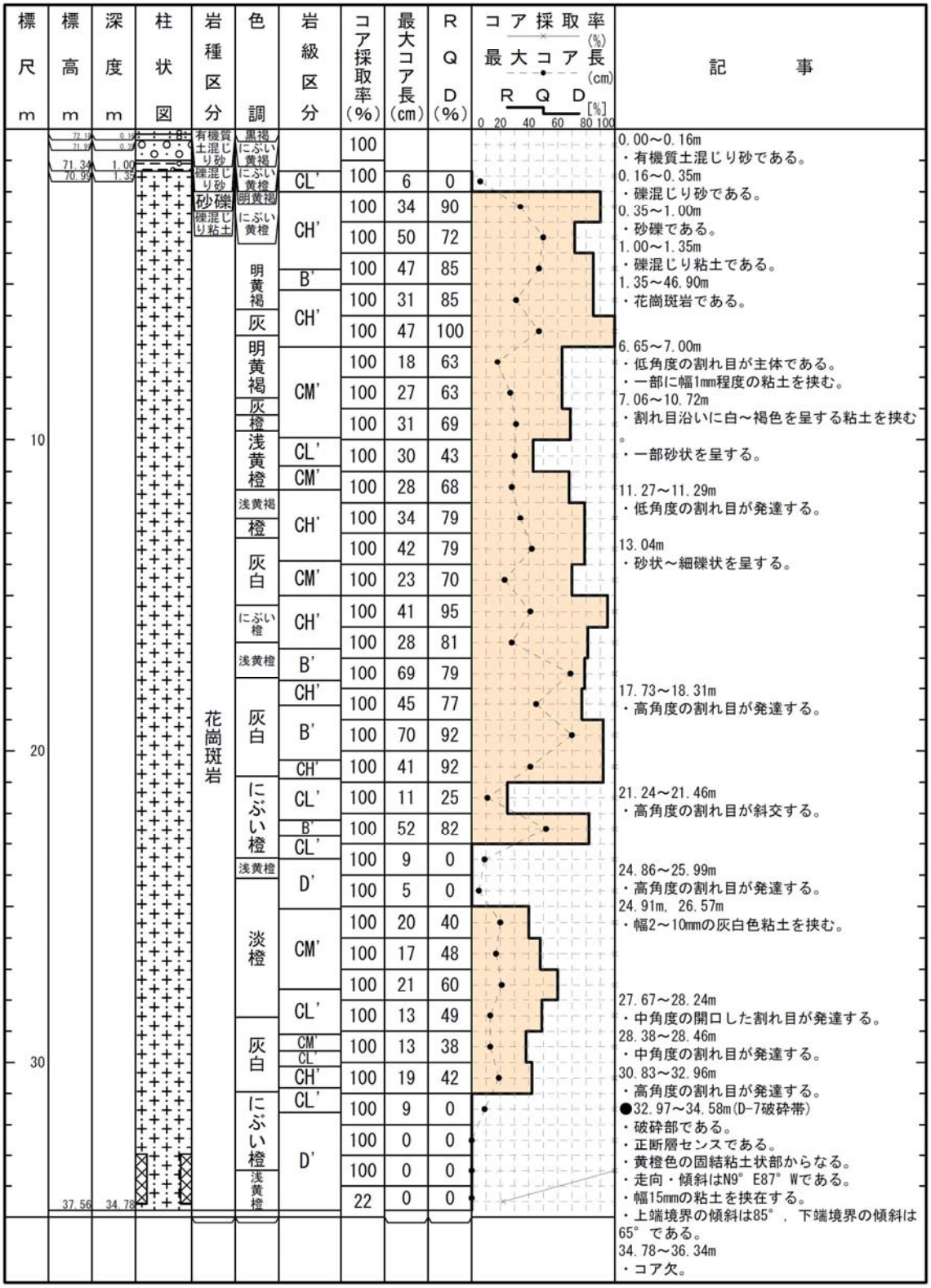


H27－Br－8

柱状図(0.00m～35.00m)

H27-Br-8

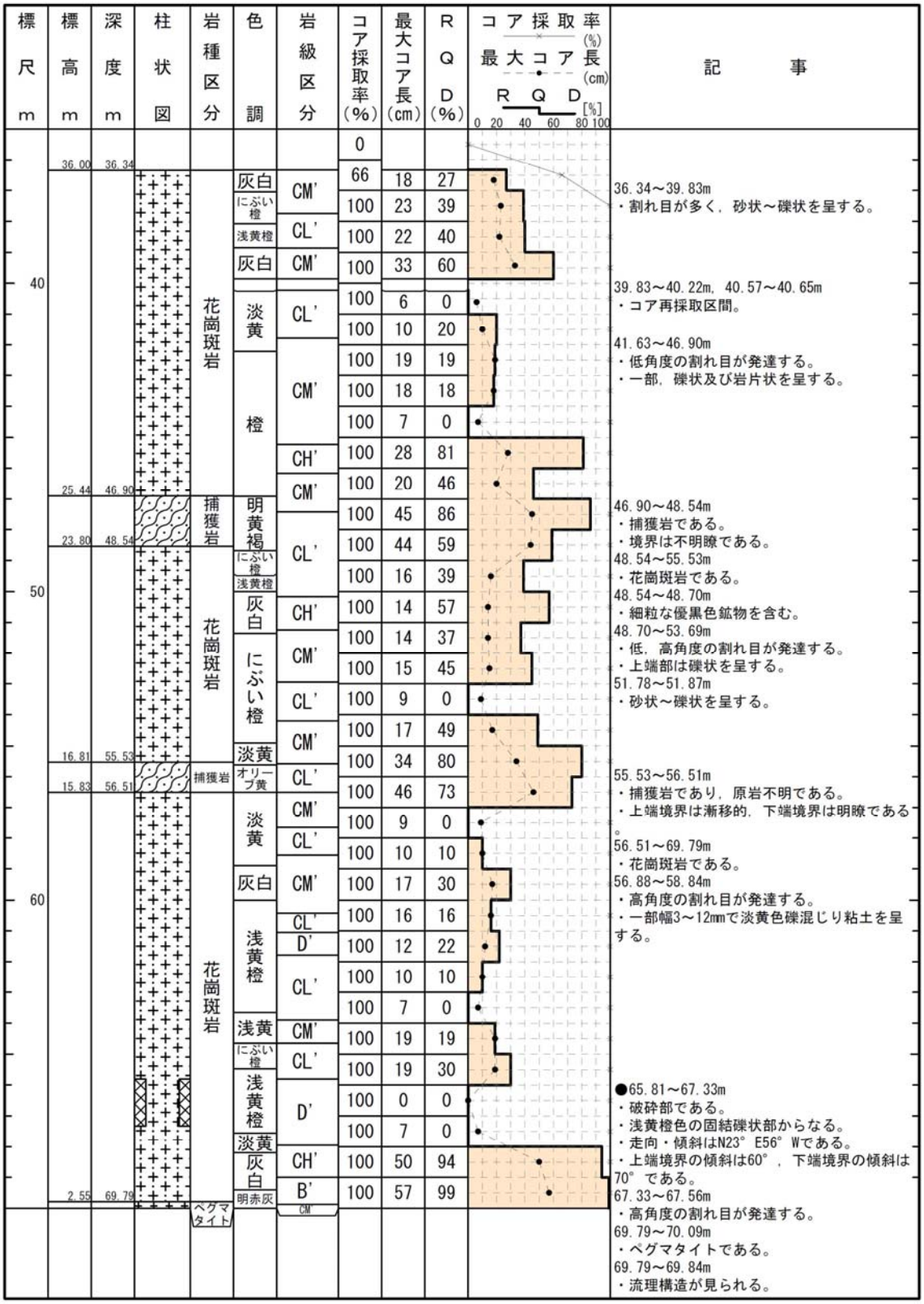
孔口標高	T.P. 72.34m	掘削長	100.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100	6	0
100	34	90
100	50	72
100	47	85
100	31	85
100	47	100
100	18	63
100	27	63
100	31	69
100	30	43
100	28	68
100	34	79
100	42	79
100	23	70
100	41	95
100	28	81
100	69	79
100	45	77
100	70	92
100	41	92
100	11	25
100	52	82
100	9	0
100	5	0
100	20	40
100	17	48
100	21	60
100	13	49
100	13	38
100	19	42
100	9	0
100	0	0
100	0	0
22	0	0

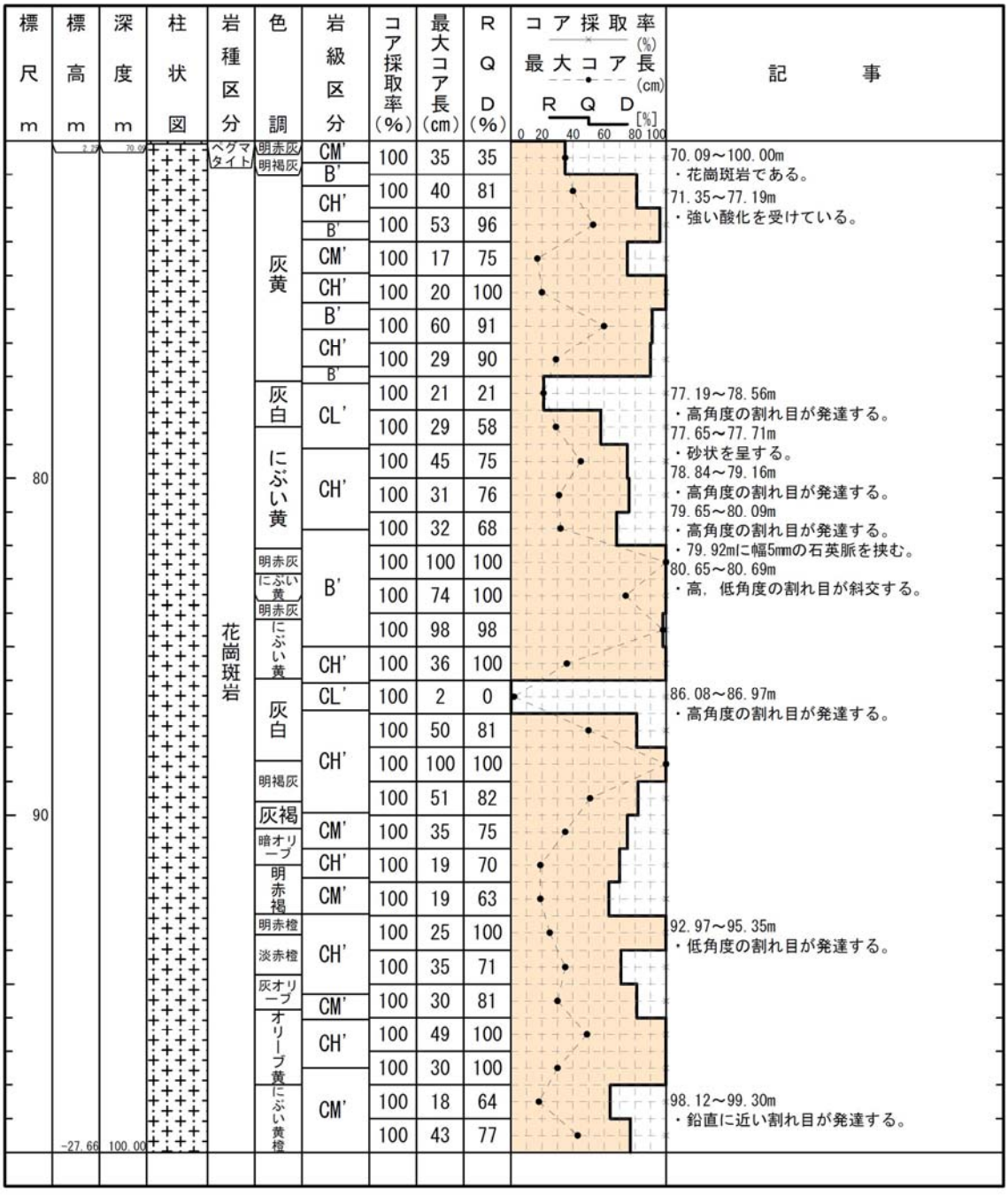
H27－Br－8

柱状図(35.00m～70.00m)



H27－Br－8

柱状図(70.00m～100.00m)



H24－B14－1

柱状図(0.00m～30.00m)

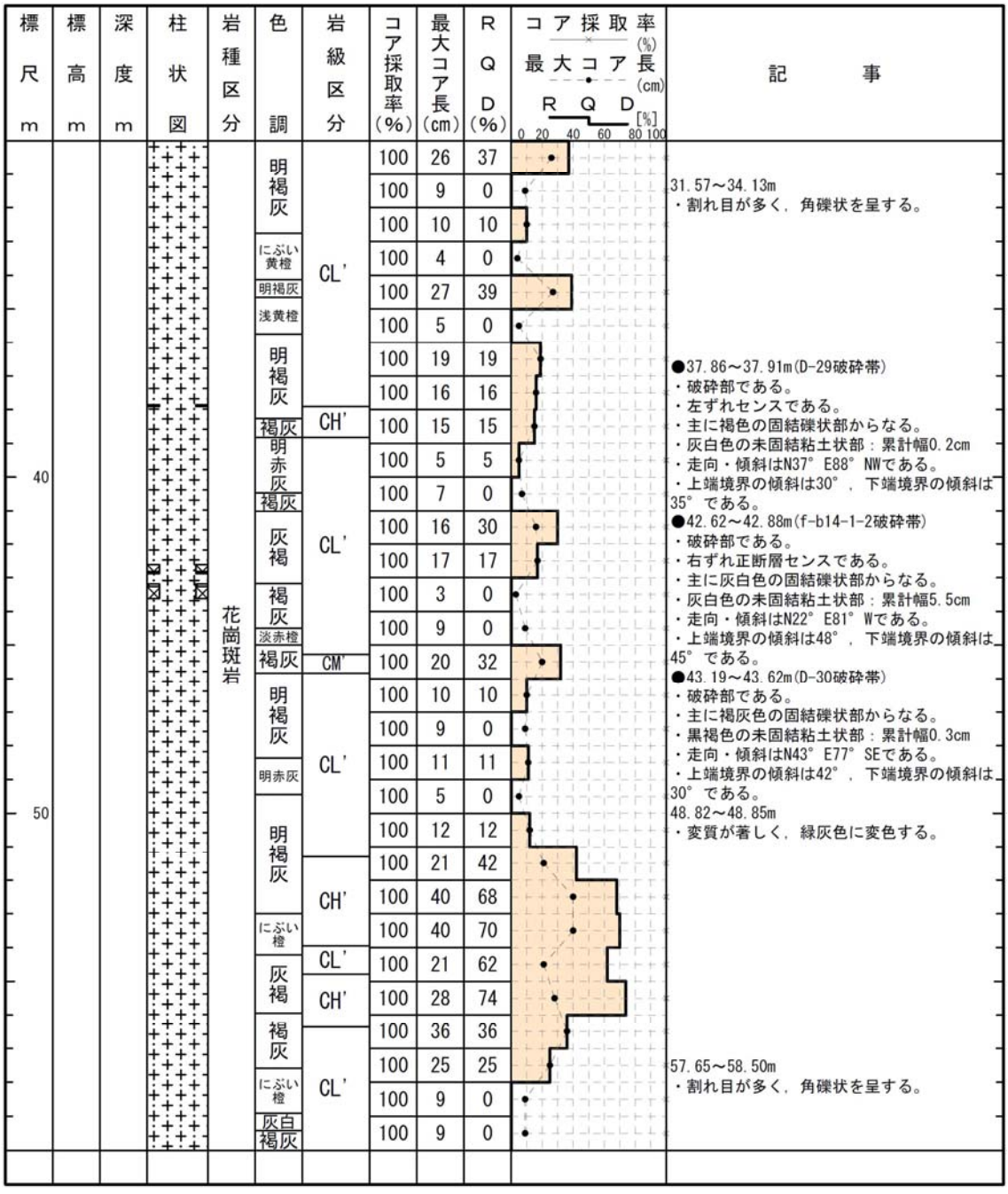
H24-B14-1

孔口標高	T.P. 20.12m	掘削長	150.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	黄褐		100				0.00～2.48m ・埋土である。
							100				
	18.37	2.48			にぶい黄褐		100	1	0		2.48～101.74m ・花崗斑岩である。
				花崗斑岩	灰白	D'	100	1	0		2.48～4.58m ・強風化部である。
							100	1	0		
						CL'	100	6	0		5.73～5.83m ・強風化部である。
					黄橙		100	9	0		6.70～7.31m ・割れ目が多く，砂～角礫状を呈する。
							100	6	0		
						D'	100	3	0		
					浅黄橙	CL'	100	11	11		
10					淡黄		100	6	0		
							100	7	0		
					淡橙	D'	100	1	0		
							100	5	0		
						CL'	100	14	27		14.33～14.55m ・非常に硬質で，短柱状を呈する。
					浅黄橙		100	10	10		
							100	8	0		
							100	4	0		
					黄橙		100	9	0		
					明褐灰		100	5	0		18.50～18.61m ・砂状を呈する。
20					にぶい橙		100	9	0		
					明褐灰		100	5	0		●21.63～22.57m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E67° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。
					橙		100	13	13		
					明褐灰	CM'	100	26	26		
							100	11	11		
					にぶい橙	CL'	100	8	0		25.32～25.75m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	46	46		
							100	17	17		
					浅橙		100	8	0		
					淡赤橙		100	15	15		28.63～29.22m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。

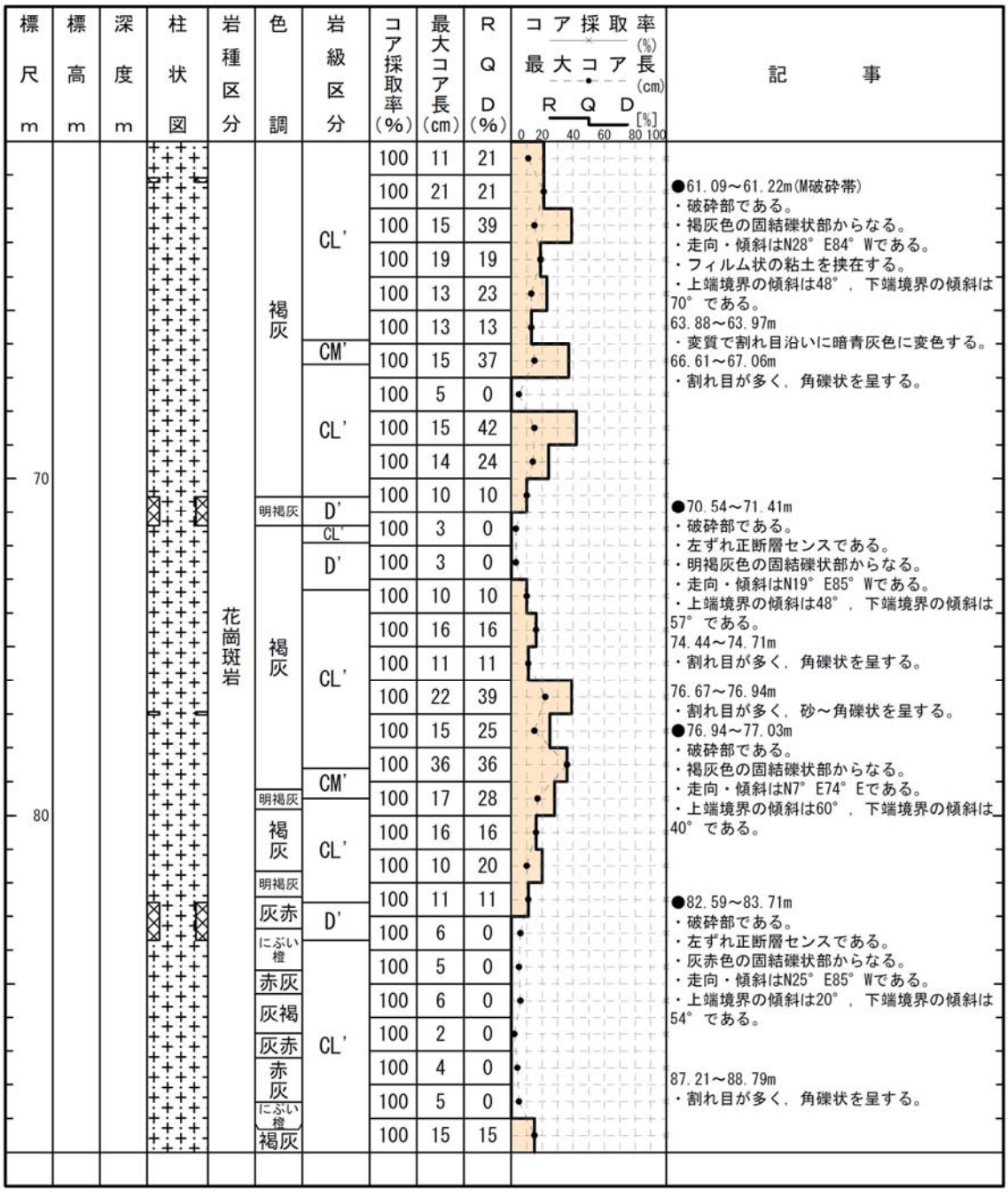
H24－B14－1

柱状図(30.00m～60.00m)



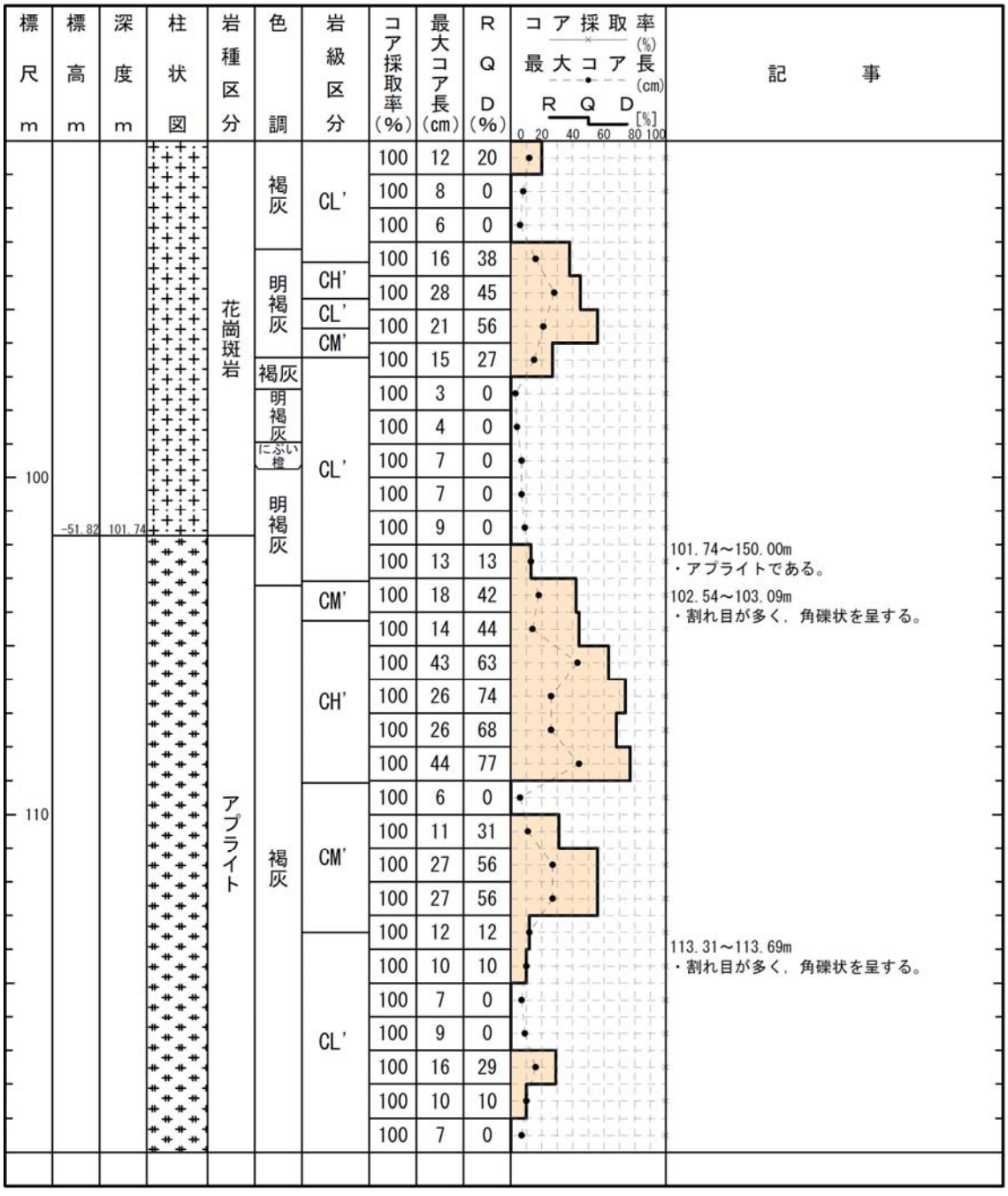
H24－B14－1

柱状図(60.00m～90.00m)



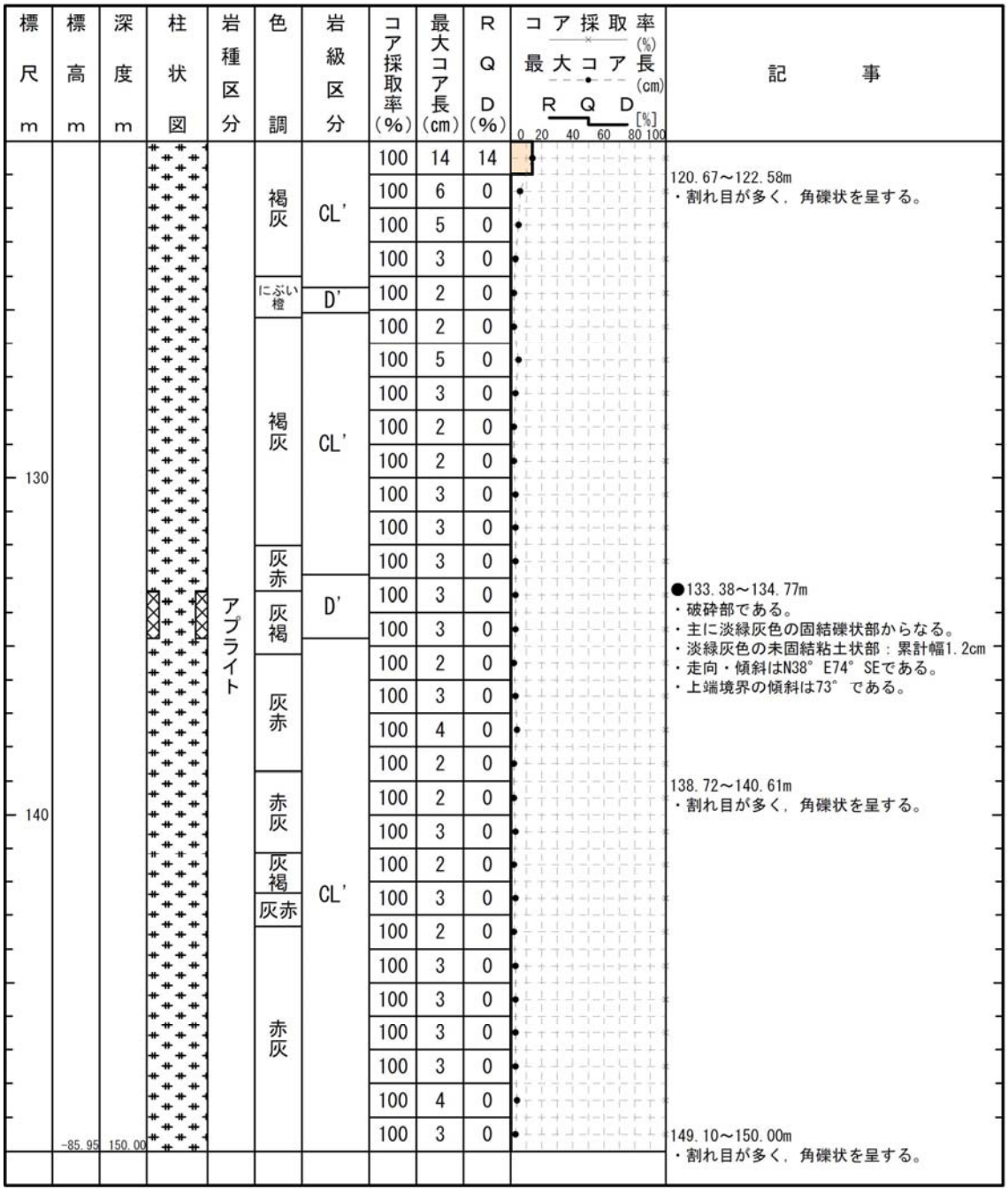
H24－B14－1

柱状図(90.00m～120.00m)



H24－B14－1

柱状図(120.00m～150.00m)



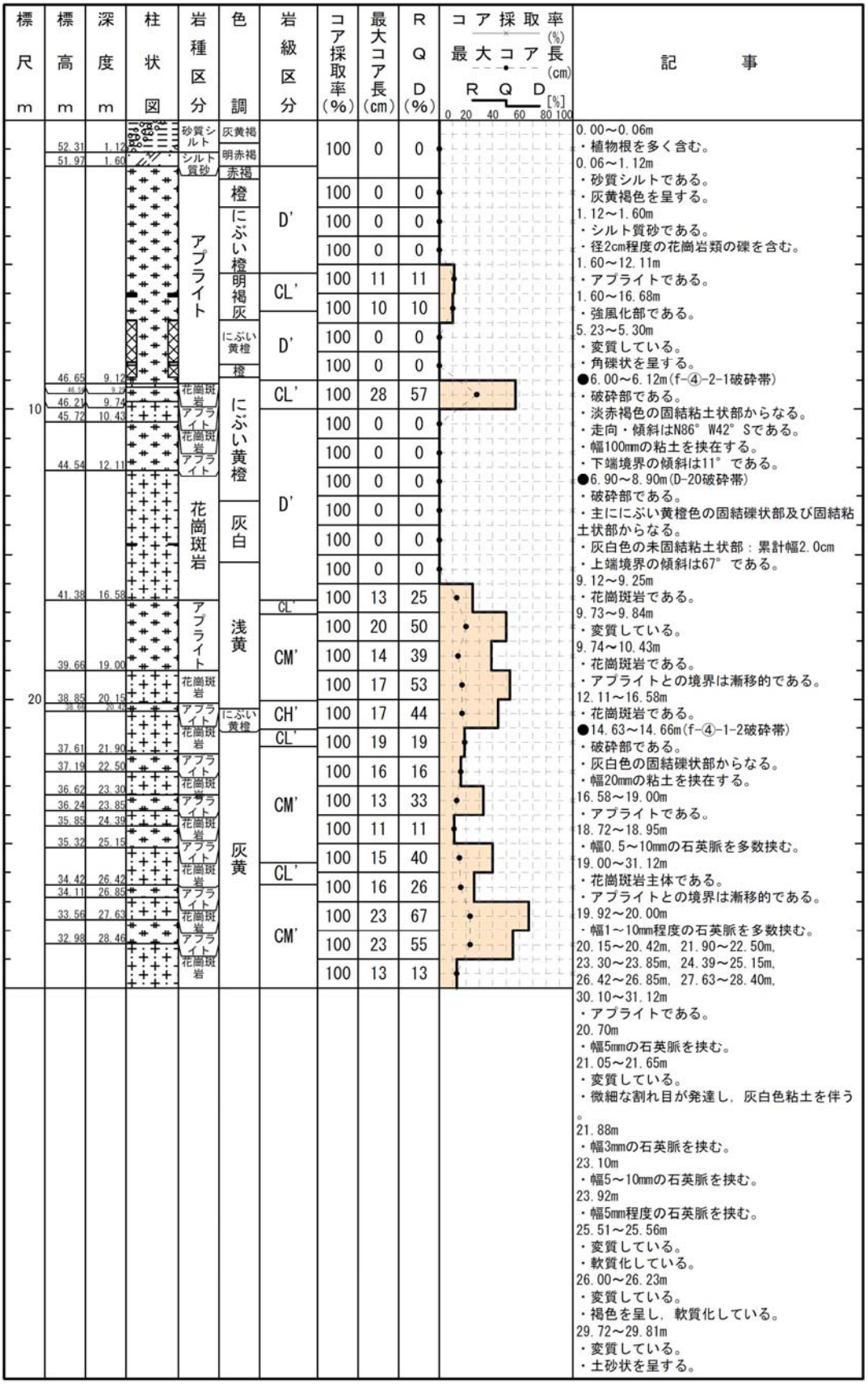
コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100	14	14
100	6	0
100	5	0
100	3	0
100	2	0
100	2	0
100	5	0
100	3	0
100	2	0
100	2	0
100	3	0
100	3	0
100	3	0
100	3	0
100	3	0
100	2	0
100	3	0
100	4	0
100	2	0
100	2	0
100	3	0
100	2	0
100	3	0
100	2	0
100	3	0
100	3	0
100	3	0
100	3	0
100	4	0
100	3	0

H20－④－2

柱状図(0.00m～30.00m)

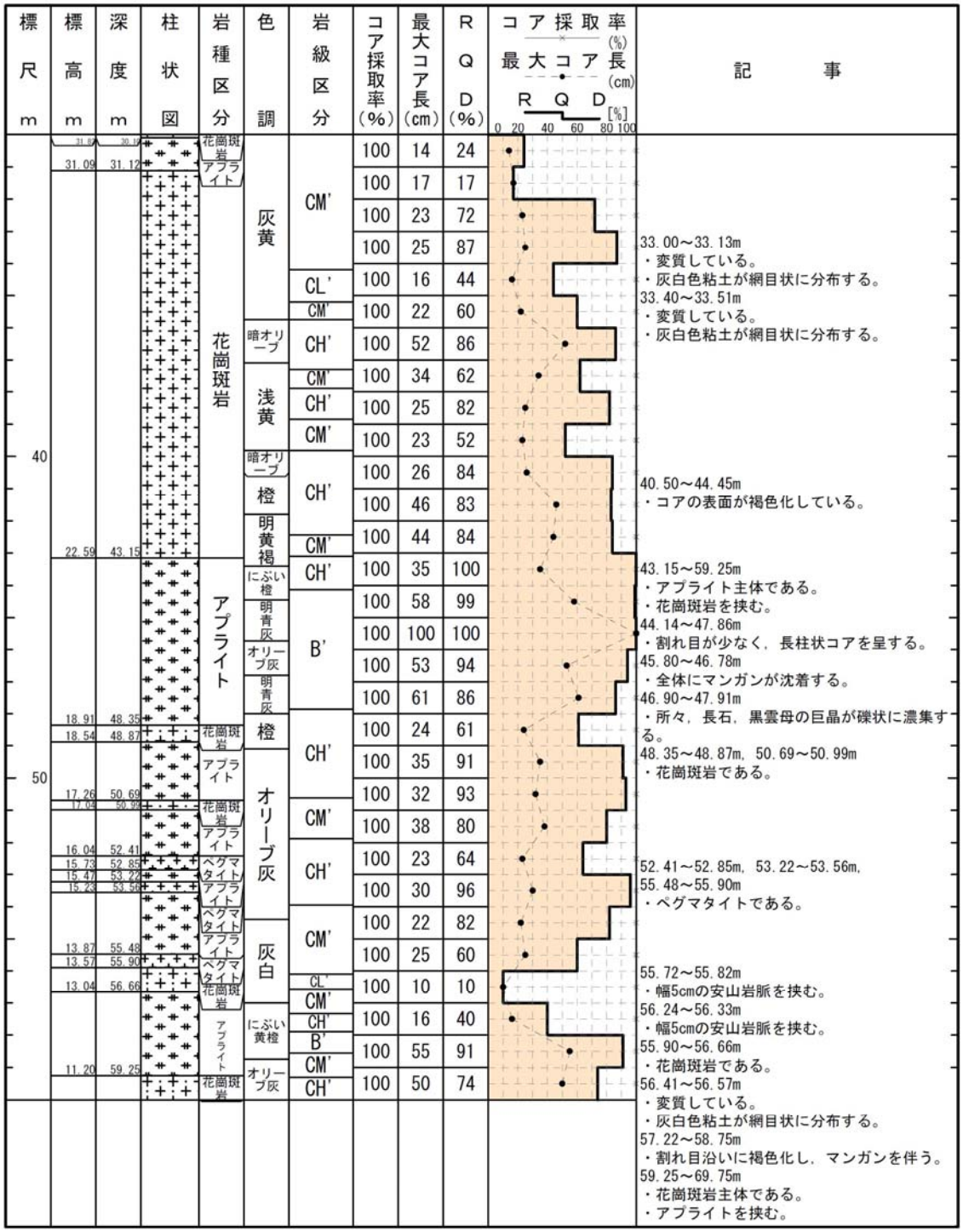
H20-④-2

孔口標高	T.P. 53.10m	掘削長	100.00m



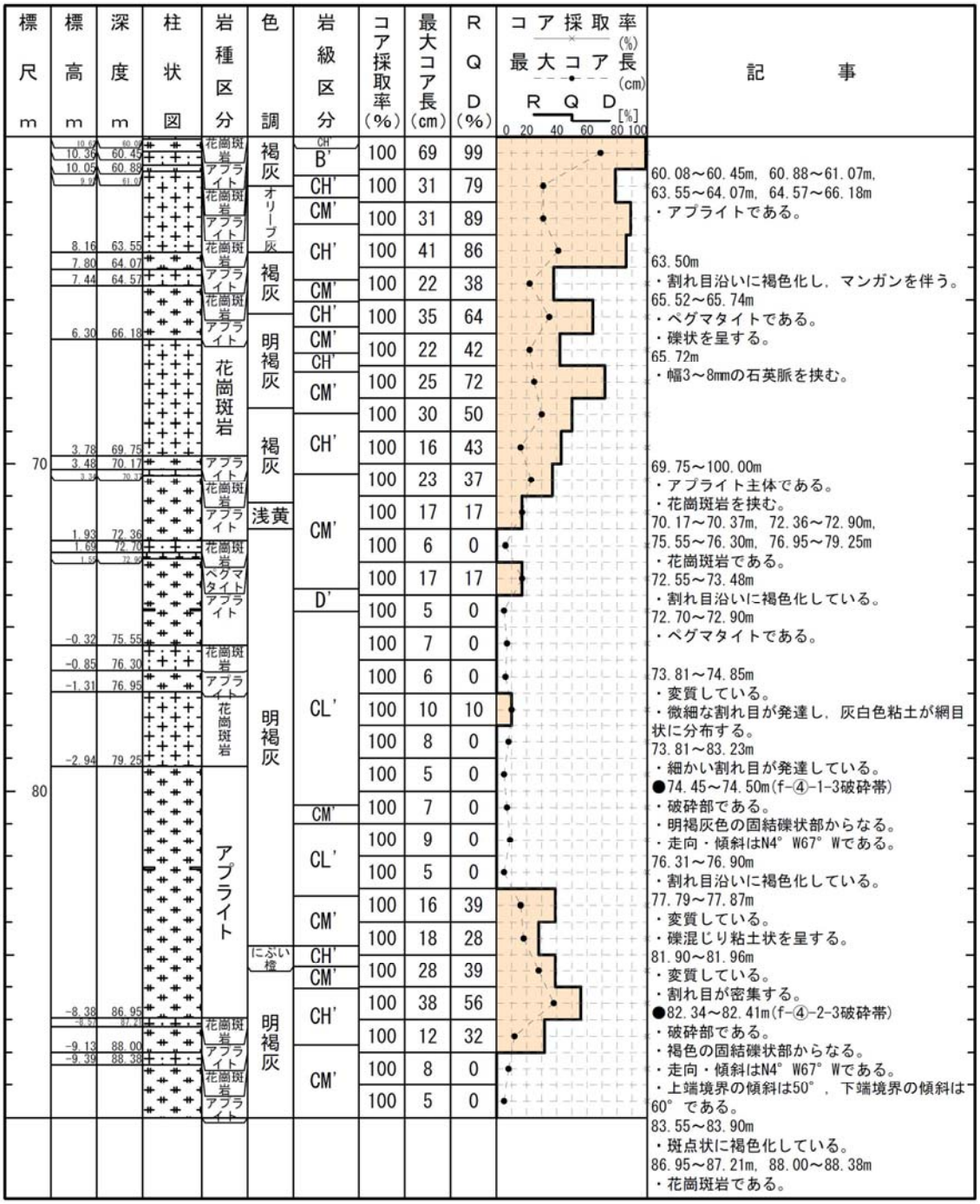
H20－④－2

柱状図(30.00m～60.00m)



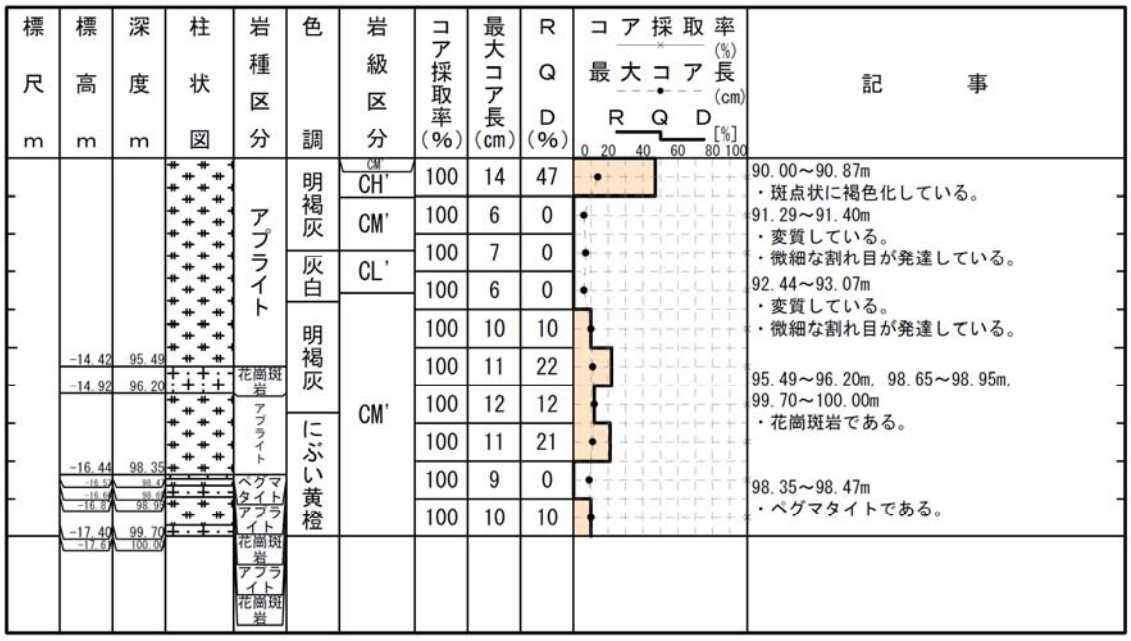
H20－④－2

柱状図(60.00m～90.00m)



H20－④－2

柱状図(90.00m～100.00m)

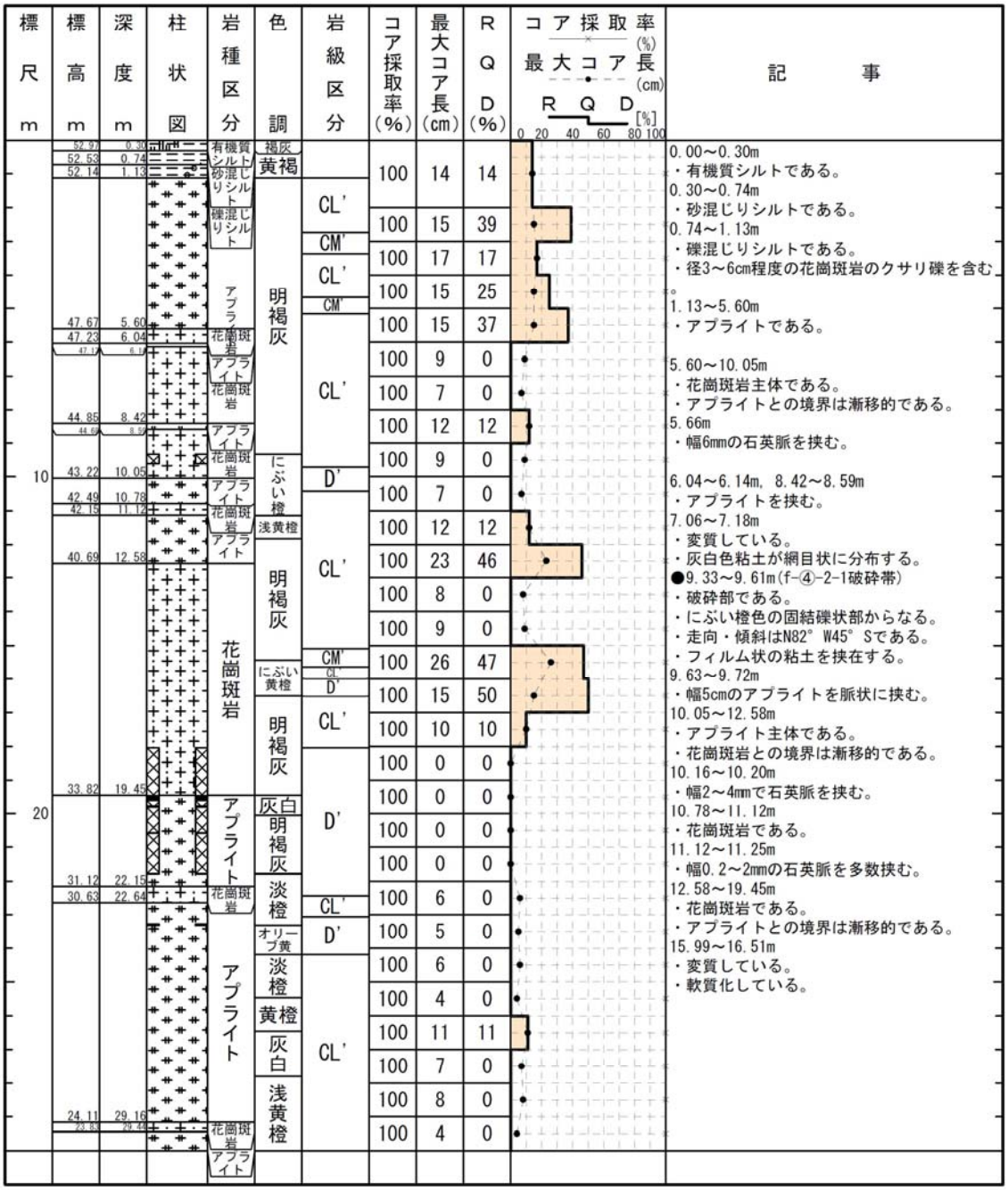


H20－④－1

柱状図(0.00m～30.00m)　1/2

H20-④-1

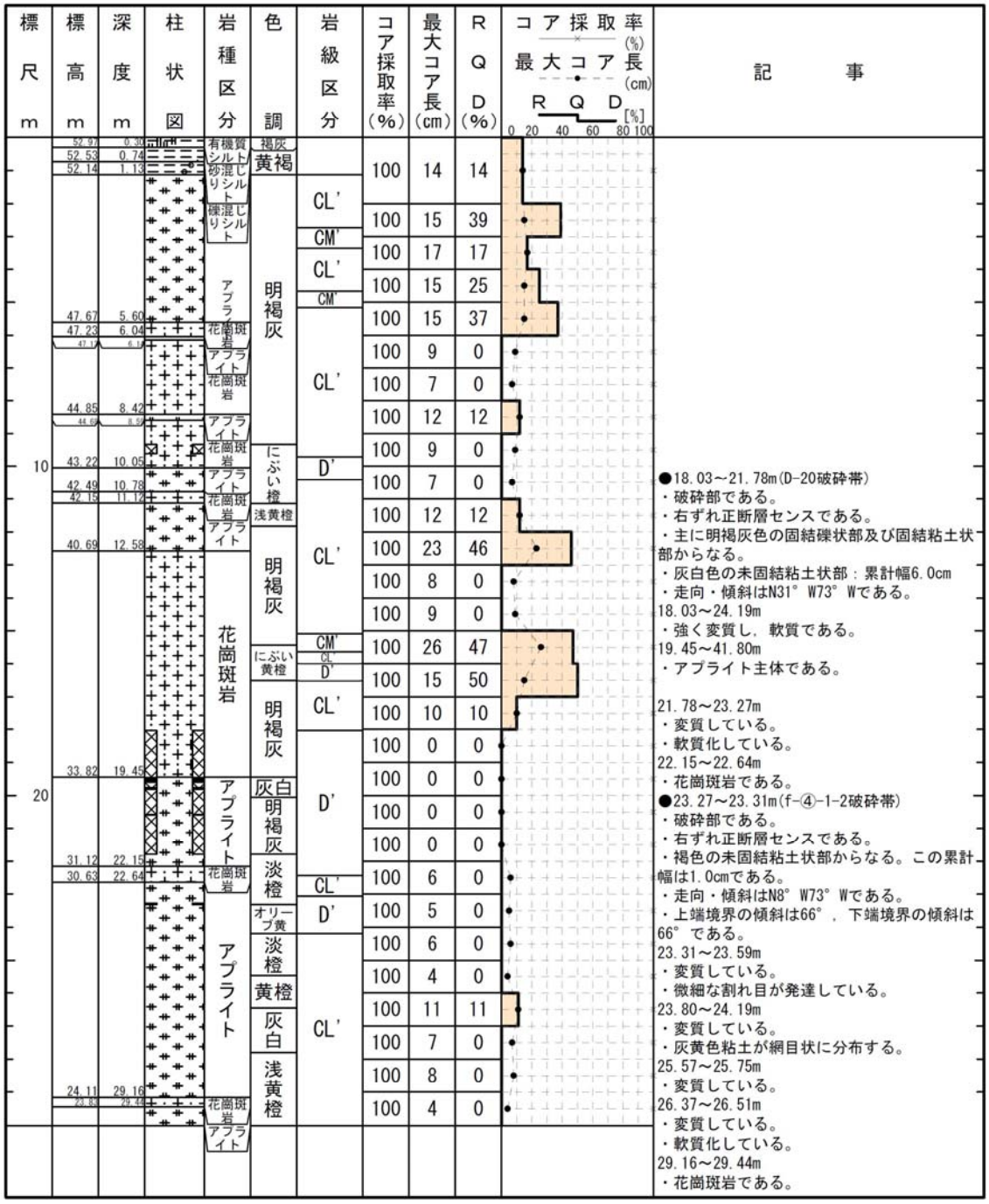
孔口標高	T.P.　53.27m	掘削長	80.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100	14	14
100	15	39
100	17	17
100	15	25
100	15	37
100	9	0
100	7	0
100	12	12
100	9	0
100	7	0
100	12	12
100	23	46
100	8	0
100	9	0
100	26	47
100	15	50
100	10	10
100	0	0
100	0	0
100	0	0
100	0	0
100	0	0
100	6	0
100	5	0
100	6	0
100	4	0
100	11	11
100	7	0
100	8	0
100	4	0

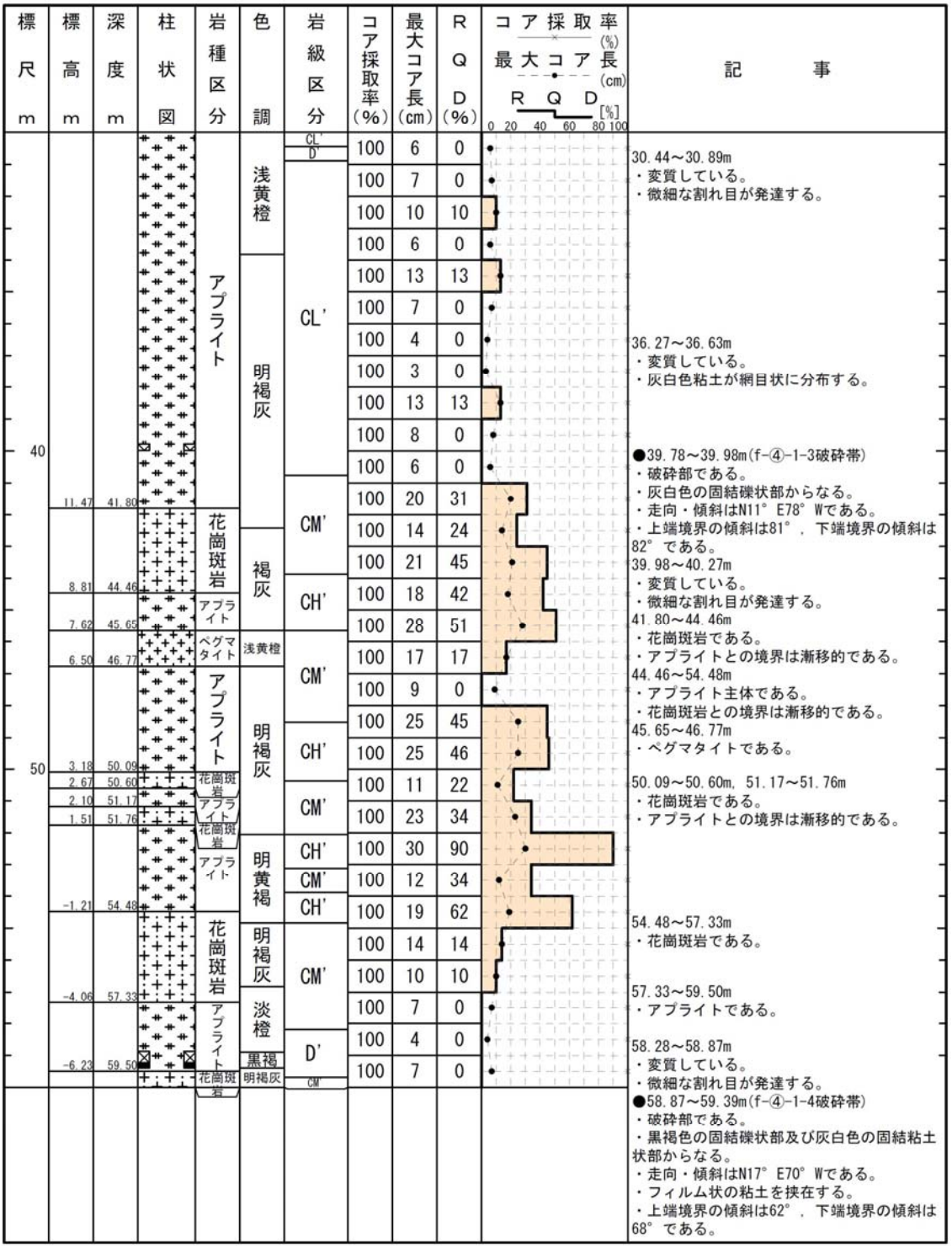
H20－④－1

柱状図(0.00m～30.00m)　2/2



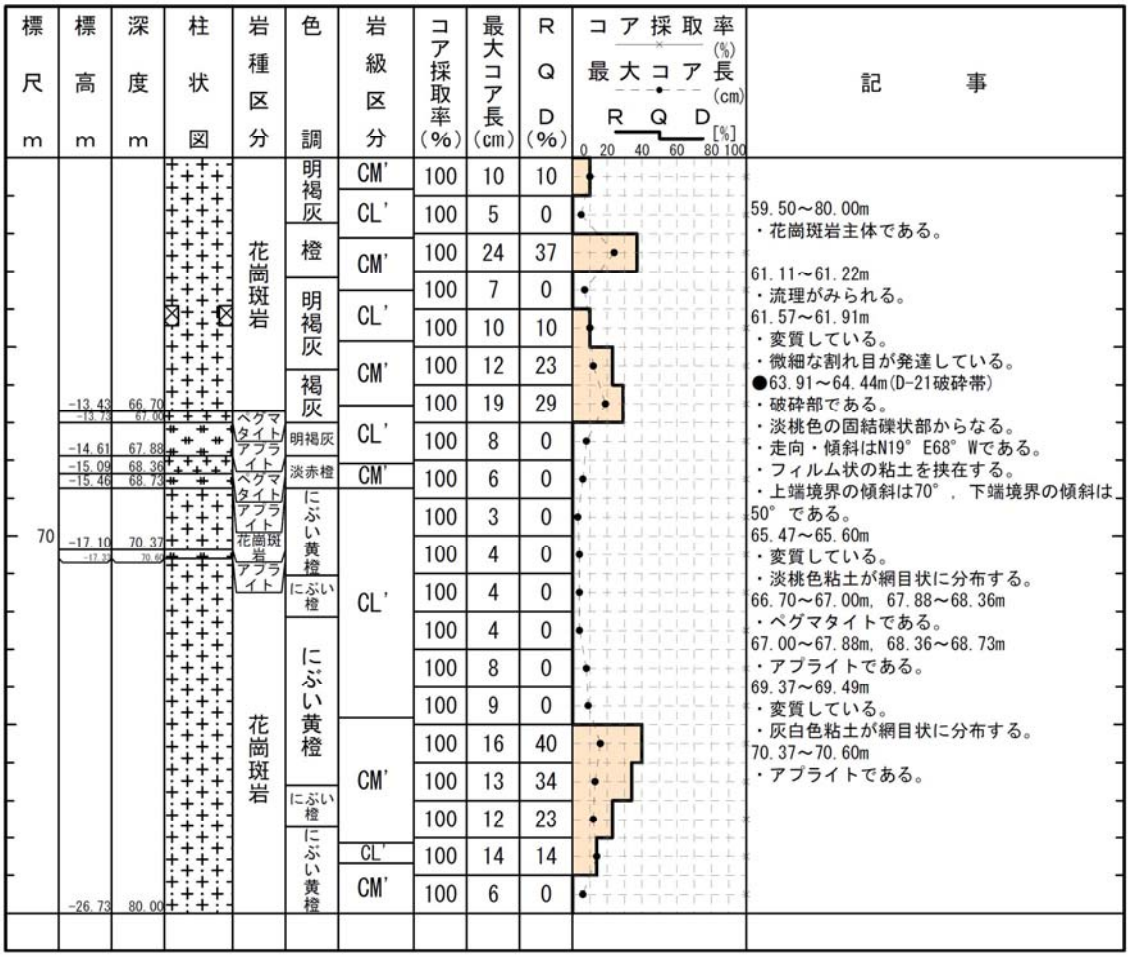
H20－④－1

柱状図(30.00m～60.00m)



H20－④－1

柱状図(60.00m～80.00m)

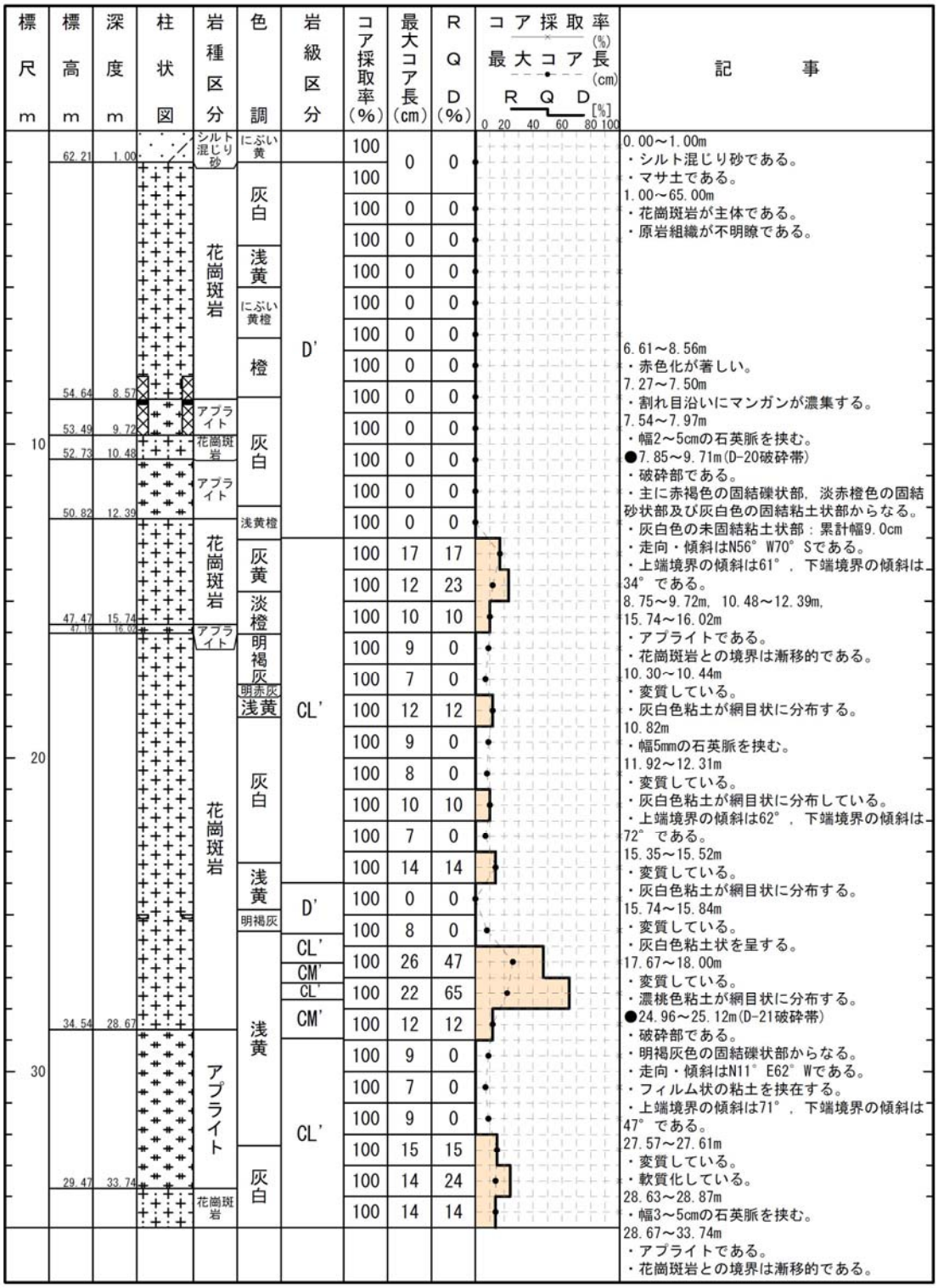


H20－④－5

柱状図(0.00m～35.00m)

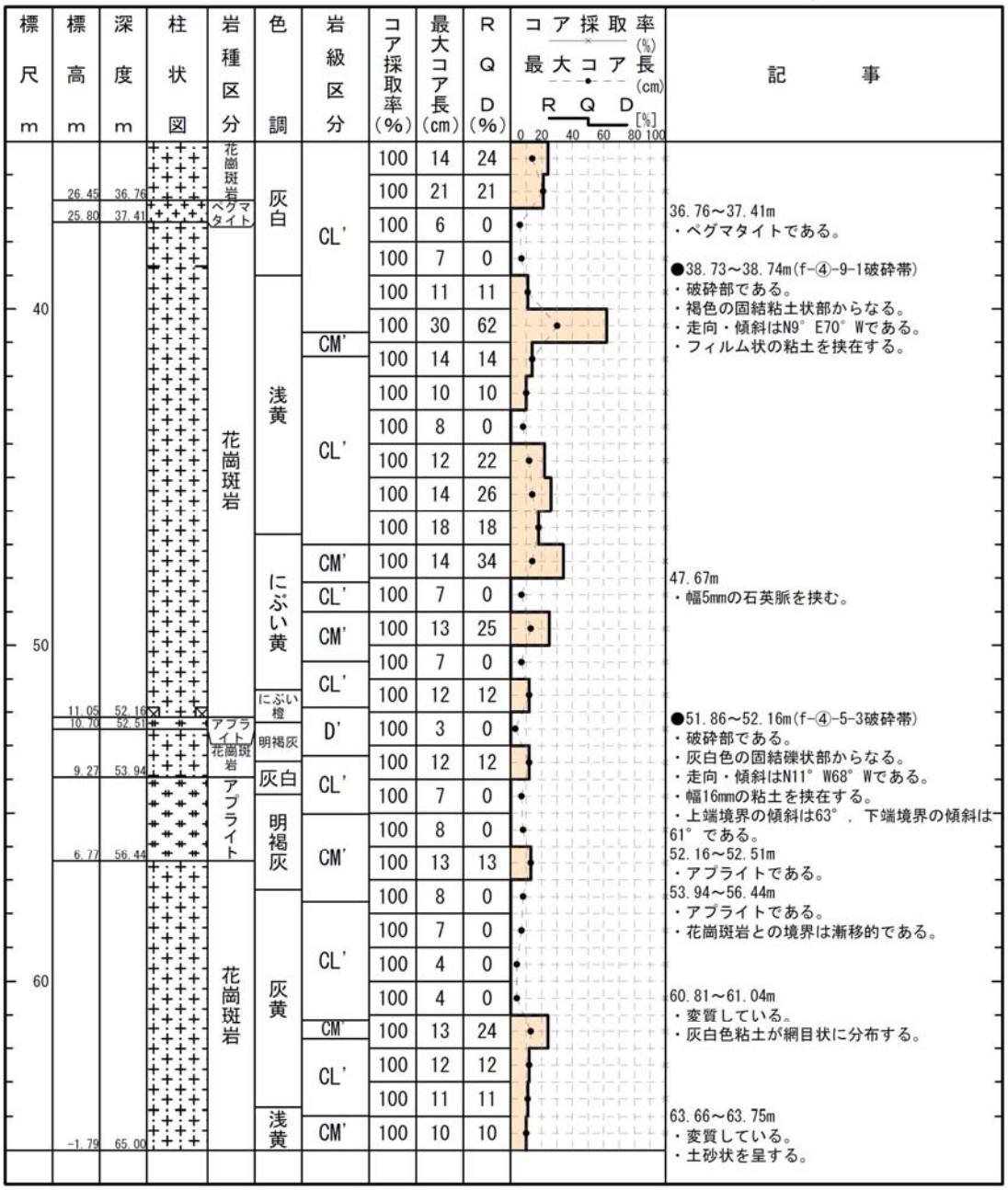
H20-④-5

孔口標高	T.P. 63.21m	掘削長	65.00m



H20－④－5

柱状図(35.00m～65.00m)



H19－No. 7

柱状図(0.00m～35.00m)

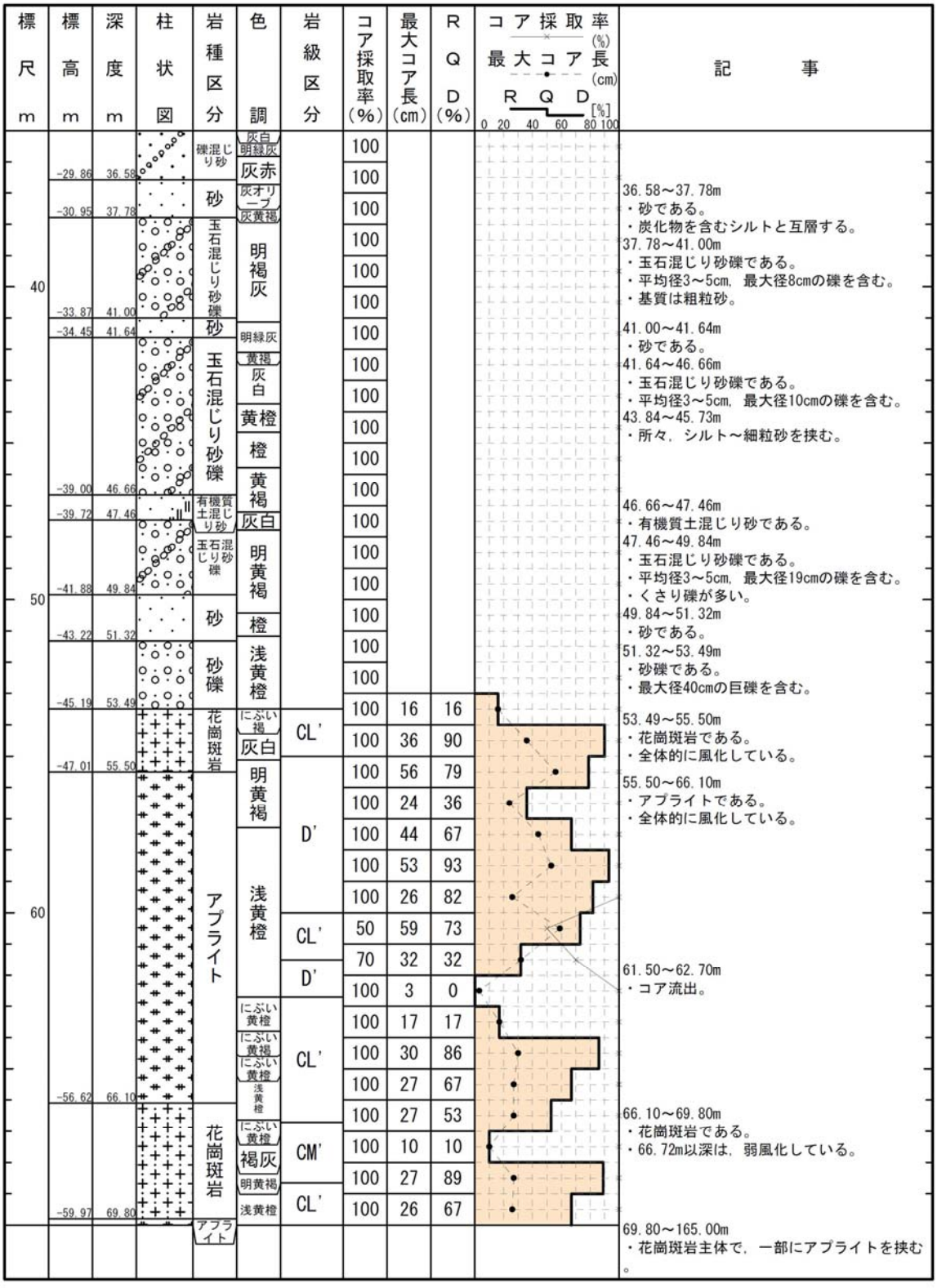
H19-No. 7

孔口標高	T.P. 3.29m	掘削長	165.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	にぶい黄橙		100				0.00～2.74m ・埋土である。 ・花崗岩片，まさ等を含む。
					明黄褐		100				
	0.81	2.74			にぶい黄橙		100				
				有機質土混じりシルト	明黄褐		100				2.74～3.55m ・有機質土混じりシルトである。 ・植物片や木片を含む。
	0.07	3.55			黒褐		100				
	-0.43	4.10		有機質土	褐灰		100				3.55～3.72m ・有機質土である。
	-1.36	5.13		砂質シルト	灰黄褐		100				3.72～4.10m ・砂質シルトである。 ・泥炭状の有機質土である。
				有機質土	褐灰		100				4.10～4.31m ・有機質土である。
				砂混じり有機質土			100				4.31～4.52m ・砂混じり有機質土である。
				有機質土混じり粗砂	にぶい黄橙		100				4.52～5.13m ・有機質土混じり粗砂である。
10				砂			100				5.13～12.86m ・砂である。
							100				
					橙		100				
	-8.37	12.86			にぶい黄橙		100				
	-9.26	13.85		有機質土混じり砂	灰色		100				12.86～13.85m ・有機質土混じり砂である。
				砂	にぶい黄橙		100				13.85～16.92m ・砂である。 ・粗粒砂。 ・所々に炭化物を挟む。
	-12.04	16.92					100				
				シルト質砂	暗緑灰		100				16.92～21.47m ・シルト質砂である。 ・貝殻片や木片を含む。
							100				18.20m ・幅0.1～0.5cmの炭化物層を挟む。
20							100				
					浅黄		100				
	-16.17	21.47			灰色		100				21.47～21.95m ・砂である。
	-16.60	21.95		砂			100				21.95～23.22m ・砂～砂質礫である。 ・礫は径5cm程度，基質はシルト質砂。
	-17.47	22.91		砂礫	灰黄		100				
	-17.75	23.22		砂質礫			100				23.22～23.93m ・砂である。 ・炭化物を含む。
	-18.40	23.93		砂			100				
	-18.68	24.25		砂質シルト	にぶい黄橙		100				23.93～24.25m ・砂質シルトである。
	-19.20	24.60		砂礫	灰白		100				24.25～24.50m ・砂礫である。
				砂質シルト			100				24.50～24.60m ・砂質シルトである。
				砂	灰黄		100				24.60～24.90m ・砂である。
				砂礫			100				24.90～26.78m ・砂礫である。 ・平均径3～5cm，最大径15cmの礫を含む。
	-20.98	26.78		礫混じり砂			100				26.78～29.44m ・礫混じり砂である。 ・径3cm程度の礫を含む砂層。砂は粗粒砂。
	-23.39	29.44		砂			100				27.65～27.88m ・炭化物を含む砂質シルトを挟む。
30	-23.94	30.05		玉石混じり砂礫	にぶい黄橙		100				29.44～30.05m ・砂である。 ・炭化物を含む。
							100				30.05～32.46m ・玉石混じり砂礫である。 ・平均径3～10cm，最大径30cmの礫を含む。
	-26.13	32.46					100				32.46～33.11m ・砂である。
	-26.72	33.11		砂	明緑灰		100				33.11～33.63m ・砂礫である。 ・径1～5cmの礫を含む。
	-27.19	33.63		砂礫			100				33.63～36.58m ・礫混じり砂である。 ・径2～5cm程度の礫を含む砂層。 ・風化礫を多く含む。 ・基質は粗粒砂。
				礫混じり砂	灰白		100				

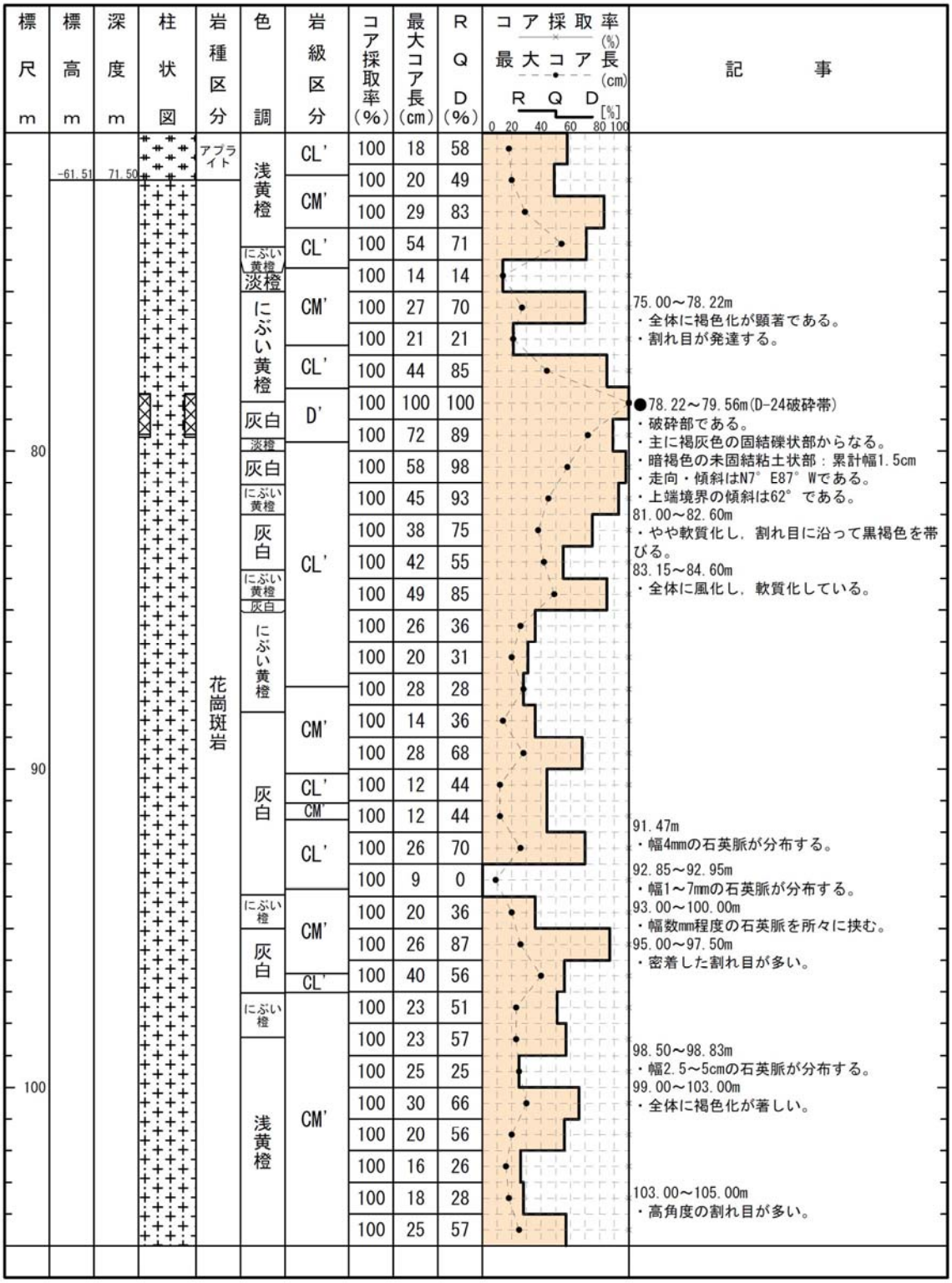
H19－No. 7

柱状図(35.00m～70.00m)



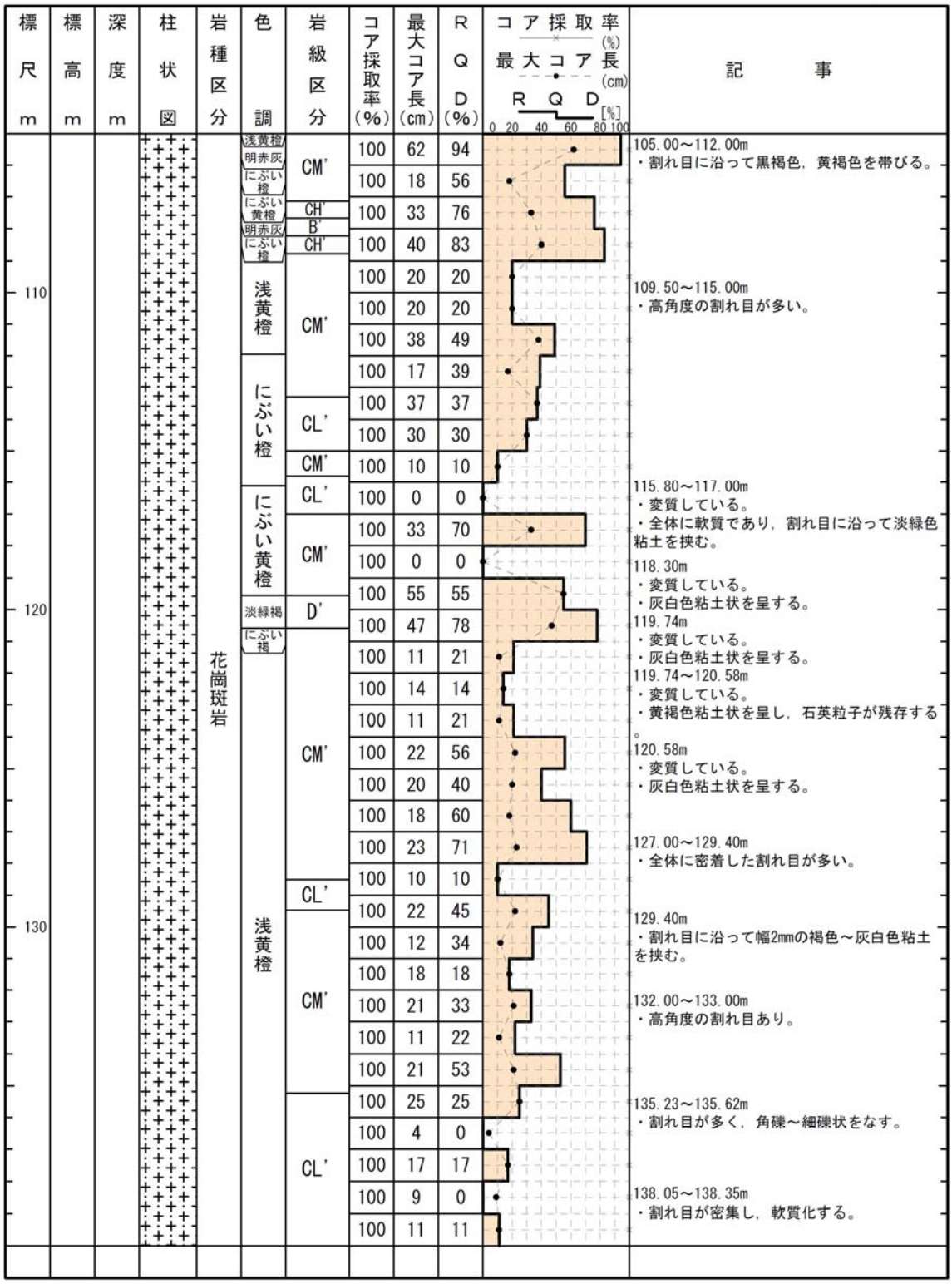
H19－No. 7

柱状図(70.00m～105.00m)



H19－No. 7

柱状図(105.00m～140.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
				花崗斑岩	浅黄橙	CM'	100	62	94
					明赤灰		100	18	56
					にぶい橙		100	33	76
					にぶい黄橙	CH'	100	40	83
					明赤灰	B'	100	20	20
					にぶい橙	CH'	100	20	20
110					浅黄橙	CM'	100	38	49
							100	17	39
					にぶい橙		100	37	37
						CL'	100	30	30
						CM'	100	10	10
						CL'	100	0	0
					にぶい黄橙	CM'	100	33	70
							100	0	0
							100	55	55
120					淡緑褐	D'	100	47	78
					にぶい褐		100	11	21
							100	14	14
							100	11	21
						CM'	100	22	56
							100	20	40
							100	18	60
							100	23	71
							100	10	10
						CL'	100	22	45
130					浅黄橙		100	12	34
							100	18	18
						CM'	100	21	33
							100	11	22
							100	21	53
							100	25	25
							100	4	0
						CL'	100	17	17
							100	9	0
							100	11	11

最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率 最大コア長 RQD	記事

105.00～112.00m
・割れ目に沿って黒褐色，黄褐色を帯びる。

109.50～115.00m
・高角度の割れ目が多い。

115.80～117.00m
・変質している。
・全体に軟質であり，割れ目に沿って淡緑色粘土を挟む。

118.30m
・変質している。
・灰白色粘土状を呈する。

119.74m
・変質している。
・灰白色粘土状を呈する。

119.74～120.58m
・変質している。
・黄褐色粘土状を呈し，石英粒子が残存する。

120.58m
・変質している。
・灰白色粘土状を呈する。

127.00～129.40m
・全体に密着した割れ目が多い。

129.40m
・割れ目に沿って幅2mmの褐色～灰白色粘土を挟む。

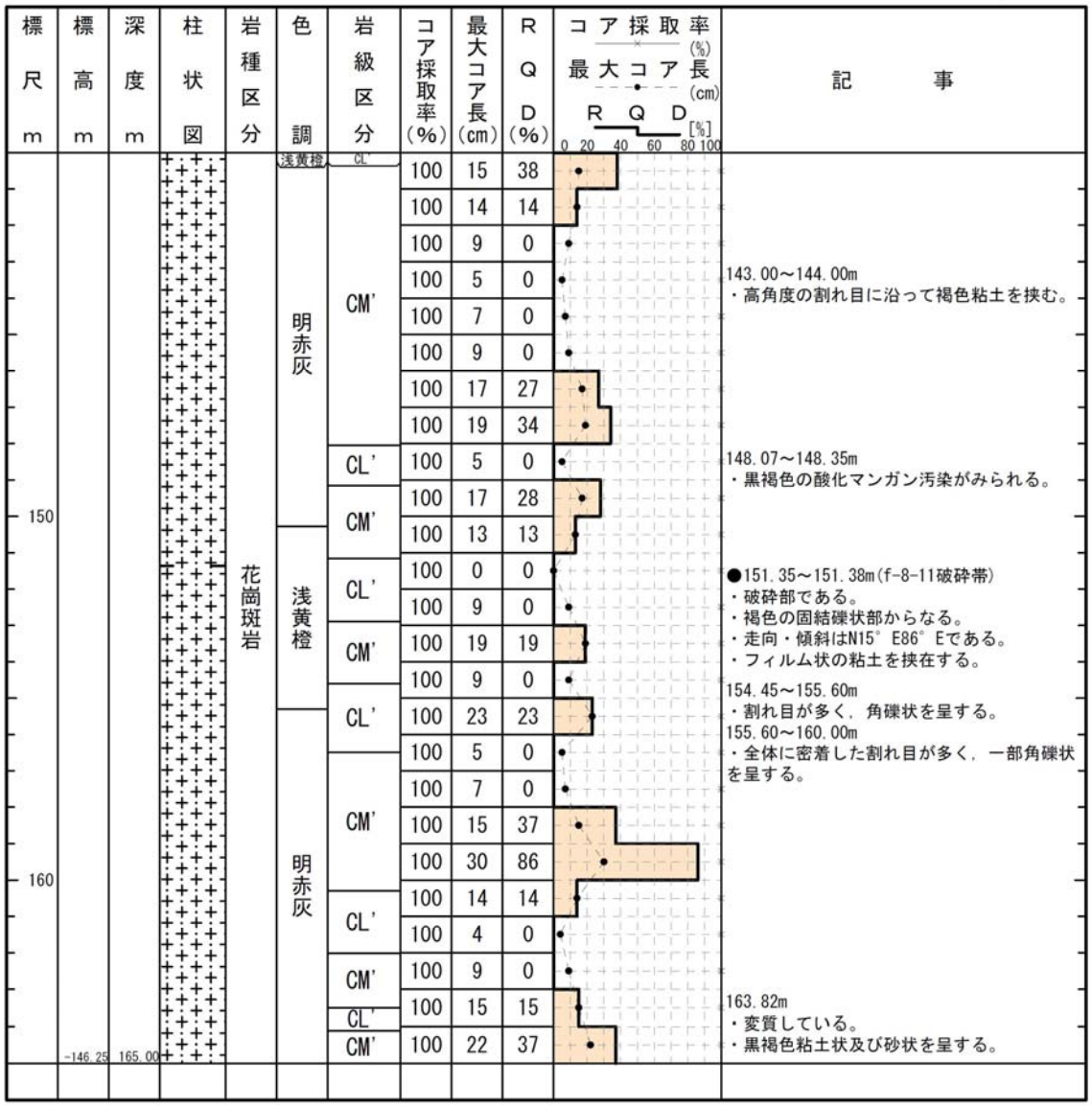
132.00～133.00m
・高角度の割れ目あり。

135.23～135.62m
・割れ目が多く，角礫～細礫状をなす。

138.05～138.35m
・割れ目が密集し，軟質化する。

H19－No. 7

柱状図(140.00m～165.00m)

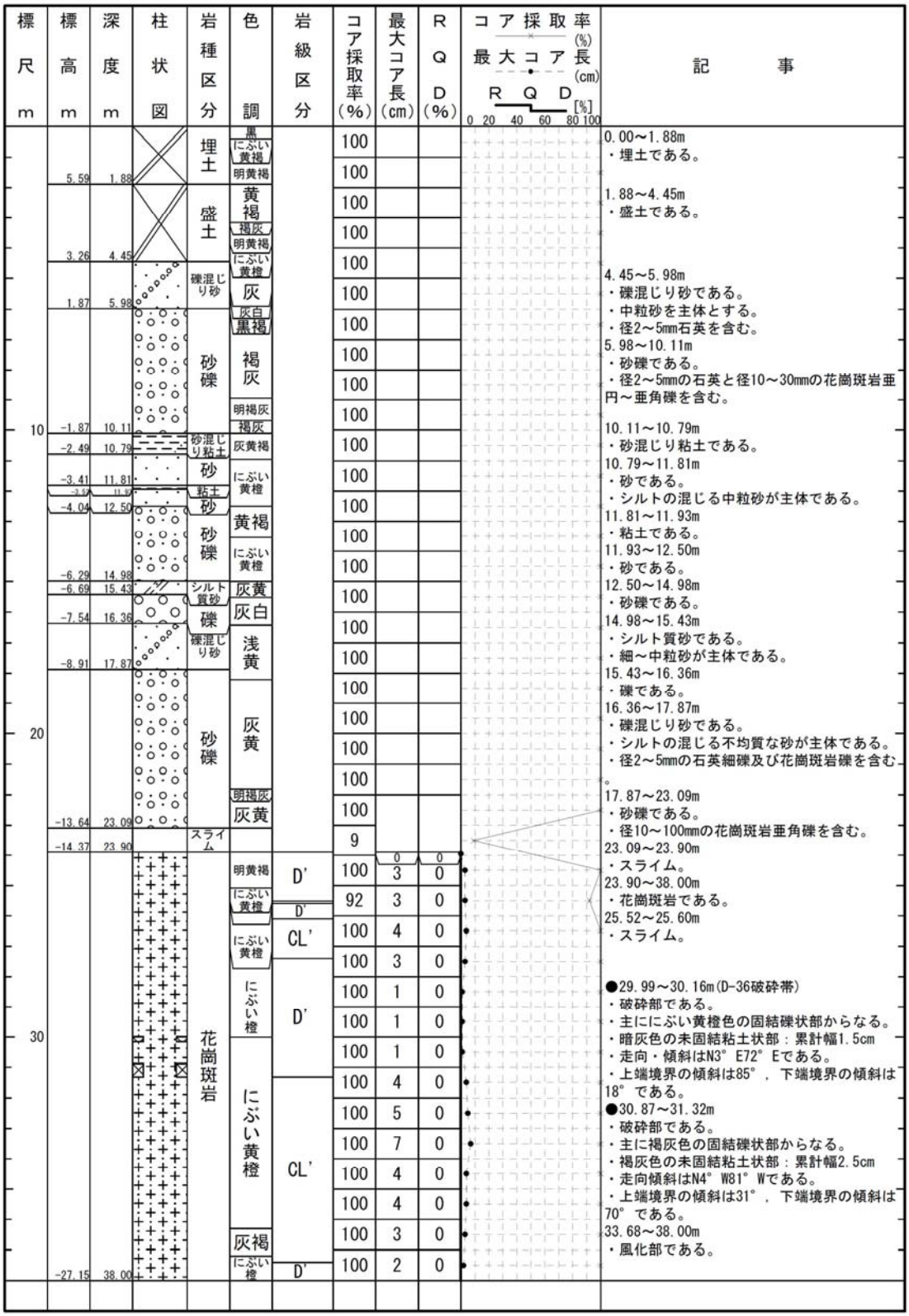


H24－B8－23

柱状図(0.00m～38.00m)

H24-B8-23

孔口標高	T.P. 7.29m	掘削長	38.00m

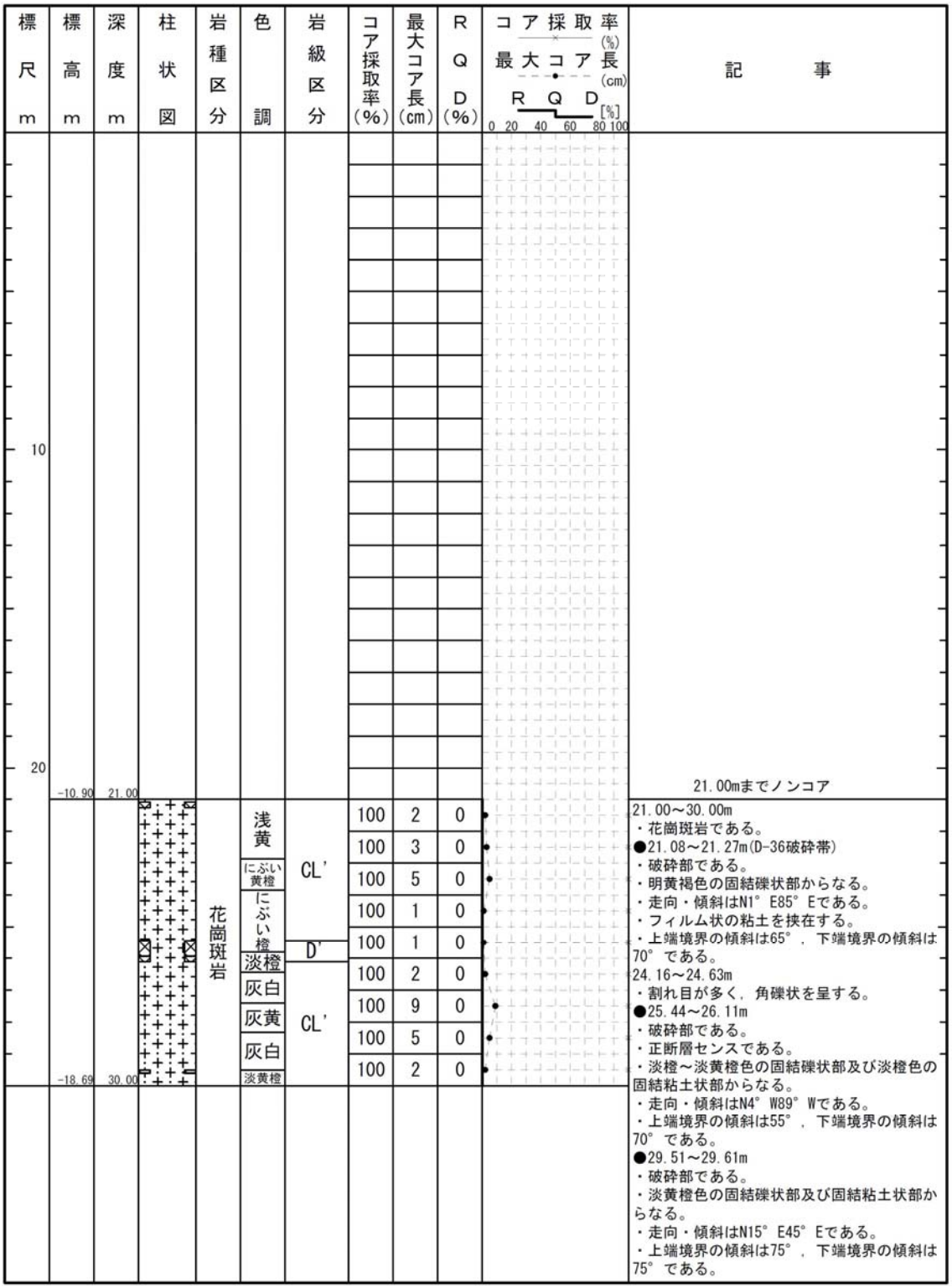


H24－B8－29

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B8-29

孔口標高	T.P. 7.29m	掘削長	30.00m

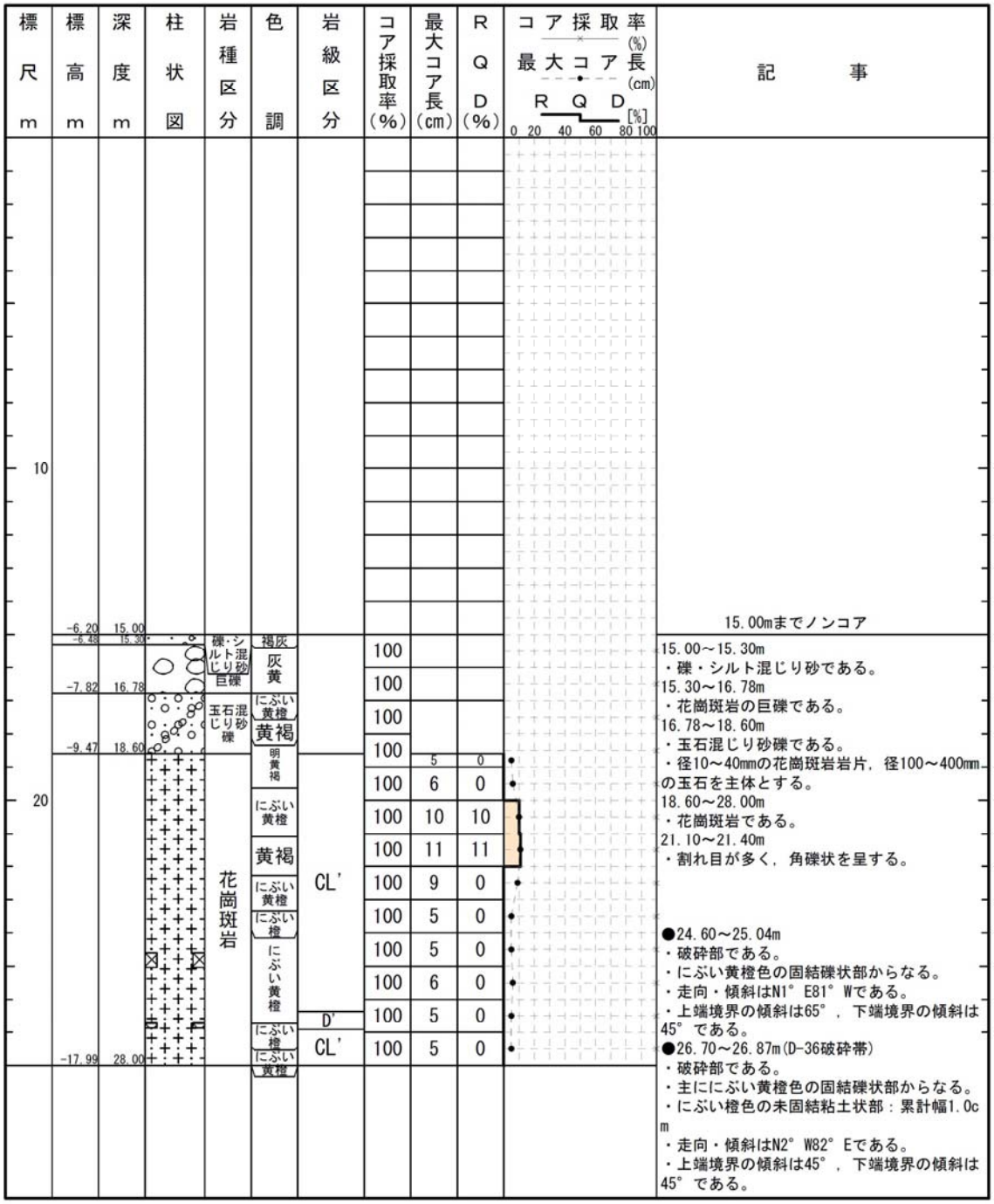


H24－B8－30

柱状図(0.00m～28.00m)

H24-B8-30

孔口標高	T.P. 7.39m	掘削長	28.00m

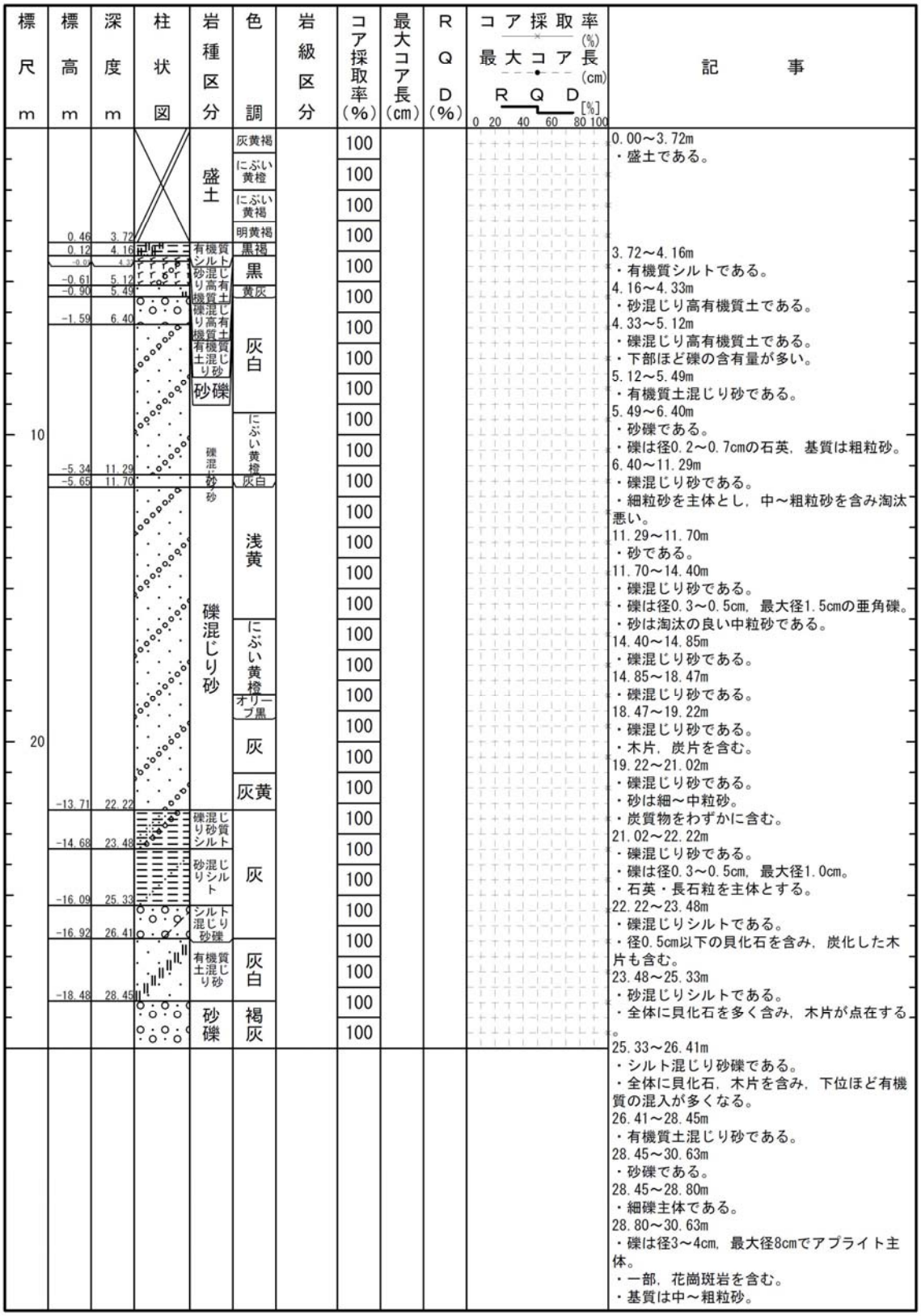


H19－No. 6

柱状図(0.00m～30.00m)

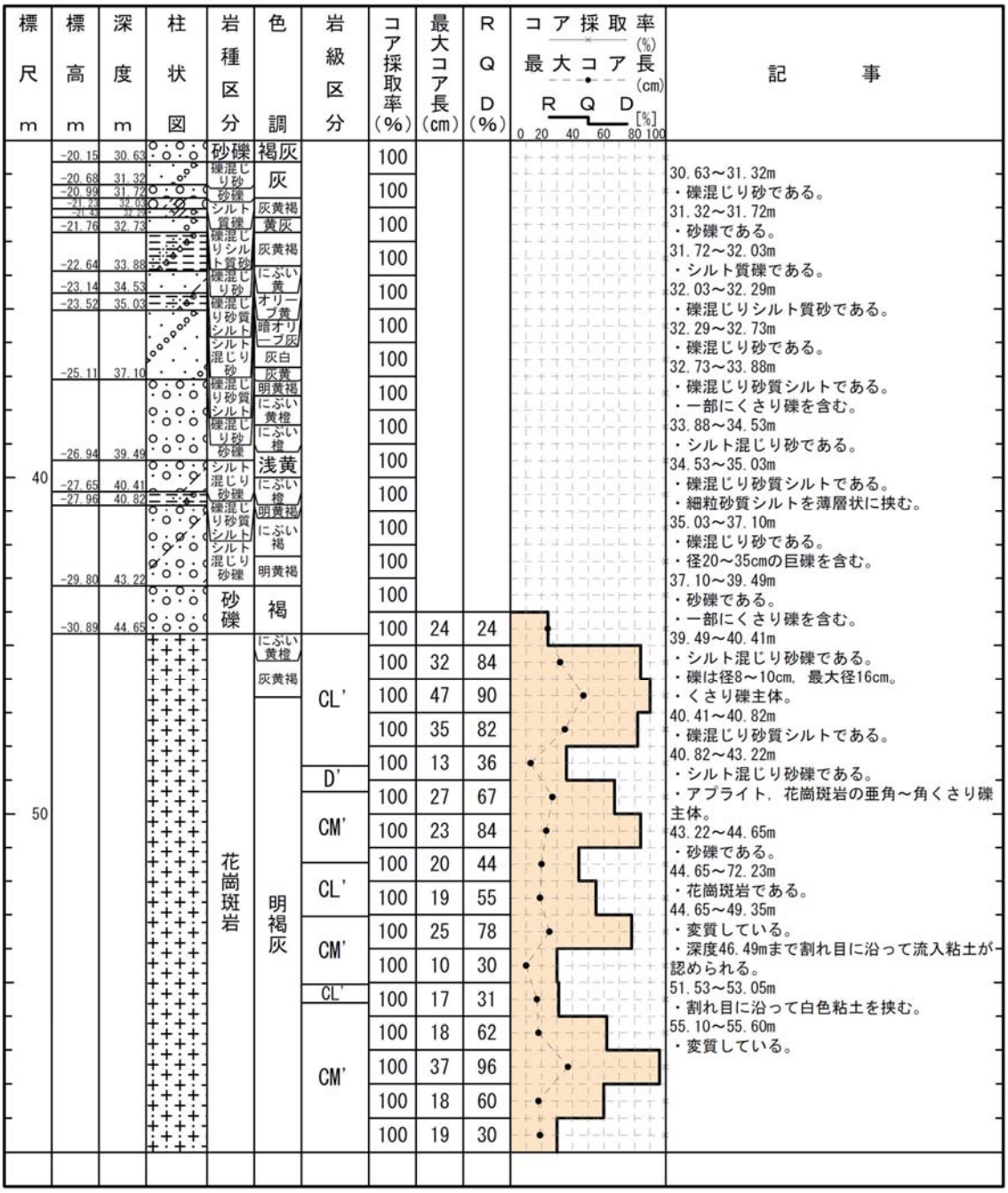
H19-No. 6

孔口標高	T.P. 3.31m	掘削長	175.00m



H19－No. 6

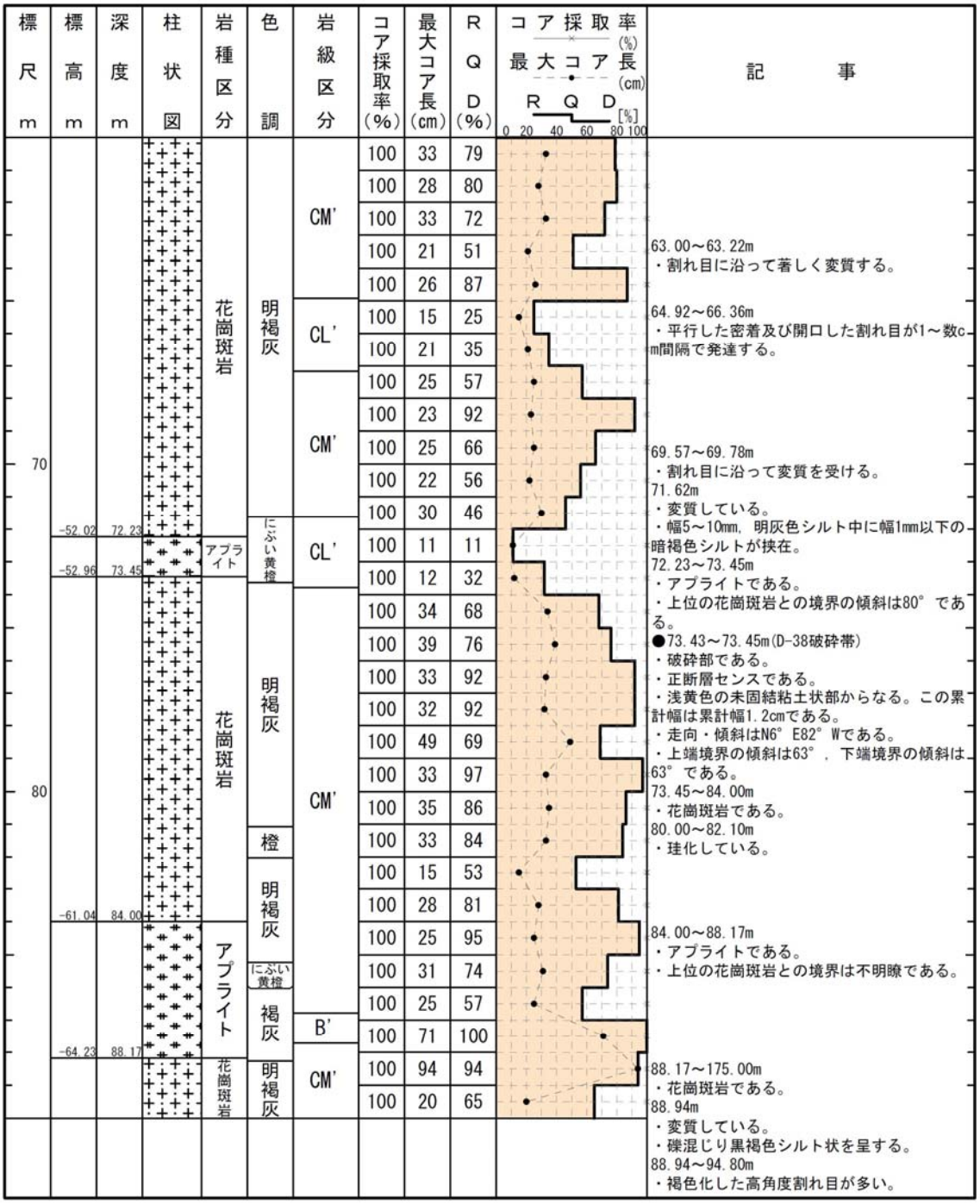
柱状図(30.00m～60.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
	-20.15	30.63	100		
	-20.68	31.32	100		
	-20.99	31.72	100		
	-21.23	32.03	100		
	-21.43	32.29	100		
	-21.76	32.73	100		
	-22.64	33.88	100		
	-23.14	34.53	100		
	-23.52	35.03	100		
	-25.11	37.10	100		
	-26.94	39.49	100		
40	-27.65	40.41	100		
	-27.96	40.82	100		
	-29.80	43.22	100		
	-30.89	44.65	100	24	24
			100	32	84
			100	47	90
			100	35	82
			100	13	36
			100	27	67
50			100	23	84
			100	20	44
			100	19	55
			100	25	78
			100	10	30
			100	17	31
			100	18	62
			100	37	96
			100	18	60
			100	19	30

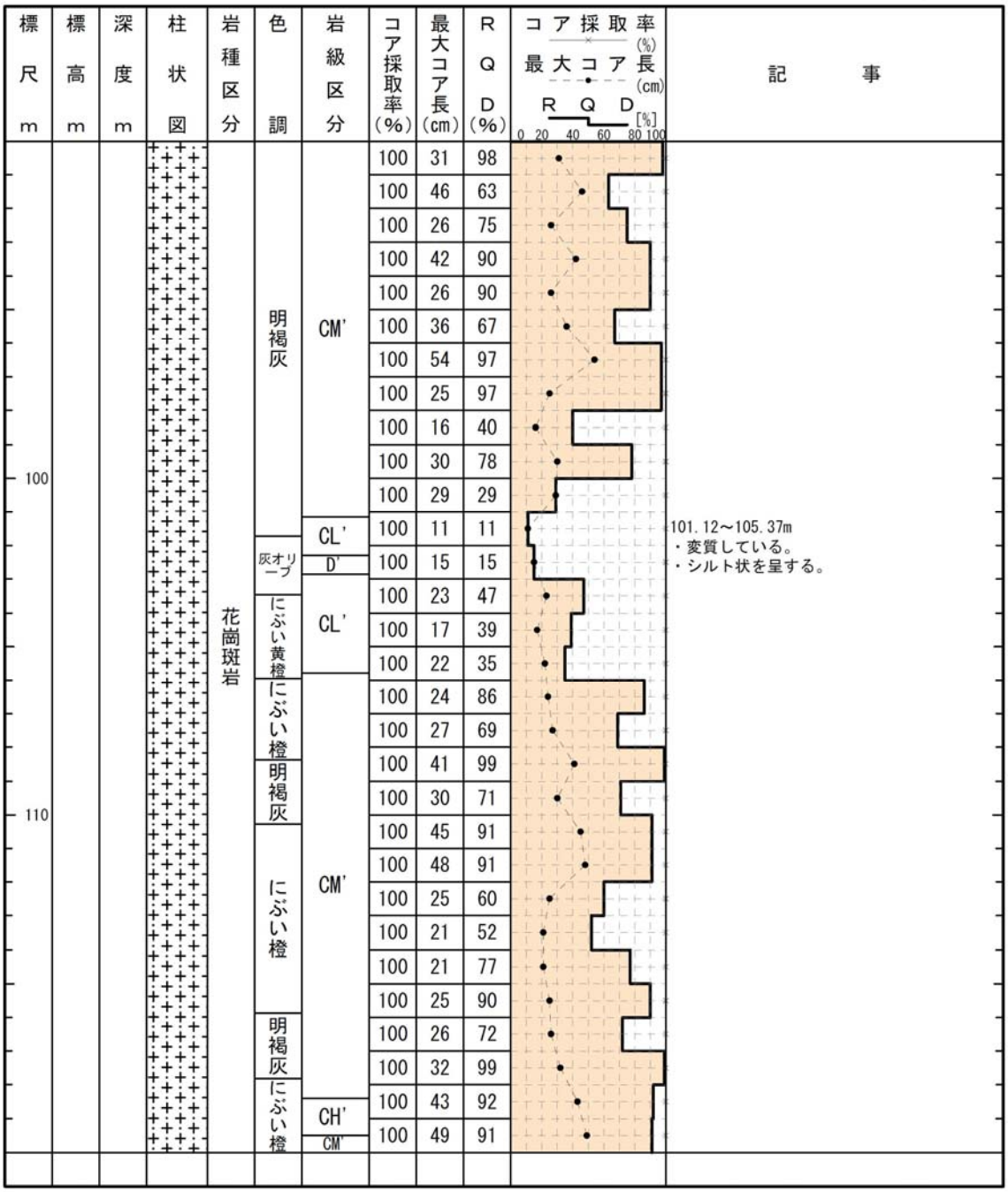
H19－No. 6

柱状図(60.00m～90.00m)



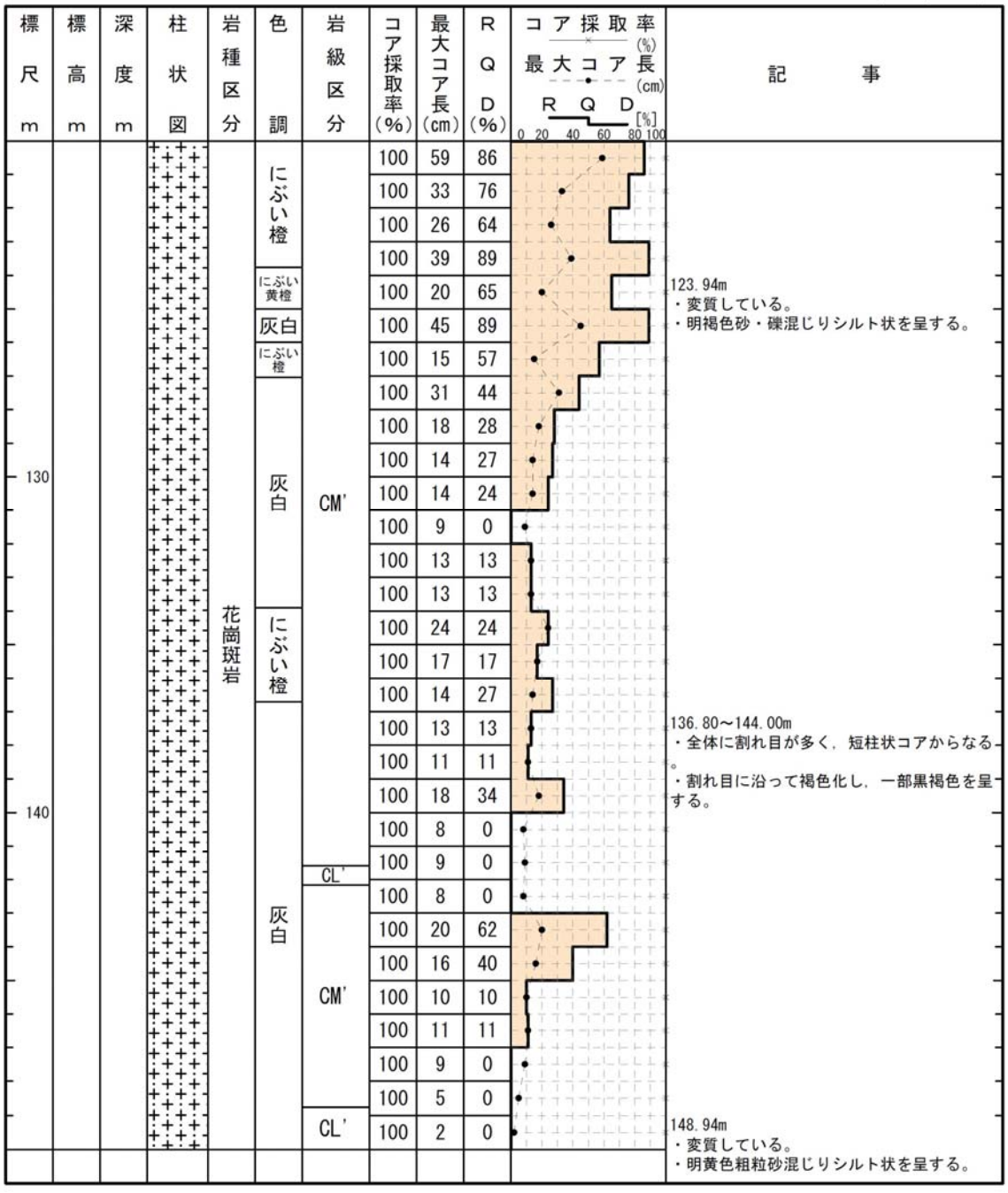
H19－No. 6

柱状図(90.00m～120.00m)



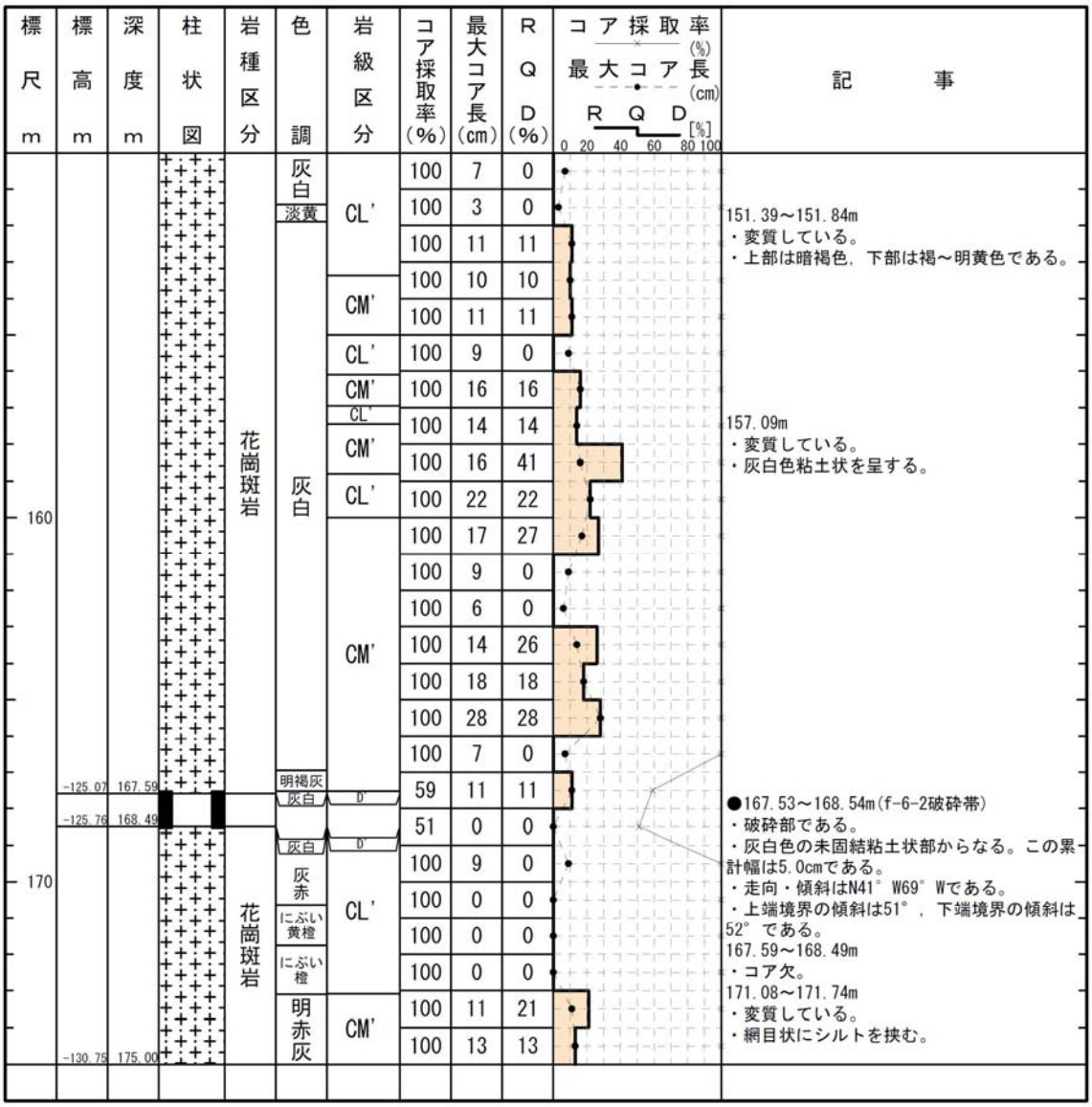
H19－No. 6

柱状図(120.00m～150.00m)



H19－No. 6

柱状図(150.00m～175.00m)

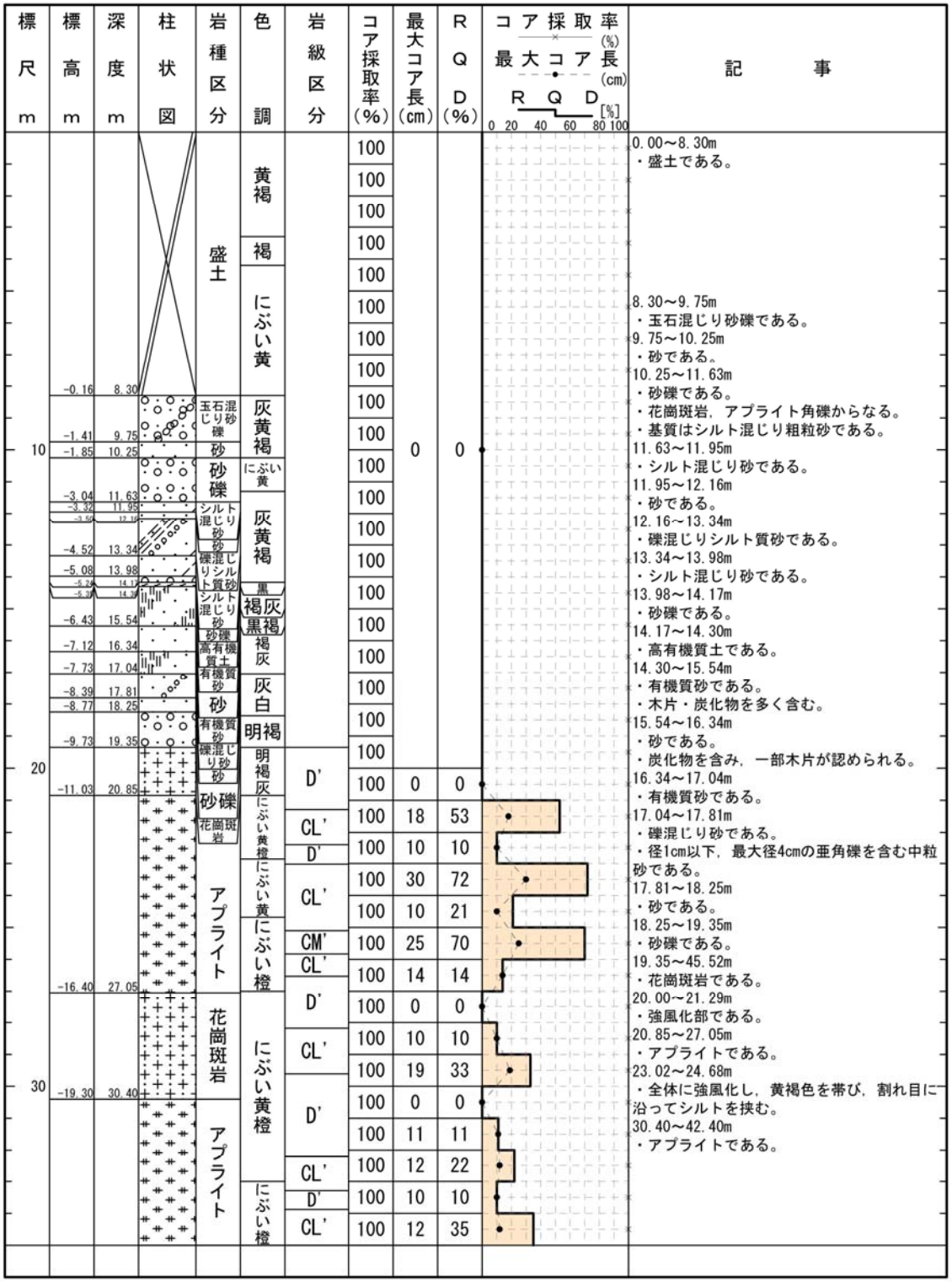


H19－No. 18

柱状図(0.00m～35.00m)

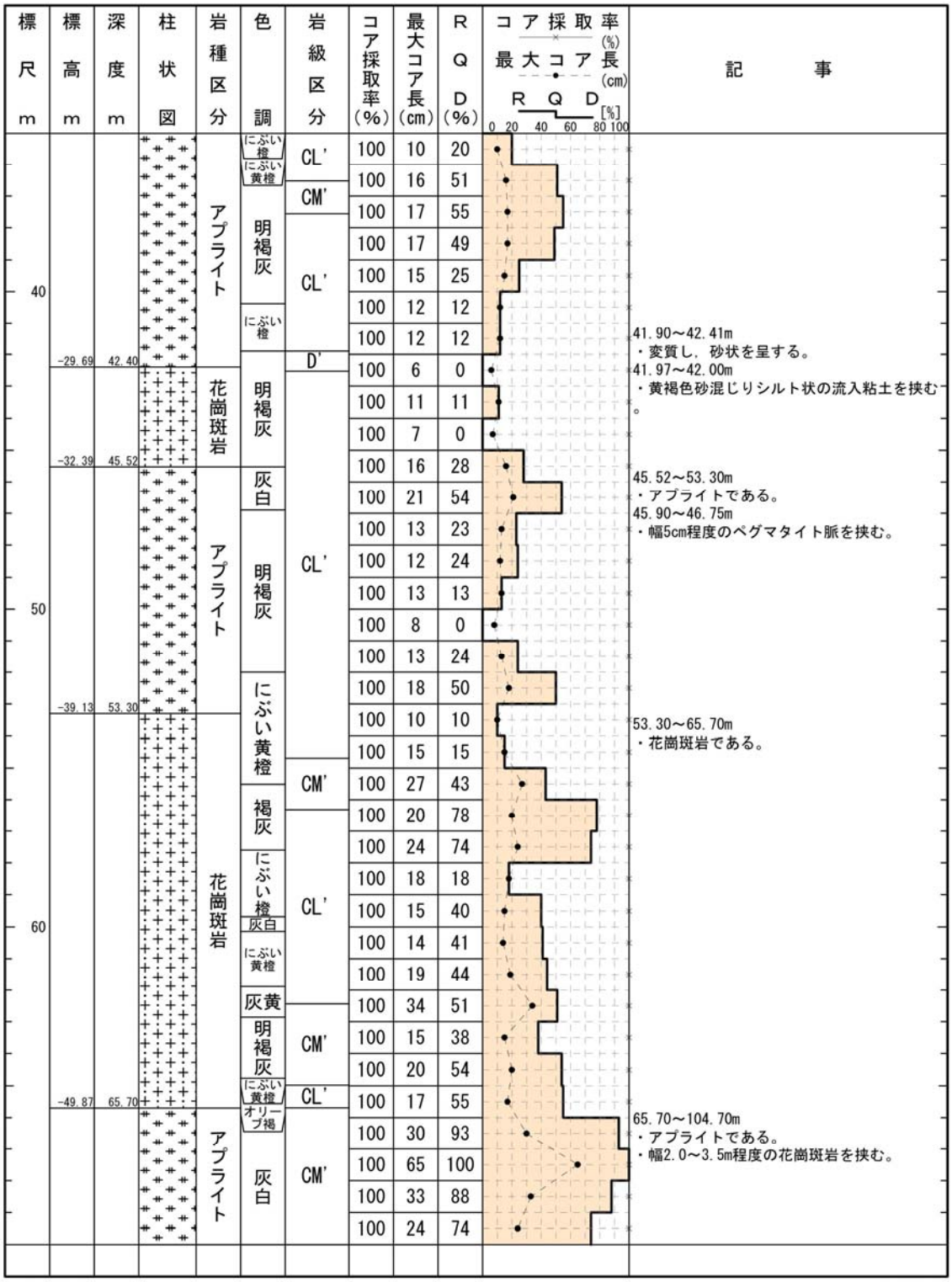
H19-No. 18

孔口標高	T.P. 7.03m	掘削長	175.00m



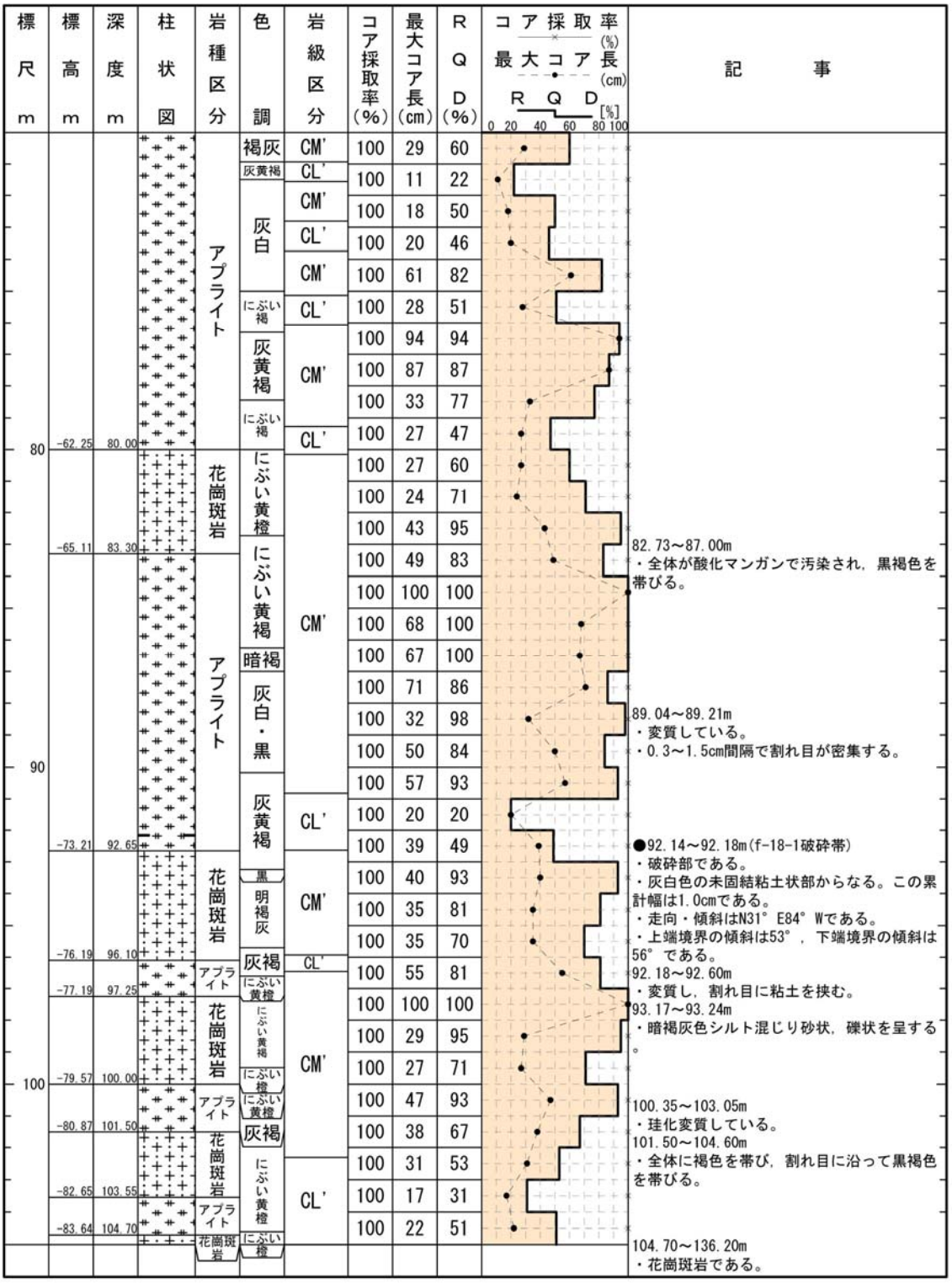
H19－No. 18

柱状図(35.00m～70.00m)



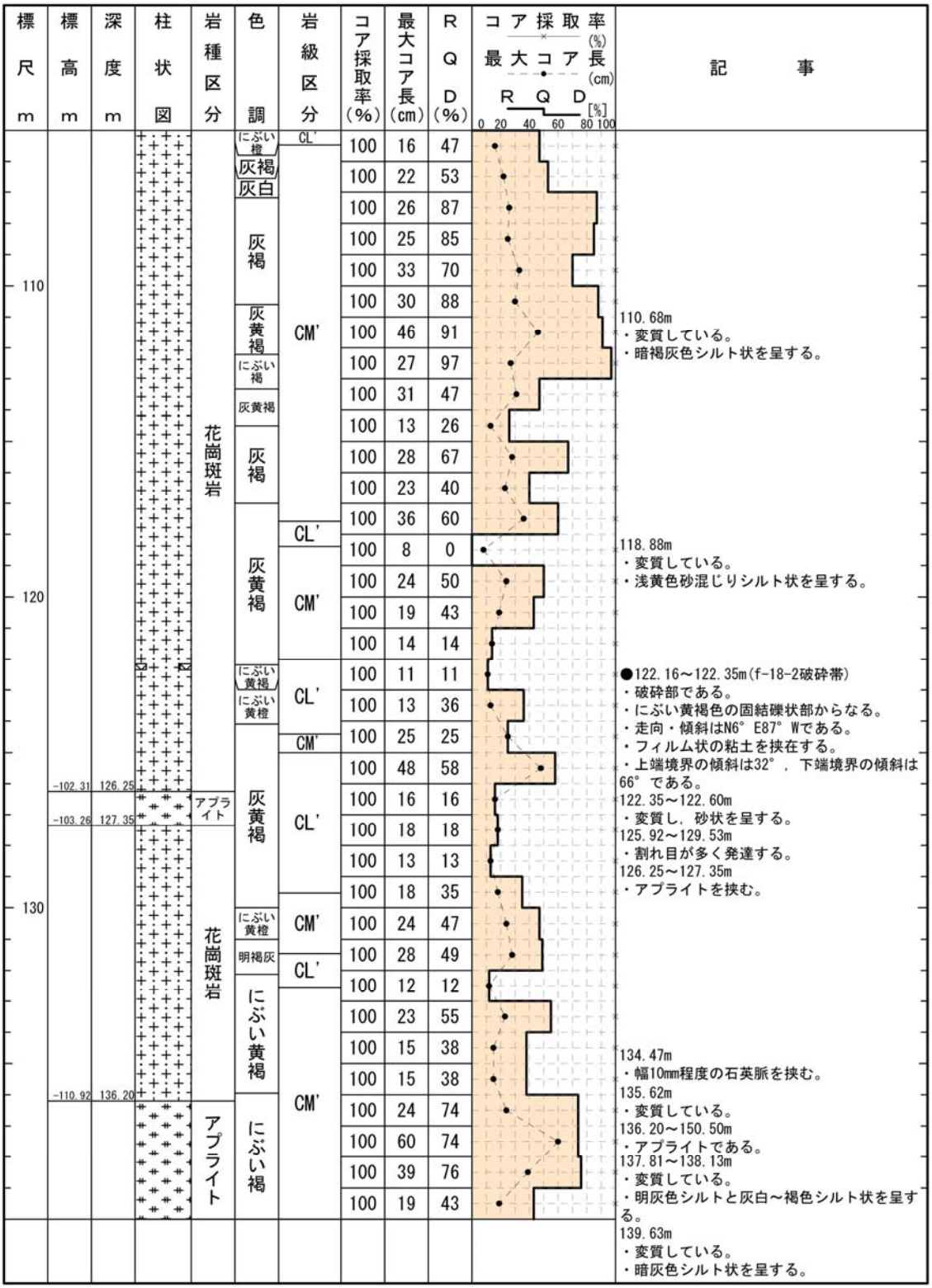
H19－No. 18

柱状図(70.00m～105.00m)



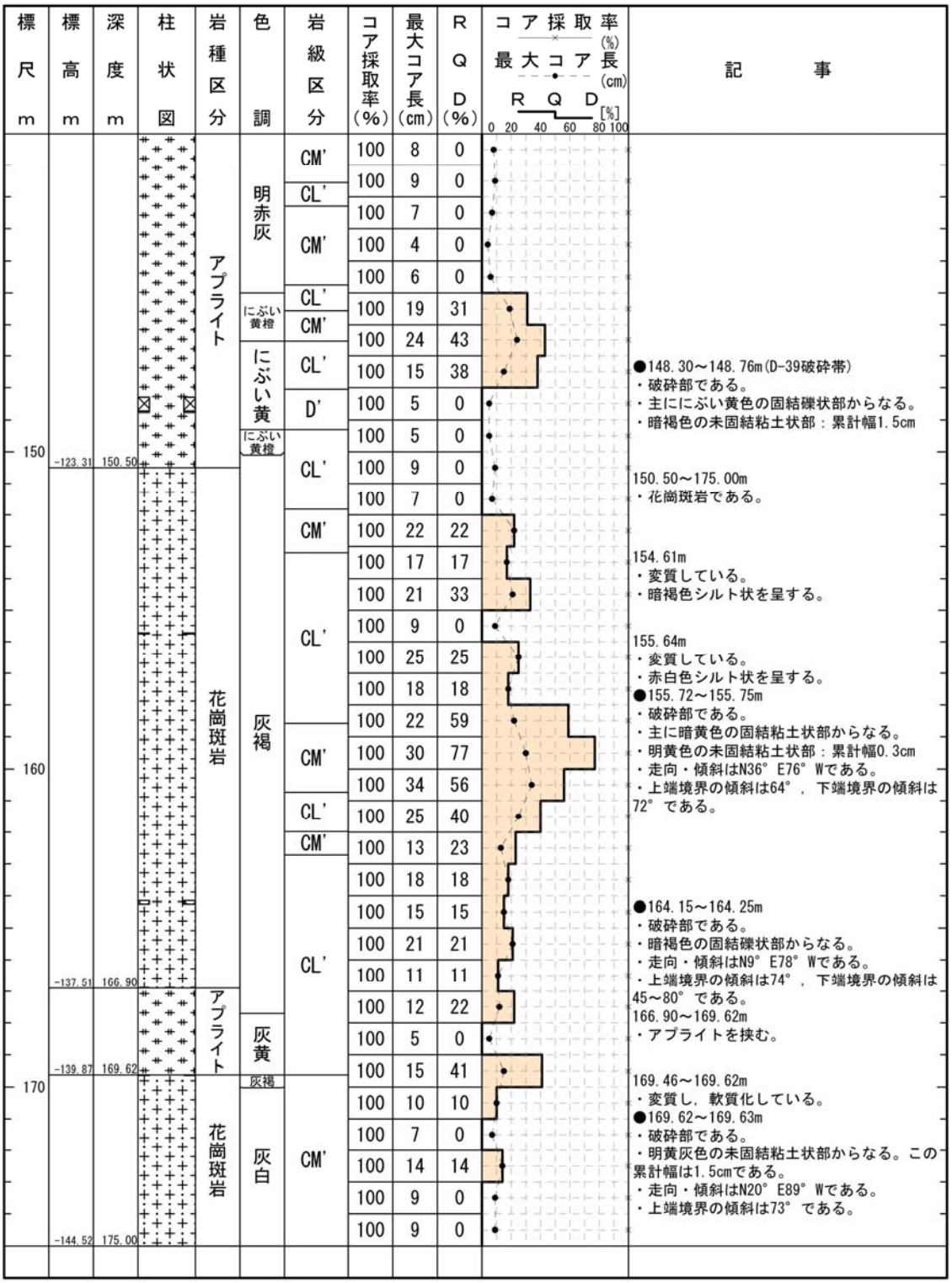
H19－No. 18

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No. 18

柱状図(140.00m～175.00m)

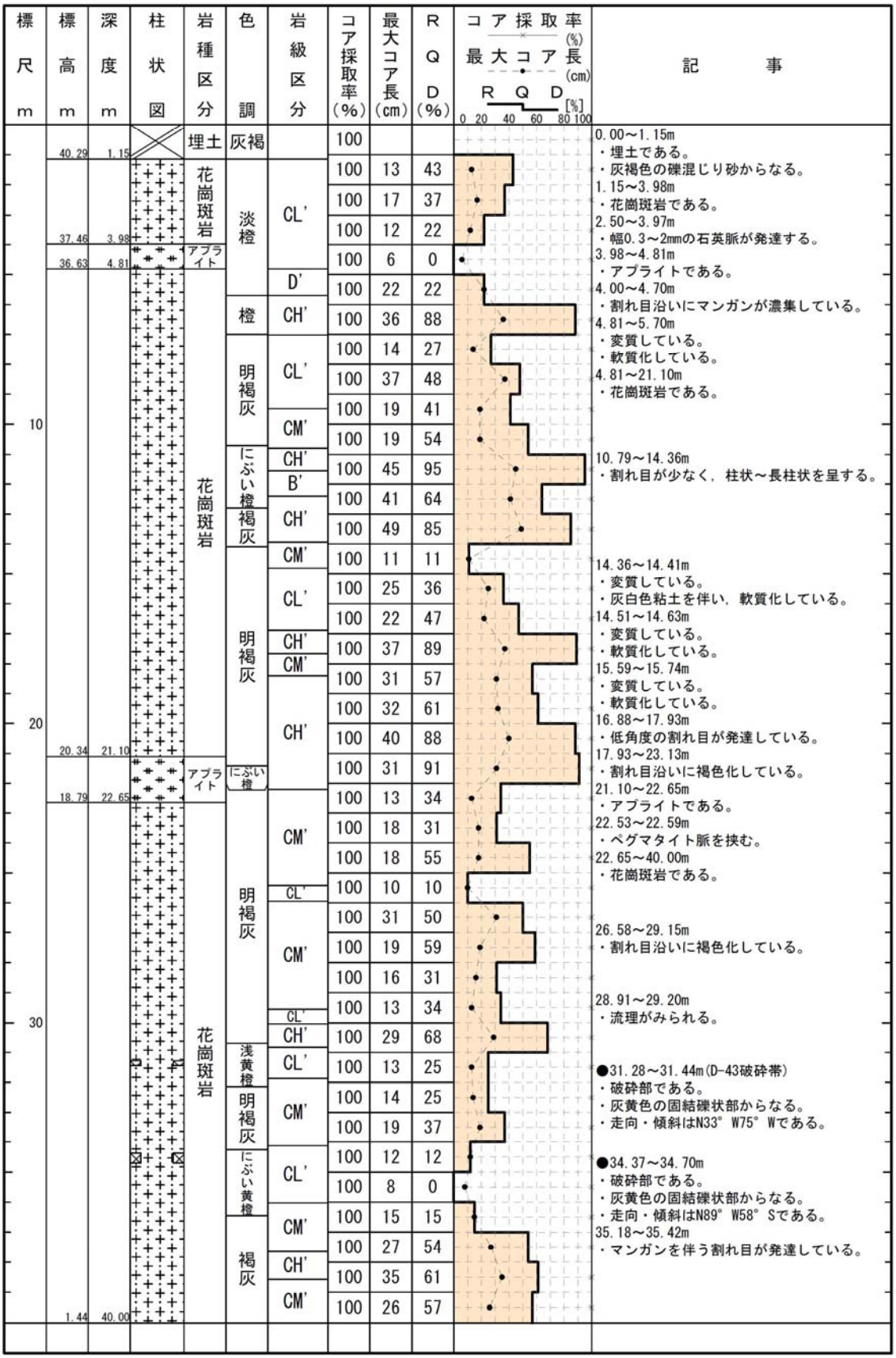


H20－①－5

柱状図(0.00m～40.00m)

H20-①-5

孔口標高	T.P. 41.44m	掘削長	40.00m

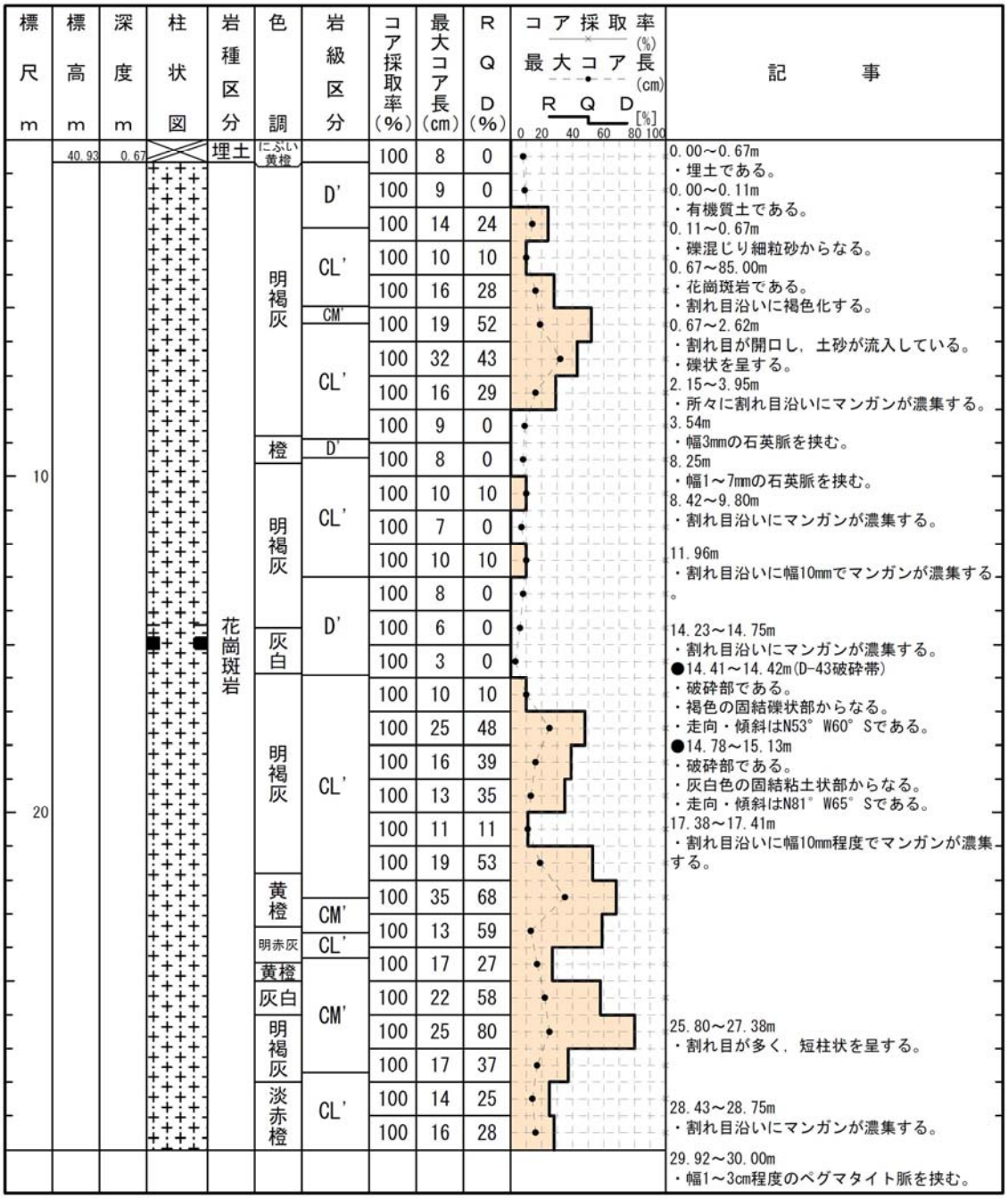


H20－①－6

柱状図(0.00m～30.00m)

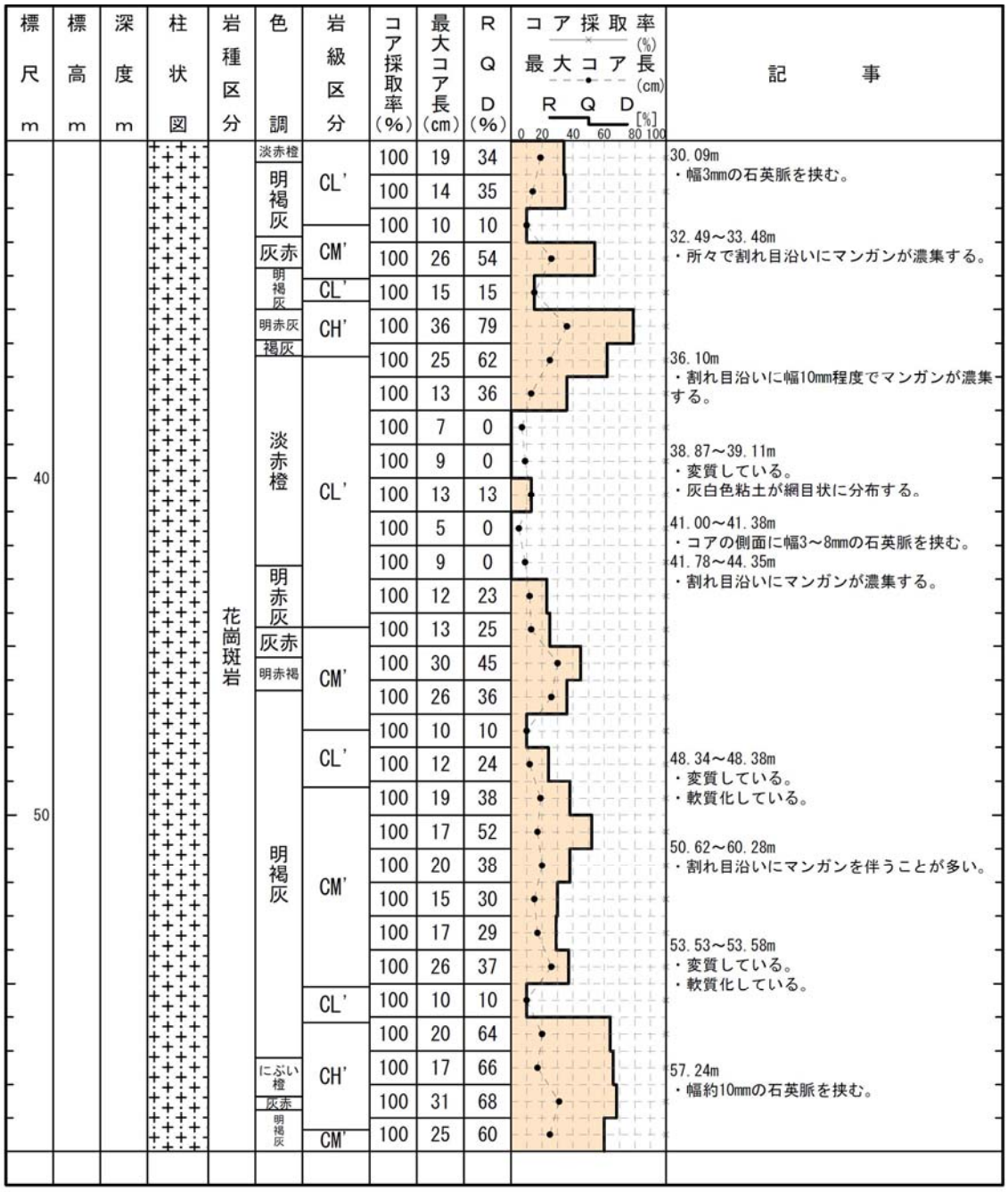
H20-①-6

孔口標高	T.P. 41.44m	掘削長	85.00m



H20－①－6

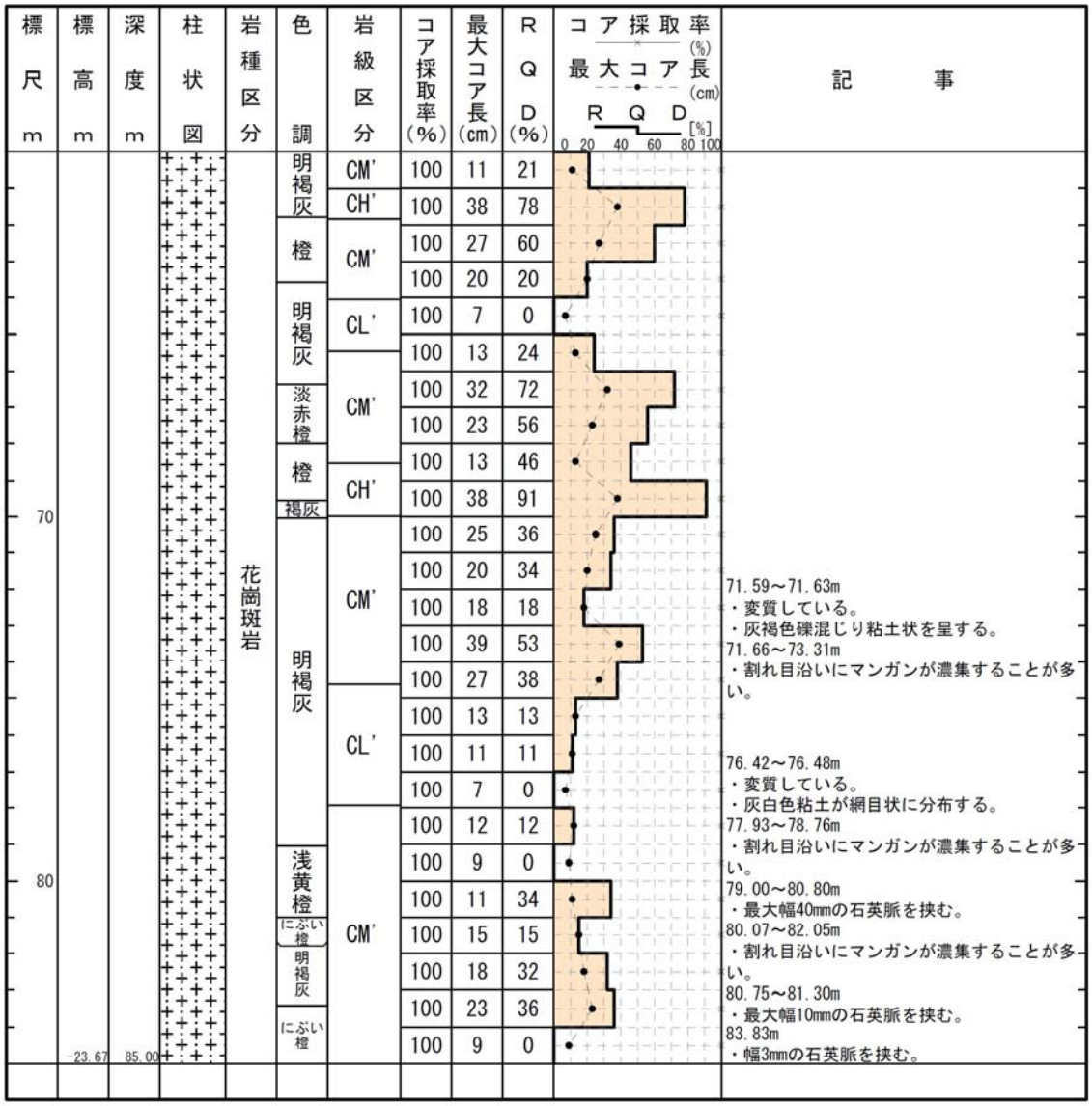
柱状図(30.00m～60.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
					淡赤橙	CL'	100	19	34	30.09m ・幅3mmの石英脈を挟む。
					明褐灰		100	14	35	
							100	10	10	
					灰赤	CM'	100	26	54	32.49～33.48m ・所々で割れ目沿いにマンガンが濃集する。
					明褐灰	CL'	100	15	15	
					明赤灰	CH'	100	36	79	
					褐灰		100	25	62	36.10m ・割れ目沿いに幅10mm程度でマンガンが濃集する。
					淡赤橙	CL'	100	13	36	
							100	7	0	
	40						100	9	0	38.87～39.11m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
							100	13	13	
							100	5	0	41.00～41.38m ・コアの側面に幅3～8mmの石英脈を挟む。
							100	9	0	41.78～44.35m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。
					明赤灰		100	12	23	
							100	13	25	
					灰赤	CM'	100	30	45	
					明赤褐		100	26	36	
					明褐灰		100	10	10	
						CL'	100	12	24	48.34～48.38m ・変質している。 ・軟質化している。
							100	19	38	
	50						100	17	52	
							100	20	38	50.62～60.28m ・割れ目沿いにマンガンを伴うことが多い。
						CM'	100	15	30	
							100	17	29	
							100	26	37	53.53～53.58m ・変質している。 ・軟質化している。
						CL'	100	10	10	
							100	20	64	
					にぶい橙	CH'	100	17	66	57.24m ・幅約10mmの石英脈を挟む。
					灰赤		100	31	68	
					明褐灰	CM'	100	25	60	

H20－①－6

柱状図(60.00m～85.00m)

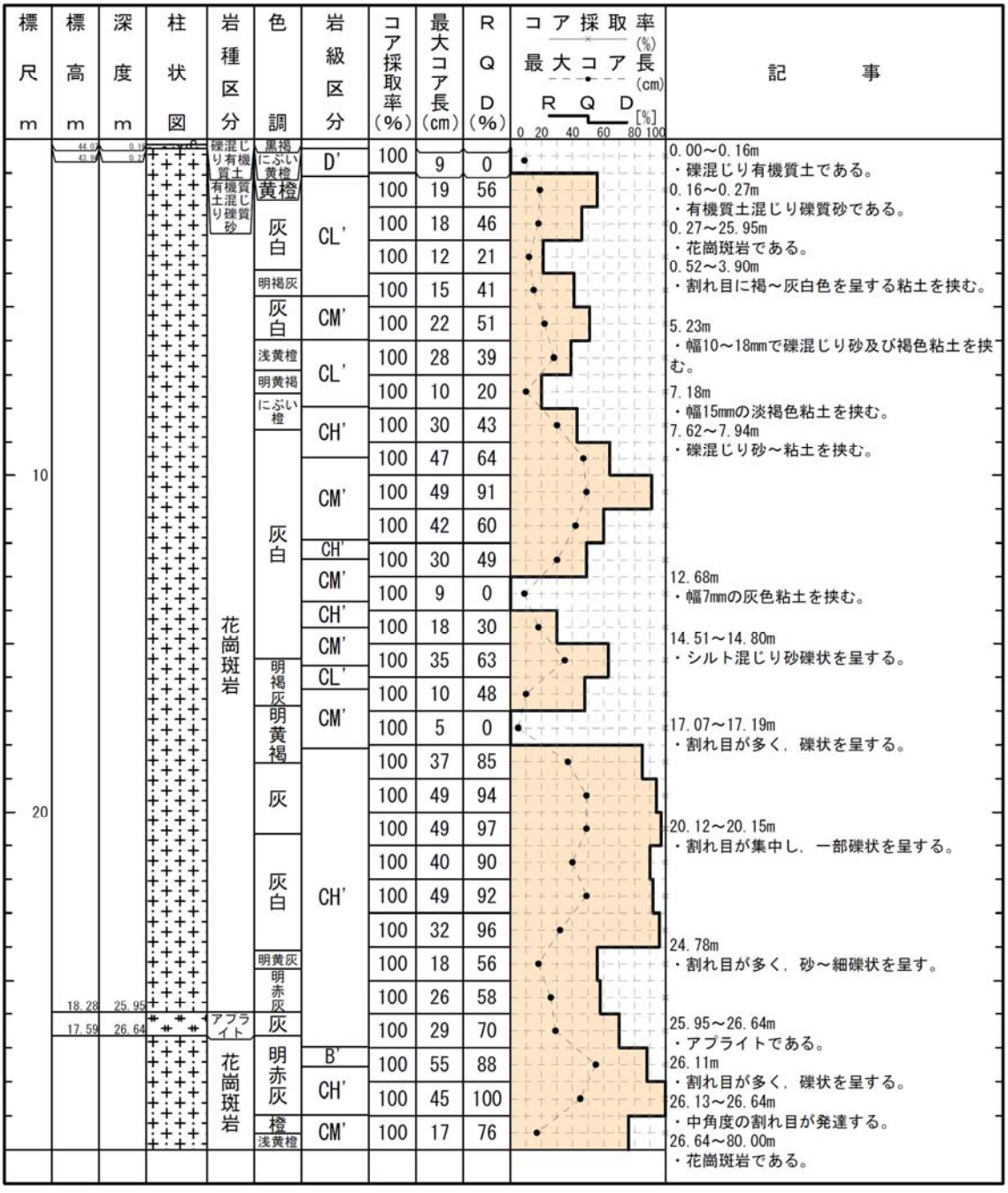


H27－Br－3

柱状図(0.00m～30.00m)

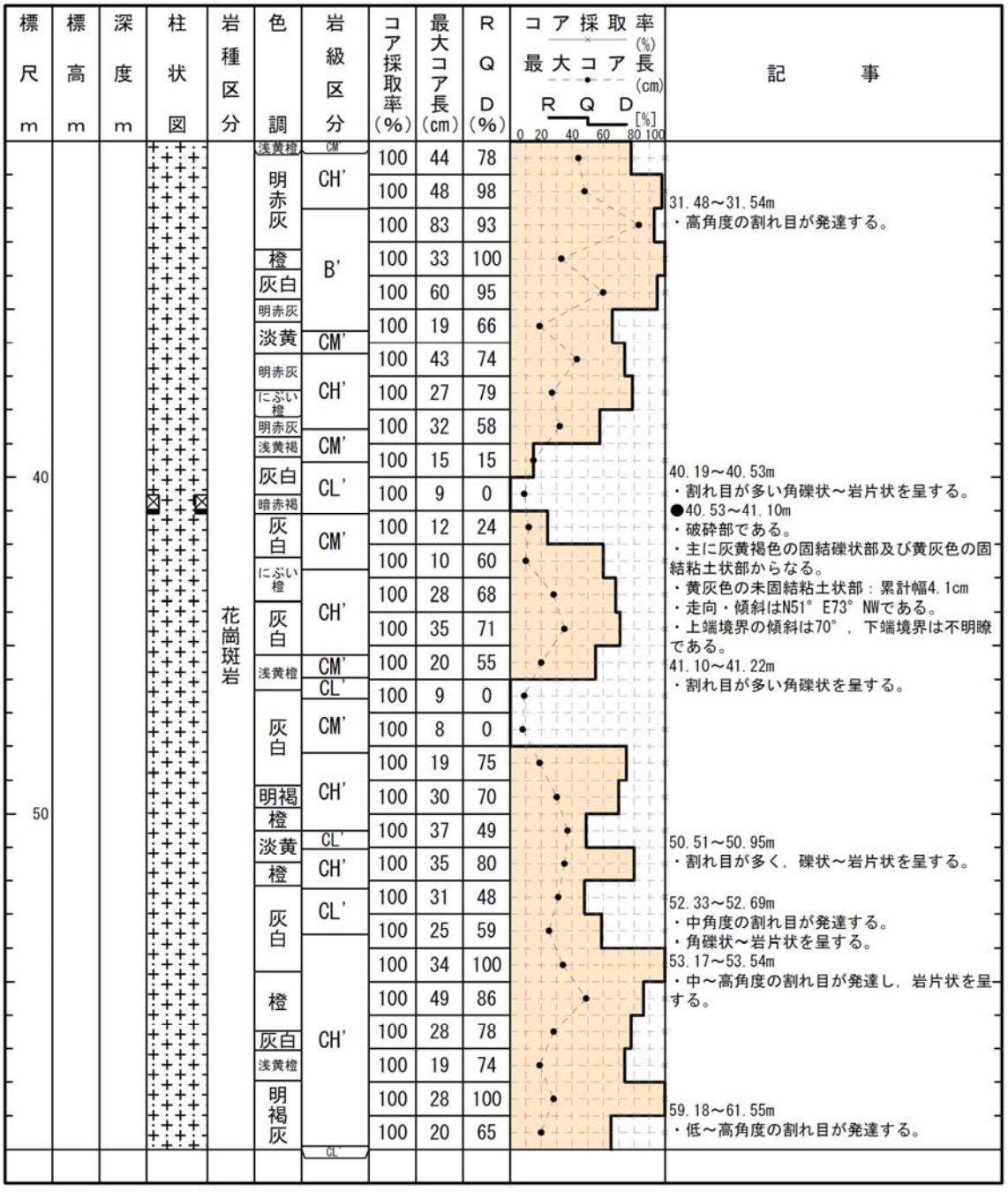
H27-Br-3

孔口標高	T.P. 44.23m	掘削長	80.00m



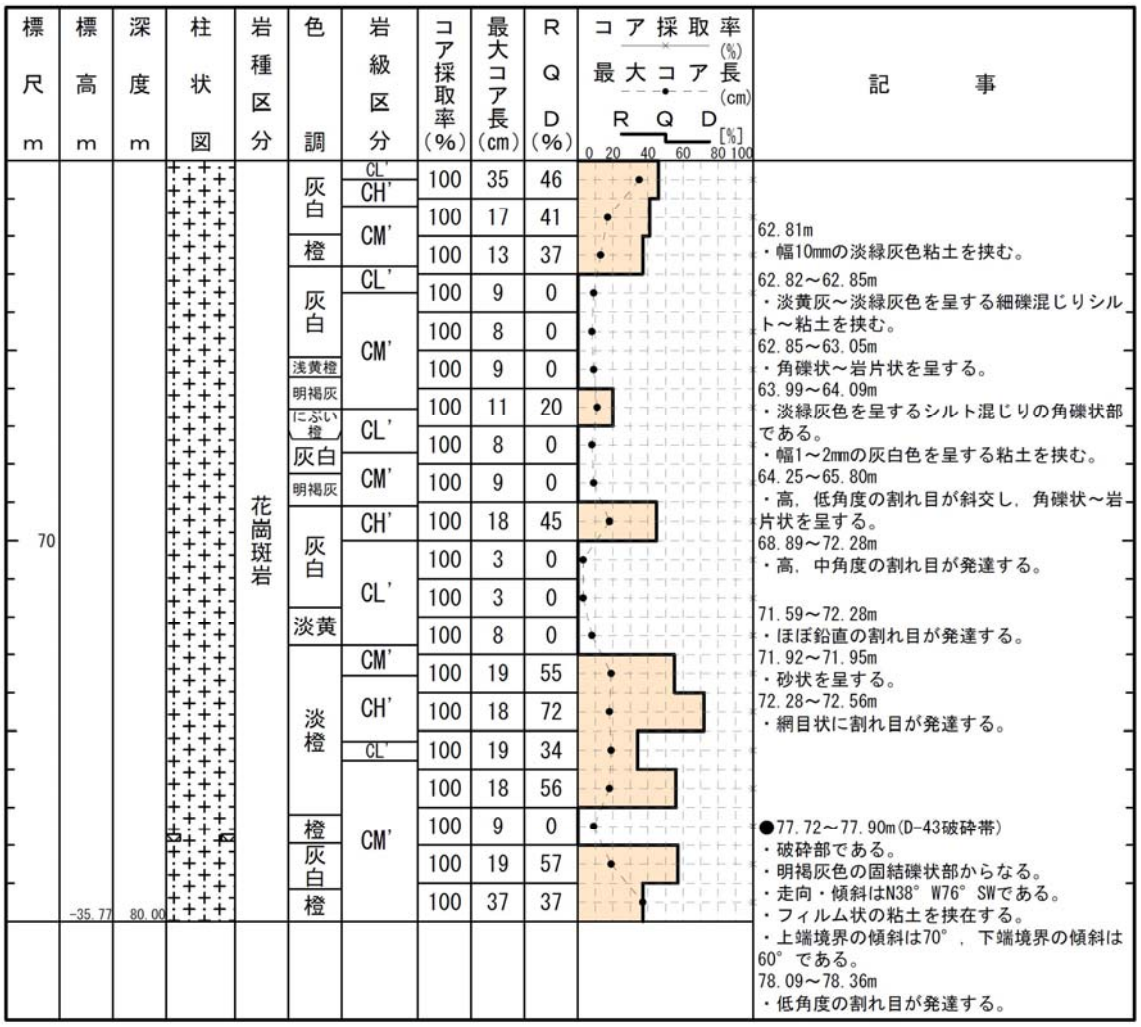
H27－Br－3

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－3

柱状図(60.00m～80.00m)

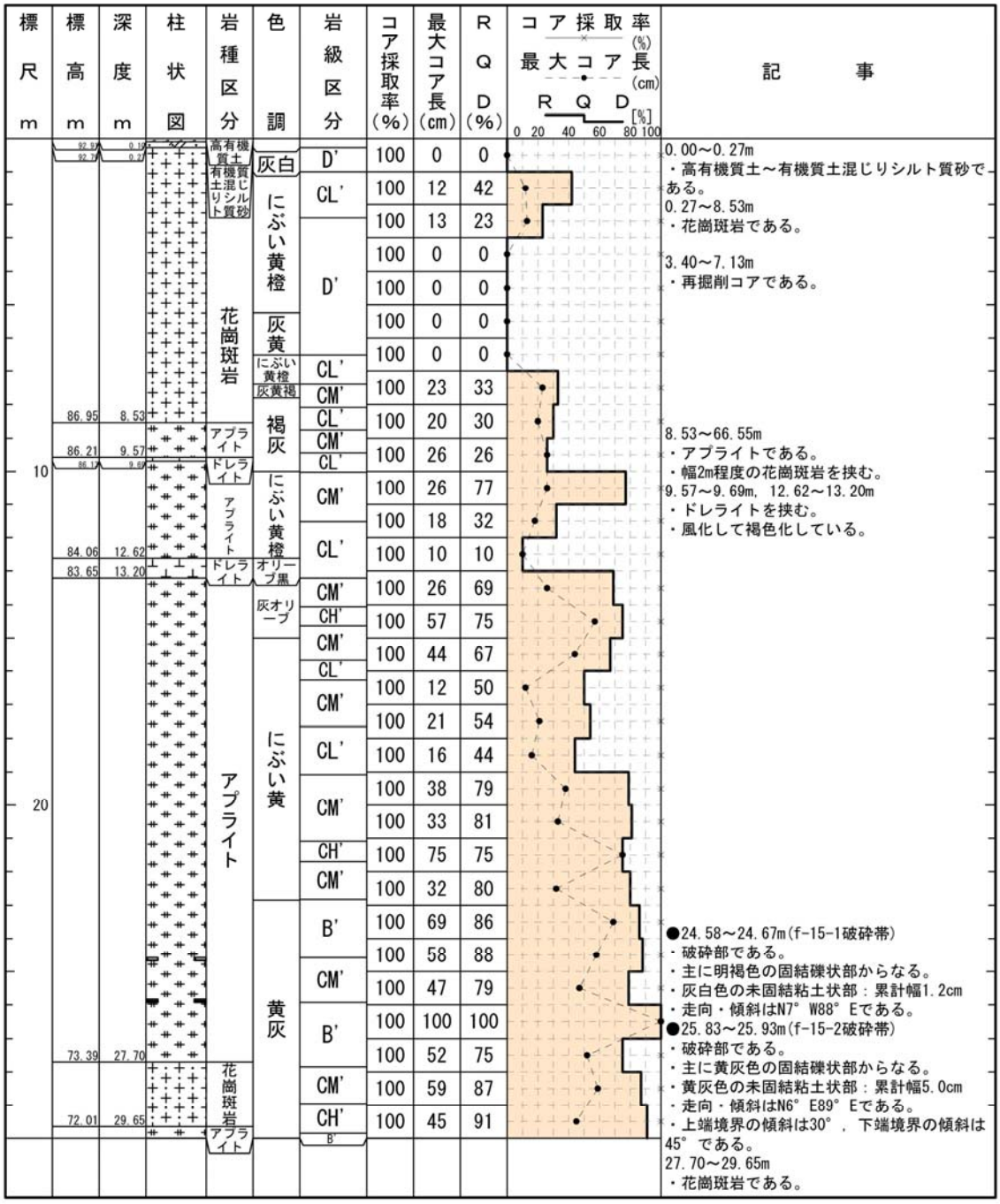


H19－No. 15

柱状図(0.00m～30.00m)

H19-No. 15

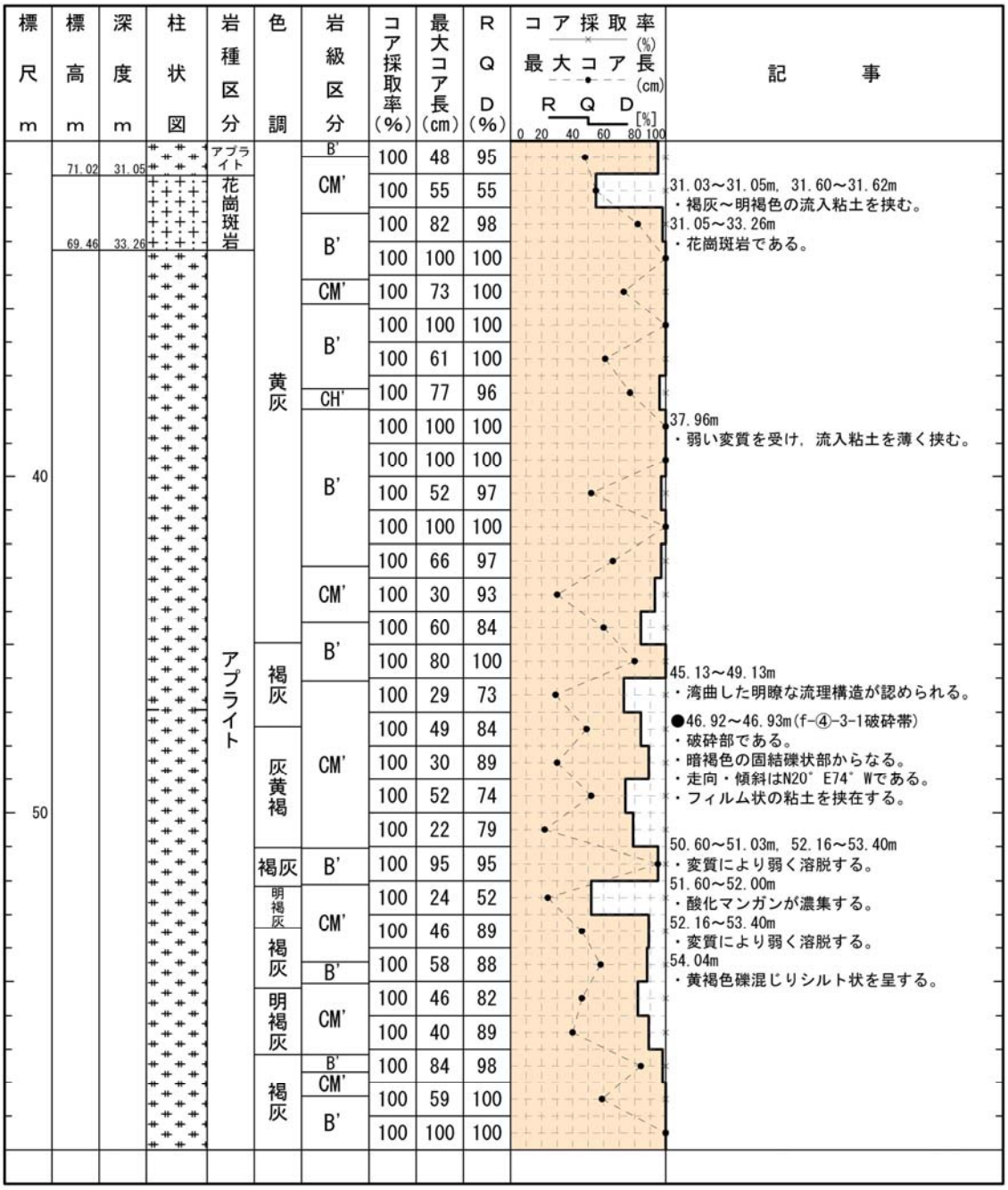
孔口標高	T.P. 92.98m	掘削長	150.00m



標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
	92.98	0.00	高有機質土	灰白	D'	100	0	0
	92.71	0.27	有機質土混じりシルト質砂		CL'	100	12	42
				にぶい黄橙		100	13	23
			花崗斑岩		D'	100	0	0
						100	0	0
				灰黄		100	0	0
				にぶい黄橙	CL'	100	0	0
				灰黄褐	CM'	100	23	33
	86.95	8.53		褐灰	CL'	100	20	30
			アプライト		CM'	100	26	26
	86.21	9.57			CL'	100	26	77
	86.17	9.69	ドレライト			100	18	32
10			アプライト	にぶい黄橙	CM'	100	10	10
	84.06	12.62			CL'	100	26	69
	83.65	13.20	ドレライト	オリーブ黒		100	57	75
				灰オリーブ	CM'	100	44	67
					CH'	100	12	50
					CM'	100	21	54
				にぶい黄	CL'	100	16	44
					CM'	100	38	79
20			アプライト		CM'	100	33	81
					CH'	100	75	75
					CM'	100	32	80
				黄灰	B'	100	69	86
					CM'	100	58	88
					B'	100	47	79
	73.39	27.70				100	100	100
			花崗斑岩		CM'	100	52	75
	72.01	29.65			CH'	100	59	87
			アプライト		B'	100	45	91

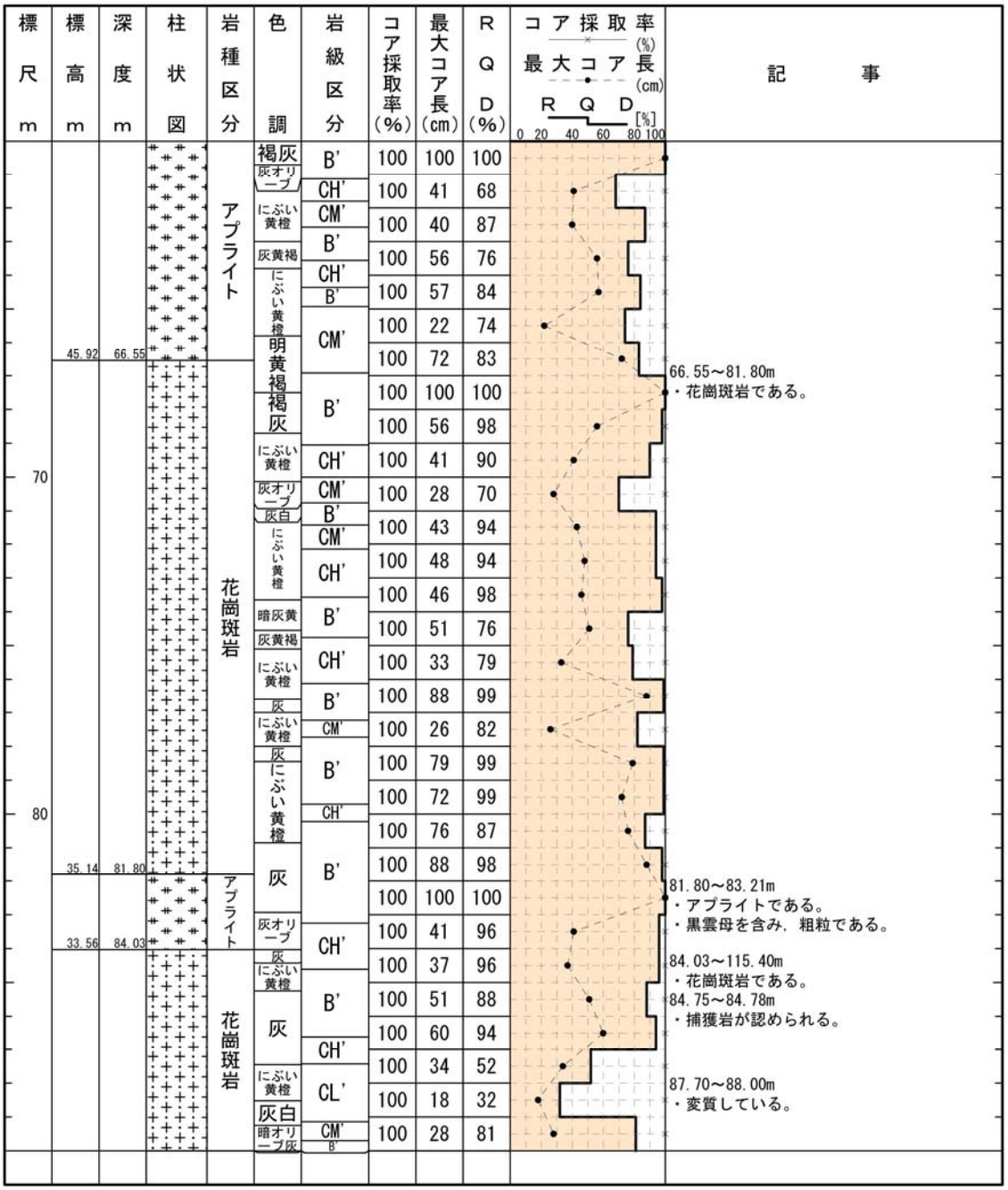
H19－No. 15

柱状図(30.00m～60.00m)



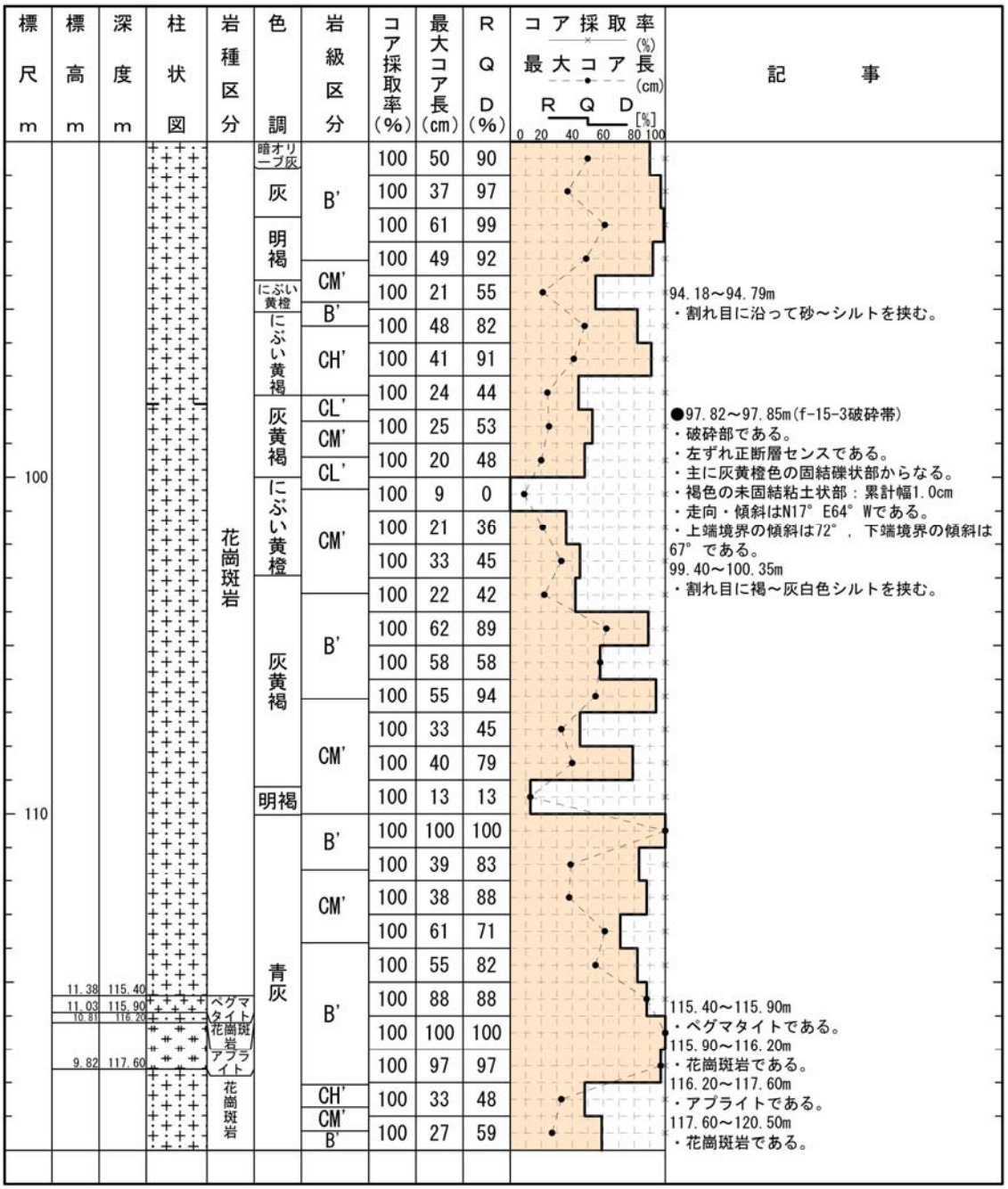
H19－No. 15

柱状図(60.00m～90.00m)



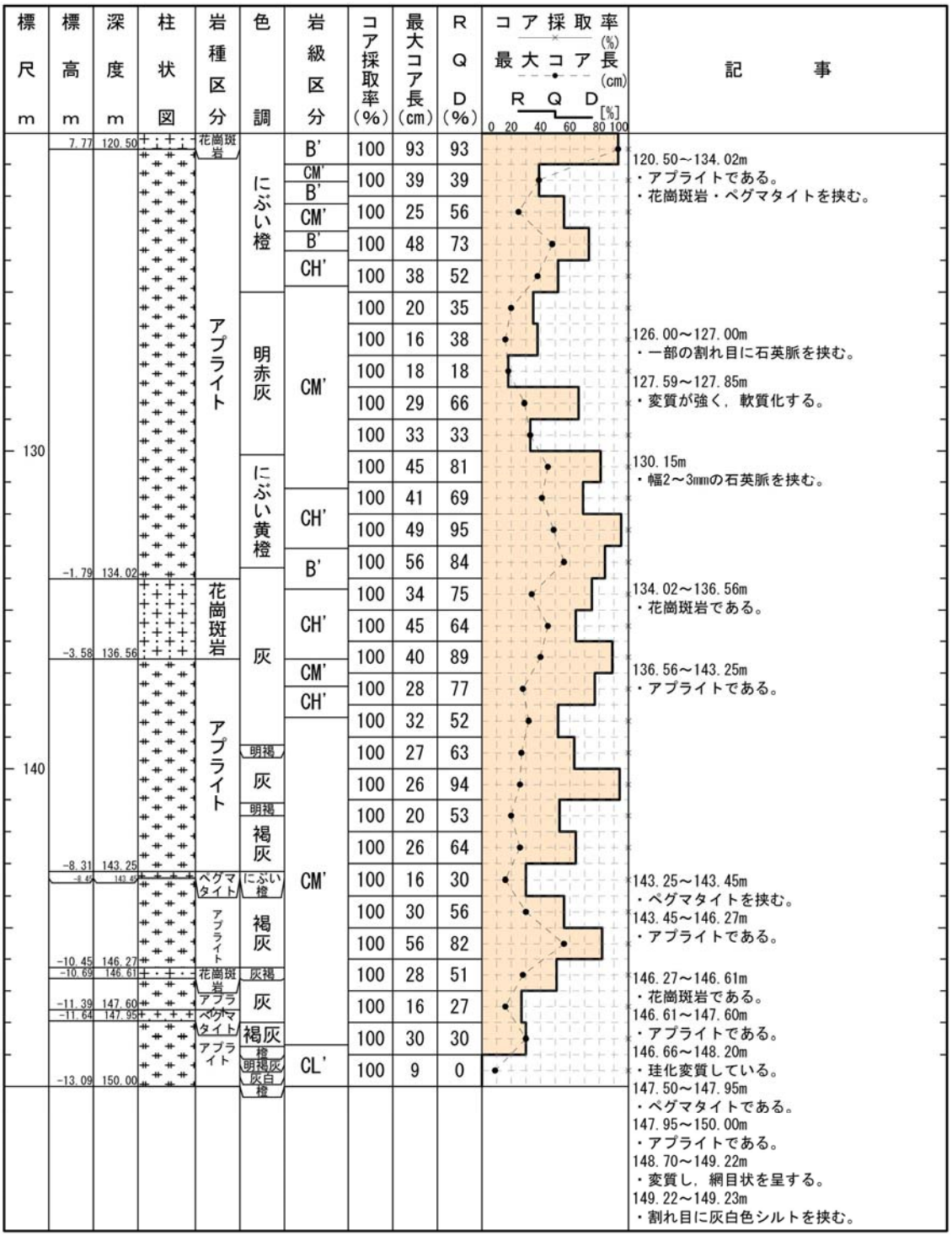
H19－No. 15

柱状図(90.00m～120.00m)



H19－No. 15

柱状図(120.00m～150.00m)

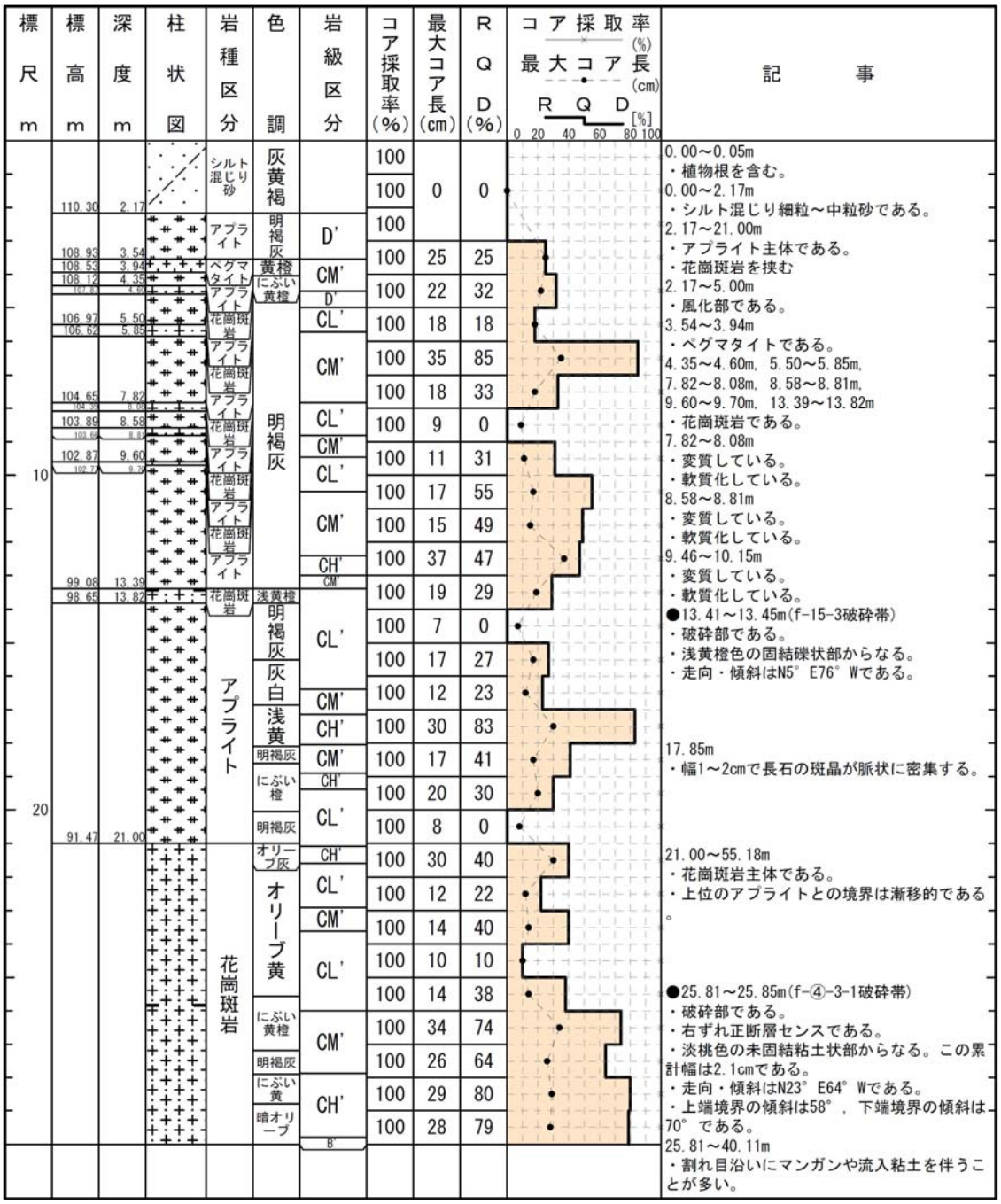


H20－④－3

柱状図(0.00m～30.00m)

H20-④-3

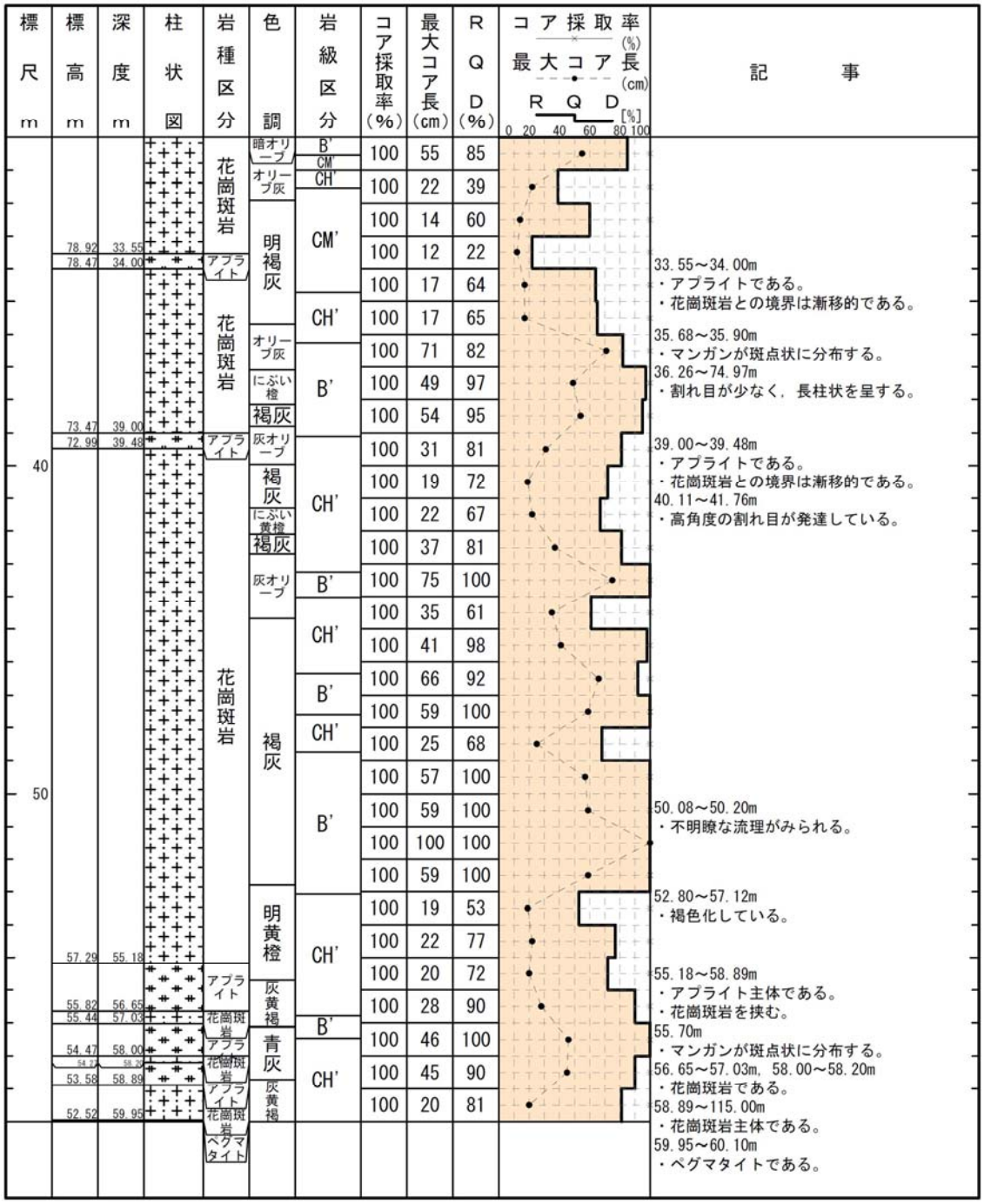
孔口標高	T.P. 112.47m	掘削長	115.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	岩級区分
100	0	0	
100			
100			D'
100	25	25	CM'
100	22	32	D'
100	18	18	CL'
100	35	85	CM'
100	18	33	
100	9	0	CL'
100	11	31	CM'
100	17	55	CL'
100	15	49	CM'
100	37	47	CH'
100	19	29	CM'
100	7	0	CL'
100	17	27	
100	12	23	CM'
100	30	83	CH'
100	17	41	CM'
100	20	30	CH'
100	8	0	CL'
100	30	40	CH'
100	12	22	CL'
100	14	40	CM'
100	10	10	CL'
100	14	38	
100	34	74	CM'
100	26	64	
100	29	80	CH'
100	28	79	B'

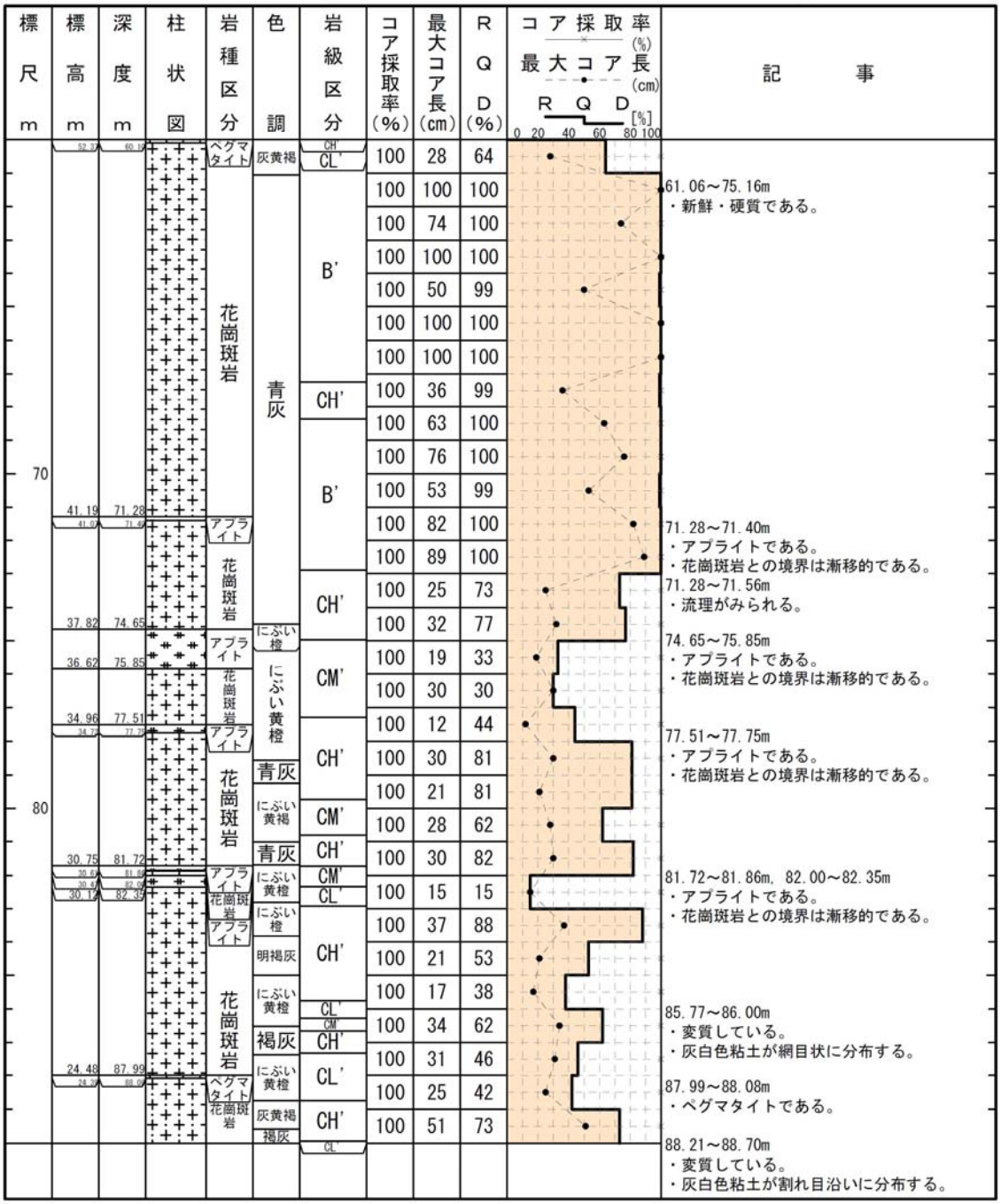
H20－④－3

柱状図(30.00m～60.00m)



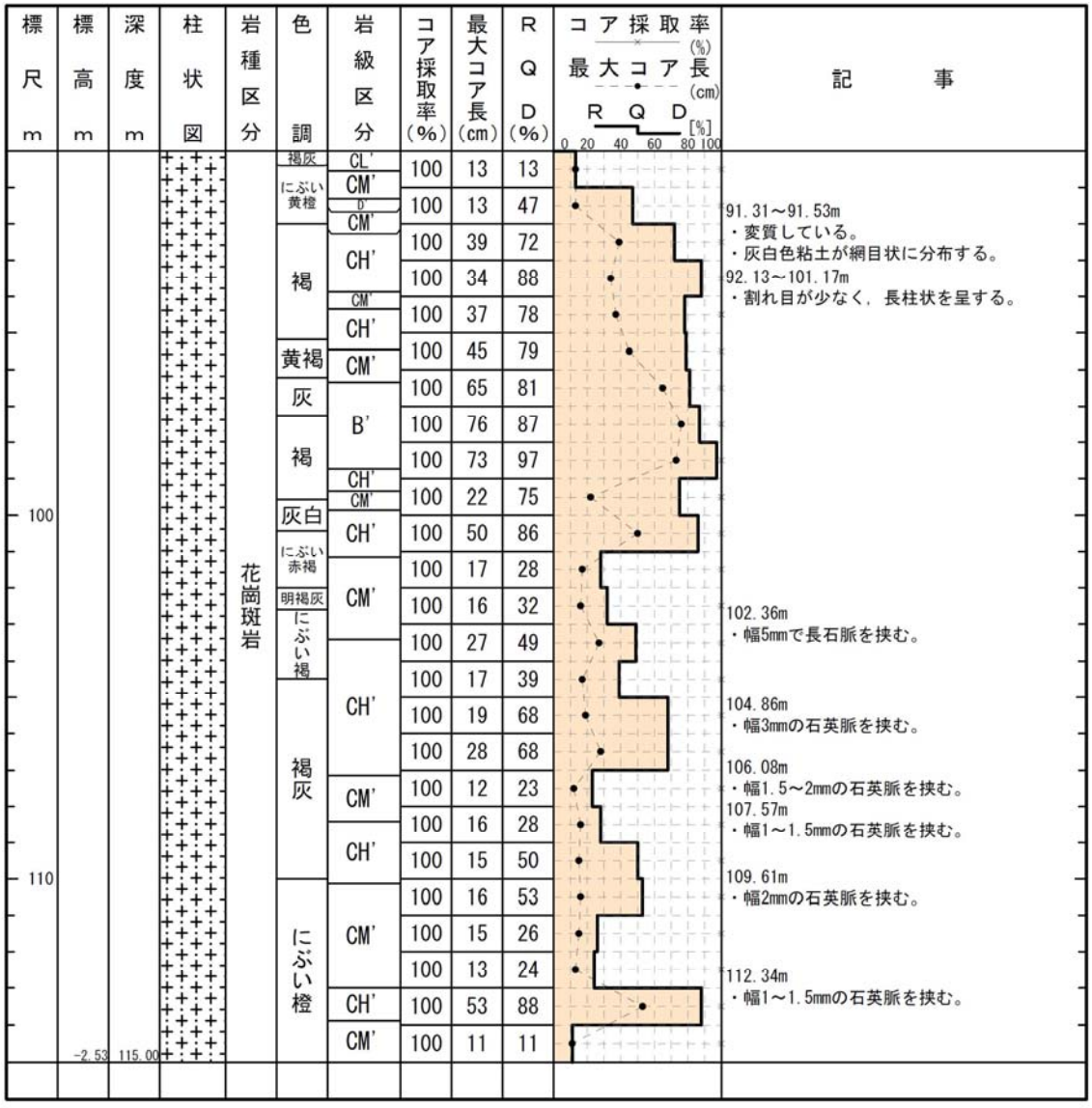
H20－④－3

柱状図(60.00m～90.00m)



H20－④－3

柱状図(90.00m～115.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）
				花崗斑岩	褐灰	CL'	100	13	13
					にぶい黄橙	CM'	100	13	47
						D			
						CM'	100	39	72
					褐	CH'	100	34	88
						CM'	100	37	78
						CH'	100	45	79
					黄褐	CM'	100	65	81
					灰	B'	100	76	87
					褐		100	73	97
						CH'	100	22	75
100						CM'	100	50	86
					灰白	CH'	100	17	28
					にぶい赤褐	CM'	100	16	32
					明褐灰		100	27	49
					にぶい褐		100	17	39
						CH'	100	19	68
							100	28	68
					褐灰		100	12	23
						CM'	100	16	28
						CH'	100	15	50
110							100	16	53
					にぶい橙	CM'	100	15	26
							100	13	24
						CH'	100	53	88
		-2.53	115.00			CM'	100	11	11

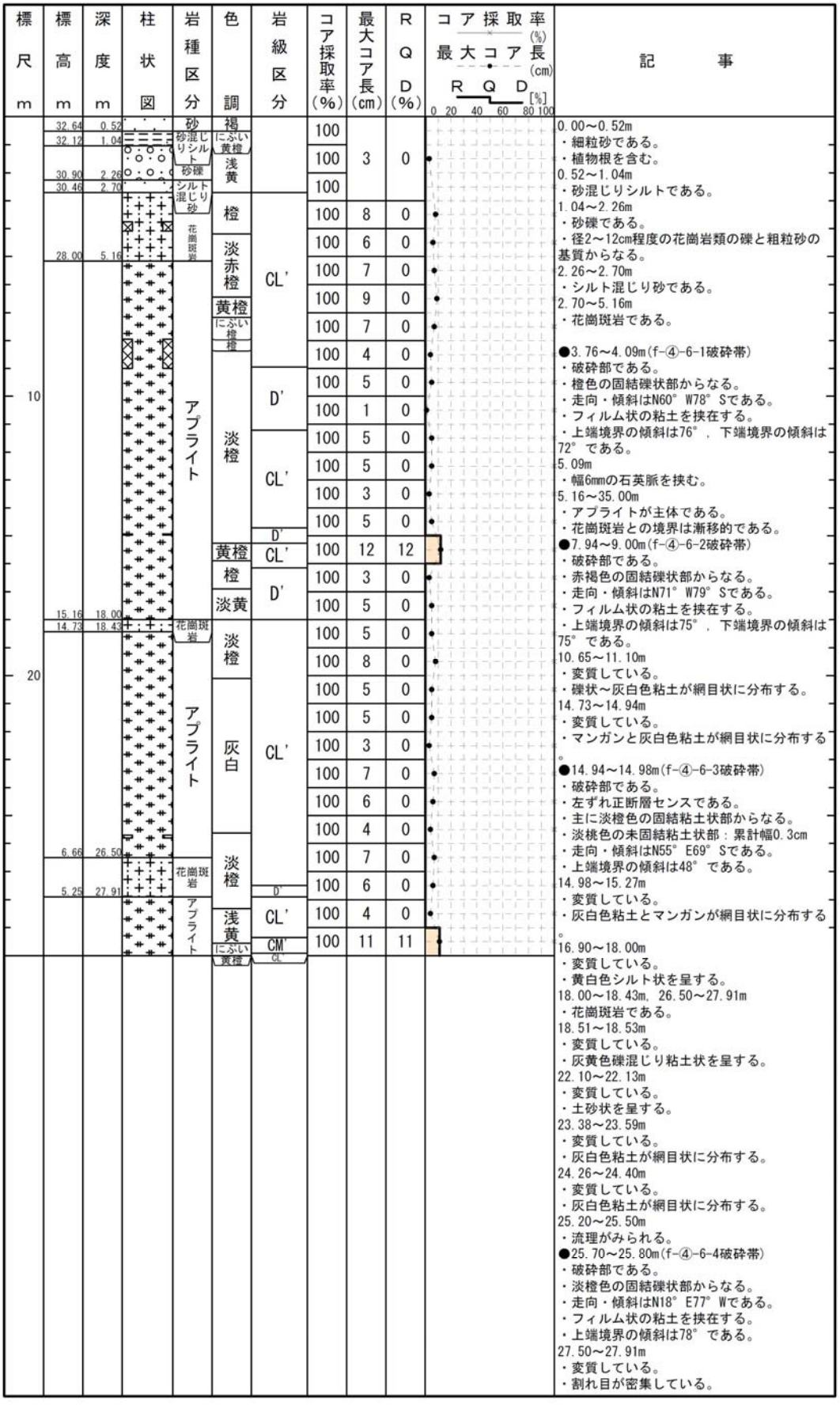
91.31～91.53m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
92.13～101.17m
・割れ目が少なく，長柱状を呈する。
102.36m
・幅5mmで長石脈を挟む。
104.86m
・幅3mmの石英脈を挟む。
106.08m
・幅1.5～2mmの石英脈を挟む。
107.57m
・幅1～1.5mmの石英脈を挟む。
109.61m
・幅2mmの石英脈を挟む。
112.34m
・幅1～1.5mmの石英脈を挟む。

H20－④－6

柱状図(0.00m～30.00m)

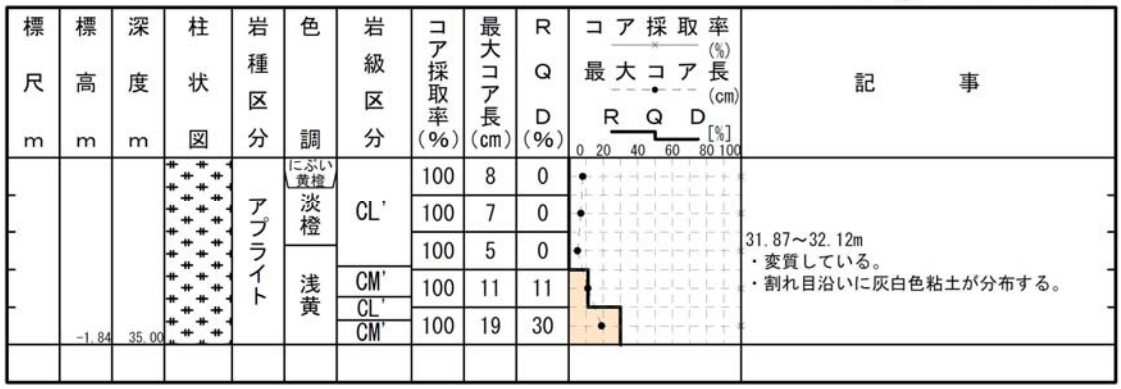
H20-④-6

孔口標高	T.P. 33.16m	掘削長	35.00m



H20－④－6

柱状図(30.00m～35.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				アプライト	にぶい黄橙 淡橙	CL'	100	8	0		
							100	7	0		
							100	5	0		31.87～32.12m ・変質している。 ・割れ目沿いに灰白色粘土が分布する。
					浅黄	CM'	100	11	11		
						CL'					
	-1.84	35.00				CM'	100	19	30		

H20－④－7

柱状図(0.00m～30.00m)

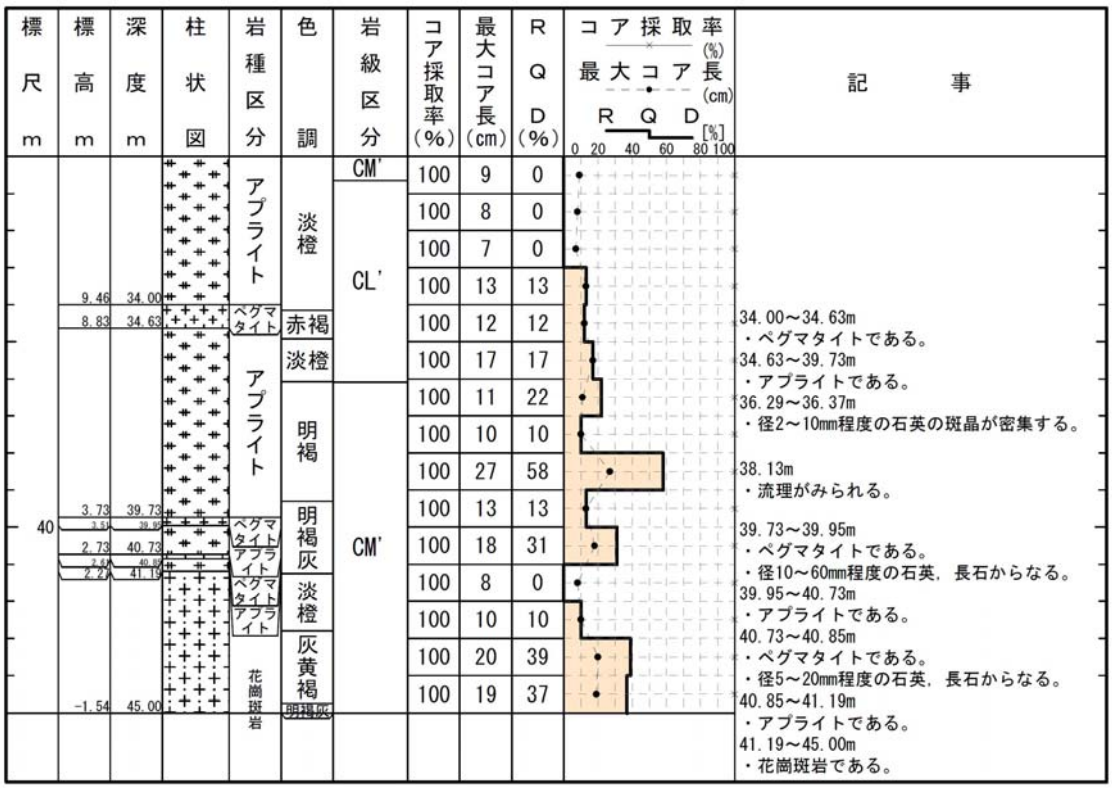
H20-④-7

孔口標高	T.P. 43.46m	掘削長	45.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
	41.46	2.00		シルト質砂	黄褐		100	4	0	0.00～2.00m ・シルト質砂である。
				花崗斑岩	黄橙	D'	100			2.00～3.47m ・花崗斑岩である。 ・土壌化が著しい。
	39.99	3.47		アプライト	淡橙	CL'	100	5	0	3.47～6.70m ・アプライトである。 ・花崗斑岩との境界は漸移的である。
							100	6	0	
							100	8	0	
	36.76	6.70					100	9	0	
	35.99	7.47		花崗斑岩			100	10	10	6.70～7.47m ・花崗斑岩である。
				アプライト			100	13	13	7.47～9.03m ・アプライトである。
	34.43	9.03		花崗斑岩			100	7	0	8.85～8.95m ・レンズ状に花崗斑岩を挟む。
10	33.40	10.06			淡赤橙		100	6	0	9.03～10.06m ・花崗斑岩である。
					淡橙	CM'	100	11	11	10.06～34.00m ・アプライトである。
						CL'	100	13	13	10.84～16.84m ・幅1～10mmの石英脈を多数挟む。
							100	12	12	
							100	9	0	
							100	21	33	
						CM'	100	13	23	
						CL'	100	9	0	
					明褐灰	D'	100	7	0	18.14～18.68m ・変質し，灰白色粘土が網目状に分布する。
						CL'	100	7	0	
20						CM'	100	8	0	
					淡橙	CL'	100	8	0	
							100	15	15	
					にぶい黄橙	D'	100	9	0	●22.75～23.53m(f-④-7-1破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN53°W80°Sである。 ・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は58°である。
					淡橙	CL'	100	6	0	
					にぶい黄橙		100	10	10	
					淡赤橙					
					にぶい橙	CM'	100	22	55	
					淡橙	CH'	100	14	27	
						CM'	100	13	36	
							100	15	25	

H20－④－7

柱状図(30.00m～45.00m)

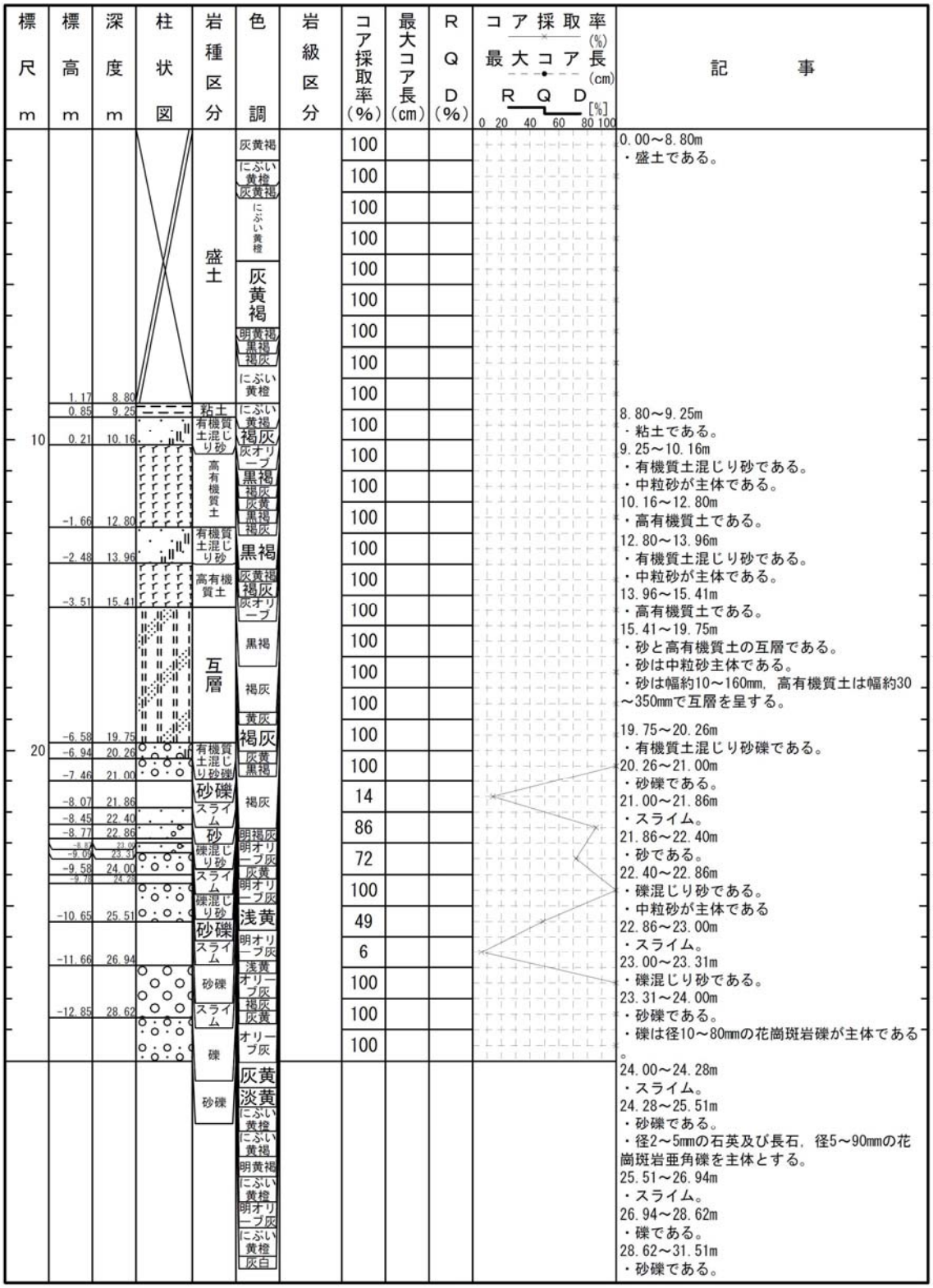


H24－B8－34

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B8-34

孔口標高	T.P. 7.39m	掘削長	72.00m



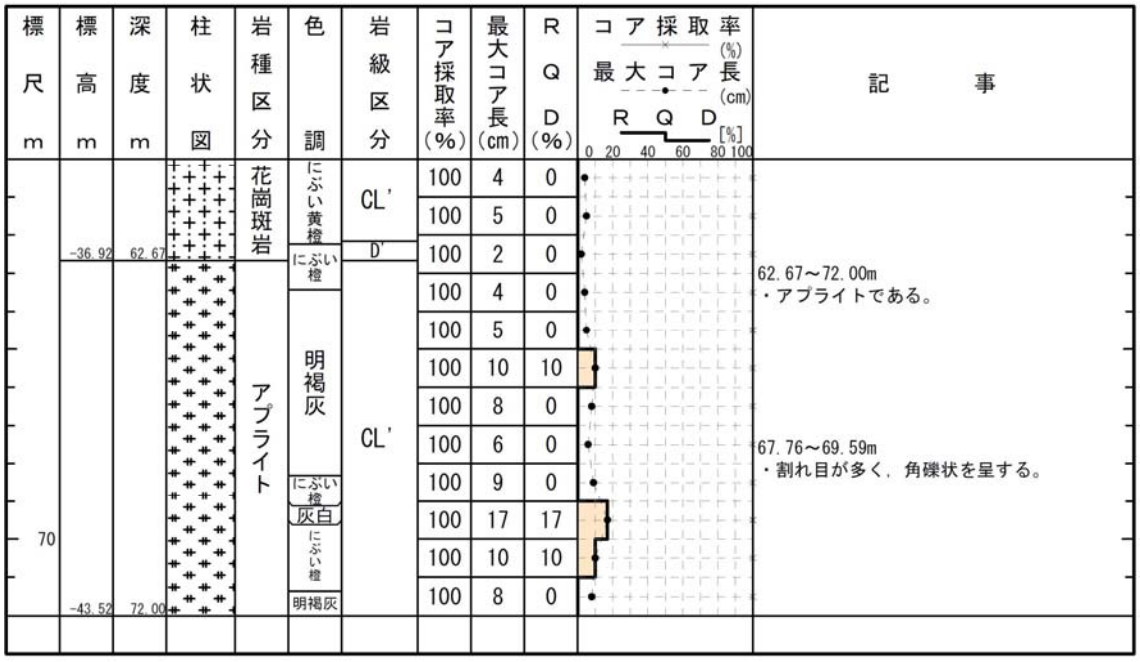
H24－B8－34

柱状図(30.00m～60.00m)



H24－B8－34

柱状図(60.00m～72.00m)

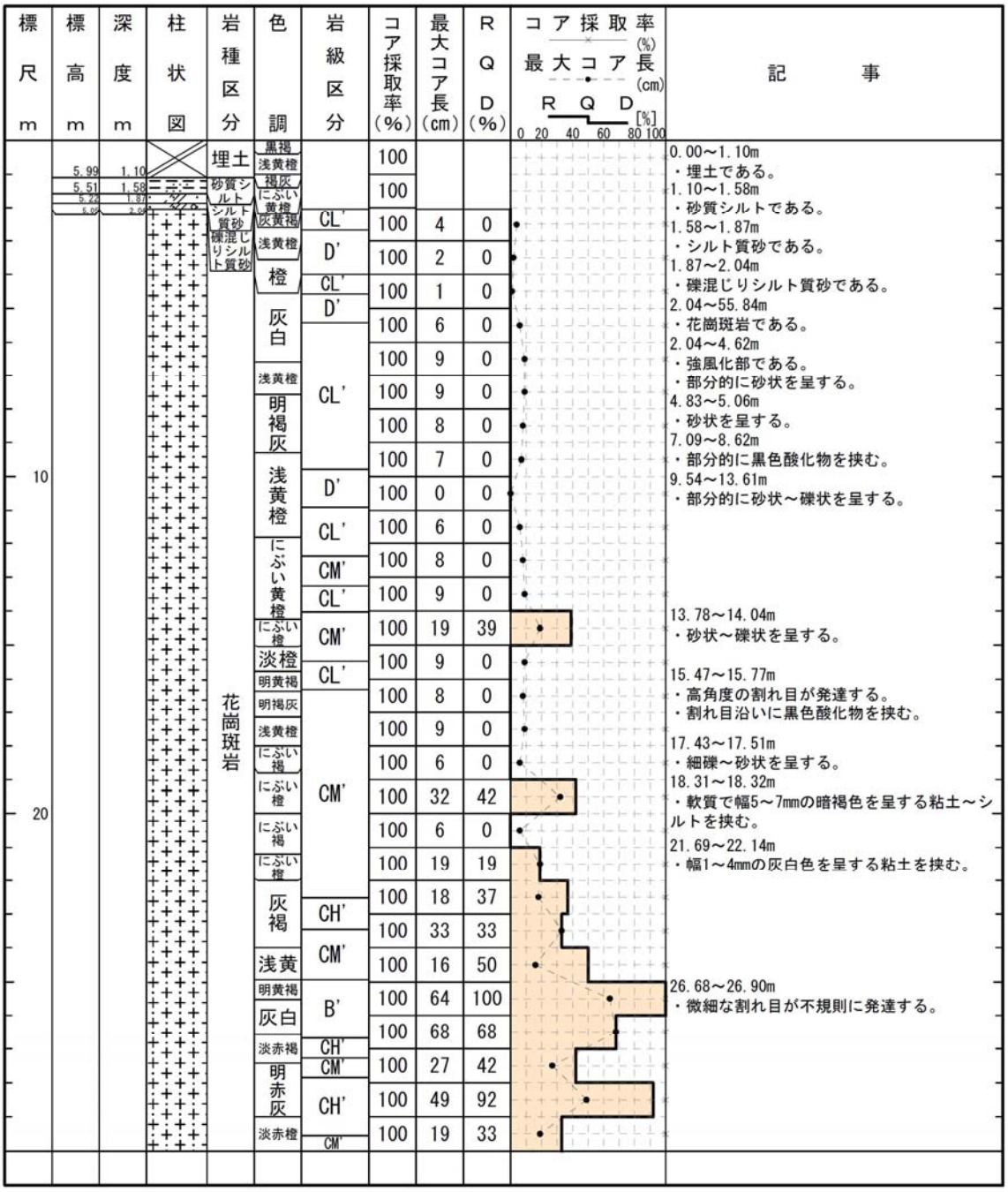


H27－Br－5

柱状図(0.00m～30.00m)

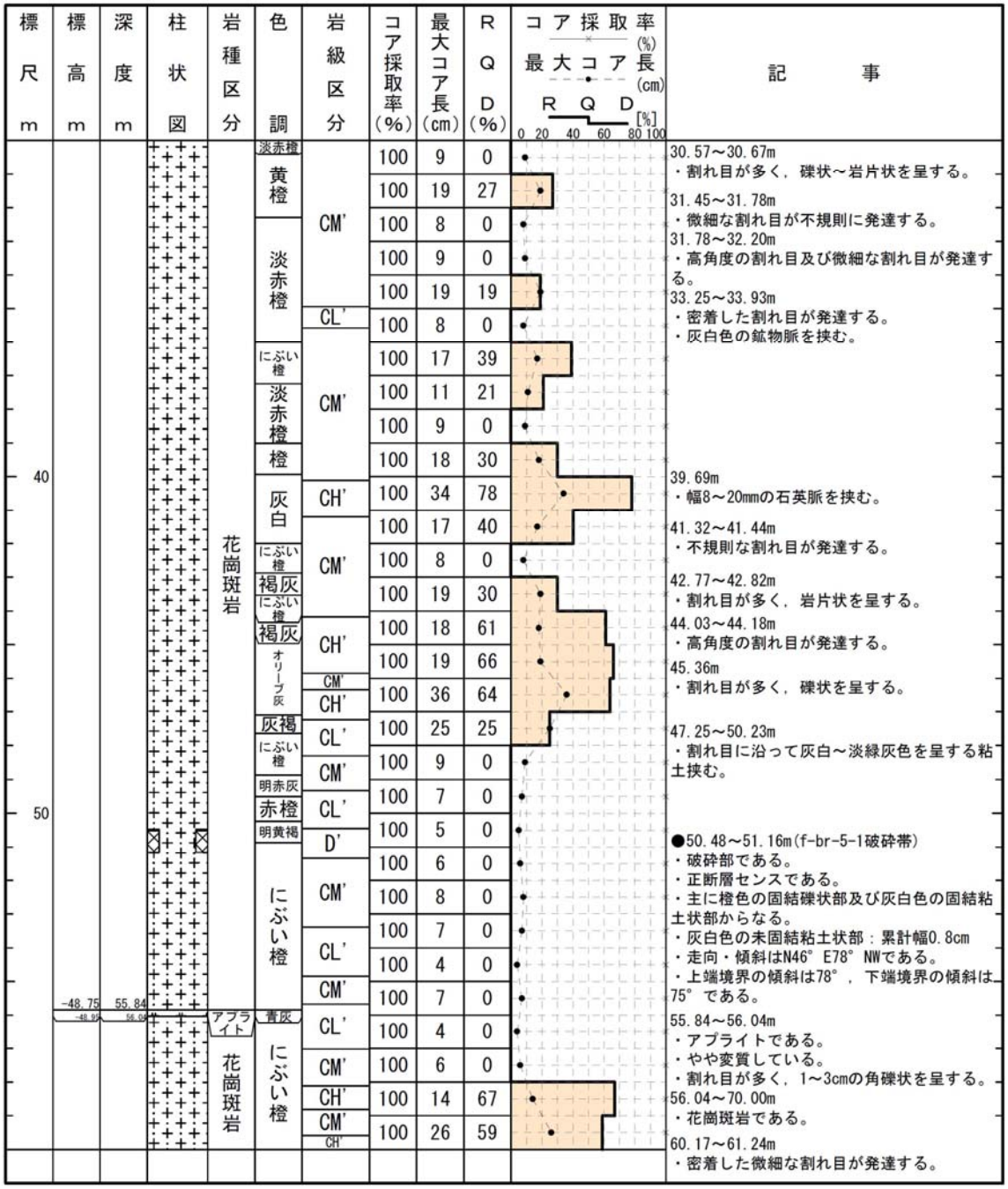
H27-Br-5

孔口標高	T.P. 7.09m	掘削長	70.00m



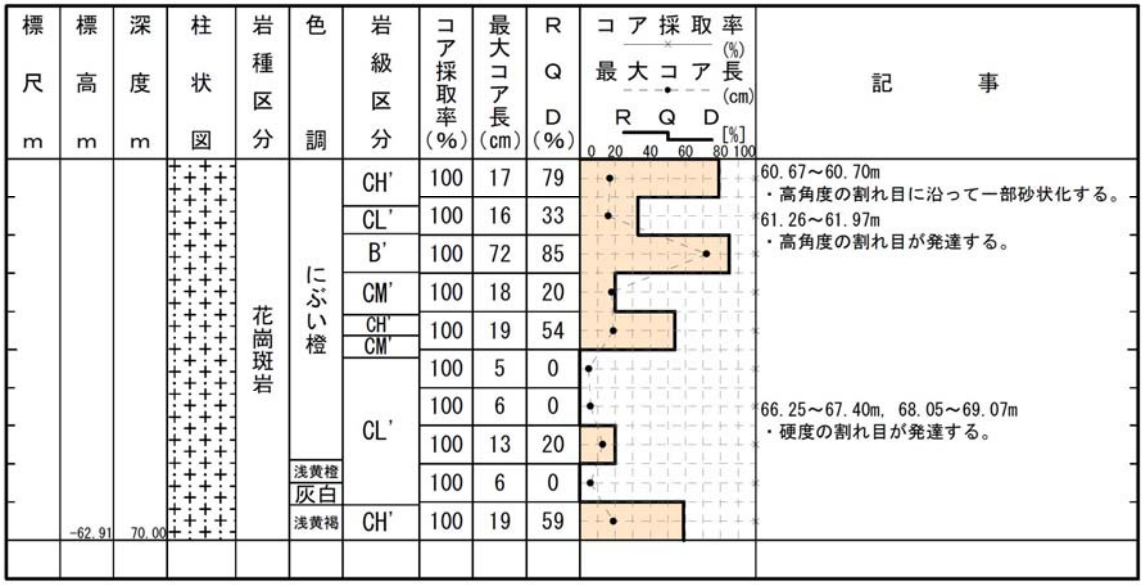
H27－Br－5

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－5

柱状図(60.00m～70.00m)



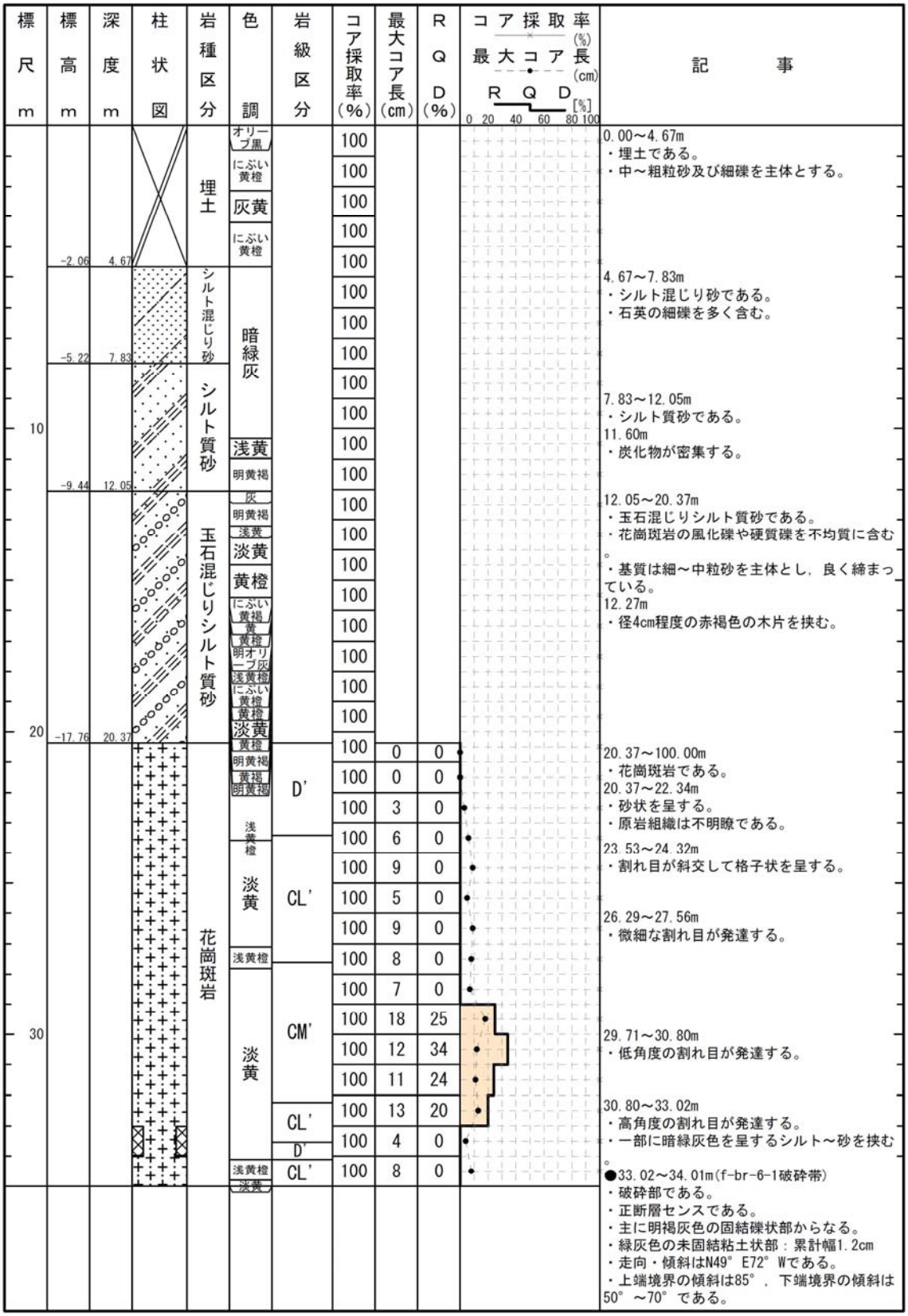
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	17	79		60.67～60.70m ・高角度の割れ目に沿って一部砂状化する。 61.26～61.97m ・高角度の割れ目が発達する。
						CL'	100	16	33		
						B'	100	72	85		
						CM'	100	18	20		
						CH'	100	19	54		
						CM'	100	5	0		
						CL'	100	6	0		66.25～67.40m, 68.05～69.07m ・硬度の割れ目が発達する。
							100	13	20		
					浅黄橙		100	6	0		
					灰白						
	-62.91	70.00			浅黄褐	CH'	100	19	59		

H27－Br－6

柱状図(0.00m～35.00m)

H27-Br-6

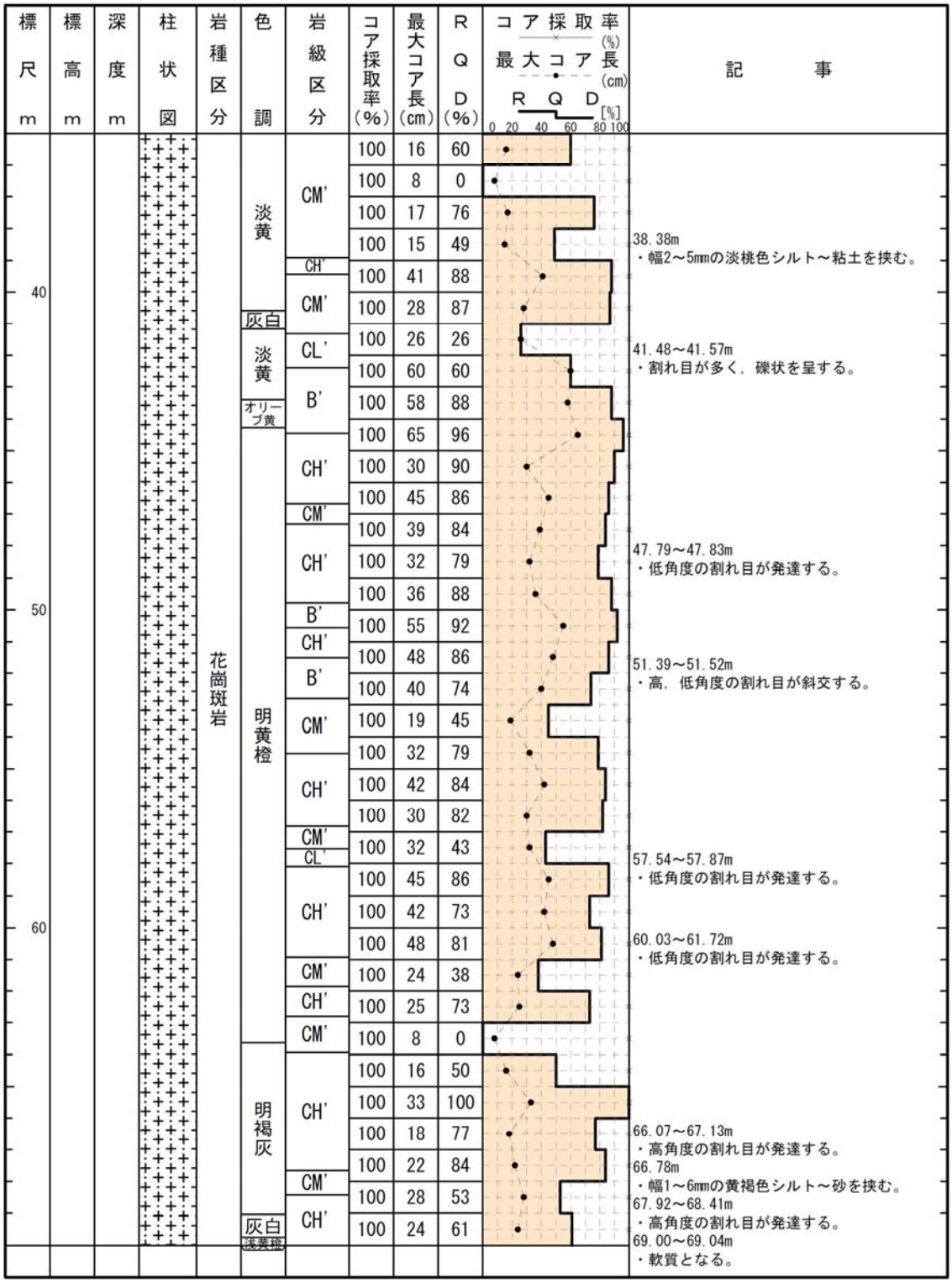
孔口標高	T.P. 2.61m	掘削長	100.00m



標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)
			埋土	オリーブ黒		100		
				にぶい黄橙		100		
				灰黄		100		
				にぶい黄橙		100		
	-2.06	4.67				100		
			シルト混じり砂	暗緑灰		100		
						100		
	-5.22	7.83				100		
			シルト質砂			100		
10						100		
				浅黄		100		
	-9.44	12.05		明黄褐		100		
			玉石混じりシルト質砂	灰		100		
				明黄褐		100		
				浅黄		100		
				淡黄		100		
				黄橙		100		
				にぶい黄褐		100		
				黄		100		
				黄橙		100		
				明オリーブ灰		100		
				浅黄橙		100		
				にぶい黄橙		100		
				黄橙		100		
				淡黄		100		
20	-17.76	20.37		黄橙		100	0	0
				明黄褐		100	0	0
				黄褐	D'	100	3	0
				明黄褐		100	6	0
				浅黄橙		100	9	0
			花崗斑岩	淡黄	CL'	100	5	0
						100	9	0
				浅黄橙		100	8	0
						100	7	0
					CM'	100	18	25
30				淡黄		100	12	34
						100	11	24
						100	13	20
					CL'	100	4	0
					D'			
				浅黄橙	CL'	100	8	0
				淡黄				

H27－Br－6

柱状図(35.00m～70.00m)

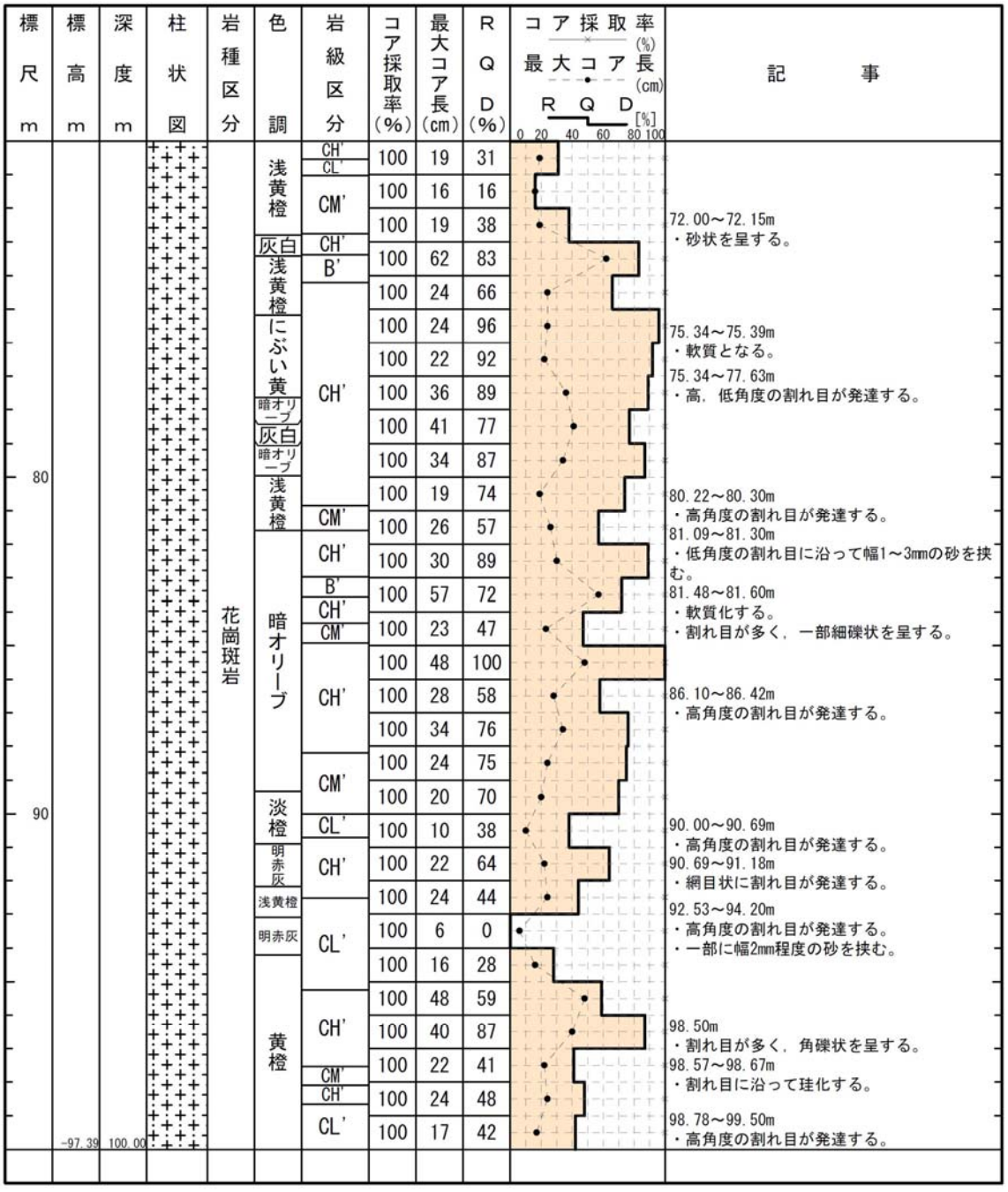


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
				花崗斑岩	淡黄	CM'	100	16	60
							100	8	0
							100	17	76
							100	15	49
						CH'	100	41	88
40						CM'	100	28	87
					灰白				
					淡黄	CL'	100	26	26
						B'	100	60	60
					オリーブ黄		100	58	88
							100	65	96
						CH'	100	30	90
							100	45	86
						CM'			
							100	39	84
						CH'	100	32	79
							100	36	88
50						B'	100	55	92
						CH'	100	48	86
						B'	100	40	74
					明黄橙	CM'	100	19	45
							100	32	79
						CH'	100	42	84
							100	30	82
						CM'	100	32	43
						CL'			
						CH'	100	45	86
							100	42	73
60							100	48	81
						CM'	100	24	38
						CH'	100	25	73
						CM'	100	8	0
					明褐灰	CH'	100	16	50
							100	33	100
							100	18	77
							100	22	84
						CM'	100	28	53
					灰白	CH'	100	24	61
					浅黄橙				

記事
38.38m ・幅2～5mmの淡桃色シルト～粘土を挟む。
41.48～41.57m ・割れ目が多く，礫状を呈する。
47.79～47.83m ・低角度の割れ目が発達する。
51.39～51.52m ・高，低角度の割れ目が斜交する。
57.54～57.87m ・低角度の割れ目が発達する。
60.03～61.72m ・低角度の割れ目が発達する。
66.07～67.13m ・高角度の割れ目が発達する。
66.78m ・幅1～6mmの黄褐色シルト～砂を挟む。
67.92～68.41m ・高角度の割れ目が発達する。
69.00～69.04m ・軟質となる。

H27－Br－6

柱状図(70.00m～100.00m)

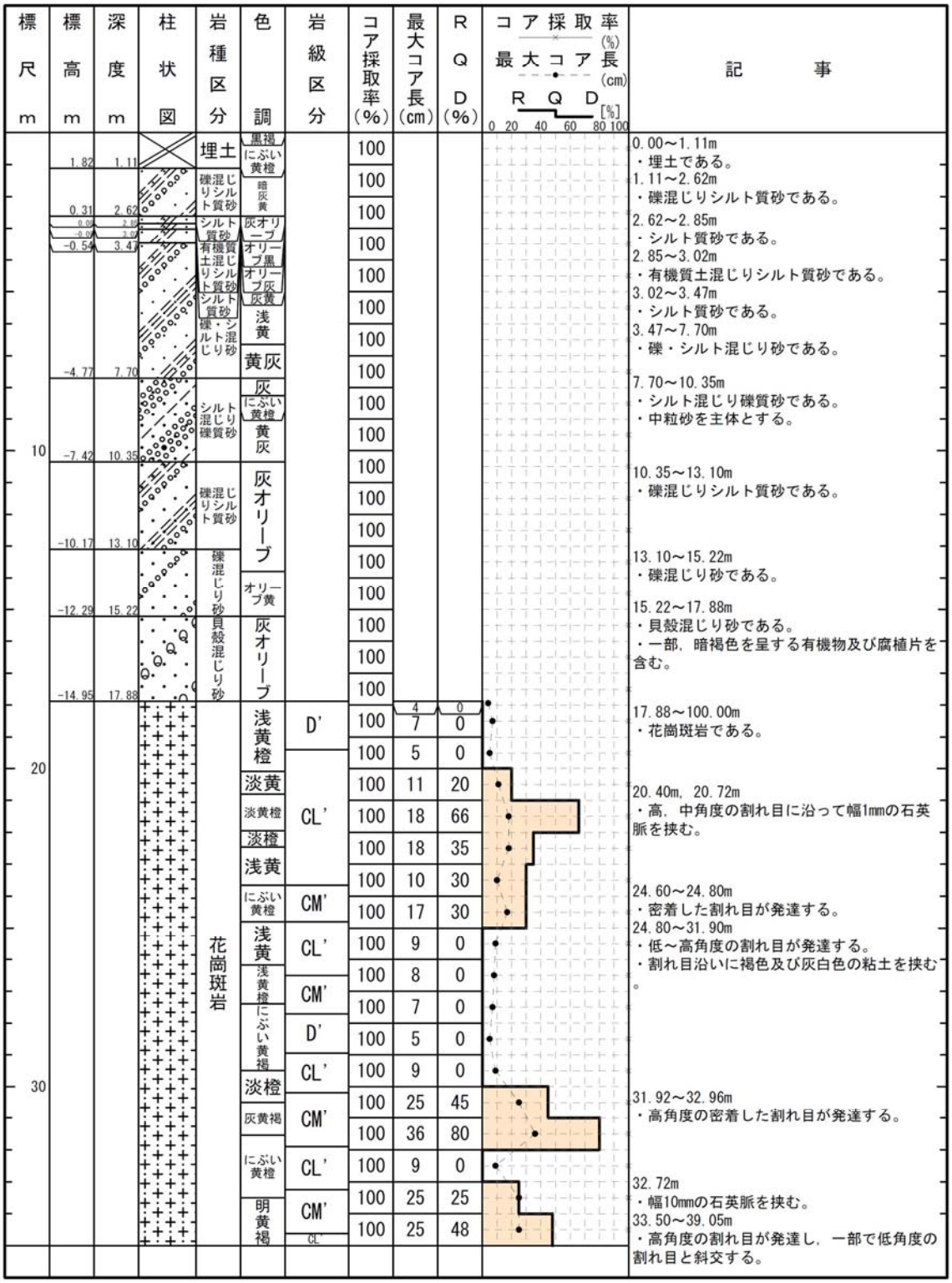


H27－Br－12

柱状図(0.00m～35.00m)

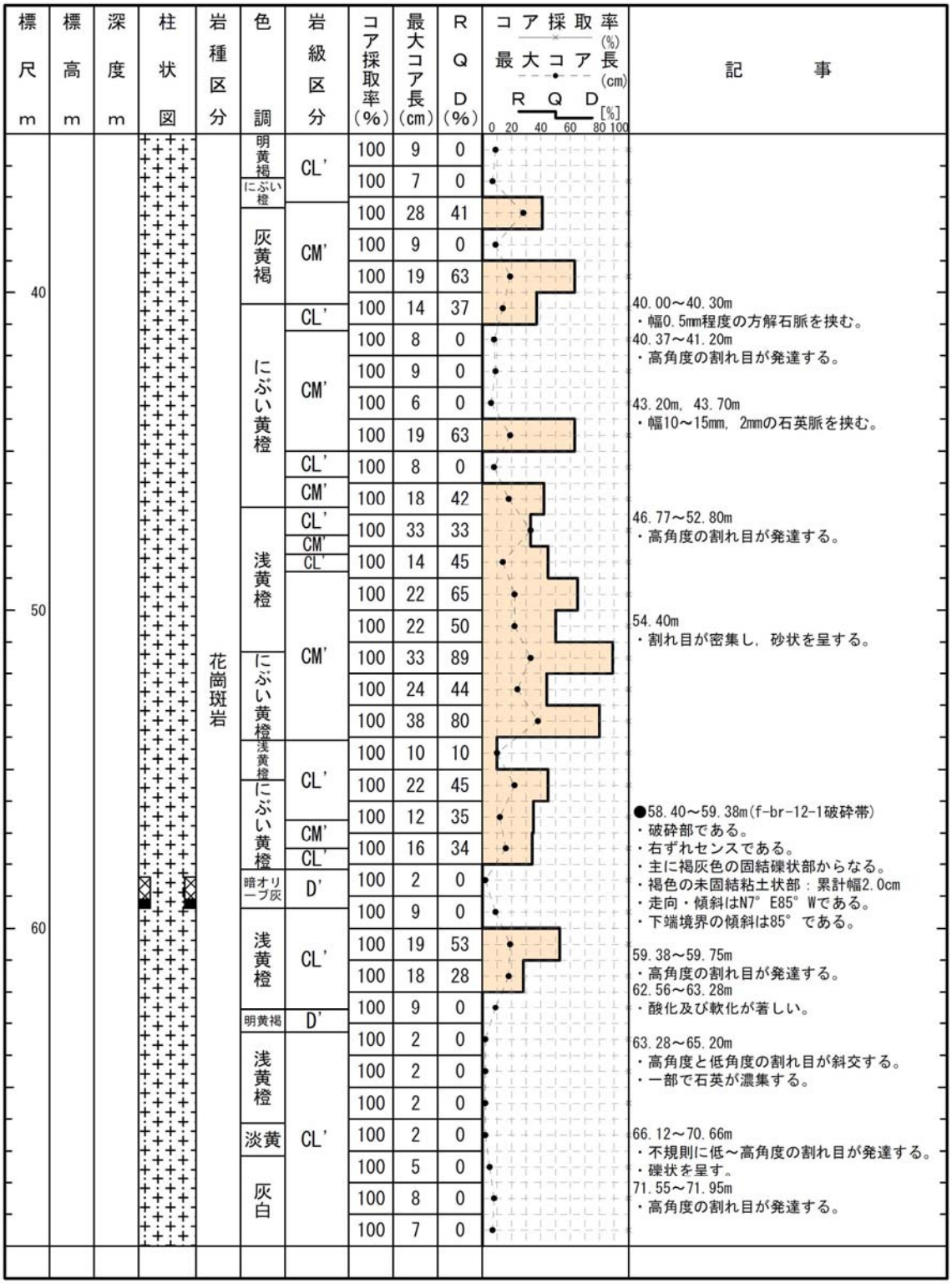
H27-Br-12

孔口標高	T.P. 2.93m	掘削長	100.00m



H27－Br－12

柱状図(35.00m～70.00m)



H27－Br－12

柱状図(70.00m～100.00m)

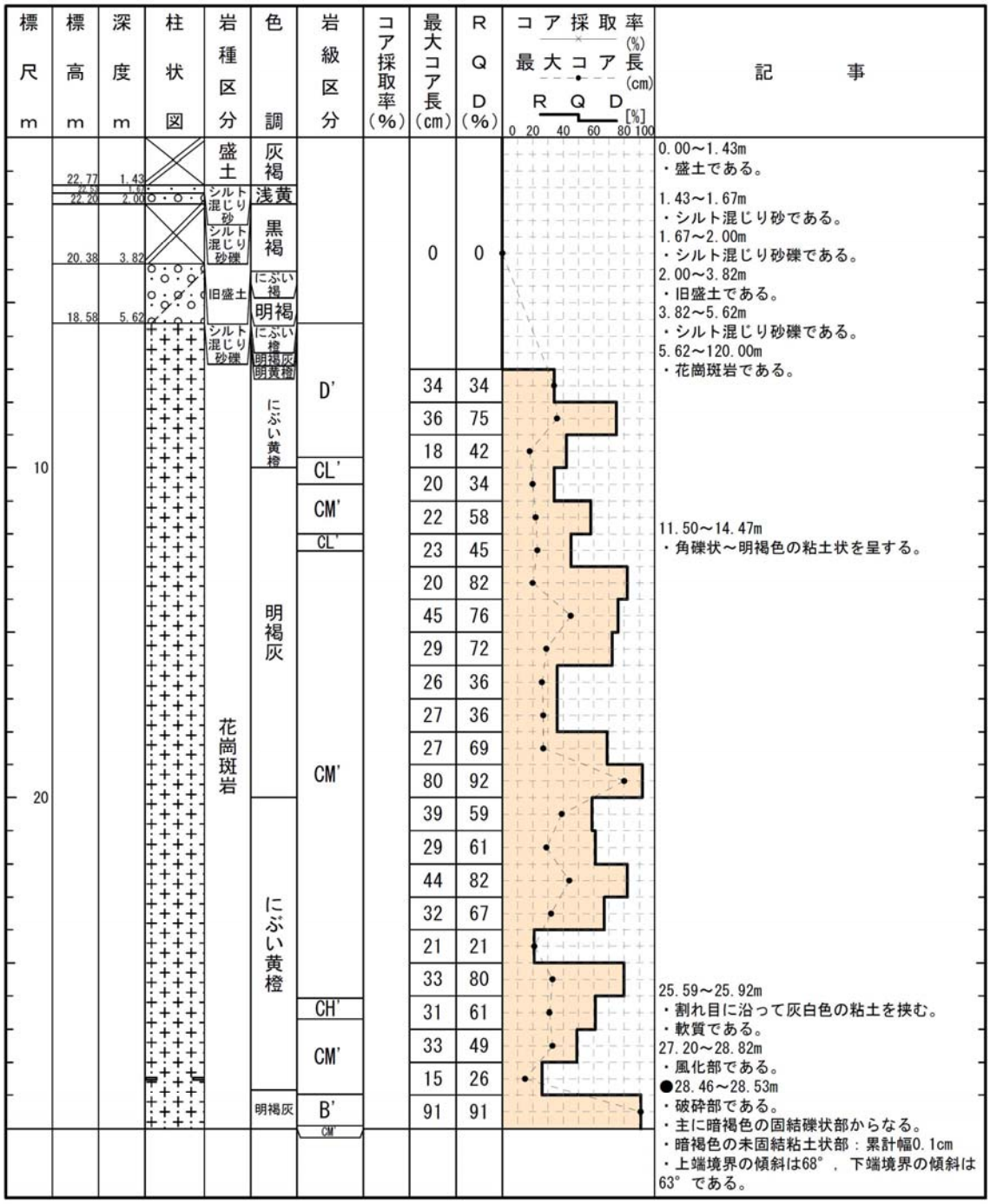


H19－No. 10

柱状図(0.00m～30.00m)

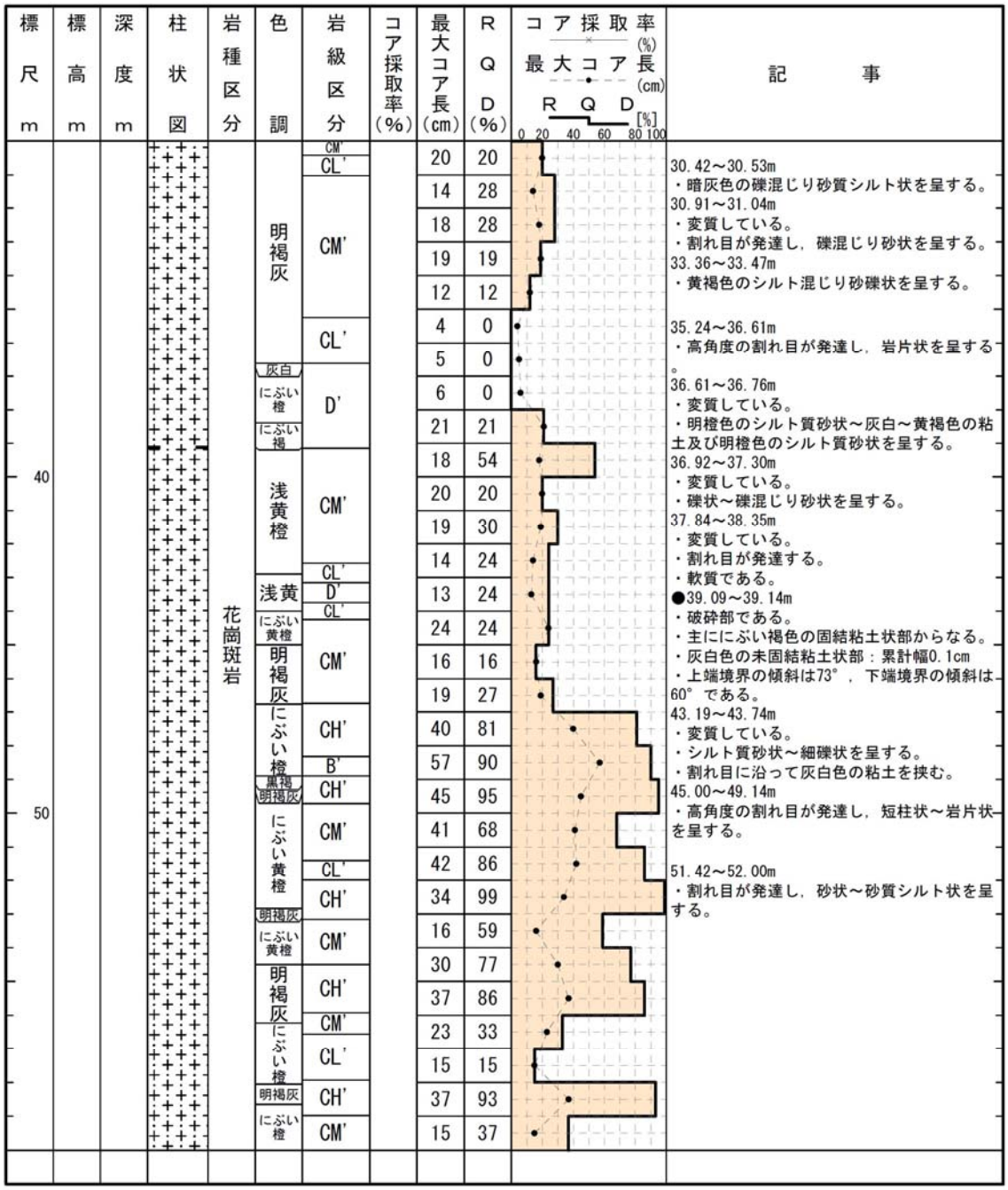
H19-No. 10

孔口標高	T.P. 24.20m	掘削長	120.00m



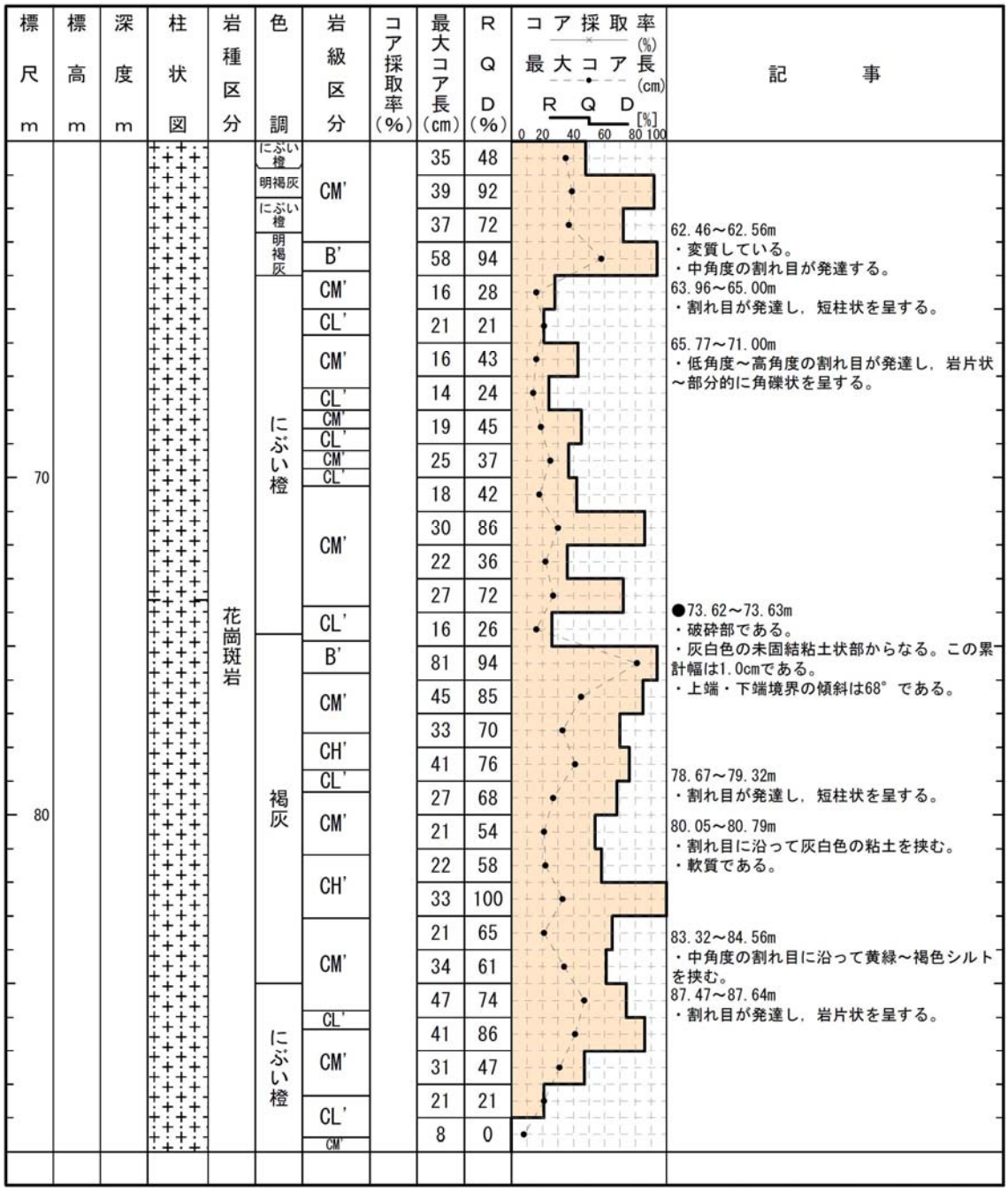
H19－No. 10

柱状図(30.00m～60.00m)



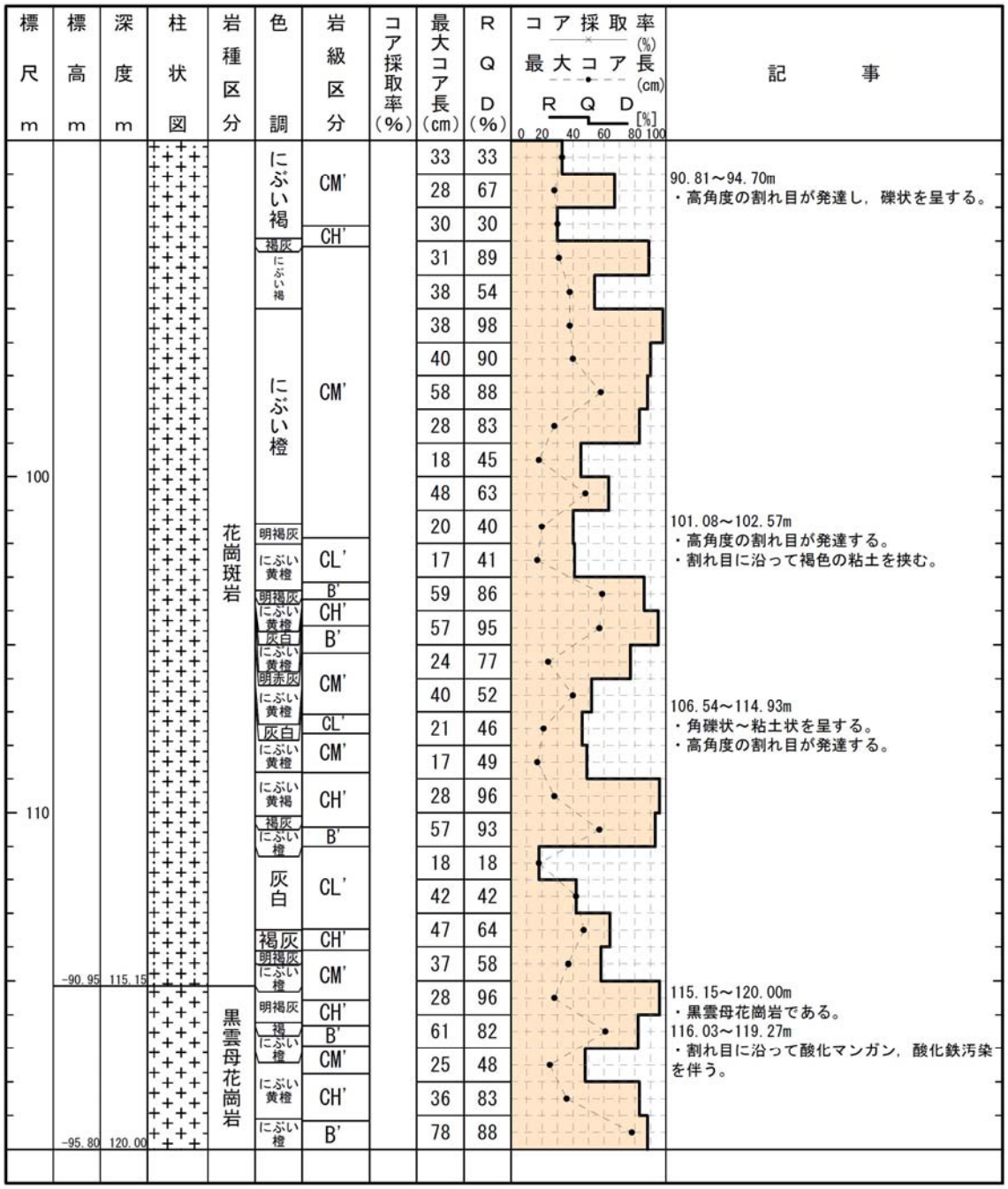
H19－No. 10

柱状図(60.00m～90.00m)



H19－No. 10

柱状図(90.00m～120.00m)

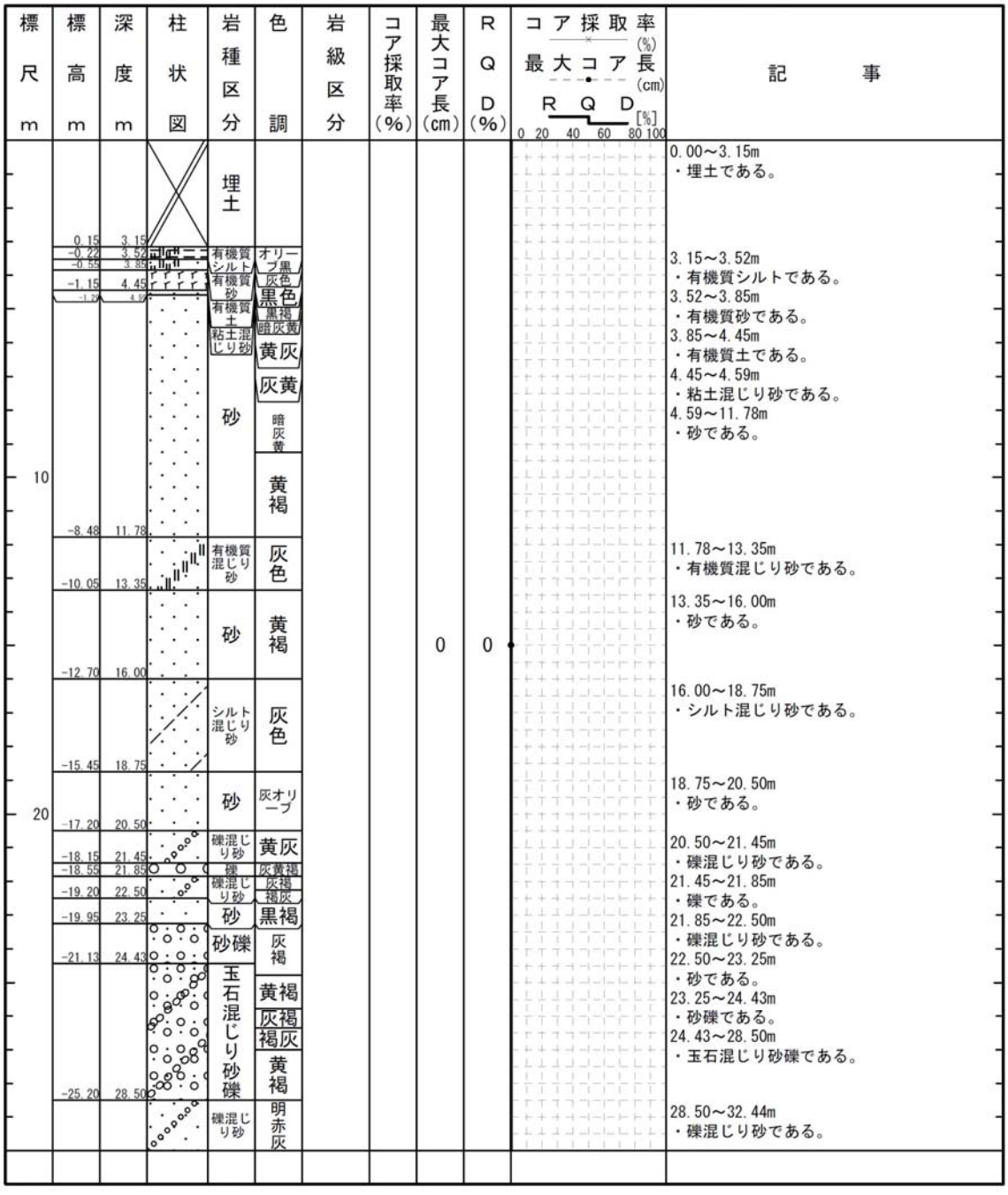


H19－No. 5

柱状図(0.00m～30.00m)

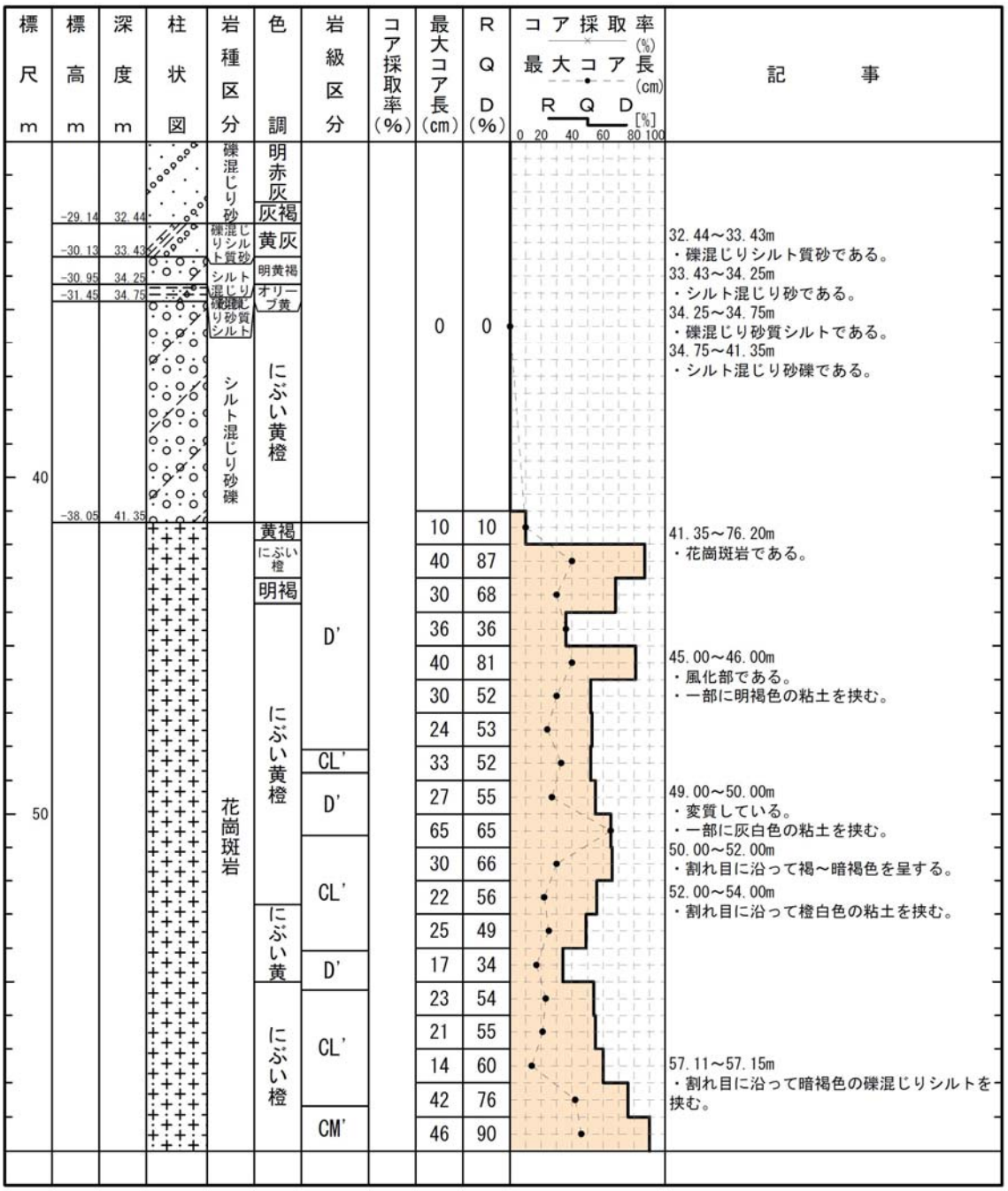
H19-No. 5

孔口標高	T.P. 3.30m	掘削長	150.00m



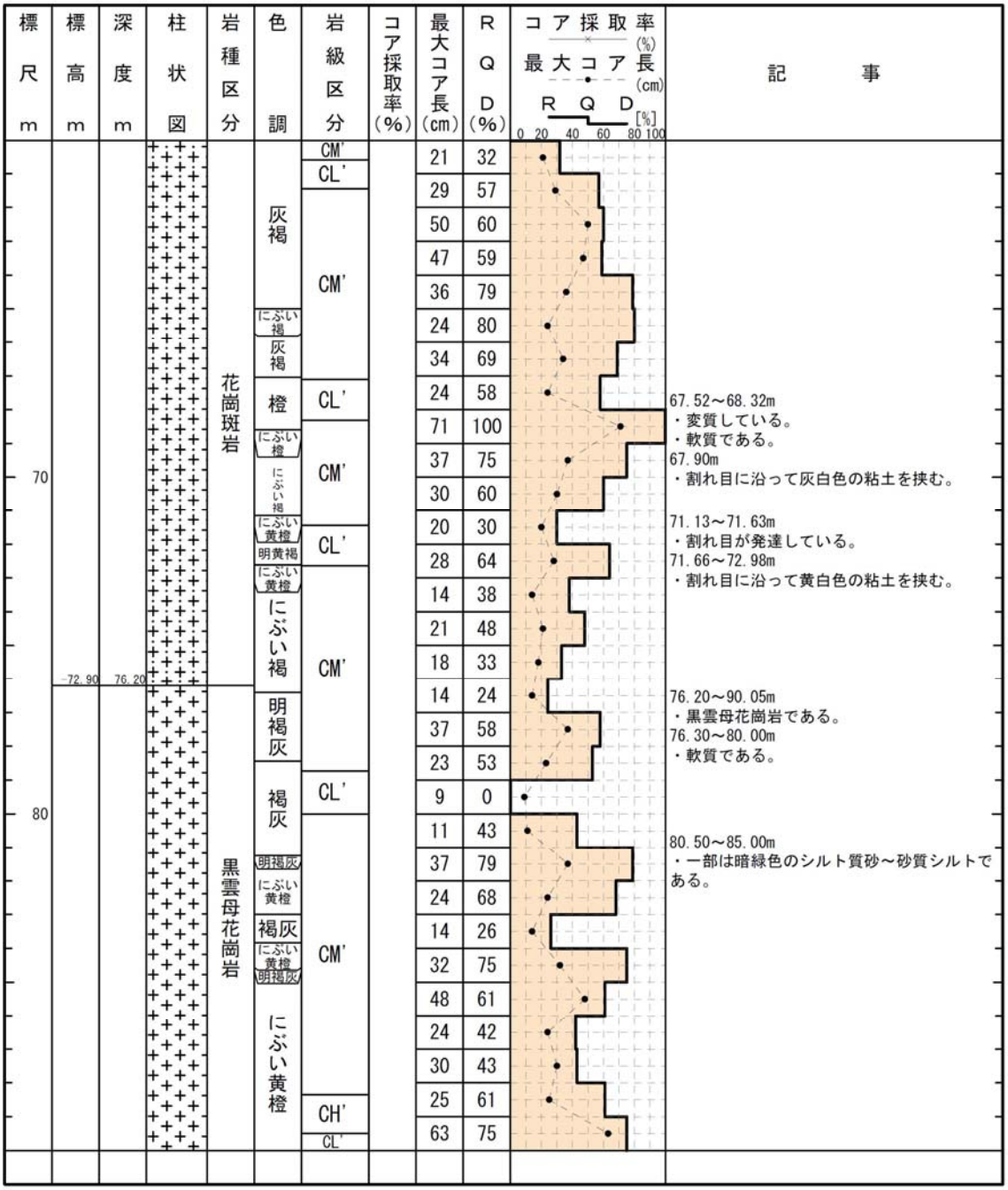
H19－No. 5

柱状図(30.00m～60.00m)



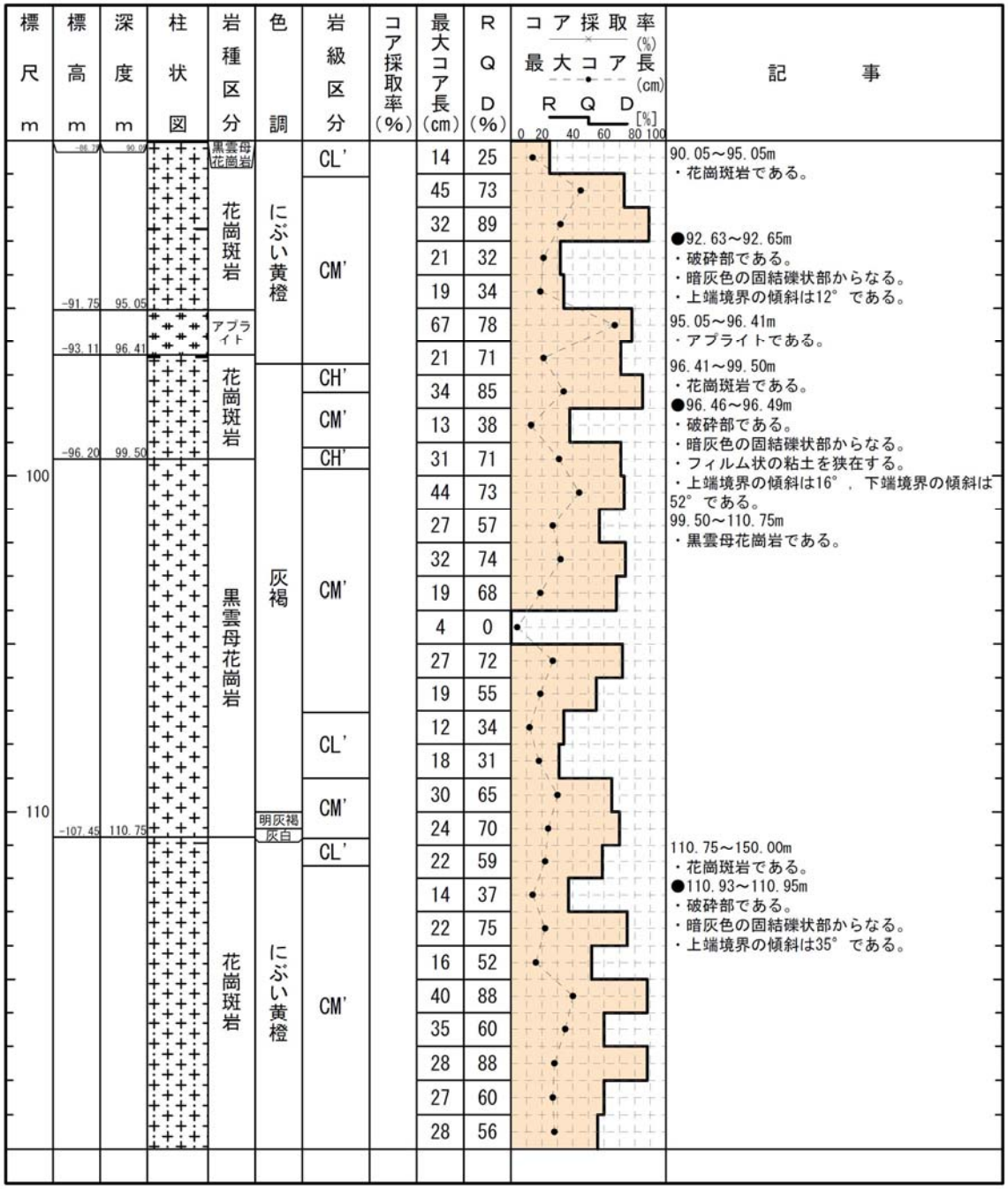
H19－No. 5

柱状図(60.00m～90.00m)



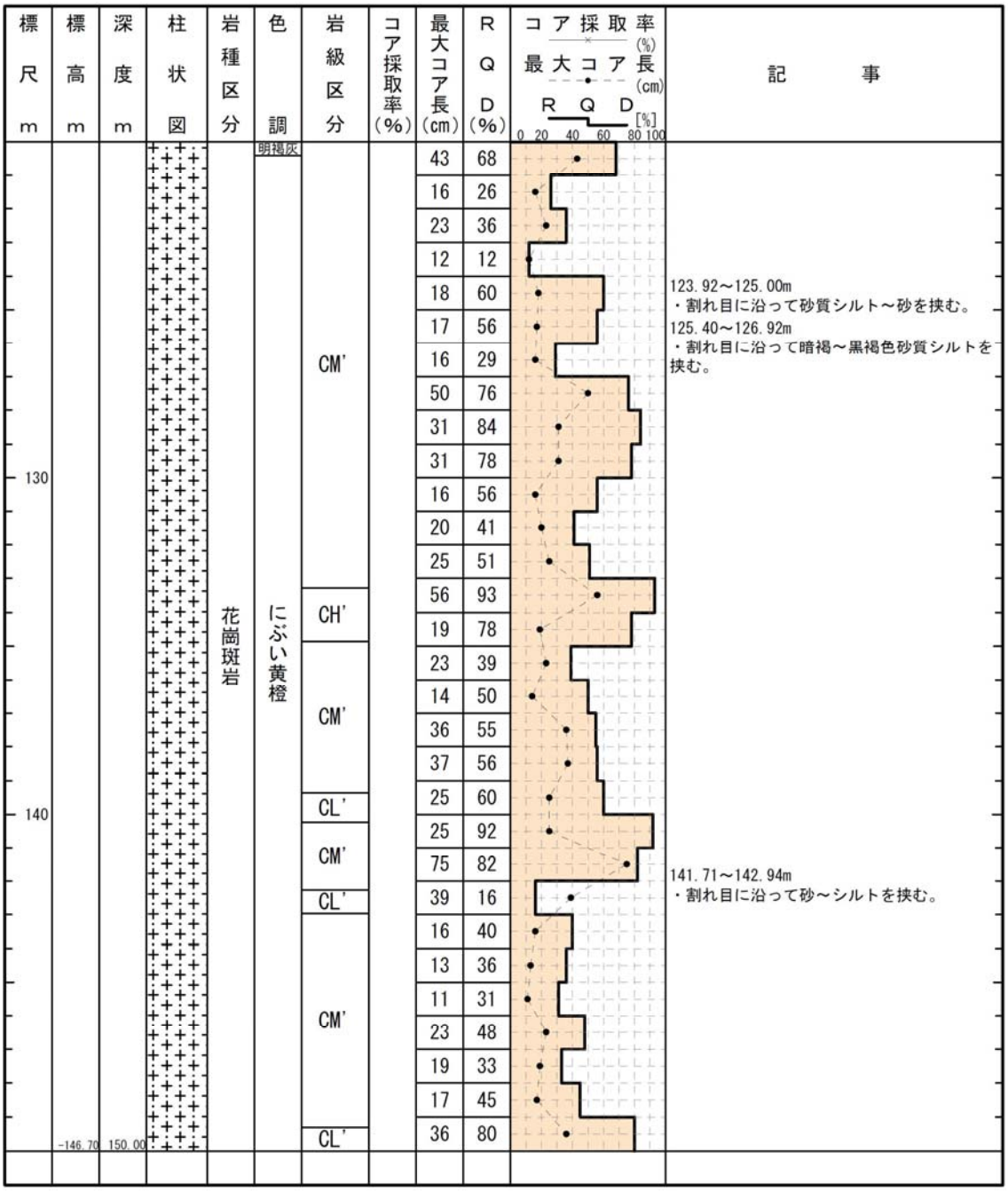
H19－No. 5

柱状図(90.00m～120.00m)



H19－No. 5

柱状図(120.00m～150.00m)

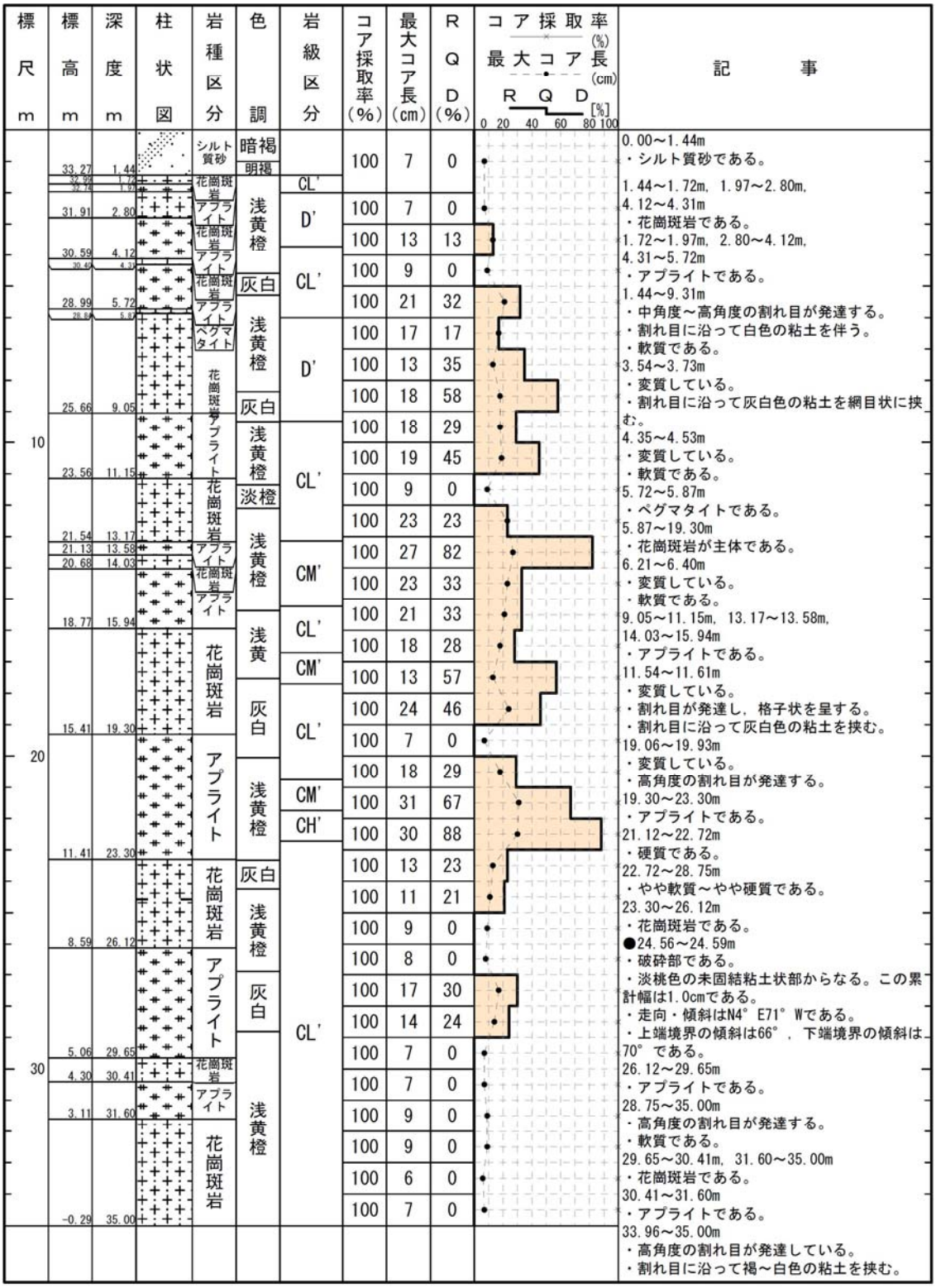


H20－④－4

柱状図(0.00m～35.00m)

H20-④-4

孔口標高	T.P. 34.71m	掘削長	35.00m

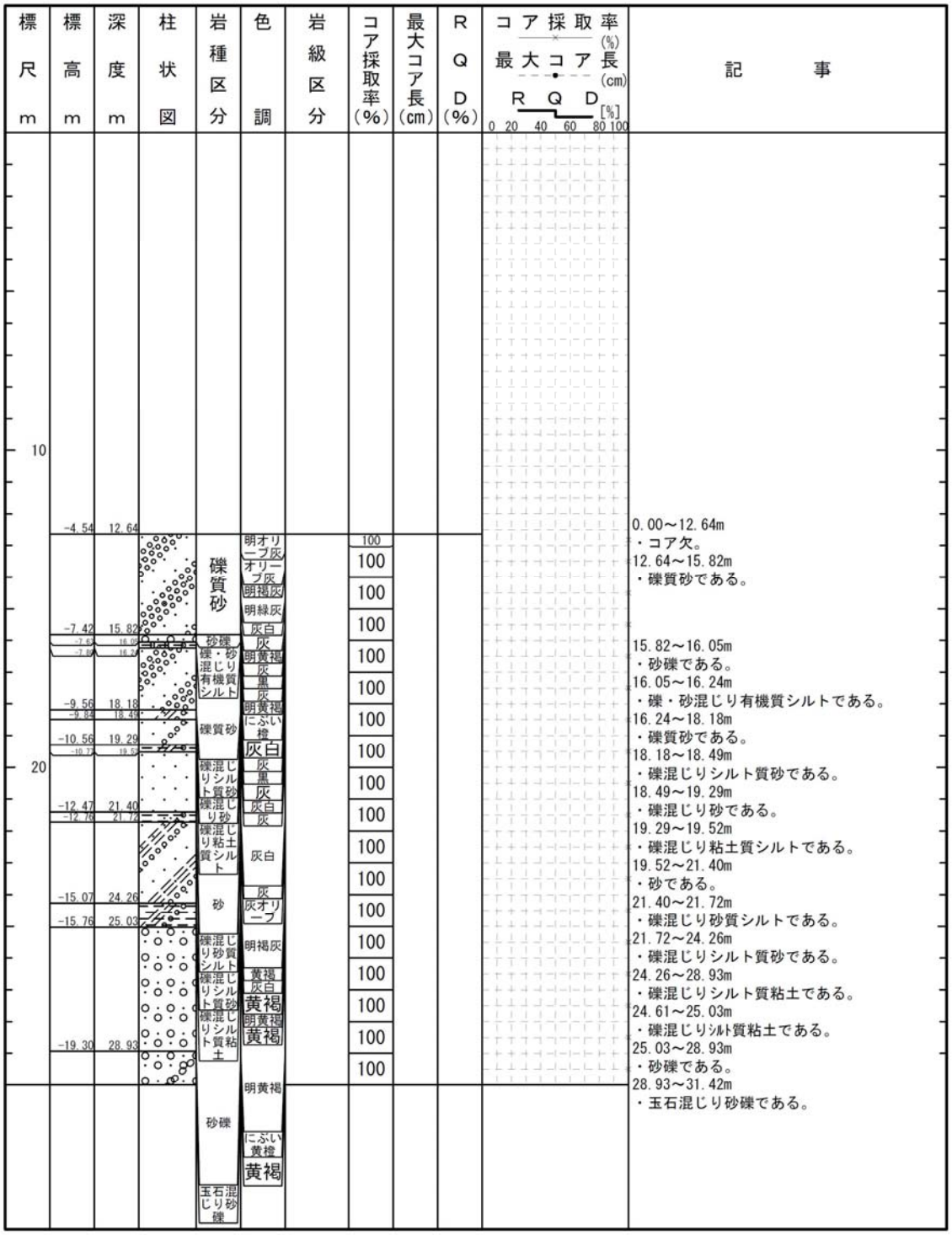


H24－B8－15

柱状図(0.00m～30.00m)

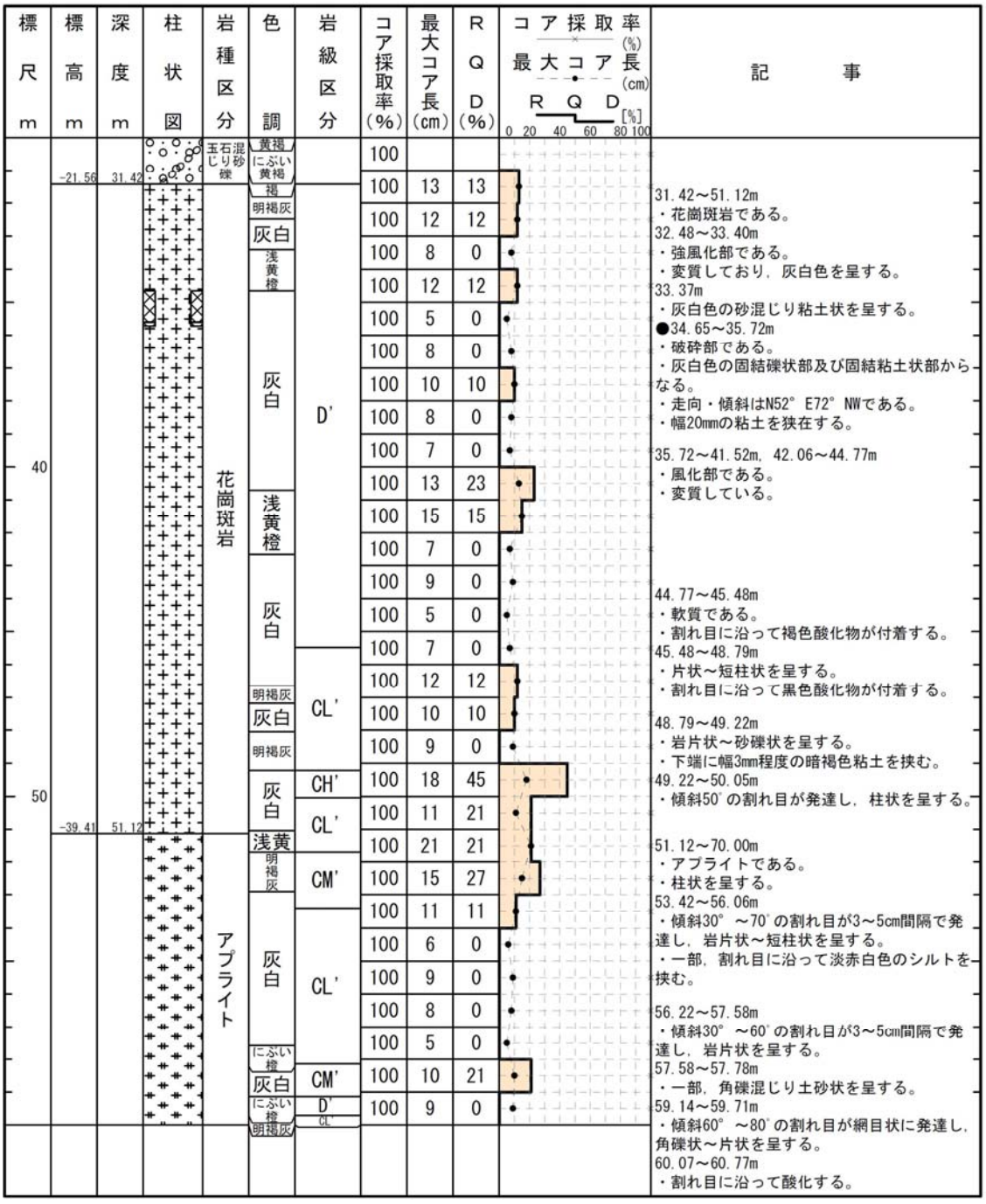
H24-B8-15

孔口標高	T.P. 6.92m	掘削長	70.00m



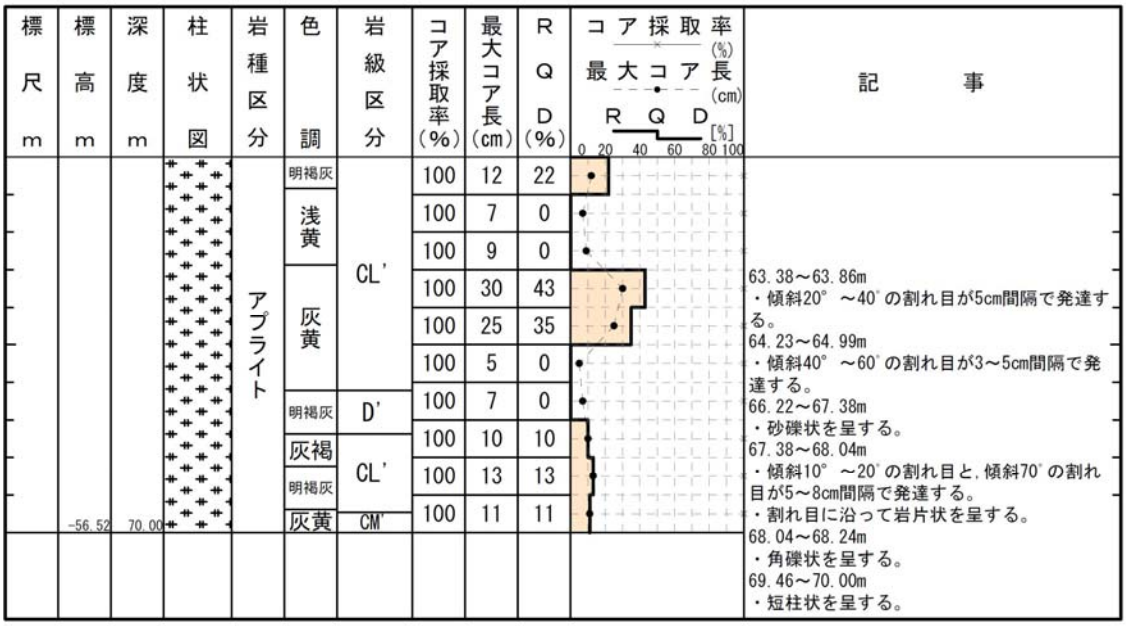
H24－B8－15

柱状図(30.00m～60.00m)



H24－B8－15

柱状図(60.00m～70.00m)



H24－B8－27

柱状図(0.00m～35.00m)

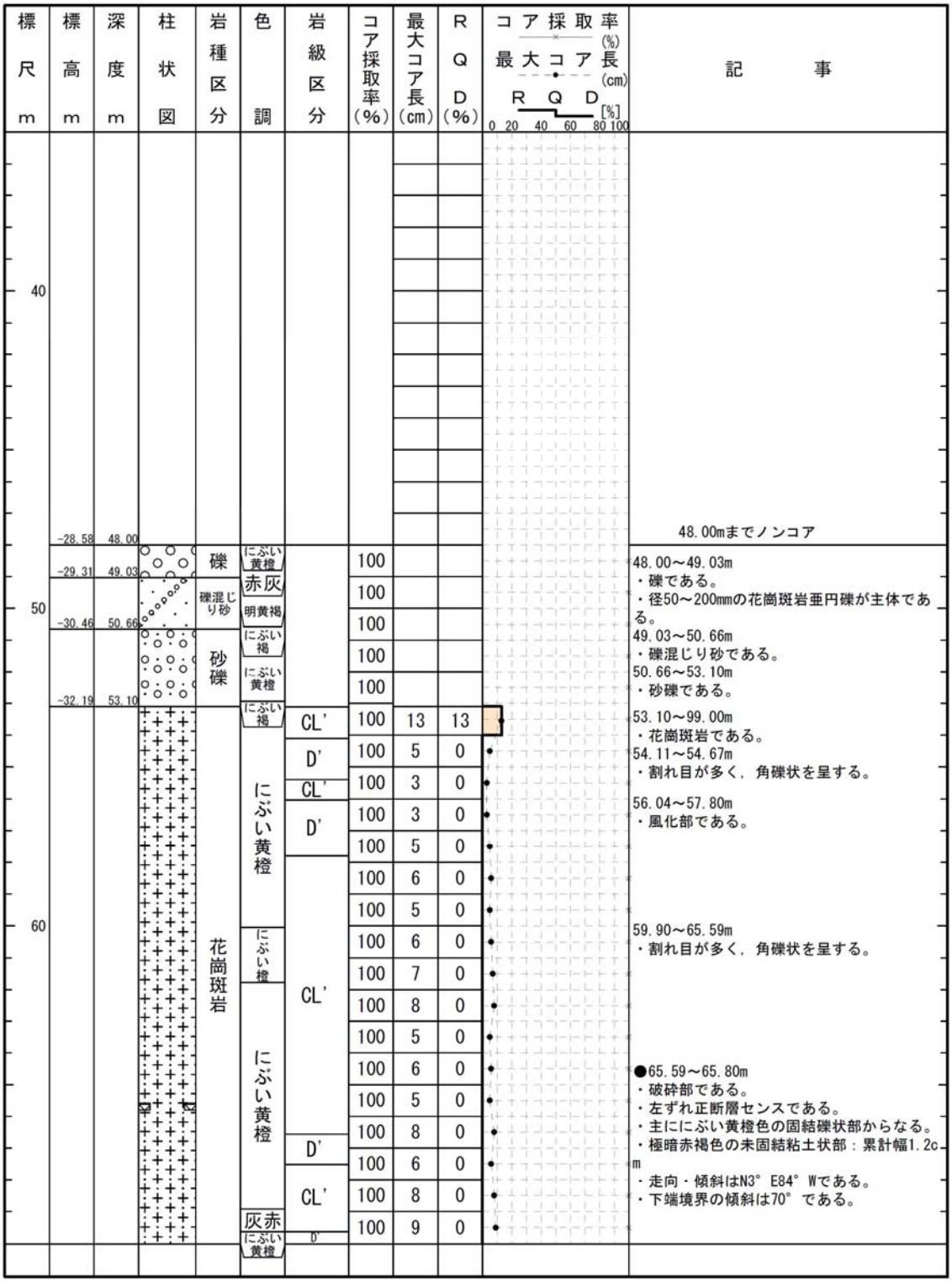
H24-B8-27

孔口標高	T.P. 5.36m	掘削長	99.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
10											48.00mまでノンコア
20											
30											

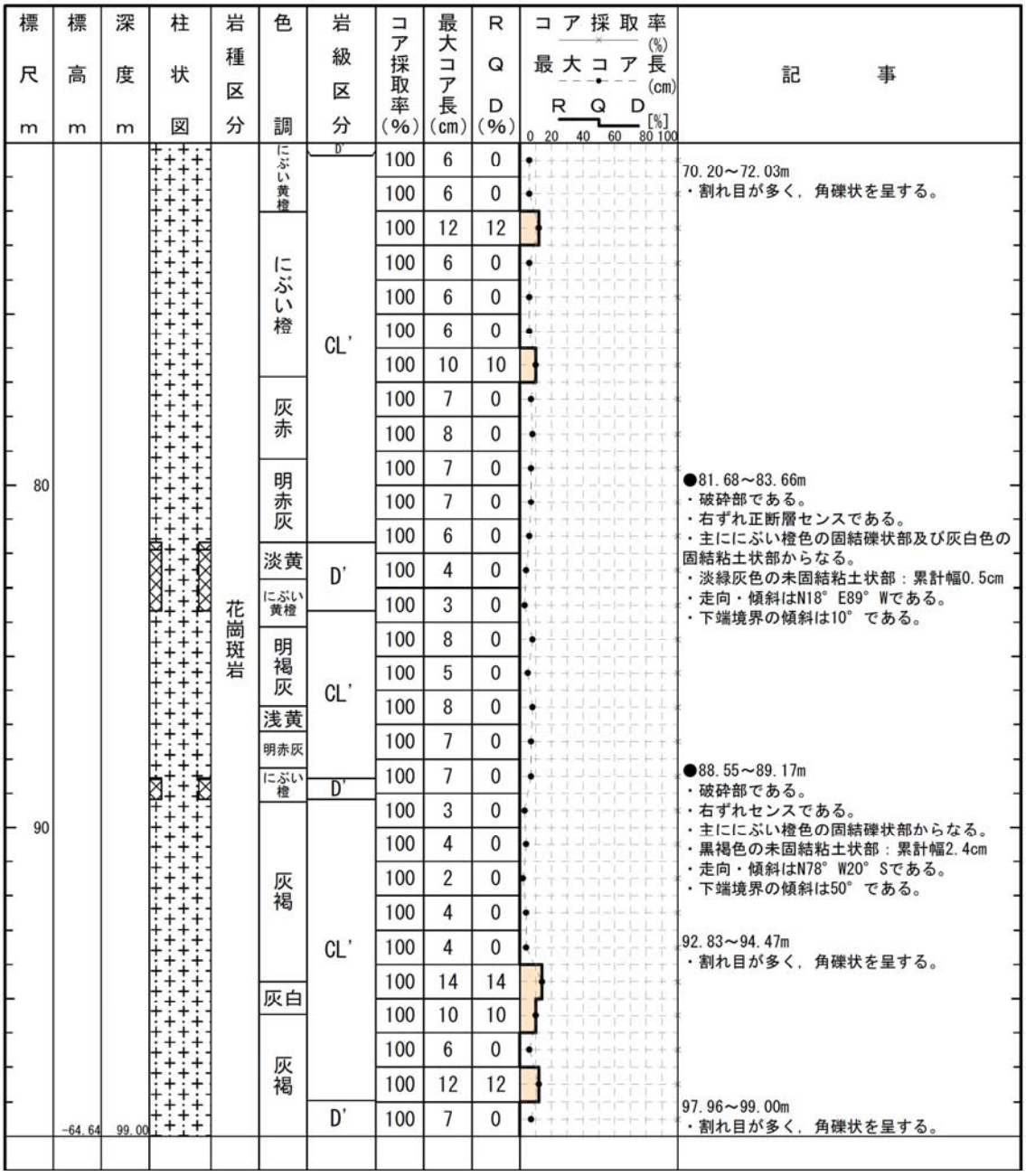
H24－B8－27

柱状図(35.00m～70.00m)



H24－B8－27

柱状図(70.00m～99.00m)

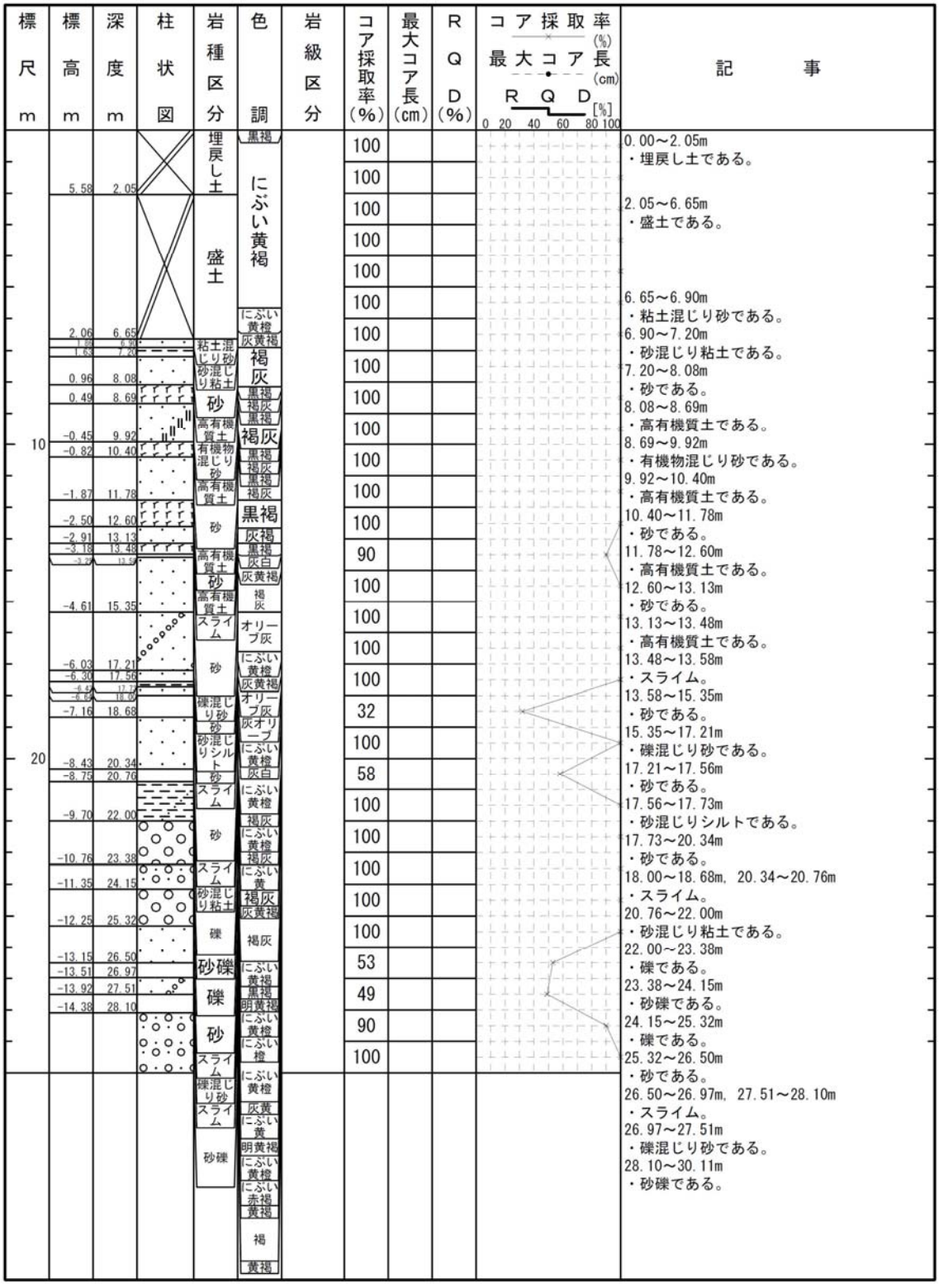


H24－B8－35

柱状図(0.00m～30.00m)

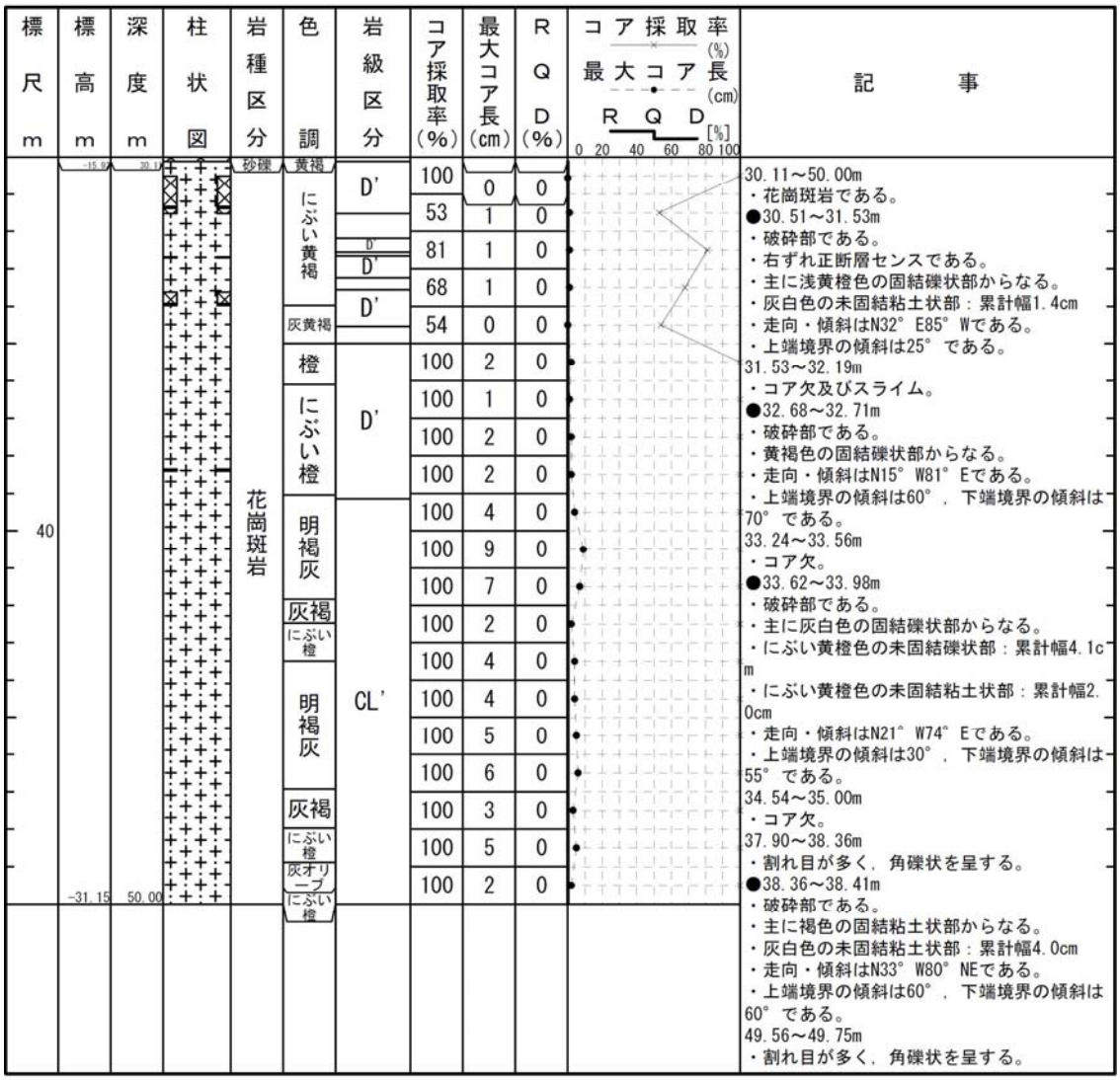
H24-B8-35

孔口標高	T.P. 7.15m	掘削長	50.00m



H24－B8－35

柱状図(30.00m～50.00m)

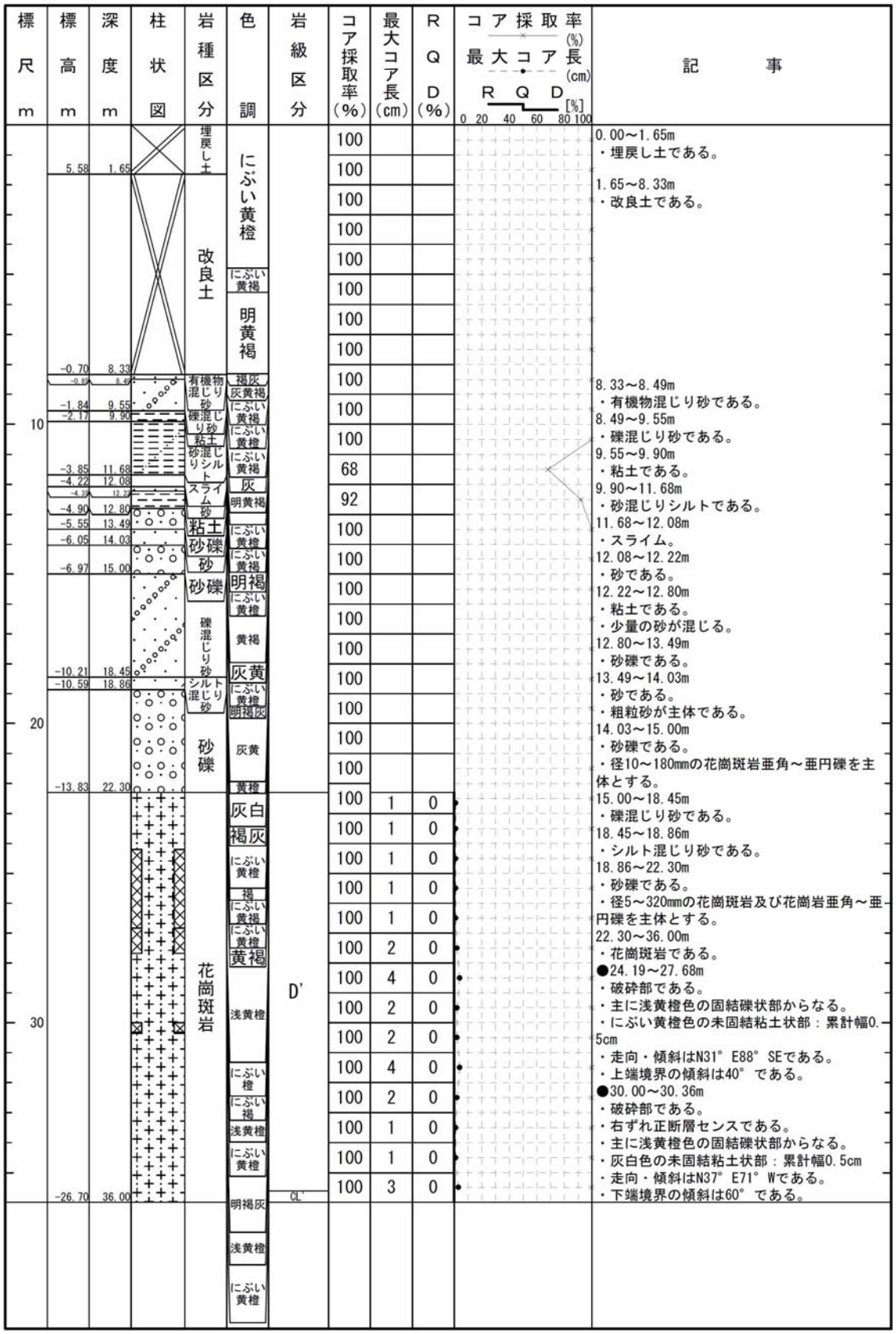


H24－B8－36

柱状図(0.00m～36.00m)

H24-B8-36

孔口標高	T.P. 7.13m	掘削長	36.00m



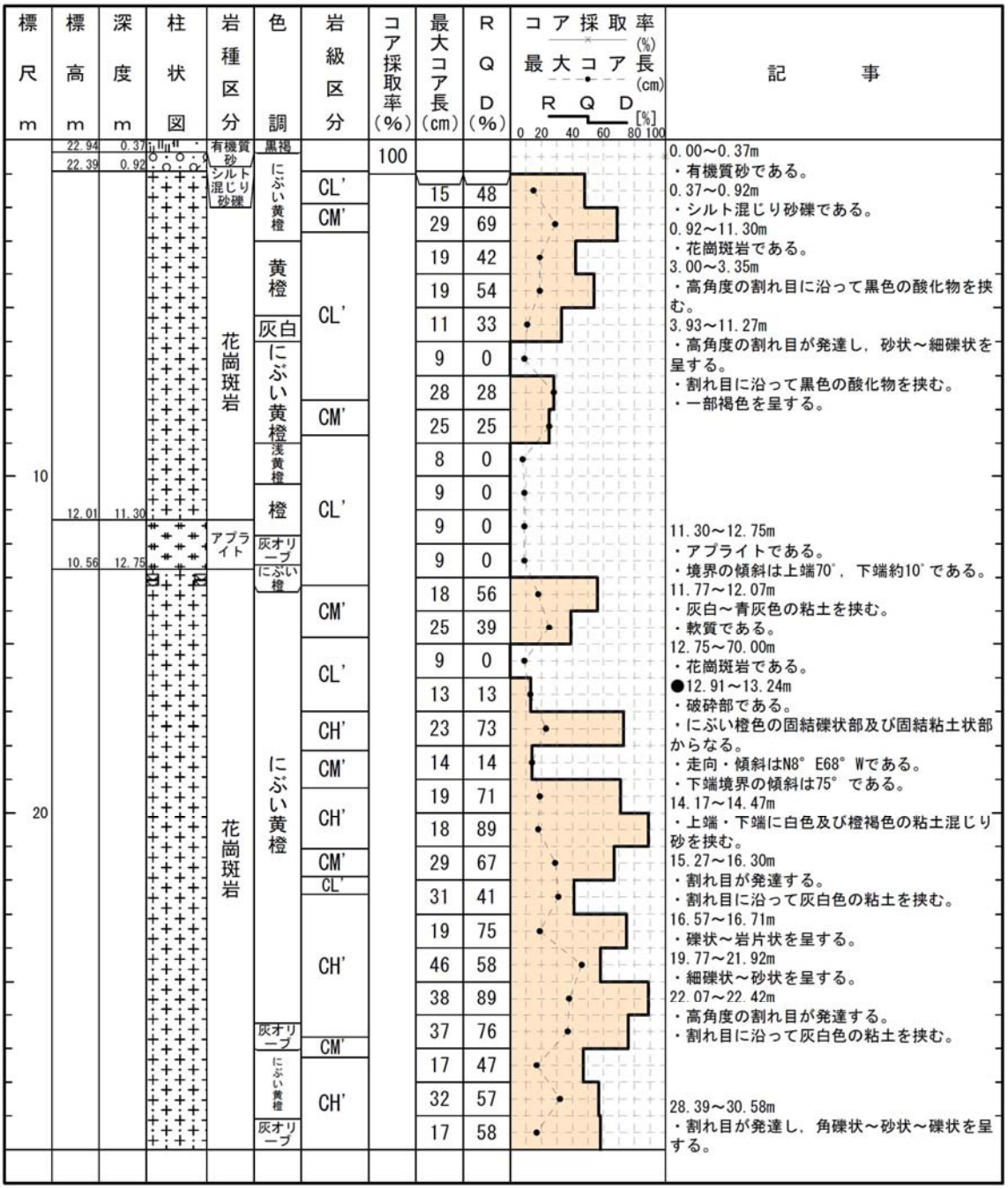
参考3-875

H27－Br－4

柱状図(0.00m～30.00m)

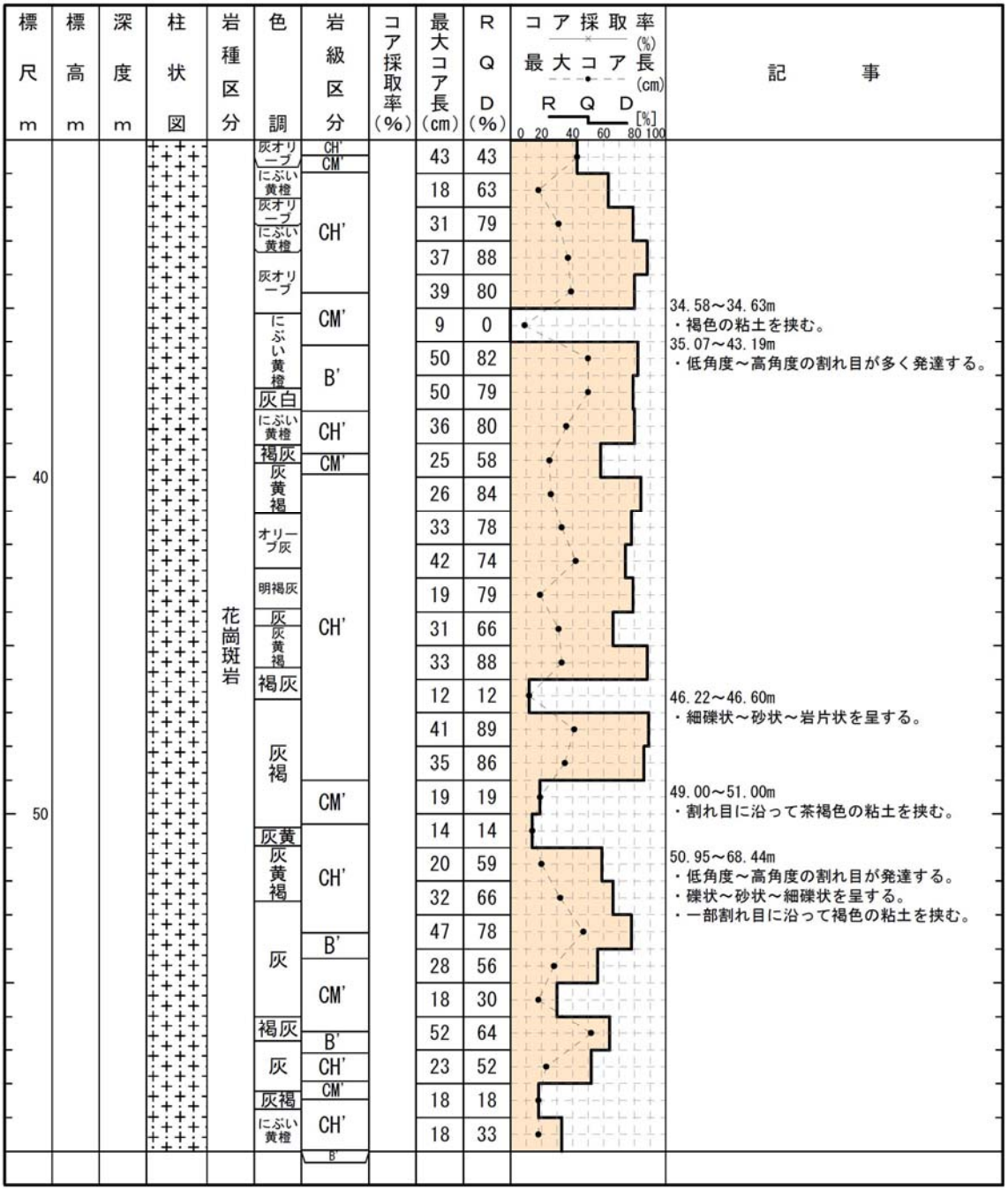
H27-Br-4

孔口標高	T.P. 23.31m	掘削長	70.00m



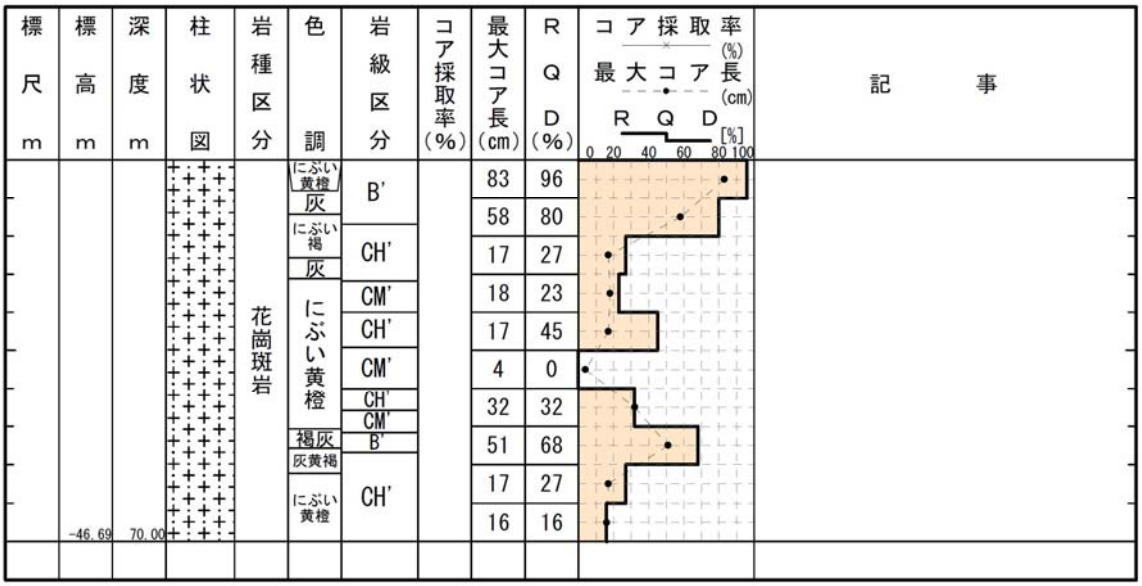
H27－Br－4

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－4

柱状図(60.00m～70.00m)

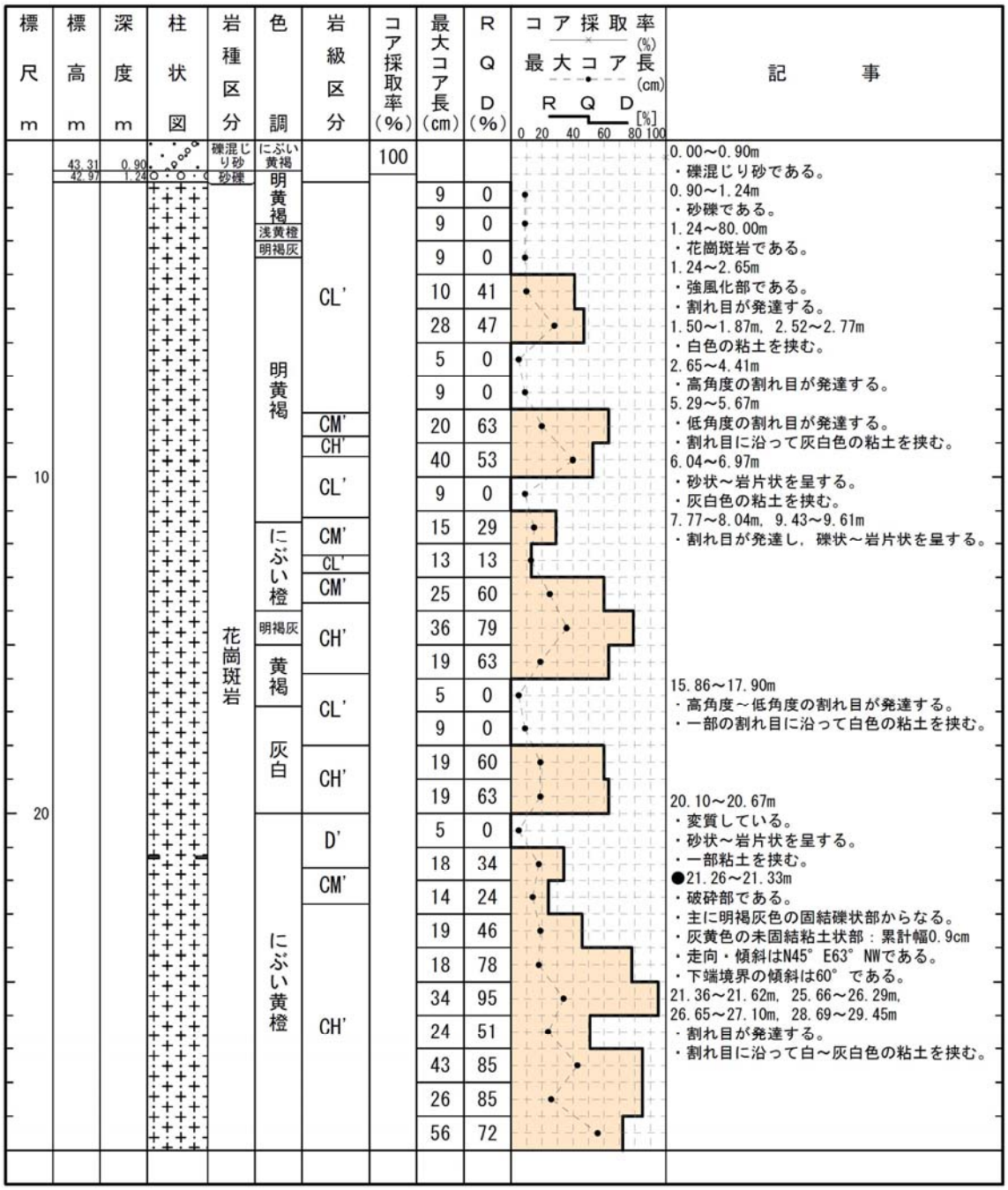


H27－Br－9

柱状図(0.00m～30.00m)

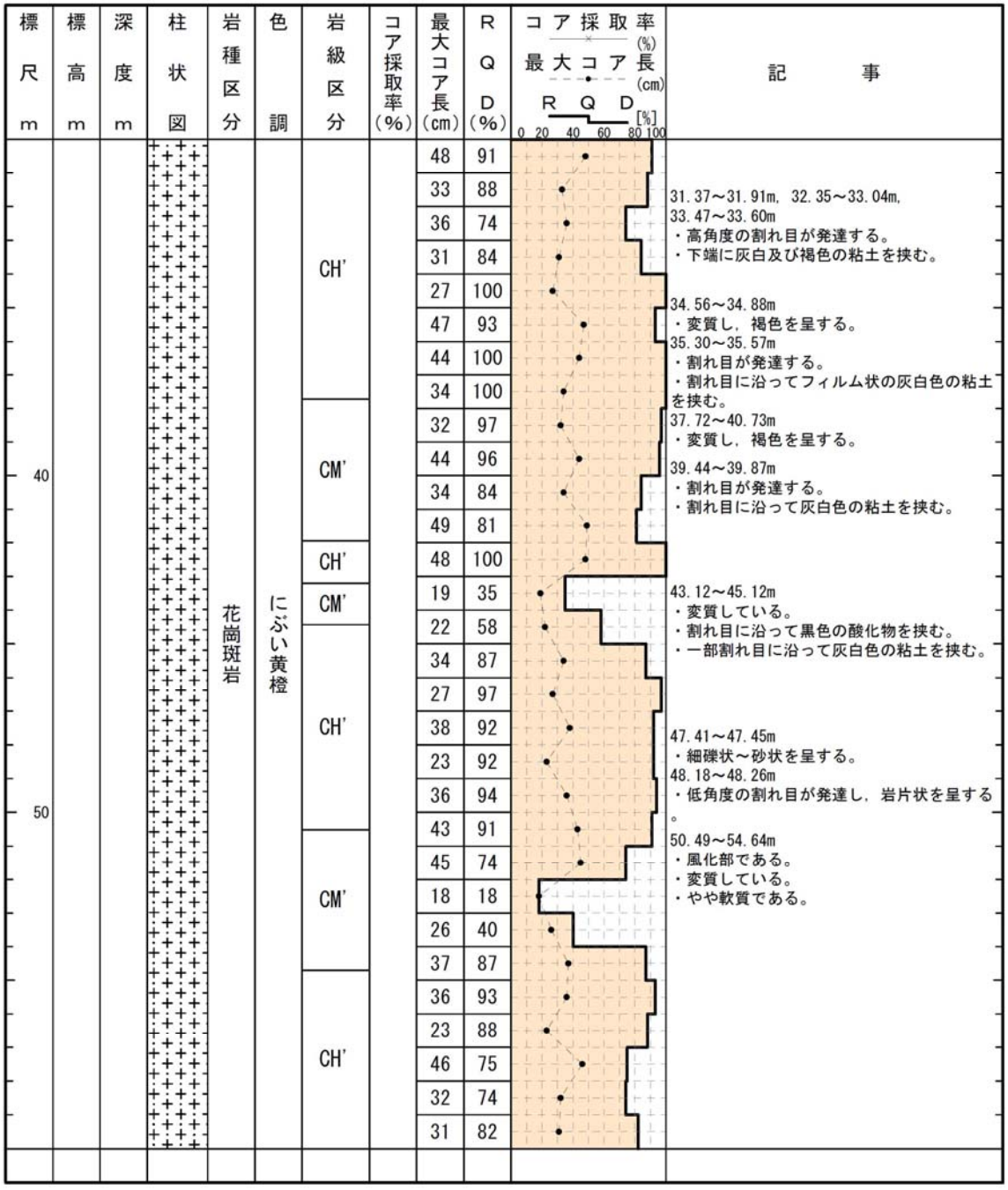
H27-Br-9

孔口標高	T.P. 44.21m	掘削長	80.00m



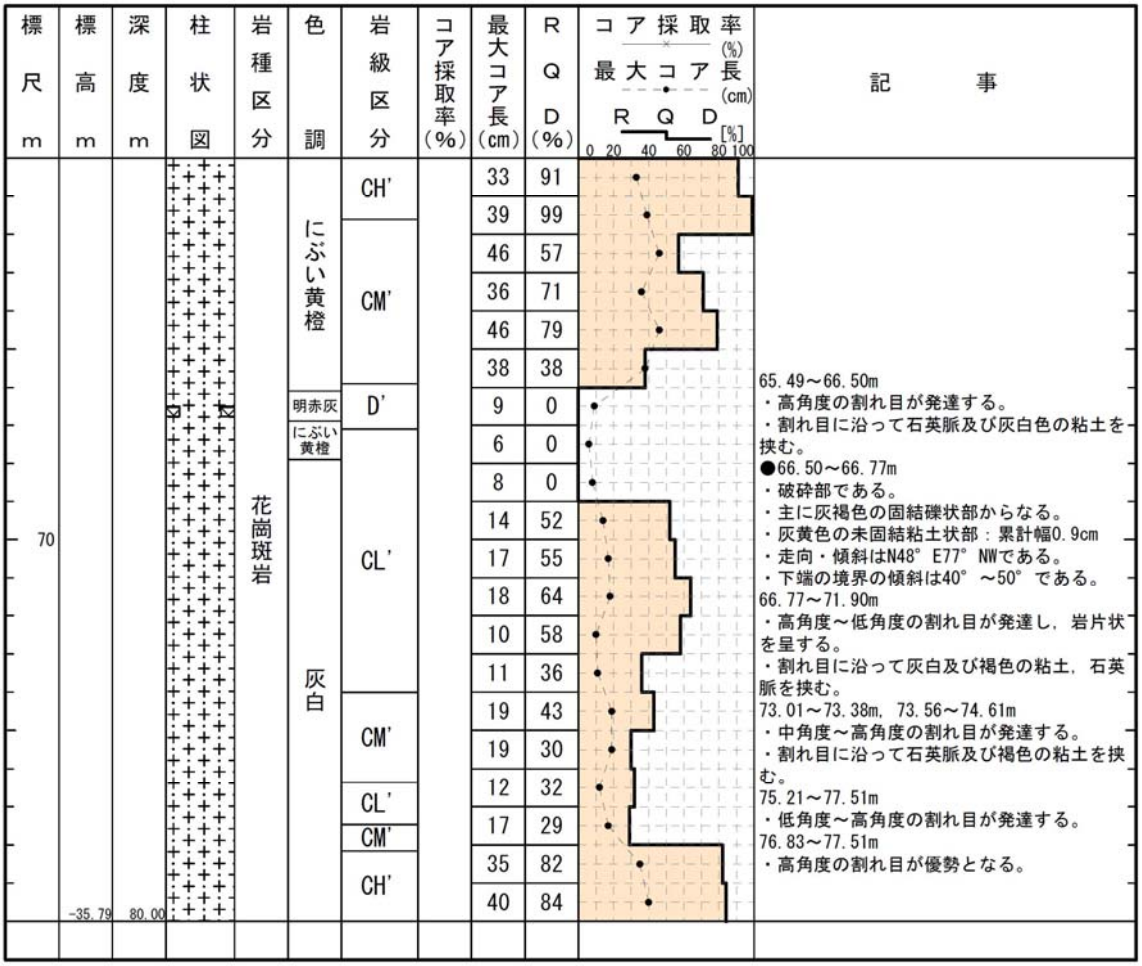
H27－Br－9

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－9

柱状図(60.00m～80.00m)



9. 審査資料案
（第833回審査会合（令和2年2月7日））
ボーリング柱状図

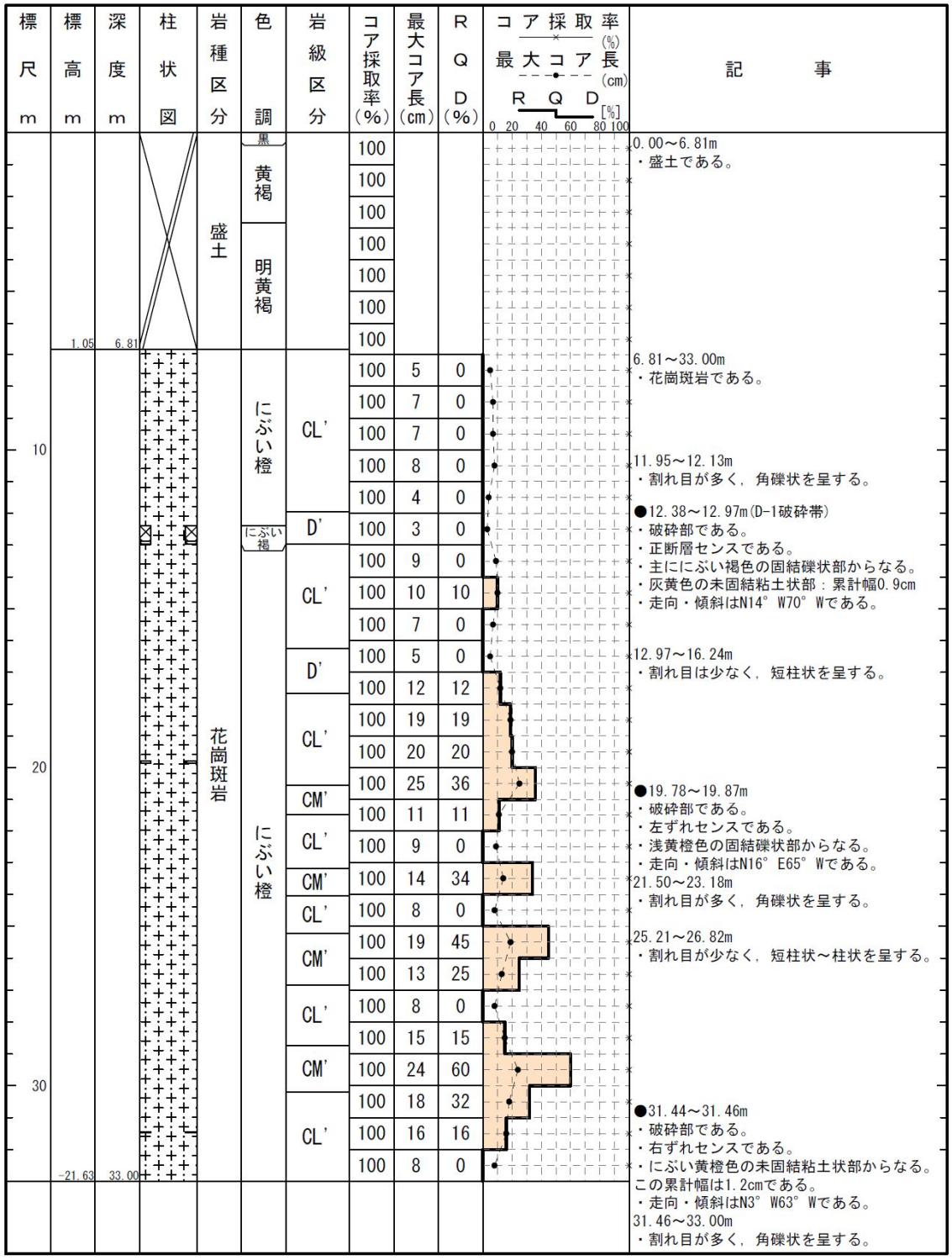
余白

H24－D1－2

柱状図(0.00m～33.00m)

H24-D1-2

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	33.00m

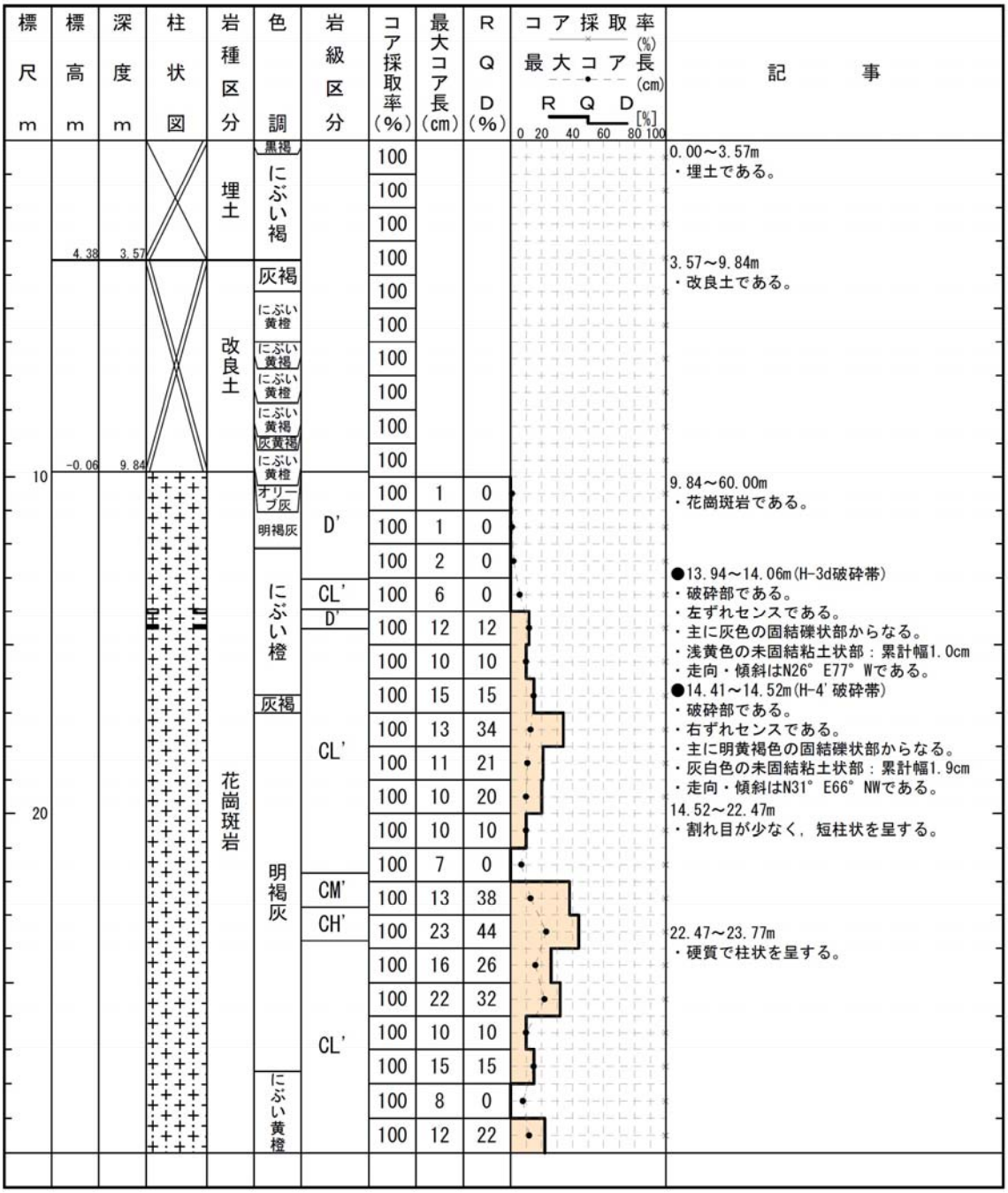


H24－D1－3

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-3

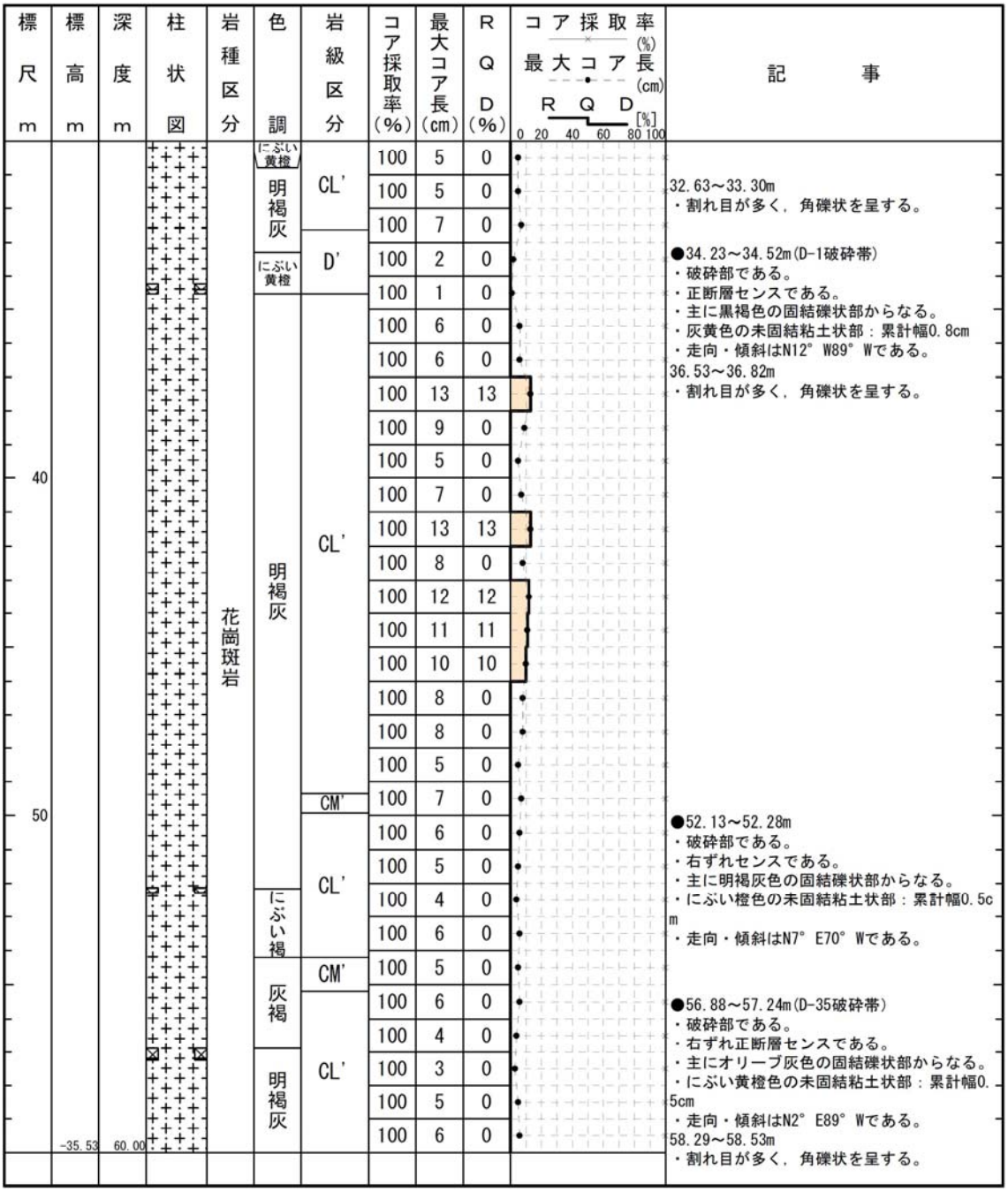
孔口標高	T.P. 6.90m	掘削長	60.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	1	0
100	1	0
100	2	0
100	6	0
100	12	12
100	10	10
100	15	15
100	13	34
100	11	21
100	10	20
100	10	10
100	7	0
100	13	38
100	23	44
100	16	26
100	22	32
100	10	10
100	15	15
100	8	0
100	12	22

H24－D1－3

柱状図(30.00m～60.00m)

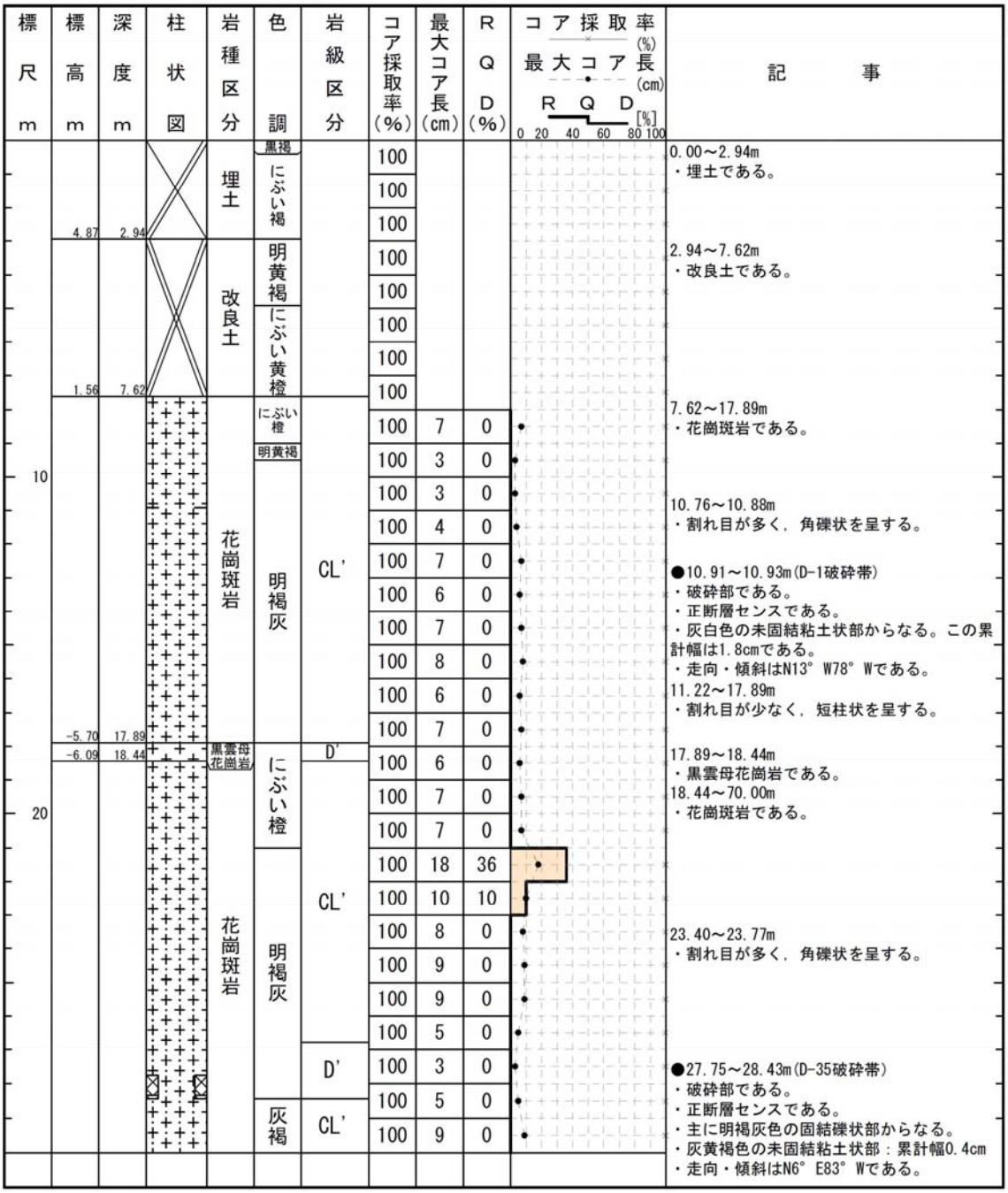


H24－D1－4

柱状図(0.00m～30.00m)

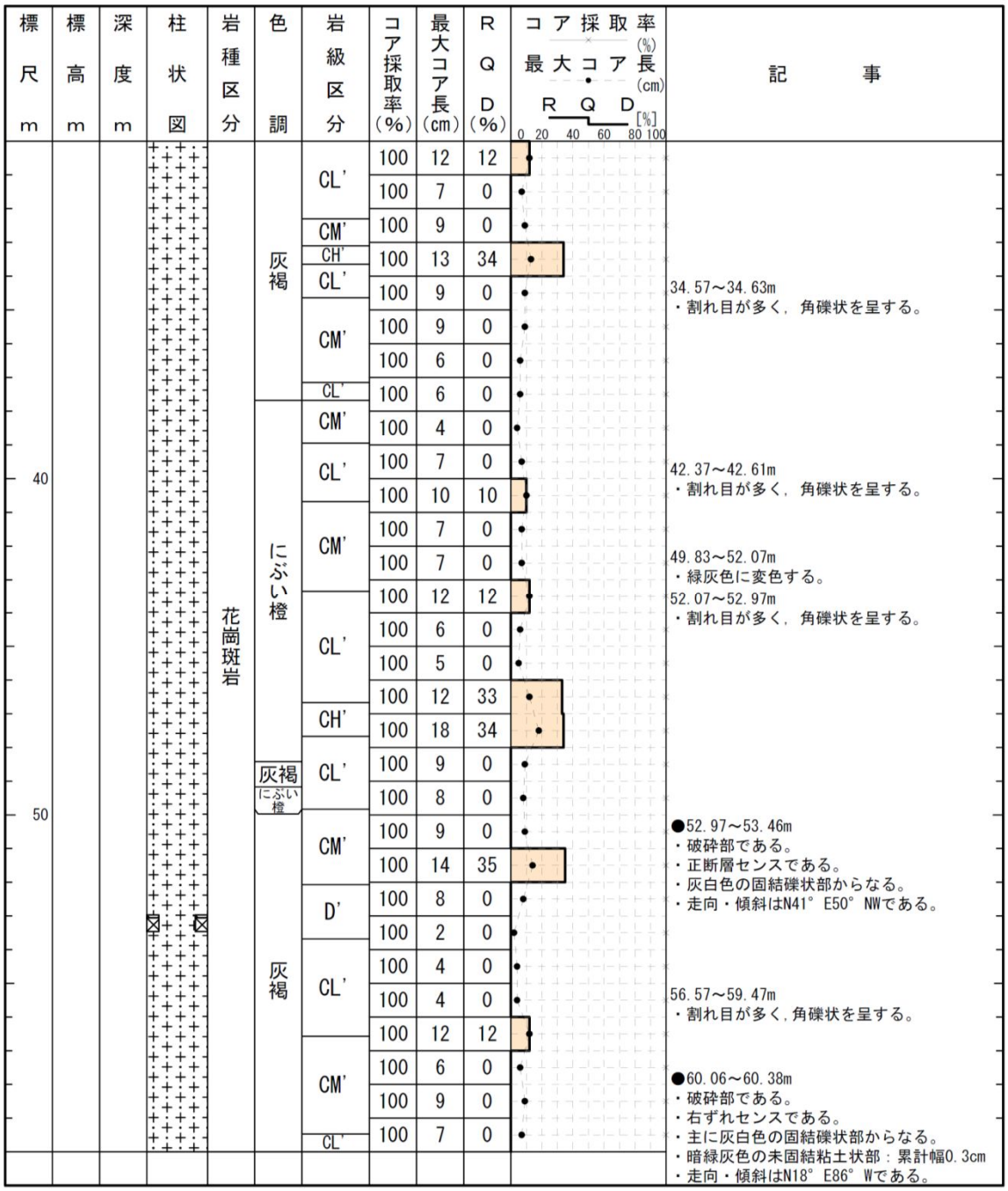
H24-D1-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	70.00m



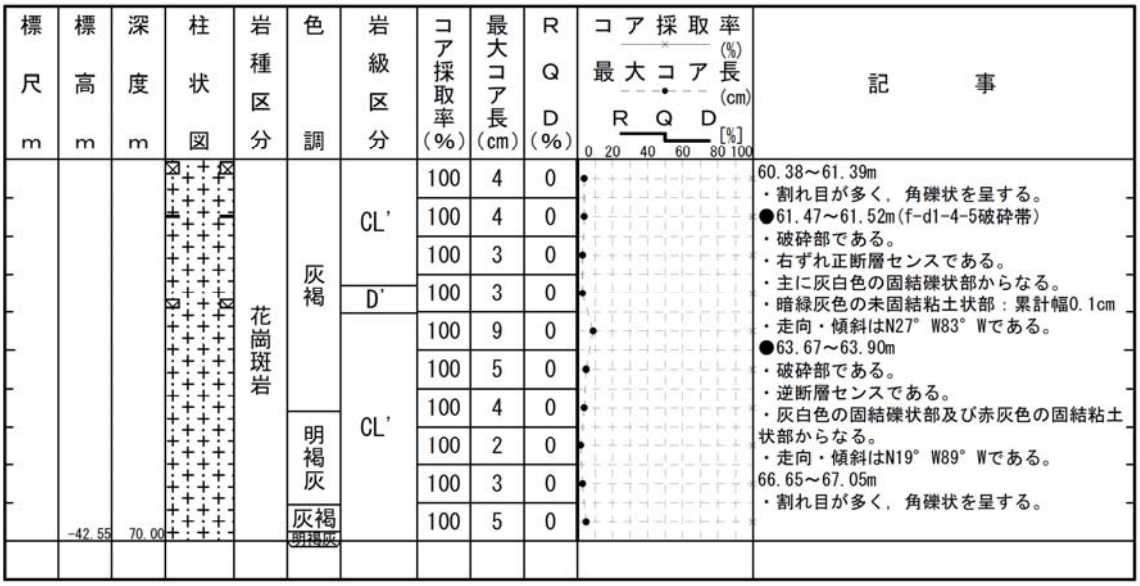
H24－D1－4

柱状図(30.00m～60.00m)



H24－D1－4

柱状図(60.00m～70.00m)

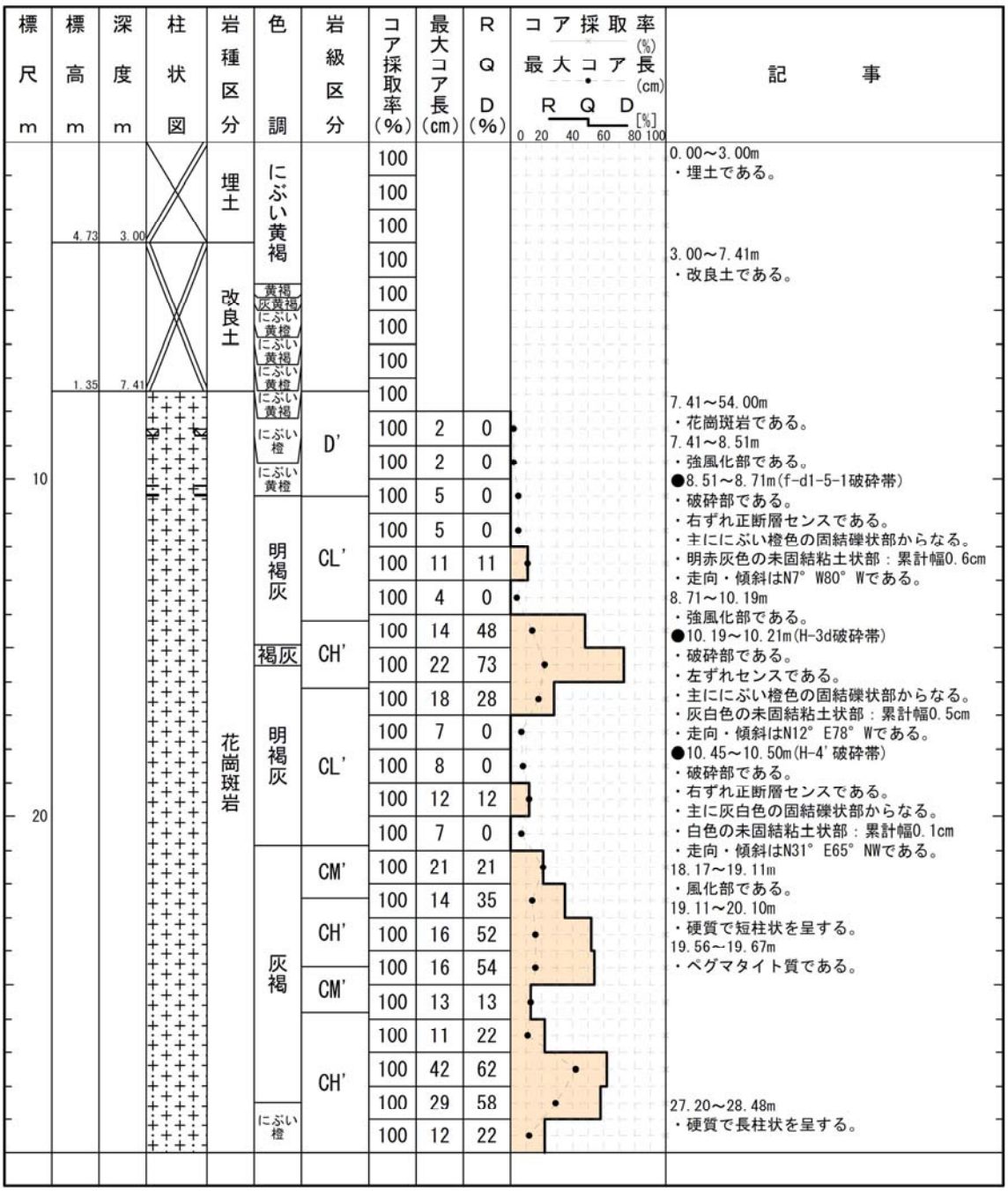


H24－D1－5

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-5

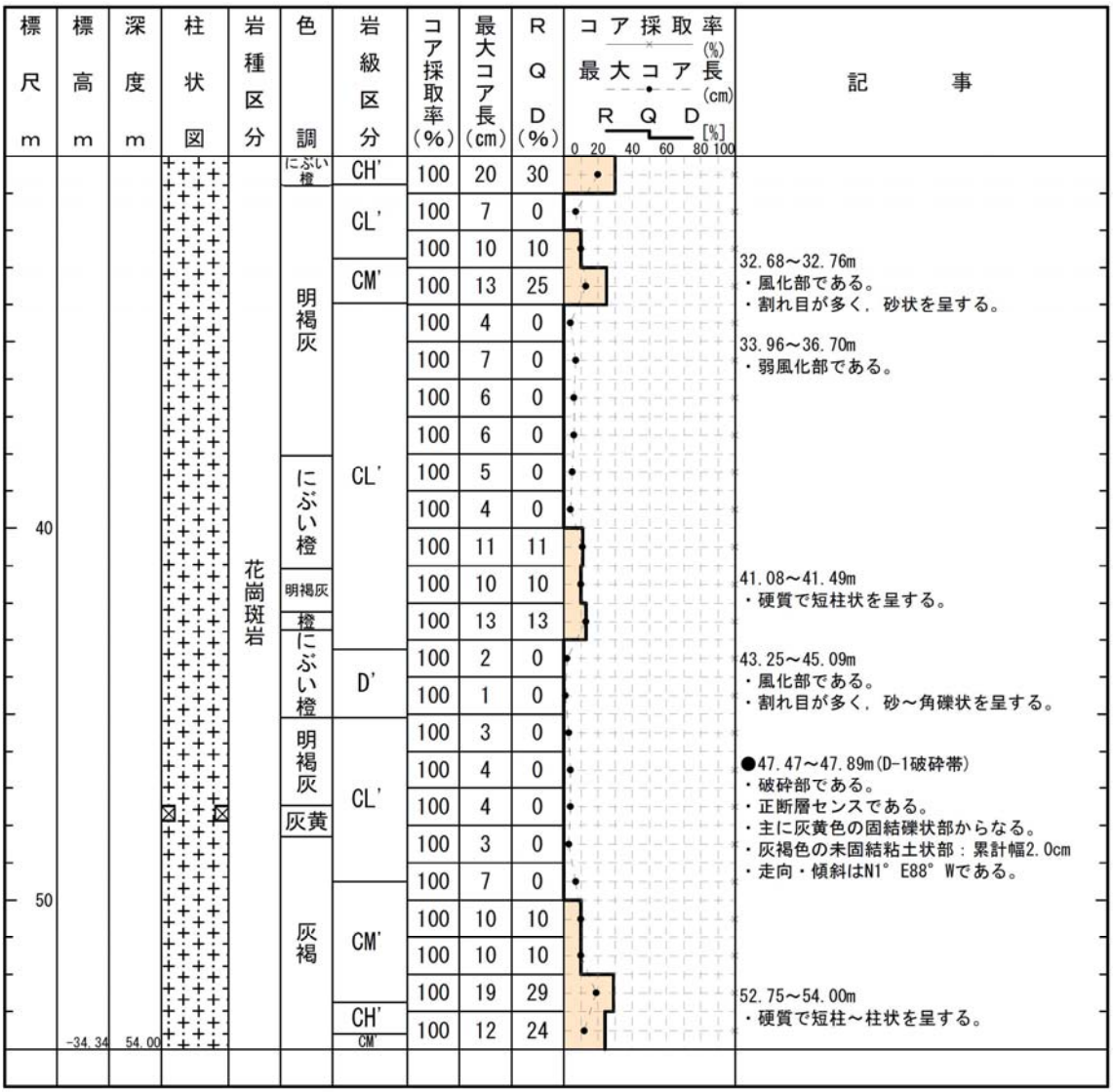
孔口標高	T.P. 7.03m	掘削長	54.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	2	0
100	2	0
100	5	0
100	5	0
100	11	11
100	4	0
100	14	48
100	22	73
100	18	28
100	7	0
100	8	0
100	12	12
100	7	0
100	21	21
100	14	35
100	16	52
100	16	54
100	13	13
100	11	22
100	42	62
100	29	58
100	12	22

H24－D1－5

柱状図(30.00m～54.00m)

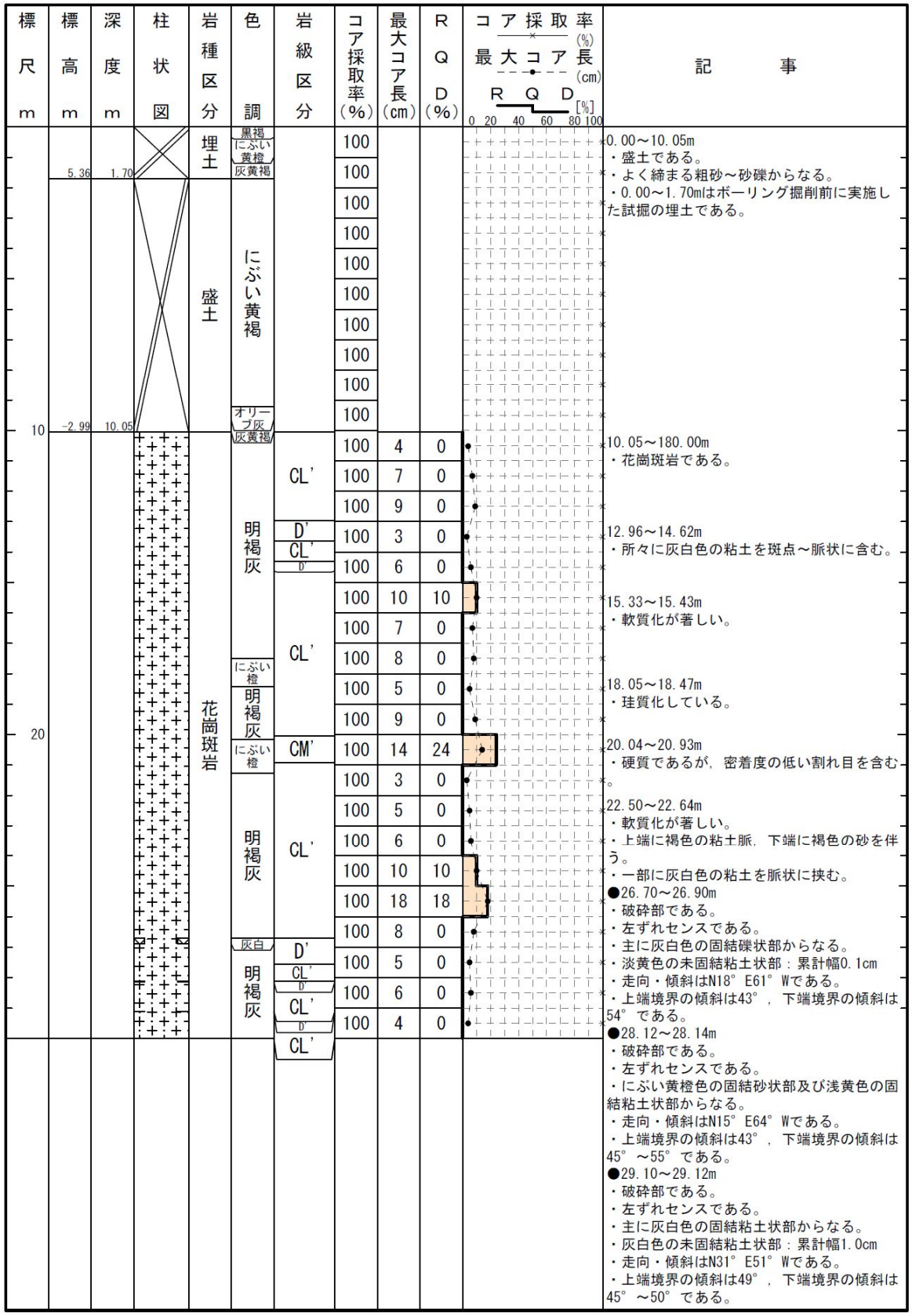


H27－B－3

柱状図(0.00m～30.00m)

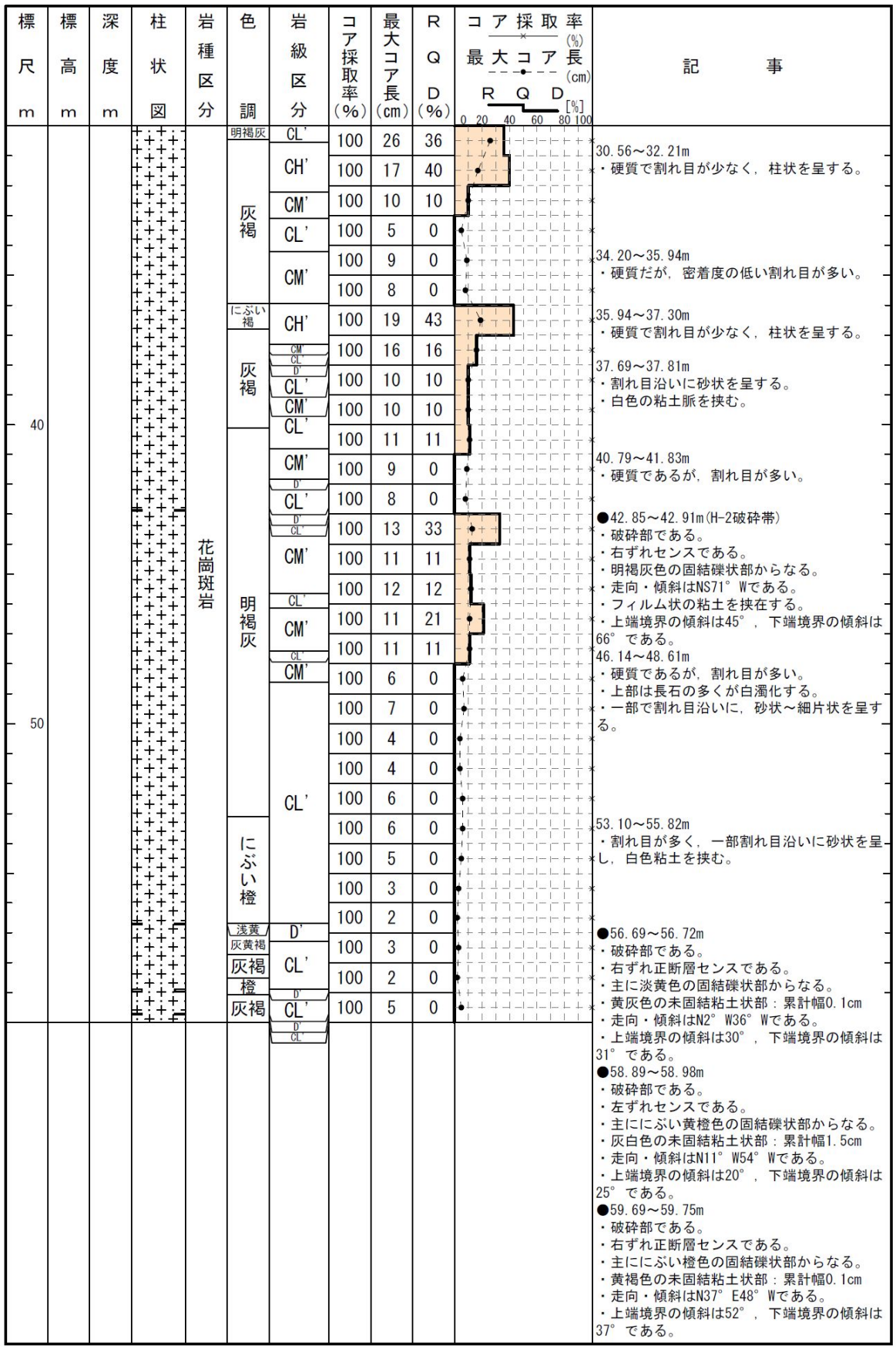
H27-B-3

孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	180.00m



H27－B－3

柱状図(30.00m～60.00m)



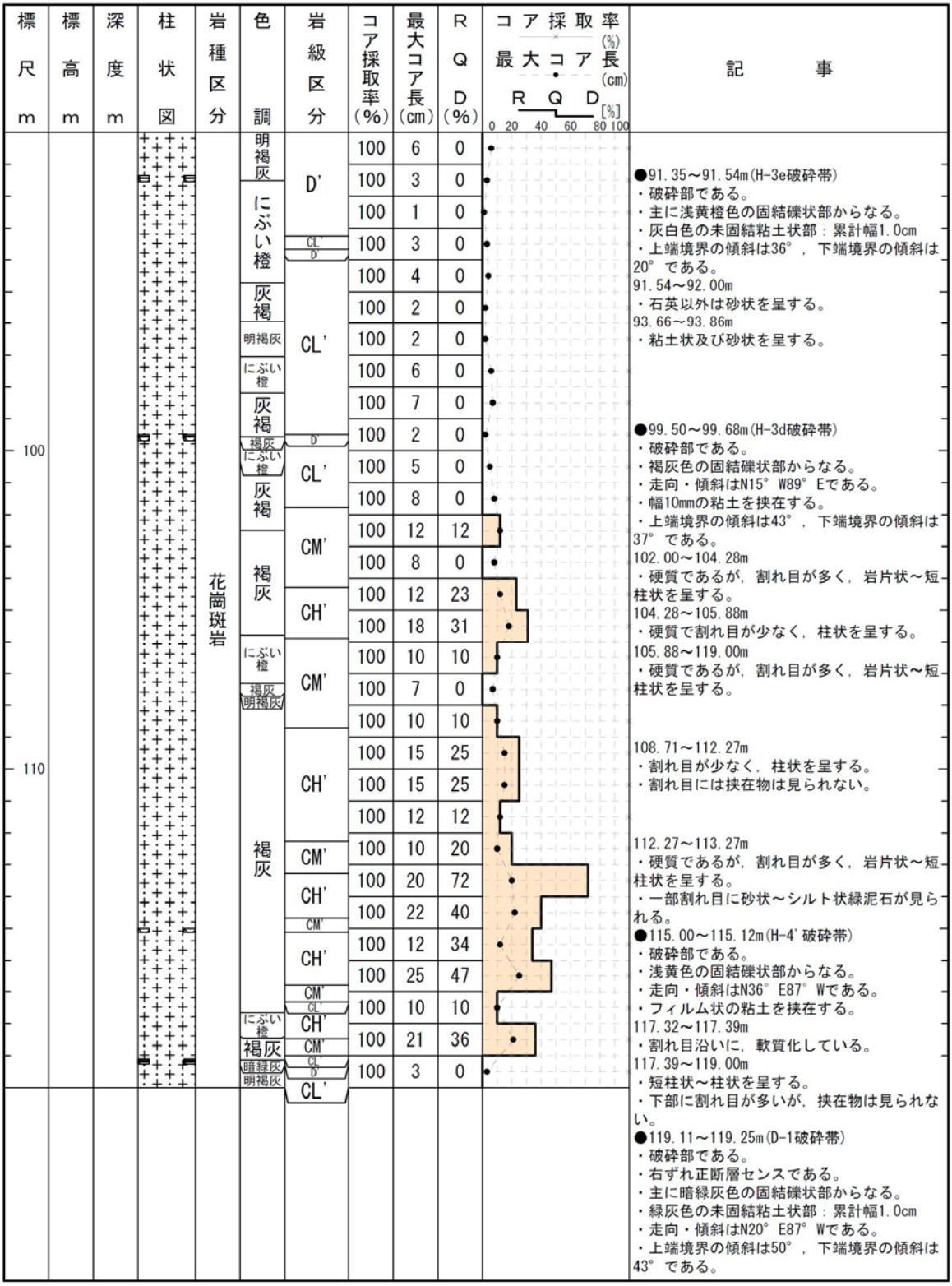
H27－B－3

柱状図(60.00m～90.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) R Q D [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	灰褐	CM'	100	5	0		60.00～62.23m ・硬質であるが，密着度の低い割れ目が多い。
						CL'	100	3	0		
						CM'	100	5	0		・一部割れ目沿いに砂状を呈する。
						CL'	100	7	0		62.82～62.93m ・砂礫状を呈し，白色粘土脈を伴う。
							100	4	0		
					にぶい橙 灰褐	CM'	100	7	0		64.52～66.39m ・硬質であるが，割れ目が多い。
					にぶい褐		100	9	0		・一部割れ目沿いに薄く砂状を呈する。
					明褐灰	CL'	100	6	0		
					褐灰	D'	100	2	0		68.06～68.93m ・砂礫状を呈する。
					にぶい橙	CL'	100	4	0		
70					明褐灰	D'	100	2	0		70.10～71.72m ・著しく軟質化している。
							100	2	0		・粘土状～砂状を呈し，白色粘土脈を伴う。
						CL'	100	3	0		
						D'	100	5	0		72.65～73.38m ・著しく軟質化している。
					灰褐	CL'	100	5	0		・一部，細砂礫状を呈する。
							100	7	0		
						D'	100	2	0		
					にぶい橙	CL'	100	8	0		●76.59～76.89m(H-3c破砕帯) ・破砕部である。
							100	4	0		・左ずれ正断層センスである。
					明褐灰		100	4	0		・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm
80							100	5	0		・上端境界の傾斜は47°，下端境界の傾斜は37°である。
						D'	100	4	0		79.15～85.03m ・粘土状を呈し，著しく軟質化している。
					明黄褐 明褐灰		100	3	0		・原岩組織と割れ目の一部は残っている。
					明黄褐 灰褐		100	3	0		
							100	3	0		84.54～84.71m ・砂状を呈し，軟質粘土を伴う。
					にぶい褐	CL'	100	3	0		
					褐灰		100	2	0		85.61～93.25m ・著しく軟質化している。
					にぶい黄橙	D'	100	2	0		87.18～91.35m ・砂礫状を呈する。
							100	3	0		
					明褐灰		100	3	0		

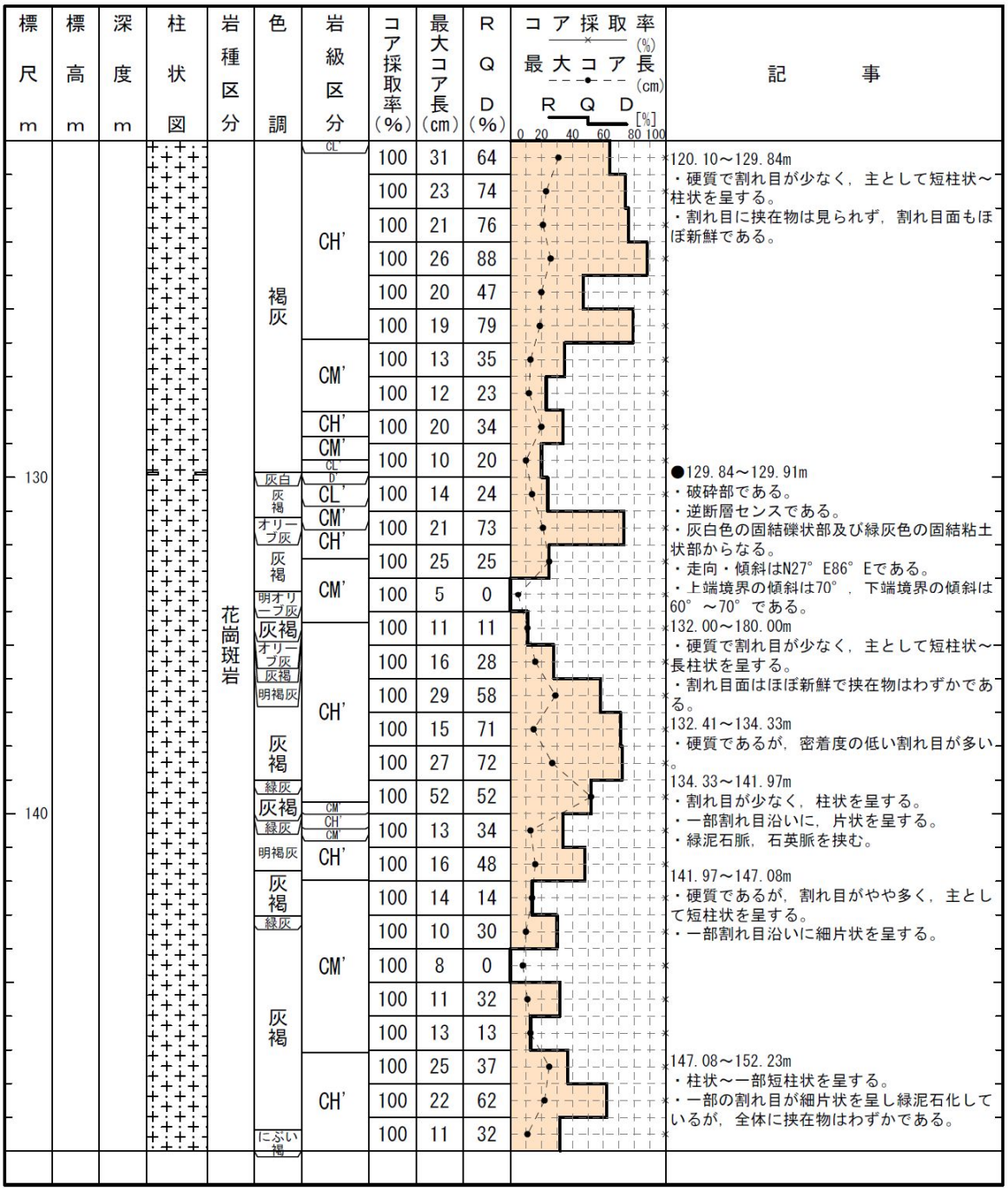
H27－B－3

柱状図(90.00m～120.00m)



H27－B－3

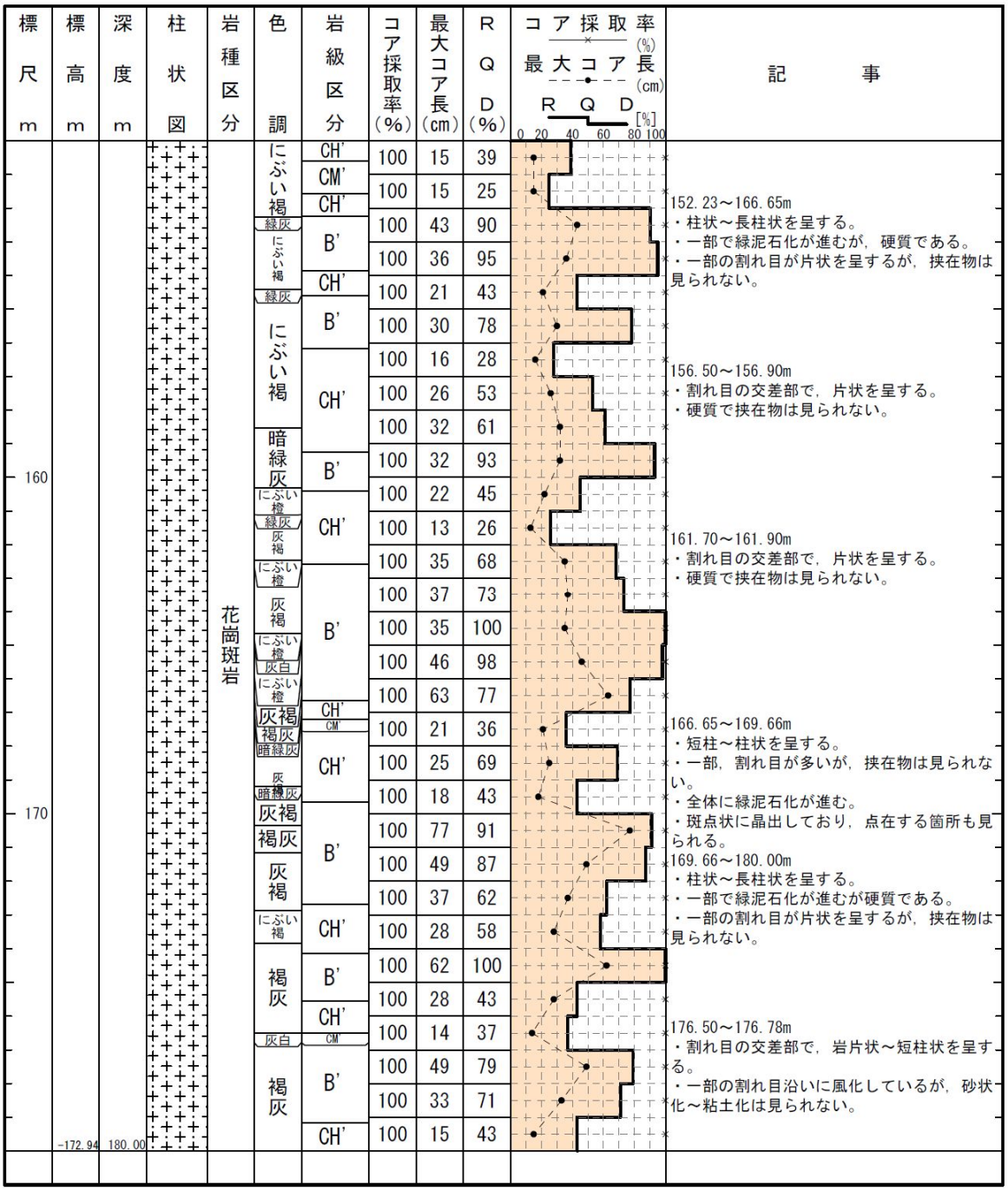
柱状図(120.00m～150.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
				花崗斑岩	褐灰	CL'	100	31	64	120.10～129.84m ・硬質で割れ目が少なく，主として短柱状～柱状を呈する。 ・割れ目に挟在物は見られず，割れ目面もほぼ新鮮である。
						CH'	100	23	74	
							100	21	76	
							100	26	88	
							100	20	47	
							100	19	79	
						CM'	100	13	35	
							100	12	23	
						CH'	100	20	34	
						CM'	100	10	20	
130						CL'				
					灰白	D'				●129.84～129.91m ・破砕部である。 ・逆断層センスである。 ・灰白色の固結礫状部及び緑灰色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN27°E86°Eである。 ・上端境界の傾斜は70°，下端境界の傾斜は60°～70°である。
					灰褐	CL'	100	14	24	
					オリーブ灰	CM'	100	21	73	
					灰褐	CH'	100	25	25	
					明オリーブ灰	CM'	100	5	0	
					灰褐	CH'	100	11	11	132.00～180.00m ・硬質で割れ目が少なく，主として短柱状～長柱状を呈する。 ・割れ目面はほぼ新鮮で挟在物はわずかである。
					オリーブ灰		100	16	28	
					灰褐		100	29	58	
					明褐灰		100	15	71	132.41～134.33m ・硬質であるが，密着度の低い割れ目が多い。
					灰褐		100	27	72	
					緑灰		100	52	52	134.33～141.97m ・割れ目が少なく，柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに，片状を呈する。 ・緑泥石脈，石英脈を挟む。
140					灰褐	CM'				
					緑灰	CH'	100	13	34	
						CM'				
					明褐灰	CH'	100	16	48	
					灰褐	CM'	100	14	14	141.97～147.08m ・硬質であるが，割れ目がやや多く，主として短柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに細片状を呈する。
					緑灰		100	10	30	
							100	8	0	
					灰褐		100	11	32	
							100	13	13	
						CH'	100	25	37	147.08～152.23m ・柱状～一部短柱状を呈する。 ・一部の割れ目が細片状を呈し緑泥石化しているが，全体に挟在物はわずかである。
							100	22	62	
					にぶい褐		100	11	32	

H27－B－3

柱状図(150.00m～180.00m)

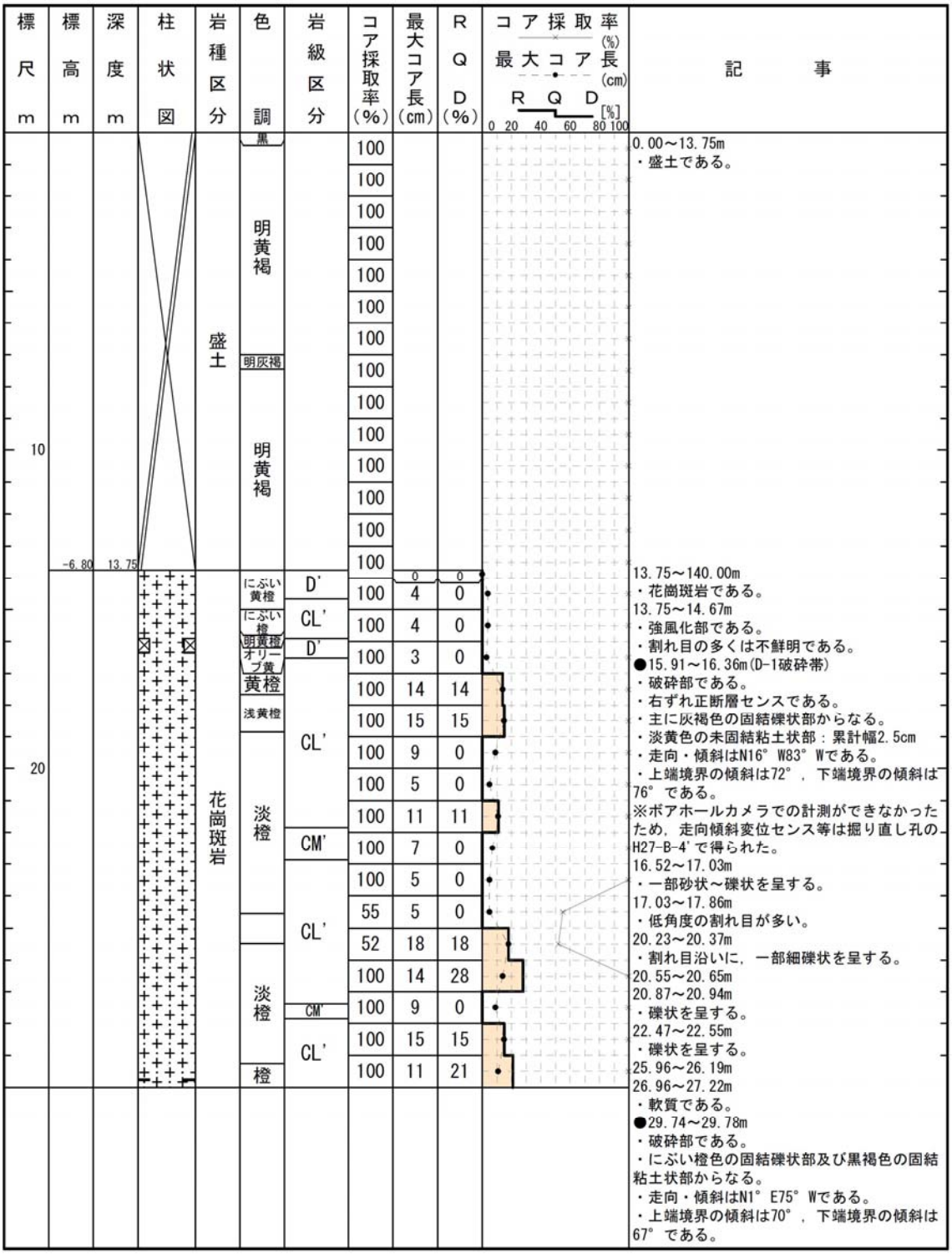


H27－B－4

柱状図(0.00m～30.00m)

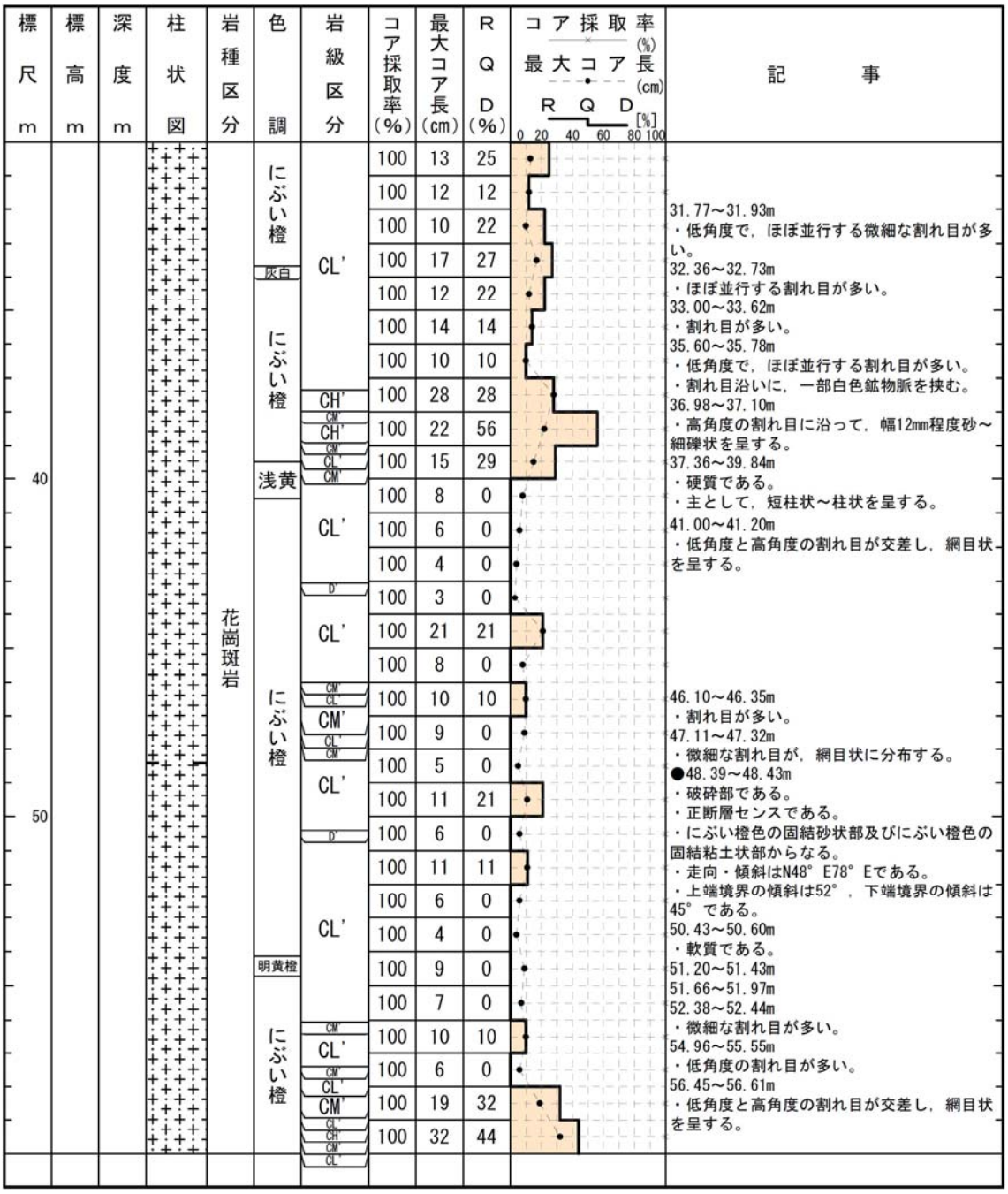
H27-B-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	140.00m



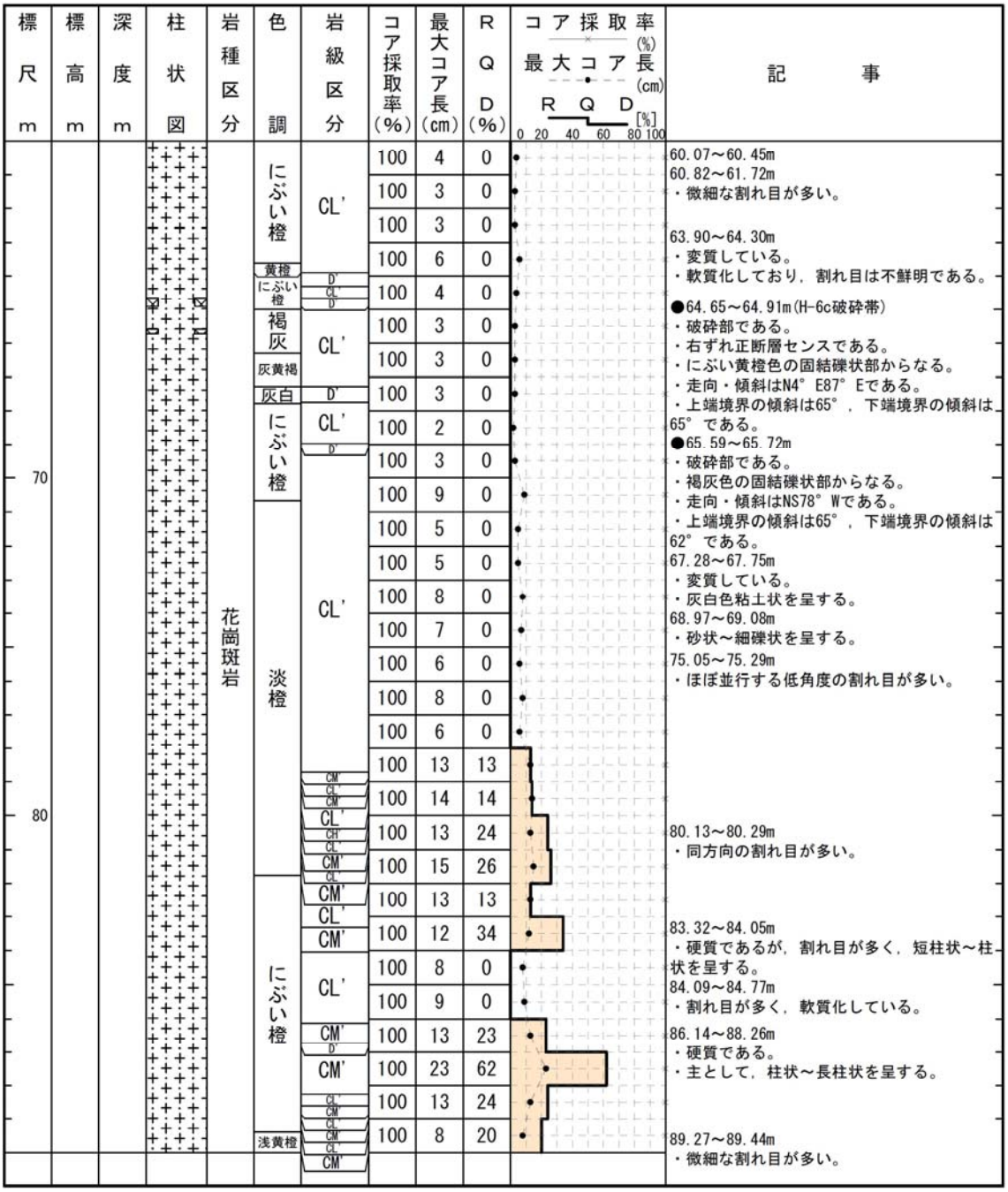
H27－B－4

柱状図(30.00m～60.00m)



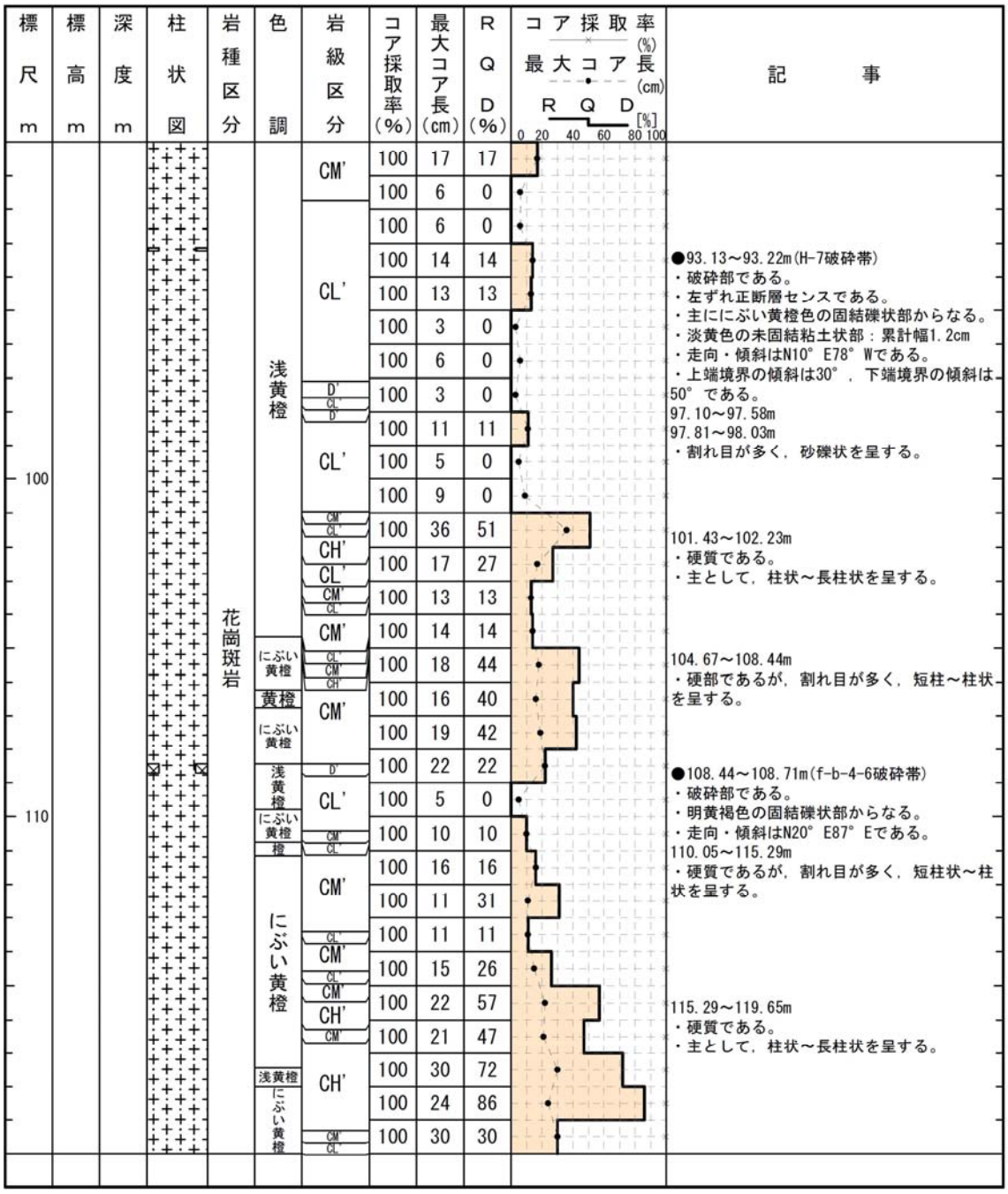
H27－B－4

柱状図(60.00m～90.00m)



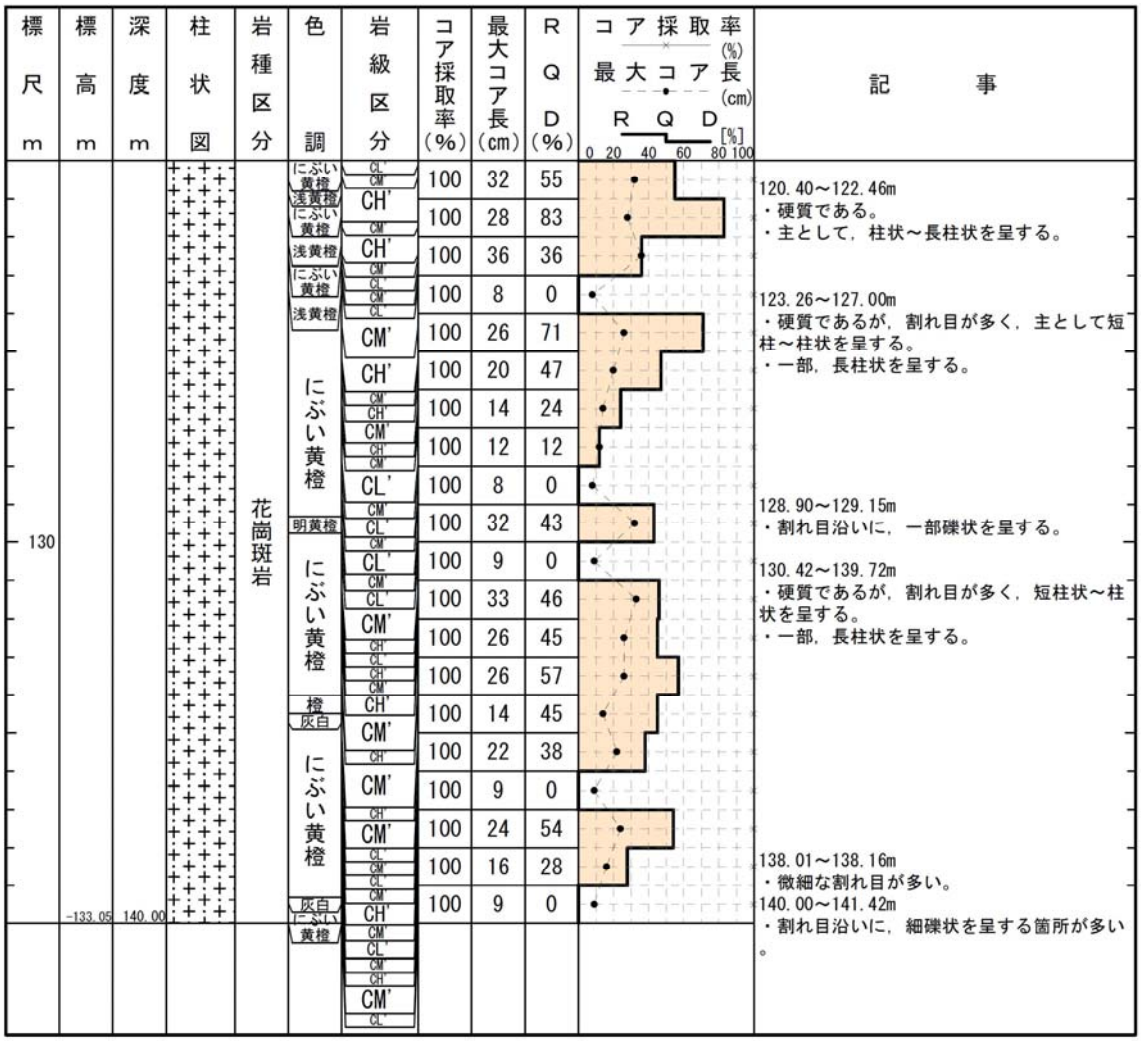
H27－B－4

柱状図(90.00m～120.00m)



H27－B－4

柱状図(120.00m～140.00m)

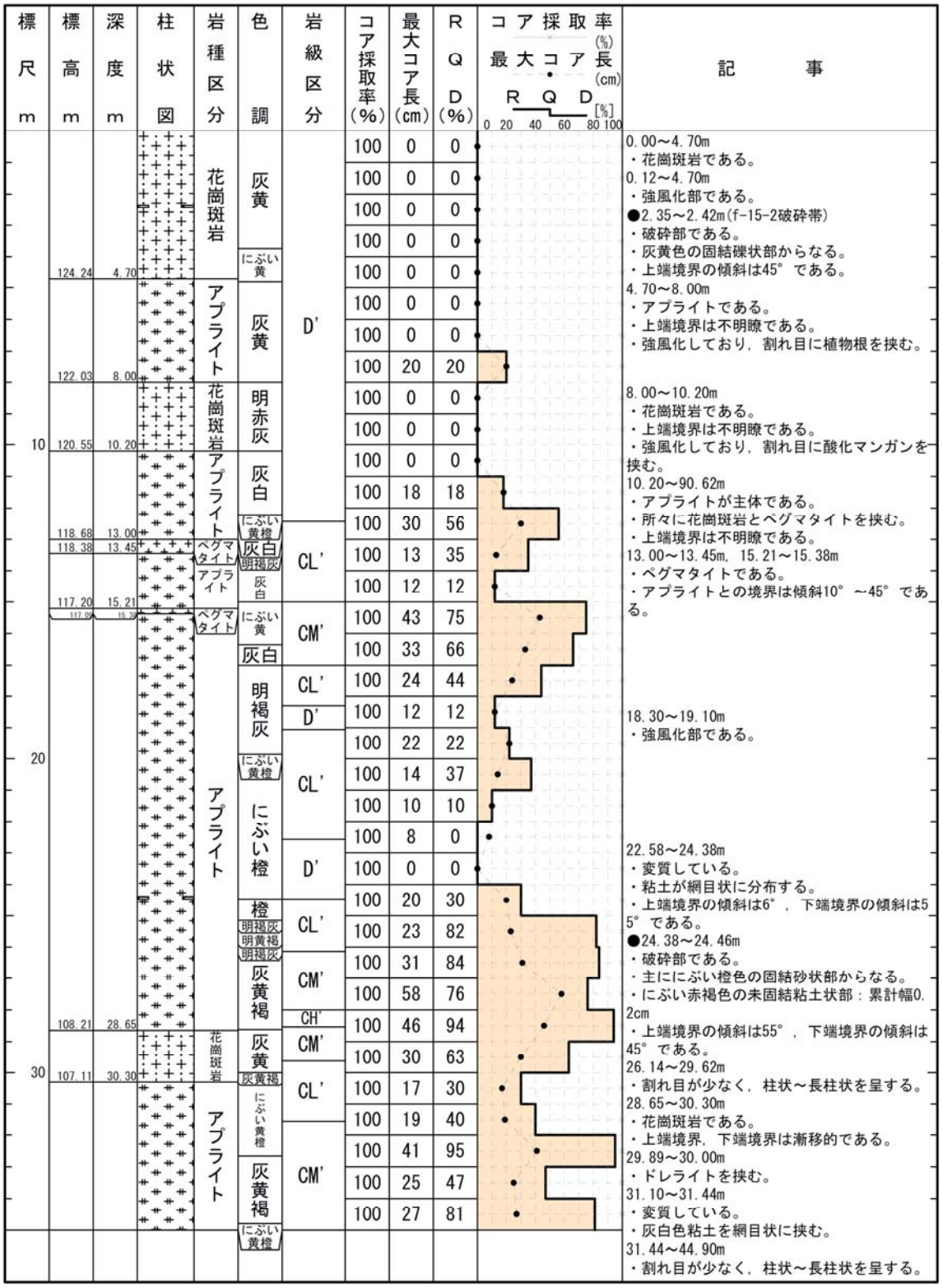


H19－No.2

柱状図(0.00m～35.00m)

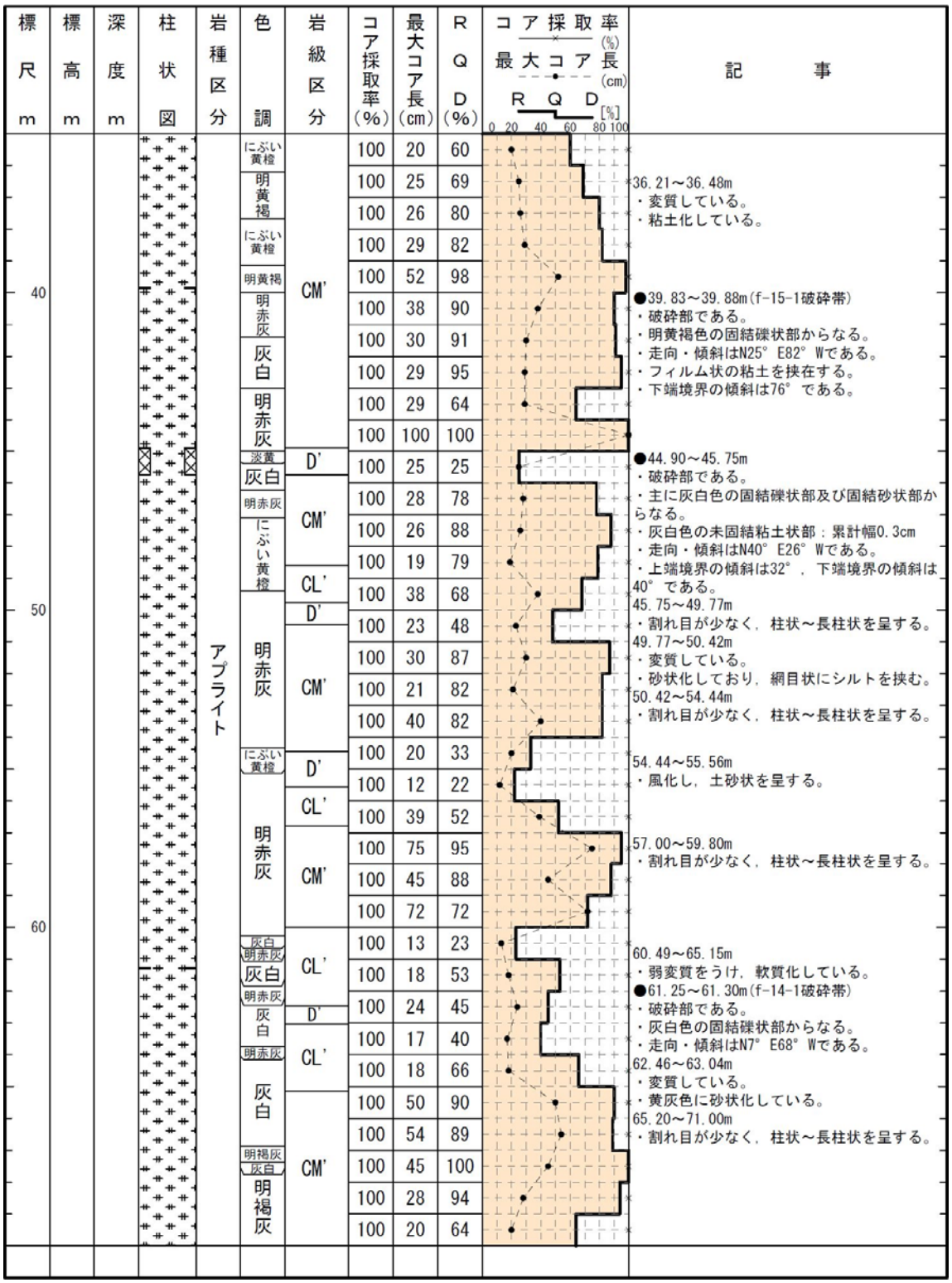
H19-No.2

孔口標高	T.P. 127.38m	掘削長	220.00m



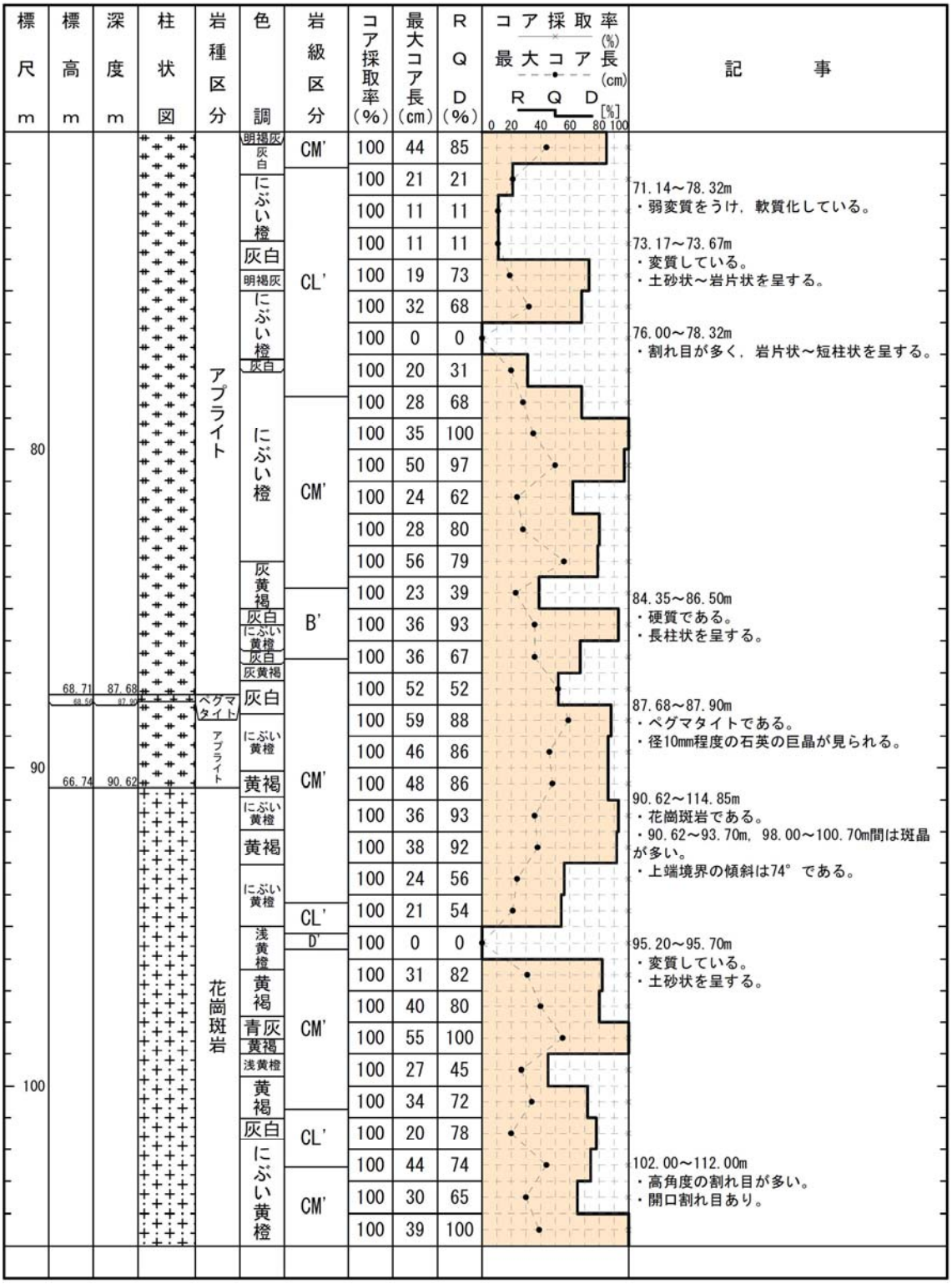
H19－No.2

柱状図(35.00m～70.00m)



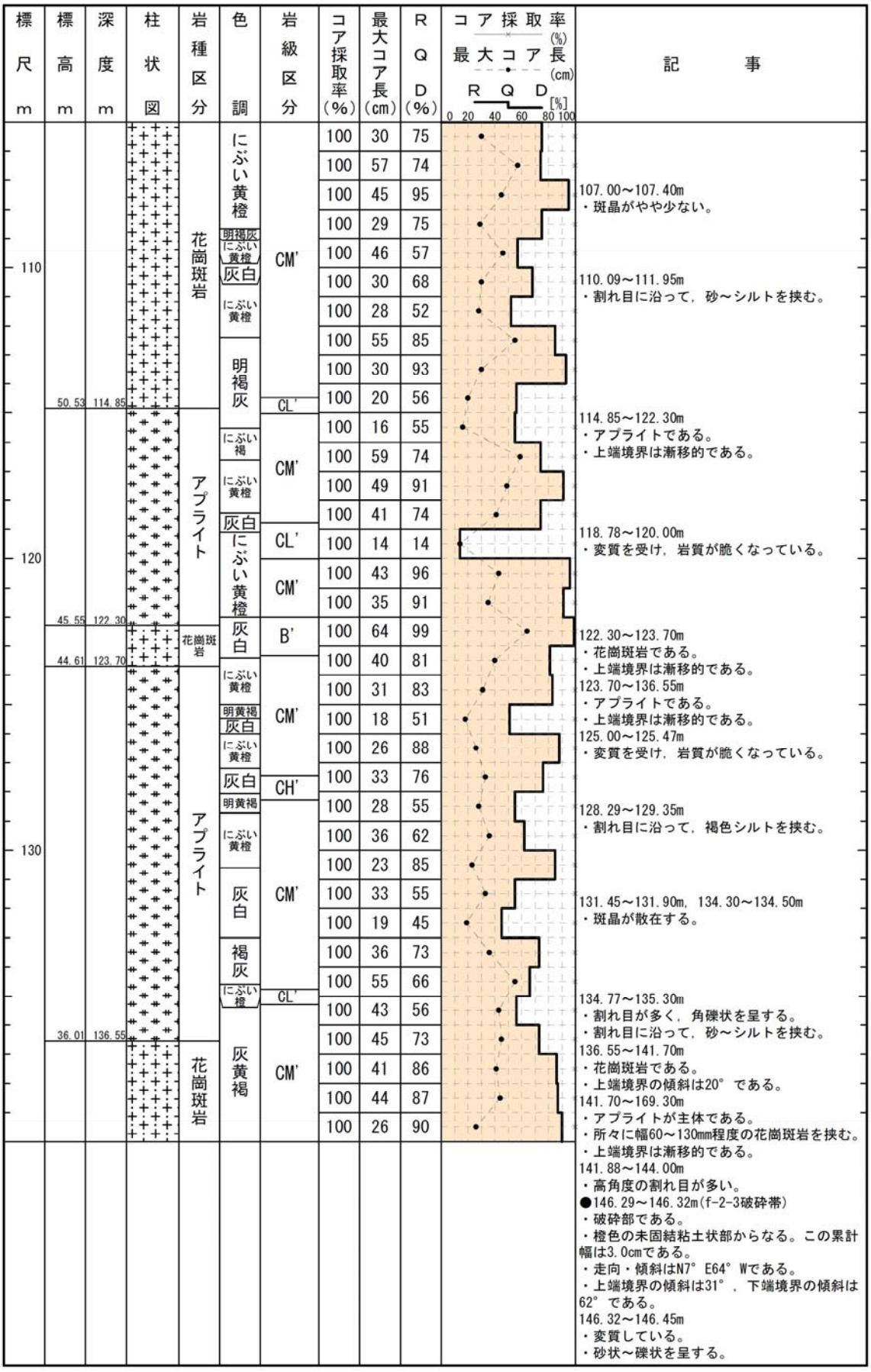
H19－No.2

柱状図(70.00m～105.00m)



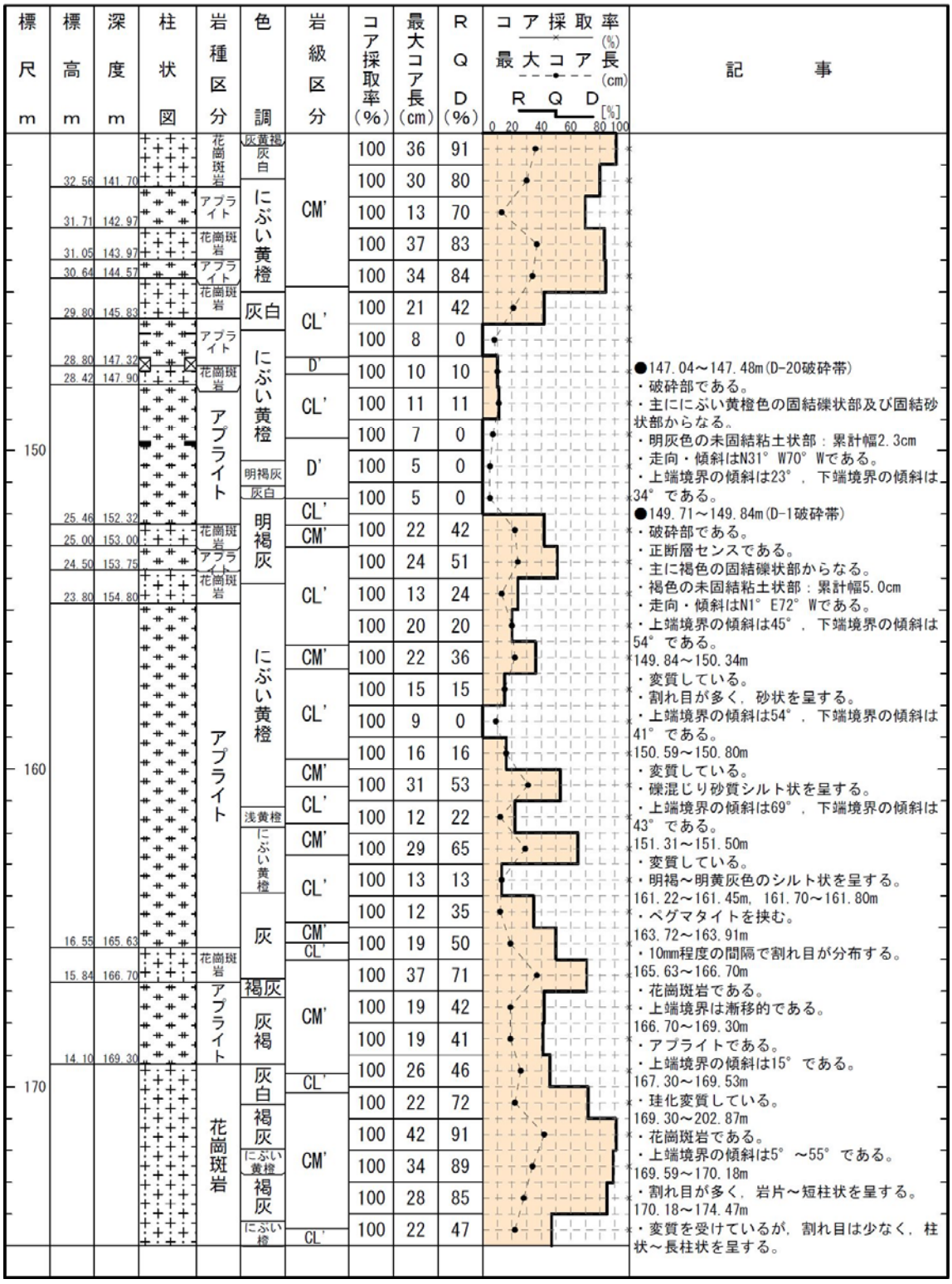
H19－No.2

柱状図(105.00m～140.00m)



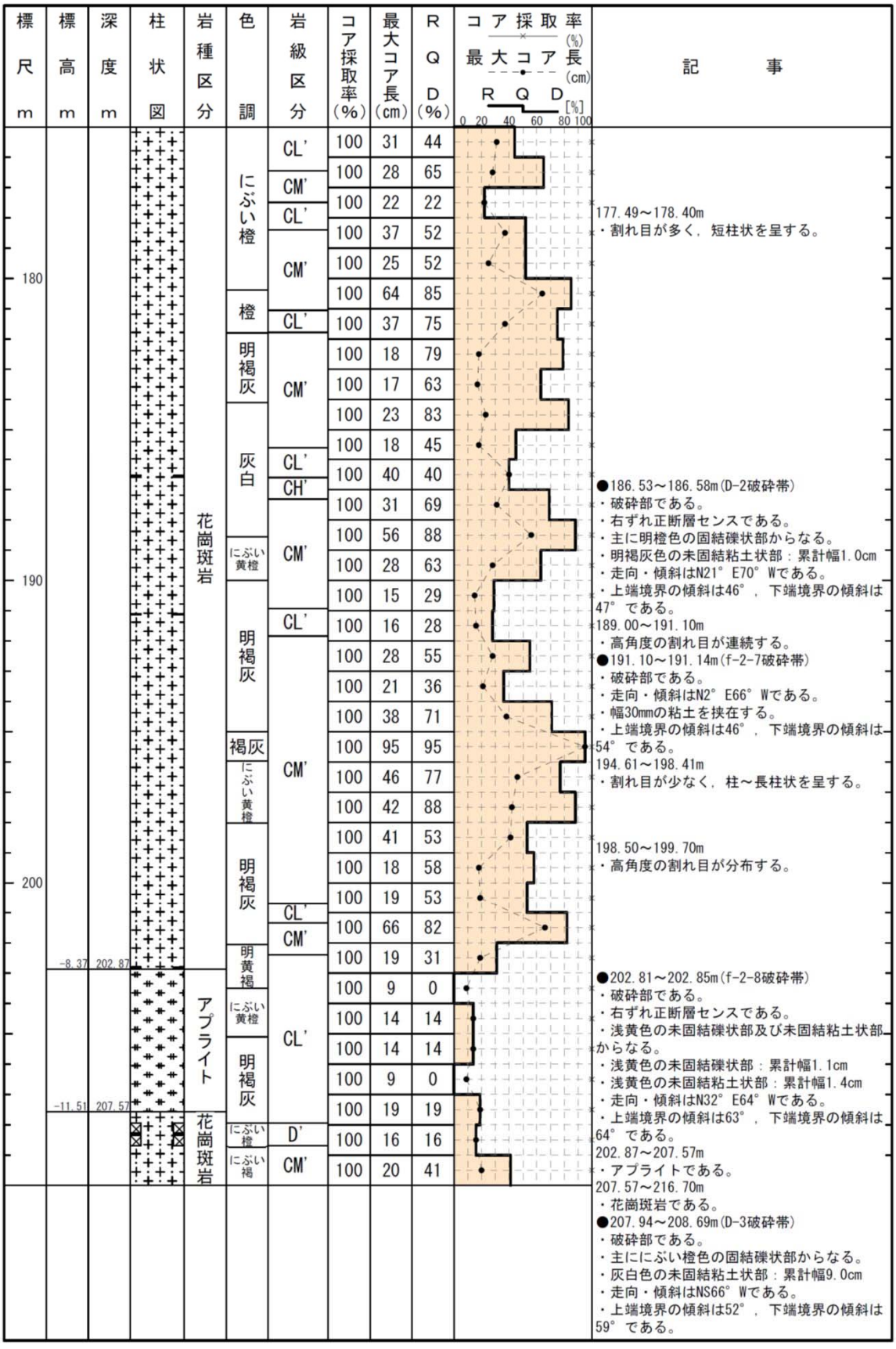
H19－No.2

柱状図(140.00m～175.00m)


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD[%]
0 20 40 60 80 100
記事
32.56 141.70
31.71 142.97
31.05 143.97
30.64 144.57
29.80 145.83
28.80 147.32
28.42 147.90
25.46 152.32
25.00 153.00
24.50 153.75
23.80 154.80
16.55 165.63
15.84 166.70
14.10 169.30
150
160
170
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
アプライト
花崗斑岩
灰黄褐
灰白
にぶい黄橙
灰白
にぶい黄橙
明褐灰
灰白
明褐灰
にぶい黄橙
浅黄橙
にぶい黄橙
灰
褐灰
灰褐
灰白
褐灰
にぶい黄橙
褐灰
にぶい黄橙
CM'
CL'
D'
CL'
D'
CL'
CM'
CL'
CM'
CL'
CM

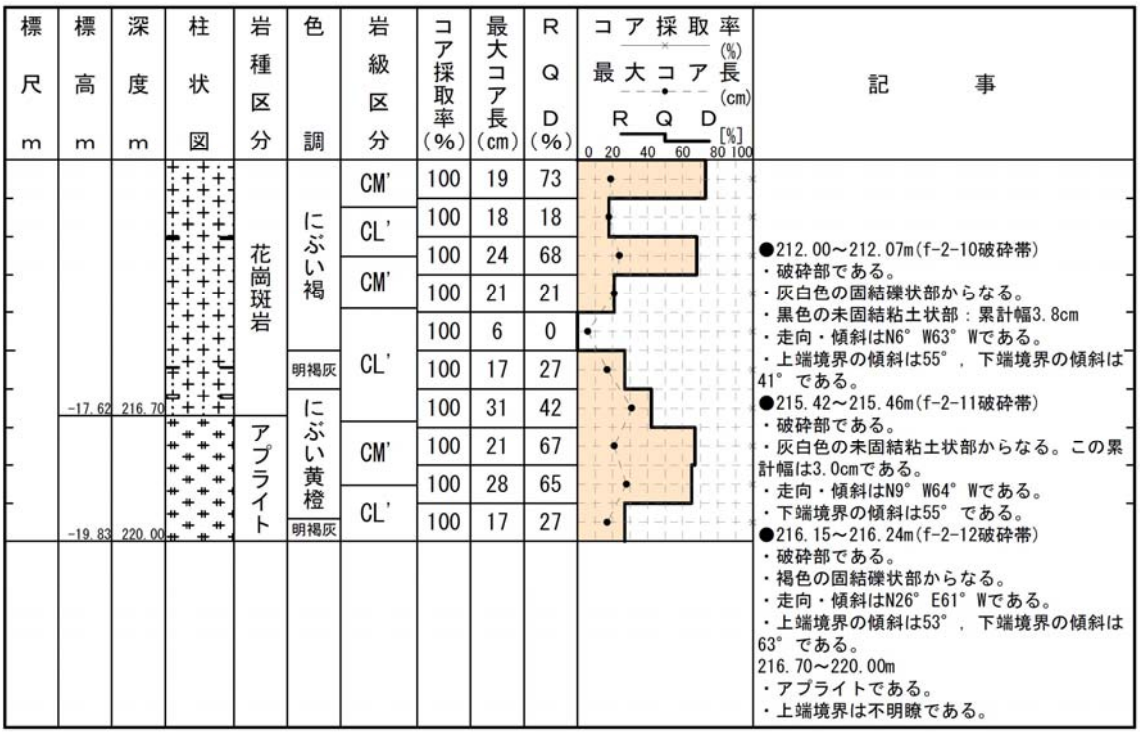
H19－No.2

柱状図(175.00m～210.00m)



H19－No.2

柱状図(210.00m～220.00m)

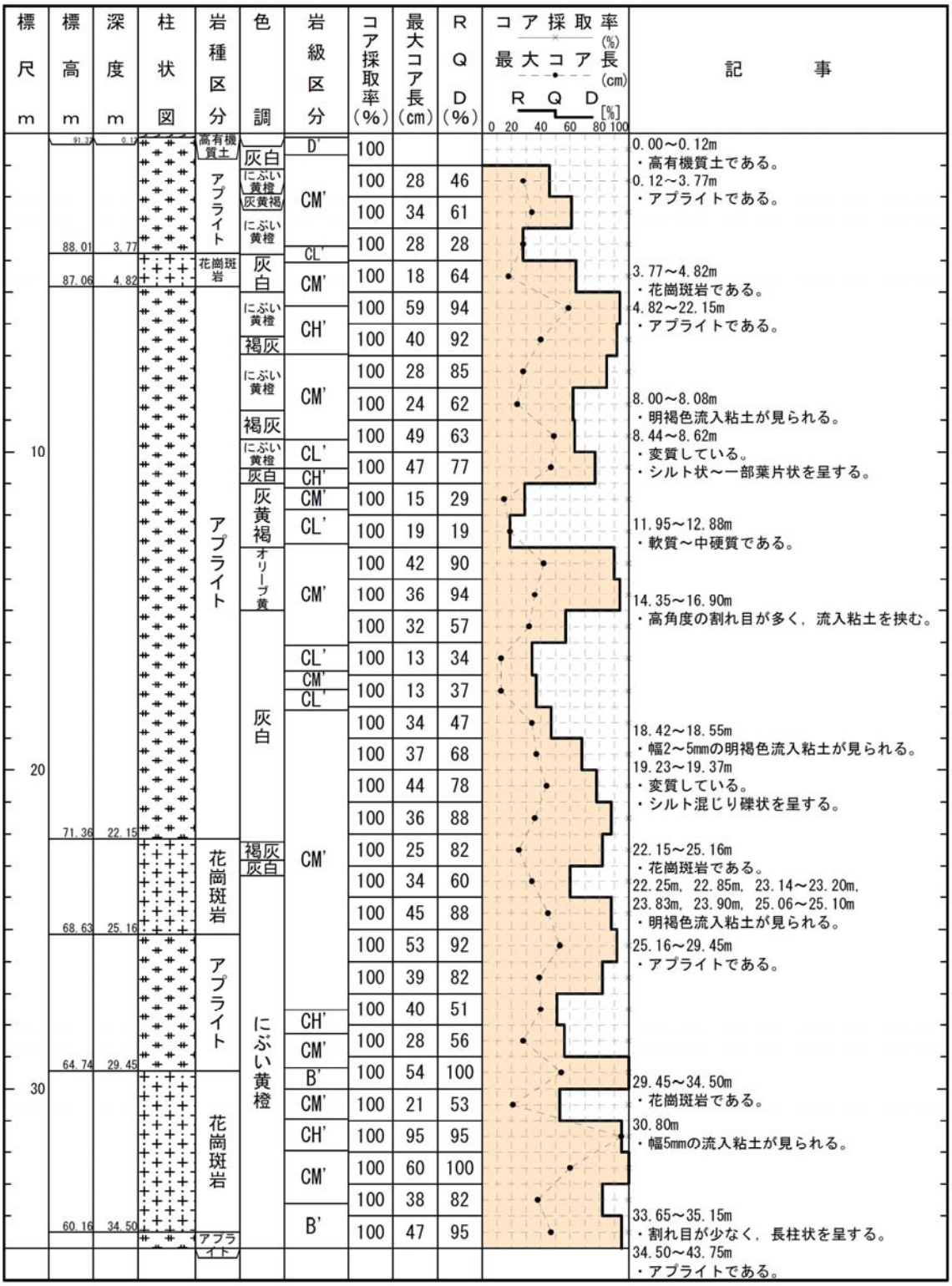


H19－No.14

柱状図(0.00m～35.00m)

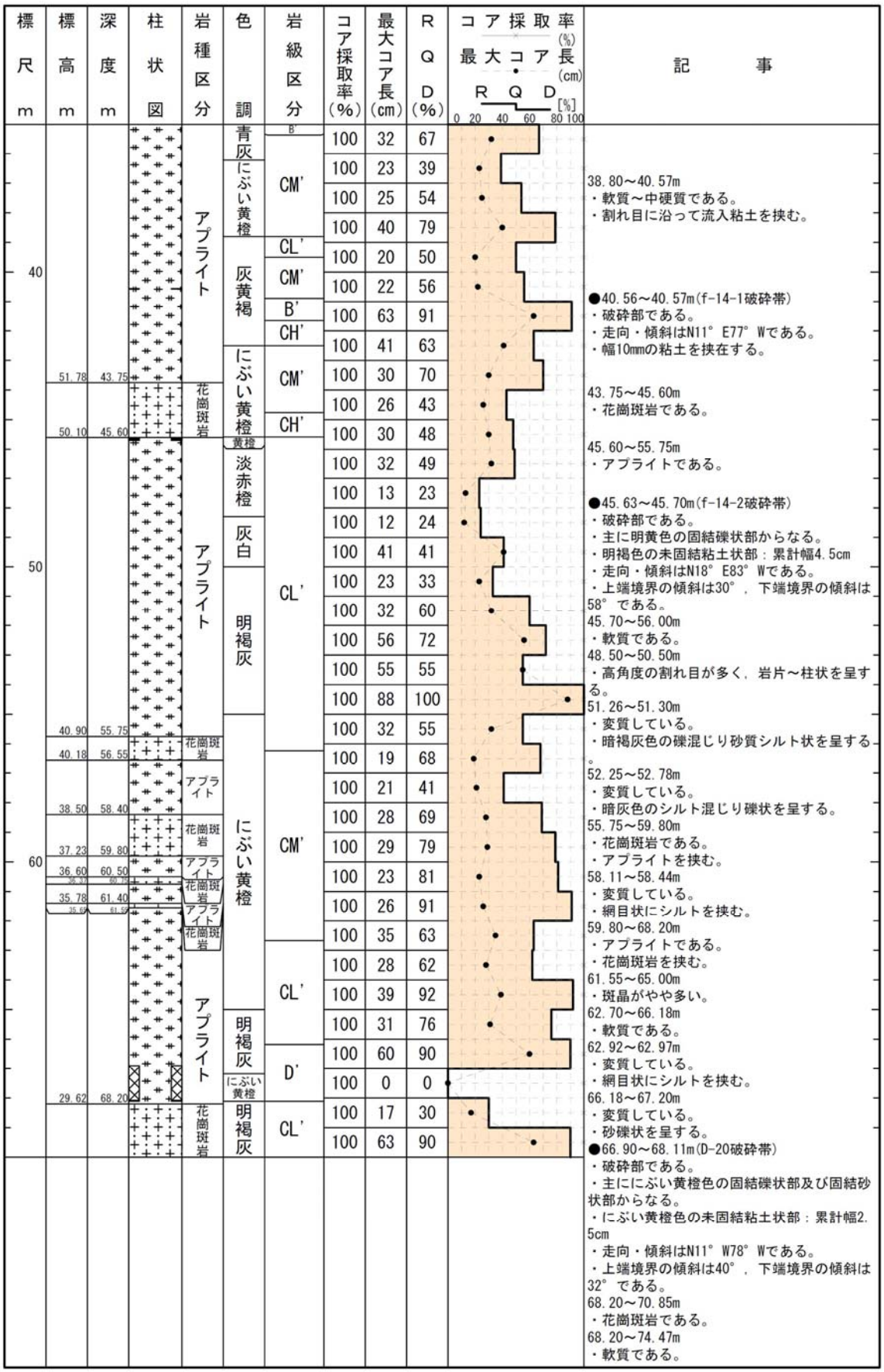
H19-No.14

孔口標高	T.P. 91.43m	掘削長	150.00m



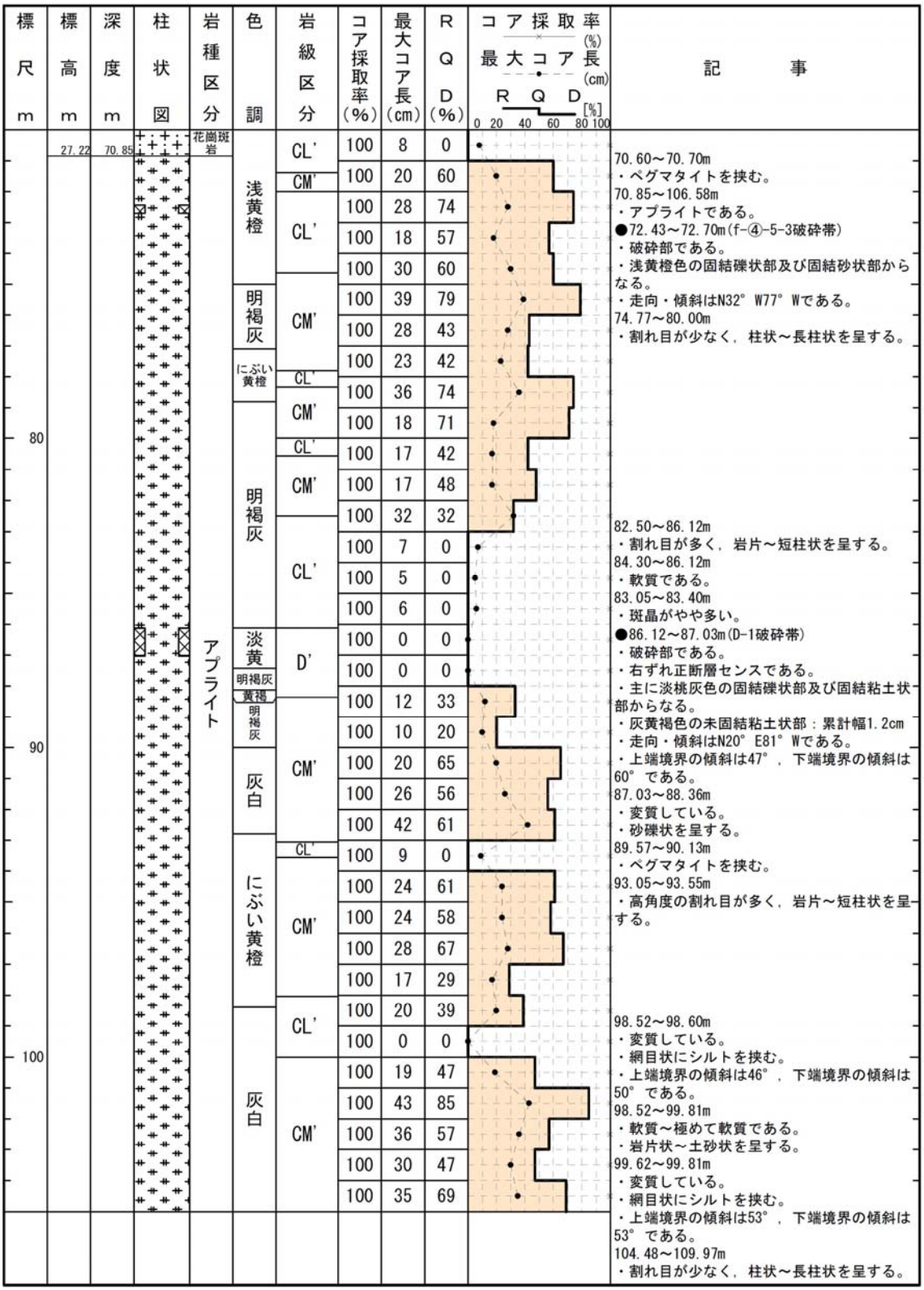
H19－No.14

柱状図(35.00m～70.00m)



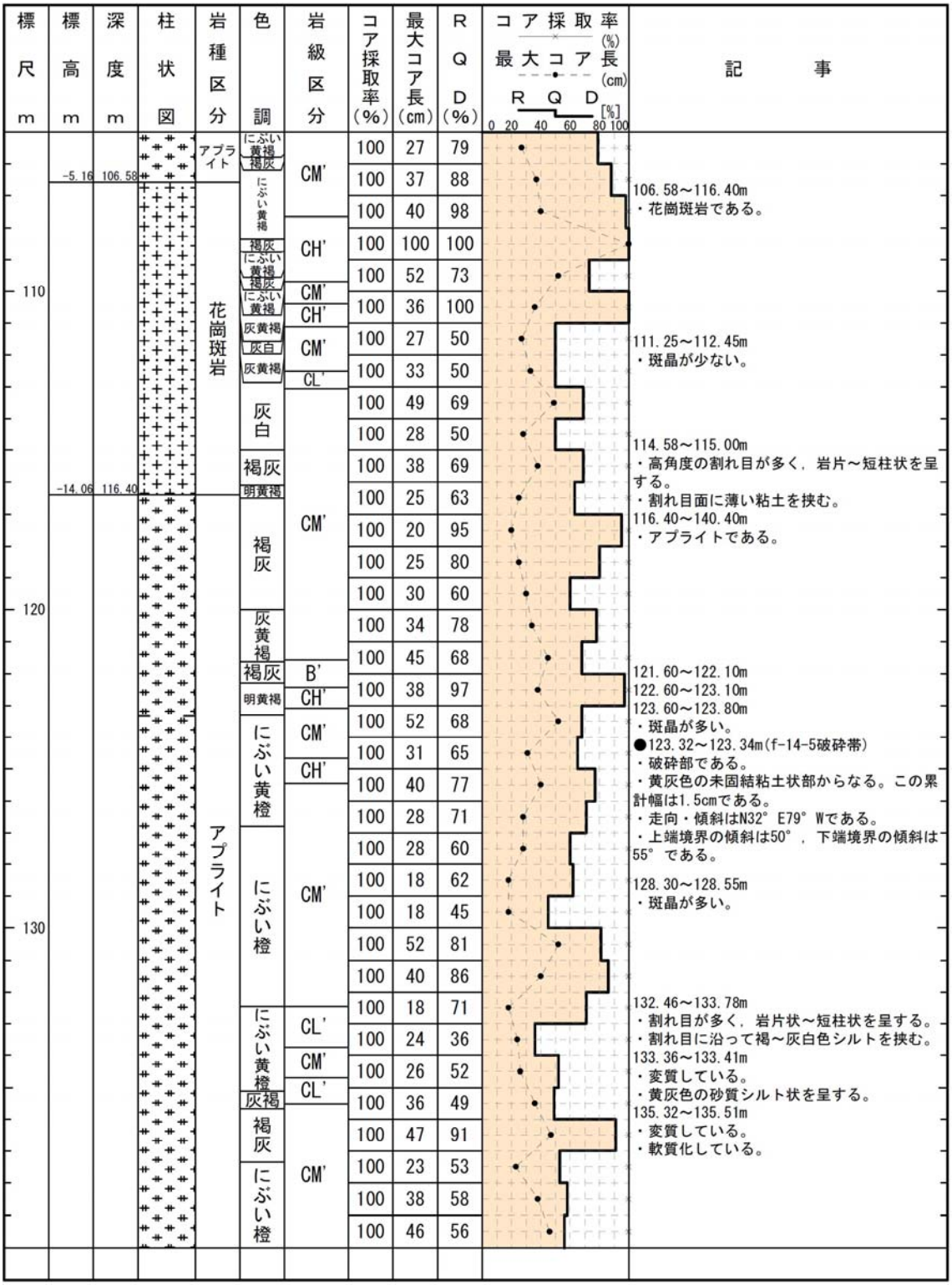
H19－No.14

柱状図(70.00m～105.00m)



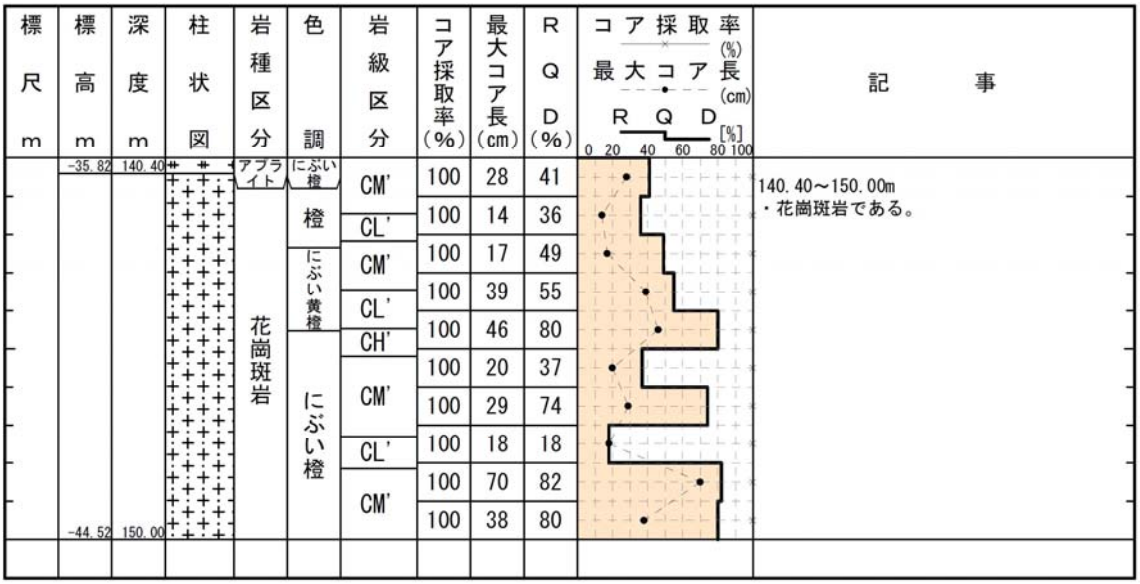
H19－No.14

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No.14

柱状図(140.00m～150.00m)

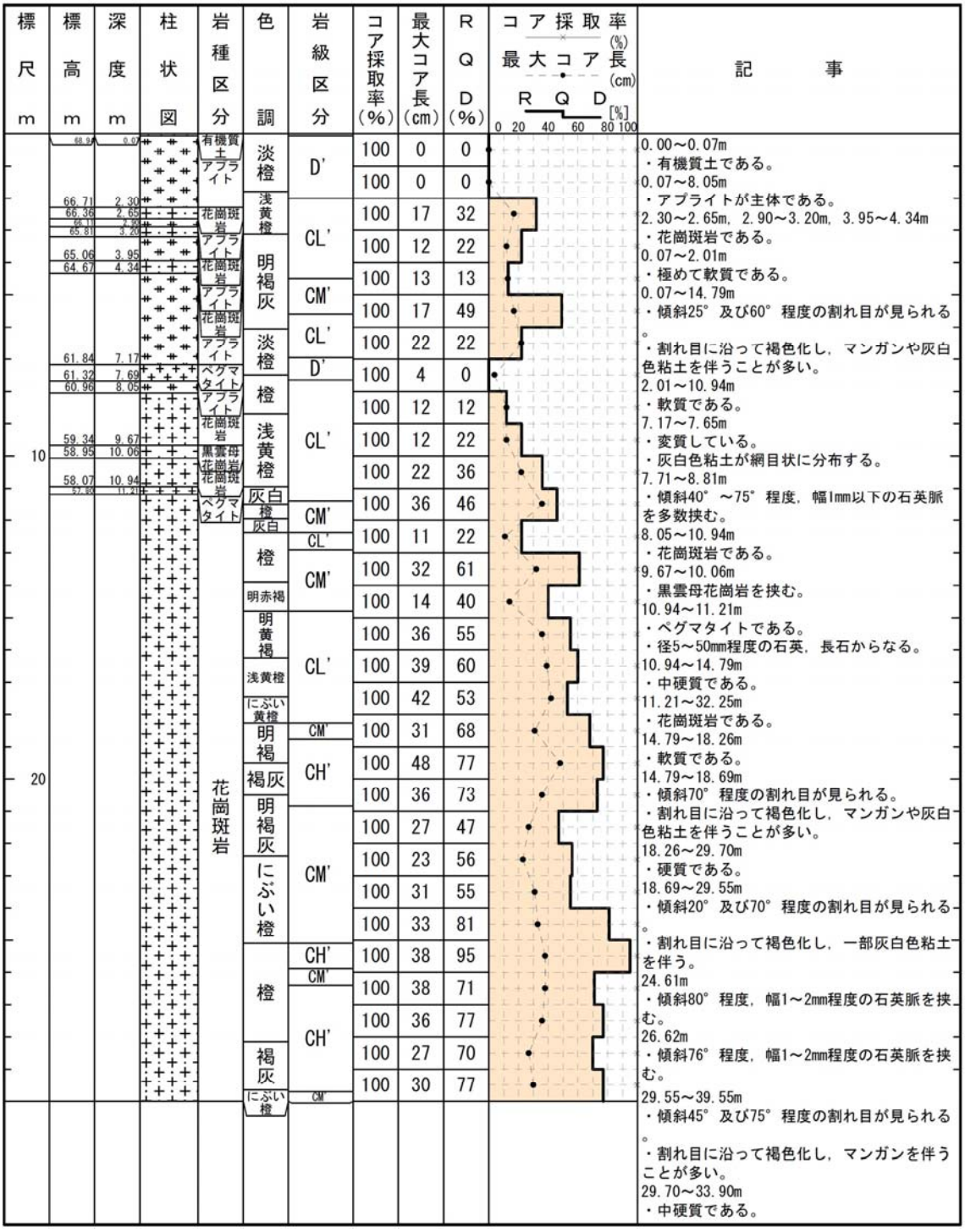


H20－②－1

柱状図(0.00m～30.00m)

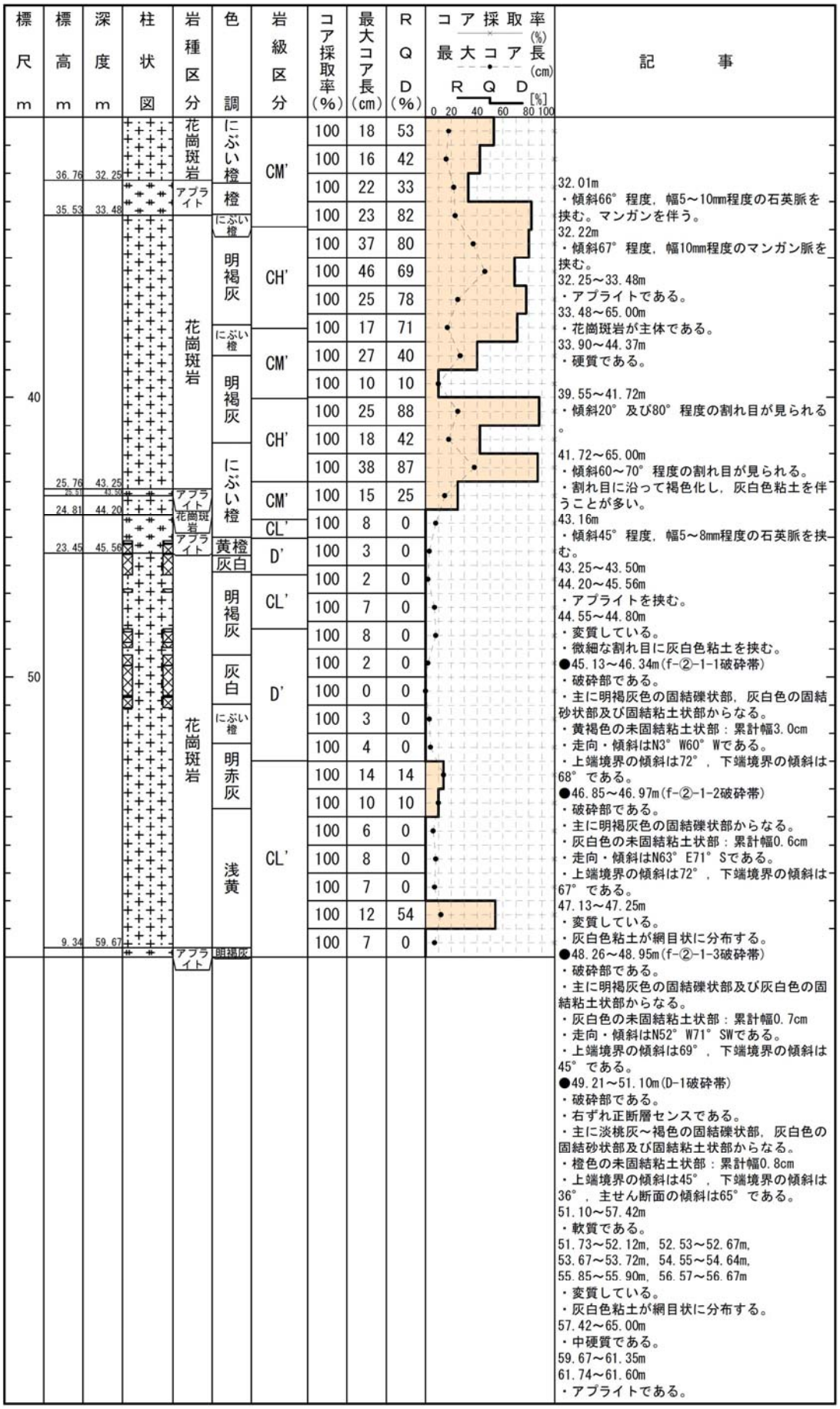
H20-②-1

孔口標高	T.P. 69.01m	掘削長	65.00m



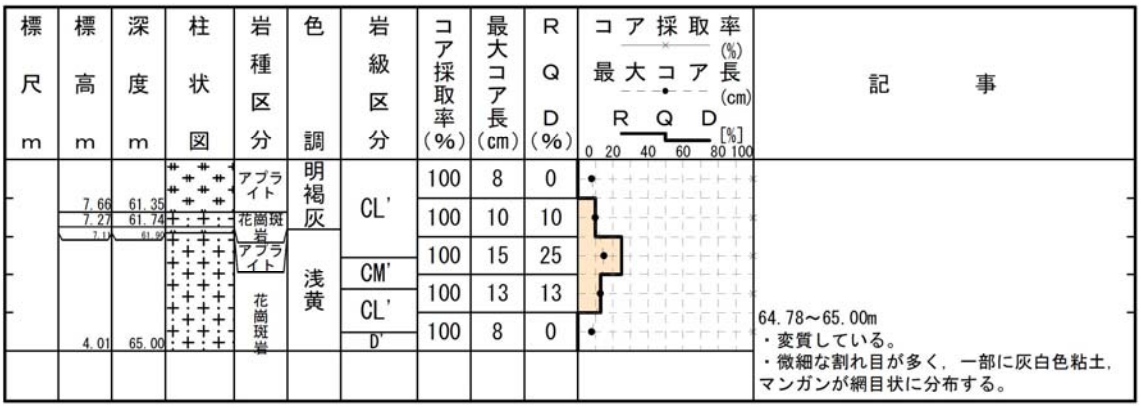
H20－②－1

柱状図(30.00m～60.00m)



H20－②－1

柱状図(60.00m～65.00m)

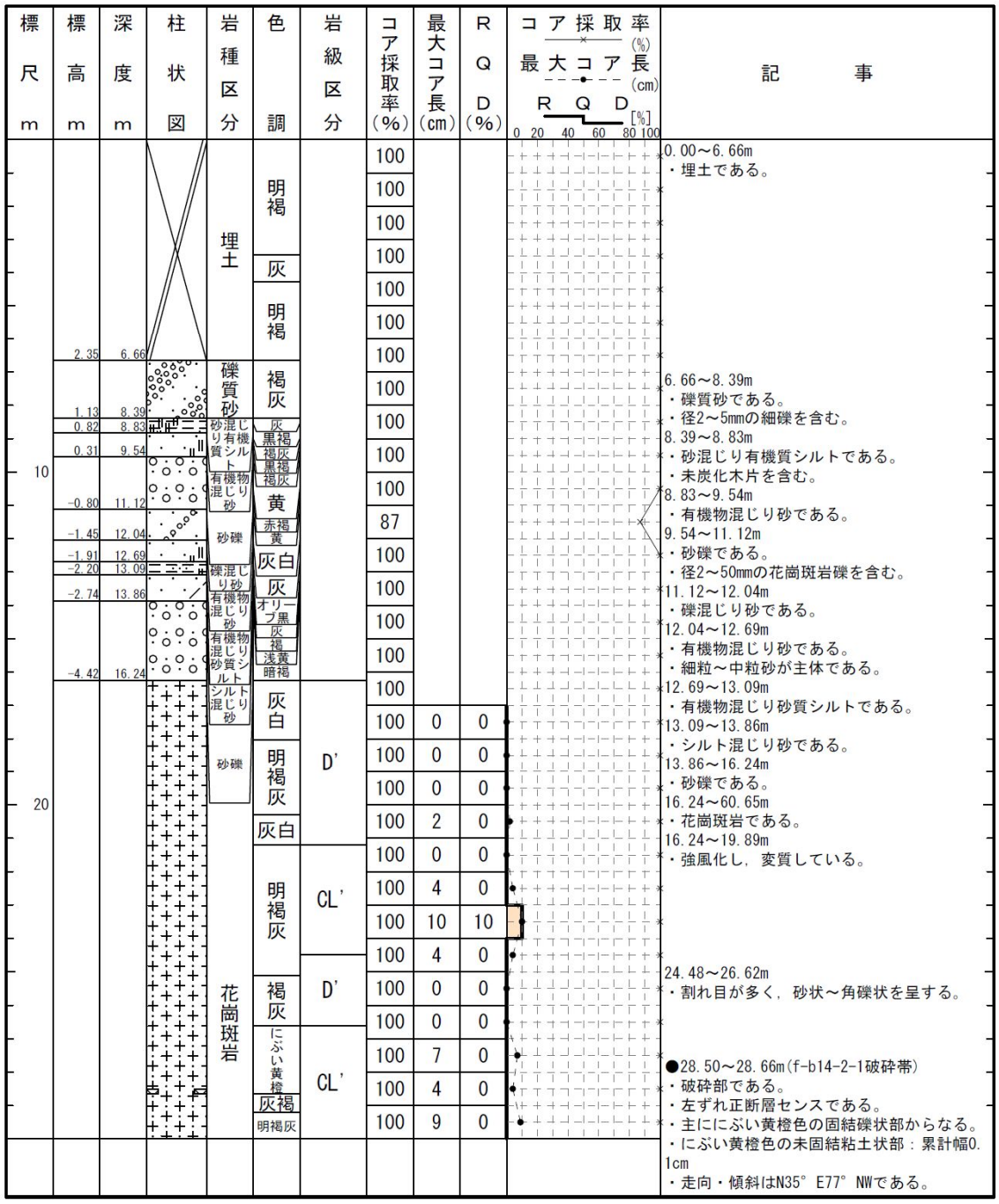


H24－B14－2

柱状図(0.00m～30.00m)

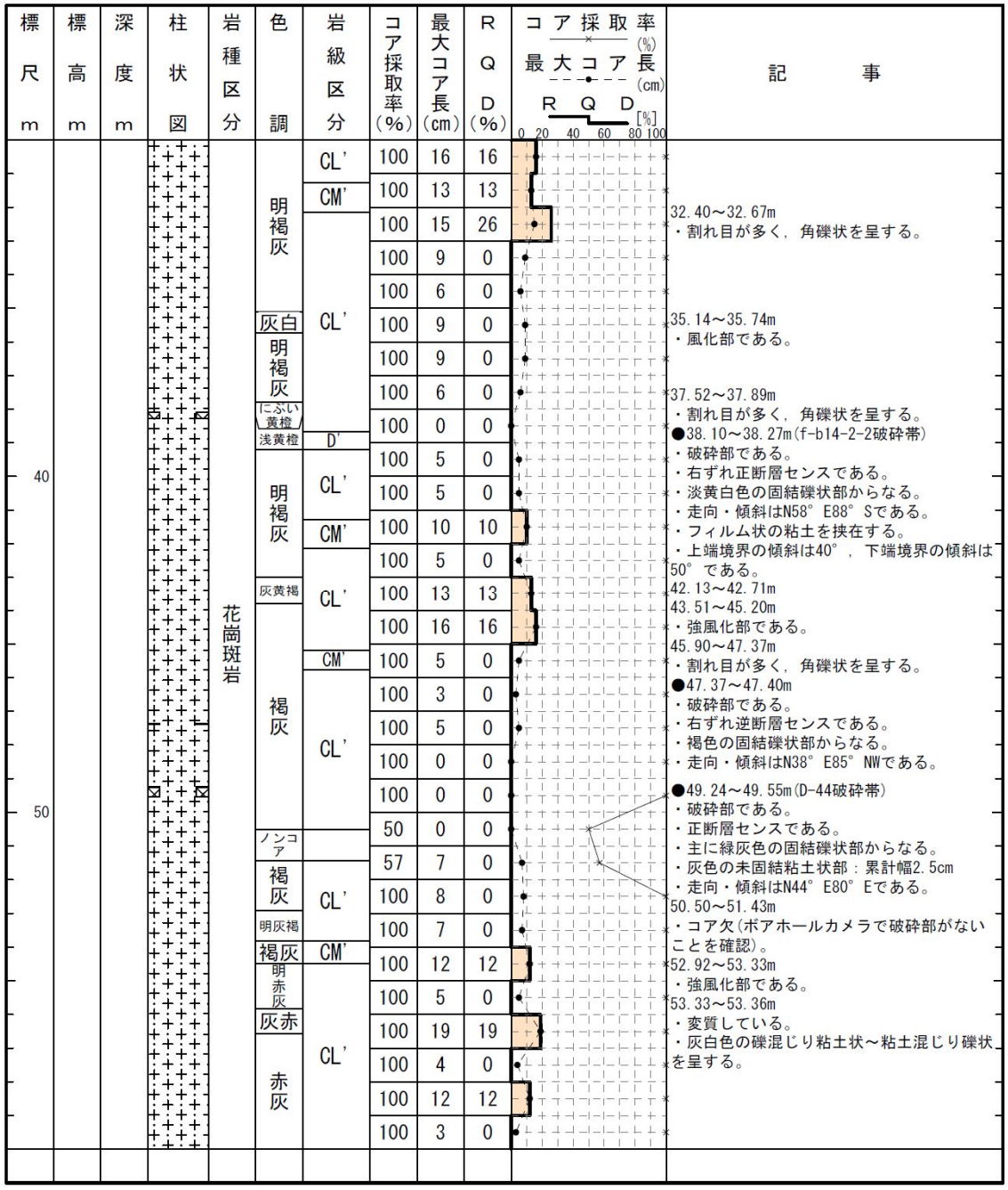
H24-B14-2

孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	150.00m



H24－B14－2

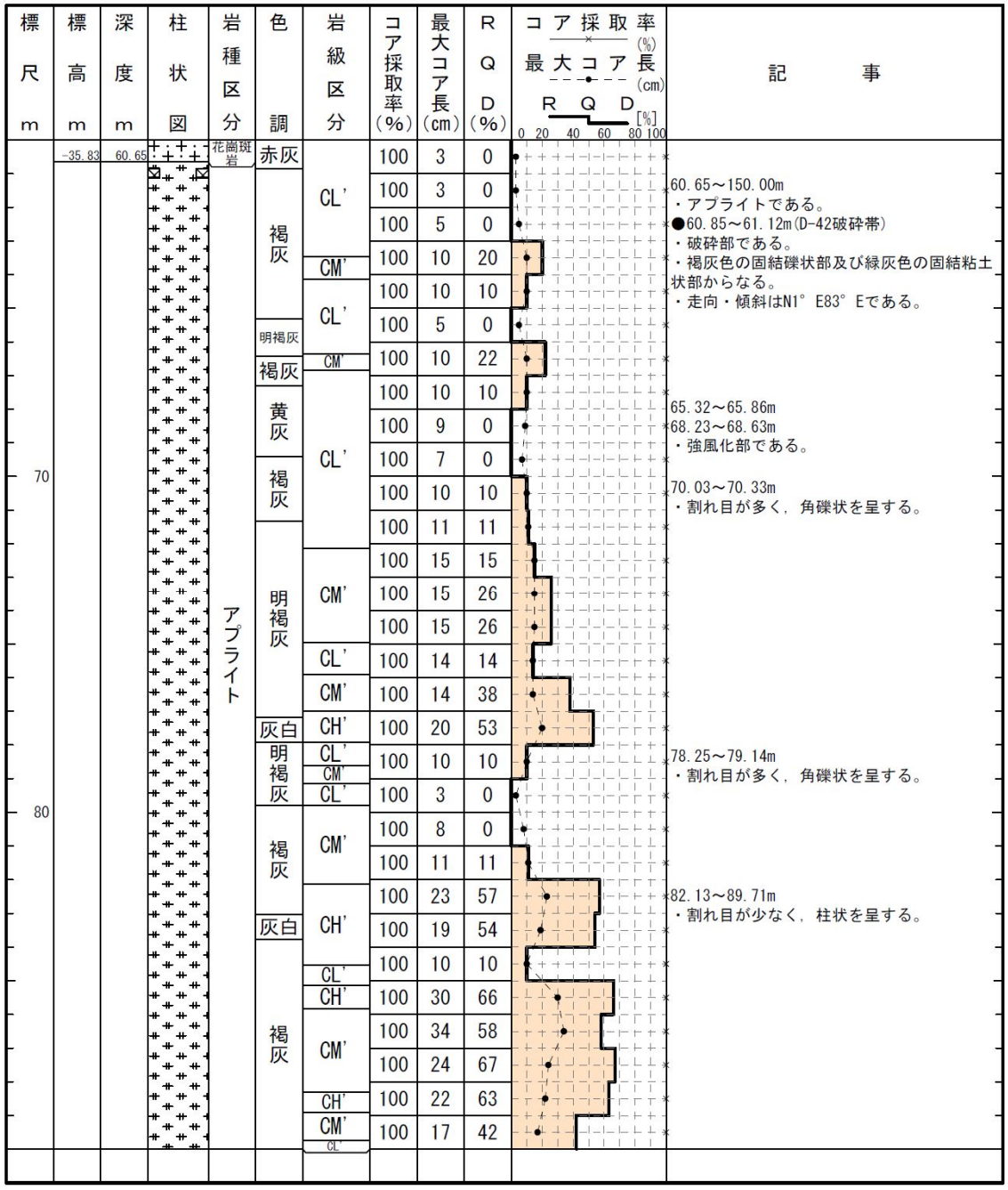
柱状図(30.00m～60.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
					明褐灰	CL'	100	16	16	
						CM'	100	13	13	
							100	15	26	32.40～32.67m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CL'	100	9	0	
							100	6	0	
					灰白		100	9	0	35.14～35.74m ・風化部である。
					明褐灰		100	9	0	
							100	6	0	37.52～37.89m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					にぶい黄橙		100	0	0	●38.10～38.27m(f-b14-2-2破砕帯) ・破砕部である。
					浅黄橙	D'	100	5	0	・右ずれ正断層センスである。 ・淡黄白色の固結礫状部からなる。
40					明褐灰	CL'	100	5	0	・走向・傾斜はN58° E88° Sである。
						CM'	100	10	10	・フィルム状の粘土を挟在する。
							100	5	0	・上端境界の傾斜は40°，下端境界の傾斜は50°である。
					灰黄褐	CL'	100	13	13	42.13～42.71m
				花崗斑岩			100	16	16	43.51～45.20m ・強風化部である。
						CM'	100	5	0	45.90～47.37m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					褐灰		100	3	0	●47.37～47.40m ・破砕部である。
						CL'	100	5	0	・右ずれ逆断層センスである。 ・褐色の固結礫状部からなる。
							100	0	0	・走向・傾斜はN38° E85° NWである。
							100	0	0	
50							50	0	0	●49.24～49.55m(D-44破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。
					ノンコア		57	7	0	・主に緑灰色の固結礫状部からなる。 ・灰色の未固結粘土状部：累計幅2.5cm
					褐灰	CL'	100	8	0	・走向・傾斜はN44° E80° Eである。
					明灰褐		100	7	0	50.50～51.43m ・コア欠(ボアホールカメラで破砕部がないことを確認)。
					褐灰	CM'	100	12	12	52.92～53.33m ・強風化部である。
					明赤灰		100	5	0	53.33～53.36m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。
					灰赤	CL'	100	19	19	
					赤灰		100	4	0	
							100	12	12	
							100	3	0	

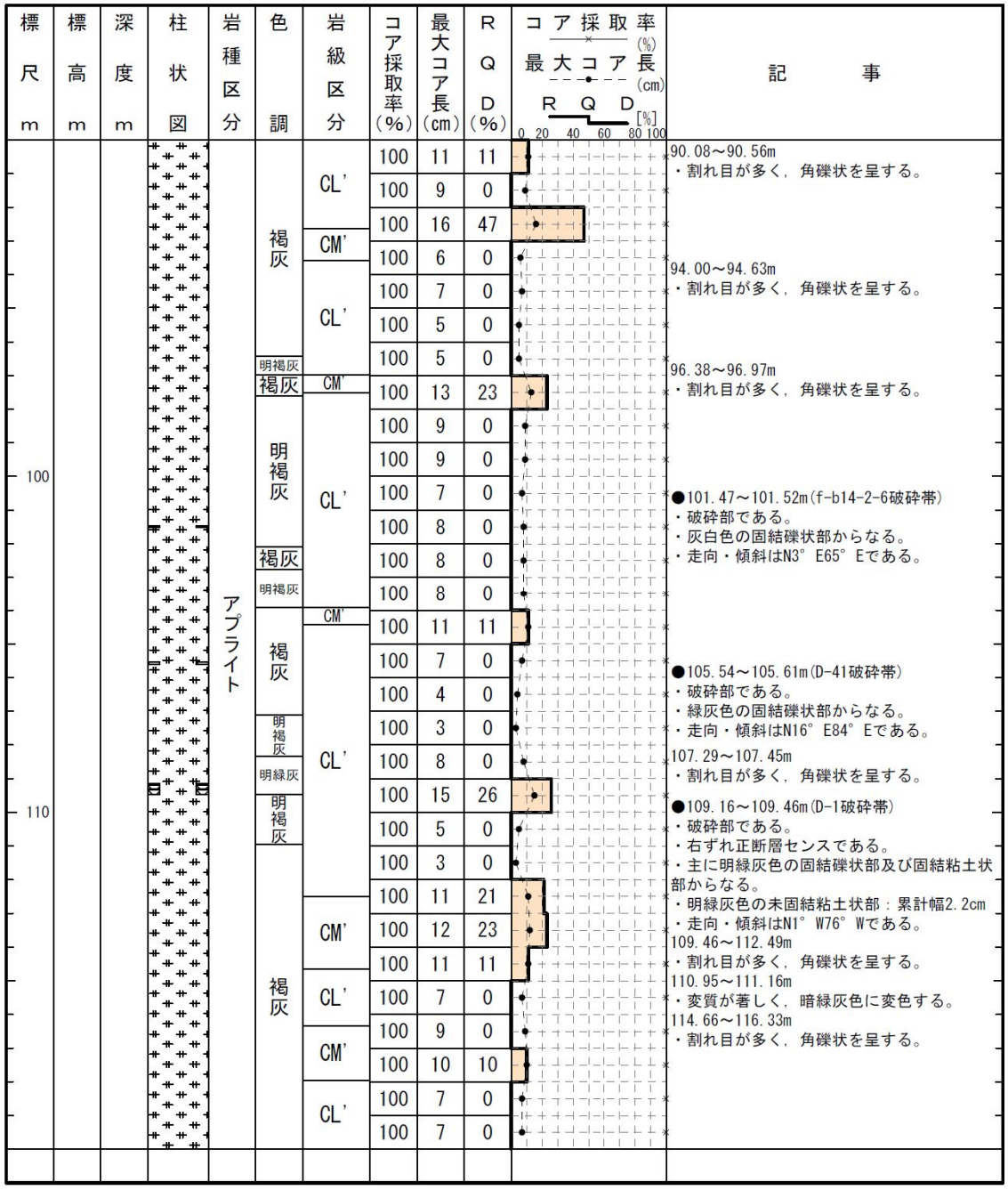
H24－B14－2

柱状図(60.00m～90.00m)



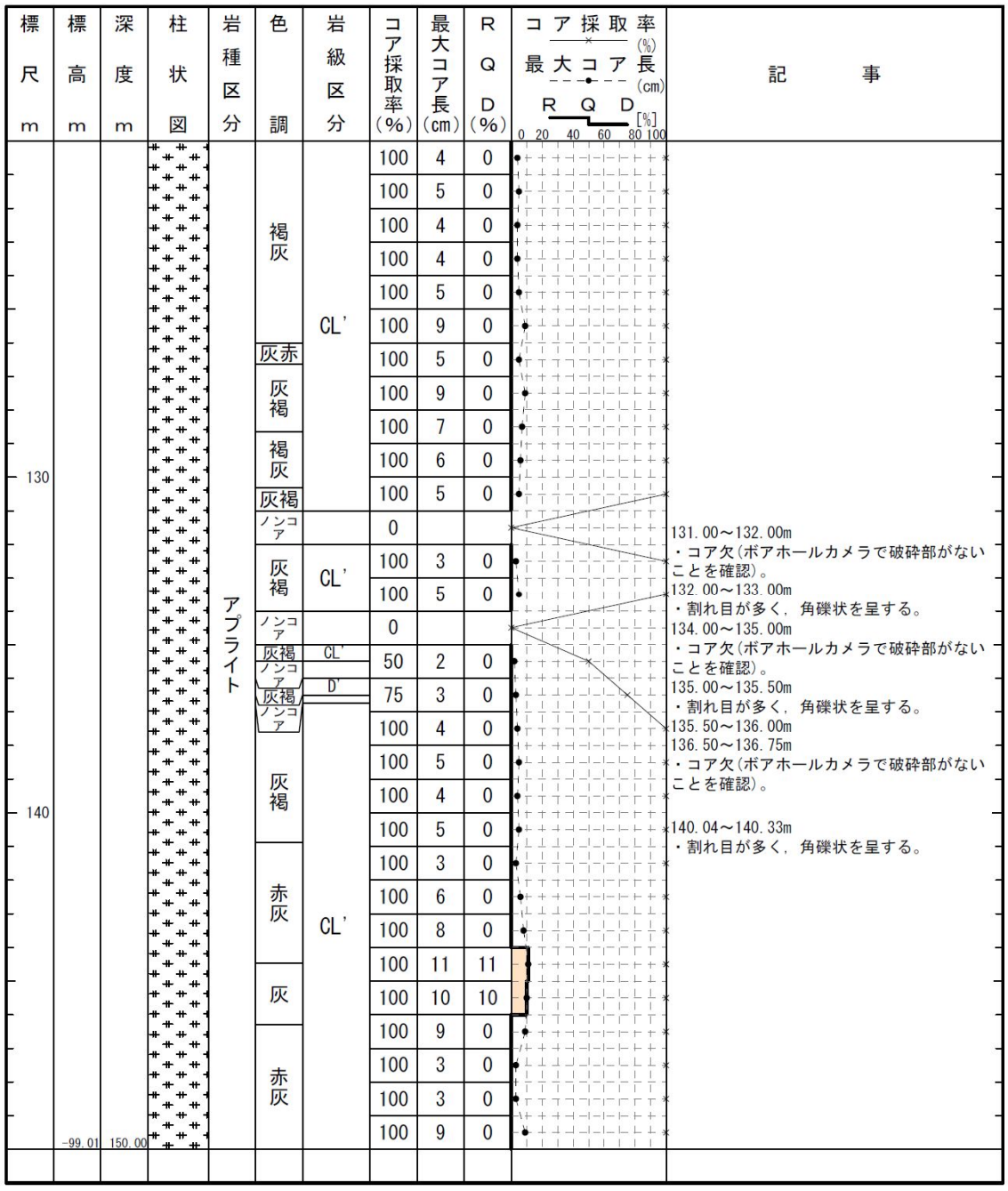
H24－B14－2

柱状図(90.00m～120.00m)



H24－B14－2

柱状図(120.00m～150.00m)

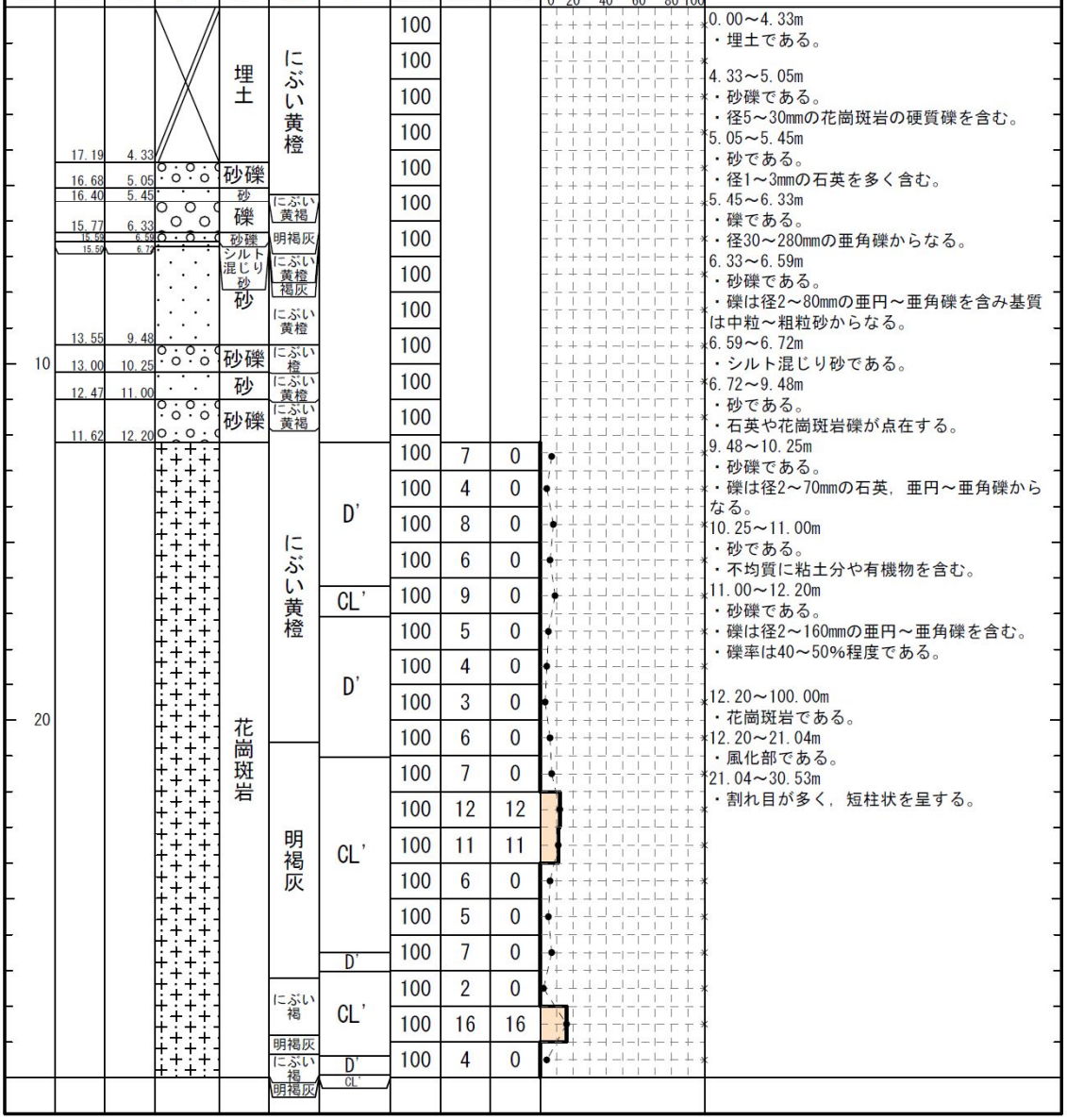


H24－D1－1

柱状図(0.00m～30.00m)

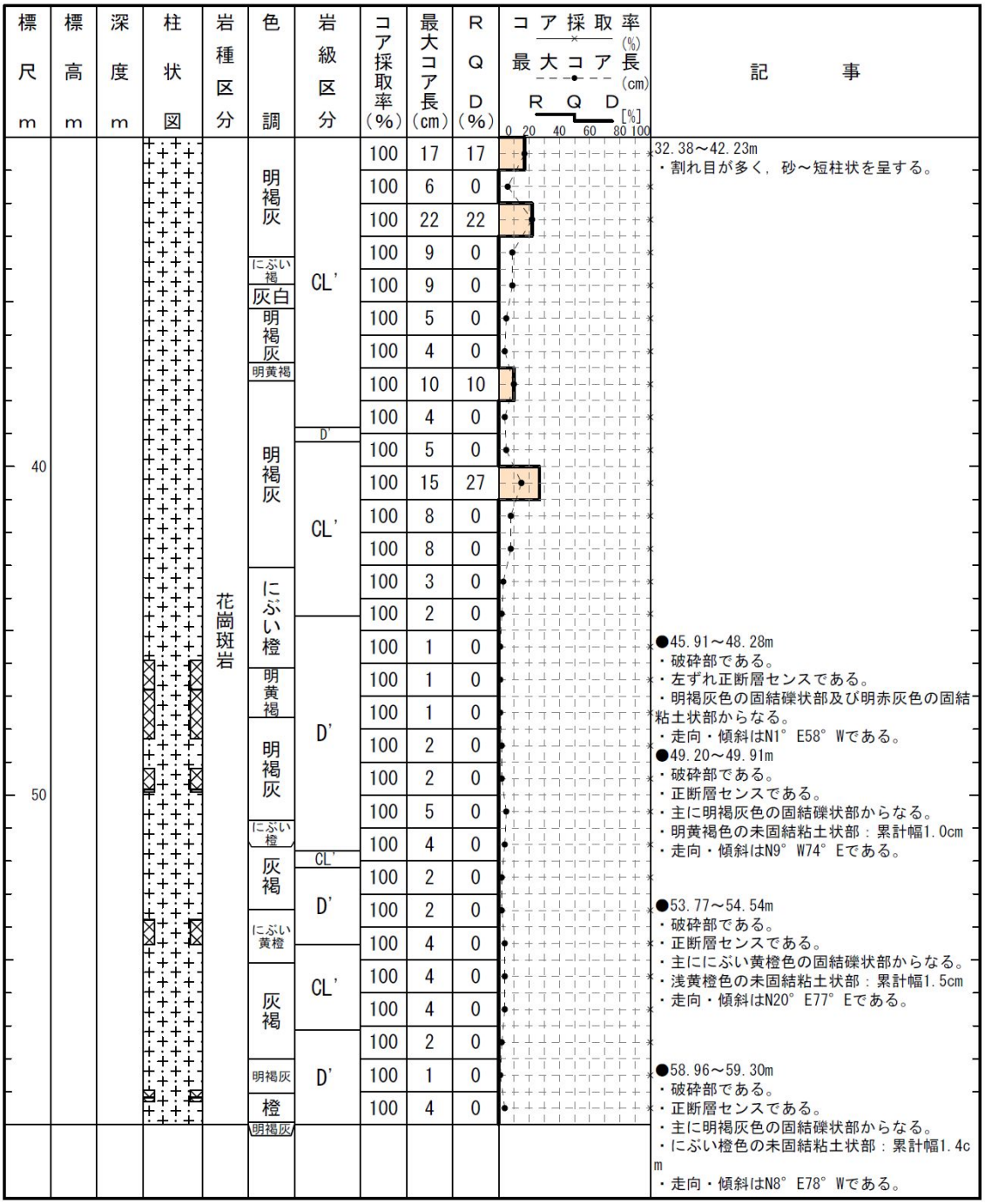
H24-D1-1

孔口標高	T.P. 20.25m	掘削長	100.00m



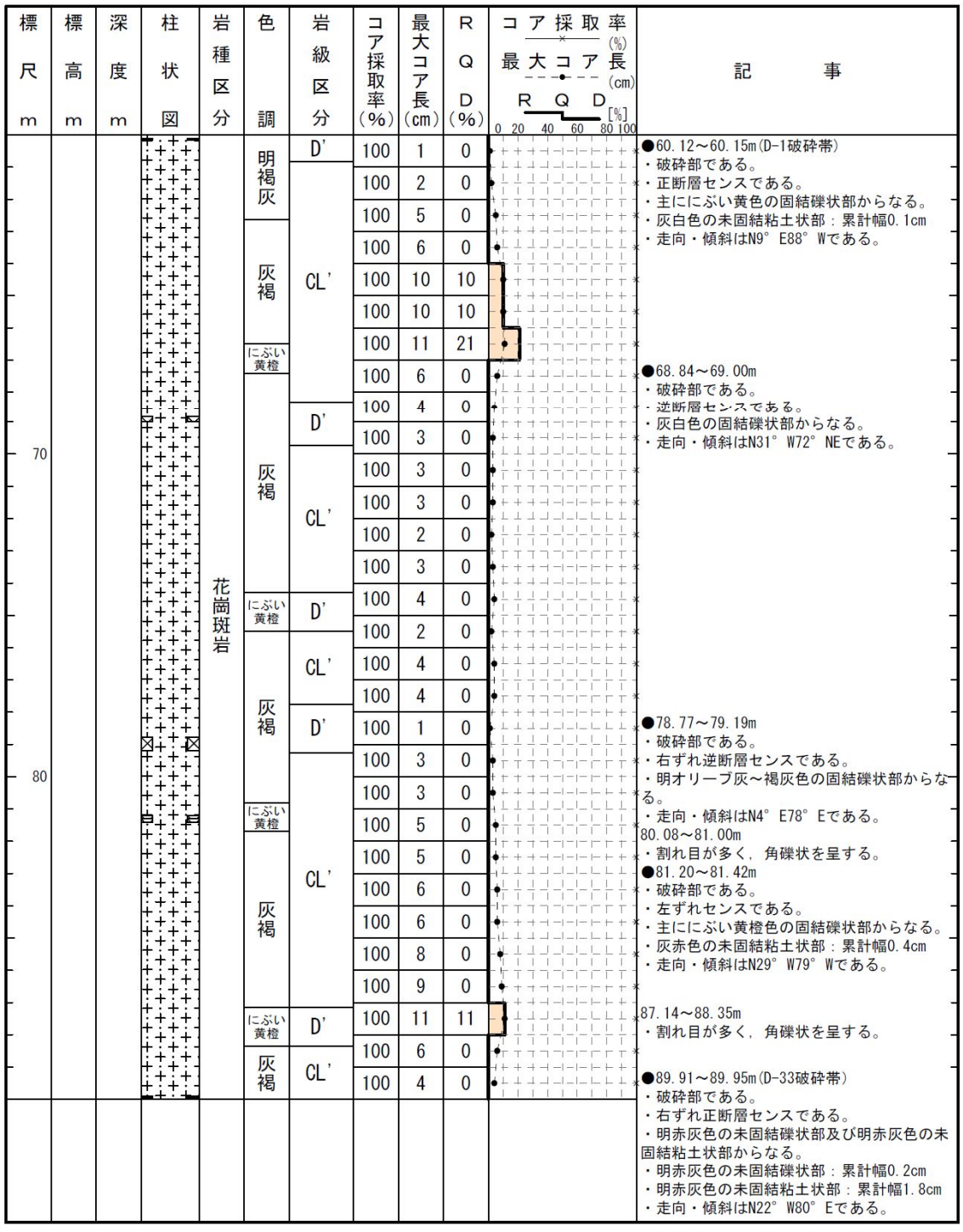
H24－D1－1

柱状図(30.00m～60.00m)



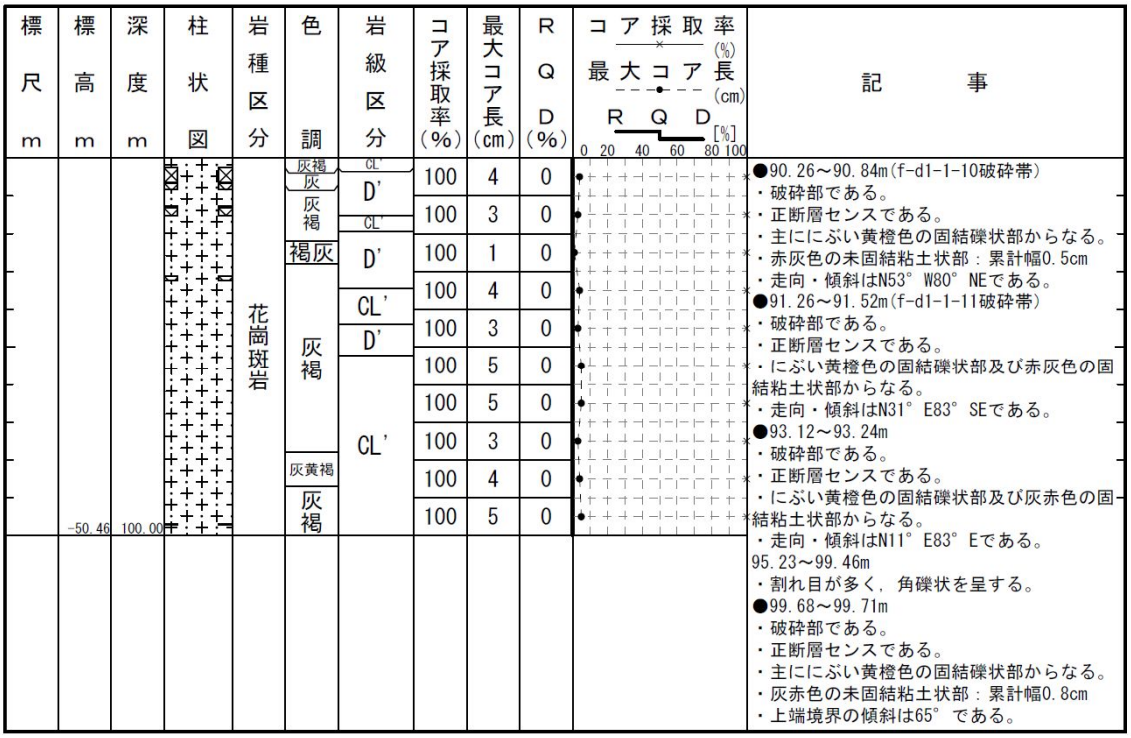
H24－D1－1

柱状図(60.00m～90.00m)



H24－D1－1

柱状図(90.00m～100.00m)



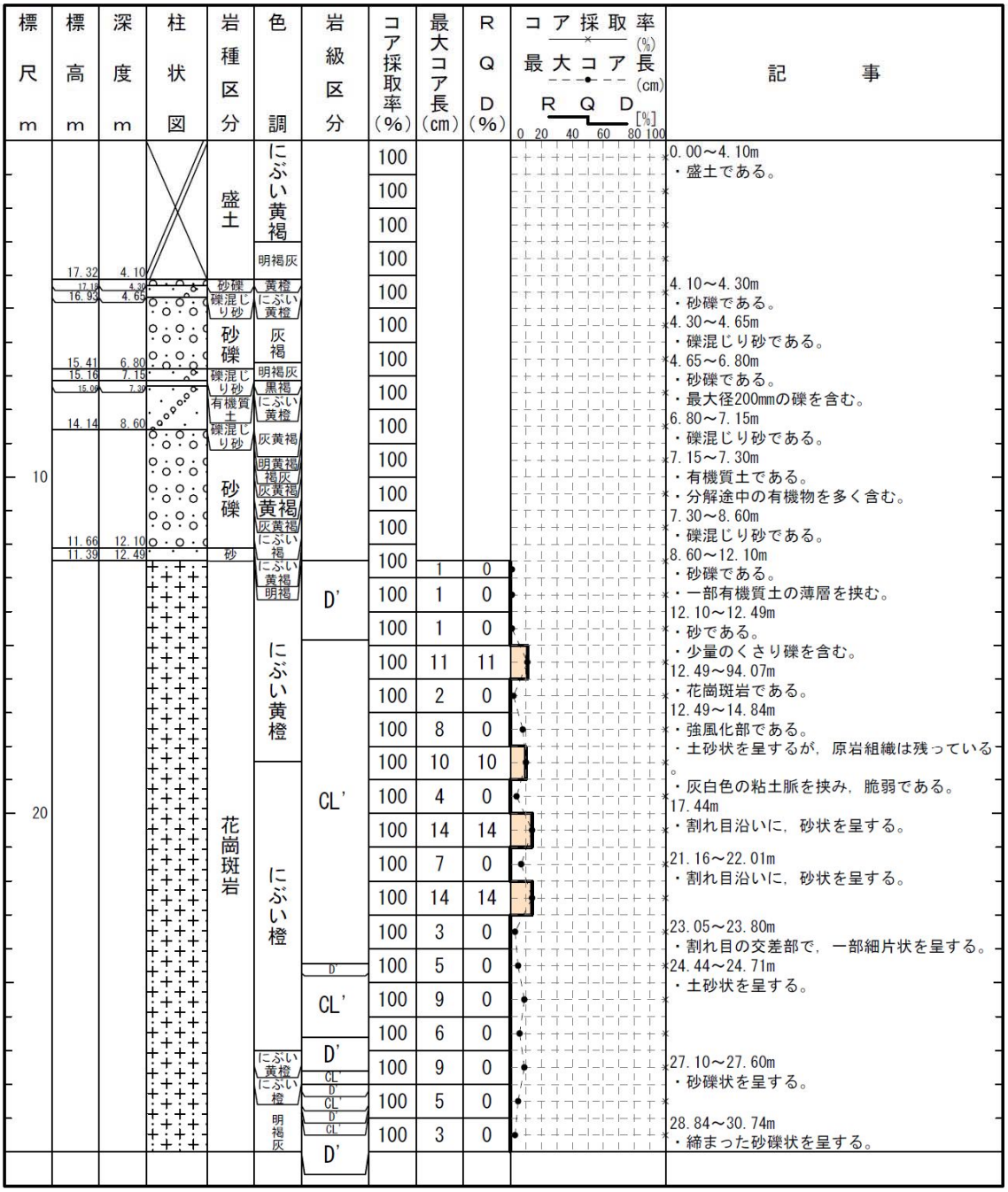
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	灰褐	CL'	100	4	0		●90.26～90.84m(f-d1-1-10破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・赤灰色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。 ●91.26～91.52m(f-d1-1-11破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び赤灰色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。 ●93.12～93.24m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び灰赤色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。 95.23～99.46m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。 ●99.68～99.71m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm ・上端境界の傾斜は65° である。
					灰	D'	100	3	0		
					灰褐	CL'	100	1	0		
					褐灰	D'	100	4	0		
						CL'	100	3	0		
					灰褐	D'	100	5	0		
						CL'	100	5	0		
							100	3	0		
					灰黄褐		100	4	0		
	-50.46	100.00			灰褐		100	5	0		

H27－B－1

柱状図(0.00m～30.00m)

H27-B-1

孔口標高	T.P. 20.22m	掘削長	140.00m



H27－B－1

柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD(%) 0 20 40 60 80 100	記事
40				花崗斑岩	明褐灰	D'	100	4	0		
					黄褐 にぶい黄橙	CL'	100	3	0		31.05～31.23m ・変質している。 ・白色粘土状を呈する。
					明褐灰	D'	100	6	0		
						CL'	100	14	14		31.70～32.20m ・割れ目沿いに砂状を呈し，砂混じり岩片状を呈する。
							100	4	0		33.40m ・割れ目沿いに幅20mm砂状を呈する。
					にぶい黄橙	D' CL'	100	4	0		●34.54～34.59m ・破砕部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び灰黄褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E46° Wである。 ・上端境界の傾斜は10° ～40° ，下端境界の傾斜は11° である。
						D'	100	9	0		
					明褐灰		100	7	0		
						CL'	100	5	0		
							100	4	0		
							100	8	0		
					にぶい橙		100	4	0		35.37～37.15m ・著しく軟質化している。
					にぶい黄橙	D'	100	2	0		37.80m ・割れ目沿いに，砂状を呈する。
					にぶい橙		100	2	0		40.32～40.77m ・砂礫状を呈する。
					灰褐 灰白 灰褐		100	1	0		42.24～42.28m ・変質している。 ・淡黄色粘土状を呈する。
							100	1	0		
					にぶい橙 淡黄		100	1	0		●42.41～42.49m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・にぶい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN65° W36° NEである。 ・上端境界の傾斜は63° ，下端境界の傾斜は18° である。
					にぶい褐 黄褐		100	2	0		
						CL' D'	100	1	0		
50					にぶい黄橙		100	4	0		
						CL'	100	6	0		
					にぶい橙		100	5	0		●44.24～44.53m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN1° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は5° ～13° ，下端境界の傾斜は70° である。
						D'	100	2	0		
					灰褐	CL' D'	100	4	0		
							100	3	0		
					にぶい橙	CL'	100	7	0		●44.53～44.83m ・破砕部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・にぶい橙～灰白色の固結礫状部及び灰黄褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はNS66° Eである。 ・上端境界の傾斜は70° ，下端境界の傾斜は75° ～85° である。
							100	5	0		
						D' CL'	100	6	0		
							100	5	0		
					にぶい褐 にぶい橙	D' CL'	100	2	0		
											●45.36～45.39m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・にぶい橙色の固結礫状部及び灰褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN43° E70° SEである。 ・上端境界の傾斜は62° ，下端境界の傾斜は65° である。
											●46.12～46.17m ・破砕部である。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。 ・黒褐色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN14° E79° Wである。 ・上端境界の傾斜は31° ，下端境界の傾斜は35° ～70° である。

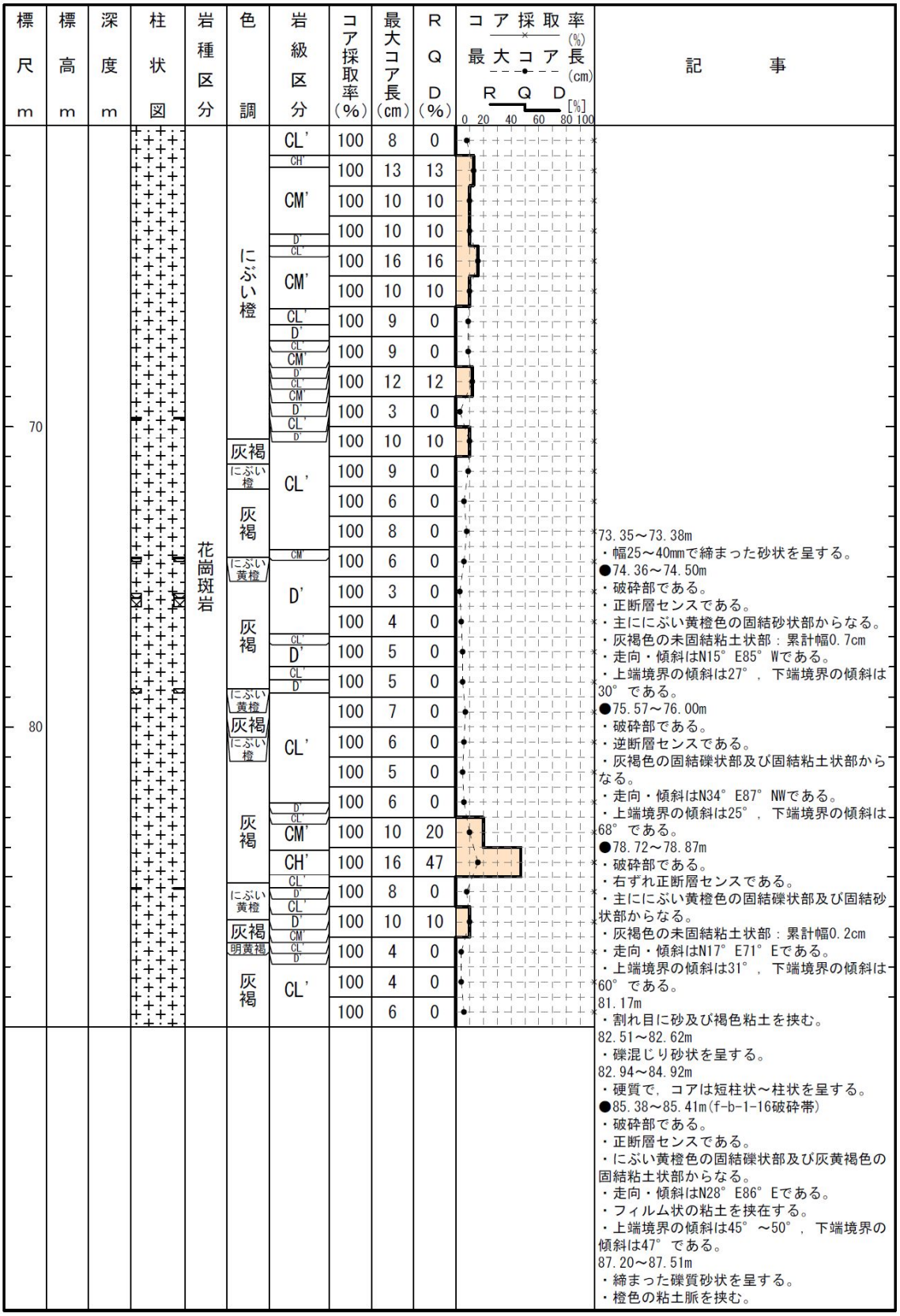
H27－B－1

柱状図(30.00m～60.00m)



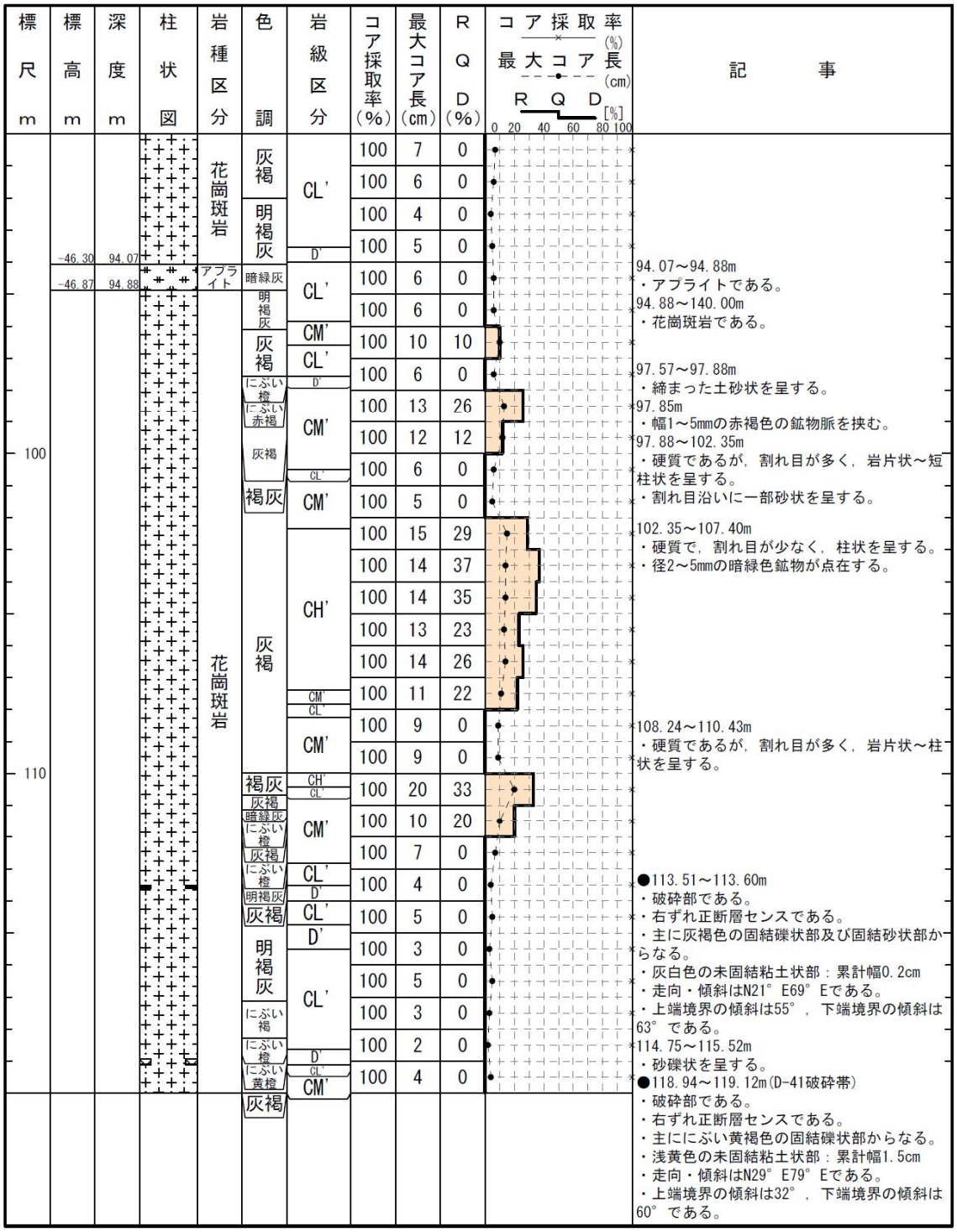
H27－B－1

柱状図(60.00m～90.00m)



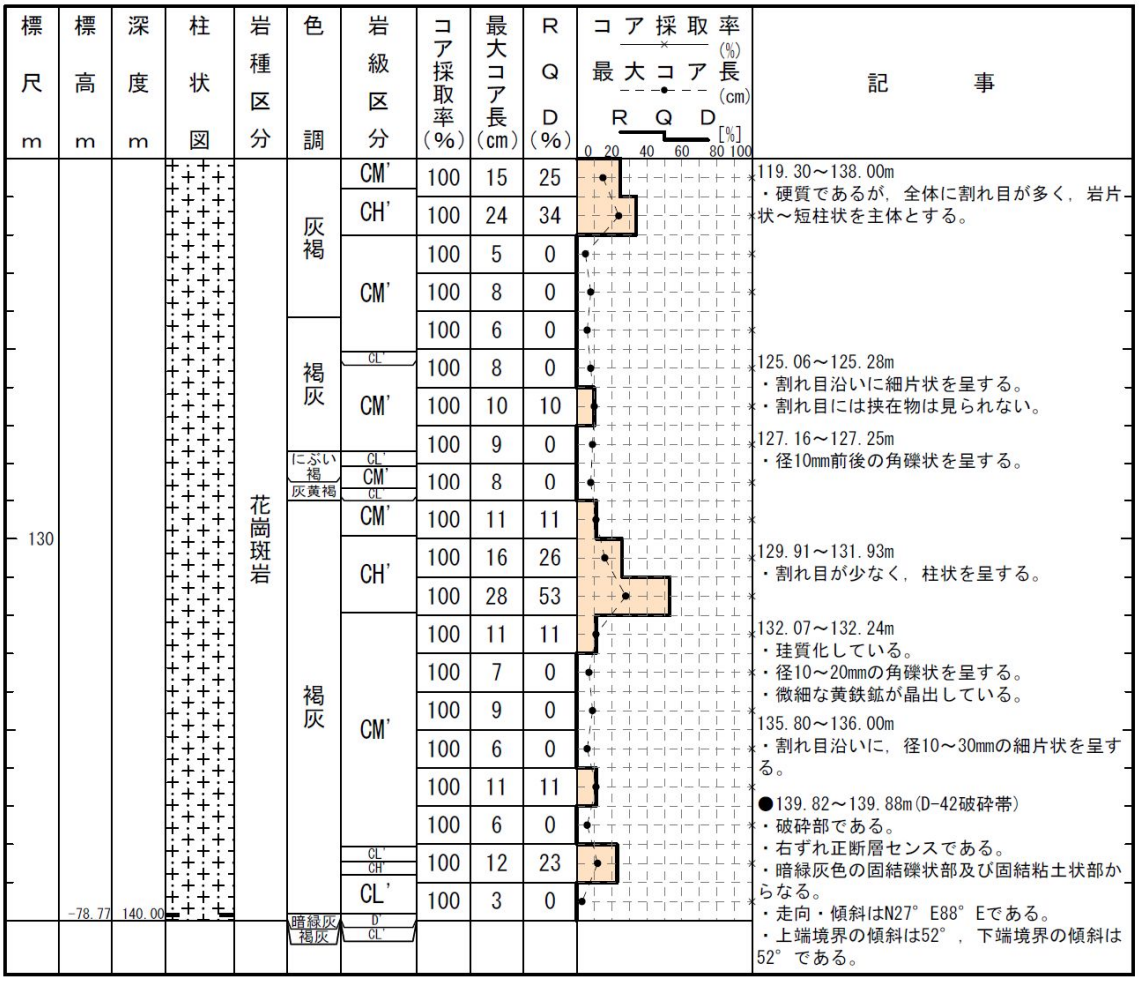
H27－B－1

柱状図(90.00m～120.00m)



H27－B－1

柱状図(120.00m～140.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
130	-78.77	140.00	花崗斑岩	灰褐	CM'	100	15	25
					CH'	100	24	34
					CM'	100	5	0
						100	8	0
						100	6	0
				褐灰	CL'	100	8	0
					CM'	100	10	10
						100	9	0
				にぶい褐	CL'			
					CM'	100	8	0
				灰黄褐	CL'			
				褐灰	CM'	100	11	11
					CH'	100	16	26
						100	28	53
					CM'	100	11	11
						100	7	0
						100	9	0
						100	6	0
						100	11	11
						100	6	0
					CL'	100	12	23
					CH'			
					CL'	100	3	0
				暗緑灰	D			
				褐灰	CL'			

119.30～138.00m
・硬質であるが，全体に割れ目が多く，岩片状～短柱状を主体とする。

125.06～125.28m
・割れ目沿いに細片状を呈する。
・割れ目には挟在物は見られない。

127.16～127.25m
・径10mm前後の角礫状を呈する。

129.91～131.93m
・割れ目が少なく，柱状を呈する。

132.07～132.24m
・珪質化している。
・径10～20mmの角礫状を呈する。
・微細な黄鉄鉱が晶出している。

135.80～136.00m
・割れ目沿いに，径10～30mmの細片状を呈する。

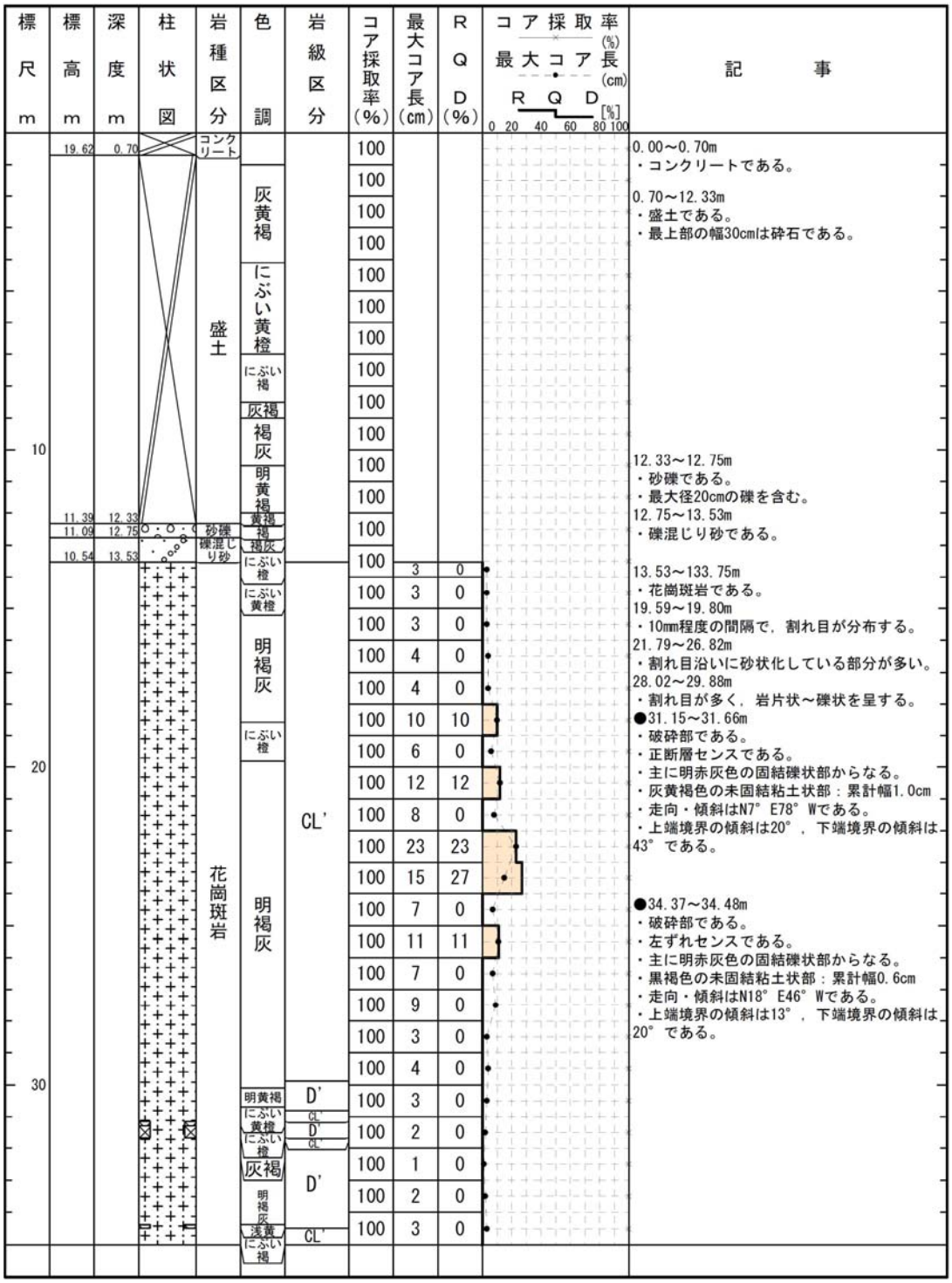
●139.82～139.88m(D-42破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・暗緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。
・走向・傾斜はN27° E88° Eである。
・上端境界の傾斜は52°，下端境界の傾斜は52°である。

H27－B－2

柱状図(0.00m～35.00m)

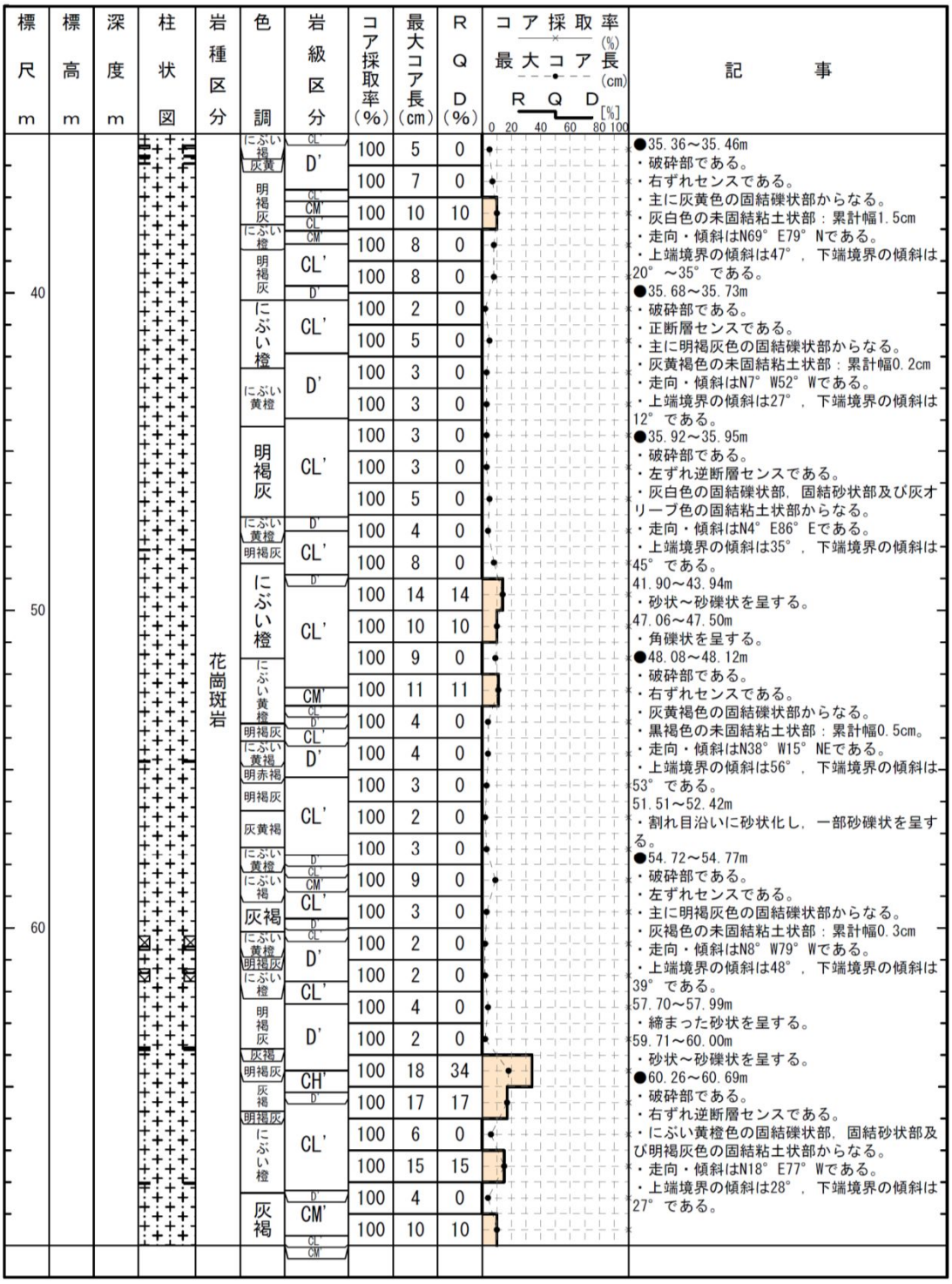
H27-B-2

孔口標高	T.P. 20.11m	掘削長	160.00m



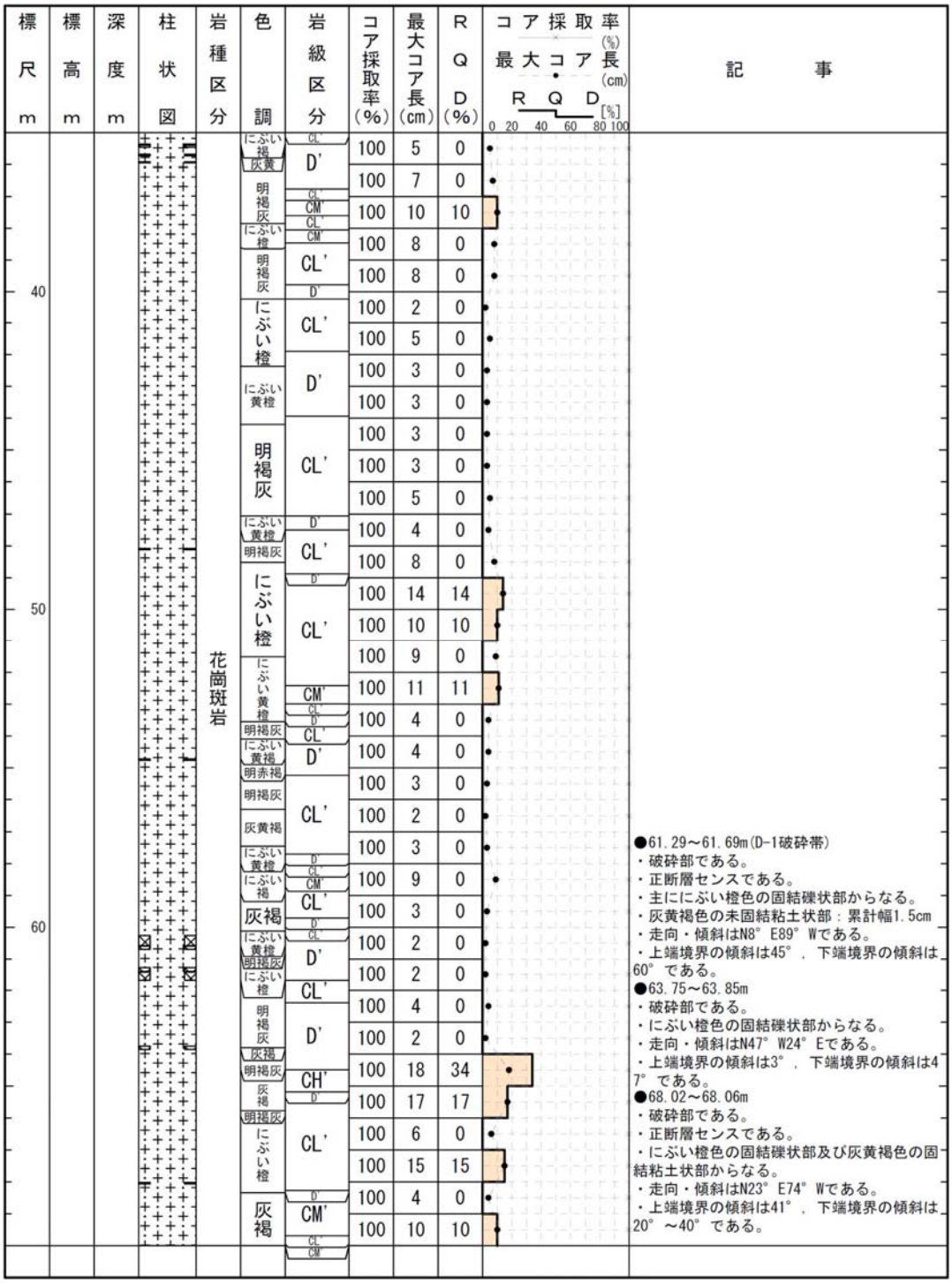
H27－B－2

柱状図(35.00m～70.00m)



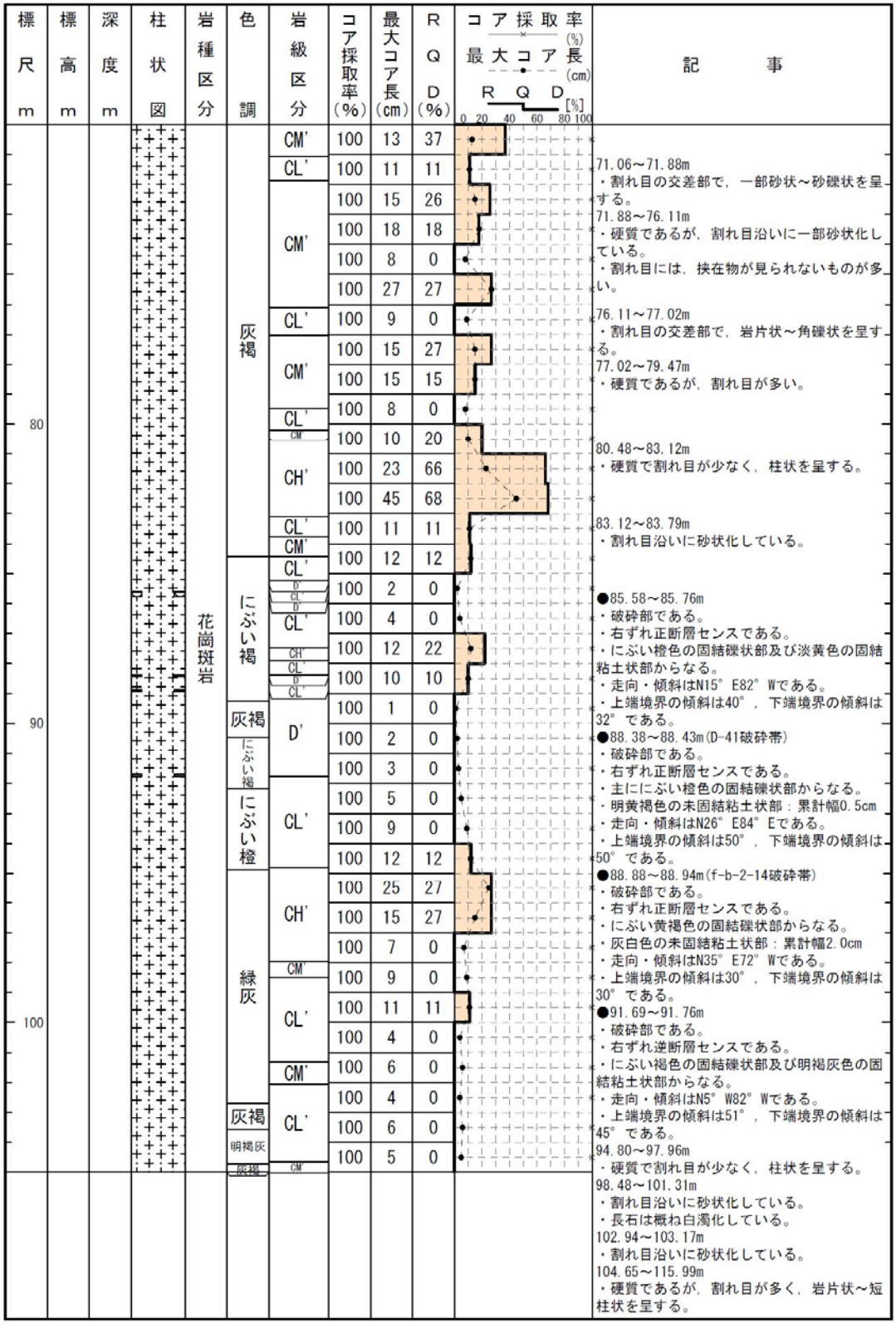
H27－B－2

柱状図(35.00m～70.00m)



H27－B－2

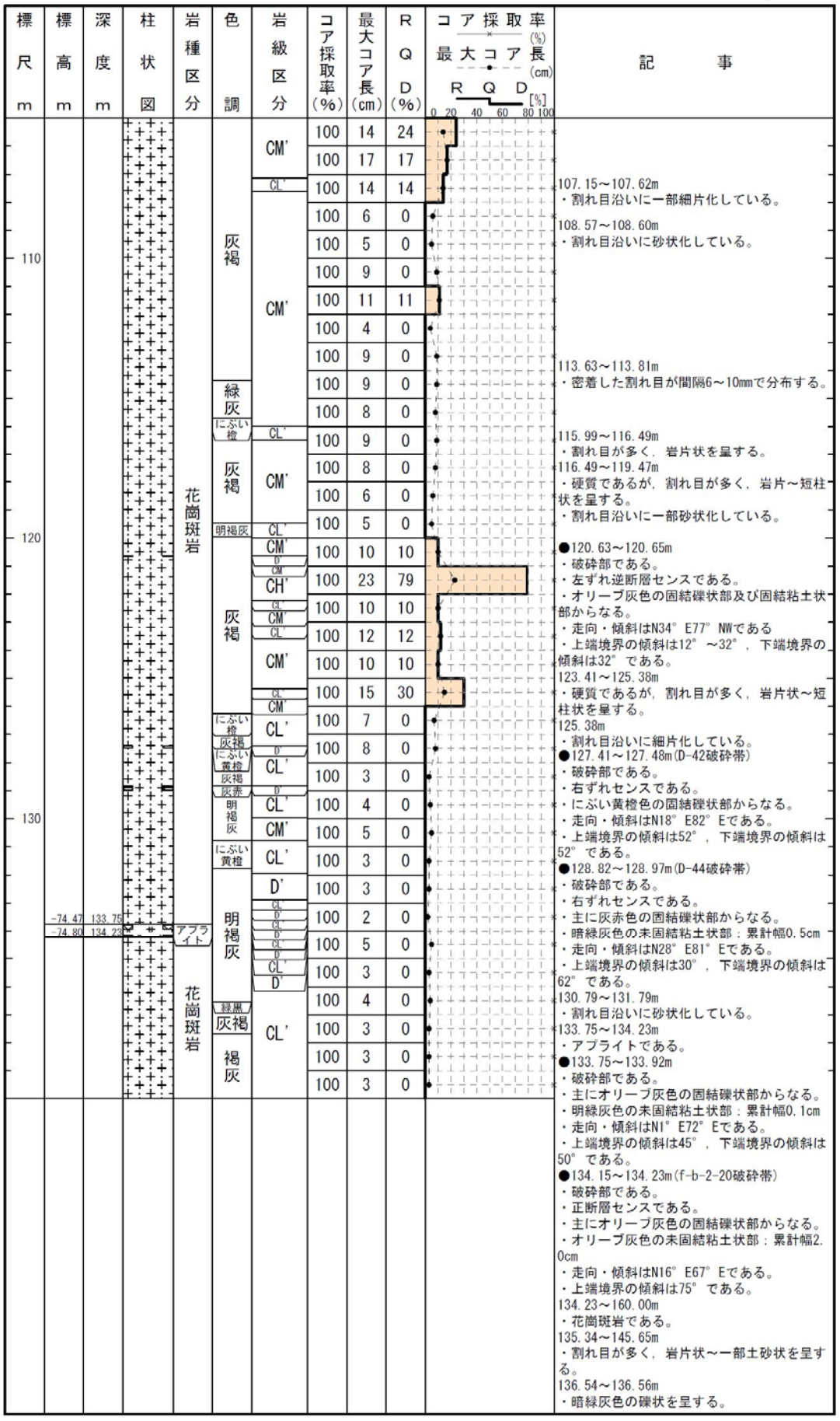
柱状図(70.00m～105.00m)



H27－B－2

柱状図(105.00m～140.00m)

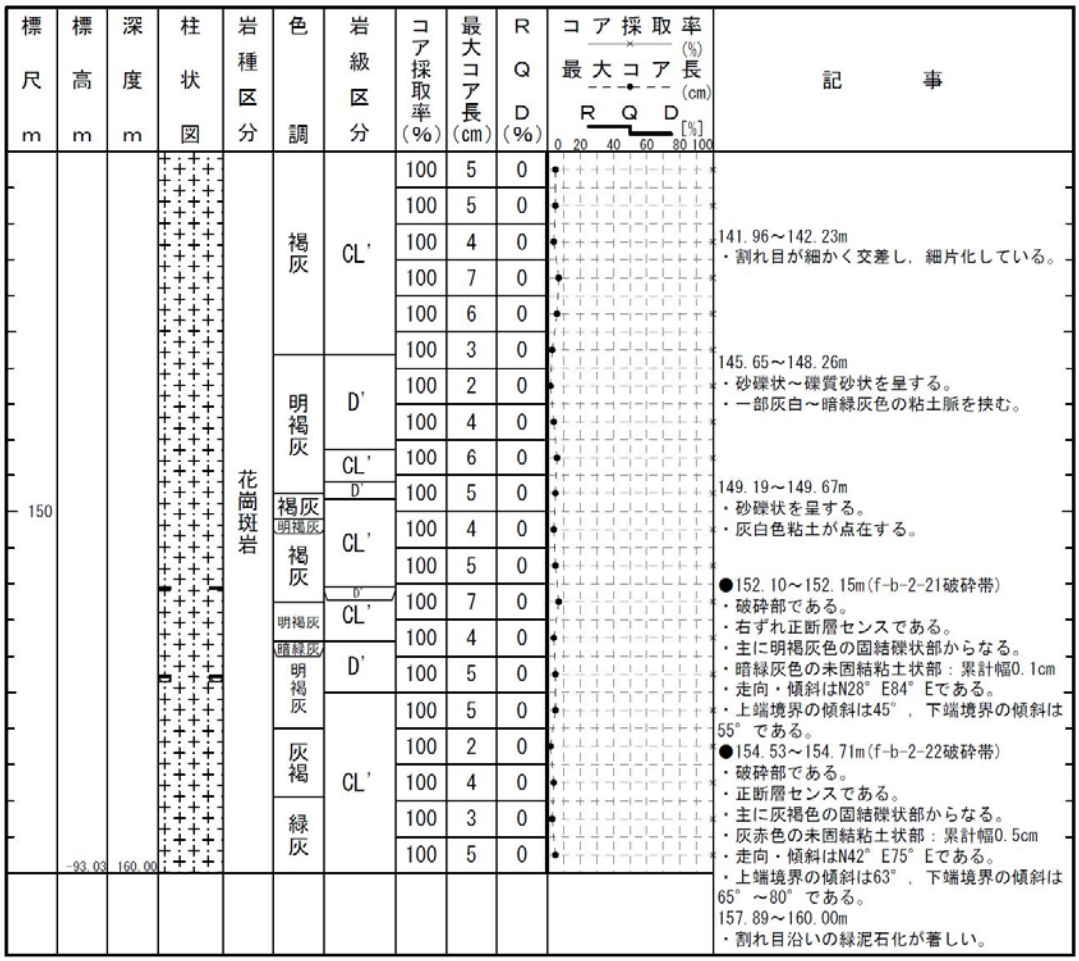
H27-B-2 （ 4 / 5 ）



H27－B－2

柱状図(140.00m～160.00m)

H27-B-2 (5 / 5)

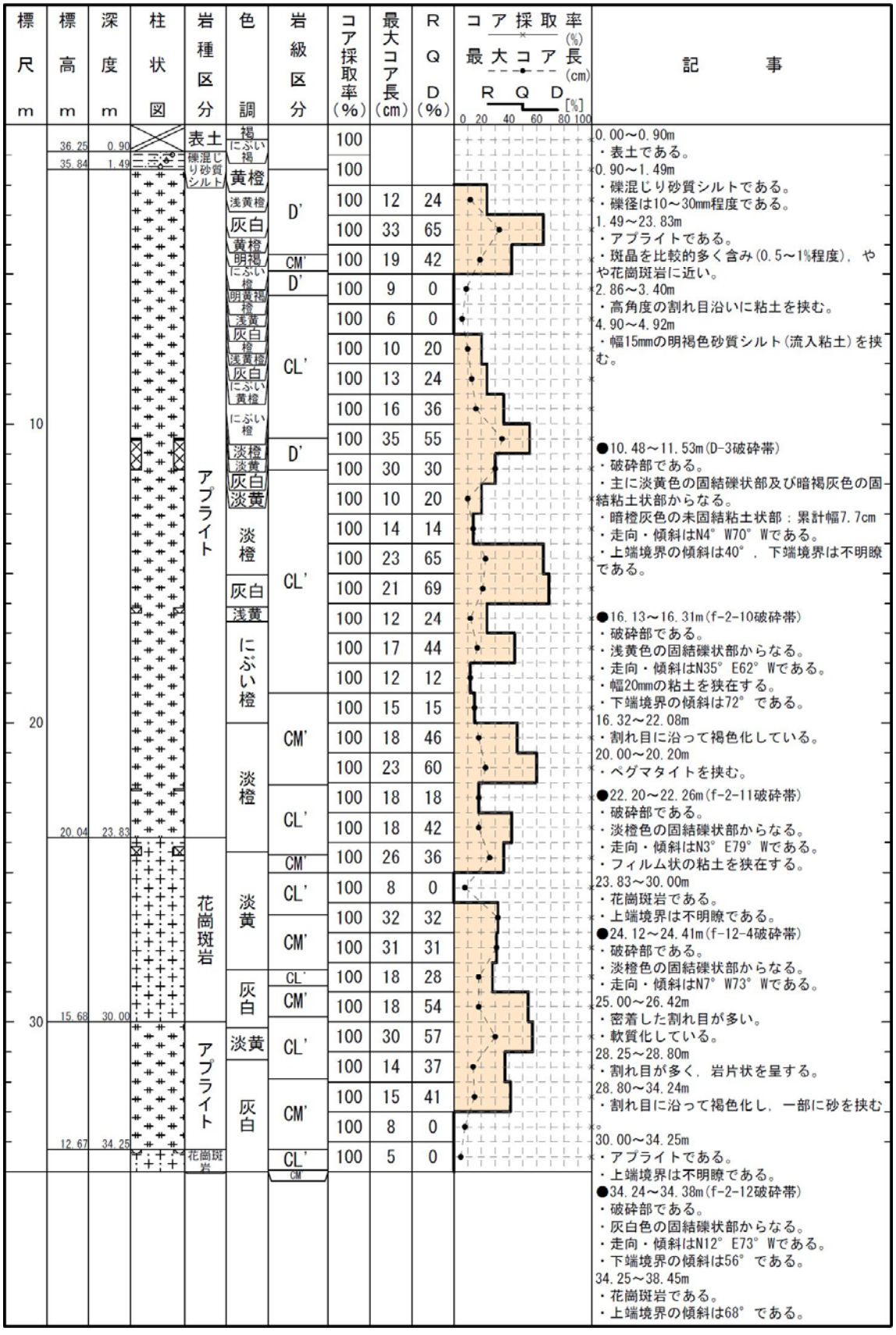


H19－No.4

柱状図(0.00m～35.00m)

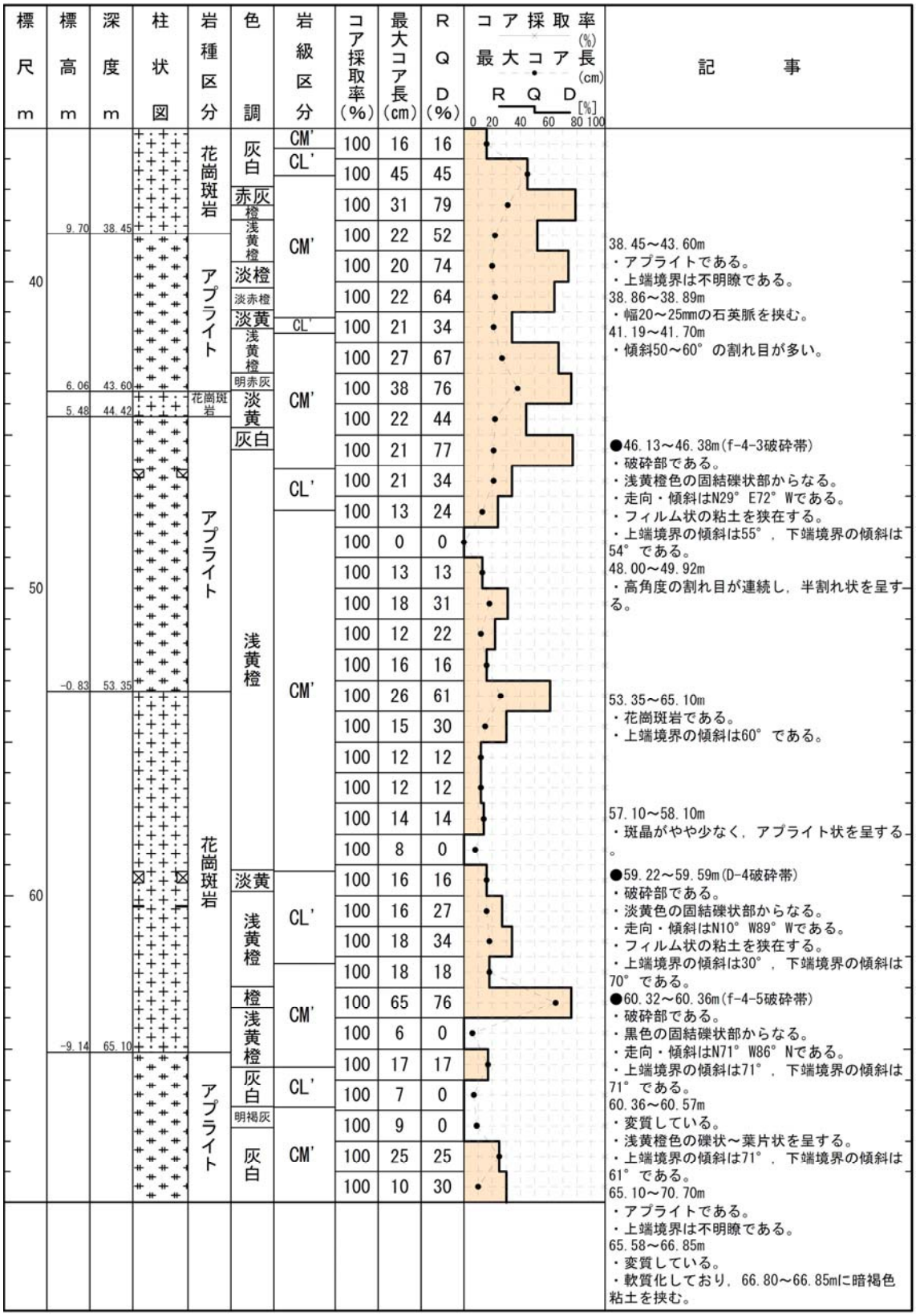
H19-No. 4

孔口標高	T.P. 36.89m	掘削長	250.00m



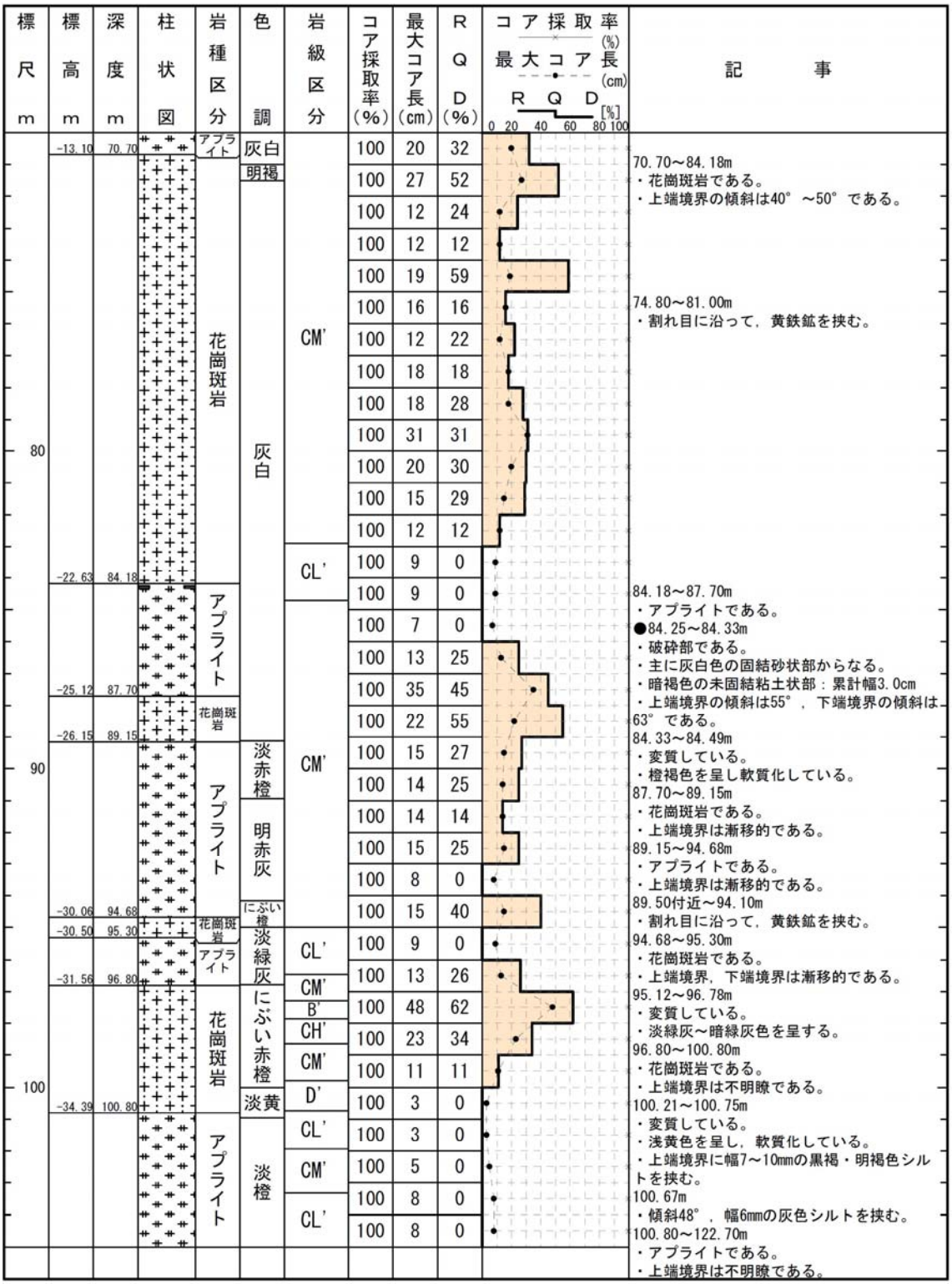
H19－No.4

柱状図(35.00m～70.00m)



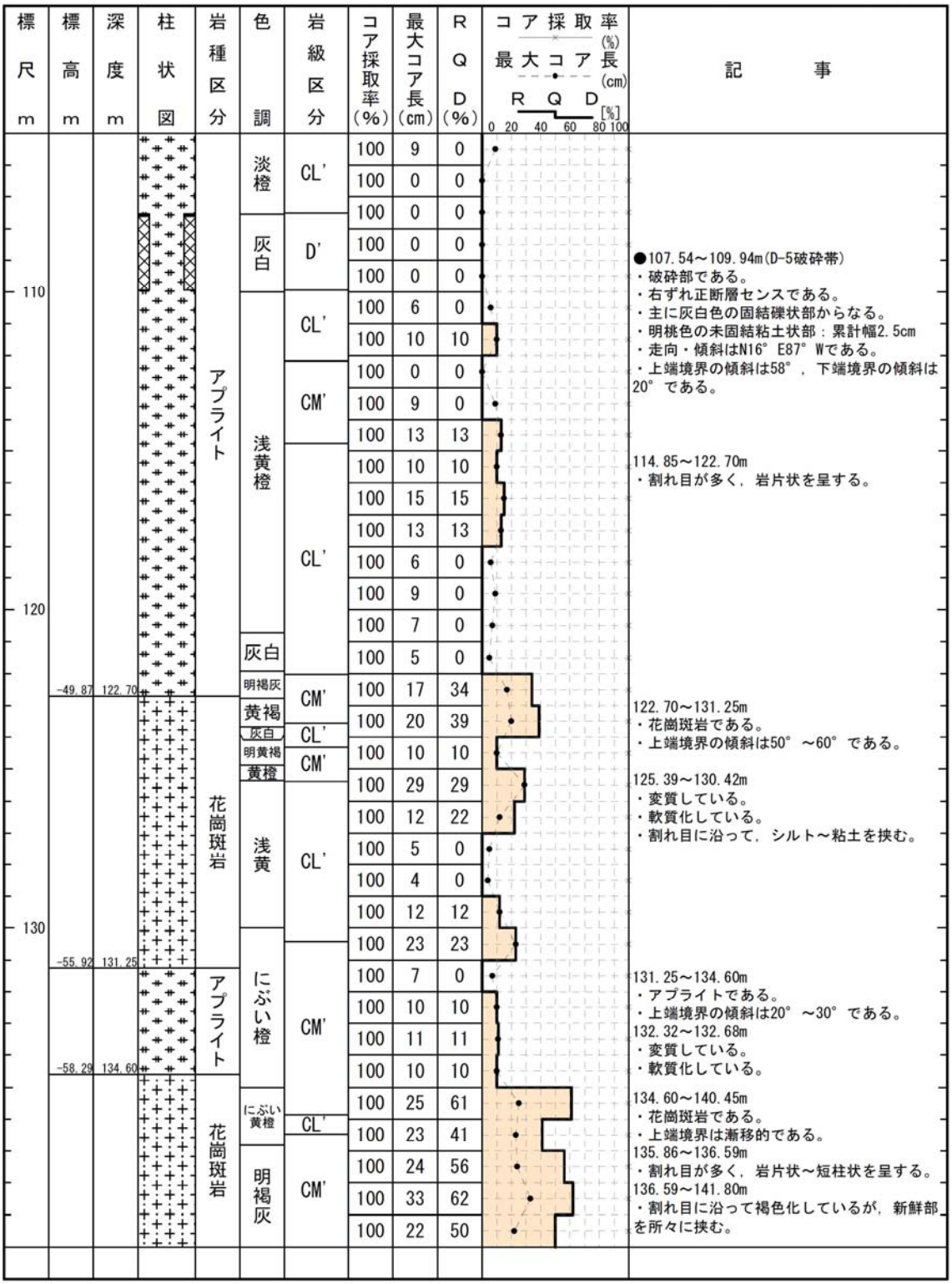
H19－No.4

柱状図(70.00m～105.00m)



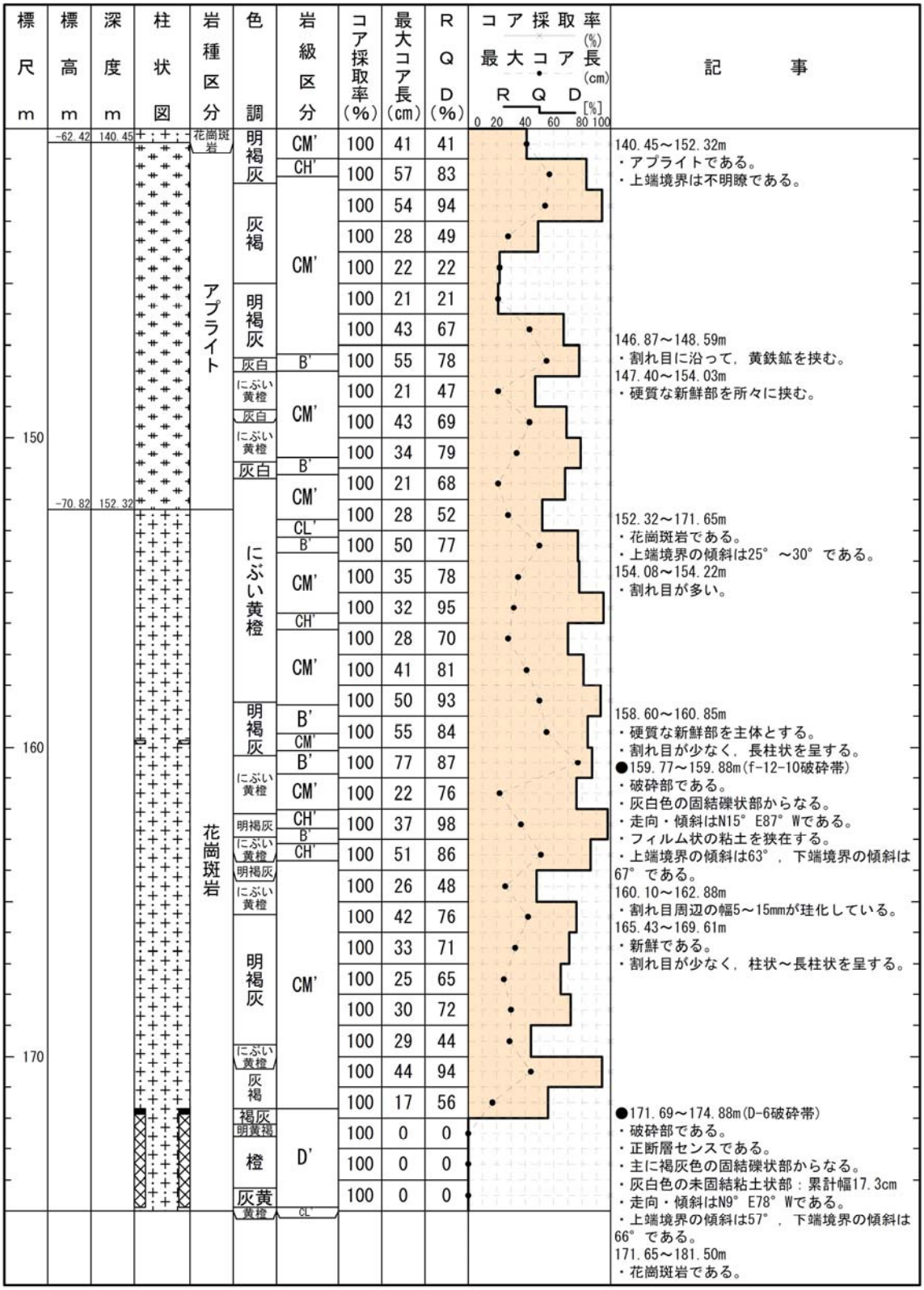
H19－No.4

柱状図(105.00m～140.00m)



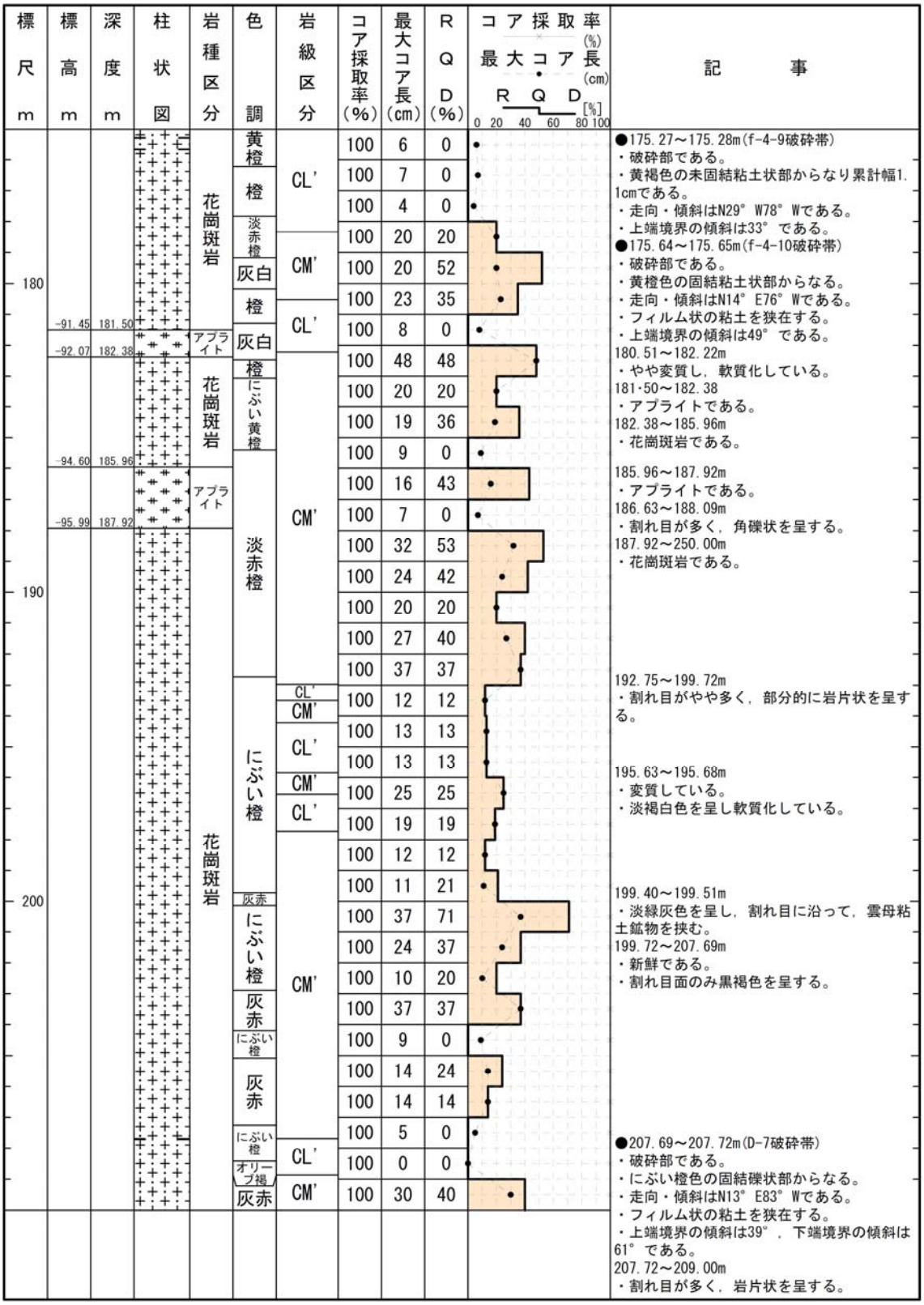
H19－No.4

柱状図(140.00m～175.00m)



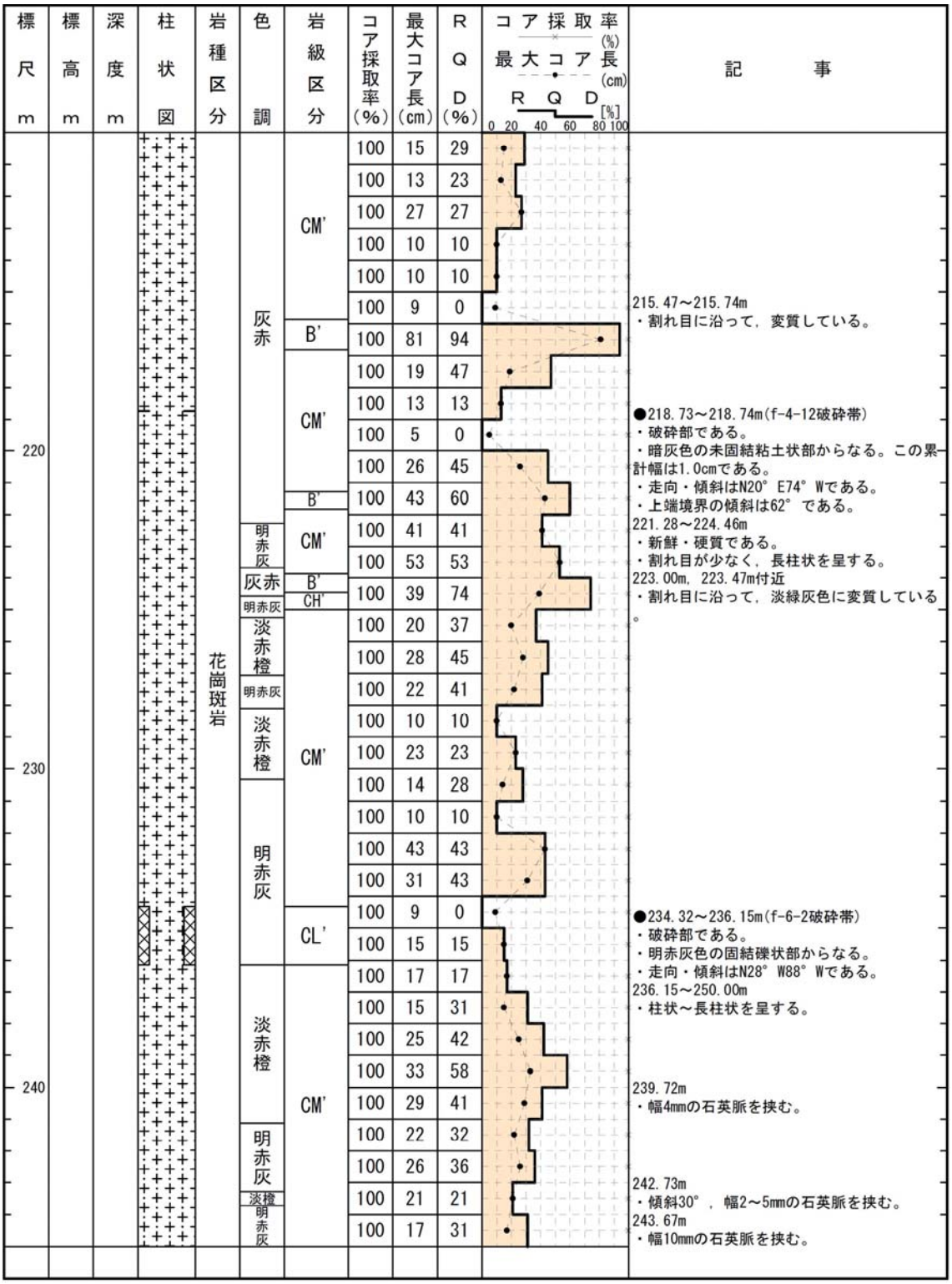
H19－No.4

柱状図(175.00m～210.00m)



H19－No.4

柱状図(210.00m～245.00m)



H19－No.4

柱状図(245.00m～250.00m)

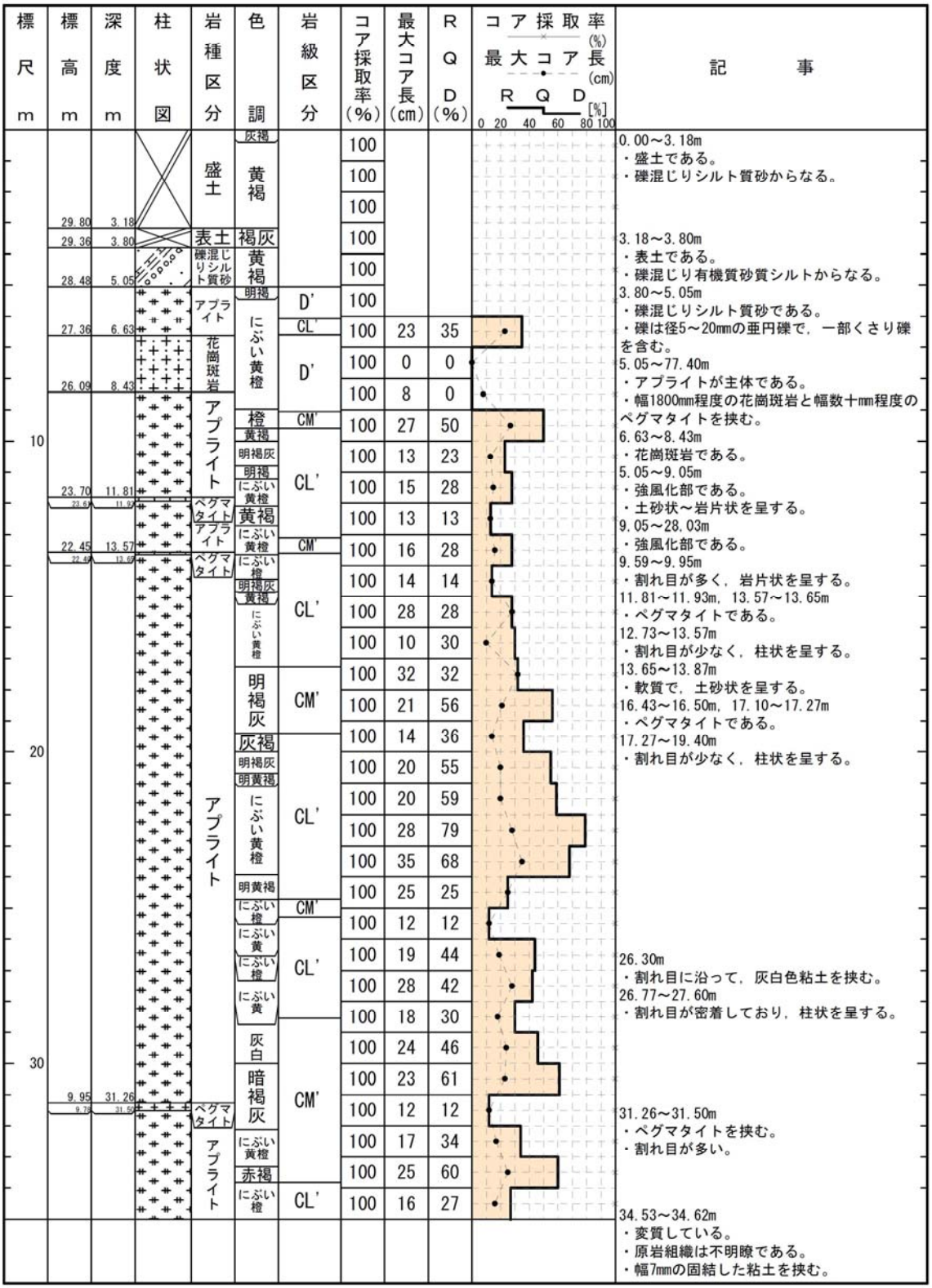
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	明赤灰 淡赤橙 明赤灰	CM'	100	21	49		245.31m, 246.08m ・幅20～30mm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。 ・黄鉄鉱を伴う。
							100	29	29		
							100	13	26		
							100	76	76		
	-139.89	250.00					100	30	44		

H19－No.12

柱状図(00.00m～35.00m)

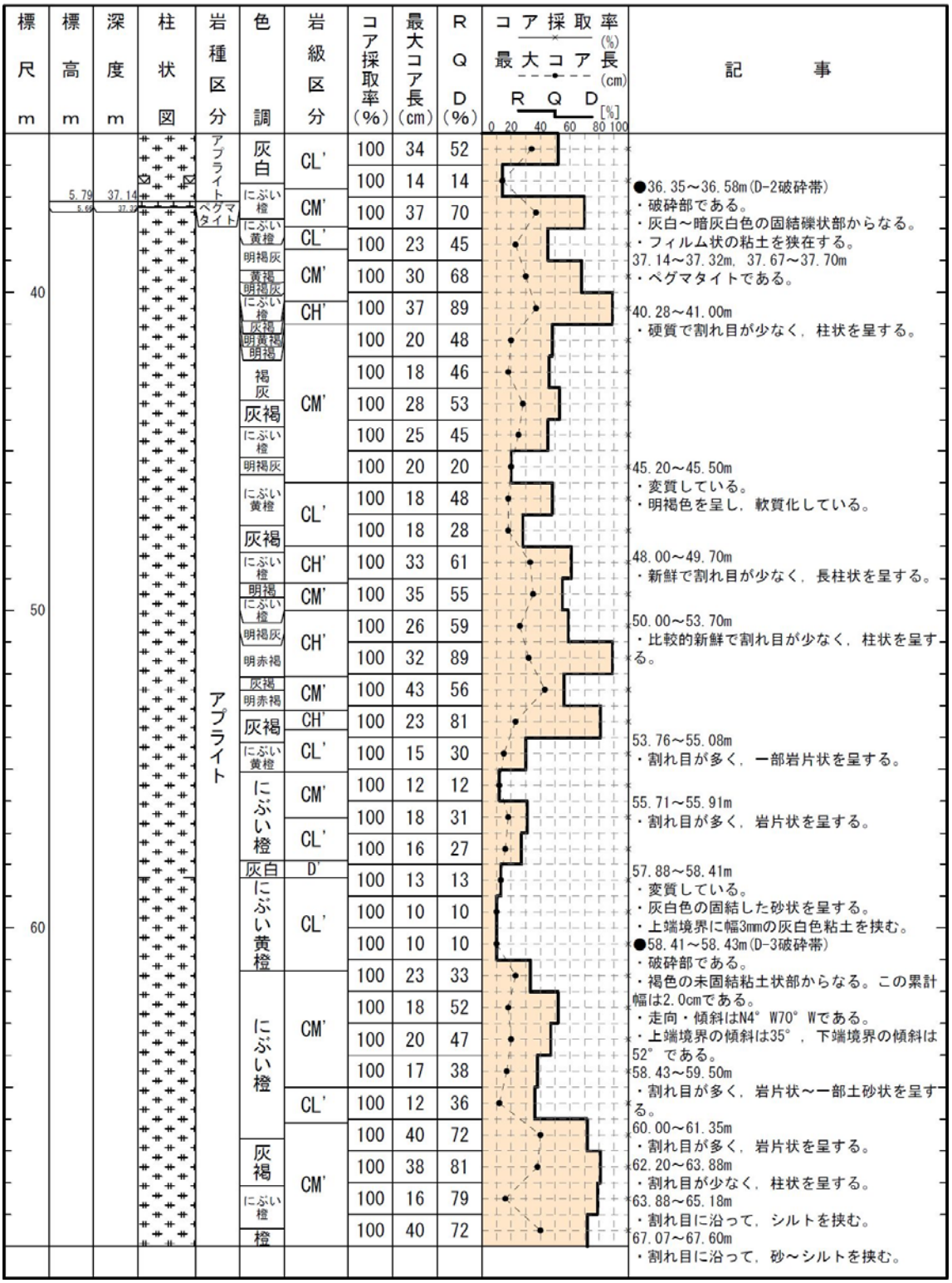
H19-No.12

孔口標高	T.P. 32.05m	掘削長	250.00m



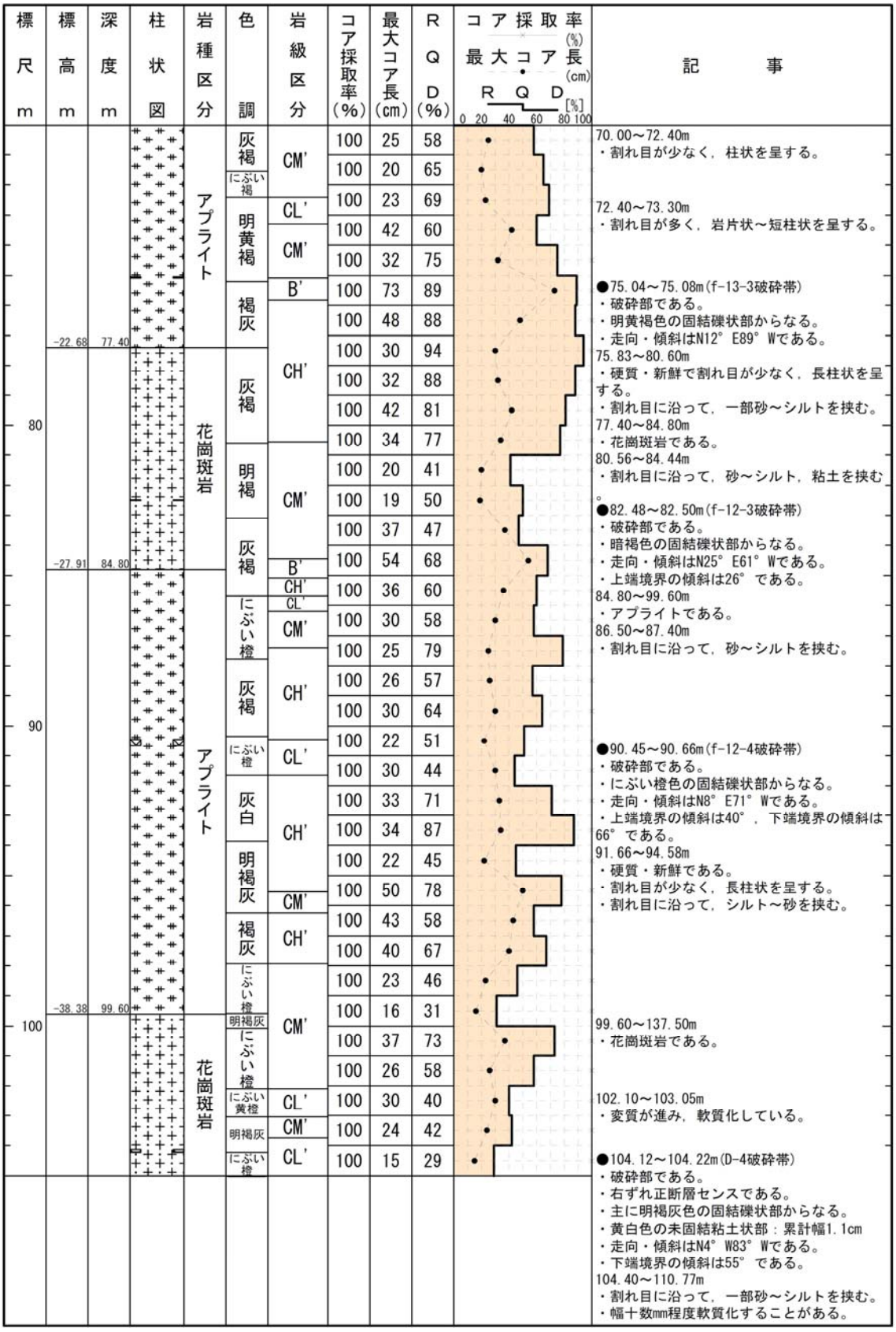
H19－No.12

柱状図(35.00m～70.00m)



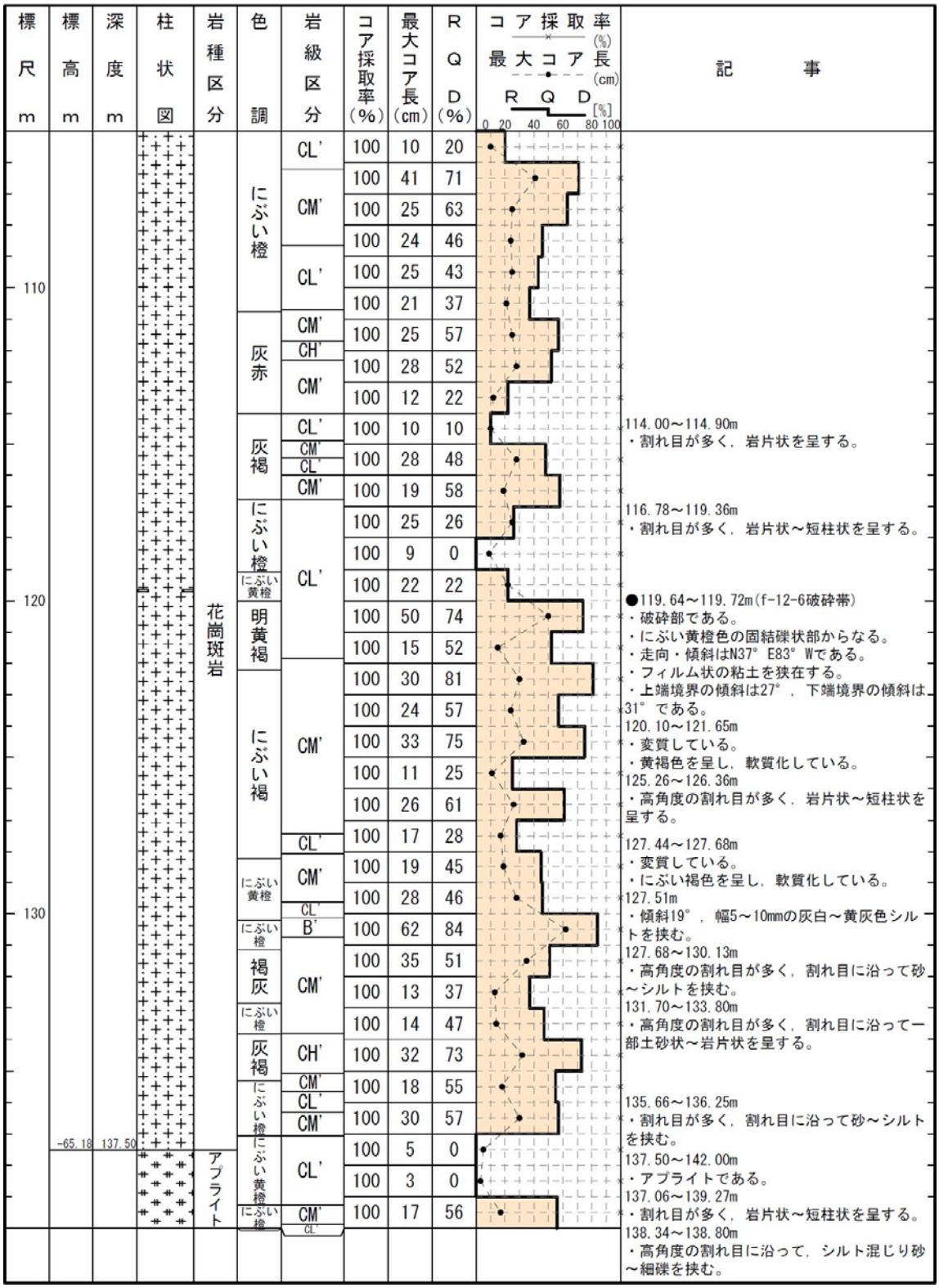
H19－No.12

柱状図(70.00m～105.00m)



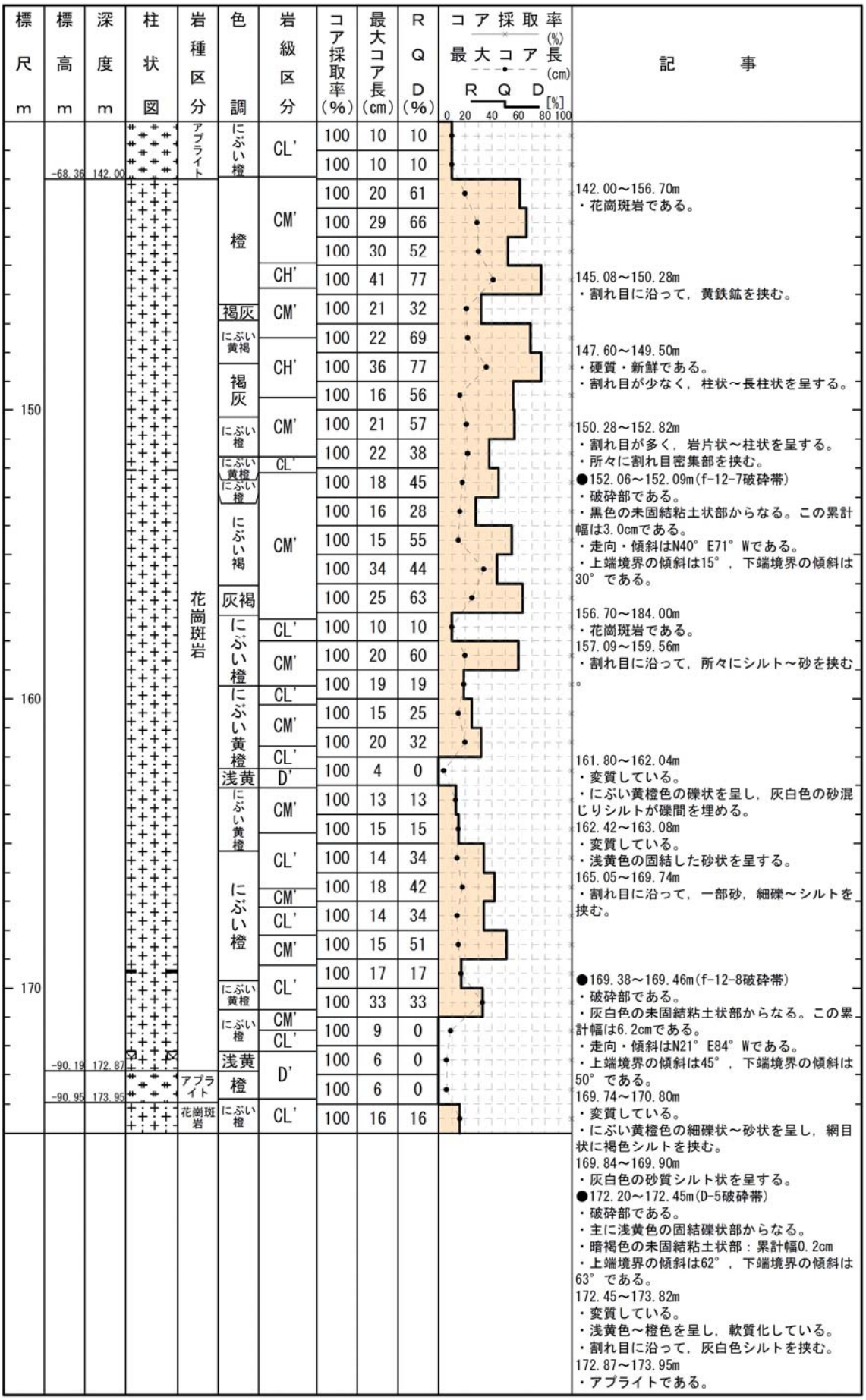
H19－No.12

柱状図(105.00m～140.00m)



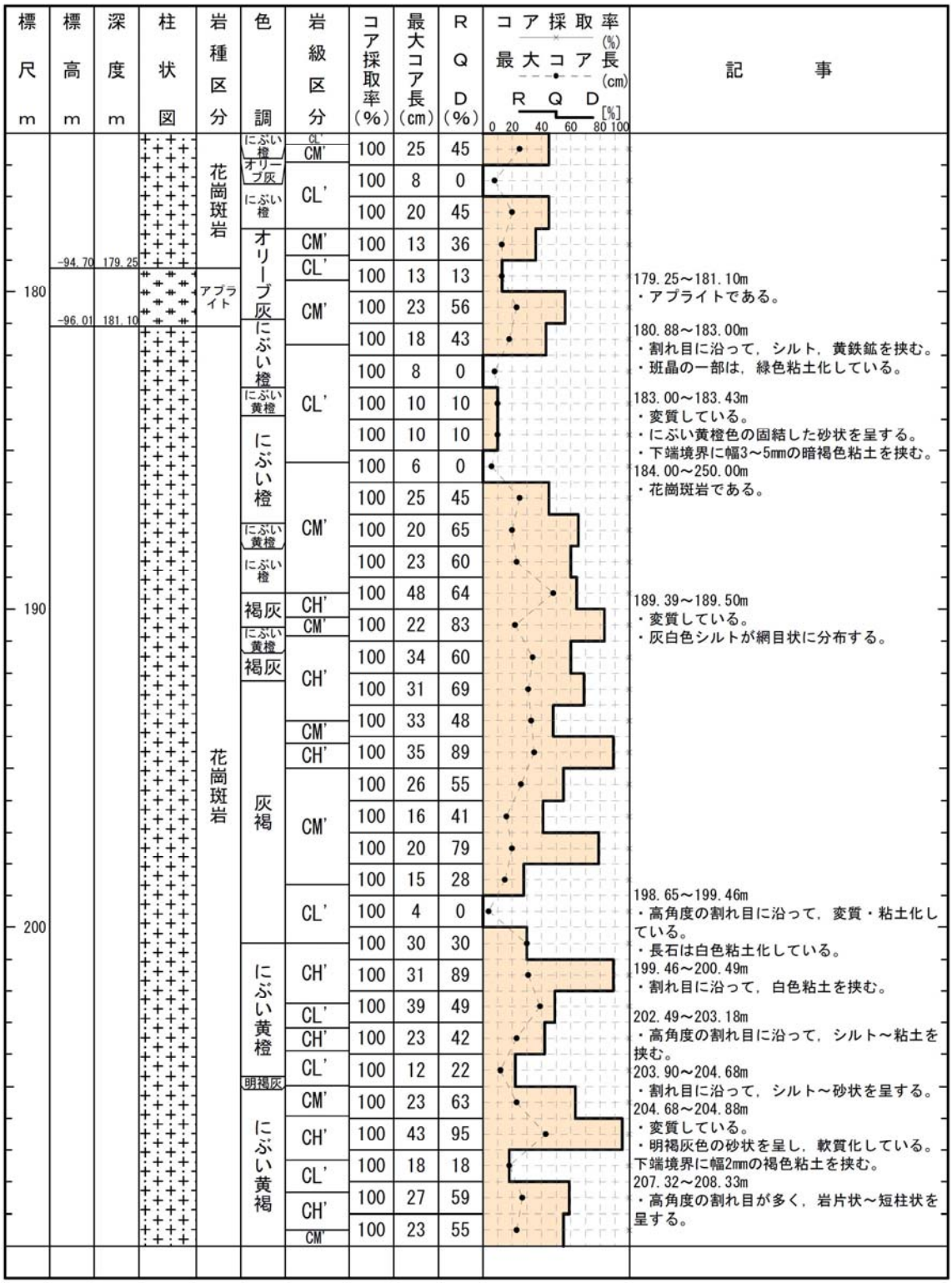
H19－No.12

柱状図(140.00m～175.00m)



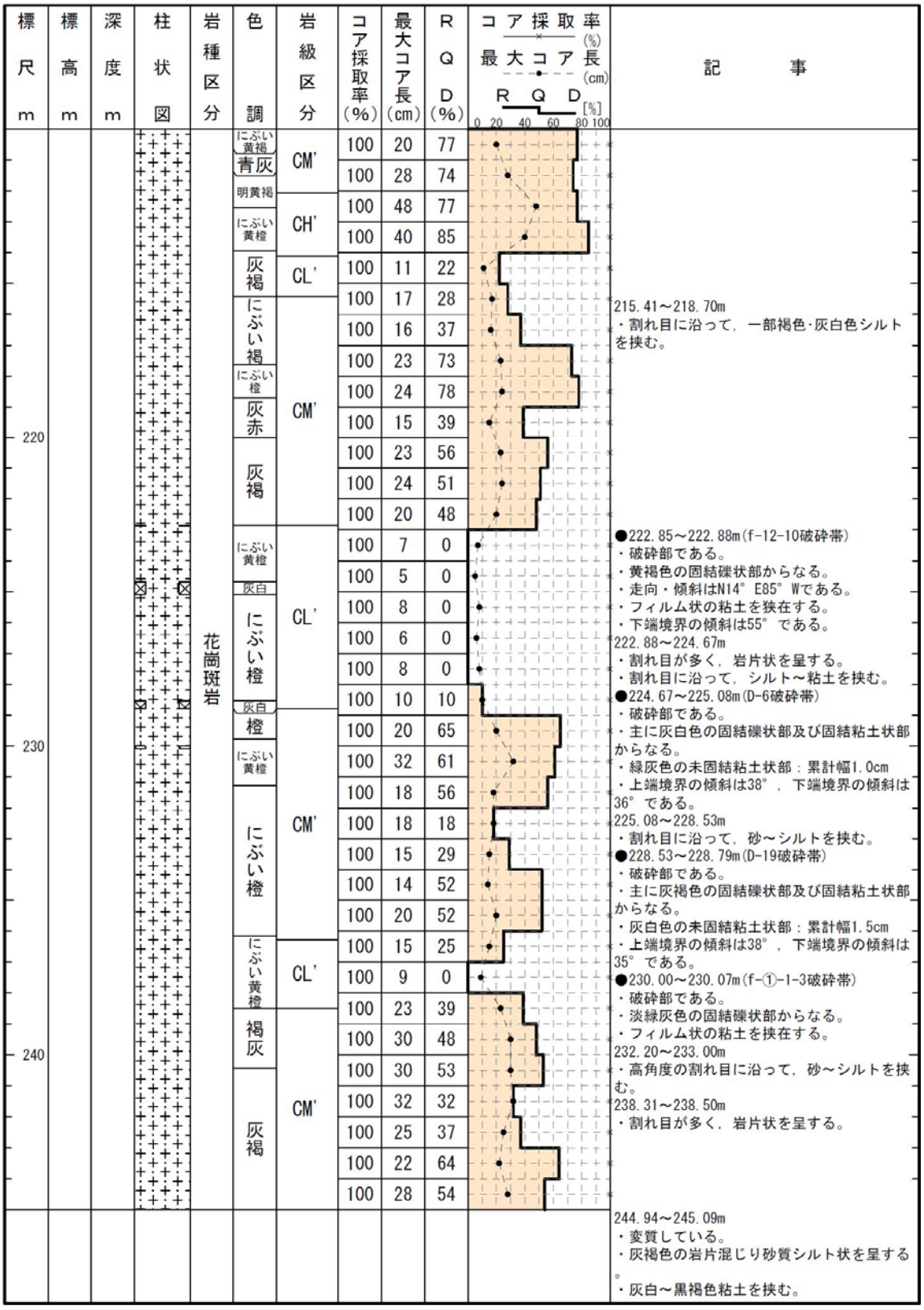
H19－No.12

柱状図(175.00m～210.00m)



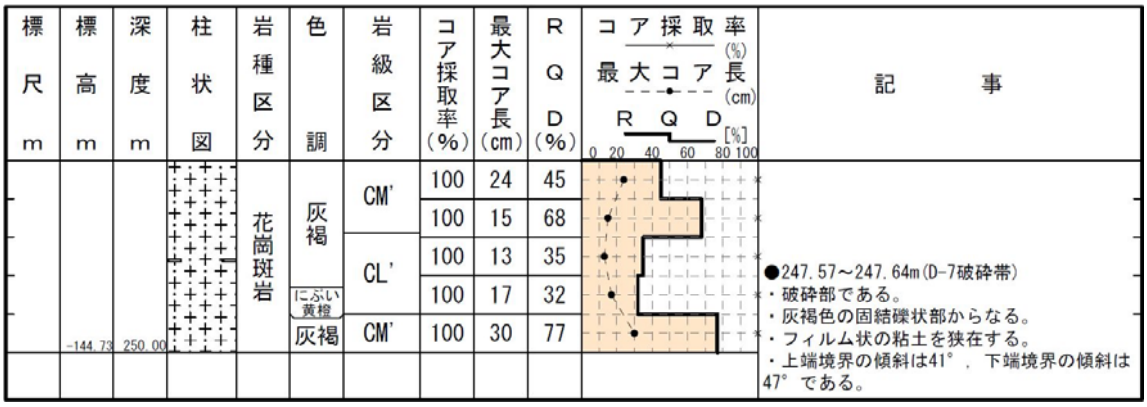
H19－No.12

柱状図(210.00m～245.00m)



H19－No.12

柱状図(245.00m～250.00m)

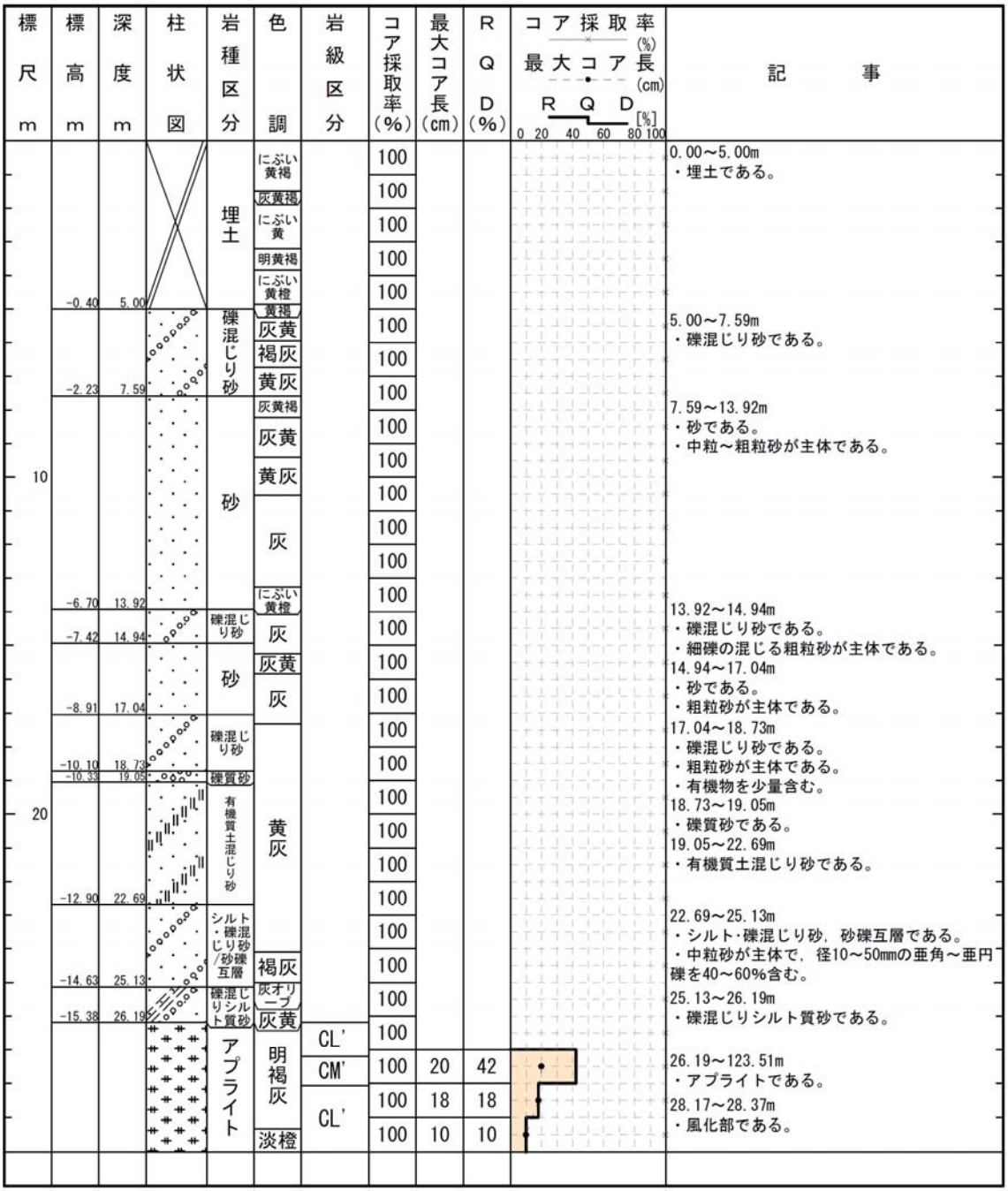


H24－B11－2

柱状図(0.00m～30.00m)

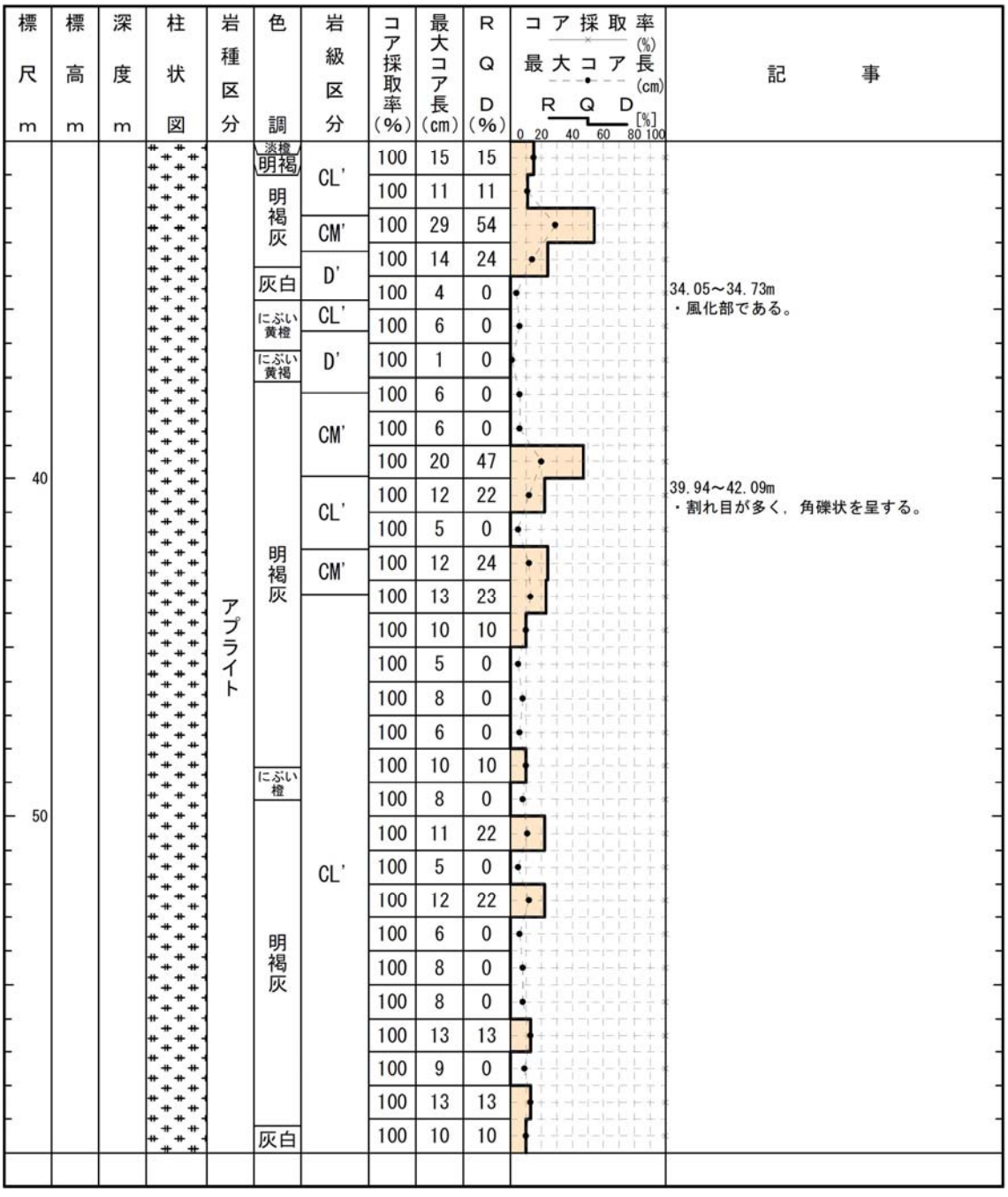
H24-B11-2

孔口標高	T.P. 3.14m	掘削長	150.00m



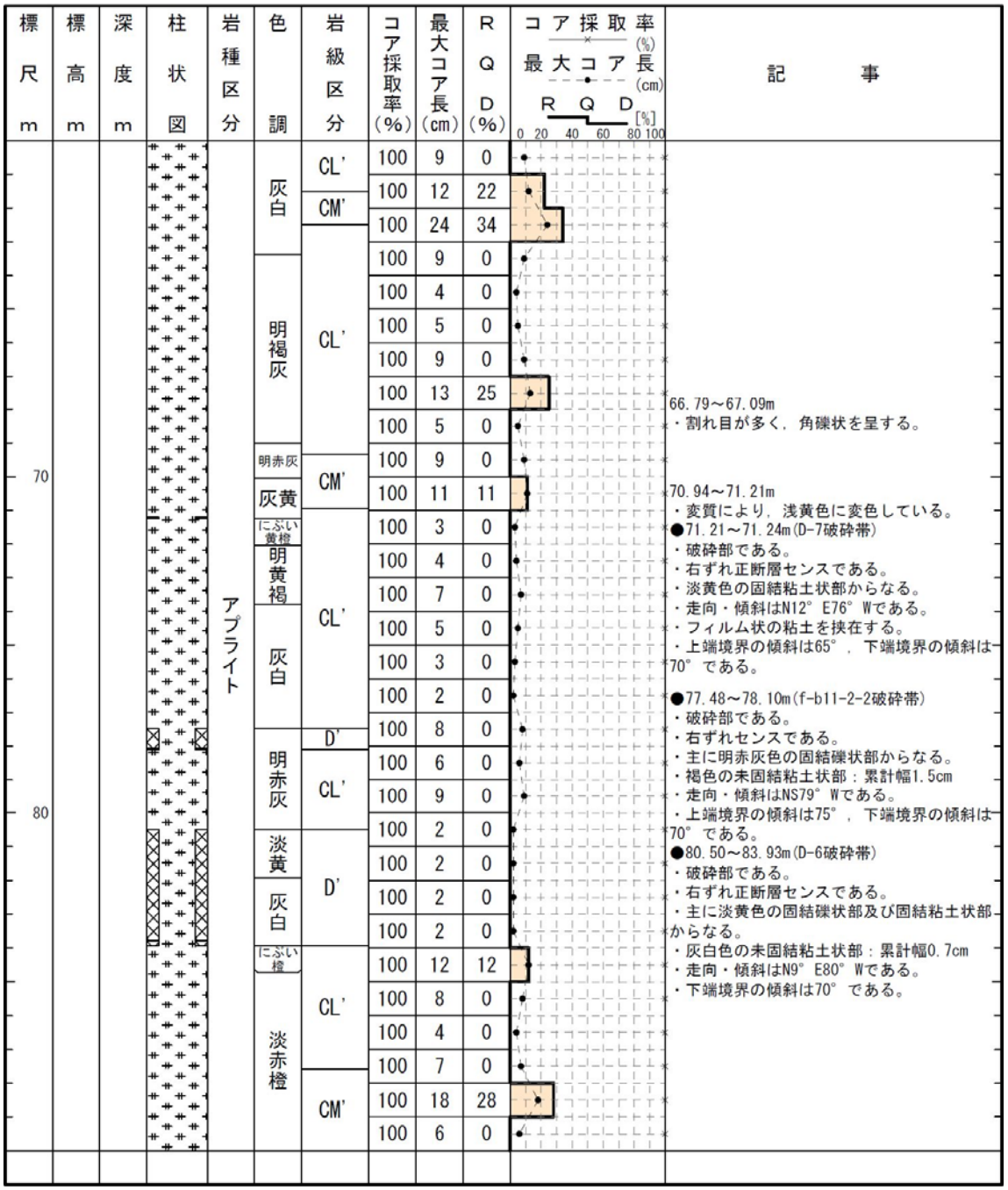
H24－B11－2

柱状図(30.00m～60.00m)



H24－B11－2

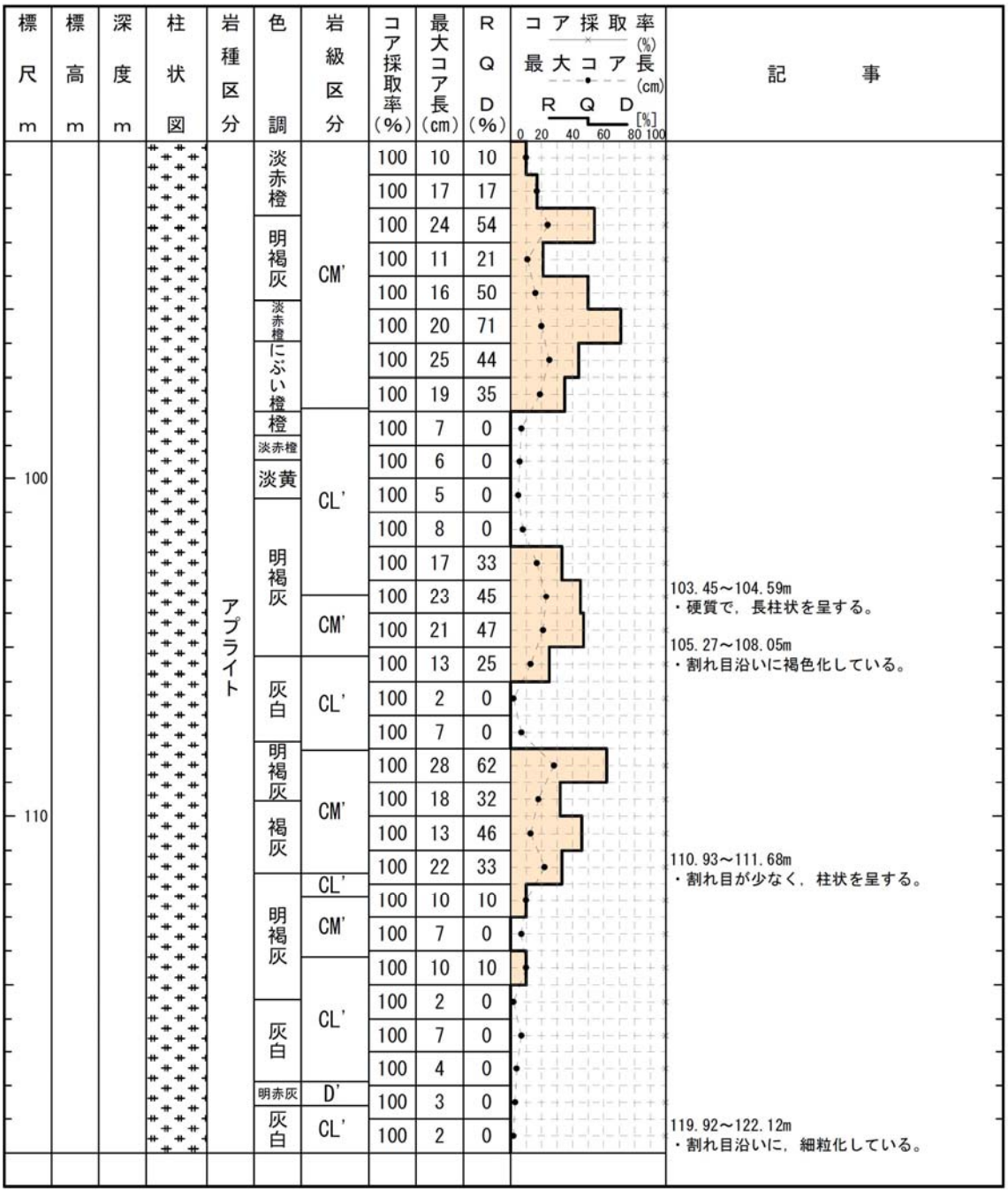
柱状図(60.00m～90.00m)



標尺 m	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
70	100	9	0
	100	12	22
	100	24	34
	100	9	0
	100	4	0
	100	5	0
	100	9	0
	100	13	25
	100	5	0
	100	9	0
	100	11	11
	100	3	0
	100	4	0
	100	7	0
	100	5	0
	100	3	0
	100	2	0
	100	8	0
	100	6	0
80	100	9	0
	100	2	0
	100	2	0
	100	2	0
	100	2	0
	100	12	12
	100	8	0
	100	4	0
	100	7	0
	100	18	28
	100	6	0

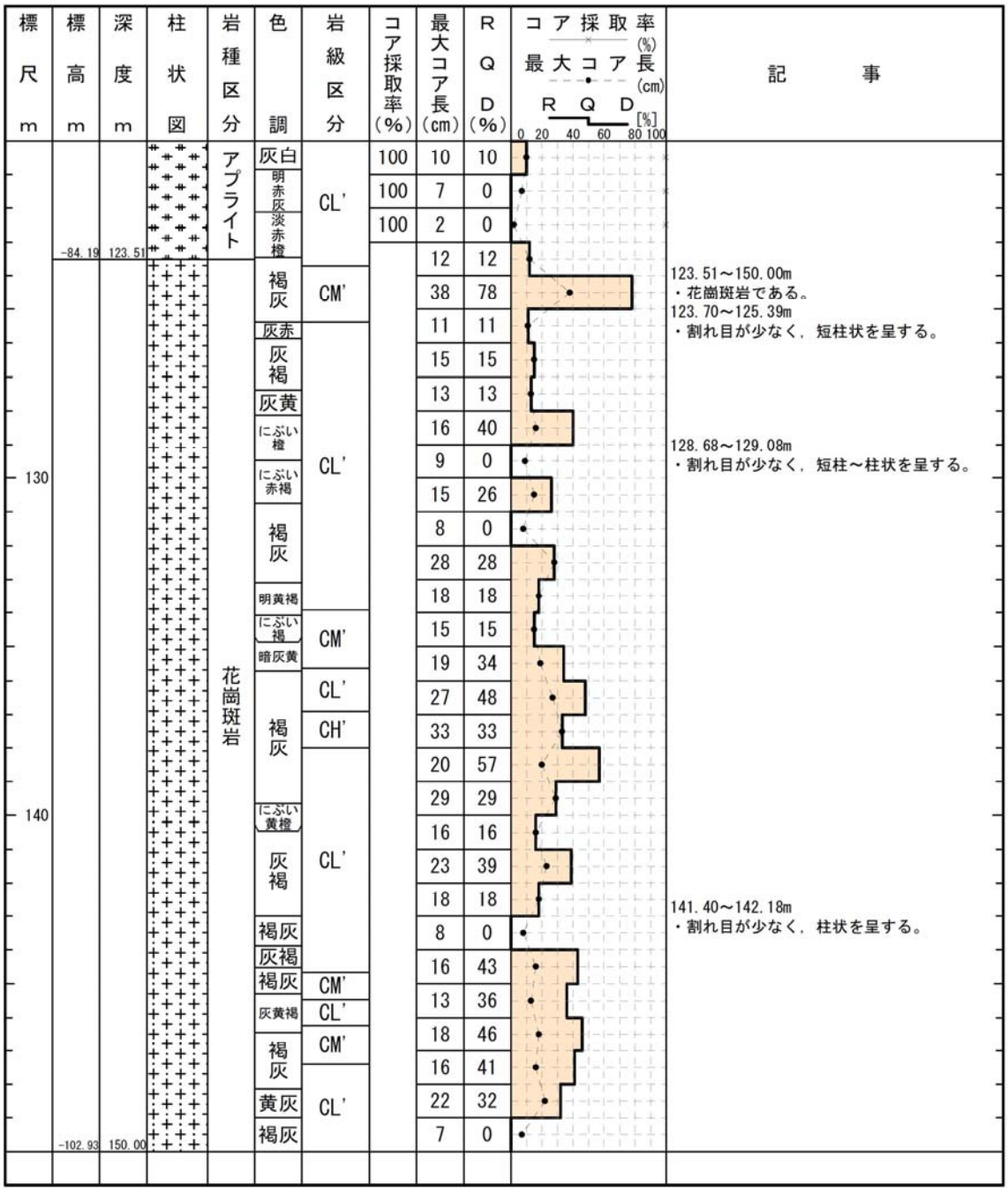
H24－B11－2

柱状図(90.00m～120.00m)



H24－B11－2

柱状図(120.00m～150.00m)



H24－B8－22

柱状図(0.00m～30.00m)

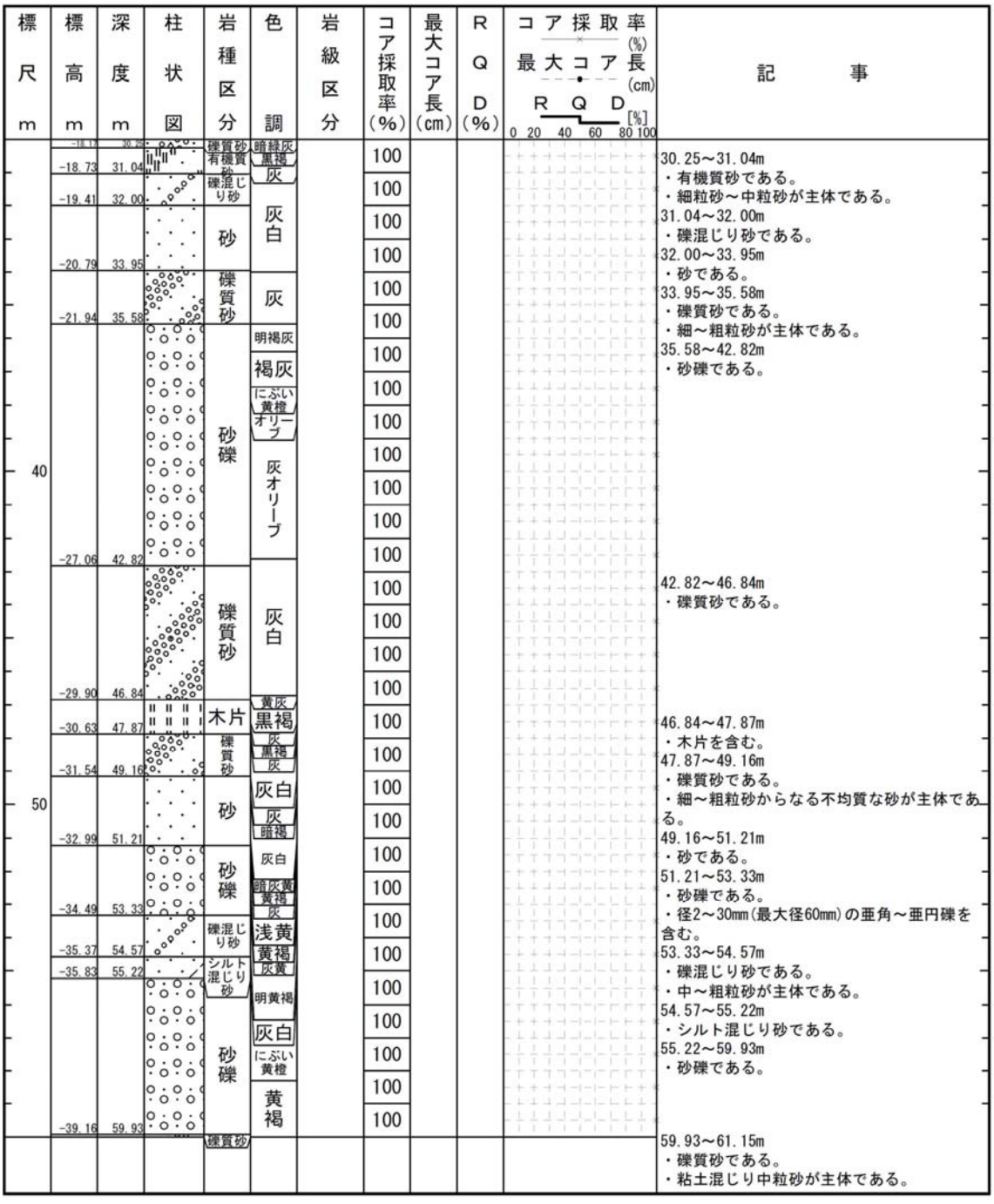
H24-B8-22

孔口標高	T.P. 3.22m	掘削長	240.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	オリーブ黒 灰オリーブ オリーブ黒 灰 浅黄		100				0.00～4.97m ・埋土である。
	-0.29	4.97					100				
	-0.47	5.16		シルト質砂	灰		100				4.97～5.16m ・シルト質砂である。 ・中粒砂が主体である。
	-1.89	7.22		有機質シルト	黒褐		100				5.16～7.22m ・有機質シルトである。
	-2.63	8.27		礫混じり砂	灰白		100				7.22～8.27m ・礫混じり砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
	-3.46	9.45		礫質砂	灰黄		100				8.27～9.45m ・礫質砂である。
10				砂	明黄褐		100				9.45～14.95m ・砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
					にぶい黄橙		100				
					灰オリーブ にぶい黄橙		100				
	-7.35	14.95					100				
				シルト混じり砂	灰白 浅黄		100				14.95～17.20m ・シルト混じり砂である。
	-8.94	17.20					100				
				砂	オリーブ黄		100				17.20～18.72m ・砂である。 ・シルト混じり中～粗粒砂が主体である。
	-10.02	18.72			明黄褐		100				18.72～22.45m ・礫混じりシルト質砂である。
				礫混じりシルト質砂	灰オリーブ 浅黄 オリーブ灰		100				
20					暗オリーブ灰		100				
	-12.65	22.45					100				22.45～24.09m ・礫・砂質シルトである。
	-13.81	24.09		礫・砂質シルト	暗緑灰		100				24.09～25.51m ・礫混じりシルト質砂である。
	-14.82	25.51		礫混じりシルト質砂			100				25.51～27.25m ・礫混じり砂質シルトである。
	-16.05	27.25		礫混じり砂質シルト			100				27.25～27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94		シルト質砂			100				27.94～29.29m ・礫・シルト質砂である。
	-17.49	29.29		礫・シルト質砂			100				29.29～30.25m ・礫質砂である。 ・中～粗粒砂が主体である。
				礫質砂			100				

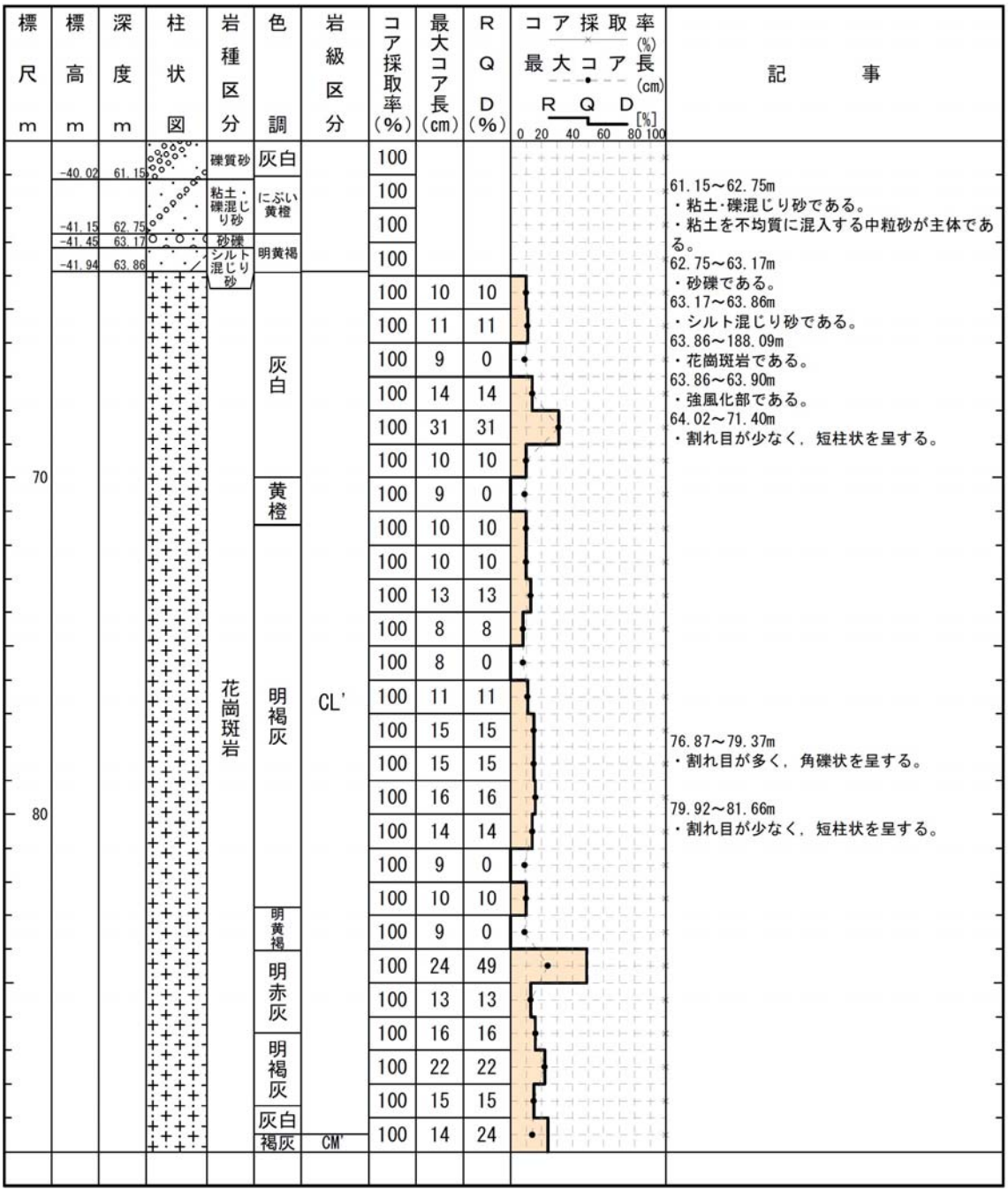
H24－B8－22

柱状図(30.00m～60.00m)



H24－B8－22

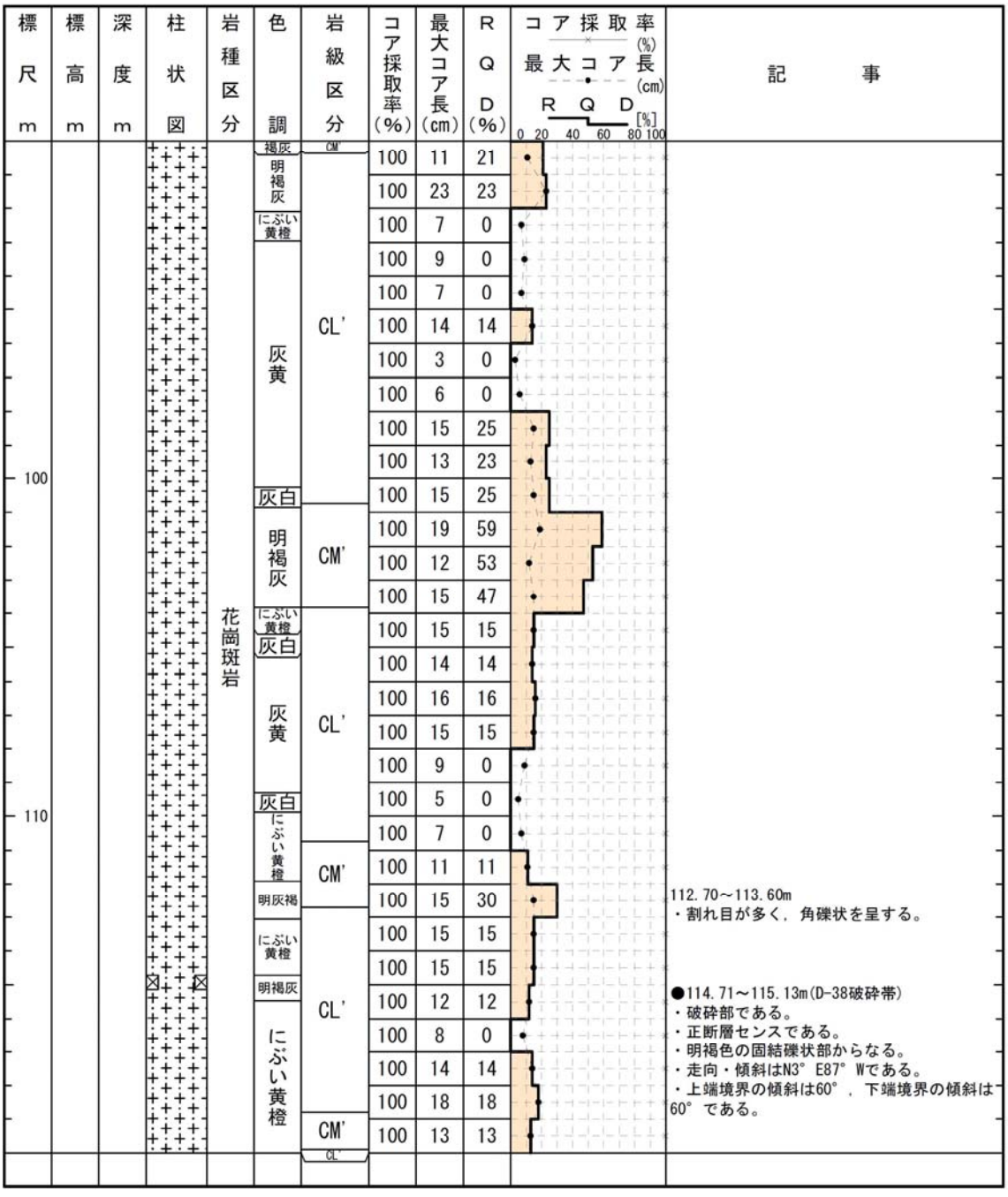
柱状図(60.00m～90.00m)



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100	10	10
100	11	11
100	9	0
100	14	14
100	31	31
100	10	10
100	9	0
100	10	10
100	10	10
100	13	13
100	8	8
100	8	0
100	11	11
100	15	15
100	15	15
100	16	16
100	14	14
100	9	0
100	10	10
100	9	0
100	24	49
100	13	13
100	16	16
100	22	22
100	15	15
100	14	24

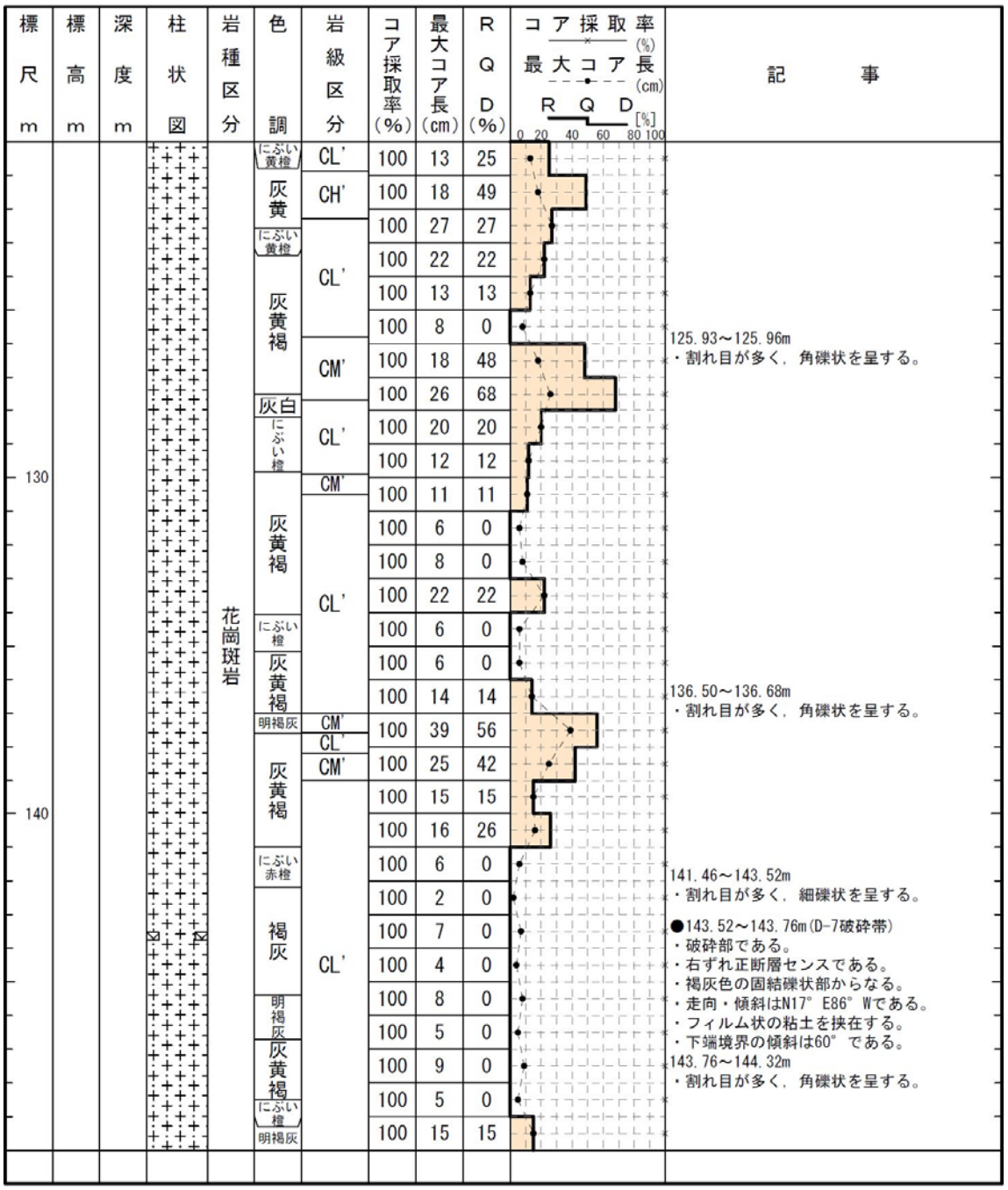
H24－B8－22

柱状図(90.00m～120.00m)



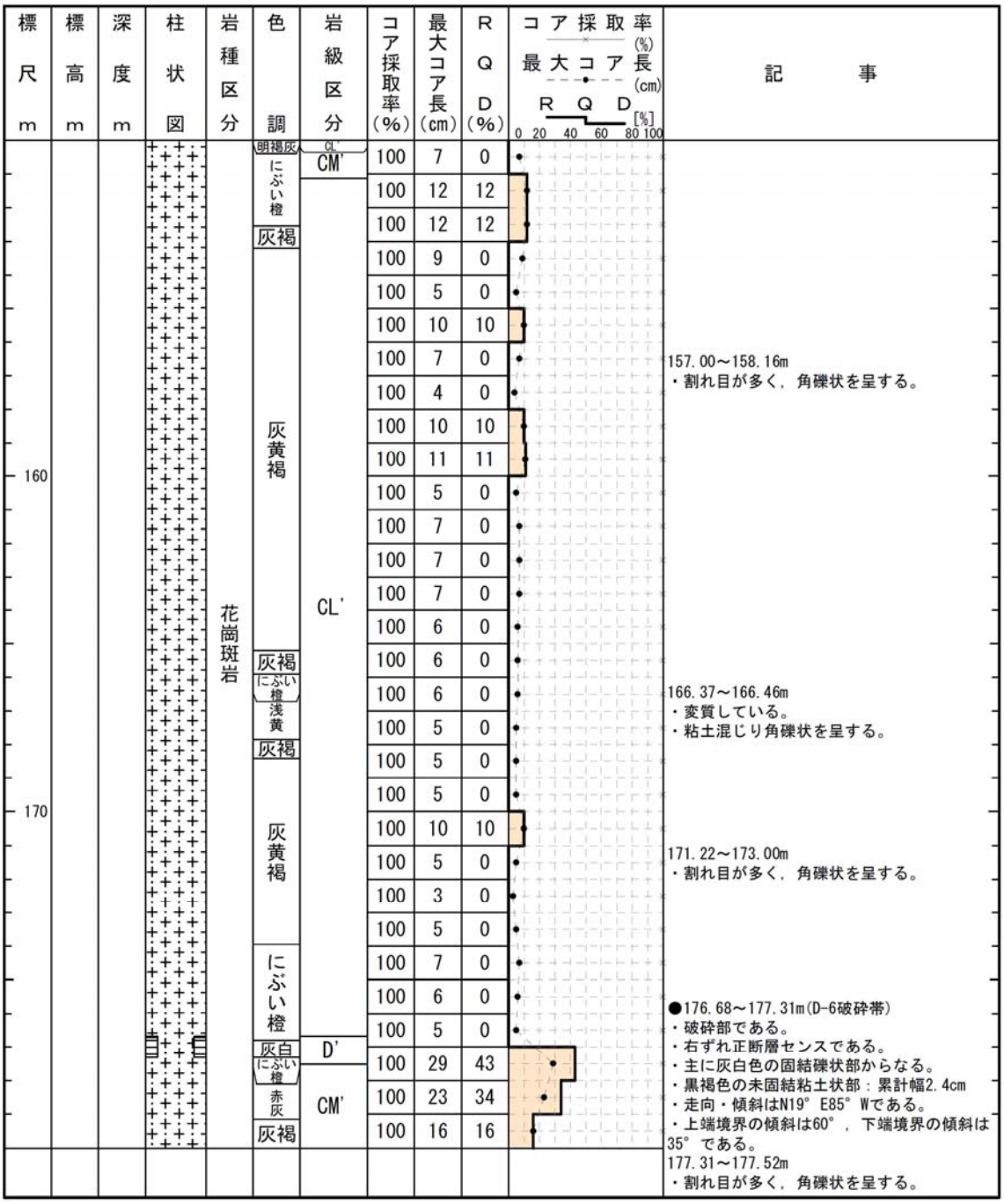
H24－B8－22

柱状図(120.00m～150.00m)



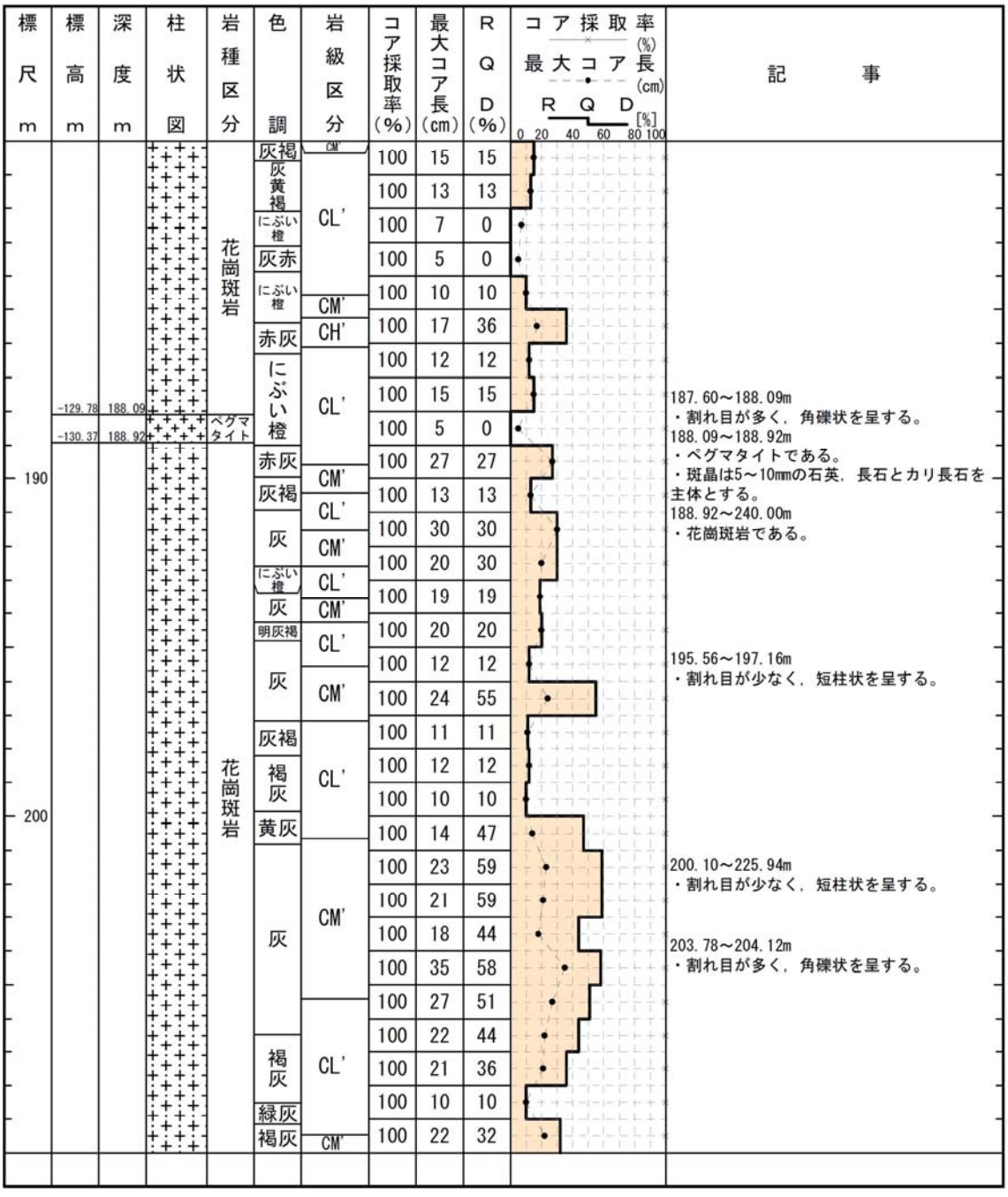
H24－B8－22

柱状図(150.00m～180.00m)



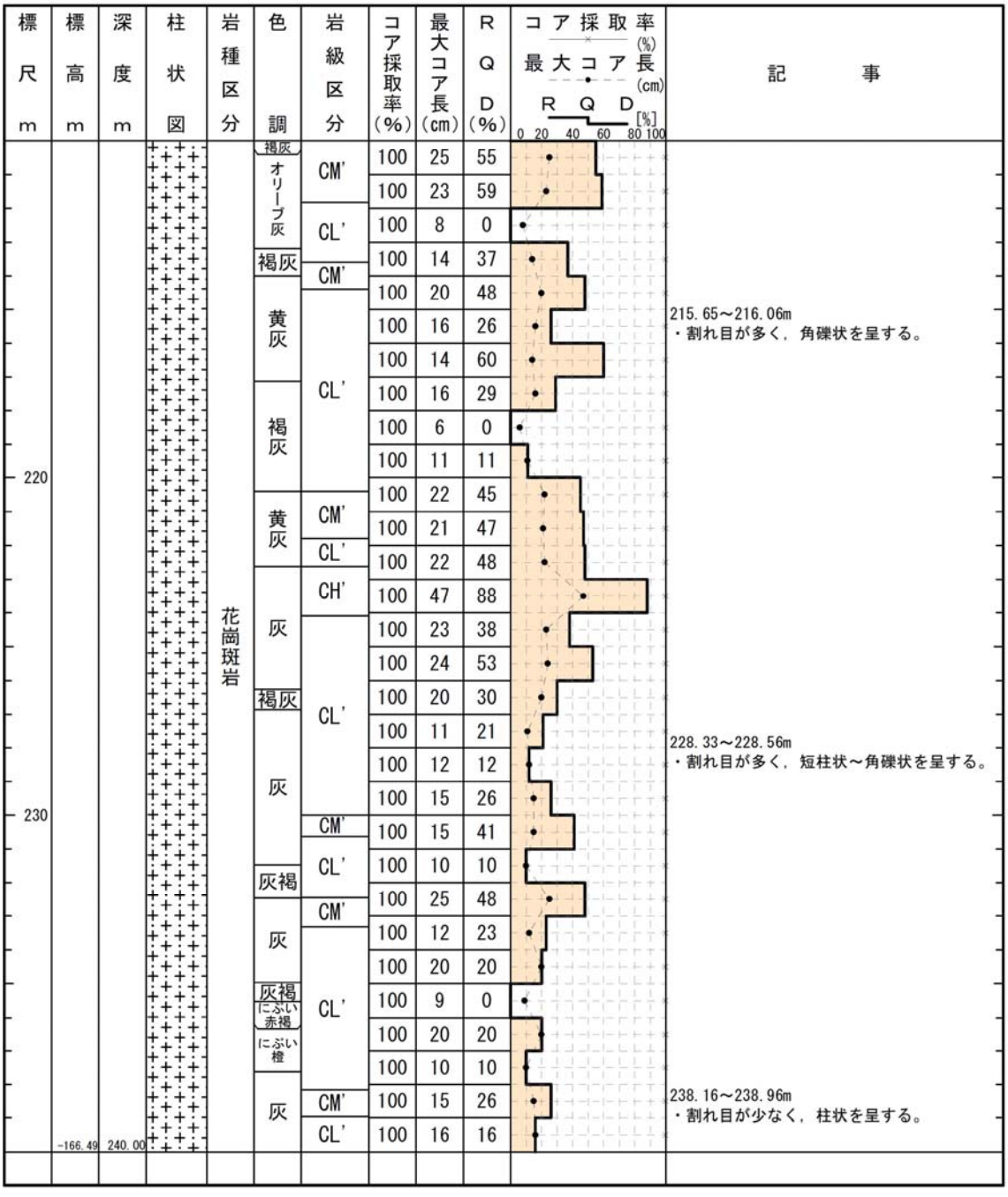
H24－B8－22

柱状図(180.00m～210.00m)



H24－B8－22

柱状図(210.00m～240.00m)

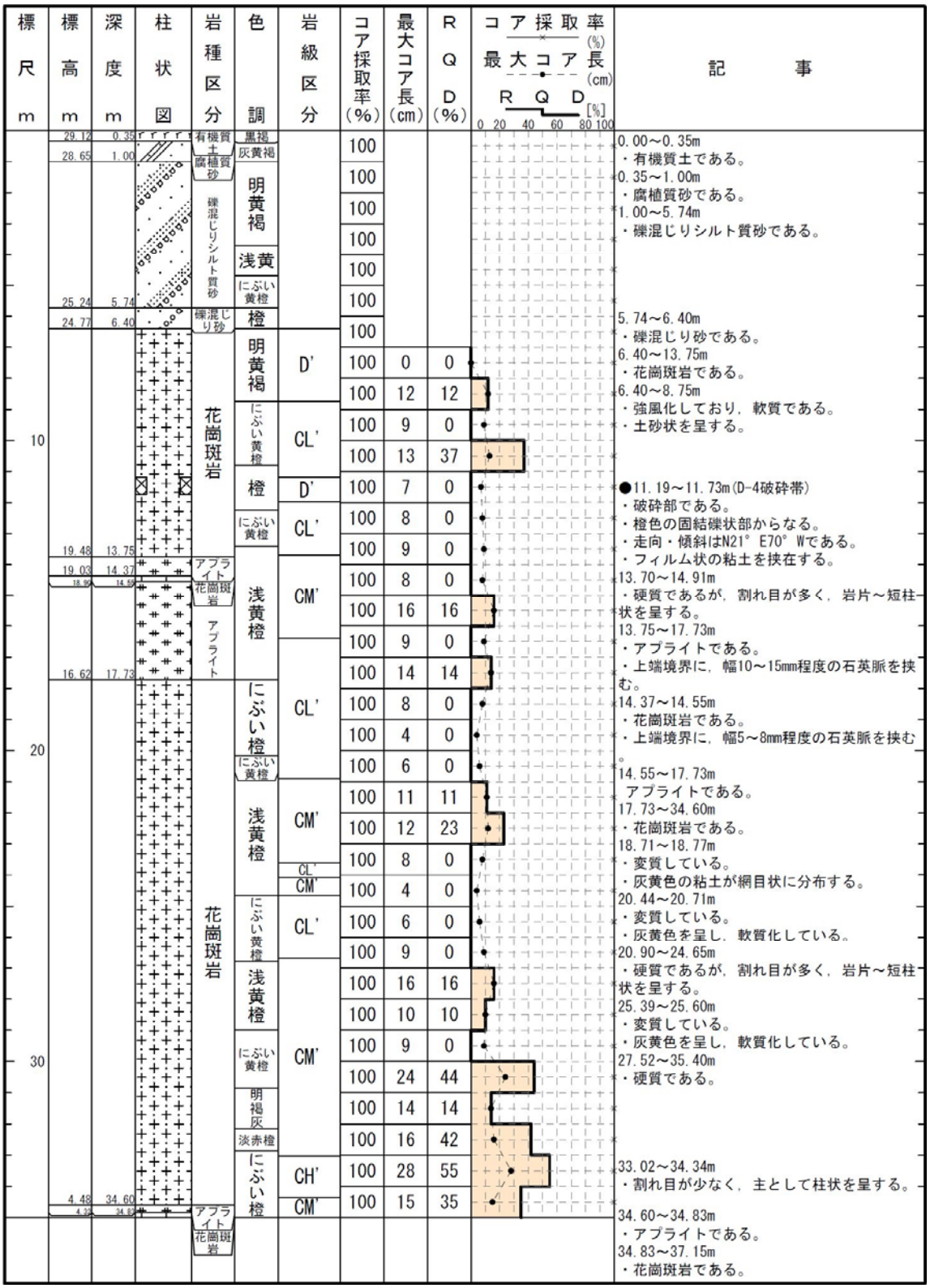


H20－①－9

柱状図(00.00m～35.00m)

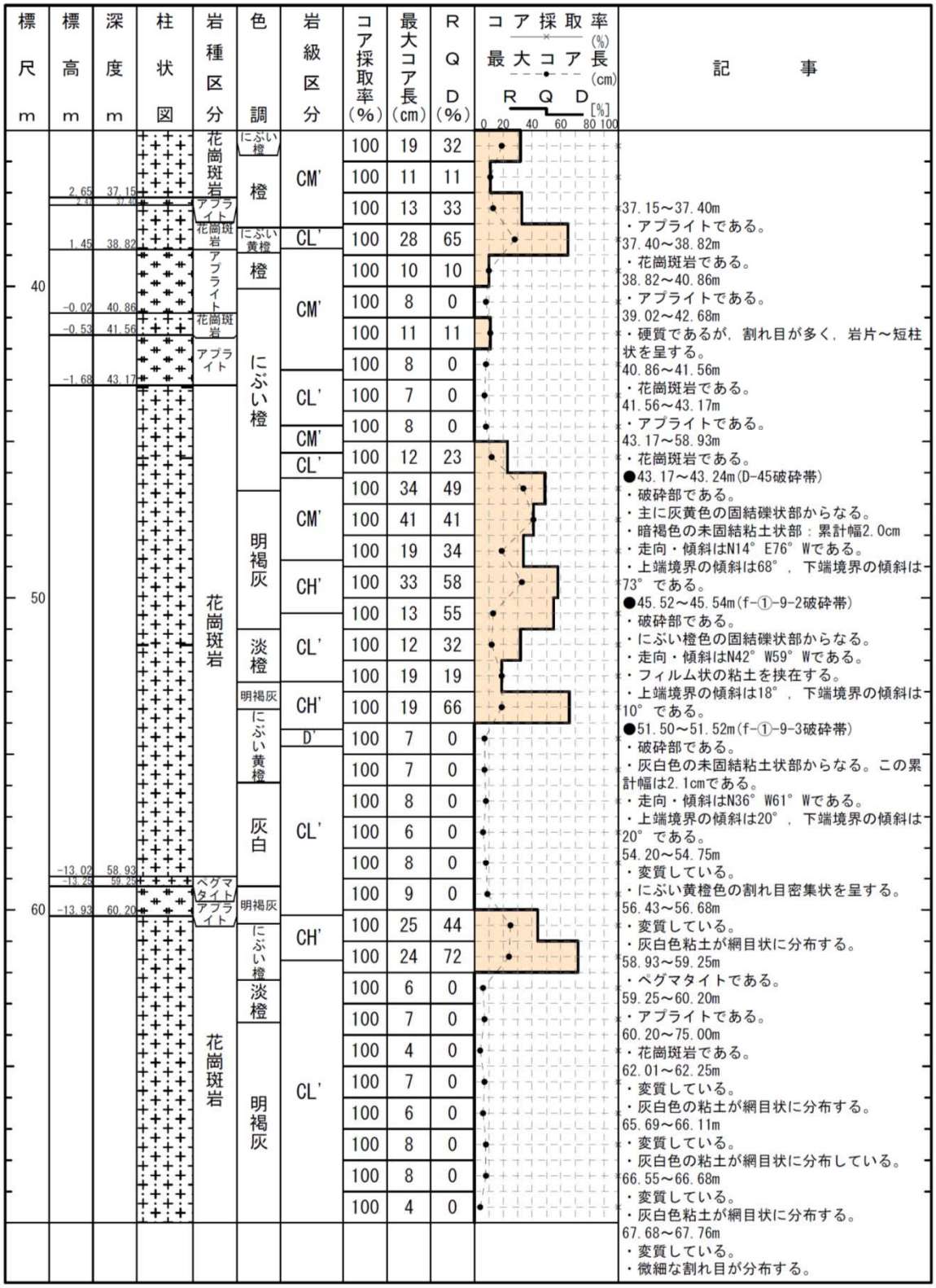
H20-①-9

孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	75.00m



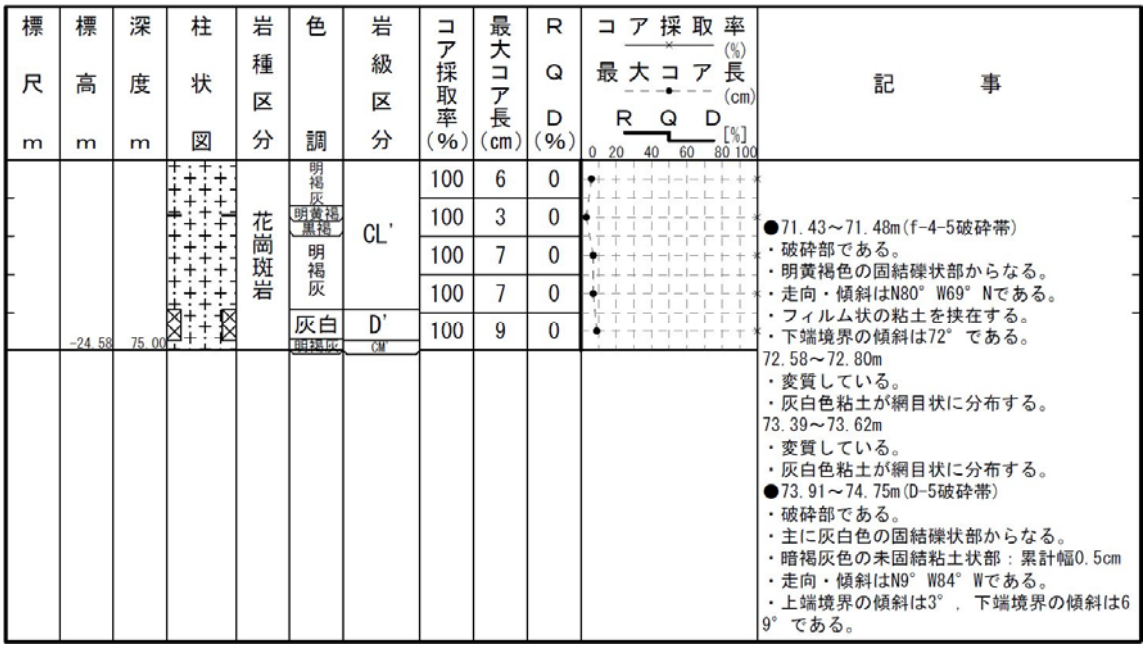
H20－①－9

柱状図(35.00m～70.00m)



H20－①－9

柱状図(70.00m～75.00m)

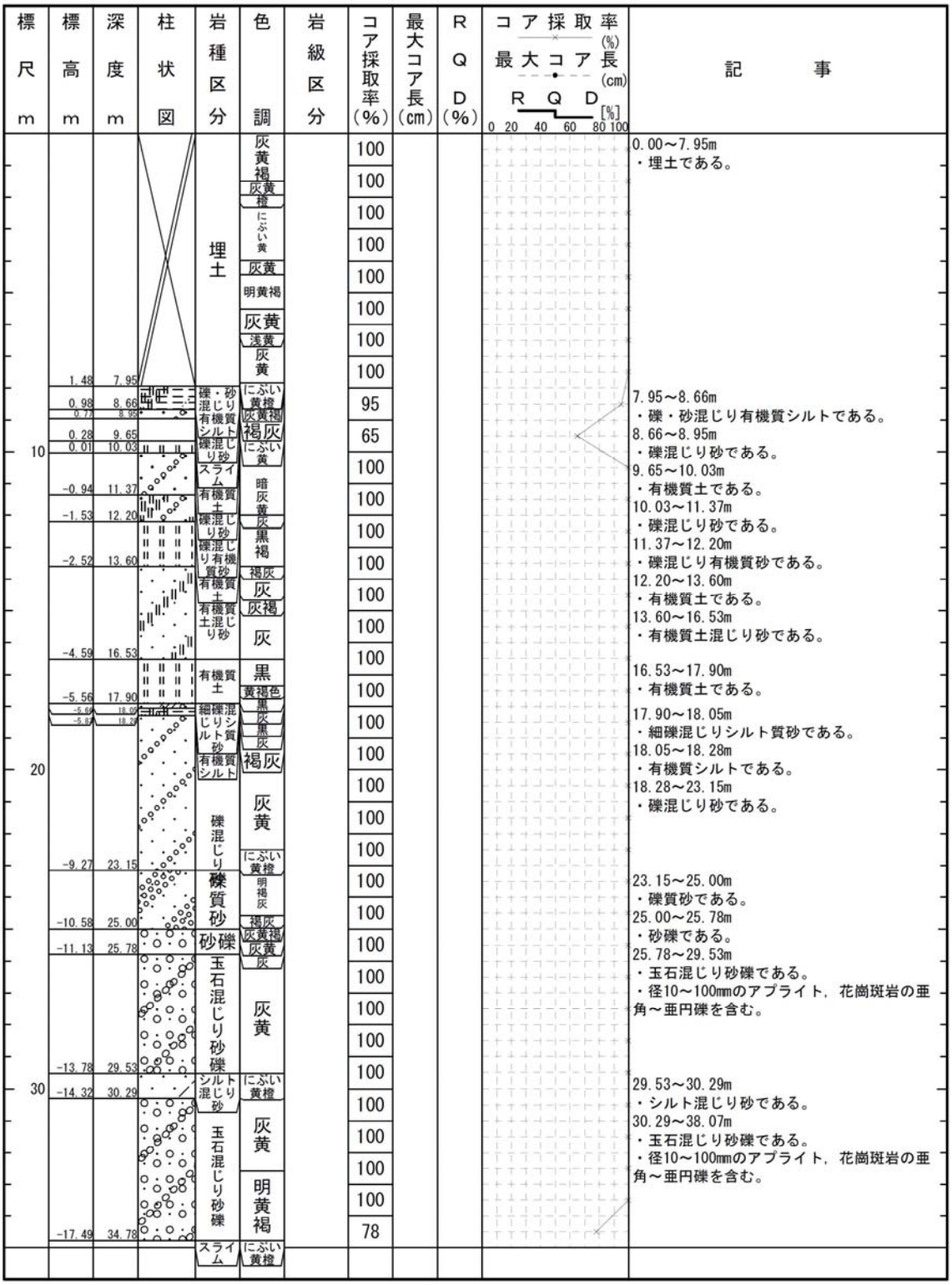


H24－B11－1

柱状図(00.00m～35.00m)

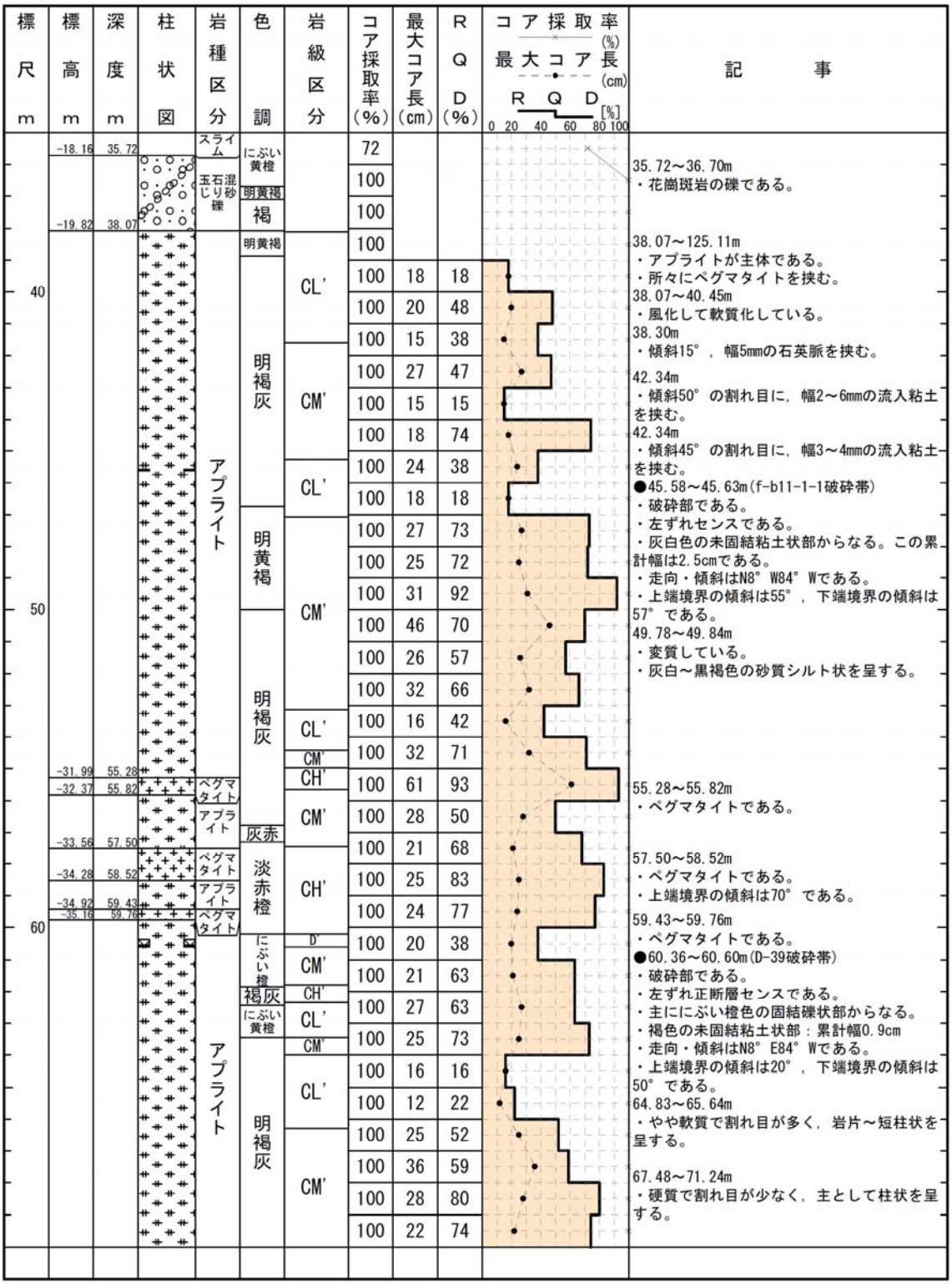
H24-B11-1

孔口標高	T.P. 7.10m	掘削長	150.00m



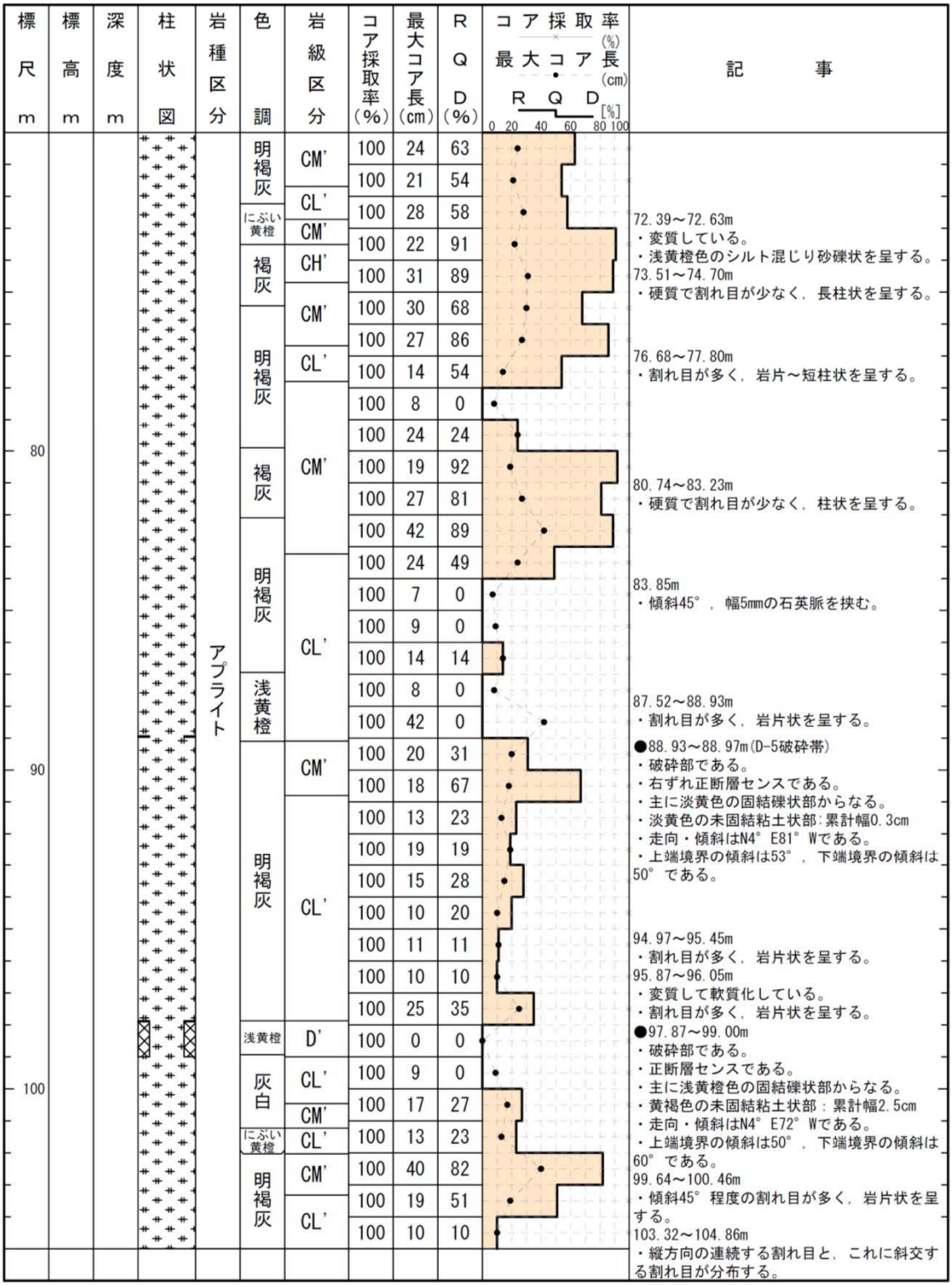
H24－B11－1

柱状図(35.00m～70.00m)



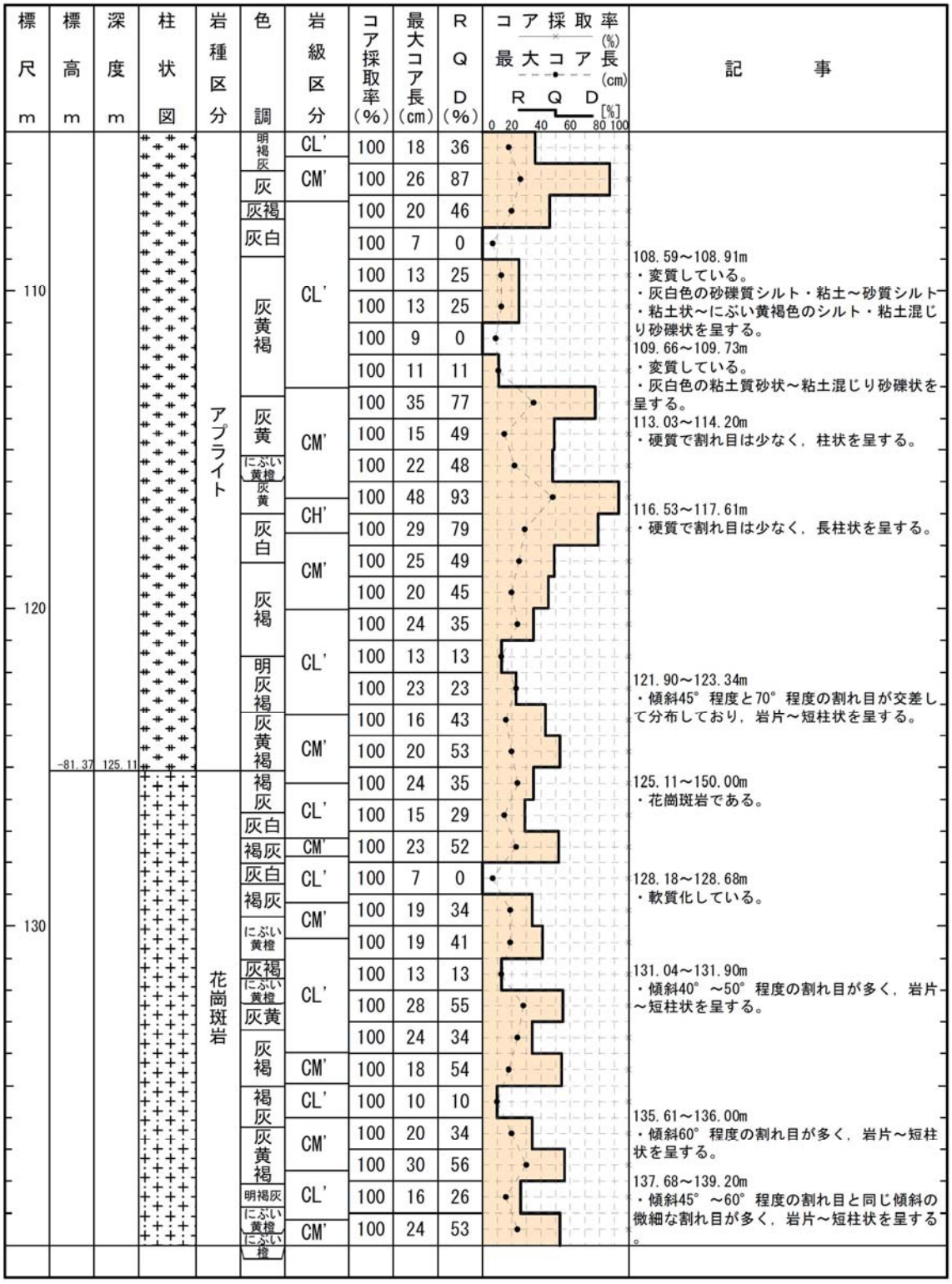
H24－B11－1

柱状図(70.00m～105.00m)



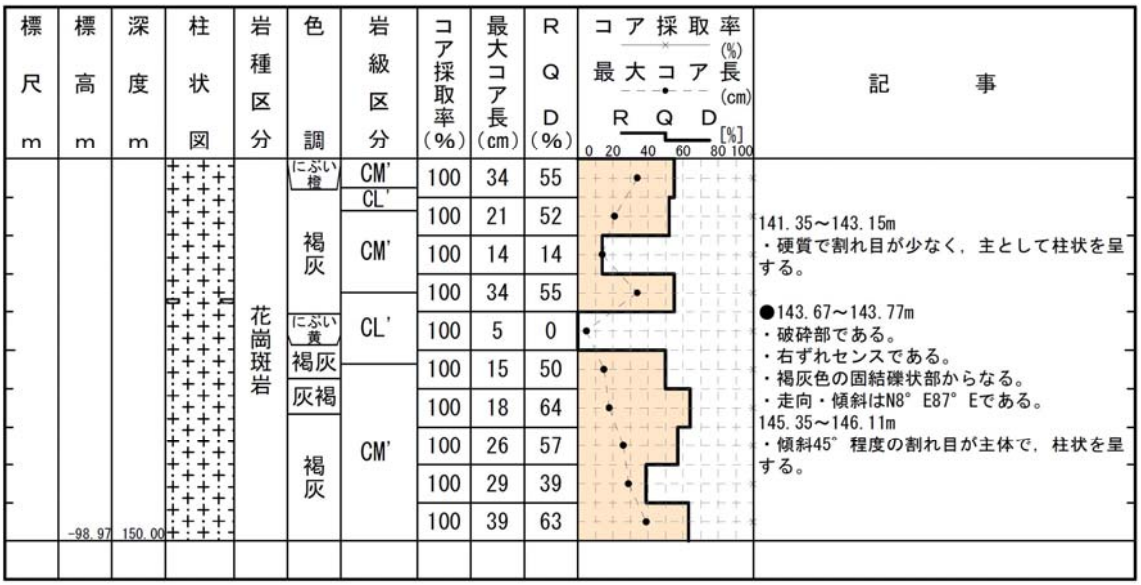
H24－B11－1

柱状図(105.00m～140.00m)



H24－B11－1

柱状図(140.00m～150.00m)

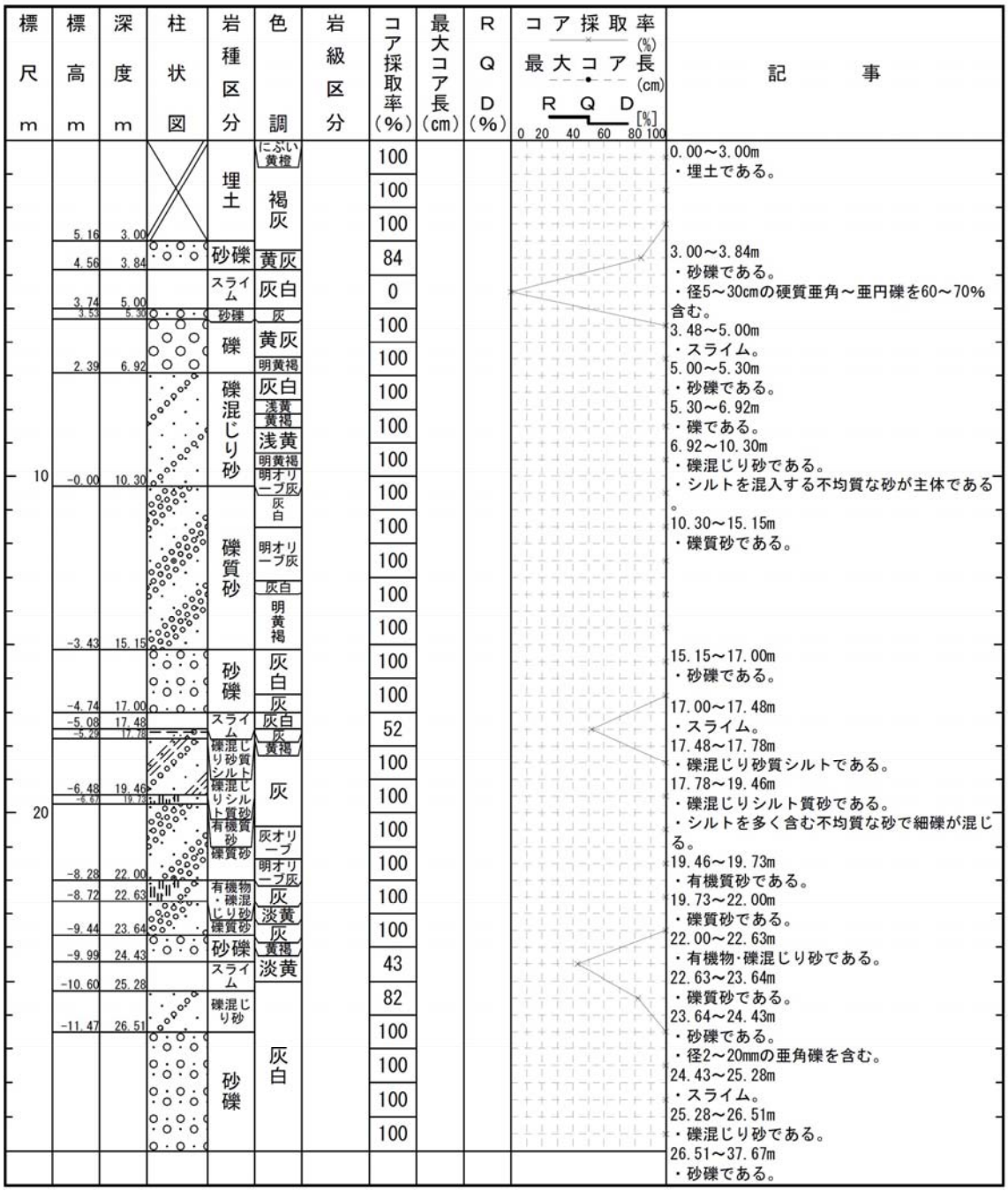


H24－B8－21

柱状図(0.00m～30.00m)

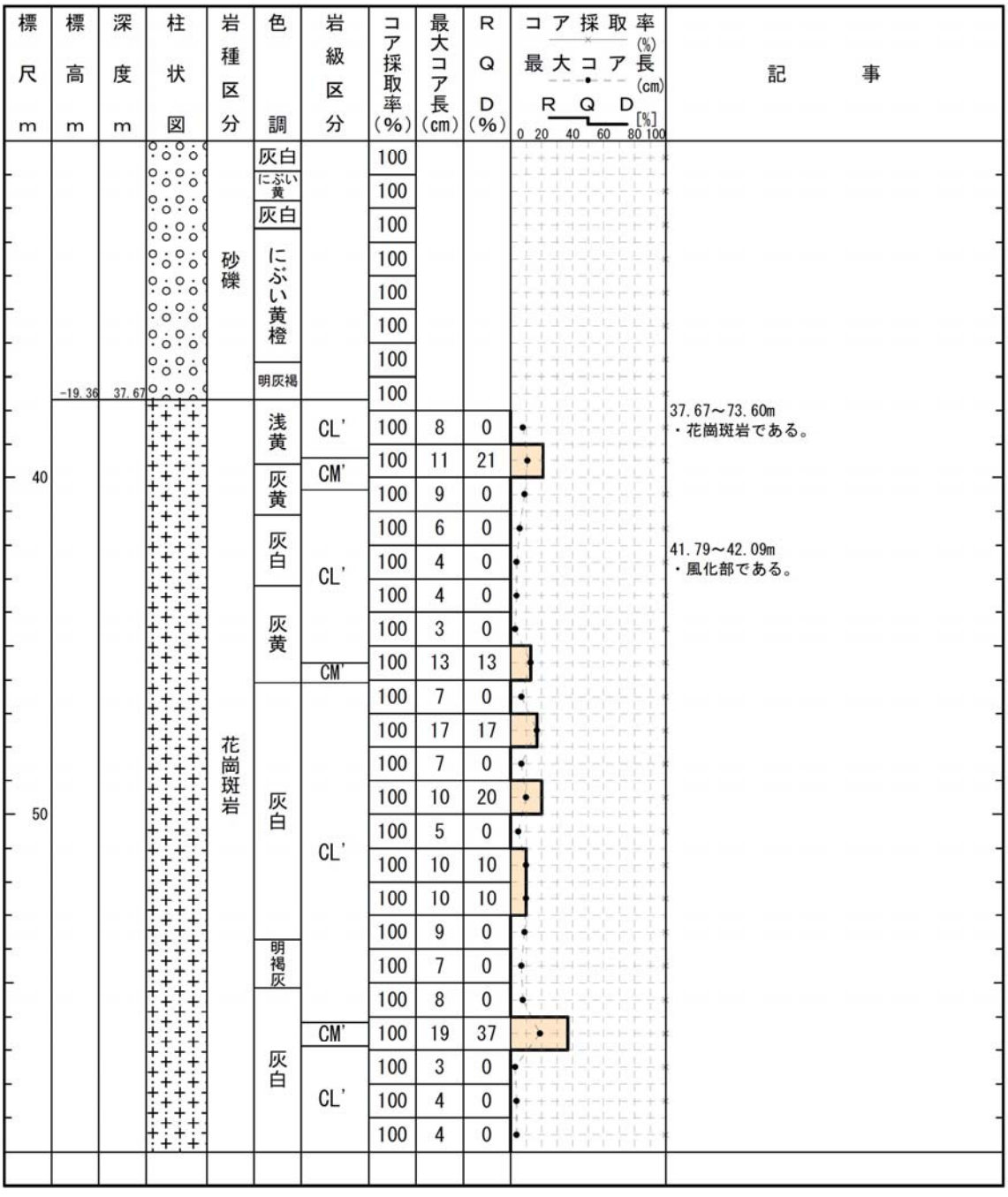
H24-B8-21

孔口標高	T.P. 7.28m	掘削長	240.00m


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
岩級区分
コア採取率(%)
最大コア長(cm)
RQD(%)
コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%]
0 20 40 60 80 100
記事
10
20
5.16 3.00
4.56 3.84
3.74 5.00
3.53 5.30
2.39 6.92
-0.00 10.30
-3.43 15.15
-4.74 17.00
-5.08 17.48
-5.28 17.78
-6.48 19.46
-6.61 19.73
-8.28 22.00
-8.72 22.63
-9.44 23.64
-9.99 24.43
-10.60 25.28
-11.47 26.51
埋土
砂礫
スライム
礫
礫混じり砂
礫質砂
砂礫
スライム
礫混じり砂質シルト
礫混じりシルト質砂
有機質砂
礫質砂
有機物・礫混じり砂
礫質砂
砂礫
スライム
礫混じり砂
砂礫
にぶい黄橙
褐灰
黄灰
灰白
灰
黄灰
明黄褐
灰白
浅黄
黄褐
浅黄
明黄褐
明オリーブ灰
灰白
明オリーブ灰
灰白
明黄褐
灰白
灰
灰白
灰
黄褐
灰
灰オリーブ
明オリーブ灰
灰
淡黄
灰
黄褐
淡黄
灰白
100
100
100
84
0
100
100
100
100
100
100
100
100
100
100
100
100
100
52
100
100
100
100
100
100
43
82
100
100
100
100
0.00～3.00m
・埋土である。
3.00～3.84m
・砂礫である。
・径5～30cmの硬質亜角～亜円礫を60～70%含む。
3.48～5.00m
・スライム。
5.00～5.30m
・砂礫である。
5.30～6.92m
・礫である。
6.92～10.30m
・礫混じり砂である。
・シルトを混入する不均質な砂が主体である。
10.30～15.15m
・礫質砂である。
15.15～17.00m
・砂礫である。
17.00～17.48m
・スライム。
17.48～17.78m
・礫混じり砂質シルトである。
17.78～19.46m
・礫混じりシルト質砂である。
・シルトを多く含む不均質な砂で細礫が混じる。
19.46～19.73m
・有機質砂である。
19.73～22.00m
・礫質砂である。
22.00～22.63m
・有機物･礫混じり砂である。
22.63～23.64m
・礫質砂である。
23.64～24.43m
・砂礫である。
・径2～20mmの亜角礫を含む。
24.43～25.28m
・スライム。
25.28～26.51m
・礫混じり砂である。
26.51～37.67m
・砂礫である。

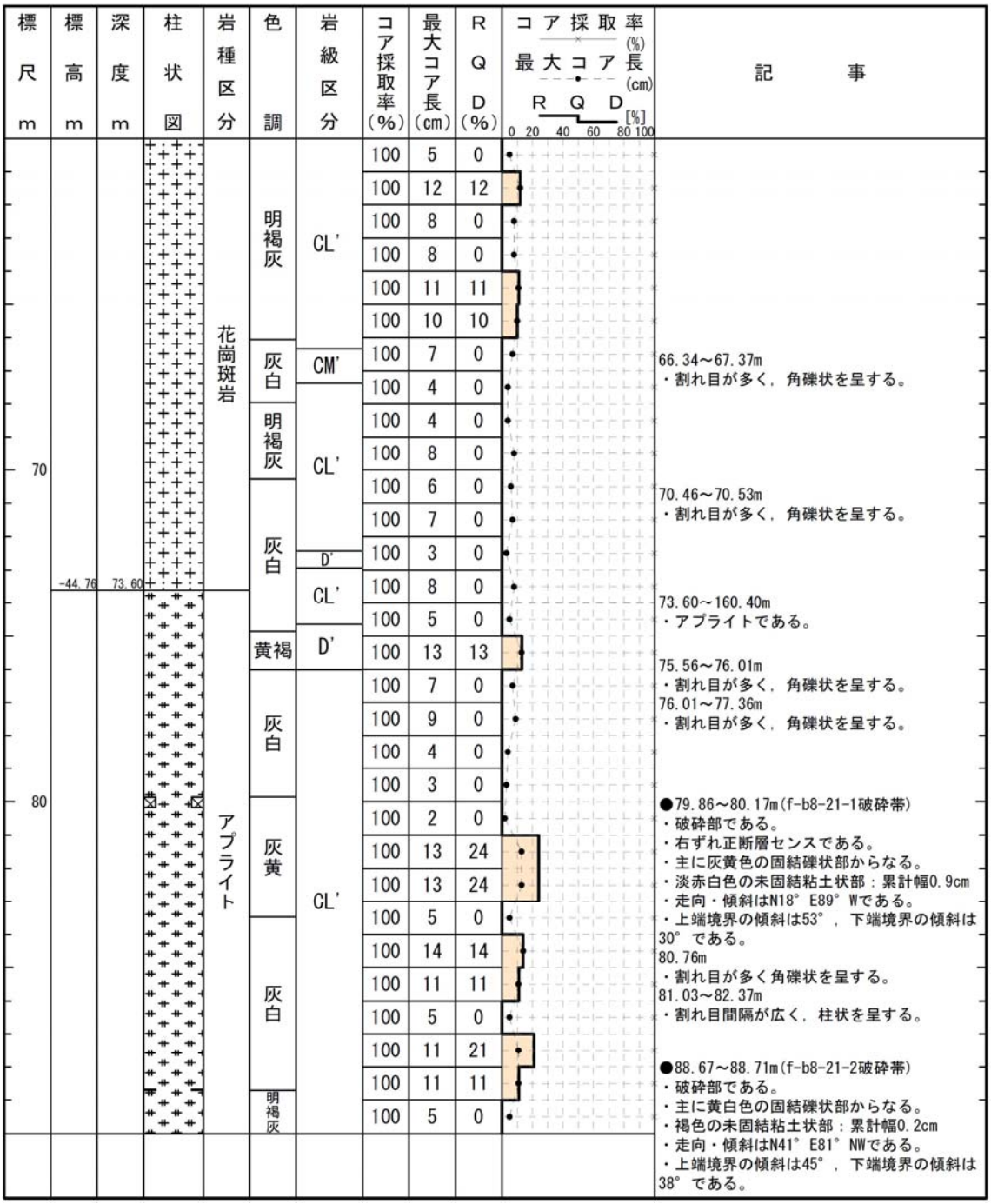
H24－B8－21

柱状図(30.00m～60.00m)



H24－B8－21

柱状図(60.00m～90.00m)

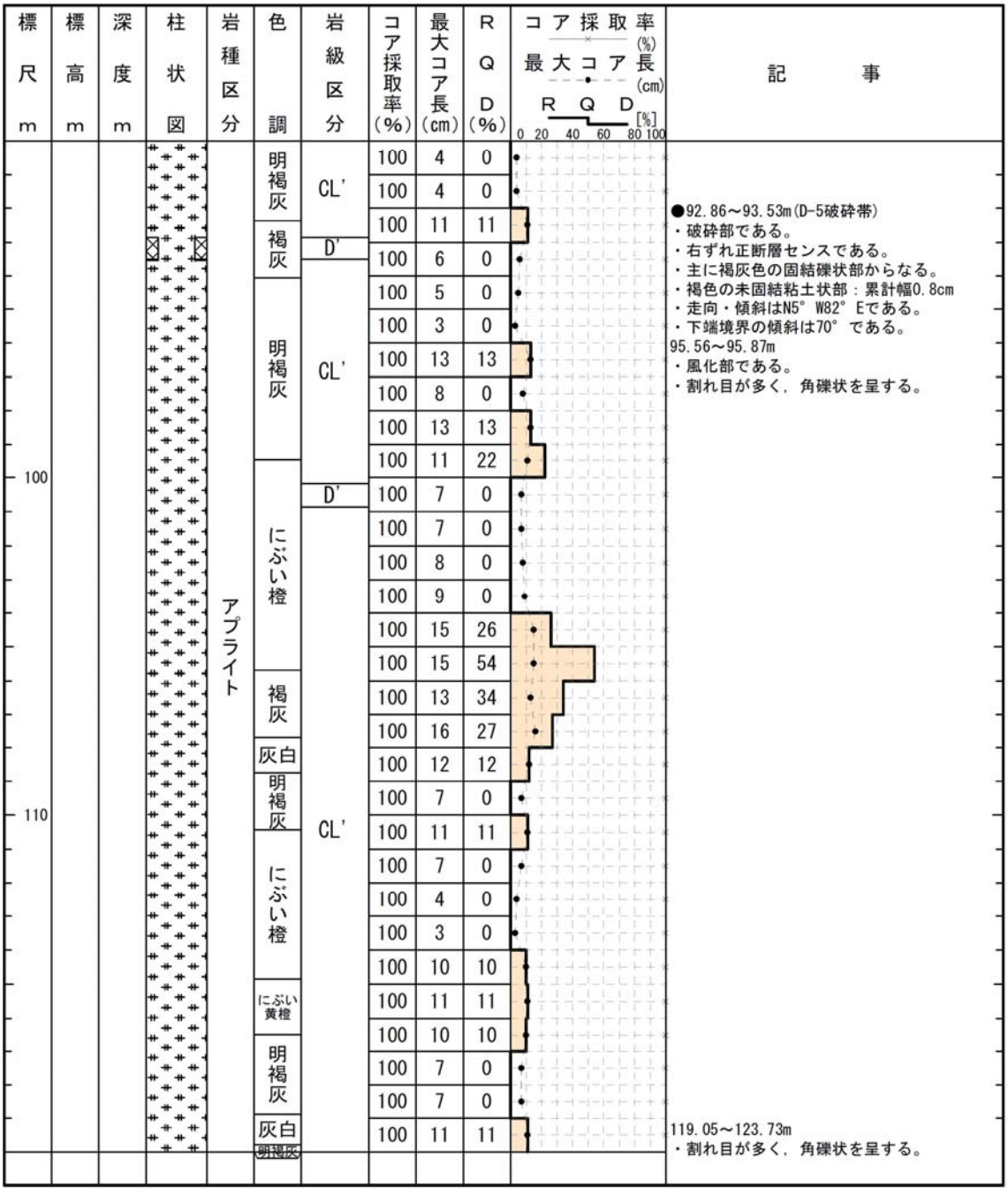


標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
70			花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	5	0
						100	12	12
						100	8	0
						100	8	0
						100	11	11
						100	10	10
				灰白	CM'	100	7	0
						100	4	0
				明褐灰	CL'	100	4	0
						100	8	0
						100	6	0
				灰白		100	7	0
					D'	100	3	0
	-44.76	73.60			CL'	100	8	0
						100	5	0
				黄褐	D'	100	13	13
				灰白	CL'	100	7	0
						100	9	0
						100	4	0
						100	3	0
80			アプライト	灰黄		100	2	0
						100	13	24
						100	13	24
						100	5	0
				灰白		100	14	14
						100	11	11
						100	5	0
						100	11	21
						100	11	11
				明褐灰		100	5	0

記事
66.34～67.37m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
70.46～70.53m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
73.60～160.40m ・アプライトである。
75.56～76.01m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。 76.01～77.36m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
●79.86～80.17m(f-b8-21-1破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・淡赤白色の未固結粘土状部：累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°，下端境界の傾斜は30°である。 80.76m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く，柱状を呈する。
●88.67～88.71m(f-b8-21-2破砕帯) ・破砕部である。 ・主に黄白色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN41° E81° NWである。 ・上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は38°である。

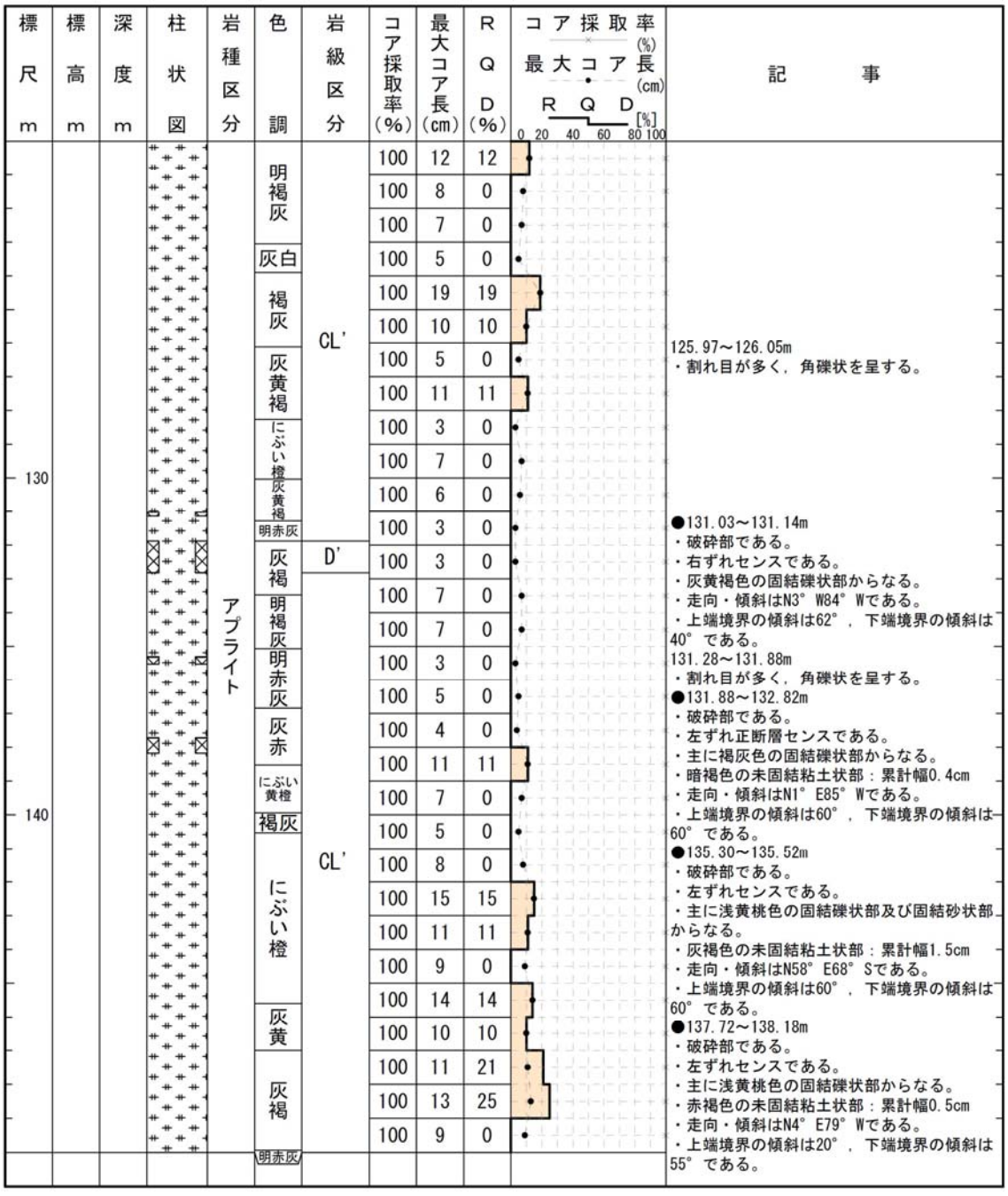
H24－B8－21

柱状図(90.00m～120.00m)



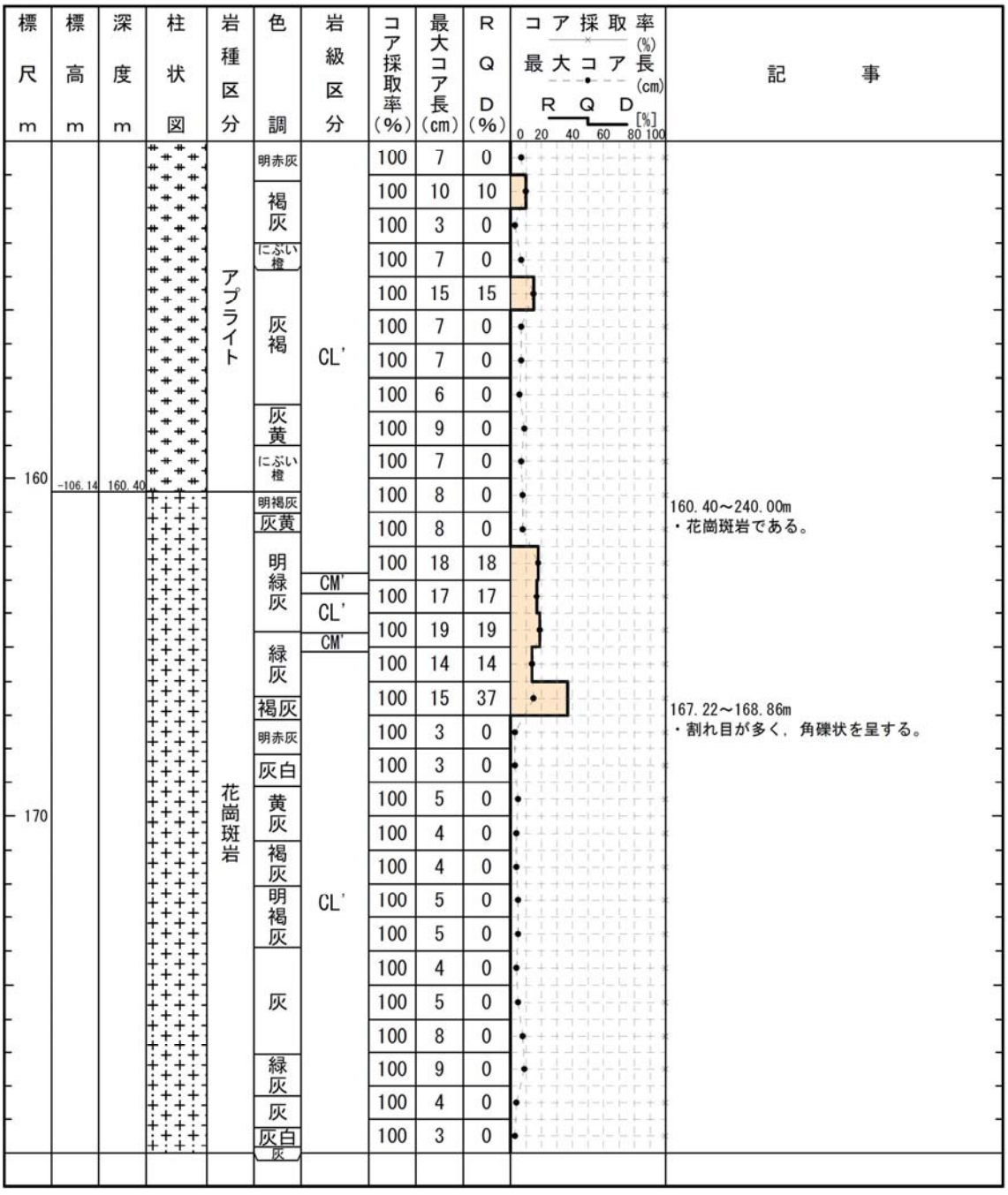
H24－B8－21

柱状図(120.00m～150.00m)



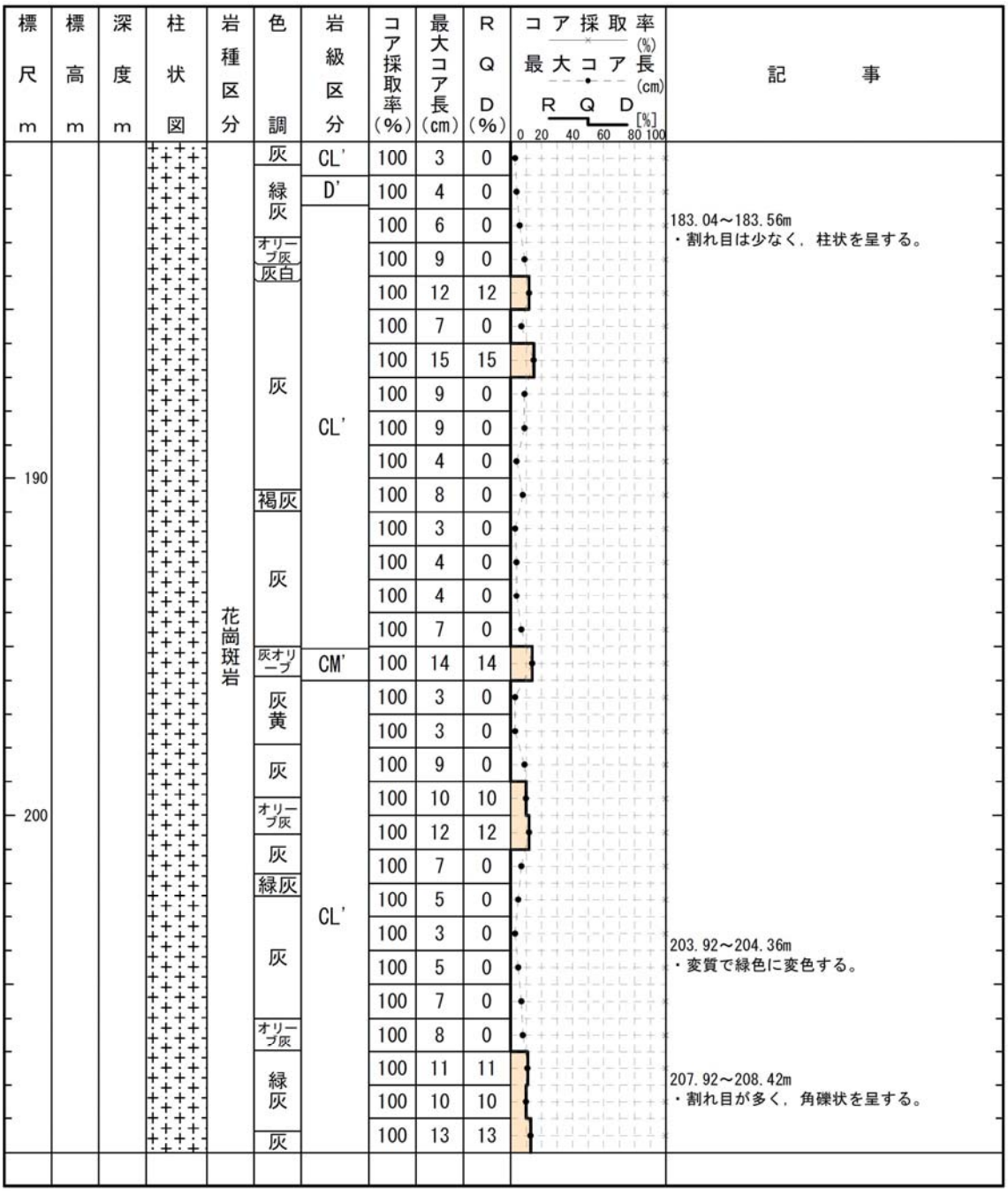
H24－B8－21

柱状図(150.00m～180.00m)



H24－B8－21

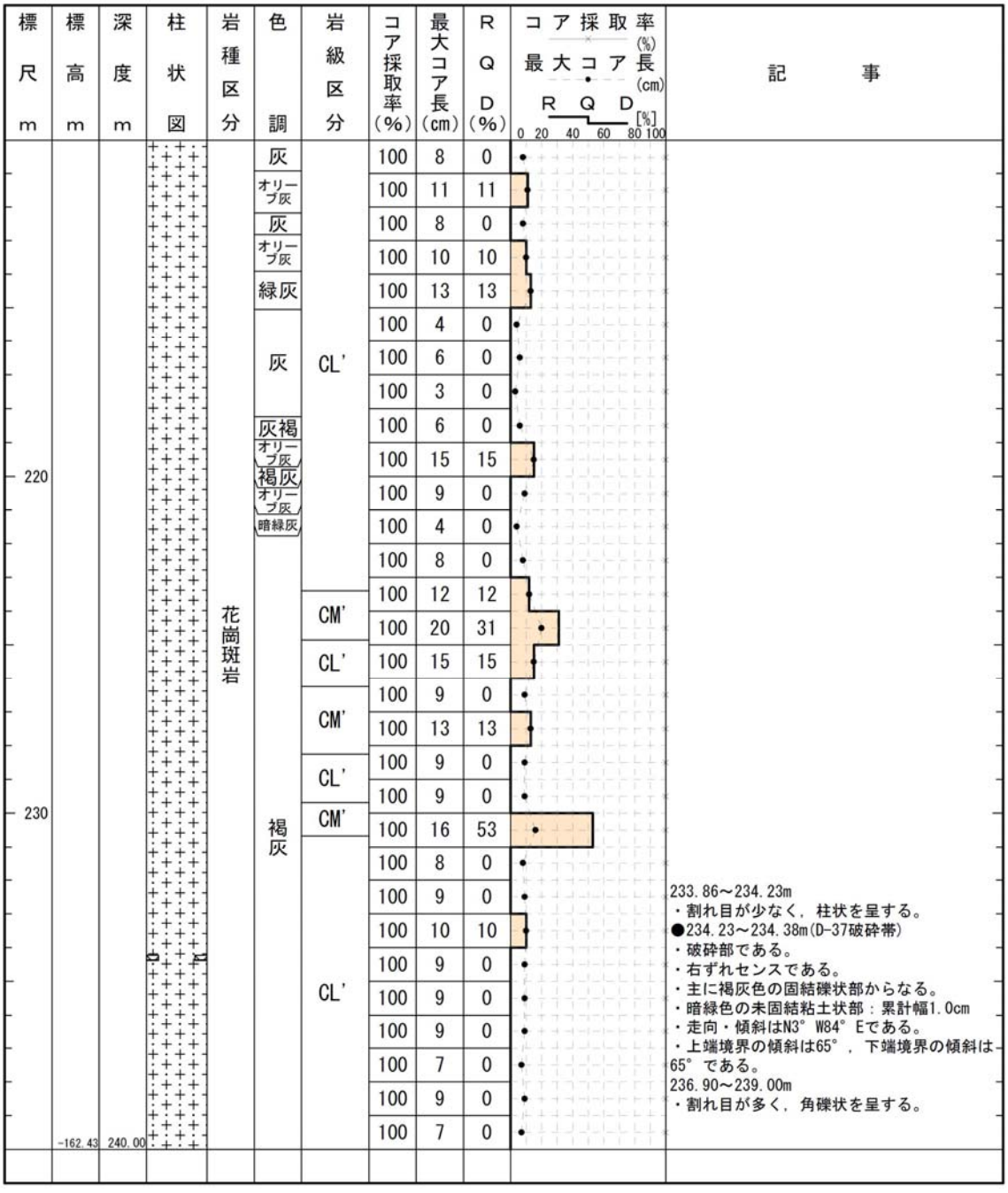
柱状図(180.00m～210.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
				花崗斑岩	灰	CL'	100	3	0	
					緑灰	D'	100	4	0	
							100	6	0	183.04～183.56m ・割れ目は少なく，柱状を呈する。
					オリーブ灰		100	9	0	
					灰白		100	12	12	
							100	7	0	
					灰		100	15	15	
							100	9	0	
						CL'	100	9	0	
							100	4	0	
190							100	8	0	
					褐灰		100	3	0	
					灰		100	4	0	
							100	4	0	
							100	7	0	
					灰オリーブ	CM'	100	14	14	
					灰黄		100	3	0	
							100	3	0	
					灰		100	9	0	
							100	10	10	
200					オリーブ灰		100	12	12	
					灰		100	7	0	
					緑灰		100	5	0	
						CL'	100	3	0	
					灰		100	5	0	203.92～204.36m ・変質で緑色に変色する。
							100	7	0	
							100	8	0	
					オリーブ灰		100	11	11	
					緑灰		100	10	10	207.92～208.42m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					灰		100	13	13	

H24－B8－21

柱状図(210.00m～240.00m)

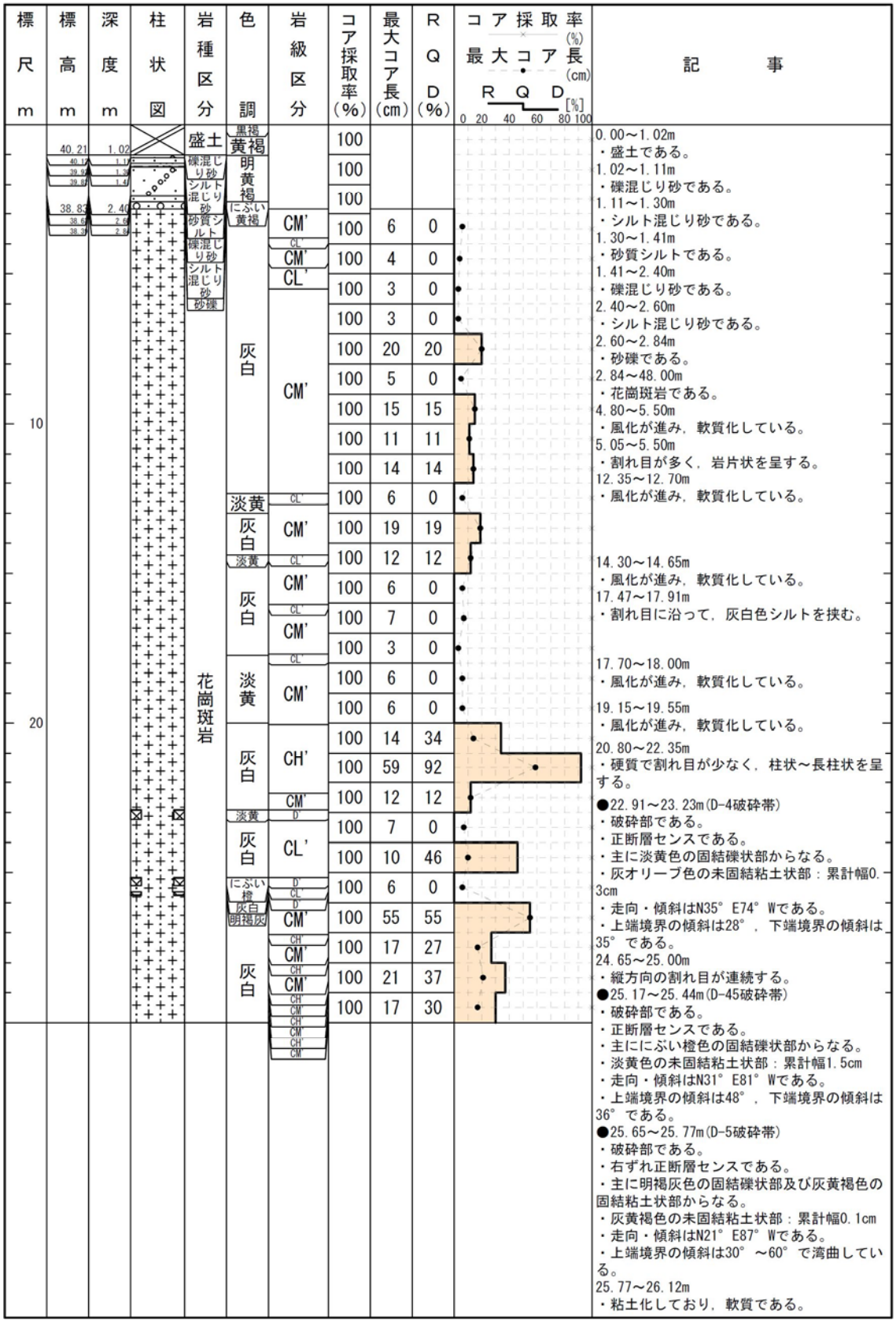


H27－D5－1

柱状図(0.00m～30.00m)

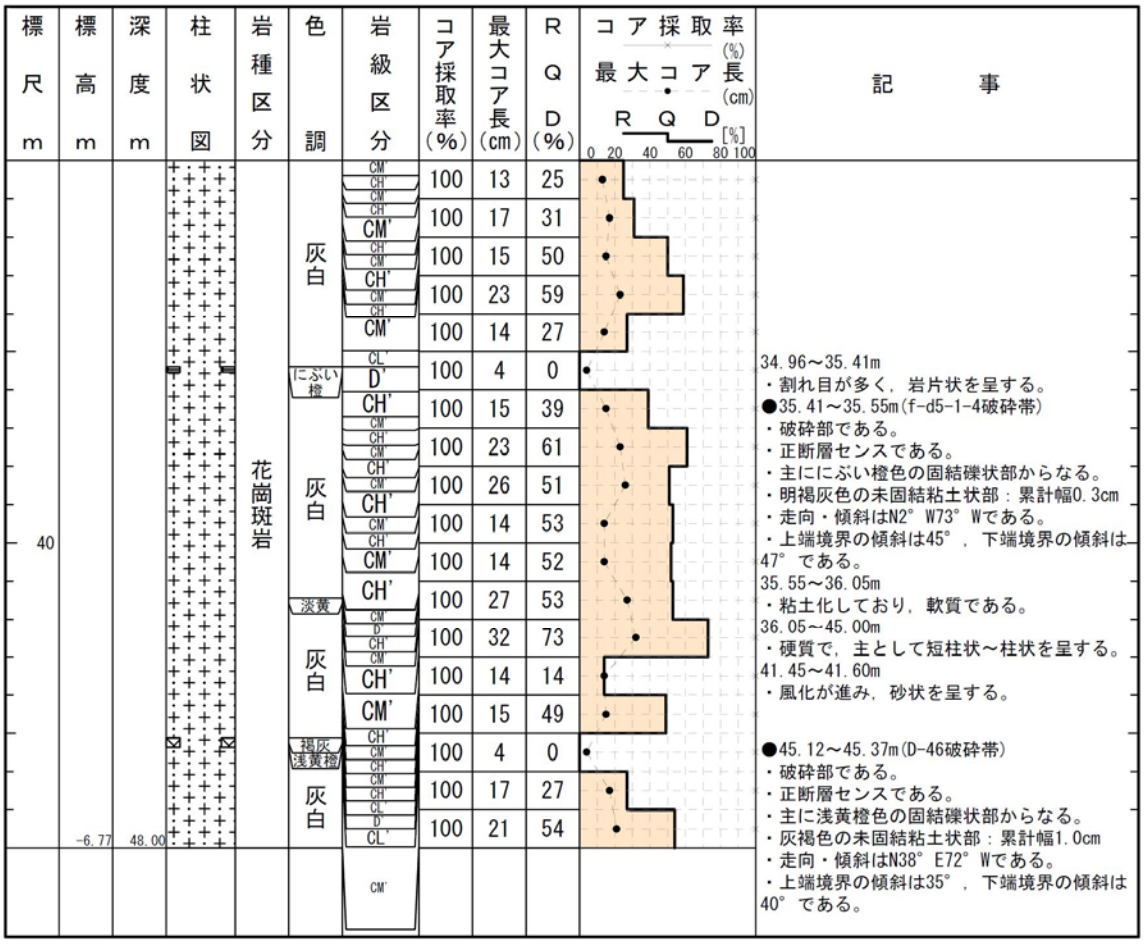
H27-D5-1

孔口標高	T.P. 41.23m	掘削長	48.00m



H27－D5－1

柱状図(30.00m～48.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
40			花崗斑岩	灰白	CM'	100	13	25
					CH'	100	17	31
					CM'	100	15	50
					CH'	100	23	59
					CM'	100	14	27
					CL'	100	4	0
				にぶい橙	D'			
				灰白	CH'	100	15	39
					CM'	100	23	61
					CH'	100	26	51
					CM'	100	14	53
					CH'	100	14	52
					CM'	100	27	53
				淡黄	CH'	100	32	73
				灰白	CM'	100	14	14
					CH'	100	15	49
					CM'	100	4	0
				褐灰 浅黄橙	CH'	100	17	27
					CM'	100	21	54
	-6.77	48.00		灰白	CL'			

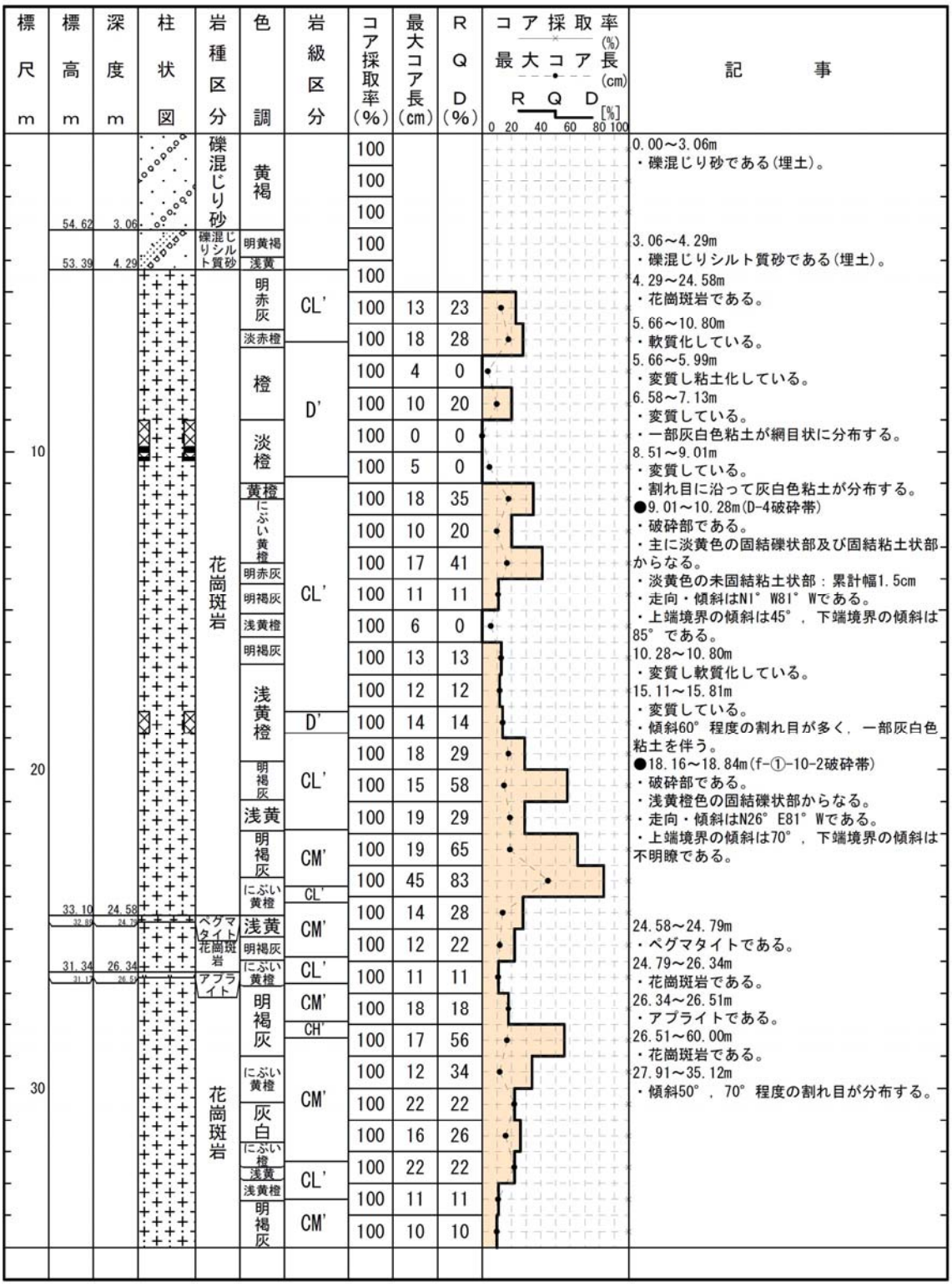
記事
34.96～35.41m ・割れ目が多く，岩片状を呈する。 ●35.41～35.55m(f-d5-1-4破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN2° W73° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は47°である。 35.55～36.05m ・粘土化しており，軟質である。 36.05～45.00m ・硬質で，主として短柱状～柱状を呈する。 41.45～41.60m ・風化が進み，砂状を呈する。 ●45.12～45.37m(D-46破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部からなる。 ・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN38° E72° Wである。 ・上端境界の傾斜は35°，下端境界の傾斜は40°である。

H20－①－10

柱状図(0.00m～35.00m)

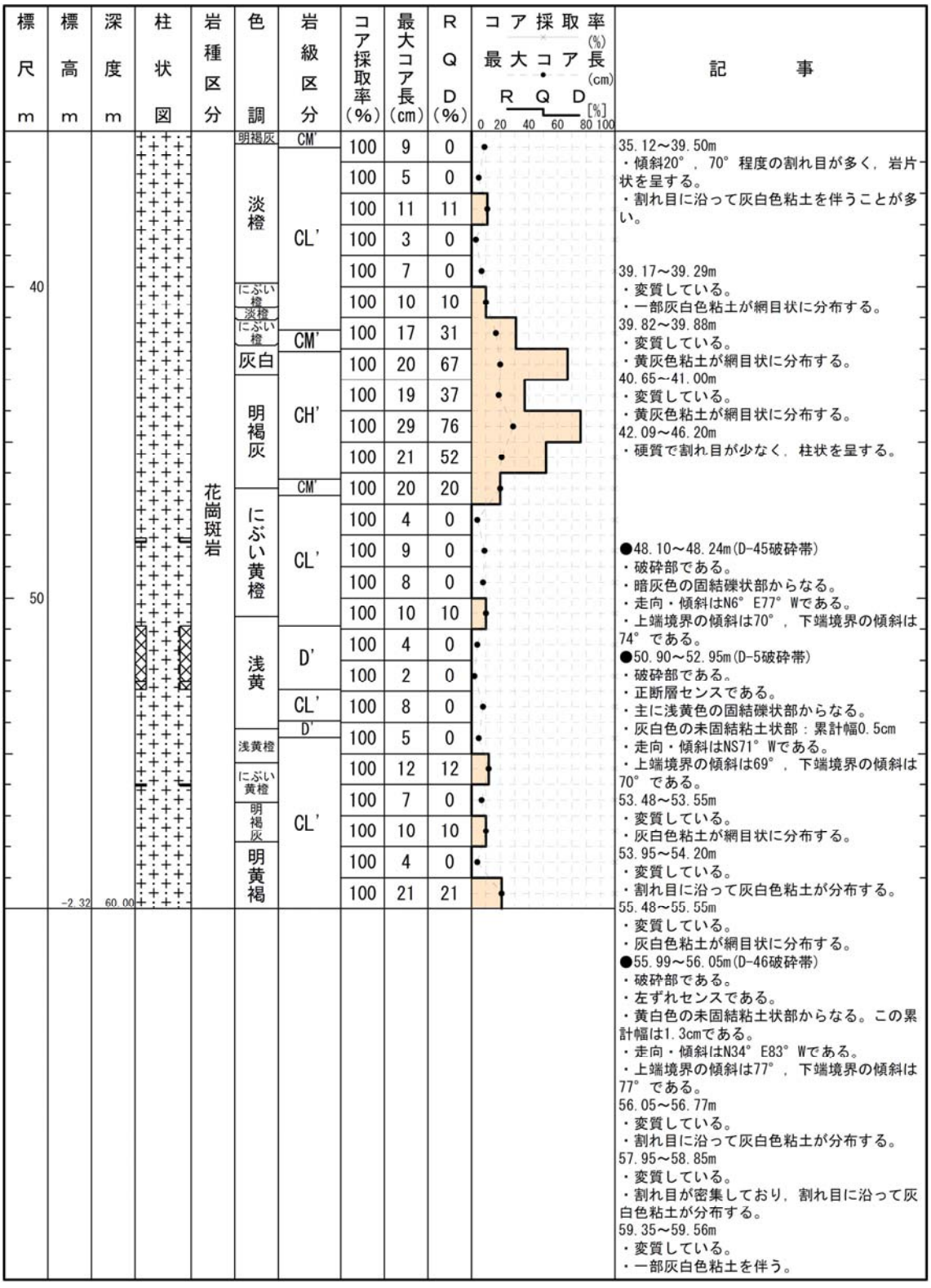
H20-①-10

孔口標高	T.P. 57.68m	掘削長	60.00m



H20－①－10

柱状図(35.00m～60.00m)

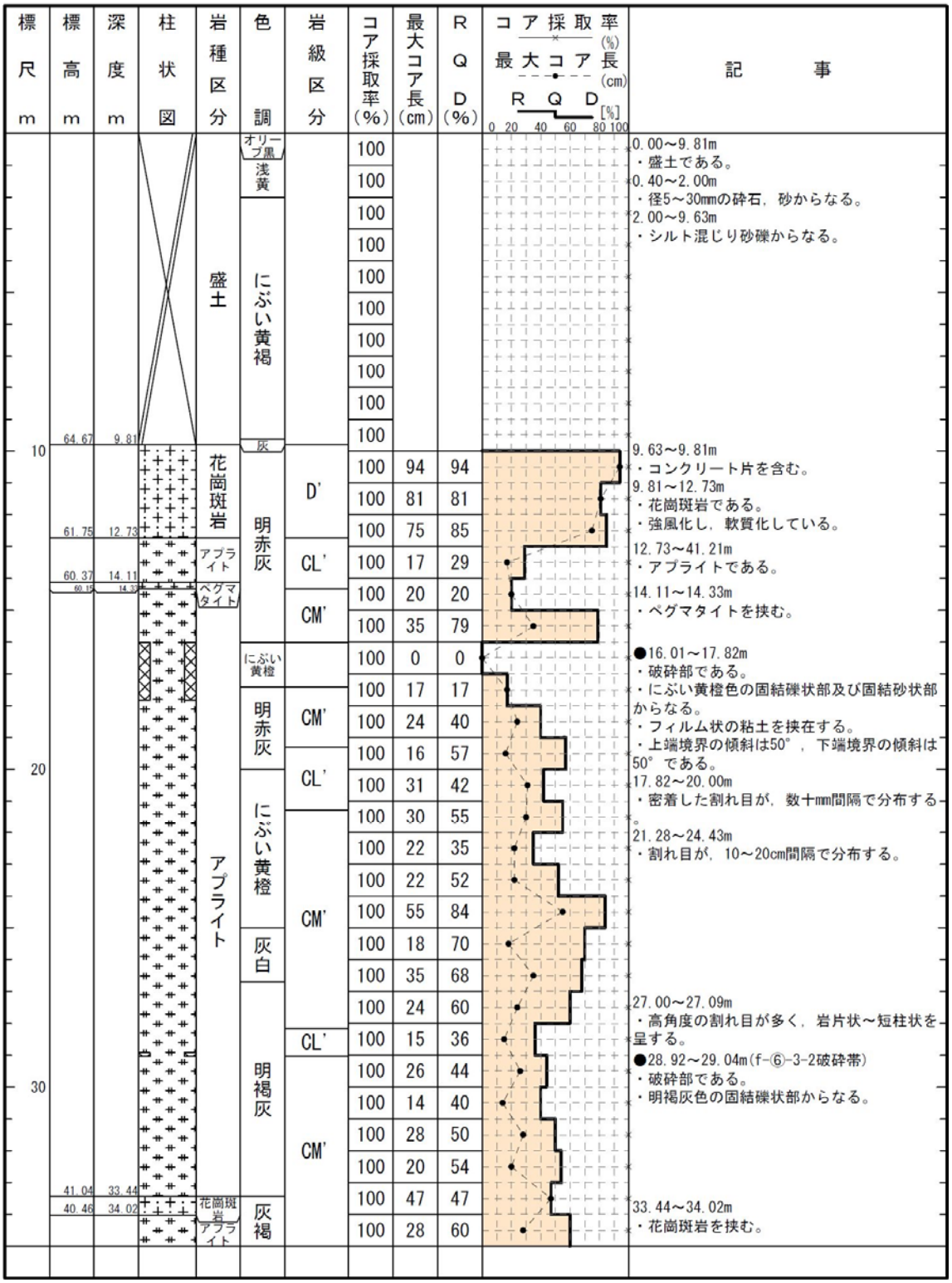


H19－No. 16

柱状図(0.00m～35.00m)

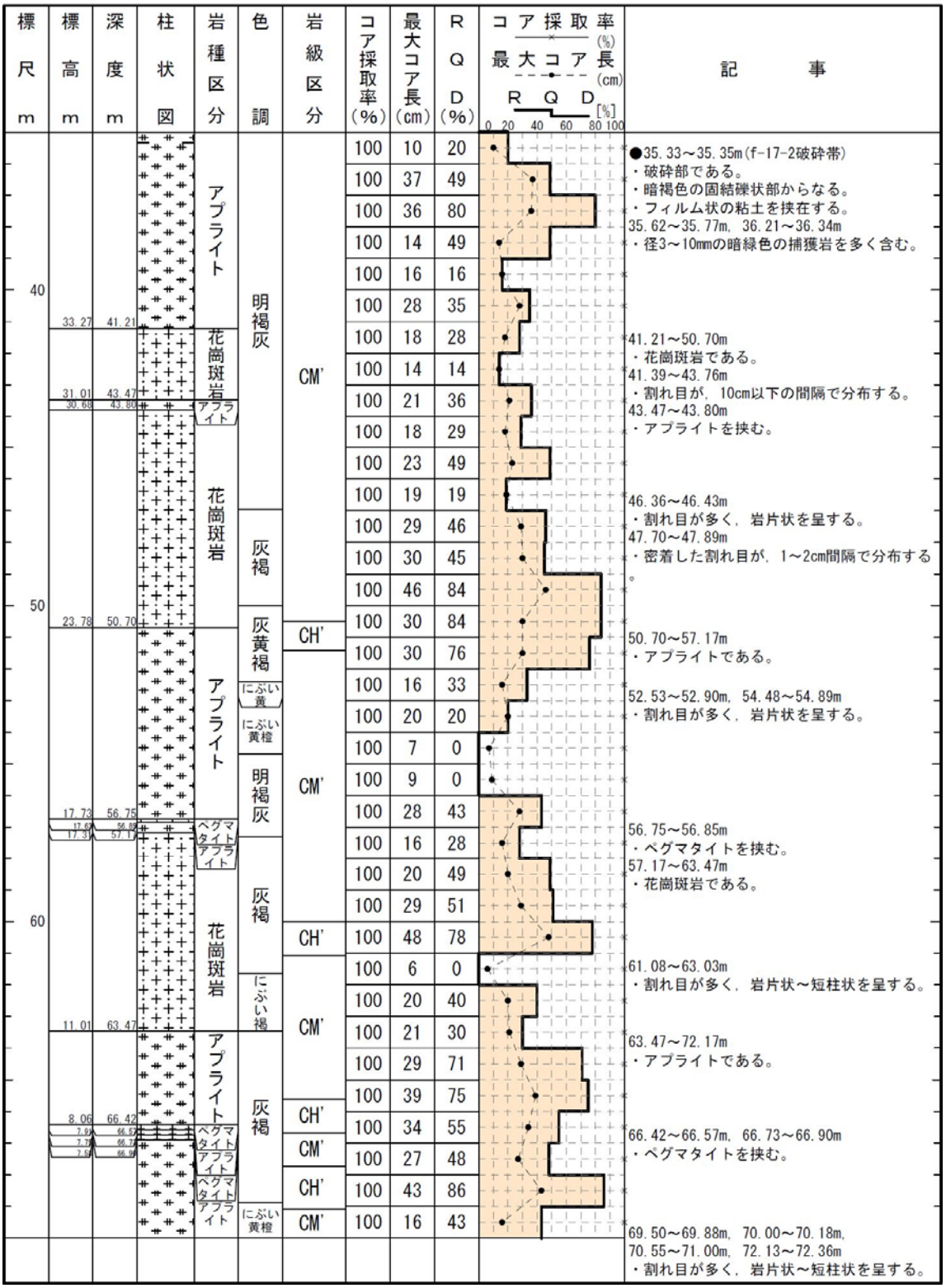
H19-No. 16

孔口標高	T.P. 74.48m	掘削長	220.00m



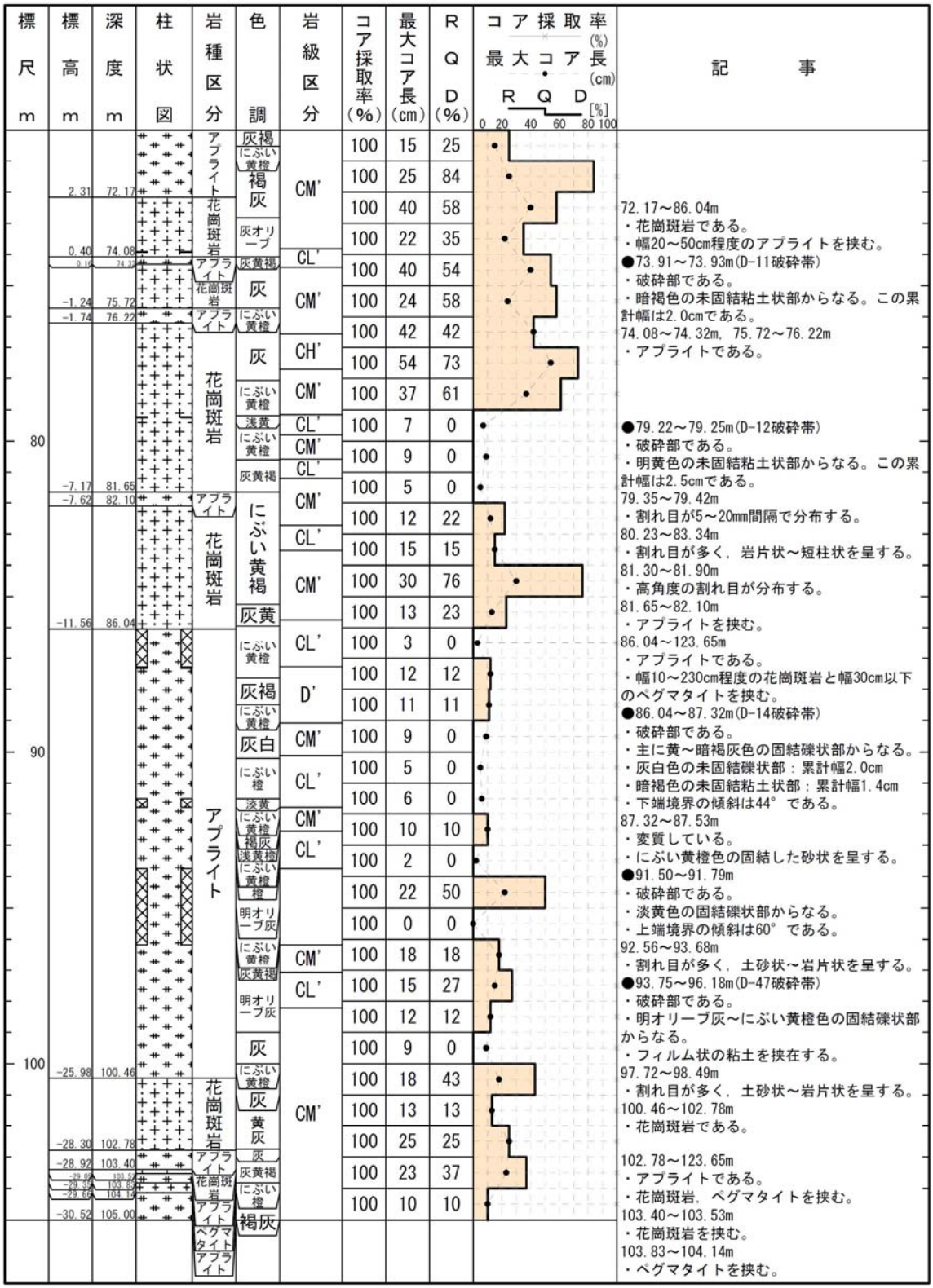
H19－No. 16

柱状図(35.00m～70.00m)



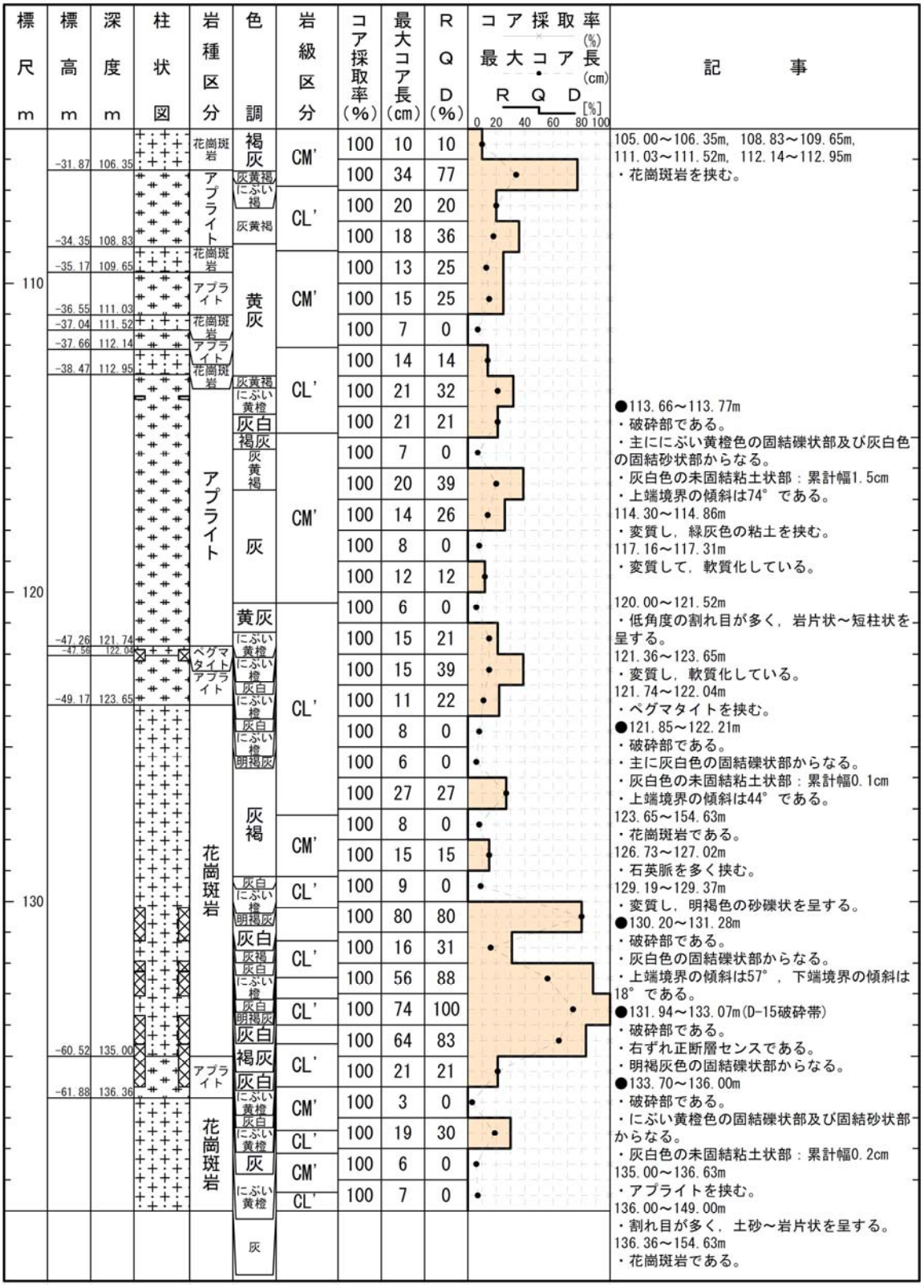
H19－No. 16

柱状図(70.00m～105.00m)



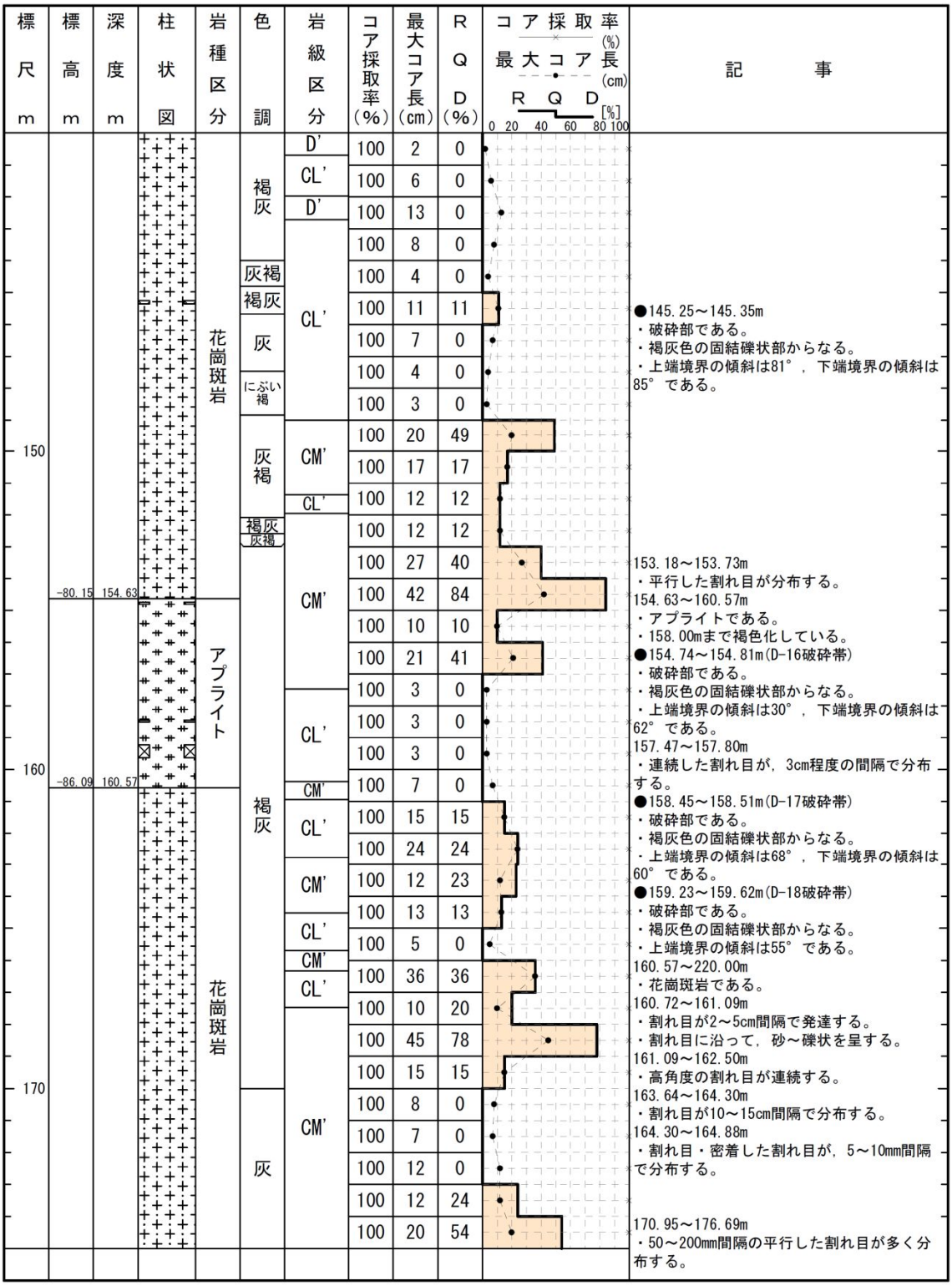
H19－No. 16

柱状図(105.00m～140.00m)



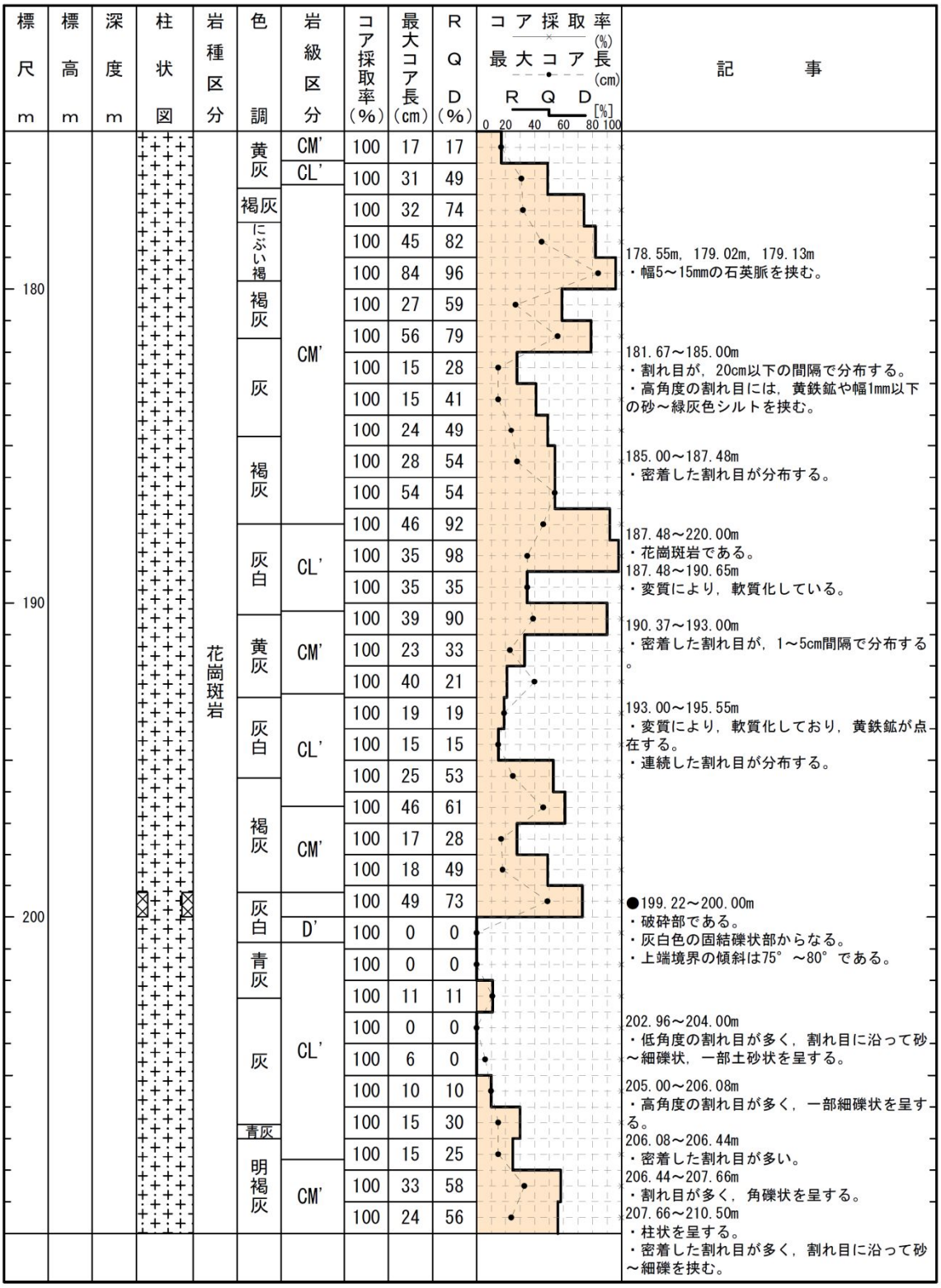
H19－No. 16

柱状図(140.00m～175.00m)



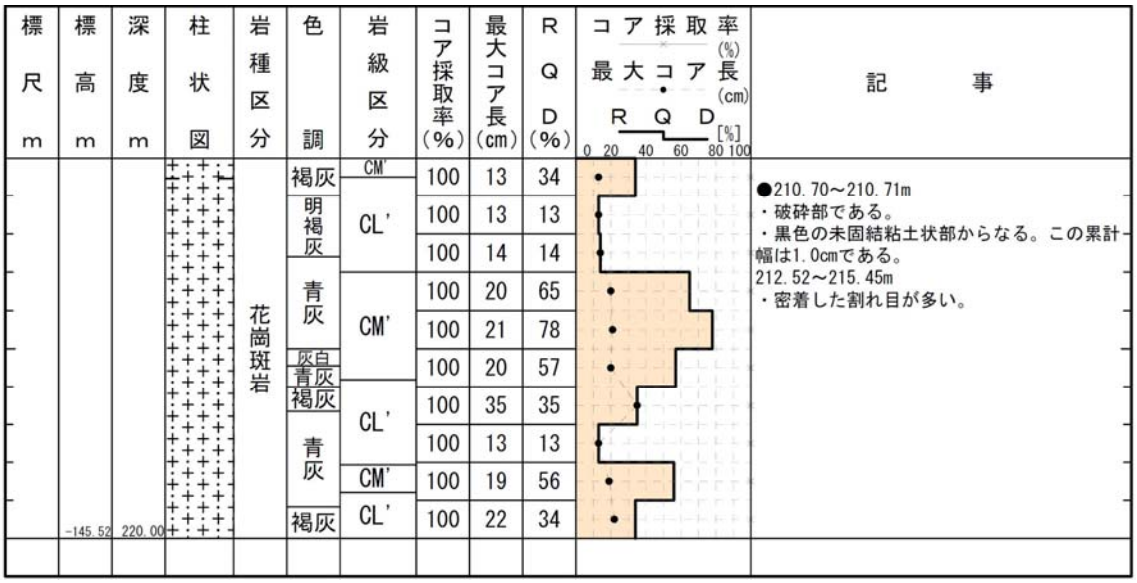
H19－No. 16

柱状図(175.00m～210.00m)



H19－No. 16

柱状図(210.00m～220.00m)

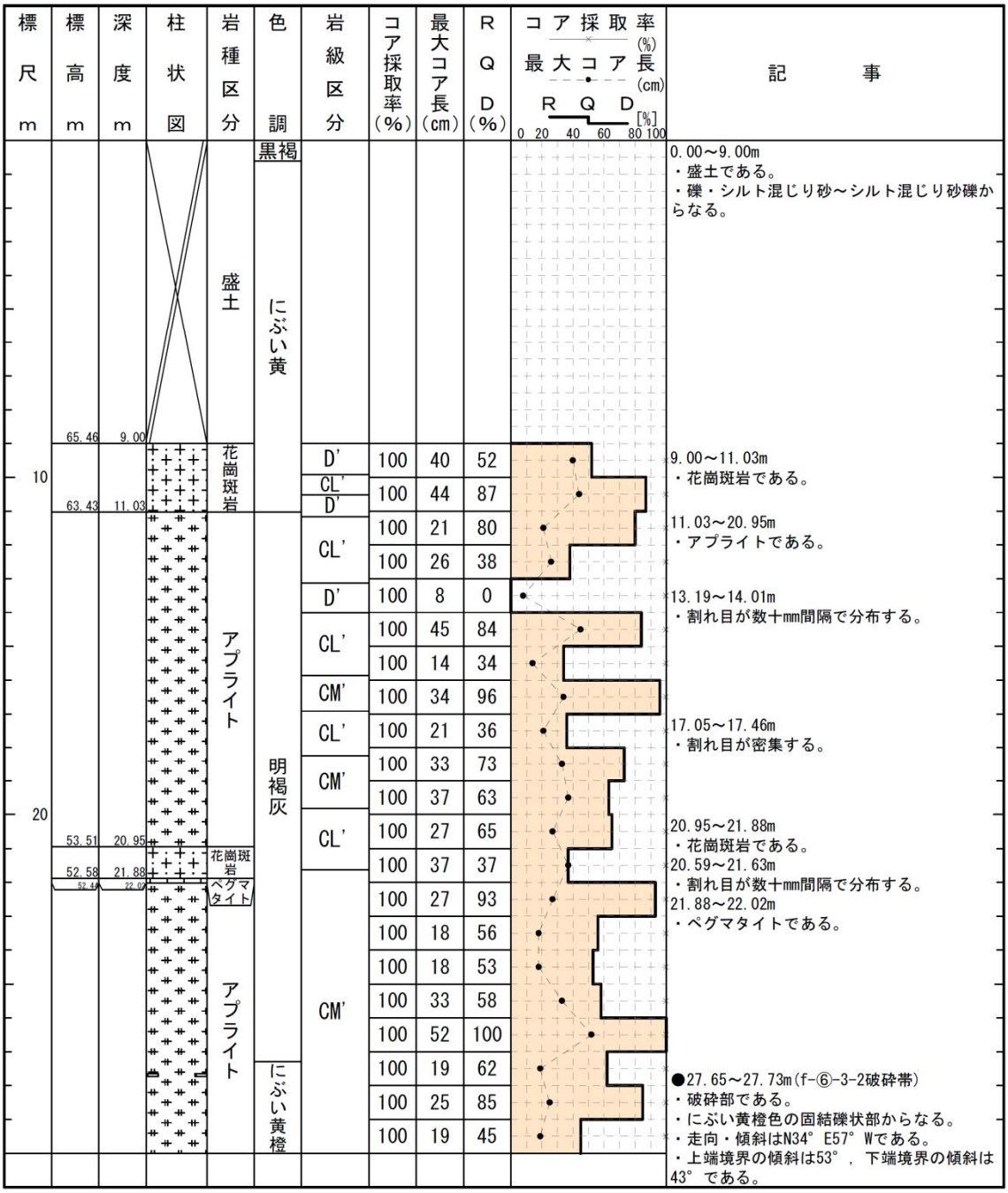


H19－No. 17

柱状図(0.00m～30.00m)

H19-No. 17

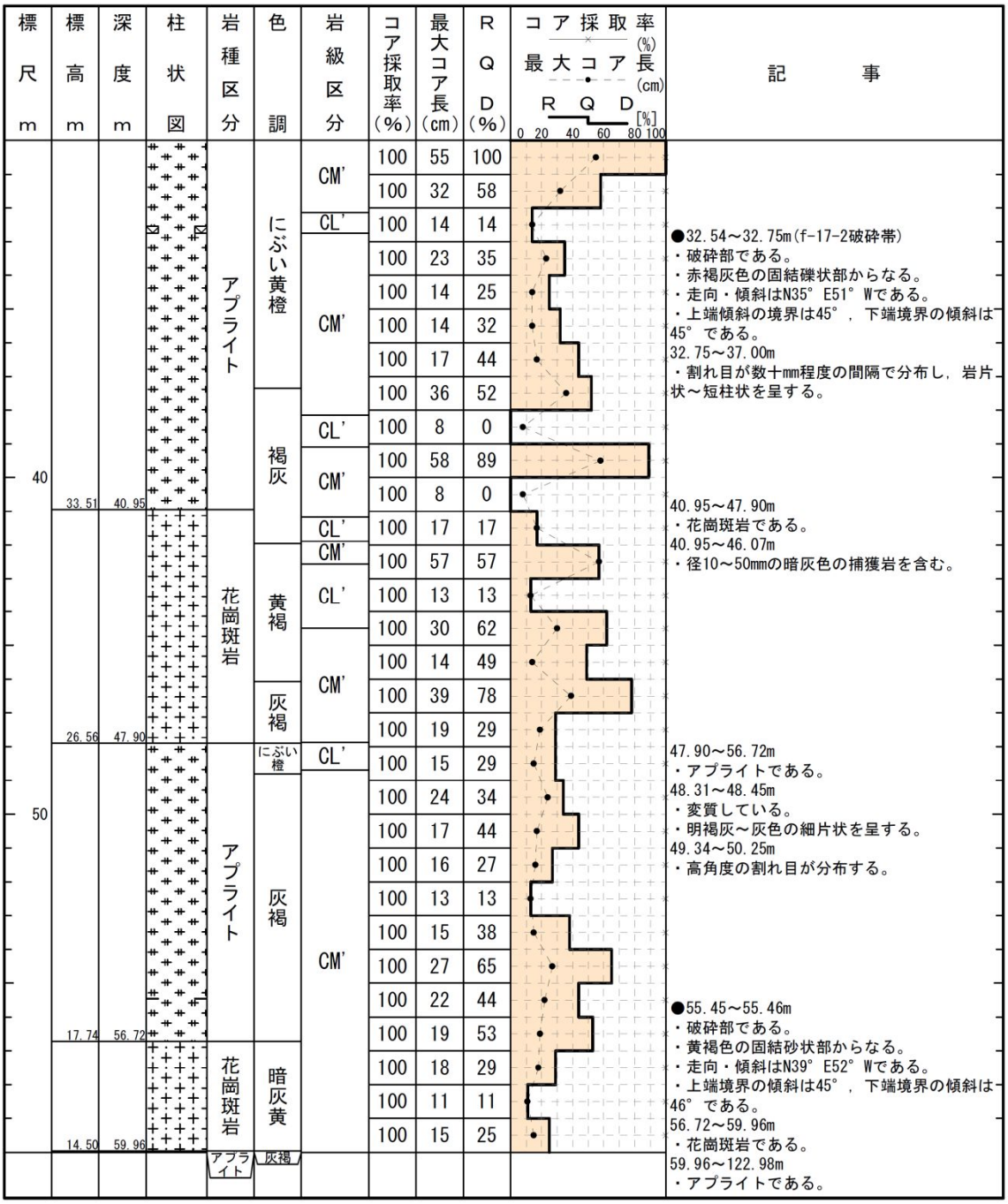
孔口標高	T.P. 74.46m	掘削長	200.00m



岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
D'	100	40	52
CL'	100	44	87
D'	100	21	80
CL'	100	26	38
D'	100	8	0
CL'	100	45	84
CL'	100	14	34
CM'	100	34	96
CL'	100	21	36
CM'	100	33	73
CL'	100	37	63
CM'	100	27	65
CM'	100	37	37
CM'	100	27	93
CM'	100	18	56
CM'	100	18	53
CM'	100	33	58
CM'	100	52	100
CM'	100	19	62
CM'	100	25	85
CM'	100	19	45

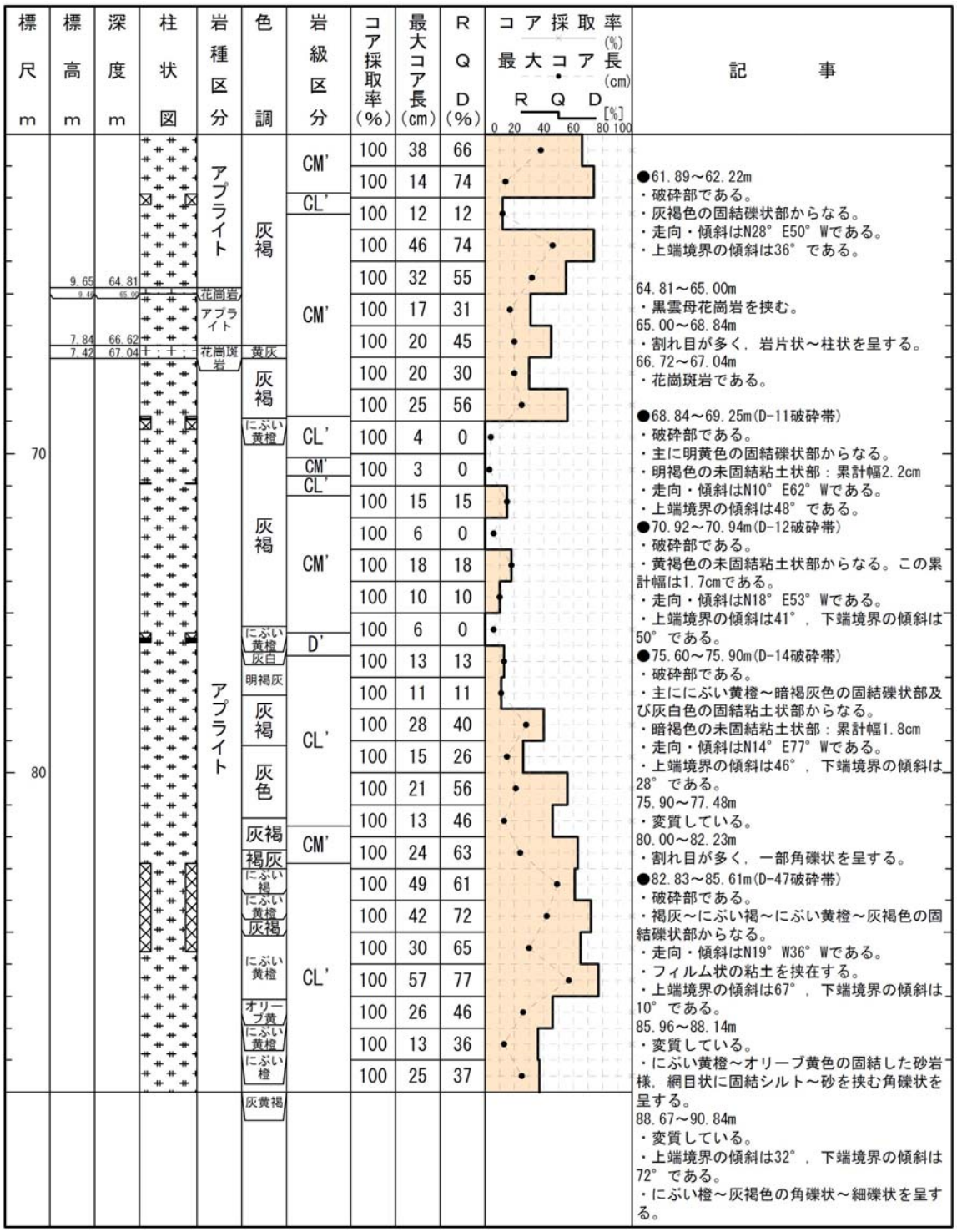
H19－No. 17

柱状図(30.00m～60.00m)



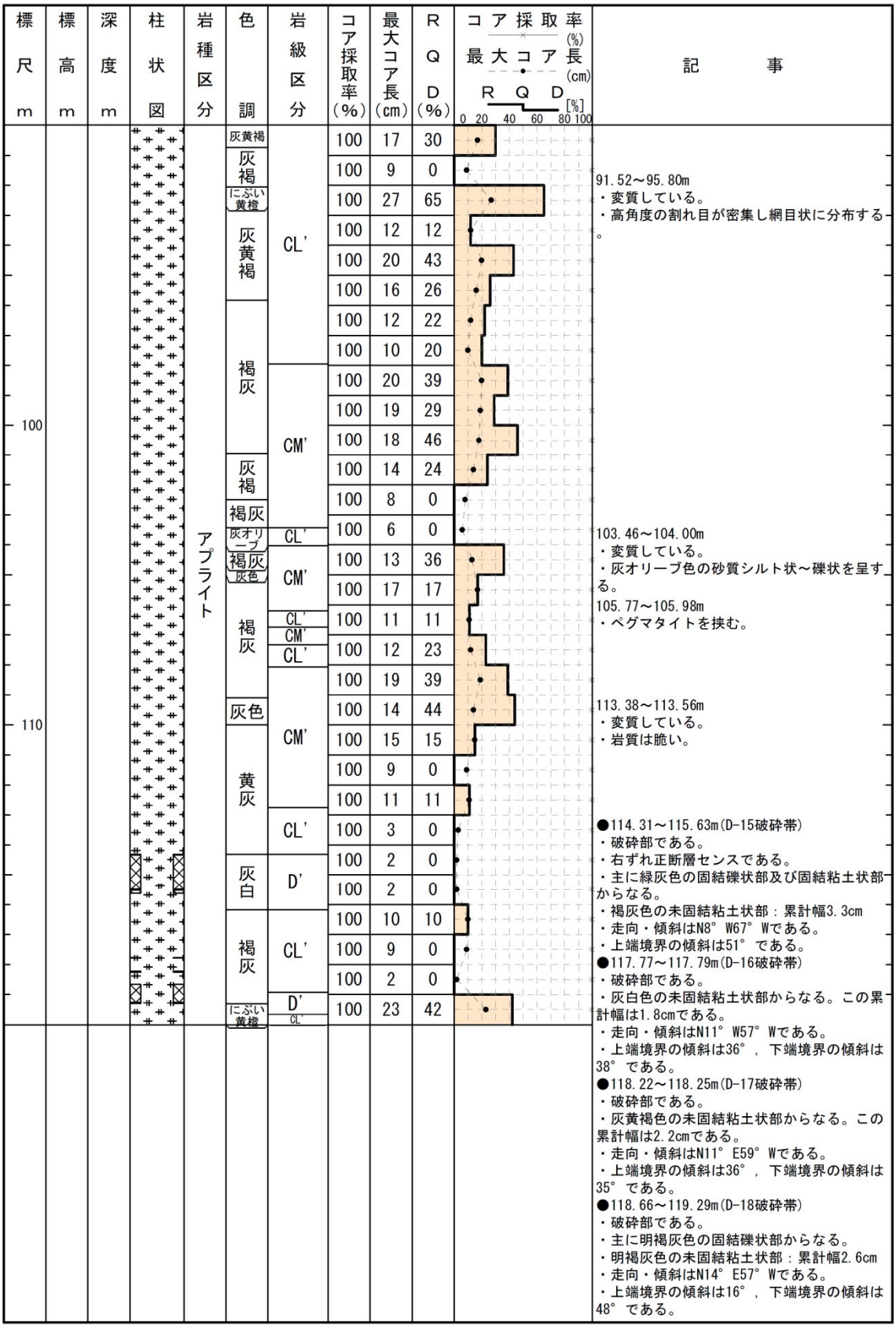
H19－No. 17

柱状図(60.00m～90.00m)



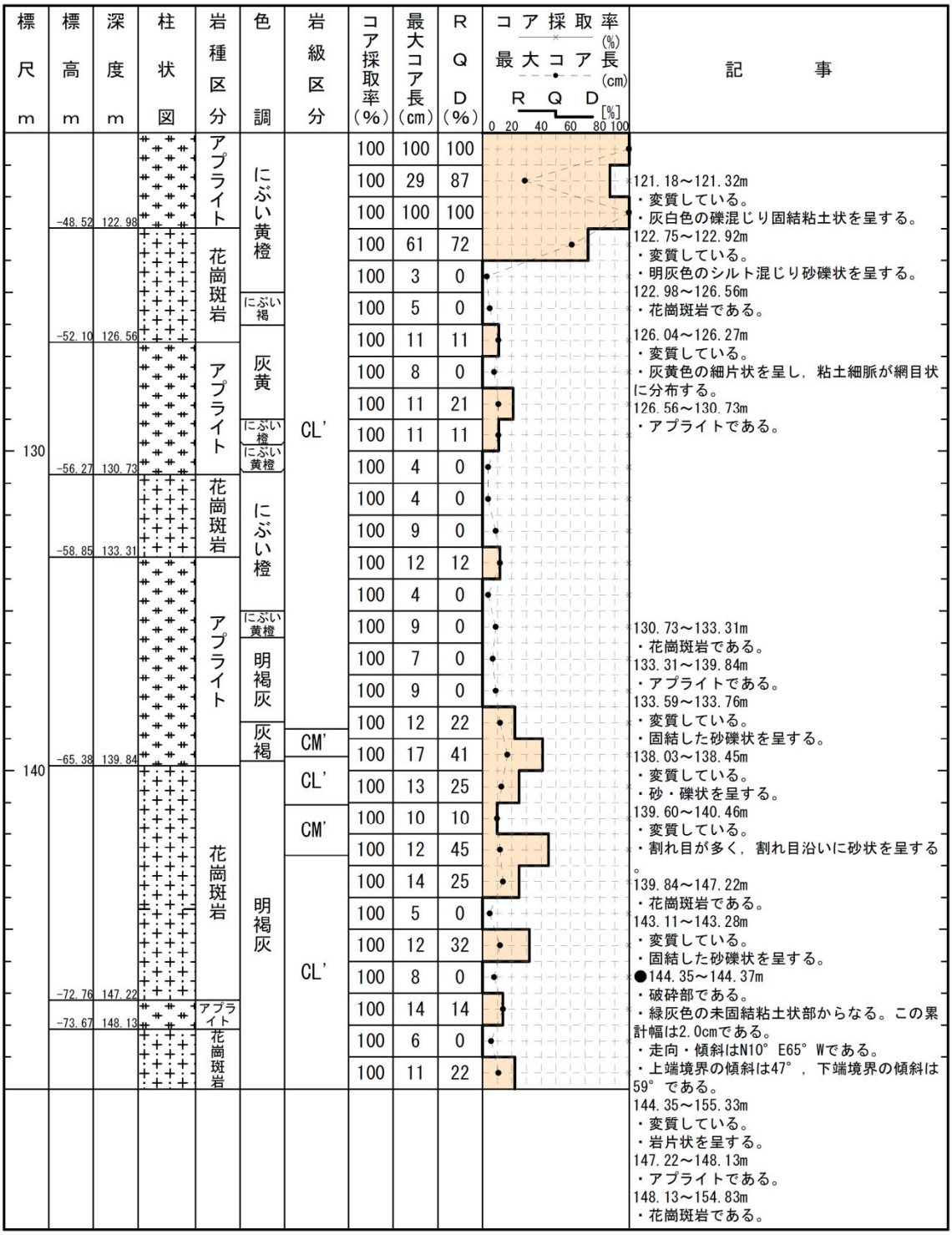
H19－No. 17

柱状図(90.00m～120.00m)



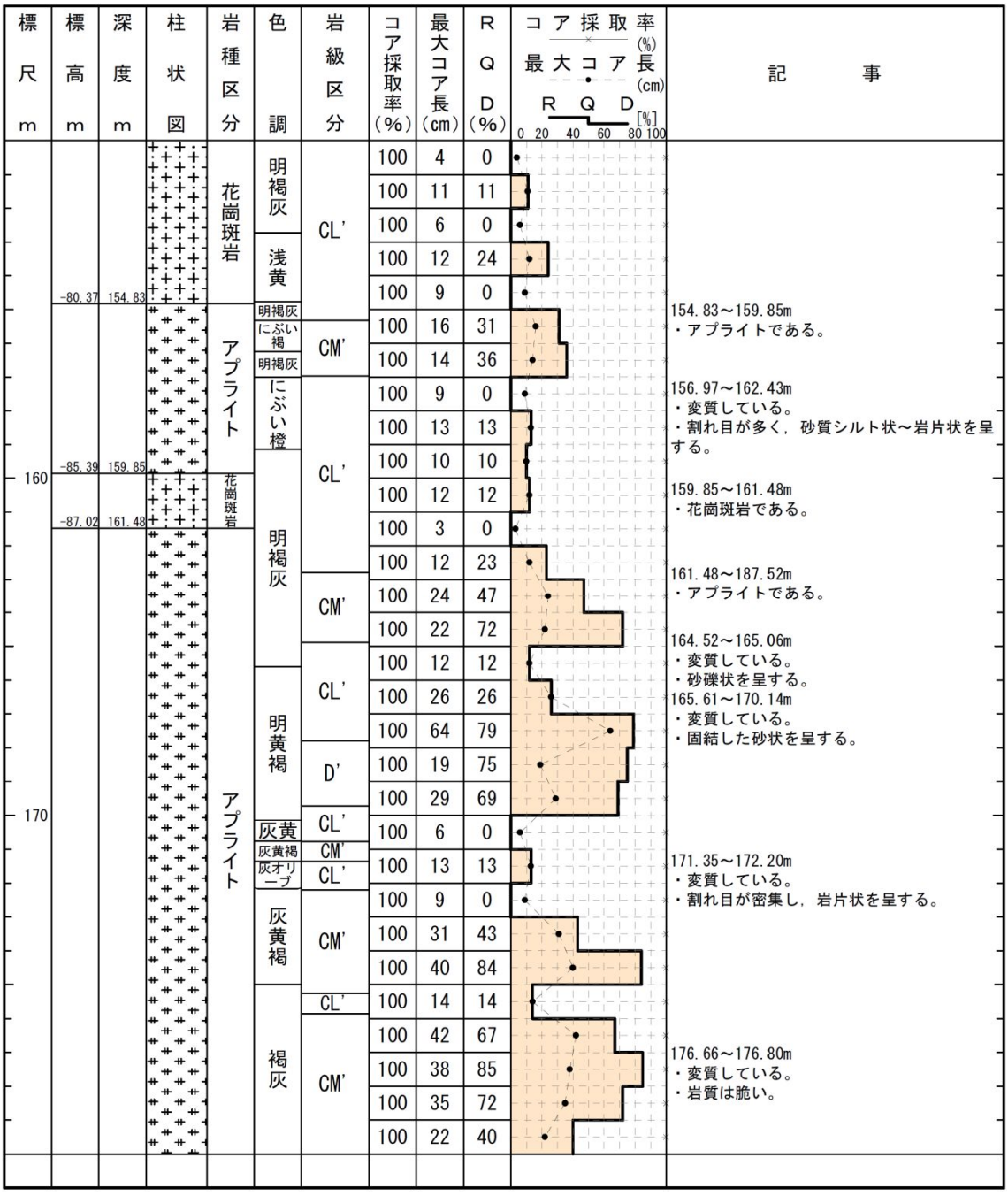
H19－No. 17

柱状図(120.00m～150.00m)



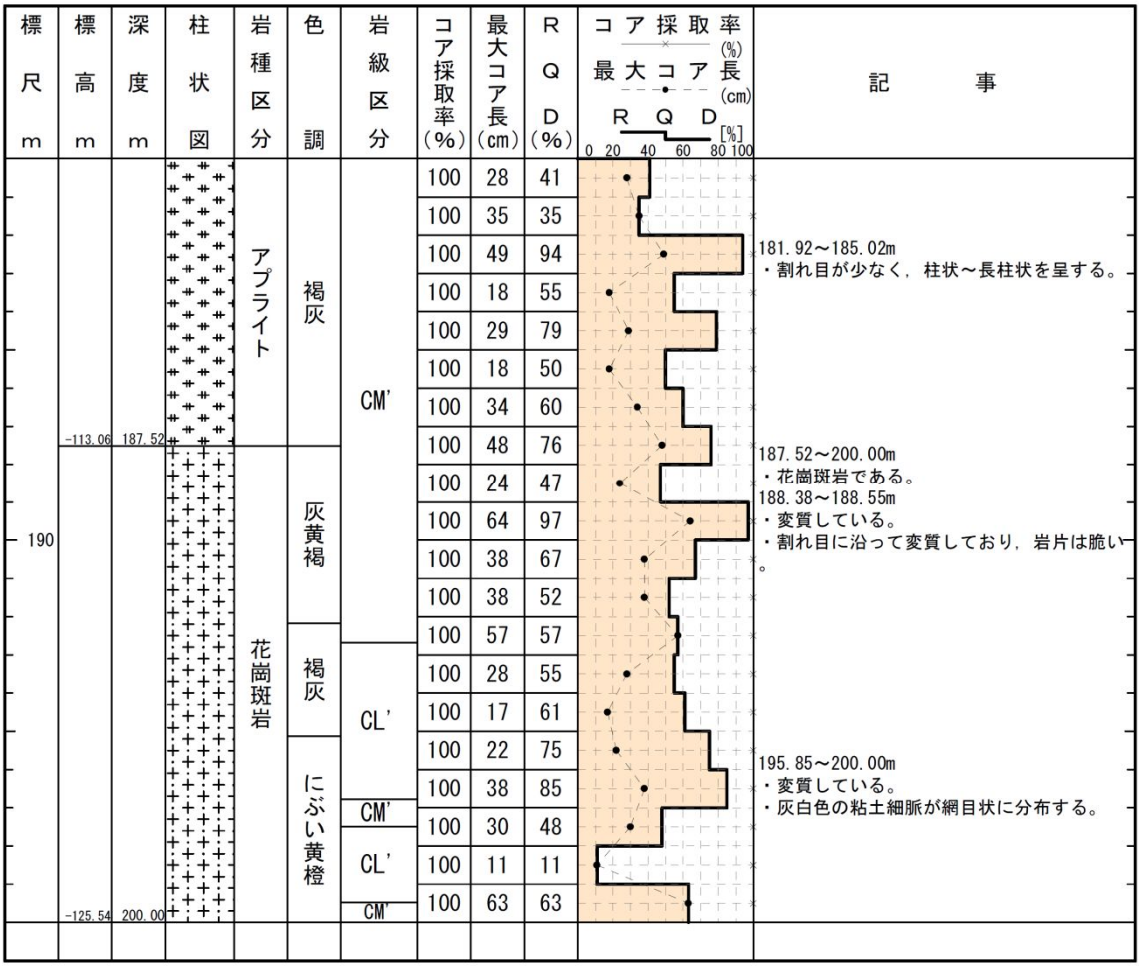
H19－No. 17

柱状図(150.00m～180.00m)



H19－No. 17

柱状図(180.00m～200.00m)

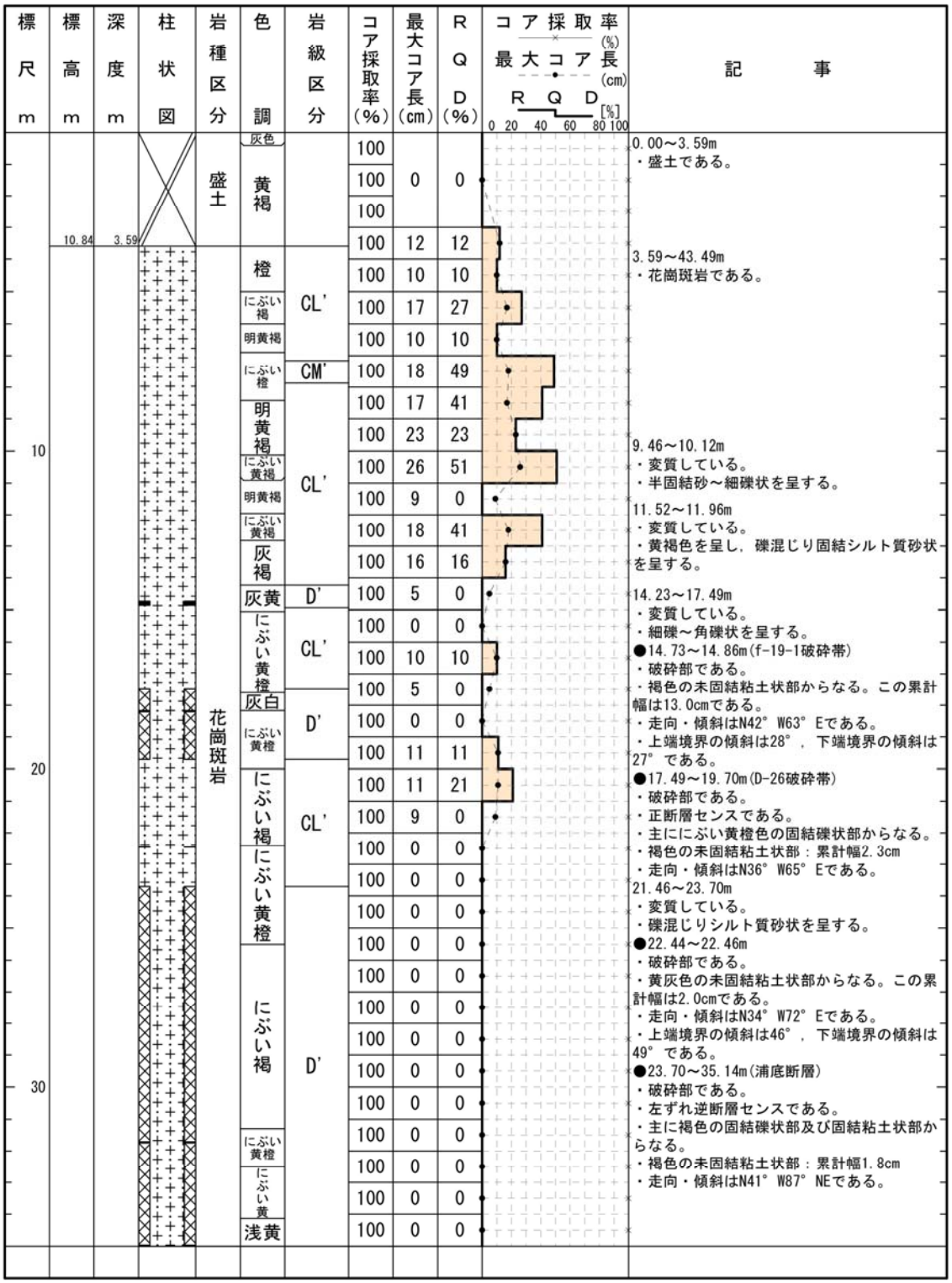


H19－No. 19

柱状図(0.00m～35.00m)

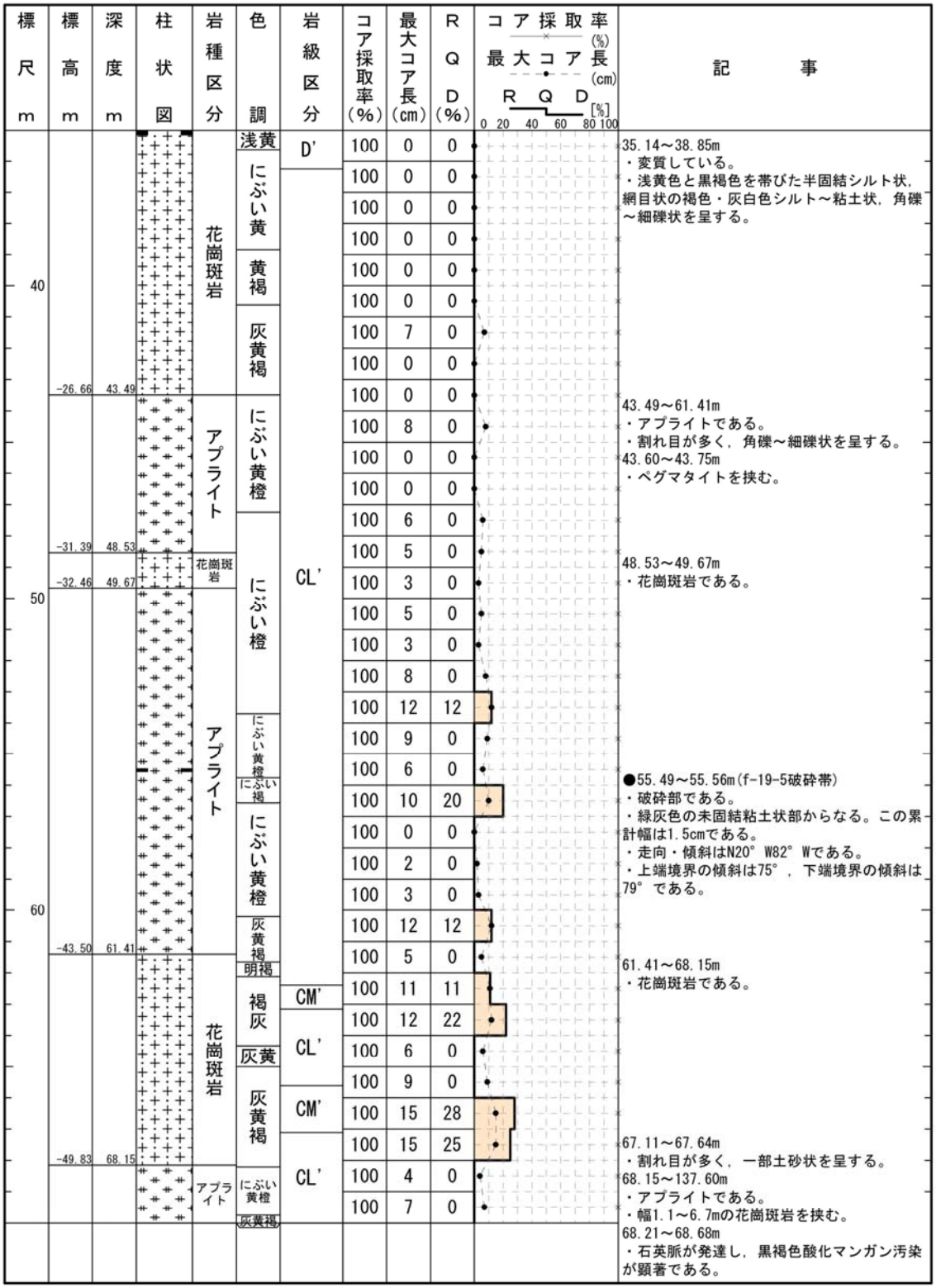
H19-No. 19

孔口標高	T.P. 14.21m	掘削長	170.00m



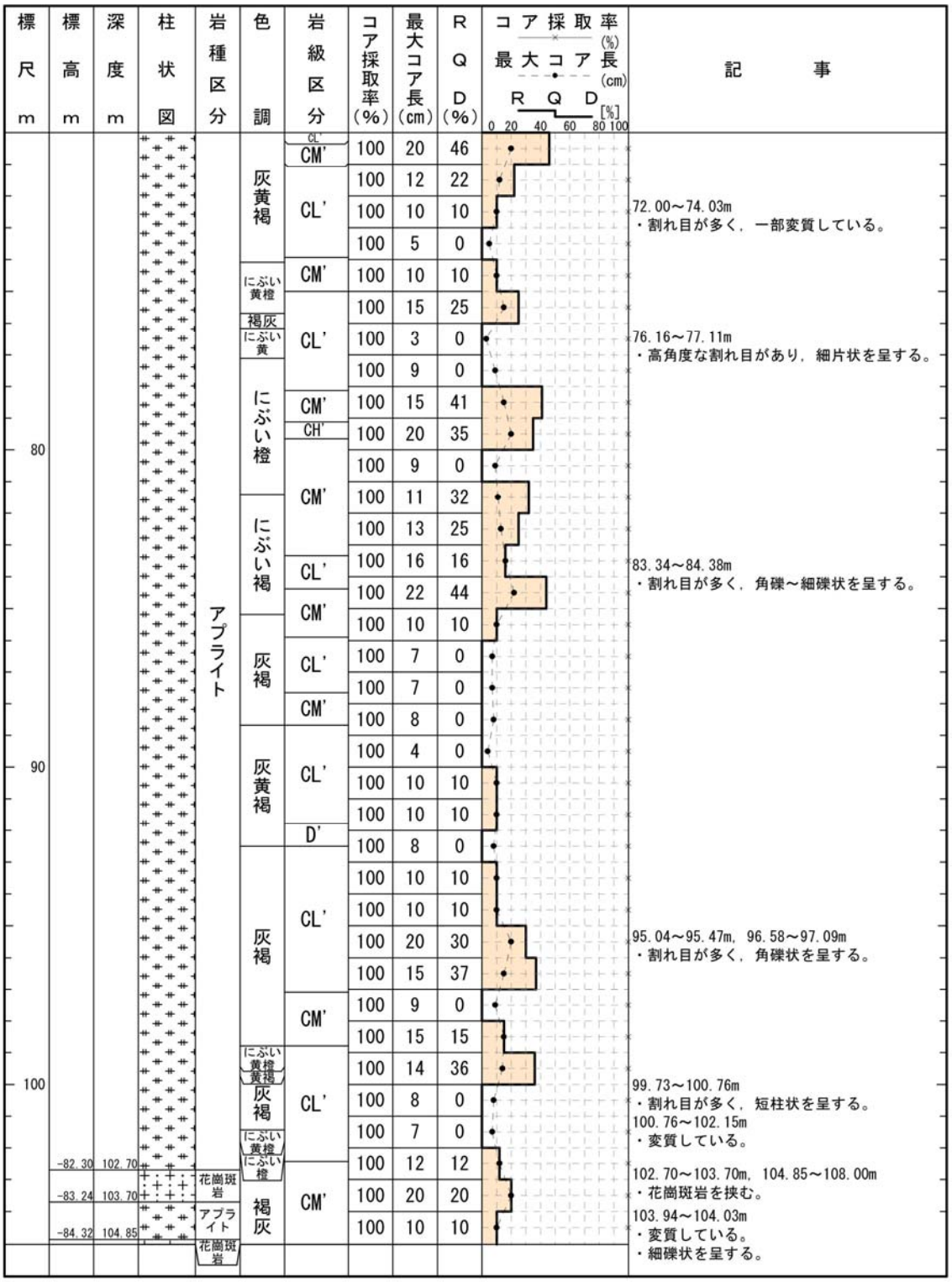
H19－No. 19

柱状図(35.00m～70.00m)



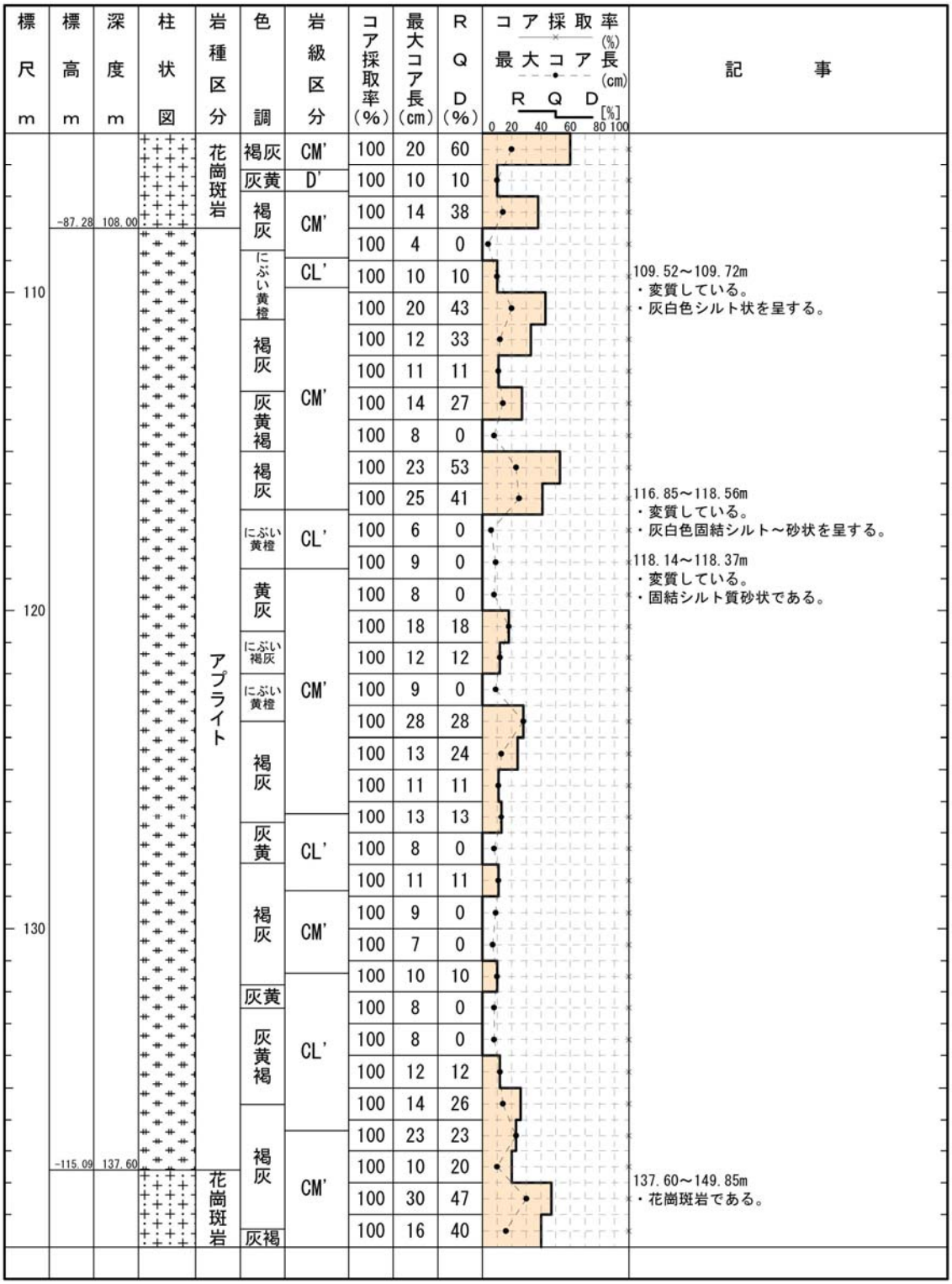
H19－No. 19

柱状図(70.00m～105.00m)



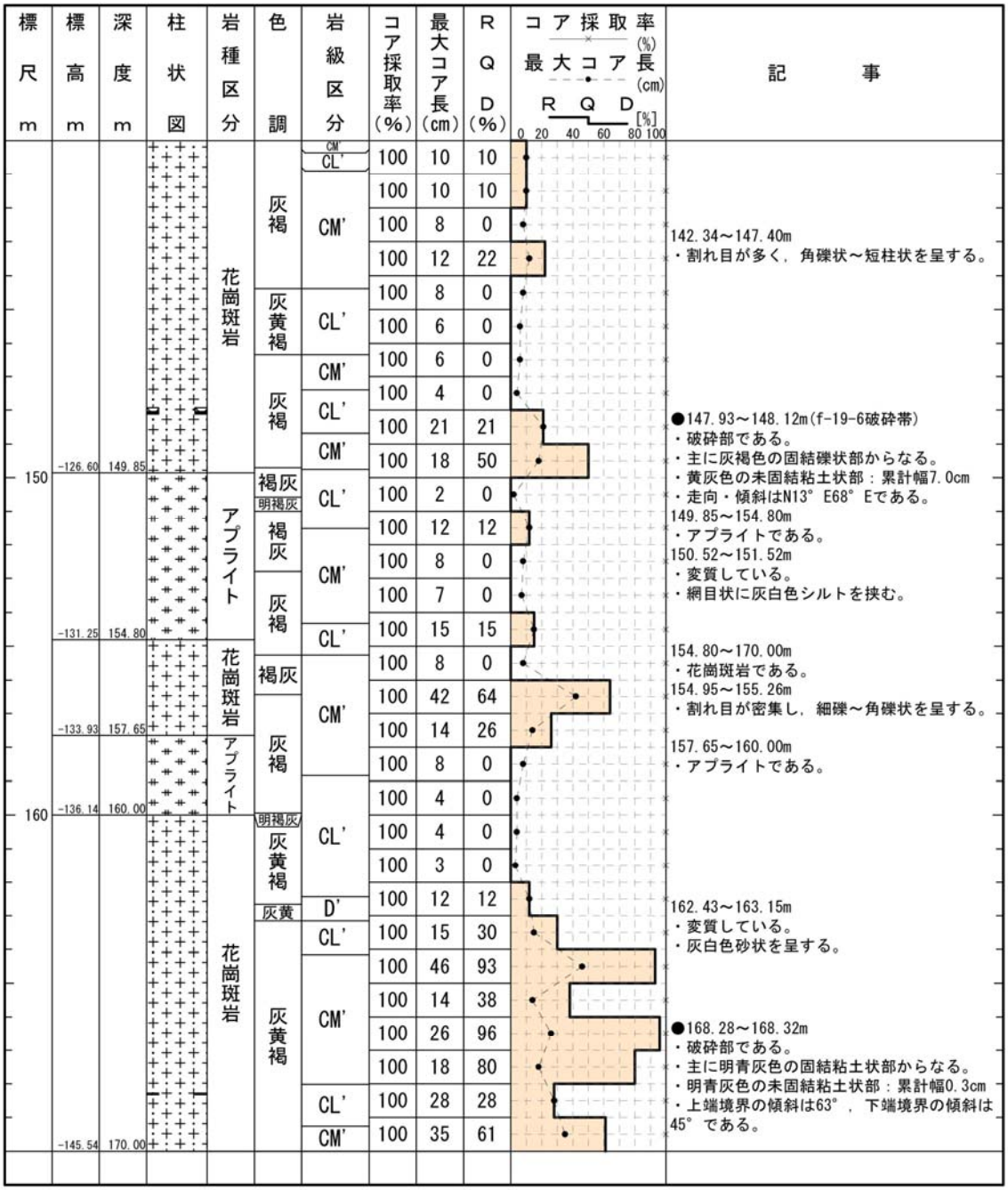
H19－No. 19

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No. 19

柱状図(140.00m～170.00m)

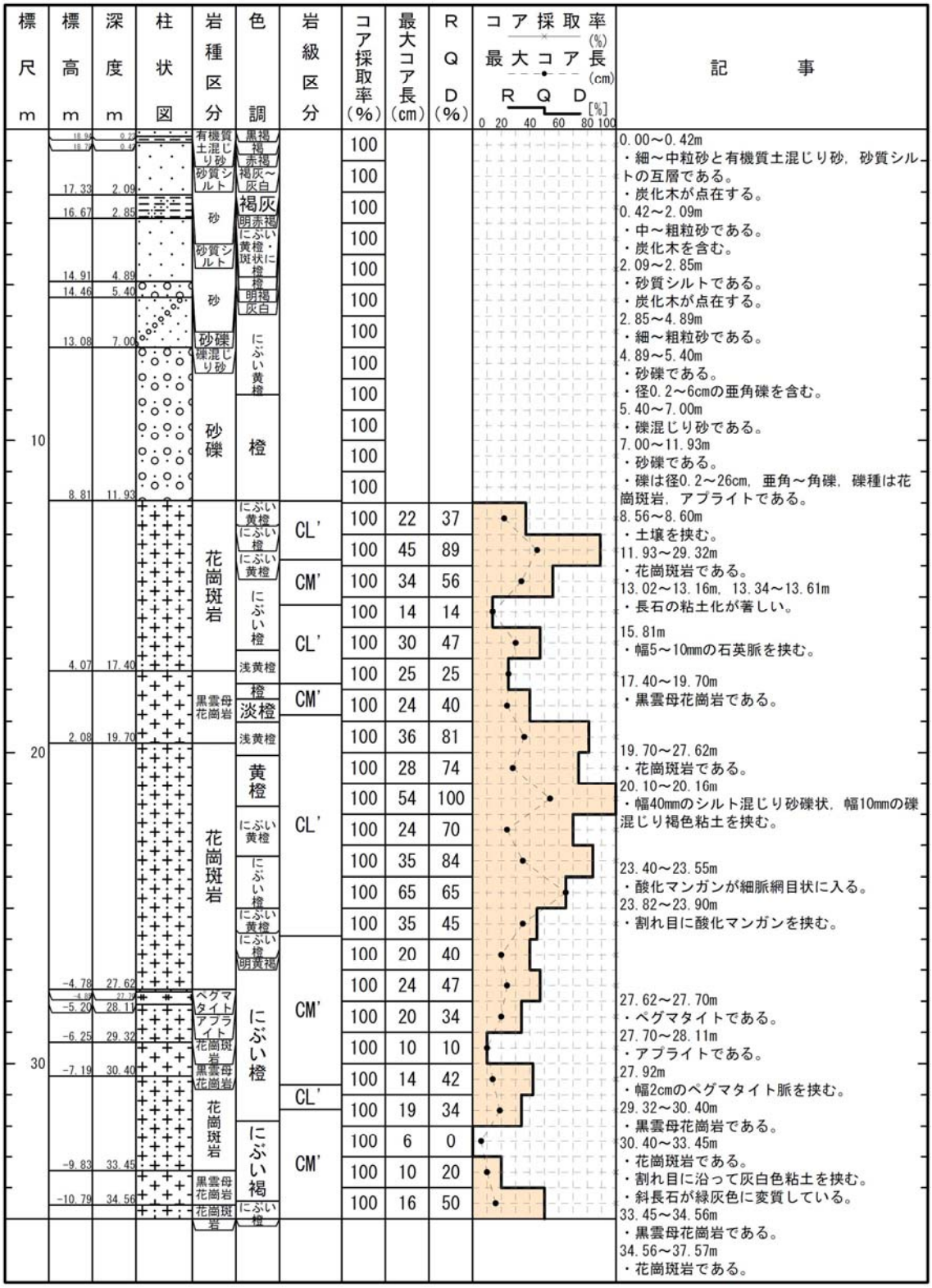


H19－No. 8

柱状図(0.00m～35.00m)

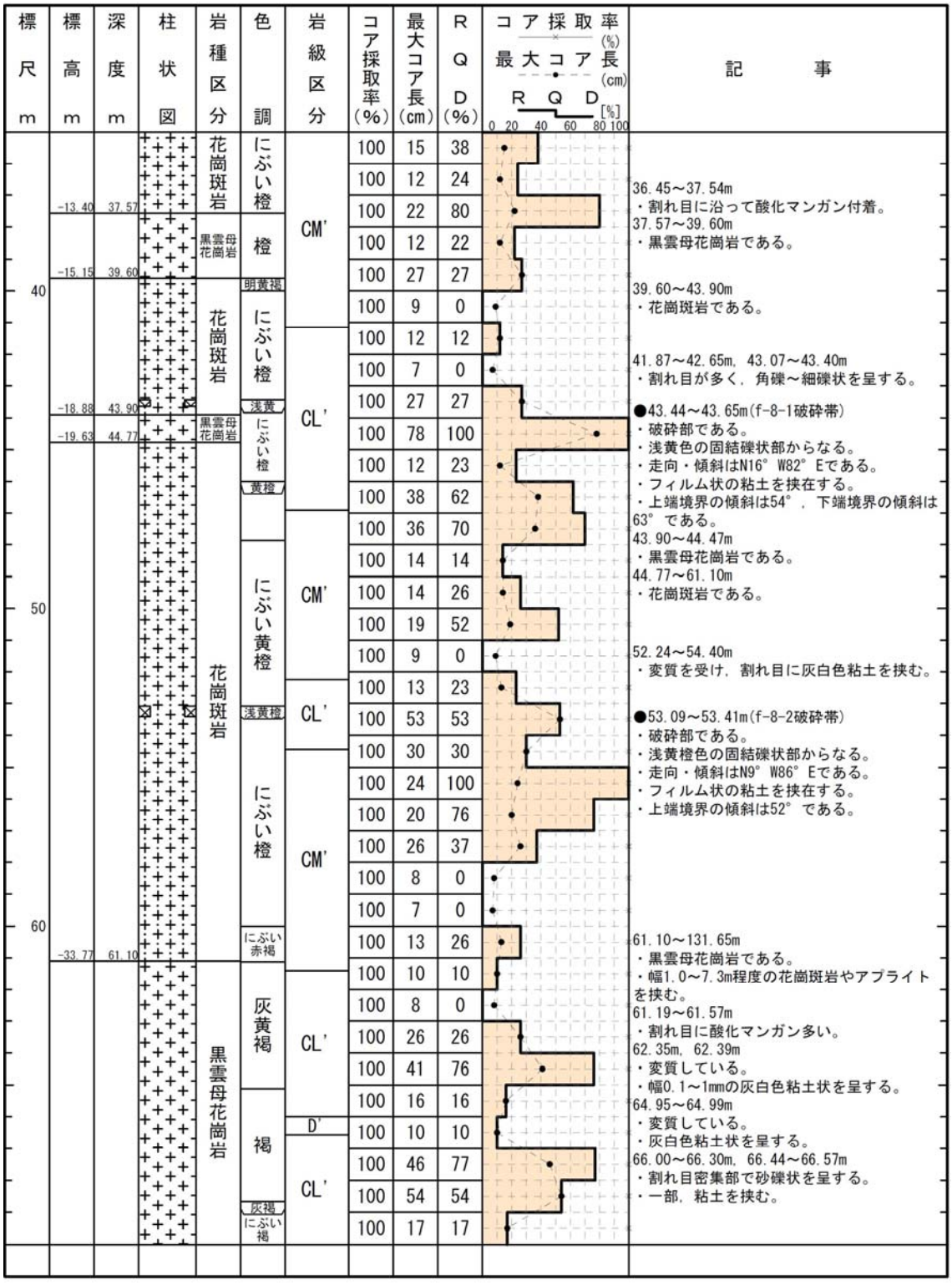
H19-No. 8

孔口標高	T.P. 19.14m	掘削長	200.00m



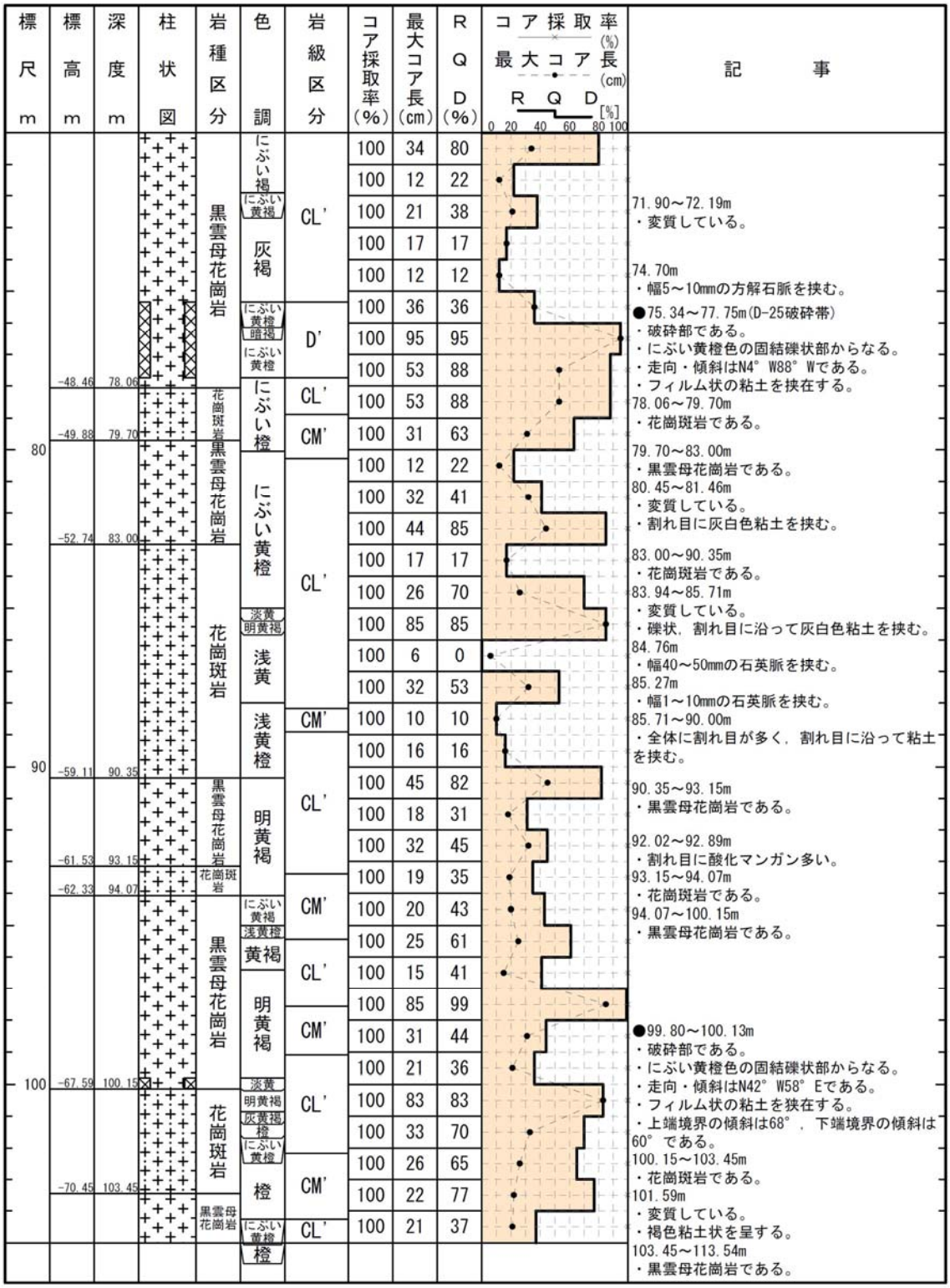
H19－No. 8

柱状図(35.00m～70.00m)



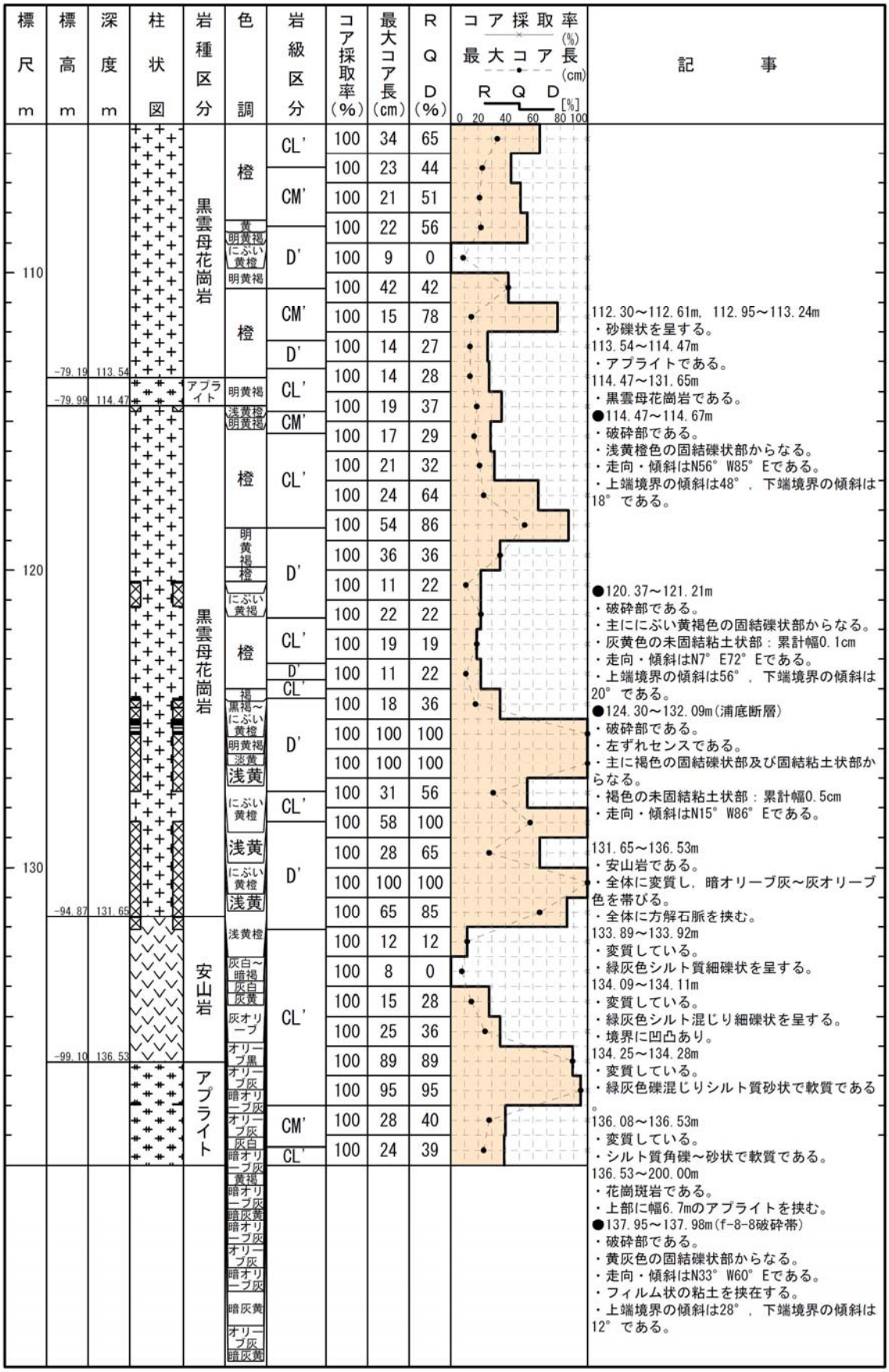
H19－No. 8

柱状図(70.00m～105.00m)



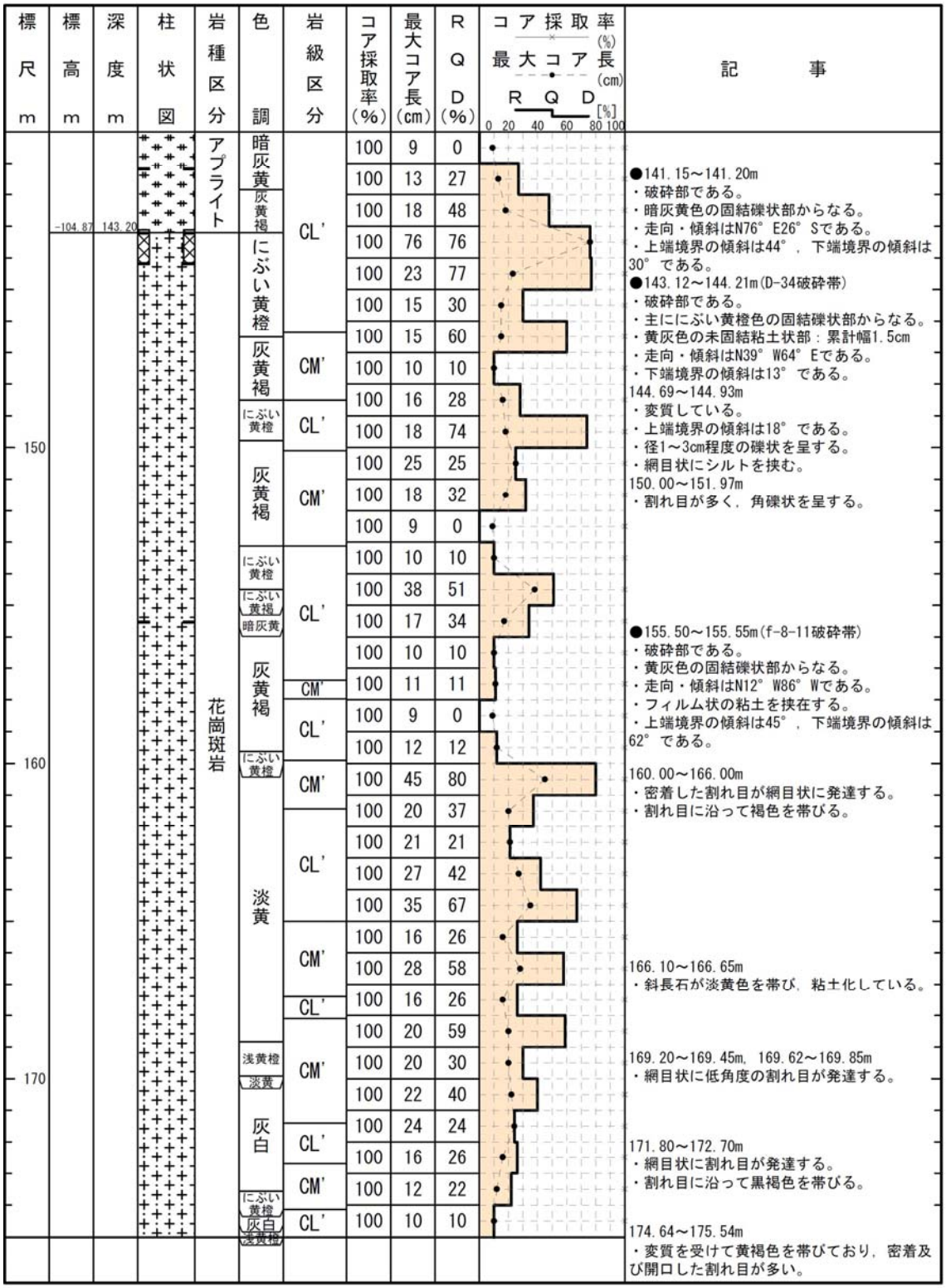
H19－No. 8

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No. 8

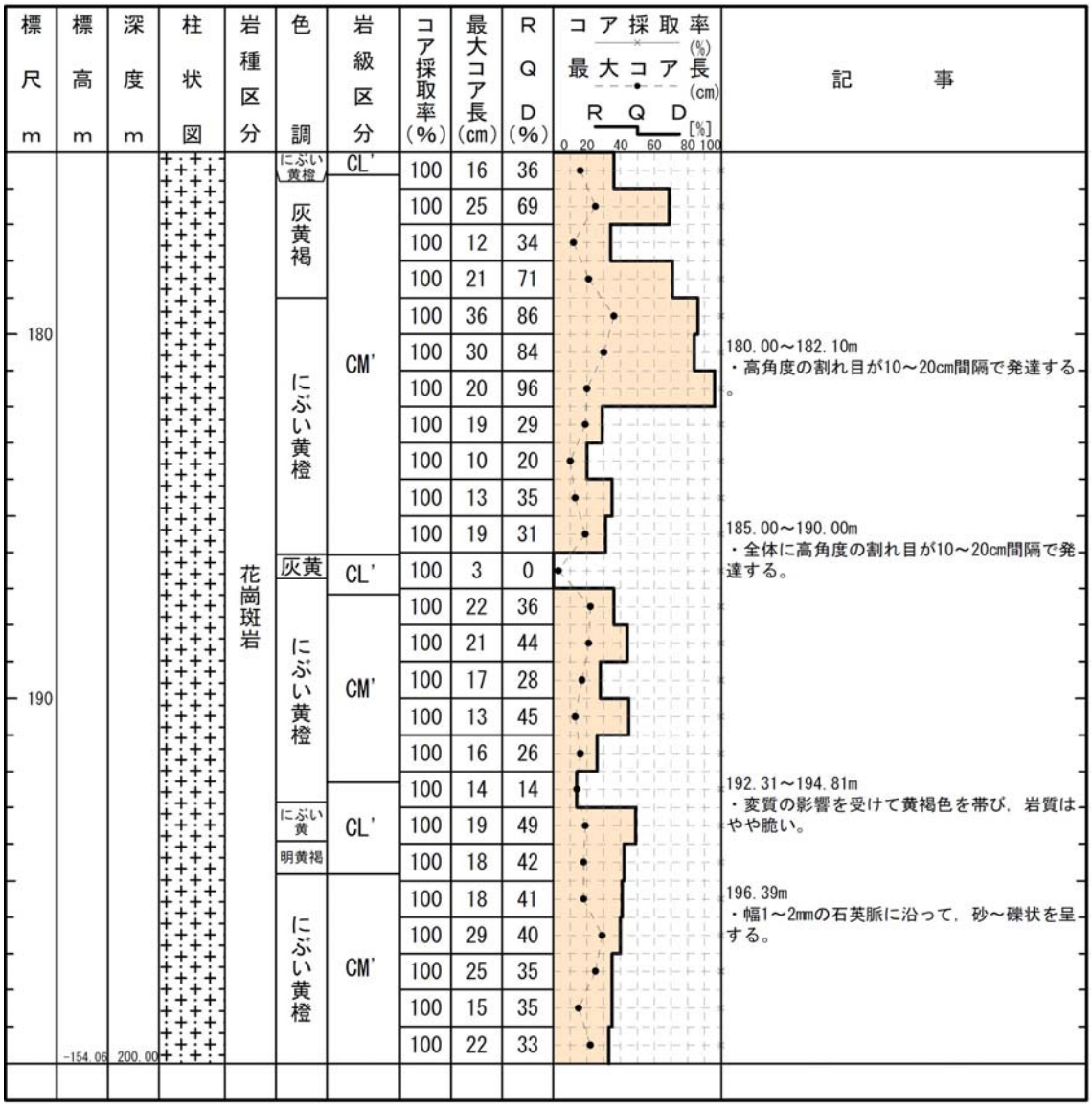
柱状図(140.00m～175.00m)



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100	9	0
100	13	27
100	18	48
100	76	76
100	23	77
100	15	30
100	15	60
100	10	10
100	16	28
100	18	74
100	25	25
100	18	32
100	9	0
100	10	10
100	38	51
100	17	34
100	10	10
100	11	11
100	9	0
100	12	12
100	45	80
100	20	37
100	21	21
100	27	42
100	35	67
100	16	26
100	28	58
100	16	26
100	20	59
100	20	30
100	22	40
100	24	24
100	16	26
100	12	22
100	10	10

H19－No. 8

柱状図(175.00m～200.00m)



H20－①－2

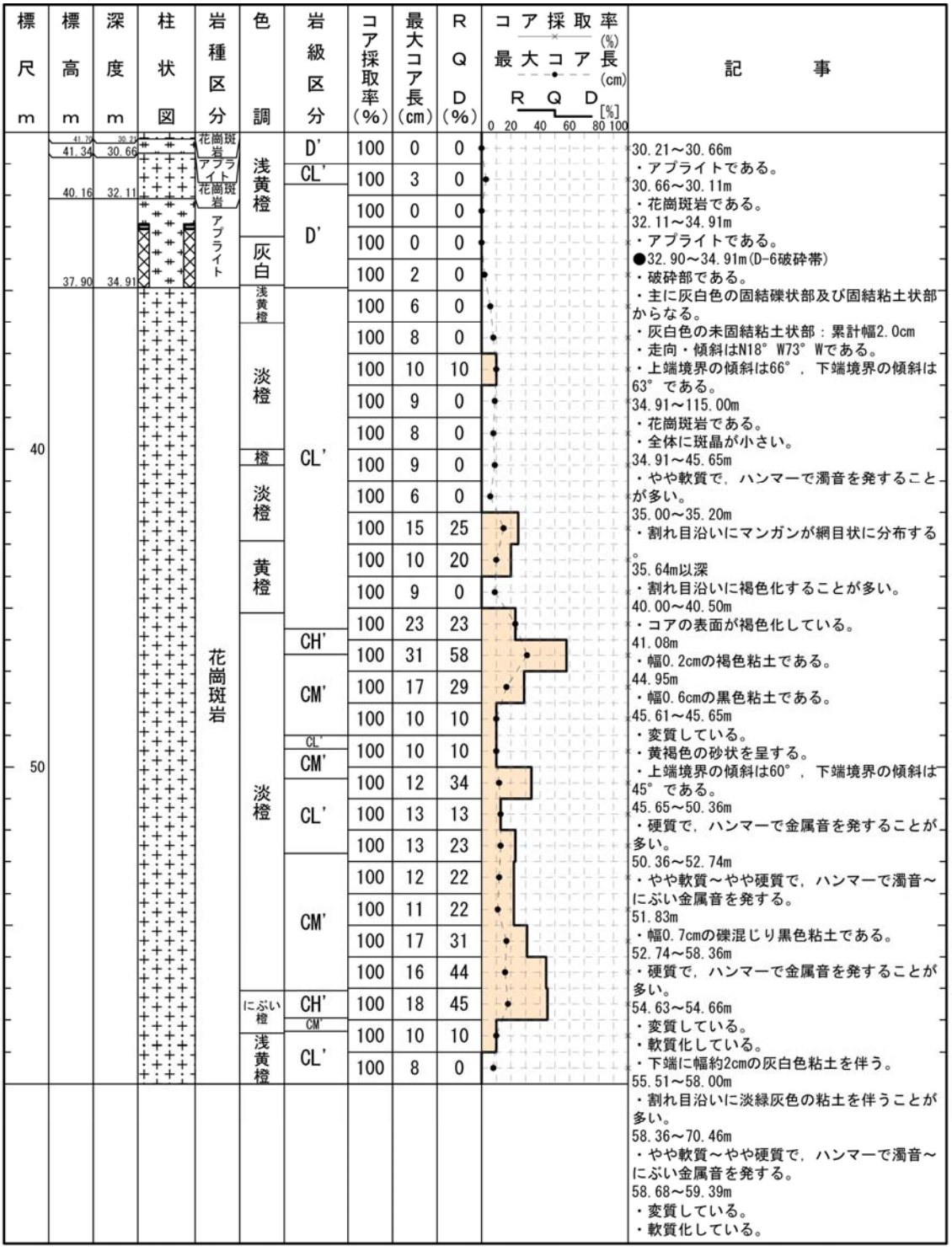
柱状図(0.00m～30.00m)
H20-①-2

孔口標高	T.P. 66.14m	掘削長	115.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
	65.85	0.36		有機質混じり砂	にぶい橙		100				0.00～0.08m ・有機質土である。
				シルト混じり砂	にぶい黄橙		100				0.00～0.36m ・有機質混じり砂である。 ・全体に植物根を含む。
							100	0	0		0.36～3.93m ・シルト混じり砂である。 ・にぶい橙～黄橙色を呈する。 ・所々に花崗斑岩やアプライトの岩片を含む。
	62.96	3.93					100				
	62.56	4.42		花崗斑岩	淡橙		100				3.93～5.59m ・花崗斑岩である。
	62.13	4.96		アプライト	橙		100	0	0		4.42～4.96m ・アプライトである。
	61.62	5.59		花崗斑岩	浅黄橙		100	0	0		4.96～5.59m ・強風化部である。 ・シルト質砂状を呈すマサ土からなる。
				アプライト			100	0	0		5.59～7.75m ・アプライトである。 ・風化，変質し原岩組織が不明瞭である。
	59.87	7.75					100	0	0		5.59～34.91m ・風化，変質により軟質で，ハンマーで著しい濁音を発する。
	59.51	8.20		花崗斑岩	橙		100	0	0		7.75～10.70m ・アプライトと花崗斑岩が互層状に分布する。
	59.09	8.72		アプライト			100	0	0		9.37～9.58m ・マンガンが濃集し，暗灰色を呈する。
	58.56	9.37		花崗斑岩			100	0	0		10.70～32.11m ・花崗斑岩である。 ・全体に風化，変質し原岩組織が不明瞭である。
	58.23	9.78		アプライト	黄橙		100	0	0		●11.73～11.91m ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅7.0cm ・上端境界の傾斜は67°，下端境界の傾斜は25°である。
10	57.89	10.20		花崗斑岩	橙		100	0	0		13.27～13.61m ・アプライトである。
	57.48	10.70		アプライト	浅黄橙		100	0	0		13.52～14.81m ・赤橙色化する。
				花崗斑岩	赤橙		100	0	0		18.15～18.54m ・アプライトである。
	55.40	13.27		アプライト	淡黄		100	0	0		●22.63～22.66m(f-①-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の未固結礫状部及び暗褐色の未固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結礫状部：累計幅1.0cm ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm ・走向・傾斜はN62° E33° Nである。 ・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は56°である。
	55.13	13.61			浅黄橙		100	0	0		22.66～22.83m，23.30～23.89m ・アプライトである。
					黄橙	D'	100	0	0		22.91～23.08m ・変質している。 ・灰白色粘土からなる。 ・膨縮が著しい。 ・上端境界の傾斜は77°，下端境界の傾斜は62°である。
	51.46	18.15			浅黄橙		100	0	0		24.74～24.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
	51.14	18.54		アプライト	黄橙		100	0	0		25.64～25.73m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
				花崗斑岩	浅黄橙		100	0	0		26.80～26.90m ・割れ目沿いにマンガンが網目状に分布する。
20					黄橙		100	0	0		27.31～27.39m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
					浅黄橙		100	0	0		27.32～27.62m ・アプライトである。
					にぶい橙		100	0	0		27.97～28.21m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
	47.81	22.66					100	0	0		
	47.53	22.94		アプライト			100	0	0		
	47.29	23.30		花崗斑岩			100	0	0		
	46.81	23.89		アプライト			100	0	0		
				花崗斑岩	灰白		100	0	0		
	44.04	27.32		アプライト			100	0	0		
	43.79	27.62		花崗斑岩	淡橙		100	0	0		
					浅黄橙						

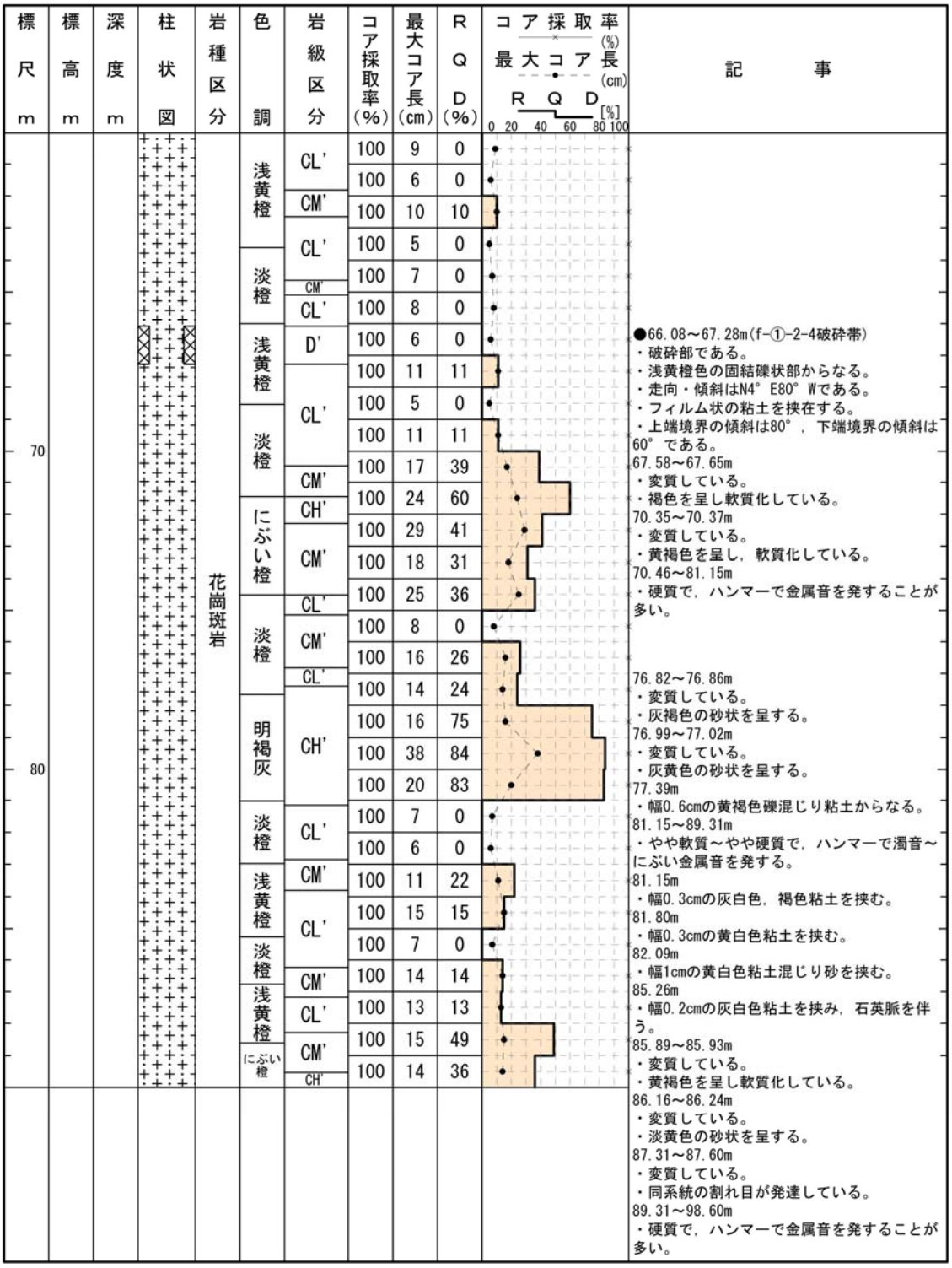
H20－①－2

柱状図(30.00m～60.00m)



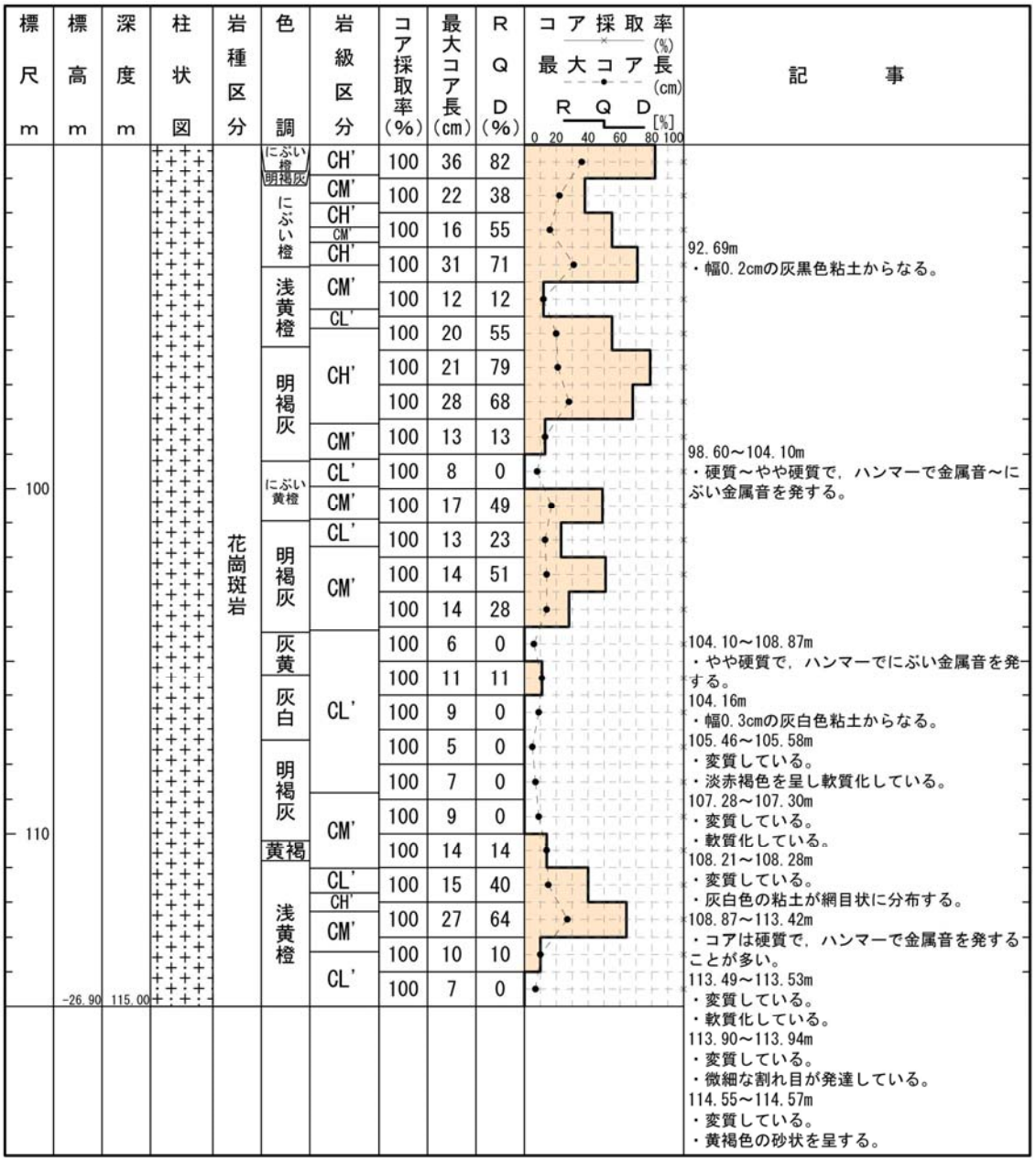
H20－①－2

柱状図(60.00m～90.00m)



H20－①－2

柱状図(90.00m～115.00m)

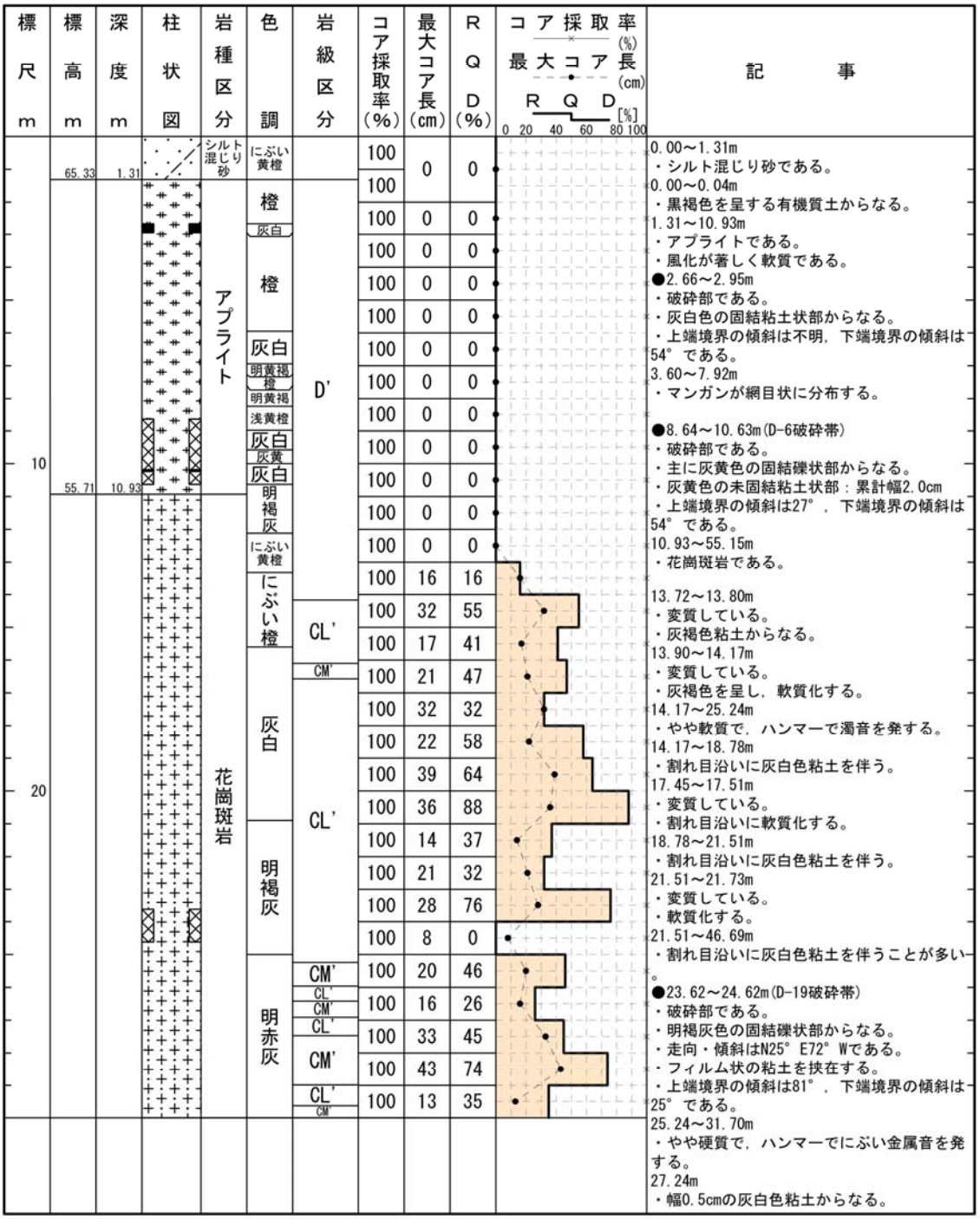


H20－①－1

柱状図(0.00m～30.00m)

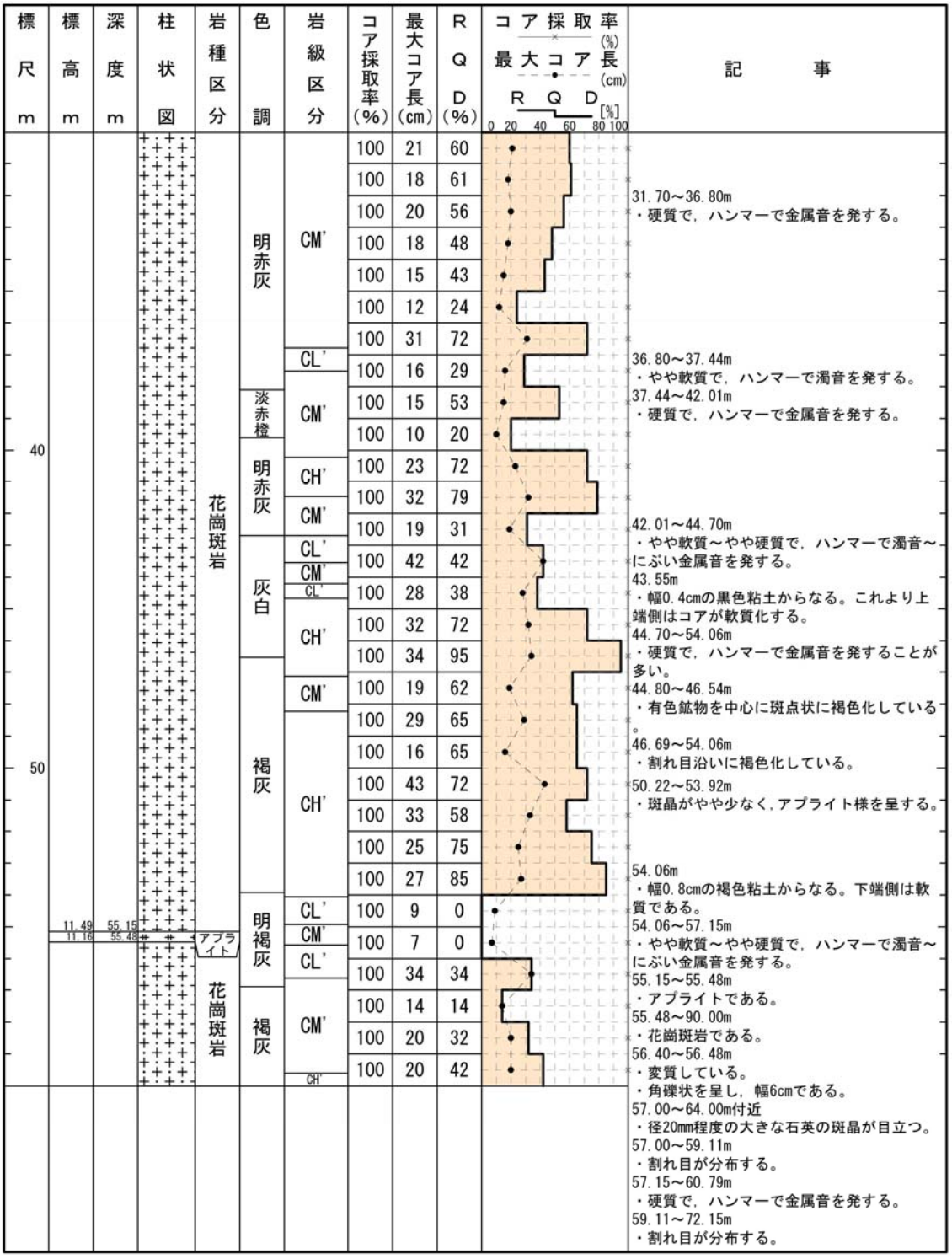
H20-①-1

孔口標高	T.P. 66.64m	掘削長	90.00m



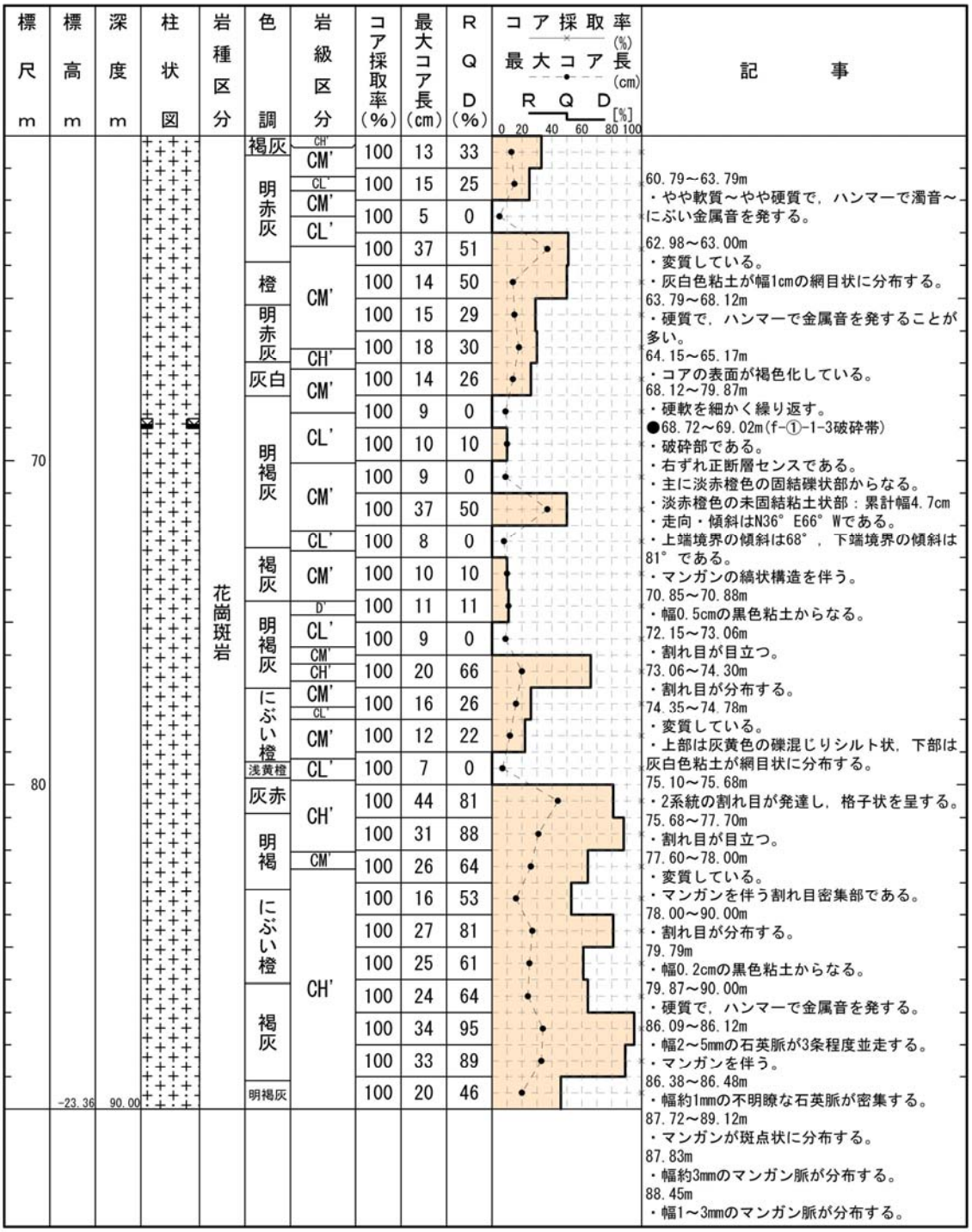
H20－①－1

柱状図(30.00m～60.00m)



H20－①－1

柱状図(60.00m～90.00m)



H20－①－3

柱状図(0.00m～30.00m)

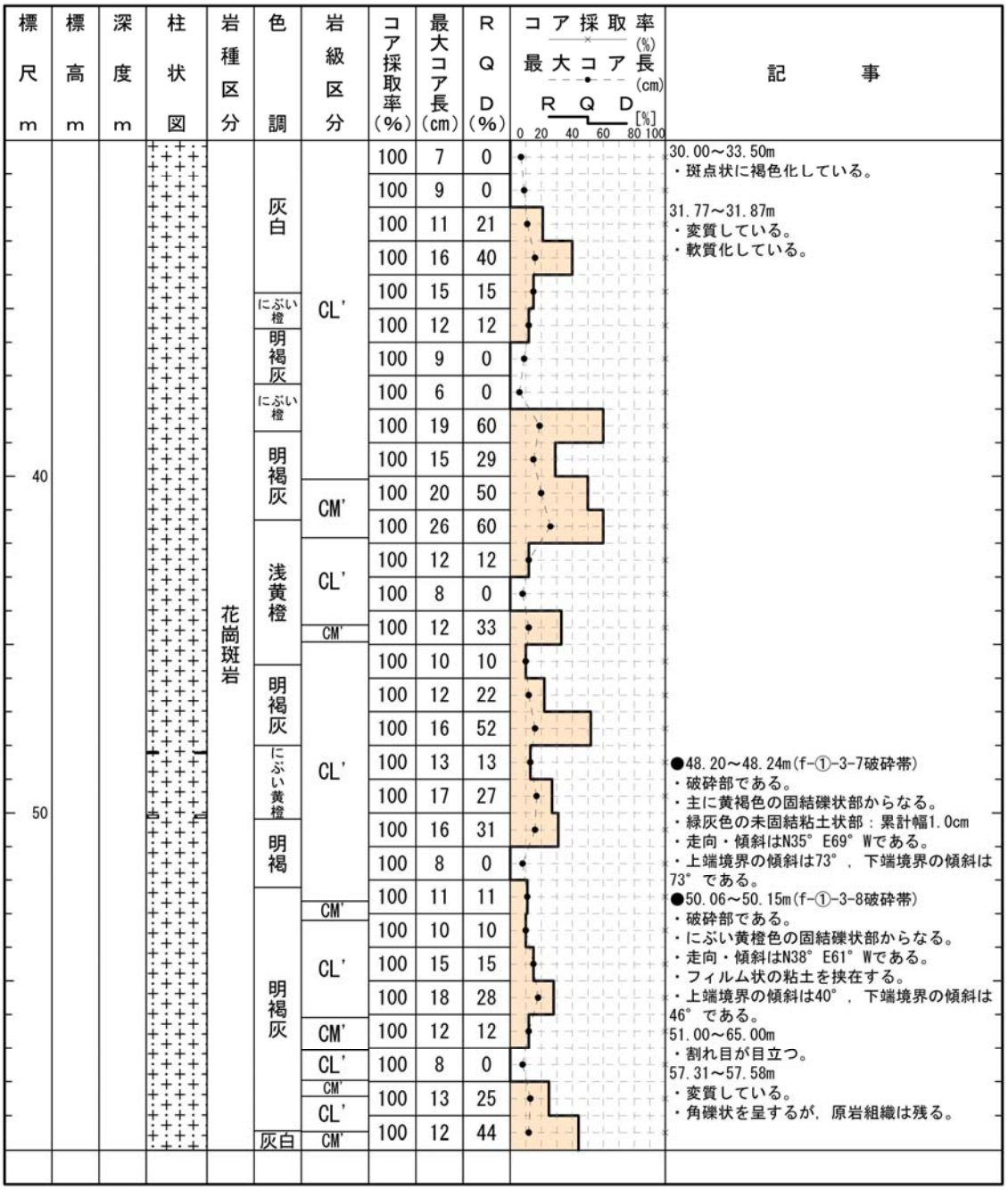
H20-①-3

孔口標高	T.P. 75.32m	掘削長	80.00m



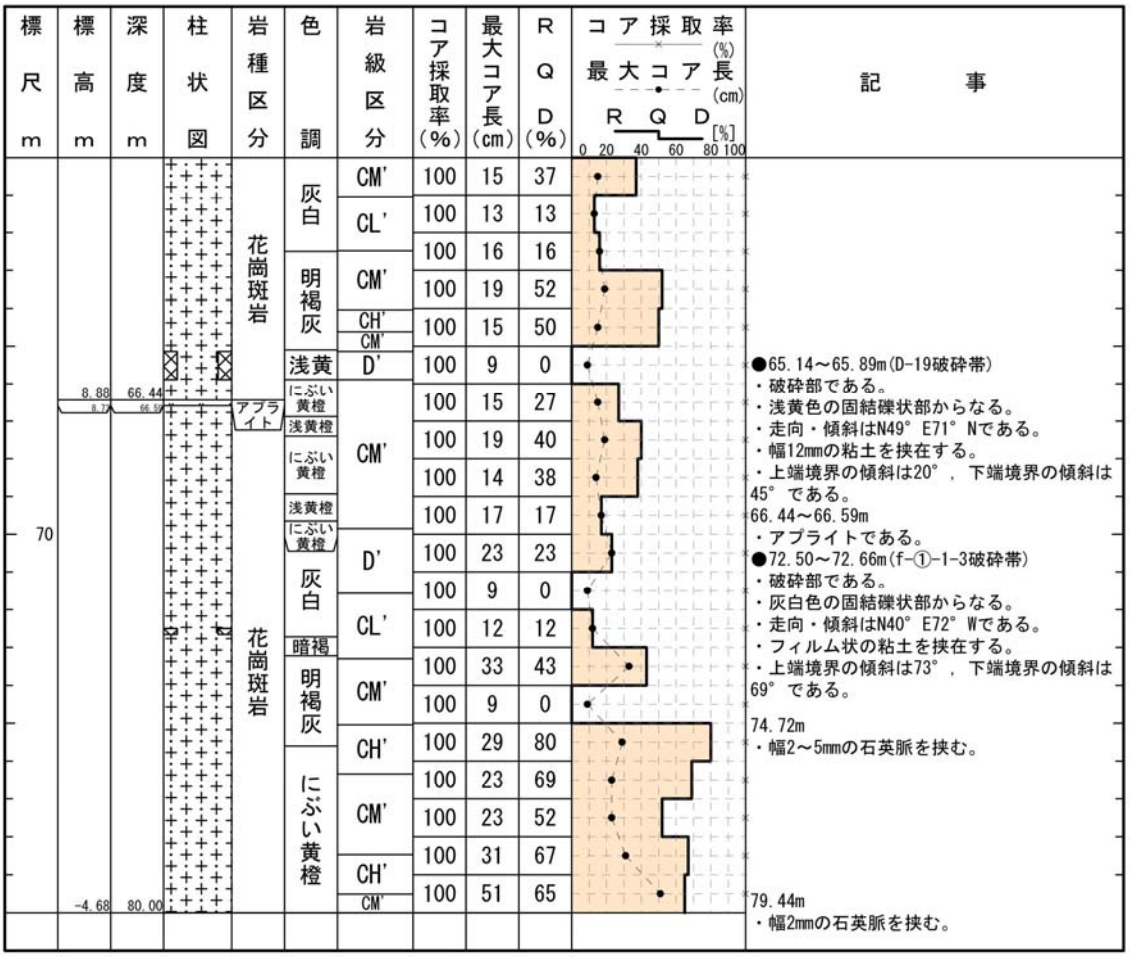
H20－①－3

柱状図(30.00m～60.00m)



H20－①－3

柱状図(60.00m～80.00m)

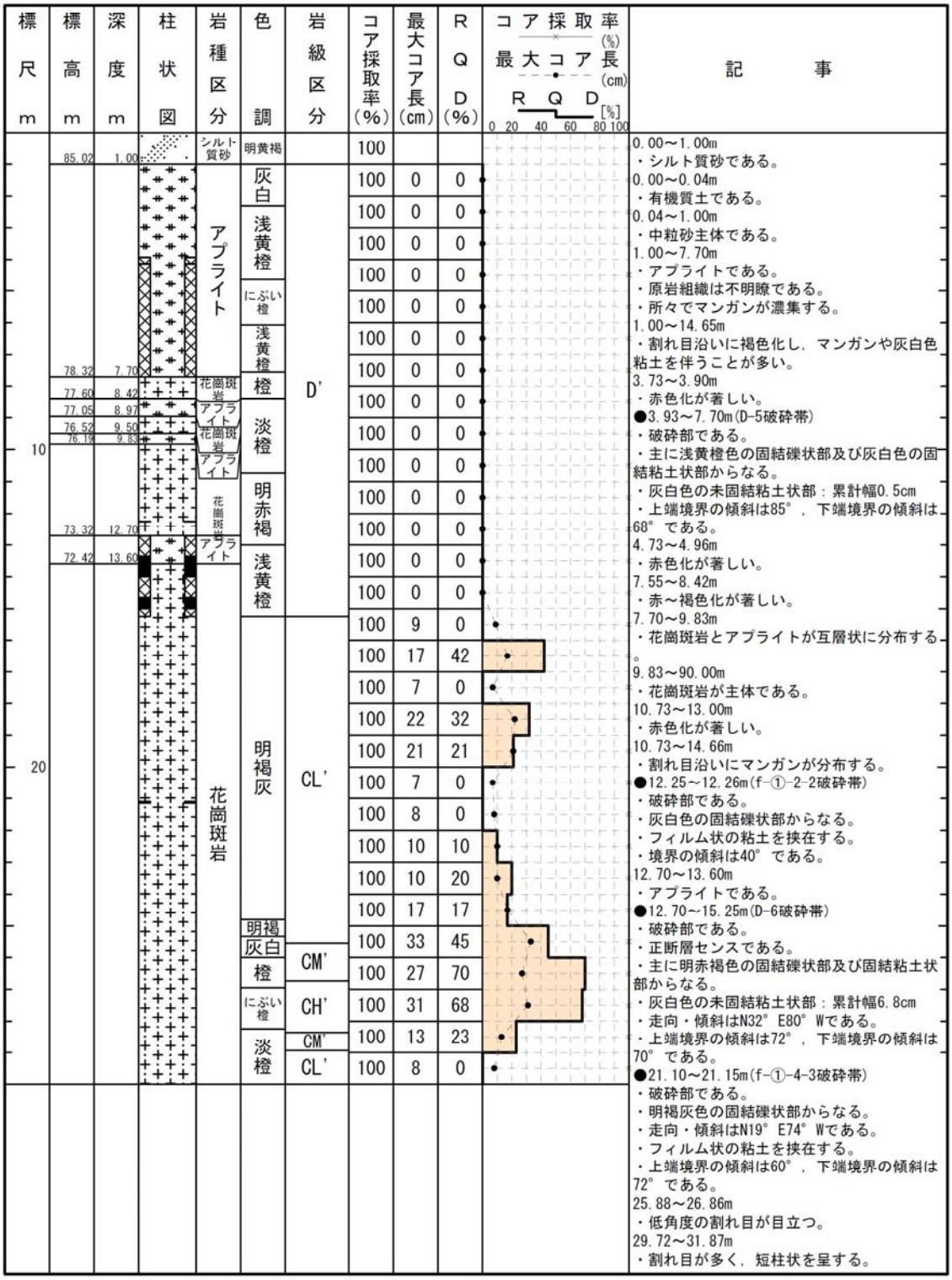


H20－①－4

柱状図(0.00m～30.00m)

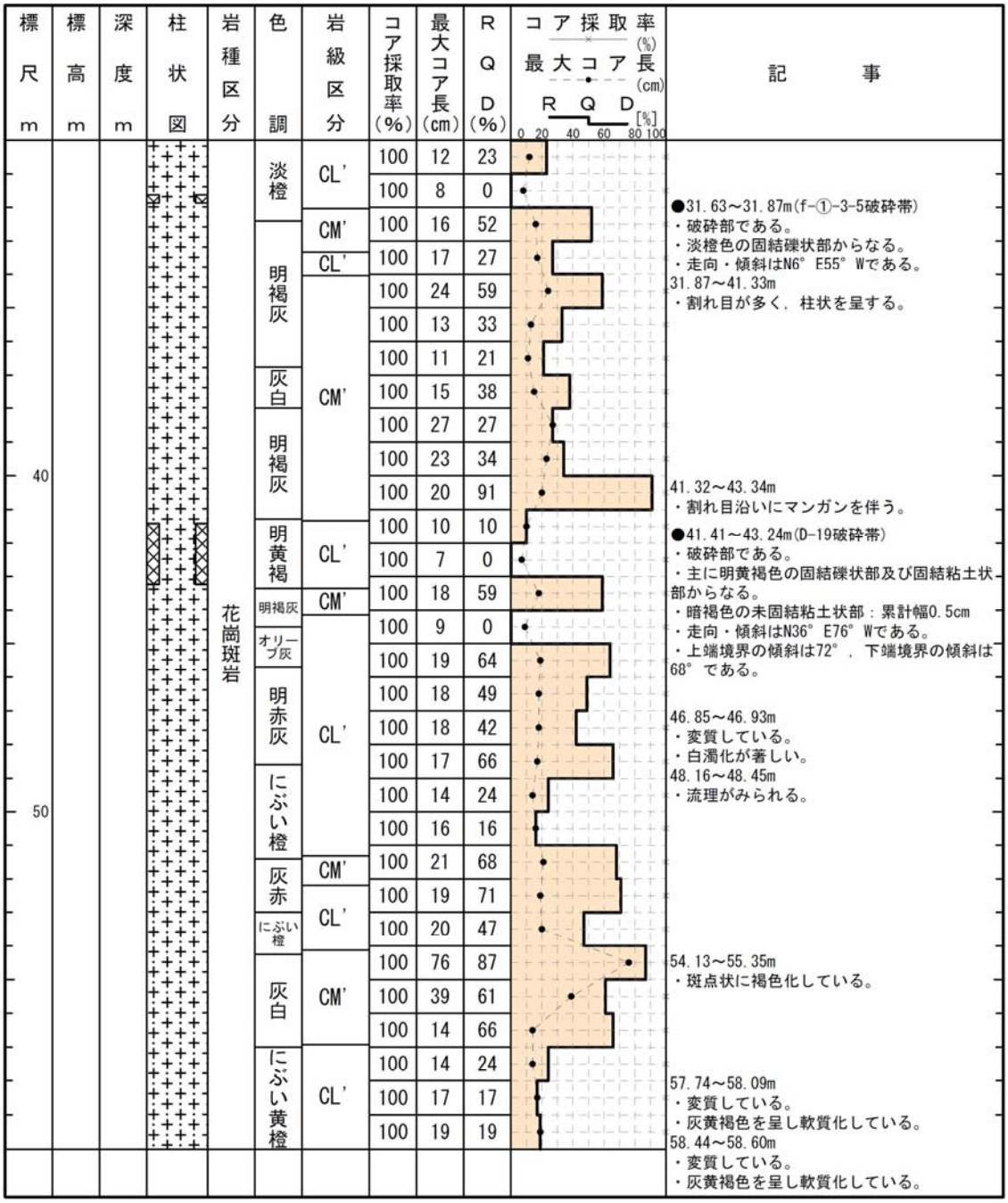
H20-①-4

孔口標高	T.P. 86.02m	掘削長	90.00m



H20－①－4

柱状図(30.00m～60.00m)

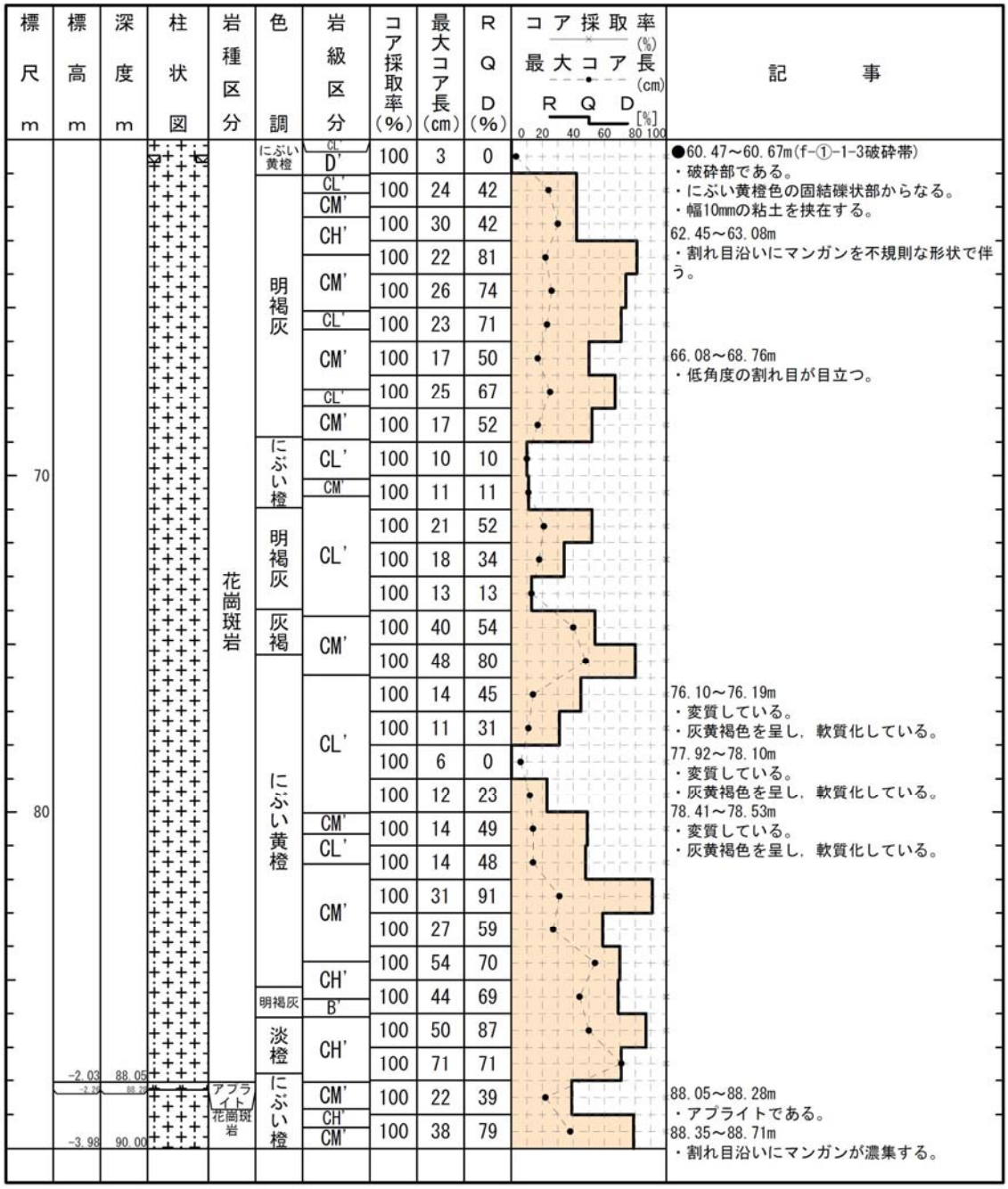


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
				花崗斑岩	淡橙	CL'	100	12	23
							100	8	0
					明褐灰	CM'	100	16	52
						CL'	100	17	27
						CM'	100	24	59
							100	13	33
							100	11	21
					灰白		100	15	38
					明褐灰		100	27	27
							100	23	34
40							100	20	91
					明黄褐	CL'	100	10	10
							100	7	0
					明褐灰	CM'	100	18	59
					オリーブ灰		100	9	0
					明赤灰	CL'	100	19	64
							100	18	49
							100	18	42
							100	17	66
					にぶい橙		100	14	24
50							100	16	16
					灰赤	CM'	100	21	68
						CL'	100	19	71
					にぶい橙		100	20	47
					灰白	CM'	100	76	87
							100	39	61
							100	14	66
					にぶい黄橙	CL'	100	14	24
							100	17	17
							100	19	19

記事
●31.63～31.87m(f-①-3-5破砕帯) ・破砕部である。 ・淡橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E55° Wである。 31.87～41.33m ・割れ目が多く，柱状を呈する。
41.32～43.34m ・割れ目沿いにマンガンを伴う。
●41.41～43.24m(D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°，下端境界の傾斜は68°である。
46.85～46.93m ・変質している。 ・白濁化が著しい。 48.16～48.45m ・流理がみられる。
54.13～55.35m ・斑点状に褐色化している。
57.74～58.09m ・変質している。 ・灰黄褐色を呈し軟質化している。 58.44～58.60m ・変質している。 ・灰黄褐色を呈し軟質化している。

H20－①－4

柱状図(60.00m～90.00m)

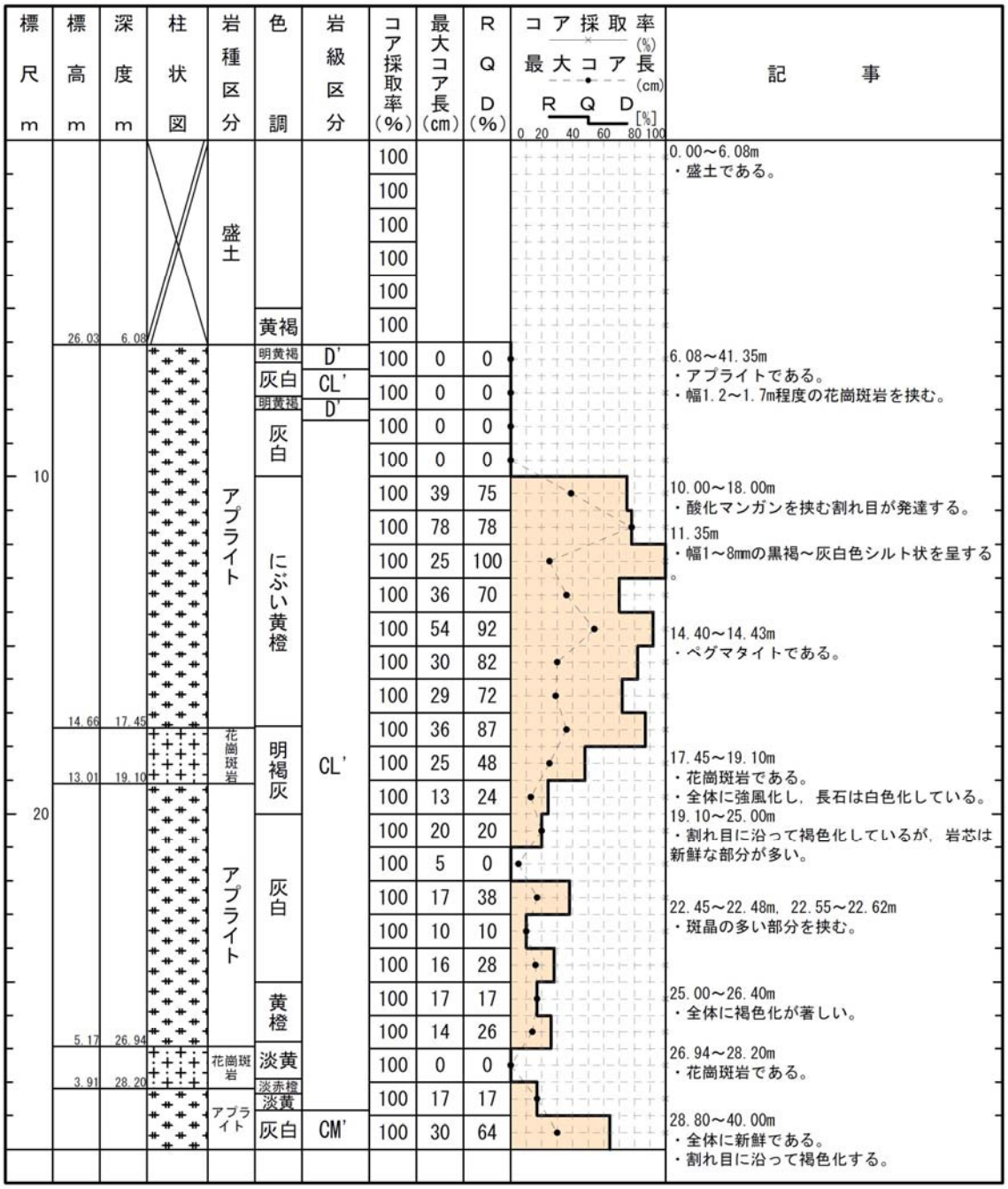


H19－No. 11

柱状図(0.00m～30.00m)

H19-No. 11

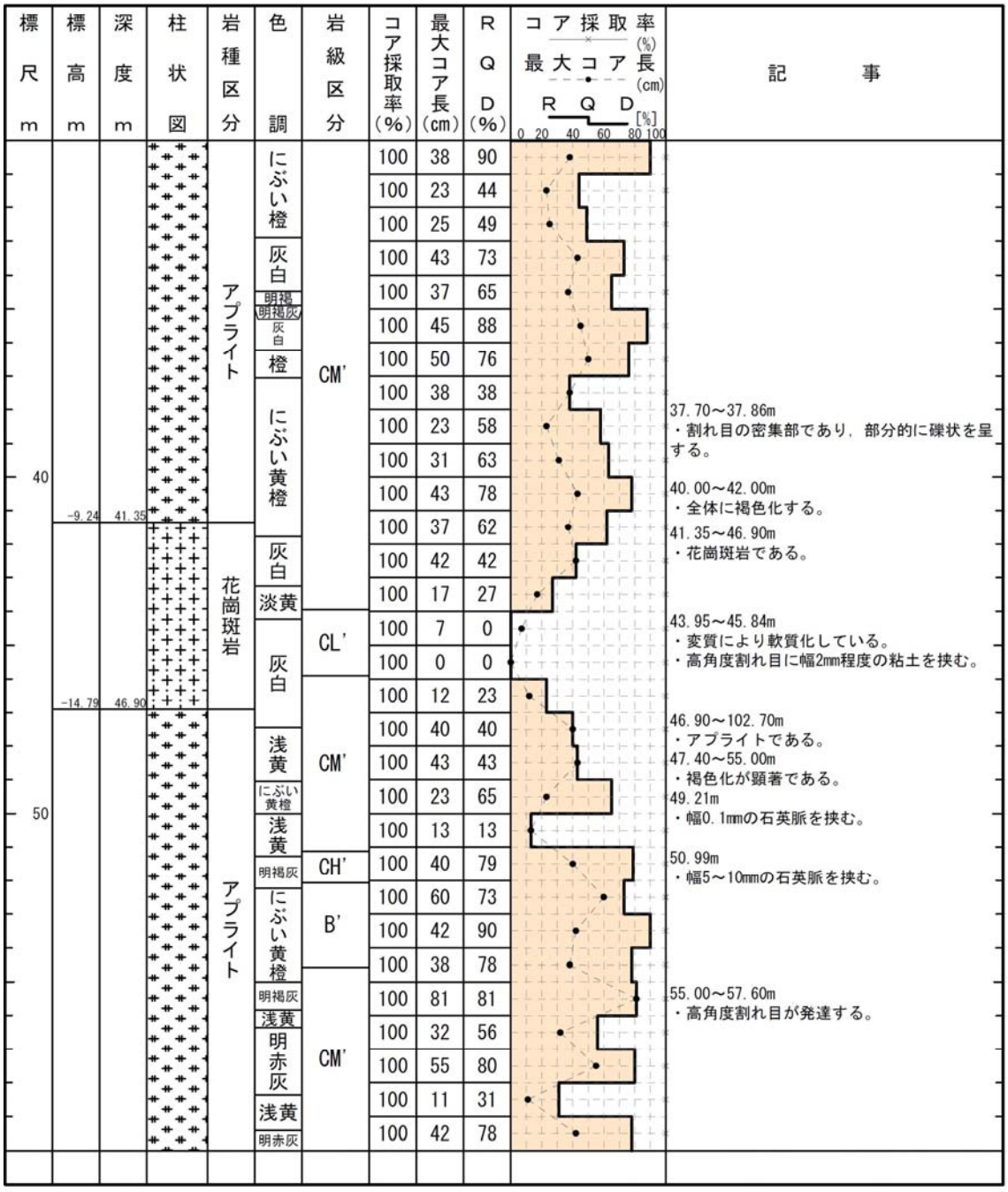
孔口標高	T.P. 32.11m	掘削長	120.00m



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100		
100		
100		
100		
100	0	0
100	0	0
100	0	0
100	0	0
100	39	75
100	78	78
100	25	100
100	36	70
100	54	92
100	30	82
100	29	72
100	36	87
100	25	48
100	13	24
100	20	20
100	5	0
100	17	38
100	10	10
100	16	28
100	17	17
100	14	26
100	0	0
100	17	17
100	30	64

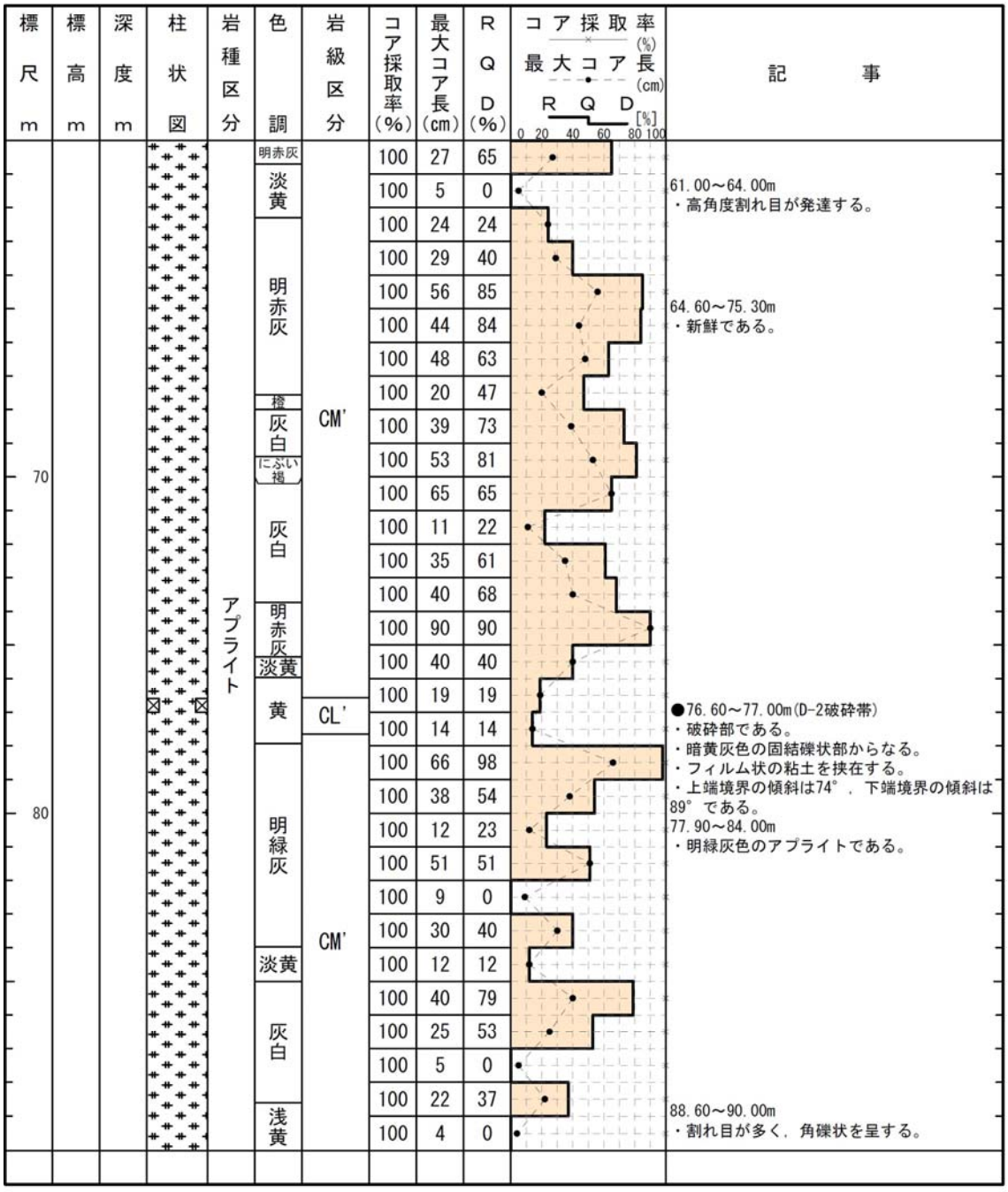
H19－No. 11

柱状図(30.00m～60.00m)



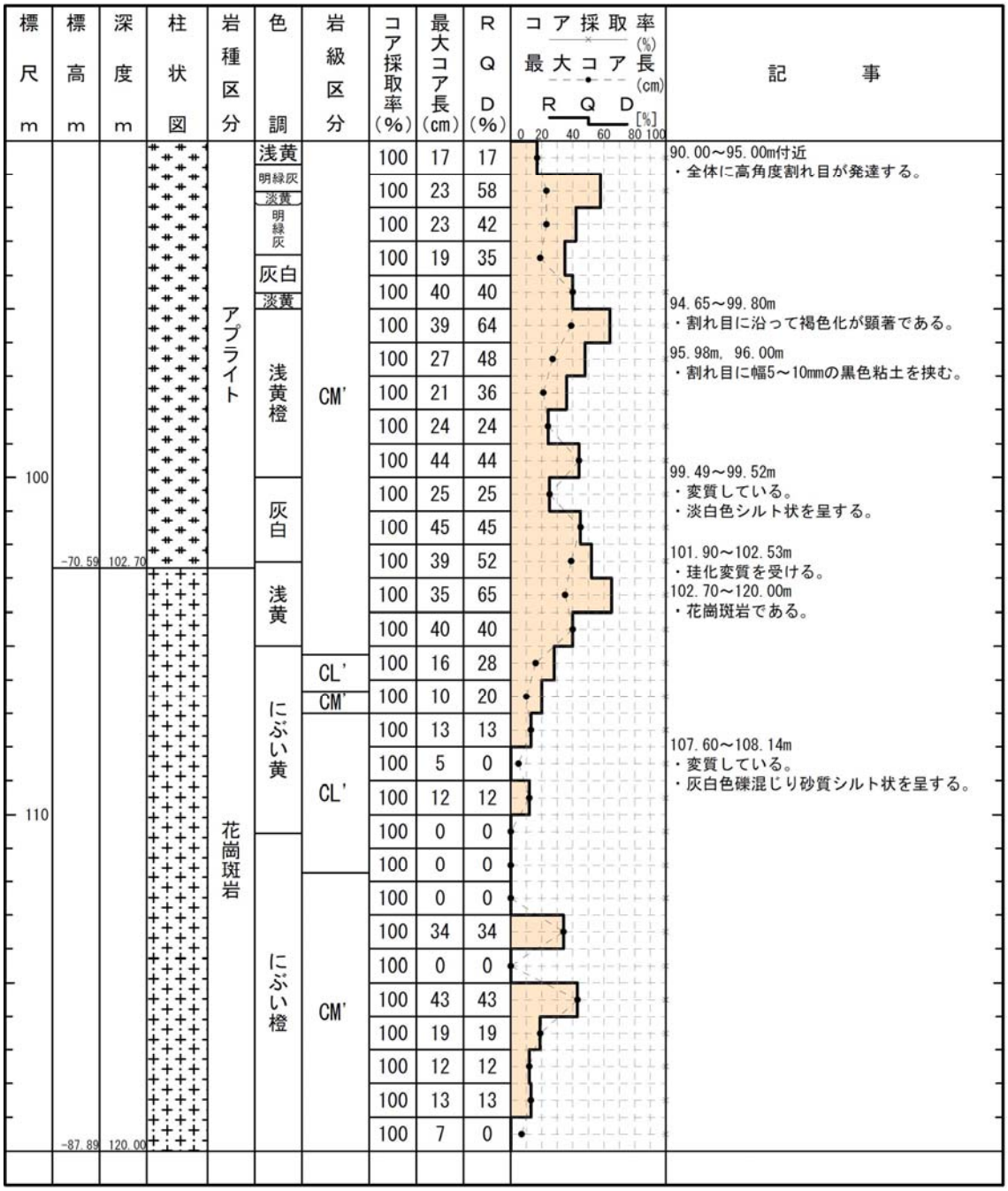
H19－No. 11

柱状図(60.00m～90.00m)



H19－No. 11

柱状図(90.00m～120.00m)

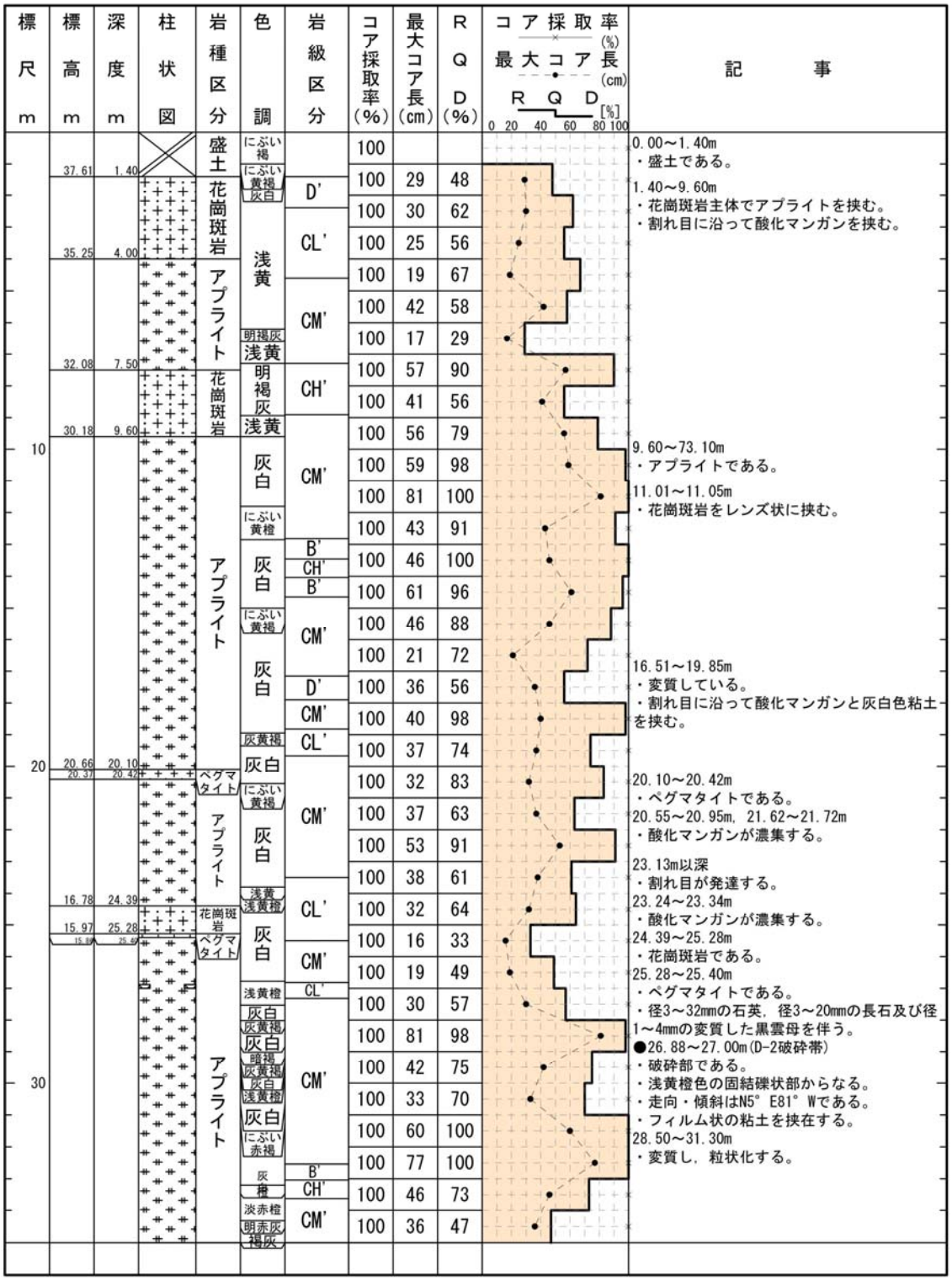


H19－No. 13

柱状図(0.00m～35.00m)

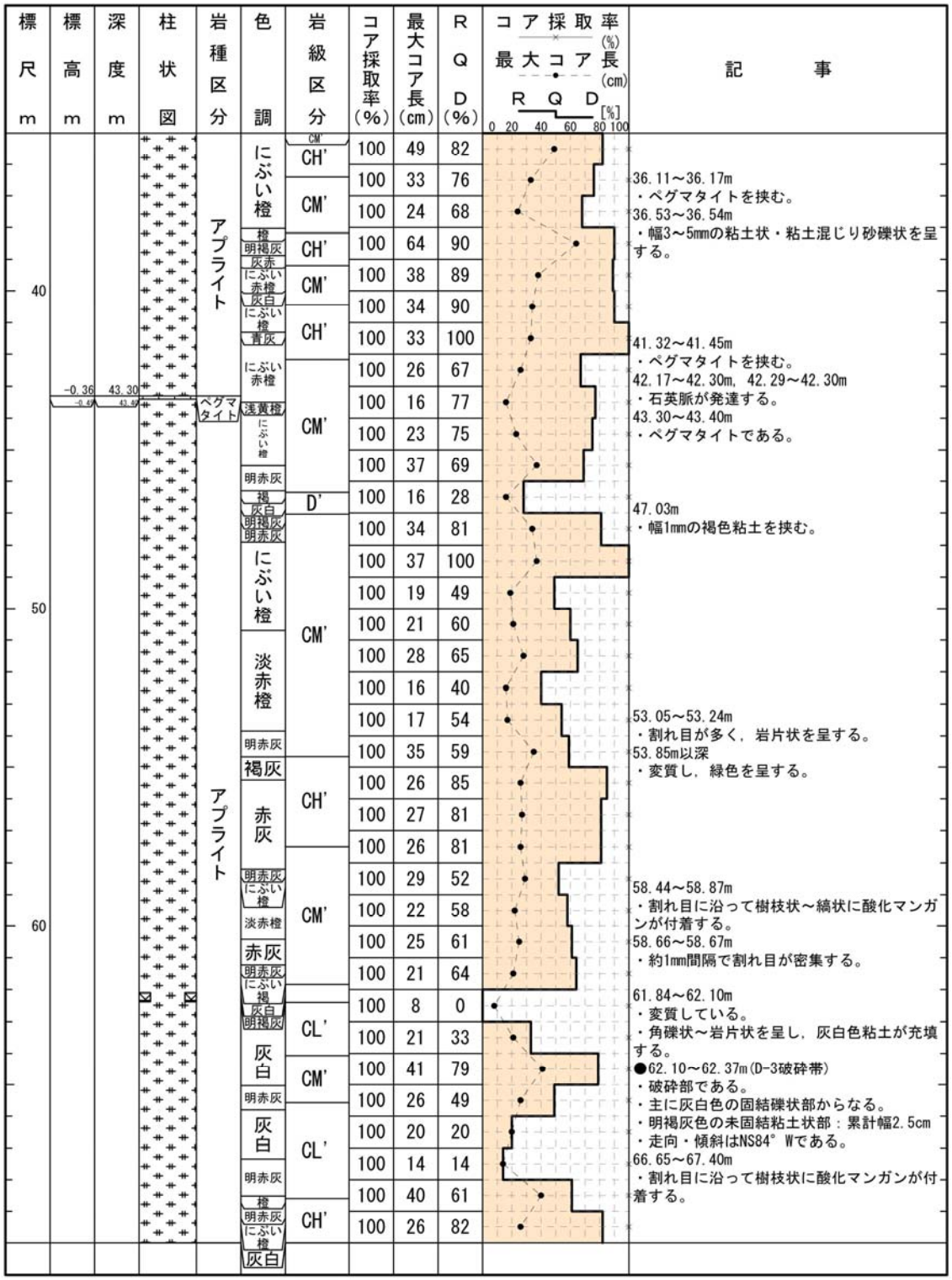
H19-No. 13

孔口標高	T.P. 38.88m	掘削長	100.00m



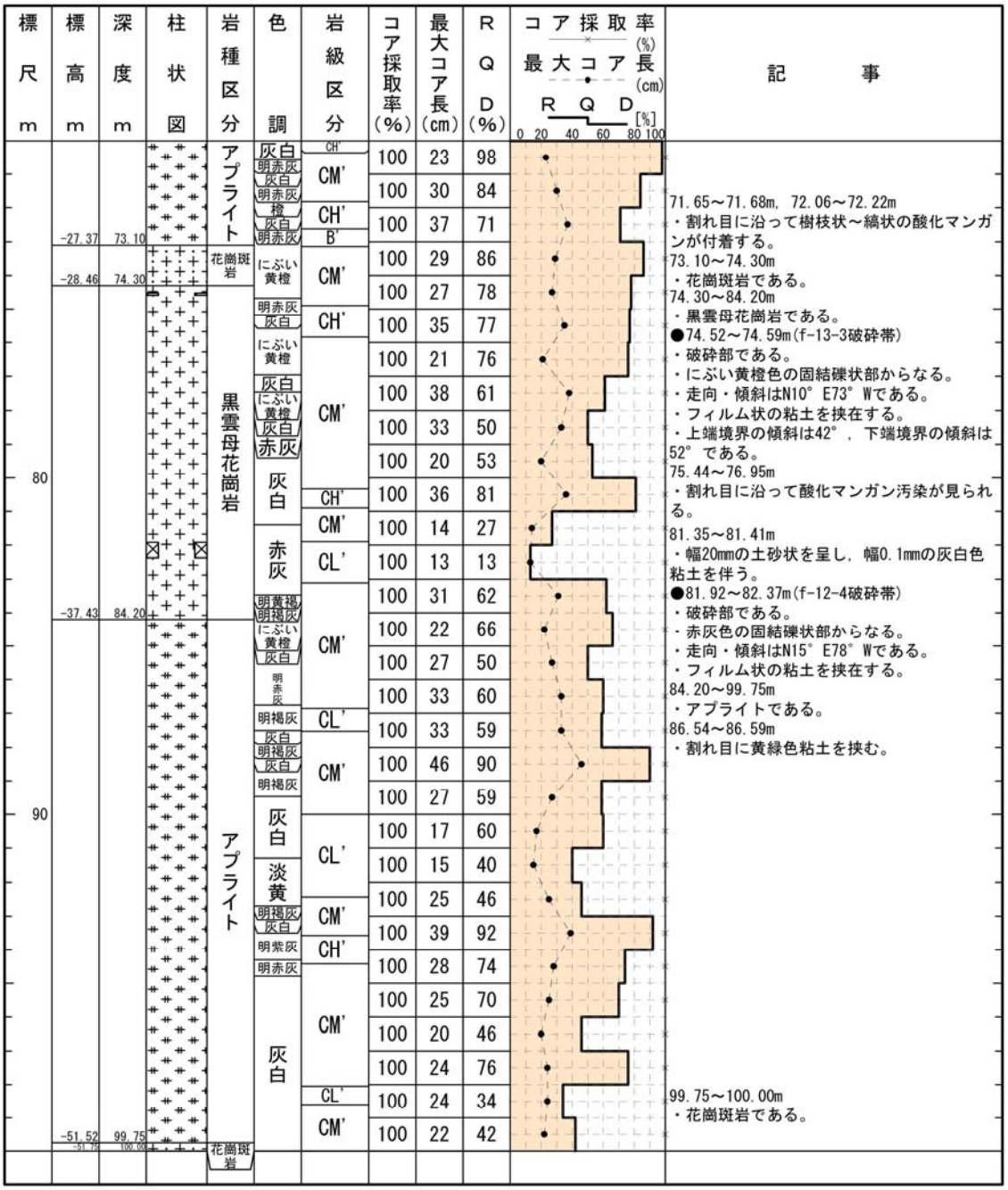
H19－No. 13

柱状図(35.00m～70.00m)



H19－No. 13

柱状図(70.00m～100.00m)

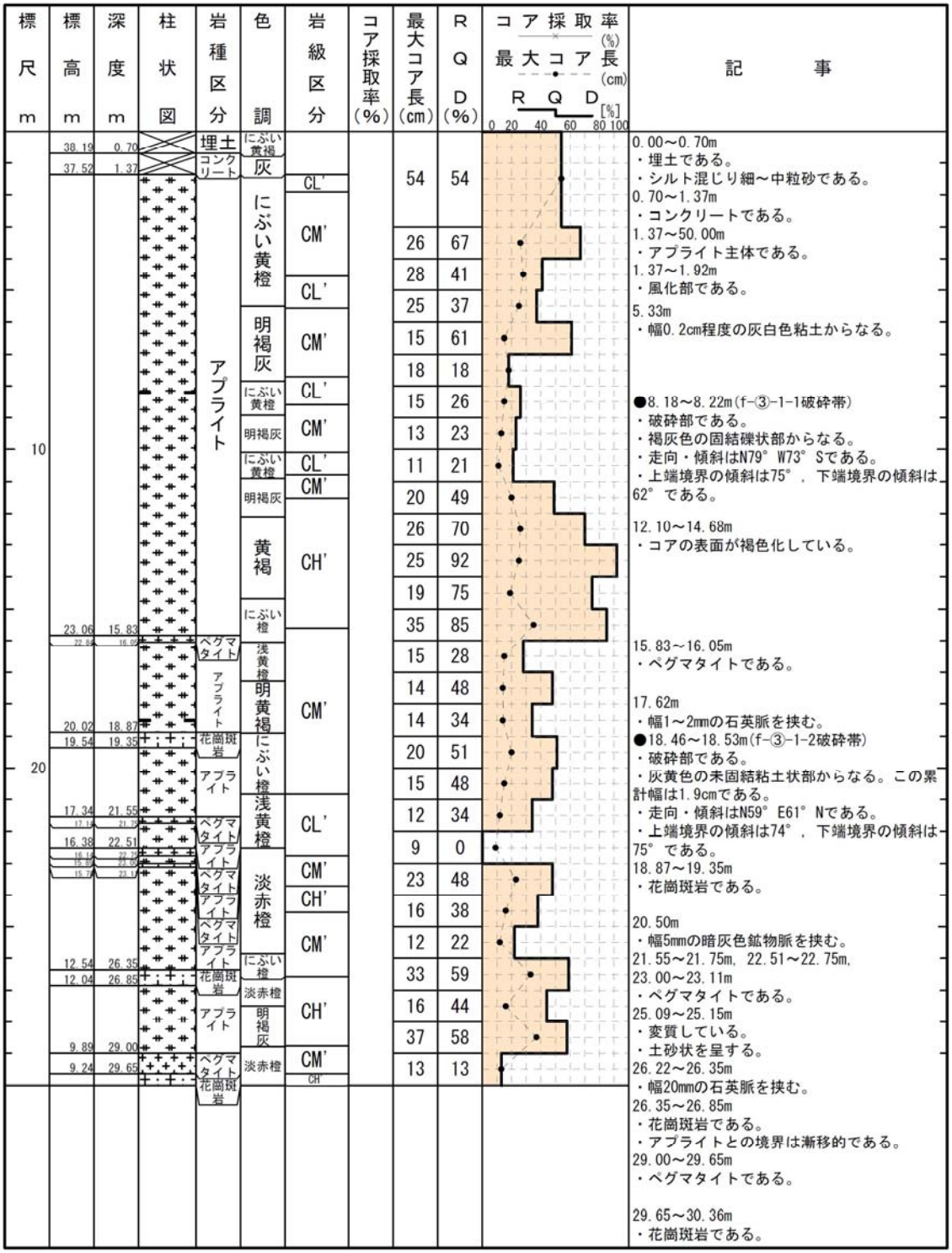


H20－③－1

柱状図(0.00m～30.00m)

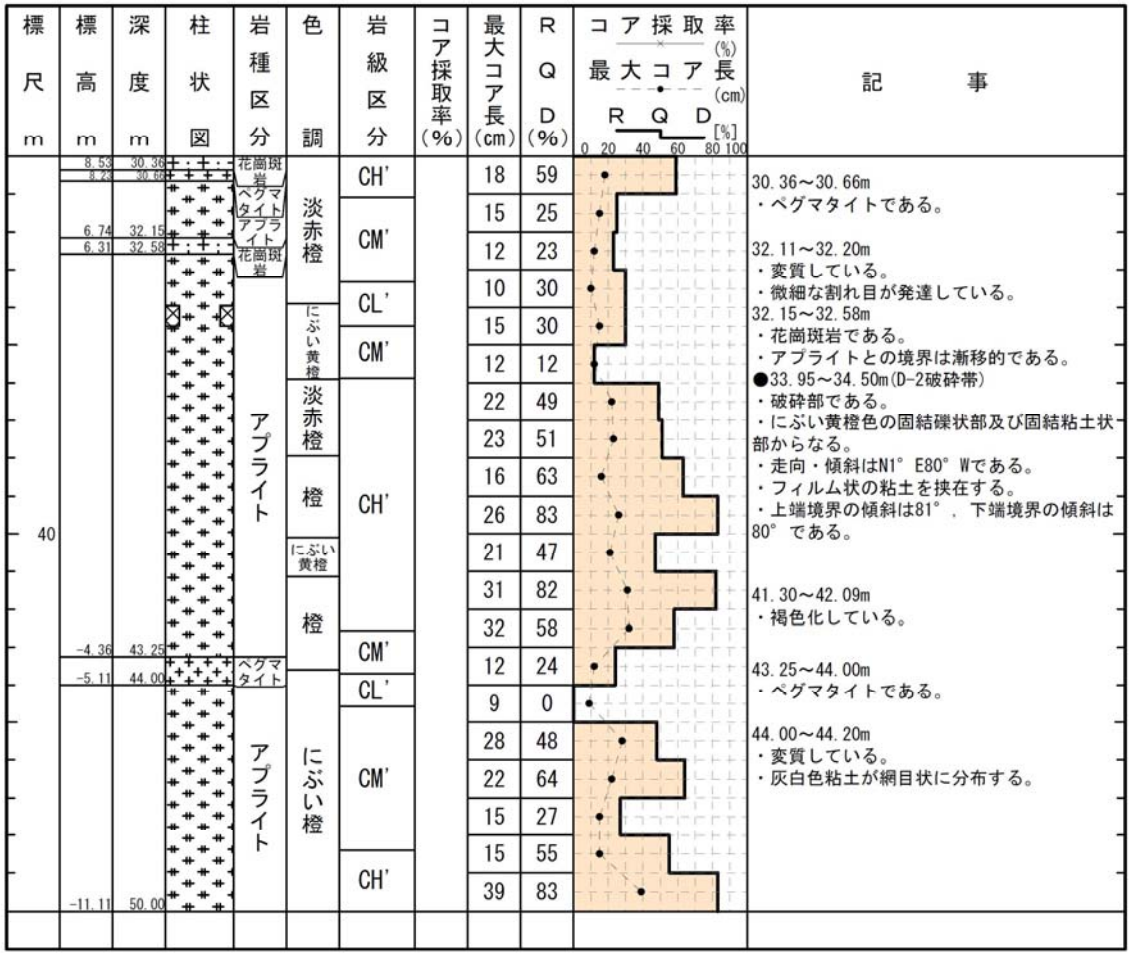
H20-③-1

孔口標高	T.P. 38.89m	掘削長	50.00m



H20－③－1

柱状図(30.00m～50.00m)

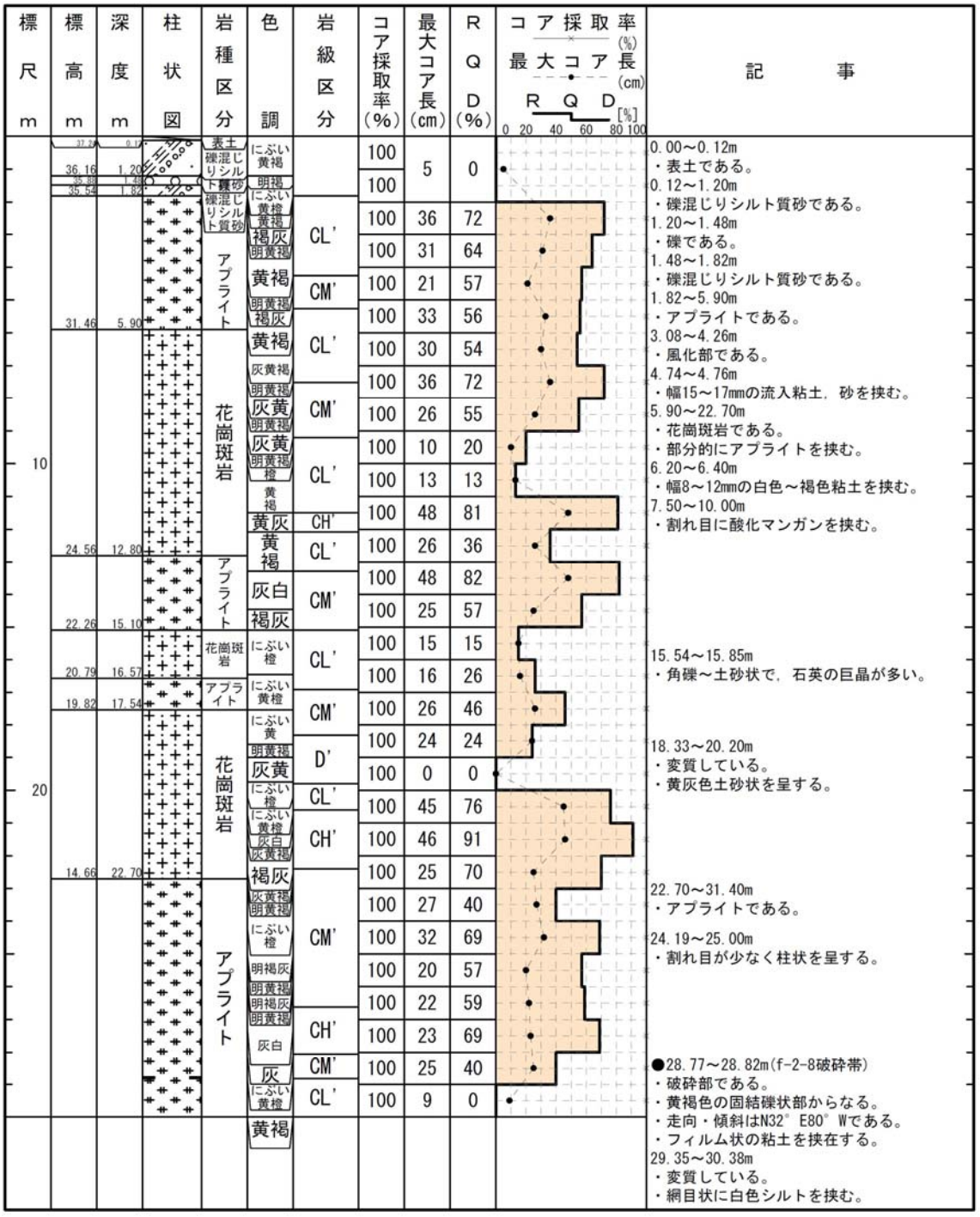


H19－No. 3

柱状図(0.00m～30.00m)

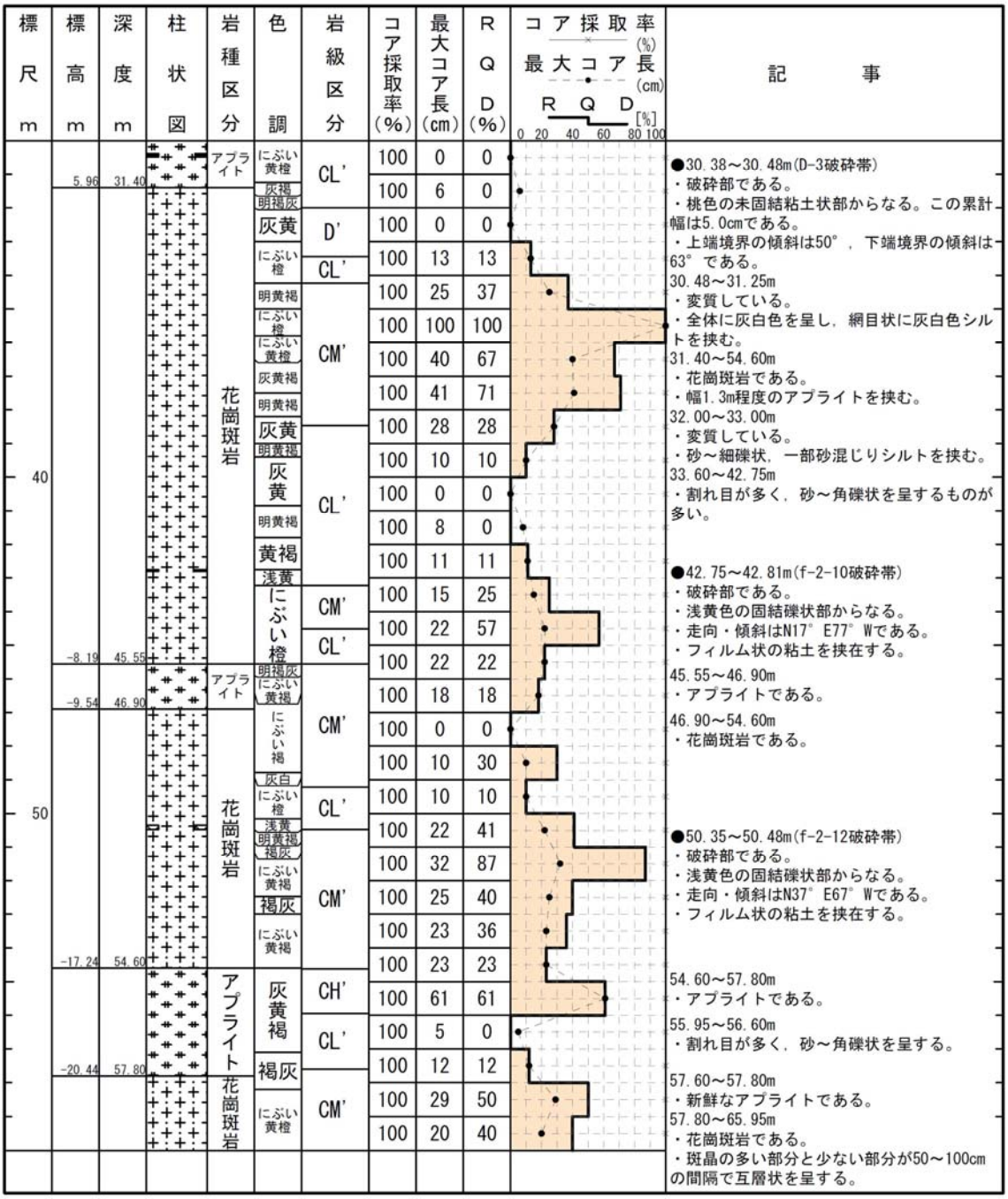
H19-No. 3

孔口標高	T.P. 37.36m	掘削長	200.00m



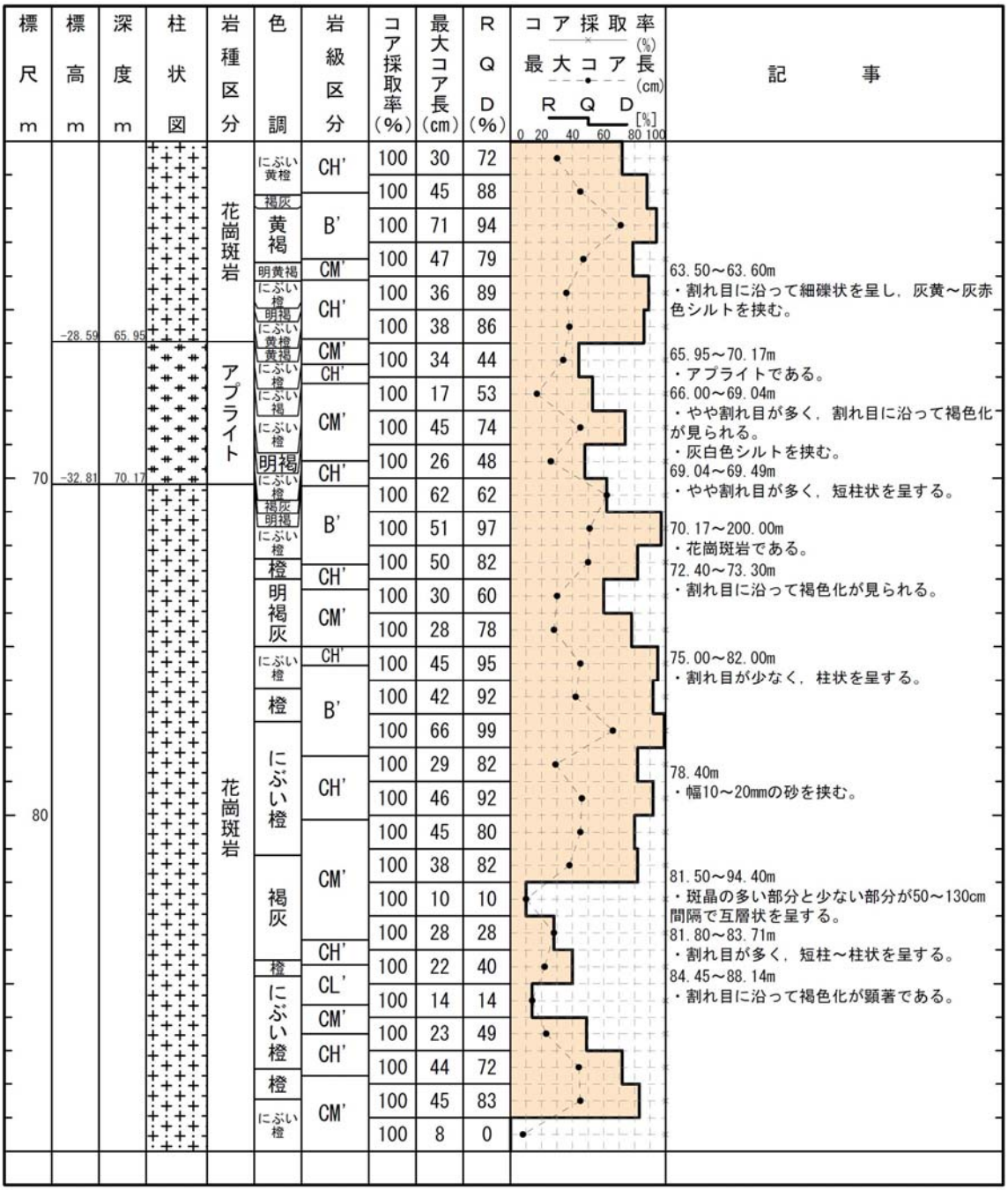
H19－No. 3

柱状図(30.00m～60.00m)



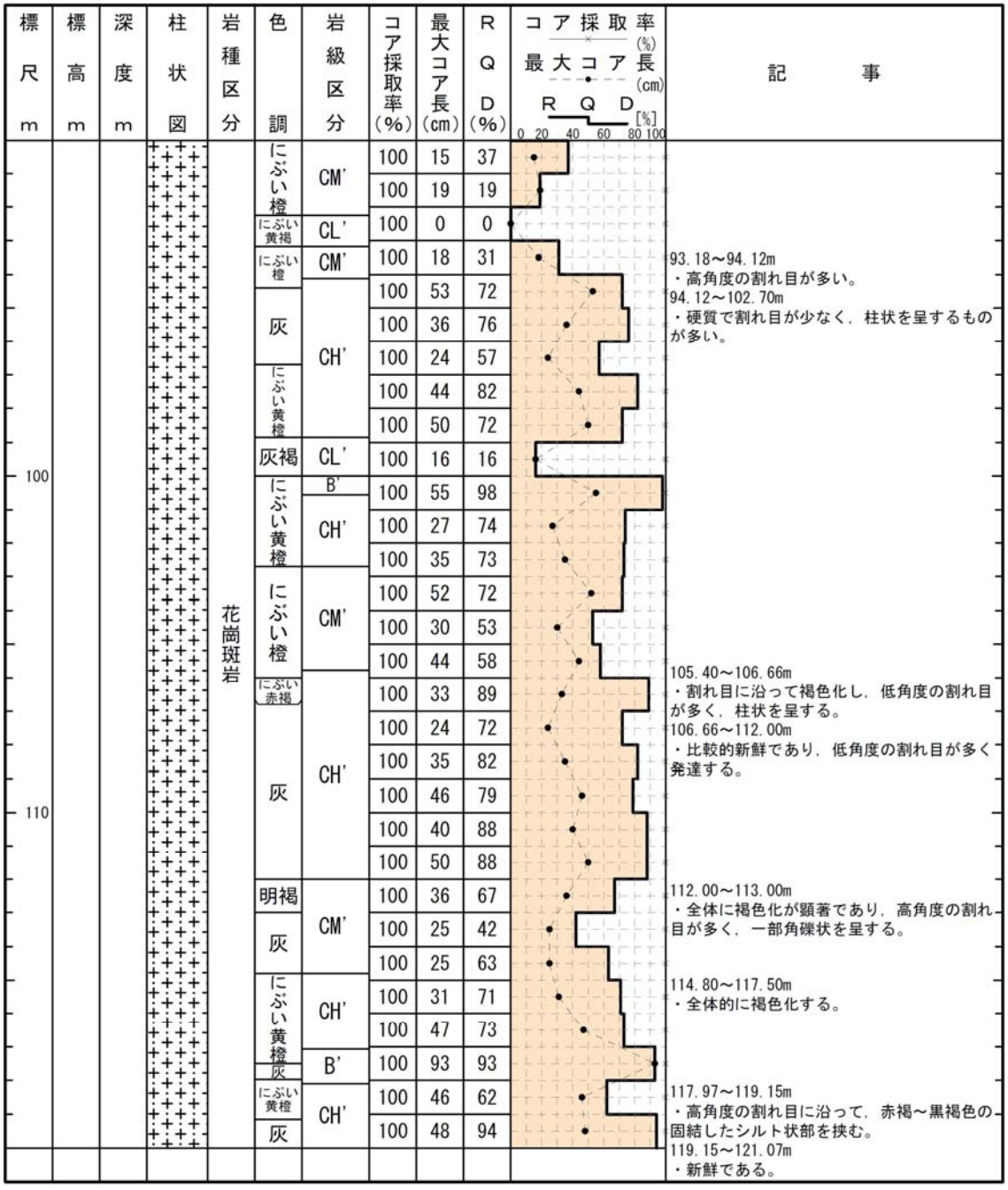
H19－No. 3

柱状図(60.00m～90.00m)



H19－No. 3

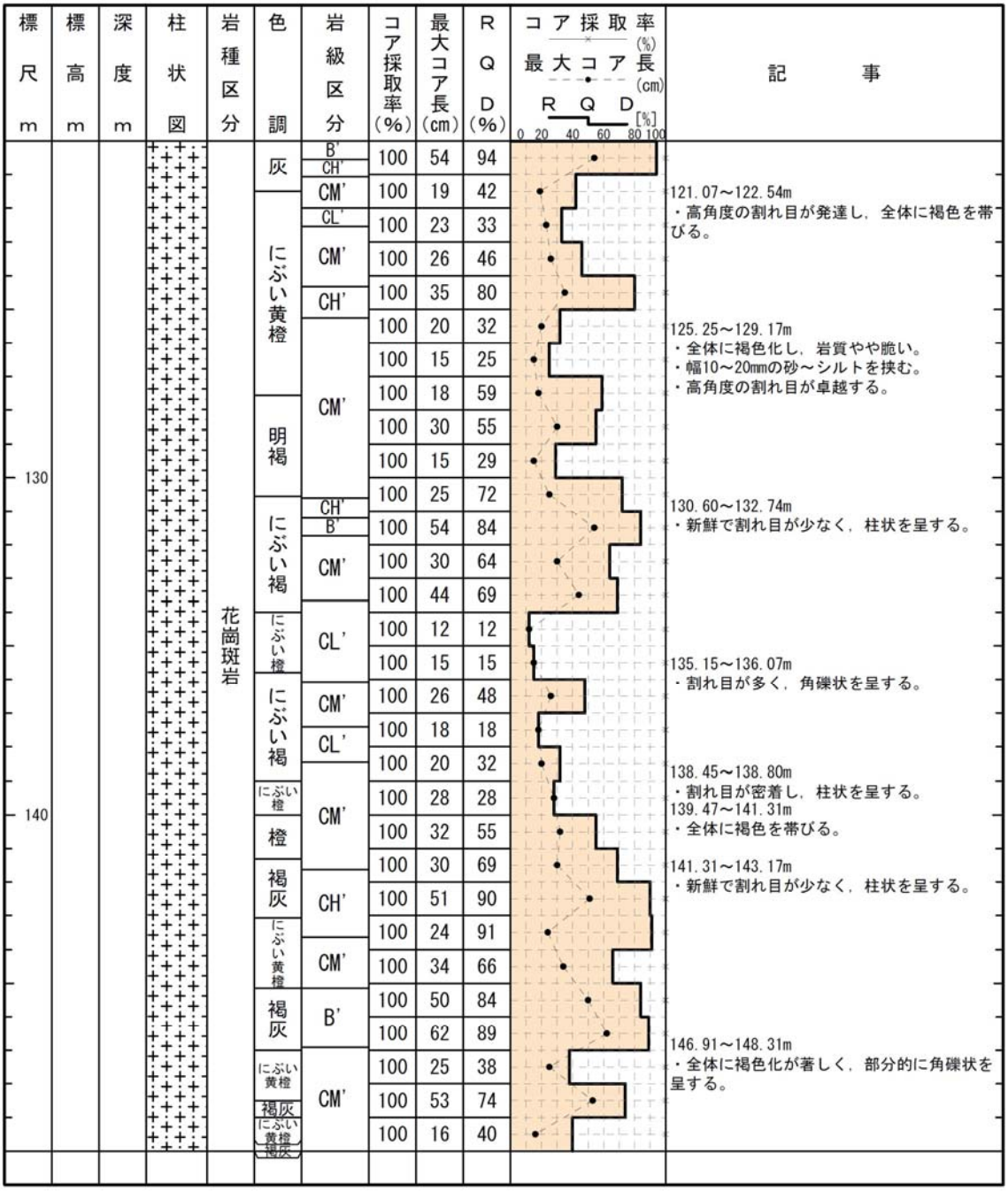
柱状図(90.00m～120.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	15	37	
							100	19	19	
					にぶい黄褐	CL'	100	0	0	
					にぶい橙	CM'	100	18	31	93.18～94.12m ・高角度の割れ目が多い。
					灰	CH'	100	53	72	
							100	36	76	94.12～102.70m ・硬質で割れ目が少なく，柱状を呈するものが多い。
							100	24	57	
					にぶい黄橙		100	44	82	
							100	50	72	
					灰褐	CL'	100	16	16	
100					にぶい黄橙	B'	100	55	98	
						CH'	100	27	74	
							100	35	73	
					にぶい橙	CM'	100	52	72	
							100	30	53	
							100	44	58	
					にぶい赤褐		100	33	89	105.40～106.66m ・割れ目に沿って褐色化し，低角度の割れ目が多く，柱状を呈する。
					灰	CH'	100	24	72	106.66～112.00m ・比較的新鮮であり，低角度の割れ目が多く発達する。
							100	35	82	
110							100	46	79	
							100	40	88	
							100	50	88	
					明褐	CM'	100	36	67	112.00～113.00m ・全体に褐色化が顕著であり，高角度の割れ目が多く，一部角礫状を呈する。
					灰		100	25	42	
							100	25	63	
					にぶい黄橙	CH'	100	31	71	114.80～117.50m ・全体的に褐色化する。
							100	47	73	
					灰	B'	100	93	93	
					にぶい黄橙	CH'	100	46	62	117.97～119.15m ・高角度の割れ目に沿って，赤褐～黒褐色の固結したシルト状部を挟む。
					灰		100	48	94	
										119.15～121.07m ・新鮮である。

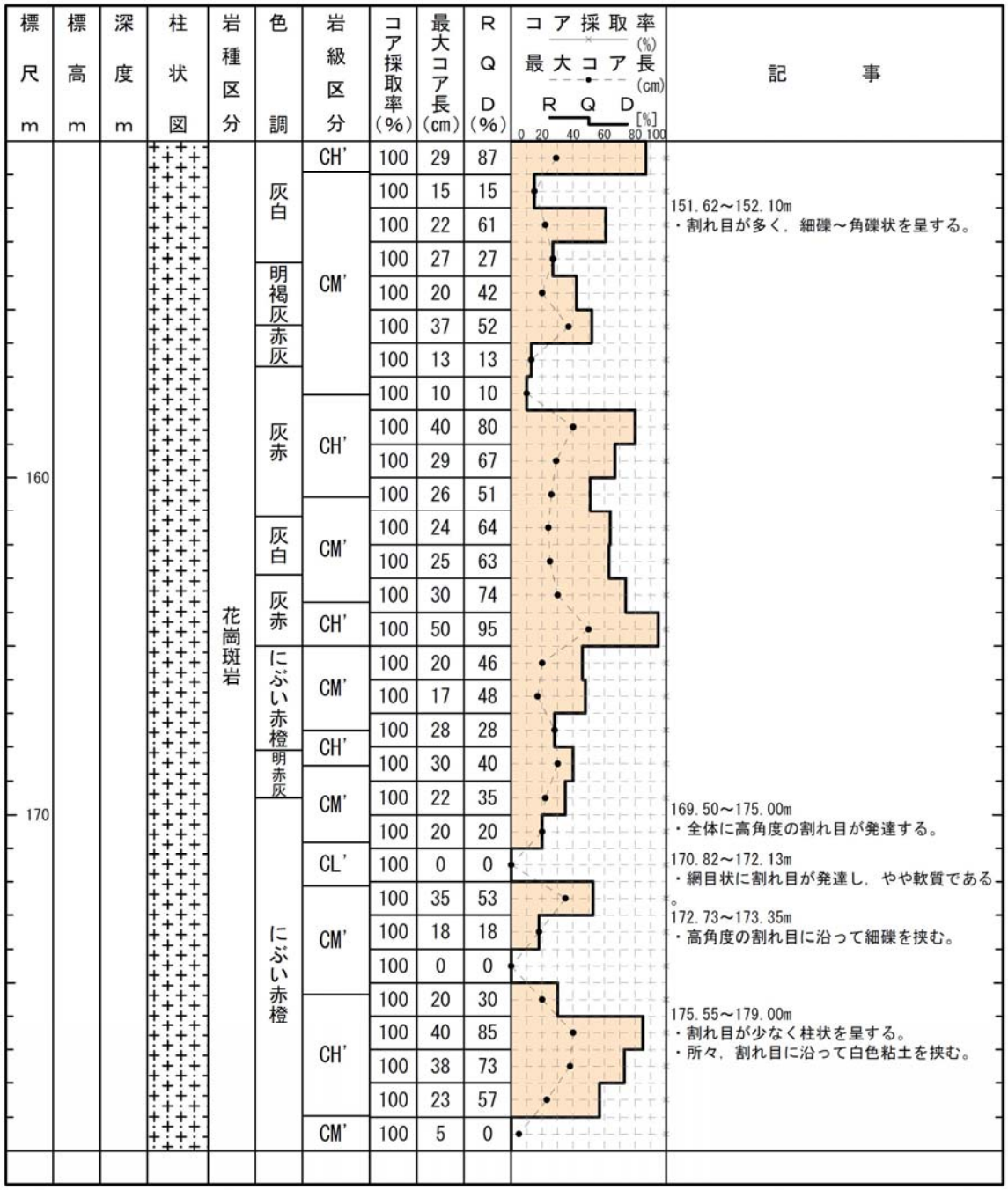
H19－No. 3

柱状図(120.00m～150.00m)



H19－No. 3

柱状図(150.00m～180.00m)



標尺 m	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）
	CH'	100	29	87
	CM'	100	15	15
		100	22	61
		100	27	27
		100	20	42
		100	37	52
		100	13	13
		100	10	10
	CH'	100	40	80
		100	29	67
160		100	26	51
	CM'	100	24	64
		100	25	63
		100	30	74
	CH'	100	50	95
	CM'	100	20	46
		100	17	48
	CH'	100	28	28
		100	30	40
	CM'	100	22	35
170		100	20	20
	CL'	100	0	0
	CM'	100	35	53
		100	18	18
		100	0	0
	CH'	100	20	30
		100	40	85
		100	38	73
		100	23	57
	CM'	100	5	0

151.62～152.10m
・割れ目が多く，細礫～角礫状を呈する。

169.50～175.00m
・全体に高角度の割れ目が発達する。

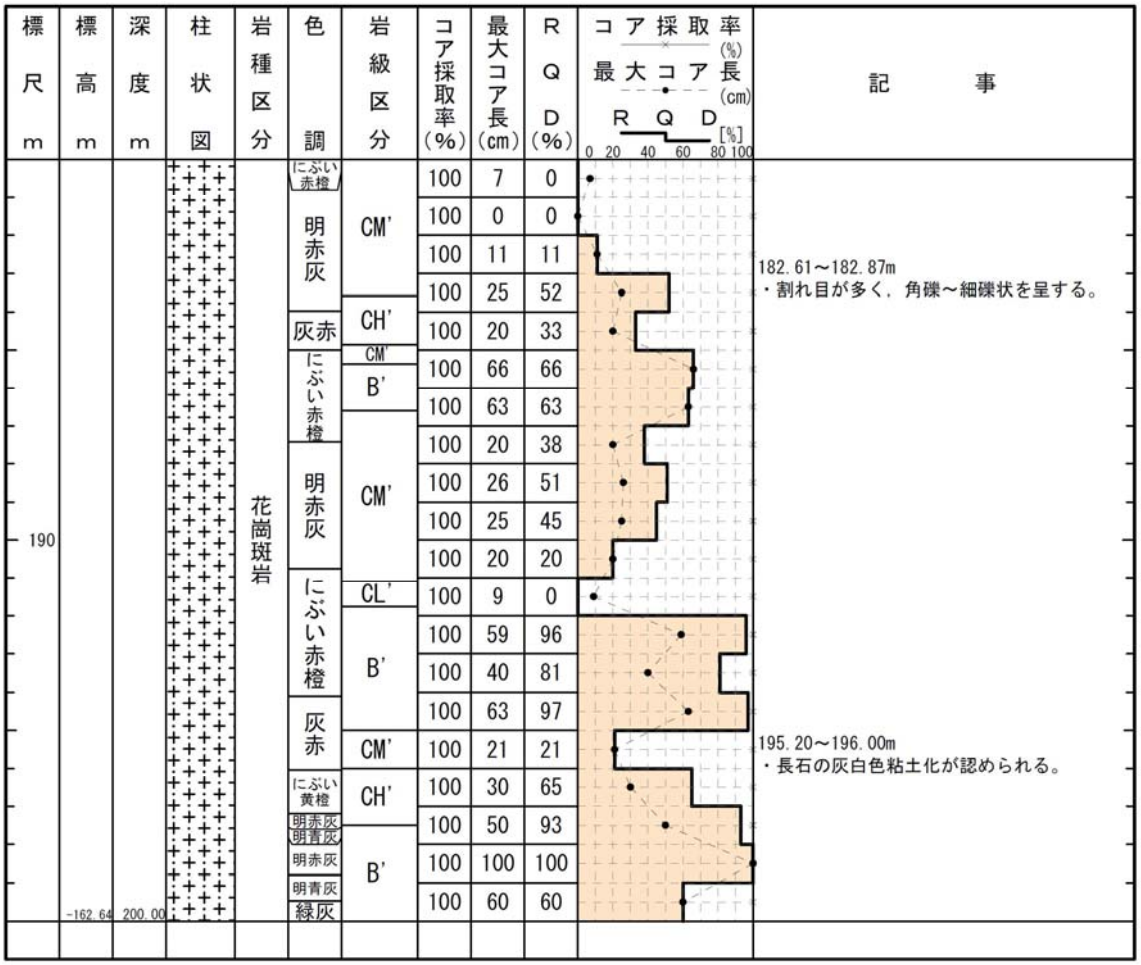
170.82～172.13m
・網目状に割れ目が発達し，やや軟質である。

172.73～173.35m
・高角度の割れ目に沿って細礫を挟む。

175.55～179.00m
・割れ目が少なく柱状を呈する。
・所々，割れ目に沿って白色粘土を挟む。

H19－No. 3

柱状図(180.00m～200.00m)

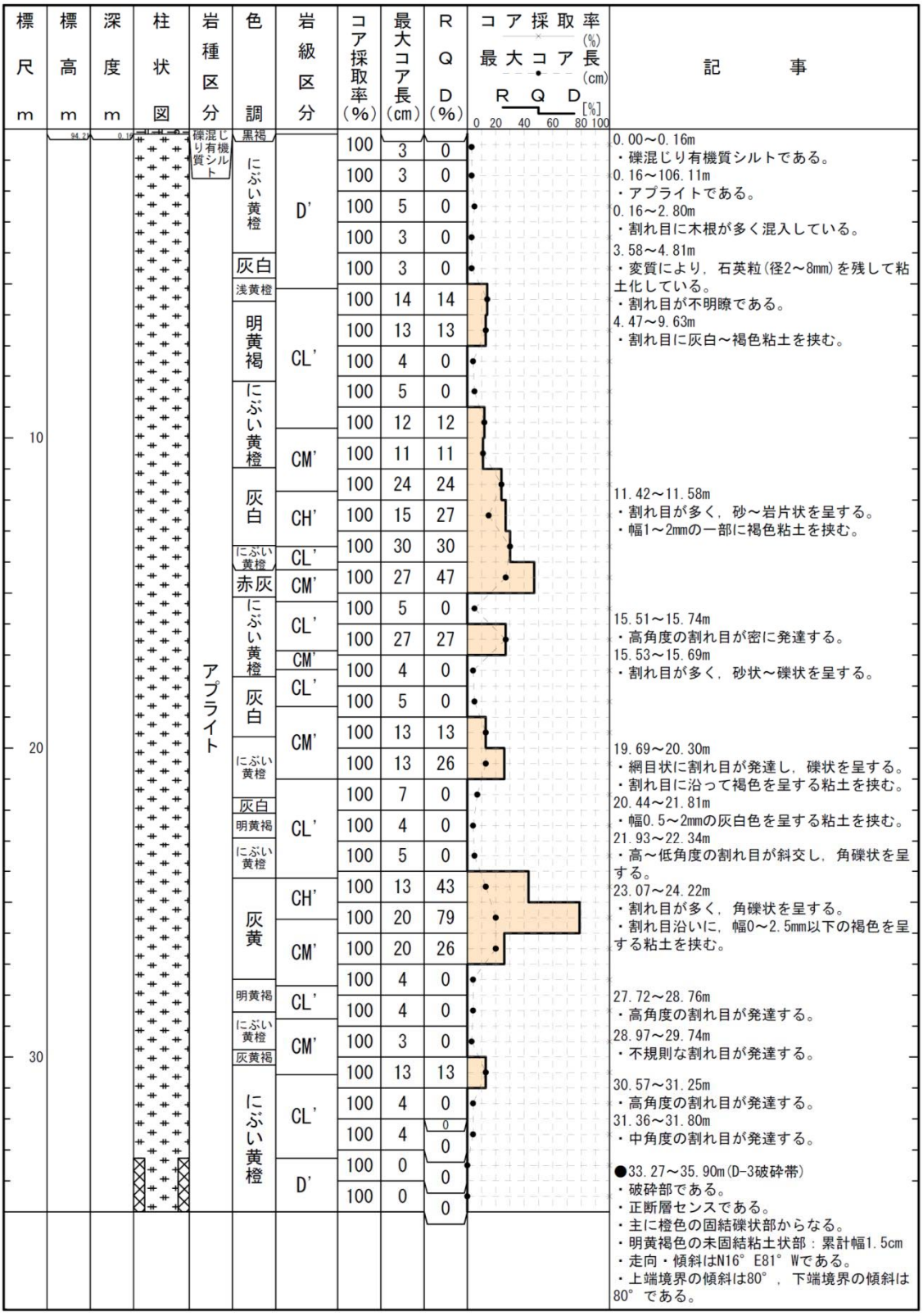


H27－Br－1

柱状図(0.00m～35.00m)

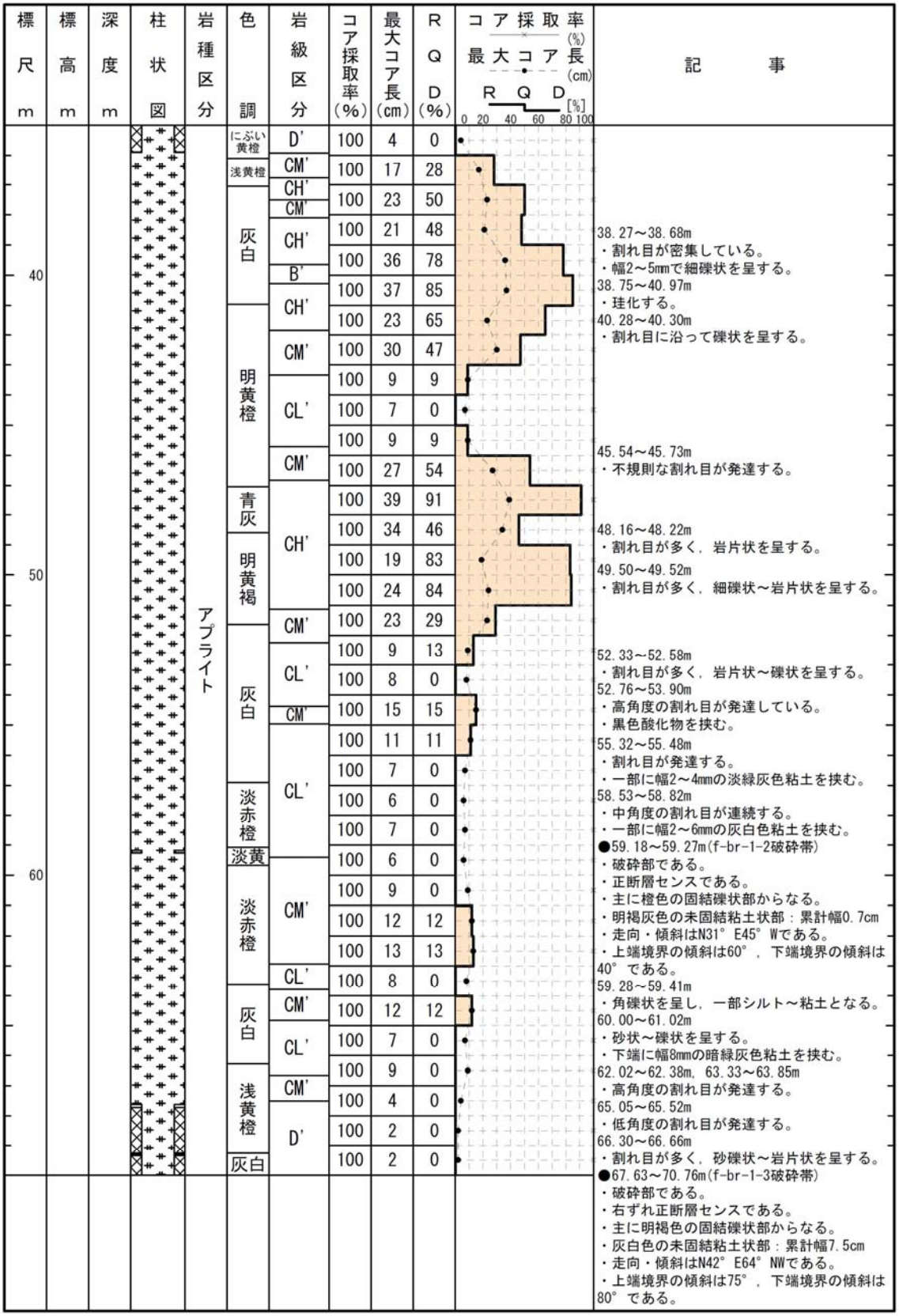
H27-Br-1

孔口標高	T.P. 94.37m	掘削長	130.00m



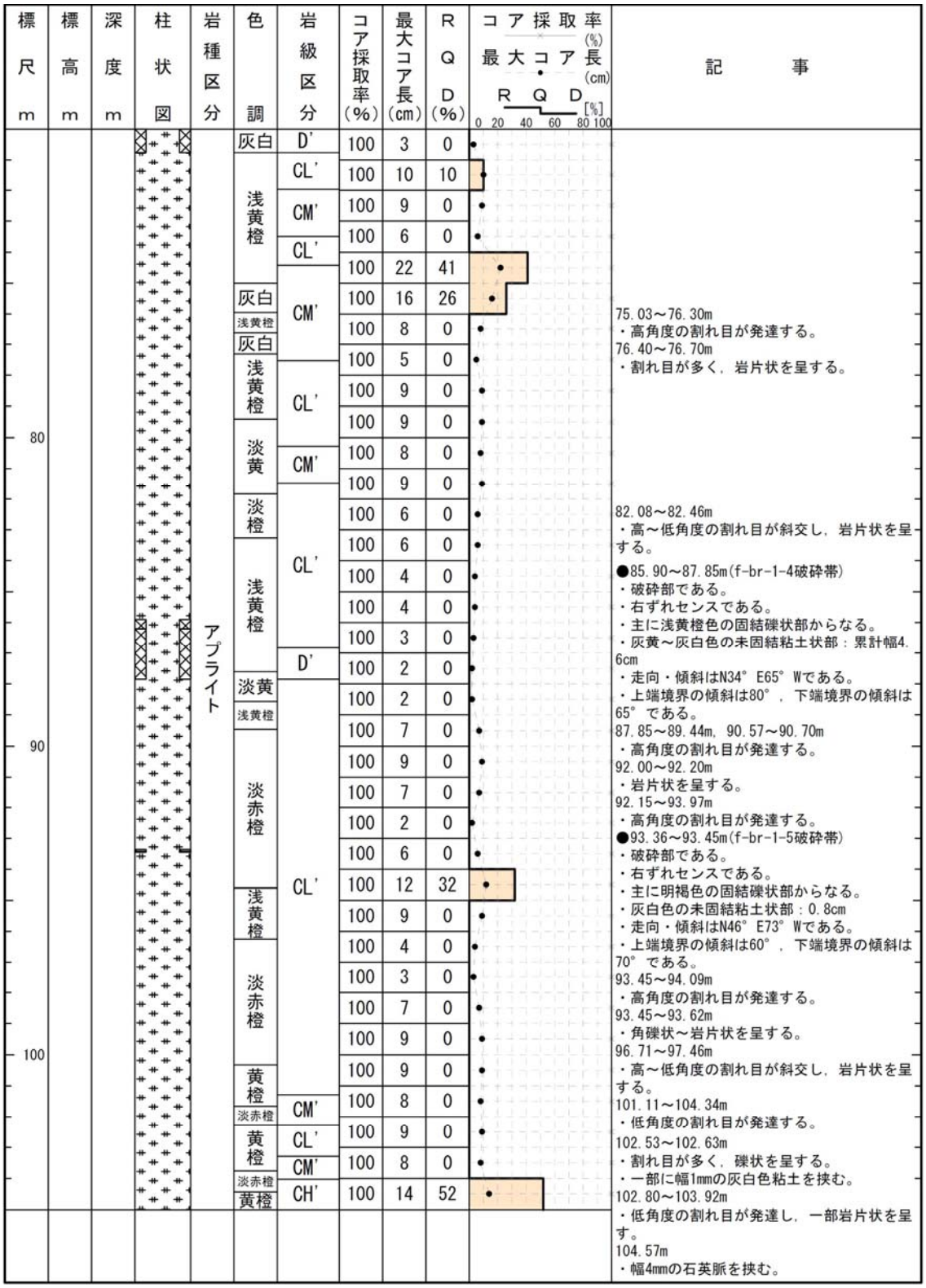
H27－Br－1

柱状図(35.00m～70.00m)



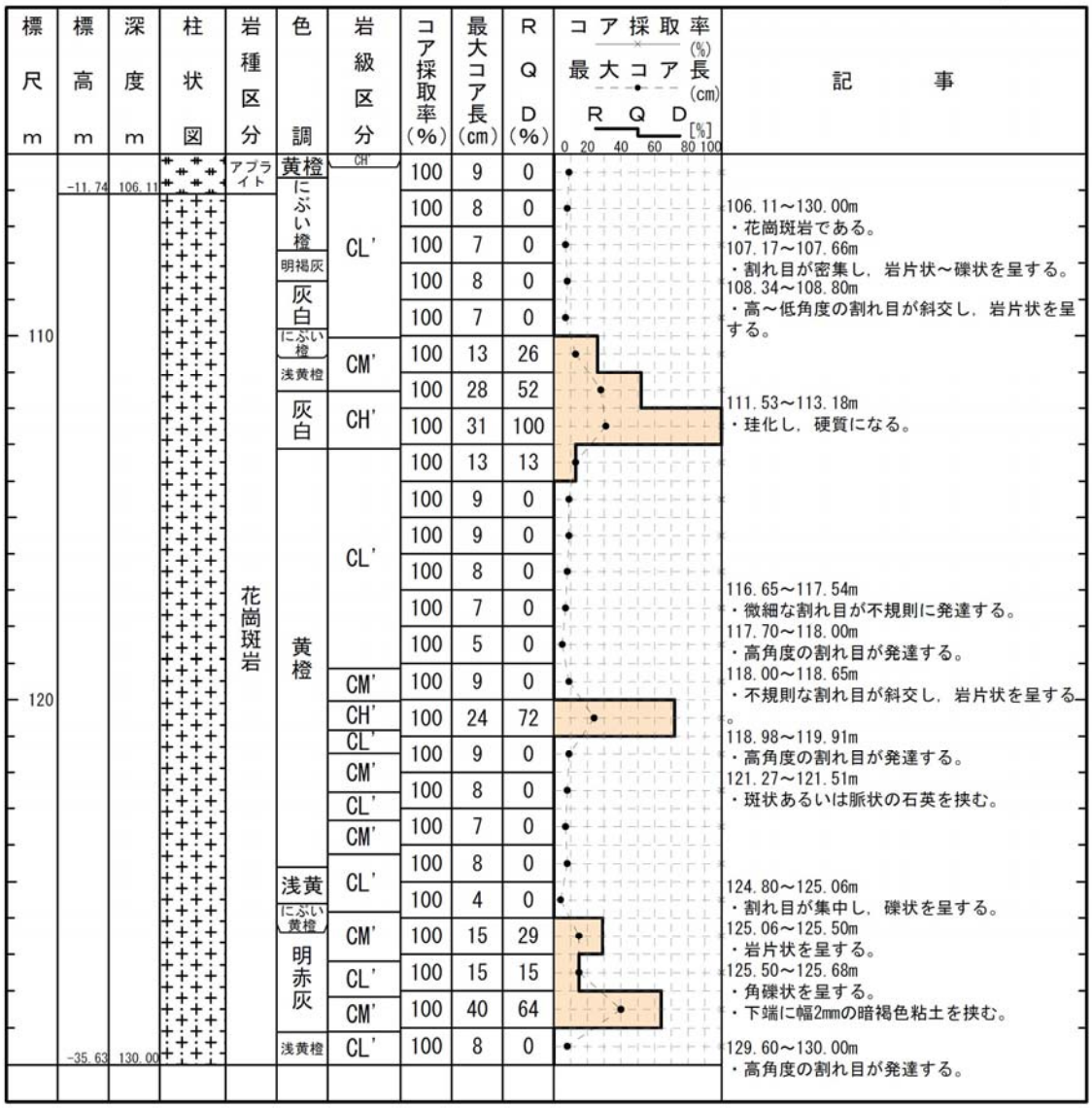
H27－Br－1

柱状図(70.00m～105.00m)



H27－Br－1

柱状図(105.00m～130.00m)



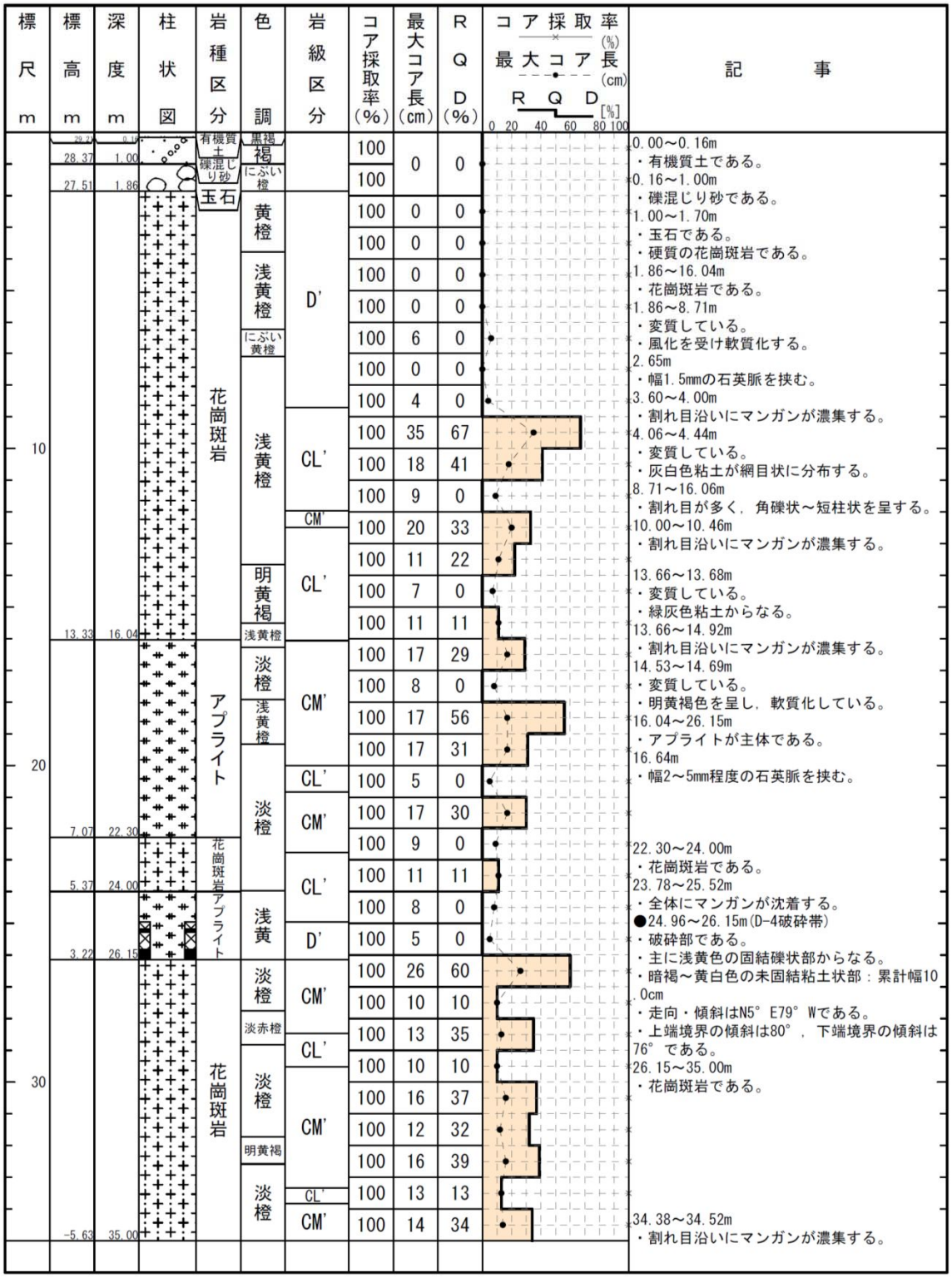
標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
	-11.74	106.11	アプライト	黄橙	CH'				
				にぶい橙	CL'	100	9	0	
						100	8	0	106.11～130.00m ・花崗斑岩である。
						100	7	0	107.17～107.66m ・割れ目が密集し，岩片状～礫状を呈する。
				明褐灰		100	8	0	108.34～108.80m
				灰白		100	7	0	・高～低角度の割れ目が斜交し，岩片状を呈する。
110				にぶい橙	CM'	100	13	26	
				浅黄橙		100	28	52	
				灰白	CH'	100	31	100	111.53～113.18m ・珪化し，硬質になる。
					CL'	100	13	13	
						100	9	0	
						100	9	0	
						100	8	0	
						100	7	0	116.65～117.54m ・微細な割れ目が不規則に発達する。
				黄橙		100	5	0	117.70～118.00m ・高角度の割れ目が発達する。
					CM'	100	9	0	118.00～118.65m ・不規則な割れ目が斜交し，岩片状を呈する。
120					CH'	100	24	72	
					CL'	100	9	0	118.98～119.91m ・高角度の割れ目が発達する。
					CM'	100	8	0	121.27～121.51m ・斑状あるいは脈状の石英を挟む。
					CL'	100	7	0	
					CM'	100	8	0	
				浅黄	CL'	100	4	0	124.80～125.06m ・割れ目が集中し，礫状を呈する。
				にぶい黄橙	CM'	100	15	29	125.06～125.50m ・岩片状を呈する。
				明赤灰	CL'	100	15	15	125.50～125.68m ・角礫状を呈する。
					CM'	100	40	64	・下端に幅2mmの暗褐色粘土を挟む。
	-35.63	130.00		浅黄橙	CL'	100	8	0	129.60～130.00m ・高角度の割れ目が発達する。

H20－①－8

柱状図(0.00m～35.00m)

H20-①-8

孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	35.00m

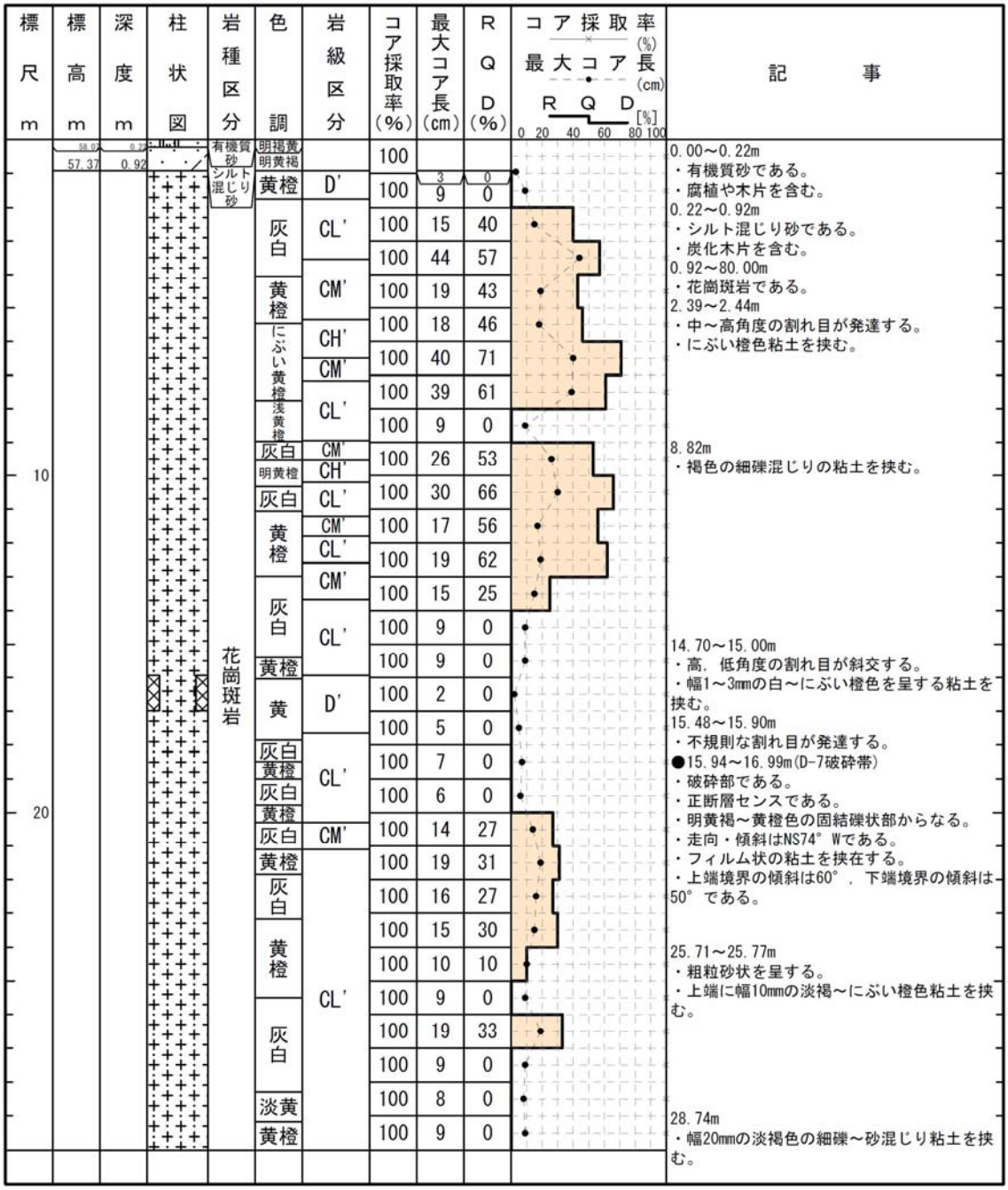


H27－Br－2

柱状図(0.00m～30.00m)

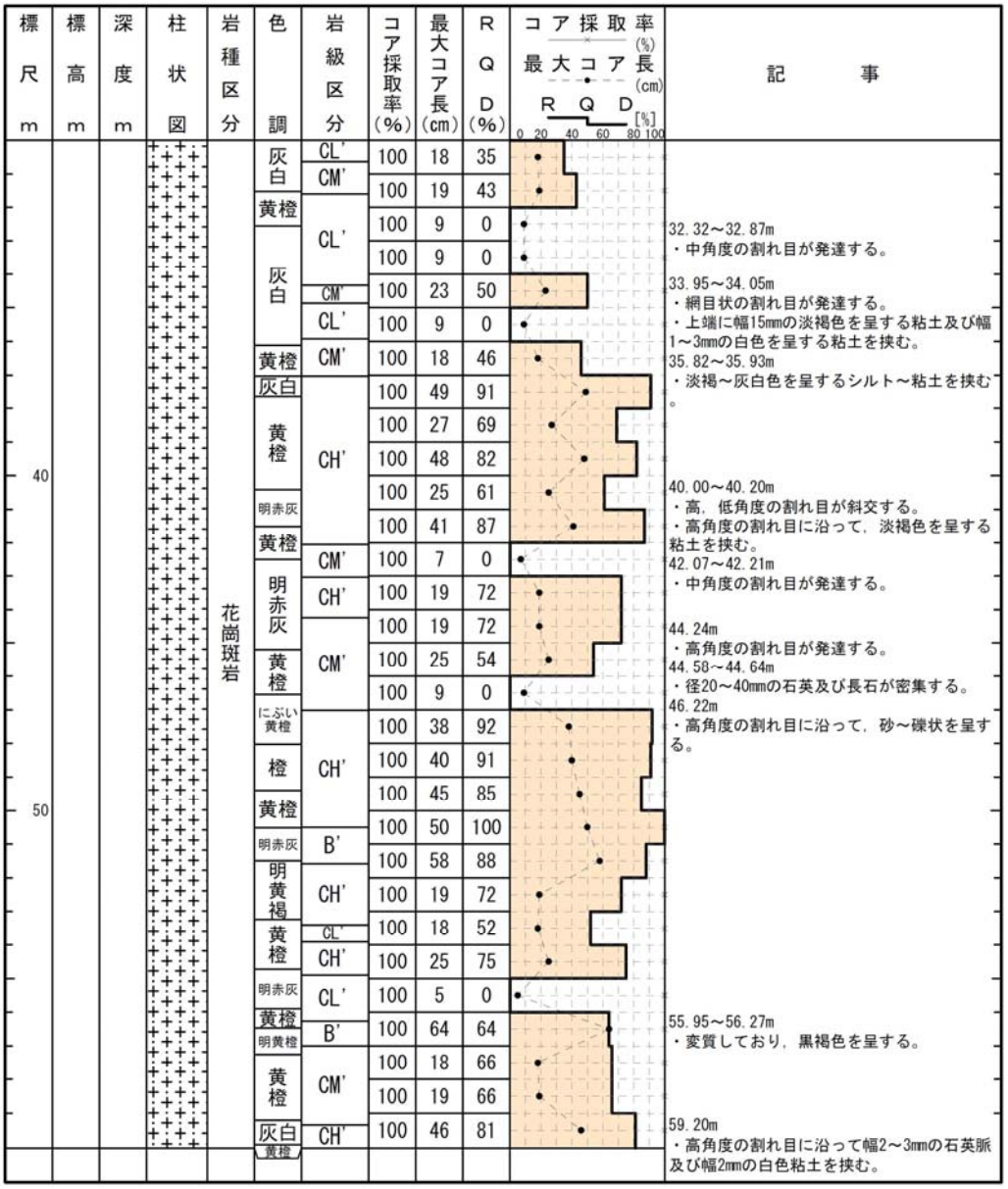
H27-Br-2

孔口標高	T.P. 58.29m	掘削長	80.00m



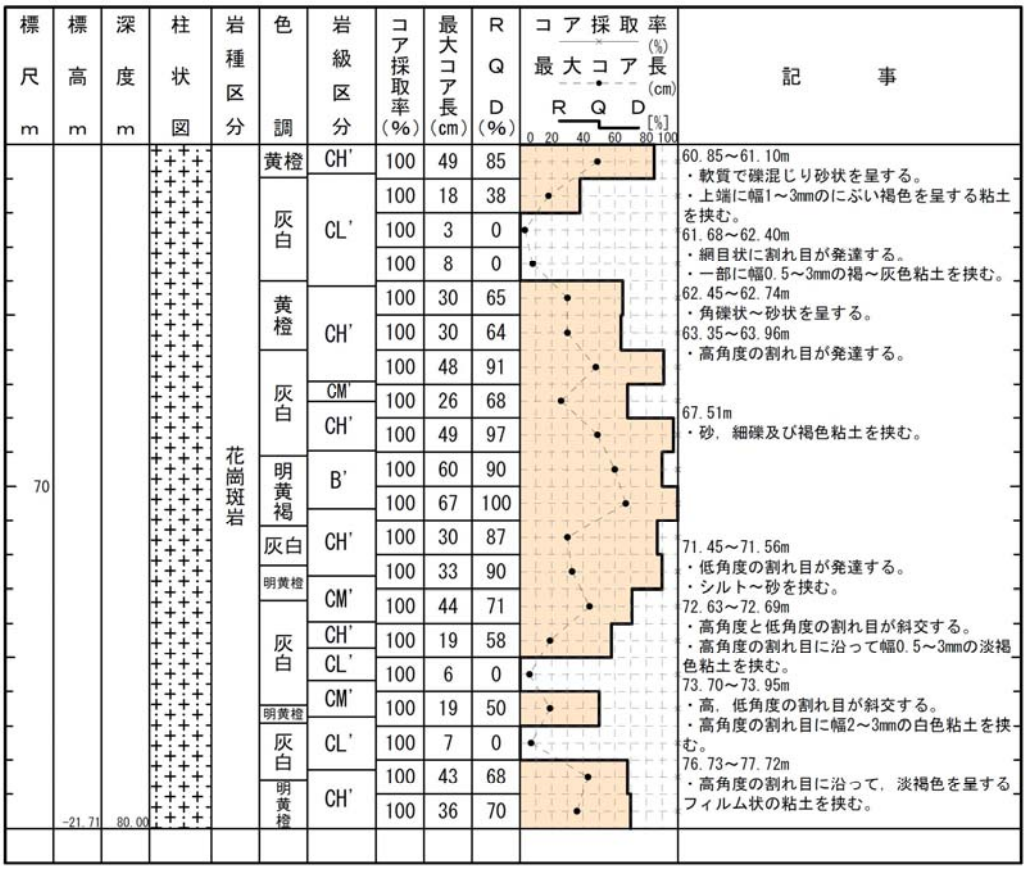
H27－Br－2

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－2

柱状図(60.00m～80.00m)

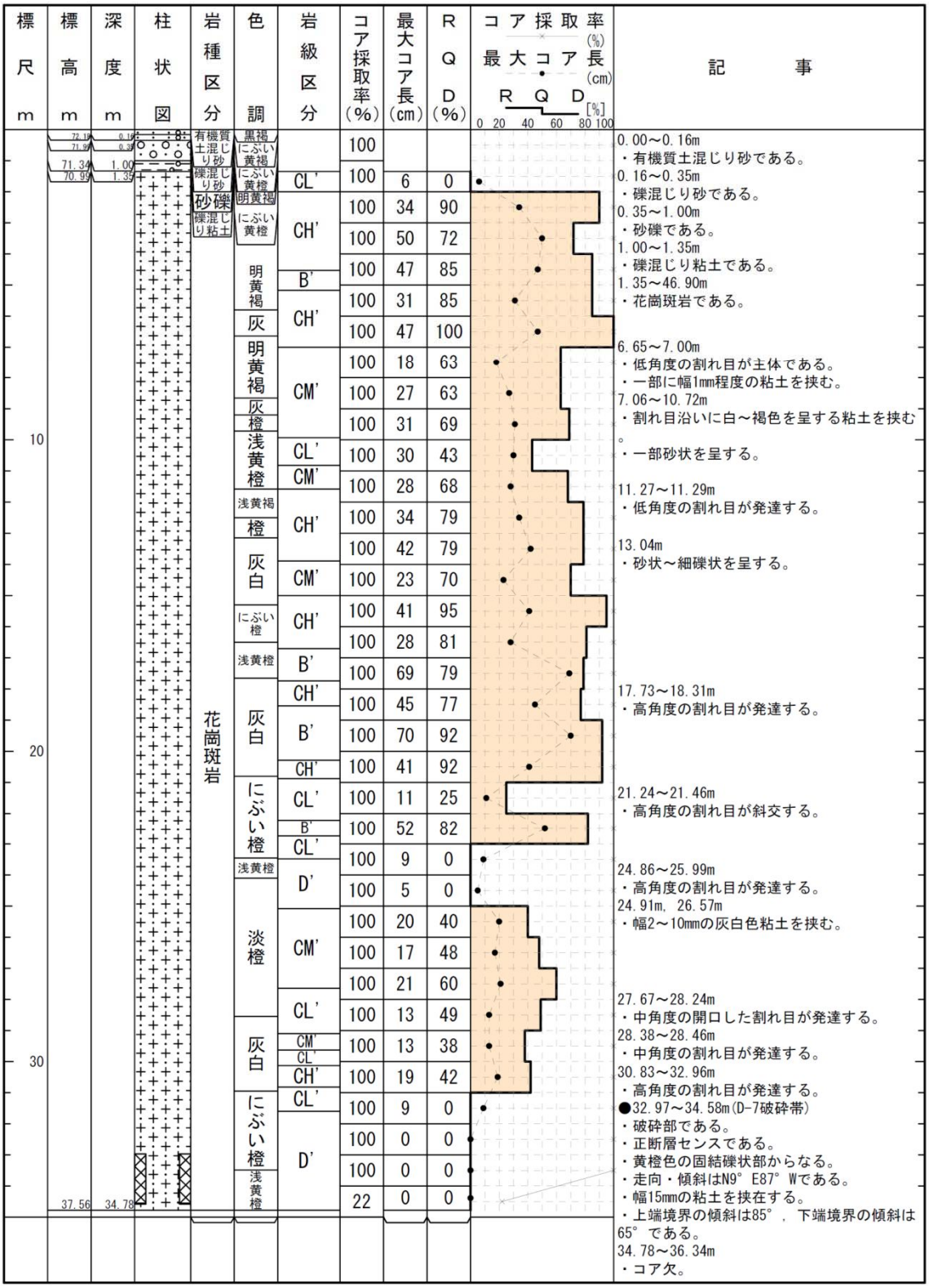


H27－Br－8

柱状図(0.00m～35.00m)

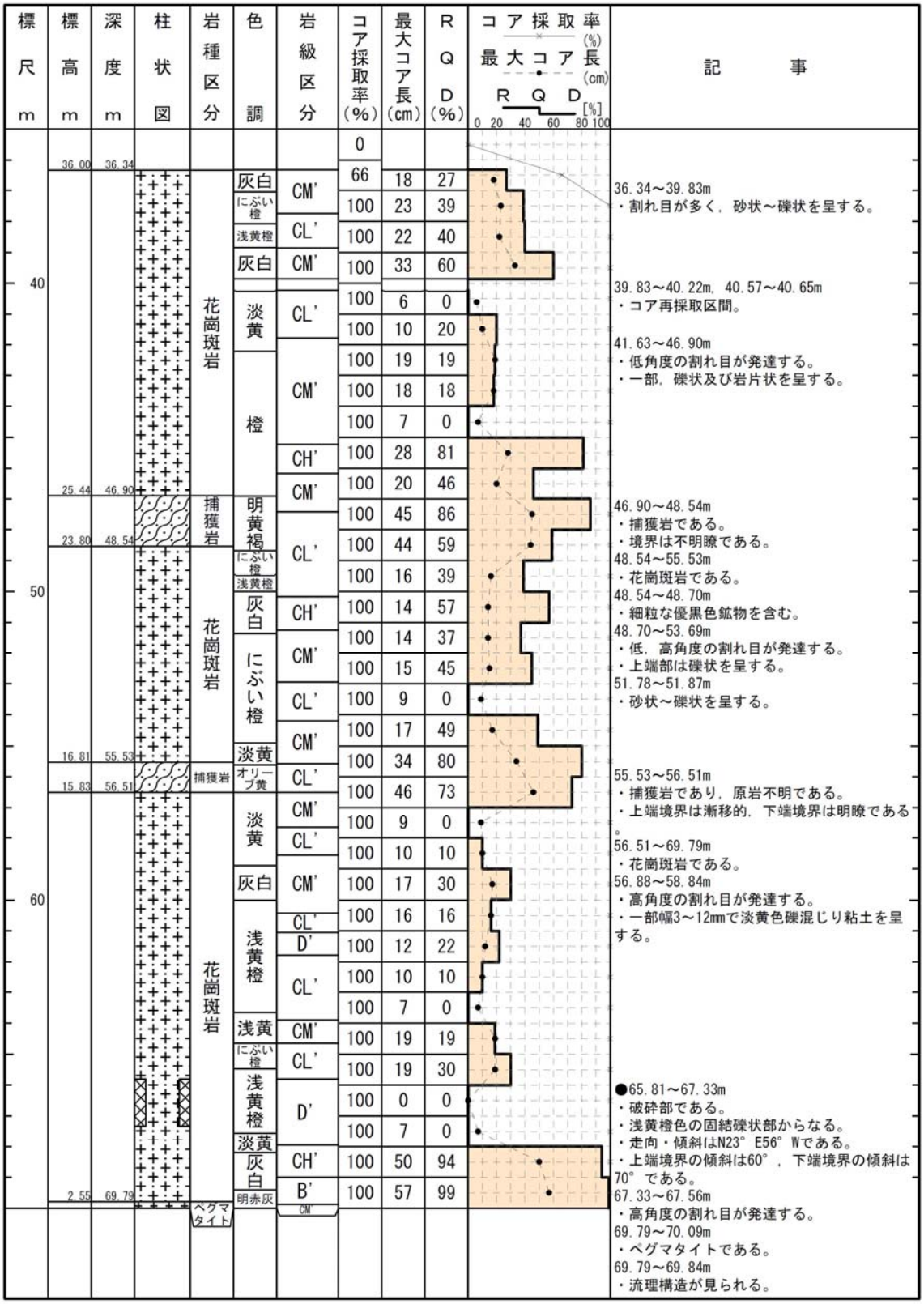
H27-Br-8

孔口標高	T.P. 72.34m	掘削長	100.00m



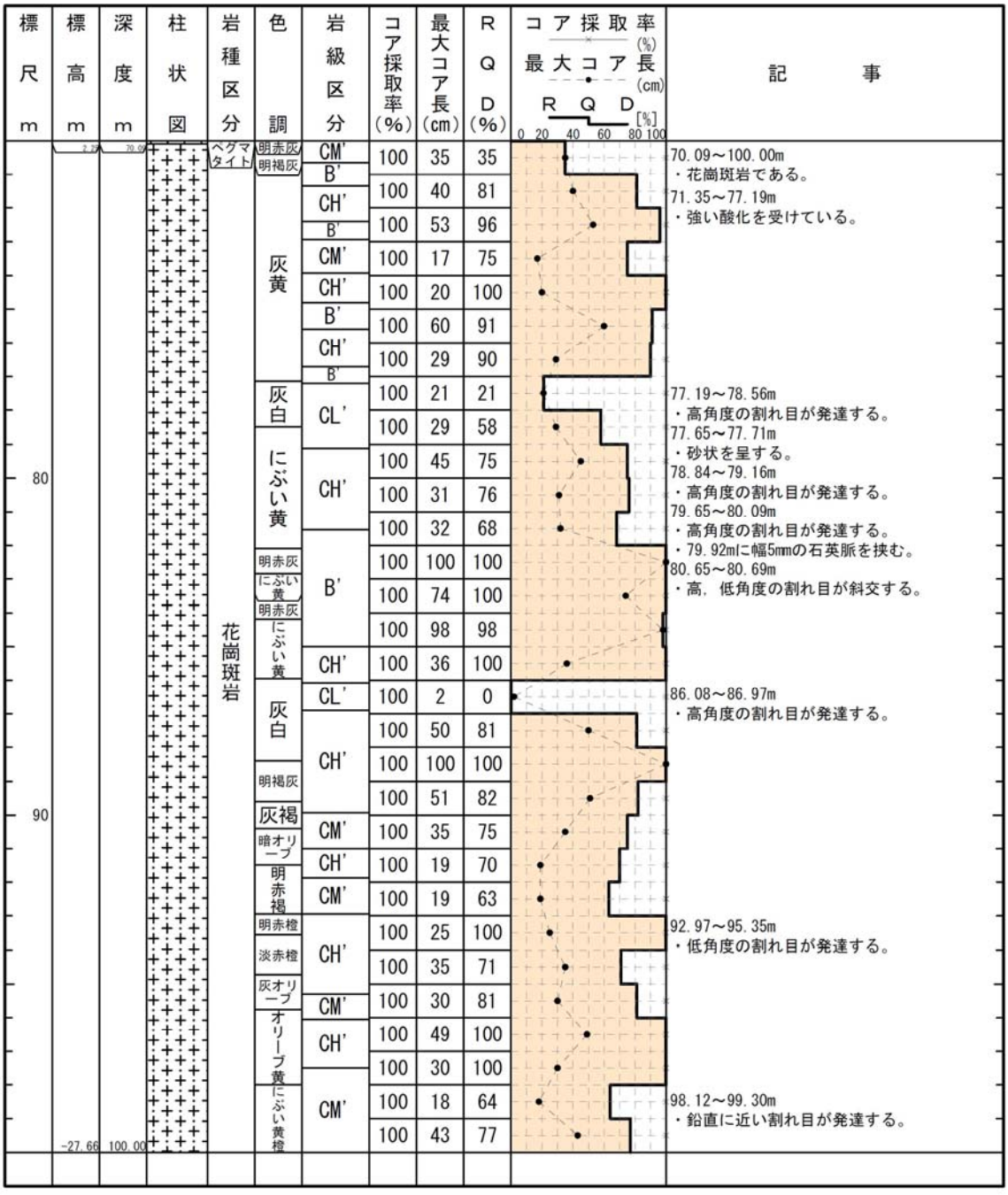
H27－Br－8

柱状図(35.00m～70.00m)



H27－Br－8

柱状図(70.00m～100.00m)

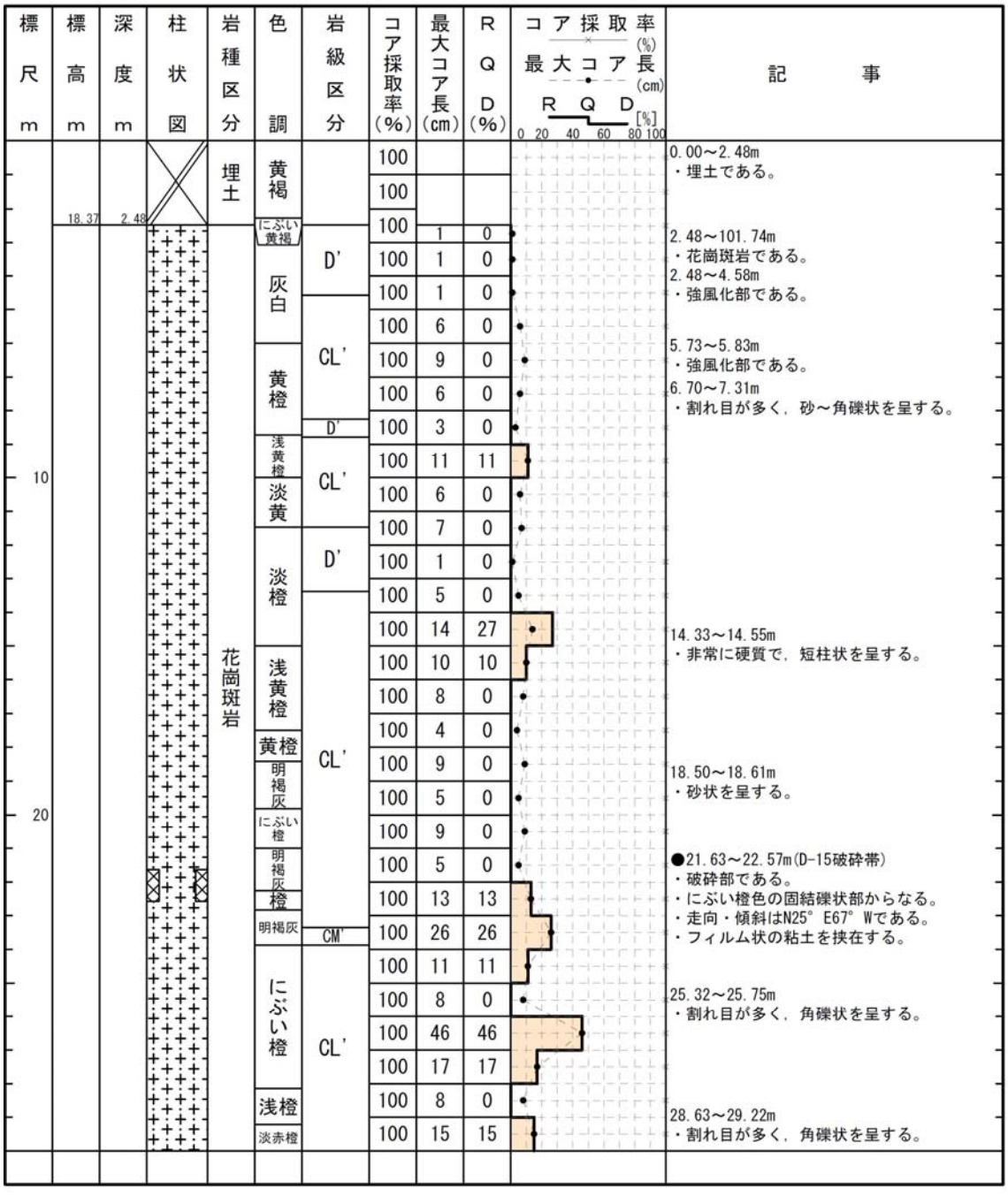


H24－B14－1

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B14-1

孔口標高	T.P. 20.12m	掘削長	150.00m

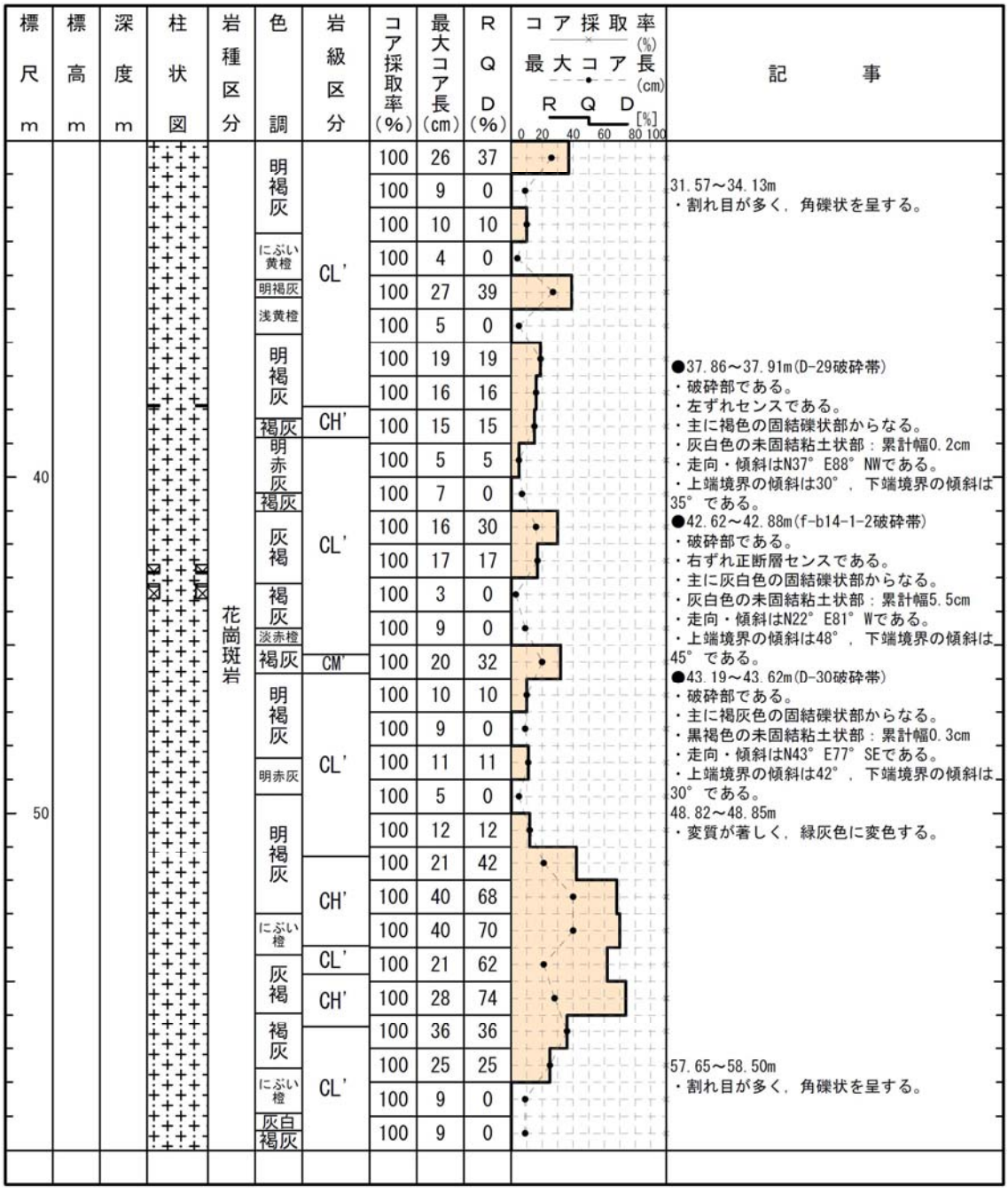


標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
	18.37	2.48	埋土	黄褐		100		
						100		
				にぶい黄褐		100	1	0
			花崗斑岩	灰白	D'	100	1	0
						100	1	0
					CL'	100	6	0
				黄橙		100	9	0
						100	6	0
					D'	100	3	0
				浅黄橙	CL'	100	11	11
10				淡黄		100	6	0
						100	7	0
				淡橙	D'	100	1	0
						100	5	0
					CL'	100	14	27
				浅黄橙		100	10	10
						100	8	0
						100	4	0
				黄橙		100	9	0
				明褐灰		100	5	0
20				にぶい橙		100	9	0
				明褐灰		100	5	0
				橙		100	13	13
				明褐灰	CM'	100	26	26
					CL'	100	11	11
				にぶい橙		100	8	0
						100	46	46
						100	17	17
				浅橙		100	8	0
				淡赤橙		100	15	15

記事
0.00～2.48m ・埋土である。
2.48～101.74m ・花崗斑岩である。 2.48～4.58m ・強風化部である。
5.73～5.83m ・強風化部である。 6.70～7.31m ・割れ目が多く，砂～角礫状を呈する。
14.33～14.55m ・非常に硬質で，短柱状を呈する。
18.50～18.61m ・砂状を呈する。
●21.63～22.57m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E67° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。
25.32～25.75m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
28.63～29.22m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。

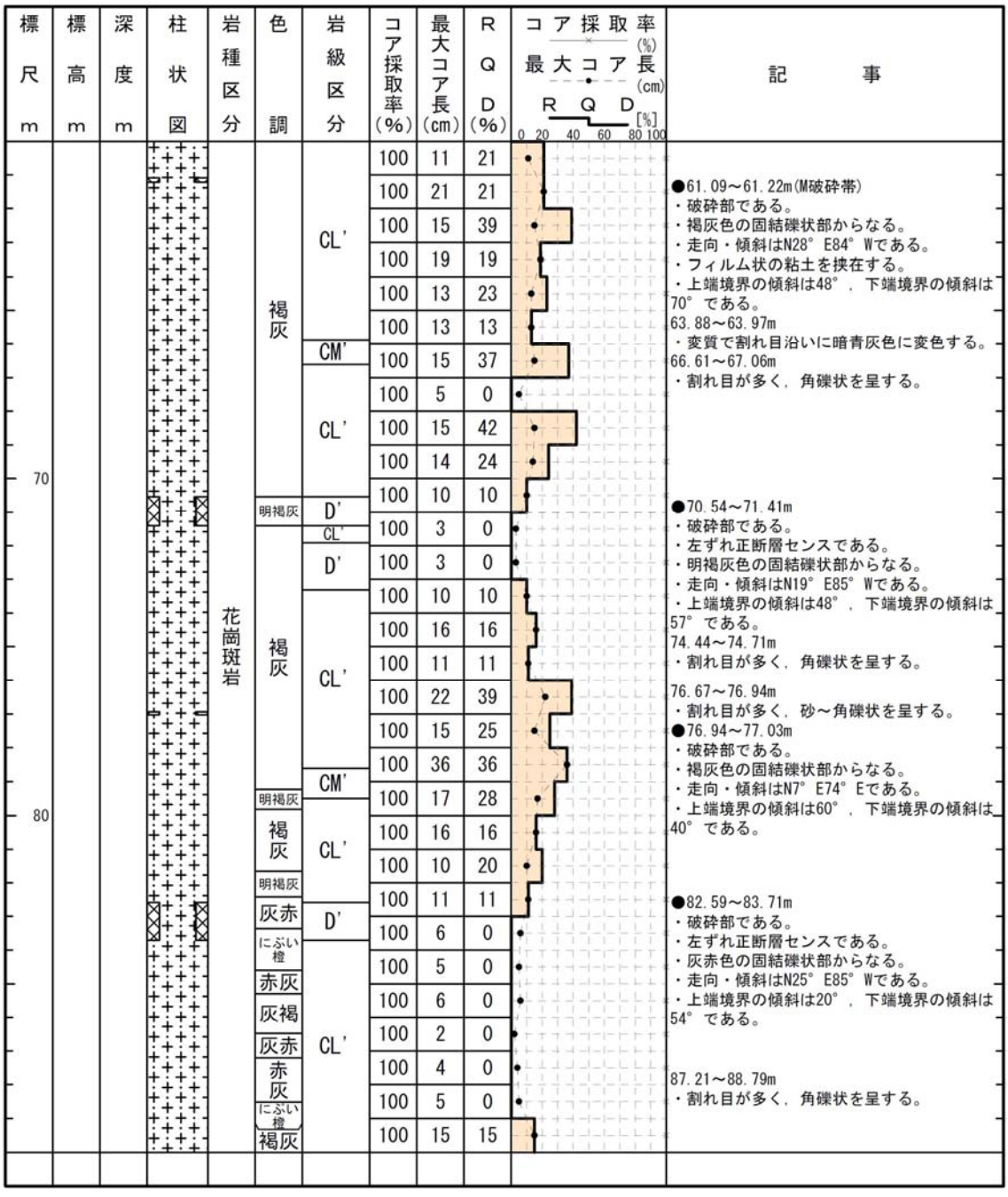
H24－B14－1

柱状図(30.00m～60.00m)



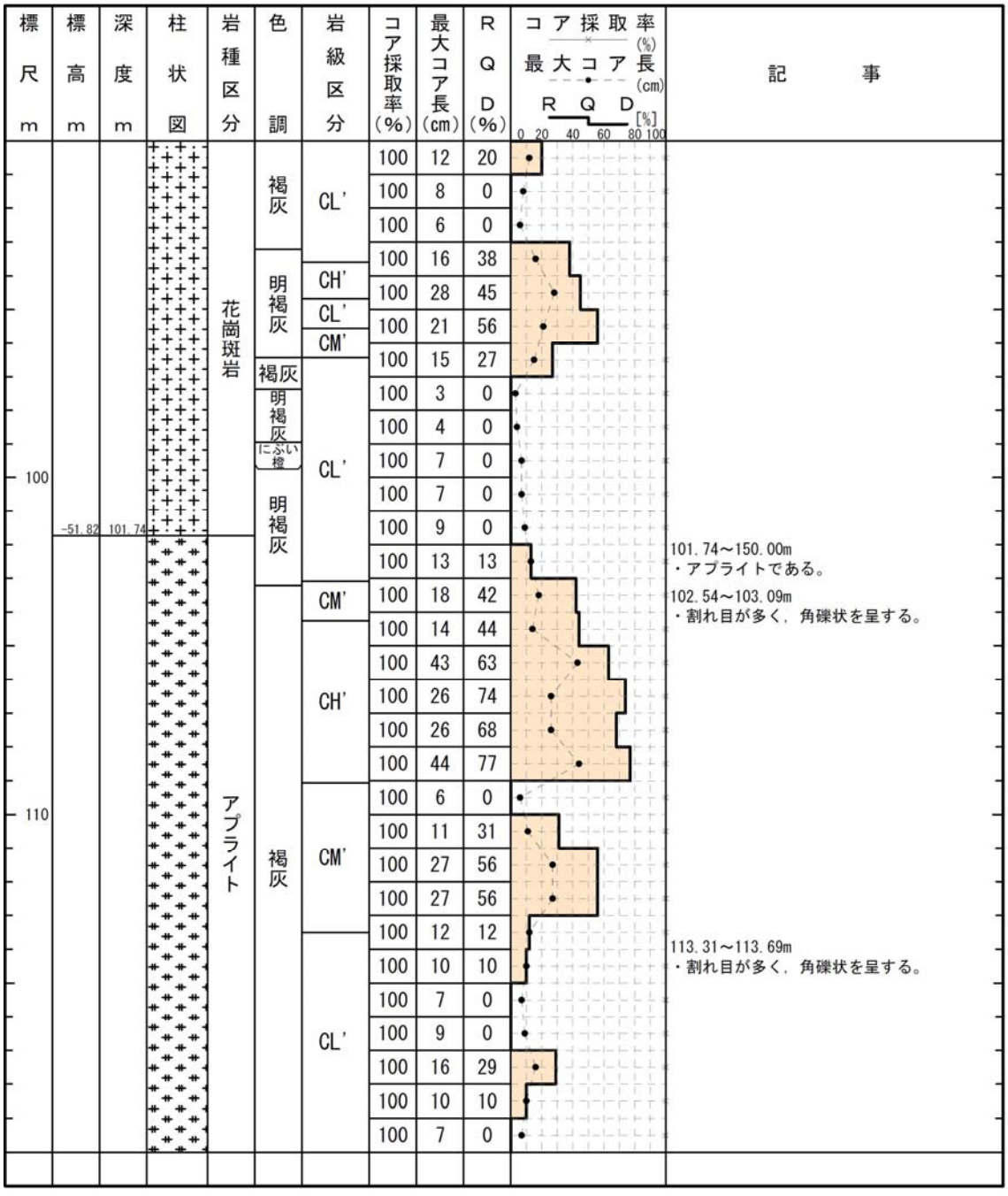
H24－B14－1

柱状図(60.00m～90.00m)



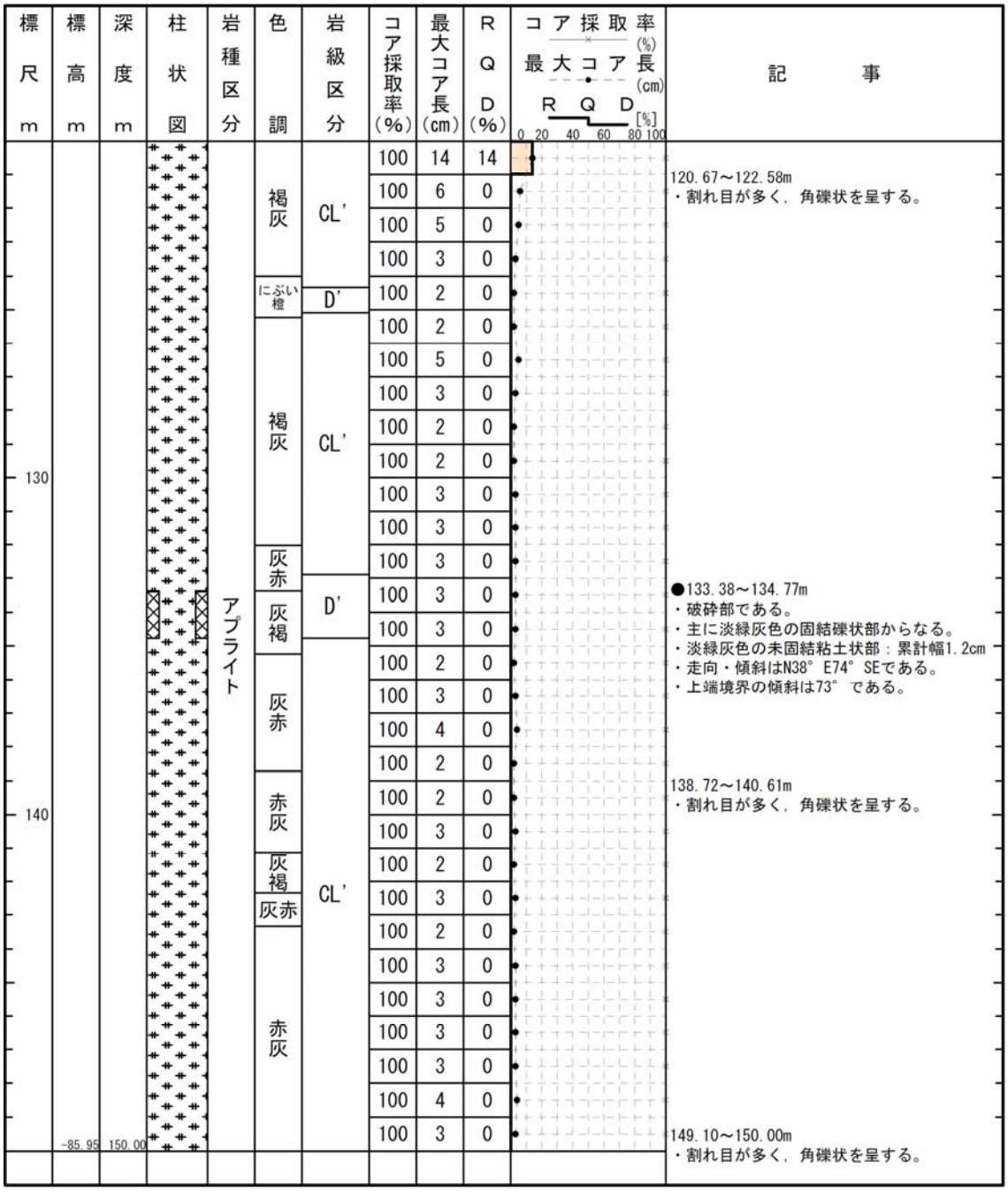
H24－B14－1

柱状図(90.00m～120.00m)



H24－B14－1

柱状図(120.00m～150.00m)

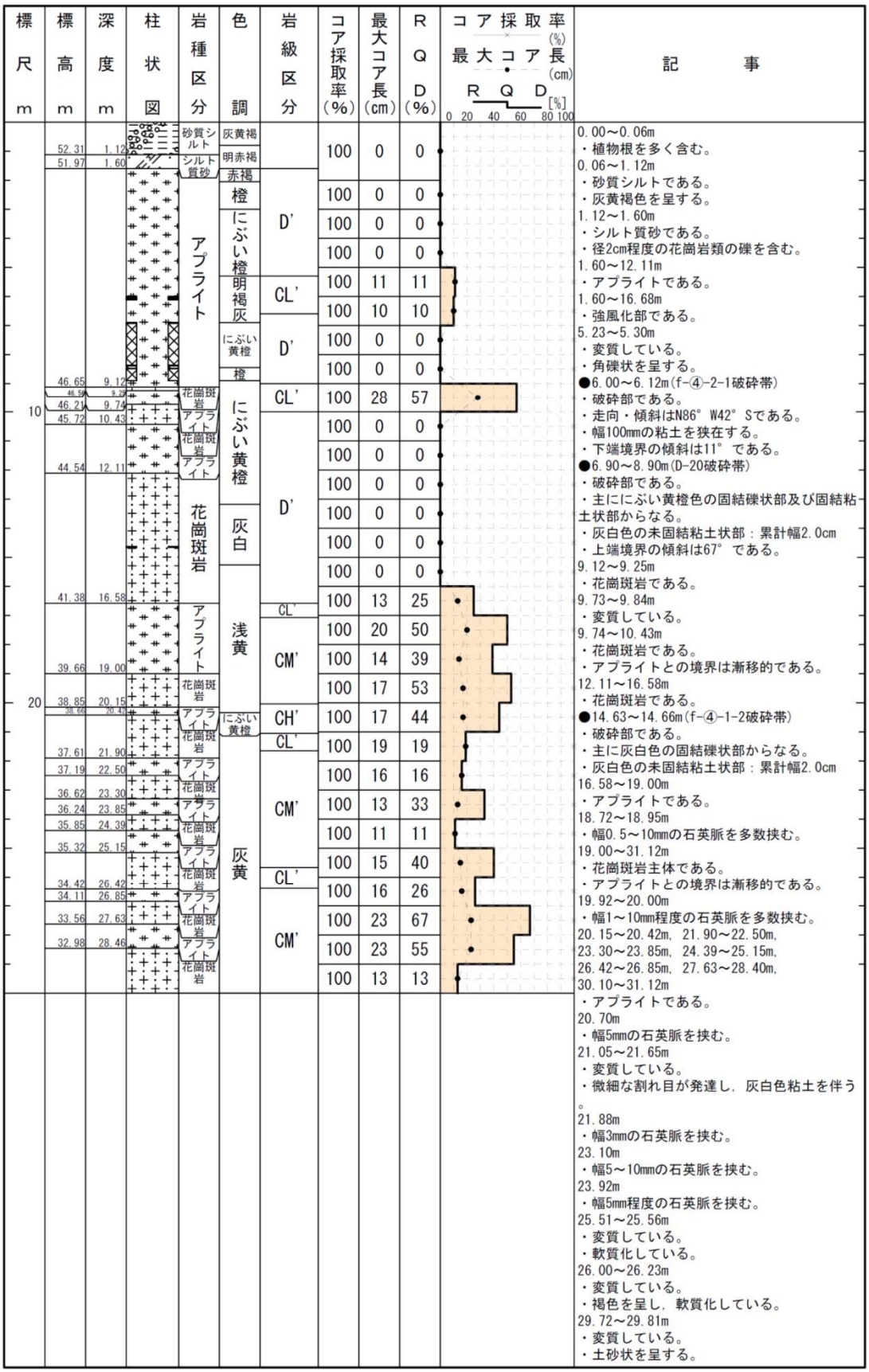


H20－④－2

柱状図(0.00m～30.00m)

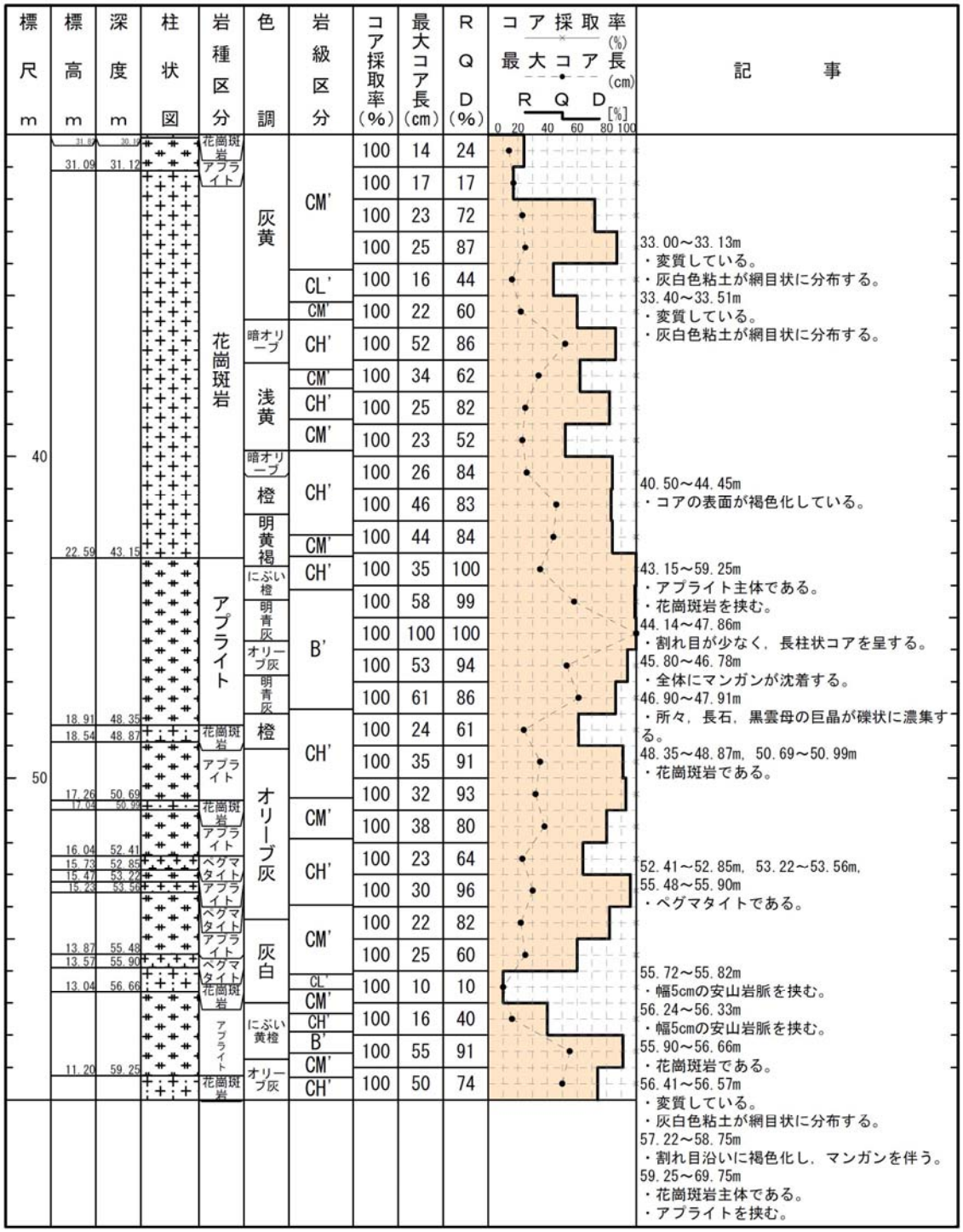
H20-④-2

孔口標高	T.P. 53.10m	掘削長	100.00m



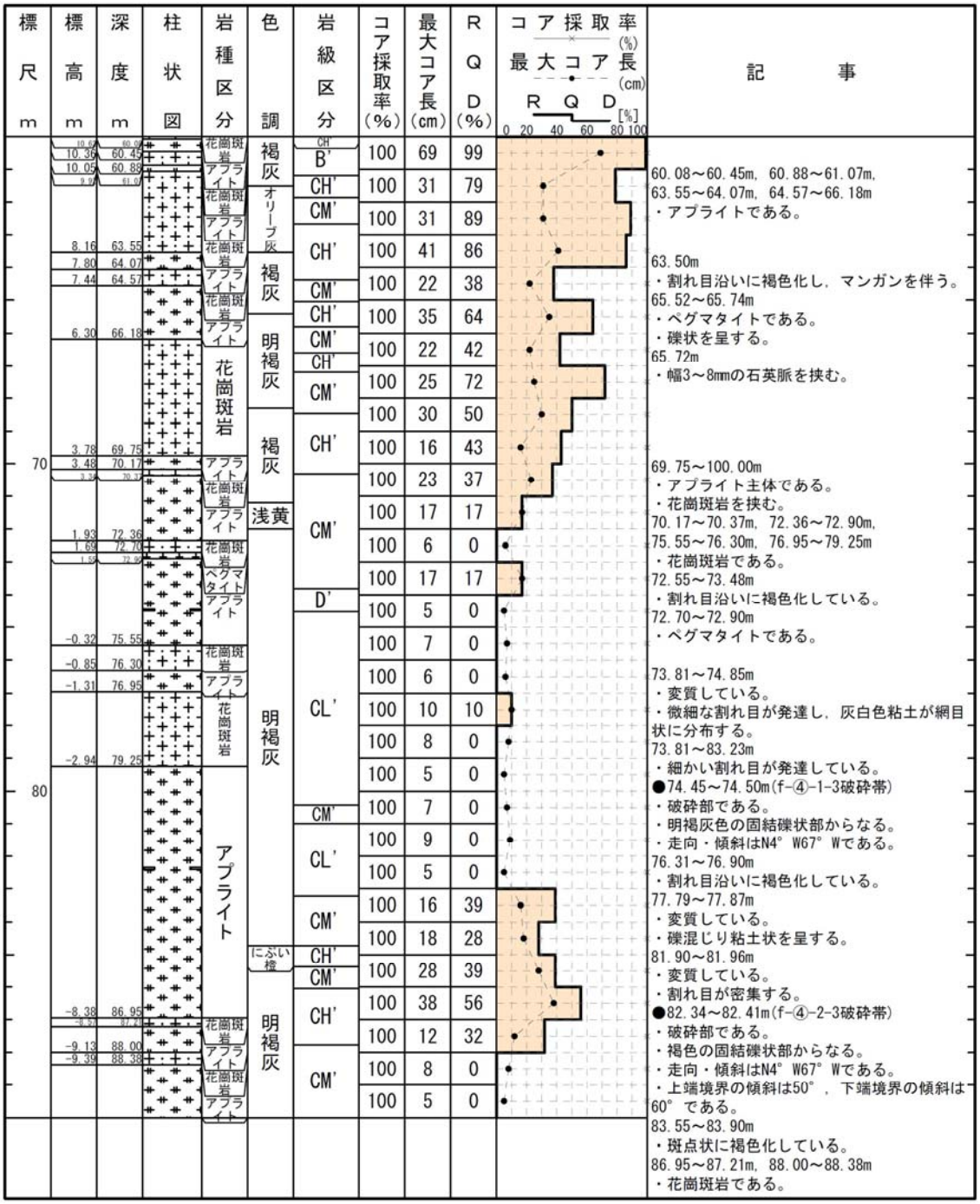
H20－④－2

柱状図(30.00m～60.00m)



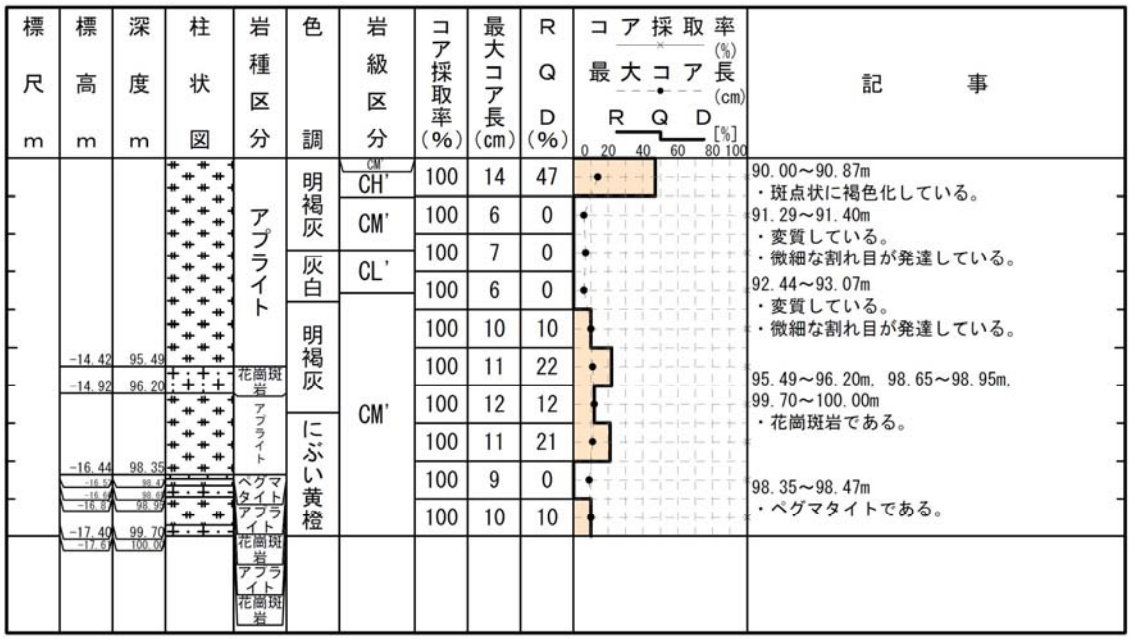
H20－④－2

柱状図(60.00m～90.00m)



H20－④－2

柱状図(90.00m～100.00m)

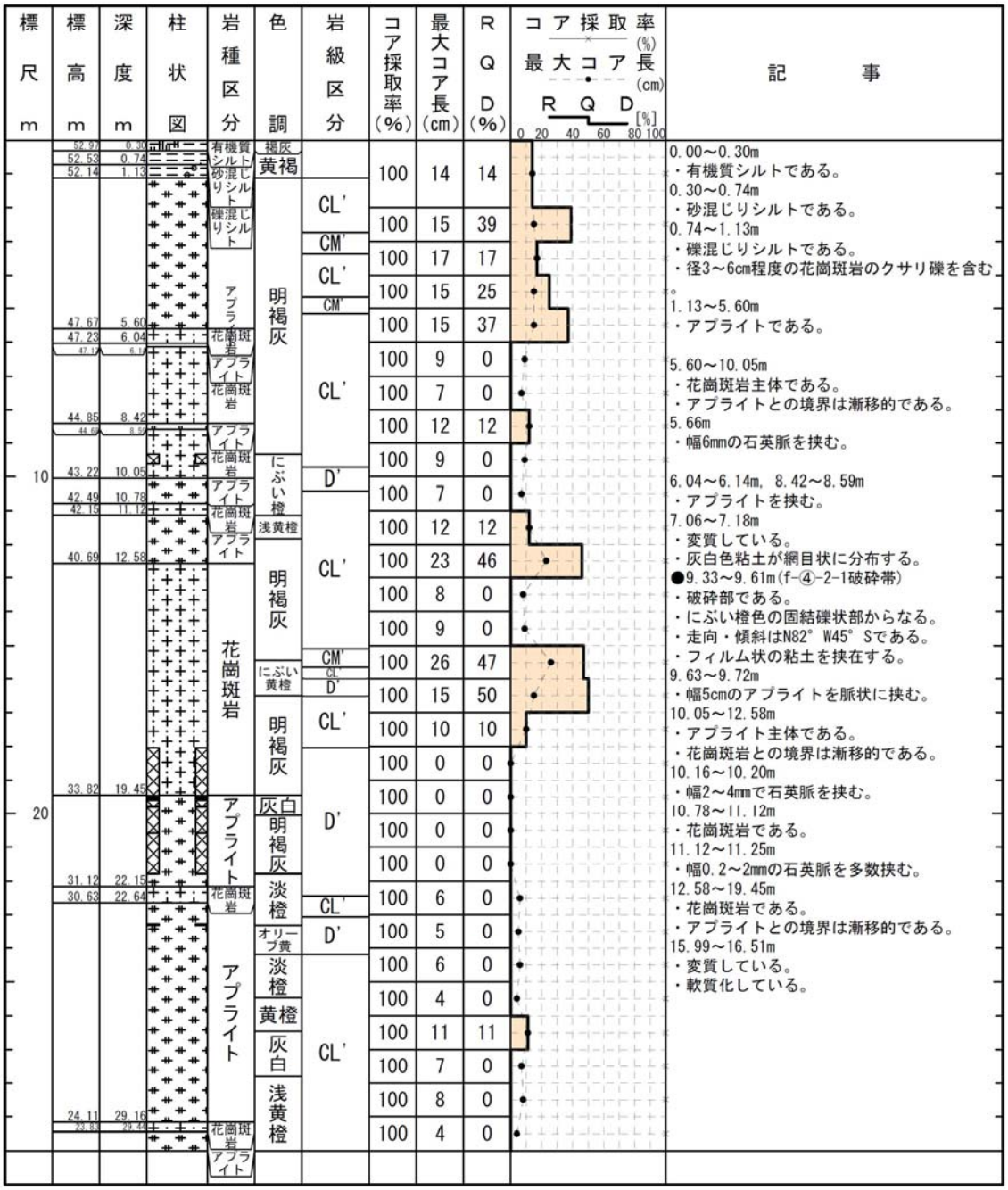


H20－④－1

柱状図(0.00m～30.00m)　1/2

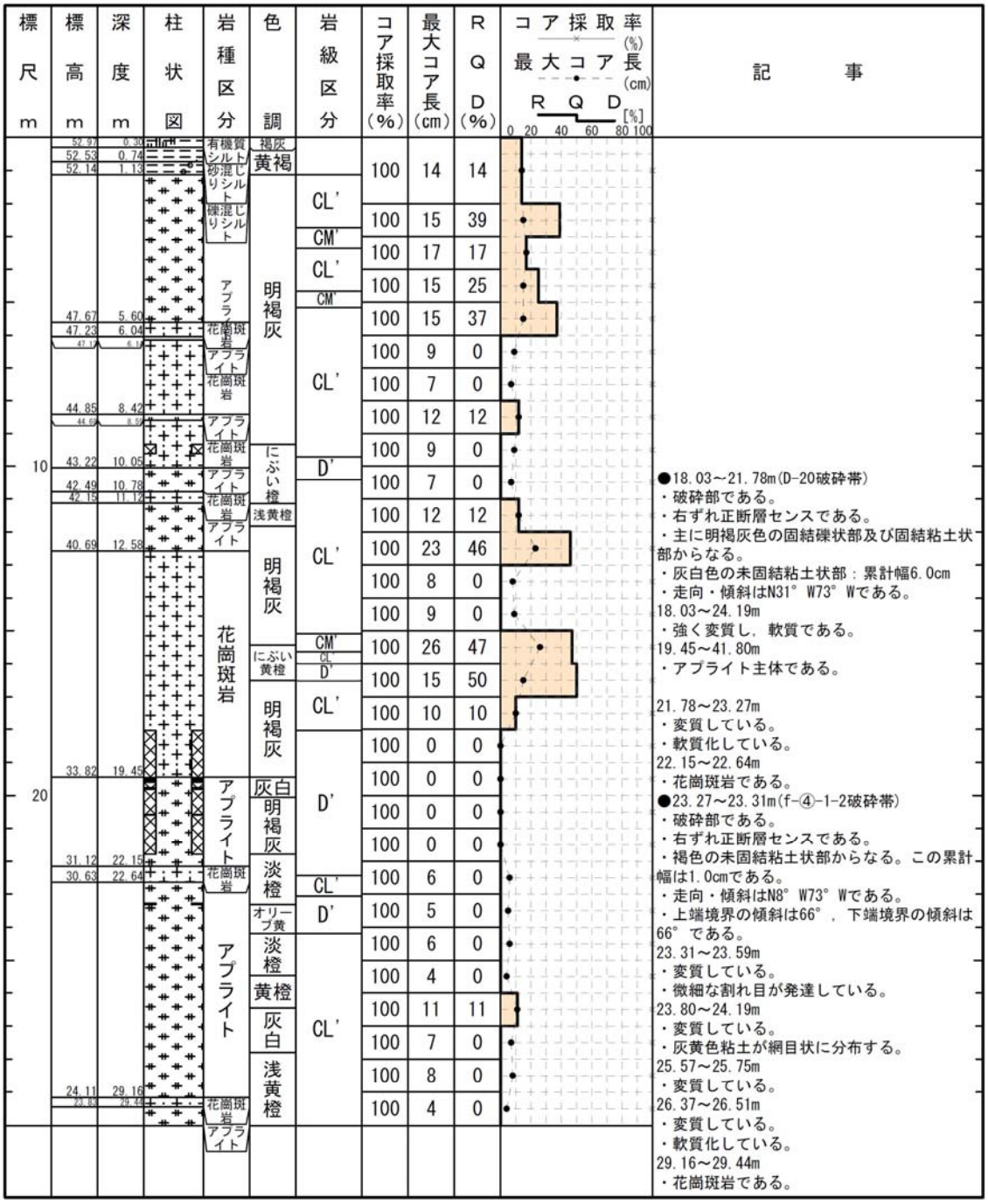
H20-④-1

孔口標高	T.P.　53.27m	掘削長	80.00m



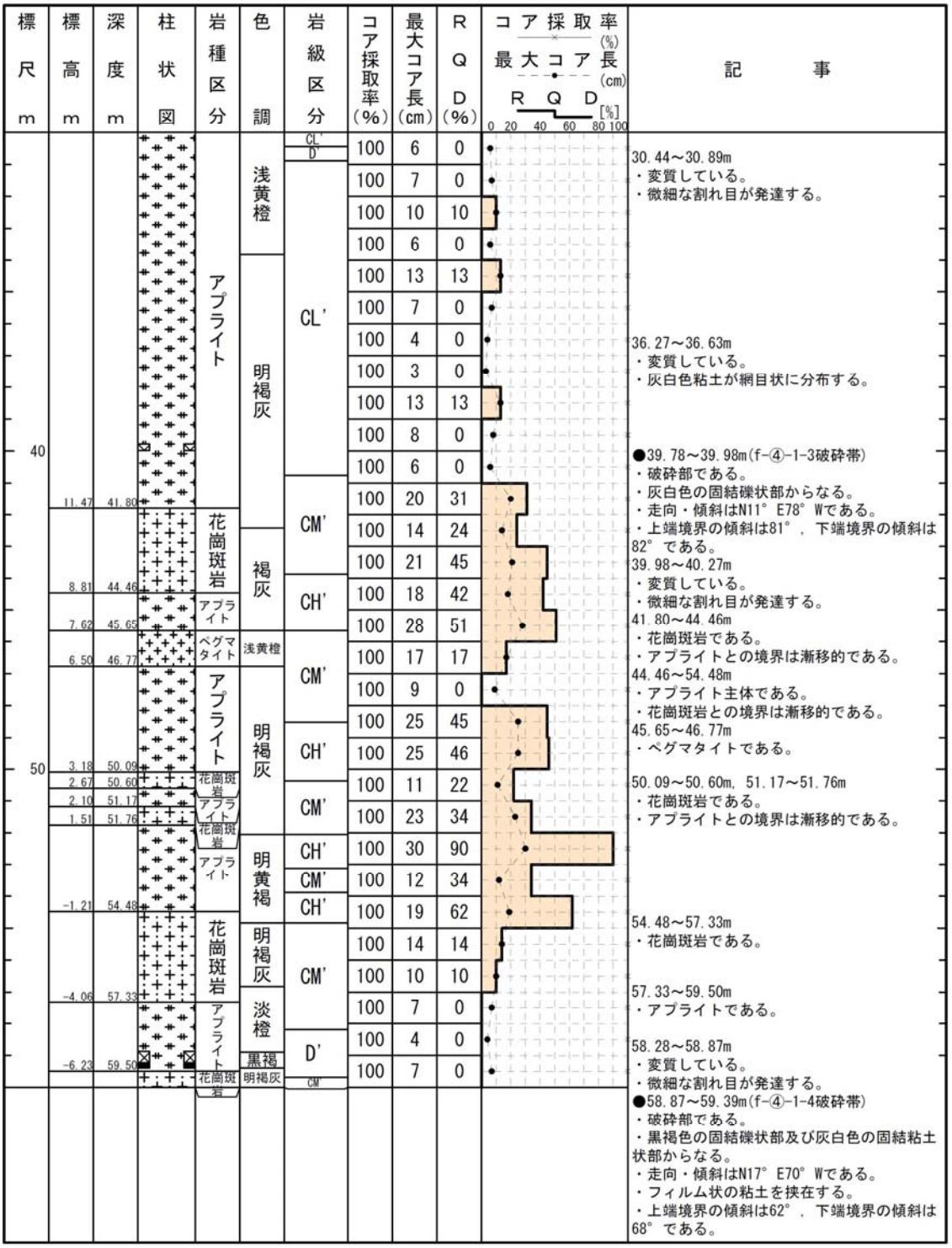
H20－④－1

柱状図(0.00m～30.00m)　2/2



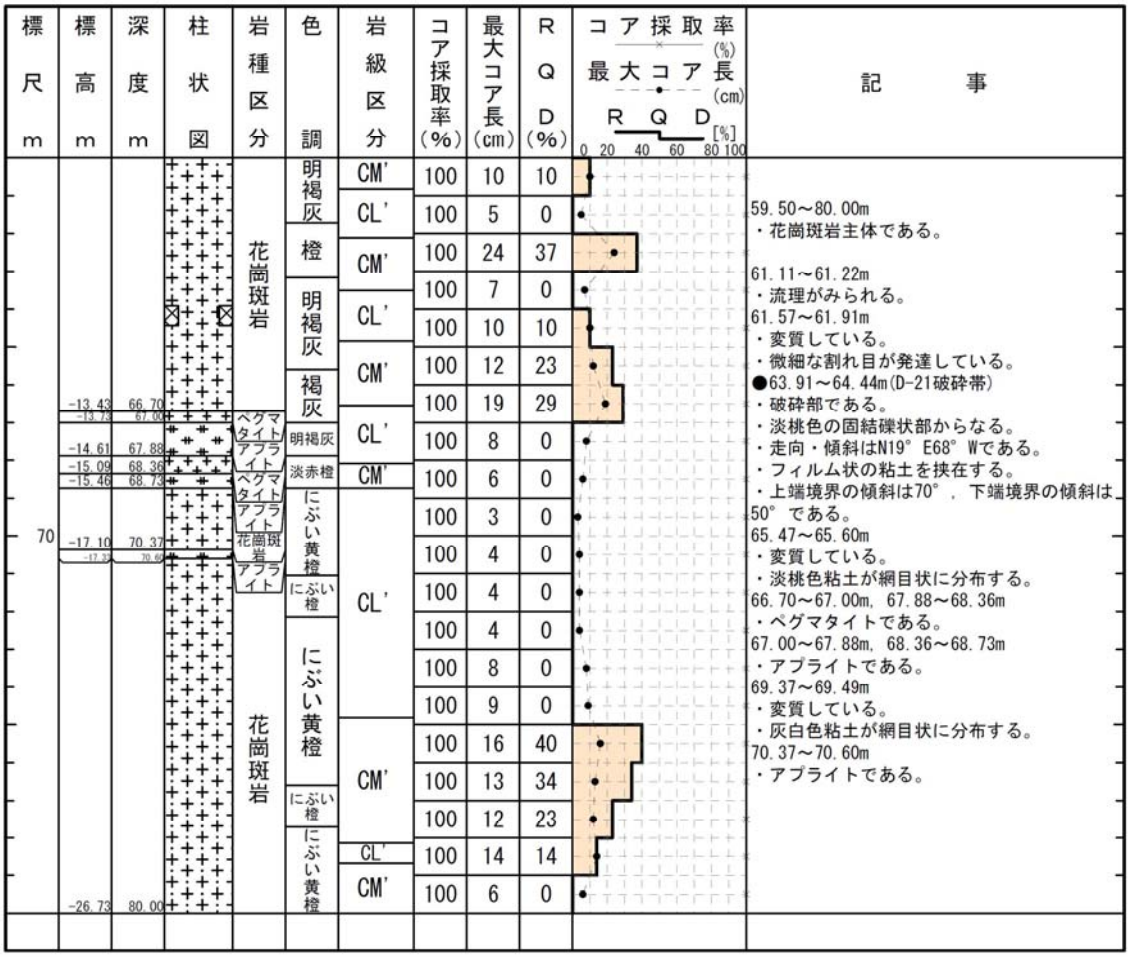
H20－④－1

柱状図(30.00m～60.00m)



H20－④－1

柱状図(60.00m～80.00m)

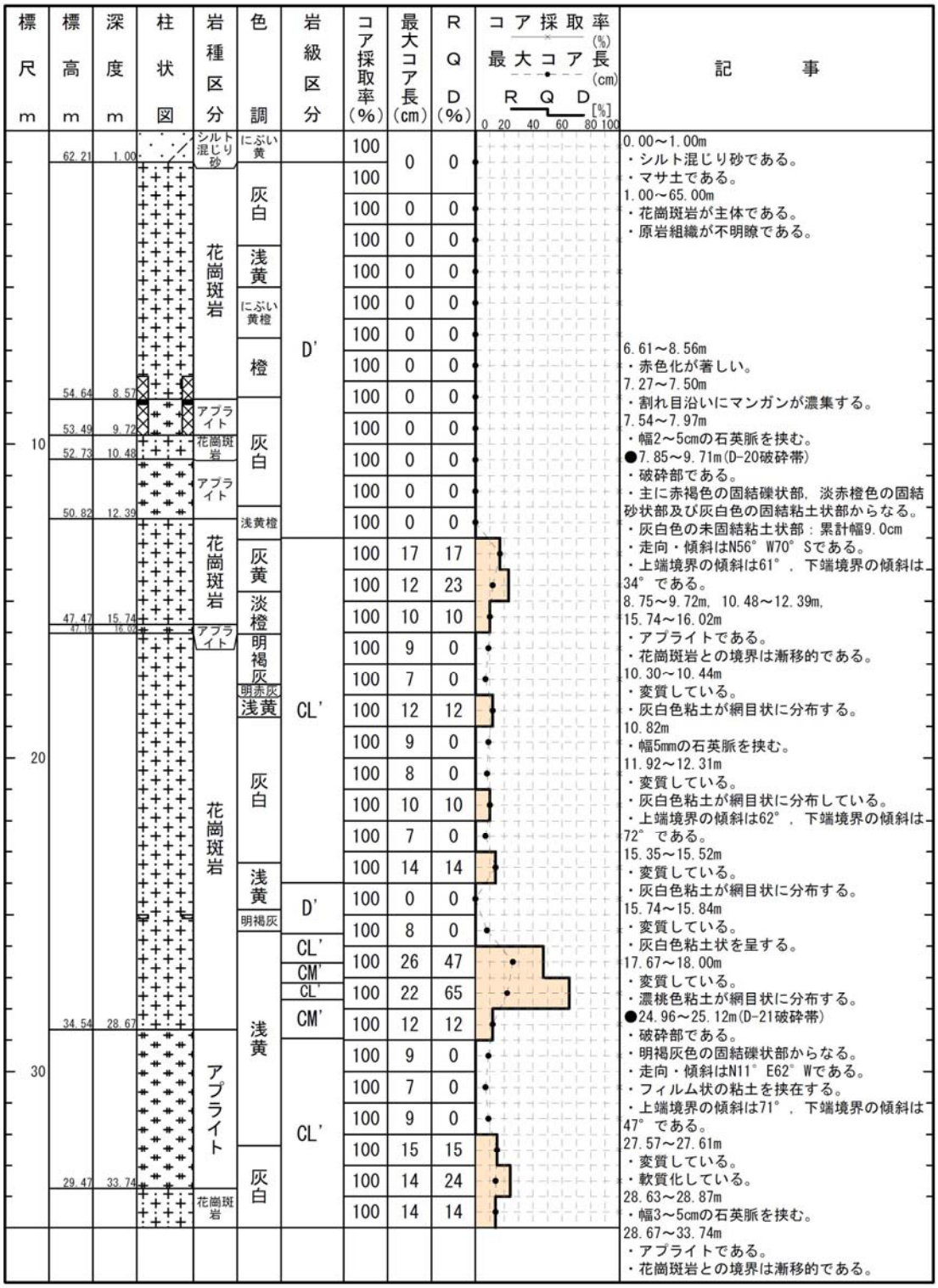


H20－④－5

柱状図(0.00m～35.00m)

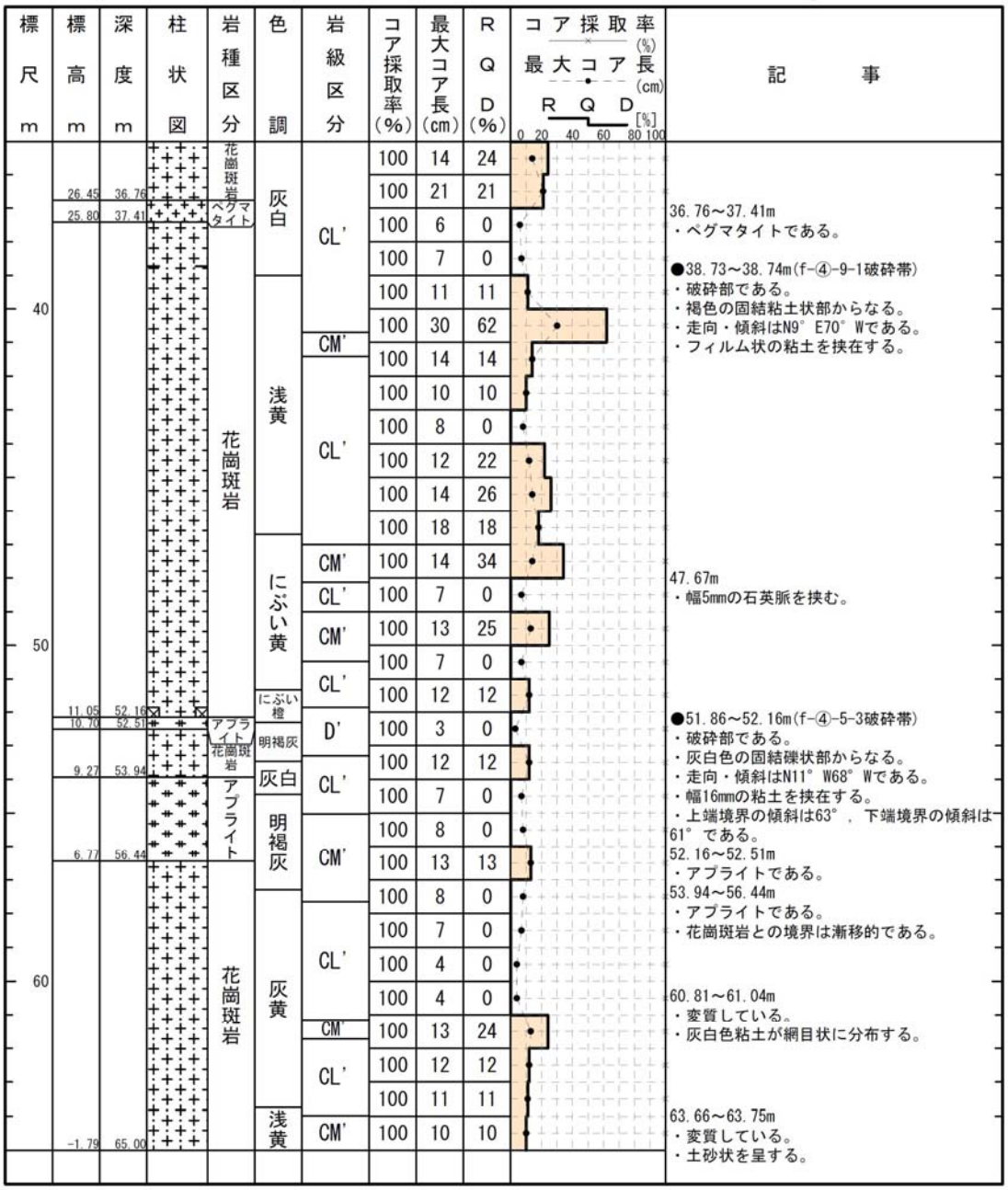
H20-④-5

孔口標高	T.P. 63.21m	掘削長	65.00m



H20－④－5

柱状図(35.00m～65.00m)



H19－No. 7

柱状図(0.00m～35.00m)

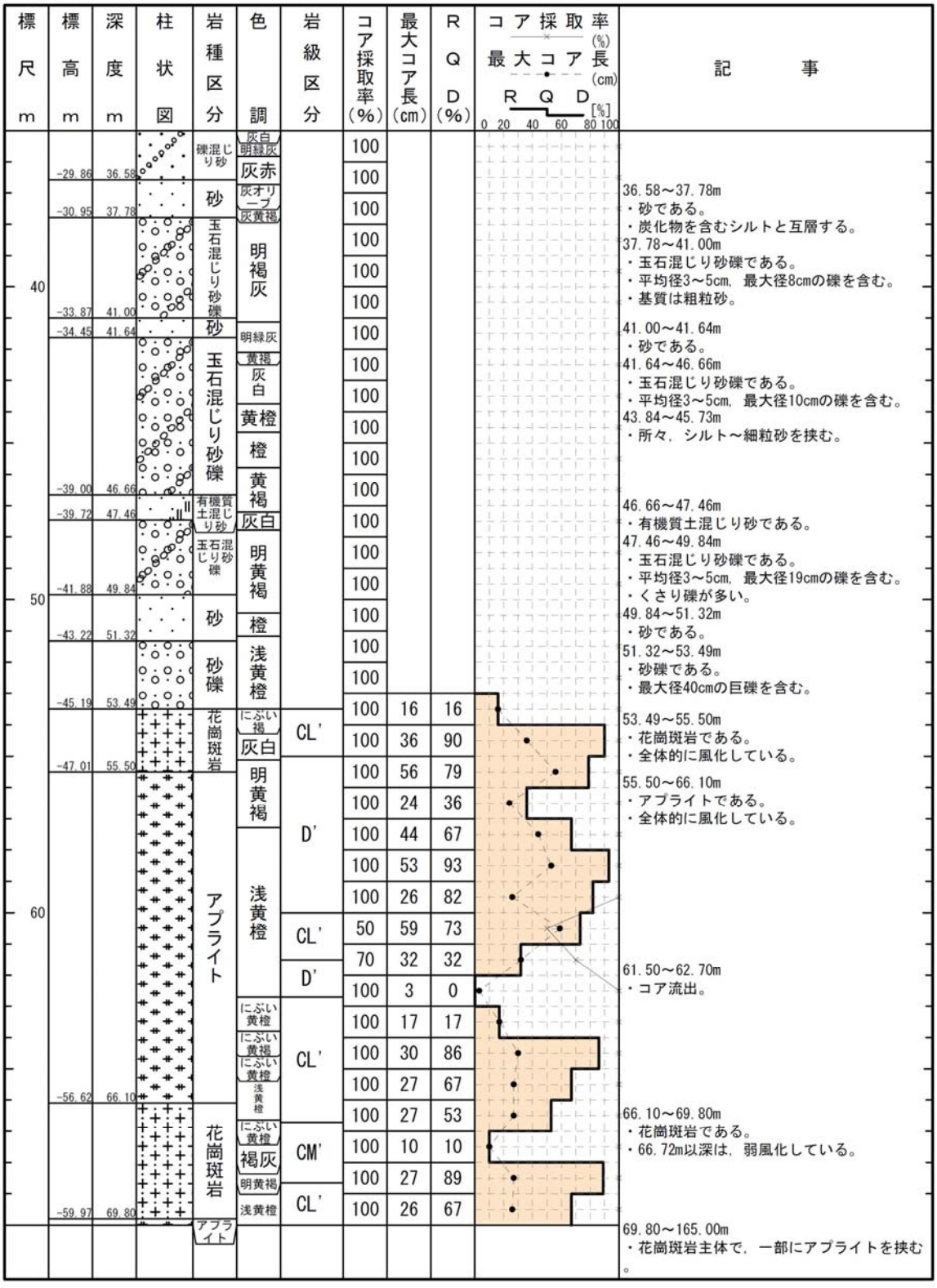
H19-No. 7

孔口標高	T.P. 3.29m	掘削長	165.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	にぶい黄橙		100				0.00～2.74m ・埋土である。 ・花崗岩片，まさ等を含む。
					明黄褐		100				
					にぶい黄橙		100				
	0.81	2.74			明黄褐		100				
	0.07	3.55		有機質土混じりシルト	黒褐		100				2.74～3.55m ・有機質土混じりシルトである。 ・植物片や木片を含む。
	-0.43	4.10		有機質土	褐灰		100				3.55～3.72m ・有機質土である。
	-1.36	5.13		砂質シルト	黒褐		100				3.72～4.10m ・砂質シルトである。 ・泥炭状の有機質土である。
				有機質土	灰黄褐		100				4.10～4.31m ・有機質土である。
				砂混じり有機質土	褐灰		100				4.31～4.52m ・砂混じり有機質土である。
				有機質土混じり粗砂			100				4.52～5.13m ・有機質土混じり粗砂である。
10				砂	にぶい黄橙		100				5.13～12.86m ・砂である。
							100				
					橙		100				
	-8.37	12.86			にぶい黄橙		100				
	-9.26	13.85		有機質土混じり砂	灰色		100				12.86～13.85m ・有機質土混じり砂である。
				砂	にぶい黄橙		100				13.85～16.92m ・砂である。 ・粗粒砂。 ・所々に炭化物を挟む。
	-12.04	16.92					100				
							100				16.92～21.47m ・シルト質砂である。 ・貝殻片や木片を含む。
				シルト質砂	暗緑灰		100				18.20m ・幅0.1～0.5cmの炭化物層を挟む。
20							100				
					浅黄		100				
	-16.17	21.47					100				21.47～21.95m ・砂である。
	-16.60	21.95		砂	灰色		100				21.95～23.22m ・砂～砂質礫である。 ・礫は径5cm程度，基質はシルト質砂。
	-17.47	22.91		砂礫	灰黄		100				23.22～23.93m ・砂である。 ・炭化物を含む。
	-17.75	23.22		砂質礫			100				23.93～24.25m ・砂質シルトである。
	-18.40	23.93		砂			100				24.25～24.50m ・砂礫である。
	-18.68	24.25		砂質シルト	にぶい黄橙		100				24.50～24.60m ・砂質シルトである。
	-19.0	24.5		砂礫	灰白		100				24.60～24.90m ・砂である。
	-19.2	24.9		砂質シルト			100				24.90～26.78m ・砂礫である。 ・平均径3～5cm，最大径15cmの礫を含む。
				砂	灰黄		100				26.78～29.44m ・礫混じり砂である。 ・径3cm程度の礫を含む砂層。砂は粗粒砂。
	-20.98	26.78		砂礫			100				27.65～27.88m ・炭化物を含む砂質シルトを挟む。
				礫混じり砂			100				29.44～30.05m ・砂である。 ・炭化物を含む。
	-23.39	29.44		砂			100				30.05～32.46m ・玉石混じり砂礫である。 ・平均径3～10cm，最大径30cmの礫を含む。
30	-23.94	30.05		玉石混じり砂礫	にぶい黄橙		100				32.46～33.11m ・砂である。
							100				33.11～33.63m ・砂礫である。 ・径1～5cmの礫を含む。
	-26.13	32.46					100				33.63～36.58m ・礫混じり砂である。 ・径2～5cm程度の礫を含む砂層。 ・風化礫を多く含む。 ・基質は粗粒砂。
	-26.72	33.11		砂	明緑灰		100				
	-27.19	33.63		砂礫			100				
				礫混じり砂	灰白		100				

H19－No. 7

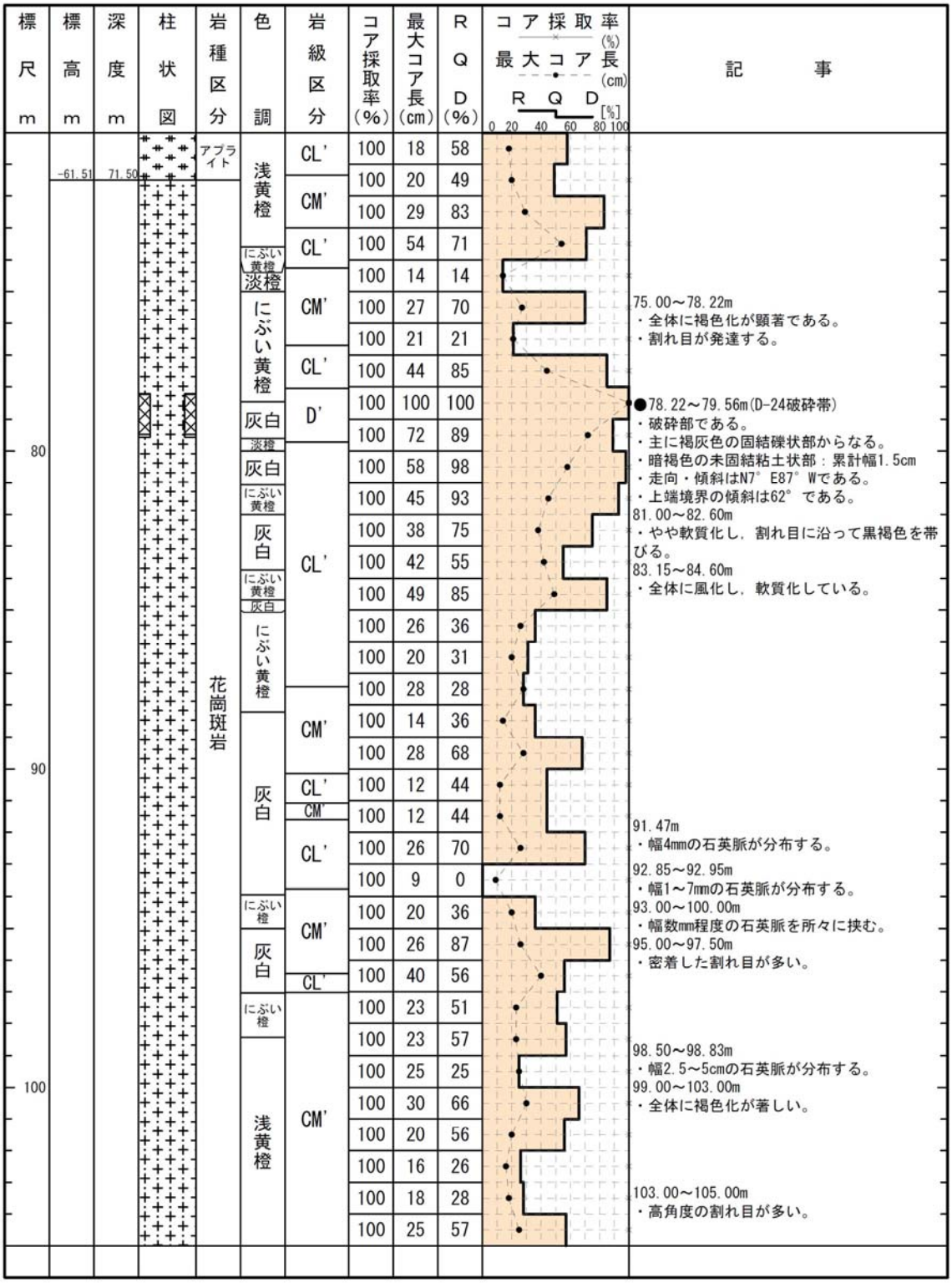
柱状図(35.00m～70.00m)



標尺 m	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
40	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
50	100		
	100		
	100		
	100		
	100		
	100	16	16
	100	36	90
	100	56	79
	100	24	36
	100	44	67
	100	53	93
	100	26	82
60	50	59	73
	70	32	32
	100	3	0
	100	17	17
	100	30	86
	100	27	67
	100	27	53
	100	10	10
	100	27	89
	100	26	67

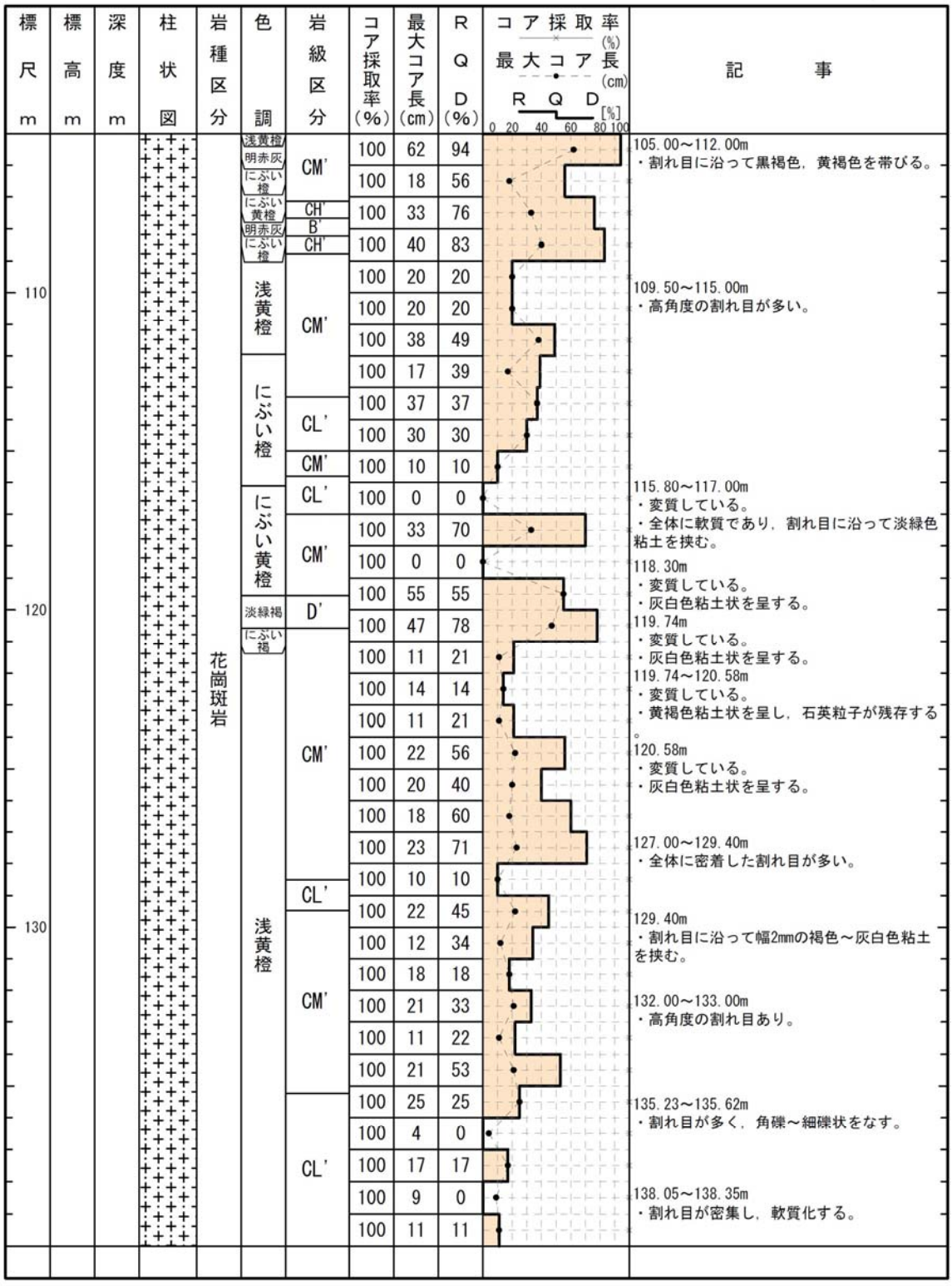
H19－No. 7

柱状図(70.00m～105.00m)



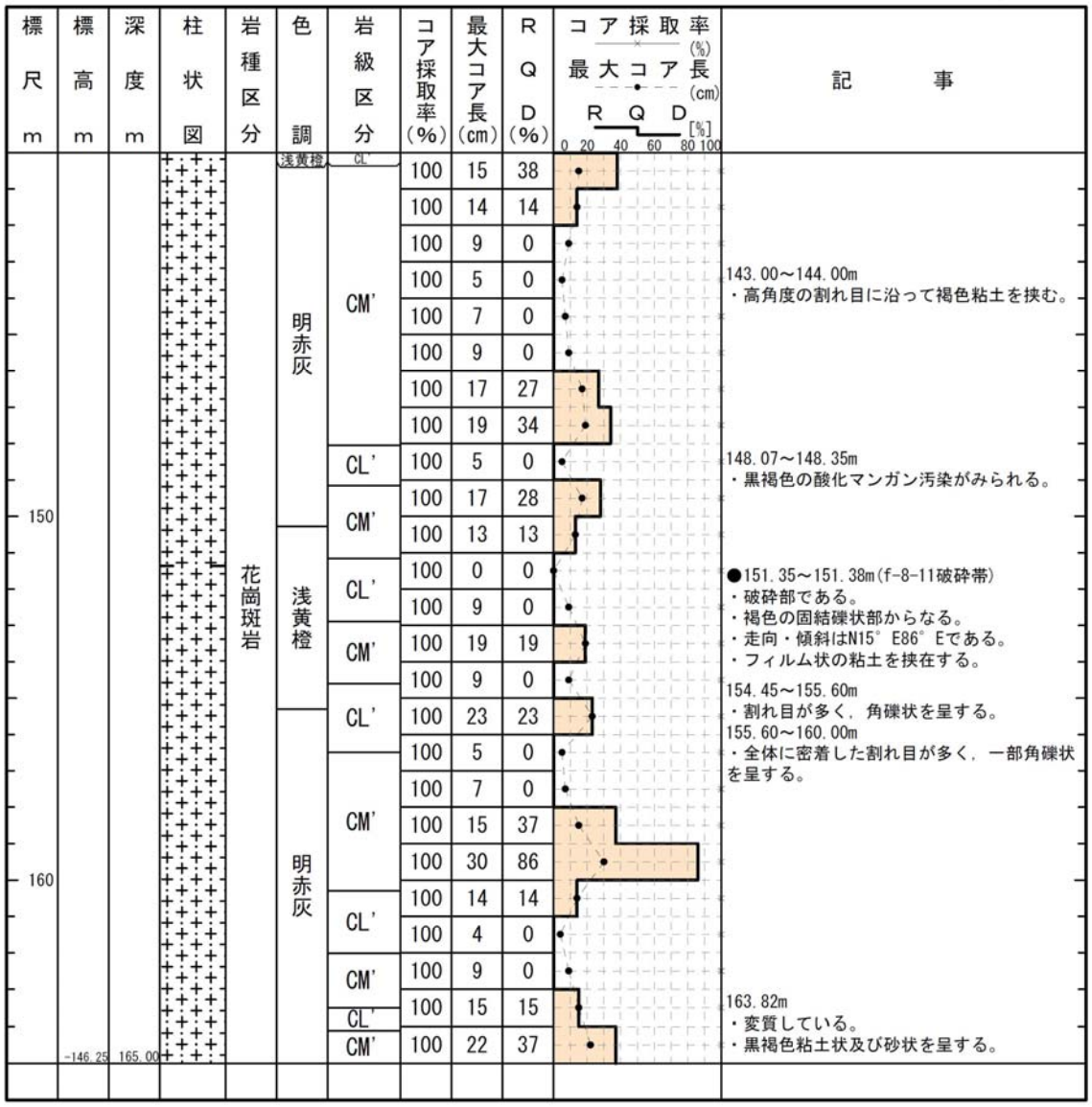
H19－No. 7

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No. 7

柱状図(140.00m～165.00m)

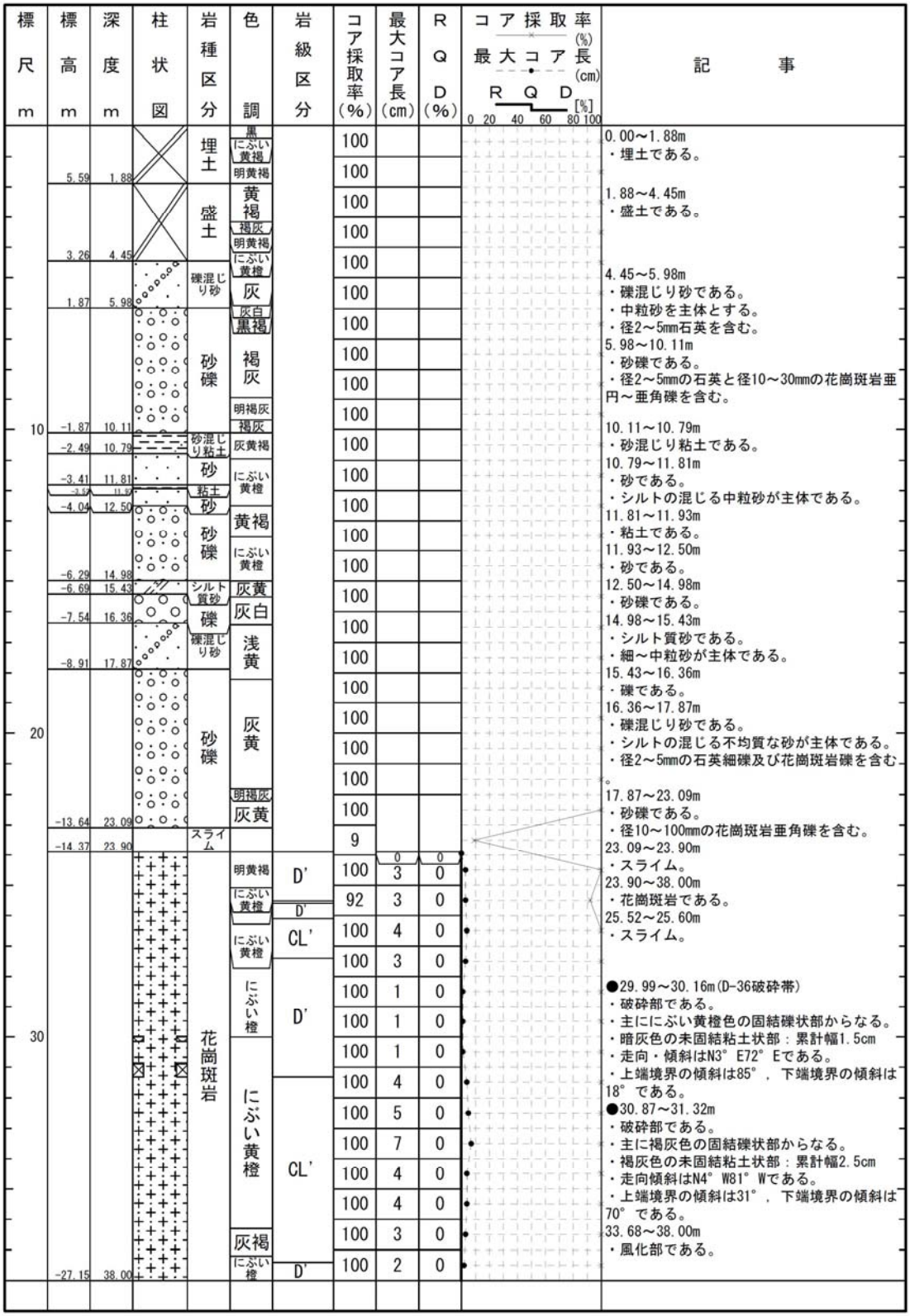


H24－B8－23

柱状図(0.00m～38.00m)

H24-B8-23

孔口標高	T.P. 7.29m	掘削長	38.00m

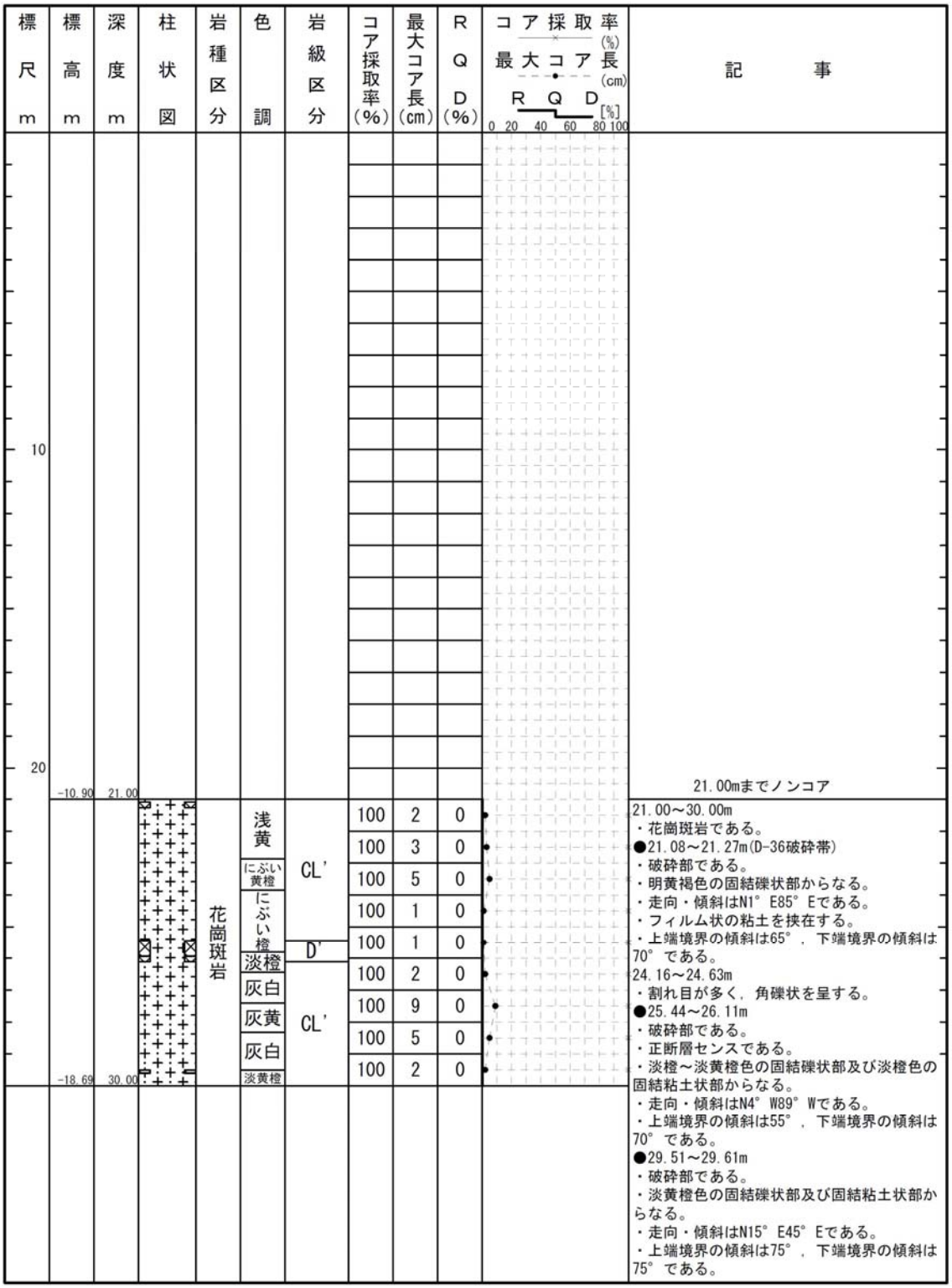


H24－B8－29

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B8-29

孔口標高	T.P. 7.29m	掘削長	30.00m

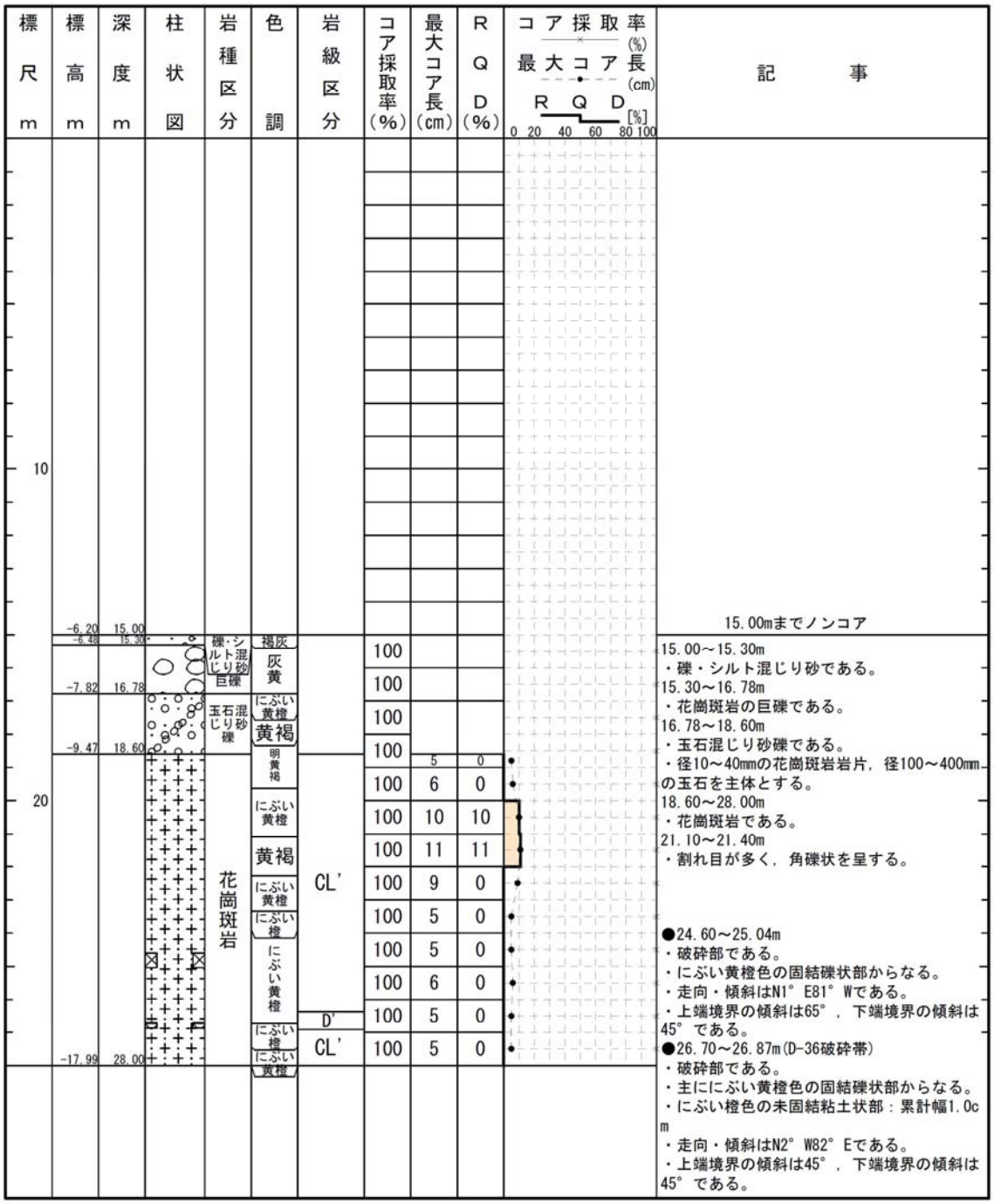


H24－B8－30

柱状図(0.00m～28.00m)

H24-B8-30

孔口標高	T.P. 7.39m	掘削長	28.00m

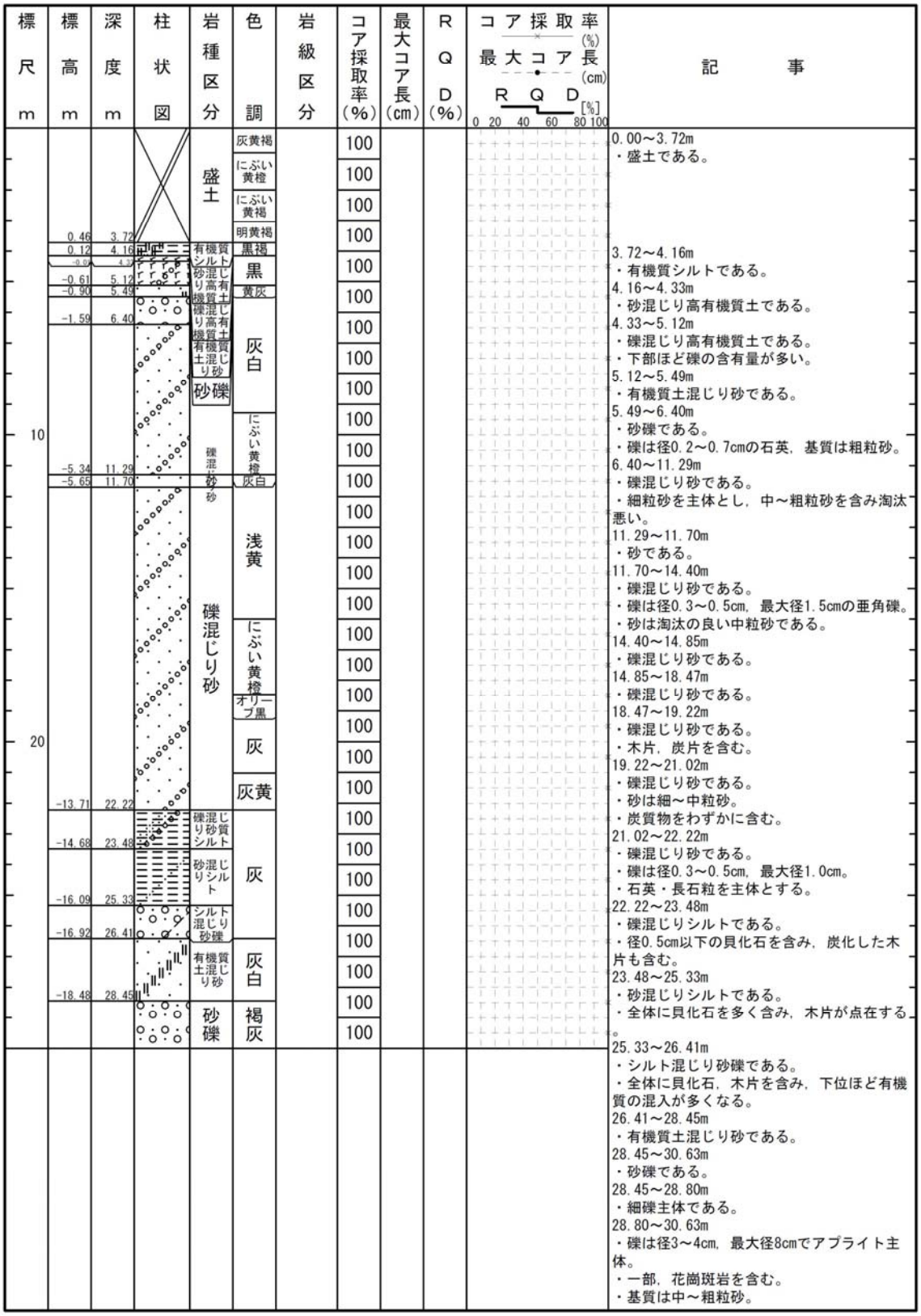


H19－No. 6

柱状図(0.00m～30.00m)

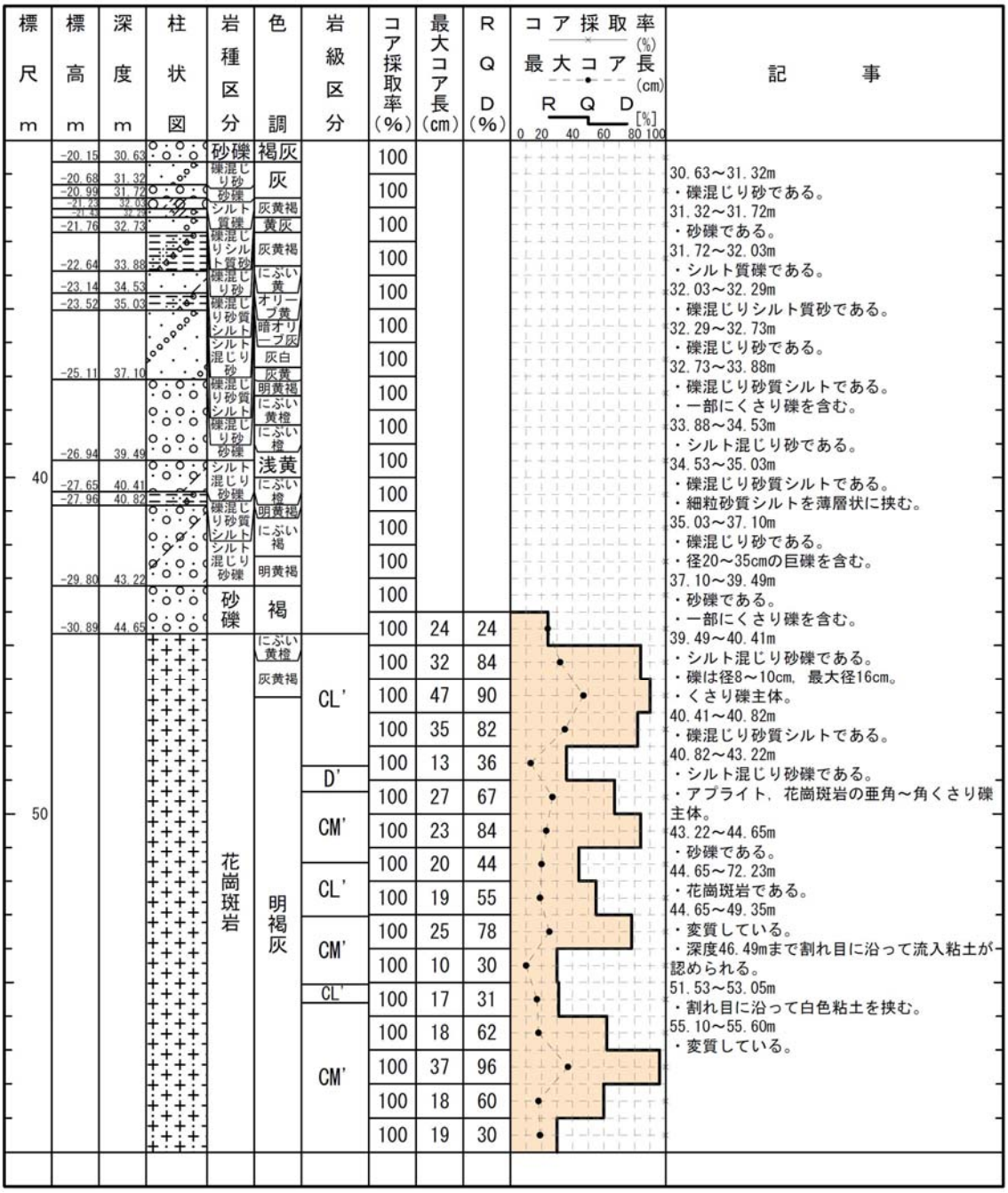
H19-No. 6

孔口標高	T.P. 3.31m	掘削長	175.00m



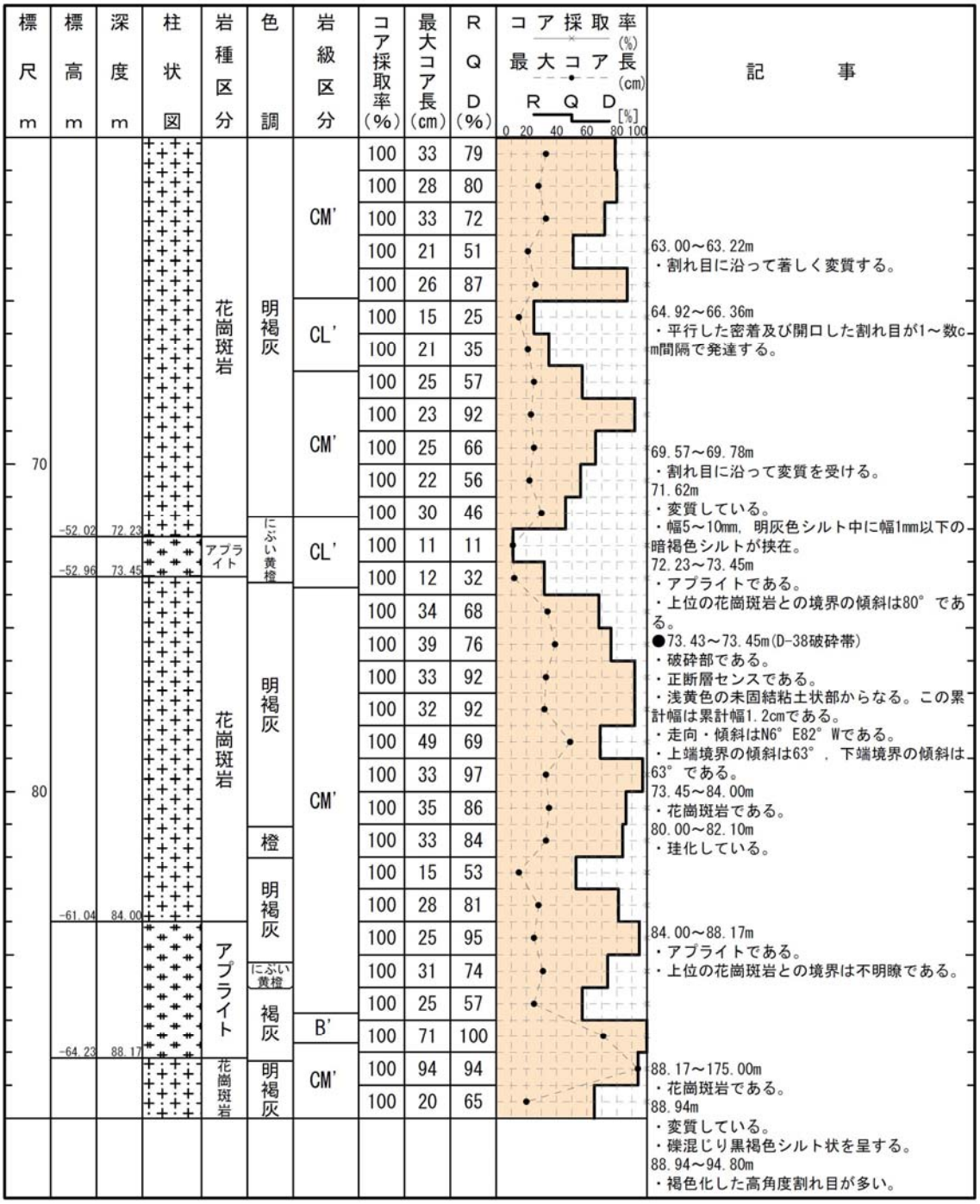
H19－No. 6

柱状図(30.00m～60.00m)



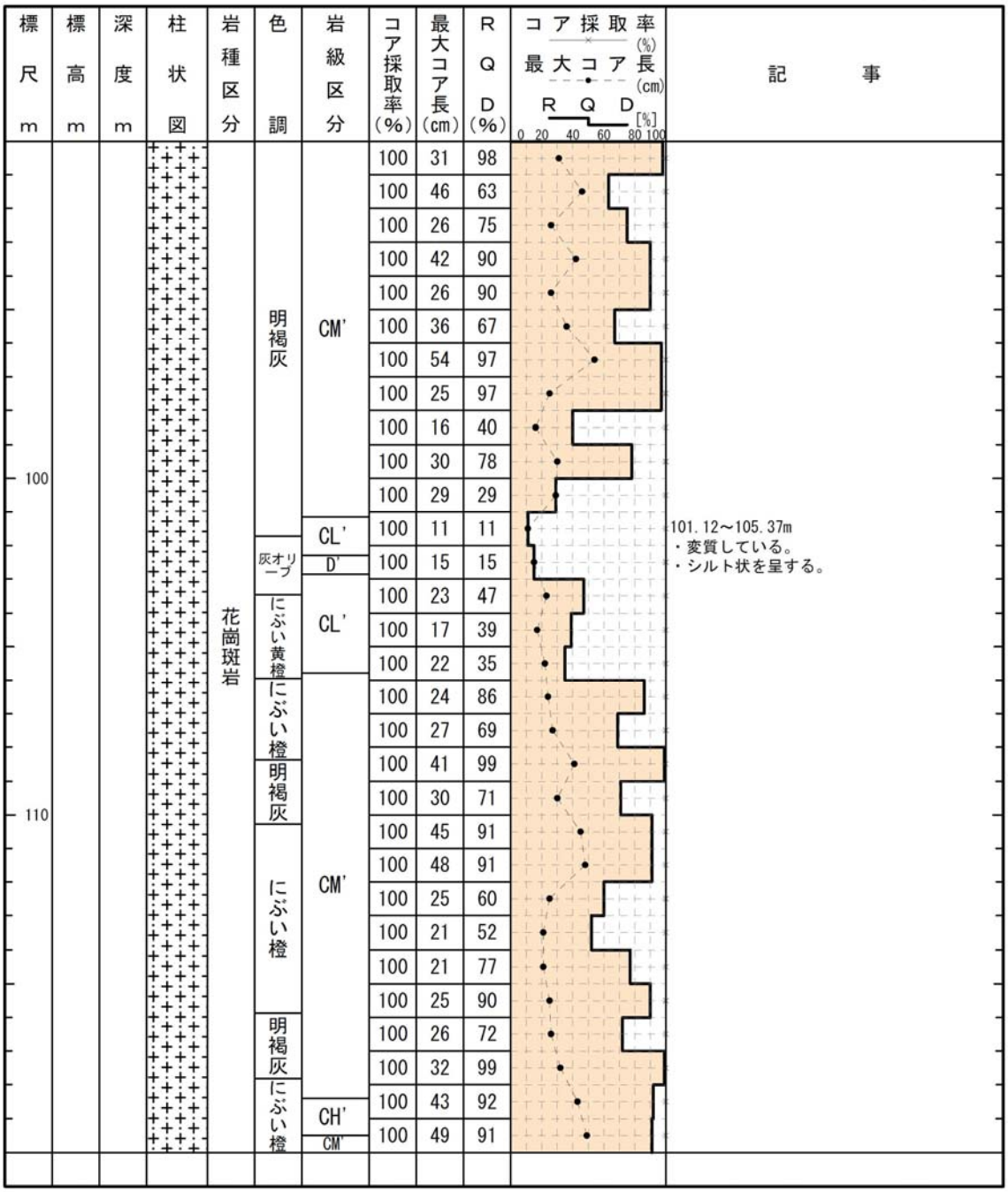
H19－No. 6

柱状図(60.00m～90.00m)



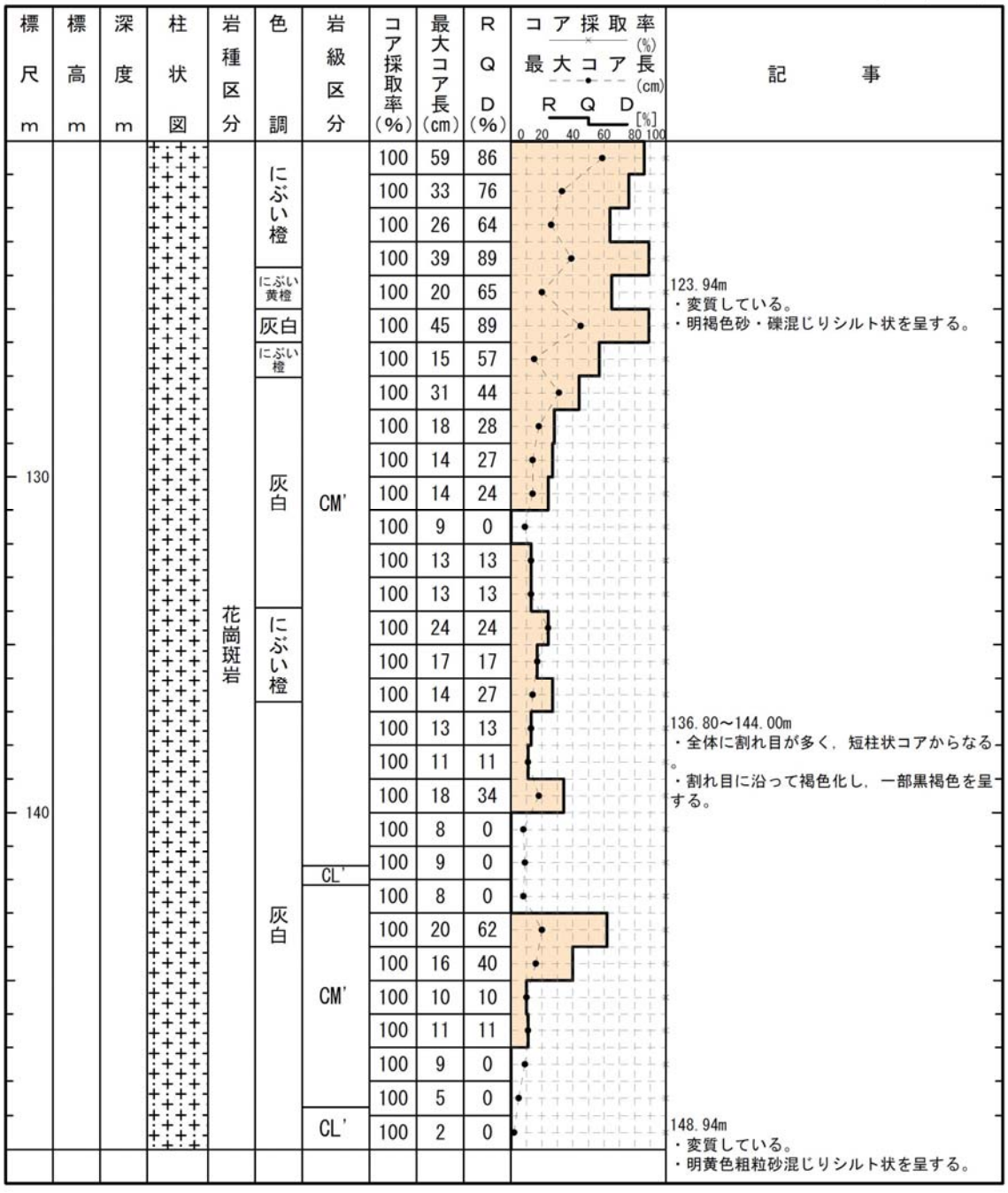
H19－No. 6

柱状図(90.00m～120.00m)



H19－No. 6

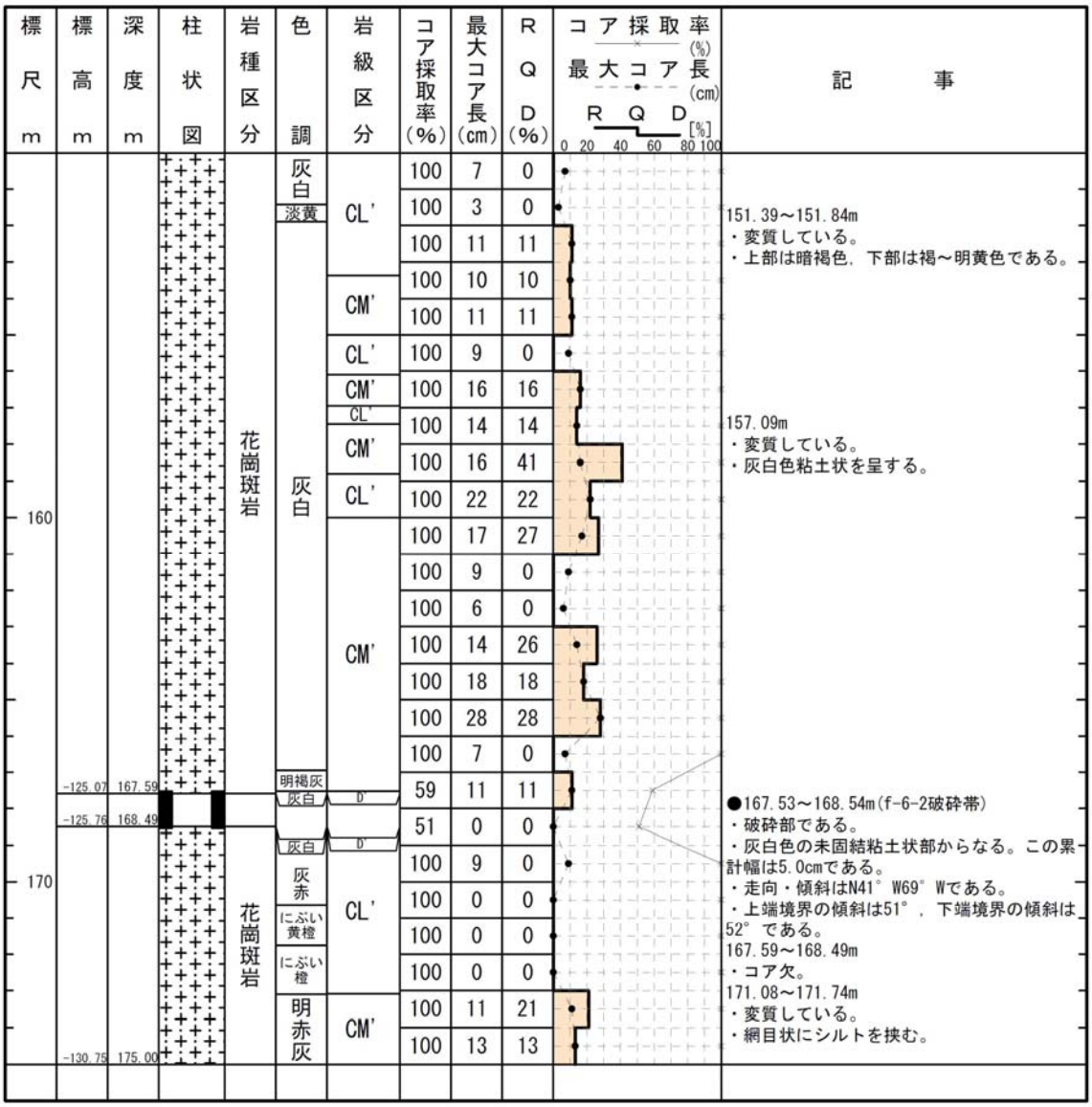
柱状図(120.00m～150.00m)



コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100	59	86
100	33	76
100	26	64
100	39	89
100	20	65
100	45	89
100	15	57
100	31	44
100	18	28
100	14	27
100	14	24
100	9	0
100	13	13
100	13	13
100	24	24
100	17	17
100	14	27
100	13	13
100	11	11
100	18	34
100	8	0
100	9	0
100	8	0
100	20	62
100	16	40
100	10	10
100	11	11
100	9	0
100	5	0
100	2	0

H19－No. 6

柱状図(150.00m～175.00m)

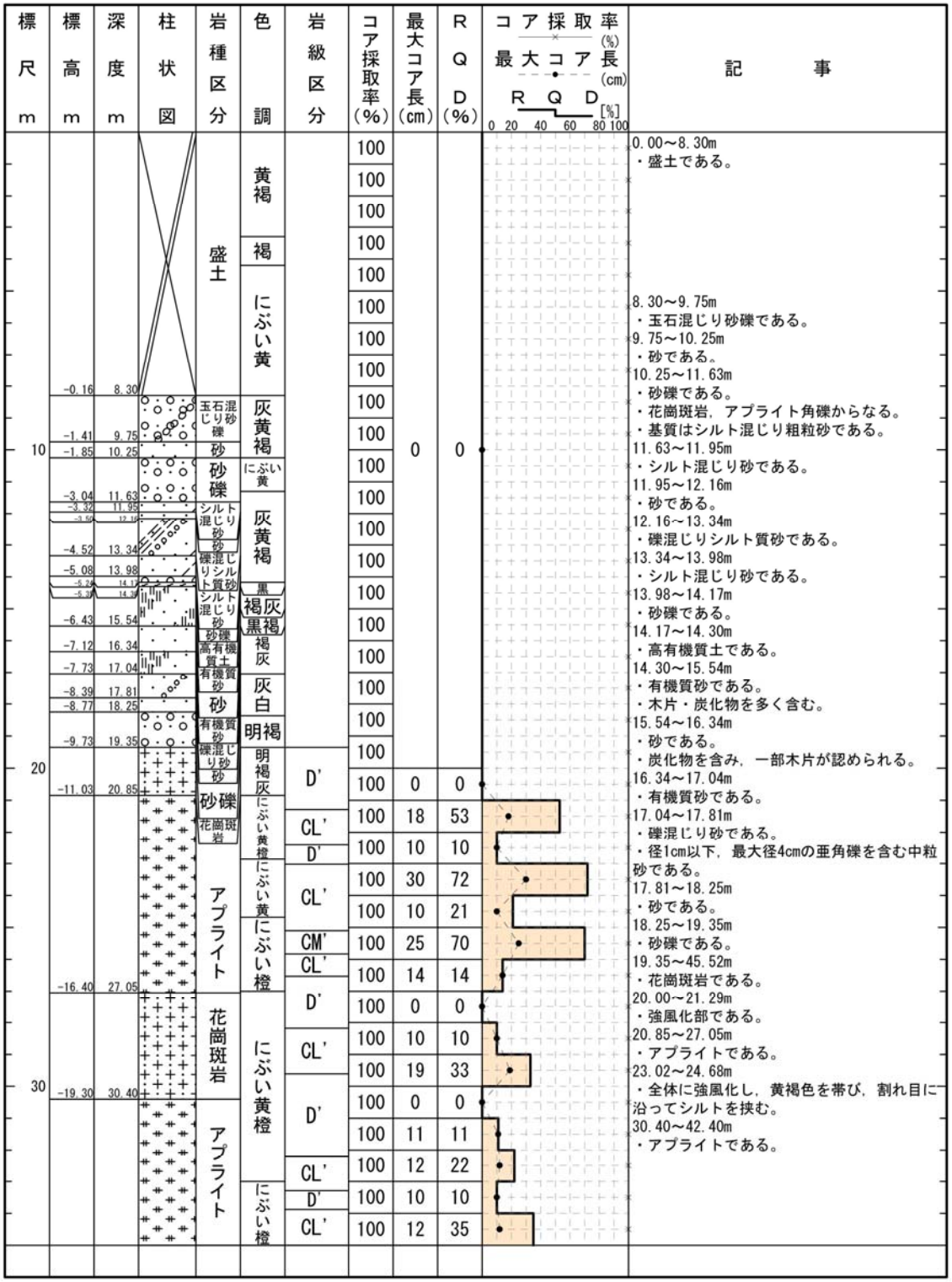


H19－No. 18

柱状図(0.00m～35.00m)

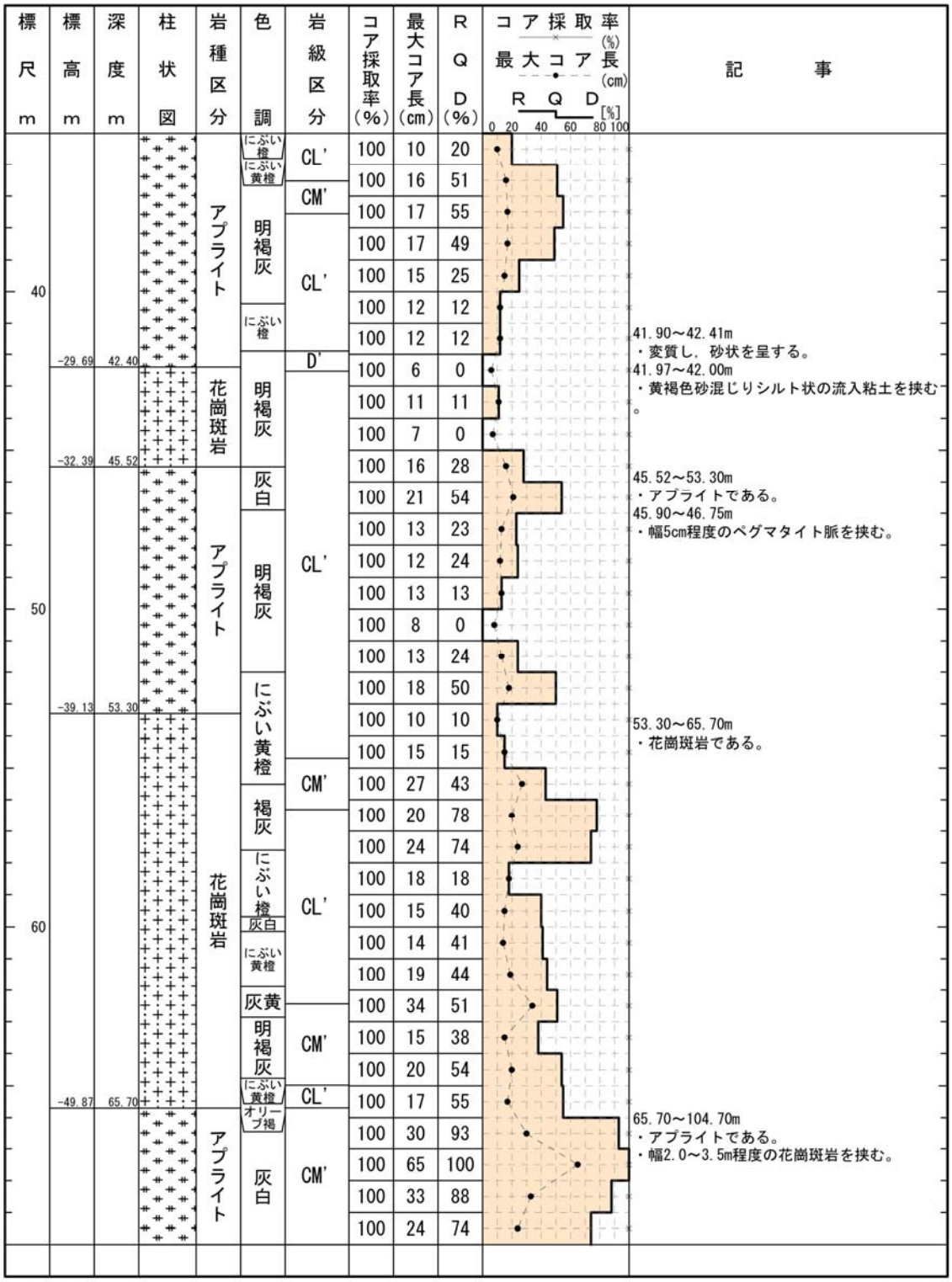
H19-No. 18

孔口標高	T.P. 7.03m	掘削長	175.00m



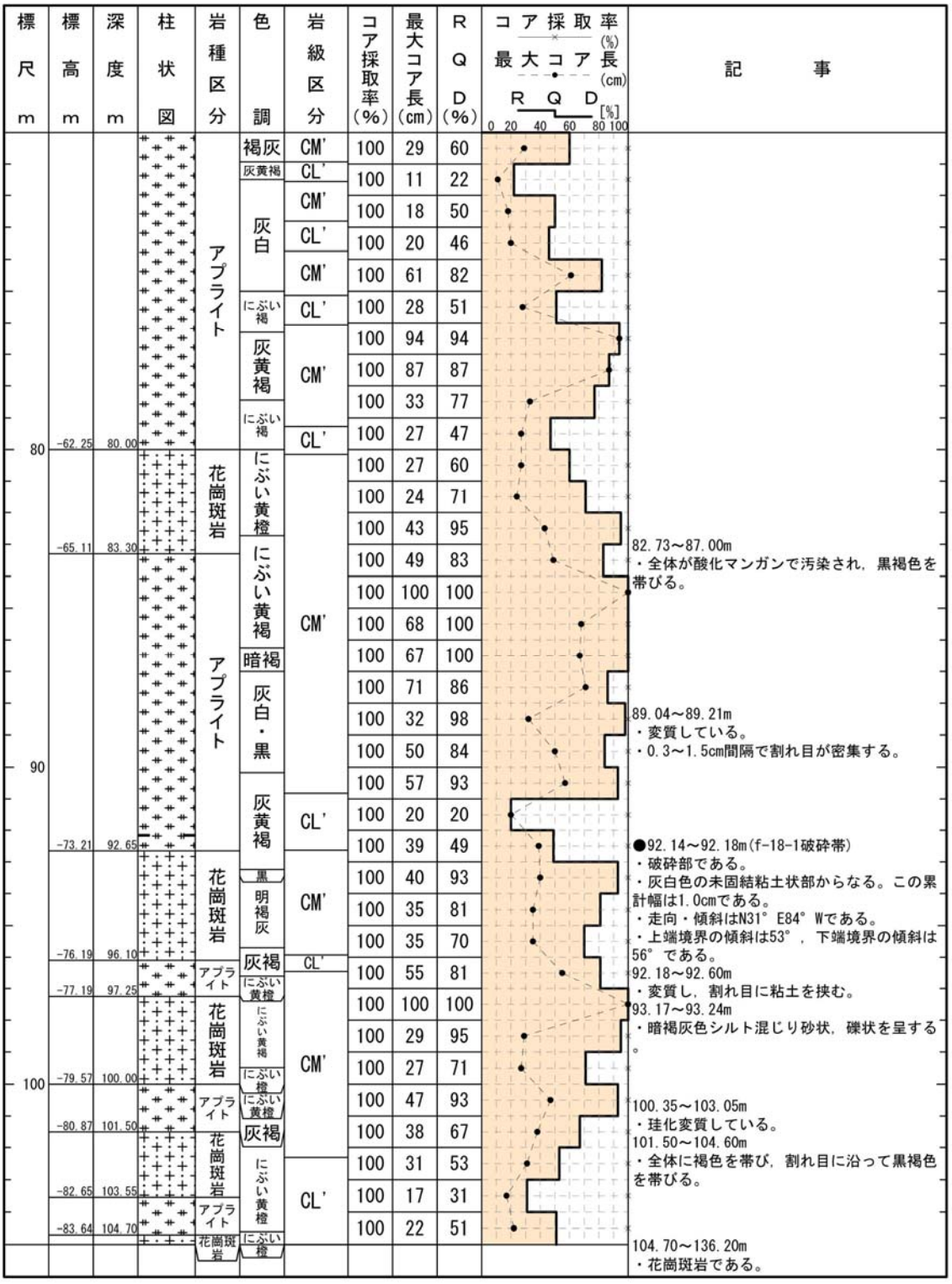
H19－No. 18

柱状図(35.00m～70.00m)



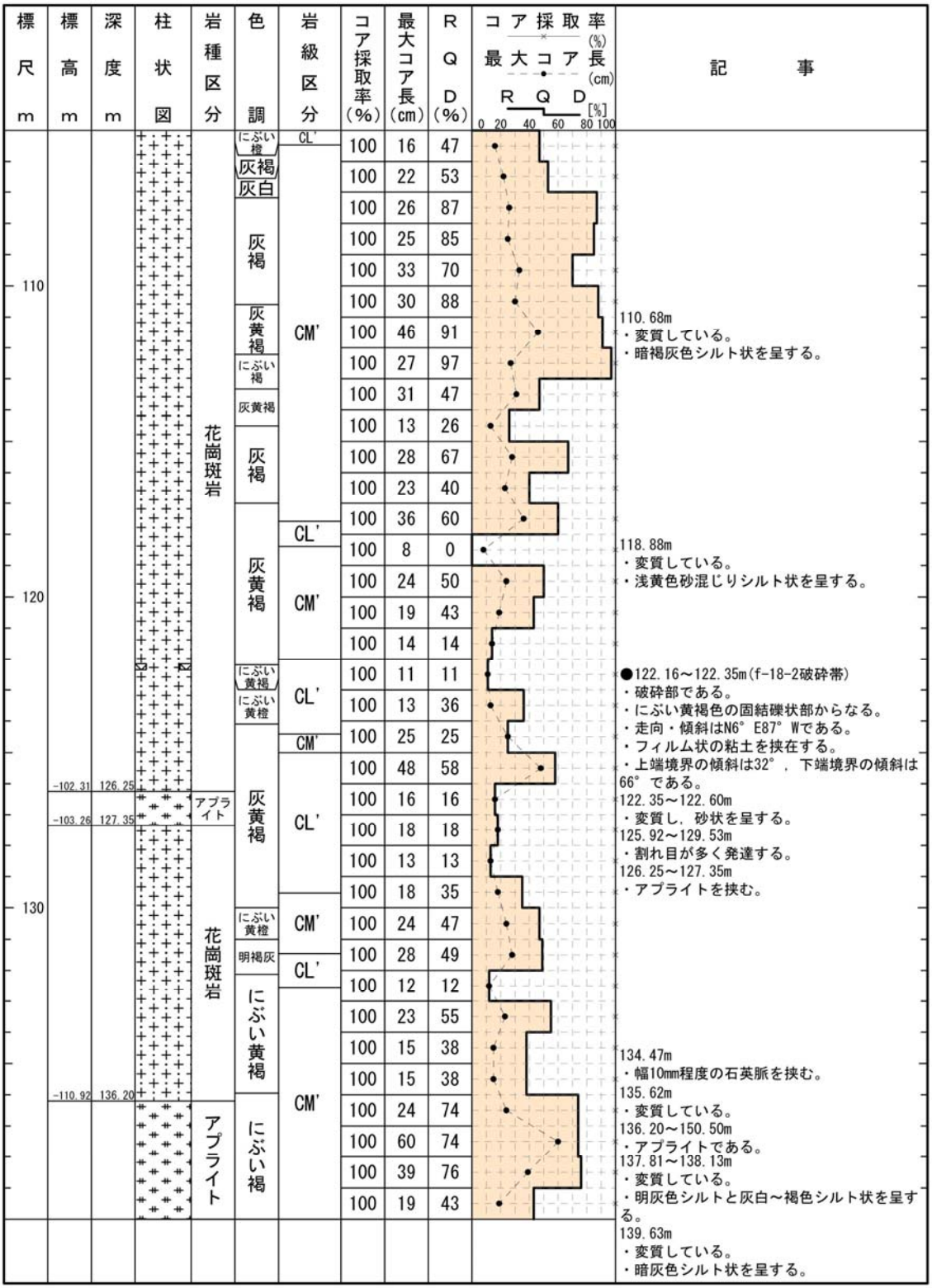
H19－No. 18

柱状図(70.00m～105.00m)



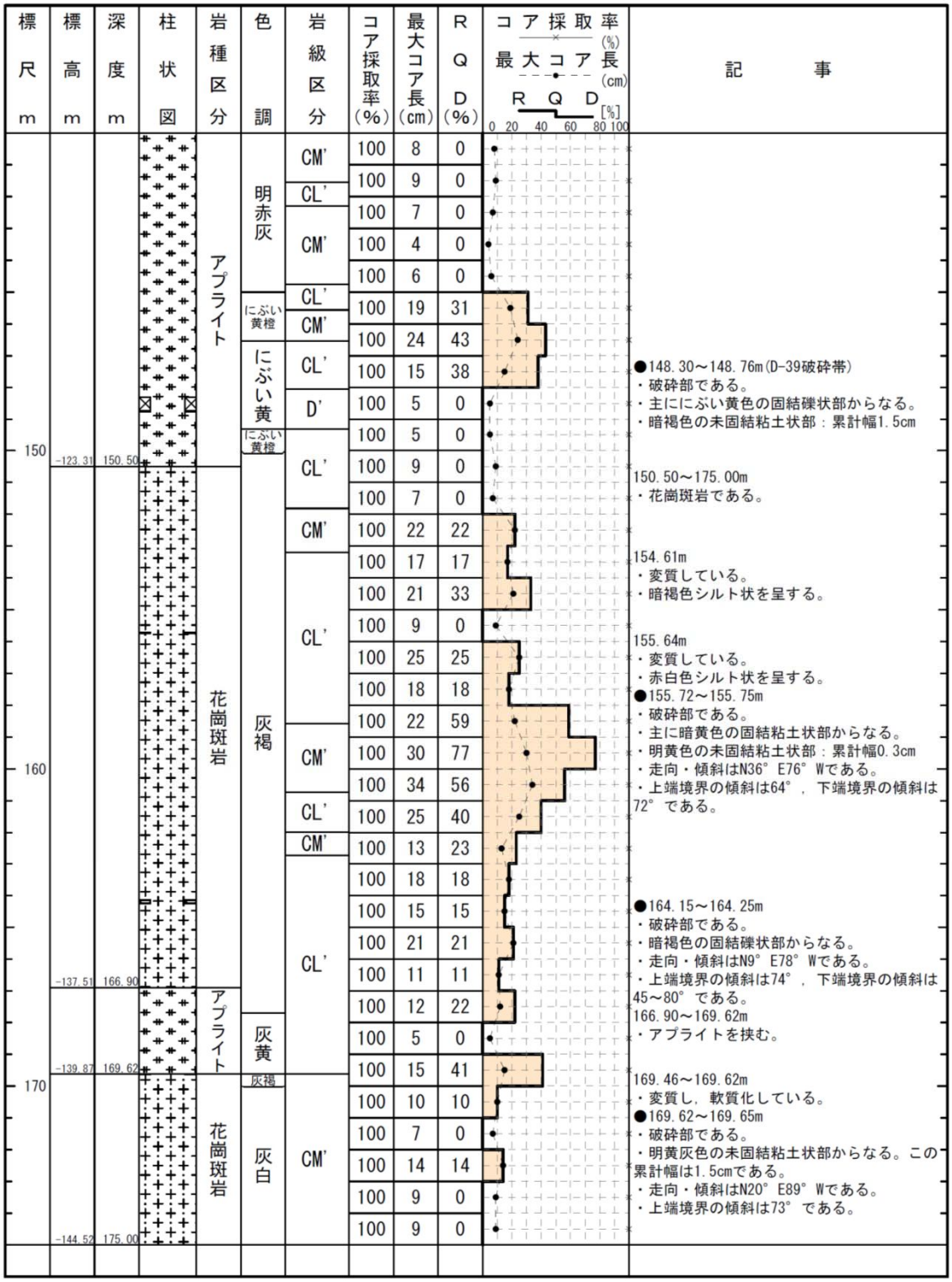
H19－No. 18

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No. 18

柱状図(140.00m～175.00m)

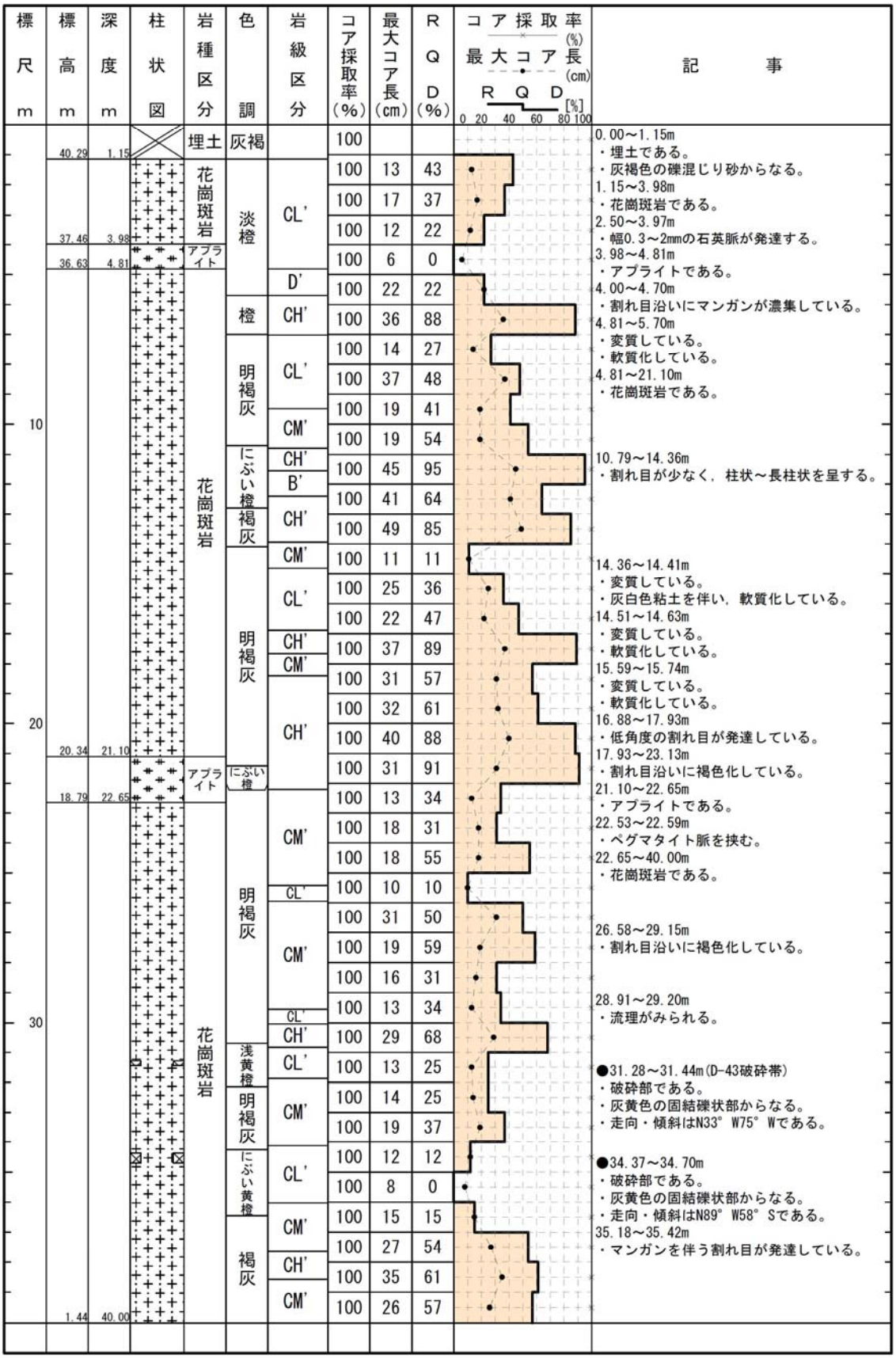


H20－①－5

柱状図(0.00m～40.00m)

H20-①-5

孔口標高	T.P. 41.44m	掘削長	40.00m

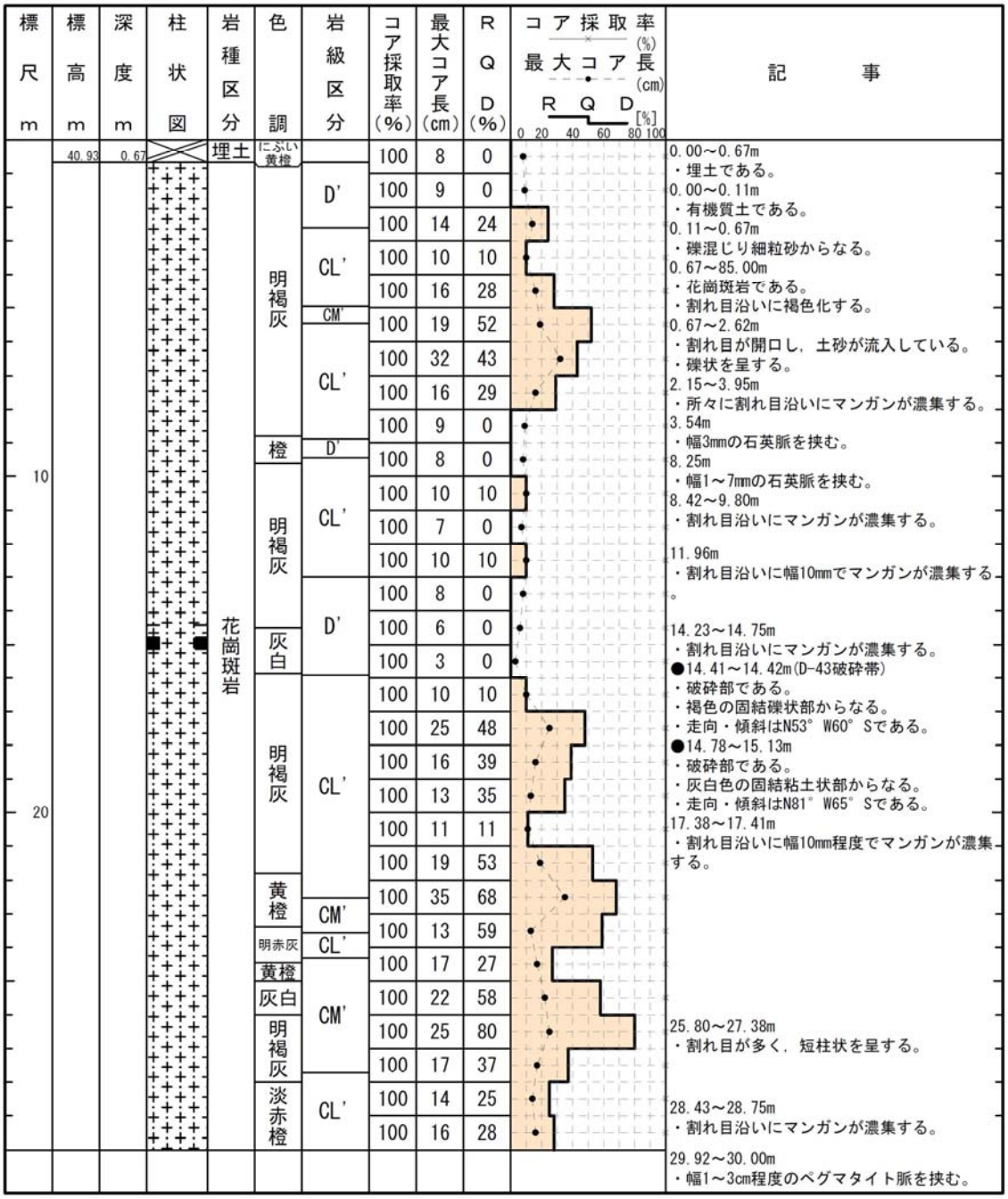


H20－①－6

柱状図(0.00m～30.00m)

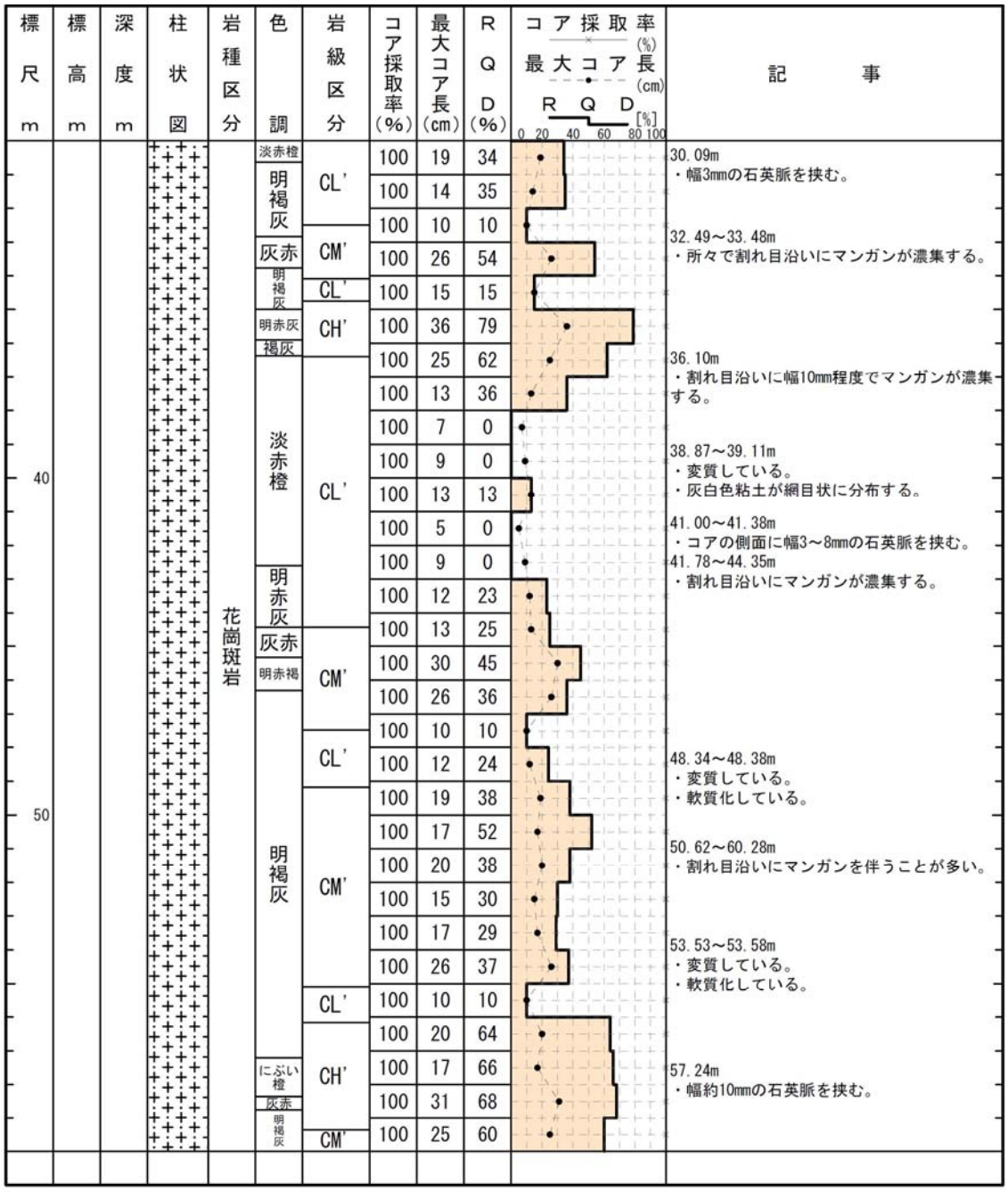
H20-①-6

孔口標高	T.P. 41.44m	掘削長	85.00m



H20－①－6

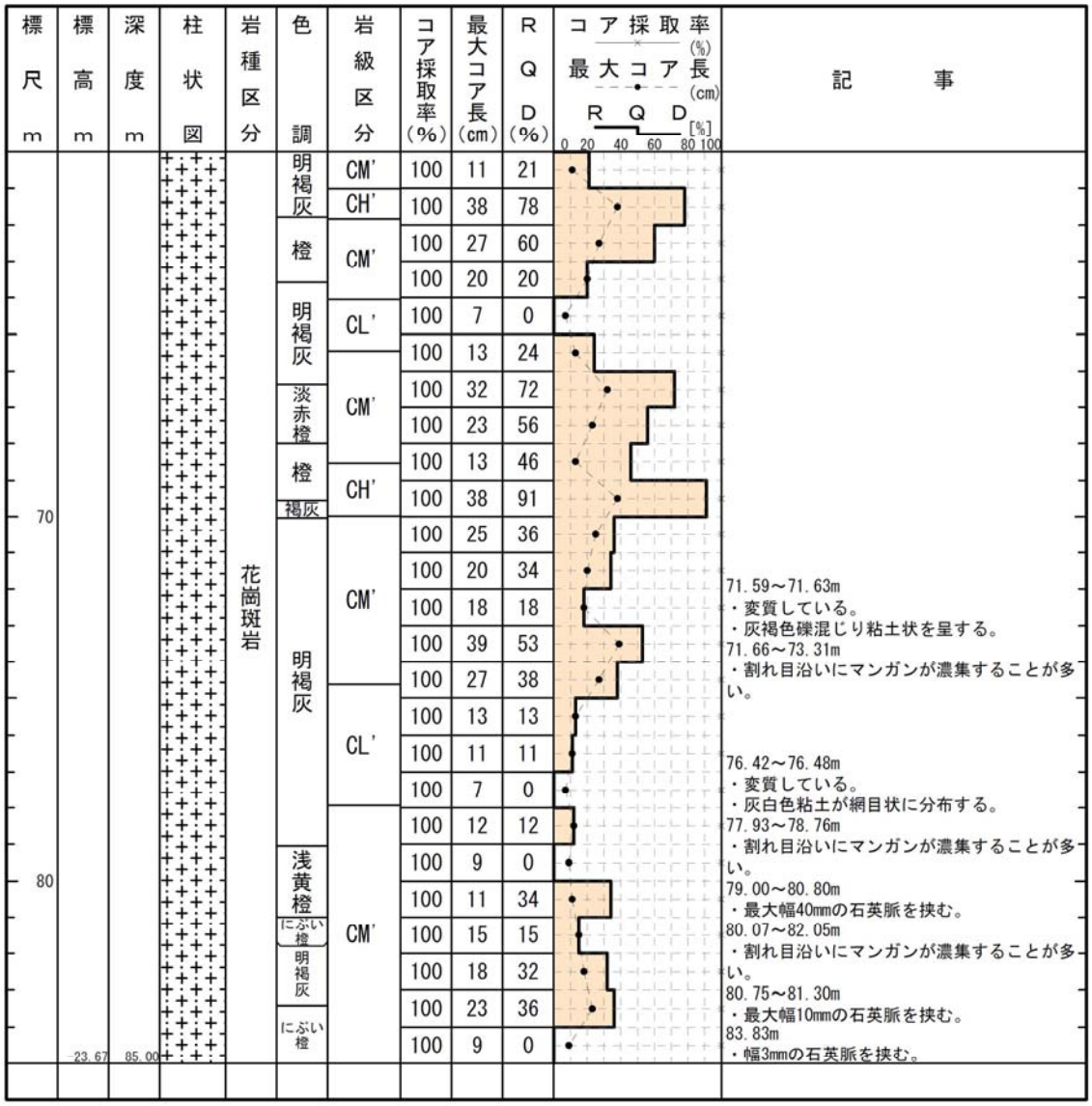
柱状図(30.00m～60.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率（%）	最大コア長（cm）	RQD（%）	記事
					淡赤橙	CL'	100	19	34	30.09m ・幅3mmの石英脈を挟む。
					明褐灰		100	14	35	
							100	10	10	
					灰赤	CM'	100	26	54	32.49～33.48m ・所々で割れ目沿いにマンガンが濃集する。
					明褐灰	CL'	100	15	15	
					明赤灰	CH'	100	36	79	
					褐灰		100	25	62	36.10m ・割れ目沿いに幅10mm程度でマンガンが濃集する。
					淡赤橙	CL'	100	13	36	
							100	7	0	
							100	9	0	38.87～39.11m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
40							100	13	13	
							100	5	0	41.00～41.38m ・コアの側面に幅3～8mmの石英脈を挟む。
							100	9	0	41.78～44.35m ・割れ目沿いにマンガンが濃集する。
					明赤灰		100	12	23	
							100	13	25	
					灰赤	CM'	100	30	45	
					明赤褐		100	26	36	
					明褐灰		100	10	10	
						CL'	100	12	24	48.34～48.38m ・変質している。 ・軟質化している。
							100	19	38	
							100	17	52	
50						CM'	100	20	38	50.62～60.28m ・割れ目沿いにマンガンを伴うことが多い。
							100	15	30	
							100	17	29	
							100	26	37	53.53～53.58m ・変質している。 ・軟質化している。
						CL'	100	10	10	
							100	20	64	
					にぶい橙	CH'	100	17	66	57.24m ・幅約10mmの石英脈を挟む。
					灰赤		100	31	68	
					明褐灰	CM'	100	25	60	

H20－①－6

柱状図(60.00m～85.00m)

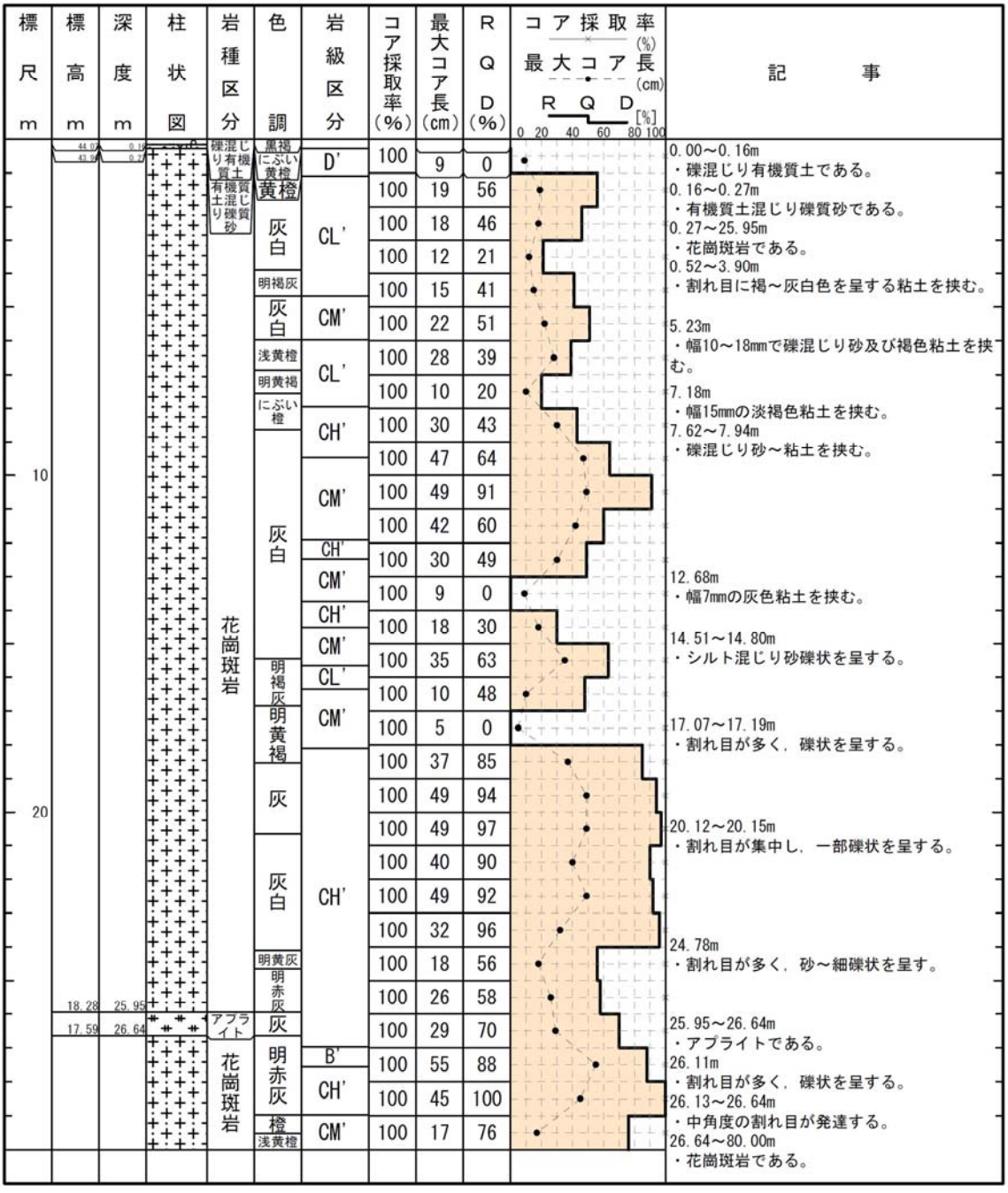


H27－Br－3

柱状図(0.00m～30.00m)

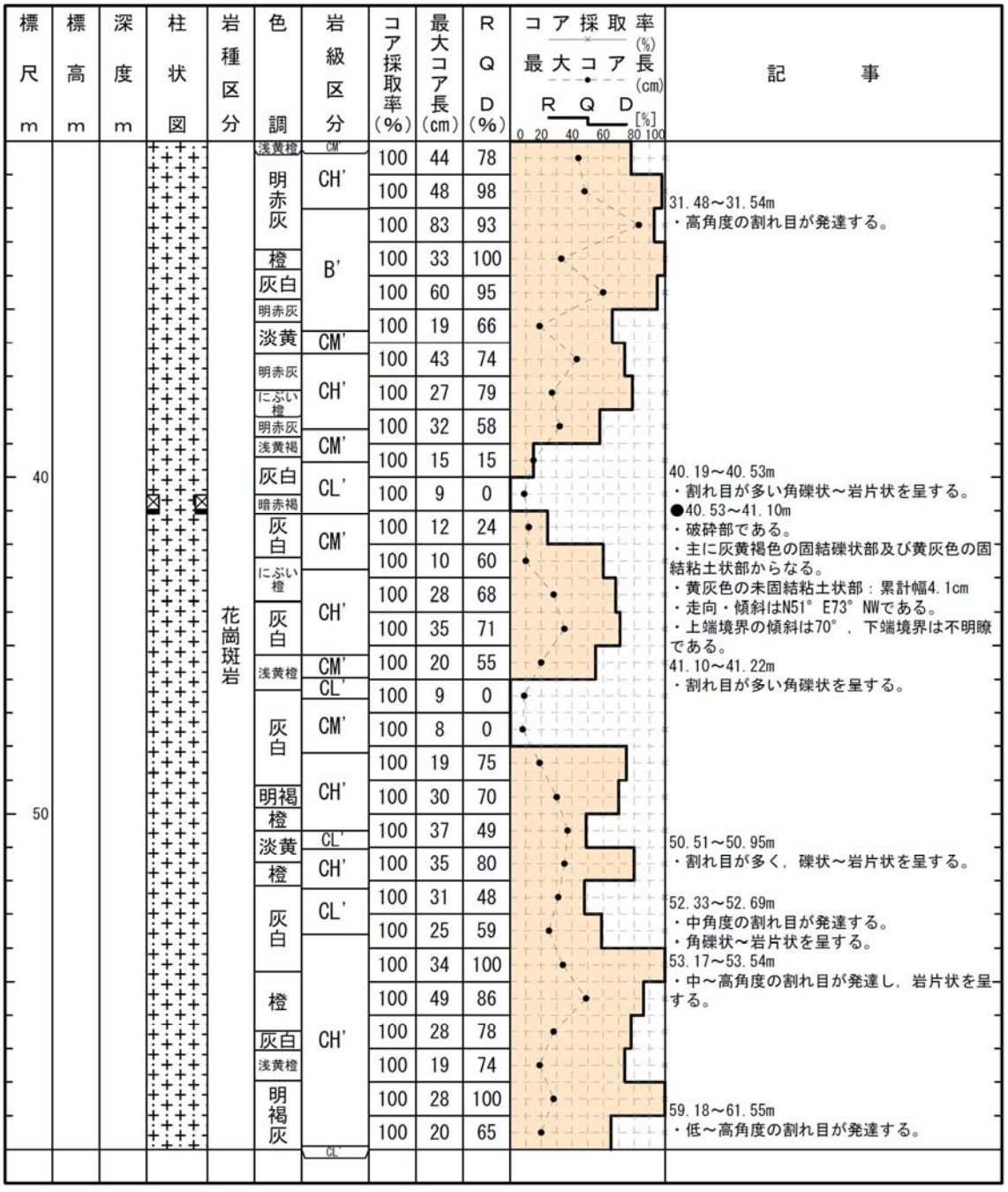
H27-Br-3

孔口標高	T.P. 44.23m	掘削長	80.00m



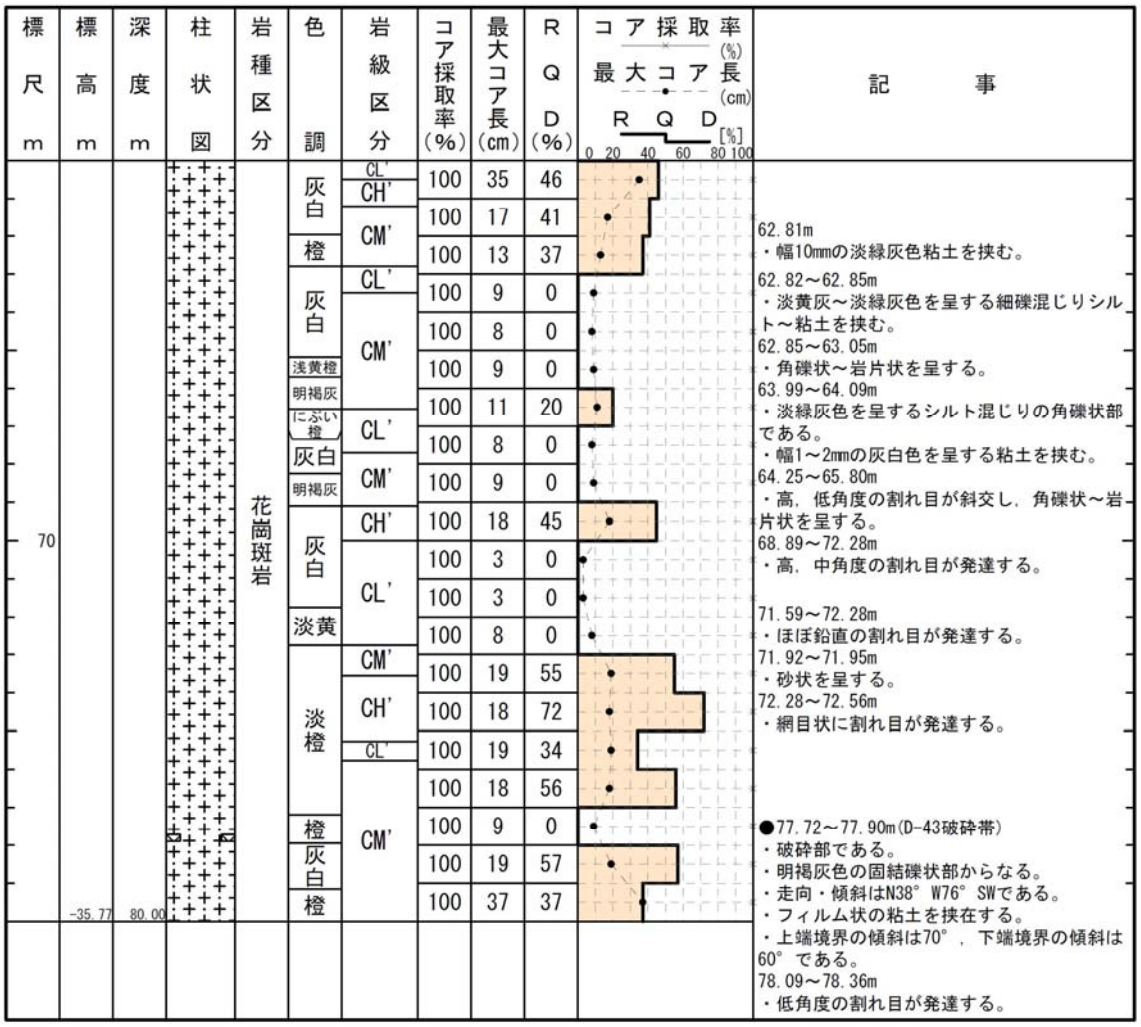
H27－Br－3

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－3

柱状図(60.00m～80.00m)

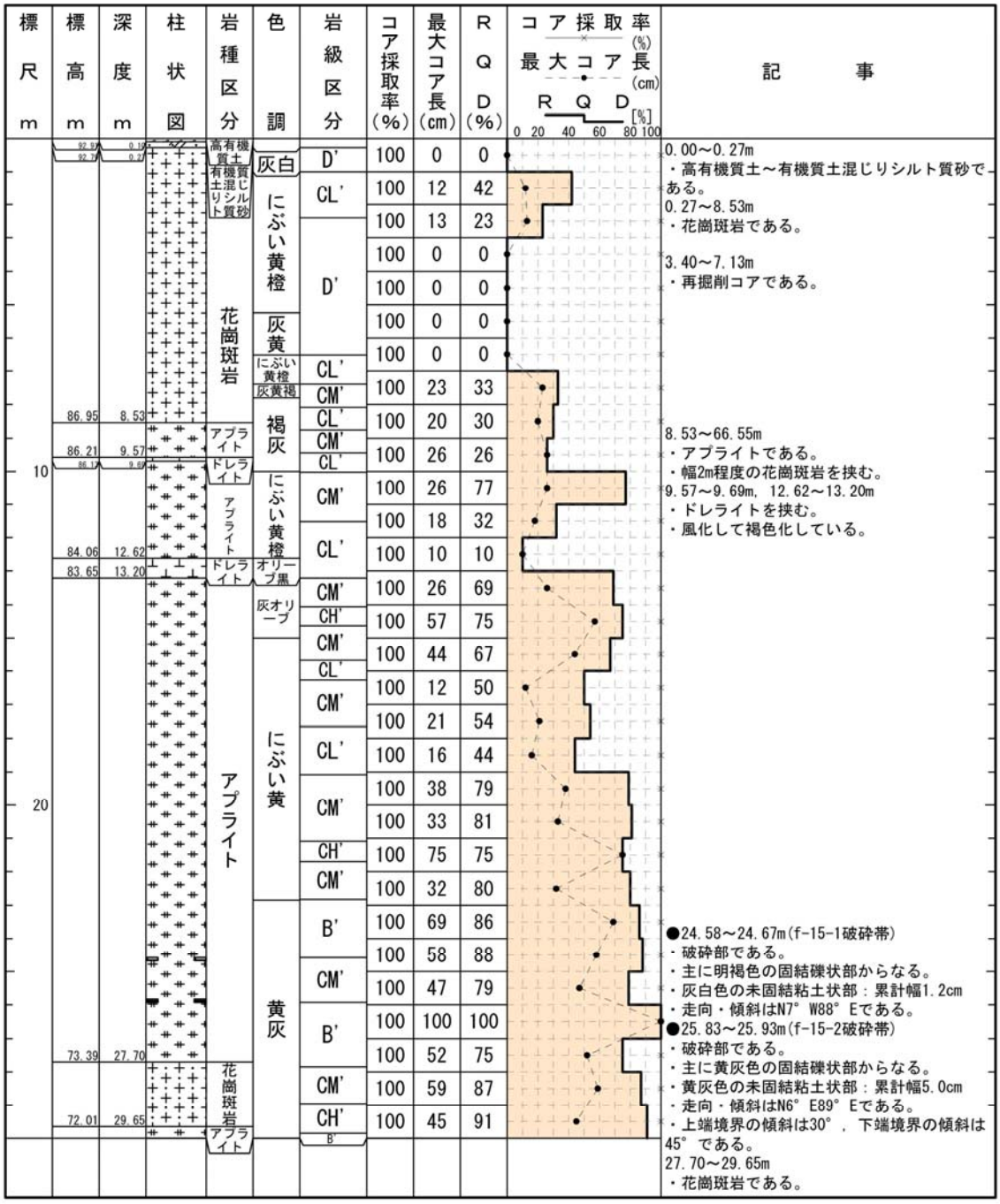


H19－No. 15

柱状図(0.00m～30.00m)

H19-No. 15

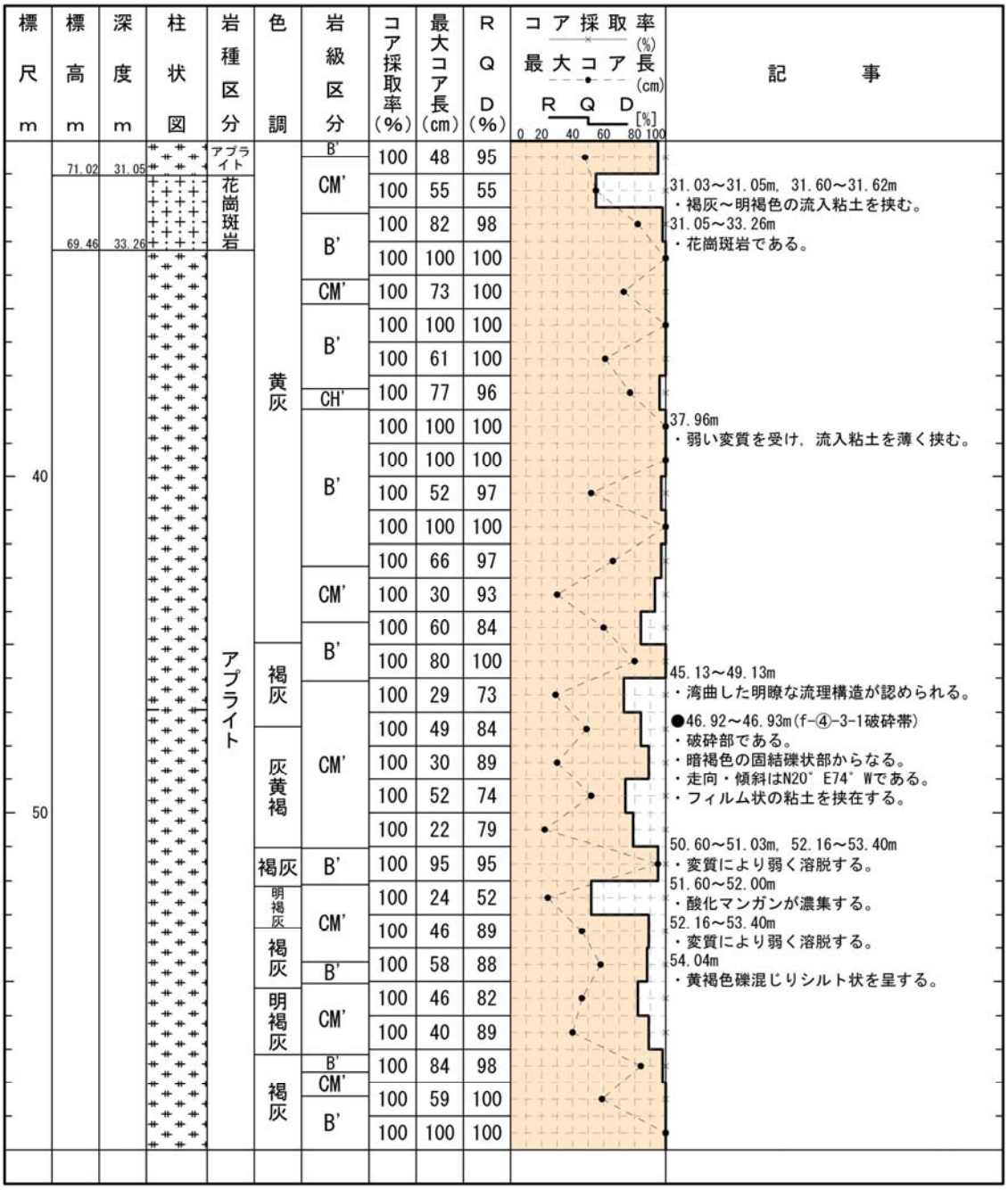
孔口標高	T.P. 92.98m	掘削長	150.00m



標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
	92.98	0.00	高有機質土	灰白	D'	100	0	0
	92.71	0.27	有機質土混じりシルト質砂		CL'	100	12	42
				にぶい黄橙		100	13	23
			花崗斑岩		D'	100	0	0
						100	0	0
				灰黄		100	0	0
				にぶい黄橙	CL'	100	0	0
				灰黄褐	CM'	100	23	33
	86.95	8.53		褐灰	CL'	100	20	30
			アプライト		CM'	100	26	26
	86.21	9.57			CL'	100	26	77
	86.17	9.69	ドレライト			100	18	32
10			アプライト	にぶい黄橙	CM'	100	10	10
	84.06	12.62			CL'	100	26	69
	83.65	13.20	ドレライト	オリーブ黒		100	57	75
				灰オリーブ	CM'	100	44	67
					CH'	100	12	50
					CM'	100	21	54
				にぶい黄	CL'	100	16	44
					CM'	100	38	79
20			アプライト		CH'	100	33	81
					CM'	100	75	75
					B'	100	32	80
				黄灰	CM'	100	69	86
					B'	100	58	88
	73.39	27.70			CM'	100	47	79
			花崗斑岩		B'	100	100	100
	72.01	29.65			CM'	100	52	75
			アプライト		CH'	100	59	87
					B'	100	45	91

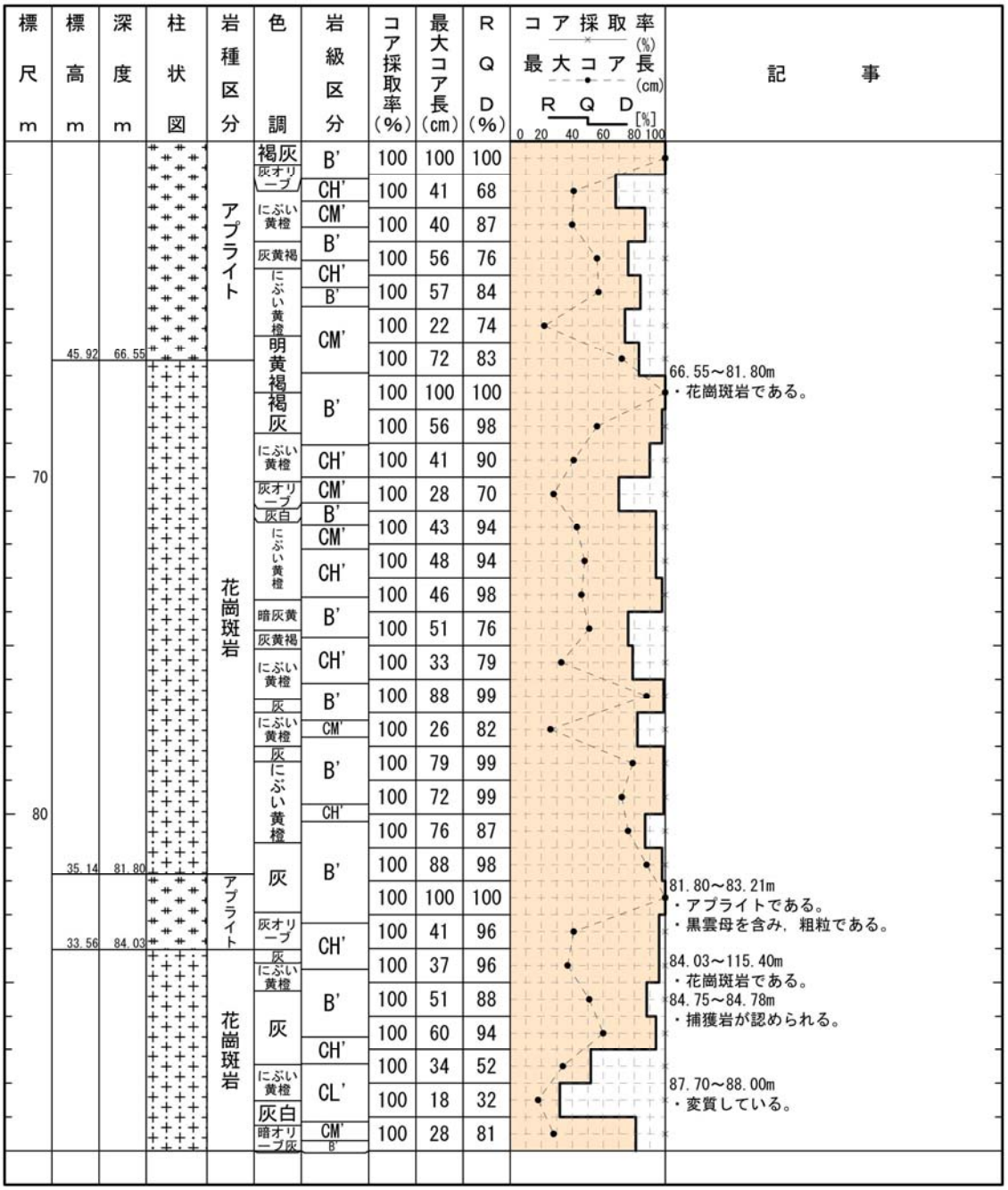
H19－No. 15

柱状図(30.00m～60.00m)



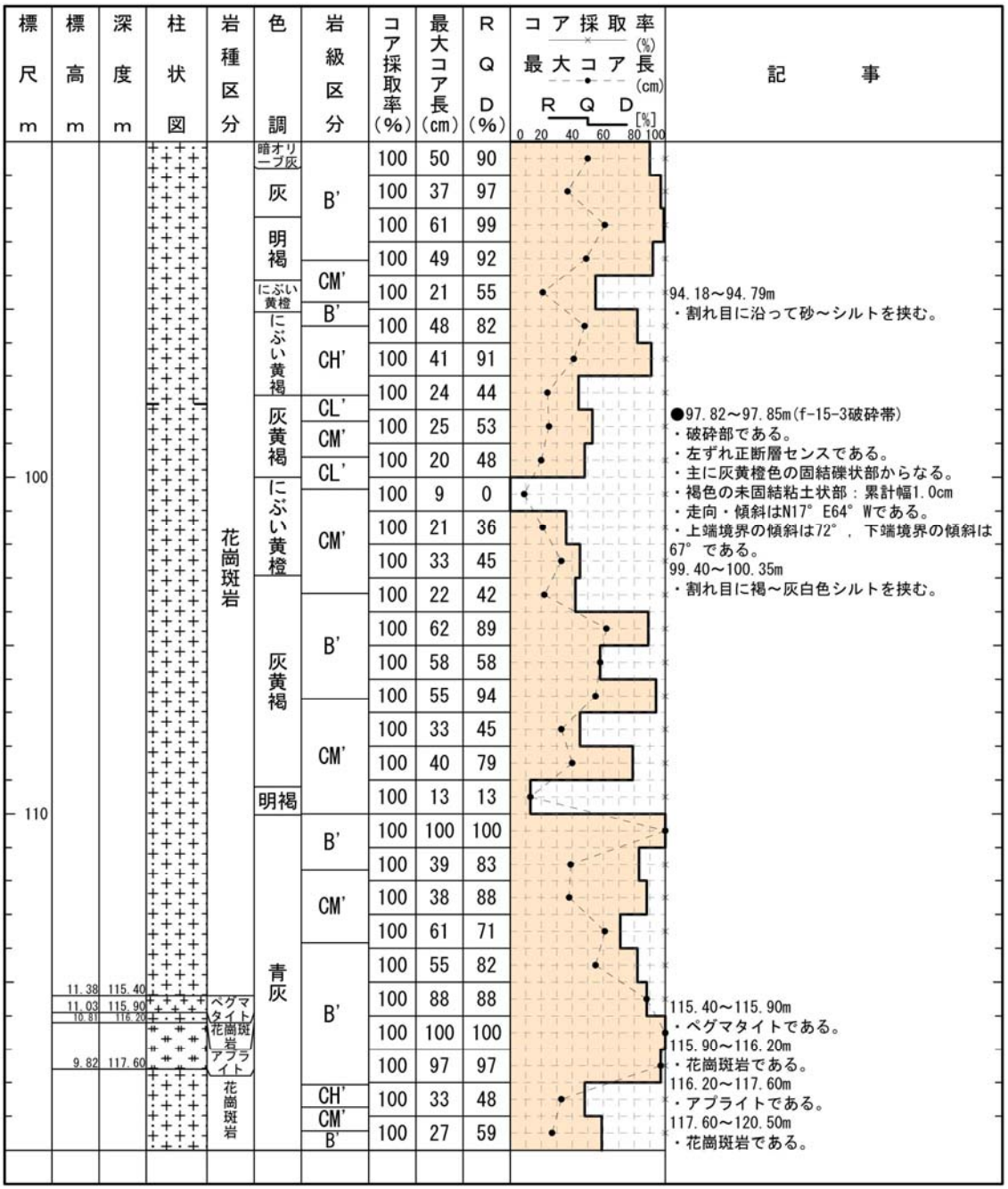
H19－No. 15

柱状図(60.00m～90.00m)



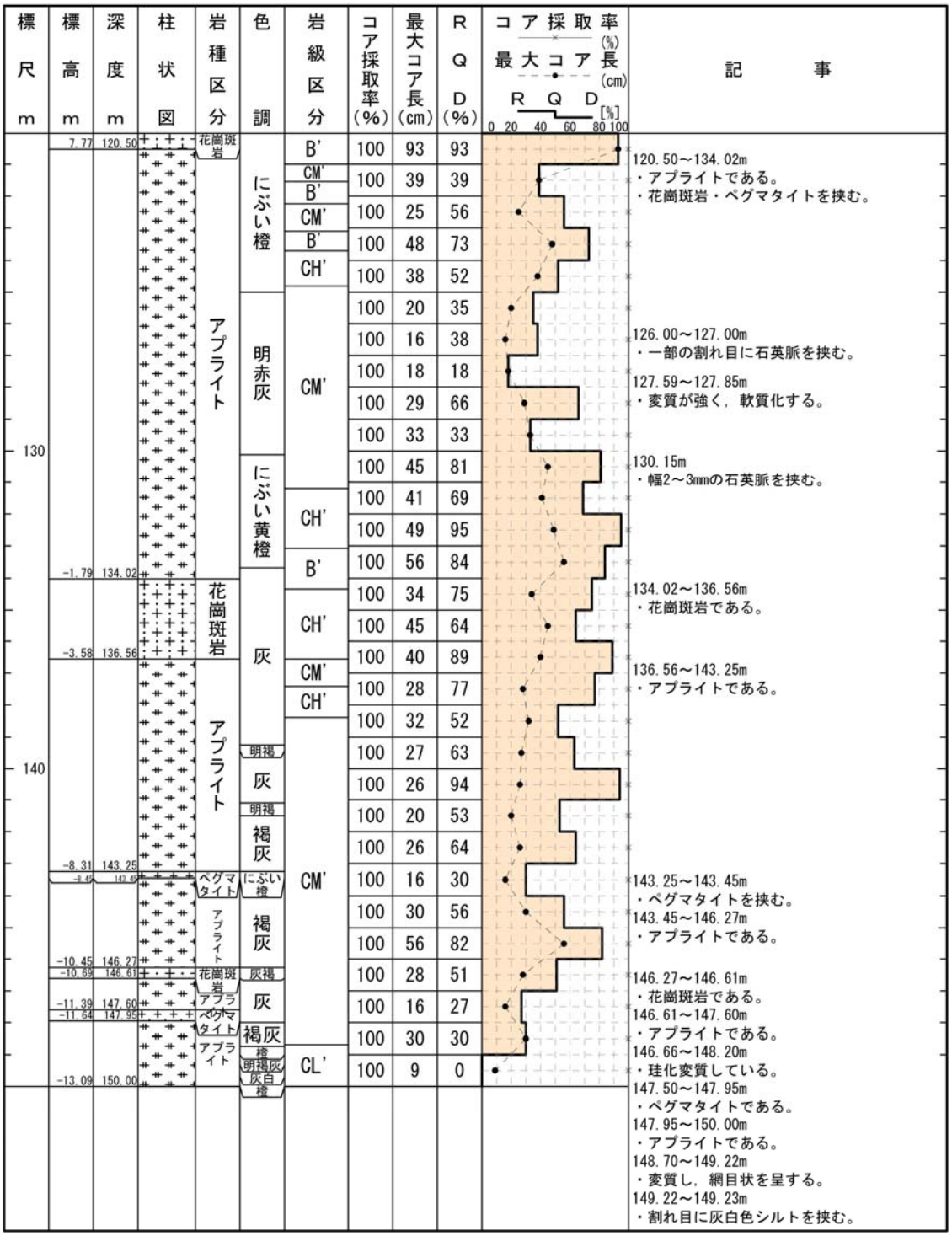
H19－No. 15

柱状図(90.00m～120.00m)



H19－No. 15

柱状図(120.00m～150.00m)

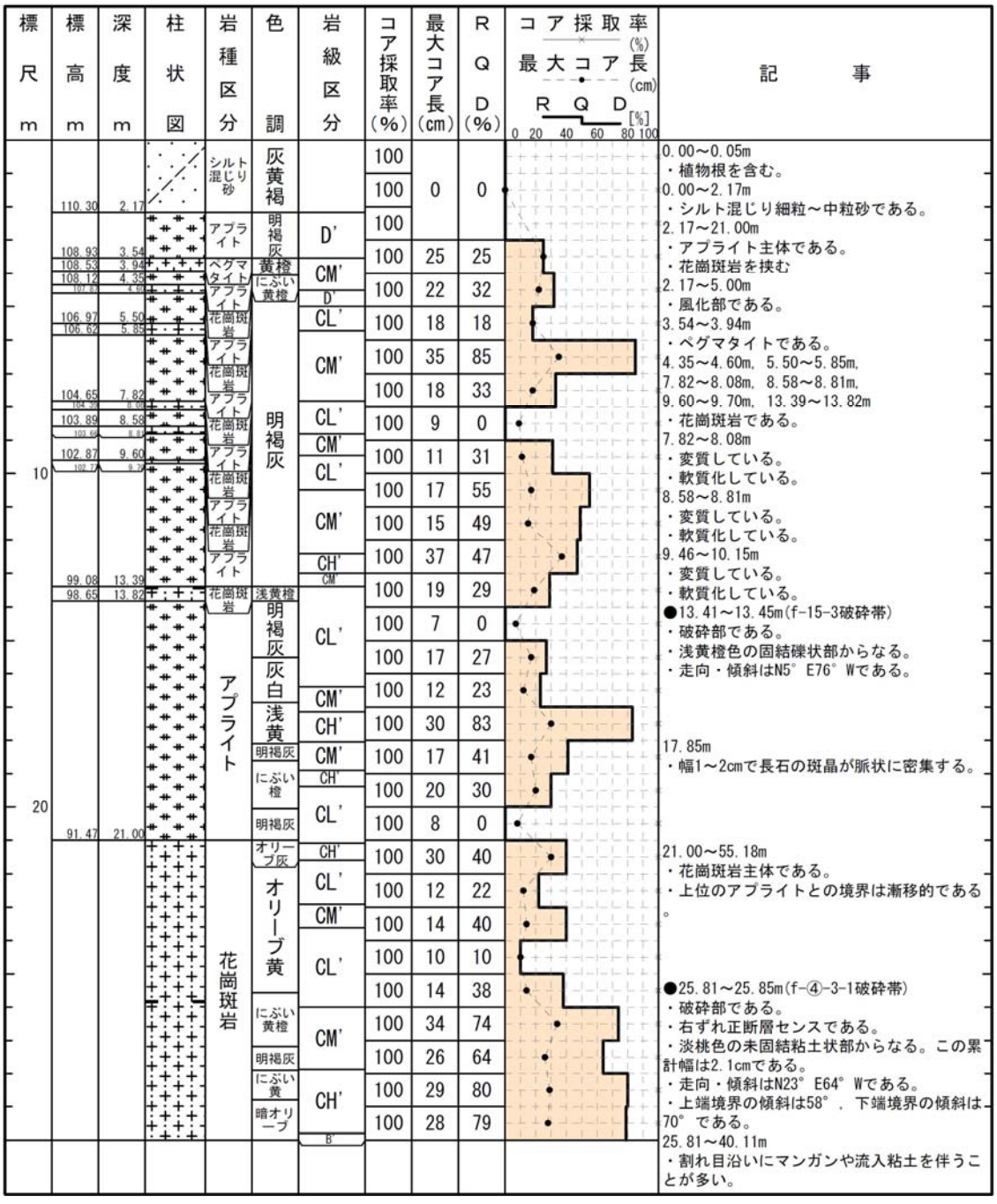


H20－④－3

柱状図(0.00m～30.00m)

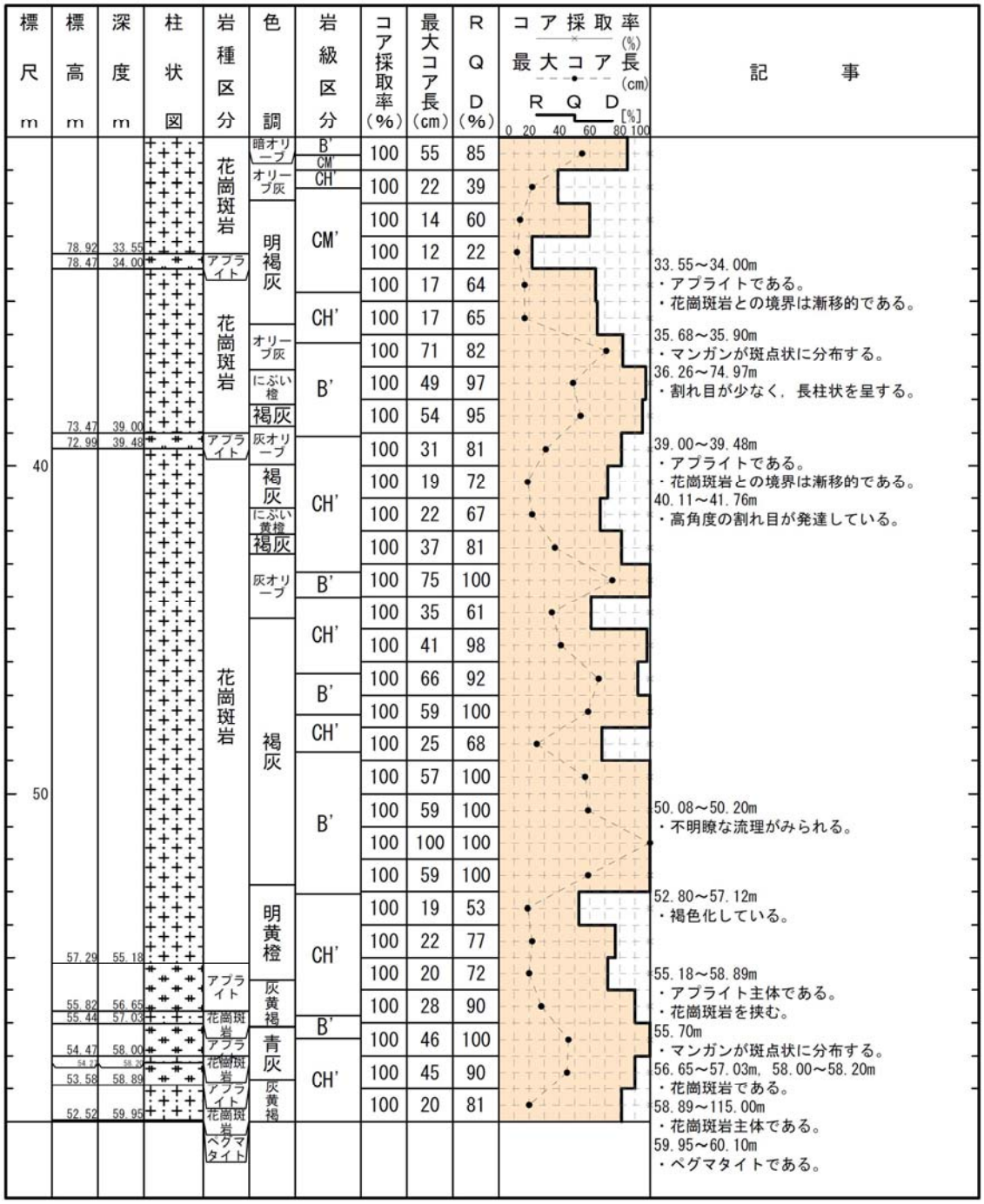
H20-④-3

孔口標高	T.P. 112.47m	掘削長	115.00m



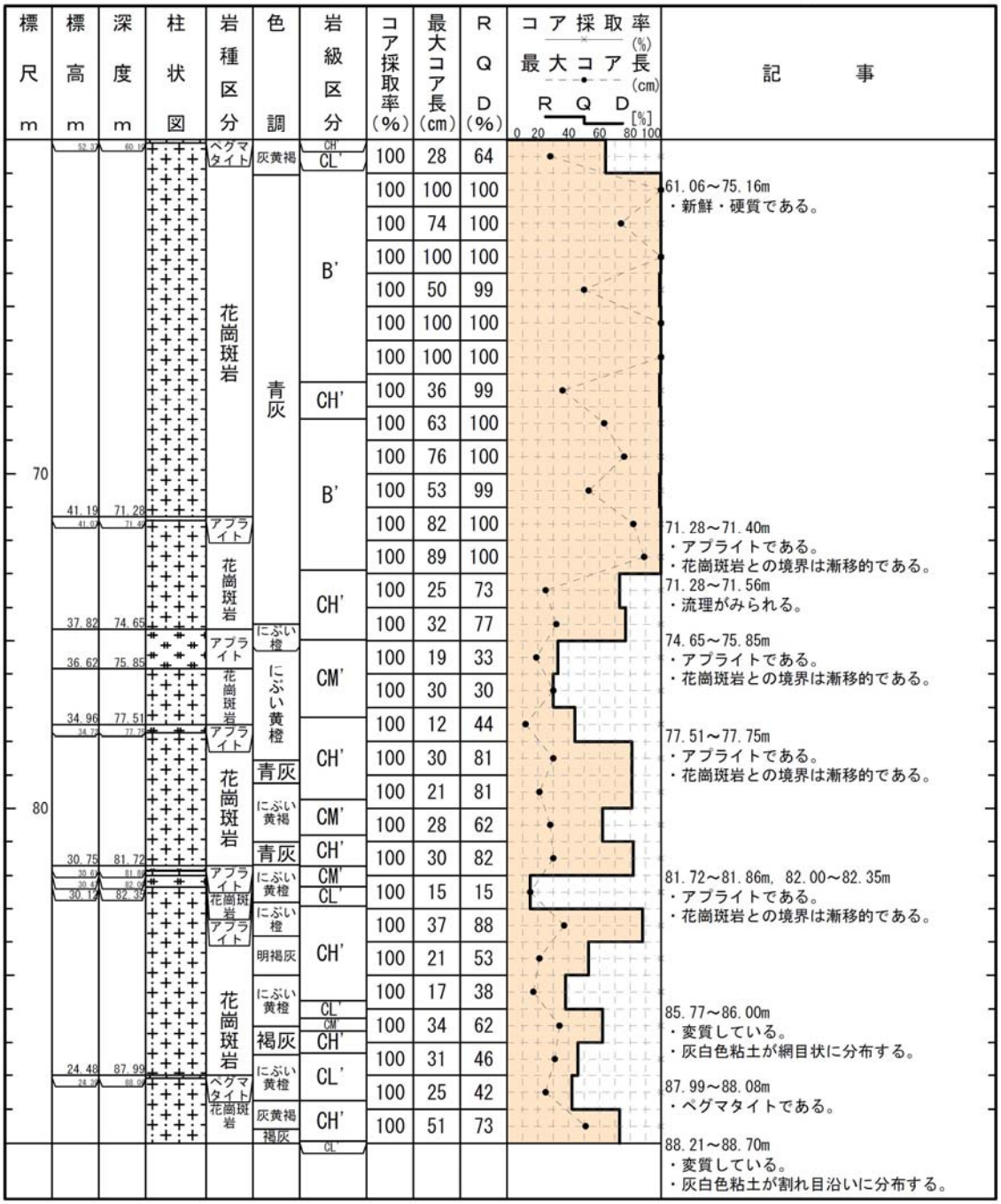
H20－④－3

柱状図(30.00m～60.00m)



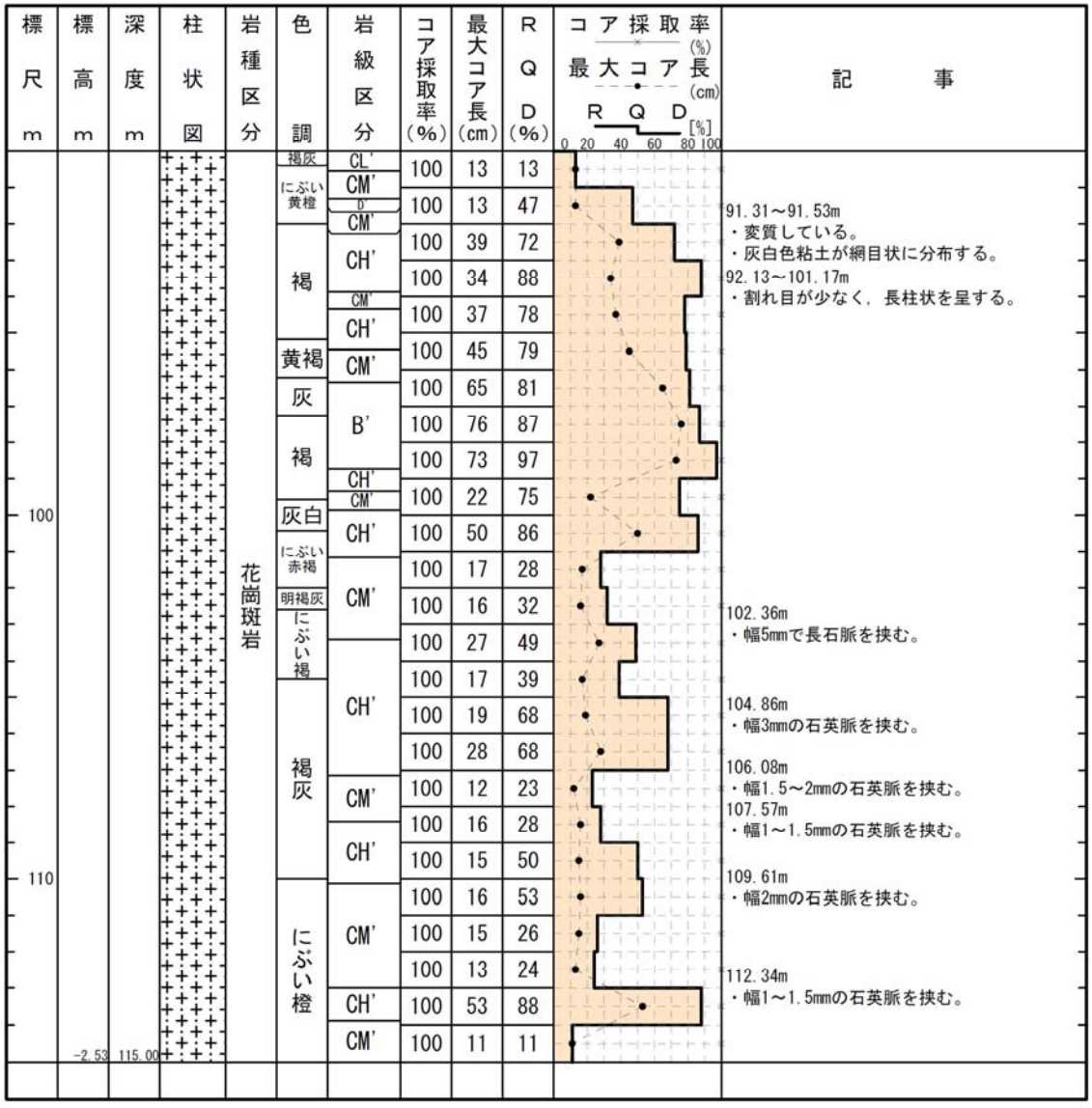
H20－④－3

柱状図(60.00m～90.00m)



H20－④－3

柱状図(90.00m～115.00m)



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
				花崗斑岩	褐灰	CL'	100	13	13
					にぶい黄橙	CM'	100	13	47
						D			
						CM'	100	39	72
					褐	CH'	100	34	88
						CM'	100	37	78
						CH'	100	45	79
					黄褐	CM'	100	65	81
					灰	B'	100	76	87
					褐		100	73	97
						CH'	100	22	75
100						CM'	100	50	86
					灰白	CH'	100	17	28
					にぶい赤褐	CM'	100	16	32
					明褐灰		100	27	49
					にぶい褐		100	17	39
						CH'	100	19	68
							100	28	68
					褐灰		100	12	23
						CM'	100	16	28
						CH'	100	15	50
110							100	16	53
					にぶい橙	CM'	100	15	26
							100	13	24
						CH'	100	53	88
						CM'	100	11	11

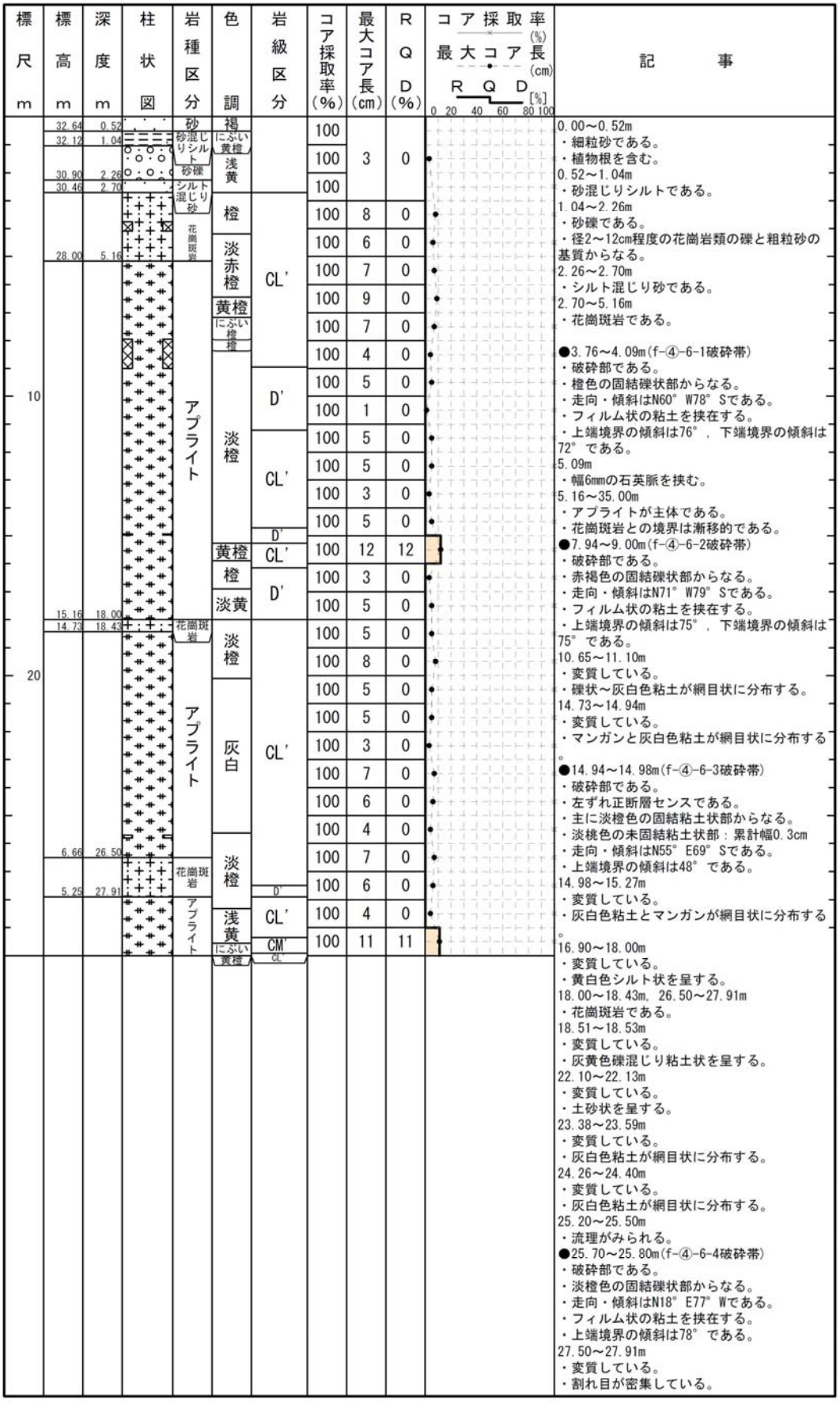
記事
91.31～91.53m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 92.13～101.17m ・割れ目が少なく，長柱状を呈する。
102.36m ・幅5mmで長石脈を挟む。
104.86m ・幅3mmの石英脈を挟む。
106.08m ・幅1.5～2mmの石英脈を挟む。 107.57m ・幅1～1.5mmの石英脈を挟む。
109.61m ・幅2mmの石英脈を挟む。
112.34m ・幅1～1.5mmの石英脈を挟む。

H20－④－6

柱状図(0.00m～30.00m)

H20-④-6

孔口標高	T.P. 33.16m	掘削長	35.00m



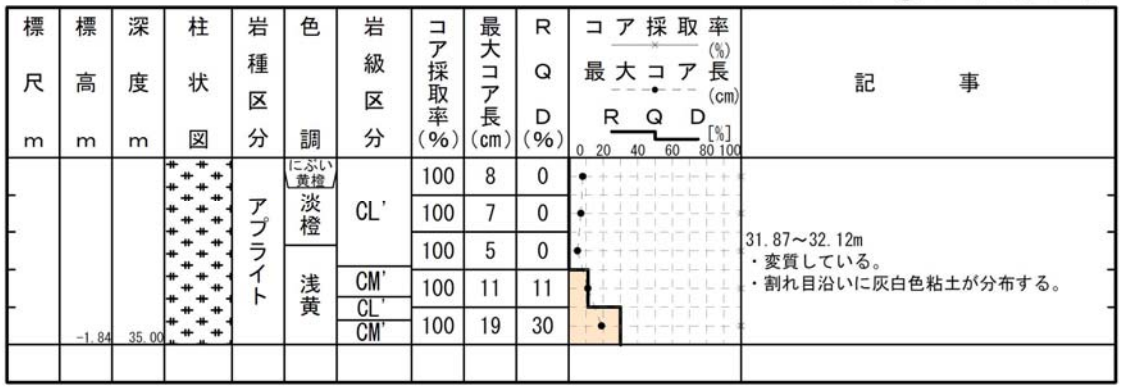
0.00～0.52m
・細粒砂である。
・植物根を含む。
0.52～1.04m
・砂混じりシルトである。
1.04～2.26m
・砂礫である。
・径2～12cm程度の花崗岩類の礫と粗粒砂の基質からなる。
2.26～2.70m
・シルト混じり砂である。
2.70～5.16m
・花崗斑岩である。

●3.76～4.09m(f-④-6-1破砕帯)
・破砕部である。
・橙色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN60° W78° Sである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は76°，下端境界の傾斜は72°である。
5.09m
・幅6mmの石英脈を挟む。
5.16～35.00m
・アプライトが主体である。
・花崗斑岩との境界は漸移的である。
●7.94～9.00m(f-④-6-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN71° W79° Sである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は75°である。
10.65～11.10m
・変質している。
・礫状～灰白色粘土が網目状に分布する。
14.73～14.94m
・変質している。
・マンガンと灰白色粘土が網目状に分布する。
●14.94～14.98m(f-④-6-3破砕帯)
・破砕部である。
・左ずれ正断層センスである。
・主に淡橙色の固結粘土状部からなる。
・淡桃色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN55° E69° Sである。
・上端境界の傾斜は48°である。
14.98～15.27m
・変質している。
・灰白色粘土とマンガンが網目状に分布する。
16.90～18.00m
・変質している。
・黄白色シルト状を呈する。
18.00～18.43m，26.50～27.91m
・花崗斑岩である。
18.51～18.53m
・変質している。
・灰黄色礫混じり粘土状を呈する。
22.10～22.13m
・変質している。
・土砂状を呈する。
23.38～23.59m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
24.26～24.40m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
25.20～25.50m
・流理がみられる。
●25.70～25.80m(f-④-6-4破砕帯)
・破砕部である。
・淡橙色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN18° E77° Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は78°である。
27.50～27.91m
・変質している。
・割れ目が密集している。

参考3-755

H20－④－6

柱状図(30.00m～35.00m)



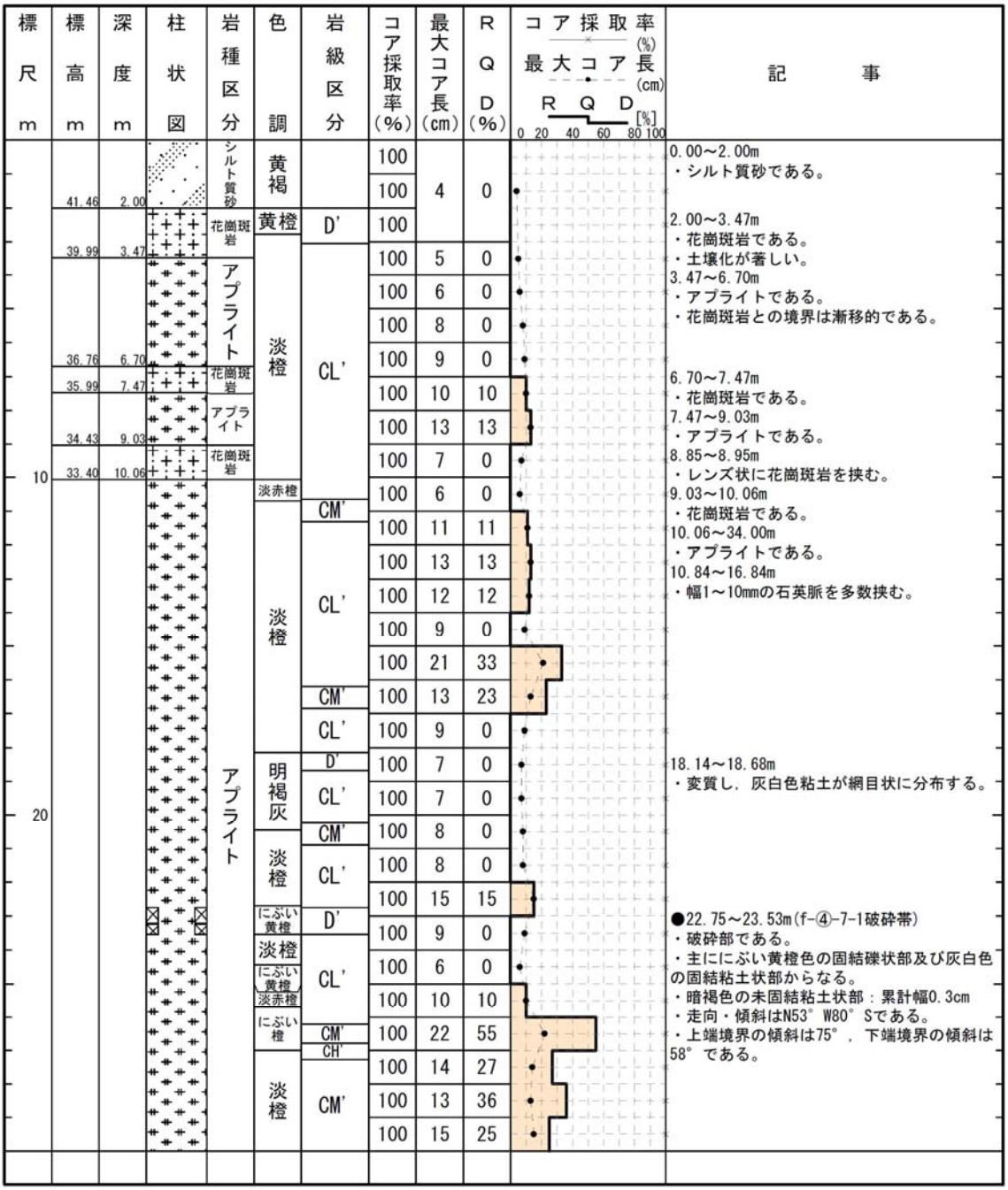
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				アプライト	にぶい黄橙 淡橙	CL'	100	8	0		
							100	7	0		
							100	5	0		31.87～32.12m ・変質している。 ・割れ目沿いに灰白色粘土が分布する。
					浅黄	CM'	100	11	11		
						CL'					
	-1.84	35.00				CM'	100	19	30		

H20－④－7

柱状図(0.00m～30.00m)

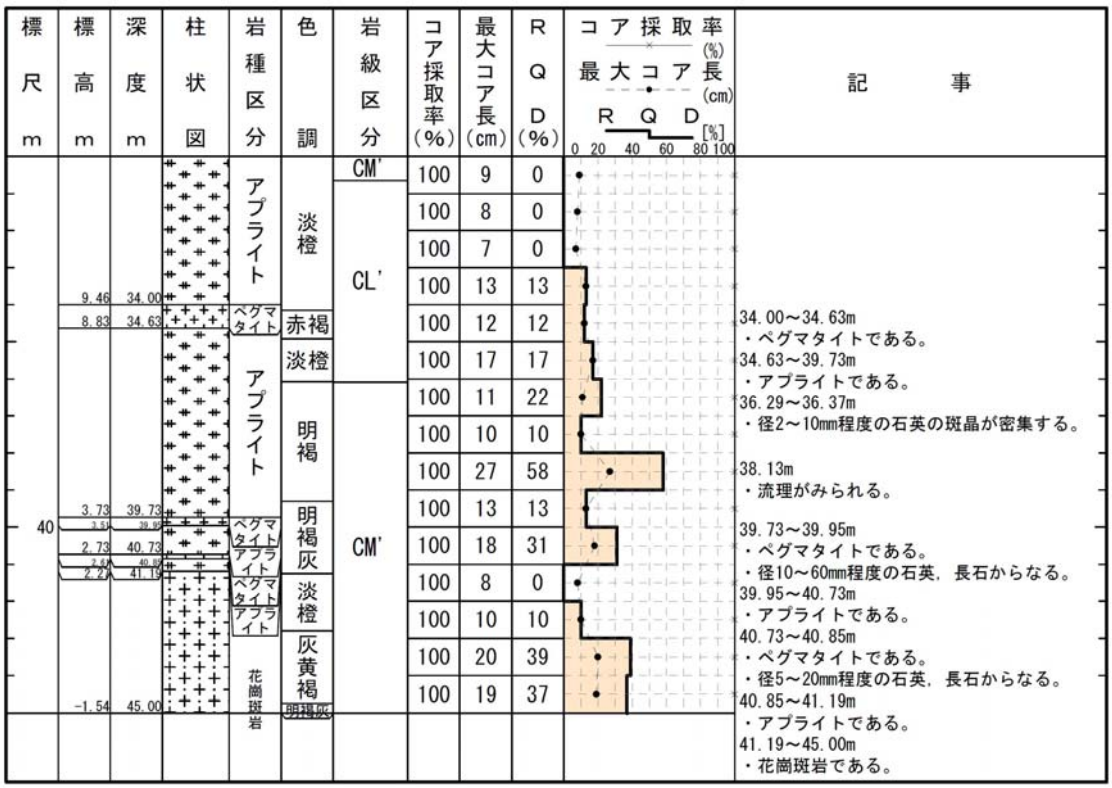
H20-④-7

孔口標高	T.P. 43.46m	掘削長	45.00m



H20－④－7

柱状図(30.00m～45.00m)

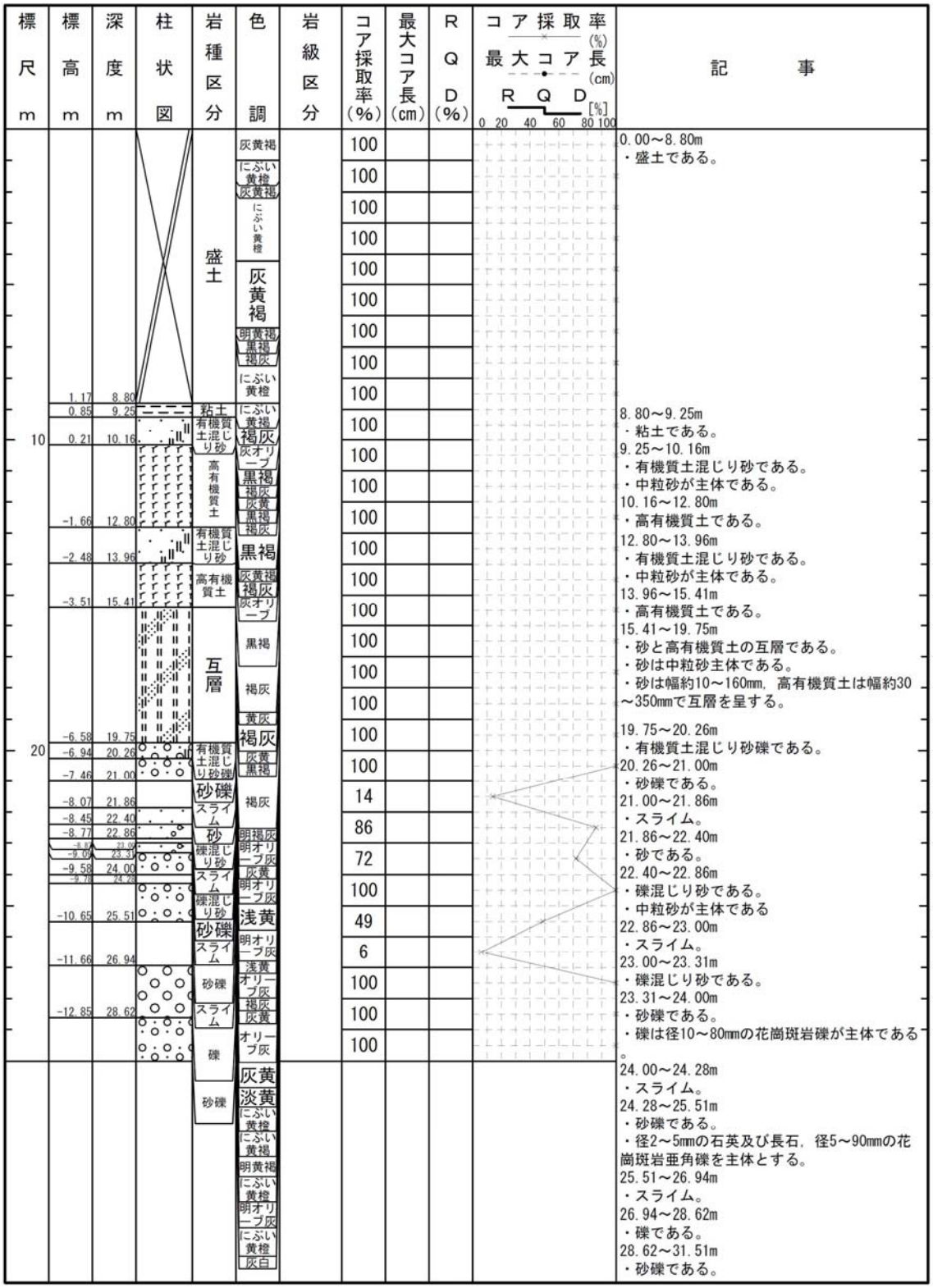


H24－B8－34

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B8-34

孔口標高	T.P. 7.39m	掘削長	72.00m



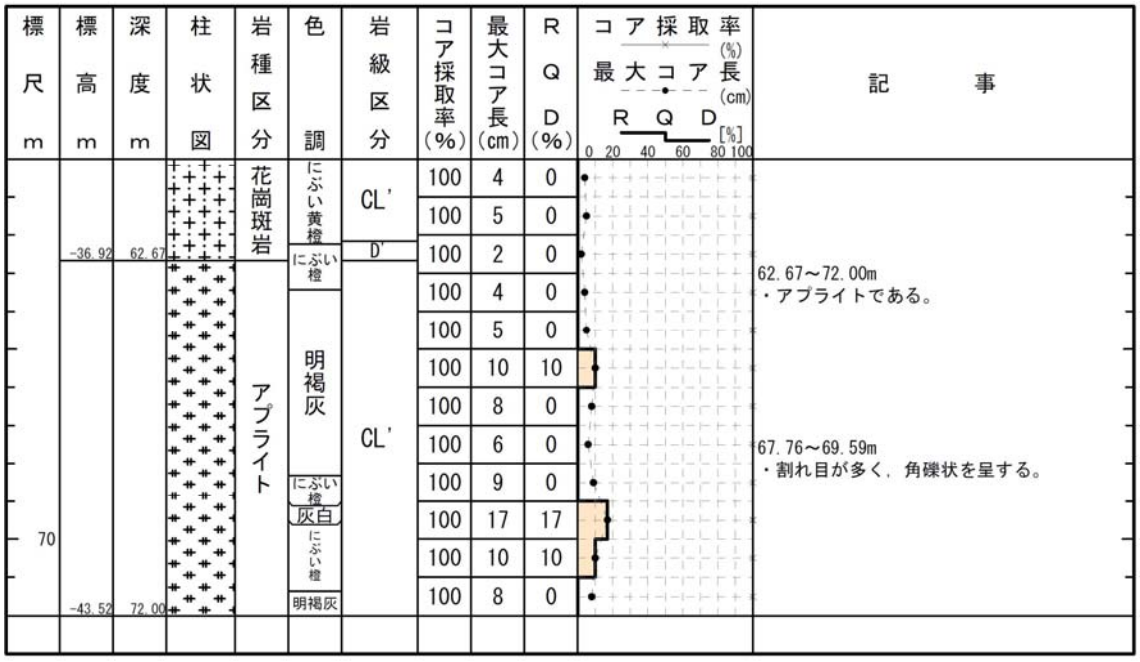
H24－B8－34

柱状図(30.00m～60.00m)



H24－B8－34

柱状図(60.00m～72.00m)

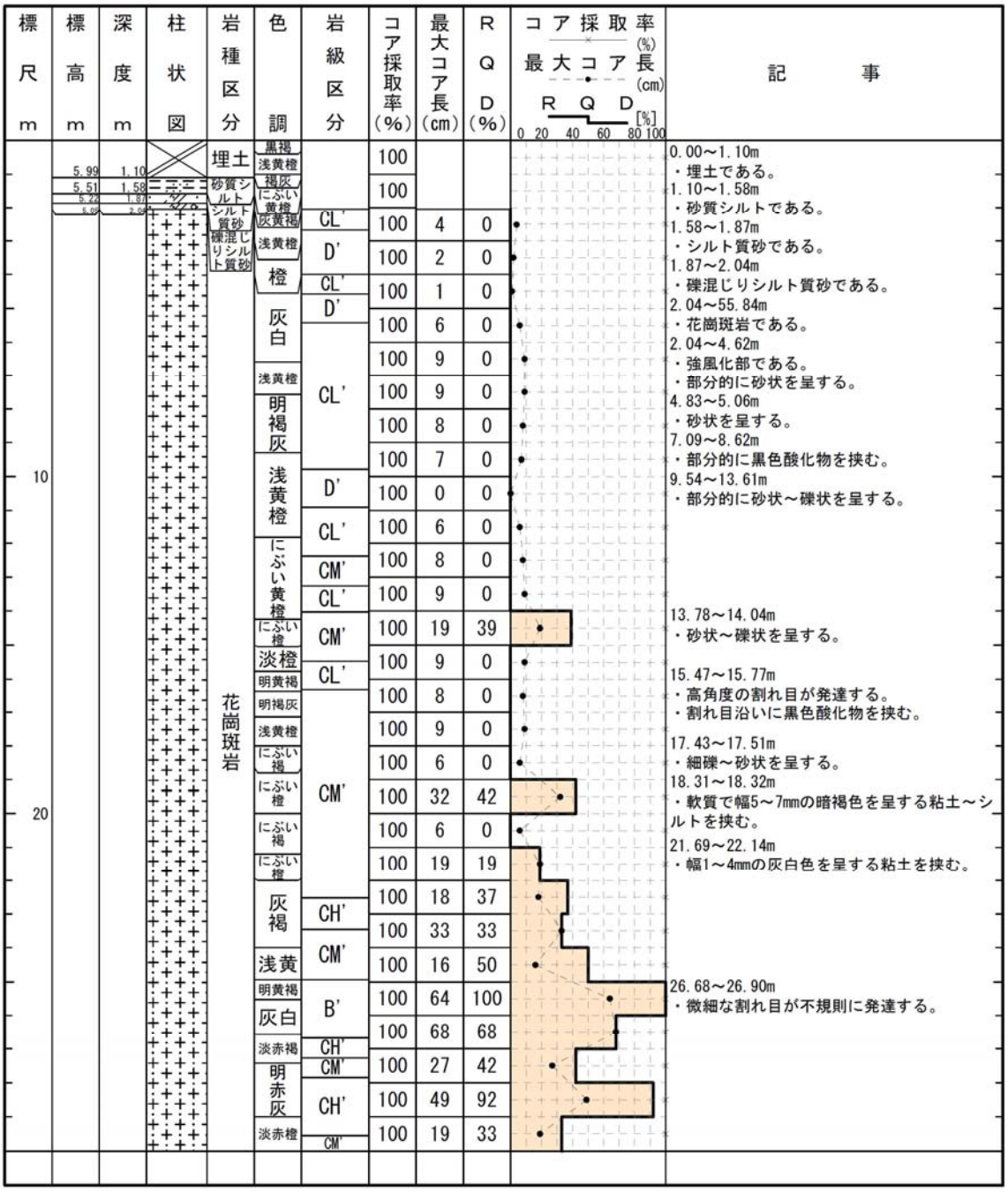


H27－Br－5

柱状図(0.00m～30.00m)

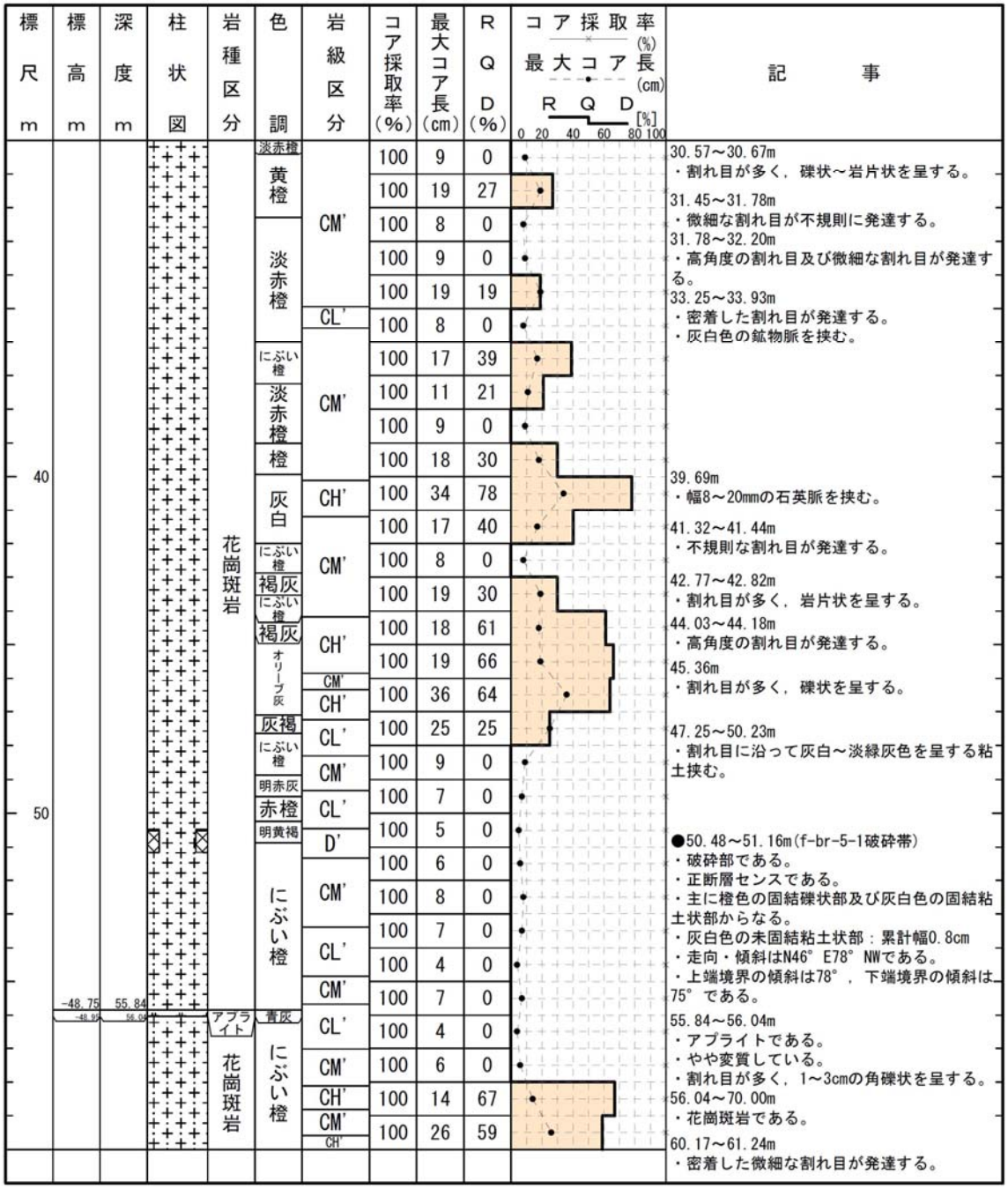
H27-Br-5

孔口標高	T.P. 7.09m	掘削長	70.00m



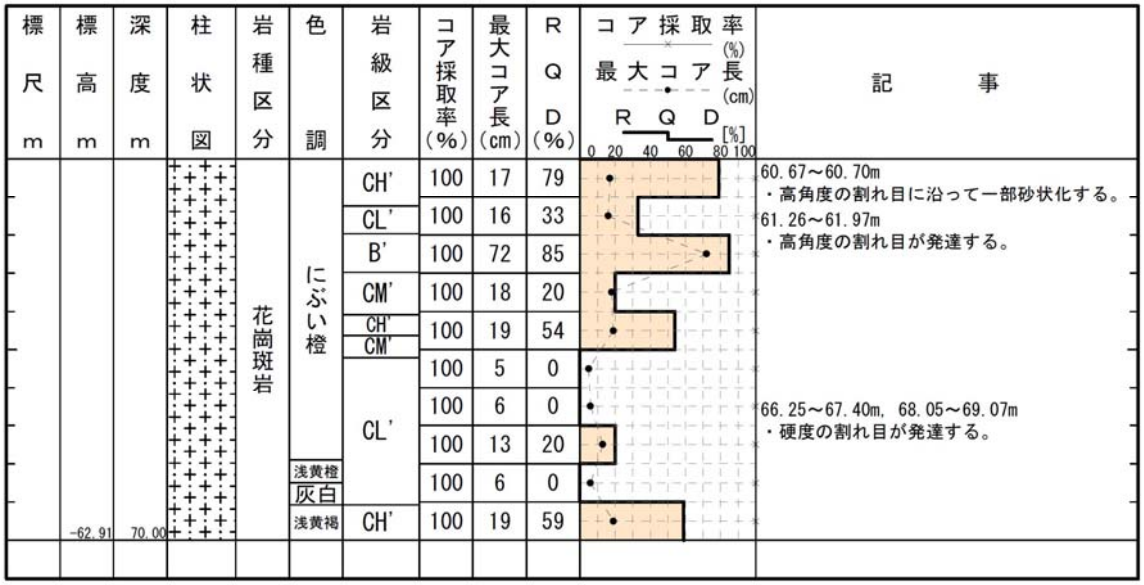
H27－Br－5

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－5

柱状図(60.00m～70.00m)

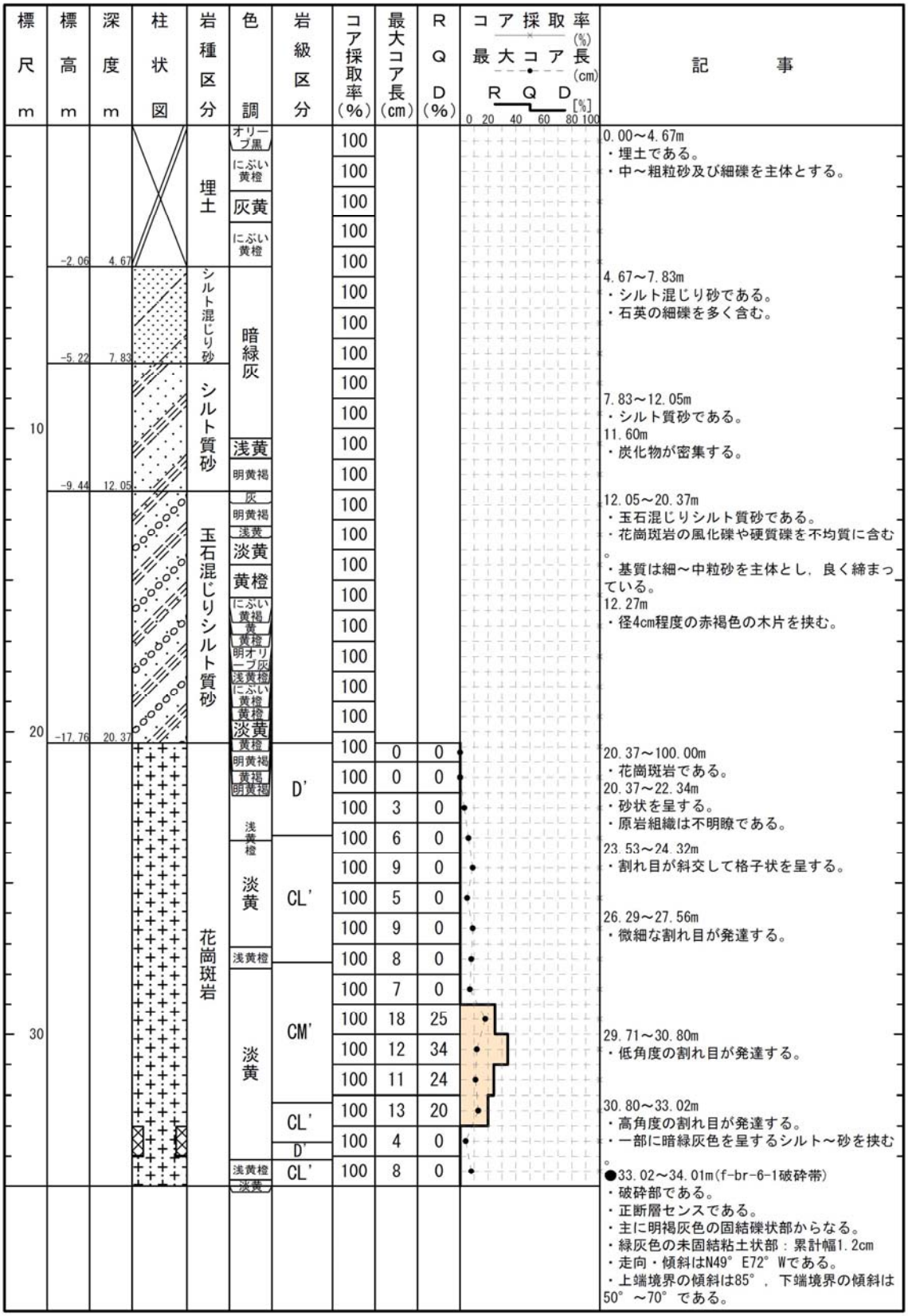


H27－Br－6

柱状図(0.00m～35.00m)

H27-Br-6

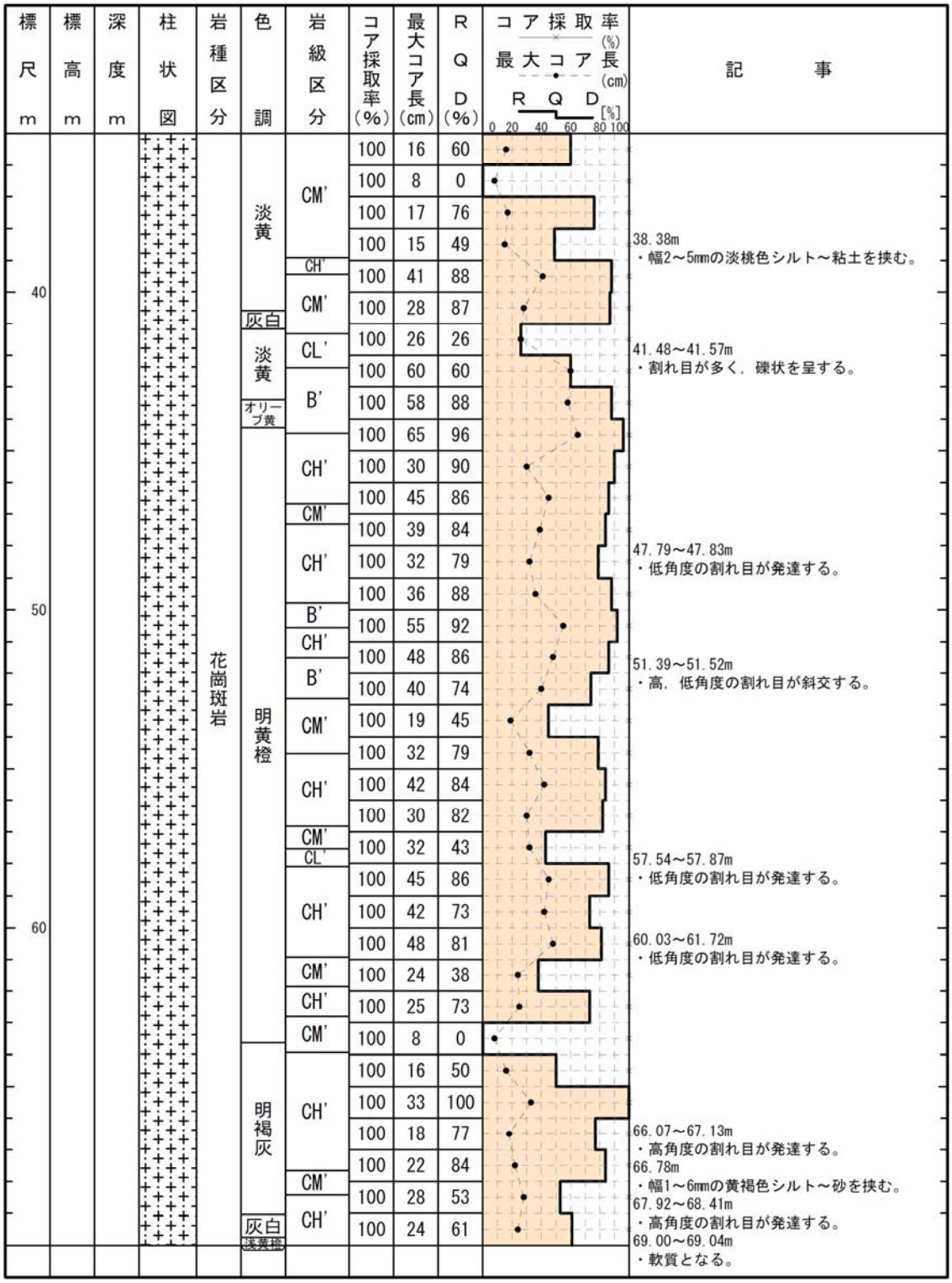
孔口標高	T.P. 2.61m	掘削長	100.00m



標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)
			埋土	オリーブ黒		100		
				にぶい黄橙		100		
				灰黄		100		
				にぶい黄橙		100		
	-2.06	4.67				100		
			シルト混じり砂	暗緑灰		100		
						100		
	-5.22	7.83				100		
			シルト質砂			100		
10						100		
				浅黄		100		
	-9.44	12.05		明黄褐		100		
			玉石混じりシルト質砂	灰		100		
				明黄褐		100		
				浅黄		100		
				淡黄		100		
				黄橙		100		
				にぶい黄褐		100		
				黄		100		
				黄橙		100		
				明オリーブ灰		100		
				浅黄橙		100		
				にぶい黄橙		100		
				黄橙		100		
20				淡黄		100		
	-17.76	20.37		黄橙		100	0	0
				明黄褐		100	0	0
				黄褐	D'	100	3	0
				明黄褐		100	6	0
				浅黄橙		100	9	0
			花崗斑岩	淡黄	CL'	100	5	0
						100	9	0
				浅黄橙		100	8	0
						100	7	0
					CM'	100	18	25
30				淡黄		100	12	34
						100	11	24
					CL'	100	13	20
					D'	100	4	0
				浅黄橙	CL'	100	8	0
				淡黄				

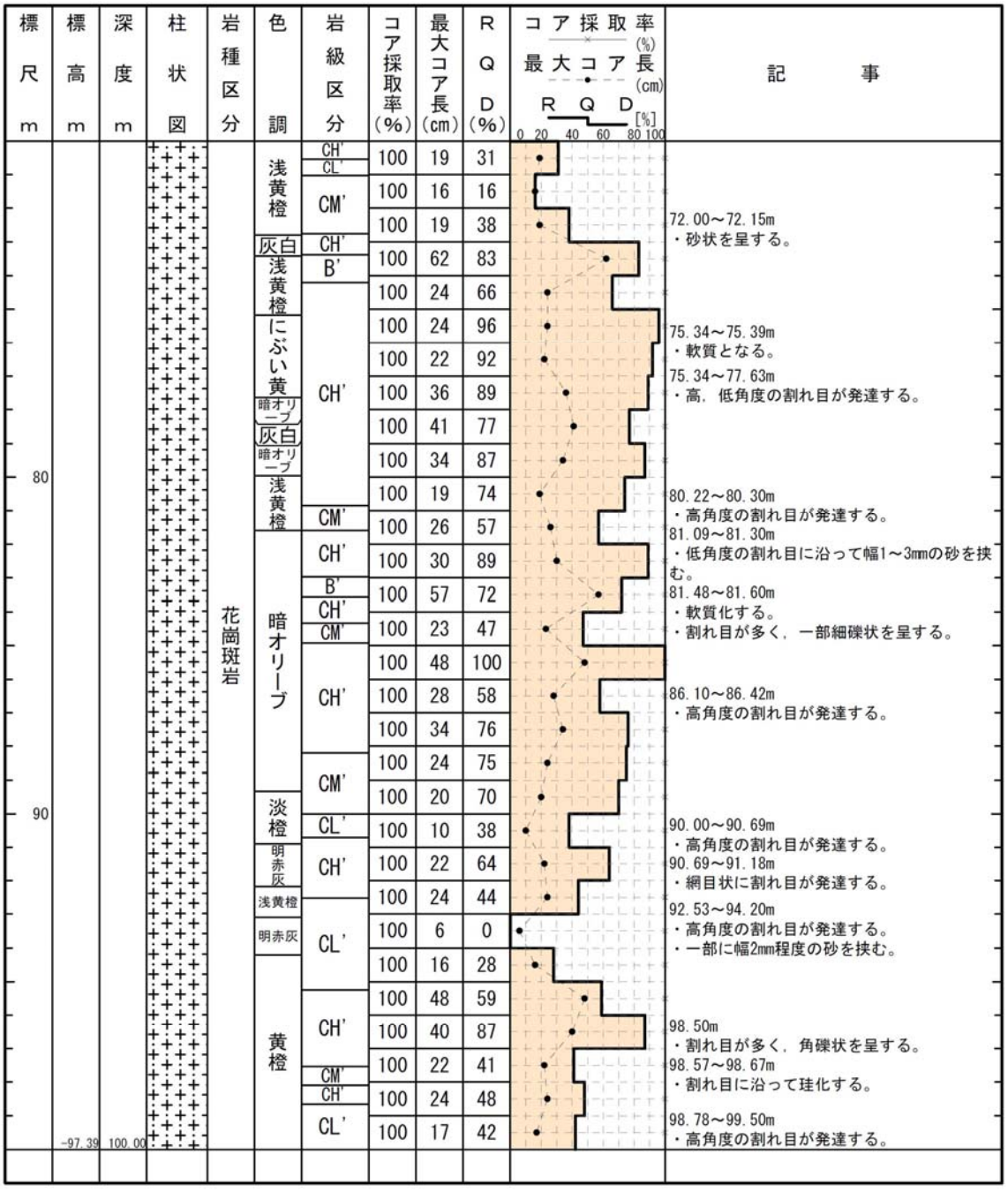
H27－Br－6

柱状図(35.00m～70.00m)



H27－Br－6

柱状図(70.00m～100.00m)

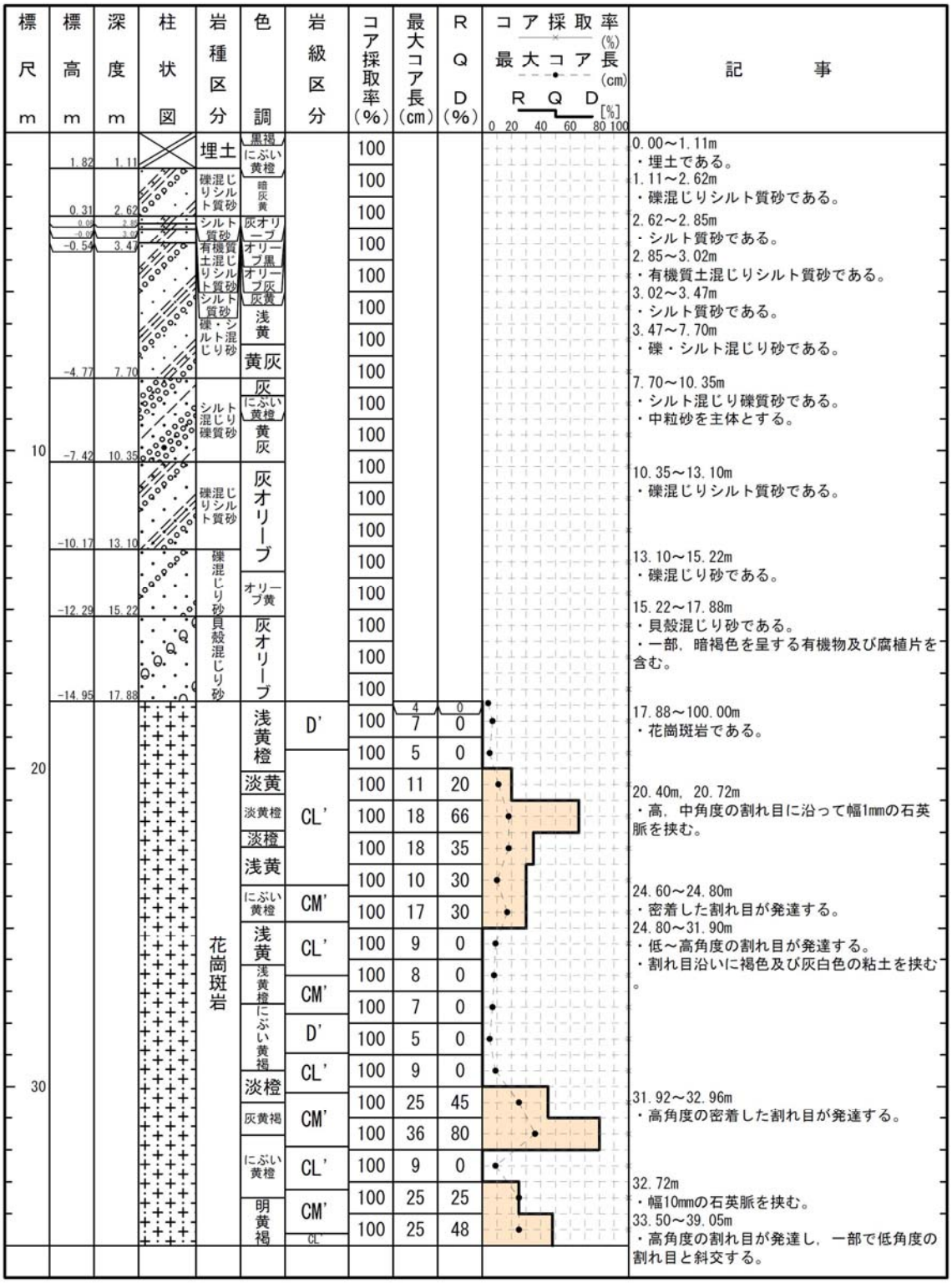


H27－Br－12

柱状図(0.00m～35.00m)

H27-Br-12

孔口標高	T.P. 2.93m	掘削長	100.00m

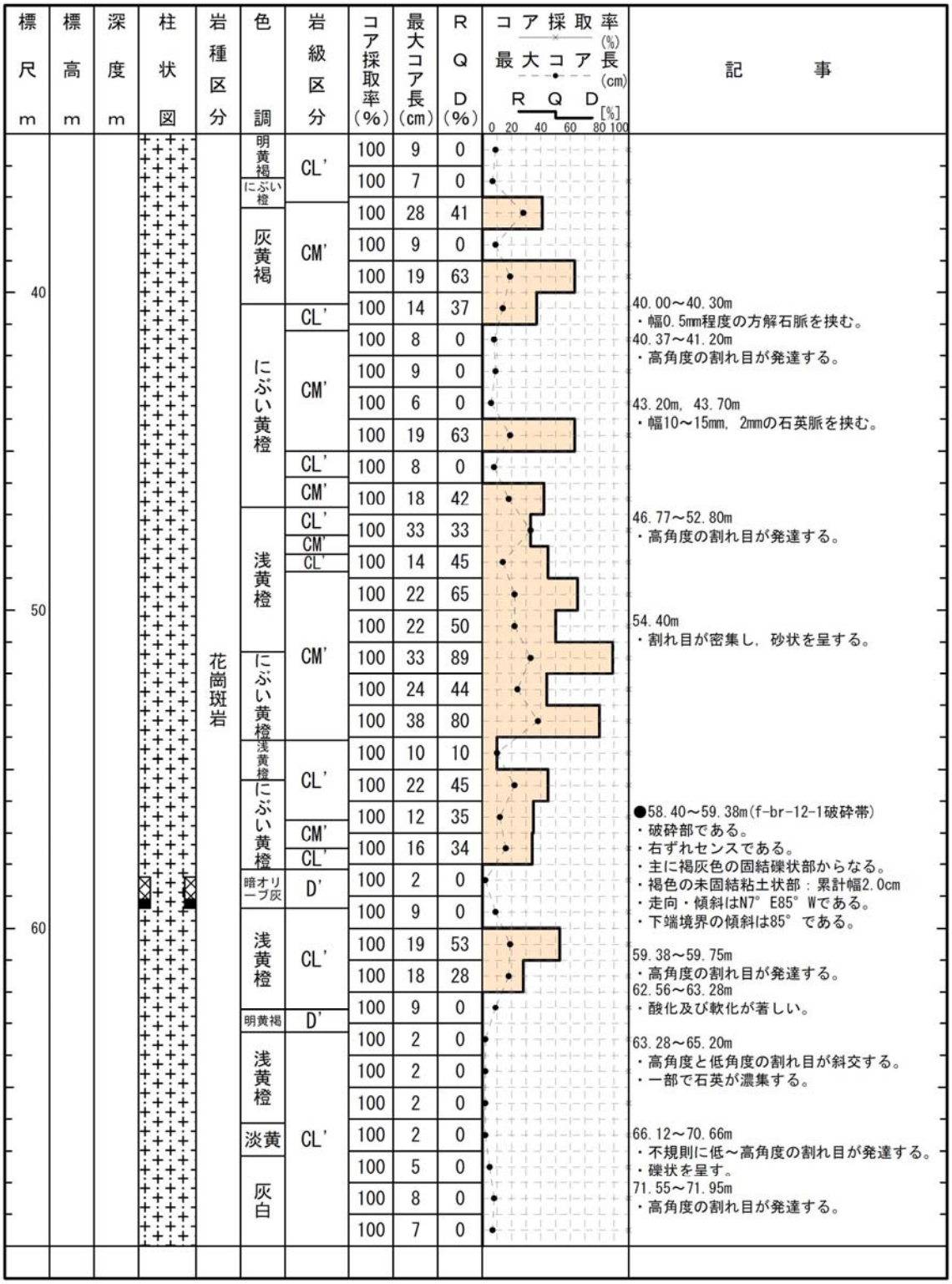


記事
0.00～1.11m ・埋土である。 1.11～2.62m ・礫混じりシルト質砂である。 2.62～2.85m ・シルト質砂である。 2.85～3.02m ・有機質土混じりシルト質砂である。 3.02～3.47m ・シルト質砂である。 3.47～7.70m ・礫・シルト混じり砂である。
7.70～10.35m ・シルト混じり礫質砂である。 ・中粒砂を主体とする。
10.35～13.10m ・礫混じりシルト質砂である。
13.10～15.22m ・礫混じり砂である。
15.22～17.88m ・貝殻混じり砂である。 ・一部，暗褐色を呈する有機物及び腐植片を含む。
17.88～100.00m ・花崗斑岩である。
20.40m，20.72m ・高，中角度の割れ目に沿って幅1mmの石英脈を挟む。
24.60～24.80m ・密着した割れ目が発達する。 24.80～31.90m ・低～高角度の割れ目が発達する。 ・割れ目沿いに褐色及び灰白色の粘土を挟む。
31.92～32.96m ・高角度の密着した割れ目が発達する。
32.72m ・幅10mmの石英脈を挟む。 33.50～39.05m ・高角度の割れ目が発達し，一部で低角度の割れ目と斜交する。

岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)
D'	100	7	0
CL'	100	5	0
	100	11	20
	100	18	66
	100	18	35
	100	10	30
CM'	100	17	30
CL'	100	9	0
CM'	100	8	0
D'	100	7	0
CL'	100	5	0
CM'	100	9	0
	100	25	45
CL'	100	36	80
CM'	100	9	0
	100	25	25
CL'	100	25	48

H27－Br－12

柱状図(35.00m～70.00m)



H27－Br－12

柱状図(70.00m～100.00m)

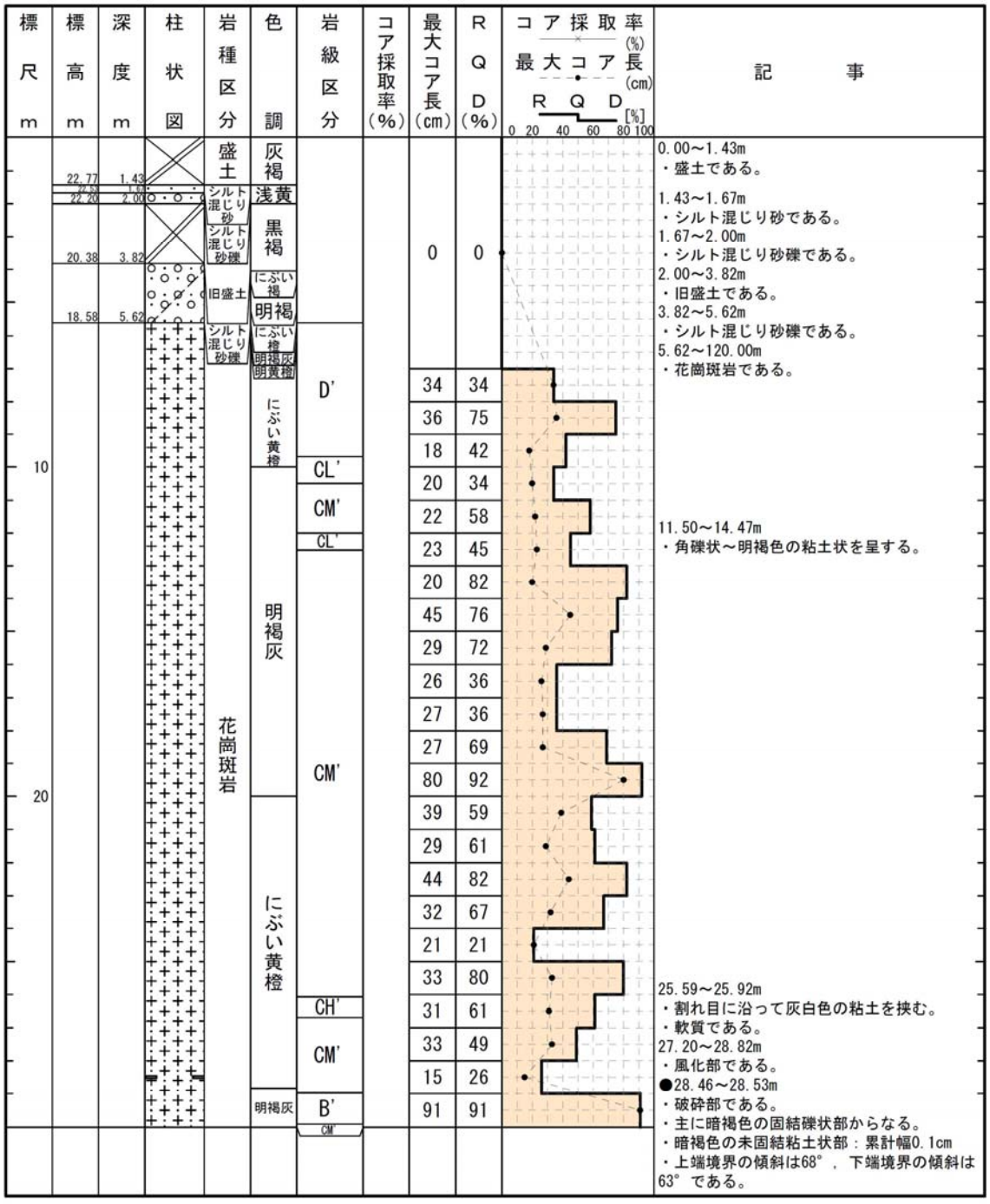


H19－No. 10

柱状図(0.00m～30.00m)

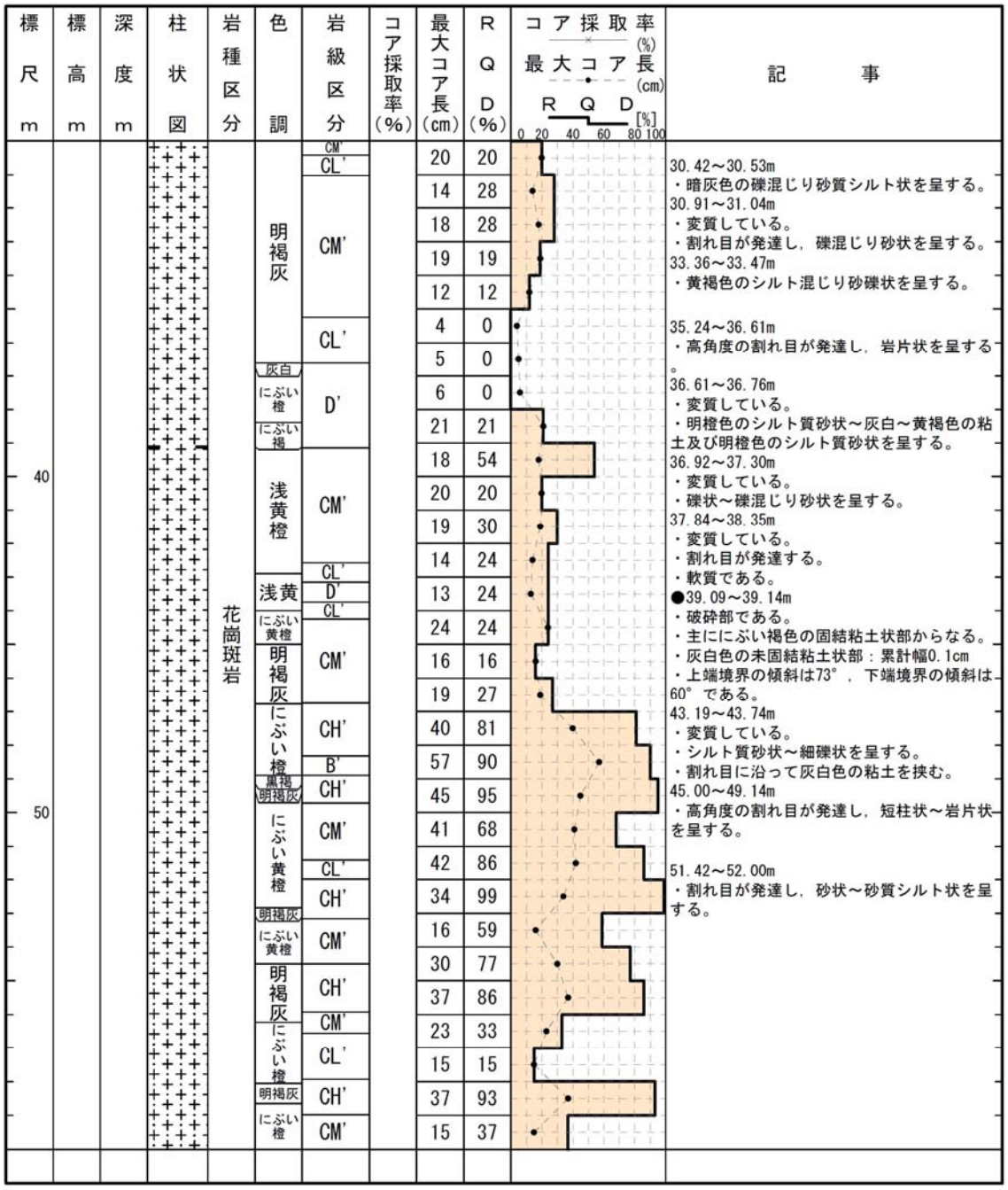
H19-No. 10

孔口標高	T.P. 24.20m	掘削長	120.00m



H19－No. 10

柱状図(30.00m～60.00m)

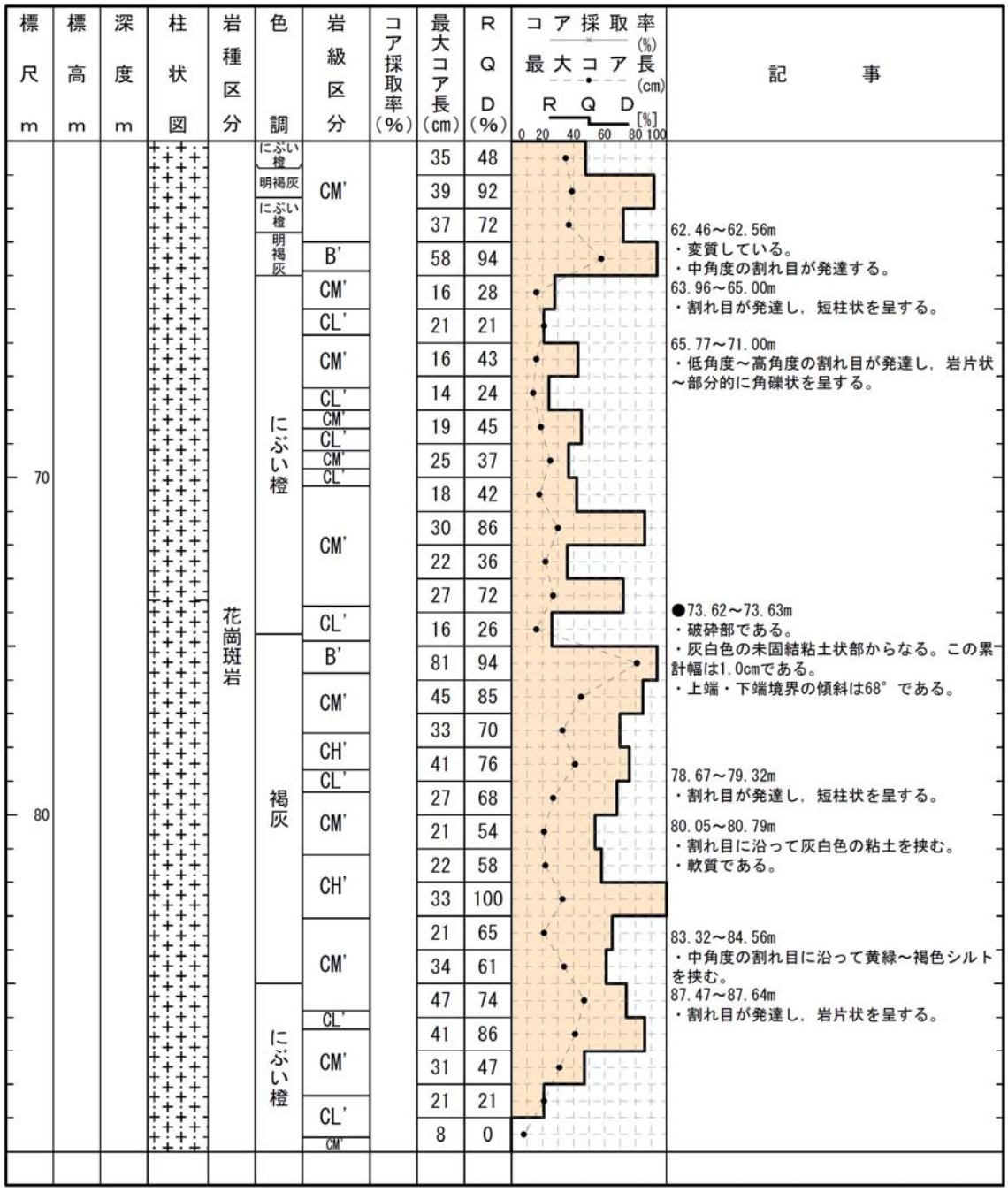


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
						CM'		20	20
						CL'		14	28
					明褐灰	CM'		18	28
								19	19
								12	12
						CL'		4	0
								5	0
					灰白	D'		6	0
					にぶい橙			21	21
					にぶい褐			18	54
40					浅黄橙	CM'		20	20
								19	30
						CL'		14	24
					浅黄	D'		13	24
						CL'		24	24
					にぶい黄橙			16	16
					明褐灰	CM'		19	27
					にぶい橙	CH'		40	81
						B'		57	90
					黒褐	CH'		45	95
50					明褐灰			41	68
					にぶい黄橙	CM'		42	86
						CL'		34	99
						CH'		16	59
					明褐灰			30	77
					にぶい黄橙	CM'		37	86
						CH'		23	33
					明褐灰	CM'		15	15
					にぶい橙	CL'		37	93
						CH'		15	37
					にぶい橙	CM'			

コア採取率 最大コア長 RQD	記事
	30.42～30.53m ・暗灰色の礫混じり砂質シルト状を呈する。 30.91～31.04m ・変質している。 ・割れ目が発達し，礫混じり砂状を呈する。 33.36～33.47m ・黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。 35.24～36.61m ・高角度の割れ目が発達し，岩片状を呈する。 36.61～36.76m ・変質している。 ・明橙色のシルト質砂状～灰白～黄褐色の粘土及び明橙色のシルト質砂状を呈する。 36.92～37.30m ・変質している。 ・礫状～礫混じり砂状を呈する。 37.84～38.35m ・変質している。 ・割れ目が発達する。 ・軟質である。 ●39.09～39.14m ・破砕部である。 ・主ににぶい褐色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・上端境界の傾斜は73°，下端境界の傾斜は60°である。 43.19～43.74m ・変質している。 ・シルト質砂状～細礫状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色の粘土を挟む。 45.00～49.14m ・高角度の割れ目が発達し，短柱状～岩片状を呈する。 51.42～52.00m ・割れ目が発達し，砂状～砂質シルト状を呈する。

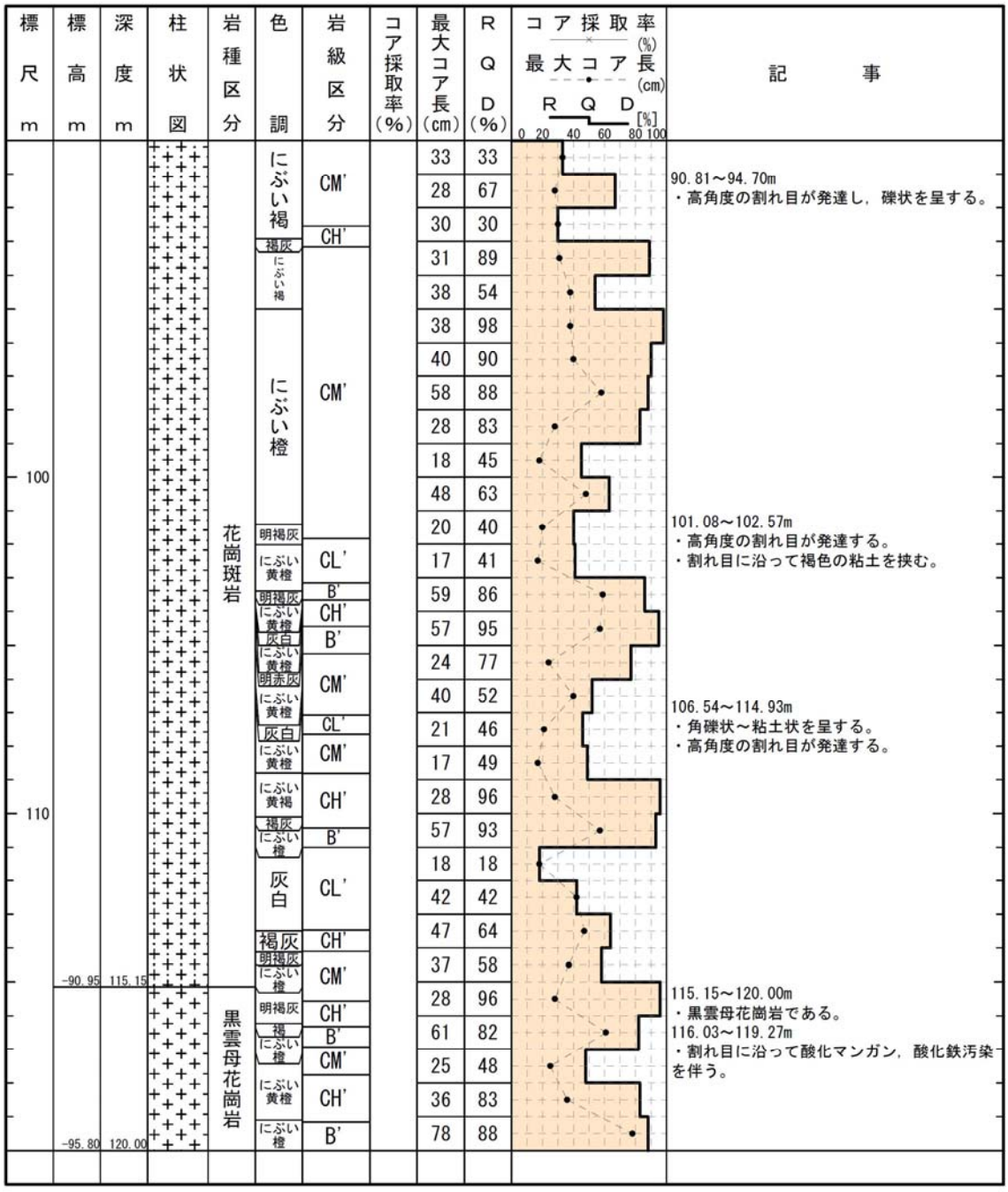
H19－No. 10

柱状図(60.00m～90.00m)



H19－No. 10

柱状図(90.00m～120.00m)

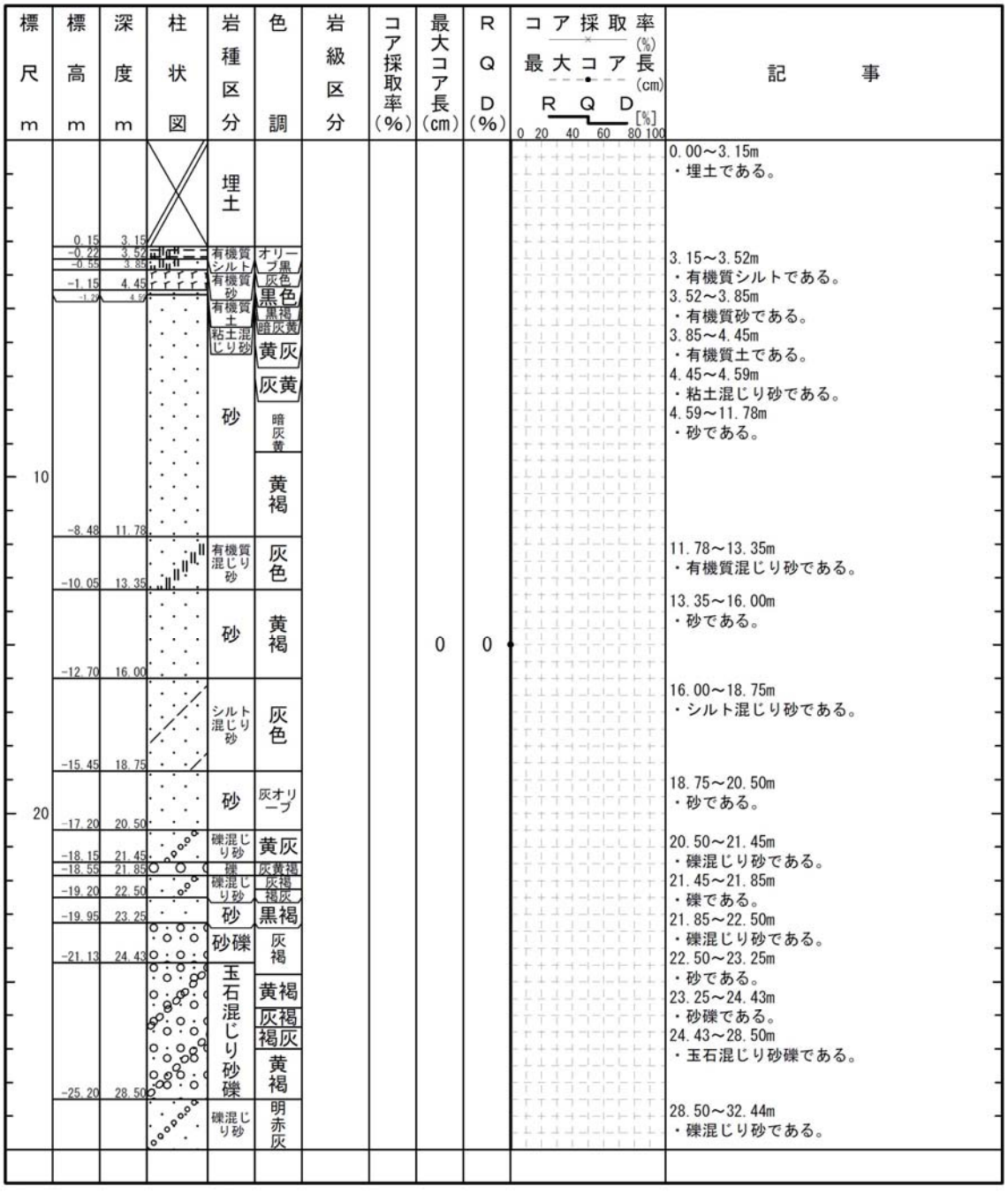


H19－No. 5

柱状図(0.00m～30.00m)

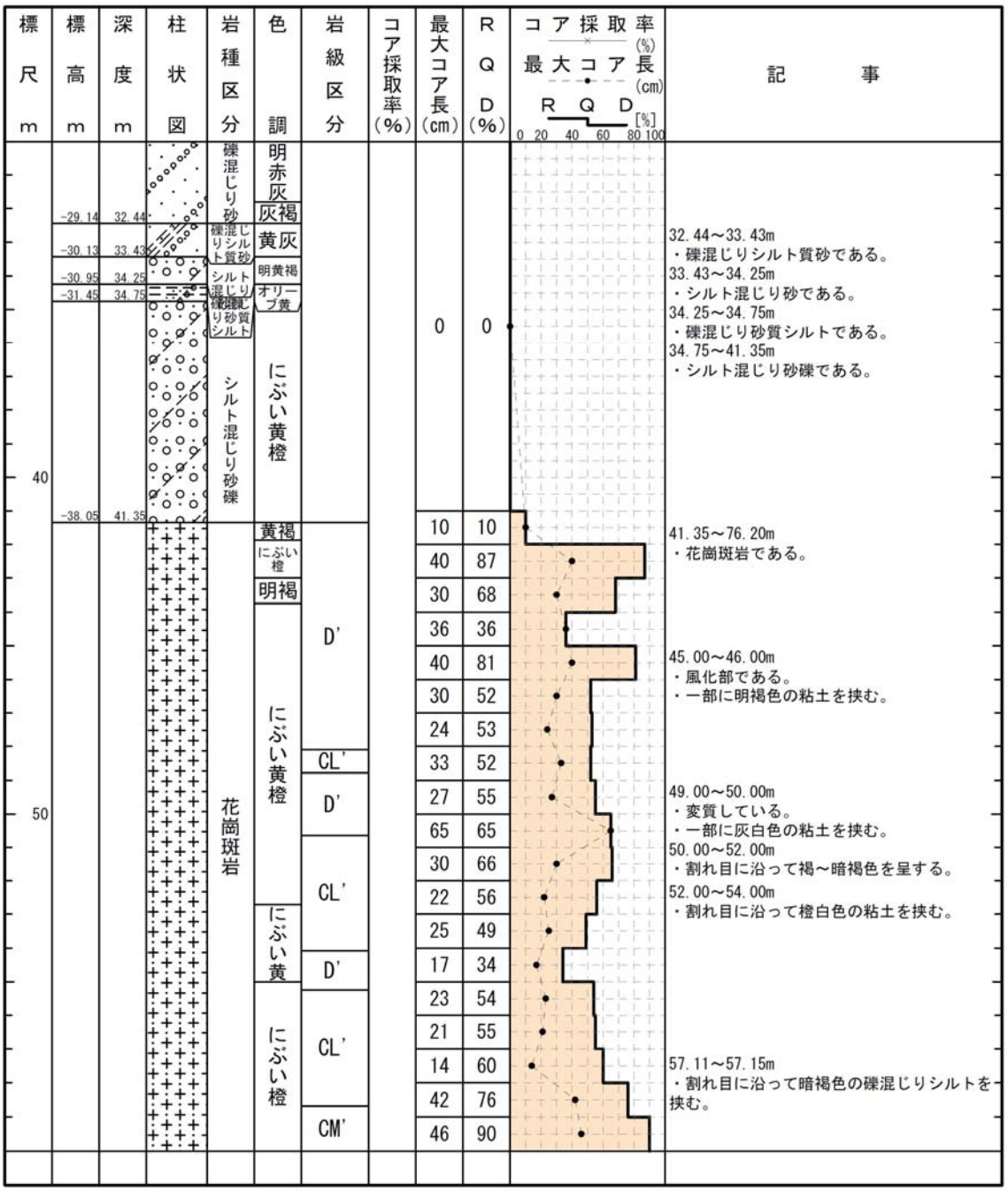
H19-No. 5

孔口標高	T.P. 3.30m	掘削長	150.00m



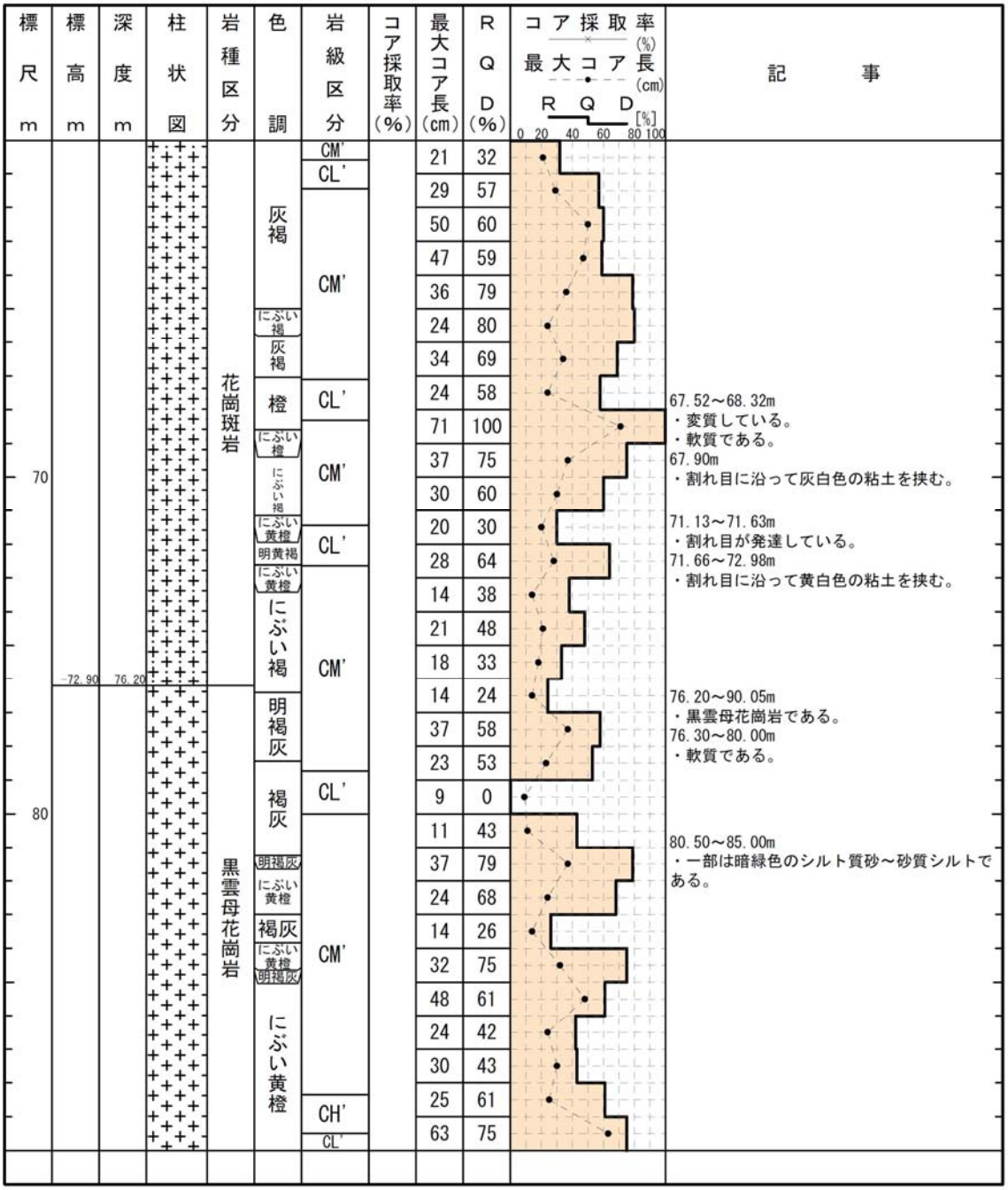
H19－No. 5

柱状図(30.00m～60.00m)



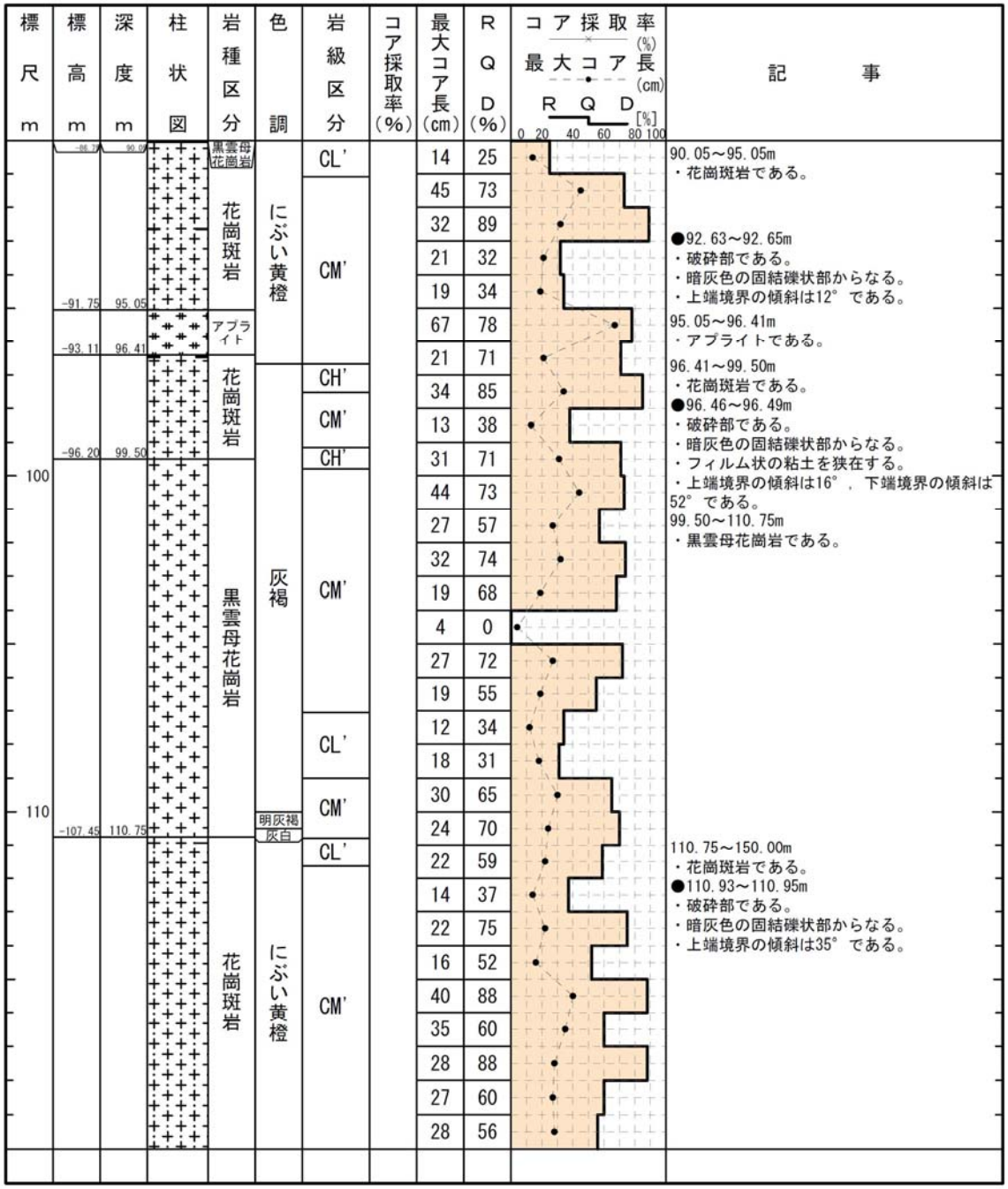
H19－No. 5

柱状図(60.00m～90.00m)



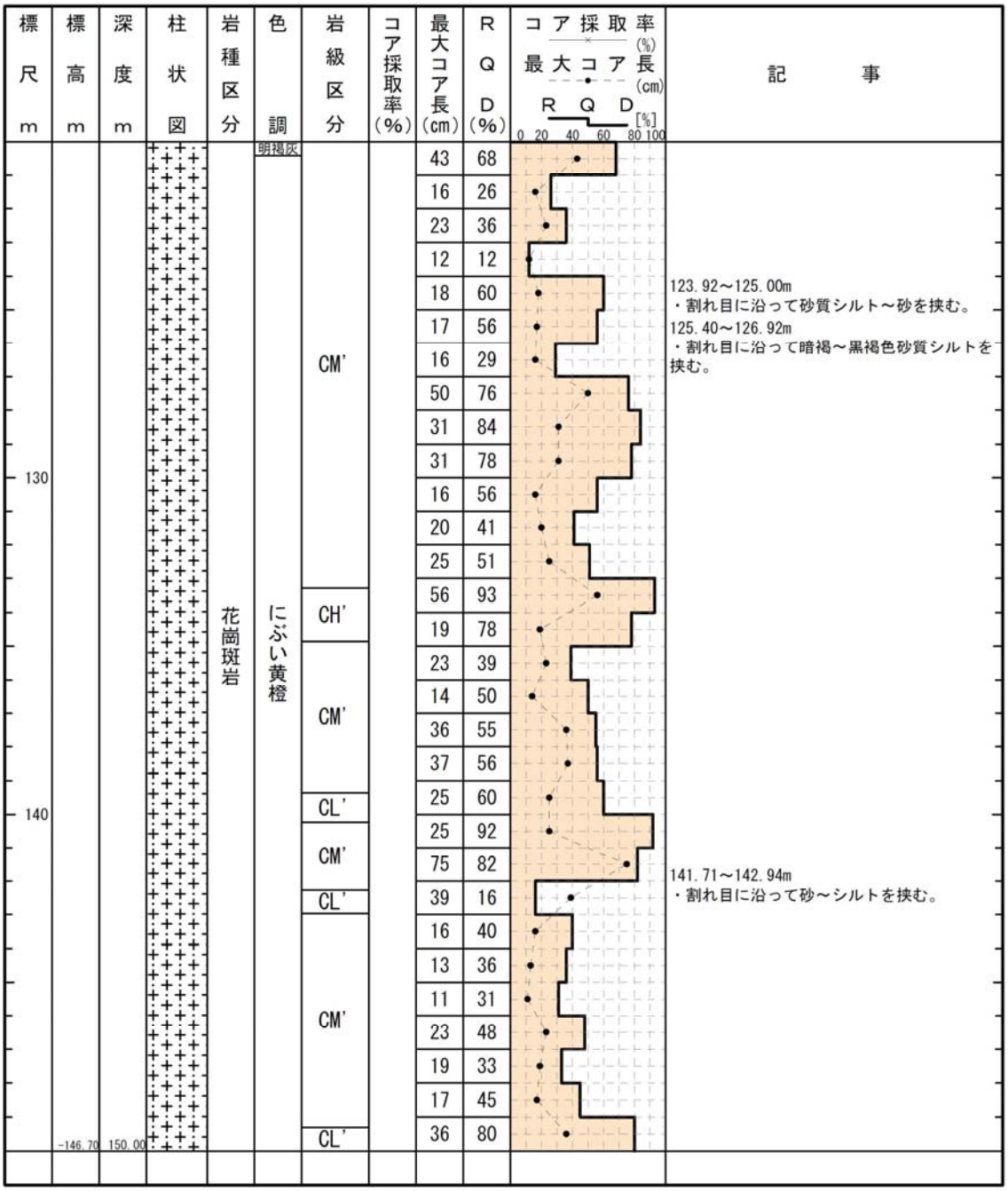
H19－No. 5

柱状図(90.00m～120.00m)



H19－No. 5

柱状図(120.00m～150.00m)

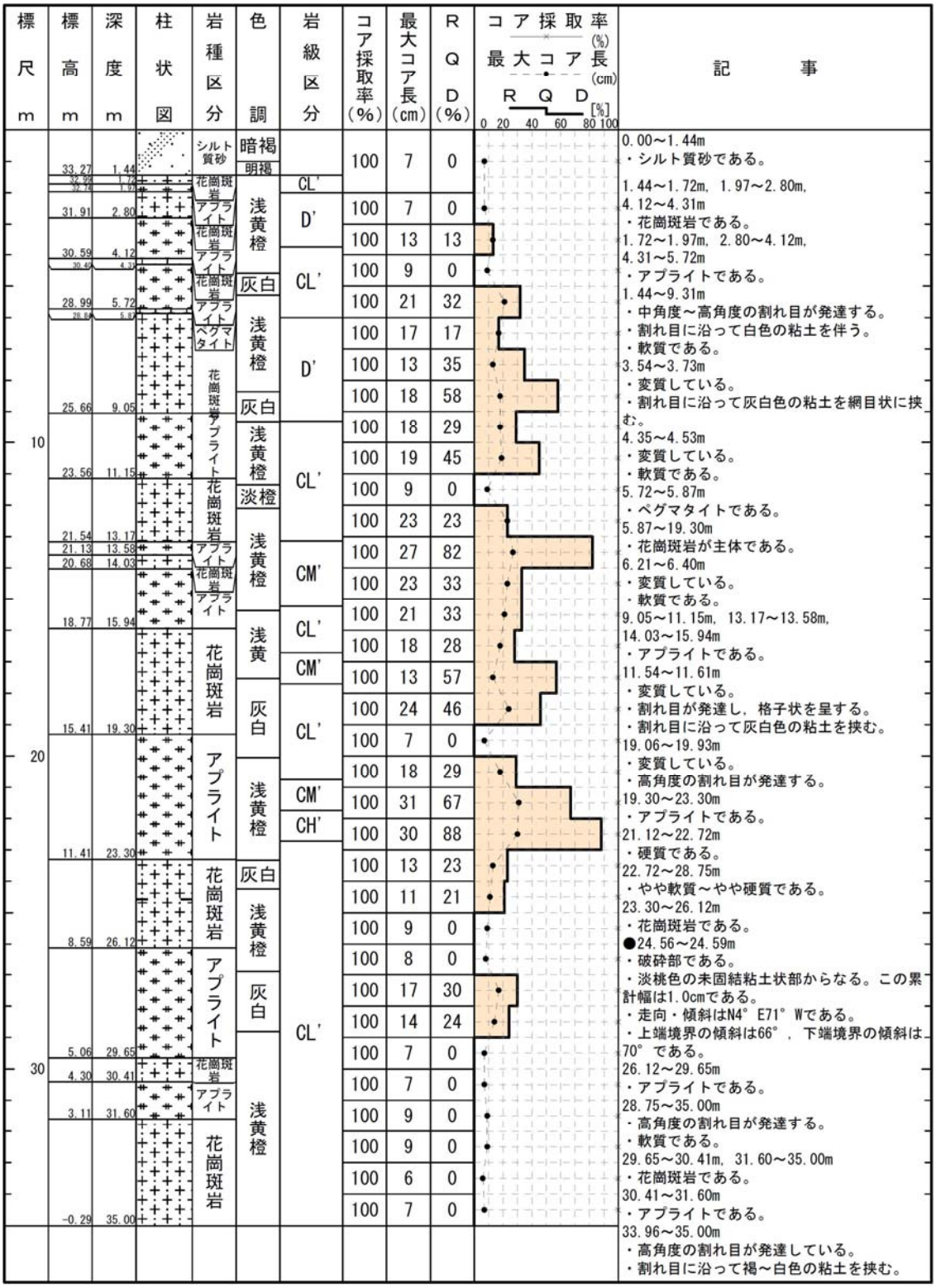


H20－④－4

柱状図(0.00m～35.00m)

H20-④-4

孔口標高	T.P. 34.71m	掘削長	35.00m

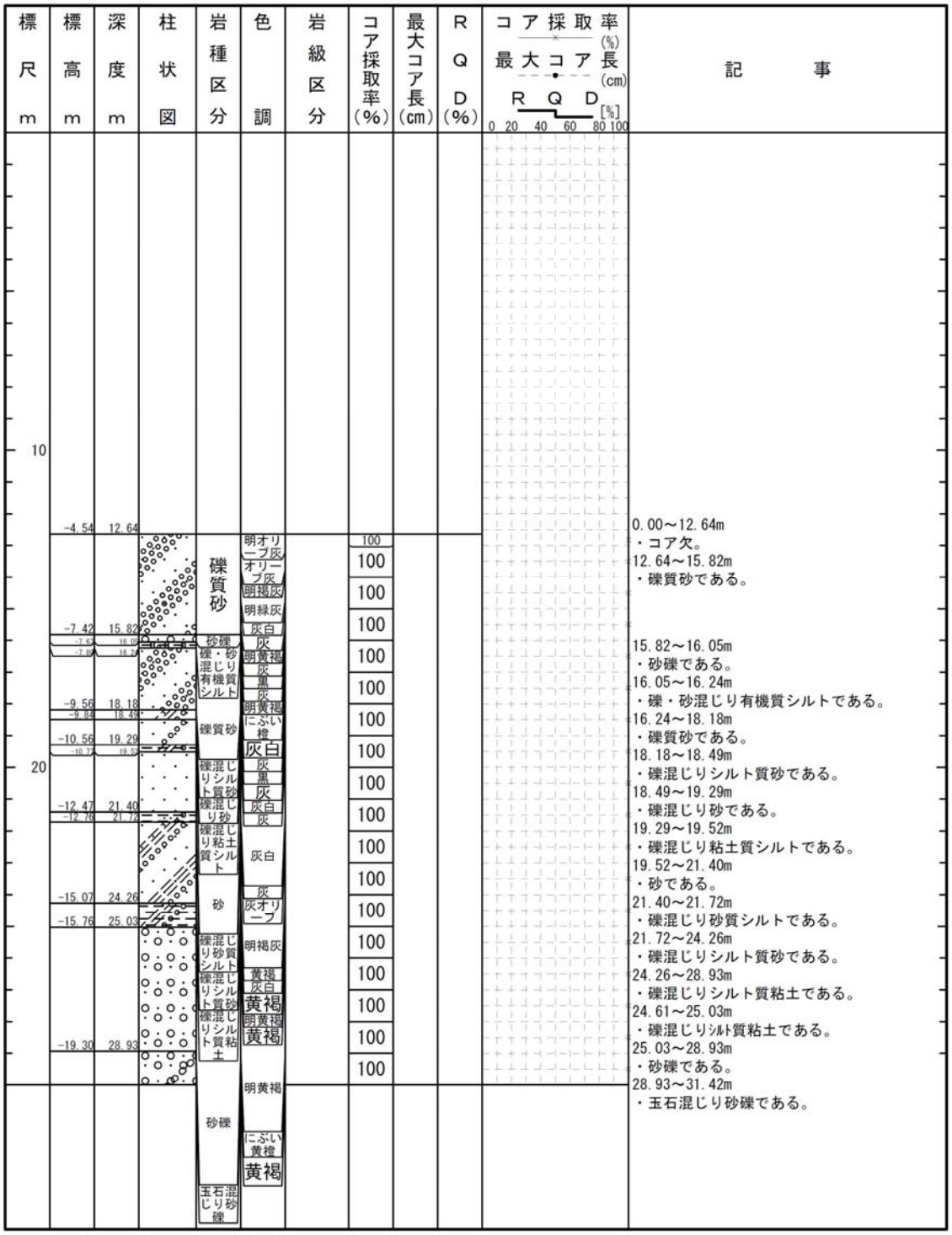


H24－B8－15

柱状図(0.00m～30.00m)

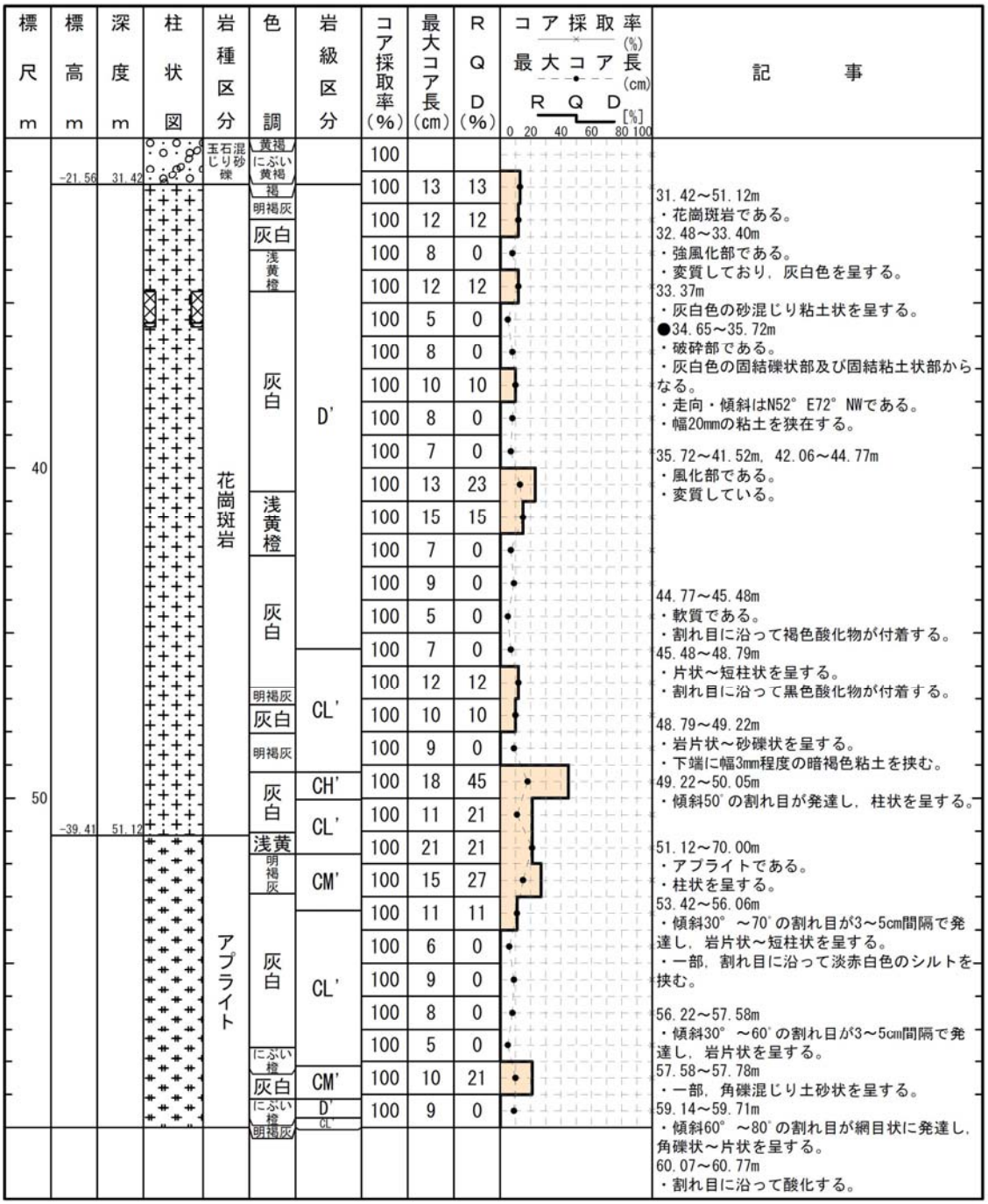
H24-B8-15

孔口標高	T.P. 6.92m	掘削長	70.00m



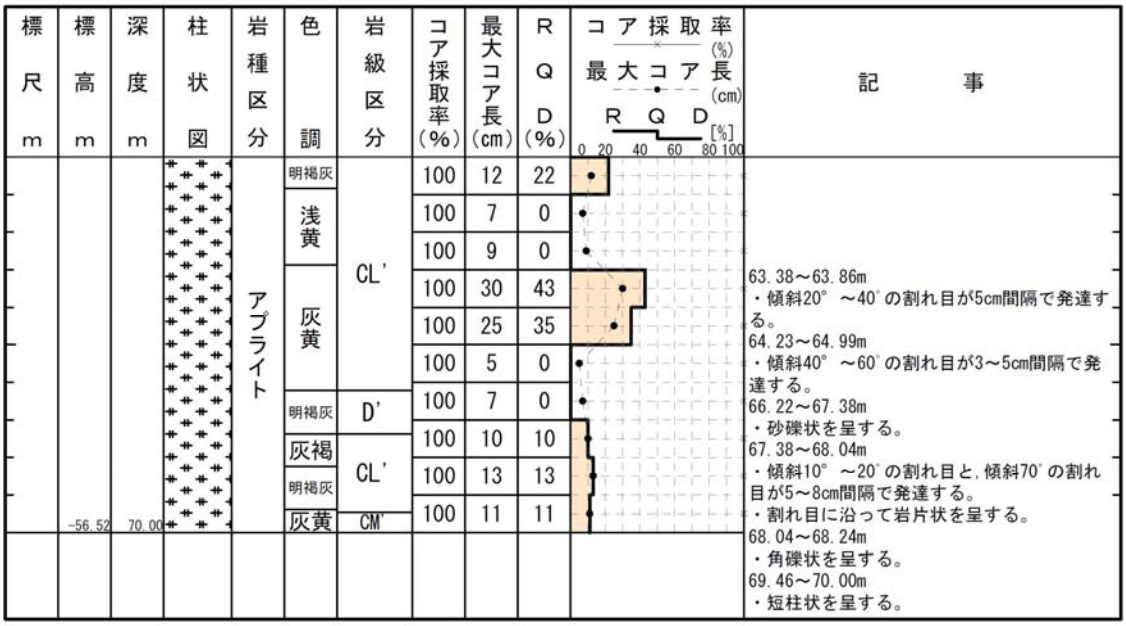
H24－B8－15

柱状図(30.00m～60.00m)



H24－B8－15

柱状図(60.00m～70.00m)



H24－B8－27

柱状図(0.00m～35.00m)

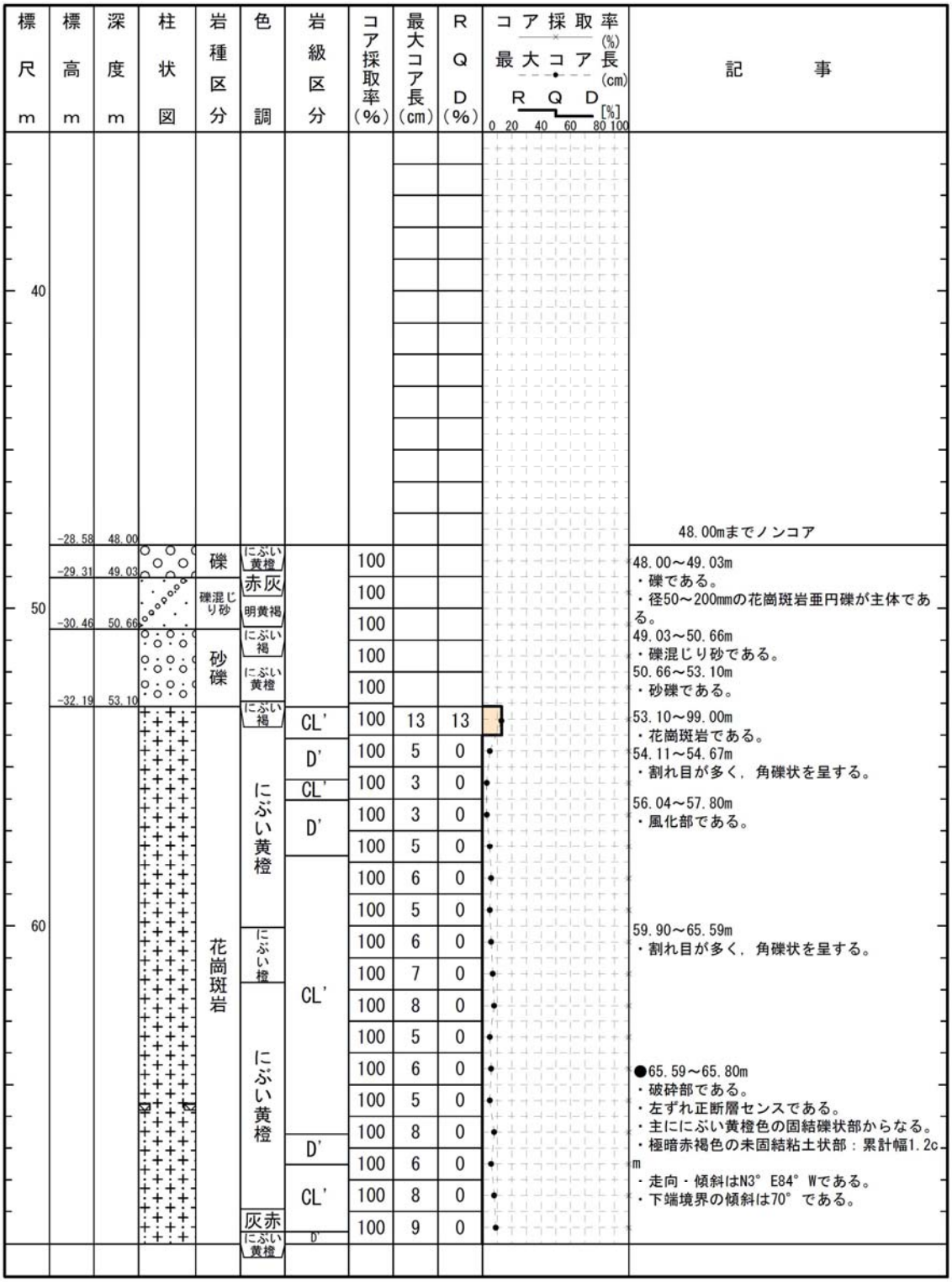
H24-B8-27

孔口標高	T.P. 5.36m	掘削長	99.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
10											48.00mまでノンコア
20											
30											

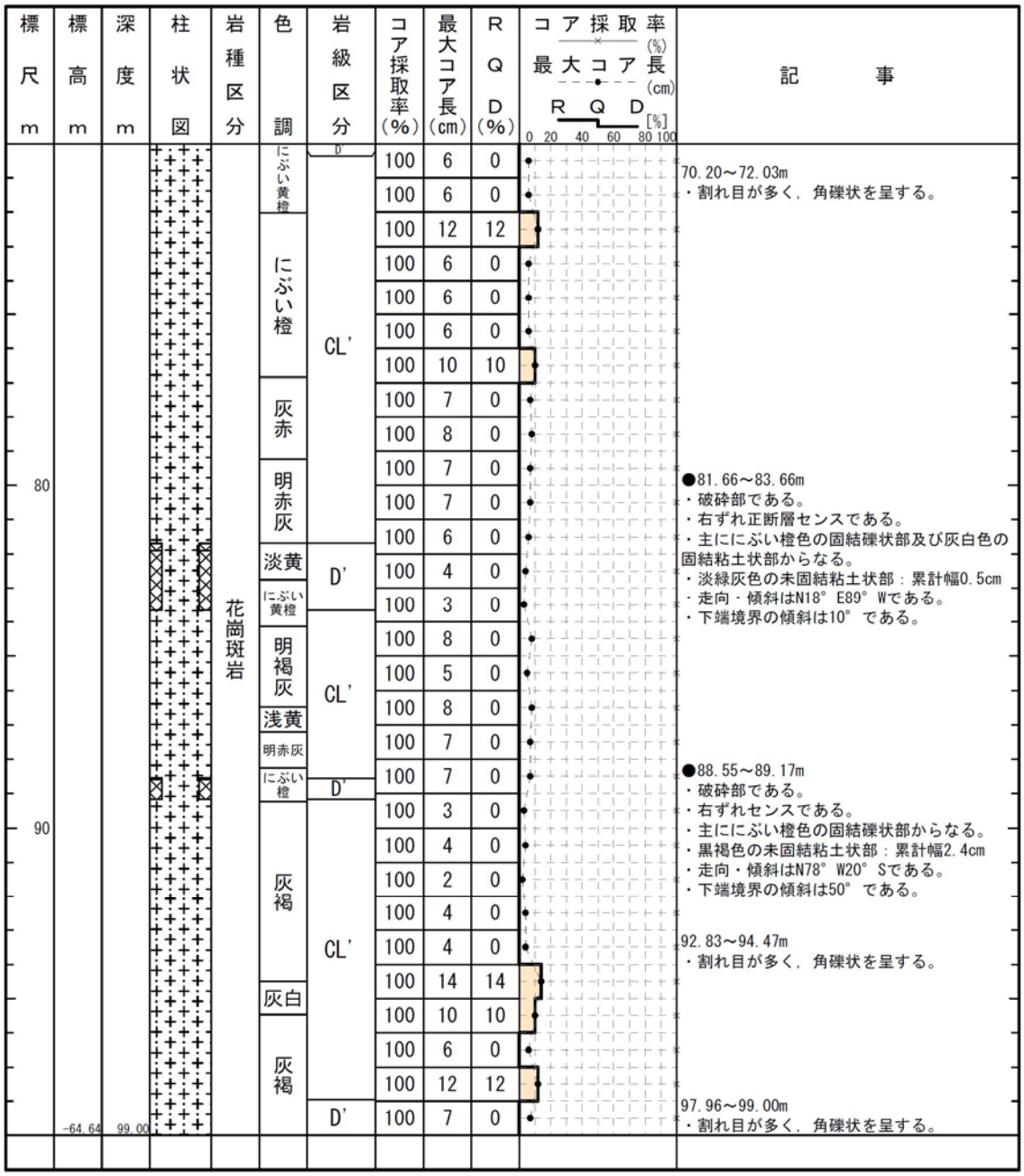
H24－B8－27

柱状図(35.00m～70.00m)



H24－B8－27

柱状図(70.00m～99.00m)

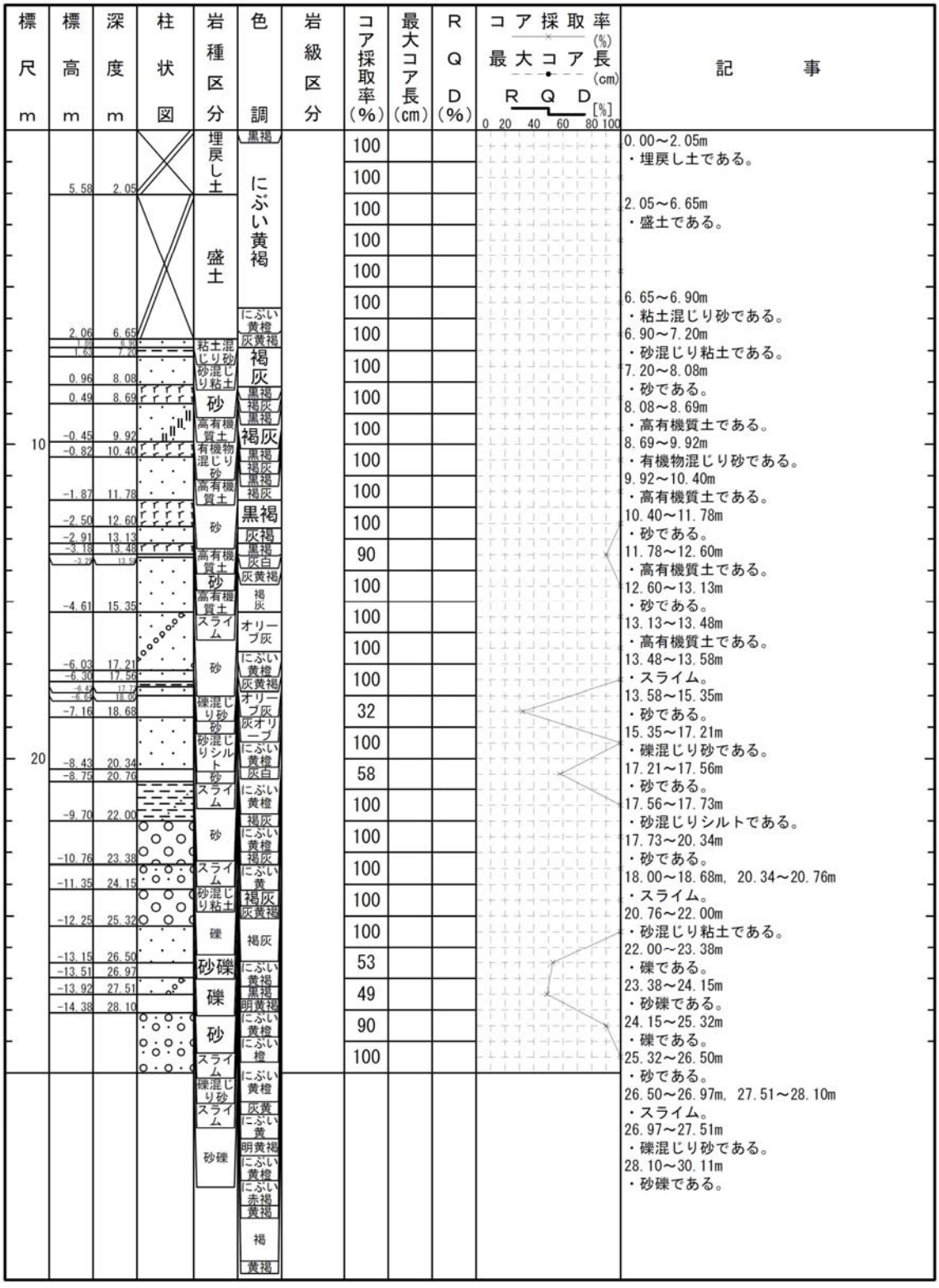


H24－B8－35

柱状図(0.00m～30.00m)

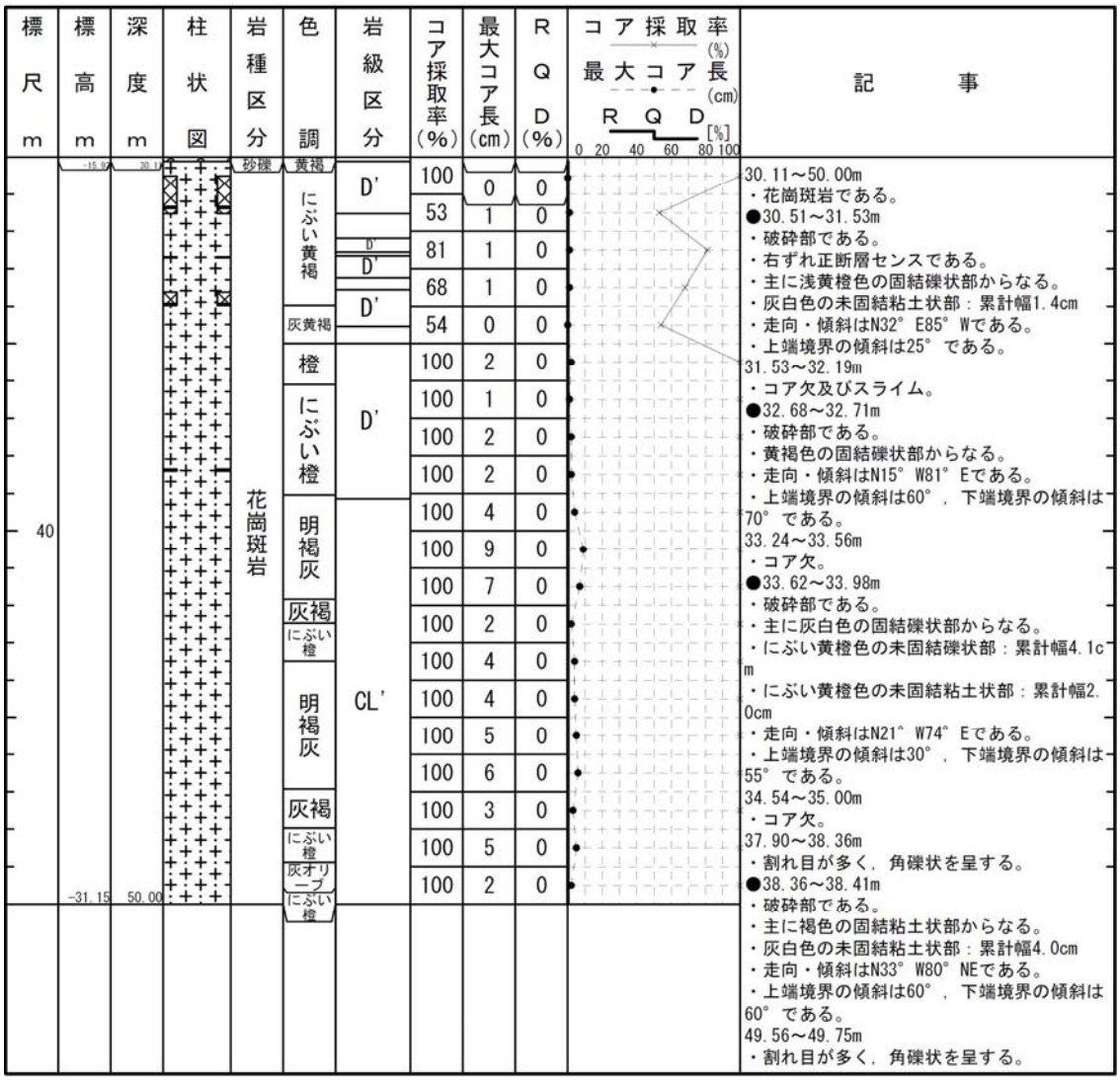
H24-B8-35

孔口標高	T.P. 7.15m	掘削長	50.00m



H24－B8－35

柱状図(30.00m～50.00m)

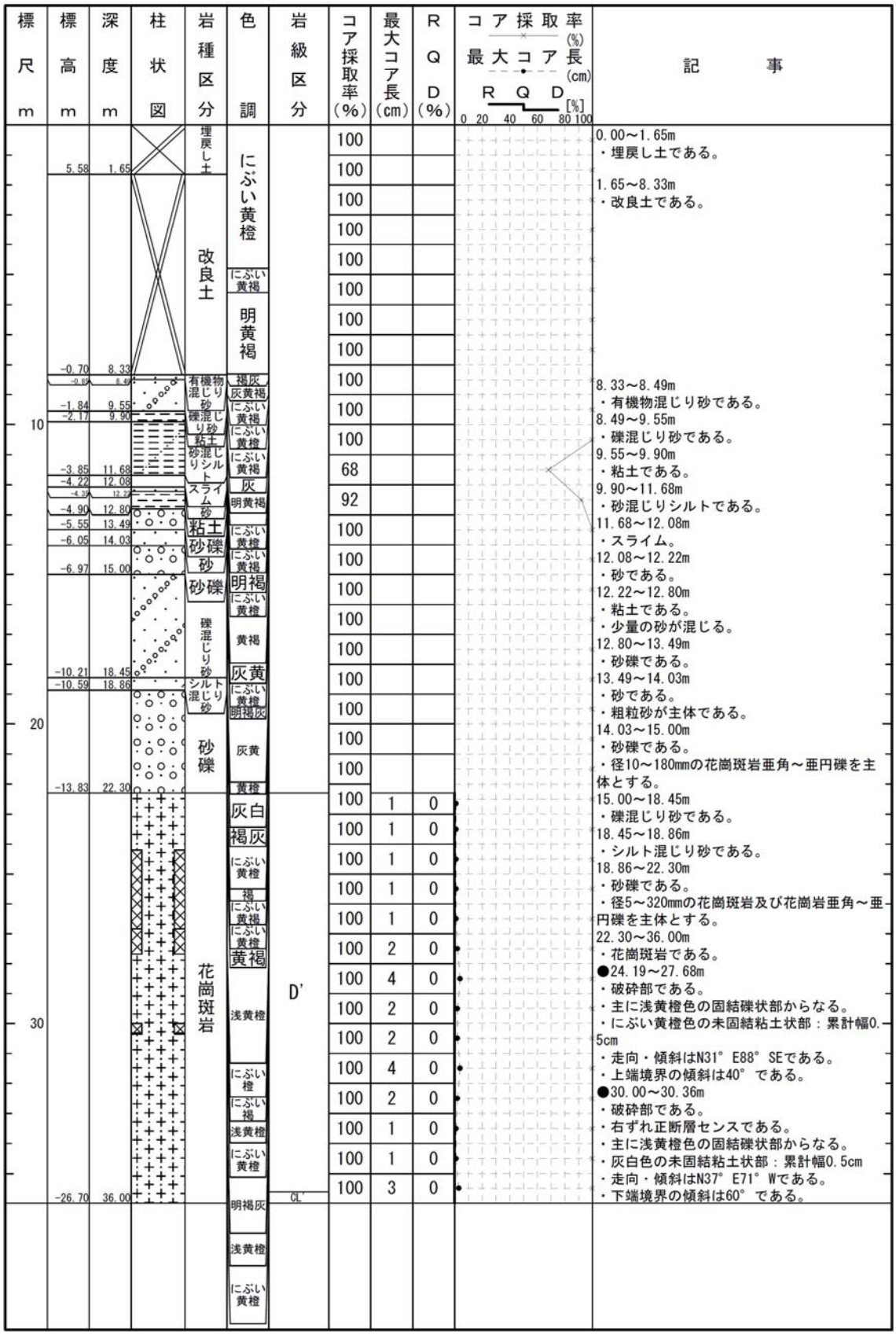


H24－B8－36

柱状図(0.00m～36.00m)

H24-B8-36

孔口標高	T.P. 7.13m	掘削長	36.00m



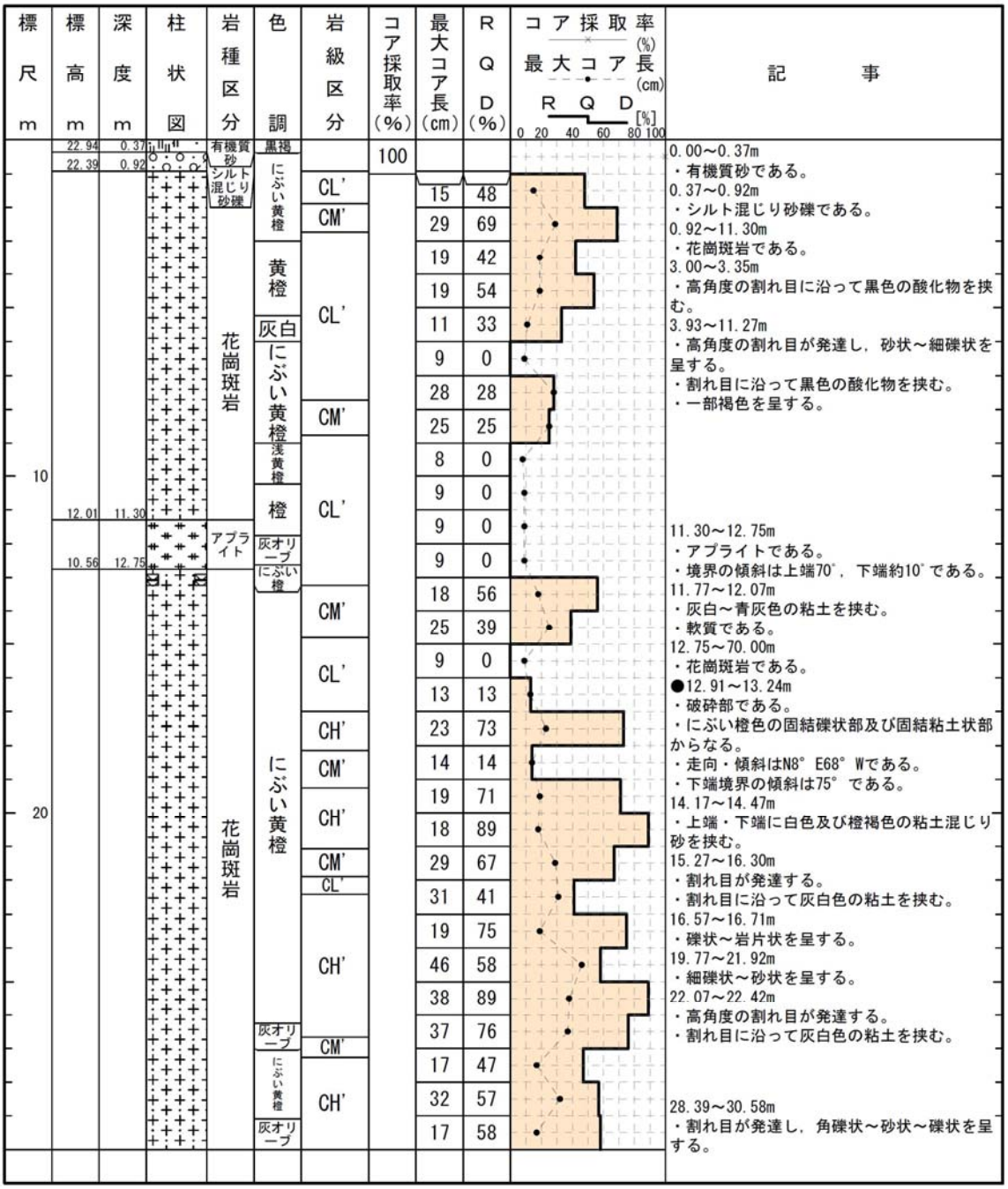
標尺 m	標高 m	深度 m	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
	5.58	1.65	埋戻し土	にぶい黄橙		100		
			改良土			100		
						100		
						100		
						100		
				にぶい黄褐		100		
				明黄褐		100		
						100		
	-0.70	8.33		褐灰		100		
	-0.89	8.49	有機物混じり砂	灰黄褐		100		
	-1.84	9.55	礫混じり砂	にぶい黄褐		100		
10	-2.17	9.90	粘土混じりシルト	にぶい黄褐		100		
	-3.85	11.68		にぶい黄橙		68		
	-4.22	12.08	スライム	にぶい黄褐		92		
	-4.39	12.25	砂	灰		100		
	-4.90	12.80	粘土	明黄褐		100		
	-5.55	13.49	砂礫	にぶい黄橙		100		
	-6.05	14.03	砂	にぶい黄褐		100		
	-6.97	15.00	砂礫	明褐		100		
				にぶい黄橙		100		
			礫混じり砂	黄褐		100		
	-10.21	18.45		灰黄		100		
	-10.59	18.86	シルト混じり砂	にぶい黄橙		100		
20				明褐灰		100		
			砂礫	灰黄		100		
				黄橙		100		
	-13.83	22.30				100	1	0
				灰白		100	1	0
				褐灰		100	1	0
				にぶい黄橙		100	1	0
				褐		100	1	0
				にぶい黄褐		100	1	0
				にぶい黄橙		100	2	0
				黄褐		100	4	0
			花崗斑岩		D'	100	2	0
30				浅黄橙		100	2	0
						100	4	0
				にぶい橙		100	2	0
				にぶい褐		100	1	0
				浅黄橙		100	1	0
				にぶい黄橙		100	3	0
	-26.70	36.00		明褐灰	CL'			
				浅黄橙				
				にぶい黄橙				

H27－Br－4

柱状図(0.00m～30.00m)

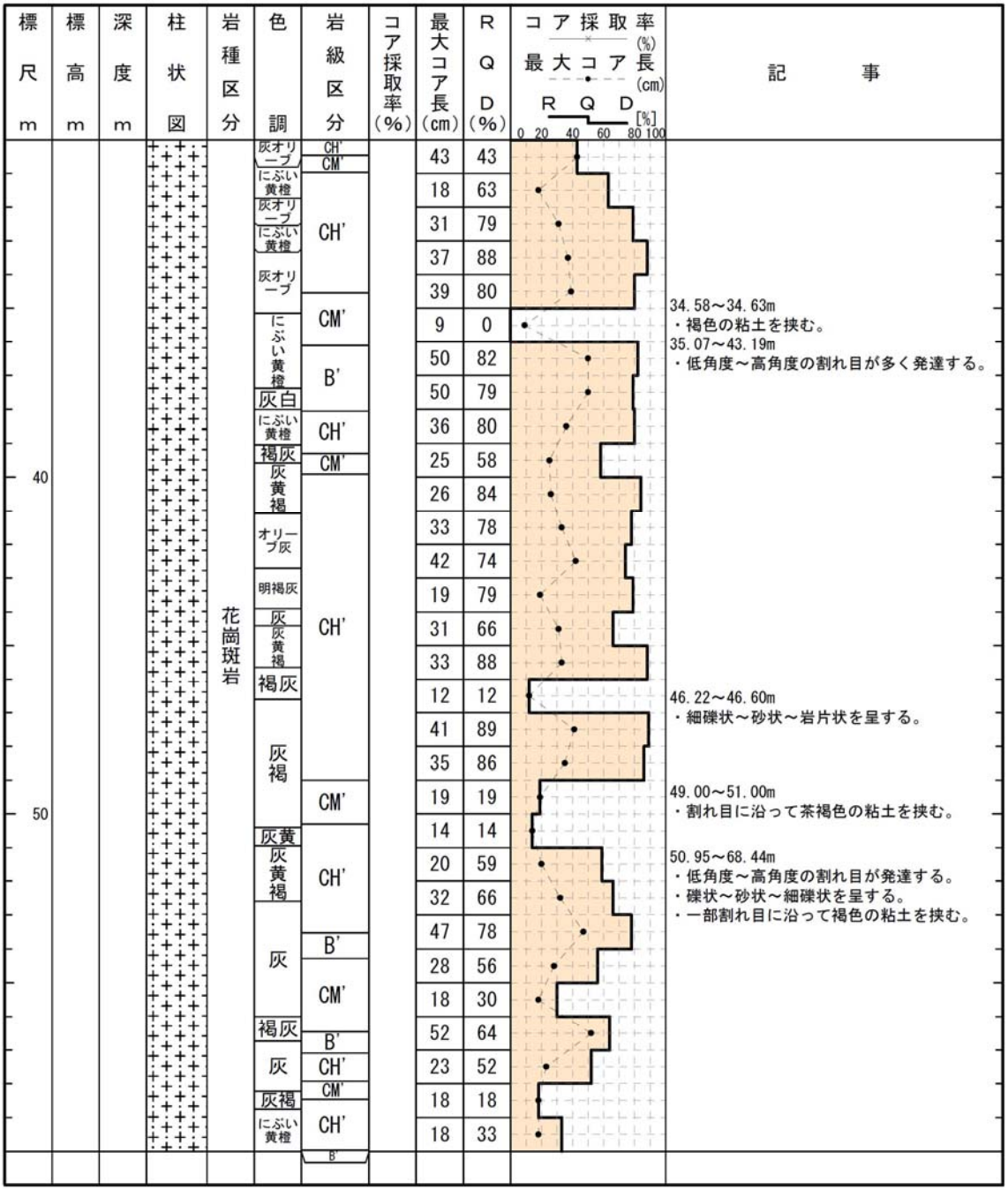
H27-Br-4

孔口標高	T.P. 23.31m	掘削長	70.00m



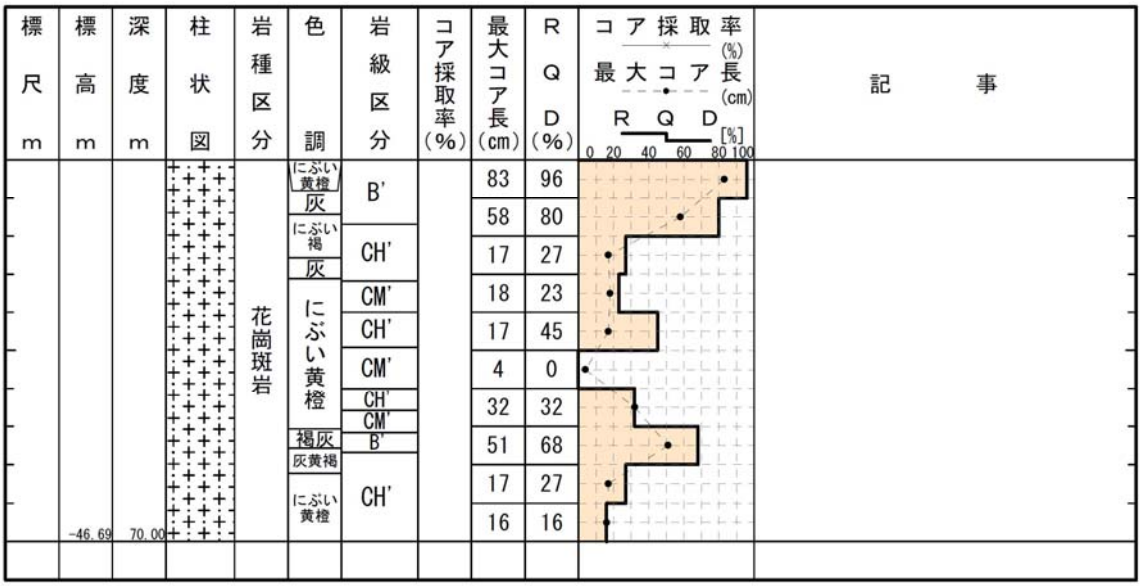
H27－Br－4

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－4

柱状図(60.00m～70.00m)

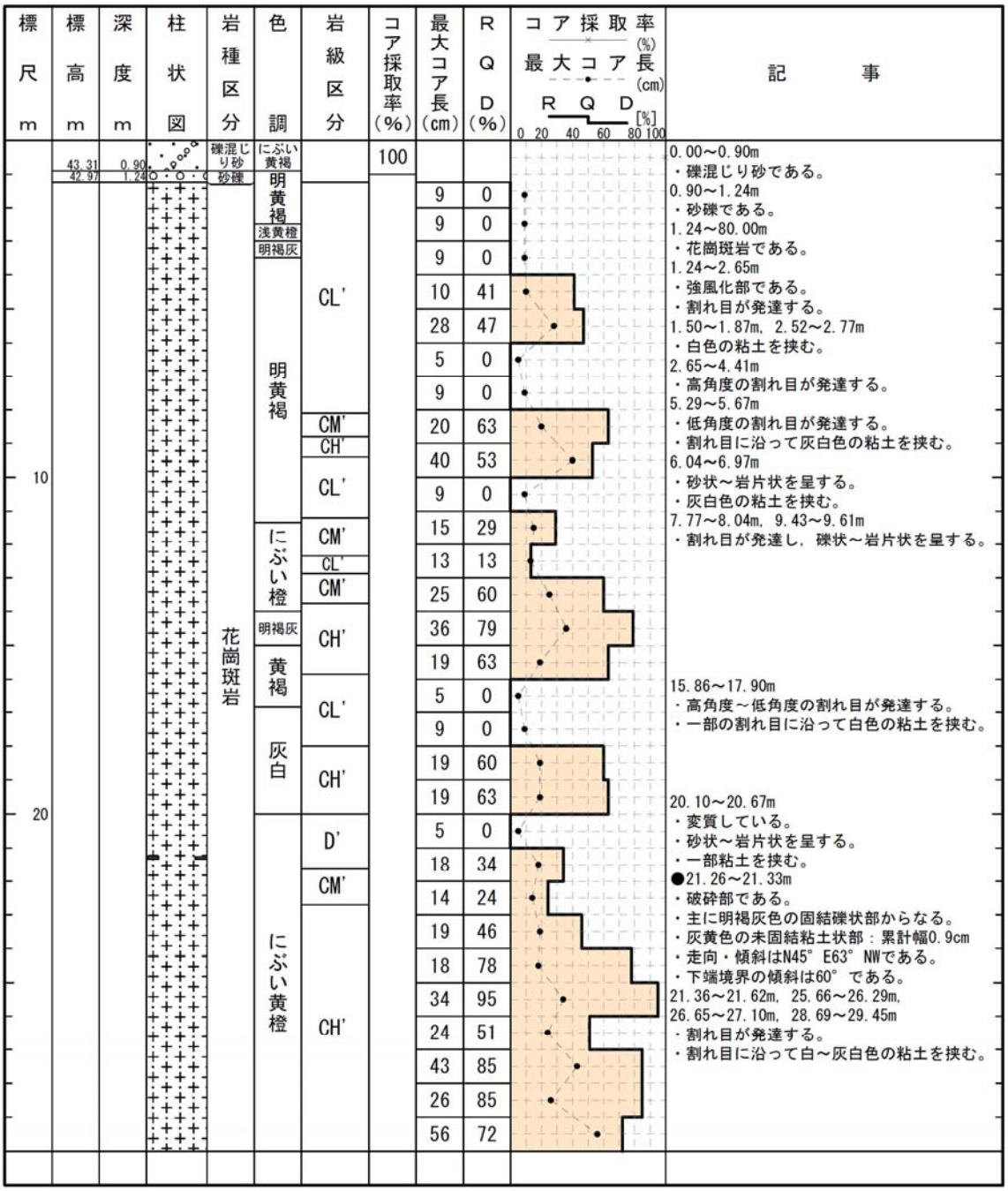


H27－Br－9

柱状図(0.00m～30.00m)

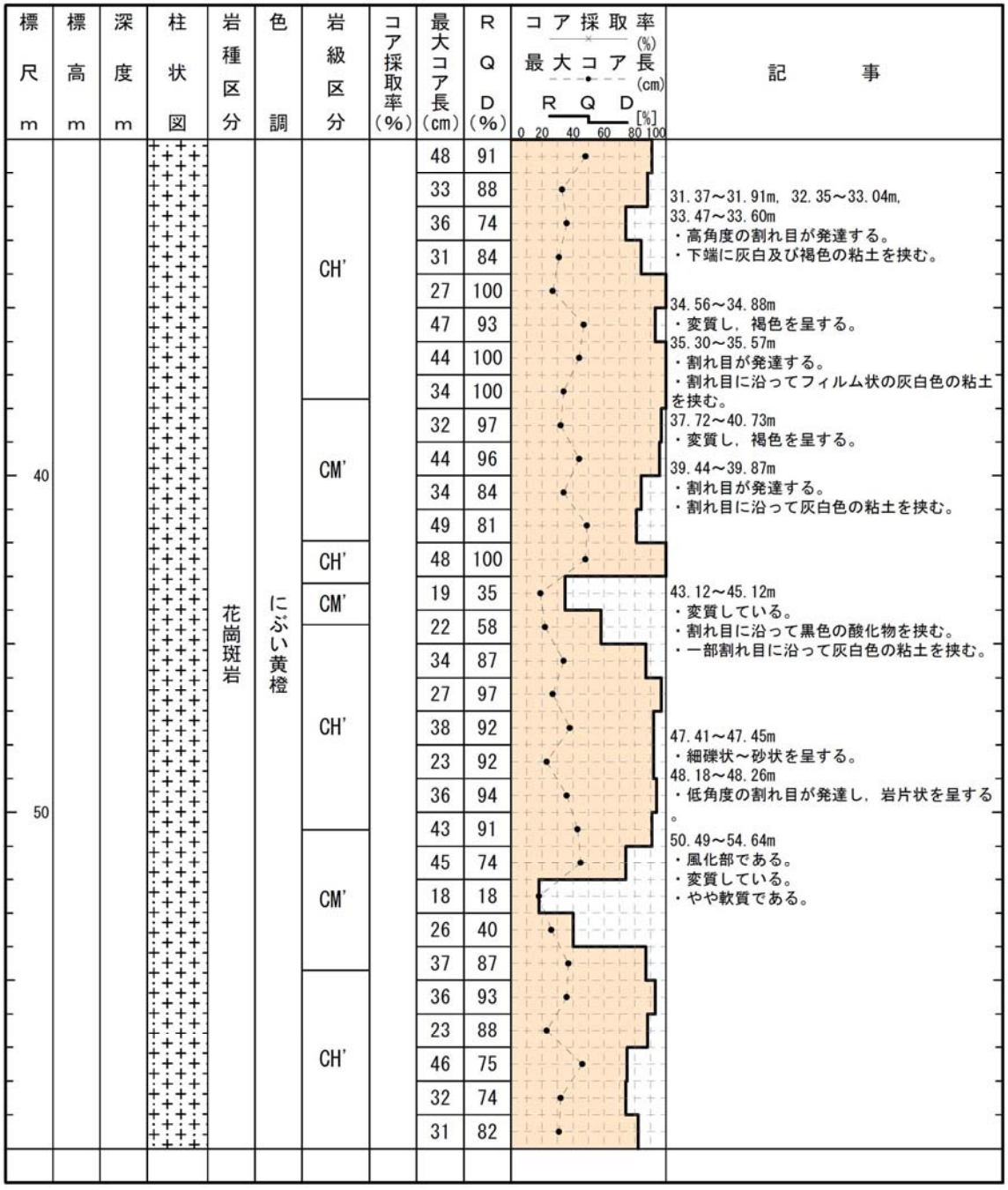
H27-Br-9

孔口標高	T.P. 44.21m	掘削長	80.00m



H27－Br－9

柱状図(30.00m～60.00m)



H27－Br－9

柱状図(60.00m～80.00m)

